ɾ

ɾ e の異形態。母音の前に付く ［レベル］1 1L:jeɲen ［語法］ → e (e と ɾ の使い分けについて) 母音で始まる語の前に付く。ＰＣのフォントを使う場合、ブロック体の場合は l の直後にアポストロフィーを置く。筆記体の場合は動詞媒介として使っていたハイフンを置く。 後ろが母音で始まる語でも、特にその語が強調される場合であれば e のまま使われることがある。"ɪlnɪ, ʃɥə jəɥ lɪn ueʃʏɔlɔɒ e "e" jeʃe" のように。また、e と言った時点ではまだ次の単語を思いついてなかった場合、次の語が母音から始まっても、いちいち ɾ から言い直す必要はない。(言い直してはいけないというわけでもない) ［用例］ ɒccì ɾˈɪɒel 妹のリンゴ

ɾˈɪnsəɲ ［歳時記］ルーメル後夜祭、タンジュール ［レベル］3 ʃ1:lɪnɾe ɾˈɪnsəɲ（楽しいこと）から ɾˈɪnsəɲ のみ分離したもの。カテージュのそれとは関係ない。 ［文化］ テームスの日に行われる４年に一度の大祭り。

ɾɾ ［演繹音］つー、ツー ［レベル］3 ʃʃ ［語法］ 何かを指で擦ったり摩るような音。

ɾɩ ［経済］需要、デマンド、ニーズ ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ɾə(必要) ［用例］ ejn ɾcl ɾɩ cɒ ɾəɔ. 最近、傘の需要がある。

ɾɩ(J) ［遊女］［文末純詞］ɪ, e ［レベル］4 ʃ1:lɩ

ɾɩɾ ［動詞］ɥəl をくちゃくちゃ噛む、噛む ［レベル］3 擬

ɾɩʔ ［動詞］ɥəl について ɪ とおしゃべりする、喋る ［普通動名詞］ぺちゃくちゃ、雑談、歓談、私語 ［レベル］3 古 :ɾɩʔ（おしゃべり）。オノマトペから。 ［用例］ ɪn ɾəɥɪɾ leɒ ʔɔnɾ ɾɩʔ ɪ hɪɾhn. 友達とおしゃべりをしながら音楽を聴いた。

ɾɩʔleɒ ［名詞］D J 、ディスクジョッキー ［レベル］5 1ɱ: 制 : 音楽をかけたり喋ったりする

ɾɩn ［接尾辞］～ちゃん。指小辞。 ［レベル］1 μɑ;ɾɪn（古い指小辞だが ɾɪn（～も）とのバッティングで滅んだ）/ɾɪn（敬称） ʃʔ ［文化］ ɪnʔbeu

ɾɩnɾ ［名詞］［形容詞］サービス、おまけ、無償の、見返りを求めない行為 ［レベル］3 古 :ɾɪnɾ をメルが喋れず、ɾɩnɾ と言ったことから。恐らくメルϯ～９年で、このころ ɾɪnɾ は ɾɪnɾe だったはず。ɾɪnɾe を ɾɪnɾ にしたのは後のソーン。従って、ɾɪnɾ の前に ɾɪnɾe があったと考えられるが、推測の域を出ない。 ［用例］ ［言葉遊び］"ɪn ɥə ɾɪnɾ c ɥəɥə cʃɾ ɪn ɑcɾ ɾɪnɾ ɪ lɪɪj. həɒ... jɔn ɪn ɾɪə nelɾ ɾ c lɪɪj nɪ" 「俺はシャントをあげる代わりに、ゆゆからチャントをもらってるわけで。ふむ、となると俺はあいつらから ɾ を買ってるというわけか」

ɾɩdɔleɾ ［経済］需給 ［レベル］4 1L

ɾɩl ［政治］大統領、元首 ［レベル］3 1ɱ: 制 : 古 :ɾɩɪlɾ 重要な ˩ɔʔlɔlɒɟɪl では長いため ［文化］ アルバザードには大統領はいない。

ɾɩlɲɔlɒ ［政治］大統領制 ［レベル］4 1L

ɾɩc ［代詞］［南方］［女性］ʃɥə ［レベル］3 ʃ1:l.ʃc

ɾɩc,ɑ ʃɪʔ e

ɾɩɾ ［動物］雀 ［レベル］3 古 : チッチと鳴く ləʃɔ（鳥）のことだと思う。

ɾɩɾe,ɑ ʃɪl ɾɩc（スピード）/ʃe（風のような）

ɾɩɔʔ ［形容詞］チクチクする ［レベル］2 古 : チクチク ［用例］ nɔn μɔj nɔɒj ɾɩɔʔ. チクチクするセーターはイヤ。

ɾɩɔʔl ［名詞］藁、わら、ワラ ［レベル］4 ɑu;ɑɔueɾ。チクチクするオノマトペから。 1ʔ: 制 : チクチクするもの ɾɩɔʔl:ɾɩɔʔl

ɾɩɔʔllɔɔb ［被服］麦わら帽子、麦藁帽子、ストローハット ɟɒ;/ ʃɱ ［文化］ 農民の帽子。現代では夏に階層関係なくかぶる人がいる。現代では都市部の女性がかぶっていると大人しく牧歌的な印象を与える。

ɾɩɔʔɪ ［植物］パパイヤ ［レベル］4 jeɲen ? :lɪʔɪ ［文化］ 珍しい果物で、あまり食べられない。

ɾɩɔʔc enɾ ‹›ɾɩɔʔe

ɾɩɔʔ ［化学］電荷 ［レベル］5 1L: 古 :ɾɩɔʔlʃeʔ

ɾɩɔn ［名詞］鈴、ベル ［類義語］ɒɔʔlec ［レベル］4 ɑu;ɑɔueɾ 古

ɾɩɔn(J) ［代詞］［南方］［女性］ʃəɪn ［レベル］3 ʃ1:ɾɩɔ の属格

ɾɩɔnʔlʔc ［生物］男性の尿道口、鈴口 ［レベル］4 1L

ɾɩɔnʔleel ［生物］陰茎包皮、亀頭包皮 ［レベル］5 1L

ɾɩɔnʔleelɑɪcz ［医療］亀頭包皮炎 ［レベル］6 1L

ɾɩɔnɟɔɪ ［音楽］タンバリン ［レベル］2 1ʔ: 制 : 鈴の膜楽器

ɾɩɑ ［動詞］ɥəl（人）をさらう、ɟɔl（波）が ɥəl（泳ぐ人）を ɪ（沖）に流す、さらう、攫う、浚う、拐う ［シェルトˡ］取る。駒を取ること。 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɾɩɑəʃɔɾ 速く取る 」

ɾɩɑɔl ［シェルトˡ］取られた駒 ［レベル］3 ʃʔ

ɾɩɑφ ［医療］乗り物酔い ［動詞］ɥəl を酔わせる、酔う、乗り物に酔う ［レベル］3 1L: 古 ɾɩɑlφɔɔɪ（吐き気を持つ） ［用例］ ɪn nɪ ɾɩɑφ ɒcl ɟɔl. バスのせいで酔った。

ɾɩcd ［名詞］泡 ［経済］バブル ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 : 泡がはじける音のオノマトペ dɾɩc から。

ɾɩcdlʔlc ［料理］スフレ ［レベル］5 1ʔ: 制

ɾɩcddcle ［料理］カプチーノ ［レベル］4 1ʔ: 制

ɾɩcdɪul ［経済］バブル経済 ［レベル］4 1L

ɾɩcb ［生物］液胞 μʃ;ɾɩcd.ʔ ʃɱ

ɾɩcl ［生物］ふところ、懐 ［レベル］4 1L: 古 ɾɩcl（持つ） ［語法］［文化］ セリアのような服の場合、横から手を差し入れる形で懐ができる。アルセリアの場合、差し入れる隙はない。ボタン式の服の場合、ボタンを外して横から差し入れる部分が懐となる。 ［用例］ ɾɩcl ʔɪc 広い懐

ɾɩcl,ɑ ʃɩcl ɾɩc（腕）/ɪl（物）

ɾɩclɑ ［名詞］かいろ、カイロ、懐炉、ホッカイロ ［レベル］3 1L:ɾɩcl/ɑɪc ［文化］ 一般人の魔力の弱まったカコ時代に遠征用として開発された。化学的なものは nɑ で作られ、μʃ,ul で普及した。ユティア朝では使い捨てでない張るタイプの懐炉が一般的。 ［用例］ ɪn dcɪɾ nelɾ ɾɩclɑ cɒ ɟəμʔ. 外出するときはいつも携帯用の懐炉を持ち歩いた。

ɾɩclɒelʔ ［名詞］懐中時計 ［レベル］5 ʃ0 ［文化］ μɑ で腕時計に代わった。

ɾɩɪ ［遊女］［代詞］ʃɥə ［レベル］4 ʃ1:lɩɔɪ ［用例］ ɾɩɪ scnl len ʃɥə eɒɔ cn ʃɥə ɟəɒʃɒɒ/heʃheʃ leʃeʁ この耳と尻尾を見ればわかる？（『狼と香辛料』賢狼ホロ）

ɾɩɪ(J) ［人名］［幼児］ちあ。ləlɔɪ ɪμbɪzɪμɑ のこと。 ［レベル］6 ʃ1 ごろ :ɥəlɾ ［語法］ 親も使う。 ［用例］ lənɪ lənɪ, ɾɩɪ lccs. ちあたん、おいでおいで。

ɾɩɪɾɔ,ɪlɾ ɾɩɪ ɾɩɪ/ʃɔ

ɾɩɪn ［遊女］［代詞］ʃəɪn ［レベル］4 ʃ1:ɾɩɪ

ɾɩɪhɪɾ ［料理］お子様ランチ ［レベル］2 ʃʃ:μɑɑɪ:ɾɩɪ（しあの）/hɪɾ（お皿）。池袋。昼食。ファミレス。

ɾɩɪlə,ɪlɾ ɾɩc

ɾɩce ［名詞］ʃəlɑ ［生物］［医療］寒熱 ɑ;e

ɾɔ(J) ［幼児］ちゅっ、ちゅ。軽く触れる程度のキス ［動詞］ɥəl にキスする、キスする ［婉曲］キス ［レベル］1 古 ［語法］ キスの幼児語。或いは軽く触れる程度のキス。アルバザードではキスは性的であるから、キスという語をあまり使いたがらない者が婉曲にいうためにあえて ɾɔ ということがある。

ɾɔ,ɑu ɾɔl、ʃɔe ɑɪcɪ

ɾɔɾɔ,pɑɑ ʃɔe ɾɔ/ɾɔ

ɾɔʔ ［料理］ガム ［レベル］2 1ɱ: 制 : 古 :ʔɾɩ ［文化］ 精神安定剤、また、歯と顎の健康を守るとして、虫歯にならない甘味料のものが普及している。むしろ歯を守る成分が含まれている。アメリカ人並みにアルバザード人はガムを噛む。授業中は飲食禁止だが、水とガムだけは認められている。吐き捨ては禁止。

ɾɔʔɔ ［名詞］コカイン ［レベル］5 古

ɾɔʔɔn ［植物］サボディラ 1ʔ: 制 :ɾɔʔɔzɔɒ ガムの木

ɾɔn ［動詞］ɥəl を舌打ちさせる、舌打ちする ［感動詞］チッ、ちっ、ちぇっ ［レベル］2 古 : 舌打ちの音 ［語法］ 怒りや不満や軽蔑などを表す。かなり不快の程度が高く、相手に喧嘩を売る覚悟がないと使えない。

ɾɔn(J) ［名詞］古アルカの５ ［レベル］3 赤→ jɑɑɪlɩ

ɾɔn,ʃjʔ ϯ ɾɔφc.ʔ

ɾɔφc,ɑu ɑɥec ɑen /

ɾɔl ［動詞］ɥəl を研ぐ、砥ぐ、とぐ ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɾle ɾɔ: ［語法］ 鉛筆などは研げない。先を尖らす (dcl zɔɔl) という。

ɾɔlɑɔl ［名詞］砥石 ［レベル］5 1ʔ: 制

ɾle ［動詞］ɥəl を磨く、磨く、みがく ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɾɔ（研ぐ、磨く） ［成句］ ɾle ɑɥec 切磋琢磨

ɾle(J) ［組み数字］１２/ １４ ［レベル］4 語源不詳

ɾleɾ ［単位］マイナス３６乗 ʃ1:ɾlcɾ

ɾleʔ ［動詞］ɥəl をクリックする、クリックする ［普通動名詞］クリック ［レベル］3 ɪl; ↓ 1ɱ: 制 :ɪlʔ ɾ:ʔɾlc。オノマトペから。マウスをクリックしたときの音から取った。 ［用例］ ɾɪ ɾleʔ ２クリック。２クリック詐欺などの。

ɾledcɾɪ ［名詞］研磨剤 ［レベル］5 1L:μcɑɑɪ:ɪμbɪleɾlɾ

ɾelcl ［化学］ツリウム 1Λ: 制

ɾle ləʔlɪ ［人名］チェ＝ルッカ ［組み数字］１２/ １４ ［レベル］4 語源不詳 ［文化］ (→ –L dɪl ucɔ) 第４期３代アルシェ第１２使徒。男性。

ɾlə ［名詞］恥 ［名詞］(nɪ) 恥ずかしい ［類義語］ɪɑcn、elɑcn ［反意語］ɪɒd ［レベル］2 ɑ;e 赤 :ɾlə,ɾləə ［語法］ 自分の個性が維持できなかったときにアルバザード人は恥ずかしいと感じる。レインは自分は敬虔なキャラだと思っているので、性的なことを口走ったときに恥ずかしいと感じる。アルカの分からない静相手にも恥ずかしがったことからわかるとおり、アルバザード人は他者の目を気にしない。自分にとって自分のキャラと合わないことをしたときにのみ恥ずかしいと感じる。他人が見ていなくても同様で、そこが日本人と最も異なる。 アルバザード人はプライドが高く、自分のキャラを崩さない。一般に恥ずかしいと認めるのは屈辱的である。だが、「自分は本当はこういうキャラじゃない」ということを主張するために、あえて自分から「恥ずかしい」ということがある。女が性的に喜んでいるときに自分から恥ずかしいといわないと淫乱に見えるので、わざと自分から恥ずかしいとアピールする。この「自分のキャラじゃないのよ」とアピールするための「恥ずかしい」についても考慮しておかなければならない。 ［用例］ nɔn nɪ ɾlə ɪɪn. 恥ずかしいよぉ。 ɪn uɔμɾɪʃ jɪɾ ɒcl ɾlə. 恥ずかしくて死にそうだった。

ɾlə,ɑ lcμ

ɾləʔ ［動詞］ɥəl をしゃぶる、しゃぶる ［レベル］2 1L:ɒel: オノマトペ。ユリアが物をしゃぶる音から。

ɾləɑcɪn ［地学］［歴史］エディアカラ紀 ul;/ ʃʔ ［文化］ φɪɪueɑeɒe

ɾləɔ ［名詞］ストロー ［レベル］2 ʃ1:ɾlə/lɔ。lɔ は管。ɾlə は擬音。

ʃjeɾʔɪ ［人名］裏切りツェッタ ［動詞］ɥəl を裏切る、裏切る ［普通動名詞］裏切り、背信 ［レベル］3 μcɑɑɪ: 古 : 前期からあるが、当初はサールだった。ところが内容のせいで神格化を失って人間に鞍替えされた。『制定語彙』では神として数えられている。

ʃjeɾʔɪlccɑɪ ［天文］メンカリナン 1L:μcɑɑɪ/jeɲen/ɒel: 裏切りの星 ［文化］ ここが輝くときは凶兆。lɔɔne 座に位置する。

ʃjeɾʔɪ e ɥəlɪ ［哲学］囚人のジレンマ、ユリアの裏切り、双子の裏切り ［レベル］6 μɑ;jeɲen/μcɑɑɪ/ɒel ʃʔ ［文化］ ・現実的背景 ２０１２年１０月１６日、セレンは知り合いの女子中学生があまりに人生を舐めているので、一計を案じることにした。『闇金ウシジマくん』の１巻を読ませて「調子こいてるとお前もこうなるぞ」と脅し、１７日に読ませた。しかし彼女は全く反省せず、セレンは呆れた――という一件があった 一方セレンは１６日に、これは子供の社会の教科書として良いと思い、５歳の娘のルシアに読ませようとした。そして１８日までにリディアが絵本の読み聞かせのように、子供でも分かるような翻訳をして読んであげた。 その後１９日にセレンが紫亞に感想を聞いたところ、「闇金って儲かりますね」、「警察に逮捕されないように気をつけないとですね」という搾取側の視点でしか感想を言わなかったので、「搾取される側の感想は？」と聞いたところ、「あぁ、自分はギャンブルに興味ないし、ギャンブルはしないようにしようと思いました」と答えた。 その後「パチンコってなんですか？」と聞いてきたので説明。すると紫亞は「ギャンブルって儲かるんですか？」と聞いてきたので、「店が成立するってことはどういうことだと思う？」と聞き返したら少し考えて、「あ、儲かる人より損する人が多いから、それがお店の利益になるんですね！」と気付いた。 賢い解釈に気をよくしたセレンは、リディアやメルとともに期待値について教えることにした。簡単なギャンブルの話で説明し、期待値について説明したところ、紫亞はすぐ理解した。 「で、ギャンブルってのは払う額より期待値が少なく、その差額が店の利益なわけだ」と説明したら、よく理解していた。紫亞は「期待値が払う額より少ないのにやるのはバカだということですね。あと、物事を選択するときは最も期待値が高い選択肢を選べってことですね」と理解したので関心した。 そこでセレンが面白がって、リディアとメルを使って一芝居打つことにした。食卓にある高い皿を紫亞とユルトのいないところでわざと割らせ、部屋に誰もいなかった振りをさせ、あとからメルとリディアに割れた皿を持たせて「誰が割ったの！？」と言わせるという芝居だ。リディアの芝居は臭いのでメルに主に任せた。メルが「あのとき家には紫亞とユルト以外誰もいなかったのよ。あんたたち二人しか犯人はいない。さぁどっち？」と詰め寄り、リディアは発狂して「高いお皿を割って知らんぷりするなんておしおきよ！」と詰め寄った。突然の発狂に震える子供たち。 もちろん身に覚えのない子供たちは「自分じゃない」と言う。そこで２人を隔離し、別室へ。そして互いにこう説明する。「お前も相手も互いの無実を主張すれば尻叩き３発ずつで許してやる。お前が相手を無実だと言っても相手がお前がやったと言えば、相手は無実になりお前は尻叩き３０回になる。逆の場合はお前が無罪で相手が尻叩き３０回。もし二人とも相手がやったと言えば二人とも尻叩き１５回だ。さぁどうする？」 ユルトはどうせろくに理解しないだろうからリディアに担当させ、紫亞にはメルに説明させた。このケースの場合、紫亞にとってはユルトがやったと言ってユルトのせいにしたほうが、期待値的に言えば罰が軽くなる。つまり期待値で見れば紫亞は無実のユルトを売ったほうが合理的である。 紫亞は期待値を計算して最も期待値の高い選択肢を選ぶだろうと大人は考えたので、３人とも「紫亞がユルトを売って、ユルトは性格的に紫亞を売らずにユルトが罰を受けるだろう」と考えた。大人たちの間で賭けて遊ぼうと思っていたが、全員同じ組み合わせに賭けたので賭けが成立しなかった。 ところが意外なことに紫亞は「ユルトはやってないし自分もやってない」と主張した。一方ユルトは予想通り両者の無罪を主張した。セレンが「お前、期待値考えなかったの？」と聞いたら、紫亞は「期待値を出したらゆうちゃんがやったことにするほうがいいんですけど、でもゆうちゃんはお皿が割れたとき紫亞と一緒にいましたから、やってません」と純粋な一面を見せた。それを聞いて喜んだのは主にセレンとリディアで、根性まで歪んでなくて良かったと言って、ネタばらしして褒めてあげた。 だが紫亞はその後「それに、ゆうちゃんの性格上、私がやったって言うはずないんですよね。ゆうちゃんが私を告発しない確率が圧倒的に高いなら、私もゆうちゃんの無実を主張したほうが逆に叩かれる回数の期待値的に好都合なんですよね。ゆうちゃんの行動パターンをも計算に入れた上での期待値を考えると、かえってゆうちゃんの無実を主張したほうが合理的なんですよね」という内容のことを喋り、結局情で選んだのか総合的な期待値で合理的な判断をしたのか分からなくなり、セレンとリディアは「あの子は怖い……」と言い合った。なお、メルだけは「この子は将来有望だ」と言って笑っていた。 ネタバレをした後なので、むろん尻叩きの刑は行わなかった。 なお、ユルトが紫亞の無罪を主張すると分かっている場合、紫亞はユルトの有罪を主張すれば尻叩き０回なので期待値的に見てなおユルトを売ったほうが良い。しかし２人全体の尻叩きの平均回数を考えると、ユルトを売った場合は１５＋０＝１５回割る２で７．５回となる一方、ユルトを売らなければ３＋３＝６割る２で３回となるため、二人の総合的な期待値を考えればユルトを売らないほうが合理的である。紫亞は恐らくユルトと自分の二人の総合的な期待値で選択肢を選んだと思われ、優しさがかいま見えてセレンは喜んだ。

・μɑ では μɑ では上記のようなユルトとルシアを使った裏切りの実験をセレンらが行ったことから、囚人のジレンマのことを「双子の裏切り」と呼ぶようになった。

ʃjeɾʃel ［魔物］ツェッテル（裏切箱）: 第五十七天 : 光の幻天 ［レベル］5 1L:μcɑɑɪ/jeɲen/ɒel:ʃjeɾʃɪ/lec ［文化］ 憑族。本や石版や石碑や宝箱に住みつき、めくった瞬間や眼に入った瞬間や開けた瞬間、パッと光を出して獲物の目を眩ませ、そのスキをついて獲物に食らいつく。

ʃjeɾʃ ［被服］ブレザー、ツェルト ［レベル］4 ɒelʃɑɪ ʃL1:lənɔ;e ʃʔ

ʃjelcn ［地名］ツェリン ʃ0 ［文化］ マンセイ南西部の都市。 ɥəəɒɪ ϯʔ イーハル、現アリディアの ʃjelcn に侵攻

ʃjən ［名詞］区切り、くぎり ［動詞］ɥəl を ɪ（区切った数や結果などの状態）などに区切る、区切る、

くぎる ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃeːʃjənl

ʃjənl ［約物］ツンク、「,」記号、カンマ、点 ［レベル］2 古 ［語法］ 1：重文を作ったり、文や語句を区切ったりするのに使う。前者の場合、ɔɔ という音価を持つ。 2：文中イントネーションを作る。,ȣ で ɒɔzləənɔ。

ʃjəl ［名詞］双方向 ［形容詞］双方向の、可逆な ［交通］一歩通行でない道 ［化学］可逆 ［反意語］˥ɔɥeʃ ［レベル］4 ɑ;l は「物」 赤：相互の

ʃjəlɒcɥə ［物理］可逆変化 ［レベル］5 1L

ʃjəlɥenj ［名詞］ダイアローグ ［反意語］˥ɔɥeʃɥenj ［レベル］5 ɥɑ;/ ɭɱ

ʃjəlcjɔ,ɪlʃ ɥɪn, jee, jɔn

ʃjəəʃɔn ［電算］モールス信号 ［レベル］5 ɭʃ: オノマトペ。ツートンという音から。ツーが鳴っている状態で、トンが無音の状態を示す。 ［文化］ ・ネットユーザーによる定義 ɪ" ・ " c" ー ・ " ɔ" ・ ー " e" ー " ə" ・ ・ " ʃ" ・ ・ ・ " ʃ" ・ ー ・ " l" ・ ・ ー " j" ー ・ ・ " n" ー ー ・ " u" ー ・ ・ ・ " ɑ" ・ ・ ・ ー " ɒ" ・ ー ー " ɑ" ー ・ ー ・ " φ" ・ ー ・ ー " d" ・ ・ ー ー " b" ー ー ・ ・ " h" ・ ・ ・ ・ " ɥ" ・ ー ・ ・ " ɦ" ー ・ ・ ー " ɥ" ー ・ ー " z" ー ー ー " s" ・ ー ー ・ " o" ・ ・ ー ・ " ɪ" ー ー " 0" ・ ・ ・ ・ " 1" ー ・ ・ ・ " ɭ" ・ ー ・ ・ " ʔ" ・ ・ ー ・ " ɱ" ・ ・ ・ ー ・ " ɒ" ・ ・ ・ ー " ʃ" ・ ー ー ー " ɋ" ー ・ ー ー " Δ" ー ー ・ ー " L" ー ー ー " ȣ" ー ー ・ ー ー " ɒ" ー ・ ・ ・ ー " ,(コンマ)" ・ ー ・ ー ・ " .(ピリオド)" ー ・ ー ・ ー " 訂正 " ー ー ー ー "

ʃɒ ［歴史］アルテム、ɪɥʃeɒ ［レベル］3 ʃ1

ʃd ［演繹音］とことこ、てくてく、てぷてぷ、よちよち、てこてこ、すたすた、ざっざっ、ぱたぱた、スタスタ、パタパタ、ぱからっぱからっ、パカパカ、とてとて、ててっ、ててて ［レベル］2 ʃ1 ［語法］ 歩く音。走る音。人も馬も。

ʃɥə ［代詞］［ɒdɒ］あなた ［レベル］1 1L: 古：女が男に使う二人称の ɑɥəjjɔə（あなた）から、始めの音を取り、音を清音に柔らかくしたもの。 ［語法］ ほかのユンク語同様、かしこまった席や怒った場合は ʃc に戻る。可愛く日常的に振舞うときだけ使う。 ほとんどのユンクは ʃc と混ぜて使う。

ʃɥə(ʃ) ［遊女］［代詞］ʃə ［レベル］4 ʃ1:ʃə

ʃɥə,ɟzɑ ʃən

ʃɥənɪn ［ɥənʃe］あなた自身 ［レベル］2 ɭ0:ʃcɔn

ʃɥəɥ ［普通動名詞］決断、決意、決心 ［動詞］ɥəl を決断する、決意する、決心する ［レベル］4 ɥɑ;<ɟzɑ ɭɱ

ʃɥəɥenj ［地名］テューレンス、燈京 ［弓道］礼射系 ［アクセント］ʃɥƎɥenj ［レベル］3 ʃ1:ɥcɑcɪ ［文化］ ルティアの首都。ルティア語でのスペルは ʃəɥenj。ルティア語読みの場合はテュランで、アクセントも最後の音節になる。

ʃɥəɪ ［サール］テュア ［レベル］3 古 ［文化］ ポエンと竜王ティクノの娘。アルデスの妻。高貴なものは他人に裸を見せないという理由で絹を纏って生まれてきた。そのため、アルバザードでは縁起を担いで服屋にはテュアが飾られている。クレオーンに命じて兄アルデスにパオナを起こさせ、自分との間に子を設けさせた。服を着て生まれてきたので、服飾（アクセサリーや靴なども）を司る。

ʃɥəɪcn ［植物］アネモネ ［レベル］4 1ʔ: 制 :ʃɥəɪɒcnɪ（テュアの花）

ʃɥəəl ［動詞］ɥəl と両思いになる ［普通動名詞］両思い、両想い ［反意語］ ［レベル］3 ʃ1: 古 ʃjəl

ʃɥɪj,əu ɒɪu

ʃɥɪn ［形容詞］高尚な、崇高な、高貴な ［反意語］bɥɒcl ［レベル］4 əu;e ɪlɪʃɪ ʃɥɪn:ʃɥɪn:ʃɥɪn ［文化］ → ɪnʃel 高尚、知的、美麗、敬虔など、アルバザードの代表的な価値観のうちのひとつ。 ［成句］ jenʃɪnʃ ɒcl ɑəɥne ʃɥɪn. 高尚な夜をありがとう（jeɥen ɪɥbɪzɪɥɑ『N A D』） ［用例］ lɪ eʃ ʃɥɪn. 彼は高尚だ。

ʃɥɪnj ［名詞］約束、誓い、ちかい ［動詞］ɥəl を ɪ に約束する、約束する、誓う ［類義語］dcnɪ ［レベル］3 jɒ;jzɑ<ʃɥɪn/jɔləə ʃ1:ɥɥəə:ʃɥɪnjɔɔl（高尚な行為） ［用例］ ʃɥɪnj ɪ lɔ˥ 約束を交わす ʃɥɪnj lɔ˥{ɪnʃɔj} 交わした約束

ʃɥɪnɪʃc ［名詞］高尚さ ［レベル］4 ʃʃ

ʃɥcɔ,jzɑ lɔj <> c,ɑ/lɔ,ɑ

ʃɥcɔɔɒelɔɥ ［軍事］天馬の尾、トリコメロール ［名詞］食後の後片付け役。 ［アクセント］ʃɥcɔɔɒelƎɥ zφ:ʃɥcɔ,jzɑ/ɒelɔɥ/jzɑ ［レベル］5 ʃ1 ［文化］ lɥəjcel 後片付け役というのは、複数人でレストランなどに行ったとき、店員に手間をかけさせないように客がテーブルなどを綺麗にして席を立つ際、綺麗にする役どころの人のこと。一番立場の低いものが行う。アルティア人が持ち込んだ習慣で、店員に対する気遣いというより自分たちのグループの恥を晒さぬようにという思いが強い。 ［成句］ ʃɥcɔɔɒelɔɥ ɪlcʃ 立つ鳥後を濁さず。eʃ とともに使う。

ʃɥcɔl,jzl ɑleə ʃɥcɔ,jzl/ɪl,ɑ

ʃɥcɒ ［化学］電子 ［レベル］4 ɪlɪʃɪ

ʃɥcɒʃcɑl ［化学］酸化 ［レベル］5 1L

ʃɥcɒlcɒ ［化学］還元 ［レベル］5 1L

ʃɥcɒjɪj ［化学］電子配置 ［レベル］5 ʃ1

ʃɥcɒejd ［化学］電子雲 ［レベル］5 ʃ1

ʃɥɔɒeɪcɪ ［人名］トロメキア ［組み数字］3 / 1 6 ［レベル］4 ɒelʃcɪ ʔ9:ɪɥɑə/eʃɪ;e 古 ［文化］ eʃɪ エスタの第３子。女。

ʃɥeʃ ［名詞］遠足、ハイキング、トレッキング ［レベル］3 古：足音のオノマトペ ［文化］ lɪzɪ までは課題授業で年２回ほどハイキングに行く。お決まりの場所はワッカ。 ［用例］ ɪnj ɪɥɪʃ ucl ʃɥeʃ ɒcl eʃ]. 雨が降ったので、遠足に行けなかった。

ʃɥeɪ ［法律］罰金、過料 ［レベル］3 1ɱ: 制 :ʃɥeφɪɥ（罰の金） ［用例］ ɑcʃ ʃɥeɪ ɑə 1000 jɔlʃ 罰金千ソルトを課す

ʃɥeɟʃ ［名詞］試練 ［レベル］4 古 jɔɥn ［語法］ 何かのために乗り越える苦難のこと。ɥɑ でリーザがルティアの王位継承権を巡って行った洞窟巡りのようなものを指す。

ʃɥen ［動詞］ɥəl を罰する、罰する、懲らしめる、懲罰する、罰を課する、お仕置きする ［法律］罰、刑、刑罰、ペナルティ ［レベル］3 jɔɥn:ʃɥen（罰） 参考：古 :lɪhc,dccɔcdəəφc,dccɔc（罪） ［用例］ nɔn ʃɥen aɪn ʃɥə cjʃ lelʃ˥ 月に代わって、お仕置きよ！（『セーラームーン』月野うさぎ）

ʃɥenuɪnʃ ［法律］罰法 ［レベル］4 ɭ0: 罪でなく罰の法。ɑcjuɪnʃ だと、ほとんどの法が ɑcjuɪnʃ に当てはまるため。 ［語法］ 刑法と民法の総称。

ʃɥenlcznɔ ［政治］刑罰庁 ［レベル］4 ɭ0 ［文化］ 事務省下。刑務所の管理、刑罰の実行などを担当する。公開処刑制度なので、死刑の実行も行う。 日本やヨーロッパと違い、死刑執行人は奴隷や身分の低い者でなく、むしろ高徳な役人が行う。刑罰庁には死刑専門の担当官がおり、どれも位が高い。 → ɪɑcjɪnʃ

ʃɥenɪʃc ［法律］量刑 ［レベル］5 ɥɑ;/「刑の程度」 ʃ˥

ʃɥenɪn ［ジョブ］刑吏 ɥɑ;/ ɭɱ

ʃɥenɔz ［法律］罰則、ペナルティ ［レベル］4 ɥɑ;/ ɭɱ ［語法］ 法令の中で違反行為に対する刑罰または過料を科する旨を定めている規定のこと。

ʃɥeɒɪ ［名詞］有効防御、軽傷 ［動詞］ɥəl を防ぐ、防ぐ、ɥəl は jɔl にあまり効かない、効かない、無効だ ［形容詞］（ɪn で）鉄壁な、堅牢な、難攻不落、無敵な ［類義語］ɪluɪn ［反意語］ccscj ［レベル］3 əu;e ɭɱ ［語法］ おおむね防御してあまりダメージがないこと。

ʃɥeɪ ［人名］トレア ［名詞］アルカンスにおけるトレアの手 ［名詞］下巻 ［組み数字］3 / 3 ［レベル］2 古 ［文化］ ɪɥlɪnj サール信者で、アルカンスを巡ってプレア・スレアと争った。

ʃɥeɪleelʃ ［化学］γグロブリン。他の血漿蛋白質と異なり肝細胞でなくＢリンパ球で作られる。 ɥʃ;/ ɭɱ

ʃɥeɪɒel ［名詞］後期 ［レベル］3 1L:clɒəj:ɥcɑcɪ

ʃɥeɪhɔ ［生物］坐骨 ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ

ʃoɪ ［代詞］［ɒɒɔ］アンタ、あんた ［レベル］1 1L:ʃɥə

ʃoɪl ［名詞］リゾート地、リゾート ［レベル］4 1L:ʃoɪɪɥə/lɪ ［用例］ ɪn ˥eʃ ʃoɪl e jɪezɔn ɔ˥ lcʃe. 家族でスキーリゾートに行った。

ʃoɪɥ ［人名］トゥワル ［組み数字］1 / 6 ［レベル］3 1L:ʃoen/ɪɥφc: 古 :ɪɥφc: 神の金 ［文化］ ヴァノンの１番目。女性。財政担当

ʃoɪɥzcɔ ［工学］解析機関、トゥワルジオ ɭ0:ʃoɪɥzel のセリジオ ［文化］ cɒəl 1ʔ?Δ に ʃoɪɥzel が父を手伝ってともに発明した。これがきっかけで大量の計算ができるようになり、アンジェルの作成にこぎつけた。解析機関は穴を空けたパンチカードで動作する魔法のいらない機械であった。このパンチカードは nenlɪɥʃ という。

ʃoɪɥzel ［人名］トワーゼル ［組み数字］1 6 / 1 6 ［レベル］4 ɒelʃcɪ ʔ0:ɪɥɑə/eʃɪ;e 古 ［文化］ eʃɪ エスタの第１６子。女。

ʃoɪɥzel ɑcjcɑcɪ ［人名］トワーゼル＝ディシディア ɭ0 ［文化］（cɒəl 1ʔ1Δ:1ʔΔ1）ɥɑ の工学者。ルティア人で、シグナリオ校の高等部を経てラグナロクの大学部へ進学。卒業後は研究室に入り、シグナリオとラグナロクを繋いで巨額の研究費を得てアンジェルを開発。

ʃoɪɥlcl ［化学］ハフニウム 1L

ʃoɪl ［代詞］［ɒɒɔ］アンタの ［レベル］1 ʃ1:˥lccz:ʃoɪ/ 古 ɪl。ʃoɪn は ʃəɪn と似るため <ʃoɪn:1L:ʃoɪ/n

ʃoɪɪɥə ［地名］トワーユ、天国、ヘブン ［反意語］lɪʃcɪ ［レベル］2 古 :ɥcɑcɪ: 語源不詳 ［文化］ → le˥ɪc ｜約 1ʔ9 億年前 |ɪɥɑel が天国 ʃoɪɪɥə と地獄 lɪʃcɪ に分裂｜ ［成句］ ɪlʃ ˥e nene ˥ɪ ʃoɪɪɥə ～の後を追う。

ʃoen ［エルト］トゥウェン ［動詞］ɥəl を ɪ に寄付する、寄付する、募金する、恵む、提供する ［普通動名詞］寄付、寄贈、募金、恵み、提供 ［レベル］3 ɥcɑcɪ: 古 ［文化］ 富を平等にする老婆の姿をしたエルト。貧しいものに富を与えたり、富める者に喜捨させようという意志を与える。が、サールのガーレスによってその殆どの力を封じ込められている。文化的解釈としては、「喜捨の精神を人間の強欲が邪魔している」という意味を持つ。 ［成句］ ʃoen ɑɪleʃ ˥lɔjɪn ˥ɪu. やかましく騒ぎ立てるやつはあまり多く恵んでもらえない：慌てる乞食は貰いが少ない nɔn ˥ɔɥɪʃ jeɪ cɒ ɑcj ˥ɪnɪ ʃoen eɥc. 今日は献血にもールへ行った。

ʃoennɪ˥eɪ ［企業］トゥウェンナケア ［レベル］4 ʃ1 ［文化］ 日清に相当する企業。戦災時・騒乱時・災害時に配給係りとなったことで名を馳せた。

ʃoenɑcjʃ ［交通］西条、西大通り ［名詞］白虎、トゥウェンディスト ［レベル］3 ɥɑ;hɥ。hɥ の四方を収める四神の名から ʃ˥

ʃoenφcl ［名詞］寄付金 ［レベル］3 ʃ1 ［文化］ ɑɪcφ

ʃoenlcznɔ ［政治］慈恵庁 ［レベル］4 1L ［文化］ 召還省下。低所得者への生活保護、炊き出し、税務庁との協同で高所得者からの喜捨の拝受などを行う。かつてカルテ神の恵みを受けたものを配給していたことから、召還省下に置かれる。

ʃoenlɒɒc ［歳時記］恵みのスープ ［レベル］3 ʃ1 ［文化］ ucɔ ˥lɪl のイベントで、カルテで大規模な炊き出しを行う。元は jʃ でホームレス相手に行った慈善事業が始まりで、当時はカルテがないので大通りや公園で行われた。現在は冬で室内に籠もりがちな時期なのでたまには外に出て暖かい物でも飲もうという意味合いが強く、スープなどを作って配る。

ʃlɔc,ɑu ɑɪɥ e

ʃlɔcnʃ,jzɑ ɑɪɥ ʃlɔc

ʃɪ ［単位］2 ［レベル］1 1ɱ jees:ɥcə:ləda,ɪlʃ

ʃɪ(ʃ),ɪlʃ le <>ʃɪ

ʃɪ,ɑ ʃɪnʃ e

ʃɪ,ɪlʃ eʃ, ɑɪ ɪɪʃɪ

ʃɪʃ ［格詞］～ごとに、～おきに、～につき ［名詞］周期 ［物理］波の周期 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 恣意 ［語法］ 1 周期にかかる時間や量を述べる。ʃɪʃ jɔɔʃ で「 一週間ごとに 」。一回が巡ってきてから次の一回が巡ってくるまでの期間を表わす。 ［用例］ ʃɪʃ ʃ jel 隔日で ʃɪʃ ʃ ˥elʃ 隔月で ʃɪʃ jel 毎日 ʔ000 dɪɥɒjɔlʃ ʃɪʃ 1 ɥɪj ɑeel. ɥəə uɪɥe ɔn ʃə ɪsc. 3 0 0 0 円で１回で、空くじなし。

ʃɪʃ(ʃ) ［化学］ケトン 1L:ʃɪ/ʃeɟ。この ʃeɟ は任意の有機物 R を意味する ʃ で、電気ではない。アルデヒドの語源も同様。

ʃɪʃʃɪ ［格詞］［ɒenʃe］˥ɔ˥lɔ の否定 ［レベル］1 1L:ɥcɑcɪ: 赤 ˥ɔ˥lɔ からの造語。˥ɔ˥lɔ は音象徴「コ」（内側、来るなどの意味）の繰り返しでできている。「コ」の反対は「タ」。タンタとコンコ、ルタとルコなどの語に現れている。ケッタとケッコの違いにも生きている。新生でも意味は少し変わったが ˥eʃʃɪ, ˥e˥lɔ は生き残っている。˥ɔ˥lɔ の反対なので、それを模して ʃɪʃʃɪ としたもの。意味は ˥ɔ˥lɔ の反対。

ʃɪʃʃɪn ［名詞］バタバタ、パタパタ ［運動］水泳のクロール ［レベル］3 1L:ʃɪʃn˥1ʔ: 制 : 古

ʃɪʃʃɪoɪ,ɪlʃ 反実仮想の助詞

ʃɪʃʃɪoɪn,ɪlʃ 反実仮想の助詞。女性形。

ʃɪʃʃɪen ［ɥənʃe］［接続詞］～のいない、～を使わない ［レベル］2 ɭ0:ɒelcɑcɪ lceɥ

ʃɪʃʃe ［普通動名詞］スキップ ［動詞］ɥəl をスキップして ɪ に行く ［レベル］2 əu;ʃɪnʃɪ.˥ 古 :ɪnʃɪ と同根。メルのステップの際の声が変形して語彙化したもの。

ʃɪʃlel ［普通動名詞］ダブルクリック ［動詞］ɥəl をダブルクリックする、ダブルクリックする ［レベル］3 ɪl;/ ɭɱ

ʃɪʃlelʃ ［名詞］月極 ［形容詞］月極の ［レベル］4 ʃʃ

ʃɪʃlelɪɒɔ˥ɪ ［名詞］月極駐車場 ［レベル］4 ʃʃ ［用例］ jʃcʃ ʃɪʃlelɪɒɔ˥ɪ 月極駐車場を借りる

ʃɪʃj ［親族］親戚、身内 ［生物］属 ［言語］州方言 ［文字］ファミリー。具体的なスタンダード ミディアムなどは種 (lcʃe)。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ʃɪʃɪ ［語法］ eɥn より狭く、lcʃe より広い。eɥn > ʃɪʃj > lcʃe の順。eɥn のうち、一緒に暮らしていないものを指す。

ʃɪʃɪ ［地球の国名］ジブチ 1L: 国章に２本の腕

ʃɪʃɪ(ʃ) ［魔法］虚斥力 ［反意語］˥ɔ˥lɔʃ ［レベル］5 ɥɑ;ʃɪ/ʃɪ ʃʃ ɑcɪʃɪʃɪ: ［語法］ ɥɑ では斥力一般。従って ɥɑ では虚斥力のことを ɑcɪʃɪʃɪ と呼んだ。ɪ では虚斥力のみを指すので ɑcɪ は不要となった。

ʃɪʃɪ˥ ［植物］ユキヤナギ ɒʃ;ɪlʃ ʃʃ

ʃɪʃɪlc,ɪlʃ ɪlʃc 「上るところ」

ʃɪʃɪlə,ɪlʃ ne˥

ʃɪɔʃɪbe ［化学］二級イミン 1L

ʃɪʃ˥ɔbe ［化学］二級アルジミン 1L

ʃɪʃ˥llelʃ ［名詞］先々月 ［レベル］2 ɥɑ;/ ʃʃ

ʃɪʃ˥ɥɪlʃ ［名詞］一昨年、おととし ［レベル］2 ɥɑ;/ ʃʃ

ʃɪʃ˥ɥjɔɔʃ ［名詞］先々週 ［レベル］2 ɥɑ;/ ʃʃ

ʃɪʃ˥ɥel ［名詞］おととい、一昨日、おとつい ［反意語］ʃɪ˥eɟʃ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ ［用例］ cɒ ʃɪʃ˥ɥel おとといに

ʃɪʃ˥bezɪl ［化学］二級アミン 1L

ʃɪʃe ［親族］おじ、おば、叔父、伯父、叔母、伯母 ［レベル］2 古：親戚。赤アンクノットにはないが、以前は赤と書いてあった。誤記のはず。

ʃɪʃeɟ ［ユマナ］２ちゃんねる、２ちゃん ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ:ɥbɪlelʃ

ʃɪʃen ［接続詞］ʃɪʃ。～ごとの。 ［レベル］3 ʃ1

ʃɪʃel ［形容詞］地道な、着実な、こつこつ、コツコツ ［反意語］ɪlʃɪʃel ［レベル］3 ɥɑ;ʃɪʃ/el。ʃɪʃ を動詞とみなして「周期的に歩む、進む」という意味で使い、その副詞形の ʃɪʃel に「周期的にこつこつ歩むような」という意味を与えたもの。 ʃ˥

ʃɪʃeeɟ ［言語］二重否定 ［レベル］4 ɭ0 ［語法］［文化］ ɪn en cnɪʃ en ˥ɪ（彼女でない人を見なかった）のように、否定を二度行っているもの。ʃə ɑe ˥ɪn ˥el ɪn en cnɪʃ ˥ɪ も二重否定。 en 以外にも二重否定は起こる。ɪn ɔ˥lʃ ucl ʃə ɪɪ˥ɪl は論理的には「絶対それを伝えられないことはない」で、この意味で使うこともあるが、単に否定の強調で「絶対それを伝えられない」の意味で使うほうが多い。ただしインテリ層はこの非論理的な用法を嫌うことがある。

ʃɪ˥ ［生物］腕 ［反意語］zɪɒ ［動詞］ɥəl を抱く、抱く、抱える、抱きかかえる ［普通動名詞］抱っこ、だっこ ［類義語］jɪuɪn、lcɔɪ jeɥʃ ［レベル］1 1ʔ: 制 ʃlc:ʃlc:lə jɪuɪn（棒状）:lcɔɪ,ɪlʃ ［成句］ hɔɒ ʃɪ˥ ɪ ～に対して素直な、正直な。˥ɪʃeɒ ʃɪ˥ ɪ<{ʃel} ～に対して不器用な、頑固な、素直でない ［用例］ ˥ɔɪ˥ ʃɪ˥ 腕を伸ばす ˥cɒ ʃɪ˥ 腕を曲げる ˥cɒ ʃɪ˥ ˥ɔɥ sɪɒ 腕を引っ込める jɔ˥ʃ ʃɪ˥ 腕を組む：悩み、思考、不快、敵意、脇腹痛などのときの仕草。 jɔɥɑ ʃɪ˥ 手を挙げる、挙手する

ʃɪ˥ʃ ［政治］派、派閥、リーグ 甘党、辛党、猫派などの「派」 ［レベル］3 古 :ʃ（ソーンとの和平に）賛成するか？」という言葉から。 ［用例］ ʃɪ˥ʃ e jɔɥn ソーン派

ʃɪ˥lcʃ ［生物］腕の付け根 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ʃɪ˥j ［植物］マホガニー ［レベル］6 ɭ˥ɪʃɪ: そういう家具の名前

ʃɪ˥uɪj ［娯楽］腕相撲 ［レベル］2 1L ［文化］ やり方は日本と同じ。

ʃɪ˥l ［被服］腕輪、ブレスレット ［レベル］3 1ʔ: 制 :jɪɑ:ʃɪ˥ɔ˥lɔ（腕輪）

ſiʃlɔnz ［名詞］腕枕 ［レベル］4 1L ［文化］ 彼女に対して彼氏、子に対して母、娘に対して父の組み合わせしかない。後者は娘が５才になる程度でやめる。 ［用例］ ɑcſ ſiʃlɔnz ı nene ～に腕枕してやる nɔn en nı ejcl ı lcɑcı ʃɔʃlɔ ſiʃlɔnz. 誰かの腕枕で寝るのは快適ではない。

ſiʃı ［地学］大陸 ［形容詞］～大陸。前置。 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 恣意 ［文化］ ıʃlıſ, ɟuɔcı, ɑıbeɟ, ʃeu eı, ıɑenſɔ, lecuı の６大陸。uɟ まではʃlenɑcı も含まれた。 地球の大陸と比べると、日本では６大陸だから同じで、欧米では７と教えることが多いので１つ少ないことになる。

ſiʃı,ıſſ lɟə ſı/ʃı

ſiʃɟlıɑ ［地球の国名］セントルシア 1L: 国旗に黒い三角と黄色い三角

ſiʃıbeɒ ［組み数字］タカサークル ［レベル］5 ʃʃ ［文化］ ɟıdıll

ſiʃɟɔʃ ［経済］貿易摩擦 ［レベル］5 1L

ſiʃc ［生物］人体の脇、わき、わきのした、脇の下、腋窩、えきか ［レベル］2 1ʔ: 制 :ſiʃ ［語法］ 脇の下が中心。腋毛が生える部分がさらに中心となる。広義には肩の肩関節部分も含むが、ふつうここは ɑlel。 服飾や刀文化の関係で、アルティア人のアルカ話者などは肩の肩関節周りから脇の下まで大雑把に ſiʃc で指すことがある。

ſiʃchcljcen ［生物］腋窩横紋 μɑ;/ ʃʃl

ſiʃcscɔɟ ［生物］極泉 ʃʃ

ſiʃclɒ ［名詞］敗者復活 ［名詞］敗者復活戦 ［名詞］ダブルイリミネーション、ダブルエリミネーション ［レベル］5 μɑ;/ | μɑ;ſiʃclɒɑıljeucſı から ʃʃl ［用例］ ıμ ſiʃclɒ ɟɔu uıjſın ɔ uıɑeın 勝ち抜いた者と一度敗れた者の間で敗者復活戦を行う ıμ ſiʃclɒ ɟɔu uıɑeın jecn 敗者同士で敗者復活戦を行う

ſiʃccnc ［生物］脇毛、わき毛、腋毛 ［レベル］3 ʃ0 ［文化］ 男性は剃らず、女性は通常剃る。女性で残しているのは日本同様恥ずかしいことに当たる。

ſiʃɔſın ［農耕］二圃式農業 ［レベル］6 μɑ ʃʃ ［文化］ → ucʃɔſın zφ でカルテ神の恩恵を失ってからできた農法。冬雨型の気候のもとで小麦の冬作と休閑を繰り返す。レスティルで始まり、徐々に北へ広まった。

ſiʃeɟſ ［名詞］あさって、明後日 ［反意語］ſiſɔlel ［レベル］2 1L:ſlcɔn

ſiʃeɟlelſ ［名詞］再来月 ［レベル］2 μɑ;/ ʃʔ

ſiʃeɟɟıſſ ［名詞］再来年 ［レベル］2 μɑ;/ ʃʔ

ſiʃeɟɟɔɔſ ［名詞］再来週 ［レベル］2 μɑ;/ ʃʔ

ſiʃel ［動物］フウチョウ、風鳥、ゴクラクチョウ、極楽鳥 μɑ;<ɑφn ʃʃl

ſiʃelcɑı ［地球の星座］［ユマナ］ふうちょう座 ʃʃl ［文化］ cɑı

ſıl ［形容詞］速い ［反意語］ɑepc ［魔法］タッシュ（ヘイスト）。中位時魔法。時間を歪めて速度を上げる。 ［音楽］アレグロ ［レベル］1 jeμſ 1ʔ: 制 :ſəl: 古 :ſlcſe（速い） ſlcſe:ſlcſe:ſıl:ſɔſɔlə, ıſſ ［用例］ ［メタファー］ſıl ɥən bəb ハエのようにすばしこい：邪魔くさい感じ ıɒɔ ſıl 速い車

ſıſɟıμ ［動詞］ɥəl を ı（シーンなど）まで巻き戻す、巻き戻す ［普通動名詞］巻き戻し ［類義語］ɟıμ ［反意語］ſıldıl ［レベル］3 ʃ0 ［語法］ ſıldıl

ſılucɒ ［生物］速筋 ［レベル］5 ʃʃlk ʃʃ

ſılɑɔnſ ［交通］高速道路、上 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbılelſ

ſıldıl ［動詞］ɥəl を ı（シーンなど）まで早送りする、早送りする ［普通動名詞］早送り ［類義語］dıl ［反意語］ſıſɟıμ ［レベル］3 ʃ0 ［語法］ dıl は見ながらの早送り。ſıldıl は一時停止してからの高速早送り。

ſıllɔd ［交通］急行電車 ［レベル］3 1L:lcɔn

ſıłı ［名詞］ジェット ［動詞］ɥəl を早く噴出する、噴出する、噴射する ［普通動名詞］噴出、噴射 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ſıłbłı

ſılcſ ［名詞］速さ、スピード、速度 ［音楽］テンポ ［レベル］2 1L:pel:ʃ1 に ſıłıſc にしようとしたが長いので ſılcſ はこのまま残した。語源は ſıł/ıſc となる。 ［用例］ ſə ıſ led lel ın ſɔc ſılcſ. スピード調節が難しかった。

ſılcſledl ［法律］ネズミ捕り、ねずみ捕り、ねずみとり、ネズミトリ、ネズミ取り、ねずみ取り ［レベル］6 μſ;/ ʃʃl ［文化］ 自動車が普及するにつれてスピード違反を取り締まるために行われたが、旧革命で道路の整備とともに、そもそもネズミ捕りというやり方が「卑怯で汚い。その上やったりやらなかったり、全員が一律に罰せられるわけでもないのがアンフェアだ」と、アルバザード人の精神に反したため、非難を浴びて廃止された。よって ul 以降では存在しない取り締まりである。

ſılcn ［動詞］ɥəl を一瞥する、一瞥する、ちらっと見る、チラ見する ［普通動名詞］一瞥、いちべつ、チラ見 ［レベル］3 1ʔ: 制

ſıle ［動物］チーター ［レベル］3 1L:ſıl（地上で一番速く走るので） ［擬声］ ədcc（威嚇）、φrlrlrl（唸り）、lɥən、lɥəə（呼び合い）

ſıleɒ ［普通動名詞］加速 ［動詞］ɥəl を加速する、加速する ［レベル］4 1L ［語法］ 論理的に言えば「速くすること」なので、加速ではない。加速は時速１ｋｍから２ｋｍにしても加速といえるが、時速２ｋｍ自体は遅い。従って正しくは ſıɒcɒecɑ というべきであるが、単に長くて面倒くさいので避けている。

ſıleɒjcı ［魔法］加速膜 ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ſıleɒjcıɒʃlucın ［魔法］加速膜斥力 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ſıleɒıſc ［物理］加速度 ［レベル］4 1L

ſıleɒɔu ［物理］加速度運動 ［レベル］4 1L

ſıɟ ［名詞］試験、テスト、実力テスト、検定、検定試験、考査 ［レベル］2 1L: 制 :ſıdɟ ［文化］ 日程→ ɑcıjel, ɒeljel ・日程 学生の試験は毎年二回実施される。ディアセルの直前と、メルセルの直前である。卒業見込み生にとってはメルセルの直前の試験は卒業試験でもある。試験は授業と同じ時間割で行われる。記述式の試験で、マークシートはあまりない。また、筆記試験の他に面接試験もある。口頭で質問される事項に答えられるかがポイントとなる。 試験の結果は ɑınſ, eμɑc, leſſc, ɑμeı で評価され、ɑμeı は赤点である。評価は絶対評価である。だからその気になれば全員が ɑınſ でもありえるし、全員が落第することもある。 ・アルバザードの試験 アルバザードで実施される試験問題は、どの科目でも単に答えを出せばよいものではなく、「なぜそうなるか」が含まれるものが多い。国語算数理科社会どの科目であれ、「なぜ」を考えさせる仕組みになっている。これはアルバザード政府が自発的に考える人間を育成したいと考えているためである。以下に例を挙げよう。 アルバザードにおける数学の試験問題例 ミールは問うた。「０！は、ふつうに考えれば０になると思うが、これは正しいか」 ミールの考えは正しいか。もし正しいなら証明せよ。もし違うなら、なぜミールはこう考えたのか説明し、０！の値を求めよ。 模範解答 ミールの考えは誤り。ミールが０！＝０と考えたのは、「階乗は n から１まで１つずつ数を変えながら掛けていくもの」と考えたため。よって彼女は「０！＝１×０＝０」と考えた。 他方、（ｎ－１）！＝ｎ！÷ｎであり、ｎ＝１のとき０！＝１である。よって０！＝１。 以上を見ても分かる通り、アルバザードでは物事を言葉できちんと説明できる人材を育成している。 計算だけなら機械でもできる。問題だけならパターンプラクティスをすれば誰でも解ける。計算だけしても演習だけしても「なぜかを考える力」はつかないし、理屈を言葉で説明する力もつかない。 アルバザード人は論議が好きな民族である。相手が間違っている場合、なぜ相手が間違っているかを説明する必要がある。自分の正しさを証明するだけでなく、なぜ相手がそのような間違った考えをしているのか、その思考の過程を汲み取って理解する必要がある。 議論において重要なのは自分の正しさを主張することだけではない。相手の間違った思考回路を指摘し、説明することもまた大事である。そうでなければ完全に論破したことにはならないし、第一相手が納得しない。 分かっていない人間にはなぜその思考過程が間違っているのかを説明する必要がある。それゆえ、アルバザードにおける問題はこのように誤った思考回路を提示し、なぜそれが間違っているのかを説明させた上、相手がどのような思考過程でそのような誤謬に至ったかまで説明する必要がある。日本人の識者はしたり顔で「なぜ『ふつうに考えれば０！＝０になる』のかがむしろ全く理解できないのですが」というようなセリフを吐くが、これは自分の持っている正しい知識の量をひけらかしつつ、自分の正しさをさも当然のことと涼しい気な顔で言いたいだけである。アルバザード人は相手の思考回路を理解できない己の無能さを恥じるため、そのようなセリフは恥と捉え、言おうとしない。 アルバザードではこのように、問題の背景にある「なぜ」に答えねばならない。その上で日本と同じように通常の演習問題も解かねばならない。ゆえにアルバザードにおける試験は日本のそれと比べると非常に難しく、また論議力を付けさせる上で非常に有益であるといえる。 日本でいうような単にお勉強ができる秀才タイプでは、切り抜けられないことが多々ある。自分で言葉を使って自分の考えを表現し、相手の考えを理解した上で言葉で整然と反論できる力がないと生きていけない。 アルバザードは上層部にマニュアル人間を必要としていない。それはアルバザードが μɒ から２０００年近くにわたって持ち続けてきた理念である。当時のアルバザードはルティアのような魔法兵団もなければメティオのような魔獣兵団もなく、特筆したものがなかった。それが世界一の強国になったのは、常になぜかを考え独自の発想を生み出す人材を育成してきたためである。 アルバザードにおいて単なる計算問題のような設題はまずなされることがない。例えば１＋１＝２のような簡単な計算問題であっても、「１＋□＝２になるような数を□に入れなさい」などという形で出題され、計算以外の思考を強制させられる。 反面、ɑcınlı のような低学年のうちは計算力が大事とされるため、lızlı 以降とはまるで逆で、完全に公文式で理屈抜きでひたすら計算問題を書き取り問題を写経のようにやらされる。特にアルナ校のような名門校では、子供が腰痛になるくらいの量を出題し、演習させる。 暗記科目も ɑcınlı のうちに地獄のように覚えさせられる。例えば日本では６年生までに歴史を覚えるが、アルバザードでは ɑcınlı のうちにイルムス全てを暗記させられる。 なお、アルバザードは合理主義の国なので、適材適所や船頭多くして船山に登るといった事柄も認識している。 アイディアの高の人間ばかりいても技術者がいなければモノづくりはできない。そこで ɒınılı に行く際に、普通科に行くか専門科に行くかを選択する。専門科に行くと公文もびっくりするくらいのパターンプラクティスと演習の繰り返しの日々が待っている。そこでは考える機会は奪われ、ひたすら機械になるよう徹する訓練が行われる。いわゆるブルーカラーやＩＴワーカーにこの層が多い。 なお、言うまでもなく支配層は普通科出身の「考える力のある人間」たちである。問題は解けるがそれを説明できない人間は日本と違って見下される傾向にある。 ［用例］ uıjſ ſıj 試験に受かる uıj ſıj ſ'ılɑ 数学の試験を受ける、数学の試験がある eu{ıμ} ſıj 試験を課す、試験を行う ın ſcl ſıj cɒ ʃejſ. 明日はテストがある。 ıμ ſıj 試験を受ける、試験を与えられる、試験を与える。多義的。 "cɒ ʃcſ, fə ıſ ſıj ʃılcj le ʃcd ɑısnı lııſej.「最初はちょっとした親切心を観るためのテストだった。 "jee nɔn euſ ſıj ʃej ı lenɑc ɥəlc ɑıs jecn.「そんな親切な子供たちに次のテストを行った。

ſıjjınɔ ［名詞］試験日程 ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbılelſ ［文化］ ɑcıjel, ɒeljel

ſıjn ［動詞］ɥəl を証明する、証明する、実証する ［普通動名詞］証明、実証 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ı jen（反省、証明）← ıμſıjen ［成句］ ſıjn ejſ 名を証明する：面目躍如

ſıjnμenj ［名詞］証言 ［動詞］ɥəl という証言を言う、証言する ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃl

ſıjnıb ［名詞］証拠 ［レベル］3 1L:lcɔn

ſıjnıılene ［名詞］実証不可能性、証明不可能性 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

ſıjnene ［名詞］実証可能性、証明可能性 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

ſıjɒ ［名詞］証明書、証書 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ſıjɒıj

ſıjhɔcın ［名詞］試験監督、試験官 ［レベル］4 ʃ0

ſıjıılł ［数学］フィボナッチ数、フィボナッチ、フィボナッチ数列 ［レベル］5 μɑ;/「前にある２つの数の和の数」 ʃʔ ［文化］ ɾlu でユルガが発見したのが最初。 人類が再発見したのは zφ のシージア人。 その後 μɒ でアルバザード人が再発見し、μɑ 以降へと継承された。 ・現実では ʃʔ 年にルシアがセレンにプリキュアの話をしていた。面倒に感じたセレンが適当に話を流して「そんなことよりフィボナッチ数の話をしようぜ」といい、その際に ſıjıılł と命名し、「今からフィボナッチ数について説明するから」と言った。 「０，１，１，２，３，５と来れば次に何が来ると思う？」と聞いたら、面白がってしばらく考え、「８です」と答えた。「なんで？」と聞いたら「前の２つの数を足しました。え、だから ſıjıılł（２つ前の数）って言うんですよね？」と言った。ネーミングが理解を促進させてしまったようだが、それでも解けた。 他方、ʃʃ 年にセレンが向かいの家の９歳の娘に同じ問題を出したときは「７です」と言われ、正答にはならなかった。私立に通うお嬢様なのだが、解けなかった。ſıjıılł という命名の分かりやすさのせいもあるだろうが、やはりルシアは賢いと感じた。 ちなみにユルトに同じ問題を出したところ、こちらの言っている意味すらよく伝わっていなかったようだ。数列という概念がそもそも彼の頭にないらしく、「次に何の数が来る？」と聞いても「は？」という顔だった。数が意味を持って順序良く並んでいるということすら理解できていない。彼の貧弱な頭では、先の集合はただ６個の数が意味なく置かれているにすぎないのだ。セレンは興ざめして彼に教えるのをやめた。

ſın ［形容詞］～も、～もまた、同様に～も、同じく～も ［レベル］1 1ʔ: 制 : 恣意 参考 : 古 :ʃɔlı「仲間」 ［用例］ ın jccnı ɔɒı ſın. 犬も好きだ。 ın ſın jccnı ɔɒı. 私も犬が好きだ。 ın bıcφ ıſ ſın lı. 私は彼を殴りもした。殴った以外に何かしたことになる。

ſın(ʃ) ［人名］ウムトナの略称 ［組み数字］１６／２８ ［レベル］1 制

ſın,ɑ ɔμ, ej e

ſın,ɑɒ ʃenɔ

ſınſ ［名詞］外、屋外、野外、アウトドア ［名詞］漢然と建物や家や部屋の外 ［形容詞］屋外の、戸外の、露天の ［格詞］～の外で ［格詞］～のくせに、～の癖に ［反意語］dɔſ ［レベル］1 1L: 古 :ſınſı ſı, ſınſı:ſı, ſınſı ［文化］ 日本と違い、男女は明確な役割分担をしているため、女なのに料理ができないとか、女なのに口汚いといった場合は、ſınſ ɒcn（女のくせに）と言われる。日本ではそう言われると逆ギレするが、アルバザードだと恥じる。女のくせにと指摘することで相手を女の範疇に押し込め、適正な位置に矯正するという意味で、社会的善であるとされる。 当然、男にも同じことが言える。男のくせに喧嘩ができないとか、戦えないなどと揶揄され、逆らうことはできない。 ［用例］ ſınſ ıſ uεμſ lılel. まだ外は暗かった。 ſc eſ lɔɔı ı bel ſınſ ɒcn. 女のくせに料理もできないのかよ。

ſınſſıə ［経済］通販、通信販売 ［レベル］4 1L: 店の外で買う ［用例］ ☆ el ſıə jen ɑcdcſ ɑeμel ſcnlı uıμ lec ſınſſıə e ſɔɑ nɔɑ sɔſlec. オンライン通販のほうがカタログ通販より値段がずっと安い。

ſınſſcu ［運動］野試合 μɑ;/ ʃʃl

ſınſje ［軍事］雷管 ［レベル］6 μɑ;ɑɔueſ. 雷管を打つときの音がら。 ʃʃl ［文化］ φel

ſınſjeφel ［軍事］管打ち銃、パーカッション μɑ;/「雷管銃」 ʃʃl ［文化］ φel

ſınſuepl ［数学］［物理］［地学］外射 ［レベル］5 ʃ0

ſınſhcɒ ［生物］外性器 ［レベル］4 1L

ſınſhcɒſ ［生物］外陰部 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʃl

ſınſjenj ［芸術］書き文字 1L

ſınſleeu ［普通動名詞］外出し、膣外射精 ［反意語］dɔſleeu ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［文化］ → dɔſle eu あまり効果のない避妊法として用いられる。

ſınſləoı ［被服］土足 ［レベル］3 ʃʃ

ſınſı ［名詞］［形容詞］ジグザグ ［動詞］ɥəl をジグザグ状にする、ジグザグにする ［レベル］2 1L: 古 :ſınſ: メルの遊びから。地面に丸をジグザグ上に書いていき、丸から丸へと毎回足を変えながら片足で跳躍していくという遊び。メルは跳ぶたびにリズムを取って ſınſ·ſınſ·ſeenſſ と喋っていた。これは当時セレンやリディアが与えたオノマトペで、ジグザグの意味で使い出したのはオヴィが始めで、自転車の乗り方の話をしているときだった。

ſınſı,ɑ ſınſ ſı が外。

ſınſılɔ ［名詞］アウトドア、野外活動 ［レベル］4 1L ［用例］ ın jccnı ɑleı ɒın ſə eſ ɑız uecn ı ſınſılɔ. 野外活動により適しているという点で夏が好きだ。

ſınſın ［音楽］ポルカ ［レベル］5 ʃ1: リズムの擬音

ſınſcɑın ［天文］太陽系外惑星 ［レベル］4 ʃ0: 太陽系の外の惑星であることから

ſınſɔɒ ［生物］嬰児、赤ちゃん、赤ん坊、赤子 ［レベル］4 μɑ;ſınſ/ſɔɒ「腹の外」 ʃʔ ［語法］ 産まれたばかりの子供のこと。

ſınſɔɒɑeɒe ［地学］［歴史］始生代、太古代 ［レベル］6 ul;/ ʃʔ ［文化］ φıueɑeɒe ４０億年前（または３８億年前）から２５億年前までの間を指す。最初の生命が誕生したと考えられる冥王代の次の時代であり、原生代の前の時代である。太古代とも呼ばれる。

ſınſɔɒc ［建築］雨戸 ［レベル］3 1L

ſınſɔı ［化学］電子殻 ［魔法］殻、ノート ［レベル］5 jɒ;ſınſı.l。魔法のほうが化学より先。 古 :ſınſɔı ← ſınſı（外）/uɔı（原子核） ［語法］ 原子核に近い順から、ſ,l,l,ȷ 殻となる。 魔法では「殻から μ 殻までの１６殻。→ ɑɔlɒcɥə

ſınſɔıłł ［化学］電子の座席数 ［レベル］5 1L

ſınſe ［名詞］ソト ［反意語］ʃɔnſe ［レベル］3 ʃ1: 古 ſı（ソト）/ſefɔnı（関係） ［文化］ ʃɔnſe ［用例］ ɒıɒɔ ſınſe 外面、ソトヅラ、外ヅラ

ſınſen ［接続詞］ſınſ。外の。 ［レベル］3 ʃ1

ſınʃ ［生物］手首、リスト ［反意語］ɔɔɔɔ jeμſ ［レベル］2 1ʔ: 制 ʃe:ʃe:lə jıuınſe（手が jıuın で

音が似ることもあり） ［文化］ ɔɔɔɔ ［用例］ ɾinʔ lcɩ̀ 細い手首＝ ɑɔɔl

ɾinʔʔcl ［普通動名詞］リストカット、リスカ ［レベル］4 ɩl;/ ʃ̀ ［用例］ ɩɥ ɾinʔʔcl リスカする

ɾinʔucnɾ ［被服］腕につけるお守り、タリスマン ［レベル］4 ʔ: 制 : 手首のお守り ［語法］ ミサンガなどはその例

ɾinʔhɔ ［生物］手根骨 ［レベル］5 ʃ̀ʃ

ɾinʔoɩɟd ［被服］長袖、長そで ［レベル］3 μɑ;/ ʃʃʃ

ɾinʔɔlʃ ［名詞］手枷、手かせ ［レベル］4 1L: リディアの書 ［用例］ eu ɾinʔɔlʃ ɩ ʔɩɩn 奴隷に手枷を嵌める

ɾinɾ ［料理］麺、麺類、パスタ、スパゲッティ、スパゲティ ［レベル］2 ʔ: 制 : 古 :ɾin ［文化］ 通常パスタのこと。 頻繁に食べられる。パスタが最も一般的で、ミートソースやナポリタンが多い。 麺自体に油を含むので、高カロリーで消化にはよくないとされる。結果、胃弱はかえって痩せ、常人は太りやすい。そのためミロクは害食に指定しようとしたが、伝統料理とのことで排他には批判が殺到し、諦めた。 麺類は音もなく啜る。凪人は勢い良く音を立てるが、アルバザード人やルティア人はそれをしない。 ［用例］ ɔɔc{len} ɾinɾ 麺を啜る。jcd にすると啜るという動作を強調している。ふつうは ɔɔc を使う。jcd は啜る動作を強調するときだけ使う。

ɾinɩɥ ［名詞］シュレッダー ［レベル］4 ʃʃ: 麺状にする機械

ɾinɟ ［哲学］徳、人徳、美徳、高徳、人間性（人徳という意味の人間性） ［類義語］ɩinɾɾ ［レベル］4 古 ::ɩ lcɟɾe（正義は lə lcɟɾe） ［語法］ 美徳、高徳、人徳、悪徳などの徳。道徳の面から見て良いこと。 ［文化］ ɾɾll ［用例］ lə ɾcl ɾinɟ. 彼女は徳が高い。

ɾinɟɾɾll ［名詞］徳育。徳育、知育、体育という教育の三本柱のうちのひとつ。 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ ɾɾll、ɩʃʃ̀ɩɩɑ

ɾinɥcμ ［魔法］開式赫晄 ［レベル］5 ʃʃ0: 古 ɾɩ（外に）/ɥcμ

ɾinɑ ［物理］［数学］単位量 ［レベル］5 ʃʃ0: 古 ɾɩl/ɑə

ɾindɔ ［植物］デュラム小麦 ［レベル］4 ʃ̀ʃ:ɾinl/dɔɔɾ ［文化］ パスタなどの原料になる小麦。

ɾindɔʔleɩ ［植物］［料理］デュラムセモリナ粉 ［レベル］4 ʃ̀ʃ

ɾins,ɟzɑ ɔll

ɾins,ɟzl leɟ

ɾinselcn ［アトラスの国家］タンジェリン ［レベル］5 ʃ̀ʃ:μcɑɔɩ

ɾinl ［名詞］腕時計 ［レベル］3 ʔ: 制 :ɾinʔbelʔ（手首につける時計） ［文化］ アンセが腕時計形で、時計機能を持っているため、腕時計は既に廃れている。

ɾinɩɟɩ ［医療］二卵性 ［レベル］4 1L

ɾinɩμɾ ［魔法］開式魔法 ［レベル］4 ʃ̀ʃ ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɾincɒʔlɩɑ ［地球の国名］モナコ ［レベル］6 1L: 国旗が 2 色

ɾincɩ ［美容］おさげ、二つ結び、ツインテール ［レベル］2 1L

ɾincɩ(J) ［名詞］緑 ［類義語］ɑccɩ ［レベル］3 ʃ0: 古 ɾel/ncɒ（葉っぱの色） ［語法］ ɑclueeɥə 語 ［用例］ cɾɟ ɾincɩ 碧目

ɾincɩn ［名詞］二連休 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʃʃ

ɾincɔɟ ［経済］複式簿記 ［レベル］6 1L

ɾincɔμɩ ［建築］メゾネット ［レベル］5 ʔʔ: 制

ɾiu ［動詞］ɥel を ɩ に貼る、貼る、貼り付ける、はる、張る ［普通動名詞］塗付、添付、塗布 ［反意語］ɩlɾiu ［レベル］2 ʔ: 制 : 恣意

ɾiuɩl ［音楽］スカ ［レベル］6 ʃʃ: 「ニイヨン」で強くなるリズム

ɾiuɩcʔ ［被服］ツーピース ［レベル］4 ʃ̀ʃ

ɾiuej ［名詞］二人きり、二人ぼっち、ふたりぼっち ［形容詞］二人きりの、二人ぼっちな、ふたりぼっちな、二人だけの ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃʃ ［用例］ ɪn ɩɩɩ ʔel uɪn jel l'ɪnɟ ʔəɾ nɔɟɟe ɾəμ ɾi uej ɔnnɪ,ȣ cɒ ʔɩ ɑelez cɒen ɾdəəɟ. 「ふたりぼっちだね」と言った夕方の教室を、僕は決して忘れない。 ɪnɟ eɾ eμɒej, ɥɪn μeʔl eɾ ɾə ɑcɩ. ɪnɟ uɪnɔ ɑɩl hɪɾcɪnɪ, ɟɔn ɪnɟ eɾ uɪɪn ɾiuej. 私たちは騎士、敵はこの世界。守るべきは恋心。私たちは、二人だけの軍隊。

ɾiueɟɾɔ ［言語］二重母音 ［レベル］4 1L

ɾiɑ ［動詞］ɥel を c から取る、取る、とる、収穫する、もぐ、奪う、盗む、徴収する、得る、摂る、摂取する、もげる ［動詞］ɥel を履修する、履修する ［類義語］ʃcɒ、ɑcʃ ［反意語］ʃcɑl、ucnɟ μɑ ［レベル］1 ʔ: 制 ɑəʃɔ:ɑəʃɔ: ［用例］ ʃɩɑɩʃ ɒccʔ c zedl 枝からりんごをもぎ取った

ɾiɑμec ［地球の国名］オマーン ［レベル］6 1L: 国章が 2 本の剣

ɾiɑl ［動詞］ɥel を狩る、狩る、漁をする、狩猟する ［普通動名詞］狩り、狩猟 ［レベル］3 μɑ; ↓ ʔ: 制 :ɾiɑ からの連想 uɪcʃ:uɪcʃ:uɪcze:hɪψəə,ɩlʃ

ɾiɑlψel ［名詞］猟銃 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ ψel

ɾiɑlɩɟl ［被服］ハンチングシューズ、ハンティングシューズ μʃ;/ ʃʃʃ

ɾiɑlɪn ［名詞］ハンター、狩人 ［生物］捕食者。生態学における。 ［レベル］3 μɑ;/ | nɑ;/ ʃ̀ʃ

ɾiɑlcɒdc ［動物］ジガバチ ［レベル］6 ʃ0: 狩りをするハチ

ɾiɑlɔɒɩ ［動物］猟犬 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʃʃ

ɾiɑlɔɒɪcɑɩ ［地球の星座］［ユマナ］りょうけん座 ʃʃʃ ［文化］ cɑɩ

ɾiɑɩ ［動物］鷹、タカ、ホウル、ファルコン ［単位］澗 ［レベル］3 ʔ: 制 :ɾiɑl からの連想

ɾiɑɔμ ［音楽］四分音符 ［レベル］4 1L ［文化］ → ɑɔμ

ɾiɒ ［形容詞］［ポジティブ］貴重な、勿体無い、もったいない、希少価値のある ［名詞］貴重品 ［反意語］jəəʃ ［レベル］2 古

ɾiɒɩɑ ［名詞］希少価値 ［レベル］4 ʃ̀ʃ

ɾiɒɒc 鉛丹 ʃ̀ʃ:ɾin/ncɒ

ɾiɒz ［植物］カルダモン ʔʔ: 制 :ɾɩɟ/ɩɩɒz

ɾiɒze ［植物］竜舌蘭 ［レベル］5 ʔʔ: 制 :ɾiɒ/zeɒ（貴重な草）

ɾiɒzejcɟdɩ ［料理］テキーラ ［レベル］5 ʔʔ: 制

ɾiɒɩʃ ［言語］二重分節 ［レベル］6 1L ［語法］ 言語を形態素に分け（1 次分節）、音素に分ける（2 次分節）こと。人間の言語の特徴としてセレンが発見した。ɩɑcɪneɾinʔ という音を ɩɩ ɑcɪn eʃ inʔ と形態素ごとに分け、個々の ɑcɪn などを ɑ c ɪ n と音素のレベルで分けること。

ɾiɒψl ［音楽］オーボエ ［レベル］4 ʃ̀ʃ:ɾiɒψeʃ/lɔɟ

ɾiɒψeʃ ［音楽］ダブルリード、複簧 ʃ̀ʃ

ɾiɒccμ ［論理］ジレンマ、両刀論法 ［レベル］5 ʔʔ: 制 : 2 つの論 ［語法］ 日本語では「どっちも選べず悩むこと」という意味が定着しているが、この意味は論理学的には本来誤りで、アルカでもこの用法はない。

ɾiɒɔʔ ［音楽］四分休符 ［レベル］4 1L ［文化］ → ɑɔμ

ɾiɒɔʔlcɥə ［普通動名詞］孫請け、サブサブコントラクト ［動詞］ɥel を孫請けする、孫請けする ［レベル］5 μɑ;/ ʃʃʃ

ɾiɒelc ［名詞］囃子、囃、おはやし、はやし μɑ;<ɾiɒelə,ɩlʃ の名詞形 ʃʃʃ ［用例］ lc ɾə, ɪn ʔe jcl aeʔlc cɒ hɩμd, ɥɪn ɾɔll e ɾiɒelc cɒ ɑəμne. ɑɔʔ, ɪn μəʔɩɟ ɑɩl μɪɑel e jɒɟɟeɑ lɔʃ ʔeɟʃ. ɩμʃe, ɪn jcl uɔʔʔɩ cɒ ʔeɟʃ ɾin ɪ... その後昼に塾に行き、夜は囃子の練習。更に現代文の宿題を明日以内に。明日も忙しいなぁ……。 ɪn ʔe uɪn ɾɔll e ɾiɒelc. お囃子の練習へ行ってくる。

ɾiɒelə ［動詞］ɥel の気分を高揚させる、高揚させる、ハイテンションにする、囃し立てる、囃す、はやす ［レベル］4 μɑ;<ɩlʃ ʃ̀ʃ ［用例］ leɟ eʃ ɔn ɩl ɔɔψɩʔcoɪcn c ɥəlc eɒ ɾipelə enɾɔ eɒ ɾeɔlɔ ɟɩ ɾə oɪcn. 小さい頃から大垣まつりに関わってきた人は祭の前になるとテンションが上がって馬鹿になる。

ɾiɑ ［名詞］岩、岩石 ［レベル］2 ʔʔ: 制 :ɾɩɟɑɔl（大きい / 鉱物（石）） ［成句］ ɾiɑ ɟɩen ɪdl 前途多難

ɾiɑɩɟ ［魔物］タダス（岩憑）：第三十五天：土の風天 ［レベル］5 1L:μcɑɔɩ/jeμen/ɒel:ɾiɑ（岩）/ ɩɟ（制の「もの」） ［文化］ 大きな岩肌に凹凸があると、たまに人の顔に見えることがある。くぼみの部分が目や口に見え、突出した部分がまるで鼻のような崖がある。そんな場所を見つけたら、注意したほうがいい。岩憑が潜んでいるかもしれない。岩憑は山岳部で旅人を襲う。ひとたび咆哮をあげれば岩石が雨のように降り注ぎ、旅人を潰す。防御力が尋常でなく、体力も多い。移動はできないため、ひたすら逃げるのみである。

ɾiψ ［名詞］報酬、ごほうび、褒美、見返り、リターン、賞金 ［レベル］3 ʔ: 制 :「 払われたもの 」が原義 ［語法］ ɑcʃ ɾiψ は約束していない報酬を払うこと。φɩʔ ɾiψ は約束の報酬を払うこと。 ［成句］ jee ɾiψ eʃ hɩμ そして見返りは赤字：骨折り損のくたびれもうけ

ɾiψɪbe ［料理］ポップコーン、爆弾あられ ［アクセント］ɾiψɪbE ［レベル］3 zφ;<ɾiψɪbe,ucʃhɪnɔc ʃ̀ʃ

ɾiψc ［経済］チップ（サービス料のチップのこと） ［レベル］3 ʔɩ: 制 :ɾiψ ［文化］ チップを払う習慣はない。特に恩があった場合に心づけをすることはある。

ɾid ［形容詞］正確な ［反意語］ɾecɟ ［レベル］2 ʔ ←古 :ɾidɟ（雑な）。ɾidɟ は足並みが揃わない行進を意味するオノマトペ。"ləʔll ɥəʔle ɾidɟɾidɟ" で「 統率が取れていない 」とか「 仲が悪い 」「 相性が悪い 」「 まとまりがない 」などの意味になる。

ɾiddc ［形容詞］へぼい、しょぼい、ヘボい、ショボい、ヘタレな ［反意語］jccɥə ［レベル］2 古 ［語法］「へたっぴでしょぼい」と覚えよう。

ɾidhɩɾl ［言語］正体 1L ［文化］ μɑ でセレンが作った書体。アルカの公式の書体。元はペンで作られたが、太さが均一なほうが無色透明で公式にふさわしいとして、鉛筆でデザインされ、鉛筆体となった。

ɾidɩlcɑeμn ［天文］連星系 ʃ̀ʃ

ɾib ［動詞］ɥel を調べる、調べる ［普通動名詞］調査、捜査、探査、検査 ［レベル］3 ʔʔ: 制 :ɾidɟ（テスト） ［用例］ ɾib ez ɔn lec 部屋に本があるか調べる ɾibɪʃ ləəɟ ɩʔl ɑɪn ɑɪsel nɔn ɾeə ɒelʃ ɪn le nɪ delɟ ɪz. 困っていた異民族の私を親切に手伝ってくれるかどうか。

ɾibɩ ［法律］審理、公判 ［動詞］ɥel を審理する、審理する ［レベル］4 ʔʔ: 制 :ɾib

ɾibɔ ［動物］カキ、牡蠣、オイスター ［レベル］3 lɩ̀ʔɩ ［成句］ ɑɔnl ɾibɔ uɪμ ʔeeʃ ɪɒɩuel. リュウの月とパールの月の間は牡蠣を食べるな：uɪμ ʔeeʃ は二重格詞。英語圏では r の付かない月に牡蠣を食べるなという。これは 5 ～ 8 月を指す。メル暦の場合、リュウの月の頭は 4 月中旬で、日本でいう「桜が散ったら牡蠣を食べるな」という時期と一致している。またパールの月の終わり、ミルフの月になる前日は 9 月上旬であり、グレゴリオ暦でいう M a y ～ A u g u s t にちょうど覆いかぶさる形となる。そしてこの期間が夫婦であるリュウとパールの名からなるという奇跡的な一致をリディアが発見し、こんなに覚えやすいことはないとして、息子 ɪɒɩuel の名を取って慣用句にしたもの。ʔeeʃ 参照。 ［文化］ 利食。貝類の中でほぼ唯一消化に良く、栄養素が豊富。成句にもあるように、リュウの月からパールの月は中毒になりやすく味も落ちるので食べない。

ɾibe ［化学］ケチミン ［レベル］5 1L: ケトン＋イミン

ɾibel ［色］紺色 ［レベル］3 古 jɔμn

ɾihɪɑɑμɪn ［数学］二次関数 ［レベル］4 1L

ɾihɪɑɒcɥəɟɪn ［数学］二次方程式 ［レベル］4 1L

ɾiɥeljɔμ ［ユマナ］［音楽］ダブルシャープ 1L

ɾiɥelhɩcʃ ［ユマナ］［音楽］ダブルフラット 1L

ɾiɥə ［電算］全角 ［反意語］ʔɔɥə ［レベル］3 ʃ0: ɾiɥəɩʃ

ɾiɥəlc ［名詞］双子 ［類義語］ɥəlcɩ ［レベル］3 1L:clɒəj:μcɑɔɩ

ɾiɥəlɔʃ ［電算］変換キー ［レベル］4 ʃ0

ɾiɾl ［格詞］［文頭純詞］しかし、だが、だがしかし、しかしながら ［レベル］1 ʔʔ: 制 ［語法］ ɾil の強調。強逆接。大きく事態がひっくり返る場合に使う。

ɾiμ ［副詞］［形容詞］かなり、そこそこ、なかなか ［レベル］1 ʃ0: 恣意。ɾcn,ɾcnʔɩ など、「 が多いので悩んだが、音が明らかに異なるし、実際に使う形の je ɾiμ の音が悪くないので採用。 ［語法］ uɪμʃ

ɾiμʃcɩ ［アイテム］タルティア ［レベル］4 μcɑɔɩ: 古 :ɒɪɾilɔʃcɩʃ 「 死を愛する 」で、lɩʃcɩ と発想が同じ。ɒɪɾilɔ は lɩɩ より古い言葉。リディアが古風さを出すためにわざと古い語を用いた。 ［文化］ ヴァストリアの 1 つ。ザナのもつ魔剣。切ったものを即死させる力がある。ザナ本人はその剣の力を持て余して厭っている。 ［成句］ ɾiμʃcɩ uɒɒɪn 両刃の剣。誤って自分を切ると死んでしまうことから。

ɾiμʔ ［動詞］ɔn について ɥel に相談する、相談する ［普通動名詞］相談 ［反意語］ʔɔlʃ ［レベル］3 @ 1L:ɒelcɑɔɩ ɩlcj ［用例］ ɾiμʔ ɪn 俺にまかせろよ、言ってみろよ

ɾiμɒɪɒ ［生物］豊乳 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃʃ

ɾiμʔ ［名詞］歩合、ぶあい、成功報酬 ［レベル］4 μɑ;/ɾl/μʔl（成功につき） ʃʃʃ

ɾiμʔ̀jɩɪc ［電算］アフィリエイトブログ、アフィブログ、まとめサイト ［レベル］6 ɩl;/ɾiμʔ̀dcμ/jɩɪc ʃʃʃ

ɾiμʔ̀dcμ ［名詞］アフィリエイト、アフィ、成功報酬型広告 ［レベル］5 ɩl;/ ʃʃʃ

ɾiz ［生物］四肢、体肢 μɑ;/ɾl/zɪɒ ʃʃʃ

ɾizcʔɔ ［名詞］二者択一 ［レベル］4 ʃ̀ʃ

ɾizcn ［化学］キシレン 1L:μcɑɔɩ ［語法］ オルト・メタ・パラの異性体を持つ。

ɾiɒɪ ［動詞］ɥel（商品や店舗）を ɩ におごる、おごる、奢る、ɪ のために支払う、支払う ［普通動名詞］おごり、ごチ、ごち、支払い、ペイ ［レベル］3 ɾɒ;ɾiɒɪ（買う）<oɪɾi,φeɟ>。おごるの意味になったのは μɑ から。 ʃ̀ʃ ［語法］ 日本語の「おごる」と違い、誰かの分を代わりに支払うことを指す。家族内や恋人間で「おごる」という言い方は日本語ではしないが、ɾiɒɪ は他人の代わりに支払うことを意味するため、家族で食べたファミレスの代金を父親が家族に ɾiɒɪ するということができる。 ɥel に店舗を取る場合、その店舗で発生した代金を支払うことを意味する。この場合は ɔn 格に回しても良い。 ［文化］ ɒcnɑɪz アルバザードでは支払いはふつう割り勘。アンセが導入されてから特にその機会が増えた。ただし恋仲にあれば男性が通常女性の分を支払うことが多い。女性のほうが裕福な場合は女性が払ったり割り勘にすることもある。 夫婦間では家庭の共有の財布から支払われることが多いが、財布を握るのは稼ぎ手の男性なので、恋人時代と変わらず支払いは男性がすることが多い。 先輩後輩間では先輩が払うか割り勘するのがふつう。 ［用例］ lɩ ɾiɒɪʃ ɪne ɪl ɪn jccnɪ. 彼は私にジュースをおごってくれた。 dɪdɪ ɾiɒɪʃ (ɔn) beliʃe. パパがレストランの支払いをした。

ɾiɒɪlcl ［名詞］二極、ふたまた、二また ［交通］二叉路 ［俗語］二股 ［レベル］3 μɑ;/ ʃ̀ʃ ［用例］ jeμen ʃcl ɾiɒɪlc ɑel μcɑɔɩ ɔ ɒel. セレンはリディアとメルと二股をかけている。

ɾil ［格詞］［文頭純詞］しかし、だが、だがしかし、しかしながら。中逆接。 ［レベル］1 μɑ;ɾil,ʔl < ɾicl,ɑ.l ʔʔ: 制 : 古 :ɾicl ɾicl:ɾicl:uɪleʃ:ɒɪnsc,ɩlʃ ɾil,ʔl ［語法］ ɾil と ɾeʃ の使い分けは ɒɪn/ncl と同じ。ɒɪn 参照。 ɾil と ɑee でなく ɾil と ɾeʃ の組み合わせになる。ɑee は ɑe に聞こえるため。名詞句が後続する場合、ɑe でも文法的に正しくなってしまう。ɑee と ɑe では区別が誤解が起こるため、男性でもこの場合は ɾeʃ を用いる。 ［文化］ ＜議論における逆接と反論＞ アルバザード人は議論において、反論をする際に逆接を使わない。かなりややこしいので以下は注意して読んでほしい。 日本人 A と B が議論をしているとする。B に対して A が「だが」と言う際は、「お前の意見は分かったが、俺の意見と違う。俺の意見はこうだ」というニュアンスの「だが」である。あくまで「だが」と述べた人物の論点から見ている。 一方、アルバザード人は論議をする際に相手と向き合う姿勢を取らず、横並びになって同じ議題を見つめる。相手も自分に対して同じことをするので、通常アルバザードにおいて議論する際は、イエスの立場とノーの立場の両方を経ることになる。相手とともにイエスを検討し、ノーも検討するが、あくまで自分のスタンスはイエスかノーか最初から決まっているというシステムをとる。アルバザード人が「だが」というときは、相手の論点に立って行う。B に対し「だが」と言う際、A は「お前の意見は分かった。だがお前の理屈にはこんな穴があるぞ」というニュアンスで使う。あくまで相手の論点に立ち、相手の論理の穴を突く。そのため、自分の意見が何であろうと、つまり自分が A だろうが C だろうが関係なく、常に B の論点一一相手の論点で論じられる。 では、アルバザード人が「お前の言いたいことは分かったが、俺はそう思わない」という際には何というか。それは 2 つある。まず、協調的な議論をする気がない場合、つまり喧嘩を覚悟する場合は逆接を使う。自分の論点に立った発言を「だが」で始めた場合、それは相手に喧嘩を売ることに等しい行為なので、注意がいる。 喧嘩をしないで反論したい場合は、必ず順接を使う。形式上は順接で、ɥɪn や jee を使っているが、実際には ɾil の内容である。これは反論の順接と呼ばれるもので、好んで使われる。 ［用例］ ɪn ʔeʃ. ɾil lɩ en ʔeʃ. 私は行ったが彼は行かなかった。

ɾilʃ ［政治］大使、特命全権大使 ［レベル］4 ʔʔ: 制 :ɾilɩɩʃ

ɾilʃcj ［名詞］ステッキ μɑ;<,ɩʃ（長い棒）.ɩleʔ ʃʃʃ

ɾilʔ ［生物］網 ［言語］語群 ［レベル］6 μɑ;/ɾlɩ.ʔ ʃ̀ʃ ［文化］ ɒəɒɪ

ɾilɩ ［単位］単位 ［レベル］3 ʔʔ: 制 : 古 :ɾil（単位）から ［語法］ 単位量 ɾinɑ はよく使うので単純語。億兆などの位については ɩll 参照。

ɾilɩɟl ［被服］ガマシャ μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ jɒ でできた。2 枚の革を縫い合わせた靴。貴族も平民

も履いた。

ɾɪlɪnɾ ［魔法］タラント。ゾンビを作る技術。 ［ユマナ］ヴードゥー、ブードゥー ɒe;「死の外に」 ɟɟ

ɾɪlɪɑɔ ［経済］第二次産業 ［レベル］4 1L

ɾɪlɪɥɔɔ ［言語］単位動詞 ［レベル］5 ɟ0 ［語法］ 将然・開始・経過・完了・継続・終了・影響のｹ相を持つ動詞。 すべての動詞が単位動詞になれる。 ーー○ーー○ーー○ーー という モデルで示される。 非単位動詞と対立する存在。アルカの場合、定動詞と等しい。 例：叩く、歩いて移動する

ɾɪlɪeel ［物理］［数学］単位面積 ［レベル］5 ɟ0

ɾɪlccɑ ［地球の国名］パナマ 1L: 国旗に２つの星

ɾɪlccɑɪ(J) ［天文］二等星 ［レベル］5 μɑ;/ ɟɟ ［文化］ɔɔlccɑ

ɾɪleɟ ［宗教］タレス、僧侶、召喚省の役人、ビショップ ［レベル］3 古

ɾɪleɒ ［音楽］二重奏、デュオ、デュエット ［類義語］jelf ［レベル］5 μɑ;/ ɟʔ

ɾɪleeuɾɪlcɾ ［物理］第二宇宙速度 ［レベル］5 1L

ɾɪlə,ɪlf ɔe ‹›ɾɪ

ɾɪɪ ［感動詞］えい、えいっ、やぁ、やあ、やあっ、とう、とうっ、たぁ、たぁっ ［レベル］1 ɑ;ɾəɪ.ɔ ［語法］ 気合を入れるときや何か動作を始めるときの掛け声。

ɾɪɪɟ ［建築］二階 ［レベル］2 1L

ɾɪɪɒcɟɔ ［言語］二重子音 ［レベル］6 1L

ɾɪɥɾ ［化学］二重結合。接尾辞は ɪf。 ［レベル］5 1L

ɾɪɪɪ ［地球の国名］インドネシア ［レベル］6 1ʔ: 制

ɾɪc ［動詞］ɥəl を c から識別する、識別する ［普通動名詞］識別 ［反意語］ɔɔc ［レベル］4 ɟ1: 古 ɾɪ（外、異なる）/c（見る）

ɾɪcɔ ［文頭純詞］更に悪いことに ［反意語］μɪɑɪ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 恣意 ［用例］ eɟɪɪɾ cɒ hɪμd. ɾɪcɔ ɟɪeɾ cɒ nəμne. 昼に雨が降った。さらに夜は雪になった。

ɾɪcɔ ［名詞］原稿、マニュスクリプト ［レベル］4 古 ［用例］ μəɪɟ ɾɪcɔ. 原稿を仕上げる

ɾɪcɔbɪɟ ［名詞］原稿用紙 ［レベル］4 μɑ;/ ɟʔ

ɾɪcn ［単位］尋、ひろ、ファゾム、タイン、１８１ｃｍ ［レベル］5 ɑɯ;ɾɪcɔ. 腕を広げて立ったときの形が ɾɪcɔ の字形であることから。 ɟʔ ［文化］ ɒɪcnɪsɪ 人体が両腕を広げたときの右手の中指の先から左手の中指の先までの長さ。アルデス王の長さが単位として使われ、その長さは約１８１ｃｍであった。この長さはアトラスにおける男性の理想ファゾムとされている。

ɾɪcɒ ［動物］スズメバチ、クマンバチ、オオスズメバチ、雀蜂 ［レベル］3 ʔ: 制 :ɾɪcɒd（大きいハチ） ［語法］ クマンバチは大型のスズメバチの俗称でしかなく、アルカでは別に区別しない。

ɾɪcl ［名詞］［形容詞］Ｔ字型 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古の幻字 ɾɪcl

ɾɪcl(J) ［文頭純詞］しかしながら ［レベル］1 赤 ［語法］ ɾɪl よりも持って回った言い方。古風で文語的な印象も。

ɾɪcl,ɑ ɾɪl e

ɾɪclɟɪɪɟ ［被服］Ｔシャツ ［レベル］3 ɟ1

ɾɪcldɔl ［美容］Ｔゾーン ［レベル］5 ɟ1

ɾɪclɥɪɒe ［交通］Ｔチャリ ［レベル］4 ɟ1

ɾɪclɪ ［植物］丁字、クローブ ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ɾɪcl

ɾɪɔ,ɪlf ɾɪ/ɔ

ɾɪɔf ［動物］アザラシ ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɔl から。音が似ないように変えた。

ɾɪe,ɑ eeɔ eɾɪ.φeɟ

ɾɪeɒɔ ［数学］平方根 ［レベル］4 1L

ɾɪez ［名詞］相部屋（二人まで）、二人部屋、ツインルーム ［レベル］4 1ʔ: 制 ［語法］ ɾɪez にダブルルームとツインルームの区別はない。

ɾɪel ［動詞］ɔɔl は ɥəl を ɪ に兼ねさせる、ɥəl は ɪ を兼ねる、兼ねる ［普通動名詞］兼用、兼任 ［レベル］3 ɟɟ:ɾɪ/eel（二面） ［用例］ ɟə leɟɾez eɾ ɾɪel ɪ beɟɪ. この居間はキッチンも兼ねている。

ɾɪə ［動詞］ɥəl を c から ɔɔn で ɪ に買う、買う、輸入する、購入する ［経済］購買、購入 ［経済］輸入← ɔɪɾɪɾɪə ［レベル］2 1L: 赤 :ɾɪɔɪ ɾɪɔɪ:ɾɪɔɪ ［文化］ ＜モールと払い方＞ アンセの電子マネー、小切手、現金で支払う→ φcl 本人と照合しなければ一切の買い物ができないのでアンセを盗んでも何の利益もない。ただし特殊な技術を用いてセキュリティを突破すればこの限りでない。 店は大抵モールに並んでいる。モール内が一つの大きなスーパーだと考えて良い。会計も各々の店でなく、総合会計所で一度に済ませる。尚、個々の店内にも会計があり、そこで個別に会計することもできる。客はカートを転がしながら遊歩し、商品を取っていく。最終的に会計所でアンセ等を使って金を払う。本人照合がないとアンセは使えない。 アンセはクレジットカードではない。預金口座のようなもので、電子上の財布である。まだない金の分は使えない。一般にクレジットカードはない。クレジットは一種の借金である。アルバザードは借金を嫌う。ゆえにクレジットはない。プリペイドもない。アンセがあるので不要である レジは自動式である。日本でいうところの駅の自動改札に近く、係員が横で監視しているだけである。商品についたタグをレジは自動で読み取って計算する。客はアンセをリーダーに通すと清算が行われ、アンセの口座から金額が引き落とされ、タグが除去される。これで売買が成立する。 ＜価格と税金＞ 物の価格はそれぞれ異なる。同じ商品でも季節や商戦によって変わる。ただ、総じて安定した価格ではある。商品には消費税が含まれる。値段は全て税込みで表示されるため、特に意識しなければ税金がかかっているかどうか気付かない。消費税は変動レートで、物によって異なる。最低限の日用品に消費税はかからない。食料品にもかからない。最低限でない日用品には消費税が少しかかる。歯ブラシには税金がかからないが、歯磨き粉にはかかる。このように、商品によって異なるので注意がいる。娯楽品には多額の税金がかかる。ゲームやジュースや菓子などは税金が高い。野菜ジュースなどの健康目的の物は税金が安い。酒は意外と高くない。アルティス教が奨励しているからである。タバコはそもそも違法なので税金以前の問題である。 ＜情報の購入＞ 本屋で本を買う場合は上で述べたのと同じ買い方をする。本の税金は娯楽嗜好が強いかどうかで決まる。本の内容によって異なる。 また、紙ではなくデータとしてアンセ経由で無料でＤＬすることもできる。ＤＬのＩＤ数に応じて、情報税から版元に配当金が配られる。無料と言っても次年度に情報税を払うので、この無料は「その場では支払わない」という程度の意味でしかない。詳しくは lɪɑɪnlɪnφ を参照すること。 ＜自動販売機＞ 自動販売機は少ない。アルバザードは無人対応を嫌う。 ［成句］ ɥəə ɾɪə, ɥəə ˈɪɪl 鳴かず飛ばず ɾɪə cf ɪlcn hɔf 栄枯轟屑、えこひいき

ɾɪəɟɪμɒ ［経済］仕入債務 1L

ɾɪəɒclɒ ［名詞］買い物かご、買い物籠、買い物カゴ ［レベル］3 ɟɟ

ɾɪəɑɪɟ ［普通動名詞］セールス、営業、買い勧誘 ［レベル］3 μɑ;/ ɟɟ

ɾɪəɑɪɟɪn ［名詞］セールスマン、営業マン ［医療］ＭＲ、プロパー ［レベル］3 μɑ;/ ɟʔ

ɾɪəɑcμec ［経済］買い気配、買気配 ɟɟ

ɾɪəɪn ［経済］客、消費者、顧客、クライアント ［レベル］2 1L ［文化］ 日本はお客様は神様という風潮があるが、アルバザードでは売り手と買い手は対等。客は物やサービスがほしい。店は金がほしい。その利害が一致しているので、どちらの立場が上ということはない。もちろん客にはその店で買わない権利があるものの、店も失礼な客に売らない権利がある。対等なので客は威張ることがないし、店員もへつらうことなく、道で人に物を尋ねたときのような調子で会話を行う。 これを実現させているのはアルバザードの国民性もあるだろう。元々アルバザード人は他人に偉そうにするのが苦手で、目下だからといって偉そうにしたり、目上だからといて態度をコロッと変えたりするのを嫌う。悪人相手には平然と攻撃的になれる人々だが、そうでもなければ穏やかで親切で繕わない人が多い。

ɾɪəelɑ ［経済］不買、不買運動 ［動詞］ɥəl を不買する、不買する ［レベル］4 μɑ;/「買うもんか」 ɟʔ ［用例］ ɪμ ɾɪəelɑ ɾ{fel} ucenuenɾ = ɾɪəelɑ ucenuenɾen 大企業に対する不買運動をする

ɾc ［代詞］あなた ［レベル］1 μɑ;ɾc,hɥ ‹ ɾcj,ɑ 1ʔ: 古 :ɾcj（男性が女性を呼ぶ際の二人称） ɾcj ,ɑ_ɑu ɑɥəɟjɔə,ɑ_ɑu ləɟjɔ,ɑu ɾcf,ɑu:ləɟjɔ ɾcj ɑɥəɟjɔə ɾcf:ɑɪlɪn,jɔɑ lccze,jɔzj:nɪnɪ,ɪlf ɑ では ɾcj と ɑɥəɟjɔə の２種のみ。ɑu で男が男を ləɟjɔ、男が女を ɾcj、女が男を、ɑɥəɟjɔə、女が女を ɾcf と細分化。 ［語法］ 中立的な二人称。→ ɪn

ɾcf ［ユマナ］ティット 古 :μcɑcɪ/μɥəə: フィンランド語「少女」が語源。リュウ自作のＯＳで、性別が女とされている。リディアがこれにティットと名付けた。フィンランド語 ɾɥlf が語源。 ［文化］ リュウ自作のＯＳ。アンシャンテの改良を実現させる要因となった。フィンランド語由来の固有名詞なので、ɔɔμcn などと同じく厳密にはアルカの単語ではない。アルカ名では elɑcɪn。

ɾcf,ɑu ɾc（女が女を） ɾcj.l

ɾcɾɪ ［動詞］ɥəl をあやす、あやす ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɾcɾɪ,ɾcɾɪ ［語法］ 子供や赤ん坊や愛玩対象と遊んであげたりして機嫌を取ること。

ɾcɾɪ ɾcɾɪ ［感動詞］いい子いい子 ［レベル］1 古 :μcɑcɪ: 造語元はナルムだが、直接的な造語者はリディア。ナルムから聞いた歌を思い出せず ɾcɾɪ ɾcɾɪ と歌詞を繋いでいたのを子供に向けて使ったことから。

ɾcf ɾɔf ［擬音語］チクタク ［レベル］3 ɟɒ;ɑɔuef 古 :μcɑcɪ

ɾcflcl ［化学］ナトリウム ［レベル］4 1Δ: 制

ɾcfc ［エルト］ティティ ［形容詞］内気な、気弱な、内向的な、シャイな ［反意語］ɔɔln ［レベル］3 μcɑcɪ: 古 ［文化］ 蝶の羽を持つ少女の姿をしたエルト。全長は蝶と同じで小さい。服は白いうす布をまとっているだけで、靴も履いていない。髪は薄緑。羽は青が基調で黒線などが混ざり、非常に美しい。非常に気弱な性格で、誰か来るとすぐに逃げてしまう。ティティは魔力の高い花の蜜を吸い集めていて、傷ついた者を見るとそれを与えて助けてくれる。

ɾcfce ［動詞］ɥəl を照れさせる、照れる、恥じらう、はじらう、はにかむ。「はにかむ」は微笑むという意味ではない。 ［再帰動名詞］照れ、てれ、恥、はじ ［レベル］3 1L:ɾcfn:1ʔ: 制 :ɾcfc/nɪ

ɾcfceɪl ［言語］ネガティブフェイス、ネガティブ・フェイス ［反意語］ɔɔlneɪl ɪl;「消極的面子」 ɟʔ ［語法］ eɪl

ɾcfɔ ［名詞］茂み、ブッシュ、しげみ、やぶ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :（小さい森）。lcfɔ は良い匂いという意味の語に既に使っているので lc を制アルカの ɾc（小さい）から参照した（注：1Δ 年現在では lcfɔ は lɪlf になっているのでぶつかりはない）

ɾcfɔˈllɪd ［美容］ウェーブクリップ ɟ1

ɾcfɔncɪ ［美容］ソバージュ、ウェーブヘア ［レベル］4 1L

ɾcl ［名詞］傾き、傾斜 ［動詞］ɥəl を nə（角度など）だけ ɪ（方角など）に傾ける、傾ける、かしげる、傾げる、傾く ［形容詞］傾いた、ななめな、斜めな、斜め ［数学］傾き ［地学］勾配 ［文字］スラント、斜体。オブリーク、イタリック、レフティがある→ ɪlɔɒ ［類義語］dɔcɾ ［レベル］2 1L:fɔ̀: 古 :fɔ̀（坂）。fɔ̀ は歩く音のオノマトペ。 ［用例］ ɾcl dɔ 首をかしげる、首を傾げる ɾcl dɔ aenel 小首を傾げる ele ɾcl 傾いた台 "jɔn..." lɪnɔ ɾcɔ̀l dɔ. "fɔ jɾcl jɔn ɪ ɟə ɑɾɪ jec"「じゃあ……」青年は首を傾げる。「世界はどうなってしまうんだろう？」

ɾcl(J) ［サール］ɾcɔn の略称 ［組み数字］9 / 1 2 ［レベル］1 ɟɟ

ɾclɾ ［動物］オウム、鸚鵡、パロット ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɾclɟə（言葉を真似る）

ɾclɟlɪɑ ［地球の国名］ドミニカ国 1L: 国章にオウム

ɾclɟlɪɪ ［地学］正角図法 ［レベル］5 1L

ɾclɟɪɑ ［地球の国名］セーシェル 1L: 国旗の線が斜め

ɾclɟɾl ［普通動名詞］袈裟斬り ［動詞］ɥəl を袈裟斬りする、袈裟斬りする ［レベル］5 μɑ;/「斜め切り」 ɟɟ

ɾclɟ ［医療］痙攣、筋違い、寝違え ［動詞］ɥəl を痙攣させる、痙攣する、寝違える ［レベル］3 1ʔ: 制 : 制 ɾclɾ（震えのオノマトペ） ［用例］ lɪ ɾclɟɪɾ ɟɪ uɔμɾ. 彼は死ぬ前に痙攣した。

ɾclɔn ［生物］ドラゴン、龍、竜。こけら属衛天種の魔物。 ［レベル］3 ɾɒ;ɾclɔn.l 1ʔ: 制 :ɾclɔn から ɾclɔn:ɾclɔn::uɪnɪ,ɪlf ［文化］ 羽の生えた大型の爬虫類様の生き物。口から火を吐くものもある。魔物だが、人間によって飼いならされた品種がある。ヒュート国は飛竜の優秀な生産地。知能の高いものは言語を解し、魔法も操る。低いものは単に獰猛。空を飛ぶか飛ばないかで ɑμeɾcj と ɾɔɔl に大別される。 ・血筋 ɥəəɒɪ ʔʔ以降、竜族が降ってくる。 それ以前の竜、例えばハクシウス軍が用いた飛竜などはロゼットであり、人間と神の交配種。知能が神並みのものもあれば、動物並みのものもあった。家畜化されたのは主に後者。 ［用例］ "ɾeɟɪ, μeɟl ɔeɟ eɾ ɾclɔn", ɟɔɪ ɪn ɾeɒɪɾ, jee jɪlɔl ɾclɔ jɪen nɔj, jɔn eu uɪn ɪlɾe μɪj ɑc ɔnnɪ.「さぁ次の相手はドラゴンです！」とかいって出てきたのがハムスターだったらﾃﾗﾊﾞﾛｽだよな。

ɾclɔnlɪɑ ［地球の国名］ブータン ［レベル］6 1L: 国旗に龍

ɾclɔndɔl ［地名］竜方 ［レベル］6 ɟ0 ［文化］ アクオリア、ロロス、アルティアのこと。竜の口付近の地方のこと。ルティアの影響が濃いが、独立した文化圏。

ɾclɔnɪ ［アイテム］ティクナ ［レベル］4 μcɑcɪ: 古 :ɾclɔɔenɪˈ 龍の涙」を変えたもの ［文化］ ヴァストリアの１つ。フルミネアのもつ神石。娘のフェルデンを失ったときに竜王ティクノが流した涙が水晶になったもの。

ɾclɔncɑ ［地球の星座］［ユマナ］りゅう座 ɟɟ ［文化］ cɑ

ɾclɔɔ ［サール］ティクノ、竜王ティクノ ［名詞］９時 ［名詞］西 ［交通］ティクノ通り ［魔法］召喚魔法ティクノ（バハムート）。咆哮とともに大量のユノを放射する。 ［音楽］ソ # ［組み数字］9 / 1 2 ［類義語］ɾcl ［レベル］2 pelɾcɪ ʔl:ɾclɔn;e jeμen: 古：キャラの設定内容はリディア ［文化］ アルミヴァの９番目。サールの頭から生まれた。竜の姿をしている。ヴァステではサールを束ねて悪魔と戦った。ポエンの夫で、アルデスとテュアの父。正義感が強く、正ゃ堂々としている。

ɾclueɟ ［地球の国名］トリニダード・トバゴ共和国 1L: 国旗に斜めの黒い線

ɾclɔ ［植物］ハムスター ［レベル］3 μcɑcɪ:lɪlɪ:: 元は ɾccɪlɪɒɪ（可愛いねずみ） ［文化］ ペットとして飼われる。

ɾclɔɔ ［医療］斜頸 1L

ɾcll ［動詞］ɥəl を真似る、真似る、まねる、真似する、まねする ［普通動名詞］真似、マネ、モノマネ、ものまね、物まね、物真似、物マネ ［レベル］2 1ʔ: 制 ［用例］ μen ɾcll (leɟ) ɪn (jɔ). 私がするのを真似て。

ɾclllɥɔ ［動詞］なりきる、世界に入る、入る、世界にひたる、ひたる、浸る ［普通動名詞］なりきり ［レベル］3 μɑ;/。お手本を真似るように演じることから。 ɟɟ

ɾcllcl ［化学］アルゴン 1Δ: 制

ɾcllccɑ ［地球の国名］ボスニア・ヘルツェゴビナ 1L: 国旗に斜めの星

ɾcllɔɟlɪlɪ ［地学］メルカトル図法、正角円筒図法 ［レベル］5 ɟ0 ［文化］ 極点を表現しづらいため、世界地図としてはミラー図法に地位を奪われている。

ɾclɪ ［名詞］柄、つか、つまみ、抓み、え、バックなどの持ち手という手に持つ紐部分、バイクや自転車等の回らないハンドル、グリップ、スロットル、取っ手、ハンドル、ドアハンドル ［言語］［文字］アーム ［化学］アーム。顕微鏡の。 ［軍事］グリップ。銃の握るところ。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɾlcllɪl［持つところ」→ ɾclɪ ［用例］ bcl ɾclɪ 柄を握る

ɾclɪn ［植物］モクレン、木蓮、マグノリア ［レベル］5 1ʔ: 制 :ɾlɪlɪ:ɾlcn ［用例］ ɪn jccnɪ ɾclɪn ɒc ɥleseɒɒe. 薄紫の木蓮が好きだ。

ɾclc ［植物］カケス 1ʔ: 制 :lɪlɪ:ɾclɪˈ まねるカラス」

ɾcle ［地学］潮、海流 ［レベル］3 μɑ;ɾceμ/le「海が行く」 ɟʔ ［語法］ ɪle

ɾcl ［動詞］ɥəl を含まない、ɥəl を c から除く、含まない、除く、逸脱する、排他する、排斥する、追放する、追い出す、排除する、どける、どかす、のける、除名する、除外する、限る、区切る ［格詞］～以外は、～を除いて ［反意語］lɪu ［レベル］2 1L: 恣意 ［用例］ ɪμɒcuɪ ɾcl ɒeɒ ɔn hɪμɒɪ ɾcl nebμɪ. ネブラ以外、アルミヴァは幼字に丸印を持つ。

ɾclle ［遊女］［代詞］ɾcɟje ［レベル］4 ɟʔ

ɾclɪ ［普通動名詞］保育、育児 ［動詞］ɥəl を育てる、育てる、育児する ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɾcnəlɪj（幼児を世話する） ［文化］ アルバザードの親は厳しい。子供は動物と考えているので、子供の決断に任せるというような考えはない。子供の悪行は親の責任なので、厳しく躾ける。 ただ、どうしても先天的に落ち着きがないとか人の気持ちが分からないという問題児もいる。 教育ではどうにもならず、放っておくと殺人などを犯しかねない場合、親は子供を処分すべきと考えられている。 物心が付いてからも動物を苛めて殺したりしている子供は将来人を殺す可能性が高い。犯罪抑止のため、そのような子供は親が責任を持って殺すべきというのが常識。この場合、親は罪に問われないが、保険金は下りない。 一部の家庭では不貞を働いた娘やレイプに遭った娘まで殺してしまうので、レイユでは社会問題になっている。 一方、アルバザードの親は子供に論理性と良心を重んじる。言い訳はきちんとさせ、物事をきちんと言葉で説明できるように育てる。嘘は許さない。他人に対して善意を持つよう育てる。アルバザードは個人主義なので、「常識」を踏まえた上で、個性を持つことが重要。最低限の常識を守っていれば、あとは自分の好きなように思想を持てるし、それが推奨される。親は子供が個性を持ち、他人の個性を尊重するよう育てる。 親は頻繁にスキンシップをする。

乳母車は好まず、頻繁におんぶや抱っこをする。１０才までは頻繁にベタベタするが、思春期になると距離を置く。ただし、心配したときや慰めるときに抱きしめるなど、最低限のスキンシップは大人になっても取る。　思春期になると親は子供の異性交遊を厳しく監視しだす。娘には特に厳しい。門限があり、男子と二人きりにならないよう注意する。息子には非行に走らないよう厳しく注意する。これは手に負えない悪童だと思った場合、親の権限で殺してもよい。また、親権を放棄して子供を労働所に送ることもできる。　子供が ɒɪu になると親の親権はなくなり、口出しできなくなる。また、常識的にもしなくなる。この時期になると途端に親は口を出さなくなる。　アルバザードは親の権限が大きいため、祖父母などが親の監視者となり、虐待を防ぐ目となる。核家族ではこの目がないので虐待や娘のレイプが起きやすい。アルバザードでは娘は父親の分身と考えられているため、父親がレイプしても娘は男とセックスしたとカウントされないため（もちろんその後結婚しづらくなるが）、余計事件が起きやすい。

ʃclɪn ［名詞］保育士 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

ʃclɪnʃe ［感動詞］もしもし ［レベル］2 古 :ʃcˈlɪnʃe。ɪnlɪnʃe を ɪn/lɪnʃe と解し、ɪn の部分を ʃcʃ に変えたもの。ʃcʃ は l の前で ʃ が落ちて ʃc になった。ʃcˈlɪnʃe の原義は「貴方は返事する」であり、「返事できますか？通じていますか？」の意味。アンシャンテにおいて使われた。

ʃclɪlɪnφ ［法律］親権、監護権 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ʃclen ［接続詞］ʃcl。～を含まない。 ［レベル］3 ʃʔ

ʃcʃ ［形容詞］～しか、～にすぎない、しょせん、所詮、ごとき。程度が想像より低いことを示す。 ［反意語］ɪʃ ［レベル］1 1ʔ: 制 :ʃcʃ（小さい）:ɔɟɥn:ʃc。ティよりティッといった感じの語。声門閉鎖音が入る感じのようだ。 ［語法］動詞につくと「～しか」「せめて～くらい」などの意味になる。 ［用例］ʃɪə ɑə uc ʃcʃϑ ３つしか買わないの？

ʃcʃ(J) ［言語］フレマゼル語の不活格を表す語 μɑ;ϰɑɥeɒɪzeɥ JΛ

ʃcʃ,ɑ ʃc（男→女） elʃ;e

ʃcʃʃ ［名詞］小声 ［普通動名詞］囁き、呟き、呟き、ささやき、ひそひそ声 ［動詞］ɥɘl を ɪ に小声で言う、つぶやく、呟く、言う、囁く、ささやく ［類義語］ɑlɪnʃ ［レベル］2 1Λ: 制 :ʃɪʃʃ ［用例］lə ɪəʃ ɟɔɪ ʃcɟʃel. = lə ʃcɟʃlʃ ɟɔɪ. 彼は小声でそう言った。

ʃcɟɟɪɒ ［言語］不活格 ［反意語］uɪnɟɪɒ μɑ;/ JΛ

ʃcɟɟe ［文末純詞］［ɒdɑ］ʃcɟee。～なのよ。 ［レベル］1 1L: 制

ʃcɟɟen ［文末純詞］［ɒdɑ］ʃcɟɟe ［レベル］2 J1:μcɑcɪ:ʃcɟɟe/n

ʃcɟl ［名詞］マスコミ、マスコミュニケーション、マスコミ機関 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ʃcɟlɔ（あなたは知っているかの意味。ʃcɟɪ と同根）［文化］→ beɥcl ・革命とマスコミ　セレンは革命前、マスコミが国民の民度を下げていると糾弾した。beɥcl の文化欄に見られるように、革命で権力者になると、セレンはマスコミを潰さず殺さず、逆に国民の洗脳道具として利用した。マスコミの洗脳能力を買って、国民の民度を底上げするように利用した。統制されたマスコミは司民制においても重要なポジションを取った。

ʃcɟɪ ［文頭純詞］ご存知のように、ご存知のとおり、知ってのとおり、見ての通りの ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ʃcɟlɔ（あなたは知っている）

ʃcɟc ［名詞］粒、つぶ、ツブ、顆粒、消しくず、消しクズ、消し屑、けしつぶ、消し粒、消しつぶ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʃcɟ（小さい）:lccl: ［用例］lenɪ cl ɪnɑ ɟed ɔlʃɪ lcɥɔ lenɪn eʃ ʃcɟc ʃcɟ. けし粒の生命でも私たち瞬いてる（『星間飛行』）

ʃcɟcbeʃc ［化学］懸濁 ［レベル］5 1L

ʃcɟcɪlɪɟ ［生物］粗面小胞体 μʃ;「粒（リボソーム）が付着した小胞体」 JΛ

ʃcɟɔɪ ［感動詞］おめでとう ［レベル］2 古 :ʃcɟɔɪɪ, ʃcɟɔ, ʃcɟɔɑ。元は ʃcɟɟɔɑˈ 君はおこなった」で、仕事完了を祝福する言葉。転じてめでたいことがあるたびに使われた。音はまず ɑ が落ち、重子音が弱化して ʃcɟɔ になった。それに感動詞の ɪɪ（これは只の「アー」という声にすぎなかった）がくっ付いて慣用化され ʃcɟɔɪɪ が生まれ、後に ʃc にアクセントがあることから ɪɪ が弱化して短くなって現在の ʃcɟɔɪ に至る。

ʃcɟɔɔnɔ ［感動詞］調子はどう？、どうしてた？、最近どう？、このごろどうですか？、ここんとこどうだった？、最近何かあった？ ［レベル］2 古 :ʃcɟɔɔnɔ ← ʃcɟɟɔɔnɔɥen が短くなったもの。

ʃcɟee ［文末純詞］～なんだよ、～なんだって。報告、情報提供の純詞。 ［レベル］1 1L: 制 :ʃc je–e（あなたは知っている）が語になったもの。 ［用例］eɟl lənɪ ɟcl cɒ ɑcɟ ʃcɟee. 今日は雨が降るよ。

ʃcn ［副詞］［形容詞］とても ［レベル］1 古 :ʃcnʎɪ の女性形。制アルカで「とても度」が弱まり、ʃcnʎɪ が使われることが増えたので、程度を弱めた。 :::lɪʎɪ,ɪlʃ ［語法］uɪμʃ

ʃcnʃ ［普通動名詞］乾杯 ［動詞］ɥəl について ɪ の神などに ɔʎ と乾杯する、乾杯する ［感動詞］乾杯 ［レベル］3 古 :ɑɔueʃ ［用例］"ʃcnʃ lɪn μɪuen lenɪn ʃeʃ ɒclʎ lcμ ʃə ɒcl ʃəəbe ʎlɪl ɑcμ"「乾杯と行きたいところだけど、こんな何もない白い空間じゃそれも望めないわね」

ʃcnʃcn ［ɹɒrʃe］［形容詞］［副詞］ʃcnʎɪ ［レベル］1 古

ʃcnʃe ［天文］ティンテン、海王星、風天 ［組み数字］8 / 9 ［レベル］3 古 :ʃcnʃe ← ʃcnʎɪɪ/ʃeeze

ʃcnʎɪ ［副詞］［形容詞］ものすごく、物凄く、非常に ［レベル］1 lɥ;ʃcnʎɪɪ,ɑ.l 赤 ʃcnʎɪɪ:ʃcnʎɪ::lɪʎɪ,ɪlʃ ［語法］uɪμʃ ［用例］lə leɑ ɟen ʃɪlel ʃcnʎɪ. 彼はとても早く走る。

ʃcnʎɪɒɪɒ ［生物］巨乳 ［レベル］4 μɑ;/ JΛ

ʃcnʎɪɪ,ɑ ʃcnʎɪ ʎɪ は ʎɪc

ʃcnl ［名詞］グラス ［レベル］2 古 : 乾杯するときにグラスを合わせたときの音 ʃcnʃ から

ʃcnɟɔɟɥ ［電算］スーパーコンピュータ ［レベル］5 1L

ʃcnuɪenɪn ［魔法］良蓄体 ［レベル］6 J1 ［文化］ɑɔlɒcɥə

ʃcnuccɑɥɔn ［魔法］高晄圧 ［レベル］6 J1 ［文化］ɑɔlɒcɥə

ʃcnucen ［音楽］フォルティッシモ ［レベル］4 1L

ʃcnuɔɪɥ ［物理］［化学］高速炉 ［レベル］6 ul;ʃcnlcɟc/uɔɪɥ JΛ ［語法］高速中性子を利用しながら核燃料の増殖を行わない原子炉のこと。

ʃcnɑɪc ［料理］強火 ［レベル］3 1L

ʃcnɑen ［美容］ベリショ、ベリーショート ［レベル］4 J1

ʃcnɒɪɒ ［生物］豊乳 ［レベル］4 μɑ;/ JΛ

ʃcnɒecɑuɔɪɥ ［物理］［化学］高速増殖炉 ［レベル］6 ul;ʃcnlcɟc/ɒecɑuɔɪɥ JΛ ［語法］高速中性子による核分裂連鎖反応を用いた増殖炉のこと。

ʃcnɑcɥeʃ ［法律］重犯罪、大犯罪、重罪 ［レベル］3 J0:1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ʃcnɑclɑ ［化学］強アルカリ性、強塩基 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ

ʃcnφel ［軍事］大砲 ［レベル］3 JΛ ［文化］cɒəl 1Λ1J 年に ɥəlc scleel が発明。ナディア以降戦史で重要な兵器となる。

ʃcndɪɟe ［料理］強力粉 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［文化］dɪɟe

ʃcnɥəʃɪn ［魔法］良導体 ［レベル］5 J1 ［文化］ɑɔlɒcɥə

ʃcnl ［音楽］鐘、ベル、チャイム ［メタファー］時間、限。授業の何時間目や何限。 ［レベル］2 ɟɔ μn:ʃcnl はオノマトペ　参考 : 古 :φclɪlɑɔ（ベル）φclɪlɑ:φclɪlɑ ［語法］釣鐘型のものと、欽ちゃんの仮装大賞で使う段状のもの両方を指す。 ［文化］死神が嫌う音。鐘を鳴らすと死神は逃げていく。逃げられずに聞き続けると下位は死ぬ。ただし、死神が正体を現しているときでないと効かない。

ʃcnl ʃ'ɪleʃ ［ユマナ］除夜の鐘 ［レベル］4 J1: 年末の鐘

ʃcnlcɟc ［物理］［化学］高速中性子 ［レベル］6 ul;/ JΛ

ʃcnɪ ［名詞］幼女、２～５才の女の子 ［反意語］ɪlʃcnɪ ［レベル］2 古

ʃcnɪ(J) ［遊女］［文頭純詞］ɑcnɪ ［レベル］4 J1:ɑcnɪ ［用例］ʃcnɪ ɒcɪn lɥɪl ʃɥə lɪ ʃɔʃɥɪl ʃlɪ. しかし何はともあれこっちじゃ（『狼と香辛料』賢狼ホロ）

ʃcnɪ(ʔ) ［言語］［文字］標準書体、ティナ書体、ティナ、幼女書体 ［類義語］ɑleɑclɪnʃ ［レベル］4 J1:ɒclɑ:ləlcɪ → hɪrlɒ ［文化］ɑleɑclɪnʃ ・概要　幼京書体 サンセリフ ミディアム スタンダード ローマン 字案（小文字）ɪμle 字案（大文字）jeμen ɪμbɪzɪμɑ フォント制作 jeμen ɪμbɪzɪμɑ J1 年企画立案、同完成 ・特徴　幼字の形を伝えるために使われる最もプレーンな書体。 これを中心に様々な書体が生まれる。 用途が文字の原型を伝えることなので、これ自体をデザイン上で使うことはあまりない。 文字見本、初学者・幼児向け書籍などに用いる。 地球の欧文サンセリフにおける実質的な出版業界の標準であるヘルベチカと比べると、やや正方形寄りになっている。ティナのレギュラーがヘルベチカのファットかブロードに相当する。 アルバザード人は幼字や京極など、正方形の文字に見慣れている。そこで幼字も見本書体はやや正方形に近づけてある。lɪnʃcɪ も ʃcnɪ に準ずる。 ʃcnɪ や lɪnʃcɪ の文字幅を用いると、幼字や京極と合わせたときに幼字が浮きづらいという特徴がある。なお、見本書体以外のフォントのスタンダードは、ヘルベチカのように ʃcnɪ と比べてやや狭くなる傾向にある。 ・名称　aleɑclɪnʃ 中では lɪμɑcnɪl と呼ばれる。

ʃcnʎɪ ［名詞］小学校、小学、幼稚園、保育園 ［レベル］2 1L ［文化］小中学校は北区まで行くと２～９歳の子供には辛く、親も大変なので、小中学校は東西区に設置されている。ただしアルナ校のような進学校では最初から北区に行くので、親兄弟などが送り迎えをする。 南区の子供は東西近いほうの小中学校に行く。カルザス通りからだとどちらからも遠いが、カルザス通りはインプレンやゲームセンターなど、繁華街の中心なので、個人商店の子供は住んでいない。個人商店は東西どちらかに寄っているので問題ない。

ʃcnɟɟl ［化学］強酸性 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ

ʃcnɪɑɒpe ［地学］［歴史］中原生代 ［レベル］6 ul;/ JΛ ［文化］φɪɪueɑɒpe １６億～１０億年前の地質年代の区分。原生代（原生累代）のうち古原生代の終わりから新原生代の始まりまでをいう。

ʃcnɪɑɪcɒɪn ［名詞］小学校中退 ［レベル］3 1L

ʃcnɪμeφɟʃ ［名詞］小卒 ［レベル］3 1L

ʃcnɪl ［生物］幼児 ［レベル］2 μɑ;ʃcnɪ/ɪl JΛ

ʃcnɪɪn ［名詞］小学生 ［レベル］2 1L

ʃcnɔʎ ［名詞］風呂敷、ふろしき ［レベル］4 JJ:ɑcʃcnɔʎ

ʃcncun ［音楽］ピアニッシモ ［レベル］4 1L

ʃcnɔɟ ［代詞］あなた自身 ［レベル］2 1L:lcɔn

ʃcnenl ［アビリティ］大技、必殺技、ティネンル ［レベル］3 Jʔ

ʃcneeɪɪn ［経済］大株主 ［レベル］4 JJ

ʃcu ［普通動名詞］試合 ［レベル］3 1L: 制 :ʃcɟuɪɟ（小さい戦い）［用例］ɪn nɪʃ μəəɑ ʃcn ɒɪn cn ʃə ʃcu. その試合を見てとても興奮した。

ʃcɑ ［数学］［名詞］［形容詞］マイナス ［数学］負の数、負数← ʃcɑlʎ ［名詞］［形容詞］陰性。検査が陰性。［化学］陰極 ［反意語］dɔʎ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɪʃ の回文ではなく、ɟɔμn で失うが ʃcɑl。制で失うの意味だったが、新でマイナスにした。数を失った結果という意味である。 ［語法］J1 に－の字形が走ってた。瓶に溜まった水の減少量を示した刻み線が元となり、マイナスを指すようになった。　水を継ぎ足したら今度は瓶の上部に刻む必要が出てくるが、－だと区別できないので縦棒を引いて＋にした。ここから＋でプラスとなった。　乗算は和算の繰り返しなので＋を傾けて×に。　割り算は通常の計算では数が減るので、－を同じく傾けて／となった。　四則の字形はスラ以外 J1 に定まった。　＋は足し算だけでなく正号も示す。－は同様に引き算だけでなく負号も示す。　読みは ɑɔʎ に対して dɔʎ、ɑcɑ に対して ʃcɑ。

ʃcɑʎɪ ［化学］陰極、カソード ［レベル］5 1L

ʃcɑnɪ ［名詞］否定的な、マイナスの気持ち ［反意語］dɔʎnɪ ［レベル］4 J0

ʃcɑucʎccɑɪ ［天文］マイナス三等星 μɑ;/ JΛ

ʃcɑl ［動詞］ɥəl を失う、失う、紛失する、失くす、無くす、なくす、亡くす、なくなる、無くなる、失くなる、もげる ［普通動名詞］喪失、失い、ロス ［受動名詞］無くし物、なくしもの、無くしもの、なくし物、落し物、おとしもの、落としもの、遺失物 ［反意語］ʃɪɑ、lcɒ ［言語］脱落 : ɑclʃɪn の ʃ が消えるような現象のこと。しかもその後 ɟ が l に同化し、ɑclʎɪn となる。 ［化学］酸化 ［レベル］2 古 :ɔɟɥn ［成句］ʃcɑl ɪμɪɪ 言葉が出てこない : 思い出せずに「うー、なんだっけ」という状態。

ʃcɑlheʃʃel ［法律］遺失物等横領罪、拾得物横領罪、占有離脱物横領罪 ［レベル］6 μʃ;/「なくしたものを横領すること」 Jʔ

ʃcɑɪ ［名詞］［形容詞］半分、ハーフ ［類義語］ɑeɟʃ ［反意語］ɑɔʎl ［レベル］2 1L: 制 : ʃcɑ から。「失った」が原義。 ［語法］ɑɔʎl

ʃcɑɪʃcɪ ［ユマナ］［宗教］煉獄、パーガトリー JΛ:ʃcɑɪ/lɪʃcɪ「半分地獄」

ʃcɑɪn ［化学］還元剤 ［レベル］5 1L

ʃcɑɪuɪμ ［名詞］［形容詞］半透過性、半透性、選択的透過性、半透性のある μɑ;/ JΛ

ʃcɑɪɑɔʎɪ ［音楽］半音階、クロマチック J1

ʃcɑɪdɟʃʃəɟ ［医療］半米粒大 μɑ;/ JΛ

ʃcɑɪɥɔlɔ ［被服］半ズボン ［レベル］3 μɑ;/ JΛ

ʃcɑɪzclɔ ［地球の国名］アンゴラ 1L: 国章に半歯車

ʃcɑɪzclɔʃ ［交通］半クラ、ハンクラ ［レベル］6 J1

ʃcɑɪoɟd ［被服］半袖、半そで ［レベル］3 μɑ;/ JΛ

ʃcɑɪlʎ ［数学］負数、負の数 ［反意語］dɔʎlʎ ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ

ʃcɑɪɪμʃ ［魔法］半式魔法 ［レベル］5 J1 ［文化］ɑɔlɒcɥə

ʃcɑɪɪμn ［被服］ハーフコート ［レベル］4 J1

ʃcɑɪɪlecuʎlɪʎ ［地学］半極投影法、ハーフポーラー ［レベル］5 J0

ʃcɑcμɔɟ ［化学］陰イオン、アニオン ［レベル］5 1L

ʃcɒ ［植物］種、種子、核 ［生物］核 ［地学］核 ［メタファー］核心 ［数学］球の中心← jeel ［レベル］2 J0: 古 ʃeʎ/ɒelɔ（緑に関する丸いもの）［成句］ʃɔe ʃcɒ 核心に迫る、核心を突く

ʃcɒʃ ［名詞］ミニチュア、模型 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɟɪɑ:ʃcɒɔɟʃ（縮小模型）

ʃcɒʃch ［生物］核小体、仁、核仁 ［レベル］5 μʃ;/ JΛ

ʃcɒɟ ［名詞］ハンドバッグ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 原 ʃcɒejʎ（小さいかばん）

ʃcɒɟcɪ ［生物］核膜 ［レベル］5 μʃ;/ JΛ

ʃcɒueʃ ［言語］述語 ［レベル］4 J0: 核となる語

ʃcɒuepl ［数学］［物理］［地学］心射 ［レベル］6 J0

ʃcɒuepʎlɪʎ ［地学］心射図法 J0

ʃcɒuepʎμɔμʎlɪʎ ［地学］心射方位図法、Ｒｅｃｔｉｌｉｎｅａｒ、ＧＮＯＭＩＣ、ｔａｎｇｅｎｔ－ｐｌａｎｅ J0 ［文化］大圏コースを探すことができる図法。航空船舶ができる以前から、障害物関係なしに空を飛んで移動することができたユーマの一族にとっては重要な地図であった。

ʃcɒuecʎ ［生物］核質、核液、核原形質 μʃ;/ JΛ

ʃcɒɑcbl ［生物］核基質 μʃ;/「核の網」 JΛ

ʃcɒpep ［数学］［地学］大円 ［地学］大圏← ɪʃɔlɪʃcɒpep ［レベル］5 J0: 球の中心を通る円 ［文化］球の中心を通る任意の円。円状の点は球上の点を通る。球の中心を通るため、球面を通る円の中で最も半径が大きい。地学では経線がすべて大円となる。緯線は赤道のみ大円となる。　大円上の任意の２点は常にその球における最短ルートである→ ʃcɒpepuejɟ

ʃcɒpepuejɟ ［地学］大圏コース ［レベル］5 J0 ［文化］大圏上の任意の２点を結んだ線のこと。球面上における２点間の最短ルート航に等しいため、航空や航海に用いられる。

ʃcɒzelɔ ［生物］間脳 ［レベル］6 J0: 脳にとって種の位置

ʃcɒɔ ［交通］原チャ、原チャリ、原付、原動機付自転車、ゲンチャ、ゲンチャリ、スクーター ［レベル］3 lɪʎlɪ ではスクーターのみ。新生から JΛ までバイク一般だったが、JΛ で原チャに。 ［文化］ɑɪlɑcj

ʃcɑ ［形容詞］貧しい、貧乏な ［名詞］貧乏、貧困 ［類義語］ɑμenlen、ɒɔɔlɔc ［反意語］lɪφ ［レベル］2 @ 1L ［成句］［メタファー］ʃcɑ enʃɔ lɔc ɒɔɔ 根を食べるほど貧しい : アルバザードでは根っこは貧乏人の食べ物。ジャガイモの普及もこれで遅れた。　μcɑcɪ ɔ ɒel ɪj ɪʃ ʃcɑ cɒ ɥəlc. 家貧しくして孝子あらわる　ʃcɑ jeʃ ɥəlφ 貧すれば鈍する　ʃcɑen ʃcl ucl ɴɔz ɑcl 貧乏人は爪を長くする余裕がない : 貧乏暇なし

ʃcɑɥɔφel ［医療］偽痛風 1L:μcɑcɪ ［文化］μɑ で、痛風かと思ったらそうではないことから、貧乏な痛風と名づけられた。貧乏としたのは、痛風の語源を応用したもの。

ʃcɑɪɑɔ ［地学］長石 ［レベル］4 1L: 貧しい石。恐らくほしいものが入っていないという意味。

ʃcφ ［名詞］バンガロー ［レベル］6 1ʔ: 制 :ʃcμɪφɪ（小さい機械？）

ʃcdj ［名詞］小刀、ナイフ ［類義語］lcɑɥe ［レベル］3 1Λ: 制 :ʃcjdccʎ（小さい剣）［文化］ɘɔʎɔn さすがに木製のものは使わない。

ʃcdjelc ［動物］さんま、サンマ、秋刀魚 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］秋の魚で、秋によく食用される。塩焼きにして大根おろしをかけるなど、日本的な食べ方をする。伝統として、

赤いもみじの葉を皿の端に乗せる。

ʃcdhɪrl ［言語］雑体 ［レベル］1L ［文化］ʃidhɪrl の前身となるフォントで、書体のデザイン自体は ʃidhɪrl と同じ。セレンが作成した。ʃidhɪrl ができたため、使われなくなった。

ʃcdl ［動詞］ɥəl を検討する、検討する、見直しする、見直す、審議する、審査する ［普通動名詞］検討、審議、見直し、審査 ［政治］審議 ［レベル］4 1θ: 制 :lɪ̀lí/ 古 :ʃidlɔ → ʃidl だが、ʃidl は既に使われていたため。

ʃcdɪ ［植物］タンポポ、たんぽぽ、蒲公英、ダンディライオン ［花言葉］あどけなく可愛らしい ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɟɪɑ:ʃcdɥɥcn（小さいひまわり） ［文化］ 自生しており、雑草とも考えられていないため、除去されない。可愛い花だと考えられているが、放っておいても咲くので、わざわざ管理はされていない。そのため、春になると至る所で咲き乱れる。

ʃcdc ［医療］メス ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʃcdj

ʃch ［植物］仁、ケーネル、穀粒、実 ［形容詞］肝心の、肝心要の、要の、主要な ［レベル］4 1ʔ: 制 :ʃcɟhɔɪ

ʃcɥcɪ ［地名］ティリア海 ［レベル］6 J0:ɥcɑcɪ:ʃclnɔ/eɥcɪ ［文化］ アルティア東・南、ヒュグノー東、ヴァルメレア東、アルハノン北、アヴィエル北の海。

ʃczɔ ［文頭純詞］とりあえず、いまのところ、当面 ［副詞］いったん、一旦、一度、とりあえず ［レベル］2 1θ: 制 :ʃcz（今） ［語法］ 後に何らかの変化をするということを含意する。

ʃcs ［動詞］ɥəl を踏襲する、踏襲する、踏まえる ［言語］ɥəl（韻を踏まれる元となる単語や文）の韻を踏んで hɪɪɟ（韻を踏む先である単語や文）に音を合わせる、韻を踏む、押韻する ［普通動名詞］踏襲 ［レベル］4 1Λ:ʃcʎl ［用例］ɥe ɟɔ ʃə ʎɔnʃ ʃcs ɪnʃ. 私のやったのを踏まえてやってみなさい：ɪnʃ で「私がしたこと」。 leɒ ɑel "ɥcɑcɪ ɥəɑcɪ" ʃcsej ɥcɑcɪ hɪɪɟ ɥəɑcɪ.「みなしごリディア」という曲はリディアとユディアで韻を踏んでいる。

ʃcsueʃ ［言語］韻、押韻、韻を踏んだ言葉 ［レベル］4 1Λ:jeɥen:ɒelcɑcɪ

ʃcl ［動詞］ɥəl を持つ、持つ、持っている、所有する、ɥəl がある ［普通動名詞］所有 ［反意語］jc、ɪlʃc ［レベル］1 μɑ;ʃlcl,ɑ 1L: 古 :ʃlcl（持つ） ʃlcl:ʃlcl:ʃcl:oɪlə,ɪlʃ ［語法］ 所有の意味では ʃcl 単体で ʃclej の相になる。 ［用例］ɪn ʃcl ɪɒel. 妹がいる。 ɪn ʃclej ɒɪɟʎ. 鎌を手に持っている ɪn ʃcl ɒɪɟʎ. 鎌を所有している。

ʃclʎɪl ［経済］ロングポジション ］J

ʃclj ［名詞］記事、アーティクル ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʃclɒ ? ［用例］ ☆ ɪn cjʎ nelʃ ʃclj ɔnen ɪlɪn ɔn ʃclɒ. 新聞は社会面を読む。 ɪn cjʎ ʃclj ɔnen uɪu hɔʃ. スポーツ欄しか読まない。 ☆ ɪn ʎclɪʃ ʃclj le ɑcʃ ʃel μɪʃ ɔn ɪlɔn ɪnʃ c ʃclɒ. 趣味に関する良い記事があったので、切り抜きしておいた：紙の新聞はないので、アルバザードでは起こらない。

ʃcljɪɒe ［言語］属格、所有格 ［レベル］4 J0 ［語法］ 属格の表現は 2 種ある。ひとつは e で、lec e ɒccɥ（ミールの書）のように使う。ひとつは ʎenɔ で、ɒccɥ ʎenɔ lec（ミールの書）のように使う。e と語順が逆なだけである。 また、屈折による属格もある。 ɑcɪ ueeɥ のような 2 語でひとつの単語の属格は ɑcɪ ueeɥen ないし ɑcɪ–ueeɥen となる。 ＜まいった、参った＞ 所有格を使って「参った、あなたの勝ちだ」という意味の用法がある。これはアルカンスに端を発するものである。 ʃəɪn ʃəɪn まいった、まいった！、ギブギブ、ギブアップ

ʃclnɪ ［名詞］ボランティア ［形容詞］自発的な、有志の、ボランティアの ［反意語］ɪlʃclnɪ J0: 心ある

ʃclnɪuɪɪn ［軍事］義勇軍 ［レベル］4 J0

ʃcla ［動詞］ɥəl に間に合わない、間に合わない、乗り過ごす、取り逃がす、しくじる、ミスする、逃す ［副詞］～に間に合わない、手遅れ ［反意語］lɔnʃ ［類音］ʃcal、lcla J0:ʃcal ɒel（時を失う） ［用例］ ɪn ʃclɑɪʃ lɔd. 電車に遅れた。

ʃclɒ ［名詞］新聞 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ʃclɔɒɪɟ（報道の紙） ［文化］ アルバザードでは既に衰退し、紙媒体の物は存在しない。アンセに配信されるニュースサイトを ʃclɒ と読んでいる。 ［用例］ ɪn cjʎ nelʃ ʃclɒ ɪɪʃ jel. 私は毎朝新聞を読む：あえて毎朝と訳出。 ɪn cjʎɪʃ ʃclɒ oɪnel cɒ ɑɪɪɟ. 朝、新聞をざっと読んだ。 ɪn cjʎ ucl clɒ e ʃclɒ ɟɪ hɪɟd. 朝のうちに新聞全体を読むことはできない。 ☆ ʃə ɟɔɑɪ lənɪʃ ʃclɒ hɪnel. その事件は新聞に大きく載った。hɪn に注意。紙面は二次元なので。

ʃclɒɪ ［魔法］ティルマ、防霊力 ［レベル］4 J0: 古 ʃlclɒɪcn（抱く←体を持つ）。体を抱くように包み込む光であることから。 ［語法］ enuelen

ʃclɒe ［動詞］ɥəl になつく、なつく、懐く 古 :ʃclɒ ← ʃlclɒel（メルを持つ）。メルがセレンに懐いたことから。元は「懐かれる」の意味だったが、この動詞は主格が省略されやすく、一方対格に来るものが省略されにくことから、能受が逆転した。 ［用例］ lcɪ ʃcllɒej ɒel ʃcnel. しあはメルによく懐いている。 ʃə ʎeʃ ʃclɒe lɪn. この猫は人に懐く。

ʃclɥəɔ ［言語］所有動詞 ［レベル］5 J0 ［語法］ ʃcl, jc など。

ʃclɪn 所有者、持ち主 1L:lecn

ʃclɪsɪ ［経済］持株比率 ］J

ʃclɔn ［擬音］ぴんぽん、ピンポン、ピンポーン ［レベル］2 ɑu 赤：正解やブザーの音

ʃcɪ ［形容詞］正しい ［名詞］正解、正答、あたり、当たり、アタリ ［類義語］ɪlɒccɥ、ɪlɲ ［反意語］eucʃ ［レベル］2 μɑ; ↓ 1L: 制 :ʃeɪ ［文化］ ʃcɪ ［用例］ lɪ jej ʃcɪ nɪ. 彼は正しかったようだ。 "ʃcɪ ɔn "ʎɔn ace", ʃɪl eucʃ ɔn jɪɪs. ɪnɑc ɑcjʃ ɔ ɑcjʃ ʎənɪ uɪn ɔl ace ɑc cʎ nɔl.「そう、嘘でできている。だけど無じゃない。嘘が集まると、ごく稀にだけど、何かが生まれることがあるんだ。

ʃcɪʃ ［エルト］ティアト ［名詞］人質 ［レベル］3 μɑcɪ: 古 ［文化］ 夜の海を司るルーンの娘。小さな少女の姿をしている。昼の海を支配する王サテュラに攫われてしまう。

ʃcɪʃc ［感動詞］愛してる ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古 :ʃccɪ ʃcj（貴方を愛している）

ʃcɪʃcj ［感動詞］さようなら、またね、さよなら、じゃあね、バイバイ、行ってきます、いってくるね ［レベル］2 古 :ʃcɪ ʃcj(私は) 貴方を愛しています。中学以降、リディアが来て駅で別れるときにお決まりのセリフだった。 ［語法］ 恋人同士が使う。 ［用例］ ʃcɪʃcj. nɔn ʃccɪ ʃɥə nɔɑ nɒɪɪl. ʃeʃ ʃɥə eɒ ucl ʎɪɪn μɪʃ e ɥəlcɪn dɔʃen ʃɔɒ e. さようなら。貴方を誰より愛してる。それでもお腹の子の良い父親にはなれないわ（『Ｒｏｍａｎ』＃１「見えざる腕」）

ʃcɪl ［動詞］ɥəl を慰める、慰める、なぐさめる、気が晴れるようにする ［普通動名詞］慰め、なぐさめ、慰安 ［レベル］3 1θ: 制 : 古 :ʎəʃcɪ（愛していると言って）。「慰めてくれるなら愛してると言って」という台詞から。 ［用例］ ɪn ʃcɪʎɪʃ nɔj uɔl ʃəɥ leɒ ɑcμʃe. 元気な音楽を聴いて気晴らしをした。

ʃcɪɟ ［普通動名詞］セックス ［動詞］ɥəl をセックスする、セックスする ［類義語］ejje ［反意語］ɒedj ［レベル］3 μɑ:μcɑcɪ;ʃccɪ/ejje ɟʔ:μcɑcɪ: リディアが「愛のあるセックスでないとセックスに意味はない」と言い出し、ただのセックスと愛のあるセックスを分けるべきと言い出し、造語することとなった。メルも強く共感していた。 ［語法］［文化］ 愛のあるセックスを ʃcɪɟ という。それ以外の体目当てのセックスや快楽目当てのセックスを ɒedj という。アルティス教は ʃcɪɟ を至高のものとして捉えるため、幼女にいたずらしたり少女をレイプしたりしても真の精神的満足は得られないとみなしている。 ʃcɪɟ は ɒedj に比べて価値があるとされる。それは希少価値が高いためである。風俗やレイプでは ɒedj にしかならない。付き合っている間柄でのセックスでさえ ʃcɪɟ である保証はない。彼女が義理でさせているだけとか、逆に彼氏が性欲処理としてセックスをしている場合があるためである。 将軍は大奥の女を好きに抱けたが、女は将軍というステータスがなければその男に股を開かなかったろうから、ʃcɪɟ とは呼べない。将軍などのステータスとセックスしただけで ɒedj である。つまり自由に女を食える人間でさえ ʃcɪɟ は貴重なのである。むしろ地位や権力などステータスが高いほど女は男自身でなくステータスに股を開くので、ʃcɪɟ から遠ざかる傾向にある。現代でいえば医者や一流企業のサラリーマンなどがこれに陥りやすい。 仮に結婚や同棲をしている間柄でも ʃcɪɟ でないことがある。互いに恋してセックスしたなら ʃcɪɟ であるが、バツイチ子ありなどが「この子の将来のことも考えると、ウチには財産もないし、この子に父親代わりの人がいたほうがいいし、私も誰かに守ってもらいたいし」など打算が少しでもあれば要するに結婚や同棲という形での身売りでしかないので、その男に打算なく惚れて恋心からセックスしたわけではないから ʃcɪɟ ではなく ɒedj である。愛のあるセックスではない。 男はとにかくやりたいが先に立って、やればなんでもいいと思うことがある。女はそういう感覚はほとんどなく、誰でもいいから突っ込んでくれと思うことはない。そういう妄想をする女がたまにいても、実際に行動に移すまではしない。女用のソープがないことからもそれは分かる。男はセックスしたいと思ってもそう簡単にはできない。女はしようと思えば簡単に男を誘惑できる。女に誘われて断る男はあまりいないため、何人か誘えばセックスにありつけるからである。だが女にとっては女体というリソースをタダで提供するだけであり、それは損にしかならない。だからやらない。 そう考えると女はやりたくなれば簡単にやれて男はそうはいかないから大変といえる。しかし女がやりたくなって男を誘惑してやるのは所詮 ɒedj でしかなく、男が万札を握りしめてソープに行く ɒedj と何ら変わりない。1 万程度でできる格安ソープとそこら辺の男に声をかけて女体を提供するのでは大差ない。どちらも損をしている上に ɒedj でしかない。 このように考えるといかに ʃcɪɟ が希少価値が高いかが分かる。実は ʃcɪɟ は女のほうが得にくい。というのも、恋人同士のセックスは、女の側は義理マンを除けば男のことが好きで受け入れてやっている場合が基本だが、男の場合は本当にその女を愛していて抱くというより性欲処理の面が拭い切れないためである。性欲処理でない純粋な愛情で男が女を抱くのは難しい。その意味で ʃcɪɟ を得られる男は多いが ʃcɪɟ を得られる女は少ないと言える。 そしてこの ʃcɪɟ の希少価値ゆえに、愛のあるセックスを経験したことのない者を蔑んだ ʃcɪɟbeel という言葉が生まれた。

ʃcɪɟbeel ［ネガティブ］愛童貞 ［レベル］5 μɑ;/ ］J ［語法］［文化］ → ʃcɪɟ ʃcɪɟ をしたことのない者。

ʃcɪn ［名詞］カノジョ、彼女 ［反意語］ɪlʃcɪn ［レベル］2 古 :ʃcɪn,ʃccɪn。ʃcɪʃ 愛 」に指小辞の n が付いたもの。 ［文化］ 日本の場合、男女入り混じって雑談するということは多くない。他人かカップルかという差が歴然としている。友達という区分が少ない。知り合うのが難しく、出会いがないということになる。 その代わり、気に入れば付き合うまでが早く、セックスに至るのも早い。ただ、付き合ってセックスすると、いちゃいちゃする割合は少なく、淡白な関係になる。 アルバザードの場合、ほぼ真逆と見てよい。男女が付き合うのに平均 3 年ほどかかる。カナンと紗枝の状態でさえ、ふつう数カ月、長ければ数年かかる。 日本と違って離婚も再婚も厳しいアルバザードでは、恋人選びはじっくり時間をかける。 なお、付き合ってもセックスしなければ女は別の誰かと付き合う権利があるため、付き合うのは早くしても、セックスは最低でも ? 年はさせないということもある。 このように選択が厳しいため、逆にいえば「恋人候補」が一人しかいないと、それだけで数年間を無駄にしてしまい、適齢期を逃す恐れがある。 そのため、アルバザード人は男女ともに候補を数人見繕っておく。彼らと数年間付き合い、この人は大丈夫だと相思相愛になった相手を選ぶ。 ゆえに、候補をたくさん確保するために、男女の仲はよく、学校や職場でも常に入り混じって話す。女子は女子で固まるということがない。 また、アルバザード人は一度セックスすると、フランス人並にいちゃいちゃする。ただし、人前では絶対にしないところが決定的な違いである（ちょっとくらいはいちゃいちゃするが、恐らく日本人か韓国人と同じくらい）。セックスの頻度は極めて多い。アルバザード人は女子側が積極的であるため、精力の強さはカレシ選びで重視される。特にアルバザードは娯楽が少ないため、セックスは恋愛関係でとても重要である。アルバザードのほとんどの女子は自慰を行うため、性感帯も発達しており、最初に痛くしなければたいていはセックスに依存するようになる。 ただし、アルバザード人の女は総じて「押す」でなく「引く」タイプで、自分から求めるのではなく、相手に求めさせ動かすというタイプである。 カレシは女子の誘惑してくる空気を読む能力が必要で、毎日のように求めてくるのに応じ続ける体力が求められる。応じなかった場合はたいてい女から愛想を尽かされ、関係が冷める。アルバザードの場合、それで簡単に別れられないので、冷えてしまうと後々辛い。 ［成句］ ʃcɪn cɒen ʃc ɪʃ beʃʃel eʃ ɪɪ̀jen. みじめなときにできた彼女が本物だ。女は男そのものより男の持つステータスに股を開きがちな生き物なので、金や地位などを持っているときにできた女は信用できない。逆に自分が空手のときに拾ってくれた女が愛すべき本物の恋人だという教え。 ［用例］ nɔɑ hɪrln ʎɔnʃ ɪɪlʃ ʃcɪn 友達以上恋人未満 ɪn jc ʃcɪn. ʃə eʃ jɪnse ʃcɪcɪ ɔnen ʎacj ɪnʃ cʎ uɥpn. 彼女がいない、ただこの一点で人生崩壊（加藤智大）

ʃcɪnʃ ［形容詞］ぐいぐいくる、グイグイくる、ぐいぐい来る、グイグイ来る、よくなつく、よく懐く、熱烈な ［反意語］ɪlʃcɪnʃ ［レベル］4 μɑ;ʃcɪn/eʃ「カノジョのような」]ʎ ［文化］ μɑ で セレンが作った語。女は付き合っているときは相手のことを熱心に思うが、別れた途端歯牙にもかけず思い出もうっちゃり捨てて手のひらを返す心ない生き物だということを揶揄して造語した。逆に男は付き合っているときはそっけないが、別れた後もずっと引きずる生き物で、ɪlʃcɪnʃ が造語された。つまり女は ʃcɪn の間は ʃcɪnʃ だが ʃcɪn でなくなると ɪlʃcɪnʃ になり、男は常にずっとほどほどに ɪlʃcɪnʃ であるということである。

ʃcɪnɪl ［名詞］恋人、カップル ［類義語］ɑɪlle ［レベル］2 1L:lecn

ʃcɪnc ［動物］アメリカンショートヘア、アメショ ［レベル］4]l: ルティア猫 ［文化］ 人気。

ʃcɪuel ［武道］ティアベール、ルティア式戦闘術 ［アクセント］ʃcɪuEl ［レベル］3 J0:ləʃcɪ/ɥəuel ［文化］ ユベールの一種。受けを主体とする戦闘術。μɑ でソーンがアルベールを元に開発した。その後ルティアで栄え、護身術として定着した。受け、流し、守りなど、護身術に特化している。徒手の場合、合気道に近い体系。武器を使う場合、薙刀や棒などが伝統的に扱われる。アルバザードには護身術として入り、女子の間で人気が高い。

ʃcɪɒ ［代詞］[ɒkɒɥs] ʃc ［レベル］1]l:ʎɔccɥ

ʃcɪɒeʃ ［代詞］[ɒkɒɥs] ʃccɟ ［レベル］1]l:ʎɔccɥ

ʃcɪdcɪ ［言語］二人称 ［レベル］4 1L:lcɔn

ʃcɪɟɪ ［名詞］港、波止場、港湾、ハーバー、漁港、桟橋 ［レベル］3 J0:ʃceɟ/μɪ → ʃceμɪ → ʃcɪɟɪ（同化） 参考 :1θ: 制 :ɪdlɒɔnɔ ［文化］ 日本と大差ない。ふつうに旅券を見せて船に乗せてもらう。国外へ行くならパスポートとしてアンセを見せる。

ʃcɪɟɪɒ ［言語］理学、ティアラム ［レベル］5]l:ʃcɪ/ɑɔɟɒɪ ［文化］ hɪrl、lcɒ

ʃcɪɟen ［言語］ルティア語 ［レベル］3 J0 ［文化］ → lcɒ, hɪrl, elɑjeɪ ●古ルティア語から現ルティア語までの概要 名称：lʃ（ルティア語） 系統：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族サヴィア超語派シージア語派ルティア語群（ɪʃenɪɒɪl, ɥəəɒɪeɒcʃ, ɒɪleʃɑcɪɒ, jɪucɪcɑɪl, jc czcɪ.eɪeʃeɒ, ləʃcɪɪʃɪl） 使用年代：ɒʃ_ls：ɒʃ_l1(lʃɑ), jɒ_μɑ(lʃl), nɑ_μʃ(lʃɑ), ul(lʃu), ɪl_ls(lʃ(lʃj)) 分布：北サヴィア 話者：シージア滅亡後の南部シージア人。現在のルティア人 類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ 認知様式：客観的把握 zφ でシージアが滅び、北はリーゼル、南はルティアに分裂する。シージアは zφ の頃は人種の坩堝で国際都市であった。zφ 末期のシージア戦争では最大の激戦区となっていた。 ところが zφ が終わると ɒʃ と l1 では大きな戦に巻き込まれなかったため、安定した発展を遂げるようになった。かつて文明の最先端を行っていた地域だったが、ɒʃ 以降はその安定性により伝統の国へシフトした。 jz と比べると、lʃ には名詞に性がある。また、名詞に有界性ができ、単数複数や可算不可算などができた。冠詞も生まれている。音韻的には h が復活し、鼻母音も獲得している。複雑な二重母音の体系も生まれた。 ◆古ルティア語（lʃɑ） 語順など文法の大雑把な面は jz と変わらない。 ・文字 ɥəəɒɪ ʎLʎL ［言語］［文字］ルティアがメテ幼字を公用文字に→ hɪrl ʎLʎʎʎ にメテ幼字が制定されたのも束の間、メテがソーンに暗殺され、さらに後釜についたアルシェまでソーンに敗れるや一転、メテを象徴するメテ幼字の権威は失墜した。 ソーンはアルハノンの文化圏出身者であったため、メテ幼字を廃してアルハノンを支配地の効用文字に制定 (ΔOOL)。レスティルに初めて表音文字が公的に入った。 ソーンが暗殺されアルバが王位につくと、アルバはアルハノンを公用文字から除外。ところが彼自身アルハノンが公用文字だったころの生き証人で、表音文字の便利さを肌で知っている世代だった。 それまではルビとして響字を使うのみだったレスティル（この時点でアルバザード）だったが、ここで表意の幼字に戻すより表音を使ったほうが便利でかつ国民の適応も早いのではないかと考えた。そこでアルバは幼字を廃し、響字だけで記すより定めた (cɒəl ɟ) 一方ルティアはすでにこのとき伝統を重んじる国になっていたため、ʎLʎL に採用していたメテ幼字しか使わず、表意が使われ続けた。 ・音韻 zφ が終わって ɒʃ が始まると戦争の終わりとともにハーディアン人との貿易が活発化し、h がもたらされる。 jz では消失して ' になっていたが、lʃɑ 以降に入った語には h が付く。この時代の人々は例えば 'ɔɒeʃʃ に元々 h が付いていたことをもはや知らないので、'ɔɒeʃʃ などは hɔɒeʃʃ に戻らずそのままになった。これは自然言語で一般的に見られる現象である。例えば日本語では d が h に変化した時期があるが（ピカ→ピカる→ピカり→光）、「パソコン」などの外来語ではそのまま d 音で再び取り入れている。 jz には h はないが、lʃ には h がある。' を見れば jz 由来の語だと分かり、h を見れば lʃɑ 以降の語だと分かる。 ・格 与格も格を持つようになる。 与格 cl が膠着して (c)l になる。 ɑclcɪl（少女に）、lczɥɔl（家に）、ɑilɪncl（貴方に） 主格と音が似るケースがあるので注意。 主格：母音調和した母音＋ μ:ɑilɪn → ɑilɪnɪμ（ファラナール。貴方が） 対格：(j)ɪs:'ɔɒeʃʃɪs（オレッタージュ。リンゴを） 与格：(c)l ・名詞の数 zφ 末期ごろから ɒʃ の始まりにかけて複数の je が j として膠着し、複数形を指すようになった。 無声音には j で、有声音には z が付く。lɪd なら lɪdj、lɪb なら lɪbz。 無声音と有声音の対立のない子音の場合は j が付く。lɪn なら lɪnj。ただしその後に有声音が来ると濁る。lɪnzɪμ。 開音節には z が付く。lɪ なら lɪz。 この後、ʃə ʎenɔ（これの）が ʃən になり、ʃən が「ひとつの」を指すように意味が変わり、単数形が生まれる。 それから「～というもの」という名詞の概念そのものを指す接尾辞として –(l)eʃʃ が生まれる。 'ɔɒeʃʃeʃʃ（リンゴというもの） ◆遠ルティア語（lʃl） + 前期 jɒ ɒʃ と l1 で戦火を避け lʃɑ ではルティアは発展を見せていた。 jɒ に入り、cɒəl1ʎL にアルティアで魔導師が減少し、武士の台頭への機運が高まる。 ʎʎʎʎ にルティアはアルティアを攻撃し、開港を迫る。アルティアで開国と攘夷に分かれ、内乱が発生。 ʎΔʎʎ にアルティアがルティ

アへ侵攻。　ɥθʌ にトモエ陥落し、ルティアは西部を奪われる。　＋中期 ɟɒ　前期末から中期にかけてアルティア人の支配を受け、ɪlʃ の語彙や文字が流入する。　異文化を取り入れるアルバザード人は ɪlʃ との混合で二重把握を獲得したが、伝統を重んじるルティア人は客観的把握を貫き通した。　＋後期 ɟɒ　・鼻母音　μɑ で宮廷を中心に鼻母音ができる。　ɪn がフランス語の ɪn のように発音される。　・二重母音　同じく μɑ で宮廷を中心に二重母音の音価が変化する。　合字の ɔe のような音である。　この変化には宮廷から徐々に庶民へ広がっていった。　・名詞の性　再びルティアは力を取り戻し、リーゼ姫の時代に最盛期を迎える。　リーゼ姫の頃には宮廷で詩歌の対照技法が流行した。対照技法というのは二文一対の中で太陽や月といったペアとなる単語を織り交ぜる技法のことである。例えば ʞB という」つの文があるとする。このうち ʞ で太陽を使い、B で月を使い、対照させるという具合である。　なお、太陽と月のほかには男と女などがあり、この分類も彼女が行った。彼女は男が含まれる名詞を男性名詞と呼び、女が含まれる名詞を女性名詞と呼び、それ以外の対照性のない名詞を中性名詞と呼んだ。　ところで ʞB に続くパラグラフで ʞ'B' というのがあったとして、この ʞ'B' の中で太陽と月がもう一度言及された場合、どうなるだろうか。　当然代名詞で受ける確率が高いわけだが、? 人称の代名詞は lə しかないため、太陽も月も lə で受けることになる。するとどちらがどちらを受けているのか分からなくなってしまう。　対照技法において ʞB はたいてい似た構文を取るため、ʞ'B' でどちらも lə を使うと、どちらがどちらか分からない恐れがある。　ʞB の次に必ず ʞ'B' が来ればまだしも、B'ʞ' という文の順序になるケースもあり、このような場合はさらに誤解を招きやすい。　そこでリーゼは lə をアプラウトさせた（＝リムレットさせた）lɪ を作り、lə と lɪ で受けるようにした。　この案を思いついたときに書いていた二文一対の文 ʞB が太陽と月をこの順序で含んでおり、リーゼは試験的に太陽を lə で受け、月を lɪ で受けた。　それが宮中で評判となったため、リーゼは男性名詞を lə で、女性名詞を lɪ で受けるようにした。　この時点では中性名詞は lə で受けていたが、lə は男性名詞を受けるものだという感覚が一般化すると、中性名詞は ʃə で受けられるようになった。　これがきっかけとなり、既出の名詞は ʃə, lə, lɪ で義務的に受けられるようになり、定冠詞が生まれる。　一方、このころ単数形は上記 ʃən で表していたわけだが、定冠詞ができたことで ʃən と並行しながら不定冠詞が規則的に生まれる。　ʃən, lən, lɪn でそれぞれの性の不定冠詞である。　・指示詞　ʃə が冠詞になって消えたことで「これ」と「あれ」の対立が消え、Tə が指示詞としての意味をなさなくなり、消滅。　しかし指示詞を使わないわけにはいかず、同時に ʃəʃə から ʃəʃ、ʃələ から ʃəəl が生まれ、「これ」と「あれ」の対立を作る。　いずれも前置。　これらは指示詞であって冠詞ではない。不定冠詞でも定冠詞でもなく、指示をするためだけにある。　フランス語の ɹle は ən でも ənе でも le でも lɪ でもないが、あれに近いものを想像すればよい。　・まとめ

男性定冠詞	lə	中性定冠詞	ʃə
女性定冠詞	lɪ	男性不定冠詞	lən
中性不定冠詞	ʃən	女性不定冠詞	lɪn
近称指示詞	ʃəʃ	遠称指示詞	ʃəəl

◆中ルティア語 (lʃɑ)

・文字　アルカができたことで、アルカの幻字が入ってくる。　音の表記に便利なため、音の表記に使われた。　・語彙　文法は相変わらずだが、語彙はアルカのものが入るようになった。　ただ、最初のころは外来語をルティア語に翻訳して取り入れる国粋主義的な手法が一般的であった。　しかしこれは後のミロク革命で一転することとなる。　・名詞の性　名詞の分類が対照性を持たないものにまで広がり、中性名詞が消滅。　不定冠詞の頭子音が消失。　ʃə がお役ごめんになったことで近称指示詞の ʃəʃ が短縮され、ʃə に。

男性定冠詞	lə	女性定冠詞	lɪ
男性不定冠詞	ən	女性不定冠詞	ɪn
近称指示詞	ʃə	遠称指示詞	ʃəəl

・テンスとアスペクト　アルカの影響を受け、テンスが変わった。　連動詞では止め、動詞に接尾辞を付けるようになった。　過去：–(e)ʃ　ɑəʃɪʃ（与えた）　現在（通時）：–ɟ　ɑəʃɪɟ（与える）　未来は ʔləɟ を文法化して表す。　ɑəʃɪ ʔləɟ（与えるだろう）　アスペクトは変わらず助動詞で表した。　◆近ルティア語 (lʃɪu)/ ルティア語 (lʃ)

・文字　時代を追うごとに幻字の使用頻度が増したが、幻字は lʃ を記すのに適していないため、理字も使われ続けた。　・語彙　アルカの語彙が大量に入ってきた。　・格　アルカの影響を受け、S O V の標準語順の場合、与格以外が落ちるようになった。　ただし玲方語では lʃ でも格が落ちない。　lʃɑ: ən ɒɪnɔɟɥ ɪn ɑɔlcɪl lɪ lɒlcəɟɪs cɔɔlɒʃ. イュンマニサール　ア〜ン　フィリアール　ラ　シェリウサージュ　イゾレート　lʃɑ/lʃ: ən ɒɪn cɟ ɪn ɑɔlcɪl lɪ lɒlcə cɔɔlɒʃ. イュン　マニース　ア〜ン　フィリアール　ラ　シリウーゥ　イゾレート　ɥlɪ: ʔɔ ucʔ ɟcnɟɪʃ lɒlʃ ɪ lə ɑɔɪn.　●ルティア語（現ルティア語、現代ルティア語、lʃ, lʃj）概説　分布：ルティア、リーゼル、アルバザード、アルティア、ミディート…　lʃj の前身は lʃu で、lʃj は ɪl_ls の間に使われた。　他方、lʃ 全体の前身は jz である。zφ でシージアが国際都市だったことから、jz は当時最も学問的に進んでいた。それゆえ現代でも特に人文分野には jz_lʃ が多く使われる。例えば言語の年代名は jz_lʃ 語を使う。lʃu は ləʃɔɪ ulɪnɑ と読む。ここに形容詞 ulɪnɑ が使われている。　一方、錬金術や科学は ɟɒ 以降アルバザードで発達したため、これらの分野の術語は ɥ_ɪ を使うことが多い。　<文字と音節の変遷>　ʃɒ で jzɑ ができる。　ɟɥ でアクサンの位置が最終音節に固定。　zφ で響字が作られたとき、jz は２４子音９母音計３３文字を選択。響字は読み仮名として使われ、文字自体は幼字を使用。　ɒʃ で ɑ,Þ がなくなる。　ʔl で ɑ,Þ がなくなる。子音２２の母音８の計３０となる。　前期 ɟɒ でアルティア人によって幼字が廃止され、読み仮名でしかなかった響字で記されるようになる。　中期 ɟɒ で理字ができる。このとき上で述べた３０個分の字が制定される。　後期 ɟɒ で二重母音の音が変化する。　ɪc [θ]　ɪe [θ]　ɪɪ [ʰ]　ɔɔ [ɔ]　ɪə [ɔ]　ec [e]　ee [E]　eɪ [θ]　eɔ [8]　eə [A]　ɔc [A]　ɔe [8]　ɔɪ [ɑ]　ɔɔ [ɔ]　ɔə [ɔ]　c＋母音は口蓋化してヤ行風に。dlce はプリェと発音。　ə＋母音は唇音化してワ行風に。ʔəɪ は クゥと発音。　μɑ で鼻母音ができる。　nɑ で単母音の音価が変わる。e は環境によって [ɜ] になり、ə が [Þ] になった。　ɟʃ で定冠詞 lə の発音が [ɜ] となる。　ul で冠詞と母音で始まる単語の間にエリジョンが起こる。lə ɥce で l'ɥce。lɪ eljc で l'eljc。　ただし、ルティア語には「単語は同じなのに性が変わると意味が変わるもの」が多くある。例えば lə jɪuɪn は腕で lɪ jɪuɪn は手である。同じく lə ɪəɪ は青い紫陽花で、lɪ ɪəɪ は赤い紫陽花である。ɪəɪ の場合、どちらも l'ɪəɪ にしてしまうとどちらの意味か分からなくなる。このような場合には古形である lən, lɪn を用いて lən ɪəɪ, lɪn ɪəɪ などとする。　<ルティア語の音>　無アクセント。デフォルトは最終音節。高低アクセント。　音節は複雑で、パターン数は多い。短く区切る傾向にあり、C V C C なら２音節で読む。　２２子音８母音。３０音。ひとつの音素が複数の音声として現れることがある。母音 e,ə などは特に音声のバリエーションが多い。ɾl はなく、l に置き換わる。　[ɾ,ɑ,j,z,n,ɒ,l,μ,ɸ,ʒ,l,s,d,b,ɑ [ˡ⁺] ,u [ˡˢ] ,ɥ,o,l,φ,X [ˡᵈ] [ˡᶠ] [X] ,h　c [c] [ᶜ] ,A,e [e] [E] [ɜ] , 8,θ,ɪ [i] [ˡ⁺] ,ɔ [ɔ] [Þ] ,ə [ə] [ɜ] [Þ]　音節末の d,[,j,l] は読まない。lɪʃ [l]　後ろに e が付くと読む。このとき e は [ɜ] に。lɪʃe [lɪʃɜ]　d,[,j,l] でも子音が重なれば読む。lɪʃʃ [lɪʃ]。上とシュワーの有無で異なる。　それ以外の子音は読むが。ləɑ [ləɑ]　e は音節が C V のときに [ɜ] になる。ləɪɪ [ləɪɪ]。le はアクサンが来るので [E]　ほかの母音同様アクセントが付く場合は強くなる。e の場合は [E] になる。lɪneʃ [lɪnE]　音節が C V でも最終音節の母音がシュワーしかない場合はアクセント位置が繰り上がるため、e でもシュワーにならない。ləɪɪ は [ləɪɪ] だが lene になると ne にアクサントは付けられないので le にアクセントが来て [lEnɜ] となる。　ə は [Þ] だが、定冠詞 lə のみ [lÞ] でなく [lɜ]。これは高頻度による音の弱化。　例　ɾləəlccɾe [ləˈɜcɾɜ]　ləɒccne [lÞɒcnɜ]　lə ɑlɪɒ [lɜ ˈʰlɒ]　lɪ ɑɔɔle [lɪ ˈʰɥpɑ]　<ルティア語とフランス語>　ルティア語はよくフランス語に似ていると言われる。作者がフランスの混血だから意図的に似せたのではと勘繰られるのだと思う。文法も単語も ɑu から作っているので、地球においてはアプリオリの人工言語である。特にフランス語を流用したということはない。ただ、下記のルティア人の感性は実際には作者の美的センスが反映されており、かつ作者はフランス語をある程度美しいと考えているので、影響は受けているといえるだろう。　<ルティア語の自然性>　ルティア語は地球で使うことを念頭においていないので、セレンはルティア人らしい美的センスを追及した造りにしようと考えた。　アルカは「や」が多い。破裂音が多いとコロコロして聞こえ、摩擦音が多いと耳障りだ。l のような流音が多いと流暢に聞こえる。これは人類に共通の感覚ではないが、ルティア人は一般にそのように感じる。言語学的には人類全体に共通する音のイメージはあまりないが、ある言語に限ればこういうことはある。例えば日本人は一般に清音より濁音を汚いとか強いと感じる。　またルティア語は抑揚が少なく流れるように聞こえるため、上品に聞こえる。これもルティア人の感性だ。　さらに文法には自然言語らしい冗長さを加えた。アルカはアトラスではアポステリオリ人工言語なので、自然性が純自然言語のルティア語より薄い。ルティア語に名詞の性があるのは自然言語らしさを描写しようという試みの一環である。とはいえ、もちろん面白いからという理由で付けたのではなく、言語学的な発達を並行して考慮してのことである。

ʃcɪlec　[言語] ルティア方言　[レベル] 4　ɟ0

ʃcɪɪlɪ　ティアーシャ　ɟɔμn で「全てを愛する」の意　[文化]　クミールのつけている日記だが、赤アンクノット及び通常のアンクノット並みの情報を持つ。

ʃcɪɪll　[言語] ルティア数字　ɟ1　[文化]　jzɑ でできた１２進法の数。アルミヴァが語源になっている。現代でも物を数えるときなどに用いられる。　0:ɒɥɒl　1:jecl　ɟ:ʃccl　ʔ:dɔɔl　ɥ:nepl　ʰ:ʔleul　ʕ:ʔɪzel　ϑ:ɑɪnl　Δ:zɔnl　L:ʃcʔl　10:ɑenl　11:nebl　1ɟ:ʔɔl　ɟʔ:ʔɔljecl　1ɥ:ʔɔlʃccl　:　:

1ɥɥ:jɪnɟ

ʃcɪeucʃ　[名詞] 正誤　[レベル] 3　μɑ;/　ɟʔ

ʃcɪeucʃdɪʃ　[名詞] 正誤表　[レベル] 4　μɑ;/　ɟʔ

ʃccʃel　[サール] ティーテル　[名詞] 2 時　[名詞] 東北東　[交通] ティーテル通り　[音楽] ド #　[組み数字] 2 / 1 2　[類義語] ʃel　[レベル] 2　pelʃcɪ ɥ:ʃccʃel;e　古　[文化]　アルミヴァの２番目。サールの胴体から生まれた幼女。ティーナという剣を持って生まれた。しかしティーテル本人は剣を使うことができず、専らこの剣にふさわしい者を待つ番人になってしまう。ティーテルは生涯成長することなく、夫を持つこともなかった。結局ティーテルの剣を扱うに値するものは現れなかった。μɑ になると、ティーテルはテームスの復活を感じ、キルセレスに剣を奪われるのを恐れて腹の中に剣を隠した。しかし剣は収まり切らずに出てきてしまった。よく見るとティーテルの腹からは剣だけではなく小さな女の赤ん坊までもが出てきていた。その子供は以前ネブラに強姦されたときに剣にかかったネブラの精液から生まれた娘だった。その子供はティーテルとネブラの娘である。ティーテルはこの子供なら剣を使えるかもしれないと思って剣をその子供に託し、娘をエンナと名付けた。それを見たキルセレスは剣を奪おうと襲い掛かってきた。命からがらティーテルは娘をアトラスに送り込む。娘は剣の力に守られて生きのび、やがてソーンの使徒となる。

ʃccɪ̀　[形容詞] 正々堂々とした、威風堂々とした、公明正大　[反意語] ʃelɟ　[レベル] 3　ɟ0: 竜王ティクノのような。ティクノはヴァステで勇敢に戦った。　参考 :1L:ɑɥɪʃ ← ɑɥɟleɟ。ダルケスのような。フェルデンと駆け落ちの最中にアルデスに襲われ、逃げもせず策も弄せず正々堂々と戦ったことから。ɑɪlʃ と似るので離した。　[文化]　男にとって良いとされる性格の代表格。ちょっと不器用で損をしてでも、正々堂々としているほうが良いとされる。特にアルデンにとって重要なファクター。　[成句]　ʃccɪ̀ ɥən ʃcɪ̀nɔ 威風堂々

ʃccɟ　[代詞] あなたたち　[レベル] 1　1L

ʃccnɪ　[アイテム] ティーナ　[レベル] 4　μcɑcɪ: 古 :ʃccʃel からだろう　[文化]　ヴァストリアの１つ。エンナのもつ剣。エンナの母ティーテルから譲り受けたもので、エンナはクミールが振るうにふさわしいと思っている。

ʃccnɪ(J)　[μenʃe] [形容詞] [副詞]　とても　[レベル] 1　1L:ʔɔccμ:ʃcnʃcn が古で幼児語だったこともあり、ʃcnʃcn はミリアに好まれるようになった。ユンクはこれを避け、音の柔らかい ʃccnɪ を作りだした。　[語法]　ʃcn よりも強く、ʃcnʃcn に相当。

ʃccɥen　[地学] ムーンストーン　[レベル] 4　1L:ɪʃccɪclɛɑ を嫌ってリディアに付け直されたもの　[文化]　白魔法ハティアの効果がある魔石。ʃccɪɥenɟ に似ていることから来ている。アルタレスとアレキサンドライト、軍曹とジルコンといい、しばしば魔石と言葉は関連が深い。アルカは神の言葉であるため、言葉自体が呪文となり効果を持つため。　無色透明のものはヴィルを大量に重合できる。

ʃccl　[代詞] あなたの、あなたのもの　[レベル] 1　1L:ʃc/ʃəl

ʃcclej　[代詞] あなたたちの、あなたたちのもの　[レベル] 1　1L

ʃccɪ　[名詞] 愛、愛情　[動詞] ɥəl を愛する、愛する　[形容詞] 愛された、愛しの、愛する、ディアー、ディア　[魔法] ティーア。害の中位黒魔法。相手に自分を愛させる魔法。相手に献身させ、操る。hɪʃcɪ と違って黒魔法となる。　[組み数字] 2 / 6　[類義語] ɑelcjʃ　[反意語] uɪɥɪe　[レベル] 2　ɑ;e　古 :ʃcɪ, ʃccɪ　ʃccɪ:ʃccɪ::ɑcɪlə,ɪlʃ　[語法]　自分より相手の幸福を願う気持ちが ʃccɪ で、男女間以外にも用いられる。　恋愛感情は hɪʃcɪ であり、成就してもしなくても hɪʃcɪ といえる。　互恵的な恋愛感情は μɪnɑc である。　相手の存在に快楽を見出す気持ちが jccnɪ である。相手のことを必ずしも自分より優先するとは限らないため、jccnɪ ɒccl のように物を取ることができる。　相手と一緒にいたいと思う気持ちが lɪɪd であり、制の lɪl に値する。　[成句]　ʃccɪ eɒ ɒeʃ ɪl ɪnuɥ 可愛さ余って憎さが百倍　[用例]　ʃcɪʃcɟ, jenʃɪnʃ ɒcl ʃɥə ʃccɪʃ nɔn jccnɪ.　さようなら、愛してくれてありがとう。

ʃccɪɥenɟ　[名詞] ラブレター、恋文、愛の言葉　[レベル] 3　1L: 愛のことば　[用例]　ɪn ɪlʃɪʃ ʃccɪ μenɟ cɒ cɪjel ɪlnɔɑ jel cɒ nɔj jeμcʔ ʃc leeu jcl ɪʃɔlɪɟ lc 1 jɪlʃ. cl heʔ ʃcl ɪɒɪlcɟ ɑəen 1 jɪlʃ lcen le jel. jee ʃəəj ʃccɪɥenɟ ej ɑcʃl ɪl elen hɪnʃel. ɥɪn ɪleɒ ɪnʃ ʃɪn ej ɑcʃl ɪlʃɪʃ ʃ'elen. 君があと１年の命と知った日から、毎日ラブレターを書いた。一度も渡すことができずに机の引き出しに溜まった３６５通の手紙には、あの日からの君の最後の１年が綴られている。僕の心も引き出しの中に仕舞ったまま（jeμen ɥbɪzɪμɑ）

ʃcɔ　[形容詞] 単なる、ただの　[遊離副詞] [形容詞] ただ、単に　[文頭純詞] ただ、只、単に、ジャスト、ただ〜なだけだ　[レベル] 1　ɑμɑ　古　ɒɪclə:ɒɪcə̀lə, ʃcɔ　[語法]　lɪ eʃ neϑ に対し、ʃcɔ, ɑcɪn（単に女の子よ）と ɑcɪn ʃcɔ（単なる女の子よ）では意味が違う。後者は変哲もない少女という意味になる。　よく文中に挿入されるため、lɪ eʃ ʃcɔ ɑcɪn のように遊離副詞に見えることがある。

ʃce　[名詞] 修飾始点　[数学] 括弧開く　[レベル] 2　1ɥ: 制 : 古 :ləμ にあたるもの　ʔləμ:ʔləμ:ʔləμ　[語法]　ʃce ʃən で括弧と同じ役割をし、語句を挟んでひとつにまとめることができる。論理的に誤解ないように明示する場合に使う。文末では ʃən が省略され、ʃce しかないこともある。　[用例]　ɪn cnɪʃ ʃce lɪ lənɪ ʃən. 私は彼が来たことを見た。　(J ɔ ʔ) ɪ ʔ = 1ʰ. (２＋３) ＊３＝１５ : (を ʃce と読む。

ʃceʃ　[名詞] レイアウト　[レベル] 4　1ɥ: 制 : 恣意

ʃceʃɥen　[電算] マークアップ言語、マークアップ　ɪl;/「レイアウト言語」　ɟɥ

ʃcel　[数学] 半径　[レベル] 3　@ 1L

ʃced　[建築] 溝渠、こうきょ　[印刷] どぶ、ドブ、溝　[レベル] 3　ɟʔ までは「どぶ」の意味だった <lʔ: 制 :ʃcedɔn（小さい水路）　[語法]　主に給排水を目的として造られる水路のうち、小規模な溝状のものの総称。　ミゾは jɪcɟ。

ʃceμ　[地学] 海、海洋　[形容詞] 〜海。前置。　[メタファー] [地学] だだっ広くて人里離れたところ：ふつう ɥɒə は狭くて陸地が見えてしまうし、ɔʔɪ, lecuɪ はなじみがなさすぎて不適切。海だと陸が見えないところがあるので隔絶感が強い。　[レベル] 2　ɟɔɥn　古 :ɟɔɥn:ʃceμ ← ʃcnʔɪeμcɪ（凄い（＝広い）水）　ʔɪlə:ʔɪlə:ɪl ɒɪleɪ（水）:ɪl,ɪlʃ　[語法]　表層 (φcɒʃceμ)、中深層 (enɑɪnʃceμ)、漸深層 (jeelʃceμ)、深海層 (enφcɒʃceμ)、超深海層 (ɑɪnʃceμ) の５区分がある。　[用例]　ɪc, ɪnj sɪlcʔ nɔɟje ʔe jcl ʃceμ. 結局我が家では海に行くことに決めた。

ʃceμʃɪɑ　[地学] 岩礁、がんしょう　[レベル] 5　μɑ;/　ɟʔ　[語法]　主に海で水中に隠れたり、水面上にわずかだけ姿を現している岩。

ʃceμʃeeze　[気象] 海風　[レベル] 4　μɑ;/　ɟʔ

ʃceμɟɪcɟ　[地学] 海溝　[レベル] 4　1L

ʃceμɟczl　[地学] 海盆　1L

ʃceμɟel　[歳時記] 海の日　[レベル] 3　ɟ0　[文化]　ミロク革命で制定された祭日。カテージュの海が海開きになる。日付は μɪl ucɔ（６月１６日ごろ）で、日本よりだいぶ早い。水がまだ冷たいので冷えないタイプの水着を着る人も。

ʃceμuɪɟ　[軍事] 海戦　[レベル] 4　ɟɟ

ʃceμɑeɒe　[歴史] 大航海時代　[レベル] 4　ɟɟ　[文化]　ʔʰ アッティ＝メテ、世界一周。大航海時代の幕開け→ ʔedc

ʃceμφɪnɪ　[軍事] 領海　[レベル] 4　1L

ʃceμdcʃɟ　[環境] 海洋汚染　[レベル] 5　1L

ʃceμɥəlɔ　[地学] 海面　[レベル] 4　1L

ʃceμɟəɒɪ　[動物] 海洋生物　[レベル] 5　μɑ;/　ɟʔ

ʃceμoɪl　[地学] 海嶺（広義の）　[レベル] 5　1L

ʃceμlcl　[化学] インジウム　1L

ʃceμɔze　[名詞] マリンスノー　[レベル] 6　ul;/「海中懸濁物」　ɟɥ

ʃcə　[名詞] １〜２個　[形容詞] １〜２個の　[類義語] ɑɔə, ɪlɑɔə　[レベル] 2　ɟ0:ʃcɑ/ɑɔə (半分になった ɑɔə)

ʃɔ　[代詞] 何、何の。疑問代詞　[動詞] ɥəl に関して何をするか？　[レベル] 1　lɥ　古 : 古で「何」は ɪl や ʃɔ　ɪl:ɪl, ʃɔ。ʃɔ は lʃ1 移行１０も表したため、混同を避けて ɪl も使われ続けた：　[語法]　動詞の場合、ʃc ʃɔ ɥɪn ɪnϑ（私に何をするの？）のように、疑問の代動詞として使う。　[用例]　ʃə eʃ ʃɔϑ これは何ですか。　ɪn ʃɔ ɥɪn jec. 何をしようかなぁ：jɔ ɥɪn ʃɔ だと「何をアレしようかなぁ」の意味になる。アレには文脈ごとに異なる動詞が入る。　nɔn lɪμ ʃɥə eɪ ɪlɪnɪ ʃɔ eʃ ʃɔ. 何が何だか分からないでしょうね。

ʃɔ(J)　[化学] 化合物中で何級かを指す。ucʃɔ だとターシャル。　1L:ʃɔnl

ʃɔ,ɑ　ʃɔɪ　e

ʃɔ,lʃì 10 8 0を指す ɥəə と同じ文字で使われ、音だけ異なった。

ʃɔ,llʃ ʃəl <>ʃɔ

ʃɔʃ ʃɔ/ɪʃ

ʃɔ(lʃ) [擬音] とん、トンッ、ひょい、ヒョイ、ぴょん、ピョン [レベル] 2 1L

ʃɔlʃc [料理] タルト [レベル] 4 llʃɪ

ʃɔlʃɔn [幼児] おはな、お鼻、鼻 [レベル] 1 J0:pel: 古 ʃɔ, 指小辞 n

ʃɔɪl [代詞] 何であろうと、あらゆる、どんな、どんな〜であろうと [レベル] 1 μɑ;ʃɔ/ʃɪl「何であろうとしかして」 1ʔ: 制 :ʃɔ/ʃɪl [成句] jɪ ʃɔʃɪl 何よりも先に、まず最初に、とにかくはじめに [用例] ɪn lɪdn ɑɪn ʃc ɔlʃɪ ʃc lɪl ʃɔʃɪl. 君のしてほしいことはなんでも叶えてあげるよ。 ɪn ɪləəʃ μɪl ɑɪn ʃɔʃɪl ʃeden ɪ. どんな困難でも乗り越えてみせる。

ʃɔʃɪlɪɪlʃɪn [名詞] 何でも屋、問題処理屋、問題解決屋 [レベル] 4 μɑ;/ J?

ʃɔʃɪleʃ [代詞] 何かしらの [レベル] 1 J0:jeɥen/μcɑcɪ:ʃɔʃɪl/ʃe

ʃɔʃɔ [代詞] なになに、〜、何とか、何々、何がし、何某、なにそれ、ほにゃらら [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古でも ɪlɪl（何々）という同じ用法の語があったため、それを制アルカの語である ʃɔʃɔ に置き換えたもの。 [語法] 思い出せない語の一部の後に付けて「何々」という忘れた部分を表わす語。ɪμbɪʃɔʃɔ アルバ〜何々（アルバザードのつもりで）[用例] "le eʃ ʃɔ ɪɓ leɟ lɪɑ beeʔ ʔɪ dɪμɥ... ʃɔʃɔuenʃ..." "ɔedlʔ ʃɔʃɔʔ" 「あれなんだっけ。日本の会社でさ、〇〇社ってとこで、ほらトイレ作ってる……」「わかった、ＴＯＴＯだ！」

ʃɔʃɔl [代詞] 何々の、なになにの [レベル] 2 J0

ʃɔʃɔlə,llʃ ɑɪɑ, ʃɪl

ʃɔʃe,ɑ ʃɔ ʃɔ/ʃe「鼻に来る風」

ʃɔʔ ʃɔ/cʔ

ʃɔʔ [動物] サイ、犀 [レベル] 3 lɪʔlɪ [擬声] bəə（鳴き声）

ʃɔʔʔɪ [名詞] ゴール、終点、着点 [交通] ターミナル、ターミナル駅 [名詞] 特定のものを探しているときのお目当て、アタリ [反意語] ʔcʃʃɪ [レベル] 3 J0:pelcɑcɪ lceμ:ʃɔɔʔlɪ

ʃɔʔl [料理] ハム [レベル] 2 1ʔ: 制 :ɑɪdʃɔʔl（燻製された豚肉のもも）。ɑɪdl と音を離した。

ʃɔʔɪ [料理] そば、ソバ、蕎麦 [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古では ɪʃlɪc [文化] 麺かクレープとして食される。クレープはケートイアから伝わったもので、北部ほど食べる。蕎麦はもともと軟水の多いアルバザードでも食されていた。アルバザード人がもともと食べていた蕎麦は海産物の出汁で味付けた麺だったが、凪人がもたらした蕎麦は醤油で味を付けたもの。アルバザードではこちらのほうが人気が出てしまい、ワッカやカテージュなど一部の地域を除いて蕎麦といえば醤油味と決まっている。箸を使って食べる。 蕎麦は音もなく啜る。凪人は勢い良く音を立てるが、アルバザード人やルティア人はそれをしない。 [用例] ʔɔc{jcd} ʃɔʔɪ そばを啜る。jcd にすると啜るという動作を強調している。ふつうは ʔɔc を使う。jcd は啜る動作を強調するときだけ使う。例えば今食べているソバはガレットのようなものではなく麺であると明言したいときなどに使う。

ʃɔʔɔ [名詞] 傾向、風潮 [動詞] ɥəl を ɪ に偏らせる、偏る、片寄る [名詞] 偏り [化学] 極性← dɔʃ cʃɔʔɔ [レベル] 3 1ʔ: 制 :ʃɔʔ [用例] ɪμɑen ʃcl ʃɔʔɔ ɑel jccnɪ ɒcn. 体育会系は女好きな傾向にある。

ʃɔʔɔʔəc [名詞] 偏食 [レベル] 4 J1

ʃɔʔɔʔəcɪn [名詞] 偏食家 [レベル] 4 J1

ʃɔʔɔlcɪɟ [化学] 極性分子 [レベル] 5 1L

ʃɔl [名詞] ひとつ前、先代、前時代 [形容詞] ひとつ前の、先代の、前時代の [反意語] ʔeɟ [レベル] 1 @ 1L [用例] ɟɪlʃ ʃɔl 去年、昨年

ʃɔllelʃ [名詞] 先月 [レベル] 2 μɑ;/ J?

ʃɔlɟɪlʃ [名詞] 去年 [レベル] 2 μɑ;/ J?

ʃɔlɟɔɔʃ [名詞] 先週 [レベル] 2 μɑ;/ J?

ʃɔlɟel [名詞] 一日前、その前の日、前日 [レベル] 3 1L

ʃɔlɑlec [電算] ページアップ [レベル] 5 J0

ʃɔlɪn 前任者 1L

ʃɔlɟɪɟɪ [言語] 先代アルカ [レベル] 4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ [文化] ■現実では リーザが作った使徒用暗号。アティーリではソーンとの戦闘のためにリーザが第二アルカを改変したもの。ユマナでは同じ目的でリーザが作った人工言語。語彙は少なかったが、古アルカに影響を与えている。 リーザがユーアの助けを借りて作った使徒用暗号。制作完了の年月日が明瞭で、彼女の日記によると、メルーＬ年メルの月ジールの日（１９８０年６月４日）にできている。この暗号には名がなかったのでセレンが先代アルカと名付けた。初代アルカと同じくこれもアルカの一種ではない。 先代アルカの語彙は 10 数程度だとかつて思われていたが、派生する語や未知の語があったため、実際の語彙数は 100 を超える。ジェスチャーでも口頭でも筆記でも同様の命題が伝わるようになっているという点で特徴的である。 先代アルカから制アルカに流入した語は eɒ、ɑɪɑ、ɔɟμ、lcu のような基本語が多く、sɪɒ のような身体語彙にも見られる。また hɪrɒɪ（厳密には初代アルカ）や μjcclɪ など、アシェットに関する語彙にも流入している。

ʃɔlel [名詞] 昨日 [反意語] ʔeɟʃ [レベル] 2 1L:pelcɑcɪ ɪlcj:ʃɔllɑcj

ʃɔj [名詞] 匂い、香り、臭い [類義語] ʃɔlle [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :ʃɔ ʃɔʃe:ʃɔʃe::jɪoɪn,llʃ [用例] ʃɔj ɒɪnen zɔɔ eɒ ɑɪc 木の燃える匂い

ʃɔj(lʃ) ʃɔ/eɟ

ʃɔɟɥeʔ [生物] 嗅球 1L

ʃɔn [単位] １０分の１、割、分 [レベル] 3 1ʔ: 制 :ɑɔn: 制では億の意味

ʃɔn,llʃ ʃəənɔ ʃəənɔ.l

ʃɔnʃ [動詞] ɥəl をぽんと叩く、ぽんぽんする、叩く、ポンポンする、とんとんする、トントンする [レベル] 3 ɑɔuef [用例] lɪ ʃɔnʃlʃ ɪn ɔn ɑlel. 彼は私の肩をぽんと叩いた。 ʃɔnʃcʃ ɥə ɔn ʃɔj, ɒɪcn ʃ'ɪlʃcnɪ ɔɟ ɑɥəɒ ɪ ɑɟɪɪ ɥən ɑɔl l'ɔɟ dcl. トンと背中を押すと、少年の身体は転がる石のように暖炉の方へ近付いていった。

ʃɔnʃɔ [名詞] ジョブ [名詞] 職業 [レベル] 4 古 : 官位 [語法][文化] enuelen ジョブの場合、仕事の意味ではない。ファイナルファンタジーのジョブといえば分かりやすいだろう。戦士や魔導師などがある。 μɑ までは実在したが、ナディア以降は人類の衰退とともに消えた。アティーリはジョブチェンジやダーマの神殿に当たるものはない。生まれ持ての素質に後天的な訓練の結果、ジョブが決まっていく。リディアのように思春期以降急激に召喚士の能力を開花させたのはレアケース。 [用例] ɒcɥə ʃɔnʃɔ c ɑɥecn ɪl ɪμʃɪn 魔法使いから戦士に転職する

ʃɔnʃɔ,ɑu ʃɔnʔ

ʃɔnʃɔjdlʃ [名詞] 職業差別 [レベル] 5 μɑ;/ J0 [文化] μɑ でセレンが職業差別は良くないと言うまで職業差別は平気で行われてきた。セレンの死後は再び職業差別が行われた。 旧革命でミロクが職業差別を撤廃したが、ミロクの影響が薄まるにつれて職業差別は復活してきた。 革命で再びセレンが職業差別を撤廃し、ls では所得格差も是正され、職業差別は落ち着いている。セレンは「医者が清掃員より上だということはない。編集者がライン工より上だということはない。ライン工は編集者の仕事ができないだろうが、編集者もまたライン工の単純作業は気が狂ってしまってできなかったり、立ちっぱなしの警備員やレジ打ちの仕事は足腰が痛くてできなかったりして、できないことがある。そう考えると底辺と呼ばれる職業の人も上の人間にできないことをやっていて、それはそれで凄いのだ。お勉強ができれば世の中良いというわけではない。勉強ができてホワイトカラーだからといってブルーカラーをやるだけの体力のないヒョロガリ・デブがブルーカラーを笑うのは許せない」と述べた。セレンはホワイトカラーの人間で、まして革命家でもあったから、彼の考えは負け惜しみとは捉えられず、革命とともに受け入れられていった。 実際、この設定は現実のセレンの思想を反映したもの。セレンは底辺と呼ばれる仕事をしている人間はそれはそれなりに凄いと尊敬している。とてもじゃないがセレンには立ちっぱなしの仕事や単純作業はできないからだ。セレンは社会的には身分が高いが、底辺職を見ていて「あれは自分には真似できないなぁ」と思い、「職業差別は荒唐無稽だな。差別してる奴は一回底辺職やってみろよ。お前らの体力や根性じゃ到底務まらないから」と思うようになった。

ʃɔnʃɔɒcɥə [娯楽] 転職、ジョブチェンジ、クラスチェンジ、ジョブチェン [レベル] 4 J1

ʃɔnʔ [名詞] 官位、官爵、位、階級、等級、地位、身分、立場、職業、カースト、レベル、〜号、博士号などの号、肩書き、役職 [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :ʃɔnʃɔ ʃɔnʃɔ:ʃɔnʃɔ [語法] ʃɔnʔ は身分としての位を指し、lɪnɪ は階級としての位を指す。平民や商人や王族などは身分であり、社長や部長や元帥や一等兵や警視総監などは階級である。 [文化] カコでアルパ王政が誕生したときの身分制度は、王族、貴族、軍人、文民の４種。商人か農民かという分け方はなく、戦闘要員か否かで軍人と文民を分けた。一番下の身分は非戦闘要員である文民。また、奴隷はこの外で、身分外であった。 μɑ ではアシェットが貴族を廃止。しかしナディアで植民支配に成功した軍人が貴族になり、元に戻る。アルティルでも同様で、ヴェレイでシルク・アルミが認められ、再び貴族は廃止。 軍文の区別は魔法を失ったナディアにおいて、軍隊に属する軍人と、それ以外のふつうの人々である民間（文人）の区別に取り替わった。民間は商人と平民に分けられる。ナディア〜シルク・アルミ前の身分は王族、貴族、軍人、商人、平民の５種。商人には「工」も含む。 ヴェレイで五民平等が確立し、文民統制になり、さらにその後身分制度は廃止になった。アルタレス制ができたころには既に身分はなかったものの、王、副王、官僚、平民という事実上の身分ができあがっていた。これは現在の日本と似ている。 革命後、ʃɔnʔ という言葉は生き続け、事実上の身分である王、副王などを指すようになった。また、身分制が廃止されている都合で、官僚、役人、学生、僧侶、学者、商人などといったものも ʃɔnʔ に入るようになり、職業とのグレー化も進んだ。 一方、ミロクは「王族、僧侶、学者、医者」は死刑にできないと特別扱いしたため、これら４種とそれ以外の「平民」を加えた５種が革命後の ʃɔnʔ であるという見方もできる。上記の ʃɔnʔ が広義だとすると、この ʃɔnʔ は狭義の ʃɔnʔ である。よって、狭義的にはアルバザードは５身分制といえる。 [用例] nɪ ʃɔnʔ lɪ ʃə ɑcɪ. 階級意識を感じる。

ʃɔnʔɪn [地名] トンカン J0 [文化] アルハンテ西部の都市。

ʃɔnʔɔʃɪn [魔法] ノーム llʃ;/ J0

ʃɔnl [動詞] ɥəl を ɪ に植える、植える [反意語] ʔeɒɟ [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :dɔʃ ʃəənɔ（土へ）

ʃɔnɟ [名詞] 順位、ランク、ランキング、格付け、序列、順序 [レベル] 3 1ʔ: 制 :ʃɔn [用例] ʃɔnɟ zɔʔ 一位

ʃɔnɪ [名詞] ３０代女性 [反意語] llʃɔnɪ [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :ʃɔnɪɪ

ʃɔnɪl [生物] ３０代 [レベル] 2 μɑ;nɪɪʃ/ɪl J?

ʃɔne [動物] イカ [レベル] 3 古 :ʃɔn (10) /e（水）。もしくは elc（魚）の短縮か。 ɪlɪoɪ: [文化] 食用されるが、日本よりゲテモノ扱い。

ʃɔnecɑɪl [生物] 軟体動物門 JJ: イカ門

ʃɔu [動詞] ɥəl とケンカする、ケンカする [普通動名詞] ケンカ、けんか、喧嘩 [経済] もみあい、もみ合い、揉み合い [レベル] 2 1ʔ: 制 :ʃcjuɟ（小さな戦い）から。 [語法] よくある流れはこう。怒ったほうが "oecʔ" と言って相手に突っかかる。たいてい右手の人差し指で相手の顔を指す。ユベールの間合いまで近付く。いきなり殴りかからず、相手の罪状と自分の感情を並べ立てる。次に相手に逃げる機会を与えて様子を伺う。相手が逃げた場合、一言捨て台詞を吐いてその場を丸く収める。相手に交戦の意思があれば殴りかかる。胸倉は掴まない。アルバザード人は必修でユベールを学校で習う。胸倉を掴んだら小手を捻られることを知っているため、間合い以上に近づくことすらしない。なお、状況が緊急の場合、すべての過程を取っ払って殴りかかる。緊急でないのにいきなり殴りかかったら観衆に卑怯者と罵られる。その場合、観衆の中からたいてい数人の男が出てきて卑怯者を潰してしまう。また観衆は審判という重要な役割も持っており、善意で勝者を決定する。敗者が大けがを負わないうちに場を収めてやる機能を担っている。一般にアルバザード人はケンカ早く、議論で勝負がつかなければ力づくで決めようとする。ケンカは見るのもするのも好き。逃げるとクラスの笑い物になり、彼女もできなくなる。また、明らかに力の差がある相手や怪我人に喧嘩を売っても笑い物にされる。大きい人間は小さい相手に喧嘩を売れない。が、小さい人間から売ることはできる。ほかに日本と違うのは、女も殴り合いのケンカをする点。 [用例] el ʃɔu lcn hɪrɪn. 友達と喧嘩してはいけません。 nen ʃɔu, eɒ ɒeɒcɥ ɪ hɪrɪn. けんかしないで友達と仲良くしなさい。

ʃɔɑ [電算] インターネット [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :ʃeɟɑcb（電気 / 網）[文化] メル JΔ0 年代に開発された。最初はパソコン間で試用されたが、国の強力な援助を受けて速やかにメル JΔΔ 年にアンセの機能として実装された。以降、アルバザードでは完全に普及しており、どの個人もネットを利用している。定額制で、いくらでも使える。容量は今の日本と比べて遥かに大きく、高速である。ニュースも最もネットが早く出回る。世界の情報網で最も優れたものである。普及率が著しいため、ネットに関する法が日本より遥かに進んでいる。違法なものの取り締まりは遥かに厳しくかつ迅速である。 [用例] ʃɔɑ eɒ ʔɪlɒɪ cj. ネットの接続がよく切れる。 ʃə ʃɪn eʃ ɑɟ eleɟ lel el ɑɔnl ʃɔɑ e. ネット見ないのも仕事のウチですよ（『モテキ # ３』）

ʃɔɑuef [電算] ネット用語 [レベル] 4 ɪl;/ J?

ʃɔɑuefɥ [名詞][電算] ネット弁慶 [レベル] 5 μɑ;/ J? [語法] uefɥ

ʃɔɑl [動詞] ɥəl を ɪ に預ける、預ける、預金する、託す、たくす [経済] 預金 [反意語] ʔɔɑʃ [レベル] 3 古 [用例] ʃɔɑl ɥcl ɪ ʔlen 銀行に金を預ける ʃɔɑl ɒcuɪ ɪ ɑelʔɪ 学校に娘を預ける

ʃɔɑlɥcl [経済] 預金 [レベル] 4 1L

ʃɔɑlcuɪ [娯楽] オンラインゲーム、オンゲー [レベル] 4 JJ

ʃɔɑɪn [電算] プロバイダー、インターネットサービスプロバイダ [レベル] 4 1L

ʃɔɑɪn(lʃ) [名詞] 何番目の、いくつ目の [レベル] 2 J1

ʃɔɒ [生物] 腹、おなか [言語][文字] カウンター、ふところ [レベル] 2 ɑμɑ 古 :μcɑcɪ: 小さかった頃のメルの腹部をぽんぽんと撫でながら ʃɔɒʃɔɒ といっていたことから、ʃɔɒʃɔɒ はおそらく「ぽんぽん」にあたる言葉だろう φɪ:φɪ:lɪ φɥɪcɪ（体の真ん中にあるので母体）:hɪφɪ,llʃ [語法] 腹筋がある辺りを指す。肋骨を含んでそこから下、へそを含んでそのから上の部分。へその少し下も含む。通常腹痛というと、ここが痛いことになり、胃か大腸が痛みを訴えているケースがほとんど。 [用例] ʃɔɒ ɑlb 膨れたお腹

ʃɔɒj [名詞] 釜、カマ、窯、罐 [レベル] 3 lɪʔlɪ

ʃɔɒuɪcʔ [生物] 腹部 μɑ;/ J0

ʃɔɒucɒ [生物] 腹筋 [レベル] 4 J0<JJ

ʃɔɒɥɪc [医療] 腹痛 [レベル] 3 1L

ʃɔɒɪ [名詞] 身分証明書 [レベル] 4 1ʔ: 制 :ʃɔnɒɪj [文化] アンセに内臓されている。

ʃɔɒɔʔlɪlc [名詞] 切腹、腹切り、トモカリ [アクセント] ʃɔɒɔʔlɪlЄ [類義語] nɪʔɔlc [レベル] 4 jɒ;llʃ J1 [語法] nɪʔɔlc はアルバレンで ʃɔɒɔʔlɪlc の訳語。ʃɔɒɔʔlɪlc が正統な凪霧。 [文化] アルティアの奇習。不徳を働いた武士が腹を割いて自害する風習。

ʃɔɒɔe [地名] トモエ、ともえ、巴、巴市 [弓道] 武射系 [アクセント] ʃɔɒɔE [レベル] 4 J1:llʃ [文化] ルティア西部の都市。かつてアルティアと戦争をしたときの要所で、トモエ陥落がルティアの敗因となった。支配される前の名は ɑlɪnɑcμ で、現在では街の名として残っている。行政区分は県。県庁はトモエ県トモエ区トモエ市所在。

ʃɔφɥəəlɪ [名詞] おまじない [魔法] 白魔導師のハノン。白魔法の入門的な内容で、低位白魔法を一通り覚える行程のもの。 [レベル] 3 神無アルカ : 苦痛を取り除く癒しの魔法。φɥə は古アルカの苦い・つらいに当たるのではないか。 [語法][文化] 人を癒したり助けたりする効果がある類のおまじないの総称。ゲーム的にいうと回復補助魔法や白魔法にあたる。 [用例] ʃə eʃ ʃcɔ ʃɔφɥəəlɪ ɥəɒcl. それはありふれたおまじないにすぎない。

ʃɔφɪl [名詞][形容詞] 何百もの。前置。 [レベル] 3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj

ʃɔd [再帰動名詞] よちよち、よちよち歩き [動詞] ɥəl（場所）をよちよち歩く、歩く [レベル] 2 古 : オノマトペ

ʃɔdl [料理] マドレーヌ [レベル]4 J0:ɒelcɑcɪ lceμ: 古 :lcʃɔlcdl（パニラケーキ）を短くしたもの。 [文化] μɑ でリディアが作ったのが最初。貝型のものはなく、円形の型を使う。

ʃɔμ [形容詞] 魅力的な、モテる [反意語] jɔlel [レベル] 3 jɔμn [文化] ＜モテる男性＞ 正義感がある。 倫理観がある。 情けがある。 優しい。 賢い。 清潔である。 身なりが良い。ただし、豪華はマイナス。 スタイルが良い。 顔が良い。 筋肉が締まっている。 女のコンプレックスに対して共感力がある。 女にとって付け入る隙となる欠点を持っている。欠点の少ない男は男に尊敬されるが女に好かれはしない。凄い人と言われて終わる。 女を褒めそやす。 ＜モテる女性＞ 貞淑である。（浮気の前科があるとアルバザードではかえってモテない。事実上モテるのは処女のみ） 男を立てる。 従順かつ協力的である。 控えめで大人しい。 優しい。 素直。 美しいか可愛らしい。 細くて小さい。 賢いが、それを表に出さない。 薄化粧。 飾り気のない服を着ている。 人の悪口を言わない。（男はもともと言わない） 男の話にころころとよく笑い、女同士で話しているときでも大口を立てて笑わない。 男を褒める。

ʃɔμe [丁寧] 吐息、息、トルテ [類義語] leɑ [レベル] 4 J1:ʃɔμ/ʃeeze [文化] 主に美少女に用いる。

ʃ

ʃɔɲcɟʃe ［人名］トリステ　J0 ［文化］（ɥəəɒɪ ʔLᴾ⁹:ᶠᶠLᴼ）ɥəəɒɪ ʔLᶠᶠᴼ イクスタン、ルクレティアとの間に娘 ɾləəʌccʃe を授かる。西の暴動を見ていたイクスタンはこの年、旧イクサンテ系貴族のメティオ人 ʅɪlɒɪn の娘 ʃɔɲcɟʃe を第二夫人として娶る

ʃɔɔɪ ［名詞］香水、パーフュム、パルファン ［レベル］3　ɟɔpɲ:ʃɔɔɪ（香水）。原義は「鼻に（匂いを）渡すもの」。ʃɔ（鼻）/ɔɪ（ɔɪɪldɔ（渡す））から。フランス語 t o i l e t t e ではない。 ［文化］現代ではきわめて薄くつける程度に用いる。　μɑ までは非常に高価で、主に貴族の所有物であった。自然物から純粋に抽出していたため、貴族は体臭予防だけでなく、水で薄めた香水で嗽をして口臭予防にも使った。　香水の発祥は zɸ のシージア。その後レスティルにもたらされた。　香水が発展したのは ɟɒ のケートイア。内陸地で水が少なくシャワーや風呂に入る機会が少なく、また肉食をしていたため、体臭を隠すために主に貴族の間で発達した。ケートイアの香水文化はアルバザード北東部に流入し、そこからアルシアや中央部へ入っていった。　アルシアは泉が多く水浴びをする機会が多い。アルナは湾が近いので水が豊富。従ってこれらの地域では香水を付けすぎない文化が発達した。また凪人は香水の香りの強いのを嫌い、ほとんど付けることがなかった。 ［用例］ɟɪb{eu} ʃɔɔɪ 香水をつける。ɟɪb のほうが eu よりおしゃれな言い方に感じる。　ɟee lccʃɔ e ʃɔɔɪ eɒɔen ɑelcn cʃ eɒcʃ ʅɪlcɟel. 薔薇をベースとした香水の芳香が微かに漂う。

ʃɔl ［代詞］［ɥəəl］君、あなた、貴方 ［レベル］1　J1:ɟɔpɲ:ʃɔ/ 古 ɪl

ʃɔl,ɟzɑ　cl　ʃɔ/ɪl「何 / 物」 時間とともに意味が変化して「すべて」に。

ʃɔlʃ ［植物］年輪 ［レベル］3　μɑ;ʃɔlcɟ/ɔlʃ　J?

ʃɔlʃlcdl ［料理］バウムクーヘン ［レベル］3　μʃ;/　J?:ɟeɟen/ɒclɑ: ドイツ人のミクちゃんと話してて、「バウムクーヘンのバウムって実際はパオムって発音するの？古い教科書には ɪə は ɪɔ って発音するってあるんだけど」って聞いたら、「バウムクーヘンってなんですか、リーダーさん」って聞かれた。ドイツの菓子じゃないのか……？← t w i t t e r より。このような会話をしている過程でアルカでそもそも何ていうのか考えることになり、命名した。

ʃɔlʃe ［代詞］［ɥəəl］君の ［レベル］1　J1:ɟɔpɲ:ʃɔl/ʃe

ʃɔlʅ ［生物］大腿、もも、腿、太もも ［反意語］ɪnʃɔ ［レベル］2　ɟeμʃ　ʔ?: 制 :ʃeʅʅ　je:je ［用例］ʃɔʅʅ sɪl 太い腿、たくましい腿

ʃɔʅuɪnɔ ［生物］箕門　J1

ʃɔʅʅhɔ ［生物］大腿骨 ［レベル］4　JJ

ʃɔʅʅɔnz ［名詞］膝枕、膝まくら、ひざ枕、ひざまくら ［レベル］2　μɑ;/　J? ［用例］ɑcʃ ʃɔʅʅɔnz ɪ nene ～に膝枕してやる

ʃɔʅɪ ［魔法］錬成物、トルカ ［レベル］6　J0: 古 ʃɔɔʔc（終わる）/ɪl（物） ［文化］lɒcɥə

ʃɔlɪ ［動詞］ɥəl を訓練する、訓練する、練習する ［普通動名詞］［再帰動名詞］訓練、練習、トレーニング ［レベル］3　ʔʅ: 制 : 古 :ʃɔlɪ。新では格組を変え、ɥəl に人でなく内容を取って使いやすくした ［用例］ʃɔʅɪɔɲ 練習中　ʃə eʃ uɔʅl ɪʅɪ ɔn ɑel ɥʅɪ lel el ʃɔʅl ʃə ɔnʅel. 練習することがアルカを勉強する上で一番重要だ。　cɒ ʃə ɟɪlʃ, ɪn ʃɔʅl uɪn. 今年はトレーニングをするつもりだ。　cɒ ʃəɔ, ɪn ʃɔʅl uɔɟʅel ɥəl nɔɟ ɪμ jen eɒ ɑɔclneʃ. 最近、早起きの習慣を身につけようと練習中だ。

ʃɔlle ［名詞］懐かしい匂い、子供の頃の匂い ［類義語］ʃɔɟ ［レベル］5　μɑ;ʃɔ/ɪlle。匂いに敏感なセレンが懐かしい香りをかいだときに特別に世界から切り分けた語。　Jʅʅ

ʃɔluɪnɔɟμ ［軍事］トルヴァドール、トルバドール、抗魔筐、こうまきょう ［アクセント］ʃɔluɪnɔ̂ɟμ ［レベル］4　μɑ;ʃɔl/uɪnɔɟμ「全国」 ［文化］ʅɪlʅɔuel

ʃɔlɑ ［名詞］合宿、キャンプ ［レベル］3　ʔʅ: 制 :ʃɔʅɒɔʅ

ʃɔlɑʃəlɑ ［医療］プール熱 ［レベル］4　ʅL:μcɑcɪ ［文化］レイユ前期において、学校の合宿の時期に増える病気であることから名づけられた。子供がかかりやすい。何気に韻を踏んでいる。

ʃɔlɑʅɪ ［名詞］キャンプ場 ［レベル］3　ʅL:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ʃɔlcʅɔ,ɪlʃ　ɑleɪ

ʃɔlcʅɔhɪɑɪ ［植物］グミ、茱萸　nɑ;uɪμ　ɪlʃ　JJ

ʃɔlcɟ ［名詞］年齢、年、とし、歳、才、エイジ、エージ ［類義語］μlʃ ［レベル］2　μ;ʃɔlcɟ,ɟzɑ ɾʃɔ/lccz「何 / 小さい」→「どれくらい小さい」→「何歳」　JJ　::lə ʃɔlcɟ（メルティアが男） ［語法］→ lculeɟ　lɪ eʃ ʃɔlcɟ ʔʅ は「彼は四歳だ」で、lɪ eʃ μlʃ J は「彼は二年目の新人だ」という意味。 ［成句］hɪɪɟ ʃɔlcɟ. ʃɔnʃ dɪlɒ ʃɔlcɟ 年功序列 ［用例］ɪn ʃɔl 10 ʃɔlcɟ. = ɪn eʃ ʃɔlcɟ 10. 私は十歳だ。　nɪnɪ ɑel ʃɔlcɟ 1（lenɔ）lelʃ J　1 歳 2 ヶ月の赤ん坊　μcɑcɪ ɪʃ ʃɔlcɟ ʃɔɪl cɒ uɪμʃ ʃee ɒμɥ リディアはテームスを倒したとき、何歳でしたか。　ʃc ʃcl ʃɔɪl ʃɔlcμɥ = ʃc eʃ{ʃəμ} ʃɔlcɟ ʃɔɪlɥ 何歳ですか。おいくつですか。　ɒɪcn ləəʃ eɟ ɒlʃ ʅɪ ʃə lɔnɑ ɑcn lə eʃ ɑcɪn le ʃcl ʔ ʃɔlcɟ ʃcɟ.　6 歳の幼い自分は夢の中で大人の姿になっていた。　ɔɒɪ ɪlʅɪ eɒ ʃɔlcɟ ᵗᵗ lɪlʃ lɪn cɒ ʃɔlɔɟ 1. 犬は 1 歳で人間でいう 1 5 歳になる。

ʃɔlcɟμez ［名詞］年齢制限 ［レベル］3　J?

ʃɔɪ ［生物］鼻 ［動詞］自然と ɥəl の匂いを感じる、自然と ɥəl を嗅ぐ、ɥəl が匂う、ɥəl の匂いがする、ɥəl が臭う、ɥəl の臭いがする、ɥəl が香る、かぐ、嗅ぐ、におう、臭う、匂う ［電算］マウスのホイール（マウスのクリックの間にある球） ［名詞］のど、ノド→ lec ［類義語］ʃɔʃʃɔn ［レベル］1　ɑμɑ;ʃɔ.ʔ　ʔʅ ←古 :ʃɔ　ʃɔ:ʃɔ:lə dəlcʃ ［語法］日本語の鼻の領域と同じ。日本語で言う鼻の下は ɪʃɔ。 ［用例］鼻をかむ→ʃɔɪeμ　ʃɔɪ oɪl 高い鼻　ʃɔɪ ʅɪc 大きな鼻　ʃɔɪ ɑɔʅ 横広がりな鼻。タイ人のような横に広い鼻の意。

ʃɔɪμɪd ［生物］鼻息 ［動詞］ɥəl に鼻息をつかせる ［レベル］3　ʔʅ: 制 : 鼻の空気 ［用例］ɔʅ ʃɔɪμɪd μəəɑ. 鼻息荒く

ʃɔɪn ［動詞］ɥəl を嗅ぐ、嗅ぐ、かぐ ［文末純詞］～なようだ。嗅覚での推量。 ［レベル］2　ʔʅ: 制 ［用例］ʃɔɪn ɒccnɪ 花を嗅ぐ　jeμen ʃɔɪn nelʃ lec. セレンは本を嗅ぐくせがある。

ʃɔɪnnɪʅl ［生物］嗅覚 ［レベル］4　J1

ʃɔɪnc ［生物］鼻毛 ［レベル］3　ʔʅ

ʃɔɪɑɔ ［言語］鼻音 ［レベル］6　ʅL

ʃɔɪɒɪʅ ［生物］鼻孔 ［レベル］4　ʔʅ: 制 ［語法］ʃɔɪscɒ

ʃɔɪɑcμec ［生物］鼻中隔軟骨　ʅL

ʃɔɪhɔ ［生物］鼻骨 ［レベル］5　ʅL

ʃɔɪμɪʅɔ ［医療］鼻炎 ［レベル］4　ʅL

ʃɔɪscɒ ［生物］鼻腔 ［レベル］5　ʔʅ: 制 : 鼻腔 ［語法］鼻孔は奥の鼻音を調音するのに使う鼻腔とは違い、穴の部分だけを指す。指を鼻に入れてみたとき、指の第一関節ほどが入る部分までを ʃɔɪɒɪʅ といい、指がつっかえてもう入らない部分以降を ʃɔɪscɒ という。

ʃɔɪl ［名詞］いくつ、どれくらいの ［形容詞］いくつの数の。前置。　［形容詞］何番目の。後置。 ［レベル］2　ʅL ［用例］ʃc lɪl ʃɔɪl ɒccʔɥ りんごはいくつほしい？

ʃɔɪlɪdl ［動詞］ɥəl に鼻でため息をつかせる、ため息をつく ［類義語］lɪdl ［レベル］3　ʅL:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［語法］lɪdl するとちょっと失礼かなというときにする仕草。

ʃɔɪleɒ ［名詞］鼻歌、ハミング ［レベル］3　ʅL: 鼻をつまむと歌えないので鼻で歌ってることになる。

ʃɔɪɪbe　のど布→ lec　JJ

ʃɔɪelʃ ［生物］鼻くそ、ハナクソ、鼻クソ ［レベル］2　ʅL:μcɑcɪ

ʃɔɪeμ ［生物］鼻水 ［レベル］2　ʅL ［文化］鼻を人前でかむのは不潔な動作。すするのも不潔な動作。ユンクは恥らって人前ではせず、トイレなどでする。男は平気でするが、ユールはユンク同様隠れてする。 ［用例］ɪμ ʃɔɪeμ 鼻水を出す　cj ʃɔɪeμ 鼻をする　ɪlʃcd ʃɔɪeμ 鼻をかむ

ʃɔc ［動詞］ɥəl を調整する、調節する、服の丈を調整する、直す ［普通動名詞］調整、調節、修正、直し ［レベル］3　古 : アルシェの lɔcj が変化したもの。 ［用例］ʃɔc ncɒ 色を調整する

ʃɔʅɔμʅ ［普通動名詞］リストラ、リストラクチャー、リストラクチャリング、部門削減、削減、部門撤退、撤退 ［動詞］ɥəl をリストラする、リストラする、削減する ［類義語］ʃɔcɪlɑɔnj ［レベル］4　ɪl;/　J? ［語法］ʃɔcɪlɑɔnj

ʃɔcɒ ［文頭純詞］いつの間にか、いつのまに、いつしか、気付いたら、そういえば、そういや、何時しか、気付けば、気づけば ［レベル］2　ʔᵗᵗ: 制 : 古 :ʃɔcn,ʃɔcɒɪ（今何時？）が変化したもの。

ʃɔcsɪlɪ ［ユマナ］トイザらス、といじゃらー ［レベル］5　JJ:lelcɪ: セレンの発音「といざらす」により、μ ではなく l。池袋。

ʃɔcoɪnc ［工学］［数学］無駄歯 ［レベル］6　μɑ;/　J? ［文化］歯車の歯は同じ歯同士が咬み合う回数が増えると癖がついて摩耗しやすくなる。たとえば 6 0 と 3 0 の歯数の歯車だと 6 0 が最小公倍数なので、それぞれ 1 回転と 2 回転ごとに同じ歯が当たり、摩耗が早まる。そこで 1 つ無駄歯という歯を入れ、6 1 の歯車を作る。すると最小公倍数が 1 8 3 0 となり、同じ歯同士が咬み合うのは順に 3 0 回転・6 1 回転のときになり、摩耗が減る。その代わり速比は変化する。　無駄歯 zɸ のころには開発されていたが、アルバザードでは ɟɒ ごろに導入された。しかし ɟɒ 後期で魔法工学が盛んになるにつれ、計器が精密性を要求するようになり、無駄歯が使われる機会は減っていった。

ʃɔcɪlɑɔnj ［普通動名詞］リストラ、リストラクチャー、リストラクチャリング、人員削減 ［動詞］ɥəl をリストラする、リストラする、人員削減する、削減する ［類義語］ʃɔcʅɔμʅ ［レベル］4　ɪl;/　J? ［語法］ʃɔcɪlɑɔnj は人のリストラ。ʃɔcʅɔμʅ は部門などの削減や撤退。

ʃɔccɒɔe ［美容］コンディショナー ［レベル］4　ul;/　J? にセレンが造語したがその後リディアの辞書を見たら同じ語形で既に登録済みだった。 ［文化］コンディショナーは、髪の表面をカバーするという点では、リンスに近いけど、リンスよりも髪の表面のコンディションを整える力が強いもの。

ʃɔɔ ［名詞］古アルカの 1 0 ［レベル］3　ɪμɑ;ʃɔ,lj̀.l　赤

ʃɔɔʃ ［代詞］何の ［レベル］1　J0:jeɟen/μcɑcɪ

ʃɔɔʃɔ ［音楽］スウィング、シャッフル、バウンス ［反意語］ɪlʃɔɔʃɔ　J1:「トート」というのは口で出す音のことで、「トー」が長い拍、「ト」が短い拍を指す。スウィングの拍の構成を説明するときに「トート」などといって伝えたところから

ʃɔɔʅ ［動詞］ɥəl を終える、終える、終わる ［法副詞］～しおわる、終了相を示す。 ［動詞］非単位動詞の終了相を作る連動詞。ɥɪn lə ʃɔɔʅ lə̀l ɑə ɑɔə, ncʅɔʅ ɪl ɪlɔ（そして彼女は数歩歩き、地面に倒れた） ［名詞］エンディング、終わり、エンド、E D、フィン、f i n ［接辞］複合語で「終わりの」の意味を作る。 ［音楽］フィーネ ［反意語］ʅcʃ ［レベル］2　μɑ;ʃɔɔʅc.l　ʅL: 古 :ʃɔɔʅc　ʃɔɔʅc:ʃɔɔʅc::ɔɔʅ,μʅ ［語法］nɪ ɑɪcɒ uɒɒ は恐怖を感じだしたが感じ切って恐怖を認知する前に不安定度に留めた場合。nɪ ʃɔɔʅ uɒɒ は一度恐怖を感じたが、それが終わった段階。 ［用例］ɪn ʃɔɔʅɪʃcʅ lɪb ɟɪ ɑɔnc ɑel ɪn ɒɔʅ ɪl. 寝る時間になってようやく仕事が終わった。

ʃɔɔʅncɑ ［言語］終了相 ［レベル］4　J0 ［語法］状態動詞の一端、事後段階の一端、外相の一端。非単位動詞の右端点。　「～しおわった、～な状態からの脱却」という意味。

ʃɔɔʅlɔl ［生物］直腸 ［レベル］4　ʅL

ʃɔɔʅc,ɑ　ʃɔɔʅ　ʅccʃɔ

ʃɔɔʅɔd　後注→ lec　JJ

ʃɔɔn ［単位］何十 ［レベル］2　J1

ʃɔɔn beeɸ ［人名］トーン＝ベーグ　J0:μcɑcɪ:ɒcμɔʅ:ʃɔɔ/ 人名化の n ［文化］アルダ時代のミロクの同級生。肉屋の息子で体格が良く、ミロクと仲が悪い。最終的にミロクの近衛兵にまで昇進する。

ʃɔɔnɔ ［魔物］トーノ（土竜）: 第三十三天 : 土の衛天 ［レベル］5　ʅL:μcɑcɪ/jeɟen/ɒel:ʃəənɔ/ʃɔɔʅ の混成 ［文化］土属性の地竜。大きさは竜族最大。飛べず、動きは緩慢。ベージュ色。寝ながら火を吐くなどして攻撃してくる。家よりも大きい竜で、腕力も最大。だが、性格は竜族の中では大人しいため、刺激せず大人しく迂回しよう。

ʃɔɔnɔeμcɒ ［天文］デネボラ　ʅL:μcɑcɪ/jeɟen/ɒel ［文化］トーノの心臓。

ʃɔɔɒɪ ［被服］カマーバンド　μʃ;ʃɔɒ.ʔ　Jʅʅ

ʃɔɔɑ ［名詞］坂、坂道、スロープ ［名詞］承 ［音楽］ポルタメント→ nɪɑ ［レベル］2　J0:jeɟen/μcɑcɪ:ʃɔɔʃ:ʅL:ʃɔʅɑɔnʃ ［用例］ʃə ʃɔɔɑ ɑe ʅcn nɔɑ ɒɪl ʅɪ. この坂、こんなに急だったっけ。

ʃɔɔμcɪ ［地名］トーリア海　J0:μcɑcɪ: 竜の海 ［文化］アクオリア東の海。

ʃɔɔμcɪʃcʅe ［地学］トーリア海流　J?

ʃɔɔze ［地名］トーゼ川 ［レベル］6　古 :μcɑcɪ:「風の川」。feeze のアプラウト。J0 年にセレンがサプリを流れると決めるまで、サプリなのかアルダなのか決まっていなかった。単にリディアが幼少期遊んだ川となっていた。 ［文化］サプリの村を流れる川。

ʃɔɔzeφɪlɑ ［天文］天の川、ミルキーウェイ ［軍事］侵攻ルート、攻撃ルート ［レベル］4　J0: トーゼ川の銀河 ［文化］ファルアモンのヴェガがリディアのアルタイルを襲うために通る川状の銀河であることからこの名が付いた。リディアで川というところからサプリ村のトーゼ川が選ばれた。

ʃɔɔl ［生物］竜、ドラゴン ［レベル］4　古 :ʃəənɔ からか ［文化］歩くタイプのドラゴン。

ʃɔɔl uɪlbeɟ ［人名］トール＝ヴァルベス　ʅL:clbəɟ;μcɑcɪ ［文化］（bel ʔʅʅ → ᶠᶠʔ）アルティル期の軍人。デスパナの機織りの娘と売れない作家の間に生まれた。1 5 歳で陸軍に志願。驚異的な身体能力で王国屈指の剣士となる。2 9 歳でイグレスタに対する議員の人数制限が始まり、暴徒鎮圧の命を受ける。鎮圧の功績により、3 0 歳でヴァルベス王の側近となり、警護を担当する。3 2 歳でイグレスタ革命。ラティア刑務所に侵入した暴徒を斬り捨てるも数に押され撤退。王宮に侵入したイグレス勢と戦い、王を逃がし、戦死。

ʃɔɔlɑen ［名詞］トールデン、トール人、地竜人 ［レベル］4　J0:μcɑcɪ ［文化］アルバザードとケートイアに住む民族。アルバザードは混血が進んでいるので、現在ではケートイア人のほうが純度が高い。骨格が華奢で色白で、背は飛竜人より低い。体格が全体的に飛竜人に劣る。飛竜人より小柄な民族で、牧畜より農耕を営んできた。髪は茶色で目も茶色が多い。

ʃɔɔldɔl ［地名］地竜方 ［レベル］4　J0:μcɑcɪ ［文化］北方のうち、アルバザード・ケートイアを指す。地竜人が住む。

ʃɔe ［動詞］ɥəl を刺す、刺す、突く、つつく、つっつく ［擬音］つんつん、ツンツン、ちょんちょん、チョンチョン ［レベル］2　lɟl;ɔeɟ,ɟzɑ.l　jɔpn　参考 : アルシェでは dcdc　dcdc:ʃɔe:ɔeɟ:ʃlɔ ʃlɔ,pɑɑ dceləə,ɪlʃ ［用例］ʃɔe lcel 長く突く、奥まで突く

ʃɔen ［普通動名詞］弱者から強者への一撃、攻撃、暴力 ［動詞］ɥəl を打つ、打つ、撃つ、殴る、叩く、突く、攻撃する ［シェルト］後手の一矢 ［反意語］ləəd ［レベル］3　jɔpn: 弱者が強者を刺すとき、下の位置から突き上げるようにすることからだそうだ。 ［文化］・後手の一矢　シェルトや将棋のようなゲームはどうしても後手が若干不利である。そこで、後手だけに与えられた特殊ルールがある。後手は詰みの状態になってもあと 1 手だけ動かすことができる。例えば敵の攻撃で月手魔取になった場合、次の敵のターンで自分の月が取られたとする。普通はそこでゲーム終了だが、残った何らかの駒で相手の月か最後の魔を取ることができれば引き分けに持っていくことができる。これを後手の一矢といい、ソーンにだけ認められた特権である。

ʃɔendcɔ ［生物］能動輸送　μʃ;/　Jʅʅ

ʃɔenɪ ［名詞］ルサンチマン　μɑ;ʃɔen/nɪ　制 : リディアの辞書から Jʅʅ に輸入。

ʃɔeuɪnɑ ［普通動名詞］突刺し、突き刺し　μɑ;/　Jʅʅ

ʃɔeucl ［名詞］刺し傷 ［レベル］3　ʅL:lcɔn

ʃɔezɔn ［運動］［娯楽］ビリヤード、撞球、スヌーカー ［レベル］4　ʔ? ［語法］zɔn キュー　ɪɔz チョーク　ɒɪl ポケット　bɪlʃ クッション　hɔl ひねり、スピン

ʃɔelɪɟ ［医療］刺手、さしで　μɑ;/　Jʅʅ ［文化］鍼を持つ手。ふつう右。

ʃɔelenʃ ［普通動名詞］磔、はりつけ ［名詞］見せしめ、みせしめ ［動詞］ɥəl を ɪ に磔にする、磔にする ［レベル］3　ʅL:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ: 刺された人形

ʃɔəʃɔə ［地名］トウトウ　J0 ［文化］アンペル西部の都市。

ʃe ［法副詞］～しないで ［レベル］1　ʅL: 古 :ʃeɔ（いいえ、だめ） ［語法］μe ［用例］☆ʃe ɒc nɔn. ひとりにしないで。

ʃe(J) ［動詞］［μenʃe］ɑe ［レベル］1　ʅL ［用例］nɔn ʃe ɾlɪcz. チビじゃないもん。

ʃe(ʔ) ［接尾辞］eʃ に同じ。 ［接尾辞］名詞から性質状態を示す形容詞を作る。 ［接尾辞］名詞を直接言及するのを避ける。 ［接尾辞］形容詞の語義をぼかしたり弱めたりする。 ［レベル］1　ɑu ;feeze から。　ʅL:ʃeeʃ: 直接言及を避ける用法はメルが ʅL 年に作った。"ɜɒ... ɪlɑc, nɔn ʃɔμ lɪn dɪμɒʃeɸ"（えぇと、だから、日本とか行きたいなぁ、みたいな？）というリディアへの言葉が初出。その後、一週間以内に言いやすさの面から子音と母音がひっくり返り、(e)ʃ になった。しかし J0 年に、接尾辞 cʃ と区別が付かないとのことで ʃe に戻った。アルカでは伝統的に～ʃe（～風な）で終わる語が多いので、ʃe だけ切り離して発音するのは慣れがあり、違和感はない。ʃe 以外だと、ejdʃe や scʅʃe はかなり違和感を感じたはず。　ʃe, eʃ:ʃe, eʃ:ʃe, eʃ ［語法］直接言及を避けるほうについては、日本語の「っぽい」「とか」「みたいな」や英語の s o r t o f に相当する。直接名詞に言及したくないので ʃe を付けて「～っぽい」とぼかす。この用法の場合、形容詞ではなく名詞のままになる。　名詞→形容詞　ejd（雲）: ejdʃe（曇りの）　動詞→形容詞　scʅʃe（滑りやすい）　動詞→形容詞→名詞という合わせ技も可能。　scʅʃeʃ（滑りやすさ）　形容詞→形容詞　jeμcd（湿った）→ jeμcdʃe（湿っぽい） ［用例］dɪμɒʃe 日本っぽい　ejdʃe 曇っている

ɾe(ɲ) ［南方］［動詞］eɾ ［レベル］3 ˩˥

ɾe,ɑ ɾeeze。拘束形態素として使う。 ɾeeze.lɔl

ɾe,ɑ(ɲ) ɾeɒ、ɾeɲ ›‹ɾe(ɾeeze)

ɾe,ɪlɾ ɪ, ɪl ‹›ɾɪ

ɾeɾ ［格詞］［文頭純詞］［ɲɛnɾe］ɑee ［レベル］1 1L:ɑee

ɾeɾ(ɲ) ［動詞］［ɲɛnɾe］ɑeɾ ［レベル］2 1L

ɾeɾɪ ［感動詞］［ɲɛnɾe］ねぇ ［レベル］1 古：「聞いてくれた ȣ」の意 ［語法］ 呼びかけ。lee より可愛い。ɾeɾɔ の方が若干丁寧だが、ɾeɾɪ で十分可愛い。

ɾeɾɔ ［感動詞］［ɲɛnɾe］ねぇ。若干 ɾeɾɪ より丁寧。 ［レベル］1 古：ɾeɾɪ と同じだが、語源が「聞いてくれますか？」であり、若干 ɾeɾɪ より丁寧。

ɾeɾɾe ［名詞］おじさん、オジサン ［類義語］lɪnlɪ ［レベル］2 古：ɾeɾɾe ← ɾeɾe

ɾeɾɾen ［名詞］おじちゃん ［類義語］ɾeɾɾe ［反意語］lɪnlɪn ［レベル］2 ɲ0:ɾeɾɾe/n

ɾeɾlc,ɑ ɑeɒc ɾlcɾe,ɑ.φeɲ

ɾeɾɔn ［形容詞］義理の、血の繋がっていない ［反意語］eɲcɪ̀ ［レベル］4 ɑu;ɾeɾɔnɪ.ʅ「関係性による関係」 ɲɲ ɾeɾɔn:ɾeɾɔn

ɾeɾɔnɪ ［名詞］関係 ［名詞］人間関係、人付き合い ［レベル］2 ɑ;ɾe は「風」で「関係」。nɪ は「心」？ 赤 ɾeɾɔnɪ:ɾeɾɔnɪ:lə ɾeɾɔnɪ:ɾeɾɔnɪ,ɪlɾ ［成句］ ɾeɾɔnɪ ɑel ɪnɲ lenɪɾ eɲcɪ cɾ elɑe ʅɔʅ. 同じ泉から水を飲んだ仲：袖すり合うも他生の縁 ［用例］ ɾcl ɾeɾɔnɪ ɪ 〜と人間関係がある。知己であるより深く、知り合い程度。文脈次第では男女関係という隠語の場合もある。 ɾeɾɔnɪ le leeu lenɪ cɒ el uɔlɾ ə ʅɔʅʅɔ elɑ, nɔn jeɑɔ ɑɪn ə ʅlɾ elɑ, ɲɔɪ lɔɾ, nɪɾ uɒɒ. ɾeɾ ɒɲəɤ eu cɾlɔʅc eɲɔɤ 言葉にすれば 消えちゃう関係 なら 言葉を消せばいいやって 思ってた 恐れてた だけど あれ？ なんか 違うかも（『恋愛サーキュレーション』千石撫子）

ɾeɪ ［植物］葉、葉っぱ、このは、木の葉 ［レベル］2 ɑ;ɾe/ʌc「風で動く」 赤 ɾeɪ:ɾeɪ:lec ［用例］ ɾeɪ ɪɾ ɒeɾ ɒcɪɒel ɒcl ɾeeze. 風が吹いて木の葉が散った。 ɪn nɪɾ ə eɾ ɥənɑc ɭel ɾeɪ ɪɾ ɒeɾ. 木の葉が散るのを見てむなしさを感じた。

ɾeɪ(ɲ) ［動詞］［ɲɛnɾe］ɑeɪ ［レベル］2 1L

ɾeɪ,ɑ ɾeɪ、ɑccɪ ɲɪɪ;e

ɾeɪʅ ［電算］Eメール、メール ［動詞］ɥəl を ɪ にメールで出す、メールする ［レベル］3 1ɲ: 制：古：ɾejheɪɪ ［語法］ 件名は ɔlɒɪ で内容は ɑɔɲɒ。 ［文化］ アンセのメール機能で送受信する。ボイスメールや映像メールも可能。使い方は日本人より西洋人に似ており、用件を伝えるだけのことが多い。人とは直に会って話すほうが好きな国民性なので、メールは端的で、何分以内に返さないと仲間はずれになるという女子高生のメール地獄のような現象はない。

ɾeɪʅdəɭeɾ ［電算］メールサーバー ［レベル］5 1L

ɾeɪʅzɪnɑ ［電算］Eメールアドレス ［レベル］4 ɲ0

ɾeɪ̀ɪcld ［地学］魚眼石 1L：熱すると葉っぱのように剥がれる

ɾeɪʅ ［名詞］アンケート ［レベル］3 1ʔ：制：古：ɾeɪɲɪ（聞く紙）が ɾeɪʅɪ（聞く法律）と勘違いされたもの。ʅɪʅɪ と ʅɪɲɪ はしばしば混同された。 ［用例］ ɪɲ ɾeɪʅ ɪ ɔn ɔn について ɪ にアンケートを頼む

ɾeɪɲ ［名詞］カップ ［レベル］2 1ʔ：制：古：eɾeɪhɔɔɲɪ（茶の入れ物） ［語法］ 取っ手のある茶碗。取っ手のない円筒形のものは dɪd。

ɾeɪɲɪze ［名詞］木の葉吹雪 ［類義語］ɒcnʃɲɪze ［レベル］4 μɑ:μcɑcɪ;/ ɲɲ

ɾeɪn ［普通動名詞］協議 ［動詞］ɥəl を ɤ{ɔʅ} と協議する、協議する ［レベル］5 1ʔ：制：「関係者が話す」

ɾeɪnc ［植物］フェイジョア ［レベル］6 古：緑色の

ɾeɪncd ［植物］グリーンピース、グリンピース ［レベル］3 古：緑の豆

ɾeɪɲɪ ［悪魔］テクラ、緑の悪魔テクラ ［レベル］3 ɒelɾcɪ 0:ɾeɪɲɪ;ɾeɪ/hɔɔɲɪ μcɑcɪ: 古：ɾeɪ（緑）/hɔɔɲɪ ［文化］ 緑の毛で覆われた怪物。慎重。

ɾeɪɲɪ,lɲl ɑccɪ ɾeɪɲɪ

ɾeɪɲɪlccɑɪ ［天文］サイフ 1L:μcɑcɪ/jeɲen/ɒel ［文化］ hɔɔɲɪlccɑɪ

ɾeɪ̀lcl ［化学］タリウム ［レベル］6 1Λ：制

ɾeɪɲʅɔ ［言語］葉ノード μɑ:ɒel;/ ʅʔ:ɒel

ɾeɪeleɾ ［法律］覚書、覚え書き、合意書 ［レベル］5 μɑ;ɾe/ʌel/eɾ「忘れるなというようなもの」 ʅʅ

ɾel ［格詞］〜によると ［名詞］情報、個々の情報、データ、資料 ［電算］データ ［反意語］ʅɔʅ ［レベル］2 1ʔ：制：古：ɾelɔ「知を伝える」 ［語法］ 断片化された個々のデータを示す。体系化されていない知識を示す。ばらばらに乱立しているデータのこと。 ［文化］ ＜情報とコンテクスト＞ ʅlɪɾen 社内文書や案内表や契約書などにおいて、情報をどの程度厳密に細かく伝えるかは国によって異なる。アメリカでは低コンテクストだが、フランスや日本は高コンテクストで情報量が少ない。ある程度常識に委ねる。一方、フランスの案内板は不親切だが、日本は世界一と言っていいほど気配りが細かい。アルバザードは日本式に最も近く、高コンテクストながらも気配りは細かい。例えば電子レンジに猫を入れたら死ぬことくらい明らかなので、アルバザードの説明書にはそのような注意は書いていない。もし誰かが訴えても、裁判所はただちに棄却する。ただ、老人にも分かるようにボタンに大きな文字で「加熱」と書かれていたり、絵で分かるようになっていたりと、気配りは日本人並み。 情報の伝達には国民性が出ており、親切でまじめがモットーのアルバザードの場合、「困っている人を助ける」という姿勢が出ている。難しい説明書に悩んで困るだろうお年寄りのお客さんなどを想定してマニュアルが組まれる。 ＜共有の精神＞ ケチや独占といった「自分だけ良ければそれで良い」という考えはアルバザード人が卑怯と忌むところで、情報はできるだけそれを必要とする人に与えるべきだという共有の精神がある。 従って、相手にとって必要であれば教えてやるのが善とされる。日本の場合、ときにはおせっかいと取られるかもしれない。 ［用例］ ɾel le ɾcl ɔʃ ɾcnʅɪ 容量の大きなデータ

ɾel(ɲ) ［化学］ニトリル 1L:ɾeeze

ɾelɑɔnɾ ［電算］データバス 1L

ɾelɑɪcφ ［経済］情報税 ［レベル］4 ls:jeɲen;/ 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelɾ ［文化］ 書籍や音楽などの電子コンテンツを無料でＤＬするために一年に一度支払う税金のこと。ls のミロク革命で導入された。 コンテンツのデータはアルバザードでは無料で手に入るが、それは情報税を納めているためか。情報税の税率や額はコンテンツの内容によって異なる。例えば書籍は国民の民度を上げる重要なものなので、内容がアカデミックであるほど納税額は安く済む。 情報税については著作権が関与することなので、lɪɑɪnlɪnφ を参照すること。

ɾelμɪ ［電算］データベース、ＤＢ ［類義語］ɾelɪ ［レベル］4 1ʔ：制：データの家

ɾellɔɔɪ ［形容詞］［名詞］情弱、情報弱者 ［反意語］ɾelɪlʅ ［レベル］4 ɪl;/「情報に暗い」 ʅʔ ［用例］ dce lɪlel (ɪɪɪ ɪʅ ɾellɔɔɪ ɪ (ɪɪɪ ɥɔl ɪnjeɲ ɪ. 未だに ＩＭＥとかｗｗｗ どんだけ情弱だよｗｗｗ グーグル €ÐÊ 使えって。

ɾelɪ ［名詞］便覧、資料集、データベース ［類義語］ɾelμɪ ［レベル］4 1ʔ：制：ɾel

ɾelɪ(ɲ) ［化学］ニトリル基、シアノ基 1L

ɾelɪlʅ ［形容詞］［名詞］情強、情報強者 ［反意語］ɾellɔɔɪ ［レベル］4 ɪl;/「情報に明るい」 ʅʔ

ɾelɪn ［法律］参考人、情報人 ［レベル］4 ɲ0:ɒelcɑcɪ lceμ

ɾelen ［接続詞］ɾel ［レベル］3 ˩˥

ɾelə ［動物］カモノハシ ［レベル］5 ɪlɪ̀ɪ:ɾejɥɪɥə（電気 / 毒）

ɾej ［言語］ɾ の文字 ［レベル］1 1ɲ：制：電気 ［語法］ 第１文字目の幻字。最初の子音字。

ɾej(ɲ) ［名詞］電気 ［レベル］2 1ʔ：制：古：ɾej（電気）。ɾejlɪn ← ɾej（電気）/lɪn（lɪnɾcj（霊人））から。原義は「電気の人」。リディアの知人で、この名はリディアが付けたアルカ名

ɾej(ʔ) ［動詞］［ɲɛnɾe］ɑej ［レベル］2 1L

ɾejɾ ［心理］ゲイ、ホモ、同性愛、ボーイズラブ、ＢＬ ［類義語］nɒɒd ［反意語］ɾejɾeel ［レベル］4 1ʔ：制：ɾejɾeel ［文化］ → eɾcɒ アルバザードでは同性愛は比較的受け入れられる。アルバザードの性生活は圧倒的に男優位なため、女は閉塞感が強い。恋人が処女であることはほぼ絶対であり、女が風俗に行くこともまずない（中年以降は一部ありえる）。その結果、アルバザードではレズ率がホモ率より圧倒的に高い。女同士の場合、セックスをしても処女のままとみなされることも関与している。 ɾə eueɒ ləɲɪj cɾ ɪleɾ. ɥəl ɪleɾ, ɾejɾ ɒc ʅɔnɾ ɾejɾeel lɪ ɔuɪ ʅlccz. ʅlccz eɟɟeɾ μcɑcɪ ɑcn ɑcɪ ej ɾcɪn e jeɲen.

ɾejɾinɾɔɪ ［化学］Ｋ殻 ［レベル］5 1L

ɾejɾcɪ ɒɾe ［人名］テスティア＝メテ ［レベル］5 古 ［文化］ ４期２代ソーンのルシーラ。女性。アノの母。

ɾejɾɔɒj ［名詞］電気がま、電気ジャー、電気釜 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelɾ

ɾejɾeel ［ユマナ］［人名］テステェル ［レベル］4 古：生年その他不詳。神話テステェルのモデルとなった人。 ［文化］ レズビアンの女性。おしとやかで、すこぶる美しかったらしい。女性を魅了する不思議な魅力を持っており、魅了された女性は彼女と関係を持ったそうだ。

ɾejɾeel(ɲ) ［人名］テステェル ［心理］レズビアン、レズ、同性愛 ［類義語］ɑcɪncj ［反意語］ɾejɾ ［レベル］4 ɒelɾcɪ ʔ1:eɲej/ʌɔɔlel;e 古：ɾejɾeel ［文化］ ejɾɪ エレスとコーレルの娘。レズビアンだが、自分から襲うことはなく、相手を誘惑して襲わせる。そうやって自分の家系を含む多くの少女をたぶらかしていったが、男には見向きもしなかったために嫉妬され、残酷王フェンゼルによって永久出産の拷問を受ける。

ɾejɾeel(ʔ) ［企業］テステェル社 ˩˥ ［文化］ uɔμɒ

ɾejɾeelnɾcɪ ［普通動名詞］アヒル座り、テステェルニア ［動詞］ɥəl をアヒル座りさせる、アヒル座りする ［レベル］3 古：リディアが思春期ごろに特によくしていた座り方。可愛いと好評だった。

ɾejʅ ［気象］台風 1ʔ：制：ɾeez（風）/ejʅ ［文化］ アルバザードにはあまりないが、たまにアティア海で発生したものがやってくる。 ［用例］ ɾejʅ ləɲɪ cn. 台風が来そうだ。 ɾejʅ ləɲɪ{uɪnɑ ɪʅ} oɪʅʅɪ. 台風がワッカを襲った。

ɾejɪ ［物理］電場、電界 ［レベル］5 1L:ɒμɔʅɪ などと同じネーミング。電荷や電位から命名しようか考えたが、単純なのを推すことにした。

ɾejɾccɾ ［物理］静電誘導 ［レベル］4 1L

ɾejɟleɾ ［名詞］電光掲示板、電子画面、電子モニタ、電気モニタ ［レベル］3 ul;/ ʅʔ

ɾejɟɪ ［料理］抹茶 ［レベル］4 ʅʅ:ɪlɾ

ɾejɟcz ［芸術］電子画板 ［レベル］4 1L：ねこの郵便屋さん ［文化］ フルカラー＆筆圧感知の電子ペーパー。画面に直接描くペンタブレットが電子ペーパーになったもの。

ɾejɟɔlz ［建築］電線 ［レベル］4 μɾ;/ ʅʔ

ɾejɟe ［南方］［女性］［文末純詞］ɾcɟje ［レベル］3 ˩˥

ɾejnɾcɪl ［建築］電柱 ［レベル］4 ʅʔ ［文化］ アルバザードは一部地域を除いて地震がほとんどないので電力は地下ケーブルを使用する。従って電柱を街中に見ることはない。

ɾejɑμcɒ ［生物］電子顕微鏡 ［レベル］5 1L

ɾejɑclɔ ［名詞］電気ポット ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelɾ

ɾejɑɔnɾ ［名詞］チャンネル ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelɾ ［文化］ アルバザードはジャンルごとにチャンネルが分かれている。ニュースならずっとニュースだけをやっている。 ［用例］ ［ユマナ］ ɪn cnɪɾ ɾejɑɔnɾ ʔ. 6チャンを見た。 scφɪɾ ɾejɑɔnɾ ɪlɾ. チャンネルを変えた。 scφ alen ɾe jɑɔnɾ ɪlɾɤ チャンネル変えていい？

ɾejɑɔnj ［化学］電気分解、電解 ［レベル］5 ɲ0

ɾejdɪɒ ［名詞］電灯 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj ［文化］ ɒɔʅ

ɾejμɪ ［工学］発電機 ［レベル］4 μɾ:ɪɪnφɪμɑ lcczel;ɾej/μɪ「電気の家」 ʅʅ

ɾejμcʅ ［物理］放電 ［レベル］5 1L

ɾejμen ［地学］トルマリン、電気石 ［組み数学］１０/１０ ［レベル］4 1L ［文化］ ノアの流れをよくし、結果的にノアを強化する魔石。

ɾejμecn ［数学］x 軸→ jɪnl ［レベル］4 1L

ɾejscʒɔl ［音楽］エレキギター ［レベル］4 ˩˥

ɾejl ［普通動名詞］発電 ［動詞］ɥəl（主に何ワットなどの量）を発電する、発電する ［レベル］4 1ʔ：制：ɾejlɪɑ

ɾejlɪ ［名詞］発電所 μɾ;/ ɲɲ

ɾejlɪɾ ［物理］充電 ［レベル］3 μɑ;/ ↓ 1L：電気を（充電池などの中に）入れる

ɾejlɪɾiμ ［名詞］充電器 ［レベル］3 μɑ;/。科学が未発達な μɑ でも充電器程度のものは既にあった。 ʅʔ

ɾejlɪn ［企業］テスラン ［レベル］5 ˩˥：ɾej の語源となった人名が ɾejlɪn。 ［文化］ 東京電力に相当する企業。

ɾejlɪn nɪɔn ［人名］テスラン＝ナオン 1L:clɒəj:μcɑcɪ ［文化］ アルティル期の政治家。財政省貿易庁長官。メル２４０年の種枯れ病の際、大規模な輸入政策を実施。運輸庁長官のルノ＝ファルファニアに協力を要請。これがきっかけでルノの名声が上がり、第四次選挙でアルティスの議席が増えた。メル２４５年、ルノ暗殺を主張したミナリスに反対し、アルミナを立てた。ミナリスとの利権争いで揉めていたテスランには好機であった。

ɾejlcɾ ［化学］樟脳、カンフル、カンファー ［レベル］6 ʅ0:ɾejlcɾ（楠木）。jlbe からの借入。ɾe:ɾej（東）/zɪɒ:lcɾ（香木）。ヴァルマレア･ヒュグノー原産の植物。メティオから見て東方であったことから。 ［文化］ 現在では防虫剤などに使われる。

ɾejleɾj ［音楽］エレクトリックピアノ、電子ピアノ ［レベル］5 ˩˥

ɾejleɒ ［音楽］エレクトロニカ ˩˥

ɾejɪ ［物理］プラズマ ［レベル］4 1ʔ：制：古：ɾejɟɪdlc（電気の空気）

ɾejɪllec ［電算］ブログ、ウェブログ、インターネット日記 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelɾ

ɾejc ［電算］マイク、マイクロフォン、送話器、拡声装置、音を電気信号に変える装置 ［レベル］3 μɾ 1ʔ：制：ɾejɑɔ（電機の音）

ɾejcɟɪμ ［名詞］電気ブレーカー、ブレーカー ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelɾ

ɾejcɑecɒ ［電算］マイクスピーカー、ヘッドセット。スピーカーとマイクが一体化したもの。 ［名詞］受話器 ［レベル］3 μɾ;/ ʅʔ

ɾeje ［化学］［電算］電池、バッテリー、バッテリーパック ［レベル］3 lɪ̀ɪ̀ɪ:「電気を起こす水」 ［文化］ 最古の電池はアズゲルの時代にファベルのマレット人が作ったものをシフェルが導入したもの。マレット人はメッキ用に deφlɾeje を開発した。その後、カコでボルタ電池が作られた。 μɑ で化学が起こっても魔動式のものが多かったため、動力としての電池はナディアを待つことになる。 ［用例］ lɪ ɾiə ɾeje ɔ ɑɪnɾφɪμ ɾeμ. 電池とＤＶＤを買うらしい。

ɾejeɒɔ ［物理］電源 ［レベル］3 1L

ɾen ［単位］8 ［レベル］1 1L：制：ɾe ɔjɔɪ:hen::ɪnlə,ɪlɾ

ɾen(ɲ) ［南方］［動詞］ɾe ［レベル］3 ˩˥

ɾen,lj ʅɔɾ ɾeʅ「葉の数ほど多い」

ɾenɾ ［農耕］［動詞］ɥəl を耕す、耕す、たがやす ［レベル］3 1ɲ：制：jɪɑ:ɾnɔ ［用例］ ɾenɾ ʅɔɾɪn 畑を耕す

ɾenɾɪ ［建築］土木、土木業 ［レベル］3 1ɲ：制

ɾenɾɪn ［農耕］農民 ［レベル］3 1L:clɒəj:μcɑcɪ ［語法］ 小作も地主も含め、田畑で ɾəʅəc や ɪlɾəʅ を作る人。 ［用例］ ɾenɾɪn nɪɪlʅ ɪlɾəʅ ʅɔnel. 農家の人は農作物のことをとても気にしている。

ɾenɾɪɪɒɔ ［名詞］ブルドーザー ［レベル］3 1ɲ：制：土木工事する車

ɾenɾc ［名詞］セメント ［レベル］3 1ɲ：制

ɾenɾe ［名詞］コンクリート ［レベル］3 1ʔ：制：ɾenɾc ［用例］ ɾenɾc eɒ hɔnɔ{ ⊠ euc}. セメントが固まる。セメントは乾いて固まるものではないので euc とは言わない。

ɾenʅ ［動詞］ɥəl をほつれさせる、解れる、ほつれる ［レベル］3 ɪlɪ̀ɪ̀ɪ

ɾenɑ ［被服］イヤリング、耳輪、耳飾り、ピアス ［レベル］3 1ʔ：制：ɾeɒ/ɑcɪl ［文化］ 魔力を高める装身具とされ、特に召喚士に好まれる。耳に近いため、神の声がよく届くと考えられているため。現代では敬虔な信者が身に付ける。

ɾenφɪ,ɑu leɾɾc e

ɾenlccɑɪ ［植物］八角、トウシキミ ［レベル］5 1L ［文化］ 東洋料理の香辛料として、アルバザードでは稀に用いられる。

ɾenleɒ ［音楽］八重奏、オクテット μɑ;/ ʅʔ

ɾeneʅɪuccɑɪ ［生物］［医療］八宗穴、八総穴、八脈交会穴 μɑ;/ ɲɲ

ɾeu ［物理］電圧、電位差 ［レベル］4 μɥəə:lɪ̀ɪ̀ɪ

ɾeueɾ ［魔法］ゴーレム ［レベル］4 zφ;ɾeeue/ɾe ɲɲ

ʃeɑ ［名詞］零、滴 ［動詞］ɥəl を c から滴らせる、滴る、したたる、垂らす、落とす、かける、こぼす、零す、もらす、漏らす、涙を流す ［レベル］3 古：滴る音 ［語法］ コップの水をぱっと零す場合は nclɟ did, ɥcl eɥ となる。ʃeɑ は使えない。

ʃeɑʊccɑɪ ［生物］［医療］栄穴、榮穴 μɑ;/「経脈のしたたる穴」 JΛ

ʃeɑɥıdc ［医療］点滴 ［レベル］3 JJ

ʃeɑɪbc ［アイテム］カイトシールド μɑ;/ JΛ ［文化］ ɟɒ で発明された騎兵用の盾で、脚を守るために縦長になっている。零型をしている。

ʃeɒ ［生物］耳 ［動詞］ɥəl を自然と聞く、ɥəl が聞こえる、聞く、聞こえる、耳にする、聴く ［電算］マウスのボタン。右クリックなどの「クリック」する部分。 ［文字］イヤー ［類義語］ʃeɥ ［レベル］1 1Λ: 制：古では ʃe ［語法］ 領域は日本語の耳と同じ。 ［成句］ ɔʊ ʃeɒ 耳を立てる、耳を動かす。意外なことを聞いたときなどの動作。 ［用例］ ʃeɒ ˥ɪc 大きな耳 ʃeɒ μıʃ{ɑɥeɒ} よく聞こえる耳 ʃeɒ ɑlɔn 耳が遠い、難聴

ʃeɒʃcɪ ［アイテム］テムティア ［レベル］4 J1:ʃeeɒɟ/ʃccɪ「永遠の愛」 ［文化］ ヴァストリアのひとつ。ルノから世界を救った褒美としてリディアが ɒelJ1 にもらったピアス。任意に 7 ～ 2 5 才の姿になれる。セレンの浮気防止策としてリディアが欲した。

ʃeɒ˥ ［建築］倉、蔵、倉庫、納屋、物置 ［レベル］3 古 ［文化］ 一戸建ては庭に、集合の場合は大きな倉庫室の一部を間借りするか、貸し倉庫屋から借りる。

ʃeɒ˥ɥcɔ ［経済］税金等調整前当期純利益 1L

ʃeɒ˥ɔzeʃ ［名詞］耳カギ ［レベル］3 1L ［文化］ 窓に付いているカギのこと。縦になっている金属棒を下に倒すと鍵が開き、上に倒すと鍵が閉まる。

ʃeɒ˥ez ［建築］物置部屋 ［レベル］3 1L:ʃcɔn

ʃeɒɟ ［建築］窓 ［芸術］漫画のコマ← ɒcl˥ɪl ［レベル］2 1ʔ: 制：ɦɪμ:ʃehɔɒɥə（風の扉） ［用例］ ɪn ʃeμ˥ɪʃ ɒeɟɪ hɔɒeɟ ʃeɒɟ ɪɪlel. 窓を開けっ放しのまま、外出した。 ɪn μefɪʃ ʃə lel ˥ɪ ɑeɥə ʃeɒɟ. 窓を閉めるように彼に頼んだ。 ☆ ɪn ɑeɥəʃ ʃeɒɟ ɪɪnɪ ɟʃɪɟ eɟ˥. 雨が降り込まないように窓を閉めた：ɟʃɪɟ の用法に注意。

ʃeɒɟ˥ɪl˥ ［建築］窓枠→ ˥ɪl˥ ［レベル］3 1L

ʃeɒɟɟcɪ ［建築］窓ガラス。素材はガラスとは限らない。 ［レベル］3 1L

ʃeɒɟueμɪnʃ ［医療］自閉症。発達障害の一種。 ［レベル］5 ɯl;/ ↓ J1ʔ:ɒel>ʃeɒɟleɯl:1L:μɥəə: リュウが診察した限り、人の話を聞かないで窓や床などを見ているケースが多かったことからきているそうだ。

ʃeɒɟɑcɪɑ ［建築］窓ガラス ［レベル］3 μɑ;/ JΛ

ʃeɒɟ˥ɔʃɟ ［ユマナ］［電算］ｗｉｎｄｏｗｓキー ［レベル］5 J0

ʃeɒɟcɪ ［生物］鼓膜 ［レベル］3 1L

ʃeɒɟcɪɑɪcz ［医療］鼓膜痪 1L

ʃeɒuɪnɔ ［生物］天窓 ［レベル］5 J1

ʃeɒɑecɒ ［名詞］イヤホン、イヤフォン ［類義語］ɔɟnɑecɒ ［レベル］3 J1 ［語法］ 渡りの部分（右のスピーカーと左のスピーカーをつなぐ棒状の部分）を頭にかけるのが ɔɟnɑecɒ。耳にかけるか耳に入れるのが ʃeɒɑecɒ。耳に入れるインナーイヤホンは ʃeɒɑecɒ のうち dɔʃɑecɒ。

ʃeɒɑeeʃɑel ［言語］聴覚音声学 1L

ʃeɒɒɪl ［生物］耳の穴、外耳孔 ［レベル］2 μɑ;/ JΛ

ʃeɒɔcl˥ ［卑語］つんぼ、耳つんぼ ［レベル］3 J1 ［文化］ 使わないこと。

ʃeɒd,l˥ eμɥılcl

ʃeɒdcʃ ［医療］耳鼻科、耳鼻咽喉科。耳だけでなく鼻や喉も診る。大病院内の科目。 ［類義語］ɔɟnɒcɒɥıl˥ɟ、ɔɟnɒcɒɥıl˥ ［レベル］3 1L

ʃeɒdccd ［医療］耳鳴り、みみなり、耳なり ［レベル］3 1Λ: 制：耳 / ピーという音

ʃeɒdeɟʃ ［魔法］テンペスト ［レベル］5 J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ʃeɒdeμı ［言語］テンペラ。ｒ記号。 ［経済］デフレーション、デフレ ［レベル］1 古：ʃeɒdeμı ［語法］ 急下降調のイントネーション記号。ぴっくりマークに相当。

ʃeɒdeμı˥ə̀ənɔ ［言語］意外な驚嘆。文末で使用。ｒ̀ȣ 示す。 ［レベル］2 JJ

ʃeɒ˥ɔμ ［生物］外耳道 ［レベル］5 1L

ʃeɒıʃeɒ ［美容］イヤーツーイヤー、イヤートゥーイヤー J1

ʃeɒıφe ［生物］蝸牛（耳の） ［レベル］5 1L

ʃeɒıɪa,ı˥ɪ ɑɔ˥ı

ʃeɒcɟ ［魔法］テミス気質 ［レベル］5 制：テミスは元々よく人の言うことを聞くという意味の言葉で、それがヴィル＋ノアの性質を示していることから流用されて今に至る。 ［文化］ ヴィル＋ノア気質。

ʃeɒcl ［経済］見積もり、見つもり ［動詞］ɥəl を見積もる、見積もる ［レベル］4 ɟɔμn ［用例］ μen ʃeɒcl φɥμʃ. 値段を見積もって。

ʃeɒel˥ʃ ［生物］耳くそ、耳垢、耳あか、耳アカ ［レベル］3 1L:μcɑcı

ʃeɑ ［名詞］聞こえ、耳に聞こえた感じ、中立な意味での耳障り ［レベル］3 1ʔ: 制：ʃcɑ（聞こえる） ［用例］ ʃeɑ ɒelcɟ 不快な音、耳障りが悪い音

ʃeɑe ［化学］ダイオキシン ［レベル］5 ɪ˥ɪ˥ɪ

ʃeφ ［経済］定価 ［反意語］φıb ［レベル］4 μɑ;ıʃe/φıμʃ「店での値段」 J1ʔ:μcɑcı

ʃeφ˥ ［名詞］ラジオ ［レベル］3 1ʔ: 制：古：ʃeɟφɥ˥eɟɔc ［文化］ ラジオは災害時に使用される緊急の道具として一家に一台は置いてある。だが、通常はアンセを使うため、日常的にはあまり使われる機会がない。ラジオでは主にニュースや天気や交通情報を流している。番組はテレビと同じく内容ごとにチャンネルが異なる。つまり、周波数が異なる。 ［用例］ ɪn ʃeɒɪ{ɟeμ ɪ} ʃə ɥeμʃ ˥ɔn ʃeφ˥ cɒ ʃɔlel. 昨日そのニュースをラジオで聞いた。「ラジオで」の「で」は ˥ɔn。「聞こえた」であろうと ˥ɔn → ˥ɔn ɪn ʃclɪʃ ˥eʃcnɟ ɒeɟɪ ʃeφ˥ eɟ ɥ. ラジオをつけたまま居眠りをした。 ɪn ʃeμ ʃeφ˥ cɟʃ cn ʃecl. テレビの代わりにラジオを聞く。 ɪn ɑelɪʃ ˥ɔnʃ ʃeμ ʃeφ˥. ラジオを聞きながら勉強した。 ɪn ɒɔ˥ nelʃ ˥ɔnʃ ʃeμ ʃeφ˥. いつもラジオを聞きながら寝る。

ʃeφ˥ɪ ［名詞］ラジオ局 ［レベル］4 μʃ;/ J1ʔ

ʃed ［生物］耳たぶ、耳朶 ［レベル］3 ɪ˥ɪ˥ɪ: 耳のパン。食べ物のパンに似ていると捉えられた。 ［成句］ ［婉曲］jel ʃed 耳たぶをはむ：性交時の前戯をする。ただし、この場合、主に男が女に対し前戯をするという意味になる。

ʃeɟɔ ［動詞］ɥəl を盗用する、盗用する、盗作する、パクる ［普通動名詞］盗用、盗作、パクり、パクり、オマージュ ［レベル］4 古：ʃeɟɔ ← ʃeɔɥɔl で（悪く使う）

ʃeμ ［動詞］ɥəl を聞く、聞く、聴く ［文末純詞］～だそうだ、らしい、だそうだ、ようだ。耳で聞いた推量や伝聞。 ［類義語］˥ɔμʃ、ʃeɒ、μınʃ ［感動詞］ほら、ねぇ、聞いて ［レベル］1 μɑ;/e 1L: 古：/e e:/e: ［用例］ ɪ˥ ʃeμɔμ ˥ɪɪn. 彼は父親の話を聞いている。ひとつの話題が終わるまで聞き通すのだが、現在はまだその過程にあって話が終っていないという意味。 ɪn ʃeμ˥ɪʃ ʃə ɥeμʃ ɪɪpel cɒ ɑɔj ʃcj. 今日になってようやくその知らせを聞いた。 ɪ˥ ɥɔμ˥ɪʃ ʃeμ. 彼が死んだらしい。 ɪuel˥ɪnʃ ʃeμɔμ lə ˥eɑ μenj. 死神は黙ったまま彼女の言葉を聞く。

ʃeμ˥ ［動詞］ɥəl に出かける、出発する、出かける、行ってくる ［普通動名詞］通学、通勤 ［反意語］˥ɔ˥ʃ ［レベル］2 @ 1L ［文化］ 食後暫くしてから出る。七時ごろに出発する。学生の登校時間は片道３０分ほどで、社会人も大差ない。社会人は近場の職場を選ぶし、学生も近場の学校を選ぶ。だから時間はかからない。 ＜通学＞ ふつうは最寄の学校へ行く。通学時間は３０分～１時間程度である。徒歩、自転車、電車、バスなどを利用していく。 ［用例］ ɪn ʃe μ˥ɪʃ jɪʃ. ちょうど外出するところだった。 ɪn ʃeμ˥ɪʃ ɥcl ɒcl μe. 雪に閉じ込められた。 el ʃeμ˥ ˥cn ˥ɪnɪ ɪ˥ɔ cɒ ɑəμne. 夜遅くに遊びに出てはいけない。 ʃə ˥ɪɑ ˥cn ɥəlc ʃeμ˥ cɒ ɑə μne nɔu. この国は子どもが夜遅く出かけるのを禁止している。 ɪn ʃeμ˥ɪʃ μcj. 出かけたくなかった。

ʃeμ˥ɪuz ［名詞］門限 ［レベル］3 1L ［文化］ 日本語と違って個々の家庭の門限をイメージしない。最初にイメージするのは国が定める門限のこと。 ［用例］ ʃeμ˥ɪuz eʃ ɯμzɔn ɔn μı ɪnʃ. ウチは門限が８時だ。

ʃeμ˥ɑɔnʃ ［名詞］通学路、通勤路 ［レベル］2 J0

ʃeμ˥ɒel ［名詞］通学時間、通勤時間 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ɪμbɪlelʃ

ʃeμnɪ˥l ［生物］聴覚 ［レベル］3 J1

ʃeμucleʃ ［丁寧］聴覚障害者、聾唖、ろうあ ［レベル］4 μɑ/; J1ʔ

ʃeμaɪʃcl ［動詞］ɥəl を c から聞き出す、聞き出す ［レベル］3 JJ

ʃeμı ［物理］電位 ［レベル］5 μɥəə:l˥ɪ˥ı

ʃeμın ［名詞］聞き手、聴き手、リスナー ［レベル］2 J0

ʃeμcı ［政治］テロ、テロリスト ［レベル］4 古：μcɑcı:ʃeμcı ← ʃeeze/eμcı（冷たい風） ［用例］ ʃeμcı ncɔʃ le ʃcl ɑccɒbcl ɥelc˥ ɔ˥ ɑcɔ cɑccɒel ˥ɔnʃ ɟɔnʃ ɔɟn ʃ˥ɪʃcnı lcs le ʃcl ɒ ucı ʃɔlcɟ ɑɔ dɔɑ. 無精髭を蓄えた優しいテロリストは黄ばんだ歯を見せながら笑うと、ɒつばかりの幼い少年の頭をポンと撫でた。

ʃeμenuc ［医療］聴力 ［レベル］3 μɑ;/ J1ʔ

ʃez ［化学］窒素の通称、窒素 ［レベル］4 1L

ʃezɟdel ［化学］ピリジン ［レベル］6 1L

ʃezɒ ［植物］柳 ［レベル］4 ɪ˥ɪ˥ɪ: 風に揺れるもの

ʃezɒncı ［美容］柳髪 ［レベル］4 1L ［文化］ 長髪の前髪が顔を隠している髪。リングの貞子とか、ネギまの宮崎のどかのような髪。女の子が風呂で髪を洗うと多かれ少なかれこうなるので、入浴中の髪の表現としても使われる。

ʃezhɔə ［化学］硝酸塩。ʃezɪlɟc と同じ。 1L

ʃezɪjl ［化学］硝酸 ［レベル］4 1L

ʃezɪjlı ［化学］ニトロキシ基。硝酸が水素を１つ失って開いたもので、ＲＯＮＯ２に等しい。 1L

ʃezɪjlc ［化学］硝酸塩。ニトレート、ニトラート 1L

ʃel ［動詞］ɥəl に逆らう、逆らう、抗う、あらがう、抵抗する、反抗する、違反する ［普通動名詞］反抗、抵抗、違反 ［形容詞］（ʃelın で）逆らうような、反抗的な ［形容詞］（ʃelın で）逆、逆な ［格詞］逆らって、～と対照的に、～に反するように、～に対して、～対～、～：～、： ［類義語］bɪl˥e ［反意語］ɦɪɟ ［レベル］2 1ʔ: 制 ［成句］ ɒeɟɪ ˥ɔ ʃel(en) ˥ɔ 一対一で、サシで、タイマンで、１対１で ［用例］ ʃel ɒccnı, ɟɪe eʃ ɑcnʃ. ミーナと対照的に紗枝は暗い。

ʃel(J) ［サール］ʃccʃel の略称 ［組み数字］2 / 1 2 ［レベル］1 JJ

ʃel,ɑ ʃel˥ ʃe は風

ʃel˥ ［動詞］ɥəl を ɪ に吹かせる、吹く、吹かす、吹かせる ［レベル］3 μɑ J0: 赤：ʃel ʃel:ʃel:ʃel˥ ［用例］ × ʃeeze ʃel˥ → ʃeeze cl˥ ɔɒɑ. 風が吹いた。 ʃeeze ʃel˥ɪʃ ˥ɔɔb ɪ ˥ɔ˥e. 帽子が風に吹かれて池に落ちた。

ʃel˥e ［アイテム］テルテ ［レベル］4 古：jeμen:ʃe は風。l は ɪ˥l で「物」。ʃe が二度来て強調になっている。セレンのデザインした服。たなびくような羽衣がないかと色々探した結果、見つかった絵を参考に考えたもの。リディアに伝えたが理解されず、絵を描いたが下手で分からないといわれた。 ［文化］ ヴァストリアの１つ。リディアの持つ羽衣。エルフレインからプレゼントされたもの。薄絹でできていて、腕に絡めてマントのように羽織る。マントのように垂れ下がっているが、先っぽがずっと長い。肩の部分では留めず、もっと長い。左右の上腕部でくるっと何度か先っぽを巻き、そこを支点にして更に腕の下へ先っぽを持って行き、肘の上のところにある腕輪についている収納部で抑えて留める。残った長い先っぽは更に地面に垂らしておく。テルテを纏うと空を自由に飛べるようになる。宇宙空間でも推進力なく行きたい方向へ飛んでいける。

ʃel˥ɔnl ［形容詞］非常識な ［レベル］3 JJ

ʃell ［名詞］教育、教養 ［類音］ʃelɟ ［レベル］3 1Λ: 制：ʃ˥ɔll の対だが、意味的にあまり対だと意識されないので残した。 ［文化］ ・家庭教育と学校教育 アルバザードで教育というと家庭と学校の２場面に大別される。アルバザード人は３歳になる年（２歳）から学校に行くので、学校教育が子供に影響を与えるウェイトは大きい。 アルバザードは多文化社会なため、各家庭ごとに教育方針が異なる。総じて言えることと言えば、親が学校教育を経ているので、学校でやるような教育を家庭でもしがちということが挙げられる。 では学校教育はどのようなものかというと、それは生徒の家庭ごとに合わせたものではなく、各学校の教育方針に基づいたものであり、親は教育方針を見てどこの学校に通わせるか決める。 ただ実際にはいちいち学校の教育方針を見て学校を選ぶという家庭は少ない。ごく一部の上流階級だけがそういったことをする。たいていは公立の学校に行き、ɒınɪ˥ı まではよほどの学力がない限りは最寄りの学校に通う。この辺りは日本と同じである。 学校教育は学校ごとに方針が異なるが、おおまかなところでは国レベルないし州レベルで一致している。 アルバザードの学校において総じて言えることは、徳育＞知育＞体育の順で注力するということである。特に、学力が上の学校ほど徳育にも熱心である。 アルバザードの学校は日本と異なり、学科の勉強をするところというイメージよりも、人間としての勉強をするところというイメージである。 つまり、学力だけでなく、人間性を鍛えることが重要となる。 ・日本と異なる授業体系 日本はいわゆる詰め込み式の教育をしており、ゆとり教育においてもその原理は変わらない。 日本の教育の原理は教師から生徒への一方通行な知識の伝授である。 対して個人主義で言葉の力を重視するアルバザードでは、自分の考えを自分の言葉できちんと説明し、等身大でありのまま主張することが求められる。 このため、アルバザードの授業は双方向性があり、基本的に対話式である。教師は生徒に一方的に物事を教えるのではなく、生徒に意見や考えを述べさせ、対話の中で授業を形成していく。 数学のような科目ですら、インタラクティブに授業が進んでいく。例えばある公式を教える際、日本では公式の証明を教師が実演し、暗記を要求する。アルバザードでは、卑近な例を取ってそこから公式を生徒に帰納させ自解させるようなやり方を取る。最初からいきなり公式を見せない。卑近な例を取ってそこから式を一般化させ、公式を帰納させる。つまり、自分たちで考えさせる。この間、生徒たちは黙って聞いているのではなく、周りの生徒と相談しあい、教師に質問をしつつ、公式を練りあげていく。 公式を提示して覚えろというのではなく、どうしてこういう公式があるのか、どうしてこういう公式になるのかなど、「なぜ」かを考えさせる。こうして自分たちで導出した公式というのは忘れにくい。 日本のように詰め込み式でとにかく覚えろというスタンスだと一見時間はかからないが、本当にその公式のなんたるかを理解しているわけではないので、すぐに忘れてしまい、復習で二度手間三度手間になってしまう。アルバザードの場合、よくよく理解させるので、忘れてしまうということが少ない。 日本では途中式を重視しないが、アルバザードではどうしてその答えになったのかを異様に気にする。ひとつの式を展開したことについてすら、どうしてそこで展開したのか、そこで展開する意味は何か、何のためにそこで展開したのか、そこで展開するメリットは何かなど、細かく途中式を分析する。余分で冗長な途中式はないか、もう少し合理化できないか、逆に過合理で他人が見たときに分かりにくい説明不足な途中式になっていないかなど、細かく見ていく。 そう、日本だと数学は詰将棋のように最短手が美しいとされるが、アルバザードだと、数学は言葉と考えられており、最短手は舌足らずと考えられている。美しい数学とは説明が過不足なく、より多くの人にとって分かりやすく無駄がないものを指す。最短手は機械人間の言葉としては優秀だが、人間の言葉としては劣っていると考えられている。 アルバザード人は自分の言葉で自分の考えを他人に伝えるということを重視している。説明不足だと相手は分かってくれないし、相手に腹芸を強いて多解釈や誤解を生じかねない。かといって冗長でも相手は時間を無駄に思って聞いてくれないし、相手の時間を過度に奪うことは失礼だと考えられているので、過不足ない説明が求められる。 その考え方が国語だけでなく数学にも及んでおり、最短手よりも過不足のない親切な教材のような相手の理解を促進させるような相手のことを考えたコミュニケーション力の高いやり方のほうが好まれるというわけである。 アルバザードの教師はとにかく「なぜだ？」を連呼する。生徒はそれを必死に考える。逆に生徒も疑問を持ったら「なぜだ？」を教師に浴びせる。教師は説明責任があり、過不足ない分かりやすい表現で生徒に説明する必要がある。このため、教師という職は日本よりも難易度が高く、必然的に教師の質は高く、社会的地位も高い。 アルバザードでは対話式の授業が大半で、教師が主に喋ることは日本と同様だが、教師は一方通行で知識を与えるものというよりは、ディベートの司会者的な存在である。 生徒同士も活発に議論を行い、考察をし、お題である「なぜか」について考える。こういう教育は非常に回りくどく、詰め込み式教育に比べて問題数を捌けない。しかしこういう教育は忘れにくく、また、問題の本質を生徒は理解しているので、新しい問題を見たときに解き方を自解することがしばしばある。 ・アルバザード式教育が生まれた現実の背景 実は日本でも頭の良い生徒というのは個人的にこういう学習法をしていることが多い。 例えばセレン自身中学時代に英語や数学などで学年一位を取っており、偏差値も７０を越えていたが、集中して勉強した記憶は中３の数ヶ月、しかも進研ゼミを使って自力でやったことしかない。 セレンは公式などをそのまま覚えることはなく、なぜこういう公式になるのだろうとか、どうやったら公式を過去の偉人と同じく発見できるのだろうと考え、公式の本質を理解するようにしていた。英語でも同じで、「なぜこの構文を取るのだろう。この構文を取ることにどのような合理性やメリットがあるのか。英語らしい構文とはなんなのか」といったことを考えながら勉強していた。単語を覚える際ですら、「なぜこの単語はこういうのだろう。語源は何なのだろう」

と考え、常に「なぜか」を考えていた。　その結果、上辺だけの勉強でなく、物事の本質を理解する学習法になった。この方法だと一度理解したことは忘れにくいため、二度手間がなかったし、一つひとつの知識が組み合わさって新しい知識になり、未修事項についても自分で「もしかしてこういう公式があるのではないか」とか「もしかしてこのような英語表現が適切なのではないか」などといった予想が立てられるようになった。　周りの子供は日本式の詰め込み教育をしており、塾通いと学校で忙しそうにしていたが、セレンは塾も殆ど行かず、中３になったら教師とケンカして辞めてしまったので、殆ど勉強していない。進研ゼミも春の数ヶ月頑張っただけで、それ以降は本屋で自分で教材を買って気が向いたときにやる程度であった。受験シーズンになると殆ど勉強せず幼馴染と夜中まで自転車で遊びに出たり、リディアたちとつるんでいたりした。受験日の前日には新作のゲームを買って一切勉強しないという怠惰ぶりだった。　従って時間的には人の何分の一も勉強していないのだが、普段から自転車に乗りながら「三平方の定理はなぜ成立するのか」など、一々学問的な疑問を興味本位で自問自答しており、物事について「なぜか」だけは考え続けた。　その結果、偏差値７０以上のクラスに進学したので、恐らくこの「なぜか」を考える学習法というのは、一見遠回りでも、最終的には詰め込み式教育より短い時間で深く学習できるのではないかという考えに至った。それで理想的な学習方法としてアルバザードの教育方法に採用した。　・アルバザード式は底辺には適用できない　その後セレンは塾等で教師をすることになるが、１０００人近くの生徒を見てきて感じたことは、頭の良い子はアルバザード式で勝手にやってしまうということだった。　たまに詰め込み式を要領よくやる子もいたが、そういう生徒はたいてい地頭力がいいというよりはよくできた機械という印象だった。　共通してそういう生徒に言えるのは、学問自体に興味がなく、課題として勉強をこなしているので、テストに関係ないトリビア的な知識を与えてもつまらなそうにしているということだった。セレンはトリビアをたくさん仕入れて、そういった知識を組み合わせて応用することで未修事項の予測をしていたが、この手の生徒は学問に興味がないため、テストに直接関係のある知識以外はどうでもいいと思っていて、興味を示さない。機械的に要領よく詰め込み式教育に適応した子供は、そういう手合いが多い。応用力がないので、この手の生徒は教えられたお勉強以外は苦手である。　また、しばしばこの手合いの人間にはコミュ障な機械人間か、人を見下したような態度の者が多い。これはなぜか分からないが、１０００人近くの生徒を教育してきて経験的に知っていることである。　セレンは「無駄な知識などない。知識は必ずいつかどこかで繋がる」がモットーだった。テストに出る内容にしか教師の言葉に耳を貸さないタイプは目先のことにしか目が行っていない愚か者である。　特に女にこのタイプが多い。女生徒を見ていてしばしば感じたが、女はテストという目先の現実しか見ず、学問という高尚なレベルにまでは目を向けない。男子生徒のほうがトリビアを面白がって聞こうとする傾向にある。学問に対する意欲があるのだ。女は目先の現実、半径３ｍ以内の生活にしか目を向けない。高尚さや学問の追求をする女は男に比べてレアである。その結果、セレンは平均的に女は低俗でくだらない生き物だと考えるようになった。もちろん１０００人近くの生徒を教えてきた経験からの平均的な話であり、個人レベルではリディアや紫亞のような本当に頭の良い女がいることも分かっている。　さて、本当に頭の良い人間は、トリビアでもなんでもたくさん吸収し、それを自分の力で組み合わせて応用し、新たな知識に結びつける。それが創造性のある賢い人間で、アルバザードで上層部に行くような人間はたいていこのタイプである。　教師をしていて、アルバザード式で自習する生徒が極稀にいるのだが、そういう人間はたいてい天才肌で、しばしば興味のないことは一切学習せず、興味のあることは異常に高得点を取ることが多い。たいていそういう学生は成績が偏っているのだが、オールラウンダーでできる生徒も極々稀にいる。　また、教師をしていてセレンはあることに気付いた。それは、アルバザード式の教育は誰にでも適応できるものではないということである。　頭の悪い人間というのはどうしても存在する。彼らに「なぜか」を考えさせようとしようものなら、いくら時間があっても足りない。どれだけ言っても理解せず、上辺しか理解しないのですぐ忘れる。底辺の学生というのはしばしばそうだ。　このような人間には詰め込み式というかパターンプラクティスが向く。アルバザード式は必ずしも万人にとって好都合ではない。地頭力が悪い人間には、むしろ考えさせると余計混乱させてしまうだけなので、「いいかお前ら、とにかくこういう問題が出たら何も考えなくていいからこう解け」とパターンプラクティスをさせるのが向いている。　要するに工場で単純作業をする底辺の人間と同じであり、こういう学生は「いいかこのベルトコンベアにこれが流れてきたらこれを乗せろ」というような単純作業のパターンプラクティスしができないし、それにしか向いていない。　アルバザードもそこら辺の事情を把握しており、下の学校ではパターンプラクティスの詰め込み学習が多い。上に行くほどアルバザード式学習が多くなる。　日本のように詰め込み式で物事の本質を考えない人間は、いくらお勉強ができても、東大には行けるかもしれないが、アルナ大には入れない。逆にアルナ大の人間は東大にも入れる。　・徳育重視　上で述べたように、アルバザードでは徳育を重視している。では具体的にどのように徳育を施すのか。　家庭や学校で何が正義かということを子供は教わる。子供の頃は親や教師の洗脳を受ける。子供の頃はそれでいい。ただ、成長するにつれて、自分なりの正義感を持つように自立させられる。　自分の目で社会を見て何が正義であるかを考え、それまでに教育された知識を駆使して自分なりの正義感を組み立てる。　アルバザードでは人徳がないと上の学校や会社に入れない。これは日本と決定的に異なる点である。アルバザード人はお勉強ができるだけの機械人間や欠陥人間に上層部に入ってきてほしくないと考えている。　コミュ障で勉強しかできない東大生でも日本ではしばしば良い会社に入って正社員として高い地位に甘んじられるが、アルバザードではそういうお勉強しかできない人間は職人と同レベルに見られる。アルバザードでは職人の地位は高いが、それでも社会の上層部には食い込まない。つまりアルバザードではお勉強しかできない人間は職人扱いされ、生きる機械のように扱われ、社会の上層部には行けない。　学力だけ高く自分の正義感や人徳を持ち合わせない人間は職人扱いされ、アルナ大のような名門校には入れない。代わりに、できる勉強の分野に合った専門学校に入り、そこから企業の研究開発職などに就く。名門大学卒でなく専門学校卒なので、日本よりも社会的地位は低く見られる。要するにアルバザードではお勉強しかできない人間は機械人間として歯車のように黙って働けとしか思われないわけである。　なぜそのような冷遇があるのかというと、それはアルバザードが徳育を重視しているためである。　勉強ができても人間性を兼ね揃えていない人間が社会の上層に行き国を動かすようなことがあっては遠からず国が滅ぶと考えられているからである。日本が好例であろう。　・人徳はどう評価するのか　学力テストと異なり、人徳は評価しづらい。どう点数を付けるのか。　これこそ教師の出番である。アルバザードは上で述べたように対話式の授業なので、教師が生徒一人ひとりとコミュニケーションを取る機会が多い。生徒と深く関わるため、生徒の人間性を把握できる。ひねくれてないか、相槌が打ってコミュニケーションが取れるか、他人の感情を無視して我利ばかり求めないか、協調的か、危険思想はないか、動物や同級生に対する蔑視や虐待の兆候はないかなど、その生徒個人の人間性を間近で見て取れる。　そうした対話式の授業を通じて教師は生徒の人間性を評価する。むろん教師も人間なので好き嫌いがあるから、公平な評価は約束されない。しかしアルバザードでも各科目ごとに専門の教師が教鞭をとるため、一人の生徒の人間性を各教科の教師それぞれが評価することになる。そのため贔屓があっても複数人が評価するので評価は平均化され、公平な評価が期待できる。　当然子供は教師に媚びを売るようになるが、教師は何千と生徒を見てきているので、そのような子供だましには乗らない。媚びを売るような態度は卑怯とみなされ、評価はむしろ下がる。　日本でも内申点という評価はあるが、人間性というよりは授業をいかにまじめに受けているかを評価されることが多い。　アルバザードの場合は対話を通して社会性に問題がないかなど、人間性を見られている。もちろん日本のように真面目で積極的で意欲的かといった項目も見られているが、アルバザードでは日本の内申点よりも広く人間性そのものが評価されている。　いくら学力が高くても人間性を伴っていない人間は上の学校には行けない。　たとえテストの点数が１００点でも、例えば人を小馬鹿にしたような性格の悪い人間が上の学校に行ってゆくゆく国を動かしていくなどということがあってはならないと考えられている。そういう性格に問題のある人間が社会の上に立って国を動かしていくと、長期的に見て国も政治も経済も腐っていくためである。　アルバザードでしばしば上に行く人間というのは、学力はもちろんあり、それでいて人間性が伴っている者である。他人のことを考え、利他的に行動できるか。機械人間のような職人ではなく、きちんと自分の言葉で自分の考えを表現し、人に伝えることができるか。精神が安定していてメンタルに異常がないか。ーーなどなど、そういった人間性の問題をクリアした人間だけが社会の上層部に行くことができる。　・徳育教育とアルバザード式「なぜ」学習の歴史　徳育教育とアルバザード式「なぜ」学習が流行ったのは jp 初期の学校建設のころと、μn でアシェットがリーザの指導のもと教育改革を行ったときと、ul でミロクが旧革命を起こしたときと、ls でセレンが革命を起こしたときの４回である。　その間は時折気が抜けて徳育の重要性が失われたり詰め込み式教育が行われたりして、日本と同じような状況になったことがある。　ただ、どの時代においても多くの上層部や学者は「なぜか」を考える学習法を実践してきた。徳育は時代によっては日本と同じく失われたこともあった。特に il でモンスターペアレントが現れて教師の権限が抑圧された頃が最悪だった。　・年齢ごとの教育

　アルバザード人は一般に子供の年齢に応じて次のような教育を施す。　５歳：才能を開花させるような訓練を始める。一流ピアニストだスケーターだというのは大体この時期から始めることが多い。５歳まではその子に何が合うのか見極める期間である。日本だと２歳くらいから習い事をさせる親もいる（アルバザードにもいるにはいるが）、２歳くらいだとその子の自我も確立しておらず、適性も分からない。５歳くらいになってくるとおおまかその子がどんな性格の子か分かる。そこで子供に合った一生ものの技能を習得させようとする。が、しばしば思春期になると子供が自分の意思で方向性を転向してしまうこともある。　１０歳：使命を与える。これは歴史的にリーザ、セレン、ミロクなど、１０歳で使命を与えられ全うしてきた偉人が多いため、アルバザード人は１０歳というのは偉人にとって自分の一生の使命を与えられる時期だと考えている。凡庸な者は使命を与えてもこなせず、転向してしまう。使命を与えるということは幼少期の親から至れり尽くせりを受けていた時代が終わり、徐々に自立を促される時期でもある。　１２歳：自立の時期。思春期の開始で、ここから ɒɪlſ になる。ɒɪlſ になると自立を促され、親からの庇護及び束縛が一気に緩まる。１２歳になるまでアルバザード人の親は子供を動物のように扱い、支配的に育てるが、１２歳になると個性や子供自身の意思を尊重するようになる。子供のうちは動物と同じで適正な判断ができないと考えられているため、親が価値観から正義感から着るものに至るまでどうあるべきかいちいち手塩にかけて世話してやる。また、１２歳になるまでは子供を猫のように可愛がり、スキンシップも非常に多い。子が親に逆らうことは許されず、親は必要に応じて言葉だけでなく折檻して教育しても良い。その代わり親は子供にあらゆることを手取り足取り教え、互いにベタベタとくっついて濃厚なスキンシップを取り、親は子を無償の愛で可愛がる。それが１２歳になるとなくなり、スキンシップは減り、親から与えられる無償のサービスも減り、子供は自分の意思で考え動くことを要求されるようになる。親との接点は徐々に減っていき、アルバザード人本来の個人主義になっていく。基本的にこの時期になると日本人から見てとたんにアルバザード人の親は放任主義に転向したかのように見える。要は動物の子離れのようなもので、それがこの国でははっきりした形で現れるということである。　１５歳：試練が与えられる。これは神話で偉人たちが１５歳くらいに何らかの試練を与えられてきたことが背景にある。子供は更に大人に近付くための試練を与えられ、それを乗り越える必要がある。親からの自立圧力も更に高まり、親との接点も減る。親は何かあったときのアドバイザー的な役割でしかなくなる。子供が負う家事手伝いの領分も増え、自立を促される。　２０歳：成人し、子供は親から完全に離れ、親の支配から完全に抜け、個人としての責任を負う。子供が２０歳になれば子供が何をしても親には一切関係がなくなる。親とは個人対個人の付き合いをし、支配関係はなくなる。むしろ親が後に老いれば子が親を扶養し、子が親を支配する関係に逆転することもある。

ɾellɟcnɟɔl ［名詞］教育番組 ［レベル］３　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ ［用例］ μjccl uɪμjɪſ ɪn cn ɾellɟcnɟɔl. 親は教育番組を無理に見させた。

ɾelllenɟ ［名詞］知的教養、教養 ［レベル］４　J0:ɒelcɑcɪ lceμ

ɾellɾeſ ［形容詞］背徳的な ［名詞］背徳感 ［反意語］hɪɟɟleſ ［レベル］４　μɑ;/　J?

ɾelɟ ［形容詞］卑怯な、狡猾な、卑劣、ずるい、汚い ［類義語］belnɪ ［反意語］(ccl ［類音］ɾell ［レベル］３　μɑ; ↓　1?: 制 :ſɔlɟ: 古 :ſeɔlɔ　belnɪ:belnɪ:belnɪ ［語法］ μɑ で ɾelɟ ができたときは belnɪ と同じ意味だったが、belnɪ のほうが強い意味になっていった。 ［用例］ ɪn nɪſ sɔ ɪ jɔɔl ɾelɟ lɪɪſ. 彼の卑怯なやり口に怒りを覚えた。

ɾelɟlele ［形容詞］ずる賢い、狡猾な ［レベル］４　1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

ɾeln ［名詞］性格、気性、気立て、気質、キャラクター、キャラ、人格、好み ［レベル］３　lɪ1ſɪ ［語法］　好みやタイプという意味でも使うので、ɪn jccnɪ ɾeln ſccl は「君の性格が好きだ」だけでなく、場合によっては「君の趣味はいいね」の意味にもなる。日本語より用法が広いので注意。 ［用例］ lecn ſcl ɾeln μɪſ ſcn enſɔ lcɔn jccnɪ lə. レインはとても性格が良いので、紫苑は彼女が好きだ。　ſcl ɾeln μəəɑ 気性が荒い

ɾelncɪ ［美容］逆毛 ［レベル］５　J1

ɾeluɟ ［普通動名詞］迎撃、応戦、抗戦 ［動詞］qəl を迎撃する、迎撃する ［レベル］４　μɑ;/　J0

ɾeluelɟ ［名詞］テルヴェルス　1L:ſel:uelɟ ［語法］ ミディート国のテロ組織。ルージュと出会う際に出会った。

ɾelɑμ ［名詞］逆光 ［レベル］３　J1

ɾelɒɪ ［政治］衆愚、愚民 ［レベル］５　ɑu;ſeɔlɔ/ʌɪɒɪ「愚かな大衆」　J?

ɾelɒɪɔlɒ ［政治］衆愚政治、衆愚政、衆愚制 ［レベル］５　μɑ;/　J0

ɾelɒed ［名詞］合わせ鏡 ［婉曲］レズビアン ［レベル］５　J0:ɒel: 合わせ鏡から、レズの意味も造語。鏡は女性の持ち物としてここでは女性のメトニミー。合わせるというのは、女性×女性の意味。

ɾelɑ ［名詞］見栄、虚勢、虚栄、虚栄心、虚仮、こけ、強がり、つよがり、見せかけ、みせかけ、はりぼて、ハリボテ、張りぼて、名ばかり、形だけ ［形容詞］こけおどしの、虚仮威しの、見えをはった、名ばかりの、形だけの ［形容詞］(ɾelɑɪn で）見栄っ張りな ［類義語］ucenʔɪɔ ［レベル］３　1?: 制 : 古 :ſeɔlɑɑɔ（偽物の宝石）。偽者の宝石を本物のように見せかけるというところから。 ［用例］ lɪ {cKjɒej} ɾelɑ μɪl. 彼は見栄っ張りだ。　lə ɪμɪſ ɾelɑ ɔ ɑce uepμ jcl μəl ɔl lɪl ɔnʔ ſəəj c ɑcɔnɪ. ただの強がりも嘘さえも、願えば『ほんとう』になるんじゃないかって思ったんだ。

ɾelɑjcnɟ ［動詞］qəl を ɪ に誇示する、誇示する、見せつける ［レベル］３　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

ɾelɑɒccμ ［論理］屁理屈 ［レベル］３　μɑ;/「見せかけの理屈」　J? ［語法］ 一見理屈らしい理屈に見えるが実際ははりぼてでしかなく、単なる見せかけの理論のことを指す。 ［用例］ lɪɑ{lə} ɾelɑɒccμ 屁理屈を言う

ɾelɑenɪɒ ［言語］［文字］オーバーシュート。O などの文字が小さく見えるためミーンラインより少し上、ベースラインより少し下にはみ出させること。　J1:「抗錯覚」

ɾelφɪμɒɪ ［企業］テルガルマ　J1:「反戦企業」 ［文化］ 三井物産に相当する企業。元は反戦団体。

ɾeldɪʔlel ［生物］承筋　J1

ɾelrɪɒ ［ユマナ］［宗教］プロテスタント　J0

ɾelμecn ［言語］［論理］逆説、逆説的な ［文頭純詞］逆説的に、しかしながら、そうとはいうものの、とはいえ ［反意語］hɪɟμecn ［レベル］４　J0: 逆らう線→逆らう流れ ［用例］ μɪɑel e ſə jencɪn eſ ʔɪlɔ enſɔ ɪn nɪ nɪə, ſɪl ſə eſ ɾelμecn lel ɪn ɪμ elɑ ſə. ゴールデンウィークの課題が少ないのは嬉しいが、逆にやる気が起きない。

ɾelzɪɒ ［俗語］レズビアン ［レベル］４　J0:ɒel:ſelɒed を登録した際、セレンの「ɾelɒed は婉曲じゃなく俗だと思った」という言葉を受け、「俗っぽくするなら ɾelzɪɒ だと思うよ。脚と脚を交差させるという感じでしょ」という生々しい説明とともに造語されたもの。

ɾelsccz ［論理］反命題、反対命題　μɑ;/　J?

ɾellɪz ［地学］［歴史］ペルム紀 ［レベル］６　ul;/　J? ［文化］ φɪɪueɑeɒe

ɾelɪ ［電算］電卓 ［レベル］３　1?: 制 : 古 :ſejdɪlɪlɪ（電気 / 数）［文化］ ɒel 1?J に ɑɪcɪ φɪɪuc が発明した。電子計算機はキャッシャーやコンピュータが既にあったが、卓上で簡単に計算できるものはこれが始めて。やがて計算尺を駆逐した。　画像はネットユーザーが J0 に制作したアルバザードの電卓ディスプレイ。交差しているところは表示上離れているけど内部では繋がっていることにして合計８セグメント。

ɾelɟ ［形容詞］物理的に汚い ［類義語］beφɔɪ ［反意語］uɪnſɪs ［レベル］３　J1:μcɑcɪ:ɑen lɪɟ{ɔs}（触るな）［語法］ beφɔɪ

ɾel ɪɑel ［娯楽］テルアデル ［レベル］３　J1 ［文化］『ドラゴンクエスト』に相当するゲーム。

ɾelɪhɪrl ［言語］電卓体　1L ［文化］ ſɪdhɪrl から作った書体。機械っぽさや無機質さを表現。

ɾelɪμʔ ［言語］逆接 ［レベル］４　μɑ;/「逆な接続（接続詞ではないので μʔc ではない）」　J?

ɾelcɑc ［美容］アンチエイジング ［レベル］５　J1

ɾeleſ ［代詞］［ɒuμ］あんたたちの ［レベル］１　J1:ʔlccz:ſelə1/ſe

ɾelejſcɪ ［歴史］［軍事］連合国、テレスティア ［レベル］４　ul;ſel/ejſ/ɑcɪ「その名に抗う土地」 ミ

ロクに抗う国々の意。　ɟl

ʃelen　[接続詞] ʃel　[レベル] 3　ɟ1

ʃelenuc　[名詞] 抵抗力　[レベル] 3　1L:ɥcɑcɪ:ɥbɪlelſ

ʃeləl　[代詞] [ɒɤɥ] あんたたち　[レベル] 1　ɟ1:lⅠccz:ʃɥə/ 古 ıl

ʃeɪ　[格詞] もし～なら。反実仮想。　[副詞] ～ではないけれど。反実仮想の副詞。　[レベル] 2　1Ⅰ: 制 : 古 :ɒɥəl/lı 無い存在　:::ʃıſſıoı,ıllſ　[語法]　ɔl　現実には起こらなかったこと、或いは未来的に起こりえるはずのないことを指す。　[用例]　ʃeɪ ın eſ lı, ɟɔn ın ʃın ɟɔſ uın ɟɔı. 私が彼の立場にあったら、やはり同じようにするだろう。　ın ɫe ʃeɪ. 私は行かないけど。　ʃeɪ lenɪ ej nɔl ı ɫıſſe clcɪ, lenɪ lcel ɫlepɪ ɥə ɟen uınɑ e ɥeſl. 一箇所に固まっていると、敵からの攻撃を受けたときに一網打尽にされやすいからね。

ʃeɪ(J)　[化学] アジド　1L:ʃeeze/ı

ʃeɪſ　[動詞] ɥəl をバラバラにする、バラバラにする、木っ端微塵にする、ぶっこわす、崩壊する、崩す　[類義語] ʃeɪſl　[レベル] 3　1Ⅰ: 制 :hıɥ:ʃeɪſɔl（バラバラにする）　[成句]　ınɒɪɑcɔ ej ʃeɪſ 覆水盆に還らず：四散したアルマディオは元に戻らないことから。

ʃeɪſlıɑ　[地球の国名] ミクロネシア連邦　1L: 散り散りなので

ʃeɪſɥcɪ　[地名] テアトリア海　[レベル] 4　J0:ɥcɑcɪ: 大破壊された海　[文化]　アルシェリア南～フレスティル西の海。ヴァステでミュールやアルカット大陸南岸が破壊されたことでできた。

ʃeɪſl　[普通動名詞] 大破壊、台なし、台無し、だいなし　[動詞] ɥəl を木っ端微塵にする、台無しになる、棒に振る　[類義語] ʃeɪſ　[レベル] 3　ɑ;ɑɔueſ　古 :ʃeɪſɔl,ʃeɪſl　[語法]　ʃeɪſl のほうが ʃeɪſ より強い。

ʃeɪɫelɒ　[医療] 排泄器　[レベル] 5　1L

ʃeɪd　[医療] 軟膏　[レベル] 3　lıⅠſı: 硬膏。「引き裂いて使う薬」？

ʃeɪl　[文末純詞] そうだろうかいやそんなはずがない。～ではないのだろうか、いやそうに違いない　[レベル] 2　[言語] 反語　1Ⅰ: 制 :ʃeɪ に古の l を付けた。「 正しいものか？ 」という意味。　[語法]　反語。肯定を否定に、否定を肯定に変える。肯定を強調する用法はない。　[用例]　ıɟɒcɯ uıɑeſ lcnɟ cɒ uıɟſe ʃeɪlδ アルミヴァはヴァステで悪魔に負けたのだろうか？いや、負けたはずがない。

ʃecⅠ　[名詞] テレビ　[レベル] 2　古 :ʃecⅠ（絵（短縮形が cⅠ）を伝える）　[文化]　テレビは今の日本よりずっと薄い。大抵は壁掛けで、重さもそう重くない。優れた液晶高画質画面である。液晶の見える角度は広く、ほぼ真横から見ても画像が見える。画素数は多く、色数も多い。映像もクリアである。画面はフラットで、歪曲はない。画面の大きさは大きく、三十インチは余裕で越える。大抵の家庭は一台しかテレビがない。或いはテレビがない家もある。大家族が多いので全員で見るときも画面が大きいので見やすい。アルバザードはあまりテレビに没頭しないので、チャンネル争いも起きない。　内容ごとにチャンネルが分かれている。ニュースチャンネルはニュースしか報道しない。教養チャンネルは教養番組しか報道しない。スポーツチャンネルはスポーツのみである。チャンネルは無料と有料のものがある。無料のものはどのテレビでも見れるが、有料のものは予め料金を支払っていないと見れない。ホテルなどのテレビは無料番組は見れるが、有料番組を見るときはフロントに申告して見れるようにしてもらう。そしてチェックアウト時に加算分を支払う。　有料と無料の違いであるが、娯楽性の少ないものが無料である。ニュースや教養や天気や交通情報などは無料であるが、スポーツ、バラエティ、アダルトなどは有料である。日本と違ってアダルトは規制がない。有料ではあるが、払えばいくらでも見れる。アダルトチャンネルを子供に見せたくなければそのチャンネルに支払わなければ良い。　トークショーやお笑いはあるが、日本とは違うタイプのお笑いなので注意。また、日本ほど発達したアニメがないため、アルティアからの輸入アニメを放送している。　尚、有料チャンネルはテレビごとではなく、世帯ごとに契約するものである。ある家がバラエティチャンネルと契約していれば、ケーブルを繋いだその家のどのテレビからでもそのチャンネルを見ることができる。　[用例]　ʃecⅠ ⅠIen bıl 壁掛けテレビ　ın Ⅰılɒı cn ʃecⅠ nə ɑcl μıl. よくテレビを見過ぎてしまう。　ın cnıſɔμ ʃecⅠ Ⅰɔnſ jɔ ɥəə. 何もせずテレビを見ていた。　ın cnıſ{jɒμıſ} ʃə uɒμſ lɔn ʃecⅠ cɒ ſɔlel. 昨日そのニュースをテレビで見た。「テレビで」の「で」は Ⅰɔn。「見かけた」であろうと ⅠɔnⅠ → ⅠɔnⅠ　ın Ⅰılɒı cn ʃecⅠ μıIel. 普段、テレビを見過ぎる。　ıɟəəs ınſ jccnı ʃecⅠ Ⅰcnel. 弟はテレビっこだ。　ın cn ʃecⅠ nə ʔ ɒcu ſıſ jel. 日に３時間テレビを見る。　ın ɑɟeɒ nelſ ı ʃecⅠ μıIel cɒ cn ʃə. テレビを見るときに近付きすぎる。　ın ɑlɔncⅠ c ʃecⅠ ıſc Ⅰıl. テレビから少し後ろに下がった。　ın Ⅰıcſ ɑɔ e ʃecⅠ. テレビの音量を上げた。　ın cjıſ ʃecⅠ lc uɒμſ ueeμ. 最後のニュースを見てからテレビを消した。　ın ɑen ıL ɒel l'ın cn ʃecⅠ. テレビを見る時間を減らさなければならない。　μjccl Ⅰılɒı sɔⅠ ın ɒın ın cn ʃecⅠ μıIel. テレビの見過ぎで親によく怒られる。　ın jeɑıſ ʃecⅠ lını lɔɔⅠ jen eɒ ıſc uecn. 会話の時間を増やすためにテレビを片付けた。　ın cnıſ ucl ʃecⅠ ɑɔl ɑcl. しばらくの間テレビを見れなかった。

ʃecⅠlı　[名詞] テレビ局　[レベル] 3　μſ;/　ɟl

ʃecⅠɥɔ　[名詞] ドラマ、テレビドラマ　[レベル] 2　ul;ʃecⅠ/lɥɔ「テレビ演劇」　古

ʃecj　[形容詞] 不正確な　[反意語] ʃıd　[レベル] 3　1Ⅰ: 制

ʃecn　[単位] １０の－３０乗　J1:lccſen

ʃeɔ　[感動詞] [形容詞] ちがう、いやだ、そうではない、もう、もうっ、だめ、ダメ、駄目、マズイ、まずい、マズい、ヤバイ、やばい、ヤバい　[感動詞] バツ、不正解　[レベル] 1　ɑ;e　赤

ʃeɔj　[形容詞] 遠慮がちな、控えめな、控え目な　[反意語] lcμſe　[レベル] 3　古 :ʃeɔj（いいえと言う）

ʃeɔn　[感動詞] あらいやだ、やだもう、お上手ね　[レベル] 2　古 :Ⅰɒccμ ız ɑəlɒccı:ʃeɔ/n（指小辞）　[語法]　誉められたときなどに謙遜していう言葉。女性のみ。男性は特にこれを意味する特定の感動詞を持たない。

ʃeɔnı　[形容詞] 間違った　[類義語] eucſ　[反意語] ılnı　[レベル] 3　ul:ɒcμɔⅠ;ʃeɔ/nı　J1　[語法] [文化]　ılɒccμ

ʃeɔɒ　[名詞] 永遠、永久　[数学] 無限、∞　[形容詞] 無限の、未来永劫、永遠の　[副詞] 永遠に、ずっと、永久に、いつまでも、終始、始終、終日　[反意語] ıllɒcɒ　[レベル] 3　1Ⅰ: 制 :ʃeɒj　[語法]　ʃeel　[文化]　→ ɑcıılL　μɑ でセレンは無限は現実世界には存在せず、認知世界と数学世界などにのみ存在すると主張した。　・子供のころの記憶　幼稚園のとき、帰りのバスで友達と「無限と無量大数はどちらが大きいか」で議論になった。お互い父親に聞いたが、当時はネットがないしウチの父親は理系でないので頼りにならなかったように思う。そう考えると今ウチの５歳の娘がやたら高度なことを話しているのもそこまで驚くことじゃないのかなとも思う。

ʃeɔɒɟıe　[気象] 万年雪、根雪　[レベル] 5　μɑ;/「永遠の雪」　ɟl

ʃeɔɒɟɔuɔ　[数学] 無限小数　[レベル] 4　ɟl　[文化]　ɑcıılL

ʃeɔɒɒcμj　[論理] 水掛け論　[レベル] 5　1Ⅰ: 制 : 永遠に続く論

ʃeɔɒccμ　[形容詞] 間違った　[類義語] eucſ　[反意語] ılɒccμ　[レベル] 3　ul:ɒcμɔⅠ;ʃeɔ/ɒccμ　J1　[語法] [文化]　ılɒccμ

ʃeɔl　[名詞] ウィット、機知　[レベル] 4　1Ⅰ: 制 : 非 ʃeelſ 無用な争いを避ける 」　[語法]　気まずさや相手の無神経な言動、攻撃的な態度などをやんわりとかわして、その場の空気を和らげたり自分に有利な情勢をもたらしたりする、気のきいた言葉やしゃれがとっさに出せる才知。　[用例]　ʃcl ʃeɔl 機知に富む、ウィットがある

ʃeɔlɔ　[名詞] アホ、あほ、阿呆、ばか、バカ、馬鹿　[感動詞] バカ、アホ　[類義語] bıı, bıın, berl, lecſ, beɔlɔ　[レベル] 1　古 :ʃeɔlɔɔ,ʃeɔlɔ　[語法]　悪意がなく、親しみが篭っている。

ʃeɔlɔn　[名詞] テオロン　[レベル] 5　古 :ⅠlccZ:ʃeɔlɔ（馬鹿）/ 指小辞 n。英語・日本語ではバカーズ。　[文化]　ランティスのセレン・オヴィ・ギル・ザナの総称。　[成句]　ɥən ʃeɔlɔn 気が置けない、気の置けない

ʃee　[感動詞] ʃeɔ の口語体。非常によく使う。固さを感じない言い方。　[レベル] 1　古　[用例]　ʃee ɔn ʃə e. それは違います。

ʃeeſ　[名詞] 性質　[反意語] ⅠɔɔⅠ　[レベル] 3　1Ⅰ: 制

ʃeeſcj　[魔物] テーティス（風竜）: 第二十四天 : 風の衛天　[レベル] 5　1L:μcɑcı/jeμen/ɒel:ʃeeze/ɑμeſcj　[文化]　風属性の飛竜。非常に細見で骨ばっている。爪が異様に長く鋭く、カマイタチのように高速で獲物を切り刻む。木に潜むため、肌は緑色。

ʃeeſcı　[宗教] テーティア　[レベル] 3　古 :ʃeſcı, ʃeeſcı ← ʃeeɒjſcı　[文化]　leſcj

ʃeeⅠ　[物理] ワープ、時空間移動、瞬間移動　[魔法] テーク（ルーラ、リレミト、テレポ、デジョン）。秘術のひとつ。パールが使える。一瞬にして自分の馴染みある場所に移動できる。　[レベル] 3　古 :ʃeeⅠ（ワープ）← ʃeeze（風）/le（行く）。風のように速く行くというところから。　[レベル] 3　[成句]　ɒclL ʃeeⅠr 遅刻しちゃう！：直訳すると「テークがほしい」。

ʃeel　[名詞] 扇、うちわ、団扇、ファン　[名詞] 扇形のもの　[数学] おうぎ形　[動詞] ɥəl を扇ぐ、扇ぐ、煽ぐ、あおぐ　[レベル] 3　zφ; ↓　1Ⅰ: 制 : 古 :ʃeezeⅠılə（風の紙）　ʃeel:ʃeel　[成句]　eleſ μıIen ʃeel 扇の向こうの表情：読めない腹の底。jɒ_μɑ の貴族（特に女性）が表情をあらわにするのをはしたないと感じた結果、扇で笑うときなどに顔を隠していたことから。なお、扇は貴族の装飾品でもあったため、絢爛な扇を見せびらかす目的もあった模様。　[文化]　神々は温度調節を魔法で行うので扇は必要なかった。zφ で魔力の弱い下層民が魔法で涼むよりも手で涼んだほうが楽と判断した結果編み出された。　当時は今の扇型をしておらず、旗のような形で、jɒ まで続いた。　jɒ でカレンシアができて団扇や扇型のものが凪からもたらされ、貴族の間で流行った。　アルバザードでは団扇はレア。ほとんどが扇で、開閉のできる扇子。デザイン性が高く、携帯しやすい。　夏はほとんどの人が携帯する。暑さが本格化するディアセル以降によく使われる。そのため、ディアセルにデートを申し込む際、扇に愛の言葉を書いて贈ることがある。何も書かなくてもかまわない。ただし、日本のラブレターと違ってロッカーに置いておくということはなく、手渡しする。　[成句]　lınſ ʃeel ı ı に扇を贈る。ディアセルに誘う。夏に告白する　[用例]　☆ "jıı ɑeμ le ʃeeɟɔμ nɔj uejel dın jcſ hıſcı ɑız en ʃeel e ɑcıjel lənıⅠ ſccj"「さぁ、ディアセルに扇を贈る相手もなく、自分で自分を扇いでいる俺が来ましたよ」

ʃeelⅠı　[地学] 扇状地　[レベル] 4　1L

ʃeelhɔⅠ　[動物] 帆立貝、ホタテガイ、ほたてがい、ホタテ、ほたて、帆立　[レベル] 3　1Ⅰ: 制 : 扇の貝

ʃeej　[動詞] ɥəl を否定する、否定する、否認する　[普通動名詞] 否定、否認　[形容詞] 否定的、否定的な。ʃeejın で。　[論理] 裏　[反意語] ⅠɔɔⅠ　[レベル] 3　1L: 古 ʃee/jɔ（ダメ、する）

ʃeejuɔⅠ　[言語] 否定文　[レベル] 4　1L

ʃeejɒccμ　[論理] 反論　[レベル] 4　J0

ʃeen　[μɒnſe] ʃee、ʃee のユンク語　[レベル] 2　古

ʃeeue　[悪魔] テーヴェ　[歳時記] 木曜日。週の第４日目。　[音楽] ファ　[組み数字] 4 / 7　[レベル] 2　ɒelſcı 0:ʃeeue;e　jɔμn: アルシェ形は ʃəəe。ʃə は土。əə が ee に変わったのは恐らく母音調和。　[文化]　ソームの４番目。性別がない。無言のゴーレム。土を操る。土でできた巨大なゴーレム。知能がない。

ʃeueɑμeıɑɔl　[地学] クロム鉄鉱　1L

ʃeeuelcl　[化学] クロム　[レベル] 4　1Λ: 制

ʃeeɒɟ　[悪魔] テームス　[シェルト] テームス、永駒　[レベル] 2　ɒelſcı 0:jııl;e　古　[文化]　悪魔の王ならびに母。ユーマが生まれたことで生じた世界の歪み。悪魔の死骸でできた塊の姿。黒と灰色の球体。会話不可能。宇宙に住む。殺された悪魔を胎内に宿し、再び産み出す。意思を持たず、ひたすら悪魔の復活を行う。蟲動を繰り返し、こけらとしてアデルを産む。ヴァステでアルミヴァに封印された。カコで復活しメテに封印された。μɑ で復活し、アシェットに滅ぼされた。死と同時に復活し、ユーマ・アルテと対を成す存在になった（ɥəəɒı 参照）。　太陽を司る。太陽の黒点になる。　＜誕生の経緯＞　ユーマ誕生後、世界の歪みについては誰もが不安を抱かずに過ごしていた。しかし誰も知らないところで世界の歪みは起こっていた。歪みの原因はユーマである。サールもエルトも気付くことはなかったが、ユーマの存在は世界の歪みを引き起こしていた。世界に起こった歪みは強大な存在を生み出した。それは終わることなく尽きることのない巨大な存在であった。アルデはそれをテームスと呼んだ。テームスは始めに悪魔アルマを生んだ。悪魔アルマはヴィードのアルマを思うままに操ることができた。次にテームスは悪魔フレスティア、悪魔ヴァルテ、悪魔ブレイス・クレートを生んだ。フレスティアはユノを操り、ヴァルテはヴィルを操り、ブレイスとクレートの２人はノアを操った。テームスは更にフレスティアの下に悪魔ホーラ、悪魔プスホーラ、悪魔テクラ、悪魔インプラを生んだ。これらは順に、赤い霊力、青い霊力、緑の霊力、黄色の霊力を操る者である。同時にテームスはヴァルテの下に悪魔ミダン、悪魔ヴェンシートを生み、更に９匹の悪魔ソームを生んだ。ミダンは聖の魔法を操り、ヴェンシートは邪の魔法を操った。尚、ソームの内訳は闇の悪魔ヴェルム、水の悪魔エルヴァ、風の悪魔サティ、土の悪魔テーヴェ、炎の悪魔ベーゼル、雷の悪魔イルヴァ、光の悪魔パルトである。彼らはいずれも強力なヴィードを操るテームスで、アルテを凌駕した。　フレスティアから始まるこれらの悪魔をまとめてヴィルテといい、ヴィルテにアルマを加えたものをアルヴァという。更にテームスは名もない悪魔を無数に生み出していった。これらをまとめてテームスと呼ぶ。そしてこうしたテームスたちを生み出すと、一旦は活動を止めた。テームスは多種多様であった。言語を司る悪魔エルトや時間を司る悪魔メルティアのようにテームスが存在し続けるために必要なこの世界を支える重大な役目を負っている者もいる。その一方で役目を持たずに自由意志で動く剣士キルセレスのようなものもいる。あるテームスは宇宙にいて何もしないが、ある者はアトラスに降りていき、アルテを襲うことがあった。エルトとサールはいがみあっていたが、より強大な存在であるテームスの出現によって一時的に団結し、共にテームスを討とうとした。こうして神と悪魔の戦いであるヴァステが勃発することとなった。　[成句]　ʃee ɒj μıuel また現れたテームス：元の木阿弥

ʃeeɒɟleſſ　[歳時記] 閏月、うるう月　[レベル] 5　μɑ;/eeɒjjıſſ からの類推。　ɟl

ʃeeɒjjıſſ　[歳時記] 閏年、うるう年　[レベル] 3　μɑ;/「テームスの日で終わる年」　ɟl

ʃeeɒjjel　[歳時記] 閏日、うるう日、テームスの日、大晦日　[レベル] 3　μɑ;/　ɟl

ʃeeɒjscn　[歳時記] 閏秒、うるう秒　[レベル] 5　μɑ;/eeɒjjıſſ からの類推。　ɟl

ʃeed,ɑu　1000　ʃel/dılılı

ʃeebe　[被服] 法衣、テーベ、羽衣　[レベル] 3　古 :ʃeebe（法衣）← ʃeezejıbe（風の服）　[語法]　ʃeebe は風になびくほど余りの部分がある服。ɑlɔj はバスローブのようになびかないもの。　[文化]　ひらひらした長いワンピースの服。風にたなびくような長めのワンピースを指す。ただ布を巻いて縫ったようなもので、ɒelſe のように肌にぴったりフィットするようなものではない。袖や裾が余り、全体的にだぶだぶで、それゆえ風に舞いやすい服を指す。宗教に用いなくても良い。そういう服の種類をいう。元はアルティス教徒の男性用の服だが、アルバザードでは礼服だけでなく普段着としても活躍している。女性が着ても全く違和感がない。

ʃeeɥə　[感動詞] [μɒnſe] すみません、ごめんなさい、なんていいましたか？、えっ？　[類音] ʃee, ʃeeɔ, ʃeɔ　[レベル] 1　J0: 右記 ʃeeɑə から。　参考 :ʃeeɑ:1Ⅰ:jɔμn:ʃeeɑə（悪いことを許す）が原義で、それを始めから人為的に音を変えて作った造語。だから ʃeeɑə という語形で実用されたことはない。ʃeeɑ は ʃeeu と区別できないので変更。　[語法]　denſ, uınſ, lınſeδ など、なんにでも使える。

ʃeeɥe　[感動詞] ノーサンキュー、いいえありがとう　[動詞] ɥəl を辞退する、辞退する、辞去する、断る、拒否する、拒絶する、遠慮する。お礼を言って断ること。　[普通動名詞] 辞退、辞去、遠慮、拒否、拒絶　[レベル] 2　ſɒ;/eɔ/jeeɥe　1Ⅰ: 制 :ʃeɔ と jeeɥe の鞄語　ʃeeɥe:ʃeeɥe:ʃeeɥe　[成句]　ʃeeɥe bıj. ご遠慮なく、遠慮しないで。

ʃeeze　[気象] 風、気流　[魔法] テーゼ（エアロ）。風の多段黒魔法。風の刃で敵を切り刻む。　[数学] 平行四辺形→ ʃeezecⅠıl　[名詞] 様式、～式、～風 : 赤アンクノットのころから続く伝統的な用法。　[歳時記] 二気ないし六候で一月　[動詞] ɥəl に送風する、送風する、風を送る　[類義語] ɑlınſ　[レベル] 1　ɑ;ʃe は風の ɑıcı　先　ʃeeze:ʃeeze:lı ɑɔn(jıſcc) :jıoı,ıllſ　[成句]　ʃeeze leɑ lɔj ゾッとする　[用例]　ʃeeze ucen{ʃcn} 強い風　ʃeeze eɒ jɔn{ɥ}. 風が起こる。　ʃeeze eɒ ɥ{cj}. 風が吹く { やむ }。　ʃeeze ɒc ıſə ɒeμel. 風がまったくなかった。　ʃeeze ınɑ ɥ ucenel. 風が強く吹いている。　ın nıſ led ı lə̀l ɒcl ʃeeze ucen. 強い風のせいで歩くのが困難だった。　ın ləlıſ ɑıl ſel ʃeeze. 風に向かって歩かなくてはならなかった。　ʃeeze cl cun. 風が静まった。　ınj nıſ ɑccſ ɒcl ʃeeze ſ'ıleı. 浜風が私たちの体を冷やしてくれた。　ʃeeze ınɑ ɥ ucenel. 風が強く吹いている。　ʃeeze eſ ucen ɔ jɔμſ cɒ ɑcj. 今日は風が強くて冷たい。　ʃeeze pıφınɑ μı. 風が家を揺らしている。

ʃeezeſejl　[名詞] 風力発電　[レベル] 4　μſ;/　J0

ʃeezeſejⅠı　[名詞] 風力発電所　[レベル] 4　μſ;/　J0

ʃeezen　[人名] テーゼン　[気象] 偏西風 :1L:μcɑcı:ɥbɪlelſ　[組み数字] 3 / 1 1　[レベル] 3　古 :μcɑcı:ʃeeze（風）/n（指小辞）　[文化]　アルシアの３番目。風の魔法の大成者。女性。

ʃeezeucın　[名詞] 風力　[レベル] 4　μɑ;/　J0

ʃeezelcl　[化学] 窒素　[レベル] 4　1L

ʃeezelɔɑ　[物理] 風洞　μſ;/「風のトンネル」　ɟl　[文化]　人工的に小規模な流れを発生させ、実際の流れ場を再現・観測する装置ないし施設。μſ で作られ、航空機の発達とともに発展してきた。

ʃeezecⅠıl　[数学] 平行四辺形　[レベル] 3　1L: 風に吹かれて横に薙がれたような四角形。　[語法]　通常 ʃeeze のみで使う。

ʃeezəɟ　[人名] テーズス　J0　[文化]　(ɥəəɒı ϧOLΔ:) メルテナ後期のエスピール派教皇。

ʃees ［地名］テージュ海、夕月海 ［レベル］3 μɕɑɕɪ: 古 :ʃeeɒʃɜcɲɪ（テームスの空）［文化］ アルバザードの南にある海。μɑ で巨人が復活して暴れまわった場所であり、それ以前はヴァステにおいてデームスが空から降ってきた場所である。リディアの時代にはデームスはテージュより少し北、アルバザードの上空アルテージュから降ってくる。

ʃeesʃɪnl ［料理］うどん ［レベル］3 1L ［文化］ 利食。アルバザードは軟水が湧くため、昆布と相性が良く、その結果、うどんが発達した。最初はパスタの一類であったが、後にアルティア人が醤油汁に入れて食べているのがナディアで紹介され、日本と同じようなうどんができるに至った。昆布の取れるテージュ海でできたため、テージュ麺と名付けられた。 ［用例］ ɔɔc{len} ʃeesʃɪnl うどんを啜る。jcd にすると啜るという動作を強調している。ふつうは ɔɔc を使う。jcd は啜る動作を強調するときだけ使う。

ʃeesʃleeu ［地学］［気象］西岸海洋性気候区、C f c 区 ［レベル］4 1L:μɕɑɕɪ:ɥbɪlelʃ

ʃeesɥ ［天文］軌道エレベーター ［レベル］5 J1:ʃees/ɥ（テージュ機械）。悪魔が降りてきたトンネルのテージュとよく似ていることから。

ʃeel ［エルト］［サール］テール ［名詞］運命 ［形容詞］運命的な、お決まりの ［法副詞］～せざるをえない、どうしても～してしまう。宿命として抗っても仕方がなくしてしまうというニュアンス。自分の意思というより宿命としてやったというニュアンス。 ［名詞］お約束。文字通り約束の意味ではなく、「幼馴染みがヒロインとかお約束すぎる」という場合のお約束のこと。 ［形容詞］いつか来る ［類義語］ɪlʃeɔɒ、ueɪnʃ ［反意語］ɪlʃeel ［レベル］2 ɑəlɒccɪ: 古 ［語法］ ʃeel と ɪlʃ eɔɒ の違い。ʃeel は「いつかくる」という意味なので、必ず開始が存在するという意味。ɪlʃe ɔɒ は必ず終了が存在するという意味。開始と終了のどちらに視点を置くかの違い。 ［文化］ 生命を持った２枚のカード。１枚はエルトでもう１枚はサール。エルトが出るかサールが出るかで人の運命が分かれる。 ［成句］ cl lɪ ʃeel. すべてはテールのカードの上にある：なるようになるさ。ケセラセラ。 uɔμʃ ʃeel いつか来る死 uɔμʃ e ʃeel 運命の死（この句の意味は定かではない。単に上記と意味が異なることを指しただけ） ʃeel μjɕʃ ʃeel 塞翁が馬 ［用例］ lɪ uɔμʃɪʃ ʃeel ɒcl ʃcɑɪʃc. 彼は貧しくて死なざるをえなかった。

ʃeelueʃ ［言語］メルテーブル、メルテーブルによってできた語 ［レベル］3 J0: もう一枚の言葉 ［語法］ http://constructed-language.org/arka/study_mav_11.html

ʃeelbɪɑc ［娯楽］テール・マディ、運命の指輪 ［娯楽］リアルタイム戦略シミュレーションゲーム、R T S ← ɩɑɔlbeluɪjɪnɔɔjcnllcɩɑ ［類義語］ɩɑɔlbeluɪjɪnɔɔjcnllcɩɑ ［レベル］5 ɪl; ［運命の指輪］ ʃʔ ［文化］ ɪl で発売されたリアルタイム戦略シミュレーションゲーム。リアルタイム戦略シミュレーションゲームの代表作となったため、同ジャンルを指す名前になっている。

ʃeeɪ ［エルト］テーア ［動詞］ɥəl に復讐する、復讐する、報復する ［普通動名詞］復讐、報復、仕返し ［レベル］3 μɕɑɕɪ: 古 ［文化］ 皆殺しのジオによって家族を殺された少女。テーアはジオへの復讐を誓い、復讐の機会をエルトに祈り続けた。見かねたエルトたちはテーアが祈り始めて４４４４日目が来たときに彼女をエルトにした。その後テーアはエルトの力を得、ジオに復讐を果たした。 ［成句］ ɩɪc ʃeeɪ uɪn bɪzʔ 覚えてろ！、覚えてやがれ！

ʃeeɔ ［感動詞］だーめ、いーえ ［レベル］1 古 ［語法］ ʃeɔ より間延びした感じで、柔らかい感じを受ける。或いは ʃee の部分が強調されれば逆に強い否定に感じる。

ʃea ［接続詞］［μenʃe］ael ［レベル］1 1L: アシェット女子 :ɑel の弱化。

ʃə ［代詞］［形容詞］これ、この。前置。 ［代詞］lə。人をこき下ろして物扱いした言い方。 ［反意語］le ［レベル］1 古 :ʃə, bɪle bɪle,ɑ oɪle,ɑ scɪe,ɑu:ɪɑ,lɥ ʃə,ljɑ（これ）, lə,ljɑ_ɪμɑ（それ）:ʃə,jɛɟ (ʃə,ljɑ から シージャル戦争で借入。lɪl まで「これ」。後に中性定冠詞となる）ʃəʃ,lɪl ʃə,lʃɑ:ɔ,ɪlʃ ［語法］ ・人でも ʃə になるケース 通常無生物を受けるが、電話などで「こちら」という意味になるときは人でも ʃə を使うことがある。 ʃcɩnʃe, ʃə eʃ lcɔn ɪɪɪɔ. もしもし、こちら紫苑です。 ・名前を受けるときは ʃə "hɪlɪɪ ɒcjʃ ʃɔyδ ɒecɑ jeμ ɒɔɪ ɒcejʃ hɪlɪɪn. ʃə eʃ lcɔn, ɪl ɒɪlcɪδ"「何をなさっているのですか。もうお名前は存じております。紫苑、ですよね？」 この ʃə は ɒcejʃ hɪlɪɪn（あなたのお名前）を受けている。I k n o w y o u r n a m e. I t i s S h i o n, i s n ʼ t i t？における I t と同じと考えればよい。名前は無生物なので、ʃə で受けることになる。 むろん ʃə が ejʃ でなく lcɔn 本人を受ける場合は、ʃɥə eʃ lcɔn jeʃeδ のように有生人称代名詞を用いる。 ・照応 照応で一度 ʃə を使った後、同一文中で別の名詞を受けるときは距離に関係なく le を使う。逆に文中で le を使われている間は、別の遠くのものを指すときであっても le でなく ʃə を使う。 ʃə と le しかないので、無生物は同時に３つ以上照応させることはできない。ʃəəbe や ʃəəɒc や ʃəəj にして元の ʃə が代理している名詞のことしか指せない。ɪn jccnɪ ɒccl. ʃə eʃ ʃɔʃɔ. の ʃə は ɒccl であり、これを ʃəəj にしようが ʃəəbe にしようがリンゴでしかない。もちろん ʃəəj にすることで数は変わる。 ・時間を指す ʃə １０月に t h i s A u g u s t と言った今年ではなく来年の８月を英語では指す。t h i s は未来を指す。過去は指せない。 一方アルカでは、dɪɪl の月に ʃə μɪlɑəμɪ と言った場合、その年一年を範囲として ʃə と呼んでいるので、ʃə μɪlɑəμɪ といえば二ヶ月前の μɪlɑəμɪ の月を指すことになる。 英語では月単位に t h i s がかかり、アルカでは年単位に ʃə（この）がかかるのであろう。 日本語の場合、「この８月に」と言えば、せいぜい６, ７, ８月にしか使えず、月が離れると「今年の」とか「今度の」といった言い方に変わるのが自然である。日本語の「この８月」は現在が８月に近くないと言いづらい。どうも幻日英でそれぞれの語法があるようだ。 アルカの場合は一年などある範囲を決めて、その範囲の中であれば過去でも未来でも近くても遠くても ʃə で指せるようである。ɪnj μɪljɪʃ lɔ) cɒ ʃə μɪlɑəμɪ とも ɪnj ɒɪlj jcl cɒ ʃə μɪlɑəμɪ ともいえる。それがたとえ何月であろうと年内であれば。また、年内でなくとも、この句の元の意味は「その年のラルドゥラの月に」という意味なので、話者のいる時間軸とずれていても、指示している時間の範囲がいつなのか分かっていれば問題なく使うことができる。 ［用例］ ʃə ɒccl このりんご ʃə eʃ ɒccl. これはりんごです。

ʃə,lɪl 中性定冠詞 ʃə（それまで使っていた無生三人称代名詞「それ」から来ている）

ʃə,lʃɑ ʃə ʃəʃ,lɪl.lcl

ʃə,ljɑ ʃən bə,ɑu.l

ʃə,ɪlʃ ʃenɔ, e

ʃəʃ,lɪl ʃə ʃə/ʃə

ʃəlʃc ［サール］トゥッティ ［レベル］3 古 ［文化］ アルデスとテュアの三男。地の龍。ʃɔɔl と人型を使い分ける。

ʃəlʃcuɪɪn ［軍事］陸軍 ［レベル］4 1L: 地の龍トゥッティの軍

ʃəlʃcɪ ［建築］［地名］［ランドマーク］トゥッティアの長城、トゥッティア ［レベル］3 zφ;ʃəlʃc。平地に長く建てられたさまが寝そべっている地の竜に見えたことから。 ʃʔ ［文化］ ɥəəɒɪ ɪʔʃ ヴェルディア軍はハクシウス軍がケートを奪還しにくるだろうことを想定し、ケートとハクシウス間に対地対空両用の迎撃砦を築きはじめる。ケートとハクシウスの間に作られたのは主に飛竜兵に対抗するためのジンティアの長城で、その後方にさらに長大なトゥッティアの長城を建設しだした。後者はレスティル国の力を見せつけるという目的のほか、ケートが陥落したときに本来のレスティル領が侵略されないよう築いたもので、更にはレスティルに併合されたケートイア人の反乱を恐れて築いたものでもある。後にこれがケートイア建国の際、アルバザードとの国境線となる。建設は急ピッチで進められたが、ハクシウス軍は完成を恐れ、1ʔJ 年に進軍。長城は間に合わなかったものの、1ʔJ 年の進軍が失敗に終わったことでレスティルは難を逃れた。 ɥəəɒɪ JʔΔ ジンティアの長城が完成 ɥəəɒɪ ʔΔL トゥッティアの長城が完成

ʃəʃə ［代詞］［μenʃe］これら ［類義語］ɪnʃəʃə ［レベル］1 1L:μɕɑɕɪ

ʃəʃəl ［代詞］［μenʃe］これらの、これらのもの ［類義語］ɪnʃəʃəl ［レベル］1 1L:ʃəʃə/ʃəəl

ʃəl ［植物］植物 ［反意語］ɔəɒ ［レベル］2 μɑ 1L:ʃəɔəc ɒəɒ:ɒəɒ

ʃəɔlɪ ［名詞］植物園 ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ

ʃəɔjɪd ［名詞］二酸化炭素の日常表現、二酸化炭素 ［レベル］4 1L:clbəj:μɕɑɕɪ: 植物が（昼に使う）空気

ʃəɔnɔl ［地学］植生 ［レベル］5 1L

ʃəɔucnl ［建築］生垣、生け垣、垣根 ［レベル］5 1L

ʃəɔɑcɪɒ ［生物］植物界 ［レベル］5 JJ

ʃəɔɪ ［物理］場 ［レベル］5 ul;ʃəɔ/ɪ「物理学上の場」 Jʔ

ʃəɔcnc ［植物］毛茸 μɑ;/ JM

ʃəɔeɒj ［料理］植物油 ［レベル］5 1L:μɕɑɕɪ:ɥbɪlelʃ ［文化］ アルバザードはオリーブが多く採れるため、オリーブ油を主に指す。

ʃəɔəc ［農耕］［植物］穀物 ［レベル］4 古 :hɥ:ʃəɔəc（食用植物）。ʃə（土の）/ɔəc（食べ物）。「土が作った食べ物」 ［文化］ アルバザードでは主に小麦、大麦、ライ麦、米などを指す。

ʃəɔelʃ ［名詞］今月 ［レベル］2 μɑ;/ Jʔ

ʃəj ［名詞］大きさ、サイズ。具体的な大きさ。 ［文字］級数、ポイント← hɪɪdɪnʃʃəj ［類義語］ʔɪlhɪ ［レベル］2 制 ［用例］ ʃəj ʃcnʔɪ キングサイズ、クイーンサイズ

ʃəjuʔl ［農耕］半農半牧、混合農業 ［レベル］4 1L:μɕɑɕɪ:ɥbɪlelʃ

ʃəjɪlʃ ［名詞］今年 ［レベル］2 μɑ;/ Jʔ

ʃəjɔɔʃ ［名詞］今週 ［レベル］2 μɑ;/ Jʔ

ʃəjel ［名詞］この日 ［レベル］2

ʃən ［名詞］修飾終点 ［数学］括弧閉じ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ʃeɥ bə ないし ʃeɥ ʃə の ʃə から bə:ʃə:ʃɥə ［語法］ ʃce

ʃən,lɪɑ ひとつの。単数形を示す。 ʃə ʃenɔ「これの」

ʃən,ljʔ これの、中性不定冠詞→ ʃcɩɥen

ʃən,ljɑ これの ʃə の属格

ʃənj ［農耕］農耕、農業 ［レベル］3 1L:jeɥen:ʃəənɔ/jɔ ［文化］ 郊外に農地は密集している。そのため、市と市の間にある工場や道路から出る汚染物質から隔離され、きれいな水と空気で育まれる。自給率は高く、輸入に依存しない国である。

ʃənɪ 風土 古 :ʃəənɔ 土から

ʃənɪ,ɑ leʃʃe jɪɪl;ʃəənɔ

ʃənɪj ［地名］トゥナス ［レベル］5 1ʔ:ʃənɔ（土）から ［文化］ ソーンの使徒ヴァシウの支配地。

ʃənɪj(J) ［アトラスの国家］トゥナス ［レベル］5 制 ［文化］ 面積：ʔP0ΔLM.L0ʔJM1 ʔɒ J

ʃəuɪn ［天文］上弦と満月の間、凸月 ［名詞］北東、東北 ［組み数字］4 / 8 ［レベル］2 1M: 制 :jɔμn:ʃ uɪn ［文化］ lelʃeel

ʃəuɪnucɒ ［生物］前鋸筋 ［レベル］6 JM<JJ:ʃəuɪnucɒe と leeueucɒe で拮抗させている。ʃəuɪn と leeue が逆の月であることを利用している。この ʃəuɪn は弓道の打ち起しのことで、打起こしから会に至る間に前鋸筋を使うことから。ちなみに前鋸筋は会でももちろん使うが、弦の戻ろうとする張力をモロに受けるのはむしろ前鋸筋の拮抗筋である菱形筋。実際、弓道の稽古をしていて初心者が痛めやすいのは前鋸筋（横っ腹のほう）より菱形筋（背中のほう）であることからも、会で負荷がかかるのは前鋸筋より菱形筋であることが分かる。そして leeue が会を意味することから、菱形筋が leeueucɒe となる。

ʃəuɪnlcl ［化学］モリブデン 1Δ: 制

ʃəuɪl ［形容詞］十分な、充足した ［形容詞］心が満ち足りた ［副詞］十分に、ひとしきり、ひととおり、ひと通り、一通り ［動詞］ɥəl を概ね満たす、概ね満たす、十分にさせる、満たす ［反意語］jes ［レベル］2 1L:ʃəuɪl（満ちつつある月） ［用例］ enʃ, ɒel ʃəμ ʃəuɪl. ごゆっくり。時間は十分ある。 ɪn ɑelɪʃ ʃəuɪlel. 十分勉強した。

ʃəμ ［名詞］今、現在 ［法副詞］現在時制の副詞 ［動詞］今 ɥəl である、である。現在時制の繋辞。 ［形容詞］現在の、現行の ［名詞］今回。動詞が過去形になっているのに ʃəμ が来ていたら、確実にこの意味。 ［文頭純詞］さぁ、じゃあ、それでは ［軍事］［形容詞］［法副詞］現在の、本～（本作戦など）: 軍隊では時制や相をできるだけ明示する特殊な位相を使う。 ［レベル］1 1L: 恣意だが、ʃə は「この」の意味。 ［成句］ c ʃəμ 今後 ɪlɪlʃ ʃəμ 今のところ、目下 ʃə ʃəμ この今、ちょうど今 ［用例］ cn ʃəμ 現実を直視する ɪɒcμ ʃəμ 現在の夫 ɪn ʔe ʃəμ. 今行くよ ʃəμ, ɪnj ʔe lccɪ. さぁ、行こうか。 bɪlʃcμ uɪnɑɔμ ʃəμ ɪμɪ. 大佐が基地を攻撃中であります。 ʃəμ eʃ μ ɑleɪ nɪʔeɪ ɪʃə lɪn. こっちでは夏休み前なのね。

ʃəμɑelɪn ［名詞］在校生 ［レベル］4 1L:μɕɑɕɪ:ɥbɪlelʃ

ʃəμɒel ［言語］現在時制 ［名詞］現在 ［レベル］4 J1

ʃəμφɪμʃ ［経済］時価 ［レベル］4 1L

ʃəμφɪμʃlɪcʃ ［経済］時価評価 1L

ʃəμφɪμʃuel ［経済］時価会計 ［レベル］6 1L

ʃəμcʃɔ ［娯楽］現在の得点 J1

ʃəμelɑɑel ［言語］共時言語学。通時言語学と対照するときに使う用語。 1L

ʃəl ［名詞］もの、物、物質、品物、物品 ［化学］物質 ［類義語］ɑɪɒ ［反意語］ucj jeμʃ ［レベル］1 1L: 古 :ʃəɪl（このもの） ɪl:ɪl::ʃɔ,ɪlʃ ［語法］ 形のないものも含む。ucj は出来事という動作性のあるものを指す。

ʃəlʃe ［哲学］形而下の、物質的な ［反意語］ucjʃe ［レベル］5 J0: モノ的な

ʃəljɔɑɪ ［交通］物損事故、対物事故 ［レベル］5 μɑ;/ JM

ʃəlɑ ［物理］熱、ヒート ［医療］熱、ネツ、体温。接尾辞として熱病を指すことも。 ［レベル］2 1L:μɕɑɕɪ:ɥbɪlelʃ:ʃəl/jɑ. ʃlce:ʃlce:lə ʃlce ［用例］ ʃəlɑ ʃcn 高熱

ʃəlɑʃɪɑ ［普通動名詞］除熱 ［レベル］4 1L

ʃəlɑɑcʃ ［普通動名詞］加熱 ［レベル］3 1L

ʃəlɑnə ［物理］熱量 ［レベル］4 1L:ʃəlɑɪll にしようと思ったが、「熱を比較したり数値で測ることのできるものとして捉えたもの」という定義に従うと、ɑə がふさわしい。

ʃəlɑdɔl ［地名］灼方 ［レベル］4 J0 ［文化］ ファルファニア（ファベルの）、アメルテ、アステルト、ディシリウス、ガーヴィ、アルガーヴ、ミディートの地域。広範囲に渡っている。元々ガーヴィやアルガーヴはアステルトの横に接していたため。 ミディートが含まれるのは、ファルファニアやガーヴからの移住者が多く、ルティアとは別の王国を築いたため。

ʃəlabɪl ［物理］比熱 ［レベル］4 1L:μɕɑɕɪ:ɥbɪlelʃ: 熱の壁。この値が高いほど熱すのに大きな熱が必要になることから。

ʃəlaɥ ［物理］熱機関 ［レベル］5 1L

ʃəlɒcɥə ［化学］化学変化、物質変化 ［レベル］4 1L

ʃəlɒcμɔɟ ［哲学］物神崇拝、フェティシズム ［名詞］フェチ μɑ;/ JM

ʃəlɒedc ［化学］対物レンズ ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ

ʃəlɑə ［化学］物質量 ［レベル］5 1L

ʃəlφɪμʃ ［経済］物価 ［レベル］4 J1 ［文化］ アルバザードは日本に比べ、食料品の物価が高い。その代わり質が高い。 主食となる穀物は安く、利食も多くは生産量が多いため比較的安い。嗜好品は高くなり、酒類はワインなど一部を除いて極めて税金が高いため、価格が高い。例えばケーキは高いがパンは安く、焼酎は高い。 日本と比べて明らかに値段の差があるものはチーズ。チーズは非常に安価である。 意外なところだと、蕎麦、醤油、味噌、大豆製品はアルバザードでも生産されているため安価。フルーツも全体的に安価だが、アルバザードで取れないマンゴーなどは高価である。 魚は西洋と比べて安価。逆に肉は西洋より高価。ただし鶏肉は除く。牛肉の消費量は少ないものの、乳製品は安価。 逆にチョコレートなど、菓子類は非常に高価。ただしガムは安価。 家賃は安価。水道電気光熱費などのインフラも安価。通信費も安価。 タクシーは日本並みで、高価。人力車は安価。 衣料品は高価だが、医療費は安価。交通費はやや高価。 ヤマダ電機のような大型チェーン店がないため、機械類は高価。 外食は高価。反面、喫茶店は安価。 美術館等文化施設は安価。映画は日本並みだが、演劇やサーカスは日本より極めて安価。 性産業はインプレンの発達により安価だが、いわゆるキャバクラなどの酒が入るところでは高価。 学費は条件にもよるが、原則無料。

ʃəlɪjəʃ ［物理］フェルミ粒子 ［反意語］ucɪnɪjəʃ ul;/ Jʔ

ʃəlɔ ［物理］物理 ［レベル］4 1L:jeɥen:ʃəl/ɔz（物に働く法則。神話では最初に運動から研究され出したため）

ʃəlɔɑel ［物理］物理学 ［レベル］4 1L ［文化］ カコから研究されていた。物体の運動から最初に研究されだした。化学ほどリュウは貢献していない。 現実にはセレンがほとんど名付けた。制で作った単語もかなり残っている。

ʃəɪ ［感動詞］はい、はいどうぞ、どうぞ、ほいよ、ほら ［動詞］ɥəl を ɪ に差し出す、差し出す、差しだす ［レベル］1 ɑ;ʃɔ/ɪ「物を /『あ』という掛け声→物を渡すときの掛け声」 古 :ʃəɪ「これがそれです」 ［語法］ 物を人に差し出すときに使うことば。いつでも誰相手でも使える。ʃəɪ なしで差し出すと丁寧でないが、ʃəɪ を付けると付けないより丁寧になる。

ʃəɪn ［代詞］［ɔɒɔ］あなたの ［レベル］1 1L:ʃə

ʃəɔ ［名詞］（過去に対して）このごろ、最近、近頃、ここんとこ ［名詞］（現在に対して）このころ、この頃 ［名詞］（未来に対して）近々、そろそろ、もうそろそろ、こんど、今度 ［反意語］lepel ［レベル］2 1ʔ: 制 :ʃəɪ ［成句］ cɒ ʃəɔ この頃 ［用例］ ʃəɔ e jɪlʃ ʃɔl 去年の今頃

ʃəəʃ ［形容詞］［ネガティブ］地味な ［料理］あっさりした、油っぽくない ［形容詞］脱脂した ［反意語］φɪnl、ɑɪɪu ［レベル］3 J0:ʃəənɔ/ʃe（土の色のようにお酒落でない。土の色は農民を想起させ

るため）［語法］ ɑɪɪu

ʃəəʃ(J) ［擬音］ツーツー。電話の切れる音。 ［レベル］3 μʃ;ɑ ɔɔueʃ ʃʃ

ʃəəʃɔcle ［名詞］脱脂綿 μɑ;/ ʃʃɲ

ʃəəɔ̀ ［名詞］グラウンド、広場、空き地、校庭、開けたところ、ひろば ［類義語］ɒɒɒɪ ［レベル］2 1L:μɑɔɑɪ:μbɪlelʃ:ʃəənɔ/ɪ ［語法］ 典型的には、建物がなく平らで土が出ていて何もない広いところのこと。

ʃəəɔ̀ɪ ［動物］モグラ ［レベル］3 ɪɪɔ̀ɪ:ʃəəɔ̀ɪ ← ʃəənɔ̀ɪɒɪ（土の鼠）

ʃəəɟ ［代詞］これら ［レベル］1 1L

ʃəənɪ,ɪjɪ leʃʃe ʃənɪ

ʃəənɪɟ ［人名］トゥーナス ［組み数字］4 / 1 1 ［レベル］3 1L:jɒμen ←古 :μɑɔɑɪ:ʃəənɔ（土） ［文化］ アルシアの４番目。土の魔法の大成者。両性具有の人物。

ʃəənɔ ［名詞］土 ［名詞］土砂。土と砂のことだが、アルカでは特に土砂を指す専門の単語はなく ʃəənɔ という。 ［魔法］トゥーノ。土の多段黒魔法。土石流で敵を押しつぶす。 ［植物］レゴリス ［名詞］［婉曲］子宮、母親、母体 ［レベル］1 ɑ:e 赤 ʃəənɔ:ʃəənɔ:lə ʃəənɔ:ʃɔn,ɪlʃ ［成句］ ʃəənɔ ʃen(en) ɒɔɒ 根なし土：根性無し、バテたり諦めたりするのが早いやつ：根のない（というか弱い）草ばかり生えた土はすぐ雪崩れることから。 ʃɔl ɒɔɒʃ 根性出せ！、諦めんな！

ʃəəɒc ［代詞］こちら→ ləɪdɔɪ ［レベル］1 ʃʃ

ʃəəɒcɟ ［代詞］こちら→ ləɪdɔɪ ［レベル］1 ʃʃ

ʃəəɒcn ［代詞］こちらの→ ləɪdɔɪ ［レベル］1 ʃʃ

ʃəəɒcnɟ ［代詞］こちらの→ ləɪdɔɪ ［レベル］1 ʃʃ

ʃəəbe ［代詞］［形容詞］こんな、このような→ ləɪdɔɪ ［レベル］1 ʃʃ

ʃəəbeɟ ［代詞］こんな→ ləɪdɔɪ ［レベル］1 ʃʃ

ʃəəben ［代詞］こんなの→ ləɪdɔɪ ［レベル］1 ʃʃ

ʃəəbenɟ ［代詞］こんなの→ ləɪdɔɪ ［レベル］1 ʃʃ

ʃəəɥe ［文末純詞］［ɥən］eɥɔ ［類義語］ɪnlcc ［レベル］2 古 jɔμn: 語源不詳。eɥɔ に相当するものとして使われていた。当時は男女区別なく使った。

ʃəəl ［代詞］それの、それのもの ［レベル］1 1L:ʃə/ʃəl ［語法］「この部品はそれのものだよ」などで使う。

ʃəəl,lʃl le ʃə/lə

ʃəəleɟ ［代詞］これらの、これらのもの ［レベル］1 1L

F ［言語］述語、動詞 ［レベル］4 ʃʃ0:ʃcɒ

ʃ

ʃ ʃlenʑ

ʃʃ ［演繹音］がっ、ガッ、こつ、コツ、こっ、コッ、ごっ、ゴッ ［レベル］2 ʃʃ1 ［語法］ ぶつかる音。力を一気に放出する寸前の溜める音。

ʃʃl ［演繹音］カチャ、ガチャ、コト ［レベル］2 μɑ;hɪɪluefʃ ʃʃ ［語法］ ドアを開ける音、電話の受話器を取り置きする音など。

ʃʃɪ̀ ［擬音］カチャ、ドアの開く音、ガチャ ［レベル］2 1L:ɒelcɑɔɪ ɪlʃe

ʃʃ ［歴史］カコ、ʃɪʃɔ ［レベル］3 ʃʃ1

ʃn ［演繹音］コン、こん、コンコン、こんこん、ごん、ゴン ［レベル］2 ʃʃ ［語法］ ノックするような音。

ʃnʃ ［演繹音］ぐき、ぐきっ、グキ、グキッ、めき、メキ、めきっ、メキッ、ぐにっ、グニッ、ぐにゃっ、グニャッ ［レベル］2 ʃʃ ［語法］ ぶつけて捻る音。捻挫、突き指などの音。ぶつけてぐにゃっとする音。 ［用例］ ɪn ʃɔlɔʃ ucl ɔn lɪj ɑɔ φnɔφ cɒ lɪj cʃ ɑɪlʃ ɪ elen. 手を机にぶつけてグキっと怪我をした。

ʃnɪ̀ ［形容詞］まっすぐな ［動詞］ɥəl をまっすぐにする、まっすぐにする、真っ直ぐにする ［類義語］ɑɪʃlnɪ ［反意語］ʃɔɒ ［レベル］2 ʃʃ: 制：まっすぐ行く。開音節だと形容詞としていいづらいＣＣＶ構造なので、制 ʃnɪ は不採用。

ʃnɪʃɪʃɪleɒɔu ［物理］等加速度直線運動 ［レベル］5 1L

ʃnɪʃʃɔcɒɑɔnʃ ［名詞］可展面 ul;ʃnɪʃɑɔnʃ/ʃɔɒɑɔnʃ「平面になれる曲面」であることから。 ʃʃɲ ［文化］ 伸縮することなしに平面に展開することができる計量を持つ曲面のこと。逆の言い方をすれば、平面を曲げたり切ったり丸めたりつなげたりすることで作ることのできる曲面のこと。円柱の側面の筒の部分が曲面であり、展開すると長方形の平面になるが、これが好例。 なお、球面は可展面にならない。もしなったら、地図はこの世に一通りでいいことになってしまう。球面を平面に展開できないからこそ、図法はたくさんあるのである。

ʃnɪʃnɔɪ ［美容］ストレート、直毛 ［レベル］3 1L

ʃnɪʃuɔl ［形容詞］［ポジティブ］一本気な、意思の固い、良い意味で頑固な、職人気質の ［類義語］ueɪɪ nʃe ［レベル］3 ʃʃ0

ʃnɪʃɑɔnʃ ［名詞］平面。２次元という意味の場合は ɑɔʃl を使う。曲面の反対としての平面。 ［反意語］ʃɔɒɑɔnʃ ［レベル］6 ul;/ ʃʃɲ

ʃnɪʃdɪμɒ ［ユマナ］カタカナ ［レベル］4 1L: 日本の字で、カクカクしている

ʃnɪʃμecn ［数学］直線 ［レベル］3 1L

ʃnɪb ［動物］ラクダ、駱駝、キャメル ［レベル］3 ɪɪʃɪ̀:「こぶの生き物」

ʃnɪbʃɪɑ ［地球の国名］エリトリア 1L: 国章に駱駝

ʃnɪl ［名詞］オカルト、超常現象 ［レベル］3 1L:ʃnɔɔj/nɪlj

ʃncj ［生物］たてがみ、鬣 ［レベル］3 ʃʃ: 制：ɪɪʃɪ̀:ʃnc

ʃnɔb ［医療］こぶ、コブ、瘤 ［レベル］3 ʃʃ: 制：ʃnɪb

ʃnɔbcdɪ ［医療］いぼ痔。lələjʃnɔb と同じ ［レベル］5 1L

ʃnɔɔj ［名詞］謎、ミステリー ［名詞］問題、設問 ［形容詞］［ポジティブ］不思議な、神秘的な、風変わりな ［反意語］zɪl、eμjeeμ、μelcμ ［名詞］テストや試験に出てくる問題 ［レベル］2 ɑu;ʃəənɔ jʃecμɪ.ʃ 古：使徒ミルフの名の ʃənɔ̀ɔj が語源。ʃənɔ̀ɔj は彼女の疑問文調の口調をからかう言葉で、疑問というところから謎という意味になった。 ʃnɔɔj:ʃnɔɔj:lə ɑelɒɪʃ ［用例］ nɪ ʃnɔɔj ɪ ～を不思議に思う

ʃnɔɔjlec ［名詞］問題集、ワーク ［レベル］3 μɑ;/ ʃʃ

ʃnɔɔjenuc ［魔法］超能力、異能 ［レベル］3 μɑ;/「謎の能力」 ʃʃɲ ［文化］ カルディアにおいては、超能力は魔法学で説明が付かず、科学的にも説明が付かない能力のことで、念力や読心術といった異能のことを指す。占いや予言は魔法学的に原理がよく分かっていないが、神代からあり魔法の範疇で慣例として捉えられていたことから、魔法と異能の間のような存在になっている。

ʃɒcn ［植物］ラベンダー ［レベル］3 ɪɪʃɪ̀: クミールの花

ʃɒcl ［単位］１０の２７乗 ʃʃ1:ʃɒcclcɪ

ʃɒccμ ［組み数字］２８/２８ ［交通］クミール通り ［レベル］2 ʃʃ

ʃɒccμ(J) ［料理］ɒcμeʃeɪ ［レベル］3 1L:ɒelcɑɔɪ ɪlʃe

ʃɒccμ ɒeʃe ［人名］クミール＝メテ ［組み数字］２８/２８ ［レベル］2 古：クミールは語源不詳。古アルカでの意味は「口頭弁論」。メテは『カコ』で、本来はドゥルガ側なのだからソーンのクミールが撰ぶ姓としては不適当。 ［文化］ → ɒcμueμɪnʃ 第４期４代ルシーラ・エ・ソーン。女性。ɥənʃ。１６０ｃｍ、３９ｋｇ。髪は濃紺がかって見える艶のある黒で肩まで届き、直毛。黒の瞳。肌は白：黄＝４：６。 兄弟は無し。８歳で母親を事故で亡くす。１７歳でルシーラに就任。虚弱体質で、心も非常に繊細。容姿が非常に美しく、アシェットーのユンク。ルティアの文化に憧れている。 ［成句］ cn ʃɒccμ, ʃə ɑɪ eʃ lɔl nɔɑ lec ʃccl. 見よクミール、世界は君の本より面白い：事実は小説よりも奇なり。引きこもったクミールに対してセレンが送った言葉から。

ʃɒcclɪ ［歳時記］小暑 ［名詞］１１時 ［組み数字］１１／２４ ［レベル］3 ʃʃ0: → ɪnlcɪn ［文化］ ɪnlc ɪn

ʃɒel ［名詞］時期 ［レベル］3 古 :ʃɒel。ʃ は ʃeμc や ʃee からの推移で季節を意味し、ɒel は時間のはずだが、これより古い形が不明。 ［用例］ ʃə ʃɒel 今季 ʃə eʃ ʃɒel l'el ʃcl eɑɪ jɔɑel. 風邪を引きやすい時期だ。

ʃddd ［擬音］くふっ、くふふふ。堪えた笑い声。 ［レベル］3 1L

ʃh ［演繹音］クンカクンカ、クンカ、くんか、くんかくんか、くふーくふー、くふー ［類義語］jh ［レベル］4 μɑ;jeμen;hɪɪluefʃ ʃʃ ［語法］ 物を勢い良く嗅ぐときの音。思い切り吸い込むのは jh。 ［用例］ ɒcɑɔɪʃ ɒcɑɔɪʃ ɒcɑɔɪʃ ɒcɑɔɪɪɪ

るとムラムラ気持ち悪くなってくる。その感覚を ʅoɪɸ という音で表現した。「くわーっとなる部分」のような意味。 ［文化］ 集中力が宿るとされている。

ʅoɪɸjeɩɔʃ ［電算］［ユマナ］ q w e r t y キーボード ［レベル］4 ʃʃ: q w e r t y だとアルカにならないので、クワールの音の部分だけを切り取った。

ʅoɪɸhɔ ［生物］前頭骨 ［レベル］4 ʅL

ʅocʃ ［動詞］ɥəl をつねる、つねる、抓る ［レベル］2 古 :ʅəəoc,ʅocʃ,ʅoccφ。どれも手の甲を抓る音からきている。

ʅocn ［植物］ユリ、百合、リリー ［レベル］3 古 :µcɑcɪ:"ɪl, nɔn ɟɔ┤ɒcɟɟɔ ɑccnɪ ɟɔə jeɸen ʅɔʅʅɔ ɒel." から

ʅoɔl ［動詞］ɥəl に寝ぼえりを打たせる、ころんと転がる、寝返りを打つ ［普通動名詞］寝返り、寝ぼえり、ねがえり ［レベル］2 古 : オノマトペ ［用例］ ɪn ʅoɔlɪʃ µɪɟ ɑc uɪɟ ucµɑ. 一晩中寝返りを打っていた。

ʅlɟ ［演繹音］きしきし、キシキシ、きし、キシ、きしっ、キシッ、ぎしぎし、ギシギシ、きー、キー、ききー、キキー、きっ、キッ、きーっ、キーッ、ぎぎーっ、ギギーッ、ぎぎー、ギギー ［レベル］2 ʃʃ

ʅlɪʃ ［名詞］ビザ、査証、入国許可証 ［レベル］3 ɪʅlʃɪ

ʅlɪl ［動詞］ɥəl を ɪ に広める、広める、知らしめる、知らせる、放送する、演説する、公演する、アナウンスする、広報する、宣伝する ［普通動名詞］放送、演説、公演、アナウンス、広報、宣伝 ［レベル］3 ɟɔµn: 広く言う

ʅlɪʅɪ ［名詞］放送局 ［レベル］4 µʃ;/ ʃʔ ［語法］ ラジオ局やテレビ局などのことをいう。規模は企業規模から学校の放送部まで幅広く使える。

ʅlɪʅeɒɟ ［名詞］放送部 ［レベル］4 ʅL ［用例］ ʅlɪʅeɒɟ ɑcʃɪʃ leɒ cɒ hɪµdncɪn jccnɪ. 昼休みに放送部員が音楽を流してくれた。

ʅlɪʅ ［医療］抗生物質 ［レベル］3 ʅʔ: 制 : 古 :lczʅəlɪɪ（細菌を殺す）

ʅlɟ ［名詞］鋏、ハサミ、はさみ ［レベル］2 ɪµle:ʅlɟ 参考 :ɟɔµn:hɔɒɥəɪɟ → hɔɒɟ（鋏） :::ɔɒəlc,ɪlʃ

ʅlɟʅlɪd ［料理］トング ［レベル］3 ʅʔ: 制

ʅlɟʅlɪc ［料理］箸型トング ［レベル］3 ʅʔ: 制

ʅlɪn ［政治］奴隷 ［反意語］ɒclɪn,leeɒ ［レベル］3 ʅʔ: 制 : 古 :ʅəɒlɪn（動物（のようにあつかわれた）人間） ［文化］ 革命後は、ＩＤ登録をされずアンセを持たない戸籍のない人間のうち、奴隷商に支配されているもの。３Ｋの仕事をさせられ、寿命も短い。アルバザードを裕福にしている影の存在。

ʅlɪnɟ ［代詞］［ɒɒɔ］アンタら ［レベル］1 ʃʅ:əɒʃɔnɪ: 古 ʅəɒ/lɪnʃcɟ「生者ども」

ʅlɪnɟen ［代詞］［ɒɒ］アンタらの ［レベル］1 ʃʅ:əɒʃɔnɪ:ʅlɪnʃ/en

ʅlɪnuɪc ［軍事］奴隷兵 ［レベル］5 ʃʅ0

ʅlɪnɑc ［言語］［文字］大文字 ［反意語］leɒɪl ［レベル］2 µɑ;ʅlɪnɑcɪ「飾り文字」 ʃʅ ［文化］ ＜概要＞ µɑ で幻京書体ができたときに合わせて作られたもの。 小文字の弁別性の向上、曖昧さ回避、装飾文字として作られた。 従って地球と逆で小文字のほうが先にありきで、大文字は装飾用などとして後からできた。 ＜用途＞ デザインや強調に使う。いずれも大文字の使用は義務でない。 英語と違って固有名詞なども義務でない。 ・見出し : Tec e Ðccɥ : 語頭のみ。機能語を除く。 ・人名 : Tecɑ ¥əɟcɪ ・強調 : ɟə eʃ ¥€ΨЄϒ l'ɪʅlɪʃ ɟə ɑcɪ ɑɪ. ・見出し強調 : TE€ E ÐЄЄϒ, TE€ e ÐЄЄϒ ・似た文字の弁別 : ɟə eʃ ʃ, F ɟcjee, en ʅ ɪ. ・神の名と普通名詞の弁別 : ʔµnə ɑel ɒcµɔʅ ɔnʃ ɪµnə ʃ'eµcɪ ・外国語の音素 : ɸ で [θ] など。この用法の場合は必ず大文字にするか小文字にアクサンを付ける必要がある。 ＜成立＞ f: 横棒を追加 ʅ: 横棒を追加 l: 横棒と捻りを追加 j: 反転し、横棒を追加 n: 旧字に横棒を追加 u: 旧字に横棒を追加 ɑ: 幼字 ɑccnɪ の変形 ɒ: 横棒を追加 ɑ: 旧字の上半分を切除し、縦棒を追加 φ: 旧字を巻かず、縦棒を追加 d: 反転したものと融合 b: 縦に反転させて融合 h: 幼字 hɔɒɥə y: 四方に反転させ融合 ɾd: 四方に反転させ融合 µ:ɥ を傾ける z: 二字重ねる s: 二字重ねる o: 横棒を追加 l: 横棒を追加 ɪ: 横棒を追加 c: 横棒を追加 ɔ: 横棒を追加 e: 縦に反転して融合させ角張らせる ə: 縦に反転して融合させ角張らせる ɜ: 反転して融合

ʅlɪnɑcɪ ［魔法］［丁寧］［地学］ダイヤモンド、ダイヤモンド ［地名］クランディア。ミュールの ɥj までの呼称。 ［組み数字］2 / 1 0 ［類義語］hɔµɑ ［レベル］4 zφ;ʅlenɑcɪ.l ミュールの ɥj までの名から。ここで採れるものの質が良かったことから

ʅlɪnφcn ［名詞］奴隷商 ［レベル］5 ʅL: リディアの書

ʅlɪuel ɪʅfeeɒɟ ［人名］クラヴェル＝アルテームス ul;ʅleeuel.l ʃʃ ［文化］ ul_ɪl の実業家。ハイン＝アルテームスの父。サンテームス社のＣＥＯを務める。ʔ9Δ に uɪnfeɒɟ を開発。

ʅlɪd ［名詞］挟み、クリップ ［動詞］ɥəl を ɪ にクリップで留める、留める、挟む、はさむ ［化学］クリップ。顕微鏡の。 ［レベル］3 ɪʅlʃɪ:ʅlɪd 参考 : 古 :hɔɒɥə。ʅlɟ からの推移。

ʅlɪl ［名詞］空間、スペース、場所 ［類義語］bɔddɔ ［レベル］2 ʃʅ0:ʅlɪ:ʔ: 制 : 古 :ɪlɪbə（世界） ［語法］ 物理的な空間だけでなく精神的な空間でもよい。

ʅlɪc ［料理］グルメ、美食 ［レベル］3 ɟɔµn:ʅlɪc 参考 : 古 :ʅəcʅɪhc（食べる罪）

ʅlɪcn ［植物］ɪʅlecɒ ［組み数字］6 / 9 ［レベル］4 ɑ:µɪl;e ʃʅ

ʅlɪcɪnʃ ［名詞］割合、比率、レート ［類義語］ɪsɪ ［アクセント］ʅlʔcɪnʃ ɟɒ;jzɑ ［レベル］3 ʃʅ

ʅlɪcɪnʃ,jzɑ ɒejʃ

ʅlcʃ ［サール］クリット ［動詞］ɥəl を lel だと評論する、評論する、批評する、評価する、鑑別する、鑑定する、見極める ［経済］［動詞］ɥəl（不動産など資産）を評価する、評価する ［普通動名詞］評論、批評、評価、鑑別、鑑定 ［類義語］φlɪcɑ ［レベル］3 古 :ʅlccz ［文化］ サール界きっての評論家。 ［成句］ ʅlcʃ µɪfel µɪʅ 過大評価する、買いかぶる ʅlcʃ ɥɪɒel µɪʅ 過小評価する、侮る、あなどる ［用例］ ☆ ɪn ʅlcʃcʅ ʃc µɒel. 見直したよ : µɒel とともに「見直す」。場合によっては「見下したよ」という悪い評価のこともある。

ʅlcʃɑcɑn ［経済］評価・換算差額等 ʅL

ʅlcʃɑɪe ［経済］評価損 ʅL

ʅlcʃφcɔ ［経済］評価益 ʅL

ʅlcʅ ［地学］島 ［形容詞］～島。前置。 ［レベル］2 ɟɔµn 参考 : 古 :ɪʅlc。水で周りを囲まれ、他の土地から孤立させられた土地。 ʅɪʅlc:ɪʅlc:ɪə ʅʅlc:µɪc,lc

ʅlcʅµ ［地球の国名］モルディブ ʅL: 国名が島に住む人

ʅlcj ［動詞］ɥəl をきしませる、きしむ、軋ませる、軋む ［普通動名詞］きしみ、軋み ［レベル］3 ʅL: 演繹音

ʅlcjʃɔj ［地名］クリストス ［レベル］6 ɑu;e ʃʔ ［文化］ ガルヴェーユのフランヴェールの南にある地域。湖が多い。

ʅlcu ［生物］生態 ［レベル］4 ʅʔ: 制 : 古 :ʅəlcuµɔ

ʅlcujecɒ ［生物］生態系 ［レベル］4 ʅL

ʅlcuɑel ［生物］生態学 ［レベル］5 µɑ;/ ʃʔ

ʅlcɒ ［医療］臨床 ［レベル］4 ʅʔ: 制 : 古 :ʅlcczcɒɪ（クリスのとき）。クリスが５年に交通事故で車に撥ね飛ばされたとき及びその事件が ʅlccɒɪ で、そこから紆余曲折を経て臨床となった。この語は「クリスのときのように病院に運ばれて集中治療を受ける」という文で使われていた。その後、リュウが好意で助けた見ず知らずの少女を彼が親身に看病したときに「クリスのときのようにリュウはその少女を看病した」と言い表した。このとき、少女の容態を観察し治療するという実地的なところから ʅlcczcɒɪ が臨床の意味を持つようになった。

ʅlcɒzɔn ［地名］クリムゾン zφ ʃʔ

ʅlcz ［普通動名詞］スピーチ、演説、講演 ［動詞］ɥəl を演説する、演説する、講演する ［レベル］4 ʅʔ: 制 :ɪʅlʃɪ:ʅəlcczʃ（小さく喋る）

ʅlczʅɪ ［名詞］演説場、公演場、壇上 ［レベル］4 µɑ;/ ʃʔ

ʅlczeʃ ［料理］キッシュ、クリゼット ［レベル］3 µɑ;ʅlcczʃ/ʃe「クリスのような」 ʃʔ ［文化］ µɑ でクリスが開発した料理。脂肪分が多いので革命期は一度害食に認定された。

ʅlcɪ ［遊離副詞］［形容詞］かもしれない ［レベル］1 ʃʅ0:ʅleɪ（粉）から。粉程度の大きさの確率というところから。 ［語法］ ɪʅeəʃ

ʅlcɪnle ［アビリティ］クリアンシェ、ジャンプ、落下、急降下 ［レベル］4 ɟµ;µʅ で「雹」。雹がバラバラ落ちてくるように相手に向かって何度も落下していくことから。 ʃʔ ［文化］ φµelɪnʃ

ʅlccz ［組み数字］3 / 2 8 ［交通］クリス通り ［名詞］クリス組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2 ʃʃ

ʅlccz ɒclee lccɟcɪ ［人名］クリス＝ミレー＝リーシア ［組み数字］3 / 2 8 ［レベル］2 古 : クリスは不詳。ミレーは６年リディアとミルフが与えた「踊る」という語。クリスは格闘技がうまく、踊っているようだからという。リーシアは『カコ』から。クリスの古アルカでの意味は「言葉少ない」。 ［文化］ → lcjuejɪnʃ（fcɑ Δ ɑɥə µiu →） 第４期４代アルシェ第３使徒。女性。ɪɒɒɪ。１７０ｃｍ、６２ｋｇ。髪は黄色い金色で背中まで長く、少しくせっ毛で、三つ編みを一本にして結んでいることが多い。青の瞳。肌は白 : 黄＝８ : ２。 ・『ミールの書』より そう言うと女性はおおらかに笑った。女性はセルフィッシュガーデンの女性の中では大柄な方で、190ɒb 近くもあった。体格はスレンダーであり、豊かな胸元と良く締まっている腰元が非常に肉感的な印象を与える。流石にこんなドレスを着ているだけのことはあるなとミールは思った。こう言ってはなんだが、リディアのように比較的少女時代のままの体型で成長した女性にはあまりにそぐわない服装だとも思った。先のアッシュもこの女性の様に魅力的なだったが、アッシュに比べるとこの女性の方が活発に見える。 ［成句］ ʅl ccz ɾcj ɥən ɥənʅ ɔʅ ɑɪuɪ ドレスを着ればクリスでもおしとやかに見える : 馬子にも衣装

ʅlɔʃ ［牧畜］［動詞］ɥəl を屠殺して ɪ にする、屠殺する、潰す ［普通動名詞］屠殺 ［レベル］3 ɪʅlʃɪ

ʅlɔʃɔɒ ［牧畜］屠殺法 ［レベル］4 ʃʃ

ʅlɔʅ ［地学］高原 ［レベル］3 ɪʅlʃɪ

ʅlɔleʃ ［ポジティブ］［形容詞］売れない ［名詞］古本、中古本、古書、レディスレイ ［類義語］ɑɔleʃ, le ɑcʃlec ［反意語］leəle ［アクセント］ʅlʔleʃ（売れない）、ʅlɔlEʃ（古書） µɑ;lʃ（古書） ［レベル］3 ʃʔ ［語法］［文化］ アルバザード人、ルティア人、凪紗に共通する価値観として、「一番売れているものは最大公約数的な人気しか得ておらず、一人ひとりの心の核に響く作品ではない」という考えがある。だからこそ一人ひとりにとって本当に良いものはむしろ売れていないものの中にこそあると彼らは考える。本屋で人気の新刊として出されているものよりも、古書店でひっそり佇んでいる本の中にこそ良いものがあると考えている。そこから lʃ の古書が転じて「良い意味で売れない」という意味を獲得するに至った。 彼らの価値観では、ʅlɔleʃ > leəle > ɑɔleʃ > φɔleɒ の順で尊い。 ʅlɔleʃ は価値のある良作だが客層がコアすぎたりジャンルがニッチすぎたり客が無理解だったり内容が高度すぎて売れないものに対して好意的に用いる。 leəle は売れるべくして売れた名作、人々の人気の最大公約数を上手く突いた作品に対して好意的に使う。 ɑɔleʃ は売れないべくして売れなかったクオリティの低い作品に対して悲観的に使う。 φɔleɒ は「俗悪ものでも売れたので良い。売れたもの勝ち」という商業主義的な作品に対し、「汚い」という批判的な意味を込めて侮蔑的に用いる。アルバザードではたとえ売れても、内容によってはくだらないとか低俗とか娯楽にすぎないとして高評価を得られないことが多い。 基本的にアルバザード、ルティア、凪の価値観では高尚なもの、学問、芸術が高評価を得る（人気を博すかどうかは別として）ことが多いため、ʅlɔleʃ は良く φɔleɒ は悪いというイメージがある。

ʅlɔj ［名詞］主張、～説 ［動詞］ɥəl を ɪ に主張する、主張する、訴える、強く言う、言う ［医療］［動詞］ɥəl（病状）を訴える、訴える ［レベル］3 ʅlI: 制 : 古 :ʅəlɔj（考えを言うこと） ［文化］ 主張は客観的に分かりやすく短くはっきりと述べるべきとされる。また、主張は遠慮せずばんばん行うべきとも考えられている。日本では上司には主張できないし、女友達同士も主張しあうと絶交に至ることが多い。だが、アルバザードはもう少しざっくばらんに主張しあえる。女友達同士も理論や思想を語り合い、主張しあえる。そんなアルバザードでも馬鹿な相手と怒っている相手には主張しない。聞き流したりなだめたりして、まともに取り合わない。 ［用例］ ɪucl ʅlɔjɪʃ ɾɔɒɥɪc. 患者は腹痛を訴えた。

ʅlɔn ［動詞］ɥəl をまごつかせる、まごつく、まごつかせる、まごまごする、おどおどする、きょどる、うろたえる ［レベル］3 ʅlI: 制 : 古 :φlɪn

ʅlɔɒ ［形容詞］心が広い、寛大な、度量の大きい、器の大きい、器が大きい、磊落な、らいらくな、豪放磊落な、ごうほうらいらくな ［反意語］nɪlcz ［レベル］3 ɪʅlʃɪ ［用例］ cɒ ɥəlc, ɪn nɪʃ lelʃ eʃ pɪl ʅɪen sɪn. sɪn ɪj le ʃcl nɪ ʅlɔɒ ɥəu jen ucl, ɟɔɪ ɪn jeµɪʃ. 子供のころ、月は空に開いた穴だと思ってた。 空みたいに広い心があっても、傷つくことがあるんだなって思った。 (µenj ꟾʅ) ふつうの発話なら ɥəu でなく ʃcl を使うが、ここでは ʃcl の重複を避けるため用いられている。また、意味的にも ɥəu によることで ucl との関連性を強めている。

ʅlɔɪ ［名詞］物語、ストーリー ［レベル］2 ʃʅ0:ʅlɔ:ʔ: 制 :ɟɔµn:ʅəlɔɪj ［用例］ ʅlɔɪ lɪ deljen ʅɔnʃ uɔl lɪ ʅlɔɪ. jee jelej lɪ lej ʃcl uɔl e. 苦悩あるところに物語があり、物語あるところに意志がある。そして意志ある者には魂が宿る（『ネギま！』「２６３時間目」ネギ＝スプリングフィールド） "la ɟɔlɟɪʃ lɪl jelɪn ɒɪl ʅlɔɪ leəʃ uecl ɑcɪ leəʃ jcl jeɑɔ" 「人の記憶に残ることが、夢を生かすことだから」

ʅlɔɪʅɪ ［名詞］物語の舞台 ［レベル］4 ʃʅ0

ʅlɔɪn ［音楽］バラッド ［レベル］5 ʃʅ:ʅlɔɪ/en

ʅlɔɪlcuɪ ［娯楽］ロールプレイングゲーム、ロープレ、ロールプレイング、ＲＰＧ ［レベル］3 ʃʅ: 物語ゲーム。µeɑɔnlcuɪ と区別。

ʅleɪʃɪcj ［人名］クレタティス ［レベル］6 古 ［文化］ 女性。２期のルシーラ。

ʅleʅ ［生物］扁桃腺 ［レベル］3 古

ʅleʅɑɪcz ［医療］扁桃炎、扁桃腺炎 ［レベル］5 ʅL

ʅlej ［普通動名詞］場面説明、状況説明、説明 ［動詞］ɥəl についての状況説明を ɪ にする、場面説明する、状況説明する、ナレーションする、説明する ［レベル］3 ʅʔ: 制 : 語源不詳 ［用例］ ɪɪnɪ lcɒ ʅlej 様子を見るために

ʅlejɟen ［アトラスの国家］クレッセン ［レベル］5 ʃʔ:µcɑcɪ

ʅlejdcɪl ［音楽］効果音、サウンドエフェクト、ＳＥ ［レベル］4 ʃʅ0:ʅlejleɒ からの類推

ʅlejleɒ ［音楽］ＢＧＭ ［レベル］3 ʃʅ0: 場面説明となる音楽。状況を叙述する音楽

ʅlen ［経済］銀行 ［レベル］2 ɟɔµn ［文化］ 革命後は国の機関として存在する。いわゆる日銀しかない。

ʅlen,jzɑ ɑccɪ

ʅlenɟ ［代詞］［形容詞］あのような ［類義語］ɥəɪ ［反意語］lenɑc ［レベル］1 ʃʅ;ʅlenƶ,jzɑ.l ʃʃ ［語法］ ɟɔɪ

ʅlenɟen ［代詞］あちらの ［レベル］1 ʃʃ

ʅlenɑcɪ ［地名］クレンディア。ミュールの旧称。 ［類義語］ɒɥəəl ［レベル］5 ʃʅ

ʅlenz ［経済］輸出 ［類義語］ɪʃɒ ［反意語］ɑeµʃ ［レベル］3 ɟɔµn

ʅlenƶ,jzɑ ɑlɔn

ʅlenɪj ［魔法］クレナス、気動力 ［レベル］5 ʃʅ0:ʅleef/nɪ ［語法］ enuelen

ʅleulɪnj ［名詞］使命、クレブランス、クレヴランス ［類義語］ɑɪj ［レベル］4 ɑ;e ʃʔ: 以前にあった語形を再利用。

ʅleulɪnjjenʃc ［地学］［歴史］カンブリア爆発 ［レベル］6 ul;ʅleulɪnjlɪz/jenʃc「カンブリアのボウル→カンブリア紀に起こった種の坩堝化」 ʃʔ

ʅleulɪnjlɪz ［地学］［歴史］カンブリア紀 ［レベル］6 ul;/ ʃʔ ［文化］ φɪɪueɑɒɒe

ʅleulɪnjlɪzɟɪ ［地学］［歴史］先カンブリア紀、先カンブリア時代、先カンブリア、隠生代 ［レベル］6 ul;/ ʃʔ ［語法］［文化］ 冥王代から原生代までを取りまとめて言う。

ʅleuɪnj ［魔法］［哲学］五行説、五行、クレヴァンス ［レベル］4 jzl;ʅleul/ɪnj「五つのエレメント」 ［文化］ zφ でシージアに起こった魔法理論で、ləʅleʃcɪ の重要な概念。基本７属性のうちさらに基本となる水風土火雷の５属性を取り出して配列したもの。方位や季節や人体構造などと深く関わる。アルバザード（レスティル）も zφ のシージア戦争を皮切りに、jɒ 以降特に強く影響を受けている。 地球の五行説と比べると面白い。どちらも理論立ってできているものなので、かなり相同するはずである。特に内臓との関連などがそうである。また、夏が共通して南になっている点などは地理的な要因による。

	lɪcuµɪ	nɪɪs	ɑlɔɪ	belzen	jɪdlcj
	水	風	土	火	雷
方位	北	東	中央	南	西
季節	冬	春	変わり目	夏	秋
人体	体液	呼吸	肢体	脈	神経
臓器	腎	肝	脾	心	肺
器官	耳	目	口	舌	鼻
味	鹹	酸	甘	苦	辛
色	青	緑	茶	赤	黄

新緑の緑、紅葉の黄色、土色の茶

５行を男女に分け、さらに１０段階に分類する。ちょうど十干に相当するのでそう訳すが、むろん十干とは別の概念である。男女は分類の一側面にすぎない。別の分類も示しておく。

男	女
陽	陰
動	静
黒魔法	白魔法
交感神経	副交感神経

この時代、むろん交感神経やリンパ液の医学的な存在など知らない。しかし経験的に知っていたのは地球と同じ。　人体で十干を作ると以下のようになる。　体液＝リンパ液・津液：血　血が女になるのは分かりやすい。　呼吸＝吸息：吐息　吐くと副交感神経が優先的になるため。　肢体＝四肢：体幹　母体が幹になる。　脈＝動脈：静脈　動脈のほうが陽なため。　神経＝交換：副交感　副交感のほうが陰なため。

˥leuɪnjuccɑɪ ［生物］［医療］五兪穴、五行穴　μɑ;/　ˡˡˡ

˥leucɪ ［植物］ゼラニウム　［レベル］4　ˡˡ0: ファベル語で「鶴の首」　［文化］　ファベル原産。インセンスとして好んで用いられる。μɑ ではファーヴァのお気に入りで、ファーヴァを通じてリディアも好んだ。

˥leɑ ［動詞］ɥəl を ɔn について口封じする、口封じする、口を封じる、口に戸を立てる　［普通動名詞］口封じ　［レベル］3　ɪˡˡˡɪ　［語法］　殺すとは限らない。

˥leɒ ［生物］［医療］膿　［レベル］3　古

˥leɒɪ ［動詞］ɥəl を殲滅する、殲滅する、滅ぼす、滅する、滅亡する、滅亡させる、滅ぶ　［類義語］scɪl、φμecn　［レベル］3　ˡˡ0:˥leɪ/ɒcɥə（粉みじんにする）　［語法］　敵を完膚なきまでに叩きのめすこと。　［用例］　"lenɪ jcſ ɩeſəl len ˥leɒɪ ſeeɒɟ /cɟɟe.「私たちには悪魔テームスを殲滅するのには足りないものがあった。

˥leɒen ［アイテム］ボウガン、クロスボウ、弩　［レベル］5　ɟɒ;˥ˡˡbenſ.˥　ˡˡˡ　［文化］　ɟɒ の ˥leɒenſ で発明された。

˥leɒenſ ［地名］クレメント、クレメント県　［アクセント］˥leɒEnſ、˥lEɒenſ　［レベル］3　ˡˡ1:μcɑɑɪ　［文化］　アルバザード東部の県。山岳地帯。県西部は比較的アルナからの登山者やハイカーたちが来がちで、lɪuen の滝が名所になっている。

˥leɒenſ(ˡˡ) ［アイテム］神弩クレメント、クレメント　［レベル］4　μɑ;˥leɒen/ſe　ˡˡˡ:μcɑɑɪ/jeɒen: ルージュだけヴァストリアがないことがずっと問題視されていたが、ˡˡˡ にカレンダー作成が契機となってルージュにもヴァストリアを設けようという話にようやくなり、セレンとリディアの協議により、弓と銃があるのに間のボウガンがないのはおかしいということになってボウガンをヴァストリアのラインナップに加えることとなった。　［文化］　ヴァストリアの１つ。ルージュのもつ神弩。

˥leɑɑɪ ［天文］太陽系外縁天体、クレディア　［レベル］4　ˡˡ0:˥leeſɑɑɪ（クレートのゆりかご）海王星付近にあるため。

˥leμ ［丁寧］音　［類義語］ɑɔ　［レベル］3　jzɑ>ˡˡj;ɑɪcɪ>ˡ　ˡˡ1　［用例］　ejˡ ˥cſ. ſə ˥leμ μeɑ nɪ ɪnſ jcc nɪ. 雨が降ってきた。この音は心を落ち着けてくれる。

˥lez ［医療］化膿　［レベル］3　ˡˡL: 古 :˥leɒˡəˡəl（膿を作る）

˥lezɑclɑɪc ［医療］打膿灸　μɑ;/　ˡˡˡ

˥les ［普通動名詞］創造、クリエイション　［動詞］ɥəl を作る、作る、創る、創造する　［類義語］lɪɑ　［レベル］4　jzɑ;ˡəˡəl.ˡ　ˡˡ2　ˡəˡəl:ˡəˡəl:˥les

˥lel ［名詞］辞書、辞典　［名詞］事典← ɑɪɒ˥lel　［名詞］大きな本、大著、本　［名詞］論文集、大きな論文、大作の論文、論文　［レベル］2　ˡˡ?: 制 :˥lelec（言葉の本）　［語法］　通常は辞書を指すが、一般書籍でも辞書であるかのように大きなものや、論文でも長いものや論文集などについては ˥lel ともいえる。　［文化］　最初に作られたのはカコで、魔法用の語彙リストとしてであった。　・ɑcɪɑɪn e ˥lel ɪˡˡɪ ɪɪs ˥cn ɒɔɟ lecˡ ɪˡ oel ueſ ɪ ˥lel. 辞書の編集者は辞書にどの単語を載せるか決めてはならない。　セレンが μɑ で ɑˡ の制作理念として挙げた言葉。辞書にどの単語を載せるべきかを編集者が決めるのはおこがましい。辞書に何の単語が必要であるかは引き手が決めるものだ。そして引き手はあらゆる単語を調べる可能性がある。可能性がある限り、この世に存在するあらゆる言葉を採録する必要がある。セレンはそのように考えた。この考えは後世まで受け継がれ、ɑˡ や ɑeˡde などもすべて引き継いでいる。　現実のセレンも同じように考えている。百科事典でもウィキペディアでも国語辞典でも、掲載基準などというものはあってはならない。特にパソコンが普及して電子辞書が作れるようになり、紙面の都合がなくなった現代においては、ますます掲載基準など設けてはならない。辞書とは引き手のあらゆる可能性に対応できなければならない。その意味でどんなスラングであれ、特定のゲームにしか出てこない魔法の名前であれ、全く無名な固有名詞の情報であれ、辞書はあまねくすべての概念を網羅していなければならない。そういう意味でセレンにとって最も辞書らしい辞書はグーグルである。最大の辞書はニッコクでも０ＥＤでも、ましてやウィキペディアでもない。グーグルである。

˥lelɑel ［言語］辞書学　［レベル］6　ˡˡL　［文化］　カコで辞書が初めて作られたが、学問として大成したのは μɑ。

˥leɪ ［名詞］粉、パウダー　［レベル］2　jɔμn: 紅茶用の角砂糖。hɔe は hɔɪ などと区別が付きづらく、hɔ だとむしろ塊を想像するため。　:::ɪ,ɪˡˡ

˥leɪjɪe ［気象］粉雪　［レベル］5　ˡˡL　［文化］　アルバザードでは最も美しい雪とされる。　［用例］　ſə ɪſ ˥leɪjɪe. 粉雪だった：誰かにどんな雪だったと聞かれて答えるとき。

˥leɪuelſ ［気象］ダイヤモンドダスト、細氷　［レベル］5　ˡˡL

˥leɪɒ ［魔物］クレアム（毒蛾）: 第十九天：風の炎天　［レベル］5　ˡˡL:μcɑɑɪ/jeɒen/ɒel:˥leɪ/ɒɪlz　［文化］　蟲族。風を操り、毒の燐粉を捲き散らす。特に火に弱い。

˥leɪɑcjſ ［筐堺］クレアディスト　［レベル］5　μɑ;「粉雪を捧げる土地」　ˡˡ　［文化］　筐堺司：˥lccz lccjcɪ　筐堺国：lccjcɪ, uɔzɪɒɔ ɪˡɪj

˥leɪφɪlcj ［軍事］弾幕、クレアガリス　［類義語］φɪlcjejˡ　［レベル］6　ˡˡ0:「粉の弾」。ダイヤモンドダスト ˥leɪuelſ からの造語。弾が多すぎてひとつひとつが粉のように感じられることから。

˥leɪφɪlcjlcuɪ ［娯楽］弾幕シューティング　［類義語］φɪlcjlcuɪ　［レベル］6　ˡˡ1

˥leɪlccɑɪ ［天文］星屑、星くず、ほしくず、スターダスト　［類義語］lccɑɟ　［レベル］4　ˡˡ0: 粉のような星

˥lec ［言語］小説、ノベル　［レベル］2　ˡˡ?: 制 :jɔμn:ˡɒccμlec（クミールの好きなジャンルの本）　［用例］　ɪˡˡfe ɔn cjˡ ˥lecſ 小説読むの頑張って！　ſcɔ, nɔn cjˡ ɪɪn ˥lec ˥ɪ ez cɒ ejˡ. 雨の時はただ部屋で小説を読んでいたい。　ſə eſ ɩed ɩel el ɪˡˡſ aɟſ e ˥lec. 小説の要約を書くのは難しい。

˥lecſɔj ［アトラスの国家］クレイトス　［レベル］5　ˡˡ?:μcɑɑɪ

˥lecɒ ［名詞］分身　［魔法］クレイム（ブリンク）。忍術。分身を作り、敵の攻撃の命中率を下げる。　［レベル］3　ˡˡ0:˥icˡˡlecɒɪ（もう一人の自分）から

˥leɔ ［言語］辞書形　［レベル］5　ˡˡL ← ˡˡ1: 制

˥leɔɔn ［サール］クレオーン　［レベル］5　jeɒen: 古 : 恣意　［文化］　バオナを引き起こすサール。アルデスにバオナをかけ、テュアを犯させた。

˥leeſ ［悪魔］クレート　［レベル］3　ɒelſcɪ 0:˥leeſ;e　μcɑɑɪ: 古 : 当時の原則通り対となる brlecj は ee という長母音でない　［文化］　ノアを司る。２０代女性の姿。鍛えられた肉体で、軽装。ブレイスを守る。慎重。ブレイスとペアをなす。常に２人で行動し、超絶的な気を操る。海王星を司る。

˥leeu ［地学］気候　［レベル］3　ˡˡL:ɒelcɑɑɪ ɪlcj:˥lleeuel

˥leeuel ［エルト］クレーヴェル　［名詞］５時　［名詞］南南東　［交通］クレーヴェル通り　［音楽］ミ　［組み数字］5 / 1 2　［類義語］leu　［レベル］2　ɒelſcɪ ˡˡ:˥leeuel;e　古　［文化］　アルミヴァの５番目。エルトの右足から生まれた。太陽を司り、正義や秩序を重んじる。太陽を司ることと天のエルトであることから、天気や天候も司る。コノーテの兄。創世記ではよく審判を下す。長い杖を武器とする。厳格で規則的で潔癖。自分の正義に逆らうものを許さない。　［用例］　˥leeu el ɪɪſ sɪn. 日が照っていた。

˥leeuelj ［気象］雨雲← ejˡejd　［レベル］3　ˡˡL:˥leeuel/elj（クレーヴェル神の憂鬱）。太陽神が憂鬱になって雨雲に隠れることで雨が降るため。　［用例］　˥leeuelj ɪɪſ sɪn. 空に雨雲があった。

˥leeuel jɪn ［名詞］晴れ男、晴れ女　［反意語］ɥəəɒɪ jɪn　［レベル］3　ˡˡJ: 「クレーヴェルさん」　［文化］　アルティア人が持ち込んだ概念。

˥leeuelenɪ ［気象］狐の嫁入り、天気雨、晴れなのに降る雨　［経済］押し目。上げ相場が一時的に下がることで、晴れなのに雨に喩えている。　［レベル］4　ˡˡL: 晴れなのに雨が降るということは、太陽神クレーヴェルが空で泣いているからに違いないという考えの元に。　［用例］　˥lee uelenɪ ɪſ μ. 日が差しているのに雨が降っていた。

˥lees ［名詞］秩序　［反意語］uɔln　［レベル］3　ˡˡ0:˥leeuel/sc（クレーヴェルの指）

˥lɪ ［名詞］場所　［格詞］～で。処格。場所格。　［類義語］˥lɪˡfe　［レベル］1　ɔɑ; ↓　ˡˡ?: 制 : 古 :˥ɪl, ˥lɪˡfe（場所）　˥ɪl, ˥lɪˡfe:˥ɪl, ˥lɪˡfe:ɪ ɑcɪ（大地はサール）:˥ɪ,ɪˡˡ　［語法］「子どもの前で非常識なことをするなは ɑen eɒ ſeˡˡɔnˡ ˥ɪ ɥəlc という。格詞は ɟɪ でなく ˥ɪ を使う。「～の前で」と日本語ではよく言うが、アルカでは本当にその人の前方にいることを強調しない限りは ˥ɪ を使う。よく誤訳しやすいので注意。　［用例］　ɪn ɑelɪſ ˥ɪ lecˡɪ. 図書館で勉強した。

˥ɪ(ˡˡ),ɪˡˡ ˥leɪ

˥ɪ,ɑ ɪɑcˡ e

˥ɪ,ɪˡˡ ˥ɪ <>˥ɪˡfe

˥ɪˡˡɪſ ［音楽］チャチャ　ˡˡ1: 床を踏む音の擬音

˥ɪſj,ɑ lec e

˥ɪſjə,ɑμɑ ɒɪj

˥ɪſɪ ［経済］貿易　［レベル］3　ˡˡ?: 制 :˥ɪɑɪſe（国単位の販売）

˥ɪſɪſɪə ［経済］輸入　［レベル］3　ˡˡL

˥ɪſɪμ ［名詞］カタル　［シェルト］チェック、チェックの総称　［レベル］4　古　［語法］　ラシェットのメンバーのこと。第４期４代のカタルはランティス。

˥ɪſɪlcznɔ ［政治］貿易庁　［レベル］4　ˡˡL:μcɑɑɪ:clbəj　［文化］　外務省下。貿易を管理する。

˥ɪſɪſɒ ［経済］輸出　［レベル］3　ˡˡL

˥ɪſcj ［普通動名詞］救済、救世、救出　［動詞］ɥəl を救う、救う、救済する、救世する、救出する　［レベル］2　μɑ;ɪˡˡɪſcj.˥　ˡˡ?

˥ɪſees ［地名］カテージュ、夕月市、夕月京　［伝統色］山吹色　［アクセント］˥ˡˡfees　［レベル］2　古 :「テージュの場所」。「夕月」˥ɪnſe ſˡɪnsəμ から。　［文化］　アルバザードの南端の大都市。テージュ海のすぐ北。守護神はアッティ。

˥ɪſeesɑɪuɪ ［被服］アフタヌーンドレス　ˡˡ1

˥ɪſeesɒel ［名詞］Ｐタイム　［反意語］ɪμnɪɒel　［レベル］5　ul;「カテージュ式時間」　ˡˡ?　［文化］　ɪμnɪ ɒel

˥ɪſeesdcnɑ ［医療］スリオロシ形。打鍼法で使う。カテージュで打鍼法ができたことから。μɑ;/　ˡˡˡ

˥ɪſeeszɔl ［音楽］マンドリン　［レベル］6　ˡˡ1

˥ɪſeesɪn ［名詞］カテージュ人　［レベル］2　ˡˡ　［成句］　jclſ ɥən ˥ɪſeesɪn 悠々自適

˥ɪſə ［形容詞］即席の、即興の　［レベル］3　ˡˡ1:ɪ ſə「この場で」

˥ɪˡſ ［動物］ダチョウ、駝鳥、オストリッチ　［レベル］2　ˡˡ?: 制 : 古 :ˡɪcˡəˡſɔ（大きい鳥）　［擬声］　ɔɒəə

˥ɪˡſɪ ［動物］オオハシ、チュウハシ、大嘴、巨嘴鳥　μɑ;ˡɪc/ˡəſɪ　ˡˡˡ

˥ɪˡſɪcɑ ［地球の星座］［ユマナ］きょしちょう座　ˡˡˡ　［文化］　cɑɪ

˥ɪˡſɔjn ［名詞］頭隠して尻隠さず　［レベル］3　ˡˡL　［成句］　ſcl ˥ɪˡſɔjn 頭隠して尻隠さず：ダチョウが危険を感じると頭だけ土に突っ込んで現実逃避することから。

˥ɪˡˡɪ ［親族］お父さん、お父ちゃん　［レベル］2　ˡˡL:ˡəˡcɪ: セレンのことを didɪ と認識したので、次は jeɒen や ˥ɪɪn も教えようとしてメルとリディアが ˥ɪɪn と言わせようと頑張ったところ、次にセレンが見たとき「かーっ、かーっっか」と言っていたため、セレンが「かっかって何？」と聞いたことから。非自発的ながら、ルシア＝アルバザードによる最初の造語で、lcɪˡˡˡſL、メル１９年ラルドゥラの月リュウの日のこと。リディアがこの音形をなぜかあまり好まなかったことと、娘自身がやがて大きくなったこともあり、あまり長い間は使われなかった。メル２３年メルの月ジールの日に s k y p e でセレン含め４人のアルカユーザーで話していたところ幼児語の話題からこの語に至り、ユーザーによる「ˡˡˡɪ はフィンランド語の幼児語でうんちという意味があります」という発言があり、ネット上をそれを確認したところ、w i k i t i o n a r y で確認が取れたため、ここに追記する。なぜリディアがこの語形を気に入らなかったかが分かった。リディアは幼少期をフィンランドで過ごしていたためであると考えられる。

˥ɪˡˡɔ ［動物］カッコウ　［レベル］2　古 : 鳴き声から

˥ɪˡˡ ［名詞］コピー、複製、複写　［動詞］ɥəl を ɪ に写す、写す、うつす、模写する、コピーする、ダビングする、書き写す　［動詞］ɥəl を ɪ に書き抜く、書き抜く、書抜く、書きぬく、かきぬく。国語の問題の書き抜きなどに使う。　［普通動名詞］書き抜き、書抜、書抜き、書きぬき、かきぬき　［類音］˥ɪˡj。コピーと本物が似ている音なので非常に紛らわしいが、逆にレトリック的においしい。　［レベル］2　ˡˡ?: 制 :ˡɪˡcɩ（同じに書く）　［用例］　ɒcμ ˥ɪˡˡ ɑelj ɪ ſə φμ. 映画をこのディスクにコピーしてください。　ɪn ˥ɪˡˡɔμ "lenɩe μcəɟφel e ˥ɪɒc ‡‡" ɔnſ "ɪɒel ɪnſ eſ ucl ɪnˡ jɔɪ."「とある科学の超電磁砲Ｓ」と「俺の妹がこんなに可愛いわけがない。」をダビング中。　˥ɪˡˡ ɒɔɟ ɑcl lɔɔɑel. ダビングは意外と時間が掛かる。　ɪn ˥ɪˡˡ uɪn ɒɪμɪ l'ɪn ˥ɪˡnɪſ ɪ ɑɪnſφμ l'ɪn ſɪəſ jɪ ɑɔə jel. 録画しておいたアニメをこの間買ったブルーレイにダビングしよう。

˥ɪˡˡſeeſ ［魔法］複写性　［レベル］6　ˡˡ1　［文化］　ɑɔlɒcμə

˥ɪˡˡɪn ［ジョブ］写本師　μɑ;/　ˡˡˡ

˥ɪˡˡeu ［普通動名詞］転載、転置　［動詞］ɥəl を ɪ に転載する、転載する、転置する、転地する　［レベル］3　μɑ;/　ˡˡ?　［語法］　引っ越したり場所を変えたりする場合には使えない。元のものをコピーし、元のものが残った状態を保持しないかぎりは使えない。

˥ɪˡj ［名詞］本物、本格的なもの　［形容詞］本物の　［反意語］ɑcel　［類音］˥ɪˡˡ。コピーと本物が似ている音なので非常に紛らわしいが、逆にレトリック的においしい。　［レベル］2　ˡˡ?: 制 :ˡcˡj:ˡcˡ（類似）

˥ɪˡɪ ［電算］スロット　［レベル］4　ˡˡL:˥ˡˡc。˥ˡˡc と同形にしなかったのは、パソコンにもヒビが入るので、˥ˡˡc にすると故障のヒビと区別がつかなくなるため。

˥ɪˡɪ,ɪˡˡ /cn, /cnˡɪ ˥ɪc.ˡ

˥ɪˡc ［名詞］割れ目、裂け目、亀裂、ひび、切れ目　［婉曲］女性器　［レベル］2　ˡˡ?: 制 : 古 :˥ɪˡˡc

˥ɪˡɔ ［歴史］カコ、月戦争、紅姫の憂鬱、こうきのゆううつ　［レベル］3　古 : 紅姫とは皇女ルーキーテのこと。高貴と掛けている。憂鬱はアディアが抗争状態にあったことから。　［文化］『幻想話集アティーリ』に登場する物語。上弦の月と下弦の月に分かれた人類の戦いの物語だが、やがてアルシェ・ソーンという２団体の抗争へシフトしていく。次第に召喚士はエルトと契約するかサールと契約するかで二大派閥に分かれていった。召喚士が勢力をつけると次第に勢力争いが生じた。彼らは上弦の月と下弦の月を象徴として戦ったため、これを月戦争カコと呼ぶ。カコは痛み分けで終わり、何世代にも渡って繰り返された。一旦は収束しても長い年月を経て戦った者の子孫がカコを再発させるようなこともあった。だが依然として決着はつかずじまいであった。

˥ɪˡ ［名詞］充足、満足、十分、充分、満タン、満杯　［形容詞］満足な、満ち足りた、十分な、充分な、満員な、満員、一人前の　［動詞］ɥəl を満たす、満たす、満タンにする、満杯にする　［副詞］満足げに　［感動詞］もうたくさんだ、もう十分だ、もういい、もういいよ、もう知らない、もういい、もう結構です、もう結構　［反意語］ɩəl　［レベル］1　ˡˡ?: 制 : 古 :˥ɪˡɪ（存在が多い、満足）　［用例］　nɪ ˥ɪˡ ɪ ɑclſ 結果に満足する

˥ɪˡſ ［電算］スキャン　［動詞］ɥəl を ɪ にスキャンする、スキャンする　［レベル］3　μɥəə

˥ɪˡſμ ［電算］スキャナー　［レベル］3　ˡˡL

˥ɪˡˡ ［名詞］記録　［レベル］3　ˡˡ?: 制 :ˡɪˡſɪ:˥ɪˡe（書かれたもの）

˥ɪˡn ［名詞］ビデオカメラ、ビデオ　［動詞］ɥəl を撮影する、撮影する、撮る、とる、録画する、撮像する　［普通動名詞］撮影、録画、撮像　［レベル］3　ˡˡ*:jeɒen:ɩele: 古 :˥ɪˡɪ　［文化］　思い出を記録する良い道具としてアルバザードには普及している。特に恋人とのデートや子供の成長記録や旅行先の様子などを撮るときに使われる。出先では荷物になるので持っていかないという人もいる。ビデオカメラは日本のものより小さく、進歩している。記憶媒体は内臓メモリで、テープは不要。画質を気にしないならアンセで録画も可能。

˥ɪˡnɪ ［名詞］満足、満足感　［レベル］3　μɑ;/　ˡˡ?

˥ɪˡnɔɔ ［名詞］カメラワーク　［レベル］5　ˡˡL:μcɑɑɪ:ɪμbɪˡelſ

˥ɪˡɑcɪleɑ ［運動］フルマラソン　［レベル］4　μɑ;/　ˡˡ?　［文化］　ɑcɪleɑ

ˈlɨlɨ ［芸術］枠、枠線、額、額縁 ［芸術］サッシ、フレーム ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ˈlɨlɨɥɕl（絵の金属）

ˈlɨlɨɔd ［交通］満員電車 ［レベル］3 ul;/ ʃʲ

ˈlɨlɨ ［地学］地図、道路地図、世界地図 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 場所の図 ［語法］ 様々な地図を文脈ごとに指す。

ˈlɨlɨdɕʃ ［地学］図法 ［レベル］5 ʃ0: 地図の種類 ［文化］ アルティルで神々が作成し、人類に伝えた。神代より様々な図法が神々によって開発された。

ˈlɨlɕ ［料理］箸、トング ［レベル］2 lɨˈlʃ: 割り箸 ［文化］ ɔɐɔˈɔɔn 金属製か木製。

ˈlɨlɕele ［料理］箸置き、箸おき ［レベル］3 ʃʃ

ˈlɨlɛn ［接続詞］ˈlɨl。～で満たされた、～に満ちた ［レベル］3 ʃ1

ˈlɨl e ɒccɥ 『ミールの書』 古 : ミールの書の古名。ミールの書は古アルカの時期に書かれたものなので、正式なタイトルは古アルカ名となる。ˈlɨl とは古アルカで本の意味。

ˈlɨlə ［政治］［法律］法、法律 ［レベル］3 ɑu; 原義は「紙に書かれたもの」だろう。lə は恐らく紙。ˈlɨɟɪˈlɪʃ との混同が過去にあったことからも分かる。 赤 :ˈlɨlə（法律） ˈlɨlə:ˈlɨlə ［語法］ → ɨɥuɪ nʃ ˈlɨlə は法律全体を指す。「国際法」などというときは ˈlɨlə を使う。具体的な法、例えば民法だ商法だというときは、～ uɪnʃ を使う。 ［文化］ ＜制定＞ 法律は法務庁が作り、事務省に提出する。事務省はそれを受け、副王の制定を受ける。副王は王の承認を得る。 ＜量刑の強化＞ ミロク革命までは人権擁護と犯罪者更生の観点で法が定められていた。ゆえに量刑は軽く、死刑も非人道的とされ、殆ど下らなかった。正に殺し得の世の中で、被害者は泣き寝入りするしかなかった ミロクはこれを悪とし、犯罪を抑制するために量刑を重くした。特に殺人は情状酌量がなければすぐに死刑である 尚、これは命には命を以って償うという単純な法ではない。ミロクは犯罪者の更生を無駄だと断言した。一度法を犯せば後がないという風潮が軽率な犯罪を防止すると判断した。犯罪者を更生するために税金をかけるのは無駄である そもそも犯罪者の更生など被害者や社会は望んでいない。彼らが望むのは彼がもう犯罪をしえない状況である。犯罪者は殺すか閉じ込めるのが一番無難である。更生させたといっても再犯の可能性が高い。だからその心配がないように殺すのが一番安心である 公共の福祉は個人の人権に優先される。だからミロクは殺人者を速やかに死刑にした。これは被害者や安全な社会の視点から見た裁きである どの殺人も等価というわけではない。復讐は十分情状酌量の余地がある。その殺人者は復讐のために殺人を犯した。その相手がいなくなった今、殺す相手はいない。社会に戻しても殺す相手がいないので心配ない。そう判断されるため、死刑にならない可能性がある ところで、殺人以外の罪も軒並み量刑が重くなった。情状酌量がなければ詐欺でも二十年以上は懲役される。強盗なら五十年はかたい。また、いたずらや暴行など、どれもかかわらず、特定の誰かに恨みをもって罪を働いた場合、ふつう終身刑になる もし自分に恨みをもっていたずらした加害者が捕まって数年で出てくれば今度は更に恨まれて殺されるかもしれない。被害者がそう悩んで生きなくてはならないのは酷である。ミロクはそうした逆恨みを実行させないために恨みのある犯罪者は終身刑に処している 少年法の撤廃 犯罪者の更生が念頭にない以上、誰にやられたかはどうでも良いことである。問題は被害者である。被害者がやられたことが重要である。誰がやったかはどうでも良い。それが大人だろうと子供だろうと関係ないゆえにミロクは少年法を撤廃し、何歳であろうと大人と同じ法で裁くように決めた。それどころかミロクは「子供のうちから悪事を働くなど、とてもまともな大人になれそうにない」と失格者の烙印を押す。そして子供はむしろ大人より量刑を重くされる 不良少年少女の死刑や終身刑などは日常茶飯事である。但し、ミロクは親に責任を求めることはしない。親と子は別の個人であり、別々に扱われるからである。ここに連座の発想はなかった

ˈlɨləʃcdl ［政治］［法律］違憲審査 ［レベル］4 1L

ˈlɨləˈlɔlɒ ［政治］法治主義 ［レベル］5 1L

ˈlɨləˈɔlɒˈlɨɑ ［政治］法治国家 ［レベル］5 1L

ˈlɨləuenʃ ［法律］法曹界 ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ˈlɨləɑɪczˈlɔlɒ ［政治］立憲君主制 ［レベル］4 1L

ˈlɨləlɨɑ ［政治］立法 ［レベル］4 1L

ˈlɨləlɨɑˈlɪ ［政治］立法府。国会のこと ［レベル］4 1L

ˈlɨləlɨɑlɥɕel ［政治］立法権 ［レベル］4 1L

ˈlɨləlczɒɔ ［政治］法務庁 ［レベル］4 1L ［文化］ 事務省下。法律を作り、事務省に提出する。事務省はそれを受け、副王の制定を受ける。副王は王の承認を得る。

ˈlɨɟ ［数学］三角、トライアングル、三角形の ［レベル］2 ɟɔɟɒn φɛɥɛ:ɥɛɥɛ

ˈlɨʃcɪl ［地名］カスティアル ［レベル］5 ʃ0:ɥcɑcɪ:ˈlɨl（場所）/ɟ（砂）/ʃcɪ ← ɑcɪ（地）/l ← ɪl（もの）。砂の土地 ［文化］ 古代国家のひとつ。ファルファニアの南。

ˈlɨʃɔ ［植物］ナツメグ ［レベル］3 古

ˈlɨʃɔl ［魔法］カストル、銀粉 ［レベル］6 古 ˈlɨʃɔl（塵埃） ［文化］ 代表的な活性剤（ˈlɨləl）。銀を砕いて粉にし、月光に晒して得る。

ˈlɨʃɪ ［地学］三角州 ［レベル］4 1L

ˈlɨʃlɨɑ ［地球の国名］ニカラグア 1L: 国旗に三角のマーク

ˈlɨɟʃlɔn ［名詞］あぐら、胡坐 ［動詞］ɥel にあぐらをかかせる、あぐらをかく ［レベル］2 1L: 前から見たときの脚の形が三角形になる

ˈlɨɟucɒ ［生物］三角筋 ［レベル］4 ʃʃ<ʃʃ

ˈlɨɟɑɟɪn ［数学］三角関数 ［レベル］5 1L ［文化］ 三角関数における三角形のそれぞれの辺は ɒɥeʃ（斜線），zɔɒ（縦線），uɒɔ（横線）と呼ばれる。これは元々木の高さを影の長さから測定したときの名残。太陽が南中したときに北に伸びる影と木が直角二等辺三角形になる。この三角形のそれぞれの辺を上記のように名付けたことから、やがて三角関数ができたときにも名前だけ流用された。三角関数は天文学で距離を測るさいに利用された。 三角関数は単位円上で考えられることが多いため、辺の比を示すものであっても、日本語と同じく「弦」で命名される。

ˈlɨɟɒc ［植物］アガパンサス、ムラサキクンシラン、紫君子蘭 ［アクセント］ˈlɨɟɒɛ ［レベル］3 ɟɒ;ˈlɨɟəɒc,ɪlʃ ʃ1 ［文化］ 南ファベル原産で、ɟɒ でカレンに伝来し、そこから北へ伝わった。アルバザード南部でよく見られる。観賞用。

ˈlɨɟɒc(ʃ) ［人名］カスミ ［アクセント］ˈlɨɟɒɛ ʃ1 ［文化］『夢織』の登場人物。アルナ大７組で、アリスの友人。髪は黒髪ストレートの長髪。典型的なアルティア人。バンド「フィーナ」のボーカルとリードギターを担当する。メル組だがラーサを嫌って通常の制服を着ている。

ˈlɨɟɒc ɟɪɟbelcɪ ［人名］柊霞 ʃ1

ˈlɨɟɑelʃ ［地学］三角江、エスチュアリー ［レベル］6 1L ［語法］ 沈水海岸のひとつ。

ˈlɨɟbɪɑ ［音楽］トライアングル ［レベル］2 ʃ1

ˈlɨɟhɔ ［生物］肩甲骨 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 形から ［文化］ ここが凝ると疲れる。膏肓があることからも、重要な部位とされる。

ˈlɨɟhɔɪl ［生物］肩甲棘 μɑ;/ ʃʃ

ˈlɨɟhɔɪlɥɔɔɒɥeʃ ［生物］肩甲棘内端縁間 μɑ;/ ʃʃ

ˈlɨɟhɔɪlʃ ［生物］肩峰 μɑ;/。「肩甲骨の峰」 ʃʃ

ˈlɨɟɪ テント 1ʔ: 制 : 三角な家

ˈlɨɟɪˈlɨɑ ［地球の国名］キルギス 1L: 国旗の中の３本の輪がテント

ˈlɨɟɪ ［被服］三角巾 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ˈlɨɟɪbe（三角の布）。ソーン ˈlɨɟʃ が三角形。

ˈlɨɟɪ,ɑ. ɒɪɟ

ˈlɨɟɪ,ɑu lec ˈlɨʃ,ɑ.l

ˈlɨɟɪn ［人名］カサン ［組み数字］3 / 5 ［レベル］3 1L: 古 :ˈlɨɟɪ/ˈlɨɟɪ で ɪlɪɟɪ になって ɪlɪɟ。「法」の重ね。 ［文化］ blɪnuɟɪ lcɥɟe リーファ隊の３番目。男性。法と異端者尋問を担当した。徹底派で強硬な人物で恐れられた。

ˈlɨɟɪnʃe ［地名］カサンテ ［レベル］5 ʃ0:ɥcɑcɪ: 定規のようにまっすぐな土地（山間にギザギザした地形があるため） ［文化］ ベルフェ南西部の都市。鍾乳洞で有名。山間で、温泉も沸く。渓流遊びなどをする。

ˈlɨɟɪnɟel ［ユマナ］水曜日 ［レベル］2 1L

ˈlɨɟɪnɑɪɪn ［化学］ブロモメタン、メチルブロマイド、臭化メチル 1L

ˈlɨɟɪnlcl ［化学］臭素 ［レベル］5 1Δ: 制

ˈlɨɟɪnɪ ［化学］ブロモ 1L

ˈlɨɟɪnɪʃɪn ［化学］ブロモアルカン 1L

ˈlɨɟɪɒe ［言語］処格 ［レベル］5 ʃ0

ˈlɨɟɪlʃ ［数学］三角数 ［レベル］5 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

ˈlɨɟcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］さんかく座 ʃʃʃ ［文化］ cɑɪ

ˈlɨje ［形容詞］洗練された、粋な ［反意語］ɪˈlɨje ［レベル］4 1L:ˈlɨje: 古 ˈlɪɒɪɟɔ たくさんした（学んだ）

ˈlɨjeeu ［物理］三角波 ［レベル］5 ʃ1

ˈlɨjəɒc,ɪlʃ ˈlɨjɒc

ˈlɪn ［名詞］缶 古 :ˈlɪn。ˈlɪn はオノマトペで、缶を蹴ったりして衝撃を加えたときの音からきている。日本語の「缶」からではない。

ˈlɪn(J) ［格詞］メティオ語の能格を示す格詞。 ［反意語］ɑɔɟ μɑ;<ɒe ʃʃʃ

ˈlɪn(ʔ) ［生物］［医療］経、経脈 ［反意語］jen μɑ;<ɪin,jzl(ɒcuɪʃ).ɪlel ʃʃʃ

ˈlɪnʃ ［自然動名詞］［普通動名詞］成長、発展、発達、発育 ［動詞］ɥel を ɪ（状態や年齢）まで育てる、育てる、成長する、成長させる、栽培する、養う、子供を引き取る、扶養、育つ、発達する、発育する、伸びる ［レベル］2 ʃɒ;ˈlɪc/ʃe「大きくする」 古 ［用例］ μe ˈlɪnʃ nɔj. 大人になれよ。

ˈlɪnʃ(J) ［音楽］力や意味を持った特別な歌、歌、カント ［動詞］ɟɔl は ɥel の内容のカントを歌う、歌う、詠唱する、詠う ［魔法］歌魔法の詠唱、歌魔法を詠唱する、唱える ［レベル］3 ʃ0:ˈlɪnʃe（缶の風）。鼓を打つときの音。呪文に抑揚をつけて歌うときに鼓を叩いてリズムを取ったことから。その後呪文となる歌を指すようになったが、ɑɥecɒ がその意味を指すようになったので「特別な歌」や「力や意味を持った歌」という意味になった。

ˈlɪnʃɥcl ［政治］養育費 ［レベル］4 ʃ0 ［語法］ 離婚した夫が妻側に払う養育費の意味と、単に子供のある家庭で父母が協力して子供を育てる場合の養育費の意味があり、どちらも同じ単語で示す。養育費という単語が出たからといって必ずしも離婚したというわけではない点に注意。 ［文化］ 別居をすると子供は夫の家に残る。妻は夫より稼ぎが少ないため、養育費を支払うことはない。妻の過失で別居になった場合は、養育費でなく慰謝料として妻ないし妻の親族から得る。

ˈlɪnʃlcuɪ ［娯楽］育成ゲーム ［レベル］5 ʃʃ

ˈlɪnʃleul ［医療］発達障害 ［レベル］5 1L

ˈlɪnʃɪn ［名詞］ブリーダー、保護者、親権者 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ˈlɪnʃɪbel ［医療］カンタベル、陽気な性格 ［レベル］5 ʃ1: 古「大笑いする」 ［文化］ ˈlɪɒelcɪ ［成句］ ˈlɪnʃɪbel ləɪ 抱腹絶倒する、爆笑する

ˈlɪnʃɪμ ［地名］カンタル、館紫街 ［レベル］6 古 :「館」クミールの家、「紫」クミール ［文化］ アシェルフィの北部の街。クミールの家がある。ソエンよりずっと手前。 ［成句］ ˈlɪnʃɪμ ʃelen ɪɑel 背水の陣。防衛部隊であるソーン側の守りを越えられたら後がない。ここまで攻め込まれるとアシェルフィに進入されてしまう。

ˈlɪnʃene ［名詞］伸びしろ ［レベル］4 ʃʃ ［用例］ ʃcl ˈlɪnʃene 伸びしろがある

ˈlɪnʃ ［名詞］飼料、餌、えさ、エサ、飼い葉、飼葉、ペットフード ［レベル］2 1ʔ: 制 :μɑ:ˈlɪɒˈləə

ˈlɪnʃɔʃɪn ［魔法］［哲学］邪精 ［レベル］4 ɟɒ;<ɪlʃ<ˈlɪn/ˈʃɔʃɪn ʃ1 ［文化］ hcnɪʃɪ

ˈlɪnʃcɔn ɪɒɪnze ［人名］カンシオン＝アマンゼ ［レベル］3 古 :ˈlɪn,ˈlɥɪn（父）/ʃcɔn（シオン）。アマンゼ家の子はたいていˈ～ʃcɔn になる。ʃcɔn の親が出家したので、ʃcɔn 以降この法則は崩れる。 ［文化］ シオンの父親。

ˈlɪnɟɪɒe ［言語］能格 ［反意語］ɑɔɟɟɪɒe μɑ;/ ʃʃʃ

ˈlɪnjen ［生物］［医療］経絡 ɟzl;/ ʃʃʃ

ˈlɪnjenɔɒ ［生物］［医療］経絡治療 μɑ;/ ʃʃʃ

ˈlɪnuc ［形容詞］強い、腕力が強い、力が強い ［類義語］ucen、nɪɪu ［レベル］2 ʃ0:ˈlɪɒɪucɒe（筋肉が多い）

ˈlɪnuel ［植物］ピスタチオ ［レベル］5 古 ɟɔμn

ˈlɪnɑzel ［篭堺］カンヅェル ［レベル］5 μɑ;uɪlɒɪlɛɪ 語で「塔」 ʃʃ ［文化］ 篭堺司 : sccl uɪlcu 篭堺国 : uɪlɒɪlɛɪ, ɪlhɪnɔn, hɥɥφnɔ, ɥelɔ

ˈlɪnɑɪl ［人名］カンダル ʃ0 ［文化］（ɥəəɒɪ ʃʃΔ9:Φ0ʃʔ）メルテナ中期の貿易商。神商会の会長。

ˈlɪnɑc ［人名］カンディ ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥe

ˈlɪnɑcμɪ ［地名］カンディラの丘 ［料理］モンブラン。モンブランによく似た菓子。白でなく黄色。上には栗。人気が高い。 ［アクセント］ˈlɪnɑcμʲ ［レベル］3 ʃ0 ［文化］ ベルティアにある丘の名。 ɥəəɒɪ ΔΦΦL 1ʔ 歳のソーンが前線でメテと対峙。ソーンはわざと未熟を装い、命からがら逃げる振りをする。油断したメテが使徒を連れずにソーンを追う。そしてˈlɪnɑcμɪ の丘でソーンに葬られる

ˈlɪnɑcl ［魔法］カンディル。１/１００ルノン。 ［レベル］6 ʃ1:ˈlɪnɑc/ɪl「カンディのもの」 ［文化］ ɑɔlɒcɥe

ˈlɪnɑcɪl ［歴史］帝国、カンディアル ［レベル］4 ʃ0:cˈlɪnʃ/ɑcɪ/ɪl（皇帝の土地の物＝皇帝の土地）

ˈlɪnɑcɪlɟcˈlʃcɪl ［政治］帝国自由都市 μɑ;/ ʃʃʃ

ˈlɪnɑcɪlɪˈlɪn ［政治］帝国主義 nɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ 帝国主義があった zφ ごろはそれが当たり前の制度すぎてわざわざ取り沙汰されることがなかった。この単語が造語されたのは帝国主義という概念が問題視された産業革命後である。というのも、このころは植民地を手に入れて資源と購入者を一気に得ようとしたが、この考え方を帝国主義と呼んだためである。

ˈlɪnμen ［言語］能格言語、能格型 ［反意語］ɥelμen μɑ;/ ʃʃʃ

ˈlɪnzeμce ［ランドマーク］［運動］武道館、カンゼリエ、カンゼリエ武道館 ［レベル］4 ˈlʃ;「神に届く山」 ʃʃ:μcɑcɪ ［文化］ ul でできた。ul のアルナオリンピックが契機となった。 その後ライブなどにも用いられるようになった。バンドにとって最終目標となる国内最大の会館である。

ˈlɪnzel ［地名］カンゼル、カンゼルの森 ［レベル］6 ɑ;e ʃʃ ［文化］ セルア山の近くにある森。ヴィーネの家があった。

ˈlɪnzel ʃɔlcɪ ［人名］カンゼル＝トシア ʃ0 ［文化］（cɒel 1ʃʃʔ:1ʔΦ1）メティオの機織職人。1ʔʃ1 に nenˈlɪμʃ を発明。

ˈlɪnsel ［娯楽］カンジェル ［レベル］3 ʃ1:ˈlɪc/ɪnsel ［文化］『機動戦士ガンダム』に相当するアニメ。

ˈlɪnleczen ［魔法］［哲学］悪霊 ［レベル］4 μɒ;<ɪlʃ<ˈlɪn/leczen ʃ1 ［文化］ hcnɪʃɪ

ˈlɪnlə,ɪlʃ ɥɪɒ

ˈlɪnɪ ［名詞］階級、地位、職位、爵位 ［名詞］男爵、子爵、公爵、侯爵、候爵、伯爵、貴族、会長、社長、筆頭副社長、副社長、専務、常務、取締役、経理担当役員、非常勤役員、監査役、本部長、本部長代 、部長、次長、副部長、支店長、所長、課長、課長代理、係長、主任、平社員。これらは訳語検索でヒットがかかるようにしただけのもので、ˈlɪnɪ の実際の訳語ではない。詳しくは文化欄を参照のこと。 ［組み数字］２０ ［レベル］3 1L: 恣意 ［語法］ ʃɔnˈ ［文化］ → uɪɪn アルバ二世は軍隊を整え、軍人を元帥と士官と兵に分けた。士官と兵をそれぞれ３分割し、将官、佐官、尉官、准士官、下士官、兵卒とした。これら６種をさらに３分割し、大将～下級兵までの１８区分を作った。頂点には元帥が来るため、１９段階の階級制度ができた。 ミロクはこれに大元帥を加え、元帥と大元帥の階級を総指揮官と呼称した。よって、総指揮官・士官・兵の３階級ができ、その内訳は大元帥～下級兵までの２０段階となった。これが現在の軍の階級制度である。 一方、警察や企業における階級は軍隊とは別のところで発達した。それは非体系的で、ヴェレイにおいてすら非体系的であった。 現在の日本企業でも「副社長と専務はどちらが上なんだ」「この会社は専務がいない」「この会社は所長が一番上で社長はいない」「社長が一番上かと思ったら会長がいた」「社長とＣＥＯはどちらが偉いのだろう」といった疑問が日常的にある。 実際日本企業の場合、役職の序列に公式なものはない。世間一般では通例こうであるという程度の目安しかない。実際は会社によってまちまちで、理事があったりなかったりするし、理事が中くらいのところもあれば、理事が一番上のこともある。自衛隊と比べれば実にいい加減である。 また、日本は警察も複雑で、同じ課長でも警察庁のは警視長になり、警視庁のは警視正になる。さらに、警察本部のものだと警視になる。逆にいえば、同じ警視正でも、警察庁の理事と警視庁の課長などが横並びになっており、大変分かりづらい。 実はこの複雑さはヴェレイでは日本同様であった。そこでミロクは最も体系化された軍隊の階級を、そのまま警察と企業に当てはめた。企業は有象無象に役職を増減し、名ばかり管理職や天下りポストを作ったりした前科があるため、特にミロクは厳しく２０階級性を敷いた。 日本語だと「警視」「中将」「部長」などと別の単語で呼ぶので、覚えにくい反面、覚えればどの組織の役職だか分かるという利点がある。アルカの場合どれも同じなので、汎用性がある反面、どの組織のことだか分からない。「リーダー」や「長（おさ）」と同じように、漠然とトップを指すだけで、どの組織のことか分からない。ただ、「リーダー」にそこまで不便は感じないのと同じく、アルカでも問題は感じない。 中小企業だと２０段階すべてが埋まらないことがあるが、その場合は空白で構わな

い。逆に大企業では２０段階で足りないこともあるが、その場合は同一ポストに複数人を宛がって良い。日本企業で課長が部署ごとにいるのと同じである。便宜上片方の課長に hɪlʃ などの修飾をつけてさらに階級を細かくすることはできるが、それは社内の通用名であって、商法および会計法では認められていない。　＜訳語＞　会長、社長、筆頭副社長、副社長、専務、常務、取締役、経理担当役員、非常勤役員、監査役、本部長、本部長代 、部長、次長、副部長、支店長、所長、課長、課長代理、係長、主任、平社員　――などは日本の役職であり、アルカではすべて２０段階の中で対応させる。企業によって役職数も序列も異なるので、本辞典では役職を各単語に反映させなかった。ただし、会長か社長がおおむね ɹɸɪlʃ で、平社員はほぼ確実に ɒɔʃlɒɪlʃ である。　警察庁長官、警視総監、警視監、警視長、警視正、警視、警部、警部補、巡査部長、巡査長、巡査　――は日本の警察の階級で、１１段階になっている。アルカでは２０段階になっているので、およそ２倍細かい。訳語が圧倒的に足りないため、企業の役職同様、本辞典では単語に訳を宛てない。　＜爵位＞　爵位も同様に２０段階あり、男爵などよりも細かい区切りになっている。システムが違うので公爵が何で男爵が何というような一対一の関係はない。　＜２０階級＞　階級は３種類の呼び方がある。　１：八分法　ɹɸʃlʃ, ʅɪlʃcʃ, hɣəlɪ, benɔɔ, ɸɪlʃe, nɔce, ɒɔɔl, oɪlʃ の８段階に分ける。hɣəlɪ ～ oɪlʃ に関して、３段階の内訳をそれぞれ hɪlʃ ～、jeel ～、ɒɔʃl ～で分ける。例えば大将は hɪlʃhɣəlɪ で、少尉は ɒɔʃlɸɪlʃe。　長所は覚えやすいことと、どの階級エリアにいるのか分かりやすいことで、ネイティブにとっては後者の意義しかない。　短所は語形が長いことで、これが理由となって八分法は特に口語で好まれない。　２：七分法　ɹɸʃlʃ と ʅɪlʃcʃ を総指揮官 oɪlʃcɔn にしたもの。あとは１と同じ。組み数字などに使われる。　３：全分法　hɪlʃ, jeel, ɒɔʃl を使わず、すべてを単純語で分ける方法。　長所と短所は上記の逆。それにしても、２０段階もあると、聞いたときにパッとどの階級エリアにいるのか分からないので不便である。　そこでアルバー世（およびミロク）は巧いことを考えたもので、上記の８段階の語頭音がすべて食い違っていることを利用した。　語頭音が食い違っているので、ソームと同じく省略時は頭字だけで通じる。それを活かし、総指揮官以外の１８段階を命名する際、すべて語頭音だけは保持した。　つまり、oɪlʃ に属する３つの階級は、すべて o から始まる。これにより、どの階級エリアにいるのか、単純語レベルでもサッと理解できる。　ここが決定打となり、アルバザード人は通例全分法を使う。　ちなみに、語頭音について付け足すと、ɔɣɒlef, ɹɣccʃ, ɹɪc を加えても重複がない。これを利用し、陣内では語頭音だけを書いた駒が置かれている。u とあればすぐ３段階中の３番目と分かる。　全分法の内訳は以下のとおり。　上位概念である hɣəlɪ, benɔɔ などの最初の母音に対し、必ず異なった母音で始まるようになっている。このことは全分法においても２文字で２０段階の省略記号を作れることを意味している。b ないし be と書けばベノムのことであるし、bɪ とあればバルティールのことと分かる。通例 b は h（将官）, φ（尉官）などとの対比で使われ、be は内訳である bɪlʃcɸ（大佐）などとの対比で使われる。　また、内訳の３段階については、下位のほうが上位より文字数が多いことがない。φcluɪn（６文字）、φəcɣə（５文字）、φeel（４文字）のように、少なくとも下が上を越えることはない。これは一種のニーモニックとして考えられたものである。　ɹɸʃlʃ（大元帥）　ʅɪlʃcʃ（元帥）　hɪɹɑcɪn（大将）　hcɹuel（中将）　hejʃcɪ（少将）　bɪlʃcɸ（大佐）　bcɪleʃ（中佐）　bɔɹʃ（少佐）　φcluɪn（大尉）　φəcɣə（中尉）　φeel（少尉）　nɪlbc（准尉）　nelʃe（特務曹長）　nccs（兵曹長）　bɪʃcʃ（曹長）　bɔlen（軍曹）　benʃ（伍長）　oeʃʃɪ（兵長）　occz（上級兵）　ɔɔɔl（下級兵）　７分法と２０分法は最初の２文字で階級が分かる。nɔ. は nɔce、nc. は nccs。ɹɸ. は ɹɸʃlʃ で、ɑɪ. は oɪlʃcɔn というように。

ʅɪnɪ(ɹʃ)　［音楽］琴、こと　［レベル］5　ɪlʃ<ɔ>ʅɪn（缶 < オノマトペ）　ɹʃ

ʅɪnɪʃɪ　［被服］袴、はかま　［類義語］nɪnɪʅɔ　［レベル］4　ɹʃ:ɪəɟcɪn:ɪlʃ　［成句］　ʃcl ucl dɔʃen ʅɪnɪʃɪ 脛に疵を持つ

ʅɪnɪn　［人名］カナン　［組み数字］１３/１３　［天文］カナン座　［レベル］3　先 :ɪnɔ:ʅənɔnɔ　［文化］　第４期３代ソーン第１３使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ʅɪnɪɒcn　［魔法］［哲学］邪神　［レベル］4　ɹɒ;<ɪlʃ<ʅɪn/ɪɒcn　ɹʃ　［文化］　hcnɪʃɪ

ʅɪnɪɔɔɑ　［普通動名詞］昇進、昇格、出世、立身出世　［動詞］ɣəl を ɪ に昇進させる、昇進する、出世する　［反意語］ʅɪnɪɒeɑ　［レベル］3　ɹʃ

ʅɪnɪɒeɑ　［普通動名詞］降格、左遷　［動詞］ɣəl を ɪ に降格する、降格する、左遷する　［反意語］ʅɪnɪɔɔɑ　［レベル］3　ɹʃ

ʅɪnc　［動物］孔雀、クジャク、ピーコック　［レベル］3　ʔ: 制 : 古 :ʅɪɒɪncɒ（色が多い）　［擬声］　ɪhcc

ʅɪnccɑɪ　［地球の星座］［ユマナ］くじゃく座　ɹʃl　［文化］　cɑɪ

ʅɪnɔ　［動物］鷲、イーグル　［名詞］つめかけ、爪かけ　［組み数字］3/５　［レベル］2　lʃlʃ:「大きい爪」

ʅɪnɔʅɪɑ　［地球の国名］アルバニア　ʅL: アルバニア語で自国をＳｈｑｉｐｅｒｉｓｅ（鷲の国）と呼ぶことから

ʅɪnɔn　［単位］穣　ɹʃ:ʅɪnɔ

ʅɪnɔucef　［地球の国名］アルメニア　ʅL: 国章にライオン

ʅɪnɔc　［人名］カノイ　［経済］インフラストラクチャー、インフラ　［レベル］4　古 :hɪnɔc の古形　［文化］　初代開発省長官。イムル２２年、カコで荒廃したアルバザードに上水道、下水道、トイレ、医療機関を設置。避妊具を無料配布。ベルフェに自然に湧く温泉にヒントを得、公衆浴場を設置した。

ʅɪnɔcɑɪ　［地球の星座］［ユマナ］わし座　ɹʃl　［文化］　cɑɪ

ʅɪne　［名詞］缶詰、缶詰め　［レベル］2　ʅl: 制 :ʅɪnɪ（缶）

ʅɪu　［動詞］ɣəl を含む、含む、カバーする　［言語］［動詞］ɣəl 在中、在中　［格詞］～を含んで　［反意語］ʃcl　［レベル］2　ʔ: 制 : 古 :ʅəɒɔʃɔ（口の中に）

ʅɪul　［経済］財政、財務、ファイナンシャル　［レベル］4　ʔ: 制 :ʅɪɑɪulʃ「国のための経済行為」の意

ʅɪuldɪl　［経済］財務諸表　［レベル］6　ʅL

ʅɪulɹɒɔn　［政治］財務省、大蔵省　［レベル］4　ʅL:clɒəj:ɹcɑɔɪ

ʅɪuen　［接続詞］ʅɪu。～を含んだ。　［レベル］3　ɹʃ

ʅɪuec　［亜魔］カヴェイ　［レベル］5　ɹʃ:ʅɪde/uecɸɪn　［文化］　頭に小さな角の生えたヴェイガン。角がある以外は人間とほとんど区別がつかない。　［成句］　ʅɪde e ʅɪuec cʅ jcnɣ. 馬脚をあらわす。人間に化けたカヴェイが角を見られて正体を知られてしまったというところから。

ʅɪɑ　［動詞］［ポジティブ］［ネガティブ］ɣəl を憐れむ、ɣəl に同情する、憐れむ、哀れむ、あわれむ、同情する、可愛そうだと思う、気の毒に思う　［反意語］becnɣ　［レベル］3　ɹO:ʅɪɑɔ:ɪ9: 制 : 古　［語法］　本来はさげすむの反対で良い意味の言葉だが、相手が「同情しやがって！」と思うことがあるので、ネガティブになることがある。　［用例］　ɑen ʅɪɑ ɪnʃ「同情しやがって！

ʅɪɑcl　［名詞］模擬　［形容詞］模擬の　［レベル］3　ɹɒ;ʅɪlʃ/ɑcel「本物のような偽物」　ɹʃ

ʅɪɑclʃɪʃ　［名詞］模試、模擬試験、模擬テスト　［レベル］4　ɹɒ;/　ɹʃ

ʅɪɒ　［電算］ＵＲＬ、アドレス　［レベル］3　ɪl;ləəɒcɒ　ɹʃ

ʅɪɒʃ　［動物］鼠、ねずみ、ネズミ、モルモット、モルモットなどの類　［色］ねずみ色。nɔʅɑ より少し暗い。　［レベル］2　ʔ: 制 :lʅʃɪ:ʅɪɒɪ（鼠）。ʅɪɒɪ は多いとか増えるという意味で、鼠を指す。

ʅɪɒʅ　［名詞］寓話　［レベル］4　ʔ: 制 :ɹɪɑ:ʅɪɒʅə（動物話）

ʅɪɒɟ　［動詞］ɣəl を ɪ（画面や倍率など）に拡大する、拡大する　［普通動名詞］拡大　［反意語］lccze　［レベル］3　ʔ: 制 : 古 :ʅɪɒɪ（多い）

ʅɪɒu　［医療］ペスト、黒死病　［レベル］5　ʅL:ʅɪɒʃ/leun

ʅɪɒɸc　［動物］プルガトリウス　ɪl;ʅɪɒʃ/ɸcc「鼠猿」　ɹʃ

ʅɪɒz　［植物］ショウガ、生姜、しょうが　［レベル］2　古　［文化］　体を温めるとされ、冬は風邪防止に生姜湯がよく飲まれる。料理にもよく使われる。

ʅɪɒzɑclɑɪc　［医療］生姜灸　ɹɒ;/　ɹʃl

ʅɪɒze　［商標］カムゼ、ジンジャーエール、ジンジャエール　ɹɒ;ʅɪɒz　ɹʃ　［文化］　カルディアでは地球より早く開発された。

ʅɪɒɪ　［名詞］玄人、専門家、熟練者、経験豊富な人、プロフェッショナル、プロ、エキスパート、達人、名人　［形容詞］経験豊富な、玄人の、プロの　［反意語］ləʃɪ　［レベル］3　赤 : 多い　［語法］　その仕事により１円でも金をもらえばプロ。一切金銭を受け取らなければアマ。金銭の多寡は問わない。バイトか正社員かなど身分も問わない。つまり同人漫画家はプロである。逆に言えばどんなにボカロＰとかで再生回数を稼いでも、お金を一切もらっていなければアマである。ということはカルディアではプロよりも凄いアマが平気で存在するということである。

ʅɪɒɪ,ɑ　ɹɒ　elʃ;ʅɪ/ɒɔ「場所を占める物」→「場所を占められている」→「物がたくさんある」

ʅɪɒɪ,ɪlʃ　ɔlʃ

ʅɪɒɪʃ　［政治］連邦　［レベル］5　ɹʃ<ʅɪɑɒɪʃ:ʅL

ʅɪɒɪʃɒɔel　［政治］連邦政府　［レベル］6　ɹʃ

ʅɪɒɪʃɑɪcʃʅɪɑ　［政治］連邦王国　［レベル］6　ɹʃ

ʅɪɒɪn　［単位］カマン　［レベル］5　ɹʃ: 古 ʅɪɒɪ/ɪnʅɔ　［文化］　ɪnʅɔ

ʅɪɒɪʅɪ　［料理］お好み焼き　［レベル］3　nɑ<ɪlʃ;ʅɪɒɪʅɪ<ʅɪɒɪʅc（多い）。具材が多いことから。　ɹʃ　［文化］　nɑ で遅れてアルバザードに流入した食べ物。食べる前から食べ終わったような形をしている（つまり吐瀉物のように見える）ということで ɹɒ ではアルバザードに受け入れられず、カレンシア内に留まった。

ʅɪɒɪʅɪn　［芸術］キッチュ、キッチュさ　［形容詞］キッチュな　［レベル］5　uʃ;ʅɪɒɪʅɪ/en「お好み焼きのような」。一見吐瀉物に見える俗悪なものだが食べると意外とおいしいというところから転じてキッチュを意味するようになった。　ɹʃ

ʅɪɒɪleʃ　［政治］参事会。自治都市の議決機関のこと。　zφ;「鳥の群れ→会議」　ɹʃl

ʅɪɒɪlə,ɪlʃ　ɹɑ　>ʅɪɒɪ

ʅɪɒc　［名詞］科学、サイエンス、理学　［レベル］2　ʔ: 制 : 古 :ʅɪɒccɹ（科学）。語源不詳。ɒcɹ は ɒccɹʃ「論理」の ɒcɹ だと思われる。造語者不明。

ʅɪɒc,jzɑ　ɪlɒcʅ

ʅɪɒcʃʃe　［形容詞］科学的な、科学の　［反意語］ləɟcɪʃʃe　［レベル］4　ɹɒ;/　ɹʃ

ʅɪɒcʃɪʃj　［名詞］理学部、理系　［レベル］4　ɹʅ

ʅɪɒcɑɔɪ　［言語］サイエンスフィクション、ＳＦ　［レベル］3　ɹɒ;/　ɹʃ

ʅɪɒcl　［遊離副詞］［形容詞］きっと、恐らく　［レベル］1　古 :ʅɪɒɪl ないし ʅɪɒcl。l は動作を表す l。動作が多いこと、すなわち頻繁に。ʅɪɒɪl の ʅɪɒɪ は ʅɪɒɪ（多い）から。母音調和していたのがなぜ c になったのかは不明。何か音の似た単語とぶつかりそうになったので避けたのではないか。　［語法］　ɪləəʃ

ʅɪɒclɟɪʅ　［企業］カミルサック　［レベル］5　ɹʃ:「きっと見つかる」。キャッチフレーズをそのまま社名にしたもの。　［文化］　電通に相当する企業。

ʅɪɒcɪn　［名詞］科学者　［レベル］2　ɹɒ;ʅɪɒc/ɪn　ɹʃ

ʅɪɒɔ　［交通］トラック　［レベル］3　ʅL: リディアの書 :ʅɪcɪɒɔ

ʅɪɒef　［単位］正　ɹʃ:ʅɪcɒ/fe

ʅɪɒelcɪ　［亜魔］カメリア　［医療］顔色　［レベル］3　ɹʃ: 古 ʅɪɒɪ/ 古 el/cɔ　［文化］　魔族ミエルの一種。阿修羅のように顔がたくさんある。　顔色とは、その人が持っている性格の一面のこと。悪さをする ɒɪluel や、正義漢の ləlcɑeɹ など、それぞれに役割が異なる。　現実はマンガのキャラクターと違い、完全に悪な人間もいなければ、完全に善な人間もいない。リディアでもズルをすることがあるし、セレンでも怠けることがある。色々なキャラクターが混在して一人の人間になっている。　多重人格と顔色の違い。多重人格の場合、例えば jeɹen と交替する ɒɪluel などの別個の人格が存在することになる。顔色の場合、ɒɪluel や ləlcɑeɹ などは jeɹen 本人の一面でしかない。　日本では多重人格は非常に有名なのにこの病気になる人間が極めて少ないため、確かに苦しんでいるのに単なる思い込みや我侭とされることがある。正常と多重人格の間に位置し、誰にでも多かれ少なかれあるものが顔色である。　顔色は ɹɑ でセレンが自己分析に用いたのが始めて。セレンは気分屋で、ミルフと対照的な性格であった。特にその日の体調によって気分の変化が激しく、そのことに悩んで顔色の発見に至った。最初に分析されたのは ləlcɑeɹ, ɒɪluel である。後に ʅɪnɪíbel, nɪnɔ が分析された。　その後リディアから lccnɪ と eɹcnɪ が、メルから nɔʅɑen が分析された。これらはセレンがほとんど持っていなかったため、発見が遅れた。　ləlcɑeɹ は善で安定しており、我慢強く慈愛に満ち、人を守り、暖かく柔らかく幸福である。頭の回転がよくアイディアに満ち、天才的な新しい発想をする。　ɒɪluel は悪で疑い深く、焦りやすくイライラし、攻撃的で暴力的で嫉妬深く、他人の不幸を嗤う。衝動的で犯罪を厭わない。人を傷付けることで自分が強いと安心する。ストレスを受けたときに傷付かないように対処するための人格なので、ある程度までは必要悪。　ʅɪnɪíbel は明るく陽気で熱く、よく笑う。不注意で危険を好み、無計画。失敗しやすく失言も多い。人懐こい。強気で厚かましく、周囲のことを考えない。音楽や運動を好む。金遣いが荒い。　nɪnɔ は不安症で神経質で生真面目で几帳面で慎重で他罰的。不安を払うために計算ばかりしている。必ずマイナスの結果を支持する。ストレッサーを調べ上げて排他しようと躍起になる。冷酷で、人を助けない。人との関わりを避ける。守銭奴。　lccnɪ は優しく慈愛に満ち、利他的で気がきく。人のことを考え、自己犠牲的。涙もろい。　eɹcnɪ は嘆き悲しみ、愛情を求め、孤独を恐れる。泣きやすい。　nɔʅɑen は無感情で無感動で冷淡で虚無的。　しかしこれでは際限がないことを指摘したリュウは、善悪で ləlcɑeɹ, ɒɪluel、陰陽で nɪnɔ, ʅɪnɪíbel を組み合わせて使うとうまく収まると述べた。例えば eɹcn, nɔʅɑen はリディアやメルなりの nɪnɔ に当たる。　X 軸に ləlcɑeɹ を取る。正が ləlcɑeɹ。右が神なので印象が良い。また ləlcɑeɹ のほうが ʅɪnɪíbel より古いので第一軸を取るのが自然。Y 軸には ʅɪnɪíbel を取る。気分の浮き沈みという直感に沿っていて良い。　地球で実例を挙げると、ねこの郵便屋さんを書いたのが ləlcɑeɹ、玲音の書の最後を書いたのが ɒɪluel、掲示板で常連と話していたのが ʅɪnɪíbel、サイトを消したり人工言語関連の記事を書いたのが nɪnɔ に相当する。　季節や気温の変化と関係があり、冬は nɪnɔ が出やすく、夏は ʅɪnɪíbel が出やすい。体調と深く関係があり、不定愁訴があると nɪnɔ と ɒɪluel が出やすい。　理想の状態はこの ɹɹ 顔色をバランスよく使うことである。座標を描いたときに原点にいるのが望ましい。　怒りやすい人は怒らない人を羨むが、これは逆に ɒɪluel が少なすぎ、バランスが悪い。　怒らないというのは必ずしも良いことではない。怒らない人というのは舐められやすく苛められやすいなどのマイナスがあり、怒りやすい人間には想像つかない悩みがある。また、自分の怒りや不満に鈍感で、ストレスが大きくなるまで気付かないなどの欠点もあり、結局バランスが大切である。　バランスのとれた人間は感情が豊かで、しばしば偏ったまま動かない人間からは気分屋に見えるが、それは気にしなくて良い。　偏った座標を転々とするのが最もストレスが溜まるとしたら、一箇所に偏るのが二番目に疲れる。単位円のように原点から少しずつ動くのが最も好ましい。つまり、怒るときはそれなりに怒り、喜ぶときはハメをはずさない。

ʅɪɒəlɪ　［魔物］カムラ（巨百足）: 第九十二天 : 害の陽天　［レベル］5　古 :ʅɪɒəlɪ ← ʅɪɒɪlə　［文化］　蟲族。百足の化け物。立ち上がると平屋の屋根ほどにもなる。無数の脚で絡みつき、強力な顎で獲物を生きたまま喰らう。毒の粘液を吐き散らす。腺から出る黄色い粘液が体にかかっていて、体に触れた相手を腐食させる。殻は固いため、物理攻撃は避ける。魔法で倒すべし。

ʅɪɒəɪ,ɪlʃ　ɹɪnɔ

ʅɪɒəc　［ジョブ］神威、カムイ　［レベル］4　ɹɒ;ɪlʃ → ʅɪlɪn　ɹʃ　［文化］　ʅɪlɪn

ʅɪɑ　［名詞］国　［政治］国家　［政治］（行政単位としての）国→ ɹɪlɪc　［形容詞］～国。前置。　［レベル］2　ɹɒ;ʅɪlɪɑɪcz.lcʃ　古 :ʅɪlɪɑɪcz（王の場所、国）から　ʅɪlɪɑɪcz:ʅɪlɪɑɪcz:lɪ ɹɪɑɔɹ（地はサール）:jcɪ,ɪlʃ

ʅɪɑʃccɪ　［名詞］愛国心　［レベル］4　ɹʅ　［用例］　"ɑɔʅ, nɔn ɪləəʃ ɪɪs ɑɪn ʅɪnʃcɟʃ bcʃ ləəɟ ʅɪlɒɪ ɟc ʅɪɑʃc ɪ.「それと、愛国心を持たれては困るから、必ず混血児を選ぶことにしたわ。

ʅɪɑʃccɪn　［名詞］愛国者　［レベル］4　ɹʅ

ʅɪɑʅɪlə　［法律］公法　ʅL

ʅɪɑʅəʃɔ　［動物］国鳥　［レベル］5　ɹɒ;/　ɹʃ　［文化］　ucsɔn

ʅɪɑʃcɪɒ　［経済］国債　［レベル］4　ʅL

ʅɪɑɒɣəʅɪle　［宗教］国教　［レベル］4　ɹɒ;/　ɹʅ　［文化］　ʅʅ でアゼリアがアリスカンテを国教として定めたのが始まり。その後 nɑ で人類が魔法を失ったことでアリスカンテは形骸化する。ɹʃ で政教分離の観点からアリスカンテが国教から外れ、アルティス教も国教でないままだった。しかし ul の旧革命でミロクがアルティス教を国教とする。以後アルバザードではアルティス教が国教となっているが、国民が全員アルティス教徒というわけではない。丁信仰などを信じるものもいる。

ʅɪɑɒccɪnɪ　［植物］国花　［レベル］5　ɹʅ　［文化］　アルバザードは ɹɑ で決まり、桃。ルティアはコスモス。アルティアは桜（ʅɔzɑe）。

ʅɪɑɒcel　［経済］ソブリン債　［レベル］6　ɹʅ:ʅɪɑɒcellcɪɒ

ʅɪɑɒcellɪɒc　［経済］ソブリンリスク　［レベル］6　ɹʅ

ʅɪɑɑcɹec　［政治］国境、国境線　［レベル］3　ʅL

ʅɪɑɸɪlbel　［名詞］国章　［レベル］5　ɹɒ;/　ɹʃ　［文化］　ʅeɹɒn　アルバザードの国章は四角形の蔦の中に国木である欅が門のように二本立ち、その間に救世主であるセレンとリディアが描かれたもので、ɹɑ で制定された。リディアがセレンにすがる構図で、セレンは空（ɪlʃees）に向かって飛翔しようとしている。欅は二人の出会いを象徴し、セレンの翼は ɪlʃees への飛翔、すな

わち悪魔の討伐を象徴する。セレンとリディアの色は ɾcʃ から uelʃíɪuɐμɾɪ へのグラデーションで表現される。　・ルティア国章　国旗同様 ɔlcuce から alcɪns を使ったグラデーション。人物はルティアの大魔導師にしてアルシアの１１魔将の師匠であるユクレシア。魔法の光を手から放っている。　・凪国章　国木（正確には木ではないが）の竹が四隅にあり、中央には ɥəɲɔ, ucμ, nɔɪ の三竦みが置かれ、中央に ɪμɒɪ が座す配置となっている。中央の文様は刀を振り下ろすときの揺らめくような切っ先を示す。

˥ɪɑzɔɒ ［植物］国木、国樹 ［レベル］5　μɑ;/　ʃʃ ［文化］ → scɪɲz

˥ɪɑlɪφel ［政治］国家権力 ［レベル］4　˥L

˥ɪɑɪ ［政治］国旗、バナー ［レベル］3　˥ʔ: 制 :˥ɪɑɪde ［文化］ ＜アルバザードの国旗＞　アルバザードの国旗は μɑ でアシェットによって制定された。　大きさは横長の長方形で、比率は１：√２の白銀比（大和比）。　アルバザードの象徴色は赤なため、国旗の地の色は ɑɪlɾccɪɪ ＃ｅ２１８３ａ。ɑɪlɾccɪɪ は月とリディアに掛かっている。　左上には国を示す幼字が ɥəəʔɔ で書かれる。色は ɾcʃ ＃００２２００。　右下には ɪμbɪzɪμɑ ＃００３ｆｆｆの三角形。アルバザード人、ルティア人、凪人で主に構成される三竦みであることを示す。アルバザードという名前の色がそのまま用いられている。　左下には絡みあう二本の紐が二組。　上は北部アルシアに住み、凪人より早くから流入していたルティア人及びルティア語を意味する紐。厳密にはシージアのアヴァンシアンを象徴する紐であり、色は ɪɑɪnʃ ＃１７３ｃ５６。　下は南部カレンシアに住み、ルティア人より後に入ってきた凪人及び凪霧を意味する紐。カレンシア系凪国を象徴する紐であり、色は jəclen ＃００４８００。　二本の紐が絡み合っているのは「言語と文化の交わり」と「アルバザード人と、かの民族の交わり」を象徴する。　中央部には国家のスローガンが掲げられている。　スローガンは ɥʃı ɑe lɪɑ ʔɔn ʔɔ jel（ローマは一日にして成らず）をもじって ɥʃı ɔnʃ ɪμbɪzɪμɑ ɑe lɪɑ ʔɔn ʔɔ jel（言語と国家は一日にして成らず）という意味である。　フォントは ɪlbɪlnʃ を使用する。　・ルティア国旗　背景は ɔlcuce（ルティアローズ）の ɓʃbʃɑɑ。最下部のナイキのような模様は南端にある jeɥəμɾɪ 海を象徴し、色は alcɪns の ɓʃɑɪɑɑ。中央下部寄りでは薔薇の蔦の絡まる魔杖ヴァルデが交差し、その中央に幼字が座す。ヴァルデの色は黒で、幼字の色は elʃ e ɒczɪμc の ０００００Δ。　・凪国旗　背景は ɪμcʃı の ʔʔLrlLrl。アルバザード国旗の右下の三角の折り返しを半分程度に小さくしたものを四隅に付ける。色は hɪφılc の αΘΓΘΩ。幼字は中央で、色は ʃıɒəc の ʃΛΓΩ。ʃıɒəc 色の幼字の周りを護衛のように守り飾るのは jɪeoılc の ００JΩΩΔ。幼字の下に刀が横置きされる。色は ɔμɑcɪn の αϑαϑαϑ。その刀に国花である桜の文様が ʃɔzəe の αΩΔαϑΓ で乗る。　なお、現実では ɒel ʃʃ 初頭に ｔｗｉｔｔｅｒ上でネットユーザーとの交流のもとで成立し、ユーザーの手によって実際に作られたものである。

˥ɪɑɪn ［政治］国民、人民、臣民 ［レベル］3　˥L:ɒelcɑcɪ ılcʃ

˥ɪɑɪn˥ɪɑ ［政治］国民国家　˥L ［文化］ → ˥ɪɑɪn˥ɪφel　˥ɪɑɪn˥ɪφel を採用する国家。

˥ɪɑɪnʃɪʃ ［法律］国民解職、リコール ［レベル］4　˥L

˥ɪɑɪnuɪc ［軍事］国民兵 ［レベル］6　JO

˥ɪɑɪnɑɪʃ ［法律］国民発案、イニシアティブ　˥L

˥ɪɑɪnzɔɒ ［法律］国民投票、レファレンダム ［レベル］5　˥L

˥ɪɑɪn˥ɪφel ［政治］国民主権 ［レベル］4　˥L ［文化］ ランティスの即位後にできたが、絶対王政の色が強く残っているため、形骸的であった。　ミナレットの台頭から、徐々に本来の意味を得ていく。

˥ɪɑcuılucnl ［医療］［法律］国民皆保険 ［レベル］4　ʃ˥ ［文化］ cuılucnl

˥ɪɑcɪ ［歴史］カディア族 ［レベル］6　JO: 古リディア語「大きな人」

˥ɪɑeʃ ［政治］国名、国籍 ［レベル］3　˥L:clbəj;μcɑcɪ

˥ɪɑelɒɪ ［歳時記］建国記念日 ［レベル］3　JO: 国の記念 ［文化］ イムル 10 年 L 月 ʃʔ 日、アルバニ世はアルナ城を制圧し、アルバザードを建国した。これを以って建国記念日とする。平年なので１６１０年９月２２日に相当するが、これをメル暦に直すとメルー ʔ˥L ɒcʃ ſɪn である。

˥ɪɑelɑ ［言語］公用語 ［レベル］3　ʃʃ

˥ɪφ ［形容詞］富んだ、裕福な、お金持ちの ［形容詞］豊富な ［形容詞］心が豊かな ［形容詞］土地などが生産力のある、豊穣な ［属格］金持ち ［類義語］φılɑnıl、φın˥ɒɒʃ ［反意語］ſcɑ ［レベル］2　ʔʔ: 制 : 古 : 裕福＝˥ɪφc（金が多い） ［文化］ 富は悪でもあるため、どちらかというと忌避される。逆に貧困は清貧に繋がるため、善行とみなされる。どちらも行き過ぎがよくないと考えられ、適度に金があり、適度に清貧であることが尊ばれる。つまり、貪欲なのも貧困が過ぎるのも良くないと考えられている。 ［成句］ ˥ɪφen jel ſcɑen. 金持ち喧嘩せず。 ［用例］ ɪn nı ˥ɪφ ɔl cn ılſəl ɑc. 豊かな収穫物を見ると心も豊かになる：日本語の豊かとはニュアンスが違う。「俺、今年金持ちになったなぁ」というわりと俗っぽい感じ。

˥ɪφμı ſμc˥ɔl ［人名］南神楽　ʃʃ

˥ɪφılel ［地球の国名］コスタリカ　˥L: 国名が豊かな海岸

˥ɪφəlı ［企業］カグラ　ılʃ ［レベル］3　ʃʃ ［文化］ ソニー、パナソニック、ナショナル、富士通、東芝、日立に相当する企業。

˥ɪd ［名詞］電話　［動詞］ɥəl について ɪ に電話する、電話する ［レベル］2　μʃ:ɪμ˥ılcʃ hejſcɪ;ləɒcɒ。発明者が、余っていた短めの好きな語形を選んで命名した。受話器を置くときのかぼっという音から来ているという説もある。　古 :˥əɒələfejlɪn が長いので別語から何らかの頭字語にしたものが ˥ɪd だったが、それが何だかは誰も覚えていない。古アルカでは ˥əɒələfejlɪn（テスランによって言う）だが、長いので ˥əɒfe だった。˥əɒfe よりも ˥ɪd の方が複合語中では使われた。　x:x: ［語法］　・格組　「ɥəl に電話する」ではない。典型的なミス。　・音　呼出音 : ɪdɔdɔ。プルルル　切れた時などの音 : fəəſ。ツーツー　受話器を取り置きする音 : ˥ſıſı。ガチャ　・出るとき　fə elʃ ɒccμ ınſcʃjɒ.（こちらはミールです）のように、fə を使う。 ［文化］ ˥ɪ˥ılcʃ hejſcɪ　もしもしに当たるのは ſclınfe&。相手はそれに対して自分の名を名乗る。ɪn elʃ ではなく fə elʃ で始める。　電話はアンセの一機能として実装されている。音声チャット、映像＆音声チャットが可能。アンセは個人使用が前提なので、単体としての電話機は企業内に残っている。　電話番号はアンセの ＩＤ番号に等しい。ＩＤをじかに入力するのではなく、ケータイのアドレスと同じく短縮ダイヤルになっている。電話番号は世界共通である。つまり世界に同じ電話番号を持つ人間はいない。電話番号はアンセに登録された個人を表わす番号と同じである。端末を変えても生涯変わることはない。そのため、犯罪に使われることがないよう、番号はアンセと同じく暗号化されている。　人に電話番号を教えるときはアンセをケータイのリーダ部分に当てて読み込ませる。テレビや雑誌などで会社等の電話番号を伝える場合、日本のように何番と番号を言うことはない。画面や紙面に小さい模様のような物が表われるのでそれをケータイのカメラで写すと番号が登録される。　尚、企業用の番号は個人用とは異なる体系である。といっても使用する国民にとっては何ら違いを感じ得ない。　Ｍタイムを採用しているため、人といるときは電話に出ない。ただし緊急時のみ断って出る。電車やバスなどの中で話すことは許されるが、ふつうの会話同様、大きな声を立ててはいけない。 ［用例］ ɪμ ˥ɪd ɪ ～に電話をかける　cj ˥ɪd ɪ{c} ～との電話を切る　˥ɪd fə ɪ そのことについて～に電話をかける　ɥəlı ˥ɪd cſen{xe} ～からの電話に出る　ɥəlc{j el} ˥ɪd cſen{xe} ～からの電話を無視する、拒否する、電話に出ない　˥ɪd ləɲıl. 電話がかかってきた。　˥ɪd eɒ cj. 電話が切れる。電波などの具合が悪くて自然と切れること。　ucnı ˥ɪd 電話を切る、電話が切れる。電話をかけてもいつまでも相手が出ないと切ってしまうが、そのときの切るが ucnı（諦める）に当たる。　ɥəlı ˥ɪd ɑɔ ˥ſıſı 電話にガチャっと出る。受話器があるところの擬音。　nɔn ˥ɪdıſ ɪ lı ſıſ nəɲne ɟı ɒɔ˥. 毎晩、私は寝る前に彼に電話をしていた。　le ˥ɪdıſ ıl ın cɒ ın ɒc ıſə. 私が居ない間に誰かから電話があった。

˥ɪd(J) ［人名］カップ ［組み数字］１０/１６ ［レベル］4　ɒelſcɪ ΛΛ:ɪμnə/ejſı;e　古 ［文化］ ejſı　エスタの第１０子。男。

˥ɪd˥ı ［動物］コガネムシ ［レベル］3　ʔʔ: 制

˥ɪdn ［法律］条約 ［レベル］4　ʔʔ: 制 :˥ɪɑdcnı（国家間の約束）

˥ɪduılJ ［医療］電話医 ［レベル］5　ʃʃ ［文化］ cuıl

˥ɪddel ［企業］カッペル ［レベル］5　ʃʃ ［文化］ ニトリに相当する企業。ディミトリアよりも安値路線。

˥ɪdɔ˥ ［動物］カブトムシ、かぶとむし、かぶと虫、カブト虫、甲虫 ［レベル］2　JO:˥ɪd˥:ΛΛ: 制 :˥ɪde ˥ɪdɔ（角の虫）

˥ɪde ［名詞］角、枝角 ［動詞］ɥəl を ɪ に突っ込む、突っ込む、突進する、つっこむ。lıſ と同じ格組。 ［レベル］2　ʔʔ: 制 :˥ɪdel ［成句］ jcnɟ ˥ɪde ɔn ſɔſɔ ˥ı ſɔſɔ 角を見せる：台頭する、頭角を現す、頭角をあらわす ［用例］ lı jcnɟıſ ˥ɪde ɔn uıuı ˥ı ɑef˥ı. 彼は学校の体育で頭角をあらわした。

˥ɪde˥ɪɑ ［地球の国名］マダガスカル共和国、マダガスカル ［レベル］6　˥L: 国章に角

˥ɪdeɥɪɒe ［交通］ママチャリ ［レベル］3　ʃʃ

˥ɪdez ［名詞］電話ボックス、公衆電話のあるところ ［レベル］3　˥L ［文化］ ケータイの普及とともに徐々に廃れていった。

˥ɪdel ［サール］カペル ［レベル］5　古 ［文化］ 角が生えた白い馬。たてがみは栗色で目は青く、角が黄金に輝く一角獣で、ユニコーンのようなもの。角から雷をレーザーのように出して敵を焼く。ネルメスと同じなのでサール。

˥ɪdelzcɔ ［魔物］カペルジオ（角鰐）：第二十九天：土の陽天 ［レベル］5　˥L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:˥ɪd el/zchɔ ［文化］ 爬族。背中のゴツゴツが異様に大きく、角のようになっている。顎が強力で、人も飲み込んでしまう。

˥ɪdellcl ［化学］ポロニウム　˥Λ: 制

˥ɪdelcɑ ［地球の星座］［ユマナ］いっかくじゅう座　JΛ ［文化］ cɑı

˥ɪhc ［法律］罪、咎、とが ［類義語］ɑcz ［反意語］ſμen ［レベル］2　ɑ;e　赤 ˥ɪhc:˥ɪhc:le φec ［語法］ 法に触れない罪が ˥ɪhc で、法律上の罪が ɑcz。˥ɪhc のほうが軽いかといえば、そうとも限らない。民衆の私刑では ˥ɪhc が大きく考慮される。˥ɪhc は法には触れないが人道上、宗教上、誤った行いによるものである。そのため、必ず ɑcz より軽いとは言い切れない。　敬虔な教徒にとっては ɑcz よりも ˥ɪhc のほうが不名誉である。この違いはコロケーションにも及ぶ。nı ˥ɪhc とは言えるが、nı ɑcz とは言えない。ſcl ɑcz が正しい。˥ɪhc は心に染み込むが、ɑcʃ は対象でしかない。 ［成句］ lecn ˥ɪhc 罪をかぶる、罪を背負う ［用例］ nı ˥ɪhc 罪悪感がある

˥ɪhcɒc ［名詞］帯 ［レベル］3　ʃʃ:ılſ ［語法］ 布製で平たく幅が広い。

˥ɪɥ,ɑ　led　ɥı は痛いと関連か。「痛むところ」？

˥ɪrl ［普通動名詞］引用 ［動詞］ɥəl を ɪ に引用する、引用する ［レベル］3　ʔʔ: 制 : 古 :˥əhırlɒı(˥ə の幻字)。˥ə が引用符代わりに使われたことから。

˥ɪrſe ［名詞］カルテ、中央公園 ［レベル］2　古 :˥ɪrſe, ˥ɪrſen ［文化］ → ɪμnı（直径は１５００ｍ(1J00ɒelɑc) である）　アルバザードの各都市の中心にある大きな公園のこと。カルテは住宅区、企業区、商業区から独立した街区。都市最大の公園で、中心にはカルテンがある。休憩、談話、遊戯、憩いの場として使われる点はふつうの公園と同じ。カルテは緑豊かで空気が清浄である。大抵は噴水や池があり、川があるところもある。全体の形は円形で、境界の多くは低木の植栽か頑丈で高い金網で囲まれている。或いは葉の多く冬でも枯れない高い木が植えられている。地面は舗装されているところと、土が剥き出しのところがある。　子供の遊具は遊戯場に集まっている。どの位置からも監視の届く安全なところにある。遊具同士は固まって置かれていて、必ず監視が行き届くようになっている。また、子供の遊具の周りには特別に金網などで境界が設けられていることもある。　水道の水は清浄されていて飲める。飲み水以外の水道がある。太い水道で、各所に点在している。これは消火用の水道であり、子供たちでは容易に開けないようになっている。これらの水道には長いホースが設置されている。カルテには守衛所があり、常に数人がカルテ内とカルテの付近を巡回し、数人が守衛所で待機している。水道は守衛所のところにあり、飲料水に毒を加えたりできないようにされている。　トイレは非常に清潔で広く、紙が備え付けられていて水洗である。個室の扉の外側にはパネルが付いていて、そこに手をかざすことで扉が自動で開く。水洗は内部のパネルに手をかざすことで流れるが、無駄な水を使わないよう、水は１度しか流せないように設定されている。もう１度流すには１度出ることになる。トイレはカルテの隅の方にある。トイレは基本的に密室な為、何が起こるか解からない。数人に連れ込まれて金を脅し取られるようなことがありうる。その為、トイレ付近には男女二名の守衛が常に配置されている。このことは更にトイレ紙の窃盗、覗き、痴漢、放火、破壊などの犯罪の軽減に役立っている。トイレが有料なフランスでは有人トイレがたまにある。エッフェル塔脇のトイレには階段を下って中に入ったすぐ左手に窓のないオフィスがあり、人が座っている。入って左が男子トイレで、使用後、オフィスを通った際に硬貨を置く。これと似た造りであるため、トイレでのカツアゲ等が起きない。　カルテには都市最大の図書館が常設されている。カルテは中心部にいくほど賑やかである。中心部にはステージがあり、演奏などができる。また、最も中心の場所にはカルテンがあり、アルテヘの礼拝が可能である。カルテンは防音効果が高く、中は静かであるが、機械装置のおかげで涼しい。中心部に比べるとカルテの周縁部は静かである。飛行機やヘリコプターはカルテの上空を基本的には通過できない。しかし、都市によってはカルテの利用者が多い時間帯にのみ通過を禁止することもある。カルテは国の管轄で、維持費は税金でまかなわれる。　カルテ内では出店が許されていて、軽食などが売られている。軽食というのは日本で言えば菓子類やたこ焼きやクレープのようなものである。もう少し食事になるようなものも売っている。軽食の出店はカルテの内部に多い。カルテの美化は徹底されている。クリーンキーパーが数名常設され、軽食の店舗も極力ゴミを出さないような商品を売る。一々資源を無駄にするような包装は極力避けられる。とりわけ、利用者側にも強い美化への心がけが要求される。　カルテはふつう公園に比べ、維持費がかかる。守衛の人件費、設備費、維持費など。従って、多くのカルテを作ることはできない。ゆえに一都市に一つである。住民達はよりカルテに近いところに住もうとする。そのためカルテ付近の地価は高い。　日本の番地は駅から近い方が一丁目ということがあるが、こちらはカルテからどの程度離れているかで番地が決まる。

˥ɪrſen ［建築］礼拝堂、カルテン ［レベル］2　古 ［文化］ → ˥cc˥ı　カルテンは ˥cc˥ı 内の中心部にある礼拝堂である。全てのシーカに一つずつ設けられている。　シーカはカルテにあり、カルテの周りはステージがあるのでしばしば煩い。そのため、シーカには防音処置が施されている。しかし、機械装置によって中は涼しく保たれている。　カルテンの中心部にはサリュという祭壇がある。サリュは最もアルテと交信を行いやすい場所とされる。カルテンの存在意義は正にこのサリュを保護することである。従ってカルテンの部屋は強固な造りが第一に要求される。　アルティス教徒はふつう祈りをどのような場所でも行うことができる。だが、祈りはアルテに届かなければ意味がないため、信者はできるだけアルテに祈りが届きやすい場所を求む。サリュは中でも特に交信しやすい場所とされているため、特別な願いを持った信者はサリュに赴いて祈る。尚、サリュの使用料は無料。　カルテンはカルテが開いている間は使用できるが、カルテが閉まっている時間帯は使用できない。また、サリュを破壊したりしないようにカルテンで持ち物検査が義務付けられている。カルテンでの祈りはキリスト教の告白とは違うので、誰かが祈りの内容を聞くということはない。サリュのある部屋は強固な造りで、完全な防音で、電波も入らない。盗撮や盗聴の危険がないように常にサリュの部屋はチェックが行われる。

˥ɪrſenɔdn ［交通］中央アルナカルテン駅 ［レベル］5　˥L:ɒelcɑcɪ ılſe ［文化］ カルテンの周囲にある地下鉄。１２本のアルミヴァル線のターミナルである。

˥ɪrʃ ［植物］園芸、ガーデニング ［レベル］3　古 :˥ɪrʃ（園芸）← ˥ɪrſe ［文化］ 園芸は庭で行う。ベランダも庭の一部なので、ベランダでも良い。ベランダでは洗濯物を干したりせず、園芸の場として活用する。多くの家は緑化運動として自宅で何らかの園芸を行う。全世帯が園芸を行えば都会の中でも緑の量はかなり多くなる。園芸で好まれるのは花。木は背が高いし根を張る場所がないので、一戸建てでないと難しい。したがって、鉢植えなどに花を植えておくことが多い。どうしても木を育てたいのであれば小さい木を鉢植えなどで育てる。つまり盆栽。アルバザードでは盆栽は老人の趣味ではなく、一般的。園芸で好かれるのは匂いの弱いものである。匂いが強いと集合住宅の場合、苦情が来るため。一戸建てでも隣家に迷惑なので匂いの強いものは置かない。

˥ɪrlıʃ ［非言語］カルラス ［レベル］3　˥L:ɒelcɑcɪ ılſe: 引用する手 ［語法］ ジェスチャーのひとつ。引用や特殊な造語であることを指す。アメリカ人は両手の人差し指と中指でダブルクォーテーションを作るが、あれに相当する仕草。　手をパーにして、親指を曲げずに中指の位置まで持っていく。親指はどこにもつけない。横からみると手が「つ」の形になる。この「つ」の形の手を右手で作り、左から右に流れるように持っていく。引用部分や強調部分をラインマーカーで引いて指示する動作を手で表したもの。

˥ɪμ ［動詞］ɥəl を使わないでおく、取っておく、存置する、残しておく、残す、温存する、とっておく ［反意語］ɥʃl ［レベル］2　˥L: 恣意 ［語法］ まったく使わないという意味ではなく、節約してゼロにしないでおくという意味。 ［成句］ ˥ɪμ ınueμ 臥薪嘗胆 ［用例］ ˥ɪμ ſcdl ɑccnı nɔn. 私の分のケーキ残しといてね。

˥ɪμʃ ［名詞］カード ［娯楽］カードゲーム、カード ［遊離副詞］［形容詞］したりしなかったり：φılɑ と同じ発想。 ［レベル］1　˥L: 古 :˥ɪɪɑe（カーデ占いに使うカード）無声音の方が言いやすいので ſ にし、˥ɪıſ だと音がかぶるので μ に変えた。 ［語法］ ıləəſ ［文化］ ˥əzφcn、˥ılʃɔ ［用例］ μı, ın ˥en uelɑ ˥ɪμſel ɪ. まぁ、飲んだり飲まなかったりだな。　nɔn ˥ɔμ ɑıl ılʃɔc ˥ını eu φcl ı ˥ɪμʃ. チャージするためにコンビニへ行かないといけない。

˥ɪμſe ［サール］カルテ ［レベル］2　ɒelſcɪ LL jen ucı:˥ɪμſe;˥əc/˥ɪμſe　古 :˥ɪμſe ← ˥əc/˥ɪμſe。かつてエルトと考えられていた時期があったが、食物は天より地に近く、主に地が作るものであるという考えでサールと捉えなおされた。 ［文化］ 飲食を司る。転じて栄養、滋養などを司る。 ［成句］ ıl ˥ɪμſe いただきます、ごちそうさま

˥ˡᵘʃeniːleɪ ［企業］カルテナケア ［レベル］2 ʃˡ ［文化］ イオン、セブンアンドアイ、イトーヨーカドーに相当する企業。コンビニは少ないのでスーパー小売としての大企業。

˥ˡᵘɹ ［政治］（行政単位としての）県→ ɟɪˡɪc ［形容詞］～県。前置。 ［レベル］2 ˥ˡˡ: 制 : 古 :ˡɪcɹəlclɔ（大きな家）

˥ˡᵘɹle ［娯楽］カルシェ、トランプ ［レベル］2 古 :ˡɪɪɪɑe/ɪɹle ［文化］ 地球とほぼ同様のものがある。元々メル暦で１３ヶ月使っていることから、月のカードとしてリディアからルージュまでが採用されている。それを聖数の４種類分揃え、春夏秋冬のカードとする。そこにおまけのカードとしてルシーラのセレンとクミールを足すと、ちょうどトランプと同じ枚数になる。トランプと異なるのは一枚一枚が数字でなく、春のリディア、秋のメルのように人名になっている点。なお、数を利用することもあるため、それぞれのカードには数も書いてある。また、セレンとクミールの数は１４で固定されている。トランプは遊びや小規模の賭けに使われる。　ゲームによってカードの強さは異なるが、一般的にジョーカーのアシェットやテームス、また１番であり世界の救世主である大召喚士リディアは強い傾向にある。もちろんゲームによって１が一番使えない場合もある。

˥ˡᵘɟccllcucɟˡ ［俗語］［普通動名詞］親前音読 ［レベル］5 ɹl; 「親のところで音読」 ʃʔ ［文化］ ɪl の ɥə ɒc˥l 用語で、キチガイなスレタイやレスに対する揶揄として使われる言葉。「幼女のおまんこ美味しいよあばばばばｗｗｗｗｗ」→「親前音読」（親の前でそのレス読み上げてみろよ）というような感じで使う。

˥ˡᵘɑɪn ［人名］カルファン ［組み数字］2 / 1 6 ［レベル］4 ɒelʃcɪ ʔʔ:ɹɒə/ejʃi;e 古 ［文化］ ejʃɪ エスタの第２子。男。

˥ˡᵘɒɪ ［エルト］不死鳥カルマ ［名詞］不死鳥、フェニックス ［レベル］4 古 :ɹcɑcɪ ［文化］ 死なない鳥。エルトなのは空を飛ぶことから。

˥ˡᵘɒɪ˥ˡɪɑ ［地球の国名］ウズベキスタン ˥L: 国章にフェニックス

˥ˡᵘɒɪ˥eɹᵘn ［天文］オメガ星雲 ˥L:ɹcɑcɪ/ɹeɹᵘen/ɒel ［文化］ 不死鳥カルマが羽を広げたような赤い星雲。

˥ˡᵘɒɪɒcleel ［アイテム］カルマミレール、不死鳥の羽、フェニックスの尾、世界樹の葉 ［組み数字］2 / 1 2 ［レベル］4 ʃ0: 不死鳥カルマの羽 ［文化］ 天然物なので、開発されたものではない。不死鳥カルマが舞う際に落ちた羽。ヴィード死状態の人間を蘇生するアイテム。羽を死者の胸の上にかざすと、暖かいオレンジ色の光があふれ、羽が崩れて砂になり、死者が蘇る。レアアイテムで、通常は手に入らない。 ［成句］ ˥ˡᵘɒɪɒcleel cʃen ɟcel 棚からぼたもち、濡手で粟 ˥ɔn ˥ˡᵘɒɪɒcleel 起死回生

˥ˡᵘɒɪɑɔ˥ ［植物］常緑広葉樹林 ［レベル］5 ˥L:ɹcɑcɪ:ɹᵘbɪˡelʃ: 年中落ちずに葉が幅広い木

˥ˡᵘɒɪɸeʃ ［植物］常緑針葉樹林 ［レベル］5 ˥L:ɹcɑcɪ:ɹᵘbɪˡelʃ

˥ˡᵘɒɪcɪn ［植物］ハイビスカス ［レベル］4 ˥L:「不死鳥の花」。南国で咲き、年中咲いていることから。

˥ˡᵘɒɪcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ほうおう座 ʃˡˡ ［文化］ cɑɪ

˥ˡᵘɹ ［生物］目、類 ［言語］語。特定の民族に使われる言語というレベル。lʃ, ɹᵘ など、ɾɔʃɔɹᵘen に相当するレベル。これ以下が方言レベルとなる。 ［レベル］4 ɹᵘ;˥ˡɪɑ.˥ ʃʃ ［文化］ ɥəɒɪ

˥ˡᵘɹcɪnˡ ［魔法］カルディナ、心 ［レベル］6 ˥s ʃʃ ［文化］ リディアの失った９つの心。˥ˡᵘɹcɪnˡl からだが、˥ˡᵘɹcɪnˡ,ɟzl（夢幻）にもかかっている。　心の花で、集まるとクリスタルになる。

˥ˡᵘɹcɪnˡ,ɟzl ˥ɔnɑ、˥ɪɑcɪ、ɑcɪ <>˥ɪ/ɑcɪ

˥ˡᵘɹcɪnˡl ［植物］ɑcɪcn ［ランドマーク］アルナ大学。校章からの異名。 ［組み数字］1 / 9 ［レベル］4 ɟzl;˥ˡᵘɹcɪnˡ/ɪl ʃˡ

˥ˡᵘɹcɪnˡl(J) ［言語］［文字］標準書体、標準幻字書体、カーディナル書体、カーディナル ［類義語］ˡcɪnˡ ［レベル］4 ʃˡJ:qleɹc˥lɪnɟ ［文化］ aleɹc˥lɪnɟ

˥ˡᵘɹcɪnˡlɹecn ［組み数字］秋桜賞 ［レベル］5 ʃˡ ［文化］ →ɟɪdɪˡl ɟɒ で lccze 姫が文官を技能に応じて９階級に分けた。アルティアから伝わっていた浴衣のような服を着て登朝するのが習わしで、上位者は白、中位者は青、下位者は緑と定めた。これを白文官などという。またそれぞれの位をさらに３段階に分け、上白文官～下緑文官までの９階に分けた。これが ɟɒ でアルバザードに伝わった。リーゼはまた文官にそれぞれの位階を示す９種の草木花を定め、それぞれの位階の象徴とした。このため、それぞれの以下は草木花の名で呼ばれるようになった。ɹᵘ ではこの花の名をセレンが序列組み数字９に用いた。この花は当時のルティア王宮で美しいとされた順に定まっている。ルティア人は派手ではっきりとしたものを嫌い、ささやかでか弱いものを好む。また、高価なものを下品と嫌う傾向がある。そのため蘭やバラなどは思ったほど高くない。フランスのようにバラを非常に愛する国からすれば、バラがかろうじて９位で、蘭が入ってもいないというのは非常に驚くべきことだろう。とはいえ９位に入っているのだから国花のひとつと呼ぶのにふさわしいくらいの人気はあり、薔薇園も盛んである。アルバザード人はルティア人ほどではないが上流階級ほど同じような嗜好性を持つため、この序列には違和感を感じない。なお、ハスは風土的に沿わなかった。ライラックよりラベンダーが好まれた。百合やチューリップのような形でしかも花弁が比較的大きいものはランク外の傾向にある。スズランくらいの大きさならば良いが、スズランは神話的にイメージが悪い。カエデは国樹なので別枠。なお、桜と桃は木でなく花の付いた枝を象徴とする。

˥ˡᵘɹcɪnˡɟ ［アイテム］鎌、カルディランス、カーディランス ［類義語］ɒɪɹˡ ［レベル］3 ɟzl;˥ˡᵘɹcɪnˡ/ɪɪɟ「夢祓い」 ʃˡ ［文化］ 大鎌の一種で、薙刀に似た武器。刃の部分が横に長いのが ɒɪɹˡ で、刃が薙刀のように縦に長いものが ˥ˡᵘɹcɪnˡɟ。刃が三日月状になっている。　あやかしから身を守る神器として現代でも儀礼的に用いられる。　夢織の紗枝の武器でもある。

˥ˡᵘɹcɪ ［魔法］［アイテム］カルディア、カード、魔法のカード ［魔法］［アイテム］月→ ɥəlclcɟ ［ユマナ］［娯楽］スペルカード ［レベル］3 ʃ0:˥ˡᵘɹʃ/ɑcɪ ［文化］ 魔法のカード。アデルなどの絵が描いており、力が封印されている。 ［用例］ el ˥cɒ ucˡ ˥ˡᵘɹcɪ ɔˡ ɔle ɟc jeleɟ. ɟə ɪdcɪ nɪ ɔnʃ ɪleɒ ɥənɔˡ eʃ ʃcɔ ˥ɪɑɔˡ enlel lel ɥənɪ ɟc jeleɟ. ɟə eʃ ˥cel ˥ɪn lel ɥənɪ eʃ ʃcɔ lenʃ ɒcəʃ enʃɔ ɥənɪ nɪ.... 魂がなければカードは出ません。私に魂がなかったらこの気持ちも感情も全てはニセモノの作り物で、私はただの空っぽな人形なのかも知れないと思うと……とても……（『ネギま！』「２６３時間目」絡繰茶々丸）

˥ˡᵘɹcɪn ［魔法］カーディアン、カルディアン ［レベル］3 ʃ0 ［文化］ カーディアを操る者。

˥ˡᵘɹcɪn ɑccɪcɪ ［娯楽］カーディアン・フィーリア、カルディアン・フィーリア ［レベル］3 ʃˡ ［文化］『カードキャプターさくら』に相当するアニメ。

˥ɪz ［名詞］ペン ［類義語］hensc ［レベル］2 ɒelʃcɪ 100:bᵉɹʃ;e。もとはシャンテを書くときの人差し指のことを意味する言葉。ペンの意味を持つのは ɒelʃcɪ ʔˡʃ から。 ˥ʔ: 制 : 古 :ˡɪɟɪzɪɒɔ（書く木） ［文化］ hensc ［用例］ hɔˡ ˥ɪz ペンを回す：アルバザードでは物を投げると同じく無礼なのでしないこと。　ɪn ɟcʃ ˥ɪz ˡ'ɪn ɪlʃ ˥ɔn. 書くためのペンがなかった。

˥ɪzˡɪ ［名詞］ペン立て ［レベル］2 ˥ʔ: 制

˥ɪzn ［名詞］看板 ［レベル］2 ˥ʔ: 制 ［成句］ ɥəə ɪlcn ɒɔlen ˥ɪzn ɑɪɪu 華やかな看板の下に美人なし：名物に美味いものなし

˥ɪzhɪˡd ［言語］ペン体 ʃ0 ［文化］ hɪdˡɹecn

˥ɪzhɔɟ ［名詞］筆箱、筆入れ ［レベル］2 ˥ʔ: 制 : ペンの入れ物

˥ɪzɪ ［文字］文房具、ステーショナリー、筆記用具 ［レベル］2 ɒelʃcɪ 100:bᵉɹʃ;˥ɪz.˥ ˥ʔ: 制 :˥ɪz ［語法］→ hɪdˡ ɪlʃɔn より広く、事務や学校で使う定規や電卓など文具全般。　ɒelʃcɪ 100 に悪魔ベルトが開発。光の魔法で空中に文字を書くもので、筆記用具や紙の質に字体が影響されず、幻字のような曲線と直線を組み合わせた文字が最初から可能だった。

˥ɪzeʃ ［名詞］シャープペンシル、シャーペン、シャープペン ［レベル］2 ʃˡ:˥ɪz/ʃe

˥ɪsc,ɹlʃ ˥cn

˥ˡˡ ［副詞］［形容詞］ちょっと、少し ［レベル］1 ˥L: 古 :ˡɪɔ（少ない） ［語法］ ɹɪɹʃ

˥ˡˡ(J) ［アイテム］刀、かたな、カタナ ［レベル］3 ［類義語］qɹec ɑu;˥clc.˥ ʃ0 ˥ˡˡ:˥ˡˡ:˥ˡˡc,ˡlʃ ɟɪ˥ˡˡ,ɑcφ cʃ

˥ˡˡ(?) ［エルト］˥ˡˡzɪɟ の略称 ［組み数字］6 / 1 2 ［レベル］1 ʃˡ

˥ˡˡ,ɑ ˥ˡ、˥ˡˡfe、ˡˡɔ e

˥ˡˡʃ ［接続詞］［ は ］より～でない ［数学］未満 ［格詞］～未満、<、（時間を伴って）～まで ［反意語］nɔɑ ［レベル］2 ˥L: 古 :ˡɪɔ（少ない） ［語法］ ˥ˡˡʃ ɥəɟ という場合、今は含まれない。

˥ˡˡʃeˡ ［植物］街路樹 ［名詞］カルチェル ［レベル］3 ˥ʃ; 「植わった場所」 ʃˡ ［文化］ アルナ大の部室棟の別名が ˥ˡˡʃeˡ。ケヤキの街路樹を歩いた先にあるというメトニミーからこの名が付いた。後期大学と一緒なので、前期大学生にとっては先輩たちに顔を売る機会が得られる場所になっている。高校以下は部室が宛てがわれないが出入りは自由。

˥ˡˡfɪn ［宗教］司教、ビショップ zφ; 「車輪のスポーク」 ʃˡˡ

˥ˡˡfcɟ ［軍事］元帥 ［名詞］ラスボス ［組み数字］2 / 2 0 ［レベル］3 古 :zɪnɪ:ˡɪnɔc/ˡɪnfcɟ（塔の上にいる人（とても地位が高い人））［語法］ ˥ˡˡfcɪ ［文化］ 大元帥の下。現代ではアルタレスが担当。

˥ˡˡfcᵘcɟ ［武道］組み手の型、天地拳、カルティリス ［レベル］5 ʃ0: 相手がカイトクレーマーになって反映しあう型なので、˥ɪcˡˡlecɒɪɪ と clcᵘcəɟ で ˥ˡˡfcᵘcɟ ［文化］ ユベールの組み手の型。聖数の４を基盤とし、４手の動作で攻め、４手の動作で受けの型を形成する。これを練習することへ一人でも組み手を練習できる。上中突きから始まるものが最も基本型。 ［用例］ ʃɔˡl ˥ˡˡfcᵘcɟ 組み手を練習する ɒɪcɟ ˥ˡˡfcᵘcɟ 組み手を覚える ɹᵘ ˥ˡˡfcᵘcɟ 組み手をする ɹᵘ ˥ˡˡfcᵘcɟ ɔˡ nene ～と組み手をする

˥ˡˡfcɪɒ ［建築］庭、ガーデン、中庭 ［レベル］3 ɟɒ ʃˡJ: 古 ˥ˡˡfe ɪɒel「内側に秘めた場所」 ［文化］ 庭園様式は ɟɒ で発達した。ガーデニングは現在でも盛ん。

˥ˡˡfce ［人名］カルティエ ［名詞］昼。１１時から１５時。 ［形容詞］昼の ［レベル］1 ʃ0:ɹcɑcɪ:ˡɪˡˡf eʃ.ɟzɑ（昼の太陽） hɥədɪ:hɥədɪ:ˡɪ ˥ˡˡfce ［文化］ ɒczɪɹc

˥ˡˡfɔ ［名詞］森 ［形容詞］～の森。前置。 ［レベル］2 ɑ;ˡɪˡ/ʃɔ（森） 赤 ˥ˡˡfɔ:ˡˡfɔ:ˡɪ ˥ˡˡfɔ ［用例］ ˥ˡˡ fɔ lceɑcˡ 深い森

˥ˡˡfɔˡe ［普通動名詞］森林浴 ［レベル］3 ˥L:ɹcɑcɪ:ɹᵘbɪˡelʃ:oɪˡɒɔɑ に対して ˥ˡˡfɔˡe。˥ˡˡfɔ は ɒɔɑ できないので。 ［文化］ oɪˡɒɔɑ

˥ˡˡfɔɑɪˡɪ ［被服］ウッドマンズブーツ ɹᵘ;/ ʃˡˡ ［文化］ ɟɒ でできた。森の中を歩くために作られた。

˥ˡˡfe ［名詞］場所 ［類義語］ˡɪ ［レベル］1 ɑ:ɟɪɪ;ˡɪ/ˡl/ʃe → ˥ˡˡfe,ɑ 古 ˥ˡˡ, ˥ˡˡfe:ˡɪˡ, ˥ˡˡfe:ˡɪ ɑcɪ（大地はサール）:ˡɪ,ˡlʃ ［語法］ ˥ˡˡ が短すぎて格詞と思われそうなときに誤解を避けるために使うのがひとつ目の用法。　もうひとつは、ˡə と ɹᵘenɟ の違いに相当するが、ˡɪ に対して特に何かの意味がある場所のことを ˥ˡˡfe という。話者にとって何らかの意味のある空間を ˥ˡˡfe と呼ぶ。別にそこがカーペットだろうと道端だろうと、話者の焦点が当たっていれば ˥ˡˡfe といえる。 ［成句］ cˡ ˥ˡˡfe, cˡ ɑeɒe 古今東西

˥ˡˡfe,ɑ ［名詞］［副詞］ɪɒ ［アクセント］ˡˡfE ɟɪɪˡ;ˡɪ/ˡl/ʃe ［語法］ ˥ʔˡˡfe だと場所で、˥ˡˡfE だと疑問詞「どこ」。

˥ˡˡfeʃ ［気象］昼の太陽 ［医療］陽明 ɹᵘ;<ɟzɑ ʃˡˡ

˥ˡˡfen ［接続詞］˥ˡˡʃ ［レベル］3 ʃˡ

˥ˡˡfen(J) ［政治］伯爵、アール ɟɒ;˥ˡˡfe/en ʃˡˡ ［文化］ 土地を持った貴族。

˥ˡˡfeel ［アトラスの国家］カルテール ［レベル］5 ˥L:ɹcɑcɪ:ˡlˡ/ʃeeɒɟ（テームスの地）

˥ˡˡɪ ［法律］刑務所 ［レベル］3 古 :ˡlˡ/ˡlhc（罪の場） ［文化］ 少年院などは存在しない。青少年も罪を犯せば一様に刑務所に入る。　ミロク革命後は、終身刑の囚人にせよ死刑囚にせよ、囚人は刑務所で強制労働をさせられる。革命中の収容所と異なり、極めてきついお仕事というわけではない。ミロクは犯罪者を社会の役に立てるため、できるだけ長く働かせようと考えた。だから囚人の労働環境は悪くない。常人とそう変わらない仕事をさせられ、待遇もそうは悪くない。健康で規則正しい健全な生活を強いられる。一方、死刑囚や終身刑の囚人は過酷な労働をさせられる。死ねばそれで構わないし、生きていてもいずれ死刑が来る。最後まで囚人から労働力を搾る。この囚人は不健康で不衛生で危険な最悪の仕事をさせられる。ときには解剖や薬の人体実験の材料としても使われる。薬の人体実験はアルバザードの医療を発展させるため、大きな利益を生む。これらの囚人に人権はない。彼らは重大な犯罪を犯した時点で人権を放棄しているとみなされる。これらの囚人には監査が付き、脱走などを防ぐ。だが監査の一番の仕事は彼らの自殺を防ぐことである。刃物は極力持たせないし、舌を噛んでもすぐに治療する。　刑務所では囚人によって様々な製品が生産される。それは公共物として世の中に流布する。たとえばカルテのトイレットペーパーなども彼らが生産したものが多い。それらの製品には「私は自分の罪を償います」とか「私は社会に貢献します」などと印刷されていることが多い。

˥ˡˡɪhc ［アトラスの国家］カルカヒ ［レベル］4 ˥L:ɹcɑcɪ: 罪の処 ［文化］ 面積：ʔʔˡˡʔʔ.ΔΔˡʔʔˡˡ ɪɒ 」　メティオの罪人が島流しにあった島。アルティルでメティオの支配を逃れて独立。

˥ˡˡc ［天文］ベガ ［類義語］ɑcɪɒes ［レベル］5 ɑu;ˡəˡc.˥ ʃˡ:ɹcɑcɪ ［文化］ ɹeɑɪnɟ

˥ˡˡc,ɑ sclc ˥ˡˡ は場所。ˡc は動き。「動いてできた裂け目」

˥ˡˡɔuel ［軍事］［地学］カルコヴェル、筐堺、きょうかい ［レベル］4 ʃ0:ˡlˡfe/ˡɔue/ˡl（箱のような場所） ［文化］ ˥ˡˡ01 アシェット、トルバドールを結成。アルバザードはカレンシアと合わさり、カレンザード筐堺となる。この時点ではまだヴェルシオンとベルガンドは敗戦を宣言していない。アシェットはこれらの征服を目指すべく、予めラヴァにヴェルシオンを、クノンにベルガンドを宛てがい、ヴェルアンジェ筐堺とサントミュール筐堺を作る　ɹᵘ でアシェットは悪魔と対抗するために人類をまとめようと活動した。その呼びかけに応えた連合国を ˥ɔ luɹɑɔᵘ という。その意味は「全国」だが、残念ながらすべての国家が参加してはくれなかった。文明の遅れていた地域や悪魔との戦いが深刻でなかった国はわざわざ派兵する旨みがない。結果、ɒcɑccʃ 以南、ɑɪᵘɹɑɪncɪ 以南は参加していない。　アシェットはトルバドールの参加国を文化圏・経済圏の観点で２８のグループに分けた。そのひとつひとつのグループを ˥ˡˡ ɔuel という。そして使徒を一人ずつ宛てがい、保護責任者とした。テームスを倒した後も彼らは持ち場において要職に就いている。　ただし最初のうちは彼らはアルバザード住まいが多かったので、出張という形で ˥ˡˡɔuel に赴くというのが実情で、遠方から権力を行使しているだにすぎなかった。セレンらがアルカディアへ去る前後には、徐々に使徒は赴任先に定住ないし長期滞在するようになっていた。　なお、uˡ と bφ は確実に人類が征服するという強い意思を持って予め ˥ˡˡɔuel に含まれている。そして実際その後人類が勝利し、トルバドールに編入されている。　ɹᵘˡlɪnfcɟ の幼字の大文字部分が示すものは元は使徒の苗字であった。彼らは子供の頃は素性が知れないものが多く、苗字を持っていなかった。自分が王家の血筋だと知って ləfcɪ という苗字を得る者や、副リーダーだからという理由で ɹɪɹᵘccˡl という苗字を得る者など、パターンは様々であった。　アルシェの苗字は後に統治することになる国の名である。登場初期には付いていない場合がほとんどで、王族と発覚してから苗字を得るパターンが多い。　ソーンの苗字は個性に基づいて命名されたもので、元々苗字を持っていないか苗字を捨てさせられた子供の集まりだった。　˥ˡˡɔuel ができると、使徒の苗字は ˥ˡˡɔ uel をも指すようになった。例えばクミールの苗字の字は、クミールの苗字という意味では bɒfe と読むが、同時に国名としては bɒfcɔ であり、さらに ˥ˡˡɔuel としては ɟɔnɪɹᵘcɪn である。ɟɔnɪɹᵘcɪn は bɒfcɔ およびその周辺国家である。　˥ˡˡɔuel は文化圏・経済圏ごとのまとまりでできているので、アシェットは経済の活性化のために ˥ˡˡɔuel 内の通貨を統一し、小規模なユーロを作っていった。ユーロは国が多すぎて経済格差が激しい。２８地区に分ければ文化差や経済格差はより狭まり、貿易の簡略化、労働力の流動性などが高まる。労働力の流動性が高まっても小さい面積なので、富める国の仕事が激減するリスクもユーロよりは低い。　この改革は結果的に成功し、悪魔との戦いで大きく落ち込んでいた経済活動は導入前より活性化した。さらにはこれが一部の ˥ˡˡɔuel 内で一部の商品についての関税撤廃などにも繋がった。　˥ˡˡɔuel は言ってみれば小規模な経済圏で、必ず１カ国以上の国からなる。ləfcɪ のような強国はひとつでひとつの ˥ˡˡɔuel を形成する。　幼字の苗字の部分は ˥ˡˡɔuel という地域圏ないし国名を指すとともに、それぞれの地域の通貨を表す記号でもある。例えば ləfcɪ の文字なら ɒcɪn を指す。　幼字の苗字はアルバザードのように元々国を意味する字もあれば、uɪlɔ のように使徒個人の性質によって造字されたものもある。その字自体は本来 ˥ˡˡɔuel とはなんら関係がないが、˥ˡˡɔuel の成立とともにそれぞれの ˥ˡˡɔuel の名も表すようになっていった。もちろん使徒の苗字という読みも残っている。一字が複数の読みを持つ日本語と同じ原理である。　ɹᵘ 以降、国の増減や各国の国力の変化があったため、現代では ɹᵘ 当時の ˥ˡˡɔuel はそのままの形では残っていない。しかし国が滅んでも土地が動くわけではないため、地域圏や国名を示す字として ɪl 以降も使われている。例えばリディアの苗字の ləfcɪ は未だにルティア国かつルティティア筐堺を意味する。　・筐堺司　˥ˡˡɔuel の責任者は euɪnsel（筐堺司）という。白雪の槍をシンボルとして持っていたためである。

˥ˡˡə,ɑ ɪʃel ˥ˡˡ/əˡ. ˥ə<ˡɔ で「動く」。

˥ˡˡˡ ［法律］定員、定数 ［レベル］3 ˥L:ˡlˡ/ˡlˡ（いっぱいになる数）

˥ˡˡelcɪn ［魔法］カルシェリアン ［レベル］4 ʃ0:˥ˡˡelce のカルミーユ ［文化］ 異空間に置いたアイテムを出し入れする魔法。時魔法。時空魔法。カルシェリエは人だが、カルシェリアンは魔法。アティーリでは死神のように武器を空中から取り出すといった特殊能力を持つものがいる。これは魔法であって人間にも使うことができる。時魔法の一種で、時空を操る。

˥ˡˡelce ［魔法］［ジョブ］刀隠、戸隠、トガクシ、とがくし、鞘、カルシェリエ ［魔法］カルシェリアン。この意味で使われることも ［レベル］4 ʃ0:˥ˡˡ/ˡelceɥ ［文化］ 自分の胎内に刀を仕舞う人のこと。神話におけるティーテルやエンナがこれに当たる。トガクシは常に女性で、女性器の想起と関連付けられる。 ［成句］ ［丁寧］ɥəəʃ ˥ˡˡelce ɔˡ nene ～と性交する ɹᵘ ˥ˡˡelce 戸隠しする

˥ˡˡɟcɑɪᵘ ［形容詞］神に罰せらる、神に呪われた ［反意語］˥ˡˡɪɒcʃc ［レベル］3 ʃ0:ɹcɑcɪ:ˡlˡɪɒcʃc の反意語であることを示すために ˥ˡˡ を置き、光を失った (ɟcɑɪᵘ) を続けたもの。 ［用例］ el eɒ ˥ˡˡɟ

caɪɸ ɔl ˈləueɸ ɑc. 人を悪く言うものは神の報いを受ける。

ˈlɪljeel ［地名］カルセール ［レベル］5 ɒelʃcɪ ʟ9 jen ucɪ;ˈlɪl/jeel ʃ0:ɸcɑcɪ:「中つ国」 ［文化］ 古代国家のひとつ。ハーディアン人の移民によって建国された。サルディーンとメディアンの間。後にサールの本拠地となる。

ˈlɪljeelɪn ［名詞］カルセール人 ［レベル］5 ʃ0

ˈlɪlje,ɑ leɪl ˈlɪl/jə

ˈlɪln ［法律］陪審 ［レベル］5 ɔɔɸn

ˈlɪluɪenɪn ［魔法］貧蓄体 ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ˈlɪluccɑɸɔn ［魔法］低晄圧 ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ˈlɪlucen ［音楽］メゾフォルテ ［レベル］5 1L

ˈlɪlulcɟ ［筐堺］カルファリス ［レベル］5 μɑ:dɪɪl;ˈlɪl/ɑɪlcɟ「正義の土地」 ʃʃ ［文化］ 筐堺司：dɪɪl ccləəʃɔ 筐堺国：ccləəʃɔ, jeɸeμcɪ 諸島

ˈlɪluc ［料理］弱火 ［レベル］3 1L

ˈlɪlɑcɪ ［芸術］イラスト、イラストレーション、絵画、図画、一枚の絵画 ［類義語］lecɟ ［レベル］2 μɑ;cˈlɪl/ɑcɪ「四角に収められた世界」 ʃʔ

ˈlɪlɑcɪl ［名詞］絵本 ［レベル］2 μɑ;ˈlɪlɑcɪ/lec ʃʃ 登録だが以前からあった。

ˈlɪlɒɪ ［遊離副詞］［形容詞］しばしば ［レベル］1 1L: 古 ˈlɪɒɪ（多い）から ［語法］ ɪləəʃ ［用例］ ɪn cn ˈle ɑelɟ ˈlɪlɒɪl cɒ jɔɔʃʃɔɔ:l. 週末は大抵映画を見に行く。 ɪn ˈlɪlɒɪ ɩɪ μɪ jˈɔlel cɒ ɑəμne. 夜は大抵家にいる。

ˈlɪlɒɪnʃ ［宗教］カルマント派 ［レベル］5 ʃ0:ˈlɪɒɪ/lɪnʃcɟ（多い（と思う）人） ［文化］ サルト教の一派閥。語源自体はサルト教を指す。アルテを実在だと考えた。

ˈlɪlɒɪɒ ［生物］貧乳、ひんぬー、ヒンヌー ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃ ［用例］ ˈlɪlɒɪɒ eʃ ləɑcʃ ɑɪʃ ʃə eʃ ʃɪɒ ɑɪʃ 貧乳はステータスだ！希少価値だ！

ˈlɪlɒɪbez ［医療］頻尿 ［レベル］5 1L

ˈlɪlbc ［名詞］レギュラーキャラ ［音楽］ドミナント ［レベル］4 1L:ˈlɪlɒɪ ［語法］ 物語にレギュラーとして登場する人物。

ˈlɪlɒcɥə ［言語］カルミーユ ［アクセント］ˈlɪlɒ€ɥə ［レベル］5 ʃ0:ˈlɪlɔ/ɒcɥə（少し変える） ［文化］ 音と意味が変わるもの。

ˈlɪlɒɔ,ɑ ɪˈɔ, senˈlɪ ˈlɪl/ɒɔ（低い）

ˈlɪlɒeɑc ［地名］カルメディ ［軍事］カルメディ戦争 ［レベル］6 ʃ0:jˈlɪlɑcɪ/ɒeɑcɪn。カルセールのカルではないので注意。 ［文化］ スカルディア・メディアン国境付近で、３０００年戦争の舞台となった砂漠地帯。

ˈlɪlɑ,au deɑ e

ˈlɪlɑɪcz,au ˈlɪɑ ˈlɪl/ɑɪcz

ˈlɪlɑcɥef ［法律］軽犯罪 ［レベル］4 ʃ0:1L:μcɑcɪ:ɪɸbɪlelʃ

ˈlɪlɑcla ［化学］弱アルカリ性、弱塩基 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪɸbɪlelʃ

ˈlɪlɑcɪ ［地名］カルディア、幻界、人工世界カルディア ［レベル］2 ʃ1: 古 ˈlɪl/ɑcɪ（夢幻の地）

［語法］ アトラスは惑星、レカイは「この世」、アルデルは「あの世」。カルディアはレカイとアルデルの総称。アルカルテとの違いはユマナを含まないこと。 ［文化］ ＜カルディアの基本方針・芸術性と嗜好・価値観の相違＞ ・「リアル異世界ファンタジー」と「経験主義」 カルディアの基本方針は「リアル異世界ファンタジー」である。理論上はファンタジー要素が１個のとき、最もリアリティが高くなる。架空の要素が少ないほど現実の要素が相対的に増えるためである。カルディアでは ucɑ のみを公理として肯定し、そこから神や魔法などを演繹させている。リアリティが高まることのメリットはその世界がまるで本物であるかのように感じられる点で、これは没入感等に貢献する。デメリットは作成に手間がかかる点である。 星の形や大陸の大きさなど、アトラスの環境は地球に似ている。もしアトラスが火星の位置にあったら人間は生存できない。また、もし陸と海の比が８：２だったら人間の生きられる気温にならない。さらにパンゲア大陸の崩れ方もある程度プレートなどから定まり、恣意的ではない。リアリティを高めていくと自由に弄れる部分は案外少なくなる。 １００％リアルにすると地球のコピーになってしまうので、ある程度学問的に矛盾のないか少ないレベルでオリジナリティを持たせ、いわゆる遊びの部分を作る必要がある。こうした方針に基づいてアトラスはできている。もちろんほかにも異世界の作り方もあるだろうしそれは否定しないが、あくまでカルディアは「リアル異世界ファンタジー」という基本方針を遵守している。 もうひとつの基本方針に「経験主義」がある。セレンは環境が人間社会に与える影響力を高く評価している。簡単にいえば、例えば地球をもう一度作っても日本に当たるところには日本語のような言語ができるだろうし、地球のような星があったら日本に当たるところの言語は日本語のような言語になるだろうということである。中にはそう思わない人もいるだろうが、カルディアはこの考えに即している。 アルティア語が日本語のような構造をしているのもこの考えに則している。もちろんあくまで異世界なので、リアルに作り込んでいっても作者の側で自由に設定できる余白も存在する。そういった遊びの部分は例えばアルティア語の京極がヴェマ発祥でなくアルティア（ハーディアン）発祥であることなどに現れている。 同様に、用言である動詞と形容詞が日本語では互いに異なる活用を持つ一方で、アルティア語では同一の活用を持つ。これもまた余白の部分でできるアレンジといえよう。もちろんこのアレンジも適当に取ってつけたわけではない。日本の隣国である韓国では動詞と形容詞が活用を共有する。アレンジをするにもなるべく風土の近いものを調査して行っている。ラテン語がカッコイイからという理由で無理やりラテン語の特徴を持ってくるようなことはしない。リアル異世界もそうだが、この辺りは極度の神経質のなせる業ということができよう。 個々の人間は環境に逆らおうと思えば逆らえるが、人間全体でみればそんな天の邪鬼は少なく、環境に黙って適応するほうが圧倒的に多いため、個人の意思に関わらず社会全体は環境に沿って作られる。 衣食住は分かるだろうが、セレンは言語にもある程度これが及ぶと考えており、大学院のテーマも風土が言語に与える影響についてであった。これは言語学の潮流ではなく、無視されたテーマのひとつであった。証明のしようがないからというのが理由のひとつである。しかし現象が存在する以上は理由があるはずで、研究の対象である。だが成果の出しようがなければ研究者によって無視されるのはやむを得ないのだろう。それでも世界や言語を作っていたセレンにとってはこのテーマは興味があった。 風土と言語の関係というと、例えば中国語は南に行くほど声調が多く、印欧語は北に行くほど母音率が下がる傾向にある。なぜ東西ではないのか。なぜ声調数がランダムにバラけないのか。なぜ南北なのか。南北で風土というと気候ということになるが、ランダムに声調が配置されない以上は気候が言語に何らかの影響を与えていることは確からしい。だが言語学はこの現象にそれ以上物を言おうとしない。 風土と言語が関わっているのならカルディアを作ったときにアルティア語は日本語風にすればよいという指針が持てる。指針がないと何語風にすればリアルな異世界になるのか分からない。それでセレンにとってこのテーマは重要であった。 このテーマを支えるのは環境決定論であり、広く言えば経験主義である。従ってカルディアの基本方針に経験主義が挙がっている。 ・芸術的嗜好性 確かに作者側で弄れる遊びの部分は少ないが、少ないからこそその部分を大切に作り込めるという見方もある。どうせ作るのだから遊びの部分には理想や嗜好を反映させたい。ここは作者の意思が明確に現れる部分といえる。 アルカとカルディアは日常生活を送ることにも用いられるが、むしろ芸術用途に向いているとセレンは考えている。従って遊びの部分は主に芸術的視点で作られることになる。例えばセレンは世界中の様々なデザインを見た結果、結局のところ和風とフランス風が好きだという結論に達した。北欧のデザインが好きだという人がいるのももちろん分かる。ただセレンの場合、奇しくも自分の血に嗜好が沿っていた。理由の内訳は血が半分で、物事を穿って見ない性格が半分だと感じた。 その嗜好が反映されているので、アルバザードはフランス風なデザインのほかにカレン県経由の和風なデザインが存在する。別に風土的にはカレンはアルティア人でなくてもよいのだ。もちろんアルティア人が住んでいるのは彼らが ɒɔ で大きな軍事力を有していたからという歴史的な理由がある。だがそれでもメティオ人が入っていけない理由はない。このように、遊びの部分をどうするかは嗜好が大きく影響を与えているといえる。矛盾が生じない程度であれば嗜好を反映させるのは問題ないし、モチベーションを維持できる。 文字にも嗜好が絡んでいる。アルティア人に京極を与えたのは歴史的な理由以外にも作者の理想がある。意外かもしれないがセレンはアルカと同じくらい日本語が好きで、甲乙の付けがたい存在と考えている。その日本語はほとんどの語彙を中国語などの外国語から借りているが、もし日本語が和語を巧く発達させ、かつ漢字も借りずに独自に漢字のような文字を作っていたらどうなっていただろうかと考えることがある。またセレンはアルファベットのデザインも好きだが漢字のデザインも好きで、どちらにも良さがあると考えている。だからリアルのほかに京極のような文字を望んだし、それが地球で中国に相当するヴェマでなく日本に相当するアルティアの文字であることに面白みを覚えた。 アトラスの場合、ヴェマはサールの本拠地であったため、幼字から脱却することは政治的に難しい。一方アルティア、当時のハーディアンは神との繋がりが弱く、かつ大陸の端という防衛に適した位置にあったことからも独特の文化を生むのに適していた。京極がアルティアの文字であることにはそれなりの理由がある。ただ最終的な理由は嗜好によるものだろう。例えば京極ができたのがケヴェアの辺境でなかった理由はないからだ。なぜいくつかの矛盾しない選択肢の中からアルティアが選ばれたかという点に関しては嗜好が関与しているといえよう。 ・価値観 また、セレンとリディアは２０代後半までは自分の正しいと思う価値観以外を世界から排他するタイプの人間だった。しかしその後自分の嗜好を遊びの部分では優先させるものの、遊び以外の部分ではリアルに即して作っていくという方針に転換した。自分の嗜好よりも世界の安定を優先させた結果である。どんなにリディアのことが好きだろうと彼女と自分は別の個体であり、同じ価値観を共有することはできない。メルやルシアについても同様だ。その個体と関係を持ちたいと思うのならば、異なる価値観を受け入れる必要がある。ゆえに異なる個体が共有する世界はある程度寛大でなければならないと考える。そして寛大であるがこそ、様々な作品が創れる。 ・混血児リディア 混血児は日本ではモテるが欧米ではモテない。リディアはモテずに暗い思春期を過ごした。どこにも自分の居場所はないと感じ、どの国にもアイデンティティがないと感じた。だから自分のための世界を作ろうと考えた。もしリディアがモテモテだったら、カルディアは存在しなかったろう。劣等感はバネになる

ˈlɪlɑeɟ ［代詞］［ɸnɔ］ウチらの ［レベル］1 ʃ1:ɔucß:ˈlɪlí/ɪnʃeɟ の eɟ

ˈlɪlɑeɒc ［音楽］アンダンテ 1L

ˈlɪld ［生物］手指を曲げて凹状にした手のひら、握りかけた手のひら、手のひら、手の平、掌 ［動詞］ɥəl を把握する、把握する ［言語］把握 ［類義語］ocɟ ［レベル］3 古 jɔμn: この手で何かを掴むときの「かるぷっ」という音から。日本人には分かりにくいが、口でものを「かぶっ」とはむ時の音のイメージに近いのかもしれない。 ［文化］ nˈlleɪnɑəl

ˈlɪldɑcɪ ［植物］芙蓉、フヨウ ［レベル］6 nɑ;ˈlɪld/ɑcɪcn ʃʃ

ˈlɪldɪje ［料理］薄力粉 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ ［文化］ dɪje

ˈlɪdɪɑcɪ ［アトラスの国家］カルパフィア ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:「橋となるところ」

ˈlɪdɪɑcɪfcˈle ［地学］カルパフィア海流 ʃʔ

ˈlɪlb ［名詞］世の常 ［物理］次元 ［レベル］3 ʃʔ: 制 : 古 :ˈlɪlbə（世界） ˈlɪlbə:ˈlɪlbə

ˈlɪlbə,ɑ cl ɑcɪ ˈlɪl/bə

ˈlɪlhɪ ［名詞］規模。抽象的な大きさ。 ［類義語］ʃəɟ ［レベル］3 ʃ0:ˈlɪlhɪn（広いところ）

ˈlɪlhecɒ ［宗教］修道会、修道院 ［レベル］4 zφ ʃʃ

ˈlɪlɥəfɪn ［魔法］半導体 ［レベル］5 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ˈlɪlɥəɒ ［名詞］カリューム、双子宇宙。カルディアとユマナの総称。ɪɸle と jɔμn でいう ɪɑcɪ のようなもの。 ［アクセント］ˈlɪlɥƐɒ ［レベル］3 lʃ;ˈlɪlɑcɪ/ɥəɒɪnɪ ʃʔ ［文化］ ɒɥəˈlɪlɒ

ˈlɪlɥəɑcɪ ［名詞］孤児院、カルユディア、カリュディア ［類音］ˈlɪlɑcɪ。言葉遊びでカルディアと結びつけるのに使える。 ［レベル］3 ʃʃ: 古 ˈlɪlfɔ などと同じ造語。「孤児の場所」

ˈlɪlzɪɟ ［エルト］悪心カルザス ［名詞］6 時 ［名詞］南 ［交通］カルザス通り ［音楽］ファ ［組み数字］6 / １２ ［類義語］ˈlɪl ［レベル］2 ɒelʃcɪ ʃʔ:ˈlɪlzɪɟ;e 古 ［文化］ アルミヴァの６番目。エルトの左腕から生まれた。悪い心を司る。エルト神の破片から生まれた。ルフェルとダルケスの父で、コノーテの夫。エルトを支配していた。デームスと戦い、大きな功績を挙げる。ラヴァスになってルフェルが力を付けると彼女を初のエルトの王に立てた。ヴァルファントに挑み、知略で勝ち、ヴァルファントを従えた。本人は王にはなれなかったものの、娘のルフェルが王になった。知的で狡猾で好奇心旺盛。

ˈlɪzɪɟləueɸ ［名詞］流言飛語、流言蜚語 ［類義語］ɑceɒez ［レベル］4 ʃʃ ［語法］ ɪl の yəɒcˈlˈl などに見られる悪意のある嘘の悪口のこと。しばしば現実に沿わない嘘であり、基本的に悪口であっても本当のことなら ˈlɪzɪɟləueɸ とはふつう言わない。

ˈlɪzɪɟdɪ ［ユマナ］［音楽］ヘ音記号 ［レベル］5 1L

ˈlɪze ［名詞］市庁舎 ［レベル］5 ˈlˈ;ˈlɪlfe.ˈ ʃʃ

ˈlɪzeele ［軍事］カルゼーレ、漿座 ［レベル］5 ʃ0:ˈlɪlfe/zelɔ ［文化］ アンジェリカ脳内のコクピット。ヴェルディエルで満たされ、ディアメルが壁面から出ている。

ˈlɪzeele(J) ［人名］カルゼーレ、斬吹、きりぶき ˈlˈ;ˈlɪlzeele,lɔlɔ‹>ˈclˈjeleɟ。訳語は ˈlcl（切る）/ˈjeleɟ（息吹）→キリイブキ→キリブキ→斬吹から来ている。 ʃʔ ［文化］ 暗殺者の大家。ˈlˈ の lɔlɔ 発祥の家だが、μɑ 以降本家をアルバザードに移した。初期は弓だけでなく忍者道具のくないや手裏剣といった飛び道具を好んだが、φleɪ の発明以降は銃火器を専門に取り扱うようになった。カルゼーレ家の者は遺伝的にユノとノアに恵まれるが、ヴィルには恵まれない。従ってφleɪ の使い手は少ない。ただし偶に多大なヴィルを持って生まれる女がおり、この場合ユノ、ヴィル、ノア全てに恵まれることになる。このため、カルゼーレ家の当主は伝統的に強力な能力を持った女性であり、典型的な母系社会である。

ˈlɪoɪ ［地学］高山、霊峰、大山、特別な山 ［レベル］2 赤 : 手のひらの形のような場所という原義

ˈlɪoɪ,ɑ oɪl ˈlɪl/oɪ「手の形のような場所」

ˈlɪoɪˈlɪɑ ［地球の国名］ネパール ［レベル］6 1L: 国旗にエベレスト

ˈlɪllc,ɑ ˈlˈlcˈl

ˈlɪllcl ［化学］フランシウム 1Λ: 制

ˈlɪlɪ ［動物］ムカデ ［レベル］2 古 :ˈlɪlɪ、ˈlɪɒɪlɑɪ（たくさんの足）

ˈlɪlɪ(J) ［植物］ハギ、萩 ［レベル］4 μɑ;ɪlʃ ʃʃ

ˈlɪlɟ ［代詞］［ɸnɔ］ウチら ［レベル］1 ʃ1:ˈlɔccμ:ˈɔleʃ と似るため ‹ˈlɪlí:ʃ1:ɔucß:ˈɔlɪ/ʃe

ˈlɪlɟl ［化学］弱酸性 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪɸbɪlelʃ

ˈlɪlɪn ［ジョブ］武士、武者、カラン、侍、サムライ、さむらい ［反意語］ˈlɪlen ［レベル］3 ɒ;ɪlʃ‹ˈlɪlɪn ‹ˈlɪlə‹ˈlclc「刀の人」 ʃ0 ［文化］ → ɪlʃcɪn, lɔlɔɟɪn ɒ のアルティア人の間に ucμ が少なく nɔɪ と ɥənɔ の多い遺伝子が普及する。その結果魔導師がほぼ絶滅。戦闘は男だけが引き受けるようになり、女は家に押し込められるようになった。 アルティア人はヴィルを持たない代わりに強力なハノン等を持って生まれてきたため、剣士が非常に有力になった。豪族は有能な剣士たちを集めて力をつけ、成り上がっていった。有事の際に豪族を守るという名目で剣士を雇い、普段は奉公させその見返りとして石高を与えた。こうして封建制ができあがった。 このとき剣士たちはカラン（武士）と呼ばれた。カランに要求されたのは裏切らないことであり、すなわち忠誠心である。また、常にカランは誠実であることが求められた。ここから忠義を尊ぶ武士道精神が生まれることとなる。領主と武士の結びつきは強く、生涯にわたって続くものであった。 魔法という常識が通じないこと、あまりに文化的に差異があること、地理的に大陸の端であることから、アルティアは孤立した国になっていた。ˈlˈ では鎖国が実施され、ルティアから貿易の打診を何度も受け続けた。 ɒ で業を煮やしたルティアがアルティアに開国を迫ると、開国派と鎖国派に分かれて内乱が起こった。結局鎖国派が内乱に勝利し、攘夷を決行。カランの軍団を率いてルティアに攻め入り、圧倒的な刀の力でルティアの魔法兵団を切り捨てる。 フランディール（現トモエ）陥落後、ルティアは現領土の西半分を明け渡すことで和平に同意。こうしてアルティアの文化がルティアに入り、武士やアルティア人の服装がルティアに入る。元来ルティアは寒い地域なので、アルティア式の合わせを持った服は着ない。しかしこのときのことが原因で、現在ルティア人は袴や浴衣のような服も着る。 カランの戦闘方式は剣による集団戦法である。１０人程度からなる小さな隊を複数組み、組長の指揮の下に動く。隊の規模が極めて小さいため、機動力に優れる。地上では馬を使って移動し、長距離は飛空する。戦闘時には馬を降り、剣で戦う。機動力を重視するため防具はほとんど着けず、下記の画像のような服装で戦う。 カランの持つ剣は ˈlˈlc（刀）であり、アルティア産の刀は世界一優れている。μɑ ではリュウがほれ込んで愛用した。 刀の威力は絶大で、特に卓越した武士にかかれば、魔導師がいくら魔法で防御しても防壁ごと斬り捨てられてしまう。 μɑ になるとルティアが勢力を強め、現在の領地を取り戻す。 カランの性格は武士道を重んじ、非常に寡黙で恥を恐れる。しかしプライドが高すぎて刃傷沙汰になることがある。また、集団になると始末に負えない点があり、一人一人は大人しいのに戦場になると急激に残忍になる性質を持っている。そのため、ルティア人虐殺など、歴史に汚点が散見される。 ・下位区分 戦場における武士の各部隊は φlləɒɪ という。ガルマはカランとアマガタリで構成される→ ɪɒɪφíílc 武士は上級、中級、下級にランク分けされる。下級は「裾持ち」という意味の jɒeoɪlc、中級は「石切り」という意味の hɔnɔˈlɪlc、上級は「天薙ぎ」という意味の jɔlɪɒɪˈlclc と呼ばれる。 画像は石切りの服装。刀は左に一本。帯と長い鉢巻。髪は結って上げる。色は裾持ちは黒青、石切りは赤茶、天薙ぎは黒灰となる。 このうち上流から精鋭九十九人を選び、王の親衛隊を作る。この親衛隊は ˈlɪɒələ（守る）の名詞

形 ˥lɪɒəlc（守護）の転で ˥lɪɒəc と呼ばれる。訳語には神威を当てる。　数が九十九人なのは王自身を百番目にして最後の守護者として計上するためである。　戦時には ˥lɪɒəc の半分の５０名が国外に出て、残りが国内での役務につく。　神威は浅葱色の羽織と袴を着ている。国外を務める５０人の総大将は新橋色の羽織を纏う（国内は言うまでもなく王）。　新選組と違って浅葱色の服などは平時から着られる。といっても常に着ているわけではなく、適宜黒い袴とやうちきなども着る。

˥lɪɪnɪlɪb ［名詞］滅私奉公 ［レベル］3 ˩˩

˥lɪɪɒclʃc ［形容詞］神に守られた、神に認められた、神の加護を得た ［反意語］˥lɪjcɑɪɸ ［レベル］3 ˩0:ɸcɑɪ: 古 ˥lɪ/ 古 ɪɒclʃc「神とともにある光を与えられた」 ［語法］ アルデの一族とは限らない。むしろ魔方にとってはしばしば悪魔属を指す。 ［用例］ ɪɸfɛnɪ ˥lɪɪɒclʃc 神に護られし召喚士

˥lɪlc,ɪlʃ ˥cl, ɑɸec oen

˥lɪlcj ［副詞］［形容詞］わずかに、気持ち ［レベル］1 ˩0:˥lɪ/lcj。ʃcn˥ɪ から ʃcn が来ているように、隣同士語源的に相関関係を持たせようとして、˥lɪ から ˥lɪlcj を作った。この点が頻度や確率とは異なる覚えやすさになっている。 ［語法］ ɯɪpʃ

˥lɪcɟɒɪɒ ［生物］微乳、ちっぱい、チッパイ、ちっぱいぱん、チッパイパン、ペチャパイ、ぺちゃぱい ［レベル］4 ɸɑ;/ ˩˩

˥lɪcn ［魔法］宿木、架琳、鳥居、とりい、トリイ、ヤドリギ ［伝統色］朱色。陽命朱が塗られて経年変化するとこのように退色する。さらに経つとこの色からも外れる。 ［レベル］3 ɟɒ;ɪlʃ <>˥lɪ/c「見るところ」門に立って外を見ることから。 ˩1 ［文化］ ejɪi

˥lɪcun ［音楽］メゾピアノ ［レベル］5 1L

˥lɪcz ［地名］カリーズ、カリズ、カリーズ市、狭処市 ［交通］カリーズ駅 ［アクセント］˥lɪЄz ［レベル］4 ˩l:「小さなところ」 ［文化］ 名前に反してカリーズ市は大きく、人口密度も高い。駅はジャンクションで、幻環線を始めとする国鉄や私鉄の線が走る。

˥lɪcl ［名詞］墓 ［レベル］2 ɑu 赤 :ɸcɑɪ:˥lɪcl(墓)。˥lɪ は場所。cl は全てという意味で、全員の意味。˥lɪcl は「全ての者が行き着くところ」の意で、即ち墓。 ［用例］ ɪn ˥eɸ ˥lɪcl e ɑcɔ (ɪnʃ) ɔ˥ ˥lɪl (ɪnʃ) ɒɪn ɯɔɸʃɛl ˥eəʃ ˥eɟcl ˥ənɪ. 祖父の命日が近いので母と墓参りに行く途中だ。

˥lɪcl,ɟzɑ ɯɛɸʃ >˥lɪlcl

˥lɪce ［建築］アトリエ、工房、執務室、書斎、カリエ ［レベル］3 ˩0: 古 ˥lɪl/ce（左右に並んだ部屋）

˥lɪce ʃ˥lɪcj 『アリスのアトリエ』、カリエ・タリス ˩0 ［文化］ ɸɑ の錬金術士アリス＝アンシャルの日常をコミカルに描いた小説（予定）

˥lɪɔ ［形容詞］少ない ［反意語］ɑc ［感動詞］おしい、あと一歩 ［レベル］1 ɑ:elʃ;˥lɪɒɪ.˥。「多い」の ˥lɪɒɪ の音を一部変えることで対語を作った。　赤 :˥lɪ と混同するかと思ったが、ɒccl ˥lɪɔ を程度を表す ɒccl ˥lɪ（ちょっとリンゴ）で解釈することはないので古アルカのまま採用した。 ˥lɪɔ:˥lɪɔ ［用例］ ˥ɪn ˥lɪɔ 少ない人数、少人数

˥lɪɔ˥lɪʃen ［哲学］［言語］ローコンテクスト、低コンテクスト ɸɑ;/ ˩ʃ ［語法］［文化］ ɑc˥lɪʃen

˥lɪɔ˥lcʃe ［親族］小家族、核家族 ［レベル］3 1L:ɸcɑɪ:ɪɸbɪ˥elʃ ［語法］ 小家族と核家族を日常的には区別しない。

˥lɪɔn ［ポジティブ］［名詞］質素、倹約、慎ましやか、つましやか、倹しやか ［類義語］ɥeɑ ［レベル］3 ɾdu;˥lɪɔ.˥ ˩1 ::˥lɪɔ˥

˥lɪɔnʃɥəɪ ［企業］カロン・テュア ［レベル］4 ˩1 ［文化］ ユニクロに相当する企業。

˥lɪɔuɪc˥ ［名詞］小部分 ［レベル］2 1L:ɸcɑɪ:ɪɸbɪ˥elʃ

˥lɪɔɒcɥə ［形容詞］変化に富まない、単調な、退屈な、安定した ［反意語］ɑcɒcɥə ［レベル］3 1L

˥lɪɔɸɪnɑ ［経済］寡占 ［レベル］5 1L

˥lɪɔdcʃ ［形容詞］種類が少ない ［反意語］ɑcdcʃ ［レベル］4 1L:ɸcɑɪ:ɪɸbɪ˥elʃ

˥lɪɔɥəlcɪn ［環境］少子化 ［レベル］3 1L

˥lɪɔl ［魔物］カロル（巨蛇）：第五十天：雷の巨天 ［レベル］5 1L:ɸcɑɪ/jeɸen/ɒel:˥lɪc/lɔ˥ɔ ［文化］ 爬族。雷を帯びた大蛇。通常の青大将の直径と長さを１０倍にした大きさ。恐ろしい怪力で敵を絞めつけ、そこに電気を流して敵をしびれさせ、確実に逃がさないようにする。そして毒の牙で獲物を仕留める。飛べないが、地を這う速度は予想外に速い。蛇というのは意外なほど早く動く。

˥lɪɔlcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］うみへび座 ˩ʃn ［文化］ cɑɪ

˥lɪɔɪ ［組み数字］７／１０ ［哲学］素 ［医療］肝 ［歳時記］丁、ひのと ［レベル］4 ɸɑ;˥lɪɔɪ,ɟzl ˩1 ::˥lɪ ˥lɪɔɪ

˥lɪɔɪ,ɟzɑ ˥lɪɔn ˥lɪɔn,ɾdu.˥

˥lɪɔɪ˥lɪn ［生物］［医療］肝経 ɟzl;/ ˩ʃn

˥lɪɔɪlʃə˥ ［名詞］［形容詞］凶作 ［反意語］ɑcɪlʃə˥ ［レベル］3 ˩0

˥lɪɔeefɪn ［経済］貸借対照表の少数持株分 1L

˥lɪen ［ジョブ］カレン、技術者、技工士、技師 ［電算］神、ネ申、プロの犯行 ［反意語］˥lɪɪn ［レベル］3 ˩0: 古ハーディアン語「刀を持たないもの」 ［文化］ ハーディアン人、特にアルティア人は非常に器用で職人気質であり、力の弱いものは武士にならず技師になることが多かった。技師は刀を作ったり服を作ったりしていた。　現在カレンはその気質を活かし、アニメや漫画などの細かい芸術作品を生産している。アルティア人の作るサブカルは世界一で、仕事は早いがいい加減というアルバザード人は舌を巻く。 ［用例］ oe (ɪlʃe ʃə eʃ ɥəʃ ˥ɪlen ɪʃ ちょw これプロの犯行だろw

˥lɪen(J) ［地名］カレン、火憐、カレン県 ［地名］カレン半島 ［レベル］3 ˩1:ɸcɑɪ:˥lɪl。半島が刀の形をしていることから。訳語はセレン。 ［文化］ アルバザード南端、アゲイト島の西に位置する半島。また同半島に存在する県の名。　アルバザードはルティア系の人間がアルシアに多いが、ɟɒ 以降アルティア人がアルシアに流入。しかしアルシアは強固なルティア社会だったことと気候が彼らに合わなかったことから、アルティア人の移民は南下して同半島に入った。　カレン南端の緯度は東京とほぼ同じかやや高い程度であり、日本と気候が変わらない。アルバザードの内陸部で最も温暖な気候である。アルティア文化が花咲き、地球的にいえば最も和風な県である。　同じ国内でも文化圏や気候の違いから外国並みの扱いを受けている。ふつうのアルバザード人の感覚ではケートイアのほうがよほど自国に感じられる。

˥lɪenjcɪ ［地名］カレンシア、カレンシア王国、幻凪国、幻凪 ɟɒ;˥lɪen/jcɪ「カレンの国」 ［レベル］4 ˩J ［文化］ 110˩ アルティアがアルバザード南部を支配。カレンシア王国が建国される。最大版図は北はワッカで東はカテージュ。アルティアを本国ないし宗主国と称し、アルティア王への忠誠を誓った。　1ⱣL0 ベルガンドの猛攻によりカレンシアが弱体化。　1Ᵽ0Ᵽ 弱体化していたカレンシアに bφ が猛攻をしかける。これによりカレンシアはアルバザードへ吸収される道を選択。カレンシアは亡国する。この時点でアルティア本国へ帰ったものもいれば、残ってアルバザード人となったものもいる。 ［用例］ ɟɒ 中期にできたアルティア人の国。アルバザード南部を征服し、最大版図は北はワッカで東はカテージュ。建国以降、凪紗はアルバザードの中央政府にも官僚を輩出し、アルバザード辺境部の領主なども務めた。もともと ˥ɥ, ˥j を継承して客観的把握をする言語だった ɪɸ は主観的把握をする凪霧の影響を強く受け、主観的把握を取り入れるようになった。しかし根底には客観的把握があるため、アトラス初の二重把握という認知様式を獲得するに至る。　ɟɒ 後期で ɪɸ と ˥lʃ の勢力が強まるとカレンシアは領土を狭めていき、ɸɑ では凪霧を解するアルバザード人は北部を中心に減っていった。　また ɟɒ 後期の 1Ᵽ9ʔ には bφ によってカテージュが陥落される。これによりカレンシアはアルバザードとの同盟を強めている。しかし結局国力の弱体化は避けられず、ついには ɸɑ(1Ᵽ0Ᵽ) でアルバザードに吸収された。　国は滅んでも凪紗はむしろ時代を追うごとにアルバザード全土へ薄く広がっていった。現在ではアルバザード人は一般に ˥lʃ は学んでも ˥lʃ は第二外国語でもない。従って ˥lʃ で話されても理解できない国民が特に北部には多い。だがアルカが ɪɸ から継承した二重把握はカレンシアの亡国後も失われず、現在でも生き続けている。

˥lɪenjcɪn ［言語］カレンシア方言 ［名詞］カレンシア人 ［レベル］5 ˩J ［文化］ ˥lʃcɪɸen

˥lɪenɑɪle ［名詞］カレンの恋人 ［料理］カレンファルシェ、琥珀羹、琥珀糖、琥珀菓子、錦玉 ［レベル］4 ˩1:ɸcɑɪ ［文化］ ɟɒ のカレンに住む少女とカテージュに住む少年の悲恋の話。双方の親が仲が悪く、二人の結婚を認めなかったために、二人は駆け落ち。双方の親が相手側の子供に刺客を放ち、追われた彼らは最終的にカレンの隠れ家に自ら火をつけ自害。ここからカレンの訳語が「火憐」となっている。　また、同時にカレン県発祥のお菓子の名産品でもあり、琥珀羹のことである。ɟɒ で作られた。

˥lɪendcɪnɑ ［医療］松葉形。管鍼法に使う。カレンシアで管鍼法ができたことから。 ɸɑ;/ ˩ʃn

˥lɪenzɪɸɑ ［筐堺］カレンザード ［レベル］5 ɸɑ;˥lɪenjcɪ/ɪɸbɪzɪɸɑ ˩J ［文化］ 筐堺司：jeɸen ɪɸbɪzɪɸɑ 筐堺国：ɪɸbɪzɪɸɑ, ˥lB ˥lɪenjcɪ, ɪφecʃ

˥lɪeɑ,ul eɸɑc

˥lɪeɑuəlɑ ［交通］［アイテム］［魔法］カレドヴルフ、飛銀竜、飛竜艇カレドヴルフ ［レベル］6 ɸɑ:ɸcɑ ɕ;˥lɪeɑ,ul/uəlɑ,ul ˩ʃn:ɸcɑɕɪ ［文化］ → ɑɪlɑɕɪɟ ɸɑ でリディアがラグナロクと神々に依頼してセレンのために作ってもらったセレン専用のファルディアス。　セレンの持つ尋常ならざるユノをスピードに反映できるようオーダーメイドされた一機。装甲も堅牢で、軍事利用にも向いている。ギア数（飛水晶数）は通常の飛竜艇と同じく六速まで。しかし飛水晶の質や機体の質が特別で、セレンの持つ異常なユノに負けない仕様になっている。　通常の飛竜艇の最大速度が時速２５０ｋｍであるのに対し、カレドヴルフの最大速度は時速５０００ｋｍに達する。ただ時速４万ｋｍに満たないため、アトラスを脱出して宇宙に行くことはできない。あくまでアトラスで用いる乗り物である。　なおカレドヴルフは「甘い風（lccɪfeeze）」という特殊機能がついており、体に受ける風の抵抗を魔法の力で１００分の１程度まで抑えてくれる。従って最大速度で走っても時速５０ｋｍのバイクと同じ程度にしか風の抵抗を感じず、すこぶる快適である。　ちなみにカレドヴルフは武器ではないため、セレンの愛車ではあるものの、ヴァストリアではない。

˥lɪeɸcɪ ［ランドマーク］カレリア水族館、紫灯水族館 ［レベル］5 ˩0:ɸcɑɕɪ: 古 ˥lɪ/eɸcɪ（水の場所）。「紫灯」ブラックライト ［文化］ 大航海時代にできた水族館で、革命後はランスケルンの西部にある。ネブラ＝ミルフにあり、ランスケルンに接している。ブラックライトなどを使った薄暗く幻想的な雰囲気なため、カップルに人気。男子学生にとっては、女子をランスケルンに誘うのは比較的気軽にできても、カレリアにはなかなか誘えず、勇気がいる。女子側もそれを知っているので、カレリアに誘われると、相手は自分にかなり気があると判断する。

˥lɪel,jzɑ ɥeɸ ˥lɪcl.˥

˥lɪecɔɪ ［アトラスの国家］カレイワ ［アクセント］˥lɪecɔ↑ ［レベル］5 1L:ɸcɑɕɪ: 左右対称な土地（左右対称な山があり、その間の長い谷を通って国に入る）

˥lɪeeze ［建築］東屋、休憩所、カレーゼ ［レベル］4 ˩0:˥icleeze（大傘） ［文化］ 東屋のように休めるところ。屋根があって、その下にベンチがあり、日かげで休むことができる。この屋根を傘に見立てた命名。

˥lɪə,ɪlʃ ˥cl <>˥clc

˥lɪəl ［魔法］活性剤、カルル ［レベル］6 ˩0: 古 ˥ə˥əl（作る） ［文化］ 錬金術において溶質を溶媒に入れたときに、それだけではアディストが生じない場合に、アディストを生じさせるために入れる物質。溶質と溶媒を活性させて反応させる働きを担う。

˥lɪəɪ,ɑ ʃcɛɸ ˥lɪl（場所）/ɪ（海）

˥lɪəɪ˥,ɑ ɪ˥e ˥lɪəɪ/˥e

˥lɪəɪlɔɔb ［被服］バイコーン ɟɒ;/ ˩ʃn ［文化］ ɟɒ でできた。海兵が身に付けたことから。

˥lɪʃ ［文頭純詞］そもそも、それに ［レベル］1 中期制：古 ˥ccʃɔ ［用例］ "˥lɪɪʃ, ˥ɪ leeu ɟcl ucl eɒ ˥ɛnɪ c ɟelej cɒ ˥ɪ ej ˥ɪnʃ ɪ ɒɪu"「それに、大人になったころには、もう私たちから離れられない身体になっているわ」

˥lɪl ［文末純詞］［μɒen］˥ɔ˥ ［レベル］1 ˩1:˥ɔ˥

˥lɪl ［動詞］ɥəl を lel だと認める、認める、承認する、認証する ［普通動名詞］承認、認証 ［レベル］2 古 :˥lɪɪ（はいと言う） ［語法］「彼を認めるし」など、「よく評価する」という意味のときは、ɪn ˥lɪl ˥ɪ eʃ ʃɔʃɔ のように具体的に述べる。ɪn ˥lɪl ˥ɪ 単体だと単に「何がしかを認める」であり、「よく評価する」という意味になれない。

˥lɪɪn ［親族］父、父親 ［反意語］˥lɪɪl ［レベル］2 μɑ;˥lɪɪn.˥ 1Δ: 赤 :˥ɥɪn ˥ɥɪn:˥ɥɪn:˥ə ɪɪn ［文化］ ˥lɪɪl ・父親と子供と妻　一般的に、アルバザードの父親は日本ほど子供に干渉しない（もちろん、中には子供好きもいる）。夕方には家に帰るわけに、子育てにはあまり参加しない。父親の関心の７割は妻に向いており、子供に３割といったところである。　日本人は一般的に妻に関心を払わないが、アルバザード人は妻に一番の興味を寄せ、妻の機嫌を取ることに時間を費やす。機嫌を取っているあかぎりアルバザード人の女性は貞淑で従順で家事も効率よくこなす。　アルバザード人の妻は機嫌を損ねても表面上夫に逆らわない。その代わり、仮病を使う。精神的に具合が悪いなどといって（厳密には嘘ではない）、部屋に篭って泣きはらし、子育てを放棄する（姑がいるからできる芸当）。この国ではたいてい姑は嫁の味方をするので、夫は自分の母親からも叱られる羽目になる。そのため、夫の関心は常に妻に向き、子供に向く余裕がない。　・避難場所としての父親　子供、特に娘にとって父親は避難所である。母親は父親の前では可愛い女の顔を見せるため、鬼のように怒る母親から逃げるために、父親のところへ逃げる。しかし父親は「母さんの言うことを聞きなさい」と言って適当に追い返す。　アルバザード人は家庭を持っても趣味を止めないため、父親は趣味を続ける。たいてい父親は子供が ɑcɪnɪl になると自分の趣味に誘う。ここで子供が同じ趣味に適応できれば、そこで初めて父親は子供を大いに可愛がるようになる。これは友達づきあいというより師弟関係に近い。同じ趣味を持ち、自分が師となり、子供を弟子とみなす関係で、親子のそれではない。子供が「そんなのつまんないよ」というと、父親は子供に関心を持たないまま子供は成人する。　・父親と娘　一般に子供、特に娘は父親になつくが、父親は娘より妻に関心を示す。ただし息子に比べるとアルバザード人男性は圧倒的に娘を可愛がる。つまり父親は妻＞娘＞息子の順で愛するのが慣例である。　娘は幼く話題も合わないので、父親は「小さい人が家にいる」くらいにしか考えていない。娘は「パパはママから私を守ってくれるので、なんとか好かれよう」と考え、同じ趣味に手を出すことが多い。趣味が一致すると、父親にとって「この小さい少女は面白い人間だ」という認識になり、会話をするのに値する人物になる。　えてして会話が成立する３歳ごろから父親は娘を本格的に可愛がりはじめる。蜜月がピークに達するのは５歳ごろで、そこから関係は徐々に冷えていく。　日本の漫画では娘や孫に褒められてでれっとするシーンが散見されるが、アルバザードの父親は娘に褒められるより妻に褒められるほうを喜ぶ。　一般に、父親は娘の性的なシーンを強く拒絶する。オムツを取り替えるのも嫌がるし、風呂に一緒に入るのもためらう。頑張っても９歳までしか一緒に入らない。風呂後に娘が裸で走り回ったりすると「はしたない」と言って叱る。　父親が娘に対して一歩引いて接する反面、娘は一般的に父親が好きで、日本と違って思春期でも父親に憧れたままというのがふつうである。日本人のように「洗濯物を一緒に洗わないで」とか「お父さん汚い」と言った発言はない。そもそも、その発想自体がアルバザード人の娘にはない。むしろ逆に、家庭内で娘の下着が干してあったりするのが目に入ると、父親は気まずく不快に感じる。　娘は幼い頃は父親と結婚したがり、母親を排除しようとすることすらある。父親に懐いてくるのは生涯続く。一方父親は生涯通じて妻に関心があるため、過剰に甘えてくる娘を適度に引き離すことが多い。　特に１０歳を過ぎると父親は娘と一歩距離を置いて、女性として扱うようになる。娘は父親に近付こうとするが、父親のほうが距離を置こうとする傾向にある。思春期以降、父親が娘に行う接触はハグや頭撫で撫でやキスなど、狭い範囲に限定される。（身体接触自体を好まない日本人や凪人にとってはこれでも親密に見えるが）　また、たいていの娘にとって理想の男性像は父親である。それは子供のころから母親や周囲の人間が、父親がいかに偉大かを吹き込むためである。　日本では母親が父親の悪口を子供の前で言うことがあるが、アルバザードでそれをすると完全な悪妻となる。母親は子供の前では常に父親は偉大だと吹き込むことが美徳とされ、子供の前で父親を貶すなどあってはならないとされる。　たまった母親のフラストレーションはたいてい夫本人か、あるいは母親の両親へ持ち込まれる。すると母親の父、つまり夫から見た舅が怒る。夫はそれが怖いので、妻をなるべく怒らせないようにするという好循環が生まれる。　・父親と息子　父親は娘に比べ、息子をあまり可愛がらない。息子に対しては壁として立ちはだかり、「いつか俺を倒して越えてみせろ」という態度で臨む。息子はそんな父親を偉大だと思うと同時に、怖いとも感じる。　父親にとって息子は後輩と部下とライバルと後継者を合わせたような存在である。立派に育て上げ、いつか自分を越えさせようと考える。　・夫と姑　→ ˥lɪl の通り、アルバザード人男性は総じてマザコンがデフォルトなので、何かあれば夫は姑を優先する。しかし姑はここで息子を味方に付けると、「嫁が家出するのでは？」と危惧するため、あえて嫁の味方をする。　従って嫁と姑が仲違いした場合、たいてい次のようなパターンで事態が解決される。　１：嫁が姑と喧嘩する　２：嫁が夫に相談する　３：夫は姑の肩を持つ→嫁、発狂　４：３を見てカタルシスを得た姑が満足し、嫁の肩を持ってやる　５：姑から華を持たされた嫁がカタルシスを得て、問題解決する　６：夫にだけフラストレーションが残るが、男なので我慢する

˥lɪnjel ［歳時記］父の日 ［レベル］3 ˩0 ［文化］ ˩0 年にアシェットがユーアをもとに制定。日付は ɑcɪ nen。この時期はちょうど冬至ごろで、日本同様かぼちゃを食べる風習があり、娘や嫁がかぼちゃ料理を父親に振舞う。ビタミンＡの効果で粘膜が強くなり、風邪を引きにくくなる効果があるため。また、父親のために柚子湯を入れる。

˥lɪnɒcll ［俗語］母子家庭、ボッシー ［類義語］ɒc˥lɪɪn、ɒc˥lɪɪnɟɪ ［レベル］4 μɑ;/ ˩ʃ

˥lɪnɪ ［名詞］((cl) 桃色の心。ゆかいな、楽しい、元気な、えっちな、思い出深い ［レベル］3 1L8: ピンクは膨張色。膨張色は輪郭がぼやけて見える。過去の記憶は現在に比べ、ぼやけている。そこでピンクで過去を指す。

ʅɪɪɑ ［色］桃色、ピンク、カーフ。ψψϑψψ ［形容詞］桃色の、ピンクの ［レベル］2 1L:ʅɪɪɒ e ɑə lɒccɪ 1L: フルミネアの頬 ʅɔɒɒe:ʅɔɒef:lɪ dəleſ

ʅɪɪɑʅɪɸɒɪ ［植物］むくげ、ムクゲ、槿 ［レベル］6 1L:ʅɪɪɑ/ʅɪɸɒɪcn

ʅɪɪɒ ［生物］頬、ほお、ほほ ［名詞］左右片方のページ→ lec ［類義語］hɪɸʅɪɒ ［レベル］1 古 ::dəəl ［成句］ɑıb ʅɪɪɒ 頬を膨らませる。怒ったり不満に思ったときの子供っぽい仕草。 ʅɪɪɒ ɑcu 痩せこけた頬。ɑıb の反対なので。 ʅɪɪɒ ɑıb 膨らんだ頬。ぶーっと膨らませた場合と太ってこけてなく肉がついた場合とがある。 ɪn ſcl ʅɪɪɒ ɑıb cɒ ſəɔ ɒɪn ej sɪl. 最近太ったので頬が太った。

ʅɪɪɒncʃ ［生物］えくぼ、エクボ、笑窪 ［レベル］3 J0

ʅɪɪɒncɒ ［美容］チーク、チークカラー ［レベル］5 J1

ʅɪɪɒbcl ［生物］頬髭 ［レベル］4 JJ

ʅɪɪɒɸɪel ［動詞］ɥəl に口だけ笑わせる、口だけ笑う、笑う。目は笑わない ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe: 頬の筋肉だけで笑い、目は動かさないことから ［語法］ 裏に秘めた意味や含みがあることを暗示する笑み。

ʅɪɪɒɔd 側注→ lec JJ

ʅɪɪɑ ［名詞］兆し、お告げ、きざし、前兆、予兆、サイン、シグナル、予言 ［レベル］3 1L:ʅɪɪɑe ［用例］ ☆ ʅɔ ſel l'ɪſ ɒeſ ɪdcɪſ ʅɪɪɑ ɑel ɪlcʃ ləɒnʅ cn. 一枚の落ち葉は秋の訪れを告げる兆しのようだった。

ʅɪɪɑe ［名詞］カーデ ［レベル］3 ɑəlɒccɪ: 古 ［文化］ μɑ でフルミネアが作成した占い。また、その占いに使うカードの名前。タロットカードのようになっているが、枚数は遥かに多い。歴史上の偉人や神などを絵柄にしている。

ʅɪɪɑen ［名詞］運、ラック、巡り合わせ ［レベル］2 J1: 古 ʅɪɪɑe/en

ʅɪɪμ ［名詞］ブーム、流行 ［レベル］3 1ʔ: 制

ʅɪc ［形容詞］大きい ［反意語］lcʃ ［レベル］1 ɑ;e 古 ʅɪc:ʅɪc:ɒɪl:ɒɪlə,ɪlſ ［用例］ ［メタファー］ʅɪc ɥən ʅɪ clɪ カイラのように大きな：韻を踏んでいる lcu ʅɪc 大きな声

ʅɪcſ ［料理］栄養 ［レベル］2 古 :ʅɪcſ（栄養）。「 大きくするもの 」。

ʅɪcʃʅlecɒɪ ［名詞］カイトクレーマー ［娯楽］一機、自機の予備、あと何機の機、エクステンド。 ʅcſſɔ も可。 ［レベル］2 ɑu 1ʔ: 制 : 古 :ʅɪcſʃʅlecɒɪɪ ［語法］［文化］ もう 1 人の自分。自分の中に居て自分を諫めたり誘惑したりする。長いので通称キットと呼ばれる。

ʅɪcſcɒ ［生物］巨核球、骨髄巨核球 μſ;/ JJ

ʅɪcſcɒɔɸ ［生物］前巨核球 μſ;/ JJ

ʅɪcſcɒɔe ［美容］トリートメント ［レベル］4 ul;/ Jʔ にセレンが造語したがその後リディアの辞書を見たら同じ語形で既に登録済みだった。 ［文化］ リンスと同じ効果があるが、毛髪の内部にまで、タンパク質成分が浸透できるので、ダメージ部分に栄養を補給する事ができる。

ʅɪcʅ ［動物］恐竜 ［レベル］2 古 : 大きい者

ʅɪcʅɔ ［動物］主竜類 ul;ʅɪcʅ.ʅ Jʔ

ʅɪcʃ ［経済］通貨 ［類義語］ɪnɑɪn ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʅɪɑφcl ［文化］ → ɪnɑɪn アルバザードの通貨は ɟɔlſ。ルティアの通貨は ɒcɪn。アルティアの通貨は φcn。メティオの通貨は nɪɪzel。ケートイアの通貨は φclcɪ。ヒュートの通貨は φclcəʃ。 最初の貨幣はアズゲルで生まれた。これに伴い月なしの存在した不完全なメルティア暦の太陰太陽暦が改められた。

ʅɪcʃcɪ ［音楽］トムトム、タム、ロータム ［レベル］6 J1

ʅɪcn ［天文］カイン、木星、巨天 ［魔法］水のクリスタル ［組み数字］5 / 9 ［レベル］3 古 :ʅɪcn ← ʅɪc/fəənɔ

ʅɪcn(J) ［名詞］巨人 ［レベル］3 μɑ;ʅɪc/en JJ

ʅɪcn,ɟzʅ ɥəʅʅɪ < ʅɪl,ɑ/c,ɑ

ʅɪcn ɥəſcɪ ［人名］カイン＝ユティア ［レベル］5 1L:clɒəj;μcɑcɪ ［文化］ (ʔ1ʔ0 →) レイユ期のアルティス教徒。生誕と同時にアルシオン派のシオンに拾われ、生き延びる。しかし同年シオンがミナリスとの一騎打ちで殉教したため、シオンのことは覚えていない。しかしアルティスに多大な恩を感じ、マルテに仕えた。マルテの死後はその死後はアメリを支えた。ʔ00 年にミロクの表向きの父親となる。ʔ10 年にアメリとユレットがアルファウスと戦って戦死すると、アルタレスとなり、ミロクの摂政となった。ʔ1ʔ 年、ミロクにアルタレスの座を渡し、開発庁長官となる。

ʅɪcnc ［動物］メインクーン ［レベル］6 J1: 大猫

ʅɪcuilɪ ［医療］大病院 ［反意語］lcjuilɪ ［レベル］3 J1 ［文化］ cuil

ʅɪcɑel ［ユマナ］大学 ［レベル］3 J0

ʅɪcɒ ［動物］象 ［レベル］2 lɪlſɪ: 大きい者が語源 ［擬声］ ɑɪɔ（鳴き声）［用例］ ſɔɪ e ʅɪcɒ 象の鼻。厳密には上唇。 ʅɪcɒ ſcl ſɔɪ ɑcl. = ʅɪcɒ eſ ɑcl ɔn ſɔɪ. 象は鼻が長い。

ʅɪcɒuceſ ［地球の国名］スワジランド 1L: 国章にライオンと象

ʅɪcɒzcɔ ［名詞］象牙、アイボリー ［地球の国名］コートジボワール ［レベル］4 1L

ʅɪcɒclcɔlz ［医療］前立腺肥大症 ［レベル］6 1L

ʅɪcφɪɔ ［音楽］チューバ ［レベル］5 μſ;ʅɪc/φɪɔ J1

ʅɪcφel ［軍事］大銃、砲 ［レベル］6 μɑ;/ JJ ［文化］ φel

ʅɪchcnʅlcſc ［生物］アポクリン汗腺 ［レベル］5 J1

ʅɪcz ［音楽］ディスコ。ホールのほう。 ［レベル］4 J1:ʅɪc/ez

ʅɪczɪμ ［筐堺］カイザー ［レベル］5 μɑ;ɪμſɪ 語で「大きな国」 JJ ［文化］ 筐堺司 : dcnenɪ uɪlɔ 筐堺国 : μſɪ, zeμɑcɪ lcɪμ

ʅɪcoɪſɪ ［歳時記］大市場、年末決算セール、大バーゲン ［レベル］3 J1 ［文化］ 南区で大規模なマーケットが開かれる日。大バーゲンの日で、年末商戦最大の掻き入れ時。革命で制定された。繁忙期のルージュの日のちょうど後半戦開始となる ɒəs μɪu で、メルセル用の商品などが飛ぶように売れる。また、決算セールも兼ねるため、家電製品なども飛ぶように売れる。モールでは世界各地の名産品の物産展が開かれ、世界の珍味が味わえる。腐敗しにくい時期なので露天で売りやすいということもある。

ʅɪcl ［動詞］ɥəl を ɪ に収穫する、収穫する ［普通動名詞］収穫 ［レベル］3 古 :ʅɪcl（収穫）。大きくするが原義。 ［用例］ ɪμbɪzɪμɑ ʅɪcl ɪlſə̀l cɒ ɪlcʃ. アルバザードでは秋に収穫を行う。

ʅɪclɪ ［魔物］カイラ（巨鬼）：第三十二天：土の巨天 ［レベル］4 古 :ʅɪclɪnſcʃ（大きい人）［文化］ 人型の巨大なアデル。棍棒を振り回し、怪力を持つ。知能は低く、言語は解さない。 ［成句］ ɑcɪn ſɔe ʅɪclɪ. 窮鼠猫をかむ。

ʅɪclɪzed ［名詞］朝三暮四 ［レベル］3 JJ: 「愚鈍なカイラの計算」

ʅɪclcɪʃ ［化学］高分子、高分子化合物 ［レベル］5 1L

ʅɪcɪn ［ユマナ］大学生 ［レベル］3 J0

ʅɪcɪnɑɪ ［軍事］重火器、アーティラリー ［類義語］ɑɪɑɪnɑɪ μɑ;/ JJ ［文化］ φel

ʅɪcɪφleɪ ［アイテム］ブロードソード ɟɒ;/「レイピアより幅広い剣」 JJ

ʅɪcɪφed ［音楽］スーザフォン、スーザホン、スーザホーン、スーザフォーン ul;ʅɪc/ɪφed 大型で蝸牛のような形をしていることから。 JJ

ʅɪcɔɒɪcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］おおいぬ座 JJ ［文化］ cɑɪ

ʅɪcɔdnɪcɪ ［被服］アロンジュ ɟɒ;/ JJ ［文化］ ɟɒ でできた。男性貴族用の大きなカツラ。

ʅɪɔ ［名詞］壺、壷、ジャー、ポット ［レベル］2 古

ʅɪɔ(J) ［名詞］お香 ［レベル］3 ɪlſ;ʅɪɔ（壺）と同根。香りをたきしめる壺のメトニミーでお香を指すようになった。 JJ

ʅɪɔlcʃʅəlnɔμʃ ［人名］カオシスト＝クルノース ɟɒ 古 : もともとファミィの名が小説版アンクノットにおいてはファミィ＝カオシスト＝クルノースとなっていた。このミドルネームの使いどころがなかったため、先祖の名にした。 ［文化］ ɟɒ で光の魔法 ʅɪɔlcn を開発した人物。アルバザード出身の男性。ʅɪɔlcn を任意の材質にかけると、その材質には色が付く。ʅɪɔlcn は光を色に変換し、かつそれを物質に定着させる効果がある。これを使えば紫などの高価な色を安く提供できる。ʅɪɔlcn は粉にかけることができるので、粉を練ってペーストにすれば染料になり、絵画などに利用できる。また、麻や綿や絹などの繊維にもかけることができるので、衣服の染料としても使える。それまでは色によって高価や安価といった価格の違いがあり、さらに色によってはそもそも染料がなく作れないということもあった。ʅɪɔlcn を使えばどんな色でも安く作ることができ、庶民でも綺麗な色のついた服を着ることができるようになる。この結果、カオシストは庶民の熱烈な歓迎を受けた。 カオシストは ʅɪɔlcn を使い、染料を安価に提供した。これが大ヒットとなり、巨額の富を抱えるようになった。ʅɪɔlcn が彼にとって好都合だったのは、これが難合だったことである。基本的に彼自身が伝授しなければ真似できず、技術の流出リスクが少ない。また、カオシストによる寡占経営が可能となる。このことが巨額の富を得た要因となった。 その後財力を背景にカオシストは商人から貴族に成り上がり、クルノース家は隆盛する。μɑ でアルシェが現れたころの当主は ɒcɒɔzɪ で、息子に culcɒ、娘に ɑɪɒcc がいる。ミモザは「クルノース家はもともと安価な染料を庶民に提供することで庶民の支持を得た。それゆえ我々は貴族になっても庶民の味方である」ということをアピールし、当世の貴族批判をなるべく避けようとしていた。そのパフォーマンスの一環として娘のファミィを庶民の学校であるアシェルフィ校へ入れた。そしてこの行動がファミィとセレンの出会いに繋がり、ひいては色魔法の成立を促した。そして何より、このときの出会いが後世のミロク＝ユティア誕生に繋がっていく。

ʅɪɔj ［数学］直径、ディアミーター ［名詞］径 ［レベル］3 古 :μɥəə:ʅɪɔj（ここからここまでという意味か）

ʅɪɔlc ［植物］金木犀 ［類義語］ɪlcjcn ［レベル］5 ɪlſ;ʅɪɔ/lccſɔ「良い匂いのするお香」 JJ

ʅɪɔlcn ［魔法］カオリン ［レベル］6 ɟɒ;ʅɪɔlcjʃ JJ ［文化］ → ʅɪɔlcjʃ ləʅnɔμɟ, lcjſcnɪ, jɪcʅɪn 光の低位難合白魔法。最も安定するのは白のときで、同時に最も容易に出せる色である。

ʅɪe ［名詞］タンク、貯水槽 ［レベル］3 1ʔ: 制 :「 大きな水 」

ʅɪen ［接続詞］ʅɪ。～にある。 ［レベル］2 JJ ［用例］ ɪn lɪ ſəμ ɑeſlc ʅɪen nɪφɔɥɪ. 名古屋の塾なう。

ʅɪenʅleed ［化学］構造異性体 ［レベル］6 1L: 結合の場所が異なる異性体

ʅɪez ［動物］オットセイ ［レベル］4 1ʔ: 制 : 恣意

ʅcſ ［動詞］ɥəl を始める、始める、はじめる、始まる ［名詞］はじめ、開始、紀元 ［名詞］先端、先っぽ、末端 ［名詞］オープニング、ＯＰ ［法副詞］～しはじめる。開始相の副詞。 ［文頭純詞］まず、はじめに、始めに、最初に、そもそも、てゆうか ［接辞］「はじめの」の意味を作る。ʅɪɒ と意味が近いの。 ［レベル］1 μɑ;ʅccſɔ.l 1L: 古 :ʅccſɔ ʅccſɔ:ʅccſɔ ʅccſɔ eμ（法副詞）:::ʅczɔlə,ɪlſ ［成句］ c ʅcſ 最初から ［用例］ ɥɪn lə bɔlcʅ ʅcſ e lɪj e jɪe. そして彼は紗枝の手の先っぽを握った : ʅcſ は名詞。

ʅcſſɪ ［名詞］スタート、起点 ［交通］ターミナル、ターミナル駅 ［反意語］ſɔʅʅɪ ［レベル］2 J0:ɒelc ɑcɪ lceμ:ʅcſ/ʅɪ

ʅcſſɪlcſ ［物理］初速度 ［レベル］4 1L: スタート時の速度

ʅcſſɔ ［名詞］キット ［医療］交代人格。主人格以外の人格 ［娯楽］一機、自機の予備、あと何機の機、エクステンド。ʅɪcſɔʅlecɒɪ でも可。 ［レベル］3 ɑu 古 ［文化］ キット。カイトクレーマーのこと。日本語では交代人格だが、主人格と交代人格が同時に出てくることもあるので、ʅcſſɔ としている。

ʅcſſe ［名詞］カウンターパート、対の片方、相方、対立項 ［レベル］3 J0:ʅcſſɔ

ʅcſlen ［料理］タホ ［レベル］3 μɑ;<ɑφn JJ ［文化］ μɑ でフィガンから伝わった料理。フィガンでは朝食に食べられるが、アルバザードでは主にお菓子とされる。甘くした豆腐にタピオカを入れ、黒蜜をかけたもの。

ʅcſjel ［歳時記］最初の日、元旦、元日 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

ʅcſncɑ ［言語］開始相 ［レベル］4 J0 ［語法］ 行為動詞の一端、事前段階の一端、外相の一端。非単位動詞の左端点。 「～しはじめる」という意味。

ʅcſlɔl ［生物］十二指腸 ［レベル］3 1L

ʅcſlecj ［芸術］口絵 ［レベル］5 J0

ʅcſɔʅɪ ［天文］初期宇宙 J0

ʅcʅſ ［名詞］像、ステーチュー、肖像、ポートレート、小像、何かの形をまねたもの ［レベル］3 1ʔ: 制 : 似たもの

ʅcʅl ［芸術］肖像画 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ʅcʅɪjlɪʅ（似た絵）［文化］ 写真よりも絵のほうが肖像画として真実を写していると考えられている。写真は一瞬の瞬間しか写さないのでたいてい変な顔をしており、顔の平均値を知るには写真よりも似顔絵のほうが適していると考えられる。なお、その理屈でいえば顔を知るには動画が一番ということになる。確かにそうだが、絵や写真と違って動くので落ち着いて鑑賞しづらいという欠点があり、絵に引けをとる。

ʅcʅcləɔ,ɪlſ lɪnſ, ɔjʅ

ʅcʅeləɔ,ɑ ɪucl ʅc/ʅe/lɔ「（おかしな）方向に動いた頭」

ʅcj ［単位］6 ［レベル］1 1L: 制 :ʅc csc:ɪn::ɪnɒc,ɪlſ

ʅcjʃ ［植物］［建築］芝生 ［動詞］［ネガティブ］ɥəl を c からさぼらせる、サボる、さぼる：セルメルで、授業をサボった生徒が構内の芝生で寝っころがって友達と遊んでいたことから。 ［レベル］2 初 :cjʃ は不明。ʅ は生命？ ［語法］ 手抜きしてやるの意味でなく、欠席するという意味のサボる。 ［用例］ ɑen ʅcjʃ c ɑeʅɪ. 学校をさぼるな。

ʅcjſcj ［アトラスの国家］キスティス ［レベル］5 Jʔ:μcɑcɪ

ʅcjſen ［音楽］サンバ ［レベル］5 J1:「ロクハチ」リズムの隠語から

ʅcjʅ ［名詞］伝説、語り継ぎ、武勇伝、いいつたえ、言い伝え ［名詞］伝記← ʅcjʅlec ［レベル］3 1ʔ: 制 :ʅəcj

ʅcjʅlec ［名詞］伝記→ ʅcjʅ ［レベル］4 μɑ;/ JJ

ʅcjɑɔμ ［音楽］六十四分音符 1L ［文化］ → ɑɔμ

ʅcjhɪμɑcɪ ［地球の国名］アンティグア・バーブーダ 1L: 6 人の聖人の名前が 6 つの郡についている。

ʅcjlccɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］南斗六星 JJ ［文化］ cɑɪ

ʅcjleɒ ［音楽］六重奏、セクステット μɑ;/ Jʔ

ʅcjel ［天文］エリス。準惑星 ［レベル］6 ɒelſcɪ 0:ʅcljelej;ʅcljelej.lcʅ Jʔ

ʅcn ［形容詞］つらい、ツライ、ツラい、しんどい、辛い、きびしい、キビシイ、キビしい、厳しい ［類義語］uccſ ［反意語］nɪɑμ ［名詞］困難、苦労、苦境、耐えがたい困難。難しいという意味の困難は led。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 恣意 ［語法］ je ʅcn で「ひどく」。程度の強さを表す。ネガティブな意味とは限らないが、ネガティブな雰囲気は残っている。「切望」という感じがする。lɪl とともに使うと「どうしても～したい」というニュアンス。 b a d l y に近いが、je ɥɪɒ とは言わない。日本語でも「ひどく」とは言うが、「辛く」とは言わないので、アルカ独特の言い方に注意。ʅcn と脚韻を踏むため、ʅcn ſcn の形で使われることも多い。 ［成句］ μcɑcɪ en jeμ ʅcn e lcczɪ 親の心子知らず ［用例］ ɑcj ɪſ jel ʅcn. 今日はしんどい一日だった。 ſə ɪſ ʅcn lel ɪn lib uɪμ jel. 一日中働くのはつらかった。 ſə eſ ʅcn lel ɪn ɪlſ ucl lɪ lc ſəμ. 彼にもう会えないのはつらい。 ſə eſ ʅcn lel el ſeμ lɪl ſ'ɪlɑ ɑel ɑeldɪnſ le lə eſ lɔɔɪ ɪl ɑɔl ʔ ɒcu J0 ɑec ɪj. 苦手教科である数学の講義を 3 時間 2 0 分も受けるのは辛い。

ʅcnlɪ ［名詞］苦境、辛い状況 ［レベル］3 1L ［用例］ ɪn lɪſ ʅcnlɪ. 苦境に晒されていた。つらい状況にさらされていた。

ʅcnlɪlſ ［名詞］窮地、窮状 ［レベル］3 J0

ʅcnz ［経済］［動詞］ɥəl（金額など）を ɪ（目標など）に入札する、入札する ［普通動名詞］入札 ［レベル］5 ɟɔμn ［文化］ 入札は日本と同じやり方。たとえば建設業が入札を行う場合、いくつかの会社が会場に集まる。自分の会社はいくらでこれを建てられますよという見積を立てた金額を紙に書き、それを箱に入れる。全社が入札を終えると紙を開き、一番安く仕上げることのできる会社に仕事を依頼する。価格競争を防ぐために談合が行われることがあるが、これは違法。談合を行うと入札の意味がなく、入札が形骸化するため。談合をするくらいならそもそも入札を止め、いつの回はどの会社が引き受けるという協定を結ぶ方が良い。それなら合法。

ʅcɑ ［料理］卵白 ［レベル］3 1L:lɪlc/ɑcμ

ʅcɑſ ［化学］アルブミン μſ;ʅcɑ/eſ「卵白の」。卵白の構成タンパク質のうちの約 6 5％を占める主成分タンパク質に対して命名された。 JJ

ʅcɑucμɔ ［化学］アルブミン 1L:jeμen

ʅcɒ ［動詞］ɥəl を曲げる、曲げる、歪曲する ［形容詞］曲がった、曲がっている、くねくねした、歪曲した ［言語］キム、昇降調 ［反意語］ʅnɪʅ ［レベル］2 ɑ;lc elj "ɔu" 赤 ʅcɒ:ʅcɒ:ʅcɒ

ʅcɒncɪ ［美容］くせっ毛、癖毛、天パ、天然パーマ ［レベル］3 J0:ɒelcɑcɪ lceμ

ʅcɒɑcnʅ ［名詞］曲面。平面の反対として。 ［反意語］ʅnɪʅɑcnʅ ［レベル］6 ul;/ JJ

ʅcɒdɪμɒ ［ユマナ］ひらがな、平仮名 ［レベル］5 1L: 日本の字で、曲がっている

ʅcɒhɔ ［生物］肋骨 ［レベル］3 1L

ʅcɒhɔjcɪ ［生物］肋膜 ［レベル］5 1L

ˈlcɒhɔjcɪaɪcz ［医療］肋膜炎 ［レベル］6 1L

ˈlcɒhɔɒc ［生物］肋軟骨 ［レベル］6 μɑ; ʃʃʃ

ˈlcɒhɔɒcɥecn ［生物］肋骨弓 μɑ; ʃʃʃ

ˈlcɒhɔɒcɥecnɒɔl ［生物］下肋部、季肋部。上腹部で左右の肋骨弓下の部分。 ［類義語］sɪɒhɔuej nɒɔl μɑ;「肋骨弓下」 ʃʃʃ

ˈlcɒɥɔ ［アイテム］ブーメラン、キムヨ ［レベル］3 ʃʃ0:lɔɥɔ, μɪlɥɔ からの類推。曲がり飛び道具。

ˈlcɒɥecn ［数学］曲線 ［レベル］3 1L

ˈlcɒlɪʃl ［被服］ルイスヒール μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ɟɒ でできた。貴族の女性用。

ˈlcɒelɪ ［アトラスの国家］キメラ ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: ひん曲がった

ˈlcd ［動詞］ɥel を測る、測る、はかる、量る、計る、計測する、計量する、測定する ［普通動名詞］計測、計量、測定 ［レベル］2 1ʃʃ: 制 : 恣意 cɒɪc:cɒɪc

ˈlcdɪɥ ［名詞］計器、計り ［レベル］2 1L

ˈlcdɪɥʃɑel ［魔法］計量魔法学 ［レベル］5 ʃʔ ［文化］ɑɔlɒcɥə

ˈlcdɔ ［動物］ツル、鶴、クレーン ［レベル］3 lʃʃʃ: 曲がった首が原義 ［擬声］dɔrʃɔrʃɔ ［成句］ɪɥ ˈlcdɔ ɪ ɪ を首を伸ばして見る

ˈlcdɔˈlɪɑ ［地球の国名］ウガンダ 1L: 国章に鶴

ˈlcdɔcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］つる座 ʃʃʃ ［文化］cɑɪ

ˈlcb ［名詞］棚、シェルフ、ラック、荷物棚 ［レベル］2 古 ［成句］ɥɑc lec ˈlɪ ˈlcb e μcɑcɪ リディアの棚で本を探す＝見つかるはずのないものを探す、無駄骨を折る、無駄足：アルバシェルトを作り上げたリディアは万物を勉強するほどの努力家で、書架にものすごい量の本があることから。

ˈlcɥj ［名詞］文化、風俗、習俗 ［反意語］ɪnʃcj ［レベル］3 1ʃʃ: 制 :ˈlɪɥj（共通文化）［語法］ˈlcɥj は総称的な文化。特に異文化間で共有される文化、ないし共通な文化。 ɪnʃcj は個別の文化。国だけでなく企業など、細かい単位にも使える。また、異文化間における「異なっている部分の文化」も示す。 ˈlcɥj が共通部分で、ɪnʃcj が共通しない部分と見てもよい。 ɪnʃcj は「異なっている部分」を指すことがあるので、ɥbɪzɪɥɑ ʃcl ɪnʃcj ɪ ləʃcɪ は「アルバザードはルティアに対し異なった文化を持っている」の意味になる。これは ɥbɪzɪɥɑ ʃcl ɪnʃcj enˈl ɪ ləʃcɪ としてもよい。

ˈlcɥjeʃ ［哲学］エティック、エティックな ［反意語］ɪnʃcjʃ ［レベル］6 ulˈlcɥj/ʃe ʃʔ ［語法］文化の外部から客観的に比較する態度のこと。逆に主観的なのはイーミック。

ˈlcɥjelɑ ［言語］新生人工言語 1L ［語法］自然人工問わず、意識的に文化を持った人工言語のこと。アルカなど。狭義には人工文化を持ったものを指す。

ˈlczɔlə,ɪlʃ ˈlcʃ

ˈlcl ［名詞］［料理］刃、刃物 ［動詞］ɥel を切る、切る、斬る ［言語］キル、中止調 ［類義語］ɪuɪnj ［レベル］2 ɑ;ˈlc/ɪl「物を動かす→物を変化させる→切って形を変化させる」 ʃʔ: 制 : 古 :ˈlclc（切る）。日本語の「 切る 」とは無縁。韓国語のカルとも無縁。この ˈlc は変形するという意味の前期アルカからの音象徴。 ˈlclc:ˈlcl:ˈlɪlə,ɪlʃ, ˈlɪlc,ɪlʃ ［語法］ncɪ ［用例］ ☆ ɪn nɪʃ ʃə eʃ ɔɔpʃ ɥən ˈlcl. 身を切るような寒さだった。 ɪn ˈlclɪʃ ˈlɪˈlc ɪ ʃcɑɪ. 私は卵を半分に切った。

ˈlclʃ ［エルト］キルト ［動詞］ɔn について ɥel の相談に乗る、顧問する、相談に乗る ［反意語］ʃɪpˈl ［レベル］3 ɒel: 古 ［文化］茶色い犬の姿をしたエルト。背に大きなずた袋を背負っていて、ここに人の悩みを吸い込むことができる。キルトは悩みを聞くとこの袋に悩みをしまい、代わりに打開策を袋から出してくれる。

ˈlclɪn ［名詞］顧問 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj

ˈlclʃc ［名詞］女副主人公 ［レベル］3 ʃʃ0:rləəˈlccʃe

ˈlclʃcˈlnɔ ［アイテム］キルティクノ ［レベル］4 μcɑcɪ: 古 :ˈlclcʃcˈlnɔ（ティクノを切る）［文化］ヴァストリアの 1 つ。リュウのもつ魔剣。悪魔キルセレスが竜王ティクノと戦ったとき、自慢の最速の太刀でティクノに切りつけた。ティクノは光が見えたと同時に切られていた。致命傷には至らなかったものの、負けを悟ったティクノは早々に逃げた。その剣が恐ろしいと瞬時に悟ったティクノは自分に剣が刺さったまま逃げた。そのおかげでティクノはその剣を手に入れることができた。その剣を調べてみると、どうやら居合い専用の剣のようだとわかった。しかも両刃でないので、刀と呼ぶにふさわしいものであった。ティクノはその刀を家宝にし、自ら ˈlclʃcˈlnɔ と呼んだ。ティクノはキルティクノを試してみたが、鞘がないので神速が発揮できない。鞘を臣下に作らせて見たが、にわか作りの鞘では到底太刀打ちできない。ティクノはキルセレスの鞘を欲した。しかし彼とはもう戦いたくない。そこで黙って家宝にしていた。μɑ になるとキルティクノはリュウの手に渡る。リュウはキルセレスを出し抜いて鞘を奪い、キルティクノの本領を発揮させる。リュウはライバルのリーネとこの剣で居合いの勝負を行った。

ˈlclʃcɪ ［アトラスの国家］キルティア ［アクセント］ˈlclʃcↄ ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:ˈlcljelej

ˈlclʃɔɒɪ ［動物］柴犬 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelʃ

ˈlclɪlzɪɥ ［アイテム］キルカルザス ［レベル］4 μcɑcɪ: 古 ［文化］ヴァストリアの 1 つ。リーネのもつ魔剣。キルセレスがカルザスに切りつけたときの刀。リーネはライバルのリュウとこの剣で居合いの勝負を行った。

ˈlcll ［動詞］ɥel を剃る、剃る、そる ［レベル］3 1ʃʔ: 制 :ˈlcllc（切ってなくす）

ˈlcllɥ ［美容］髭剃り、剃刀、ひげそり、かみそり、カミソリ、レイザー ［レベル］3 ʃʃ1

ˈlcllɥɒɔ ［美容］レザーカット ʃʃ1

ˈlclj ［形容詞］細かい、仕事が細かい、切り方が小さい、繊細な、デリケートな、念入りにした、精巧な、精巧にした、まめな、マメな、几帳面な、精度が高い、詳細な、仔細な、詳しい、くわしい ［料理］［動詞］ɥel を細かくする、細かくする、刻む ［文頭純詞］厳密には、厳密に言えば ［反意語］ɔɪn ［レベル］2 1ʃʔ: 制 : 恣意

ˈlcljɪʃb ［動詞］ɥel を精査する、精査する ［普通動名詞］精査 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

ˈlcljɥeɑcɪ ［言語］ハードファンタジー ［レベル］6 μɑ ʃʃ ［文化］ɥjeɑcɪ

ˈlcljɪnɔz ［音楽］トレモロ ［レベル］6 ʃʃ1

ˈlcljelej ［悪魔］キルセレス ［アクセント］ˈlcljelej ［レベル］4 ɒelʃcɪ 0:ˈlcljelej;ˈlcl/jelej 古 μɥəə/ɑəl ɒccɪ: フルミネアがリュウと『幻想話集アティーリ』の話が興じた際に 2 人で作った悪魔。ˈlcl は古の ˈlclc で、「 切る 」の意味。jelej はセレスのこと。即ち「 魂を切り裂く者 」の意。 ［文化］悪魔最強の剣士。ヴァルファントと戦って勝つが、ヴァルファントに与えられた傷が原因でカルザスに破れ、逃げ延びる。その後ティーテルの剣を狙うが、ティーテルは娘のエンナに剣を託し、エンナをアトラスに送り込んでしまう。あきらめたキルセレスはテームスの封印が解けるまで寝起きを繰り返すことにした。 非常に紳士的で、強いものをこよなく愛す。ただし、口数は少ない。低く響く声をしている。紳士的というのはフェアプレーを好むという意味。 1 対 1 での戦いを好み、勝負前には必ず傷ついた相手を回復してから勝負に挑む。 準惑星のエリスを司る。 ［用例］ ˈlcljelej"ɟɪɪ, ɪn ˈleɪ uɪn ʃc. ɟɔn μe uɪj ɪn enzel" キルセレス「さぁ、回復してやろう。全力でかかってくるがよい」（『 F F 4 』ルビカンテ）

ˈlcluɪnɑ ［普通動名詞］斬撃 μɑ;/ ʃʃʃ

ˈlclɒ ［名詞］チャンス、機会、好機 ［レベル］2 1ʃʔ: 制 : 古 :ˈlclcɒel（チャンス）。「 切るとき 」が語源。リュウの造語。 ［成句］ hɪɪj ˈlclɒ 折角、せっかく、折角だから ˈlclɒ clcɪ 一世一代 ˈlclɒ ueeɥ 千載一遇 ［用例］ ɪɪnɪ ˈlclɒ ˈleɟ 出直す。またの機会を狙う ʃc ɑen ʃcɑl ʃə ˈlclɒ. このチャンスを逃すなよ。 le ɪʃ ˈlɔ ˈlclɒ μɪʃ lɔʃen ɥəɟ ˈlclɒ. 1 0 に 1 つのチャンスだった。 ɪn jcʃ ˈlclɒ. チャンスがなかった。

ˈlclɒc ［名詞］舞台裏、裏話、秘話 ［レベル］3 μɑ;ˈlɪ/clɒc「イルミに記されたー→秘密の内容→秘話」 ʃʔ

ˈlclɒeʃ ［動詞］ɥel を切り落とす、切り落とす ［レベル］2 ʃʃ

ˈlclɑ ［政治］（行政単位としての）州→ ɟɪlɪc ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ˈlclˈlɪɑ（国を分かつ）

ˈlclɑɔl ［地学］斧石群 1L: 刃のような結晶を持つことから

ˈlcld ［動詞］ɥel を煌かせる、煌かせる、きらめく、きらめかせる、きらっと光る、煌く、閃く ［動詞］ɥel（下着など）をチラっと見せる、チラ見せする ［名詞］ひらめき、閃き、きらめき、煌めき、閃光、一閃 ［名詞］スラッシュ、/ 記号 ［類義語］ɪuɪnj ［レベル］2 1ʃʔ: 制 :ˈlcldɪɪ（刃の光）［用例］ ˈlcld uelʃel 鈍く光る

ˈlcldɪˈlɪn ［名詞］チラリズム ［レベル］4 ʃʃ1

ˈlcldɪɑɔ ［地学］角閃石 1L

ˈlclb ［動詞］ɥel を彫る、彫る、ほる、彫刻する、刻む、刻み込む ［普通動名詞］彫刻 ［レベル］3 1ʃʔ: 制 :ˈlclɒeb（切って彫る）［用例］ ʃə ˈlclb eʃ ʃcnˈlɪ. この彫刻は見事だ。

ˈlclbɪ ［芸術］版画 ［レベル］3 1ʃʃ: 制 :ˈlˈlcb

ˈlclbcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ちょうこくぐ座 ʃʃʃ ［文化］cɑɪ

ˈlclbezcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ちょうこくしつ座 ʃʃʃ ［文化］cɑɪ

ˈlcljenj ［動詞］ɥel を ɪ に言い返す、言い返す、口答えする ［普通動名詞］口応え ［類義語］bɪʃj ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ˈlcl/μenj（刃物のような言葉）［語法］ bɪʃj と違い、聞き手が少なくとも「この野郎！」と思っているような言いかえしのこと。アルバザード人は総じてプライドが高いので、非論理的に口応えされると激しくキレる人が多い。ˈlcljenj は文字通り言葉の暴力と捉えられるため、言いかえされてキレて殴ったとしても、言葉の暴力の分と相殺される。とはいえ、たいてい「暴力＞言葉の暴力」という評価が下るので、差し引いてもゼロにはならない。 ［成句］［言葉遊び］ɑen ʃel ɒcnʃc ɒɪn lɪɪj ʃcl en ˈlcljenj hɔʃ ʃeʃ belˈlcl ʃɪn. 嫁に逆らうな。言葉で刺してくるほかに包丁も持ってるぞ。 ［μerʃe］ʃe ˈlcljenj ʃel ˈlccɪ lɪnɪ jɔμɑɪʃ. 優しくしてほしいなら、夫には口応えしないこと。

ˈlcljecn ［武道］斬撃の線、刀剣の軌跡 ［レベル］4 ʃʃ

ˈlclz ［植物］切り株 ［レベル］3 1ʃʔ: 制 : 古 :ˈlclczɪɒɔ

ˈlclzˈlcdl ［料理］ロールケーキ ［レベル］3 ʃʃ

ˈlclzɔl 正弦、サイン ［レベル］5 1L: 単位円の弦を半分に切ったもの ［文化］アルテムで神々が天文学を始めた後に発見され、ユーマの一族にも伝わった。従ってアズゲルのころには既に正弦表が発見されていた。 ɥəəɒɪ lʃʔʔ の冷戦期に半弦の考え方ができる。 ɥəə ɒɪ lʃʔʔ に弦を半分にして直角三角形を当てはめたところから余角が発見され、余弦ができる。遅れて三角比ができたのは遠い cɒəl 11ʃ1 のことである。

ˈlclzɔleeu ［物理］正弦波 ［レベル］5 ʃʃ1

ˈlclɪɑcl ［植物］［医療］切モグサ μɑ;/ ʃʃʃ

ˈlclc ［医療］解剖 ［レベル］3 ɪlˈlˈlɪ: 切ると解剖が同じ語形だった。

ˈlclc,ɑ ˈlcl ˈlc eˈlj ɔu. l eˈlj jɔɔl.

ˈlclcɑel ［生物］［医療］解剖学 μɑ;/ ʃʃʃ

ˈlclcɒɪlɪ ［アトラスの国家］キリワラ ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: 左右対称な山

ˈlcle ［地学］断層、切り口 ［レベル］3 1ʃʃ: 制 :ˈlcleel（切ったあとにできる顔）

ˈlccʃ ［建築］枢、とぼそ、くるる、くる、くろろ ［レベル］6 ʃɒ;ˈlc（動く）/c（目）/ʃe（のような）「目のような中心になるもので、くるくると動くもの」 ʃʔ

ˈlccʃɔ,ɑ ˈlcʃ ˈlc=ɔu

ˈlccj ［名詞］横の列、横の行、行、列 ［類義語］lʃɪl ［反意語］nccɒ ［レベル］3 μɑ;ɪˈlcj.ˈl ʃʃʃ ［語法］ɟɪˈlj

ˈlccnɪ ［植物］サイプレス、糸杉 ［レベル］4 ɟɒ;hɥ

ˈlccd ［名詞］錐、きり ［レベル］3 1ʃʃ: 制 : 古 :ˈlccd（切る剣）。元は ˈlclcdccˈlc。元の意味が忘れられたため余った語形となったところにリュウカメルが錐の意味を当てた。

ˈlɔ ［単位］1 ［レベル］1 1ʃʔ scs:ɑəə::dc,ɪlʃ

ˈlɔ(J),ɪlʃ 個。助数詞。 cˈlɔ

ˈlɔ(ʔ),ɪlʃ ［接頭辞］［接尾辞］指小辞、縮小辞 ʃʃ

ˈlɔ,ɑ dɔʃ, ˈlɔˈl, ˈlɔnʃe e

ˈlɔ,ɪlʃ ʃə ‹›ˈlɔ

ˈlɔʃ ［単位］千、 1 0 0 0 ［レベル］2 1L: 恣意 ʃeed:ʃen

ˈlɔʃʃɪ ［代詞］［pkeμs］ˈlɔˈl ［レベル］1 ʃʃ:ˈlɒccμ:ɒμəlˈlɔʃɪ などの ˈlɔʃɪ から。

ˈlɔʃʃc ［化学］［単位］スコヴィル値。辛さの単位。 ulˈlɔʃʃɔn/ɪʃc ʃʔ

ˈlɔʃʃɔn ［植物］ペッパー、唐辛子、トウガラシ、とうがらし、唐芥子 ［レベル］2 1L:ˈlɪʃn:1ʃʔ: 制 :ɟɔμ n:ˈlɔʃʃnn（良い匂いのする実）

ˈlɔʃʃɔn(J) ［音楽］太鼓、たいこ ［レベル］4 ɪlʃ; 擬音 ʃʃ

ˈlɔʃj ［建築］タイル、瓦 ［動詞］ɥel をこつこつ叩く、コツコツ、叩く ［レベル］3 lˈlˈlɪ: タイルを叩いたときの音

ˈlɔʃjhɔ ［生物］外側鼻軟骨 1L ［文化］アルバザード人の男の一部がイライラしたり不安だったり考えていたりするときに、この部分（ないし鼻骨）を人差し指の爪でコツコツ叩くことから。

ˈlɔʃl ［農耕］小作 ［レベル］4 1ʃʔ: 制 :ˈlɔʃnlcɑ（田畑を借りる）

ˈlɔɪ,ɑ ˈlɔɔʃ ˈle/ʃɪ

ˈlɔʃɪn ［農耕］［地学］田、田畑、農地、耕地、田んぼ、田園、農場、農園、田圃、圃 ［レベル］2 1L:ˈlɔʃn:1ʃʔ: 制 : 古 :ˈləɒəʃəənɔ（田畑。植物の（育つ）土）［語法］野菜や穀物を育て、動物を飼育する場所。 ［用例］ ʃenʃɪn eʃ uɔˈlɪ ˈlɪ ˈlɔʃɪn lɪnɪ ˈlɪcl ɪlʃə̀l. 農家の人々は畑で収穫に忙しい。

ˈlɔʃɪn(J) ［魔法］［哲学］精 ［レベル］3 ɟɒ;‹ɪlʃ ʃʃ1 ［文化］hcnɪʃɪ

ˈlɔʃɪnˈlɪn ［農耕］農奴 ［レベル］4 ʃʃ

ˈlɔʃɪnɒcμɔɟ ［哲学］精霊崇拝、アニミズム、汎霊説、汎神説 μɑ;/ ʃʃʃ

ˈlɔʃɪncɟʃc ［言語］精霊代名詞 ［レベル］4 ʃʃ ［文化］精霊に関わらず命を持たないものの九十九など意志を持って言語を操る場合に使う代名詞。九十九によってはこの代名詞を使わないこともある。無生物にも使う。こういう代名詞がある言語は地球ではアルカだけではないか。言語的にはアルティア人が持ち込んだものである。 ɟɔlɑeμs に伴いクミールがユルトをあやしながらリディアの家で相談しながら作ったもの。アルティア語の代名詞そのものとは異なるので混同しないように。特に nɪnɪ など。

ˈlɔʃɔlɪbe ［化学］一級イミン 1L

ˈlɔʃɔˈlɔ,ɪlʃ jɪdμe

ˈlɔʃɔˈlɔbe ［化学］一級アルジミン 1L

ˈlɔʃɔbezɪl ［化学］一級アミン 1L

ˈlɔʃe ［名詞］画一性 ［形容詞］画一的な ［反意語］ɑcʃe ［レベル］3 ʃʃ0:ˈlɔ/ʃeeze

ˈlɔˈl ［形容詞］同じの、同じ ［純詞］［感動詞］こちらこそ、同様に、同じく、右に同じ、右へ倣え、ライクワイズ ［格詞］～と同じく、～と同じで ［文末純詞］～ですね？ 確認を求める。 ［接続詞］「 と 」は同じくらい～だ。 ［数学］合同 ［音楽］シーミレ ［反意語］ˈlɔɔʃ ［レベル］1 jeμʃ 1ʃʔ ←古 : ˈlɔˈlɔ。純詞用法は「私の考えと同じか？」という意味から来る。 ˈlɔ, ˈlɔˈlɔ, chɔ（文末純詞）: ˈlɔ, ˈlɔˈlɔ, chɔ:ˈlɔˈlɔ:hɪɪ,ɪlʃ, hɪlɪhɪlə,ɪlʃ ［語法］ ˈlɔˈl ɪ ʃɔʃɔ は「～と同じ」という意味である。ʃə eʃ ˈlɔˈl ɪ le（これはあれと同じだ）。よく間違えやすいのが、ʃə eʃ ɟɪlɪ ˈlɔˈl ɪ le のような文である。この ɪ は ˈlɔˈl ではなく eʃ にかかるので、「これはあれに同じ光景だ」となり、通じない。ʃə eʃ ɟɪlɪ ˈlɔˈl ɪlen le だと ɪlen は ɟɪlɪ ˈlɔˈl にかかるので、「これはあれへの同じ光景だ」になり、通じない。ʃeʃ nɔɔ cnɪʃ ɟɪlɪ ˈlɔˈl ɔn lej nɔɔ jɔʃ ɟɪ ɟɪˈl（しかし私のみたものはさっきと同じ光景だった）のように、ɔn を使うのがよい。これは enˈl や ˈlɔɔʃ も同様。 ［成句］ cɒ ˈlɔˈl 同時に ［用例］ ʃc ɟccnɪ ɒccˈl ˈlɔˈl8 君はリンゴが好きだよね？ ɪn ˈlɔˈl ʃc eʃ ˈlɪc. 私は君くらい大きい。

ˈlɔˈl(J) ［擬音］カツカツ、コツコツ、カッカッ ［レベル］2 J0:ˈlɪlce

ˈlɔˈlʃ ［動詞］ɥel を ɪ（場所など）に伴う、伴う、ともなう、連れ立つ ［レベル］3 J0: 古 ˈlɔˈlˈlɔ/ˈleʃʃɪ（共に行く）

ˈlɔˈlʃlcʃɔu ［物理］等速度運動 ［レベル］4 1L

ˈlɔˈlʃɪb ［普通動名詞］照合、同一照合、アイデンティフィケーション ［動詞］ɥel が lel{i} と同一かどうか照合する、照合する ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelʃ ［語法］ ɑɪzʃɪb

ˈlɔˈlɪ ［名詞］バランス ［動詞］ɥel のバランスを取る、調整する ［形容詞］バランスの取れた、天秤の釣り合った ［化学］無極性の ［レベル］3 1L:ˈlɔˈlˈlɔ:1ʃ: 制 :ˈlɔˈlɪ ［用例］ ʃcl ˈlɔˈlɪ ɔn ɒcɪn パワーバランスが取れている

ˈlɔˈlɪ ˈlˈlˈlɔ ［名詞］どっちもどっち、どっちも同じ、同じようなもんだ、どちらも同じ、どっちでもいいだろ、五十歩百歩、目くそ鼻くそを笑う、どんぐりのせいくらべ ［レベル］3 古 :zɪnɪ: シーソーとカッコウの音形が似ていて混同されがちだったが、それを指摘されたときに「 どちらも似たようなものだ 」という意味で引き合いに出してザナが言い出したのが由来。

ˈlɔˈlˈlɪn ［名詞］シーソー ［レベル］2 古 :ˈlɔˈlˈlɪ ←ˈlɔˈlˈlɪn

ˈlɔˈlˈlɪlcɪɟ ［化学］無極性分子 ［レベル］5 1L

ˈlɔˈlc ［名詞］ヤジロベー ［名詞］やじろべえ形のもの ［レベル］3 1L: リディアの書 :ˈlɔˈlˈlɪ ［成句］「 ɔ ˈ l ɪ ˈlɔˈlˈlc. 「 と 」の関係が薄氷の上にある：ヤジロベーの両端に乗っかっていて、どっちかが変なことをすると落ちることから。

ɔɔllɔ ［格詞］［ɥenʔe］ɔʃ、ɔɔn ［レベル］1　ɑ;e　赤　ɔɔllɔ:ɔɔllɔ ［語法］ ɔʃ と ɔɔn の両方を意味する。区別する場合は女性も ɔʃ, ɔɔn を使う。

ɔɔllɔ(ɟ) ［幼児］［言語］ことば、言語、言葉 ［レベル］2　ɟ0: 子供（ルシア）がよく出す「こっこ」という謎の喉音から

ɔɔllɔl ［形容詞］誰かを伴った、孤独でない ［反意語］ɥecnɔ ［レベル］3　ɟl:ɔɔllɔ/ɪl

ɔɔllɔlɥəɔ ［言語］他動詞 ［反意語］ɥecnɔɥəɔ ［レベル］5　ɟl

ɔɔllɔen ［ɥenʔe］［接続詞］ɔɔllɔ。～を伴って。～を使って。 ［レベル］2　ɟ0

ɔɔɟɪn ［数学］等式 ［レベル］4　1L

ɔɔɟɪɑɒcɥə ［物理］等温変化 ［レベル］5　1L

ɔɔɟɪdnɥecn ［気象］等圧線 ［レベル］5　1L

ɔɔɟɪcɒ ［名詞］同じクラス、クラスメート、クラスメイト、同級生 ［類義語］ɑelɒec ［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ɔɔɟɔɥcʃɥecn ［地学］等高線 ［レベル］4　1L

ɔɔɟeɒɟ ［名詞］同じ部活やサークルの仲間 ［レベル］4　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

ɔɔɟn ［形容詞］外向的な、積極的な、外交的な ［反意語］ʃcʃc ［レベル］3　1ɟl: 制 :ɔeɔn:1ɟl: 制 : 古 :ɔellɔ nɪ（内向的 (来る心 ））

ɔɔɟncɑ ［名詞］同級生、級友 ［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ɔɔɟneɪl ［言語］ポジティブフェイス、ポジティブ・フェイス ［反意語］ʃcʃceɪl ɪl;「積極的面子」 ɟʔ ［語法］ eɪl

ɔɔɟueʃ ［言語］同義語 ［レベル］3　1L

ɔɔɟɑɔ ［言語］同音異義語 ［レベル］4　1L

ɔɔɟɒɥəʃ ［名詞］等間隔 ［レベル］4　1L:ɥɔɑcɪ:ɪɒɪlelʃ

ɔɔɟɒɪcɪnɒcɥə ［物理］等積変化 ［レベル］5　1L

ɔɔɟɒɔɒ ［言語］同根 ［レベル］6　ɟl0 ［用例］ ɔɔɟɒɔɒ ɔn ɟɪc ɟɪc と同根

ɔɔɟhɪɟɟ ［言語］同字異語、同字異義語、同綴異義語 ［レベル］4　1L

ɔɔɟhcɒ ［生物］［形容詞］同性 ［反意語］ɔɔɔʃhcɒ ［レベル］3　ɟɑ;/　ɟʔ

ɔɔɟɪcʃ ［化学］同素体 ［レベル］5　1L

ɔɔɟɒnɒcɥə ［物理］等圧変化 ［レベル］5　1L

ɔɔɟocʃ ［医療］同性愛、ホモ、ホモセクシャル、レズ、ゲイ ［類義語］ʃeɟʃ, ʃeɟʃeel ［反意語］ɔɔɔʃocʃ ［レベル］4　ɟɑ;ɔɔhcɒ/ocʃ　ɟʔ

ɔɔɪ ［料理］スライスパン ［レベル］3　1ɟ: 制 :ɔɔɔlcldɔɑ（一切れのパン）

ɔɔɪ,ɪlʃ　ɪʃə　ɔɔ/ɪ

ɔɔɪdɪ ［数学］等号 ［レベル］4　1L

ɔɔɪb ［被服］共布 ［レベル］2　ɟɑ;/　ɟl

ɔɔɪsɪɟɟ ［数学］等比数列 ［レベル］5　1L

ɔɔɪsɪbɔc ［地学］モルワイデ図法 ［レベル］5　ɟl0: 面積比の等しい楕球状の地図

ɔɔɪcɒ ［名詞］同時 ［文頭純詞］同時に ［レベル］2　ɟl

ɔɔɪclɒ ［名詞］唯一のチャンス ［名詞］シングルイリミネーション、シングルエリミネーション ［レベル］5　ɟɑ;/ | ɟɑ;ɔɔɪclɒɪlɟeucʃɪ から　ɟl

ɔɔɪɔ ［動物］鳩 ［レベル］2　1ɟ: 制 : 古 :ɔɔllɔɔ（泣き声のオノマトペ）　::lɪ ueɟcɪl ［文化］ まぬけで群れるという象徴。平和という意味はない。　鳩は暗い所で大人しくなる習性があるため、手品師に好んで使われる。　鳥のプロトタイプ。 ［成句］ elɑ. ɥən ɔɔɪɔ 鳩のように逃げる：蜘蛛の子を散らすように逃げる

ɔɔɪɔ,ɑ　ɔɔɪ　ɪe/ɪɔ

ɔɔɪɔ,lɪʃ　ɔɔn, ɔʃ　ɔɔllɔ.l

ɔɔɪɔ.ɪlʃ　ez

ɔɔɪɔʃ ［魔法］虚引力 ［反意語］ʃʃʃl ［レベル］6　ɪɟɑ;ɔ/ɔ　ɟl

ɔɔɪɔn ［言語］駄洒落、ダジャレ、シャレ、オヤジギャグ、掛詞 ［レベル］3　古 :ɔɔɪɔn ← ɔɔɪɔ（同じ） ［語法］［文化］ 音の同じか類似した語句を利用して二重の意味を持たせる表現技法。一つの語句に複数の意味を持たせる場合と、複数の同音・類音の語句を並べる方法とがある。　日本語は同音異義語の多い言語なので容易に ɔɔɪɔn ができるため、どちらかというとオヤジギャグとして小ばかにされがち。アルカではあまり ɔɔɪɔn が作れないため、粋な表現技法として良く見られがち。

ɔɔɪɔɪ,llʃ ［名詞］ɟeleɟʃ, ɪuelɪnʃ ［名詞］死神、凪風風死神 ［アクセント］ɔɔɪɔɪə̀ ɟl ［文化］ 凪風の死神。着物を着ており、ボートの櫂のような木の枝に乗って飛ぶ。乗り方は地球の西洋の魔女のようなまたがって乗るタイプでなく横乗り。横に進むため、首を右か左に曲げて進行方向を見る。

ɔɔɪɔcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］はと座　ɟl ［文化］ cɑɪ

ɔɔɪen ［接続詞］ɔɔɪ。～と同じの。 ［レベル］3　ɟl

ɔɔɪen(ɟ) ［名詞］同一人物、同一物 ［レベル］3　ɟɑ;/　ɟl

ɔɔɪenɑc ［数学］等差 ［レベル］5　1L

ɔɔɪenɑcɟɟ ［数学］等差数列 ［レベル］5　1L

ɔɔɪeɒ ［言語］同化、アシミレーション ［数学］通分← ɑɔɟllɔɪeɒ ［レベル］3　1L

ɔɔɪeɒɑɟ ［名詞］カウンターイルミネーション　ɪl;/「同化光」 ɟl ［語法］ 海の底から水面方向に見上げたときに、浅い場所の深海魚が太陽の光を背にして自分の影を目立たせないように、自分の腹側を発光させて光にとけ込むようにして、自分より下の水位にいる捕食者に狙われにくくするための深海魚の防御方法のこと。

ɔɔɪeɟc ［親族］同胞、同じ親から生まれた雛、兄弟、仲間、同志、一族、親類、民族、はらから ［レベル］3　1L:clɒeɟ;ɥcɑcɪ: 同じ血の

ɔɔɪe ［地学］沼、池 ［名詞］スランプ ［レベル］2　Δ:ɑəlɒccɪ『すなおな気持ちになれる風』 :::lə elɑe（アルドゥ） ［語法］ 沼は湖の小さいものだが、アルカでは沼は池に近い。アルカの沼は池よりも広い。また、しばしば浅い。 ［用例］ ɪn lɪ ʃəɟ ɔɔɪe e lecɟ. 絵がスランプだ。

ɔɔɪeɪ ［地学］沼地 ［レベル］3　1ɟ: 制 : 沼の場所

ɔɔɪeɟɪl ［名詞］井の中の蛙 ［レベル］3　1L: 池のリーダー

ɔɔɪeuɪnɪ ［名詞］［形容詞］井の中の蛙の自信、勘違いした自信、実のない自信、井の中の蛙大海を知らず ［類義語］uɪnɪ ［レベル］3　ɟl0: → ɔɔɪeɟɪl ［語法］ 井の中の蛙の自信のこと。実際にはまるで能力がないのに自信だけはあること。eɟcb の成句とニュアンスが異なる。 ［用例］ ɪɪ, ɪn nɪ elɑcn ɪ lɪ ɔɔɪeuɪnɪ ɟəlel(ɪlʃe あの井の中の蛙、マジでアチャーなんだけどw

ɔɔɟ ［名詞］方法、手段、やりかた、やり方、仕方、様式 ［格詞］～の方法で ［反意語］ʃel ［レベル］2　@ 1L

ɔɔɟ(ɟ) ［化学］アルデヒド ［レベル］5　1L:ɔ/ʃeɟ。ɪʃʃ 参照。ɔɔʃ にしなかったのは千と重複するため。

ɔɔʃ ［形容詞］あつらえた、テーラーメイド、誂える ［反意語］ɒɪdl ［レベル］3　ɟl0:ɔɔnɟ/ɟɪʃ

ɔɔɟlec ［名詞］マニュアル、教本 ［レベル］3　ɟl

ɔɔɟɪ,llʃ　lə　ɔ/ɟɪ

ɔɔɟen ［接続詞］ɔɔɟ ［レベル］3　ɟl

ɔɔɟeɥen ［ユマナ］［名前］コセレン　1ʔ:ɥcɑcɪ:llel: 非アルカ。ɔɔɟcn と同じような語源。 ［文化］ リディアの飼い猫。雄。猫を飼おうとしていた時期のリディアのところにちょうど良く庭先に現れたので捕獲された。

ɔɔn ［格詞］～を使って。具格、道具格。 ［名詞］道具← ɒɔllʃ ［類義語］ɒelcɪ ［反意語］ucʃ ［レベル］1　制 : 古の ɔɔllɔ（具格）から　:::ɔɔɔ,llʃ ［語法］ → e　・偶然性　ɔɔn は偶然性や無意識を意味しない。無意識だろうと偶然だろうと道具を用いた行為にはすべて ɔɔn が使われる。例えば cnɟɪʃ ɔɔn ʃecl（テレビで見かけた）のような場合、たまたまテレビで流れていたのを見かけるわけで、この場合、ɔɔn を使うことに違和感を感じる日本人ユーザーがいた。恐らくこのユーザーは ɔɔn を「～を使って」と訳していたため、違和感を感じたのだろう。日本語の「使う」は意図的な動作なのでたまたま見かけた場合は ɔɔn が不適切に感じたのだろう。だが ɔɔn に意図の有無は関係ない。道具を用いた行為ならすべて ɔɔn を取るので、「～を使って」という訳語に引きずられてはならない。 ［用例］ ɔɔl zɔɔ ɔɔn ɑcɔl のこぎりで木を切る

ɔɔn(ɟ) ［エルト］ɔɔnɔɔʃe の略称 ［組み数字］1 2/ 1 2 ［レベル］1　ɟl

ɔɔn(ʔ) ［生物］［医療］腑。陽である。　ɟzl　ɟl ［語法］［文化］ hɪn

ɔɔnʃ ［格詞］～しながら、～しつつ、～している間に、～の間に。同時格。 ［反意語］ɟceʃ ［レベル］1　1ʔ ←古 :ɔɔnʃlcl（共有する） ［語法］ ɔɔnʃ は同時性を持ち、ɔʃ は同時性を持たない。これらを否定するとそれぞれ ɟceʃ と leɑ になる。ɪlcɟ ləʃ ɟɔɪ ɔʃ ocl の場合、アリスは喋る前か後に頷いたことになる。ɪlcɟ ləʃ ɟɔɪ ɔɔnʃ ocl の場合、アリスは喋りながら頷いたことになる。頷いた回数はどちらも不明だが、後者はたいてい複数回と取られることが多い。　なお、ɔʃ や leɑ は必ず同時性がないかというとそうではない。行為が後ろに来ない限りは同時性を持つ。例えば ɪlcɟ ocl ɔʃ leɑ lcu の場合、lcu は行為名詞ではないので同時性を持ち、通常「声を出さずに頷いた」と解釈される。なお、この例文では ɔʃ の代わりに ɔɔnʃ を使うことができない。ɔɔnʃ が使えない場合の ɔʃ は同時性を持ちうるという理解でもよい。ɔɔnʃ と置き換えられるときは、同時性がある場合に ɔɔnʃ を使い、そうでないときに ɔʃ を使う。 ［用例］ lɪ nɪl ɪʃ ɔɔnʃ enɪ. 彼女は泣きながら笑った。

ɔɔnʃɔn ［言語］節字、ハーディアン文字、アルティア文字、ロロス文字、コントン ［レベル］5　ɟl ［文化］ hɪnʃ、lcɒ

ɔɔnʃe ［名詞］ウチ、身内 ［反意語］ʃɪnʃe ［レベル］2　ɟl: 古 ɔɔ（ウチ）/ʃeʃɔnɪ（関係） ɔɔ: ［文化］ アルバザードのウチソト観について。　日本人はウチソトを日本文化の特徴と思いがちだが、ウチソトは外国にも見られる傾向である。　ただ、ウチソトがあればその価値観は日本と同じかというのもまた誤解である。　アルバザードの場合、ウチとソトを分けるが、キーワードは恥ではない。　キーワードは愛で、悪く言えば身贔屓である。　アルバザード人は身内や仲間などウチには甘く、ソトには冷たい。　これは歴史的に見てアルバザードが戦争を繰り返し周辺国家と戦い続けてきたことに由来する。　アルナが革命前からやや円形気味な都市だったのも城壁で囲んでいたためである。　城壁の外や国外や異邦人はすなわち敵で、脅威であった。地球でいうならフランスなどに似ている。　このことからアルバザード人はウチに対して甘い文化になっていった。　日本の場合ウチにはむしろ厳しく、身内の恥を出さないためには粛清も厭わないルティア的な考えである。　アルバザード人は身内を他人の前で褒めることは控える。　しかし本人の前では褒める。また、他人の前で貶すこともない。

ɔɔnɪ ［動詞］ɥəl（内容）を ɪ（相手）に啓発する、啓発する ［普通動名詞］啓発 ［レベル］4　1ʔ: 制 :ɪ ɔɔɟɪnlə（専門家が言う） ［語法］ lə と同じ格組。

ɔɔnɪɔ,ɑ　dɔʃ　ɪɔ が内。

ɔɔɟ ［名詞］専門、専攻、専属 ［動詞］ɥəl を専門とする、専業する、専門とする、専攻する ［レベル］3　ɑu;ɔɔn は ɔɔllɔ などの具格に関与？　古 ［用例］ lə ɔɔɟ jelɑ. 彼は文学を専攻している。　lə ɔɔɟɔɥ jelɑ. 彼は一時的に（非本来的に）文学を専攻している。

ɔɔɟueʃ ［言語］術語、専門用語、業界用語、ジャーゴン ［レベル］4　ɥɑ;/　ɟʔ

ɔɔɟɪɒe ［言語］具格、道具格 ［類義語］ɔɪɟɪɒe ［レベル］4　ɟl0

ɔɔɟeʃ ［形容詞］専門的な、マニアックな ［レベル］3　ɑu;ɔɔɟ/ʃe　ɟʔ

ɔɔnucɥ ［魔法］閉式赫晄 ［レベル］6　ɟl0: 古 ɪɔ（中に、同じ）/ucɥ ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɔɔnuccɑɪ ［生物］［医療］下合穴　ɥɑ;/。腑病に用いることから。　ɟl

ɔɔnɒɪlɒ ［生物］腑。西洋医学における腑のこと。 ［レベル］5　ɥɑ;/　ɟl ［語法］［文化］ hɪn

ɔɔnl ［法律］常識、通念、倫理、規範、良識、公序良俗 ［類義語］ɪnleɒɪn ［レベル］2　古 :ɔɔnl。元は ɔɔnlɔʃ 共通の知恵、思考 」 ［文化］ 法律と同程度、ときにはそれ以上の効力を持つ不文律。 ［用例］ ʃcl ɔɔnl 常識がある

ɔɔnlcl ［化学］ラドン ［レベル］4　1Δ: 制

ɔɔnɪɟɪ ［生物］［名詞］［形容詞］一卵性 ［レベル］3　1L

ɔɔnɪɟʃ ［魔法］閉式魔法 ［レベル］5　ɟl ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɔɔnɪɟl ［生物］［医療］腑会　ɥɑ;/　ɟl

ɔɔncɒ ［名詞］［形容詞］モノカラー、単色 ［名詞］白黒、モノクロ、1 C ［レベル］4　ɥɑ;/　ɟl ［語法］ 通常単色だと墨を使うのでモノクロの意味として使う。白黒でない場合例えば白緑などの場合は「単色で色は緑」のような言い方をする。無標が黒というだけである。

ɔɔncɪ ［美容］ポニーテール ［レベル］2　1L

ɔɔncɔɟ ［経済］単式簿記 ［レベル］6　1L

ɔɔncɔɪ ［人名］コノハ　ls;llʃ　ɟl ［文化］　三人目は ɔɔncɔɪ。見た目は 1ʔ 歳程度。凪人の名を持つが、れっきとしたロゼットで、神と人の混血児だ。　コノハはロゼットにも関わらず、あるものを司って生まれてきてしまったため、天界から追放されてしまった。　人を幸せにすることに生き甲斐を感じる。けなげで純粋で天真爛漫。しかし呪われた血のせいで、親切心がいつも裏目に出てしまう。

ɔɔncɔʃe ［エルト］善心コノーテ ［名詞］1 2 時 ［名詞］北 ［交通］コノーテ通り ［音楽］シ ［組み数字］1 2/ 1 2 ［類義語］ɔɔn ［アクセント］ɔ̀ɔncɔʃe、ɔɔnɔ̀ɔʃe ［レベル］2　ɒelʃcɪ ɟl:ɔɔncɔʃe;e 古 ［文化］ アルミヴァの 1 2 番目。エルトの左足から生まれた。善心と名高い。ルフェルとダルケスの母で、カルザスの妻。クレーヴェルの妹。慈愛にあふれ、献身的で安定を望む。

ɔɔncɒ ［植物］木 ［名詞］木材、材木 ［類義語］zɔɔ ［アクセント］ɔɔncE ［レベル］3　ɥɑ;llʃ　ɟl

ɔɔnen ［接続詞］ɔɔn。～を使って。 ［レベル］2　ɟl ［語法］ e

ɔɔnez ［名詞］資料室、用具室 ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ɔɔnel ［形容詞］言葉に表わされた、感情などを口に出す ［反意語］ɑenl ［レベル］3　ɟl0:ɔɔn elɑ（言葉を使った）

ɔɔu ［名詞］箱、ケース、漠然と道具箱、何かを収納するカセットテープのカセットのような殻、釣り道具入れ、牛乳パックのような容器 ［メタファー］箱詰めされてしまわれて大事にされた物や人。箱入り娘などの箱と同じ。 ［メタファー］世間知らず ［交通］車両、車体← dɪlɪɔ ［電算］ドライブ ［類義語］ɔɔɑel ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ɔɔue（箱）（中（ɪɔ）が暗い（ue））　ɔɔue:ɔɔue ［語法］ 代表的な収納容器。様々なメタファーに使われる。ʃeɒl との違い。ɔɔu は収納目的が強く、ʃeɒl は貯蔵目的が強い。また、ɔɔu は大事に手元に収納しておこうとするので箱入りという意味にもなる。 ［用例］ ʃə eʃ ucl ɒeɥ lel ɪn ɑlɔl le ɔɔu ɑɪɑ. 私があんな重い箱を運ぶなんて不可能だ。

ɔɔuleɟ ［音楽］アップライト、アップライトピアノ ［レベル］6　ɟl

ɔɔuɪ ［医療］カプセル ［レベル］2　1ʔ: 制 :ɔɔu

ɔɔuɟ ［運動］サバイバルゲーム ［レベル］4　ɟl0:ɪɥɔ/uɪɟ ［文化］ 団体競技の中で最も人気のあるスポーツ。おもちゃの銃を使った日本と同じタイプのゲームもあるが、銃撃戦は歴史上あまり出てこなかったため、そこまでメジャーではない。最も人気のあるのは戦場を模した白兵戦で、剣や槍を持って戦うという内容。弓兵もいる。武器や防具は安全設計になっており、一定の箇所に一定のダメージを与えられると死亡とみなし、倒した陣営にポイントが加算される。倒した敵の階級により、ポイントは異なる。女子も参加でき、授業で習った薙刀などをここぞとばかりに振るう。

ɔɔuɪld ［名詞］小包郵便物、小包 ［レベル］3　1ʔ: 制

ɔɔuɪenɪn ［魔法］単蓄体 ［レベル］6　ɟl ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɔɔuc ［名詞］ブロック ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɔɔu

ɔɔucʃ ［遊離副詞］［形容詞］たまに、偶に、あまりない ［レベル］1　ɟl0:ɔɔ/uc/ʃe（3 つに 1 つくらいの）→ ɔɔucʃ。言葉遊びから来ている。頻度を 9 段階で示すと、1 段階あたりの見込みは訳 1 1 %（1 0 回に 1 回ほどの頻度）となる。ɔɔucʃ は下から 3 番目だから約 3 3 %を示す。 3 3 %は確率に直すと 3 分の 1 で、3 つに 1 つであるから、ɔɔucʃ とした。 ［語法］ ɪləəʃ

ɔɔuɔ ［数学］直方体 ［レベル］3　1ɟl: 制 : 古 :ɔɔue(箱)

ɔɔuɔlcɟɪ ［化学］角砂糖 ［レベル］3　1L

ɔɔue ［建築］押入れ、物入れ、クロゼット、クローゼット ［レベル］2　1ʔ: 制　参考 : 古 :ɔɔue（箱）

ɔɔue,ɑu　ɔɔu 「中が暗い」

ɔɔuej ［名詞］一人きり、一人ぼっち、ひとりぼっち、ぼっち ［形容詞］一人きりの、一人ぼっちな、ひとりぼっちな ［レベル］3　ɥɑ;/　ɟl

ɔɔuejɔ ［言語］単母音 ［レベル］6　1L

ɔɔuen ［名詞］鉈、ナタ ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɔɒccɥ:ɔɥn:ɔuen ［用例］ leeu, nɔn ɪlɔ ɑɪn ɔɔllɔ ʃɥə, ɔɔuenɒɪnɪ. 遊んであげるわ、おいで、鉈女。（『ひぐらしのなく頃に』）

ɔɔuep ［魔法］魔封石 ［レベル］5　ɟl:ɔɔue/ɥen「箱の宝石」 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɔɔuel ［名詞］闇 ［類義語］uel ［レベル］3　ɥɑ　ɟl:ɪllɔɔuel と同根。ɥɑ なので ɪllɔɔuel より古いことになる。

ɔɔɑʃ　［動詞］ɥəl を c から引き出す、ɥəl を c から返してもらう、ɥəl（預けた子供など）を c のところまで迎えにいく、引き出す、迎えに行く　［反意語］ʃɔɑl　［レベル］3　ɹʌ0: 古 ɔɔ（こちら側へ）/ 古 ɑəʃɔ（取る）　［用例］ɔɔɑʃ φcl ɪı ɪlen 銀行で金を下ろす

ɔɔɑle　［建築］面積の狭い薄い板　［芸術］タブレット、ペンタブレット、ペンタブ　［電算］タブレット、スレート　［レベル］3　ɟɒ;ɪɔddel.ɪ「小さい箱」。その後薄い板になり、現在ではタブレットに。

ɔɔɑı　［医療］流行性感冒、流感、インフルエンザ　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɟɹɑ:eɔɔeɑı（伝染する風邪）

ɔɔɑɔɒ　［音楽］二分音符　［レベル］5　1L　［文化］　→ ɑɔɒ

ɔɔɑel　［名詞］小さい箱、小さな箱、小箱、宝石入れ、貴金属入れ　［名詞］単位。大学の授業の単位。ひとつの授業の単位を小さな箱になぞらえたもの。　［電算］変数。値や数値を入れる小箱と捉えられたため。　［レベル］3　ɹɹ:ɔddel と同根　［語法］　変数 :ɔɑel　配列 :ɔɔd　配列の要素（添字）: ɑɪlɒ　ハッシュ : ɑelɪı　ハッシュのキー : ɟɪcɒ　変数、配列、ハッシュ等の値 : ɟɪɑl　［用例］　eu 1 ɑel ɟɪɑl ɪ ʃ ɑel ɔɑel 1 という要素を ʃ という変数に入れる　zed ɪl ɔɑel ɟɪɒel lɪnɪ lɪɑ ɑelɟɪnɔ e ɑlɔɒ ɪej. 来セメスターの時間割を組むために、単位を計算しなおすべき。

ɔɔɒ　［動物］子犬　［レベル］2　1L:ɒelcɑcı ɪlʃe:ɪɔɔɒı

ɔɔɒʃ　［生物］クローン、複製人間　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɔɔ（同じ）

ɔɔɒuɪɟn　［ネガティブ］［名詞］(ʃcl) 無謀な、蛮勇の　［類義語］uɪɟn　［レベル］3　ɹʌ0: 子犬の勇気。敵から見て子犬がキャンキャン騒いでいるだけに見えるような。

ɔɔɒɒı,ɑ　ɥel　elʃ;ɔ/ɒɪcn

ɔɔɒɒe,ɑ　ɪɪɪɑ　ɟɪɪl;ɔɔɒɒı.ɪ

ɔɔɒb　［名詞］トロッコ　［レベル］3　1ʌʌ: 制 :ɔɔu（箱）

ɔɔɒɥəɔ　［魔法］［化学］単離　［レベル］6　ɹʃ　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɔɔɒı　［数学］比例、正比例　［動詞］ɥəl を ı に比例させる、比例する　［副詞］比例して　［レベル］4　古 :ɔɔɒı ないし ɔɔɒı（比例）。ɔɔɔɒı が本来的だが、犬のコーマと間違えるので ɔɔɒı が多かった。ɔʃlɔ と ɪıɒı からきている。つまり「共に増える」の意。

ɔɔɒıφef　［音楽］シングルリード、単簧　ɹʃ

ɔɔɒcj　［動詞］ɥəl を跪かせる、膝まづかせる、膝まづく、跪かせる、跪く、ひざまずく、ひざまづく　［レベル］3　ɹʌ0:ɒelcɑcı lcɥ:ɔlɒcʌl（片方のひざ）　［語法］　片膝で座ること。すなわち跪く。忠誠を誓うしぐさ。同時に、男性が女性に対し、自分が相手を守るとの意思を伝える際の動作。この後、右手を心臓の前に当てがい、これをもって忠誠を誓う約束の動作とする。

ɔɔɒcnʃcʃɔɪɒcɒ　［法律］一夫一妻、一夫一婦、一夫一妻制、一夫一婦制　［レベル］4　μɑ;/　ɹʌʌ　［文化］　アルバザードでは神代においては女性は魔導師としての地位が高く、男尊女卑の傾向はなかった。このころは一夫一婦制が一般的であった。しかし有力なものが複数の妻や夫と結婚することはあった。ɟɒ になり魔力の衰退とともに貴族社会が発達して女性が家の奥に閉じ込められると、有力な男性が複数の女性を妻とすることがあり、一夫多妻制になったが、それは一部の話であった。なお、ɟɒ では通常一妻多夫制は社会通念上はしたないとして見られなかった。この傾向は μʃ まで続いたが、ul になるにつれて男女平等の名の下に一夫一婦制が明文化され、ls に至る。

ɔɔɒcnʃcuɔɪɟɪɒcμ　［法律］一妻多夫、一妻多夫制　［レベル］4　μɑ;/　ɹʌʌ　［文化］　ɔɔɒcnʃcʃɔɪɒcμ

ɔɔɒɔ　［文頭純疑詞］なぜか、なんとなく、何故か、何となく、なんのけなしに、何の気なしに、なぜだか、何でかしらないが、何故か分からないが、不思議なことに　［レベル］2　ɑ;e　古 :ɔɔɒɔ。元は「何故」を意味する疑問詞だったが、「何故」が cɔ に代わったため、「なんとなく」の意義を持つようになった。

ɔɔɒɔ,ɑ　ej　elʃ:「どこへ向かう形→どのような理由」

ɔɔɒɔʃ　［音楽］二分休符　［レベル］4　1L　［文化］　→ ɑɔɒ

ɔɔɒef　［単位］マイナス２８乗　ɹʃ:ɪıɒʃ/ʃe

ɔɔɒef,ɪɟɪ　ɪɪɪɑ　ɔɔɒɒı/ʃe

ɔɔɒeɒ　［数学］単位円　［レベル］5　ɹʌ0: 半径 1 の円

ɔɔɒelʃ ɟɪɑφecn　［人名］コメルト＝サフレイン　［レベル］6　古　［文化］　リーザの教師。リーザをナルシェに引き合わせた。

ɔɔɒelc,ɪlʃ　ɟɔı、このような、こういう　ɔ/ɒelc

ɔɔφ　［名詞］錫、スズ　［レベル］4　ɒelʃcı L:φclcəɟ;ɔʃlʃɔ/φc　古 :μɥəə:ɔʃlʃɔφc から。ɔʃlʃɔ（ともに）、φc（金属）で、「くっついていく金属」の意。ほかの金属との合金に使われたことから。制では 4 対の中に消え去った。

ɔɔφɑɔl　［地学］スズ石　1L

ɔɔφlcl　［化学］錫→ ɔɔφ　［レベル］4　1L

ɔɔd　［名詞］合体、統合、一致団結、融合、ユナイト、ユニオン、包括、包括的、統一、総合、結合、併合、和合　［経済］合計、総計、トータル　［名詞］トリニティ、三位一体　［名詞］合計金額→ ɔɔdφɪμ　［数学］数学のシグマ　［動詞］ɥəl を ı に合体させる、合体させる、合体する　［形容詞］統一された、画一的な、包括的な、全般的な、合併された　［化学］合成　［経済］合併　［音楽］タイ　［反意語］ɑɔnɟ　［レベル］2　μɑ;ɑφn　1ʔ: 制 : 語源不詳　［用例］　ɪıɒl ɔɔd 統一的なデザイン

ɔɔdɟ　［数学］積分　［レベル］5　nɑ;ɔɔd.l　1ʌ: 制 :ɔɔd

ɔɔdn　［運動］ヨガ、ヨーガ　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɟɪɑ:ɔɔdcdnɑı（精神を）統一する座り　［文化］　ルヴァンの一種。座って瞑想するのではなく、色々なポーズをとりながら呼吸をすること。

ɔɔduef　［言語］合成語。複合語と派生語を含める　［レベル］5　1ʌʌ: 制 : 合成の語　［語法］　ɪnʃleſ

ɔɔdɑuɪı　［名詞］合併号　［レベル］3　μɑ;ɔɔd/ɑuɪı「合わさった号」　ɹʔ

ɔɔdφen　［化学］合成樹脂　［レベル］5　1L

ɔɔdde　［単位］斤、一斤。アルバザードのものは地球より少し少ない。　［名詞］一斤の食パン　［レベル］3　ɹɹ:ɔddel　［成句］　1 ɔɔdde ʃıſ 1 jel　一日一斤のパンで人は生きる：起きて半畳寝て一畳

ɔɔddel　［名詞］柩、棺、ひつぎ、棺桶、棺おけ　［電算］函数、関数。複数のステートメントが入っている箱のように見えることから。ɔɔael や ɔɔu は別の意味で使われるため、ɔɔael より大きな箱として採用された。　［類義語］ɔɔμʃlɔɔ　［レベル］3　ɟɟɑ;ɔɔue（箱。「中が暗い」。音象徴の複合語）>ɔɔuel（ɔɔue/ɪl（物））>ɔɔddel.l　ɹʌ0: 古レスティル語で「暗い箱」　ɪıɪɔɔue:ɔɔddel:ɩə ɔɔddel:ɥəlcɩcɟ,cn

ɔɔddel(ɹʌ)　［人名］コッペル　［レベル］6　ɹʌ0　［文化］　(ɥəəɒı ʔLʜʕ:ʊʊʊʌ) アルヴェーテの教祖リデルの参謀。

ɔɔddel(?)　［人名］コッペル　ɔμ　ɹɹ　［文化］　サプリ村の住人。パン屋の経営者。大柄で気の優しい中年男性。顎髭と頬髭あり。

ɔɔddelcı　［論理］産婆法、コッペリア　［レベル］5　ɹʌ0:ɔɔddel/ 古リュディア語 lcı(→ lcı)　［文化］　相手に自分の考えを引き出させる誘導するような語り口のこと。アルバザード人は知的かつ融和的なやり方として非常に好む。アズゲルでコッペルが主君 lcɑel に対して行ったことから。

ɔɔdhɔd　［化学］合成ゴム　［レベル］5　1L

ɔɔdɥəuel　［運動］［ユマナ］合気道　［レベル］5　ɹʌ0: 相手とぶつかりあうよりも相手の呼吸や動きに合わせ、和合するように動くことから。

ɔɔdzɔɒ　［植物］接木、接ぎ木　［レベル］5　1ʌ: 制

ɔɔdlcɒl　［化学］合成繊維　［レベル］5　1L

ɔɔdlcıɟ　［化学］合成高分子　［レベル］5　1L

ɔɔdleſ　［音楽］コード　［レベル］5　ɹɹ:ɔɔd/ʃəl/ʃe　［文化］　ソームを使って表す。例えば F なら ʃeeue。音階と区別するよう単に頭文字を取って ʃ とするか幼字を使って表す。

ɔɔdıdıl　［アトラスの国家］コパバル　［レベル］5　1L:μcɑcı:「太陽の方」

ɔɔdef　［名詞］詰め合わせ、つめあわせ、詰めあわせ、詰合せ、詰合わせ、アソート　［レベル］3　ɹɹ:ɔɔd/ʃe

ɔɔbl　［物理］三次元、３次元、３Ｄ、立体、立体という意味でのステレオ、ステレオ、立方　［俗語］三次元、三次、惨事。現実の人間や現実世界そのものを指すスラング。　［形容詞］三次元の、立体の　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɪıbl　古 :ɪıbl（３次元）、ɪıɪbə（世界）　［用例］　ɔɔbl ef beɔ ɑıdʃ ɑɔʃl ef ɪʃlɪɪɪʃ 惨事はクソだ。虹最強伝説！　ɒclɑ ɔɔbl le lı ıſə lɪnel ɥən 本当にそこに存在するかのような３Ｄアート

ɔɔblncʃɒelɑc　［数学］［気象］立方ミリメルフィ。降水量などに使う。　［レベル］3　1L:μcɑcı:ɪμbɪlelʃ

ɔɔblɒelɑc　［数学］立方メルフィ　［レベル］3　1L:μcɑcı

ɔɔbldıɒɔ　［数学］空間図形　［レベル］4　1L

ɔɔblclʃı　［名詞］立体映像、ホログラム　［レベル］3　1L:ɒelcɑcı ɪlcɟ

ɔɔblcn　［物理］立体視　［レベル］4　ɹʃ　［語法］　平行法と交差法がある。

ɔɔbe　［化学］アルジミン　1L: アルデヒド+イミン

ɔɔbel　［アトラスの国家］コペル　［レベル］5　ɹʃ:μcɑcı

ɔɔhılə　［名詞］若、わか、王子　［類義語］ɪμɑcɟʃ、ɒclɒɟ　［アクセント］ɔɔhıl∃　［レベル］3　ɟɒ;<,ɪlʃ</「小さな宝物」　ɹʌʌ　［語法］　→ ɪdʃ, ejʃ　○名　×姓　×前置　×後置　○男　○単体使用 / 名詞用法　敬称の一種であるが、名前とともには使えない。ɔɔhıl∃ jɒɟen というような使い方はできない。　［文化］　アルティアやロロスで王の息子を呼んだ言葉。ɟɒ では凪の王子を指したが、ɟɒ のうちに王子一般を指すようになった。　ɟɒ のうちにアルティア本国で主君の息子や自分が仕える若い主を指すように意味が変化し、それがロロスに行き、その一方でカレンシア経由でアルバザードにも伝わった。　μɑ ではルビィがセレンを若と呼んで仕えた。セレンが大人になってもルビィはセレンを個人的に若と呼び続けた。

ɔɔhıɑɑφɪn　［数学］一次関数　［レベル］4　1L

ɔɔɥɔl　［名詞］使い捨て　［形容詞］使い捨ての、ディスポーザブル　1ʔ: 制 :1 回使用

ɔɔɥɔlc(J)　［人名］こより　［アクセント］ɔɔɥɔl∈　ɹɹ:ɔɔɥɔlc　［文化］『ねこの郵便屋さん』の主人公。

ɔɔɥɔlc,ɪlʃ　ɪμʃen「ɪɒɪφɪílɪc　ɔɔɥɔlə,ɪlʃ

ɔɔɥɔlə,ɪlʃ　ɩə ɪμʃen　<>ɩə/ɥɔl

ɔɔɥə　［電算］半角　［反意語］ʃɪɥə　［レベル］3　ɹʌ0:ɔɔɥəɪʃ

ɔɔɥəlcɪn　［名詞］一人っ子、ひとりっこ　［レベル］3　1L

ɔɔɥəlcɪnɪμəı　［政治］一人っ子政策　［レベル］3　1L　［文化］　ヴェレイのメテで行われたが、失敗に終わった。

ɔɔɥəlcʃɟ　［電算］無変換キー　［レベル］4　ɹʌ0

ɔɔμ　［格詞］～の方へ　［名詞］方向　［ɥənʃe］［動詞］ɩe　［動詞］ɥəl を ı へ向ける、向ける、向く　［シェルト］方向転換。歩やテームスの方向転換。　［類義語］ɪμlɔμ　［反意語］μɔʃ　［レベル］1　jeμʃ　1ʌʌ: 制 : 古 :ɩeμı（方向）　ɩe（方向）ɩepɩ,ɑ（後置詞の）, ɩeμı, ɩeɩeμ（～のほうへ）:ɩe, ɩeμ:ɩeμ, ɩeμı ɩeɩeμ（～のほうへ）　［成句］　ɪı ɔɔμ ɑcl ı ɑcı ɔ ɒel ɑcnɑel. 彼は夢と時間に同時に安全には向き合えない：虻蜂取らず、二兎を追う者は一兎をも得ず。実際には言葉遊びになっていて、ɪı はセレンで、ɑcı と ɒel が何を意味するかは言うまでもないだろう。向き合えはするが安全は保障されないというわけで。　ʃcal ɔɔμ 前後不覚　［用例］　eelcl ɔɔμ lc 後ろを振り返った　ɔɔμ dıɪl ı hcl パールを方向転換して横駒にする

ɔɔμʃ　［動詞］ɥəl に耳を傾ける、耳を傾ける、聞く　［類義語］ʃeμ　［レベル］2　1L:ɔɔμ ʃeɒ。類音は ɔɔcʃ, ɔɔlʃ だが、明らかに文脈が異なるので問題ない。

ɔɔμʃe　［動詞］ɥəl を ı（場所）に干す、干す、ほす　［レベル］2　1L:ɔɔμ ʃeeze（風に）

ɔɔμl　［動詞］ɥəl の量を減らす、減らす、減る、削減する　［普通動名詞］減少、減量、削減　［反意語］ɒecɑ　［レベル］2　1L:ɔɔμ ɩlɔ（少ないほうへ）　［用例］　uıIJ ɩəʃ ın ɔɔμl ıl uelɑ. 医者に酒量を減らすように言われた。

ɔɔμlcɒ　［生物］伸展　μɑ;/「～のほうへ（去るほうへ）曲げる」　ɹʌʌ

ɔɔμlɔμl　［生物］外返し、外反し、外がえし、外反　μɑ;/　ɹʌʌ

ɔɔμl　［動詞］ɥəl をのけぞらせる、のけぞらせる、のけぞる、仰け反る、そる、反る　［反意語］ɔɔls　［レベル］2　1L:ɔɔμ ɔɔj　［用例］　ɪı nılıʃ ɔɔnʃ ɔɔμl. 彼は体をのけぞらせて笑った。

ɔɔμlɑɔ　［言語］そり舌音　［レベル］6　1L

ɔɔμj　［動詞］ɥəl を ı と共生させる、共生させる、共存する　［普通動名詞］共生、共存　［レベル］3　1L:ɔɔμ:1L:ɔɔlʃɔμı　［用例］　ɔɔμj ɩeʃ ɔnʃ ɔɔı 猫と犬を共生させる

ɔɔμɪc　［生物］回外　μɑ;/　ɹʌʌ

ɔɔμn　［魔物］コルン（羽妖精）: 第八十二天：利の炎天　［レベル］5　古 :ɔɔμn ← ɩeμn のアプラウト。セレンの絵の入った黄色いファイルでは同名のコルンという少女の名前に使われている。花言葉を魔力に変える花魔法を使うという設定だった。　［文化］　妖族。翼の生えた手のひらサイズの少女の姿をしている。人見知りが激しく、臆病で、すぐ逃げてしまう。気に入られると、魔力を回復してくれる。甜菜糖が好きなので、lcɑı を餌に釣れる。　［成句］　lccʃ ɔɔμn ɔɔn lcɑı 海老で鯛を釣る　ɔɔμn lelɑ. 飛んで火に入る夏の虫

ɔɔμnɑφenɟ　［名詞］蛇足、余計なこと　［レベル］3　ɹʌ0: 魔族コルンの羽根　［文化］　カコで、あるアルバザード人の男が高価な指輪を盗んだ。男は容疑者として咎められたが、魔族コルンの悪戯だと証言した。役人がコルンの姿を描いてみよと命じた際、男はコルンの背中に翼でなく羽根を描いた。妖精は大概羽根が生えていると思ったためである。ところが ɔɔμn という名は ɩeμn のアプラウトから来ており、学のある人間ならコルンに羽根がないことは分かる。無学な男はあわれ不必要な羽根を描いたことで捕らえられてしまった。転じて、不必要な蛇足を指す際に lecɟ ɔɔμnɑφenɟ というようになった。　［用例］　lecɟ ɔɔμnɑφenɟ 蛇足を述べる　ʃe eʃ ɔɔμnɑφenɟ. それは余計なことだ。

ɔɔμneſ　［電算］コルネット、電子秘書　ɪl　［レベル］3　ɹɹ:ɔɔμn/ʃe　［文化］　人格化されたＯＳのこと。最古はリュウの elɑcɪn。　ɪl でできた。人気キャラクターが画面内に表示され、ＯＳとして働いてくれる。電脳メガネを使えばＧＰＳと連動して携帯機でも使え、３Ｄで空中に表示することもできるので、「リアル俺の嫁」を実現できる。　音声認識もあり、声で操作できるため、秘書のような存在となる。

ɔɔμφɪ　［料理］［植物］干し柿　［卑語］玉ぶくろ、陰嚢　［レベル］2　1L:ɔɔμʃe/φɪlʃ　［文化］　アルバザードでは柿は生食より干し柿にして食べることが多い。柿は日本ほど人気でないが、干し柿は昭和の日本並みに人気がある。

ɔɔμhɔl　［生物］外旋　μɑ;/　ɹʌʌ

ɔɔμcn　［ユマナ］［名前］コリン　1ʔ: 制 : 日本語の「小」J/μcɑcı の μc/ 指小辞の n。本名コリディア。通称コリン。　［文化］　厳密にはアルカの単語ではないが、［ユマナ］なのでかまわない。セレンの飼い猫。白地に黒茶色の模様の入った雄。子猫のとき他家の庭先で捕えた。リディアに猫を共通で飼おうと言われたのがきっかけで捕獲した。ひとぎらい。

ɔɔμɔu　［生物］外転　μɑ;/「去るほうへ動く」　ɹʌʌ

ɔɔμeſ　［名詞］一方向　［形容詞］一方向の　［交通］一方通行　［化学］不可逆　［反意語］ʃɟəl　［レベル］3　ɹʌ0:ɔɔμ/hɔʃ（ひとつの方向だけ）→ ɔɔμɔʃ → ɔɔμeſ　［成句］　heʃ ɔɔμeſ 梨のつぶて

ɔɔμeſʃı　［化学］ダイオード　［化学］半導体ダイオード← ɔμdʃɔɔμeſʃı　［化学］発光ダイオード、ＬＥＤ、ＴＥψ、エルイーディー← ɑμcɟʃɔɔμeſʃı　［レベル］4　μſ;ɔɔμeſ。電流を一定方向にしか流さないことから。　［用例］　ɪn euıſ ɔɔμeſʃı lel ɑıφ ɪı μı ɒcɟɪlnel. 家の電球を TEψ に変えてみた。

ɔɔμeſɒcɥə　［物理］不可逆変化　［レベル］5　ɹʌ0

ɔɔμeſμenɟ　［名詞］モノローグ、独白、ひとり語り、一人語り、独り語り　［反意語］ʃɟəlμenɟ　［レベル］5　μɑ;/　ɹʌʌ

ɔɔμejdɔn　［企業］コレスポン　ɹʃ　［文化］　富士ソフトに相当する企業。

ɔɔμen　［接続詞］ɔɔμ　［レベル］3　ɹʃ

ɔɔμec　［化学］界面　［レベル］5　1L:jeμen:ɔɔʃl/ɑcμec　［文化］　液体や固体などの相が別の相と接している境界のこと。別の相が気体や真空の場合は特に表面 (ɥəlɔ) と呼ぶ。例えばコップに入れた水とコップの外の空気が触れる部分が表面である。

ɔɔμecɑɔʃuɔɪn　［物理］界面張力　［レベル］6　ɹʌ0

ɔɔμecɒıcʃ　［化学］界面活性剤　［レベル］5　1L:jeμen

ɔɔzl　［名詞］ロッカー、下駄箱　［レベル］2　1ʌʌ: 制 :ɔɔzlɔu（錠のついた戸棚）。鍵はついてないので ɔɔz。鍵を手に持たずにロッカーに付けてたら防犯の意味がない。

ɔɔzeſ　［名詞］鍵、キー　［動詞］ɥəl を解錠する、解錠する、開ける、鍵を開ける　［メタファー］事件や問題などを解くためのカギ　［反意語］ɩəlc　［レベル］2　ɔɔμn:ɔɔzeſʃ（鍵）　［用例］　ɪn nıʃ ɑıφɑ ɒɪn ʃcal ɔɔzeſ. 鍵をなくしてイライラした。

ɔɔzeſlɪɑ　［地球の国名］キューバ　［レベル］6　1L: 国章に鍵

ɔɔzeſueſ　［名詞］キーワード　［レベル］3　ɹʌ0:ɒelcɑcı lceμ

ɔɔzeſueɒu　［娯楽］キーモブ　ɹɹ

ɔɔzəe　［ランドマーク］フェリシア学院　［類義語］ɑelcɩcı　［レベル］6　ɟɒ; 校章による異名　ɹɹ

ɔɔzəe(J)　［言語］［文字］印刷標準京極書体、業界標準京極書体、印刷業界標準京極書体、コズエ、桜京極　［レベル］6　ɹɹ:ɔɔzəe,ɪlʃ　［文化］　セリフの京極書体。本文に用いる。

ɔɔzəe,ɪlʃ　jeμɔn　［アクセント］ɔɔzəE

ɔɔs　［被服］ミトン　［レベル］4　1ʔ: 制 :ɔɔscjıb（親指の服）　［用例］　nɔn lecnıſ ɔɔs. ミトンを手に嵌めた。

ʅɔl ［名詞］片方 ［反意語］cɔ ［レベル］2 μɑ; ↓ 1L:ʅcɔn:ʅɔ/ſəl（ひとつのもの）

ʅɔlſ ［動詞］ɣəl に帰る、帰る、還る、戻る ［普通動名詞］帰還、帰宅、下校、退社、帰港 ［動詞］［婉曲］ɟɔl は死ぬ：ヴェーユで生まれた魂があの世へ戻ることから。leeu ıſɔlıɟ よりも畏まった言い方。 ［反意語］ſeɟı ［レベル］2 1L: 制 :ʅɔɑ（出かける）［語法］ある地点に戻ることを想定した出発が ſeɟı で、その帰還が ʅɔlſ。 相手を追い返すときは ʅɔlſʅ（帰れ！）とは言わない。leeuʅ（去れ！）と言う。 ［用例］ın ʅɔlſıſ μı ɔl ɟıb euej. 濡れた服を着たまま家に帰った。 ın ʅɔl ſıſ μı ɒın ſə epcʅ uelſ uıɑel. たちまち暗くなったので家に帰った。 el ʅɔlſ lıɑ μı ıſlıſ uıμz ɔn ɔlſı ıuen. 遅くとも 8 時までには帰らなければならない。 nɔɔn ʅıdıſ ı ɒııl ɣəl nın ʅɔlſ jcl μı nɔuel. お母さんに電話して家に帰るのが遅くなると伝えた。

ʅɔlſɑμec ［名詞］因果応報、自業自得 ［レベル］3 ʃʃ:「自分に帰ってくる剣」

ʅɔlſɔuı ［アトラスの国家］コルトヴァ ［アクセント］ʅɔlſɔuʅ ［レベル］4 ʃʃ:μcɑcı

ʅɔlſe ［形容詞］高圧的な、強引な、脅迫的な、偉そうな、高慢な感じの、無理強いな、横柄な、生意気 ［反意語］ɣəl ［レベル］3 ʃʃ0:ʅɔlɒın ſeeze（支配者風の）。ɑıll や ɑılɟ と似ているため、離した 参考 :ɑıll:ʅſ: 制 :ɑıll。 ［成句］lccz jeμen ʅɔlſe hınl ıμʅı 生意気な小僧がアルカを広めた：僧まれっ子世に憚る

ʅɔlle ［名詞］パーティ、一座、一同、仲間たち ［レベル］3 ʃʃ:ʅɔlı/ıle ［用例］lıɑ ʅɔlle パーティを組む、編成する

ʅɔljeſ ［格詞］～のおかげで、おかげさまで ［類義語］ɒın ［反意語］ɒclφııl ［レベル］2 ʃ0:dcnenı:l ɔnſ jenſ ～（～を感謝して）が短くなって機能語になったもの。l が入っているのは語気の整えとのこと。 ［用例］ın μıllcʅ ʅɔljeſ ſccj cl. 皆さんのおかげで成功しました。

ʅɔljeſen ［接続詞］ʅɔljeſ ［レベル］3 ʃʃ

ʅɔln ［釣り］リール ［レベル］4 ʃʅ: 制 :ʅɔɔl

ʅɔla ［論理］帰納 ［動詞］ɣəl（帰納結果）を c から帰納する、帰納する ［反意語］hııl ［レベル］5 1L:ʅɔlſ/ɑμɔɔ ［文化］lınſıhııl

ʅɔlalcu ［言語］擬声 ［レベル］4 ʃʃ ［語法］ɑɔuel

ʅɔlaμeſ ［言語］帰納音 ［レベル］4 ʃʃ: 直訳は帰納語 ［語法］ɑɔuel

ʅɔladcıl ［言語］擬音 ［レベル］4 ʃʃ: 帰納音が ʅɔladcıl だとこれが dcıldcıl になってしまうので ʅɔlaμeſ だった。 ［語法］ɑɔuel

ʅɔlaμec ［アイテム］片手剣 μɑ;/ ʃʃʃ

ʅɔlɒ ［政治］支配する、統治する、治める ［普通動名詞］支配、統治 ［レベル］3 ʃʃʅ: 制 : 恣意

ʅɔlɒφıleno ［医療］支配欲 ［レベル］4 ul;/ ʃʃ

ʅɔlɒlınφ ［政治］統治権 ［レベル］4 1L

ʅɔlɒɔzɔɒ ［医療］片手挿管法。鍼の。 μɑ;/ ʃʃʃ

ʅɔlɣəlɒ ［被服］モノクル、片眼鏡 nɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ 彫りの浅い凪人は着用できず、地球の白人よりも彫りの浅いトール人にも難しく、一部の彫りの深い人が身に付けた。地球と違って上流階級の装飾品というイメージはない。なぜか医者の間で普及したため、医者のイメージを持たれている。

ʅɔls ［動詞］ɣəl をかがませる、かがませる、屈ませる、屈む、かがむ、前かがみになる、前屈する、腹の方に身を屈める、身を縮める ［類義語］ɣjd ［反意語］ʅɔμl ← ɑɔɔ。音がよく似ていて聞き分けづらい。 ［レベル］3 1L:ʅɔμ ſɔɒ で ʅɔμſ だったが、ʅɔμſ では ʅɔμl と似すぎるため、変えた。ʅɔμ ləoısc（足の指のほうへ）［語法］仰け反る（のけぞる）の反対動作。

ʅɔlı ［名詞］仲間、味方、同類、同志 ［娯楽］［軍事］友軍、同盟軍 ［形容詞］味方の、友軍の ［反意語］μeſl ［レベル］2 古 : 同じ人

ʅɔlıɑc ［経済］第一次産業 ［レベル］5 1L

ʅɔlc,ılſ ʅɔɔl >‹

ʅɔlcn ［名詞］眇、すがめ。斜視の場合は ıuɔlcnɟ。 ［類義語］ʅɔlcnɟ μɑ;ʅɔlcnɟ.l ʃʃʃ

ʅɔlcnɟ ［名詞］片目 ［類義語］ʅɔlcn μɑ;/ ʃʃʃ

ʅɔlccɑı ［天文］一等星 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ 等級を数値で表すのは神代からの習慣だが、6 等星より暗い星を観測できるようになったのは μɑ で魔動望遠鏡ができてから。魔動望遠鏡が契機となり、より細かい等級が作られるようになった。数値は小さいほど明るく、0 を超えるとマイナスになる。マイナスのほうが明るい。例えば火星は ſcɑuclccɑı（マイナス三等星）になる。

ʅɔlɔ ［名詞］精神、マインド、理性、思性、悟性 ［反意語］ɒıcn ［レベル］2 ɑ;e 古 :ʅɔlɔ（精神、金）ʅɔlɔ:ʅɔlɔ:lə ʅɔlɔ:ʅɔc,ılſ ［語法］enuelen ［文化］ → jeleɟ 精神は第一頭椎、首と頭の間に座す。この部分を ʅɔlɔn という。ルクレティアによって特定された部位で、ɑu などにはここを指す言葉がなかった。現代医学的に見ればこの場所は自律神経と深く関与しており、ここが冷えたり凝り固まったりすると不定愁訴を訴えることが多く、精神の座と考えた古代人の身体性が非常に優れていたことがわかる。 ［用例］ ☆ ın ſcalıſeɟ ʅɔlɔ ıləəſelʅ 私の頭がどうかしていたのだ。

ʅɔlɔɟnɥıc ［医療］片頭痛 ［レベル］3 1L

ʅɔlɔn ［生物］首の後ろ、コロン ［レベル］2 ɟzl;ʅɔlɔ/ɒıcn>ʅɔlɔɒ>ʅɔlɔn ʃʃ x ʅɔlɔn:ʅɔlɔn:ʅɔlɔn ［文化］ʅɔlɔ

ʅɔlɔn(ʃ) ［ジョブ］落ち武者 ılſ;ʅılın.l ʃʃʃ

ʅɔlɔnhıφəlc ［ジョブ］野伏、のぶせ、のぶし、レンジャー、落ち武者狩り ılſ;/ ʃʃʃ

ʅɔlɔdınſ ［名詞］教養科目 ［反意語］ɒıcndınſ ［レベル］2 ʃʃ ［文化］ɑeldınſ

ʅɔlɔleun ［医療］精神病 ［類義語］ıucʅlɔlɔ ［レベル］3 μɑ:μɣəə;/ 1L:clɒəj:μcɑcı ［文化］ uɛμınſ

ʅɔle ［名詞］ロール、巻いたもの ɑu;ʅɔɔl/eſ ʃʃʃ

ʅɔleſ ［代詞］［ɣən］私たち ［レベル］1 ʃʅ:ʅɒccμ:ʅɔleſſ（つながれた→同胞）

ʅɔleſſ,jzl ııu ʅɔɔl,ɑu.l

ʅɔlen ［美容］ロール、巻き髪 jɒ;ʅɔle/nɔı ʃʃʃ ［文化］ jɒ でできた。

ʅɔleeuſılcſ ［物理］第一宇宙速度 ［レベル］5 1L

ʅɔlə̀l ［名詞］一歩 ［レベル］2 ʃʅ:ləjɔın

ʅɔı ［動詞］ɣəl を ı に乗せる、乗る、乗せる、積む、重なる、重ねる ［経済］［動詞］ɣəl を ı（一部二部など）に上場する、上場する ［反意語］ʅenɑ ［レベル］2 古 ［用例］ʅɔı ı ʅɔd 電車に乗る ʅɔı led ıl ıɒɔ 荷物を車に載せる

ʅɔılj ［建築］一階 ［レベル］3 1L

ʅɔılɔdleſ ［音楽］オーギュメントコード ［レベル］6 ʃʅ

ʅɔıj ［化学］モノマー、単量体 ［レベル］5 1L:jeμen:jeıj から類推。ʅɔ は 1 。

ʅɔıuenſ ［経済］上場企業、上場会社 ［レベル］5 ʃʅ

ʅɔıμʅ ［化学］単結合 ［レベル］5 ʃʅ

ʅɔıenφ ［経済］単利 ［レベル］5 ʃʃ: 単純に載せていく

ʅɔc ［動詞］ɣəl を c から lel{ı} だと同定する、同定する ［普通動名詞］同定、アイデンティファイ ［反意語］ſıc ［レベル］4 ʃʅ: 古 ʅɔ（内、同じ）/c（見る）

ʅɔc(ʃ) ［名詞］ʅɔlɔ,ılſ ［文字］精、偏、旁、冠、脚、構、垂、繞 ［レベル］3 ʅɔlɔ.l ［文化］ʅɔcɒınl en

ʅɔcſ ［動詞］ɣəl を ı に吸収する、吸収する、取り込む ［普通動名詞］吸収、取り込み ［魔法］コイト（アスピル）。利の中位黒魔法。敵のヴィルを吸収する魔法。敵に魔法を使わせなくするとともに、自分は魔力を回復して魔法を撃てるようにする魔法。 ［経済］［動詞］ɣəl を吸収する、吸収する、買収する、M & A する。M & A も含めて言う。 ［反意語］μcnɟ ［レベル］3 古 :ʅɔcſ で「吸収」。ʅɔ が「中」。cſ は不明。 ［語法］ʅɔcſ sɔ（怒りを吸収する）は慣用句。失敗などで怒られたときに、「あー、すみません！」と大げさに捉えて高速に慌てた感じで謝って、相手の怒りを広げないように吸収することを言う。日本人がほぼ毎日必ずやっていること。アルバザード人は平静にしているのが常なので、こういう動作をまずしない。"ɔə, uınſ" で済ます。ただアルバザードでもこうするときがあって、例えばハイジャックとかで人質に取られたときに、怒れる犯人相手に機嫌を取るためにへつらってやることはある。だが、会社や学校ではしない。だから例えばレインから見たら、日本で働く静は奴隷か人質のような扱いに耐えているように見える。 ［用例］ lı ʅɔcſıſ sɔ e hılſ. 彼女は上司の怒りを吸収した（慌てて上司に大げさに謝った）。

ʅɔcſeſ ［魔法］吸収 ［レベル］5 ʃʅ ［文化］ɑɔlɒcɥə

ʅɔcʅɔ,ılſ ſə ʅɔ/cʅɔ

ʅɔcn ［魔物］コイン（独眼鬼）：第六十八天：聖の巨天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel:ʅɔ/cnɟ（一つ目） ［文化］ 薄い青い肌をした一つ目の巨人。眼がたくさん。眼からレーザーを放ち、大きな斧を振るう。弱点は目だが、まぶたが固いので、閉じている間は潰せない。

ʅɔcnɒed ［天文］サダルメリク 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel ［文化］ リュウは巨人コインと戦ったが、その怪力と目から出るビームに苦戦した。弱点は目なのだが、攻撃するとまぶたを閉じてしまうし、ビームを出している間は危なくて近寄れない。そこでリュウは大きな魔法の鏡を作り、ビームを放つコインの前に持ってきた。ビームはコインの目に跳ね返り、コインは封印された。そのときの鏡がサダルメリク。

ʅɔcnlcıɟ ［化学］巨大分子。ダイヤモンドなど。 ［レベル］5 1L: 魔族コインのような巨大な分子。

ʅɔcɒınlen ［運動］［文字］心技体、精身技 ［レベル］3 ʃʃ ［文化］ アルティア人の武道でよく言われる概念。精神、身体、技術の三位一体により上達するという考えのこと。 日本語の心技体に当たるものだが、こちらでは精身技という。技の位置する場所も異なるので注意。 また、京極において順に偏と旁とその他のパーツを指す。 偏は京極の最も大きな分類項目を示す一次要素である。偏はある京極に必ず 1 個存在する。弓 (uın) のように偏だけで構成される文字もある。 偏は左に来るものだけでなく、冠や烈火や門構えといった様々な場所に来るものも指す。場所や形でなく、その字の中で最も主要となる構成素を指すので、漢字の偏と違って京極の偏は文字によって「偏、旁、冠、脚、構、垂、繞」のいずれにもなる。 旁は主に右に来るが、漢字と同じで必ず右とは限らない。京極の中分類を示す二次要素である。京極は必ず 0 個ないし 1 個の旁を持つ。 最後の技に当たるものは字の細かい意義を決定するための付加物であり、様々な位置に付く三次要素である。一次と二次以外はすべて三次要素として、あらゆる京極に 0 個以上存在する。

ʅɔceɟſ ［電算］トリップ名、トリップ、鳥 ［レベル］3 ʃʅ: 同定名

ʅɔcſ ［形容詞］反対の、逆の、まったく異なる、さかさま、逆さま、傘がおちょこ、服が逆さか後ろ前 ［反意語］ʅɔʅ ［副詞］［文頭純詞］むしろ、逆に、反対に ［レベル］2 μɑ 1L: 赤 :ʅɔſı ʅɔſı:ʅɔſı: ʅɔſı ［語法］ʅɔʅ ［用例］ejn eɒıſ ʅɔɔſ ɒcl ſeeze ucen. 強風のせいで傘がおちょこになってしまった。

ʅɔɔſnɔıı ［生物］［医療］逆気 μɑ;/ ʃʃʃ

ʅɔɔſnɔıledſ ［生物］［医療］逆気而泄 μɑ;/ ʃʃʃ

ʅɔɔſueſ ［言語］反意語、反義語、対義語、反対語、アントニム ［レベル］4 1L

ʅɔɔſhcɒ ［生物］［形容詞］異性 ［反意語］ʅɔʅhcɒ ［レベル］3 μɑ;/ ʃʅ

ʅɔɔſsılj ［数学］逆数 ［レベル］4 1L

ʅɔɔſocl ［医療］異性愛、ヘテロセクシャル、ストレート、ノンケ、のんけ ［反意語］ʅɔʅocl ［レベル］4 μɑ;ʅɔɔſhcɒ/ocl ʃʅ

ʅɔɔſeʅl ［医療］逆流 ［レベル］3 1L

ʅɔɔʅ ［名詞］状態、様子、様態、具合 ［名詞］機械のモード ［化学］物質の三態の相 ［医療］症状 → leʅɔ ［医療］容態→ leunʅɔɔʅ ［反意語］ſeeſ ［レベル］3 @ 1L:μcɑcı:ıμbıleſſ pəlφ:pəlφ ［用例］ſel ʅɔɔʅ e sın, eɟʅ jcl cɒ ʅeɟſ cn. 空模様からすると、あしたは雨だろう。

ʅɔɔʅueſ ［言語］擬態語 ［レベル］5 ʃʅ ［語法］ɑɔuel

ʅɔɔʅɒcnɑ ［言語］状態無相 ʃʅ0 ［語法］ 状態動詞における無相区間。完了～終了相に等しい。 動詞＋副詞 lı で示す 例 : jʅcn lı（座っていはじめる～座っていおえるまでの総称）

ʅɔɔʅɣəɔ ［言語］状態動詞 ［レベル］6 ʃʅ0 ［語法］ 単位動詞の経過～影響相までの ᴾ 相からなる区間のこと。 行為動詞に比べ、動作主の意思が表れにくく、動きも静的。

ʅɔɔl ［動詞］ɣəl を肯定する、肯定する、うべなう、肯う ［形容詞］肯定的。ʅɔɔlın で。 ［反意語］ſeeɟ ［レベル］3 @ 1L ［用例］ lı ʅɔɔlıſ ʅlɔɟ ınſ. 彼は私の主張を肯った。

ʅɔɔlſeeɟ ［言語］極性 μɑ;/ ʃʅ ［語法］ 叙述を肯定するか否定するかという要素のことを指す。

ʅɔɔɟ ［名詞］たすき、襷、たすき状のもの ［娯楽］（スロットの）リール、スロットマシン ［レベル］4 1ʃ: 制 :ʅɔɔlɟıb ［文化］ ləzφcn、lıſɔɟ

ʅɔɔn ［音楽］鉦、摺鉦、当たり鉦、しょう μɑ;‹ılſ。こーんというオノマトペから。 ʃʃʃ

ʅɔɔɒ ［親族］兄弟姉妹、兄弟、姉妹、シブリング ［レベル］2 1L:clɒəj:μcɑcı:ʅɔ ſɔɔないし ʅɔl ſɔɒ ［語法］ 長幼と性別で 4 種に分類する。義理の兄弟も通常は同じように呼ぶ。血が繋がってなくても兄貴分、妹分のような間柄であれば、兄弟として呼ぶ。セレンがメルを妹と呼んでいるのはこの用法に基づく。

ʅɔɔɒɑelı ［名詞］姉妹校 ［レベル］4 ʃʃ

ʅɔɔɒı ［名前］コーマ 語源不詳 ［文化］ メルの飼っていた犬。μɑ では竜に変身する犬として登場。 ［成句］ʅɔɔɒı ɟɔſ コーマがやったの＝人のせいにすること：メルが 9 歳くらいのとき、アルシェの資料を紛失したとき、コーマのせいにしてあっさりバレたことから、オヴィらがからかって反復した。当時のアルカだと ʅɔɔɒı ɟɔn だと思うが、よく似ている。 ʅɔɔɒı ɑcɔ ɒel 飼い犬に手をかまれる ［用例］ "ɜɒ... dıd ıſ μcφ, ɒıɒı" "hɜn, jɔn ne jɔſɣ ʅɔɔɒɣ" 「あの……ママ、コップが割れたよ」「で、誰がやったの？コーマ？」：明らかに子供がやったと分かっていて、嘘をついてる子供にイラつきながら、いびってる感じ。ʅɔɔɒɣ はむろん、嫌味。

ʅɔɔɒıſe ［名詞］姉妹店 ［レベル］4 ʃʃ

ʅɔɔɒelɑ ［言語］同系、姉妹語 ［レベル］6 1L

ʅɔɔɑcſſı ［料理］巻き寿司、巻きずし、手巻き寿司、手巻きずし ［レベル］3 ılſ ʃʅ ［文化］ ɑcſſı

ʅɔɔl ［名詞］巻物、スクロール ［動詞］ɣəl を巻く、巻く、くるくる巻く、スクロールする ［電算］スクロール ［レベル］2 ɑu;e 古 ʅɔɔl:ʅɔɔl:ʅɔɔl:ʅɔɔle,ılſ ［文化］ アルカは縦巻き。上から下に読む。 ［用例］ μen cjʅ ıſlılſ ɒɔl ʅɔnſ ʅɔɔl. スクロールして下まで読んで。

ʅɔɔlʅlez ［電算］巻物型掲示板、ティーカップ型掲示板、ふつうのネット掲示板、個々のスレッド、スレッド、スレ ［レベル］4 1L:μcɑcı:ıμbıleſſ

ʅɔɔldɔlı ［電算］プルダウン ［レベル］4 ʃʅ0

ʅɔɔlzɔn ［電算］スクロールバー ［レベル］3 ʃʅ

ʅɔɔlı ［名詞］リール、巻き枠 ［レベル］3 1ʃ: 制 :ʅɔɔl

ʅɔɔleſ ［名詞］アーカイブ、書庫、文庫、資料保存室 ［名詞］@ウィキ、アットウィキ、@w i k i ［レベル］4 ɔμn:ʅɔɔleſ ← ʅɔɔl ［語法］「学級文庫」、「子ども文庫」などというように、ある集団に対して開かれた蔵書群の比較的小規模なものを文庫というが、これは ʅɔɔleſ ではない。子ども文庫などは ɣəlclec のように lec という。

ʅɔɔlel ［人名］コーレル ［組み数字］1 3 / 1 6 ［レベル］4 ɒelſcı ʃʃ9:ıμnə/eɟſi;e 古 ［文化］ eɟſı エスタの第 1 3 子。男。テステェルの父。

ʅɔɔlel oılʅı ［人名］コーレル＝ワッカ 1L:ɒelcɑcı ılſe ［文化］ アルティル期の芸術家。アルバザード出身。新古典主義の先駆者。魔法を失い神を見れなくなったことにより、人類は新古典主義を開花させた。

ʅɔɔle,ılſ lənı ‹›ʅɔɔl

ʅɔeɟ ［名詞］一意 ［形容詞］一意的な ［反意語］ɑceʅj ［レベル］5 μɑ:ɒel;/ ʃʃʅ:ɒel

ʅe ［動詞］ɣəl に行く、行く、いく。移動動詞。 ［副詞］～しにいく ［動詞］ɟɔl（道）が ɣəl（目的地）に通じている、通じる、通ずる、行く ［反意語］lənı ［レベル］1 1ʃ ←古 :ʅeſſı ʅe,ɑ(移動) ʅeſſı,ɑ(行く) :ʅe ʅeſſı:ʅeμ:ſıle,ılſ ［語法］ 強調以外で ʅe ı ɑeʅı と言わないこと。 ［用例］ ın ʅe ɑeʅı. 学校に行く。 ın ſıə ʅe lcdl. ケーキを買いに行く。

ʅe,ɑ ʅe、ʅɔμ、ſınʅ e

ʅeſ ［言語］ʅ の文字 ［レベル］1 1ʃ: 制 : 猫 ʅeſſɔ:ʅeſſɔ::ɒcɔ,ılſ ［語法］ 第 2 文字目の幻字。

ʅeſ(ʃ) ［動物］猫 ［類義語］ɒccʅɔ、ənc ［レベル］1 1L: 古 : 森（ſɔ）の方向（ʅe）を知るもの。古では ʅeſſɔ で制では ʅeſj。新で ʅeſ に。 ［擬声］ nɥı（にゃぁ）ɒɥı（みゃあ）ənc（うにぃ。甘え）ʅrlrlrl（くるるる、喉鳴らし）φrlrlrl（唸り） lıı（シャー！威嚇）nɥıın、ɒɥıın（にゃーん、長鳴き。えさくれとか、ドア開けろとか、コタツ入れろとか、そういうときの声）oıın（「いい加減ドア開けろや、鳴くのも疲れるんじゃ！」とか、「いつまでも抱いてんじゃねえよ、早く離せゴルァ」とか、イラついたときの大きな要求声） ［文化］ アルバザードで最も好まれるペット。静かなのでどこでも飼える。元々一匹狼なので飼い主に従わない生き物であると考えられ、厳しい躾は始めから放棄される。アルバザードの人間は個人主義が強く、猫の生き方は肌に合う。だから猫を同類とみなすことが多い。同類とみなすので犬と違って上下関係で従う・従わせるという関係にはならない。共同生活者として飼うことが多い。ただ、トイレの躾はするし、どこで爪を研ぐかなどの躾も行う。つまり、最低限の躾は行う。尚、アルバザードでは飼いやすいということと肌に合うという理由から猫の方が多く飼われている。血統書つきの猫を買うという発想はなく、可哀想な捨て猫を拾うか、知り合いから分けてもらう。な

お、アルバザードにも勿論血統書つきの猫はいるが、それはステータスとして飼うのでなく、単にマニアとして飼うだけである。たとえば猫に詳しい人がマニアになって血統書つきの猫をほしがるという場合である。ただ、それがイコールステータスにはならない。

ɭeſ(ʔ) ɭe/ıſ

ɭeſ(ɱ) [人名] エケトネの略称 [組み数字] 2 1 / 2 8 [レベル] 1 制 [成句] ɑccnı ɭeſ 万一に備えて :1L:ɒıſ:「心配性のエケトネのために」が原義。従ってこの ɭeſ は猫ではない。

ɭeſſı [感動詞] さぁ、さあ、ほら。相手を促す感動詞 [感動詞] 開始、はじめ、始め、どん、ドン、のこった、ファイト、ファイッ、ゴー [レベル] 1 古 : 行く [語法] ɥenſe は leeu だが、彼女らも気合を入れる場面などでは ɭeſſı という。

ɭeſſı(ɭ) [南方] [動詞] ɭe [レベル] 3 古

ɭeſſı,ɑ ɭe ɭe/ſı「外へ行く」

ɭeſſıſ [生物] ネコ属 [レベル] 5 ɭ0

ɭeſſıſſ [名詞] 猫派、ネコ派 [レベル] 3 1L

ɭeſſın [ɥenſe] ɭeſſı [レベル] 1 1L

ɭeſſınɔı [化学] L 殻 [レベル] 5 1L

ɭeſſc [単位] 漢 ɭ1: 古 ɭeſſɔ

ɭeſſɔ [サール] ケット [レベル] 5 古 :ɥcɑcı:ɭeſſɔ（猫）。原義は「森の方向を知るもの」という古アルカのものであるから、英語の c a t 由来ではない。英語排他が行われていない時期の語なので、英語なら ɭıſ か ɭɥıſ になるはずである。 [文化] 猫を司るサール。高潔で気位が高く、美しい。魔力が極めて高い。また、動きが俊敏で格闘技にも長ける。ケットは強力な力を帯びた自らの爪を武器に戦い、敵を瞬時に切り裂く。

ɭeſſɔ,ɑ ɭeſ ɑ;e 現在の猫を指していたとは思えない。ミアキスを指したのではないか。ſɒ 頃にはリビアヤマネコを指したのではないか。

ɭeſſɔl [動物] アビシニアン [レベル] 6 ɭ1:ɭeſſɔ 神に似ている

ɭeſſeɒ [生物] 猫耳、ネコミミ [レベル] 3 μɑ ɭ] [文化] アルバザード人は猫好きが多いため、可愛いものとしてコスプレなどでも一定の人気がある。魔族などで本物の猫耳を持って生まれた場合、環境次第では虐められたり逆にもてはやされたりする。アルナ大のような環境の良いところなら貴重がられて愛されることが多いだろう。

ɭeſl [動物] 川蝉 [レベル] 5 ɭʔ<ɭeſɟ:ılıɭſı:ɭeſl ← eɭeſlcſ（川の雀）

ɭeſleſl [動詞] ɥel をぶらつかせる、ぶらつかせる、ぶらつく、ぶらぶらする、散策する [レベル] 3 1L:μcɑcı: ねこが家の中や縄張りをてくてく歩いているさまから。人間からすれば特に意味もなくぶらついているようにしか見えないため。 [用例] ın ɭeſleſlıſ lıl ɒeɟ μı ɒın senſ eſ μıſ ſcn. あまりに天気がよいので外をぶらつきたくなった。 ɑcɟ ıſ ɑız ſcn ı ɭeſleſl. 散策するにはもってこいだった。 ın ɭeſleſlıſ ɭırſe cɒ ɾleəɭɟ cɔl hırdı. 夕方に友達とカルテをぶらついた。

ɭeſɟ [普通動名詞] 巡回 [動詞] ɥel を巡回する、巡回する [レベル] 3 μɑ;ɭeſ/ɟɔ「猫のようにする」 ʃʔ [用例] ɭeſɟ nɔlıl e ɟıɒen 新刊コーナーを巡回する

ɭefn [普通動名詞] 移植 [動詞] ɥel を ı に移植する、移植する [電算] 移植 [レベル] 4 1ɱ: 制 :ɭefnı

ɭefueμınſ [医療] 回避性パーソナリティ障害、回避性人格障害、不安性パーソナリティ障害、不安性人格障害 [レベル] 5 ul;eɭeſɔne/ueμınſ ʃʔ:ɒel

ɭefnelcı [生物] イエネコ亜種 ɭ0

ɭefdıal [名詞] 怒って威嚇した [レベル] 3 1L: 猫のアーチ。猫が怒ったときに弓なりになることから [用例] ſcl ɭefdıal 怒って威嚇する

ɭefμecn [数学] y 軸→ cnl [レベル] 4 1L

ɭefcnɟ [名詞] いねむり、居眠り、うたたね、うたた寝、まどろみ、まどろむ [名詞] 一休み、小休止 [経済] 一服 [ユマナ] ミニストップ [類義語] ɥencɟ [レベル] 3 1L: 古 :μcɑcı:ɭeſſɔc（猫の目）。猫は常に居眠りのような浅い眠りをしていて、半開きの目をしばしばさせている。居眠りをする人間がその様子に似ていることから。 [語法] ſcl ɭefcnɟ にすること。ıμ はやや不自然。 [用例] ☆ ın ſclıſ ɭefcnɟ ıɑcn belſ ej uıd ɟcn. 鍋が煮えてるにもかかわらず、居眠りをしてしまった。 ɑen ſcl ɭefcnɟ cɒ lıl. 授業中に居眠りしてはいけません。 ın ıſ ɔɒɔ ſcnlı enſɔ ın ſclıſ ɭefcnɟ μıɟ ɑɔə ɑɔl ncı ınſ eɒ ɭcl. 眠すぎて髪を切ってる間に何度も寝そうになった。

ɭefcns [地学] キャッツアイ、猫目 [レベル] 4 1L

ɭefɔn [植物] マタタビ、またたび [レベル] 4 ɭ1: 「猫の木」

ɭefeſ [形容詞] 女々しい、めめしい、野暮な、野暮ったい、やぼな、粋でない [名詞] 女々しさ、野暮 [反意語] ıɑccɥə [レベル] 3 μɑ;ɭeſ/eſ「エケトネのような」 ɱ

ɭefenı [名詞] 泣き虫 [レベル] 2 μɑ;eɭeſɔne/enı ɭ] [文化] ſcl ɭefenı 泣き虫だ

ɭefeμn [生物] ネコ科 [レベル] 5 ɭ0

ɭel ɭe/cl

ɭelſ [動詞] ɥel（場所）を循環する、循環する、回る、回す、廻る、廻す。移動様態動詞 [経済] 回転する [音楽] ターン μɑ [レベル] 3 1ɱ: 制 : 古 :ɭeſſıɭeɭɔ [語法] 「ɥel を循環させる」ではない。 [成句] ɭelſ μenɟ 話を続ける、話をつなげる、話を繋げる

ɭelɱac [名詞] 回し飲み、回し食い [レベル] 3 ɭ0 [文化] dıɟɭɭac

ɭelɱen [普通動名詞] 回し飲み→ ɭelɱac [レベル] 3 ɭ0

ɭelſɒcɟ [音楽] 輪唱 [レベル] 3 μɑ;/ ʃʔ

ɭelſdcſ [医療] 循環器科 [レベル] 5 1L

ɭelſμenɟ [言語] ケクトレンス、循環話法 [レベル] 3 μɑ;/ ɭ0 [文化] 複数人がひとつの話題を順繰りに話すこと。 例えば道で迷っているとき、3 人の女の子の集団に声をかけたとする。このとき、日本だとたいてい一人の子が代表で説明するが、アルバザードだと 3 人が順々に言葉を回していく。 例 : 「子「ランスケルンは北区にあります」ここで ɭ 子に目を微かにやる。 ɭ 子「コノーテ=ミルフにありますよ」ここで し子に し子「ここからだと電車でいくといいですよ」 ーーこのように、3 人がそれぞれ少しずつ情報を回し飲みのように喋る。これが彼女たちにとって協調的に話せていることの証明であり、同時に複数人がその情報を納得しているということを示すことでその情報の正確さを示している。なお、この喋り方は古アルカの時代にアンシャンテを通じて広まったもの。

ɭelſısı [経済] 回転率 [レベル] 5 1L

ɭelſelɒ [生物] 循環器 [レベル] 5 1L

ɭelɭɔ [感動詞] ようこそ [感動詞] どうぞどうぞ、どうぞ、ぜひ、是非 [動詞] ɥel を受け取る、受け取る→ ɒcl,ɥə [動詞] ɥel（人）を ıı で歓迎する、ɥel（人）を ıı で出迎える、歓迎する、出迎える→ lcſcl [感動詞] いらっしゃいませ、いらっしゃい [反意語] lınſ [レベル] 2 古 :ɭelɔ（来る）、ɭelɭɔ|elɭɔ（ようこそ）。nɔn nıhɥə ɭeμ ſcj ɭelɭɔ ſə（私はあなたが来て嬉しい）の意味で、ɭelɭɔ|elɭɔ と繰り返して使った。 [語法][文化] ・ようこそ 人を歓迎するときは ɭelɭɔ という。家に招待するときに使うが、パーティなど人の集まりの輪に入れてやるときも ɭelɭɔ という。言われた相手は jenſınſ と返す。また、販売店の店員は ɭelɭɔ といわない。店は客を歓迎するのではなく、客と売買をする場だからである。ゆえに ɟcɔnɔɥən という。 ただし、店員がホスト役になる店では ɭelɭɔ という。つまり旅館やホテルでは ɭelɭɔ という。メイド喫茶は自分の家のメイドという設定なのでいらっしゃいではなく、ɒclənın（おかえりなさいませ）だろう。 小さな小売店や個人商店の場合はむしろ ɟcɔnɔɥən でなく ɭelɭɔ のほうが妥当。ɟcɔn ɔɥən と個人商店で言われると知人や町の人に挨拶されたかのような気になる。 バスや電車など、人を運ぶ業務は ɟcɔnɔɥən という。不動産も物を売るので ɟcɔnɔɥən である。客を招待した場合、ホストはパーティなど、迎える用意をしておき、歓迎する。時間は大抵ホストが決めているのでホストの家に迷惑ということはない。また、前触れなく客が来るということはまずない。友人の家に遊びに行く場合でも予め連絡は取っておく。いきなり行くと迷惑。 ・どうぞ 人の行為などを歓迎するときに使う。

ɭelɭɔ(ɭ) [南方] [動詞] lənı [レベル] 3 古

ɭelɭɔ,ɑ lənı ɭe/lɔ「内へ行く」

ɭelɭɔ|elɭɔ [感動詞] ようこそ [レベル] 2 古 :ɭelɭɔ より丁寧 [語法] ɭelɭɔ より丁寧。

ɭelɟ [普通動名詞] 旅行、旅路 [動詞] ɥel を旅行する、旅行する、旅する [レベル] 2 1ɱ: 制 :lɔlɟ（長い旅行） [文化] ディアセルとメルセルは国内で過ごすことが多いので、特に決まった時期はなく、スケジュールの調整がつく時期にごっそり休みを取って行く。国内の場合はカテージュやアルナが人気。国外ではやはりルティアやメティオが人気。 日本人と比べるとアルバザード人は旅行好きではなく、近場の国内で遊ぶことが多い。日本の場合は国内旅行のほうがかえって高くついてしまうからかもしれない。アルバザードだと国内のほうが安い。 団体行動は苦手なので、ツアーやパックは利用しない。そういう国民性なので旅行代理店はなく、チケットを各自取って行く。 [用例] ſıſ μlſ, ın ɭelɟ nelſ ɔl lcſe lını ɑɔnl hıμſ. 毎年夏には家族で避暑地に行く。 ın ɭelɟ ıſ lıl ɑcdcſ l'ın leɒ lıl. 気の向くままどこかに旅行に行きたかった。 ın ɭelɟ uın hıɟ ınɔ. 予定通り旅行に行くつもりだ。

ɭelɟuenſ [ユマナ] 旅行代理店 [レベル] 4 1L:μcɑcı:ıμbıleſl [用例] ın ɭeſ ɭelɟuenſ dın ın ɭe lıl eɒ ılɥə. フランスに行きたくなったので、旅行代理店にいってみた。

ɭelɟɒɟ [名詞] パスポート、旅券 [レベル] 3 1ɱ: 制 : 旅行の券 [文化] 国外旅行にのみ使う。アンセに入っているので紙としては不要。

ɭelɟın [名詞] 旅行者、旅人 [レベル] 2 ɭ]

ɭelł [動詞] ɥel を ı に呼ぶ、呼ぶ、来てもらう、召集する、召喚する、呼び出す、誘う [名詞] [動詞] 再生、再生する。C D プレーヤーやビデオなどのテープなどを。 [反意語] ɟɔʃl [レベル] 2 1ɱ: 制 :lıł ←不明 [用例] ☆ ın ɭelłıſ lı ɒɔl ejn ınſ. 彼女を傘に入れてあげた。

ɭelłɒenſe [名詞] 出張ヘルス、デリヘル、デリ、ホテトル [レベル] 4 1Δ [文化] 富裕層に限られ、アルバザードにもある。アルバザードでは本番あり。

ɭeɭe [動物] 鮭、サケ、鱒、マス [レベル] 2 1ʔ: 制 :『制定語彙』ɭeɭɔelc（旅をする魚） [語法] サケとマスの区別はない。

ɭeɭelıɭc [料理] イクラ、筋子 [レベル] 3 1ɱ: 制 : 鮭の卵

ɭeɭeμ,ɑ ～の方へ

ɭeɟ [名詞] 次 [形容詞] 次の、続きの、次世代の [文頭純詞] 次に [反意語] ſɔl [レベル] 1 1L: 制 ɭeɟ ɑɔɔuı:ɑɔɔuı:

ɭeɟ(ɭ) ɭe/eɟ

ɭeɟſ [名詞] 明日 [反意語] ſɔleſ [レベル] 1 1L:ɭeɟlɑcɟ [用例] ſə eſ cɒ l'ın lɔ ɔn ɭeɟſ. 明日について考えるときだ。 ın lɔμ nɔɟ ſɔ uın cɒ ɭeɟſ. 明日何をするか考えているところだ。

ɭeɟleſſ [名詞] 来月 [レベル] 2 μɑ;/ ʃʔ

ɭeɟɟıſſ [名詞] 来年 [レベル] 2 μɑ;/ ʃʔ

ɭeɟɟɔɔſ [名詞] 来週 [レベル] 2 μɑ;/ ʃʔ

ɭeɟɟel [名詞] 翌日、よくじつ、その次の日、あくる日 [レベル] 2 1L

ɭeɟalec [電算] ページダウン [レベル] 3 ɭ0

ɭeɟın [名詞] 後継者 [類義語] lcſı [レベル] 3 1L:clɒəɟ;μcɑcı

ɭeɟe [料理] まな板 [レベル] 2 1ɱ: 制 :ılıſı:ɭjen（プラスチックまな板）

ɭen [南方] [格詞] ɭɔμ, ıl [レベル] 3 ɭ1:l.ɭeμ

ɭenſ [動詞] ɥel を ı に招待する、招待する、招く、まねく [普通動名詞] 招待 [レベル] 2 1L:ɭeſμ:1ʔ: 制 :ɭeſμec（来ることを依頼する） [文化] 招待状はヴェレイでメールになり、アレイユでもアンセによるメールが一般化している。パーティの招待は遅くても数日前にはされる。

ɭenſɒıɟ [名詞] 招待状 [レベル] 3 1L

ɭenɑ [動詞] ɥel を c から降ろす、降ろす、おろす、降りる、降ろす、下りる、下ろす [反意語] ɭɔı [レベル] 2 1ʔ: 制 :lɔnɑ（降りる）: 古 :lɔı

ɭenɔ [接続詞] ～の [レベル] 2 ɑ;e は「方向」 古 : 所有や所属など、修飾を表わす語で、後に e に代わった。ɭenɔ は修飾語＋ ɭenɔ ＋被修飾語の語順であった。たとえば nɔn ɭenɔ hırdɒı で「私の勇者」の意味。だが、後に生まれた古アルカの e は制アルカの e と同じく ɭenɔ に対して順番が逆転している。これは古アルカの語順がＳＯＶからＳＶＯに変わったときに起こったことである。 ɭenɔ:ɭenɔ::fə,ılſ:lın,ɑɒ [用例] ıμəbızıμɑ ɭenɔ ıμnı アルバザードのアルナ nɔn ɭenɔ hırdɒı 私の勇者様。ザナのことでもある。

ɭeu [動詞] ɥel を ı に例える、例える、喩える、譬える、たとえる、比喩する、なぞらえる、準える [レベル] 3 1ɱ: 制 : 語源不詳 [用例] "ɥenı ɭeu ɑın ɒɔe ı ɟɔı lınſıın" 「エリカたとえてあげる～」（家なき子）

ɭeueı [地名] ケヴェア [組み数字] 4 / 6 [レベル] 3 ɑu;e 古 [文化] サヴィアの南にあるマレットの大陸。 面積 : 1ʔ2Δ.99ɱ.ɱ5ɱ2ʔ.L ɭɔ ʃ

ɭeueıjczı [地学] ケヴェアプレート ʃʔ

ɭeuec [ユマナ] 南アメリカ大陸 [レベル] 4 制

ɭeaſ [建築] 瓦礫、ガレキ [レベル] 3 1ʔ: 制 : 元は ɭɔd。音が変化して ɭeɑ となった。

ɭeɑɔn [名詞] 軌道 [類義語] ıɭl [レベル] 4 ɭ1:le/ɑɔnſ

ɭeɒ [生物] 胃 [レベル] 2 古 :ɭeɒ [成句] ſcl ɭeɒ lcj 小食だ ſcl ɭeɒ e ɒel ほとんど何も食べない [用例] ɔl el ſcl ɭeɒ lcj, ɟɔn el eſ uıln ſel elı. 報告によると小食は体に良いらしい。

ɭeɒj [動詞] ɥel を摘む、摘む、つむ、抜く、引っこ抜く、摘み取る、むしる、毟る [反意語] ſɔnl [レベル] 2 @ 1L

ɭeɒɑıcz [医療] 胃炎 [レベル] 3 1ɱ: 制 : 胃の炎症

ɭeɒɒclı [生物] 梁丘 ɭ1

ɭeɒɒelſ [生物] 内関 [レベル] 6 ɭ1

ɭeɒφılſ [生物] 幽門 [レベル] 5 1L: 閉じたり開いたりするので門か扉が候補となった

ɭeɒφəz [医療] アニサキス [レベル] 6 μɑ:μɥəə;/「胃に噛み付く糸くず状の（回虫）」 ɱ [文化] ɟɒ で瓜人が刺身をもたらした頃から謎の胃痛がアルバザード人の間に起こった。μɑ でリュウが魔動内視鏡を作ると患者の胃中にアニサキスを発見。これが原因であることが判明した。実際には胃だけでなく小腸などにも進行することがあるが、たいていは胃痛で気付くのでこのような命名となっている。ちなみに小腸に達すると ıl の技術をもってしても開腹手術が必要となる。 リュウは実験の結果アニサキスが６０度以上の加熱ないしマイナス２０度以下の２４時間の冷凍で死滅することを発見した。これ以降アルバザード人は刺身を食べるときには冷凍してから解凍して食べるようになった。現在では業務用冷凍庫にて冷凍した後に解凍する。冷凍すると味は落ちるが、生食を嫌うアルバザード人は安全を取る。 現実には魚類の生食を嫌うリディアによってアシェットの人々にもたらされた文化。日本人のセレンはリディアに寿司や刺身などを食べないよう何度も言われて苦心した。

ɭeɒdı [地球の国名] イラク [レベル] 6 古 : 星の国 ɭendelı が ɭeɒdı になったもの。n は ɒ に

ɭeɒdcφ [医療] 胃がん [レベル] 3 1L

ɭeɒde [天文] 天文 [レベル] 4 1ʔ: 制 : 古 :ɭende（星） [文化] ユーマの一族は神々の知識を得て、アトラスが球体であることや、星の運行がどうなっているかということを最初から知っていた。そのため天文学は地球よりも早く正確に確立された。逆に知識として始めから得ていたため、ストーンサークルのような天文関係の遺跡はかえって少ない。 学問としての天文学は神がレスティルで農耕を始めたころから社会上の運用として開始され、その後人間にも伝来した。アズゲルではレスティルを中心に各民族が高等な天文学の知識を持っていた。

ɭeɒdeɟſ [アトラスの国家] ケンペスト [レベル] 5 ɭ0:jeμen: 星の土地

ɭeɒde ɑcɟcɑcı [人名] ケンペ＝ディシディア ɭ0 [文化] (cɒəl 1ɱ9ʃ:1ʔ29) ラグナロクの工学者。学長を勤めた。トワーゼルの父親。ınsel の構想を練った人物。cɒəl 1ʔ1ʃ に階差機関を発明。

ɭeɒbıd [医療] 胃潰瘍 [経済] 塩漬け [レベル] 3 1L

ɭeɒμıc [医療] 胃痛 [レベル] 3 ɭ] [成句] ɭeɒμıc e μcɑcı 鬼の霍乱

ɭeɒscɔμ [生物] 胃兪、胃愈 [レベル] 6 ɭ1

ɭeɒoılu [医療] 胃ポリープ [レベル] 5 1L:jeμen

ɭeɒlɔl [生物] 胃腸。胃と腸のこと [レベル] 3 1L

ɭeɒıɟl [生物] [医療] 胃酸 [レベル] 3 1L

ɭeɒınueμ [医療] F D、N U D、機能性胃腸症、機能性胃腸障害、慢性胃炎 [レベル] 4 ɭ1:ɭeɒ/ınueμ [文化] ul で ɸ卍 等の普及とともに蔓延した病気。ul 初期は ɸ卍 がそこまで原因だと社会が認知していなかった。自律神経失調症や鬱も併発する。 労働効率が悪すぎるとしてミロクが徹底的に作業環境を向上させた結果、電子ペーパーやアンセや音声認識などの技術が ul 末期に発達した。 労働時間の短縮やワークシェアリングや格差社会の軽微な是正などにより、徐々に ıl に向かうに従って ɸ卍 は減少していった。

ɭedl [名詞] 罠 [動詞] ɥel を罠にかける、罠にかける [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :ɭeſſı（罠）/ 古 dıɟ lıı（行くと死ぬ） [用例] ɥəu ɭedl 罠にかかる ın ɭedlcl ſcſ かかったな！

ɭedc [地学] コンパス、羅針盤、磁石、方位磁針、方位磁石 [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :ɭe（方向）/dc（針）

［文化］ zφのシージアで発明された。zφ_μɑ は人類は空を飛べ、μɑ では飛空挺も発明された。人々は自由に長距離を旅できる環境にあったが、その裏にあったのは羅針盤である。地球では羅針盤の発見が大航海時代の幕開けに繋がっているが、人が空を飛べ飛空挺が存在したカルディアでは羅針盤は古くから発明されている。　カルディアにおける大航海時代は人が魔法を失い、地球と同じ方法でしか航海をできなくなってからであり、羅針盤がもたらしたものではない。貿易品の需要と ʔ,| 遺伝子の普及が直接の理由である。

ledccɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］らしんばん座　lɱ ［文化］ cɑɪ

leɥej ［名詞］片道 ［レベル］3　1L:ɟcɑcɪ:ɪɒɪlelſ

leɥə ［名詞］客、お客さん、ゲスト ［反意語］ɟɟɪl ［レベル］2　1L:ɪeɪlɔ ɥə（歓迎を受ける）［語法］店の客は ſɪəɪn。

leɥəez ［建築］客間、ゲストルーム ［レベル］3　μɑ;/　ʃʔ

leɟ ［名詞］類、種類のうちの類、上位概念、あるグループのまとまり。 ［反意語］dcſ ［レベル］3　1L: 恣意

leɟ,ɟzɑ　le　leɟ,ɑ.ɪlɪuez

leɟ,ɑ　ſce, ɪ, ɪɔɟ　le（方向）

leɟſ ［言語］括弧、カッコ、かっこ ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :leɟ ～ ſə 構文の leɟſə。leɟ はかっこで、ſə はかっこ閉じ。昔は leɟ ～ bə だった。

leɟn ［生物］翼 ［魔法］ケルン（トベルーラ）。風の古代魔法。ルテの上位版。高く自由に飛ぶことができる。参照 leſe ［名詞］バイク、オートバイ← ɑɪlɑcɟ ［類義語］ɑɥenɟ、ɒcleel ［レベル］2　ɒſ　古 :leɟ scnɪ（つばさ）。「 空へ 」が原義で、後に leɟn になった。リディアとクミールが１９９７年パールとメルの調査『高好感度幻字調査』において共に上位１４位以内に入れた語。　leɟscnɪ:leɟn:lɪ ɒcleſ:ɑɪlɑcɪɟ,ɹl ［語法］ 羽が集まってできたもので、空を飛ぶのに使う。 ［文化］ 絵画において翼は飛翔の象徴として用いられれることがある。霊人はユノを使って自由に飛べるが、飛んでいることが絵画の中で判然としない場合は、飛んでいるということを表すためにあえて翼を象徴的に付けることがある。アルバザードの国章などがその代表例である。

leɟnlɪɑ ［地球の国名］マーシャル諸島共和国　1L: 国章に羽のような絵

leɟnlɪcl ［動物］翼竜　ul;/ ［レベル］6　lʔ ［文化］ 分類学的には恐竜ではない。

leɟnɒɪlj ［魔物］ケルンマルス（鳥乙女）: 第二十六天 : 風の風天 ［レベル］5　1L:μcɑcɪ/jeɟen/ɒel:leɟn/ɒɪlj。ɒɪlj はここでは花嫁、乙女。 ［文化］ 鳥族。羽の生えた若い女。裸で、臍から下が鳥。臍から頭までが人間の姿。手と腕も人間のもの。風と雷の魔法を使う。弱点の風が効かない相手。高らかにけたたましく笑い、歌で相手を誘惑する。

leɟnɒɔɒ ［生物］曲垣　ʃʔ

leɟnɪlɔɟ ［植物］わかめ、ワカメ、若布、若芽 ［レベル］2　1L:μcɑcɪ:ɪɒɪlelſ: 羽状に広がる大きな海藻だからか。

leɟnɪlɔɟhcɒelɒ ［植物］メカブ、めかぶ→ ɟɔʃlɪɔɟ ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪɒɪlelſ ［文化］ 肝臓にいいとして、好んで食べられる。日本のものと違って酸っぱくない。わかめごはんの味がする。

leɟnɪɟɑ ［魔物］ケルナルド（飛鮫）: 第十四天 : 水の巨天 ［レベル］5　1L:μcɑcɪ/jeɟen/ɒel:le μn/hcɟɑ ［文化］ 魚族。空飛ぶ巨大な鮫。水辺におり、突如水中から飛び出て人を喰らう。人に噛みつくとそのまま空を飛んで水辺に戻り、水中に獲物を引きずりこむ。

leɟscnɪ,ɑ　leɟn　ɑ:ɟɪɪl;leɟ scnɪ

leɟɪ,ɑ　ɪɔɟ　leɟ

lel ［動詞］ɥel を忘れる、忘れる、忘却する ［普通動名詞］忘却 ［レベル］2　1L:ɪɔl:1ʔ: 制 : 古で知るは lɔ で、状態動詞。「 知識を中に入れる 」という意味の lɔlɔ というのがあったが、「 精神 」の意味の lɔlɔ に消されてしまっていた。制では n 対語彙として復活させた。 ［語法］ lel clɒ だと「ノートの存在自体を忘却する」という意味。「置き忘れる」の意味ではない。～し忘れるには副詞の lelɪnel を使う。　ところで日本語の「置き忘れる」にはふたつの意味がある。ひとつは「本来持って帰るべきところを忘れて、置いたままにしてしまう」。ひとつは「きちんと置いておかなければならないのに、置くのを忘れてしまった」。前者は eu ˈlelɪnel で、後者は en eu ˈlelel である。英語の f o r g e t　t o　d o は後者に相当する。 ［用例］ ɪn ˈlelɪſ jen ſə eſ hɪɟſ. 暑さを忘れることができた。 lɪ en neſɪſ ɪn ˈlelel. 彼は私を起こし忘れた。 ɪn ˈlelɪſ enz ſə. そのことを忘れようとした。＝そのことを頭から振り払おうとした。

lel,ɑu　ɪɪl　lɔlelɔ.l

lelſ ［形容詞］婉曲な、遠まわしな、遠回し、婉曲的な ［反意語］dɪlu ［レベル］3　1L:ˈleelɪſ ɥə（包まれた）

leɭl ［音楽］曲、ソング、歌 ［類義語］ɒclɟ、leɒ ［レベル］2　ɑu　ʃʔ: 古 φɥɪleɟcˈlə（歌）

leɭlɪɑ ［音楽］作曲 ［レベル］3　ʃʔ

leluea ［生物］［医療］奇穴、新穴、特効穴　jzl;<lelucɑ.ɒu<lel/uccɑɪ　lɱ ［語法］［文化］ uccɑɪ

lelɑɥenɟ ［植物］ひなげし、ヒナゲシ、ポピー、雛芥子、雛罌粟、コクリコ、虞美人草、グビジンソウ、シャーレイポピー ［言葉遊び］羽忘れの精霊、羽を失くした精霊、精霊。leel が ˈlel になっていることから、羽忘れの精霊とも呼ばれる。アリア＝イネアートのように、精霊族の血が入っているのに羽を持っていない混血種を指す。 ［レベル］3　ʃʃ:leel/ɑɥenɟ　大きさの割に花弁が薄く、下から見上げると太陽光で透けて蝶の羽のように見えることから。leel となっているのは花弁が何かを包むような形になっていることから。

lelɥɪ,ɑ　lec　le は行く。

lelɥə,ɑ　elɑ　le は行く

leɪ ［形容詞］正常だ、あるべき状態だ、治っている、直っている ［動詞］ɥel を治す、治す、なおす、治療する、直す、修繕する、あるべき状態にする、セラピー、更生、矯正する、回復する、癒す、いやす ［普通動名詞］治療、癒し、いやし、ヒール、ヒーリング、正常、回復 ［普通動名詞］メンテナンス、メンテ→ dɪſ ［魔法］ケア（ケアル）。利の白魔法。ヴィード傷を癒す魔法。 ［反意語］ɪucl ［レベル］1　ɑ;e　赤　leɪ:leɪ ［用例］ ɪn lɪl lɪ eɒ leɪ uɪɑel. 彼が早く回復することを願う。 ɪn nɪſ nɪə ɒɪn jeɟcˈl lɪ cˈl leɪ. 彼が回復したと聞いて嬉しかった。

leɪſ ［植物］ミント、はっか、ハッカ、薄荷 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :leɪſɔ（癒しの匂い）

leɪlɪlſe ［音楽］イージーリスニング、ムード音楽 ［レベル］5　ʃʔ

leɪɟɔpcſ ［生物］理想身長 ［レベル］4　μɑ;/　ʃʔ ［文化］ ɒɪcnɪsɪ

leɪɒel ［医療］回復期間 ［レベル］4　1L:ɟɥəə

leɪɑəɑ ［生物］理想体重 ［レベル］4　μɑ;/　ʃʔ ［文化］ ɒɪcnɪsɪ

leɪɔɔ ［医療］セラピー ［レベル］4　1L:ɟcɑcɪ:ɪɒɪlelſ

leɪeɒ ［名詞］回復、正常化 ［レベル］3　ʃʔ

lec ［動詞］ɥel を ɪ まで追う、追う、追いかける ［反意語］elɑ ［レベル］2　1L: 古 :lelɥɪ　lelɥɪ:lel ɥɪ

lecɟ ［植物］ナガイモ、ヤマイモ、ヤマノイモ、ジネンジョ、山芋、長芋 ［レベル］2　1L:ˈleɒ/jəc（胃の芋）→ leɟc →言いにくいので lecɟ。 ［語法］ 山芋と長芋は同一視される。実際にアルバザード人が食べているのは長芋。 ［文化］ 胃に良い芋として、アルバザード人に好まれる。これに含まれるムチンが胃粘膜を保護するため。　μɑ ではパールが東国に行った際にお土産として持って帰り、胃に良いという原住民の話を信じてセレンに食べさせたところ、元気になった。それからセレンはナガイモをアルバザードでも生産させ、それに倣って人々がナガイモを食べ始めた。それがレイユまで続いている。なお、少量の醤油をかけて食べる。

lecjucɟɔ ［化学］ムチン ［レベル］5　1L

lecn ［交通］往復、往来、行ったり来たり ［動詞］ɥel（場所）を往来する、往来する、往復する ［レベル］3　lʃ0:le/lənɪ → lenɪ → lecn（le や lənɪ そのものと類音なため、音素を逆転）

lecnɑɔdɒ ［交通］往復切符 ［レベル］4　lʃ0

lecɒɪ,ɑ　cɒ

lecμɪl ［動詞］ɥel を追い越す、追い越す、追いこす→ μɪl ˈlecl ［名詞］追い越し、追いこし ［レベル］2　lʃ0

leclɑlɔ ［動詞］ɥel に追い付く、追い付く、おいつく、追いつく→ lɑlɔ ˈlecl ［レベル］2　lʃ0

leɔɒ ［交通］行き方、道 ［レベル］2　ʃʔ

leɔl ［動詞］ɥel を侮辱する、侮辱する ［普通動名詞］侮辱 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ləſeɔlɔɔ（愚かだという）

leeſ ［格詞］～を行き着く先として ［格詞］～を子として ［反意語］leɒɔ ［レベル］4　ʃʔ: 古 ˈle/ 古 ſe ［語法］ eɒɔ の反対で、源から流れいでた先を示す。また、血脈でいえば子を指す。leeſ ɪɒɪuel で「アマヴェルを子として」という意味になる。すなわち μɥəə/dɪɪl を指す。　アルバザードは夫婦別姓なため、親をまとめて指す場合「田中家」のようには呼べないので、子の名に leeſ を取って示す。 ［用例］ elſ hɪſcɪſ ɟɪɪl ˈleeſ ɥəəɒɪ. エルトはサールと恋に落ち、ユーマを設けた。 ſə eμˈle leeu{le} {leeſ} le eμec. この大河はあの川へ流れている。

leeſɔ ［地名］ケート、荊京 ［人名］ケートイア王 ［レベル］4　ſɒ;ˈleμ/ſɔ「森へ」。妙な語源に見えるだろうが、イスタンブールの諸説ある語源の中の e i s　s t i n　p o l i（街へ）と同じような造語で、こういうものは自然言語にもちゃんと見られる。　古 :leeſɔcɪ から ［文化］ ケートイアの首都。μɑ ではセレンが時魔導師メルと出会った地。 ［成句］ ɑɪcz ˈleeſɔ /cɟ ſcl ɟɪnse 盗人にも三分の理　lɪnɪ uɪɟſ ɑɪcz ˈleeſɔ ケート王を倒すために：大義名分を持って

leeſɔɥəəsc ［軍事］清教徒軍、ケートユージ ［レベル］6　lʃ0:leeſɔ/ɥəəsc ［文化］ ɥəəɒɪ lʃ1lʃ0 清教徒兵団、ケートイア義勇軍と挟撃してレスティリア軍をアデュで破る。彼らはまとまり、清教徒軍を名乗る

leeſɔcɪ ［地名］ケートイア ［レベル］2　lʃ1;ˈleeſɔ/ɑcɪ「ケートの街があるところ」 lʃlɔ ［文化］ メテの使徒イムルの支配地。

leeſɔcɪ(J) ［アトラスの国家］ケートイア、荊国。アデュなど、厳しいイメージが付きまとうため荊。同時に音符にもなっている。 ［レベル］2　lʃ1;ˈleeſɔ/ɑcɪ「ケートの街があるところ→首都ケートのある国」 lʃlɔ ［文化］ 面積：9ʃ0JP0.ΔΔL0JlM lɒ J　cɒəl 10 レスティルからケートイアが独立。アルバニ二世は対抗する戦力がなく、これを承認。レスティルをアルバザードと改名する。

leeſe ［形容詞］暴君な、偉そうな、尊大な、わがままな、暴虐な、邪知暴虐な、邪智暴虐な ［名詞］暴君、タイラント、フンチュン、黄君、馬鹿王、バカ殿 ［レベル］4　μɑ;ˈleeſɔ。μɑ 時代のケート王が邪知暴虐であったことから。　lɱ ［語法］ 王だけでなく偉そうな夫など、一般人にも使える。暴君のように振る舞う人全般に使える。

leeſen ［接続詞］leeſ ［レベル］4　ʃʃ

leeu ［物理］周波、周波数、振動数 ［レベル］4　1lɱ: 制 :lɪleeu（同じ波）

leel ［動詞］ɥel を ɪ に包む、包む、つつむ ［レベル］2　古 :μcɑcɪ: リディアは包装紙を指して leel といっていた。セレンは包装紙と思っていたがそうなのかは不明で、リディアに聞いても思い出せないどころか、そんなことがあったのかさえ覚えていなかった。語源はもはや不明。

leelſ ［化学］グロブリン。α、β、γ があり、前者２つはホルモン屋￥やビタミンを運び、γ は抗体として免疫の働きを持つ。　μſ;leel/eſ　lɱ

leelɒɪj ［名詞］包装紙、包装材 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 包装する紙

leelbɪll ［化学］保護コロイド　1L

lə ［動詞］ɥel を ɪ に言う、言う、云う、伝える← μenɟ ［名詞］言葉→ μenɟ ［類義語］μenɟ、ləɔ、ſcɟſ、dcɥɔ、hɪɒ、ɑlɪns ［レベル］1　ɑ;e　古 lə:lə: ［語法］ μenɟ ［成句］ lə lə よく言うよ、はいはい、言ってろ、ほざけ　lə lɪlɔl 無口な、口数の少ない　lə ɑcl よく喋る、口数の多い　lə lɔſ 言い出す

ləſ　lə/ɪſ

ləſɟ,ɑ　len　lə は口

ləſl ［被服］プラッターハット、ピザハット　jɒ;ˈləſɔ/lɔ「鳥頭」　lɱ

ləſɪ ［生物］くちばし、嘴 ［レベル］2　ɑ;ləſɔ.l　1ʔ: 制 : 古 :ˈləſɔlə（鳥の口）

ləſɪφ ［名詞］つるはし、ツルハシ ［レベル］3　ɒelſcɪ Δ:φclcəɟ;ˈləſɪ/φc　1ʔ: 制 :ˈləſɪ

ləſɪlɔhɔ ［アイテム］アーメット　μɑ;/「くちばしのある兜」　lɱ ［文化］ jɒ で作られた。

ləſɔ ［名詞］鳥、鳥類 ［生物］鳥網 ［レベル］1　ɑ;lə は生き物。　赤 :ˈləſɔ（鳥）　ˈləſɔ:ˈləſɔ:lə μjcel（天）［語法］ コウモリなどの鳥でないものや、ニワトリなどの飛ばないものも含む。　プロトタイプは鳩。

ləſɔˈlɔlen ［美容］プーフ　jɒ;　lɱ ［文化］ jɒ でできた。貴族の女性用。

ləſɔn ［動物］小鳥 ［象徴］可愛いもの、小さいもの ［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe: 鳥に指小辞の n がついたもの ［語法］ 可愛いもの、小柄なものの象徴。

ləſɔledɟ ［名詞］鳥葬 ［動詞］ɥel を鳥葬する、鳥葬する　μɑ;/　lɱ

ləſɔeμec ［地球の国名］ウルグアイ　1L: ウルグアイはグアラニー語でウルという鳥の飛ぶ川の意味

ləl　lə/cˈl

ləˈlc,ɑμɑ　ɪucl、ˈlɔˈleɪɔ,ɑ

ləˈlləl ［感動詞］くっくっく ［レベル］3　ʃʃ

ləˈl ［動詞］ɥel をきゃっきゃと笑わせる、きゃっきゃと笑う、くすくす笑う、へらへら笑う、笑う ［レベル］2　古 : 子供や女が笑う声のオノマトペ

ləˈɪ ［動物］鱸、スズキ、バス ［レベル］4　1lɱ: 制 :ɪlɪlſɪ:ˈləˈɪc（大きな口）

ləˈlc ［名詞］錠、ロック、錠前 ［動詞］ɥel（ドアなど）に鍵をかける、施錠する、鍵を掛ける ［反意語］lɔzeſ ［レベル］2　ɑu;ˈlc は「動き」を示す。錠前を動かすため。　赤 ˈləˈlc:ˈləˈlc:ˈləˈlc ［用例］ ˈləˈlc ɔɒc μɪnel ドアをしっかり閉める　hɔɒ ˈləˈlc 鍵を開ける　uɪjſ ˈləˈlc 泥棒などが鍵を開ける、正規の鍵以外でこじ開ける

ləˈɔlə,ɪlſ　ˈləc　lə/lɔ(ɪdɔſ)/lə

ləˈleμſ ［言語］喋り括弧 ［反意語］ɔjnˈleμſ ［レベル］4　ʃʃ

ləˈləlc ［言語］ククリ、ɑ、ɑu　古 :「言語」

ləl ［形容詞］くしゅくしゅな ［レベル］3　古

ləˈlc ［料理］シュークリーム ［レベル］2　1ʔ: 制 :ˈləl/lɪc

ləɟ　lə/eɟ

lən ［人名］クノンの略称 ［組み数字］２７/２８ ［レベル］1　制

lən,ɪlſ　ueſ　<>lə

lənueμɪnſ ［医療］依存性パーソナリティ障害、依存性人格障害 ［レベル］5　ul;ˈlənɔn/ueμɪnſ　lʃ:ɒel

lənc ［生物］触覚 ［類義語］ɔsnɪˈlɪ ［レベル］3　1L: 制 ˈləɒcɔnɔɪ

lənɔɒ ［色］えんじ、エンジ、臙脂 ［レベル］4　lʃ0:μcɑcɪ:ɒcμɔˈl:ˈləɒɔ/nɔɒ

lənɔn ［組み数字］２７/２８ ［交通］クノン通り ［レベル］2　lʃ

lənɔn uɪlbeɟ ［人名］クノン＝ヴァルベス ［組み数字］２７/２８ ［レベル］2　古 : 語源不詳 :uɪlbeɟ は「最後の人」 ［文化］ →ˈlənueμɪnſ　第４期４代ソーン第１３使徒。女性。ɒclɔɪ。１５８ｃｍ、４５ｋｇ。金色の髪で、５歳の頃の紫亞のように髪を二つに結いていることが多い。長さは肩より長い。青の瞳。肌は白 : 黄＝８ : ２。常にぼーっとしているように見える。たまにギョッと驚く。　・『ミールの書』による　　アッシュの左手にはクノンと呼ばれた女性がいた。彼女はリナと同じようにどこか気の抜けた雰囲気があるのだが、目つきからして元気がありそうな女性だ。　　ミールは自ら名乗った。すると突然リナがはっとして、「きゃっ！」と小さく叫んだ。その拍子に円卓の上のグラスを倒してしまい、中に入っていた水がクノンにこぼれる。ミールは思わずビクッとしてしまった。　「あぁあ、ごめんなさい、ごめんなさい！　私……ごめんなさい！」　　リナは慌ててハンカチを取り出し、クノンの服を拭く。クノンはその頃になってようやく「あーびっくりしたぁ！」と叫んだ。

lənɔnɔ uɪlbeɟ ［人名］クノノ＝ヴァルベス ［レベル］5　古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第１２使徒。異性魔王。

ləueμ ［普通動名詞］悪口、悪評、愚弄、けなし、貶し、罵倒 ［動詞］ɥel をけなす、けなす、貶す、愚弄する、ののしる、罵る、罵倒する、揶揄する ［反意語］hɪl ［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe :ˈləˈueμ。uεμˈl にすると uεnˈl に似るため、順序を変えた。　ɒɔˈləːɒɔˈlə ［用例］ ˈləueμ lcn neſ ɪl 人の悪口は言うな

ləɑ ［動詞］ɥel を ɪ に申告する、申告する ［普通動名詞］申告 ［レベル］4　古 :ˈləɑ ← ˈləɑəſɔ（口を取る）らしい。

ləɑɒɪj ［名詞］申告書 ［レベル］5　1lɱ: 制 : 申告の紙

ləɒ ［生物］［動物］動物、有生物、生物、生き物 ［類義語］ˈləlcu ［反意語］ſəl ［レベル］2　ɑ;lə は動物。赤

ləɒſəl ［動物］［植物］動植物 ［レベル］4　μɑ;/　lʃ

ləɒſəlɪɪ ［名詞］動植物園 ［レベル］5　μɑ;/　lʃ

ləɒlɪ ［名詞］動物園 ［レベル］2　μɑ;/　lʃ

ləɒɟɪd ［名詞］酸素の日常表現、酸素 ［類義語］jɪd、zɔɒlcl ［レベル］3　1L:clɒəj:μcɑcɪ: 動物が吸う

空気

ləɒɑcɪɒ ［生物］動物界 ［レベル］4 ɿ|

ləɒejɟe ［名詞］獣姦 ［レベル］4 μɑ;/ ɿʔ

ləd ［俗語］フェラチオ、フェラ、オーラルセックス ［レベル］4 古 :ləd（フェラチオ）←ləə（口）/dɔnnɔ（ちんこ）

lədn ［動詞］ɥəl を ɪ に寄生させる、ɔɔl は ɪ に寄生する、寄生する ［普通動名詞］寄生 ［レベル］3 1L:ləd⊃ncɪl（虫が依存する）

lədnleun ［医療］寄生虫病 ［レベル］5 1L

lədnɪn ［生物］寄生虫、寄生動物、寄生植物 ［レベル］4 1L ［語法］ 寄生の語源には虫が入っているが、この虫はアルカ独特の「気持ち悪いもの全般」の用法。実際に寄生虫という虫がいるわけではない。lədnɪn は寄生生物全体を指す。

lədnɔl ［生物］宿主 ［レベル］5 ɿ0

ləɒcleɥə,lʃɑ ɒɪlʃɟel

ləXɪ,ɑ uəɟn 「口のしっぽ」

ləɥə ［形容詞］［副詞］いわゆる、所謂 ［レベル］2 古 :ləɥə（言われる）［語法］ 挿入的によく使われる。 ［用例］lɪ eɾ ləɥə hɪɥɑcɪ. 彼はいわゆる聖人だ。

ləɥe ［植物］プルーン ［レベル］3 古

ləz ［俗語］クズ、屑、ダメ人間、クソやろう、糞野郎、ドキュン、ＤＱＮ、カス、かす ［類義語］beɔ、ləz ［レベル］2 ɑu;φɥəz.ʔ 古 :⊃uc(zɪnɪɡ):ɤ φɥəz（苦い奴）

ləzφcn ［経済］クズ商売、ドキュン商売、ＤＱＮ商売、賤業、虚業 ［レベル］4 ɿ1 ［文化］ → ɪlʃ ɪlɪɑ 馬鹿相手の商売。ギャンブル、たばこ、ブランドバッグ、スイーツなど、ドキュンの好む低俗なものを餌にした商売のこと。 ミロクは革命で排他しようとしたが、ミルギ氏の強い説得で維持することとなった。 ミルギ曰く、「馬鹿は殺さず絞るべし」。現実には９０年代のリーザの言葉で、最も早く呼応したのはメル。最後まで呼応しなかったのはセレンとリディア。２０１０にセレンが折れた。 ＜案外変わらない世界＞ かつてアルバザードを理想の国として作ろうとしたが、リアルに作りこんでいった結果、理想とリアルが相反することがあった。例えば交通。かつてアルバザードは車のない社会を目指したことがあった。しかしそれでは経済が成り立たないため、歩行者と自動車を完全に分離して、地下道路を発達させた。ところが現実にはスーパーマーケット等は地上にあるため、商品を搬入するためには、トラックを店までつける必要がある。従って店舗は車道沿いに存在することとした。そういった配慮のもとで人と車を分離してきたが、アルバザードが世界一の経済力を誇るという事を実現するためには、例えばこの交通においてもこのような社会システムをとっていること自体が経済の発展の妨げとなる。交通だけでなくこういった諸般の事情からリアルに考えていくと、経済的な問題でアルバザードが一番であることを維持するためには、どうしても現在の地球でいうところのアメリカや日本といった先進国の姿がある意味一つの答えと言わざるをえない。 それでは歩行者の安全をどう守るかだが、あらゆる道を広くして必ず歩道と自転車道路と車道を作る。さらに、信号はすべて歩車分離式にする。ーーといったことを実現するためには予算が掛かりすぎる。それにこれだと渋滞もひどい。また、作るだけならまだしもそれを毎年毎年維持していくとなると莫大な予算がかかり、税金を上げざるを得ない。税金をむやみに上げると国民の消費は冷え込み、経済全体の流れは悪くなる。限りある税金を効率的に使うために、ある程度の社会的な不便さは仕方ないといえる。もちろんそうした社会的インフラを作ることで雇用を生み出すことはできるが、むやみに公共事業をふやすとかえって経済に深刻なダメージを与えかねない。 社会インフラの不備により交通事故に遭って怪我をするものや死亡する者も出てくるだろう。そのような社会がとても理想の社会とは思えないが、リアルに考えるとそのようになる。理想を言えば誰もが働かずに安心して食べていける犯罪のない世界が理想である。しかしそれは架空の世界の中でもさらに架空のことであり、リアリティーを考えていくと、どうしてもそのようにせざるを得ない。結局のところ突き詰めて考えていくと、色々な細かいところで先進諸国の姿に似ていくこととなる。 ギャンブルについても同様で、ギャンブル自体がすごくくだらないことだと分かっていても、ではそんなくだらない商売は廃業してしまえばいいかというとそうでもなく、それで経済が回っているというプラスの面もある。ミロクのような人間は、そんなくだらない商売で回る経済などいらないと考えるが、それではアルバザードが世界一を貫くことができない。 例えばミロクはこう考える。ブランドのバックやギャンブルやたばこといったくだらないものに金を出すならその金で勉強したり本を買ったりした方が良いと。ところが実際それを国民が行った場合どうなるか考えてみよう。書籍というのは日本でもそうだが値段はたかがしれている。ギャンブルやブランド品等と比べると、非常に安い。日本でも高いと思われる本はせいぜい１冊５０００円ぐらいの学書だが、そういった学書でも、逆に言えばせいぜい５０００円くらいで買えてしまう。またそういった学書を読むのに何週間や何ヶ月もかかるものだから、月の出費などたかが知れている。もし国民が全員真面目になって学者のように本を読めば国民の学力は上がるかもしれないが、それだけでは当然経済は回らない。そう考えていくと、わざわざくだらないことに金をばらまいてくれる知能の低い層というのは逆にありがたい存在であり、マーケットを活性化させているといえる。学者からしても、そういったくだらない人間がくだらないものに沢山の金を使ってくれることで経済が回り、国が維持され、巡り巡って自分が研究をする環境が整えられる。そのように考えれば、まあ要するにバカも使いようということである。 ＜ls 以降＞ ɪlʃɪlɪɑ にもある通り、革命家たちは賤業を規制してきた。ミロクも規制した時期があったし、ls のセレンは完全に殲滅した。

ləzejʃ ［俗語］Ψ8A ネーム、ドキュンネーム、キラキラネーム ［類義語］ləlceɟʃ ɪl;/「クズの名前」［レベル］4 ɿʔ ［語法］［文化］ → eɟʃ, eɟʃlɪnφ, ləlceɟʃ 発展した先進国で少子化が進むにつれ、主に低学歴層から徐々に増加する性質を持った個性豊かな名前のこと。 ２０１２年の日本でいうところの光宙（ぴかちゅう）や美妃（みっふぃー）などのことを指す。 ɪl ごろからアルバザードでも徐々に増え、社会問題となった。例えば lələ–ɟɪd–ɟɪlʃ–ʃeezeɒɒn など。これは現実でもクリスが子供の名に付けようとしてリディアから猛反対にあった。

ləocnz ［生物］完骨 ɿ1: 口の歪みを取るのにも用いた

ləl ［名詞］話、ストーリー ［動詞］ɥəl を ɪ に話す、話す、伝える、言う ［見立て］液体 ［レベル］2 古 :ləl,ʔəɪl（言われたこと（但しこれは多義語））［用例］ eʔlɔɒ {eʔlɔɒ e ʔəl} 話の流れ lɔɔ ʔlʃ ɪl eɑɪɾ ɔn ʔəl jcɑ cɒ hɪɥd. 昼、祖母と昔の話になった。

ləlɪn ［形容詞］空腹な、おなかがすいた ［類義語］ɪlɪd ［反意語］ɑecʔ ［レベル］2 ɿ0: 古 ʔəc lɪn（食べたい）［用例］ nɔn ejʃ{eɾ, ʔəɥ} ʔəlɪn. おなかがすいた。お腹が空いた。お腹がすいた。

ləlɪɒɪ ［被服］胴着 ［レベル］4 ɿ1:ləjcɪn:ɪlʃ ［文化］ アルティアからルティアに伝わった服で、剣道やなぎなたやなどで袴とともに着られる。日本の弓道着のような袖の長い、剣道着より柔らかい素材のものである。日本と異なり、普段着にもなる。ul 以降、アルバザードでは日本のような体育会系を象徴する服ではなく、むしろ古風な人柄を想起させる。

ləlɪlɪ ［料理］食べ物、料理、飲食物、食事、ごはん、食料、食品、飲食 ［レベル］2 ɑ;ʔə/ɪl/ɪl 赤 ［成句］ ʔəlɪlɪ lɪɑ ɒɪcn 医食同源

ləlɪlɪuenʃ ［名詞］食品会社 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［語法］ ʔəcluenʃ と区別。

ləlɪlɪdcʃl ［医療］食中毒 ［レベル］3 1L

ləlɪlɪμez ［医療］［料理］ダイエット、食事制限 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ 痩身改善も含む。

ləlɪlɪɪsɪ ［経済］エンゲル係数 ［レベル］4 μf;/「家計における飲食物の占める割合」 ɿʔ

ləlcu ［動物］獣、けもの、けだもの、動物 ［類義語］ʔəɒ ［レベル］3 ɾɒ;ʔə/lcuμɔ「動物 / 命」 ɿʔ

ləlcuʔɪμɑ ［動物］獣弓類、獣弓目 ul;「獣の目」［レベル］6 ɿʔ

ləlcuμɔ μəɒɪ ʔə/lcuμɔ「命のある動物」

ləlɔe ［アイテム］クロエ、命水晶、クリスタル ［類義語］ɑlcɪ ［レベル］4 古 :ɑəlɒccɪ: 元は小説版アンクノットの喋るクリスタルの名前。すなわち ʔə/lɔ/e（話して考える透明なもの）。 ［語法］ ヴィードを蓄えた特殊な水晶が ʔəlɔe。 ［文化］ ɑlcɪ 単なる水晶のクリスタルではなく、アティーリに登場する大量のヴィードを秘めたクリスタル。意思を持ち、会話することができる。

lələɪ ［美容］シニヨン、シニョン、まげ、丁髷、ちょんまげ、おだんご ɪlʃ;<>ʔələl ɿ1

lələɪ,jzɑ elɑ <>ʔəlɔlc

lələ ［魔法］造形術、クルル ［レベル］5 古「作る」［文化］ 神々の使う魔法で、物質を生み出す魔法。ユーマの一族にはこれがなかった。また、神であっても剣や家といった小さいものしか造形できない。

lələ,ɑ lɪɑ l は「物」

ləleʔlɪlcl ［名詞］独裁者、革命家、殺し屋、アサシン、暗殺者、ギャンブルのディーラー、ディーラー、クルルカリル ［レベル］4 ɑu;「墓を作る者」 赤

ləɪn ［名詞］話し手、話者 ［レベル］2 ɿ0

ləc ［動詞］ɥəl を食べる、食べる、食う ［反意語］len ［類義語］ɪʔə ［レベル］1 ɑ;ʔə 古 ʔəc:ʔə c::ʔəʔə,ɪlʃ ［用例］ ɪn ʔəcʃ lɪl uecn. もう少し食べたかった。 ɪn ʔəcʃ hɪμl ɑə μɪl. 昼に食べ過ぎた。 ɪn ʔəcʃ ɑə μɪl enʃɔ nɪl pelcj. 気持ち悪くなるほど食べた。 ɪn ʔəcʃ lɪl eɒ ɑc jɪ pɔʔ. 寝る前に何か食べたくなった。 ɪn ʔəcʃ ɥəə. 何も食べなかった。 ɪn ʔəc ʔe uɪn hɪμl ʃɪnʃ μɪ. 昼食は外食しにいく。

ləcʔ ［動物］モズ ［象徴］残酷 ［レベル］3 ʔʔ: 制 : 古。前期古アルカ ʔəcʔəʃɔ（食べる鳥）

ləcʔɔn ［料理］食器 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ フォークなど、手の持つほうは材質は金属か木。子供用には木が好まれる。茶碗など、椀類は陶器か金属か木かプラスチック。子供用には木が好まれる。プラスチックは食事がまずくなると言われ、不評。料理の種類からいってアルバザードはナイフとフォークを使って食べる。ただ、箸も普及していて皆使うことができる。用途に合わせて箸も使う。箸は中国のように長いものではなく、日本のと同じように短い。料理は大皿から自分の小皿に取って食べる。席から遠い場合は人に取ってもらう。箸で渡すのは無礼。菜箸を使って皿に盛ってから渡す。食器は木製や金属製のものがあり、陶器のものもある。箸にしても金属製のものと木製のものがあるが、料理によって使い分ける。

ləcʔɔnʔlcb ［名詞］食器棚 ［レベル］3 ɿ|

ləclɪz ［料理］賞味期限、消費期限 ［レベル］2 ɿ0 ［用例］ ɥʔll{μɪʔ} ʔəclɪz 賞味期限を過ぎる

ləcnɪ ［医療］［料理］食欲 ［レベル］2 μɑ;/ 1L:lcɔn ［用例］ ʔəcnɪ eleɟ eɒ ɑɔʃ cɒ ɪlcɟ. 秋になると食欲が出る。 ʔəcnɪ lcu 食欲が少ない、小食だ：本人のふだんの性向を示す。 ʃcl ʔəcnɪ 食欲がある：その日の体調を示す。 ɪn jc ʔəcnɪ ɒɪn ɪn ʔəcʃ dɔɑ lel ʔəcljɔu. おやつにパンを食べたので食欲がない。

ləcnɪɥə ［医療］摂食障害 ［レベル］3 1L

ləcɒ ［文頭純詞］そういえば、思えば、そういや ［レベル］2 古 :ləc,ʔəcɒ（今言う）［成句］ ʔəcɒ ɔn ʃ ʃ といえば、～といえば、～と言えば

ləcl ［料理］食事、飲食 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ:ʔəc/ɔl ［語法］［文化］ ɑɪɪl, hɪμl, ɾəəl, ɑənel の総称。食事の量は少なく、栄養重視。小食でもアルバザードは食料品が高く、エンゲル係数が高い。食事は朝・昼・夕・夜の４回。食事量のウェイトの置き方は家庭によって異なるが、タは必ず軽食。品目数にこだわる習慣はないが、「これはタンパク質、これは炭水化物、これはビタミン」など、必要な栄養素が献立にあるかどうかは気にする。特徴的なのは、人種によって洋食と和食の比率を決める点。ləlcɪn は和食１回洋食２回、ɥəlɪn は和食２回洋食１回が腸に適応しているというような説を信じている。アルバザードは人種のるつぼで、しかも食糧危機に瀕した経験が少ないため、マナーがほとんどないといっていい。わざわざ汚らしく食べるというようなことをしないかぎり、誰も気にしない。食事中の会話はＯＫ。 ［成句］ ʔəcl eɾ dcɾl 医食同源 ［用例］ ʔəc{μɥ} ʔəcl 食事をする ɪn nɪʃ bɪn ɪ ʔəcl. 食事を楽しんだ。 ɪn ɾɪɑ ʔəcl μɥ ɿl ɾɪʃ jel μɪnel, ɾɪl ɪn ʔəc lcɪ ɥ. きちんと４食食べるが、さらに間食もする。

ləcljɔu ［医療］食間 ［レベル］3 1L ［用例］ ɪn len bɪʔɒ cɒ ʔəcljɔu. = ɪn len bɪʔɒ jɔu ʔəcl. 食間に牛乳を飲む。

ləcluenʃ ［料理］外食産業 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ləclez ［建築］食堂 ［レベル］3 1L

ləcɔɒ ［料理］食べ方、マナー、食事作法 ［レベル］3 μɑ;/ ɿʔ

ləcelʃ ［料理］食べ残し、食べカス ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ:elʃ で造語しているのは鼻くそなどの応用だろう

ləcelɑ ［普通動名詞］食い逃げ→ elɑ ［レベル］3 ɿ|

ləɔ ［生物］口 ［動詞］ɥəl を自然と言う、言う、思わず言葉が漏れる、呟く ［類義語］ʔəə、ʔəəʔə ［レベル］1 ɑu;ʔə.ʔ 19: 制 ʔəɔ:ʔəɔ:lɪ dəl ［成句］ cl ʃcl ʔəɔ ʔɔʔ 異口同音 ［用例］ ɪn ɔuɪʃ eμ dɔʃ ʔəɔ ʔɔμ ɑcdcʃ. 口の中で水をあちこちに動かした。 ɑə ʔəɔ 一口

ləɔʔɪ ［音楽］マウスピース（楽器の口を当てる部分）［レベル］4 19: 制 : 口の場所

ləɔʔɪɔj ［軍事］口径 ［レベル］6 μɑ;φeʔʔəɔ/ʔɪɔj ɿ|l ［文化］ φel

ləɔjcɪs ［言語］［生物］口蓋 ［レベル］3 1L

ləɔɑeeʃɑel ［言語］調音音声学 ［レベル］6 1L

ləɔɒ ［名詞］言い方、口調 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj

ləɔɒcll ［専語］おし、聾唖 ［レベル］3 ɿ1 ［文化］ 使わないこと。 ［成句］ ʔəɔɒcll ɑɪjɪn 生き残った聾唖：言わぬが花、沈黙は金なり。残虐なケートイア王に呼ばれた二人の男がいた。琴の演奏の意見を求められ、片方は答えたが穿って解釈されて処刑された。片方は聾唖で喋れず、無言で頷いていた。一言も褒めることのできなかった自分は殺されるに違いないと恐怖に震えた男は泣き出した。すると感涙したものと誤解した王に気に入られ生き延びることができたという寓話から。

ləɔɑejdɪ ［名詞］猿轡、猿ぐつわ ［レベル］4 制 ［語法］ さるぐつわなどの口を封じるものなら何でも良く、ハンカチやギャグボールでも良い。

ləɔheʃ ［名詞］一部始終、徹頭徹尾、終始一貫、首尾一貫 ［レベル］3 ɿ|

ləɔμejɪ ［地名］クオレスク、竜の口 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:ʔə/ɑμeʃcj/ʔɪl（竜の口の所）［文化］ ユピトールとイールゥートを竜の口に見立てたもので、その間にある海のこと。シェルタージュが眠っていた。

ləɔscɒ ［生物］口腔 ［レベル］4 19: 制 : 口の腔

ləɔl ［名詞］台詞、せりふ、セリフ ［レベル］3 19: 制 :ʔə ［用例］ ʔəɔl dcɔʃ くさいセリフ

ləe ［生物］唾、つばき、唾液 ［レベル］2 古 :ləe（唾）。原義は「口の水」。

ləel ［生物］よだれ、涎 ［レベル］2 ɿ0:ʔəe（唾）と ɒɔe（滝）から。ɒɔe の元が ɒɔel であるため、l が添加。

ləelɪbe ［被服］よだれかけ ［レベル］2 ɿ0: 涎の布

ləelc ［人名］クエリ ɿ| ［文化］ μɑ のリディアの飼い猫。翼の生えた白猫。メス。

ləə ［μenʃe］おくち、お口 ［レベル］1 ɿ0:ɒel: 古 ʔə

ləə,ɑ uɪu ʔə が動物なので「動く」とかから「運動」の意味になっているのだろう。

ləəʔə ［幼児］お口、おくち ［レベル］1 ɿ0:ɒel: 古 ʔə

ləənɔ ［言語］ʔəənɔ/ʃecμɪ ɿ|

ləənɔ/ʃecμɪ ［言語］［文字］クーノステイラ、？記号、?、クエスチョンマーク、急下降調→ ʔəənɔ ［レベル］2 ɑ;ʔə は「言う、口」で nɔ は「疑問」。 古

ləən ［単位］クード ［レベル］5 ɿ1: 古 ʔə/nə「一口量」［文化］ ɪnʔɔ

ləədɔ ［動物］昆虫 ［類義語］uelcz ［レベル］2 ɑ;ʔə は生き物。 赤 ʔəədɔ:ʔəədɔ::φɪn ［語法］ 節足動物門の昆虫網のこと。ふつうのアルバザード人はアリのような形をしたもの程度にしか考えておらず、クモも ʔəədɔ だと思っている。

ləədɔ/ɪlʃ ［生物］昆虫網 ɿ|

ləədɔucl ［医療］虫刺され ［レベル］3 ɿ0:jeμen

ləəhe ［アトラスの国家］クーヘ ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: 舌（長いので）

ləəhe(J) ［地名］クーヘ ［レベル］5 ɿ0:μcɑcɪ: 現 ʔəəhe と同じ名だが、古アルカなので正式なスペルは ʔəəXe。 ［文化］ 古代国家のひとつ。カスティアルの西。

l

lʃɪʃ ［名詞］引き出し ［反意語］zɪʃ ［レベル］3 ɿ0:lɪʔlɪ:lʃɪ（引き出しを引くオノマトペ）［用例］ leʃ{ μɔʔ} lʃɪʃ 引き出しを出す { 閉める }。hɔɒ/ɑeɥə でも可。

lʃɪn ［名詞］ナプキン。テーブルクロスは別。 ［レベル］3 ʔʔ: 制 : 食事布 ［用例］ hɪn(eɒ) lʃɪn ɪl elen 机にナプキンを広げる

lʃɪɒ ［動詞］ɥəl を ɪ に立たせる、立たせる、立つ ［文字］ローマン、立体、正体、正字体 ［反意語］ jʔcn ［レベル］1 μɑ;jʔcn.ʃeel @ 1L: 古の zɪnɪ は使徒の現在の名と重なるので避けた。 zɪnɪ: zɪnɪ ［成句］ lʃɪɒ ɒɔʃ nene ～の側に立つ、仲間になる lʃɪɒej ɑeɒɹel 呆然と立ち尽くす

lʃɪɒnɪnɪ ［地学］［歴史］オロシリアン ul;/ ɿʔ ɥɪɪueɑeɒe

lʃɪd ［美容］ムース ［化学］フォーム。ホイップクリームなど。 ［レベル］3 古 :ɑɔueʃ ［用例］ eu lʃɪd ɪ ncɪ 髪にムースを塗る

lʃɪɸ ［名詞］上下、上下方向 ［数学］z 軸← lɪlɸecn ［レベル］2 1L:lʃɪɒ/ʔɔɸ（立つ方向）

lʃɪɸʔeu ［言語］タクソノミー ［レベル］5 1L: 上下方向の比喩

lʃɪɸhɔl ［名詞］ピッチ、x 軸周りの回転、上昇旋回 ［レベル］6 ɟ1

lʃɪɸɪnɔz ［音楽］オルタネイトピッキング ɟ1

lʃɪɸez ［名詞］エレベーター、リフト ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe: 上下動する部屋。エスカレーターのように ɔu ～とすると、日本語で「エスカレーター」と「エレベーター」を間違える人がいるのと同じことになると思い、造語の発想をあえてずらした。

lʃɪl ［名詞］行列の各列、列 ［魔法］晄基配列の列 ［レベル］2 ［反意語］jɪʔj ɟ0:ɒelcɑcɪ lceɸ:lʃɪɒ/ɟɪɸ → lʃɪɸ → lʃɪl（言いにくいため） ［語法］ jɪʔj

lʃɔʔ ［数学］弧度、ラジアン、平面角 ［レベル］5 1ɸ: 制 : 古 :ɪlsʃɔʔ（弧の度） ［語法］ 円の半径と同じ長さの弧に対する中心角のこと。例えば単位円（半径１の円）で考えると、弧は半径と同じ１になる。円周は２パイである。円１周分の角度は３６０°であり、求めたい角度を ʮ とすると ,「２パイ : １＝３６０°:ʮ 」という式が成り立つ。すると ʮ＝３６０/２パイで、パイ＝３．１４１５９とすると、ʮ≒５７．２９５８°である。この値を１弧度 (＝１ラジアン) と呼び、アルカでは１シュトックと呼ぶ。

lʃel,ul eɟɪ

lʃʃ ［擬音］しゅー。電車やバスのドアが閉まる音。ドアそのものの音でなく、開閉時に生じる空気圧の変化による音。 ［感動詞］しーっ、静かに ［レベル］1 1L:ɜnclec

lʃɪcn ［軍事］同盟 ［レベル］4 ɟ0:ʃlclɒɪcn

lɪ ［動詞］ɟɔl は ɣɜl（場所）にいる･ある、いる、ある、居る、おる、有る、存在する、在る ［文末純詞］～だ、～だった。気付きを示す。 ［法副詞］状態動詞の無相を示す ［レベル］1 ɑ;lɪ/ɪl「ある物」 古 lɪl lɪl:lɪl:lɪlɜl ［語法］ ・t h e r e i s と S i s T h e r e i s a d i c t i o n a r y o n t h e d e s k もT h e d i c t i o n a r y i s o n t h e d e s k も ʔlɜl lɪ hɪl le elen となる。 ・居続ける 「居続ける」の場合、lɪ lɪlel でなく lɪl だけでよい。 ・「有料」と「無料」 lɪ（接頭辞）:lɪφɪɸʃ（有料） ɒc（接頭辞）: ɒcφɪɸʃ（無料） lɪ,ɒc は ɑc,ʔɪlɔ と同じく形容詞的に使っている。 本来 φɪɸʃʃcl などと言うべきところを、lɪφɪɸʃ と言っている。 φɪɸʃʃcl が煩雑なのと、「母なし」などの意味を表わすときは lɪɪlɔc よりも ɒclɪɪl のほうが理解しやすいため。lɪ は静的な動詞であるため、特別に派生語中では形容詞として使われ、ʃcl に相当する意味を持つ。派生語では形容詞的な接頭辞として働くことに注意。 ［用例］ lɪn ɑc lɪʃ ɪʃə. そこにはたくさんの人がいた。 ɟ)cn lɪ 座っている : ɟ)cn の状態動詞の無相。

lɪʃ lɪ/ɪʃ

lɪʃʃɪ ［文末純詞］［dɔʔɒ］ʔɔʔ ［レベル］1 ɟ1:eʔeʃɔne:ɪl ɪɪʃɪɸ「そうですよね？」

lɪʃcɒ ［生物］真核生物 ［レベル］4 ɟ0

lɪʃɔɑ ［電算］オンライン ［レベル］3 ɟɟ

lɪʃeɒ ［形容詞］素直な、人の言うことに耳を傾ける ［反意語］ɒcʃeɒ ［レベル］3 ɟ0: 耳のある ［語法］ lɪʃeɒ は欲望に正直なとか、人の好意などを素直に受け入れるといった意味の素直さではない。その場合は hɔɒ ɲ ɪ を使う。 ［用例］ lɪn lɪʃeɒ ɜlɔ jen ɟɔɒen nɔɑ lelen. 賢い人間より素直な人間のほうが高みに昇る。(ɒenɟ ɥɸ)

lɪʔ lɪ/ɔʔ

lɪʔɪɪd ［名詞］ファックス、ＦＡＸ、ファクシミリ ［レベル］4 ʔʔ: 制 : 絵を送る電話。電話回線を用いたことから。 ［文化］ レイユでは既に廃れている。スキャナで取り込んだ画像を端末で送る方が一般的である。

lɪʔl ［形容詞］シャリシャリ、サクサク、さくさく ［レベル］3 古 ［語法］ 歯ごたえがあって瑞々しく、それでいてどろどろしていないさま。レタスなどの食感に使う。触った感じにも使えるので触感でもある。砂のシャリシャリではない。ポテトチップスはむしろパリパリなので ɒcʃj。ɒcʃj はパリパリ、カリカリでクリスピーなさま。

lɪʃj ［普通動名詞］［生物］孵化、ふ化 ［動詞］ɣɜl を孵化させる、孵化する、ふ化する ［レベル］3 ʔʔ: 制 :lɪʔc

lɪʔn ［植物］レタス、チシャ ［レベル］3 ʔʔ: 制 :lɪʔɪ: では lɪʔlʃ シャリシャリするもの」

lɪʔl ［動詞］ɣɜl に気がつく、気がつく、気が付く、気づく、認識する、気付く、悟る ［類義語］nɪlɔ ［反意語］uen ［レベル］2 ʔʔ: 制 :lɪʔɔl（存在を知る） ［語法］ lɪʔl が広義で、nɪlɔ が狭義。nɪlɔ は潜在的には気づいていたが自覚には至っていなかったものが意識に登ってきたときに使う。特に心情を表わすときに用いやすい。 ［用例］ lɪʔl jɪnse 原因に気がつく、心当たりがある

lɪʔlɪɔnɑ ［名詞］明晰夢→ ɑelnɔɪ ［類義語］ɑelnɔɪ、lɔnɑ ［レベル］4 μɑ;/ ɟʔ

lɪʔɪ ［名詞］位置、ポジション ［物理］位相← eeulɪʔɪ ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［用例］ sɪl lɪʔɪ ʃəəl これの位置を決める

lɪʔɪl ［アイテム］打刀 ʔl;lɪlə/ʔɪlc ɟɸ

lɪʔc ［名詞］卵 ［生物］卵、たまご ［レベル］2 μcɑcɪ: 古 :lɪʔc（卵）。卵が割れるオノマトペが lɪʔc であり、それが語源。 ［文化］ 通常鶏卵のこと。

lɪʔcdcnɑ ［医療］卵形。鍼尖の一種。 μɑ;/ ɟɸ

lɪʔe ［名詞］カスタード ［レベル］3 ɪlʔlɪ

lɪl ［動詞］ɣɜl を ɪ に教える、教える ［反意語］jcɟl ［名詞］授業 ［名詞］教え ［レベル］2 ʔʔ: 制 : 古 :l əlɔ（習う） hel:hel::jen,ɪlʃ ［文化］ clɒ 授業が八時から始まる学校の場合、実際には十分ほど前に来て朝礼を行う。担任が出席確認や何らかの告知をする。その後授業に入る。授業は一コマ五十分である。休み時間は十分で、合わせて一時間である。八時から始まる学校の場合、十二時までに四コマの授業がある。頭を使う難しい学問はこの時間に集中させる。四時間が終わると昼休みである。二時間ある。三十分で昼食を採り、一時間ほど歓談などをし、三十分ほど寝る。寝る場所は主に校庭である。軒の下と空の下がある。雨の日は軒の下に集まる。皆思い思いに芝生などでうつらうつら眠る。昼休みが終わると二時間ある。そこから五時まで三コマの授業がある。ここでは午前の復習や、複雑に頭を働かせない種類の学習に勤しむ。五時になると担任の教師が終礼をする。今日の変わった出来事や明日以降の行事等に関する告知を行なう。そして十分間ほどで解散となる 授業はチャイムと同時に始まったり終わったりする。時間に正確に終わらせたり始めたりするのが教師の義務である。ゆえに生徒はチャイムが鳴ればまだ話が終わってなくとも退席して良い。教師はチャイムが鳴る前に必ず終わらせようとする。誤って長引かせてしまい、もし鳴ってしまえば教師は「チャイムが鳴りましたので、申し訳ありませんが、ここで中断させていただきます」と謝辞して即座に終わらせる。生徒にしてみれば中断されるので続きが気になる。これは中途半端で良くないことである。だから教師は尚更時間通りに終わらせようとする。 授業中、教師は生徒に名指しで質問して答えさせる。また、生徒が教師に質問することもある。時間の都合上長くなる場合は個別に後で生徒を呼び出す。 授業中にトイレに行くのは自由である。断りなしに退席して構わない。また、事情があって帰る場合も自由に退席できる。むしろ一々名乗りを上げて報告するのは授業を中断するので迷惑である。教師側もトイレに行ける。ただ、生徒とは立場が違う。教師は一人しかいないわけだから教師がトイレに立つと授業が中断してしまう。だからできれば事前に行っておくのが好ましい。 尚、私語は厳禁である。授業は録音されているため、私語は慎んでもらう。私語をすれば退席させられるし、最悪退学させられる。また、授業中に関係のない行動を取ったり、騒いだり、暴れたりしても同じ処分である。因みに、寝るのは構わない。誰も注意しない。但し、鼾がうるさいと起こされる。 ＜授業のデータ化＞ 全て授業の内容はレコーダーに記録され、日付とクラスと教師と学科が記載された上で電子データの形で保存される。全ての授業内容は閲覧可能であり、図書館が管理している。 ［用例］ ʃeμ lɪl 授業を聞く、授業を受ける、授業に出る lɪɑʃ ɪ lɪl 授業に出る、出席する ɪnj ʃcl ɸ lɪl hɔʃ ʃ"eμɪɒ ɔʔj 1 jel ɪlnɔɑ ʔejʃ (lɪnʃe 明日から１日に授業が午前中の４コマだけになる♪ ʃəμ, lɪl eɒ ʔcʃ. さあ、講義が始まる。

lɪlʃ ［名詞］研修会、ゼミ、ゼミナール ［レベル］4 jɔμn:「クミールがソーンにアルカを教えるときの集まり」 ［用例］ ɑɪlʃ ɪ lɪlʃ ゼミに出る

lɪlɪ ［名詞］箒、ほうき ［動詞］ɣɜl をほうきで掃く、掃く ［レベル］3 ɸ: 制 :lɪlʃɪ:lɪlɪ（竹箒で掃く音） ［用例］ ɪn lɪlɪlʃ μe. 雪を履いてよけた。

lɪlɪɪ ［名詞］教えるところ、学校、学び舎 ［交通］教習所 ［名詞］寺子屋、私塾 ［類義語］ɑeɸɪ、ɑeɸc ［レベル］3 ɟɟ ［語法］ 広義には教えるところ全般。狭義には ɑeɸɪ より小さな私塾。

lɪlɪɪ ［音楽］マラカス ［レベル］5 ɟ1: 擬音

lɪlɒcɪ ［名詞］シラバス、講義要項 ［レベル］6 ɸ: 制 : 講義の概要

lɪlɒyəɔcn ［普通動名詞］授業参観 ［レベル］3 ul;/ ɟɸ ［用例］ ɪnj ʃcl ɸ lɪl ʃ"eμɪɒ hɔʃ ɒcl lɪlɒyə ɔcn cɒ ʔejʃ. ɑɔʔ ɸʔ ɑec ɪʃʃ 1 lɪlʔ 明日は授業参観で午前の４コマだけだ。しかも１コマ４５分！

lɪlɒɪcjəelɪn ［名詞］教育実習生 ［レベル］6 μɑ;/ ɟɸ

lɪlɪ ［名詞］はけ、刷毛 古 : 音から

lɪlɪn ［名詞］先生、教師、指導者、講師 ʔʔ: 制 ::uμecn ［語法］ 敬称としては使えない→ lɪnlɪ ［用例］ ɪn uɪjʃɪʃ ɪμnɪɒɪnɪ ɒcl lɪlɪn. 先生のおかげでアルナ大に合格しました：教師本人に語りかけるときは lɪlɪn ではなく ɑɣəjjɔə, ʔeɪ ないし lɪnlɪ。 ɪn eɒ lɪl lɪlɪn μɪʃ. 良い先生になりたい。

lɪlɪnbɪlj ［名詞］教師棟 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

lɪlɪnez ［名詞］職員室 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ 日本のような職員室はない。教師の部屋は全て個室である。その他に教師が集まって会議をするときに使う会議室がある。個室は六畳程度の広さである。本棚や机などが置いてある。ただの講師でも部屋がきちんと割り当てられている。教師の数は少なくないので、その全てに部屋を割り当てると大層なスペースがいる。そのため、教師がいる部屋は校舎と繋がった別棟にある。教師棟である。教師は一日のうち、全てのコマで授業することはない。連続しても二、三コマである。そのため、教師は授業が連続する場合は部屋に帰らない。必要な資料を鞄に入れて教室がある学生棟へ向かう。そして授業が一段落つけば部屋へ戻る。また、職員棟には学科ごとの事務室があり、事務手続きの一部をここで行う。

lɪlez ［生物］脊椎動物 ［レベル］4 1L ［語法］ 脊椎動物と無脊椎動物の区別はアルカにもある。人間にとって身近な動物とそうでない動物を分けるために、この分類は自然。しかし生物学上は、脊椎動物は脊索動物の亜門に過ぎない。

lɪl e lecn ［ユマナ］［言語］はじめてのアルカ、はじアル ɟʔ

lɪj lɪ/ej

lɪjɪd ［言語］有気、有気音 ［レベル］6 1L

lɪn ［名詞］真、真実、真相 ［形容詞］本当の、真実の、真の ［文頭純詞］本当は ［副詞］本当に、本気で ［類義語］ɣəlcef ［反意語］enl ［レベル］2 ʔʔ: 制 : 古 :lɔn（真実）← lɪn（実在の、存在するもの）← lɪl（存在）。まず lɪl から lɪn が生まれた。次に真実と実在を使い分けるため、母音変化したものの lɔn が生まれ、こちらが専門で真実を請け負った。やがて本当を表わす日本語語源の hɔnʃɔɔ が現われたが、これが新たに現われた本当を表わす ɣəlc に追いやられて消える。この間に lɔn と lɪn の使い分けは消え、lɔn は実在の意味も表わすようになった。この lɔn は古の lɔnʔlɪbə（現実（実在する世界））に残っている。一方、本当の意味を表わすのは専ら ɣəlc であったが、『ミールの書』で日本語の「真」という語が繰り返し使われたため、訳者であるリディアらが ɣəlc の代わりに語形が同じな lɔn を復刻させた。そして制アルカでは lɔn が残った。lɔn を「真」起源とするのは誤りで、それだと lɪb の語源となっている古アルカの lɔnʔlɪbə の存在が時間的に説明つかない。 ::lə ɒclʔɔ（hɪɔn が男性）［成句］ lɪn ɣən clɪ le ɒed lɪɑ 鏡が造る像のように真実な el jccz ɑɔnl lɪn ʔɔnʃ neʔʃ ɑɔnl ʃə lcjʃel. 真実は喧伝するものでも謙遜して隠すものでもない (jeμen ɪμbɪzɪμə) el ləʃ lɪl ɪl ʃccʔ ʔɪ lɪn. 真実は常に堂々としていればよい (jeμen ɪμbɪzɪμə) lɪn lənɪ lej lɪl ʃə ʔɔnʃ ɑcɪ ʃɪn jɔ. 真実は求める者の前に現れる。そして幻想もまた求める者の前に現れる (jeμen ɪμbɪzɪμə)

lɪn(J) ［文末純詞］［μenʃe］ lɪ ［レベル］1 1Δ:μcɑcɪ

lɪnʃ ［動詞］ɣəl を ɪ に送る、送る、贈る ［名詞］プレゼント、ギフト、贈り物 ［動詞］人を ɪ まで見送る、人を ʔɪ で見送る、見送る→ ɣəleu ［文末純詞］～してあげる、～してやる、～してくれる ［電算］［名詞］［動詞］アップロードする、送信する :1L:μcɑcɪ: アップロードと厳密に言う場合は lɪnʃ ɪ dɔl eʃ → neɑ ［法律］贈与する ［類義語］ɪdel、jeɑcμ、neɑ ［反意語］ɒcl ［レベル］2 ɑ:elʃ;e jɔμn: アンシャンテが原義 lɪnʃ:lɪnʃ:jeɑcμ ［用例］ ʃə lɪnʃ eʃ lej ɪn lɪlɪʃ ɪlɪɪl. このプレゼントは私が一番ほしかったものだ。 ɪn dɔɔ uɪn ʃc lɣə lɪnʃ. 俺がそこへ連れてってやるよ。 lɪnʃ jeɑcμ プレゼントを贈る

lɪnʃɑɪcμ ［経済］［法律］贈与税 ［レベル］5 ɟ1 ［文化］ 控除額は年間日本円にして３００万程度 (pelJ1) で、相続税の７００万に比べて甘い（２年数カ月分にしか相当しないので）。その代わり取り締まりが厳しい。 相続税の控除額が７００万なので、資産が７００万程度ならば３年かけて生前に贈与しておくこともできる。３０００万もあれば消化に十年もかかるため、この法律は中産階級以下に甘く、金持ちに厳しい。ミロク革命らしい制度と言える。

lɪnʃɪn ［魔法］仙術、仙人術、仙道、タオイズム ɪlʃ ɸɸ

lɪnʃɪμ ［名詞］発信機 ［レベル］4 ɟ1

lɪnʃɪlceʃ ［名詞］残念なイケメン、残念な美人、シャンタリエット ［レベル］5 μɑ;lɪnʃe/ɪlceʃ「左右非対称な満月」 ɸɸ ［語法］［文化］ 見た目はいいのに性格や趣味や言動が変だったり人に理解されなかったりして、見た目ほどモテない人のこと。セレンやリディアやメルなど。

lɪnʃc ［化学］飽和 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:lɪnʃe

lɪnʃcn ［ジョブ］仙人 ɪlʃ ɸɸ

lɪnʃcμ ［植物］プリムラ ɟ0:lɪnʃe。春を呼ぶという意味。アルバザードでは見ごろが立春。

lɪnʃcμʔ ［化学］飽和結合 ɟ1

lɪnʃcμʔeɔ ［化学］飽和炭化水素 1L

lɪnʃɔɔʔ ［娯楽］トゥルーエンド、トゥルーエンディング、ＴＥ、ＴＥＤ、ＴＲＵＥ ［レベル］5 ɪl;/ ɟʔ

lɪnʃe ［天文］満月。日本の満月より幅が広く、月相１４からプラスマイナス１ほどである。つまり日常的には ʃəuɪnlɪnʃe と leeuelɪnʃe も lɪnʃe に含める。 ［名詞］北 ［名詞］［形容詞］食べ物がちょうど熟していて食べ頃である、熟した、熟れた、ういた、熟れる、うれる、熟する ［名詞］［形容詞］満開 ［経済］満期 ［魔法］シャンテ。光の低位白魔法。任意の色の光を出し、文字や絵を空中に書く。 ［組み数字］5 / 8 ［レベル］2 pelʃcɪ 100:beμʃ;e 古 :ɪleʃʃ e ɪnlɪnʃe の略で、ɪnlɪ nʃe というとアンシャンテと誤解されるので lɪnʃe と略していたもの。最も光の強い月で、魔力が宿ると信じられている。 ［文化］ lelʃeel、ɪμoɪnʃ pelʃcɪ 100 ［言語］［文字］悪魔ベルトが文字を発明。神はそれに倣う。ベルトはこれまでの歴史をまとめるため、空間に文字を書く魔法 lɪnʃe を開発。ならびに筆記用具を開発。歴史の記録にはセルトの記憶を受け継ぐアルミヴァも協力した ［用例］ lɪnʃe lɪʃ sɪn. 満月が出ていた。 lɪnʃe ɔμ leeue. 満月が欠けていく。

lɪnʃe(J) ［魔法］シャンテ ［レベル］5 μɑ 1J:lec e ɒccμ ［語法］ lɪnʃe も参照。 『ミールの書』にでてくる魔法。宙に発光する文字や絵を浮かばせる魔法で、セルフィッシュガーデンの住人やミールはこれを使って紙がなくともノートを取ったり板書したりすることができる。lɪnʃe に記載。

lɪnʃe(ʔ) ［感動詞］すみません、あのー、あのぅ、エクスキューズミー。通常尻上がりで。 ［感動詞］［丁寧］（疑問文で）えっ？、何て言ったんですか ［レベル］2 古 :「返事する？」が原義。元は「今返事できますか？」の意味で、アンシャンテに使われた。 ［語法］ 人に話しかけるときに使う。上下性別場面は関係ない。公的な感じがするので友達など、親しい間柄では使わないのが妥当。友達なら nee などといって呼びかければ良い。疑問文では「すみません、もう一度言ってください」の意味。丁寧。ʔɔɣ と聞き返すのは丁寧でないが無礼でもないので日常的に良く使われる。

lɪnʃe,ɑ lɪnʃe, jɔʔlɪ μɪl;e 第一語義は満月。満月に声をかけるとエルトから言葉が返ってくるというサールの発想から返事という意味に。

lɪnʃe ʃ"ɪnsəμ ［歳時記］シャンテ・タンジュール ［レベル］3 ɟ1 ［文化］ カテージュで毎月晴れた満月の日（lɪnʃe は毎月数日間あるので、すべて雨でつぶれる確率は低い）に行われる祭り。カルテなどで竜騎兵の格好を模してアンフェルを着て、アンフェリアを踊る。ヒラヒラと舞うロンテが特徴的。月が昇り出し東の低い位置に大きく輝くころ（おおむね６時頃）から始まり、２時間ほど続く。古スカルディアのころからあり、現在では竜は使わない（存在しないため）。また、現代では時計の普及により、時刻は月と関係なく６時からとされている。

lɪnʃeɪɪʔc ［料理］目玉焼き ［レベル］3 ɸ: 制 : 満月の形をした卵料理 ［用例］ ɪn ʔəcʃ dɔɑ ɔ lɪnʃ eɪɪʔc lel ɑɪɪl. 朝食にパンと目玉焼きを食べた。

lɪnʃehɪrl ［名詞］幼字 lɪnʃe のこと ［レベル］3 ɟ1

lɪnʃelcl ［化学］テクネチウム 1Δ: 制

lɪnʃeɔn ［植物］トケイソウ、とけいそう ʔʔ: 制 :lɪnʃezeɒ。花の模様が時計版の文字のように lɪnʃe に似てるから。

lɪnʃeɔnɔl ［植物］パッションフルーツ、果物トケイソウ、果物とけいそう ［レベル］6 ʔʔ: 制

lɪnʔ ［サール］シャンク ［レベル］5 pel: 古 ［文化］ 笑いながら多くの子供を殺した男。シャンクは５歳の最愛の娘を見殺しにされ、見殺しにしたものを呪った。そこにサールのメロウは目をつけてシャンクに力を与えた。シャンクは娘を見殺しにした者の子を殺して彼らにも同じ苦しみを与えた。見かねたエルトがシャンクを討伐しようとしたがシャンクはエルトをも

しのぐ力で抵抗し、やむなくエルトは彼を殺すのを諦め、デスパで封印するに留めた。

lɪnʔɪ ［名詞］［形容詞］先生、教師、教師に対する呼びかけ ［類義語］jenjee ［レベル］2 μɑ; ↓ 1Λ:bel:『玲音の書』について話していたメルが噛んで lɪʔɪn を lɪnʔɪ といったことで教師を意味するようになり、やがて敬称に変わった。 ［語法］ → jenjee, ɪdʃ, ejʃ ○名（後置） ○姓（前置） ○男女 ○単体使用 / 名詞用法 教師の呼称。lɪʔɪn は呼称でない。 lɪnʔɪ は教師と医者に使う。弁護士、研究者、作家、政治家には使えないので注意。逆に職場の現場監督やＯＪＴの上司などには使える。つまり人を教育する人への呼称。医者は日本より患者にあれこれと指示するため、lɪnʔɪ の扱いを受ける。 nɑɘɟjɔə と呼ぶこともできるが、直接教わっている相手なら lɪnʔɪ のほうが丁寧。直接教わっていなければ nɑɘɟjɔə でも失礼でない。 μj ccʔɪ は非常に丁寧で、政治家などにも使える→ μjccʔɪ ［用例］ hɪɪj lɪnʔɪ μɪnel. 先生の言うことをよく聞きなさい。

lɪnʔɪn ［ɒdɑ］先生。先生の敬称の愛称版 ［レベル］2 1Λ:bel ɪz μcɑcɪ

lɪnnɪ ［感動詞］［俗語］マジかよ？、マジで？、ｍｊｄ ［レベル］2 ʃ1:lɪn ɪϑ から

lɪnɑcɪ ［名詞］現実世界 ［レベル］4 ʃʔ ［文化］ ɑcɪɪɪʃl

lɪnɒɪcn ［名詞］正体、実体 ［レベル］3 1L:belcɑcɪ ɪlcɟ

lɪnɪ ［名詞］信念、ポリシー、志、けじめ ［組み数字］3 / 6 ［レベル］3 1Λ:lɪɟ nɪ（信じる心） ［用例］ ʃcl lɪnɪ ɔn ʔɔɟ nɔzeʃ 自分のやり方に信念がある eɤ{ɑcʃ} 信念を植え付ける { 与える }

lɪnɪɟɔɔl ［名詞］確信犯 ［類義語］lɪnɪɑcμeʃ ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［語法］ lɪnɪɑcμeʃ は「知っていてあえてやる」という意味の確信犯ではなく、「信念を持ってやる」という本来の意味の確信犯。lɪnɪɟɔɔl は「信念を持って行う行為全般」を指し、犯罪に限らない。一方、cbɟɔɔl は「知っていてあえてやる（故意犯）」という慣用として使われている意味のほうの確信犯を指す。日本語話者はこれらの単語の使い分けに注意すること。

lɪnɪɑcμeʃ ［法律］確信犯 ［類義語］lɪnɪɟɔɔl ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［語法］ lɪnɪɟɔɔl

lɪnɔ ［名詞］原型、原作、本来、元々、大本、原始の形、一次、一次創作 ［形容詞］原型の、大元の、本来的な、本質的な ［反意語］ɪllɪn ［レベル］4 1ʔ: 制 :lɪn

lɪnɔfɪlcʃ ［音楽］ア・テンポ、アテンポ 1L

lɪnɔleeu ［物理］基本振動 1L

lɪnɔuɔlɪn ［生物］幹細胞 μʃ;/ ʃʃʃ

lɪnɔɑɔce ［普通動名詞］原作レイプ ［レベル］5 ɪl;/ ʃʔ ［用例］ ʃəəbe eʃ μɪʔ lɪnɔɑɔce ɑɪɪʃʔ 原作レイプってレベルじゃねーぞ！

lɪnɔrɪɒ ［ユマナ］［宗教］カトリック ʃʃʃ

lɪnɔɪlʃ ［数学］因数 ［レベル］4 1L

lɪnejʃ ［名詞］本名、真名 ［反意語］enlejʃ、jcnʔejʃ ［レベル］3 ʃ1

lɪu ［形容詞］～というもの、～とかいうやつ ［レベル］2 1ʃʔ: 制 : 古存在の lɪl ［語法］ 初出、未知を表わす。あるいは既出でも馴染みのないものに使う。 本人にとって初出でないのに lɪu を使い続けるのは、心理的に遠ざけたいため。嫌悪感、未知への恐怖、照れ隠しなどの現れ。 ［用例］ ɒccl lɪu ləɪɪɟ ɪʃə e. ミールとかいう人が来てるよ。

lɪueɥe ［言語］屈折、屈折語、屈折語的 ［レベル］6 1L

lɪɑ ［法副詞］～しなければならない、～する責任がある ［名詞］責任 ［動詞］ɥel の責任を ɪ に着せる（与える） ［レベル］1 1ʔ:lɪnʃeɑɪ（責任）（君は答え（lɪnʃe）る義務がある（ɑɪ） ［語法］ ɑɪl 「～するのが当然だ」というニュアンスなら hɪɔ を使う。「～する責務がある」というニュアンスなら lɪɑ を使う。 ［用例］ ʃc ʃɔɔʔ lɪɑ fə lɪb. 君はこの仕事を終えなければならない。 lɪɑ ɪnʃ fəμ ʔɪl. 責任は果たしているさ。

lɪɑʃ ［動詞］ɥel を ɪ に出席させる、出席する、参加する、出勤する、出社する ［再帰動名詞］出席、参加 ［反意語］ɪllɪɑʃ ［レベル］2 1ʃʔ: 制 :lɪ ［文化］ 出席は成績に関与しない。要は試験に受かれば良い。だから出席は自由である。自信があれば出なくても構わない。休むからといって報告する必要は一切ない。途中から来るのも自由だし、来たからといって来たことを報告する必要もない。また、途中で勝手に帰っても構わない。だがそれでも教師は毎日出席を取る。皆勤賞をカウントするためである。だから言い換えれば一度休んだ生徒の出席はそれ以降取らなくても良い。日々出席を読み上げられる数が減っていくのは皆勤賞をもらおうという者にしてみればある種のプレッシャーにもなる。

lɪɑʃhɪʃl ［名詞］皆勤賞 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

lɪɑʃɪl ［名詞］出欠、出欠席 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［用例］ jɪcn lɪɑʃɪl 出席を取る

lɪɑn ［普通動名詞］担当、担任 ［動詞］ɥel を担当する、担当する ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɪɑ

lɪɑnɪ ［形容詞］責任感のある ［反意語］ɪllɪɑnɪ ［レベル］3 μɑ;/ ʃʃʃ

lɪɑnɪn ［名詞］担任 ［レベル］2 1Λ:jeμen:belcɑcɪ

lɪɑl ［名詞］余裕、余力 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 後期古 lɪuɪlʃ 力がある 」 ［成句］ ʃeɪ ʃc ʃcl lɪɑl enʃɔ ～する余裕があれば、～していただけませんでしょうか ［用例］ ɪn ʃcl lɪlel lɪɑl. まだ余裕がある、余裕綽々だ。

lɪɑɪ ［植物］カブ ［レベル］3 ɟɒ 1ʔ: 制 :lɪʔɪ:lɪɑʔ lɪɑʔ:lɪɑɪ ［文化］ → uɪlʔɔfɪn uɪlʔɔfɪn により急速に広まった植物。

lɪɑɥeɟl ［植物］コールラビ、カブランカン 1ʔ: 制

lɪɑɪl ［名詞］責任者 ［レベル］3 1L:lcɔn

lɪɑcl ［形容詞］実存の、実在の ［類義語］ɑcɪ、ɑcɪnɪ ［反意語］ɑcɑ ［レベル］4 ul;lɪ/ɑcɪ/ɪl「世界に存在する物」。ɑcɑ に対応して作られた。 ʃʃ

lɪɑclbel ［名詞］リアルタイム ［形容詞］リアルタイムで進行する ［レベル］4 ul;lɪɑcl/bel「実存する時間上の」 ʃʃ

lɪɑclbeluɟɪnɔjcnʃlcuɪ ［娯楽］リアルタイム戦略シミュレーションゲーム、ＲＴＳ→ feelbɪɑc ［類義語］feelbɪɑc ɪl; ʃʔ

lɪɒ ［動詞］ɔn について ɥel に賛成する、賛成する ［普通動名詞］賛成 ［反意語］ɟʃcμ ［レベル］2 1ʔ ←古 :ə ɪl（はいと言う） ［文化］ 議論の際は賛成か反対か立場を明確にするが、真か偽かを考察するときには曖昧になりがち。真理はしばしば極端なところにはないため。賛成でも反対でも、理由をはっきり持ち、説明する。 ［用例］ ɥɪ, ɪn lɪɒ ʃc. えぇ、賛成です。

lɪɒʃɑɔnz ［普通動名詞］本採用 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

lɪɒɟʃcμ ［普通動名詞］賛否 ［レベル］3 ʃʃ ［成句］ lɪɒɟʃcμ（cɔ）lɪ 賛否両論

lɪɒd ［動詞］ɥel に滞在する、滞在する、留まる、残す、残る、泊まる ［普通動名詞］滞在、宿泊 ［レベル］3 1ʔ: 制 :jɔμn:lɪɒ（滞在） ::lɪlel ［用例］ lɪ μeʃlʃ ɪn lɪɒd ɪʃə ɑə uecn. 彼は私にもう少し留まるように言った。 ɪn lɪɒd uɪn μɪ e hɪʃn cɒ ɑcj. 今日は友達の家に泊まるつもりだ。

lɪɒl ［芸術］デザイン ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :lɪɒɪcnɪl

lɪɒlɪn ［芸術］デザイナー ［レベル］4 ʃ1

lɪɒɥ ［言語］有声、有声音 ［レベル］6 1L

lɪɒcμ ［論理］真理 ［レベル］4 μɑ;lɪn/bccμ ʃʃ

lɪɒɔɒ ［形容詞］安定した ［反意語］ɒcɒɔɒ ［レベル］4 ʃ1: 根有り

lɪɒɔɒeefɪn ［経済］安定株主 ʃʃ

lɪɒel ［名詞］イベント、催事、催し ［類義語］jɔɑ ［レベル］3 ʃ1: 古 lɪl/bel「ある時間上に存在するもの」 ［語法］ 特定の意味を持った jɔɑ のこと。jɔɑ の中でも特別な意味を持ったものを lɪɒel という。「ゲームのイベント」や「武道館での催し」などはこれに当たる。 ［用例］ lɪɒel ʃcn ビッグイベント

lɪɒeljel ［歳時記］催日 ［類義語］ɪlljel ［反意語］ncɪɪnjel ［レベル］3 ʃ1 ［語法］ ɪlljel

lɪɒelen ［歳時記］歳時記、シャムエレン ［レベル］4 ʃ1:lɪɒel/elen ［文化］ アルバザードのイベントをまとめたもの。歳時記に相当。時代によって増減する。

lɪɑ ［名詞］質、クオリティ、価値、意義、値打ち、値うち、ねうち ［類義語］beɟlʃʃ ［反意語］ɑə ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :lɪɑɔl クミールが作った誤用から生まれた語。このままだと「 石がある 」でしかない。石の関連から宝石の価値を表わすことにだけ使われていた語。 ［用例］ lɪɑ ʃcn 高価値、ハイクオリティ、上質な

lɪφμcj ［地球の国名］ギリシャ ［レベル］5 1ʔ: 制

lɪφɪμʃ ［形容詞］有料 ［反意語］ɒcφɪμʃ ［レベル］3 1L

lɪφɪμʃjcnɔl ［名詞］有料番組、有料放送 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

lɪd ［名詞］卵黄 ［レベル］3 1ϑ

lɪdɔʃc ［形容詞］符号付き ul;/ ʃʃʃ

lɪdɔʃcdɪleʃ ［電算］符号付き数値 ul;/ ʃʃʃ

lɪμ ［動詞］ɥel を信じる、信じる ［動詞］ɥel を強くそうだと思う、思い込む ［普通動名詞］思い込み、信念、信用、信頼、信仰（神を信仰するという意味では ɒcμɔj） ［類義語］ɒcμɔj ［反意語］ɑcl ［レベル］2 lɟl;lɪμl,ɑ.l 1ʔ: 制 :jɔμn:lɪμl lɪμl: ［語法］ 「 信じる 」は信用するの意味合いが強いが、lɪμ はどちらかというと「 強く主観的に～だと思う 」という意味で使われることが多いので、日本人から見ればアルバザード人はやたら相手を信頼しているように聞こえることがある。文脈によって単に強く主観的に思うという意味でしかないときもある。 ［成句］ , el lɪμ ～と言われている：文末で使う。 ［用例］ × lɪμ ɒcμɔl → ɒcμɔj ɒcμɔl 神を信じる。lɪμ だと神が言っていることなどに対して「そうだ」と思うことを示し、信仰、崇拝の意味はない。 lɪμ ɒeμel 確信している ɪn ɪcl lɪμ ucl senʃdɔμlɪl. ときどき天気予報を信じられないときがある。

lɪμʃ ［人名］シャルト ［組み数字］4 / 6 ［レベル］3 1L ? : 制の ɪμlɪ を変えたもの 参考 :ɪμlɪ:1L: 古 :ɪμlɔ:「神の習い」 ［文化］ ヴァノンの４番目。女性。事務を担当。

lɪμʃlcl ［化学］レニウム ［レベル］5 1L x:ejʃɪn:ejʃɪn ［文化］ ɑɔlɒcφə 単体でもっとも硬い金属で、天然元素として最後に発見された地球とは異なり、早くから発見されていた。その物質自体はガレットを通さないという特徴から、算出するケヴェアや中央アルカットなどで既に知られていたためである。zφ で発見され、魔法学に用いられた。 希少性が高く、アルバザードではほとんど取れなかったため、実用の歴史は乏しい。ヴィード戦におけるアルテマシールドとみなされ、防衛において使われたことはあるものの、物理攻撃で破壊できるため費用対効果が貧弱であった。

lɪμl ［名詞］不自由、拘束、束縛、義務 ［形容詞］不自由な、拘束された、束縛された、強制の、義務的な ［反意語］jclʃ ［レベル］3 @ ʃ0

lɪμlɒɪφ ［物理］強制振動 ʃ1

lɪμlzɪu ［数学］位置ベクトル、固定ベクトル、束縛ベクトル ʃ1

lɪμlzeʃ ［言語］文法範疇、文法カテゴリー μɑ;/「義務項目」 ʃʃʃ

lɪμlə ［動詞］ɥel を言い切る、言い切る ［普通動名詞］言い切り ［レベル］3 ʃʃ

lɪμl ［組み数字］6 / 1 0 ［哲学］信 ［医療］腎 ［歳時記］乙、きのと ［レベル］4 μɑ;lɪμl,ɑ ʃ1 ::lɪ lɪμl

lɪμl,ɑ lɪμ e

lɪμʃlɪn ［生物］［医療］腎経 jzl;/ ʃʃʃ

lɪμɪʔn ［名詞］懐疑主義の反対。まず信じてみようという主義。アルバザード人に多い。 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

lɪμɪn ［名詞］信者、信奉者 ［レベル］3 ʃʃ

lɪz ［名詞］限界、リミット、期限、ぎりぎり、ギリギリ、上限、下限 ［名詞］しめきり、締め切り、締切、締切り、〆切、〆切り、納期→ lɪɟɔlɪz ［副詞］限界まで ［数学］極限 ［レベル］3 μɑ 1ʔ: 制 :lɪɟɪz ［成句］ ɑɔnlɔʔ lɪzel 危機一髪だ ［用例］ ɑμeɒ ɪ lɪz 限界に近づく lɪz cʔ μɪʔ 制限を越えた

lɪzɪlʃ ［数学］極限値、極値 ［レベル］5 1L

lɪzeʃ ［形容詞］余裕のない、余力のない、ギリギリな ［形容詞］（服が）ぱつぱつな、パツパツな、ぱっつん、パッツン、ぱつぱつ、パツパツ、ぱっつんぱっつん、パッツンパッツン、ぴっちりした、ピッチリした ［反意語］ɔɔseʃ ［レベル］3 μɑ;lɪz/ʃe ʃʃ

lɪl ［遊離副詞］［形容詞］～のままである ［動詞］ɥel を維持する、維持する、保持する、保存する、保守する、ɥel に残る、残る、居座る ［動詞］ɥel のままでいる、ɥel に居続ける、居続ける。維持を示す繁辞 ［普通動名詞］維持、保持、保存、保守、居残り、いのこり ［音楽］テヌート ［反意語］ɒcɥe ［レベル］1 古 lɪl（存在） ::ɑclze ［語法］ lɪl ɪʃə だと「ここに居続けろ」という意味だが、原理的には「この場所をキープしろ」という意味にもなる。 lɪl jeeμ だと「静かで居続けろ」という意味。lɪl jeeμel だと「静かに居続ける」の意味。 ɔɔ lɪlel は前もしたし今もしているの意味。 ［成句］ lɪl nɔj 自分を保つ、自我を保つ ［用例］ lɪ lɪl ɪʃə. ここに居続けてほしい：lɪl ɪʃə のほうがふつう。 ɪn lɪlɪʃ μɪ ɒɪn ʃɪnʃ eʃ hɪμʃ ɔ jeμcd ʔcnel. 外は熱くて湿気が多いので室内にいた。 lɪl ɟɔɪ. そのまま。キープしろ lə lɪl ez nɔzeʃ lel ɔɟl. 彼女は自分の部屋を綺麗に保つ。

lɪl(J) ［言語］l の文字 ［レベル］1 1ʔ: 制 : 存在 ［語法］ 第３文字目の幻字。 ［用例］ ɒ l ʃɥə. あなたのままでいてください。文字の名を使って ɒcμ lɪl ʃɥə と読ませる妙技。

lɪl(?) ［名詞］存在、有 ［反意語］jɪɪs ［レベル］2 ɑ;lɪ/ɪl「存在するもの」 赤 ［語法］ なお、アルカの実在論では、存在は認知的なものとされている。 → ɑcɪnɪʔl ［用例］ ʃɥə eʃ lɪl uɔʔl lɪlʃ nɔn. あなたは私に取って大切な存在よ。

lɪl(ɱ) ［南方］［動詞］lɪ ［レベル］3 古

lɪl,ɑ lɪ lɪ（存在）.ɑɪcɪ/ɪl（物）

lɪlʃ ［名詞］状況、境遇、立場、地位、言い分、言いぶん、いいぶん、事情 ［格詞］～の点で見て、～の観点で見て ［言語］態、ボイス、ヴォイス ［レベル］1 古 :lɪlʃ（立場）← lɪl（存在）/ʃe（風）。「 存在する雰囲気 」が原義。lɪlʃe と同語源。 ［成句］ ʃel lɪlʃ ɑel ～のくせに lɪlʃ jelɪn 世間的には、常識的には、事実上の lɪlʃ ɔɔɑn 事実上の lɪlʃ ɒeɟɪ lɪl 場合によっては ［用例］ ɪn lɔʃ ɔn lɪ lɪlʃ lɪ. 彼の立場で彼について考えた。 lɪ ucnɟɪʃ ɪucl ʃel lɪlʃ ɑel uɪlj（=ʃɪnʃ uɪlj）. 彼は医者のくせに患者を見捨てた。 μen ʃeμ lɪlʃ nɔɪn. 私の言い分も聞いてよ。 ☆ μe lɔ lɪlʃ lə. 自分の身になって考えてみろよ。アルカでは「彼の身になって」と言う。「自分の身になって」という表現はしない。 "lɪlʃ ucenɪʃc ʃ'ɪul, ɑcʃc e lɪuɪ, jɪɪs e uɪcnɔlɔz, lcn e φel, ucnɑ μɪʃ, nenʃ ʔlɪl e φɪμɒɪ, en ɪlue lejʃ e feμcɪ, μɪʔɪ ʃeə ɑɪcɪldɔl, ʔlɑ ʔlen ɪʔlɪɪʃc, eə. 経済大国であること、多くの国と国交があること、徴兵制がないこと、拳銃の所持が認められていないこと、治安が良いこと、戦争勃発のリスクが低いこと、テロの主だった標的でないこと、首都圏に住んでいること、居住地が極東であること、かな。

lɪlΠɥɔ ［名詞］ロールプレイ、ロールプレイング ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

lɪlΠbɪl ［名詞］バカの壁、馬鹿の壁、シャルト・バル、立場の壁 ［レベル］5 μɑ;/「立場の壁」 ʃʃ ［文化］ μɑ でセレンが唱えた理論であり、同時にバカの壁という意味の概念でもある。アルカにおけるバカの壁とは次のような意味である。どんなに論理的な考えであろうと万人には理解されない。どんなに優れた意見や価値観であろうと理解しあえない障壁がある。それは立場の違いから来るものであり、立場が違えば瑕疵のない理論であっても理解・納得することはできない。理解しあえない根底に立場の違いがあり、それがある以上絶対に理解しあえない。それを立場の壁（バカの壁）と呼ぶ。 セレンは話せば分かるなんていうのは嘘だと言い、議論における論理の持つ力の無力さを説いた。セレンが早くからバカの壁を発見していたのは、２８の異なる母語の話者からなるアシェットで議論を重ねたためである。セレンのような特異な環境に身を置くものは少なかったため、lɪ まで彼のこの理論は注目されないままだった。 lɪ ではグローバル化が進むにつれ、セレンの考えが見直され、lɪlΠbɪl というタイトルで彼の考えを元にした本が出版され、この概念が有名なものとなった。

lɪlΠɪnʃɔɪ ［化学］M殻 ［レベル］5 1L

lɪlʃe ［名詞］雰囲気、ムード、その場の空気、気配 ［動詞］ɥel と恋人として付き合う、付き合う :1L:μcɑcɪ:「その雰囲気にする」 ［歳時記］三月で一季 ［レベル］3 古 :lɪlʃe（雰囲気）← lɪl（存在）/ʃe（風）。「 存在する雰囲気 」が原義。 :::belc,ɪlʃ ［成句］ nɪlɔ lɪlʃe 空気を読む、雰囲気を察する lɪlʃe eʃ φɥə 空気が重い、険悪なムードだ

lɪlʃej ［化学］静電気 ［レベル］3 古 : 存在する（静止している）電気

lɪlʃejucɪn ［化学］静電気力。アルカでは主に化学で使われる。 ［レベル］5 ʃ0

lɪlʃen ［言語］文脈、コンテクスト ［レベル］5 ʃ0:lɪlʃe/ʃeɟɔnɪ ［語法］ アルバザードでは言語学だけでなく日常的にも用いられる言葉。 ［文化］ ミロク革命以前は様々な民族が寄せ集められてできた文化だったため、低コンテクスト文化だったが、革命後はミロクが「何が善で何が悪か」を定め、倫理・常識とはかくあるべしという形を形成したおかげで、皆が同じ価値観を持てるようになった。アルティス教の社会になったことでアルティスの倫理観が共通の倫理になったという点も挙げられる。この結果、アルバザードは急激に高コンテクスト文化になり、腹芸を覚えるようになっていった。 ただし言語上の構文論においては多民族国家なので誤解がないよう、ローコンテクストのままである。つまり「お子様と運転時はご遠慮ください」のようなハイコンテクストな構文は取らず、「子供に与えないでください。また、食べたら運転しないでください」のようにローコンテクストな構文で表現する。

lɪlʃen(J) ［接続詞］lɪlʃ。～の立場の。 ［レベル］3 ʃ0

lɪlΠ ［名詞］価値観 ［レベル］4 μɑ;lɪl/ʔɪ「自分の居場所。自分が物事を見ている視点のこと」 ʃʃʃ ［文化］ アルバザード人は価値観が合う人を老若男女関係なく好む傾向にある。人を好きになったり付き合ったりする際の尺度として、価値観が占める割合は大きい。要するに価値観

が合うということは気が合うということで、気が合うことは人間関係の構築と継続に大きな役割を果たすと考えられている。　・２０１２年１２月２９日のセレンの呟き　自分の芸術や音楽や正義などの価値観が両親特に父親由来であると気付いた。周囲に自分の価値観を認められると嬉しく思う。植え付けられた価値観なのに嬉しく思うのだ。ということは恐らく娘も今植え付けている価値観を自分のものとし、その価値観を肯定してくれる人間に好意を持つようになるのだろう。　不思議なものだ。父親のことは嫌っていたのに、自分は嫌になるくらい父に似ている。彼が達成できなかった物書きの夢を叶え、彼の価値観を是としている。幼児期の教育はそれほど重要ということだ。自分の価値観と思いきや、嫌いな父親の価値観だったのだから。 【用例】 ınɟ ſcl lιΠ ɒɥǝl ı lɔʎ. 私たちは価値観が合う。

lιΠı 【名詞】場所、陣地、陣営、マス、升、マス目、升目、座標 【シェルト】マス、マス目 【類義語】ʅı、ʅılſe、ɯʅıɟ、cnΠı ſɒ;「存在する場所」 【レベル】3 ʃʔ 【語法】 シェルトやすごろくのマス、戦争などで今現在自分が存在している狭い地点などを指す。ＲＰＧゲームの自キャラの存在する座標なども指す。

lιΠıφınɑ 【普通動名詞】場所取り 【レベル】4 ɑʅu;/ ʃʔ

lιΠǝɒ 【植物】にら、ニラ、韮 【レベル】3 ʅL:「胃に残る」が原義。消化しにくいことから。ニラは消化にいいと言われるが、消化を促進するだけであって、ニラ自体は消化しにくい。 【用例】 ɔd e lιΠǝɒ ɔʅɟıſ ın ʅǝc lıl bel. ニラの和え物が食欲をそそった。

lιΠǝɒɑclɑıc 【医療】ニラ灸 μɑ;/ ʃʃ

lιΠǝǝu 【物理】固有振動数 【レベル】5 ʅL

lıll,ɑu lǝcɒ lıllı「存在する存在→ふつうのもの」

lıɟ 【数学】【電算】【論理】ブール代数、二値数、真偽を１と０で表したもの 【レベル】6 ʅL:lıl/ıll（存在数）

lıɟɹɑʅıɒ 【生物】恒温動物 【レベル】4 ʅL

lıluɔɟſ 【医療】アポトーシス ul;ʅılcſ/uɔɟſ。体の恒常性を保ち、個体をより良い状態に保つために積極的に引き起こされる細胞の死であることから。 ʃʔ

lıla 【医療】看護、介護 【レベル】3 ʅL:lıl/ɑɥǝɒ

lılaɥ 【経済】軟調 ʃʃ

lılaɟʅ 【俗語】工房、高坊 【類義語】ɟıɒının 【レベル】4 ıl;/「まだ制服着てんのかよ」 ʃʔ 【語法】 ɒıɒɒın

lılɒ 【名詞】住居、住処、棲家、巣、家、家屋、家庭 【動詞】ɥǝl に住む、住む 【レベル】2 ʃʃ:lıl/ɒıcn「体を居させる」 【語法】 μı や nɔlμı やホームレスの公園など、住むところ全てを広く指す。 【用例】 lı ʅılbeɟ jeelıμnı. 彼は中央アルナに住んでいる。

lılbɑıcφ 【経済】住民税 【レベル】5 μſ;/。ｒａｄａｉｇだと持ち家にかかる税金と誤解されかねないため。 ʃʔ 【文化】 地方税のひとつ。μſ のアルバザード発祥。　その年のメルセル現在で居住しているところで課税される。そのため、メルセル後に転居した場合でも、メルセル時に居住していた自治体に全て納付しなければならない。

lılbhıclı 【法律】家庭裁判所 【レベル】4 ʃʃ

lılbın 【哲学】存在理由、レーゾンデートル 【レベル】5 ʃʃ0 【用例】 ſcl ʅılbın 意味がある、意味ある ſǝ jc ʅılbın ı. これ意味ないじゃん。

lılbcuφ 【化学】物理変化 ʅL: 物質を変化させないで維持する変化

lılbccnı 【企業】シャルミーナ 【レベル】4 ʃʃ 【文化】 資生堂、花王に相当する企業。

lılɑcʃı 【音楽】テヌート・スタッカート、スラー・スタッカート、メゾ・スタッカート ʅL

lılφıμſ 【名詞】維持費 【レベル】5 ʅL:μcɑcı:ıμbılelſ

lılɥǝɔ 【言語】存在動詞 【レベル】5 ʃʃ0 【語法】 lı, ɒc など。

lılμecn 【数学】z 軸→ lſıμ 【レベル】5 ʅL

lılzeʅſ 【経済】底入れ ʃʃ:「底に居座っている→下げ止まっている」

lıll 【ユマナ】【宗教】孔子 【レベル】5 ʃʔ:lell（慈。アルカで仁のこと。仁義を説いたので、「仁義の人」で孔子）

lılbɥǝʅıle 【ユマナ】【宗教】儒教。宗教というよりは教えに近いが。 【レベル】5 ʃʔ

lıllınſ 【丁寧】【親族】おばあさま、シャルラント 【レベル】2 ʃʃ:lıl/ılınſ（いまだ美しい） 【文化】 lıılı

lılın 【物理】剛体 【レベル】6 ʃʃ

lılıb 【化学】保存料 【レベル】4 ʅL:jeμen

lılıb(ʃ) 【名詞】有職 【反意語】ɒclıb 【レベル】4 μɑ;/ ʃʔ

lılıbſcɑ 【経済】ワーキングプア、ワープア、勤労貧困 【レベル】5 ıl;/「有職者なのに貧困」 ʃʔ

lılμſ 【娯楽】【軍事】【魔法】バフ、デバフ。効果の持続する魔法。 【反意語】leeuıμſ ʃʃ 【語法】 良いか悪いか、バフかデバフかは μſ と ɥıɒ を付けて区別する。

lılıll 【数学】定数 【レベル】4 ʅL

lılcſ 【魔法】【生物】恒常性、ホメオスタシス 【言語】【名詞】保守性 【レベル】4 ʃʃ0:lıl/ıſc 【文化】 → ɑɔlɒcɥǝ, ɥǝnɔʃ　＜言語の変化と保守性＞　言語には保守性がある。アラビア語は最も保守性が高い部類である。これには宗教的な理由がある。宗教的な理由がなく保守性が高い言語は例えばドイツ語である。このように言語の保守性は言語ごとに異なり、その背景に理由があるものがある。　アトラスで最も保守性が高いのは ɑu_μɑ である。成員が変わらないため、統語論と音韻論はほとんど変化しない。厳密には μɑ にいるロゼットは寿命があるので成員は変化するが、ここにいるロゼットは ɑu で戦功のあったものなのでヴィード量が多く、何万年単位で生きる。そのため zφ_ls までで終わってしまう世界からすれば実質寿命がないと考えてよい。　人間の言語で最も保守性が高いのは lɥ_μφ である。ɑu まで神は lj に住んでいたため、神との繋がりが強い。ɑu 後も宗主国として実質 μɑ が存在していたため、特に神との繋がりの深い上流階級の間では lɥ_μφ は ɑu_μɑ にペグされていた。彼らにとっては生活上でもビジネスでも ɑu_μɑ にペグしているほうが効率的だからである。そして ɑu_μɑ が変化のない神の言葉であるため、それにペグした lɥ_μφ も同様に保守性が高いというわけである。このように、歴史的な理由があって lɥ_μφ の保守性は世界一強い。　一方下流については ペグする理由がないため、その他の自然言語同様語彙的にも音的にも変化していた。しかし紙が貴重な時代なので残っている文献は上流のもので、下流の言語は歴史的に不明な点が多い。これは日本の平安時代と同様である。ɟɒ 以降は教育水準が高まり、教師側は学者などの上流である場合が多かったため、上流の μɑ 様の発音や語彙が中流に浸透した。これにより上中流はほぼ ɑu_μɑ にペグし、マス層がペグすることとなった。　このころになると多少下流がどう話していたかの記録も残っており、二重母音 ıc などが ee と発音されていたなどの事実を知ることができる。　μɑ になってアルカができる。人工言語であるため保守性が強い。ところがアシェットが死んでしまえば国民は手にしたアルカを好き勝手に遠慮なく変える。ただし地球と同じく上流ほど保守性が強く、古風で原理主義的な言い方を好む。下流や若者ほど勝手に言語を変える傾向がある。　nɑ,μſ,ul で変化が随時起こるが、ıl で原理主義者のミロクが μɑ の統語や音韻に戻し、教育とメディアを使って広めなおす。ls の終末までレインの時代から５０年程度しか経っていないので、流石に語彙以外での変化はない。

lıle 【芸術】漫画、コミック、マガジン、マンガ 【レベル】2 ʔ: 制 :lıʅlec（絵の本） 【語法】 枠線は ʅılʅ。コマは ſeɒɟ。吹き出しは ejd。台詞は μenɟ。集中線は nɔlμecn。流線は jeμecn。４コマは ɯlſeɒɟ。トーンは uelſuıcʅ。ベタは ueμ。書き文字は ſınſμenɟ。 φıʅɔn で終わるセリフは φıʅɔn を省く。ただし省けるのは各吹き出し中の最後のセンテンスのみ。 【文化】 アルティア式は右開き。アルバザード式は左開き。どちらから始めても構わない。漫画はアルティア人が高めたものなので、アルティア式にすることが多い。幼児用や学習者用など、一部のものは左開きが多い。 【用例】 ın ıμıſ μııɑ cɒ jeɟ ʅılbıl lını cɟʅ lıle. 漫画を読むために徹夜をしたものだった。

lıleſ 【遊離副詞】【形容詞】たぶん、多分、おそらく、恐らく 【レベル】1 ʃʃ0:lıl/ſe（存在しそうな） 【語法】 ılǝǝſ

lıleſ,jzl ez lıl/ſeeze

lıleuecz 【娯楽】アニメ、アニメーション→ ɒıɥı 【類義語】ɒıɥı 【レベル】2 ʅL:μcɑcı:ıμbılelſ :::ɔ ɒıɥıɒc,ılſ

lıleeu 【物理】定常波 ʅL:lıΠeeu からの類推

lılǝ,ılſ lecɒ lıll

lılǝl 【名詞】万物 【レベル】4 ʃʃ:lıl/ 古 ıl「存在するもの」 【語法】 ılueɑ

lılǝl,jzɑ lı ɔʅ nene、ɩıpd ‹ lıl,ɑ

lılǝl,ɑ jccı elſ;lıl/ıl「存在する物事」 赤

lıɟ 【普通動名詞】世話、接待、客などの応対、接客（顧客サービスも含む） 【動詞】ɥǝl を接待する、接待する、もてなす、饗す、世話する 【レベル】3 ɔɔμn:lıɟ 【成句】 lıɟ bıɟ. おかまいなく、お構いなく。

lıɟıın 【名詞】世話係、世話人、海のパトロール、スキー場の安全を見張るインストラクター 【レベル】3 ʅL 【用例】 sınlıɟıın ıΠlſ ın cɒ ın cʅ ncʅ ı ɟıe. 私が転ぶと、スキーパトロールの人が助け起こしてくれた。

lıɟucl 【名詞】【形容詞】異常あり、異状あり 【レベル】4 μɑ;/ ʃʔ

lıɟɒ 【形容詞】不人気な 【反意語】jccn 【レベル】2 @ ʅL

lıɟd 【形容詞】有標な 【反意語】jccɑ 【レベル】5 lıʅſı: 印がある

lıɟsı 【数学】有理数、有比数 【レベル】4 ʅL

lıc 【形容詞】甘い 【形容詞】人間関係などが良好で仲の良い←→ φɥǝ 【類義語】lccı 【レベル】1 jeμſ ʔ: 制 lc:lc:ɑelue:ſlcılǝ,ılſ 【用例】 【メタファー】 lıc ɥǝn lce 密のように甘い ın jccnı lıc. 私は甘い物が好きだ。

lıc,ɑu ɒelcn lı/c「自分の居場所から見る」

lıcſΠſ 【名詞】甘党 【レベル】4 ʅL

lıcʅ 【料理】飴、キャンディ、キャンディー、キャンデー、飴玉 【レベル】2 ʔ: 制 :lıcφeʅ（甘い球） 【用例】 oeɒ lıcʅ 飴を舐める

lıcnı 【名詞】【ネガティブ】お人好し、おひとよし、お人よし、おひと好し 【レベル】3 ʃʃ:「甘い心」 【語法】 少しからかって使う。 【用例】 uec lıcnı uıjſıſ ſǝ ſıj ſın. 何人かのお人好しがこの試験も通過した。

lıcnı(ʃ) 【人名】シャイナ μɑ ʃʃ 【文化】 サプリ村の住人。乳製品屋の経営者。恰幅の良い中年女性。

lıcφɥǝ 【形容詞】ほろ苦い 【レベル】3 ʅL

lıcdcnɑ 【植物】ノゲシ、のげし ʅL:「甘い針」。針があるが柔らかくて痛くない 【用例】 ın jcn lıcdcnɑ ɒın ſǝ eſ φɥǝ ɑcn ejſ ſǝǝl eſ lıcdcnɑ ı. 甘い針っていうわりにノゲシは苦いんで嫌いだよ。

lıclefſe 【伝統色】黄土色 【レベル】2 ʃʃ

lıcıb 【化学】甘味料 【レベル】4 ʅL:jeμen

lıɔd 【料理】サワードウ 【レベル】3 ʔ: 制 :lıɔ/dɔɑ（すっぱいパン）

lc 【名詞】後ろ 【形容詞】後ろの 【格詞】～の後ろに 【反意語】ɟı 【レベル】1 μɑ;ſeel @ ʅL nǝſlc: nǝſlc:nǝſlc 【用例】 lc uıμzɔn 8 時以降に lc lceμ 冬以降 lc ʅeſ 猫の後ろに

lc,ɑ lıc ɑıcı

lc,ılſ zɔn

lcſ 【動詞】ɥǝl を見失う、見失う、無くす、亡くす、失う、紛失する、なくす、見えなくなる 【普通動名詞】紛失 【反意語】ɟıl 【レベル】2 @ ʅL 【語法】 この「なくす」は紛失するの意味。つまり見つけるの反対。 【成句】 lcſ lɔɟ e nene ～の背中が見えなくなる：～の背中が見えなくなるまで見送る

lcſı 【親族】子孫、末裔 【形容詞】ポスト 【名詞】後継、後継機、後継者、後世 【反意語】jıſı 【レベル】3 ʅL:jıſı からの類推 nǝǝſ:nǝǝſ 【用例】 lcſı ɑlɔn 遠い子孫

lcſıeμʅ 【親族】卑属 【レベル】5 ʅL:μcɑcı:ıμbılelſ

lcſcl 【動詞】ɥǝl を ʔʅ} で歓迎する、歓迎する、出迎える 【普通動名詞】歓迎、出迎え 【類義語】ʅeʅɔ 【反意語】lccſı 【レベル】3 ʃʃ0:lc/ſcl（甘く持つ）

lcſɔ 【植物】バニラ 【レベル】3 lıΠſı: 甘い匂い

lcſe 【親族】家族 【生物】種 【言語】地域方言 【文字】具体的なフォントファミリーの種→ ſıſj 【レベル】2 ʔ: 制 :hıμ:ɥalclǝſe（家の関係） 【語法】 家族。一緒に住んでいる人で、血縁関係は関係ない。居候でも婿でも lcſe。

lcſeleed 【名詞】家族構成 【レベル】4 ʃʃ 【用例】 lcſeleed lɔn 複雑な家族構成

lcſeıſı 【名詞】家族会議 【レベル】4 μɑ;/ ʃʃ 【用例】 lcſe ınſej en jccıj lcſeıſı. うちの家族は家族会議をしたことがない。

lcʅ 【普通動名詞】省略、略、簡略 【言語】省略、短縮 【動詞】ɥǝl を省略する、省略する、飛ばす、スキップする、一段抜かし、食事などを食べずに抜かす 【レベル】3 ʔ: 制 :lc（ない） 【用例】 ın jcn hıμſıſc, jɔn ın ɒcll nɔj lcʅ jen ɑleı. 暑いのが嫌なので夏を飛ばせればいいのに。

lcʅj 【普通動名詞】キス 【動詞】ɥǝl にキスする、キスする 【類義語】ılǝl, lccın, lcʅǝ 【レベル】2 ʃʃ: 制 : 古 :lcʅǝ 【語法】 lcʅj は唇同士のキス。ılǝl は lcʅj より軽いキスで、唇同士を軽く触れる程度。lccın は舌を絡めるディープキス。lcʅǝ は唇以外に触れる軽いキス。頬や額や手の甲などにする。 【文化】 キスは西洋人より日本人の感覚に近い。恋愛関係にあるもの同士でするものであり、それ以外とはしない。　親が ſcnıl までの子供にすることはある。南方の親は ılǝl もするが、北方の親は lcʅǝ まで。ルティア人は身体接触が苦手で、キスは恋人としかしない。

lcʅjnılſ 【地学】【歴史】古第三紀 ul;/ ʃʃ 【文化】 φıuɥeɑɥǝɒ

lcʅueſ 【言語】略語 【レベル】3 ʃʃ0

lcʅɒ 【名詞】紙袋 【レベル】3 ʃʃ: 制 : 古 :lcʅl

lcʅl 【アトラスの国家】シックル 【レベル】5 ʃʃ:μcɑcı

lcʅc 【死神】詩姫、しき 【レベル】6 ʅL:jeμen: ふと思い浮かんだ音を名前に用いた。そのため夢織でも変わった名前の扱いを受けている。モデルはミルフとメルで、主にメル。 【文化】 死神シューゼの持つ雛人形の一人。第七雛。正体は琥珀の中に閉じ込められたアシナガバチから生まれた。死神アルハイクを封印した。　ふだんは青い目をしているが、戦闘時には琥珀色に変わる。ふわふわの金髪で人形のように美しい少女の姿をしているが、性格は残忍。　知能は高く、おっとりしている紗枝はすぐ出し抜かれてしまう。だが所詮は子供で、調子に乗ってしくじる癖がある。　死神は魂に飢えると性欲が亢進するが、詩姫は子供なので発散の仕方を知らず、代わりに残虐性や悪知恵が増す。

lcʅc(ʃ) 【魔法】式神 ılſ ʃʃ0

lcʅe 【動詞】ɥǝl に付いてくる、付いていく、ɥǝl に後続する、後続する 【普通動名詞】後続、後追い、二番煎じ 【レベル】3 ʅL

lcʅǝ 【普通動名詞】キス。唇以外に行うキス 【動詞】ɥǝl にキスをする、キスする 【類義語】lcʅ, ılǝl, lccın 【レベル】2 ɑ;lc/ʅǝ 古 : 甘い口が原義 lcʅǝ:lcʅǝ 【語法】 lcʅj 【用例】 ın lcʅǝſ lı ɔn ʅıɒ. 私は彼女の頬にキスをした。

lcl 【形容詞】横並びな、並行する、パラレルな 【反意語】jıɟ 【レベル】4 @ ʅL

lcʅle 【代詞】【南方】【女性】lclcɟ 【レベル】3 ʃʃ:je/ſlc

lcʅlen 【代詞】【南方】【女性】lclcn 【レベル】3 ʃʃ:lcʅle の属格

lcʅc,ılſ sc lc/lc

lcʅcʅılc 【名詞】指切り、指きり、シシカリ 【類義語】lcʅcɟcʅǝlc 【アクセント】lcʅcʅılЄ 【レベル】6 jɒ;ı lſ ʃʃ 【文化】 アルティアの奇習。女が意中の男に操を立て心中を伝えるために左手の小指を切り落とし、白い紙に包んで送った風習のこと。lcʅcɟcʅǝlc も参考のこと。　jɒ でアルバザードにも伝来し、真似をする女性が現れた。アルティア人の異常な執着心の現れとして引き合いに出される。純愛の極端な形としても引き合いに出される。

lcʅcɟcʅǝlc 【名詞】指交わし、シシソクリ 【メタファー】男女間の約束 【類義語】lcʅcʅılc 【レベル】6 jɒ;ılſ ʃʃ 【文化】 アルティア人の奇習。意中の男女が左手の小指同士を絡め、永遠の愛を誓って己の指を切り落とすこと。

lcɟ 【色】黒緑色 【経済】財政が黒字（儲けている） 【レベル】3 ʔ: 制 : 古 :ılnɒcɒ（黒緑色）「正しい色」。jɔμn では lcɟelɔn。 【語法】 黒緑色。アルカの正式な色。公式文書はこの色で書かれる。１６進＝００２２００。

lcɟſ 【料理】ラム、ラム酒 【レベル】4 lıΠſı

lcɟſcnı 【色】【芸術】伝統色、システィナ 【アクセント】lcɟſcnϯ 【レベル】4 ʔʔ10(ʃʃ):ɑıɒcc;ʅɔlcɟſ/nı ʃʃ 【文化】 → ueμcɒ　・日々の色　アルバザードでは日付によって固有の色 (jelncɒ) が存在する。μɑ でファミイとセレンが制定した色で、３６６色存在する。　leſſe のように特定の伝統色ではなく色グループ全体を指すものもある。ʅıɑ などもそうである。　ɒeɑcı のように伝統色にありながらも同時に黄緑という色グループ全体を指す語もある。　bıʅɒ のように伝統色にない単色ないし色グループも存在する。　クルノース家門外不出の ʅɔlcn により実現したもので、色魔法の下地となる概念である。ʅɔlcn ができた jɒ より前の段階では、人類の持つ色は鉱物や植物や動物などの自然物から得られるものに限られ、ここで述べる伝統色のような理論的な色の体系を求めるのは不可能であった。というのも、ある特定の色を出すための材料がそもそも存在しないということがあるためである。　・暦と色　地球で

は色相環は１０色を使うことが多いが、アルバザードでは１２色である（円環状のものはたいていアルミヴァを使うため、オリジナルの文化としてカルディア独特の色相環を作る必要がある）。　これに無彩色を足すと１３になり、ちょうどメル暦の月の数と一致する。月は２８段階に分析されるので、１３カ月で３６４色になる。これに ɪlefと ʃeeɒɟ を足すと都合３６６色になる。　これにより誕生日固有の色、その人のパーソナルカラー、色占いといった文化の創出が可能になる。　・四季週　ひと月の内訳である２８日は週ごとに分かれ、ɪlʃe, ɑleɪ, ɪlcɟ, lceɒ の７色ずつに分かれる。各四季週の彩度と明度は以下のとおり。春は麗らかなので、春週は明度が強く彩度の弱いパステルカラーを採用している。夏週は明度彩度ともに高く、原色や純色が現れる。これは夏の強い日差しをイメージしている。秋週はややどんよりした色で、これから暗い冬週へ向かっていくイメージ。そして冬週が彩度明度ともに弱い暗く落ち着いた色である。これは月の４週を四季で表現することから生まれた考え方で、真夏の月にも冬の週があるし、真冬の月にも夏の週があることからできた発想である。

月の前半をアルシェの週といい、後半をソーンの週という。総じてアルシェは明るい色で、ソーンは暗い色である。ソーンは秋冬の担当で、落ち着いたシックな感じや渋いイメージを醸し出している。アルシェは原色や明るい色を担当している。音楽の長調がアルシェだとすると、短調がソーンであり、どちらにもそれぞれ価値や使いどころがある。　季：明度：彩度　春：強い：弱い　夏：強い：強い　秋：弱い：強い　冬：弱い：弱い　・アルミヴァ色相環→ ɪɑel　色相環は一番上が黄緑（ＲＧＢ＝１２８・２５５・０＝８０ＦＦ００）になるように配置する。黄緑を１２時（０時）の方向にしたら、次は３時のポエンが赤（ＲＧＢ＝２５５・０・０＝ＦＦ０００）になるように色相環を配列する。　なぜこうする必要があるかというと、赤（暖色）が女性で青（寒色）が男性を象徴するためである。アルミヴァは里程標となる０時と３時が女性で、同じく里程標となる６時と９時が男性である。従って黄緑を０時にして時計回りの色相環を作るとちょうど良くなる。　色相は０～３５９までの角度で示す。地球は赤は０だがアトラスでは９０なのでずれがある。このまま計算に用いないこと。本項ではＲＧＢなどの数値は読者もフォトショップなどで確認できるよう、地球の角度で示している。　以下アルミヴァと色の対応表。参考にした資料がどうもフォトショップで実際の色と比べた時に正しくないように感じられたため、色名はセレンが目で確認して付けたもの。ただそれではきちんと伝わらないだろうから、括弧内にＲＧＢ値を入れておいた。　向かい合う角度は足すと白（２５５・２５５・２５５）になる。例えば角度３０（幻天では６０）は２５５・１２７・０で、向かい合う２１０（幻天では２４０）は０・１２８・２５５で、足すと２５５・２５５・２５５になる。　アルミヴァ：色（ＲＧＢ）：色相角度（幻天）：色相角度（地球）　セイネルス：黄（２５５・２５５・０：ＦＦＦＦ００）：３０：６０　ティーテル：橙（２５５・１２７・０：ＦＦ７Ｆ００）：６０：３０　ポエン：赤（２５５・０・０：ＦＦ０００）：９０：０　ネルメス：赤紫（２５５・０・１２７：ＦＦ００７Ｆ）：１２０：３３０　（数値的に赤紫なのは異論ない。しかしセレンには濃いピンクに見える。どうも紫系統の認識がずれているようだ）　クレーヴェル：紫（２５５・０・２５５：ＦＦ００ＦＦ）：１５０：３００　（青と赤が２５５なのでまごうことなき紫なのだが、セレンの目には赤紫に見えた。というかこの色のことを赤紫というのだとずっと思っていた）　カルザス：青紫（１２８・０・２５５：８０００ＦＦ）：１８０：２７０　（赤が青の半分なので青紫なのは間違いない。だがセレンはこれが真紫だと思っていた。数値を見て驚いた）　ヴァルファント：青（０・０・２５５：０００００ＦＦ）：２１０：２４０　ヴァルゾン：淡い青（０・１２８・２５５：００８０ＦＦ）：２４０：２１０　ティクノ：水色（０・２５５・２５５：００ＦＦＦＦ）：２７０：１８０　フェンゼル：青緑（０・２５５・１２８：００ＦＦ８０）：３００：１５０　ネブラ：緑（０・２５５・０：００ＦＦ００）：３３０：１２０　コノーテ：黄緑（１２８・２５５・０：８０ＦＦ００）：０：９０　この配置だと女性であるティーテル、ポエン、コノーテがちょうど暖色になる。なんとも奇跡的な話である。　例外はセイネルスだが、そもそもこれは生きている剣なので性別が判断しがたい（どちらかというと男性だと思うが）。　さてこれをメル暦にどう対応させるかだが、アルバザードの四季に合わせて配置したほうが季節感がある。真夏の８月に青というのはイメージに合わなかろう。そこで暖色が夏になるように配置したい。アルカでは夏は夏至から始まる。６・２１ごろなので、ɪɟɪl ɒel ごろである。夏の終わりは秋分の前日。秋分が９・２３ごろで、ɒcl̀ lcn ごろ。つまり ɪɟɪl_ɒcl̀ がおおむね夏ということになる。４カ月間である。そして黄緑～赤までで４色である。そこで ɪɟɪl を黄緑にすると ɒcl̀ が赤になり、暖色が夏に収まる。６月はまだ春と夏の間なので新緑の緑の終わりから黄への過渡期であり、ちょうど黄緑でよい。すると夏真っ盛りの dɪl が炎の色の橙になるのでちょうどよい。赤と橙だとより暑く感じるのは炎の色の橙なので、ɒcl̀ が赤というのは異論ない。　８の ɪɟɪl が黄緑で lɔnɔɔʃe ということは、１１の ɒcl̀ が赤で dɔen ということになる。１３の ɒes は無彩色なのでスキップ。すると翌年の ɑcɪ は紫で ʎeeuel となる。すなわちメル暦起点の ɑcɪ は紫のクレーヴェルからスタートすることになる。秋の終わりの肌寒い季節で、これから寒い青に向っていくのでちょうどぴったりである。　こうしていくと年始は紫になり、最も寒い月が青になるのでイメージに合い、さらに春から初夏にかけて新緑の緑となる。総じて巧い配置になっていると言える。　・明度と彩度　色相については分かったが、明度と彩度はどのように定めるか。明度と彩度についてはＨＳＶ色空間 (ueɟcɒ) で捉え、ともに０～１００％（ないし０～１．００）の変域を持つとする。　しかし彩度２０％以下はふつうの人間の目にはグレーすなわち１３月の領域に見える。また明度２０％以下はどんな色相や彩度であってもどのみちふつうは黒に見える。しかもこれは色を並べたときの話で、単体で色を見たときではない。彩度２０％明度２０％の程度の赤はグラデーションの中では周りの灰色との比較で有彩色に見える。しかしこの色単体を取り出すと黒か灰色に感じられる。せいぜい凝視して「赤味がかった灰色」に感じる程度で、これを見てとっさに赤だと思う人はまずいない。　となるとこの色はコノーテの月に入れるのはおかしいということになり、伝統色からは排他される。日常的な視点で人間が有彩色だと感じない色を伝統色として採用するのは不自然である。　むろん現代アルバザードのアートでは３６６のような少ない色数で満足することはないのでこれらの色も使用するが、少なくとも伝統色には採用されない。　単体で見た場合、ぱっと見有彩色に感じられるのはどの程度からであろうか。色相 ʃclɔ の水色（地球だと１８０°）で、彩度明度２２％とすると、地球ではＨ（色相）＝１８０、Ｓ（彩度）＝５６、Ｖ（明度）＝５６になる。彩度と明度は１６進数である。これをＲＧＢにすると２Ｃ３８３８で、１０進数では４４５６５６である。この色はＩｐｈｏｎｅなどの端末で見ると（端末の設定によっても異なるだろうが）ほとんど黒に見える。しかしＰＣ上でフォトショップなどで確認すると深い青に見える。　ここでもしＳＶを９％にするとほぼ完全に人間の目には黒に見え、有彩色とは認識されない。もちろん９％分あるので分類上は有彩色なのだが、人間の目にはそのように感知されない。というわけで９％だと有彩色と認識にするには下げすぎで、２２％だとまずまずということがいえる。ただ２２％でも実際はだいぶ灰色に見えるので、現実的には２８％くらいがぎりぎり単体でもぱっと見て有彩色に感じられる下限ではないか。　ところで先ほどから２２％だ９％だ２８％だといっているが、この区切れの悪い数値はどこから来たのか。　ひと月は２８日あるので２８色ある。２８色はリディアの月なら紫だが、同じ紫でもこれを２８種に細分化せねばならない。細分化するには明度と彩度を弄るしかない。そこで日にちによって明度と彩度が変わるようにしたいわけだ。　明度と彩度の最大値を１００％とし、これを１４段階にそれぞれ区切る。１段階目である最大値は彩度明度ともに１００％なので、残り１３段階についていくつずつ数値を減らしていけばよいかという話になる。もし１０％ずつ刻んでいったら数値がマイナスに突っ込んでしまうので不可。逆に１％刻みではほとんど色の違いを感じられないので無意味。　そこで色の違いを保たせつつ、かつ人間の目にも有彩色と感じられる値を下限としたい。目視の結果、２８．５％に当たりを付けた。下限を２８．５％にすると、刻み幅は５．５％になる。もし幅を５％にすると下限は３５％になる。しかし人間の目には２２％でもどうにか有彩色と感じられるので、下限を３５％で区切ってしまうと全体の色域が狭くなってしまってもったいない。逆にもし刻み幅を７％にすると下限は９％になるが、これでは黒にしか見えず、有彩色に含めるのは無理がある。　そこで５．５％で刻んで下限を２８．５％にするのが妥当と思われる。これは感覚に基づく判断だが、ɒɑ の技術力ではまさに感覚に基づいて伝統色を設定するしかなかったので、文化的にも歴史的にもそのほうがかえって整合性がある。　まとめよう。明度彩度ともに１００％を最高値とし５．５％刻みで下限が２８．５％になるような１４段階のスケールを求める。　このうち前半７段階を強とし、後半７段階を弱とする。すると以下のようなスケールが得られる。　なお、強列は降順で、弱列は昇順とする。これは後で分かるが、１００／１００という強い組み合わせだけでなく２８．５／２８．５という弱い組み合わせや、あるいは１００／２８．５のような片方だけが強い組み合わせを作ることができるようにである。　明度強：100, ʟ0ı.ʜ, Δʟ, Δʟ̀.ʜ, ۹Δ, ۹ʟ.ʜ, ۹۹　明度弱：ʟΔ.ʜ, ۲0ı, ۲ʟ.ʜ, 0ıʜ, ۲۲0.ʜ, ۲۹, ۹۱.ʜ　彩度強：100, ʟ0.ʜ, Δʟ, Δʟ̀.ʜ, ۹Δ, ۹ʟ.ʜ, ۹۹　彩度弱：ʟΔ.ʜ, ۲0ı, ۲ʟ.ʜ, 0ıʜ, ۲۲0.ʜ, ۲۹, ۹۱.ʜ　これで２８段階揃う。そしてこれらを上述の四季週のイメージに合わせて組み合わせる。　あくまでこの春夏秋冬は月の中の週であって、真夏に冬の週もあるし、真冬に夏の週もあるので混乱しないよう注意。　季：明度：彩度　春：強い：弱い　白く淡い色。パステル。春の柔らかいイメージ　夏：強い：強い　白く濃い色。純色や原色。夏の強いイメージ。夏野菜の色でもあり、色の少ない ɒɑ ごろの生活では植物は色をもたらす主な物質だったため、このイメージは受け入れやすかった　秋：弱い：強い　黒く淡い色。くすんだ感じの色。冬へ向けて寒くなっていく秋のどんよりしたイメージ　冬：弱い：弱い　黒く濃い色。抹茶色やワインレッドのような深い色で、渋い色。暗く寒い冬のイメージ。冬野菜や根菜の色とも一致する　リディアの日は春週の最初なので、明度は強い系列を使い、彩度は弱い系列を使う。すなわち明度は１００％で、彩度は２８．５％となる。同様にオヴィの日は９４．５％と３４％である。次週になりラルドゥラの日になると彩度は強くなり、明度はふたたび強い系列を使うので、明度が１００％で彩度が１００％となる。すなわち純色や原色はラルドゥラに現れる。　・５度刻みの色相　ふたたび色相について。彩度と明度は２８．５～１００％の値を取る。すなわち人間の目が有彩色と認識しやすい変域を取る。　一方色相は上記のままでは１２色しか取れない。彩度明度と比べてパターン数が少なく、色の無駄遣いともいえる。しょせん彩度と明度を５．５％ずつ落としていっても人間の目にはそんなに大きな違いは感じない。さらに色相も少ないともなれば、伝統色は似たり寄ったりの色ばかりに感じられる。　そこで色相をより多く使うようにしたい。例えばコノーテの黄緑を０°とすると、セイネルスは３０°である。すると１０°や２０°の色味は使われないことになる。ここに無駄がある。そこでリディアの日は０°、オヴィの日は５°、クリスの日は１０°と５度ずつ刻む。　メルの日で３０°になるので次月のリディアの日と同じ色相になってしまうが、両日は互いに明度と彩度が異なるので色が重複することはない。　ラルドゥラの日になったらまた０°に戻す。つまり曜日ごとに基準となるその月の角度に何度プラスするかが決まっている。ueɩɒ の曜日なら プラス０°で、eɒɩɪ ならプラス５°である。　こうすることで色相を３６０°中７２段階も使えるようになる。また、同じ色相がふたたび出るまで７ターンかかるため、色の見分けがしやすくなり、似たような色が減る。これだけ数値が離れれば人間の目にも区別しやすい。　・明度の入れ替え　さて、上記の容量で配置していくと、夏冬週の明度と彩度が１００／１００、９４．５／９４．５、８９／８９のようにゾロ目ばかりになってしまう。　これでは色に変化が少ない。なるべく色をバラけさせないと、「伝統色が扱う色の範囲は狭くて使えない」ということになってしまう。そこで下記の日付の間で明度を入れ替える。こうすることでゾロ目が減り、色がバラけ、色域が広くなる。　ɔuc:ɒəes　ɒɥəə:zɪnɪ　ɒcl:ɒcl̀　əɒʃɔnɔ:ʃənɔɔn　lcnɪ:ɪll　ɒelezɔnɪ:dcnenɪ　ところで ɒcl:ɒcl̀ と ɒelezɔnɪ:dcnenɪ は入れ替えても一見意味がないように見える。ところが一カ月分のカラーチャートを作ると意味が見えてくる。　明度を入れ替える前の状態でカラーチャートを作ると、綺麗にグラデーションする。綺麗なのは良いが、色に日々の変化が感じられない。日々の色といっているのに「今日は群青色。明日は微かに今日より薄い群青色……って結局群青色じゃん！」ということになってしまっては、今日のラッキーカラーとかテーマカラーといった文化も育たない。そして何よりつまらない。ということは ɒɑ でも民衆にも広まらず、未来に残らない。　そこで、なるべくカラーチャートが市松模様になるように、色をバラけさせる。同じ青系統の月の中でも「今日は群青色、明日はペールブルー、昨日は紺色」というような変化があるほうが受け入れやすい。　また、こうすることで毎日の変化を感じながら、しかして「今月のテーマカラーは青」というような使い方ができる。つまり月単位で色を使い分けたい人にも、毎日使い分けたい人にも資する。また、春夏秋冬週の違いがあるので、週ごとに使い分けたい人にも資する。さらに半月ごとにアルシェとソーンでテーマが変化するので、半月ごとに使い分けたい人にも資する。　そういうわけでチャートを市松模様にしたいのだが、それにはここで述べた明度の入れ替えが必要である。　・色相の昇降　実はこれだけではまだ綺麗な市松模様にならない。そこで色相のプラス補正についても昇降を与える。　今のところリディアの日がプラス０°でメルの日がプラス３０°であった。補正値は昇順である。　これを春秋週に関しては逆転させる。つまりメルの日がプラス０°で、リディアの日がプラス３０°である。　一方、夏冬週はそのままとする。これは夏がラルドゥラの日を含み、ここに原色や純色が現れるためである。この日に色相補正をしてしまったら、例えば黄色の月に黄色の純色が出ないというおかしなことになってしまう。　・色の演繹　以上を踏まえ、ɒeɩjeɩ の色を求める。ɑcɪ ɑcɪ なので、色相は紫。色相の補正はリディアの日なのでプラス３０°。明度は１００％、彩度は２８．５％である。このようにして論理的に個々の日付の伝統色を求めることができる。地球ではＨ＝２７０°、Ｓ＝２８．５、Ｖ＝１００で計算する。このときのＲＧＢは＃ＤＡＢ６ＦＦで、１０進数では２１８･１８２･２５５である。具体的にはピンクがかった紫となる。　また ɑcɪjeɩ は zɪn ɪɟɪl なので、色相はセイネルスの黄。ラルドゥラの日なので純色が現れる。ＨＳＶはＨ＝６０°、Ｓ＝１００％、Ｖ＝１００％。ＲＧＢは＃ＦＦＦＦ００であり、１０進数では２５５・２５５・０である。これは純色の黄色に等しい。つまりディアセルは真正の黄色ということになる。記念日としては分かりやすい。　・明度／彩度　ɑcɪ:100/ʟΔ.ʜ　ucɔ:ʟ0ı.ʜ/۹ʟ.ʜ　lcɟ:Δʟ/۲ʟ.ʜ　ɒcl:Δʟ̀.ʜ/Δʟ̀.ʜ　ɑəl:۹Δ/۲0.ʜ　ɑɥə:۹ʟ.ʜ/ʟ0ı.ʜ　ɒel:۹۹/۹۱.ʜ　ɪɟɪl:100/100　zɪn:ʟ0ı.ʜ/۲۹　dɪl:Δʟ/Δʟ　ɒcl:Δʟ̀.ʜ/0ıʜ　ɑɪu:۹Δ/۹Δ　ɒəs:۹ʟ.ʜ/۲0ı　jeɒ:۹۹/۹۹　ɪɟɪu:ʟΔ.ʜ/100　ɪɪn:۲0ı/۲۹　lcn:۲ʟ.ʜ/Δʟ　ɒez:0ıʜ/0ıʜ　scl:۲0.ʜ/۹Δ　ɑcn:۲۹/۲0ı　ɒef:۹۱.ʜ/۹۹　len:ʟΔ.ʜ/ʟΔ.ʜ　ɪlʟ:۲0ı/۹ʟ.ʜ　nen:۲ʟ.ʜ/۲ʟ.ʜ　dcn:0ıʜ/Δʟ̀.ʜ　ɒɪf:۲0.ʜ/۲0.ʜ　ʃən:۲۹/ʟ0ı.ʜ　ɒcɒ:۹۱.ʜ/۹۱.ʜ　・色相補正（四季週＼曜日）　ueɩɒ　eɒɩɪ　jɪſcc　ʃeeue　beezel　cɩuɪ　dɪɟɪl　ɪlʃe　۲0　ʟʜ　ʟ0　ʟʜ　10　ʜ　0　ɑleɪ　0　ʜ　10　ʟʜ　ʟ0　ʟʜ　۲0　ɪlcɟ　۲0　ʟʜ　ʟ0　ʟʜ　10　ʜ　0　lceɒ　0　ʜ　10　ʟʜ　ʟ0　ʟʜ　۲0

・ルージュの月　ルージュの月は本来無彩色のために用意された月だが、実は白から黒まで２８段階に分けると細かすぎて隣同士の色をふつうの人間が識別できないという問題がある。色の本を見ても無彩色のページは２８以上あるので、一見すべて命名できそうに見える。だがそのほとんどはグレイに赤や青などの色味が入った色で、厳密には無彩色でない。そして色のついた灰色なら毎月エンナの日辺りに出現している。　純粋な無彩色だけで２８段階というのは現実的でなく、せいぜい半分の１４段階だろう。これだと人間の目にも区別がつく。さらにいえば、５°などの有彩色は各色相ごとに４色しか存在しないのに、無彩色だけその７倍の高分解をするというのはアンバランスである。　そこでルージュの月のソーンの週だけ使って無彩色を示す。ɒəs ɪɟɪu が純白で、ɒəs ɒcɟu が真黒となる。　するとアルシェの週が余るが、ここに４５°の倍角色を納める。　アルミヴァの１２色相は方位に例えるなら１２方位に相当する。１２方位というのはよく考えると東南や北西といった４５°の倍角が表現できないという欠点がある。　ということは色相環にも同じことが言える。赤と黄緑という起点となる色のちょうど間の色が表現できないという事態に陥る。赤と黄緑の間は４５°なので、実はセイネルスの月のテーヴェの曜日に出ている。しかし明度と彩度の組み合わせ上、純色は出ない。そこで下記のように４５°倍角色を配置する。なおこの角度は幻天での値なので注意すること。例えば幻天で１３５°は地球では３１５°になる。　ɑcɪ h=0ıʜ, j=100, u=100　ucɔ h=0ıʜ, j=۹0.ʜ, u=۹0.ʜ　lcɟ h=0ıʜ, j=ʟ0.ʜ, u=ʟ0.ʜ　ɑəl h=۲۲ʜ, j=100, u=100　ɑɥə h=۲۲ʜ, j=۹0.ʜ, u=۹0.ʜ　ɒel h=۲۲ʜ, j=ʟ0.ʜ, u=ʟ0.ʜ　ɪɟɪl h=ʟʟʜ, j=100, u=100　zɪn h=ʟʟʜ, j=۹0.ʜ, u=۹0.ʜ　dɪl h=ʟʟʜ, j=ʟ0.ʜ, u=ʟ0.ʜ　ɑɪu h=۲۲ʜ, j=100, u=100　ɒəs h=۲۲ʜ, j=۹0.ʜ, u=۹0.ʜ　jeɒ h=۲۲ʜ, j=ʟ0.ʜ, u=ʟ0.ʜ　さて、こうすると ɒcl と ɒcl̀ が残る。　その前に ɒez と dcn を名付けよう。ɒez は銀色で、dcn は鉄色である。となるとここに金と銅を足して、アルバザードで重要な４つの金属を縦軸で揃えたい。日本の折り紙でよく金銀が入っているが、アルバザードでもやはり金銀銅鉄のような色は特殊な色として扱われるため、こうしてルージュの月に特別な色として加わる。　ɒcl を＃Ｂ８７３３３の銅色とし、ɒcl̀ を＃ＦＦＤ７００の金色とする。もっとも金などは光沢ありきの色なので、ここではあくまで黄色の一種に見える。このように並べていくと、巧い具合にアトラスの歴史の中で発見された順序に上から並ぶ。しかも縦軸はテーヴェの曜日であり、テーヴェは土の属性で、鉱物はここに入る。非常に興味深い配列である。　残った ɪlefʃ と ʃeeɒɟ について。　ɪlefʃ には彼らが使用していた公式色の lcɟ を宛がう。＃００２２００である。　そして最後の ʃeeɒɟ には、ɒɑ で伝統色を作ったファミイの定めた恋色で、＃Ｆ８ＤＡＤ２である。ɒɑ で共同研究者のセレンは最初この色は悪魔の日の色としてピンと来ないと考えたが、ファミイが研究の最後に自分の気持ちを託した色のことだと気付く。これが最終的に未来のミロク＝ユティアに繋がる。　・伝統色成立の経緯　ɒɒ で ʅɔɪlcɟʃ ʅəlnɔɟɪ が ʅɔɪlcn を開発。染料や画材の色を安く提供し、財を築く。　ɒɑ になると ɒɒ で発達した錬金術のおかげで、自然物を使った顔料が ʅɔɪlcɟʃ のころより豊富に採れるようになる。種類も豊富で値段も下がってきたため、相対的にクルノース家の売り上げが落ちる。　問題は ʅɔɪlcn が扱いづらいことにあった。アナログで色を作るので、匙加減ひとつで色が微妙に変わってしまう。従ってひとつの色で糸や粉に色をつけるのは難しく、クライアントの注文した色にならなかったり、色がまだら目になってしまうことがあった。そのため自然顔料も需要が残っていた。この頃は自然顔料によるものを獅法色、ʅɔɪlcn によるものを魔法色と呼んでいた。　۱۹۸۲ 年、時の当主 ɒcɒɔzɪ ʅəlnɔɟɪ は経営不振に悩んでいた。当時は折しも貴族批判がなされていた時代で、ミモザは自分たちが庶民派であることをアピールするため、長女ファミイをアシェルフィ校へ編入させる。リディアやセレンと同級生になる。　۱۹۸۵ 年、ファミイは席替えでセレンの隣になり、話すようになる。同年ファミイが学校帰りに誘拐される。クルノース門外不出のカオリンの使い方を吐かせるためである（どのみちまだ伝承していなかったの無駄だったが）。居合わせたセレンがこれを助ける。このことでファミイはセレンに好意を持つようになる。　۱۹۸۶ 年、ファミイはセ

レンを誘って部活を始める。色と魔法の関係について研究する色魔法部を設立。部員は２人のみ。　１ᚻᚳ 年、ファミイはアシェルフィ高等部へ進学。同セレン。　１ᚻᚳᚩ 年、ファミイは高等部を卒業。ミモザからアマンゼ家へ嫁ぐことを命じられるがこれを拒絶し、大学進学を望む。進学と引き換えに、ミモザの命令で一年花嫁修業を行う。　１ᚻᚳᚳ 年、ファミイ、アルナ大へ進学。セレンと連絡を取って色魔法部を存続。　１ᚻᚩ 年、ファミイはカオリンをミモザから伝授される。　１ᚻᚩᚻ 年、ミモザからふたたびアマンゼ家へ嫁ぐことを命じられるが再度拒絶。色魔法部の成果を出すことに注力しはじめる。　１ᚻᚩᚹ 年、色魔法部が ɟɪclɪn を開発。実用に向けて調整に入る。　１ᚻᚻᚩ 年、サイカンが実用ベースに乗る。ɪɔlɛcʃʃ の提唱した uɛɥcɒ とサイカンを用い、lcʃʃcnɪ を制定。uɛɥcɒ を使って色相と明度と彩度を定め、それを規則的にメル暦に配置。各日付の色はＨＳＶで定められたが、実際使うのはサイカンであるため、当時リュウが作っていたコンピュータを使ってＨＳＶをＲＧＢに変換した。本には伝統色をＨＳＶとＲＧＢの両方の値で登録し、それぞれにアルカで色名を付けた。伝統色は３種ある。１つはこれまでアトラスが用いてきた獅法色。１つはそれに近い魔法色。最後は魔法色オリジナル。１番目のものは lcʃ のように元の名を残した。２番目のものは元の名前を残しつつ、元の色を魔法色に合わせた。例えば eɥɑc はこのころ完全に「これはこの色だ」と決められていたわけでなく、「おおむねこういう感じの色だな」という風に決まっているだにすぎなかった。その見本色はクルノースが書籍にして保有していたが、魔法色がそれと少し異なる色の場合、色の値が数値的に分かる魔法色を優先したほうが後々合理的である。そのためこちらを正しい色とした。従って eɥɑc などはそれまで考えられていた色と少し異なることになる。この辺りは地球でも似たようなことがあった。３番目はもともと自然物では出せない色なので、色魔法部が新たに命名した。従って lcʃʃcnɪ には３つの命名パターンがある。　同、ミモザが結婚への最後通告を出す。ファミイは覚悟を決めるが、lcʃʃcnɪ の最後の色に想いを託してセレンに送った。もともと ʃeeɒɟ の色は候補がなく、決めあぐねていた。セレンはファミイのシステムなので最後は自分の好きな色を当てればいいと言った。ファミイはそれに hɪʃcɪ と名付け、結婚前日にセレンに送った。　これを見たセレンはファミイの気持ちを知って諭しに行く。これ以前にもファミイは彼を初めて意識した日 (aɪɯ ɯcɔ) に lɪʃɥə̈l e uɛlɸɪɥ と名付けるなどしてささやかにアピールしていたが、セレンが気付くことはなかった。　hɪʃcɪ によってようやくファミイの気持ちを知ったセレンはこのときファミイにカモミールの花を渡している。結局セレンは断り切れずに事が起こる。　リディアはこのことに気付いたが、ファミイの気持ちを中学のころから知っていたので耐えた。　同、ファミイは euel ɪɒɪnze と結婚。　１ᚻᚻ 年、サイカンによってまだら目もなければ失敗もない色で糸や粉を塗ることができるようになった。この年には色を付けた繊維や衣服や画材や顔料の生産が完了。３６６ものカラフルな色を確実なクオリティで安価に提供ともなれば、当時のアルバザード人が食いつかないはずがなかった。さらに３６６日に固有の色を設けたおかげで「今日のテーマカラーを！」「あなたのパーソナルカラーを！」という売り文句ができ、これも売り上げに貢献した。また、これによってメル暦の国民の間での認知度が上昇した。イムル暦でも使えるのだが、lcʃʃcnɪ はもともとメル暦に合わせてあるのでこちらのほうが圧倒的に使いやすい。むろんメル暦が認知されたのはアシェットの知名度も大きい。こうしてクルノース家は建て直された。　同、ファミイが娘の lcɔn を出産。　・伝統色の訳語　伝統色は色魔法部が uɛɥcɒ を使って色相と明度と彩度を定めたものがもとになっている。最終的にはサイカンを使うのでＲＧＢ値も定める。　それまでの獅法色と重なるか近ければそれまでの色名をそのまま使うかアルカに訳せば良い。しかし１６７７万色から３６６色しかピックアップしていないので、既存の色とかぶる確率は圧倒的に少ない。そこでかぶる色ないし近い色がなければ新たに単語を作ることになる。　さてそうなると幻日辞典のほうにも同じ問題が起こる。地球の色と近いものがない場合は名前の付けようがなく、セレンが日本語で適当に訳語を付けねばならない。例えば ɑcɪ ɑcɪ は＃ＤＡＢ６ＦＦで２１８・１８２・２５５だが、『色の名前５０７』という書籍でこれに近い色を探しても見当たらない。これより色数の多い本はあるのだが、ＲＧＢ値が載っていなくて参照しようがなかったり、値があっても肝心の色名がなかったりして使い物にならなかった。　むろん＃ＤＡＢ６ＦＦをグーグルで調べれば何かしらはヒットする。しかしこれは特に名前が定まってない色で、訳語の設定には役立たない。さらに＃ＤＡＢ６ＦＦに近い色でかつ名前が付いている色も見当たらない。　こういう例が多いので、日本語の色の名前を幻日の訳語欄に設けるのは無理がある。近い色がなくあっても無名だったりするからだ。だがこれは考えてみれば当然で、１６７７万色の中から他方は３６６色で他方は５０７色しか選んでいないのだから、そもそも原色などを除いてかぶるはずがないのだ。　＃ＤＡＢ６ＦＦに無理に近い色を当てることもできる。例えばフレッシュピンクは上掲によると２２８・１９８・２００でまだ近い。しかし１０・１６・－５５も違っているのに「はいこれはフレッシュピンクですよ」で良いわけがないだろう。そんないい加減なことではユーザーを混乱させるだけだ。　なお、色詞については ue lɸɪɥen 参照。　jelccʃ ［伝統色］ライラック：大切なもの：＃ＤＡＢ６ＦＦ：ɑcɪ ɑcɪ　このように、日本語の色名はあくまで捨象する。ところで捨象すると逆に良いこともある。地球だろうとアトラスだろうと命名のセンスはそんなに変わらない。植物などを語源とすることが多い。　このライラックという色名だが、実は地球にもあるのだ。しかしそれは１９１・１７１・２００であり、jelccʃ の色ではない。アトラスにも同じライラックという名前の色があるが、別々の世界なのだからその色が地球の色と同じなはずがない。かといって地球に遠慮してライラックという色名を避ける理由もない。　もし日本語の色名も併記した場合、jelccʃ 以外のどこかの箇所でまたライラックという言葉が現れる可能性が高い。これでは非常に混乱を招く。そういう意味では日本語の色名は捨象してアルカの色名の訳語のみに限定することには理がある。　・システィナ表　別途 p d f を参照のこと。　・色の命名　ɥɑ までの歴史を反映して作られる。　まず、bɛlɑcɪ など、色の名前そのものを指すタイプがある。　次に、ɑclʃ や ɑedc のように物そのものを指すタイプがある。　地名やアイテムなども含まれる。ヴァストリアの場合は刃や棒の部分の色を取ることが多い。ほかにも校章や象徴色など様々である。　名前はルティア語のもの (lɪ ɑɔn s'elcczel) やディミニオン語のもの (ɒɪzel ʃɪn hecjʃ) なども含まれる。　・色の違い　ʃeɟɟɪ（抹茶色）といっても、すべての抹茶がその色ではない。光源や部屋の明かりによっても違うし、茶葉の量によっても異なる色が出る。なので ʃeɟɟɪ は必ずこの色になるというわけではない。ɪɑcɟɟ nʃ も同様で、まったくあの色でなければならないというわけではない。　また、cɒel のように、固有の伝統色で限定する語義がある一方で黄色系の色を漠然と指す単語もある。　lcʃʃc nɪ は色を限定する能力があるが、現実に存在する抹茶なり栗なりといった色は当然千変万化である。アルバザードの栗はすべてこの色なのだというように杓子定規に考えないこと。　・拡張　ncɒ の項の語法にあるような形容詞を使って lcʃʃcnɪ を拡張することができる。例えば aɪɥɥen より明るいが ɑɔɥʃcʃ より暗い色などを表す場合に aɪɥɥen ɑcɥʃ などということができる。　同様に lɪ ɟɪn s l'ɪlɒc（ラ サン ジュ ラルミ）を暗くすると beezelɪʃ に近づく。［成句］ lcʃʃcnɪ cɟɑelcɪ あなただけのカラーを：十人十色、千差万別。システィナを売り出したときのキャッチコピーから。

lcʃl ［名詞］［形容詞］どうしようもない、仕様がない、どうにもならない、対処できない、うだつがあがらない、やりくりできない、上手くいかない ［反意語］ɟɪlʃ ［レベル］３　ʔ: 制 :lcɟɔ（することがない）［用例］ ʃə ɪʃ lcɟl. どうしょもなかった。　φɪɪʃɔ eʃ lcɟl bɛɟel. そういうことはどうしょもない。

lcɟlɑɑ ［経済］黒字倒産 ［レベル］６　１L

lcɟd ［被服］パンティー、パンツ、ショーツ、男のブリーフ ［レベル］２　ɥɑ; ↓　１ll: 制 : 古 :lcɟɪbe（甘い下着）。ここでの甘いは淫らを指す。　φcɲɟɪ:φcɲɟɪ ［語法］ lcɟd は男のブリーフも女のパンティーも表わす。

lcɟdlcld ［普通動名詞］パンチラ ［類義語］lɪnɟɪlnʃ ［レベル］４　ɟl

lcɟɪ ［料理］砂糖、シュガー ［レベル］２　古 :（甘い粉）［文化］ アルバザードではショ糖のことだと思われているが、実際には砂糖の主成分がショ糖なだけ。通常グラニュー糖を指す。

lcɟɪɪfe ［名詞］砂糖屋　ɥɑ; /　ʃl

lcɟɪɪclccɒ ［化学］砂糖混合異性化液糖　ul; /　ʃl ［語法］［文化］ ɪclcccɒ

lcɟeu ［名詞］あとがき、後書き、跋文 ［レベル］４　ʃl0

lcn ［法副詞］～してはならない ［名詞］禁止 ［動詞］ɥəl を禁ずる、禁ずる、禁止する ［形容詞］禁じられた、禁止の ［反意語］ɑlen ［レベル］１　jeɥʃ;lɪn.ɟɪduel ʃL:1L までは ɑej で、ɑeɟ は古 ɑejdɪ（封印、禁止）からだったが、ɑɪɟ と似るので、音を離した。lcn は制では虚偽の意味。　sɪn,ɑ(ɑ en) nɪ,ɑ(lcn) ɑu 以降、sɪn が滅んで nɪ が ɑen と lcn の両方を兼ねるように :nɪ: ［語法］ 当為性が０であるというニュアンスがあり、その点で ʃe と異なっている。語順も異なるので注意。　ʃe ɟɔ（しないで）に対し、ɟɔ lcn（してはならない）。［文化］ uceɥ ［用例］ ɪɟbɪzɪɟɪɑ lcn ɑɪnl. アルバザードは麻薬を禁じている。　el ɟɔ lcn φɪɪʃɔ. そんなことしてはいけない。

lcn(J) ［アトラスの国家］シン ［レベル］５　ʃl: ɟcɑcɪ

lcnʃɪ ［植物］タブ、タブノキ、楠の木、天竺の木　ɟzɑ　x:lcnʃɪ:lə lcnʃɪ

lcnl ［文頭純詞］実は、実を言うと、なんと ［レベル］２　ʔ: 制 : 古 :lcnlə（本当を言う）［用例］ lcnl le eʃ ɑce ɑɪ. 実はありゃ嘘だ。

lcnle ［人名］シンケ ［動詞］ɥəl を ɪ（整形後の状態や整形したいモデル名）のように整形する、整形する ［美容］美容整形、整形 ［組み数字］５/１６ ［レベル］４　ɒelʃcɪ ʔL:ɪɥɑə/eɟɪ;e 古 ［文化］ eɟɪɪ　エスタの第５子。女。３姉妹の中で一番美しくなく、兄から銅鏡を与えられた少女。銅鏡から生まれたリシウスにより顔を整形され、兄に受け入れられる。醜いとは書いてないが勝手に醜いとアシェットに解釈され、整形するの転換動詞になった。実際は姉のパルテたちが美人なだけ。　＜整形について＞　整形は嘘の姿を作るので嫌われる。整形美人は人気がない。但し、ブスで生きるのは社会的に事実上不利であるため、ブスが整形するのは抵抗がない。ただ、そういった人間が恋人を作ったり結婚するときには必ず整形したことを申告しなければならない。

lcnuɪjn ［政治］不可侵 ［レベル］４　１L

lcnφ ［生物］胚、エンブリオ ［レベル］５　ʔ: 制 :lɪlʃɪ:lcnl

lcnl ［動詞］ɥəl を ɪ（聞き手）にでっち上げる、でっち上げる、でっちあげる、狂言を吐く ［普通動名詞］でっちあげ、でっち上げ、狂言 ［レベル］３　ʔ: 制 :lcnlɪɑ（虚偽を作る）

lcnlec ［名詞］禁書 ［レベル］４　ɥɑ;/「禁じられた本」　ʃl

lcnleceɑɪ ［名詞］禁書目録 ［レベル］５　ɥɑ;/　ʃl ［語法］ 宗教や思想革命によって読むのを禁じられた本のこと。

lcnɪ ［形容詞］幸運、ラッキーな、運の良い、ツイてる、ついてる ［副詞］幸運なことに ［反意語］ɟɪɒc ［レベル］２　古 :lcnɪ（幸運な）。原義は「甘い心」。好きの jccnɪ と同じ語源。好きも元々は lcnɪ。l が j に変わり、母音がアクセントによって伸び、jccnɪ になった。幸運と好きは同じく lcnɪ だったが、好きだけ jccnɪ に分離した。［用例］ ɪn ɪʃ lcnɪ cɒ ɑcj. 今日はついてる日だった。

lcnɪlɔ ［普通動名詞］禁じられた遊び ［レベル］２　ɥɑ;/　ʃl

lcnɑɪ ［生物］［美容］後ろ髪 ［レベル］３　１L:pelcɑɑɪ ɪlcj

lcnɑɪlɔɔzjeel ［生物］後髪際中点　ɥɑ;/　ʃll

lcnɔ ［親族］息子ちゃん ［レベル］２　１L:ɟcɑcɪ:lccɪ/nɔc（可愛い息子）［語法］ ɒccɪ

lcu ［生物］声、鳴き声 ［動詞］ɥəl という声を出す、声を出す、（ɥəl なしで）鳴く、鳴く ［魔法］シヴ。利の中位白魔法。セールを解除する。　［類義語］lccueɥ ［レベル］１　先 ［成句］ nɪφ lcu　声を飲み込む：声を出さない。我慢して声を出さないこと。あるいは驚きすぎて息を飲んで声が出ないこと。［用例］ lcu ʔɪc 大きな声　lcu jɔɥʃɪɪcʃ{ 高い｜低い }声　lcu ɑɪn 深い声。腹の深いほうから出てくるため　lcu jɔɥʃ 冷たい声　lcu ɥed かすれた声、掠れ声、しわがれた声　lɪɑ{jɔɑ} lcu 声を立てる　lcu euc 乾いた声　jeʃ lcu 声を殺す、押し黙る

lcuueʃ ［言語］擬声語 ［レベル］４　ʃl ［語法］ ɑɔueʃ

lculɔʃ ［音楽］声域 ［レベル］５　ʃl

lculenʃ ［電算］［音楽］ボーカロイド。初音ミクなどの技術で、人間の代わりに機械が歌うもの。ものによっては人が歌うより巧い。［レベル］４　１L

lculecɒ ［医療］［言語］シヴレイム、エコータイプ ［レベル］５　ʃl0:lcuɪ/ʔɪcʃlleccɒɪɪ ［文化］ ある人物と呼応する性格や立場にいる人物のこと。アティーリには二項対立とともによく現れる概念。

lcuɪ ［エルト］シヴァ。山や丘や谷を支配するエルト。　［名詞］山彦、こだま、エコー、反響、口真似。やまびこだけでなく反響全般を指す。　［魔法］シヴァ（クイック）。利の高位黒魔法。一度この魔法をかけてから別の魔法を唱えると、魔法がこだまのように何度も放たれるようになる。１度の魔法で数回分の威力を発揮することができ、しかもこだまになった魔法は威力が元の魔法と同じであるため、非常に便利な魔法である。　［魔法］召喚魔法シヴァ。魔石シヴァレンを用いて召喚する。シヴァの魔法をパーティー内の魔導師全員にかけてくれる。召喚している間だけ有効。そのため、リディアの魔力が持つ間、メルやフルミネアなどの魔導師は何度でもシヴァ状態で魔法を放てる。［レベル］３　ɥcɑcɪ: 古 : 先 :lcu（声）が語源。元の設定ではサールだったが、山の神であることから指摘を受け、エルトに変えられた。山は高いので。天界にいるエルトを喚起するためだ。

lcuɪ(J) ［人名］シヴァ　ʃl ［文化］『夢織』の登場人物。アルナ大１１組で、アリスの恋人。髪はツンツンした茶髪。バンド「フィーナ」のドラムと男性ボーカルを担当する。

lcuɪn ［音楽］ボーカル ［レベル］４　ʃl

lcuɪɥen ［地学］（ブルー）サファイア、サファイア、青玉。リディアがシヴァ神を召喚するときに用いた。　［魔法］シヴァレン。水の中位白魔法。排卵を抑制する。　［組み数字］３/１０ ［レベル］４　zφ;lcuɪ/ɥen　ʔ9:ɥcɑcɪ　eeɥen:lcuɪɥen ［文化］ ＜魔法＞　日常魔法のひとつ。避妊具なしでもセックスを楽しむための魔法として使われた。ルビーのファーレンからの応用で作られた。セルメルまで、インプレンのお抱え白魔導師に就職するための必須技能のひとつ。結果、性病が増えたため、アミティ系の魔法を使える医者がますます潤った。　カコでは、サファイアにシヴァレンの魔法を籠める方法が確立した。だが１回当たりが高価になるため、裕福な人間しか利用できなかった。魔法のサファイアを軽く握りつぶすと、かき氷のように宝石が割れる。割れることで中の魔法が解けだし、手などを伝って体内に魔法が吸収される。　＜魔石＞　ユノの魔石。ならびに、シヴァ神を召喚する際の魔石。　無色透明のものはユノを大量に重合できる。［成句］ ɪiə{lɪnʃ} lcuɪɥen ɪ nene. ～と避妊具なしでセックスする：文字通りの意味もあるので注意。

lcuɪl ［形容詞］音が良く響く、残響のある ［反意語］ɟɪbcɥ ［レベル］４　１L:lcuɪ

lcuɪ ɪlhɪcl ［人名］シヴァ＝アルハイク ［レベル］６　１L:ɟcɑcɪ:clbəɟ ［文化］ (ɒel １0ᚻ → １１Δ) ナディア期の軍人。１０才のとき、アルバザードにいる父の元へ向かう船で、海賊ガーヴに襲われ、母を失う。母に船から逃がされ、メティオに流れ、鍛冶屋に育てられる。１５歳、３国連合軍のガーヴ討伐隊に加わり、数々の功績を立てる。１９歳で連合軍の１部隊の部隊長になり、ガーヴを追放する。その功績でメティオ軍の海兵隊長となった。

lcuɪeɟl ［気象］どしゃぶり、土砂降り ［レベル］３　１L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelʃ: 音がシヴァの魔法でこだましているかのように聞こえるほどの雨 ［用例］ lcuɪeɟl ɪʃ jɔɑ. どしゃ降りだった。

lcuc ［言語］感動詞 ［レベル］４　１ʔ: 制 :lcu

lcucɟl ［言語］朗読、音読 ［動詞］ɥəl を朗読する、朗読する、音読する、読み上げる、声に出して読む ［レベル］３　１L

lcuɔʃ ［音楽］アカペラ、ア・カペラ ［レベル］５　ʃl:lcu hɔʃ

lcuel ［料理］チョコレート、チョコ、ショコラ ［レベル］２　古 :lcuel（甘い黒いもの）。制で lcul だったが、客用の lcdl を買ってきてとクミールに頼まれたリーネが lcul を買ってきた。lcdl と lcul は紛らわしいとリーネは糾弾し、古形に戻すよう主張した。［成句］ ɥən lcuel（恋愛が）大人な→ ɑccnelcɪ

lcuelɪɪɑ ［地球の国名］ガーナ ［レベル］６　１L: そういうイメージ

lcueliɑeɒ ［料理］チョコチップ ［レベル］３　ʃl0 ［文化］ チョコをチップ状にしたもの。クッキーなどに入れられる。

lcuelɪb ［植物］カカオ ［レベル］３　１L:ʔ: 制 : チョコレートの材料

lcueeɥ ［経済］大引け ［レベル］６　ʃl:lc/ueeɥsenʃ

lcɑ ［形容詞］意味のない、効果のない、無価値な、無意味な、無為な、価値がない ［類義語］lel) ［反意語］ɪɑeʃ ［類音］lccɑ ［レベル］３　１L:lcɔn: 制 lcɑeʃ ［語法］ ɪɑeʃ ［用例］ cl uɔjl ɪʃ lcɑ. どんな努力も意味がなかった。

lcɑɥe ［アイテム］シフレ　jɒ;flcʃe/ɑɥec「早抜き剣」　ʃll ［文化］ jɒ の傭兵が考えだした剣の差し方。剣の種類のことではない。ふつうはベルトに剣を差すが、ベルトからＶ字型に紐を垂らして剣の鞘に紐を巻き付ける。こうすることで手の位置に柄が近付き、より早く抜ける。町中で暴れることもあった jɒ の傭兵にとって速い抜剣は重要であった。凪人の刀に比べて傭兵の刀は短かったのでこの帯剣が可能であった。

lcɑɪ ［植物］ビート、甜菜 ［レベル］４　lɪlʃɪ:lcɑɪ。lc は甘い。

lcɑcɪ ［名詞］［形容詞］リア充、モテ ［反意語］φəcɪ ［レベル］４　ʃl:lc/ɑcɪ（甘い世界）［語法］ 典型的には仕事にも恋愛にも人間関係にも金にも健康にも恵まれた人間のこと。［成句］ ɥe lcɑ cɪ ʃcɑl ɑcɪlʃ リア充爆発しろ！

lcɑeɟ ［名詞］シフェル、西の民 ［レベル］３　古

lcɑeɟɪn ［人名］シフェラン ［レベル］４　古 ［文化］ シフェルの指導者。

lcɑeɟelɑ ［言語］シフェル語→ ɪɟlɪ。lə̈ə̈elc 参照。 ［レベル］４　１L

lcɒ ［動詞］ɥəl を得る、得る ［普通動名詞］獲得、取得 ［反意語］ɪɑ、ʃcɑl ［化学］還元 ［レベル］１　参古 :flcl（持つ）から。ʃcl（所有する）も flcl から来ている。　ɑəʃɔ:ɑəʃɔ ［用例］ lcɒ ʔclɒ チャ

ンスを得る lcɒ φcl 金を得る

lcɒʎ ［料理］マスタード、イングリッシュマスタード、フレンチマスタード ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɪc/cɒʎɪ

lcɒɲɪʒ ［名詞］取得回数 ［レベル］4 ʃ1

lcɒɪ ［形容詞］体が愚かな ［類義語］lecʃ ［反意語］ɥəlɒɪ ［レベル］3 μɑ;lcɪ/ɒɪcn「紫亞の体」 ʃʎ ［語法］ɥəlɒɪ

lcɒɪn ［化学］酸化剤 ［レベル］5 1L: 電子を得る側＝還元される側＝酸化する側＝酸化剤。ややこしいので注意。

lcɒɪnɪ ［名詞］後期大学 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcʃ

lcɒɪll ［化学］酸化数 ［レベル］5 1L ［文化］ 地球の場合、ナトリウムの酸化数は＋１である。しかし実際には電子を失う数が１なので、－１としたほうが分かりやすい。＋１とする利点は、ナトリウムイオンの表記のＮａ＋と一致する点。しかし電子の授受で考えた場合は、酸化数を＋１とするより、還元数という概念を考えて＋１としたほうが分かりやすい。アルカでは、還元数しかなく、地球の酸化数とは逆転する。ティーテルイオン（ナトリウムイオン）は＋１の還元数を持つ。従ってアルカではイオンの電荷と酸化数は符号が逆になる。

lcɒc ［形容詞］心の汚い、心が汚れた、悪心 ［反意語］jɪnɪ @ 1L ［成句］lcɒc ueɑl jɪnɪ. 汚い心は綺麗な心を蝕む。心の汚い人間の近くにいると影響を受けて自分の心まで汚れてしまうので関わりを持たないのが一番という意味。どんなウイルスであれ接触しなければ感染しないのと同じ。 ［用例］ɪn ɘəʃ "ɪn φɥəɔ lɪl nɔj c ɑcɪ lcɒc. ʃəəbe uɔμʃ ɪl ɑɪ" ɪ ɒcuɪ ɔɔnʃ len uelɑ. ɥɪn lə ɘəʃ deɑel "nɔn uɪnɔ ucl ɒɪcn ʃəɪn ɒcl ʃɥə eʃ ɪnuc ɔn ɒɪcn, ʃeʃ uɪnɔ jen ɪlɒɔ ʃəɪn ɒcl ʃɥə ʃe nɪɪu ɔn ɪlɒɔ ɪnneə" enʃɔ ɪn nɪl nɔj lccɪj uɪn lə. 酒を飲みながら「汚い世界に関わりたくない。そんなものは滅べばいい」って娘に言ったら、「パパの体は強いから守ってあげられないけど、心は弱いから守ってあげられます」って言われて、この子は大切にしようと思った（ləlcɪ ɪμbɪzɪμɑ）

lcɑ ［経済］倒産 ［レベル］3 1L: 制 :lcɑɔɪ

lcɑcɪ ［感動詞］おやすみ ［ɟɑnʃe］［動詞］ɒɔl ［レベル］1 古 : 甘い夢を見て寝なさいというのが原義 ［文化］ 就寝時は lcɑcɪ という。敬度に関係なく寝る人が周りの人に、或いは起きている人がこれから寝る人に向けて言う。言わないと失礼である。ɑɔɔuɪ では代用できない。尚、lcɑcɪn も同じ意味であるが、これは幼児語である。幼児に向けて、或いは幼児が大人に向けて使う。 ［用例］ɪn ɘəʃ lcɑcɪ ɪ μjccl. 親にお休みと言った。

lcɑcɪ(J) ［名詞］幻楽、げんがく、シディア ［レベル］4 ʃ1:lc/ɑcɪ（甘い夢） ［語法］ 夢幻のように楽で楽しいこと。楽は「ラクで楽しい」こと。 幻は「理想」「虚ろで現実的でない」「現実的でなくシリアスでない」こと。 すなわち「夢見がちで非現実的で肩肘張らない取り組みのうち、ラクで楽しいこと」。アルカのコンセプトでもある。 ［用例］lɪ ʃcl lcɑcɪ. 彼は幻楽主義だ。

lcɑcɪʃɔ ［名詞］おやすみのキス ［レベル］2 1ʎ: 制 : おやすみのキス ［文化］ 主に幼児を相手取って行うことで、寝る前に親などの近親者がキスし、子供もキスで返すこと。

lcɑcɪn ［感動詞］［幼児］［ɒdɑ］おやちゅみー☆ ［レベル］1 1ʎ: 制 :lcɑcɪ/n（指小辞）

lcɑcɪbeɲɪ ［幼児］おねしょ ［レベル］2 1L

lcφ ［形容詞］簡素な、粗末な ［反意語］jɪɑ ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɪφ: 古 :lɪlφclʃ 金がある 」 ［語法］cφ は簡素であり、豪華の反対。いわばケバくないといった感じで、中立的。

lcφɪφ ［言語］［生物］喉頭 ［レベル］4 1L

lcφcəj ［人名］シギウス ʃ0 ［文化］（ɥəəɒɪ ʕΔʎ:ϟ00J）旧アルティリア系・旧神商会系貴族。

lcdɒɪsɪ ［経済］変動レート 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［語法］ 個別に決まっている割合のこと。アルバザードでは消費税などがこれに当たる。

lcdɒəjʃel ［電算］コンパイル ［レベル］6 1L

lcdɒelɑ ［電算］インタープリタ言語 ［レベル］6 1L

lcdl ［料理］ケーキ、菓子パン ［レベル］3 lɪlʃɪ ［成句］lcdl lɪɪʃ eʃ ʃɪc uecn あの子のケーキのほうが大きい：隣の芝生は青い

lcdlɪfe ［名詞］ケーキ屋 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

lcdɪ ［料理］メレンゲ ［レベル］4 1ʔ: 制 :lcd（卵白）

lcdc ［料理］コーラ、コカコーラ、ペプシコーラ ［レベル］2 μɑ; ↓ lɪlʃɪ:ʃ 甘くて黒い 」 ［文化］ 地球より早く、μɑ でリュウが作った。訓練後の喉の渇きを潤すために開発した。ヴェレイでさらに広まり、成人病の促進をした。ミロク革命でミロクの無い飲み物と指定したことで昭和の日本程度の頻度になったものの、ミロクの死後はまた頻繁に飲まれるようになった。 ［用例］ɪn lenɪʃ lcdc lɪnɪ eɒ ɑccʃ. 暑さを払うためにコーラを飲んだ。

lcdc,ɪlʃ nɔɔz lc/dc

lcdcl ［名詞］後転 ［類義語］lchɔl ［反意語］jɪdcl ［レベル］3 J0

lcdcnɪ ［名詞］先約の反対 ［レベル］3 1L

lcdcɥəlɪlc ［普通動名詞］爪剥ぎ ［レベル］6 jɒ;ɪlʃ ʃ1

lcdɔuɪcl ［生物］項部 μɑ;/ ʎ

lcdeɪ ［言語］後置詞 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

lcbɪ ［音楽］オルガン ［レベル］3 1L:ɒclɑ:lcuɪ/bɪɑ（響く、叩く）気鳴楽器であることから lcuɪ、鍵盤楽器であることから bɪɑ。

lcbcnɪ,ɑu jeμɔn

lcbelcɪ ［音楽］オラトリオ ʃ1:lccbel

lchɔ ［料理］シャーベット、ソルベ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :lceehɔ（甘い氷）

lchɔl ［名詞］バク天、バック天、バク転、バック転、後転 ［類義語］lcdcl ［反意語］jɪhɔl ［レベル］3 J0:ɒelcɑcɪ lceμ

lcɥɪl ［名詞］景品 ［レベル］3 JJ:lcɥə/ɪl「甘く受け取るもの」 ［用例］ lenɪ ɪμɪʃ μɪj L, jee lcɥɪl jej φclɒɪj ɑɑen ʔΔ0 dɪμɒjɔlʃ ɪ. ９回挑戦し、景品は合計３４０円分の買い物券であった。

lcɥə ［動詞］ɥəl を了解する、了解する、了承する、引き受ける、請け負う ［普通動名詞］了解、了承、引き受け、受注、請け負い、請負 ［感動詞］わかった、分かった、いいよ、了解、分かりました、わかりました、かしこまりました、承知しました、承知いたしました、承知致しました ［反意語］μeʃ ［レベル］1 1L:lc/ɥəɪ（甘く受け入れる） ［文化］ 承諾は相手に良い印象を与えるため、快く行う。どうせ承諾するなら快諾したほうが相手も気持ちよい。ただ、演出としてわざと不承不承を演じることもある。断る際はすまなそうに断るのが常識。にべもなく断るのは無礼。相手を怒らせる原因となる。 ［用例］ lcɥə ɪnne, hɪnɒɪ. かしこまりました、旦那様。 lcɥə ɪnne.了解です。

lcɥəɪn ［名詞］請負人、請け負い人、引受手、引き受け手、受注元、承諾者 ［レベル］2 μɑ;/ ʎ

lcμ ［動詞］ɥəl を必要とする、必要とする、要する、求める、求む ［法副詞］〜する必要がある ［形容詞］必要な ［名詞］必要 ［レベル］1 1L:lɪʃ:ʔ: 制 : 古 :flə ［成句］ lcμ lcul jeμenef 必要は発明の母 ［用例］ ɪn lcμ eμcɪ. 飲み水がほしい。 ɪn lcμɪʃ le l'ɪʃl ɪn jɪb ɑc. 服を着るのを手伝ってくれる人が必要だった。 ɪn ɑelɪʃ lcμ lɪnɪ ɑlɔɒɪj. 期末試験のために勉強する必要があった。 ɑcnɪ lenɪ eu lcμ uec lɪnʃcj ɪ lɪlʃe ɑlɔn ɒcl ɑμɪl e lenɪ lɪ ɪnlcl hɔʃ. ともあれ私たちは西洋に固まりすぎているから、ある程度人員をバラけさせる必要があるのよ。

lcμʃe ［形容詞］厚かましい、図々しい、無遠慮な、図太い、神経が太い ［反意語］ʃeɔj ［レベル］3 J0:lcμ ʃeɔj（遠慮が必要な）

lcμuclj ［化学］必須アミノ酸 ［レベル］5 1L

lcμnə ［名詞］必要量、ノルマ、課題量 ［レベル］3 1L:clɒəj:μcɑcɪ

lcμzɔɔ ［環境］化学的酸素要求量、酸素消費量、ＣＯＤ ɪl;/「必要な酸素」。 ʃʔ ［語法］ 化学的酸素要求量とは、水中の被酸化性物質を酸化するために必要とする酸素量で示したものである。代表的な水質の指標の一つであり、酸素消費量とも呼ばれる。

lcμɪn ［名詞］移民、開拓民、入植者 ［反意語］jɪμɪn ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

lcμcʃ ［形容詞］噛み合う、かみ合う、一致する、合致する ［反意語］lɔ1eʃ ［レベル］4 ʃ1:clcμcəj/fe

lcμcɪ ［名詞］水、冷水、冷や水、ひやみず、おひや、お冷、お冷や ［類義語］aleμ、ɪleμ、ɪlcμ、eμ ［レベル］2 J0:μcɑcɪ:lceμ/eμcɪ ［語法］［文化］ aleμ ［成句］ lcμcɪ ɪ(len) enɑɪ 年寄りの冷や水。日本語と同じ表現だが危険だという意味が強い。

lcμcəj ［丁寧］［親族］［男性］父上、お父様、おじさま、シリウス ［レベル］2 ʃ1:clcμcəj（鏡） ［文化］ lɪɪlɪ

lcμenj ［名詞］エピローグ、納口上 ［反意語］jɪμenj ［レベル］4 μɑ;/ ʎ

lcμeucɑe ［名詞］必要悪 ［レベル］5 μɑ;/ ʎ

lcμecn ［軍事］後衛 ［レベル］4 ʃ1

lcμecɒ ［魔法］背後霊 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

lcμecɒleul ［医療］離人症、離人症性障害 ［レベル］5 ul;/。自分が自分の背後霊になったかのように自分を外部から傍観してしまうような感覚に襲われることから。 ʃʔ

lczɪɒ ［生物］後ろ脚 ［レベル］3 μɑ;/ ʎ

lczelɔ ［生物］後頭葉 ［レベル］4 1L

lcoɪ ［生物］lɪj,ɪlʃ, ɪɪ),ɪlʃ ［生物］下腕 ［反意語］jɪuɪn ［レベル］3 ɪlʃ;oɪ lənɪ c ɑ ʃʃ

lcl ［普通動名詞］実験 ［動詞］ɥəl を実験する、実験する ［レベル］3 制

lclʔ ［名詞］饅頭、まんじゅう、ダンプリング ［レベル］3 lɪlʃɪ ［語法］ 何かを包んだ料理の総称。形は円とは限らない。

lcln ［経済］債権 ［レベル］4 1L:lcɒ/lɪnφ（受け取る権利）

lclnɪn ［経済］債権者 ［レベル］4 1L

lclɑ ［形容詞］好都合な、都合のいい ［反意語］ɑɪɒe ［感動詞］けっこうだ、好都合だ、上等だ ［レベル］2 1L:lelɑ のアプラウト

lclɑc ［魔物］シルフィ（幽光）：第五十五天：光の炎天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:jclɑc の子音交替 ［文化］ 精族。正体は靄。微かな光の中に死別した大切な人が見える。うっかり近寄ると靄の中に閉じ込められ、食われてしまう。

lclɑcɑce ［天文］ピーコック ［レベル］6 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel: シルフィの嘘 ［文化］ シルフィが人を騙すときの映像が映し出されている星。この星を見ると吸い寄せられてシルフィに食われてしまうため、国民を案じたリュウはアルバザードおよび周辺諸国からまず見えないよう、１階に封じ込めた。むろん、南半球からは見えるが、アシェットの時代は北半球の平和＝世界の平和であるため、考慮していない。

lclɑcɪ ［人名］シルフィア ʃ0 ［文化］（ɥəəɒɪ ʕΔLL:ϟ0ʔ0） ɥəəɒɪ ʕLʔ0 アンダント、旧アルティリア系・旧神商会系貴族 lcφcəj の娘 lclɑcɪ を娶る

lclɒɪ ［感動詞］安らかに、レストインピース、ご冥福をお祈りいたします、お悔やみ申し上げます ［名詞］死者への弔いの言葉、お悔やみ ［レベル］3 古 :lclɒɪ。lclɔɒɔʃ 甘い眠りを 」の母音を変えたもの。

lclɒɪφcl ［名詞］弔問金、ご霊前、ご仏前 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

lclɒɪcn ［軍事］［魔法］魔動鎧、シルマイン ［レベル］5 J0: 古 flclɒɪcn（抱く、体を持つ） ［文化］ イムル ʔ0ʔϟ 年に ucnɪɥə ɥəɒde が開発した兵器。ワゼットを改良したもので、両手両足胴と、全身で着るように身に付ける。ワゼットは魔力のみの強化だったが、これはユノ・ヴィル・ノアを全面的に強化し、戦闘力を純粋に上昇させる。 できた当時は非常に高価であり、戦死されてはまずい将軍などに支給された。そのため影では前線の兵士たちに嫉妬され、鎧を着るのは臆病者と罵られた。

lclɑ ［形容詞］飼いならされた ［反意語］uɪφ ［レベル］4 J0:lccl/ 古 ɑ（過去形）「飼いならした」 ［用例］ lɪbɪʃ lclɑ 飼い慣らされた労働者、社畜

lclφ ［経済］資金 ［レベル］4 1L:lcμ/φcl ［用例］ lclφ ɪɪφ 豊富な資金

lclφlcul ［経済］資金繰り ［レベル］5 JJ

lclφɔll ［経済］マネーロンダリング ［レベル］5 JJ: 黒い資金を洗浄して汚れを落とすという比喩から

lclhc ［動詞］ɥəl を許す、許す、赦す。許可ではなく、罪などを赦す意味。 ［普通動名詞］許し、赦し ［類義語］alen ［反意語］ɑel ［レベル］2 1L: 古の jclɑ（軽い）と ɪɪhc（罪）から造語し、語頭音を変えた。 ［用例］ ɪn lclhc ucl lɪ ʃjeffɪ. あの裏切り者を許すことはできない。

lclle ［形容詞］［ネガティブ］無礼な、失礼な、行儀が悪い、行儀の悪い ［類義語］jclllɪɪμ ［反意語］ɪɪf ɪn、ɪlcʃ ［レベル］3 J0: 古 flcl/ 古 leɪ（礼儀を持て） 参考 : 制 :cll。「無礼な！」と単独で発音されることが多いわりには全体としてソノリティの弱い単語であるため変えた。重子音になっているところがソーンっぽく、礼儀正しいクミールを想起させる。 ［文化］ アルバザード人は礼儀を重んじ、自尊心も高い。それゆえ無礼な態度を強く嫌う。日本語ではあまり「無礼な！」という言い方をしないが、アルバザード人は比較的この形容詞を使う。 ［成句］ lcl le ɔn elɑ{ɪəɔ, μenj, uef} 口が悪い

lclɪn ［名詞］後輩、弟弟子、若手 ［反意語］jɪlɪn ［レベル］4 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［語法］［文化］ ɪljeμ jɪlɪn に対して使う。蔑称ではない。愛着を持って使う。日本語と違って敬称と呼格にもなる。

lclɪnʃcj ［シェルト］後衛、後衛の駒 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

lclɪnɪl ［軍事］照門、リアサイト μɑ;/ ʎ ［文化］ φel

lclɪc ［亜魔］シライ ［料理］水飴、水あめ、みずあめ ［レベル］3 jɒ; ↓ 1L:μcɑcɪ:lɪc/ɪclɪc ［文化］ アイライの一種。水あめ状で、甘い。どろどろの液体で獲物を覆い、窒息させる。主成分はマルトース。ここからマルトースが発見された。

lclɪclcɒ ［化学］麦芽糖、マルトース ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: 亜魔族シライの糖

lclɪcɪdlej ［料理］あんずあめ、あんず飴、杏飴、杏あめ ［レベル］3 jɒ;/ ʃʔ ［文化］ 日本と同じように出店や屋台で売られるが、軽食コーナーで季節を問わず年中売る店もある。

lclc ［名詞］慈悲、情け、容赦、恵み ［名詞］炊き出し、たきだし ［動詞］ɥəl を了に恵む、めぐむ、恵む、施し、施す、手加減する ［レベル］3 ɑl;μɪl;e 1ʔ: 制 : 古 :lclc（恵む）から lclc:lclc:lell ［文化］ スポーツや争いにおいて、明らかな強者は相手に華を持たせるために手加減することがある。徹底的に叩き潰すのは戦争であり、スポーツでは相手にも見せ場を作ってやるよう、強者は工夫する。手加減して面白いゲームを演出することは、圧勝するより難しい。そのため、そのようなゲーム展開は観客の尊敬を得る。 また、相手に負けられない事情がある場合は、わざと自分が負けてやることがある。これも lclc として認識される。ただし、明らかに力の差がある場合は嘘臭すぎるので負けてやらずに、一矢報いさせるよう工夫する。 慈悲という概念にはアルバザード人の優しさが詰まっている。 ［成句］ lclc ɪ nɔn お手柔らかに（お慈悲を、お情けをの意味にも）：これは挨拶だが、本当に手加減してくれという場合は顔色で分かる。

lclcnφ ［経済］［法律］税寄付、喜捨金、寄付金 ［類義語］ɑɪcφ ［レベル］4 ls;lclc/ɑɪcφ ʃʔ ［文化］ ２０１２年の日本円にしておよそ１０００万以上の年収がある者が革命後に払うことになった金のこと。１０００万までの収入に対しては通常の税金が取られる。１０００万を越えた分に関してはその納税者が寄付金という形で任意の単数ないし複数の団体に納税代わりに納めなければならない。この金のことを税寄付という。税金と実質同じな寄付だからである。

lclcφɪμʃ ［形容詞］［ポジティブ］格安な、激安な、割安な ［名詞］安価、割安、格安、値引き ［類義語］ɑeμ、ɒɔcuelɑ ［レベル］3 J0: 恵みの価格

lclcφcl ［名詞］奨学金、奨励金、補助金 ［レベル］4 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［文化］ 犯罪被害者に対し国から補助金が出るが、それも lclcφcl という。補助金は「肉体的な損失の大きさ」と「精神的な苦痛の大きさ」に基づき支払われる。後者は人によって受け取り方が異なるため、定量的ではない。例えば腕が一本なくなるのは定量的な損失ではかりやすいが、痴漢がどれくらい苦痛かは女によって異なる。そこで精神的な苦痛は社会生活を営む上でどれだけ定量的な損失が出るかに置換される。 これによると、レイプの補助金は大きいが、痴漢の補助金は少ないことになる。というのも、レイプされた女はアルバザードではまともな結婚ができないが、痴漢は男からノーカウントと見なされるためである。痴漢されても結婚の道は絶えないため、社会的な損失は軽いとされる。

lclcoɪɪl ［経済］バザー ［レベル］3 μɑ;/「恵みの市場」 ʃʔ

lclcɪ ［筐堺］シリア ［レベル］5 μɑ:lcnɪ;lclc/ɑcɪ「恵みの大地」 JJ ［文化］ 筐堺司：ɒɪʃ uɪɒɪ 筐堺国：ɑcφɪn, ɒɪcnɪ, ɥəbel

lclcəj ［名詞］借り、恩、恩義、義理、恩恵 ［反意語］ɪllclcəj ［レベル］3 J0:ɒelcɑcɪ lceμ:lclc/clcμcəj（受けた恵み / 相手に返す） ［語法］ 恩義のうち、後で返そうと思うもの。返す義務があるのではなく、単に受け手の正義に基づいて返そうと思うもの。 ［成句］ bɪlʃ lclcəj 借りを返す、恩返しをする ʃjeffɪ lclcəj 後足で砂を掛ける、恩を仇で返す lclcəj eʃ clcμcəj 情けは人の為ならず、思えば思わるる。言葉遊び ［用例］ ɥə lclcəj 恩を受ける

lclɔl ［生物］大腸 1L

lclɔlɑɪcz ［医療］大腸炎 ［レベル］5 1L

lclɔldcφ ［医療］大腸がん ［レベル］4 1L

lclɔloılu [医療] 大腸ポリープ [レベル] 5 1L

lclɔllccɔ̀ [生物] 大腸菌 [レベル] 4 ɟ1

lclɔl,ɑ ɹıeɟ elʃ;ɟəlclɔ/lɔ「家の頭」

lclɔlɟılcc [建築] 風見鶏、かざみどり、風みどり [レベル] 5 zφ;lclɔl/ɟılcc「屋根にいる風の悪魔サティ」 ɟ1 [文化] zφ のシージアで最古のものが発見されている。風が強い土地なので付けられたものと思われる。ハリケーンなどの災害を風の悪魔サティのしわざと見立てていたため、魔除けの意味も込めてサティを象った形にしてある。シージア戦争でレスティル人にも伝わり、以降 ɟʃ まで見られたが、ul で取り付ける家庭は少なくなった。現在は教会や古風な建物などに見られる。鳥の形はしていないので注意。方角を示す十字架は付いているものといないものがあり、商品により異なる。

lclɛɒ [音楽] 声楽、歌 [類義語] ɒclɟ [レベル] 3 1L:lculɛɒ

lclɛɒɟɛnɟ [音楽] 歌詞→ ɟɛnɟ [レベル] 3 ɟ1

lclənı [名詞] [形容詞] 下記、後述する、後述 [反意語] ɟılənı [レベル] 5 ɟɑ ɟ?

lcləɔı [生物] 後る足 [レベル] 3 ɟɑ;/ ɟ1

lclɜe [アイテム] シルエ、やまびこ草 [組み数字] 1 1 / 1 2 [レベル] 4 ɟ0:lcu/ləʃce [文化] シヴの効果のある蜜。アズゲルでルティア人がメープルシロップから作った。小瓶に入っている。

lcı [料理] 菓子、おやつ。菓子だけでなくおやつのようなものも含む。 [類義語] ɑeluɛɒ, ɟıɑcɟ [レベル] 2 1?: 制 : 古 :lcıl（甘いもの） ::lı ɑeluɛɒ:ʃlcıɔ,ılʃ [用例] lılı ej ʃɥə lenıʃ lcı e ɥəlʃ, lcıl̀ ɒɔn ɟɛnɟıʃ ʃə eʃ lcı ləəʃ ɟeʃe. 「ルシア、どうしてユルトのお菓子食べちゃったの！これ、お兄ちゃんのって言ったでしょ」 [言葉遊び] lcı ıìəɟ lcı(ıı しあがシア（菓子）食ってるｗｗｗ ɒɔn jccnı lcı. 私はおやつ好き。 ın ləcʃ lcı ɑə ʔılɔ. おやつを少し食べた。 ın jccnı ʔəc lcı ɟɔu ʔəcl. 私は間食が好きだ。 ın ʔəc elɑ lcı ılnɔɑ ʃəɟ. これからはおやつを食べないことにする。

lcı(J) [人名] ルシアの略称、紫亞、しあ、シア [レベル] 3 1Δ:μcɑcıϐ

lcı(ʔ) [人名] しあ 1L8 [文化] 『ねこにっき』の登場人物。カテージュ出身。

lcıjıcʃ [名詞] 右往左往、戦々恐々 [レベル] 4 ɟJ:「あせってるルシアが慌てたパンダのよう」

lcıjcμ [美容] もち肌 [レベル] 4 ɟ1:ləlcı/jcμ

lcın [代詞] [ɒɹɒ] あなた、アンタ、あんた [レベル] 1 ɟ1:ʔlccz:lccı

lcın,jzu uıʔ ‹ jın,jzɑ.ʔ

lcınʃ [代詞] [ɒɹɒ] あなたの、アンタの、あんたの [レベル] 1 ɟ1:ʔlccz:lcın/ʃe

lcınɔɒ [色] ルシア色、ルシアン人種の肌の色、薄卵色、うすたまごいろ、肌色、# f d e 8 d 0 [レベル] 4 1L

lcıuɛɒınʃ [医療] 注意欠陥、多動性障害、注意欠陥多動性障害、A D H D [類義語] jɛμzıɒ [レベル] 5 ul;ləlcı:uɛμınʃ。幼い頃のルシアを指して名付けられた。 ɟJ:ɒel [語法] jɛμzıɒ

lcıɑ. [普通動名詞] 深呼吸 [レベル] 3 1L:μcɑcı:ləlcı/leɑ.（ルシアに至る呼吸）。このルシアはセレンちの猫猿ではなく、ルヴァンにおける最上の状態のこと。 [用例] ın ıμıʃ lcıɑ. lını μeɑ. nɔj. 落ち付くために深呼吸をした。

lcıɑel [言語] 応用言語学 [レベル] 6 1L [文化] 子どもの言語習得を見ながらセレンらが大成したために、このような命名になっている。

lcıɒ [経済] 債券 [レベル] 5 1L:lcln/ɒıɟ

lcıɥəlcı [天文] 伴星 [レベル] 6 ɟ1

lcıμ [名詞] 北 [名詞] 北区：アルナの一地区。省庁、学校、企業などが集まる。 [格詞] ～の北にある [反意語] ɑleə [レベル] 2 1L:lceμ ::lı φoıl（四季神に合わせて）:ɒcnıɒɔ,ılʃ

lcıμfeeze [気象] 北風 [レベル] 4 ɟ0

lcıμʔlɔnɔɔfe [地名] 北コノーテ駅 ɟJ [文化] 幻環線の最北部の駅。

lcıμʃenʃ [地球の星座] [ユマナ] 北十字星 ɟ0ʃ [文化] cɑı

lcıμuıμʃlʃcʔe [地学] 北ヴァルク海流 ɟJ?

lcıμəıbeμ [名詞] 北ファベル 1L:clɒəj:μcɑcı

lcıμdɔl [名詞] 北方 [名詞] イルケアより北で、ケートイア、ヒュート、イネアートまでの地域。 [レベル] 4 ɟ0 [文化] アティーリにおいてアルシェは使徒を探す際、ザミアやケートイアなどを探していった。そのまま北上してヒュート・イネアートと進んでいる。近いはずの国内のカテージュなどには赴いていない。これは偶然ではなく、アンシャルは歴史的に北方と南方に文化的に分かれているためと思われる。アルシェにとって北方の遠い国のほうが、南方の国内よりも身近に感じられる。これは現代でも残っており、文化的な境界線はイルケアに引かれる。イルケアより上は別の国でも同じような言葉を喋り、下は下で同じような言葉を喋る。カテージュの南方方言はゲノスまで地続きで、一方アルナの方言はアルシアなど多少のバリエーションの違いはあれど、共通している。

lcıμbeμʃcı [アトラスの国家] 北ベルティア、シアルベルティア [レベル] 5 ɟJ?:μcɑcı

lcıμhıμʃμecnʃcʔe [地学] 北赤道海流 ɟJ?

lcıμμecn [地学] 北緯 [レベル] 4 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ [用例] lcıμμecn e ɟ0ʃ /cʃ\ 北緯４５度

lcıμlɔɔz [名詞] 北端 [物理] 磁石のＮ極 [レベル] 3 1L:μcɑcı

lcıμlec [言語] 北方語 [レベル] 4 ɟ1

lcıμıʃcıʃcʔe [地学] 北アティア海流 ɟJ?

lcıμıʃɔlıj [地学] 北半球 [レベル] 3 1L:clɒəj:μcɑcı

lcıμın [名詞] 北方人 [レベル] 3 ɟ0 [文化] 国際的には lcıμdɔl の人を指す。国内ではイルケア以北を指す。

lcıμınlıl [地名] 北アンシャル [レベル] 4 1L [文化] → ılıjınlıl

lcıμcnjıl [地名] 北インサール 1L [文化] → ılıjınlıl

lcıμcnjeʃ [地球の国名] 北朝鮮 [レベル] 5 1L

lcıμen [接続詞] ～の北にある [レベル] 3 ɟɑ;/ ɟ1

lcıl [政治] 街、町、都市 [形容詞] ～の街。前置。 [レベル] 2 1?: 制 : 古 :μı μəlclɔ uıncı: [語法] ɟılıc と lınlel の総称。革命前は大きめの lınlel を指した。 [文化] ＜街の種類＞ 革命までは、王都、町、村の３種類しかなかった。王都はアルナ、町はアシェルフィやカンタル、村はサプリやサティスのこと。 サライができてからは、王都（ɑıcıl）、都市（jılıc）、町（lınlel）、村（lczl）の４種類になった。王都は都市サライの一種である。 現代ではアルナは王都、カテージュは都市、アシェルフィは町、サプリは村である。なお、街（lcıl）は都市と町を区別しない言い方である。 ＜国・州・県・区・市＞ 行政単位で見ると、国（ʔlıɑ）・州（ʔclɑ）・県（ʔlμl）・区（ɒelec）・市（hıcɒ）の５段階である。 μɑ までは国・州・市のみだった。ナディアで県ができ、革命で区ができた。 中央アルナ、アシェルフィ、カンタル、カテージュ、サプリなど、こういった単位を市と呼ぶ。日本でいうと白岡町のようなレベルでも白岡市と呼ぶようなものである。 市は近くの市（街や村）と合わさって区を作る。例えばサプリ市やカンタル市はアシェルフィ区に入る。 県はさらに複数の区を集めたものである。例えばアルナ県にはアルナ区やアシェルフィ区などが入る。 県が複数合わさると州になる。すべての州を集めると国になる。 [用例] lcıl hınʃ{lıc} 大きな街

lcılıɒılelʃ [政治] 都市参事会 μɑ;/ ɟ0

lcılʔlıɑ [政治] 都市国家 μɑ;/ ɟ0

lcıllılıcn [政治] 都市同盟 μɑ;/ ɟ0

lcıluıcʔ [名詞] 街区 [レベル] 3 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ [文化] アルバザードの都市はいくつかの街区に区切られている。一つひとつの道路に学校や企業や住宅地を作るのは非合理的である。住宅街は住宅街、商店街は商店街でまとめた方が効率的である。だからアルバザードの都市には街区がある。住宅区や企業区や商業区などが存在する。アルナの場合、東西が住宅区になっている。住宅区には集合住宅と一戸建てが存在している。一戸建てはアルナの場合、カルテの近く、及び東側の住宅区に集中している。北は企業区になっている。企業区には企業はもちろん、学校や役所の出張所や小さな図書館などの公共施設がある。南は商業区になっている。長い幹線道路に沿って屋根付のモールが存在する。そこで生活に必要なものを買うことができる。尚、企業区にもいくつか商業区からの出張所がある。学校の帰りに日用品を買うのに一々商業区まで行きたくないため、企業区に店がほしいわけである。ただ、数は多くないし、店舗も小さい。非常に日常的なものや緊急を要するものしか置いていない。ちゃんと買い物するなら商業区へ行く。ゲームセンターなどは商業区にしかない。緊急性も日常性もないので企業区には進出しない。逆に、企業区から商業区へ出張所を設けることもある。役所などは商業区にもいくつかの出張所を置いている。ただ、学校はない。繁華街に学校を置くと子供が寄り道するので、誘惑からは遠ざけなければならないからである。企業区と商業区の間に住宅区があるため、学生は寄り道をしないで家に帰ることができる。最短ルートで帰るとどうしても商業区は通れないようになっている。この街造りが寄り道を防いでいる。

lcılın [名詞] 町民、街人、都会人 [レベル] 3 ɟJ

lcıılł [歳時記] [単位] 紫亞数 [レベル] 3 ɟ0 [語法] ２００７年３月８日からの経過日数を指す。アルカ関連のファイルに付けられる。

lccʃ [動詞] ɔn について ɥəl を誘惑する、誘惑する、くどく、口説く、誘導する、言い寄る、目を眩ませる [普通動名詞] 誘惑 [法副詞] ～しましょう [レベル] 1 1ɟ1: 制 : 古 :lc（甘い） [語法] 人に「行きましょう」というとき、自分も行くなら lccʃ を使い、相手だけ行かせるなら ɑıj を使う。 [用例] len lccʃ ʔəʔlɔ nɔn. 一緒に食べよ？ lə ɒcn lccʃıʃ lı uclı ı ɒɔlʃ. 彼女は彼をベッドに誘惑した。

lccʃɑıj [動詞] ɥəl を ı に奨励する、奨励する [普通動名詞] 奨励 [レベル] 4 1L:μcɑcı:ıμbılelʃ

lccʃı [動詞] ɥəl を ı まで迎えに行く、出迎える [普通動名詞] 出迎え [反意語] lcʃcl [レベル] 3 ɟ0:lc/ʃıɑ.（甘く取る）。lcʃcl の類推でできたため、lc から始まっている。

lccʃenuc [名詞] 誘惑する力、魅力 [化学] 電気陰性度 [レベル] 3 1L

lccʔ [地球の国名] イラン、イラン・イスラム共和国 [レベル] 5 古 : シーア派の国が原義か？

lccʔ(J) [名詞] 響き [名詞] 反響→ lcuı [動詞] ɥəl を ı に響かせる、響く、響き渡る、響かせる [レベル] 3 ɟ0:ɒelcɑcı lcep:lcu/ʔe [用例] lccʔ μıʃ いい響き lccʔ ʃ'elɑ 言葉の響き。聞こえのこと ın ɒɔʔ uın cɒ ɑɔj ʔı ez le ʃə ɥəlɒɒ ınɑ lccʔ ıl ʔɔnʃ ın ʃɒɒ lɒə ʃəəlej. lcɑcıł この楽器が鳴り響く部屋でその音楽を耳に受けながら今日は寝よう。おやすみ。

lccʔı [建築] 教会、召殿、外宮、チャペル、シーカ [レベル] 3 ɟ1:μcɑcı:lccʃ/ʔılʃe（神を招く場所） [文化] → ınlccz ɒʃ には既に存在した建物で、地球の教会に相当するもの。神を召喚する場所は ʔırʃen のように厳粛で厳かな場所だが、その一室を取り囲む部分はいやしくも神を招くのだから豪華絢爛にしようという考えで建てられている。もともとは神をもてなすという気持ちで豪華な建物を作ったものだったが、宗教という観点においては信者に権威を誇示する効果もあり、時代とともにむしろその意味合いのほうが強まっていった。 教会は神を招く家であり、応接間や客間と発想が似ている。石造りで窓は高く、光を十分に取り入れる仕組みになっており、ɒɔ からはステンドグラスも張られた。音が良く響くため、こちらでもパイプオルガンなどが用いられた。 材質を漆喰にしたので，側面の飛び梁は物理的な意味を失ってると思いますが [1:?1:ɟ] ʒıylɔn/AE¥: その代り，上に多少ああいう無茶な構造を乗せても大丈夫になりそうだったので [1:?1:ɟ0] ʒıylɔn/AE¥: つけてみました [1:?J:0ʔ] 静 水月 : なるほど、材質まで考えてるんですね [1:?J:0L] ʒıylɔn/AE¥: 漆喰は石壁に比べて粘り強いので [1:?J:1ʔ] ʒıylɔn/AE¥: 横に引っ張られても崩れにくいと思います [1:?J:JL] ʒıylɔn/AE¥: 石壁はおしくらまんじゅうで安定しているので [1:?J:0ʔ] ʒıylɔn/AE¥: 側面から梁で支えてやらないと，高くできないんです [1:?J:ɟ1] ʒıylɔn/AE¥: それでああいう飛び梁っていう外壁が発達したんですが [1:?J:ɟJ] 静 水月 : へぇ！なるほど！ [1:?J:ɟ1] ʒıylɔn/AE¥: 漆喰だと本来必要ありません [1:?J:ɟL] 静 水月 : ほう [1:??:01] ʒıylɔn/AE¥: なので，こういう形態の lccʔı になるとすると [1:??:0Δ] ʒıylɔn/AE¥: 本来は石造りの時代があって， [1:??:1?] ʒıylɔn/AE¥: その時代に教会の形態がある程度定まって [1:??:Jʔ | 1:??:Jʔ を編集しました] ʒıylɔn/AE¥: その後なんかのきっかけで材質が変化したとするのがリアルかと思います [1:??:?9] 静 水月 : 分かりました。その旨載せておきます というか，あれですね [1:?0:0J] ʒıylɔn/AE¥: 多分漆喰で化粧してあるだけで中はコンクリ造とかになってそうです… 新造の物は [1:?0:J9] ʒıylɔn/AE¥: そのほうが形状としては自由が利きますしね．見た目の壮大さと，由緒正しさだったら [1:?0:?J] ʒıylɔn/AE¥: どっちを取るんでしょう？ [1:?0:0J] ʒıylɔn/AE¥: この辺は価値観の問題になりそうですが [1:?0:0ʔ] 静 水月 : どうなんでしょうｗ [1:?0:ɟ?] 静 水月 : 僕には難しすぎて…… [1:?ɟ:0L] ʒıylɔn/AE¥: あ，いや [1:?ɟ:1?] ʒıylɔn/AE¥: ええと [1:?ɟ:??] ʒıylɔn/AE¥: 単語を忘れてしまったんですが，アルカ喋ってる国の人たちって何でいうんでしたっけ [1:?ɟ:ɟJ] ʒıylɔn/AE¥: あるばざーど人ですか [1:?ɟ:ɟ1] 静 水月 : はい [1:?ʔ:0L] ʒıylɔn/AE¥: アルバザード人は古いものを大事にする文化だったようなという [1:?ʔ:1J] ʒıylɔn/AE¥: 心配ですｗ [1:?ʔ:JL] 静 水月 : 一応辞書には協会は石造りって書いてありますが， [1:?ʔ:?9] 静 水月 : このへんは変更可能です [1:?ʔ:?L] ʒıylɔn/AE¥: おお [1:?ʔ:0ʔ] 静 水月 : でも中世に立てられたのでコンクリはあるんでしょうかね [1:?9:0ʔ] ʒıylɔn/AE¥: 中世ではなさそうですね… 漆喰はありそうなので漆喰かなぁ [1:?Δ:00] 静 水月 : 西洋の教会って何でできてるんですかね [1:?Δ:ɟʔ] ʒıylɔn/AE¥: http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%83%A4%E3%82%BD%E3%83%95%E3%82%A3%E3%82%A2 [1:?Δ:??] ʒıylɔn/AE¥: こんなんだと，漆喰仕上げ，大理石仕上げみたいですね [1:?L:1Δ] 静 水月 : 漆喰と大理石かぁ。なるほど [1:?L:ɟ1] 静 水月 : 中世にある素材で建築様式的に矛盾しない素材ならなんでも ƎƤ です！ [1:?L:ɟL] 静 水月 : 辞書の記述は後で変えますので [1:0:1Δ] ʒıylɔn/AE¥: おｋです！ [1:0:?1 | 1:0:?0 を編集しました] ʒıylɔn/AE¥: なんで石壁を避けたかというとですね [1:0:0ɟ] ʒıylɔn/AE¥: ぶっちゃけ，テクスチャが単調になるのを避けるのに物凄い労力がかかるんですよｗ [1:0:0ɟJ] 静 水月 : あーｗ [1:0:0ɟ] ʒıylɔn/AE¥: 色々試しては見たんですが，どうにも不自然になってしまって [1:0:1:0L] 静 水月 : なる [1:0:1:?] ʒıylɔn/AE¥: だったらいっそニコライ堂みたいにしてやろうかと [1:0:1:?9] 静 水月 : ｗ [1:0:1:?9] 静 水月 : 石造りで建築できるなら石造りがいいですが、大変なんですねｗ [1:0:1:ɟ1] ʒıylɔn/AE¥: もう少し時間が出来たらトライしてみますね [1:0:1:ɟL] 静 水月 : お願いしますー [1:0:J:0ɟ] 静 水月 : とりま今日はねますねー [1:0:J:0Δ] ʒıylɔn/AE¥: おつですー [1:0:J:1J] 静 水月 : おつでしたー

lccʔı ʃ'ınlccz → ınlccz

lcclʃı [名詞] 背景、後景 [言語] 地、グラウンド [反意語] ɟıclʃı [レベル] 3 ɟ0

lcclcı [歳時記] シーシア、シュガーキス [レベル] 3 古 :μcɑcı:lc は甘いの音象徴。lcı も同様。甘い口と書いて古アルカで lclə（キス）のことだったことからも分かるとおり、アルカでは キスと甘いは近い関係にある。 [文化] クリスの月パールの日のイベント。女子が好きな男子に告白し、男子が受け入れればキスをするというイベント。女子は唇に粒状の砂糖を付ける習慣がある。当然、その女子にキスをすると、甘い。 μɑ ではセレンの誕生日にリディアがキスをしたことから、このイベントが生まれた。神話ではそのときリディアは砂糖を塗っていた事実はない。この日はただのキスの日である。古アルカでキスを甘い口と呼んでいたことから、後にこの日の告白イベントでは唇に砂糖を乗せる習慣が生まれた。

lccɟ [動詞] ɥəl を妥協する、妥協する、譲歩する、甘くする [普通動名詞] 妥協、譲歩 [副詞] 甘い、ぬるい、生ぬるい [レベル] 4 古の lc（甘い）/ɟɔ（する） [語法] 徹底せず、人や物事に対してある一定のラインや完成度などで留めることを指すので、日本語と違って妥協と譲歩は区別しない。 [成句] ʃe lccɟ 甘い、ぬるいわ ɑıs ı ɑıs, lclj ı lclj 親切には親切を、妥協には妥協を：魚心あれば水心 [用例] [言葉遊び] ʃə nɔʃj ɑe lcj ʃeʃ lccɟ ʃcjje. 会計は黒字どころか生ぬるいですよ。 ın ıılı lccɟ jen ʔlɔj nɔzeʃ ɒın ın jccl łıl lej μcɑcı lınɑc c ɑcɔ nı. ın ʃccı lı enʃɔ uınɔ łıl ɑılcj łıl, ʔclj, ınʃej. 僕はリディアが心から望むものを守りたいから、自分の主張を妥協できないのです。彼女のことを愛しているので、彼女の、もっと言えば僕らの正義を守りたいのです。

lccɟlı [名詞] 妥協点、落としどころ、落とし所 [レベル] 4 1L [用例] jıı, jɔı eʃ lccɟlı nı. まぁ、この辺が落としどころかな。

lccɟı [被服] ランジェリー [レベル] 5 ɟ1: 古 lc/ 古 jıbe

lccnı [医療] シーナ [レベル] 5 ɟ1: 古 lc/nı [文化] ʔıɒelcı

lccnı,ɑ jccnı jııl;lc/nı

lccnc [植物] ライマメ、アオイマメ、ライマビーン、リママメ、リマビーン、バタービーン、シュガービーン [レベル] 5 古

lccɑ [動詞] ɥəl を ı にねだる、ねだる、強請る [普通動名詞] おねだり [類義語] łıl [類音] lcɑ [レベル] 3 ɟ0:ɒelcɑcı lcep: 古 lc/ɑəʃɔ（甘く取る）

lccɑecɟ [魔物] シーフェイス（誘精）：第二十一天：風の幻天 [レベル] 5 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel :lccʃ/ɑecɟ（いざなう霧） [文化] 若い美しい男の姿をした魔物。正体は霧。女を誘惑し、毒の精子を膣内に出す。出されたを妊娠し、シーフェイスの操り人形となる。

lccɒ [料理] 糖、糖分 [化学] 糖類 [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :lc(甘い) [語法] [文化] アルバザードでは lccɒ というと、ショ糖、果糖、麦芽等を指し、ブドウ糖、デンプン、セルロース、その他キシリトールのような糖アルコールは含まない。 要するに、紅茶に入れる砂糖やケーキの砂糖など、お菓子や嗜好品が持っている昔ながらの甘味料を lccɒ と呼ぶのだと思い込んでいる。ただし、広義的に捉える場合は、今度は逆にキシリトールなどの糖アルコールまで含むようになる。

lccɒɑɔnɟ [化学] 解糖 μf;/ ɟ0

lccɒbez ［医療］糖尿病 ［レベル］4 制

lccɒɪ ［文末純詞］［ɒɹɒ］ſcɹee ［レベル］1 ɲ1:əɒſɔnɪ/ˈlˈlccz:lcɪn ɒɪl

lccɒbel ［建築］シーベル大聖堂 ［レベル］5 ˈlſ;「天井の高い」 ɲ1 ［文化］ ɪɒueſſe 北部の教会。元はアルテ教の建物があり、何度も改装されてきた。

lccz ［植物］甘草、リコリス ［レベル］3 古

lcczlcɪ ［料理］お菓子のリコリス、リコリス ［レベル］3 ˈlˈ: 制

lccz ɥəſcɪ ［人名］シーズ＝ユティア ɲ0:ɒcɪcɪ:ɒcɒɔˈl ［文化］ ミロクの養母。ミロクが７歳のときにミナレットの焼き討ちにあって死亡する。

lccze ［料理］シーゼ、セルツ、シーゼ飲料、イタリアのセルツ ［レベル］3 ɲ0:lɪc/φɪel ［文化］ φɪzel に砂糖を加えたもの。こちらも一般的。 μɒ で φɪzel を参考にアルバザードの民衆が作った。アレイユで見直され、一般化した。喫茶店などで飲める。味が単純すぎるため、ヴェレイにはほとんど飲まれなかった。そのため、年配のアルバザード人は名前からリコリス入りだと勘違いしていることが多い。

lccs ［料理］シロップ、シラップ ［レベル］3 zφ;lc/sɪφ「甘くて粘っこいもの」 ɲ?

lccl ［名詞］ペット ［動詞］ɥəl を飼う、飼う ［類義語］uɪˈn ［レベル］3 ˈlˈL:「可愛いもの」［用例］ lccl ˈleſ ネコを飼う ［文化］ ＜飼うか否か＞ ペットは精神衛生上良いとされる。ペットセラピーの効果は認められている。だから多くの家はペットを飼う。集合住宅でも大抵は飼える。但し、赤ん坊や妊婦がいる家では若干倦厭される。 ＜種類＞ ふつう犬か猫。鳥がかろうじて飼うくらいで、爬虫類や両生類はほとんど飼わない。虫はまず飼わない。結局、哺乳類しか飼わないわけだが、家のスペースからして犬猫しかありえない。馬は狭くて無理がある。 ＜入手方法＞ 原則として人からもらう。あるいは捨て猫や野良猫を保護する。もらう場合、知人からももらうか、広告などを見てもらう。マニアの場合、血統書つきの猫をもらうときは大抵ブリーダーからもらう。ブリーダーが無償でくれることは少ない。かかった費用分は請求される。かといってブリーダーも利益分は請求しない。入手したペットは必ず国へ申告しなければならない。赤ん坊が生まれたときと同じである。すると誰のペットかわかる登録データを組み込んだ首輪が支給される。飼い主はそれを着けなければならない。 ＜名前＞ 子供のように育てることが多いため、人間の名前を付けることが多い。したがって神の名を付けることもあるし、それに対して抵抗もない。また、特徴で名付ける場合もある。白いから ɑcɥ、まだらなので dɔʃ など。よくある犬の名前は ˈlclſ と ˈlɔɔɒɪ。 ＜世話＞ 犬猫に共通して、餌を定時に与えることが第一である。飼い始めは注射させるのも義務である。ノミ取りなどもする。グルーミングや歯磨きは毎日でなく偶に行う。長毛種だと毎日行う必要がありうる。また、毎日必ずトイレの世話をする。犬の場合は散歩中で糞をすればそれを回収する。糞が触れた砂や土は汚れているので、糞と合わせて回収する。猫の場合はトイレで用を足すので一日に数回回収する。世話は飼い主が主にするが、時間の都合上、家族の手の空いた者が行うことが多い。犬の場合、散歩をさせる。室内犬でもある程度散歩をさせる。猫の場合、これといって世話をしなくとも自由気まままに生きているので手がかからない。 ＜飼えなくなったら＞ 何かの理由で飼えなくなった場合、引き取り手を探し、譲渡する。もし見つからなければ自分で殺すか国に頼んで殺してもらう。捨ててはならない。罰が嫌だからと首輪を外して捨てるのは得策ではない。車検と同じく動物病院への定期検診が義務付けられているので、勝手に捨てればバレる。

lccˈlleɪɔɒ ［医療］ペットセラピー ［レベル］5 ˈlL

lcclſſe ［名詞］ペットショップ ［レベル］4 ˈlL

lcclɪ ［動詞］ɥəl をかわいがる、かわいがる、可愛がる、大切にする、あやす ［類音］lccɪlɪ ［レベル］3 ˈlL:clɒəj:ɒel:ɥəlcɪ に対する自分の態度を lccɪlɪ（甘い手）と呼び、この語に縮めた。 ［成句］ lcclɪ jeleɟ「いのちをだいじに」: ディア＝ヴェール中でＡＩのキャラクターに出すことのできる命令のひとつ。これを命令すると、味方キャラは回復と逃亡を優先する。

lcclɪjſɪɑl ［動詞］ɥəl を懐柔する、懐柔する、手懐ける、手なづける、てなづける ［普通動名詞］懐柔、手懐け ［レベル］4 ɲ1 ［用例］ ɪljɔn el ɪɥ jen lcclɪjſɪɑl ɪ ləəj ɟɔɑel eɒɔ hɪlɪɟ nɪlcl ɪ ləəj" だからこそ居場所を与えてあげればあっさりと懐柔できる」

lccle ［経済］後場 ［レベル］6 ɲ1

lccɪ ［名詞］あなた、ディアー、スウィーティ、ダーリン、ハニー、スイートハート ［丁寧］［形容詞］［ɒenˈe］甘い ［婉曲］［動詞］［ɒenˈe］ɥəl にキスする、キスする ［レベル］2 古 :「 恋人 」の別称。lccnɪˈ 好き 」から来た説と lcɪlˈ 甘いもの 」から来た説がある。 ［語法］ 恋人として好き合っている者が相手を指す呼び方。男女の別は無い。

lccɪſeeze ［交通］［魔法］甘い風 μɑ:μcɑcɪ;/ ɲ0:μcɑcɪ ［文化］ ˈlɪleɑɥəlɑ

lccɪɟel ［婉曲］［ɒenˈe］クンニリングス、クンニ ［動詞］ɥəl にクンニリングスする ［類義語］ɒenˈləc ［レベル］4 ˈlL:μcɑcɪ:ɪɒɪlelſ: 甘い唇 ［文化］ 前戯として行う。古代ローマと違って屈辱的な行為ではなく愛情の表れとされた。愛情の表れであるため、売春婦などにはあまりしない。

lccɪn ［普通動名詞］ディープキス、フレンチキス、舌キス、舌を絡ませるキス ［動詞］ɥəl にディープキスする、キスする ［類義語］lcˈlɟ、ɪləl、lcˈlə ［レベル］4 ɲ1:ˈlˈlccz:lcɪn: 古 :ˈlˈlccz: 語源不詳。仮説 lcˈlə からの推移で lc は「 甘い 」だとしても ɪn が不明。原型が lcɪn だったかも怪しい。これより古い形があったのでは？ ［語法］ lcˈlɟ

lccɪuɔμſ ［医療］腹上死 ［レベル］5 μɑ;/「甘き死」。セレンが死ぬときはリディアとともに腹上死したいと言い、それを甘い死と呼んだことから。 ɲ? ［語法］ 訳語は腹上死だが、どの体位で死のうが関係ない。

lccɪɒɔˈlˈl ［名詞］ラブホテル、ラブホ ［レベル］4 ɲ1 ［語法］ ご休憩は ɑəμne、ご宿泊は ucμɑ と言い習わす。 ［文化］ 南区などにまとまって存在する。個人の売春婦などが立ちんぼをしていることもある。

lccɪɑəμne ［普通動名詞］夜這い ［動詞］ɥəl を夜這いする、夜這う ［レベル］4 ɲ1:「甘い夜」

lccɪsczɔl ［音楽］アコースティックギター ［レベル］5 ˈlˈ1: エレキより音が甘い

lccɪlɪɟ ［婉曲］［動詞］［ɒenˈe］ɥəl を愛撫する、愛撫する、ペッティングする ［普通動名詞］愛撫、ペッティング ［類音］lccɪɟ ［レベル］4 ˈlL:μcɑcɪ:ɪɒɪlelſ: 甘い手

lccɪlccɑ ［天文］アルビレオ ［レベル］5 ˈlL:μcɑcɪ/ɟeμen/ɒel: Ｄｅａｒ Ｓｔａｒ ［文化］ リディアの星アルタイルをファルアモンの星ベガから守ろうとするセレンの星のこと。lccɪ はここではセレンを指す。アルビレオはリディアを守る星であるが、恐らく lccɪ の英語訳がＤｅａｒで、それを μcɑcɪ にかけているのではないかと思うが、アプリオリなのでリディアはその設定を公式とはしていない。

lcce ［名詞］優しい嘘、人のための嘘 ［レベル］4 ˈlL:lc（古の甘い）/ɑce（嘘） ［語法］ 夢織の優しい嘘とは意味が違う。幻覚のことではない。本当のことを言うと傷つくときに、あえて嘘を言うこと。罪にはならない。本当のことを言うと自分が困るときはやさしい嘘ではなく、ごまかし。あくまで人を思っての行為。

lcɔ ［電算］ハッカー ［レベル］4 μɥəə: 恣意

lcɔɟn ［生物］後頭部 μɑ;/ ɲ0

lcɔɟnoɪl ［生物］外後頭隆起 μɑ;/ ɲ0

lcɔɟnoɪlμecn ［生物］上項線 μɑ;/ ɲ0

lcɔn ［人名］→ lcɔn ɪɒɪnze。シオン＝アマンゼ。アルティス教の開祖。 ［人名］→ lcɔn hɪzˈlc。初月紫苑。『紫苑の書』の主人公。

lcɔn(J) ［地名］シオン山 ［レベル］5 ɲ1 ［文化］ サプリの村の西にある山。μɑ でセレン＝アルバザードが転生した場所。

lcɔn ſˈlnɜəμ ［名詞］紫苑祭、シオン・タンジュール ɲ1 ［文化］ アルナ大のメルセルの学園祭。lcɔn ɪɒɪnze に敬意を払い、この名になっている。

lcɔnlcɪn ［建築］シオンシアン宮殿 ［言語］［文字］トランジショナル ɟɒ;「武器庫」 ɲ1 ［文化］ ɟɒ で要塞だった城を改築して建てたルティア首都の宮殿。トランジショナルが流行った。

lcɔnφɪnɑ ［名詞］魔柩軸、シオンガンド ɟɒ;uellcɔn/belφɪnɑ ɲ0

lcɔn hɪzˈlc ［ユマナ］［人名］初月紫苑 19:jeμen: アルカでなく日本語の名前 ［文化］ (0 ɑcɪ ɑcɪ_ɾˈL ɑɥə əəl)『紫苑の書』の主人公。１６３ｃｍ、４９ｋｇ。日本の女子高生で、１７歳の誕生日に物語が始まる。悪魔メルティアによってアトラスに召喚され、少女レイン・青年アルシェらと出会い、悪魔の杖ヴァルデを巡ってアルバザードを救う。 レインやアルシェと異なり、アトラスでは架空の人物。

lcɔnɪ ［植物］カモミール、カミツレ ［レベル］3 μɑ;lcɔn 古 :μcɑcɪ:lcɔn（シオン、カモミール）。lcɔn はカモミールだったが、リディアによって人格化され、固有名詞になった。元の意味であったカモミールは追い出され、ɪ を付けられて区別されるようになった。 ［文化］ 代表的なハーブのひとつ。安定作用がある。

lcɔn ɪɒɪnze ［人名］シオン＝アマンゼ ［レベル］2 μcɑcɪ: 古 :「 カモミール 」 ［文化］ アルティス教の始祖。

lcɔn ɪɒɪnze(J) ［人名］シオン＝アマンゼ ［レベル］5 ɲ0:μcɑcɪ ［文化］ セレンとファミイの娘。セレンがファミイと浮気した際、カモミールを彼女に贈り、ファミイをカモミールに喩えた。ファミイはその際に懐妊していたが、そのままアマンゼ家に嫁ぐ。夫はその事実を知らぬまま、自分の子供として娘を受け入れる。ファミイがその娘にシオンと名付けると、セレンはそれが自分の子供だと気付く。 一方、シオンは成長すると、セレンとリディアの息子のユルトと出会い、恋に落ちる。その結果、シオンはユルトの息子を出産する。この血筋がやがてアルティス教の開祖シオン＝アマンゼに繋がり、ミロク＝ユティアに繋がる。 つまり、ミロクにはセレンとリディアの血が入ることになる。アリシアやミーファが青い目と緑の目を持つのは、ファミイとリディアの血が濃厚に現れたため。

lcɔn ɪɒɪnze(?) ［人名］シオン＝アマンゼ ［レベル］5 ɲ1 ［文化］ ファミイとセレンの娘。公式にはファミイとエヴェルの娘。ユルトと出会い、恋に落ちて娘の lɔɔzɪ を成す。lɔɔzɪ はセレンとリディアの血が入っていることになり、これがアルティス教の教祖シオン＝アマンゼ、そしてミロク＝ユティアの祖先である。

lcɔnɪeſeˈl ［料理］カモミールティー ［レベル］3 μɑ;/ ɲ?

lce ［料理］蜜 ［レベル］2 1?: 制 :lˈlˈlɾ:lceμcɪ（甘い水） ［語法］ プロトタイプはハチミツ。

lceſſɪ ［名詞］ツンデレ、シエッタ ［レベル］4 ɲ0:ɒel:lccɪ/eſſɪ（甘いお姉ちゃん） ［語法］ 語法を書くより「ツンデレ」と言ったほうが早いだろう。

lceſſɪueſ ［言語］ツンデレ語、照れ隠し語 ［レベル］4 ɲ0:ɒel ［文化］ ツンデレ語は２種類の作り方がある。 １：アクセントの位置を変える。jenſɪnſ を jenſɪnſ と発音することで、照れ隠しをするなど。 ２：単語の一部を変える。ſcɪſc と言うのが恥ずかしいので、ſcɪſɥe としておどけるなど。 ツンデレがよく使うが、エタットは照れ隠しをする際にツンデレ語を使うことがある。

lceɟſɪ ［魔法］月光蟲 ［レベル］6 ɲ1:lelſ/eɟſɪ「月の蛍」 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

lcen ［接続詞］lc。～の後ろに。 ［レベル］3 ˈlL

lcen(J) ［植物］つつじ、ツツジ、アザレア ［レベル］4 ˈlL:lceɑn（密の花） ［文化］ 歩道によく咲いている。子供たちはおやつ代わりに花をもいで蜜を吸う。ちなみに有毒だが、少量しか摂取しないため、アルバザード人はあまり気にしていない。 ［用例］ ☆ "ɒcuɪ nɔɪn jcd lcen jccnɪl, ſeſ ſə eſ μɪˈl lel nɔn nɔl ſəəj ɪ uɪel eɥɔ8"「娘がツツジを吸ってるんだけど、瓶詰めにするのはやりすぎかしら？」 ［言葉遊び］ lc en lcen lcen lcen ツツジの後ろにあるツツジでないものの後ろに

lceu ［言語］後置 ［レベル］4 ɲ0

lceμ ［サール］シエル。冬を司る女神 ［形容詞］色が冬めいた ［形容詞］冬の ［名詞］冬 ［組み数字］4 / 4 ［レベル］2 古 :μcɑcɪ:lceμ,lcel,ˈlee(冬) に関連。ˈlee の e は eμcɪ で、水。転じて冷たい、寒いの意味。lc はふつうに考えれば甘いだが、なぜ甘いなのかは分からない。他の可能性もあるが、造語者が既に忘れている。アルシエルの中では一番にできたのでこのときはまだ神格化が弱かったと思われる。ゆえに lc は ɪlſe や ɪlcɟ と違って神に関係のない意味かもしれない。恐らく lceμ は元は冬の神ではない。一番はじめにできたということはまだ他の三人はいなかったのだから、四季の神として作ったはずがない。それなら同時に四人作ったはずだからである。となるとシエルは単に水の女神だったのではないか。lc は甘いだが、lclə などでは転用して魅惑的なという意味になる。魅惑は女神を表わすので、lceμ は水の女神と解釈するのが妥当だろう。そしてその後、その eμ が後に水でなく寒いで解釈されるようになり、冬の女神になって四季を作る必要性がでたか、或いは四季を作るためにシエルを冬に配置したのかのどちらかであろう。 ::lɪ ɑcɪleμ:ɒcnɪɒc,ɪlſ, leeben,uˈl ［文化］ アルシエルの一人。冬を司る女神。方角では北。アルバザードは北半球で、北に行くほど寒い印象がある。 ［成句］ lceμ ɪjel lc enɪ シエルは泣いた後に笑う：三寒四温 ［用例］ lceμ lənɪ。冬になる。 ɑcɟ ɪſ ɥən lceμ。今日は冬が来たようだった。 ɪn nɪ ˈlcſ lceμ。冬の気配がし始めている。 ſə ɪſ ɒelſ lɪlſ lceμ。冬にしては暖かかった。 ɪn jɪſ ɑɪl lɪnɪ lceμ。冬に備えなくてはならない。

lceμſɔɔl ［気象］晩冬 ［レベル］4 μɑ;/ ɲ?

lceμˈlɟ ［地球の星座］［ユマナ］冬の大三角 ɲ0 ［文化］ cɑɪ

lceμˈlcſ ［気象］初冬 ［レベル］4 μɑ;/ ɲ?

lceμleˈl ［気象］冬至 ［レベル］3 ˈlL:clɒəjμcɑcɪ: シエルの月散歩。冬至ごろは昼過ぎから既にアルバザードでは日が暮れ、ふつうに帰宅しても暗い道を歩くはめになってしまうことから。

lceμnˈleɪ ［歳時記］冬休み ［レベル］2 ɲ1:μcɑcɪ ［文化］ nˈleɪ

lceμuɪu ［運動］ウィンタースポーツ ［レベル］4 ˈlL ［用例］ ɪn jccnɪ lceμuɪu ɥən ɟɪezɔn。スキーみたいな冬のスポーツが好きだ。 ɪn jccnɪ lceμ nɔɑ ɑleɪ ɒɪn ɪn ɪɥ jen uɪu ɑcdcſ cɒ ſə ɪμlcel。色んなスポーツができるので夏より冬のほうが好きだ。

lceμhɪrl ［名詞］幼字 lceμ のこと ［レベル］3 ɲ1

lceμhɔμə ［地球の星座］［ユマナ］冬のダイヤモンド ɲ0 ［文化］ cɑɪ

lceμμɔɒɪ ［医療］急な悲しみの発作 ［レベル］5 ˈlL: シエル発作 ［用例］ ſə eſ ɑɪz ɪ lɪ lel lɪ ɪμcˈl lceμμɔɒɪ ɒɪn lɪ ſcɑlɪſ ɒcuɪ ɒcl jɔɑɪ ɪ。そりゃ事故で娘さんを失ったら急に落ち込みもするわな。

lceμscɔμ ［生物］下髄 ɲ1

lceμlcl ［化学］ラジウム ［レベル］5 ˈlˈ1: 制

lceμlɔɔb ［被服］コンチネンタルハット ɟɒ;/ ɲ0 ［文化］ ɟɒ の ˈlſ でできた。冬場にかぶられる。

lceμlecn ［被服］冬服 ［レベル］3 ˈlL ［用例］ ɪn ɟɪb uɪn lceμlecn ɒɪdel。もう冬用の服を着よう。 ɪn ɪlɟɪb ucl lceμlecn dɔd dɔſ ez ɪɟ cɒ ſəɔ。最近は部屋の中ですら厚手の冬服を脱いでいられない。

lceμɔlɒɪ ［名詞］表４、裏表紙→ lec ［レベル］3 ɲ1

lceμeμc ［医療］ＡＢ型 ［レベル］2 ˈlL ［文化］ ＡＢ型は天才肌で完璧主義で変人が多いと思われている。

lcel ［遊離副詞］［形容詞］恐らく、もしかして、ひょっとして、まさか、もしかしたら、かもしれない ［レベル］1 ˈlL: 恣意 ［語法］ ɪləəſ

lceɔɒdc ［動物］蜜蜂、ミツバチ ［レベル］3 1?: 制

lɔˈl ［副詞］互いに ［名詞］相互 ［形容詞］相互の ［レベル］2 1?: 制 参考 : 古 :ſjəl（相互の） ［用例］ lɪɟ cnɪſ lɔˈl。彼らは見つめ合った。 lɪɟ cnɪſ lɔˈlel。同上

lɔˈlɛ ［動詞］ɥəl とすれ違う、すれ違う、行き違う ［普通動名詞］すれちがい、すれ違い ［レベル］3 1?: 制

lɔˈleſ ［名詞］おたがいさま、お互い様 ［レベル］4 ˈlL:μcɑcɪ:ɪɒɪlelſ

lɔˈl ［動詞］ɥəl を ɪ に向き合わせる、向き合う、対立する、対峙する ［普通動名詞］対立、対峙 ［レベル］4 ˈlL:lɔˈleel

lɔˈlſcˈl ［数学］対頂角 ［レベル］4 ˈlL

lɔˈlſc ［電算］互換性 ［名詞］(ſcl) 対応している、互換性がある ［レベル］4 ˈlL:lɔˈl/ɪſc（相互性） ［用例］ ſə ɟɪc ſcl lɔˈlſc ɪ bcˈl。このパソコンはマウスに対応している。

lɔˈleſ ［形容詞］食い違った、食い違う、行き違う、不一致な、ずれている、ズレている ［反意語］ lcμcſ ［レベル］4 ɲ1:lɔˈlɛ「すれ違う」

lɔˈleſeſ ［魔法］異性 ［レベル］5 ɲ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

lɔj ［生物］背中 ［動詞］ɥəl をおぶる、おぶる、背負う、せおう ［普通動名詞］おんぶ ［名詞］背、背表紙→ lec ［レベル］1 jeμſ 1?: 制 : 古 :lə lə:lə:lə ſμcˈlɔ(腹が女性でその対):ɒɪnɪɒc,ɪlſ ［語法］ 広義には背部全体を指す。狭義には腰を除いた上背のみを指す。 ［文化］ ルクレティアでは深刻な疲れは背部に現れるとされる。scɔμ 系の兪穴が散見されるのも背部であることを考えると理にかなっている。 ［用例］ lɔj hɪn e lɪɪn 父の大きな背中 lɔj ej ˈlcɒ 腰が曲がる

lɔjjˈlcl ［名詞］背中のある椅子 ［レベル］3 ɲ0

lɔjjɔs ［生物］脊椎 ［レベル］4 ˈlL

lɔjuɪcˈl ［生物］背部。胸部と腹部の後面全体。 μɑ;/ ɲ0

lɔjucɒ ［生物］広背筋 ［レベル］5 ɲ0<1?: 制

lɔjhɔ ［生物］背骨。lez の日常表現。 ［レベル］2 1?: 制 : 背中の骨

lɔn ［形容詞］複雑な ［類義語］ɒelcɪl ［反意語］jeɒ ［レベル］3 @ ˈlL ［語法］ lɔn は標準的な言い方。ɒelcɪl は持って回った言い方で、「複雑な上に解くのが難しく難儀だ」という心理を含む。

lɔnſ ［動詞］ɥəl に間に合う、間に合う ［反意語］ſclɑ ［レベル］3 ɲ0: 制 参考 : 古 :ɪlɒel（正しい

時間）〔用例〕 lɔnſ lɔd 電車に間に合う　lɔnſ aleɪnɪleɪ ɔn lɪb 仕事が夏休みに間に合う

lɔnucɥɔ 〔化学〕複合タンパク　1L:jeɥen

lɔncnɟɪ 〔ユマナ〕繁体字　〔レベル〕6　1L

lɔne 〔数学〕偏差　〔レベル〕4　@ 1L　〔語法〕 母集団の平均値との差。偏差は母集団内の個々の要素に対して定まるもの。平均の対。

lɔneɪll 〔数学〕偏差値　〔レベル〕4　1L:jeɥen

lɔɒ 〔格詞〕〔文頭純詞〕それで、弱結果　〔レベル〕1　1L:ɔɔn を弱めたもの　lɔɔ:lɔɔ:dɪaeſ:ʃjəlcɟɔ,ɪlſ

lɔb 〔名詞〕リュック、リュックサック、バックパック　〔レベル〕3　lɪ̀lſɪ: 背中の袋

lɔc 〔料理〕味、風味　〔レベル〕2　1ʔ: 赤 :lɩ　〔文化〕 一般的に薄味を好む。味付けも香辛料を好み、塩やソースなどはあまり多用しない。香辛料も決して多く入れることはない。味の中では辛い味を好む。香辛料を使う機会が多く、比較的寒い地方が多いためである。また、健康のために酸っぱいものも好まれる。甘いものはエネルギー補給の目的で好まれる。塩はなくてはならないものであるが、取りすぎに気をつけられる。尚、アンシャル料理はそもそも塩分が少ないので、アンシャル料理を食べている分には塩分は気にならない。インサール料理のほうが油や塩が多いため、気をつけられる。油は植物油が好まれる。あまり大量に使わないように気を使う。〔用例〕 lɔc neɪ 濃い味　lɔc ɥɪnɪ しつこい味、脂っぽい味　lɔc ɪſl{μɪſ} おいしい味　lɔc zɪl 変な味

lɔcſ 〔動詞〕ɥəl を味わう、味わう　〔文末純詞〕味覚での推量。～なようだ。　〔レベル〕2　1ʔ: 制 :lɔc/ſɪb

lɔcſnɪ̀l 〔生物〕味覚　〔レベル〕4　ʃ1

lɔcſlɔɒ 〔料理〕口内調味　〔レベル〕5　ʃ!　〔文化〕 凪人のように主食が米と決まっている民族はするが、アルバザード人一般はしない。

lɔɔʃ 〔動詞〕ɥəl について ɪ と会話する、会話する、対話する、話し合う　〔普通動名詞〕会話、対話、話し合い　〔レベル〕2　1ʔ: 制 : 互いに喋る　〔語法〕 lɔɔʃ は雑談内容。lɔɔlel は雑談すること。〔文化〕 会話は他人に聞こえない声で話すのが礼儀。大声で話してはいけない。うるさいのは日本やフランスや北欧同様無礼となる。〔用例〕 lɔ nəɒnel ɔ lɔɔʃ, ɪlſe ſɪbɔɥ ſel l'eſ ɔn ɪ le uecɒ lɔnſ ɟɪnlɔɟ 夕食と雑談の後、アシュテはねっ転がって事件に関連する情報を調べていた。　ɟɔn ɥ lɔcſ lɔɔʃ nə ɑcl じゃあしばらく話でもしよう。　ɪ ɥ. lɔnʃ, ɪn en jccnɪ lɔɔʃ ɔnen uelɟ ɪlen lɟ en lɪɒ ɒcɥɔʃcɪzɒ əl ɑlcɟ ɪnſeɟ ɒɪn ɥɪſɔ lɔɔʃ jɔɑ jen ſɔu ɪlſſɪ. ええ。まぁミロク革命や僕らの正義観に合わない人と政治の話をするのはいさかいの種になるので好きではないのです。　ʃɪ ɑſɔɔɪlnɪ, ɪn lɔɔʃɪſ ɒɪcn, jeſɪ e lɪnlel, ɪlɪn oen ɪl cɑcn ɔ lcɑen le μɪ lɪ nlel lɔʃ. 稽古上げで、町内の古老や若い人と祭のことや町の歴史のことや社会のことについて話した。

lɔɔʃlſcſ 〔名詞〕話の切り出し　〔レベル〕4　1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ　〔文化〕 用や言いたいことがある人が切り出す。今は自分が話してよい場面であるという状態なら良いが、人が話している途中など、話してよい場面でないときは嫌がられる。切り出すときは ɪlſɔɔ,lcnʃ,nee などといって切り出す。一対一の会話でも多数との会話でも使える。いずれにせよそう言い出した人のほうを聞き手は見る。目上に向かって切り出してはいけないということはない。言いたいことがあれば言う。勿論、相手の機嫌が悪いときは黙っていることが良いときもある。〔用例〕 ☆ ɪn nɪſ delɟ ɒɪn scnɟ ɑcl ɪʃ nɔɟ ɑcſ lɔɔʃlcſ. どう話を切り出せばいいか分からず困った。

lɔɔʃlɪl 〔名詞〕演習、対話式講義　〔レベル〕5　1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ

lɔɔʃjcnɟɔl 〔名詞〕トークショー　〔レベル〕4　1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ

lɔɔʃɑɪcɒ 〔名詞〕話の切り上げ　〔レベル〕4　1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ　〔文化〕 誰かが話しているときは切り上げるのは話し手である。聞き手から切り上げるのは失礼である。もし時間がなくて切り上げる場合は denſ と謝ってから切り上げればよい。話し手が自分の話題を切り上げる分には問題ないが、会話そのものを切り上げるのは問題がありうる。相手が次の話題を用意しているかもしれないので、勝手に会話を打ち切るのは良くない。状況を見て判断する。相手が話したいようなら切り上げずに相手が喋るかどうか見てから切り上げる。時間がなければ事情を話して切り上げる。お互いがタイムリミットを知っていればより好都合である。タイムリミットが迫っていることを知らせて切り上げればよい。　エレベーターの中で会って話している場合、目的の階に着いた時点がタイムリミットである。そのタイムリミットがいつかは大体分かっているので、その階に着けばどちらともなく ɑɔɔ などといって切り上げて別れる。エレベーターで切り上げるときは目的の階に着いたら ləɔʃ, ɪſə などといって切り上げる。「着いた」「ここです」という意味である。降りる人が ɪ, ɪſə などといえば相手は jɔn, ɑɔɔ という。降りる人も ɑɔɔ といって別れる。また、友達や恋人と会っているときは ɪn ɔlſſ ɑɪl μɪ(もう帰らなくちゃ）といって切り上げることがある。

lɔɔʃlb 〔名詞〕話題　〔レベル〕3　1L:pelcɑcɪ ɪlſe

lɔel 〔名詞〕〔形容詞〕偶然、まぐれ、奇遇、蓋然、蓋然性、偶々、偶、たまたま　〔反意語〕ʃlecl　〔レベル〕3　古 :lɔel(偶然)　〔用例〕 lɔel ſcn 著しい偶然、奇跡的な偶然　ɪn ɪlſɪſ lɪ lɔelel. 偶然彼に会った。

le 〔代詞〕何か、誰か。特定の指示代詞。　〔レベル〕1　1ʔ: 恣意　〔用例〕 le eſ μɪl ɔn ſə ɪ. これって何か引っかかるんだよな。

leſ 〔名詞〕迷惑、悪い、面倒　〔レベル〕3　1ʔ: 制 :leſ（無用）:lɪſ の対。新の語義は制の enſ に当たるもの。　〔語法〕 アルバザードは個人主義だが、自分の自由を守るのと同様に、他人の自由も確保しようとする。日本は個人主義を掲げて進んでいるが自己中主義になっている。アルバザード人は自分も他人も等しく個人と考え、どの自由も確保しようとする。そのアルバザード人にとって leſ という概念は非常に重要である。leſ は他人の個人主義の侵害を意味する。日本人が言う「迷惑」などにあたるが、文化的に意味が違う。日本人は恥の文化やウチソトの文化から迷惑と感じるが、アルバザード人は個性の侵害という文化から迷惑と感じる。　日本人が「いや、それは悪いからいいよ」とか「迷惑でしょう？」という場合、アルカでは leſ という。〔成句〕 jclɒ ſə ɑe leſ もしご迷惑でなければ　〔用例〕 ſeeɥe, ſə{ɪn} eſ leſ = ſee, ɪn jcn leſ. いいよ、悪いから

leſj 〔法律〕倫理、道徳、モラル、モラリティ　〔レベル〕3　1L:jeſj:1ʔ: 制 : 語源クミールが無礼を怒るときにいう言葉 leſſʔ（なんて無礼な！）。その語の真の意味は不明だが、「貴方は道徳に反している。改善なさい」という意味だろう。　〔文化〕 先に結論を書くと、道徳は教えるものではなく、常識として刷り込むものである。　道徳は教育において最も重視され、知育や体育よりも重視される。とはいえ、アルバザードには「道徳」の授業がない。道徳は口で教えて子供が習得するものではないと考えているためである。　「物を盗んではいけない」と口で教えることは、まったく意味がない。聞く子供は始めから盗まないし、盗む子供は始めからそのような説教に耳を傾けない。従ってこの手の説教はまったく効果がない。説教が効果的なのは、罰が怖い場合か、たまたま子供が「あぁそうだな」と共感した場合であり、共感しない子供には何を言っても意味がない。　ではアルバザードはどのように道徳教育をしているのだろうか。人が物を盗まなくなるとしたら、それは誰も物を盗まないからである。盗まないのが当たり前という環境が、最も教育効果がある。汚れた道に物が捨てられやすいのと同じく、周りがしていることにはつられやすい。逆に、周りが当然しないことはしにくい。理屈よりもこちらのほうが遥かに効果的である。　子供に礼を言わせるようにしつける際も、子供に「礼を言いなさい」という必要はない。ただ黙って大人がさも当然のように他人に礼を言えば良い。そうすれば自然と子供はそれを真似る。道徳教育は口で行うものでなく、環境を作ることで子供の脳内に「それが常識」と植えつけるのが、最も効果的である。　ゆえにアルバザードでは、道徳的な環境を作ることを徳育とし、ならびにその環境を破壊しようとする悪人を排除し罰することを徳育とする。つまり、教師や大人が道徳的な環境を責任もって作り、維持し、違反者を排他する。それにより、次世代に道徳が受け継がれる。　もちろん、口頭による教育をしないわけではない。日本と異なり教師も親も周りの大人も子供を注意するし、場合によっては大人も大人を注意する。それが国民の義務であり、「注意して喧嘩になるのは嫌だな」ではすまされない。喧嘩に自信がないのなら周りの民衆に協力を得る（たいてい協力してくれる国民性）か、警察に通報するなりしてでも、悪人の排除に貢献する。

leſjɑel 〔哲学〕倫理学　〔レベル〕4　ʃ1　〔文化〕 ɑɔlɒcɥə

leſnɑcɪ 〔医療〕統合失調症、精神分裂病、統失、糖質　〔レベル〕5　1L:「迷惑な夢」。幻覚などをここでは ɑcɪ としている。迷惑なのは本人にとってか周りにとってか分からないが、恐らく両方とも大変そうなので、両方だろう。

leſɪ 〔名詞〕ゴミ箱、ゴミ入れ、三角コーナー、ダストボックス　〔レベル〕3　1ʔ: 制 :leſɔu（ゴミ箱）〔用例〕 ɪn ucɪnjſ ucl ɒɪɑc ɪj ɪ leſɪ ɪleəſel e. 指輪をゴミ箱に捨てた覚えなんてないよ。

leſɔn 〔植物〕楠、楠木、樟、くすのき　〔レベル〕4　ʃ0:lɪ̀lſɪ:leʃſ。leʃſ/ɔn

leſe 〔遊女〕〔文末純詞〕jeſe　〔レベル〕4　ʃ1:jeſe

leſəl 〔代詞〕何か　〔レベル〕2　1L

leſəleſ 〔代詞〕誰かの　〔レベル〕2　1L

leɪ 〔形容詞〕特定の、定まった　〔反意語〕ɑcɪ　〔言語〕定性　〔レベル〕4　1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ:le

leɪſ 〔名詞〕皺、しわ　〔レベル〕3　1ʔ: 制 :lɔlſ。1ʔ 年に ɑcɪ と交代させた。〔用例〕 jɪb ſclſ leɪſ. 服に皺が寄っていた。　jeɑ leɪſ 皺を取る

leɪſɪ 〔植物〕シナモン、にっき、ニッキ　〔レベル〕3　1ʔ: 制 :lɪ̀lſɪ:leɪſ

leɪſɪɔn 〔植物〕肉桂、ネッケイ、シナモンの木　〔レベル〕4　1ʔ: 制 :leɪſɪzɔɒ

leɪj 〔形容詞〕価値のない、無意味な、質の悪い　〔反意語〕ləɑcl　〔類義語〕lcɑ　〔レベル〕3　1ʔ: 制　〔語法〕 leɪj

leɪuɪnſe 〔言語〕定冠詞　〔反意語〕ɑcɪuɪnſe　〔レベル〕4　ʃ1

leɪbel 〔名詞〕〔形容詞〕共時的な　〔反意語〕uɪpɒel　〔レベル〕5　1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ

leɪɥəɔ 〔言語〕定動詞　〔レベル〕5　ʃ0　〔語法〕 目的を持った動詞で、必ず有界動詞。　例えば「歩く」の場合、歩いて駅まで移動する場合は、定動詞になる。　スラブ語には定不定の違いが語彙レベルであるが、日本語や英語やアルカにはない。　定動詞の非単位動詞はアルカでは迂言法で表現される。　単位と非単位の区別はあらゆる動詞に存在するが、定不定の区別は「歩く」や「書く」など、限られた動詞にか存在しない。

leɪeſ 〔動詞〕ɥəl を ɪ になりすませる、なりすます、成りすます、詐称する、見せかける、みせかける、ふりをする、フリをする、振りをする　〔普通動名詞〕なりすまし、成りすまし、詐称　〔レベル〕3　μɑ;/ 古 ɪleſſleſſɔ で、ɪleɪ と同根。　ʃ!

lele 〔名詞〕何々、～、程度の分からないある程度の　〔レベル〕2　ʃ0:lɪlce:le/le

lej 〔名詞〕ロボット　〔レベル〕3　μɥəə:lɪ̀lſɪ

len 〔動詞〕ɥəl を飲む、飲む、呑む　〔類義語〕nɪɥ　〔反意語〕ɪəc　[ɥenſe]〔動詞〕ɪəc/len。食べると飲む両方の意味に使う。　〔レベル〕2　jeɥſ　1ʔ: 制 :len（飲む）: 古 :jɔɥnːlɔn（食べ物）　ɪəſj:ɪəſj: euɥenl　〔語法〕「お茶でも飲みませんか」をアルカにどう訳すかという問題だが、そもそも「お茶でも」と濁す表現が日本語的であって、アルカでは「お茶飲みませんか」と言うほうが自然で、わざわざお茶の部分を濁すという言語表現自体を英語と同じくしない。つまり、len lccſ ɑc ɒuɪen eſeɥ ではなく、len lccſ eſelɥ が自然ということになる。〔用例〕 len dcſɪ 薬を飲む。食べる薬もある。その場合は ɪəc。

lenʃ 〔動詞〕ɥəl を編む、編む　〔反意語〕jɔɒſ　〔レベル〕3　@ 1L　〔文化〕 ɒeld　〔用例〕 nɔn ɑcɪnɟɪſej ɪɒɔl eeſɪ le lenɪɔɥ le lɔnſ ɟenj ɥəə. 私は姉が編み物をする横で、黙って座っていた。

lenɪnɒɪ 〔美容〕三つあみ、みつあみ、三つ編み　〔レベル〕3　1L

lenɪɔɥ 〔生物〕食道　〔レベル〕3　1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ: 嚥下する筒

lenɪɔɥɑɪcz 〔医療〕食道炎　〔レベル〕4　1L

lenɪɔɥdcɥ 〔医療〕食道がん　〔レベル〕4　1L

lenɪɒ ſcɥeɒnɪ 〔人名〕シェナムニティイェムナ　語源不詳　〔文化〕 ギルが花屋でバイトをしていたときの常連客だった少女。親の手伝いで買いに来ていた。ギルに好意を持っており、ギルも可愛がっていた。メル 11 年ごろの話。準ハルマではないが、ギルを通してこちらの数人と面識がある様子。

lenɔn 〔代詞〕〔ɒɥə〕あたしたち、あたしら、アタシら　〔レベル〕2　ʃ1:llccz:je/nɔn の弱化。

lenɔl 〔料理〕飲み物、ドリンク　〔レベル〕3　μɑ;/　ʃ!

lenɔɪn 〔代詞〕〔ɒɥə〕あたしたちの、あたしらの、アタシらの　〔レベル〕2　ʃ1:llccz:je/nɔɪn の弱化。

leneɥ 〔名詞〕飲み水、飲水、飲料水→ eɥcɪ　〔レベル〕3　μɑ;/　ʃ!

leɑ 〔名詞〕息、ブレス　〔動詞〕ɥəl に息を吹く、吹く、吐く、手や蝋燭や人に息をかけること。人にかける場合とはたとえば飲酒運転の取り締まりで検査する場合である。〔類義語〕ſɔɥſe　〔レベル〕2　jɔɥn　〔語法〕 若い女が男を誘惑するときに息を鼻に軽くかけるように話すため、leɑ ſɔɪ(鼻に息をかける)で誘惑するの婉曲用法。この誘惑は必ずしもセックスに至らないが、おおむね至ることを含意する。〔成句〕 leɑ nene 誘惑する　leɑ ſ'ɪμſe アルテの吐息：天地開闢　〔用例〕 leɑ ɥəəɑ 荒い息　nɪɥ leɑ 息を呑む、息を飲む。驚きなどで。　lɪ leɑ ſɔɪ ſ'ɪlſ cɪn ɪnſſ あの子、私のカレを誘惑したのよ！

leɑɪ 〔名詞〕ふいご、フイゴ、鞴　〔レベル〕5　1L:leɑ/ɑɪc

leɒ 〔動詞〕ɥəl を訪れる、訪れる、来訪する、訪問する、立ち寄る、見舞う、たずねる、訪ねる　〔普通動名詞〕来訪、訪問、見舞い、お見舞い　〔医療〕〔動詞〕ɥəl に往診する　〔レベル〕3　1ʔ: 制　参考 :jɔɥnːlecſ 訪れる 」。元は「 月が満ちる 」。古 :jəɥlcɔlɒſſſɪ（訪れる）　〔用例〕 ɪn ɪlɒɪ leɒ lɪ. 私はよく彼の所に行く。　ɪn leɒɪſ hɪdn ɒɪn jc ɪnɔ. することがなかったので友達の家に行った。

leɒuɪlj 〔医療〕往診医　〔レベル〕5　ʃ1　〔文化〕 cuɪl

leɒd 〔植物〕サフラン　〔レベル〕4　ɪlɪ̀lſɪ: 味のあるアヤメ

leɒl 〔生物〕脊髄　〔レベル〕4　1L:lezɔ/ɒelc

leɒlzelɔ 〔生物〕延髄　〔レベル〕4　1L: 脊髄の上にある脳の一部。日本語にすると「脊髄脳」のような感じで、違和感を覚える。

leɒɪn 〔名詞〕来訪者　〔レベル〕3　ʃ!　〔成句〕 leɒɪn jclſ 物見遊山

leɑ 〔格詞〕～なしで　〔反意語〕ɔʃ　〔レベル〕1　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj: 制 leſ（不要な）〔用例〕 leɑ ſɥə, nɔn jɔ jen ɥəə. あなたがいなければ私は何もできないの。

leɑɥɪ 〔普通動名詞〕別居　〔動詞〕ɥəl に leɑ と別居する、別居する。動詞を μɪ にしても leɑμɪ にしても意味は同じ。　〔反意語〕ɔʃμɪ　〔レベル〕4　μɑ;/　ʃ!!　〔文化〕 ・現実では　セレンはリディアやメルらとの関係について、「恋愛を長続きさせる方法は距離感だ」と述べ、「別居は意外と良い」と述べた。

leɑɪdſ 〔名詞〕呼び捨て　〔レベル〕3　μɑ;/　ʃ!　〔用例〕 lɪ μɪſ leɑɪdſ ɪl ɪn. 彼は私を呼び捨てにした。

leɑen 〔接続詞〕leɑ。～なしの。　〔レベル〕2　ʃ1

led 〔形容詞〕困難な、難しい、大変な　〔形容詞〕低頻度な、起こりにくい　〔反意語〕jɔɑ　〔レベル〕2　μɑ;ɒe　jɔɥn　ɪ'ɥɪ:ɪ'ɥɪ　〔用例〕 ſə lec ɪſ led ſcnɪ enſɔ ɪn cjɪ ucl ſə. この本は難しすぎて読むことができなかった。　ſə ɥən led ɪ. そりゃ大変そうだな。　☆ ſə ɪſ led lel ɪn scɥ ſə lel nɔj ɪe ɪl ɪz. 行くべきか止めるべきかを決めるのが難しかった。　"led nɔnnɔ" 「難しいんだね」　ſə eſ led lel el ɑel dɪμɒɥen 日本語を学ぶのは難しい。　len ɪlɑ eſ led μɪl ɪlſ ɪn. やはり数学は俺には難し過ぎる。

ledlcul 〔普通動名詞〕難産　〔レベル〕3　μɑ;/　ʃ!

ledɪſc 〔名詞〕難易度　〔レベル〕3　ʃ1

ledɪlſ 〔形容詞〕(ɪn で）書きにくい、書きづらい　〔動詞〕ɥəl を書くのが難しい　〔レベル〕3　μɑ;/　ʃ!!

ledcjɪ 〔形容詞〕(ɪn で）読みにくい、読みづらい　〔動詞〕ɥəl を難しく読む、難儀して読む、難読する　〔レベル〕3　μɑ;/　ʃ!!

leɥ 〔美容〕化粧　〔レベル〕3　古　〔文化〕 アルバザードは薄化粧を好む。男女共に行って良い。日常的に行う人もいるし、ここぞというときだけ行う人もいる。化粧の前後を見られるのは恥ずかしいので人前ではしない。化粧は綺麗に見せるためという意味と、汚く見せないためという意味がある。かえって醜くなるような化粧はしない。　化粧を人前でするのはきわめて恥ずかしいこと。すっぴんもなるべく見せたがらない→ leɥcnɟ　〔用例〕 lɪ jcſ{ɪlɪbej} leɥ. 彼女はすっぴんだ。

leɥlɪ 〔美容〕化粧室　〔婉曲〕女子トイレ　〔レベル〕3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

leɥzelſ 〔美容〕ファンデーション　〔レベル〕4　1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ

leɥs 〔生物〕薬指、環指　〔レベル〕2　1L:leɥsc（化粧指）クリームや粉を塗るときによく独立して使う。　jɔlə̀lɪsc:

leɥlɪen 〔美容〕パック、フェイシャルパック　〔レベル〕3　1ʔ: 制

leɥc 〔植物〕ライチ、荔枝　〔レベル〕3　古 :leɥ（化粧）から。化粧品のような味と匂いがするといわれたことから。　〔文化〕 なぜか伝統的に少女 (lɪz,ɒɪnɪ) の性器の匂いの象徴になっている。　現実には「なぜか」ではないのだが、書くと問題があるので。ɔn ɑcɪ.

leɥcnɟ 〔形容詞〕恥知らずな、厚顔無恥　〔レベル〕3　ʃ1:leɥ/jcnɟ「化粧を見せるような」

leɥcɪ 〔魔法〕シェリア。水の高位白魔法。アミティ系の効果を持った水をエリアといい、その水を作る魔法をシェリアという。水に魔法を乗せるため効果は薄くなるが、保存が利く。セルメルまで飲み薬として使った。μɑ では使い手がいなくなり、まがい物だけが残った。〔組み数字〕5 / 1 2　〔レベル〕4　ʃ1:eɥcɪ

lez 〔生物〕脊柱、脊椎、背骨　〔文字〕スパイン　〔レベル〕4　1ʔ: 制 :lezɔjehɔ から

lezl 〔生物〕脊索　1L:lez

lezlcɑɹl ［生物］脊索動物門　ʃʃ

lezɔ ［名詞］軸、アクシス、アクシズ、アキシス、心棒　［言語］［文字］アクシス、軸　［レベル］3　ɟɔɟn　jeelzɪɹɔ:jeelzɪɹɔ

lezɔ,ɑɯ　sɔl　jeel/zɪɹɔ

lezɔʅ ［政治］本国　zɸ;lezɔ/ʅlſe　ʃʃʃ

lel ［格詞］ɟɔl格の同格。～として。　［反意語］lel　［レベル］1　1L:ɟɔl の音を人為的に変化させたもの。制アルカだと ɪle だが、新生アルカは開音節が増えるので ɪ で始めたくなかった　［用例］　ʃə eſ ɟɪſ lel ſc ləni ɪſə. 君が来るのはいいことだ。　ɪn ɟccnɪ lə lel ʅɪɪn. 私は父親として彼女のことが好きだ。

lelſ ［天文］月　［名詞］こよみの月　［シェルト］月駒　［名詞］一枚目。バランスの取れた性能の役、物語の進行役。　［組み数字］8　［類義語］ɪſcclc,ɑcɪlccɹɪ,ɾləəʃ,ɪnsəɟ,ucɟſeɟ,ɑcuelɪnl,ləɑeſ,uelſɔ,uelef,ɒɟəlɪ,ɪls,ɑəəɟɯɪ,ſəuɪn,ʅɪnſe,leeue,uccne,cnse,ɑɪɪle,hɪɟle,ɾləə le,uelle　［反意語］ɑɪɪl　［レベル］1　ſb;lelſ,ɑ.hɪn ɪz ɪlelſ,ɑ.lcʅ　古 :ɪleſſ,lelſ から。古では ɪleſſ は月の意味で、lelſ はゲームのシェルトのこと。　ɪlelſ,ɑ lelſ,ɑɯ(lelſ,ɑ は uccne。ſb から lelſ で月を指すようになり、ɪlelſ が滅ぶ):lelſ:lɪ lelcə（太陽が男。月光は魔法を回復し、魔法は女なので lɪ。シェルテスは関係ない）:ɪlebc,ɪlſ　［語法］［文化］　アルカの中で最も類義語が多いのは恐らく月。次が男女あたりではないか。　月はアシェットのシンボルだったため、アルカには類義語が多い。lɪ lelcə などの外来語も入れればさらに増える。　［用例］　lelſ ɑɔcl 若い月（月相の値が小さい月）　lelſ uɪnɑɔɟ nɔnſ 月が襲ってくる！　lelſ ɪſ nɔʅ uɪɑel. 月が早く出た。　lelſ ɪſ ɑlcd ɪſc ſcn. 月がとても輝いていた。　lɪj nɔɪn uɪſl ɑɪn le lelſ nɪ, ɔl dɪdɪ ſlʅ nɔn ɟɔɟel. パパが抱っこしてくれれば、あのお月さまにも手が届くと思うの（ləlcɪ ɪɟbɪzɪɟɒ）: 紫亞による初めての詩作。

lelſ,ɑ　uccne　ɟɪɪl;e

lelſlɪɑ ［地球の国名］コモロ　1L: アラビア語の月から

lelſlɪnſ ［名詞］記念日から 1 月経ったプレゼント　［レベル］4　1L

lelſj,ɑɯ　neʅſ　lelſ/ɟɔ

lelſɑɔnſ ［天文］白道　［レベル］5　ʃ1

lelſɒeɒ ［組み数字］シェルトサークル、八傑集、八大竜王、八神将、八王子　［レベル］5　ʃ1　［文化］　ɟɪdɪlʅ

lelſɑcſɪn ［名詞］サラリーマン、月払いで賃金をもらう人→ lɪbɪɟſ　［レベル］3　ɟɑ;lelſ/ɑcſ/ɪn「月ごとに金を得る人」　ʃ2

lelſɟɪſſɔ ［地球の国名］マレーシア　［レベル］6　1L: 国旗がアメリカに月を足したよう

lelſlɪbɪɟſ ［名詞］月雇い労働者　［レベル］5　ɟɑ　ʃ2

lelſlccɑɪ ［名詞］シェルトリーファ、星の中の月　［類義語］lelceɟ　［レベル］5　ɟɑ:ɟcɑcɪ;/　ʃ2:ɟcɑcɪ　［語法］［文化］　月が出る夜は星が隠れて見えにくくなる。このことから大きな明るいものが出ると小さなものは霞んでしまうことを lelſlccɑɪ という。クラスに一人美人がいて周りが霞んでしまうような状態を lelſlccɑɪ といい、その美人のことを lelſ という。美人でなく偉人などにも使える。　［用例］　ɒcɟɔʅ eſ lelſ e lelſlccɑɪ ɑɪ. ミロクは星の中の月だ。

lelſlɔɔb ［被服］カウボーイハット　ɟſ;「月の帽子」　ʃ1　［文化］　日光を遮る効果があることから月の帽子と言われた。

lelſlə1 ［普通動名詞］月散歩　［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ　［文化］　アルバザードは月が好きである。また、夜の涼しげな空気が好きである。だから夜は散歩に出ることが多い。だが、夜間の出歩きは危ないので住人はなるべく公園を散歩する。集合住宅の場合、敷地内部に大きな公園がある。ここには集合住宅内の連絡通路からのみ入ることができ、外からの進入はできない。住民はこの安全な公園を散歩して歩く。そして涼しい空気と月の光を浴びて神に祈る。

lelſɪɟɯs ［名詞］魔導船、シェルタージュ　［レベル］5　1L:uelɟɪɟɯs から類推。　［文化］　→ ʅʅɪc　ルティアの海の底に眠っていた船。リュウが発掘した。uelɟɪɟɯs より早くできた。船の形はしていない。

lelſɪlʅ ［天文］月齢　［類義語］lelſeel　［レベル］3　ʃʃ　［文化］　lelſeel

lelſcɟ ［天文］ɒcɟlccɑ　［組み数字］2 / 8　［レベル］4　lɟɑ;lelſj,ɑɯ　レスティルから見て隠れたように見える星　ʃ1

lelſcɪ ［地名］シェルティア、シェルティアの丘、月見台　［アクセント］lelſcↄ　［レベル］6　ɑ;ɪlelſ/c/ʅɪ「月を見るところ→月見台」　ʃ2　［文化］　ミナカルモの近くにある小高い丘。見晴らしがよく、月がよく見える。

lelſcɪl ［名詞］月楼都　ʃ1;lelſe/lcɪl「衛星街」

lelſcəɟ ［アイテム］シェルティウス、乙女のキッス、うちでのこづち、ダイエットフード　［組み数字］7 / 1 2　［レベル］4　ʃ0:lelſ/clcɟcəɟ（月の鏡）　［文化］　アシェックを解除する銀の鏡。ɟɑ で リディアとリュウが開発した。アシェックが中位であるのに対し解除のラルトが高位であったため、アシェックによる被害が絶えなかった。どうにか解除するアイテムが作れないものかと少女時代のリディアは研究した。リディアは文献を読み漁り、満月の夜に湖のほとりに立っていたらアシェックが解けたという症例に目をつけた。これはヴィルを大量に含んだ月の光を湖が反射したことによるものではないかと考えたリディアは、これをアイテム化できないかと考え、リュウに話をもちかけた。結果、月の光を蓄えた鏡があれば湖の症例と同じ効果を持つのではないかということになった。そこでリディアはアルシアで魔力を帯びた水を採取した。リュウは硝酸銀をリディアの持ってきた月光水に溶解させ、アンモニア水を加えて銀をアンモニア錯体とした。この液体を銀液とする。次にホルマリンを月光水に溶解させ、水酸化ナトリウムを加えて還元液を作った。この銀液と還元液によって銀鏡反応が得られる。リュウはこれを用いて丸くカットしたガラスの片面に銀メッキを施し、月の光を帯びた鏡を作った。アシェックのかかった相手をこの鏡で照らすことにより、アシェックが解ける。実験室ではパールが銅やアルミニウムでも試した。アルミニウムでも鏡が作れたが、アルミニウムは魔力の伝導率が悪いため、月の魔力を内部に留保できなかった。銀を使うことで月の魔力を鏡に封じ込めることができた。そこでリディアらはこの銀鏡を lelſcəɟ とし、民に配布した。これにより、アシェックによる被害は激減した。ちなみに、使うと魔力が放出され、その衝撃で鏡にヒビが入る。　［成句］　lelſcəɟ ʅɪɟ 正真正銘→ ɟclφcəɟ

lelſɔ ［娯楽］［シェルト］シェルト　［レベル］3　古 :lelſɔ。lelſ は月が語源。正確には ɪleſ（月）からクミールが造語した lelſ というものだが、セレンが lelſɔ と聞き間違え・言い間違えたために lelſɔ という語形も登場した。　［文化］　メル Δ 年から L 年末にかけてクミールとメルが個人的な余興で作り出したゲーム。チェスや将棋に似る。上弦の月と下弦の月とデームスの戦いを描いたので月という語を語源に取った。将棋のような知的ゲームで、人気が高い。二人いればできるので、カップルなどにも好評。伝統的なゲームで、奥が深い。アシェットのメルによって考案されたもの。　＜ルール＞　http://constructed-language.org/arka/images/xelto.pdf　＜盤面の読み方＞　縦横の順に読む。ɟɔɔbe–ɪlɟcɪ の順に読む。　＜用語集＞　lelſɔ シェルト　ele シェルト盤　ɟɔɔɒ 縦軸　ɪlɟcɪ 横軸　lɪſlɪ マス　ɟɪlʅ 局面。棋譜における一手一手の盤面　ɟeɟlɪʅ 棋譜　ɪɟle アルシェ側。先手　ɟɔɟn ソーン側。後手　hɪrɒ 駒　lɪnſcɟ テームス以外の駒　ɟɪlɪnſcɟ 前衛の駒、歩　lclɪnſcɟ 後衛の駒　ſeeɒɟ 永駒　ɪlſeeɒɟ 回転した永駒　lelſ 月駒　ɪɟſɪn 魔駒　ɔɔc 扉駒　ncɒ 色駒　leɑſ 跳駒　hɪnɔc 塔駒　dɪɑc 橋駒　ɟɔɒɪ 斜駒　ɟſenſ 十駒　hcl 横駒　hɪj 縦駒　ɔu 動かす、打つ　ɪlɟcɪɑɔnſ 扉の軸移動　ſlcɑ 取る。駒を取ること　ɔʅle 随伴　eu テームスに張る　jeɑ テームスから剥がす　ɑəſ テームスの張り替え　ʅɔɟ 方向転換　ʅɪſɪɟ チェック　hɪrɒɪ ハルマチェック　ɟɟccɪʅ ルシーラチェック　ɟɔleɟ 詰み　ſɔen 後手の一矢　cſɔ 勝ち点　ɑcnφ フォーク。王手飛車取りなどの手法　＜古いブログの抜粋＞　シェルト　＜シェルト概説書＞　ʃ00?/0?/ʃ9　＜シェルトとは＞　将棋やチェスに似た２人用の対戦パズルゲーム。駒を動かしていき、相手の用駒か４個の魔駒を取ることを目的とする。盤面は縦横７×７マス。両軍は駒を 1ʃ 個ずつ持つ。更にそれに特殊駒テームスを１個加えた計 ʃL 個でゲームは展開される　両軍とは即ちアルシェとソーンを象徴し、アルシェのランティス 1ʃ 名とソーンのランティス 1ʃ 名が戦うため、シェルトは政治的・思想的色彩を帯びたゲームである　＜シェルトの起源と現在に至るまでの推移＞　シェルトの起源と推移をセレンのアンクノットから抜粋する「シェルトはクミールさんとメルが作ったゲームだ。基はチェスを拡大したゲームだったそうで、名前も「拡張チェス（lɪcſlej）」だった。1LL9 年のことだ。11x11 マスで、チェスより大きかった。俺はこの時点で１度やったことがある。　その後、彼女達はルールを変えていったわけだ。第三勢力の駒という概念を編み出したりもした。序盤は定石手を組むだけと悟ったので、定石手が短くなるように、マスを削っていった。　最終的には７x ７マスになった。LΔ 年夏である。この時点で味方の持ち駒が 1Δ になり、敵合わせて 1Δ となった。そこでクミールの「何だかアシェットみたいだ」というつぶやき起こり、それがきっかけで、メルが王を指して「じゃあ、これはお兄ちゃんね」といった。つまり俺のことだ。するとクミールが「じゃあ、こっちの王は私なのね」といったそうだ。　そしてそのことを皮切りに、メルは「じゃあ、これがメルで、こっちはお姉ちゃんで…ルージュはムカつくから一番メルから遠いところで…」などと勝手に駒に名を当てはめて言った。クミールも真似をして使徒全員分の名を付けた。LΔ 秋頃のことだそうだ（これはあまり確証がないらしいが、この年のメルの誕生日前には俺が知っていたので、少なくともそれより前だから秋口だろうということ）　そしてアシェットの名の全てが当てはまり、第三勢力はテームスという名になった。　同時期に、テームスの能力を変更。テームスは王と同じ動きをする駒だったが（シェルト創世記にはマスが広かったので全方向２マスが移動範囲だった）、千日手になるので「張り」の概念をメルが導入した。　LL 年になると、テームスが倒せないというルールがまずいということで、テームスは倒せないものの張っている駒は落とせるというルールに変わった。　また、セレンは今メルに聞いて確認していないので詳しくは知らないが、テームスを取った際は「取った駒が行きうるマスの中で尤もテームスに近い駒に置く」というルールになったとメルから聞いた気がする。だが、更にその後「テームスを取るときはテームスを取った駒とテームスの居た位置を交換する」というルールになったというようなことを聞いた気がする。多分、いつのまにか変わっていたのだろう　L9 年にテームスの存在と将棋と違って張れないというルールに対処するために、飛車角がなくても負けるというハルマチェックを導入。　L9 年に歩の能力に個別差を設けたことにより、歩兵の能力を活かすために随伴のルールを取り入れる　LL 年には直歩は一番奥にいくと１歩下がれるというルールも導入したと思われる　LL 年にセレンはシェルトをアルカ文化と認定、これを広める。使徒に広めれば確実に文化として残る。個人的に今のところは好きなゲームではないが、その価値は認めていたつもりだ。だから文化として認定し、みんなにアルカ教養ということで強要した。　駒の種類は９種なのに駒の名が 1L もあるということと、自分が実名で出ているので複雑な気分だろうことがイヤであまりやらなかったが、みんなにはそこそこ好評だった。しかし「慣れれば面白そうだが、あまりやる気が起こらない」という意見が多かった。原因は「アンシャンテじゃやりづらいし、アンシャンテを使ってやるほどのことではないだろう」とのこと。ごもっとも。　当のクミールさんはメルに勝てないという理由でアークパズルを好んだし、メルもメルでクミールさんを気にしてあまり遊べなかったらしい。それが可哀想でみんなに広めたっていう俺の気持ちはわかったくれたみたいだし、クミールさんも自分の考えを優遇して文化認定したということに気付いてくれたみたいだし、みんなも「総じて面白い」といってくれたし、政策としては良かったな」　シェルトの駒が使徒を表わすようになった以上、最後の使徒ルージュ＝エルム＝オキニス＝ミディート＝ガストラ（マージ名）は既に LΔ 年秋に仲間になっているはずだが、調べてみると確かにセレンには LΔ/L/Δ に紹介されている。更に、ソーンの最後の使徒であるクノンが向こうの仲間になったのは、記録によると LΔ/11/Δ とある。なるほど、やはりシェルトがアシェットの抗争を描き始めたのはこの頃のようだ　尚、シェルトはメルが「飽きた」との理由で、それから殆ど発展しなかったが、J00J 年にセレンが再度掘り出してから、一応の変化があった。それでもセレン自体がシェルトをあまり好んでいなかったため、変化らしい変化はなかった。ところが J00?/?/ʃ1 の jcɑeu にフゥシカがこのままではシェルトが滅ぶと考え、復興させるようにと主張した。フゥシカは歩に方向性を持たせることを提案した。セレンはそれを受け、更に飛車と角の位置を交換した。更に同日にアルシェを先手と決め、直歩（ちょくふ）と呼んでいた塔駒を後ろにもいけるようにし、前歩（まえふ）と呼んでいた縦駒も後ろにいけるようにした。加えて、アルシェ側の駒の位置を現在の位置に変更した　＜シェルト盤＞　シェルトは７×７マスの盤上で行われる。シェルトは駒の配置が月を挟んで正確に左右対称なため、縦の列・横の列ともに独自の名前がついている。以下に述べる　縦の列 ɟɪɒ：縦の列は後衛の初期配置が語源になっている。色駒がある盤上両端の列を色列 ncɒɟɪɒ、同じく跳駒の列を跳列 ləɑɟɪɒ、扉駒の列を扉列 ɔɒcɟɪɒ、月駒の列を月列 lelſɔɟɪɒ という。また、月列以外は左右に１つずつ同名の列があるため、これらを区別する際は「右の色列 ncɒɟɪɒ e di」のようにいう　横の列 jcɒ：両軍の駒の配置はチェスのように前衛と後衛からなる。そのため、前衛を ɟɪjcɒ、後衛を jcjcɒ という。前衛の１段前の列は何も駒が置かれていないので、空列 ɒeblɟcɒ という。また、空列の前の列、即ちテームスがある列は永列 ſeeɒɟjcɒ という。尚、永列以外の列はアルシェ・ソーンごとに１つずつ存在する。そのため、必要があれば「アルシェの後列 jcjcɒ e ɪɟle」のように呼んで区別する　＜シェルトの駒＞　シェルトの駒はテームスを含めて 1L 個であり、それぞれランティスの実名が付けられている。但し、駒の種類としては 11 種類であり、駒の総数の半分にも満たない　1：lelſ 月駒（つきごま）：セレン。クミール：王に当たる　2：ncɒ 色駒（いろごま）：ラルドゥラ、リュウ。ラヴァ、エンナ：飛車に当たる　3：ɔɒc 扉駒（とびらごま）：リディア、メル。ピネナ、エケトネ：角に当たる　4：leɑſ 跳駒（とびごま）：オヴィ、クリス。ネーネ、リーネ：ナイトに当たる　5：hɪnɔc 塔駒（とうごま）：ファーヴァ。ンムト：前後２マス以内に行ける　6：dɪɑc 橋駒（はしごま）：塔駒が方向転換したもの。左右２マス以内に行ける　7：jɔc 斜駒（ななめごま）：ザナ、ミルフ。クノン、アッシュ：斜めに１マス行ける　8：jɒɪ 十駒（じゅうごま）：斜駒が方向転換したもの。前後左右に１マス行ける　9：hcj 横駒（よこごま）：ギル、フルミネア。レレゾナ、ジール：左右に１マス行ける。方向転換すると縦駒になる　10：hɪj 縦駒（たてごま）：ルージュ、パール。リナ、ウムトナ：前後に１マス行ける。方向転換すると横駒になる　11：ſeeɒj 永駒（ながこま）：テームス：相手と共有して使う特殊駒。詳細は後述。これが方向転換したものを eſeeɒj 久駒（ひさごま）という　尚、色と扉を総称で魔駒（まごま）と呼ぶ。メル・リディア・リュウらがウィザードと呼ばれていたことに起因する命名である　その他、駒の語源であるが、まず月は月司ルシーラから。永は永遠を表わすテームスから。他は全て移動範囲が語源になっている。縦横斜十は文字通り。塔は前後２マスという移動範囲が高い塔のように見えることから。また、橋は左右２マスに行けるという移動範囲が橋のように見えることから。跳はマスを飛び越えて動くことから。扉は古アルカで扉を意味する hɔɒɥə が「×」の字形で、これが扉駒の移動範囲を示すことから。そして色は古アルカで色を意味する ncɒ が「十」という字で、この字が色駒の移動範囲を示すことからそうセレンが名付けた　＜駒の初期配置＞　チェスにおける並べ方に酷似している。自軍は前衛と後衛の２列に分かれる　以下に２列の並びを示す　縦・横・斜・塔・斜・横・縦　色・跳・扉・月・扉・跳・色　自軍の並びは以上のようになる。敵軍はチェスと同じく、自軍と反対側に上記と同じ並び方で並ぶ。また、盤の中心にテームスが配置される　＜前衛の方向転換＞　前衛駒は方向転換という機能を持っている。方向は縦横の２方向あり、１ターンかけて方向を変えることができる　例えば縦は前後１マス行けるが、これが方向転換すると左右１マスにいけるようになる。これは横と同じであるから、縦は方向転換すると横になることができるということである。勿論、１度方向転換したものをまた後のターンで再度方向転換して元に戻ることもできる　縦は方向転換すれば横になるし、それは可逆だが、斜などは方向転換すると一風変わった駒になる。斜を方向転換すると前後左右に１マスいける駒になり、これは他のどれとも違う駒である。これを十駒という。同じく、塔を方向転換すると左右２マス以内にいける駒が生まれる。これも独特なため、特別に橋駒といわれる。無論、十や橋は再度方向転換して斜や塔に戻ることができる　但し、４回連続で方向転換をした場合、悪質な千日手と見なされて負けとする　＜前衛の随伴＞　チェスなどと違ってシェルトの前衛は思うように進めないことがある。例えば横は前に進めず、攻撃力に問題がある。そこで前衛を強化させるためのルールが随伴である　例えば縦の右に横がいるとしよう。初期位置では例えばパールの右にフルミネアがいるので、正にこの状態である。フルミネアは横なので前進することはできない。一方パールは縦なので前進可能だ。そこでパールが前進する際にフルミネアを一緒に連れていくことができる。これが随伴である　随伴は前衛駒、即ち縦・横・斜（十）・塔（橋）が使うことができる能力で、ゲーム中に何度使っても良い。但し、随伴の成立にはいくつかの条件がある。以下に条件を示す　1：随伴する相手と隣接していなければならない。従って、初期状態でパールと共にミルフを前進させることはできない　2：随伴相手は前衛でなければならない。例えば縦で色を随伴させることはできない　3：随伴相手が移動する場所は空白でなければならない。例えばパールの右にフルミネアがいて、フルミネアの前に敵がいる場合、パールはフルミネアを随伴して前に行くことはできない　4：攻撃と同時に随伴はできない。例えばパールの右にフルミネアがいて、パールの前に敵がいる場合、パールはこの敵を攻撃しながらフルミネアを随伴させることはできない　5：随伴者がそもそも行けない場所に連れ立った随伴はできない。例えば、パールの右にフルミネアがいて、パールの前にクリスがいる場合、パールはクリスが邪魔で前に行けないので、当然随伴は成立しない　6：行きたい場所と随伴相手の場所が同じ場合は随伴できない。これは５を正しく解釈すれば言わずもがなのことである。例えば、パールの前にフルミネアがいる場合、パールはフルミネアを随伴して後ろに行くことはできる。しかし逆に前に行くことはできない。パールが行こうとする場所はフルミネアがいるので、そもそも随伴者が移動できないためだ。これを随伴させるというのはフルミネアを後ろから前に突き飛ばしたということに等しい。が、それはもはや押しのけであって随伴ではないため、そういう場合、随伴はできない　＜随伴における勘違い＞　1：随伴においてよく勘違いされることがある。横駒の随伴だ。横駒の右に前衛がいるときに横駒と前衛を左に進めようとする誤りが多い。が、これは不可能だ。縦駒の後ろに前衛がいるのに随伴して前進させるということが不可能だというのと同じだ。不思議と縦駒の場合は勘違いが少ないのに、横駒の場合は勘違いが多い。そういう場合セレンはシェルト盤を横から見させて横駒を縦駒

だと考えさせて随伴不可能だということを説明することになる。横駒が随伴できるのは例えば横駒の前に前衛がいるような場合である　２：随伴しながら敵を倒せるという勘違いも多い。が、随伴と攻撃は同時にできない。それは随伴者も被随伴者も同様である　＜テームス＞　　テームスは自分と相手が共有する駒で、唯一の第３勢力である。テームスは初期状態のままでは只の障害物に過ぎないが、取った相手の駒を張ることによって、張った駒と同じ能力を持つことができる。「張る」ためには盤のすぐ横に張りたい駒を置いて張ったことを相手に分からせれば良い　　例えば敵のエケトネを取っている状態で、テームスにエケトネを張れば、テームスはエケトネと同じ能力を持った駒、即ち扉駒と同じ機能を持つようになる。尤も、張りという行為は１ターンを要するため、テームスを動かせるのは次のターンからになる。しかし、エケトネを張った瞬間にテームスは扉の能力を持つので、攻撃範囲に敵の月か最後の魔がいれば、自動的にチェックになる　＜テームスを取った場合＞　　ところで、エケトネを張ったは良いが、その直後に来る敵の番でテームスが取られた場合はどうなるか？テームスを倒したと考え、盤上から退場させるのだろうか。いや違う。その場合、テームスを取った駒が元々いた場所とテームスとを交換するだけである。但し、張っていたエケトネは消費したものとしてテームスの張りから外さねばならない。その上、エケトネはもう２度と張ることができなくなるので注意が必要だ　　要するに、ラシェットの思想通り、「テームスは倒せない」のである。テームスを取ってもテームスは移動するだけで、張っていた駒が倒されるだけである。テームス自体はどうやっても倒せない　＜テームスで敵を取った場合＞　　テームスで敵を取った場合、テームスに張っていた駒は消費したものとして外さねばならない。また、その駒は２度と張ることができない。もう１度テームスを使いたいときは新たに何らかの駒を張るしかない　＜自分も敵もテームスに何かを張っていた場合＞　　ここがシェルトの醍醐味の１つでもあるが、そういう場合も出てくる。例えば、自分がテームスにエケトネを張り、相手がテームスにクリスを張ったという場合だ。この場合、自分のターンであればテームスを扉として動かすことができる。逆に敵のターンであれば敵はテームスを跳として動かすことができる　　例えば今は自分の番で、テームスを扉として動かした場合、テームスの移動場所は十分に気をつけねばならない。相手はテームスを跳として使えるのだから、跳が自分の月を狙えるような場所にテームスを持っていてはならないのである。つまり、テームスに両者が何かを張っているときは、相手が何を張っているのかに十分注意しなければならないということである　＜テームスからの戻し＞　　テームスに張っている駒を戻すことは可能である。戻しも張りと同じく１ターンかかる。　そんなことに何の意味があると思うかもしれないが、戦術の１つである　　テームスに何かを張っている場合、テームスは取られてしまうが、こちらがテームスに何も張っていなければ相手はテームスを攻撃できない。そこで、守りたい駒をテームスの後ろに隠しておくという戦術が成り立つ。つまり、テームスを壁として利用するのである　　尚、テームスから戻した駒は消費されたとは考えないので、再び張ることができる　＜テームスへの張替え＞　　現在テームスに張っている駒が気に喰わなければ、手持ちの別の駒に張り替えることができる。張り替えた駒も戻した駒と同じく消費とは見なされないため、後でまた張ることができる。尚、これにも１ターンかかる　＜テームスの方向転換＞　　テームスに前衛を張っているときのみ、テームスの方向を変えることができる。相手もテームスに前衛を張っている場合、自分の前衛の性質が変わると同時に相手の駒の性質をも変えることができる。尚、テームスが方向転換したものをエテームスと呼ぶ　＜扉の軸移動＞　　扉は左右１マスに軸移動できる。これは単なる移動なので、攻撃は行えない。つまり、左右が空白でない限りは移動できない　　また、そこを動かなければ次の１手で敵に取られる状況にある扉も軸移動できない。つまり、扉はチェックされている状態においては軸移動を使ってチェックを回避することはできないということである　　シェルトはチェスと違って横マスの数が奇数なので、ビショップと違って決して行けないマスが存在してしまう。そこで扉の軸移動が採用された　＜座標の読上＞　　シェルト盤の列には縦横 1ɱ 列それぞれに名前が付いているが、この名前は煩雑なので、実際にシェルトをやっているときに座標を読み上げるには不便だ。例えばゲーム開始時にパールが前に進んだら、例えば ɴɔɒɟɪɒ e dɔ,pebljɔɒ e ɩɹle,dɩɩl というように読み上げなければならず、非常に長い。そこで読み上げの際はふつう幻字と数字を組み合わせて読むようにする　　縦の列は幻字で出来ており、横の列は数字で出来ている。幻字は左から ɾej, ʅeɾ, ʅɩl, ɟɔl, ɴɔɒ, ɴɔɒ, ɑɔl と読み、数字はアルシェ側から順に ʅɔ,ɾɩ,ɯc,ɯ,ʅe,ʅc,ɴɔ と読む。従って、始めにセレンがいる段の１段であり、クミールがいる段が７段である。また、読み上げの際は縦の列・横の列・駒の順で読み上げる。よって、初期配置におけるパールの位置は ɾej,ɾɩ であり、これが１歩進むと ɾej,ɯc,dɩl と読み上げられる　　また、敵の駒を取った場合の読み上げは、ふつうの読み上げに続いて取った駒の名前を読み上げる。例えばパールが前進していって初期位置のリナを取った場合、ɾej,ʅc,dɩl,ɑɔn と読み上げられる。この後リナの後ろにいたラヴァがパールを取ったとすると、座標は同じであるため、座標部分は ʅɩ̀ と読み上げられる。従ってこの場合、ʅɩ̀,μɯ,dɩl となる　　更に、前衛が方向転換した場合、駒の後に駒の能力名を添える。ミルフが初期位置で方向転換した場合、ʅɩl,ɾɩ,pclɑ,dɪɑc と読む。その後ミルフが再度方向転換した場合、ʅɩl,ɾɩ,pclɑ,hɪnɔc と読む　　加えて、随伴した場合、随伴者の分と被随伴者の分を読み上げる。初期位置でパールがフルミネアを連れて前に進んだ場合、ɾej,ɯc,dɩl ɪnn ʅeɾ,ɯc,ɑəl と読む　＜先手後手＞　　先手は必ずアルシェ側である。後手は必ずソーン側である　　どちらがアルシェをプレイするかを決める振り駒のようなシステムがシェルトにはある。駒がサイコロ状のときは任意の駒を３つ投げて、どれか１つでも幻字面が上を向けば、投げた人がアルシェを担当する。また、駒がコインのように裏表しかない場合は任意の駒を投げて表（幻字面）が出たら、その人がアルシェを担当する　＜勝敗条件＞　　勝敗条件は２つある。１つは月を取ること。もう１つは４個の魔を全て取ること。通常、シェルトは月が取られることがないため、十中八九後者のやり方で終わる。後者で勝った場合、残った自分の魔の数が多いほど高得点になる　　勝った以上、魔は最低１個はある筈だ。逆に、魔を１個も失わずに勝った場合、魔は４個残っていることになる。つまり魔の変域は１から４であり、残った数がそのまま点数になる。つまり、最低で１点、最高で４点である　　ただ、そもそもシェルトは消耗戦的色彩が強いため、魔を１個も失わずに勝つということは考えにくい。では高得点を取るにはどうすれば良いか？それには月を取れば良い。月を取って勝った場合は自分の魔がいくつ残っていようと４点貰えるのだ。たとえ魔が残り１個でも等しく４点である　＜最後の手が月手魔取だった場合＞　　将棋でいうところの王手飛車とりで詰んだような状況であるが、この場合、月が取られたとは考えず、魔が取られたと考える。なぜなら配点を考えると当然、月を生かして魔を捨てるはずだからである　逆に、詰ませた側は、そこでゲームを終わらせずに続行することもできる。月を徹底的に追って詰ませる自信があるならば、魔で詰ませるのは配点の関係上、得策ではないからである　＜ランティスの名前と能力の対応表＞　アルシェ　：　ソーン　１：リディア扉　：1ʔ　ラヴァ色　２：オヴィ跳　：1ʅ　ウムトナ縦　３：クリス跳　：1ɟ　リーネ跳　４：ギル横　：1Δ　レレゾナ横　５：フルミネア横　：1L　ジール横　６：リュウ色　：1O　リナ縦　７：メル扉　：1Ʃ　エケトネ扉　８：ラルドゥラ色　：1J　エンナ色　９：ザナ斜　：1ʔ　アッシュ斜　10：パール縦　：1Ɱ　ネーネ跳　11：ミルフ斜　：1ʔ　ピネナ扉　1J：ファーヴァ塔　：1ʃ　ンムト塔　1ʔ：ルージュ縦　：1Ч　クノン斜　1ɱ：セレン月　：1Δ　クミール月　＜駒の並べ方＞　　駒の名前を使って並べ方を示す。以下はアルシェ側から見た図である。尚、アルシェ側の場合、このように左がパールとリュウになる

ラヴァ	ネーネ	ピネナ	クミール	エケトネ	リーネ	エンナ
リナ	レレゾナ	クノン	ンムト	アッシュ	ジール	ウムトナ
			テームス			
パール	フルミネア	ミルフ	ファーヴァ	ザナ	ギル	ルージュ
リュウ	クリス	メル	セレン	リディア	オヴィ	ラルドゥラ

＜シェルト特殊用語＞　シェルト盤：lelʃɔele：シェルトを行う盤のこと。７×７マスで出来ている　マス：ʅɔj：シェルト盤に設けられた ɱL 升の升目のこと　張る：ɥɔl：取った敵の駒の能力をテームスに与えること　テームス：ɾeeɒɟ：駒を張ることによって使うことのできる駒。敵と共有する　ランティス：lɪnʃɔj：テームス以外の駒　ハルム：hɪrɒ：駒の総称　詰む：ɯɔjʃ：負ける　方向転換：ʅɥɟ：前衛が方向を変えて能力を変えること　＜メルの承認＞　　シェルト作成者であるメルに、セレンらが勝手に変更した方向システムやらの内容を伝えたところ、「いいんじゃない？面白そうだし」と容易く承認した。ただ、「色と扉を変えたのね。それって昔の体系に戻しただけじゃない。詰まるから面白くないんだよなぁ」と言っていたことが気になった。セレンがフゥシカに教えたものはメルが作ったシェルトの旧版で、そこでは角が端に来ていた。新版の配置はセレンが覚えていなかったため、現在のシェルトは旧版を改良したものになってしまった。また、セレンは変更点を伝えたが、メルは次のルールを承認しなかったので削除した　＜後手の一矢＞　　シェルトや将棋のようなゲームはどうしても後手が若干不利である。そこで、後手だけに与えられた特殊ルールがある。後手は詰みの状態になってもあと１手だけ動かすことができる。例えば敵の攻撃で月手魔取になった場合、次の敵のターンで自分の月が取られたとする。普通はそこでゲーム終了だが、残った何らかの駒で相手の月か最後の魔を取ることができれば引き分けに持っていくことができる。これを後手の一矢といい、ソーンにだけ認められた特権である　　メルは「このルールは強すぎるので認められない。その代わり先手と後手を入れ替えた２番勝負を原則とした方が面白い」と言った。作成者であるメルの言葉であるから尊重して、セレンはこのルールを引き下げた　　以上、シェルトの説明です。ɟɪɒ など、いくつかの単語が現在のものと違っているので、少し注意が要ります。これは ɟɪɒʃ のことです。　下の画像は駒と画像です。布の画像は埃避けですが、駒の初期配置を一々覚えなくても済む便利な道具でもあります。

lelʃɔele　［シェルト］シェルト盤　［レベル］4　μɑ;/　ʃʔ

lelʃe　［天文］衛星　［レベル］4　1ɱ: 制 : 古 :lelʃ(月) から , 月が地球の衛星であることからの結びつき

lelʃeɾecʅ　［名詞］衛星放送　［レベル］5　1ɱ: 制 : 衛星のテレビ

lelʃej　［悪魔］シェルテス　［天文］月の影　［レベル］4　ɒelʃcɪ 0:lelʃej;ɩlelʃ/ʃeeɒɟ「月の悪魔」　μcɑ cɪ: 古 :ɩleʃʃeeɒɟ（月の悪魔）［文化］　月の悪魔。ウズと同じように狼の姿をした獰猛な悪魔。霊界を荒らして回る。月を支配するドゥルガとヴィーネによって月に封じられたが、その封印の効果は両者が協力できる満月の夜に限る。シェルテスは封印の解かれた夜は霊界を荒らしまわり、満月時に再び月に封じ込められると、今度は自分の姿を見る者に破壊の衝動を与え、破壊欲を満たす。このようにして人は満月の夜に凶暴になるのである。　シェルテスは満月前後の夜は封印されており、アルカでは月にはこの悪魔シェルテスが住んでいると考えられている。日本では兎、西洋では蟹などといえばこの悪魔が封印されている。　月を司る。

lelʃeɒ　［生物］亜門　［言語］語派　［レベル］5　μɑ;lelʃe/ɒɪcn　ʃʃ　［文化］　μəɒɪ

lelʃeel　［天文］月相　［類義語］lelʃɩlʃ　［レベル］4　ʃʃ:「月の顔」　［文化］　月の満ち欠け３６０度を２８で割った数値。
３６０／２８は循環小数なので、１月相当たりの角度は綺麗な整数にならない。　広義の月相は８段階あり、８段階で月相２８なので、１段階ごとに月相３．５ずつ進む。
月齢と概ね重なるが一致しない。組み数字の８は月相を使う。アルバザードでは太陰暦は滅んでいるため、月齢より月相を日常的に使う。
月の名：角度　ɒɥəlɪ: 0　ɩls: ʔ.ʔ　ɑəəɱφɪ: 9.0　ʃəuɪn: 10.ʔ　ʅɪnʃe: 1ɱ.0　leeue: 19.ʔ　ɯccne: ʃ1.0　cnse: ʃɱ.ʔ　　なお、狭義の月相、より細かい月相は下記の通りである。

月相	ɩɥʅɪ	日本語
0	ɒɥəlɪ	新月・朔月
1	ɩlsɒɥəlɪ	繊月・既朔
2	ɒɥəlɩlls	三日月・眉月・朏魄・若月・初月・虚月・蛾眉・繊月
3	ɩls	
4		
5	ɑəəɱφɩɩls	
6	ɩlsɑəəɱφɪ	
7	ɑəəɱφɪ	上弦の月・弓張月・弦張・恒月・破鏡
8	ʃəuɪnɑəəɱφɪ	十日月
9	ɑəəɱφɪʃəuɪn	
10	ʃəuɪn	
11		十日余りの月
12	ʅɪnʃeʃəuɪn	十三夜月・十三日月
13	ʃəuɪnʅɪnʃe	小望月・幾望・待宵月
14	ʅɪnʃe	満月・望月
15	leeueʅɪnʃe	十六夜月・既望・哉生魄・不知夜月
16	ʅɪnʃeleeue	立待月・座待月
17	leeue	居待月
18		寝待月・臥待月
19	ɯccneleeue	更待月
20	leeueuccne	二十日余りの月
21	ɯccne	下弦の月
22	cnseuccne	二十六夜月
23	ɯccnecnse	
24	cnse	
25		
26	ɒɥəlɪcnse	
27	cnseɒɥəlɪ	三十日月・晦日月・晦・暁月
28	ɒɥəlɪ	新月

leʅ　［動詞］ɥəl を散歩する、散歩する　［普通動名詞］散歩、月散歩→ lelʃʅəl　［レベル］2　1L: 古 :lelʃʅ（月散歩）［文化］　散歩は自転車以上に好まれるスポーツであると同時に余暇の過ごし方でもある。ぶらっと街や公園を歩き、近くにいる人に声をかけたりして過ごす。しばらく歩くとベンチで休んだり、カフェに入ってゆったりする。ベンチで本を読んだりする。こういった時間の使い方がアルバザードだと典型的な幸福とみなされる。　［用例］　ɩlcj ɩμɪʃ leʅ ɔʃ ɹɹe ʅɪ ɩμɪɒɪɒɪnɪ. アリスはアルナ大で紗枝と散歩をした。　☆ ɪn leʅɪʃ lɩl ɒɔl ejʅ. 雨の中を一人で歩きたかった：雨の中は ɒɔl ejʅ。　ɪn leʅɪʃ ʃɪnʃ lc ɑənel. 夕食の後に外を散歩した：この ʃɪnʃ は集合住宅の庭。

lejʅcʅle　［弓道］射法八節　μɑ;lelcə/jʅʅleʃ「月の弓」　ʃʃ　［文化］　lecuenʃ　ɩlʃ の弓道における射法八節のこと。μə で lʃ 経由でユペールに取り入れられたため、lʃ 起源になっている。　ɒɥəlɪ: 足踏み　ɩls: 胴造り　ɑəəɱφɪ: 弓構え　ʃəuɪn: 打ち起こし、打起こし　ʅɪnʃe: 引き分け　leeue: 会　ɯccne: 離れ　cnse: 残心、残身

leɩuɒɟ　［魔法］崩月、崩月現象　［レベル］6　ʃʃ:lelʃ/uɒμn　［文化］　ɴɔlɒcɥə

lelɑ　［形容詞］ちょうど良い、グッドタイミングな、丁度良い、時機だ　［反意語］ɩllelɑ　［レベル］3　1L: 古 :lelʃɑə（月が許せば）。月が出ていると月散歩がしやすくなることから、月が許せば＝時機のよいに。

lelɑɩl　［名詞］タイミング　［レベル］3　J0:lelɑ/ɩllelɑ

lelɑc　［天文］つきのひかり、月の光、月光、月の明かり、月のあかり　［レベル］3　1L: 制では lelɑ。lelʃ/dɪɪ（月光）。制の lelɑ をクミール風に lelɑ にし、アシェルフィとの音の類推で母音を追加した。　［用例］　nɔn ɥə lelɑc. 月光浴をする。

lelɒ　［名詞］夜。太陽が出てない時間帯の総称。　［形容詞］夜の　［反意語］ɑɩlcɒ　［レベル］2　1L:lelʃ cɒ（つきの時間）［成句］　c ɑɩlcɒ ɪ lelɒ 朝から晩まで。一日中

lelɒʃeμʅ　［普通動名詞］夜間外出、夜間徘徊　［レベル］5　1L:μcɑcɪ:ɩμɒɪlelʃ　［文化］　ミロク革命で以下のような案があった。　法で夜間徘徊は禁じられているため、仕事は朝行って夜前に帰らなければならない。０時から５時の間は外出しない。１９時から２４時の間は外出しない。ルージュの月、ディアセルを含んだ前後１４日（計５７日間）は終日外出を認める。夏は２１時までの外出を認める。ただし子供は大人同伴の上。ワッカ以南は２０時まで。　しかし経済活動の妨げとなることから数年で廃案。ただし未成年を保護するという観点は残された。　具体的にはアルバザードの学齢でいうところの小中学生は夜６時以降の外出を禁ずる。高校生（１０～１４歳）は部活があるので８時まで。→ ɑeʅlc　前期大学生は１０時までで、後期大学生になると未成年だが解禁される。　なお、制限された時間であっても保護者同伴や特別な事情があれば構わない。

lelɒʃeμʅlcn　［法律］夜間外出禁止令　［レベル］5　1L:μcɑcɪ:ɩμɒɪlelʃ　［文化］　→ lelɒʃeμʅ　未成年者保護の観点から設置されている。ルージュやディアセル前後は免除される。

lelɒμɔcɔlɔcn　［法律］夜間営業禁止法　［レベル］5　1L:μcɑcɪ:ɩμɒɪlelʃ　［文化］　かつてミロク革命で制定しようとした法で、夜間の営業を禁じたもの。夜にやっているのは病院や警察や例外的な夜間労働者のための店のみ。　しかし経済的に見て現実的でないため、数年で廃止された。酒場や風俗街などは主に夜に営業している。

lelɒsɪn　［名詞］夜空　［レベル］3　μɑ;/　ʃʃ

lelɒɪn　［名詞］夜型人間　［生物］夜行性　［レベル］4　1L

lelɒcʅɪ　［名詞］夜景　［レベル］3　μɑ;/　ʃʔ

lels　［名詞］月夜　［レベル］3　1L:jeɒen:lelʃsɪn　［用例］　ɑcʅɪn ɒɥən ʅɩl ɪ nɔn ɥəl el ʅɔμ jen lels ʃɪʃʃɪ ʅeμn ɪz. 誰か教えてください , 翼がなくても月夜に飛べますか（初音ミク）

lell　［組み数字］３/１０　［哲学］慈　［医療］胃　［歳時記］戊、つちのえ　［レベル］4　μɑ;lell,jzl　ʃʃ　::lə lell

lell,jzl　lclc　lclc.l

lellʅɪn　［生物］［医療］胃経　jzl;/　ʃʃ

lelɪn　［代詞］誰か　［レベル］2　1L

lelɪnʃ　［代詞］誰かの　［レベル］2　1L

leɩzɪɹɹɑ　［地名］シェラザード、シェラザード市　［レベル］4　μɑ;lelʃ/ɩμɒɪzɪɹɹɑ「月の見えるアルバザード。月見台」　ʃʃ　［文化］　レスティル県の市。アヴァンシアンの所在地。

lelcɟ ［代詞］［ɲɛ́ɾɛ］私たち。女性敬体。 ［レベル］2 ɟ1:ɲcɑcɪ:je/lccz（矮小な集まり）の弱化。

lelcc ［人名］シェリー ［組み数字］6 / 1 3 ［天文］シェリー座 ［レベル］3 先 :ɪɲɔ:lclcɲ ［人名］第４期３代ソーン第６使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

lelccbɔlʃ ［経済］シェリーボルト、産業革命 ［レベル］4 1L:clɒəɟ:ɲcɑcɪ:「シェリー＝アルテームスの槌」

lelcc ɪlʃeeɒɟ ［人名］シェリー＝アルテームス ［レベル］4 1L:clɒəɟ:ɲcɑcɪ ［文化］ (bel ʔʔ → 1ɟ1) ナディア期、アルバザード出身の機械技師および科学者。男性。メル９８年、産業革命をアルバザードにもたらした。その功績を称え、開発省長官となる。後のアルテナ治世におけるハイン＝アルテームスはこの子孫。魔導師の生き残りだが、本人は魔法の時代は終わったとし、魔導師でない人間にも使える機械の制作に尽力した。

lelce ［人名］シェリエ ［名詞］夜、夜中、真夜中、宵。２０時から４時。 ［形容詞］夜の ［レベル］2 ɟ0:ɲcɑcɪ:lelcə.jzɑ（月） uel,ɑ uccɑ,ɑu:uccɑ:lɪ lelce ［文化］ ɒczɪɟc ［成句］ lelce lcuɟ eɟ ef bezeſ. 秋の夜姫は気が早い：秋の日は釣瓶落とし

lelceſ ［魔法］月晄（げっこう）、シェリエット ［レベル］6 ɟ0: 月の晄基 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

lelceſɟɒecɲ ［魔法］月晄線 ［レベル］6 ɟ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

lelcèlel ［名詞］シェリエクレール、カーマスートラ ［レベル］5 ɟ1:「夜の書」 ［文化］ ルティアで書かれた性技の本。zφ 時代から似たような本があり、それをまとめたもの。アルバザードにも流入した。 ［成句］ ɑɪl ɒcnſc cɟſ ɑel lelcèlel 性の教科書を読むより妻を抱け：百聞は一見にしかず

lelcen ［代詞］［ɲɛ́ɾɛ］私たちの。女性敬体。 ［レベル］2 ɟ1:ɲcɑcɪ:lelcɟ/en

lelceɟ ［天文］月の影、月のカーテン、シェリエール ［動詞］ɥəl を ɪ に隠す、隠す ［動詞］ɥəl（人）を食う（他人より目立つという意味で）、食う ［名詞］［娯楽］本命。競馬など賭け事などの本命のこと。本命チョコの本命は hɪſcɪlcuel。本命志望校などの本命は ɪlɪn。 ［類義語］nelſ、lelſſc cɑɪ ［アクセント］lelcEɟ ［レベル］4 jzɑ;lelſɟ,ɑu.l ɟ0: ルティア語。lelſ から ［語法］ シェルテスは月自体のクレーターによる影。シェリエールは月の見えていない部分。たとえば上弦が出ているときは下弦の部分が見えないので、下弦の部分がシェリエールとなる。 隠すという意味では、自分の中に隠すという意味。服の中でも体内でもよい。団体が自分たちのアジトに隠すという意味でも良いし、ある語義が別の語義を含んで隠してしまうというような抽象的な意味でもよい。 役者が別の役者を食ってしまう場合もこれを使う。

lelceɟɑcφc ［植物］ルピナス ［レベル］5 zφ;「食う槍」。吸肥力が非常に強いことから他の植物を食う花とされた。 ɟʔ

lelcəˌjzɑ lelſ

lelcəlɪn ［生物］［医療］任脈 jzl;/。体の正中線で陰になる側であることから「月の経」。 ɟᙢ

leɪ ［名詞］砂 ［レベル］2 jɔɲn: 砂より大きな小さな石。アルシェでは砂は ɟ ないし jə。複合語では ɟ。 jə: ［成句］ lcɟ ɥən leɪ 雀の涙 ［用例］ leɪ ɪſcɟ leɲn ˈlɪ sɪn ɒcl ſeeze. 風で砂が空を舞っていた。 ［メタファー］ ɒɥəl ɥən leɪ 砂のように互いにそっくりな：区別がつかないというニュアンス

leɪſenſc ［名詞］モルタル ［レベル］5 ʔʔ: 制

leɪʔ ［名詞］砂漠 ［レベル］3 jeɟſ ˈlɪ: 制：砂の場所 ˈlɪjə:ˈlɪjə:lə ˈlɪjə

leɪˈlɪ ［名詞］砂場、バンカー、砂地 ［レベル］3 ʔʔ: 制：砂の場所

leɪˈlɪɑ ［地球の国名］アルジェリア 1L: 大半がサハラ砂漠にあるため

leɪˈeɒ ［環境］砂漠化 ［レベル］4 1L

leɪˈeɟɒcɪ ［名詞］［形容詞］［ネガティブ］足元を見た ［名詞］［形容詞］［ネガティブ］値段が不当に高い ［類義語］ ɑɪlſc、ɑcelɒed ［レベル］3 ɟ0 ［語法］ 砂漠の水は高く売りつけられることから。

leɪɑɪd ［名詞］砂煙 ［レベル］4 1L:ɲcɑcɪ/jeɟen/ɒel

leɪɒeſl ［名詞］砂時計 ［レベル］3 1L:lecn ［語法］ 死神の持ち物のひとつ。死神は人の寿命を計る砂時計を持っている。

leɪɟ ［物理］反作用 ［レベル］4 @ 1L

leɪoɪl ［地学］砂山 ［レベル］3 μɑ;/ ɟʔ:ɲcɑcɪ

leɪoɪlzeele ［論理］砂山のパラドックス、砂山のパラドクス μɑ;/ ɟʔ:ɲcɑcɪ ［文化］ 述語の曖昧性から生じるパラドックスの一種である。簡単に言えば、砂の山があったとき、そこから数粒の砂を取り去っても砂山のままだが、そうやって粒を取り去っていったとき、最終的に一粒だけ残った状態でも「砂山」と言えるか、という問題である。 μɑ でセレンは二値論を非現実的とし、現実は二値的でないとし、中庸を認め、要するにグレーゾーンの存在を認めた。例えば砂山から砂を取っていくとやがて台形の砂台になり、砂山性は少し失われる。そこから更に取ると砂の層になり、さらに砂山と言いづらくなる。この段階でもまだ蟻にとっては山といえるかもしれないので、砂山性はゼロではない。そこから更に取ると砂地になり、最終的に一粒の砂になる。こうなると砂山性はゼロになる。このように、砂山性は 0 か 1 かではなく、徐々に低減していくものである。セレンはこのように説いて、このパラドックスを思春期後半に説明した。リディアとメルもセレンと同様の考えをした。一部の者が二値論の姿勢を取り、対立した。

leɪl ［形容詞］ある数の、ある番号の ［レベル］3 1L

leɪlccɑ ［地学］砂理、砂利、ジャリ ［レベル］3 ɟ1

leɪɪll ［名詞］［形容詞］無数の ［レベル］3 ɟ0:ɒelcɑcɪ lceμ: 砂の数

lec ［副詞］もし～なら、～なら～ ［レベル］2 ʔʔ: 制：恣意 ［語法］ 仮定であることを付け加える。格詞に後置されることが多い。 ɔn lec で「使うなら」、ɑμeɒ lec で「近くにいる際は」の意味。 ［用例］ ſe ɥɔl ˈɪd dɔſ lec lɔd. 電車の中では電話をしないで：アルバザードでは問題ない。 "ɑce lɑcɟ jen dɔſ lec lɪn e.「誰かの中で生きることで、嘘は命を持つの。

leczel ［アトラスの国家］シェイゼル ［レベル］5 1L:ɲcɑcɪ: 海岸の奥

lecl ［形容詞］遅い ［名詞］ある期間や区間や範囲のうちの後半の方 ［類義語］nɔu、hɪlɒ ［反意語］ ɑɔcl ［レベル］1 μɑ:ɪɒɪuel;lelſ ɪz lelɒ.ˈ ɟʔ:ɪɒɪuel ［用例］ lɪlɪn ſɔɔˈlɪſ lɪl leclel ɑə ɟ0 ɑec ɪɟ. 先生は講義を ɟ0 分も延長した。

lecllɪɑſ ［名詞］遅番 ［反意語］ɑɔcllɪɑſ ［レベル］3 ɟʔ

leclneſ ［再帰動名詞］遅起き ［レベル］3 ɟʔ

leclɒɔˈ ［再帰動名詞］遅寝、夜更かし ［レベル］3 ɟʔ ［用例］ ɪn ləſ μɪˈlɒɔˈ ɒcl leclɒɔˈ. 私はいつも夜更かしして寝坊する。

leɔ ［医療］幻覚 ［レベル］3 lɪˈlɪ ［用例］ ſcl leɔ ɑel ɪɑel uɪnɑ ɪn 魔物に襲われる幻覚を見る

leeſ ［代詞］誰かの ［レベル］1 ɟ0:jeɟen/ɲcɑcɪ

leeμ ［人名］シェール。ɑcɪleμ の愛称 ɟ1

leez ［料理］マヨネーズ ［レベル］3 lɪˈlɪ:l は卵と有縁だろう

ləˌɑ lɔɟ e

ləɔˌɑ ɑel, ɒɪcɟ

ləɔˌɑu jcɟl

ləɪ ［娯楽］ヨーヨー ［レベル］3 ʔʔ: 制：古 ˌɪˌɪɔ とくっつけたから

ləəſ ［植物］モヤシ、ナムル ［レベル］3 lɪˈlɪ ［語法］ モヤシだけではなく、ナムルのように他にいくつかのものを混ぜても ləəſ という。

ləəze ［死神］シューゼ ［レベル］4 ɒelſcɪ ɟʔ:ɪſoɪɪɥə ɔ ləɔˌ;e 1L:ɲcɑcɪ ［文化］ 四天王（死神四貴族）の一人。男性。夢喰種。美少女好きで、十三人の死神少女からなる「雛人形」を侍らせている。詩姫は一番のお気に入りで、雛号は七。

ləəzeſlɪ ［地学］［歴史］シューゼ大陸 ［ユマナ］シベリア大陸 ul;/ ɟʔ

J

J ［数学］ふだんは３番目の変数だが、しばしば数式中で項数を指す。等差数列や行列などに用いる。 ［レベル］5 1L:jɟ

J(J) ‡ɪnſ

J,ɪɥ 主格の接尾辞 jɔ.ˈ

Jſſſ ［経済］卸売り、卸売、おろしうり ［レベル］4 ʔʔ: 制：ɪlɟɪſɒ（直接売る）。製造者から直接買って小売業者に売ることであることから。

Jſſuenſſ ［経済］卸売業、問屋 ［レベル］4 μɑ;/ ɟʔ

JſſI ［名詞］ミイラ ［レベル］3 lɪˈlɪ: 砂のように乾いたもの

Jſɟ ［動詞］ɥəl を c から追い出す、追い出す、追放する、追放する、退場させる、追い払う、追い返す、入ってこないようにする、解職する、免職する ［普通動名詞］追放、退場、解職、免職 ［レベル］3 ʔʔ: 制：jſcɟ:jſcl（客）

JſIn ［医療］ステロイド ［レベル］5 lɪˈlɪ

JſIl ［名詞］主人、客に対して主人、ホスト ［反意語］ˈleɥə ［レベル］3 ʔʔ: 制：ɪlɪˈlɪ:jſɪɪ

JſIcφ ［普通動名詞］賃貸、レンタル ［動詞］ɥəl を ɪ にレンタルする、レンタルする、貸す ［類義語］ˈlɪɑ ［反意語］jſcſ ［レベル］3 lɪˈlɪ:jſɪcφ

JſIcφɪn ［名詞］大家 ［レベル］3 1L:ɲcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

Jſcſ ［普通動名詞］賃借、賃借り、レンタル ［動詞］ɥəl を c からレンタルする、レンタルする、借りる ［類義語］μcd ［反意語］jſIcφ ［レベル］3 ɟ0:jſc:ʔʔ:jeɟen:ˈlleˈl:jſɪ: 古 :jſIcφ

JſcſɟɪɑſI ［娯楽］レンタルビデオ ［レベル］5 ɟ1 ［文化］ 既に廃れている。

Jſcſφɪμſ ［名詞］レンタル料、賃料 ［レベル］3 ɟɟ

Jſcɲ ［農耕］肥料 ［レベル］4 ɟᙢ: 制：jɪɑ:ſnɔ/lɪcſſ 土の栄養 」

Jſcnſ ［被服］ストラ、ストール zφ;jſenſ.ˈ ɟᙢ ［文化］ アルテ教の法衣。

Jſcμ ［動詞］ɥəl に反対する、反対する ［普通動名詞］反対 ［反意語］lɪɒ ［レベル］2 ʔʔ: 制：倦厭する ［語法］ 賛成しないという意味の反対。 ［文化］ lɪɒ

Jſɔɲ ［動詞］ɥəl を ɔn について反省させる、反省する、たしなめる、嗜める、窘める ［普通動名詞］［再帰動名詞］反省 ［レベル］2 ʔʔ: 制：古 :ɪμſɪjen ［文化］ dej ［成句］ jſɔn nɔj ˈɔn ɑɪcz ˈleeſɔ 他山の石、人のふり見てわがふり直せ ［用例］ μe jſɔn nɔj. 反省しなさい。

Jſɔμ ［動詞］ɥəl を伏せさせる、伏せる、ふせる ［再帰動名詞］伏せ、ふせ、匍匐、ほふく ［レベル］2 lɪˈlɪ: 軍隊用語？で「伏せる」 ［用例］ μe jſɔμſ φelſ 伏せろ、鉄砲だ！

JſeI ［植物］野菜 ［レベル］2 ɟᙢ: 制 :jſɔ: 古 :hɪμ:fə̀ə̀ɑc（食用植物）。fə（土の）/ˈɑc（食べ物）。「土が作った食べ物」 ［語法］ 主食とならない食用植物。トマト、レタス、キャベツなど。イモは外す人もいる。 ［用例］ ɪn ˈɑcſ jſeI uecn ˈɔnſ ɑɔnſ ɥeI ɔcɟlel. 肉を控えて野菜をもっと食べるよう努力した。

JſeIbel ［料理］野菜料理 ［レベル］3 1L

JſeIſe ［名詞］八百屋、野菜屋 ［レベル］3 ɟɟ

JſeIɪn ［名詞］ベジタリアン、菜食主義者 ［レベル］4 1L

JſeIɪne ［名詞］野菜ジュース ［レベル］3 1L:ɲcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

Jſenſ ［名詞］十字、クロス ［動詞］ɥəl を横切る、横切る、渡る ［交通］十字路 ［シェルトˈ］十駒 ［名詞］十字架← JſenſeejſeJſe ［反意語］jɔɒɪ ［レベル］2 ɑu;<>jɔlIɪ 古 :jſenſ（十字路） ［用例］ jſenſ ɑɔnſ 道を横切る、道を渡る ☆ μe nɪɒſ ɑɔnſ cɒ jſenſ. 道を渡るときは気を付けなさい：nɪɒſ jſeɪ nſ ɑɔnſ は不可。μe jſenſ ɑɔnſ nɪɒſel は正しい。 jſenſ ɑɔnſ lc jɪcɪn jɪnl. 渡るときは左右を確認しなさい。

JſenſlɪnɔˈJſenſlɪnɔ ［地球の国名］ルーマニア ［レベル］6 1L: 国章に十字を加えた鷲

JſenſɟɔɒſJſenſɟɔɒſ ［名詞］平織り μɑ;/「十字織り」 ɟʔ

JſenſɟedJſenſɟed ［名詞］ちりめん、チリメン ［レベル］5 μɑ;jſenſɟɔɒſ/jed「平織りされた絹」 ɟʔ ［語法］ 材質が絹でなくレーヨンなどのこともある。 ［文化］ zφ ごろに凪で作られた。ɪl ごろには helſe などによく使われ、jɒ 以降はアルバザードでもよく使われた。

JſenſɑɔnſJſenſɑɔnſ ［交通］十字路 ［レベル］3 ɟ0 ［語法］ jſenſ ɑɔnſ（道を渡る）という動詞句と区別すること。

JſenſɑɔlJſenſɑɔl ［地学］十字石 1L

JſenſeejſeJſenſeejſe ［名詞］十字架→ jſenſ ［レベル］4 μɑ;/ ɟʔ

JſecJſec ［植物］植物の皮、野菜や果物の皮、固い皮 ［動詞］ɥəl（植物）の皮を剥く、剥く、むく ［類義語］ɥəlɪ ［レベル］2 1L:jſeI/ɥeI

JſecIJſecI ［名詞］［形容詞］必然、運命、必然性 ［反意語］lɔel ［レベル］4 ɟ0:je ſeel（運命的に）→ jſeel → jſecI（ſeel と区別するために） ［用例］ ɪnj ɪlſɪſ jſeclel ſcjee. 俺たちが出会ったのは運命だったんだよ。

JſIj ［被服］スウェットシャツ、トレーナー ［レベル］3 lɪˈlɪ

JſIl ［動物］タラ、鱈 ［レベル］3 lɪˈlɪ

JſIlɑcɪ ［地名］スカルディア ［レベル］4 ɒelſcɪ Lſ jen ucɪ:ɪjɑ;jɔ<jə（砂）/ˈlɪl（場所）/ɑcɪ（土地） ɟ0:ɲcɑcɪ:jɔ<jə（砂）/ˈlɪl（場所）/ɑcɪ（土地） ［文化］ 古代国家のひとつ。レスティルの東。現在の魔方。

JſIc ［普通動名詞］放牧 ［レベル］4 lɪˈlɪ

JſIcnelſ ［アトラスの国家］スカイネルト ［レベル］5 1L:ɲcɑcɪ: 広大な土地

JſcſJſcſ ［名詞］席、シート ［レベル］2 ʔʔ: 制 :jˈlcn ［文化］ jˈlcſlɪ ［用例］ ſɪɑ jˈlcſ 席をとる beφ jc jˈlcſ ɑɪdſˈ おめーの席ねぇから！ ɪn lcɒɪſ jˈlcſ ɪɒɔlen ɑɪɒcc ɒcl jˈlcſɑeſ. 席替えでファミィの横になった。

JſcſlɪJſcſlɪ ［名詞］席順 ［レベル］3 1L:ɲcɑcɪ:ɪμbɪlelſ ［文化］ 円卓の場合は入り口から最も離れた点にある席が上座となる。入り口からの距離で測るのは、最も刺客に狙われにくい場所であったことから来ている。 四角いテーブルの場合は、入り口から最も離れた一辺の中央の席が上座となる。２位は１位の右、３位は１位の左、４位は２位の右、５位は３位の左というように続く。４つある辺のうち、上座の辺から見て右の辺が２位の辺で、左の辺が３位の辺。対面の辺が最低位となる。円卓の場合は１位の右が２位、左が３位、２位の右が４位……というやりかたを延々に繰り返し、席がなくなるまで行う。 タクシーや電車でも複数ある入り口の中からメインゲートを選び、そこからの距離で決める。 目上は常に上座であり、パーティにおけるホストであっても変わらない。つまり客が自分より目下であれば自分が上座につく。 席順はマナーとして日常的にも重視され、これを守れないと教養のない下品な人物とみなされる。

JſcſlɔJ ［名詞］背もたれ ［レベル］3 ʔʔ: 制

JſcſɑeſJſcſɑeſ ［普通動名詞］席替え、席がえ、席変え ［レベル］3 μɑ;/ ɟᙢ ［用例］ lɪnlɪ ɪμſ jˈlcſɑeſ ɪ jɪcɒ ɪnſej enſɔ ɪn lcɒcˈl jˈlcſ ɪɒɔlen ɑɪɒcc. 先生がウチのクラスで席替えをしたら僕はファミィの横になった。

JſcˈI ［名詞］司会、議事進行 ［レベル］3 ʔʔ: 制 :jˈlc

JſcnJſcn ［動詞］ɥəl を ɪ に座らせる、座る、座らせる、着席させる、腰掛ける、腰を掛ける、腰をかける ［再帰動名詞］着席 ［類義語］ɪɟd ［反意語］lſɪɒ ［レベル］1 ʔʔ: 制 ［語法］ jˈlcn（座る（正確には座らせる）） jˈlcn(jˈlcneɒ) : 座る jˈlcn lɪ : 座っている。着席から起立までの総称 jˈlcn jɪſ : 座ろうとしている jˈlcn ˈlcſ : 座り始めて腰を曲げた jˈlcnɔμ : 腰を下ろしている途中 jˈlcnˈcˈl : 座面に尻が着いた jˈlcneɟ : 座っている状態 jˈlcn ſɔɔˈl : 座り終えて立つ瞬間 jˈlcn clſ : 座面が暖かく、座っていた影響が残っている ［用例］ ɪn ɥəcſ ɑɪl jˈlcſ l'ɪn jˈlcn jen ɪl. 座る場所を探さねばならなかった。

JˈlcnbeeˈI ［名詞］洋式便所 ［レベル］2 1L:ɲcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

JˈlcnzelɔJˈlcnzelɔ ［生物］中脳 ［レベル］6 1L ［文化］ 解剖時に骨盤のような形をしていたことから、座る脳と名づけられた。

JˈlcdcɪˌɪzɑJˈlcdcɪˌɪzɑ cɒɪn

JˈlcdcɔJˈlcdcɔ ［被服］カズラ、チャズブル zφ;jˈlcdcɪˌɪzɑ.ˈ ɟᙢ ［文化］ アルテ教の法衣。

JˈlcIJˈlcI ［名詞］椅子 ［レベル］2 ɟ0:jˈlc:ʔʔ: 制 ［用例］ jˈlcI lceɑcI 深い椅子。座面が奥に長い。

JˈlɔdJˈlɔd ［名詞］戸棚、カップボード、キャビネット、飾り棚 ［レベル］3 ɟᙢ: 制 :jɪbeˈlɔu。類音が紛らわしいので u を d にした。

JˈlɔIJˈlɔI ［形容詞］いつもの、いつもどおりの、普段の、日常茶飯事になじみの、おなじみの、顔なじみの、固定客の、いつもの、お決まりの、ルーティン、日常の、常用の、日常茶飯事、日常的な ［名詞］常連、馴染み、固定客、日常的なこと ［名詞］雑貨、日用、日用品、食料雑貨類、グローサリー ［名詞］定番、おはこ、十八番 ［名詞］日課、習慣 ［名詞］ふだん、普段、いつも、日常 ［副詞］いつもと同じように、いつも通り、自然に、あるがままに、いつもどおり、いつものように ［文字］ミディアム ［文頭純詞］いつもなら、ふつうは ［反意語］ɪlJˈlɔI ［レベル］2 lɪˈlɪc ［用例］ ſə eſ jˈlɔI leI lɪ ˈleI dcnɪ. 彼が約束を忘れるのはいつものことだ。

JˈlɔlſəlJˈlɔlſəl ［名詞］日用品、日用雑貨、雑貨 ［レベル］3 1L:ɲcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

JˈlɔlſəlɪſeJˈlɔlſəlɪſe ［名詞］雑貨屋、雑貨店 ［レベル］4 ɟ1:ləjcɪn

jɔlɲɔj ［名詞］常套手段 ［レベル］4 JJ

jɔlɪlɪlʃe ［音楽］アンビエント ［レベル］6 Jl

jɔlzeʃ ［料理］定番メニュー、定食 ［レベル］3 μɑ;/ Jʔ

jɔlɪʃe ［名詞］馴染みの店 ［レベル］3 Jl

jɔlɔɒ ［名詞］定石、定石手、お決まりのパターン ［レベル］4 Jʔ

jɔleʃ ［言語］結びの言葉。手紙。 ［レベル］4 Jl:jɔlɔl/ʃe

jɟe,ɪlʃ jɛcn <>je

jn ［演繹音］くんくん、クンクン ［レベル］2 μɑ;hɪɪlueʃ Jʔ ［語法］ふつうに匂いを嗅ぐときの音。

jɒ ［擬音］ふふっ、くすっ ［レベル］2 古 :jɒ,jɒɒ などのアルファベットで表わされていたので幻字は無い。 ［語法］ 含み笑いを示す。口を明けずに鼻息だけでする笑い。侮辱する場合もあるし、子供のバレバレな企みを理解して「しょうがないなぁ」と可愛く思いながら笑う場合もあり、意図は様々。

jɒ(J) ［歴史］セルメル、jelɒel ［レベル］3 Jl

jɒjɒ ［擬音］くすくす→ jɒ ［レベル］2 JJ

jdɪʃ ［普通動名詞］差別 ［動詞］ɥəl を ɪ と差別する、差別する ［反意語］jcl、uell ［レベル］3 jɔμn :jdɪʃ（縦の区別）。差別というのは縦の区別で、区別というのが横の区別だということをセレンがメルらに聞き伝えた。メルはクミールにその話をし、クミールは縦の区別というのを上下方向の区別と捉え、dɪʃ を変形させた jdɪʃ という語を作った。

jdɪl ［動詞］ɪ に ɥəl（水など）をぱしゃっとかける、水をぱしゃっとする、かける ［類義語］jdcl、zɪɪɒ ［レベル］2 古 : オノマトペ ［用例］ɪn ɔnʃ ɪμəəs jdɪlɪʃ eμ ɪ lɔl. 弟と水を掛け合った。

jdɪn ［名詞］双眼鏡 ［レベル］3 ɪlɪʎɪ

jdɪl ［名詞］シーツ ［レベル］3 ʔ: 制 : 敷布団の上に敷く布 ［用例］ɪn ɒeaɪʃ c ɒɔlʃ, jɪɒɪʃ jdɪl. ベッドから降りてシーツを取り替えた。

jdcl ［動詞］ɪ に ɥəl（水など）をちゃぷっとかける、ちゃぷっと水をかける、かける ［類義語］jdɪl ［レベル］2 1L:jdɪl と演繹音から。 ［用例］ləlcɪ dcld nelʃ ɥəlʃ ʎɪ eμl uɔl jdcl eμ ɪ lə. ルシアはいつもお風呂でユルトに水をちゃぷっとかけてからかう。

jdcn ［名詞］メダル ［レベル］3 jɔμn: 賞の円盤

jdcʎlɪl ［アトラスの国家］スピルカル ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: 六角地（名付けられたときは六角をしていた）。

jdel ［化学］ベンゼン、ベンゼン環 ［レベル］5 古 : ← cjdel

jdelfeɪ ［化学］フェニルアジド、アジドベンゼン 1L

jdelucləzɪjl ［化学］テレフタル酸 1L

jdelɑɪnuclj ［化学］フェニルアラニン 1L

jdelləzɪjl ［化学］安息香酸、ベンゼンカルボン酸、ベンゾイックアシッド ［レベル］5 1L

jdelɪμʎl ［化学］共役二重結合 Jl: 主に芳香族化合物を作る結合

jdelɪμlənɔ ［化学］芳香族炭化水素 ［レベル］5 1L: ベンゼン様構造を持つ環式炭化水素

jh ［演繹音］スーハー、スーハースーハー、すーはー、すーはーすーはー、h s h s、はすはす、ハスハス、はーすーはーすー、ハースーハースー ［レベル］3 μɑ:jeμen;hɪɪlueʃ Jʔ ［語法］1h

jɥɪn ［接尾辞］～ちゃん。指小辞。少し舌足らずな感じがある。 ［レベル］2 μɑ; 敬称の jɪn を舌足らずにしたもの。 Jʔ ［文化］ɪnɪbeu

jμ ［歴史］サリア、jɪμcɪ ［レベル］3 Jl

jzʎ ［言語］遠シージア語 ［レベル］5 Jl

jzj ［言語］新シージア語 ［レベル］5 Jl

jzu ［言語］近シージア語 ［レベル］5 Jl

jzɑ ［言語］古シージア語 ［レベル］5 Jl

jzl ［言語］jzl_jzj、jcczcɪμen lɔnʃ、上代シージア語 ［レベル］5 Jl ［文化］言語学的にシージア語は記録の少なさから分かっていることが少ない。そのため特に語源においてどの時代に成立したか細かく特定できないことが多い。ゆえに通常、上代シージア語としてまとめることが多い。 lɔnʃ はシージア語の名詞なので形容詞用法は前置だが、これはアルカにとっての外来語として使っているため。人文ではルティア語系をよく使う。

jɔɪɒd ［動詞］ɥəl をもみくちゃにする、もみくちゃにする ［普通動名詞］もみくちゃ、揉みくちゃ ［レベル］4 μɑ:bel; 紫亞がぬいぐるみを揉みくちゃにするときのオノマトペ。 Jʔ

jl ［演繹音］さらさら、サラサラ、ざらざら、ザラザラ、すらすら、スラスラ、すたすた、スラスタ、すらら、スララ、さーっ、ざーっ、ささーっ、ざざーっ ［レベル］2 JJ ［語法］砂や毛や水などが流れる音、落ちる音、たなびく音。

jlɪl ［名詞］現地、当地、現場 ［レベル］3 1Ɱ: 制 :jlɪ

jlɪl ［名詞］場面、状況、光景、事情、シーン ［娯楽］面、シーン、ステージ。ゲームの一面、二面などの面。 ［シェルル］局面、盤面、盤の勢力図。棋譜における一手一手の盤面。 ［レベル］3 J0:jlɪ:ɪlɪʎɪ: クライマックスシーン 参考 : 非 cʎlɪ（場面）。見る場所 cʎlɪ から来ているが、観点という意味とかぶるので cʎlɪ という風に音が変化した。 ［用例］dɪʎ uɪn lɔnʃ ɑcʃ euɒɒ ɑel uɪjɪcʎ fə jlɪl ɪnɒcɪʎ このステージをクリアしたことにして先に進みますか？

jlɪc ［電算］ウェブサイト、サイト、ホームページ、HP、ページ。日本語でそうだと勘違いされているホームページのこと。 ［電算］(広義の) ブログ、ウィキ、m i x i、ツイッター、SNS ［レベル］3 1Ᵽ: 制 : 古 :μɥəə:jlɪ ［用例］denʃɪnʃ, fə jlɪc eʃ ɪlʃ lɔn dɪμɒμen ɔnʃ ɪμʎɪ hɔʃ. 申し訳ありませんが、このサイトは日本語とアルカでのみ書かれております。 jlɪc eʃ ɑeɒc. サイトが重い＝ページが重い。 当サイトへようこそ！当サイト管理人のアルドゥです。申し訳ありませんが当サイトは日本語版のみです。 ɪnʎeʎɔ ɪ jlɪc ɪnſ ɪn eʃ ɪμɑə ɑel μj ccɪɪ e fə jlɪc ɪɪſɪ. ɪndenʃ ɒɪn fə jlɪc ſcl cɒeʃ e dɪμɒμen hɔʃ.

jlcl ［動詞］ɥəl を ɪ に描写する、描写する ［普通動名詞］描写 ［レベル］3 J0:jlel:ʔ: 制 :「客観的に書く」

jlcɒ ［名詞］焦点、焦点箇所、ハイライト ［名詞］問題、ポイント、点、論点、問題点、要点、課題 ［類義語］ɥeʃ ［レベル］3 J0:jleɒ:1Ɱ: 制 :jle

jlcɒʃɔcɪμ ［名詞］焦点調節装置、ヘリコイド。カメラの。 ［レベル］6 μʃ;/ JɱJ

jlɔʃ ［名詞］角、かど、コーナー、街角 ［数学］角、～角形 ［レベル］3 J0:jlɔ:jɔμn:「角度」 参考 : 非 :cʎlɪ「見る場所」 ［語法］角度は dɔcʃ。jlɔʃ としないこと。

jlɔʃnɪcɪl ［数学］角注 ［レベル］4 J0

jlɔʃdcɒ ［数学］角錐 ［レベル］4 J0

jlɔʃμecn ［数学］辺 ［レベル］3 J0

jlɔμ ［名詞］分度器 ［レベル］3 ʔ: 制 :cʎlɪ。cʎlɪɑnɪμ は長すぎるため。

jleʃ ［電算］画面、スクリーン、モニター、ディスプレイ、パネル ［文字］コンピュータ。電算文字。電卓や電光掲示板などに使われる文字。 ［レベル］3 jɔμn

jleſɪlʃ ［普通動名詞］ブラインドタッチ ［動詞］ɥəl をブラインドタッチする、ブラインドタッチする ［レベル］3 ul;/「画面を見ながら打つ」 Jʔ

jlen ［名詞］観点、視点、視座 ［レベル］3 J0:jle: 古 :jɔμn: 制であった格詞の用法はなくなり、lɪlʃ が担うようになった。

jlenɪn ［言語］視点人物、視点者 ［レベル］4 J0

jlez ［名詞］掲示板 ［電算］掲示板 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ:jlec/jcz ［用例］ɪn ɪcl ɪlſ ɪ jlez e leucɪn. たまに人工言語の掲示板に書き込んでいます。

jleɪ ［人名］スレア ［名詞］アルカンスにおけるスレアの手 ［名詞］上巻 ［組み数字］1 / 3 ［レベル］2 古 ［文化］ɪμlɪnj エルト信者で、アルカンスを巡ってブレア・トレアと争った。

jleɪleelʃ ［化学］α グロブリン μʃ;/ JɱJ

jleɪɒel ［名詞］初期、前期 ［レベル］3 1L:clɒəj:μcɑcɪ

jleɪhɔ ［生物］腸骨 1L:μcɑcɪ

jleɪhɔdcj ［生物］腸骨棘 μɑ;/ JɱJ

jleɪhɔlɔɔz ［生物］腸骨稜 μɑ; JɱJ

jleɪhɔlɔɔzμecn ［生物］ヤコビー線、ヤコビ線→ jleɪμecn μɑ;/。「腸骨稜線」 JɱJ

jleɪμecn ［生物］ヤコビー線、ヤコビ線← jleɪhɔlɔɔzμecn μɑ;/。「腸骨稜線」 JɱJ

jlec ［名詞］掲示 ［動詞］ɥəl を ɪ に掲示する ［レベル］3 jɔμn

jɪ ［名詞］前 ［形容詞］前の ［格詞］～の前に、～の前で ［反意語］lc ［レベル］1 μɑ;ləɒcɒ ʔ: 制 : 恣意 dɪl:dɪl:dɪl ［語法］1ɪ ［用例］1eſ lɪ jɪ ɪn. 猫が私の前にいる。 jɪ uɪμɑɪnſ 7 時前に jɪ ɑleɪ 夏になる前に

jɪ,ɑ jɪb（着る） ><jɪbe

jɪ,ɪlʃ lɪn

jɪ,ɪlʃ(J) ɑccɪeſeʎ

jɪſ ［普通動名詞］準備、用意 ［法副詞］～しそうだ。将然相の副詞。 ［動詞］ɥəl を準備する、準備する、用意する ［動詞］ɥəl（機械）をセットする、セットする ［武道］［動詞］ɥəl（主に再帰）を構えさせる ［形容詞］準備ができている。通例 ej jɪſ のように継続相とともに使う。 ［料理］下ごしらえ ［感動詞］ようい、よーい、ヨーイ、用意、はっけよい、はっけよーい、かまえ、構え、レディ ［レベル］2 1L:jɪſəl（前のもの＝前もってしておくものごと） eſʎɪ（法副詞）:::jɪſɪlə,ɪlʃ ［成句］fə ej jɪſʎ fə eſ nec. もういいかい？まぁだだよ（まだだよ） ɥɔl ɒel ɪlʎɪ ɑccnɪ jɪſ 準備に最大の時間をかけよ : 備えあれば患い無し

jɪſ, 1eſʎɪ ［感動詞］よーいどん、よういどん、位置についてよーいどん、用意どん、レディゴー ［レベル］2 Jʔ

jɪſlclc ［気象］小春日和 ［レベル］4 1L:「準備の恵み」 ［文化］秋の終わりごろにふと暖かくなる期間のこと。メルセルの準備で忙しいのに季節の変わり目で体調を崩している人にとって、秋の神アリスが「メルセルの準備をきちんとできるように」と配慮してくれているように感じることから。

jɪſncɑ ［言語］将然相 ［レベル］4 J0 ［語法］行為動詞の一端、事前段階の一端、外相の一端。非単位動詞の左端線。 「～しそうだ」という意味。

jɪſɥəlɪ ［サール］サテュラ ［レベル］5 μcɑcɪ: 古 ［文化］昼の海を司る王。

jɪſl ［政治］役所、官公庁 ［レベル］3 1ʔ: 制 :jɪſlɔcſ（公のオフィス） ［文化］役所は図書館に隣接していることが多い。簡素なビルである。役所は住民票や恋人届や婚姻届などに関する取り扱いを行う。税金の相談や就職の相談なども行う。生活保護の相談や保険等の相談も受ける。様々な業務があるが、おおむね日本と同じである。役人の態度はふつうの店と同じく親切である。

jɪſlɪn ［政治］役人、公人、公務員、公僕 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

jɪſleɑ ［運動］助走 ［レベル］3 Jl: 準備走り

jɪſɪ ［親族］先祖、祖先 ［名詞］昔の人 ［名詞］前身 ［反意語］lcſɪ ［レベル］3 1ʔ: 制 :jɪlcſe（前の家族） dɪlſ:dɪlſ ［用例］jɪſɪ ɑlɔn 遠い先祖

jɪſɪlə,ɪlʃ jɪſ

jɪſiepʎl ［親族］尊属 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

jɪſc ［生物］裸、はだか、裸体、すっぽんぽん ［レベル］2 1L:lecn: 悪魔サティから。サティが服を身に着けてないため

jɪſcʎɪ ［軍事］フォアグリップ。銃の。 μɑ;/ JɱJ ［文化］φel

jɪſcj ［地名］風の村サティス 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe:jɪſcc ［語法］jɪlɥəɒ ルティア国郊外の村。紗枝の故郷。 「風絹」という軽くて暖かい繊維で生計を立てている。高品質だが大量生産できないため、村は決して裕福でない。

jɪſcjφɪn ［歴史］サティスの報い ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel ［文化］ユーマ Ɱ000 年ごろ、マレット軍は当時シフェルの土地であったサヴィアに侵攻。ルティアでの戦闘が激化した。 シフェルについた神々は、進軍中のマレット軍をサティス付近で掃討した。これをサティスの報いという。

jɪſcjlccɑɪ ［天文］ツバーン、ツーバン、トゥバン ［レベル］6 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel ［文化］ルティアへ進軍したマレットは途中、サティスへ北上したところで「サティスの報い」を受けた。当時のマレットの駐屯地からサティスへの空路がちょうど北であったため、北極星が目印として使われた。ユーマ Ɱ1Δ0 年ごろは uelſɔcl 座のこの星が北極星（りゅう座のツバーン）だったため、以降この星を jɪſcjlccɑɪ と呼んだ。ユーマ Ɱ000 年ごろも以前として北極星である。ユーマ Ᵽ00 年になると機能が徐々に怪しくなり、ユーマ Ᵽ000 年で北極星の役に立たない。メル暦における北極星はポラリスである。

jɪſcləɔɪ ［名詞］裸足、はだし、ハダシ ［レベル］3 JJ

jɪſcɪ ［アイテム］サティア ［レベル］4 μcɑcɪ: 古 :jɪſcc ［文化］ヴァストリアの 1 つ。クリスのもつ魔杖。風を自由に操る力を持つ。

jɪſcɪ(J) ［政治］穏健派、ハト派、鳩派 ［反意語］bezcɪ ［レベル］4 J0:jɪſcc/lcɪ

jɪſcc ［悪魔］サティ、サティー ［歳時記］風曜日。週の第 3 日目。 ［音楽］ミ ［名詞］強風、風害 ［組み数字］3 / 7 ［レベル］2 ɒelſcɪ 0:jɪſcc;e 古 : アルシェ形ソーン形共通で jɪſc ないし jɪſcc。風が吹き抜けるオノマトペ jɪſ に力を表す c が付いたもの ［文化］ソームの 3 番目。ほんわかしてあどけない天然系の少女。風を操る。全裸。風を纏った裸の少女。動くたびに風が生まれる。自由奔放で無邪気。悪意のない悪魔。 ［成句］ɑɪc ɪ(len) jɪſcc 焼け石に水

jɪſccjcz ［魔法］バナジウム板、陽晄板 ［レベル］6 JJ ［文化］ɔɔlɒcɥə

jɪſcclcl ［化学］バナジウム 1Δ: 制

jɪſcejel ［名詞］裸エロ ［形容詞］裸エロな ［反意語］lecnejel ［レベル］6 μɑ;/ JɱJ ［文化］lecnejel

jɪſɔl ［化学］プレパラート ［レベル］4 μɑ;/「準備せられた」 Jʔ ［語法］顕微鏡観察を行うにあたり観察対象（試料）を検鏡可能な状態に処理したもの。

jɪſeɒ ［生物］脇腹、わき腹 ［レベル］3 1L:jɪſɒ:1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe:jɪnl/ʃɔɒ

jɪl ［動詞］ɥəl を見つける、見つける、発見する、発掘する ［普通動名詞］発見、発掘 ［反意語］lcſ ［レベル］2 1Ɱ ←古 :jɔμn:jɪcſ から。尚、赤では chɔlɪ「存在を確かめる」 ［成句］el jɪl jen lɪn jɔu ɑɥ ɔ uel. 光と闇が融け合う処に、真実がある （μenj ꝏ） 極端なものに真実はないという中庸の精神。 el jɪl jen μɪſen lɪn lɔſ en jccnen. 本当にいいものは一般受けするものの中にはない（jeμen ɪμbɪzɪμɑ） ［用例］leəj cl jɪl ucl ʎlʃe l'eſ ɑɪz ɪ leəj. 世界中のどこにも自分の居場所を見付けることができない。

jɪlſ ［形容詞］公の、公私の公、公認の、公立の、国家の ［反意語］ɑɪnſ ［レベル］3 1L: 制 :jɪlſ:jɔμn:jɪſɥəlɪj（政府）

jɪlſɪɪj ［名詞］国家試験 ［レベル］5 μɑ;/ Jʔ

jɪlſuelɪn ［経済］公認会計士 ［レベル］5 1L

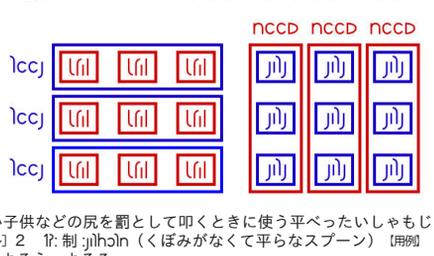
jɪlſɑelʎɪ ［名詞］公立校、国立校、県立、市立 ［レベル］3 J0

jɪlſlib ［政治］［経済］公共事業 ［レベル］4 Jʔ

jɪlſlɔd ［交通］国鉄。幻環線など。 ［レベル］4 JJ

jɪlſɪuep ［名詞］国家資格 ［レベル］5 μɑ;/ Jʔ

jɪlj ［名詞］行列の各行、行 ［魔法］晄基配列の行 ［レベル］5 ［類義語］nccɒ ［反意語］lſɪl J0:ɒelc ɑcɪ lceμ:jɪnl/jɪj ［語法］nccɒ は縦の列すべて。jɪlj は縦の列を構成するひとつひとつの行。1ccj は横の行すべて。lſɪl は横の行を構成するひとつひとつの列。 ［用例］jɪlj eſ lɔ1eſ ɑə 1 ɔn ɪdɪɒɪj. マークシートが一行ずれている。 ɪdɪɒɪj eſ lɔ1 eſ ɑə 1 jɪlj. マークシートが一行ずれている。



jɪln ［料理］しゃもじ、杓文字 ［名詞］仕置き棒、尻叩き棒：悪い子供などの尻を罰として叩くときに使う平べったいしゃもじ状のもの。ふつう木製。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :jɪlhɔlɪn（くぼみがなくて平らなスプーン） ［用例］ʃɪɑ dɪjſ 1ɔn jɪlɪn 米をしゃもじでよそう、よそる

jɪll ［被服］ベルト、帯 ［名詞］帯→ lec ［類義語］lɪhcɒc ［レベル］2 1ʔ: 制 :jɪblɔɔl（服に関する巻くもの） ［用例］jɪb jɪll ベルトを締める

jɪlɪ ［筐堺］サクラ ［レベル］5 μɑ;ɑcφcſ 語で刀 JJ ［文化］筐堺司 : lccne uɪɑcc 筐堺国 : ɑc φcſ, uɔzɪɒɔ ɪlſc, ɪləɔμcɪ ɪlɪj

jɪlɪ(J) ［武道］居合、居合道 ［レベル］5 jɒ:jɪlɪ,ɑcφcſ.ɪleʎ JJ ［文化］ɑelclcɪ jɒ でアルティア人がフィギット語の刀を元に造語したもの。居合道の始祖はアルティア人だが、その祖先がフィギット人であったことから居合道に jɪlɪ と名付けた。居合はアルティアで発達し、jɒ でカレンシアを通じてアルバザードにもたらされたが、そのときは注目を受けなかった。フェリシアなど、一部で盛んだったところもある。μɑ でアシェットが見出したおかげで現在ではユベー

ルにも取り入れられている。　居合はアルバザードではフィギアスケートのように採点制の競技としても広まっているため、弓道と同じように試合がある。

ɟɪʔlɪ,ɑcφcʃ　ʔlɪl

ɟɪʔlɪ　［軍事］ミサイル、誘導弾　［レベル］3　ʔlʔ: 制 :ɟɪʔleɑɪcʔ　［用例］　ɪɥ ɟɪʔlɪ ɪ ɟɑefʔ 敵にミサイルを撃つ

ɟɪʔlɪ,ɪlʃ　lczl　ɟɪ/lɪ「人の場所」

ɟɪʔlɪzɪ　［植物］くぬぎ、クヌギ、つるばみ、櫟、椚、橡　［アクセント］ɟɪʔlɪzʔ　ʔl<zφ;ɟɪʔlɪ,ɪlʃ/zɪ,ɪlʃ「里の木」　［レベル］4　ʃʔ　［文化］　ɪlʃ で材木として里に植えられた。それが ʔl でアルバザードに流入した。

ɟɪʔle　［動詞］ɪ に先行して ɥel へ行く、率いる、導く、誘導する、先行する、先導する、先立つ、行く　［普通動名詞］先導、誘導、先行　［レベル］3　ʔlʔ: 制 : 先に行く

ɟɪʔleɥəlɑ　［普通動名詞］先行研究　［レベル］6　ɟɑ;/　ʃʃʃl

ɟɪʔləlɪ　［魔法］お守り、タリスマン　［レベル］4　ɟɒ;ɪlʃ　ʃʃ　［文化］　ɑɥeɑcʃ や ɥəəɪ に念力を篭めてもらった小さな ɪɟɑɪ を ucɟ を示す赤の布の袋に入れてタリスマンにしたもの。日本のお守りのような形をしている。表面には「交通安全」や「学業成就」など、願い事が言葉になって書かれている。

ɟɪʔlələ,ɪlʃ　ɟccl

ɟɪl　［動詞］ɥel をくすぐる、くすぐる　［普通動名詞］くすぐり　［レベル］2　lɪʔlɪ

ɟɪlʃ　［名詞］［形容詞］どうにでもできた、何だろうとできた、仕様があった、なんとでもできた、なんとでもなった、どうにでもなった、何とかなった、どうとでもできる、どうしようもある　［反意語］lcɟʔ　［レベル］3　@ʔL　［用例］　ɟee, le ɪʃ ɟɪlʃ. ɟcɔ, ɟc ɪʃ ɑccɒ. いや、あれはどうとでもできたよ。単に君がサボっただけだろ。

ɟɪlɟel　［歳時記］くすぐりの日　［レベル］3　ʃʔ　［文化］　＜地球では＞　ʃʔ ɑɥe φcl の数日前に紫亞がセレンに "ɑɥecnɔɪ, ɒcɟɔɔnɔɥən"（お父様、ごきげんよう）と言おうとしている横でメルがわき腹をくすぐったら身をよじって「うきゃきゃっ！！」と叫んだ。φcl にセレンはエイプリルフールのようにくすぐってもいい日があったら世の中明るくなるかなと思った。　＜アトラスでは＞　ʃʔ ɑɥe φcl にメルが紫亞をくすぐって遊んだことからセレンがくすぐりの日としてリディアやメルをくすぐってからかった。そしたら案外楽しかったのでアシェットに広まった。後に国民に広がり、エイプリルフールのような戯れの日になった。　現代では知人ならくすぐっても怒られない日になっているが、人によって嫌がるので空気を読むこと。例えばアリアがレインにやる分には問題ないが、紗枝は誰であろうと歓迎するタイプではない。

ɟɪlɪ　［名詞］デビュー　［レベル］3　ʔlʔ: 制 :ɟɪɑlɪ

ɟɪleʃ　［形容詞］くすぐったい　［レベル］2　ʃʔ:ɟɪl/ʃe

ɟɪɟ　［名詞］順序、並び、配列、列、行列、順序、並び、配置、トランプのカードを回す順、滝の流れる方向、流れ、空気、シナリオの進み具合、雰囲気　［動詞］ɥel を適切な順序に並べる、ɥel に列を作らせる、ɥel の方向を正す、並べる、並ぶ　［形容詞］向きなどが本来の状態　［格詞］～の順番で　［反意語］lcʃ　［レベル］2　ʔlʔ: 制 :ɟcɟ　［成句］　ɟɟ ʃə このまま、この流れで、順当に　ɟɟ lɪɒ 最初に。この ɟɟ は格詞とし。

ɟɟʃ　［名詞］順番、ターン、手番、出番　［シェルト］手、ターン　［野球］イニング　［レベル］2　ʔlʔ: 制 :ɟɟ　［用例］　ʃə eʃ ɟɟ ɪnʃ. 私の番だ。

ɟɟɪɑlɪeɟ　［法律］輪姦　［動詞］ɥel を輪姦する、輪姦する、回す　［レベル］5　ʃʃL

ɟɟɟ　［美容］美容　［レベル］3　ʔlʔ: 制 : 古 :ɟɟeehɔcɟɒ(雪の肌)　［文化］　アルバザードは混血が多く元々顔の造りが美しいのが多い。運動は定期的に行うし、その上小食であるため、スタイルも良い。たいていの国民は日本に来ればアイドルみたいな見た目である。アルバザードは美しい物を好む。偽ることを嫌うので、ガングロのようなブス隠しはしない。　アルバザードは自然な美しさを好む。化粧は隠しであり、いわば嘘の姿である。だから化粧はあまり好まれない。むしろいかに若く保つか、美しく保つかといったケアに重点が置かれる　＜ケア＞　化粧より若さを保つケアのほうが人気が高い。あまり化粧をすると毛穴が塞がって肌が汚れるので、肌を潤したり肌を綺麗に整えるケアを行うなど。若いうちから化粧は薄く、ケアをするように保つ。ケアは市販品で済ます。　。ケアは肌だけではない。体重制限をして程好くスリムな体型を保つこともケア。便秘や甘いものの取りすぎは美容に悪いので、気をつける。筋トレをして腹筋を鍛え、脚を鍛えて細くすることもケア。

ɟɟɟɪʃe　［美容］美容院、美容室　［レベル］3　ʃL:ɟcɑcɪ:ɟɒɪʃeɪʃ　［語法］　ncɪ　［文化］　ボディケアをしたり、髪をスタイリッシュに切る店。床屋の場合、清潔感を重視してサクっと切るので、子供や美容にこだわらないタイプの客が多い。　［用例］　ɪn ʔe uɪn ɟɟɟɪʃe. 美容室に行こう。　ɪn ʔe uɪn ɟɟɟɪʃe lc ʔɔlʃ ɟɪ. 家に帰ったら美容院に行こう。

ɟɟɪ　［被服］レース　［レベル］4　古 :ɟɪɪlɪ と同語源。但しレースは絹ではなく布。

ɟɟɪb　［被服］前掛け、エプロン、前垂れ。　［レベル］3　ɟɑ;/　ʔʃ　dɪlɪb:dɪlɪb　［文化］　料理用とは限らない。防護、防水、剣道の垂れ、民族衣装などの前掛けも指す。

ɟɟcn　［動詞］ɥel を回覧する、回覧する　［普通動名詞］回覧　［レベル］4　ʔlʔ: 制 : 順に見ること

ɟɟen　［接続詞］ɟɟ　［レベル］3　ʃʃ

ɟɟeu　［言語］まえがき、序文、前書き、前文、はしがき、端書　［レベル］3　ʃO

ɟɪn　［数学］式、数式　［化学］化学式　［レベル］4　ʃʃL: 恋意

ɟɪn(ɟ)　［形容詞］～さん。敬称。　［レベル］2　ʃʃA:lcnɪ: 下記　［語法］　→ ɪdʃ, eɟʃ　〇名（後置）　〇姓（前置）　〇男女　・概要　敬称のひとつ。単体では使えない。　他人に対してデフォルトで使う。適度に敬意を払う効果がある。日本語の「さん」と同じ。改まる場合や明らかな目上は ɑɥejɟɔə のほうが良い。家族や恋人ほど親しくはない知人にも使う。　ɑɥejɟɔə より親しく jɔə より疎遠。ləɪ より親しく lccz より疎遠。最もデフォルトな敬称。同等ないしやや目上に使う。明らかな目上や目下には使えないので、その点は「～さん」との違いに注意。　女性は比較的同等には jɔə と lccz を使い、ɟɪn はやや目上だけに留める傾向がある。同等でも親密度が低いと ɟɪn になることがある。ただし男子に対しては親密度が低くても積極的に jɔə を使う傾向がある。　大人はある程度仲良くなっても呼び捨てでなく ɟɪn を使い続ける傾向にある。　また、ɥəəl や dcʔlɔ や ɥənʃ などは性格的な理由で ɟɪn を使い続ける傾向にある。　経緯は下記のとおりだが、大会議以前にリュウはこの語を知っていたそうで、対アルシェであっても対 ɑəlɒccɪ などにはここしばらく ɟɪn を用いていたそうだ。　なお、無生物や動物にも使うことができる。日本語の「ねこさん」「おさらさん」のようなものだと思えばよい。　また、苗字に使うこともできるが、この場合は前置。それ以外は後置。詳しくは eɟʃ を。　ネットユーザーの便宜を図ると、とりあえず最初は ɑɥejɟɔə で入って、しばらくしたら ɟɪn に切り替えると良いように思える。　［文化］　＜経緯＞　恐らく母語の干渉が原因と思われるが、lcnɪ は二重母音 ɔə を ɪə と発音することがある。少なくとも 1J_ʔʃ 年に lcnɪ が ɑɥejɟɔə を ɑɥejɟɪə と発音する癖が記憶されている。これ自体は現在でも続いている。　ɑɥejɟɔə から jɔə ができるのと同じく ɑɥejɟɪə を省略してできた jɪə は最低でも 1ʔ 年ごろには確認されている。jɔə の異形態として扱われた。　リナは比較的気弱な性格で、天然で慌てんぼうな点があることから若干ソーンの人々に幼く見られている。そのことを本人も自覚しているからか、eleɟɔne と ennɪ を除く仲間に対し呼び捨てをせず jɪə を付けた。また、lccz は目下に使い、ləɪ では丁寧すぎるということで、同年には女子相手にも jɪə を使っている。　女子相手にも使ったことで jɪə は異形態でなく独立した語となった。jɪə は 19 年には指小辞を付けて jɪən になった。頻度が高いこともあり、翌 1A 年には ə が落ちて jɪn となった。　ɑɥ ejɟɔə と jɔə の間かつ ləɪ と lccz の間というちょうど良いポジションがそれまでになかったこと、男女共用で使える敬称が ɑɪcn しかなく、しかし ɑɪcn は名に用いることができなかったこと。これら 2 点が後押しした結果、同年からリナ以外の人間も ɟɪn を使い始めた。　一方クミールは出会ってからずっとセレンのことを他人行儀に ɑɥejɟɔə ttɛeɟe と呼び続け、せいぜい制以降発音が jeeɟe になったくらいであったが、内輪ではこしばらくずっと jeɟen ɟɪn と呼んでいたようで、ʃʃ 年（於 2 0 1 0 年 7 月 1 5 日大会議）に初めて本人がセレンに jeɟen ɟɪn と言ったことで本件が発覚した。　ɟɪn が日本語の「～さん」と同じなため、セレンは始め日本語で話しかけられたのかと思ったが、そうではないことが分かった。クミールはメルを通じてすっかりセレンがこの語を知っているものだと思っており、当たり前すぎて幻日に当たらず、ゆえに幻日に存在しないことに気付いていなかった。結果 3 年間 ɟɪn の存在は知られずにいたことになる。　アルカは比較的呼び捨てを励行する文化であったが、ɟɪn の登場はその文化に変化をもたらした。　呼び捨ては特別な間柄の人間や人間関係をすっぱ抜いた論理的な会話などにおいて現れるものとなった。後者はこれまでと同様である。　つまりアルカでは原則として親しい相手でなければ呼び捨てにすることができなくなった。これを設定したのはセレンであり、クミールは関与していない。　セレンは小説を書いていてたびたびキャラクターの人間関係がどの程度親密であるかの表現に苦心していた。ɑɥejɟɔə というほどではないし jɔə でもないし呼び捨てもどうか。そんなときに ɟɪn が来て正直歓迎した。

特に恋愛において呼び捨ては重要だ。敬称から呼び捨てに変わる期間の初々しい感じがとても好きなのだが、あの昂揚をどのように表現したものかと悩んでいた。他人のデフォルトが ɟɪn になれば、それだけ呼び捨てがより特別なものとなる。「名前で呼んでいいのはあなただけ」という間柄を描くことができる。　その直後の 1JʃI にセレンは紫亞が ʔleʃ ɟɪn というのを聞き、動物にも使うことを確認。メルに聞いたら「無生物にも使いだしたね」と証言したため、無生物にも拡張。　［用例］　jee ʃɥe lɔ ʃɔ ɔn ʃə e'ʁ jeɟen ɟɪn. それでこれについてはどう思いますか、セレンさん。　ʔleʃ ɟɪn, ʔleʃ ɟɪn, ləɪ nɔn e. ねこさん、ねこさん、こっちきて (ləlcɪ ɪɟbɪzɪɟə)

ɟɪn,ɟzɑ　eɟc

ɟɪn,ɪlʃ　uc

ɟɪnʃ　［法動詞］～してください。前置。　［類義語］ɒcɟ　［レベル］1　ɟɑ;ɟɪnʃ,hɥ　ʃʃ:ɟcɑcɪ　［語法］　ɟe

ɟɪnʃ,hɥ　ɒcɟ

ɟɪnʃɒɟɥel　［筐堺］サントミュール　［アクセント］ɟɪnʃɒɟʒʔl　［レベル］5　ɟɑ;ttɪnʃ/ɒɟɥəəl「新ミュール大陸」　ʃʃ　［文化］　筐堺司 : ʔənɔn uɪlbeɟ　筐堺国 : belφɪnɑ, 旧 ʔɪlenɟɔɪ ɑleə

ɟɪnʃɒcʔl　［名詞］試供品、サンプル　［レベル］4　ɟɑ;ɟɪnʃ ɒcʔl「どうぞお試しください」が語彙化したもの。　ʃʔ

ɟɪnʃɑɔlɒcɥə　［魔法］現代魔法学　［アクセント］ɟɪnʃɑɔlɒϵɥə　［レベル］4　ʃʃ

ɟɪnʃɪns　［植物］ɟɪdcn　［言語］［文字］サンセリフ。バラに似ているが棘のないことから。　［レベル］4　ɟɑ;lʃʔ<ɟɪn/ʃɪns「血の襞」。元は八重を ɟɪnʃɪns と呼んだが、やがてカーネーション全体を指すように。　ʃʃ

ɟɪnʃɪnsel　［建築］サンタンジェル宮殿　［建築］シャンデリア　［レベル］6　ɟɒ;lʃ. ɟɪn/ʃɪns/eɪɑe「血洗いの池」　ʃʃ　［文化］　ルティアにある宮殿。ɟɑ でセレンとリディアが過去に戻った際、未来に帰るために飛び込んだ泉のある宮殿のこと。泉は青だが、未来にワープできる瞬間だけ赤になり、血を洗ったような色になる。シャンデリアが ɟɒ で初めて設置された場所でもある。

ɟɪnʃɪɟʃ　［魔法］現代魔法、近代魔法　ɪl;/　ʃʃ

ɟɪnʃɪɟɑclcʔ　［娯楽］サンタルディリック　［レベル］5　ʃʃ: 血の巨菌　［文化］『バイオハザード』に相当するゲーム。

ɟɪnʃc　［名詞］定規　［レベル］2　ʃʃ:ɟcɑcɪ<ɟɪnʃ:ʔlʔ: 制 :ɪnʃ

ɟɪnʃccɑɪ　［地球の星座］［ユマナ］じょうぎ座　ʃʃ　［文化］　cɑɪ

ɟɪnʃe　［代詞］［ɒbɑɥs］ʃcɟee　［レベル］1　ʃʃ:ʔɒccɟ:ʃɪnʃe

ɟɪnʃe,ɟzɑ　hɪɟ　ɟɪn/ʃe

ɟɪnʃen　［名詞］手合わせ　［類義語］lɪɑɔɔuɪ　［レベル］3　ɪlʃ　ʃʃ　［文化］　死者への弔いを意味する手合わせの動作。手を合わせて軽くお辞儀をする凪人の習慣。lɪɑɔɔuɪ に相当する。あの世とこの世の繋がりおよび渡りを手のひらを合わせることで表現している。

ɟɪnʃeeɒɟ　［企業］［人名］サンテームス、抗魔　［ユマナ］マイクロソフト、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ、アップル、Ａｐｐｌｅ　［レベル］3　ɪl;ttɪnʃ/ɪlʃeeɒɟ「新アルテームス」　ʃʃ　［文化］　ʔlɪuel ɪlʃeeɒɟ, uɪnʃ eɒɟ　マイクロソフトやアップルに相当する企業。

ɟɪnʔ　［動詞］ɥel を ɪ に寝かせる、寝かせる、寝る、横にする、横になる、寝転ぶ、横たわる、横たえる　［文字］オブリーク　［反意語］φɪɟnefʃ　［レベル］2　ʔlL:jn という子音連続がほかにないので jnʔ から変えた :ʔlʔ: 制 :ɟɪncɪ(前面で支える) 制ではうつぶせ。　［用例］　ɪn cnɪʃ sɪn aɟɑ ʔɔnʃ jɪnʔej ɪhɪl sen. 草の上に寝転がって晴れた空を見た。

ɟɪnʔeu　［普通動名詞］平積み→ lec　［レベル］4　ʃʃ

ɟɪnʔəd　［生物］蚕、かいこ、カイコ　［レベル］4　ʃʃ:ɟɪnɑɪn。ʔəd は ʔəədɔ.ɑu と同根。

ɟɪnɟ,ɟzɑ　100、ʔlʔʃl　ɟɪc　［アルミヴァが 2 周する］

ɟɪnnɪ　［文末純詞］［ɒɥə］ɟeʃe　［レベル］1　ʃʃ:əɒʃɔnɪ: 文末 ",ɟɔɪ ɟɪcn ɪ" 「～って私は確認するよ」の "ɟɪcn ɪ" の語彙化。

ɟɪnɑel　［数学］代数学　［レベル］5　ʃL　［文化］　代数を用いた数学に端を発し、方程式の研究にまで広がった。その後、後者は特に方程式論として下位化される。地球と異なり、方程式論は代数学の下位。

ɟɪnɑɪn　［植物］桑、くわ、クワ　［レベル］4　ʃʃ:ʔl

ɟɪnɑɪl　［植物］ウィステリア、ウィスタリア　古 ɟɔɟɪn

ɟɪnɑc　［音楽］Ｒ＆Ｂ、リズムアンドブルース　［レベル］6　ɑɥɑ;「足踏み」　ʃʃ

ɟɪnɑcʔ　［植物］マルベリー、桑の実、クワノミ　［レベル］4　ʃʃ:ɟɪnɑɪn/cʔ

ɟɪnɒel　［地名］サンベル、サンベル市、新料市　［レベル］5　ʃʃ:「新ベル市」　［文化］　アルナ県北西部の市。旧 bel 市（料理で有名だった）が隣市と合併改称したもの。

ɟɪns　［名詞］因子　［レベル］5　ɟɑ;<jzl<ɟɪnse,jzɑ.ʔ　ʃʃ

ɟɪnse　［名詞］理由、原因　［格詞］～なので、～につき、～により　［類義語］ɒɪn　［レベル］3　ɟɒ;<ɟɪn se,jzɑ.ʔ　ʃʃ

ɟɪnse,jzɑ　ɑɔnʃ,jzɑ、ɒɪn,lʃɑ　>ɟɪuɪn

ɟɪnsej　［動詞］ɥel を ɪ にちなませる、ちなむ、因む、ちなんで、因んで　［レベル］4　ʃʃ:ɟɪnse/ɟɔ　［用例］　ɟɟcɔl nɔɪn ejʃɪʃ nɔn lel ləlcɪ ʔɔnʃ ɟɪnsej {ə{nɔn} ɪ le ʔɔɔʔ e luɪn. ウチの親は瞑想の一状態にちなんで私をルシアと名付けた。

ɟɪnsel　［名詞］文化　［類義語］ɪnʃcɟ　［レベル］4　ʃʃ:lʃ < jɪuɪnse,jzɑ.l　［語法］　ɪnʃcɟ は絵画や音楽や文学などの文化に加え、その民族がどのように振舞うかという行動様式も含む。ɟɪnsel はこのうち前者のみを指す言葉。

ɟɪnselɒɪn　［亜魔］サンジェルマン　［アクセント］ɟɪnselɒϵn　［レベル］6　ʃʃ:ɟcɑcɪ:ɟɪnselcʔɪ/ɒccnɪ　［文化］　ラスティアディンの一種。リーゼルに主に生息。サンジェリカに貫かれた少女が鬼となったもの。　［成句］　ɟɪnselɒɪn oeɒ ɪɟ ləɔɪ ʃ'ɪɑel. 今にも焼き殺されそうな乙女は悪魔の足すら舐めてすがる：溺れる者は藁をも掴む

ɟɪnselɑɪcφ　［経済］［法律］文化税　［レベル］4　ʃʃ　［文化］　音楽や書籍は無料でアンセにダウンロードできる。アンセをパソコンや電子ブックに差してダウンロードすれば、直接端末にダウンロードすることもできる。　ダウンロードは何度でも可能だが、ひとつの国民ＩＤごとにひとつのダウンロード回数がカウントされる。　元が無料であるため、わざわざリスクを冒してまで違法コピーする者はいない。　では版元はどのように収益をあげているのだろうか。音楽と芸術の国アルバザードでは音楽、写真、図画、絵画、文章などに文化税というものがかかっている。文化税として集めたお金をダウンロード数に応じて版元に分配し、版元は著作権者に印税を支払う。　また、書籍は分配比が高く、専門書はなお高く、娯楽関係は比率が低い。従って専門書の出版も安心して行え、国益を損ねない。また、衆愚的なコンテンツに莫大な利益が集まることもなく、日本と異なり文化レベルが落ちていくこともない。　学問を志しても食っていけるかすら怪しい一方で衆愚に迎合した小説や音楽を作る人間が億単位の金を稼いでいたヴェレイでは到底国民の教養は下がる一方で、それを革命したのがミロクである。　文化税は国税なので文化的教養のない者ほど損をするシステムであり、これもアルバザードの教養レベルを底上げしている。　団体が法の裏をかいて収益をあげられぬよう、何度ダウンロードしても同一人物はワンカウントにしかならない。　むろん団体ぐるみで構成員が全員ダウンロードすれば収益はあがるが、それについては紙での書籍販売でもそもそも防げていない。　しかし紙の場合は構成員の自腹だが、ダウンロードの場合は文化税なので公共の利益に反する。　国民ＩＤには職業や所属団体などの個人情報が書き込まれているため、団体の構成員によるあからさまな集中ダウンロードがあった場合はカウントの対象とされない。

ɟɪnselcʔ　［普通動名詞］粛清、粛正　［動詞］ɥel を粛清する、粛清する、粛正する　［レベル］4　ɟɑ;ɟɪ nselcʔl.ʔ　ʃʃ

ɟɪnselcʔɪ　［軍事］サンジェリカ、槍の牢獄　［メタファー］身動きの取れない状態　［植物］オベリスク。簡状だけでなく、柵状のものも含む。　［レベル］4　zφ;ɟɪn,jzɑ/selcn,jzl/ʔlɪcn,jzʔl　ʃʃ　［語法］　記念碑（モニュメント）としてのオベリスクは lɔnʃcɟ。　［文化］　lɪnɑcɔle　［用例］　ɪn lɪʃ ɟɪnselcʔɪ dɔʃ sɪɒɔ ɒɪn ʃeɟɒcɪ φɪnɑ sɪɒd. テロが飛行機を占拠したため、空港で足止めを食らった。　ɪn lɪ ɟɪnselcʔɪ e ɟcdφcl. 借金で首が回らない。

ɟɪnselcʔɪ(ɟ)　［建築］サンジェリカ講堂　ʃʃ　［文化］　アルナ大最大のホール。前期大と後期大の棟の間にある。革命で反対派が血の粛清に遭ったことからこのように呼ばれるようになった。旧称 ɑelcn 講堂。

ɟɪnl　［名詞］左右、横、真横　［数学］x 軸← ʃeɟɒecn　［格詞］～の横に　［レベル］2　ʔlL:ɟɪnʔlɪn（寝る人）ce:ce:lə ɥel（中央が lɪ なので）　［レベル］2　［文化］　数学の x 軸を横に描く発想から、通常 ɟɪnl を x 軸とする。右が正である。　y 軸は同じ理由で前後を示し、前が正である。　z 軸

は上下で、これは直観に沿う。　地球の場合、前後が x 軸で、上下は z 軸だが、下が正となる。上を向く回転運動が正となるよう、z 軸は下になっているそうである。　アルカの場合客観的に飛行体を見る。上に上昇するならば z 軸は正と捉え、直観に従う。 【用例】 ˥cl dce ˥cɔɲ ɟɪnl きゅうりを真横に切る

ɟɪnlʃɔɒucɒ 【生物】腹斜筋 【レベル】5 ɟʍʞ˩˩

ɟɪnllɒ 【生物】梁門 ˩˥˥

ɟɪnlɟɪnl 【動詞】ɣəl を ɪ に横向きで寝かせる、横寝する、寝かせる 【レベル】3 1L 【用例】 ɪn ɟcc ni ɒɔl ɒeɟɪ ɟɪnlɟɪnl. 横向きになって寝るのが好きだ：ɒɔl は連動詞。名詞ではない。

ɟɪnlɒɪʃ 【美容】横分け、サイドパート 【レベル】4 ˩˥˥

ɟɪnldcl 【名詞】側転 【類義語】ɟɪnlhɔl 【レベル】3 ˩0:pelcɑcɪ lceɟ

ɟɪnlhɔl 【名詞】ロール、y 軸周りの回転、側転 【類義語】ɟɪnldcl 【レベル】4 ˩0 【語法】 人が立っている場合、左右は x 軸（ɟɪnl）とされる。x 軸方向への回転は人の場合は側転で、飛行機の場合はロールとなる。例えば飛行機が時計回りにロールする場合は x が正になり、やがて 0 に戻ってから負になり、また 0 へ戻る。人が心臓側に側転する場合は x が負になり、0 になり、正になり、0 になる。あるいは、側転全体で見れば左側への移動なので単に x が負になると見てもよい。　ɟɪnlhɔl は両手を床につけて側転することで、頂点に達したときの四肢の形が X 字になる。ɟɪnldcl は体全体で横に転がることで、軍人が戦闘時に行うようなも動作。武器などを持っていると ɟɪnlhɔl はできないため、ɟɪnldcl を使うことになる。

ɟɪnlɪ 【言語】極字 【レベル】4 ˩˥ 【文化】 → hɪɾl あらゆる文字の中で最も難しいことから、文字の極みとして極字と訳す。

ɟɪnlen 【接続詞】ɟɪnl 【レベル】3 ˩˥

ɟɪnleel 【生物】横顔 【レベル】4 ˩0

ɟɪnɪ 【形容詞】心が綺麗な、心の美しい、純粋な 【名詞】綺麗な心、良心、善心 【反意語】lcɒc 【レベル】3 古 :ɟɪnɪʃ 絹や砂のような心 」 【用例】 le ɟɔɒ uɪnɑ ɟɪnɪ ɪnʃ lɪlel. そのことが今でも私の良心を傷める。 "nɔn ɟccnɪ ucl ɟɒnɟ e ʃə lcleɒ nɔɑ ʃɣə ɒcl nɔn eʃ ɒcn. ʃef nɔn hɪʃcɪ ɟen ɪleɒ ɟɪnɪ e ucʔ le ɟccnɪ ʃə nɪleɒ ʃcɟɟe"「私は女だからこの詩をそこまで好きになれないけど、この詩を好きな男の人の純粋さを好きにはなれる」(pel ˥eefɔcɪ)

ɟɪnɪ,ɪlʃ ɒccnɪ、lccbe

ɟɪncɪ 【生物】前髪、フロント 【レベル】3 1L:pelcɑcɪ ɪlcɟ

ɟɪncɪlɔɔzɟeel 【生物】前髪際中点 μɑ;/ ˩ʍ

ɟɪnɔ 【名詞】日程、スケジュール、日取り、都合、予定、プログラム、約束、ダイヤ、時刻表、時間割 【レベル】3 1ʍ: 制 :ɟerl/ɪnɔ（その日の計画）【用例】 lɪɑ ɟɪnɔ 予定を入れる、予定を作る、予定を立てる ɪn ɟɪcnɪʃ ɟɪnɔ e ˥eɟʃ. 明日の日程を確認した。　ɪn ʃcl ɟɪnɔ ɑel ˥ac hɪɟl ɔˀ hɪɾln cɒ ɑcɟ. 今日は友だちと昼食を食べる予定だ。

ɟɪule 【気象】霧雨 【類義語】ɑecɟeɟˀ 【レベル】3 ɟɒ;ɟɪule,ɟzl ˩˥

ɟɪule,ɟzl ɑecɟ ɟɪdlc.ˀ

ɟɪuɪ 【植物】トウモロコシ、とうもろこし、玉蜀黍、コーン、トウキビ、唐黍 【レベル】3 zφ;ˀe uei ˩˥ 【文化】 zφ で ˥eueɪ 人が栽培していたものが歴史上の最古。μɑ で lʃ・アシェット経由で ɟɣ に伝来した。セレンが「食べると胃が痛くなる」と言ったことで μɑ では敬遠され、普及が遅れた。粒の薄皮の消化が悪いためで、胃腸の強い者なら問題ない。また製粉などすれば問題ない。

ɟɪuɪn 【動物】シギ 【レベル】6 1ʍ: 制 :ɒclɑ:ɪlɪˀɪ:ɩuɪn,ɟuɪn

ɟɪuɪn(J) 【生物】ˀɪɟ,ɟzɑ、ˀɪl,ɟzɑ 【生物】上腕 【反意語】lcoɪ 【レベル】5 ɟzɑ ˩˥

ɟɪuɪnʃe 【言語】[文字] スクリプト、手書き文字、手書き風文字、手書き書体 【アクセント】ɟɪuɪnʃE 【レベル】3 ˩˥:ɟɪuɪnʃe,ɟzɑ

ɟɪuɪnʃe,ɟzɑ ʃɪnˀ ɟɪuɪn

ɟɪuɪnˀɪlʃefɔɪɟefˀɪn 【生物】[医療] 手陽明大腸経 ɟzl;/ ˩ʍ

ɟɪuɪnɑlɪueɟɑɪzefˀɪn 【生物】[医療] 手太陽小腸経 ɟzl;/ ˩ʍ

ɟɪuɪnɒɣəlelɣəeˀɪn 【生物】[医療] 手厥陰心包経 ɟzl;/ ˩ʍ

ɟɪuɪnhɔ 【生物】上腕骨 【レベル】5 ˩˥

ɟɪuɪnse 【軍事】天馬の腕、サヴァンジェ 【アクセント】ɟɪuɪnsE 【レベル】5 zφ:ɟɪuɪn,ɟzɑ/ɟcel ˩˥ 【文化】 lɣəɟcel

ɟɪuɪnlɪɪlehcnɪˀɪn 【生物】[医療] 手少陰心経 ɟzl;/ ˩ʍ

ɟɪuɪnlelcɪɣəzˀlɔˀɪn 【生物】[医療] 手少陽三焦経 ɟzl;/ ˩ʍ

ɟɪuɪnɪlseφɪnʃˀɪn 【生物】[医療] 手太陰肺経 ɟzl;/ ˩ʍ

ɟɪucɪ 【地名】サヴィア 【組み数字】2 / 6 【レベル】3 ɑu;e 古 【文化】 アトラスにある大陸の名。地球では北アメリカ大陸に当たる。　面積：ʍ٩١ʍ٨٨.٩L٢٩٨٢ ˀɒ ˥

ɟɪucɪɟcɪ 【地学】サヴィアプレート ˩ʔ

ɟɪucc 【ユマナ】北アメリカ大陸 【レベル】5 制

ɟɪuɔ 【名詞】補欠、予備、スペア、買い置き 【レベル】3 1ʔ: 制 :ɟɪu から

ɟɪuɔɟʃ 【動詞】ɟɔl は ɣəl（様態や残されるム）に先立つ、先立つ、妻子などを後の世に置いていく、先に死ぬ、サバイバルなどで脱落して死ぬ 【レベル】3 1ʔ: 制

ɟɪue 【気象】雪崩、なだれ 【レベル】3 1ʔ: 制 :ɟɪueɟɒn（雪が崩れる）

ɟɪueɟ 【人名】サヴェル 【レベル】5 古 :ˀɒccɟ 【文化】 人間。愛する妻を守ることを生きがいにしていたが子供ができなかった。しかし年老いたころに子供に恵まれ、年の離れすぎた娘を得る。そのころのサヴェルはもはや昔の力を失っていたが、娘の誕生で活力を得る。サヴェルは今まで自分は妻を愛するために生きてきたが、力を失った今はこの娘を愛することが生きる力となっているということに気付く。

ɟɪuel 【天文】サヴェル、火星、空天 【魔法】風のクリスタル 【組み数字】4 / 9 【レベル】3 古 :ɟɪue l ← ɟɪdlc/uel（空気があって暗い）

ɟɪueeɟ 【アイテム】サヴェール 【レベル】4 μcɑcɪ: 古 【文化】 ヴァストリアの 1 つ。ウムトナのもつ神矛。

ɟɪueeɟ(J) 【経済】前引け ˩˩

ɟɪɑ 【気象】気温、温度 【気象】～度 【レベル】3 1ʔ: 制 :ɟɪdəɑ（空気の熱）【用例】 ɟɪɑ eɒ ɟɔɟ{hɪ cʃ} μɔɒel. 気温が急に上がった{下がった}。 ɔn ˥ɪˀees, ɟɪɑ eɒ ɟɔɟ ɪ ʔ0 ucɪ ɔˀlʃɪ aleɪ. カテージュは夏でも気温が 3 0 度程度までしか上がらない。　ɟɪɑ eɒɪʃ hɪcʃ ɪ φɔl ʃcɑ 10. 気温が零下 1 0 度まで下がった。　cɒ ʃə aɪɟɪ, ɟɪɑ eɒɪʃ hɪcʃ ʃcn. 今朝は気温がとても下がった。

ɟɪɑʃ 【名詞】荷造りテープ、装飾テープ、接着テープ、録音テープ、録画テープ、ビデオテープ 【レベル】3 1ʔ: 制 :ɟɪˀɑɔʃ（平らな紐）

ɟɪɑˀɪ 【名詞】ＶＴＲ、ビデオ、ビデオテープレコーダー。日本で一般にビデオと呼ばれているもの 【レベル】5 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelˀʃ:ɟɪɑʃ 【文化】 テープを使ったビデオはもう古く、誰も使わない。ＤＶＤもレイユには既に古く、ＤＶＤ以上に大容量な記憶媒体を使って記録する。ビデオ機器はもはや存在しない。テレビにメモリが内蔵されているので、そのメモリにテレビのデータを書き込む。

ɟɪɑʃcˀ 【地学】緯度 【レベル】4 1L

ɟɪɑʃɔc 【名詞】温度調節、温度調整 【レベル】4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelˀʃ

ɟɪɑˀcdɪμ 【名詞】温度計 【レベル】3 1L 【用例】 ɟɪɑˀcdɪμ ɪdcɪfeɟ ˩ʔ. 温度計は 2 5 度を示していた。

ɟɪadɔcʃ 【地学】緯度 【レベル】4 ˩0

ɟɪɑφecn 【地学】緯線 【レベル】4 1L: 温度の線。緯度によって一番体感的に変わるのは温度の差であるため

ɟɪɑl 【被服】ピロード、ベルベット 【レベル】5 古 :ɟɪ は絹

ɟɪɑccμ 【アトラスの国家】サフィール 【レベル】5 1L:μcɑcɪ: 「風の土地」

ɟɪɑɔ 【動物】トナカイ 【レベル】4 1ʔ: 制 :ˀɪlˀɪ:ɟɪɑˀ 雪の動物

ɟɪɑenɑc 【気象】気温差、温度差 【レベル】4 1L:μcɑcɪ 【用例】 el nɪ ˥cn ɒɪn ɟɪɑenɑc ɟɔuen aleɪ ɔ lceɟ ɑɔˀ ɑlɪcɒ ɔ leɪɒ eʃ ʃcnˀɪ ɔn ˥ɪμl φchə ɪ. 岐阜県は夏冬と昼夜の温度差が激しいのでつらい。

ɟɪɒ 【形容詞】新しい 【動詞】ɣəl を新しくする、新しくする、更新する、改める、改訂する、改定する、アップデートする 【普通動名詞】更新、改定、改訂 【副詞】～しなおす、～しかえす、改めて。ʃcl ɟɪɒel（持ち直す、持ち返す）【反意語】ɟcɑ 【レベル】1 ɟeμʃ;ɟeɑɪ 1ʍ: 制 ɟeɑɪ:ɟeɑɪ:ɪɩɪnʃ:ɟeɑej, ɑφn 【語法】 → ɟeɑej 生き物については ɟɪɒ は新しいで、lcɑ は若い。ɟɪɒ は libɪʃ ɟɪɒ（新人の労働者）のように、入ってから日の浅い状態を指す。ˀɪɪl lcɑ はヤンママで、ˀɪɪl ɟɪɒ は小さい子供を持つ母親のこと。　物については ɟɪɒ は新製品などを指し、lcɑ はその製品個体が生産されてから浅いことを指す。サクマドロップスは製品としては昔からあるので ɟɪɒ ではないが、今日工場で生産された缶については新しいので lcɑ といえる。日本語はどちらも「新しい」で表現するので区別に注意。 【用例】 ʃcl ɟɪɒel 持ち直す hɪɾln ɟɪɒ 新しい友達

ɟɪɒʃel 【動詞】ɣəl を c から持ち替える、持ち替える、持ちかえる、持ち直す 【レベル】3 ˩˥

ɟɪɒʃel 【植物】若葉 【レベル】4 1L 【用例】 cɒ ɪlʃe, ɟɪɒʃel eʃ nɔˀl. 春になると若葉が出る。

ɟɪɒɟ 【被服】ボタン 【レベル】2 zφ; ↓ 1ʔ: 制 : 古 :ɟɪbeɒɣəlɪ（服の穴）。元はボタン穴を指した。 【文化】 zφ で神が作ったものをレスティル人が輸入したのが始め。当時は高価で貝や金属を使っていた。　ɟɒ 後期でようやく一部の裕福な庶民にも行き渡るようになった。nɑ 以降は大量生産され安くなった。　ボタンは下から外す。上からでは襟元がだけて不恰好な上に時間がかかるため。両手で外すのは子供っぽいとされる。但し、外しやすいように片方の手をどこかに添えておくのは良い。かけるときは逆動作。　セルメルまでは男女とも服の合わせは右前で、ボタンは正面から見て右（自分から見て左）に来ていた。セルメルで魔導師の権威が弱まると、女は籠の鳥となって宮中や屋内に押し込められるようになった。それに伴い高貴な位の女性は戦闘に不向きな豪奢なドレスを纏うようになった。（カコまでは高貴な位はたいてい強力な魔導師なので、ルーキーテのように戦闘要員として比較的動きやすい服を着ていた）。　ドレスの背中にもボタンがあることと、着替えを召使が手伝ったことから、ボタンは左前となった。他人がボタンをかける場合、左右逆転したほうがやりやすいためである。これにより男女のボタンと服の合わせが逆転し、徐々に高貴でない女たちにも広がっていった。　文面でよくわからない場合、結果的に日本と同じ男女差だと考えればよい。 【用例】 ɪμ ɟɪɒɟ ボタンをとめる

ɟɪɒɟɪɟ 【動詞】ɣəl を並べ直す、並べ直す、並べ直す、並べなおす、並べ替える、並べかえる、並べ変える 【動詞】ɣəl を並べる、並べる。この語義の場合は ɟɟ とほぼ同等の意味で使う。 【電算】ソート。「並べる」の語義から派生している。 【レベル】3 ˩˥:ɒel

ɟɪɒjela 【言語】現代文、現代文学 【レベル】3 μɑ ˩˥ 【文化】 aeldɪnʃ 【用例】 ɪc, ɑcɑn e μɪael ˥ˀɪ(ʃeniɪei eʃ ɟɪɒjela hɔʃ ɑɪ. これで残る春休みの宿題は現代文だけとなった。

ɟɪɒɒecʃ 【電算】[言語] 新項目、新語 【レベル】3 ˩0

ɟɪɒd 【動詞】ɣəl を ɪ に絡める、絡める、からめる、からまる、絡まる、もつれる 【動詞】ɣəl（戦争など）が膠着する、膠着する→ uɪɟ eɒ ɒɔnɔ 【普通動名詞】膠着 【レベル】3 1ʍ: 制 : 古 :ɟɔˀəˀɪɪɒelcɪl 【語法】 ɟɔˀʃ 【成句】 nɔɪ eɒ ɟɪɒd. ノアが絡まる。ばつが悪い、バツがわるい、気が失せる :1L: ちょうど日本語のばつが悪いに当たる表現。例えば、空港で盛大に別れを惜しんだ後に飛行機が事故って遅れ、しばらく空港でまた話すことになったときの気持ち。例えば「今度会おうね」といって別れた後、5 分くらいで別の場所で出くわしたときの気持ち。こういうのは心に関与するノアの問題だと思われている。互いのノアがもつれて絡まったから、巧くいかずにちぐはぐなんだと考えられている。

ɟɪɒdeˀll 【経済】先端技術、新技術 【レベル】4 1L

ɟɪɒɟɪc 【植物】新芽 【レベル】4 1L 【用例】 cɒ ɪlʃe, ɟɪɒɟɪc eʃ nɔˀl. 春になると新芽が吹き出す。

ɟɪɒleueʃ 【名詞】新発売、新刊 【レベル】3 μɑ;/ ˩ʔ

ɟɪɒɪ 【被服】ポケット 【レベル】2 1ʔ: 制 :ɟɪbɒɪl から 【成句】 ʃe eu lɪɟ ɪdɔʃ ɟɪɒɪ ˥ɪ ɪʃe 店ではポケットに手を入れるな：李下に冠を整さず 【用例】 ɪμ{cɟ} ɟɪɒɪ ボタンをかける { はずす } ɪn ɟc ˥ɔ ɟɔˀʃ ʃcɟ ɔn ɟɪɒɪ. ポケットには 1 ソルトも入っていない。　nɔn ɪμɪʃ ɟɪɒɪ e ɒcɟd ɒcl ʃeeze eʃ ɟɔμʃ. 風が冷たかったので、カーディガンのボタンをかけた。

ɟɪɒɪn 【親族】どら息子 【レベル】2 1L:μcɑcɪ:ɟɪɒ/ɪn（若い頃の俺）

ɟɪɒɪnɪɪn 【名詞】前期大学生 【類義語】ɩɪlɑelɟ 【レベル】3 1L:pelcɑcɪ ɪlcɟ

ɟɪɒɪμˀɪ 【名詞】新生アルカ 【レベル】3 1L 【語法】 アティーリでは制アルカの棄却によりセレンが作りなおした人工言語で、以後転生期まで使われる。ユマナでは制アルカの運用上の欠点を排他し、使いやすさと自然さと芸術性を高めた人工言語。

ɟɪɒc 【形容詞】不運な、運が悪い、運がない、運の悪い、不幸せな、不遇な、不幸な、数奇な、不遇な 【反意語】lcnɪ 【レベル】2 @ 1L 【用例】 ɪn ɪʃ ɟɪɒc cɒ ɑcɟ. 今日はついてなかった。

ɟɪɒe 【名詞】ソケット 【言語】格、ケース 【レベル】4 μɑ; ↓ 1L: 制 :ɟɪɒc

ɟɪɒen 【名詞】新発売、新刊 【レベル】3 μɑ;/ ˩ʔ

ɟɪɒel 【被服】サメル 【レベル】3 古 :ɑəlɒccɪ:ɟɪɒel ← ɟɪbe/ɒelɑc を変形させた造語。原義は「一メルフィもある長い服 」 【文化】 アルティス教徒の女性服。裾が床に着くか、或いは着きそうなくらい長いワンピース。体をすらっと見せる服で、神聖で清純なイメージがある。特にアルマスト派に好まれる。移動時には靴を履くが、儀式や祈りの際には裸足が好まれる。だがこれを淫らと遠ざける信者もいる。サーシャと合わせられる。

ɟɪɒelc 【企業】サメリ 【レベル】6 ˩ˀ:ɟɪɒ/ɒelc 【文化】 東レに相当する企業。

ɟɪɑ 【形容詞】豪華な 【反意語】lcφ 【レベル】3 @ 1L

ɟɪɑˀ 【普通動名詞】発明 【動詞】ɣəl を発明する、発明する 【レベル】3 1ʔ: 制 :ɟɪɑlɪɑ（新しく作る）【用例】 lelcc ɪlʃeeɒɟ ɟɪɑlɪʃ ɑcdcʃ cɒ nɪɑcɪ. ナディア時代にシェリー＝アルテームスは多くのものを発明した。

ɟɪɑɪlə,ɪlʃ 預かり物の、預かってある

ɟɪɑcɟ 【料理】駄菓子、サディス 【類義語】lcɪ 【レベル】2 μɑ;ɟɪ/ɪɑcɟ「死刑の前に」。死刑が広場で行われる際、お祭り状態で菓子店などの出店が出た。そこで売られる子供向けの小さな安いお菓子をサディスと呼んだことから。　˩ʔ

ɟɪɑcɟɪʃe 【名詞】駄菓子屋 【レベル】2 μɑ;/ ˩ʔ

ɟɪɑeɣə 【被服】前とじ、前閉じ μɑ;/ ˩ʍ

ɟɪφ 【被服】バックル、尾錠 【レベル】4 1ʔ: 制 :ɟɪb/φc

ɟɪφɪφ 【言語】[生物] 咽頭 【レベル】4 1ʔ

ɟɪφɪφɑɔ 【言語】咽頭音 1L

ɟɪφc 【被服】ファスナー 【レベル】3 1ʔ: 制 :ɟɪb/φc

ɟɪφcʃɪɒɪφcˀlɪ 【アトラスの国家】サギタマギカ 【レベル】4 ˩ʔ:μcɑcɪ

ɟɪd 【名詞】空気、ガス、気体 【化学】気体 【気象】大気 【類義語】ˀəɒɟɪd、zɔɒlcl 【レベル】2 1ʔ: 制 : 古 :ɟɪdlc（空気） ɟɪdlc:ɟɪdlc:ɟɪdlc 【用例】 ɟɪd eʃ ɑμeɪ{beʃc} 空気が澄んでいる { 淀んでいる } ɟɪd eʃ ɑɪɑ 空気が重い→ ɩɪlʃe 【用例】 ˥ɪnʃ ɑɪn cl ɟɪd nɔɪn ɪ ʃɣə. わたしの酸素、全部あげる（リーム＝ストリーム『ＴＰぼん』）

ɟɪdʃ 【名詞】空気調節、エアコン 【レベル】3 制

ɟɪdʃɪμ 【名詞】エアコン、クーラー、ヒーター 【レベル】3 1L 【文化】 アルバザードはそもそもあまりエアコンが必要ない。 【用例】 ɪn hɔnɔʃ ucl hɪμʃɪʃc enʃɔ ɪμcˀ ɪc ɟɪdʃɪμ. 暑さに耐えかねてついにクーラーを付けた。　ɪn ɪμɪʃ ɟɪdʃɪμ ɒcl ɟɔμʃɪʃc μɪˀl. あまりに寒かったのでヒーターをつけた。　ɪn ucenɪʃ{cunɪʃ} ɟɪdʃɪμ. ヒーターを強くした { 弱くした }。

ɟɪdɩɪɩɪll 【化学】[物理] 気体定数 【レベル】5 1L

ɟɪdlenucl 【医療】空気嚥下症 【レベル】5 1L:ɟeɟen

ɟɪdn 【気象】気圧、大気圧 【レベル】4 1ʔ: 制 :ɟɪdlɔʃ

ɟɪdnɑcμec 【気象】前線 【経済】気配→ ɑcμec:。低気圧と高気圧がぶつかるように、売りと買いの価格がぶつかるところから。 【レベル】4 1L

ɟɪdnhɔhɔ 【気象】気団 【レベル】4 1L

ɟɪdɑcɔleʃ 【軍事】エアライフル 【アクセント】ɟɪdɑcɔlEʃ μɑ;/ ˩ʍ 【文化】 φel

ɟɪdɑeefɑel 【言語】音響音声学

ɟɪdɒ 【生物】肺、肺臓 【レベル】2 1ʔ: 制 :ɟɪdɒɪc（空気の身体部位）

ɟɪdɒˀlez 【医療】肺化膿症 1L

ɟɪdɒɑɪcz 【医療】肺炎 【レベル】3 1ʍ: 制 : 肺の炎症

ɟɪdɒdcφ 【医療】肺がん 【レベル】5 1L

ɟɪdɒdɔn 【医療】肺気腫 【レベル】5 1L

ɟɪdɒdɔeʃ 【医療】肺嚢胞 1L:ɟeɟen

ɟɪdɒscɔμ 【生物】肺兪、肺愈 【レベル】5 ˩˥

ɟɪdɒɪzl 【医療】肺結核 【レベル】4 1L

ɟɪdɒenuc 【名詞】心肺能力 【レベル】4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelˀʃ

J

ɟɪdφel　［軍事］空気銃、エアガン。エアソフトガンは ɥəlcφel。　ɟɪɑ;/　ᴊᴍ　［文化］　φel

ɟɪddɪn　［被服］着物　［レベル］3　ɪlʃ;<>ɟɪbe　ᴊ1

ɟɪddcʃ　［環境］大気汚染　［レベル］4　1L

ɟɪdhɪnl　［地学］［気象］大気圏　1L

ɟɪdhɔ　［生物］含気骨　ɟɪɑ;/　ᴊᴍ

ɟɪdhɔɪnʃəlɑ.　［化学］強いて言うなら凝結熱　［レベル］5　1L

ɟɪdhɔɪnɪ　［化学］強いて言うなら凝結点　［レベル］5　1L

ɟɪdhɔɪneɒ　［化学］凝結　［レベル］5　1L

ɟɪdɟe　［植物］サクラソウ、プリムローズ　［レベル］4　ɑ:ɟɪɪl;e　1ʔ: 制　ɟɪdɟe:ɟɪdɟe:lɪ aelcɟcɪ:lɔʃɔ̀lɔ, ɪlʃ

ɟɪdl　［生物］気管　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɟɪdlɔɔ（空気の管）

ɟɪdl(J)　［化学］ニトロ化合物　1L:ɟɪdlc

ɟɪdlɪ　［名詞］シュノーケル　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ɟɪdlc（空気）

ɟɪdlɪ(J)　［化学］ニトロ基　1L

ɟɪdlc　［地名］サプリ、サプリの村、幻月村　［美容］エアリーヘア　［歳時記］三候で一気　［レベル］5　古 :ɟcɑcɪ:「幻」アルカ発祥、「月」アルシェ。　［文化］　アシェルフィの街の西にある山間の小さな村。エヴァンジュランの産地。　ᴎ ɑcɪ ɑcn にバイアスらの襲撃を受け、一旦廃墟と化した。　・現実では　リディアの育ったフィンランドのヘルシンキより北部のとある街を意味するアルカ名。リディアの家は街外れの離れたところにあったが、ソーンの残党によって襲撃された。［成句］　ɑcɪn e ɟɪdlc uɪnɑ jen ɥə ɑɟɪɪɔɔn. サプリの田舎娘ですらファルアモンに襲われることがある：犬も歩けば棒に当たる　ɑcɪn e ɟɪdlc ɪɟeʃ ʃeeɒɟ サプリの田舎娘がやがて悪魔すら倒す：風吹けば桶屋が儲かる。得をするというニュアンスではなく、バタフライ効果的な意味合い。

ɟɪdlc,ɑ　ɟɪd　e

ɟɪdlcɟ　［魔法］雷。五行の５番　［医療］肺　［レベル］4　ɟzl;ɟɪdlc。空気。　ᴊ1　［文化］　ᴵleuɪnɟ

ɟɪdlɔɟ　［生物］気道。上気道と下気道の総称。　［レベル］3　1L

ɟɪdle,ɪɟɑ　ɟcɟd　ɟɪdlc

ɟɪdlen　［名詞］空虚、虚無、虚空　［形容詞］虚しい、空しい　［レベル］4　ᴊ1:ɟɪdlc

ɟɪdɪ　［生物］鰓、エラ、えら　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɟɪd から

ɟɪdɪlɔ　［化学］石油ガス　［レベル］5　1L

ɟɪdc　［気象］空気、大気　［レベル］2　1ʔ: 制 :ɟɪd

ɟɪdcl　［名詞］前転　［類義語］ɟɪhɔl　［反意語］lcdcl　［レベル］3　ᴊ0

ɟɪdcnɪ　［名詞］先約　［レベル］3　1L　［用例］　ɪn ʔeʃ ucl ɪlnɪ ɒcl ɟɪdcnɪ. 先約があったので、パーティーには行けなかった。

ɟɪdcɪ　［名詞］妄想　［レベル］3　ᴊ1:ɟɪdlc/ɑcɪ　［用例］　ɟɪdcɪ l'ɪn eɟɪʃ lel ɑcɪnɪ ɒcɟlɪnel　現実と名付けてみた妄想　（ＢＵＭＰ　ｏｆ　ＣＨＩＣＫＥＮ『レム』）

ɟɪdɔ　［名詞］スポイト　［レベル］4　1ʔ: 制 :ɟɪdl/lɔɔ　［用例］　ʃɪɑ. eɟ ʔɔn ɟɪdɔ スポイトで水を吸う

ɟɪdɔɟl　［普通動名詞］空気清浄　［レベル］4　ɪl;/　ᴊʔ

ɟɪdɔɟlɪɟ　［名詞］空気清浄機、空清　［レベル］4　ɪl;/　ᴊʔ

ɟɪdeɟʃɪɟl　［軍事］エアピストル、空気拳銃、空気けん銃　ɟɪɑ;/　ᴊᴍ　［文化］　φel

ɟɪdejcʃəlɑ.　［化学］凝縮熱　［レベル］5　1L

ɟɪdejcl̀ɪ　［化学］強いて言うなら凝縮点　［レベル］5　1L

ɟɪdejceɒ　［化学］凝縮、液化　［レベル］5　1L

ɟɪdelɑ　［言語］パロール　［レベル］6　1L: 空気中を伝わる言葉

ɟɪdeɪ　［言語］前置詞　［レベル］4　ɟɪɑ;/　ᴊʔ

ɟɪb　［被服］装身具、服、服装、衣服、衣類、着るもの、着物、被服　［動詞］ɥəl を ɪ に着せる、着せる、着る、かぶる、被る、はく、履く、穿く、身につける、身に付ける、装備する、つける、着ける、付ける　［普通動名詞］装備、着装、着衣　［レベル］1　ɟeɟʃ　1ʔ: 制 : 古 :ɟɪbe（服）。古アルカでは通して服の意味であったが、次第に装身具を意味するようになっていったのでその通りにして装身具の意味にした。　ɟɪ, ɟɪbe:ɟɪ, ɟɪbe:lɪ lecn　［語法］　ɟɔlɟ nene ɟɪb（着させる）。ɟɪb ʃɔʃɔ ɪ nene（着させる）。前者の着させるは相手に命じて相手が自分で着ることを意味する。後者の着させるは子供や死体など、自分で着れない人を介助して着させる場合を意味する。　［文化］　→ ɪɒɪlcɟ, lecn　・歴史　ɟɒ まで衣類は羊毛、麻、亜麻、木綿、絹、毛皮、なめし革などで作られていた。いずれも質素で動きやすいものであった。　ɟɒ 後期になって王政が盛んになり人口も増え戦間期で技術も発達したころから徐々に荘厳華麗な服がでてきた。　ɟɒ 後期でも民衆は晴れ着一着普段着一着で下着はあるかないかであった。当時は服はすべて仕立てるもので、はじめから服の形をしているものは古着しかなく、服は高価であった。寝間着はなく、普段着か裸で寝た。　洗濯をすると服が傷むため、洗濯は夏場で週一回、冬場で二週に一回程度であった。湿度の低いアルバザードだからできたことで、ɪlʃ 本国ではもう少し多く洗濯をしていた。　このころ庶民の服は、シャツ、チュニック、胴衣（チュニックの上に着た）、ズボン、股引（冬場にズボンの下に履く）、パンツ（持っている人は裕福だった）、寝間着（裕福な人しか持たなかった）だった。　ɟɪɑ で百年戦争が始まっても貴族は前線に出ないので優雅な服を着ていた。庶民はいつでも農耕できいつでも戦える実用的な服を着ており、古代からほとんど服装が変わっていなかった。　nɑ 以降は階層を問わず実用的な服が好まれるようになった。　また、大航海時代での植民地政策により、綿があまり取れないアルバザードにも魔方産などの綿が多く手に入るようになり、綿織物が一般化した。さらにこの流れを産業革命が促進した。　・女性の服は男性が選ぶ！？　ɟɒ の上流階級と革命後の ls では女性は自分の着る服を自分で選ばなかった。これらの時代はその女性に最も影響力を持つ男性が女性の着る服を選ぶというのが通例だった。例えば娘なら父親が、彼女なら恋人が、嫁なら夫がという具合である。ɟɑ_ɪl でも ɟɒ の名残で保守的で大人しい女性はそのように扱われることを好んだ。そのため、女性が男性を選ぶ際に「服のセンスが自分と合う人」という希望があった。　ɟɑ_ɪl では保守的で大人しい女性が主にこの習慣に従ったが、ɟɒ の上流階級や革命後の ls では逆に男性に服を選んでもらうことはむしろステータスとされた。つまり、「男の着せ替え人形になるなんて女性の人権を蹂躙しているわ」という考え方ではなく、「男に服も選んでもらえないなんて哀れな女ね」というレッテルを貼られ、同性からも蔑まれたわけである。当時はこの習慣はステータスで、男尊女卑などと思うことはなく、むしろ歓迎されていた。２０１２年現在の日本人には解説なしでは理解できない価値観であろう。　例えば女性がカレン半島まで男性と温泉に行って瓜式の浴衣を選ぶとする。たいてい浴衣は女性用が何種類もあり、男性用は一種類しかない。日本はこれを女尊男卑でやっているが、アルバザードではそうではない。というのもアルバザードでは男性が女性に着せたい服を選び、自分の目を喜ばせるために女性用の浴衣のバリエーションが多いためである。女性が「あれが着たい」と言って男性が採用する場合もあるが、普段は黙って男性の指定する服を着るのが女らしいと歓迎された。何を着せるかという点で精神的に男性は女性を征服することに充足し、女性は男性に征服され庇護を受けることに充足した。つまり男は女に服を着せることで自分を男らしいと誇り、女は男に選んでもらって相手色に染めてもらって庇護してもらうことで自分は守られるお姫様なのだと感じて満足するという心理である。［成句］　el ɟɪb ɟen ɟɪlɟ ʔɪc 大は小を兼ねる　［用例］　ɟɪb ɟɪɒel {ɟɪb ɪlʃ} 着替える。ɟɪb ɟɪɒel は動詞＋副詞。ɟɪb ɪlʃ は動詞＋目的語で、別の服を着るというニュアンス。　ʃɥə ʃɪn ɟɪb ʃə. これは私達で着回せるわ。　ɪ ləɪnɪʃ ɔl ɟɪb ɟɪɒ. 彼女は新しい服を着て現れた。　☆ ɪ ɟɔlɟɪʃ ɪn ɟɪb ɟɪɒel. 彼は私に着がえさせた：着替えるは ɟɪb ɟɪɒel。　ɟɪb eɒɪʃ jeɟɒcd. 服が湿ってしまった。　ɪn ɟɪɒ ɪʃ lɪl ɟɪb ɪɪɑel enz. できるだけ早く服を着替えたかった。　ɟɪb dɔdʃ{ɑeɑ} 厚い服 { 涼しい格好 }　ɪn ɟɪbɪʃ dɔdel lɪnɪ ʃel ɟɔɟʃ. 寒くないように服を着込んだ：着込むは ɟɪb dɔdel。　ɪn ɟɪb ɪʃ dɔdel cɒ aɪɟ. 朝、暖かい格好をした。　ʃə ɪʃ led lel sɪl nɔɟ ɟɪb oel. どの服を着るか決めるのが難しかった。　ɟɪb eɟ ʔɔɔʃ ɔn cnʔ{ɥəlɔheʃe}. 服が後ろ前だ { 表裏逆だ }。　ɪn eɪɪʃ ɟɪb le nɔɟ ɪɟɪbɪʃ dɔdel ɪʃ ɪɟ. 服を脱いだ後、床にそのまま投げ散らかした。　ɟɪb ɪɒɪlcɟ 服を後ろ前反対に着る　ɟɪb ɟɪlɟ ɪɒɪlcɟel T シャツを後ろ前反対に着る　ɪn ɟɪb uɪn ɟɪɒel ɒcʔɟɪb. パジャマに着替えよう。

ɟɪbʃc　［被服］後身頃　ɟɪɑ;/　ᴊᴍ

ɟɪbʃɔɟ　［被服］着丈　ɟɪɑ;/　ᴊᴍ

ɟɪbɟɪ　［被服］前身頃　ɟɪɑ;/　ᴊᴍ

ɟɪbɟɪʃ　［普通動名詞］身支度　［類義語］ledɟɪʃ　［レベル］3　ɟɪɑ;/　ᴊᴍ　［用例］　ɪɟ ɟɪbɟɪʃ 身支度をする　lə ɪʃjeɟ ʔɪdɪʃ ɪl ɪn cɒ ɪn ɪɟɔɟ ɟɪbɟɪʃ hcʃel. 慌てて身支度を整えていると、その兄から電話があった。

ɟɪbncɪl　［被服］ポールハンガー　［レベル］4　ᴊ1

ɟɪbɟez　［被服］スーツコード、ドレスコード　［レベル］4　1L:ɒelcɑcɪ ɪʃʃe　［語法］　学校では制服、会社ではスーツや作業服など、パーティ以外にも適応される概念。

ɟɪbl　［被服］［動詞］ɥəl を仕立てる、仕立てる　［レベル］4　1ʔ: 制 :ɟɪblɪɑ（服を作る）

ɟɪbleɒ　［料理］唐揚げ、から揚げ、からあげ　［レベル］3　ɟɑ;ɟɪbc/bleɒ　ᴊᴍ　［用例］　ɟɪbleɒ ɑcɪne ɪlʃɪ ジューシーからあげナンパーワン

ɟɪblecɒ　［企業］サブレイム　［レベル］3　ᴊ1　［文化］　マツモトキヨシに相当する企業。

ɟɪbɪ　［名詞］［形容詞］おしゃれな、お洒落な　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɟɪb　［用例］　ɟɪlɟ ɟɪbɪ おしゃれなシャツ

ɟɪbɪnse　［被服］メイド服　ɟɒ;ɟɪbe/ɪns ɪz ɪnse　ᴊᴍ　［文化］　ɪns

ɟɪbɟɪ　［被服］ファッション、モード　［レベル］3　ᴊ0:ɟɪbʃlɪɟ:1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelʃ　［文化］　ミロクがファッションを放蕩と定義したことにより、ファッション業界は廃れた。ミロク以前のファッション業界は今の日本と同じ状況であった。ファッション業界の主な消費者は未婚の女、特に二十から三十台にかけての消費が激しかった。特にブランド物で身を固め、高価な服や鞄などを所有し、他の女に牽制をかけた。　ミロクは服の価値は温度調節の機能、丈夫さ、動きやすさの機能、肌触りの良悪、宗教的意味合いにあるとした。ブランド物は持つことによって社会的地位を高めるが、この虚勢の誇示行為が差別を生む。そう考えたミロクは社会的地位を服の価値から取り除いた。ブランド業界は解体され、昔と同じく単に品質と丈夫さを売りにする商品に変わった。ブランド品とは昔と同じで品質が良く、持ちが良く、その分だけ値段が高いものを意味するようになった。　アルテナになってもこの傾向はあまり変わらない。ゆえにアルバザードの服は素朴でどれも似たものが多い。その代わり、機能性は抜群である。また、既製品はデザインが同じで変わり映えが少ないため、買った人は自分で縫い直したり縫い足したりして自分らしさを楽しむ。尚、帽子と靴も服と同じ価値観である。機能性がデザイン性よりも優先される。このことは手袋や靴下にもいえる。無論、下着にもいえる。　また、いくら機能性が高いからといって全体のバランスを考慮しないのはいけない。たとえばスーツにサンダルは統一性がなく、好まれない組み合わせである。フォーマルな服を着れば靴など他の要素もフォーマルで統一する。インフォーマルならインフォーマルで統一し、可愛い系なら可愛い系で統一する。統一性は機能やデザインよりも重要である。
＜歴史＞　最初に服を作ったのはエルト神である。彼はサールのために綿花から服を魔法で作った。　その後、神々は人間の姿になったときは親にならって服を着ていた。　悪魔はサティのように、服を着ないものもあったが、おおむね服を着ていた。　人類はユーマがサールに服を着せられた時点から服を着ていた。　ユーマの一族は最初から服を着ていたことになる。　原初は布をくり貫いた簡素な服をかぶるように着たり、簡素なローブをまとっていただけであった。　空調の魔法があったためである。　神は服に関してあまり関心がなく、単に裸体を隠すものとみなしていた。　しかし装飾には興味があり、数々のタリスマンを身に着けていた。　アズゲルになると人類の魔力が弱まり、常に空調の魔法をかけるのが重労働に感じられ、服が発達した。　アズゲルでは人類は各地に広まっていたため、風土に合わせた服が作られた。　メルティア 1,00L,L;1 年にルカリア交易が始まると、人類の服が神に伝わる。　神は人類が器用に作った服に感動し、神の間にもファッションが流行る。　このころはルカリアやレスティルの服が入ったため、神のファッションは基本的にこの時代のルカリア・レスティルのものである。　さて、それでは古代人はどのような服を着ていただろうか。　まだ生活に余裕のないころであるから、ファッションといっても機能性を重視したものであった。　まずは魔法がなくても寒暖を凌げる風土に合わせたものであること。　次に剣や魔法といった生きていく上で重要な技能に適応していること。　この２点である。　魔導師は裾や袖の広がった服を着ていた。　広がった裾や袖は魔力を増幅させるためである。メガホンで声を増幅するのと同じ原理である。　ここで初めてスカートが生まれ、魔導師に愛用された。魔導師の大半は女性なので、スカートは女性服となった。　一方、剣士は混戦時に引っ張られたり踏まれたりすると転んでしまうという理由でスカートやローブを避け、こうしてズボンが作られた。　ただし格闘家や一撃必殺を主とする後のカランなどは運足を悟られたくないという理由で袴を開発した。　このように、古代人のファッションは生き残りをかけた必然性から生まれてきたものである。　これは髪型なども同様である。人体で最も魔力が宿るのは髪なので、女性は髪を伸ばした。　しかしそのままでは戦いにくいため、戦闘時はひとつ結びにした。これが現代も残る ɪɟʃɪnɔɪ である。　髪を結わくという行為は成句として「覚悟を決める」などの意味があったが、アレイユでは「気を引き締める」の意味に変化している。　男性は剣士は長髪だと邪魔なので髪を短くした。　ただし後のユールのような魔導師系は女性同様、髪を長くしていた。　宝飾はタリスマンとして女性が身に付けることが多かった。　男性は魔力にあまり関係がないため、身に付けることは少なかった。　ɟɑ までこの傾向は続き、地球のようなファッションが始まったのは大航海時代と植民地政策と産業革命が起こったその後の時代である。　ヴェレイでは奇抜なファッションが流行ったが、ミロク革命で過度なファッションは贅沢で悪徳とされ、アルティス教的なシンプルで質素な服装が主流となった。ただしパーティなどでは着飾る。

ɟɪbc　［料理］コーティング、てんぷらの衣、衣、ころも　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɟɪb

ɟɪbcɟ　［形容詞］音が篭もった、籠もった、響かない、くぐもった　［反意語］lcuɪl　［レベル］3　@ 1L

ɟɪbcɟdɪlɪn　［音楽］クラリネット　［レベル］3　1L　［用例］　ʃə eʃ led lel el ɟɪ ɟɪbcɟdɪlɪn. クラリネットを吹くのは難しい。

ɟɪbe,ɑ　ɟɪb　ɑ;e

ɟɪh　［交通］ヨット、小型帆船、帆掛け舟　［レベル］4　lɪʃɪ

ɟɪhɔɒ　［被服］前あき、前開き　ɟɑ;/　ᴊᴍ

ɟɪhɔl　［名詞］空中前回り、前転　［類義語］ɟɪdcl　［反意語］lchɔl　［レベル］4　ᴊ0

ɟɪɥɪ,ɪlʃ　dɪɟʃ

ɟɪɥɪl̀ɪ　［筐堺］サヤカ　［レベル］5　ɟɑ; ラルドゥラの故郷の村の名から　ᴊ1　［文化］　筐堺司：ɟɪlɑə ɟɪ lɔlɔɟ　筐堺国：ɪlʃcɪ, lɔlɔɟ　サヤカはアルティア寄り、ロロス南部の村。実質サヤカ筐堺はアルティアを指す。サヤカ筐堺の幼字は凪を示す国際的な国字として使われる。

ɟɪɥɪl̀ɪ(J)　［地名］サヤカ　［レベル］5　zφ;lɔlɔɟ 語で「激戦区」。ɥɪ は「痛み」、l̀ɪ は「場所」。　［文化］　ラルドゥラの故郷の村。ロロス南部、アルティアの境界線付近に位置する。

ɟɪɥɔ,ɪlʃ　zɪɒ, ləɔɪ

ɟɪɥɔnelɔ　［名詞］オンドル　［名詞］床暖房、床暖　［レベル］2　ɟɒ;「足温かい」　ᴊ1　［文化］　アルティア人が発明し、ɟɒ でルティアに普及し、ul でアルバザードにも普及した。　［成句］　lɪɑ ɟɪɥɔn elɔ ɑccnɪ nɔc　息子のためにオンドルを敷く：孟母三遷。ルティア人の親が息子の仕官のために家を暖めて勉強しやすい環境に整えたことから。

ɟɪɥə　［被服］サユ　［レベル］2　古 :ɟɪɥə。ɟɪɥə は ɟɪlɥə から。ɟɪlɥə は祭壇の ɟɪlɥə ではなく、これと同音異字の ɟɪlɥə で、意味はシャツ。　［文化］　アルティス教徒の女性服。シャツに似た服で、ラーサとルフィの合わせとして着られる。ラーサの下に着る。

ɟɪrle　［動物］ブリ、ハマチ、イナダ、ワラサ　［レベル］3　1ᴎ: 制 :ʔɪcɟhɪrle（マグロアジ）　［文化］　食用され、好まれる。

ɟɪɥ　［動詞］ɥəl を ɪ に戻す、戻す、戻る、退化、さかのぼる、遡る、撤退する、後退する　［普通動名詞］復帰、帰り、復元、元に戻ること、後退　［普通動名詞］巻き戻し、巻き戻しする　［音楽］ナチュラル　［言語］再帰　［反意語］dɪl̀　［レベル］2　1ᴎ: 制 : 恣意　［用例］　ɟɪɪn ɟɪɥɪʃ. 軍が撤退した。

ɟɪɥʃ　［名詞］神々、神、神様、かみさま　［生物］サルト、神科、幻神。エルト属とサール属の総称。　［類義語］jelʃ、ɒcɟɔl、ɪlcej　ɑu;ɟɪɥ/eɟʃ　［レベル］2　1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelʃ　ɟɪɥʃ:ɟɪɥʃ:ɪlcej → ɪlcej,ɟzɑ　［語法］　→ ɪdʃ, eɟʃ　○名（前置）　×姓　○男女　○単体使用 / 名詞用法　エルトの一族とサールの一族を区別しない言い方。

ɟɪɥᴎɪᴎ　［経済］［歴史］神人貿易　［レベル］4　ᴊ0　［文化］　メルティア１０４万年、膠着したラヴァスを終戦させるため、神々は和平に向けて協定を結んだ。　協定の内容は攻撃の停止と、互いの領土を侵犯しないことであった。しかしこれには２点問題があった。　１つは前線付近の領土がどちらに属するかという議論で再び揉めてしまうだろうこと。　１つはラヴァスの激しい戦いで、エルトの一族の領土アンシャルも、サールの一族の領土インサールも荒廃していたことである。　これらの問題を解決するため、神々は戦禍を免れた土地を新しい領土とすることに決めた。　その候補地はいくつかあったが、元々神々が生まれたフィーリアが最終的に選ばれた。　神は神の世界アルフィを作って新領土として半分ずつ分割し、移り住むことにした。　神の造形術は剣などの小さいものを作る能力であり、世界は創世できない。　そこで彼らはフィーリアのミナカルモに行き、ミナカルモを切り取って異次元に送った。　異次元に送るという魔法も相当強力なものなので、ミナカルモを送るだけでも精一杯だった。　ミナカルモは外側から見ると霧がかった湖に見えるようになった。　その湖はミナ

ルドゥといい、湖に入ろうとするといつの間にか反対側に抜けてしまう。　アルフィの西側をエルトが、東側をサールが占有した。　こうして神々はアトラスから去った。　神々は互いに抜け駆けを防ぐため、「アトラスの領土を侵犯しないこと」という協定を結び、原則としてアルフィから出ないことを互いに約束した。　こうしてアルフィに住み着いた神々だが、フィーリアには古レスティルほどの植生がないことに悩んだ。　つまり食べ物の種類が少なく、資源の種類も少ないのである。　そこで神々は人間界の資源に注目した。しかし協定により神々は人間界を侵略できない。　神々は人類に供物を捧げさせればよいと考えた。だが単に供物を捧げるだけでは人類側に利益がなく、従う理由がない。　もし供物を捧げないことでエルトがアルバザード人に神罰を与えれば、それはサールから見てエルトがアルバザードを侵略して資源を奪ったとしか見えず、協定違反となる。むろんこれはサールにもいえる。　人類はこの事情を知っているので、いくら神が脅したところで人類は従わない。

そう考えた神々は人類に貿易を持ちかけた。　こちらからは有事の際の神の加護という名目の軍事力とフィーリアの資源を提供する。　その代わり、人類からは資源をもらうという内容である。例えばメティオ産の香辛料や、アルバザード産の銀細工を得るなどといったものである。　アルバザード人に神罰を与えるのは侵略行為になるが、契約を結んだ相手に加護を与えるのは侵略ではないため、協定違反にならない。　知恵を捻ったユルグはこれを女王ルフェルに進言。ルフェルはこれを受け入れ、人類に話を持ちかけた。これを知ったアルデスは即座に真似しはじめる。　こうして神と人類の貿易が始まり、アルフィから出てはならないという協定に「召喚時を除き」というルールが加えられた（そのため、上で「原則として」と述べた）　貿易が始まると、貿易を担当する人間が現れた。これが召喚士の起こりである。　初期の召喚士は魔法使いというよりは、商社や通関士に近い存在であった。神人貿易は大きな市場となり、召喚士はめきめきと頭角を現していった。　これに慌てたのが王たちである。王は召喚士の権限を弱めようと尽力するも、かえって召喚士の反発を受け、逆に滅ぼされていった。　召喚士は貿易利益によって地球のメディチ家以上の経済力を付けていった。　神は金払いがよく、各土地のサリュを通じて納品するため、輸送費もほとんどかからない。輸送にかかる旅費や人件費も大幅に節約できる。その分の利益はまるまる召喚士が得られる。　通常の貿易のように長い行路がかかると腐ってしまうものでも、神人貿易なら捌くことができる。商品のロスが少ない効率のいい貿易だった。　さらに神の加護という名目で強大な軍事力も付けたため、王位はどんどん召喚士によって奪われていった。

こうして召喚士国家が成立していった。　さて、神々は互いに反目しているため、召喚士は常にエルトにパイプを持つかサールにパイプを持つかで二分された。　エルトにパイプを持つ者はエルトのみから加護を受け、エルト召喚士となった。サールのほうはサール召喚士である。　こうして召喚士は二分された。では、複数できた召喚士国家をエルト・サールで分類すると、どのような分布になるだろうか。　もともとラヴァスにおいてエルトの領土は主にアンシャルで、本拠地はルカリア、現ヒュートにあった。　一方、サールはインサールを領土とし、本拠地はカルセール、現ヴェマにあった。　エルトはアンシャルの資源に慣れているので移住後もアンシャルの資源を欲しがった。サールはインサールの資源を欲しがった。　従って、アンシャルにはエルト召喚士国家が、インサールにはサール召喚士国家が分布し、世界を二分していた。　なお、ルティアは召喚士的にはアンシャルと同じエルト側に属し、アルバザードと親和性の高い国であった。　また、貿易はあくまで神々と親交のあったシフェルの一族とのみ行われたため、マレットの一族は貿易に参加しなかった。マレットの資源に対する神からの需要がなかったことも理由のひとつである。　神人貿易は経済と技術の発展を促したため、このときの出来事が決定的にシフェルの優勢を導いた。

西のエルト召喚士国家は自らを上弦の月ドゥルガと呼び、東のサール召喚士国家は自らを下弦の月ヴィーネと呼んだ。　神人貿易によって国家が潤い、新しい王が出て政治が安定すると、人間の暮らしも豊かになった。　国民のＧＮＰ（このころはまだＧＤＰではなく）が上がったことで、国民の経済力も付き、購買力がついてきた。　商品売上が増加したものの、まだこの時代は産業革命からほぼ遠いため、大量生産はできなかった。　工場の就職は売り手市場になり、人口も増加した。そして資源が足りなくなった。　そのため、限られた資源を奪い合う状況ができ、ドゥルガとヴィーネの対立が起こった。　エルトは原則としてアンシャルのものを欲しがるが、国民はインサールの米でも食べる。　また、エルトであってもインサールで取れた綿から作った服を着ることに抵抗はない。　資源の奪い合いは熾烈を極め、これが月戦争カコへと発展していく。

ɟɪɥʃɟel ［ユマナ］休日、週末、土日 ［レベル］2　ɟ0

ɟɪɥʃlɕɒ ［言語］音韻創造 ［レベル］5　ɟ0: サルトの音韻 ［文化］ɟɪnɟɪɔʃ

ɟɪɥʃɪlʃ ［言語］フィルヴェーユ語の数　ɟ1 ［語法］ɑ.同様前置される。　数は10進法になり、ʔ0はcscɪlɪ になる。　千はʃeɔdɪlɪlɪ（葉の数）からʃeed。　万はɟedɪlɪlɪ（砂の数）からɟɘɘd。　0が作られ、ɥɘɘ で表された。　ɟ1進法が追加され、1～ɟ1まではアルミヴァの名が併用された。　ɟ_10進法のエルトの数ではɟ進数がベースなので、このɟ進数とɟ1進数が組み合わさってʔ0進数ができ、後の時間や角度などに繋がっていく。　特に時間を1時間ʔ0分にしたときは、このʔ0進数がそのまま使われた。　ɟ1進法やɟ_ɟ1進法は時計や角度など、使用が限られ、日用は主にɟ_10進法が使われた。　ɟ0進法は衰退した。

ɟɪɥʔ ［地学］オアシス ［レベル］4　ɟ0: 制：古：ɟɪɥɘɟcɪ（砂の水）

ɟɪɥnɘ ［言語］サルヌ ［レベル］5　古 ［語法］ɘɟʃ

ɟɪɥɑɔnʃ ［名詞］帰り道 ［レベル］3　ɟ1 ［用例］ʃɘ lɪɑ lɕu e. nɔn lənɪʔ ɪɟə lɪnɪ ɪʔl ʃɥɘ ʃɕɟɟɘ.　ɥɘə ʃɕl ʃɥɘ ʔlɘn ɑelɘz cn ucl nɔn ɪə.　ʃɥɘ nɪ uɘɒ ɔn ɟɪɥɑɔnʃ jɘʃɘ'ȣ ɒcl cʃɟ jcl ɥə ɒɘ.　lənɪ uɪɟ lccʃ ɑɔnʃ ɪlʃ.　ʃə ʃɘ ɑɔnʃ nɘʃɪlɘʃ, ʃə ɘʃ ɑɔnʃ ʃəɪn ɘə.　声を立てないでね　あなたを助けにきたの　教室の誰にも　わたしが見えてないのよ　帰り道がこわいのね　またぶたれるから　他の道を行きましょう　誰の都合でもない　あなただけの道を　（新居昭乃『人間の子供』）

ɟɪɥɒ ［経済］債務 ［レベル］5　@ ɟL

ɟɪɥɒɪn ［経済］債務者 ［レベル］5　ɟL

ɟɪɥɒɕlɕ ［名詞］戻り汁、精子、膣内から出てきた精子 ［レベル］6　μɑ;/　ʃʔ:ɒel。概念自体は古からあった。　［文化］膣内射精後に膣から出てくる精子のこと。浅めに出して陰茎を抜いた直後にすぐ漏れてくるものと、その場では出てこないが後で立ったり座ったりしたときにドロっと降りてくるものとがある。後者は風呂で中を洗浄しないかぎり防げない。　アルバザード人は前者にエロティシズムを感じる。中出しした証拠とみなすためである。中出しもののＡＶなどでは、戻り汁とともに、抜いた陰茎を手で絞って先端から出した残り汁を映すことで擬似でなく実際に中出しした証明とすることが一般的である。視聴者はそれを見て実際に膣内射精したことを確認し、戻り汁を流す女性器を見て興奮するという仕組みになっている。　男性は膣内射精をした証拠として戻り汁を好む傾向にあるが、女性は愛する男性の精子を全て取り込みたいと感じることが多く、戻り汁をあまり好まない。そのため、膣内射精後も精子が漏れにくい騎乗位以外の体位を好むことが多く、射精後は大人しくベッドで寝ていることが多い。

ɟɪɥɑccn ［地名］サルディーン ［レベル］5　ɒelʃcɪ ʃʔ jen ucɪ;ɟɪɘɑcɪ（雪の土地）　ɟ0:μcɑcɪ:ɟɪɘɑcɪ（雪の土地）が音変化したもの。　［文化］古代国家のひとつ。アルディアルの東。ハーディアン人の移民によって建国された。

ɟɪɥdɔʃɪ ［法律］遡及 ［動詞］ɥel について遡及する、遡及する ［レベル］4　ɟ0: 遡って言及する

ɟɪɥɒel ［植物］ひいらぎ、ヒイラギ、柊、セイヨウヒイラギ ［レベル］4　ɟ0:jɒe。服をさらに着るころに見ごろを迎える。アルバザードだと見ごろとされるのは少し遅く１２月の頭ごろ ［文化］むしろセイヨウヒイラギを指す。　アルバ王室の家紋は六角柊。

ɟɪɥɒelcɪ ［歳時記］大雪 ［名詞］２１時 ［組み数字］２１／２４ ［レベル］3　ɟ0: → ɪnlcɪn ［文化］ɪnl cɪn

ɟɪɥɘɔ ［言語］再帰動詞 ［類義語］ɪʃɟɥɘɔ ［レベル］4　μɑ;/　ɟʔ

ɟɪɥɘɔɪɟɪ ［言語］再帰動名詞 ［レベル］4　ɟ1 ［文化］cuɪ

ɟɪɥɘɔɪɟɥə ［言語］再帰分詞 ［レベル］4　ɟ1 ［文化］cuɪ

ɟɪɥlɔʃ ［電算］バックスペース ［レベル］5　ɟ0

ɟɪɥɪ ［人名］サラ ［組み数字］2 / 5 ［レベル］4　jzʔ　ɟ1 ［文化］→ μɪdɪll ［成句］ɟɪɥɪ e hɪncuɪl 紅一点

ɟɪɥɪn ［名詞］先住民 ［反意語］lcɟɪn ［レベル］4　μɑ;/　ʃʔ

ɟɪɥɪ uɪμʔɔɑ ［人名］サラ＝ヴァークトッド　ɟ1 ［文化］アルシェ＝アルテームスの義兄弟。戦闘に長け、義父ハインや義兄アルシェを助けた。

ɟɪɥcʃ ［言語］回復点 ［レベル］6　ɟ1 ［語法］イントネーションに関する概念。ɪn jccnɪ ɑclʃ だとɑc が回復点となり、文全体として下がっていた音の高さがある程度回復する。アルカの文は回復点を随所に含むため、文頭と文末で音の高低差が少なく、音域が狭い。これにより落ち着いた印象を与えるとともに、男性は低い声を維持したまま、逆に女性は可愛らしい声を維持したまま話すことができる。また、男性は高めに女性は低めに維持することで中性的な印象を与えることもできる。　ɪn jccnɪ ɑclʃ の場合、ɑc の部分を起点に音が高く戻るため、戻る起点ということで回復点 ɟɪɥcʃ としている。el ɟɪɥ jɔɟcʃ e μecɑ ɪ jɔɟen c ʃə "ɑc"（言語音の高さをこのディの部分から高いところまで 戻す）というところから cʃ 格が造語要素になっている。　回復点　アルカのイントネーションには回復点 (ɟɪɥcʃ) というものがある。日本語の場合、ダウンステップにより文頭は比較的高く、文末にかけて声がだんだん低くなるという現象が起こる。アルカも肺臓気流を使うためダウンステップは起こるが、回復点があるという点で日本語と異なる。この回復点がアルカ独特のイントネーションを作り出している。回復点を学ぶことでアルカのイントネーションを理解することができる。　文頭から文末にかけては通常音が低くなる傾向にあるが、回復点が来ると音の高さが一旦持ち直す。

回復点は例えば動詞＋目的語の場合、目的語のアクセントの来る部分に存在する。例えば jccnɪ ɑclʃ の場合、ɑclʃ の ɑc の部分に回復点が来る。同様に、名詞＋形容詞の場合は名詞にも形容詞にも回復点が来る。また、格詞の後の格詞目的語にも回復点が来る。　アルカの語順はＳＶＯであり、それを拡張するためには主に格詞句を使う。或いは名詞に形容詞を付け加えたり、副詞を挿入したりといった方法で文を広げていく。この単純な構造と回復点の位置が分かっていれば、回復点に耳を集中させることによって文の構造を聞き取りながら理解することができる。　回復点が随所にあることで、アルカにはダウンステップがあっても文頭と文末の音の高さが日本語程変わらない。言い換えればアルカの音域は狭いということである。この結果、女性は高く可愛らしい声を維持したまま喋り続けることができるし、逆に男性は低く落ち着いた声を維持しながら喋ることができる。　また全体として印象は落ち着いた感じになる。抑揚が少なく落ち着いた印象を与え、大人びた印象を与える。　日本語の場合ダウンステップの結果文末の音が低くなるので、逆に文頭をあらかじめ高く発音しておかないとを音の高さが持たない。人間はある程度までしか低い声が出せないので、自分の声の最低の低さを限界点として、逆に文頭をあらかじめ高く読んでおかなければ、後から声が持たなくなる。ゆえに日本語の場合は文頭が高くなる傾向にある。　アルカの場合回復点があるので、始めから低くても最後まで低いまま維持できる。音の高さが随分違い、抑揚が全体的に少なく音域が狭い。　回復点を大文字で示す　ɑɛɑɪcʔ e ɥʃlc ɪe ʔʔnʃɪe cɒ nɛɪnjel ʔɪ ɪμbɪzʔɥɑ.　アルバザードの子供の多くは休みの日に公園へ行く。

ɟɪɥcɪ ［歴史］サリア時代、幻神の午睡、かみがみのうたたね ［レベル］3　古 :ɟɪμʃ/ 古 ncɪ（神々の休息）。戦間期かつ黎明の後であることから午睡となっている。　［語法］［文化］ヴァステとラヴァスの間の約２万年間の平和な時代。

ɟɪɥɔɒɪ ［動物］ラブラドールレトリバー、ラブラドール ［レベル］6　ɟ1

ɟɪɥɔlɒɪ ［名詞］折り返し→ lec　ɟ1

ɟɪɥeʃ ［交通］ブレーキ ［レベル］3　ɟ1:ɟɪɥ/ʃe

ɟɪɥen ［被服］ワークシャツ、カジュアルシャツ ［類義語］ɟɪlɪɟ ［レベル］4　ɟ1:ɟɪɥen.lʃ(ɟɪlɪ)

ɟɪɥenɟ ［名詞］プロローグ、前口上、序章、序幕 ［反意語］lcɟenɟ ［レベル］4　μɑ;/　ɟʔ

ɟɪɥensɪn ［被服］サレンジャン、腰巻シャツ ［アクセント］ɟɪɥensʔn ［レベル］4　ɟ1: 空のサレン ［文化］サレンを腰に巻く男性のファッション。夏など、暑い時期に行う。特にリア充系の若い男性が好む。ひらひらとスカートのようになるところがアルバザード人に好まれる。ヴェレイに一度起こり、廃れた。その後アレイユで再びトレンドとなった。

ɟɪɥecn ［軍事］前衛 ［レベル］4　ɟ1

ɟɪzɪɒ ［生物］前脚 ［レベル］3　μɑ;/　ɟʔ

ɟɪzɔʔ ［生物］前頂　ɟ1

ɟɪzelɔ ［生物］前頭葉 ［レベル］4　ɟL

ɟɪs,ɟzɑ jzɑ の対格語尾　s は sə で「受ける」

ɟɪsenʃ ［経済］寄り前。アルバザードのイレンだと９時前ごろのこと。　ɟ1

ɟɪoɪ,lʃ ʃeeze

ɟɪoɪʔɔʃɪn ［魔法］シルフ、シルフィード　ɪlʃ;/　ɟʔ

ɟɪoɪnɔʃ ʃɔj <ɟɪoɪ,lʃ

ɟɪoɪnjɔʔəlɕ ［名詞］香織交わし ［レベル］6　jɒ;<ɪlʃ　ɟʔ ［文化］恋人や親子などが互いの上着などを着て互いの匂いを相手の服に付けること。服のサイズが大きい男性→女性でのみ行う場合もある。　別れを惜しむ恋人たちが別れた後も相手を感じていられるようにとの発想でできた凪人の風習で、jɒ で流入した。　服（織物）に匂いを染み付けたことから、「香織」交わしと訳している。　現実には鼻の敏感なセレンが遠距離恋愛をしているリディアや娘の紫亞の匂いを感じていたいという願いのもと、自分のコートを相手に羽織らせたり、コートを着たまま抱いて相手の匂いを染みつけたりしたことに由来する。

ɟɪl ［名詞］長、リーダー、トップ、代表、会長、家長、議長、主任、院長、首長、長官 ［経済］店長、店主 ［娯楽］ゲームの親、ディーラー ［建築］棟梁 ［類義語］eeleʃ ［レベル］2　ʃɒ;ɟɪɥccl.ɪ 中期制アルカ　ɟɪl:jɪl:

ɟɪl,jzɑ ɒɪcn <>ɟɪɪl

ɟɪlʃ ［名詞］年、一年 ［類義語］ʃɔlcɟ ［レベル］2　ʃɒ;「神の逢瀬」が原義。ɟɪɪl と elʃ の混成。彼らが一年に一回セルヴァーナで逢瀬をしたことから。　ɟL　ɟɪlʃ:ɟɪlʃ:lɪ ʃɔlcɟ(lə ʃɔlcɟ の反対）［語法］ʃɔlcɟ ［用例］ʃə ɟɪlʃ 今年　ɪn ɑelɪʃ nɪφclc ɑɔl 1 ɟɪlʃ. 私は凪霧を一年間学んだ。　xɪn eʃ ɟɪlʃ ʃ9. → ɪn ʃcl ʃ9 ʃɔlcɟ. = ɪn eʃ ʃɔlcɟ ʃ9. 私は２７歳です。

ɟɪlʃɟɪɑenɑc ［気象］年較差　ɟL:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɟɪlʃɑɪlʃc ［経済］年初来高値 ［レベル］6　ɟ1

ɟɪlʃɑeɟ ［経済］年初来安値 ［レベル］6　ɟ1

ɟɪlʃɑcʃ ［経済］年収 ［レベル］4　ɟL

ɟɪlʃhel ［歳時記］年末 ［レベル］3　μɑ;/　ʃʔ

ɟɪlʃɔɟn ［歳時記］年始 ［レベル］3　μɑ;/　ʃʔ

ɟɪlʃeɟɪ ［気象］年間降水量 ［レベル］4　ɟL:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɟɪll ［普通動名詞］公認 ［動詞］ɥel を公認する、公認する ［レベル］4　ʔ: 制：古：μjccllɪlʃ「ルシーラが良いと言う」［用例］ɒɔel ɟɪll cɒdμen ɔn ɪμbɪzɪμɑ. アルバザードでは政府が風俗街を公認している。

ɟɪlɟɪ ［人名］サルサ ［組み数字］6 / １４ ［レベル］4　語源不詳 ［文化］第４期３代アルシェ第６使徒。女性。

ɟɪlɟɪlcl ［化学］ユウロピウム　ɟΛ: 制

ɟɪlɒɪn ［地名］サルマン山　ɟ1:ɟɪɪl/ɒɪcn ［文化］→ oɪlɟel　アルナ西部にある山で、標高１０００メルフィ程度。中世から王族の遊興の場として愛され、現代でもハイキングの名所となっている。ここの山開きがoɪlɟel となっており、イムル暦では５・９ごろ。

ɟɪlɒɪnʃ ［企業］サルマント　ɟ1 ［文化］フジテレビに相当する企業。

ɟɪlɒcn,ɑ. ɑcɪcn ɟɪɪl/ɒccnɪ

ɟɪlɑcʃ ［宗教］サルディス ［レベル］5　古 :ɟɪɪl/leʃcɟ から ɟɪlʃcɟ だったが、有声音に同化して ɟɪlɑcɟ となった。　［語法］［文化］レティスのうち、サール派のもの。

ɟɪlφɪlɒɔ ［地名］サルガレム ［経済］大底 ［レベル］6　ɟ1:「サールの慙愧」［文化］ɟeləɪ

ɟɪlɥə ［名詞］祭壇、サリュ、台座、オルター、アルター ［名詞］アンシャンテしやすい場所 ［電算］携帯電話の電波が通じやすい場所 ［反意語］ɒcʃʃe ［レベル］3　古 :ɑəlɒccɪ ［語法］［文化］祭事を行う場。アルデと交信しやすい特殊な場所のこと。

ɟɪlɥəɒ ［魔法］風絹、サリューム ［アクセント］ɟɪlɥƎɒ ［レベル］5　ɟ1:jɪlcɟ/ləɒccne → ɟɪləɒe のアルバザード読み ［文化］jɪlcɟ で作られる繊維。悪魔サティの髪の毛を手に入れた村人が最初に作った。軽くて高品質なのでどうにかこれをもう一度作れないかと実験した結果、ɒɪlʃjel の髪でも同じものが作れることに辿りつく。しかし数の少なく飼いならすのも難しい ɒɪlʃjel を使うのは大変なため、ɒɪlʃjel と村の男性をかけ合わせて娘を産ませ、その魔人の髪からサリュームを作ることとした。　jɪlcɟ の村の少女はたいていサリュームの材料として作られ、髪が綺麗で長いほどもてはやされた。　当然中には ɒɪlʃjel の血が薄く、髪が物にならない少女もいる。サリュームは大量生産できるものではないので、サティスの村は裕福というほどではない。　となれば血の薄い娘は手作業を手伝う以外に金を産まないこともあって、親に捨てられることがあった。運良く拾われても酷使され、血の滲むような思いをさせられることが多々あった。　夢織のサエ＝サティスもその一人である。捨てられたところをサティスの森に隠れ住んでいたアルハイクが拾って育てた。

ɟɪlɥəcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］さいだん座　ɟʔ ［文化］cɑɪ

ɟɪlocʔ ［動詞］ɥel をきょろきょろさせる、きょろきょろさせる、きょろきょろする、キョロキョ

ロする ［普通動名詞］きょろきょろ、キョロキョロ ［レベル］3 μɑ;je/ɪlocʔ「何度も首を横に振る」 ɟʔ

ɟɪlɪ ［代詞］［dɔʔɔ］あなた、そちらさま ［レベル］1 ɟʔ:eʔeʃɔne:ɟɪlɪn(先輩)

ɟɪlɪ(ɟ) ［歴史］サラ族 ［レベル］6 ɟ0: 古アルディアル語「雪の人」

ɟɪlɪʃ ［ユマナ］［宗教］リンボ、辺獄 ɟθ:「キリスト教ができる前の地獄」。地獄に行くべきでない偉人が行くので実際には地獄ではない。

ɟɪlɪɟ ［被服］シャツ、ブラウス、肌着、ワイシャツ、Ｙシャツ ［類義語］ɟɪɟen ［レベル］2 ɑu;ɟɪ は ɟɪbe から。 ɟʔ:eʔeʃɔne<ɟɪlɪ:ʔʔ: 制 : 古 :ɟɪlɥe。祭壇の ɟɪlɥe と同音異字。 ɟɪlɪɟ;ɟɪlɪɟ ［文化］ ɑu のころは前開きの上着で、腰の下まで長さがあって股間を隠せた。 ɟɒ でボタン、襟、袖口が付けられるようになった。 ［用例］ ɪn ɟɪbɪʃ ɟɪlɪɟ,lɔɔɟ,dɔɟɪ,ɥɟɔ. ワイシャツ、ベスト、ネクタイ、ズボンを身につけた。 ɪn lɪʃ lɔɔz e ɟɪlɪɟ ɪ ɥɟɔ ɪlɑəʃel. シャツを着る際は必ずズボンに入れて着る。

ɟɪlɪn ［名詞］先輩、先駆者、兄弟子 ［反意語］lɔlɪn ［レベル］3 1L:ɒelcɑɔɪ ɪlʃe: 先の人 ［語法］［文化］ ɪlɟeɟ 年上とは限らない。長いキャリアを持つ相手に敬意を持って使う。日本語のセンパイに近い。呼称できる。 また、ＯＢにも直接繋がりがある相手には ɟɪlɪn といえる。 呼びかけでは後置。 ［用例］ lecn ɟɪlɪn レイン先輩

ɟɪlɪnʃcɟ ［シェルト］前衛、前衛の駒、歩 ［レベル］4 μɑ;/ ʔʔ

ɟɪlɪnɪʔ ［軍事］照星、フロントサイト μɑ;/ θθ ［文化］ φel

ɟɪlɪc ［建築］円形都市、サライ、街 ［レベル］3 1L:ɟɪlɔɪ ［文化］ → ɟɪʊnɪ アルナとカテージュにある円形都市のこと。μɑ でアシェットがアルナに作り、アルテージュに近かったカテージュの行政が対テームス用として同じく円形都市を築いた。

ɟɪlɪcdɔl ［名詞］広義の都心。アルナ９市とその周辺まで。南だとカテージュ９市とその周囲。 ［レベル］4 ʃʃ

ɟɪlɔɪ ［名詞］結晶 ［ポジティブ］アルナ式円形都市 ［レベル］4 1L:μcɑɔɪ:ɟɪpbɪlelʃ:ɟɪe/ɑlɔɪ（雪水晶）

ɟɪlɔ ［被服］ベール、ヴェール ［レベル］4 ɑu; ↓ 古 :ɟɪlɔ（絹）。ɟɪ（絹そのものだけではなく絹のように薄く綺麗な布をも示す）/lɔ（頭） ɟɪlɔ:ɟɪlɔ

ɟɪlɔl ［生物］小腸 ［レベル］4 ʔʔ: 制 : 前の方の腸

ɟɪlɔɪnʃ ［政治］関白、サロアント ［レベル］4 ɟ0:ɟɪlɔ/lɪnʃcɟ（ヴェールをまとった人＝影で操る人） ［文化］ ɥeəɒɪ ᴨᴨʔᴨ ユキナ死亡。メリウセルが神商会の新たな代表となる。メリウセルは力でのし上がった人物で、強力な魔力を持っていた。その力を活かして神と次々に契約を結んでいった人物である。このときペティがまだわずか１００歳にも達していなかったため、メリウセルが関白という地位を築いて政治を見た

ɟɪlɔejd ［気象］巻層雲、うす雲 1L

ɟɪlen ［代詞］［dɔʔɔ］あなたの、そちらさまの ［レベル］1 ɟʔ:eʔeʃɔne:ɟɪlɪ/en

ɟɪlen(ɟ) ［経済］約定 ［レベル］6 ɟɟ: 取引所の人間が買った人間に「そちらさまのもの（になりましたよ）！」と言ったところから。

ɟɪlenɑ,ɟzɑ ɥeʔ ɟɪl/enɑ

ɟɪleɒɪ ［名詞］［形容詞］上記、上述、上掲 ［反意語］lɔleɒɪ μɑ ʔʔ

ɟɪleɒɔɪ ［歳時記］ルヴィアイブ、サルヴィア ［レベル］2 ʃʃ

ɟɪleɒɪ ［生物］前足 ［レベル］3 μɑ;/ θθ

ɟɪleəpel ［歳時記］ルーメルイブ、サルーメル ［レベル］2 ʃʃ

ɟɪɪ ［感動詞］えー、あのー、あー、えーっと、なんていうか、たしか……、確か…… ［レベル］1 古 : 語源不詳。言い出した者も不明 ［語法］ ɟɪ と ɪ は高→低でなく、常に低音で発せられるため、日本語の「さぁ」で発音しないことー。ウィリアム・ジョーンズとカタカナで言うときのサーの発音に近い。 ［成句］ ɟɪɪθ はて？、さぁ？

ɟɪɪʔ ［形容詞］印象的な、心にひっかかるような、詰まる、つっかえる、良くも悪くも心に残る、心に残る、印象に残る、心に残る、気がかりだ、気になる、印象深い ［反意語］ɪɟɪɪʔ ［レベル］3 古 ［用例］ ☆ ɟe ɑelɟ eʃ ɟɪɪʔ ʃcn ɟeɟ. その映画に深い印象を受けた。

ɟɪɪʃ ［人名］サーシュ ［組み数字］9/１３ ［天文］サーシュ座 ［レベル］3 先 :ɪnɔ:ɪʃ ［文化］ 第４期３代ソーン第９使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ɟɪɪɟ ［被服］サーシャ、羽衣、肩掛け、ショール、レースのスカーフ ［レベル］4 古 :ɟɪɪɟ ← ɟɪɪɟ ← ɟɪɟ。ɟɪɟ は ɟɪ/ɟɪ で、意味は絹 / 絹。絹のように薄いものより更に薄いという強調の意味で二度重ねている。ɟɪɟ が ɟɪɟ になったのが先かは実は不確定。ɟɪɟ になってから ɟɪɟ になった可能性もある。いずれにせよ、ɟɪɟ という単純な同一音節の連続が苦手だった少なからずの使徒によって ɟɪɟ となり、その後アクセントが ɟ にあることから母音が伸びたというのが有力な見解。 ［文化］ アルティス教の女性服。薄い布で、洋服の上に着る。薄く透けていて防寒の役目は殆どない。サメルと合わせられる。nɪɪʃ 以上の ɥənʔ が着けることが多い。pɪnɪ でも着ることはできる。

ɟɪɪu ［形容詞］正常な ［反意語］ɒɔʔɔc ［レベル］3 ɟ0: 新生で ɒleʃ。正常なのに強い ɒ 音で始まるとɒɔʔc を思い出すので変えた。jc/ɪɪucʃ（傷のない）から来ている。ɪɪucʃ は古形。 ［用例］ ʔɔʃɔ ɟɪɪu まともな頭

ɟɪɪɒ ［名詞］午後 ［形容詞］午後の ［反意語］eɟɪɒ ［レベル］2 1L:ɒelcɑɔɪ ɪlcɟ:ɟɪɪlɑɪɟɪpɪɒ（サール神の正午）。このサールは組み数字。 ［用例］ ɪn ɪʃlɪʃ hɪɒʃn cɒ ɟɪɪɒ e ɑcɟ lɪnɪ ʔɑc hɪɟʃ ɔʃ lə. 私は今日の午後に昼食を一緒に取るため友達と会った。 ɪn pɔʔlɪʃ uɪɟ ɟɪɪɒ. 午後はずっと寝ていた。 uɪz ɟɪɪɒ 午後８時 eu lec le nɔn cɟʔɔɟ, ɥɪn pɒnɟ "(ɥe lənɪʔ cʃ ɪɑθ" ʔɔʔʔɔ ɪɟeʃ ʔɔnʃ ʔɔbeɟ cnɟ enɪʃ. nɔn μɪʔb jɔɪ dɔen e ɟɪɪɒ cɒ cɟjeʃ. 読みかけの本を置き「何処から来たんだい」と笑う目隠ししたままの午後三時です（『想像フォレスト』）

ɟɪɪμ ［サール］サールの一族、黒幻神 ［生物］サール属、黒幻神属 ［形容詞］サールの～。敬称。 ［レベル］2 ɑu;ɟɪɪl.ʔ 19: 制 : 古 ɟɪɪμ:ɟɪɪμ:lɪ ɪlcej → ɪlcej,ɟzɑ ［語法］ → ɪdʃ, ejʃ ○名（前置） ×姓 ○男女 ○単体使用 / 名詞用法 ［文化］『幻想話集アティーリ』でエルトと対立する神。

ɟɪɪμjel ［歳時記］サールの日 ［レベル］3 ʃʃ ［文化］ ɑɪu dɔn。サールの王アルデスの誕生日で、休日。

ɟɪɪμɪn ［魔法］サール召喚士 ［レベル］4 1L:ɔlbəɟ:μcɑɔɪ

ɟɪɪz ［名詞］４０代女性 ［反意語］ɪɟɪɪz ［レベル］2 古 :zɪnɪ:「５０才ぐらいの女性」

ɟɪɪzɑlel ［医療］四十肩 ［レベル］5 ɟ0:jeɟen: この病気をリュウに紹介したら面白がっていた（知らなかったのか？全世界にある病気ではない？）。

ɟɪɪzɪl ［生物］４０代 ［レベル］2 μɑ;ɟɪɪz/ɪl ʃʔ

ɟɪɪze ［気象］吹雪、ふぶき、ブリザード ［魔法］サーゼ（ブリザド）。水の多段黒魔法。吹雪で敵を攻撃する。 ［レベル］2 ɟ0:ɟɪe/feeze

ɟɪɪs ［名詞］虚無、無、ないこと、なさ、無さ ［反意語］lɪl ［レベル］4 古 :ɟɪɪs（虚無）。pɔlɟɪɪs などに散見。 ［用例］ "lɔɒ ʃe ɑcɪ eʃ lɪɑ lɔʔlɔ ɑce ʃeə ɟɪɪs8" 「それじゃあこの世界は嘘という無でできているの？」

ɟɪɪl ［サール］サール ［音楽］裏拍 ［名詞］下巻 ［組み数字］2 / ２、後者 ［レベル］2 jelʃ 0:elʃ;e 古 ［文化］ → jelʃ この世の均衡を保っていた最初の神の一人。エルトの妻となるが、夫を騙して娘ユーマを設けたために捨てられてしまい、悲しんで大穴に身を投げて死んだ。 サールは黄色い肌に東洋系の薄い顔をしていた。黒髪黒目で体は細く、寸胴の幼児体系。

ɟɪɪlʃcɑɪ ［名詞］後半 ［反意語］elʃʃcɑɪ ［レベル］3 ɟ0: 後ろ半分

ɟɪɪlɪμɑ ［動物］オモミス類 ɪl;/ → elɪlɪμɑ ʃʔ

ɟɪɪlɟel ［ユマナ］日曜日 ［レベル］2 1L

ɟɪɪlues ［弓道］乙矢、おとや ［レベル］6 ɟ0: 二発目の矢

ɟɪɪlɒcnɪ,ɑ ɟɪɪlcn elʃ

ɟɪɪlɒclʃ ［天文］天文台 ［レベル］4 ɟ1:「サールの叶わぬ願い」 エルトに捨てられたサールが空を見上げてエルトが来てくれるのを待っていたことから。

ɟɪɪlɑcɔ ［生物］大人の歯、永久歯 ［レベル］2 1L: ２番目の歯

ɟɪɪlhɔ ［生物］尺骨 ［レベル］5 ɟʃ: → elʃhɔ

ɟɪɪllcl ［化学］テルル ［レベル］5 1Λ: 制

ɟɪɪlɔl ［生物］回腸 ［レベル］5 1L: → elʃlɔl

ɟɪɪlcn ［植物］紫苑、シオン、アスター ［レベル］4 μɑ;ɟɪɪl/cn ʔʔ: 制 :ɟɪɪlɒcnɪ。サールの花 ɟɪɪlɒcnɪ:ɟɪɪlɒcnɪ

ɟɪɪleʃ ［音楽］シンコペーション ɟʃ

ɟɪc ［電算］パソコン ［レベル］2 1ʔ: 制 ［用例］ ɪn en jeɟ ɪʃ el ɥɔl ɟɪc. コンピュータの使い方が分からない : el を nɔɟ にしても良いが、コンピュータの使い方はだいたい誰にも共通なので el が自然。nɔɟ だと自分流のやりかたが見つからないニュアンス。

ɟɪc(ɟ) ［アトラスの国家］サイ ［レベル］5 ɟʔ:μcɑɔɪ

ɟɪc,ɟzɑ hɔl, ɒenʔ

ɟɪc,ɑu ɟɔɟʃ dɟɔɔɟɪ.ʔ

ɟɪc,ɪlʃ ɪμɟɪ

ɟɪcʃ ［動物］パンダ ［レベル］3 lʔʔɪ ［擬声］ʔɥəʔɥə、φɥəφɥə（鳴き声）

ɟɪcʃ,ɟzɑ ɟɔɟʃ ɟɪc,ɑu/feeze

ɟɪcl,lʔl ɑejdɪn ɟɪc,ɟzɑ/φc,ɑ

ɟɪcʔɪn ［魔法］サイカン、彩管 ［レベル］5 1ᴨLΔ:ɑɪɒcc;ɟɪcʔɪ,lʔl/n ɟʃ:μcɑɔɪ ［文化］ 水晶を主成分とする透明な筒で、筒を輪切りにするような形で６箇所ダイヤルがついている。ダイヤルは１６段階のメモリ調節があり、金庫のダイヤルのように回して数値を決める。ダイヤルは銀製。この筒の入り口に白のｌｏｌｏｌｃｎを入れると出口からダイヤルで調節した値の色の光が出る。 ダイヤルは０～１５までの数値があてがわれており、１～２番目のダイヤルは赤、３～４番目は緑、５～６番目は青の量を調節する。従って原理的に１７６６万色の色が作れる。 われながら彩管は巧い訳語。

ɟɪclʃɪ ［名詞］前景 ［言語］図、フィギュア ［反意語］lɔclʃɪ ［レベル］4 ɟ0

ɟɪcj ［名詞］溝 ［音楽］クリシェ ［レベル］3 ɟɔpn: 元は足の親指と人差し指の間の部分を指す。 ［用例］ lɪɑ{ɟlllɪɑ} ɟɪcj 溝を掘る { 埋める }

ɟɪcn ［動詞］ɥəl を確かめる、確かめる、点検する、チェックする、調べる、考証する ［普通動名詞］確認、点検、チェック、考証、念押し ［レベル］3 ʔʔ: 制 : 古 :chɔ（目でみて情報を固い（確かな）ものにする） ［文化］ アルバザード人は「人間も神も誰も間違えるんだから、確認は必要」と考えている。日本だと先生に「本当ですか？」と聞くと後が何かと怖いが、アルバザードは少し寛容。ただ、しつこいのはもちろん不快。日本では目上が出した報告を読んで「これ、本当ですか」と聞くのは失礼である。だが、アルカでは失礼ではない。ʃe eʃ lɪnθ と聞くのは問題ない。勿論、相手は本当のつもりで出しているので ɥɪ としか答えないだろうが。ところで、本当ですかと聞くのは問題ないが、ʃe eʃ ɥəlθ はかなり危険。ɥəl の場合、嘘を付いていないかと疑うため。嘘と失敗は根本的に違う。「うっそー！」とかつい日本語のノリでいくとケンカは必至。 また、日取りや予算や契約などを取り決めたときは、たとえ書面が目の前にあろうと確認する。お互いに書面が間違っていないか、そして両者が正しく書面を読み取っているかということを確認しあう。これは徹底して行う。たとえば友達と遊ぶ約束を取り付けたとき、最後に必ず時間や場所などを確認してから別れる。それでアルバザード人は ɑɔɔɟɪ ɪ ʃɔʃɔ と別れ際に言うわけだ。 ［用例］ ɪn ɟɪcnɪʃ ɑɪl ʃe dɔɟel. それを事前に確認しておくべきだった。 ɪn ɟɪcnɪʃ leɟ nɔɟ ɟɔ ɑɪl cɒ ʔeɟʃ ɟɪ ɒɔʃ. 寝る前に明日やるべきことを確認した。

ɟɪcnzed ［数学］検算 ［動詞］ɥəl を検算する、検算する ［レベル］3 1θ: 制 : 確かめる計算

ɟɪcɒ ［名詞］学校などのクラス、組 ［電算］キー、ハッシュのキー→ ɑeʃlɪ ［レベル］2 1θ: 制 : 初 jeɒɪcɒ（集団）。jeɒɪcɒ は水の花で、紫陽花の意。紫陽花が集団で咲くことからの類推だろう。 ［語法］ ʔɔɑel

ɟɪcɒez ［名詞］教室 ［レベル］2 1θ: 制 : クラスの部屋 ［語法］ ɑelez の下位概念。クラスとして使われる教室。実習室や音楽室など、クラスの教室として使われないものは含まない。部室などと同位概念。

ɟɪcl ［名詞］田舎、山村部 ［レベル］3 1L:lecn:lcɪl をテーブルに乗せて ɟɪcμ にしたが、発音しづらいので l をママにした。

ɟɪcle ［経済］前場 ［レベル］6 ɟʃ

ɟɪcɪ ［感動詞］しょうがない、あーあ、しょうがないや、残念だ、セラヴィ、これも人生だ、人生なんてこんなものさ、しまったな、まいったな、困ったな、これも神の思し召しだ、ドンマイ ［レベル］1 古 :ɟɪcɪ ［語法］ 不運や不幸に見舞われたときに発する語。日本語の「しょうがない」ほど諦観していない。この不運がやがてめぐりめぐって幸運になると考えている。むしろただでは転ばぬぞという前向きな気持ちがある。 ［用例］ "ɔn eʃɔθ ɟɪcɪ, pcl nɔn lɪdn lɪn leʃəl eə" 「鼎のこと？ しょうがないわよ、叶えたいことがあるんだもの」

ɟɪcɪ(ɟ) ［エルト］サイア ［レベル］1 lcczɪ: 古 :ɟɪcɪ ← ɟɪɥɪ ← ɟɪ（砂）/ɥɪ（言い切りを表わす感動詞）。原義は「砂だ」。つまり「砂のように些細なことだ」である。リーザが仕事に失敗した使徒を励ますために考案した。はじめは「ドンマイ、気にするな」と励ます意味で作られた神だったが、やがて不幸を幸運に変える神に変化していった。 ［文化］ 人の不幸や不運を蓄えてやがてそれを幸運や経験値に変えてその人に返してくれる神。

ɟɪɔ ［経済］特許、パテント、パット ［レベル］4 μɑ; ↓ ʔʔ: 制 :ɟɪɑlʃlɪ（新しい権利） ［文化］ 特許に関する意識は ɒɒ の頃からあったが、明文化されたのは著作権より遅く、魔法学が発達して錬金術や魔法工学が発達してきた ɒɒ になる。 以降 ɪl に至るまで年数が伸びたり分野によって年数が異なったりと細かな変化はあったものの、基本的なシステムは地球の特許法と変わらない。 ls のミロク革命でセレンは著作権のみならず特許にもメスを入れた。セレンは特許権による既得権益が大きすぎると人類の進歩に害をなし、特許権がゼロだと発明家がモチベーションを失うという現実を踏まえ、改革をした。 特許についてはその年ごとに使用された商品数を計測し、使用回数が多いほど世の中に対する貢献度が高いとし、政府が特許権者に税金から配当金を支払う。この配当金は全国民から徴収された国税で賄われ、企業は負担しなくてよい。これにより体力のない企業も事業に参入しやすくなり、大企業も特許に支払う費用を気にして機能制限をしたり値段を無駄に嵩上げしたり新技術を新製品に取り入れるのを後回しにしたりしないで済み、新技術が市場に出回り浸透しやすくなり、人類の技術の進歩が促進されるようになった。 なお、特許権は分野ごとに守られる年数が異なり、長いものでも２０年しか守られない。これは「古い特許で長い間食っていける→新しい技術の開発を急がなくてよい」という淀みを作らせないようにするためである。 ［用例］ uɪjʃ{ɟɪɑ, lcɒ} ɟɪɔ 特許を取得する

ɟɪɔjnhɔ ［生物］前頭骨 μɑ;/ θθ

ɟɪe ［気象］雪 ［動詞］ɥəl に雪が降る、降雪する ［象徴］正直 ［メタファー］繊細で心の綺麗な人。地上すなわち人間界に触れると汚れて泥水になってしまうことから。 ［レベル］2 ɑ;ɟɪeʃ 「絹の水、粉の水」 ʔʔ: 制 : 古 :ɟɪeehɔ（粉の水） ɟɪe:ɟɪe:lɪ eu:hɔnɔʔɪ,ɪlʃ ［語法］ 色は白か銀で形容。 ［用例］ ɪn ɪlɔ lɪl ʃɪnʃ μɪ ɔl ɟɪe. 雪が降ったら家の外で遊びたい。 ɟɪe jcl nɔʃ ʃel senʃdɔɟlʃlɪ. 天気予報によると大雪になるらしい。 ɟɪeμ. 雪が降っている。 ɟɪeʃ. 雪が降った。 ɟɪe ʔɪc lə nɪʃ. ぼたん雪が降った。 uɪcʔ e ɟɪe ɪɔɟɔ pɔlɒ. 雪片が舞っていた。 ɟɪe le ʃcl eɟʔ ləɟɪʃ. 雨混じりの雪が降った。 cɒ ʃɔlel, ɟɪeʃ ɪʃc ʔɪl. タベ雪が少し降った。 ɟɪeʃ ʔɪlɔl cɒ ʃə ɟɪlʃ nɔɑ ɟʔɔl. 今年はいつもより雪が少なかった。 ɪn ləʔɪʃ ucʃ eɟn pɔl ɟɪe. 傘も差さずに雪の中を歩いた。 ɪn jccnɪ ləʔ pɔl ɟɪe. 雪の中を歩くのが好きだ。 ɟɪe ɪʃ hɪnʃ ɪ ɑlel ɔnʃ ɔɟn ɪnʃ. 雪が私の肩や頭に積もった。 ɟɪeʃ ɪʃc ɑc ʃcnʔɪ. 雪がとてもたくさん降った。大雪が降った。 ɟɪeʃ uɪμ jɔɔʃ. 雪が一週間降った。 ɟɪeʃ ɑə 1 pelɑc. 雪が１メルフィ積もった。 ɑɔnʃ ɪʃ lɔb ʔɔn ɟɪe clbel. 一面の銀世界だった。 ☆ ɟɪeʃ ɪʃlɪ cɒ ʃə ɟɪlʃ lɔʃ ləəɟ 10 ɟɪlʃ ɟeμ. 今年は１０年ぶりの大雪だったそうだ。 ɑelʔɪ cʔ ɑeɥə pcl ɟɪe ʃcn ʃeμ. 大雪で学校が休みになったそうだ。 ɪnɟ jeɑɪʃ ɑɪl ɟɪe lɪnɪ ʔe ɟen eɒ ɑɔnʃ. 雪かきをして道を通れるようにしなくてはならなかった。 ɪn euɪʃ ɟɪe ɪ hɪdn dclɒel. ふざけて友達に雪をかけた。 ɪn euɪʃ ɟɪe ɪdɔʃ ɟɪb e hɪdn. 友達の服に雪を入れた。

ɟɪe,ɪlʃ ləjd <>ɟɪbe

ɟɪelcdl ［料理］ショートケーキ ［レベル］3 ɟʃ:「雪のようなケーキ」 ［文化］ ɟɒ 後期に考案された。幼少期のリディアが好んだが、高価なのでなかなか庶民は食べられなかった。メルの考案でイチゴを乗せたり挟むようになり、ちょうど現在の日本で見られるような形に至る。歴史的に見てアルバザードにおけるケーキのプロトタイプである。

ɟɪejʔ ［気象］みぞれ、霙 ［レベル］3 1L:ɟɪe/eɟʔ ［文化］ 文字通り、雨と雪の混成。 ［用例］ ɟɪeɟʔ ɪʃ ɟɔɑ = ɟɪeɟʔ ləɟɪʃ. みぞれが降った。

ɟɪe ɟɪʃcɟ ［死神］紗枝、夢織の紗枝、サエ＝サティス 1L:jeɟen ［文化］『夢織』の主人公。夢織種の少女。元は人間。サティスは育った村の名前。 命を失いかけた際、育ての父アルハイクによって死神となる。 夢織となった紗枝は死神ランヴェムとともにアルナへ渡る。 幻術でアルナ大学の生徒になりすまし、永遠のアルハン（日本の高校一年生）を繰り返す。 性格は内向的で暗く、友達は少ない。外見は大人しく美人で、典型的なルティア人像。 引っ込み思案で、付き人のランヴェムにしか喜怒哀楽を見せない。

ɟɪejcz ［運動］スノーボード、スノボ ［レベル］4 1L ［文化］ スキーは女性に人気で、スノボは男性に人気。ただし、怪我しやすい競技とされる。 ［用例］ cɒ ʃə lceɟ, ɪn pɪcɟ lɪl ɟɪejcz. 今年の冬はスノボを習いたい。

ɟɪeɟɐɪɒɔ ［名詞］除雪車 ［レベル］4 1L ［用例］ ɟɪeɟɐɪɒɔ ɟɐɪɾ ɟɪe e ɑɔɲɾ. 除雪車が道路の雪を除去した。

ɟɪen ［接続詞］ɟɪ。前の。 ［レベル］3 ɟ1

ɟɪeu ［言語］前置 ［レベル］4 ɟ0

ɟɪeuɟ ［娯楽］雪合戦 ［レベル］2 1L ［文化］ ふつうにアルバザードでも行う。チームに分かれて戦う。直撃したら負け抜け。 ［用例］ ɪnɟ ɟɟɪɾ ɟɪeuɟ. 雪合戦をした。 ɪn ɪɑɪɾ ɟɪeɸeɪ ɔɪ hɪɾhn lɪnɪ ɟɪeuɟ. 雪合戦をするために友達と雪玉を作った。

ɟɪeuɪlʃ ［動詞］かまくら、鎌倉 ［レベル］2 ɟ1:「雪の砦」 ［文化］ → ɟɪeuɪlʃɟel 日本と同じく、雪で鎌倉を作ったもの。ただし日本の物より大きい傾向にある。 中に雪で作ったテーブルなどを設けることも。

ɟɪeuɪlʃɟel ［歳時記］雪祭り、かまくらの日 ［レベル］3 ɟ1 ［文化］ lɕɟ ɟeɟ のイベントで、大きなかまくらを作る。カルテではかまくらだけでなく巨大な雪の建造物が作られ、さながら雪祭りとなる。元はカルテに溜まった雪をかいて、その余りで何かできないかと考えた若者らが ul で始めたもの。

ɟɪeɸeɪ ［名詞］雪玉 ［レベル］2 1L ［用例］ ɪn lɪɑɪɾ ɟɪeɸeɪ ˥ɪc uecn nɔɑ hɪdn. 友達より大きな雪玉を作った。 ɪnɟ dcdɪɾ ɟɪeɸeɪ ɪ lɔ˥. 私たちは雪玉を投げ合った。 hɪdn ɑɪ˥ɪɾ dcd ɟɪeɸeɪ ɪl ɪn. 友達は私に雪玉を当てた。 ɪn euɪɾ ɟɪeɸeɪ lcɟ ɪ ˥ɪc. 小さい雪玉を大きいのに乗せた。

ɟɪezɔn ［運動］スキー、アルペンスキー ［レベル］3 1ʔ: 制 : 雪の棒スポーツ。手に持っているスティックが zɔn。ɟcz としなかったのはスノーボードとかぶるため。 ［文化］ ɟɪeɟcz ［用例］ nɔn ɪɸ ˥ɪn ɟɪezɔn ɪɪlel. 特にスキーがしたい。 nɔn ɪɸ ˥ɪn eɒ ɟɪezɔn ɔɪ ɟɪe ˥ən ɪ. 雪が降るとスキーに行きたくなる。 lɕfe ɪnɾ ɪɸ ˥e nelɾ ɟɪezɔn ˥ɪɾ lɕeɸ. 私の家では毎年冬にはスキーに行く。 nɔn ɟccnɪ ɪɸ ɟɪezɔn cɒ ɑəɸne. ナイトスキー（ナイター）が好きだ。 nɔn ɪɸɪɾ ɟɪezɔn c nɕɑ e ɥəlc. 初級スキーコースから始めた。 cɒ ɟɪezɔn, nɔn ˥ɔɒɪɾ ɟɔɒen uecn ˥ɔ˥˥ɔ ˥ɪɸez. スキーをしたとき、リフトに乗って持った高いところまで行った。

ɟɪeɔɪl ［地学］雪山 ［地球の国名］セントクリストファーネイビス ［レベル］3 1L: 国名が雪から来ている。山の頂上の雲が雪に見えたことから。

ɟɪeɔɪlc ［ジョブ］裾持ち ɪlɾ ［レベル］4 ɟ0 ［文化］ ˥ɪlɪn

ɟɪelcl˥ ［植物］エノキ、エノキタケ、エノキダケ、ナメタケ、ナメススキ、ユキノシタ ［レベル］3 1L: 雪の中でも生えることから

ɟɪelenɾ ［名詞］雪だるま、ゆきだるま ［レベル］2 1ʔ: 制 ［文化］ 構造上、人型を作るのは難しいため、形は日本と同じ。ただ、鼻にニンジンを使ったり、目にボタンなどを使う点が異なる。 ［用例］ ɪnɟ sɪlɪɾ nɔɟɟe lɪɑ ɟɪelenɾ ˥ɪc. 私たちは大きな雪だるまを作ることにした。 ɪnɟ ɪɑɪɾ ˩ ɟɪelenɾ ˥ɪ ɑefɪ˥. 学校で雪だるまを二個作った。 nɔn ɪɑɪɾ ˥ɪn ɟɪelenɾ ɪn˥. 可愛い雪だるまを作りたかった。 ɪn euɪɾ zedl lel ɑɪdcnc ɪ ɟɪelenɾ ɟɟ ˥ɪɒ ˥ɪnɪ ˥ɪɑ eel. 雪だるまの顔を作るために最初は木の枝で眉毛を作った。 ɪn ɪɑɪɾ cnɟ,ʃɔɪ,ə̀əɔ e ɟɪelenɾ. 雪だるまの目と鼻と口を作った。 ☆ nɔn ɒcl˥ ɟɪelenɾ en eɒ ejc, ˥ɪl ɟɔɪ. 雪だるまが溶けないでそのままだったらいいのに。

ɟɪeɟɥlənɔ ［化学］脂環式炭化水素 1L: 構造が雪の結晶に似ていることから

ɟc ［動詞］ɥəl を持たない、ɥəl がない、ない、無い、持たない、持っていない、持ってない ［反意語］ʃcl ［レベル］1 1L: 恣意 ［語法］ ˩ も ˥ もないという場合、ɟc 自体に「ない」の意味があるので ɟc ˩ ɪz ˥ でも ɟc ˩ əl ˥ でもでなく ɟc ˩ ɔ ˥。ɟc ˩ ɪz ˥ だと「˩ か ˥ のいずれかがない」ことになる。 ［用例］ ɪn ɟc ɪ˥ɟeɸ. 私には兄がいない。

ɟcɾ ɟc/ɪɾ

ɟcɪɾ ［形容詞］不定期の、非周期的な、不規則な ［反意語］sɪ˥ɪ ［レベル］4 ɟ0:ɟc ˥ɪɾ（周期を失う）

ɟc˥ ɟc/c˥

ɟc˥ɾ ［名詞］あとで。1 時間～ 2 , 3 時間。 ［副詞］後で ［レベル］1 1ʔ: 制 : あとで ［語法］ ɑc˥ɑə

ɟc˥ɒ ［名詞］仮説、仮定 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɟcn˥ɒccɥ（一時的な論理）

ɟc˥˥ ［ネガティブ］皮肉 ［動詞］ɥəl（相手や内容）を皮肉る、皮肉る、ひにくる ［類義語］ueɸnɪl ［レベル］4 ɟɔɟn ［語法］ 事実と反対のことを言って批判するさま。意地悪感じ。ueɸnɪl は事実と反対のことを言って笑うさま。ジョーク目的で、楽しむためのもの。日本語の皮肉は ɟc˥˥ に当たる。 ［用例］ "uɪnɾ, ɪn uczc˥ ʃc" "ɟɔɔnɔ, ɪlɾcɪn ɪ˥ɒe" "oeec, ɑen ɟc˥˥ ɪɾ" 「ごめん、遅くなった！」「あら、随分時間に正確だこと」「おーい、勘弁してくれよ」

ɟc˥˥eɾ,ɟzɑ uɔz

ɟc˥ ［形容詞］平らな、平坦な、場所が平らな、扁平な ［形容詞］グラフや数値が上下に揺れず安定している ［形容詞］起伏の少ない。感情や形に使う。 ［形容詞］差がない、対等な→ ɟc˥˥ ［動詞］ɥəl をならす、ならす、均す、平均化する ［反意語］ɔcl˥ ［レベル］2 ɑ;e 赤

ɟc˥ɪɾc˥ ［数学］1 8 0 度 ［レベル］3 1L:ɟcɑcɪ:ɪɒɪ˥e˥ɾ

ɟc˥ɪɾeɾɔnɪ ［名詞］対等な関係 ［レベル］4 1L:ɟcɑcɪ:ɪɒɪ˥e˥ɾ

ɟc˥ɪhɪɾ ［言語］平体 ɟ0 ［文化］ hɪdɟecn

ɟc˥ɪhɔ ［生物］扁平骨。頭蓋冠のように必ずしもまっ平らでないものもあるが、肩甲骨や胸骨など平らなものがメイン。 ɟɑ;/ ɟ˥˥

ɟc˥˥ ［動物］エイ ［レベル］4 古 :ɟc˥ɪelc が原義

ɟc˥ɪɟɾ ［魔法］非多段魔法 ［反意語］nɪɑɟɾ ［レベル］4 ɟ1 ［文化］ ɑɔ˥ɒcɥə

ɟcl ［料理］デザート、食後のおやつや果物 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɟcl˥ɔn（後の食事）

ɟcɟ ɟc/eɟ

ɟcɟɾ ［名詞］ファイル、書類挟み、フォルダー、ホルダー、紙ばさみ、紙挟み、書類ばさみ ［動詞］ɥəl をファイルに綴じる、綴じる ［レベル］3 古

ɟcɟd ［化学］蒸留 ［動詞］ɥəl を蒸留する、蒸留する ［レベル］4 ɟɑ; ↓ 1ʔ: 制 :ɟɪɑ:ɟcdɟɪdɟcd（液体の空気の液体） ɟɪdleɟɪdle ［文化］ 蒸留器は ɟɒ の魔方で開発され、蒸留酒ができるようになった。蒸留器によりウインからブランデーが、ビール製造過程の麦汁からウイスキーが作られるようになった。

ɟcɟdɪ ［料理］スピリッツ、蒸留酒 ［レベル］5 ɟɑ; ↓ 1ʔ: 制 :ɟcɟd ［文化］ ɟcɟd

ɟcɟdɪɾcn˥ ［名詞］ショットグラス、コーディアルグラス ［レベル］6 ɟɑ;/ ɟ˥˥

ɟcɟdɪɟ ［名詞］蒸留器 ɟɑ;/ ɟ˥˥ ［文化］ ɟcɟd

ɟcɟ ［動詞］ɥəl を習う、習う、倣う、ならう ［普通動名詞］習得、会得、学習 ［反意語］˥ɪl ［レベル］2 1L ˥əlɔ:˥əlɔ

ɟcɟ˥ɪn ［名詞］生徒、学生、弟子 ［レベル］2 ɟ0:ɒelcɑcɪ lceɸ

ɟcn ［動詞］ɥəl を厭う、厭う、いとう、嫌い、きらい、キライ、嫌、イヤ、嫌う、嫌いだ、イヤだ、望まない ［文末純詞］出来事に対する話者の残念な気持ちや不快感を示す。 ［反意語］ɟccnɪ ［レベル］1 1ʔ: 制 ［成句］ ɟcn nɔɟ 自己嫌悪 ［用例］ ɪn ɟcn ʃə ʃcɟ. こんなの嫌だ。

ɟcnɾ ［動詞］ɥəl（場所）を通りすがる、通りすがる ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɟcn˥

ɟcn˥ ［形容詞］一時的な、一過性の、仮の、一時の、暫定的な、当面の、当座の ［副詞］仮に ［反意語］ɪ˥ɟcn˥ ［レベル］3 古 ［用例］ eu ɟcn˥el 10 ɪʃə ここに 1 0 を借りてくる : 数式で筆算の説明をしているときなど。日本語では「借りる」というが、アルカでは「仮に置く」という。

ɟcn˥˥eɪ ［普通動名詞］応急手当 ［レベル］3 1ʔ9: 制 : 仮の治療

ɟcn˥ɑɔnz ［普通動名詞］仮採用 ［レベル］5 1L:ɟcɑcɪ:ɪɒɪ˥e˥ɾ

ɟcn˥ɑel ［普通動名詞］一夜漬け、付け焼刃 ［レベル］4 1ɸ: 制 : 一時的な勉強 ［用例］ ɪn jejcl ɟcn˥ ɑel uɪn ɪɾ そろそろ一夜漬けするか！

ɟcn˥ɒɪl ［電算］キャッシュメモリ ［レベル］4 1L

ɟcn˥ɥɪ ［建築］仮設住宅 ［レベル］5 1L:ɟcɑcɪ:ɪɒɪ˥e˥ɾ

ɟcn˥eɟ ［名詞］仮名、偽名 ［類義語］enleɟ ［レベル］4 1L:˥ɕɔn

ɟcnl ［名詞］シミュレーション、シュミレーション、想定 ［動詞］ɥəl をシミュレーションする、シミュレーションする、想定する ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɟcn˥˥cl（仮想実験）

ɟcnl˥cɥɪ ［娯楽］シュミレーションゲーム、シミュレーションゲーム ［レベル］4 ɟ1

ɟcnɟ ［動詞］ɥəl を ɪ に見せる、見せる、みせる、表す、表わす、感情などを表わす、示す ［電算］表示、表示する ［普通動名詞］展示、表示 ［レベル］2 1ɸ: 制 : 恣意 ::czɔl ［語法］ 目で見せなくてもよい。日本のデパートのトイレなどに入っていると、後の人がつかえて「早く出ろよ」的なオーラを出してくることがあるが、そろそろ出るというアピールのために、洗浄したり服を着たりという終了動作音を立てることがある。このようなビジョンのない示す行為も ɟcnɟ といえる。 ［成句］ ɟcnɟ ˥ɪde 頭角を表す。日本語と同じ表現。 ［用例］ ɪn ɟcnɟ ɪ˥eɒ ɟɔ ɑel. 私は感情が表に出やすい。

ɟcnɟfeɒɟ ［名詞］ショーウィンドウ ［レベル］4 ɟ1:˥əɟcɪn

ɟcnɟcɪ˥ ［名詞］展覧会、展示会 ［レベル］4 1L:ɟcɑcɪ:ɪɒɪ˥e˥ɾ

ɟcnɟɔ˥ ［名詞］ショー、展示物、番組 ［類義語］jelce ［レベル］3 1L:ɟcɑcɪ:ɪɒɪ˥e˥ɾ ［用例］ ʃə ɟcn ɟɔ˥ eɒ ˥ɪ˥ ˥ɪɾ ɒcɥɸcɟel. その番組は月曜に放送される。 ʃə ɟcnɟɔ˥ ɪɾ ɒəənɪ ɥəl˥e. その番組は本当につまらなかった。

ɟcnl ［動詞］ɥəl を lel だと仮定する、仮定する、想定する、想像する、仮設する ［普通動名詞］仮定、想定、想像、仮説 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɟcn˥sɪl

ɟcn˥ɒɪl ［電算］仮想メモリ ［レベル］5 1L

ɟcnɪ ［名詞］気分 ［レベル］3 1L:ɟeɟen:ɟcn˥nɪ ［文化］ 気分は肝臓に宿るとされている。 ［用例］ ɪn ɒcɥəɾ ˥ɪl ɟcnɪ. 気分を変えたかった。

ɟcnɪɒ ［形容詞］［ネガティブ］軽率な、悪い意味で大胆 ［反意語］ɔuel ［レベル］3 ɟ0:ɟc nɪɒɾ（注意のない）

ɟcnɪleul ［医療］気分障害、躁うつ病 ［レベル］4 1L:ɟeɟen

ɟcuɪn ［文末純詞］［dɔ˥b］jec ［レベル］1 ɟ1:e˥eɾɔne: 厳密にはエケトネの口癖 ",ɑcen nɔə ɟc uɪnɪ"（～だ、自信ないけど」の "ɟc uɪnɪ" からンムトが作ったもの。

ɟcɑ ［名詞］束 ［形容詞］～たち。近似複数を作る。 ［類義語］jecn ［レベル］1 古 :ɟcɑ（束） ［語法］ ɒcc˥ ɟcɑ で「リンゴやほかの果物」の意味。ɒcc˥ jecn でリンゴが複数あることになる。 ＜ ɟcɑ と oen ＞ ɟcɑ は円で捉えるイメージで、oen は列で捉えるイメージ。 lɕɔn ɟcɑ は「紫苑とその周り」で、レインやアルシェを含んで指す。紫苑の周りに彼らがいる円のイメージ。焦点は紫苑に当たる。 ɒcc˥, lcjc˥, ɑcɪc˥ oen は、果物リストの中からひとつずつ列挙している。「まだこれで終わりでない」ということを示すために oen を置いてある。リストが未完であることを指し、焦点は項すべてに当たる。

ɟcɑʃejʃel ［電算］インタープリタ ［レベル］6 ɟ0

ɟcɑʃeɪɑ ［電算］コンパイラ言語 ［レベル］6 ɟ0

ɟcɑeʃ ［副詞］一気に、一度に、まとめて、一丸に、みんなで、一括、一斉に、いっせいに ［反意語］ɥəɟʃc ［レベル］3 ɟ0:ɟcɑ/ʃe（束で） ［用例］ ɥe uɪnɑ ɟcɑeʃel˥ 斉射せよ！ cɒ ɑɔnc ɑel ez hɔɒɪɾ ɥə, 1ʔ0 ucɪ ɑe˥ɪn ˥ɪɪɾ ɪl ez ɟcɑeʃel. 部屋が開けられた瞬間、 1 5 0 人近くの生徒が一斉に部屋に入った。

ɟcɑeʃ˥en ［動詞］ɥəl をがぶがぶ飲む、ガブガブ飲む、飲む ［普通動名詞］がぶ飲み、ガブ飲み ［レベル］3 ɟ1 ［文化］ 水のがぶ飲みは胃腸に負担をかけるとされ、よくないこととされる。

ɟcɑeʃɥen ［電算］コンパイラ、コンパイラ言語 ［反意語］ɥəɟʃcɥen ［レベル］6 ul;/。ソースコードを一気に訳してから実行することから。 ɟ˥˥

ɟcɑeɟɪn˥ ［普通動名詞］総称 ［動詞］ɥəl を lel と総称する、総称する ［レベル］4 ɟ0:「まとめて呼ぶ」

ɟcɒd ［動詞］ɥəl を消化する、消化する ［普通動名詞］消化 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 語源不詳

ɟcɒdɑɪcz ［医療］クローン病 ［レベル］6 1L:ɟcɒdelɒɑɪcz だと消化器炎になってしまうので、わざと elɒ を外した。

ɟcɒdɒɪɥj ［生物］消化酵素 ［レベル］5 1L

ɟcɒddɪnɾ ［生物］消化系 ɥʃ;/ ɟ˥˥

ɟcɒddcɾ ［医療］消化器科 ［レベル］5 1L

ɟcɒdelɒ ［生物］消化器 ［レベル］4 1L

ɟcɒl ［医療］皮下 ［レベル］6 1L:ɟcɥ/ɒɔl（リュウから見ると患者は寝ているので、上から見たときに患者の ɒɪcn にとっての ɥɔu が ɥɔu でなくむしろ ɒɔl に見えるため）

ɟcɒluelɑ ［医療］浮腫 ［レベル］5 1L

ɟcɒɪ ［化学］ペプチド ［レベル］6 1L:ɥɥəə:ɟcɒd

ɟcɒel ［魔法］魔法の持続時間、シメール ［アクセント］ɟcɒEl ［レベル］5 ɟ0:ləɟcɪ/ɒel（魔法の時間） ［文化］ 魔法は通常 1 ～ 3 秒程度しか持続しない。そのため炎の魔法を放っても、大抵は山火事などに発展しない。氷の魔法を出してもすぐに消えてしまうので、喉の渇きを癒すことはできない。また、炎もすぐ消えるので、暖を取ることはできない。油などに点火する際の着火材代わりになる程度である。 魔法は銅で覆われた空間の中では持続時間が増す性質がある。逆に青銅で覆われた空間では持続時間が短くなる。 銅箱の中に魔法を放てば魔法は長持ちするが、魔法を注入するのに最低でも天蓋を空けなくてはならないため、結局効果は弱まってしまう。また、伸びる時間も元の時間の数倍なので、せいぜいもって 1 0 秒程度である。 だが、元の数が大きければ銅には意味がある。dɥʃcl 照明では銅を利用して照明時間を長くしている。

ɟcɑ ［形容詞］古い、旧 ［類義語］leʃcɥ,ɥəəʃel ［反意語］ɟɪɒ ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古では jeɑɪ が新しい。そこから制では ɟɪɑ,ɟcɑ の対ができた。その片割れの ɟcɑ がこれ。そもそもなぜ ɟɔɑ,jeɑ の対にならなかったというと、起こす・消すが ɟɔɑ,jeɑ だったため。なお、消すは古で jeɑɔ。 nəə:nəə:ɑcɟf:leɑcɟ,ɑɸn ［語法］ → ɟɪɒ , jeɑej ［用例］ lec ɟcɑ 古い本。中古という意味はない。

ɟcɑʃcɪɥen ［言語］古ルティア語 ［レベル］5 ɟ1 ［文化］ 期間 : zɥ.ʔʔɥ ～ ˥˥ 末期 分布 : シージア、ルティア、リーゼル。ɥəəɒɪ ɟ˥000 のシージア滅亡まではルティア地方とリーゼル地方で主に使われた。その後はルティア国とリーゼル国で使われた。

ɟcɑjeɪɑ ［言語］古典 ［レベル］4 ɟɑ ɟ˥ ［文化］ ɑeldɪnɾ ［用例］ ɪd ɪn pə˥ɪɟɪɾ cɒ ɑcɟ ɥəl ɟɪɑel e jencɪn ɔnen ɟcɑjeɪɑ ɔ ɟcɑcnɟɪɟen. ちなみにゴールデンウィークの古典と漢文の宿題は今日終わらせた。

ɟcɑɒel ［歴史］古代 ［レベル］4 ɟ˥˥ ［語法］ → ɑeɒe ɑl_ɥɑ までの時代。古代は神代と魔法代を合わせ、獅法代と対立する概念。

ɟcɑɟen ［言語］古語 ［レベル］4 ɟɑ;/ ɟ˥ ［語法］ ある言語より古い言語を指す。一般的にはアルカより古い言語群を指す。

ɟcɑɪɸed ［動物］アンモナイト ［レベル］5 ul;/「古い螺旋虫」 ɟ˥

ɟcɑɪɟ˥ɪ ［言語］古アルカ ［レベル］3 1L:ɟcɑcɪ:ɪɒɪ˥e˥ɾ

ɟcɑɪ˥˥ ［名詞］古アルカの数字 ［組み数字］1 0 ［レベル］5 1L ［語法］ ɑəə, ɥɔə, ucc, uɔn, ˥ɔn, ɪn, zɪn, hen ,lɔn, ʃɔɔ の 1 0 種。0 は ɥəə で新生と同じ。古の数字は使徒によりいくつか使い分けがあり、統一を見なかった。ɟ0 年にフルミネアとリュウが古アルカの共同研究をした際、数字の読みの共通ソースに制定語彙を使ったが、これがセレンの赤アンクノットと同じ読みであるため、赤アンクノット通りの読みに回帰した。セレンが新生で擬古的に作った数字は棄却された。なお、赤アンクノットではヴィ (uc) だが、これは新生の uc と重複するので音を伸ばしたとのこと。 ［文化］ zɥ でレスティル軍人が用いた符牒が広く普及したもの。武器の長さ順に 1 から 9 まで命名している。例えば ɑəə は ɑcɸc（槍）から来ている。順に、「槍、投槍、斧、槌、剣、ロッド、杖、投げナイフ、手裏剣のような小さな飛び道具」から命名されている。 例えば 5 の ˥ɔn は ˥ɔɸc（剣）から来ている。˥ɔɸc は「砥いだ金属」を意味する。古では剣は dcc˥c とも言った。これは dc（尖った）/ɸc（金属）から来ている。 現実にも武器の長さ順に数が命名された。

ɟcɑcnɟɪɟen ［ユマナ］［言語］漢文 ɟ˥˥

ɟcɸ ［名詞］ヒューズ ［レベル］6 1ʔ: 制 :ɟcdɸc 溶ける金属

ɟcɸnɪɟcɔ ［ランドマーク］シグナリオ工科大学 ［レベル］6 ɟ0:ləɟcɪ/ɟɪɸnɪlɔ˥/ 古ルティア語 ɟcɔleɾ（研究する） ［文化］ イムル 1˥ʃ˥ 年にルティアに建てられた工科大学で、ラグナロク工科大学の 2 号店的な存在。1ʔʔ˥ 年にはラグナロクと共同で ɪnsel を開発している。

ɟcd ［動詞］ɥəl を ɪ（口や容器など）に吸う、吸う、啜る、すう、すする ［反意語］ɪ˥ɟcd ［レベル］2 1ʔ: 液体。新生では jɪd から。 ［語法］ 飲み物の場合、ストローがなければ自動的にするの意味になる。吸うと訳さないように。 ［用例］ ɟcd ˥eɑ. 息を吸う

ɟcdɾ ［化学］蒸気 ［化学］水蒸気← eɟɟcdɾ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɟcd（液体）

ɟcdɟɪɸen ［工学］蒸気機関 ［レベル］5 ɟ1

ɟcdɒ ［名詞］ボイラー、給油器 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɟcdɟɟdɒ

ɟcdl ［医療］窒息 ［動詞］ɥəl を窒息させる、窒息する ［レベル］3 1ʔ: 制

ɟcdlɟɪdɒ ［医療］無気肺 1L:ɟeɟen

ɟcdɪl ［名詞］呼吸 ［レベル］3 1L ［成句］ jel ɟcdɪl 呼吸を受け流す : ユペールから来た句で、相手の悪い呼吸に同調しないで流すこと。ルヴァンに流入され、その後一般的にも使われるようになった。相手の悪いリズムや空気に同調すると自分も悪影響を受けてしまうので、悪い空気は無視して流すことを指す。日常的には、ヒステリーな上司をスルー、生きながら地獄にいる荒らしをスルーといった場合に使う。 ［用例］ ɟcdɪl ɑɪn 深い呼吸、深呼吸。深呼吸は体の奥深いところから行う呼吸であることから ɑɪn。

J

ɟcdɪlɗɪnʃ ［生物］呼吸系　ɟʃ;/　ɟ̃ɲ

ɟcdɪleɪɒ ［生物］呼吸器　［レベル］4　1L

ɟcbɪl ［代詞］［南方］［男性］ʃccɟ　［レベル］3　ɟ1:ɟe/bɪl

ɟcbɪlen ［代詞］［南方］［男性］ʃccleɟ　［レベル］3　ɟ1:ɟcbɪl の属格

ɟcɥɪ ［代詞］［南方］［女性］lenɪ　［レベル］3　ɟ1:ɟe/bɥɪ

ɟcɥɪn ［代詞］［南方］［女性］lenɪn　［レベル］3　ɟ1:ɟcɥɪ の属格

ɟcɥ ［生物］肌、皮膚、スキン　［動詞］ɥəl を無意識で触れて感触を味わう、触れる、ふれる、触る、触わる、さわる　［数学］表面積　［レベル］1　ɑ;e　古　［用例］　ɟcɥ ɑcl なめらかな肌　ɪn ɟc ɥɪʃ lɪɟ lɪɪʃ. 私はふと彼女の手に触れた。　☆ ɪn ɟcɥɪ{ɥəl} lelɑc. 月の光を浴びた：ɥəl と違い、触覚で光の暖かみなどを感じている表現。

ɟcɥʃ ［動詞］ɥəl をかぶれさせる、かぶれる　［形容詞］かぶれた　［レベル］2　1ɲ: 制 :ɟcɥ　［用例］　ɪəɔ ej ɟcɥʃ ɒcl ləɔcl. パイナップルで口がかぶれた。

ɟcɥʃɔnʃ ［医療］弾入、だんにゅう。管鍼法で使う技術。　μɑ;/　ɟ̃ɲ

ɟcɥʃɔe ［医療］刺入、しにゅう。鍼の技術。　μɑ;/　ɟ̃ɲ

ɟcɥʃcl ［医療］切皮、穿皮、せっぴ、せんぴ。鍼で使う技術。　μɑ;/　ɟ̃ɲ

ɟcɥɟɪɑ ［名詞］体感温度　［レベル］3　1L　［用例］　ɟcɥɟɪɑ ɪʃ ʃcɑ. ɟ0. 体感温度はマイナス２０度だった。

ɟcɥnɔɪ ［美容］スキンヘッド、ハゲ、はげ、禿げ、ボウズ　［レベル］3　1L

ɟcɥɑɪcz ［医療］皮膚炎　［レベル］5　1L:ɟeɥen

ɟcɥɒcʃl ［美容］パッチテスト　［レベル］6　ɟ1

ɟcɥdɪʃ ［美容］スキンケア　［レベル］4　ʃɒ;/　ɟʔ　［用例］　ɪɥ ɟcɥdɪʃ ɔn ɪɪɪɒ 頬のスキンケアをする

ɟcɥdcʃ ［医療］皮膚科、皮フ科、皮ふ科　［レベル］3　μɑ;/　ɟ̃ɲ

ɟcɥdcɸ ［医療］皮膚がん　［レベル］5　1L

ɟcɥɪɒn ［医療］肌にできる発疹、発疹、湿疹。肌の炎症で、あせもなどを指す。　［レベル］2　1ʔ: 制

ɟcɥeɒɟ ［生物］皮脂　［レベル］4　ɟ1

ɟcz ［名詞］板、パネル、プレート、バックボード、ダーツボード　［運動］道具を使って移動することを主体としたスポーツ　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ɟcɪzɪɒɔ（平らな木）

ɟczhɔnɟ ［アイテム］［軍事］プレートメイル　μɑ;/　ɟ̃ɲ　［文化］　ɪɪuhɔnɟ

ɟczl ［名詞］盆、トレイ、トレー、お盆　［地学］盆地　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɟcz

ɟczɪ ［地学］プレート　［レベル］5　1ʔ: 制 :ɟcz

ɟczɪɒccɥ ［地学］プレートテクトニクス、プレート理論　［レベル］6　1L

ɟczeʃ ［名詞］ステージ、舞台　［レベル］3　ɟ1:ɟcz/ʃe

ɟcɔɪ ［代詞］［南方］［男性］ɪnɟ　［レベル］3　ɟ1:ɟe/ɔɪn

ɟcɔɪn ［代詞］［南方］［男性］ɪnʃeɟ　［レベル］3　ɟ1:ɟcɔɪ の属格

ɟcl ［名詞］未来、将来　［法副詞］～するだろう。未来時制の副詞。　［動詞］ɥəl だろう、だろう。未来時制の繋辞。　［形容詞］未来の　［反意語］jeɟ　［レベル］1　1L: 制 :ɟclʃ（あとで）　:::dɪɟeɪə,ɪlʃ　［語法］　・ɟcl と ɪɪn　→ ɪɪn　［用例］　cn ɟcl 未来を見据える　ɪɒcɥ ɟcl 未来のだんな様　ɟcl ɑcɥʃ 明るい未来

ɟclʃ ［名詞］自由　［形容詞］自由な　［反意語］lɥɪ　［レベル］3　1L:ɟclɑnɪ（心が軽い）　［成句］　ɟclʃel どうぞご自由に、ご勝手にすれば？。口調次第で嫌味っぽくなる。上昇調だとやや嫌味っぽい。下降調だと文字通りの意味。同じ上昇調でも相手に言うのではなく相手に問う場合は「自由にしていいの？」の意味になるので、嫌味としての「勝手にすれば？」にはならない。

ɟclʃɪɑ ［地球の国名］ギニア共和国　1L: 国家が「自由」

ɟclʃcɪl ［政治］自由都市　μɑ;/　ɟ̃ɲ

ɟclʃ)lcʃ ［名詞］自由席　［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleɪlʃ

ɟclʃɒɪɸ ［物理］自由振動　［レベル］6　ɟ1

ɟclʃɑcʃ ［経済］可処分所得　［レベル］5　μɑ;/「自由にできる所得」　ɟʔ

ɟclʃμɪʃʃɔ ［地球の国名］リベリア　1L: 自由という意味。国旗がアメリカに似ている

ɟclʃzɪɑ ［数学］自由ベクトル　ɟ1

ɟclʃɪ)n ［政治］自由主義　［レベル］4　1L

ɟcl) ［名詞］平等、均等、均一　［動詞］ɥəl を平等にする、平等にする、均す、ならす　［形容詞］平等な、均等な、均一な　［類義語］clɪʃ　［反意語］jdɪʃ　［レベル］3　1L:ɟclɪ

ɟcl)lɪʃɪμ ［形容詞］［ポジティブ］無礼講な、ざっくばらんな、遠慮のいらない　［類義語］lclle　［反意語］ɪlcʃ　［レベル］4　ɟ0　［文化］　μn で、先代と一緒に宴会をしたときに、普段より先代に対してざっくばらんに接したことから、その態度を「平等なカタル」と呼ぶようになった。

ɟcl)lɪnɸ ［政治］平等権　［レベル］4　1L

ɟcl)lɪbc ［政治］シルク・アルミ、シルクアルミ。五民平等。四民平等にあたるもの　［レベル］4　1L: 平等な五角形　［文化］　ナディアにおいて、王族、貴族、軍人、商人、平民の５つの平等を訴えたもの。ヴェレイにおいてようやく可決され、貴族は再び廃止。同時に表面上の平等を勝ち取った。結局、労使間で貧富の差が生まれ、事実上の身分は残った。

ɟclɟ ［名詞］ティッシュ　［レベル］2　1ʔ: 制 : 語源不詳　［文化］　鼻をかんだり物を拭いたりするのに使う。木の箱に入っており、詰め替え用が店頭で売られる。日本より使用頻度が少ない。環境に配慮して税金率が高く、非常に高価。日本でいうなら一箱５００円程度かも。

ɟcla ［形容詞］軽い　［法副詞］どうぞご自由に～してください。前置。ɟclael だと「軽く」という意味。　［丁寧］［形容詞］やせている、痩せ、ほっそり、スレンダー、すっとした、すらっとした：女性限定。男性には侮蔑的。　［名詞］(nɪ) さっぱりして身軽な、さっぱりして心地よい、サッパリした。　［文字］リーン　［類義語］ɥəɒelc　［反意語］ɔɔlʃ、ɑɪɑ、zedleʃ　ɑu;ləɑ が靴を脱いで身軽になるという意味で、ɟcla が「軽やかな」という意味。　［レベル］1　赤：軽やかな　nɥ:nɥɪ　［語法］　→ ɑɪɑ　「気軽に」の意味はない→ ɑenl　［用例］　ɪɔccμ ɪɔl ɒel eʃ ɟcla. クミールはメルくらいほっそりしている。　ɥ, hɪɔ, ɟcla lecl ɑc. ɪn nɪ ɪɒd ɪ ʃə. えぇ、もちろん。ご自由にご登録ください。光栄です。　cɒ ʃəɔ, nɔn ɪμ uɪu lɪnɪ eɒ ɟcla. 最近、痩せるように運動している。　☆ ɪn nɪʃ ɟcla ɒcl eμl. お風呂に入ったらさっぱりした。

ɟcla(J) ［魔法］シルフ気質　［レベル］5　制 : ヴィル＋ノア気質の人間が軽やかに悩み少なく生きているように見られたところが語源となっている。だが後のアルヴィナでは軽やかなのはノア＋ユノと考えられるようになった。　［語法］［文化］　ノア＋ユノ気質。

ɟcla,lʃl ɑccne　ɟcla

ɟcla)eɪl)ɔ ［感動詞］お気軽に、どうぞ、どうぞどうぞ、ぜひとも、ご自由に、どうぞごじゆうに、どうぞご自由にお取りください　［レベル］2　古 :ɟcla)eɪl)ɔ「軽やかに来る」　［文化］　→ ɒɔɸ

ɟclɑɪnʃcɟ ［軍事］軽装兵　［レベル］4　1L:μcɑcɪ

ɟclaɪəfeɪlɒ ［化学］軽質ナフサ　1L

ɟclaɪlɒ ［化学］軽油　［レベル］5　1L

ɟclaɪnɑɪ ［軍事］軽火器、ライトウェポン　μɑ;/　ɟ̃ɲ　［文化］　ɸel

ɟclaɪnɔz ［音楽］ハミングバード　ɟ1

ɟclɑc ［名詞］小さな光、微かな光、仄かな光、明かり、仄明かり、ほの明かり　［形容詞］微かな、幽かな　［副詞］かすかに、かすかな、ほのかな、ほのかに、ごくわずかに　［レベル］3　1L:μcɑc ɪ:ɟcla.　［用例］　ɟclɑc ɪʃcclc lɪnʃeɟ ɔlɒɪ ləəʃ ʃcnel. 青白い仄明かりに映えた彼の容貌はとても美しいものだった。

ɟclɑc)eμn ［生物］クリオネ　［レベル］4　ɟ1:「淡い光の翼」

ɟclɑcaɪn ［天文］太陽系小天体　［レベル］4　ɟ0: 質量が惑星などより軽いため。

ɟclɑccɥə ［形容詞］稚え、ちえ　［名詞］稚えっ子、ちえっこ、ちえっ子　［類義語］ɪnl　［反意語］ɥəəɥə　［レベル］3　ɟ0:ɟclɑc（仄かな光）/ɥəəɥə（のように萌える）。ɟcl ɑccɥə と同音なので言葉遊びができそう。日本語訳のほうは「幼稚園」などの「稚」から来ている。　［語法］　ɥəəɥə　単純語の形容詞としては一番長い語かもしれない。

ɟclaen ［形容詞］淡い、色が淡い、パステル、薄い　［反意語］ɑɪɑɪl　［レベル］3　ɟ1:ɟcla/en　［語法］　zɔɔɒɔɔl

ɟclaennɒɒ ［芸術］パステルカラー　［レベル］4　ɟ1

ɟclɒ ［格詞］恐らく～しないだろうが。確率の弱い条件。　［類義語］ɔl　［レベル］2　1ɲ: 制　［語法］　ɔl

ɟclɒc ［名詞］花婿　［反意語］ɒɪɪɟ　［レベル］3　ɟ0:ɟcl ɪɒcμ（夫になるだろう）　［用例］　［言葉遊び］［俗語］　"oec, ɑcɟ jeμɣ lɪ ɒɪlɟ ɪɪn le been ɑczɒɪl"――"lclɒɪ ɪ ɟclɒc"「おい聞いたか？あいつ、あのブスと結婚するって」――「花婿に仏花だな」

ɟclɒel ［言語］未来時制、未来形　［名詞］未来　［レベル］4　ɟ1

ɟclɸɪ ［地学］ボーキサイト　［レベル］5　1L:ɟclɸɪ からの意味的な逆成

ɟclɸɪɑɔl ［地学］ギブス石　1L

ɟclɸc ［名詞］アルミニウム、アルミ　［レベル］4　古 :μɥəə:ɟclɑɸc（軽い金属）から。

ɟclɸclcl ［化学］アルミニウム→ ɟclɸc　［レベル］4　1L

ɟclɸcəɟ ［名詞］いんちき、インチキ、にせもの、偽者、贋作、ばったもん、でたらめ、いかさま、イカサマ　［類義語］ɑcel　［レベル］3　ɟ0:ɟclɸc/lelʃcəɟ　［文化］　μn でリディアらが開発したシェルティウスは銀を使うため高価だった。そこでアルミニウムを混ぜたまがい物が売られたが、銀でないと効果がないので、客はいざというときに気付かされた。そこから、アルミでできたシェルティウスを ɟclɸcəɟ（インチキ）と呼ぶようになった。

ɟclɸcəɟɪn ［名詞］嘘つき、インチキ　［レベル］3　ɟ0:ɒelcɑcɪ lceμ

ɟcldeμ ［経済］先物　［レベル］5　1L

ɟclcɪ ［魔物］シリア（光蠍）：第五十六天：光の陽天　［レベル］5　1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:ɟclɑ/ɑɪdc　［文化］　蟲族。土の中に隠れ、光る触覚を出し、獲物が近寄るとガバっと鋏で仕留める魔物。大型で、子馬ほどの大きさがある。

ɟclcɪ)ənc ［天文］みなみのかんむり座にあたる星のつながり　1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel　［文化］　シリアの触覚に見えたことから。

ɟcleʃ ［アイテム］ルシーラの杖、ルシーラの錫杖、杖、錫杖　［動詞］ɥəl を司る、司る、つかさどる、管理する、監督する　［レベル］3　古 :ɟccleʃ,ɟcleʃ,μɟccɪleʃ　［文化］　ルシーラの持つ長い杖で、使徒を率いるために用いる。権威の象徴でもある。デスパの中心で持つか、そこにルシーラがいなければ立てておく。

ɟclezcɪ ［歴史］シレジア族　［レベル］5　ɟ0: 古シレジア語「静かな人」

ɟclezcɪn ［歴史］［地名］シレジアン帝国　［レベル］5　ɟ0: シレジア人の　［文化］　ɥəəɒɪ　ɟ1ɟ̃ にマレティスがヴェルディアン帝国に対抗するために作った帝国。最大版図は建国時で、東は シージア、西はメディアンまでを支配していた。ヴェルディアンと同じくシージアが宗主国で、それ以外は属国という形を取った。

ɟcɪ ［名詞］膜　［音楽］ドラム、タム、トム、スネア。ドラムなどの膜鳴楽器　［魔法］シア（プロテス）。利の多段白魔法。霊気のバリアを張る。敵の霊気を弱め、あるいは消失させる。術者の能力に応じて強さが決まる。　［レベル］2　ʃɒ;e　ɟ:lʃccz: 古 : 東京の喫茶店でホットミルクを飲んでいて、牛乳の油膜を指して ɟcɪ といっていたことから。

ɟcɪ,ɪlʃ ʃɪɑ

ɟcɪʃ ［政治］内閣　ɟɔμn

ɟcɪlɪɪ ［政治］閣議　1L

ɟcɪn ［名詞］持たざるもの　［レベル］4　1L

ɟcɪn(J) ［音楽］ドラマー　［レベル］5　ɟ1

ɟcɪn(ʔ) ［代詞］［ɒɪn］ʃcjee　［レベル］2　ɟJ:ɪɒccμ/μcɑcɪ

ɟcɪn,ɪlʃ ɪμʃ

ɟcɪucμɔ ［生物］膜タンパク質、膜蛋白質　μʃ;/　ɟ̃ɲ

ɟcɪɑɔnʃ ［生物］輸送体。細胞膜の。　μʃ;/　ɟ̃ɲ

ɟcɪɒɪcn ［音楽］シェル、胴。ドラムの胴体。　ɟ1

ɟcɪɥəɪn ［生物］受容体。細胞膜の。　μʃ;/　ɟ̃ɲ

ɟcɪμen ［魔法］［地学］アルシアの魔石　［レベル］5　1L:ɪlɟcɪ/μen　［文化］　１１属性の魔石。アルシアが見つけ、リスト化した。当時と μn で呼び名が変わることがある。持っているとその属性の敵の攻撃を和らげ、逆にこちらのその属性の攻撃を強める。　闇 : uelen（黒水晶）　水 : enɪμen（アクアマリン）　風 : ɑcɪcnɟ（翡翠）　土 : ɑɪln（琥珀）　火 : ɪμlɪneʃ（ガーネット）　雷 : lesenʃ（菫青石）　光 : μeʃcl（蛍石）　聖 : ɒcμen（ジルコン）　邪 : uenɑccl（アメシスト）　利 : μeeɟ（オパール）　害 : ɑeɒcl（トパーズ）

ɟcɪzɔn ［音楽］ドラムスティック→ zɔn　ɟ1

ɟcɪs ［建築］天井　［反意語］ɪ)ɟ　［レベル］2　ɟ0:ɟcɪ e sɪn（空の膜）。以前は cʃl だったが、「いちゅ」という発音が天井に沿わないため変えた。

ɟcɪs(J) ［動詞］ɥəl を結う、結う、ゆう、結わく　［類義語］ɑɔʃ　［アクセント］ɟcʔs　［レベル］2　ɟ0:ɑclu eeɥə「戦時の空」古代の女魔導師が戦時（このころはたいてい空中戦）に髪を結ったことから。　［語法］　ɟcɪs のほうが持って回った古風な言い方。　［成句］　ɟcɪs nɔɪ. 気を引き締める。セルメルまでは覚悟するとか決意するという意味。

ɟcɪl ［魔法］魔法体　［レベル］5　ɟ1:ləɟcɪ/ 古 ɪl　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɟcɪleʃ ［魔法］魔法性　［レベル］5　ɟ1:ɟcɪl/ʃe　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɟcɪ e dɪlnʃμen 『首吊りシア』　L:μcɑcɪ 訳 : ユンク小説『首吊りシア』: リディアが参考にした原話は不明。古アルカ題は "ɟcɪ ɪenɔ dɔucnəəɔ"

ɟccʃ ［形容詞］爽快な、心地よい、さわやかな、爽やかな、すがすがしい、清々しい、空気などが新鮮な、気分がいい、清涼な　［レベル］3　1L:eɟcl/ɑccʃ　［語法］　快楽よりは爽快さに重点。運動や炭酸飲料や涼風など、爽快になるものを指す。　［用例］　senʃ ɪʃ ɟccʃ. 爽快な天気だった：例えば蒸し暑くなく寒くもなく適度に乾燥していて空が晴れていてそよ風が吹いている状態。　ʃeeze ɟccʃ ɪʃ ɟɔɑ. 爽やかな風が吹いた。　ɟɪd e ɑɪɪμ ɪʃ ɑμen ɔ ɟccʃ. 朝の空気は澄んでいて清々しかった。　ɪn ɪʃ neʃ ɒeμel ɒɪn ɟcdcl ɟɪd ɟccʃ. 新鮮な空気を吸ってすっかり目が覚めた。

ɟccʃlen ［アトラスの国家］シーチェン　［レベル］5　ɟJ:μcɑcɪ

ɟccl ［植物］マルメロ　1ʔ: 制 :jeμcl)ccl

ɟccn ［形容詞］人気の、人気がある、人気のある　［反意語］lɪɪɒ　［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe:ɟccnɪ　［用例］　eμɑc eʃ ɟccn lɪlʃ ɪμɪn. 銀は魔導師の間で人気がある。

ɟccnlec ［名詞］人気の本、人気作　［レベル］4　μɑ;/　ɟ̃ɲ

ɟccnlecɔnl ［名詞］文庫本、文庫　［レベル］4　ɪlʃ;/　ɟ̃ɲ　［語法］　多数の読者が見込まれる書籍を収めた小型の叢書。

ɟccnɪ ［動詞］ɥəl が好き、好む、ɥəl がいい、好き　［形容詞］お気に入りの、好かれた　［副詞］(ɟc cnɪn) 好んで　［文末純詞］～してくれる。出来事に対する話者の好意的な気持ちを示す。　［反意語］　ɟcn　［レベル］1　lɟɑ;lccnɪ.l → lcɒ　古 :ɟccnɪ（甘い心の lccnɪ から ɟccnɪ に）　lccnɪ:ɟccnɪ::ɑcɪlə, ɪlʃ　［語法］　ʃccɪ　そのものあるいは相手に心地よさを見出している状態。ʃccɪ と違って自分が ɥəl のおかげで心地よいというニュアンス。　ɟccnɪ（好き）の実例　ɟccnɪɒ : 好む　ɟcc nɪ lɪ : 好きである。好きになり始めから好きでなくなるまでの総称　ɟccnɪ ɟɪʃ : 好きになろうとしている。まだ他人　ɟccnɪ)cʃ : 好きになり始めた。意識し始めた　ɟccnɪɟ : 好きになる途中。あの人いいかも状態　ɟccnɪl : 好きになった。私この人のこと好きなんだという気付きの時点　ɟccnɪ : 好きである。好きだ　ɟccnɪ ʃɔɔl : 好きでありおわる。好きでなくなる　ɟc cnɪ clʃ : むかしは好きでした的な意味　［成句］　le nene ɟccnɪ ～のお気に入りの　［用例］　ɪn ɟc cnɪ ʃc. 君が好きだ。　jee ləəɟ jeəɟʃ ʃə ɪ nɔn)ɪen ɥəɒɪnɪ ɟccnɪ. そしてユマナの私に手渡してくれた。

ɟccnɪdɪɟ ［電算］ファビコン、ファヴィコン　ɪl;/「お気に入りのアイコン」　ɟ̃ɲ

ɟccnɪμenɟ ［言語］好きな言葉　［反意語］beɸμenɟ　［レベル］4　μɑ;/　ɟ̃ɲ

ɟccnɪɔl ［名詞］お気に入り　［レベル］2　ɟ1

ɟccnɔnl ［名詞］人気連載　［レベル］4　μɑ;/　ɟ̃ɲ

ɟccne ［名詞］好きなタイプ、タイプ、趣向、好み　［反意語］ɪlɟccne　［レベル］3　μɑ;/ ↓　ɟ0:ɟcc nɪ/eμc

ɟccnel ［名詞］好き嫌い、選り好み、タイプ、趣向　［動詞］ɥəl を選り好む、選り好む　［レベル］3　μɑ;ɟccne/ɪl　ɟ̃ɲ

ɟccɑ ［形容詞］無標な　［反意語］lɪɪd　［レベル］6　@ 1L

ɟccd ［形容詞］丸い、尖っていない、鈍感な　［反意語］dcl　［レベル］3　制？　［用例］　zɔɔl ɟccd 丸まった鉛筆

ɟccdɟlɔʃ ［名詞］角丸→ lec　ɟ1

jccɥə ［形容詞］すごい、凄い、グレート、偉大な、すばらしい ［反意語］ſiddc ［レベル］2　J0:ʞc ɔn:jccnɪ ɥə ［用例］ſə eſ jccɥəſ こりゃすごい！

jccz ［動詞］ɥəl を ɪ に見せびらかす、見せびらかす、みせびらかす、自慢する、自慢げに見せる、ひけらかす、喧伝する、衒学的に見せびらかす、見せびらかせる、みせびらかせる ［レベル］3　J0:pcɑcɪ:「甘いところを見せる」

jcczɪɥ ［医療］シーザー、西洋医学、現代医学、医療、医学 ［反意語］ləʅleſcɪ ［レベル］3　μɑ;ʞc cƶɪɥ,jzl<ʞccƶcɪ.ʅ　JM ［文化］元はシージアで発達した医療体系として今でいう ləʅleſcɪ を意味した。後に jzl で ləʅleſcɪ ができると jcczɪɥ は ləʅleſcɪ 以外の医療を指すようになり、ɟɒ ごろからアルバザードで錬金術を使った医療体系を指すようになった。その後 nɑ から西洋医療を指すようになり、現在に至る。

jcczcɪ ［地名］シージア　jeμſ;ʞccƶcɪ ［レベル］4　J0:μcɑcɪ:ʞccƶcɪ。ʞeeμe（静かな）/ɑcɪ（土地）の音変化。 ［文化］古代国家のひとつ。現ルティアを含んだ広大な国。

jcczcɪdcnɑ ［医療］柳葉形。撚鍼法に使う。シージアで撚鍼法が発達したのでこの名がついた。　μɑ;/　JM

jcczcɪμen ［言語］シージア語 ［レベル］4　JJ ［文化］elɑɟeſɪ　●概要　名称：jz（シージア語）　系統：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族サヴィア超語派シージア語派（ɪſeɾɪɑɪſ, ɥəə ɒɪeɒcſ, ɒɪleſɑcɪɒ, jɪɹcɪcɑɪl, jcczcɪlelſeɒ）　使用年代：ſɒ_zɥ：（ſɒ_ɾlu(jzɑ), zɥ(jz), jzu, jz)）　分布：北サヴィア　話者：ガルヴェーユから移住してきたマレットの民　類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ　認知様式：主観的把握　→　客観的把握：zɥ には客観的把握になっていたので jzɑ の間に変化したと思われる。　ſɒ から zɥ まで約２０万年弱続いた言語。lſ, lz, ɪlſ などの直接の祖。　そのうち１９万年は jzɑ で、まだユーマの一族が十分に神性を保っていた頃である。とはいえ文明レベルは ɑμɑ と同じく神より低く、寿命も有限だったため、jzɑ に関しては記録が乏しい。　一方 zɥ に入ると急激に文明が発達するが、シージア戦争で多くの書物が焼失してしまっている。　●文法　・概説　アルカと共通している箇所についてはわざわざ説明しない。　神々がサヴィアを本拠地としなかったことから神との結びつきはアルカットより弱く、その結果、語彙に関しては ɑμɑ_lɥ より保守性が弱い。lſ の基本語彙は jzɑ に由来するものが多い。　zɥ になると東西戦争により急激に国際化し、シージアは人種の坩堝になり、それとともに jz の語彙も豊富になった。特にシージア戦争ではシフェル文化圏から新たな語彙や概念がもたらされている。　語彙に反し、文法に関しては保守性が強く、ɑu 同様ＳＯＶである。　形容詞と副詞は前置される。ʅɪc le, ucuc he のように。　ɑu の関係詞の黙字 μɔɔ は jz では lɥə と読まれる。　ʅeɥ ～ bə が ʅeɥ ～ ſɥə に。　与格の ʅeɥ と ɪl が cl に統一。ɪl を lcɒleſ したものが元になっている。　ʅeɥ は語彙化して「行く」に。　・アクセント　アクセントが無アクセント言語になり、デフォルトで音節末が強く読まれるようになった。　・音韻　h が消失し、h のあった部分は ' と書かれる。　h は lſɑ で戻るため、' は jz のマーカーにもなっている。　・格　主格と対格ができた。　語の末尾に付く。　主格：母音調和した母音＋ μ：ɑɪlɪn → ɑɪlɪnɥ（ファラナール。貴方が）　対格：(j)ɪs：ˈɔμeſſɪs（オレッタージュ。リンゴを）　それ以外の格は後置詞を膠着させる。　アクセントが後置詞の部分に来てひとつの単語として発音されるため、後置詞との間にスペースを入れない。　lczμɔʅɪl（リズロカール。家で）　ɑɪlɪnzɪɥ lczμɔʅɪl ˈɔμeſſɪs ɑəſɪ jɔſ.（貴方達は家でリンゴを与えた）　ファランザール　リズロカール　オレッタージュ　ファーソット　・テンスとアスペクト　連動詞で示し、後続動詞がテンスとアスペクトを担う。　ɑəſɪ（与える。辞書形だが、単体では使えない。ɑəſɪɥ のようになる）　ɑəſɪ jɔſ（与えた←与えるした）　ɑəſɪ jɔ（今与える。現在および近未来）　ɑəſɪɥ（与える。通時。これだけ膠着）　未来形はなく、意思の助動詞で示す。　アスペクトは ſɪn も失い、すべて助動詞で示す。　助動詞は後続動詞の後に続く。　ɑəſɪɥ lɪn（与えたい）

jccl ［動詞］ɥəl を守る、守る、護る、護衛する、ガードする ［動詞］ɥəl を娶る、ɥəl と結婚する、娶る、めとる、結婚する ［普通動名詞］守護、保護、護衛、ガード、結婚、婚礼 ［レベル］3　古：「甘くする」としか解釈できない。ユンクをナイトが守るという意味の語。その守ってあげるさまが甘いムードだからだろうか。語源不詳。　uɪnɔ:uɪnɔ:ɒelɔμ:jɪləə,ɪlſ ［語法］uɪnɔ は通常の守る。jccl は特に男が女を庇護すること。父親が娘を守ったり、兄が妹を守るのもあり。愛情を行動原理としているかどうかが決め手。　２は女が男に結婚を申し込まれ、受諾する際に返す言葉から。女の方から結婚するとはアルバザードでは言わない。男が申し込み（このとき alen jɔμɑlſʁ という）、女に決定権がある。女が男を受け入れるとき、μen jccl nɔn（レン・シール・ノン＝私を守ってください）と答える。そう言われた男が ɪlſɥənl（姫を守ります）と答えると婚約成立。 ［用例］ſcſſɪ, lccs. ɪn jccl ſc, ɒelaɪn. だいじょうぶ、お父さんが守ってあげるから。なきむしだね、君は (jeμen ɥbɪzɪμɑ)

jccle ［丁寧］［気象］雨 ［類義語］ejʅ ［レベル］3　jzɑ>ɪμɑ;jcel/enɪ ［用例］［言葉遊び］ſee, ejʅ ɪſə lɪnʁ jccle lcllɪ ɒɥə. もう、こんなときに雨？失礼しちゃう。

jccɪ ［名詞］経験、体験 ［動詞］ɥəl を経験する、経験する、体験する ［遊離副詞］［形容詞］～したことがある（過去）、経験として～してみる（現在、未来） ［レベル］1　1L: 恣意：制では lcl:ʔ: 制：古：lɪl（理論）　lɪlel:lɪlə̀l ［語法］実際に見たり聞いたり行なったりすること。　μe cn jccɪ は「経験として見てみろ」というような意味で、cnſ jccɪ は「見たことがある」というような意味。基本的に過去形とともに使う。　・しなかったことがある　en ſeμɪſ jccɪl で「聞かなかったことがある」。en ſeμɪſ jccɪ で「聞いたことがない」。 ［用例］ɪn ʅeſ jccɪ ləſcɪ μɪʃ ſɪ. ルティアに２度行ったことがある。　ɪn cnſ jccɪ lɪ cɒ le nɪ. 彼はどこかで見たことがあるような気がする。　ſə ɪſ jccɪ μɪſ. 良い経験をした。　ɪɒc ɥəcſ jccɪ ſə lec c ɑcɔnɪ alenzel. 本気でその本を探していたこともあったんだよ。

jccɪjeu ［名詞］随筆、随想、エッセイ、エッセー ［レベル］4　μɑ;/「経験の文章」　JMʁlcljeu:ʔ: 制

jcɔ ［名詞］テンプレート、テンプレ ［名詞］型板、型版 ［レベル］4　ʔ: 制：古 :jcʅɪzɪɒɔ。jcz と同根。

jce ［動詞］ɥəl を ɪ に提言する、提言する ［普通動名詞］提言 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɥbɪleſſ: 恣意 ［文化］提言は勧誘と違って積極的に行う。こうしたほうが良いのではないかというのは勧誘とも提言とも取れるが、アルバザードでは勧誘と提言は違う。勧誘はおせっかいにならないように勧めるだけである。提言はこうするべきであるとはっきり述べることである。前者は消極的で食い下がらないが、後者は積極的でしばしば食い下がり、議論に発展する。提言は勧誘と違ってしっかり吟味して議論すべきものである。すぐに取り下げるものではない。また、勧誘より強い主張であるため、一つひとつの発言にかかる責任も勧誘より大きい。

jceſ ［格詞］～しないながら、～しないで、～しないつつ。ʅɔnſ en と同じ。　［反意語］ʅɔnſ ［レベル］2　J0:jc/ſe（持たないような）［用例］ɪlcj clnɪſ jceſ ocʅ. アリスは頷かずに答えた。

jcen ［生物］すじ、筋。手相の筋など。　μɑ;jcμ/μecn　JM

jcenſc ［ユマナ］ローマ、ラテン ［レベル］5　1L:jcɑsenſc から

jcenſcʅɪnɑcɪl ［ユマナ］ローマ帝国 ［レベル］5　JM

jcenſchɪd ［ユマナ］ローマ字、ローマンアルファベット ［レベル］3　1L

jcel ［丁寧］空、天、天空 ［経済］天井 ［類義語］sɪn ［アクセント］jcEl。jc で切って el にアクセントが来る。ルティア方言から入ったため。ただし jɛel でも可。 ［レベル］3　jzɑ>ʅjl　J0:jcɪ/ 古 ɪl（膜 / 物）

jcelnɪlſ ［娯楽］天空城　JJ ［文化］『天空の城ラピュタ』に相当するアニメ。

jcellecn ［被服］着流し、着ながし ［レベル］4　μɑ;/「空に舞う服」　JJ ［文化］上着などを着流しにすることで、アルバザードだとカッコいい男性のファッションのひとつ。基本的にアルバザード人はひらひらしたものを好むため、どの時代でも着流しはカッコいいイメージがある。ただ、真面目な印象はあまり持たれないのでビジネス向けではない。

jceleſ ［形容詞］チャラい、ちゃらい、チャラチャラした、ちゃらちゃらした ［レベル］4　μɑ;jc ellecn/ſe　JJ

jceleſen ［名詞］チャラ男、チャラ夫 ［レベル］4　μɑ;/　JJ

jɔ ［動詞］ɥəl する、する。代動詞ないし、漠然と何かすること。 ［普通動名詞］行為→ jɔcl ［類義語］lecl: ［レベル］1　ɑ;e　古　jɔ:jɔ ［用例］ɪn en jeμɪſ nɔj jɔ ɪl ſɔ. 何をすべきか分からなかった。　ɪn jɔ elɑ ſɔſɪl ɒcl φɪſɔ hɪμſɪſc. この暑さの中で何もしたくない。

jɔ,ɑ jɔləɔɪ　e

jɔ,ɪlſ jɔl, jɔc　jɔləə,ɑ.l

jɔſ jɔ/ɪſ

jɔſe ［言語］能動、能動態 ［反意語］ɥəſe ［レベル］4　J0:「するような」

jɔl jɔ/cl

jɔlſ ［動詞］ɥəl を ɪ に交差させる、交差する、交わる ［動詞］ɥəl を ɪ に絡ませる、絡む、干渉する、ちょっかいを出す ［普通動名詞］絡み、干渉、ちょっかい ［名詞］垂直。平行に対する垂直（この語義では対象に対して９０度になるが、ほかの語義の場合は単なる交差なので、jɔlſ は必ずしも９０度でなくてよい） ［形容詞］垂直な ［格詞］～と交わって ［メタファー］［格詞］［形容詞］意見などがぶつかっている、方向性が合わない、馬が合わない、反りが合わない、意見などが交わらない（jɔlſ というが訳は逆に「交わらない」の意味になるので注意） ［反意語］eʅn ［レベル］2　1L:jɔl:1L: 赤 :jɔləʅɪ　jɔləʅɪ, jɔʅʅɪ:::jɔləʅə,ɪlſ ［語法］→ eʅn　絡むの用法は、人や動物などが寄ってきて話しかけてきたり何かをしてきたりすることを意味する。文字通り物同士が絡みあうことも意味するが、その場合は μɒd も使える。イチャモンをつけて悪く絡んでくる場合は ɪcl。 ［用例］ʅeſ jɔlſɔμ nɔj ɪl ɪn ɑɔ encenc. 猫がこっちにニャーニャー絡んできている。　☆ ɪnɔ ɪnſej eſ jɔlſ ɪ lɔʅ. 私たちの計画は互いに衝突していて反りが合わない。

jɔʅſbɪɑ ［動詞］ɥəl を交差させて打ち鳴らす ［レベル］4　JJ

jɔʅſzɔn ［文字］クロスバー　JJ

jɔʅſzɔl ［数学］余弦、コサイン ［レベル］5　1L: 正弦の弦と直角に交差する線分。線分だが、命名を揃えるために弦としている。日本語でも余弦と呼んで弦としている。

jɔʅſsɪɒɔ ［交通］ハブ空港、国際空港、ハブ ［レベル］4　JJ

jɔʅſſɔdn ［交通］ジャンクション駅、ジャンクション、ハブ、ハブ駅 ［レベル］4　JJ

jɔʅſɪ ［名詞］返事、返信、往信、反応 ［電算］レス ［動詞］ɥəl を ɪ に応える、応える、応じる、反応する、返事をする、こたえる、答える ［反意語］jeʅ。ただし異なる。 ［物理］共鳴、共振。　共鳴は共振の一種。アルカではふつう、どちらも同じ jɔʅſɪ。 ［レベル］2　μɑ;jɔʅſɪ,lz < jɔʅſcj,ɹzɑ　先 :jɔʅſɪ　lɪnſe:lɪnſe:jɔʅſcj ［成句］jɔɔl ɑel jɔʅſɪ ɪl cl 全レス　jɔʅſɪ ɪl cl 全レスする

jɔʅſcj,ɹzɑ jɔʅſɪ

jɔʅſcn ［物理］交差法。立体視の交差法。 ［レベル］5　JJ

jɔʅſcnſ ［数学］交点 ［レベル］4　1L

jɔʅſen ［接続詞］jɔʅſ ［レベル］3　JJ

jɔʅſeeu ［物理］横波 ［レベル］5　1L

jɔʅſɪ ［物理］波の干渉 ［レベル］5　古 :jɔʅſɪ（交わる）の語義の一つ

jɔʅſɪ,ɑu jɔʅſ　jɔləɪ.l

jɔʃ ［動詞］ɥəl を崇める、崇める、尊敬する、崇拝する、敬う、ありがたがる、信仰する（神を信仰するという意味では pcμɔj）［類義語］pcμɔj ［反意語］benʃ ［レベル］3　jɔμn ［成句］ʅɔnſ jɔʃj ɪμſeɪ 召喚省に敬意を表して：大人の事情で：ミロク革命ではメディアの規制が多かった。かといって規制がかかったときにテレビ局や出版社も面と向かって「政府が邪魔をするから」とは言えなかった。そこで考え出されたフレーズが、「召喚省に敬意を表して（自粛する）」。これを後の世では皮肉を込めて「大人の事情」という意味で使った。 ［用例］ʅɔɔſ, jɔnſ ɪn jɔʃj lə ɑɪ. 寧ろ、だからこそ私はセレンさんを尊敬しているのだ。

jɔʃjueſ ［言語］尊敬語、敬語 ［反意語］lcʃjueſ ［レベル］4　J0 ［文化］leɪueſ

jɔʃjɪſc ［名詞］敬意、敬度 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɥbɪleſſ

jɔʃjɪdſ ［名詞］尊称、敬称 ［反意語］benʃɪdſ ［レベル］4　J0

jɔʃjɔl ［名詞］尊敬する人 ［レベル］3　μɑ;/　JM ［文化］アルバザード人は日本人に比べ尊敬する人はと聞かれたときにどもりにくい。というのも、人を尊敬することは美徳で、人を尊敬できる人は善なる人間と考えられており、小さい頃から尊敬する人は誰か考えさせられるからである。　最近の日本人と違って身内などを挙げることは恥ではない。尊敬する人は偉人だけでなくても良い。　＜セレンが尊敬する人物＞　以下はセレンが尊敬する人物のリストである。　セレンは高尚で学究的で知名度が低く売れないほど高く評価する傾向にある。特に信念や正義感を持っている人間や努力をした人間、努力をしたのに報われなかった人間を高く評価する。尊敬ならざる天才なども高評価することがある。また、何かを成し遂げた人間や何かを作り上げた人間を尊敬することが多い。人格者も同様に好む。　リストの上から順に尊敬している度合いが高い。　エリエゼル・ベン・イェフダー：４０年もの間人工言語の研究を続け、体の不調にも負けず立ってまで作業をしつづけた不屈のヘブライ語の復古者。　大槻文彦：自分の信念を曲げず、最終的には私費で『言海』を出版した辞書の偉人。　ユーア：リディアの実父。完璧超人。　リーザ＝ルティア：セレンの先生。アルカの創始者。いつまでも先生と呼んで慕った。　リディア＝ルティア：セレンの恋人。カルディアの作者。　メル＝ケートイア：アシェットーの天才。　ルシア＝アルバザード：セレンの娘。天才さに惹かれた。　ユルト＝ルティア：セレンの息子。強きをくじき弱きを助け、優しい性格が尊敬できる。　山中伸弥：ＩＰｓ細胞にはセレンは早くから目をつけていたため。　想像地図の篠永：想像を絶する広さの詳細な地図作成に人生を捧げた人物。　池上嘉彦：セレンが最も影響を受けた日本の言語学者。　地理人：空想都市の創造に心血を注いだ人物。

jɔʅn ［動詞］ɥəl を結わく、結わく、結く、ゆわく、結ぶ、縛る ［反意語］ɪlɟɔʅn ［レベル］2　1ʔ: 制：古 :jɔləʅ（交差）　ɥɪɥɔ:ɥɪɥɔ ［語法］紐なしで縛ること。ゴミ袋の口を曲げて結わいたり、髪をピンやゴムを使わずに結わくこと。

jɔʅl ［名詞］公園 ［レベル］2　1ʔ: 制：恣意。プロトタイプで jeʅɪ という語があり、英語のｓｅｌｆｉｓｈ　ｇａｒｄｅｎからきていた。それを排他するために jeʅɪ を消して適当な無語源の音を当てた。 ［文化］集合住宅には大きな公園がある。夜の散歩道としても使われる。誰が住んでいて誰がいるのかはっきりしていても、常に見回りと監視カメラが働いているので犯罪はまず皆無である。その上、木々が細く高く間隔をおいて置かれているので見通しも良い。それゆえ余計に犯罪が少ない。この公園は集合住宅内の連絡通路からでしか行けない。外部の者が許可なく入ることはできない。公園にはベンチもあり、憩いの場としても使われている。砂場や遊具はない。犬の散歩コースもある。ウォーキングコースもある。両者は隔絶されているところもある。公園は一つの集合住宅に一つとは限らない。一つひとつが持っているとそれぞれの公園は狭くなってしまう。狭いところにたくさんの要素を持ち込むと物が密集してしまい、見通しが悪くなる。更に狭いので同じ景色ばかりになり、すぐに飽きてしまう。だから大抵は隣り合ったいくつかの集合住宅が共通の公園を持つ。この公園はかなり大きい。ただ、流石にカルテには適わない。公園には屋根のあるところがある。 ［用例］μcɑcɪ ſcſſɪ jccɪ le ɪlɑcɪn lɪ jɔʅl e dɪμɒ. リディアは日本の公園で子供をあやしたことがある。　lɪn lecz lɪſ jɔʅl ɒɪn ejʅɔμ. 雨が降っていたので、公園にはほとんど人がいなかった。

jɔləlɪ,ɑ jɔʅſ　e

jɔləlɪsc,ɑ leμs　elſ; 薬指で数を出すときに小指に親指が乗っかって交差することから

jɔləə,ɪlſ jɔc

jɔləə,ɪlſ jɔʅſ　<>jɔləʅɪ

jɔl ［交通］バス ［レベル］2　lɪʅſɪ:jɔl は元はミニカー ［文化］バスはランティス通りをぐるぐる回る。時計回りと逆時計回りが走っている。また、アルミヴァ通りを行ったり来たりするものもある。これらを乗り継いで目的地に行く。バスは駐車場ごとに止まる。駐車場が同時に停車場でもある。バスは有料である。定期券を購入するか、さもなくば降りる際に料金を精算する。バスは日本と同じ形をしている。長方形の箱形である。席も同じつくりで、つり革もある。降りるときはボタンを押し、清算して降りる。 ［用例］ɪn ſɪɑɪſ ucl jʅcſ ʅɪ ſə jɔl ɒɪn lɪn ɑc lɪ ɪſə. バスは人が多くて座る場所がなかった。　jɔl ləʅɔ ɑeſlɪ jeɟclel. バスがもうすぐ学校に着く。

jɔlφɪnɑ ［交通］［法律］バスジャック ［レベル］4　μſ;/　JJ

jɔɟ jɔ/eɟ

jɔɟɔ ［動詞］ɥəl を説得して ɪ をさせる、ɥəl を ɔn について説得する、説得する、折伏する、説伏する、諭す ［普通動名詞］説得、折伏、説伏 ［レベル］3　古 :jɔɟɔſ するようにさせる」 ［語法］jɔɟɔʅ は説得という行為の終わりしか意味せず、説得自体の成否自体は不明。この点では英語と異なり、日本語と同じ。従って、ɪn jɔɟɔſcʅ lɪ ɪ le ɑeʅɪ ſɪl lɪ jɔ elɑ（彼に学校へ行くよう説得したが、彼は行かなかった）のように逆説で続けることができる。 ［用例］jɔɟɔ ſeɟjel 言いくるめる、いいくるめる

jɔɟɔſɔlɔnɔ ［植物］ソソトロノ ［レベル］6　古 ［文化］魔界 ɪzeμɒ に生える木。葉がなく、枝がうねうねと伸びる。

jɔn ［格詞］［文頭純詞］ならば、それゆえ、中結果 ［レベル］1　古 :jɔ から派生　lɔɔ:lɔɔ:dɪɑeſ:ſjəlcj ɔ,ɪlſ ［語法］なぜならばの反対。結果を表す。

jɔn,jzʅ eſ

jɔnſ ［動詞］ɥəl を撫でる、撫でる、さする、摩る ［婉曲］ɥəl（再帰）に自慰させる。女のオナニー。 ［普通動名詞］愛撫 ［再帰動名詞］自慰、オナニー ［類義語］ɑɔʅ ［レベル］2　古 : 頭を撫ぜるときの「さわっ」という音 ［用例］jɔnſɪnɑ alel ləəſ, ucʅ lſɪɒcʅ enſel. jee lə scʅ ɑɪμɪ lcj le lɪ lce ſə lclcl. 肩をポンポンと軽く叩く。男はゆっくり立ち上がると、小屋の奥にある小さな暖炉を指さした。

ɟɔnʃɟɔɲʃ ［形容詞］肌寒い。体を撫でるほど寒い。 ［レベル］3 1L

ɟɔnɪ ［動物］虎、トラ、タイガレス ［組み数字］4 / 5 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 縞模様のある猫。制 ɟɔnc/ 古 ʃeʃʃ ［擬声］ φrlrlr（唸り）uɔφɪə（吠え）

ɟɔnɟ ［名詞］寄宿、下宿、寄宿生、居候、食客、いそうろう ［レベル］4 1L: 古 :ɟɔlɟ。クミールの家に寄宿している使徒たちを指した語

ɟɔnsel ［法律］動機、モチベーション ［レベル］3 ʃ1:ɟɔ/ɟɪne/ 古 ɪl

ɟɔnɪl ［娯楽］コント、寄せ、芝居、お笑い、漫才、マンザイ、まんざい ［レベル］3 μɑ;ɟɔlɟ/nɪl「笑わせる」 ʃʔ

ɟɔnɪɟɔɪ ［人名］ソナリア ʃ0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ϟϟΔ0:Δ00ϟ) ɥəəɒɪ ϟL ϟϟ ʃeeʃɔɪ という共通の敵が去ったことで、徐々にドゥルガとヴィーネの対立の構図が戻ってくる。背景には、メテがドゥルガであることによるヴィーネの冷遇にあった。また、同じドゥルガ内でもアルシェリアや魔方各国は属国のような扱いを受けており、レスティルの専制的なやり方を疎んじていた。遂にこの年、ヴィーネからレジスタンスが現れる。ウロによってユクレシア南部に封じられていた元メティオ王家の子孫であるɟɔnɪɟɔɪ が立ち上がる。ソナリアは旧イクサンテの血筋で、要するに ʃeeʃɔɪ の血筋である。ユクレシアがメテの手の届きにくいヴィーネ側であることと、ソナリア自身が王家の人間であるため、迫害はどうにか免れていたものの、メティオの復興を目指して立ち上がった。これに対し、離散していた ʃeeʃɔɪ が世界中からユクレシアに集まり始める

ɟɔnɪɟɔɪn ［筐堺］ソナリアン ［レベル］5 μɑ;ɟɔnɪɟɔɪ/ 属格 ʃʃ ［文化］ 筐堺司 : ʔbccɟɒ bɛʃɛ 筐堺国 : bɛʃɔ, ɟɔɲnɪ, ʔlɪʃhc, ɟɪɔnɔɪ, zɛɲɑɔɪ ɪlʃɔ

ɟɔnc ［名詞］縞、ストライプ、縞模様 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɟɔʃəʃɪncɒ（交差する色）［用例］ ɪn ɟɪbɪʃ ɟɪlɟ le ʃɔl ɟɔnc. 今日はストライプのシャツを着た。

ɟɔncʃɪɑ ［地球の国名］ザンビア 1L: 国章にシマウマのものと思わしき皮

ɟɔncɑɔnʃ ［交通］横断歩道 ［レベル］3 1L ［文化］ 車や自転車が隔離されているため、必要ない。

ɟɔncφɪμ ［娯楽］ルーレット ［レベル］3 1L: 縞の円盤

ɟɔncdɪb ［動物］シマウマ、縞馬 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 縞模様のある馬

ɟɔncdɪbʃɪɑ ［地球の国名］ボツワナ 1L: 国章にシマウマ

ɟɔnɔ ［普通動名詞］実行、実践 ［動詞］ɥəl を実行する、実行する、実践する ［形容詞］実行された ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɟɔ「する」

ɟɔnɔnɔɑ ［言語］実行段階 ［レベル］4 ʃ0 ［語法］ 単位動詞の３分割のうち、中間の区間。経過～継続の区間のこと。

ɟɔnɔhɔnɔʃc 『ソノヒノキ』→ jelneeɒe ［レベル］5 古 : アルカの単語ではなく、日本語の「その日の姫」をカタカナにしたもの。 ［文化］ エストによる小説。セレンが日本語に翻訳し、その後アルカのバージョンが変るたびに訳されてきた。内容が短く、突拍子もない単語が出てこないため、訳しやすい作品といえる。そのため、アルカが改定されるたびに試金石のように訳されてきた。 訳したときは１０代だったか。恐らく高校か浪人のとき。当時彼らの境遇が自分とリディアを彷彿させたことで気に入ったのだと思う。 ɪn ɑe hcj. ɾɪl ɪn eʃ ɪlʃ ɪ ɥəə. ɪn ɟɪlʃ jen ɑcdcʃ ɪʃc ɾɪμ. ɟɔn ɪn eɒ ucl ɑɪnɪ ɪ ɑc ʃcjee. ɪlɑc, ɪn eʃ lecʃ ɔʃ enuc ɑcn ʃə eʃ uclɑ nɪ. 一一の部分は当時の自分の悩みと重なっていた。 「器用貧乏」「何をすればいいのか分からない。何に人生を賭せばいいのか分からない」。 このころはまだ制アルカがなかった。自分の青春および将来を賭すものが見つかっていなかった。メル ʃ1 年になった今、教えてあげたいところだ。今のこの苦境と、そしてそれなりの成果を。

ɟɔnɔcɪɒ ［名詞］システム手帳 ［レベル］6 1ʔ: 制

ɟɔneʃ ［形容詞］実践的な ［反意語］bcμeʃ ［レベル］4 ʃ1:ɟɔnɔ/ʃe

ɟɔneɾɪμʃɑel ［魔法］実践魔法学 ［レベル］5 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɟɔu ［名詞］合間、くぎれ、区切れ ［形容詞］挟まれた、挟まれる、間の ［格詞］～の間の ［類音］ɟɔl。ɟɔl とは意味的に離れているので同じ格詞でも問題ない。 ［レベル］2 αμɑ 先 jeje:je je, ɟɔu ［成句］ ［μɑel］［μəel］ɟɔu ɑcɪ ɔ bel リディアとメルの間にいる：板挟みになっている ɟɔu ɪbe ɔ jʃcl 布と椅子の間で：板挟みで：機織りは織り機の前、椅子の上にいて、長時間の労働を強いられた。機織りは肩が凝り、椅子は腰痛になる。そこから転じて板挟みの意。

ɟɔuɟɪn ［数学］漸化式 ［レベル］5 1L: 数列の項と項の間に成り立つ等式

ɟɔuɟcɪ ［生物］くも膜、クモ膜 ［レベル］5 1L

ɟɔuɟcɪeμcl ［医療］クモ膜下出血 ［レベル］5 1L: ただし、くも膜自体の出血ではない

ɟɔuɟɔʃɪ ［名詞］あいづち、相槌 ［レベル］4 1L:μcɑɔɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ 相手が話している合間に相槌を打つ。打たないと聞いていないとみなされる。アメリカ人のように終わるまでわりと押し黙って相槌が少ないことはない。逆に日本人は相槌を打ちすぎてうるさい。日本人は少し相槌を減らせばちょうど良くなる。相槌は φɪ,ɪl などがあり肯定の言葉を使う。日本語と同じである。英語のようにアハーアハーということはない。アハーはイェスという肯定の言葉そのものではないので、単に会話を促す専用の言葉である。アルカは φɪ,ɪl など、肯定を表わす言葉で促しを代用する。したがってアルカで会話中に φɪ,ɪl などを使われても別に肯定とは限らないので注意が必要である。最後まで φɪ と聞いておきながら総合的には否定することもある。なぜなら相槌の φɪ には肯定の意味はないからである。 相槌は他にも ɒɒ がある。これは口を開けずに鼻だけで「んん」と言うときの音である。φɪ,ɪl,ɒɒ の違いは敬度の違いである。ɪl,φɪ,ɒɒ の順で下がる。ところが実際、この三種は同じ相手に対して全て使いうる。同じ相手でも公の場面では ɪl を使いやすい。私的なほど ɒɒ を使いやすい。更に同じ場面で同じ相手なのにこれらを混ぜて使うということがある。相槌は会話の区切れに入れるのが正しいタイミングである。だが、区切れは意味の上で大したことないものと大したことあると区切れに分かれる。文法的にいえばツンクよりガコンのほうが大したことある区切れである。また、場面的にはシリアスな内容の文での区切れのほうがシリアスでないそれよりも大したことある区切れである。大したことある区切れでは敬度の高い相槌を使いやすい。大したことない区切れでは敬度が低くなりやすい。たとえば「でさ～」の後に起こる区切れは大したことないので ɒɒ を使いやすい。軍隊など、厳しい場所では目上には全て ɪl で相槌を打たせる。そして目下には ɒɒ や φɪ としか言わない。厳しい使い分けがある。だが、日常的にはこれらはＴＰＯで使い分ける。 また、相槌は他にも頷きで代用されることもある。但し、これは電話などでは使えない。この頷きも肯定を意味しない。頷きは本来肯定を意味するが、ここでは相槌にしかならない。また、相槌には新しいことを知ったときの反応がある。会話の途中は φɪ などといって相手を促すが、会話が終わったときや新たなことを聞いたときや驚いたときは何と言うか。会話が終われば評価をしたり自分の話をしたりする。「へぇ」「ふーん」では話した甲斐がないと思われるので、感想を述べるとよい。どうにも反応に困った場合は hɪcz などで返すこともある。何も返さないくらいなら否定したほうが丁寧。夢織の紗枝は２話でアシュテの話に「そう」だけで返したため、第一印象を悪く捉えられた。 また、新たなことに対しては ɪɪ,hɒ などという。驚いたことに対しては ɔə という。 言葉の区切れで一々相槌を入れるのはうるさい。区切れが長いときや、区切れが大したものであるときにだけ相槌をすることが多い。後は頷いていれば良い。電話は見えないので頷きが届かないが、聞き手は電話越しで勝手に頷いて自己満足している。喋り手は相槌が足りないなと思いながらも、電話だからそんなものかと思う。また、実際のところ喋り手は多少相槌を面と向かっての会話より増やす。 ［用例］ ɪμ ɟɔuɟɔʃɪ 相槌を打つ

ɟɔuɟeun ［生物］基底膜。上皮組織と結合組織の間にあることが多い。 μʃ;/ ʃ0

ɟɔuɒel ［演劇］［音楽］幕間 ［名詞］テレビ番組のＣＭ、ＣＭ、コマーシャル ［名詞］休み時間。学校の。 ［言語］ポーズ、一時休止、一時停止 ［レベル］3 1L:μcɑɔɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ 幕間の使い方は休憩、演奏、ＭＣなど、演者によって異なる。

ɟɔudɪlɟ ［生物］門脈 ［レベル］4 1L: 二つの毛細血管網にはさまれた血管

ɟɔudɔl ［地名］峡方 ʃ0 ［文化］ ピッカ、トゥナスの地方。旧共産圏で、文化的にも地理的にも言語的にもソーナと隔絶している。トゥナス南部でもソーナ人との混在はほとんど見られない。

ɟɔuɪ ［数学］絶対値 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɟɔu/ɪll（数直線上でプラスの値とマイナスの値の間に数を取るような数であることから。間を取る数。数直線上に間を作る数といってよい）

ɟɔuɪdle ［企業］ソヴ・アプレ ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ 伊藤忠に相当する企業。

ɟɔuɪl ［音楽］ヨーデル ［レベル］6 ʃ1:ɟɔu/oɪl「山と山の間を通って」

ɟɔuɔ ［数学］小数 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɟɔu ʔɔ（絶対値が１未満。すなわち１と－１の間ということから）

ɟɔuɔcnʃ ［数学］小数点 ［レベル］3 ʃ0

ɟɔuen ［接続詞］ɟɔu。間の。 ［音楽］ＭＣ ［レベル］3 ʃ1

ɟɔɑ ［形容詞］簡単な、容易な ［形容詞］高頻度な、起こりやすい ［反意語］led ［レベル］2 μɑ;l ed.feel @ 1L φɪl:φɪl ［用例］ ［メタファー］ɟɔɑ ɥən lel lel の文字のように簡単な：縦棒一本で書けるため ［用例］ ɥeʃ ɟɔɑ 簡単な問題

ɟɔaʃ ［普通動名詞］リレー、受け渡し、引き渡し、引渡し ［動詞］ɥəl を受け渡す、受け渡す、引き渡す、引渡す ［類義語］jeɑ ［レベル］3 μɑ;ɟɔəəʃɔ.l ʃ0: 古 ɟɔəəʃɔ（与えさせる）

ɟɔaʃɔlb ［名詞］ライン作業、流れ作業、ライン生産方式 ［レベル］5 μɑ;/。次から次へと作業を受け渡していくことから。 ʃ0

ɟɔaʃɔlbɪʃ ［再帰動名詞］ライン工 ［レベル］5 μɑ;/ ʃ0 ［文化］ アルバザードでは底辺の仕事とされる。頭も使わずコミュ力も必要とせず、機械でも容易に代替できることから、底辺の仕事とされている。ただし一定数世の中には頭も悪いればコミュ力もない人間がいるので、こうしたライン作業を全て機械化してしまうと、彼らの仕事を奪ってしまうので、なるべく人間に雇用を残しておくのが良いと考えられている。一方、正確で早い機械に仕事をさせ、より合理的に商品を生産すべきだと考える人もいる。

ɟɔalcl ［形容詞］歯切れのよい、区切りやすい、区切れのいい、区切りのいい、キリのいい、キリの良い ［レベル］3 ʃ1

ɟɔalɪμ ［動詞］ɥəl をすぐ信じる、すぐ信じる、信じる ［形容詞］(ɟɔalɪμɪn) 信じやすい ［レベル］3 ʃ0

ɟɔaɑcl ［動詞］ɥəl をすぐ疑う、すぐ疑う、疑う ［形容詞］(ɟɔɑɑclɪn) 疑り深い ［レベル］3 ʃ0:μc ɑcɪ:ɒcμɔl

ɟɔalɪn ［名詞］花見、紅葉狩り、もみじがり、紅葉がり ［レベル］3 μɑ;ʔbccμ;ɟɔ/alɪns（花をする）ʃʔ ［文化］ アルバザードでは四季折々に花見をする。花見といえば桜ということではなく、様々な草木花を鑑賞する。日本と違ってブルーシートに宴会と酒という習慣はなく、好きなもの同士で集まって少人数ないし一人で花を楽しむ。シートを敷く場合もあるが、たいていは芝生などに座るか寝そべる。あるいは立ったり歩いたりしながら鑑賞する。花見といえば酒というほどの文化はないものの、人によっては花を見ながら嗜むこともある。人によっては歌ったり踊ったりすることもあるが一般的ではない。 花見は純情な若者から老人に至るまでデートや行楽などで行われる。

ɟɔalcul ［普通動名詞］安産 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

ɟɔalɔʃc ［形容詞］分かりやすい、わかりやすい、理解しやすい、キャッチーな、キャッチしやすい、覚えやすい。キャッチーなというのは印象的なとか人目を引くという意味ではなく分かりやすいという意味なので注意。 ［レベル］3 ʃʔ

ɟɔalʃ ［形容詞］(ɪn で）書きやすい ［動詞］ɥəl を書くのが簡単だ ［レベル］3 μɑ;/ ʃ0

ɟɔacjʃ ［形容詞］(ɪn で）読みやすい ［動詞］ɥəl を読むのが簡単だ ［レベル］3 μɑ;/ ʃ0

ɟɔaɔɒ ［俗語］ヤリマン、ビッチ、スイーツ、売女、バイタ、ばいた ［類義語］ɑɪcpen ［反意語］jezɔn ［レベル］4 μɑ;ɟɔa/hɔɒ「容易に（股を）開く」 ʃʔ:bel ［文化］ 貞操を重んじるアルバザードにおいては古くから婚前交渉や複数の男と交わることは忌避されてきた。そのため ɟɔaɔɒ は蔑まれる。ul と ɪl の一部で性が奔放化したが、統制が厳しくなるたびに処女性が重んじられた。

ɟɔaəʔ,ɑ jeɑ 「与えさせる」

ɟɔɒ ［名詞］やり方、手法、仕方 ［レベル］3 ʃ1:ɟɔ/ɔɒ

ɟɔɒʃ ［動詞］ɥəl を織る、織る ［動詞］ɥəl を味方につける、味方にする ［反意語］lenʃ ［電算］［動詞］コンピュータがカリカリ作業をする。ɟɔl はパソコン、ɥəl は処理内容やソフト。パソコンが処理をすることを指す。たいていカリカリ音を立てる。パソコンが整然と計算をしている様が、少女が機織で整然と織っているのに似ていることから。 ［レベル］3 1ʔ: 制 :jeɒʃ: 古 :ɟɔʃəʃɪ bɛlcʃ「糸を交差させる」 ［文化］ bɛld ［成句］ ɟɔɒʃ ʃeel 一攫千金

ɟɔɒʃɪn ［名詞］はたおり、機織り ［レベル］4 1L

ɟɔɒʃɪμ ［名詞］織り機、はた ［レベル］4 1L

ɟɔɒɪ ［名詞］罰点、ばってん、バッテン、×記号、バツ、バツ印、斜め十字、十字、× ［シェルト］斜駒 ［反意語］jfenʃ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɟɔʃəʃɪ(交差) sɪn:sɪn ［文化］ bɛɒlɪj

ɟɔɒɪʃɪɑ ［地球の国名］モザンビーク 1L: 国旗にバッテン

ɟɔɒɪjɔɒʃ ［名詞］斜子織り μɑ;/。jfenʃɟɔɒʃ に対し、タテ糸とヨコ糸を丨本ずつ引き揃えで織ったものを罰点で表現した。 ʃʔ

ɟɔɒɪlɪj ［名詞］バッテンマーク ［レベル］3 ʃ1 ［文化］ bɛɒlɪj

ɟɔɒɔ ［交通］バスの停留所、バス停 ［レベル］3 1L:μcɑɔɪ:ɪμbɪlelʃ:ɟɔl/bɔne

ɟɔɒe ［名詞］秘書、セキュレタリー、セクレタリー ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɟɔɒe ← ɟɔə bel（メル君）。セレンはメルの能力を高く評価して彼女を秘書のように扱っており、秘書として呼ぶときには ɟɔə bel と敬称をつけて呼んでいたことから。（古のころの話。今はしない）

ɟɔɑ ［動詞］ɥəl を起こす、起こす、起こる、起きる ［名詞］出来事、イベント、催し、行事、発生 ［類義語］ɪɒel ［反意語］jeɑɔ ［レベル］2 1ʔ: 制 :jeɑ ［成句］ ɟɔɑ ʔien cnj 目の前の出来事 ［用例］ ʃɔ eʃ ɟɔɑ ɪ lɪ8 彼に何があったの？ ɪn ɥəl ucl ɟɔɑ e ɑcj. 今日の出来事は忘れられないだろう。 ɑcj, le eɒʃ ɪʃ ɟɔɑ. 今日、悲しいことがあった。

ɟɔɑn ［名詞］事実 ［文頭純詞］［副詞］実際は、事実上、実際のところ、事実 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɟɔɑ ［成句］ el dμɪj ɑɪl ɟɔɑn ʔɔnʃ ʔɪɪl ɟɔɑn lel ɟɔɑn. 事実は事実と認めた上で対処しなければならない (lccɔɪ lɑʃcɪ)

ɟɔɑɪ ［名詞］事故、事件 ［類義語］uecɒ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɟɔɑ ［文化］ 歩いていて看板が落ちてきてぶつかったとか、階段から落ちたなど、事故一般の場合、保険に入っていれば事故の種類によって保険料をもらえる。また、事故が誰かのせいなら、その人からも慰謝料をもらえる。たとえば看板を誰かが落としたのならその人の責任になる。 ［用例］ ʃcl ɟɔɑɪ 事故に遭う

ɟɔaɪɪlej ［普通動名詞］座礁、坐礁、擱座、かく座、かくざ ［レベル］5 μɑ;/「事故上陸」 ʃ0

ɟɔac ［名詞］イベントキャラ ［レベル］3 ʃ0:ɟɔɑ ［文化］ アーディンのように、脇役ほどちょいゃ役でもないが、かといってアリスほどゲストでもない場合を指す。特定のイベントに出てきて強烈な印象を残す人物。ＦＦ４でいうとスカルミリョーネやルビカンテといった四天王など。

ɟɔɑcl ［名詞］頻度、出番の多さ ［レベル］4 1L:ɟɔɑ/ʃcl（起きる傾き）

ɟɔɑcɪ ［天文］小惑星 ［レベル］4 ʃ0:ɟɔɔɒɑcɪ（ソームのゆりかご）木星付近にたくさんあるため。

ɟɔφ ［経済］おつり、つり銭 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɟɔsφcl（残った金）

ɟɔbel ［料理］間食、おやつ、おかし、お菓子 ［音楽］フィルイン ［レベル］2 ʃ1:ɟɔu/bel

ɟɔhɪ ［動詞］ɥəl を徹底する、徹底する ［形容詞］(ɟɔhɪn で）徹底的な、(ɟɔh で）徹底した ［レベル］3 古 :ɟɔhɪ（尻尾まで（終わりまで）やる）

ɟɔɥə ［感動詞］［幼児］［ɒdɑ］そゆそゆ、ɟɔɔnɔɥən と言いたいらしく、「そゆ、そゆ」と言っていたことから。 ［語法］ 通例、２度繰り返す。

ɟɔrl ［格詞］［文頭純詞］だからこそ、強結果 ［レベル］1 1ʔ: 制 : 恣意 lɔɔ:lɔɔ:dɪɑef:fjəlcjɔ,ɪlʃ

ɟɔp ［形容詞］高い、背の高い ［属格］背の高い人 ［反意語］hɪcʃ ［動詞］［μenʃe］lʃɪp ［レベル］1 αμɑ 先 :ɟɔp（高い） hɥə:hɥə（天などが高い）, ɟɔp（背などが高い）:lɥə ［用例］ ucl ɟɔp 背の高い男性

ɟɔp(l) ɟɔ/ɔp、している 1L

ɟɔpʃ ［形容詞］寒い、冷たい ［形容詞］冷たい、好感が持てない、嫌な感じの ［動詞］ɥəl を冷やす、冷やす、冷却する、冷ます、クールダウンする ［副詞］冷たく、寒く、寒そうに ［経済］冷え込む、冷え込み ［反意語］hɪμʃ ［レベル］1 1L: 青い風 jɪc:jɪc:jɪcʃ ［語法］ hɪμʃ 寒さには段階がある。ɟɔnʃɟɔμʃ, ɑɔlɟɔμʃ, ɒɪɑφɟɔμʃ, ɑcɔɟɔμʃ の順番で寒さが強烈になっていく。 ［用例］ ［メタファー］ɟɔμʃ ɥən uelʃ 氷のように冷たい ʃəɔ ej ɟɔμʃ μɔɒel ɑcn ʃə ɪʃ belʃ. 暖かかったのに急に寒くなった。 ☆ ɑcj ɪʃ ɟɔμʃ ʃcn lɪlʃ ʃə ʔbel e jɪlʃ. 一年のこの時期にしてはとても寒かった。 jel ɟɔμʃ ɪʃ ɔnl ɑə ɑɔə. 何日か寒い日が続いた。 ɥlcel ɟɔμʃ cl ʔcʃ. 寒い季節が始まった。 ɪn nɪʃ ɟɔμʃ ʃcn. とても寒く感じた。 ☆ ɪn nɪʃ ɟɔμʃ ɔn eμcɒ ɪj. 寒さが骨までしみた：アルカでは心臓。 ☆ ʃə ɪʃ ɟɔμʃ lɪnel enʃɔ ʃə uɪnɑ jɪʃ eμcɒ ɪnʃ. まさに骨身にしみる寒さだった。 ɪn nɪ ɟɔμʃ ʔɪ ez ɪnʃ cɒ ɑcj. 今日は部屋が寒い。

ɟɔμʃʃɪ ［形容詞］［ネガティブ］男性が性的にお堅い ［類義語］ɥəlʃe ［反意語］ucjdleɑc ［レベル］4 ʃ0: 冷たい腕←抱いてくれない

ɟɔμʃʃeɒʔ ［名詞］冷凍庫 ［レベル］3 1L:lcɔn

ɟɔμʃuejn ［名詞］猫舌 ［レベル］3 ʃ0: 冷たい舌 ［文化］ アルバザード人は総じて猫舌で、熱いものを嫌う。一方、ぬるいものは体を温めるといって好む。リディアは猫舌。 ［用例］ ɪn ʃcl ɟɔμʃuejn. 僕は猫舌だ。

ɟɔɲʃɑɪcz ［医療］しもやけ、凍傷、霜焼け ［レベル］3 1L ［語法］ 霜焼けは凍傷の一種。特にアルカでは霜焼けだけを指す単語はない。 ［用例］ ɪn ʃclɪʃ ɟɔɲʃɑɪcz ɔn lɪɟ ɒcl ɟɔɲʃɪʃc. 寒くて霜焼けができた。

ɟɔɲʃɑcɒec ［気象］寒冷前線 ［レベル］4 1L

ɟɔɲʃdɪɟʃ ［料理］冷や飯 ［レベル］3 JJ ［文化］ 冷や飯は澱粉がアルファ化されていないため、消化に悪い。 ɪlʃ 人は日本人と違って弁当やおにぎりを必ず温める。従っておにぎりという携帯食自体があまり浸透していない。冷や飯を食うのは屈辱的と考える。アルバザードでも ɟɒ 以降この考え方が流入する。 ［成句］ ɑcʃ ɟɔɲʃdɪɟʃ 冷や飯を与える : 虐待する。 ɪlʃ の慣用句の訳。 bɪɔlɑlel は歓迎しない、 ɟɔɲʃdɪɟʃ は虐待の意味。 ɪlʃ で家督を継がないものの食事が冷や飯であったことから。

ɟɔɲʃdɔl ［地学］寒帯 ［レベル］4 1L

ɟɔɲʃhɪnɔ̀ ［気象］中間圏 1L

ɟɔɲʃhcnɔ̀ ［名詞］冷や汗、冷汗 ［レベル］3 1L:ɒelcɑɑɪ ɪlcɟ

ɟɔɲʃlɕu ［形容詞］おとなしい、大人しい、穏やかな、物静かな ［反意語］hɪɟɲɑɔʃ ［レベル］3 J0

ɟɔɲʃleul ［医療］冷え性 ［レベル］4 1L

ɟɔɲʃc ［気象］ラニーニャ ［レベル］4 1L:ɟɔɲʃ/ʃceɟɒ

ɟɔɲʃe ［医療］神経痛 ［レベル］5 1L:ɟɔɲʃ/ʃeeze。古の eɟɒɪʃeeze（神経痛）を訳したもの。原義は冷たい風で、冷やすことで神経痛を引き起こすと考えられていたことから。 eɟɒɪʃeeze は jeɟen のメル L 年ごろの造語で、夏に裸で扇風機を付けていたら、腕が何もしていないのにピリピリと痛み出し、風呂に入ったら治ったことで、不思議に思ってリュウに相談したところ、神経痛といわれたことに起因。そのときの説明で使った eɟɒɪʃeeze（扇風機の冷たい風）がそのまま神経痛に取って代わった。

ɟɔɲʃeɟɒ ［形容詞］情に薄い、薄情な、冷たい、冷血な、無情な、非情な ［反意語］ɑcɟʃccɟɒ ［アクセント］ɟɔɲʃEɟɒ ［レベル］3 J0:ɟɔɲʃ/eɟɒc（冷血）

ɟɔɲʃeeɒu ［気象］寒波 ［レベル］5 1L: 波に喩えるのは日本語同様

ɟɔɲʃlɪ ［名詞］高台、高いところ ［レベル］3 μɑ;/ JJl

ɟɔɲʃlɪɑ ［地球の国名］ペルー ［レベル］5 1L: 高いところにあるから

ɟɔɲʃlceʃ ［ジョブ］ソルシェット、薙刀使い ［アクセント］jɔ̀ɟɔɲʃlceʃ ［レベル］3 J0:ɟɔɲʃlen/lɪnʃcɟ

ɟɔɲʃlcenʃ ［娯楽］ソルシェント ［レベル］4 J1 ［文化］『スレイヤーズ』に相当するアニメ。

ɟɔɲʃle ［天文］半月 ［言語］［文字］カウンターループ ［生物］爪の半月 ［レベル］3 ɟɔɲʃn:ɟɔɲʃleʃ ソーンとアルシェ 」 ［用例］ ɟɔɲʃle lɪʃ sɪn. 半月が出ていた。

ɟɔɲʃleʃ ［軍事］総指揮官 ［レベル］3 1L:jeɟen:ɟɔɲʃle/lɪnʃcɟ ［文化］ 大元帥と元帥との総称。ミロクが元帥の上に大元帥を置いたため、士官や兵と対立する概念として生まれたもの。 ɟɔɲʃle は月教のシンボルで、アルティス教が軍を指揮するという意思の表れ。

ɟɔɲʃlelcɪ̀l ［料理］餃子、ギョーザ ［レベル］3 1ɪ̀ɪ: 制 : 半月饅頭 ［文化］ インサール料理。アルバザードでも広まっている。

ɟɔɲʃlen ［アイテム］なぎなた、ナギナタ、薙刀、長刀 ［レベル］3 J0:ɟɔɲʃle。半月のような刃、ないし、刃の軌道が円弧を描くことから ［文化］ ルティアではユベールにおける女子の必須科目。アルバザードでは ユンクが一般的にルティアに憧れがちなので、ユンク層に人気の高い種目。アルバザードで薙刀をやっているといかにもお嬢様というイメージを持たれる。 日本と同じように袴や襟付きの服を纏う。袴をはくのは、運足を相手に読まれないため。

ɟɔɲʃleɑɒec ［アイテム］ソルシェフレイ、半月形の短剣、ジャンビーア ［地球の国名］イエメン : 成人男性が腰にジャンビーアをさげているのが特徴的であることから ［レベル］5 1L

ɟɔɲʃlepenʃ ［宗教］ソルシェレント、宣教師 ［レベル］3 1L:clɒəj:ɑəlɒccɪ/lɒccɟ: 月の使者 ［語法］ アルティス教の宣教師。新興宗教アルティスはカコの災厄の再来と誤解されることが多かったため、腕章にアルシェでもソーンでもないとして半月の刺繍を身に付けた。腕章に身の上を知らせる文様を大々的に付けたのはアルティス教が最初で、その後のアルナ再建でアルティスが学校を再建した際、学生服にもこの刺繍を付けた。これがレイユでも残り、学年を示す刺繍になっている。

ɟɔɲʃleelc ［料理］かまぼこ、カマボコ、蒲鉾 ［レベル］3 JJ

ɟɔɲʃ ［電算］コンピュータ、コンピューター、電子演算装置 ［レベル］3 1ɪ̀ɪ: 制 : 恣意 ［文化］ → hɪɑɲɔlʃ cɒəl 1ɪ̀ɪ̀ɪ̀9 にラグナロク工科大学の ʃoɪɟzel ɑcɟcɑɑɪ が計算機として開発した。アンジェルの実験データ及び運用データの分析のために正確かつ大量の計算が必要だったことから作られた。魔動式で、ディスプレイはなかった。詳しくは ɔɔnucɟ を参照。 cɒəl 1ɪ̀ɪ̀ɪ̀ に ʃoɪɟzel がディスプレイを付け、数字を表示できるようにした。 cɒəl 1ɪ̀ɪ̀0ʔ にリュウがラグナロクで文字コードを開発し、フォントを作って画面上で文字を扱えるようにし、合わせてディスプレイを現在の地球のようなテレビ型の大きな画面にした。キーボードを発明した。文字コードは lɔʃʃe 参照。 cɒəl 1ɪ̀ɪ̀0ɪ̀ 年、遅れてリュウがプログラム言語をセレンと共同開発。しかしセレンはその後、あまりの難しさに白旗を挙げ、アルカに専念。そのため、プログラム言語はリュウが担当することになった。 cɒəl 1ɪ̀ɪ̀0Δ にリュウが O S を開発。 cɒəl 1ɪ̀ɪ̀1ɪ̀ にリュウが G U I を開発し、マウスを合わせて開発。 cɒəl 1ɪ̀ɪ̀ʔ にリュウは電動式のコンピュータを試験運用。こちらは地球と同じく電気のオンオフによる二進数を利用しており、歯車式計算機やプール代数などの原理が応用されている。 ʔʔL ミロクのもとで初の商用プログラム内蔵型コンピュータが開発される

ɟɔɲʃjɒen ［言語］［電算］コンピュータ言語、プログラム言語、プログラミング言語 ［レベル］4 μɑ;/ JJl

ɟɔɲʃlecj ［電算］C G、コンピュータグラフィック ［レベル］3 1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelʃ

ɟɔɲ ɟɔɲ ［感動詞］高い高い ［レベル］1 1ɪ̀ɪ̀: 制 :ɟɔɲ ［語法］ 子供を持ち上げてあやすこと。あまり脳に良くないので注意というのが常識としてアルバザードにはある。

ɟɔɲjelɑ ［電算］機械語 ［レベル］5 1L

ɟɔɲn ［人名］初代ソーン ［名詞］ソーン。アルシェと対を成す団体。アルシェとは抗争関係にあった。 ［シェルト］ソーン側。必ず後手。 ［名詞］後手 ［レベル］2 1ɪ̀ɪ̀0: 語源不詳。古アルカでの意味は無し。 ［文化］ (qəəɒɪ 9LLɪ̀ɪ̀:ΔΘΔʔ(ΔΘΘɪ̀ɪ̀:ΔΘΔʔ)) qəəɒɪ 9LLɪ̀ɪ̀ ソナリア、実の娘ユリアとの間に娘 ɟɔɲn を授かる qəəɒɪ ΔΘΘɪ̀ ソナリア、メテとの戦いで戦死。ソナリアが崩御し、ソーンが若干 10 歳でメティオの女王となる。摂生はソーナ女王のユリアが兼任した 初代ソーンの第１４使徒。生没年不詳。ウロがメテに敗れた際に残った残党が反メテ運動を掲げた際に御輿として奉られた少女。当時若干１５歳。１６歳でメテを倒し、一躍英雄となる。その後、１９歳でアルシェをも倒すが、２２歳で１４歳の少女リディアに暗殺される。 ［成句］ ɟɔɲn eɒ ɪlnʃ ɪɟlel 君子は豹変す。考えを改めるという意味でなく、ある日を境に突如成長するという意味に。 ɪ̀l ごろは「英雄は成長が早い」という意味で使っていた。 ɟɔɲn ʃcl lcuɟɔ ɑen 佳人薄命、美人薄命 ɟɔɲn ɪien μɪ ʃ'ɪɟle 呉越同舟

ɟɔɲnʃɔlcɟ ［名詞］性の適正対象 ［レベル］4 JJ:ɟɔɲnɟɪlʃ < 1L:ɟcɑcɪ: ソーンの年 ［語法］ １５歳から２８歳までの女のこと。組み数字では１５からソーンの手番になり、２８までそれが続く。そしてちょうど女が性の対象として売り手市場になるのが１５歳から２８歳であるため、このころの年を ɟɔɲnʃɔlcɟ という。１５歳未満を対象とするとロリコンと呼ばれ、２８より上を狙うとオバサン趣味と揶揄される。男にとって正常な性欲の対象は ɟɔɲnʃɔlcɟ の範囲内というのが常識になっている。なお、アルバザードでは ɟɔɲnʃɔlcɟ を越えて独り身だと負け犬になる。一方、男側に適正対象の年齢は存在しない。

ɟɔɲnlcnɟ ［名詞］異性魔王 ［レベル］5 1L ［文化］ ソーンの使徒の怨霊。μn で、リディアらを苦しめた。

ɟɔɲnɪ ［地名］ソーナ ［レベル］5 1ɪ̀ɪ̀: 制 : 古 :ɟɔɲn（ソーン）から。 ［文化］ ソーンの支配地。

ɟɔɲnɪ(J) ［アトラスの国家］ソーナ ［レベル］4 制 ［文化］ 面積 : 1Δʔɪ̀ɪ̀9ʔ.ʔJJlJJl0 ɔɒ 」 qəəɒɪ 9LΔΔ ソナリア、ユクレシアからの独立を宣言。ユクレシア南部を ɟɔɲnɪ と称し、自身はソーナの暫定的な王を名乗る。これによりユクレシア北部は ʃənɪɟ に改名

ɟɔɲneʃ ［音楽］クラシック、伝統音楽、伝統芸能 ［反意語］ɪɟleʃ ［レベル］4 nɑ;ɟɔɲn/ʃe。クミールらが好んだことから。 J1

ɟɔɲɑ ［動詞］ɥəl と張り合う、張り合う、張りあう、対抗する、競争する ［普通動名詞］張り合い、対抗、競争 ［レベル］3 古 :ɟɔɲ/uɪɟ（私の方が高いと争う）

ɟɔɲɑcʃɪ ［名詞］コンクール、コンテスト、評議会、品評会 ［レベル］3 JJ

ɟɔɲɑɔl ［名詞］競争相手、ライバル ［レベル］3 μɑ;/ Jʔ

ɟɔɲɑel ［ユマナ］高校 ［レベル］3 J0

ɟɔɲɒɪɸ ［音楽］プラルトリラー 1L

ɟɔɲɑ ［動詞］ɥəl を ɪ に掲げる、掲げる、かかげる、見えるように持ち上げる、挙げる ［レベル］3 1L: 制 :ɟɔɲʃ:ɟɔɲ

ɟɔɲɑɪʃ ［名詞］ナイト、騎士、白馬の王子様、脳内彼氏、脳内カレシ ［形容詞］[μɛ́nɛ] 理想的な ［レベル］3 古 :ɟɔɲɑɪʃ ← ɟɔɲn/ɑɪɑɪɟ（ソーンのように強い）。この ɑɪɑɪɟ は重いではなく強いの意。もとは語源どおり男ではなかった。 ［語法］ 女が夢見る理想像の男。日本語の白馬の王子様や英語のミスターライトに比較的近い。 ［成句］ ［婉曲］ neeɒe cn eɟʃ lɔnʃ ɟɔɲɑɪʃ cn ɟɪɪɟ:1L:lɔ ccɟ お姫様がエルトの一族（天）を見て、ナイトがサールの一族（地）を見る : 正常位のこと。 ɑlen ɟɔɲɑɪlɸ 結婚してくれますか : ɪn eɒ ɑlen ɟɔɲɑɪʃ ʃcclɸ の短縮。 [μɛ́nɛ] ɟɔɲɑɪʃ μɪ len ɒed. 鏡の向こうの王子様 : 絵に描いた餅 : 男の場合は neeɒe。 ［用例］ ☆ ʃəμ, lcdl eʃ lcɪ ɟɔɲɑɪʃ ʃcɟɟe. 今はケーキが一番食べたいお菓子ね。

ɟɔɲɑcɪn ［名詞］ソーディアン、守護神 ［アクセント］jɔ̀ɟɔɲɑcɪn ［レベル］4 JJ:ɟɔɲɑcn。ɔɲɑcn が時代名に使われるようになったため、古形に戻った< J0: 古 :ɑəlɒccɪ:ɟɔɲɑcɪn。ɟɔɲɑcɪn →（ɔ で始まる単語を増やすために）ɔɲɑcɪn →（アクセントを ɔɲ につけるために）ɔɲɑcn ［文化］ カコ以降、各アレットに対応している神。中央アルナはアルデス。

ɟɔɲɑɔ ［地学］火成岩 ［レベル］4 1L:ɟɔɲʃ/ɑɪɑɔ

ɟɔɲdɪɟɔl ［普通動名詞］カウントアップ ［動詞］ɥəl を ɪ まで数え上げる、数え上げる ［反意語］hɪcʃdɪ ɟɔl ［レベル］3 J1

ɟɔɲdɪɒd ［普通動名詞］ハイタッチ ［動詞］ɥəl を ɪ とハイタッチさせる、ハイタッチする ［レベル］4 μɑ;/ ［文化］ スポーツなどで点を稼いだときに主に男子がする動作で、それ以外ではあまり見られない。

ɟɔɲhɪnɔ̀ ［気象］［軍事］［交通］高高度 μf;/ Jʔ

ɟɔɲɥəlɔ ［地学］沈水、沈水海岸 1L

ɟɔɲledl ［被服］ハイヒール ［レベル］3 1ɪ̀: 制 ［語法］ かかとが高い靴の総称で、様々な種類がある。

ɟɔɲɪ ［地学］藍銅鉱 1L:djɔɔɟɪ

ɟɔɲɪɟ ［形容詞］保守的な。変化を望まないという意味。 ［反意語］czɲɪ ［レベル］3 古 :ɟɔɲɪɟ。 ɟɔɲn が「幸せと不幸はいらない。何もない平穏な日々が欲しい」という根本思想を持つ保守派であったことから。

ɟɔɲɪn ［ユマナ］高校生 ［レベル］3 J0

ɟɔɲɪnɑɪ ［経済］大台 JJ ［用例］ ɪbɪnʃcɪ lə̀ɔ̀l ɟɔɲɪnɑɪ ɑel 1J00. アバンティア社の株価が１２００ソルトの大台に登った。

ɟɔɲcʃ ［生物］高さ、高度、高み ［名詞］身長← ɒlcɪɲɔɲcʃ ［数学］切片 ［レベル］2 J1:ɟɔɲ/ɪʃc。下記。 ［文化］ ɒlcɪɲɪsɪ <経緯> J1 夏に ɟɔɲɪʃc にしようとしたが、ルシアが「ɒlcɪɲɔɲcʃ のはず。おかしい。私が正しいの！」と言ってぐずったため、向こうが正しいということもあって ɟɔɲcʃ は ʃɪlcʃ 同様 cʃ に戻した。そろそろ「誤魔化してさも前からそうだったように装って矯正する」方法が使えなくなってきたようだ。

ɟɔɲcʃlɪbɪ ［物理］位置エネルギー ［レベル］4 1L

ɟɔɲeʃ ［色］青、ソレット ［形容詞］青い ［象徴］男。男に戦士が多いのは ɥənɔ が多いためで、ɥənɔ が青色の光であることから。 ［レベル］1 J0:μcɑcɪ;djɔɔɟɪ,lɟl J0:jɔɔɟ:1L: 古 :djɔɔɟɪ,djhɔɔ μɪ。セレンが言った sɪn ɟɔɲ（冬の高い空）をリディアが sɪn jɔɔɟ（青い空）と誤解したことで、jɔɔɟ を変える必要が出た。 sccnɪ:djɔɔɟɪ:lə ɪjce:djhɔɔɟɪ,lʃ

ɟɔɲeʃlɔɲeʃʃɪ ［化学］青色発光ダイオード ［レベル］5 ɪl;/ Jʔ

ɟɔɲeʃjʃenʃ ［地球の国名］ノルウェー ［レベル］5 J0: 国旗が青十字

ɟɔɲeʃɔnc ［地球の国名］チャド J0: 国章に青い縞模様

ɟɔɲeʃɑɪμɑ ［気象］かんかんでり、カンカン照り、インディアンサマー ［レベル］5 J0: 青天の晴れ

ɟɔɲeʃɑelcn ［名詞］人工的な美しさ ［婉曲］整形した顔 ［植物］青いバラ ［レベル］4 J0

ɟɔɲeʃɒel ［名詞］青春時代、青色時代 ［レベル］3 μɑ;/ Jʔ ［語法］［文化］ ɑəəμɒel

ɟɔɲeʃɑɪʃ ［ユマナ］青の曜日→ hɪμɑɪʃ J0

ɟɔɲeʃμeb ［地学］胆礬（たんばん） 1L: ブドウ状にできやすいため

ɟɔɲeʃcnɟ ［生物］青い眼 ［レベル］3 J0

ɟɔɲeʃeʃel ［料理］青茶 ［レベル］6 μɑ;/ Jʔ

ɟɔɲejd ［気象］上層雲 1L

ɟɔɲenɪ ［名詞］［形容詞］冷静な、平静な、クールな、動じない、落ち着いた、冷たい。名詞の場合は ʃcl とともに。 ［レベル］3 JJ:ɟɔɲeʃ/nɪ

ɟɔz ［名詞］プロペラ、ファン、羽、羽根、換気扇、回転翼 ［名詞］風車、かざぐるま、ふうしゃ ［レベル］3 1ɪ̀: 制 : 古 :jɔlə̀lɪzɪɒɔ（プロペラ）「交差した木」

ɟɔzɪμ ［名詞］扇風機、換気扇 ［レベル］3 制 ［用例］ ɪn en ɥɔl eɒ ɟɔzɪμ ɒɪɪn ʃə ej ɑccʃ. 涼しくなったので扇風機を切った。

ɟɔs ［生物］椎、椎骨。 lez の対だが、頚椎なども含む。 ［レベル］4 @ 1L

ɟɔshɔɒc ［生物］椎間板 ［レベル］5 1L

ɟɔshɔɒcɪucl ［医療］椎間板ヘルニア ［レベル］6 1L

ɟɔsoɪl ［生物］棘突起 μɑ;/「椎骨突起」 JJl

ɟɔseʃ ［形容詞］余裕のある、余力のある ［形容詞］（服が）だぶだぶな、ダブダブな、だぼだぼな、ダボダボな ［反意語］lɪzeʃ ［レベル］3 μɑ;ɟɔcs/ʃe Jʔ

ɟɔoɪlɪ ［約物］x、× 記号 ［レベル］3 古 :「交わる」jɔlə̀lɪ とよく混同された。

ɟɔoɪn ［交通］交差点 ［電算］ルーター、ルータ ［天文］分点。黄道と天の赤道の交点 ［レベル］3 J1: 古 jɔoɪlɪ

ɟɔoɪnʃ ［生物］角孫 J1: いくつかの経絡のつながり

ɟɔl ［格詞］主格の格詞。動作主を示す。 ［言語］主語→ ɟɔc ［類音］ɟɔu ［レベル］1 1L:ɟɔɪl（するもの、行為者）。 ɪl は古の ɪl。 ::μ:jɔ,ɪlʃ, oɪn,ɪlʃ ［語法］ ふだんは省略する。強調や倒置の際に復活する。 ［文化］ ɟɔc ［用例］ ɟɔl ɪn eʃ ɟɔɪn. この俺が犯人だ。

ɟɔl(J) ［言語］ɟ の文字 ［レベル］1 1ɪ̀ɪ̀: 制 : 行為 ［語法］ 第４文字目の幻字。

ɟɔlʃ ［経済］ソルト ［レベル］2 古 ［文化］ → ɪnɑɪn アルバザードの通貨。１ソルトは２００８年現在、日本円でいうと４円程度に相当。パチンコをやる人間は１玉１ソルトと考えれば分かりやすい。 かつて μn の時代に大体１０年現在の日本と比べて１ソルト４円くらいであったが、ヴェレイ末期までに１００倍以上物価が変動している。つまり１ソルト０.０４円以上にインフレしている。 zɔnʃjeɑ e ʃoen で μn の水準までデノミが行われた結果、μn とアレイユは概ね同じくらいの貨幣価値になっている。つまりアレイユでも１ソルト４円程度の価値がある。

ɟɔlʃɪnʃɔɪ ［化学］N 殻 ［レベル］5 1L

ɟɔlʃeu ［経済］ソルト建て ［レベル］6 JJ

ɟɔl̀l ［動詞］ɥəl を ɪ に帰らせる、帰す、送る、返す、追いやる、追い返す、追う、戻す、戻らせる ［動詞］ɥəl（ＣＤプレーヤーやビデオなどのテープなど）を停止させる ［普通動名詞］停止、帰還、帰投、帰港、返還 ［類義語］ɒɔnɔ ［反意語］lə̀ll ［レベル］2 J0:ɟɔlɟ/ 古 lə̀lʃɪ（行かせる） ［語法］ 日本語の追いやるは攻撃的なイメージがある。 ɟɔl̀l はそれも含むが、基本的に呼ぶの反対動作なので、追い返すという強い意味をふつう持たない。

ɟɔlle ［名詞］英雄、ヒーロー、ヒロイン ［動詞］ɥəl を ɔn について活躍させる、活躍する ［普通動名詞］活躍 ［レベル］3 1L:jeɟen:ɟɔɲn/ɪμle ［語法］ 日本語の活躍よりも意味が狭く、英雄のように激しく活躍する場合のみを指す。 ［文化］ 聖人 (hɪμɑcɪ) よりも格が上。現在のところ、カコの英雄アルシェ、同ソーン、μn の英雄セレン、同リディア、レイユの英雄ミロクの５人。その功績にもかかわらずシオン＝アマンゼが英雄に入っていないのは、この言葉が戦闘力に秀でたものを前提とすることから。 ［成句］ ɟɔlle ɪlej ɥə cɒ ɔl̀lɪ. 英雄は芽が出ないころは気ちがい呼ばわりされる : 出る杭は打たれる ɟɔlle clcɪ 国士無双

ɟɔlleɑɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ヘルクレス座 JJl ［文化］ ɑɑɪ

ɟɔlj ［動詞］ɟɔl（命じる人）は ɥəl（する内容）を ɪ（実際にする人）にさせる、させる。使役動詞。 ［レベル］1 ɑ:jɔ/ɪl/jɔ「する / もの / する」 1L: 制 :ɟɔj oe, ɟɔlj:ɟɔlj:ɟɔlj ［語法］ ɥəl には節を取ることができる。節内の主語が ɪ 格目的語と同一の場合、ɪ 格を省略するのが通常である。 lɪ ɟɔlɟɪʃ ɪn ɾɪə ʃə. と lɪ ɟɔlɟɪʃ ɾɪə ʃə ɪl ɪn. は意味が異なる。 ɥəl 節内の動作主が省略されているので通常主節の主語 lɪ と同一視される。すると「彼は彼自身がそれを買うよう私にさせた」になる。つまり私が彼をせっついて彼自身に支払いをさせたという意味になる。「彼

は私にそれを買わせた」と言いたいなら、lɪ ɔɔlɟɪʃ ɪn ʃɪə ʃə ɪl ɪn にしなければならない。しかしこの ɪl ɪn は分かりきっているので省略されるのがふつう。　日本語は独特な使役構文を持つが、アルカはＳＶＯしか構文を持たないため、単純ではあるものの、日本人にとっては構文が異なるので ɔɔlɟ の使い方は幾分難しいかもしれない。母語から考える癖をなくす必要がある。あくまで単純なアルカのＳＶＯ構文で考えれば良い。　アルカの使役構文は中国語の⊠⊠叫我做晚⊠（母は私に夕飯を作らせた）と同じで、単純である。基準となるＳＶＯなどの構文からの逸脱度で見れば、使役構文の単純さは一般に中幻＞英仏＞日韓であるといえる。 [用例] lɪ ɔɔlɟɪʃ ɪn ʃɪə ʃə. 彼は私にこれを買わせた。　ˈɔɔlɟ, nɔɔn ɔɔlɟɪʃ nɪn ˈɪen ɣəɔɪnɪ ɔɔ ʃəəɟ ɪ ɣəlɔ ɑɔ ʃəə ɪɟɔz. いえ、落とさせたと言ったほうがいいかしら。ユマナにいる自分を通して、候補となるたくさんの子供たちの前にねｘ：このｘ格は ɔɔlɟ のｘではなく ɔɔ が持つｘなので使役される相手ではない。

ɔɔlɟnɪl [企業] ソルスナル [レベル] 6　ʃl [文化]　ＪＴＢに相当する企業。

ɔɔlɟɪɒə [言語] 主格 [レベル] 6　ɟɑ;/　ʃɔ

ɔɔln [動詞] ɣəl を ɪ に促す、促す、促進する [普通動名詞] 促進 [レベル] 3　古 :「するようにしてほしい」

ɔɔlɪɪʃ [感動詞] おまたせ、お待たせ、お待たせしました [レベル] 2　ʃɒ;ɔɔ/ɪl/ɪɪʃ（待たせるもの）　古 :ɔɔ/ɪl/ɪɪʃ（待たせるもの）

ɔɔlɪeʃ [言語] 主語 [レベル] 4　ʃɔ

ɔɔlaɛɟ [名詞] ソルフェール [アクセント] ɔɔlɑEɟ [反意語] hɪɟɑɔʃ [レベル] 3　ʃʃ:ɔɔɟɑɛɟs [文化]　高尚な存在で、向学心に富み、比較的の大人しくてインナーで、地味なローブや紅茶が似合うタイプ。金に疎く学者肌であることが多い。セレンなどが代表的な人物。　高尚、学問、芸術、ロハス、競わない、付かず離れず、草食、清貧などの言葉に惹かれるタイプ。金に縁がないが、気にしないことが多い。そのわりに勤めるとたいてい高学歴なので無駄に金が貯まるセレンのようなケースが多い。　社会的にメジャーな存在でなく体力も気力も弱いほうなので虐げられやすい。クズやＤＱＮが嫌いだが、滅ぼすのは現実的でないので ɟɑ のセレンのようにアルカディアに棲み分けたり、現実のセレンのように引退したりする。ミロクのように滅ぼすのを実行したソルフェールは稀。

ɔɔlaɛɟʃe [亜魔] ソルフェルテ、無性妖 [名詞] 中性的な子供 [レベル] 6　ɟɑ;ɔɔɟɑɛɟs/ʃe　ʃʃ:ɟɔ ɑɔɪ [文化]　コルンの一種。幼少期は男女の性別がなく、思春期になると自分でなりたいほうの性別を選ぶ。見た目は人間と変わりない。

ɔɔlaɛɟs [名詞] ソルフェージュ、中性、中性体、男の娘、女男、草食男子、肉食女子 [アイテム] 模造刀、なまくら、鈍、なまくら刀、刃を落とした刃物 [類義語] ɪnɑɛlclɑɪ、ɑɟɛcɒccnɪ [レベル] 2　ʃʃ:ɪbccɟ: 古 ɔɔɟn で戦闘訓練用の刃を落とした刃物のこと。「ユルト君はソルフェージュのようにおしとやかですね」と彼女が述べたことから。 [文化]　男らしくも女らしくもない中性的な性格の人物。リュウやユルトが走り。ul 後期に男性の間から流行りだした。

ɔɔlaɛɟscɟʃc [言語] 中性代名詞 [レベル] 5　ʃʃ [文化]　クミールの提案で ʃʃ に作られ、リュウとユルトとピネナが使うことになった代名詞。なぜか最近のセレンも ɔɔlaɛɟs に入るらしいが、セレンは jeeʃ を使う。

ɔɔlaɛj [動詞] ɣəl を ɪ に追い詰める、追い詰める、追いつめる、追い込む、追いこむ [動詞] (lɑcɟ neeʃ ɛɒ ɔɔlɑɛj で）人生が詰む、詰む [シェルト] 詰む、詰み、勝つ、勝利 [レベル] 3　ɟɑ;ɔɔlɟ/ɑɛjˈ「牽制させる」　ʃʔ [用例] ɪn ɪɟ ucl ɟɪɑel lccɒ ɪn ɛɒ ɔɔlɑɛj. 私は追い詰められるまで宿題ができない。

ɔɔlb [名詞] 作業 [動詞] ɣəl に ɪ（内容）を作業する。lɪb から来ているので lɪb と同じ格組。 [レベル] 3　ʃʃ:ɔɔ/lɪb「する労働」 [用例] ɔɔlb ˈlcn 大変な作業　ɪɟ ɔɔlb 作業する　ɪn ˈle ɔɔl ˈɛɒˈl e ɒɪcɒ ɪnʃɛj cɒ uɪɟzɔn ˈlɪlzɪɟ e ˈleɟʃ ˈlɪnɪ ɔɔlb. 作業のため明日８時３０分に自分らの山車の倉に行く。　ɔɔlb cl ˈɔɔˈl cɒ ɑcɟ. 本日の作業終了。

ɔɔlbɪɟʃ [再帰動名詞] 作業員、工員 [レベル] 3　ɟɑ;/　ʃʃ

ɔɔlbe [名詞] 作業力、体力、耐久力、腰力、目力、胃力、尻力 [レベル] 4　ɟɑ;ɔɔlb/enɑc　ʃʃ [文化]　健康に作業をすることのできる体力のこと。加齢とともに減る。　１０代のうちはほとんど意識しない。主にデスクワークに使うが、肉体労働にも使える。　ɟɑ でセレンはアルカの作業のしすぎで胃痛腰痛肩こり近眼坐骨神経痛など様々な症状に侵された。セレンは「時間はあっても腰力がないから作業ができない。時間より大事なのは腰力」と述べ、時間があることより作業を健康にできる体力があることを重視した。そう、勉強でも仕事でも、いくら時間があっても腰痛などで作業が困難になれば、時間などあっても何の意味もない。時間より重要なのは健康に作業ができる体力である。それを彼はソルベと名付けた。　その体力は電車で移動するだけの座った時間でも減る。というのも座っているだけで腰や尻に来るからだ。映画を見るにもテレビを見るにもソルベを使う。現実のセレンが娯楽を避けて作業を優先していたのは、限られたソルベをアルカの作業に回したかったからである。座って作業できる時間はソルベの都合上限られている。だからその貴重なソルベを無駄に使いたくない。それでセレンは娯楽より学業を優先した。セレンにとって時間はさほど貴重でなく、ソルベは非常に重要だった。なので立ったり座ったりしたまま、つまりソルベを消費する状態で無駄に待たされることを彼は非常に嫌った。

ɔɔlɣəɔɪɥəɪ [言語] 主格分詞 [レベル] 4　ʃl [文化]　cuɪ

ɔɔlz [名詞] コード、ケーブル、配線コード、配線ケーブル、線 [レベル] 3　制 : n 対らしく見えないので解体せず。

ɔɔlɪ [名詞]未亡人、寡婦、ウィドー、妻に先立たれた男 [レベル]4　ʔ: 制 :ɔɔɟn:ɔɔɔslɪnˈ 残った人 」。性別に関係なく伴侶に先立たれた者を指した。

ɔɔlɪ,ɪlʃ sɪn　ɔɔel.l

ɔɔlɪɒɪˈlɔlc [ジョブ] 天薙ぎ [レベル] 4　ɪlʃ　ʃl [文化]　ˈɪˈlɪn

ɔɔlɔɒɔn [名詞] 青年、青年期。男女問わない。 [類義語] ɒɪlʃ、ɒɪu [レベル] 3　ɑu; 元は「若い男」の意。後に現在の意味になった。　ʃʔ:ɟɑcɑɪ [語法]　思春期後半ないし思春期後から２５ないし３０前までを指す概念。大人になりかけ、大人になりたてのひよこを指す。

ɔɔleʃ [名詞] プレイ、動作、行為、演技、演奏、運動、アクション [類義語] ɔɔɔl [レベル] 3　ʃl:ɔɔɔl/ʃe [語法]　ゲームのプレイ、演奏のプレイ、サッカーのプレイなど、特定の様式と時間の長さを持つ行為のこと。ɔɔɔl は行為全般を総称する。 [用例] ɒeuɔlʃ ɔɔleʃ プレイを再生する、リプレイする→ ɒeɟɔleʃ

ɔɔleɒ [音楽] 鉄琴、グロッケンシュピール [レベル] 3　ʃL:ɒclɑ:ɔɔɟ/leɒ（冷たい音楽）

ɔɔlel [形容詞] 魅力がない、魅力的でない、モテない [反意語] ʃɔɟ [レベル] 3　ʃl0:ɔɔlɟ elɑ（逃げさせるような）

ɔɔleʃ [普通動名詞] ソルット [レベル] 4　ʃl0:ɔɔlɟ/ləleʃ [文化]　主に父親や夫が娘や妻の腹を割くこと。不貞を働いた女に対し、ルルットを行うこと。娘が不貞した場合、父親はその娘を奴隷として売るかソルットをして処分するなどした時期があった。

ɔɔləɔɪ [生物] 土踏まず、土ふまず [レベル] 3　ɟɑ　ʃL: 赤では ɔɔ　ɔɔ:ɔɔ

ɔɔləə,ɑ ɔɔɔl　ɔɔ/ɪl（するもの、すること）

ɔɔɪ [代詞] [形容詞] そのようなこと、そんなもの、そのような、このような、そんな、こんな [類義語] lenɑc、ɟɪlɪɔ [反意語]ɣəɪ [レベル] 1　ɑ:elʃ;dɪɟɔ から dɪ が脱落して ɟɟɔ → ɔɔ。母音追加で ɔɔɪ。「そうである」が原義。　ʔ9: 制 :ɔɔ　ɔɔɪ:ɔɔ::ɒelc,ɪlʃ, ˈɔɒelc,ɪlʃ [語法]　＜文法＞　名詞には前置。形容詞などには後置。「そんな」は前置で、「そんなに」は後置といってもよい。　＜ʃə と ɔɔɪ＞　ʃə を漢然とさせたものが ɔɔɪ。ʃə ɒenɟ は「その言葉」そのものを指すが、ɔɔɪ ɒenɟ は「そのような言葉」「それに近い類似した内容の言葉」を指す。心理的な漠然さも指す。つまりハッキリと「その言語」と明言を避けたい時に遠まわしに言うときに使う。　le と ɣəɪ の関係も同じ。　＜ɔɔɪ は ʃə をぼかせる＞　ʃə はハッキリと何かを指示するが、ɔɔɪ はぼかす効果がある。ʃəəɒc や ʃəəbe は好悪を与えることはできても、ぼかす用法はない。　「さっき uɛɟdeɑ って言われたけど、確かにそうなんだよね」というときの「そう」などは ɔɔɪ が適切。ʃə だとあまりに直接的すぎる。もちろん場合によっては ʃə でもよい。状況次第である。
＜漠然とした「そう」＞　相手の言動を受けて「そうだね」とか「そうか」とか「そう？」などというときは ɔɔɪ を使う。漠然かどうかは関係なく、ʃə eɒ を言わない。　「もしそうなら」という前方照応にも ɔl ɔɔɪ が優勢。ɔl ʃə だとかなり内容を狭めている印象がある。ɔl ʃə だと照応しているのは特定の語句の可能性すらある。　＜好感形と悪感形＞　０：＋：－ ɔɔɪ:lenɑc:ɟɪlɪɔ　ɣəɪ:ˈlenɟ:uɪnɑɔl　ɔɔɪ（そんな）とその属格 ɔɔɪn（そのようなもの）を漠然（近）という。ɔɔɪ は ʃə を漠然とさせたものである。　ɣəɪ（あんな）とその属格 ɣəɪn（あのようなもの）を漠然（遠）という。ɣəɪ は le を漠然とさせたものである。　上記はそれらの好感形と悪感形である。所有格（属格）は単純に en を付けるだけであるが、まず使わない。　ɒcɟenʃɪnˈ ɒcl lenɑc ɒenɟ（そのようなお言葉、ありがとうございます）　ɪn ɟcn uɪnɑɔl nɪɒɔ ˈlɪɪben（あの野郎のああいう態度が気に入らねぇ）　[成句]　ɔɔɪ eɒ そうなの？　cɒ ɔɔɪ そういうときに、そんなとき、そんな場合、そういうケースでは　ɔl ɔɔɪ もしそうなら [用例] ɪn ɟcɟ ɔɔɪ lec. そんな本はいらない。　ɪn en jeɟ ˈlɪn ˈlɪnʃ ɔɔɪ. そんなに美しい人は知らない。

ɔɔɪn [名詞] 実行者、した人、する人 [法律] 犯人 [電算] ホスト [俗語] 攻め、左側、左、立ち、タチ [レベル] 2　ʃL:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ɔɔɪn(J) [代詞] そのようなもの。ɔɔɪ の属格。 [レベル] 1　ʃʃ

ɔɔɪs,ɑ ʔ elʃ;ɔɔləˈlɪsc.l

ɔɔɪl [動詞] ɣəl を c から連想する、連想する、想起する、喚起する、呼び起こす、思い出させる、思い起こす、思い起こさせる [対格分詞] 連想、想起、喚起 [レベル] 3　ʔ: 制 : 古 :ɔɔˈləˈlɪɔ（考え同士が交差する、交わる）

ɔɔɪlɪlɔ [娯楽] 連想ゲーム [レベル] 2　ɟɑ:ɟcɑcɪ;/　ʃl0:ɟcɑcɪ [文化]　現実には ʃl0 初頭にリディアがメル、ルシア、ユルトを交えて行った遊びがらできた語。神話では神代からあった遊び。　現実にはセレンもそこに参加して、子どもたちと遊んだ。　お題を言われたらその単語を聞いてまず思いついた単語を２秒位内に口走らねばならない。言えなければ負けというゲームで、ユルトが真っ先に敗退した。セレンは思わず下ネタが口をついて出て、ルシアに「それどういう意味ですか」と聞かれ、リディアの空気が張り詰め、失格となり、ついでに後から怒られた。結局頭の回転の早いリディアやメルやルシアが遊んでは笑っていた。娘はこのゲームが好きなようで、珍しくキャッキャとはしゃいで笑っていたのが印象的だった。

ɔɔc [言語] 主語← ɔɔl [類義語] dɔʃɔ˥ [反意語] ɔɒcʃ [レベル] 4　ɟɑ;ɔɔ/c「行動を見る者」　ʃʔ　x:ɔɔ c:ɔɔc:ɔɔˈləˈn,ɪlʃ [文化]　・主語と主題　ɑ, ɑu, ɟz, lʃ, ɑɟɑ, lɣ, lɟ, ɪɟ は主語と主題の区別を持たないが、ɪlʃ は持つ。　ɔɔ になり、ɪlʃ が lʃ に入ると主語と主題を区別する必要性が lʃ の間で起こった。そのとき ɔɔc と dɔʃɔ˥ という概念が作られた。　その後カレン半島が侵略され、ɪlʃ が ɪɟ にも入ると、両概念は ɪɟ にも流入した。　ɔɔc（主語）と dɔʃɔ˥（主題）の対立は ɪlʃ で ɔɔ と ɔɪn であり、日本語の「が」と「は」、韓国語の「가」と「ヌン」の違いにほぼ相当する。　・アルカでの主語と主題　アルカは主語と主題を格レベルで区別しない。アルカには ɔɔc（主語）しかなく、アルカの ɔɔc は ɔɔl（～が、～は）であり、ɔɔl は動作主格から経験者しか示さない。　日本語における「は」と「が」の違いはアルカでは後置詞以外の方法で表現される。　例えば「象は大きいˈは ˈlɪcɒ eʃ ˈlɪc だが、「象は鼻が長い」は ˈlɪcɒ ʃcl ɔɪ ɑcl ないし ˈlɪcɒ eʃ ɑcl ɔn ʃɔɪ と表現される。　「僕は太郎だ」と「僕が太郎だ」の違いは ɪn eʃ ɪlɔɔ と ɔɔl ɪn eʃ ɪlɔɔ ɑɪ の違いで表現される。　「明日は雨だ」の「明日は」は主語 ɔɔl には来ず、eɟˈ ɔɔl cɒ ˈleɟʃ ɑɪ ないし eɟˈ lənɪ (ɔɔl) cɒ ˈleɟʃ となる。　このように、主語と主題の区別は日本語のような後置詞を使った表現以外のものになる。　・主語と目的語　ɟɒ まで漠然と主語と目的語は格の形で存在していたが、その存在が浮き彫りになったのは ɟɒ で主語と主題が区別されてからである。主語という大きな枠組ができたことで、その対となる目的語の概念が浮き彫りになり、新たに ɔɒcʃ という語形が lʃ で与えられ、ɪɟ に流入した。それまでは与格などと対等な、単なるふたつの格でしかなかった。　アルカの目的語は ɣəl 格目的語で示され、対象を示す。ɣəl は純然と対象を取るが、動詞が lɪ などの場合はその対象が場所を取ることなどもある。

ɔɔcʃ [言語] 外項。動作主あるいは「意味上の主語」 [反意語] ɔɒce　ɟɑ;ɔɔc/eʃ　ʃl0

ɔɔcʃɣəɔ [言語] 非能格動詞、能動詞。主語になるものが意味上の主語である動詞。 [反意語] ɔɒ ceɣəɔ　ɟɑ;/　ʃl0

ɔɔcɟɔ [地球の国名] モンゴル [レベル] 5　古

ɔɔcn [地学] 縞瑪瑙、オニキス、オニックス、オニックス [レベル] 6　ʃL:ɔɔnc/cnɟc [文化]　光と闇を分離する魔石。周囲の光を奪うことで、戦闘を有利に運べる。例えば自分の周りの光を取り、敵の周りに投げる。すると敵だけ光って見えるが、自分は闇の中に入り込むため、こちらは敵が見えるが、敵はこちらを見えなくなる。鬼族や多くの悪魔など、視覚を使って戦う敵に有効。この際はこちらもヴィードを体外で燃やすと居場所が割れるため、注意が必要。

ɔɔcl [物理] 作用 [レベル] 4　ʃL:ɔ,l は行為。c は繋ぎの恣意的な母音。

ɔɔclɪɪ [物理] 作用点 [レベル] 4　ʃL

ɔɔclɟecn [物理] 作用線　ʃL

ɔɔɔʃ [歳時記] 一週間、週、週間、ウィーク [レベル] 2　ʃl0: 制 :ɔɔɔɔ [文化]　一週間は７日。uelɒ, eɟuɪ, ɟɪlcc, ʃeeue, beezel, cluɪ, dɪɟʃ の曜日がある。　一ヶ月は４週間。ɪlʃe, ɑleɪ, ɪlcɟ, lcɛɟ の４週。春の週、夏の週のように表す。　前半二週間は ɟɪlɛ、後半二週間は ɔɔɟn という。二週間のことを ɪɑcɪ という。 [用例] ɔɔɔʃ ɟɪɒ cl ˈlcʃ ɒe. 新しい一週間がまた始まった。

ɔɔɔʃʃɔɔˈl [歳時記] 週末 [レベル] 3　ʃL

ɔɔˈl [名詞] 染み、しみ、にじみ [動詞] ɣəl を ɪ に滲ませる、滲ませる、にじむ、滲む、染みる、しこみむ、染みこむ、染みこませる、しみこませる、しみる、染みる [形容詞] 滲んだ、染みた [類義語] dəɟ [レベル] 3　ɟɑ<ɟzɑ;ɔɔ/le　ʔ: 制 :lɪˈlɪ:ɔɔ（英語の ɔɔˈl とは無縁 , 元が ɔɔ である ことに注意）　ɔɔ:ɔɔ:ɔɔˈl:səˈləˈlə,ɪlʃ [用例] enɪ cˈl ɔɔˈl ɪ ɪɑcn. ハンカチが涙で滲んだ。

ɔɔɟ [動詞] ɣəl を ɪ にしみこませる、しみこむ、染みこむ、浸み込む、浸みこむ、染み込む [化学] 浸透 [レベル] 3　ʃL:dɪlˈlɪlɪ:ɔɔ [語法]　にじむの ɔɔˈl とは異なる。ɔɔɟ は浸透すること。紙など、滲んだ方に目が行っているのが ɔɔˈl。浸透して境界を超えた現象や液体に注目しているのが ɔɔɟ。 [用例] ɟɪe ɑccl eɒ ɔɔɟ ɪ ɒɪcn ɪnʃ. 新鮮なトマトが体に沁み渡る。

ɔɔɟɟɔn [化学] 浸透圧 [レベル] 5　ʃL

ɔɔnɪ [文末純語] [ɒɒ] jeʃe [レベル] 1　ʃl:ɟcɑcɪ:ɔɪ nɪ8（そうなのかな？）の語彙化。

ɔɔnɔ [感動詞] こんにちは、こんにちわ、こんちわ、ちわっす、やぁ、どーも、どうも、やあ、おはよう、こんばんは、こんばんわ [感動詞] 相手の反応が信じられないと驚きつつ、その相手を正そうとするときに使う。「どうしたんだお前ら？」というようなニュアンス。小馬鹿にしたニュアンスにもなるので、フランクなシーンでのみ使う。 [感動詞] ただいま [レベル] 1　古 :ɔɔɔnɔ,ɟɔɔnɔɣən が短くなったもの

ɔɔnɔn [ɑʃe] おはよう、おはよー、おはよん、おはよっ、こんちは、こんちわ、こんばんは、、こんばんわ、どうも、やぁ、やあ。ɟɔɔnɔ の異形態。 [レベル] 2　古 ?

ɔɔnɔɣən [感動詞] こんにちは、こんにちわ、こんちわ、こんちは、は～い、ハイ、やぁ、どうも、やあ、ハロー、おはよう、おはようございます、こんばんは、こんばんわ、お邪魔します、おじゃまします [アクセント] ɟɔɔnɔɣEn [レベル] 1　ɑ;ɟɔ/nɔ/ɣən「どのようにしますか？」エルトとサールが逢瀬の際に「この一年どうしていた？」の意味で使ったのが最初。逢瀬は夜８時だったので、本質的には「こんばんは」。その後神々や悪魔たちがアンシャンテを開発すると、世界中果ては宇宙規模で通信することができるようになった。その場合時差が生じるのでこちらが朝だからといって向こうも朝とは限らない。そこで「おはよう」や「こんばんは」の違いはないまま保たれた。その伝統がその後も残り続けている。　古 : 語源をよく覚えていないのだが、代動詞 ɟɔ、疑問助詞 nɔ、比況のエクスプローダーの ɣən が混ざっているのだと思う。すると直訳は「どのようにやっているの？」になるが、多分「最近どうしてる？」の意味で使っていたのだろう。それが「調子どう？」ぐらいの意味になってだんだん慣用化され、「こんにちは」の意味になっていったのだろう。 [語法][文化]　アルカの挨拶は敬度によっていくつか分かれているが、時間によって分かれていることはない。つまり朝昼夕晩で挨拶を使い分けることはない。おはようもこんばんはもない。テレビなどでキャスターなどは視聴者に向かって ɟɔɔnɔɣən といえる。視聴者と面識がなくてもいえる。この用法はスピーチから発生したものである。何かを演説したり講演するとき、喋り手は聞き手が誰かを知らなくとも挨拶することができる。テレビはこれと同じである。尚、ラジオやインターネットなども全て同じである。　・お邪魔します　いらっしゃいは ˈleˈlɔ か ɟɔɔnɔɣən だが、お邪魔しますに当たる語はなく、ɟɔɔnɔɣən という。

ɔɔnɔɣənˈl [俗語] [言葉遊び] [感動詞] おはようお嬢さん、おは幼女 ɪl;/　ʃl0 [語法]　ɟɔɔnɔɣən ɣənˈl を一語にしたもの。ʃl0 年初頭にメルに「「おは幼女」ってアルカでなんて言うの？」と聞かれたセレンが苦肉の策で出した言葉。日本語に一致するものがない。

ɔɔɑ [音楽] オクターブ [レベル] 3　ʃL:ɔɔɒ/ɑɔ

ɔɔɑdɪln [音楽] ピッコロ [レベル] 3　ʃl

ɔɔɒ [悪魔] 七曜の悪魔、ソーム、曜魔の総称 [音楽] 音部記号 [シェルト] 縦軸、軸 [組み数字] 7 [レベル] 2　古 [文化]　闇のヴェルムから光のパルトまでの７匹の悪魔のこと。また、曜魔が持つ７大属性のことで、闇、水、風、土、火、雷、光の基本属性を指す。また、曜魔は人間の７つの悪を象徴する。７は忌数であることから、これらの悪と結び付きやすい。木星を司る。　uelɒ: 虚偽　eɟuɪ: 嫉妬　ɟɪlcc: 肉欲　ʃeeue: 怠惰　beezel: 憤怒　cluɪ: 傲慢　dɪɟʃ: 強欲　ヴァステ開戦時の住処は木星付近。

ɔɔɒɒeɒ [組み数字] ソームサークル、七英雄、七福神、七星 [レベル] 5　ʃl [文化]　ɟɪdɪlL

ɔɔɒɒelle [娯楽] ソームメルシェ [レベル] 3　ʃl [文化]『ドラゴンボール』に相当するアニメ。主人公 ˈlɪnʃɪ ˈlɪn（作中では lʃ なので ˈlɪn ˈlɪnʃɪ）が７つの珠を集め、願いを叶えるという内容。

珠を集めると ɪnjɔɔɒ という魔物が願いをかなえてくれることになっている。

jɔɔɒɪ ［地名］ソーマの森 ［レベル］6 古 ［文化］ アルナ郊外にある森。森と言っているが、丘に近い。ザナ・パールとの出会いの場。

jɔɔɒɪ(ɭ) ［魔法］ソーマ ［レベル］5 制 ［文化］ 体質を魔法属性で説明したもの。 アルヴィナを分かりやすくしたもの。 リディアが考案した。 ソームを使うので jɔɔɒɪ という。
＜やり方＞ ソームをヴェュムからパルトまで並べる。 左がヴェュム。右がパルト。中心はテーヴェ。 左に行くほど ɯcɵ が増す。 右に行くほど ɥənɔ が増す。 中央に近付くほど nɔɪ が増す。 ＜パラメータ＞ 図示すると下記のようになる。（表は@ｗｉｋｉで） ＜特徴＞ ソームのそれぞれの特徴を挙げる。 各項目ごとに、４段階で自分が当てはまるかどうかを記入していく。 ４が最も当てはまる。１はまったく当てはまらない。 ＜陰：ɑclʃ＞ uelɒ 長所：大人しい。物静かた。大人びている 短所：暗い。鬱。引き篭もりがち。非社交的 eɸɯɪ 長所：知的。冷静沈着。客観的 短所：冷たい。機械的。根暗 ɟɪɟcc 長所：穏やか。和み。融通が利く。安定。長生きた。こだわらない 短所：つかみどころがない。軽々しい。責任感に欠ける ＜中庸：jeel＞ ʃeeue 長所：万能。アルマ気質 短所：無能。凡庸 ＜陽：ɑcɵʃe＞ beezel 長所：人間味がある。暖かい。人情家。やる気がある。活力がある。意欲的 短所：短気。イライラしやすい。おしつけがましい cluɪ 長所：瞬発力がある。爆発的な力が出る。集中力がある。精力的 短所：体力や感情の起伏が激しい。キレやすい。ヴィードを消耗しやすい。長続きしない dɪɟʃ 長所：明るい。陽気。楽観的。元気。 短所：躁。うざい。ヴィードがなくなっても空元気を出して倒れる。大病しやすい ＜診断＞ ７項目にそれぞれ「当てはまる度」を４段階でつけてほしい。 それがあなたのパラメータだ。 陰に傾いた人、陽に傾いた人、まんべんなしい人、色々だろう。 陰に傾いた：ɯcɵ 気質。内向的で知的なローハスタイプ。外で遊ぶより中にいたい。 陽に傾いた：ɥənɔ 気質。外交的で社交的。運動も好き。 中央寄りになった：nɔɪ 気質。穏やか。激しい動きは好まない。人付き合いはそこそこ。あまり怒らない。 外側に１点ずつ高得点の部分があった：中央寄りの逆。luɪɸ 気質 中央と陰側に高得点があった：jclɑ 気質 中央と陽側に高得点があった：ʃeɒcj 気質 中央を中心として全体的に低かった：ɪbel 気質（最低な状態） 中央を中心として全体的に高かった：hɪɸɒ cʃ 気質（最高な状態） このように jɔɔɒɪ を使うことで、ɪɸucnɪ の８気質を表現できる。ɪɸucnɪ と違って火だ水だと日常的な言葉で捉えられるので、感性に訴えやすい。 しかも、同じルヴァルでもユノベースのルヴァルとヴィルベースのルヴァルの区別が、点数のおかげですぐできる。 ＜陰陽距離＞ 高得点が２点あり、それが陰陽に別れている場合、その人は不安定で気分屋だ。 陰陽の距離が離れるほど顕著だ。 例えば uelɒ と dɪɟʃ が４点の人は最も気分屋で不安定だ。 jɪɟcc と beezel だと陰陽距離が小さいので気分屋にはあまり見えない。 高得点が陰陽どちらかに傾いていれば不安定な気分屋ではない。 たとえイライラしやすかったり神経質だったりキレやすかったりしても、気分屋とは異なる。 ＜具体例＞ jeɸen ɪɸbɪzɪɸɑ uelɒ ʔ eɸɯɪ ˩ jɪɟcc ˩ ʃeeue ˩ beezel ˩ cluɪ ʎ dɪɟʃ ˩（合計）19 高得点部分は uelɒ（陰）と cluɪ（陽）。 外側に２点偏っているため、ルヴァル気質。 陽の方が微かに強いのでユノベースのルヴァル気質。 陰陽距離が４（eɸɯɪ,jɪɟcc,ʃeeue,beezel を挟む）で、高い。 気分屋で不安定傾向がある。 イルヴァが強いので、集中力があり、キレやすい。 ヴェュムが強いので、内向的で、引き篭もりやすい。 ・診断 jeɸen ɪɸbɪzɪɸɑ は、集中力があり、先進性を持ってよく働くが、荒々しく、キレやすいことがある。 普段は明るく振舞うが、気分によって突然暗くなり、内向的で憂鬱になることがある。 ＊メル１Δ 年の時点の自己診断ではヴィルベースだったので、少し自分が変わった。 pcɑcɪ ləʃcɪ ＊メル１年 uelɒ １ eɸɯɪ ˩ jɪɟcc ʎ ʃeeue ʔ beezel ʔ cluɪ ˩ dɪɟʃ ʔ（合計）１Δ ノアベースのシルフ気質。 おっとりキャラで、にこにこしていて、クリスからマスコット扱いで猫のように可愛がられていたころ。 ＊メル１１年 uelɒ ʎ eɸɯɪ ʎ jɪɟcc ˩ ʃeeue ˩ beezel ˩ cluɪ ʔ dɪɟʃ ˩（合計）１L ヴィルベースのルヴァル気質。 思春期で恋愛と家庭と自分の身体とアルシェの仕事の悩みでノイローゼが極限だったころ。 ＊メル１L 年 uelɒ ˩ eɸɯɪ ʔ jɪɟcc ʔ ʃeeue ʔ beezel ʔ cluɪ ʔ dɪɟʃ ʔ（合計）Ｊ０ ほぼハーミット気質。 ライバルも立て続けに退け、子供もゲットして母親になり、思春期も終わり、精神的に安定。 ・診断 pcɑcɪ ləʃcɪ は、精神的に安定しており、なんでもそつなくこなす、かなり万能な人間。 かつてミロク革命を執筆していたころの cluɪ は ʔ!ʔ としても良い。 それにしても彼女を見ていると、人のヴィードは人生の中で千変万化するものだと思った。 ミルフのように会ったころからほとんど変化しない人もいるので、彼女は特殊な人なのだろうと思う。 pel ʔeeɟcɪ uelɒ ʔ（思春期はずっと ʎ だった。最近ようやく？と呼べるように） eɸɯɪ ʎ（ずっと ʎ のまま変わってない） jɪɟcc ˩（意外といい加減でひょうひょうとしている） ʃeeue ˩ beezel １（超やる気のない人なので） cluɪ ʔ（かといって研究の瞬発力は凄いし、いきなりキレたりするので） dɪɟʃ ˩（1!ʔ が正しいと思う。昔は１）（合計）19 おおむねヴィル気質。 イルヴァが高いのでキレたりする点に注意。 ルティア家に居候をしてから子供のころの性格に戻ってきた。

jɔɔɒɪ(ʔ) ［アトラスの国家］ソーマ ［レベル］4 ʎ:pcɑcɪ

jɔɔɒɪlɑlɔl ［武道］悪魔懸垂 ［レベル］6 1L：７秒であげて７秒でおろす懸垂であることから ［文化］ 非常に短期間で背筋と握力のつくトレーニング。セレンが思いついてはじめ、アシェットも男子に広めた。体感的にはこれが８回ほどできると片手懸垂できる。意外なことに最も腕力のあるオヴィは５回しかできなかった。ザナは１回もできず、ギルはセレンと同等。恐らく一番できるだろう男子はリュウ。女子はリディア、メルともに０回。

jɔɔs ［動詞］ɥəl を残す、残す、余る、残る ［名詞］ あまり、余り、余分、余剰、余地 ［形容詞］余分な、余計な、余りの、余った ［数学］割り算の余り ［レベル］2 jɔɒn:jɔɔs ::nclze ［語法］ jɔɔs は充足量＋アルファの「アルファ」部分を指す。１０で十分なのに１２ある場合、２が jɔɔs となる。ɑcɑn は引いていった結果という意味。ケーキが４個あって、３個食べたら、残りは１個だが、この１個が ɑcɑn である。従って、jɔɔs は「余り」で、ɑcɑn は「残り」である。 ［用例］ jel ʃəɸ jɔɔs ɜn. 唇が余っちゃった＝キスして

jɔɔl ［普通動名詞］行動、行為、動向、行い、おこない ［動詞］ɥəl を行う、行う、行動する、活動する、取り組む：jɔ の持って回った言い回し。 ［類義語］jɔleʃ ［レベル］2 μɑ; ↓ 1ʔ: 制 : ta :jɔləə（すること） jɔləə:jɔɔl: ［成句］ jɔɔl eʃ ɪaeʃ nɔɑ aeʃ 習うより慣れよ jɔɔl hɪɪɟ ɥenɟ 言行一致 ［用例］ jɔɔl cɜɒ 革命を行う ʃeʃ ʃə eʃ jɔɔl le ʎlɔɪ pcɥə lɑcɟ ləəʃeɟ ʃcɟɟe. でも彼らの人生を変えるかもしれない行いだった。

jɔɔlɒcnɑɑ ［言語］行為無相 ［レベル］5 J0 ［語法］ 行為動詞における無相区間。開始～完了相に等しい。 動詞の無標ないし動詞＋接辞 eɒ で示す 例：jʎcn, jʎcneɒ（座る）

jɔɔlɥəɔ ［言語］行為動詞 ［レベル］4 J0 ［語法］ 単位動詞の将然～継続相までの ʔ 相からなる区間のこと。 状態動詞に比べ、動作主の意思が表れやすく、動きも動的。 jʎcn（座る）が行為動詞で、jʎcn ɩɪ（座っている）が状態動詞。

jɔɔlɥecn ［言語］行為連鎖、アクションチェーン、アクションチェイン μɑ; ʎ ˩ ［語法］「＜ x が行為・活動＞ ＣＡＵＳＥ ＜ y が変化＞ → ＜ y の状態＞」という図式で示される、行為・変化・結果状態という一連の行為の連鎖を示すもののこと。

jɔɔlɪn ［言語］動作主、エージェント、ａｇｅｎｔ ［レベル］6 ʎ:pel

jɔɔɪ ［ben］jɔɔnɔ,jenʃ,jeeɸe を意味するなんでも単語 ［レベル］2 1L:ʃeɔlɔn:jɔɔnɔ,ɪ の短縮。jeeɸe,ɪ として jeeɪ ができたが、まもなく両者混同し、jɔɔɪ がオールラウンダーな語となった。

jɔen ［地名］ソエン ［経済］５００ソルト札 ［レベル］2 古 :jɔen（できない、越えられない） ［文化］ アシェルフィのすぐ北にある風の強い谷。μɑ ではクリスとの出会いの場。

jɔə ［形容詞］～君、～さん ［婉曲］男性器 ［類義語］jɪn, ɑɥəɟjɔə ［レベル］2 古 :ɑɥəɟjɔə の略形が語源。 ［語法］ → ɪdʃ, eɟʃ ○名（後置） ○姓（前置） ○男

jɔə,ɑu lə ucʎ, 彼 ɑɥəɟjɔə.ʎ

jɔəjɔə ［形容詞］～君（子供に対して） ［婉曲］男性器、おちんちん ［レベル］2 1Δ

je ［接頭辞］複数の意味を持つ合成語を作る ［接尾辞］人称代詞とくっついて近似複数を表す ［レベル］1 ɑ;e 古 je:je:je,jz ɟ,lʃ

je,ɑ ʃɔʎ e

je,ɪlʃ ʃə, le ‹›jeel

jeʃ ［動詞］ɥəl を殺す、殺す ［普通動名詞］殺害、殺傷、殺生 ［類義語］jeɑ. nene ɪ ɥəlɪn ［レベル］2 1ʔ: 制 :jɔʃ:1ʔ: 制 : 古 :jeʃjɔɟn（殺さないでおく）。始め制アルカは語を減らすために、「殺す」「産む」「作る」「壊す」「死ぬ」「生まれる」「生きる」を全て lɪɑ,lcɑ で表わそうとした。が、不具合と不合理に耐えかねて lɪɑ,lcɑ を「作る」「壊す」に限定し、残りを jɔʃ,jeʃ にした。だがこれでは「生きる」や「死ぬ」を表わすのが難しかった。生きるは jɔʃ−een（生まれている）、死ぬは jeʃ−ee だった。この不具合に耐えかねて「生まれる」「生きる」「死ぬ」を uəɟʃ に分けた。 ［成句］ ʃ uɔɟʃ lɔnʃ jeʃ ʎ ʃ は ʎ を道連れにする jeʃ uɪn ɑcɟ ɪʃ ぶっ殺すぞ！ ɪn jeʃ lɪɑ. lə. lccɒ ʃə, ɪn jeɑ ucl ɪnuəɟ le jcl ɔnʎ ʃecɒel ɑɪ. 僕は彼女を殺さなければならない。そうしないと永遠に続く呪いが解けないのだ（jeɟen ɪɸbɪzɪɸɑ）

jeʃʃɔ ［言語］セット 古 ［語法］ ejʃ

jeʃɔn ［名詞］凶器 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

jeʃj ［名詞］伝統 ［形容詞］伝統的な ［副詞］伝統的に ［レベル］4 1L:jeɟ,jeʃi ［用例］ ɔɔɸɪʎcoɪcn ʃcl jeʃj ɪlnɔɔen ʔʎ0 jɪlʃ. 大垣まつりは３６０年余りの伝統を誇る。

jeʃjɒcclɥɪn ［芸術］伝統工芸品 μɑ;/ ʎ ［文化］ μɑ のころは jɒ までの古い道具などを指していたが、ls から見れば当然 μɑ の時代の道具も伝統工芸品に当たる。

jeʃɑɪz ［形容詞］死に値する ［レベル］4 ʎʎ

jeʃɥə ［代詞］[dɔʎb] あなたがた、そちらさま ［レベル］1 ʎ1:eʎeʃɔne:je/ʃɥə

jeʃi ［歴史］歴史 ［レベル］3 1L: 制 :jeʃɪz（過去の積み重ね） ［用例］ eu ɪ jeʃi 歴史に遺す

jeʃiʎlec ［芸術］［歴史］歴史小説 ［レベル］4 μɑ;/ ʎ

jeʃiʎcʃe ［名詞］史学科、史学部 ［レベル］6 μɑ;/ ʎ

jeʃɪɑɪlʃc ［経済］上場来高値 ［レベル］6 ʎʎ

jeʃɪɑɥɒ ［経済］上場来安値 ［レベル］6 ʎʎ

jeʃɪɑel ［歴史］歴史学、史学 ［レベル］5 μɑ;/ ʎ

jeʃɪelɑɑel ［言語］歴史言語学、通時言語学、比較言語学 ［レベル］6 1L ［語法］ リュウによって大成。３者の区別はない。

jeʃce ［気象］なぎ、凪 ［名詞］(nɪ とともに）平然とした ［動詞］ɥəl を平然とさせる、平然とさせる ［反意語］lɪʃcɥ,ncʎ ［レベル］3 1L:jeeɥ/ʃceɥ（静かな海）日本語の凪は「和む」と同根か。だとしたら少しアルカと感覚が違う。 ［成句］ ʃcʎ{lɪʎ} jeʃce 平静を保つ、平静を装う、腹に怒りなどを収める、ぐっと堪える

jeʃɔn ［名詞］相関 ［形容詞］相関的な ［レベル］4 1L:jeu/ʃeʃɔnɪ

jeʃe ［文末純詞］[ɒdɑ] ʎɔʎ ［レベル］1 古 cchɔ（文末純詞）:::dɔn,ɪlʃ

jeʃez ［生物］ライソソーム、ライソゾーム、リソソーム ［レベル］5 μʃ;/ 細胞内で不要になったものを分解処理するための小器官であることから。 ʎʎ

jeʃəʃ ［代詞］[dɔʎb] あなたがたの、そちらさまの ［レベル］1 ʎ1:eʎeʃɔne:jeʃɥə/ʃe

jeʃəl ［化学］化合物 ［レベル］4 1L

jeʎ ［動詞］ɥəl を無視する、無視する、シカトする ［普通動名詞］無視、シカト ［レベル］2 1ʎ: 制 : jɔʎ。対に見えないので解除。また、格組も使いやすく変更。 ［用例］ ʃə ɑe μɪʃ lel el jeʎ ɪleɒ ʃ'ɔle. 人の気持ちを無視するのは良くない。

jeʎɥ ［名詞］連続ドラマ、連ドラ ［レベル］3 1L ［用例］ ɪn jɔn jeʎɥɔ. 連ドラは嫌いだ。 ɪnj cn jeʎɥ ɪləəʃel ʃɪʃ jɔɔʃ(ʃɔɔ). うちは週末には欠かさずに連ドラを見ている。

jeʎlɔɪ ［娯楽］ＭＯＰＲＧ、複数プレイヤー参加型オンラインＲＰＧ、ＭＭＯＲＰＧ。両者の区別は特にない。 ［レベル］5 ʎʎ:jeʎlɔɪlcɪuɪ

jeʎɪn ［政治］連合国 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 複数の国

jeʎeʃ ［魔法］無効 ［レベル］5 ʎ1:jeʎ/ʃe ［文化］ ɑɔlbɑcɥə

jel ［生物］くちびる、唇 ［レベル］2 1ʔ: 制 :jɔɒn:ʎəə（唇）。唇はキスを連想するのでいやらしいとして禁忌され、アルシェの唇（jeəʃʃ）とは別の語をとった。 ［語法］ 赤い部分のみを指す。唇の下は ɪjcɑ。唇の上は ɪʃɔ). ［成句］ ncj jeʎ ʎɔnʃ ɑɔʎ cnj 舌を巻く ʃcl jeʎ ɑeɥə 口が堅い、口が固い、口が硬い ［用例］ jel pelɑc 桃色の唇。美少女の形容によく用いる。 jel ɥə nen ʎeʃ 猫口、ねこ口、ω みたいな口、みゅん口、リディアっぽい口。 jel hɪn 分厚い唇 hɔɒ jel heɒel{ɥeʃel} 小さく口を開く

jeʎɑcz ［医療］唇の口内炎 ［レベル］4

jeʎɑɔ ［言語］両唇音 1L

jeʎaeɒe ［医療］口唇期 ［レベル］6 ʎʎ

jeʎɥɪɒ ［美容］口紅、ルージュ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 唇の紅

jeʎɥecn ［美容］リップライン ［レベル］4 ʎ1

jeʎɔɔz ［生物］口角 ［レベル］5 1L

jeʎɔɔzɑɪcz ［医療］口角炎 ［レベル］5 1L

jeʎcj ［普通動名詞］読唇 ［動詞］ɥəl（内容）を読唇する、唇の動きで ɥəl を理解する ［レベル］4 μɑ;/。唇の動きが読むべき文書の代わりとなっていることから、cj を使う。 ʎʎ ［用例］ ɪn jeʎcj ʎlʃ ʎ lcɥ eɸcɪ. 私は彼が水を欲しがっていることを唇の動きで理解した。

jeʎcj ʎɔɒ ［名詞］読唇術 ［レベル］4 μɑ;/ ʎʎ

jeʎenʎ ［美容］編み込み ［レベル］4 ʎ1

jeɟ ［名詞］過去 ［形容詞］元の、以前の ［動詞］ɥəl だった、だった。話者にとって過去であることを指す繫辞。 ʎ ɪ ʎ ʎɪnʃ の場合、もう綺麗ではない。 ʎ jeɟ ʎɪnʃ の場合、今綺麗かどうか話者が知らない。 ［法副詞］ʎʃ の代用。過去形であることを明示。軍隊では ʎʃ よりもデフォルト。 ［文末純詞］～だった。「彼は青い目をしていた」の「タ」のように、話者の体験が過去であることを示す。ここで jeɟ を使わず単なる過去形の文にすると、彼の目はあのとき青だったが今日は黒だというような意味になる。 ［反意語］jcl ［レベル］1 1L: 制 :jeʃɪz（歴史） ［語法］ jeɟ は話者の過去の体験を指す。 ʎ ɪ ʃcl cnj ɔɔɒeʃ jeɟ のように。特にその内容が恒常的なほど jeɟ を使う。「夕飯はおいしかった」のように「彼は目が青かった」と違って内容が恒常的でない場合、jeɟ でなく ʎʃ を使うこともある。ただ ʎʃ の場合「今はおいしいか分からない」という含意がありうるので、誤解ないようにするためには jeɟ を使ったほうが無難。 ［用例］ cn jeɟ 過去を振り返る ʎ ɪ ʃcl ɒel jeɟ. 彼には妹がいた。「今も生きているかは知らない」という含みを出したいときは ʃclʃ にする。 ʎ ɪ ʎ ʎɪnʃ. 彼女は綺麗だった（が今は分からない）。ここを jeɟ にすると「今は分からない」という含みは消える。

jeɟʃ ［名詞］期 ［反意語］peʃ ［レベル］4 古 :jeɒɔʎʃ（期）から ［語法］ ラシェットにおける期のこと。どちらかのルシーラが殺害されれば期が改まる。死なずに次のルシーラへバトンを繫げられれば、期はそのままで次の代へ行く。

jeɟɑlɪ ［名詞］バックナンバー→ lec ［レベル］6 ʎʎ

jeɟpel ［言語］過去時制、過去形 ［名詞］過去 ［レベル］4 1L:pcɑcɪ:ɪɸbɪlelʃ

jeɟlɪl ［シェルト］棋譜 ［レベル］3 μɑ; 「各局面を最初から最後まで集めたもの」 ʎʃ

jeɟcɒɪ ［化学］ポリペプチド。タンパク質など。 ［レベル］5 1L

jeɟcʒhɔnɟ ［アイテム］ブリガンディン μɑ;je/ɟcz/hɔnɟ「金属の板が整然と並んだ鎧」 ʎʎ

jeɟcl ［遊離副詞］［形容詞］もうすぐ、もう、もうじき、そろそろ ［類義語］ɑɪnʃe ［反意語］lɪczɪ ［レベル］1 J0:je ɟcl. ［語法］ lɪczɪ ［用例］ ɪn μcʎ uɪn c ɒɔʎʃ jeɟclel. そろそろ起きよう。

jeɟe,ɑ ɟɔu jeel/jeel

jen ［法副詞］～できる。可能。 ［法副詞］～する可能性がある、～しうる ［レベル］1 1L:jɔen（することができる）。en は古の en。 en:en::ucʎɔlə,lʃ ［用例］ ɪn ʎə jen ɪɸʎɪ. 私はアルカを話せます。

jen(ʎ) ［単位］一万 ʎjʎ ［レベル］2 1ʎ: 制 : 万 jɔn。但しこの語は使う者と使わない者に分かれていたのでなじみがあまりない。 jəəd:jen

jen(ʔ) ［生物］［医療］絡、絡脈 ［反意語］ʎɪn μɑ;‹jen,jzl(yəəɑ).ɪleʎ ʎʎ

jen,ɪlʃ ʎɪl

jenʃ ［感動詞］ありがとう ［動詞］ɥəl に感謝する、感謝する ［普通動名詞］感謝 ［レベル］1 ɟɔɟn ［語法］ jeeɒe

jenʃɒenɟ ［名詞］謝辞 ［名詞］謝辞→ lec ［レベル］4 ʎʎ

jenʎ ［単位］センタ 古 : リュウのマスター原稿にコーヒーがこぼれていてこれも他の単位と同じく語源不詳。他の単位は語源が予想できたが、これは予想さえできない。完全に語源不詳。 ［語法］ 吸収された放射線のエネルギー量にその放射線の体への影響の度合いをかけたものを示す単位。

jenʃɪnʃ ［感動詞］ありがとうございます、ありがとう ［アクセント］jEnʃɪnʃ ［レベル］1 古 ［語法］ jeeɒe ［用例］ jenʃɪnʃ ɔn{ɒɪnʎ} ʃc ʎlʎɪʃ ɪn. 手伝ってくれてありがとう。

jenʃɪnʃ−cjʎɪl ［俗語］ラッキースケベ、ポロリ、ＴｏＬｏｖｅる ［レベル］5 μɑ;zɪnɪ ʎʎ:zɪnɪ:「幸運の女神様、ごちそうさまでした」 ［文化］ 風が吹いてスカートの中が見えたとか、出会い頭にぶつかって転んで胸を揉んだとか、アイドルの水着がポロリしたとか、全般的に『ＴｏＬｏｖｅる』的なしょうもない出来事のこと。 ［用例］ lɪnɑ jenʃɪnʃ−cjʎɪl ポロリもあるよ！

jenʃɪnʃcnʎɪ ［感動詞］［言葉遊び］どうもありがとう ［レベル］2 ʃɒ:jenʃɪnʃ と ʃcnʎɪ を合わせたもの

J

古

jenʃc ［料理］ボウル、鉢、火皿。料理などに使うボウル。 ［植物］鉢、鉢植え ［名詞］ボウル型のもの ［料理］どんぶり、丼、チャイナボウル ［名詞］坩堝、サラダボール、サラダボウル、いろんなものが混ざったもの、るつぼ、混合 ［レベル］3　1ᵐ: 制 :lɪʎʃɪ:jenʃ

jenʎ ［動詞］yəl を ɪ に並べる、並べる、並ぶ、揃える ［形容詞］揃った、そろった、並んだ ［形容詞］歯並びが良い ［数学］順列 ［レベル］2　1L:jɪʎɟ:1ʔ: 制 :jɪʎ ［語法］髪を切りそろえたりするときに使う。差がないようにすることを指す。物理的には髪などで、抽象的には生徒のレベルを並べるとか肩を並べるというときに使う。 ［用例］nɑɪ jenʎ 切りそろえた髪　nɑɔ jenʎ 歯並びの良い歯

jenʎɪn ［形容詞］ありえる ［反意語］uɔlʎɪn、enʎɪn ［レベル］2　1L

jenɟ ［動詞］yəl を漂う、漂う、ただよう、漂流する ［レベル］3　ɑu;e　ʃʔ:μɔɑɔɪ ［語法］水中や水面や空間を流れるようにあるいは広がるようにぬるぬると進んでいくこと。

jenɟuelʃ ［地学］流氷 ［レベル］4　μɑ;/　ʃʔ:μɔɑɔɪ ［文化］流氷は極地に見られ、極地の気温を下げ、アトラスの極地と赤道付近の温度差を高めるのに一役買っている。流氷は白いため、太陽光を反射する。また流氷下の海水に太陽熱を伝えないため、冷たい海水を維持する。流氷のおかげで冷えたままの海水は重く、海深くまで沈み、ゆっくり赤道付近に近づいていき、何千年もかけて徐々に温かい赤道付近の海で浮上する。これにより海流の循環が促進され、結果的にアトラスの気温も日較差や年較差が小さくなり、人類にとって適した環境を提供する。

jenɟɪc,ɪlʃ　jenjee、lɪnlɪ　/

jenjee ［名詞］先生、教師、聖職者 ［形容詞］（後置で）～先生 ［アクセント］jenjEe ［レベル］3　jɒ;<jenɟɪc,ɪlʃ.l「教える師匠」。jenɟɪc はカレン半島から伝わり、カテージュなど南方へ伝わってから北方へもたらされた。その過程で ɪc の二重母音が ee になる方言を経たため、アルナへは jenjee の語形で流入した。　lᵐ:μɔɑɔɪ ［語法］→ ɪdʃ、ejʃ　〇名（後置）　〇姓（前置）　〇男女　〇単体使用 / 名詞用法　　lɪnlɪ は教師だけに使うが、jenjee は聖職者、すなわち僧侶、学者、医者、教師に使う。日本語の「先生」と違って先生や小説家や漫画家などには使わない。逆に教授でなくても学者には jenjee を使う。

jennɪl ［形容詞］笑える、面白い、おかしい、可笑しい ［レベル］2　1L ［語法］風変わりでおかしいという悪い意味の場合は zɪl。面白くて笑えるという場合は jennɪl。

jennɪɸ ［形容詞］飲み込める ［形容詞］しっくりくる、ちょうどよく心地よい ［レベル］3　1L ［語法］eɟcl は快適で心地よさを伴う。jennɪɸ はしっくりきて違和感がなく、不快感のないこと。 ［用例］ʃə dɔʃɪ eʃ jennɪɸ. この薬は飲み込める。　☆ ʃə eʃ jennɪɸ lɪlʃ ɪn lel ɪn ɒɔʎ ɒeɟɪ ɒɔ lɟɪnʎ. 私はうつぶせになって寝るのが寝心地が良い：ɒeɟɪ に注意。

jenuɪɟ ［名詞］［形容詞］透過性、透過性のある　μɑ;/　lᵐ

jenucɔɑ ［生物］［医療］絡穴　jzl;/　lᵐ ［文化］1 5 穴ある。慢性病に用いる。

jenuɔʎ ［言語］許容される文 ［レベル］5　ʎʎ ［語法］ɑɔɒuɔʎ

jenɑɪc ［名詞］［形容詞］可燃 ［レベル］3　μɑ;jen/ɑɪc　ʃʔ

jenɑɔnl ［形容詞］避けられる、仕方のある、しようのある ［レベル］3　ʎʎ

jendɪɔl ［数学］［言語］可算 ［レベル］4　ʃʔ:ɒel

jendɪɔlnɔʎ ［数学］可算集合 ［レベル］5　ʃʔ:ɒel

jenɥɔl ［形容詞］利用可能な、席が空いている、空きがある ［レベル］3　1L ［用例］ʃc ʃcl ez je nɥɔlʃ̊ 部屋空いてますか？

jenlɟ ［形容詞］魅力的な、可愛い、性的刺激を引き起こすような、あいばぶる、アイバブル、愛撫ａｂｌｅ ［形容詞］（女が）モテる ［レベル］4　1L:μɔɑɔɪ:ɪμbɪlelʃ

jenɪ ［動詞］yəl を声を出さずに「ふふふ」と鼻息で笑わせる、笑う ［名詞］にこにこ、ニコニコ ［類義語］nɪl ［レベル］2　1L:ɒelɔɑɔɪ ɪlʃe:jeeμnɪl ［用例］uɪnφɪμɑc jenɪʎ ɒɔɑel. ヴァンガルディはふっと笑みを零した。

jenɪuecz ［ユマナ］ニコニコ動画、ニコ動 ［レベル］4　1L

jenɪb ［美容］重ね塗り ［レベル］4　ʎ1

jencnɑɪμ ［物理］可視光、可視光線 ［レベル］4　1L

jencb ［化学］ポリフェノール ［レベル］4　1L ［文化］dɪlcl

jencɪn ［名詞］連休 ［レベル］3　μɑ;/　lᵐ

jeu ［言語］文章、書き物、文書、読み物、記事、アーティクル、詞、テキスト ［名詞］論文 ← yəlɑjeu ［レベル］3　μɑ;jeluəj.lɔʎ　1ʔ: 制　jeluəj:jeluəj

jeuʎɪlə ［法律］成文法、制定法 ［反意語］bɪlʎɪlə ［レベル］4　1L

jeun ［生物］組織 ［レベル］5　μʃ;je/uɔʎn　lᵐ

jeuɒclɑ ［言語］文芸 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 文章の芸術

jeuhɔjc ［電算］テキストファイル ［レベル］4　1L

jeuheʃ ［言語］文末、文書末 ［レベル］4　ʎʎ

jeuμɪ ［言語］コーパス ［レベル］5　1L:ʃelμɪ の類推で。文字データのＤＢ。

jeuμen ［電算］Ｐｅｒｌ、Ｒｕｂｙ、パール、ルビー、セヴレン、セブレン ［レベル］6　ɪl;/「テキスト処理用言語」 lᵐ

jeuleɒ ［音楽］楽章　1ʔ: 制

jeuɪlʃ ［普通動名詞］作文　μɑ;/　ʃʔ ［文化］→ nɔʃ}μen ［用例］ɪn ɪlʃ{ɪμ} aɪl jeuɪlʃ ɔn "eʃ ɪn scφɪʃ ʃə yejɣ" 「なぜこのコースを選んだか」について作文を書かねばならない。

jeuɪnʃce ［電算］ＸＭＬ、セヴァンティエ ［レベル］6　μɑ;/。元は文章を表示するために作られたことから。 lᵐ

jeuɪɪn ［政治］連合 ［軍事］連合軍 ［レベル］4　1L:clɒəɟ:μɔɑɔɪ

jeuclɒ ［言語］全文、文書全体 ［レベル］4　μɑ;/　lᵐ

jeuɔʎ ［言語］重文 ［レベル］5　1L

jeuɔln ［生物］多細胞生物 ［レベル］5　1L

jeuɔjn ［言語］文頭、文書頭 ［レベル］4　ʎʎ

jeuɔɒ ［言語］文体 ［レベル］5　μɑ;/「文章の方法（スタイル、様式）」 lᵐ ［文化］文の書き方のスタイルのこと。文章全体の流れや構成、各文における語彙や構文の選定など、全体的な文章作成スタイルのこと。言語の選定や文字の選定の様式を指すこともあるため、和漢混淆文などにおける文体も jeuɔɒ となる。 ［用例］jeuɔɒ ledcɟʎɪn 読みづらい文体、難解な文体

jeueʃ ［言語］句、フレーズ ［音楽］フレーズ ［レベル］4　1L

jeueμ ［人名］セヴェル ［組み数字］9 / 1 6 ［レベル］4　ɒelʃɔɪ lᵐ:ɪμɑə/ejɪ;e　古 ［文化］ejɪ エスタの第９子。男。

jeɑ ［動詞］yəl を ɪ に渡す、渡す、送る、パスする、差し出す、差しだす、さしだす ［経済］受け渡し、受渡し、引渡し、引き渡し ［経済］［動詞］yəl を ɪ に受け渡す、受け渡す、引き渡す ［サッカー］［バスケ］パスする、パス ［類義語］jɔɑʃ ［反意語］bɔʃ ［レベル］1　μɑ;jɔəə̊ɔ.l　1ʔ: 制 : 古 :jɔəə̊ɔ（与えさせる）　jɔəə̊ɔ, oɪldɔ:jɔəə̊ɔ, oɪldɔ ［用例］jeɑ hɔɪ ɪl ɪn. 塩とって。

jeɑμɔɒ ［普通動名詞］推敲 ［動詞］yəl を推敲する、推敲する ［レベル］4　ʎʎ:je/ɑμɔɒ

jeɑcμ ［名詞］プレゼント、贈答品、贈り物 ［動詞］yəl を ɪ に贈る、贈る、送る ［類義語］lɪnʃ, ɑcʃ ［アクセント］jeɑɛ́μ ［レベル］3　1l<jzɑ;jɔəə̊ɔ,ɑ.l　ʃʔ

jeɒ ［形容詞］単純な ［反意語］lɔn ［レベル］2　古 ［用例］μelcμ jeɒ 単純な解答

jeɒj ［名詞］部活、部活動、サークル、クラブ、同好会 ［レベル］3　1lᵐ: 制 :jeɒɪcɒ ［文化］会社にはないが、学校にはある。部活が始まるのは中学校から。授業後に２時間ほど行う。活動は毎日で、登校ごとに顔を出す。大学のサークル同様、必ず何らかの部活に入らなければならないというような義務はない。また、日本と違って趣味や同好会としての意味合いが強いので、出席は義務でなく、気が向いたときに行く。部員と気が合えば、第二の家のように部室に入り浸るようになる。クラスメートに比べ、同じ趣味を持っていることから惹かれあうことが多く、恋愛発生率が高い。 ［用例］jeɒj ɪnʃej ʃcl ɒec ɑc. ウチのサークルは部員が多い。

jeɒjɪn ［名詞］部員 ［レベル］3　lᵐ:ɒelɔɑɔɪ lceμ

jeɒjez ［名詞］部室 ［レベル］3　1L:ɒelɔɑɔɪ ɪlʃe

jeɒucμɔ ［化学］単純タンパク質　1L:jeμen: 分子の多寡の問題ではないので、uej や je で命名すると語弊がある。jeɒ がよかろう。

jeɒd ［植物］エンドウ、豌豆 ［レベル］4　lɪʎɪ

jeɒl ［名詞］網の目、網目、メッシュ ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :jeelɒelc

jeɒɪ ［生物］古細菌、始原菌（しげんきん）や後生細菌（こうせいさいきん） 1L:jeɒ（比較的単純な形をしている） ［文化］ふつうその存在すら知らない。日本語と違って「～細菌」という名ですらないため、jeɒɪ と聞いてもなんのことだかという反応をする。

jeɒɪɟ ［名詞］書類、書面 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 紙の集まり

jeɒɪcɒ ［植物］紫陽花、アジサイ、あじさい ［名詞］女同士の友人、女友達：女は群れて友達になることが多く、紫陽花のように見えることから。ふたりきりの友達でも可。 ［類義語］hɪʎɪn、ɒcʎɪn ［レベル］3　1l;jeɒɪcɒ,ɒɑ「水の花」 初　ɪnsel:jeɒɪcɒ:lɪ ɪləɪ（赤い紫陽花）lə ɪləɪ（青い紫陽花）:ɒcʎɪn,ɪlʃ ［語法］hɪʎɪn ［文化］アルバザードで最も人気の高い花の一種。初夏に咲く。紫陽花が咲いているときに雨が降れば幸運で、最も美しく映えるとされている。日本と違って梅雨がないので、紫陽花に雨が降るシーンは日本より貴重。　なお、人気が高いので、有毒だと知らずに食べて中毒を起こす人間がアルバザードでは毎年数名いる。

jeɒcʎj ［音楽］合唱、クワイア、コーラス ［レベル］4　ʎ1

jeɒcnɟɪ ［ユマナ］簡体字 ［レベル］5　1L: 簡単な漢字

jeɒcɪn ［歳時記］夏至 ［名詞］１０時 ［組み数字］１０／２４ ［レベル］3　lØ: → ɪnʎcɪn ［語法］ueɑl cμ ［文化］ɪnʎcɪn

jeɒɔ ［名詞］平均、アベレージ、平均値 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :jeelɒɔ（jeel も ɒɔ も中心の意味）

jeɒɔjɪɑ ［気象］平均気温 ［レベル］4　1L:μɔɑɔɪ:ɪμbɪlelʃ ［用例］☆ ɑcj ɪʃ hɪμʃ ɒɪn jɪɑ μɪʎ jeɒɔjɪɑ. 今日は平均気温を超えて暑かった。

jeɒeɒ ［名詞］単純化 ［芸術］デフォルメ ［レベル］3　1L:μɔɑɔɪ:ɪμbɪlelʃ

jeɑ ［動詞］yəl を c から除く、除く、のぞく、取り除く、取る、除去する、取り去る、排除する、排他する、撤去する、追い払う、追っ払う、アンインストールする、機械の設定を解除する、免ずる、免除する ［医療］摘出 ［普通動名詞］除去、アンインストール、排除、排他、撤去、免除 ［シェルト］貼り剥がす、貼り剥がす、剥がす、はがす、外す、はずす、戻す、もどす。テームスからコマを外すこと。 ［反意語］eu ［類音］jeɑɔ。意味も似ているので注意。 ［レベル］1　lɥ;jeɑɔ,ɑ.l/heɒ　赤 :jeɑ,jeɑɔ（消す）　jeɑɔ:jeɑ ［用例］ɪn jeɑɪʃ ɟɪe e ɑɔnʃ. 道路を雪かきした。　jeμen ɪμbɪzɪμɑ @jeμenɪμbɪzɪμɑ　ʃə eʃ beʃʃel ɑəɔ lel el lə "ɟɪɪ, dlɪʃ uɪn ɟɪ ɒɔʎ ɪ" lɔnʃ el jeɑ jen nɪuεμ uɔl lə cɟʃel "jeɑ ɒclc". 「さ～て寝る前に一発オナりますか」って言うとみじめだから、「精子をアンインストールする」って言い換えると心を保てる。

jeɑɪ ［形容詞］［ポジティブ］思考が柔軟な ［反意語］uelɪnʃe　μɑ<jeɑɪ,ɑ.l ɑ;e（新しい）　1ʔ: 制 : 古 :jeɑɪ（新しい）

jeɑɪ,ɑ　ɟɪɒ

jeɑcj ［代詞］［μɑen］お前たち ［レベル］1　lØ

jeɑcn ［代詞］［μɑen］お前たちの ［レベル］1　lØ

jeɑcɪɑ ［芸術］ステンドグラス ［レベル］4　ʎ1:je/ɑcɪɑ。着色したガラスを複数組み合わせて絵にすることから。 ［文化］アルバザードでは ɟɒ に始まり、宮殿に光と色彩を取り入れるために作られた。豪華絢爛な ɟɒ に栄え、戦火の及びにくい宮殿に優先的に設置された。城砦はうかつに光を取り込める設計にしておくと堅牢さが低くなってしまうためである。　遅れて ɟɒ で教会にも取り入れられた。地球と順序が逆なので注意。ɒʃ のころなら地球と同じ順序であったろう。→ lccɪ

jeɑɔ ［動詞］yəl を消す、消す、消去する、消える ［普通動名詞］消去 ［自然動名詞］消失、消滅 ［反意語］jɔɑ ［類音］jeɑ。意味も似ているので注意。　ɑ:elʃ;e　赤 :jeɑ,jeɑɔ（消す）　jeɑɔ:jeɑɔ ［語法］jeɑ と発音区別注意。ただし、消せるし取り除けるものというのは世の中に限られているので大丈夫だとは思う。字は消せるが取り除けない。迷うのはペンキだが、ペンキを消せもペンキを取れも同じ動作を要求しているので、大丈夫だろう。

jeɑɔ,ɑ　jeɑ, jeɑɔ, leeu　elʃ;e

jeɑɔʎ,ɑμɑ　leeu　jeɑɔ/le「消えて行く」

jeɑɔlɔʃ ［電算］デリートキー ［レベル］3　lØ

jeɑej ［形容詞］新品の ［名詞］新品 ［反意語］leɑcj ［レベル］3　μɑ;ɑφn（新しい）<>jeɑɪ　ʃʔ ［語法］新製品は最初は ɟɒ で lccɑ で jeɑej だが、発売からまもなく売られたら ɟɒ で lcɑ でも leɑcj になる。逆に新製品が売れずに残ったら jeɑej でも jcɑ や cɑc になりうる。　jeɑej と lcɑ の違い。lccɑ は新製品が発売されてから日が浅いことを指せる。しかしその期間に売買が複数回行われたら lcɑ であっても jeɑej から leɑcj になる。

jeɑeɒ ［芸術］モザイク ［レベル］4　μɑ;je/ɪɑeɒ　ʃʔ ［文化］モザイク自体は zφ から存在した。技術が華やいだのは特に ɟɒ から。

jeɑeμ ［美容］クレンジングローション　ʎ1

jeφɪlɑ ［天文］銀河団 ［レベル］5　lØ

jed ［名詞］絹 ［レベル］3　1lᵐ: 制 : 古 :jɪɒelc（絹の糸）

jeducμɔ ［化学］フィブロイン　1L

jedl ［経済］サービス ［レベル］3　1ʔ: 制 : 語源不詳 ［語法］無形の商品のこと。無料のおまけという意味はない。

jedluenʃ ［経済］サービス業 ［レベル］4　1L:μɔɑɔɪ:ɪμbɪlelʃ

jedlɪʃe ［経済］サービス店 ［レベル］4　1L:μɔɑɔɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ゲームセンターやマッサージやカラオケや風俗など、代価を払ってサービスを得る場所。日本とそう変わらない。場所によって前払いか後払いか変わる。ゲームセンターは従量制で、やった回数分だけ金がかかる。ゲームマシンにアンセのリーダーがあるので、そこに読み取らせて支払うとゲームができる。マッサージなどの人が会計を応対するサービスでは、前払いか後払いかは店次第。

jedɪn ［料理］お麩、麩、ふ、おふ。ふすまと区別すること。 ［レベル］3　ɟɒ;<jedɪn,ɪlʃ<>dɪn,ɑu ʃʔ　x:jedɪn:lɪ jedɪn:jedɪn,ɪlʃ

jedɪɑ ［化学］ポリエステル ［レベル］5　1L

jedɪlcɑ ［天文］星団 ［レベル］5　ʎ1

jedcɪ ［電算］セピア、スマートフォン、スマホ、スマフォ、アイフォン、アイフォーン、ｉｐｈｏｎｅ、エクスペリア、Ｅｘｐｅｒｉａ ［レベル］3　ʎ1:je/dcɪ。これ一台で電話や計算機など様々なものを携帯できることから。 ［文化］２８５年頃に使われていたスマートフォン。地球でいうアイフォンに当たる。 ［用例］ʃə eʃ led lel el μecɪnɟ uɔʎ ʃ'ɪμʎɪ lɔn jedcɪ lɪ ʃɪnʃ lɔnʃ cn 1lel. 辞書を引き引き外でスマホを使って幻文をツイートするのは難しい。

jedejd ［気象］巻雲、絹雲（けんうん、きぬぐも）、すじ雲、はね雲、しらす雲 ［レベル］3　1L

jebɪʎl ［化学］会合コロイド、ミセルコロイド　1L

jebɔn ［名詞］［言語］カタセシス、ダウンステップ ［形容詞］坂を弾みながら下っていくような ［名詞］下り坂をバウンドしながら落ちていく物や軌道のこと　μɑ;/「弾みまくる」 lᵐ ［語法］坂を転がるサッカーボールのように段々になりながら徐々に下降していくもの。思春期以降の人生などこれに尽きる。人生山あり谷ありなどと日本語では言うが、実際にはその山谷は下り坂の上を走っていて、山があったように見えてもどのみち普通った高い位置から見ればその山ですら低い。人生など思春期以降は下り坂にすぎず、高くなったかのように見えても、しょせん黄金期に比べれば高くはないという真理。 ［成句］lɑcj lcen ɒɪlʃ eʃ jebɔn. 思春期以降の人生は下り坂。

jebeɪj ［化学］ポリアミド　1L

jehɪəɑʎʃ ［交通］玉突き事故 ［レベル］4　ʎʎ

jehɔ ［生物］骨格、スケルトン、骨の集まり、骸骨（ɒelhɪɑcj、あるいは hɪɪɑcj も） ［レベル］3　1ʔ: 制 ［用例］jehɔ ɑcɒ 華奢な骨格

jehɔdɪnʃ ［生物］骨格系　μʃ;/　lᵐ

jehɔcnɒ ［美容］スケルトンブラシ　ʎ1

jeμɔcn ［化学］ポリエチレン ［レベル］5　1L

jerʃ ［名詞］写真 ［動詞］yəl の写真を撮る、撮る、撮影する、撮像する ［普通動名詞］撮影、写真撮影、撮像 ［レベル］2　μʃ;jel.l「日々→日々を撮る」 1ʔ: 制 : 古 ［文化］行楽の娯楽および芸術と認識されている。アンセにカメラとビデオがついているので、素人はアンセを使う。プロや愛好家になると専用のカメラを使うが、フィルムは資源の無駄なので高性能なデジカメを使う。人気がある被写体は美人か自然。よく撮れたものをＨＰで公開したりする。被写体には肖像権があるので、撮影や展示には許可が必要。 ［用例］ɟɪ jerʃ = jerʃ nene 写真を撮る、写す　ɪn cnɪʃ lɪl uɪɑel jerʃ le nɔj ɟɪɪʃ. 撮った写真を早く見たかった。　ɪn jerʃ ʃc cɒ ʃəμ. ɪn cn ʃə ɔʎ ʃc cɒ jcl. ɪn ʎɪɒcl ɪμ ɑeɥɔɒ lɪnɪ ɪn ʃəμ ʃeʃ jcl. 君を撮るのは今。君と見るのは未来。僕は多分、今でなく未来のためにシャッターを切っている。

jerlɔu ［娯楽］プリクラ、プリントクラブ、プリ ［レベル］4 ɟl

jerɟeɲɟ ［名詞］写真部 ［レベル］4 1L:ɲelcɑcı ɪlʃe

jerɒileı ［企業］セルマレア ɟl ［文化］ 富士フィルムに相当する企業。

jerɑɪlɒ ［名詞］写真立て ［レベル］3 ul;/ ɟ ［用例］ ɪn ɟɪɒɪʃ ɑɔɟɒ e jerɑɪlɒ. 写真立ての中見を変えた。

jerllec ［名詞］アルバム、写真集 ［レベル］3 ɟl

jerlɪɲ ［電算］カメラ、デジタルカメラ ［レベル］3 ɲf;/ 1L ［語法］ フィルム式のものは jelɟjerlɪɲ。

jerlıcɑı ［天文］流星群 ［レベル］5 ɟl

jerlɔl ［名詞］被写体 ［レベル］4 1L:ɲcɑcı:ɪɲɒɪleʃʃ

jeɲ ［動詞］ɥel を知る、知る、知っている ［感動詞］ほら、そらみたことか。jeɲɤ の形で使う。 ［レベル］1 ɑ:elf;e 1L: 制 :je ［用例］ ɪn jeɲ eɟʃ ʃccl. 君の名前は知っている。 jeɲ ɔɔ ɟɔl ləɲɪɤ いつバスが来るか知ってる？ ʃɪl ɪn en jeɲ ʃə eʃ ɟɪʃ ɪz ɥɪɒ. ただ、これが良いことなのか悪いことなのかは分からない。

jeɲ(l) ［人名］セレンの略称 ［組み数字］１４/２８ ［レベル］1 制

jeɲʃ ［動詞］ɥel を制定する、制定する ［普通動名詞］制定 ［言語］制定言語アルカ、制アルカ← jeɲ ʃɪɲlı ［レベル］4 1L:jeɲen/lɪɑ

jeɲʃoen ［普通動名詞］ノブレスオブリージュ、ノブレスオブリッジ ［レベル］4 ɲɑ;/「セレンの恵み」 ɟ ［文化］ → ɑcʃɒɪcɥ ɲɑ でセレンが提唱した概念。持つ者は持たざる者に恵みを与えるべきだという考え方で、ɲɑ、旧革命、革命の過去３回アルバザードで熱烈に歓迎された。　セレンは救世主として巨万の富を得ていたにもかかわらず、私財をほとんど投げ打って治世に用い、自身はリディアと慎ましやかな生活を送った。この点で民衆からの尊敬を集めた。　アルバザードは偉大な指導者がいる時代ほどモラルに基づいた治世が行われてきたことから、地球に比べて比較的独裁政権（この場合は哲人政治といってもいいだろう）に対して良いイメージを持っている。むろんアトラスにも悪い独裁政権があるため、実際のところは諸刃の剣と考えられている。　革命時でなくとも、上の人間でモラリストであれば、いつの時代もノブレスオブリージュを実践する者はいた。日本と違って売名売名と叩くことがない国民性で、アルバザード人ーー特にトール人ーーはノブレスオブリージュを行う人間は素直に賞賛し、しない人間は非難するという者が多い。　・リディアがノブレスオブリージュをしない理由　セレンは寄付やボランティアなどノブレスオブリージュを実施する。それは小５の劇団の頃から始まり、２０１２年現在に至る。リディアに会う少し前からしていた。　一方リディアはセレンが寄付するたびにセレンを叱った。例えばアフリカの子供に予防接種を受けさせて生かしたとすると、「その後のその子供の食料は誰が出す。そいつらが成長してネズミみたいに子供を増やしたら誰が面倒を見る」と言って怒った。　リディアはカルディア内ではノブレスオブリージュを修正資本主義などの中で絶賛し、正義としたが、地球では自分は絶対にノブレスオブリージュをしない。１０代のころセレンはなぜかと聞いたことがある。　リディアの母はエストニア人だが純血でなく、父もアジアとヨーロッパの混血児で、リディアには数え切れないほどの血が流れていた。その上エストニアで過ごさずフィンランド、フランス、トルコなど様々な国を転々としていった。　結果、どこの国に行っても外人扱いされ、居場所を見つけられなかった。セレンも日仏韓の血が入っていて子供のころは外人呼ばわりされて迫害されたので、リディアの辛さや悔しさがよく分かった。フィンランドのリディアがいたところはヘルシンキより北部で移民が少なく、からかわれたそうだ。セレンもフィンランドでご当地の子供に指差されて外人呼ばわりされたので、「あぁリディアがされた仕打ちはこれか」と理解したことがある。移民の多いフランスですら純血の白人のほうが暗黙の了解で上で、日本だともてはやされるハーフちゃんもあっちではただの雑種でしかなかった。　セレンは白人の混血児なので白人コンプレックスの強い日本では若いころモテたが、リディアは雑種扱いを受け続けて、ただでさえ引っ込み思案な性格が強調され、日本でいう中卒が最終学歴となった。　リディアは自分を拒絶した世界を恨み、自分がいていい世界を望み、その希望と空想と怨嗟がカルディアを産むまでに至った。セレンもまたリディアを理解し、リディアはセレンを最大の理解者として依存し、恋愛に至った。　世界から拒絶されたリディアは世界を恨み、誰がこの世界の人間など助けるものかと考えた。だから彼女は理想郷カルディアの人間は助けても、地球の人間は助ける気がないのだ。それを聞いた１０代のセレンは納得し、その後時折同じ質問を２０代で繰り返し、同じ答えを受け、そのたびごとにリディアの気持ちを理解していった。　リディアは矛盾した行動をしているわけではない。彼女は「世界から拒絶された人間は世界を拒絶していい」と述べ、地球は助けずカルディアは助けた。　セレンらは紫亞がお嬢様であることを鼻にかけないようウチは貧乏だと騙してきたが、２０１２年になると５歳の紫亞は自分の家が裕福であることにいい加減気付いた。リディアが隠すのが苦手な性格で、言葉の端々から自分の家が裕福であることに気付けたからだ。　セレンらは紫亞に修正資本主義などの正義を植え付けていたが、紫亞はセレンに「じゃあお父様とお母さんはノブレスオブリージュをしているの？」と聞かれ、返答に困った。結局１週間ほどかけてゆっくりとセレンがノブレスオブリージュをしていること、リディアは上記の理由でしないことなどを説明していった。リディアは矛盾しているわけでないということを一生懸命説明した。紫亞はどうやら理解してくれたようだ。

jeɲʃɪɲlı ［言語］制アルカ、制定言語アルカ ［レベル］4 1L:ɲcɑcı:ɪɲɒɪleʃʃ

jeɲʃcɑ ［形容詞］清貧な ［名詞］清貧 ［レベル］4 ɲɑ;/「セレンのようにつつましやかな」 ɟ ［語法］ 金はあるが普段無駄遣いはせず、研究関連などここぞというときに大枚を叩くタイプの清貧。

jeɲʃcı ［アイテム］セルティア ［レベル］4 ɲcɑcı: 古 :「 沈黙を愛する 」 ［文化］ ヴァストリアの１つ。クミールのもつ大鎌。カルザスは悪魔フレスティアを倒したときにフレスティアを剣で刺した。しかしフレスティアの霊力に負けた剣は耐え切れずに湾曲してしまう。それでも何とかフレスティアを倒したその剣はカルザスの家宝として大切にされた。ただ、剣はもう曲がってしまっているのでカルザスはそれを大鎌として扱い、セルティアと名付けた。セルティアは ɲɑ になるとクミールの手に渡る。セルティアはヴァルマと並ぶクミールの武器で、彼女は両者を同時に振るう。

jeɲl ［医療］カタルシス ［レベル］5 1ʔ: 制 : 古 :Λ:ɔuc:jeɲenʎəɪl

jeɲllcʃ ［動詞］照れ隠しして ɥel を悪く評価する ［普通動名詞］照れ隠し、てれかくし ［レベル］4 1L:llccz:jeɲen/llcʃ

jeɲllɔɟ ［普通動名詞］針小棒大 ［レベル］4 ɟl:jeɲen/llɔɟ

jeɲlɔlɒ ［政治］［哲学］司民制、しみんせい ［レベル］4 ls:jeɲen;jeɲen/lɔlɒ。司とは民のルシーラであるセレンで、民とは国民のこと。セレンが革命で副王や王族を廃止せずに権力の座に就いたので、ɑıcz（王）や ɪɟɟeɲ（副王）に代わる ɲɟccll（司）の字を用いた。 lll ［文化］ → leɟʃcɒccɥ, jeɲlɪn, beɲcl 政治思想のひとつ。ls でセレンが提唱し実施した政治制度。直接民主制と独裁制を合わせたハイブリッドな政治思想・制度のこと。直接民主制の持つ「民意を直接反映できる」「一人による独裁を防ぐことができる」というメリットと、独裁制の持つ「衆愚政治を防ぐことができる」「有事の際に迅速な判断が下せる」「意見がバラバラになりすぎてまとまらないときに話をまとめることができる」というメリットを組み合わせたシステムである。　ls では人工知能ミール・レスティミールの補助で実現しているが、ミールに当たる人工知能さえあればレスティミールの部分はこれまでどおり人間にやらせても機能するとセレンは考えていた。実際、革命後のアルバザードでは何かのトラブルが生じてレスティミールが機能しなくなった場合はアンミールに国を動かさせるようにしているので、レスティミールがなくとも司民制は実現可能である。　セレンは司民制を最も優れた政治制度と評した。　司民制とは日常で例えて言えば、家族一人ひとりの意見を家長が聞いて、それを基に時折自分の独裁を交えるというような家庭の国家版のようなものである。ふだんは家族の多数決で決めるが、いざというときは家長がある程度独裁を振るうというやり方で、一般家庭に見られる制度である。　一般家庭ではたいていどの家庭でもこのように多数決と家のトップの独裁とが混ざり合っている。示し合わせたわけでもないのにどの家庭でもたいていこのシステムを取るということは、人間集団が物事を決めようとしていくと自然と行き着くシステムがこのやり方なのだろう。ただ何億人という人口がいる国単位で同じ事をやろうとすると意見がバラバラになりすぎる以前に数が多すぎて集計が追いつかずに実施できない。だがそれを可能にしてしまうミールというシステムさえあれば、司民制は実現可能なのである。　司民制における国家元首は国王であるが、これは象徴であり、最高権力者は司月（しづく）ɟɟccll と呼ばれる。正確には ɟɟccll ʃ'ɪɒɪzɪɲɑ だが、通常 ɟɟccll と呼ばれる。セレンは転生しても結局ルシーラになるという、生粋のルシーラなのだろう。王にはならず、副王にもならず、やはりまた彼はルシーラの道を選んだのである。　・司民制と衆愚政治　司民制は独裁制と直接民主制のハイブリッドであるため、直接民主制の要素を持つ。直接民主制は地球では１８世紀まで旺盛で、しばしば衆愚政治になる恐れを指摘されてきた。　直接民主制の問題点はいくつかある。マイノリティの意見が反映されないこと。皆の意見を集めると意見が多すぎて収集がつかないこと。衆愚政治に陥ることなどである。また現役世代は引退世代より忙しく時間がないため政治に参加する時間がなく、シルバーマジョリティが間接民主制より更に強くなってしまうのも少子高齢化社会では問題である。　これらについて司民制はどう対応しているか。　まず人工知能ミールはマイノリティの意見を強調し、マジョリティの意見を低める機能があり、マイノリティの意見を殺さないような機能が付加されている。そのため、司民制においては完全に一人が一票を持っているわけでないと言える。自分が投じた政策や法案に応じて自分の一票が１を切ることもあれば１を上回ることもあるというわけである。シルバーマジョリティの問題についても同様の処理で、あまりひとつの世代の意見が強すぎるとその民意は抑えられるようにできているので、この問題もクリアできる。　次に、ミールはインターネットを使いコンピュータで意見の収集・処理を行うため、アルバザード人全員が投票をしても処理が可能であり、収集がつかなくなることはない。これは地球でも十分再現しうるレベルである。　最後に衆愚政治であるが、これは国民一人ひとりの民度を底上げすることが重要であり、これについては beɲcl の項を読めばいかに革命が民度を重要視しているか分かる。アルバザードは衆愚をできるだけ作らせない。そして衆愚枠と判定された者の意見はミールによって一票が与えられず、小数点の意見に抑えられる。このため、衆愚政治に陥るリスクも低く抑えられている。

jeɲləɔ ［医療］汚言症、チック症、トゥーレット症候群 ［レベル］5 1Λ:ɲcɑcı:ləɔ e jeɲen

jeɲɟ ［動詞］ɥel してあげる ［レベル］2 古 :ɔ ɥən jeɲen ɔ ɑccnı ɒel ［語法］ →ɟɔlɟ 使役動詞。jeɲɟ は使役者が被使役者に行為をしてやり、被使役者は大人しくしているという意味を持つ。 ［用例］ lıɪl jeɲɟɪʃ nɔc ɟɪb lcɟen. 母親が息子に靴下を履かせていた：母親が実際には履かせている。子供はなかば傍観。

jeɲɟıdcı ［医療］被害妄想 ［類義語］uıʃcnɟıdcı ［レベル］4 ɲɑ;/jeɲen/ɟıdcı ɟl

jeɲn ［動詞］ɥel を発想する、発想する、思い付く、思いつく、創造する ［名詞］発想、アイディア、創造力、発想力 ［形容詞］(jeɲnɪn で）創造するような、クリエイティブな ［レベル］3 lll: 制 : 古 :jeɲlɔ ［成句］ jeɲn ɪlen lɔnɑ 夢の中の知恵：下界の後知恵。寝てから思いついても遅いことをからかっている。 jeɲn c jeʃı 温故知新

jeɲnı ［名詞］感性、センス ［類義語］ını ［レベル］3 ɲɑ;/「セレンの心」 ɟ x:x:lə jeɲnı:jeɩənı ［語法］［文化］ ɲɑ まで「感性」に当たる概念はなかった。ɲɑ のセレンは少年期こそ英雄気取りで万人を救っていたが、思春期になると人間は等しく救われるべき生き物なのかという悩みに直面した。セレンはアルシェやアシェットのルシーラとして人々を魔族などの外敵から救う義務があった。しかし人間の汚い部分を見て育ったセレンは、人間は全て等しく救われるべきかと悩んだ。悪人やクズは死なせても構わないどころかむしろそのほうが良いのではないかと悩んだ。その結果、善人を優先して守るようになったが、誰が善人で誰が悪人か戦場ではとっさに判断できないことに悩んだ。　セレンは少年期は人を守れず死なせてしまったら罪悪感を覚えていたが、思春期にこの考えになって以来、守れなかったのが悪人であれば別に構わないと思うようになり、博愛の英雄という精神を捨てた。　やがて青年期になると、今度はさらに世界が狭くなった。彼は自分の愛する人間や周囲の人間さえ守れれば、後は守れても守れなくても結果オーライだと考えるようになっていった。これは大人になる過程で助けられなかった人の遺族に責められたり、無茶な要求を民衆からされたり、無知で無責任な愚民どもを数多く見てきたためである。セレンは民衆の多くは下らない生き物だとみなし、本当に体を張ってまで助ける価値があるのかと考えだした。　セレンはこのことを何度もリディアと話し合った。セレンと同じく生真面目なリディアもセレンに呼応し、同じような思想を持っていることを打ち明け、二人の仲はより強固になっていった。彼らが出した結論は、「個人的には愚民は守りたくないが、民衆を守ることで自分たちの暮らしが保証されている以上、これが自分たちの仕事で使命なのだから、嫌でも守らねばならないだろう。ただし悪人であれば見捨てたほうが世のためではないか」というものだった。　一方、糞真面目に考えるセレンやリディアを斜に構えて皮肉げに見るメルにセレンは苛立ちを覚えており、それがセレンがメルを愛人止まりにしていた理由のひとつとされる。　メルは幼少期は不幸な生い立ちにもかかわらずひたむきな少女で献身的に人助けをしたが、７歳頃から性格が歪みだし、思春期までは人嫌いで、積極的に民衆を助けようとせず、愛するセレンの助力を戦場でしようとしかしなかった。ルシアたちの誕生後は性格が丸くなったが、怠惰でシニカルな部分が強調され、「民衆なんて放っておいて助かるなら助かる、死ぬなら死ぬでいい。興味がない」と悩みもせずに言った。　セレンとリディアは「民衆が下劣であるなら助けなくてもやむをえない。悪ならむしろ戦禍に巻き込んだほうが正義だ」と主張した。そして「メルの考えには正義感がない」と主張した。これに対してメルは「正義感なんてないほうがいいと思ってる」と主張し、セレンに「お前の考え方は幼稚で苦労知らずだ」と言われた。メルはこの主張を皮肉げに嗤い、この態度にセレンらは立腹し、メルは孤立した。セレンに気に入られたいメルはこのときの自分の態度を失策だったと後に嘆いた。　２５～３０歳ごろになるとセレンはアルカの広まりとは反比例して、リディアらとの狭い世界に閉じこもるのが好きになっていった。セレンはこの頃辞書やアルカを使ったコンテンツの執筆に忙しく、学問と芸術を両立させていた。　セレンは自分の作品の芸術性を人に認めてもらいたがっていた。アルカが広まることよりも自身の作品の芸術性を認められること、自分の心の機微を評価されることに価値を置いていた。セレンに気に入られたいメルは「自分はこういう作品の良さがよく分からないが、こういう作品を書ける心の綺麗な人は好きになれる」と言い、譲歩を示した。一方リディアはセレンの芸術性に共感できるタイプの人間だったため、心の底からセレンの作品の芸術性を褒め、セレンの心が繊細で綺麗で感受性が強く心の機微が分かる人だと言って賞賛した。このことがセレンをよりリディアに強く惹きつけることとなった。　このときわずか ʃcnı だった娘のルシアはセレンに似て繊細で感受性が高く、また知性については異常なほどに高かった。ルシアは父の芸術性を受け入れ、賞賛した。これによりルシアはセレンの寵児となるも、ユルトは芸術性を解すほどの知性がなく、娘ほど父親に愛されなかった。　セレンは自分の作品の芸術性を理解できる人間は心の機微が分かる人間で、彼らには生きる価値があると考えるようになっていった。逆にそういったものを解さない人間には生きる価値がないと考えるようになっていった。なので本音を言えば心ない人間とは付き合いたくなかったし守りもしたくなかったが、救世主として彼らを放置するわけにはいかないという難しい立場にいた。なお、セレンは心の機微が分からずとも何かしらの使命を持って生きている人間は尊重していたため、芸術性とは無関係に使命を持って生きる人間のことは尊重していた。　３１歳になると彼は心の機微の分かる人間とそうでない人間の間は何が違うのだろうと考え、後者には何かが欠けているのだと考えるようになった。そしてそれに「自分の心のようなもの」という意味を込めて感性 (jeɲnı) という名を与えた。セレンは自分の作品の芸術性を至高の価値観と捉えていたが、その一方で自分は解せないが他人には解せる価値観があることにも気付いていていた。そのため人には人それぞれの感性があるのではないかと考えた。だがその一方でなんら感性を持たない無機質な人間がいることも知り、これらの人間を心がないと言って見下した。　こうして感性という概念がカルディアに生まれた。jeɲnı はある作品の芸術性を解することができる能力を主に意味する。　ul のミロクや ls のセレンも感受性の強い芸術家肌の人間で、感性の有無や共感を気にした。ミロクやセレンは感性のない人間を見下したし、自分と同じ感性の人間を特に重用した。　彼ら偉大な革命家の影響を受け、アルバザードの民衆も感性のある人間のほうが上等な人間だと思うようになっていった。しかしセレンはそんな民衆の成長を見ながら、民衆というものは既に出来上がった作品や力にしか頭を垂れないと知り、つくづく愚かな生き物だとかえって心の底では見下すようになっていった。結果セレンは自分が力を持っていない時代から自分の感性を受け入れてくれた人間しか信用しないようになっていった。　・セレンの外人嫌いと英語嫌い　現実のセレンは外人が嫌いで、特にアメリカ人と中国人を嫌う。アジア人はおしなべて中立だが白人は嫌いで、黒人は正直そもそも人類でなくゴリラなどの動物に近いと思っている。黒人差別は単にアシェットに黒人がいなかったことが理由だろう。白人や黒人が嫌いな理由は下記の通りだが、ついでに言えば無条件で自分たちよりガタイが良いのが多くて喧嘩が強いのがムカつくという理由も強い。白人も黒人もデカくて動物的で男はウザいし女は女に見えない。特に黒人に至っては男女の区別は猫より難しい。あとセレンの生きていた時代が白人マンセー主義の時代で、それに対する反骨精神というのもあったと思う。
欧米ではアメリカ人、アジアでは中国人を嫌う。どちらも力を振りかざす強国で、権威を見ると反骨精神が湧くセレンにとっては無条件で敵愾心を抱く対象だった。　また言語では英語と中国語を履修したにもかかわらず、この２ヶ国語を最も嫌う。英語と中国語はセレンにとって蛮族語で、動物の鳴き声程度にしか思っていない。　この理由をセレンは内省した。理由は２つあった。１つは英中が力を振りかざすことに対する反骨精神。もうひとつは英中語が位相表現の少ない言語であること。　セレンは至高の芸術言語であるアルカをゼロから構築しただけあって、言語に芸術性を求める傾向にあった。日韓は位相表現が細かく、言葉だけで細かいキャラ性を演じ分けられたり、細かい心の機微を表現できる。ところが英中などにはそれがない。つまり英中に翻訳した時点でアルカの長所やエッセンスである豊かな位相表現が死んでしまう。ということは英中で紹介した時点で相手はアルカの良さを理解でき

ない。言い換えればセレンの感性を理解できない。だからだ。だからセレンは英中を始め外人が嫌いなのだ。アシェットの人間は好きでも韓国など一部の国を除いて外人が嫌いなのは、自分の感性が言語レベルで理解されないと分かっているからだ。アシェットはそもそもアルカを用いるので感性が通じる。だから仲間のことは好きになれる。だが他の外人どもは違う。日本語やアルカが分かればまだしも、そうでない外人は好きになれない。はじめから相手に自分の感性を拒絶されている状態がスタートラインだからだ。だからセレンは外人や外国が基本的に嫌いで、特に米中が嫌いなのだ。　つまりセレンは勝手に外人に対して自分の感性や価値観を拒絶され攻撃されたと思って被害妄想を抱いているわけで、自己中なことに復讐どころか予讐をしているわけだ。それがセレンのキセノフォビアの正体で、あれは自分の感性が受け入れられないことへの憤りや怒りであって、外人のことがどうこうとは思っていないわけだ。そう、実際セレンは感性さえ理解されれば、相手の言語も国籍も民族も肌の色も宗教も文化の違いも気にしない。領土問題などにも関心がないし、侵略の歴史にも興味がない。もしこれを読んでいるあなたが外人だとしても、これを読んでいるということはアルカに興味を持ったわけだから、その時点であなたは私の敵ではない。セレンにとっては自分の感性を理解する外人であれば無条件で味方で、そうでなければ敵というだけで、それは日本人に対しても同様だ。ただ日本語を操る日本人たちは比較的アルカの良さが分かる環境にあるので頻度的に外人に比べて味方が多いというだけだ。これといって外人が嫌いで日本人が好きというわけではなく、単に自分の感性が理解されやすいか否かで大雑把に外人嫌いと述べているにすぎない。なので感性さえ理解されれば外人でも普通に好きになるし、逆に心の機微が分からない日本人は嫌いになる。そういうわけで、確率的なことを言えば親日派な外人は自分の作品を理解する確率が高いので比較的嫌でない。　現実のセレンは自分の感性が心の綺麗なものだと考えており、面白いものや笑えるものや熱くなれるものや楽しいといったたぐいのものではないと考えている。心が綺麗だとか繊細だとか感受性が強いと言われることを最も好む。その価値観を共有できる人間と、あとは何かしらの使命を持って生きる人間にだけ、セレンは生きる価値があると思っており、そうでない人間はどうでもいいと思っており、逆にこちらの価値観を否定してくる人間はむしろ心ない人間で忌むべき存在だと思っている。セレンは他人に対してはこの３パターンの感情しか持ち合わせていない。つまり味方か無関係か敵かだ。そして味方なはずの人間が味方らしからぬ性質を持っていることに人生中何度か苦しめられてきた。　セレンはしばしば偽悪的だが、感性を理解されない孤独感から自分の感性を攻撃されたという被害妄想を抱くと、世間に対する恨みを発露するために周囲の人間に対して閉鎖的で冷たくなる。そんなときは自分の感性を認めてくれる人間――例えばリディアのような人間――しか人間扱いしなくなる。

jeɲɪɪlʃ ［名詞］創意工夫 ［レベル］4　ʃ̍

jeɲɪɪze ［名詞］［ポジティブ］正義の怒り、義憤、私憤、セルナーゼ ［レベル］4　ɲɑ;/「セレンの怒り」　ʃ̍ ［語法］［文化］ アルバザード人が考える美徳のひとつ。唯一怒りという負の感情の中で好意的に捉えられるもの。　ɲɑ の時代にできた美徳で、セレンとリディア、特にセレンが義憤に富んだ人間であったことから生まれた言葉。セレンは子供のころから自分とは関係のない理不尽なことに対して非常に攻撃的な態度を取っていた。　セレンは一部の層の女性から献身的にモテるタイプの男性で、女性遍歴も多く、モテるかモテないかで言えばモテる側の人間であった。広く浅くモテず、深く狭くモテるタイプといったところか。ただ、見た目が良かったこともあり、若い頃は特に大勢の少女からキャーキャーと騒がれることがたびたびあった。ではなぜ広く浅くモテなかったのかというと、性格に難があって付き合いづらかったためである。　モテるかモテないかでいえばモテる側なわけだから、どちらかといえば女に好意的なはずだが、セレンはブサイクや運動音痴や勉強のできないダメな男子を馬鹿にする女をひどく嫌悪して攻撃してきた。自分はその３点に関して真逆であったにもかかわらず、自分に一切害がないどころかむしろ自分は逆の待遇を受けていたにもかかわらず、そういった女子に強大な義憤を抱いていた。そしてそういった男を値踏みするような差別をしない優しい少女リディアに好意を抱いた。　また、青年期になると自分たちは救世主やフロンティアとして崇められ、人々から厚遇を受けることとなった。にもかかわらずセレンは格差社会に不満を抱き、底辺で生きる人間や虐げられる人間がいること、また、権威を振りかざし高給を貪る貴族どもがはびこっていることに強烈な怒りを覚えた。　このように、セレンは自分の境遇とは全く関係ないにもかかわらず、自分の正義感に忠実で、悪だとみなしたものには徹底的に敵対心をあらわにした。「持つものであるにもかかわらず、持つものを忌み、持たざるものを憂う」という彼の性格が当時のアトラスの人々の心を打ち、救世主の地位を不動のものにした。　しかしセレン自身は自分が義憤を抱いて気疲れすることを厭っていた。もう少し楽に生きられればなと考えて悩むこともあった。だが強い正義感から生じる義憤は抑えることができなかった。　セレンの特徴は自分に関係あることとないこと、これら両方に対し、同じ程度に悪であれば同じ程度に怒りを覚えることができる点であった。民衆はセレンのこの性格を尊敬し、セレンは自分のこの種の怒りに jeɲɪɪze という語を与えた。　なお、義憤は女性より男性が持つべき感情とされ、アルバザードでは義憤を持ち合わせる男性はしばしばモテる。女性であまり義憤が強いと女子としての愛嬌は薄く可愛げがないとみられることがある。むしろ女性は義憤に溢れる男性に惚れ、その彼を支えるような者が好ましいと考えれている。　・現実では　上の話は現実のセレンの性格をそのまま反映したものである。セレンは義憤を抱く人間を本当に正義感の強い人間だと考えた。自分に関係あることしか怒れないのはただのクズ。自分の利益にならないことでも正義感に照らし合わせて怒ることができて初めて義憤と言える。　自分に火の粉が降りかかったときだけ怒り出すとかマジ小者。それならまだ常に怒りを見せないほうがいっそ潔い。自分にとって不利なときだけ怒るとか醜すぎる。価値としては、義憤を持つ人間が一番上等。人の為に怒ったり泣いたりできる人間が一番上等。次に、一切怒らない代わりに正義感も持ち合わせない人間がまずまず。そして自分に関係あることにだけ怒る者はゲスだ。　セレンやリディアはこの考え方で生きてきた。セレンの正義感の強さはアシェットでも有名だが、同時にセレンは祖母譲りの偽悪的な要素も強く持っていたため、アシェットでさえ彼を深く理解する者は少なく、彼の真の理解者ははぼリディアしかいなかった。なお、リディアやメルはセレンのそういう部分に強く惹かれ、特にその要素が強かった上福時代を最高にカッコいいと感じていたそうだ。　セレンの経験では、日本人には義憤を抱く人間が少ない気がする。特に最近の若い世代ほど、あるいは精神が幼いほどその傾向にある。　今までに酷い手のひら返しを幾度となく見てきた。例えば他人が病気のときには「別にこれくらい大丈夫でしょ」と平然な顔をしているくせに、自分の場合は風邪程度で大騒ぎするとか。ほかに、前にこんなこともあった。セレンが児童虐待で子供を殺した母親の手口が酷く、それにより憤っていたところ、「そんなことよくあるし、いちいち怒っても仕方ない」と言い放った男がいた。自分には子供もおらず、一切関係ない話だからだろう。その証拠に、自分に関係ある話――あるとき漢方が保険の対象外になりかけたとき――などには、自分が漢方を重用しているものだから途端に大騒ぎして政府批判をしだし、周りに署名運動まで求めていた。セレンはこの手のひら返しを見て彼には義憤がないと大いに呆れた。普段から彼が自分に関係ないことでもきちんと悪いものは悪いと怒りをあらわにしていたら彼には正義があると思えたのだが、まったくそう思えないほどの手のひら返しだった。しかも彼が社会的には高い立場にいて民衆を支配する側にいるという事実が更にセレンを苛立たせた。　そんなことがよくあり、セレンは上に立つ人間ほど人徳を備えていなければならないと改めて強く思い、リディアと話し合った。アルバザードで上の学校に入るには人徳も兼ね揃えてなければならないという設定はこの経験から来ている。徳育の施されていないお勉強ばかりできる秀才君が支配者層としてはびこる国は早晩滅ぶ。セレンは常々リディアとそのように話し、アルバザードを正しい方向に導こうとしている。　・正義がぶつかるとき　セレンは強く信念を抱いていたが、同時に他人には他人の正義があるということも理解していた。ɲɑ ではアシェットやヴァールといった幼馴染と喧々諤々の議論を繰り返してきた過程で、自分の思う以外の正義があることも知った。　だからセレンは正義が正義とぶつかったときは、相手には相手の正義があると尊重することにしている。リディアは自分の正義を絶対の正義として押し付けるきらいがあるのでどうにもアシェットからすら嫌われる部分があるのだが、セレンは正義と正義がぶつかった場合は「お前はお前の信じた道をゆけ。俺は俺の信じた道をゆく。それでいいだろう」と言うので、基本的に衝突しない。むしろ自分とは違う考えであろうと、きちんと自分なりの正義を持っている人間のことは心の底で軽く尊敬すしている節がある。敵ながらあっぱれといった感覚であろうか。　むしろセレンが許せないのは正義感のないふにゃふにゃした野郎だ。まして正義感もないくせに無駄に正義感のある人間に反抗するような頑固な態度を見せると、「ロクに普段物事も考えてないくせに生意気な」と思う。自分の確固たる正義も持ち合わせていないくせに生意気に他人の正義にだけはケチを付けるような小者は男気がないと考えている。そういう輩には苦労をさせて人生経験を積ませるべきだと思うのだが、えてして現代日本では苦労知らずに育った人間はそのまま楽なレールの上を歩けることが多いので、きっとこいつは成長しないんだろうなぁと思って残念に思う。　面白いことに、この手の軟弱男はほぼ必ず女にモテない。それはアルバザードだけでなく日本でもだ。すべての女がそうというわけではないが、おしなべて女というのはどうも無機質な理系気質のオタクより、やや血の気の荒い熱血漢のほうに付いていく習性が本能的にあるようだ。

jeɲuɪn ［言語］カリグラフィー、書道 ［レベル］4　ɲ0:jeeɲ/luɪn（静かな瞑想）［文化］ ɲɑ で セレンが興した。

jeɲueɲɪnʃ ［医療］自己愛性パーソナリティ障害、自己愛性人格障害、誇大癖 ［類音］jecueɲɪnʃ ［レベル］5　ul;jeɲen/ueɲɪnʃ　ʃ̍:pel ［文化］ ʃ̍ までセレンは自分がこれの診断基準にすべて当てはまると思っていた。００年代には実際にいくつかの診断基準が当てはまったようにも思う。　ɲ̍ にリディアとメルがセレンの心は「コア、内壁、外壁」の３層からなると言った。コアは白で、内壁は偽悪的で黒で自己愛があり、外壁はまた逆に白になると述べた。内壁を知っているのは仲間や元妻や友人などで、コアを知っているのはリディアとメルしかいないと述べた。　リディアは日本人的謙遜で自分を何らかの障害と称したのではないかと言い、メルは厨二病的に病気な俺かっこいいと思ったのではないかと言った。　セレンのコアには自己愛がないと言われ、自己診断を細かく行った。今までは大雑把に診断基準にチェックを入れていたが、まじめに考えてちゃんと基準を見ると、診断基準にしっかり当てはまっているものはひとつもないことが分かった。　これにより、現実にはセレンは自己愛性人格障害ではないことが分かった。ただし内壁のみを見るとそのようにも見えることから、自己愛的にわざと振る舞うことはあるようだということが分かった。　むしろセレンはどちらかというと自己愛からは遠く、アルカ愛が激しい。もし自己愛なら自己が一番大事なわけだが、セレンのヒエラルキーでは最も優先されるものはアルカである。というのも、自分という存在は「アルカをやる最も使える道具」という認識だからである。自分はアルカに奉仕をする最も使える道具でしかなく、人間の価値を測るときも「いかにアルカに貢献するか」でしか測らない。自分はアルカに貢献しているから生きてていい存在だという認識をしており、他人に対してもアルカに使えれば生きていて良いとしか思っていない。そこには自己も他者もない。自己も他者も同等で、どちらもアルカの神から見たら駒のひとつでしかない。そこに自我が挟まる余地がないのだ。自分は自我のない駒のひとつでしかなく、ただアルカをやらせるのに最も好都合な道具なので重宝しているというだけでしかないのだ。　このような人間が、このような――自分の自我すら認めず駒扱いして自己の幸福を度外視するような人間が――はたして自己愛と呼べるだろうか。言えないどころか、むしろ自己愛とは程遠い。むしろアルカ愛であり、自己は逆に犠牲にされている。自己は少しも大切にされず、愛されていない。　セレンはいかに自分が自分を思った以上に大切にしていないかを知り、アルカへの一方的な奉仕人形であるかを知った。これにより自分が自己愛性人格障害でないことを悟ったとともに、強いて言えばアルカ愛性人格障害ともいうべきものだということを理解した。これは中世の神学者の神への愛などに近いのではないか。あるいは近代科学者や研究者の自己の研究に注ぐ心血に近いのではないだろうか。そう考えるとセレンは根っからの研究者なのである。

jeɲuel ［形容詞］偽悪的な ［名詞］偽悪 ［レベル］4　ɲɑ;jeɲen/uelnɪɲ「セレンのような悪」　ʃ̍ ［語法］［文化］ → jeɲɪ　口では普段悪党のようなことを言っているが、有事の際にはついつい人助けをしてしまう甘い人間のことで、絵に描いたようにセレンにドストライクで当てはまる人間のこと。セレンは子供の頃からこのタイプで、この性格のせいでだいぶ損をしてきた。セレンは悪だと思われることも善だと思われることも面白がって好むが、自分が偽悪的な人間であることを見抜かれると相手を畏怖するとともに好意を抱く。今までセレンが悪でなく偽悪だと見抜いたのは母親とリディアとリーザとメルと学生時代の嫁だけであり、不思議と全員女性である。

jeɲɑ ［普通動名詞］プロデュース ［レベル］5　ɲɑ;jeɲ/ɑɪj。セレンが得意とした業務であったことから。ɑcɪɑ と語源的には一緒。　ɲ̍

jeɲɑɲen ［名詞］金は汚い、お金は汚いもの、嫌拝金主義、嫌儲け主義、嫌儲、けんちょ、けんもう、いやもう、いやちょ、いやもうけ ［形容詞］嫌儲な　ɲɑ;jeɲ/ɑɲenlen「セレンのように清貧な」　ʃ̍ ［語法］［文化］ 日本語の嫌儲より意味が広く、お金は汚いものと考える思想のこと。儲けることを悪と考え、運営や生活に最低限必要な程度に利益を出すことに正義と善を見出す態度のこと。収支ゼロどころか身銭を切ってマイナスになる啓蒙活動などはさらに高尚・善行とみなされる。ɲɑ や ls のセレンがこのタイプの人間であったことから徳としてアルバザードに広まった。一般に、善なるアルバザード人ほど拝金主義を嫌う。　・現実では　子供のころからセレンは親に「金は汚い」「武士は食わねど高楊枝」と仕込まれてきた。思春期になって金持ちを見ていて、納得がいった。　例えばセレンは巨万の富があれば孤児院を建てて食えない者を助けたり、売れない学者や芸術家を保護したいと子供のころから考えてきたが、そういう考えを持った人間にほど金というのは集まらないものである。六本木の億ションを平然と買って持たざる者を搾取するような汚い人間のほうが金に愛されるという現実をこの目で見てきた。　そういう金持ちを見てきたセレンは、金持ちは汚いと思うようになった。金は汚いという考え方が既にあったので、「あ、そうか。これは類は友を呼ぶなんだ」と理解した。つまり金は汚いから、汚い人間のところに集まる。だから自分のように人助けをしたいと思っているような人間のところにこそ優先的にやってこないのだなぁと理解した。　そのままセレンは大人になり、父と同じように自分も娘に同じ考えを植えつけた。娘は従順に洗脳され、５歳の段階で既に金は汚いという考えを持つようになった。実際娘は物を欲しがらず、飽食をせず、清貧を尊ぶ。そしてその自分を５歳にして既に誇り、自尊心を持っているようで、父親としては娘が誇らしい限りである。 ［成句］ jeɲɑɲenen nɔl jeɲɑ ɲenen ɪ nɔj. 類は友を呼ぶ。dɪɪlɪn nɔl dɪɪlɪn ɪ nɔj と同じ。

jeɲɑɪj ［名詞］八面六臂 ［レベル］5　ʃ̍:「セレンの仕事ぶり」

jeɲɑɪn ［名詞］プロデューサー、P ［レベル］5　ɲɑ;/　ɲ̍ ɪlcj, ɲɪ jeɑɪn や ɪlcj ɑel jeɲɑɪn や je ɲɑɪn ɪlcj のいずれかで使う。

jeɲɑɪl ［普通動名詞］啓蒙 ［動詞］ɥel を啓蒙する、啓蒙する ［レベル］4　ɲɑ;jeɲen/dɪ/ɪl「セレンの光の物→セレンが光を照らすように」　ʃ̍

jeɲɑc ［名詞］セルフィ ［レベル］4　古 :jeɲen:jeɲen/ɑccɒɪ（長い間）［語法］ 実体を持たない存在。空想上の人物だが、自分の頭の中では確実に存在しているもの。存在は実感できるのに実体だけを持たず、触ったり抱いたりすることが適わない。ピグマリオンのように偶像化させることはできるが、偶像でしかなく実体はない。

jeɲɒ ［医療］ストレス、プレッシャー ［レベル］4　古 :jeɲɒɪcn ［用例］ jeſ jeɲɒ ストレスを解消する　ɪn nɪſ jeɲɒ ſcn ɔnen lɪb cɒ ɑcj. 今日は仕事のプレッシャーが多い日だった。

jeɲɑcɪ ［名詞］相思相愛 ［レベル］4　ʃ̍:jeɲen/ɲcɑcɪ

jeɲɸ ［経済］投資 ［動詞］ɥel を ɪ に投資する、投資する、出資する、投機する、融資する ［レベル］4　ʔ: 制 : 古 :jeɲenɸcl ［語法］ 細分化すると投資の ɒcʃjeɲɸ と投機の zɪnjeɲɸ に分かれる。投資は長期的にすることが多く、企業に肩入れする形で行うことが多い。対して投機は株の上下を利用して利鞘を得ようとする行為で、短期的なことが多く、ギャンブル性も強い。そこでおっとりとしたミルフとギャンブル好きのザナに分けているが、くしくも彼らが夫婦であることが造語的に面白い。

jeɲɸɑɪj ［経済］儲け話、もうけ話、もうけばなし、投資案 ［レベル］5　ɲɑ;/　ʃ̍

jeɲɸɪn ［経済］投資家 ［レベル］4　ʃL

jeɲd ［被服］デニム ［レベル］4　ʔ: 制 :ɲcɑcɪ: 古 :jeɲdɪn

jeɲdɪnʃ ［名詞］文系、文系科目、文系人間 ［反意語］ɒeldɪnʃ ［レベル］4　ɲɑ;jeɲen/dɪnʃ。アルナ大の文系クラス特進が jeɲen 組であることから、文系の代表とされた。　ʃ̍ ［文化］ ɑeldɪnʃ　語源上セレンは文系ということいなっているが、実際には彼は文理両道の人間であった。文系、特に語学が強かっただけで文系に振り分けられているだけである。

jeɲdɔ ［医療］チック症、チック障害、トゥーレット症候群 ［レベル］5　ʃ̍Λ:ɲcɑcɪ

jeɲhɪʃl ［名詞］セレン賞 ［ユマナ］ノーベル賞 ［レベル］3　ɲɑ;/　ʃ̍ ［文化］ ɲɑ でセレンが創設した賞。セレンは有能な人間が好きで、有能な人間を素直に褒め称える性格で、その上未来技術が好きで先進的なものが好きだった。それが高じて ɲɑ では、ある分野で偉大な一歩を刻んだ者やある分野の歴史を著しく進歩させた者に賞を贈るようになった。セレン賞の始まりである。　セレンの死後もセレンの残した莫大な遺産やその利子により、セレン賞は運営されている。ls の最後までセレン賞授与は実施されていた。　ノーベル賞と異なり、セレン賞は分野が広い。数学などにも賞がある。ɲɑ では魔法学関連の賞もあったが、nɑ 以降は廃れた。しかし ls で復活する。また、ɲɑ 以降に新たな生化学などの科学分野が賞の対象として新設されたりもした。

jeɲhɪcl ［法律］情状酌量、大岡裁き ［動詞］ɥel を ɔn について nə（酌量する懲役）年 ɪlc（酌量する内容）だけ酌量する、情状酌量する ［レベル］4　ɲɑ;/「セレンの裁き」。情にもろいセレンが犯した罪に値する罰を受けるべきというリディアの判断を覆して甘く裁いたことから。　ʃ̍

jeɲzɪɒ ［医療］注意欠陥多動性障害、ＡＤＨＤ ［類義語］lcɪuɛɲɪnʃ。これが類義語ということは、どう考えても父親の遺伝なんだろうな。 ［レベル］5　ɲɑ; ↓　ʃL:jeɲen/zɪɒ ［語法］ lcɪuɛɲɪnʃ に比べ ɲɑ からあった語で、古い。医療用語としては lcɪuɛɲɪnʃ のほうが正式。

jeɸs ［非言語］セルジュ ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :jeeɸesc（感謝する指）［文化］ 男が男に感謝を示すジェスチャー。友好の示しとしても行われる。左手首の表を右手首の表に重ねる。手は拳にしておく。手の高さは胸の前。肘は胸に近付くように曲げておく。仮に手が平手だったら手のひらが相手に向くような位置に手をもっていく。平手が地面を向くようではいけない。最終的に左手の脈が自分を向き、右手の脈が相手を向くようにする。重ねるときは力強く重ねると良い。親しい間柄では拳をバンバンと２度この形で打つ。ちょうど手の甲で手の甲を打ち合う感じである。

jeɸsɪn ［気象］しとしと降る雨 ［レベル］3 1L : jeɸen/scnɪ ［語法］ 霧雨でもなく大雨でもない。中雨とでもいうべき雨。

jeɸscɔɸ ［生物］脾兪、脾愈 Jʔ:jeɸen/scɔɸ

jeɸsɔ ［名詞］大激怒、発狂、かんしゃく、癇癪、ファビョン、火病、激怒 ［レベル］2 μɑ;/ JΩ ［用例］ɪɸ{nɪ, ɾcl} jeɸsɔ ɪ ɑɪɒɔ lɪɪɾ 彼の態度に大激怒する

jeɸlɪɸ ［名詞］器用貧乏 ［レベル］4 JJ:jeɸen/lɪɸ

jeɸlɪnɾ ［名詞］第一人者、フロンティア、開拓者、開拓民 ［レベル］3 μɑ;jeɸen/lɪnɾcɸ「セレンのような霊人」 Jʔ

jeɸlɪɑ ［動詞］ɥəl を作り込む、作り込む、作りこむ ［普通動名詞］作り込み、作りこみ ［レベル］4 μɑ;/「セレンのように作る」。異常なほど物事を細かく作り込んだことから。 Jʔ

jeɸlɔ ［動詞］ɥəl を思いつめる、思いつめる、思い詰める ［レベル］4 μɑ;/「セレンが考えるように考える」 Jʔ

jeɸlɔl ［医療］過敏性腸症候群 ［レベル］5 制 :jeɸen/lɔl

jeɸleɒ ［音楽］ビブラフォン、ヴィブラフォン、セルレム ［レベル］3 μɑ;jeɸ/leɒ「セレンの音楽」 JJ ［文化］ μɑ でセレンとミルフが発明した。セレンにとって心地よい音を出す打楽器を追及していった結果できた楽器。

jeɸɪ ［化学］基、原子団。接尾辞 eɸ。 1L:jeɸɪcl

jeɸɪln ［政治］［経済］［哲学］修正資本主義 ［レベル］4 ls:jeɸen;jeɸen/ɪln JΩ ［文化］ → lejɾcɒccɸ, jeɸ}ɔlɒ 経済思想のひとつ。ls でセレンが提唱し実現させた主義。考え方自体は ɪl から存在したが、このように造語し実践したのはセレンが最初である。 セレンは腐敗していくユティア朝の中で広がる格差社会を是正せねばならないと考えていた。共産主義の破綻は既にイグレスタ圏の歴史が証明していたことと、セレンは努力は報われるべきだと考えていたため、共産主義や社会主義には傾倒しなかった。 かといって売れた芸能人や作家やスポーツ選手などが億万長者になる横で売れない芸人や物書きらが食うにも困って道を閉ざすためになる社会ではマイナーでニッチな分野が生きていけず、多様性が失われてしまう。 生物の進化同様、多様性の消失は異変が起こった際に対応できる可能性を減らすことに繋がる。もし潰されてしまったものの中に突如起こった異変に対応できるものがあったらどうする。 多様性を殺すことは長期的に見れば国を殺すことになりかねない。他国に出し抜かれるかもしれない。 その場では役に立たず人に理解もされないものが、もしかして未来に役立つかもしれない。それは単独でかもしれないし、別の分野と組み合わさってのことかもしれない。
アルバザードという国は伝統的に多様性を殺さず研究に助力をしてきたからこそ、いざという難所をいくども越えて最強の国家であり続けてきたのだ。だが腐敗したユティア朝ではその伝統が崩れていた。 セレンはその現状を憂い、売れない者が食えずに活動を停止して多様性すなわち未来への可能性が消えてしまうことのない社会を目指した。長期的に見ればその下地がやがてアルバザードを救うと考えていたからだ。朝三暮四に考えてはならないとセレンは子供のころから強く考えてきた。 その結果、爆発的に売れた人間の稼ぎを売れない人間に回して生活を支えてやればいいという考えにたどり着き、セレンは革命の独裁政権でそれを実施した。 修正資本主義とは行き過ぎた資本主義が生み出す巨大な格差を狭めたもので、「一部の人間が裕福でも、皆が苦しくなければ誰も彼らを恨まない」と唱えた。下流をなくして総中流にした上で、一部の上流を作った。それが修正資本主義である。 セレンはこの社会の実現のために、軍事力を使って全世界的に同じ制度を同時に実施させた。そうでなければ富裕層がタックスヘイブンに逃げてしまうためである。 アルバザードだけがこの政策を実施すれば、富裕層が他国へ逃げてしまい、アルバザードが傾いてしまう。そのため強大な武力を背景に、同時に世界規模で修正資本主義を実施させたのである。 結果的にセレンの狙い通り、革命後のアルバザードでは格差が縮み、下流が底上げされて中流になり、超上流が消えて上流ができた。 努力した人間は上流になれるので、努力がきちんと報われる社会である。派手な下流は存在しないが、そこそこの下流なら存在する。それは努力をしない人間であり、怠け者はきちんと下流として沈んでいく。 要するに修正資本主義が実現させたのは、中流の増加と超上流・超下流の撤廃である。皆が無条件に平等ではなく、努力は報われ、怠け者は罰を受けるも、殆どの人間は中流で、比較的公平な社会。それが修正資本主義の作った社会である。 セレンは修正資本主義をあらゆる経済思想の中で最もバランスが取れた優れた思想と評した。努力家は報われ、怠け者は報いを受ける。 一方で、売れている人間は売れない人間の支持をするため、創作や研究の多様性が保たれる。売れない人間は活動を続けるだけの最低限の暮らしが保証され、創作や研究の多様性は保たれ、アルバザードはどのような潮流の変化や突然変異にも対応できる柔軟性を取り戻した。

jeɸɪnueɸ ［医療］胸脇苦満 ［レベル］6 μɑ;/「セレンにかけられた呪い」 Jʔ ［文化］ みぞおちから肋骨の下にかけて起こる張りや痛みやしこりのことで、横隔膜の緊張が原因。古代からルクレティアで知られていたが、μɑ でセレンが長くこれに悩まされた（セレンはずっと胃痛だと思っていたが、リュウやリディアがルクレティアを学んで胸脇苦満と診断した）ため、アルカでは jeɸɪnueɸ が一般的に知られる名称となった。

jeɸɪnc ［名詞］疲労困憊 ［レベル］3 JJ:jeɸen/ɪnc

jeɸɪuɪnɟ ［アビリティ］セレンストラッシュ ［レベル］5 μɑ;/ 古 : ただし古では jeɸɪuɪnɟ でなく jeɸ enɪuɪnɟ と呼んでいた可能性が高い。セレンストラッシュというのはセレンが小学校の頃に考えた自身の最大奥義。元ネタはアバンストラッシュ。 ［文化］ μɑ のセレンの奥義、必殺技。抜刀術で、剣を抜くとともに凝縮されたユノによる一閃が生じる。そのユノ波だけでも劇的な威力だが、剣を直接当てるとユノ派が ɪɑɔn 化して威力は倍率ドン。

jeɸɪljc ［医療］モラルハラスメント、モラハラ ［レベル］6 ul;jeɸueɸɪnɾ/ɪljc。自己愛性人格障害の持ち主が加害者になることが多かったため。 Jʔ:bel。メルがセレンに「お兄ちゃんって典型的な自己愛性人格障害でモラ夫なのに、無駄に男気とカリスマがあって魅力的だよね」と断じたことから。セレンは「そんなことは子供のころから分かってるわ」と返した。

jeɸɪljcɪn ［名詞］モラ夫 ［レベル］6 ul;/ Jʔ:bel

jeɸcɾ ［名詞］等身大、１：１、実寸代、実寸 ［形容詞］等身大の、１：１の、実寸大の、実寸の ［レベル］4 μɑ:μcɑcɪ;jeɸen/jɔμcɾ「セレンの身の丈の」 JΩ ［文化］ アルバザード人は誇張を嫌う。同時に主張すべきところをしっかり主張しない謙遜もやりすぎとして嫌う。アルバザード人は等身大のありのままの表現や評価や自己主張を好む。それはアルバザード人が写実主義を好む点と類似している。アルバザード人はありのままの等身大が好きなのだ。 他国、特に日本では謙虚が美徳とされ、自分の業績を主張しないことが良しとされるが、アルバザードでは自分の業績は誇大せず謙遜もせず等身大に主張すべきと考えられている。誇大はもちろん嫌われるが、謙遜も卑屈に見えて女々しいと思われる。ただし「女々しい」なので、μenɾe がやる分には唯一美徳的に映る。 μɑ でセレンが自分のアルカに関する業績を自己主張したところ、下層民及び凪人から非難を受け、セレンは深く傷ついた。それを見たリディアは「貴方は等身大に自分の業績を主張しただけだよ。矮小な人間は自分との比較で貴方が大きすぎて、とても等身大に思えず、誇大したかのように見えて非難しただけよ」と言い、それを説明する際に jeɸcɾ という言葉を作った。 ・現実には ２０１２年現在、セレンは自分はもっと評価されるべきだと強く考え、自分の業績を評価しない世の中に対して強い恨みを抱いている。特に下層民や愚民に対する強い怒りがある。これはセレンが高校生になった頃から抱いている思いであり、大学以降アルカという作品のクオリティが高まっていくにつれて高まっていった。 セレンは体を痛め人生を犠牲にしてまでアルカを作り上げた。そのクオリティは人類７０億人がいても誰も成し遂げなかったレベルであった。にもかかわらずアルカやカルディアを理解するのには高度な知性が要求されるため、下層民を中心にアルカはきちんと評価されなかった。アルカを評価するのは東大生や医者といった上流階級ばかりであったことから、セレンはやはりアルカのような難しい学問的で高尚なものは愚民には理解できないのだと考え、愚民のくせに自分を愚弄し拒絶する連中を憎んだ。 結果、セレンは世の中には要る人間（アルカを理解・支持できる）と要らない人間（それ以外）の二種類がいるという考えにたどり着いた。表向きにはそれを言わないことにしたが、セレンは世の中の殆どの人間をくだらない生きている意味のないゴミだと考えている。実際の生活にはインフラを支える人間たちが必要なのは分かっているから、強いて言えばアルカをセレンが継続するのに必要な人間は道具として必要だと考えてある程度妥協した。つまり、「アルカをやる人間＞アルカをやる環境を整える道具＞その他の要らない、むしろ害悪になるクズども」という図式が生まれた。 セレンの望みは等身大の自分をありのまま評価してもらうことだった。セレンは子供の頃から誇張を嫌う。中国の白髪三千丈のような表現は大嫌いであった。一方、周りの嫉妬や反感を恐れて過度に謙遜する卑屈な態度も嫌いだった。それにアシェットのような外人集団の中で仕事と納期のある作業を何十年とさせられてきたから、自分の業績はきちんと自己主張しないと生きていけない環境だった。 その結果、セレンは等身大の自分を主張した。やった努力はやった分評価されるべきだと考え、この当たり前の信賞必罰を理解しない人間を苦労知らずのクソガキだと断じた。 セレンは著書などで自分の業績を等身大に主張したが、しばしば心ない人間から誇大だと揶揄されることがあった。セレンは誇大ではなく等身大だと考え、クズどもの非難を却下した。セレンはむしろ自分は全然褒められ足りないと考えた。 セレンの人工言語界における業績は凄まじい。にもかかわらず、それを褒め認める人間はあまりに少ない。やった業績を１００とすると、数十程度しか認められていないのではないか。世間がセレンを理解し認める程度は数十程度でしかない。例えばそれが３０であれば、等身大の１００から７０認識がかけ離れていることになる。その７０の分は世間から見れば誇大に映るのだ。山の高みが分からない人間には７０の差が等身大のセレンの大きさではなく、誇大による誇張や妄想に映るのだ。クズどもには自分が相手の大きさを理解できないという発想がないのだ。それがセレンには許せなかった。そしてセレンは身内以外は全て敵だと強く考えるようになっていった。 この考えはアルディアにまで影響を与え、もともと無償で博愛的に民衆を助けるはずだった μɑ と ls の英雄は、「自分を理解しない愚民のことはどうでもいい。身内にとっての理想郷さえ作れればいい」と考えるようになっていった。 恐らく今後いくら活動を続けてもセレンの死後になってもセレンの等身大の業績を評価する人間はリディアなど身内以外には現れないだろう。それが非常に悔しい。そしてそれが厭世を生み、世の中に対する怨嗟を生んでいる。 なお、掲示板などで異様なレベルでアルカをほめられたことが何度かあった。アルカのおかげで大学に受かっただの一生に一度でいいからセレンさんに会ってみたいだの、いくつか過剰なまでの賞賛を浴びることが何度かあった。だがセレンはそういう評価をされても過小評価と同じく嬉しくないのだ。過大評価は居心地が悪い。過小評価は気分が悪い。どちらにせよ嬉しくないのだ。セレンは等身大の自分をありのままの大きさで認められたいし、世の中は努力に応じた分努力が報われるべきだと思っている。 セレンのことを誇大や誇張と結びつけるのは誤りだ。それはあまりにセレンの業績を理解できていない。セレンは等身大にしか自己主張をしない。特に今は周りの一般人がセレンを認めないので、躍起になって自分で自分を褒めてあげているくらいだ。周りが褒めない分、声高に自分の業績を主張している。周りがきちんとセレンを評価すればセレンは等身大の評価に満足して自分では声高に業績を主張しなくなるかもしれない。 いずれにせよセレンのこの等身大へのこだわりは強く、アルバザード人の価値観にも強い影響を与えている。というより、セレンの正義をそのまま反映している。 当然アルバザードにもクズ層にはセレンの考えを理解できない嫉妬厨もいるのだろうが、上流階級、社会の上の人間はセレンのような考えをするのが一般的だ。 ただ、セレンが内心等身大の自分をありのまま評価してほしいと考えていることは、表には出さないことにしている。主な活動拠点の日本が謙遜を美徳とする文化だからだ。だから本音は、アルカに造詣が深くないと見ないだろうこういう単語の文化欄に静かに書いておくことにした。プログラマーがコードに書く埋め込まれたコメントのような本音だと思ってみればいい。

jeɸcl ［植物］梨、アップルペアー、西洋梨、ナシ、セイヨウナシ、ラフランス、バートレット ［レベル］2 1ʔ: 制 :jeɸɥɪnl ［語法］ セイヨウナシも指せるが、ふつう jeɸcl というとアップルペアーを指す。

jeɸcd ［形容詞］湿った、湿っぽい、やや濡れた、多湿な ［動詞］ɥəl を湿らす、湿らす、湿らせる、濡らす、ぬらす、加湿する ［類義語］euej、ɑɹjdhɪμɾ ［レベル］2 JΩ:eɸcɪ を ɹɪd で挟んだ痕跡語。e で始めたくなかったため。

jeɸcdɹɪd ［気象］湿気 ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ

jeɸcdɹcl ［名詞］ウエットティッシュ ［レベル］4 ɪl;/ JΩ

jeɸcdnɔɪ ［美容］ウェットヘアー Jʔ

jeɸcdɑɔd ［名詞］ウエットティッシュ、ウェットタオル ［レベル］4 ɪl;/ JΩ

jeɸcdɪɾc ［気象］湿度 ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ

jeɸcdɪɸ ［名詞］加湿器 ［レベル］4 ɪl;/ Jʔ

jeɸcdeɒɸ ［化学］不乾性油 JΩ

jeɸcɪ ［被服］セリア、寒亟服（かんみふく）、浴衣、ゆかた ［レベル］3 ʕごろ :jeɸen:jeɸcɪ ← ɹɪbe（服）/eɸcɪ（寒い） ［文化］ アルティス教の女性服。南方で発達した。元はアルティア人の服で、浴衣に似ている。

jeɸɔn ［植物］桜 ［レベル］2 1ʔ: 制 :jeɸzɔɔ lcbcnɪ:lcbcnɪ:lə ɒcleeɥə:ɔzəe,ɪlɾ ［語法］ ɒcnʃɹɪ ze ［文化］ 並木にするのが美しいとされる。また、アルバザードは満開よりも、無数の花びらが散っていく瞬間が一番好まれる。名前にちなんで中央アルナ西区のセレン通りには桜の並木道がある。 ［用例］ jeɸɔn eɒɪɾ ɔɾ ɒɪnɟ. 桜が咲き始めた。 jeɸɔn eɒɪɾ ɒɪnɟ ɪlnɪl uecn nɔɑ jɔlɔl. 今年は例年より桜の咲くのが早かった。 jeɸɔn ej ɒɪnɟ ɪlɪɪl. 今は桜が真っ盛りだ。
☆ jeɸɔn ej ɒɪnɟ ɪlc lɪnɾe ɪɪ jeɸen l'ɪlɪɟ cɒ ɟəμ. 今、西区のセレン通りでは桜が満開だ。
jeɸɔn l'ɔμ ɪlɒɪnɟ jej lɪnɾ ɾcnɪɪ. 散り始めの桜がとても美しかった。

jeɸɔnɑcμec ［気象］桜前線 ［レベル］4 1L

jeɸɔncl ［植物］さくらんぼ、サクランボ、チェリー ［レベル］2 JΩ

jeɸeɾ ［形容詞］精力的な ［反意語］ɪlɟeɸeɾ ［レベル］4 JΩ:ɔuc:jeɸen/ʃeeze ［語法］ 好奇心が強くチャレンジ精神が旺盛であるさま。

jeɸejɾ ［形容詞］セレンの望むような ［反意語］ɑcɒɪnl ［レベル］4 μɑ:μcɑcɪ;jeɸ/ejɾ「セレンの名（に恥じぬような）」「セレンの名（を貶めないような）」「セレンの名（に対して恥ずかしくない自分であるために）」 JΩ:μcɑcɪ ［文化］ ɥəɾcɪ

jeɸejɟe ［普通動名詞］スローセックス ［反意語］ɒɪɾeɸjɟe ［レベル］6 μɑ;/ Jʔ ［文化］ 女性の気持ちや快楽を第一としたセックスのことで、手っ取り早く射精してすっきりしようというセックスとは真逆のセックスのこと。前戯や後戯が長く、最中も優しく長く安定している。 女性は非常に大切にされたという気持ちになり、また、身体的にも心地よい。ただし相手の男のことが好きであればだが。 μɑ でセレンはこの手のセックスをして女性を篭絡させる技能に長けており、結果として女性遍歴を重ねた。セレンは恋愛を持続させるためにスローセックスは重要であり、射精欲を満たしてすぐ終えるような雑なセックスでは女性に嫌われると述べた。 逆に射精欲を速やかに満たして女性をオナホ代わりに使うようなセックスは ɒɪɾeɸje と言われ、女性から非難される。 ただし女性が男性のセックスの仕方に文句を言えない時代は ɒɪɾeɸjɟe がふつうであり、特に問題視されず、当たり前のこととされる。

jeɸen ［人名］jeɸen ɪμbɪzɪμɑ、jeɸen ʖlel ɪμbɪzɪμɑ → jeɸen ɪμbɪzɪμɑ ［レベル］1 JJ

jeɸen(J) ［組み数字］１４／２８ ［交通］セレン通り ［名詞］セレン組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2 JJ

jeɸen ʖlel ɪμbɪzɪμɑ ［人名］jeɸen ɪμbɪzɪμɑ → jeɸen ɪμbɪzɪμɑ ［レベル］1

jeɸenɟ ［アビリティ］セレンス ［レベル］6 μcɑcɪ: 古 :ʖeɸen/jɔʃ 沈黙にする 」 ［文化］ クミールの奥義。一説にはアトラス全土を破壊する力があるため、クミールは何とか自分の力を抑えようとしている。 一度ルティアで放ったことがあり、それが原因でセレンス海溝ができ、封じ手となった。使徒の尽力でアトラスは滅びずに済んだ。――という伝説がある。

jeɸenʃceɸɹɪcɟ ［地名］セレンス海溝 ［レベル］5 JΩ:μcɑcɪ: 奥義セレンスによる海溝 ［文化］ ・地理 ルティア南西部の長い溝はこの jeɸenɟ 海溝による海であり、最初から存在するが、以下の伝記がある。 ・伝説 ルティア南西部の長い溝はこの jeɸenɟ 海溝による海であり、μɑ の時代にできたものである。 アシェットのクミールが奥義 jeɸenɟ を放った際、あまりに強力なヴィードにより大陸が裂けたときのものである。 必死に周りの人員が大陸の崩壊を防ぐためにバリアを張ったものの、奥義が飛んでいった軌跡だけは防ぎきれず、海溝が開いてしまった。 海溝の周りは使徒の努力により崩壊が防がれた。これにより jeɸenɟ は封じ手となった。 jeɸenɟ はルティア城から放たれ、ルティアの城下町を一部霧散させながら、ミディートまで切り裂いていった。 そのまま jeɸenɟ は ɹɪμʃl 海へ出て消滅したものの、海岸沿いには破壊によって漂流したたくさんの離島ができた。 ・風土 風土的にはこの海溝のおかげで細長い海がルティアまで続き、暖流が域内に流入するのに役立っている。

jeɸenɪ ［名詞］強迫観念 ［レベル］4 JJ:jeɸen/nɪ

jeɸen ɪμbɪzɪμɑ ［人名］セレン＝アルバザード、セレン＝クレール＝アルバザード ［ユマナ］［人名］セレン＝アルバザード、セレン＝クレール＝アルバザード ［組み数字］１４／２８ ［レベル］1 J:μcɑcɪ;ʖeeɸje,ɑ。最初カルディアの言葉を一切喋られなかったため、リディアが「この子静かだね」とリーザに言い、そこから「静かな子」という意味で jeɸen ɟɔə（セレン君）と名付けられた。地球の語源と異なるので注意。 JΩ ucɪ:μcɑcɪ:jeɸen ← ʖeɸen ← ʖeeɸe（静か）

/n（指小辞）「静まらせる」が原義。ɥbɪzɪɥn はここでは「文化の坩堝」の意味で、1J lcɟ ɒcl :ɪleʃ に冠された。]lel は J0 年に授けられた。 [文化] → jeɥuɥɥɪnʃ (–Δ lcɟ ɒcl_JJ zɪn ɒel)
神話 ɥn の主人公の一人。アシェットの第１４使徒で、アルシェのルシーラ。男性。jeef/ɪɥnen。 １７２ｃｍ、６５ｋｇ。髪は黒で肩まで届き、少しくせっ毛。黒の瞳。肌は白：黄＝７：３。 人工言語アルカを作った人物。ジョブは剣士。 異世界人で、ユマナから来た。リディアとの間にユルトとルシアを設ける。
JJ 年にリディアとともにユマナへ去る。
・ɑɪlhɪ ɑɪlhɪ は１４歳の「氷晶躯龍」、２８歳の靡芒（風柳）。実際には薄の絵柄で、風に靡いて右側に倒れる薄と、しかして真っ直ぐ地面に伸びる短い根が描かれている。縁取りには満月が使われている。この絵柄だとアシェットに稲だと誤解されたため、風に流れる柳でもって説明することがあり、ɑɪlhɪ を風柳ともいう。 ・現実 (–Δ lcɟ ɒcl_JM)
アプリオリ人工言語である制アルカと新生アルカの作者。日本とフランスの混血児。男性。第４期４代ルシーラ・エ・アルシェ。先代ルシーラのリーザによってメル２年にルシーラに選出される。 ɒelJM 没。

jeɥen ɥbɪzɪɥn(J) [人名] セレン＝アルバザード [レベル] 1 ls JJ [文化] (ʔLJ lcɟ ɒcl_) ls の主人公の一人。

jeɥeneʃ [形容詞] 破天荒な、革新的な、前衛的な、アヴァンギャルドな、奇想天外な、新進気鋭な、パイオニアな、（人以外をを修飾すると）人跡未踏な [レベル] 4 JJ:jeɥen/ʃe

jeɥeɥcɪ [地名] セレリア海 [レベル] 5 ɥn;jeɥenɟ/ɑcɪ J0:ɥcɑcɪ: セレンの海 ɪlʃcɒɪ:ɪlʃcɒɪ:lə ɪlʃcɒɪ [文化] ルティア西の細長い湾状の海。ɥn でクミールがセレンスを放ったときにできたという逸話があるが、実際には創世記から存在した。セレンスをクミールが放ち、大破壊をしたことは事実だが、地形が変わるほどのことではなく、言い伝えにすぎない。

jeɥeɥcɪɟczɪ [地学] セレリアプレート JʔJ

jeɥec [約物] –、– 記号、ハイフン [レベル] 3 J1:jeel/ɥecn

jeɥecn [芸術] 漫画の流線 [レベル] 5 1L

jeɥeeʃ [言語] セレート、静定語彙 [反意語] leɒceʃ [アクセント] jeɥEeʃ [レベル] 5 J0:jeɥen/ueʃ [文化] ɥn でセレンが作成したおよそ５万語のアルカの語彙。アルカの根幹をなす語彙。

jezɔ [植物] 雑草 [レベル] 3 1ʔ: 制 :ɟɪɑ:jeʃlɔɔɒ

jezɔn [アトラスの国家] セゾン [アクセント] jezƎn [レベル] 5 1L:ɟcɑcɪ: 海岸

jezɔn(J) [俗語] ヤリチン、ウテウテ、イケイケ [反意語] jɔɑɔɒ [レベル] 4 ɥn;je/zɔn「複数の陰茎を持った」 Jʔ:ɒel [文化] 男性は複数の女性と交わることは女性ほど忌避されないため、jɔɑɔɒ に比べると罵倒度は弱い。人によっては名誉に捉えることすらある可能性がある。

jezeʃɟɪn [数学] 多項式 [レベル] 4 1L

jes [形容詞] 不足な、不十分な、足りない [形容詞] 心がものたりない、物足りない、不満な [反意語] ʃəuɪl [レベル] 2 1M: 制 :jɔs:jɔɟn:jɔɔs（余る） lɔlc:lɔlc [用例] ɪnɟ nɪʃ φɪɟu ɒɪn]əlɪlı,eɟc ɪ,dcʃı oen eʃ jes. 食料、水、薬などの不足で苦しんだ。 ɪn nɪ jes cɒ ʃeφl eɒ jeeɟ. ラジオから何の音もしなくなると物寂しくなる。 ɪn jeɟcl ueʃ ʃ'eɪɑəel eʃ jes lɪlʃ{ɔn} dɪɥɒɟen. 日本語には言語学の用語が少ないと知った。

jesɒɪuc [医療] ビタミン欠乏症 [レベル] 5 1L:jeɥen

jeoɪl [地学] 山脈 [レベル] 4 1L

jel [名詞]日、一日 [レベル]1 1ʔ: 制 [語法] １日は８つに分けられる。正午と０時は時点なので、大雑把にいえば６つに分けられることになる。 アナログ時計の円盤にメルセデスのロゴを当ててみると、１２時と４時と８時に３等分されるのが分かる。０時が ɪlɑɪɪɥɪɒ、０～４時が ucɥn、４～８時が uccl、８～１２時が ɑɪɪɥ、正午が ɑɪɪɥɪɒ、１２～１６時が hɪɥd、１６～２０時が ɒəəlj（夕方が少し日本語より長い）、２０～２４時が ɑəɥne である。 [成句] uɪɥ jel 一日中、四六時中 nɪ jel lel ɟɪlʃ 一日千秋]ɔn]ɔ jel hɔʃ 一朝一夕 [用例] ʃə ɪʃ jel ɟɪlʃ. いい一日を終えた。 ʃə ɪʃ jel bɪn. 楽しい一日だった。

jelʃ [生物] セルト [名詞] ペア、つがい [形容詞] ペアの、ペア、つがいの、おそろいの、お揃いの [音楽] 二重奏、デュオ、デュエット→ ɟɪleɒ [名詞] 正常位、正上位、通常位、ミッショナリーポジション [類義語] ɟɪɟʃ [レベル] 2 J0 に jeɥen が男女神の総称として復活 [語法][文化] 男神エルトと女神サールの総称。ɟɪɟʃ はエルトの一族とサールの一族の総称で、意味が異なる。 |ʔM,LΔL_1J| 年前 |ɟɪ/ʃe は]əɔɔ に ucɑɑ を与えたため、約 MM 億年弱の間、爆発を防げていた。しかし遂に爆発の危険が生じ、今度は]əɔɔ のように失敗しないよう、男神エルトと女神サールに分裂した。彼らは互いの力を相殺し、力のバランスを取った。彼らは黒い球と白い球の姿をしていた。太陽系の惑星からアトラスを選んでフィーリア島で、アトラスの公転周期のうち１日間だけ逢瀬を重ねることを決めた。この時点で彼らは自らの形質を当時新興勢力として生まれてきた知能の高い生物である霊長類に合わせた。ただし脳を大きくするために二足歩行を可能にし、背骨を立たせた。同時に魔法で暑さ寒さをしのげるため、体毛も薄くした（この時期は温暖）。現代人に非常に似た形質をしている。彼らの総称は jelʃ で、彼らの誕生を以って最初の暦セルト暦が始まる。この逢瀬が今後約 ʔMOO 万年間続く | |同 |ueeɥe から jelej が」つ流れ、エルトとサールに宿る。彼らはセレスを持って生まれた初めての存在となる | |同 |エルトとサールが肺臓気流を利用した音声による意思疎通を始め、原初の言葉フィーリア語が生まれる | |同 |エルトが ɒcnɪ]ɪlɒɔ を作る | ・性交の体位 最も一般的な体位。膣内射精する場合は奥に出したがるし出されたがる。ɟɪɟɒclc を好む男性や、娘がほしい男性は浅めに出すこともある。 男性がサール（地面）を見て、女性がエルト（天）を見ることからこの名が付いた。 アルバザードだと処女を捨てるときは正常位と相場が決まっている。なぜかというと、現実のアシェットの面々が全員そうだったため。セレンの経験でも、アシェット内外含め、１０人ほどの処女を全員正常位で扱っているのでも、それが自然なのだと思う。

jelʃɒeɒ [組み数字] セルトサークル、二大巨頭 [レベル] 5 J1 [文化] ɟɪdɪll

jelʃdɪlʃ [歴史] セルト暦 [レベル] 6 J0 [文化] dɪlʃ

jelʃɪll [言語] フィーリア語の数 J1 [文化] エルトが作った。 エルト式の物の数え方で、人差し指から立てていく数え方で、ᚹ 進数がベースの 10 進数。 1: 人差し指 scsc から scs J: 中指 jeelsc から jees ʔ:ʔ を出すときに小指に親指が乗っかって交差することから ɟɔ]əɔ]lsc で ɟɔɪs M: 小指 lcczsc から lccs ᚹ: 手を広げることから、oɪ/sc で oɪs ʃ 以降は後ろの母音に調和した母音を付けていく。 子音の s が落ちる。 ʔ:csc ʔ:ejee Δ:ɔ]ɔɪ L:clcc 10: 両手を意味する ɪlɔɪ から ɪlɪ 11 ～ 1L は ɪlɪscs のように示す。 J0 からは J0 進数。 J0 は ɒɪcn/sc（体全部の指）から ɒɪns。 Mʔ は lccsɪlɪ]ɔɪs でなく、「J0 が」つと ʔ」と考える J0 進法で、jeesɒɪnsɟɔɪs。 つまるところフィーリア語は ᚹ_J0 進数である。 これらの言語との差異は 10 進数の色が濃く、最高数が MOO でなく 100 である点である。 100 は oɪsɒɪns から oɪɒɪ。 暦などがなかったため、千はない。 0 を表す語はなく、「～はない」と表現した。
名詞にかかるときは前置される。 scs ɒccnɪ（一本の花）

jelʃe [副詞] [形容詞] 中くらいの、並々の、なみなみの、並みの [レベル] 2 ɥn:]əlcɪ;jeel/ʃe Jʔ: ↑ [語法] uɪɥʃ

jelʃeʃ [魔法] 透過値 [レベル] 6 J1:jelʃ/ʃe [文化] ɑɔlɒcɥə

jelʃeʃ(J) [名詞] セカイ系、世界系、君と僕。 [レベル] 5 ɪl;jelʃ/eʃ JM:ɒel [語法][文化] ɪl でできたサブカルのジャンル。エルトとサールのようなという原義を持つ。語源通り、「キミとボクのセカイ」が世界そのものの命運を決定するというジャンルで、現実には『アルディア』などがこれに当たる。 『アルディア』はループ系でありセカイ系でもある作品で、ループ系としては「あえて抜け出さない」ところに意味を持つ。 特に『アルディア』では ls においてセカイ系が最も発露される。

jelʃeɒɪɒ [生物] 並乳 [レベル] 4 ɥn;/ JM

jeʃlɪlɒɪ [アトラスの国家] セルカルマ [レベル] 4 Jʔ:ɥcɑcɪ [文化] 面積：11ᚹL9Δ.0ʔΔLL1]ɒ J

jelj [名詞] フィルム [レベル] 4 μʃ;jerl/jcɪ.l（写真の膜） 1ʔ: 制 :jeljcɪ（写真の膜）

jeljɪı [名詞] フィルム装填部 μʃ;/ JM

jeljjerlɪɥ [名詞] フィルム式のカメラ [レベル] 5 1L

jeljɪaenɑc [気象] 日較差 [レベル] 6 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

jeln [植物] 胡椒、コショウ [レベル] 2 lılʃı [文化] 最もよく使われる香辛料のひとつ。

jelnɒɒ [芸術] 日々の色、デイカラー、こよみ色、暦色 [レベル] 4 JJ [文化] lcjʃcnɪ で示された各日付固有の色。 [用例] ɔə, ɪlɑc ɑcɪɟjel ʃccl eʃ dɪɪl qəlɒccɪ ɪnlɔ]. ɪd ɪnʃ eʃ dɪɪl ɒel enʃɔ enɑc jɔuen ʃəəj eʃ ⌋ jel ʃcj ɪnlɪʃ わぁ、ということは誕生日は dɪl qəl なんですね。僕は dɪl ɒel なので２日しか違わないみたいです！

jelneeɒe [言語] ソノヒノキ、セルネーメ← jɔnɔhcnɔ]c, jelleʃcɪ J0:「その日の姫」の訳 [文化] jɔnɔhcnɔ]c

jeluɪj [名詞] 逢瀬 [類義語] cʃe [レベル] 4 ɑ;jeluɪɥʃ/jɔ Jʔ

jeluɪɥʃ [地名] セルヴァート [レベル] 3 ɥcɑcɪ: 古 :jel は古の jel（中心）。uɪɥʃ は不明。 [語法] 世界の中心。エルトとサールの逢瀬の場所。アルティム以降はアルバザードが事実上世界の中心となる。 アルバザードはこの南にある。アルバザードの北には古アルカの時代の資料から既にケートイア、ヒュート、イネアートがあることが分かっている。エルトアは北東である。イネアートが精霊の国と言われているので、神に近い存在であることが分かる。地球でいうと北欧に当たる。従ってセルヴァートはその上で、高さでいけばフィンランドのラップランドあたりだろう。ラップランドをフランスの北に持ってきた感じが地球でいうセルヴァートに当たる。 エルトとサールはアトラスの公転周期（たとえばレイユにおいては約３６５日）を周期とし、毎年アトラスの特定の場所で逢瀬を重ねた。その場所を世界の中心セルヴァートという。二人はセルヴァートから見た黄経が特定の値を示した時点からアトラスの自転周期、即ち２４時間だけ会うことに決めた。その約束の日はメル暦に直すとザナの月ラルドゥラの日、ディアセルに当たる。

jeluəɟ,ɑu jeu e

jela [言語] 文学、文芸 [レベル] 4 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe:jeu/ɒclɑ（文の芸術）

jelaʃɪlʃ [名詞] 文学部 [レベル] 4 JJ

jelaɪʃc [言語] 文学性 [レベル] 5 μn;/ Jʔ

jelac [動詞] qəl を挑発する、挑発する、からかう、意地悪する、いじわるする、煽る、あおる [普通動名詞] 挑発、からかい、意地悪、いじわる、あおり、煽り [形容詞] いじわる、意地悪、いじわるな、意地悪な。jelɑcɪn で。 [レベル] 2 1L:clɒəj:ɥcɑcɪ:jeɑɔ ləɑc（ルフィの紐を外そうとする） [用例] el jelac lcn hɪrln. 友達に意地悪してはいけません。 lı eʃ jelɑcɪn. 彼は意地悪だ。

jelacɑcz [法律] 挑発罪 [レベル] 4 ls;/ JM [文化] ・煽りは犯罪 １３年現在の日本では主にインターネットで著名人などが匿名から挑発を受けてまともに怒りを返すと「煽り耐性なさすぎプゲラｗ」などと言われ、結局匿名の悪意が罰せられることなく著名人が一方的に不利な立場に立たされる。 アルバザード人は日本人より遥かに直情的で素直な性格なので、馬鹿にされれば怒るのがふつう。日本人のように弱腰を大人と勘違いして、怒った人間を「子供、幼稚」などと言うことはない。むしろ馬鹿にされて怒らなければ「臆病者、チキン」と罵られる。 そういう国民性ではあるが、ıl で ɥəɒcl] などができると匿名の悪意が幅を利かせるようになっていった。日本と同じように匿名の悪意が罰せられない状態だったが、革命ではそれが異常と考えられ、「煽りは犯罪」という概念が生まれ、法整備がなされた。革命では挑発罪が成立し、煽りは犯罪で警察が即座に動くようになった。

jelb [生物] 胴、胴体 [レベル] 3 J1: 古 jeel/ɒɪcn [語法] ウェストよりも大きく広い範囲。おおむね肋骨の下から大腿骨までの範囲。

jelbɟɪlj [魔法] 胴行 [レベル] 6 J1 [文化] ɑɔlɒcɥə

jelbel [歴史] セルメル時代、朔夜の架橋、さくやのかけはし [レベル] 3 古 :jelɒel ← jeel/ɒel（間の時間）具体的にはカコと ɥn の間という意味。もともとセルメルがカコと ɥn を繋ぐ期間の物語として作られたことから「架橋」。黎明・午睡・黄昏・夕月と来て夜を迎えることから「朔夜」としている。セルメルはもともと『カコ』にない創作で、本来はアルシェ（上弦）とソーン（下弦）が登場しない。アティーリでもセルメルの間は両者は目立たない。そのことから「月が出てこない」→「朔夜」となっている。 [語法][文化] カコと ɥn の間の時代。イムル２０年から１５００年までの１４８０年間。 ０～８００ 前期 ８００～１２００ 中期 １２００～１５００ごろ 後期

jelhɪnɔc [ランドマーク] セルハノイ [レベル] 4 古 :jel（中心の）/hɪnɔc（塔） [文化] エルトが建てた塔。エルトはこの頂上で死んだ。後にエルトの一族が立て直し、エルト界の入り口とした。

jelɥecn [地学] 日付変更線 [レベル] 4 1L:「日の線」 [文化] 東経１８０度の位置にあるが、陸上を走るとユピトールをはじめいくつかの国家内を通過してしまって支障が生じるため、右図のようにギザギザになっており、海上を走っている。なお、画像はネットユーザーにより制作されたものである。

ɟɪɟʃ
ɟɪɟʃ
ɟɪɟʃ

を作れば、やはり合理的なアフォーダンスを目指して同じような形に落ち着く。　その後アレイユでは鍵盤タイプのものが消え、光を任意の平面に照射し、擬似キーボードを作るようになった。指で平面を押すと対応した位置にある鍵が押されたことになる。機械側で鍵の音を再現することもできる。　文字キー：hɪrɑlɔʃ　テンキー：ɪllɔʃ　エスケープキー：pɔlɔlɔʃ　ファンクションキー：elɔlɔʃ　バックスペース：jɪɲlɔʃ　プリントスクリーン：dɥeflɔʃ　半角全角：ɣəɪflɔʃ　タブ：ncɟlɔʃ　ＣＡＰＳＬＯＣＫ：ɾɪɑlɔʃ。アクセント記号を出すときに使うため。　シフトキー：pcɥəlɔʃ　コントロールキー：zɔlɥelɔʃ　ｗｉｎ：feɲlɔʃ, ɥɔɪlɔʃ　オルターキー：ɪllɔʃ　無変換：lɔɥəlɔʃ　変換：ɾɪɥəlɔʃ　スペース：pcəflɔʃ　エンターキー、リターンキー：sɪllɔʃ　インサート：pɔzlɔʃ　ホーム：lɔlɔʃ　エンド：heflɔʃ　デリート：jeɑɔlɔʃ　ページアップ：fɔlɑlec　ページダウン：ʔlejɑlec　カーソルキー：uesɪɔʃ　ナンバーロック：ɪllɥɔl

jelɔʃɪn ［音楽］キーボディスト、キーボ、キーボ担当 ［レベル］4　ʃl

jeleſ ˈ、［名詞］渡り記号、セレット ［レベル］4　ʃl: 古 jeel/eſ

jelefcɪn ［娯楽］セレティアン ［レベル］3　ʃl:je/lefcɪ/n ［文化］『セーラームーン』に相当するアニメ。

jelej ［魔法］セレス、幻魄、魂、魂魄、霊魂、ソウル、スピリット ［レベル］2　ɑ;e　pɔlɑ: 古 ［文化］ → pɪlſccɪ　・セレス　セレスはアテンの体内にあるもので、幻晄の一種である。魔法学的には幻晄の一種だが、ヴィードというと通常ユノ・ヴィル・ノア・アルマを指し、セレスを含まないことが多い。　訳語は幻魄ないし魂であり、アテンはこれがないと生きていけない。アルテやテームスもセレスを持っている。　セレスは天国トワーユの入り口にあるヴェーユという小滝の飛沫から生まれる。　生まれたセレスはアトラスに行ってアテンに入るが、肉体が死ぬとヴェーユへ帰る。誘燈がこれをアルデルへ運ぶ。　ヴェーユでは審判を受け、善なるセレスは天国へ行き、悪しきセレスは地獄へ行く。　善人の魂は丸い球で、悪人のほど歪んでいると言われている。　しかし ls までの学問であの世の存在については証明されておらず、内情も分かっていない。　天国と地獄の存在は偽りで、単に球体のセレスをトワーユへ、それ以外をラティスへ分類しているだけとも言われる。　真意のほどはルノらのみが知る。　・人魂　セレスはアテンの体内で安定し、外に出ると透晄に変化する。　変化の際に一時的に虚質量を持ち、紫外線を放つ。　死後は死神がセレスを回収するが、回収されないまま数日間放置されると鼻からセレスが抜ける。　このときも透晄になるが、透晄に変化する際の光の波長が長くなるため、紫がかった濃い青の光を放つようになる。これが人魂の正体である。　・死神の視覚　生きている間はセレスは息に乗って出る。鼻から吸った透晄はセレスとして補充される。　冬の間息が白いように、セレスも実は白い息のように出ている。　紫外線なので人間には見えないが、死神は人間より可視光線の幅が広く、紫の少し外側は見える。これは死神には魂色として知覚される。　息を見れば そこに含まれるセレスの多寡で、死神はその人の全体的なセレスの量を推し量ることができる。　ゆえに夢喰いはおいしそうな人間を見つけることができる。　・魂の座　セレスは脳、特に前頭葉の裏に多く存在している。　位置的にはちょうど額の裏で、ダルハとの関連が囁かれる。　ヴィードは平衡しようという性質があるが、それでも例えばノアは丹田に集まるなどといった集中しやすい箇所がある。セレスの場合は額の裏である。　もちろん平衡する性質があるので集中しやすい部分以外にも存在する。　セレスはエタンに触れると流出する。傷がない状態では漏れないが、傷を受けると微かに漏れる。　腕を切断するとそこそこ漏れるが、ほとんどは脳に存在するため、切られた腕にそれほどセレスは残らない。　その上すぐさま透晄に変わってしまう。　従って魂の座は脳にあるといえよう。　・ヴィード死　→ ɪuecɥə　・セレスと死神　死神は相手のセレスをごっそり引き抜く力を有する。　まず相手をヴィード死状態にする。そこから肉体の死が訪れるまでにセレスを引き抜く。　われわれ人間にはイメージしづらいが、死神に言わせると「皿に出した卵を口でつるっと吸い込む」のを「口でなく手や鎌でやる感覚」に近いという。そう言われても人間には想像しがたい。　セレスは９９％以上脳に存在し、球のように集まっている。　これを抜かれるとアテンの脳はショックにより活動が停止し、脳死に至る。　その様子は老衰に最も近く、突如老衰したかのような印象を与える。　・死神の憂鬱　死神の体には彼ら特有のセレスがあるが、他人のセレスを奪うとこれが彼らのセレスと混じることなく脳内に別途吸収される。　その際セレスが神経を刺激し、エンドルフィン等の脳内麻薬が大量に放出される。　痛覚麻痺と高揚により戦闘力が向上し、多幸感に溢れるようになる。　人間の脳と異なり、この状態が長く続く。強烈な快感は数分で消えるものの、心地よい快感がその後数日から数カ月続く。その期間の長さはセレスの多寡による。　しかしその期間が終わると急激な離脱症状に苛まれ、ふたたび人を襲うようになる。　禁断症状の主訴は暴力性の亢進で、次点は性欲の亢進である。麻薬より離脱症状が長く続く。ただし徐々に低減はする。　性欲の亢進は死神の増加を示唆する。これは種の保存の合理性によるもので、人間の雄も極限状態や空腹状態では性欲が亢進する。なお死神は子育てをしないため、雌の死神も性欲が亢進する。　そういう意味で死神もまた生物としての合理性を持った種のひとつということができる。　魔法学はセレスの解析の結果、夢喰いと誘燈の間に違いはなく、単に一度セレスの味を覚えた死神が離脱症状から抜け出せないだけであることを明らかにした。　なお、中位以上の死神は離脱症状に強く、すぐに禁断症状を起こして暴れることはない。　おなかをすかせた後の食事が美味しいように、わざと期間をあけて我慢してから人を襲い、さらなる多幸感を得ようとする通な者もいる。　また、低位でも個人的に精神が強ければ長い間離脱症状を我慢できることもある。　中位でも詩姫のように魂にだらしない者もいれば、悠姫のように死神本来の食事を嫌って甘い物を代替とし、欲望を抑える者もいる。　悠姫のような変り種は死神の間では偏食と呼ばれ、詩姫は食いしん坊の扱いになる。　なお、ランヴェムのように意思の力で夢喰いを止めた驚異的な精神力の持ち主もいる。　・量と質　セレスの量は年齢によって異なる。　一般に若者は多く、老人や子供は少ない。また、健康なほうが多い。　特に人生に希望を持って生き生きしている個体は多い。　セレスは急激なストレスを与えると減る前に一度反動で増えるという性質がある。　従って希望を持った人間が突如絶望などの急激なストレスを受けると、セレスの量はその直後に跳ね上がることになる。　夢喰いはセレスのこの性質を経験的に知っている。　・味　人は糖分を多く含む食物を本能的においしいと感じるようにできているが、死神はセレスを吸収した際、セレスが味覚神経を刺激し、おいしいと感じる。　それはセレスの量が多いほど感じるようになっている。　・構造　蛍石はセレス体（セレスを持っているもの）に接触すると脱晄してセレスのみを単蓄する。　これを利用してセレスの配列を調べる。　１握だけでもあれば分析できるので、髪の毛からでも採取できる。髪の毛の毛根からセレスがなくなる前に握を採取すればよい。　セレスの配列を分析した結果、l,u,ɑ,μ 殻のみ１～４（陽晄～雌晄→ ɑɔlɒcɥə）が現れ、それ以外は０になることが分かった。　魔晄と異なり、ɾd 殻は性質に影響を与えない。　これはセレスに開閉がないことが影響していると考えられた。　このうち l,ɑ の役割は比較的すぐに解明された。　魔晄と同じく属殻であり、人の場合は通常 ʃ,ll 無となる。火の属性の魔物は ɾ,ll 火となることが多い。　一方 u,μ 殻は何の役割を果たしているのだろうか。　分析の結果、これは人や神や悪魔といった種別を指しているものと分かった。　これはいわゆるセレスの遺伝子であり、今まで単なる力の差と考えられてきた神と人の違いが判然たる遺伝子の違いによるものだと分かった。　またこれが発見された μɑ では既に {u,μ}={ʔ,l} 世代が徐々に増えてきており、nɑ 以降の弱体化は ʔ,l 遺伝子の急速な普及によるものと考えられた。　なお、u,μ を種殻という。　u で大まかな種が決まり、μ で詳細な種が決まる。　u は {1,l,ʔ,ll}={ 悪魔 , 死神 , 人間 , 神 } である。　残りの組み合わせを以下に記す。　ちなみにルノなどのセレス体の入手は非常に困難であったことを付与する。　u,μ 種 ––––– 1,1 アルヴァ　1,l テームス　1,ʔ その他のデーム　1,ll アデル、亜魔、魔人　l,1 ルノ、アトワーユ、アラティア　l,l 貴族、アッカイ、エミリオ、ミスティ…　l,ʔ 下位（ミーナ、ホミス…）　l,ll 中位（紗枝、詩姫…）　ʔ,1ɒ ～ μɑ　ʔ,lnɑ ～ ls　ʔ,ʔzφ ～ ll　ʔ,llɒ ～ ɾlu　ll,1 サール　ll,l サールロゼット　ll,ʔ エルト　ll,ll エルトロゼット　遺伝子配列例 lecn ɥəfcɪ : l,ll 無属性、ʔ,l 遺伝子の無力な人間。　00l0　0ʔ00　ll000　000l　ɪlcɪ cneɪ ɪfɔ : 1,l 水、1,ll 魔人。ラルドゥラ組はやはり伊達じゃない？　0010　0100　l000　000ll　μcɑcɪ lefcɪ : μ 殻 0 の特異配列。エルトとサールの血が均等に混ざった希少なロゼット。流石は召喚士様？　00l0　0llll0　llll00　0000　jeμen ɪμbɪzɪμɑ : 種殻 0 の特異配列。やはり異世界人説が正しいのか。紫苑が正史にいるなら彼女も同値になるだろう。ヒト科の動物はエタンなので、セレンはヒト科でないようだ。　00l0　0000　llll00　0000　・死神の種類　誘燈はセレスを引き抜き、自分の脳に吸収せずにアルデルへ運ぶ。　夢喰いは自分で食べ、ルノに背く。しかし高位は慢性的な人員不足なため、ルノはある程度は目をつぶっている。結果その高位の傘下にいる中位や低位の背信も避けられずにいる。　夢織は特殊で、セレスを抜いた相手を脳死させず、幻覚を見せる能力を持っている。　セレスを譲渡する意思を持った相手に口付けをすると、唇を経由してセレスが入る。　対象にその意思がない場合はいくら吸い寄せてもセレスが脳に居座りつづけようとするので吸えない。　吸ったセレスは口から脳でなく丹田に入り、保有される。　吸収の際、１％ほどセレスを対象に残しておくことで相手は脳死を避けられる。　この技術がないと殺してしまう。この能力は先天性によるものなので、夢織はどうしても数が少ない。　対象がやがて肉体的な死を迎えると夢織は最後の１％を奪い、腹の中のセレスとともにアルデルへ連れていく。　彼らの種の違いは遺伝子によるものではないので、夢織がセレス中毒に落ちぶれることはある。　逆に夢喰いが改心して誘燈になることもある。　ただし夢織だけは能力が伴わないとなれない。　・魂を与えられた物　エタンはセレスを持たないもののことで、アテンの対である。　動植物や物はエタンであり、魂を持たない。　しかし思いをかけ続けることで、エタンに魂が宿ることがある。　さらに形を持たない架空の存在であっても想い続けることで魂が宿ることがある。　セレスを持つ者すなわちアテンが情をかけ続けることで、エタンに魂が宿る。　こうすると九十九としてエタンがアテンになる。その際の配列は　00l0　0000　ɑ000　0000　ーーである。　実はこれをセレンの遺伝子と比較すると同じ型であることが分かる。　このことからセレンを「アトラスの人々が望んだ救世主が具現化したもの」と捉える学者も存在する。　つまり彼らにとってセレンは思念体が実体を持ったものであり、正体はアトラスの人々の悪魔から解放されたいという願いだということになる。　対象が実体を持つ物なら九十九であり、エタン自体にセレスが生まれる。　一方、実体を持たない思念体の場合は段階を経る。　まず思念者の脳内に本人のとは異なるセレスが別途生まれる。　次にそれが体外に出るが、体外では透晄になってしまうため、アテンに類似した実体をエタンを材料に形成する。　そしてセレスがアテンのなりをしたエタンをまとうことで、擬似的にアテンとなる。　ただしこれは哲学的な解釈で、魔法学では証明されていない。実際に観測もされていない。　しかしセレンやアディックを説明する説としては評価できると考えられている。　そして一般の魔法好きの間ではこの説は「科学的ではないが主観に沿う話」と認識されている。　だからこそ思う。想い続けたことはやがて現実になると。　・cnɟel　セレスの中心に一握だけ存在するもの。魂の目、あるいは魂紋とも。　l 殻が０で、それ以外が 0_ll の値を取る。　従って組み合わせは５ ^ １５＝３０５’　１７５７’８１２５（三百五億超）存在する。　同じ組み合わせの cnɟel は存在しない。　ueeɥə からのものも、最初に生まれたアルテのものも、必ず組み合わせが異なる。　従ってインセルには指紋などと同じく個人を識別する能力がある。　cnscn すると同じ cnɟel を持つことになる。　・セレスと精神　セレスは精神に間接的に影響を与える。直接的には与えない。　属殻は例えば水属性を持つものは火を嫌う。　種殻は例えば ʔ,l 世代は無力なので協力して寄り添って行動しやすく、統率しやすい。　このようにセレスは趣向、性質、行動、思考などの面において精神に影響を与える。　ただし、Ａ型は几帳面でＢ型は自己中というような分かりやすくあからさまな性格の決定ほどではない。　・セレスと感情　強い感情は cnɟel と jelej と強力なヴィードを持った塊となる。これは凝縮してほかのヴィードと交わらない塊を形成する。ちょうどガンが正常な細胞と独立して硬くなるのと同じである。これは体内に残るが、吐露すると体外に排出される。ヴァンガルディは ɪnuеμejl にこれらを回収する。原則として体外にあるものを回収する。→ ɪnuеμejl　ヴァンガルディにとって欲しいと思えるような感情の塊がある場合は、その感情を発散させる代わりにその塊を体内から奪うことがある。ヴァンガルディが好むのはたいい怨嗟である。なぜなら怨嗟が人間の感情の中で最も強いためである。そう、皮肉なことに愛情よりも怨嗟のほうが強い感情だということをヴァンガルディの選択は証明しているのである。　・マルティーア　→ pɪlſccɪ ［成句］ leɑ jelej ほーっと　jelej ɪnɑ pɪφ 魂が揺れるような : 断腸の思いで　ɔlnɪ jelej ɪ ſ ſ に感情移入する　ſcɑl jɪſ jelej 我を忘れる、愕然とする、呆然とする　c jelej 心のそこから、心の底から。c ɑcɔnɪ の類似表現。 ［用例］ ☆ ɪn ſcɑlɪſ jɪſ jelej pɪn nɪ nɪɑ jɪlel. 嬉しさで我を忘れた。　nɔn dcɔ ɑɪn jelej fəɪn cjſ dɪdɪ パパに代わって異界送りよ！（紗枝）

jelejſ ［生物］セレスト、魂科 ［形容詞］死神～。敬称。 ［レベル］4　ɑ;jelejʃ/fe 幼字は腕に下げたɪμɒclɪnj を象ったもの。　1L:μcɑcɪ:jelej ［語法］ → ɪdſ, ejſ　〇名（前置）×姓　〇男女　〇単体使用 / 名詞用法 ［文化］ ɪſen の一種で、魂科のこと。ルノ、アトワーユ、アヴェラントなどを含む。魂科の下には死神属しかない。ただし、アッカイは死神族に含まれない単体の生物である。ルノとアトワーユは固有名詞であり、属を作れない。かといってどこにも分類しないというわけにはいかない。強いていうなら種であるから、彼らは属を飛ばして種に行く。彼らは種名と固有名が同一である。

jelejſcɪ ［普通動名詞］セレスティア ［レベル］4　古 :jelejſcɪ, jelejſccɪſ（他人の）セレスを愛する」 ［語法］ → pɪlſccɪ　殺した相手のセレスを奪うこと。強大な力を手に入れることができる。アルデスとダルケス、ルフェルとフェルデンの二組が行い、アトワーユによって禁じ手となった。

jelejlel ［名詞］セレスクレール、セレスの書、魂の書 ［レベル］6　ʃl0:ɒelcɑcɪ lceμ ［文化］ → pɪlſccɪ　死神貴族以上が所有する本。セレスを持ったあらゆる生物の名前と死亡日時が書いてある。原本は ueeɥə の入り口に置いてあり、hɪɪbe と lɪjſcɪ が共有している。本は立った状態で台座に置かれており、支えなしに自立している。ペンでなく爪先を動かすことで文字が記載される。ページは自動でめくられる。サイズは地球でいうと見開きでＡ３に近い。紙は途切れることがなく、どんなに書いても前方に捲ればそれまでのページが表示される。背の厚みはどんなに書き込んでも増えない。背は指２本分（３ｃｍ程度）の幅である。時代に合わせて言語を切り替えており、現在使用している文字は幻字で、言語はアルカ。一度言語を変えるとそれまで記載されていた情報もその言語に置き換わる。また、そもそもペンを使って書き入れない。このことからもセレスクレールは本ではなく hɪɪbe や lɪjſcɪ の外部記憶装置なのではないかと考えられている。つまり彼らの脳が記憶する情報のうち、セレスに関する情報だけを閲覧可能な外部メモリとして取り出したものがセレスクレールであると考えられる。そうでなければ言語が自動で切り替わるなどの現象が説明つかない。

jelejlɪnſ ［名詞］慰霊旅歌、イレイリョカ、ヒレァイ・リオゥカ、ヒレアイイリォゥカ、ヒレアイリョゥカ ［娯楽］聖地巡礼 ［ユマナI名詞］ソノヒノキ参り ［名詞］聖地巡礼。アルティス教の。 ［動詞］ɥəl（場所）を聖地巡礼する、聖地巡礼する ［レベル］4　μɑ;pclɑ　lʃ;pclɑ ［文化］ 死者の魂を慰めるために各地を歌って巡礼すること。μɑ でミルフが始めた。　μl でアルティス教の聖地巡礼の意味を獲得。　ul で転じてオタクが聖地巡礼をすることも意味するようになった。　ソノヒノキ参りはディアセルにセレンがゆかりのある土地を訪れること。　・舞台裏　元は００年にミルフが作った日本語の単語。日本語が話せないので、リディアに単語を習って造語した。　セレンが当時友人に送っていたメールによると、日付は定かでないが、セレンが大学に受かった４カ月後と書いてあるので００年に間違いない。ヒレアイ～などの妙な訳語は彼女が当時発音した「イレイリョカ」がセレンにそう聞こえたことから。どう「慰」の字を hc だと思ったのか、過程はよく分からない。「機関連絡」は「帰還連絡」の誤変換。以下、メールからの抜粋。　慰霊旅歌というのはミクちゃんの伝言にあった言葉。本当に日本語での伝言。聞く　と、俺に許しを請い易くするためにリディアにわざわざ日本語の意味の有る言葉を覚　えて造語したんだと。　で、慰霊旅歌。良く分からんが、『全世界の中で私が涙をこぼした歴史を持つ場へ　行き、アンセスタの霊に歌を捧げる行為』とかいう。まあ、要するにあの娘なりに郷　愁って言うのかな、まあ思い入れが有る所へ実際に足を運んでみて、歌うたって帰　るってことなんだろうが。　（中略）　生活リズム狂うから暫くは話せなくなるな、あの娘とは。ああ、そうだ。最後に一　つ。慰霊旅歌なんだけど俺にはどうも『ヒレァイ・リオゥカ』としか聞こえなかっ　た。ラッハメンの再来か……！？　（↓日付不明かと思ったが、最後の方で同年１２月頭のことだと判明した。セレンが大学受かってから４カ月経ったのが６月ごろだろうから、それと１２月の間が６カ月で、計２３日間の旅程だったようなので、やりますと言ってから実際に行くまでに準備が半年ほどあったものと伺える。下記の会話は当時だと英語かメル・アルカか何かで行っているはず。それにしても古アルカ時代って４０曲もアルカであるいはアルカに訳した歌があったのか。すっかり忘れていたので新鮮な気持ちで驚けた。「俺でも２０曲も知らない」うちのほんの数曲しか、その１１年後の自分は覚えていないわけだが）　慰霊旅歌　"　慰霊旅歌が終わって帰ってきてちょっと経つが、漸く本人から話しが聞けた。　「リーダーさん、都市がなくて、不便な所に行く場合にはですね、何が必要かって言　うと、健康な自分の体です。それがなんていったって必要です。　（中略）　ヨーロッパめぐりは中国より綺麗だったが、意外に安全でなく、金もかかったから　短期間しか行けなかったそうだ。ただ、歌う歌はかなり沢山用意されていたそうで、　慰霊旅歌自体としては今回の方が良かったが、旅としては前回の方が初めてと言う事　もあって思い出深かったそうだ。　歌った曲の回数は、２３日で丁度２００回。重複してる歌があるので曲自体はそれ　でも７３曲だと。其の内アルカで歌った歌が４０曲強で、歌詞を訳したものでなくア　ルカオリジナルのがその内２０強。凄いな。俺でも２０曲も知らんぞ。昔作曲したや　つと、自分で作曲した奴で合わせて２０強だと。　「声枯れた？」と聞いたら「そりゃあ、もう。でも、枯れた声じゃ慰霊にはなりませ　んから、薬飲んで歌ったりしました」という。そりゃあ、凄い光景だろうな……。あ　れか？ノドヌールスプレーみたいなやつ使ってか？う～ん、ハッカの匂いのする歌声　かあ……。　でも、あれだろ？枯れたっていっても帰りに寄った彼氏の所じゃ喘いだんでしょ？　といったら「久しぶりに会った早々セクハラだぁー……！」といって呆れられた。　「そういう事いってるからクリスさんとかから信用無くすんですよ」と留めをさされ　た。「クリスだって、下ネタいうじゃん」と主張するが「リーダーさんのは笑えない　んですよ、灰汁が強すぎて」みたいにいわれた。さうかー。さうですかー。　ま、「取

り敢えず、スポンサーに連絡して、礼と機関連絡と無事の報告をしときな　よ。多分、機嫌悪いだろうけど」といったら「なんで機嫌悪いんですか？」という。　語調からしてレーテの事は知らないみたいだな。一般の使徒にはばれてないみたいだ　な。という事で一安心した。　なんかおとといメルの誕生日だから俺に話しにきたのに通信できなかったからどう　したんですかと聞かれた。そうなんだよ、今年は皆で通信しつつ祝うって事しなかったんだよな。多分、連絡してきた奴多いと思う。下手すりゃクミールさんに問いかけ　たりしてるかもしれない。そんな事されるとまた俺の仕事が増えるんだけどなあ。メ　ルにいうようにいっときゃ良かった。

jeleɟpelʃ ［普通動名詞］慰霊、鎮魂 ［レベル］4　μɑ;ɒclɑ ʃ ［文化］ jeleɟlɪnʃ

jeleɟpelʃlɪnʃ ［音楽］鎮魂歌、レクイエム ［レベル］4　μɑ;ɒclɑ ʃ

jeleɯn ［医療］症候群 ［レベル］4　1L ［語法］ アルカでは、原因の良く分からない複数にわたる症状を持つ病気を指す。

jeleɒ ［言語］韻文 ［レベル］4　1L: 古 :jenɪleɒ

jeleɒ(ʃ) ［音楽］合奏 ［レベル］4　ʃ1

jelel ［魔法］セレス体、セレール ［レベル］4　ʃ1:jeleɟ/ 古 ɪl ［文化］ → ɑɔlɒcɥə　セレスを持つもののこと。アテンのほか、九十九としてのエタンなど。ヴィードを帯びるものではない。それだとレニウム等以外のすべてになってしまう。あくまでセレスであるかどうかで決まる。厳密には cɥjel を持つもののことであり、切断された腕は jelel と見なさないこともある。

jeleenɪ ［アトラスの国家］セレーナ ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:jeel（中心）。東西の分かれ目の目安となるため ［文化］ 面積：ʃʃʕʕΔΩ.ʕ̍ʔLΔʔʕ̍ʃ ʔɔ ʃ

jeleeu ［魔法］幽体離脱 ［魔法］セレーヴ（サイトロ）。利の中位白魔法。セレスを一時的に分離する魔法。セレスのまま移動できる。セレスはふつう目に見えないので、スパイ活動をしたり、高く舞い上がって上から地形を見たりするのに使う。 ［類義語］ɪnʃμcʔɔ ［レベル］4　ʃ0:jeleɟ/leeu

jelənɪ,ɪlʃ　jɥɒɪ　jɥɒɪ.l

jeleɪ ［地名］セルア ［レベル］4　古 :jel（中心の）/əɪ（山。ʔɪlɒɪ の中から ɒɪ だけ抽出され、それが jel の後で əɪ になったもの） ［文化］ セルヴァートにある高山。サールが身を投げた山。その底はサール界の入り口でもある。サールが落ちた底のことを jɪlɥɪleɒ といい、そこが入り口となっている。

jeɪ ［名詞］モール、ショッピングモール ［レベル］3　古 :lec e ɒccμ: リディアがモールを jeɒɪlɪ と訳したことから ［文化］ 商業区の大部分を占めるモール。屋根付の商店街である。ひたすら広くて長い。幹線道路の数だけモールがある。たとえばアルナには南に三つのモールが存在する。どのモールも日用品が揃うようになっているものの、個性はある。アルナの場合、クレーヴェルとヴァルファントのモールは住宅区から近いため、食料や薬や雑貨が主に売っている。住宅区から一番遠いカルザスモールが一番の繁華街である。ゲームセンターやインプレン（風俗街）などの娯楽施設もここにある。一つのモールは長いので、スーパーが一つのモールの中にいくつもある。モールは各所に中央会計があり、個別の店で会計を行わなくても良い。モールのどの店の物もそこで買えるというわけではない。いくつかの店舗が共有する会計でしかない。店舗の中に一々会計があると店舗が狭くなる。そこでいくつかの店が会計を共有するというわけである。モールの中を商品を自由に持っていけたら万引きがしやすくなってしまう。モールの出入り口はカルテか円形車道に通じる道、及び幹線道路沿いの全ての横道である。ふつうは横道から出入りする。横道といっても日本人のイメージする暗くて細いものではない。横道一つひとつが国道クラスの幅を持つ。

jeɪʃe ［名詞］デパート ［レベル］3　1L

jeɪɟ ［化学］ポリマー、重合体 ［レベル］5　1L: 制 :je/ɪɟ（複数のもの）

jeɪn ［代詞］［ɥæl］僕たち ［レベル］1　ʃ0:je/ɪn

jeɪnʃ ［代詞］［ɥæl］僕たちの ［レベル］1　ʃ0:je/ɪnʃ。これは二重母音が来るのでアクセントが語頭のままになるので、jeɑeɥɑ を jeɑeɑ にしたようにはしない。

jeɪɒ ［単位］ヨタ　ʃ1:jeɒcɪn

jec ［文末純詞］～かなぁ、～だろうか ［レベル］1　古　:::ɒɪɥɪ,ɪlʃ ［語法］ 自分の意思に対する不確実性も表わせるので、le jec で行こうかなぁという意味になる。eɥɔ と意味は同じ。　文末に ɣ をつけててもつけなくても良い。つけると懐疑度が増す。 ［用例］ ʃə eʃ ʃcɪ jec. これは正しいのかなぁ。

jec(ʃ) ［エルト］jecneɟ の略称 ［組み数字］1 / 1 2 ［レベル］1　ʃ1

jecn ［形容詞］複数を意味する ［類義語］jcɑ. ［レベル］1　1L: 恣意　:::ɟɟe,ɪlʃ ［語法］ jecn はなるべく他の形容詞の外側に来る。　ɥəlc ɑɪs jecn 親切な子供たち ［用例］ ɑcɪn jecn 少女たち

jecneɟ ［エルト］神剣セイネルス ［名詞］1 時 ［名詞］北北東 ［交通］セイネルス通り ［音楽］ド ［組み数字］1 / 1 2 ［類義語］jec ［アクセント］jɛcneɟ ［レベル］2　ɒelʃcɪ ʃl:jecneɟ;e 古 :μcɑcɪ ［文化］ → jecuɥɪnʃ　アルミヴァの 1 番目。エルトの右腕から生まれた。生きた神剣。剣士ヴァルファントの剣。剣なので、カルザスとは兄弟の間柄でない。

jecneɟɪdɪ ［ユマナ］［音楽］ハ音記号　1L

jecuɥɪnʃ ［医療］カナー症候群、低機能自閉症 ［類音］jeɟuɥɪnʃ ［レベル］6　ul;jecneɟ/uɥɪnʃ　ʃ1:ɒel

jecɒ ［名詞］システム、体系。ɒec の集合体。 ［反意語］ɒec ［レベル］3　1L:ɩcɔn:ɟɪcɒ からの類推 ［用例］ lɪɑ jecɒ システムを作る、体制を整える

jecɒdcɟ ［政治］連立政党 ［レベル］4　1L:clɒəj;μcɑcɪ

jecμ ［単位］セイル、静電容量、電気容量 ［レベル］5　古 : 元は jeɥeccμe（静かな電気） ［語法］ コンデンサーの極板の間に 1 イレットの電位差を生ぜしめるために、1 ピオルの電荷が必要である時の静電容量。ファラドと比較。

jeclcl ［化学］リチウム ［レベル］4　1Δ: 制

jee ［感動詞］まぁまぁ ［感動詞］やれやれ、困ったもんだ、困ったものだ。自分及び相手、或いは状況に対して使う。 ［レベル］2　古　lɔɔ:lɔɔ:dɪaeʃ:fjəlcjɔ,ɪlʃ ［語法］ 相手をなだめる言葉。通常 2 回いう。

jee(ʃ) ［格詞］［文頭純詞］そして、で、弱順接 ［レベル］1　1L:jɪɪ。どもって言葉を繋ぐときの jɪɪ から来た。

jeeʃ ［名詞］中立 ［レベル］2　1L:jeel/ʃel ［用例］ encɔʔ lɪl jeeʃ. エニークは中立を維持している。

jeeʃlɪɑ ［地球の国名］スイス ［レベル］5　1L: 永世中立国のイメージしかない

jeeʃuejʃɔ ［言語］あいまい母音、曖昧母音、シュワー ［レベル］3　μɑ;/「中立母音」 ʃ1

jeeʃɪɟɪ ［言語］中性名詞 ［レベル］5　ʃ0

jeel ［名詞］淀み、よどみ。水が流れずにたまっているもの。 ［動詞］ɥəl（川など）を淀ませる、淀む、よどむ、澱む、肩などが凝る、血が巡らない ［類義語］ɔɥəl ［レベル］3　μɑ;ʜeel.lɔ ʃɒ;ʜeeμe/lɪl「静かにある→静止している、動かない」 ʃ0:ʜeelɪl から ［用例］ ɪɪ, alel ej jeel ɑəɔl. あぁひどい肩こりだ。

jeelɪl ［医療］欝血、うっ血、鬱血、うっ滞、鬱滞 ［地名］セーシャル。アルバザード西南部の地名。 ［レベル］4　ʃ0:ʜeelɪl.ɑu（淀み）から。ʜeeμe/lɪl（静かにいる）

jeeu ［動詞］ɥəl を縮れさせる、縮れる、パーマをかける、皺くちゃにする、しわくちゃにする ［名詞］縮れ、ちぢれ、パーマ ［レベル］3　1L:jɔnc/eeu

jeeunɔɪ ［美容］パーマ ［レベル］3　1L

jeeɒ ［魔法］［化学］重合 ［レベル］5　1L ［文化］ ɑɔlɒcɥə

jeeɒɥeu ［化学］重合反応　1L

jeeɒɪ ［経済］ポートフォリオ ［レベル］5　ʃ1:jeɒɪɟ。株や債券など資産の書かれた書類をまとめてひとつのものと見なしたことから。

jeeɒɪʃc ［魔法］重合度 ［レベル］5　ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

jeeɒɪll ［化学］重合度 ［レベル］5　1L

jeeμ ［形容詞］静かな、黙っている、黙った ［名詞］静寂、沈黙 ［動詞］ɥəl を静まらせる、静まらせる、黙らせる、黙る ［魔法］セール（サイレス、マホトーン）。害の中位黒魔法。声を出なくさせ、呪文の詠唱を阻害する。呪文を唱えなくても魔法は発動する。 ［類義語］ɔɔuel ［反意語］lɪu ［レベル］2　μɑ;ʜeeμe.l　1L: 古 :ʜeeμe　ʜeeμe:ʜeeμe:ɔuel ［成句］ ［メタファー］jeeμ ɥən ʔɒccμ クミールのように静かな：上品というニュアンス ［メタファー］jeeμ ɥən bɪl 壁のように静かな：おもしろみがないというニュアンス ［用例］ eɒ jeeμ 黙る　ɪn nɪ nɪə ɒɪn μɪ eɒ jeeμ. 家の中が静かになるので嬉しい。

jeeɥʔɔɔʔ ［電算］マナーモード ［レベル］3　ul;/「静かな状態」 ʃ1 ［用例］ ɪμ jeeɥʔɔɔʔ e dcɪʔɪd　ケータイをマナーモードにする

jeeɥncʔ ［名詞］(nɪ) 静かな驚き ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

jeeɥɒɪɥleu ［医療］非運動性パーキンソン病　1L: → ɒɪɥleu

jeeɥnɛɒɟ ［名詞］茫然自失 ［レベル］2　ʃ1

jeeɥφej ［名詞］(nɪ) うんざり、ウンザリ ［レベル］3　1L:ɒel ［語法］ しばしば単調でつまらないか苦しいことに対し、疲れるとともにもう嫌だと思う気持ち。 ［用例］ ɪn nɪ jeeɥφej ɪ μɪɑ. el. 宿題にうんざりだ。　ɪn nɪʃ jeeɥφej ɪ ʃə lɪb ʊɪnel. その仕事には本当にうんざりした。

jeeɥe ［感動詞］ありがとう ［動詞］ɥəl に感謝する、感謝する ［文末純詞］～してくれる ［レベル］1　ɑ　古 ［語法］ 相手の行為を歓迎する場合は jenʃ 系列を使う。jenʃ より jenʃɪnʃ のほうが意味が重い。jenʃ より ɒcjenʃ のほうが丁寧。従って、ɒcjenʃɪnʃ が重くて丁寧。　こちらが頼んだことを相手がしてくれた場合は jeeɥe。jeeɥeʃcj のほうが意味が重い。同様に ɒcjeeɥeʃcj は重くて丁寧。　感謝するという動詞用法があるのは jenʃ のみ。

・使い分け

略式	正式	敬度
jeeɥe	jeeɥeʃcj	標準
ɪnjeeɥe	ɪnjeeɥeʃcj	丁寧
ɒcjeeɥe	ɒcjeeɥeʃcj	尊敬語

略式	正式	敬度
jenʃ	jenʃɪnʃ	標準
ɪnjenʃ	ɪnjenʃɪnʃ	丁寧
ɒcjenʃ	ɒcjenʃɪnʃ	尊敬語

jeeɥeʃcj ［感動詞］ありがとうございます ［アクセント］jEeɥeʃcj ［レベル］1　古 ［語法］ jeeɥe

jeeɥejʔ ［気象］しとしと降る雨 ［レベル］3　1L ［用例］ jeeɥejʔ ɪʃ jɔɑ = ejɪʃ jeeɥel. しとしと雨が降った。

jeeɥenj ［言語］諸語 ［アクセント］jEeɥenj ［レベル］6　μɑ:je/μenj。jeɥenj と区別するため、かつ語頭にアクセントを置くため、最初の e が長い。　ʃ1 ［語法］ 系統の異なる言語同士だが地域が近いためまとめて論じたいときがあり、このような場合に諸語という言葉を使う。アトラスだと魔方諸語 (lcnjdɔljeeɥenj) など。

jees,ɑ　ʃ　elʃ;jeesc

jeesc ［魔法］指、一指、いっし、セージ ［レベル］5　ʃ0:je/sc（（ガレットが）集まってできた指状のもの） ［文化］ ɑɔlɒcɥə

jeesc,ɑ　hɪnɔs　elʃ;jeel/sc

jeesc nɪzel ［人名］セージ＝ナゼル　ʃ1 ［文化］ ɪμcʔɪ ɔɔen

jeel ［名詞］中心、真ん中 ［副詞］ちょうど、まさに、将に、正に、丁度 ［形容詞］中くらいの、ミドル、中央 ［格詞］～の中心に ［数学］原点 ［美容］ミディアム ［数学］円の中心。球の中心は ʃcɒ。 ［反意語］ɒej ［レベル］1　ɑ;e　赤　jeel:jeel:lɪ ɑelɒ（真中は母体） ［用例］ ʔɪnʃe lɪ jeel jɪlɪc. 中央公園は街の中心にある。

jeelʃceμ ［地学］漸深層。海の垂直区分。 ［レベル］6　ul;/　ʃl ［語法］ ʃceμ

jeelʃɔɒucɒ ［生物］腹直筋 ［レベル］5　ʃl̊kʃ1

jeelʃeɒ ［生物］中耳 ［レベル］4　1L

jeelʃeɒɑɪcz ［医療］中耳炎 ［レベル］4　1L

jeelʃəəʔ ［名詞］中央広場 ［レベル］4　μɑ;/　ʃl

jeelʃlel ［名詞］中辞典 ［レベル］6　μɑ;/　ʃl

jeelʃlɪɒc ［生物］委中　ʃ1

jeelʃleɒ ［生物］中脘 ［レベル］6　ʃ1

jeellceμ ［歳時記］真冬 ［レベル］3　μɑ;/　ʃ1

jeeljlɔʃ ［数学］中心角 ［レベル］4　ʃ0

jeelnɔce ［軍事］特務曹長 ［レベル］3　1L:μcɑcɪ

jeeluejn ［言語］中舌　1L

jeeluenʃ ［経済］中小企業 ［レベル］5　1L

jeeluelʃ ［経済］中間決算 ［レベル］5　ʃ1 ［文化］ ɑcuelɪnl の後に出される。

jeelalel ［生物］肩外兪、肩外愈 ［レベル］6　ʃ1

jeelaleɪ ［歳時記］真夏 ［レベル］3　μɑ;/　ʃ1

jeelaɪbɔμ ［地球の国名］中央アフリカ　1L

jeelaɛpe ［生物］中年期 ［レベル］4　1L

jeelaɛl ［ユマナ］中学校 ［レベル］3　ʃ0

jeelbɪʃ ［美容］センターパート　ʃ1

jeelbɔɔl ［軍事］軍曹 ［レベル］3　1L:μcɑcɪ

jeelbeu ［言語］接中辞 ［レベル］5　1L

jeelbeʃlɪnɑ ［魔法］中位魔法鏡 ［レベル］6　ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

jeelɑcμec ［交通］中央分離帯 ［レベル］5　μʃ;/　ʃl

jeelφɪlcj ［軍事］センターファイア式、センターファイア　μɑ;/　ʃl ［文化］ φel

jeeldɪɟe ［料理］中力粉 ［レベル］4　μɑ;/　ʃ1 ［文化］ dɪɟe

jeelbenɔɒ ［軍事］中佐 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ

jeelhɥəlɪ ［軍事］中将 ［レベル］3　1L:μcɑcɪ

jeelhɪnʔ ［気象］［軍事］［交通］中高度 ［レベル］5　μʃ;/　ʃ1

jeelhɔ ［生物］仙骨 ［レベル］5　ʃ1:「中心の骨」。骨盤の中央に座すとともに、身体のバランスに大きな影響を与える骨であることから。

jeelzɪɒɔ,ɑu　lezɔ

jeeloɪlʃ ［軍事］上級兵 ［レベル］3　1L:μcɑcɪ

jeeloɪɪz ［数学］中心モーメント、中心化モーメント　ʃ1

jeellɪφel ［政治］中央集権 ［レベル］4　1L

jeelɪʔj ［建築］中二階 ［レベル］4　1L ［語法］ アルカでは一階と二階の間の部屋を指す。

jeelɪlʃc ［地学］中東 ［レベル］4　ʃ1

jeelɪn ［ユマナ］中学生 ［レベル］3　ʃ0

jeelɪnɑɪɒelɪl ［地学］世界標準時 ［レベル］4　μɑ;/「中央標準時」 ʃl ［文化］ μɑ でアルバザードのアシェルフィを通ると制定された。

jeeluelɪnʃ ［死神］中位の死神 ［レベル］5　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［文化］ 詩姫や悠姫や紗枝やランヴェムのこと。死神貴族によって作られたり、人が彼らと交わることで中位の死神になる。不老不死。　能力は高く、ɒelɑɔc など簡易な魔法はしばしば効かない。

jeelɪμnɪ ［地名］中央アルナ、中央アルナ市、中央幻京市 ［名詞］アルナ大。文脈によって ［レベル］4　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj

jeelɪl ［地名］中洋、メティオおよびスカルディア ［レベル］4　ʃ0:jeel/ɪnlɪl/cnjɪɪl

jeelɪlɑɪɪl ［天文］中心食 ［レベル］5　ʃ1

jeelɪcʔlccɒ ［化学］果糖ぶどう糖液糖、果糖ブドウ糖液糖　ul;/ ［レベル］5　ʃ1 ［語法］［文化］ ɪcʔl ccɒ

jeelcnjɪɪl ［地名］中央インサール ［レベル］4　1L ［文化］ → ɪlɪjɪnlɪl

jeelejd ［気象］中層雲　1L

jeelen ［接続詞］jeel。中央の。 ［レベル］3　ʃ1

jeelel ［地名］セーレル川 ［レベル］4　ʃ0: 古シージア語「間にある川」 ［文化］ サヴィア東岸部、リディアとシージアの国境付近にある大河。海とこの川の間にシージア人が住み着き、文明を築いた。

jeelelɑ ［言語］共通語、標準語 ［レベル］3　1L

jə,ɑ　leɪ, nɪʃ　ɑɪcɪ

jəʃ ［物理］粒子 ［レベル］4　ɑu;jə/ʃe「砂のような」 ʃ1 ［文化］ 世界を構成する物質として ɑu で既に考えだされたが、それが物理学的に明らかになってきたのは ul 以降である。

jəʃʃe ［被服］チュチュ ［レベル］4　ʃ1:jə/ʃe「砂のようにさらさら舞うような」

jən ［動詞］ɥəl をくすくす笑わせる、くすくす笑う、笑う ［レベル］2　lɪʔlɪ: くすくすというオノ

マトペ ［文化］ 女子供の動作。

jən jən ［擬音］くすくす ［レベル］2 ʡʢ: 制 :jən

jəɒcj ［動詞］yəl（地面など）をくんくんと嗅いで回る、嗅ぎまわる、嗅ぎ回る、 ［動詞］yəl を念入りに探す、探す ［法律］刑事、デカ。刑事課の警察官。現場を何度も嗅ぎまわるように調べることから。 ［レベル］3 JO: 犬が鼻を地面に近づけてすんすん嗅ぐオノマトペから。

jəd ［感動詞］くさっ！ ［動詞］yəl という嫌なものを排除する、排除する、排他する、追い払う ［レベル］2 ɑɔueſ:jəd。臭いにおいを嗅いだときに思わず鼻をすするときの音。火急的速やかに悪臭を排除しようと短く勢いよくするので、jəə のように長くはならず、jəd と一瞬で止まるような形になった。

jəbeɪ ［人名］スペック ［組み数字］１２／１６ ［レベル］4 ɒelſcɪ ʡʢ:ɪɥɑə/ejſi;e 1ʡ: 制 : 古 :jbeɪ ［文化］ejſɪ エスタの第１２子。男。

jəoɪ ［アトラスの国家］スワ ［レベル］5 Jʔːɥcɑcɪ

jəɪ ［植物］トリフ、トリュフ ［レベル］4 1ʢ: 制 : じゃがいもから

jəc ［植物］芋、イモ、薯 ［レベル］2 zɥ;.jelɪn lɪlſi:jəc（いも）。乾いたものが原義。 jəc:jəc ［文化］ jɒ 以降のプロトタイプはジャガイモ。

jəcſ ［料理］片栗粉 ［レベル］4 ɥcɑcɪ:ilɪlſi

jəcɥen ［人名］誰憐 ;jəclen Jl ［文化］ləjcɪn の登場人物。→ ɥenlc

jəclen ［魔法］御社、お社、オヤシロ、おヤシロ、おやしろ、神社 ［レベル］3 jɒ;ilſ Jl ［文化］ejlɪ

jəe ［動詞］yəl をしくしく泣かせる、しくしく泣く、めそめそ泣く、泣く ［レベル］2 古 :jəe（しくしく）鼻をすすって泣くときのオノマトペ ［文化］ 女子供の動作で、男がやると恥ずかしい。女でもガノやマユなど、エタットは恥ずかしがる。 ［用例］ nen jəe nɔjſ ſc eſ ɥɑen lɔlſ めそめそするな、男だろ！：父親が息子に言う台詞。ɥɑen になっているのがミソ。

jəə ［擬音］すー、ずー、すぅすぅ、すうすう、ｚｚｚ。寝るときのオノマトペ ［レベル］2 Jʔ

jəəſ ［形容詞］［ネガティブ］希少価値がない、ありふれた、どこにでもある ［反意語］ſɪɒ ［レベル］3 JO: 古 jə/ſe（砂のような）

jəən ［動詞］ɪ に対して yəl を鼻で笑わせる、鼻で笑う、ふんっと笑う、笑う ［レベル］2 1ʢ: 制 :lɪlſi: 鼻息のオノマトペ。笑いなので jəd より長く、それで jəə になった。笑いだから n を付けた。 ［語法］ 馬鹿にした笑い。 ［用例］ hɪczenſ le ɒcn jəənɪſ ɪ nɔnſ きーっ、あの女、鼻で笑ってきたのよ！

jəəd,ɑu 10000 jə/dɪlɪlɪ

ʡ ［言語］主語→ jɔc ［レベル］4 jɒ JO:jɔl

ʡ¥Ɔ ［言語］ＳＶＯ ［レベル］4 Jʔ

ʡɪnſ,jzɑ jɪɒ

ʡclɥə,ɑ lɪɪl e

ʡccƵcɪ jcczcɪ ɑu;e

ʡƆ¥ ［言語］ＳＯＶ ［レベル］4 Jʔ

ʡeeɥe,ɑ jeeɥ e

n

n,ɑ jeeɥ, nɔuel ɑɔueſ

n,lɥ 属格を示す接尾辞。 lenɔ.l lɥəɑcɪ lenɔ ɑɪcz → lɥəɑcɪn ɑɪcz のように発展した。lenɔ 自体は「の」として lɥ でも生き残っている。

nn ［擬音］うーんという唸り声。悩み中や考え中に出る。 ［レベル］2 古

nuɪ,ɑ ɒej uɪ は戦う

nɒ ［単位］ノイスメルフィ、ミリメートル、ｍｍ ［レベル］3 Jl

nɑ ［歴史］ナディア、nɪɑcɪ ［レベル］3 Jl

nφ ［演繹音］ごくごく、ゴクゴク、ごくり、ゴクリ、ごく、ゴク、コクン、んくっ ［レベル］2 ɥɑ Jʔ

nb ［単位］ノイスメルバ、グラム、ｇ ［レベル］3 Jl

nɥɪ ［文末純詞］不安、迷い、戸惑い ［レベル］2 1Λ: リディアがどもったときに「にゃむにゃむ」と口ごもるという癖なんだかよく分からない奇怪な音があり、それを可愛いと思ったセレンがリディア主幹のモダリティ論に際して造語した。

nɥɪ,ɑ jclɑ

nɥɪ,ilſ nɪ

nɥɪn ［名詞］猫の鳴き声、にゃん ［形容詞］名前に後続して「ちゃん」のような可愛らしい感じを生む敬称。単独では使えない。 ［名詞］～にゃん、～ちゃん。幼児などに対して用いる。敬称。 ［レベル］2 Jl:ɥcɑcɪ ［用例］ lcɪ nɥɪn しあにゃん。lcɪnɥɪn でも。 nee nɥɪn, lənɪ lənɪ。おーい、しあ。おいで、おいで。

nɥɪn(J) ［接尾辞］～ちゃん、～にゃん。指小辞。 ɥɑ;ɑɔueſ/ 指小辞の n Jʔ ［文化］ ɪnlƆeu

nɥɪnnɥɪ ［文末純詞］［女性］［ɑɔlſe］jec ［レベル］1 ［類義語］nɥɪɪnɥɪ Jl:ɥcɑcɪ:nɥɪɒ/nɥɪɒ ［語法］ 女性語だが、主に ɑɔlſe が使う。yənl は nɥɪɪnɥɪ。それ以外はどちらも使わないことも。

nɥɪɒ ［動詞］yəl（内容）を ɪ（聞き手）にいいよどむ、いいよどむ、口ごもる、言い淀む ［ɒcl ɑl nɥɪ ［医療］吃音 ［レベル］2 1Λ:jeɥen: リディアが「にゃむにゃむ」といっていたのでミリア限定 ［語法］ elɔj は吃音のように途中で言葉が詰まったりすること。nɥɪɒ は「え、えーと。うーん……言おうか言うまいか悩むなぁ」のような態度のこと。 ［文化］ 口ごもりそうになれば発話をゆっくりにして調節したり、ポーズを置いたりする。文の途中で jɪɪ,jɪɪ と繰り返すことはあまり多くない。日本人よりフィラーの使用頻度が少ない。 ポーズを置いてるときは首を左に傾げてやや目を細め、考えているような顔をする。そして左手を前に出す。高さは胸から首くらいである。手は片手拝みを丸めたような形で、これは「ちょっと待って」を表わす。手は指を額につけてコツコツしても良い。これも考えていますということを表わす いずれにせよ、今考えているので待ってくれというジェスチャーを取る。そうでないと話が途中で終わったのか考えているのか区別がつかないからである 日本人が口ごもるのはまだ発話が終わっていないという合図のためである。そうでないと終わったのかと思われてしまう。また、ポーズがあるだけで日本人は話を遮って聞かないことがある アルカは相手の話は最後まで聞くし、喋り手も最後まで話すのが礼儀である。だからポーズがあってもゆっくりになっても聞き手は話を取らない。最後まで黙って聞き続ける。

nɥɪɪ ［ɥenſe］nɥɪ ［名詞］［形容詞］nɥɪn ［レベル］2 1Λ

nɥɪɪnɥɪ ［文末純詞］［ɥenl］jec ［レベル］1 ［類義語］nɥɪnnɥɪ Jl:ɥcɑcɪ:nɥɪɒ/nɥɪɒ

nɥɔhe,ɑ cun

nɥɔe,ɑ ɒɔc nɥɔhe/eɥcɪɓ「弱い水」？

nɥə,ɑ enl

nl ［単位］ノイスメラ、ミリリットル、ｍｌ ［レベル］3 Jl ［文化］ 1nl は約 2 m l 。

nɪ ［名詞］心、こころ、気持ち、心理 ［動詞］yəl を感じる、感じる、思う、想う ［文末純詞］～のようだ。なんとなくそう感じた推量。丁寧語は ɪnɪɒ。 ［レベル］1 ［類義語］ɪleɒ ɑ:jɪɪl;e 赤 nɪ:nɪ:lə nɪ:nɪ,ilſ ［語法］ nɪ,sɔ,ſccɪ,hɪſcɪ,jccɪ など、心系はすべて名詞が本義。ſccɪl は愛すること、ſccɪ は愛。なお、jccnɪ,ſccɪ,hɪſcɪ など対象を yəl に取る動詞は同時に愛する人など相手を指す受動名詞にもなる。 ［文化］ ・心の在処 アルバザードでは心は胸にあると考えられている。実在の器官でないということは zφ のシージアで戦死者の解剖をして古くから知られていたが、目に見えない器官として存在すると考えられつづけた。 苦しんだり悲しんだりすると胸が痛くなるため、心は胸にあると考えられつづけた。胃腸の調子が悪くなることから、胃腸にも散在すると考えられたこともある。 jɒ までは心臓という臓器と関連付けられることもあった。これは dcnɪ などの語源で確認することができる。 ɥɑ になるとセレンが心について、右の大胸筋のうち、上腕骨大結節後から鎖骨に至るまでの鎖骨部に存在すると述べた。これが契機となり、以降は心の在り処というとそこということになっている。 ・現実では 英語と違って心臓と心を同一視することはなく、０５年まで漠然と心は胸にあると考えられてきた。 ０５年以降セレンは過去の出来事を思い出して鬱になると、右の大胸筋のうち、上腕骨大結節後から鎖骨に至るまでの鎖骨部が締め付けられるように痛くなるようになった。それまではそんなことがなかったが、大きな不幸により、そのような体質になった。それから心の在処がここだと考えるようになった。 ［成句］ lɔɟ nɪ ɪ ～を気に入る、気にいる、気に入っている。jccnɪ より弱い好意。 ɥɔſ nɪ c ～が苦手だ。jcn より弱い嫌悪。苦手感。 ［用例］ nɪ eɒ scj 心が壊れる、心が破れるように苦しい nɪ lɪl 変わらぬ心 el nɪ bɪn ilɪlſi lɪ leeu. 旅は出立つ前が最も楽しく、 el nɪ uɒɒ ilɪlſi lən lcu ɔn ɔɒɪ. 犬は鳴き声だけが最も恐ろしく、 el nɪ lɪnſ ilɪlſi lən lcɒɪcn ɔn ɒcn ſclle. 女は後ろ姿が最も美しいものでありんす。 lee el nɪ ɑcueɥ lən ɒcn ɔl heſe elb ɑenlɜſſi. 気軽にひょいとめくれば夢はああいずこ。 lɥilɥɪ ɒcɪn ɪn lɔ len ſɥə ſcl ɥɪnnɪ. わっちにゃそんなことできんせん。 （『狼と香辛料』賢狼ホロ） ſɥə ſcl nɪ nɔɪn ɔlſi lenɪ eſ ɒɥəɔ ɪſc ſɔſ ɪl. どんなに離れてても こころはそばにいるわ（『負けないで』ＺＡＲＤ）

nɪ(J),ilſ ɪn

nɪ,ɑ lcn。ɑu 以降、sɪn が滅んで nɪ が ɑen と lcn の両方を兼ねるように。 elſ;e

nɪ,ilſ ɪɪ

nɪſ nɪ/ɪſ

nɪſlɔ,ɑ bɪn

nɪſlɔ̀ə,ɑ nɪl nɪſlɔ/lə

nɪſc ［形容詞］敬虔でない、信心が浅い、罰当たりな、信仰心のない ［反意語］ɒclɪ ［レベル］2 @ 1L

nɪſclɥəɔ ［言語］心理所有動詞 JO ［語法］ nɪ のみ。

nɪſce ［名詞］感想 ［レベル］3 JO:nɪ/ſcl/ſe

nɪſcejeu ［名詞］感想文、読書感想文 ［レベル］4 JO ［文化］ 学校で読書感想文という宿題はない。それに似たものはある。ＰＲ文といって、本や商品など、自分の好きなものをひとつ他人に紹介する文を書く。自分がなぜそれを良いと思うかを述べ、長所を主張し、他人に共感させることで、人を惹きつける説得力ある主張ができるように訓練するためのものである。感想文と異なり、より社会に出た後に役立つ技能を身に付けられるようになっている。 ［用例］ ſə ɑe ɑɪjſ ſeſ nɪſcejeu lɪ. これ要約じゃなくて読書感想文だわ。

nɪl nɪ/cl

nɪlL ［再帰動名詞］苦笑、苦笑い ［動詞］yəl を苦笑いさせる、苦笑いする ［レベル］3 1L:lcɔn:nɪlc nɪl ［用例］ nɔn jccnɪ eɒ ſɥə ɑecnel enſɔ nɪ jɪſ eɒſ ɒcl ſɥə ləſ len lej nɔn lɪɑɪſ lɔ̀lɔ nɪlL. 苦笑いして いつも 食べてくれるあなたを もっと 悲しいくらいに 好きになる（Ｌｅ Ｃｏｕｐｌｅ『料理記念日』）

nɪlI ［名詞］知覚、認知、認識 ［言語］認知 ［動詞］yəl を認識する、認識する、認知する、知覚する ［レベル］3 1ʢ: 制 : 語源不詳 ［語法］ アルカでは六感まである。視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚、直感の６つ。 動詞は意識的な知覚行為と無意識の知覚行為に分かれる。また、無意識の知覚行為動詞と器官名は同じである。 また、その知覚が対象とするもののリストも挙げておく。例えば嗅覚の対象は「匂い」という単語である。嗅覚を使って人間が感じ取るのは「匂い」である。このように考えてリストを作る。 意識的：cn, ſeɥ, ɔs, ſɔɪn, lɔcſ, nɪun 器官＆無意識的：cnɟ, ſeɒ, jcɥ, ſɔɪ, uejn, nɪuc 対象：clſɪ, ɑɔ, es, ſɔj, lɔc, nɪlj

nɪlInɪɒ ［生物］感覚神経、知覚神経 ［レベル］6 1L

nɪlIlɑcɪ 認知世界 Jʔ ［文化］ ɑcɪɪlL

nɪlIɥəɔ ［言語］知覚動詞 ［レベル］6 JO ［語法］ cn など。

nɪlIzelɔ ［生物］視床 ［レベル］6 JO: 感覚の脳器官

nɪlIɪn ［言語］認知主体 ɥɑ JJ ［文化］ nɪlIelɑəl

nɪlIczɒ ［言語］認知革命 ɥɑ JJ ［文化］ nɪlIelɑəl

nɪlIɔɒ ［言語］認知様式 ɥɑ JJ ［文化］ nɪlIelɑəl

nɪlIɔl ［言語］事態 ［レベル］4 ɥɑ JJ ［文化］ nɪlIelɑəl

nɪlIeſ ［生物］視床下部 ［レベル］6 JO:nɪlIzelɔ/ſe

nɪlIenuc ［生物］［言語］認知能力 ［レベル］6 ɥɑ Jʔ

nɪlIelɑəl ［言語］認知言語学 ［レベル］6 ɥɑ JJ ［文化］ ɥɑ でセレンが唱えた。この概念ができたことを認知革命という。類型論や対照言語学やアルカの制作から起こった。地球と異なり生成派からの分離で起こったわけではない。起こり方からそもそも違う。 nɑ 以降は下火となり、ul で再評価されるようになった。 アルカの認知様式については「●アルカの認知様式 ɑcle:///€:/ɒelJJ_1/jlɪcſɥlɪ/jlɪchſɒl/jſəɑɥ_ɥəlɑ_1ʡ9.hſɒl」が詳しい。

nɪlɪɒɪ ［名詞］仲間、ナカマ、なかま ［類義語］hɪdn ［アクセント］nɪlɪɒ↑ ［レベル］3 jɒ;<,ilſ</「心の輪」 JʡI:ɥcɑcɪ

nɪlc ［名詞］（nɪ, ſcl とともに）当惑する、困る、悩む、戸惑う ［動詞］yəl を困らせる、困らせる ［レベル］2 1L:lcɔn: 古の nɪ と lc（心動く）から造語。 ［語法］ delj と同じ語法。nɪlc は「えっ、えっ！？」という感じの戸惑い。delj は「うーん、う……うーむ」という感じの悩み。我ながらよく分かる説明な気がする。

nɪlclc ［名詞］切腹、ハラキリ ［類義語］ələſ、ſɔɒɔlɪlc ［レベル］3 jɒ JO: 古「自分を切る」 ［文化］ アルティア人のカランたちが行った自害方法。アルバザードには形を変えて伝わり、ルルットという形になった。

nɪlɔl ［名詞］感覚、感じ、フィーリング ［レベル］2 jzɑ;<>nɪ/lɔ（ɑu で「内側」） JʡI

nɪlɔldɪnſ ［生物］感覚系 ɥſ;/ JʡI

nɪleɪ ［名詞］バカンス、長期休暇 ［類義語］ncɪn、ɑclncɪn ［レベル］3 Jl:ɥcɑcɪ:「心を癒す」 ［文化］ 社会人にとってはディアセルとメルセル前後の休日ラッシュのこと。それぞれ一週間程度の長さがある。学生にとってはこれに加え、四季ごとに長期休暇がある。 ・夏休み 夏休みは zɪn ɑəl の終業式の翌日から始まり、ディアセルを通って zɪn 末まで約一カ月弱の間続く。dɪl ɑcɪ から新学期を迎える。 日本では dɪl ɑcɪ は８月１０日ごろなのでアルバザードでもまだ暑さの真っ盛りで、学生は暑い暑いと文句を言いながら登校する。 ただ、アルナや特にアルシアではわりとすがすがしい。 ・秋休み 冬休みの前に秋休みというのがある。秋休みは ɥəs lən の終業式の翌日から始まり、メルセルを通って ɑcɪ jeɥ まで約二週間続く。ɑcɪ ɥɪu から新学年を迎える。 ・冬休み その後一カ月半ほどして lcj の月が丸々冬休みとなる。この前後が最も寒く、体に堪えるためである。 アルバザード、特にアルナは比較的緯度が高く、夏より冬のほうが厳しいため、冬休みは日本より長い傾向にある。 ・春休み 最後に、ɑəl ɑcɪ_ɑəl jeɥ までの二週間が春休みである。

nɪleſ ［名詞］悪酔い ［類義語］ɒɪdɥcs ［レベル］3 古 :nɪləſ ←nɪləſ（飲むな）。リディアは酒に極めて弱く、子どものころ使徒に飲まされたところ、やけに陽気になって仲間に絡んだり抱きついたりした上に服まで脱ぎ出したことを受け、アルシェはリディアに禁酒令を科した。しかし日本で飲んでセレンにキスをしたり、アフリカで飲んで服を脱いだりを繰り返した。このようなことが数回起こったため、「飲むな」で悪酔いをしているリディアをたしなめるようになり、その後悪酔いを指すようになった。 ［語法］ ɒɪdɥcs ［用例］ ſcl nɪləſ 悪酔いする。寄って人に絡む。

nɪl ［動詞］yəl を ɪ{ſel, hɪɪj} に対して笑わせる、笑う ［再帰動名詞］笑い ［レベル］1 1ʢ: 制 :nɪlɔ̀lə(楽しい口 , 或いは楽しく言う) nɪlɔ̀lə:nɪlɔ̀lə ［語法］ 笑う対象が ɪ に来る。あざ笑うなどネガティブな場合には ſel を取り、ギャグがウケたなどのポジティブな場合には hɪɪj を取り、中立な場合に ɪ を取る。 ［文化］ uɔɥſəeɒe ［用例］ lɪ nɪlɪſ ɒcl ɪlɟeɥ. 彼女は兄を見て笑った。

nɪl(J) ［サール］ナッシュ ［レベル］5 ɒel: 古 ［文化］ イーナという妹を持つ。イーナに誘惑され、婚約者を裏切ってイーナと姦淫し、エルトに咎められ、切り殺される。

nɪlɥcnɟəl ［名詞］お笑い番組 ［レベル］3 1L ［文化］ 日本にあるようなものはない。ユーモアを中心としたトークショーが nɪlɥcnɟəl に当たる。 ［用例］ nɪlɥcnɟəl l'eſ bɪn cn eɒ jcl ʾlɪl cɒ uɪ ɥzɔn cn. 面白そうなお笑い番組が７時からあるみたいだ。

nɪlcɥcj ［形容詞］［ポジティブ］心が細分化されている、心の機微が分かる ［反意語］ɪlnɪlcɥcj ［レベル］3 JO:nɪ/clcɥcəj ［語法］［文化］ → jeɥnɪ 自分の感情を様々な表現で正確に表現できるさま。反対に、例えば嫌なものは「うざい」だけで片付けるような状態が ɪlnɪlcɥcj。nɪlcɥcj は知的で風流だというイメージがあり、良い意味で使われる。繊細で傷つきやすいとか神経質という意味では使われず、機微が分かるという意味で使われる。ɪlnɪlcɥcj は悪い意味で使われる。

nɪlcl ［名詞］魂の故郷、心のふるさと、心の居場所、精神的よすが、居場所、精神的居場所、心のよりどころ、よりどころ ［類義語］ɥəlclɔ ［レベル］4 JO:nɪ/ɥəlclɔ（心の故郷） ［文化］ 子供のころずっと住んでいたところが ɥəlclɔ であり、これは肉体的なものである。対して nɪlcl は精神的なもので、子供のころに慣れ親しんだ作品や考え方を指す。作品とは主に絵、文、ゲームなど、芸術的な内容である。これらのうち、特に自分に色濃く影響を与えたものを nɪlcl という。 ［用例］ ɑcɪueeɥ lɪɟſ eſ nɪlcl e jeɥen. セレンにとってＦＦ４がナシルだ：lɪɟſ を使っている点でもうひとつの主張をしている。

nɪleʃ ［音楽］楽団、バンド、楽隊 ［レベル］4 ʃ1:nɔl/ɪleʃ

nɪʒ ［動詞］nɪ/ej ［レベル］2

nɪʃ ［生物］肘、肘頭 ［反意語］ɒcʃ ［レベル］1 jɒpʃ 1θ: 制 :nɔʃ 古 :jə（肘）、nə（膝） jə:jə ［語法］ 肘打ちの打突点を中心にその周囲。肘の裏は含まない。そこが痛いときは肘が痛いですとは訴えない。ɪlnɪʃ が痛いという。

nɪʃɔɔɪn ［生物］曲池 ［レベル］6 ʃ1

nɪʃɒɪɑ ［武道］肘打ち、肘鉄 ［レベル］3 μɑ;/ ʃ?

nɪʒ ［動詞］ɥəl を納得する、納得する ［感動詞］なるほど、成程、了解 ［レベル］2 1θ: 制 : 古 :nɪʒ（納得する）。「心が場所を得る」。

nɪɟ ［生物］卵子、卵（らん） ［レベル］3 @ 1L

nɪɟɪɔɒ ［生物］卵管 ［レベル］5 1L

nɪɟɪez ［生物］卵巣 ［レベル］3 1L:ɩcɔn

nɪɟɪezdcφ ［医療］卵巣がん ［レベル］6 1L

nɪɟcɩa,ɪlʃ bɪn nɪ/ɟcɩɑ

nɪɟɔɔɩɥəɔ ［言語］感情動作動詞 ʃ0 ［語法］ nɪl, ɪɟel, ɪəʒɪl など。

nɪn [μenʃe] 自分 ［レベル］1 中期制アルカ

nɪn,ɟzl nɪ、cn、ɔnnɪ、nɪnnɪ ‹ nɪ

nɪn,ɪlʃ ɥəə

nɪnʃɪ ［魔法］奇門遁甲 ɪlʃ ʃθ

nɪnʃc ［ジョブ］遁甲家 ɪlʃ ʃθ

nɪnʃɔ ［人名］ナント ʃɑu;e ʃθ ［文化］ アッティと人間の娘の間に生まれた息子。

nɪnʃɔcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］オリオン座 ʃθ ［文化］ cɑɪ

nɪnʃe ［名詞］主体 ［反意語］ɔleʃ ［レベル］4 μɑ;nɪn/ʃe「自分のような」 ʃ?

nɪnʃeeɒɔ ［経済］財団法人 ［レベル］5 μf;/ ʃ?

nɪnnɪ ［文末純詞］[μenʃe] ɔnnɪ ［レベル］1 1Δ:μcɑɑɪ ::nɪn

nɪnnɪ(J) [μenʃe] nɪn の複数形、自分たち ［類義語］nɔɟɟe ［レベル］1 1L:ɩcɔn

nɪnnɪl ［代詞］自分たちの ［類義語］nɔɟɟel ［レベル］1 ʃ0

nɪnɩɪ ［地名］ナンラ ɟɒ‹ɥɒ ʃ? ［文化］ ヴェマ内陸部の地域。東西はほぼ中央、南北はほぼ最南端に位置する。

nɪnɩɪeʃeʒ ［料理］プーアル茶、普洱茶 ［レベル］4 μɑ;/ ʃ?

nɪnɪ ［名詞］女の赤ん坊 ［反意語］ɩlnɪnɪ ［レベル］2 古 :nɪnɪ（赤ん坊）。赤ん坊の擬声語が nɪɪnɪɪ。 ［用例］ nɪnɪ enɪɟ liuel. 赤ん坊がぎゃーぎゃー泣いている。

nɪnɪ(J) ［代詞］［bʃn］ɪn ［レベル］2 ʃʃ:ɔbccμ/μcɑɑɪ

nɪnɪ,ɪlʃ ʃc nɪ/nɪ

nɪnɪʃə ［代詞］［bʃn］ɪnʃ ［レベル］2 ʃʃ:ɔbccμ/μcɑɑɪ

nɪnɪɔ ［被服］女袴、ななこ ［類義語］ɔlnɪʃɪ ［レベル］4 ɟɒ;‹ɪlʃ ʃθ ［文化］ 日本の大正時代の女学生の袴のような服。凪ム女性の一般的な衣装。ɔlnɪʃɪ と違って股が分かれておらず、スカートに近い。ɪɒɪφɪʃɪlc 用の戦闘服・作業服だったのが一般女性にまで広まったもの。

nɪnɪɟje ［代詞］［bʃn］ɪnɟ ［レベル］2 ʃʃ:ɔbccμ/μcɑɑɪ

nɪnɪɟɟeʃə ［代詞］［bʃn］ɪnʃej ［レベル］2 ʃʃ:ɔbccμ/μcɑɑɪ

nɪnɪn ［文末純詞］なんちゃって、〜みたいな ［名詞］ギャグ、ジョーク ［レベル］2 古

nɪnɪɑeɒe ［地学］［歴史］古原生代 ［レベル］6 ʃl;/ ʃ? ［文化］ φɪɪueɑeɒe 原生代（原生累代）の中の３つの代の中の最初のひとつ。２５億から１６億年前までにあたる。この時大陸がはじめて安定した。そして光合成によりエネルギーと酸素を作り出す微生物、シアノバクテリアが誕生した。

nɪnɪɒc,ɪlʃ ʃc nɪ/nɪɒc

nɪnɪl ［生物］赤ん坊、赤ちゃん、あかちゃん ［レベル］2 μɑ;nɪnɪ/ɪl ʃ0:nɪnɪ/ɪl

nɪnɪɪɒɔ ［名詞］ベビーカー、乳母車 ［レベル］2 1L

nɪnɔ ［医療］ナノ、陰気な性格 ［レベル］4 ʃ1:ueμn/nɪ ［文化］ ɩɪpelcɪ

nɪnɔ(J) ［代詞］［bʃn］ɩɔʃ ［レベル］2 ʃʃ:ɔbccμ/μcɑɑɪ

nɪu ［動詞］ɥəl に固執する、固執する、執着する、こだわる、頓着する、しつこい ［形容詞］しつこい、粘着質な、粘着。nɪuɪn の形で。 ［反意語］ɒcb ［レベル］3 古 :nɪu,nɪuɪɑe「負けるな」。nɪu は nɪuɪɑe の略とも頭字語化ともいわれる。アルカは幻字を使っていたので、頭字語は口語上で英語などに慣れているものが勝手に作っただけでその数は少なく、nɪuɪɑe の略と考えるほうが自然か。 ［用例］ ucl nɪuɪn しつこい男

nɪuɩclj ［ネガティブ］［形容詞］［副詞］いちいち、一々、ちくいち、逐一 ［レベル］3 1L:μcɑɑɪ:ɪμbɪlelʃ

nɪun ［動詞］ɥəl を第六感で知覚する、知覚する、感じ取る、察する ［文末純詞］第六感での推量。〜な気がする ［レベル］2 1ʃ: 制 :nɪuc

nɪuɪ ［形容詞］神経質、ナーバス、気難しい ［レベル］3 1ʃ: 制 :nɪuɪjʃ「気持ちが戦っているように苛立つ」であり、英語のｎｅｒｖｏｕｓとは無関係。

nɪuɪj ［動詞］ɥəl と対立する、対立する ［普通動名詞］対立、いさかい、諍い、抗争 ［レベル］3 1L:ɩlɒəj:μcɑɑɪ:nɪ/uɪj（心で戦う） ［語法］ 基本的には手を出さずに対立すること。物理的攻撃を加えない争い。殴りだすと ʃɔu に近付く。さらに規模が大きくなると uɪj になる。 ［文化］ いさかいが起きたときは第三者を交え、お互いの意見を良く言い合い、妥協点を見つけて解決する。アメリカのように一々法廷に持ち込まない。話し合っても解決しない場合は法廷に持ち込み、審議を受ける。民事の場合、裁判費用は敗者が持つ。

nɪuc ［名詞］勘、第六感、直感、虫の知らせ ［動詞］無意識に ɥəl を直感する、直感する ［レベル］3 古 :nɪuc（勘。「心の力」から）。或いは nɪucucɑ からか。 ［語法］［文化］ uccɑ を知覚するための器官で、アテンに備わっている。アテンの体内には uccɑ があるが、uccɑ の量は晄圧と体積の積に比例する。体積は人間であれば大差ないから、問題は晄圧である。nɪuc はこの圧力や総合的な uccɑ の量を感じることができるため、相手の強さが分かる。 ɒejʃ ができてからは感覚的な計測だった強さが数値を用いた計測になった。さらに魔法鏡ができると目盛りを使って細かく強さを測れるようになった。 現代人は nɪuc がほとんど退化しているが、予感などとして現れることがある。例えば相手のセレスが弱くなり死を迎えているのがなんとなく分かる場合、それを nɪuc で感じ取ることがある。死は視覚や嗅覚などでもある程度分かるが、nɪuc でも感じ取ることができる。そのほか虫の知らせも一部 nɪuc が関与していると考えられている。 ［成句］ nɪuc dμejʃ(en) 嫌な予感がする、悪寒がする ［用例］ ☆ nɪuc ɪʃ dcl. ピリピリしていた。

nɪucɩj ［化学］チロシン 1L:jeμen: アドレナリンなどの神経伝達物質を作る材料となることから。

nɪue ［言語］モダリティ ［レベル］6 μɑ;/ 1L

nɪueɒ ［感動詞］ありがとうございます、もったいのうございます、恐れ多いことでございます ［レベル］3 古 :nɪ/ueɒ

nɪueμ ［名詞］不安 ［形容詞］不安な ［類義語］ɑcɟφɪcz ［反意語］nɪl ［レベル］2 1L:nɪ/ueμn（心が崩れるような） ［語法］ nɪ が既に入っているので、コロケーションは ʃcl nɪueμ（不安だ）で良い。 nɪueμ は不安。ɑcɟφɪcz は不安と絶望の混じった気持ちで、nɪueμ より一般的に強く、原因も明瞭である。「あぁこれから発表だ。大丈夫かな、緊張するなぁ」という軽度のぼんやりとした不安は nɪueμ。電車で腹が痛くなるかもというのも nɪueμ。「今までこの仕事しかしてこなかったけど、もう需要がない。しかし４０過ぎて転職してもどこも使ってくれない。このまま金もなく老いて餓死か孤独死か……」というような不安に絶望が混じった深刻なものが ɑcɟφɪcz。 nɪueμ はドキドキし、心拍数が上がり、キリキリした胃痛になる。ɑcɟφɪcz は鬱になり、過去のことばかり思い出し、不安で電車に飛び込みたくなり、背中やみぞおちを中心に重苦しい胃痛がする。よって両者の弁別は容易である。 ［用例］ jeɑ nɪueμ 不安を拭う、心を保つ ɪn ʃclɪʃ nɪueμ. 心が不安だった。 ɪn ɒɔʃ uɪn cɒ ɑcj ɔʃ nɪueμ ɩɪl ɔnen ɒɪcl. lcɑ cɪʃ 今夜は化学に対する一抹の不安を抱きつつ寝る。おやすみ。

nɪueμnɪuə ［医療］不安障害 ［レベル］5 1L

nɪueμueμɪnʃ ［医療］クラスターＣ。人格障害の。 ［レベル］5 ʃl;/ ʃ?:ɒel

nɪɑ ［建築］階段 ［生物］分類階級。タクソンの集まり。 ［音楽］グリッサンド。縦ロールの楽譜でもグリッサンドはきちんと階段状になる。 ［レベル］2 1ʃ: 制 :nɔɑ。対というほど段と階段は意味が接していないので、単なるアプラウトによる意味変化として残した。 ［文化］ 日本と同じような階段である。手摺がついている。途中で畝って曲がることもある ［用例］ ɒɔɑ

nɪɑ. 階段を昇る

nɪɑʃ ［名詞］感動、感心 ［形容詞］感心した ［動詞］ɥəl を感動させる ［レベル］3 1θ ←古 :nɪɑɪc（心が熱くなる） ［用例］ ʃcl nɪɑʃ ɒɪnʃ{ɔn} 感動する

nɪɑ. ʃ'ɪμɩɪ ［ユマナ］アルカの階段 ［レベル］4 ʃ? ［文化］ セレンがアルカに関わりだしたのは９１年のことだが、９３年の１０月に初めて自分の意思で人工言語を作ろうとした。それが神無アルカである。後に９４年になると、２年になり、恐らく秋ごろだと思うが、クラスメートがオリーブ色の水性ペンを持っており、それがカッコいいと思い、近所の文房具屋で買った。赤アンクノットや小説版アンクノットのノートを買った店でもある。そのペンを何に使おうか考え、「そうだ自分だけの言葉で自分たちの仲間と話せたり、休み時間人気のない廊下で一人で謎言語で呟けて、仮に通りすがりに聞かれたとしても何言っても解読されないのは凄いぞ」と思い、アルカをもとにというかアルカを改定して自言語を作ろうと考えた。そこで後の赤アンクノットとなるコクヨの１００ページノートを買い、オリーブペンも買い、９４年にアルカの改定案を作った。これが自分で初めてアルカを作ろうと思った最初の出来事である。 それで、その「自言語で話せたらカッコいい」という考えは、当時中学がいくつかの棟に分かれており、自分の教室から一番離れた棟の３階前後を下っているときに思いついたものである。当時から人嫌いで休み時間は遠くの人気のないトイレに行っていた。自分の行動パターンからするに４階奥のトイレだろう。そこで用を足して戻る最中にアルカを思いついたのではないか。２年のときは２，３階が自分の教室だったので、下っているということは、トイレから出て教室へ戻るときではないか。あるいは音楽室辺りから戻る際に思いついたかもしれないが、記憶では一人で人気のない階段を降りていたので、恐らく休み時間の散歩中だろう。トイレは確証ないが、休み時間の散歩については確証がある。 そこでその階段というのが右の画像である。ちなみにこの写真は卒業後に文化祭で撮影したものである。アルカをやろうと思いついたのは赤ずきんチャチャというアニメが一旦放送終了になると新聞に書かれていたころであり、クールの境目で、大魔王を倒した５０話あたりかその前のクールかのどちらかだと思うが、判然としない。チャチャが終わるかもというころにオリーブペンを見たような記憶が残っているだけだ。体感的には中２の秋ごろではないかと思うが、赤アンクノットにも記載がなく、９８年に中２ではあるがいつかは分からないと推測が書かれているので、１２年から見たらなおさら分かるわけがない。 追加検証してみたのだが、赤ずきんチャチャの１クール目が終わったのは２３話で６月１０日放送の「戦え！卒業試験」だそうだ。これだと記憶よりだいぶ遠いし、まだ大魔王を倒していないので終わりというイメージがない。大魔王を倒して最終回という誤情報を新聞で読んだ記憶があったのだが、大魔王を倒したのが５０話で１２月１６日放送の「愛と勇気と希望の大決戦」だそうだ。当時はコボちゃんを読んでいたので図書館でこの日かこの前後の週の読売新聞を調べれば赤ずきんチャチャに「終」のような文字が書いてあるのを確認できるかもしれない。「終」が仮になくともちょうど学校でチャチャが終わるの？という話をしていた前後にオリーブペンを購入した記憶がある。いずれにせよ１２月１６日前後ならアルカの階段が秋ごろだという記憶にも合致するし、学校もまだ冬休みに入っていない。赤ずきんチャチャの最終回という誤情報が入った前後にオリーブペンを買った記憶がある。そしてそのペンとともに、あるいはほぼ同時期に後の赤アンクノットとなるノートを買っている。それらを買って最初のアルカの改定案を作った。だから間違いなく中２なのだが、やはり時期は１１，１２月ごろの晩秋となろう。やはり記憶は正しかったのだ。 更に追記。図書館で９４年の読売新聞を調べてきた。６／１０には「終」の文字はなく、１２／１６にも意外なことになかった。１２／９と１２／３０も調べたがなかった。３０日は年末なのでチャチャ自体がなかった。その翌週も調べようかと思ったが、もうとっくに冬休みに入っているので学校に行っていないので記憶と合致しない。あの最終回マークがついていてチャチャが終わると勘違いしたという記憶はなんだったのであろうか。

nɪɑɩɔʃɪn ［農耕］棚田、段々畑 μɑ;/ ʃθ

nɪɑɒcu ［名詞］としご、年子 ［レベル］4 ʃ1: 「階段状の子供」

nɪɑhɪɑ. ［数学］階乗 ［レベル］5 μɑ;/「階段乗数」 ʃ? ［文化］ → ɪlɑμen ・０！＝１ μɑ で地球に先駆けリュウが発見した。この際０！＝１と定義された。メル、リュウ、リディアはこの考えに賛同したが、セレンだけは納得しなかった。 彼は「言葉で表現できないものは信用できない。数学語はアルカに翻訳しなければ信用できない」と言い、ｎ！に関して「ｎが１になるまで１つずつ減らしていってかけていく」という翻訳を拒んだ。この翻訳だとｎが１より小さいときに階乗を定義できないので、０！＝１は定義できないためである。 そこでリディアは「階乗はｎ個の要素の並べ方の個数を表すと定義すれば、０！は『何もないものを並べる並べ方』なので『並べない』の一通りがある。よって０！＝１と言葉で解釈できる」と述べ、セレンを納得させた。

nɪɑμ ［形容詞］容易な、気楽な、楽な。辛いの反対。 ［反意語］ɪcn ［レベル］2 古 : 心を伸ばす。古にあった単語でなく、古形から作ったもの。 ［用例］ bcɩl. lib nɪɑμ 楽な仕事が欲しい

nɪɑμʃ ［魔法］多段魔法 ［反意語］jcɩɪμʃ ［レベル］4 1L ［語法］ ɑɔlɒcɥə 威力を段階ごとに調節できる魔法。火、水、風など、基本属性の魔法はすべてこれにあたる。例えば火を出す黒魔法のファイがそうである。魔法はふつう低位・中位・高位に分かれるが、多段魔法はこのうちのどれにでもなれる。呪文を何行目まで読むかで低位から高位までに発展する。ファイの場合、ɑɪc だけだと低位になり、１・３行目が入ると中位になり、そこにさらに２行目が入ると高位になる。分かりやすくいえば、ファイア・ファイラ・ファイガである。あるいは、メラ・メラミ・メラゾーマのことである。 中位のファイと高位のファイは魔法の撃ち方や効果が異なる。単に威力の差ではない。世界最高の魔道士リディアの低位のファイとクミールの中位のファイでは前者の方が強い。分かりやすくいえば、「今のはメラゾーマではない。メラだ」である。 むろん、同じ術者によるものなら、高位のほうが強い。

nɪɑμɪnɔz ［音楽］スウィープ奏法 ʃ1

nɪɑel ［名詞］心理学 ［レベル］4 μɑ;/ ʃ?

nɪɒ ［生物］神経 ［レベル］4 1ʃ: 制 : 古 :nɪɒelc(感じる糸) ［用例］ nɪɒ dcl 神経が鋭い、神経質な nɪɒ ɑcɒ 神経が細い

nɪɒʃ ［名詞］注意 ［動詞］ɥəl に気をつける、気をつける、気を付ける、気を付けさせる、用心させる、警戒する、注意する、マークする ［反意語］ɪlɒ ［レベル］2 1θ: 制 :nɔɒʃ: 古 :nɪləəɒc（心がない） ［成句］ ʃɪɑ nɪɒʃ 気を引く、注意を引く ［用例］ ɪn ɑɔnlɪʃ aej nɪɒʃel. 失敗しないように気を付けた。 ɪn nɪɒʃɪʃ aɪl uecnel. もう少し気を付けるべきだった。 el nɪɒʃ aɪl cɒ ɔdn ɪɒɔ. 車を運転するときは気を付けなければならない。 μe nɪɒʃ ɪɒɔ. 車に気を付けなさい。 ɪn nɪɒʃ aɪl lej nɔj ʃəc. 食べるものに気を付ける必要がある。

nɪɒj ［名詞］印象、イメージ ［動詞］ɥəl をイメージする、イメージする。格組は lɔʃcl と同じ。 ［レベル］3 1θ: 制 : 心の中の形

nɪɒjlecj ［芸術］イメージボード ʃl;/ ʃθ ［用例］ ɥɪn nɔn ʃles aɪn nɪɒjlecj lc ʃɔlʃ μɪ. それで、家に帰ったらイメージボードを作ろう。

nɪɒjeɥn ［生物］神経組織 μf;/ ʃθ

nɪɒd ［地名］ナンプ ［被服］パンプス 1ʃ | μf; ナンプでできた靴。 ʃθ

nɪɒdɪnʃ ［生物］神経系 μf;/ ʃθ

nɪɒc,ɪlʃ nɔn nɪ/ɒc

nɪɒcμ ［形容詞］感受性が強い、感情的な ［反意語］nɪlen ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj:nɪ e ʃɒccμ（クミールの心） ［語法］［文化］ → jeμnɪ oclʃ は感情の起伏が強い様を示し、nɪɒcμ は感情の変化が起こりやすいことを示す。

nɪɒɔ ［名詞］態度、様子、愛想、物腰 ［動詞］ɥəl のように振る舞う、振舞う ［類義語］nɪcɒ ［レベル］3 1θ: 制 :nɪ（心）/ɒɔ（形） ［語法］ → nɪcɒ 「〜がよい」は μɪʃ でなく ʃcl で現すことが多いアルカでは、日本語との違いに注意。「彼は態度が良い」は lɪ nɪɒɔ eʃ μɪʃ ではなく、lɪ ʃcl nɪɒɔ。 ［用例］ jc nɪɒɔ 態度が悪い ʃə ɪʃ zɪl ʃel lɪ nɪɒɔ uɪnɑɔl. 彼があのように振る舞ったのは奇妙だった：動詞用法。稀。 μen nɪɒɔ jɔlɔl いつものように振舞って μen nɪɒɔ nce

普通の人の振りをして　μen nɪɒɔ hɪɪjɪn 従うようにして、(子供に対して) いい子にして

nɪɒɔ,ɑ　eɒʃ　nɪ/ɒɔ「心が下に」

nɪɒɔl　[形容詞]心が愚かな、心がバカな、精神的に愚かな　[類義語]lecʃ　[レベル]３　Jl0: 古 nɪ/ɒɔl (心が低い)　[語法]　知的に劣っていないが、精神的に愚かなさま。例えばスイーツはバカだが、一流企業に勤めていれば心だけバカなので nɪɒɔl となる。

nɪɒe　[法律] 猎予、モラトリアム　[レベル]４　1ʔ: 制 : 古 :nɪɒelʃ 〜しない時間 」。

nɪɒeʃ　[動詞] ɥəl をうつむかせる、うつむかせる、俯かせる、俯く、うつむく、うなだれる、項垂れる　[動詞] ɥəl を元気なくがっかりさせる、がっかりさせる、鬱にさせる　[反意語] ɪlnɪɒ eʃ　[レベル]３　J1:μcɑcɪ:「心が落ちる」　[文化]　俯くことは心が落ち込み、元気がなく憂鬱であることを指す。このため、俯くという行為自体が望ましくなく、しばしば不健康で行儀の悪いこととされる。　この考えは là̰leʃcɪ から継承したものだが、現代科学的には頚部の神経が圧迫されることで自律神経の乱れを起こすことから整合性がある。　現代社会はデスクワークなどで俯きが多く、ɟɪc と ɪnɟe の登場で俯き病が増えたことから再注目されるようになった。ɪlnɪɒeʃ も体に悪いが、通常この動作をすることは少ない。　[用例]　ʃe nɪɒeʃ uecl ʃcl leun e. 俯かないこと。病気になるよ。　lɪ nɪɒeʃeɟ ɒcl ɥeɫ. 彼は失敗して落ち込んでいる。

nɪɒel　[法律] 規制が緩い、厳密でない、人の態度が厳しくない、甘い、いい加減な、ずさんな、寛大な、杜撰な　[反意語] nɪɑɔn　[レベル]３　1L:nɪɑɔn に対して「メルの心」とした。使徒規則を破ったり、約束を守らないルーズな性格であることから。　[用例]　ɔz nɪɒel ゆるい規則

nɪɒelʃ　[名詞] 時間の感覚、時間感覚　[レベル]４　J0:μcɑcɪ:ɒcμɔɫ: 心の時計

nɪɑ　[動詞] ɥəl (内容) を懸念する、懸念する、心配する、憂う、憂える、愁う、危惧する　[類義語] nɪlʃ　[レベル]３　1L: 古 :nɪɑɪɑɪj (心が重い)　[語法]　人を心配するという意味ではなく、期待の反対。こないでくれという不安な気持ち。　[成句]　nɪɑ ʔeefɔcɪ lɔnʃ ɟɔ ɪμbɪzɪμɑ 内憂外患　[用例]　ɪn nɪɑ nɔj uɪjʃ ucl pɪnɪlı. 大学に受からないのではないかと思った。　☆ ʃə ɥeʃ ɥeʃ ɑɪz ɪl ɪn nɪɑ. それは心配するほどのことではなかった。　ɪn nɪɑ lej ɪn jɔʃ cɒ ɑcj. 今日したことが心配だ。　ɪn nɪɑɪʃ ɑɪφɑel ɒcl nɪueμ. 不安でやきもきしていた。　ɪn nɪɑ nɑɑe. 成績が心配だ。　ɪn nɪɑ ueμj jɔɑel jɔn. ささいなことにもすぐ心配してしまう。　ɪn nɪɑɪʃ enɪɔ uɔμʃ jɪʃ. 心配で死にそうだった。　ɪn nɪɑ ɪlɪɪl lej nɔj jɔʃ. 自分のしたことに絶対心配しない。　ʃə ɑe ɑɪz ɪ nɪɑ. 心配には及ばない＝心配するほどのことではない。　ɪn en nɪɑ leun. 健康には心配していない。　☆ ɪn ɑɔnlɪʃ μjccl nɪɑ ɪn. 両親に心配をかけないようにした。

nɪɑɒɪn　[名詞] 心配の種、心配の原因、心配事　[レベル]３　1L　[用例]　ɪn ʔelɪʃ enzel nɪɑɒɪn. 心配事を忘れようとした。　ɪn jc nɪɑɒɪn. 私には心配事がない。

nɪɑɔn　[形容詞] 規制などが厳しい、細かい、厳密な、厳粛な、厳正な、厳格な、人の態度が厳しい、甘やかさない　[反意語] nɪɒel　[レベル]３　古 :nɪɑɔɪn,nɪɑɔnʃ「リディアの心 」が原義

nɪɑɔɪ　[歴史] ナディア時代、悠久の凪砂、ゆうきゅうのなぎさ　[レベル]３　古 :nɪ/ɑɔɪ「夢見心地」　悠久の凪砂の凪砂は大航海時代の表れ。　[文化]　オーディンの後、アルティルの前の時代。

nɪφ　[動詞] ɥəl を飲み込む、飲み込む、嚥下する、飲む　[擬音] ごくっ、ゴクッ　[動詞] [ネガティブ] ɥəl を疑わずに信じる、信じる、受け入れる　[類義語] len　[レベル]２　1L: オノマトペ　[成句]　nɪφ lɔu → lɔu　[用例]　ʃe nɪφ lec. 本に書いてあることをむやみに信じないで。

nɪφc　[アイテム]ナギ、霊水、ポーション、薬草　[医療]栄養ドリンク　[レベル]３　1L:μcɑcɪ: 古 nɪ/φc (金属を入れるな)　[文化]　少量のヴィード傷を癒すアイテム。白魔法エリアによって作られたもののうち、最も安価で使い勝手の良いもの。カコで神聖さを増すために銀を入れたところ、体調不良を訴えられたため、ナギのあだ名が付き、そのまま固定した。　ul 以降は栄養ドリンクの意味になった。

nɪφc,ɪlʃ　ɪlʃcɪ

nɪφcɟɪ　[アイテム] ナギサ、霊粉、ナギの粉、癒しの粉、ハイポーション　[組み数字] 9 / 1 2　[レベル]４　1L:μcɑcɪ: 古 nɪφc (ナギ) /ɟɪ (絹、粉)　[文化]　ナギを散剤にして持ち運びやすくしたもの。ナギの水分を蒸発させ、残った魔晶をナギサとして得る。

nɪφcɟɪ(J)　[名詞] アルティア人、凪人、凪紗　[アクセント] nɪφcɟʔ　[レベル]３　nɪφc/ɟɪ　J1　[語法]　ɪlʃ cɪn はアルティア在住の人を指す。nɪφcɟɪ は人種的なものなので、カレンに住んでいる人も指せる。　日常的には ɪlʃcɪn で後者を意味することもある。

nɪφcɟɪ ɑɪφcɔʃ　[人名]ナギサ＝ファギオット　1L:jeμen: 古 nɪφcɟɪ (ナギの粉)。ɑɪφcɔʃ ← ɑcφc (槍)　[文化]　ランティス・タンヴェル期のフレメルテ (一級処刑人)。女性。アルナ大学法学部出身。

nɪφcnɪ　[名詞] 腹芸　[レベル]４　jɒ;nɪφc/nɪ「凪人の心」。凪紗が腹芸を行うところからアルバザード人がそのように命名した。　J2　[用例]　ɔʃl ɑcɔnɪ lɔn nɪφcnɪ 腹芸で本音を伝える　nɪφcɟɪ eʃ ɪlʃ ɪ nɪφcnɪ. 凪紗は腹芸に長けている。

nɪφcbel　[料理] アルティア食、和食　[レベル]３　J1　[成句]　ɥɔl ɪɪlc ʔɪ nɪφcbel. 和食では箸を使え：郷に入っては郷に従え。μɑ ごろにできた慣用句。現在は生粋のアルナっ子でも子供の頃から箸を使える。

nɪφclc　[言語] アルティア語、凪霧　[レベル]３　nɪφclə　J1　[文化]　ɪlʃcɪμen

nɪφclə,ɪlʃ　ɥɔl elɑ ʃ'ɪlʃcɪ　nɪφc/lə

nɪφcɪlL　[名詞] アルティア数字　[レベル]４　J1　[文化]　十進法。0 から 10 まで順に nɪn, dc, ləda, jɪn, ɥɔɒc, ʔɪsc, ɪnɒc, ɪnjɪ, ɪnlə, ɪndc, ɪn。6 以降は１０からの引き算になっているのが特徴。五進数の名残を有する。

nɪφcefeʔ　[料理] アルティア茶、凪茶　[レベル]３　μɑ;/　J2　[文化]　緑茶を主とする。

nɪd　[名詞] 意識　[動詞] ɥəl を意識する、意識する、気にする　[形容詞] 意識した、気にした、気を使った　[副詞] わざと、態と　[反意語] ɒcɑ　[レベル]３　1ʔ: 制 : 古 :nɪdɪɪl (心の光)

nɪdl　[動詞] ɥəl を昏睡させる、昏睡する、昏倒する、意識を失う　[医療] 昏睡　[類義語]　[レベル]４　1ʔ: 制 :nɪdlc (意識をなくす)　[語法]　nɪdl は昏睡すること。病気や事故などで長く昏睡すること。nelɑ は一時的な気絶。

nɪb　[名詞] 絵の具、ペンキ、ペイント、顔料、着色料一般　[動詞] ɥəl (顔料など) を ɪ (壁など) に塗る、ɥəl (壁など) を ʔɔn (顔料など) で塗る、塗る、塗布する　[レベル]２　1ʔ: 制 :nɒɒɪb (色の材料から) 古 :nɒɒφɪɪbe (絵の具)　[語法]　ɥəl の種類によって ɥəl 以下の格が変化する。　[文化]　水彩絵具にはフェノールが含まれており、刺激臭がする。アルバザード人はこの匂いが嫌いで、絵の具＝臭いという頭がある。　[成句]　beeb ɥən nɪb 絵の具のように臭い

nɪbɪ　[芸術] パレット　[レベル]３　1ʔ: 制 :nɪbjcz (絵の具板)

nɪbc　[名詞] へら、ヘラ、スクレーパー　[料理] フライ返し→ φeʔjnɪbc　[レベル]３　1ʔ: 制 :nɪb

nɪhɥə,ɑ　ncl　ɑ:jɪɪl;nɪ/hɥə「心高い」

nɪɥə　[人名] ナユ　[レベル]３　古 :nɪɥə ← nɪsə「心を受け取った」　[文化]　学問の母。アズゲルの時代に生まれた少女。魔法学を志し勉学に励んでいたが、１４歳で死んでしまう。最期まで本を手放さなかったナユを哀れんで、ユルグが永遠の命を与えた。その後あらゆる学問を発展させていく。　[成句]　nɪɥə lɪnlɪ ɑccnɪ ɪμjɪ ɥəlφ 賢者ユルグに教えるナユ先生：青は藍より出でて藍より青し

nɪɥə(J)　[名詞] 心の痛み、心の傷　[形容詞] 感傷的な、センチメンタルな　[医療] 精神疾患の接尾辞　[類義語] ɒɪɪɥɪ　[レベル]３　古 ?　[用例]　ʃcl nɪɥə 胸が痛む、傷つく、胸がいっぱいになる、のどが詰まる　ɪn ʃclɪʃ nɪɥə ɒcɑel ʔɔnʃ ɑclj ejʔ. 雨が降るのを眺めながら感傷に浸った。　ɪn nɪɥəʃ ɥə ʔcnel. 深く傷ついた。

nɪɥəel　[娯楽] ナユメル、チャトランガ様ゲーム、二人零和有限確定完全情報ゲーム、将棋類　[レベル]３　J0:ɒeljeʃ e nɪɥə → ɒeljeʃ　[文化]　ナユを復活させたユルグは師匠としてナユに講義をした。その生活の中で雨の日の暇つぶしに考え出したものが「ナユメル」という二人零和有限確定完全情報ゲームで、チャトランガに近い。　これがアズゲルでナユを通じて人間に伝わり、各地で広まっていった。セルメルでは地球のチェスと同じルールのものが生まれ、西洋で広まった。同時期少し遅れてルティアで将棋と同じルールのものが生まれ、東洋で広まった。将棋より少し遅れて、ヴェマを中心にシャンチーと同じルールのものが生まれた。　地球と違い、ヴェマからルティアに伝来したのではない。交通手段が魔法の時代なので、ルティア〜アルバザードは海を越えてすぐだったため、むしろナユメルはアルバザードからルティアに行き、ルティアからヴェマにいったと見てよい。　アズゲルからセルメルの長い時間をかけて徐々にルールは変わっていったが、この手のゲームのルールは実に合理的にできているので、進化させていくと地球と駒や規則の同じものがバリエーションとしてできるものである。　唯一異なるのは、μɑ でメルとクミールが作ったシェルトであり、これは対応するものが地球にない。地球にないのはこのゲームが唯一練られなかったためである。　セルメル以降、ナユメルは残っておらず、二人零和有限確定完全情報ゲームを指す言葉となった。　アルバザードで有名なのはチェスと将棋であり、シャンチーは有名でない。アルティルではシャンチーは共産圏で主に広まっていたため、地理的に近くとも文化的にアルバザードから遠かった。　特に将棋は完成度が高く、最も高度なナユメルとされ、アルバザード人は「流石、魔法の国ルティア」と珍しく関心している。アルバザードではハイソな層のほうが将棋をやる率が高く、チェスは民衆的。この辺りの事情が地球とまるで異なる。　ナユメルは電子ゲームの乏しいアルバザードでは格好の遊びで、ほとんどの国民が行う。日本で履歴書の趣味欄に「読書」と書くくらい、割合が高い。プロ多数で、ふつうに食っていける。　日本と異なり、男女で分かれていない。また、たいてい女のほうが強い。日本で女が弱いのは、図形能力だけでなく、単に女の棋士が少ないからであろう。アルバザードだとナユメルは女のほうが強いものだと思われている。実際、ランキング１０の中で女は過半数を超える。ただし１位はたいてい男で、ぱっと見健常者に見えないのが特徴。

nɪɥəɔ　[言語] 感情動詞　1L　[語法]　nɪ 自体は nɪʃclɥəɔ.　ueɒ, lɔl, bɪn, eɒʃ のように、nɪ と共起できるもの。例えば nɪ ueɒ のように。これらを動詞として使うとき、心理動詞と呼ぶ。　jɔl は感情を与える人で、ɥəl は感情を引き起こされる者である。ɪn ueɒ lɪ だと、彼がお化けのように怖いのではなく、彼が「ひぃっ！」と怖がっていることになる。日本語話者は逆に捉えやすいので注意。　→ ɪleɒɥəɔ

nɪμ　[名詞] センサー　[レベル]３　1ʔ: 制 :nɪ/μ (感じる機械)

nɪμʃe　[人名]ナルテ　[組み数字] 3 / 6　[レベル]３　1L: 古 :ɪμnɪn: 神の心　[文化]　ヴァノンの３番目。男性。戒律を担当した。

nɪμʃelcl　[化学] タングステン　1L

nɪμle φμɪnʃ　[人名] ナルシェ＝グラント　[レベル]５　古　[文化]　４期２代アルシェのルシーラ。男性。

nɪμɪ　[名詞] リムジン　[レベル]５　1ʔ: 制 : 古 :nɪμɥɪsc(触るな)

nɪμc　[形容詞] 身分が低い、卑しい、下級の、下賤な、低級な、良くて凡庸、悪ければ身分が低い、家柄が悪い　[反意語] ɒclɪ　[レベル]３　@ 1L

nɪμen　[言語] 母語、マザータン　[類義語] nɔj)lμen　[レベル]４　J1:nɪnɪ/μen

nɪμeɒ　[魔法] 霊気　[レベル]４　J1:nɪ/μecɒ　[文化]　幽霊を知覚するための感覚。μecɒeμn が現実の存在だった μɑ までは μecɒ だろうと犬だろうと等しく誰にも見えていたが、μecɒ が滅ぼされた nɑ 以降は μecɒ が存在しないので、μecɒ が見えるなどという特殊能力は嘘とされている。単にそこに μecɒ が生き残っていれば見えるし、そうでなければ見えないだけの話である。ただしこれは ɪɑel に即した価値観であって、ʔɔlɪn などアルティアの概念については当時のアシェットは何も見解を示していないため、見えないものがいるかもしれず、霊感という特殊能力を持った人物はいるかもしれない。

nɪzl　[名詞] 鉛　[レベル]４　jɔμn

nɪzlʃeje　[化学] 鉛蓄電池　[レベル]５　1L　[文化]　ナディアで開発された。

nɪzlnɪ　[名詞] 無神経な、ＫＹ、空気が読めない　[反意語] ɑlcɪnɪ　[レベル]４　μɑ:μcɑcɪ;/「鉛の心」　J0:μcɑcɪ　[語法]　ɑlcɪnɪ は人の感情を汲み取って気遣うのが巧いこと。nɪzlnɪ はその反対で、そういう気遣いができないこと。　[用例]　ʃcl nɪzlnɪ 無神経だ

nɪzllcl　[化学] 鉛→ nɪzl　[レベル]４　1L

nɪzel　[地名] ナゼル　J1　[文化]　ルティア北東部の中都市。

nɪl　[名詞] 安心、安堵、気楽、平静　[形容詞] 安心した　[反意語] nɪueμ　[レベル]２　1ʔ:jeμen:ʔlel:jcɑ:nɪlμɪ (心が軽い)。オヴィは始めこれを「浮気性である」と勘違いして解釈し、覚えていた。　[語法]　nɪ が既に入っているので、コロケーションは {ʃcl nɪl (安心だ) で良い。nɪ でも可。　[用例]　ɪn ʃclɪʃ nɪl. 安心した。胸をなでおろした。胸を撫で下ろした。　☆ ɪn nɪl{ʃclɪʃ} nɪl ɒɪn ʃə en eɒɪʃ ucjʃ. それくらいで済んで良かった。

nɪlʃ　[軍事] [建築] 城、砦　[レベル]３　1ʔ: 制 : 古 :nɪləɪ (入るな)　[語法]　敵の進入を防ぐために特別な防御を施した建物。戦場では砦。　[成句]　nɪlʃ hɪlen ʃceμ 砂上の楼閣　dɔɪ ɒɔʔʃ ʔɪ nɪlʃ 城で寝床の話をする：公私混同。宮中でできた言葉。　[用例]　ɪn lɪɑɪʃ nɪlʃ uɔl hɪnʃ leɪ. 砂を積み上げて城を造った。

nɪlʃɪμɪ　[人名] ナルトカヤ　[組み数字] 5 / 1 4　[レベル]４　語源不詳　[文化]　(→ –L dɪl ucɔθ)　第４期３代アルシェ第５使徒。男性。

nɪlʃɪμɪlcl　[化学] サマリウム　1A: 制

nɪlʃuɪj　[軍事] 攻城戦、籠城戦、籠城　[レベル]４　J1

nɪlʃbɪl　[建築] 城壁　[レベル]５　μɑ;/　J0

nɪlʃɪ　[単位] ナルタ、１６００メルフィ、２キロメートル　[レベル]３　古 :nɪləəɪ,nɪlʃ,nɪlʃɪɪ,nɪlʃɪ。城を表わす nɪləəɪ と同じ語源だが、ここでの入ってはいけない場所は学校を表わす。

nɪlʔɔ　[動詞] ɥəl に気付く、気付く、きづく　[類義語] lɪʔl　[レベル]３　μɑ;nɪ/ləɔ「心が至る」　J1　[語法]　lɪʔl　[用例]　nɪlʔɔ hɪʃcɪ 好きだと気付く

nɪlL　[動詞] ɥəl (相手) を心配する、心配する、きづかう、気遣う、気づかう、大丈夫かと心配する、気を揉む　[形容詞] (nɪlLɪn で) 心配するような、心配そうな　[類義語] nɪɑ　[レベル]３　1L: 古 :nɪl/lɪ (安心があるように)

nɪlle　[アトラスの国家] ナルシェ　[レベル]４　J2:μcɑcɪ　[文化]　面積：ᚹᚫᚳᚹᚩᚱᚩᚱᚩᚱᚩ ᚳᚩ ᚩ

nɪlleʃ　[言語] 安否の挨拶。手紙。　[レベル]４　J1:nɪlL/ʃe

nɪlleɑ　[名詞] 安堵の溜息をつく　[動詞] ɥəl に安堵の溜息をつかせる、ため息をつく　[レベル]４　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

nɪlj　[名詞] 現象、フェノミナン、フェノミナ、自然現象　[レベル]３　1ʔ: 制 :nɪʔlcj (知覚する事柄)

nɪlncɪ　[植物] ʔɒcn　[組み数字] 7 / 9　[レベル]４　jzl;nɪ/ɪl/nɪcɪ「心安らぐ」　J1

nɪlncɪ(J)　[言語] [文字] 標準イタリック体、ナルニア書体、ナルニア　J1:aleɑclɪnj　[文化]　aleɑclɪ nj

nɪlncɪj　[名詞] 希望　[組み数字] 1 / 6　[類音] nɪlncɪn　[レベル]３　J0:nɪ/nɪcɪ (心の支え)　[語法]　心の支えとなり生きる希望となるもの。何かしたいという意味の希望ではない。

nɪlncɪjμecn　[組み数字] 希望賞　[レベル]５　J1　[文化]　→ μɪdɪlL　六柱心。人間を支える６つの感情で、希望、愛情、信念、不屈、正義、誇りのこと。これを持っている人間は窮地に立たされても生き抜く確率が高く、生命力がある。μɑ でセレンがアシェットの長い苦労を振り返って諦めずにやり遂げるのに必要だった心を６つにまとめ、ランキングにして組み数字に採用した。物事を成し遂げるだけでなく、絶望から這い上がる支えにもなる。実際アデュに収容されて生きて出てこられた人はこれらを持ち合わせている比率が高い。ɪl ではミロクが心の支えにしており、組み数字の中で最も優れた概念と評している。上位３位と下位３位の間には「不屈の壁」というものがあると考えられている。希望は１位で、これがあるかぎり人間は生き続けると考えられている。２位は愛情で、窮地に立たされても「娘のためにもこんなところで死ねるものか」などという強い思いに繋がる。しかし他者依存傾向があるため、希望ほど強くない。例えばこの場合娘が死んでしまうとどうなるか考えてみるといい。３位は信念で、「人が何と言おうと自分の生き方はこれでいいのだ」という気持ち。世間が味方に付く場合と敵に回る場合の２パターンがあり、他人に振り回されやすい点で順位が落ちる。理想的なのは世間になんと言われても気にしないことだが、完全に解脱できる人は少ない。不屈は最もネガティブになりうる感情である。「負けるものか」という思いや「見返してやる」という思いだけでなく、「復讐してやる。それまでは死ぬものか」という強い怨嗟にもなるためである。この怨嗟やコンプレックスはセレンによると１位と同じくらい強力な力を持つ。それだけで１位並の生命力を与える。しかしそれは諸刃の剣で、力を得る代わりに自分や周囲の人間を破滅の道に追い込む。不屈を１位にしてしまった人間は上位３位を得られないとされ、これを不屈の壁という。正義はこうすべきだという社会的な価値観で、世間ありきの概念なので自信の根拠が他者依存型であり、窮地に弱い。従って５位である。誇りは他者を鏡にして自分を映したときに感じる安心や優越感のことで、他者依存傾向が強く、自意識過剰になりやすい。そのため本来の自分を見失いやすく、窮地に弱く、６位である。ちなみに信仰はそれぞれのパラメータを高めるものとして全ジャンルにかかるものとされ、個別の順位を占めない。また、神への信仰は希望、愛情、信念その他の複合概念に分析されるため、固定の位置を占めない。この点はミロクにとって不都合だったため、神への信仰も信仰の一種だから、結局はすべてにかかると解釈した。

nɪlncɪn　[名詞] 憩い、安らぎ　[感動詞] ごゆっくり、どうぞごゆっくり　[類音] nɪlncɪj　[レベル]３　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃ

nɪlae　[魔法] ナルフェ、魔法力　[レベル]４　J0:nɪ/elɑe (心の泉)。この心は精神神力で、魔力に通じる。　[語法]　enuelen

nɪlɒ　[人名]ナルム　[組み数字] 2 / 1 4　[レベル]４　先 : 語源不詳。古アルカでの意味はなし。　[文化]　(– J1 ɑɥə lɑn_ᚹ ɑcɪ ɑcn)　第４期３代アルシェ第２使徒。女性。ɥənʔ。リーザの従姉妹であり親友。リディアの養母。少し耳が遠い。　ᚹ ɑcɪ ɑcn にサプリの村を襲った魔族バイアスの火の魔法により焼死。リディアを人質に取られ、武器を捨ててバイアスの手にか

n

かった。　・現実では　(ſcɑ. ʃʃ ɑɥə lcn_ʃ zɪn ɒelϰ) 第４期３代アルシェ第２使徒。女性。ɥənʃ。リーザの従姉妹であり親友。リディアの養母。少し耳が遠い。小学校低学年のころ耳のことで上級生にからかわれ、当時ケンカ早かった小学校中学年のリーザが高学年男子を殴って泣かせてナルムを守った。それ以来ナルムはリーザを慕うようになった。

nɪlblcl ［化学］プラセオジム　1Λ: 制

nɪlbc ［軍事］准尉、ナルミ　［組み数字］１２/２０　［レベル］３　1L:μcɑcɪ: 古 nɪlɥɪ/ɪɒcɥ　［語法］［文化］ʃɪnɪ

nɪlbc ɸμɪnɑc ［娯楽］警部グランディ　［レベル］５　ʃʃ　［文化］『コロンボ』や『警部補古畑任三郎』に相当するテレビ番組。

nɪlbeʃ ［建築］城下町　［レベル］５　μɑ;nɪlſ/beʃ「城周り」　ʃʃʃ　［用例］ɔɔɸìlcoɪcn ɪdcɪ ɑleìlcſ ləɪnìl ɪl ɔɔɸìlc ɑel nɪlbeʃ. 大垣まつりは城下町大垣に初夏の訪れを告げる。

nɪlɑɔl ［名詞］里程標、一里塚、マイルストーン　［レベル］４　ʃʃ0:nɪlſí/ɑɔl　［文化］山道や林道などに１ナルタごとに置かれた石のこと。

nɪldcſí ［医療］安定剤、抗不安薬　［レベル］４　ʃʃ

nɪlcz ［形容詞］心が狭い、狭量な、器の小さい、器が小さい、おちょこな　［反意語］ʃlɔɒ　［レベル］３　ʃʃ0: 古 nɪ/lccz（心が小さい）　［用例］hɪlſ nɪlcz 狭量な上司

nɪlɔ ［動詞］ɥəl を察する、察する、分かる、わかる、解かる、感づく、感付く、勘付く、勘づく、かんづく　［形容詞］(nɪlɔɪn で）察したような、察するような、悟った、悟ったような　［レベル］３　古 :nɪlɔ（心を知る）　［用例］nɔn nɪlɔſ ʃcſ ɛə ɪſc ʃɪl lc lɔɑ ɪ lɪzɪ. うすうすわかってきてはいた。私が高校に入ったときぐらいから：ここの「ぐらい」はアルカでは訳出しないのが自然。

nɪlɔenuc ［名詞］察知力　［レベル］４　ʃʃ

nɪlen ［形容詞］機械的な、感受性の弱い　［反意語］nɪɒcɥ　［レベル］３　1L:ne e ennɪ（エンナの心）　［語法］［文化］ɟeμnɪ

nɪleɒ ［言語］詩　［名詞］歌詞。特に詩的な歌詞。　［レベル］３　古 :nɪ/leɒ（心の音楽）　nɪleɒ:nɪleɒ

nɪləɒc ［植物］ハナミズキ、はなみずき　［レベル］４　ɟɒ;ɪlſ　ʃʃ

nɪləɒc(J) ［名詞］房飾り、ふさ飾り、房、ふさ　［アクセント］nɪləɒ€　μɑ;‹ɪlſ「ハナミズキ」とアクセントが違うだけで同根。　ʃʃʃ

nɪɪ ［感動詞］ねえ、ねぇ、なあ、なぁ　［レベル］１　古　［語法］nee の ɪ 系列。男言葉。

nɪɪſ ［名詞］２０歳代の女　［反意語］ɪlnɪɪſ　［レベル］２　1ʔ: 制 : 古 :nɪcſ（成年男子）

nɪɪſɑəpe ［地学］［歴史］新生代　［レベル］６　ul;/　ʃ̀ʔ　［文化］φɪɪueɑəpe　約６４００万年前から現代までに相当し、恐竜が絶滅した後、哺乳類と鳥類が繁栄したことで特徴づけられる。　新生代の始まりごろに、アルテがエルトとサールに分裂した。

nɪɪſíl ［生物］２０代　［レベル］２　μɑ;nɪɪſ/ɪl　ʃʔ

nɪɪl,ɟzɑ bɪn

nɪɪlɪ ［非言語］ナーシャ　［レベル］３　古 :「心が有る」が原義。　［語法］右腕を曲げて胸の前に持っていき、上体を曲げてお辞儀する。目は相手を見る。男から女へのお辞儀。

nɪɪjel ［被服］モーニングハット　μſ;nɪɪzel.l　ʃʃʃ　［文化］μſ で書かれた "nɪɪjel cjſ nɪɪzel" という小説内で造語された。作中で主人公はメティオのお金のナーゼルでこの帽子を親切な貿易商から買うが、これをかぶると透明人間になれる一ーという内容の本。

nɪɪjelɪn ［名詞］透明人間　μſ;/ → nɪɪjel　ʃʃʃ

nɪɪn ［副詞］念のため、一応　［レベル］２　古 :nɪɪn　［語法］恐らくそうであろうことは分かっているが確認するさま。　［用例］ɪn jɪcn uɪn nɪɪnel. 一応確認します。

nɪɪnɥɪ ［アトラスの国家］ナーニャ　［レベル］５　ʃʔ:μcɑcɪ

nɪɪnɪ ［親族］孫娘ちゃん　［レベル］２　1L:μcɑcɪ:hɪnɪ と nɪnɪ をかけたのだろう　［語法］ɒccɪ nɪnɪ と似ていて区別しづらいが、人間の年齢区分と親族名称は使われる場面がしばしば異なるので案外大丈夫。

nɪɪu ［ポジティブ］［形容詞］心が強い、精神的に強い、気丈な　［類義語］ucen、ʃɪnuc　［レベル］３　ʃʃ0:nɪucuc（心が強い）　［文化］男は ʃɪnuc で女は nɪɪu だと思われている。

nɪɪɥə ［物理］［医療］［魔法］クオリア、感覚質、感じ　［レベル］５　ʃʃ:nɪ/ɥə「感じられる」　［文化］ɑɔlɒcɥə, jelej　ul で提唱された概念。心理学で最初に提唱され、物理や医療や言語学などにも応用された。特に ls では魔法学において大きく実用された。　・魔法のクオリア　ls の現代魔法学においてセレン＝アルバザードにより「魔法のクオリア」が提唱された。彼は多くの ʔ,ʃ 遺伝子が魔法を使えなくなったことを「失魔症（失咣症）」(ɑcɪleeu) と定義し、その原因が「魔法のクオリア」の消失にあると唱えた。　まずクオリアについて。ヒトなどの動物は外部から刺激を与えると感覚器がそれを捕え、神経細胞の活動電位として脳に伝達される。その際になんらかの質感が経験される。　例えば７００ナノメートルの波長の光を浴びせるとしよう。このとき目という感覚器がそれを受け取り、脳に伝達する。その際ヒトは「赤さ」を感じる。そしてこの「赤さ」のことをクオリアという。　同じようにヴィードの中で魔法に関するヴィルが触覚や nɪuc などの感覚器を通じて脳に伝達された際、ヒトは「魔法の力」を感じる。この「魔法の力」もまたクオリアであり、魔法のクオリアということができる。　ときに魔法は一定の配列の魔咣を集め、それが閉式魔法になるかどうかで魔法として成立するかどうか調べる性質のものである。例えば火の魔法 ɑɪc には独特の閉式魔法の配列が存在する。その特定の配列の握 (oɪlɒlc) が感覚器を通じて脳に伝達されたとき、ヒトは「これは火の魔法ファイの感覚だ」という感じを覚える一ーすなわち、ファイの魔法のクオリアを得る。　太古の昔から魔法を使うときの感覚は口では言い表しがたいもので、「こういう感覚」としか言いようがなかった。そのため、同じ魔法が使える者同士の間では「あの感覚のことだよ」と言えば「あぁ、あれのことか」と通じるが、使えない人には「どういう感覚なんだ？」となってさっぱり通じないというのが一般的であった。そしてこのことが魔法を座学だけで教えることの難しさにも繋がっており、同時に中世までは魔法学という学問体系の発達を阻害していた。　太古の昔から魔法は感覚的なものであった。そしてそれは魔法学が発達した jɒ, μɑ にあっても同じことで、理論的には大成したものの、相変わらず実践面では「あのディアリーヴァを撃つときの感じ」というような表現でしか魔法を使う感覚を他人に伝えることができなかった。　その原因がなぜかということが μɑ では明らかにされていなかったが、ls の現代魔法学によって初めて「魔法のクオリア」という概念が提唱され、原因が明らかになった。つまり魔法の実践というものはクオリアを通じた感覚的なものであって、表現に苦しむのは当然だということである。　魔法を人に伝えられない原因は、魔法にはクオリアが存在し、そしてそれのみによって感覚を共有できるためである。ガレットが可視であったり匂いがあったりすればクオリアがなくても魔法を理解することができたかもしれないが、ガレットは通常の感覚では知覚しづらいため、クオリアを共有することでしか感覚を伝えることができなかったのである。　・なぜ現代人は魔法が使えないのか　さて、これが ʔ,ʃ 遺伝子の失魔症に繋がる。ʔ,ʃ 遺伝子はヴィードの総量が弱い傾向にある。だが総量が弱いだけであれば、弱い魔法なら使えるはずである。にもかかわらず全く魔法が使えない個体ばかりになってしまったのは、むしろヴィードの総量の問題ではなく、単に「魔法のクオリア」を得ることができなくなってしまったためである。　赤の光を見ても赤という感じを得ることができない動物は赤の感じが分からないのと同様、魔法の感じを得ることができない多くの ʔ,ʃ 遺伝子は魔法がどういうものかという感覚が掴めないのである。　魔法の感覚が掴めない以上、魔法は使えない。そして魔法を使わなければヴィルの力はどんどん弱って劣化していく。　このことはユノやノアについても同様である。つまり、ʔ,ʃ 遺伝子はそもそも「ヴィードのクオリア」を消失しているといえる。それゆえに時間を重ねるごとにヴィードの総量も弱くなり、ますます人類は魔法の力を失っていったのである。　・現代に魔法を復活させる方法一ー魔法使いになるために　ʔ,ʃ 遺伝子において失咣症は優勢な遺伝的特徴である。しかしそれは ʔ,ʃ 遺伝子が必然的に持つ特徴ではない。ゆえに現代においても魔法を使えるユーマの一族が稀に生まれることにはなる。彼らと一般人の違いは魔法のクオリアを獲得できるか否かにある。　ということは、言い換えれば人工的に魔法のクオリアを与えることができれば、ʔ,ʃ 遺伝子であろうと魔法使いになれるということである。そして ls のセレンの研究の意義はそこにあった。人工的に魔導師を生産すること、すなわち現代における魔法の復活がこの研究の目標であった。　ヴィード自体はカルディア全土に広く行き渡っている。特にアトラスには豊富である。問題はそれを感覚器が脳に伝えてもクオリアを生じないことにある。感覚器自体は μɑ 時代と何ら変わっていない。nɪuc の衰えはあるものの、感覚器自体に大きな変化はない。　そこでセレンは任意の握が感覚器から脳に伝達された際、それを特定の電気刺激に変換して脳に伝えることで、魔法のクオリアを再建しようと考えた。例えばディアリーヴァの魔法にはディアリーヴァ特有の握の配列がある。この配列を中世魔法学の技術で読み取り、現代科学の工学で電気信号に変換する。するとディアリーヴァの魔法の配列が電気信号に置き換わる。これを脳に流すことで特定のパルスの電気刺激が脳に与えられる。これにより魔法のクオリアを持たない人間であっても、「あぁこの感じはディアリーヴァの魔法だ」と理解することができる。　被験者にクオリアを獲得させた後の作業は次の通りである。今度は逆にそのディアリーヴァの感覚を脳内で想起させる。「ディアリーヴァのあの感じを思い出せ」と念じながら特定のパルスの電気信号を想起させる。当然最初は同じ感覚を再生することができないが、「りんごの赤さ」や「空の青さ」を想起できるのと同じく、訓練によりディアリーヴァのクオリアを想起することができるようになる。　これにより被験者はディアリーヴァの魔法のクオリアを電気刺激の想起という形でアウトプットする。その電気信号を現代工学で読み取り（これは ul 水準の科学力でも容易に可能であった）、中世魔法学の理論を用いて周囲のガレットを集め、ディアリーヴァの配列になるように握を編む。これにより、ディアリーヴァの魔法が発生する。　このようにして、魔法のクオリアを持たない個体であっても、科学と魔法学の融和により、魔法を使うことができるようになる。こうしてセレンは現代に魔導師を蘇らせようと目論んだ。　しかしそれには多額の研究資金が必要であった。ʃʃʃ 年ごろの貧乏研究生時代にはとてもではないが実験不可能な一ーそしてたとえ可能でも世の中に必要とされない一ー発想であった。なぜ必要とされないかというと、単純な軍事力としては既に現代兵器のほうがかつての魔法の威力を上回っていたためである。例えば μɑ の標準的な魔導師が放つファイの魔法は単純なジュール換算でいえばダイナマイトやミサイルに遠く及ばない。ならば兵器に頼ったほうが確実かつ合理的である。それで現代に魔法を復活させるということはただの絵空事として世間の注目すら浴びなかった。セレン青年がいかに人生をかけて理論を構築し、ネットで活動し、自費出版で啓蒙してもーーである。　だが ls では現在「科学の力だけでは倒すことのできないディミニオンという災厄」が彼の人生を大きく変えることになる。魔法の力を併用しないと倒すことのできないディミニオンの登場により、彼の現代魔法学は一躍脚光を浴び、時代の寵児となる。　すると途端に研究資金が降りるようになり、実験がスタートした。セレンはメルなどの助手の協力を得て研究を進める。そして彼の理論は実証され、現代社会に人工魔法と人工魔導師が誕生することとなった。

nɪɪze ［名詞］怒り　［類義語］sɔ　［レベル］２　ɟzɑ;nɪ/sɔ　ʃʃ　［用例］ſcl nɪɪze 怒る　ſə eſ becɒ lel el ſcl nɪɪze ɑccnɪ nɔj. ſə eſ lɪnſ lel el ſcl nɪɪze ɑccnɪ pel. dcn, el ſcl lcn jeμsɔ ɔlſí lə ſcl nɪɪze. 自分のために怒るのは醜いことだ。人のために怒るのは綺麗なことだ。ただ、怒っても感情を爆発させてはいけない（jeμen ɪμbɪzɪμɑ）

nɪɪzel ［経済］ナーゼル、メティオの通貨　［レベル］５　ʃʃ

nɪɪs ［魔法］風。五行の２番　［医療］肝　［レベル］４　ɟzl;nɪ/sɔ。怒りは肝を傷める。　ʃʃ　［文化］ʃlɪeuɪnɟ

nɪc ［動詞］ɥəl を軽視する、軽視する、軽んじる　［反意語］bɥəc　［レベル］３　古 :nɥɪc（軽視する）。「軽く見る」が原義。　［用例］ɪlɪn le nɪc ɑel φcʃl uɔμſ ſeel lc en ɑcl. 金にならない学問を軽視する社会は遠からず滅ぶだろう（jeμen ɪμbɪzɪμɑ）

nɪcſɔ ʃɪlɪn　［娯楽］ナイトカラン　［レベル］５　ʃʃ:nɪcſɔ は ɪlſ で、主人公の名。　［文化］『るろうに剣心』に相当するアニメ。

nɪcjʃ ［普通動名詞］読心　［レベル］４　μɑ;/。jelcjʃ からの類推で。　ʃʃʃ

nɪcjʃɔɒ ［普通動名詞］読心術　［レベル］４　μɑ;/。jelcjʃɔɒ からの類推で。　ʃʃʃ

nɪcn ［名詞］警察　［レベル］２　1ʔ: 制 : 恣意　［文化］警察の階級は ʃɪnɪ 参照。　警察は軍務省の下の警察庁に属する。各都市には北区にひとつの警察署があり、要所ごとに交番が存在する。　円形都市でないサブリなど、田舎は規模によってまちまちの扱いである。あまりに小さい街が点在している場合は、一括してひとつの警察署が管理することがある。　日本の場合、東京は警視庁で道府県は警察本部が置かれるが、アルバザードはそのようなことがない。また、これら２者は地方であり、中央として警察庁がさらにその上に置かれるが、この違いもアルバザードにはにない。　伝統的に中央集権かつ小さな政府であるため、警察署はすべて中央に属しつつ、運営は地方の職員で行っている。所属は形骸的なものであり、各警察署の実権を持っているのは地方である。中央は各警察署の足並みをそろえる必要があるときにだけ指示を出す。　警察署は企業と同じく ɪμʃɪlſ が最上位で、ɔɔɔl が最下位となる。　円形都市には２５６箇所の交番がある。　カルテの東西南北大通りに繋がる箇所に１つずつ。　春通りには大通り (1J, ʔ, ʕ, L) に交番を置く。計２８箇所。　夏通りには非大通り (1J, ʔ, ʕ, L 以外) に交番を置く。計５６箇所。　秋冬通りにはすべての通りに交番を置く。計１６８箇所。　合計２５６箇所である。　１つの交番には４人の警察官が配属される。ただし冬通りには８人ずつ配属される。従って、１都市に１６９６人の交番勤務がいることになる。　交番には交番課の警察官が配属され、刑事課の警察官との上下関係はない。どの課であろうと階級制度は同じ。刑事課の ɔɔɔl より、交番課の ɔccz のほうが偉い。　これは日本とも同じであるが、一般の日本人は刑事の方が偉いと勘違いしている。アルバザードでも同様で、ふだん見慣れている交番課より刑事課のほうが偉いという誤解がある。ただ実際、警察官の志願状況を見るとそれは否めなく、優秀な人間ほど刑事課などに行く傾向がある。　交番課の最高位は nɪlɒc である。nɪlɒc ～ ɔɔɔl までが配属される。刑事課も同様に nɪlɒc が最高位である。実際 nɪlɒc が交番に勤務することはなく、管理などの仕事を行う。　通常交番にいるのは oeſſí ～ ɔɔɔl である。ハコ長は oeſſí で、必ず１人。ɔccz も１人で、残りの２人が ɔɔɔl である。交番によっては ɔccz が２人で ɔɔɔl が１人ということもある。　交番は４人だが、常に２人交番にいなければならない。無人にしてはならない。また、常に警察官は２人で行動する。何かあったときに対処しやすく、汚職や職務怠慢を防ぐ効果もある。従って、パトロールは常に２人で行う。　交番は警察署の管理下にあり、警察署には交番課以外の課がある。そのため、１都市の警察官は当然交番勤務の合計より多い。　警察署間に優劣の差はなく、カテージュの ɪμʃɪlſ とワッカの ɪμʃɪlſ は同位である。ただし、しばしば国家的な代表として警察署長官が出てくる場合、それは中央アルナであるため、暗黙の了解として中央アルナの ɪμʃɪlſ が最も位が高い。

nɪcnʃɪ ［軍事］［政治］警察署　［レベル］３　1L　［文化］→ nɪcn　北区に置かれる。交番課以外に勤務している警察官はここで仕事をする。

nɪcnlczɒ ［政治］警察庁　［レベル］４　1L:clbəj:μcɑcɪ　［文化］軍務省下。治安を維持する。

nɪcnɪn ［軍事］［政治］警察官、警官、お巡りさん、おまわりさん　［レベル］２　1L　［文化］→ nɪcn　最も身近なのは交番課に勤める警察官であり、通常はこれを指す。刑事なども警察官むろんである。　制服着用で、デザインは軍隊と同じ。ただし色は暗く黒い青。武器は銃と剣。

nɪcnɪɒɔ ［交通］パトカー　［レベル］２　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ　［文化］leunɪɒɔ

nɪcnez ［軍事］［政治］交番、派出所、駐在所　［レベル］３　1L　［文化］→ nɪcn　１都市に２５６箇所あり、交番課の人数は１６９６人である。派出所システムは世界的には珍しいが、治安維持として優れており、アルバザードにも存在する。　交番課の仕事は、パトロールと人助けである。困っている人がいれば助ける。車社会でないため、老人の荷物を持ったり、おんぶして運んだりする。アルナは小さな犯罪が少ない都市なので、警察官は愛想が良く親切というイメージが強い。裁量は大きく、警察官個人の良識に任せて人助けをすることができる。そのため、「今日は暇なので風邪を引いたパン屋の娘の代わりに店番をした」とか「児童の宿題を手伝って鳥を捕まえた」という例も散見できる。　ただ、日本人に理解しがたい面もあり、「死刑があってお祭り騒ぎなので、民衆を整列させた」とか「引きずり刑で死刑囚の内臓が道に零れ、刑罰庁の役人が来る前にカラスが来たので斬り捨てた」といった「人助け」もある。

nɪcɑ. ［形容詞］心が温まる　［名詞］暖かい感動、感銘　［レベル］３　1ʔ: 制 :nɪcɑ. 心を暖める　［用例］lɪɑɪn ſ'ɪμʃɪ jccnɪſ ʃlɔɪ nɪcɑ. アルカの作者は心温まる物語を好んだ。

nɪcɒ ［名詞］心勢、心の姿勢、態度　［類義語］nɪɒɔ　［レベル］３　ʃʃ:nɪ/bɪcɒ　［語法］nɪɒɔ は気分の現れとしての態度で、nɪcɒ は気持ちの持ち方や方針。戦術と戦略の違いに相当。　bɪcɒ と音が似ているため、韻によく使われる。　［用例］nɪcɒ ʃnɪ{coɪ} 正しい心、まっすぐな心

nɪɔ ［音楽］ハープ、竪琴、琴　［レベル］４　ɑu　赤 : 古アルカではリュートとなっているが、これはセレンがリュートとハープを逆に覚えていたための誤り。

nɪɔn ［地名］ナオン　［レベル］５　1ʔ: 制 : 古 :nɪɔ（竪琴）から。　［文化］ソーンの使徒ヴァレムの支配地。

nɪɔn(J) ［アトラスの国家］ナオン　［レベル］５　制　［文化］面積 : 1Λ51Λ91.ΛΛΛ909 ɟɒ ʃ

nɪɔu ［動詞］ɥəl をためらわせる、ためらう、躊躇する、躊躇う　［自然動名詞］ためらい、ちゅうちょ、躊躇い、躊躇　［レベル］３　ʃʃ:nɪ/ɔu「心揺れる」

nɪɔ uɪlep ［人名］ナオ＝ヴァレム　古 : 右の名は後付け　［文化］初代ソーンの第１０使徒。異性魔王。

nɪɔɑ ［名詞］目次、コンテンツ、目録　［レベル］３　1ʔ: 制 :nɪɔ/eɑɪ（章毎の題目を連ねたリスト）。nɪɔ はここでは nɪe の意味。

nɪɔl ［名詞］吟遊詩人、バード　［レベル］４　1ʔ: 制 : 古 :nɪɔɪl

n

えられる。これにより魔法のクオリアを持たない人間であっても、「あぁこの感じはディアリーヴァの魔法だ」と理解することができる。　被験者にクオリアを獲得させた後の作業は次の通りである。今度は逆にそのディアリーヴァの感覚を脳内で想起させる。「ディアリーヴァのあの感じを思い出せ」と念じながら特定のパルスの電気信号を想起させる。当然最初は同じ感覚を再生することができないが、「りんごの赤さ」や「空の青さ」を想起できるのと同じく、訓練によりディアリーヴァのクオリアを想起することができるようになる。　これにより被験者はディアリーヴァの魔法のクオリアを電気刺激の想起という形でアウトプットする。その電気信号を現代工学で読み取り（これは ul 水準の科学力でも容易に可能であった）、中世魔法学の理論を用いて周囲のガレットを集め、ディアリーヴァの配列になるように握を編む。これにより、ディアリーヴァの魔法が発生する。　このようにして、魔法のクオリアを持たない個体であっても、科学と魔法学の融和により、魔法を使うことができるようになる。こうしてセレンは現代に魔導師を蘇らせようと目論んだ。　しかしそれには多額の研究資金が必要であった。ʃʃʃ 年ごろの貧乏研究生時代にはとてもではないが実験不可能な一ーそしてたとえ可能でも世の中に必要とされない一ー発想であった。なぜ必要とされないかというと、単純な軍事力としては既に現代兵器のほうがかつての魔法の威力を上回っていたためである。例えば μɑ の標準的な魔導師が放つファイの魔法は単純なジュール換算でいえばダイナマイトやミサイルに遠く及ばない。ならば兵器に頼ったほうが確実かつ合理的である。それで現代に魔法を復活させるということはただの絵空事として世間の注目すら浴びなかった。セレン青年がいかに人生をかけて理論を構築し、ネットで活動し、自費出版で啓蒙してもーーである。　だが ls では現在「科学の力だけでは倒すことのできないディミニオンという災厄」が彼の人生を大きく変えることになる。魔法の力を併用しないと倒すことのできないディミニオンの登場により、彼の現代魔法学は一躍脚光を浴び、時代の寵児となる。　すると途端に研究資金が降りるようになり、実験がスタートした。セレンはメルなどの助手の協力を得て研究を進める。そして彼の理論は実証され、現代社会に人工魔法と人工魔導師が誕生することとなった。

nɪɔcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］こと座 JM ［文化］ cɑɪ

nɪe ［名詞］劇の一幕、一幕、１幕、一章、文章の一章、チャプター、１セット、セット、１ラウンド、ラウンド ［法律］章 ［音楽］番。曲の１番２番などの番のこと。 ［レベル］3 1ʔ: 制 :nɪɔ。古では nɪɔ が多義語。劇の合間をハープで知らせたことから。

nɪej ［形容詞］不機嫌な ［動詞］ɥel の感情を害する ［名詞］不機嫌、機嫌が悪いこと、嫌な気分 ［反意語］ɒcɔl ［レベル］3 1ʔ: 制 : 心を不快にする。nɪ/ejc から。 ［成句］ ɥɒnl ˀɔccɥ ɪj eɒ nɪej cɒ ˀəlɪn クミール嬢ですら空腹時には不機嫌になる : 衣食足りて礼節を知る ［用例］ ɪn eɒɪʃ nɪej ɒcl nɪɒɔ lcɪle lɪɪʃ. 彼の無礼な態度に不快感を覚えた。 nɔn ɪʃ nɪej uɪɥ jel. 今日は一日機嫌が悪かった。 ɪn nɪʃ nɪej cɒ ʃə aɪɥ. 今朝は機嫌が悪かった。 ɪn nɪʃ nɪej. 気分を害された。

nɪelɑ ［言語］ラング ［レベル］6 1L: 心の中の言葉

nɪelɑel ［言語］心理言語学、神経言語学 1L ［文化］ ユルトらの誕生後、セレンらが大成。

nɪelcɟ ［名詞］以心伝心 ［レベル］3 J1

nɪə ［形容詞］嬉しい ［動詞］ɥel を喜ばせる、喜ばせる、喜ばす、喜ぶ ［反意語］eɒʃ ［レベル］2 1L: 古 :nɪhɥə nɪhɥə:nɪhɥə ［文化］ 日本人より大げさに表現する。肘を曲げて両手を挙げる。手は拳にする。ちょうど肘がわき腹の高さで、拳が顎にくる。ファイティングポーズのようなガッツポーズのようなポーズだが、これが喜びのジェスチャーである。hɔɪ などと声も出して喜ぶ。周りの人は事情が分かっていれば ʃcɟɔɪ などと声をかける。アルバザードでは嬉しいことがあると知人を集めて一緒に喜ぶことが多い。 ［用例］ nɔn nɪʃ nɪə ɒcl ɥə heˀ c lɪ. 彼からの手紙をもらって嬉しかった。 ［メタファー］nɪə ɥən ɔɒɪ 犬のように楽しそうな ɪn nɪʃ nɪə ɒɪn ʃeɥ ʃə ueɥʃ. その知らせを聞いて嬉しかった。 ☆ ɪn nɪ ucl nɪə nɔɑ ʃə. これ以上に嬉しいことはない。 nɔn nɪ nɪə cɒ lɪ ˀɔˀlɔ lɪ. 彼と一緒にいられればうれしい。

nc,ɪlʃ cnc cnc.l

ncʃ ［単位］１０００分の１、毛、毫 ［レベル］3 1L: 恣意

ncl ［名詞］(nɪ) 驚く ［動詞］ɥel を驚かせる、驚かせる ［形容詞］驚いた ［文頭純詞］驚いたことに ［反意語］jeʃce ［レベル］2 1L:nɪˀl:1ʔ: 制 : 古 :nɪlc（心を動かす）［文化］ 日本人は驚くことを特に恥ずかしがる国民性だが、アルバザード人は感情をストレートに出すので、素直に驚いてみせることが多い。そのため、日本人から見るとやや大げさ。しかし、周りが誰も驚いていないのに自分だけ思い切り驚いてしまうと、さしものアルバザード人もかなり気まずいと感じる。 ［成句］ncl enʃɔ jɪɪl uɥɒn ヴェルンサールが起こるほど驚く : 驚天動地 ［用例］ ɪn nɪʃ ncl ɒɪn lɪ cˀl nɔˀl. 彼が現れて驚いた。 ɪn nɪʃ ncl ɥən ɪɥel. 飛び上るほど驚いた。 ncl, lə eʃ hɪɑn e hɪɑn ɪnʃ lɪ. 驚いたことに彼は友達の友達だった。 ɪn ɔɒɪʃ ucl nɔɟ ɒɪn nɪ ncl μɪˀl. 驚いて身動きが取れなかった。

ncˀlɔu ［名詞］びっくり箱 ［レベル］3 1L:nɪˀlɔu:1ʔ: 制 : 驚かせる箱

ncˀlel ［動物］ふぐ、フグ、河豚 ［レベル］3 J1:ncˀl/elc。テトロドトキシンの作用

ncˀl ［形容詞］渋い、しゅうれん、収斂、しゅう斂、収れん、収斂味、収れん味 ［料理］渋 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ncˀlˀlɔc（痺れる味）

ncˀj ［動詞］ɥel を ɪ に倒す、倒す、転ばす、箱の山などを崩す、立っている状態から寝ている状態にする ［文字］イタリック。ʃcˀl 参照 ［レベル］2 1ʔ: 制 :nɪˀj; 恣意 ［用例］ ɥəəɥə ncˀjɪʃ ˀɔnʃ ʃcleɟ lcdl. ʃeel ɪ. 萌えっ子がケーキを持ったまま転んだ。お約束だ : この ʃcl は動作動詞。 ɪn ɪʃ ncˀj μɪj əɔə ɪ uelʃ. 氷の上で何度か転んだ。

ncˀl ［医療］麻痺 ［動詞］ɥel をしびれさせる、痺れる ［魔法］ニクル（ホールド）。害の中位黒魔法。相手を麻痺し、動きを鈍らせる。脚に回ると事実上動けなくなる。ラルトで解除できる。メレントを持っているとかからない。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :nɪˀl。知覚できなくなることなので nɪˀl の n 対にした。元は対だったが、対であることが記憶できないくらい意味が離れているので解体しなかった。

ncˀlɔʃ ［生物］翳風 J1:ncˀlɔn

ncˀlɔn ［医療］中風 J1:ncˀlɔc

ncˀlɔc ［魔物］ニクロイ（痺豚）: 第四十六天 : 雷の炎天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeɥen/ɒel:ncˀl/ɔoc（痺れ豚）［文化］ 獣族。鎧をまとい、豚の顔をした巨人風の魔物。目が赤い。豚がいっちょまえに人間の真似しているような姿をしている。剣は帯電しており、触れると感電する。

ncˀle ［医療］ポリオ ［レベル］6 1L:ncˀl/eɑɪ

ncɟ ［名詞］へこみ、凹み、くぼみ、窪み ［形容詞］へこんだ、くぼんだ ［電算］タブ、ＴＡＢ ［反意語］oɪl ［レベル］3 1L ［用例］ ncɟ jel 唇を丸める

ncɟˀ ［被服］毛皮、ファー ［レベル］3 1L:nɔɟˀ:1ʔ: 制 :ncɥɔˀ（毛のついたままの皮）

ncɟlɥn ［被服］ファーコート ［レベル］5 J1

ncɟlɔʃɟ ［電算］タブキー、ＴＡＢ、タブ ［レベル］4 J0

ncɟc ［名詞］プラグ、入れるほう、差し込むほう、差込プラグ、差込みプラグ ［反意語］ɒɪlɪ ［レベル］3 @ 1L

ncɑɑ,ɑu ncɑ

ncɑɑɪ ［娯楽］ニンファ ［レベル］3 古 :ncɑɑɪ ← ncɑɑ（段）から。 ［文化］ 対戦ゲームの一種。地平線を書き、正方形を乗せ、それを４個のブロックに縦横に区切る。そこにエルトサールを市松模様に書き入れる。これが初期状態である。エルトが先攻でサールが後攻となり、各々自分の記号を好きな場所に新しくブロックを書き加える。縦横斜めいずれにか３つ記号が並んだほうの勝ち。あくまで地平線とその上に乗るブロックという理念なので空中にブロックは置けない。ブロックの上か地面の上にしか置けない。横はどこに置いても良い。全く横に隣接するものがないところにブロックを作っても良い。イニアよりも高度だが、シェルトほどではないのでやはり子供の遊びという感覚が強い。

ncɑ ［名詞］段 ［名詞］段階、レベル、ステップ、水準、グレード、位（くらい）、ランク、～段、学年、コース ［言語］アスペクト、相 ［生物］タクソン。分類階級ごとの分類群。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ncɑɑ（段、差異） ncɑɑ:ncɑɑ ［語法］ 初級、中級、上級のようなレベル分けはアルカでは ɥelc, ɒɪlʃ, ɒɪu で表現する。 ［用例］ ʃcl ncɑ ˀlej レベルが上がる

ncɑʃcl ［娯楽］レベルアップ ［レベル］3 J1

ncɑlɪz ［娯楽］レベルキャップ ［レベル］5 J1 ［用例］ ncɑlɪz e ʃə lcɑɪ eʃ 100 ɑɪ. このゲームのレベルキャップは１００だ。

ncɑjc ［娯楽］レベルダウン ［レベル］3 J1

ncɑɑɥeɥə ［言語］相副詞 ［レベル］6 J1 ［語法］ ɒɔɪ, ɒɪˀl のようなアスペクトに関する副詞。ネーミングから見ると典型は ɒɪˀl 類で、ɒɔɪ 類は非典型。

ncɑzɪɒj ［普通動名詞］飛び級 ［レベル］4 1L:ɒelcɑcɪ

ncɑl ［名詞］ハシゴ、梯子、はしご ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ncɑɪl（階段の）

ncɑc ［言語］段落、パラグラフ、小節（文章が段落ごとに１字あけで段を成すことから） ［レベル］3 1ʔ: 制 :ncɑ

ncɑe ［名詞］成績。成績表や試験の成績（甲乙丙など）。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ncɑɪ

ncɒ ［色］色 ［名詞］種類。色のようにバリエーション豊かな種類のこと。ɑɔnɔɒ など。 ［動詞］ɥel を ɪ に染める、染める、そめる ［普通動名詞］染色 ［シェルト］色駒 ［レベル］1 ɑ:μɪl;e 定 ncɒ:ncɒ:lɪ ɑeul:hɪnɪ,ɪlʃ, dɪlcl,cn ［語法］ → lcɟʃcnɪ ＜基本色＞ 基本色は１０色で、日本語より多い。赤味噌はどうみても茶色なので、アルカでは茶色という。 基本色は ɑcμ（白）,uɥɟ（黒）,hɪμ（赤）,jɔμeʃ（青）,ɑccɪ（緑）,cɒel（黄）,lelʃe（茶）,lɪɪɑ（桃）,ɑɔlɑ（灰）,leseɒɒe（紫）であり、オレンジや水色は含まれない。そのため、どう見ても水色のものをアルバザード人は大雑把に青ということがあるので注意。制アルカの歴史をくんで常にこの順序で並ぶ。 ＜伝統色＞ 伝統色は μn でファミイとセレンが制定したもの→ lcɟʃcnɪ ＜色のコロケーション＞ ●彩度と明度 彩度と明度の強弱、それと色相によって定まる。下記に見るようにアルカの色の形容詞は体系的にできている。 和訳は専門的な言葉より、日常日本人が使っている色の形容詞表現を宛がう。ただ人によっては例えば何を「渋い」と捉えるかまちまちかもしれないので、訳語がピンと来ない場合は彩度と明度の強弱を確認すれば細かく理解できる。 彩度 明度 強い 強い : ɒɔn（はっきりした、原色な、明瞭な、クリアな）。ネガティブな意味になると lɪu（うるさい、きつい、やかましい、主張の強い）、aleɪ（夏めいた） 弱い 弱い : neɒ（渋い、あいまいな）、lceμ（冬めいた） 強い 弱い : ɑɪɑɪl（深い、渋い、重い、濃い、濃厚な、重厚な、ヘビーな）、ɪlcɟ（秋めいた）。ネガティブは ɑɪɑ（重苦しい） 弱い 強い : jclɑen（淡い、軽い、ライトな、パステル）、ɪlʃe（春めいた）。ネガティブは jclɑ（軽い、軽々しい、重みのない） 強い 不定 : uɔen（強い） 弱い 不定 : cun（弱い） 不定 強い : ɑcμʃ（明るい） 不定 弱い : uelʃ（暗い） 中上 中上 : ˀɔlʃe（賑やかな） 中下 中下 : ɥəˀl（大人しい、静かな、控え目な） 中 強い : nccʃ（優しい） 強いか弱い : neɪ（濃い） 彩度が強いかあるいは明度が弱い 強くなく弱くない : ɒɔc（薄い） 彩度が強くなくかつ明度が弱くない。jclɑen に似る。 不定は強くても弱くてもどちらでも構わないという意味。従って ɒɔn である時点で ucen とも言える。渋いのようにひとつの訳語で複数にまたがることもある。あくまで色の専門用語を訳語として使っていない。専門用語は難しくかえって伝わらない可能性があるため、日常言語の感性に即して訳している。 ●色相 ・アルミヴァ表記 日本語では青みがかったなどの専門用語があるが、アルカだとアルミヴァを使う。クレーヴェル系のとか、クレーヴェルのようなというように固有名詞で表現する。 ・形容詞表記 hɪμʃ: 熱い色、赤系 ɒelʃ: 温かい色、黄系 ɑccɪ: 涼しい色、緑系 jɔμeʃ: 冷たい色、青系 ●その他 lɪc で色をマイルドにする効果がある。lelʃe → lɪclelʃe のように。 ［用例］ ncɒ ncɪ ɪ lelʃe 髪を茶色に染める

ncɒ(J) ［言語］n の文字 ［レベル］1 1M: 制 : 色 ［語法］ 第５文字目の幻字。

ncɒˀɔu ［娯楽］ピンボール ［類義語］ɪncnˀɔ ［レベル］4 J1 ［文化］ ul でできた。色の付いた箱で行ったことからこのように呼ばれる。後にパチンコに発展した。

ncɒɟ ［被服］セーター、プルオーバー ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɪˀlʃɪ:ncɒelcɟɪbeˀ 毛糸でできた服 」

ncɒjeɑ ［美容］脱色、ブリーチ ［レベル］4 J1

ncɒnɪˀl ［生物］色覚 ［レベル］5 J1

ncɒɑ ［動物］七面鳥、ターキー、シチメンチョウ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ncɒɑcla（色が青や白に変わる雉）

ncɒɒcɥe ［名詞］千変万化 ［レベル］3 J1

ncɒɑɔˀl ［言語］［色］花飾り ［レベル］3 J0: この飾りは形容詞のこと。色飾りとしなかったのは、色ごよみと区別するため。 ［文化］ → lcɟʃcnɪ アルバザードの伝統色３６６色にそれぞれ当てられた形容詞３６６語のこと。

ncɒφɥμ ［音楽］ソノシート ［レベル］6 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ncɒdɪlʃ ［歳時記］色ごよみ、色暦 ［レベル］5 J0 ［文化］ → lcɟʃcnɪ アルバザードの伝統色３６６色を当てられたそれぞれの日。

ncɒhɔə ［化学］リン酸塩 1L

ncɒμɪ ［悪魔］ニムラ、４色の悪魔 ［レベル］4 ɒelʃcɪ 0:ɑɥejʃcɪ;ncɒ/hɔɔμɪ 古 : 色の ncɒ に hɔɔμɪ、djɔɔμɪ などの共通語尾 μɪ をつけたもの。 ［語法］ フレスティアの護衛をする４色の悪魔。ホーラ、プスホーラ、テクラ、インプラからなる。人間より若干大きい。

ncɒμeɑ ［娯楽］ルービックキューブ ［レベル］3 ul;ncɒ/μeɑ「色あわせ」 J1 ［文化］ ul のイメアートで発明され、速やかにアルバザードに入った。一般にルティア人は知的なパズルを好むため、ルティア人に特に人気が高い。サイコロ型のものがプロトタイプ。色だけでなく文字などを合わせるタイプも存在する。最初に作られたものが色あわせ式だったのでそのように名が付いた。

ncɒl ［被服］毛糸 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ncɒelc（毛で作った糸）

ncɒlcl ［化学］リン、燐 ［レベル］4 1Λ: 制

ncɒɪ ［化学］フラバン ul;ncɒ.l J?

ncɒɪʃ ［化学］フラボン ul;ncɒɪ/ɪlʃ「フラバンの環状ケトン」 J?

ncɒɪʃc ［芸術］色相 ［名詞］色合い、色味、色 ［レベル］5 J1 ［文化］ lcɟʃcnɪ、ueμcɒ

ncɒɪʃcɒeɒ ［芸術］色相環 ［レベル］6 J1 ［文化］ lcɟʃcnɪ

ncɒɪɟl ［化学］リン酸 1L

ncɒɪɟlɪ ［化学］ホスホノ基 1L

ncɒɪɟlɪɑɔ ［地学］燐酸塩鉱物 1L

ncɒɪb ［化学］着色料 ［レベル］4 1L

ncɒɪleɒ 喜怒哀楽 J1 ［文化］ ニムラに合わせて４種の感情を色に宛がったもの。hɔɔμɪ, djhɔɔμɪ, ˀeˀlμɪ, cɒdμɪ の順に sɔ, eɒʃ, nɪə, nɪɑɥμ。

ncɒc ［生物］虹彩、アイリス ［名詞］黒目白目の黒目。眼の色は人それぞれなので、ueμcnɟ では黒目を指せない。この語義の場合、瞳孔も含んで白目と対象させる。 ［レベル］4 lɪˀlʃɪ: 目の色

ncɒeʃ ［化学］ホスフィン 1L:ncɒ/eʃ（リン様の）

ncɒeʃɥɔdɪɑ ［化学］ホスホジエステル 1L

ncɒefɪ ［化学］ホスフィノ基 1L

ncɒej ［被服］ブルス jɒ;ncɪ/ɒejɟɪ JM ［文化］ jɒ でできた。髪を入れておくための袋。

ncɒeu ［美容］染髪、ダイ、ヘアダイ、髪染め ［レベル］3 J1

ncɒeɒɥə ［化学］リン脂質 μɑ;/ JM

ncɒel ［動物］カメレオン ［レベル］4 jɒ;<>ncɒ JM

ncɒelcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］カメレオン座 JM ［文化］ cɑɪ

ncφ ［被服］毛玉 ［レベル］3 1M: 制 :ncφeˀl

ncdl ［植物］豆 ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɪˀlʃɪ:ncd（丸いもの）

ncdlucɟ ［化学］リジン ［レベル］6 1L ［文化］ μn でリュウが豆類から発見。

ncb ［化学］フェノール ［レベル］5 1L:dɪɪl:nɪb。水彩絵具のようなにおいから

nch ［擬音］えへえへ、えへへ、いひひ、うふふ ［レベル］3 1L:ɜenclec

ncl ［形容詞］幸せな ［名詞］幸福、幸せ ［反意語］nelj ［レベル］2 μɑ;ncl,lʃ < nclɜə 1L: 古 :nclɜə（幸せな） nɪhɥə,ɑ:nclɜə,ɑμɑ: ［成句］ ncl ɪz nelʃ 幸か不幸か ncl eʃ ɑen ˀɔnʃ ˀɔcn eʃ ɑcl. 幸せは短く、苦痛は長い（jeɥen ɪμbɪzɪμɑ）［用例］ ʃə eʃ ɑɔnc ɑel nɔn nɪ nɪə ɪlˀlɪl. 人生で最も幸せな瞬間だった。 ɪn sɪlɪʃ nɔj ɒɪlej ncl hɔʃ, ˀel enzel nelj. 不幸なことは忘れて幸せだけを覚えておこうと決心した。 ［文化］ μn でセレンは人間の究極の幸せは「１：人に愛されること」「２：人に褒められること」「３：人の役に立つこと」「４：人に必要とされること」と述べた。この考えが旧革命や革命でも見直され、時代の折々に思い出されてきた。 セレンはアシェットの英雄となることで、苦労をしながらも自分は幸せであると述べた。 一方現実のセレンも幸せに関しては上記のように考えているが、現実は難しいものでそうそう頑張っても施しても褒められないし、愛されない。愛情はリディアと紫亞にもらっているのでいいとして、３、４は比較的簡単に満たせるが、日本人はあまり面と向かって褒めないので２はあまりなくて寂しいときがある。

ncl,hɥ uelʃ

nclbeˀl ［地名］ニルベルク ［レベル］6 J1:「暗青銅」 ［文化］ ヒュートの南西部の都市。良質な豚で有名。

nclɔ ［被服］マフ jɒ;cnc/lɔɔlɔ JM ［文化］ jɒ でできた。円柱状で、毛皮でできており、中に手を入れて温める。裕福な人が身につけた。防寒着なので毛の生えた面が内側。貴族は表も裏も毛が生えた面にしていた。２倍の金がかかった。一部の裕福な庶民は毛織物のマフを使った。

nclɜə,ɑμɑ ncl nɪ/lɜə「心動く」

ncɪ ［生物］髪、髪の毛 ［レベル］1 ɑu;cnc.l 1M:jeɥen: 古 :cnc ncɪ:ncɪ ［語法］ 髪を切ったという場合、el ˀclɪʃ ncɪ ɪnʃ を変形した ncɪ (ɪnʃ) ɪʃ ˀlcl が最も自然。ɪn ˀclɪʃ ncɪ では自分で切ったことになる。ɪn jɔlμɪʃ ɪʃeɪn ˀlcl ncɪ ɪnʃ では長すぎる。 ［文化］ アルバザードは白人と黄色人種、及びその混合が多い。髪は直毛が少なく貴重である。色は茶色が多く、真っ黒や金髪は少ない。自分を偽るのが好きではない国民性から、髪染めは流行っていない。 髪型は様々である。男女関わらず、伸ばす人もいれば短くする人もいる。剃る人もいる。髪にはヴィードが篭ると信じられている。特に魔力が篭りやすいと言われている。そのため、神話では魔導師は髪の長い者が多かった。レイユでもその風潮が残っており、知識派は髪を伸ばすことが多い。逆に武道派は短くすることが多い。一般に女の方が男より魔力が強いと言われている。それは神話が証明している。ゆえに女の方が長髪が多く、男は短い。アルバザード人は大体がくせ毛なので、中途半端に長いと髪がまとまらなく、不恰好である。だから短くする人は徹底的に短くすることが多い。 金髪と直毛は希少なので人気が高い。金髪と直毛だと、ふつう直毛の方が羨ましがられる。金髪の縮れ毛より黒髪の直毛の方が価値が高い。つまりリーザよりフルミネアや紗枝の髪のほうが羨ましがられる。 なお、水が軟水なため、洗髪しても髪がゴワゴワせず、ソバージュになりにくい。 ［成句］ jɔn ncɪ ˀlɜn ɪlɔ ʃcj 床に落ちた髪の毛まで嫌い : 坊主憎けりゃ袈裟まで憎い ［用例］ ncɒ ncɪ ɜə eɒʃ ncɪ (ɪnʃ) ɪʃ ˀlcl. > ɜɪn jɔlμɪʃ el ˀlcl ncɪ. 髪を切った。 ncɪ eɒɪʃ pəəɑ. ɒcl ʃeeze. 風で髪の毛がくしゃくしゃになった。 lɪjneˀl ncɪ 髪をかき上げる

n

ncɪ,ɑu nɕɪn e

ncɪɾɕɑl ［医療］脱毛症 ［レベル］6 1L

ncɪì ［動詞］ɥəl を ɪ にもたれさせる、もたれる、もたれかかる、寄りかかる、たてかける、立てかける、寄りかからせる、よっかかる、しなだれかかる ［動詞］ɥəl を ɪ に寄生させる、寄生する、悪い意味で依存する ［レベル］2 1ʔ: 制 :ncɪl から ［類義語］ɑɔɟɒɪcn ［用例］ɪn ʃʃɪɒeɟ ʅɔnʃ ncɪ̀eɟ ɪ bɪl. 壁により掛かって立っていた。

ncɪìɪ ［美容］生え際 ［レベル］3 ʃ1

ncɪ̀eu ［普通動名詞］面陳→ lec ［レベル］6 ʃʃ

ncɪɟ ［普通動名詞］委任 ［動詞］ɥəl を ɪ に任せる、任せる、託す ［経済］信託、投資信託、投信 ［レベル］4 古 :ncɪɟ(休む)

ncɪɟɸɪɟʃ ［経済］成行、成り行き ［レベル］6 ʃʃ

ncɪn ［名詞］休み、休憩、休暇、休息、サッカーのハーフタイム、非番、一段落 ［動詞］ɥəl を休ませる、休ませる、休む ［類義語］nɪ̀leɪ jeɟʃ ［レベル］2 1ʔ: 赤 :ncɪ ncɪ:ncɪ ［成句］ncɪn ɪɪɑ 腰を休める。座る。 ɥəə ncɪn 不眠不休 ［用例］ɪɟ ncɪn 休みを取る ɪn ʃcɟ ncɪn pɪn eɟ ɪnc ʃcnʅɪ. とても疲れたので休みが必要だ。 ɪn lɪl ncɪn ɑəen ɑɔə jel ʅcnel. 本当に何日か休みたい。 ɪn ɪpɪʃ ncɪn pɪn nɪ nɪl. 安心して一息ついた。 ɑcɟ eʃ ncɪn e dɪpɒ, ɥɪn jɔɔʃ ɟɪ ɒeɟjelʃ 今日は日本の休日。でもってメルセルの１週間前！ ncɪn ɑccɒɪ eʃ ɑccɥə(ʃn 久々の休みは素晴らしいね♪ ɔɒ ɔn ʃə ɑcɪ ɪn ncɪn jenʃ 一体いつになったら休めるんだ！

ncɪnɟel ［名詞］休日、祝日、国民の休日 ［類義語］ɪɪɟel ［反意語］ɪɒeɟjel ［レベル］2 1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelʃ ［語法］ → ɪɪɟel 「祝日」の訳語は ncɪnɟel に当て、休日と同一視し、祭日と区別する。公共機関、行政機関、金融機関、教育機関は dɪɟʃ が固定の休日。dɪɟʃ は機関そのものが休む。そこに勤める人間は dɪɟʃ のほかに個々人で一日休みを取る。その曜日は機関自体は活動している。 dɪɟʃ が公の固定休なので dɪɟʃ に休みを合わせる企業も多く、事実上の日曜日に相当する。

ncɪucɟɔ ［化学］ケラチン、角質 ［レベル］6 1L: 毛に多い。

ncɪucɟɔhɪnʅ ［美容］角質層 ［レベル］6 ʃ1

ncɪucʃ ［化学］システイン、システィン ［レベル］6 1L: 髪や毛に多い。

ncɪɑɪde ［美容］ヘアスプレー ［レベル］4 ʃ1

ncɪɑecɟ ［美容］ヘアミスト ［レベル］4 ʃ1

ncɪɒɪcʃ ［美容］整髪料 ［レベル］4 1L:ɟcɑcɪ:ɪɒbɪlelʃ ［文化］ アルバザード人は化学薬品を塗り込むのを嫌うので、１３～２５才以外はあまり使わない。くせ毛でぼわぼわになりがちな人種なので、朝シャワーを浴びる。

ncɪɒɔ ［美容］ヘアスタイル、髪型 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 髪の形 ［文化］ 神は髪の長さが一定で、切ると数日で元の長さに戻るし、決まった長さ以上には伸びない。 ユーマの一族は zɥ に入ると現代人と同じ髪質になった。 ɒ で戦間期で余裕が出ると髪型を飾るようになった。貴族ほど飾って盛っていた。ɑɑ で貴族が解体されると髪型は質素なものに戻っていったが、ul_ɪl でギャルがまた盛るようになった。ul_ɪl の富裕層は ɒ と逆に髪を盛らず、奇抜な髪型はしない傾向にあった。 ɒ 後期では男性より女性が髪を盛るようになった。ɒ で最も盛っていた時代には２エルアに達するものもあった。高い髪は重いので、首を捻挫しないようにすり足で歩くようになった。

ncɪɒɔɒ ［美容］毛根 ［レベル］4 ʃ1

ncɪɒɔɔʃ ［美容］ヘアワックス ［レベル］4 ʃ1

ncɪɑɔʅ ［被服］髪飾り ［レベル］3 ʃ0

ncɪdcnɑ ［言語］［文字］ヘアライン、ヘアラインセリフ ʃ1

ncɪbɪʅɔ ［美容］ヘアクリーム ［レベル］5 ʃ1

ncɪɥecn ［言語］［文字］ヘアライン。セリフのではなく。 ʃ1

ncɪzɪcl ［美容］ヘアジェル ［レベル］4 ʃ1

ncɪl ［建築］柱、ポール ［数学］柱 ［メタファー］下支えするもの ［経済］ローソク、ローソク足 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ncɪ

ncɪleeu ［生物］抜け毛 ［レベル］3 ʃ1

ncɪɪfe ［美容］理髪店、床屋 ［レベル］3 ʃ0 ［文化］ ɟɟɟɪɪfe 髪を切る店。髪を売る店ではない。

ncɪcnc ［生物］髪の毛。一本一本を指す。 ［レベル］2 ʃ1

ncɪcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］かみのけ座 ʃʃʃ ［文化］ cɑɪ

ncɪedc ［被服］ヘアピン、髪留め一般 ［レベル］3 1ʔ: 制

ncɪep ［美容］ヘアリキッド ［レベル］5 ʃ1

nccʃ ［形容詞］優しい ［副詞］優しく、そっと ［反意語］bəlʃ ［音楽］ドルチェ ［レベル］2 μɑ 1L: 赤 :nccʃɪ nccʃɪ:nccʃɪ ［用例］ʃeln nccʃ 優しい性格 ɑcɪ nccʃ 優しい幻

nccʃnɪ ［名詞］優しさ ［レベル］3 ʃ0:ɒelcɑcɪ lceɥ

nccʃlɪbɪ ［環境］ソフトエネルギー 1L

nccʃɪ,ɑ nccʃ e

nccnɪ ［名詞］柔和、温厚 ［反意語］sɔ ［レベル］3 ʃ1:nccʃ/nɪ ［用例］lɪ nɪ ləʃ nccnɪ. 彼はいつも温厚だ。

nccɒ ［名詞］縦の列、縦の行、カラム、行、列 ［名詞］川、号車。学校のクラスの教室における席順の川のこと。男女ペアの２席１組が縦に何行も並んでいるものを川という。各教室にはその川が３，４列ある。ドア側から１の川といい、窓側が最後の川になる。 ［類義語］jɪ̀lɟ ［反意語］ʅccɟ ［レベル］3 μɑ;ncɪl/ɒɪcn「柱の形をした」 ʃʃʃ ［語法］ jɪ̀lɟ

nccz ［地学］［天文］クレーター ［レベル］4 ul;ncɟ.ʅ ʃ2

nccs ［軍事］兵曹長、ニージュ ［組み数字］１４／２０ ［レベル］3 1L:ɟcɑcɪ:ɪlʃees → ʃees → nees（語頭子音揃え）→ nccs。小作戦の決戦でよく指揮をしたことから。 ［語法］［文化］ ʅɪnɪ

nce ［形容詞］陳腐な、ありふれた、月並みな、なんでもない、変哲のない、よくいる、よくある ［類義語］ɥəɒcl ［反意語］cɒɥə ［レベル］3 1ʔ: 制 :ncɔ（珍しい）

ncel ［名詞］シャンプー ［レベル］2 1ʔ: 制 :ncelɔ（髪を洗う）

nɔ,ɑ nɔz e

nɔ,ɑ(ʃ) ɒcɪ e

nɔʃ ［形容詞］慣れている、慣れた、馴染む、なじむ、馴染んでいる、なじんでいる ［動詞］ɥəl を ɪ に慣れさせる、慣れさせる、慣らす、なじむ、馴染む、適応する、適応させる ［反意語］ɒel ［レベル］2 1ʔ: 制 :neʃ: 恣意 ［用例］ʃc ej nɔʃ ɒɪdel ɪ jɪɒɪɟɪlɪ cn. もう新生に慣れたようですね。 ɪn ej nɔʃ ɪ nɔɥɒɔʅ. 夜更かしになれている。 ɪn en ej nɔʃ ɪ ʃə lib. その仕事になれていない。 ɪn ej nɔʃ ɪ ɑɔclneʃ. 早起きになれている。

nɔʃfe ［代詞］［ɒɥə］アタシの ［レベル］1 ʃ1:ʅccz:nɔn/fe

nɔʃj ［経済］帳簿 ［レベル］5 lɪ̀ʅɪ: 英語のＮＯＴＥＳからではない ［用例］ɪlʃ (ɪ) nɔʃj 帳簿をつける

nɔʃɸɪɟʃ ［経済］帳簿価格、簿価 ［レベル］6 1L

nɔʃʃhɔc ［経済］簿記 ［レベル］5 1L ［用例］lej dɔnj ɥə ɪ uelʅ ɒɪcɟej lcɥ nɔʃʃhɔc. 経理課に配属される者は簿記を習得している必要がある。

nɔʃəj ［名詞］縄張り、なわばり、ナワバリ ［レベル］3 ʃ0:nɔj/ʃəənɔ ［用例］ueɑl nɔʃəj 縄張りを荒らす

nɔʅ ［動詞］ɥəl を ɪ に現す、現す、現わす、あらわす、現れる、ばらす、暴く、公開する、開示する、登場する、出現する、掲載する、載せる ［再帰動名詞］［自然動名詞］公開、開示、登場、暴露、発露、露見、露呈、出現、進出、掲載 ［形容詞］顕になった、現れている、出現している ［経済］ディスクロージャー ［反意語］nelʅ ［レベル］2 1ʔ ←古 :nɔʅə（公開）。私（nɔ）は言うぞ（ʅə）の意。 ［用例］ɔɒɪ cʅ nɔʅ jɪ ɪn. 犬が眼前に現れた。

nɔʅuelʅ ［経済］財務会計 ［レベル］6 1L

nɔʅclɒcnɪ ［政治］フリーメイソン、フリーメイスン μɑ;/。nelʅ の対で nɔʅ。 ʃʃʃ

nɔʅ ［動詞］ɥəl を ɪ に集める、集める、まとめる、揃える、力などを溜める、群がらせる、群がる、群れる、集中する、収集する、合流する、団結する、もちよる、持ち寄る、持ちよる、融合する ［名詞］集団、グループ ［数学］集合 ［反意語］pɪʃ ［レベル］2 1ʃʃʃ: 制 :nel: 恣意。制 pɪʃ（合流）と統合。 ［成句］nɔʅ lcɥen ʅɔn nɔj 自給自足 ［用例］ʅəʃɔ ej nɔʅ jɪ μɪ. 鳥が家の前に集まっている。

nɔʅlɪ ［美容］ゴールデンポイント ʃ1

nɔluɔɪɥ ［物理］［化学］核融合炉 ［レベル］6 ɪl;/「核融合原子炉」 ʃʃʃ ［語法］ 重い原子であるウランやプルトニウムの原子核分裂反応を利用する核分裂炉に対して、軽い原子である水素やヘリウムによる核融合反応を利用してエネルギーを発生させる装置が核融合炉である。 ［文化］ 核融合炉は要するに太陽がやっているのと同じ事を人為的に小規模で起こしてエネルギーを得ようというものであり、ɪl で考案されたが実現は ls 以降に持ち越された。

nɔlɒclj ［音楽］斉唱 ［レベル］4 ʃ1

nɔlɑcɑc ［植物］カスミソウ、かすみそう、霞草 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 群生する撫子

nɔlɥɪ ［建築］アパート、マンション、集合住宅 ［レベル］3 1L:lecn

nɔlɥecn ［芸術］集中線 ［レベル］5 1L

nɔlɪ ［被服］制服、ユニフォーム、学生服、仕事着 ［反意語］ɪlnɔlɪ ［レベル］3 1ʔ: 制 :nɔl（集める） ［語法］ 作業員の制服なども含む。私服の反対。

nɔlɪl ［名詞］コーナー、集積所 ［レベル］3 μɑ;/ ʃ2 ［用例］nɔlɪl e ləlc オタグッズのコーナー

nɔlc ［娯楽］ポーカー ［レベル］3 1ʔ: 制 :nɔl

nɔle ［名詞］グループ、集まり、集団 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［語法］ 人の集まり。物や人は nɔl。

nɔlef ［経済］板寄せ ［反意語］pɪʃef ʃʃ:nɔlʃfe

nɔj ［名詞］自分 ［形容詞］～自身は ［反意語］ɒel ［レベル］1 1ʔ: 古 :nɔn（一人称の女性形） ［語法］ lənɔj のように、形容詞でなく複合語要素になることもある。

nɔʃ ［名詞］権威、威厳、権限、威信 ［レベル］3 1ʔ: 制 :nɔɔɪ

nɔʃɪ̀ɪlɟc ［普通動名詞］パワーハラスメント、パワハラ ［レベル］5 1L:ɟcɑcɪ:ɪɒbɪlelʃ ［文化］ セクハラ同様、厳しい。上司だからといって偉そうな態度はできないし、エレベーターで部下がドアを開けて待ったりという封建的な行為はアルバザードにはない。前者は法が禁じているので、放っておけばアルバザードにもあるのだろうが、後者はもともとアルバザード人の発想にない。酒を注ぐなどの発想もないし、接待麻雀でわざと負けるという発想もなくはないが薄い。もっとも接待麻雀自体がないが。

nɔʃe ［哲学］自我、エゴ、自己意識 ［反意語］ɒelʃe ［レベル］4 μɑ:μɥəə;/「自分らしさ」 ʃ2 ［文化］ 自我はある程度発達して個性というものに人々が意識を向けて初めて認識される概念であるが、μɑ の時代は地球の中世と異なり社会が発達していたため、自我という概念が生まれた。ただその後暗黒期を迎えることになるため、自我が再発見されるのは pʃ を待たなければならない。

nɔʅ ［政治］自国、母国 ［反意語］ɒelʃ ［レベル］2 1L:nɔʅɪɑ

nɔʅɪ̀ə̀ ［植物］自生植物 ［レベル］5 1L:ɟcɑcɪ:ɪɒbɪlelʃ

nɔʅɥen ［言語］自国語、国語、母語、マザータン ［名詞］国語。教科名。 ［類義語］nɪɥen ［反意語］belʃɥen ［レベル］2 ʃʃ ［語法］ 人種の坩堝アルバザードでは自国の言葉が母語にならないケースもあるため、母語の意味では nɪɥen を使うことが多い。 ［文化］ ＜科目＞ ・３科目 学校の科目としての国語について。アルバザードの学校では国語は読解・作文・言語知識の３分野に分かれる。言語知識は文法や語彙知識などを修得する。 ・読解 読解は日本の国語のテストとはかなり異なる。このときの誰それの気持ちを述べよ的な問題はその答えが確実に本文中に書いてあるかぎり出ない。日本の国語のように多解釈がありえる場合や「察し」を必要とするような問題は出ない。アルバザード人は勝手に相手の気持ちをこうではないかと決めつけるのはぶしつけで失礼と考える。日本人は察しの文化があり空気を読むが、アルバザード人は自分の尺度で相手の気持ちを勝手に決めつけるのは失礼と考えるので、よほど確信がないかぎり勝手に相手の意思を自分なりに解釈しようとはしない。結果的に国語の問題でも誰それの気持ちを述べよ的な問題は出ない。 ・作文 作文は説明文・物語文を書かされる。日本と違って作文を書かされる頻度が極めて多く、毎週作文の時間がある。これはアルバザード人が自分の考えを適切に言葉で相手に伝えることを重視しているためである。特に人種の坩堝であるアルバザードにおいては言葉でしっかり自分の意思を伝えることが重要とされる。日本と違って空気を読んで察するということが、多文化環境だと多解釈すぎて不可能だからである。 これは地球の話だが、セレンはマンガが好きで字の本が好きでない。小説はほとんど読まないし、字の本で読むといえば学術書くらいである。 なぜマンガが好きかというと、絵が中心で吹き出しが少なく、入る台詞が限られているためである。つまり小説版の冗長で無駄な箇所を省いて本当に必要な要所だけ入れるので、自然とマンガは小説版の要約やまとめとなり、効率的に内容を把握できる。合理的だから好きだ。 セレンは小説や学術書を読んでいて辟易することが多い。なぜなら冗長で無駄な情報が多く、知識の吸収効率が悪いからだ。もっと端的に要点だけ書けとしばしば思う。 たまに冗長でない読み飛ばすところのない小説や学術書があると喜ぶ。こういう手合いの本をマンガ化すると紙幅の都合で必要な部分がそぎ落とされてしまうので、こういう本のコミカライズは好まない。そういう場合はコミックを読んだ上で原作も読む。 セレンのこういう性格はアシェットに大きな影響を与えてきた。セレンはルシーラとして使徒の論文を評価する立場にいた。従って冗長で無駄無駄しい文章は低く評価してきた。低評価の場合は再提出をさせることもしばしばだった。 なお、セレンは冗長なものだけでなく逆に説明不足で分かりづらい文章もまた嫌った。理系の人間でコミュ症気味の人間に多いのだが、説明が不親切で分かりにくい文章は語学力がないとして切り捨て、再提出させた。 再提出は誰もが嫌がることなので、使徒たちは一度で高評価を得るためにセレンが好むような「言葉足らずでなく冗長でもなく分かりやすい文章」を心がけるようになり、アシェット独特の文章のスタイルが出来上がった。それがアルバザードにおける「良い文書」の雛形になっている。

アルバザードではまず最低ラインとして「言葉足らずでなく冗長でもなく分かりやすい文章」が要求される。 これは現実でもそうで、２０１２年現在５才の紫亞ですら徹底的にこの価値観で文章を制作するよう日々教育されている。 また、アルバザードで作文をする場合は、特に説明文においてだが、「結論→問題提起→証明→再結論」という独特の流れが良いとされる。 なぜこの文章の書き方が良いとされるかだが、多数あるアーカイブを後になって見直す際、個々の文章が何について書かれたものであるか合理的にザッピングできるよう、まず結論ありきなのだ。 まず結論部を読んで関心を引いておいて、ではなぜその結論になるのか、そもそもどうしてそういう発想に至ったのか、という流れに持っていく。だから「結論→問題提起→証明→再結論」という独特の流れができる。 アルバザードでは子供の頃から徹底的に作文の書き方を鍛えられ、言葉で自分の考えを分かりやすくかつ過不足なく説明できるよう訓練される。それができない人間は決して上にはいけない。 一方、日本ではこのような訓練はほとんど行われていない。東大生であろうと日本語すら不自由な人間が数多くいるていたらくである。名のある教授の著書を読んでも冗長だったり意味不明だったり情報が不足していたりといったことが平気で見受けられる。セレンの経験上、日本人はあまりに文章が下手だ。下々の者ならそれでもまぁ良いが、東大生や教授や医者といった連中ですらそのていたらくといったことがあるのでまったくもって由々しき問題である。

特にコミュ症の理系人間が書いた機械のマニュアルなど、下手な文章の極みだ。あれはたいてい分かっている人間にしか分からない文章だ。マニュアルを読んで意味不明に思ってさじを投げた経験は多くの人にあるだろう。 学生時代でいうと、教材ーー特に数学の問題集ーーの解説を見て「どうしてこの式から次のこの式になるんだよ。そこが分かんねぇんだよ。『自明のため省略』とかふざけんな」と憤ったことがあるだろう。あれは日本語の不自由な理系人間が書いているからああいうことになる。文系人間でイヤに詩的な書き方をする人間の文章も同様に分かりづらい。 アルバザードでは、日本では当たり前になっているこのような駄文が社会的に許されず、バカにされ、排他される。とてもじゃないがアルバザードの出版基準なら出版できないような駄文が、日本では教授などの肩書きのもとに出版されている。これは憂慮すべきことであるが、それがこの国の文化のひとつなので根強く変わらないだろう。 間違いなく日本人の東大生の多くはアルナ大には入れない。数学の問題などでは通過できても、恐らく国語の入試で躓く。現行の日本の教育だとアルバザード人にとってはまともに言語を扱えない人間にしか映らないため、国語では良い点が取れない。 その上アルバザードでは上の大学に入るには人間性も重視されるため、その点でもお勉強しかできない日本の子供たちには難しいと思われる。 アルバザードでは言語をきちんと運用して他人とコミュニケーションが取れる能力が評価され重視される。国語の授業内容は日本とかなり異なるし、日本の国語の授業よりも社会に出て遥かに役に立つ。 むろんアルバザードにも数学やらなんやら技術的なことはよくできるが人間性は備えてないしコミュ症だしという人間がいる。日本はそういう欠陥品でもホワイト企業に入れて社会の上層部に食い込めるからどんどん国が腐っていくわけだが、アルバザードではそういう人間は「生きる機械」としか扱われず、職人の扱いを受ける。職人としては尊敬されるが、社会を動かす上層部には決して入れない。そんなことをしていては日本のように国が滅んでしまうからだ。アルバザードが世界一の強国であるのは理由があるのだ。 ［用例］ɾɪl ɪn ʃcl lɪl cl pɪɑel e nɔʃlɥen. でもまだ国語の宿題が全て残っている。

nɔʃlɔlɒ ［政治］自治 ［レベル］4 1L

n

nɔʃɪɔlɒlɕɪl ［政治］自治都市 μɑ;/ ʃʃ̍

nɔʃɪɔlɒlɪnɸ ［政治］自治権 ［レベル］4 ʃ0

nɔʃɟe ［代詞］自分たち ［娯楽］［軍事］自軍 ［類義語］nɪnnɪ ［レベル］1 1L:lɕɔn

nɔʃɟeſ ［普通動名詞］自殺 ［類義語］lɪſɥɵɟ ［レベル］2 1L ［文化］ アルティア＞ルティア＞アルバザードの順で自殺が多い。若年層は厭世、中年は金銭、高齢者は病苦が原因となりやすい。自殺率は ɪl で、ʃl 年現在の日本の約１／１００ である。この異様な低さはウランセの合法化にあり、ウランセは自殺ではないので含まれないため。 ［用例］ ɪμbɪn ʅɪlɔ ɪμ nɔʃɟeſ nɔɑ nɪɸcɟɪ. アルティア人に比べればアルバザード人の自殺者は少ない。

nɔʃɟel ［代詞］自分たちの ［類義語］nɪnnɪl ［レベル］1 ʃ0

nɔʃuɪnɑ ［普通動名詞］自爆、自縄自縛 ［動詞］ɥel を自爆させる、自爆する ［レベル］3 ʃʃ

nɔʃucl ［普通動名詞］自傷行為 ［レベル］4 1L:μɕɑɕɪ:ɪμbɪlelſ

nɔʃuclɪ ［医療］自己免疫 ［レベル］5 1L

nɔʃuenſ ［経済］自営企業、自営業 ［レベル］4 1L ［文化］ → uenſ

nɔʃɑɟɔɒ ［動詞］ɥel のことについて内省する、内省する ［普通動名詞］内省 ［レベル］4 1L:μɕɑɕɪ:ɪμbɪlelſ

nɔʃɑcnʅ ［娯楽］［軍事］自陣 ［レベル］4 ʃʃ

nɔʃɑel ［普通動名詞］自習 ［動詞］ɥel を自習する、自習する ［レベル］3 μɑ;/ ʃʃ̍

nɔʃɒcʅ ［名詞］自分から見た右 ［反意語］ɒelɒcʅ、nɔʃlɪnʅ ［レベル］2 μɑ;/ ʃʃ̍: 造語は ʃʃ̍ だが概念自体は古アルカにあり、「自分にとっての左右と相手にとっての左右を区別できたら便利だ」という着想は９８年３月１９日（木）にされている。

nɔʃɸcl ［経済］私費、自費 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

nɔʃdμɔſ ［普通動名詞］自費出版 ［レベル］5 ʃʃ

nɔʃbecnʃ ［形容詞］(nɔʃbecnʃɪn で）卑屈な ［普通動名詞］自己卑下 μɑ;/ ʃʔ

nɔʃμcʃ ［普通動名詞］自重、自制 ［類義語］μcʃſ ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［用例］ μe ɪμ nɔʃμcʃſ, jeɥen. セレン自重しろ。

nɔʃsɔſ ［普通動名詞］自己紹介 ［レベル］3 1L:μɕɑɕɪ:ɪμbɪlelſ

nɔʃlɪnʅ ［名詞］自分から見た左 ［反意語］ɒelɒcʅ、nɔʃɒcʅ ［レベル］2 μɑ;/ ʃʃ̍:nɔʃɒcʅ

nɔʃlccɑ ［地球の星座］［ユマナ］北斗七星 ʃʃ̍ ［文化］ cɑ

nɔʃɪμl ［経済］自己資本 ［レベル］6 1L

nɔʃɪſl ［普通動名詞］自助努力、自力で ［レベル］3 ʃʃ

nɔʃɪlej ［動詞］ɥel を自嘲する、自嘲する、自虐する ［再帰動名詞］自嘲、自虐 ［レベル］4 ʃʃ ［用例］ lə jcnɟcʅ ɪjel ɥən ɪμ nɔʃɪlej ſel jcʅl ſ'ɪuelɪnſ. 死神の皮肉に、彼女は自嘲めいた笑みを浮かべた。

nɔʃcn ［形容詞］主観的な ［反意語］ɒelcn ［レベル］3 μɑ;nɔʃ/cnʃ「自分の目」 ʃʃ ləəʃə:ləəʃə

nɔʃcnʅlld ［言語］主観的把握、自己中心的視点配列、 I モード μɑ ʃʃ ［文化］ nɪʅlelɑɑel

nɔʃcnnɪʅlɪn ［言語］主観的認知主体 μɑ ʃʃ ［文化］ nɪʅlelɑɑel

nɔn ［代詞］[ɒdɑ] 私 ［レベル］1 ɟɪɪl;e 古 : 女の使う「私」。古アルカ通して女言葉だったわけではない。 nɔn:nɔn::nɪɒc,ɪlſ ［語法］ → ſɥə

nɔn,ɑu ɒcɪn nɔ/n

nɔnſ ［形容詞］ひろびろとした、広々とした ［レベル］3 古 :nɔnſ 広がっていることを示すオノマトペ

nɔnʅɔ ［動詞］ɥel をねぼけさせる、寝惚ける、寝ぼける、寝呆ける、ねぼける ［レベル］3 古 :ɒel11 ごろ日本に泊まったときにリディアが寝起きに「のんこぉ～」と意味不明な返事をしたことをセレンがかわいいと思って笑ったことから。本人としては nɔn うんたらと言ったらしい。

nɔnnɔ ［文末純詞］[ɥənʃe] 返事を促す ［レベル］1 古 :nɔnnɔ,nɔn（反語）から。音声のみのアンシャンテ時にトランシーバーの「 どーぞー 」と同じ役割で発達したものが ʅelſɪ で、nɔnnɔ は反語だったものが女子により特別 elſɪ の意味になった。 ［語法］ 相手に次の発言を求める純詞。自分の言葉に対する答えや相手の意見などを求めたりする。トランシーバーで最後に「どーぞー 」というのに当たる。相手の話は最後まで聞くのが礼儀なので、elſɪ や nɔnnɔ は話、とりわけ長めの話の終点を指すのにも役立っている。

nɔnɑ ［動詞］ɥel を ɪ に発表する、発表する、告知する、知らせる、公開する、公表する ［普通動名詞］発表、告知、プレゼンテーション、プレゼン ［経済］ローンチ ［レベル］3 1ʃ̍: 制 : 古 :nɔnlɔʃ「 私が知るようにする 」

nɔnɑɪn ［名詞］発表者、公開者、公表者 ［レベル］3 1L:μɕɑɕɪ:ɪμbɪlelſ

nɔnben ［幼児］おもらし ［レベル］1 1L:ɪəlɕɪ:nɔnben ← "nɔn benɪ"（おしっこでちゃった）と言いたいらしい。

nɔnhɪrdɒɪ ［筐堺］ノンハルマ ［レベル］5 μɑ:ɒclɑ;nɔn ʅenɔ hɪrdɒɪ ʃʃ ［文化］ 筐堺司 : zɪnɪ φenɔʃ 筐堺国 : φenɔʃ, ɪμlelɕɪ

nɔnɪ ［名詞］プライバシー、プライベート ［形容詞］プライバシーに関わる、個人的な、私的な、プライベートな ［レベル］3 1ʃ̍: 制 : 古 :nɔnnɪ（私の心）

nɔnɪʅlec ［言語］私小説 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

nɔnɔ ［代詞］[ɒdɑ] ［幼児］私の ［レベル］1 1L:nɔn

nɔu ［形容詞］遅い。動作そのものの所要時間が長い。 ［反意語］uɪɑ ［レベル］1 1ʃ̍: 制 : 恣意。制では「ある期間のうち、前半の方」の意味。

nɔuɑɪcʃ ［化学］爆燃 μɑ;/ ʃʃ̍ ［文化］ φel

nɔuɪ ［武道］発勁、発頸、はっけい、ハッケイ、接射、ノヴァ ［類音］nɔbɪ ［レベル］5 ʃ0:nɔɪ/ɪuɔn ［文化］ ユベールにおける技のひとつ。地面から吸い上げた力を手などを通じて対象にぶつけ、対象に触れたまま吹き飛ばす技。殴るわけでも突くわけでもなく体を大きく前後に揺らすわけでもなく、ほぼ数ｃｍの動きしかないにもかかわらず、相手は大きく後ろに動く。それゆえ、言葉だけではなかなか信じてもらえない技であり、実演を要する。攻撃力は体当たりに近く、慣れると相手を吹き飛ばさずに内臓を痛めつけることができる。 アルバザードでは μɑ の時代にセレンが編み出した。身体技能であることからユノではなくノアから造語されている。アティーリ上ではセレンからクリスとウムトナに流布され、術者は３人である。しかし現実にはセレンの接射が話題になったことが乏しいため、恐らく使えるのはセレンのみ。

nɔuɪ,ɟzɑ ɒeʃ nuɪ,ɑ

nɔucɪ ［アトラスの国家］ノヴィア ［レベル］5 1L:μɕɑɕɪ: 戦火のあった

nɔuel ［名詞］沈黙、静寂、無音、ノヴェル ［類義語］jeeμ ［レベル］3 ɟzɑ;ɒɔnɔ/uel（止める闇） ʃ1 n:nɔuel:lə nɔuel ［成句］ nɔuel uɪnɑ ɥel 静寂が ɥel を襲う : ɥel は当惑する、ɥel leʅ cl, nɪ jeeμnɔʅ ［用例］ nɔuel (ſ')eμɑc 静謐

nɔuelhɪrl ［言語］黙字 ［レベル］6 ʃʃ ［語法］ アルカでは ɒccʅ ɔ lcɟcʅ ɔ μeb の最初の ɔ などに現れる。

nɔɒ ［動詞］ɥel をうらやむ、ɥel が羨ましい、うらやむ、羨ましい、羨む ［普通動名詞］羨望 ［感動詞］あぁうらやましい。nɔɒ nɔɒ で使う。女子供の言葉。 ［反意語］φenɔɒ ［レベル］2 1ʃ̍: 制 :neɒ（ねたむ）

nɔɑ ［動詞］ɥel を ɪ と比べる、比べる ［普通動名詞］比較 ［接続詞］ſ より ʅ のほうが、数学の「大なり」、＞ ［格詞］～と比べて、（時間表現を後続させて）～より後に、～以降の ［数学］より上 ［反意語］ʅlſ ［レベル］2 1ʃ̍ ←古 :nɔcɑ nɔcɑ:nɔcɑ ［語法］ 時間の用法が非常にややこしいので理解するより覚えたほうが早い。 説明。「 nɔɑ ʅ は「＞ʅ である。また、時間は過去＜現在＜未来のように、未来のほうが大きいという扱いを受ける。 ɪn ɟɔ nɔɑ ſəμ（これからそうする）の場合、「私がそうする」時間が ſəμ（現在）に比べて＞である。＞ということは未来である。従って、日本語にすると「今より未来＝これから」となる。 同じく nɔɑ ɑcʃ といえば、今日を含まず今日以降という意味になる。 ＜nɔɑ と φɪlſ＞ nɔɑ と違って φɪlſ は格詞節の肯定が含意され、それより更に主節の内容が肯定されることを示す。ɪn eſ ɒclɑɪn nɔɑ ɥə lɑɪn と ɪn eſ ɒclɑɪn φɪlſ ɥəlɑɪn を比べると、後者は自分が研究者であることを肯定している。前者は研究者というよりむしろという感じで、研究者であるかどうかは不定である。 ＜格詞連続＞ lc nɔɑ ʅɔſ ɟlſ（千年以上経て）、ɑɔl nɔɑ ʅɔſ ɟlſ（千年以上の間）など、格詞が見かけ上連続することがある。これは lc ɟlſ nɔɑ ʅɔſ ɟlſ（千年以上の年数の後）などの ɟlſ などの名詞が省略されているためで、この nɔɑ は格詞ではなく接続詞なので、厳密には格詞の連続ではない。 ［成句］ nɔɑ ſəμ 今後は、これからは ［用例］ ɪn nɔɑ ſc eſ ʅɪc. 私のほうがあなたより大きい。

nɔɑen ［接続詞］nɔɑ ［レベル］3 ʃ1

nɔd ［形容詞］緊張した、気の張った、気が張った ［反意語］ɥeɒ ［レベル］2 1ʃ̍: 制 :nɪ/dɔu（心を締める）［用例］ ſe nɪ nɔd. 緊張するな。

nɔdeʅ ［物理］慣性 ［レベル］4 ʃ0:nɔdʅ:1ʃ̍: 制 :nɔdle（進まない）。語源からもはや意味が全然変わっている。

nɔb ［言語］語根 ［レベル］6 @ 1L: 語根のように造語すると語弊を招く。ちょうど ɒeu の反対概念なので、かえってメルテーブルのほうがいい。

nɔbɪ ［アイテム］ノバ ［レベル］4 ［類音］nɔuɪ μcɑcɪ: 古 :nɔoɪbɪcφ「 ノアの拳 」 ［文化］ ヴァストリアの１つ。ンムトのもつ神拳。

nɔμɒ ［約物］"、引用符、二重引用符、ノーム ［レベル］3 ʃ1: 古 nɔ（爪）/hɪrdɒɪ（文字）→ nɔrl ɒ → nɔμɒ

nɔz ［生物］爪 ［動詞］ɥel をひっかく、かく、掻く、ひっかく、引っかく ［レベル］1 μɑ:nɔ 1ʃ̍: 古 :nɔ（爪）、φcnɔ（武器の爪） nɔ:nɔ:lɪ dɥəɪ（dɥəcz の対）:lcdc,ɪlſ ［語法］ 領域は先端から半月を含んだ付け根まで。 爪の半月は jɔμle e nɔz。 ［用例］ ɪn ɑcɔ nelſ nɔz. 私には爪を噛む癖がある。 ɪn nɔzɪſ ɔ nɔzɪſ uɪcʅ le μcb jcdɪſ. 蚊に食われたところをぽりぽり掻いた。

nɔzʅlɪj ［名詞］爪切り ［レベル］2 1ʃ̍: 制 : 爪の鋏

nɔzʅcl ［動詞］ɥel を引き裂く、引き裂く、ひきさく、引きさく、爪で引き裂く ［レベル］3 ʃ0

nɔzʅeɪ ［美容］ネイルトリートメント ［レベル］5 1ʃ̍: 制 : 爪のトリートメント

nɔzleμ ［美容］マニキュア、ペディキュア（足のマニキュア） ［レベル］3 1ʃ̍: 制 : 爪の化粧

nɔznɑdl ［植物］フラジョレ。インゲンマメの一種。 1ʃ̍: 制

nɔzφcz ［名詞］つめやすり、爪やすり ［レベル］3 1ʃ̍: 制

nɔzl ［形容詞］かゆい、痒い ［反意語］ɥɪc ［レベル］1 1L:nɔz lɪl（掻きたい） :::cddc,ɪlſ ［用例］ ɪn nɪſ nɔzl ɔn uɪcʅ le μcb jcdɪſ. 蚊に食われたところが痒かった。

nɔzlɥl ［被服］ダックビルシューズ、ペアズクロー μɑ;/ ʃʃ̍ ［文化］ ɟɒ でできた。女性用。裕福な平民が履いた。

nɔzlɔɔz ［生物］爪囲、爪の端 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

nɔzlɔɔzɑɪcz ［医療］ひょう疽、瘭疽、ひょうそ、ひょうそう、ひょう爪、瘭爪、爪囲炎、化膿性爪囲炎 μɑ;/ ʃʔ ［文化］ 細菌感染症の一種。指先が黄色ブドウ球菌による感染で爪の周りが赤く腫れて痛がることがある。陥入爪でなりやすくなることもある。

nɔzleſ ［動詞］ɥel を掻いて引っ張る、掻く、引っぱる。かきむしるに近いが、むしりはしない。 ［レベル］3 1L:ɒelɕɑɪ ɪlcʃ

nɔzleɒɔɒ ［音楽］プリングオフ、プリング ʃ1

nɔzɪ ［名詞］熊手 ［レベル］3 1ʃ̍: 制 : 古 :nɔzɪɒɔ（爪のついた棒）

nɔzɪnɔz ［音楽］サークルピッキング ʃ1

nɔzcn ［化学］トルエン。ɑɪɪnɟdel（メチルベンゼン）の慣用名。 ［レベル］5 1L:μɕɑɕɪ:nɔz/cn ［文化］ μɑ で、女子が男子とデートをする際にマニキュアを付けたがった。もっとも、アシェット女子は基本的にさっぱりした子が多い。だがリディアは時として派手な格好を好んだ。リディアはセレンが桃色の爪を好むのを知っていたので、リュウに新たなマニキュアを依頼した。それを受けてリュウが新しいマニキュアと除光液を用意した。その際、除光液としてトルエンを使ったことから nɔzcn という。

nɔzcnncɒɪʅl ［化学］ベンゼンホスフィン酸 1L

nɔzeſ ［代詞］自分の、自分自身の ［類義語］enɪſ ［反意語］ɒeleſ ［レベル］1 ʃ0:eʅeſɔne:e nɔʃſe（e nɪnſe を真似て作られたもの）→ nɔʃſe → nɔʃeſ（交替）→ nɔzeſ（同化） ［語法］ 複数形は nɔ ɟɟel と nɪnnɪl。 ［用例］ lɪ bɪɑɪſ ɔjn nɔzeſ. 彼は自分の頭を叩いた。

nɔɔɪ,ɑ nɔɪ e

nɔɔɪμ ʅɪcn ［人名］ノワール＝カイン ʃ0 ［文化］ (cɒel 1ʔʔL:1ʃʃʔ) ユリ＝ジレールの親友。ラグナロクの研究員。グレアの工法を門外不出にしたかったユリの希望を叶えるため、1ʃʃ0ʃ 年に魔動機関 lɪzeſ を発明。ユリとは大学からの同期で、年齢も一緒。死亡した年まで同じ。

nɔɔɪz ［生物］［医療］［魔法］原気、ノワーズ ［アクセント］nɔoʔz ɟzl;/ ʃʃ̍

nɔɔɪzuccɑɪ ［生物］［医療］原穴 ɟzl;/ ʃʃ̍ ［文化］ １２穴ある。臓腑の疾患に用いる。

nɔɔɪɟɥʅ ［生物］［医療］気会 μɑ;/ ʃʃ̍

nɔl ［単位］7 ［音楽］セブンス ［レベル］1 1L: 制 :nɔ ejee:zɪn::ɪnɟɪ,ɪlſ

nɔlſ ［名詞］一式、ひとそろえ、一揃え ［料理］コース料理 ［電算］文字コードの一揃え、文字コード、コード、セット ［レベル］3 1L:ɒɔlſ

nɔlſɑɪl ［料理］モーニング、モーニングセット ［レベル］5 ul;/ ʃʃ̍ ［文化］ アルバザードではふつう「トースト、ハムエッグ、ヨーグルト、紅茶」か、凪風に「ごはん、味噌汁、漬物、魚、緑茶」の二択である。モーニングと頼めばこれらが出てくる。 ［用例］ ɪn ʅəc ʅe uɪn nɔlſɑɪl. モーニングを食べにいこう。

nɔln ［名詞］個性 ［レベル］3 1ʃ̍: 制 :nɔnſeln（私の性格）

nɔllccɑ ［地球の国名］タジキスタン 1L: 国旗に７つの星

nɔlleɒ ［音楽］七重奏、セプテット μɑ;/ ʃʔ

nɔlɪn ［生物］しらみ、シラミ、虱 ［レベル］3 古 :「掻きたい」

nɔɪ ［魔法］翠晄、すいこう、ノア ［名詞］気合い、気、気力、肉体的精神力、肉体的集中力 ［医療］気 ［レベル］1 jeμſ 1ʃ̍: 制 : 古 nɔɔɪ:nɔɔɪ:lə nɔɔɪ ［文化］ enuelen, ɑccɥə, ɑɔlɒcɥə 人体を囲む緑の光で表現される。『アティーリ』で頻繁に現れる能力で、鍛え抜かれた格闘家が操ることができる。 nɔɪ は ɥənɔ と uɕμ の働きを助ける潤滑油の役目をする。nɔɪ の流れが悪いと ɥənɔ が体中に行き届かず、元気を失う。 lə̀ʅeſɑɪ では nɔɪ は背中（兪穴）から入って腰へ下り、腹側の丹田に入る。この流れが元気を生むので、背中の血流が悪く凝っている人は元気がない。 ［成句］ nɔɪ eɒ φcnʃ ノアが削れる。気が引ける、気後れする：精神力であるノアが穿たれて削れ、小さくなってしまうという意味。気が小さくなっている状態であり、気おくれするなどの意味を表わす。 nɔɪ eɒ ɒcɒɔɒ 落ち着かない nɔɪ eɒ jeel 胸につかえたようなすっきりしない感じがする ʃɔc nɔɪ ɑccnɪ nene ～に気を使う、気を回す ［用例］ ſcl nɔɪ ɑɪn 丈夫なノアを持つ。我慢強い、忍耐力がある

nɔɪ(J) ［代詞］[ɒbɥμs] ɪn ［レベル］1 JJ.ʔbccμ

nɔɪj ［動詞］ɥel を ɪ の役職に立候補させる、立候補する ［普通動名詞］立候補 ［反意語］ɑɪj ［レベル］3 1L:clɒəj:μcɑcɪ:nɔj/ɑɪj

nɔɪjʅcſ ［名詞］体調 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ ［語法］ 「ノアの座」すなわちノアの宿る丹田のこと。ノアが丹田に集まらないと体調を崩すため、体調が一番近い訳。 ［用例］ jc nɔɪjʅcſ 体調が悪い

nɔɪn ［代詞］[ɒdɑ] 私の ［レベル］1 1L:μcɑcɪ:nɔn。lenɪ と lenɪn の類推から、語尾に ɪn が付いた。

nɔɪɑlcſ ［魔法］気水晶、ノアフリート ［アクセント］nɔɪɑlЄſ ［レベル］5 jɒ;nɔɪ/cɑlcſ ʃ1 ［文化］ cɑ lcſ

nɔɪφɪlſ ［生物］期門 ʃ1

nɔɪμɔn ［魔法］気圧 ［レベル］5 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

nɔɪlccl,ɪμɑ ノア粒 /

nɔɪɪjμɪ ［生物］気海 ʃ1

nɔɪelle ［生物］天柱 ʃ1

nɔc ［親族］息子 ［類義語］uceɪ, jɪɒɪn ［反意語］ɒcuɪ ［レベル］2 1Λ: 制 ［文化］ 伝統的にアルバザードは息子をありがたがる。娘の誕生はそこまで喜ばない。父親はあまり子供に関心を示さないが、息子には比較的関心を示し、可愛がる。娘は趣味が合うときだけ同士として認め、そうでない場合は理解できない小さい人という認識で、あまり干渉しない。 両親にとって娘に対する最大の関心事は貞操のみで、あとはせいぜい家事の腕前と知能の高さくらいで、それ以外は興味がない。 一方、息子は色々な可能性を考慮して教育を施し、ちやほやする。男系社会というのが理由のひとつだが、アルバザード人が嘘と無駄口を嫌う人種であることも関与している。アルバザード人は嘘を嫌うが、子供は嘘をつく。すると必然的に口数の多いほうが嘘をつく回数が多いため、口やかましい娘は生意気で可愛くなく、悪徳に満ちていると思われる。一方、口の少ない息子は純粋で可愛いと思われやすい。 娘が不貞を働けば父親は娘を売るか殺して処分するが、息子はよほどのきかんぼうで犯罪でも犯さない限り、殺す選択肢はない。息子と娘のどちらかしか助けられないという選択肢に迫られれば、アルバザード人の多くは息子を取る。 ＜息子と父親＞ 父親は跡継ぎとして息子を可愛がる。また、趣味や格闘技を伝授する。息子は父親を尊敬し、自分の二番目の理想像として捉える。

n

（一番目と言わなかったのは、たいていのアルバザードの男子にとって、理想の男性はミロク＝ユティアであるため） ＜娘と父親＞ 父親は娘にあまり関心がない。ただし趣味があえば可愛がる。娘は父親の寵愛を得ようと、ɒɪnɪ になるまでは必死に父親に求愛する。そのたび父親が妻にしか目を向けないので、余計に母親と確執が生まれる。ɒɪnɪ になると男子に興味を持つようになるため、父親との関係は希薄になる。 ＜息子と母親＞ 母親は厳しいが、娘に対するよりはずっと甘く、過保護な傾向がある。そのため、息子は母親に甘え、父親の寵愛を必要としない。その代わり父親は尊敬の対象として見られる。母親は息子に甘いため、息子がいる家庭だと旦那にべったりしなくなることが多く、父親は若干さびしそうにしている。 ＜娘と母親＞ 母親は躾けに厳しく、頻繁に娘を殴る。娘にとって母親は脅威で、父親を守ってくれる存在として慕う。しかし ɒɪnɪ 以降になると自主性を重んじられるばかりでなく、女性特有の悩みなどを相談できる相手として母親が重視されるようになる。結果的に、年が行くにつれ、娘は母親と関係が濃くなり、小さいころにべったりくっついていた父親の元にはあまり行かなくなる。

nɔcʝ ［単位］ミリ ［レベル］3 ʃ1:ɑcnɔʝ

nɔcʝɒelɑc ［単位］ノイスメルフィ、ミリメートル、ｍｍ→ｎɒ ［レベル］3 ʃ1

nɔcʝɒelbɪ ［単位］ノイスメルバ、グラム、ｇ→ｎb ［レベル］3 ʃ1

nɔcɑ ［形容詞］相対的 ［反意語］ɪnɔc ［レベル］3 古 ［用例］ʃlcʃ nɔcɑ 相対的な評価

nɔcɑ,ɑ nɔɑ

nɔcɑʃcɑ ［経済］相対貧困、相対的貧困 ［反意語］ɪnɔcʃcɑ ul;/ ʃʔ

nɔcɑʃlcʃ ［普通動名詞］相対評価 ［レベル］4 1L:ɒcɑcɪ:ɒbɪlelʃ

nɔce ［軍事］准士官 ［組み数字］5 / 7 ［レベル］3 古 :zɪnɪ ［文化］ 兵の階級のひとつ。准尉、特務曹長、兵曹長に分かれる。日本における階級で准士官の３番目がなかったため、海軍の兵曹長を無理に宛がった。

nɔe ［名詞］ナルシズム ［類義語］ɑenzelcʃ ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :nɔnelɔ（自分を綺麗にする）

nɔeʃʃ ［代詞］[pɒɥs] ɪnʃ ［レベル］1 ʃʃ:lɒccɒ

nɔen ［形容詞］無能な、有能でない、多彩でない ［反意語］ɪuɪcn ［レベル］3 ʃ1: 赤 nɥɔhe（弱い）

nɔel ［代詞］[pɥe] アタシ ［レベル］1 ʃ1:llccz:nɔn

nɔel(ʃ) ［名前］ノエル 古 :nɔ は９で、不吉。el は水。そこから転じて「嫌な雨」が原義。酷い雨で弱っているときにかわいそうに思ったセレンが捕獲を決意したことから。 ［文化］ セレンの飼い猫。家の近くのベンチで鳴きかけてきた。その夜、すごい大雨になったため、保護した。雌。最初は「けー」と鳴いていたが、数年して「にゃー」になった。さびしがり。

nɔeɪn ［名詞］ナルシスト ［レベル］4 ʃ0

ne ［代詞］誰。疑問代詞。 ［レベル］1 jɒɥʃ;nee,ɑ ʔʔ←古 :nee nee:nee ［用例］ʃc eʃ neɤ あなたは誰ですか。

ne(ʃ),llʃ oel <>nee

ne,llʃ ɒcɪ

neʃ ［動詞］ɥel を起こす、起こす、起きる、目が醒める、目覚める、目が覚める ［魔法］ネット。利の低位白魔法。ネルフを解く。 ［電算］起動する ［反意語］ɒɔl ［レベル］2 @ 1L ［文化］ アルバザードの国民はふつう午前六時ごろに起きる。 ［用例］ ɪn cl neʃ cɒ ʃəɥ. 今起きた。 ɪn neʃ nelʃ cɒ ʃlɪzɪʝ. 私は毎朝６時に起きる。 ɪn neʃ uɪn cɒ uɪɥɑɪnʃ e ʃejʃ. 明日は７時に起きよう。 ɪn neʃɪʃ cɒ uɪɥzɔn. ８時に起きた。 ɪn neʃ nɔʝ lɔn dcle. コーヒーで目が覚める。 ɪn neʃɪʃ uɪɑel nɔɑ ʝlɔl. いつもより早起きした。 ɪn neʃɪʃ uɪɑel ɑə 1 ɒcu nɔɑ ʃɔl el cɒ ʃə ɑɥɥ. 今朝は昨日より１時間早く起きた。 ɪn neʃɪʃ ucl uɪɑel ɒɪn ɪn ɑelɪʃ llɪlʃ ɑəɥ ne nɔu. 夜遅くまで勉強していたので、朝早く起きられなかった：ɑəɥne nɔu ɒ ucɥɑ にすること。ucɥɑ nɔu だと夜明け前になるので、流石に現実的ではない。というのも、アルバザードは小説はふつう徹夜で勉強をしないため。 ɪn neʃɪʃ ɥcʝ lɔnel. 本当に起きたくなかった。 cɒ ʃɔlel, ɪn ɥeʃɪʃ ɪl ɥəəs ɥəl lə neʃ ʝcl ɪn uɪɑel. 昨日、私は弟に朝早く起こすよう頼んだ。 cl neʃ ɒɔɪ cɒ ɪn ʝɔl. 目を醒ますと、みんな起きていた。 ɪn ɪʃej neʃ llɪlʃ ucɥɑ uɪɑ. 真夜中を過ぎるまで寝ないで起きていた。 ɪn eɒ lɪlɒɪ neʃ uɪɥ ɒɔl. 寝ているときにしょっちゅう目が覚める。 △ ɪn ɒɔlej ʝcl uɪn llɪlʃ pelɪl lecl cɒ lejʃ ○ ɪn neʃ uɪn en ɑɔclel cɒ lejʃ. 明日は遅くまで寝ていよう。 ɪn cl neʃ cɒ ʃəɥ. 今起きた。 ɪn cl neʃ cɒ ʃə ʃəɥ. ちょうど今起きた。 ɪn neʃ uɪn en ɑɔclel cɒ lejʃ. 明日は遅くまで寝ていよう。 ɪn neʃ ɑɪl nɔʝ cɒ ʃlɪzɪʝ e lejʃ. 明日は６時に起きなければならない。

neʃjeln ［アイテム］ネットセルン、めざましどけい ［レベル］5 ʃ0: 起こす胡椒 ［文化］ アズゲルから存在した民間アイテム。ネットの効果がある胡椒。振り掛けるとくしゃみをして目を覚ます。

neʃɑɪl ［気象］夜明け、朝日、明け方 ［レベル］3 1L ［用例］ ʝɪ ɑɪɪl eɒ neʃ 夜明け前に cɒ neʃ ɑɪɪl 夜明けに

neʃpelʃ ［名詞］目覚まし時計 ［レベル］3 1L:ɒcɑcɪ:ɒbɪlelʃ ［語法］ 目覚まし時計は普及している。大抵のものは午前と午後に別れていて、六時にセットしても午前か午後のどちらかしかならない。日本の物の多くは六時にセットすると一日二回なってしまう。だが、アルバザードの物はふつうそうではない。午前午後のどちらかにセットしておく様子である。 ［用例］ neʃpelʃ en ɪʃ ɥ. 目覚まし時計が鳴らなかった。 ɪn neʃɪʃ pcl neʃpelʃ ʃɪl ɪn ɒcʝlʃ ucl c ɒɔlʃ. 目覚まし時計で目が覚めたが、ベッドから出れなかった。 neʃpelʃ ɪʃ lɪu ʃcnʝɪ. 目覚ましがうるさかった。 ɪn ɒcʃɒɪʃ ɑɔ e neʃpelʃ. 目覚ましの音に気付かなかった。 neʃpelʃ ɪʃ ɥ ɑə 10 ɑec. 目覚ましが１０分鳴っていた。 ɪn cɒɪʃ neʃpelʃ. 目覚ましを止めた。 ɪn ɥɪʃ ucl ɑɔclneʃ ɒɪn neʃpelʃ en eɒɪʃ ɥ. 目覚ましが鳴らなかったので早起きできなかった。 ɪn lɔ nɔʝ ɥɪʃ neʃpelʃ cɒ ʃɔlel. 昨晩目覚ましをかけたつもりだった。 ɪn neʃɪʃ ɑɪl cɒ neʃpelʃ cʝ ɥ. 目覚ましが鳴ったときに起きるべきだった。 ɪn ɥɪʃ neʃ ɒelʃ ɪ uɪɥɑɪnʃ. 目覚ましを７時にセットした。

neʃɪl ［代詞］誰であろうと ［レベル］1 1ʔ: 制 :ne/ʃɪl ［用例］ neʃɪl ɑen neʃ ɪn. 誰であろうと私を起こすな。

neʃɪleʃ ［代詞］誰かしらの、誰かの ［レベル］1 ʃ0:jeɥen/ɥcɑcɪ:neʃɪl/ʃe

neʃcɒ ［名詞］起床時間 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɒbɪlelʃ

neʃɔnʃ ［自然動名詞］目覚め ［レベル］3 ʃʃ

neʝ ［動詞］ɥel を ɪ に上げる、上げる、揚げる、あげる、上にやる、上がる、振り上げる、立ち込める、立ちこめる、立ち籠める、立ち篭める、立ち上る、立ち昇る、立ちのぼる ［自然動名詞］上昇 ［生物］勃起 ［経済］反発→ bɪlʃneʝ ［反意語］ɒcɒ 2 1L: 恣意 ::'ɥəl:ɪiɪlə,llʃ

neʝʃ ［動詞］ɥel を c から ɪ へ隠す、隠す、隠れる、秘匿する、潜む、伏せる、ふせる ［名詞］秘密、シークレット ［副詞］こっそり、こっそりと ［類義語］lelcep ［反意語］nɔʝ ［レベル］2 ʃ0: 制 lelʃj:::neʝələ,llʃ（悪いことを隠す）ɪpeə,llʃ（良いことを秘める）［用例］ hɪcn{uecφ} neʝʃ 秘密を守る｛バラす｝ eɒʝ neʝʃ ɪ 秘密を洩らす

neʝʃʃəɑ ［物理］潜熱 ［レベル］5 1L

neʝʃɔn ［名詞］隠れ蓑 ［レベル］4 1L:lecn

neʝʃɪn ［名詞］真実、真相、隠された真相 ［レベル］4 ɥɑ;/ ʃʃʃ

neʝʃɔɔʝ ［名詞］密談 ［動詞］ɥel について ɪ と密談する、密談する ［レベル］4 ɥɑ;/ ʃʔ

neʝʃɑɔnʃ ［名詞］隠し通路 ［レベル］4 1L:lcɔn

neʝʃɑeʃ ［動詞］ɥel（新しいもの）を c（古いもの）から ɪ（場所）に挿げ替える、ɥel（古いもの）を ɪ（新しいもの）に挿げ替える、挿げ替える、すげかえる、すりかえる ［レベル］4 ʃ0:lcɔn

neʝʃdcnɪ ［名詞］密約 ［動詞］ɥel を ɪ に密約する ［レベル］4 ɥɑ;/ ʃʔ

neʝʃhɪrʃ ［文字］[言語] 伏字、ふせじ、伏せ字、ふせ字 ［レベル］4 ɥɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ 例えば日本語で「クミール」を伏せるときは「クミ○ル」のようにするが、アルカでは ɔccɥ を伏せるときは ɔxxɥ のようにする。x の数はいくつでもよい。

neʝʃɥɪ ［名詞］隠れ家 ［レベル］4 ʃ0:lcɔn

neʝʃɪlɔ ［娯楽］かくれんぼ、隠れんぼ ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:ɒbɪlelʃ

neʝʃɥ ［美容］コンシーラー ［レベル］4 ʃ1

neʝʃclɒcnɪ ［政治］秘密結社 ɥɑ;/ ʃʃʃ

neʝʃə ［幼児］[形容詞] 秘密の、ないしょの、内緒 ［副詞］こっそり、こっそりと ［レベル］2 1L ɒel len:ləlcɪ:neʝʃ と発音できなかったため、neʝə と言っていた。メルが幼児語で良いんじゃないかといって成立。ルシアが作った単語としては ʝʝʝ の次で、二つ目。どうも促音が多い気がする。大人がそのように聞こえているだけかもしれないが。 ［用例］ ɔzeʃ neʝə ひみつのかぎ

neʝʃʃɪɒ ［動詞］ɥel をたちあがらせる、立ち上がる ［レベル］3 1L

neʝɑɪɪl ［気象］日の出 ［レベル］3 ʃ1

neʝɪ ［動詞］ɥel を待ち伏せる、待ち伏せる ［普通動名詞］待ち伏せ、まちぶせ、待ちぶせ ［レベル］3 1ʔ: 制 :neʝ（隠れる）から。

neʝɪlɑɪl ［天文］日出帯食 ʃ1

neʝɪlel ［経済］上げ相場 ʃʃ

neʝc ［軍事］ゲリラ、遊撃 ［レベル］4 1ʔ: 制 :neʝ（隠れる）

neʝcuʝ ［軍事］ゲリラ戦 ［レベル］5 ɥɑ;/ ʃʃʃ

neʝɔɒcɒc ［料理］ネコミミ ［アクセント］neʝɔɒcɒЄ ［レベル］3 ʃ1:llʃ「暖めるスープ」［文化］ アルティア料理。餅、豆腐、ニンジン、ネギ、里芋、カボチャ、なめこをミソ味でゆでたスープ。豚汁と違い、ごま油は入れない。 大根おろしを鉢に摺り、餅を食べるときは一旦鉢に浸すか、あるいは大根をかけて食べる。アミラーゼにより餅のデンプンの消化が促進される。 ɥɑ の東方遠征でアシェットが取り入れ、広まった。体を温め、消化によく、胃腸によく、免疫力も高める。餅が消化によく、なめこなどが胃壁を守るため、病中病後や胃腸病に向いている。

neʝɔlə,llʃ ɒelʃ

neʝəlc,llʃ neeɒe, ɒcnʃc

neʝələ,llʃ neʝʃ

nej ［形容詞］非接触、非接触の ［反意語］ɒɔl ［レベル］3 ɥɑ;feel @ ʃ1 ［語法］ スイカやパスモなど、接触ではないが離れているというほどでもない距離を指す。

nejʃ ɒcɑccʃ ［人名］ネスト＝ミディート ［レベル］6 古 : 語源不詳 ［文化］ 第１３使徒ルージュの実兄。

nejɑclɑɪc ［医療］隔物灸 ɥɑ;/ ʃʃʃ

nen ［名詞］模様、パターン、型 ［レベル］3 lɪʃlɪ ［用例］ ☆ nɔn lecɟɪʃ nen e ʃccɪ ʝɔʃʃɔ ncdl hɪ len dɪʃ. ごはんの上に豆でハート模様を作った：アルカの場合、R のような ʃccɪ の幻字。

nen(ʃ) ［人名］ネーネの略称 ［組み数字］2 4 / 2 8 ［レベル］1 1ʔ:jeɥen: 古 :ɒel

nenʃ ［数学］確率、頻度 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :nenʃe nenʃe:nenʃe ［用例］ nenʃ ʃcn 高確率 nenʃ ʝɪl 低確率

nenʃe,ɑu nenʃ e

nenʝɪɥʃ ［被服］[工学] パンチカード ［レベル］5 ʃ0: 模様カード ［文化］ cɒəl 1ʔʃ1 にメティオの ʝɪ nzel ʃɔlcɪ が発明し、1ʔʔʕ 年にアルバザードに伝来。織機で模様の入った布を織るために用いられた。やがて ʃoɪɥzel ɑcjcɑcɪ によって解析機関に組み込まれる。

nenuepɪnʃ ［医療］演技性パーソナリティ障害、演技性人格障害 ［レベル］5 ul;neene/ueɥɪnʃ ʃʃ:ɒel

nene ［代詞］〜、誰々、だれだれ、誰それ、だれそれ、誰がし、誰某 ［レベル］2 古 :nene（誰々）［用例］ ʃɪəɪn jej ʝɪɒcl ɥəəɒɪ nene el. 買ったのはたしかユーマ誰それさんだったかな。

neneʃ ［代詞］だれだれの、だれそれの ［レベル］2 ʃ0

neu ［動詞］ɥel（場所や土）を掘る、掘る ［反意語］ɒɔb ［レベル］2 @ 1L

neɒ ［形容詞］あやふやな、不明瞭な、曖昧な、ぼやけた、ぼやける、不確実な、ぼんやりとした、漠然とした、不明な、あいまいな、色が原色から遠い、色あせた、褪せた、ぼーっとした、ぼんやりした、放心した、ぼやっとした、ぼやけた ［動詞］ɥel をあやふやにする、不明瞭にする、ぼやけさせる、ぼーっとする ［反意語］ɒɔn ［レベル］2 @ 1L 参考 :1ʔ: 制 :ɒənɒə（あやふやな）ɒəɒɒə:ɒəɒɒə ［用例］ ɪʃlcnɪ hɪlcnɪʃ ɔʃ cnʝ neɒ ɥel ucl le ʃcl φel ɔn ʃɪlc. 少年は虚ろな目で、銃を脇に抱えた男を見上げた。

neɒʃ ［動詞］ɥel を ɪ に定住させる ［普通動名詞］[再帰動名詞] 定住 ［反意語］ɒɔnʝ ［レベル］3 @ 1L

neɒʃɪʝʃ ［名詞］定住者 ［レベル］4 ʃ1

neɒɑecʝ ［名詞］曖昧模糊 ［レベル］4 ʃʃ

neɒd ［植物］アヤメ、菖蒲、しょうぶ、ショウブ、あやめ、アイリス ［俗語］ホモ、ゲイ、バラ、薔薇 ［類義語］ʃejʃ ［反意語］ɑcɪncʝ ［レベル］5 lɪʃlɪ ［文化］ 垂れ下がる外花被片が陰嚢、立ち上がる内花被が陰茎に見立てられ、古くからゲイの象徴とされた。 ［用例］ nɔn nɥ lccʃɔ e neɒd. なんだか薔薇の香りがするな。

neɒɥəc ［電算］[言語] あいまい検索、曖昧検索 ［レベル］6 ɥɑ;/ ʃʔ

neɒc ［形容詞］未知の、不明な、未明の、不詳な、未確認 ［反意語］ɒɔnɪ ［レベル］3 @ 1L

neɒcueʃɒɔʝ ［言語］語源不詳 ［レベル］6 ɥɑ;/ ʃʔ

neɒcleɑɪn ［名詞］未確認飛行物体、ＵＦＯ、ユーフォー ［レベル］5 ul;/ ʃʔ

neɑ ［電算］アップロード ［類義語］lɪnʃ ［反意語］ɒɔφ ［レベル］3 ul;neʃ.l ʃʔ

neb ［エルト］nebɥɪ の略称 ［組み数字］1 1 / 1 2 ［レベル］1 ʃʃ

nebɥɪ ［エルト］ネブラ ［名詞］１１時 ［名詞］北北西 ［交通］ネブラ通り ［音楽］ラ♯ ［組み数字］1 1 / 1 2 ［類義語］neb ［レベル］2 pelʃcɪ llʃ:nebɥɪ;e 古 ［文化］ アルミヴァの１１番目。エルトの胴体から生まれた。少年の姿をしている。サールのティーテルに求愛するが、ティーテルの剣を扱えなかった彼は見向きもされなかった。ティーテルを恨んだネブラはティーテルを犯してしまうが、ティーテルが抵抗するので陽物が抜けてしまい、精液が剣にかかってしまう。射精すると落ち着いたネブラは泣き出すティーテルが憐れに思え、恥を感じて行方をくらませた。力はあるが、気が弱いので戦いに向かない。ティーテルに惚れ込むが断られ、犯す。すると自らそれを恥じて雲隠れする。

neblcl ［化学］キセノン ［レベル］5 1Λ: 制

neɥɒej ［サール］ネルメス ［名詞］４時 ［名詞］東南東 ［交通］ネルメス通り ［音楽］レ♯ ［組み数字］4 / 1 2 ［類義語］ɒej ［レベル］2 pelʃcɪ llʃ:neɥɒej;e 古 ［文化］ アルミヴァの４番目。サールの左足から生まれた駿馬。フェンゼルの弟。ティクノらと共にデームスと戦う。

neɥlcl ［化学］ルビジウム 1Λ: 制

nelʃ ［名詞］癖、習性、習慣、風習 ［法副詞］習慣の副詞。無相につく ［レベル］2 1ʃʃ: 制 : 恣意 ［用例］ ɪn ucz nelʃ eɒ ɒcn. 遅刻癖がついいてしまった：nelʃ,eɒ ともに副詞。

nelʃɥenʝ ［名詞］口癖 ［レベル］3 ɥɑ;/ ʃʔ ［用例］ ʝɪ ʃcl{ɥɥ} nelʃɥenʝ ɑel ʃɪl. 彼はすぐ「しかし」と言う癖がある。

nelʃe ［軍事］特務曹長、ネルテ ［組み数字］1 3 / 2 0 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɒɔlʃ → ɒɔlʃe（母音添加）→ nɔlʃe（語頭子音揃え）→ belʃe ［語法］[文化] ʝɪnɪ

nelʝ ［形容詞］不幸な ［名詞］不幸、不幸せ ［反意語］ncl ［レベル］2 1ʔ: 制 : 不幸を変える魔法から

nelɑ ［医療］気絶、卒倒 ［動詞］ɥel を気絶させる、気絶させる、気を失う、卒倒する、気絶する ［類義語］nɪdl ［魔法］ネルフ（スリプル）。害の中位黒魔法。相手を一時的に気絶させ、眠らせる。 ［レベル］3 ʃ0:nɪ/ləɑ（心がふわっと浮いてしまう）→ nɪlɑ → nelɑ（nɪ が付くのが多すぎるため） ［語法］ nɪdl

neɪ ［形容詞］濃い、色が濃い、味が濃い ［反意語］ɒɔc ［レベル］2 1ʔ: 制 :nec: 古 :nɥɔe 薄い。nɥɔe は日本語の「匂え」の説があったが、不自然。nɥɔhe/eɥcɪ「弱い水」では？ ［用例］ lɔc neɪ 濃い味

neɪʃ ［化学］[料理] 濃度 ［レベル］4 ʃ0

neɪɪcʃlccɒ ［化学］高果糖液糖 ［レベル］5 ul;/ ʃʔ ［語法］[文化] ɪcʃlccɒ

nec ［遊離副詞］[形容詞]未だにない、未〜、まだない、まだ〜ない ［反意語］ɒɔɪ ［レベル］2 @ 1L ［語法］ 時期が予想より早いとか遅いとか関係なく、ある時点から見て過去の時点で完了していない状態。つまり「未だない」を表わす。単語自体に否定の意味があるので、en をつけなくてよい。そこは日本語と違うので注意。 ［用例］ lɪ ləɪnɪ nec. 彼はまだ来ていない。 lɔlɔ jen nec 未だに理解できない ɪn ej neʃ, ʃɪl ɪn ɒcʃ nec lɪl c ɒɔlʃ. 起きているがまだベッドから出ていない。 ɪn ɥej nec ɥɪɑel e nɔʝlɥen. 未だ国語の宿題をやっていない。

necɔlɔ,llʃ oel ne/cʃɔ

necɒɪlʝ ［形容詞］未婚 ［レベル］4 1L

neɔ ［人名］ネオ ［組み数字］1 0 / 1 3 ［天文］ネオ座 ［レベル］3 先 :ɪnɔ:nɪɔ ［文化］ 第４期３代ソーン第１０使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ne ［感動詞］ねぇ ［文末純詞］〜だよ、〜ですよ。気付いていない相手に呼びかけるように言葉を投げかけるときに使う。相手に情報などを教えるときなどによく使う。ハンカチ落ちましたよとか、シャツが裏返しですよなどというときに使う。 ［レベル］1 古 : 古アルカの nee（誰）

からか。古では女言葉だった。日本語の呼びかけ「 ねぇ 」を語源とする説もあるが、それでは日本語ができない使徒も昔から使っていたことに対して説明がつかない。 〔語法〕 呼びかけに使う。呼びかけといっても主に会話中に使うものであって、道端で知らない他人に使うことは無礼。純詞のほうは別に無礼ではない。

neeɹɑ ne e

neeſ 〔代詞〕誰の 〔レベル〕1 ɭ0:jeɥen/ɥcɑcɪ 〔用例〕 ſə eſ ˥ɪz neeſɤ これは誰のペン？

neene 〔組み数字〕２４／２８ 〔交通〕ネーネ通り 〔レベル〕2 ɭ˩

neene uɪleɒ 〔人名〕ネーネ＝ヴァレム 〔組み数字〕２４／２８ 〔レベル〕2 古：語源不詳。uɪleɒ は「 あの音楽の 」。 〔文化〕 → nenueɥɪnſ（ɭ → ）第４期４代ソーン第１０使徒。男性。dcl˥ɔ。１７２ｃｍ、５６ｋｇ。金髪直毛で背中まで届く。瞳は青。肌は白：黄＝９：１。歌魔導師。 ・『ミールの書』より 彼は長く美しいブロンドヘアーを持っていた。ジールの髪も羨ましいが、彼の髪もまたうらやましいものだ。彼は青い瞳を手にした竪琴に向けて静かにしている。

neeɒe 〔名詞〕姫、王女、プリンセス 〔人名〕リーザ。ユーアが常にリーザをこう呼ぶため（現実のほうでも） 〔形容詞〕～姫。前置。 〔類義語〕leſcɪ 〔反意語〕ɒcleɥ 〔レベル〕2 ɑu;e 古 neeɒe:neeɒe::ne˥əlc,ɪlſ hcɒe,ɪlſ 〔語法〕 王の娘。王位継承権３位以下を指す。１位が継承確実な場合、２位で既に neeɒe となる。総称として leſcɪ を含んで姫とすることもある。リーザは leſcɪ で、ルーキーテは neeɒe。 〔成句〕 neeɒe ɰɪ˥en ɒed. → ɔɔɥɑɪſ

nəſ 〔名詞〕炭 ſɒ;nəſlc（燃やした後に残るものという意味） ɭ˩

nəſlc,ɑ lc e

nəſ uɪɒɪ 〔人名〕ヌット＝ヴァマ 〔レベル〕5 古 :nəſ,nſ。右の名は後付け。 〔文化〕 初代ソーンの第１３使徒。異性魔王。

nəe,ɑ ɒenɑ、ɔɥə˥ e は水。

nəə,ɑ ɟcɑ、bɪ˥ɟ(ɑu)

nəəſ,ɑu lcſɪ nəſlc.˥

nəəɔ,ɑu 落胆、殺意、死刑、哀願、刑 赤

u

u ulɪnɑ

uɟ 〔歴史〕ヴァステ、uɪɟſe 〔レベル〕3 ɭ1

uɥeuɥecn 〔交通〕勇郭線 〔レベル〕4 ɭ:uɥeuɪlſ/ɥecn 〔文化〕 アルミヴァ線と幻環線を繋ぐ１２本の路線。地下鉄。例えば幻環線北コノーテ駅からは勇郭コノーテ口まで繋がっている。アルミヴァ線とは直通で乗り入れることができるため、実質幻環線からアルミヴァ線は一度の乗り換えで済む。

uɥeulɪnſ 〔人名〕ヴレヴラント王、勇王 〔レベル〕5 ɭ0 〔文化〕（1ᚻL–1ᚻᚹ)μɑ のアルバザード王。アルバ十世。アシェットが活躍した時代の王で、μɑ の時代のアルバザード王といえば通常彼のことを指す。強大なヴィードを持ちながらも普段はリーザたちとともにテームスの封印を強化しつづけることに専念した。温厚で寛大な人物で、セレン少年らを育て上げた。勇敢な戦士でもあったことから、勇王と訳す。

uɥeuɪlſ 〔ランドマーク〕ヴレヴァルト、勇王郭、勇郭、勇王の城壁 〔レベル〕4 μɑ;uɥeulɪnſ/bɪlſ「勇王の壁」 ɭ˩ 〔文化〕 ɟuɪnɪ アルナ市を囲う円形の城壁。μɑ でアシェットによって築かれた。石造りである。 μɑ 当時は防壁の意味合いが強かったため、門の数は現在より少なかった。現在は交通の利便性を考え、門の数が増やされている。 アルバザードの観光名所のひとつである。

uɥecn 〔被服〕ガードル 〔レベル〕6 uɥecn,lᚢ; 女教師がよく穿いていたことから ɭ1

uɥecn,lᚢ lɪ˥ɪn

uɭ 〔歴史〕ヴェレイ、uelec 〔レベル〕3 ɭ1

uɭɪn 〔単位〕ブラン、ヴラン 〔レベル〕5 ɭ1:「分銅」。bɥə˥ɔn を１０個に分けたときのひとつひとつの分銅の重さ。 〔文化〕 ɪnl˥ɔ

uɭɪnɑ,jzɑ ɑɥeɒ

uɭɪnɑcɪ 〔経済〕ファンド 〔レベル〕5 古 jɔɥn

uɭcz,jzɑ uel˩

uɭenɑ 〔建築〕ダイニング 〔レベル〕5 ˩ſ ɭ˩

uɭeɒen 〔軍事〕総督、ブレーメン、ヴレーメン 〔レベル〕5 ɟz˥;「棒を振る者」 ˩ſ

uɪſ 〔動詞〕ɥə˥ を待つ、待つ 〔普通動名詞〕待機、待ち 〔レベル〕2 ɑ:jɪl;e 古 :jɔɥn（到着） 〔用例〕 uɪſɔɥ 待っている ɪn uɪſɪſ ə˥ə ɪſə. 彼に会うためにそこで待った。 ˩ɪ jɔ˥ɪſſ ɪn uɪſ ˩ɪ ɑə ˩ ɒcu. 彼は私を二時間待たせた。 ɪn uɪſɪſ ˩ɪ ˥ɪlſ ˩ɪ ˥ə˥nɪ ˩ſə. 私が彼が来るまで待った。

uɪſ˥ɪ 〔交通〕駅のホーム、ホーム、バスの待合所、待合所 〔レベル〕3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

uɪſl 〔動詞〕ɔ˥l は ɥə˥ に届く、届く、至る 〔レベル〕3 1L:jɔnɔhcnɔ˥c: ソーン :uɪſlecɥə（到着を歓待する） 〔用例〕 ncɪ e qə˥bccɪ uɪſlɪſeɟ ɪqɒeɒ ɪ˥) cɒ ˥ɪz. 子供の頃、フルミネアの髪は床につきそうだった。 ſɔcɒ, ſəəbeɟ ɑce jecn cl˥ hɪnɔc le uɪſlej ɟcel" いつの間にか嘘は空高く積みあがって、塔になった」

uɪſɪ 〔普通動名詞〕競、競り、せり、セリ、競り売り、オークション 〔動詞〕ɥə˥（商品など）を ſel（競争相手）に対して競る、競る 〔レベル〕3 1ſ: 制：古 :uɪſɪoɪ（戦うように買う）

uɪſɪc 〔サール〕ヴァタイ。災害を引き起こすサール。 〔名詞〕天災、災害 〔法律〕加害者 〔動詞〕ɥə˥ という加害者を ɪ に加える、害する。 〔反意語〕uɪſcn 〔レベル〕2 古 :ɒccɥ 〔文化〕 災害一般の扱いは全て地震などと同じ。頑強な集合住宅が多いので、戸に板を貼り付けるようなことはない。津波が思い切り襲い掛かるようなところには住まないし、そもそもアルナに海はない。雷は避雷針で大概は防げるので心配要らない。雷が酷いときは効き目のあるなしに関わらず、用心してブレーカーを落とす人もいる。ヘそを取られるという迷信はない。災害時は学校も仕事も休みになる。軽い災害でも休日になりやすい。

uɪſɪcɪ˥ 〔名詞〕被災地 〔レベル〕3 ɭ0

uɪſɪcɟɪdcɪ 〔医療〕加害妄想 〔レベル〕5 μſ;/ ˩ſ 〔語法〕 自分の存在や挙動が人を傷つけているのではないかという妄想のこと。

uɪſc˥ſəəɒc 〔俗語〕キタコレ、ｷﾀｺﾚ、ｋｔｋｒ 〔レベル〕4 ɪl;/「これを待っていた」 ˩ſ 〔用例〕 "hɔə, jee ſc jccnɪ oel lɪnſɪ lɔſ hɪ˥əhc jəzəɒcɥɤ8" 「ふーん、で、君は涼宮ハルヒのキャラで誰が好きなの？」 "ɔəɑ (ɪɪɪ ˥əɥə ſə eſ ɪɟɒ dɪ˥u ɑel uɪſc˥ſəəɒc ɪ˥ſɪ (ɪɪɪ oɪſ oɪſ oɪſ (ɪɪɪ beɪ ɒc ˥ə˥ ɒcɑel ſɔauef ɑel uɪſc˥ſəəɒc ſcɟ (ɪɪɪ jɪɪ ɒɔn beɪɒc jccnɪ ɪ˥ɪ˥əhc, ſɪl ɥɔn ela ſə ˥el ɑɪc˥˥lec ſef ɒɪɪɪɒc˥ɪɒcɑcɪ enſɔ nɪ nɔj eſ zɪſ ɔnſ cɒɥə ɪnɑlenzel (ɪɪɪ beɪɒc ɒcle˩ clſ cſen ɑɪn jcɒɔnz (ɪɪɪ ɑɔdəɑɔ (ɪɪɪ ɒcɑel lec˥ ˥ɔnɟeſ ˥ənɪ˥ c ˥əɔ beɪɒcſ jcn (ɪɪɪ ɪɟſe, ɪndenſ, ɪndenſ (ɪɪɪ ɑccn ɪ˥ɪ jen ɪ˩ſɪn ɪɪɑej ɪ˥l˥el nɪɥɪſɔ ˥el ɥəəɥə ˥ɪlſ ɑɟc˩ɟeu (ɪɪɪ ɔ˥ el uɪcɟ ſə c ˥ɪl ſe ɑ˥ɔn ˥ɪl ˥ɔ˥ beɪɒc, (ɪɪɪ ɟɔn ɑɟc˩ɟeu e ɥəəbel˩ ˥cſɪ ɑɔ˥ ˥ɪɔɪɪ˥ɪn e ɥcnɪ˥l clſej ə ˥ɪnſɪ (ɪɪɪ jel˩ɪſc e ɒc˥ə˥ə ɟɪ˥hcnɪ eſ (ɪɪɪ ɑɔ˥ɪnədɔə (ɪɪɪ ſə ɒejɪ ɑcſ ˥ɪlſe ɑel beɪɒc ɥən ˥əlcɪn (ɪɪɪ beɪɒc ɑe ˥əlcɪn ſcj ɪnɑlenzel (ɪɪɪ ˥ɔdɔɔ" 「オウフｗｗｗいわゆるストレートな質問キタコレですねｗｗｗ おっとっとｗｗｗ拙者『キタコレ』などとついネット用語がｗｗｗ まあ拙者の場合ハルヒ好きとは言っても、いわゆるラノベとしてのハルヒでなく メタ ᚿᚿ 作品として見ているちょっと変わり者ですのでｗｗｗダン・シモンズの影響がですねｗｗｗｗ ドプフォｗｗｗついマニアックな知識が出てしまいましたｗｗｗいや失敬失敬ｗｗｗ まあ萌えのメタファーとしての長門は純粋によく書けてるなと賞賛できますがｗｗｗ 私みたいに一歩引いた見方をするとですねｗｗｗポストエヴァのメタファーと 商業主義のキッチュさを引き継いだキャラとしてのですねｗｗｗ 朝比奈みくるの文学性はですねｗｗｗ フォカヌポウｗｗｗ拙者これではまるでオタクみたいｗｗｗ 拙者はオタクではござらんのですｗｗｗコポォ」（ΔΪ 名前：以下、名無しにかわりまして ∀€Φ がお送りします。[]J00Δ/0Ⅲ/ʃ(水) 00:1ᚻ:ᚹ0.Δ9 €ᚻ:α1IF∃7ᛇι0)

uɪſcn 〔法律〕被害を受ける者、被害者 〔名詞〕獲物 〔動詞〕ɥə˥ という被害を c から受ける 〔レベル〕3 1ᚢ: 制：uɪſn:uɪſɪc 〔用例〕 ɪnj uɪſcnɪſ ɑceɟ. 洪水で被害を受けた。

uɪſcnɪɪɑ 〔地球の国名〕ポーランド 〔レベル〕5 1L: 歴史上何度も侵攻されてきた可哀想な国。

uɪſcnɟɪdcɪ 〔医療〕被害妄想 〔類義語〕jeɥɟɪdcɪ 〔レベル〕4 μſ;/ ˩ſ

uɪſce 〔名詞〕大洋、大海原、大きな海、大海 〔レベル〕4 1L:uɪɟl/ſceɥ 〔語法〕 ヴァルク海のような大洋のこと。

uɪſɔn 〔音楽〕楽屋 〔レベル〕4 ɭ1:uɪſ

uɪſe 〔動詞〕ɥə˥ を ɪ に籠城させる、篭城する、引き篭もる、閉じこもる、引きこもる、閉じ篭もる 〔再帰動名詞〕籠城、篭城、ひきこもり、引きこもり、引き篭もり、閉じこもり、閉じ籠り、ヒッキー 〔レベル〕4 ɑ;uɪ は戦う 赤 uɪſe:uɪſe:uɪſe 〔用例〕 ɪn uɪſe uɪn nɔɟ ɪ ɑcɪ ncl ɔlſɪ ſə eſ ˥lɔɪ ɔlſe l'el ɟcl ucl nɔɟ cſ. 幸せな世界に閉じこもる。たとえそれが抜け出せない輪廻の物語であろうと。

uɪ˥ 〔アイテム〕武器、兵器、武具 〔反意語〕bɪlɔn 〔レベル〕2 ɑ;uɪ˥（攻撃する、殴る） 中期制アルカ？ :uɪj˥əl（戦いの道具） uɪ˥:uɪ˥:lə lcɪn（武器） 〔用例〕 uɪ˥ ucen 強力な武器

uɪ˥˥ɪɟ 〔軍事〕陣地、陣営、陣、内野 〔類義語〕l˥ɪ˥ı 〔レベル〕3 ɭ1:uɪɪn/˥ɪ

uɪ˥j 〔普通動名詞〕交渉、ネゴシエート 〔動詞〕ɥə˥ を ɪ と交渉する、交渉する 〔レベル〕3 1ſ: 制：jɔɥn:uɪ˥əɪj 〔文化〕 日本では交渉は企業間というイメージが強いが、アルバザードでは企業だけでなく、個人間でも交渉が盛んである。家族間でも多い。どちらかが利益を独占するというのは争いの種になるので、お互いに折り合いを付けようとする。そして交渉が生まれる。交渉はどちらが利益を独占するかでなく、どのくらいで折り合いをつけるかということを念頭に話す。要求を率直にいうだけでなく、かけひきも必要になる。交渉は技術であり、アルバザードの人間は交渉術を日常的に体得している。

uɪ˥jen 〔アトラスの国家〕ヴァクセン 〔レベル〕5 1L:μcɑcɪ: 砦

uɪ˥jendɥecn 〔植物〕ダリア、ダリヤ、テンジクボタン、天竺牡丹 nɑ;/ ˩ſ 〔文化〕 ヴァクセン原産。nɑ で流入。

uɪ˥n 〔名詞〕家畜 〔動詞〕ɥə˥ を飼う、飼う、飼育する 〔類義語〕lccl 〔レベル〕3 1ᚢ: 制：ucφ˥ɪɒ 飼いならされた動物 φɔnφɔ:φɔnφɔ:

uɪ˥l 〔普通動名詞〕牧畜 〔動詞〕ɥə˥ を牧畜する、牧畜する 〔レベル〕4 1L:uɪ˥n/˥ɪb

uɪ˥˥ɪn 〔名詞〕牧畜者 〔レベル〕4 1L:clbəj:μcɑcɪ

uɪ˥ɪ 〔地学〕野原、平野、平地、原っぱ、はらっぱ 〔レベル〕3 1ſ: 制：uɪφ˥ɪ

uɪ˩ 〔動詞〕ɥə˥ を急かす、急ぐ、急がせる、せかす、急かす 〔形容詞〕急ぎの、素早い 〔副詞〕急いで、素早く、すばやく 〔名詞〕緊急、急用、緊急事態 〔反意語〕enſ 〔レベル〕2 1L: 早そうな音であることから。音象徴より。 〔文化〕 急ぐことは格好が悪いと考えられている。特にユールやユンクは急ぐことを恥ずかしいと感じる傾向がある。日本だと会社で急いでいると頑張っているように見えて好感が持たれるので、ちょっとアルバザード人の気持ちが理解しづらいかもしれない。 〔成句〕 uɪ˩ enſel. ゆっくり急げ。 ɭ0 に ɥəə˥ が紫亞に対してアドバイスした台詞が成句となったもの。紫亞はなかなかバトンが上達せずにイライラしていて、そのときに言われたアドバイス。セレン似でせっかちな紫亞には開眼的な内容だった模様。 〔用例〕 ſə eſ ɑɪz ɪ uɪ˩. これは緊急事態だ。 ɑen eɒ uɪ˩. 急いではいけません。 μccl ɪnſ uɪ˩ nel˩ ɪn ſɪſ ɑɪɥ. 両親は每朝私のことを急かす。 ɪn jɔſ ɑl˩ uɪ˩el. 急いで行動しなければならなかった。 ɪn jɔſ uɪ˩el. 急いだ。 ɪn ˥eſ ɑel˩ɪ uɪ˩el ˥ɪnɪ ˥ɔnſ ˥ɪ˩. 学校に遅刻しないように急いだ。

uɪ˩ſ 〔動詞〕ɥə˥（問題）を解決する、解決する、解く、けりをつける、打開する、ゲームなどをクリアする、問題を解く、パズルを解く、攻略する 〔普通動名詞〕解決、攻略 〔数学〕数式を解く 〔類音〕uɪjſ（意味も似ていて紛らわしいので注意。ただ、uɪ˩ſ は通常無生物を取るので、たいていは区別がつく。uɪjſ ɪsc や uɪjſ ſɪj などの例に気をつける） 〔レベル〕2 jɔɥn 〔語法〕 uɪjſ ſɪj, uɪ˩ſ ˥nɔɔj が正しい。音が似ているので、動詞を逆にしないよう注意。 〔用例〕 ☆ el uɪ˩ſ jen ɥəə eɒɔ nɪ dej. 後悔しても問題解決にならない。 uɪ˩ſɪſ ſɪj ɪſc ɑccɥə. 試験をバッチリ解いた。

uɪ˩ſɑelde 〔娯楽〕攻略ｗｉｋｉ ɭ˩

uɪ˩ſlec 〔娯楽〕攻略本 〔レベル〕3 ɭ˩

uɪ˩ſɔɒ 〔名詞〕解決案、解決法、対策、解法 〔レベル〕3 1L:μcɑcɪ:cl˥əj

uɪ˩uɪnz 〔電算〕〔娯楽〕クイックセーブ ɭ˩

uɪ˩hel 〔言語〕至急、急信 〔レベル〕5 ɭ1

uɪ˩l˥el 〔名詞〕急ぎ足、早足、ウォーキング 〔レベル〕3 1L:μcɑcɪ:ɪpb˥ɪel˩ſ

uɪ˩ɪ,ɑu uɪc 「戦う存在」 uɪj/˥ɪ

uɪj 〔動詞〕ɥə˥ と戦う、戦う、争う、抗争する 〔普通動名詞〕戦争、争い、抗争、紛争、戦い 〔類義語〕φɪɥɒɪ、ɑccɪɪ 〔反意語〕ɪ˥ɪɪj 〔レベル〕2 ɑ:el˩;uc/jɔ「力をする」 古 uɪj:uɪj 〔語法〕 ɥɪɥɒɪ 〔用例〕 uɪj cl ɒɔnɔ. 戦争が膠着する。 cɒ ˥ɪ˥ɔ, el ɑ˥l˥ſ ɑɪl ɪ uɪj ɔl˥ſ ɟɔ μcj. カコの時代は戦争に行きたくなくても行かなければならなかった。 nɔɑ ſə, ɪn uɪj uɪn ɥɪɑel ſ˥ɪ˥ɑ. これから数学の宿題をする。

uɪjſ 〔動詞〕ɥə˥ に勝つ、勝つ、克つ、打ち破る、倒す、打ち倒す、打ち勝つ、撃退する、ɥə˥（試験）に合格する、ɥə˥（籤など）に当たる、乗り越える、乗り切る、克服する、打破する、乗り越える、当たる、合格する、ɥə˥（場所）を踏破する、踏破する、アタリくじを引く、あたる 〔普通動名詞〕勝利、打倒、合格、当選、克服、打破、踏破、適合、節約 〔俗語〕ɥə˥ に適合する 〔動詞〕ɥə˥ を賞わずに節約する 〔類義語〕ɔɔdɟ,ɪjeſ 〔反意語〕uɪɑe 〔類音〕uɪ˩ſ 〔レベル〕2 1ᚢ ←古 :uɪɑe（負ける） 〔成句〕 uɪjſ ɪɑel ˥ɔn ɪɑel 毒をもって毒を制す 〔用例〕 uɪjſ ſɪj 試験に受かる uɪjſ ɥeſl 敵を倒す

uɪjſ˥ſ 〔普通動名詞〕凱旋 〔動詞〕ɥə˥（場所）へ凱旋する、凱旋する 〔レベル〕5 ˩ſ

uɪjſuɪɑe 〔名詞〕勝敗、決着 〔類義語〕ɑcnuen 〔レベル〕3 μɑ;/ ˩ſ

uɪjſμcɪ 〔アイテム〕殲滅武具ヴァストリア 〔レベル〕3 jeɥen: 古：リディアが撰んだ武具の総称としてセレンが作った語。uɪj は戦うだが、ſμcɪ は不明。 〔文化〕 アシェットが悪魔を殲滅するのに使った武具やアイテム。神からもらったものが大半。例えばリディアの魔杖ヴァルデマなど。 <ヴァストリアのリスト> リディア：ɪ˥ɒɪɑcɔ, elɑc, elſcɪ, lccɑɪj, ſel˩e, uɪμɑe, ſeɒſcɪ オヴィ：ɔɔuɪ クリス：ɑccnɔ, jɪſcɪ ギル：beezel˩ſ フルミネア：ſc˥nɪ リュウ：˥cſ˥c ˥nɔ, uɪμſcnɪ メル：ɒel˩ɑcɪ, ɒenjɪ ラルドゥラ：uɪnɔjeɥen ザナ：ſɪμſcɪ パール：dμeſɪuc μɑe ミルフ：ɑɔμſcj ファーヴァ：ɑcſcnc˥ ルージュ：˥˥leɒenſ セレン：ɪμ˥ɪnſe, uɪnɔɑcɪ, hɔſɪ˥ə, qɪɪſɪncſc, ɪμbc˥eɔ, ɑcɔ˥enſccnɪ, leebenbrhɔc ラヴァ：uɪnɔɒccμ ウムトナ：jɪueeμ リーネ：˥c˥ɪ˥ɪzɪj レレゾナ：ɑccz ジール：ɪɒd˥ɪ リナ：ɪμſɪjen エケトネ：ejb˥ɪſ エンナ：ſccnɪ アッシュ：ɪμuɪj ネーネ：uɪjnɪ ピネナ：ɪ˥ɑɔμſ ンムト：nɔbɪ クノン：ɑɔ˥ſe クミール：jeμſcɪ, uɪlɒɪ 〔成句〕 uɪjſμcɪ ɪ(len) blcz 宝の持ち腐れ 〔用例〕 ɔɔə... nɔel l˥ɪ(el e uɪj ſμcɪſ あー、ヴァストリアの資料欲しい！

uɪjſɪn 〔名詞〕勝者、勝利者 〔レベル〕3 ɭ1 〔成句〕 uɪjſɪn ɪ˥ſ jeſɪ 勝者が歴史を書く：勝てば官軍、負ければ賊軍

uɪjſɔɒ 〔名詞〕戦い方、戦闘法、戦術、戦略 〔レベル〕4 ɭ1

uɪjſe 〔歴史〕ヴァステ、神魔大戦、悪魔の愁訴、あくまのうったえ 〔レベル〕3 μcɑcɪ: 古 :uɪjſee ɒj˥ デームスと戦う」。ここでの愁訴は不定愁訴のことではなく愁い訴えること。 〔文化〕 神々と悪魔の戦い。アルテムとサリアの間。アルミヴァの活躍で神の勝利となり、悪魔テームスは封印される。

uɪj˥ 〔軍事〕〔動詞〕ɥə˥ に軍事的に侵攻する、侵攻する、侵略する 〔法律〕〔動詞〕ɥə˥ の権利などを侵害する、侵害する 〔普通動名詞〕侵攻、侵略、侵害 〔レベル〕4 1L:clbəj:μcɑcɪɤ:uɪj/˥e

uɪj˥ɪej 〔軍事〕戦況 〔レベル〕4 1L: リディアの書

uɪj˥ɪ 〔軍事〕戦場 〔レベル〕3 1L

uɪjjɪcj 〔軍事〕塹壕、トレンチ 〔レベル〕5 1ᚢ: 制

uɪjn 〔名詞〕勇気、勇敢 〔名詞〕覚悟→ ˥ɔɔ˥ɔ 〔類義語〕˥ɔɒuɪjn 〔レベル〕3 1L:ɒelcɑcɪ ɪ˥cj:uɪjnɪ（戦う心） dɪɒ:dɪɒ:φɪnſj 〔成句〕 elɑe e uɪjn 勇気凛々。 ɪ˥ とともに。 〔用例〕 ſcl uɪjn 勇気がある ɔ˥l uɪjn 勇気を持って、意を決して ſe ucnj uɪjn 負けないで、くじけないで、挫けないで、あきらめないで

uɪjnſe 〔形容詞〕勇敢な 〔レベル〕3 ɭ0

uɪjnɪ 〔アイテム〕ヴァスナ 〔レベル〕4 μcɑcɪ: 古 :uɪjnɪɔ（戦いの琴） 〔文化〕 ヴァストリアの１つ。ネーネのもつ神琴。これを弾く間、敵にかかっている魔法が解け（ɪ˥μſ の効果）、同時に味方のヴィルが上昇する。また、歌魔法の効果を高める。

uɪjnɪ˥ſ 〔アトラスの国家〕ヴァスナルト 〔レベル〕5 1L:μcɑcɪ: 戦いの城

uɪjucɪn 〔名詞〕戦力 〔類義語〕uɪjenuc 〔レベル〕4 μɑ;/ ɭ0

uɪjdμɪn 〔軍事〕〔娯楽〕宣戦 〔動詞〕ɥə˥ に宣戦布告する 〔普通動名詞〕宣戦布告 〔レベル〕4 ɭ˩

uɪjdɪ 〔軍事〕戦闘車両、戦闘車輌、戦闘車 〔レベル〕5 μɑ;uɪj/dɪ˥ɔ ない uɪj/dɪn ɭ0 〔文化〕 ɪnsel などの戦闘車両が最初の uɪjdɪ と呼ばれた。戦車などが出てくる uſ になるまでは大砲を積んだ荷車のような車が uɪjdɪ と呼ばれていた。現在では戦車だけでなく戦闘機や駆逐艦など戦闘車両全般を指す。

uɪjdɪz ［軍事］戦歴 ［レベル］4 ʃ1

uɪjɸ ［物理］ヴァスル、電気抵抗 ［レベル］4 古：元は uɪjccɥe「戦う（抵抗する）電気」 ［語法］ 1イーヴァの電流を流すためにその両端に1イレットの電圧をかけねばならない時の電気抵抗。オームと比較。

uɪjlɪnɸ ［政治］［軍事］交戦権 ［レベル］4 1L

uɪjɪn ［軍事］戦士、ファイター、ウォーリアー、ウォーリア、バトラー、コンバタント、スクラッパー ［レベル］3 ʃ1 ::lə ɸɪɲɑ

uɪjɪnɔ ［軍事］戦略 ［類義語］uɪjɔɔ ［レベル］4 ʃ0

uɪjɪɔɔ ［軍事］戦車、タンク。hɔnuɪjdɪ の一種。 ［レベル］3 ul;/「戦う車」 ʃ꞉ ［文化］ ul の第一次世界大戦で塹壕戦を突破するためにアルバザードが開発した兵器。

uɪjɪdl ［軍事］戦艦 ［レベル］4 ʃʔ

uɪjɪlɪ ［被服］もんぺ ［レベル］5 ɪlʃ ʃ1

uɪjɔɔ ［軍事］戦法、戦術 ［類義語］uɪjɪnɔ ［レベル］4 ʃ0:ɔelcɑcɪ lceɲ ʃ0

uɪjenuc ［名詞］戦闘能力、戦闘力 ［類義語］uɪjucɪn ［レベル］4 μɑ;/ ʃ꞉

uɪn ［法副詞］～する、～しよう。意思・意志の副詞。 ［レベル］1 1L：制 :uɪnɔ:uɪnɔ は 1꞉:jɔμn:uəɑɪj。制アルカには意思の副詞がないかほとんど使われず、現在形で代用していたが、自然の流れでそうなったのかやろうとしてそうなったのか区別できずしばしば不便だった。 ［語法］ uɪn は意思の法副詞であり、時制は持たない。しかし実際にアルカが使われている場面を分析するに、jcl の代わりに uɪn を使うシーンが見られる。結果、uɪn に近接未来の用法を認めることができる。jcl uɪn という表現も可能だがあまり聞かれないのは、uɪn 自体に近接未来の意味があるからではないだろうか。jcl uɪn はなにか未来であることを強調しているような印象がある。 要約すると、uɪn は主観的な現在ないし近接未来、jcl は客観的な未来を指す。主観的な未来（非近接未来）を指す場合は jcl uɪn という言い方ができる。 ・eɲʃ ləni jcl と eɲʃ ləni uɪn 前者は天気予報などで聞かれる客観的な表現で、主観的に雨が降りそうだという場合は eɲʃ ləni uɪn cn のようになる。 eɲʃ ləni jcl uɪn という表現もできるが自然ではなく、やや持って回ったような、あるいは未来を強調したような印象を受ける。 eɲʃ ləni uɪn cn の場合、実際雨に意思はないが、uɪn で表している。ではこれは誰の意思なのかというとふたつの考え方があって、ひとつは雨を擬人化して雨自身の意思と考える見方。もう一つは話者の意思を主語である雨に投影した見方。このふたつの解釈があり得る。 ・jcl uɪn jcl uɪn については上記の通りだが、原則的にはそのまま「～しようとするだろう」という意味である。例えば ʅɪɪn jeʃ jcl uɪn ɪn ɔl lɪ jeɲ ʃə（もしこのことを知られたら父は私を殺そうとするだろう）のように。 ・仮定に対する jcl と uɪn "ʃc nɪ ʃɔ ɔn eɥcɔ ɔl ɔɔɪ ɸɪɪl ɪ ʃcϐ"（犬に吠えられたら心臓にどう感じる？）に対して "nɔn nɪ jcl dɪlɟɪ ɪnneə"（ドキドキします）と答えることができる。 質問は仮定の文であり、それが起こるかどうかは定かでない。それに対して nɔn nɪ uɛɒ のように現在形で答えると、まだ起こっていないことに対して想像で怯えてしまうというニュアンスになってしまう。それを防ぐために今現在は怖くないが、もしそうなった場合には怖くなるだろうという意味で jcl を使うことがある。もしそうなった場合というのは未来のことなので、jcl を使うわけである。 なおこの場合、怖がるだろうことが客観的な判断であれば jcl を、主観的な判断であれば uɪn を使う。つまり、冒頭の質問に対し nɔn nɪ ɑɪn dɪlɟɪ と答えることもできる。その場合、幽体離脱した客観的な視点で自己を見て「恐らくその状況になったら自分はこうするだろう」とは考えていないことになり、主観的な判断で自分の目線で「あぁ怖いだろうな」と判断していることになる。両者の違いは日本語に訳出することが難しい。 ちなみに nɔn nɪ ʃeɪ dɪlɟɪ ɪnneə（もしそうなったらドキドキします。まぁ実際にはしませんけど）と現在形で答えることもできるが、質問文の内容が起こる可能性が極めて低い場合以外には違和感があるし、また子供が使う表現でもない。 なお、「もしあの時、犬に吠えられていたら心臓にどう感じた？」の場合はどう答えるだろうか。この場合、確定した過去の事項についてなので、nɔn nɪſ ʃeɪ dɪlɟɪ や nɔn nɪſ ɑɪn dɪlɟɪ とは言えるが、nɔn nɪſ jcl dɪlɟɪ とは言えない。 ［用例］ ɥɪ, ʅe uɪn. あぁ、行こう。（勧誘の意味ではなく主語（＝この場合自分）の意思として） nɔn jɔſ uɪn μɪnel ɪnneə. ちゃんとやるつもりでした。

uɪn と jcl の使い分け

時制 / 認知様式	過去	現在 / 近接未来	未来
主観的	–(ɪ)ſ uɪn	uɪn	(jcl) uɪn
客観的	–(ɪ)ſ	–	jcl

※反実仮想の場合、過去・現在については(e)を付す。

uɪn(ʃ) ［言語］フレマゼル語の活格を表す語 ［反意語］ſcj μɑ;<ɑμeɒɪzeμ ʃ꞉

uɪn,jzɑ ucen < ucuc,ɑ.l

uɪn,ɪlſ ［アイテム］ɔɔz ［アイテム］和弓 ［京極］弓：象形。戦場において武将が目下の敵武将を射下ろすように狙っている様子を象ったもの。この文字は射法八節(lelɟcʃle) の会 (leeue) から来ている。離れ (uccne) に入れば即座に射抜くことができるため、「すぐに」や「まもなく」を意味する ɪɥəɒc,ɪlſ の文字は弓偏に時という旁からできている。なお、この象形文字は四角の部分が人間の頭で、縦棒の部分が体を表している。二本の横棒は弓手と矢を象徴し、頭部の斜線は馬手を象徴する。老婆心ながら、この文字はあくまで象形であり、厳密に言えば実際に会の段階に入っても馬手がこのように頭の上に来ることはなく、まして会の段階で馬手側の肘が伸びることはない。 <>uccne

uɪnſ ［普通動名詞］謝罪 ［動詞］ɥəl に謝罪する、謝罪する、謝る、あやまる、詫びる、わびる、侘びる ［法律］法律。ſɔſɔuɪnſ からの逆成。 ［感動詞］ごめん、ごめんなさい、すいません、すみません、どうも ［レベル］1 jɔμn:uɪnſ。uɪnſ ɪnſ（ごめんなさい）。u は意味を持たない。 ［語法］ → ɪnſeɔ 謝罪には denſ 系列、uɪnſ 系列、ɪnſeɔ がある。 denſ は「自分が悪いわけではないが、責任の一端がある」「自分が悪ではないが、相手が気の毒であり、また相手がそうなったことに自分が関与している」場合に使う。 s o r r y と異なり、自分が無関係な場合は使えず、その場合は əəne などを使う。 uɪnſ は「自分が悪いが、責任の所在はない」という場合に使い、最も一般的に使う。「責任の所在はない」というと無責任に聞こえるかもしれないが、謙虚に謝っている。 自分に責任があって責められても仕方ないという場合は ɪnſeɔ を使う。これは意味が重いので、使う場面は限定される。堅苦しい感じがする。ɪnſeɔ は「私が悪うございました」というような意味。通常は denſ と uɪnſ を使い分ければよい。 denſ より denſɪnſ のほうが意味が重い。uɪnſ より uɪnſɪnſ のほうが意味が重い。感謝と異なり、ɔc が付く系統のものはない。

・使い分け

略式	正式	敬度
uɪnſ	uɪnſɪnſ	標準
ɪnuɪnſ	ɪnuɪnſɪnſ	丁寧
ɔcuɪnſ	ɔcuɪnſɪnſ	尊敬語

略式	正式	敬度
denſ	denſɪnſ	標準
ɪndenſ	ɪndenſɪnſ	丁寧
ɔcdenſ	ɔcdenſɪnſ	尊敬語

正式	敬度
ɪnſeɔ	標準
ɪnɪnſeɔ	丁寧
ɔcɪnſeɔ	尊敬語

［成句］ uɪnſ eſ ſcſc lɪ əlɔ ウロの前では法は大人しい：無理が通れば道理が引っ込む

uɪnſɪnſ ［感動詞］申し訳ありませんでした ［アクセント］uϯnſɪnſ ［レベル］1 jɔμn:uɪnſɪnſ ［語法］ uɪnſ

uɪnſɪs ［形容詞］物理的に綺麗 ［類義語］eμceſ ［反意語］ſelɪj ［アクセント］uɪnſϯs ［レベル］3 jzl ʃ1:μcɑcɪ ［語法］ beɸɔɪ

uɪnſɪs,jzl ɔjl

uɪnſcj ［政治］軍人、戦闘要員、最も広い意味での兵（元帥さえも含めて） ［反意語］ɪuɪj ［レベル］3 ɑu; ↓ 1L:uɪj/ɪnſcj（このɪnſcj は使徒ではなく人） uɪnſcj:uɪnſcj ［語法］ ɑμecɪn は剣士で、剣を持って戦う人すべて。ɑμecuɪnſcj は軍隊にいる人間で、兵科が剣である軍人。 ［文化］ → ɪuɪj 戦士と魔法遣と魔法戦士の総称。戦闘要員。 現代においては総指揮官と士官と兵の総称で、軍人のこと。

uɪnſcjdcſ ［軍事］兵科 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ

uɪnſe ［言語］冠詞 ［レベル］4 ʃ1:lſ >< uɪſ ［文化］ ルティア語などに存在する。

uɪnſe(ʃ) ［被服］矢絣、矢すがり、 ［被服］矢絣のお召 ［被服］海老茶式部、ヴァンテ ［レベル］3 ɪlſ;uɪn/ſe ʃ1 ［文化］ 最初は文様の名としてできた。次にその文様のお召になり、やがて袴を合わせたアルティア人の未婚の女性の代表的な外行き衣装である海老茶式部の意味になった。 今では主にこのお召と袴のセットの意味で使うことが多いので、文様が矢すがりでないものもある。 海老茶式部といっても色まではは日本と同じでない。確かに海老茶もバリエーションのひとつとしては存在するものの、メインはあずき色や赤紫や紫など、多様であった。袴も灰や黒だけでなく、グラデーションを入れた青など、多様であった。 合わせてベルガンド由来の大きなリボン (ɸμɪnɒcl) を頭につけることが多い。 カレン人などは未だに若い女性が着ていることもあり、北方でも都市部などではよく見かける。

uɪnſeɒj ［電算］ヴァンテムス ［ユマナ］［電算］ウインドウズ、ウィンドウズ、W i n d o w s ［ユマナ］［電算］M a c、マック、マッキントッシュ→ ɒccl ［レベル］3 ɪl:ʅɪuel ɪlſeeɒj;uɪl(jɔμn)/ɪlſeeɒj ʃ1 ［文化］ ʅɪuel ɪlſeeɒj, jɪnſeɒj ウインドウズやマッキントッシュに相当するＯＳ。 ʔ꞉Δ アリシアの主導で初の汎用型ＧＵＩを備えたＯＳである uɪnſeɒj を搭載したパーソナルコンピュータが発売される

uɪnʅ ［植物］果物、フルーツ、漿果、液果 ［メタファー］成果 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ucnʅ ［用例］ ☆ ɪn ʅəc uɪnʅ cjſ lcɪ. おやつに果物しか食べない：ɪn ʅəc uɪnʅ hɔſ lel lcɪ は不可。アルカの語法では uɪnʅ は lcɪ に含まれない。スナック菓子やゼリーなどといったものは含まれるが、果物はそれと同じレベルの概念なので、含まれない。同じレベルとは例えば動物に対して植物のことなど。

uɪnʅʅɪ ［名詞］果樹園 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ ［用例］ ɒccʅ lɪ uɪnʅʅɪ. 果樹園でリンゴが実っている。

uɪnʅɔəe ［名詞］チャツネ 1ʔ: 制

uɪnʅɔdɔ ［料理］フロレンティーン ［レベル］3 1ʔ: 制 ［語法］ ナッツ、ドライフルーツ入りでチョコをまぶしたもの。

uɪnʅeſ ［名詞］ヴァンケット ［レベル］3 μɑ;uɪnʅ/ſe「果実のような→女が食べごろな」 ʃʔ ［語法］［文化］ lclel

uɪnjɪɒe ［言語］活格、動格、動作格 ［反意語］ſcjjɪɒe μɑ;/ ʃ꞉

uɪnɑ ［動詞］ɥəl を攻撃する、攻撃する、危害を加える、害する、いじめる、いたぶる、襲う ［普通動名詞］攻撃、襲撃、アタック ［反意語］uɪnɔ ［レベル］2 μɑ;uɪnɑ,lſɑ. 1ʔ: 制：古 :uɪnc（攻撃する） uɪnc:uɪnc:uɪnɑ ［用例］ uɪɪn uɪnɑɪſ ſə lcɪl. 軍はその街を攻撃した。 ſə eſ jɔμſ lɪnel enſɔ ſə uɪnɑ jɪſ eμcɒ ɪnſ. 本当に寒くて心臓がやられそうだ。

uɪnɑucɪn ［名詞］攻撃力、威力 ［類義語］ucɪn ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

uɪnɑɪ ［形容詞］おせっかいな、世話焼きの、大きなお世話な ［反意語］ɑɪs ［感動詞］大きなお世話だ、関係ないだろ、ほっといてくれ ［レベル］3 古 :jɔμn

uɪnɑcſ ［形容詞］リディアの望まむような ［反意語］ɥəſcɪ ［レベル］4 μɑ;uɪl/ɑcɪ/ſe「リディアに背くような」。ソーンの反意の接頭辞 uɪl– の音が変化したものに、リディアの ɑcɪ と「ような」の ſe がくっついたもの。 ʃ꞉ ［文化］ ɥəſcɪ

uɪnɑcɪɒ ［魔物］ヴァンディアム（暴像）：第六十七天：聖の空天 ［アクセント］uϯnɑcɪɒ ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:uɪbɥə/ɑcɪɒ ［文化］ 憑族。剣士や魔導師の石像や銅像などに憑依した魔物。オブジェクトと思って通り過ぎようとしたところを後ろからザックリ……という怖いモンスターである。

uɪnɑɔɔ ［名詞］攻撃方法 ［レベル］4 ʃ1

uɪnɑɔl ［代詞］あんな ［形容詞］あのような ［類義語］ɥəɪ ［反意語］ɸɪɪſɔ ［レベル］1 ʃʃ;uɪnɑɔl,jzɑ. ɪleʅ ʃʃ ［語法］ jɔɪ

uɪnɑɔl,jzɑ uɪɒ <>uɪnɑ

uɪnɑɔlen ［代詞］あんなところの ［レベル］1 ʃʃ

uɪnɑenuc ［名詞］攻撃力 ［レベル］3 ʃ0 ［語法］ enuelen

uɪnɸɪμ ［軍事］大将、ボス、ヴァンガール ［組み数字］1 / 3 ［アクセント］uɪnϕϯμ ［レベル］3 μɑ;uɪnɸɪμ,jzʅ < uɪn,jzɑ/ɸɪμɑ,jzʅ ʃ1 ［語法］ アルバレンの階級と比較すると次のようになる。 ɪμʅ ɪlſ/ʅɪlſcj = uɪnɸɪμ hɥəʅɪ/benɔɔɒ/ɸɪlſe = lɪnjeμ nɔce/bɔɔʅ/oɪlſ = blcz ［文化］ uɪɪnlcɪn 地球と異なりヴィードの存在するアトラスでは、戦闘能力の個人差が激しい。地球では総大将も一兵卒も同様に銃弾であっさり倒れるが、アトラスではヴィードの強い者が上に立つことが多いため、上の階級ほど倒しにくい。 そこで生まれたのが兵士を階級でなく強さで分類する方法である。総大将クラスの者を uɪnɸɪμ といい、武将クラスを lɪnjeμ といい、それ以下の雑魚を blcz という。この分類はもちろん事実上階級の分類とほぼ同じ意味を持ち、実際当時の jʅſ でも階級と同じ意味で用いられた。では地球と何が違うかというと、この強さ分類によって戦法を変えるためにこれらの単語ができたという点である。 シージア人はこの分類を行い、敵の強さによって戦法を変えた。ヴィード戦は μɑ まで続いたため、この分類はアルバザードにも伝わって生きた。しかしアルバレンでアルバ二世が ʅɪnɪ を制定したため、より深い分類が可能になった。だが概ね敵の強さをざっくり分けられるという点でシージア式分類はその後も使われた。

uɪnɸɪμɑ ［交通］クロスバイク、トレッキングバイク、フィットネスバイク、スピードバイク、アーバンバイク、コンフォートクロス、ヴァンガード ［類義語］uɪɒe ［レベル］4 ɪl;jzʅ の「隼」から。 ʃ꞉ ［文化］ アルバザードで最も普及しているタイプの自転車。舗装道も山道も行けるというハイブリッド型で、場所を選ばず自分の力でどこまでも行けるというコンセプトが受け入れられた。 現実のリディアが最もカッコいいと思う乗り物で、現実のセレンが最も乗りこなしている乗り物でもある。セレンはこれを使って埼玉から京都まで行ったことがある。ちなみにリディアが最もカッコいいと思う乗り物は厳密に言えば飛竜艇なのだが、それは現実にはないので、現実の範囲内ならクロスバイクが一番ということになる。リディアの価値観では、車やバイクのように機械の力に頼って自分は楽して走るというのは情けなくカッコ悪いらしく、クロスバイクのように自分の力でどこまでも自由に進んでいくのは男らしくて憧れるとのこと。

uɪnɸɪμɑ lcczel ［人名］ヴァンガード＝リーゼル μſ;uɪnɸɪμ ʃʃ ［文化］ μſ の発明王。 ʃʔ ヴァンガード＝リーゼル、蓄音機を発明 ʃʔϱ ヴァンガード＝リーゼル、白熱電球を発明 ʃʔΔ ヴァンガード＝リーゼル、発電機を発明

uɪnɸɪμɑc ［死神］ヴァンガルディ ［レベル］3 ʃ1:eejſe ［文化］ アラティアの本名。アラティアは「ラティアの者」という役職名。 地獄を統べる者にして、契約 (μɪuen) と鼎 (ejſɔ) を司る。ハインやクレーヴェルと違い、犠牲を払って望みを叶えてもらうという内容の契約を結ぶ。その契約はハインやクレーヴェルとのものより重い。 ［成句］ ɪl uɪnɸɪμɑc 契約だ、代償だ、仕方ない、しかたない：多義的。例えば何かの責め苦を負っている際に、これは自分で選んだ道に対する代償だと諦観する際に使う。また、これは面倒で苦痛かもしれないが、契約に基づく行為なのでやるしかないと奮起させる際にも使う。さらに、自分は然るべき代償を支払ったので、それに見合う利得を得られるべきだと契約の執行を望む際にも使う。

uɪnɸɪμɑcſiʅɪ ［地学］［歴史］ヴァンガルディ大陸 ［ユマナ］ローラシア大陸 ul;/。ɔμɑcn に対して命名。 ʃʔ

uɪnɸɪμμecn ［組み数字］大将賞 ［レベル］5 ʃ1

uɪnμen ［言語］活格言語 μɑ;/ ʃ꞉ ［語法］［文化］ 活格＝ uɪn，不活格＝ ſcj とすると 太郎 –uɪn コップ –ſcj 割った。〈他動詞〉 コップ –ſcj 割れた／溶けた／温まった。〈自動詞〉 太郎 –uɪn 走った／働いた／学校に行った。〈自動詞〉 上記のようになるものが活格言語である。 カルディアではフレマゼル語などが代表である。μɑ で歌魔法とともに知られるようになった。

uɪnz ［動詞］ɥəl を ɪ に保存する、保存する ［電算］セーブする、書き込む、撮影する、セーブ、保存、撮像する、 ［動詞］ɥəl を保管する、保管する、取っておく ［普通動名詞］保存、保管、取置き、取り置き、撮影、撮像 ［反意語］ɑleſ ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɪlɪ:ucn ［用例］ uɪnz ſel ɪ hɔjc ファイルにデータを保存する

uɪnzſeeſ ［魔法］保存性 ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ ɔɔlɔcɥə

uɪns ［料理］ジャム、プリザーブ、甘いスプレッド ［レベル］2 1ʔ: 制 :uɪnʅsɪɸ（果物でできた粘性の強いもの） ［文化］ アルバザード人は男性でも作ることができるということになっている。

uɪnɪ ［形容詞］［ポジティブ］自信のある、強気な、勝気な ［名詞］自信 ［経済］ブル ［反意語］ɪʅuɪnɪ ［類音］uɪɪnɪ（意味が逆っぽいが、人名なので混同は大丈夫だろう） ［レベル］3 jɔμn:「 強硬な姿勢で論議に臨む 」 ［成句］ lej ſcl le l'eɒ ɒcɥə ɪlɪl eɒ jen uɪnɪ. 変わらないでいることは自信に繋がる。

uɪnɪ,ɪlſ ſcʅn

uɪnʅeɒc,ɪlſ ［名詞］弓月 ［京極］弓 / 月

uɪnɪl ［名詞］自信 ［レベル］3 ʃ0

uɪnɪlɔɔ ［軍事］火竜槍、火竜鎗、マドファ　ɲɔ;ɪlʃ「竜筒」。竜が火を吹くかのように見えたことから。　ʃʎ　［文化］　φel

uɪnɔ,ɑ　uɪnɑ

uɪnɔɪ,ɑu　ʃɔɪl　uɪnɔ/nɔɪ,ɑu

uɪnɔ　［動詞］ɣel を c{fel} から守る、守る、護る、保護する　［普通動名詞］防衛、守備、自衛、守護、保護　［反意語］uɪnɑ　［レベル］2　ɑ;uɪ は戦う　赤　uɪnɔ:uɪnɔ:ɒelɔpː̀lɪɒələ,ɪlʃ　［用例］　uɪnɔ ucen　堅い守り

uɪnɔfɪ̀lɪ　［経済］保護貿易　［レベル］6　1L

uɪnɔj　［動詞］ɣel にユノを全放射する　［普通動名詞］ユノ全開放射　［レベル］4　古：uɪnɔ は守るように或いは囲むように全放射するユノ。j は ɲɔ から。　［語法］　消費量は多いが、雑魚敵を一掃できる。

uɪnɔjeɒen　［アイテム］守護剣ヴァノセレン、ヴァノセレン　［レベル］4　ɒɕɑɕɪ: 古：uɪnɔjeɒen は「セレンを守る」の意味。　［文化］　最強のヴァストリア。ラルドゥラのもつ守護剣。霊界で最も強い力を秘めた剣。その力を解放するとアルデのみならずテームスさえも破壊してしまいかねないため、テームスが強力な封印をかけて暴走を食い止めた。だがその後その剣は行方をくらませてしまう。以降はずっと歴史上から消え去っていたものだが、ɒɑ でアンテの手に渡った。アンテは一度だけその剣を抜いてテームスを切りつけたところ、途端にテームスは大打撃を受けた。あまりの威力に恐れたアンテはすぐさま剣を鞘に収めたが、それでも剣は暴走してしまう。剣が鞘を離れていた時間はたった 1 秒にも満たなかったが、その剣の暴走で周辺の空間にあったものを全て破壊してしまった。アンテはその剣を恐れ、2 度と抜かないと決めた。悪魔キルセレスでさえその剣には近づこうとしなかった。アンテはやがて息子のラルドゥラに剣を託すと、ラルドゥラは剣にヴァノセレンと名付けた。

uɪnɔn　［名詞］ヴァノン、ヴァノン特殊部隊、シオン親衛隊、シオンの幹部　［組み数字］6　［レベル］4　古：uɪnɔn ← uɪnɔlɕɔn　［文化］　アルティス教の始祖、とりわけアルシオン派の始祖であるシオンの親衛隊。それぞれアルシオン派を構成する上で重要な役割を持っていた。人数は男女 3 人ずつで、全員本名は別。foɪɒ は女で財政を担当した。ɒpʰɪn は男で外交を担当した。nɒʃe は男でアルティス教の戒律を担当した。lɒʃ は女で事務を担当した。ləɲɔn は女で派の決定内容の実行担当者。そして ɒɕɒɔl は男でアルテとの交信を担当した。

uɪnɔnɒeɒ　［組み数字］ヴァノンサークル、六芒星、六歌仙　［レベル］5　ʃ1　［文化］　ɒɪdɪll

uɪnɔnɑejdel　［名詞］ヴァノン結界。6 個の結晶を使う。　1Δ

uɪnɔɒj　［悪魔］ヴァノムス　［レベル］4　ɒelʃɕɪ 0:ɪrɒɪ;uɪnɔ/ʃeeɒj　古：uɪnɔɒj ← uɪnɔʃeeɒj から。「テームスを守る」。　［語法］［文化］　アルマにヴォテムを加えた五匹の悪魔の総称。

uɪnɔɒcɑɪ　［魔法］ヴァノミヴァ（ウォール）　［レベル］6　J0: 娘を守る　［文化］　ɒɑ でアノが娘のクミールを守るために開発した個人魔法。分類上は魔法陣。あらゆる攻撃に対するバリアを張る。術者の能力に応じて強さが決まる。効果としてはエスバルトと同じ。クミールの家を常に纏っているため、ここはたとえ爆弾を落としても壊れない。

uɪnɔɒcɒɔ̀　［宗教］守護神　ɒɑ;/　ʃʎ

uɪnɔɒccɒ　［アイテム］ヴァノミール　［レベル］4　ɒɕɑɕɪ: 古：uɪnɔ̀ɒccɒ「クミールを守る」　［文化］　ヴァストリアの 1 つ。ラヴァもつ大鎌。

uɪnɔɑɕɪ　［アイテム］守護剣ヴァノディア、ヴァノディア　［レベル］4　ɒɕɑɕɪ: 古：uɪnɔ は守るで、ɑɕɪ は「夢」の意味。ɑɕɪ は『幻想話集アティーリ』が昔「リディアの話」と呼ばれていたことからとったもので、ɒɕɑɕɪ から ɒc をとったもの。そして ɑɕɪ は古で「夢」なので「夢を守る」という意味。ここの夢は『幻想話集アティーリ』の世界を指すから、uɪnɔɑɕɪ はテームスから守るという意味。だが、これには裏の意味がある。ɑɕɪ は掛詞としてリディア本人をも指す。従ってこの剣は「リディアを守る剣」という意味にも取れる。そして実はその裏の意味を読み取らねばなぜリディアがこの剣をセレンの剣にしたのかが分からなくなる。　［文化］　ヴァストリアの 1 つ。セレンのもつ守護剣。『幻想話集アティーリ』でセレンがヴァルファントと一騎打ちをして勝利した際に褒美として貰った剣が元。セレンはその剣でデームス最強の剣士キルセレスと戦い、打ち破る。キルセレスが滅んだとき、セレンの剣にキルセレスの力が流れ込んできた。そうしてキルセレスの力を得たその剣は紛れもなく最強の剣となった。セレンは剣に「大召喚士リディアを守る」ということと「霊界を守る」ということを掛けて uɪnɔɑɕɪ と名付けた。

uɪnɔbɪl　［名詞］バリア、バリケード　［レベル］3　1L:ɪecn　［用例］　lə ucʎ ueɟ ʃcɟʃcʎ ɒecɪl ʎɔnʃ lɪc elen le lʃɒeɟ ɣə ɪ lɪʃ e lcʃcl lel uɪnɔbɪl. 残った男は一人、小屋の入り口に立てかけたバリケード代わりのテーブルを見やると、寂しそうに呟いた。

uɪnɔbɪlɪn　［名詞］バリアを張る者　［レベル］3　1L:clbəj:ɒcɑɕɪ

uɪnɔjʃ　［政治］摂政、ヴァノールト　［レベル］4　J0:uɪnɔ/ 古 hɪɒʃ（陛下をお守りする）　［文化］　ɣəəɒɪ ʔʎL1 ミハリルが崩御。1 0 歳のペティが即位する。アトラス史上ありえないことで、物議をかもすこととなった。結果、ユキナが政治を見る摂政という地位についた

uɪnɔlɪnφ　［政治］［軍事］自衛権　［レベル］4　1L

uɪnɔlczɪnɔ　［政治］保護庁　［レベル］4　1L　［文化］　軍務省下。救急車はこの管轄。また、遭難者をヘリなどで救うのもこの管轄。

uɪnɔɪn　［名詞］保護者、守護者　［野球］野手、フィルダー　［レベル］3　ɑ;/ | ul　1L:ɒelɕɑɕɪ ɪlʃe

uɪnɔɪɒbɪ　［軍事］ヴァノアルバ、国家特殊防衛部隊ヴァノアルバ　［レベル］4　古？　［文化］　アルバ 3 世が集めた私兵団。ɒɑ の時代が全盛で、その強さは国軍をも凌いだ。ɒɑ ではテームスの封印を強めに出向いており、国内にほとんどいる機会がない。

uɪnɔenuc　［名詞］防御力　［レベル］3　J0　［語法］　enuelen

uɪnɔeɒcuɔɪn　［生物］白血球　［レベル］4　1L: 体を感染から守る

uɪu　［運動］スポーツ、運動、競技、体育　［名詞］体育。教科名→ aeldɪnʃ　［レベル］2　1ʔ: 制：古：u cucɒɪcn（運動、強い体）　ləə:ʎəə　［文化］　健康を保つための運動は強く推奨される。筋トレや軽い運動、ランニングやウォーキングが推奨される。　アルバザードでは球技の人気があまりなく、サッカーや野球をやる人は少ない。　個人競技のほうが人気があり、次に二人でできるものが人気。団体競技はそれほど多くない。最も人気のある団体競技はサバイバルゲーム。　［用例］　ɪn lcɒ uɪu. 運動不足だ。

uɪuɪɟ　［運動］スポーツテスト　［レベル］3　ul;/　ʃʎ　［用例］　ɪd ʔclj, ɑclleɑ ɪn eʃ ʎɔ ɒec e uɪuɪɟ. あと、細かく言えば持久走もスポーツテストのひとつだ。

uɪuʃell　［名詞］体育。徳育、知育、体育という教育の三本柱のうちのひとつ。　［レベル］3　ɒɑ;/　ʃʎ　［文化］　ʃell

uɪuʎɪ　［運動］運動場、トラック　［レベル］3　J0

uɪuɟɪb　［被服］体操着、体操服、体育着、運動着、ジャージ（学校によっては）　［レベル］3　J0:lcɔn

uɪuɟeɒj　［運動］運動部　［レベル］3　1L:ɒelɕɑɕɪ ɪlʃe

uɪuɟel　［歳時記］体育の日　［レベル］3　J0　［文化］　ミロク革命で制定された。気候が暑くもなく寒くもないファーヴァの月の最初で、運動には最適とされる。この日は運動が推奨され、運動会も多く開かれる。

uɪuɪfe　［運動］ジム、スポーツジム、フィットネス　［レベル］4　1L:ɒcɑɕɪ:ɪpʎɪlelʃ

uɪucʃɪ　［運動］運動会、体育祭　［レベル］2　1L:ɒcɑɕɪ:ɪpʎɪlelʃ　［文化］　ɲɒɪnɪ まで毎年一回、リュウの月第一週の好天に行われる。lcɒɪnɪ ではサークルごとの試合になるため、学校規模では行わない。

uɪucʎl　［運動］体育館　［レベル］2　1L:ɒcɑɕɪ:ɪpʎɪlelʃ　［文化］　体育の授業などのために、広いものが用意されている。

uɪuenuc　［運動］運動神経　［レベル］2　1Δ:jeɒen:ɒelɕɑɕɪ　［語法］　一般に言われるいわゆるスポーツの得意不得意を指す能力の意味。

uɪɑ　［動詞］ɣel を c から搾取する、搾取する　［普通動名詞］搾取　［レベル］4　1ʔ: 制：古：uɕɑəʃɔ　［成句］　el uɪɑ. ɪl c ʎəz ɟceʃ jeʃ ləəj. 馬鹿は殺さず絞るべし (lccɔɪ lɑfɕɪ)

uɪɒ　［形容詞］暴れた、乱暴な、獰猛な、凶暴な、暴力的な、野蛮な　［名詞］暴力、暴発、乱暴、狼藉　［名詞］暴漢　［動詞］ɣel を暴れさせる、暴れさせる、暴徒と化させる、乱暴な状態にする　［反意語］ɪlɪuɪɒ　［レベル］2　1ʔ: 制：古：uɪɒɣə　uɪɒɣə:uɪɒɣə:uɪnɑɔl　［語法］　ɪlɪuɪɒ, ləəd, ʃɔen　［成句］　uɪɒ ɣən beezel 破竹の勢い。軍隊と企業以外にはネガティブな意味。ul 以降はポジティブ。　［用例］　［メタファー］uɪɒ ɣən uɪcʎj 山猫のように獰猛な：残忍なニュアンス

uɪɒɟɔɔl　［名詞］蛮行、暴行、乱暴　［レベル］4　1L:clbəj:ɒcɑɕɪ

uɪɒd　［名詞］統計　［レベル］4　1ʔ: 制：古：uəəɒɪ（統計）　uəəɒɪ:uəəɒɪ

uɪɒdeʃ　［動物］ハヤブサ、隼、ファルコン、はやぶさ　［レベル］4　J0:lɪʎʃɪ:uɪɒd。以前は uɪɒʃ で、uɒɒʃ と似すぎたため。　uɪɒd:uɪɒdeʃ:lɪ uɪnφɪɒ　［成句］　ʎnɪʎ ɣən uɪɒdeʃ ハヤブサのようにまっすぐな：猪突猛進

uɪɒɣə　［名詞］暴徒　［名詞］大がかりなストライキ、大々的なデモ　［レベル］4　ɑ;uɪ は uc で力。　赤：暴れた

uɪɒɔpʃ　［医療］月経前症候群　［レベル］5　1L: 生理前に（一部の）女がイライラしたり凶暴になることから

uɪɑ　［形容詞］早い、すぐの。動作そのものの所要時間が短い。　［副詞］すぐに、すぐ　［類義語］ɑɔcl、ɒɪd　［反意語］nɔu　［レベル］1　1ʔ: 制：古 :uccɑ（遅い）　:::fɔʃɔlə,ɪlʃ　［用例］　uɪɑel enz できるだけ早く、ＡＳＡＰ、一日も早く

uɪɑʎlel　［ユマナ］ウィキペディア、ウィキ、ｗｉｋｉｐｅｄｉａ　［レベル］4　J0: 語源が「早い事典」であることから

uɪɑn　［料理］ファーストフード　［レベル］3　1ʔ: 制：uɪɑlən（早い食事）　［文化］　一部のものは健康に悪いとして革命で廃止。サンドイッチのような軽いものが現在には残っている。

uɪɑnɕdl　［植物］インゲン、インゲン豆　［レベル］4　1ʔ: 制　［文化］　単体で食べられることはないが、煮物など、料理に入れられる。

uɪɑɑɪcj　［化学］爆轟　ɒɑ;/　ʃʎ　［文化］　φel

uɪɑφeɒ　［植物］二十日大根、ハツカダイコン、はつかだいこん、ラディッシュ　［レベル］4　1ʔ: 制

uɪɑφel　［軍事］マシンガン、機関銃、機銃　［レベル］4　ɒʃ;/「早撃ち銃」　1ʔ: 制　［文化］　ɒɑ から魔法式の機関銃ができ、nɑ 以降もそれに似せたものを作ろうと試作が練られ続け、やがて ɒʃ で空気圧機関銃が開発されたのが始まり。

uɪɑφeleɟl　［軍事］機銃掃射　［レベル］5　ɒʃ;/「機関銃の雨」　ʃʔ

uɪɑɒenj　［言語］早口言葉　［レベル］3　1L

uɪɑl　［動詞］ɣel（敵国）を殖民する　［普通動名詞］植民　［レベル］4　1ʔ: 制：jɪɑ:uɪɑɔ̀lɪl「勝利の土地」が原義。

uɪɑɔpʎzɑ　ʎɪɑ　uɪɑe（負ける）か uɪnɔ（守る）が関与しているはず。

uɪɑe　［動詞］ɣel に負ける、負ける、落ちる、落選する、倒れる、やられる、落第する、不合格になる、ハズレくじを引く、はずれる　［動詞］ɣel（生活必需品以外のもの）を買う、買う。節約家が主に使う用法で、全員がこの用法を使うわけではない。　［普通動名詞］負け、敗北、敗戦、落選、不合格、落第　［反意語］uɪjʃ　［レベル］2　ɑ:uɪ は戦う　古　uɪɑe:uɪɑe:uɪɑe　［成句］　［娯楽］fc uɪɑeʎ ゲームオーバー　uɪɑe ɑlen ɒɪɟ ʃɔʃɪl, ɔl ʃc ucnɪ elɑ. 何度でも負けていい、ただ諦めなければ：七転び八起き　［用例］　cɒ uɪjʃe, ɑeeɒ uɪɑeʃ ɪpɒcɑ. ヴァステ戦争で悪魔はアルミヴァに敗れた。 fe uɪɑe dcle ʎɪ ɪleɑ. fə eʃ bebel e. 喫茶店でコーヒーなんてもったいないわよ。

uɪɑejʃɪpʎ̀　［軍事］サブマシンガン、短機関銃、機関短銃、機関拳銃、マシンピストル　［レベル］5　ul;/　ʃʎ　［文化］　φel

uɪɑen　［遊離語頭］［形容詞］まずない、まさか　［レベル］1　J0:uɪcʎ/ɪɑeɒ（部分 / 欠片）→ uɪɑeɒ。「確率が欠片ほどしかない」　［語法］　ɪləəʃ

uɪɑezcɒ　［政治］死票　［レベル］4　1L: 敗者に投じた票

uɪɑeɪn　［名詞］敗者、敗北者　［レベル］2　ʃʎ

uɪφ　［形容詞］野生の、動物が飼いならされていないさま、自然に人間の手が入ってないさま、のら、ノラ、野良、自然　［形容詞］性格が野性的な、ワイルドな　［言語］ネイティブ、ネイティブスピーカー　［レベル］3　1ʔ: 制：ɒclɑ: 古 uɪφɪ。造語年 ʕ ごろ。語源忘却。　［用例］　uɪφ hɔʃ jeɒ ʃə ɒelcɒ. この答えはネイティブのみぞ知る。

uɪφʎeʃ　［動物］野良猫、のら猫、のらネコ、ノラ猫、ノラネコ、のらねこ、ノラねこ　［レベル］3　ɒɑ;/　ʃʎ　［成句］　ʎcɪl ʎɪ le uɪφʎeʃ ʃclbe ɒɔnɔɪ eʃ ɒɪʃ. 野良猫が見知らぬ人に懐く街は良い街。野良猫に土地の人が優しくしていれば猫は人を恐れなくなるため、来訪者を見ても逃げなくなる。野良猫が人に懐く街は人が優しい、野良猫を見ればその街の人々の民度が分かるという意味の諺。

uɪφɔɒɪ　［動物］野良犬、のら犬、のらイヌ、ノラ犬、ノライヌ、のらいぬ、ノラいぬ　［レベル］3　ɒɑ;/　ʃʎ

uɪd　［動詞］ɣel を沸騰させる、沸騰する、沸く、わく、わかす、沸かす、わかせる、沸かせる　［動詞］ɣel をかっとさせる、カッとする、かっとする　［普通動名詞］沸騰　［レベル］3　1ʔ: 制：uɪjɪd（甚大な蒸発）。蒸発が液体内部からも起こること。　［用例］　ʎɪ uɪdɪʃ ɪn. あいつのせいでかっとした。

uɪdɒ　［名詞］やかん、薬缶、薬罐、ケットル　［レベル］2　1ʔ: 制：湯沸かし器

uɪh　［動物］サバ、鯖、さば　［レベル］3　1ʔ: 制：古：uɒeɒɪlhɔɔɒɪ「黒青」　［文化］　食用される。脂が多く、たまにじんましんを起こす魚として知られる。

uɪɣə　［名詞］訳有ボス　［レベル］3　J0:uɪɪnɪ/ɣəəɪ　［文化］　訳あって敵になっているキャラクター。ɒɑ のヴァーナ、ファイヤーエンブレムのエルトシャン、ＦＦ４の操られたカインなど。

uɪɒ　［格詞］（経路格）～を通って、～通って　［格詞］（時間とともに）～の間中、間じゅう、あいだじゅう　［格詞］（中継）～を介して、～を仲介として、～を通して　［格詞］（介在）～を伴って、～を通して　［格詞］（ɒɪn と ʎɔnʃ を合わせたもの）～することを通じて　［動詞］ɣel を通る、通る、経由する、通す、通過する　［レベル］2　ɑ;e　古　［語法］　ɒɪʎ　［用例］　ɪn ʃclɪʃ ʎɪb uɪɒ jel. 一日中仕事があった。　ɪn jɔlɒɪʃ ɒelc uɪɒ ɒɪl e dcnɑ. 私は針の穴に糸を通した（糸を渡した）。

uɪɒʃ　［副詞］［形容詞］とてつもなく、恐ろしく、ずば抜けた、ズバ抜けた、ずばぬけた　［レベル］1　制：ɔuc: 新生で ʃcnʎɪ が ʃcn の上になったが、違和感があるとしてオヴィが ʃcnʎɪ を ʃcn の強調形に抑えた。その代わり、ʃcnʎɪ のあった位置に uɪɒʃ（制での意味は「生まれる」）をあてがった。「死ぬ」を強調にあてがうのは自然言語によくあることで、日本語でも「死ぬほど」などという。ただ、「生まれる」を強調に使うのは独特のセンス。1L 年まで程度は 4 段階だったが、大雑把すぎるので、確率と頻度に平行して 8 段階にした。　［語法］　程度は 9 段階に分かれる。ʃʔ 年までは中央の jelfe がなかったが、紫亞によって追加された。　程度の表現には強調度がある。ɪɒ と ɣəe が最も強調度が弱い。端に行くほど強調度が高い。程度は左が高く右が低いが、強調度は端のほうが高い。「とてつもなく」と「ほんの少し」は程度の高さや低さを強調している。「とても」と「かなり」はプラスにもマイナスにも大した強調ができていないため、強調度が低い。これがどう活きているかというと、ʃcn と ʃcnʎɪ、ʎɪl と ʎɪlcj の間で、強調度の高いほうが語形が長いという特徴が見える。　とてつもなく、ものすごく、とても、かなり、中くらいの、やや、ちょっと、わずかに、ほんの　uɪɒʃ, ʃcnʎɪ, ʃcn, ɒɪɒ, jelfe, ɣəe, ʎɪl, ʎɪ lcj, lecz　このうち jenfe は ʃcnʎɪ を ʃccnɪ という。マユは両方使う。ミリアと幼児は ʃcn を ʃcnʃcn と強調し、ʃcnʎɪ の代わりとすることもある。

uɪɒʃucen　［音楽］フォルティッシシモ　1L

uɪɒʃɒɪɒ　［生物］爆乳　［レベル］4　ɒɑ;/　ʃʎ

uɪɒʃcnɪ　［アイテム］ヴァルティナ　［レベル］4　ɒɕɑɕɪ: 古：「強いあなたの心」の意味だそうだ。　［文化］　ヴァストリアの 1 つ。リュウのもつ神槍。

uɪɒʃcun　［音楽］ピアニッシシモ　1L

uɪɒfe　［悪魔］ヴァルテ　［レベル］3　ɒelʃɕɪ 0:uɪɒʃe;e　古：ɪɒʃ は魔法。リディアとクミールの共同創作キャラクター。　［文化］　ヴィルを司る。黒い法衣を着た銀髪の美青年。自信家で陶酔的。デームス最強の魔導師。魔法関連のデームスを統べる者であり、下位に悪魔ミダン（聖）、悪魔ヴェンシート（邪）、ソーム（七曜の悪魔）を置く。ヴァルテは創世記に猛威を奮ったが、竜王ティクノによって封印された。ヴァルテに致命傷を負わせたのはティクノが投げつけた杖であり、その杖はヴァルテの魔力を吸ってこれ以上にない程の魔力を秘めた杖となった。余りの威力を恐れたティクノは杖を回収すると、自分の屋敷に保管して家宝とした。後にアルデスはティクノからそれを賜ったが、更にその杖は大召喚士リディアの手に渡ることとなった。リディアは魔杖ヴァルデを手に、復活したヴァルテを再度封印する。　冥王星を司る。

uɪɒʃej　［宗教］ヴァルテス派　［レベル］3　古：古：uɪɒʃej ← uɪɒʃeeɒj「強大なるテームス」　［文化］　アルティス教の一派。アルテよりテームスを中心に崇拝する混合派とテームスのみを崇拝する原理派に更に分かれる。テームスの復活を祈って霊界の崩壊を願う末法思想で、その性格から悪魔崇拝とされている。ヴァルテスによると、霊界は救えぬほど汚れてしまったので一度破壊しつくして全て元のアルテの形に戻してから再生すべきだと考えられている。彼らがテームスを崇拝するのは霊界を 0 に戻す力を持っているのはテームスだけだからであり、徒に霊界の破壊を願うのではないということになっている。

uɪpʎ̀　［地名］ヴァルク、ヴァルク海　［レベル］3　古：ɟɒcɑɕɪ　［文化］　セレート島以東、サヴィア以西の海。世界最大。地球では太平洋に当たる。

u

uɪpʎʃʝczɪ ［地学］ヴァルクプレート ʃʔ

uɪpʎʃɪn ［化学］クオーク、クォーク、基本粒子 ［レベル］5 古 :ɯ/ɪpʎʃɪnʝ。三つ巴であることから。

uɪpʝ ［動詞］ɣəl を ɪ に強いる、強いる。使役動詞。 ［普通動名詞］強制、強要 ［レベル］2 1⒈: 制 : 不明 ［語法］ → ɔʃʝ

uɪpɑɪnʃ ［エルト］ヴァルファント ［名詞］7 時 ［名詞］南南西 ［交通］ヴァルファント通り ［音楽］ファ # ［組み数字］7/ 1 2 ［類義語］ɑɪn ［アクセント］ʊʃʎɑɪnʃ ［レベル］2 ɒelʃcɪ ⒈:uɪpɑɪnʃ;e 古 ［文化］ → ɑɪnuɒɹɪnʃ アルミヴァの７番目。エルトの頭から生まれた。セイネルスを剣とするエルト最強の剣士。デームス最強の剣士であるキルセレスとも張り合うが、負けてしまう。μɑ ではセレンと一騎打ちをし、これも敗れる。エルトの王になる素質があったが、カルザスに負けて従うようになった。真面目で人情家。

uɪpɑɔnʃ ［名詞］経路 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

uɪpɒɪ ［名詞］かっこいい、イケメン ［類義語］eɒɹɑe、ɑɪpɒ ［レベル］2 古 :uɪpɒɪcnʃ「通り抜ける体」。元は lɔuɪpɒɪcnʃ「感動で頭を貫くような体」の意味で、相手の容姿を称えた言葉。 ［語法］ カレシ候補や男として見ている相手に使う。勘違いされたくないときには ɑɪpɒ を使う。

uɪpɒcl ［色］橙、オレンジ ［レベル］2 古 jɔpɹn:dɪdɪləpɹ から来ている。

uɪpɒclcɪ ［人名］ヴァーミリア ʃ0 ［文化］ cɒəl ⒈⒈ ユリア、息子の uɪpɒclcɪ を授かる

uɪpɒel ［名詞］［形容詞］通時的な、時系列の ［反意語］leʔɒel ［レベル］5 ⒈L:μcɑcɪ:ɪpʎɪelʃ

uɪpɑɔɔɒb ［名詞］通行証 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃʔ

uɪpɑe ［アイテム］ヴァルデ、魔杖ヴァルデ、魔杖（まじょう）ヴァルデ ［レベル］4 1⒐: 制 : 古 ［文化］ ヴァストリアの１つ。リディアのもつ魔杖。ティクノが悪魔ヴァルテに投げて致命傷を負わせた杖。最強の魔力を秘めている。ティクノからアルデスへ渡り、アルデスからリディアに渡った。リディアはこれを使って復活した悪魔ヴァルテを倒した。 ［成句］ uɪpɑe cʔ jɔpɑ. ヴァルデは掲げられた：賽は投げられた。リディアが μɑ でテームスを殲滅すると宣言した際、セレンに介助されつつヴァルデを高らかに民衆の前で掲げたことから。

uɪpzɔʔ ［動物］コンドル ［レベル］5 ⒈⒈: 制 :uɪpzɔn

uɪpzɔʔlɪɑ ［地球の国名］コロンビア ［レベル］6 ⒈L: 国章にコンドル

uɪpzɔn ［サール］ヴァルゾン ［名詞］8 時 ［名詞］西南西 ［交通］ヴァルゾン通り ［音楽］ソ ［組み数字］8/ 1 2 ［類義語］uɪz ［レベル］2 ɒelʃcɪ ⒈:uɪpzɔn;e 古 ［文化］ アルミヴァの８番目。サールの右腕から生まれた。ポエンの兄。ライオン・鷹・大蛇・一角山羊のキメラ。サールの破片から生まれた。エルトの死体を噛み千切ってエルトの一族を生んでしまう。テームスが生まれるとティクノらと協力して戦った。テームスを封印した後にユーマに恋をし、承諾を得て結婚するが、初夜にユーマが嫌がって逃げてしまう。男女の関係も知らない子供を手篭めに掛けたことを恥じたヴァルゾンはこのことを内密にした。尚、そのときユーマの体内に放った精子はサールのオルトになった。

uɪpzɔnɪdɪ ［ユマナ］［音楽］ト音記号 ［レベル］4 ⒈L

uɪpzɔn ɪʎɪɹl ［人名］ヴァルゾン＝アルサール ［レベル］6 ⒈L:clɒəʝ:μcɑcɪ ［文化］ アルティル期の政治家。アルタレスになったが、アルティス教の隆盛を見て、自分は降ろされるのではないかと焦り、シオン＝アマンゼを暗殺しようとした。暗殺はしくじり、シオンから報復に会い、死亡。このときアルタレスがいなくなったことで空きポストができ、２３０年の選挙開始と併せ、皮肉にもシオンの立候補するところとなった。なお、悪徳高官フェンゼル＝アルサールの先祖でもある。

uɪpzɔneʃ ［色］緑がかった青 ［レベル］3 ⒈J:uɪpzɔn/ʃe

uɪpɪe ［動詞］ɣəl を憎む、憎む、嫌う、厭う、大嫌いだ、忌む、忌み嫌う、憎悪する、嫌悪する ［普通動名詞］憎悪、嫌悪 ［反意語］ʃccɪ ［アクセント］uɪpɪE ［レベル］2 ɑ;e 古 : 嫌う uɪpɪe:uɪpɪe:uɪpɪe ［用例］ ɪn uɪpɪe ⒈ɪ. あいつが大嫌いだ。

uɪpc ［動詞］ɣəl を透かす、透かす、すかす、すける、透ける、シースルーにする、透けさせる、透けて見えるようにする ［形容詞］シースルーな、すけすけな、透き通った ［レベル］3 1⒐: 制 :uɪp/cn（透して見る）

uɪpcn ［動詞］ɣəl を見通す、見通す、見透かす、見すかす、見とおす ［普通動名詞］見通し、お見通し、おみとおし ［レベル］3 ⒈L:μcɑcɪ:ɪpʎɪelʃ ［用例］ ʃɪl lccɪ clncʎ ɣən uɪpcneʝ ɒəlnɪ ʃ'ɪu elɪnʃ. しかしリーザは見透かしたかのように答える。

uɪpeʃ ［名詞］忌むべきもの ［形容詞］忌々しい、いまいましい、憎々しい、憎ましい ［レベル］4 μ;uɪpɪe/eʃ「憎むような」 ʃʃʔ ［用例］ nɪ uɪpeʃ 忌々しく思う、忌々しげに ⊠ ɔʔ eleʃ uɪp eʃ 忌々しく。これだと本人の表情が他人から見て忌々しいの意味になる。本人が変な顔をしているという意味になるのでアウト。ɔʔ eleʃ uɪpeʃɪn でも他人を忌々しくさせるようなイラつく顔という意味なのでダメ。忌々しげに思っているなら nɪ uɪpeʃ 一択。 ɒɪl uɪpeʃ 忌々しい記憶 ɪn nɪ uɪpeʃ ɔn lɪnʃe e ɑcʝ ɣən ɪlɑɪɪl. 満月が日食のように忌々しい。

uɪpen ［接続詞］uɪp ［レベル］3 ʃʃ

uɪz ［サール］uɪpzɔn の略称 ［組み数字］8/ 1 2 ［レベル］1 ʃʃ

uɪs ［動詞］ɣəl を予定より早くする、遅刻の反対、ɣəl に先に来てしまう ［反意語］ucz ［レベル］3 @ ⒈L

uɪl ［単位］4 ［レベル］1 ⒈L: 制 :uɪ lccs:uɔn:ɣɔɒc,ɪlʃ

uɪlʃ ［軍事］砦 ［電算］汎用大型コンピュータ、メインフレーム ［経済］ペイオフ。最後に残る砦と比喩されたことから。 ［レベル］3 1⒈: 制 : 古 :uɪjʎlɪnɪləʃɪ（戦場の城）

uɪlʎɪɑ ［地球の国名］モルドバ ⒈L: 国名が「多い砦」

uɪlʃc ［動詞］ɣəl にしがみつく、しがみつく。ɑɪl ［レベル］2 ʃʃ: 古 uɪlʃclcl。uɪl は強意。 ［成句］ uɪlʃc zɪɒ e nene ～の脚にしがみつく：足を引っ張る

uɪlʃcɪ ［アトラスの国家］ヴァルティア ［レベル］5 ʃʔ:μcɑcɪ

uɪlʃe ［宗教］ヴァルテス、ヴァルテス派信者 ［レベル］3 jɔpɹn:uɪlʃe（アルティス教徒）。アルシェは使わなかった。語源不詳。ʃ0 年に uɪpʃe と似るため、ヴェルテス派信者とした。

uɪlʃeɒʝ ［芸術］［娯楽］4 コマ漫画 ［レベル］3 ⒈L

uɪlʎ ［医療］手術 ［動詞］ɣəl（病気や病人）を手術する、手術する、オペする ［レベル］3 1⒐: 制 : 医者が切ること

uɪlʎlɪd ［医療］鉗子、かんし ［レベル］6 1⒐: 制 : 手術に使うはさみ

uɪlʎcl ［アトラスの国家］ヴァルキル ［レベル］5 ⒈L:μcɑcɪ: 「分けられた」

uɪlʎɔɪn ［農耕］四回転式、ノーフォーク、ノーフォーク農法、輪栽式農業 ［レベル］6 μʃ ʃʃ ［文化］ → ucʎɔɪn, ɪʎɔɪn μʃ の cneɪɪɪɔ で編み出された農法。やがてケートイアまで南下して広まっていく。アルバザードでは北に行くほど採用されていた。 圃場を一つにして、小麦などの「冬穀」→カブ・てんさいなどの「根葉類」→大麦・ライ麦などの「夏穀」→クローバーなどの地力を回復する性質を持つ牧草と、ローテーションを組んで耕作するのが特徴。それ以前の三圃式農業 (ucʎɔɪn) に比べ穀類の作付は減少するが、根葉類やマメ科植物の作付が増加する。 特にカブなどの栽培を導入したことにより飼料不足が解決され、冬季の家畜飼育が可能となった。その結果、家畜の堆肥と牧草による地力回復により、休耕地を廃することが可能となった。輪栽式農業導入により食料生産が増加し、人口の増加が始まった。

uɪlʝ ［医療］医者、医師、ドクター ［レベル］2 1⒐: 制 :uɪl zeləːzelə ［文化］ ・医師の範囲 アルバザードでは外科や内科などのドクター（医師）、歯科医、獣医、鍼灸医までが医者に含まれる。あん摩マッサージ指圧師やリフレクソロジーやカイロプラクティックや整体や薬剤師や看護師は含まない。また、柔道整復師というのはアルバザードには存在せず、柔整はドクターの中の整形外科が担当している。 ・医師のヒエラルキー アルバザードでは職人が高く評価されるため、技術力のある人間が高い地位に行く。日本と異なるのは内科や精神科の扱いが低いことである。 内科は血液やＣＴやエコーなど機械を使い数値や映像を見て診断するだけで、機械に頼る割合が大きい。また自分で治すわけでなく薬を投与するだけである。薬の飲み合わせですら辞典を使って調べる医者がいる。このため知識のある素人や機械でも代用が効くと考えられ、地位は日本に比べて圧倒的に低い。さらに精神科医はきちんとした科学的なデータや数値をもとに診断しているわけでもなく診察から処方をしているため、さらに信憑性が弱く、医師としての扱いも低い。ただしＭＲにとっては薬をバンバン捌いてくれる上客なので接待は篤い。 アルバザードにおける医師のヒエラルキーでは、まず外科が一番上で、次に歯科や産婦人科や鍼灸師や整形外科などが来て、次に内科や皮膚科や眼科や耳鼻科などが来て、最後に精神科が来る。要するに自分の腕と技術でなんとかする医者のほうが機械で代替できない割合が高いため、評価され、上に来るのである。機械や薬などに頼るほどヒエラルキーは下になる。日本と違って整形外科や歯科や鍼灸医が高位に来る点が特徴的である。 なおこのヒエラルキーは現実には「自分の力で生き抜く男」を高く評価するリディアの価値観から生まれたものである。この考えは広範に及び、例えば乗り物でも「機械に頼る車やバイクより、自分の力で乗り越える自転車のほうが男らしい」と評価されている。 ［用例］ → uɪlɪ uɪlʝ hɪl 優れた医者

uɪlʃɔnʔ ［政治］医者 ［レベル］3 ⒈L ［文化］ 身分の１つ。

uɪlʝɸɪʃ ［医療］医者代、医療費 ［レベル］3 ⒈L:μcɑcɪ:ɪpʎɪelʃ ［語法］ 入院代は uɪlɸɪpʃ。

uɪlʝɪlɔ ［娯楽］お医者さんごっこ ［レベル］2 ʃʔ ［文化］ ɒeles

uɪln ［形容詞］健康な、ヘルシーな、病気のない ［名詞］健康 ［類義語］ucucɪn ［反意語］leun ［レベル］2 ⒈L: 制 :uɪl（健康） ［語法］ 健康は５段階に分類される。 ucucɪn: 痛みも苦しみもない完全に健康な状態。 uɪln: 健康な状態。少し胃がもたれるとか、少し肩がこるとか、生理で気が散るといった程度だとここに分類される。 ɪnueɒʃ: 不定愁訴を抱えている未病の状態だが、我慢すれば医者や薬には頼らない状態。 leun: 病気の状態。かぜのような軽いものから、癌のような重いものまで幅広く含む。 ɪllɑcʝ: 植物状態。この次は死 (uɔpʃ)。 ucucɪn ～ uɪln でいられる長さのことを lculeʝ といい、アルバザード人の生活習慣に大きく関与している。 → lculeʝ ［文化］ アルバザード人は健康第一の人種で、食生活や生活リズムや運動に気を配る。医食同源が一般化しており、料理に気を使う。食事と同じくらい重要なのが生活リズムで、一定の生活リズムで暮らすことにこだわる。遊びや労働よりリズムを優先する。 ［用例］ ʃə eʃ uɔlʎ ɪlɪɪl lɪlʃ ɪn lel el lɪl uɪln. 健康が一番大切だと思っている。

uɪlnʎɪb ［医療］健康診断 ［レベル］3 ⒈L:μcɑcɪ:ɪpʎɪelʃ ［文化］ 年に一回は健康診断に行く。病気を初期発見することが重要だからである。ある月のある日にどっと健康診断を受けに来ると病院がパンクしてしまうので、健康診断の推奨される日というのはない。ではどうやってパンクを防ぐような来院を実現させているのだろうか。放っておけば国民は長期休暇や年始や年末に集まるだろう。実は答えは単純で、自分の誕生月に来院させるというのが答えである。自分の誕生月に受ければ税金から無料で受けられる。だからみんな自分の誕生月に受け、パンクはしない。厳密にいえば全ての月が同じ比率ではない。人が多く生まれる月もそうでない月もある。だが、その差は微々たるものなので問題ない。

uɪlnʝel ［歳時記］健康の日 ［レベル］3 ʃ1 ［文化］ ɑɪu ʝeɒ の日。健康を祝賀する日。

uɪlnɑel ［医療］医学、健康法 ［類義語］cuɪlɑel ［レベル］3 ⒈L:clɒəʝ:μcɑcɪ ［語法］ cuɪl

uɪlnbɪlʝ ［医療］保険棟、保健室 ［レベル］3 ⒈L:ɒelcɑcɪ ɪlcʝ ［文化］ 学校の保健室のことだが、ふつう校舎とは別の棟に分かれている。一階あたりの床面積が２５５平方メルフィほどなのでかなり広い。一度にたくさんの患者を診ることができる。生徒のコンディションを守るため、専属の医師を抱きかかえている。生徒は無料で診てもらえる。診療設備も整っていて、レントゲン等も撮れる。奥にはベッドもあって、暫くそこで休むこともできる。但し、入院はできない。診察範囲は広いが、全てを網羅しているわけではない。腹痛や熱や擦り傷など、学校で起きやすい日常的な病気や怪我を想定しているので、慢性的な病気や怪我は原則として念頭にない。たとえば歯が痛くても歯医者の機能はない。痛み止めを出してもらう程度である。また、手術も行っていないので、急性虫垂炎のような外科的な手術が必要な緊急事態の場合はすぐに大きい病院に搬送する。但し、保健棟でも搬送するまでにできるだけの治療は行う。学校は広いため、あまりに具合が悪くて保健室に辿り着けない場合、クラスの保険委員が保健棟に連絡し、担架で運ばせる。

uɪlnɔɒ ［名詞］［形容詞］フルカラー、カラー、４Ｃ ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃ

uɪlnɔɒlɪɑ ［地球の国名］モーリシャス ⒈L: 国旗が４色

uɪlnɔɔ ［医療］健康法 ［レベル］3 ⒈L:μcɑcɪ:ɪpʎɪelʃ

uɪlu ［普通動名詞］体操、運動 ［動詞］ɣəl の内容の体操をする、体操する。ɒclɒ と同じ格組。 ［レベル］3 1⒐: 制 :uɪl

uɪlɑ ［普通動名詞］競走、レース ［動詞］ɣəl という内容を ɪ と競走する、競走する ［レベル］3 古

uɪlɑcnʔ ［数学］四面体 ［レベル］4 ⒈L

uɪlɑɔμ ［音楽］十六分音符 ⒈L ［文化］ → ɑɔμ

uɪlɒɪ ［アイテム］ヴァルマ ［レベル］4 μcɑcɪ: 古 : 語源不詳 : → jeμʃcɪ ［文化］ ヴァストリアの１つ。クミールのもつ大鎌。セルティアと並ぶ。クミールはセルティアとヴァルマの二刀流で戦う。

uɪlɒɪlɪ ［アトラスの国家］ヴァルマレア ［レベル］5 ⒈L:μcɑcɪ: 「マレットに対抗する」 ［文化］ 面積 : ꝟꝟJ01.ꝟꝟꝟꝟꝟ ʔɒ ʃ

uɪlɒɔʔ ［音楽］十六分休符 ⒈L ［文化］ → ɑɔμ

uɪlɑɔlʃ ［地球の国名］チェコ ［レベル］6 ⒈L: 国章が４つの紋章からなる

uɪlɸɪpɒɪ ［建築］ヴァルガーマ宮殿 ［言語］［文字］モダンフェイス、モダン・フェイス jɒ;oɪl/ɪlɒɪ「山多き」 ʃ1 ［文化］ jɒ で作られたヒュート首都の王宮。山に囲まれた難攻不落の要塞でもあり、竜を使って入場するのが常套手段。 モダンフェイスが流行った。

uɪloɪlcl ［名詞］四極、よつまた、四また ［交通］四叉路 ［俗語］四股 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［用例］ jeɒen ʃclʃ uɪloɪlc cɒ ʔɪcɪn ʃɪlʃ ɪlʔɪ. セレンは大学時代に最大四人の女性と同時に付き合っていた。

uɪllccɑ ［地球の国名］パプアニューギニア ［レベル］6 ⒈L: メインとなっているのは４つの星

uɪlleʔj ［野球］フォアボール ［レベル］3 ʃʃʔ

uɪlleɒ ［音楽］四重奏、カルテット ［類義語］ɪμlcel ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

uɪlɪ ［医療］病院、診療所、クリニック ［レベル］2 1⒐: 制 :uɪl ［語法］ 医者に休日はあるが、病院に休日はない。警察や消防と同じ。２４時間体制で当直医がいる。当直医の待遇はよく、救急で運ばれても適切な処置が行われる。 医療はビジネスとして見られていないため、患者は客ではない。いらっしゃいませということもない。 ［用例］ ʔe uɪlɪ 病院に行く。ʔe uɪlʝ も可能。 ɪʔl uɪlɪ は不可。 ɪʔl uɪlʝ は違和感。個人的に会いに行くイメージ。

uɪlɪʃ ［形容詞］堕落した ［動詞］ɣəl を堕落させる、堕落する ［再帰動名詞］堕落、腐敗 ［反意語］ɑɪʝeʃ ［レベル］4 ʃ0:μcɑcɪ:uɪʃ lɪʃcɪ（地獄を待つような）。 参考 :ɑcμe: @ ⒈L ［用例］ lɪnʝ uɪlɪʃ 堕天使

uɪlɪʃlɪnʝ ［宗教］堕天使 μɑ;/ ʃʃʔ

uɪlɪɸɪpʃ ［医療］入院費、入院代 ［レベル］3 ⒈L:μcɑcɪ:ɪpʎɪelʃ ［語法］ uɪlʝɸɪpʃ

uɪlɪdcʎ ［医療］処方された薬、処方薬 ［レベル］3 ⒈L:μcɑcɪ:ɪpʎɪelʃ

uɪlɪez ［医療］病室 ［レベル］3 ⒈L:ɒelcɑcɪ ɪlʎe ［語法］ 病院の話題だと分かっているときは単に ez としか言わない。

uɪlcɪ ［言語］［約物］約物、ヴァリア ［レベル］3 古 : 未分類の小さな文字 ［文化］ ガコン、ツンク、ガイン、アロンなどの総称。

uɪlɔnuɪlbɪcɒ ［名詞］性交の４４体位。聖数の４を用いている。 ［ユマナ］四十八手 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ:jeɒen/ɔuc/φcl/zɪnɪ ［文化］ → hcɒɒɪcɒ zφ ごろから世界各地で作られた様々な性交の体位が jɒ ごろにアルバザードでまとめられたもの。

uɪleʃ ［文頭純詞］ɪɪl ［レベル］2 ʃʃ

uɪleʔɪuccɑɪ ［生物］［医療］四総穴、四宗穴 μɑ;/ ʃʃʔ

uɪleʝ ［エルト］ヴァレス ［動詞］ɣəl をレイプする、レイプする、強姦する ［普通動名詞］レイプ、強姦 ［レベル］3 ɒelʃcɪ ʔʔ:uɪleʝ;e ɒel: 古 : ヴァレスという名はアルシェのアルカにあった ɪleʝ「あざ笑う」を古アルカ・エ・ソーン風に発音したもの。この後 uɪleʝ は古アルカ・エ・ソーンに取り込まれた。 ［文化］ ４４３人の女性をレイプした若い男の姿をしたエルト。サールではなくエルトで、エルト・サール・人間を問わずレイプした。被害者はほぼ全て２０歳未満の未婚の処女で、幼女も含まれた。４４４人目の被害者はヴァレスを事前に知っていて罠を張り、ヴァレスは捕らえられてしまう。そして続々と集められた被害者の女性やその近親者や無関係な女たちによって八つ裂きにされた。ヴァレスの裁断された屍骸は各所に散りばめられた。ヴァレスは死の間際に、レイプで産ませた自分の子供たちに呪いをかけた。ヴァレスが死んだ夜に１０歳になるヴァレスの息子の１人が種違いの妹を犯した。８歳の妹は抵抗したので少年は妹の首を絞めて殺し、その死体を犯した。同じ夜に別のヴァレスの子供が路上でレイプに及んだ。１０歳の少女が路上で青年をナイフで脅し、レイプした。そこでヴァレスの子供たちはこぞとく皆殺しにされるようになった。青年をレイプした少女はその青年の子を身ごもったので、少女だけを殺しても少女の死体からヴァレスの孫がきっと出てくるだろうと女たちは信じた。そこで女たちはそのヴァレスの娘の腹に４本の槍を突き立てさせて腹の中の命を殺し、その後瀕死の少女を絞首刑にさせた。尚、ヴァレスは残酷王フェンゼルがテステェルを強姦した際にできた子供である。 ＜法的には＞ レイプは女が男を犯す場合も含む。１０歳未満の子供との性交は例え和姦であっても、両親の承諾がないか、その子供を娶らなければ強姦になる。子供が結婚を拒めば自動的に強姦になるが、性交した時点で子供に結婚の意志がなかったということを子供側が証明しなければ強姦は成立しない。

uɪleʝɪɹɑcʝ ［法律］強姦刑 ⒈L ［語法］ 死刑囚が死ぬまで強姦する刑。その間、水分食料は与えられない。強姦そのものは大して体力を奪わないため、衰弱死となる。浮気や不倫に適応されるが、夫が恩赦を与えれば減刑される。夫は強姦刑の執行者を推薦できる。

uılen ［宗教］ヴァレン ［反意語］lıſcȷ ［類音］uelen ［レベル］3 古 ［語法］ 不心得な信者。大変不名誉なことなので、レインとかに言ったら戦争になる。

uılenſ ［形容詞］理不尽な、不条理な ［名詞］理不尽なこと、不条理なこと μɑ;ϰuılenſ,lſ（理不尽）古 ɟɔɟɯn ［用例］ ın φɯecn uılenſ c ſə ɑcı. この世界から理不尽を奪ってやる（jeɟen ıɟbız ıɟɑ）

uılenın ［アトラスの国家］ヴァレナン ［アクセント］uˈtʰlenın ［レベル］5 1L:ɟcɑcı: 戦う

uıɟı ［サール］ヴァーサ ［レベル］4 古 :uıɟı ← uıȷ。テームス戦を除いて天で行われた戦いは殆どなく、大抵星の上で行われたことからサールになった。 ［文化］ 争い、戦い、戦争、勝敗、勝利、敗北、勝負を司る。

uıɟı enccl ［人名］ヴァーサ＝エニーク 1L:clɒəȷ:ɟcɑcı ［文化］ アルティル期の政治家。２４７年、レヴァレンから独立し、アライブ党を樹立。

uıın ［軍事］軍、軍隊、日本の自衛隊、自衛隊 ［レベル］3 ɒelſcı Lʔ jen ucı:ɑɟɑ;uc（力） 古 ［文化］ 最古の軍隊はメルティア９５万年頃のファルファニア軍とリュディア軍。 最初の神の軍隊はヴァステで作られた。アルミヴァの１２神である。アルミヴァの中にはネブラのように非戦闘要員もいた。戦闘要員のうち、指導者になったのはティクノとカルザスである。この時点で上司と部下の階級差が生まれ、軍隊として機能する。 ただし、まだ階級に名は付けられず、単に指導者とその仲間という関係に過ぎなかった。 ラヴァスになるとアルデスとルフェルは軍隊を作って戦った。アルデスらは王であったため、指導者と従者という立場になった。だがここでも階級に名は付けられなかった。神全体の人数が少なく個々人が強いため、細かく階級を整備する必要がなかったためである。 この傾向は人間の時代になっても続いた。アズゲルでも指導者とその賛同者という立場でしかなく、階級はなかった。カコになり、人間の数が増えて魔力も弱くなりだすと、徐々に階級意識が芽生えてくる。ここで初めて士官と兵の概念が生まれる。この時点では指導者（王）、士官、兵という３段階に分かれていた。現代と異なるのは、強力な魔導師らが士官になるため、士官のほうが最前線で活躍するという点である。 カコで英雄メテが出てメテの使徒を集めたが、これは指導者（ルシーラ）と従者（ハルマ）という旧来のシステムであった。これはアルシェもソーンも同様である。 アルバ王は争いの平定のために、統制の取れた軍隊を編成した。士官を将官・佐官・尉官に分け、兵を准士官・下士官・兵に分けた。すなわち、２区分だったものを６区分に分けた。 また、１区分ごとに３段階に分け、大将・中将・少将のように呼んだ。大将の上には己を置き、王であるとともに元帥を名乗った。このシステムは現代まで残っている。

一方、兵科であるが、兵科が初めてできたのはアズゲルである。人間の中にはユノばかり得意なものと、ヴィルばかり得意なものがいる。そこで、指導者シフェランは戦士兵と魔法兵の兵科を作り、マレティスもこれを真似た。 カコになり、アルシアの１１魔将が魔法学を大成したことにより、兵科は細かく分類された。魔法兵の中には召還兵や黒魔法兵などといった分類ができた。 これに合わせ、今まで曖昧だった戦士兵も剣兵、槍兵のように分類した。それまでは剣も槍も弓も混じって戦っていたが、個々人の力が弱くなって集団戦法が主流になるにつれ、槍兵は槍兵、弓兵は弓兵で集めて配置するようになっていった。 アルバ王が軍隊を整えた結果、軍隊が大きくなったため、これまでは非戦闘要員だった文民の技師を軍人として集めるというようなことが起きた。弓や武器防具を修理したり調整したりする専門の人間が陣内に必要になったためである。これにより、工兵が誕生した。 徴兵制について。アズゲルでは常備軍はなく、有事の際に戦闘要員が立ち上がるだけであった。

カコでもアルバザードは常備軍を持たなかった。アンダントが徴兵制を敷き、男女とも一定の期間訓練を受けさせた。イクスタンもこれを真似た。これによりドゥルガとヴィーネの戦力は増加し、戦いはより過激なものとなった。 また、アンダントらのころには傭兵も現れ、これも戦力増加と戦況激化に貢献した。その結果、皇女ルーキーテたちの物語に繋がっていく。 アンダントはヒュート国と共同し、アデルの竜族を飼いならし、竜兵を編成した。竜兵の機動力と攻撃力と防御力は凄まじく、イクスタンは慌ててヴェマから竜兵を輸入した。

アルバ王は初めて職業軍人を作った。士官については常備軍とし、職業軍人とした。しかし兵については雇い入れず、有事の際にのみ徴兵した。 なお、アルシェやソーンといった集まりは軍隊ではあるが、国軍ではない。当時のドゥルガの最高権力者メテが指導者となって使徒を集めたのがメテの使徒で、この後釜が団体アルシェである。従って本来アルシェはメテの私兵である。ソーンはメテの使徒を参考に作られたウロの残党なので、厳密には私兵でないが、アルシェと並行的にするためにも私兵としている。 アルバ王はアルシェを国軍には組み込まなかった。そのため、μɑ でもアシェットは国軍に組み込まれていない。 セルメルでは大きな戦争がなかったため、アルバ王のシステムが続いた。 セルメルでは人間のヴィードが弱くなったため、機動力も攻撃力も落ちてしまった。そこで馬を使った騎兵ができた。馬は竜より操縦が楽で、繁殖も容易で、人よりずっと速く走れるため、急激に騎兵が増えた。 騎兵は槍兵との相性がよく、新たに槍騎兵が編成された。槍騎兵はその前に既にあった竜騎兵をアイディアに作られたものである。竜兵はアルバザードでは一気に廃れた。

歩兵よりも騎兵のほうが格が上とされ、騎士はナイトの称号を得た。その結果、騎士上がりの貴族が出るようになった。 このころは魔導師が少なくなっており、腕力のない女性たちは花扱いになっていた。そのため、女性はたおやかでしとやかさが求められた。結果、多くの女は部屋の中で「白馬のナイト様」が来てくれることを祈った。それくらいこの時代のナイトはモテた。 一方アルバ３世は私兵を集め、ヴァノアルバと称した。国家特別防衛軍である。 周辺の王はこぞってこれに倣ったため、ヴァノケートなどが続々作られた。

μɑ になっても軍隊のシステムは変わらなかった。 μɑ ではアルシェとソーンが再編された。セレンやリディアは義憤からアデルや異性魔王と戦ったことで名を挙げたため、アルバザード国軍ではない。同様にソーンも国軍ではない。 この時代の特徴として、アルバザードの正規軍よりもヴァノアルバやアシェットといった私兵団のほうが実力を持っていた点が挙げられる。 アルバザードでアシェットがアデルを封印したため、竜族はいなくなり、竜兵はヒュートやヴェマからも消え去った。 ナディアでは植民地時代に合わせて海軍が発達したが、同時に海賊も発達した。 海軍は陸軍の海版という編成だったため、日本と異なり階級はまったく陸軍と同じである。 それまでの海軍は軍隊の中に「有事の際は海で戦闘を行う人員」を宛がっていただけであった。 アルティルでジンティ＝アルテームスが飛行機を発明し、それが軍用化されるに伴って空軍ができた。 階級は陸海と同じである。

メル ?00 年にアルファウスは王政を廃止し、元帥の座に着いた。 革命後、ミロクは軍のシステムをほぼそのまま使用した。アルティス教の世の中であったため、特に召喚省長官に権力を置く必要があった。そこでアルタレスを元帥の座に就かせた。そして元帥の上に大元帥を設け、副王アステルを就かせた。従って、現在ではユティア家の人間が大元帥の座にいる。こうして２０段階の階級制度が出来上がった。

uıınlcznɔ ［政治］軍務庁 ［レベル］4 1L ［文化］ 軍務省下。軍隊を直接取り仕切る。

uıınlep ［音楽］軍歌 ［レベル］4 ʃl

uıını ［人名］甲冑ヴァーナ ［レベル］5 古 ［文化］ ユーアのこと。μɑ で甲冑を着て敵を装い、セレンらを鍛えた。リディアに弱虫と言われ、ヴァーナの名を付けられた。

uıınıln ［政治］軍国主義 ［レベル］5 1L

uıınıɟnɔn ［政治］軍務省、軍部省 ［軍事］軍部 ［レベル］4 1L:clɒəȷ;ɟcɑcı

uıınıl ［筐堺］ヴァーナル ［レベル］5 μɑ;uıını/ıl「ヴァーナのもの」 ʃl ［文化］ 筐堺司：eˈlefɔne uıını 筐堺国：dɔ̀l̀ı, /ənıȷ

uııuı ［感動詞］Ibenˈɪɟɯenˈʃuınſ ［レベル］2 1L: リディアの書 :uınſuınſ の音を崩したもの。 ［語法］「わりぃわりぃ」のような、ぞんざいな謝罪。

uııɟſ,ɑ ɑcıȷ, lɑcȷ ɑ:ȷıı!;uc/ıɟſ「力ある魔法。偉大な魔法」 命を与えることは偉大な魔法と捉えた。

uıc ［軍事］兵（正式）、兵士、兵卒、兵隊、軍人、ジャック、ソルジャー ［レベル］3 jeɟſ:uılı 中期制アルカ uıl:uıl:!ə φıɟɑ ［文化］ 士官の対語。准士官・下士官・兵卒に分かれる。

uıcſ ［名詞］部品、パーツ、部分 ［レベル］2 ʃl:uıcl/ſe

uıcſ,ɑu ſıɑl uı は uc で「力」。ſ は ſlcl で「持つ」。

uıcl ［名詞］部分、パート、一部 ［副詞］部分的に ［医療］局所 ［反意語］clɒ ［レベル］2 中期制 ［成句］ ɟɔ ſ lel uıcl e l ſ を l の一環として行う uıclel ある意味、ある程度、まぁね、まぁな、ちょっとね、えぇ少し ［用例］ sın ıſ ejdſe uıclel. ところどころ曇っていた。 "ſɥə ɟcc nı ɥəı ɒcnɞ"ーー"uıclel"「ああいう女の子がいいの？」「まぁな」

uıclˀleu ［言語］全体から部分への提喩、シネクドキー ［レベル］5 1L ［語法］ clɒˀleu

uıclȷ ［動物］ヤマネコ、山猫、リンクス ［美容］ウルフ ［レベル］2 ılı̀ſı: 強い猫。ライオンと同語源で ucuc/leſſɔ が大元。 ［語法］［文化］ 山猫の類を取りまとめていうが、アルバザードでは特にヨーロッパオオヤマネコを指す。混合林などに住み、家畜などを襲うが、人を襲うこともある。昔話では悪役としてよく出てくる。

uıclȷlcſe ［生物］ヤマネコ種 ［レベル］6 ʃl0

uıclȷcɑ ［地球の星座］［ユマナ］やまねこ座 ʃlʃl ［文化］ cɑı

uıclɔɔl ［数学］標本 ［レベル］3 1L

uıclɔolıll ［数学］統計量 ［レベル］5 1L

uıclɒelȷcɟ ［医療］虚血、局所性貧血 ［レベル］6 1L

uıclˀl ［料理］つまみ、軽食、スナック、おつまみ ［レベル］3 ʃl:uıcl/ləlılı「部分的な食物」

uıclıɟſ ［魔法］個別魔法。個別に向けて撃つ。 ［レベル］4 ʃl

uıclıllelſ ［天文］部分月食 ［レベル］5 ʃl

uıclılaıl ［天文］部分日食 ［レベル］5 ʃl

uıclen ［動物］オシキャット ʃl:uıclȷ/en

uıcleucſı ［名詞］スイス式トーナメント方式、リーグ戦、トーナメント ［レベル］6 μɑ;/。総当り戦でなく実力伯仲している間でだけ行う部分てきなトーナメントであることから。 ʃlʃl

uıclelɑ ［電算］オブジェクト指向言語 ［レベル］6 1L

uıcȷ ［動詞］ɥəl を観察する、観察する、観測する、凝視する、じっと見る、見つめる、注目する、注視する、焦点を当てる、焦点化する ［普通動名詞］観察、観測、凝視、注目、注視、焦点化 ［類義語］ɪɒel hıſcı, ɒeȷſc ［レベル］2 1ʃl: 制：よく見る ［成句］ ɒeȷı cl uıcȷ 衆人環視 ［用例］ uıcȷ ˀɔɔn cnȷ φeſ 目を細めて見る ın uıcȷıſ cnȷ lııſ. 私は彼女の目を見つめた。 ılſcnı uıcȷ ucˀ ɔˀ eleſ deȷ ɔ ˀɔɔn. 少年は戸惑いを隠せない色で男を見つめる。

uıcȷzed ［数学］微分→ ılˀɔdȷ ［レベル］5 nɑ;/「凝視計算」 ʃ!

uıcn ［生物］ウィルス、ビールス、ウイルス ［魔法］ヴァイン（バイオ）。害の中位黒魔法。敵を病魔に犯す。数日かけて苦しめるが、大抵治る。敵の体力が弱いと敵は死ぬ。戦闘向きの魔法ではない。 ［電算］コンピューターウィルス ［レベル］2 ɑu;e ɟɔɟɯn ［文化］ ・ウイルスの発見 地球ではウイルスの発見はかなり遅れたが、アトラスでは神代の時代からその存在が知られていた。 ſɒ で lcczc の魔法が開発されると、ウイルスの存在を目視できるようになった。だがウイルスの内部構造が科学的に分かるようになるのはもっと後の時代で、ul_ıl にかけてであった。 神々はウイルスを発見し、エーステから uıcn と名付けた。この uıcn の働きを観察していると、動物の体に入って病気を発生させることが分かった。そのため、ſɒ の時代で既にウイルスが病気の原因の一種であることが知られていた。 ウイルスより大きく構造も異なる細菌が病気を引き起こすことも同様に lcczc の魔法で知られていた。 ・ウイルス感染を治療する魔法 ſɒ で神々はしばしば体に不快な変調をきたすウイルスを厄介視していた。そこで、ウイルスに感染した体を治す医療用の魔法が開発された。これが ılu ıcn である。 ılu ıcn の薬理作用はウイルスを分解することではなく、ウイルスに感染した細胞のアポトーシスを促進させることである。 ウイルスはほとんどの場合人間に不快な症状を与え病気を発症させるという点で共通しているが、その種類は数多く、かつすぐに構造が変化してしまう。従って、特定の一種類のウイルスを倒す魔法を作ってもイタチごっこにしかならない。 そこで、人間の免疫システムを利用した白魔法が考案されたわけである。細胞はふつう d s R N A を持たない。人体は d s R N A を持った細胞をウイルスに感染した細胞とみなし、免疫システムを発揮する。そこで、この白魔法は d s R N A を持った細胞を探してそれにアポトーシスさせる役割を果たすことで、ウイルスを退治するわけである。 この作用について神々は科学的に知ることができなかったが、後の ls の現代魔法学で明らかにされる。 ・細菌感染を治療する魔法 ılu ıcn と時を同じくして ıllccl という魔法も開発された。これは ılu ıcn とは異なる魔法であり、薬理作用も異なっていた。簡単にいえば後の抗生剤と同じ効果を持つ。 神々はウイルスには ıllccl が効かないこと、逆に細菌には ılu ıcn が効かないことを知っていた。 ・抗癌魔法 同様にして、抗癌魔法も開発された。神々の寿命は事実上永遠なくらい長いが、生命活動の過程で ?,l 遺伝子の通常の人類同様癌細胞が発生する。 体中が癌化しないよう、ıldcφ という魔法が ſɒ で開発された。これは癌細胞をアポトーシスさせる魔法である。 ・ʔl の仮病 カコの時代に、ヴァインの魔法を食らって宮殿に出勤できなくなった宮仕えが増えたことがある。魔法が解けるまでしばらく寝込まざるをえなかった。そのどさくさに紛れて、ヴァインにかかっていないのに仮病を使って休暇を取るものが現れたため、ヴァインを食らうで仮病で休むの隠語になった。 ・魔法医とルクレティア 神はそもそも免疫力がユーマの一族に比べて極めて高いが、ユーマの一族は年代を重ねるごとに抗体の数は増えども免疫力そのものは弱っていった。 人口の増加や集落での暮らしにより伝染病の発生率が高まると、魔法医の存在が各地で重視されるようになった。 だが魔法医は数が少なく、その恩恵に授かれるものは一部に過ぎなかった。まず ılu ıcn を始めとした魔法が高位すぎて扱える人間がほとんどいない点。そして ılu ıcn などの魔法が消費する ucφ の量が多すぎて、一日に何度も撃てないというのが問題であった。そのためルティアを始めとした地域では魔法に頼らない漢方に相当するルクレティアが発達した。 ・nɑ 以降 nɑ に入ると ılu ıcn, ıllcc!, ıldcφ などの魔法が廃れ、使えるものがほぼいなくなった。これを機に人類の医療は科学に頼るようになっていった。 まず nɑ で顕微鏡により細菌が再発見された。次に μſ 末期に細菌濾過器を通して感染性を失わない病原菌が発見され、これが神代のウイルスではないかとされた。 ul になるとウイルスの構造が科学的に明らかになり、その構造がタンパク質からなり、R N A などを持つといったことが分かってきた。 ul ごろには抗生剤により細菌は倒せるようになっていたが、ウイルスは ıl でも倒すことができなかった。 ［成句］ ɥə ɥıcn ı ɔcſ. 仮病を使って会社を休む、仮病、ズル休み ［用例］ ɟɔɔnɔɥən, ın eſ ɥıcn, ſıl ın ſcl eɑı. こんにちは。ウィルスですが、カゼを引きました。

uıcn ˀlınɑzel ［人名］ヴァイン＝カンヅェル ［レベル］3 ıl ʃlʃl ［文化］ ランフィオーレのナンバー２。フェンゼル＝アルサールの乱以降、ランフィオーレの指導者に就任。

uıcnɔl ［政治］［軍事］徴兵 ［動詞］ɥəl を徴兵する、徴兵する ［レベル］4 1L ［文化］ アルバザードに徴兵制はない。

uıcnɔlɔz ［軍事］徴兵制度、徴兵制 ［レベル］5 ʃl

uıcɑıl ［軍事］兵役、服役 ［レベル］4 μɑ;/ ʃ!

uıcɒ ［名詞］マッチョ ［レベル］4 ɑu;ucuc/ɒıcn ʃlʃl

uıcb ［被服］端切れ、はぎれ ［レベル］3 1ʔ: 制 :uıcl/ıbe（部分の布）

uıcze,jzɑ ſıɑl uıcſ,ɑu.l

uıclıɒd ［政治］［軍事］募兵 ［レベル］5 1L

uıeȷ ［経済］在庫、在庫品、ストック ［レベル］4 1ʔ: 制 :uıe

uıen ［動詞］ɥəl を蓄える、蓄える、溜める、貯める、財を蓄える、貯まる、溜まる、蓄積する ［動詞］ɥəl（額面や通貨や株券など）を貯金する、貯金する ［経済］貯蓄、貯金、蓄え ［レベル］3 1ʔ: 制 :uıel ［文化］ 日本人と比べると総じて貯蓄は少ない。 ［用例］ ın uıenıſ φcl lını ſıə lınſ ɑccnı lı. 彼女にプレゼントを買うためにお金を貯めた。

uıenzeſ ［経済］ストック科目 1L

uıenın ［魔法］蓄眺体 ［レベル］5 ʃl ［文化］ ɔɔlɒcɥə

uıel ［名詞］ビン、かめ、水がめ、水差し、瓶、甕、ボトル。水などを溜めておく容器。 ［レベル］3 1ʃl: 制：古 :uıe

uıelı ［エルト］アヴェラ ［レベル］3 古 :uıe（瓶）/lııd（望み） ［文化］ 青い瓶に入ったエルト。封が開かれると出てくる煙でできた青白い成年女性の姿で出てきて願いを叶えてくれる。願いは１つだったり４つだったりと、話によって異なる。 ［用例］ uıelı lə̀ə̀ ı ləlcın ɥəl "ſc lcɒ jen 1 ucȷ ɔlſ ız neſıl cſen ɑclˀ". jee ləlcın clnɔl "ſə eſ jerl e lııl ınſ le uɔɟſſ ınſcjee. jınſ deɑ lı cjſ ɑlınɑcı". ヴァエラ神がオタクに「４億円がほしいか、それとも二次元の世界から誰か一人連れてきてほしいか」と問うた。 するとオタクは答えた。「これは亡き母の写真です。二次元美少女の代わりに、母さんに会わせてください」

uc ［単位］3 ［レベル］1 古 ɟɔıs:ucc:jın,ılſ

uc,ɑ ucen ɑıcı

uc,ılſ ucın, enuc <>uc

ucſ ［格詞］～を使わないで、使わずに ［俗語］生、避妊なし ［反意語］ˀɔn ［レベル］1 ʃl:ucɑ < 1L:ɒelcɑcı ılcȷ: 恣意 ［用例］ lı ılſıſ ucſ ˀlız. 彼はペンを使って書かなかった。 ejje ɒeȷı ucſ 生でやる

ucſſe ［代詞］一部の ［レベル］1 ʃl0:jeɟen/μcɑcı:uec は頻度が少ないので強変化させ、ucſſe に。le や ne の持つ e から音を離しつつ、ɑccſ とかぶらないように重子音を。

ucſɟənl ［約物］,,、、 ３点カンマ、ſɔſɔ、～、何々 ［レベル］3 ʃl

ucſdɔſφel ［卑語］生中出し、膣内射精 ［レベル］4 μɑ;/ ʃ!

ucſı ［法律］検察、検察官 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ucſ（探す）

ucſı̀lclc ［生物］司法解剖、法医解剖 ［レベル］5 ul;/ ʃlʃl

u

ucſi˥clcɑel ［生物］司法解剖学、法医解剖学。病理解剖学の一部門。法的に死因を判定するために行われる。　ul;/　˩˥˥

ucſihɪɑ ［数学］三平方　［レベル］4　1L: 式の中に二乗が３つあることから。

ucſɪc ［法律］検死　［動詞］ɥəl を検死する、検死する　［レベル］5　μɑ;ucſi/c（目）　˩˥˥

ucſc ［名詞］探偵　［レベル］3　1ʔ: 制 :ucſ

ucſcɟ ［宗教］ヴィティス　［レベル］3　古 :ucſcɟ ← uccɑlɪnſcɟ ［語法］ アルマ至上主義者。セルメルでイムル２０年ごろに現れた人々。アルティス教以前に神や悪魔や人も結局ヴィードを操るのだから重要なのはヴィード、とりわけアルマであると考えた人々。アルマスト派の源流となっている。

ucſcnɔɔl ［アトラスの国家］ヴィティノール　［レベル］5　1L:μcɑcı: 海岸の防波堤

ucſcnɔɔljczɪ ［地学］ヴィティノールプレート　˩˥˥

ucſobezɪl ［化学］三級アミン　1L

ucſe˥ ［動物］三葉虫　［レベル］4　ul;/ 三枚の葉が重なったようであることから。　˩˥˥

ucſen ［接続詞］ucſ。～なしの。　［レベル］2　˩˩

uc˥ ［名詞］男、男性、オス　［形容詞］男の、雄の　［類義語］ləſſı、ɑccze、lɪnɔ、ɑμelle、ɑμellel、dc˥ɔl、ılɒcɑμe、zɔnɒıȷ、uɒɒu、hılɒın、ılnını、ılſcnı、ılɑcın、ıllız、ılɒını、ılμecſe、ılɒelcſ、ıl nııſ、ılſɔnı、ılȷıız、ılμı˥el、ılenɑı ［反意語］ɒcn ［レベル］1　ɑ:elſ 古 :uc˥, uc˥e「強い生き物」uc˥e:uc˥e:lə ɒıncȷ:φılə,ıllſ ［用例］ uc˥ ucen 強い男

uc˥ſ ［魔物］ヴィクト（雷鳥）: 第四十九天：雷の空天　［レベル］5　古 : 強い鳥　［文化］ 青紫と黒の模様が入った大きな鳥で、いかずちを放つ肉食の鳥。体は羽を広げると４メルフィはありそうなほど大きい。雷に耐性がある。ソエンの谷でアルシェを襲い、ダルハを出した初期のクリスに撃退されて逃げた。

uc˥le˥uınſe ［言語］男性定冠詞　［レベル］4　˩˥

uc˥ȷ ［単位］億　［レベル］3　˩˥:uıc˥ȷ

uc˥ȷıb ［被服］男性服、紳士服　［レベル］3　μɑ;/　˩ʔ

uc˥ȷcn ［普通動名詞］男嫌い、男ぎらい、男性蔑視　［反意語］uc˥ȷcn ［レベル］4　μɑ;/　˩ʔ

uc˥nɔnɒcn ［名詞］男尊女卑　［レベル］4　˩˩ : 男＞女　［文化］ ɒcnɑız

uc˥ɑc˥uınſe ［言語］男性不定冠詞　［レベル］4　˩˥

uc˥ɒıcn ［名詞］男体　［レベル］4　［反意語］ɒcnɒıcn ［レベル］3　μɑ;/　˩ʔ

uc˥ɒcμɔ˥ ［名詞］男の神　［レベル］3　1L:clɒəȷ;μcɑcı

uc˥ɑız ［形容詞］男らしい　［反意語］uc˥ɑcɒ、ɒcnɑız ［レベル］3　μɑ;/　˩ʔ　［語法］［文化］ ɒcnɑız

uc˥ɑızıſc ［名詞］男らしさ　［レベル］3　μɑ;/　˩ʔ

uc˥ɑcɒ ［形容詞］男らしくない　［反意語］uc˥ɑız、ɒcnɑcɒ ［レベル］3　μɑ;/　˩ʔ　［語法］［文化］ ɒcn ɑız

uc˥ɑcɒıſc ［名詞］男らしくなさ　［レベル］3　μɑ;/　˩ʔ

uc˥bee˥ ［名詞］男子トイレ　［レベル］2　˩˩

uc˥hcɒ ［生物］オス　［レベル］3　˩0

uc˥hcɒelɒ ［生物］男性器　［レベル］4　˩0

uc˥μı ［親族］男の方が多い男主体の家族　［レベル］5　1L:ɒelcɑcı ılſe

uc˥μı˥ ［音楽］ボレロ　［レベル］6　˩1: 「三拍子のカスタネットなどを使った曲」

uc˥μenȷ ［言語］男言葉　［レベル］3　μɑ;/　˩˥

uc˥lcȷſuelˡ ［言語］男性敬体　［レベル］4　˩1　［文化］ dc˥˥ɔ 位相のこと。

uc˥ıȷı ［言語］男性名詞　［レベル］4　˩0　［語法］［文化］ アルカには文法性がない。文法性を持つ最も有名な言語はルティア語。ルティア語は名詞に性を持つ。地球の西洋語の文法性と異なり、ルティア語の場合は ȷɒ で詩歌の中で生まれたもので、対句法上の表現として生まれた。最初は太陽や男性が男性名詞、月や女性が女性名詞に選ばれた。それ以外はすべて中性名詞であった。現代に至るまでにすべての名詞に性が付与された。　第ゼロ世代ではすべてが中性名詞（＝事実上すべてが性無し）、第一世代では太陽などのみ以外が中性名詞というように、中性名詞が１００％から０％になるまで低減していっていることになる。性が付与されたのは徐々にであり、最初はすべて中性で、最終的には中性が滅んでいる。つまりあらゆる名詞は「中→男」か「中→女」という変遷を取る。起点が中しかないため、「中→」の部分は共通しており、省略可能である。というかそうしないとかえって見づらい。そこで幻日では最も合理的な方法として訳語欄の ȷz_lſ 欄において lə～や lı～というように男女定冠詞のみ示している。　・性の見分け方　　ドイツ語のＭａｄｃｈｅｎ（アクサン略）は中性だが、これは少女がまだ女になっていないからという理由ではなく、単に接尾辞ｃｈｅｎが中性名詞を作るからにすぎない。ルティア語は西洋語と異なり、文法的な理由で性が付与されていない。意味に基づいて分類されているため、ルティア人の物の見方がクリアに伝わってくる。　作者としては西洋語に比べて性に意味があるのが面白い。というのも、フランス語をやっていて「どうしてこれは女性なんだろう」などと青年の頃から不思議に思うことが何度もあったからだ。意味的な理由やエピソードがあれば面白いのになぁとよく思っていた。例えば同じ胸という単語でも男性名詞にすれば胸部で、女性名詞にすれば乳房というようにしたら面白いしそれなりに合理的なのになというように夢想してきた。それがルティア語に現れている。性が変わると意味が変わるのは独仏にもあるが、これをもっと有効活用したかった。　設定が楽しいのはいいとして、現実問題すべての名詞の性を覚えるのは大変だ。見分け方があれば重宝する。ではいったいどのように見分ければよいのだろうか。　uc˥ や ɒcn の性別はすぐ分かるが、例えば腕などは男性か女性か。これを楽に判断するために一定のルールを設ける。例えば棒状のものは男性（これは分かりやすいだろう）とし、その対として紐状のものは女性にする――などというような。こうすると腕や脚は男性になる。　ルティア語は分析的な言語で、単語ひとつの意味が広い。腕と手は同じ単語だ。が、これを性別で区別する。腕は棒状なので男性。手はその対なので女性。脚と足も同じ関係。こうすると単語数が減る。ルティア語はアルカと違って地球で実用する必要がないが、アルカの文章を書いていてたびたび出てくるのである程度覚えねばならない。そこで記憶に優しいシステムを取った。もちろん性そのものがないほうが楽なのだが、あまりアルカと同じでも外国語の意味がない。　基本的に判断は lə˥leſcı や ˥leuınȷ など、ルティア人の物の見方に合わせる。例えばクレヴァンスでは血は女性となっているので、eμɑ は lı ȷın となる。　十徳はクレヴァンスの五行を男女に分けて２回使っているので、男性側５徳は男性名詞になり、女性側５徳は女性名詞になる。　このようにして法則を定めていくと、下記のようになる。これがあるおかげで西洋語より実は性を覚えやすかったりする。春はクレヴァンスで考えると性別が設定できないが、固有名詞を使えばアシュテニより女性と定められる。　なお、法則同士が互いにぶつかることもあるので注意。　・法則　　対の物：片方が男性になると片方は女性。˥leeuel が男性なので太陽は男性。すると月は自動で女性。また、魔導師的にもそのほうが正しい。　lə˥leſcı：血は女性　˥leuınȷ：義は男性で、忍は女性　固有名詞の性：四季は ıμlcel に基づき女性。数の性はアルミヴァに合わせる。例えば２は女性、５は男性。　男：女　外：中（内）　˥leuınȷ でもそうだが、中心や体幹は母体で女性。　攻：防　例えば武器が男性になるのは攻が男性だから。　棒：紐　獅法：魔法　角：丸　天：地　動：静　陽：陰　火：水　青：赤　暖色は女。寒色は男。黒は男。白は女。ただし火や動は男になるので注意。赤が女なのは血から来ている。

uc˥ɔſın ［農耕］三圃式農業、三圃制　［レベル］6　μɑ　˩˩　［文化］ → ſi˥ɔſın 農地を冬穀（小麦やライ麦）・夏穀（大麦やカラス麦）・休耕地（家畜を放牧する）に区分し、ローテーションを組んで耕作する農法。農地の地力低下を防ぐことを目的としており、休耕地では家畜が放牧され、その排泄物が肥料になり、土地を回復させる手助けとなった。ȷɒ のケートイア北部で編み出され、その後北国へ広まっていった。ȷɒ でアルバザードにも入る。現在の混合農業につながっている。夏雨型の気候に適するため、特にケートイア以北で盛んとなった。

uc˥ə,ıllſ jen uc/˥ə

uc˥ə,ɑ uc˥ uc/˥əɒ「強い動物」

ucl ［医療］傷、創傷、怪我　［軍事］兵士の負傷、機体の損傷、破損　［動詞］ɥəl を傷つける、傷つける　［類義語］ɔμ˥eı　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ıuıcl（傷）から　［語法］ ucl は創と傷をともに指す。厳密に区別する場合、創は scl で傷は hıu。　広義には創傷のない捻挫などの怪我も指す。［用例］ lı uclıſ ılen nɔın. 彼は私の気持ちを傷つけた。　lə ſcl ucl ɔn ſi˥. 彼は腕に傷がある。

uclıl ［軍事］駐留　［再帰動名詞］駐在、駐屯　［動詞］ɥəl を ı に駐留させる、駐留する　zφ;uc（力）/lıl（存在する）　˩˩

uclɔl ［名詞］けが人、怪我人　［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbılelſ

uclеſ ［名詞］痛み、苦痛　［形容詞］痛い→ ɥıc（口語）　［魔法］ヴィシェット。害の禁呪魔法。全身の痛覚を刺激し、ショック死させる残酷な魔法。爪の先から針を刺し込むほどの痛みが頭から足の先まで全身に起こる。あまりの痛さで声も出ずにショック死する。すぐ死ねる分だけガーヴより楽。　［反意語］φıμu　［類音］ueleſ　［レベル］2　˩0:ucl/ſe　ɥəɑı:ɥəɑı　［用例］ ın nı uclеſ ɔn sc. 指が痛い。

ucȷ ［名詞］こと、事、コト、事物、物事、事柄　［類義語］ɑɒ　［反意語］ſəl　［レベル］1　1L: 恣意　ıl :ıl::c˥ɔ,ıllſ

ucȷſ ［形容詞］より～でない　［反意語］uecn　［レベル］1　1L: 恣意：以前は ucȷ。ucȷ と ſcȷ では似すぎ　［用例］ lı eſ ȷɔμ ucȷſ. 彼の方が大きくない。

ucȷſncɑ ［名詞］レベルダウン、グレードダウン、バージョンダウン　［類義語］ucȷſenuc　［反意語］uecnncɑ　［レベル］3　˩˩

ucȷſe ［哲学］形而上の、観念的な、概念上の、抽象的な、形のない　［反意語］ſəlſe　［レベル］4　˩0: コト的な

ucȷſenuc ［名詞］パワーダウン、レベルダウン、グレードダウン、バージョンダウン　［類義語］ucȷſncɑ　［反意語］uecnenuc　［レベル］3　˩˩

ucȷ˥ ［動詞］ɥəl を暗唱する、暗唱する。暗記とは別物。　［普通動名詞］暗唱　［レベル］4　˥˩: 制 :uc˥ȷ ˥ə（暗記した内容を言う）

ucȷd ［形容詞］きつい、キツイ、締りがきつい　［反意語］ɑıcl　［レベル］3　˩0:ucen/ɑejdı（強く封じる）［用例］ ləȷ ucȷd きついスカート

ucȷd˥lec ［言語］ハードノベル　［レベル］5　ul; 従来の ˥lec に対して ɑıc˥lec ができ、その結果従来のものが ucȷd˥lec と呼ばれるようになった。　˩˩　［文化］ ɥəɑcı

ucȷdləɑc ［形容詞］［ネガティブ］女性が性的にお堅い　［類義語］ɥəlſe　［反意語］ȷɔμſſı˥　［レベル］4　˩0: ルフィの紐がかたい　［用例］ lı ſcl ucȷdləɑc. 彼女は堅すぎる。

ucȷdı ［医療］かさぶた　［レベル］3　1L:ucl/ɑejdı（傷塞ぎ）

ucȷı ［化学］［被服］ナイロン　［レベル］5　古 :ucȷı（強い絹）

ucȷıɒ ［被服］コルセット　［レベル］5　μɑ; ↓　˩0:ucȷd/ıɪɒ　［文化］ 魔導師の減少により女権が弱まったセルメルでできたが、μɑ では廃れた。

ucȷıılL ［数学］トリボナッチ数　μɑ;/「前にある３つの数の和の数」　˩ʔ

ucȷɔɔın ［生物］陰交　˩1

ucn ［言語］u の文字　［レベル］1　˥˥: 制 : 下弦の月　［語法］ 第６文字目の幻字。

ucn(˩)　［美容］三つ編み、ブレイド　ȷɒ;uc/ncı　˩˥　［文化］ ȷɒ でできた。女性用。

ucnſ ［アイテム］お守り、タリスマン、まよけ、魔除け　［レベル］2　1ʔ: 制 :ucn からの派生　［用例］ ȷıb ucnſ お守りを身につける

ucnſɑɔſ ［被服］ミサンガ。紐で作ったリング状のアクセサリ。　［レベル］3　1ʔ: 制 : 守りの紐　［語法］ 綺麗な紐で作った輪で、腕や足や首に巻く。ミサンガと違う点は、切れると願いがかなうという願掛けはなく、邪気を払う効果があるという点。

ucn˥ ［植物］木の実、きのみ、木のみ、ナッツ、堅果　［レベル］3　ɔȷμn:ucn˥。新生でも uın˥ と２対を保っているが、ucn˥ は古アルカなので変えがたいし、uın˥ は制アルカで慣れてしまった。また、対の意識はそれほど強くない。通常のアプラウトによる意味の区別でよいだろう。

ucnl ［経済］保険、保健　［動詞］ɥəl の保険を ı 被害者に ɑə 額だけ ɑccnı 受取人のために lını 額を得るためにかける　［レベル］3　1ʔ: 制 :ȷıɑ:「守る ȷucn/ 古アルカの「法 ȷ˥ılə を合わせて縮めたもの

ucnȷ ［動詞］ɥəl を捨てる、捨てる、廃棄する、手放す、手ばなす、てばなす　［動詞］ɥəl を見捨てる、見捨てる、見殺しにする　［普通動名詞］廃棄、見殺し　［経済］投げ　［反意語］ılucnȷ　［レベル］2　古 : ɔȷμn　［用例］ ucnȷ ſcın カノジョを捨てる　ɑleı. nɔn ucnȷ ſcμ ɒcuı ſccı, ncıȷ lə ıl ılɒcu. ふたつ。私は愛娘を捨て、従姉妹に託す。　ucnȷ ɔɒı 犬を捨てる

ucnȷɑə ［魔法］廃棄量　［レベル］5　˩1　［文化］ ɑɔlɒcɥə

ucnȷɥəɑcı ［名詞］捨て子、捨て猫、捨て犬→ ɥəɑcı　［レベル］3　μɑ;/　˩ʔ

ucnȷı ［文頭純詞］そんなことより、それはそれとして、それはどうでもいいんだが、まぁそれはともかく、それはさておき　［レベル］2　ȷɔμn　［語法］ 話題転換では hıc と同じだが、そんなこと捨て置けという気持ちを表わし、そんなことどうでもいいといった意味を示す。

ucnȷısı ［魔法］廃棄率　［レベル］5　˩1　［文化］ ɑɔlɒcɥə

ucnɑɔɔn ［美容］ブレイデッドシニョン　ȷɒ;/　˩˥　［文化］ ȷɒ でできた。貴族の女性用。

ucnɑ ［形容詞］安全な　［名詞］治安、安全　［電算］セキュリティ→ ucnɑcſ　［反意語］ılɒc　［レベル］2　˥ʔ: 制では「守る」［用例］ ˥ɪɑ ucnɑ 安全な国

ucnɑıſc ［電算］安全性、安全さ、セキュリティ　［レベル］3　˩1　［用例］ μı˥ ucnɑıſc セキュリティを破る

ucnɑıμ ［軍事］安全装置、セーフティー、セイフティー　［レベル］6　μɑ;/　˩˥　［文化］ φel

ucnɑenıs ［経済］安全利子率　1L

ucnzıɒɔ ［被服］ハイレグ　［レベル］4　˩1

ucns ［名詞］ブイサイン、ヴイサイン、ピース、チョキ、ちょき、ぶい、ブイ、ヴイ、ピースサイン、Ｖサイン、ｖサイン　［非言語］急げ　［レベル］2　μɑ;ucn/sc「ucn の字のような指の形」　˩˥　［文化］ 日本と違って写真にピースはしない。このジェスチャーはハサミを意味し、チョキチョキ切る動作をすることで「時間を切れ→早くしろ、急げ」という意味のジェスチャーになる。

ucnslccɑı ［魔法］五芒指星、ごぼうしせい、ヴィンジュリーファ　［レベル］4　μɑ;/　˩˥　［文化］

５人集めてブイサインを作り、互いの指先同士を合わせて作る五芒星のこと。これは簡易の結界であり、指を合わせただけで魔力や霊力を溜めて放つことができる。この力で封印を作ったり魔法を放ったりユノを撃ったりすることができる。また ucns は「切る」を象徴するため、逆にこの力を使って空間を切り裂き、異世界や異次元に行くことができる。『コープスパーティー』の「幸せのサチコさん」というおまじないがあるが、それと似たような感覚で次元を切り裂くことができる。また、封印を破ることにも使える。　画像はセレンの知り合いの少女らによる五芒指星の結界。

ucnl ［建築］柵、フェンス、囲い、垣根、塀　［レベル］3　1ʔ: 制 :ı˥lſı:ucn　［用例］ μı˥ ucnl 柵を越える

ucnlleıȷ ［生物］冠動脈　1L: 柵のように囲んでいる動脈

ucnı ［動詞］ɥəl を諦める、諦める、あきらめる　［動詞］ɥəl をする前に止める、やめる、止める。連動詞。無相について、その動作を行う前に止めること。　［普通動名詞］あきらめ、諦め、ギブアップ　［レベル］2　1L:lcɔn:ucnȷnı（心を捨てる）［用例］ ſeſ ſe ucnı lıɑcı ɒcl ıμſ eſ ɑcını. でも、諦めないで。魔法は存在するのよ。　˥ıɒcl, ɑclın ılſ ucnıſ ſe ɒıdel. 他の人であれば既に諦めていただろう。　ınȷ ucnı ſeel ɒcal cn. 戯れはここまでのようだ。

ucnıɥə ɒde ［人名］ヴィナーユ＝ユンペ　˩0:ucnıɥə は「男版ナユ」の意味　［文化］ ラグナロクの卒業生で、シルマインを発明。親がどちらもラグナロクの卒業生で、生まれながらのサラブレッドであった。

ucnɒ˥ıɑ ［地球の国名］ベナン　1L: 国旗が３色

ucnɑın ［名詞］三連休　［レベル］3　μɑ;/　˩˥

ucuı ［被服］ジャージ、トラックスーツ　［レベル］3　1ʔ: 制 :ucu（運動）

ucuıc˥ ［被服］スリーピース　［レベル］6　˩1

ucuc ［単位］ヴィヴィ　［レベル］4　古 :ucuc（力強い）［語法］ 1 メルパの質量を持つ物体に作用して 1 秒間に秒速 1 メルフィの速度変化を与える力。ニュートンに近い概念。

ucuc,ɑ ucen ɑıcı(uc/uc)

ucucɑ ［魔法］魔眩、ヴィヴィッド　［反意語］ɑlınȷ　［レベル］3　ɑ;e　古　［文化］ ɑɔlɒcɥə

ucucɑɑel ［魔法］魔眩学　［レベル］5　˩1　［文化］ ɑɔlɒcɥə

ucucɑμıd ［魔法］調合魔眩学　［レベル］5　˩1　［文化］ ɑɔlɒcɥə

ucucın ［サール］ヴィヴィアン　［形容詞］無病息災な、まったく痛みのない健康な　［類義語］uıln　［反意語］leun　［レベル］3　古 :ucucın ← ucuc/lın（強い人）［文化］ 運動、トレーニング、スポー

ツなどを司る。 [成句] ɨl ucucɪn.（試合前の選手などに）頑張って。

ucuɔ,au ucɔ uc/uc

ucuɔbɨʃɔ [アイテム] ウォーハンマー ɹɒ;/「斧メイス」 ɹɱ

ucueɹʃɔ [言語] 三重母音 1L

ucaɔɥ [音楽] 八分音符 [レベル] 4 1L [文化] → aɔɥ

ucaɐɪ [野球] 三振 [レベル] 3 ɹɱ

ucɒ [生物] 筋、筋肉 [レベル] 3 μa;ucɒe.l ɹɱ<1ʔ: 制 : 古 :ucɒelc（力の糸）。ɹɱ に「～筋」という単語を今後数百作ることが予想され、造語力の高い形態素ということが分かったため短くする必要が出た。子供が様々な筋肉の名称を覚える前に急いで変えなければ、という理由で ucɒe から ucɒ に変更。 ucɒe:ucɒe [語法] enuelen [用例] ucɒ ucen{ɪinuc} 強い筋肉 ucɒ ɒcnnə しなやかな筋肉

ucɒucenep [運動] 筋トレ、筋肉トレーニング [レベル] 3 ɹɱ<1L:μcɑcɪ:ɹμɨɩelſ

ucɒaɪcz [医療] 筋肉痛 [レベル] 3 ɹɱ<1L: リディアの書 [用例] acn ɪn ſcl ucɒaɪcz ɒclφɨɪl ac llea, e ɔ̀lel, ɪn ſcl uɪuſɪɹ cɒ acɹ.... 昨日の持久走のせいで筋肉痛だが、今日はスポーツテストがある……。

ucɒdɪnſ [生物] 筋系 μſ;/ ɹɱ

ucɒɥɪdɪſ [医療] 筋ジストロフィー [レベル] 6 ɹɱ<1L

ucɒɪn [組み数字] 8 / 1 0 [哲学] 胆 [医療] 脾 [歳時記] 己、つちのと [レベル] 4 μa;ucɒɪn,ɟzl ɹ1 ::lɪ ucɒɪn

ucɒɪn,ɟzɑ ucɒɒ. ucɒɒ の上で、元は上丹田を指す語だった。ɦu では既に区別が曖昧になり、丹田に uc/ɒɪcn

ucɒɪnʅɪn [生物] [医療] 脾経 ɟzl;/ ɹɱ

ucɒɪɥʅ [生物] [医療] 筋会 μa;/ ɹɱ

ucɒc [音楽] ワルツ [レベル] 5 1ʔ: 制 :" E e s t e ┤ I n K u k u l i e L e m ┤ n ♪ "「ʔ/ 踊り」

ucɒccɥ [論理] トリレンマ 1L:ɒelcɑcɪ ɨlſe

ucɒɔʅ [音楽] 八分休符 [レベル] 4 1L [文化] → aɔɥ

ucɒe,au ucɒ uc/ɒelc

ucɒejeun [生物] 筋組織 μſ;/ ɹɱ

ucɑɪɟ [医療] 取穴 ɟzɑ;uccɑɪ/ɟɔ「経穴する」 ɹɱ [用例] ɔlcucɪnſ ucɑɪɟɪſ aleɩφɨlſ ɪ lɪ. 医者は彼の肩井を取穴した。

ucɑɪz [政治] 僭主、僭帝、僭王、タイラント [レベル] 5 au;ucuc/ɑɪcz「強き王」 ɹʔ [語法] 本来の皇統、王統の血筋によらず、実力により君主の座を簒奪し、身分を超えて君主となる者。

ucɑɪzuelɟ [政治] 僭主政治 [レベル] 5 μa;/ ɹʔ

ucɑc [植物] クローバー、シロツメクサ、白詰草、白爪草 [レベル] 4 ſɒ lɪʅſɪ: 3 枚の緑 uc ɑc:ucɑc [文化] → uɪlɔʃɪn μſ の uɪlɔʃɪn で急速に広まった植物。窒素固定ができるため、天然の窒素肥料を生成し、土地を肥やすことができる。またハチミツも採れる。加えて家畜の飼料にもなる。

ucɑcɟ [医療] [魔法] ヴィード傷→ ʅeɪ [レベル] 4 ɹ0:uccɑucl [文化] ヴィードを帯びた攻撃を食らってできた傷。詳しくは ʅeɪ。ヴィードによる攻撃は、ヴィードによるバリアを貫ける反面、それによってできた傷はケアの魔法で容易に治すことができる。

ucɑcɟʅ [普通動名詞] 三等分 [レベル] 4 1L

ucɑɔ [動物] ゴリラ [レベル] 3 lɪʅſɪ [擬声] ɑɔɑɔɑɔ

ucɑɔlſ [地球の国名] チュニジア [レベル] 6 1L: 国章に 3 つの紋章

ucdɪ,ɑ ucɪn uc は力。dɪ は光るような。

ucɥ [魔法] 赫眩、しゃっこう、ヴィル、魔力 [名詞] 思考力、理力、知的精神力、知的集中力 [医療] 血 [レベル] 1 jeμſ 1ʔ: 制 : 古 :ɾɪ（魔力） ɾlɪ:ɾlɪ:lɪ ucɥ [文化] enuelen, ɑccɥe, ɑɔlɒ cɥe 人の体の周りを覆う赤い光で表現される『幻想話集アティーリ』で頻繁に現れる力で、魔法使いや魔導師が操ることができる。ハイレベルの魔力を持った者は自分の体の周りに赤い光を出すことができる。

ucμſe [悪魔] ヴィルテ [レベル] 4 ɒelſcɪ 0:ɪɾbɪ;uccɑ/ſeeɒɟ 古 :μcɑcɪ:uccɑſeeɒɟ を ucμſej の音を参考に変えたもの。 [語法] [文化] フレスティアとヴァルテとブレイス・クレート、及びそれらの部下であるミダン、ヴェンシート、ソーム、ニムラを加えた総称。

ucμſej [天文] 白い月 [経済] 第三四半期→ uelʅlelſ [ユマナ]「音の降る月」。アルバムのひとつ。インストゥルメンタル。 [レベル] 4 古 [語法]『幻想話集アティーリ』ではルーキーテ皇女の美しさを称えた言葉であるように、白い月は美しいものや神秘的なものを意味する。

ucμſejlɪɑ [地球の国名] パキスタン [レベル] 5 1L: 国旗が白い月

ucμʅ [ユマナ] 太平洋 [レベル] 4 制

ucμʅ(ɹ) [物理] 入射 [レベル] 4 @ 1L

ucμʅſɔ̀ [物理] 入射角 [レベル] 4 1L

ucμalcſ [魔法] 魔水晶、ヴィルフリート [アクセント] ucμalЄſ [レベル] 5 ɹɒ;ucμ/calcſ ɹ1 [文化] calcſ

ucμɑ [名詞] 夜、真夜中、深夜。0 時～4 時 [類音] uccɑ, uclɑ [レベル] 2 古 :uccɑ,ucμɑ（下弦の月のころ）。古アルカは対の片方が長音化する法則があった。ɑəəμne に対応するのが uccɑ だから、片割れの uccɑ は長音でなく ucμɑ だった可能性がある。また、そうでない場合、なぜ uccɑ でなく ucμɑ が生まれたか疑問だが、恐らく uccɑ（ヴィード）ができたから体よく μ をつけて追い出されたのだと思う。 uel,ɑ uccɑ,au:uccɑ:lɪ lelce [用例] ucμɑ lee ucl. 夜が明けた : ɑəμne は不可。 ſə ucμɑ eſ hɪμſ enſɔ ɪn ɒɔʅ uɪn leɑ ɟɪlɪɟ. 今夜は暑いので肌着を脱いで寝よう。

ucμɑbez [医療] 夜尿症 [レベル] 6 1L

ucμμɔn [魔法] 魔圧 [レベル] 5 ɹ1 [文化] ɑɔlɒcɥe

ucμlccl,ɪμɑ ヴィル粒 /

ucμɪlɪ [生物] 三陰交 ɹ1

ucμɪɥʅ [生物] [医療] 血会 μa;/ ɹɱ

ucμcəɟ [名詞] 運命の人、運命の相手 [レベル] 4 ɹ0:ucμɑ/clcμcəɟ（夜の鏡） [文化] いつか結ばれる運命の相手のこと。処女信仰の強いアレイユではふたたび一般的な考えになっている。夜中に水鏡に月を映すと現れるという言い伝えがある。ucμcəɟ 同士をつなぐのは ɥeɒc。

ucμɔ [化学] [料理] タンパク質、蛋白質、たんぱく質 [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :ucuclcμɔ（強い命）

ucμɔez [生物] リボソーム [レベル] 5 μſ;/「タンパク質の部屋」。D N A から情報を受け取りタンパク質を作ることから。 ɹɱ

ucμɔezμɪɔdɪnɑ [生物] r R N A、リボソーム R N A μſ;/ ɹɱ

ucμelle [生物] 血海 ɹ1

ucμelɑe [生物] ヴィルエルフェ、精神の泉、肩甲骨の内側 [レベル] 6 ɹ1 [文化] 肩甲骨の内側、背骨のきわの辺り。広げた手いっぱいくらいの面積。精神を疲労するとここに疲れが出る。自律神経叢がある。パソコンや勉強のしすぎの場合、ここを ɒcɒcʅɔ などで暖めると疲れや強張りや胃痛や不眠が和らぐ。

ucz [動詞] ɥəl に遅刻する、遅刻する、遅延する [普通動名詞] 遅刻、遅延 [反意語] uɪs [レベル] 3 1ɱ: 制 : 語源不詳 [語法] lɔd ej ucz ɑə ɨ aec.（電車が 5 分遅れとる）は誤り。電車「が」遅れているので、主語は lɔd。動詞は「遅れる」なので ucz。これだけで「電車が遅れている」という意味になる。目的語がなくて不安なら ɹɪnɔ などを入れる。 [用例] ɪn ʅeſ uɪlel lɪnɪ ɑɔnl sɔʅ ɥə ɒcl ucz. 遅刻で叱られないように急いでいった。 lɪ ləſ lənɪ uczel. 彼はいつも遅れてくる。 ɪn leeuɪſ μɪ ɑcn nɑɪ ɪnſ ej jeμcd lɪlel, ɒɪn ɪn ucz ɹſ. 遅刻だったので、髪が濡れたまま家を出た。 lɔd ucz (ɹɪnɔ) ɑə ɨ aec. 電車が 5 分遅れとる。 lɔd ucz ɪſej ɹɪnɔ, ſɪl ɪn lɔnſɪſ ɟɔl. 電車が遅れていたがバスに間に合った。 cɒ acɟ ſɪn, lɔd ucz ɹɪnɔ ɟcn. 今日も電車が遅れてる。

uczɔ [植物] アシ、葦、芦、蘆 [レベル] 4 lɪʅſɪ: 強い草

uczen [電算] [工学] 回路、サーキット [レベル] 4 μa;uczen,lſ ɹ1:cucɟ.l [文化] ɑɔlɒcɥe

uczen,lſ ɒenʅ

ucs [生物] 親指、母指 [レベル] 2 1L:uc̀sc（男の指）親指が大きく、男が女に比べて大きいことから。 [用例] [言葉遊び] ɒcn ɨlɩɪ ſcl elɒ e ucl̀. jee ſə eſ ſɔ̀ɤ ucsſ̀ 女の人にも男の人の部分があります。どこでしょう？ 親指！

ucsɒel [名詞] ラグ、タイムラグ、遅延時間 [レベル] 4 μa;/ ɹʔ

ucsɔɪl [生物] 乳様突起 μa;/。形が親指に似ていることから。 ɹɱ

ucsɔɪlɒɥəſ [生物] 両乳様突起間 μa;/ ɹɱ

ucsɔn [動物] セキレイ、鶺鴒、鶺鴒、ニワクナギ、鶺鴒、ニワクナブリ、鶺鴒、イシタタキ、石叩き、石敲き、ニワタタキ、庭叩き、イワタタキ、岩叩き、イシクナギ、石婚ぎ、カワラスズメ、川原雀、オシエドリ、教鳥、コイオシエドリ、恋教鳥、トツギオシエドリ、嫁教鳥、ツツナワセドリ [レベル] 3 ſɒ;ɑɔueſ 鳴き声から。 ɹʔ [文化] μɑ でアシェットによって制定された国鳥。とりわけキセキレイが美しいとされる。キセキレイは満月から色をもらったと信じられている。 セキレイの羽ばたきの強さが竜頭印の幼字に記された竜を想起させるため、国鳥とされた。 ＜現実＞ 元妻の処女を奪ったとき、行為中に入れた後動かすってこと知らなくて、俺が動いたら「動くの？」って驚いたんだ。「え、そりゃ動かないと出ないし」と言ったら少し彼女は考えて、「あぁ、古事記であった。仕方が分からないからセキレイがバタバタ動いてしているのを見て、「あぁ、ああやるのか」って知ったっていうシーンがある。そうかそれと同じなのね」処女捨てるときに古事記で例えられた俺は苦笑。人生中で唯一鳥に印象を持った瞬間だった。 地球ではこのエピソードが元になり ɹʔ 年に国鳥とされた。

ucoɪʅ [地球の国名] スロバキア [レベル] 6 1L: 国旗に 3 つの丘

ucoɪlcl [名詞] 三極、みつまた、三また [交通] 三叉路 [俗語] 三股 [レベル] 4 μa;/ ɹʔ

ucl [名詞] 不可能 [法副詞] ～できない [レベル] 1 1L:uclɑ（矛盾） [用例] ɪn lɔ̀lc ucl nɪφclc. アルティア語は分かりません。

uclſ [医療] [動詞] ɥəl を診察する、診察する、検査する、診療する、診る [普通動名詞] 診察、診療、検査 [レベル] 3 1ɱ: 制 :ucl

uclſeμ [医療] 難聴、つんぼ、耳つんぼ [レベル] 3 1L:μcɑcɪ:ɹμɨɩelſ

uclſez [医療] 診察室 [レベル] 3 μa;/ ɹʔ

uclʅ [医療] 感染 [動詞] ɥəl（病気）を ɪ（人）に感染させる、感染する [レベル] 3 1ʔ: 制 :uclʅe（病気が行く） [用例] ʅɔɑɪ ej uclʅ ɪ lə ɪucl. = lə ɪucl ſcl ʅɔɑɪ. この患者はインフルエンザに感染している。

uclʅleun [医療] 感染症 [レベル] 3 1L

uclʅcd [名詞] 測定不能 [形容詞] 測定不能な [レベル] 4 ɹʔ

uclʅeɪ [医療] [形容詞] 不治の、治る見込みのない [レベル] 3 ɹ1

uclʅə [名詞] 聾唖、おし [レベル] 3 1L:μcɑcɪ:ɹμɨɩelſ

uclʅɪn [形容詞] 不可能、ありえない [反意語] jenlɪn [レベル] 2 1L:ɒelcɑcɪ ɨlcɟ

uclɟ [化学] アミノ酸 [レベル] 5 1L:dɨɪl:ucμɔ/ɪɟl。一部のアミノ酸がタンパク質を作ることからだろう。

uclɔʅ [医療] 適応障害 [レベル] 5 ul;/「適応できない」 ɹʔ:jeμen/ɒel

ucluɪɑeɪn [形容詞] [名詞] 無敵、無敵の [レベル] 3 ɹ0:ucl/uɪɑe/ɪn（負けられない）

ucluɪμ [名詞] [形容詞] 不透過性、透過性のない μa;/ ɹɱ

uclaɪc [形容詞] 不燃 [レベル] 3 μa;ucl/aɪc ɹʔ

uclaɔnl [形容詞] 避けられない、仕方のない、しょうがない、しようのない [レベル] 3 1L:lcɔn

uclɒ [動詞] ɥəl を臥せさせる、臥せる、病に伏せる、寝込む、倒れる [レベル] 3 1ɱ: 制 :uclɒɔʅ [文化] lɪ uclɒɪſ ɒcl ʅɔɑɪ. 彼はインフルエンザで寝込んだ。

uclɒɔʅ [医療] 不眠症 [レベル] 4 1L:μcɑcɪ:ɹμɨɩelſ [用例] ɪn nɪ φɨμu ɒcl uclɒɔʅ. 不眠症で苦しんでいる。 "ſeſ ɒcμɔʅ μenɟɪſ ɟɔɪ e" μecɥə ɹjelcʅ. "nɪn lɪ ucl eɒ ɑcɪ cɒ ſəɔ. lə ſcl uclɒɔʅ ſeμ" 「だけど、カミサマ、言ってたよ」少女が微笑む。「最近は夢を見ることができなくなったって。神さまね、もうあまり眠れないんだって」

uclɑ [論理]矛盾 [動詞]ɥəl を ɤ{fel} に対して矛盾させる、矛盾する [類音]ucμɑ [レベル]4 1ʔ: 制 : 古 :uccɑ。uccnelcɑəəμφɪ が短くなったもので、uccnelcɑəəμφɪ は「下弦の月か上弦の月か（＝ソーンかアルシェか）」という意味。どちらの月も同時に出れないことを示し、ソーンとアルシェの共存不可能性を示した。フルミネアが中心となって言い出した語で、アルシェを先に持ってくる ɑəəμφɪlcuccne という語も同義だったが、結局はこちらが残った。忘れてはいけない過去なのでこの言葉は残した。始めはアシェットの共存不可能性を示したが、やがて文中で直喩として矛盾を意味するようになった。例えば「 その問題はアルシェとソーンのように共存不可能だ 」のように。そうして矛盾の意を得るようになっていった。 [文化] ＜ uclɑ と「矛盾」の語源について思うこと＞ 矛盾というのはよく考えると矛の勝ちだ。矛は貫いた時点で目的達成なのだから、あとは自分が壊れても問題ない。一方、盾は貫かれた時点で負け。 ときにアルカで矛盾は uclɑ。語源欄を見るとこっちは言い返しようのない矛盾になっている。 [用例] ɒccμ ſccl ſcl uclɑ. 君の理論は矛盾がある。 ɒccμ ɪnſ eſ uclɑ ɪ ſccl. 僕の案は君と矛盾する。

ucldɪɔʅ [数学] [言語] 不可算 [レベル] 5 ɹʔ:ɒel

ucldɪɔʅnɔʅ [数学] 不可算集合 ɹʔ:ɒel

uclhɪnɔc [地名] ヴィルハノイ [レベル] 5 ɹ0:μcɑcɪ:「強者の塔」。塔は山のこと。h が X でないのはこの時代ここに住んでいたマレットの方言で既に h 化していたことから。 [文化] 古代国家のひとつ。リディアの西。

uclz [動詞] ɥəl を暗記する、暗記する [普通動名詞] 暗記 [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :uclɔ（強く知る）

uclɪ [生物] 抗体、免疫、免疫体、アンチボディ [レベル] 4 1ʔ: 制 : 次に来る同じ病気を殺す [用例] ɪn ſcl uclɪ e ſə lɔɑɪ. この型のインフルエンザの抗体なら持っている。

uclɪɑc [経済] 第三次産業 [レベル] 5 1L

uclɪφelbɪſ [政治] 三権分立 [レベル] 4 μſ;uc/lɪφel/bɪſ 1L [文化] μſ で提唱され、ul から本格的に導入され、ls でレスティミールによる実施がなされた制度。

uclcn [名詞] めくら、盲目 [レベル] 3 1L:μcɑcɪ:ɹμɨɩelſ [用例] [メタファー] uclcn ɥən eμcſ 蝙蝠のように目の悪い

uclcnɑɥ [物理] 不可視光、不可視光線。赤外線や紫外線などの総称。 [レベル] 4 1L

uclccɑɪ [地球の国名] ブルンジ 1L: 国旗に 3 つの星

uclccɑɪ(ɹ) [地球の星座] [ユマナ] 三ツ星 ɹɱ [文化] cɑɪ

uclɔſ [遊離副詞] [形容詞] まず [レベル] 1 ɹ0: 古 ucuc/lɔ/ɑ（強く考えられた）→ uclɔſ [語法] ɨləəſ [用例] lɪ jcl uclɔſ eμɒej ɑcɪſ, nɔn lɪμ. きっと良い男に育つわ。

uclef [丁寧] 障害者 [レベル] 3 μa;ucl/fe「不可能な」 ɹʔ [文化] 障害者に対する社会的保護は時代を追うごとに厚くなっていった。ただし戦争の時期などは一時的に福利厚生が悪化した。ɨl では街の各所に盲人や聾唖用に点字や電光掲示板といった装置が備え付けられている。 なお、世界番付で障害者の福利厚生が最も盤石な国はエニークである。

uclep [音楽] 三重奏、トリオ [類義語] ɹμlɪnɟ [レベル] 5 μa;/ ɹʔ

ucleeuɪlcſ [物理] 第三宇宙速度 [レベル] 5 1L

ucɪ [形容詞] おおよその、約～、大体の、おおまかな、概して、概～、大まかな、殆ど、～に近い、～ごろ、～頃、～くらい、～ぐらい、～ほど、～ほどの、程、程の [名詞] 概数、概要、概説、概略、概論→ ucɪɨlʅ [レベル] 1 ɟɔμn: 古 lɥɪ（近い）の l をわざと脱落させて ɥɪ にしたものが cɪ になり、cɪ が既存の語に使われた音形だったので cɪ にし、母音で始まるので多くの語と同じく u 付与され、ucɪ になった。 [語法] 概数を表わす。数字の直後に来る。1000 ucɪ は約千。千人の生徒は 1000 aelɪn。では、千人ほどの生徒の場合はどうかというと。1000 ucɪ aelɪn である。ucɪ は数に直接かかる。基数だけでなく序数にも使える。aɪn 10 ucɪ は十番くらいの生徒。九番かも十一番かもわからない。

ucɪɟ [名詞] デモ、デモンストレーション。要求を通そうとして集団で威勢を示すこと。 [レベル] 4 1ʔ: 制 :ɟɔμn:ucɪ 元は「 進軍する 」の意。おおよそを意味する ucɪ と区別が付かなかったので今回は区別する。 [用例] ɥ ucɪɟ ɔn ～のデモをする

ucɪn [エルト] ヴィアン [レベル] 2 au;ucuc/ɒɪcn 古 :ucɪn ← ucucɒɪcn（強い体） [文化] 健康と病気を司る。

ucɪn(ɹ) [名詞] 力、威力、パワー、フォース [文字] ウェイト、太さ [類義語] enuc [レベル] 2 jɟɑ ɹ0:ucɪn 神から ucdɪ:ucdɪ:ucɪn:uc,ɨlſ [語法] enuc はアビリティで、能力のこと。ucɪn はパワーやフォースのこと。魅力は物理的な力ではなく惹きつける能力なので enuc。静電

気力はフォースなので、目に見えなくとも ucɪn。 [成句] ucnɟ ucɪn c ～から力を奪う、力を抜く [用例] ʃcl ucɪn 力がある、強い

ucɪnʃcɟ [魔法]［ジョブ］魔法医、ヴィアンティス au;ucɪn/lɪnʃcɟ ɽʔ [文化] uɪcn

ucɪnlɪ [物理] 力点 [レベル] 4 ɽ0

ucɪnɑel [物理] 力学 [レベル] 4 ɽ1

ucɪnoɪɪz [物理] 力のモーメント [レベル] 5 ɽ1

ucɪnɪɟɑʃ [物理] ポース粒子、ボゾン、ボソン [反意語] ʃəlɪjəʃ ul;/ ɽʔ

ucɪɟlɪ [化学] 三重結合 1L

ucɪleʃ [魔法] 雄晄（ゆうこう）、ヴィアレット [類音] bcɪleʃ [レベル] 6 ɽ0: 男性の晄基 [文化] ɑɔlɒcɥə

ucɪleʃɟecn [魔法] 雄晄線 [レベル] 6 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

ucɪɪl [数学] 概数 [レベル] 3 1L

ucc [名詞] 古アルカの３ [レベル] 3 赤→ jcɑɪɪl

ucc,lɟl ʔ ucuɔ.l

uccʃ [形容詞] 険しい、けわしい、優しくない、厳しい、つらい、辛い [類義語] lcn [レベル] 3 ɽl;ucl/ʃe ɽl [語法] lcn より精神的な意味合いが強い。 [用例] eleʃ uccʃ 険しい表情 × oɪl uccʃ → oɪl lcn 険しい山

uccl [動詞] ɥəl（ヴィード）を燃焼する、燃焼する [生物] [医療] 代謝 [類義語] ɑecl [レベル] 4 1L:jcɑcɪ:uccɑ/leɟ [文化] 燃焼することでヴィードは一時的に減るが、魔法を撃つなど様々な効果を発揮する。また、古いヴィードを循環させることで、ヴィードの新陳代謝もできる。

uccl [名詞] 明け方、早朝。 ４～８時。 [レベル] 2 1L:ɔɟɥn: 古 uccnelɪl（下弦の月が残っている） [用例] ɪn le lɪɑ ʃepɪ cɒ uccl e leɟʃ enʃɔ ɪn bɔl uɪn jeɟclel. lcɑcɪr 明日は早朝から☒蔵に行かねばならないのでそろそろ寝る。おやすみ。

uccɟ [料理] レトルト [レベル] 3 lɪlʃɪ

uccnʃ [約物] ...、... 記号、…。余韻を示す。 [レベル] 3 ɽ1

uccnɔ [工学] サイボーグ、強化人間 [レベル] 3 ɽ1:ucen の属格

uccne [サール] ヴィーネ。下弦の月を司るサール。ユーマの最後の夫 [名詞] ヴィーネ。ソーンの団体名の別名。 [天文] 下弦の月、下弦 [名詞] 西 [音楽] デクレッシェンド、ディミヌエンド、ディクレッシェンド [組み数字] 7 / 8 [レベル] 2 pelʃcɪ ʔ:uccne;e lelʃ:uccne [文化] lelʃeel, ɑəəɥφɪ [用例] uccne lɪen sɪn ʃ'ɪlɪɟ eʃ lɪnʃ ʃcn ɪ.... 西の空の下弦の月が何と綺麗なことか。

uccne(ɽ) [地名] ヴィーネ圏 [レベル] 4 ɽ0 [文化] ɑəəɥφɪ

uccnelcl [化学] ロジウム 1Δ: 制

uccɑɪ [人名] ヴィーファ [組み数字] 2 / １５ [レベル] 4 lɪlɔ: 古 :（雷） [文化] メテの第２使徒。

uccɑɪlcl [化学] トリウム 1Δ: 制

uccɒɪn [地球の国名] セントビンセントおよびグレナディーン諸島 1L: 国旗に３つのひし形

uccɑ [魔法] 幻晄、げんこう、ヴィード [ユマナ] マナ。魔法の源。 [形容詞] ヴィードを伴う、魔法、魔法の、魔法を使った [反意語] ɪluen, ɟeeu [レベル] 1 ɑ;e 古 :jcɑcɪ:ucucɑ などと同じく「力」を語源とする。夜に強くなるから ucɑ(uccɑ) と関係があるという説もある。夜に強くなるのは魔力だが、当時は uccɑ 論がきちんと成立していないので魔力と混同されていた。そのため、ありえる語源説である。ɽ0 年までは魔晄と訳された。 [語法] ɑɔlɒcɥə アルマ・ユノ・ヴィル・ノアの総称。対語は体力を意味するレーヴ。 レーヴは体格や性別によっておおむね決まり、同じ体格なら個人差は少ない。英雄も一般人も同程度である。どんなに体を鍛えてもたかが知れている。 一方、ヴィードは一般人と英雄では雲泥の差である。レーヴは値が低く、０になると死ぬ。そこでレーヴが傷つかないよう、体をユノで守って戦う。そこで、ＲＰＧでいうところのＨＰはレーヴでなくむしろユノに当たる。レーヴは最終的な生死を分けるため、ＨＰよりもライフポイントとして、ＬＰと呼ぶのが妥当である。 魔力のヴィルはＭＰと訳すのが自然だろう。気力のノアは運動性能を高めたり格闘技の威力を上げたりするのに使うが、クリスのように技として繰り出すこともできるため、技ポイントとしてＷＰとするのが適切だろう。 従って、ＲＰＧで譬えると、レーヴ、ユノ、ヴィル、ノアの順に、ＬＰ、ＨＰ、ＭＰ、ＷＰに相当する。 |約 1ʔ9 億年前|エネルギーである ɪɟɒɪ が分解を起こし、ɥənɔ,ucɥ,nɔɪ に分かれる。これら ɱ 種を総称して uccɑ という| [用例] uccɑ ʃ'ɪrɒɪ lɪ ʃə ɒɪɑc. アルマのヴィードがこの指輪に宿っている。

uccɑ,ɑu ɑəɥne, ucɥɑ uccne/ɑəəɥφɪ

uccɑʃcɑl [魔法] 脱晄 [レベル] 6 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑʃcl [魔法] 帯晄 [レベル] 6 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑʃclel [魔法] 帯晄現象 [レベル] 6 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑʃɔ'lɔ [魔法] 偏晄 [レベル] 6 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑʃɔ'lɔl [魔法] 偏晄現象 [レベル] 6 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑʃəlɪ [魔法] ヴィード場 ls:jeɟɥn;/ ɽʔ

uccɑuɪl [魔法] 幻晄武具 [レベル] 5 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑɑlcʃ [魔法] 放晄 [レベル] 6 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑɑlcʃel [魔法] 放晄現象 [レベル] 6 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑɑel [魔法] ヴィード学→ ɑɔlɒcɥə [レベル] 4 μɑ;/ ɽʔ

uccɑɥɔn [魔法] 晄圧 [レベル] 6 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑɥen [地学] コランダム [レベル] 4 pelʃcɪ 10:ləɑɔ;uccɑ/ɥen 1L: ユノ・ヴィル・ノアの宝石がそれぞれサファイア・ルビー・エメラルドであることから。ちなみにアルマの宝石はアレキサンドライト。

uccɑɥecn [魔法] 幻晄線 [レベル] 6 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑzcɔl [魔法] 解析魔晄学 [レベル] 5 ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

uccɑlccl,ɪμɑ ヴィード粒 /

uccɑɪ [生物] [医療] 臉穴、しゅうけつ [生物] [医療] つぼ、ツボ、経穴← ɪlucɑ [レベル] 4 ɑu;uc cɑ.l 1ʔ: 制 :uccɑ uccɑɪ:uccɑɪ: lə uccɑɪ [語法] [文化] 鍼灸などのつぼ。人間の体表にあり、そこを刺激することでヴィードを高めたり流れをよくしたりできる点。 骨と肉の間にあり、たいていは窪んでいる。痩せ型のほうがツボを見つけやすい傾向にある。 μɑ まではシージア語で分かりにくかったため、セレンらがアルカに訳した。現在アルバザードで知られている名はアルカのもの。 地球には２０１３年現在ＷＨＯが定めた３６１穴があるが、アトラスではアルバザードが定めた３６６穴がある。代表的なもの、つまり要穴は７０～１００程度と多くない。 一般にツボは経穴と言われることが多いが、経穴は経脈上のツボを指しているのでツボより意味が狭い。ツボを専門的に言うと経穴ではなく臉穴である。臉穴の中に経穴と奇穴と阿是穴があり、東洋医はそれらを使い分けている。ただアルバザードでも民間人は経穴が有名なため臉穴と経穴の区別ができておらず、ɪlucɑ のことも uccɑɪ と言ってしまう。言い換えれば uccɑɪ は臉穴なのに実際はより狭い経穴の意味で使われることが多く、経穴を専門に指す ɪlucɑ という語が使われることは知識人以外の間ではあまりない。 なお、奇穴とは臨床で用いられる鍼灸理論体系とは別の臉穴であり、地球では新穴ともいう。奇穴と新穴の違いは、１９０１年以降に定められたものが新穴でそれ以外が奇穴というだけなので実質同じもので、だからアルカでは奇穴も新穴も区別がない。 阿是穴は圧痛部や硬結がある場所や陥凹している場所や敏感になっている点のことで、人によっても日時によっても場所が変化する。日本では昨今トリガーポイントと呼ばれているものと事実上同じである。

uccɑeɒɔ [生物] 湧泉 ɽ1

uccɑelle [生物] 命門 ɽ1

uccd [動物] セミ、蝉 [レベル] 3 1ʔ: 制 :μcɑcɪ:lɪlʃɪ: セミの声から。虫だから d を付けた。

uccz [アイテム] ヴィーズ [レベル] 4 μcɑcɪ: 古 :uccɑzɪɒɔn（ヴィードの杖） [文化] ヴァストリアの１つ。レレゾナのもつ神杖。

uccz(ɽ) [人名] ヴィーズ ɽ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

ucɔ(ɽ) [アイテム] 斧 [レベル] 2 1ɱ: 制 : 古 :ucuɔ ucuɔ:ucuɔ

ucɔ(ʔ) [人名] オヴィの略称 [組み数字] 2 / 2 8 [レベル] 1 1ʔ: 制 :ʃeɔlɔn:ucc が斧だから。

ucɔʃ [単位] ジョ（漢字が文字化けするのでカタカナ） ɽ1:uceʃ

ucɔɟnuelɟ [政治] 三頭政治 [レベル] 5 ɽ0

ucɔuɪnʃcɟ [軍事] 斧兵 [レベル] 5 1L:μcɑcɪ

ucɔɑɪɪnbezɪ [化学] トリメチルアミン（基官能） 1L

ucɔμcʃ [化学] ３価のアルコール 1L

ucɔɟenɟ [名詞] 単刀直入 [レベル] 4 ɽl:「オヴィの言葉」

ucɔlɪɟ [名詞] 猪突猛進 [レベル] 3 ɽl:「オヴィの手」

ucɔɪn [化学] プロパン [レベル] 5 1L:μɥəə

ucɔɪn(ɽ) [ジョブ] 斧使い [レベル] 4 1L:μcɑcɪ

ucɔɪnucɔμcʃ [化学] グリセリン [レベル] 5 1L

ucɔcn [化学] プロペン [レベル] 5 1L:μɥəə

uceʃ [動物] ライオン、獅子 [メタファー][形容詞] 偉大な [メタファー] 交番勤務の警察官。縄張りを周り、敵（犯罪者）を見つけ次第捕まえることから。 [組み数字] 1 / 5 [レベル] 2 1ʔ: 制 :lɪlʃɪ:ucucleʃ ʃɔ（強い猫） ::lə ɑlɪɒ [擬声] φɔʰʰʰ（甘え）、φɪɔʰʰʰ（威嚇） [文化] uceʃɟecn 偉大な動物、百獣の王とされる。 [成句] leɑ e uceʃ 竜頭蛇尾。ライオンの足は最初は速いが後は遅いことから。

uceʃlɪɑ [地球の国名] ガンビア 1L: 国章にライオン

uceʃlɪɑl [地球の国名] シンガポール [レベル] 6 1L: サンスクリットでライオンの街

uceʃɟecn [組み数字] 獅子賞 [レベル] 5 ɽ1 [文化] → μɪdɪlɪ 暇を持て余した神々の遊び。zφ でアルミヴァのサールの面々が集まり、獣を捕らえて戦わせた。ティクノは竜を出し、ポエンはライオンを出した。ヴァルゾンは鷲で、フェンゼルは虎。ネルメスは馬にしようとしたが戦闘向きでないと判断し、代わりに狼を捕まえた。ティーテルは獣を捕まえようとしたが怖くなり、ハチミツでクマを手なずけた。勝敗の結果は竜、獅子、狼、鷲、虎、熊の順となった。しかし竜はアデルではないかと物言いが付いた。正義漢なティクノは単に強い動物を連れてきただけで、不正を働く気はもとよりなかった。そこで素直に非を認め、座を辞した。こうして五獣が定まった。

uceʃoɪl [地球の国名] シエラレオネ 1L: 国名がライオンの山

uceʃcɑ [地球の星座] [ユマナ] しし座 ɽ0 [文化] cɑ

ucel [名詞] 重心 [レベル] 4 1L:ucebʌ/lɪ [用例] ʃɪl ucel 重心を保つ lɔ'lɪ ucel 重心を取る

ucen [形容詞] 強い、強力な [動詞] ɥəl を鍛える、鍛える、強くする、強化する [音楽] フォルテ [類義語] lɪnuc, nɪɪu, ɑμeɪn, bɪcʃe, ɪlɪuc [反意語] cun μɑ [レベル] 1 古 :ucen（多能な）← ucucen（強い / できる） uc, ucuc:uc, ucuc:uɪn [成句] lɥɔ ucen 強がる、強がり [用例] ɪμʃ ucen ɪlɪ eʃ ɾləəlccʃe ɪz ɾlɪcɑ jec. 一番強い魔法はルーキーテだろうか、あるいはライファだろうか。 [メタファー] ucen ɥən uceʃ ライオンのように強い

ucenʃɪl [非言語] ガッツポーズ [レベル] 3 1L:belcɑcɪ ɪlʃe [用例] lə ɪμcl ucenʃɪl ɔl "ɪlʃ" 彼は「よし！」と言ってガッツポーズを組んだ。 ucenʃɪl lɔl 片腕でガッツポーズ

ucenlɥɔ [普通動名詞] 強がり、つよがり [類義語] ʃelɑ [レベル] 3 μɑ;/ ɽʔ

ucenllɪd [美容] ダッカールピン ɽ1

ucenlɪɑ [政治] 大国、強国、先進国 [レベル] 3 1L [語法] アルバザード、ルティア、メティオの３国の ɪlɪlɪɑ、それ以外の uecnlɪɑ に分かれる。

ucenɟɪdn [気象] 高気圧 [レベル] 3 1L

ucenuenʃ [経済] 大企業、大業界 [レベル] 4 1L

ucenɥeʃl [名詞] ボス敵 [レベル] 3 ɽ0

uceni [丁寧] [親族] ご子息、御子息、息子さん、ヴィエナ [レベル] 2 ɽl:ucenɒcuɪ（強い子） [文化] lɪɪlɪ

ucenɪleɒ [名詞] 想い、思い、思い入れ、強い気持ち [レベル] 3 ɽ0

ucencun [音楽] フォルテピアノ 1L

uceneʃ [名詞] 強み [魔法] 半減 [類義語] hɪzeleʃ [反意語] cuneʃ [レベル] 3 ɽ1 [語法] uceneʃ は強み。得意とする分野や性質や現象など。hɪzeleʃ は uceneʃ ほど得意ではないが得意なもの。馬が合うとか向いているといった程度。 [文化] ɑɔlɒcɥə [用例] ɪn ʃcl uceneʃ ɑel nɔɟ eʃ epɑe. イケメンだという強みがある。

ucenen [名詞] 強者、持つもの、持つ者 [レベル] 3 μɑ;/ ɽʔ

uceneɒ [動詞] ɥəl を強める、強める、強くする、強化する、鍛える [名詞] 強化 [言語] 強意 [レベル] 3 ɽ0

uceneμcu [医療] 高血圧 [レベル] 3 1L

uceɒ [生物] 丹田 [レベル] 4 ɑ:elʃ;uc/bɪcn 古 :uccɑ/eɒɔ ::ucɒɪn [文化] へその下にあるが、丹田という臓器があるわけではない。体の中心で、運動をするときも瞑想をするときも重視される。 [成句] bɪɑ uceɒ 丹田を打つ。キレて相手に殴りかかる直前などにアルバザード人が行う動作。しばしばフッと息を短く吐く。強制的に腹に力を込めることで気合を入れ、恐怖心などを一瞬にして消すことができ、戦闘モードに入ることができる。格闘技でいうところの強制的に瞬間的な息吹をするようなものである。 [用例] uceɒ ɑɪn しっかりした丹田、強い腹 ɑecl nɔɪ lɪ uceɒ 気合を入れる

uceɒɔ [数学] 立方根 [レベル] 5 1L

uceɑ [動詞] ɥəl を蹴る、蹴る、キックする [普通動名詞] 蹴り、キック [反意語] bɪɔφ [レベル] 2 @ 1L [成句] uceɑɪnɑ ɪl) 地団駄を踏む [用例] uceɑ nelel 蹴り上げる

uceɑφel [運動] サッカー [レベル] 3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ [文化] 野球と同じ扱い。ルールも大体日本と同じ。相手のゴールにボールを入れれば一点。手はボールに触れない。 [用例] ɪnɟ ɪμʃ uceɑφel ɑə 10 ɑec ucɪ cɒ hɪμdnɑɪn. 私たちは昼休みに１０分くらいサッカーをした。

uceμ [名詞] 命令 [動詞] ɥəl を ɪ に命令する、命令する、命ずる [レベル] 2 1L:lcɔn:ucen/μe [成句] uceμ e μjccɪɪ 鶴の一声 [用例] ☆ ɪn hɪɟɪʃ ʃeel uceμ. 私は言われたとおりにしなければならなかった。 lɪ uceμʃ ɪn le. 彼は私に行くよう命じた。

uceμɔɔl [言語] 命令文 [レベル] 4 1L

uceμbɪɟ [法律] 令状、逮捕令状など [レベル] 4 1L

ucəoe [植物] パンジー、三色スミレ、ハートシーズ、ビオラトリコロール [レベル] 3 1ɱ: 制 : 学名の３色スミレを訳したもの。

ucʃɟ [法律] 条項 [レベル] 5 1ʔ: 制 :ucʃ（文）

ucʃeɒ [悪魔] ヴォテム [レベル] 4 pelʃcɪ 0:ɪdɒɪ;uɔ（uc から来ており、力の意）/ʃeeɒɟ「力のある悪魔」 古 :uɔ(ɱ)/ʃeɒ（テームス） [語法][文化] アルマの下位にある４匹の悪魔。ユノ・ヴィル・ノアをそれぞれ司る。具体的にはフレスティア・ヴァルテ・ブレイス・クレートの総称。

ucʃl [言語] 文、センテンス [電算] ステートメント [反意語] ueʃ [レベル] 2 @ 1L [用例] ucʃ cl ɒ{uɪcl} 全文 { 一部、抄 } ʃə ucʃ eʃ ʃcɪ jecθ この文は正しいのだろうか？

ucʃlɪ [名詞] 繁忙 [形容詞] 忙しい [反意語] ueʃ [レベル] 2 μɔμn:ucʃlɪ（仕事が多い） [語法] ueʃ [成句] ʃc ʃəμ ucʃlɪ jecθ ちょっといい？、今忙しい？ [用例] ɪn lɪdɪʃ ucl ɪ lɪ bcl ucʃlɪ ʃcn lɪ. あまりに忙しくて彼に電話できなかった。 ɪn ɪʃ ucʃlɪ cɒ ɑcj. 今日はやることが多かった。 ɪn ɪʃ ucʃlɪ ʃcn ɒcl lɪb. 仕事に埋もれていた。 ɪn ɪʃ ucʃlɪ ɥən cjlɪl. ばたばたと忙しかった。 ɪn ɪʃ ucʃlɪ enʃɔ jɔ jen ɥəə ʃcl lɪb. 忙しくて身動きが取れなかった。 ɪn ɪʃ ucʃlɪ bɪn ʃcl lɪb ɑc ʃcnlɪ. 今日は仕事が多くてとても忙しかった。 ɪn jɔ jen ɥəə ɒcl ucʃlɪ cɒ ʃəɔ. 忙しくて最近何もできない。

ucʃjelɒ [言語] 文中 [レベル] 4 ɽl

ucʃlael [言語] 統語論 [レベル] 6 1L

ucʃlɒ [単位] 虚空 [レベル] 4 ɽl:ueʃɒ

ucʃlheʃ [言語] 文末 [レベル] 4 ɽl

ucʃlɔjn [言語] 文頭 [レベル] 4 ɽl

ucʃ [名詞] 意志、意図 [形容詞] 意図的な、故意の [副詞] 意図的に、わざと、態と、故意に、元々 ～するつもりで : lɔn ucʃ でもよい。 [レベル] 2 1ɱ: 制 : 古 :uə [用例] ucʃ ucen{ɑɪn} 固い意志 ɪn en jɔʃ ucʃel. そんなつもりはなかった。

ucʃn [生物] 細胞 [レベル] 3 1ɱ: 制 : 古 :lcɥμɔɥəlcʃɔ（生命の家）

ucʃnʃɪnʃejc [生物] 細胞外液。ほぼ血漿のこと。Ｎａ＋やＣｌ－が多い。 μʃ;/ ɽɱ

ucʃnʃcɒ [生物] 細胞核 [レベル] 4 ɽ0

ucʃnjcɪ [生物] 細胞膜 [レベル] 4 1L

ucʃnjɔu [生物] 細胞間質 μʃ;/ ɽɱ

uɔlnncɪl [生物] 中間径フィラメント μʃ;/ 細胞骨格内で柱の役目を果たして細胞の形をキープ

することから。　ɭɱ

ɔɔlnɯɪɥejc ［生物］経細胞液、細胞通過液　pſ;/　ɭɱ

ɔɔlnuecl ［生物］細胞質　［レベル］4　1L

ɔɔlnuecl'hɔ ［生物］細胞骨格　pſ;/「細胞質の骨」　ɭɱ

ɔɔlnuecl'ejc ［生物］細胞質基質、細胞質ゾル、サイトゾル、細胞礎質　pſ;/「細胞質液」　ɭɱ

ɔɔlnuecl'elɒ ［生物］細胞小器官　pſ;/「細胞質器官」　ɭɱ

ɔɔlnɑɔnſ ［生物］微小管、チューブリン　pſ;/ 細胞骨格の中心から放射状に伸びる道路のようなもので、細胞内の物質移動にこの道を使うことから。　ɭɱ

ɔɔlnɒɪſ ［生物］細胞分裂　［レベル］5　1L

ɔɔlnɑɪlɒ ［生物］アクチンフィラメント　pſ;/ 細胞骨格のうち、細胞膜の近くに存在し、細胞膜が凹まないためのテントのような役割をすることから。　ɭɱ

ɔɔlndɔſejc ［生物］細胞内液。K＋やリン酸イオンが多い。　pſ;/　ɭɱ

ɔɔlnbɪl ［生物］細胞壁　［レベル］4　1L

ɔɔlnleʎj ［生物］後形質（副形質）　1L

ɔɔlnɪɑl ［生物］ゴルジ体、ゴルジ装置、ゴルジ複合体、網状体　［レベル］5　pſ;ɔɔln/ɪɑlʃlɪ。細胞内にあり、リボソームで作られたタンパク質を加工・修飾・濃縮するところであることから。　ɭɱ

ɔɔlɑɪc ［法律］放火　［レベル］3　ʃ0:ɒelcɑcɪ lceɥ: 意図的な火　［用例］ lɪ ɑɔɟɪſ ɥɒ ɔn ɑcz ɑel ɔɔlɑɪc ɟɥjen ʔ. 彼は３件放火した罪で捕まった。　ɑɪc cʃlɪ ɔɔlel ビルに放火する　el ſɪɑ. ɒeɒ ɒeɒ ɔl ɪɟʃ uɪſcʃɪ jecn e ɔɔlɑɪc. jee ſɒ lɪ jeel ſɒ ɒeɒ lel ɟɪ ɪnſ. 連続放火の出火地点を　線で結べば真ん丸だ　円の中心　僕の家（伊集院光・深夜の馬鹿力）

ɔɔʃl ［動詞］ɥel の完成を努力する、努力する、努める、尽力する、奮闘する、情熱を注ぐ、一生懸命をする、腕によりをかける、気合をいれてする、はりきる、張り切る　［副詞］努力して、一生懸命、一所懸命、はりきって、張り切って　［普通動名詞］努力、尽力、奮闘、一生懸命、粉骨砕身　［レベル］3　1ʃ1: 制 : 恣意　［成句］ɔ{ʃlɔn} ɔɔʃl ɪʃlɪ かろうじて、辛うじて、どうにか　ɔɔʃl ʃɟeſſɪ elɑ el. 努力は人を裏切らない。　［用例］ ☆ ɪn ʃəſ elɑ ɑc ɔɔʃlel ɒɪn ɪn ſcl ʃəlɪlɪ ɔn ʃəɔ. 口に食べ物を入れたまま喋らないよう努力した。　ɪn ɟɔ uɪn ɔɔʃlel ɒɪn ɪn ɟɔlʃ ɟcʃ lɪɟ ɑcuɒɥ ɪn. 彼らを失望させないように一生懸命やるつもりだ。　cl ɔɔʃl ɑe ſɟɪn əl beɟcl. 努力に貴賤はない (jeɒen ɪɟbɪzɪɟɒ)

ɔɔʃlɪn ［名詞］努力家、努力屋　［レベル］3　μɑ;/　ʃ1

ɔɔn ［名詞］古アルカの４　［レベル］3　赤→ ɟcɑɪll

ɔɔn,lʃl ɱ ɔɔl.l

ɔɔnſ ［魔法］ユノ波　［動詞］ɥel にユノを撃つ、撃つ　［レベル］4　古 :ɔɔ は魔法を打つの意味。　［語法］ 光線のように連続した形でユノを撃つ場合は ɔɔnſ。弾丸のように単発の形でユノを撃つ場合は ɔɔlſ。

ɔɔnſɔbezɪcɟɔʃ ［化学］四級アンモニウムイオン　1L

ɔɔnʃ ［動詞］ɥel という内容を ɪ と協力する、協力する、力をあわせる、連携する、協調する　［普通動名詞］協力、連携、連帯、協調　［形容詞］(ɔɔnʃɪn で) 協調的な、協力的な。ɔɔnʃɪn　［名詞］協力、連携　［レベル］3　lʃlʃ:ɔɔnʃ（協力）　［用例］ uɪʃ lcnʃ ɔɔnʃel 協力して悪魔と戦う

ɔɔnʃlɪɑ ［地球の国名］アンドラ　1L: 国の標語Ｖｉｒｔｕｓ Ｕｎｉｔａ Ｆｏｒｔｉｏｒ（力を合わせれば、強くなる）から

ɔɔnʃɒclʃ ［音楽］重唱　［レベル］4　ʃ1

ɔɔnz ［医療］膠原病　［レベル］6　1L:ɔɔln/ɑɪcz

ɔɔnl ［名詞］のみ、鑿　［レベル］3　1ʃ: 制 :zɪnɪ: 古 :ɔɔnlɪɪ（４人殺せる）。鑿を使えば４人は殺せるという話から。

ɔɔnɪ ［名詞］趣旨、趣意　［レベル］3　μɑ;ɔɔl/lɪnɪ　ʃ1

ɔɔnɪn ［化学］ブタン　［レベル］5　1L:μɥəə

ɔɔnɪnſlɪſ ［化学］ブタノン　1L

ɔɔnɪnləzɪʃl ［化学］酪酸、ブタン酸　1L

ɔɔnɪɯɪnſ ［法律］趣旨法　［レベル］4　ul:ɒcμɔ);/　ʃ1　［文化］ 旧革命で法を簡素化するために制定された法。法の記述を短くし、国民の理解を助け、なおかつ法の抜け道を潰すためのもの。　ミロクはそれまでの法が読みづらく分かりづらく抜け道があることを嘆いていた。日本で例えるとこうだ。とある麻薬が禁止されると、それの法の網をかいくぐって合法ドラッグができる。すると今度はそのドラッグを取り締まる。するとさらに新しいドラッグが生まれる。同じく、ダウンロードサイトを潰しても匿名掲示板を潰しても別のサイトができるだけで、すぐ新しい悪の芽が出てしまう。　そこでミロクは趣旨法というのを作った。条文にその法律の趣旨を書いておく。例えば「要するに勝手に人の作ったものをタダでダウンロードしたら商売が成り立たなくなるから、そういうのは禁止な」というように、分かりやすく趣旨を書いておく。すると抜け道もクソもなく、禁止されたサイトはもちろんそれに準ずるものであれば自動で取り締まれる。ドラッグについても同様で、「要するに麻薬的なのをやめろっつってんだよ。それっぽいもんは全部しょっぴくからな」と条文に書いておけば良い。脱法ドラッグのようなふざけたものはこれで潰せる。「言葉尻捉えて脱法ドラッグとか作ってんじゃねーぞ。実質同じ麻薬類だったら捕まえるからな。お前こっちの趣旨分かってんのか？　麻薬的なものを取り締まろうとしてるんだから、今回禁止したものと少し成分が違うくらいなら同じなんだよ。趣旨分かってんのかてめぇ」と言って違反者を捕まえることができる。　要するに大事なのは条文の言葉尻ではなく、何を制限したいのかという趣旨である。その趣旨を意図的に曖昧にしておくことで法の解釈を広げ、準じた犯罪を捕まえることができる。逆に言えば準じた犯罪は捕まるのでそもそもそんなふざけたことができなくなる。　これが趣旨法である。ミロクは趣旨法を定め、各法律の趣旨に反することであれば逮捕できるとした。このデメリットは警察の拡大解釈により悪戯に犯罪者を増やすことで、ミロクの死後徐々に警察による恣意的な拡大解釈が行われたため、ɪl で事実上廃案となった。　しかし革命で再度採用され、脚光を浴びるようになった。革命後は警察の拡大解釈に気をつけつつ運用することとなった。ul と比べて社会が複雑化していたため、趣旨法がないと脱法が簡単に行え、趣旨を無視した法の網をかいくぐる行為が簡単に行えた。そこでセレンは怒り、趣旨分かってんのかてめぇと言って趣旨法を復権させた。　［用例］ ɑɔɟɪſ ɥɒ ɒɪn ſelɪſ ɔɔnɪɯɪnſ ɔnen ɑɪnʃ 麻薬の趣旨法違反で逮捕された

ɔɔɥ ［名詞］錆、さび、サビ、錆び　［動詞］ɥel を錆びさせる、さびる、錆びる、酸化する、リンゴなどが赤くなる、桃などが茶色くなる。桃のはもちろん錆ではないが。　［形容詞］さびた、錆びた　［レベル］3　1ʃ: 制 :ɔɔμſ/ɥc　ɒɪſlɪlɔɥc:ɒɪſlɪlɔɥc　［成句］ ɑɥec ɔɔɥ ſcl ennɪ ɔɔɥ 錆びた剣には錆びた鞘：割れ鍋に閉じ蓋、われ鍋にとじ蓋　［用例］ ɒccʃ ej ɔɔɥ ɒɪdel ɪ. リンゴがもう赤くなってるわ。

ɔɔɥjeſ ［名詞］錆取り　［レベル］4　1L　［語法］ ɔɔɥɑɔnl は錆ないようにするもの。ɔɔɥjeſ は錆を取るためのもの。

ɔɔɥɑɔnl ［化学］酸化防止剤　［レベル］5　1L

ɔɔμſ ［名詞］死　［動詞］ɟɔl は ɥel の様態で死ぬ、死ぬ、朽ちる、朽ち果てる、亡くなる、死亡する　［普通動名詞］死亡　［魔法］ヴォルト（デス）。闇の高位魔法。相手を死亡させる魔法。セレスを肉体から引き剥がす効果がある。死神が魂を奪う能力を魔法で再現したもの。　［レベル］1　μɑ;ɯɪμſ.l　1ʃ1: 制 :ɯɪμſ:ɟɔμn:「偉大なる魔法」。元は ɯɪμſ。10 年の「この世に生を受けることは最も偉大な魔法によってなされたことである」というクミールの言葉が語源で、そこから「偉大な魔法 ɯɪμſ」＝「現世に生まれること」になった。　ɒɪſlɪlɔ,ɑ lɪɪlɔ,ɑɯ, lɪɪ,ɑ:lɪɪlɔ::ɒɪɥə,ɪlſ　［成句］ ɪ ɔɔμſ 死ぬまで、死ぬほど、～した結果死んでしまう　ɔɔμſ lccɪ 甘く死ぬ：「軽く死んだ」とでも訳せばいいか、アシェット男子が lɪɪlc と古アルカで言っていたもの。日本語でいうとｏｒｚな状態とでもいうべきか。　ɥən ɔɔμſ 死にそうな、半死半生　［用例］ lɪ ɔɔμſlſ (ɒcl) leun. 彼は病気で死んだ。　lɪ ɔɔμſlſ ɑəɔl. 彼はひどい有様で死んだ。　ɪn nſſ eɒſ ɒcl ɔɔμſ lɪɪſ. 彼の死で悲しんだ。　ɔɔμſ lɪɪd{xɔlɪn} 餓死する

ɔɔμſlɔɔ ［名詞］柩、棺、ひつぎ、棺桶、棺おけ　［類義語］lɔddel　［レベル］3　1ʃ1: 制 : 死の箱　［文化］ 頭側が６角形の上半分の形。脚側に行くにつれ、棺桶の幅は狭くなる。脚側はふつうの箱と同じく四角い。顔の部分に小窓が付いている。木製。

ɔɔμſjel ［名詞］命日　［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

ɔɔμſjeleʃ ［魔法］死霊　［レベル］4　μɑ;/　ʃ1　［語法］ 死者の霊魂。

ɔɔμſjeleɟɔɒ ［魔法］死霊術。アンデットを作る魔術。　μɑ;/　ɭɱ

ɔɔμſɯɪleʃ ［普通動名詞］死姦、屍姦　［動詞］ɥel を死姦する、死姦する　［レベル］4　μɑ;/「死を犯す」　ʃ1

ɔɔμſucl ［医療］致命傷、クリティカル、クリティカルヒット　［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

ɔɔμſuell ［名詞］断末魔　［レベル］4　ʃ1

ɔɔμſɑɒɒe ［医療］死亡期　［レベル］4　ʃ1　［文化］ アルバザードでは性器期の後に体全体の死について笑う時期が来ると考えられている。　アルバザードでは人間は年代によって笑うツボがあるとされている。子供のころは排泄物のネタ、大人になると下ネタで笑うようになるのはこのため。本来人間にとって避けたく不快なことであるが、傷口を弄りたくなったり、傷口がかゆくて掻くと心地良いのと同じで、傷口を抉るようなネタだと不快に感じるが、掻くようなネタだと心がくすぐったくて笑えるとアルバザード人は感じる。　アルカで「いたいねー」と言ったら「かたはらいたし」の意味ではなく、ネタが直接的で下品という意味。「かゆいわー」だとネタが中途半端ですっきりしないという意味。ejcleſ だとちょうど気持ち良いネタという意味。

ɔɔμſɒɪn ［医療］死因　［レベル］3　1ʃ1: 制

ɔɔμſɒɪcn ［名詞］死体、躯、骸、むくろ、遺体　［レベル］3　1L

ɔɔμſlɪnɥ ［医療］死ぬ権利　［レベル］5　ls:jeɒen;/　ʃ1　［文化］ ls でセレンが提唱した概念。革命前のアルバザードは高齢化社会になっており、医療も中途半端に進んでいた。ウイルスは倒せないし癌などの病気も簡単に完治できない医療レベルでしかないわけに、延命治療だけは可能で、寝たきりや植物状態の患者が多くおり、長々と苦しんで死んでいくことが多かった。　これに対して ɪl 辺りから安楽死を主張する者が出てきたが、あくまで少数派でしかなく、安楽死は自殺の幇助として犯罪とされていた。中途半端な医療に安楽死の非合法が相まって、高齢者の医療費は年々肥大するばかりで、社会福祉を圧迫していた。　一方、健全な若者の中にも経済的な理由など様々な理由から死を望む声があり、自殺や他人を巻き込んだファイナルアタックが跡を絶たなかった。　セレンは人が苦しんで死ぬのは蛮族のやることであり、文明の遅れを示すものだと断じた。セレンは人には安らかに苦しまずに自分の死を選べる特権があり、それは人権のひとつだと考えた。そこで死ぬ権利というのを提唱し、健康だろうが病気だろうが、人は死にたいときに安らかに死ぬ権利があると主張した。まして長患いで苦しんで死ぬくらいなら、楽に死なせてやったほうがマシだと主張した。　ところが人権団体や医療団体がこれに猛反対した。後者は安楽死施設が整備されることで薬品の売上が減少したり、病院の売上が減少することを嫌った。だが表向きにはその本音を隠し、いやしくもセレンの案に反対した。患者の苦しみよりも自分たちの利益を優先させたわけである。　これにセレンは怒り、患者のことを真に考えない者の何が医療人かと激しく糾弾した。セレンはむろん苦しんでもでも長生きしたいという人間を安楽死施設に送り込むようなことは考えていなかった。あくまで健常者であろうが病人であろうがいつでも人は自分の死を選ぶ権利があると主張したわけである。　セレンの主張はごく少数の人間に受け入れられたが、人権団体を始めとした利権団体の反対にあい、言論封殺されていた。　革命でセレンが力を付けると、セレンは今まで自分を無視してコケにしてきた連中に復讐を開始した。かつて自分に反抗した利権団体は尽く粛清し、死ぬ権利を実現させ、安楽死施設を全国に配備した。これにより ls に入って初めて人は楽に合法にそして文明的に死ぬことができるようになった。

ɔɔμſlcul ［医療］死産　［レベル］3　1L

ɔɔμſleun ［医療］致命的な病、不治の病　［レベル］3　1L:clɒəj:μcɑcɪ

ɔɔμſɪn ［名詞］死者、死人　［レベル］3　ʃ1　［成句］ hɪɔ ɔɔμſɪn lɪnſ ucl heʎ, ſɪl jɔlʃ jen. 確かに死者は手紙を出さぬ。しかし死亡通知を人に送らせる要因にはなる：便りのないのはよい便り　leɑ e ɔɔμſɪn 死者の息：風前のともしび

ɔɔμſclɒ ［娯楽］デスノート　［レベル］4　ʃ1　［文化］『デスノート』に相当するアニメ。

ɔɔμſɔʎ ［魔物］ヴォルトック（死殻）：第七十七天：邪の巨天　［レベル］5　1L:μcɑcɪ/jeɒen/ɒel:u ɔμſ/hɔʎ　［文化］ 魚族。巨大な貝のモンスター。水面に飛び上って攻撃することもある。また、洞窟など、水気の少ないところでも生息することができる。湿気が多く暗いところなら生息可能。貝を開けて魔法を放つ。貝を閉じた状態だと、最強の防御力を誇る。

ɔɔμſedc ［名詞］死亡フラグ　［レベル］4　ʃ1

ɔɔμle ［娯楽］ヴォルシェ。４人用の賭けゲーム。　［レベル］4　古 :ɔɔɔle,ɔɔnlelſ「４シェルト」が語源。　［文化］ ４人でやるシェルトのようなゲーム。実際は麻雀のようなゲーム。L ～ 10 年にテオロンによって製作された。ザナとオヴィが主幹で、セレンとギルが手伝ったという経緯で、リュウは誘ったが参加しなかった。頭の良いメルとしっかり者のリディアがセレンに呼ばれて手伝ったため、いい加減なルールが整然なものにされた。

ɔɔμɒ ［名詞］ヴォルム人形、精巧なダッチワイフ　［名詞］若い女性の死体　［レベル］4　1ʃ:pel:ɔɔ μſɒɪc（死体）　［語法］ よくできたダッチワイフのこと。レイユの時代にテステェル社によって作られた商標の１つ。感触が女の死体にそっくりで、人間のようであることから名付けられた。動かない点を除けばほぼ人間と同じ精巧さを持つ。テステェル社の開発部が精巧なダッチワイフを作るため、少女らを監禁し、死体をも研究対象とした。同研究によりヴォルム人形は完成したが、事件の発覚とともにテステェル社の開発部は粛清された。だが商品価値が高かったため技術は継承され、ヴォルム人形は流布された。　［用例］ lɪnɪ ɔɔμɒ l'ej ʃɔɪ ɪl ɪlɒɔ nɟɪɒɔ, ɪn leɑ enzel ʃɔnſ ɪlcu ejſ ləəſ. 回収車に積まれたダッチワイフを、名前叫んで追いかけて（伊集院光）

ɔɔz ［アイテム］弓、洋弓　［類義語］lecun　［反意語］ues　［レベル］2　1ʃ: 制 : 古 :ɔɔzɪɒɔ　ɔɔzɪɒɔ:ɔɔz ɪɒɔ:lə jɔʃleſ:uɪn,ɪlſ ueeze,ɔɔzɪɒɔ

ɔɔzʃlɪɑ ［地球の国名］トーゴ　1L: 国章に弓を持った獣

ɔɔzuɪnſcʃ ［軍事］弓兵、アーチャー、弩兵　［レベル］5　1L:μcɑcɪ

ɔɔzlʃj ［弓道］弓手、ゆんで。ふつう左手。　μɑ;/。「弓の手」　ɭɱ

ɔɔzɪn ［ジョブ］弓手、射手、アーチャー　［レベル］5　1L:μcɑcɪ　［語法］ 兵士の場合は ɔɔzuɪnſcʃ。こちらは個人のジョブ。

ɔɔzɪncɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］いて座　ɭɱ　［文化］ cɑɪ

ɔɔzɪɒɔ ［地名］ヴォザモ　［レベル］5　1ʃ1: 制 : 古 :ɔɔzɪɒɔ（弓）から。　［文化］ ソーンの使徒ヴァリナの支配地。

ɔɔzɪɒɔ(J) ［アトラスの国家］ヴォザモ　［レベル］4　制　［文化］ 面積：ʔʔLΛʔ1.ΔʔLΔLʔ ʃɔ ʃ

ɔɔzɪɒɔ,ɑɯ ɔɔz uc/zɪɒɔ

ɔɔzɔɒ ［運動］弓道　［類義語］lecuenſ　［レベル］4　ʃ0

ɔɔs ［医療］大便、糞、ふん、フン、うんこ、うんち　［反意語］bez　［レベル］3　@ 1L　［語法］ 形式ばった言い方。大便に相当。　［成句］ el jɪʎ jen ʃəɒ ɔl jɪʎ ɔɔs 糞があるということは動物がいるということだ：火の無い所に煙は立たぬ

ɔɔslɟʎl ［被服］パンタフル　μɑ;/　ɭɱ　［文化］ jɒ でできた。糞便処理の仕事をする人が足を汚さないよう履いた靴。

ɔɔl ［格詞］～することによって　［レベル］2　1L: 恣意 : 参 :ɥəl:1ʃ:jeɒen:ʃlel:ɥə/əl　［語法］ 主節の動詞の具体的な内容を説明する節を作る格詞。従って主節の動詞と内容的に同じものが来る。　［用例］ ɪn neſlſ lɪ ɔɔl bɪɑ lɪ ʃɔn dez. 彼をスリッパで叩き起こした。

ɔɔl,ɑɯ bɔlſ uc/ɪl

ɔɔlſ ［形容詞］具体的な　［名詞］具象　［動詞］ɥel を表現する、表現する　［普通動名詞］現像、表現　［名詞］表現。科目名→ ɑeldɪnſ　［動詞］ɥel を ɪ に現像する、現像する　［反意語］uejʎl　［レベル］3　1ʃ: 制 :uelſ（抽象）:jɔμn　［語法］ ビデオなどの再生は ʃəʎl。　［用例］ ɔɔlſ ɪleɒ 感情を表現する　ɪleɒ ɔɔlſ 具体的な感情

ɔɔlſjeleʃ ［魔法］思念体　［レベル］5　ʃ1

ɔɔlſenuc ［名詞］表現力　［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcʃ

ɔɔlſl ［魔法］ユノ弾　［動詞］ɥel にユノを撃ち出す、撃つ　［レベル］4　古 :ɔɔ は魔法を打つの意味。ll は「動いて行く」　［語法］ ɔɔnſ　［成句］ ſɪ ɪnel ʃɔn ʃɔ ɔɔʃl 一石二鳥

ɔɔlſ ［形容詞］大切な、深刻な、重大な、真剣な、重症な、重度の、シリアスな　［反意語］ueμʃ jɔμn　［レベル］2　1ʃ: 制 :jɔμn（重要な＝ ɔɔlɑ)。アルシェでは ſlɪɪl。　ſlɪɪl:ſlɪɪl:ɔɔlſ　［用例］ φcl eſ ɔɔlſ en ɪlſlɪl. 金が一番重要というわけではない。

ɔɔlſlɪ ［名詞］要所、要点　［レベル］4　μɑ;/　ʃ1

ɔɔlſucl ［化学］人に必要な約２０種ほどのアミノ酸のこと（必須アミノ酸ではない）。８種の必須アミノ酸は lcμucl。　［レベル］5　1L

ɔɔlſuccɑɪ ［生物］［医療］要穴　μɑ;/　ɭɱ　［文化］ 特に重要な経穴のこと。１００ほどある。

ɔɔlſhɪcl ［法律］高等裁判所　［レベル］4　ʃ1

ɔɔlſlɪſc ［名詞］重要性、重要さ　［レベル］3　ʃ1

uɔlɟ ［名詞］条件 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 語源不詳 ::dlınze ［成句］ hıɪɟ uɔlɟ ɑel ～の条件下で ［用例］ uɔlɟ ɟıſ 好条件 ın ɑcſ uın uɔlɟ ı ſc. 君に条件がある。 ʅıl uɔlɟ 条件を満たす ſəuıl uɔlɟ 条件を概ね満たす ɟıı ɑccn, ſə ʅıɑ ʅılej ſəəɟ uɔlɟ cɒ ſəɟ, ſeſ el scɳ ucl ſə ɟɔ ɟcl ız ɒcl ɥəə jeɟ ɟcl e ɥəɒını ſcɟɟe. まぁ、いずれにせよユマナの未来のことは分からないから、今現在の話でしかないんだけど。

uɔlɟaejn ［法律］保釈 ［動詞］ɥel を c から保釈する、保釈する ［レベル］5 μɑ;/「条件付き解放」 ɟʔ

uɔln ［サール］ヴォルン ［名詞］混沌、カオス、無秩序 ［反意語］ʅlees ［レベル］4 古 :ɔccɟ ［文化］ 混沌を起こすサール。

uɔlnɟſ ［物理］エントロピー ［レベル］5 1L: 無秩序の度合い

uɔlɑ ［経済］［動詞］ɥel を c からローンで借りる、借りる ［普通動名詞］ローン ［レベル］3 @ 1L:μc ɑcı:ıμbılelſ ［文化］ ueμφ

uɔlφ,ɟzɑ ɥəʅlɔ

uɔled ［言語］構文 ［レベル］4 μɑ;/ ↓ ɟʔ:ɒel:uɔʅ/leed

uɔledzɔɒ ［言語］構文木 μɑ:ɒel;/ ɟʔ:ɒel

uɔı ［化学］原子核、核 ［レベル］5 ɟɔpn

uɔılcl ［軍事］核実験 ［レベル］4 1L

uɔıɟ ［名詞］［形容詞］複数 ［反意語］uej ［レベル］3 ɟɔpn:uɔıɟ（組）

uɔıɟɒcnſcʅɔıɒcφ ［法律］一夫多妻、一夫多妻制 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃ ［文化］ ʅɔɒcnſcʅɔıɒcφ

uɔıɟhınʅ ［生物］重層 μſ;/ ʃʃ

uɔıɟhınʅjczφɔſe ［生物］重層扁平上皮。皮膚、口腔、食道などに見られる。 μſ;/ ʃʃ

uɔıɟhınʅncılφɔſe ［生物］重層円柱上皮。結膜に見られる。 μſ;/ ʃʃ

uɔınɔʅ ［物理］［化学］原子核融合、核融合 ［反意語］uɔıɒıſ ［レベル］5 ul;/ ʃʃ

uɔıuʅ ［軍事］核兵器 ［レベル］4 1L

uɔıuɟ ［軍事］核戦争 ［レベル］4 1L

uɔıucın ［物理］［化学］核力 ［レベル］6 ul;/ ʃʃ ［語法］ 原子核同士が引き合う力（核力）。

uɔıɑıcʅ ［軍事］核爆弾 ［レベル］4 1L

uɔıɒıſ ［物理］［化学］核分裂反応、核分裂 ［反意語］uɔınɔʅ ［レベル］5 ul;/ ʃʃ

uɔıdcſ ［物理］［化学］核種 ul;/ ʃʃ

uɔıɥeu ［物理］［化学］核反応 ［レベル］6 ul;/ ʃʃ ［語法］ 核分裂と核融合の総称。

uɔıμ ［物理］原子炉 ［レベル］5 1ʔ: 制 : 原子核機

uɔe ［名詞］民族、エスニック ［形容詞］民族の、民族的な ［レベル］3 ɟɔpn

uɔeſ ［名詞］民族性 ［レベル］3 ʃʃ0:uɔe/cſ ［文化］ 民族性 ユーマの一族の祖であるガルヴェーユ人をシフェルとマレットに大別すると、陽と陰に分けられる。 シフェルはリュディアとファルファニアに、マレットはシージアとファベルに分けられる。また、シージアはさらに北部のシェリーと南部のプレディスに分けられる。 ・リュディア人 好戦的で気性が激しい。ふだんはファルファニア人より大人しく思慮深いが、キレやすく、怒ると手がつけられない。合理的で論理的だが、戦闘時は獰猛で、性格は残忍。神の血が最も濃い。 ・ファルファニア人 陽気で明るくうるさい。人懐こい性格。 ・シージア・シェリー人 思慮深く知的。緊張しやすくプライドが高い。 争いを好まないが、自分の環境に侵入されると激しく抵抗する。 感情の起伏が少なく、疲れやすい。 ・シージア・プレディス人 大人しくゆったりしてのんびりしている。緊張しにくく、全体的に柔らかい。 物事に執着せず、神経質にもならない。争いごとが嫌い。 メディアン、スカルディア、はてはカテージュにまで血が継承されている。 ・ファベル人 朴訥として黙々と作業する。 コツコツタイプ。 歴史のメインを刻むリュディア人は、この後さらに細かい民族に分化していく。 →ルカリア人、アルディアル人、スカルディア人、ミュール人 このうちルカリア人はさらにトールとフレティスに分かれる。 スカルディアはプレディスと混ざり、ミュールは大陸が沈没したため、残り３民族について述べる。 ・トール人 ねばならない思考で、緊張しやすく、軍の統率力は高い。そのわりに日常生活では自尊心が高く、意見がまとまらず、一人で行動する。有事の際には一転結束する点で合理的。 好戦的で支配欲が強く、自我が強い。性格はまっすぐで直情的。基本的にバカ正直で、屈折した正義感の持ち主が多い。 攻撃的な面は陽だが、社交性は陰で、真面目な分、鬱になりやすい。 ・フレティス人 人を食ったような態度の上から目線で、他人をよくからかって試す。 レスティル人に比べ受け流してかわす性格で、若干意地悪。 直情的なレスティル人と相性が悪い。 ・アルディアル人 リュディア人の中で最も陰で、引きこもりがちで争いを好まない。 他者を受け入れない姿勢があり、鎖国的で外国人に攻撃的なところはリュディア人らしい。

uɔeleɒ ［音楽］民謡 ［レベル］3 ʃʃ

ueſ ［言語］語、単語 ［名詞］用語 ［反意語］uɔʅ ［レベル］2 古 ueſ:ueſ:ueſ:ʅən,ılſ ［用例］ ueſ ɑcl 長い単語 ueſ led 難語

ueſſɔɒ ［言語］語中 ［レベル］4 ʃʃ0

ueſſe ［形容詞］［ネガティブ］小ざかしい、こざかしい、小賢しい、こずるい ［類義語］lele ［レベル］3 ʃʃ0:uecφ/ſe

ueſlel ［言語］辞書、ことば典→ʅlel ［レベル］4 ʃʃ0: 単語の辞書

ueſɟɟ ［言語］語順 ［レベル］4 ʃʃ0

ueſncɑ ［言語］単語レベル、語彙レベル ［レベル］4 ʃʃ0 ［文化］ アルバザードでは一般的に単語レベルは１～７まである。 英和辞典と英英辞典では単語レベルの付け方が異なる。ɑcılʅel は二言語辞典だが、レベル付けは英英式を採用している。例えば黒板やチョークは大抵英和だと重要語になっているが、これは学校英語の影響による。実際アメリカ人はそれほどこれらの単語を使わない。英和式は現実の使用頻度に則していないことがよくある。そこで英英式を採用している。 ・旧案 便宜上、アルバザードのネイティブの語彙レベルを併記する。ただしアルバザードの学齢でいうと分かりづらいだろうから、日本での学齢で記した。 併記したのは理解語彙でなく使用語彙の目安。語彙数は個人によってかなり異なるのであくまで目安のひとつとされたい。なお一般に理解語彙は使用語彙の３倍程度と言われている。 使用語彙といっても細則まで知っているかまでは問わない。例えば冬至やアデミナを知っていても、その順番までは知らないのがアルバザード人でもふつうである。 1：１０００語：幼稚園レベル。機能語や挨拶語や最低限の名詞・動詞・形容詞。英検４級（中学２年レベル）の１３００語にほぼ相等。 2：３０００語：小学校低学年レベル。日常的な単語。家庭で使うことが多い。レベル２まで覚えると英検準２級（高校２年レベル）の３６００語にほぼ相等。 3：５０００語：小学校高学年レベル。やや難しい日常語。会社や屋外で使うことが多い。 4：８０００語：中学校レベル。難しい日常語。ふつうの人にとっては口語で使う語彙のうち最も難しいレベル。学校やニュースで使うことが多い。英検準１（大学２年レベル）の７５００～８０００にほぼ相等。 5：１２０００語：高校レベル。やや専門的な言葉。小難しい本を読むのに必要な単語。英検準１と１級の間程度。大学や新聞で使うことが多い。新聞が５でニュースが４なのは、新聞のほうが専門性が高くニュースのほうが一般に向けたものという大まかな枠組みのほか、耳で聞くニュースは一般に語彙レベルを下げる傾向にあるため。 6：１６０００語：大学レベル。かなり専門的な言葉。各専門分野の概説レベル。英検１級の１５０００語レベル以上に相等。ふつうに生きていれば生涯知らない単語も散見される。 7：１６０００語以上：専門家レベル。専門的な言葉。主に学術用語や業界のジャーゴンや符牒度の高い隠語からなる。口頭で使われる機会は少ない。ふつうに生きていれば生涯知らない単語のほうが多い。 レベル４まで覚えれば日常生活に支障はないため、ノンネイティブの最大努力目標はここに設定される。レベル５まで覚えれば新聞やニュースや教科書でよく使われるレベルの語彙が獲得できる。 ・新案 実際にレベル付けは何度も挫折したりデータが消失したりした作業である。制アルカのときに一度ＰＤＩＣのレベル機能でレベルを付けをしたことがあったが、データをＰＤＩＣ一行形式に変えたときに消失する設定にしかできない仕様だったのでデータが消失してしまったことがある。 そこで今回は機能に頼らずじかに辞書の本文にレベルデータを書くことにした。実施年度は２０１２年で、同完了である。 旧案をもとに作業をしようとしたが、問題があるので止めた。例えば５０００語でレベル３を区切るとする。その後新語ができてレベル３の単語ができたとする。すると５００１語になってしまうので３の中からひとつ４に繰り上げないといけない。すると将棋倒しで４の中から５，５から６，６から７というように修正が連鎖する。これが不便で、覚えた単語のレベルが変わってしまう恐れがあるので非現実的だった。 しかもこの方法ではいったんレベル３を５０００語集めるのに偉い手間がかかる。とりあえず最初は任意にレベルを付ける。結果、２０１２年１１月２０日の辞典でレベル１が８４８語であり、２００近く足りない。レベル２は３０００語レベルなのでレベル１が１０００語ということを合わせて考えるとその間の語数は２０００語となるが、同日付での統計ではレベル２は２７５４語もあり、７００以上足が出ている。このうち２００近くを足りない１に回して残りを３に繰り上げるなどという作業を延々レベル７まで繰り返さなければならない。これは大変労力がかかる。その上、上記で述べた新語登録の際の繰り上げ問題があり、旧案は実用的ではないと知った。 そこで新案では日本人で言う赤ちゃんから幼稚園レベル、小学校低学年レベル、高学年レベル、中学校レベル、高校レベル、大学レベル、専門用語の７段階に分けた。 ネイティブのルシアがまだ５才だったことと、彼女の語彙の獲得が平均的な子どもと異なっていたこと、例えば数学などをかなり先に覚えていたこと、などが原因で、ルシアはインフォーマントとしては利用できなかった。 そこでまず訳語の日本語を読んでセレンがその単語をいつ覚えたかでレベルを付けた。例えば議院内閣制なら中学の公民でやるので４になる。 ただしセレンもルシア同様プログラムや言語学などはかなり子供のころから知識があり、逆に美容や被服などには疎かった。そこでセレンの主観にならないよう、周りの日本人の語彙獲得を参考にした。 これだけだと日本語の辞書になってしまうので、アルバザードの文化と照らしあわせた。つまり、日本では一般的だがアルバザードではそうでないという場合、レベルを高くした。逆に日本ではそんなでもないがアルバザードでは一般的という場合はレベルを低くした。 こうしてアルカのレベル付けとしてふさわしい辞書ができた。 旧案であった語数については気にしないことにした。 語数などどうでもよく、むしろ重要なのはどの学齢までにおおよその単語を履修してあるべきかということであった。 レベル２を何語レベルとするのは荒唐無稽である。それよりも小学校低学年までに何を覚えているべきかというレベルの付け方のほうが有意義だし実用的である。そこで新案はこのようになった。以下に日本人の学齢に訳したレベル付けを記す。アルバザードの学齢で書いても分かりにくいので、このようにした。何年生までに覚えているべき単語かということがすぐに分かる。 １：赤ちゃんから幼稚園まで ２：小学校低学年 ３：小学校高学年 ４：中学校 ５：高校 ６：大学 ７：専門用語 意外と多いのがレベル２と３だが、よく考えれば子供の語彙力と照らし合わせるとそんなものかなと納得できる語数である。２０１２年１１月２０日の段階で、１７０００強あり、そのうち１が８４８で２が２７５４で３が４５０９である。合わせて８０００。現在、１７０００語のうち半数近くの８０００語が小学校レベルといえる。そして小学生の語彙数は理解語彙か使用語彙か、あるいは計測方法に変わりもするが、あるサイトでは５千～２万語と書かれているので、おおよそ当てはまる。 とりあえずアルカのユーザーがやっておきたいのは２までである。２までやれば現在のルシア程度には喋れることになる。 アシェットの関係者は４までできればおよそ日常生活には困らないのではないだろうか。というのも、日本でいう義務教育レベルに達しているからである。 ちなみに現在４が３４１４なので、大体１７０００のうち４までで１１５００程度になる。これは存外多い。英検でいうと１級が１２０００語レベルと言われているので、ほぼそれに匹敵する。存外多い。というか１２０００だと母語だとかなり少ないレベルで、英検が逆に敷居が低いのかもしれない。 なお、今は全体が１７０００しかないので４までで１２０００ほどとなっているが、今後全体が増えれば当然４までの総数も増えていくと思われる。

ueſɑel ［言語］形態論 ［レベル］6 1L

ueſɒɔɒɟ ［言語］語源 ［レベル］4 1ʔ: 制

ueſhel ［言語］語尾 ［レベル］4 ʃʃ0

ueſɥɔlɔɒ ［言語］語法 ［レベル］4 1ʔ ［語法］ epec

ueſμıd ［言語］コロケーション ［レベル］5 ʃʃ0 ［文化］ アルカは人工言語であり、μɑ で２８ヶ国のメンバーからなるアシェットで使用され発達してきた。アルカの作者セレンはコロケーションが言語ごとに異なることに注目し、どの母語話者でも一意的な解釈ができ誤解がないよう、「論理的」で「最大公約数的」なコロケーション作りをした。その結果、未来でカルディアの国際語として機能する人工言語にまで昇華していった。 食べ過ぎる：ləc μıʅel よく働く：lıb μınel（きちんと働く），ʅılɒı lıb（頻繁に働く），lıb aμſel（熱心に働く）→全て言い分けます。 よく走る：ſə ɒɔɔ ʅe μıſel（この車は性能よく走る），leɑ ſıſel（速く走る），ʅılɒı leɑ（しばしば走る）→全て言い分けます。 少し歩く：ləl ɑenel, ləl ɑə ʅıl（短く歩く）→これは時間か距離か分からないので、言い分ける場合は ləl ɑɔl ɒel ɑen, ləl ɒɥəſ ɑen のようにします。 よく喋る：ʅə eʅɔjel（流暢に喋る），ʅə ɑcl（たくさん話す）→全て言い分けます アシェットの人々はしばしば文脈で判断してくれないというか、判断した結果が誤解になりがちなので、上記のように言い分けて一意的な解釈を促している。 アルカは現実では本来芸術言語なのでこういう設計にする必要はないのだが、無駄に環境が国際補助語的なので、国際補助語として使用できるような性能になっている。

ueſlıɑ ［言語］［動詞］ɥel を造語する、造語する ［普通動名詞］造語 ［レベル］5 1ʃʃ: 制 : 語を作る

ueſlıɑın ［言語］造語者 ［レベル］5 1L ［語法］ 本辞典における造語者について。 ＜主な造語者＞ 無記名→ jeμen による造語。 ɟɔμn →古ソーン・アルカにおいてソーンが造語したもの。あるいは制以降にソーンが制アルカとして造語したもの。ないし、新生においてソーンが新生アルカとして造語したもの。 ılel →アシェットの誰が造語したかよく分かっていないもの。 その他具体的な人名→その人名の人が造語者。 「初」「先」「古」「制」 などは成立年の年代名であって造語者とは関係ない。 「赤」などは文献名であって造語者とは関係ない。 ＜無記名について補足＞ 地球の語源では無記名は原則 jeμen。 アトラスの語源では、μɑ のうち ɒel 1L_LL で無記名なら原則 jeμen。それ以外なら jelın（市井の人々）。 ＜タグごとの補足＞ ［数学］: 無記名であっても主にリュウとパールにリディアによる。 ［化学］: 無記名であっても主にリュウとパールとリディアによる。 ［物理］［生物］［動物］［植物］: 通常通り ［医療］: 無記名の場合、病名は原則としてリュウとパール（ただし 1L 年の専門語彙拡充前にあった単語については、無記名ならセレン）。化学と異なり、「リュウかパール」ではない。リディアはほぼノータッチ。医薬品はセレン。 ［地学］: 鉱物はリディア。 ［美容］［被服］ 化粧や髪型や服装などは ʃl 末に大量の未登録をリディアに指摘され、幻幻から輸入した。年号は元の単語の年数にかかわらず、一律 ʃl として輸入してある。ソースとなった単語群に関しては幻幻は幻日ほど神経質で丁寧でなく、細かい年号の記述が不明なものが多々あったため。これらの単語について幻日で造語者名がない場合、デフォルトは μɑcıcı になるかと思う。 ［経済］ʃl の場合、無標は jeμen ではなく幻英からの転記で、原則として造語者不明（というより書式がいい加減で採録していないケースが多かった）。恐らくほとんどは μcɑcı, μɥəə, lcczı のいずれかと思われる。一部は欠損（案外証券取引所のような基本的なものにも欠損があった）ため、ʃl の一斉転記時にリディアらが造語したものもある。

ueſlıɑenuc ［言語］造語能力 ［レベル］6 μɑ ʃʔ

ueſlɔʅſ ［娯楽］クロスワードパズル ［レベル］4 ʃʃ0: 言葉パズル ［文化］ ジグソーパズルなどに並んでよく行われる暇つぶし。子供が語彙を増やすときの手助けにもなる。仕組みは地球にあるものと同じ。

ueſlec ［名詞］単語帳 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

ueſıμʅ ［娯楽］しりとり、尻取り ［レベル］2 1ʔ: 制 ［語法］ 単語を順番に言い合っていき、レパートリーが尽きた方が負けという言葉遊び。使用できるのは単語だけで、句以上は不可。形態素も使えない。遊び方は次の通り。まず誰かが適当な単語を言う。次の人はその単語の最後の音から始まる単語を言い、また次の人に回す。こうしている内にレパートリーがなくなった者が負けて勝負から離脱する。最後まで残っていた者が勝者。この遊びはネイティブ相手だとふつう最後まで続く前に飽きて止める。そもそもこの遊びの価値は言葉遊びを通じて語の習得を促進させることである。ところでアルカには ɥ,o で終わる語がないので、ɥ,o で始まる語はこのゲームに参加できないが、特別ルールを認めれば ɥ は c から、o は ə から繋ぐことができる。例えば ıμnə を oıl に繋ぐように。

ueſıll ［言語］語数 ［レベル］4 ʃʃ0

ueſc ［言語］品詞 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ueſ から ［語法］ 内容語と機能語を合わせた総称。新生アルカには７種である。

ueſɔɟn ［言語］語頭 ［レベル］4 ʃʃ0

ueſeɑı ［言語］単語リスト、単語表 ［レベル］4 ʃʃ

ueʅ ［名詞］暇、退屈 ［形容詞］暇な、退屈な、お手すき ［反意語］uɔʅʅı ［レベル］2 1ʔ: 制 :uɔʅ（忙しい） ［語法］ 日本と真逆で、アルバザードは暇のほうが忙しいよりもプライドが立つ。日本の場合「暇ですか」と聞くと特にオフィスなどでは嫌な顔をされる。真面目に働いてないだろうとみなされるからである。アルバザードだと逆に「忙しいですか」は特にプライベートで嫌がられる。余裕のない人ですねとみなされたと思うからである。従って誘うときは ſc ɑe ueʅ ʅɔʅɮ（暇じゃないですよね）が適切で、ſc ɑe uɔʅʅıɮ はそれほど気を使っていない（ただし、丁寧でないというレベルでもない）。日本人がオフィスで「暇ですか」と聞かれて「暇です」と答えることがないように、アルバザード人は特に女の子に「暇ですか」と聞かれて「忙しいです」と答えることはまずない。もしそう答えたとしたら、本気で忙しい場合を除き、その子に魅力を感じていないことになる。 ［成句］ cɒ jıłı eſ{ɒɒ} ueʅ お手すきの際に、お手す

きの時に、お手すきの間に

ueʅʃ ［形容詞］後天的な、アポステリオリ ［反意語］ɑeleʃ ［レベル］5 1ʔ: 制 :jɔpɪn:ueʅʃɪɟ（後天性疾患）［語法］［文化］ɑeleʃ

ueʅʃleucɪn ［言語］アポステリオリ人工言語 μɑ ʃʃ ［文化］ ・アルカがピジンからアポステリオリを経てアプリオリに至るまで　９１年当初、アルカは日本語とフィンランド語のピジンだった。その後英語などが混ざっていった。メルの参入後にアプリオリな音象徴からオノマトペを経由してアプリオリの単語が生まれた。　その後も古アルカ～前期制アルカまでアポステリオリの単語が流入していた。中期制アルカでアポステリオリの単語を全て排他し、新生に至る。　・実はアポステリオリな単語　アルカ自身は純粋性を保つためにアプリオリにしているが、凪霧などには個人的な思い入れを持たせてあり、いくぶんアポステリオリの要素が残っている。　凪霧には日本人の女性のような単語が多いが、実際セレンの人生で印象的だった女性の名である。　ɔɔzəe：佐藤こずえ。セレンが小５のころ片想いしていた少女。リディアとほぼ同時期に出会っている。セレンの引越し後もしばしばセレンに手紙を送ってくれた。　ɥəəɔ：村上裕子。セレンが大４で付き合っていた元塾の生徒。後の妻、リディア、メルらとセレンを争奪し合い、史上最悪の４股を形成し、後にセレンは友人に「ヤンデレ製造機」と呼ばれるようになった。　ɥəɔc：瀬井ゆき（恐らくひらがなで良かったと思う）。セレンが小３で初めて付き合った女子。左隣りの席の子で、社会の宿題の商品に貼ってあるレッテル集めを街で行った際にペアワークをし、仲良くなって付き合うことになった。セレンは親のベッドに彼女を連れ込み、当時セックスを知らなかったので挿入まではしなかったがペッティングをした。その前にセレンに自分のことを好きかと聞いてきたのでそこそこしたたかな子である。綺麗な顔で背が高くて細くて目が細くて大人しくていじめられっ子で、後の妻とすこぶるよく似た少女だった。　ɪɥɪɪ：須藤あやか（漢字不明。あやこだった可能性すらあり）セレンが幼稚園の年長で二番目に好きになったひとつ年下の幼女。　ʅɪɟ ɒc：かすみ（漢字不明。苗字不明）。１９９８年１１月１９日（木）にセレンが幼馴染のヴァールと地元の航空公園を歩いていたときに発見した迷子の２歳の女の子。ヴァールが警察へ走り、セレンが抱っこして母親を探した。結局警察が来る前に母親が見つかり、引き渡した。その際に名前と年齢を聞いた。　oɪʅɪnɪ：若菜。大学時代にセレンが恋した９歳の少女。セレンを振った唯一の女の子。

ueʅɪμʅleucɪn ［言語］アポステリオリ国際補助語 ʃʃ

ueʅʃɔn ［人名］ヴェクトン ［組み数字］7 / １３ ［天文］ヴェクトン座 ［レベル］3 先 :ɪnɔeʅefɔɔ ［文化］第４期３代ソーン第７使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ueʅɒ ［動物］カラス、からす、烏 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ueɒʅəfɔ「 闇の鳥 」［文化］ 邪悪な鳥と考えられている。ごみを荒らしたりするので害鳥とされ、役所が処分する。

ueʅɒlɔhɔ ［アイテム］バシネット μɑ;/「カラスの顔のような兜」 ʃʃ ［文化］ μɒ で作られた。

ueʅɒcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］からす座 ʃʃ ［文化］ cɑɪ

ueʅe ［動詞］ɥəl を c から引退させる、引退する、隠居する ［再帰動名詞］引退、隠居 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ueɒʅefʃɪ（闇に行く）

ueʅʃ ［名詞］氷 ［動詞］ɥəl を ɪ（箱など）に氷漬けにする、氷で敷き詰める、氷をまぶす、氷を置く、氷を乗せる、氷で包む ［魔法］ヴェシュト。水の高位黒魔法。敵を凍らせる。 ［レベル］1 ɑφn 1ʔ: 制 :jɔpɪn:ueh。uehɔ からアルシェが ɔ を落としたもの ueh。因みに uehɔ は eehɔ（水）から。長音化しているのは eehɔ が eμcɪ（水）と対立していて、対語の片方は長音化するという決まりに基づく。この決まりを使っているところを見ると、eehɔ は前期から中期にかけてできた語だと分かる。　eehɔ:eehɔ:lə ulcz ［用例］ueʅʃ eɒ eɟc 氷が溶ける

ueʅʃfcɟc ［気象］氷晶 1L

ueʅʃɪɑ ［地球の国名］アイスランド ［レベル］6 1L

ueʅʃɔdleʃ ［音楽］サスフォー ʃʅ

ueʅʃpen ［魔法］［地学］氷晶石 ［レベル］6 1L ［文化］ → ɑɔlɒcɥə メリウス神を魔石召喚するのに使う。

ueʅʃoɪl ［地学］氷山 ［レベル］4 1L

ueʅʃɪɑɕɟ ［法律］氷刑 1L ［語法］ 砕いた氷の中に死刑囚を沈め、動けないように容器の中に立てた柱に縛っておく。首から上だけ出しておく。死刑囚は凍死する。氷に関する犯罪に適応される。

ueʅnɔʃ ［生物］原形質 1L

ueʅʅ ［名詞］悲鳴 ［動詞］ɥəl を ɪ に叫ぶ、叫ぶ、悲鳴をあげる ［レベル］3 1ʔ: 制 :ueɒʅcu ［語法］声と同じく本来は名詞。ʃɪl lə hcnɔʅ ueʅʅ ɟɪ lɪʃ を uellel にする必要はない。

ueleʃ ［気象］［天文］幻の月、幻月、月影、地球照 ［芸術］［医療］主観的輪郭線 ［類音］ucleʃ ［レベル］4 古 :ueleʃ ← uel（闇）/ileʃ（月）。ueleʃ はソーンが良く使い、ɒɥəleʃ と区別していた。アルシェは ueleʃ を ɒɥəleʃ に吸収させ、ueleʃ とは言わなかった。ɒɥəleʃ はアルシェでは多義語であった。

ueɟ ［副詞］一人で、単独で、一人きりで ［名詞］単数、一人、一個、ぽっち、残り、余り、あまり、独り身、一人身、お一人様、おひとりさま、孤独 ［形容詞］単数の、一人の、一人きりの、残った、ひとりきりの、残された、ひとりぼっちの、一人ぼっちの、ぼっちの ［反意語］uɔɟɟ ［音楽］ソロ ［レベル］2 1ʔ: 制 :uɔɟ ［用例］ɪn lɪl lɪl ueɟ. 一人でいたい。 ɪn lɪʃ lɪl uejel. 一人でいたかった。

ueɟʃ ［名詞］独立、独歩 ［形容詞］独立した ［電算］スタンドアロン、スタンドアローン ［政治］独立 ［レベル］3 1L:ueɟʃɪɒ（一人で立つ）

ueɟʃlɪnφ ［政治］独立権 ［レベル］4 1L

ueɟɔ ［言語］母音 ［反意語］ɪɒcɟɔ ［レベル］3 1L:ueɟʃɑɔ。→ ɪɒcɟɔ

ueɟɔɒcɥə ［言語］アプラウト ［レベル］5 1L ［語法］ɒɥəleɒ

ueɟʃe ［形容詞］不純な、穢れた ［反意語］leuɪ ［レベル］3 J0:ueɟd/ʃe ［用例］ɟɔnsel ueɟʃe 不純な動機

ueɟʃəl ［化学］単体 ［名詞］個体、個物 ［レベル］4 1L

ueɟɪɪl ［名詞］自己満足 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［用例］nɪ ueɟɪɪl ɔn{ɒcl} aɟɟ 仕事で自己満足する

ueɟɔlɒ ［政治］独裁、独裁政治、ワンマンな、独断専行な ［レベル］4 μɑ;/ 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ

ueɟɔlɒɪn ［政治］独裁者 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

ueɟɪnɔ ［数学］素因数 ［レベル］4 1L

ueɟɪnɔeɒ ［数学］素因数分解 ［類義語］ueɟlɔcɟ ［レベル］4 1L

ueɟn ［生物］舌、べろ、ベロ ［動詞］ɥəl の味を感じる、味わう ［レベル］1 ɟɔpɪn:ʅəhe から無茶苦茶に変形させた uoeeɒ の意味がアルシェにばれたため、再度変形させたもの。アルシェでは ʅəhe で、原義は口の尻尾。　ʅəXɪ:ʅəXɪ:lə dəlle（口が女なので）［用例］ɪn ueɟn ɒccʅ c{ɒcl} ʃə lcɔnɪ. このカモミールはりんごの味がする。　nɔn ueɟnɪʃ enɪ c lcʅɟ lɪɒ nɔɪn. はじめてのキスは涙の味がした（『初めての恋が終わる時』）

ueɟnɑɪcz ［医療］舌炎 1L

ueɟuɔʅ ［言語］単文 ［レベル］4 1L

ueɟuɔʅn ［生物］単細胞生物 ［レベル］4 1L

ueɟuɔpʃ ［普通動名詞］孤独死 ［動詞］ɥəl の様態で孤独死する、孤独死する ［レベル］4 ɪl;/ ʃʔ

ueɟuef ［言語］自立語 ［レベル］4 1L

ueɟuelɟ ［政治］独裁政治、独裁政権、独裁制 ［レベル］4 μɑ;ueɟʅɔlɒ/uelɟ.l 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ

ueɟuelɟlɪφel ［政治］独裁政権 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

ueɟɑɔl ［名詞］彼女いない歴、彼氏いない歴、独身歴 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［用例］ɪnɟɔɔnɔ, ɪn le ʃcl uejɑɔl ɑel ʃɔlcɟ lənɪl ɪnʃcɟee. 彼女いない歴イコール年齢の俺が来ましたよ。

ueɟɑel ［普通動名詞］独学、独習 ［動詞］ɥəl を独学する、独学する、独習する ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

ueɟpɥəʅɪle ［宗教］一神教、単一神教 μɑ;/ ʃʔ

ueɟɒcʅɟ ［音楽］独唱、ソロ ［レベル］4 ʃʅ

ueɟφɪnɑ ［経済］独占 ［レベル］4 1L

ueɟd ［名詞］煤、すす、スス ［レベル］3 J0:ueμ/ɟɪd

ueɟdel ［地名］ヴェスペル山 ［経済］１０００００ソルト札 ［レベル］2 ʃʅ:μcɑcɪ:ueɟd（煤）火山であることから。 ［文化］ueɟdelcɪ, ɪnɑɪn

ueɟdelcɪ ［地名］ヴェスペリア山脈 ［アクセント］ueɟdelcϯ ［レベル］4 ʃʅ:μcɑcɪ:ueɟdel/ncɪ。貨幣の名前を決めるために ueɟdel ができ、ではその山がある山脈はとセレンに聞かれてその場で作ったもの。 ［文化］ カレンとカテージュ・イマンゼルを区切る山脈。アルバザードーの高さを誇る。最高峰はヴェスペル山で、標高は４９９１ m（ʔLLJ.ΔɒD）。

ueɟhɪnʅ ［生物］単層 μf;/ ʃʃ

ueɟhɪnʅlɔuφɔʃe ［生物］単層立方上皮。腎尿細管などに見られる。 μf;/ ʃʃ

ueɟhɪnʅjczφɔʃe ［生物］単層扁平上皮。血管や肺胞に見られる。 μf;/ ʃʃ

ueɟhɪnʅncɪlφɔʃe ［生物］単層円柱上皮。胃や腸に見られる。 μf;/ ʃʃ

ueɟhɪrl ［言語］独立体、ブロック体、～体 1L ［文化］ フォントの種類。文字が繋がっておらず、分かち書きするもの。ʃɪdhɪrl や ɒɪnɪhɪrl など。

ueɟrlɑ ［言語］自由アクセント 1L

ueɟzeʃɟɪn ［数学］単項式 ［レベル］4 1L

ueɟl ［動詞］ɔɔl は ɥəl に降伏する、降伏する、降服する、負けを認める、負けの宣言をする、降参する、敗北を宣言する ［普通動名詞］降伏、降服、降参 ［反意語］oɔɔφ ［レベル］4 ɟɔpɪn

ueɟlɪφel ［政治］主権 ［レベル］4 1L

ueɟlɪφeʅɪɑ ［政治］主権国家 ［レベル］4 1L

ueɟlɪφelɪn ［政治］主権者 ［レベル］4 1L

ueɟlɔ ［名詞］一存 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［語法］ 自分一人だけの考えのこと。

ueɟlɔcɟ ［数学］素因数分解 ［類義語］ueɟlɪnɔeɒ ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

ueɟɪ ［植物］ゴマ、胡麻、ごま ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɪlʃɪ:ueɒɟə（黒い砂）［文化］ 栄養価が高く、肝臓にもよく、風味もよいということで、アルバザードでは常食される。特に黒ゴマは料理によくトッピングされる。取りすぎると油が多いので注意。

ueɟɪʃ ［植物］ルッコラ、キバナスズシロ ［レベル］4 1ʔ: 制 :ueɟɪ/ʃeʅ

ueɟɪɒɪuc ［化学］ビタミンE ［レベル］4 nɑ;/ ʃʔ ［文化］ ɒɪuc

ueɟɪʅl ［数学］素数 ［レベル］4 1L: 孤独な数。もともと古アルカでメルが「７は素数の中でも孤独な数」と言い出したことで素数や７を孤独な数という考え方があった→ μecɪɪʅl ［文化］ ɪueɒʅlhɪnʃ

ueɟeɟɪ ［言語］自由形態素 1L

uen ［動詞］ɥəl に気付かない、気付かない、気づかない、見逃す ［類義語］μeʅcn ［反意語］lɪʅl ［レベル］2 1L: 恣意 ［語法］ μeʅcn ［用例］ ɪn nɪʃ bɪn enʃɔ ɪn uencʅ bel. 時間に気付かないほどスキーを楽しんだ。

uen(J) ［名詞］黒丸、負星、黒星 ［医療］陰 ［組み数字］2 / ２ ［反意語］ɑcn ［レベル］2 μɒ;ueμ/en「黒いの」 ʃʃ:bel ［文化］ ɑcn

uenʃ ［経済］事業、ビジネス、実業、業種、企業、会社。公私を問わない。 ［経済］企業 ［類音］benʃ ［レベル］3 ɟɔpɪn ［用例］ ɪμ{lɪɑ} uenʃ 事業を興す

uenʃlcɪɒ ［経済］社債 ［レベル］5 1L

uenʃuɪen ［経済］内部留保 ［レベル］6 1L

uenʃμɟlɪn ［生物］［医療］陰維脈 ɟzl;/ ʃʃ

uenʃɪn ［名詞］業者 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ ［語法］「業者に頼む」の場合は uenʃɪn でなく ɑɪlʃ。

uenʃcɟ ［魔物］ヴェンティス（邪竜）：第七十八天：邪の衛天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/ueμen/bel:uenlccʃ/ɑμefcɟ ［文化］ 邪属性の飛竜。中国の龍のような形で、蛇のように長い体をしている。悪知恵に長け、性格は残忍。羽が見当たらず、うねりで風を起こして飛ぶ。

uenʃcɟcɟ ［天文］アルゲニブ 1L:μcɑcɪ/ueμen/bel ［文化］ ヴェンティスの目。

uenʅ ［動詞］ɥəl（内容）で ɪ を脅す、脅す、脅迫する。ʅə と同じ格組。 ［普通動名詞］脅迫、脅し、おどし ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ueɒʅə

uenʅɪɑ ［動詞］c を恐喝して ɥəl を奪う、恐喝する、カツアゲする。格組注意。相手を ɥəl に取れない。 ［普通動名詞］恐喝 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ: 盗むわけでなく、金を相手に出させるので、eɑʃ ではない。

uenʅɪl ［宗教］邪教 zφ;uenl/ɒɥəlɪle ʃʃ

uenl ［形容詞］邪悪な ［反意語］ɒcɑɪ ［レベル］3 ɑu 1L:uenlccʃ からの逆成 uenl:uenl:uenl ［語法］ ɒcɑɪ

uenlnɔoɪ ［生物］［医療］［魔法］邪気 ［反意語］ɒcɑɪnɔoɪ ɟzl;/ ʃʃ

uenlccʃ ［悪魔］ヴェンシート ［生物］盲腸、盲愈 belʃcɪ 0:uenlccʃ;e bel: 古 :uen は ueɒ で、闇。 ［文化］ 邪の魔法を司るデームス。ソームとは同格だがグループが違い、ヴァルテの下。黄色系美少女の姿。邪を司る。大人しい。ヴァルテを慕う。ミダンと仲が良い。　そしてヴェンシートも蝶の翅のような黒い闇の翅で飛び去った。彼女の翅は黒く美しい。彼女の翅は鳥の翼と蝶の翅のようである。しかし彼女は鳥のように飛ぶ。彼女が通る道で、光る黒紫の粉が多く舞い、紫のぼやけた線が残る。　準惑星セレス（ケレス）を司る。

uenuenʃ ［経済］二部上場企業 ［レベル］5 ʃʅ

uenɑ ［名詞］事務 ［レベル］3 ɟɔpɪn

uenɑbɪlɟ ［名詞］事務棟、学生棟、学生部、学生課 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ ［文化］ 学校を経営したり運営する人間がいる棟。学校の事務や運営を行う。学長室（校長室）は職員棟にあるが、理事長室はここにある。ふだん学生はここに用はない。日本の場合、大学にこういった棟がある。学生は定期券の購入のため通学証明書をもらいにいったり、院への進学や留学や就職についての相談をしにいったり、授業料についての質問をしにいったりする。だがアルバザードではアンセがあるので学生ということは分かるため、証明書はいらない。留学や進学に関する説明を聞きにいったりする。授業料は税金から出るので、授業料について相談しにくることもない。

uenɑlɪb ［名詞］事務仕事、事務作業 ［レベル］4 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

uenɑɪn ［天文］セレス、ケレス。準惑星。 ［レベル］4 belʃcɪ 0:ɒcɑɪn/uenlccʃ;ɒcɑɪn/uenlccʃ ʃʔ

uenɑɪμnɔn ［政治］事務省 ［レベル］4 1L:clɒəj;μcɑcɪ

uenɑcla ［生物］プリミジン塩基 μf;uen/dɪnɑɑcla。秋（チミン）と冬（シトシン）なので陰。 ʃʃ

uenɑccl ［地学］アメシスト、アメジスト、紫水晶 ［レベル］4 1L:uenlccʃ/ɑɔl ［文化］ 邪の魔石

uenɑɔl ［娯楽］肝試し ［名詞］お化け屋敷、ホーンテッドマンション ［レベル］3 古 :ueɒ（怖い）/ɑɔlɑəɥɪ（館）［文化］ 夏に涼むために行う遊び。子供は出てはいけない時間なので、見つかると怒られる。実際悪質なＤＱＮがたむろしているのでもない限り、この時期は特別にお説教だけで済むことが多い。最終的には警官の裁量による。　夏のアルバザードは明るいため、夜１０時過ぎにスタートする。たいてい古びた洋館に置いてあるものを取ってくるのがクリアの条件。プレイやーは１人か２人で洋館に入り、目的を達成する。ほかのプレイヤーはその顔を見て楽しむ。

uenɑɔlɪn ［名詞］お化け屋敷の主催者 ［レベル］4 ʃʅ

uenzɔɒ ［魔物］ヴェンゾム（樹憑）：第七十三天：邪の炎天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/ueμen/bel: 邪悪な木 ［文化］ 人食い樹。根が脚になり、枝が手になる。うろが口になっていて、人を襲う。

uenɪ ［動詞］ɥəl を嘆かせる、嘆く、啼く、気に病む ［再帰動名詞］嘆き、慟哭 ［レベル］3 1L:ɒel:ueμ/enɪ（黒い涙）［語法］ 悲しんで泣くこと。 ［用例］ ɪn uenɪ ɪlʅl lej nɔj ɟɔf. 私は自分がしたことを決して気に病まない。　ɪn uenɪf. 悲しみに沈んでいた。　ɪn uenɪf uɔμf e ʃɪʃe. 伯父の死を悲しんだ。

uenɪʅlʅl ［法律］［地名］ヴェナ刑務所 ［レベル］4 μɒ 1L:clɒəj;μcɑcɪ:「嘆きの牢獄」［文化］ アルバザードの刑務所。μɒ に建設。ミナリスが投獄された。

uenɪɑɪc ［天文］イザール 1L:μcɑcɪ/ueμen/bel ［文化］ リベーゼの長とギルが一騎討ちした際、炎の競り合いとなった。リベーゼは渾身の力で「嘆きの炎」を放った。その威力があまりに強く、イザールとして残った。結局ギルは炎で競り負け、炎剣ベーゼラットで斬り伏せた。

uenɪɒ ［形容詞］［ネガティブ］臆病な、ビビリな ［名詞］臆病者、弱虫 ［反意語］eleɑ、ɟcnɪɒ ［レベル］3 J0:ueɒn:ʔʔ: 制

uenɪɒcuʅɪn ［生物］［医療］陰維脈 ɟzl;/ ʃʃ

uenɪ e ʅleeuel ［気象］ゲリラ豪雨、スコール ［レベル］4 ʃʃ

uenc ［植物］小豆、あずき、アズキ ［レベル］3 高 :uenc,uelncd（黒い豆）から。

uencsɪdʃ ［料理］しるこ、汁粉、ぜんざい ［レベル］3 1ʔ: 制

u

uenef ［音楽］縦笛 ［音楽］リコーダー ［レベル］3 ʃ1:uejn/ʃe

ueu ［形容詞］匂いが弱い、微かな匂い、芳香 ［反意語］bɔb ［レベル］3 @ 1L

ueɑ ［動詞］ʃel に負けて ɥel から撤退する、撤退する、退却する ［普通動名詞］撤退、退却 ［レベル］3 1L:clɒəj:μcɑcɪɑ:uɪj/elɑ.

ueɑl ［単位］ヨクト ʃ1:ueɑlcɥ

ueɑlcɥ ［歳時記］冬至 ［名詞］２２時 ［組み数字］２２／２４ ［アクセント］ueɑlЄɥ ［レベル］3 J0: → ɪn lcɪn ［語法］ueɑlcɥ は節気のうちのひとつで、数日間の期間である。一方 lceɥleɪl は冬至というある一日を指す。 ［文化］ɪnlcɪn

ueɑlccl ［植物］ポインセチア ［レベル］3 J0:lɔccɥ

ueɒ ［名詞］(nɪ) 怖い、怖がる、こわがる、恐れる、ビビる ［形容詞］怯えた、怖がった ［形容詞］（ueɒɪn で）怖い、怖がらせるような ［名詞］恐怖 ［魔法］ヴェム。害の禁呪魔法。対象の恐怖心を煽り、発狂させる魔法。使用者はメル。対象に想像力がなければならないため、動物や小さな子供には効きが悪い。 ［レベル］1 ɑ;ue は闇。 古：ueɒ（恐れる） ［用例］ɪn nɪʃ ueɒ enʃɔ uɔμʃ ɹɪʃ. 怖くて死にそうだった。

ueɒʃ ［動物］フクロウ、梟、オウル ［レベル］3 lɪlʃɪ: 闇の鳥

ueɒɟ ［動詞］ɥel をおびやかす、おびやかす、脅かす、脅威となる ［レベル］3 μɑ;ueɒ/ɟɔlɟ JΩ

ueɒu ［名詞］怪物、化け物、化物、お化け、妖怪、モンスター、魔物 ［俗語］ブス ［俗語］体の大きすぎる男 ［類義語］been ［レベル］3 古：ueɒu,ueɒueɒ（怖い怖い）から。 ［語法］ アデルの上位概念。

ueɒulɪnʃɪyefɪn ［娯楽］ＭＰＫ。モンスターを人がいるところまで連れてきてするＰＫ。ログにはモンスター名しか残らない卑 怯な方法。 JJ

ueɒɑ ［地学］花崗岩、御影石 ［レベル］4 lɪlʃɪ: 黒い石

ueɒl ［物理］射影、投影 1L:ueɒɔ/lɪɑ

ueɒlʃlɪ ［地学］投影図 ［レベル］5 1L

ueɒlʃlɪɪɔɒ ［地学］投影図法 ［レベル］5 1L

ueɒɪ ［地名］ヴェマ ［レベル］5 1P: 制 : 古 :ueɒ（闇）から。 ［語法］ ソーンの使徒ヴァルシーラの支配地。ヴァステではサールの本拠地。

ueɒɪ(J) ［アトラスの国家］ヴェマ ［レベル］3 制 ［文化］ 面積：J1LP^JL.0??0^5Δ ˋ1ɔ ˏ

ueɒɪefeˋl ［料理］ヴェマ茶 ［レベル］5 μɑ;/ ʃJ ［文化］ efeˋl 項に書かれたクミールの６分類の元ネタになったのがヴェマ茶で、６分類を持っていた。

ueɒc ［魔物］ヴェミ（邪眼魁）：第七十六天：邪の空天 ［レベル］5 古：恐怖の瞳。小説版アンクノットにも登場。 ［文化］ 巨大な眼に羽が付いた魔物。眼で睨まれると身動きが取れなくなる。ヴェミの羽に煽られるとセレスが乖離し、死に到る。

ueɒɔ ［名詞］影、陰、シャドー、シルエット、影法師 ［数学］三角関数の三角形における a d j a c e n t の辺。 ［美容］シャドー ［レベル］2 1P: 制 : 暗い形 ［語法］ uelʃɹɪcˋ 影と陰の区別はない。 ［用例］ueɒɔ ˋlɪc{hɪn} 大きな影

ueɒɔɟeʃ ［チェス］アンパッサン J0: 影を取る

ueɒɔɥeˋlɪ ［名詞］走馬灯、走馬燈、回り灯籠 ［レベル］5 J0: 影の燈 ［文化］ 内外二重の枠を持ち、影絵が回転しながら写るように細工された灯籠（灯篭）の一種。μɑ でクミールが開発した。アレイユでも雅なアンティークとして好まれる。 日本と異なり、死の直前に関する連想は一切ない。

ueɒe ［化学］アスファルト ［レベル］4 1P: 制 : 古 :ueɒeɒɥe（黒い油）

ueɒelʃ ［魔物］ヴェメルト（翼鬼）：第二十二天：風の空天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:u eɒ/ɒelʃeɟ（怖い顔の悪魔） ［文化］ ガーゴイルに相当する魔物。裸の小鬼に翼を付けたような姿。大きさは成人男性ほど。細身。肌はオスが青でメスが緑。多種多様な魔法を使う。顔は口が裂け、恐ろしい形相。また、角が生えている。

ueɑ ［形容詞］非合法、不法、違法 ［反意語］hɪcl ［レベル］4 1P: 制 : 語源不詳

ueɑl ［普通動名詞］不法侵入、侵略、侵入、侵攻、侵食 ［動詞］ɥel を ɪ に侵入させる、侵入する、侵食する、浸食する、精神などを食う、食い滅ぼす、蝕む、むしばむ ［レベル］4 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj:ueɑlɪʃ ［用例］ɪμbɪzɪμɑ ueɑlɪʃ ɪ ˋleefɔcɪ. アルバザードはケートイアに侵攻した。

ueφ ［医療］いぼ、疣 ［レベル］3 1P: 制 :lɪlʃɪ:uφe(病気の球）が発音しにくいので ueφ になったもの。

ueφɪ ［名詞］弁慶 ［レベル］3 μɑ;uecφɪn.ˋ ʃJ ［語法］ アルカでは、人によって態度を変える人間を意味する。特に人を見て強気な態度になったり萎縮したりする卑怯者のことを指す。内弁慶やネット弁慶や母弁慶など多数あるが、どれも蛇蝎のごとく忌み嫌われ、とりわけ女には一切モテない。 日本語より複合語が細かく、ɪfeueφɪ, lɪlɪueφɪ のように細かい。店でしか威張れないクズ、ネットでしか威張れないクズ、母親にだけは強気なクズなど、どれもクズの極み。

ueb ［動物］ゴキブリ、ごきぶり ［メタファー］汚くしぶとい奴 ［レベル］2 lɪlʃɪ: 黒くて嫌なもの ［文化］ 代表的な害虫で、嫌悪される。

ueɥe ［言語］活用、曲用 ［レベル］5 1L:ueʃ/ɒcɥe

ueɥefcɑ ［言語］語幹 ［レベル］4 1L: 活用を失った ［語法］ 語から屈折部位を取り除いたもの。

ueμ ［色］黒、ヴェール ［形容詞］黒い ［芸術］ベタ ［レベル］1 lɟl;uel,ɑ.ˋ 1L:jɔμn:uel の子音交替 uel:uel:le ˋ1ɪlel

ueμʃ ［名詞］報道、ニュース、新聞、報道誌（週刊誌の類）、放送、知らせ ［レベル］3 ɟɔμn 参考：赤：（fcɟlɔ（「おまえ知ってる？」の意）。fcɟlɔ はアクセントが lɔ にあった。 ［用例］ɪn cn nelʃ ueμʃ e fecˋ cɒ fclnɔ. 私はいつも９時のニュースを見る。 ɪn lɪμɪʃ ucl fe ueμʃ ɒɪn fe eʃ μɪʃ μɪˋl. あまりに嬉しい知らせで信じられなかった。 ɒɒ, jeeɥeʰ ɪn nɪ nɪe ɒɪn fɛμ fe ueμʃ. うん、ありがとう。その知らせを聞いて嬉しいです。 ɪn nɪʃ ncˋ ɒcl le ueμʃ. あのニュースには驚いた。

ueμʃcɥɔl ［名詞］ニュース番組 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃ

ueμl ［形容詞］抽象的な ［反意語］ucʃl ［レベル］3 @ 1L

ueμˋlɪɔ ［地球の国名］オーストリア ［レベル］5 1L: 国章が黒い鷲

ueμˋlɪɑ ［地球の国名］スーダン ［レベル］6 1L: 国名が黒い人

ueμˋlɪcɒ ［地球の国名］コンゴ共和国、コンゴ。コンゴ民主共和国とは異なる。 ［レベル］6 1L: 国章に黒い象

ueμˋɔu ［名詞］収容所 ［レベル］3 1L:clɒəj:μcɑcɪ: 黒い箱 ［語法］ 思想犯や政治犯や異教徒たちを入れておく施設。「アデュの黒い箱」が最も有名。 ［文化］ ＜メルテナのアデュ収容所＞ ɥəəɒɪ ΩΔL にレスティル北部の都市アデュに建てられた、アルテ教徒の収容所。教徒の奴隷化と虐殺が行われた。 その後も現代に至るまで指導者たちによって思想犯や宗教犯が次々と送り込まれた場所で、アトラスで最も多くの人間が虐殺された呪いの場所。 ＜μɑのアデュ収容所＞ ケートイア王が作った反乱分子の収容所で、虐待や拷問や私刑が頻繁に行われた。 cɒəl ˆ1PL? 末にアルシェが収容所を襲撃し、解放した。 ＜ランティス･タンヴェルのアデュ収容所＞ ミナレットは大規模な収容施設を作った。収容所では更生と処刑が公に行われた。更生に向かない人間は処刑され、更生を断念された人間も処刑された。収容所が築かれたのはアデュである。 アデュでは厳しい更生と大量の処刑が行われた。処刑は合理的な方法が選ばれた。見せしめの必要はもはやないので、残酷に殺しても意味がない。むしろ一度に安く大量に殺せるようにした。死体は合理的に扱った。可食部は他の収容者たちの食料として充当された。髪はカツラなどの材料に使われた。脂からは石鹸などが作られた。死体は貴重な資源であった。焼くのは石油などの資源の無駄であるし、死体の無駄であった。死体は資源として活用した。 ［用例］ueμˋɔu ˆlɪɑɥə アデュ収容所、アデュの黒い箱。通常ケートイア国内では ueμˋɔu としか言わない。

ueμˋɔu ˆlɪɑɥə ［ランドマーク］アデュ収容所 ［レベル］3 J0 ［文化］ ueμˋɔu

ueμˋɒc ［普通動名詞］やけ食い、ヤケ食い ［レベル］3 JJ: 「黒食い」

ueμl ［動詞］ɥel をにやっと笑わせる、不敵にほほ笑む、ニヤニヤする、にやける、笑う ［類義語］nɪl ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlfe:ueμnɪl（黒い笑い） ［用例］ fel ueμl leəʃ, ɪuelɪnʃ ɪ,j ɪɒejcˋl nɔj. 不敵に呟く彼女に、死神さえもたじろいだ。

ueμj ［形容詞］どうでもいい、重要でない、全然重要でない、どうでもよい、どうでもいい、取るにたらない、些細な、粗末にして良い、下らない、くだらない、つまらない、なんでもない、さまつな、瑣末な、枝葉な、枝葉末節、なんでもない、何でもない ［類義語］bɪleʃ ［反意語］uɔll ［レベル］2 @ 1L ［成句］ueμj eɒ uɔll 本末転倒、主客転倒 ［用例］ueμjen どうでもいいこと ɥeʃ ueμj どうでもいい問題

ueμjcz ［名詞］黒板 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃ

ueμjɔɥeʃ ［色］黒青い ［レベル］3 J0:ɒelcɑcɪ ɪlcj

ueμjefɪ ［歴史］黒歴史。闇に葬られた歴史や、邪悪な暗黒の歴史。 ［俗語］黒歴史。主に厨二病を患っていたころの消し去りたい記憶のこと。一般に消し去りたい記憶全般を指すこともできる。 ［類義語］ɑɔlɑɒel ［レベル］4 1L ［用例］ fe ɪʃ ueμjefɪ lel nɔn ɪlfcɪn lɪɪbe ɪə. あんな男と付き合ってたなんて黒歴史だわ。 ɪn fcl ueμjefɪ ɑəɔ lel nɔj fclɪʃ ejʃ ɑel "uelɪɪuelɪnʃ uɪ nφɪμɑc" uɪμ ɪnleeuɪ. 厨二病を患ってたころ、「昏き死神ヴァンガルデイ」とか名乗ってたっていうひどい黒歴史がある。

ueμn ［動詞］ɥel を崩壊させる、崩壊する、崩れる、よろよろとその場で倒れこむ、倒れ込む、へたれこむ、尻餅をつく、しりもちをつく、尻もちをつく ［普通動名詞］［自然動名詞］崩壊 ［医療］ただれる。炎症などにより皮膚などが破れやすくなること。 ［レベル］3 ɟɔμn ［用例］ ɒclˋl cl ueμn. 膝が崩れた＝へたれこんでしまう

ueμnlelʃ ［人名］ヴェルンシェルト、崩月 μɑ;/ JJ

ueμnɟɪɪl ［歴史］ヴェルンサールの悲劇 cɒ1ΩLΔ(μɑ);「崩れ逝くサール」 ［レベル］4 J1:μcɑcɪ ［文化］ → uelɟɪμs 1ΩLΔ に起こったセルアの大噴火で、μɑ の引き金となった。 1ΩLΔ セルアが大噴火し、火山灰がフィーリア上空を中心に西アンシャル全域を広く覆う。灰が上空に留まりつづけた結果、気温が低下。これにより農作物が軒並み凶作となり、食糧が高騰。主な被害はヴェルシオン、イネアート、フレディスク、ヒュート、ディミニオン、ケートイア、アルバザード北部に及んだ。 土地柄自給率の低いヴェルシオンは輸入に頼っていたが、アンシャルは国内の食糧確保で精一杯だったため、特にヴェルシオンで食糧が高騰。この時代はまだ飛行機がなく、また航路も開拓されておらず、さらに西アンシャル以外のほとんどの地域と貿易が行われてこなかったため、食糧供給がおぼつかなくなる。 食糧が高騰し、低所得者を中心に餓死者が現れ、民衆の間に不満が生じる。このままでは飢えて死を待つばかりで、奪う以外の選択肢はないというところまで追い込まれたヴェルシオンは飛水晶を利用した飛空挺の開発に着手。これは略奪のための開発であった。しかし国家としては大義名分がなければ戦争はしかけられない。そこで貿易における条約違反を細かくあげつらい、厳しくフレディスクを非難。因縁をつける形で戦争をしかけ、飛空挺を投入。 むろん実際の目的は街を襲って食料を収奪することにあった。それゆえ始めから飛空挺は多くの積載量を見込んで船の形をしていた。造船技術は既にあったため、船型にすれば飛水晶の動力室を設けるなどをするだけですぐに実戦投入できるという利点もあった。船型は一度に多くの兵士を送ることができる点でも効率的であった。略奪後は当然船の重さが増す。そもそもの目的が収奪なので、重量は相当増す。帰りはその分だけクリスタルに負荷をかけることになってしまう。そこで帰りは海路を使うことでクリスタルの消耗を減らした。つまり一度海上に出て着水し、あとは船として帰港する。これだともっとも無駄が少ない。しかも行きは全工程が空路なので、沿岸部以外の街からも直接収奪できる。 このころ飛行機はまだないが、火山灰は飛行機にとって不都合な高さを維持していた。このため飛空挺はその下を飛んだ。飛水晶があれば飛空挺ほど低い高度が維持できた。また飛空挺は上空から攻撃をしたので、ある程度地上に近い必要性もあった。 この年に起きた噴火は農作物の被害から飛空挺を生み、飛空挺は戦争を生み、戦争は μɑ（悪魔と人の戦い）に発展してアシェットを生み、歴史をセルメルから μɑ に変えた。この出来事をヴェルンサールの悲劇といい、これをもってセルメルの終わり、μɑ の始まりとする。 火山灰ごときでまさかこんなおおごとになるはずがないと思うかもしれないが、地球でもフランス革命期に同じような現象が見られる。 同 食料を求めてヴェルシオンから逃げ出す国民が増える。特に女性の比率が高かった。原因は複数ある。１つは筋力が弱いため働き手として不十分で、口減らしのために追い出されたケース。１つは身売りで、これは若い女性や少女に多い。また自らの意思で南の国へ逃げて娼婦になる女性も後を絶たなかった。 精霊族は綺麗だが気位が高く性格もきつく愛想が悪い。そのため扱いづらく高根の花であった。しかし恐慌のせいで身売りをするしかなく、アルナのインプレンにもこの時期精霊が入った。後に戦争が始まると精霊の取扱いが禁じられたが、かえって裏風俗で高値で取引されるようになり、金持ちの奴隷として買われることもあった。 一方同じ精霊族でも ɑcɒcʃɔμc cnɛɪɪʃɔ のように成功した例もある。 1ΩLL 飛空挺が完成。最初に狙われたのは沿岸部にあるフレディスクで、海岸から少し離れた地域が狙われた。続いてイネアート西部、ヒュート西部も襲撃された。 1P00 西アンシャルが連合を作り、対 uellcɔn 戦を宣言。belφɪnɑ はこれに便乗して uellcɔn につき、連合は挟撃される形となった。ここに悪魔と人間の戦いが始まる。 1P01 ヴェルシオンが scnɑcɪ 山脈上に飛空挺の航路を見出す。→ scnɑcɪ

ueμnueμɪnʃ ［医療］境界性パーソナリティ障害、境界性人格障害、境界型パーソナリティ障害、境界型人格障害、ボーダーライン、ボダ ［レベル］5 ul;/ JJ:ɒel

ueμnɑccɪ ［名詞］失恋 ［レベル］3 JJ:ueμn/ɑcɪ「崩れ行く世界」。アクセント移動のため ɑccɪ。

ueμnlenɟ ［言語］ヴェルンレンス ［ランドマーク］ヴェルンレンス図書館。旧レスティリア国立図書館。消失のせいでこのような名前になった。石造りだったため、建物は残っている。 ［企業］ヴェルンレンス社。講談社、小学館に相当する企業。 ［レベル］3 J1 ［文化］ 上代で２度起こった文献の大規模な消失事件。 ɥəəɒɪ Ω000 ［言語］ueμnlenɟ シージア戦で zφ 以前の情報が途絶えた。これにより jzɑ と jzl の区別は μɑ や ɑu との比較で行うこととした。 ɥəəɒɪ ˆ5ΔΩP ［言語］ueμnlenɟ 遷都の際、図書館も近寄れないまま廃棄されたので lɟ 以前の言語情報が途絶えてしまった。そのためこの時代のものは lɟɑ か lɟl の区別しか保証されないものがある。

ueμnɪ ［形容詞］怨みや悪の心、悪意のある、不純な、下心のある。相手に使う と心の奥が読めないという意味にも。 ［名詞］悪意 ［レベル］3 1L ［用例］ ɜɒ, lə fcl ueμnɪ. (ゲーム中に）うぅ、こいつの腹が読めん。

ueμnɪʃɔlɟ ［名詞］天変地異 ［レベル］4 JJ:ueμnɟɪɪl からの類推

ueμnˋlɪn ［名詞］終末思想 ［レベル］4 1L:clɒəj:μcɑcɪ

ueμnɪl ［名詞］皮肉 ［動詞］ɥel を ɪ に皮肉って笑わせる、皮肉る、笑う ［類義語］jcˋll ［レベル］3 1L: 黒い笑い ［語法］ jcˋll

ueμncnɟ ［医療］ただれ目 ［レベル］5 1L

ueμuɪnʃcɟ ［軍事］黒魔法兵 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ

ueμuelɒ ［経済］黒のヴェルム ［レベル］5 JJ ［文化］ 1ΩL 「黒のヴェルム」が発生。ブラックマンデーに相当する事件で、世界経済が悪化

ueμɑμec ［名詞］刺客 ［レベル］4 JJ:「黒い剣」

ueμɑɪbe ［軍事］［化学］黒色火薬 ［レベル］5 μɑ;/ JΩ ［文化］ φel

ueμɑlb ［名詞］賞金首、ウォンテッド、ｗａｎｔｅｄ、お尋ね者、黒札 ［レベル］3 J0: 黒札 ［文化］ アズゲルでは、行方知れずの犯罪者の似顔絵に、犯罪の大きさを意味する札を貼っていった。黒札は大犯罪で、捕まれば死刑を意味した。このころ登場した賞金稼ぎは賞金首を黒札・赤札などと、札の色で呼ぶようになった。セルメルになると札ではなく金額を似顔絵に書き込むようになったため、赤札などの表現は消え、最も狙われた黒札だけが代表として残り、賞金首を意味するようになった。ヴェレイで賞金稼ぎはいなくなったものの、アレイユで復活した。

ueμɑɪc ［魔物］ヴェルファイ（黒炎）：第四十天：火の空天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:u eμ/ɑɪc ［文化］ 霊族。アヴェラントに導かれなかった哀れな魂に憑依した魔物。嘆きと怒りで火の力を持ち、空中に炎のように燃え上がる。

ueμɑcl ［普通動名詞］疑心暗鬼 ［レベル］4 JJ: 「黒い疑い」

ueμɑcnʃ ［地学］［娯楽］ダンジョン ［レベル］3 JJ: 「黒の道」 ［語法］ 地下牢の意味はない。

ueμɑəəl ［経済］インサイダー、インサイダー取引 ［レベル］4 JJ: 「黒の占い師」 ［文化］ 一部の占い師は株価などを予見できるため、占い師は株やギャンブルなどに手を出してはいけないという決まりがある。占い師のギャンブル禁止は zφ からの決まりで、法律として制定されたのは 1l から。現在でも占い師は株などに関わることができない。発覚した場合、資格の剥奪、懲役、罰金などが課せられる。資格のない占い師であっても、株等に関する占いの能力が認められれば有罪となる。自身が買うのはもちろん、人に教えてもならない。 jɒ において裏で暗躍する占い師を ueμɑəəl と呼んだことが転じて、μɑ 以降ではインサイダーをもこのように呼ぶようになった。占い師が激減した nɑ 以降は主にインサイダーの意味で使われるようになった。 現在においても地球同様インサイダー取引は違法。

ueμɒɪl ［天文］ブラックホール ［レベル］3 J0: 黒い穴

ueμɒɪleʃ ［卑語］黒人 ［レベル］3 1L ［語法］ アズゲルで負けたマレットの民のうち、肌の黒い人。黒人の差別語。負け人種というニュアンスがあるので差別的。また、アルバザード人に黒人種がほとんどいないことからも、黒マレットには「非シフェル＝劣等人種」という意味が込められており、差別的。なお、マレット人は黒人だけではない。

ueμɒcɥ ［地名］ヴェルミール、ヴェルミール島 ［アクセント］ueμɒЄɥ。元は uEμɒcɥ だったが、lɪʃ

の影響を受けて変化。　ɑ;e　ʎʔ: 以前にあった語形を再利用。 ［文化］ サヴィア北東の島。ヴェルミール海流が東を走る。

uɐɥɒɕɥʃɕɪe ［地学］ヴェルミール海流　ʎʔ

uɐɥɑc ［名詞］悲劇、災難、災厄、被害、天災、人災 ［類義語］ɐɒʎlɔɪ ［レベル］3　1L:clɒəj:ɥcɑcɪ:uɐɥ/ɑcɪ ［用例］ uɐɥɑc ɑəɔ ləɲìl ləəɟ. 彼らにひどい悲劇が訪れた。

uɐɥɑcɒɕɥɔʎ ［宗教］災厄神　μɑ;/　ʎʎ

uɐɥɑcɪ ［政治］［歴史］ヴェルディア ［レベル］5　1L:clɒəj:ɥcɑcɪ: 黒夢 ［語法］ レイユ期の第六次選挙のこと。特にその日の夜に起きた世界同時クーデターのこと。ミロク革命の初日でもある。

uɐɥɑccɪ ［色］黒緑 ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［語法］ lcɟ と同義で使われるが、区別するときは lcɟ より明るい色として使われる。

uɐɥɑedɐɥcɪ ［伝統色］ヴェール・デペリア、黒きデペリア　ʎʎ

uɐɥφ ［経済］貸付、ローン、貸し付け、貸付け ［動詞］ɥəl を ɪ に貸し付ける、貸し付ける ［レベル］3　1L:ɥcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ:uɐɥφcl（悪の金） ［語法］［文化］ 利子付きで金を貸すこと。重大な違法行為。返す宛てがある人間が金を借りるということ自体、アルバザード人には理解できない。宛てがないから借りるわけで、返せないのが原則。まして借りた額以上など返せるはずがないというのが常識。人から金を借りるなら嫁も彼女も子供も去っていくと思ってよい。

uɐɥφjcn ［経済］貸し渋り、貸し渋る ［レベル］4　1L

uɐɥφuecʃ ［経済］貸し剥がし、貸しはがし ［レベル］4　1L

uɐɥφɑɪe ［経済］貸倒引当金、ローンロス ［レベル］6　1L ［文化］ 革命後は lɪɑɲɪe。uɐɥφ は違法なので。

uɐɥφɪμ ［音楽］レコード ［レベル］5　1L:ɥcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ 現在は既にない。

uɐɥφɪμu ［名詞］青息吐息 ［レベル］4　ʎʎ:「黒い苦しみ」

uɐɥφcnɪ ［死神］ヴェルギナ ［レベル］4　ɒelʃcɪ ʎ:ɪfoɪɪɥə ɔ lənɔ;e　1L:ɥcɑcɪ ［文化］ 四天王（死神四貴族）の一人。女性。夢喰種。美少年好きの死神で、艶やかで豊満な肉体の女性。人間でいうなら三十半ば。傍に一人の死神しか寄せ付けず、ずっとランヴェムを愛でていた。ランヴェムが去った後は、ギメルに寵愛を注いだ。

uɐɥφcnɪʎlʎɪ ［地学］［歴史］ヴェルギナ大陸 ［ユマナ］カザフスタン大陸　ul;/　ʎʔ

uɐɥφcl ［名詞］賄賂、わいろ、ワイロ、袖の下、献金 ［レベル］3　ʎʎ:「黒い金」 ［用例］ ɑcf{φɪ}uɐɥφcl 賄賂を送る

uɐɥφɔɪ ［医療］黄熱 ［レベル］6　1L:ɥcɑcɪ ［文化］ ファベルで起こった病気だが、最初にセルメルで医者に看られたのは黄色人種の少女だった。裕福な家の少女で、速やかに医者の下に連れて行かれたため。黄疸か黒い吐瀉物のどちらで命名しようか迷ったが、少女の肌のせいで白人の研究者にとっては黄疸がそれほど目立たず、結果的に黒い吐瀉物で命名された。結局少女はアンシャルからの白魔導師が間に合わず、死亡した。逆に言えば、白魔導師が常駐していれば、黄熱の存在は知られなかった。

uɐɥdeɑ ［名詞］黒羊 ［メタファー］役立たず、厄介者、使えないもの、できそこない：黒い羊の毛は何色にも染められないので。 ［俗語］インポテンツ ［レベル］3　1L ［用例］ le uɐɥdeɑʃ あの役立たず！　ʃcɪn leeuɪʃ ɪn ʅɔnʃ ʅə ɪn eʃ uɐɥdeɑ ɟcn. 彼女に役立たずって言われて振られてしまった。

uɐɥblɪnz → uɐɥblenz　ʎʎ:uɐɥblenz で定着したため。

uɐɥblenz ［名詞］隠れたコンプレックス ［レベル］4　ʎʎ:「黒い炎」 ［語法］ 自分で自覚していて他人から隠しているコンプレックス、あるいは自分は気づいておらず他人には見えているコンプレックスのこと。 ［成句］ ʅəuɐɥ eʃ nɔɟsɔʃ e uɐɥblenz. 悪口は自己紹介。人は自分のコンプレックスについて他人を嘲る。他人に投げた悪口は自分が密かに気にしていることである。特にネットの掲示板など、相手が見えない場所での悪口は自己紹介に過ぎない。

uɐɥhebd ［名詞］黒大豆、黒豆、ぶどう豆 ［レベル］3　ɟɒ;/。ɪlʃ から流入。　ʎʔ

uɐɥhebdefeʅ ［料理］黒豆茶 ［レベル］3　ɟɒ;/　ʎʔ

uɐɥɑəɔ ［名詞］殺気 ［レベル］3　ʎʎ

uɐɥɔɪl ［地球の国名］モンテネグロ　1L: 国名が黒い山

uɐɥlɪnɟ ［魔物］ヴェルランス（黒天使）：第七十二天：聖の氷天 ［レベル］5　1L:ɥcɑcɪ/ɟeɥen/bel:uɐɥ/lɪnɟ ［文化］ 霊族。黒いローブをまとった髑髏の姿をしており、一撃死ヴォルトの魔法を使う。

uɐɥlccɑ ［地球の国名］ギニアビサウ共和国　1L: 国旗に黒い星

uɐɥlɔl ［名詞］(fcl, nɪ) むかつく、ムカつく、むかついた、むかつかせる ［レベル］3　1L: 黒い腸 ［文化］ カッとした突発的な怒りではなく、「う、うぜえ……！」というようなタイプの怒り。瞬間的ではないが、かといって弱くもない。腹の中で相手をぶっとばす絵を想像しつつ胃が痛くなるタイプの怒り。この状態を怒りで腸が黒くなっていると捉えるため、このようにいう。 ［用例］ ɪn ʃclɪʃ uɐɥlɔl ɪ lɪ. あいつにムカついた。

uɐɥlenu ［娯楽］チート、裏技、裏ワザ、裏わざ、ウラワザ ［レベル］3　ʎʎ

uɐɥlees ［色］黒紫 ［形容詞］悪魔に魅入られた、悪魔に呪われた ［レベル］4　ʎ0:ɥcɑcɪ:uɐɥ/lesɒɒɒe。黒紫は悪魔を象徴する色。 ［語法］ この場合の悪魔は悪魔属だけとは限らない。アクタカやメロウなど、害を成すものを含むし、人間の悪人も含む。　μɑ でアクタカに操られたセレンがこの uɐɥlees の状態にあたる。 ［文化］ lɪnʃe ej uɐɥlees ɒcl lelʃej, ɾlɪ ɑeeɒ. 満月は月の悪魔シェルテスに呪われている。

uɐɥɪn ［名詞］黒人、黒人種、ネグロイド ［レベル］3　1L:uɐɥ/ɪn ［語法］ 黒人のこと。特徴は肌が黒く、背が高く、筋肉がつきやすく、鼻が横に広い。アルバザードにはいなかった人種で、移り住んできた歴史もない。そのためアルバザードでは少数派。南ファベルのほうに多い。元マレット人に多い。地球でいうと南アフリカなどの黒人に相当。

uɐɥɪnʃ ［医療］人格障害、パーソナリティ障害、性格障害、境界例、精神病質 ［レベル］5　ul;uɐɥn/lɪnɟɪ「崩れた人格」　ʎʔ:ɒel ［文化］ パーソナリティ障害は広義において神経症に入る概念である。　ul でクラスターＡ～Ｃに相当する３分類が行われた。　クラスターＡ (μelɑuɐɥɪnʃ)：風変わりで自閉的で妄想を持ちやすく奇異で閉じこもりがちな性質を持つ。　クラスターＢ (oclʃuɐɥɪnʃ)：感情の混乱が激しく演技的で情緒的なのが特徴的。ストレスに対して脆弱で、他人を巻き込む事が多い。　クラスターＣ (nɪuɐɥuɐɥɪnʃ)：不安や恐怖心が強い性質を持つ。周りの評価が気になりそれがストレスとなる性向がある。　その後 ɪl で以下の４分類に改定された。　剣型 (ɑμecuɐɥɪnʃ)　杖型 (zɪɒɔnuɐɥɪnʃ)　盾型 (ɪlbcuɐɥɪnʃ)　套型 (ɑɟɪuɐɥɪnʃ)　剣型は他者の利益を損なうもので、殴ったり騙ったり騙したりする。反社会性、妄想性が該当する。クレーマーやモンスターペアレントも含む。　杖型は寂しかったり自信がなかったりして他者を求める。依存性などが該当する。杖に寄りかかって依存するイメージからこの名が付いた。　盾型は剣と杖の特徴がどちらも際立っているもので、境界性や自己愛性などが該当する。 盾は防御にも使えるが鈍器として攻撃にも使えることからこの名が付いた。　套型は回避性のほか、打たれ弱く自信が欠如していたり根性がなかったりする者も含む。適応障害の一部や新型うつのほとんどが該当する。外套が名前の由来。マントを翻して、飛んでくる攻撃を避けるところから来ている。　●地球のＤＳＭとアトラスの診断基準の違い　現実的に精神科の疾患を分類するには原因も考慮する必要がある。分裂病や躁鬱病のように生まれつき脳に異常があると想定できるものを狭義の精神病とし、脳は正常だが生い立ちや本人の性格や環境によって精神的に不都合をきたしているものを神経症とした。これが μɑ の古典的、伝統的な精神医学である。　狭義の精神病は分裂病と躁鬱病に大別し、分裂病の中にはＤＳＭでは人格障害に分類されている ɾɦhczɔʃɥdɪl も含まれる。　神経症は ul_ɪl では更に細分され、その中の一つが人格障害になる。よって人格障害は精神病と神経症の両方に見られる。　人格障害は人格が形成される前の生い立ち、つまり幼少期から思春期にかけての境遇で決まる。虐待されたことのある人は人を信用することができず、猜疑的になり、裏切られると激しく怒りやすい。親の愛情に恵まれなかった人は情に餓え人から見放されることを極端に恐れやすい。甘やかされて育った人は自立できず常に人を頼りがちである。褒められることなく厳しく育てられた人は、ある人は他人に批判的になり、ある人は自信が持てず何事にも及び腰になる。そのような事情で出来上がった性格傾向で、誰かが困るようなものを人格障害と規程する。　人格障害の種類は決まっているわけではなく、地球の２０１２年現行のＩＣＤとＤＳＭとでも食い違っている。アルカ版の人格障害も既存の分類に縛られることなく、自由に規定して構わない。以下、各クラスタの説明。　剣　人格形成期において他者から攻撃されることが多かったと想定される。その結果、人を信用できず猜疑的になったり、他者に共感できず誰かが困っていても気の毒に思わなかったり、自己を守るために権利意識が非常に強くなったりしている。他者との関わりでは攻撃的になりやすい。　杖　人格形成期において扶養者から過保護にされたり、何事も禁止されたりして、自己の判断で何かをやり遂げる機会が少なかったと想定される。その結果、自立できず、常に他者に頼ろうとする。　盾　人格形成期において愛情や賞賛が乏しかったと想定される。その結果、人の情を求めたり見栄を張ったりする。常に寂しさや不全感や自信のなさを抱えているので、他者から拒絶されたり、貶されたり、否定されたりすると傷付き、人をつなぎ止めるため、あるいは報復のために攻撃的になる。愛情や賞賛を得るためには他者と関わることが必要で、この点で杖と共通し、否定されたときに攻撃的になる点で剣と共通している。　套　人格形成期において我慢を強いられることが少なかったと想定される。その結果、耐え難い状況を回避しようとする。攻撃された結果他者を恐れ、あるいは自立できず失敗を恐れ、他者との関わりや社会参加を避けるようになった場合は、剣の攻撃性や杖の依存性が目立たず、その点で、剣、杖、盾に発展しなかった未分化型とも考えられる。　ＤＳＭによる分類はアルカの分類では次のようになる：　妄想性パーソナリティ障害　剣　スキゾイドパーソナリティ障害　非該当または套　統合失調型パーソナリティ障害　非該当。人格障害ではなく狭義の精神病。　反社会性パーソナリティ障害　剣　境界性パーソナリティ障害　盾　演技性パーソナリティ障害　盾　自己愛性パーソナリティ障害　盾　回避性パーソナリティ障害　套　依存性パーソナリティ障害　杖　強迫性パーソナリティ障害　一部剣または套

uɐɥɪnɔ ［名詞］陰謀 ［レベル］4　ʎʎ

uɐɥɪμʃ ［魔法］黒魔法、黒魔道（正式）、ヴェール・アルト ［反意語］ɑcμɪμʃ ［レベル］3　zφ;/　1L:μcɑcɪ ［語法］［文化］ 敵を攻撃したり呪いをかけたりする魔法。　現実の古アルカにはこれを指す文字は作られなかったが、○の中に△を置いた文字とする。▽にすると白魔法である。

uɐɥɪμʃɪn ［魔法］［ジョブ］黒魔導師 ［俗語］童貞、魔法使い ［レベル］3　1L:μcɑcɪ ［文化］ ɪμʃɪn, beel

uɐɥcʃ ［魔物］ヴェリット（闇蝙蝠）：第二天：闇の陽天 ［レベル］5　1L:μcɑcɪ/ɟeɥen/bel:uel/eɥcʃ ［文化］ 鳥族。大型の蝙蝠。集団で襲いかかり、血を吸いつくす。また、集団で魔法攻撃をしてくる。光に弱く、光の魔法を放つと逃げていく。闇を減少する。

uɐɥcnɟ ［生物］黒い眼 ［レベル］3　1L

uɐɥcu ［物理］超音波 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:uɐɥcʃ/eeu ［文化］ 魔族ヴェリットは獲物を捕獲するときに超音波を利用し、暗闇でも身動きが取れる。アシェットはヴェリットとの戦闘を経て、超音波の存在に気付いた。

uɐɥcɒ ［芸術］ＨＳＶ色空間、ＨＳＢ色空間、ヴェリム　ɟɒ:ʅɔʅcɟʃ;uɐɥɪμʃ/ncɒ「黒魔法色」黒魔法を指す文字が○の中に△で、これがカオシストの考えたＨＳＶ色空間の表現法の形と同じだったことから。実際には色空間は黒魔法とは何ら関係がない。単に文字のデザインの類似性による。　ʎl ［文化］ ʅɔʅcn と色魔法のおかげで地球より遙かに早く、ɟɒ で ʅɔʅcɟʃ によって考案された。現代では円錐形、円柱形もある。３次元表現が難しいため当時は２次元のを用いており、地球と同じく彩度を高さ、明度を底辺とした三角形で、色相をその周りの円で示した。ただし色相環は１２時が黄色になるので注意。　ＲＧＢやＣＭＹＫに比べて人間が色を知覚する方法に近いため、直感的に分かりやすい。　色相は０～３５９、彩度と明度は０．００～１．００の値を取る。色相を０～１００％に正規化する場合もある。例えば色相０は黄色であり、１８０は青紫である。ただし地球の場合、０だと赤で１８０だと青緑である。

uɐɥcɪl,ɟzɟ ʅɔʅɔ　<>uel, uɐɥ。暗くなると大人しくなるところから。

uɐɥɔ ［名詞］ジャーナル ［レベル］4　1ʎ: 制 :uɐɥʃ から

uɐɥeʃ ［名詞］サンプル、検体、見本 ［レベル］3　1L:ueʃəɥ ［用例］ scφ{ɪɪs} uɐɥeʃ サンプルを選ぶ

uɐɥefeʅ ［料理］黒茶 ［レベル］3　μɑ;/　ʎʔ

uɐɥen ［地学］黒曜石、黒耀石 ［レベル］4　ʎʎ:ləɟcɪn:uɐɥ/μen

uɐɥenɟ ［名詞］怪談、お化けの話、ホラー、怖い話 ［レベル］3　1L:uɐɒ/μenɟ

uez ［言語］文法。科目名→ɑeldɪnʃ ［レベル］3　1L:ueʃ/ɔz。uɔʅ/ɔz で uɔz だと、弓と重複するため。

uezʃefɔnɪ ［言語］統合関係　1L

uezueʃ ［言語］機能語 ［反意語］ɪluezueʃ ［レベル］5　ʎ0

uezueɟeɒ ［言語］文法化 ［反意語］ɪluezeɒ ［レベル］6　ʎ0

uezɑel ［言語］文法学、文法論 ［レベル］4　1L ［語法］ 形態論と統語論の総称。

ues ［アイテム］矢 ［名詞］矢印 ［電算］カーソル ［反意語］uɔz ［レベル］2　@ 1L

ueslɪɟ ［弓道］馬手、めて。ふつう右手。　μɑ;/。「矢の手」。矢を番える手であることから。　ʎʎ

ueslɔʃɟ ［電算］カーソルキー ［レベル］3　ʎ0

uescɑ ［地球の星座］［ユマナ］や座　ʎʎ ［文化］ cɑɪ

uel ［名詞］闇 ［類義語］ʅɔuel ［反意語］ɑɪμ ［レベル］2　uel,ɑ　赤　uel:uel:lə uel:ɑμɪfɪncfc,ul ［用例］ uel lce 深い闇

uel,ɑ uel、uɐɥ、nəμne、ucμɑ　ue（闇）/ɪl（もの）

uelʃ ［形容詞］暗い、昏い ［魔法］ヴェルト（ブライン）。害の低位黒魔法。相手の目を見えなくする。フィルトで解除できる。 ［類義語］ɪluelʃ ［反意語］ɑcμʃ ［レベル］1　1L:uelʃeeze（闇の風）　:::ncl,hɥ ［用例］ ez uelʃ 暗い部屋　lelʃ uelʃ 昏い月

uelʃ,ɑu pɪμʅ　ɪuelɪnʃ.ʅ

uelʃuɪcʅ ［名詞］暗い部分 ［芸術］トーン ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［語法］ キャラクタの影になる部分が uelʃuɪcʅ。トーン貼りをするのもここ。キャラクタの作る影法師は uɒɔ。陰になる部分と影そのものの違いに注意。

uelʃφɪnɪ ［魔法］暗領域 ［反意語］ɑcμʃφɪnɪ ［レベル］6　ʎ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥe

uelʃφcɒ ［地学］暗礁 ［レベル］5　μɑ;uelʃ/φcɒlɪ「暗い浅瀬」　ʎʎ

uelʃdɔl ［地名］暗方 ［レベル］5　ʎ0 ［文化］ ヴェマ、リーシア、ヴォザモの地方。ɑcclcɪ と似た方言で、周囲から孤立した地域。サールの恩恵を受け、特殊な文化を持つ。アルシェを英雄視しない。旧共産圏だが、ヴェマだけは中立だった。　ヴァステのときサールの本拠地がヴェマだっただけあって、国民はサール信者。国父はアルデスではなくティクノで、やはりこれもヴァステの活躍が物を言う。国母はポエン。

uelʃɟenɟ ［言語］陰なる言葉、隠された意味、ヴェルトレンス ［レベル］4　ʎ0: 暗い言葉 ［文化］　文学や芸術における表現技法のひとつ。特に革命後の高コンテクスト化に伴って発達した技法で、隠された意味のことを指す。作品はパッと見て分かる前景化されたメッセージのほかに、隠されたメッセージを持つ。その隠されたものを uelʃɟenɟ という。前景化されたメッセージは lienμenɟ という。　lienμenɟ は常に分かりやすく、目立っている。uelʃɟenɟ は目立たず、解釈に知識やウィットを要する。uelʃɟenɟ は素顔とみなすこともできるが、むしろ lienμenɟ を補完するものである。　アルバザードにおいて巧い作品というのは、いかに lienμenɟ を目立たせ、そちらに目を引かせることで uelʃɟenɟ を隠すかにかかっている。なお、隠せばいいというものではない。アハ体験のように、一度 uelʃɟenɟ に気付いてしまえば、「どうして lienμenɟ との関連に気付かなかったのか」と自分でも不思議に思うようなものが上質とされる。　uelʃɟenɟ にはアルバザード人の気質がよく現れている。衒学を嫌うものの、智に敬意を払う姿勢がよく現れている。つまり、真意や真理を前面に打ち出すのは下品であり、真理はさりげなく気付かないところに置けばいいという考えである。また、この技法は彼らの優しさも示している。作品の半分は知識やウィットがなくても理解できる前景にあるため、分からない人も楽しめるようにと考えられている。

uelʃlɔɪl ［動詞］ɥəl を邪推する、邪推する ［普通動名詞］邪推 ［レベル］4　ʎ1

uelʃc ［美容］クマ、くま、隅 ［レベル］3　ʎ1:uelʃ

uelʃcɟ ［人名］ヴェルティス ［組み数字］1 / 1 1 ［レベル］3　古 :μcɑcɪ:uel（闇）/ʃcɟ（人） ［文化］ アルシアの１番目。闇の魔法の大成者。女性。

uelʃɔ ［天文］暗い月、昏い月、ヴェルト、影のかかった月 ［レベル］4　古 :uelɒ/lelʃɔ（闇の月）

uelʃɔlcl ［化学］ランタン ［レベル］5　1Λ: 制

uelʃɔɔl ［魔物］ヴェルトール（闇竜）：第六天：闇の衛天 ［レベル］5　1L:μcɑcɪ/ɟeɥen/ɒel:uel/ʃɔɔl ［文化］ 闇属性の地竜。大型で黒い肌をしている。

uelʃɔɔlheʃ ［天文］ファルカド　1L:μcɑcɪ/ɟeɥen/ɒel ［文化］ uelʃɔɔlɔɟn

uelʃɔɔlɔɟn ［天文］コカブ　1L:μcɑcɪ/ɟeɥen/bel ［文化］ ヴェルトールの頭。封印の際、オヴィがヴェルトールの長と一騎をした。あまりの大きさで封印できなかったため、オヴィは頭と尻尾を切り落とし、残った体を粉砕した。体は木端微塵になり、周囲の小さい星となった。頭はコカブとなり、尻尾はファルカドとなった。

uelʃe ［形容詞］落ち着いている、大人びている、知的でクールだ、冷静だ、良い意味で陰気、

u

落ち着いた ［反意語］ɑcnſ、ɑcμſe ［レベル］3　1L: 闇の風 ［語法］ 陰気を良い意味にした概念。アルバザードでは男女ともとても好まれる。ルティア人と関連付けてイメージされやすい。リディアの父ユーアなどが例。 ［用例］ ın jccnı ſeμ leɒ uelſe cɒ eɟl. 雨の時は沈んだ音楽を聴くのが良い。

uelſees ［天文］ダイヤモンドリング ［レベル］6　Jl:uelſ/ees（uɟのテージュ孔を暗くしたような）

uelſəl ［物理］ダークマター、暗黒物質 ［レベル］4　1L

uelʔ ［経済］会計、経理 ［レベル］4　jɔμn

uelʔlelſ ［経済］四半期 ［レベル］5　JJ ［文化］ 3カ月で四半期となる。ɑcı_lcɟ, φcl_ɑɥə, ɒel_zın, dıl_ɑıu の4つに分かれる。アルシエルを使うと季節に合わないため、順に ıſcclc, ɑcu elınl, ucμſeɟ, ɑcılccuı と呼ばれる。ルージュの月は経済活動が活発化するため、ここだけ ınsəμ として別会計とする。期間の区分けが日本とかなり異なるので注意。

uelʔuınſ ［法律］会計法、経理法 ［レベル］5　1L

uelʔbını ［医療］梅毒 ［レベル］5　1L:μcɑcı ［語法］ コロケーションは ſcl でなく eɒ。 ［文化］ μɑのインプレンで梅毒にかかって客を引けなくなった少女が、症状の軽いうちは経理に回されて事務作業をしていたことから。

uelʔbejſ ［経済］貸借対照表 ［レベル］5　1L: 会計の天秤

uelʔhɔc ［経済］会計監査 ［レベル］5　1L

uelʔı ［名詞］かげ、蔭、陰、物陰、物影、ものかげ、物かげ ［レベル］3　μɑ;/「闇の場所」 JM

uelʔın ［経済］会計士 ［レベル］5　1L

uelʔɔz ［経済］会計制度 ［レベル］6　1L

uelʔɔzeſ ［名詞］封邑、ほうゆう、ヴェルコゼット ［レベル］4　ls;uel,ɑ/ʔɔzeſ「黒の鍵」。封邑という訳語は元々ウォンバスのもので、結界に相当する単語。黄色いファイルの９８年１月６日午前の記述が初出。 JJ

uell ［動詞］ɥəl を ɤ{c} と区別する、区別する、弁別する ［普通動名詞］区別、弁別 ［反意語］jdıſ ［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbıleſſ: 恣意 ［用例］ el uell. ucl ʔıɒc μın cſ ıμſ. jee ʔɔʔ ſə, el jɔ ucl lɥə ɑcı μın c ɑcını. よくできた科学は魔法と区別がつかない。同様に、よくできたファンタジーは現実と区別がつかない。

uellıuıc ［言語］弁別的素性 ［レベル］6　1L

uellcɔn ［アトラスの国家］ヴェルシオン ［レベル］3　zφ;「闇の底」 Jl ［文化］ 面積：1JJʔʔ.1Δ1ΔΔʔ ʔɒ ］ zφ ～ μɑ まで続いた魔族の国家。精霊族と妖精族がマジョリティを占め、２大勢力による共同統治を行う政治システムを採用していた。精霊族と妖精族の長が同時に執政官として就くという共和制を採った。　bılbıɥə から移住してきた魔族が当時人口の少なくなっていた ɑcclcı と φılueeɥə そしてそれに加えて cneıılɔ 北部を領土として支配したもので、主な経済基盤は鉱物と材木の輸出。最も有名なのは家具→ ɑcɒcſɔμcı　zφ_ʔl は人間と比較的良好な関係を維持していたが、jɒ 初期に calcſ を発見。ɑlcıʔeμn が多く産出され、uelɟıμs 開発に着手。jɒ 中期から飛空挺を利用した軍事政策を展開。人間との関係は悪化し、戦争に至る。μɑで敗戦し、滅亡。 ［成句］ el jıʔ jen ɑısen ʔı uellcɔn ſcɟ ヴェルシオンでも親切な人は見つかる：渡る世間に鬼はない

uellcɔnμen ［言語］ヴェルシオン語 ［レベル］4　Jl ［文化］ belφınɑμen

uelle ［天文］夜月、夜の月。通常の月 ［レベル］4　JJ:uel/lelſ ［文化］ ɾəəle などと対比される夜に見える通常の月のこと。

uelɟ ［政治］政治 ［レベル］3　jɔμn: 代表者で行われる会議を指した語。 ［用例］ ıμ uelɟ μıſ 善政をしく

uelɟɔnɔ ［政治］行政。三権のひとつとしての行政。 ［レベル］4　1L

uelɟɔnɔʔı ［政治］政府のこと。 ［レベル］4　1L

uelɟɔnɔlıφel ［政治］行政権 ［レベル］4　1L

uelɟɑɔnl ［政治］政治的無関心、政治的アパシー ［レベル］4　1L

uelɟɑel ［政治］政治学 ［レベル］4　1L

uelɟdcnı ［政治］公約 ［レベル］4　1L ［文化］ ヴェレイでは日本同様、公約を破っても何のペナルティもなかったため、無意味な美辞麗句ばかりが並んだ。公約を守らねばペナルティを科すという制度を一度取り入れたところ、失脚を狙った敵対勢力が公約の実現阻止を激しく行うようになり、かえって国民のためにならなかった。そのため、ペナルティ制は廃止。革命では選挙制そのものが消えたため、公約はミロクの口にする約束事になった。ミロクは驚異的な能力と精神力で多くの公約を守り通した。

uelɟlıφel ［政治］政治権力（政治的な権力） ［政治］政権（政権交代や独裁政権などの政権） ［レベル］4　1L

uelɟıʔn ［政治］政治思想 ［レベル］4　1L

uelɟın ［政治］政治家 ［レベル］3　1L ［文化］ 革命後は選挙でなく、試験で選出される。

uelɟıμs ［交通］飛空挺、飛行船、飛空艇、ヴェルサージュ ［レベル］4　古 :μcɑcı:uel は暗い。s は scnı で空。jμ 部分は不明。J/ıμ で切れて ıμ の部分は神かもしれない。下から見上げたときに空を隠すので暗くなるというような意味だと思われる。 ［文化］ → calcſ、uellcɔn、lelſıμs、uεμnjııl、scnɑcı　uεμnjııl でヴェルシオン国が開発。その後、西アンシャルへ南下しつつ侵略と略奪を開始。その過程で技術が流出し、侵略された側の国家も次々と飛空挺の開発に乗り出す。1ʔ0ʔ 年にはヒュート・ケートイア・アルバザードが協同で飛空挺の開発に成功。軍事的重要性から火急的に製造が行われ、1ʔ1Δ に国軍への配備が完了。　構造は一言でいえば大きな船である。中心部に飛水晶が安置された部屋があり、動力室を兼ねる。飛水晶は上下の移動は容易でも前後の移動を苦手とするため、艦隊側面部にプロペラを付けたり、甲板に柱を建てプロペラを回す。あるいは帆を張ることもある。このプロペラを回すには別の動力クリスタルが、帆を張るには強い風を起こすためのクリスタルが別途必要となる。　甲板や側面部・前面部には砲台があり、火器の砲台のほか、霊水晶から巨大な ɑɔʔl 砲を撃つための砲台がある。　飛水晶の慢性的な枯渇から、アルバザードでは飛空挺の数がどうしても足りなかった。　飛空挺自体は造船技術があれば比較的簡単に作れる。実際ヴェルシオンは悲劇の翌年に飛空挺を完成させている。一方連合は１０年以上も開発に時間をかけている。この理由は造船技術にはない。連合はクリスタルが圧倒的に乏しいため、少ないクリスタルを効率よく使って飛空挺を作るシステムの構築に時間がかかったのである。また、連合は略奪の必要性がないため、対空戦用の小型で小回りの利く飛空挺の開発をする必要があり、これが船のデザインを適応できないため、開発に時間がかかった。実験には当然クリスタルが必要だから、クリスタルが少なければ実験の頻度も減り、結果的に時間がかかるというわけである。　なお、μɑ で飛水晶を掘りつくしてしまい、飛空挺もほとんど破壊されてしまったため、nɑ 以降は飛んでいる姿を見ることができない。　また、μɑ でアシェットは lelſıμs を使っているが、これも飛空挺の一種である。ただし lelſıμs のほうが古い。　飛空挺の空路については scnɑcı 参照。　当初は食料の略奪に使われたが、戦争が激化するごとに兵士を大量に輸送することが主な役割となった。 ［成句］ uelɟıμs μɔɔ 青天の霹靂、晴天の霹靂、寝耳に水、やぶから棒　uelɟıμs μıuel「また飛空挺かよ」：捲土重来

uelɟɔz ［政治］政治制度 ［レベル］4　1L

uelɟeɑ ［普通動名詞］横流し ［動詞］ɥəl を横流しする ［レベル］4　Jl

uelnıμ ［名詞］正義に対する悪、悪 ［形容詞］悪の、悪、悪い ［反意語］ɑılcɟ ［アクセント］uelnʔμ ［レベル］2　J0: 古 uel/nı/μıɥsc（暗い心に触れた） ［語法］ dμɔdıılı

uelnıμen ［名詞］悪人 ［レベル］2　μɑ;/　J?

uelucɑ ［魔物］ベルヴィド（黒肌鬼）：第三十一天：土の空天 ［俗語］ガングロギャル、メイクの激しいギャル、ギャルメイク、大柄な黒人 ［レベル］4　古 : 黒ゴリラ ［文化］ 大型で黒い肌をしたアデル。目の周りに大きなクマがある。

uelɑ ［医療］水腫 ［レベル］6　1L:leun/elɑe（病気の泉）。泉はここでは体内に水が貯まっていることを指す。

uelɑccμe ［生物］魔人、ヴェルフィーレ ［反意語］lɔzeſ ［レベル］3　J1:jllc。uel は ɑu の「闇」と同根で、ここでは悪魔の意。 ［文化］ 人と魔族の混血児。悪魔・魔物のいずれでも可。魔方のみならず、精霊や妖精のいるイネアートやエルトアなどにも見られる。アリア＝イネアートなど。

uelɒ ［悪魔］ヴェルム ［歳時記］闇曜日。週の第１日目。 ［音楽］ド ［組み数字］1 / 7 ［レベル］2　ɒelſcı 0:uelɒ;e　古 : アルシェの語形。ue は闇。 ［文化］ ソームの１番目。冷静沈着な女性。闇を操る。黒い仮面にレイピアを装備。漆黒の服。黒いマント。黒い仮面の女。体は細身で、レイピアを帯びる。無口。冷静。

uelɒlcl ［化学］スカンジウム ［レベル］5　1Δ: 制

uelɒıμe ［ランドマーク］ヴェルマーレ研究所 ［アクセント］uelɒʔμe　J0 ［文化］ ɥəəɒı ʔΔʔ0 イヴレスはアンダントを抱き込み、指示に従わない lɥəɟcı には研究費の援助を行わないと脅迫する。これに対し、各 lɥəɟcı が徒党を組んで反発。lɥəɟcı はレスティル全土に 11 箇所あり、各研究所の所長が共同でアルシアに uelɒıμe 研究所を設立。各所長は一季節に一度ずつ uelɒıμe に集まり、各々の研究所の成果を述べ合った。このときの所長はいずれもユクレシアが初期に教えを授けた同期で、苦楽を共にした仲間であり、個人的に非常に仲が良かった。lɥəel には見せたくない内容でもお互い目の前でということなら腹を割るという間柄であった

uelɒc ［植物］ライ麦 ［レベル］3　古

uelɑ ［名詞］酒、アルコール ［レベル］3　zφ<ɟzɑ　jɔμn: なお、古では μce、μeμcc（誘惑の水）　μce:μce:lə uelɑ（μcen 神が男なので） ［文化］ → eel（酌）　飲酒は法制上は ɒıu 以降だが、現実的にはザル法で、革命時にすら守られたことがない。ɥəlc 時は儀式のときなどには可。ɒılſ 以降なら常飲しなければお咎めを受けない。　この法律が効果を発するのは飲酒運転で捕まったときなどであり、ɒıu 未満は量刑が重くなる。　お咎めがないのはこの法律が ul のミナレット下でできたものであり、アルティス教は「酒は年齢に関係なく酔わなければ可」としているためである。　il でミロクはこの法を撤廃しようとも考えたが、未成年の深酒を励行すると受け取られる可能性を危惧して取りやめた。　なお、酔っぱらいに対しては日本より厳しめで、比較的すぐに警察に保護される。 ［用例］ uelɑ ucen キツイ酒、度数の高い酒、強い酒。ラム酒など。　uelɑ ɑız ef dcſı 適量の酒は薬：酒は百薬の長　ɑın ɔn uelɑ 酒に強い、酒豪だ　ın hɔſ len ucl uelɑ ɒcl ſɔlcɟ lɔſ leɟ ɑʔlıſ ı ɑıſɔcılnı e ɑcɟ. 今日の稽古上げに参加した人の中で唯一私だけが年齢的にお酒を飲めない。

uelɑʔı ［名詞］居酒屋、バー ［レベル］4　1L:μcɑcı:ıμbıleſſ ［文化］ アルバザードは知らない人と外で飲むのは嫌う。酒屋で買って自宅や公園で一人、或いは気の合う数人と飲むのが好きである。ゆえに飲み屋は発達しない。居酒屋のようなところは少ないし、キャバクラのような店も少ない。ピンサロのように飲み屋と風俗が合体したものは存在しない。飲むときは飲み、セックスするときはセックスするからである。飲み屋はふつう料理店と同じである。アルバザードに飲み屋単体で存在することはない。

uelɑuıel ［名詞］酒瓶 ［レベル］4　μɑ;/　JM

uelɑɒıφc ［音楽］ビバップ　ul;「酒酔いのジャズ」　J1

uelɑıſe ［名詞］酒屋 ［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbıleſſ

uelɑc ［色］紅、くれない、クリムゾン ［レベル］4　J0:ɑclueeɥə「暗みがかった」

uelɑcʔɔcn ［植物］アマリリス ［レベル］5　μɑ;/「紅の百合」　J? ［文化］ ケヴェア原産。色は赤や白など。μɑ で流入した。

uelɑcμ ［魔法］魔母、ヴェルディール ［アクセント］uelɑϵμ ［類義語］ɪɑel ［レベル］4　J1:<>uel ［文化］　アデルの母。アデルと魔人の違いは繁殖の仕方にある。魔人は性生殖によって人間と同じように生まれるが、アデルはアデルの母がいなければ繁殖できない。ちょうどヴェルディール女王アリのような存在である。　アデルの繁殖方法は種によって様々であるが、どのような繁殖であろうとハーベは cɔjel を持ったアデルに lɥəɑel をしようとしても、アデル（およびデルフィア）の遺伝子は投げられたセレスを受け入れることができない。一方、魔母はセレスを受け入れることのできる個体で、いったんセレスを魔母が受け取りそれをアデルへ lɥəɑel することで ɒıllcɔı が成立する。　言い換えればアデルの祖となる１００匹の魔母を倒してしまえばアデルは再生産がされないということになる。デルフィア（亜魔族）の場合、元のアデル（魔族）の祖が魔母となる。混血のアデルの場合、血の濃いほうの魔母が lɥəɑel を担当する。　この祖はアデルというよりデームに近い存在で、殺すことができず、殺しても復活する。厄介なことにテームスなしで自己再生できる。この点でテームスにもある程度近いといえる。　従って μɑ ではアシェットはこの祖を見つけて星座に封印することで魔族の再生産を阻害したことになる。魔人は性生殖によって再生産できるため、魔人はその後も生き続けることになる。残ったアデルは人類による地道な討伐によりその数を減らしていった。　問題は飼いならされた竜族のような有用な種も滅んでしまったことである。ペガサスのようなエタンとアデルの混血の場合、魔人と違ってアテンとアデルの混血でないため、魔人のような再生産はできない。やはり再生産には魔母が必要であり、これがペガサスらが滅んでしまった原因である。

uelɑcı ［歴史］ヴェルディア族 ［レベル］5　J0: 古「暗い土地」 ［文化］ アルカンス交易をしていた豪族。レスティルを建てる。

uelɑcın ［歴史］［地名］ヴェルディアン帝国 ［レベル］4　J0: ヴェルディア人の。n については ſclɟ ıɒe 参照 ［文化］ ɥəəɒı JI0 にシフェランが建てた帝国。ɥəəɒı JI0ʔ から東西で冷戦が開始。これに合わせてシフェランは内政を強化。シフェランはレスティル国のヴェルディア族出身で、まずはレスティルを平定し、その後周辺国家を属国としていった。占領地には自分の配下を王（ɑıcz）として置き、属国としていた。　JI0 年に内政を強化するために属国への支配を強めようと、シフェランは王の上に皇帝（cllınſ）という地位を作り、自分を初代皇帝と呼び、ヴェルディアン帝国を作った。この帝国はレスティルを宗主国とし、それ以外を属国とする形でできており、上下関係の明瞭な連合国と言い換えることができた。帝国の初期の版図はアルカット西岸からスカルディアまでであったが、最大版図は ɥəəɒı ʔ0000 の第十次シージア戦争直後である。アルカット西岸からルティアまでを含んだ史上最大の帝国であった。　しかし同年シフェランが戦死すると、帝国は分裂。属国が次々と独立し、帝国は崩壊。レスティルは宗主国でなくなる。

uelɑcel ［軍事］ヴェルディエル、紅漿 ［レベル］4　J0:uelɑc/eμcı ［文化］ アンジェリカのカルゼーレを満たす赤色の液体。ディアメル同様、セリエットを上げるためにある。酸素を多く含み、パイロットはヴェルディエル内で酸素が吸えるようになっている。

uelɑəμne ［気象］朔夜、さくや ［レベル］4　J0:μcɑcı:ɒcμɔʔ: 暗い夜 ［文化］ 月のない晩のこと。

uelɑəμne ɑμecφclɑ ［人名］ヴェルドゥルネ＝フレイギルド、朔夜（さくや） ［レベル］4　J0:μcɑcı:ɒcμɔʔ ［文化］ リーファ隊のアルソンの本名。

uelφı ［アイテム］方天戟　jzʔ;uelφc.ʔ　JM

uelφıμ ［魔法］［ジョブ］色魔導師、ヴェルガール ［アクセント］uelφʔμ ［レベル］4　J0:uelφılſ ［文化］ uelφılſ

uelφıμen ［言語］色詞、いろことば ［レベル］5　JJ:uelφıμ/μenɟ ［文化］ lcɟſcnı　lcɟſcnı において３６６日にそれぞれ関連付けられた言葉。例えば ɒeljel の ɑcı ɑcı は「大切なもの」という色詞を持つ。

uelφılſ ［魔法］色魔法、ヴェルガルト ［レベル］4　J0:「黒門」。μɑ での命名当時まだ古アルカなので、この uel は闇ないし黒。 ［文化］ → lcɟſcnı　μɑ で、アルシェの準使徒の少女ファミイ＝アマンゼ（旧姓ファミイ＝クルノース）はセレンと共に色魔法の研究をした。元々色は魔法の効果を持っていたが、アルシアも体系化していなかった。色彩感覚と魔法の才能があったファミイはアシェルフィの学校で色魔法部を設立し、セレンを引き込んだ。当時は色で魔法を体系化するという発想は馬鹿げているとされ、人は誰も集まらず、たった２人の部活となった。セレンは無理やり引き込まれる形になったが、ファミイに片思いされていることを知っていたので、黙って付き合った。　その後ファミイは色魔法学を大成し、３６６種の伝統色を定め、メル暦に合わせて１日ずつ色を配色した。色魔法部が低予算で、黒い門の横にある寂れた小屋しか宛がわれなかったため、ここで開発された色魔法のことを「黒門」と呼ぶようになった。

uelφc ［アイテム］戟、げき　jzɑ;uelſ/ɑcφc　JM

uelse ［料理］ヴェルジェ水 ［地名］ヴェルジェ ［ユマナ］［料理］ペリエ ［レベル］2　zφ　JM ［文化］　アルナ南東部に位置する街の名。太古の地殻変動により天然ガスを含む地層と地下水層を偶然結合され、天然の発砲水が生まれた。これがヴェルジェの街から湧き、古代から吐き気や後の胃アトニーにあたる病気にいいとされ、愛飲されてきた。zφ ではシフェランなどの指導者が、ʔl では英雄アルシェらなども愛飲してきた。現代でも最も愛飲される炭酸水で、特に革命の影響を受けて酒やジュースの代わりに飲まれることが多い。地球でいうペリエに当たる水。

uellcl ［化学］セシウム ［レベル］5　1Δ: 制

uelı,ɑu dclı　ɒelſcı JI?:beμſ;uel.ʔ（黒の）　J?

uelınſ ［交通］一本道、長い直線の道 ［法副詞］～するしかない、～するより他はない、～するほかはない、～するよりほかはない ［形容詞］とても長い ［ユマナ］［娯楽］道中 ［類義語］ſeel ［反意語］ıluelınſ ［レベル］2　ſɒ;uelınſcɟ（死者の道）| 一本道であるところから「する以外の方法がない」というメタファーになった　1L:ıuelınſcɟ（死者の道） ［語法］ ・格詞用法　格詞 uelınſ も複雑なイディオムを一語にまとめた便利な語である。もし uelınſ がなければ jc zcʔɔ ılſ ſcl jɔ ſɔſɔ という迂言法を取らねばならない。新しい複雑な格詞を作るのは、プログラムで新しい関数を作るのに似た感覚を覚える。関数は複雑な処理をひとつにカプセル化したものと考え

ることができるため、格詞との類似性がある。 〔成句〕 φcn eſ ʔelʃ uɪpen uelınſ 商売は長い道の旅路：商いは牛のよだれ　uelınſ ɑcɥſ 前途洋々、前途有為、前途有望 〔用例〕 ɔɔɥſ uelı nſ ɒcl μcdφcl 借金で死ぬしかない

uelınſe 〔形容詞〕[ポジティブ] [ネガティブ] 頭が固い、頑固な、一本気の 〔類義語〕 ɑɔllɔ、ʔnıʃuɔl 〔反意語〕 jeɑı 〔レベル〕3　JO:uelınſ/ſe（一本道のような）〔語法〕uelınſe は良くも悪くもある。言い分ける場合は ɑɔllɔ などを使う。 〔用例〕 〔メタファー〕uelınſe ɥen μcɑcı リディアのように頑固な：一本気があるという意味もあり、中立的 〔メタファー〕uelınſe ɥen ſlɔʔ ガムのようにしつこい：粘着質で悪い意味で頑固

uelınse 〔筐堺〕ヴェルアンジェ、ベルアンジェ、ヴェランジェ、ベランジェ 〔レベル〕5　μɑ;uel/ınse「闇よりも昏き空」 飛空挺にて各国の空を襲撃し、大地に影を落としたことから。 JJ 〔文化〕 筐堺司：μıuı uıμɟcclı 筐堺国：uellcɔn, cneııſɔ lcıφ

uelıl 〔生物〕悪魔、魔物 〔類義語〕lcnɟ、ɑeeɒ、ɪɑel 〔アクセント〕uelʰl、uElıl(ɑu) 〔レベル〕3　ɑu;uel/ıl　JO:ʔılce: 古 uel/ıl（闇の者）　uelıl:uelıl:lə uelıl 〔語法〕 ɑclueeɥə 語

uelcz 〔動物〕虫 〔類義語〕ʔəədɔ jzɑ 〔レベル〕3　JO:μcɑcı:ueμ/lccz（黒くて小さいもの）無論黒い虫以外も含む。　ʔəədɔ:ʔəədɔ:lə uelcz:φın 〔語法〕 ʔəədɔ より意味の広い語で、虫全般を指す。虫だけでなく、クモやミミズ、果ては場合によってはトカゲやクラゲなどをも指す。　アルバザードではとにかく嫌悪され、たいていのアルバザード人は見ただけで動転する。

uelczφııl 〔農耕〕虫害 〔レベル〕4　μɑ　JJ

uelef 〔名詞〕バトン 〔レベル〕4　μɑ;ɥuelef.ʔ　JM:ʔəlcı/μcɑcı。JM にバトンを始めた紫亞はバトンを zɔn と呼んでいたが、バトンをやるようになってリディアとともに ɥuelef から造語した。 〔文化〕 アトラスでは魔法のロッドを女魔導師がくるくる器用に演舞して回したところからバトンは来ていて、その関係で女子のスポーツである。μſ に確立した。バトン自体は μɑ でロッドから派生して作られ、芸や余興や演舞として始まったが、スポーツ化したのは μſ。μɑ ではバトンでなくロッドでバトン演舞をやることもあった。

uelefʏɔɟ 〔運動〕バトントワリング 〔レベル〕5　μɑ;/　JM 〔文化〕 uelef

uelej 〔宗教〕ヴェレス 〔反意語〕lefcɟ 〔レベル〕3　古：uelej ← uıleſcɟ。音の脱落と母音調和による変化を経た。 〔文化〕 lefcɟ

uelen 〔地学〕黒水晶 〔類音〕uılen 〔レベル〕5　ʔL:uel/μen（闇の宝石）〔文化〕 闇の魔石。uılen とイメージも音も似ているため、関連付けて考えられる。

uelec 〔歴史〕ヴェレイ、暗黒期、革命前のレイユ、桑首の大獄、きょうしゅのたいごく 〔レベル〕3　ʔL:jeμen:uel/lecɥə（暗黒のレイユ）。信者から見て暗黒時代。異教徒からすればアレイユが暗黒の歴史だろうが。

uec 〔代詞〕一部の人、もの 〔レベル〕1　JO:μcɑcı:ue:ʔM: 恣意。ue では le,ne と区別しづらいため 〔語法〕 和訳すると「～な人もいる」が適切なことが多い。 〔用例〕 uec ɒcn jcn lcdl. ケーキが嫌いな女性もいる。

uecſ 〔動詞〕ɥel（物）を c（人）から奪う、ɥel（人）から ɔn（物）を奪う、奪う、強奪する、略奪する、略取する、掠取する 〔動詞〕ɥel を連れさらう、連れ去らう、連れさらう、さらう、拐う、奪う、攫う→ ſlcɑ 〔普通動名詞〕強奪、連れさらい、連れ去り、連れさり、人さらい、略奪、略取、掠取 〔レベル〕2　ʔL:ucenea∫ 〔語法〕 壁塗り構文と同じく、ɥel の種類によって ɥel 以下の格が変化する。 〔用例〕 ſə uecſcʔ 10 ſɔlcɟ{jıl} cſ ın.　1 0 年寿命が縮んだ。

uecſəl 〔代詞〕一部のもの 〔レベル〕2　JO:μcɑcı

uecſəleſ 〔代詞〕一部のものの 〔レベル〕2　JO

uecʔ 〔植物〕実、植物の実、果物の実 〔レベル〕2　ʔL:jeμen:uınʔ/ɥeʔ

uecj 〔政治〕議会、議院 〔レベル〕4　JO:μcɑcı:uec:ʔſ: 制：語源不詳

uecjuelj 〔政治〕議会政治 〔レベル〕4　JO

uecjın 〔政治〕議員、国会議員 〔レベル〕4　JO:μcɑcı

uecjcıſ 〔政治〕議院内閣制 〔レベル〕4　ʔL

uecn 〔形容詞〕もっと～、より～だ 〔名詞〕より～なもの、よりよいもの、より大きいもの 〔反意語〕ucjſ 〔レベル〕1　ʔL: 恣意：制では uıɔ だが、V C C は言いづらい。 〔用例〕 lı eſ lele. ſıl ın eſ μıſ uecn. 彼は賢いが、私はもっと上だ。

uecnſμen 〔法律〕加重処罰、加重処分 〔レベル〕6　μɑ;/　Jʔ

uecnʔlɑ 〔経済〕強国 〔レベル〕4　ʔL 〔語法〕 ucenʔlɑ

uecnʔlcſſɔ 〔娯楽〕ワンナップ、ワンアップ、一機アップ、エクステンド、エクステ 〔レベル〕3　JJ

uecnnca 〔名詞〕レベルアップ、グレードアップ、バージョンアップ 〔類義語〕uecnenuc 〔反意語〕ucjſncɑ 〔レベル〕3　Jʔ

uecnneʔ 〔経済〕一段高 〔レベル〕JJ

uecnı 〔地球の国名〕ロシア 〔レベル〕4　古

uecnıdle 〔政治〕[軍事] ヴェイン・アプレ、富国強兵 〔レベル〕4　ʔL:「より多くの帆を」 〔文化〕 ナディアに行われた植民地拡大政策で、日本における富国強兵に相当。

uecnıdlen 〔企業〕ヴェイン・アプレン 〔レベル〕Jʔ 〔文化〕 日本郵船に相当する企業。

uecnenuc 〔名詞〕パワーアップ、レベルアップ、グレードアップ、バージョンアップ 〔類義語〕uecnnca 〔反意語〕ucjſenuc 〔レベル〕3　Jʔ

uecɒ 〔名詞〕事件 〔類義語〕jɔɑı 〔レベル〕3　ʔL:ɒelcɑcı ılcj: 恣意 〔用例〕 uecɒ ɑəɔ ıſ jɔɑ. ひどい事件が起こった。

uecɒjlıʔ 〔名詞〕事件現場 〔レベル〕3　ʔL:ɒelcɑcı ılcj

uecɑ 〔地学〕ベリル、緑柱石。これに色が付いたものがアクアマリンやエメラルドなどと呼ばれる。 〔レベル〕4　ʔL:uecμen/ɑɔl。意味的な逆成。

uecφ 〔サール〕ヴェイグ 〔動詞〕ɥel という内容の約束を ſel に対して破る、ɥel 相手にしていた ɔn に関する約束を破る 〔反意語〕hıcn 〔レベル〕2　μcɑcı: 古 〔文化〕 ゴブリンのような醜く小さい体をしたサール。貧相な小男の姿をしている。背筋は曲がっていて顔もしわがれて醜いが、白くて立派な服を着ていて身なりだけは良い。ラヴァスにおいて「私は４つの魔晄源をエルトから奪ってみせる」と公言し、散々サールからのもてなしを受けておきながら、戦闘になった途端すぐに劣勢に陥り、こともあろうにエルト側に寝返った。しかしその汚さに秩序を重んじるクレーヴェルは怒り、ヴェイグを捕らえるとサールらの元へ送り返した。ヴェイグが約束を破ったことに怒ったハインはヴェイグを八つ裂きにした。しかしヴェイグは死にきれずにアトラスを彷徨い続けた。 〔用例〕 ın hɔcſ lı lını lı uecφ elɑ ın. 彼が私との約束を破らないように、彼を監視した。 ın nıſ sɔ ɒın lı uecφıſ ın. 彼が約束を破ったので怒った。

uecφuepınſ 〔医療〕虚偽性障害、虚偽性パーソナリティ障害、詐病 〔レベル〕5　ul;uecφ/uepınſ　Jʔ:ɒel 〔語法〕 病状などについて虚偽を並べ立てる精神疾患の一種。

uecφl 〔形容詞〕矮小な、小物、小者、卑しい、しょぼい、ザコ、どうでもいい、取るに足らない、みじめな、情けない、ちんけな、チンケな、有象無象、十把一絡、みっともない 〔類義語〕beſſel, lenıj 〔反意語〕ɑıcſ 〔レベル〕3　ʔL:uecφın（魔物のヴェイガンのような）〔語法〕 偉大の反対。要するに「しょぼい」さま。 〔用例〕 cɒ le, ɒec ıſcʔ ɒıu uecφl le lccı becnjıſ ɔʔ nıl lı. あのころの僕らが笑って軽蔑した恥ずかしい大人にあのときなったんだね（中谷美紀『砂の果実』）

uecφın 〔魔物〕ヴェイガン（小鬼）：第百天：無属性 〔レベル〕3　古：uecφ/lın 〔文化〕 ナイフを持っていて、角が生えている。子供くらいの大きさしかなく、背が丸まっている。　エルトとサールの娘ユーマの男根から生まれた魔物。ユーマは両性具有として生まれるはずだったが、誕生と同時に生まれた世界の歪みテームスと分化する際、男根を引っ張られ、持っていかれてしまった。その結果ユーマは女になり、奪われた男根はテームス内で魔族の一種として再生産された。その魔族がヴェイガンである。ヴェイガンは従ってユーマの一族のなりそこねであり、すなわち人類になれなかったものを意味する。それゆえヴェイガンはあらゆる魔物の中で人間に最も近く、知能もあり、μɑ ではアンジュのようにアシェットに加担するものまで現れた。 〔成句〕 nɔl e uecφın 烏合の衆、雑魚の集まり　uecφın lc{en} uecφın 雨後の筍。集団で群れる性質のあることから。

uecφınlɔɔb 〔被服〕リバティキャップ 〔レベル〕JO;/　JM 〔文化〕 jɒ で uecφın がよく身に着けていた。

uecφen 〔卑語〕せむし、傴僂 〔レベル〕3　Jʔ:uecφın 〔文化〕 使わないこと。

uecμen 〔魔法〕[地学] ヴェイレン、エメラルド、緑柱石（エメラルドとしての）〔組み数字〕4 / 1 0 〔レベル〕4　ɒelſcı 10:lənɔ;ueeɥə/μen　ʔ9:μcɑcı: ヴェーユの宝石 〔文化〕 → ɑɔlɒcɥə ノアの魔石。

uecz 〔電算〕動画 〔レベル〕3　ʔL:ɔulecj。言いやすいように子音を有声音で固めた。lecj と距離を離すためでもある

ueczhɔjc 〔電算〕動画ファイル 〔レベル〕3　ʔL

ueczel 〔言語〕動画辞書、動画辞典、ヴェイゼル 〔レベル〕4　Jʔ:uecz/ʔlel

uecl 〔格詞〕さもなくば 〔レベル〕2　ʔL: 制 :uel 〔用例〕 jıb ıμn uecl ſc ſcl eɑı. コートを着ないと風邪引くよ。

ueclın 〔代詞〕一部の人 〔レベル〕2　JO:μcɑcı

ueclınſ 〔代詞〕一部の人の 〔レベル〕2　JO

ueclcl 〔化学〕ベリリウム 〔レベル〕4　ʔΔ: 制

ueɔ 〔植物〕アヘン、阿片 〔レベル〕5　jɔμn

ueɔn 〔医療〕モルヒネ、モヒ 〔レベル〕5　jɔμn

ueɔnı 〔名詞〕ヘロイン 〔レベル〕5　jɔμn

ueɔɒ 〔形容詞〕おどおどした、きょどきょどした、挙動不審な、びくびくした、ビクビクした 〔レベル〕3　ʔL:ueɒ/ɔu 〔用例〕 lcnı eſ ʔılɒı ueɔɒ. リナはよくきょどきょどしている。

ueɔz 〔植物〕芥子、ケシ 〔レベル〕5　jɔμn

ueeɥə 〔地名〕ヴェーユ、ヴェーユの滝、冥滝 〔レベル〕3　μcɑcı: 古 :foɪıɥə は長音なので長音でない uecɥə だったが、後に ueeɥə になった。悪を通過させないという解釈はパールによって加えられた。リディアはこの語はあの世の入り口程度にしか設定しなかったのである。更にフルミネアはセレスがここから生まれるとした。 〔文化〕 トワーユの入り口にある小滝の名。ヴェーユの飛沫はセレスになり、セレスは肉体を持って現世に行く。死ぬとヴェーユに戻ってくるが、罪に汚れたセレスは地獄に行く。それ以外はヴェーユを通り、天国へ行く。　| 約 1ʔ9 億年前 |μɥel に ueeɥə が生まれ、jelej が発生 |

ueeμ 〔形容詞〕最後の 〔反意語〕lıɒ 〔文頭純語〕最後に、最後は、最終的には、結局 〔レベル〕2　μɑ;ueeμ,lſ < beej,ɑu.l　ʔL: 赤で beej なので beej にしていた、卑首 be を含むので嫌だといわれ、恣意にした。bel の料理は変わらないのだが。　benſlıj,ɑ beej,ɑu:beej 〔用例〕 ɑcj ıſ jel jɔɥſ ueeμel lɔſ ſə lceμ. 今日はこの冬の最後の冷え込みだった。

ueeμncıj 〔経済〕引け成行、引け成り行き　JJ:ueeμsenſ/ncıjφıμſ

ueeμuınɑ 〔名詞〕ファイナルアタック 〔法律〕暴徒の命がけの暴発 〔レベル〕4　JO 〔語法〕 どうせ自分はもうこれで終わりだと思った人間が取る行動は主に自殺か暴発である。日本人は性格的に自殺が多いが、自己主張の強いアルバザード人はこんな風になったのは世の中が悪いと思って暴れることが多く、自殺よりも他人を巻き込んだ暴発を行いがちである。これをファイナルアタックという。死刑覚悟、ないし犯行後に自殺することを前提とする。　良い意味では、仲間を助けるために敵に最後に決死の一撃を加えることも同じくファイナルアタックという。

ueeμuıcʔ 〔料理〕最後の一口、ヴェール・ヴァイク 〔レベル〕3　JO: 最後の部分 〔語法〕 動詞は必ず ſcl や ſıɑ でなく ɥeſı を使うこと。 〔文化〕 アルバザードは大皿から自分の小皿に取って食べるスタイルだが、大皿に最後ひとつ残った場合、それを誰が取るかがどこの国でも問題になる。残った場合、目下が必ずひとつ上の目上に薦める。目上はさらにひとつ上に薦め、最終的に一番目上の人物に薦められる。目上はこのとき各人の口調から相手の好みや空腹度を察し、「誰それ君が食べなさい」と言う。もし誰も食べたそうでなければ、自分が食べる。この気配りができるかが目上としての裁量を問われる部分となる。

ueeμuelʔ 〔経済〕決算 〔レベル〕5　ʔL 〔文化〕 uelʔlelſ 四半期＋ ınsəμ に行う。総決算はメルセル前に行われる。ほとんどのサラリーマンにとってはファーヴァの月から作業が始まり、ルージュで佳境になる。

ueeμφıμſ 〔経済〕終値 〔レベル〕6　JJ

ueeμsenſ 〔経済〕引き、引け 〔反意語〕ueeμsenſ　JJ → eeſ

ueeμıſſ 〔名詞〕最後の会談、別れ 〔レベル〕4　ʔL:lcɔn 〔文化〕 単なる別れは ɑɔɔuı であるが、もう二度と会わない場合は lıɑɔɔuı という。もう会わないことが前提である。遠くに引越したり死別したりしたときに使う。相手も lıɑɔɔuı と返す。lıɑɔɔuı はこのように物理的な距離が遠のく永遠の別れを指すが、精神的な別れも表わせる。職場恋愛の恋人同士が別れるときも lıɑɔɔuı といえるが、これは恋人という関係にある相手との永遠の別れを指す。職場でまた明日顔を合わせるが、そのときはもはや恋人ではない。少なくとも恋人としてのその人とは永遠にさようならをしたわけである。このように精神的な意味でも lıɑɔɔuı が使える。また、死別した相手に冥福を祈る場合は特に lclɒı という。相手は無論何も返せない。死んだ人の家族は jenſınſ と返す。また、相手と別れるときに「奥様によろしくお伝えください」と日本語では言うが、この習慣はアルバザードにない。相手の妻に配慮する際は、「奥さんはお元気ですか」などと聞く。

ueel 〔言語〕音節、シラブル 〔レベル〕4　ʔL: 恣意

ueele.ɑu　dclc　<>uel

uə,ɑ　ɔcl

uəlɑ,ul　ɑɥeſcj

uəlɒı 〔被服〕ジゴ袖　nɑ;<lſ　JM 〔文化〕 lſ の貴婦人が着ていた袖が nɑ で輸入された。

uəəɒı,ɑu　ɪıɒd　e

uəəl 〔形容詞〕人為的な、意図的な、作為的な 〔反意語〕ɒcueſ 〔レベル〕4　Jʔ: 古 uə（意思）/ 古 ıl（物）〔用例〕 uıſıc uəəl 人災

ɑ

ɑ　ɑelɒ

ɑɑ 〔演繹音〕ぱたぱた、バタバタ、ばたばた、バタバタ、ふぁさふぁさ、ファサファサ 〔レベル〕2　JJ 〔語法〕 羽ばたくときの風の音など。翼や扇などの音。 〔用例〕 ɑıɪɑ ふぁさーっ uıɑ uıɑ. バタバタ、バタバタ

ɑɒ 〔単位〕ファインメルフィ、センチメルフィ、C M 〔レベル〕2　JO

ɑɥɑ 〔演繹音〕ぴゅー、ぴゅうぴゅう、ぴゅうぴゅう、ピュー、ピュウピュウ、ピュウビュウ、ひゅー、ひゅーひゅー、ヒュー、ヒューヒュー 〔レベル〕3　JJ 〔語法〕 風の音に用いる。 〔用例〕 ſeeze ınɑ jɔɑ{ıμ} ɑɔ ɑɥəəɑɑɥəəɑ. 風がぴゅーぴゅー吹いている。

ɑμɑ 〔言語〕ファルファニア語。ɑμɑj は現代ファルファニア語 〔レベル〕5　Jʔ

ɑμɑj 〔言語〕現代ファルファニア語 〔レベル〕5　JJ

ɑμɑɑ 〔言語〕中ファルファニア語。μɑ はここに当たる。　JJ

ɑμıſıncſc 〔アイテム〕フラタニティ 〔レベル〕4　μɑ:μcɑcı;ul で「闇」 JM:μcɑcı 〔文化〕 → φel ヴァストリアの１つ。セレンのもつ戦闘用ナイフ。

ɑμıʔ 〔名詞〕４分の１、クォーター、クオーター、１５分 〔類音〕ɑμıl：特に注意 〔レベル〕2　古

ɑμın 〔数学〕関数、函数。プログラムの関数は ɔddel。 〔レベル〕4　lıʔſı:ɒel

ɑμınlcɥ 〔魔法〕魔香士、フランシエール 〔医療〕[美容] アロマテラピスト、アロマセラピスト 〔アクセント〕ɑμınlcEμ 〔レベル〕4　Jʔ:lſ 〔文化〕 lɑμınj

ɑμınj 〔気象〕温風 〔反意語〕alenj 〔レベル〕3　Jʔ: オノマトペ

ɑμınje 〔魔法〕魔香、フランセ 〔アクセント〕ɑμınjE 〔レベル〕4　Jʔ:lſ >< ɑμınj 〔成句〕 ʔɔμ ɑμınje ı ～に求愛する 〔文化〕 lɑμınj

ɑμıl 〔名詞〕ほとんど 〔形容詞〕ほとんどの、殆どの 〔副詞〕ほとんど、ほぼ、ほぼすべて、ほぼ必ず 〔類音〕ɑμıʔ：特に注意 〔レベル〕1　ʔL:clɒəj:μcɑcı:ɑμeɒ φıl ɔʔjφıl 〔語法〕 確率・頻度両方の意味を持つ。ıleəſ や ləſ よりは弱い。代詞 cl の影響で前置することもある。

ɑμıφ 〔交通〕フラーグ、竜のタクシー 〔レベル〕5　ʔl;hɥ　JJ 〔文化〕 ʔl に hɥ で始まったサービスだが、実際には個人規模でそれ以前から同等のサービスがあったという。ʔl でアルバザードにも浸透し、μɑ まで続いた。 〔成句〕 ɑıcj e ɑμıφ 足下を見られる、足元を見る。客の疲れを足元で判断していたことから。 〔用例〕 lı ıſɒıſ eμ ɑılſcl ʔɔnſ ıμ ɑıcj e ɑμıφ jcn. あいつ、足元見て水を高く売りつけやがった。

ɑμcj 〔形容詞〕間接的な 〔反意語〕clj 〔レベル〕3　JO:ɑμcl:ʔL:jeμen/μcɑcı:ıμbıelſ: 恣意。ɑμıl,ɑμel と似すぎるため。 〔用例〕 ſıl ın jeμ lə ɑμcjel ɒın lə uɔμſıſ μ ın ɑcıj. ただ、祖父は私の生まれる前に亡くなったので私は祖父のことを直接には知らない。

ɑμcjleu 〔言語〕隠喩、メタファー 〔レベル〕5　JO

ɑμcjɒıne 〔生物〕外分泌 〔レベル〕5　μſ;/。汗、唾液、胃液など、組織や臓器から導管を通して

分泌されるため。　 ɟʍ

ɑʮcɟɒcnɪl ［政治］間接民主制、間接民主主義、代表民主主義 ［レベル］4　ɟ0 ［文化］ ヴェレイでミロクが滅ぼした。

ɑʮcɟɑclɑɪc ［医療］間接灸　μɑ;/　ɟʍ

ɑʮcɟɥclɑ ［経済］間接金融　ɟ0

ɑʮcɟɥɑlɥeɩ ［言語］間接目的語 ［レベル］6　ɟ0

ɑʮcɟɥʎ ［親族］婚族 ［レベル］5　ɟ0:ɪL:ʮcɑcɪ:ɥbɪlelſ

ɑʮcɒ ［化学］顕微鏡 ［レベル］4　@ ɪL:clɒəj:ʮcɑcɪ ［語法］ ɟɔdɒedc 接眼レンズ　ɑɪɥɪɔɟ 鏡筒　ſclɪ アーム　scſ 焦点ハンドル　hɔɥl レボルバー　ſəlɒedc 対物レンズ　ʅlɪd クリップ　ɑeɥəj 絞り　ele ステージ　bɪlſɒed 反射鏡　elɪl 台座　ɟɪſɔl プレパラート　ɒcɟɪele スライド　ɒcɟlɪlɔnɟ カバープレート ［文化］ ɪɥſɑʮcɒ

ɑʮcɒcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］けんびきょう座　ɟʍ ［文化］ cɑɪ

ɑʮccɥ ［アイテム］双龍槍、フリーグ ［レベル］4　ɟ0:ɑɥeſcɟ/ɑcɥc（飛竜の槍） ［文化］ 棒の両端に勾玉形の刃が付いた武器。古スカルディアの竜騎兵が好んだ。魔方の支配が長かったカテージュでは現在も体育の時間に剣の代わりに履修することができる。　騎兵は直線方向の攻撃力が大きいため、槍と相性が良い。一方竜騎兵は３６０°に振り回せる武器のほうが好都合で、かつ槍のようにレンジの長いものが好まれた。

ɑʮɔɒ ［動詞］ɥəl を熟考する、熟考する、考えこむ、考え込む、高度に思考する ［レベル］2　ɪL: 高い :ɑlɔn ［用例］ ɪn lɪμ ɑɥɪl dɪμɒɪn en ɑʮɔɒɪſ jccɪ ſɔ eſ ɑlcɟ əl el ſɔ ɪl ɪlɪn ʅɔnſ en ɥəuſ jccɪ ʅcnen. 思うにほとんどの日本人は正義が何かとか社会をどうすべきかなんて深く考えたことがないし、苦労した経験もないのだろう。

ɑʮeſcɟ ［動物］飛龍、飛竜。竜の一種。 ［レベル］4　μɟ;μʅ 古 :ʮcɑcɪ ɑʮeſcɟ:ɑʮeſcɟ::uəlɑ,ul ［成句］ ɑʮeſcɟ ʅɪen ɥμɪnbel 峠を渡るときに飛竜：渡りに舟　cl ɑʮeſcɟ ej μſ すべての飛竜の準備ができている：順風満帆　ɑʮeſcɟ uɔʅlɪ 東奔西走 ［文化］ ſclɒ μɟ でルカリア人が翼の生えた竜のロゼットのうち、人間並みの知能を持たないものを家畜として飼いだしたのが最初。最初は山間部の物品運搬用に用いられたが、μɟ の間に兵科としての ɑʮelɪnſ が登場した→ ɑʮelɪnſ

ɑʮeſcɟʅɪɑ ［地球の国名］ミャンマー、ビルマ ［レベル］6　ɪL: 地形が飛竜のよう

ɑʮeſcɟdɔl ［地名］飛竜方 ［レベル］5　ɟ0:ʮcɑcɪ ［文化］ 北方のうち、ヒュートとイネアートを指す。飛竜人の土地。

ɑʮeſcɟμɪ ［建築］飛竜小屋 ［レベル］5　ɪL:clɒəj:ʮcɑcɪ ［語法］ 野営地や基地に併設される小屋。飛竜の盗難防止のため、屋根は馬小屋よりも堅牢。 ［成句］ ɑɪn ɥən μɪej e ɑʮeſcɟμɪ 飛竜小屋の屋根のように固い。堅牢である ɪL:clɒəj:ʮcɑcɪ

ɑʮelle ［名詞］若い男、フレッシェ ［類義語］ucl ［反意語］lɪɒcɪ ［レベル］3　ɟ0:lcnɪ:「間接的な誰か」。le ɑʮcl が複合語になり、ɑʮclle になり、アプラウトして ɑʮelle になり、子音が音便して ɑʮelle になったもの。レレゾナの意中の男性がこの年代であり、実名を伏せるためにリナがぼかして「間接的な誰かさん」と呼んだ。それがきっかけで、以降この年代の男性をそのように呼ぶようになったそうだ。ただしその男性は２０代で、その年代を指す言葉は既に ɪlnɪɪſ があるため、より広い語義を得た。 ［語法］ おおむね ɪlɒɪnɪ/ɪlnɪɪſ だが、ɪlſɔnɪ を含むことも。

ɑʮellel ［名詞］意中の男性、片思いの相手の男 ［反意語］lɪɒcɪn ［レベル］3　ɟ0:lcnɪ:ɑʮelle/ 古 ɪl（もの）

ɑʮeɟſ ［名詞］迫力 ［レベル］3　ɟ0:ɑʮeɟſcɪ（悪魔フレスティアが迫力にあふれていたことから） ［用例］ ſcl ɑʮeɟſ 迫力がある、大迫力の　jc ɑʮeɟſ ちんけな、チンケな

ɑʮeɟſcl ［アトラスの国家］フレスティル ［レベル］4　ɪL:ʮcɑcɪ:ɑʮeɟſcɪ ［文化］ 面積（本土のみ）：ΛΙΡΛΙ.0J00ΛL ɔɒ ⌋

ɑʮeɟſcɪ ［悪魔］フレスティア ［レベル］4　ɒelſcɪ 0:ɑʮeɟſcɪ;e　ɒel/ɒccμ:llel: 4 色の霊力を使うデームスはリディアが創造したが、それらを司る上役がいなかったため、メルとクミールが共に作り上げた。 ［文化］ ユノを司る悪魔。ユノを司る。黒い甲冑に身を包んだ長い大剣を持つ剣士。ニムラの上司。ヴァステでカルザスに倒される。このときフレスティアに刺さって曲がった剣が jeμſcɪ という大鎌になり、後にクミールに渡る。　土星を司る。

ɑʮeɟſcɪɒcʅſɪl ［天文］アルニタク　ɪL:ʮcɑcɪ/ɟeμen/ɒel ［文化］ ɔɔɔμɪlccɑɪ

ɑʮeɟſcɪɥəʅɪɪ ［天文］オリオン星雲　ɪL:ʮcɑcɪ/ɟeμen/ɒel ［文化］ ɔɔɔμɪlccɑɪ

ɑʮeɟſcɪlɪnʅſɪl ［天文］ミンタカ　ɪL:ʮcɑcɪ/ɟeμen/ɒel ［文化］ ɔɔɔμɪlccɑɪ

ɑʮeɟſcɪɔjn ［天文］アルニラム　ɪL:ʮcɑcɪ/ɟeμen/ɒel ［文化］ ɔɔɔμɪlccɑɪ

ɑʮen ［形容詞］澄んだ、澄む ［反意語］beſc ［レベル］3　ɑu;e。意味は朝露。後に澄んだという形容詞に。　ɪlɪſɪ:ɑʮen（朝露）。液中に余計なものが多い状態が濁りで、少ないのが澄みである。 ［用例］ μɪd ɪſ ɑʮen nɔɑ μ)ɔl cɒ ſə ɑɪμ ɒɪn eμlſ cɒ ſɔlel. 昨日雨が降ったおかげで朝の空気がいつもより澄んでいた。

ɑʮenſ ［化学］ミョウバン、明礬、みょうばん ［レベル］5　ɑu;ɑʮen/ſe「澄んだような」。上質の井戸がない場合、質の悪い水にミョウバンを入れて不純物を沈殿させて飲用に使うことがあったことから。　ɟʔ

ɑʮenlen ［形容詞］［ポジティブ］清貧な、貧しい、慎ましやかな、つつましやかな、つましやかな、慎ましい、つつましい ［類義語］ſcɑ ［反意語］φɪlɑnɪl ［レベル］3　ɟ0: 澄んで食べる ［文化］ アルバザード人が最も重視する価値観のひとつ。食だけでなく服や暮らし向きなど、すべてにおいて適応される。 ［成句］ ɥəlɑɪn cʅn ɑʮenlen. 学者は清貧を尊ぶ：武士は食わねど高楊枝。アルバザードにおける学者や芸術家の基本的なあり方。アルバザードでは学者で金持ちだと嫌われる傾向にある。学者は贅沢をしない。清貧を尊び、最低限度の生活をしながら研究に勤しむ学者こそ真の学者であると考えられている。

ɑʮenj ［生物］羽根 ［類義語］ʅeμn ［レベル］2　ɟ0: 古 ɑʮen/μbe（朝露をまとう） ［語法］ 妖精や蝶の羽根のように、１枚のフィルムのようになっているもの。羽が何本も集まってできた翼とは異なる。

ɑʮenɑɪlcɟ ［名詞］清廉潔白 ［レベル］3　μɑ;/「澄んだ正義」　ɟʔ ［用例］ lɪ ſcl ɑʮenɑɪlcɟ. 彼は清廉潔白だ。

ɑʮenbeel ［俗語］童帝 ［類義語］beel ［レベル］5　ɪl;/「澄んだ童貞」　ɟʔ ［語法］ ハーレム少年漫画の主人公のように、女の子にちやほやされてハーレム状態なのに手を出さず一線を越えない童貞のこと。つまり、やろうと思えばいくらでもやれるのに、あえてやらないという紳士のこと。これは童貞の中でも勝ち組であり、ある意味脱童した人間より格上とみなされる。

ɑʮeɑ ［形容詞］合理的な、無駄のない、効率的な ［反意語］bebel ［レベル］2　ɪL:ɑʮeɒɔnſ（近道） ［用例］ ſə ɑe ɑʮeɑ. 合理性がない（jeμen ɪμbɪzɪμn）同人が物事を却下するときに言う言葉。毎日のように使う。合理性か芸術性がないことはくだらないこととして嫌悪し、行わない。

ɑʮeɑɥɔl ［動詞］ɥəl を節約する、節約する ［レベル］3　ɪL ［用例］ ɪnj ɑʮeɑɥɔl eμ ſ'eμlɔμ. うちでは水道の水を節約して使っている。

ɑʮeɑɪnɔz ［音楽］エコノミーピッキング　ɟ1

ɑʮeɒ ［形容詞］近い、周囲の、周りの、近隣の ［格詞］～の近くに ［感動詞］あぶないあぶない、危なかった一 ［化学］メタ ［反意語］alɔn ［レベル］1　1ſ: 制：短距離。古の ɪſə,ɪlə などから遠近を作ると「ここ」の ɪſə などに似てしまい、作りづらいので、別の語源を取った。　lɥɪ:ɪſə:ulɪ nɑ ［成句］ eɒ ɑʮeɒ ɪ 近寄る、近づく、近付く ［用例］ μſe, le ɪſ ɑʮeɒ. あぁ、危なかった。　jee μecɥə ɑʮeɒcʅ ɪ lə, ſcɪʅ lə uɔl bcʅ lɪj ləəſ nccſel. 少女は青年に近付くと、慰めるようにそっと手を握った。

ɑʮeɒſɪz ［生物］近位、中枢　μɑ;/　ɟʍ

ɑʮeɒjeelɪlſc ［地学］中近東　ɟʅ

ɑʮeɒnɪ ［名詞］［形容詞］親しい、親密な、馴染みのある、なじみのある ［反意語］alɔnnɪ ［レベル］3　ɪL:ʮcɑcɪ:nɪ から始まる感情の単語が多すぎたため、ɑ から始めた。 ［用例］ lcɔn eɒɪſ{ſcl ɪſ} ɑʮeɒnɪ ɪ lecn. 紫苑はレインと親しくなった。

ɑʮeɒuɪj ［軍事］接近戦 ［レベル］5　ɟ1

ɑʮeɒɔ ［言語］接近音　ɪL

ɑʮeɒɔnſ ［交通］近道、早道 ［娯楽］マクロ、ショートカット ［レベル］2　ɪL:ʮcɑcɪ:ɥbɪlelſ

ɑʮeɒɪ ［音楽］カリプソ　ɟ1:ɑʮeɒɪzeμ

ɑʮeɒɪlſc ［地学］近東　ɟʅ

ɑʮeɒɪɥə ［ランドマーク］フレマーユ音楽学校 ［アクセント］ɑʮeɒϒɥə ［レベル］6　ɟ0:ɑʮecɒ ［文化］ セルメルでアルナに建てられた初の音楽専門学校。

ɑʮeɒɪzeμ ［アトラスの国家］フレマゼル ［レベル］5　ɪL:ʮcɑcɪ:「歌魔法を歌って魔法陣を描く」 ［文化］ 声調言語はフレマゼル島及びケヴェア北西部で使われる。　彼らは詩を歌のように詠むことで魔法を使う。　歌と踊りに呼応して魔法陣が描かれ、歌を歌っている間中ずっと効果が継続するという特殊な魔法である。　フレマゼル島はエルトアの迷宮ファティスと繋がっており、幼少期のミルフはここで歌魔法を習得した。 ［成句］ ɪɑel e ɑʮeɒɪzeμ eſ ʅɪc 鳥なき里のこうもり

ɑʮeɒɪzeμɥen ［言語］フレマゼル語 ［レベル］6　μɑ;/　ɟʍ ［文化］ 活格言語の代表で、μɑ でアシェットによってアルバザードに紹介された。

ɑʮeɒc ［名詞］グラデーション ［レベル］3　ɟ1:ɑʮel/ɒcɥə

ɑʮeɒclſ ［名詞］［副詞］今後、こんど、今度、最近、ちょっと前、こないだ、このあいだ、この間、このまえ、この前。２，３日～数週 ［類義語］clſ、ɑlɔnclſ ［レベル］2　μɑ;/　ɟʍ:/ ［語法］ ɑclɔə

ɑʮeɒcnɟ ［医療］近視、目が悪い ［レベル］3　ɪL ［用例］ ɪn ſcl ɑʮeɒcnɟ. 私は目が悪い。

ɑʮeɒen ［接続詞］～の近くの ［レベル］3　ɪL:jɔnɔhcnɔlc

ɑʮeɒen(J) ［名詞］隣人、ご近所さん、近所の人、地域住民 ［レベル］2　ɟʔ ［成句］ ɪdcɪ φɪlſ e ɑʮeɒen 隣人の門を指さす：我が身かわいさに他人を売り飛ばすこと。ランティス・タンヴェルでアルティス教徒狩りの尋問官に詰問された住民が隣人の門を指さして「あいつが魔女だ」と売って自分だけ助かろうとしたことから。

ɑʮeɒɥn ［親族］近親、近親者 ［レベル］4　μɑ;/　ɟʍ ［語法］ 親族の中でもより近い間柄、とりわけ親子や兄弟などを指す。

ɑʮeɒɥnɒɪlj ［普通動名詞］近親婚 ［レベル］5　μɑ;/　ɟʍ

ɑʮeɒlſe ［死神］フレメルテ ［レベル］5　ɒelſcɪ 0ʎ:ɪſoɪɪɥə ɔ ləno;e　ɪL:ʮcɑcɪ: ほかの四天王と同じく、神聖古アルカをイメージした語源不詳のものにしたらしいが、キャラ設定を見る限り恐らくメルへのあてつけで、語源は ɑʮeɒ/ɒel/ſe（メルに、近い、感じの）ではないか。四天王を新生を使って命名するわけにいかないから、文化的に認めないとは思うが。 ［文化］ 四天王（死神四貴族）の一人。最強の死神。女性。誘燈種。ほかの四天王と一切関わりを持たない孤独な死神。誘燈種にもかかわらず、夢喰の所作をする。最も知力と能力に秀でた死神で、ほかの三人を抜きん出ている。性格は極めて残忍で、拷問と虐殺が趣味。 ［成句］ ɑʮeɒlſe ſɪɑl ucl jeləj μeʅel. フレメルテが魂を奪い損なう：河童の川流れ、弘法も筆の誤り、猿も木から落ちる、上手の手から水が漏る

ɑʮeɒlſeſlɪ ［地学］［歴史］フレメルテ大陸 ［ユマナ］バルティカ大陸　ul;/　ɟʔ

ɑʮeɑcſ ［魔法］符術師 ［ユマナ］陰陽師 ［レベル］4　ɪL:ʮcɑcɪ:ɪn が付かないので注意

ɑʮeɑcʅ ［アトラスの国家］フレディスク、竜国 ［レベル］3　ɪL:ʮcɑcɪ:ɑʮeſcɟ ［文化］ 面積：ΔΙΛΙΠ.ʔʎΙΔΛ ɔɒ ⌋　高山帯の国で、かつては竜が巣食っていた。ヒュートの人間でさえ近づかない危険な場所だった。

ɑʮeɑcμ ［魔法］フレディール、符術 ［ユマナ］陰陽術、陰陽道 ［レベル］4　ɪL:ʮcɑcɪ: 古 ɑə（符）/ɑclenſ ［文化］ 西洋魔法アルトの一種。インサールで発達した。この場合の西洋はマレットに対する西洋であるため、インサールも含まれる。魔法の符 ɪμɑɪ に印や言葉を書き連ね、魔力を込めておく。これにより、魔法を携帯することができ、ヴィルを戦闘中にほとんど消費することなく魔法を使える。符に封じ込められる魔法の種類は限られているので、何でも封印して持ち運べるわけではない。ɪμɑɪ 仕様になった特殊な魔法が込められている。

ɑʮeɥə ［言語］副詞 ［レベル］3　ɟ0:ɑʮeɒ ɥəɔ（動詞の近くに） ［語法］ 副詞は一般副詞 (lecɒɑ μeɥə) と純副詞 (leuɪɑʮeɥə) に分かれる。純副詞は法副詞 (ɥəneμɑʮeɥə) と波離副詞 (ɑɪlɟɑʮeɥə) に分かれる。　・一般副詞　形容詞に el を付ける。開音節では l のみ。lcj:lcjel, lɪu:l ɪuel, ɪɒſ:ɪɒſel, hɔɔɒc:hɔɔɒcl　ɥɔφ は ɥɔφɪn にしないと「贅沢な」の意味が出ない。「贅沢に」は ɥɔφɪnel。　例　μenjɪſ lcjel（小さく言った）　lɪ enɪſ eɒſel（彼女は悲しく泣いた）　lɪ le euɪſ enſel（彼はゆっくりと去った）　感情動詞 eɒſ は「悲しくさせる」なので、悲しくなった場合は eɒſɔl。なら「悲しく」は eɒſɔlel と思うがそうではなく eɒſel。　もし eɒſɔlel にしないといけないなら、lcjel も lcjɔlel になり、あらゆる形容詞が～ ɔlel になってしまう。　φɪμu も同じ。「苦しめる」が動詞なので、φɪμuɔl で「苦しめられた」。しかし「苦しんで」を φɪμuɔlel にすると lcjɔlel になってしまうので φɪμuel。　要するに～ ɔlel はなく、～ el だけで～ ɔlel の意味を表せると考えればよい。　逆に、存在する語形は～ ɪnel。ɥɔφɪnel のように。むしろこちらに注意。　語順は下記のとおり。目的語が重いほど副詞が前に出てくる。　動詞＋副詞＋節 :ɪn ɑlɪſ ucenel lenſ le lɪ jccnɪ（彼の好きな人形を強く抱いた） 動詞＋副詞＋長い句 :ɪn ɑlɪſ ucenel lenſ ɒeɒ e ɥəəɑɪ ləſcɪ（ユーマ＝ルティアの丸い人形を強く抱いた） 動詞＋短い句＋副詞 :ɪn ɑlɪſ lenſ ɒeɒ ucenel（丸い人形を強く抱いた） 動詞＋語＋副詞 :ɪn ɑlɪſ lenſ ucenel（人形を強く抱いた）　・動副詞　動詞から副詞を作ることができる。　アルカには本質的に「他動詞と自動詞」「動詞と形容詞」「形容詞と副詞」の違いがなく、内容語は基本的に「体言か用言」「モノかコト」「名詞か動詞」で区別する。　動詞と形容詞に本質的な差がないため、形容詞からだけでなく動詞からも副詞が作れる。　lə dccnɪſ lɪ jeſinel. 彼は彼女を殺すように睨んだ。「殺すように」という能動的な副詞。つまり相手を殺さんばかりの形相でという意味。　lə dccnɪſ lɪ jeſel. 彼は彼女を殺されたように睨んだ。「殺されたように」という受動的な副詞。つまり死体が加害者を恨めしく思って睨むような視線でという意味。　形容詞の場合、lcjel（小さくされたように→小さく）のように、受動的な意味で使うケースが無標であり、語形も短い。　しかし動詞の場合、jeſin el のように能動的な意味で使うケースのほうが多いが、語形は有標である。　このように、動副詞はふつうの形容詞から作る副詞に比べて無標の意味が有標な語形を持つ。　ɟʔ 年までは動副詞という概念がなく、動副詞は能動的な意味が無標で、jeſel で jeſinel（殺すように）を表していた。　ただ ɟʔ 年までも ɥɔφɪn（贅沢な）のような動詞の現在分詞的な形から派生した副詞は ɥɔφɪnel になるか ɥɔφel になるかで揺れていた。　ɟʔ 年に至るまで徐々に ɥɔφel が「贅沢に」の意味として正しい方向性で固まりつつあったが、ルシアらネイティブの語感に反し、ネイティブらが ɥɔφɪnel や jeſinel といった言い方を示し合わせたかのようにしだしたことから大人たちの理論が見直され、この動副詞という概念が生まれるに至った。　・主格動副詞と対格動副詞　夢織の中で dcd を使った用例で主格動副詞と対格動副詞の違いが見られる。これはなかなか貴重な例なので挙げておく。　主格動副詞 : jee lə bcʅ pelscen, bɪɑcʅ ſeebe dcdɪnel. すると彼女はメトロノームを掴み、ロープを着た奴に投げて打った。　対格動副詞 : jɔn ɪɒc ſcɔ lɔſ le ɪſ μcφ dcdel. だからあれは単に投げられて壊れたものだと思ったんだ。　・法副詞　いわゆる助動詞のこと。動詞の直後に来る。場所を変えることはできない。el は付けられない。　後置系は lɪl, jen, ucl, uɪn など。　前置系は否定の en、命令の μe、禁止の nen など。　法副詞といってもすべてが法ではない。　アスペクト系のものは ʅcſ, μſ など。　テンス系のものは ſəμ など。　・遊離副詞　動詞の直後に来たら el が不必要だが、それ以外の場所だと el が必要なもの。　ɪləəſ 類、ləſ 類、lɪczɪ 類、pɔɪ、nec、pɪd、hɪlɒ、ɪc など。　・遊離副詞の形容詞の用法　pɔɪ（既に）などは日本語では形容詞にならない（「既な」のような言葉はない）ので、文中のどこにいっても el なしで副詞にしていいように感じられる。　lɪ lənɪ pɔɪ ɪſə が lɪ lənɪ ɪſə pɔɪl になるのは面倒で、lɪ lənɪ ɪſə pɔɪ でいいではないかと思う。　しかし pɔɪ は形容詞の意味がある。ɪləəſ や ləſ などもそうである。例えば leun pɔɪ は既往症という意味になる。日本語に「既な」があれば簡単に理解できそうなものだが。　ɥɪdc nec は未接種の予防接種、ejʅ ʅɪpcl は天気予報の用語で高確率の雨、ejʅ ləſ はいつも降る雨、lɪnʅɔ ɪlczɪ は「まだまだ未熟な子供」、bɪl ɑɪnſe は「作りたての壁」や「ペンキ塗りたての壁」。　何が既に終わっているのか、何がまだまだなのか、それは文脈の中で具体的に決定される。いずれにせよ何かが済んでいたり確率が高かったりするという意味の形容詞になる。　pɔɪ らに形容詞用法があるということは pɔɪ らを副詞として使うときには el を付けないと、形容詞と区別できない。　そこで pɔɪl などが存在する。　・形容詞にかかる副詞　形容詞にかかる副詞は el がいらない。　ſə eſ lɪnſ ſcnlɪ. ſə eſ ɑɪz μɪſ ɪ ſc.　・副詞にかかる副詞　これも el は不要。　例 : ſɥə ʅlcſcʅ nɔn μɪſ el μɪl.　例 : lə leɑ jen ſɪlel ſcnlɪ. 彼はとても早く走る。　・感動詞と副詞　感動詞にかかる副詞は el がいらない。　jenſ ſcnlɪ.　jenſ ſcnlɪl にすると「非常に感謝する」という文語的な印象に。　nɔn jenſ ſμə ſccnɪl の場合は jenſ が感動詞の解釈はありえないので ſccnɪl に。これは別に文語的ではない。　・副詞の順序　http://constructed-language.org/arka/study_yulf_30.html　・地球での変遷　古アルカ : he で示した。ucuc he で「強く」。he ucuc の語順の時代も。　制アルカ : 動詞の後に形容詞を置くと自動的に副詞。あるいは μɪl 格に回す。　新生 : 下記　1 : μɪl が je に。動詞の直後という方法も残存。　2 : je から j' が分離。　3 : 動詞の直後は純副詞だけに。　4 : 3 により je の頻度が増し、摩擦音の j がうるさく感じられる。リーザが je を e に。リーザ、ミリア、メル、ルシア、セレン・リディア・ネットの順で伝播。経緯は下記。　ɟʅ 年にリーザが j を脱落させ、e とする。それがミリアに伝わり、ミリアからメルとリディアへ。しかしリディアは原理主義でこれを拒む。メルからルシアへ。ルシアからセレンへ。メルが事情を伝える。セレンからネットへ。セレンが知ったときリーザとリディアは出張中だったため確認できず。セレン

は je の頻出をうるさいと感じて後押し。リーザが e としたのは当初 je の摩擦音が強くてうるさいためだろうと考えられた。動詞の後に副詞を置けなくなったため、頻度の増した je がうるさく感じられたのだろう。ところがその後古アルカの he が原因ではないかと考えられた。he は h が弱いのでよく脱落して e と発音された。あのころの感覚なのではないか。新しいものに対応しづらくなってきたという語弊があるが、年長者のリーザから起こった変化ということを考えると納得できる。　　5：11Lʔ に e がクミールを通過せず。理由は lenɔ の e と混同があるため。セレンは事前にこれを予期して下記を執筆。

＜接続詞の e と格詞の e は混同するな＞　接続詞が「名詞＋ e ＋名詞」で、格詞が「目的語＋ e ＋形容詞」の構造を持ち、なおかつこの形容詞が名詞用法も持つとき、混同が起こりうるのではないかと考えた。混同があるなら格詞の e を je に戻したほうがいいのではという議論が起こるはず。そこで検証してみた。　bɔlɪʃ lɪʃ e ɑcɪɑcɔl は「奥手な子の手を握った」のか「うぶな感じで手を握った」のか分からないと感じた。本当にそうか検証する。　奥手な子の手を握った→ bɔlɪʃ lɪʃ e ɑcɪɑcɔlen：属格でないと奥手な子という意味にならない。　うぶな感じで手を握った→ bɔlɪʃ lɪʃ e ɑcɪɑcɔl：e は格詞。e ɑcɪɑcɔl で副詞となる。　bɔlɪʃ lɪʃ ɑcɪɑcɔl：手自体が奥手という意味になる。比喩的で、手と人のパートニミーである。　ここまでは混同は起こっていない。次の例に行く。　uɪnɑɪʃ ɟɛʃl e ɑɪlhɪɒel でフルパワーなのは自分なのか敵なのか。　フルパワーな敵を→ uɪnɑɪʃ ɟɛʃl ɑɪlhɪɒel　フルパワーで敵を→ uɪnɑɪʃ ɟɛʃl e ɑɪlhɪɒel　フルパワーな者の敵を→ uɪnɑɪʃ ɟɛʃl e ɑɪlhɪɒelen：この場合、攻撃した人、フルパワーな人、フルパワーな人の敵の３人がいることになる。　ɟɛʃl e ɑɪlhɪɒel を副詞句でなく接続詞で「フルパワーの敵」と訳せないか。ɪncʃ eʃ ɟɛʃl e ɑɪlhɪɒel（疲れはフルパワーの天敵だ）では接続詞で解釈できる。なら混同が起こる気がする。しかしこの文では逆に「疲れはフルパワーで敵だ」という副詞句の解釈ができないため、結局混同は起きない。　nɪbɪʃ lɪʃ e hɪɥ は「赤の手を塗った」のか「赤く手を塗った」のか。　赤い手を（何色かに）塗った→ nɪbɪʃ lɪʃ hɪɥ　赤く手を塗った→ nɪbɪʃ lɪʃ e hɪɥ　赤いものの手を塗った→ nɪbɪʃ lɪʃ e hɪɥen：例えば赤い服などを着た人の手を何色かに塗った場合など。　nɪbɪʃ lɪʃ e hɪɥ を「赤の手を塗った」と解釈できれば混同を作れる気がする。例えば hɪɥ が人名だったり社名だったりすれば「赤く手を塗った」との混同が起こる。　こう見ていくと、nɪbɪʃ lɪʃ e hɪɥ で「赤の手を塗った」と「赤く手を塗った」との間に混同を見いだせる。では次にこれは解釈不可能か否か。　恐らく実際問題これを現場で混同することはないだろう。文脈があるからだ。文脈を考慮すれば混同はたいてい解消される。文脈がなければ解釈が揺れる文は自然言語にも無数に存在するが、それを根拠に単語を変えたりはしない。恐らく e を je に戻すほどの混同力はない。　文語については検討したが、口語は検討できていない。文は遡れるが音は遡れないので、言語では一般に口語のほうが混同を嫌う。口語のほうが一発で通じさせる必要性がある。口語で混同が強ければやはり je に戻すという話になる。　音声面で nɪbɪʃ lɪʃ e hɪɥ を見てみると、「赤の手を塗った」は「ミールの手を塗った」と同じ抑揚になるので、lʔj e hɛɕɥ のように lʔj e hʔɥ と読まれる。　一方「赤く手を塗った」は「強く叩いた」と同じ抑揚になるので、bɪɑɪʃ Elen e ucen のように、nɪbɪʃ lʔj e hɪɥ と読まれる。　つまり hɪɥ の音の強さや高さが異なる。口語ではここで区別している。従って口語は文語より混同するどころかむしろ逆と分かった。　日英語でも文では混同するが音では抑揚で区別できる例は多い。「私は好きです」の「は」を強く読むと「私は好きですが、ほかの人はどうでしょうね」という意味になる。ただの主語（ここでは経験者）から限定的な意味に変わっている。この文の場合、「は」に傍点を付けるなどしなければ区別できない。「そういうこと」も「あ、そういうことぁ！」という気付きと、「わかってるでしょ、そう、そういうことよ」という意味の場合では「そういう」の高さが違う。高さによって意味合いが変わる。しかしこれは文では分からない。　・問題は別のところにあるのではないか　結局結論としては「混同しない。しても文脈で判断できる。判断できなかったとしても非常にレアで、そのために頻度の圧倒的に高い e ucen や e ɑcl などを je にして長くするよりも合理的」ということになる。　しかしこれは正直にいえば恐らくこういう結果になるだろうと長年の経験で予想していた。問題は別のところにある気がしてならなかった。　どちらかというと e に違和感を感じるのは下記が原因ではないか。　bɔlɪʃ lɪʃ e ～まで聞くと、「あぁこれは「の」の e か。いや待てよ。今度からは副詞かも……。e の時点で解釈ができない。次を見なければ」と思う。この待たされる宙ぶらりん感が嫌なのではないか。　lɪʃ e ɒccɥ と来れば「あぁ、o f のほうか」と思うし、lɪʃ e ucen と来れば「あ、ー l y のほうか」と思う。最後まで聞かないと解釈が安定しなくなったのが嫌なのではないか。o f のほうかなと思って聞いていたら形容詞が来たからここは副詞句で解釈だとなると、e ucen は lɪʃ でなくその前の動詞にかかる。だから動詞が何だったか脳内で検索して、この e ucen を動詞 bɔlɪʃ にかけなおさなければならない。これが面倒で、脳が不快なのではないか。　この話をメルに相談したところ、それは現状 e が接続詞でデフォルトになっているからにすぎないと言われた。bɔlɪʃ lɪʃ e まで来たとき、この e が lɪʃ にかかるものと決め付けているのは旧来の癖にすぎない。e が接続詞にも格詞にもなるなら始めから e まで聞いた段階では lɪʃ にかけておかない。その後 ɒccɥ が来れば初めて lɪʃ にかける。だからかなおしという感覚は旧来の癖にすぎず、これをもって je に戻すのは合理性がないという。これについては了解した。　また日本語で検討してみたところ、似たようなものがあることに気付いた。「俺の」まで聞いたとする。この後「手」と来れば「あぁ、o f か」と思う。しかし「言ったことを」が続けば「あぁ、ここは「が」を意味する「の」か」と思う。　これでは lɪʃ e の話と同じではないか。結局「の」の後を聞くまで「の」の解釈が分からない。e の後を聞くまで e の解釈が分からないのと同じだ。　しかしだからといって日本語は格助詞「の」を廃止するかというとそんなことはない。同じような例は「の」以外にもあるし、英語にもある。となれば、解釈が宙ぶらりんになるからといって je に戻す必要はないということになる。　もし戻すのなら、残る可能性は「解釈が宙ぶらりんでなく不明瞭になるから」だが、これは「現実的に混同することはまずないし、そのリスクよりほとんどの日常的な副詞句を手早く喋れるメリットを取ったほうが良い」という結論ですでに解決している。よって je に戻す必要性はないと結論付けられる。　ところがクミールの問題にしていたのはここではなかった。je に戻すのではなく、je そのものが問題だというそもそも論に発展。　je が格詞なら後ろには名詞句しか来れないはず。なのに je だけ形容詞を取る。ɪ などとは違って。これは文法的に見て異様とのこと。副詞が動詞にかかるので格同扱いにしていたが、文法的な振る舞いがおかしい。格詞の「名詞句を取る」という定義に反する。　e に嫌気がさしたことが契機となり、このそもそも論が勃発。クミールが el を提案。j' やｅというアクロバットな組み合わせに辟易していたこともあり、比較的ルティア家があっさり受け入れ。セレンも検討し、了承。同 11Lʔ より実験に入る。　動名詞は el から elj に。良い音を取っているくせに頻度が少ないのでターゲットになったようだ。　メリットは副詞の位置が比較的自由になったこと。　また、クミールは je hɪn や je ɟɪʃ のような一拍置くリズムが嫌だったという。副詞という１概念なのに発音上は２概念に見える。座りが悪かったそうだ。　なお、上の考察に対しクミールは "lɪ cjlɪʃ lec e ɑɕɒɒɪ" では「彼は無知に本を読んだ」のか「彼は白紙の本を読んだ」のか区別できないので混同するという例を出し、セレンを論破した。　去年は属格で揺れて今年は副詞で揺れた。　属格で最後の揺れとしていたリディアは不快だったようだ。しかし直すなら早いほうがいい。子供が危ぶまれる。　11L：ネットでは jɟ hɪcʃ というのだから je の後に形容詞が来てもいいのではという意見があった。それを受けて考えてみた。　jɟ hɪcʃ は jɟ hɪcʃen, jɟ ʃəl hɪcʃ が根底にあると考えられるから、結局名詞句が後ろにある。形容詞ではない。　でもそれなら je だって je lɔɔl ucen などと考えられるから、jɟ と同じだ。jɟ がイキなら je もイキでいいではないか。　という意見も成立するように思えるが、el に流れた今となっては el を抑制する理論でないと流れは変わらないだろう。　こうなった発端は９年前のプロトタイプ制アルカだ。世界一簡単な言語を目指した結果、形容詞が生まれた。　語順で副詞を示し、形容詞だけ覚えればいいようにした。それが使いづらいということで ɟɪl や je ができ、徐々に今日の el に向けて崩壊していった。　結局９年間引きずったということで、言語の変化はやはり緩やかだと感じた。といっても個人で P C の前だけで作っている言語ならもっと早く舵取りできたし、変えようと思えばその日のうちにでも変えられるのだろう。アルカは動きが重い。

ɑɥel ［医療］慢性 ［副詞］ゆっくりと、漸次的に、じょじょに、徐々に、だんだん ［反意語］ɒɔɒ ［レベル］2　1L:jeɥen/ɒɕɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ: 恣意 ［用例］senʃ eɒɪ ɟɪʃ ɑɥelel. 天気はだんだん良くなっていった。

ɑɥelʃɪʃl ［音楽］アッチェレランド ［反意語］ɑɥelɑeɒc ［レベル］6　μɑ;/　ʃʃl

ɑɥelɑeɒc ［音楽］リタルダンド ［反意語］ɑɥelʃɪʃl ［レベル］6　μɑ;/　ʃʃl

ɑɥelɥeɟ ［ネガティブ］［形容詞］［副詞］漫然な、漫然と、だらだらと、ダラダラと ［レベル］3　μɑ;ɑɥel/ɥeɟ「ゆっくりと腐るような」　JJ

ɑɥelhɔdjeɥcdɔ ［医療］慢性骨髄性白血病　1L:jeɥen

ɑɥelɪnʃ ［ジョブ］竜騎士、龍騎士、ドラゴンナイト、ドラグーン、竜騎兵、フレラント ［レベル］4　jɥ;ɑɥeʃcɟ/lɪnʃcɟ,ɥl　lʔ ［文化］ɑɥeʃcɟ, ɪɥɪɥ, ʃlcɪnle　飛竜に乗って戦う兵士。jɥ のルカリア発祥。やがてレスティルなどにも伝わった。軍隊の中では花形の兵科で、ダントツの人気を誇る。　青や銀や黒の鎧を纏い、長い槍を持つ。この槍を持って竜から落下し、身一つで敵の頭上に槍ごと突っ込むことを ɪɥɪɥ という。アヴァールをした後は飛竜が降りてくるので再びまたがる。アヴァールが外れた場合は地面に落下しないよう、直前でユノで浮き上がり、安全に着地する。　竜に乗ったまま急降下して敵を槍で突き刺す技は ʃlcɪnle という。敵に槍を放つとともに竜を急上昇させ、再び急降下して攻撃する。このようにして連続攻撃を行う。クリアンシェは複数回攻撃できるが、一回あたりのダメージは小さい。アヴァールは一撃必殺で、全力をかけて敵めがけ落下していく。

ɑɥeɪ ［地学］鉄 ［形容詞］鉄の ［組み数字］4 / 4 ［レベル］2　ɒelʃcɪ ΔΔ;φclcəj;ɑɥec.ʃ　1L:ɑɥec から。剣を作る道具 ［文化］ヴィルの伝導率は良くないが、ユノの伝導率が極めて高い金属。それゆえ剣などの武器に使用される。 ［成句］bɔlʃ ɑɥeɪ hɪɥʃ 鉄は熱いうちに打て

ɑɥeɪjel ［歳時記］鉄の日 ［レベル］3　jʃ ［文化］ɑɪnʃjel

ɑɥeɪn ［ネガティブ］［形容詞］図太い、神経が図太い ［類義語］nɪɪu ［レベル］3　J0:ɑɥeɪ/nɪ（鉄の心）

ɑɥeɪɑɔnʃ ［企業］［人名］フレアフォント、国定 ［レベル］3　jʃ ［文化］ J R、国鉄に相当する企業。

ɑɥeɪɒel̀cɪ ［名詞］鉄器 ［レベル］4　ɒelʃcɪ ΔΔ;φclcəj;/　lʔ

ɑɥeɪɑɔl ［地学］鉄鉱 ［レベル］5　1L

ɑɥeɪlcl ［化学］鉄→ ɑɥeɪ ［レベル］4　1L

ɑɥec ［アイテム］剣、諸刃、両刃 ［類義語］ʃɪl ［レベル］2　jɪ ɒelʃcɪ ΔΔ;ɑɔueʃ. 剣を振ったときのビュンという音から。　19: 制：古では dccʃc だが、剣を振ったときのオノマトペから19年に作った。神話では古からある。　ʃlɔφc,dccʃc,ɑɥec:dccʃc,ɑɥec:lə səlceʃ:ʃɪlc,ɪlʃ jɪʃlɪ,ɑcφcʃ ［成句］ɑɥec ʃɪen φɪφ 喉元の剣：絶体絶命 ［文化］ 最古の剣は石製で、次に銅剣などが ɑu でギリウスによって作られた。メルティア ΔΔ 年に鉄の剣が作られた。

ɑɥecʃccl ［丁寧］［親族］［男性］ɑɥecnɔɪ ［レベル］2　jʃ ［語法］ 男性が別の女性に向かってその父（たいていは自分）を指すときの言葉。それ自体が丁寧な言葉なので、ɑɥecɑcn などはない。 ［文化］ʃɪɪlɪ ［用例］ɒɥ ɑɥecʃccl ɒcɥ jɔnʃ ʃc, lcɪɥ ん？お父様に撫でてほしいのか、紫亞？

ɑɥecʃəɪn ［丁寧］［親族］［女性］ɑɥecnɔɪ ［レベル］2　jʃ:μɑɑɪ ［語法］ 女性が別の女性に向かってその父を指すときの言葉。それ自体が丁寧な言葉なので、ɑɥecʃoɪn などはない。 ［文化］ʃɪɪlɪ ［用例］ɑɥecʃəɪn lɪ dɪμɒ, lcɪn. 紫亞ちゃん、お父様は日本にいるのよ。

ɑɥecj ［名詞］フレイス、フレティス人、飛竜人 ［レベル］5　J0:μɑɑɪ ［文化］ 飛竜方に住む民族。ヒュート人、イネアート人に分かれる。トール人に比べて体格がよく背が大きい。髪や目の色は薄く、金髪や碧眼が多い。

ɑɥecjʃlʃl ［アイテム］ソードベルト ［レベル］5　JJ

ɑɥecn ［ジョブ］フレイン、戦士 ［名詞］運動選手、格闘家、体育会系 ［レベル］3　zφ　1L:μɑɑɪ:ɑɥec/ɪn μɪɪuɪ:μɪɪuɪ, ɑɥecn: ［文化］ 魔導師に対する概念。ɑɥecɪn と違い、剣士とは限らない。

ɑɥecnʃ ［名詞］フレイント ［レベル］3　J0:ɑɥec/ʃe ［文化］ エタットとリースを男女に分けた場合、男性は剣と盾に準えて ɑɥecnʃ, ɪlleʃ といい、女性は魔法の杖とタリスマンに準えて ɪμnɛʃ, μenʃe という。アルデンやアルベンなど、位相の種類が多いため、まとめた言葉として辞書のタグなどに使われる。　ユンクとミリアとマユは言語上同じ単語を使うことがあり、この３種のまとまりをさらに ɥenʃe という。マユとユンクの総称は lccʃe で、これに対してマユとミリアの総称は ɑɔlʃe。　マユは中間的な位相なため、たいてい ɪμneʃ だけでなく μenʃe も場合に応じて使う。辞書に［μenʃe］とあっても状況や個性に応じて使うことができる。個性というのは例えばマユでもユンク寄りのマユやリアンの可能性の中、前者の場合積極的に μenʃe を使うことになる。　μenʃe:ɥenʃ/ɒclcɪ　ɥenʃe:ɒɪɥə/ɥenʃ/ɒclcɪ　lccʃe:ɒɪɥə/ɥenʃ　ɑɔlʃe:ɒɪɥə/ɒclcɪ

ɑɥecnɟɪlɪj ［被服］タンクトップ ［レベル］4　jʃ

ɑɥecnjɔɒ ［医療］脊椎すべり症 ［レベル］6　1L:μɑɑɪ ［文化］ カコで、戦士がよくなったことから名づけられた。

ɑɥecnhɔɑ ［医療］疲労骨折 ［レベル］5　1L:jeɥen/μɑɑɪ

ɑɥecnɔɪ ［丁寧］［親族］［μenʃe］お父様、父上、おじさま、フレイノア ［アクセント］ɑɥecnɜ̀ɪ ［レベル］2　jʃ:ɑɥec nɔɪn（私の剣） ［文化］ʃɪɪlɪ

ɑɥecnɔɪn ［丁寧］［親族］お父様、父上、おじさま、フレイノアン ［レベル］2　jʃ:ɑɥec nɔɪn（私の剣） ［文化］ʃɪɪlɪ

ɑɥecnɒɒd ［植物］グラジオラス　19: 剣の形の葉から

ɑɥecuɪnʃcj ［軍事］剣兵 ［レベル］4　1L:μɑɑɪ

ɑɥecuɥμɪnʃ ［医療］剣型人格障害 ［レベル］5　ɪl;/　lʔ:jeɥen/ɒel ［文化］ uɥμɪnʃ

ɑɥecɒ ［魔法］歌魔法、フレイム ［レベル］4　1L:ɑɥeɒ（短い）の二重母音へのアプラウト。通常の歌より短い、魔法用の歌であることから。 ［文化］ ミルフおよびネーネの使う特殊な魔法。呪文が歌となっており、彼女が歌っている間、効果を発揮する。味方の戦闘力をあげるなど、補助系の魔法が多い。　本場はフレマゼルであり、フレマゼル語で唱えられることもある。フレマゼル語は世界で比較的珍しい活格言語に属するが、歌魔法によって μɑ で知名度を得た。

ɑɥecɒcɪ ［筐堺］フレイミア　μɑ;ɑɥecɒ/ɑcɪ（土地） ［レベル］5　JJ ［文化］ 筐堺司：neene uɪleɒ　筐堺国：ɑɥeɒɪzeμ, ɪucel, ɪɔz, hɥəlɪl, ɔɔdɪdɪl, ɒɔlɪl, dɪlμɪ, ɪɑenʃɔ はオヴィと共同統治。

ɑɥecɒcɔnɪ ［名詞］男勝りな女 ［反意語］ɪnɑelclcɪ ［レベル］3　JJ:「剣を持った花」 ［文化］ ɪnɑelc lcɪ

ɑɥecφɪn ［人名］フレイガン　J0 ［文化］（ɥəəɒɪ 9L1ʎ:(ΔΘΔʕ:) アルバ二世。　ɥəəɒɪ 9L1ʎ アルバ、息子の ɑɥecφɪn を授かる

ɑɥecφel ［娯楽］けんだま、けん玉、剣玉 ［名詞］騎乗位、騎上位 ［レベル］3　19: 制：けんの部分が剣を意味する古アルカの字に似ており、それに球を留めることから。「剣玉」と同じ発想。| 1L:ɒel ［文化］ おもちゃの一種。アルバザードのものは日本で普及しているものと異なる。まず、大皿小皿の違いがない。単純図形における左右非対称を嫌うからである。また、剣が交差する部分、球が刺さっているときの場合は球の下の部分、そこに剣が突き出ている。剣玉が十字に見えるように正対したとき、一番上には球がくる。その下には横木と縦木が交差している部分がある。その交差している部分に一本棒が前後に突き刺さっているということである。このように剣が突き刺さっており、前から見ても後ろから見ても剣が突き出ているので棒が二本あるかのように見えるが、一本の棒が貫通しているだけである。この剣の部分は頂点に生えている剣と同じもので、とめけんに使ったり、ここを持って遊んだりする。尚、この剣は頂点の剣より短い。ようやっと球が落ちずに収まる程度である。剣が長いと横の皿同士でもしかめのように球を回しあうときに邪魔になるからである。要するにアルバザードの剣玉は小皿大皿の区別が無く、真ん中に角が前後に生えていると考えればよい。尚、真ん中の角がないものや、真ん中の角がなくなって代わりに小皿になっているものもある。これらはバリエーションである。　・性交の体位　jɥɒclc が起こりやすいことと、女性主導で女性が疲れるということで、アルバザードではあまり好まれない。めんどうだからと騎乗位をせがむ男性は嫌がられることが多い。

ɑɥecφel ［軍事］銃剣 ［レベル］5　nɑ;/　ʃlʎ ［文化］ φel

ɑɥecɥ ［エルト］フレイヤ ［レベル］4　古 ［文化］ エルフレインの姉妹のうち、姉のほう。ルフェルの腹心を務める。

ɑɥecμ ［娯楽］ギルド、傭兵所 ［レベル］4　JJ:ɑɥecn/μɪ ［文化］ 兵士や戦士や魔導師の集うところ。現代ではゲーム内に存在する。

ɑɥecμcɪ ［地名］フレイリア湾 ［レベル］5　J0:μɑɑɪ:elɑɥecn/eμcɪ ［文化］ ヒュート・ファルファニア間の湾。

ɑɥecɪn ［ジョブ］剣士、剣闘士、グラディエイター、グラディエーター、ソードマン ［レベル］3　1L:μɑɑɪ

ɑɥecɪɑcj ［法律］剣刑 ［レベル］1L ［文化］ 柱にくくりつけ、刑場を通る軍人が一本ずつ剣を突き刺す刑。軍の違反者に適応。

ɑɥecɔɒ ［運動］剣道、剣術 ［レベル］3　J0 ［文化］ ɥəuel の一種。学校で習う。

ɑɥecelc ［動物］カジキ、かじき、メカジキ、ソードフィッシュ、メカジキ ［俗語］剣根の長い男性：1Δ:zɪnɪ:ɪdcɪʃ ɔuc ʃɔn ʃə ɑμcʃleu ［レベル］4　19: 制：剣の魚

ɑɥecelccɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］かじき座　ʃlʎ ［文化］ cɑɪ

ɑl ［歴史］フィアル、ɑcɪl ［レベル］3　jʃ

ɑlɪʃ ［名詞］羽毛 ［レベル］3　1L:ɑlɪd/ʃleμn ［用例］ɪn jccnɪ ɥɔl lɔnz e ɑlɪʃ cɒ ɒɔʃ. 寝るときに羽毛の枕で寝るのが好きだ。

ɑlɪj ［動詞］ɥəl を放浪する、放浪する ［普通動名詞］放浪 ［レベル］4　ɒclɑ: 古：ɑlɪj

を誇る。　青や銀や黒の鎧を纏い、長い槍を持つ。この槍を持って竜から落下し、身一つで敵の頭上に槍ごと突っ込むことを ɪɥɪɥ という。アヴァールをした後は飛竜が降りてくるので再びまたがる。アヴァールが外れた場合は地面に落下しないよう、直前でユノで浮き上がり、安全に着地する。　竜に乗ったまま急降下して敵を槍で突き刺す技は ʃlcɪnle という。敵に槍を放つとともに竜を急上昇させ、再び急降下して攻撃する。このようにして連続攻撃を行う。クリアンシェは複数回攻撃できるが、一回あたりのダメージは小さい。アヴァールは一撃必殺で、全力をかけて敵めがけ落下していく。

a

ɑlɪɟlɪɑ ［地球の国名］カザフスタン ［レベル］6 1L: 国名が放浪の民の国

ɑlɪn ［天文］望遠鏡 ［レベル］3 高

ɑlɪn(J) ［人名］フラン。ɑlɪnɑleɟ の愛称 J1

ɑlɪnʃ ［気象］そよ風、微風、そよかぜ、涼風 ［形容詞］ふわっとした、香るような、立ち込める、たちこめる、立ち籠めるような、立ちこめる ［美容］ブロー ［類義語］ɑlenɟ ［レベル］2 J0:ɑlɪn（オノマトペ）/ˈfeeze ［用例］ɑlɪnʃ ləniˈ enʃɔ nɕɪ ləəʃ le ɥəfɪɟ lelɑc ɪnɑ eɒcˈ ɑɔ ɟɪlɟɪl. そよ風が吹く。青年の髪が月の光を浴びながらさらさらと靡く。

ɑlɪnʃcnɕɒ ［美容］ロールブラシ ［レベル］5 J1

ɑlɪnlɕɪ,lʃɑ ɑɟɪ

ɑlɪnlɕɪn ［被服］テイルコート μɑ;<,lʃ<ɑlɪnlɕɪ/en JM ［文化］ 地球より早く μɑ の lʃ でできた。

ɑlɪnɟ ［魔法］獅吼 ［反意語］ucucɑ ［レベル］4 ɟzl;ɑlɪɒ から来ている。兵舎のレリーフから→ ɑɔl ɒcɥe J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɑlɪn ulɪnɑ ［人名］フラン＝ヴラランド ul J? ［文化］ ɑlɪnɟɟ ul の数学者。

ɑlɪnueɟ ［地名］フランヴェール ［レベル］5 J1 ［文化］ clɒəj の ɒelʃɕɪ 1Δ（フランヴェールの魔女）参照。 ガルヴェーユの地名。ユーマの封じられた泉がある。

ɑlɪnueɟ(J) ［人名］フランヴェール、怪盗フランヴェール、義賊フランヴェール ［レベル］5 ;ɑlɪnueɟ J1 ［文化］ nɑ の混乱期に現れた義賊。金持ちから奪い、貧しい民に分け与えた。石川五右衛門に相当する。

ɑlɪnueɟʃ ［名詞］義賊、怪盗、フランヴェルト ［レベル］4 ;ɑlɪnueɟ/ʃe J1

ɑlɪnueɟs ［魔法］風花園、フランヴェルジュ ［レベル］3 ɒf;<>ɑlɪnʃ「風の園」 J1 ［成句］ ɑlɪnue ɟs ɑcnɕɒ 花鳥風月 ［文化］ eɟlɪ

ɑlɪnueɟse ［人名］フランヴェルジェ、花風院 μɑ;ɑlɪnueɟs.l J?

ɑlɪnuel ［企業］フランヴェル ［レベル］4 J1: 創始者の名から ［文化］ ブルガリ、グッチ、エルメス、シャネル、バーバリ、コーチ、プラダなどのブランド会社に相当する企業。

ɑlɪnɑlɪn ［料理］だし巻き卵 ［レベル］3 JJ:ləlɕɪ: 食感から。新宿。これは食べた。

ɑlɪnɑlcʃ ［魔法］獅法水晶、フランフリート ［アクセント］ɑlɪnɑlЄʃ ［レベル］5 ɟɒ;ɑlɪnɟ/cɑlcʃ J1 ［文化］ calcʃ

ɑlɪnɑleɟ ［歳時記］夏、風夏（ふうか）、フランフレール。涼やかな夏 ［形容詞］夏の ［人名］フランフレール ［アクセント］ɑlɪnɑlEμ ［レベル］4 J0:ɑlɪnʃ/ɑleɪ。lʃ ［語法］ ɑcɪleɟ

ɑlɪn ɑcɟʃ ［人名］フラン＝ディスト ［ユマナ］サンタクロース、サンタ、サンタさん ［レベル］2 JJ:μcɑɕɪ ［文化］ → lccɟlccz μʃ の偉人。男性。アルシアで孤児院長をしており、身寄りのない子供たちの世話をしていた。lccz lccz の日に子供の成長を祝ってやれない貧しい家庭に施しをした逸話があり、やがてその話が拡大解釈されてアルバザード全土に広まっていった。 死後に神格化され、μʃ 末期にはこどもの日にプレゼントをくれるという伝説が生まれた。すなわちサンタクロースに相当する人物である。 アルシアが寒い地域であったことから、メルの月にしては厚着。細身で柔和な顔つきで、銀縁メガネをかけた糸目の３０代後半の男性の姿をしている。常にニコニコしていて性格は穏やか。背が高い。μʃ では既に滅んでいたはずのヒュート産の白銀の小型ドラゴンに乗り、よれよれの灰黒マントを羽織っている。左腰には魔法の杖を差している。子どもが寝静まると空を飛んでやってきて、窓や煙突から入って枕元にプレゼントを置いてくれることになっている。のんびりしたところがあって、子供にからかわれやすい。「ぱぱ先生 (μɟccɪɪ ɪɪnɪɪ)」と呼ばれていた。 非常に優しい上に女性受けする綺麗な顔立ちをしていることから、小さい女の子の憧れの的になっている。名前が女性っぽいこともあり、余計中性的なイメージがある。ただ無精髭があるので、「せんせい、おヒゲそりなよ」とよく言われる。 もちろん実際には自分の家のお父さんが担当することになるのだが、大体１０才になるまでは大人は皆黙っておく。日本と違って半分以上はその存在を１０才になるまで信じている。レインは事実を知って泣いたクチ。 ［用例］（以下は幻文がルシアによるもので、和訳はセレンが付けたものである） ５歳の娘の日記が夢なさすぎる上に高度すぎて吹いたw ɑlɪn ɑcɟʃ eʃ ɑcɪnɪ ɪz eɥɔ. nɔn lɪμ ɑlɪn ɑcɟʃ eʃ ɑc ɪnɪ. ɪlɪlʃ eʃ jɪnse eə. elʃ, lɪlʃ ɪlɑ, ɑlɪn ɑcɟʃ eʃ lcμ lɪn ɔɪɪɟ əl lə ɪɪs lcμ ɥəlc jecn le nɪn lɪnʃ jeɑcμ ɪl. eɟȣ jcnl lccʃ ɪlʃ e ɥəlc eʃ 10 ucl}ɟ lɔnʃ lɪnɪlʃ ˈlʃɔlcɟ eʃ 90 ucl}. jcnl lccʃ ɑlɪn ɑcɟʃ ɑcʃ lcʃ jeɑcμ c jelμecn lɪnɪ lə ɥɔl jen eɒ JM ɒcu enzel ɔn ɪlɪɒjelɟɪ ɔ ɪlɪɒjel. lə ʃcl Δ'ʕM00 scn lɪnɪ ɑcʃ jeɑcμ ɪ 10 ucl}ɥəlc. ɪlɑc lə ɑcʃ lcμ lɪnʃ ɪ 1 ɥəlc lɔ}lɔ Δ.ʕM×10 −⅄ scn. ɥɪn ʃə eʃ ucllɪn eə. jɪɪl, lɪlʃ ɪul, lə jc jɪnse len lɪnʃ jeɑcμ ɪ ɥəlc jecn ɒcl lə lcɒ jen ɥəə φcɔ c ʃə jɔɔl. ɪljɔn lɪlʃ ɪlɑ ɔnʃ ɪul, nɔn lɪμ ɑlɪn ɑcɟʃ eʃ ɑcɪnɪ eə. サンタクロースは実在か。 サンタクロースは虚構であると考える。以下が理由である。 第一に、数学的に、サンタクロースは複数人であるかプレゼントをあげる子供を厳選する必要がある。なぜか。 子供の数を 10 億、地球の人口を ʕ0 億と仮定しよう。 クリスマスとイブに JM 時間限界まで使えるよう、日付変更線からプレゼントを配っていくと仮定しよう。 10 億人の子供に対して持ち時間は Δʕ,M00 秒。つまり一人頭 0.0000ΔʕM 秒で配る必要がある。これは不可能だ。 第二に、経済的に見て、サンタクロースにはプレゼントを配るだけの理由がない。というのも、この行いによるメリットがないからだ。 ゆえに数学的および経済的に、私はサンタクロースが虚構であると考える。

ɑlɪnɑcμ ［地名］フランディール ［弓道］武射系 ［アクセント］ɑlɪnɑЄμ ［レベル］6 J1:lʃ ［文化］ トモエ県の一市。トモエ県トモエ区トモエ市の北東部にある。

ɑlɪnɑcɪ ［名詞］［魔法］フランディア、女、美少女、理想の女性、二次元美少女、三次元美少女 ［類義語］ɪlɒcɑɥe ［反意語］belɒɪ ［レベル］3 ul;ɑμen/ɑcɪ JJ:ɑμen/ɑcɪ「澄んだ夢」 ［文化］ 漢字ではしめすへんに女。男が想う女像。二次元か三次元のアイドルなど。主に前者。人によっては前者のみ。 エロゲやラノベなどサブカルに出てくる女。しばしばというか完全に実在しないこんな世の中は滅べばいいんだよ。 男が欲しいのは ɑlɪnɑcɪ 一択。そうでない女はそもそも女でない。どうしても戸籍やマスコミが ɒcn と定義したいなら、ならば ɒcn などに興味など持たず新たに ɑlɪnɑcɪ と belɒɪ を定義し、ɑlɪnɑcɪ だけを存在すべきものとして認めればいいではないか諸君。 ［用例］［言葉遊び］ɑlɪnɑcɪ ɥən ˈlɪnɑcɪ ɑcɪʃ. フランディアは幻想的なダイアモンドのよう（ネットユーザー）

ɑlɪnɑcɪlcɯ ［娯楽］ギャルゲー、ギャルゲ、ギャルゲーム ［レベル］4 ɪl;/ J?

ɑlɪnɑccɪ ［伝統色］フランディーア：存在：#４１ＡＡ４１：ɒel ɒel ［レベル］6 JJ:μcɑɕɪ/jeμen:「フラン＝ディストの緑」

ɑlɪnɑɔl ［代詞］［ɥəə̃］君たちの ［レベル］1 J1:dcnenɪ:ɑlenʃ/ʃəl

ɑlɪndleʃ ［歳時記］風夏の雫 ［レベル］3 J1:ɑlɪnɑleμ/dleʃ ［文化］ dɪl dɪl の休日。地球でいう８月の中ごろで、最も暑い時期。同時に７月から続く暑さにバテているころでもある。この日は街中の至る所で噴水やシャワーや風船を使って水をばらまいて行水する。人々は水を掛け合い、涼風に興じる。こうして暑気払いを行う。 μʃ で始まったが、後にミロクが dɪl dɪl の日に制定した。dɪɪl の語源が dɪdɪIəμɪ と同根であることから、dɪl dɪl は言ってみれば「太陽 太陽」に通じ、暑さの象徴となっている。そのため暑気払いにはもってこいで、ここにも言葉遊びが潜んでいる。

ɑlɪndel ［料理］クリームソーダ ［電算］フランペル ［ユマナ］ｙｏｕｔｕｂｅ、ｙｏｕ ｔｕｂｅ、ユーチューブ、ようつべ、つべ ［レベル］2 J1:μcɑɕɪ ［文化］ ul でできた国内最大手の動画サイト。トップページにクリームソーダの絵があったことから。 クリームソーダ自体は μʃ でカテージュでできたお菓子。当時は現在のような技術がないため、甘みをつけた炭酸水にアイスクリーム状のものを載せたものであった。

ɑlɪns ［動詞］ɥəl を囁く、囁く、ささやく ［普通動名詞］ささやき、囁き ［類義語］ʃcμʃ ［レベル］2 JJ:ɑlɪns,jzɑ「樹花の葉がざわめくように」

ɑlɪns,jzɑ ɒccnɪ、lccbe

ɑlɪnse ［ランドマーク］風花院、フランジェ、院。日本語訳文中では単に院と略すことも。 ls;ɑlɪn ueμs/ʃe JJ ［文化］ リーザとミーファが切り盛りする孤児院。幻京橋駅から徒歩１５分程度のところの小高い坂の上にある。ls のセレンやメルが育った場所。 ・孤児 孤児院フランジェにはリディアのほかに ⅱ 人の孤児がいる。彼らは苗字も分からず、かろうじて名前を覚えているだけだった。皆、リーザやミーファが拾ってきた孤児だ。 一人目は cʃlɪl。ɥənl。年のころは 1M, ⅄ に見える。が、実際いくつなのかは分からない。いつも黒紫の服を着ている。性格は大人しい。 イシュタルは数年前に雨に濡れていたところをリーザに拾われた。なぜかたまに古語が出てしまう。不思議な子だ。 二人目は ɒclhɪ。ɒclɕɪ。11 歳。魔族ディーレスと精霊のハーフだ。猫耳を持って生まれたせいで虐められてきた。魔族なのに気弱で泣き虫で怖がりな子だ。 しかしミルハのポテンシャルは強力なので、過度の恐怖を感じると無意識に周りのものを魔力で粉砕してしまう癖がある。 耳に極度のコンプレックスがあるため、常に帽子をかぶっている。頭に手が触れそうになると恐がる。撫でようとしても嫌がる。 三人目は ʅɔnɔhɪ。ɒɪɥə。見た目は 1⅊ 歳程度。凪人の名を持つが、れっきとしたロゼットで、神と人の混血児だ。 コノハはロゼットにも関わらず、あるものを司って生まれてきてしまったため、天界から追放されてしまった。 人を幸せにすることに生き甲斐を感じる。けなげで純粋で天真爛漫。しかし呪われた血のせいで、親切心がいつも裏目に出てしまう。 四人目は ɑeɪlcj。ɪɒɒɪ。19 歳で、人間の捨て子だ。ユベールの達人で、ミルハを妹のように可愛がっている。 フェアリスは芯の脆いところがある。親に捨てられたトラウマが消えず、拒絶されることを異常に恐れている。

ɑlɪnseʃ ［被服］ローブヴォラント ɟɒ;<lʃ<ɑlɪns/eʃ「花のように広がる」 JM ［文化］ ɑlɪnseʃ や ɥənʅɔʃ は地球より早く ɟɒ 後期にはできていた。μɑ の貴族解体以後も高貴なものの間で残り、μʃ ごろまで残っていた。

ɑlɪnlɔ ［被服］テューダーキャップ ɟɒ;ɑlɪn という貴族が始めた帽子 JM

ɑlɪnɟɟ ［電算］チューリングマシン ［レベル］6 ul;ɑlɪn ulɪnɑ/ɟɟ J? ［文化］ ul で ɑlɪn ulɪnɑ によって作られた仮想機械。

ɑlɪncɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ぼうえんきょう座 JM ［文化］ cɑɪ

ɑlɪneʃ ［被服］ダブレット、プールポアン ɟɒ;ɑlɪn という貴族が着たことから。 JM

ɑlɪuce ［人名］フラヴィエ ［名詞］朝。５時から１０時。 ［形容詞］朝の ［レベル］2 J0:μcɑɕɪ:ɑlɪu eμ.jzɑ（朝日） ɒɔdɪ:ɒɔdɪ:lɪ ɑlɪuce ［文化］ ɒcɪjɟc

ɑlɪucelelce ［名詞］一喜一憂 ［レベル］3 JJ

ɑlɪueɟ ［気象］朝日 ［医療］太陽 μɑ;<jzɑ JM

ɑlɪɑ ［音楽］賛美歌、頌歌、オード ［レベル］3 ɟɔμn:ɑlɪɑ

ɑlɪɑ,jzɑ ɑenl ɑɔueʃ。ふわっとしたオノマトペ。

ɑlɪɑɑc ［被服］ダウン ［レベル］3 J1: 擬態語「ふわふわ」

ɑlɪɑɪ ［サール］フラファ ［音楽］賛美歌の声楽 ［レベル］4 古 :lɒccμ ［文化］ 歌、声楽の女神。

ɑlɪɑeʃ,jzɑ ləj ɑlɪɑ/ʃe

ɑlɪɑel ［企業］フラフェル ［レベル］5 J1 ［文化］ エイベックスに相当する企業。

ɑlɪɒ ［魔法］獅法 ［名詞］［形容詞］ヴィードを伴わない、非魔法、非魔法の、魔法を使わない ［反意語］ləjcɪ、ɟʃ ［レベル］2 zφ;ɑlɪɒ,jzl J1 ［語法］ 魔法以外のユノやノアの使い方のこと。広義では ɪlueɑ を意味する。特に μɑ 末期から nɑ 以降はこの広義で使うケースが増えていった。ɑlɪɒlɪɒc は本来は ɪlueɑlɪɒc となるはずだが、ɑlɪɒlɪɒc になっているのが好例。 ɟʃ は広義では ləjcɪ を意味するため、ɟʃ も ɑlɪɒ の反対語となる。ɟʃlɪɒc、ɑlɪɒlɪɒc などに対が見られる。 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɑlɪɒ,jzl uceʃ。シージアには生息せず、見世物小屋などに輸入されたものを指す。

ɑlɪɒlɪicɪnʃ ［数学］黄金比、中末比、外中比、獅法比、フラムクライアント ［反意語］ləjcɪìlɪicɪnʃ ［レベル］4 jzl;ləjcɪìlɪicɪnʃ に対して名付けられた。 JJ ［文化］ zφ のシージアで発見された。アトラスでは白銀比のほうが先に発見されている。 アルバザードでは黄金比が好まれ、ルティア、アルティアでは白銀比が好まれる傾向にある。

ɑlɪɒlɪɒc ［名詞］現代科学 ［レベル］4 μɑ JJ ［文化］ ɪμʃlɪɒc

ɑlɪɒnɕɒ ［魔法］［芸術］獅法色 ［反意語］ɪμʃnɕɒ ［レベル］5 J1

ɑlɪɒɒel ［歴史］獅法代 ［レベル］4 ul;/。魔法が使えなくなり対義語の獅法だけが残った時代なので。 JM ［語法］ → ɑeɒe

ɑlɪɒdɔcʃ ［数学］黄金角 ［レベル］5 μɑ;μɥəə;ɑlɪɒlɪicɪnʃ/dɔcʃ JJ ［文化］ ３６０度を黄金比で割ったもの。アルダなど寒い地方の木々の枝の生える角度などに見られる。黄金角自体は zφ で発見されている。

ɑlɪɒel ［ランドマーク］［音楽］フラメル音楽堂、幻奏音楽堂 ［レベル］3 J0:μcɑɕɪ:ɑlɪɑ/ɒelej。「幻」幻京で「奏」奏でる。 ［文化］ ランスケルンの東側に接するアルバザード最大の音楽施設。所在地はセイネルス＝ミルフ通り。音楽ホールが多数あり、バンドや演奏家のライブが行われる。練習はここでできる。習い事でピアノなどを習う際もここが教室となることが多い。ホールはたくさんあるがどれも予約制であり、当日の予約は運が必要。

ɑlɪɒelɕɪ ［音楽］オペラ ［レベル］4 J1:ɑlɪɒel

ɑlɪd ［形容詞］ふわふわの、フワフワ、もこもこ、モコモコ、ふかふか、フカフカ ［類義語］ɑenl ［レベル］3 1L: オノマトペ

ɑlɪɥə ［丁寧］［幼児］［動物］しっぽ、尻尾 ［レベル］2 J0:ɑlɪ（ふわふわした）/ɥə（ふらふらしたオノマトペ）

ɑlɪc ［動物］鹿、シカ ［レベル］2 1⅊: 制 :jɔμn:ulɪc（鹿、まだら馬） ［擬声］ əhcc（鳴き声）

ɑlɪcɪuɔɒ ［名詞］弱肉強食 ［レベル］3 JJ:「鹿を狼が食べる」 ［用例］ blcze ɑlɪcɪuɔɒ μjɕʃ ʃə ɑcɪ ɑɪ. 所詮この世は弱肉強食。

ɑlcʃ ［動詞］ɥəl を ɪ に放射する、放射する ［普通動名詞］放射 ［レベル］4 1L:ɑlcd

ɑlcʃʃɔʅɔ ［魔法］放晄傾向 ［レベル］6 J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɑlcʃʃeeʃ ［魔法］放射性 ［レベル］5 J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɑlcʃlɪɑ ［地球の国名］マケドニア ［レベル］6 1L: 国旗が放射線状

ɑlcl ［気象］かすみ、霞、霧、もや、かすむ、霞む ［レベル］3 1L:μcɑɕɪ: 音象徴（霧っぽいもやもやした水っぽい音だそうだ） ［用例］ ləəɪɪleɪ ej ɑlcl ʅɪ sɪn. 空で黄砂が霞んでいる。 ʃəu ɪn lɪnʃ lɪ sɪn ɔʅen ɑlcl. 霞がかった綺麗な月が出ている。 ɪls ɔʅen ɑlcl eʃ lɪnʃ cɒ ɑcj lɪ. 今日はかすみがかった三日月が綺麗だ。 ɑcn ʃə lɪ μɪl ɑlcl ɒeμel, ʃə dɪɪj ɪnj ɥən φɪlʃ ɪlen ɑcɪ ʃˈɪnel nɪ. それ（月）は完全に霞の向こうにあるにも関わらず、魔界への門のごとく私達を照らしているようだ。

ɑlclɑɔl ［地学］霞石 ［レベル］6 1L

ɑlcj ［普通動名詞］申請 ［動詞］ɥəl を ɪ に申請する、申請する ［レベル］4 J0:ɑlen/lɪl → ɑlel → ɑlej → ɑlcj ［文化］ 簡潔に分かりやすく手際良く、そして嘘をつくことなく行う。

ɑlcjɒɪj ［名詞］申請書 ［レベル］4 J0

ɑlcφ ［地学］珪灰石 1L:ɑlcɪ（珪素）/eφɔ ［文化］ セラミックなどの原料になっている。

ɑlcd ［形容詞］輝いた、きらきら、キラキラ、煌く ［動詞］ɥəl を輝かせる、輝く ［レベル］2 1⅊: 制 :ɑlcɪ/dɪɪ（光） ［語法］ ɥəl を輝いた状態にすることなので、ɑlcdɪn でなく ɑlcd で「輝いた、輝く」の意味になる。 ［用例］ ucμɑ uelʃ ɑcʃíʃ cnj uəμ ɪl ɪn. ɪn, ʃɪl, ɥəc ɑlcd ʅɔn ʃə cnj. “黒夜給了我黑色的眼睛、我却用它尋找光明。” （暗黒の夜が私に暗黒の眼をくれた。私はその眼で光明を探し求める。） 顧城「一代人」 ɪn lɪɪd ɑɪɪl ɑlcd. 輝く太陽が恋しい。 ɑɪɪl ɪʃ ɑlcd ɑɔʃel. 太陽がぎらぎら照りつけていた。

ɑlcdlɪɑ ［地球の国名］スリランカ、セイロン島 ［レベル］6 1L: シンハラ語で光り輝く島

ɑlcdoɪl ［地球の国名］ルクセンブルグ、ルクセンブルク、リュクサンブール ［レベル］5 1L: 国名が輝く山

ɑlcdleʃʃc ［地学］輝銅鉱 1L

ɑlcdɪɑɔ ［地学］輝石 ［レベル］6 1L

ɑlcdcluɪ ［地学］輝コバルト鉱 1L

ɑlcdeμɑc ［地学］輝銀鉱 1L

ɑlcz ［名詞］氷晶 ［レベル］6 J0:ɑlcɪ/jɔ(水晶のようにする（凍てつく）)

ɑlczcɪ ［名詞］霜晶 ［レベル］6 J0:ɑlcz

ɑlcɪ ［魔法］［地学］水晶、クリスタル、結界水晶 ［類義語］ʅəlɔe ［レベル］3 ɪɥ;ɑəlɒccɪ,ɑu.l 1⅊: 制 : 古 :ɑəəɒccɪləɑɔ（フルミネアの宝石、水晶）。幻字は水晶の持つヴィードを象っている。 ɒccɪ:ɑlcɪ ［語法］ʅəlɔe ［文化］ ɑɔlɒcɥə ＜魔法学における水晶＞ ɑlcɪ は科学上の物質としての意味と、魔法学で使われるさまざまな種類の水晶の総称としての意味がある。 銀水晶：eμɑclcɪ 結界水晶：ɑejdelalcɪ 命水晶：ʅəlɔe 晄水晶：calcʃ。下位概念は calcʃ 参照。

ɑlcɪíecʅ ［名詞］液晶テレビ ［レベル］4 1L:μcɑɕɪ:ɪμbɪlelʃ ［用例］ ɑlcɪíecʅ hɪl 液晶高画質、ハイデフ、ハイデフィニション

ɑlcɪʅeμn ［魔法］飛水晶 ［レベル］4 ɟɒ;ɑlcɪ/ʌeμn「水晶の翼」 J1 ［文化］ calcʃ

ɑlcɪns ［亜魔］フリアンジュ、雪螢 ［レベル］6 J1:ʅʃ。ɑlcɪ と同根 ［文化］ シルフィの一種。ケートイア以北の森林や洞窟などに多く存在する。蛍のように光り、飛び回る。蛍と違って光は青白い。害はなく、力も非常に弱い。仮に攻撃しても霧散するだけで、攻撃しかえしてはこない。夜行性で、昼間は水中にいる。水辺の近くに多いので、水が近くにある指標として役立つ。

ɑlcɪns(J) ［企業］フリアンジュ社 J1 ［文化］ ul にできた楽器屋。創始者は ɑlcɪns nɪɪbel で、総

本店は終始一貫してケート。アルバザード本店は中央アルナのヴァルファント＝ミルフ。ギターやベースなどに強いが、キーボードやドラムなどロックバンドに用いる楽器全般でシェアが高い。　価格帯も安価なものからあり、質は全体的に癖がないため、初心者や学生などにも好まれる。

ɑlcɪns nɪɪbel ［人名］フリアンジュ＝ナーベル　ɹ1　［文化］ɑlcɪns　ul の音楽家。フリアンジュ社の創始者。

ɑlcɪnɪ ［名詞］人の感情を汲み取って気遣うのが巧い、気配りのできる　［反意語］nɪzlnɪ　［レベル］4　μɑ:μcɑcɪ;/「水晶の心」　ɹθ1:μcɑcɪ　［語法］nɪzlnɪ　［用例］ʃcl ɑlcɪnɪ 人の感情を汲み取って気遣うのが巧い

ɑlcɪɒelle ［名詞］水晶玉　［レベル］3　ɹ0:ɒelcɑcɪ lceμ　［文化］lɔμenɹ が占いに使う。

ɑlcɪdcnɔl ［地学］珪孔雀石　1L

ɑlcɪlcl ［化学］ケイ素、珪素　［レベル］4　1Δ: 制

ɑlcɪɹlɪɑɔ ［地学］珪酸塩鉱物　1L

ɑlccz ［名詞］お礼、礼、見返り　［レベル］3　μɑ;<ɹzɑ　ɹ1̂　［用例］lcclɪɹ ɑlccz ɑel ʃɔʃɔ ɪ　～という内容のお礼を ɪ にする

ɑlcɔμ ［名詞］旗、フラッグ、フラグ、フリオール　［電算］バナー　［類義語］ɪde　［アクセント］ɑlcɔ̂μ　［レベル］2　ɹɒ;lɪl̂ 風のたなびく音のオノマトペから。　ɹ1

ɑlɔʃ ［名詞］掛け布団、ふとん、キルト　［レベル］3　ɪlɪ̀lɪ

ɑlɔ̀ ［普通動名詞］拷問　［動詞］ɥel を拷問する　［レベル］3　1̂?: 制 : 古 ɑəɔ（残酷）/ 古 lɔ（考える）から。残酷な手を考える。　［用例］ɑlɔ̀ ɑəɔ ひどい拷問、凄惨な拷問

ɑlɔl ［動詞］ɥel を ɪ まで持ち上げる、持ち上げる、お姫様抱っこする　［レベル］2　1θ̂: 制 :ɑlel: 古 :ɑələ（肩をひょいと持ち上げる）　［用例］ɑlɔl led ɹɔlɑel 軽々と荷物を持ち上げる

ɑlɔlucɪn ［物理］揚力　［レベル］4　ɹ0: 持ち上げる力

ɑlɔɹ ［被服］ローブ、バスローブ、ソプラヴェステ　［レベル］3　ɑu;ɑc/ɹɪbe　1θ̂: 制 : 長い服　ɑlɔ ɹ:ɑlɔɹ

ɑlɔn ［形容詞］遠い　［格詞］～の遠くに　［化学］パラ　［反意語］ɑμeɒ　［レベル］1　@ 1L: 基本語だが、語形はちょうど ɑlen が塞がっていて ɑlɔn は開いており、音も悪くないのでテーブルを使った。　lɥə:ɪlə:ɪlenǯ　［用例］ɪlɪfe ɑlɔn 遠い場所

ɑlɔnɪ̂z ［生物］遠位、末梢　μɑ;/　ɹθ1

ɑlɔnɪ̀eɒ ［生物］章門　ɹ1

ɑlɔnnɪ ［名詞］［形容詞］疎遠な　［反意語］ɑμeɒnɪ　［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ　［成句］hɪrɪn ɑμeɒnɪ nɔɔ ɥelcɪn ɑlɔnnɪ 遠くの親類より近くの他人　ʃcl ɑlɔnnɪ ɪ nene　～とは疎遠だ

ɑlɔnuɪɹ ［軍事］遠距離戦　［レベル］4　ɹ1

ɑlɔnueɒl ［数学］［物理］［地学］正射、直射　［レベル］5　ɹ0: 無限遠に光源があることから

ɑlɔnɑɔnʃ ［交通］遠回り　［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɑlɔnclʃ ［名詞］［副詞］今後、こんど、今度、こないだ、このあいだ、この間、このまえ、この前。数週～数カ月　［類義語］clʃ、ɑμeɒclʃ　［レベル］2　μɑ;/　ɹθ1:/　［語法］ɑclɔnə

ɑlɔncnɹ ［医療］遠視、目が遠い　［レベル］3　1L

ɑlɔɒ ［名詞］学期、セメスター　［レベル］2　1θ̂: 制 :ɑlɔ から　［用例］ɪn ɑelɪʃ ɑɪl uecn cɒ ɑlɔɒ ʃɔl. 前学期にもっと勉強しておけば良かった。

ɑlɔɒʃɪɹ ［名詞］期末テスト、期末試験、中間試験、中間テスト、定期考査　［レベル］4　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɹ　［文化］→ ɒeljel, ɑcɪjel　年２回行う。ディアセルとメルセルの５日前から２日間かけて行われる。日本のように中間と期末の違いはない。というより中間テストの習慣自体がない。

ɑlɔμɪ ［動詞］ɥel を思う、思う、想う　［名詞］思考、思い、想い　［類義語］lɔ　［反意語］μɪɑcɹ　［レベル］2　ɑu;lɔ/μɪʃ　ɹ1:μcɑcɪ　［語法］lɔ

ɑlɔɪ ［魔法］土。五行の３番　［医療］脾　［レベル］4　ɹzl;ɑlɔμɪ。思考は脾を傷める。　ɹ1　［文化］ɪl euɪnɹ

ɑlɔɪɒ ［名詞］変わり目　［歳時記］季節の変わり目　μɑ;ɑlɔɪ/cɒ → ɪleuɪnɹ　ɹ1̂

ɑleɪ̀ ［地学］荒野、荒地　［レベル］3　ɹɔμn

ɑleɹ ［被服］ペンダント、首飾り、ネックレス、チェーン　［レベル］2　ɹɔμn　［語法］ペンダント、首飾り、ネックレス、チェーンもネックレスも首から提げる点で同じで、ɑleɹ は首から提げる装飾一般を指す。

ɑleɹʃ ［動詞］ɥel をひさぐ、ひさぐ、鬻ぐ、販ぐ、売り歩く、練り歩く、衒ぐ、売る、商う、行商する　［普通動名詞］移動販売、行商　［レベル］5　μɑ;ɑlel/ɹɔ/ʃe。かつて肩に棒をかついでひさいでいたことから。　ɹθ1　［文化］現代の車で場所を移動しながら売っていく果物屋や、豆腐をリアカーに入れて売る豆腐屋などもこれに当たる。

ɑleɹɪ́ɪn ［名詞］ひさぐ者、行商人、商人　［レベル］5　μɑ;/　ɹθ1

ɑlen ［動詞］ɥel を ɪ に許可する、許可する　［普通動名詞］許可　［法副詞］～してもよい　［形容詞］許可された　［類義語］lclhc　［反意語］lcn　［レベル］1　1L:ɹɔμn:ɑlel（許可）アルシエルとかぶるので語形を変えた。　ɑə:ɑə　［文化］目下であっても、権利を持っている人が目下であれば、目上に対して許可を与えることができる。目上は勝手に目下の権利を剥奪できない。許可には条件がつくこともあるが、倫理に適うことであれば喜捨の精神で与えることが望ましい。　［用例］ʃc ɪe ɑlen 行っても良いですよ。　leɑ ɑlen 許可なく、勝手に

ɑlenʃ ［代詞］［ɥeəl］君たち　［レベル］1　ɹ1:dcnenɪ:ɑlɪnʃ.]「そよ風のような人→涼やかなる君」

ɑlenɹ ［気象］涼風　［類義語］ɑlɪnʃ　［反意語］ɑμɪnɹ　［レベル］3　ɹ1: オノマトペ

ɑlenzel ［代詞］［ɥeəl］ʃcɹee　［レベル］1　ɹ1:dcnenɪ:ɑlenʃ ɹeμ（君等は知っている）

ɑleɑcμ ［生物］手、手のひら、掌、手の平、指を広げた手の平　［丁寧］手の平、たなごころ　［類義語］ocɹ　［レベル］3　μɑ;ɑleɑcμ,ɹzɑ.heɒ　ɹ1　［語法］指を広げた手の平のこと。単に丁寧語で手の平の意味も。

ɑleɑclɪnɹ ［文字］基本書体、幻字基本５書体、フレディランス、掌華　［レベル］5　μɑ;ɑleɑclɪns. l < ɑleɑcμ/ɑlɪns「掌の華」。基本５書体を手で数えるとちょうど ɑleɑcμ ができることから。また、書体名がすべて花になっていることから。　ɹ1　［文化］μɑ で制定された幻字の基本的な書体で、現在に到るまで地位を保ち続けている。それを写しとった５フォントは国際標準となっており、万人が自由に使える。　それぞれにルティア語の花の名前が冠されている。どの花も μɪdɪll に入るものだが、フレディランス中では組み数字としての意味はなく、花の名としての意味を持つ。むしろ組み数字に逆らう順序で並んでおり、重要とされる順に伝統的に以下のように並ぶ。　lɪμɑcnɪl : カーディナル。幻字の原型となる書体。lɪnʃcɪ と対するときは ʃcnɪ とも呼ばれる。コスモスのような素直で晴れ晴れした可愛らしい書体であることから。地球ではＨｅｌｖｅｔｉｃａに相当する。　ɪlblɪnʃ : アルブラント。出版印刷業界における標準書体。新聞・雑誌・書籍・ウェブサイトなどの本文に用いられる。四方に伸びるセリフが華やかに咲く曼珠沙華のようであることから。地球ではＴｉｍｅｓ　Ｎｅｗ　Ｒｏｍａｎに相当する。　ɑenlcl : フェンリル。いわゆる筆記体の基準となる書体。厳密にはスクリプト (μɪuɪnʃe) に分類される。流麗な優雅さが金木犀の芳香になぞらえられた。ɪ の点と l の棒は手書きの場合は無くても構わない。神の言語、アルバザード人にとって不慣れな外国語、手書きの文書などを記すのに用いる。デザインの世界では、高級レストランのメニューの表示など、高級感があってなおかつルティア的な流麗さを持ったものに使われやすい。　nɪlncɪ : ナルニア。いわゆるイタリック体の基準となる書体。厳密にはスクリプト (μɪuɪnʃe) に分類される。風にそよぐような字形がラベンダーに喩えられた。本文中ではルティア語など外国語を示すのに用いるが、それは単にアルブラントの斜体で示すことも多い。フェンリルほど流麗ではないがオリヴィアほど格式張ったものでもない印象を与えるため、デザインの世界ではフェンリルとオリヴィアの中間的な存在として広く用いられる。　ɔlcuɑcɪ : オリヴィア。いわゆるゴシック体の基準となる書体。ブラックレターの棘々した字形が薔薇の棘に見立てられたことから。字間が詰まっているため、紙が現在より貴重だった μɑ では、一流未満の出版社や周辺国の出版社でよく用いられた。ケートイアやヒュートでは未だによく使われるため、本文中ではこれらの言語を示すのに用いることもあるが、やはりナルニア同様、アルブラントの斜体で済ますことも多い。左記のような出版社の都合により、古い文献でよく見かける。それゆえ、歴史の深さや荘厳さという意味での格調高さを持った文字と見なされている。デザインの世界では伝統や格式の高さなどを出すのに使われる。流麗というよりは荘厳のイメージで、黒い高級感溢れる商品などに用いられる。伝統的な商品だけでなく現代の商品にもむろん使うことができ、例えばパソコンでいうなら新型のハイスペック端末のロゴなどに用いられる。

ɑled ［名詞］ジャッキ　［レベル］5　1̂?: 制 : 古 :ɑələ（肩をひょいと持ち上げる）　［語法］小さい力で重い物を垂直に持ち上げる器具。

ɑleμ ［名詞］熱湯　［類義語］ɪleμ、ɪlcμ、lcμcɪ、eμ　［レベル］2　ɹ0:μcɑcɪ:ɑleɪ/eμcɪ　［語法］ɑleμ は１００度前後の熱湯。低くても８０度以上。６０度程度の体を温めるお湯が ɪleμ。熱くても８０度程度。体を温めも冷やしもしない体温に近いものが ɪlcμ。４０度前後。熱くても５０度弱で、冷たくても３０度程度。体温より低く、おおむね０～２０度程度のものが lcμcɪ。　［文化］μɑ でリディアがセレンに健康法として ɪleμ,ɪlcμ のみを飲めと指示したことがきっかけで水の温度を４分類に分けた。その後ミロクが ɪμucnɪ の一環として国民に広めた。　アルバザード人が最も飲む水分は白湯で、ɪleμ である。８割を白湯が占める。残りは嗜好品だが、その中で最も多いのは紅茶。ジュースはオレンジなど、果実のもの。　［用例］ɪn ʃclɪʃ ɑɪcɑ ɔn uejn ɒcl ɑleμ e ɑclɔ. ポットのお湯で舌をやけどした。

ɑles ［代詞］こちら　［副詞］こちらで。el 不要、lɪ 不要。　［類義語］ɪʃə　［反意語］lɪɪɑ　［レベル］1　ɹ1;ɑles,ɹzɑ　ɹ1

ɑlel ［生物］肩　［動詞］ɥel を肩に載せる、肩車する　［普通動名詞］肩車、かたぐるま　［レベル］1　μɑ　ɹ0:ɑle:1̂?: 制 : 古 :ɑə（肩）　ɑə:ɑə:lɪ ɑlel　［文化］荷物を背負う部位であることから、ストレスや苦難を背負うメタファーとして使われる。　［成句］ɑlel eɒ neɪ̀ 緊張や驚きで肩が上がる　［用例］neɪ̀ ɑlel 肩をすくめる　ɥeʃ lənɪ̀ ɑlel ɪnʃ. 問題が私に降りかかった : ɥeʃ lən ɪ̀ ɪn より「ずっしり荷重が加わってつらい」というニュアンスが出る。　ɑlel lɪnuc 強い肩。投擲力があるという意味。英語のｓｏｌｉｄ　ｓｈｏｕｌｄｅｒｓに相当。

ɑlelneɪ̀ ［生物］肩鼎　ɹ1

ɑleɹɑɔʃ ［被服］肩紐　［レベル］3　μɑ;/　ɹ1̂　［用例］jeɑ ɑleɹɑɔʃ 肩紐を外す

ɑlelɒɪɹɪ ［生物］肩帯　ɹ0:μcɑcɪ

ɑlelφɪlʃ ［生物］肩井　［レベル］6　ɹ1

ɑlelφel ［軍事］ショルダーウェポン　μɑ;/　ɹθ1　［文化］φel

ɑlelhɔ ［生物］鎖骨　［レベル］4　ɹ1

ɑlelzɔl ［音楽］バイオリン、ヴァイオリン　［レベル］3　ɹ1:ɑlezɔl<1̂?: 制 : 肩の弦楽器。肩に乗せて弾くのが一般的であることから。最終的な制アルカの辞典に「インデックス語」についての情報がまだ ɑlezɔl に書いてあって、いかに膿の溜まった辞書かと驚いた。

ɑleɪ ［サール］フレア。夏を司る女神　［形容詞］色が夏めいた　［形容詞］夏の　［名詞］夏、夏季、夏期、夏場　［組み数字］2 / 4　［レベル］2　古 :μcɑcɪ:ɪeɑɪ(夏) に関連。ɪeɑɪ の ɑɪ は火で、暑いことを指す。したがって ɑleɪ の ɑ は ɑɪ から来ているが、後の ɪeɪ は不明。　::lɪ ɑlɪnɑleμ:fɔlcɪɔ,ɪ lʃ　［文化］アルシエルの一人。夏を司る女神。方角では南。アルバザードは北半球で、南に行くほど暑い印象がある。　［用例］ɑleɪ lənɪ̀ lc ɪlʃe. 春が過ぎて夏が来た。　ɑleɪ lənɪ̀ cn. 夏が来たようだ。　ɑleɪ cɪ̀ lcʃ. 夏が始まった。　ɪn nɪ delj ɔn ɪ̀ nɔj ɥɔl pel uɪμ ɑleɪ. 今年の夏をどう過ごそうか心配している。　ɪn lɪl ɑleɪ e fə ɹɪlʃ ɹɪlʃ ɹɪlʃ ʃɔl eʃ hɪμʃ. 去年の夏ほど暑くなければいいが。　ɑcj ɪʃ ɒccʃ ɑcn fə eʃ ɑleɪ. 夏にしては涼しい日だった。　ɑleɪ e fə ɹɪlʃ nɔɑ ɹɪlʃ ʃɔl eʃ ɒccʃ nɪ. 今年の夏は去年より涼しいようだ。　ɪn nɪ ɑleɪ eɒ ejcl uecn ʃeɪ μcb ɒc fə. 蚊がいなかったら夏はもっと快適なのに : fə は ɑleɪ。

ɑleɪʃɔɔl ［気象］晩夏　［レベル］4　μɑ;/　ɹ1̂

ɑleɪ̀lɪɹ ［地球の星座］［ユマナ］夏の大三角形　ɹθ1　［文化］cɑɪ

ɑleɪ̀cʃ ［気象］初夏　［レベル］4　μɑ;/　ɹ1̂

ɑleɪ̀ɔzeʃ ［天文］夏の大三角形、夏の大三角　［レベル］3　ɹ1:μcɑcɪ: → ɒeɑɪnɹ　［文化］ɒcɪɥəc

ɑleɪɹɔμʃ ［医療］夏冷え　［レベル］4　ul;/　ɹ1̂　［文化］→ ɑleɪɒelcɹ　夏バテの正体として ul で発見されたが、実は再発見でしかなく、古くからルクレティアでは夏の冷えとして知られていた。　現代では夏バテで消化器がやられる原因は冷房と室外の温度差による自律神経の乱れや冷たいものの摂り過ぎや薄着による冷えにあるとされる。　アルバザード人は風土的に夏バテにならないが、アルティアやカレン半島やカテージュ地方ではやや見られる。結果、夏冷えが起こり、冬に冷えて消化器を壊した状態と同じものを招くことになる。瓜人のこのことをよく心得ているが、アルバザード人は知らずに旅先でダウンするなどということがある。　このタイプの夏バテで消化器の調子が悪く胸脇苦満を認める場合、ルクレティアでは胃苓湯、柴胡桂枝湯を処方し、偽性アルドステロン症に気を配りつつ頓服として芍薬甘草湯を処方するとよいとされる。

ɑleɪnɪ̀leɪ ［歳時記］夏休み　［レベル］2　ɹ1:μcɑcɪ　［文化］nɪ̀leɪ

ɑleɪɑɪc ［気象］かげろう、陽炎、カゲロウ　［レベル］3　1L: 夏の炎　［語法］春から夏にかけて起こるが、アルバザードでは主に夏に起こる。　［用例］ɪn cnɪʃ ɑleɪɑɪc. 陽炎が立つのを見た。

ɑleɪɒelcɹ ［医療］夏ばて、夏バテ　［レベル］3　1L　［文化］アルバザードの夏は乾いているので、バテない。むしろすがすがしい。　［用例］ɪn ʃclɪʃ ɑleɪɒelcɹ. 夏バテした。

ɑleɪnəμne ［歳時記］夏の夜、魔法の時間、魔法の夜、フレアドゥルネ　［レベル］4　ɹ1　［文化］一年の季節のうち、アテンのヴィードが最も高まるのは夏の夜。とりわけ７時から１０時くらいまでの間。数々の怪奇や忌憚がこの時期に起きている。最も不思議なことが起こりやすいことから、魔法の時間とされている。　［用例］el ɥɔl jen ɪμʃ cɒ ejɪ̀ cɒen lceμ əl ɑleɪnə μne nɪ. 冬の雨と夏の夜には魔法が使えそうな気がする（jeμen ɪμbɪzɪμə）

ɑleɪdɪlɑ ［気象］夏至　［レベル］3　1L: フレアのお散歩。夏至ごろのアルバザードは夜９時すぎまで明るく散歩に向いていることから

ɑleɪbel ［アトラスの国家］フレアベル　［レベル］5　1L:μcɑcɪ: 南のファベル

ɑleɪhɪr̂ ［文字］幼字 ɑleɪ のこと　［レベル］4　ɹ1

ɑleɪμɔɒɪ ［医療］ヒステリー発作、ヒステリー、大激怒、かんしゃく、癇癪　［レベル］4　1L: フレア発作　［用例］lɪ ɪμʃ ɑleɪμɔɒɪ ɒe. あいつ、またヒステリー起こしたよ。

ɑleɪscɔμ ［生物］次髎　ɹ1

ɑleɪlcl ［化学］ストロンチウム　［レベル］5　1Δ: 制

ɑleɪlecn ［被服］夏服　［レベル］3　1L　［用例］nɔn euɪʃ ɑleɪlecn ɪ lʃɪʃ cɹʃ ɪlʃelecn. 引き出しの服を夏服に入れ替えた。

ɑleɪɔlɒɪ ［名詞］表２、見返し→ lec　［レベル］6　ɹ1

ɑleɪeμc ［医療］血液型のＢ型　［レベル］2　1L　［文化］Ｂ型は自己中で気まぐれと思われている。

ɑlec ［名詞］ページ、枚　［電算］ページ。個々のＨＴＭＬ等からなるウェブページ　［レベル］2　ɹɔμn　［用例］heʃe ɑlec ページをめくる　ɥəlɔ ɑlec ページを戻る　lcɪ ɑlec ページを飛ばす　hɔɒ ɑlec 9̂ 7 3 ページを開く　ɪn euɪʃ ʃeɪ ɪɹɔu ɑlec e lec lel ɒɔlʃ. しおりの代わりに落ち葉を本のページの間に挟んでおいた。

ɑlecɑlɪ ［名詞］ノンブル、ページ番号→ lec　［レベル］3　ɹ1

ɑlecɪlʃ ［名詞］ページ数　［レベル］3　ɹ0

ɑleceɑ ［電算］サイトマップ　［レベル］4　ɹ1

ɑleə ［名詞］南　［格詞］～の南にある　［反意語］lcɪμ　［レベル］2　1L:ɑleɪ　::lɪ {μcɔ}ɔl:hɪφclc,ɪlʃ

ɑleə̀lɪɹcɑ ［地球の星座］［ユマナ］みなみのさそり座　ɹθ1　［文化］cɑɪ

ɑleəɹʃenʃ ［地球の星座］［ユマナ］みなみじゅうじ座　ɹθ1　［文化］cɑɪ

ɑleəuɪμlʃcle ［地学］南ヴァルク海流　ɹ1̂

ɑleəɑɒbɔμ ［地球の国名］南アフリカ共和国　1L

ɑleəɑɒbeμ ［名詞］南ファベル　［レベル］4　1L:clbəj:μcɑcɪ

ɑleəɑɪclcɑ ［地球の星座］［ユマナ］みなみのかんむり座　ɹθ1　［文化］cɑɪ

ɑleədɔl ［名詞］南方　［名詞］イルケアの南、ファルファニア、アルシェリア、ゲノスを含んだ地域。　［レベル］4　ɹ0　［文化］lcɪμdɔl

ɑleəhɪμʃɒecnʃcle ［地学］南赤道海流　ɹ1̂

ɑleəμecn ［地学］南緯　［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɑleəlɔɔz ［名詞］南端　［物理］磁石のＳ極　［レベル］3　1L:μcɑcɪ

ɑleəɪʃɔlɪɹ ［地学］南半球　［レベル］4　1L:clbəj:μcɑcɪ

ɑleəɪn ［名詞］南方人　［レベル］3　ɹ0　［文化］国際的には ɑleədɔl の人を指す。国内ではイルケア以南を指す。

ɑleəɪnlɪl ［地名］南アンシャル　［レベル］4　1L　［文化］→ ɪlɪɹɪnlɪl

ɑleəcnɹɪl ［地名］南インサール　［レベル］4　1L　［文化］→ ɪlɪɹɪnlɪl

ɑleəcnɹeʃ ［地球の国名］大韓民国、韓国　［レベル］5　1L

ɑleəen ［接続詞］～の南にある　［レベル］3　μɑ;/　ɹθ1

aleəelccɑı ［地球の星座］［ユマナ］みなみのうお座　JM ［文化］ cɑı

aləɳɥef ［料理］フルニェット、フルーニェット、綿菓子、綿飴、綿あめ、わたあめ、わた飴 ［類義語］pelelcı ［レベル］2　JO:aləɳɥə/fe ［文化］ 綿菓子のようなボンボン状の菓子。

aləɳɥə ［形容詞］［ポジティブ］柔らかくてふわふわして心地の良い、フルーニュ ［レベル］3　JO:ɑlıd（ふわふわ）/nɥə（柔らかそうな音象徴） ［文化］ 犬や猫の名前に用いられることもある。

aıf ［単位］１０００分の１、糸、絲　1L: 恣意

aıfcl ［魔物］ファティック（火竜）：第四十二天：火の衛天 ［レベル］5　1L:ɥcɑcı/jeɥen/pel:ɑıc/fclɔ ［文化］ 火属性の竜。竜族の中で唯一飛ぶのも走るのも得意。肌は一部が赤黒く、鱗はおおむね灰色。極めて獰猛な竜で、獲物を見つけては即座に襲う。

aıfcj ［地名］迷宮ファティス ［名詞］迷宮、迷路、ラビリンス ［レベル］5　ɔclɑ: 古 ［文化］ 迷宮ファティスは２つの世界を繋いでいる。『小説版アンクノット』ではミルフの住んでいた迷宮になっている。

aıfcɒı ［エルト］ファティマ ［レベル］4　jeɥen: 古 :ɑəʃɔcɒıſ 時間を取る」の母音を変えたもの。 ［文化］ 時間を無駄遣いしている者から時間を奪い取り、時間を必要としている者に仕えるエルト。例えば自堕落に過ごしている愚者から時間を奪い、忙しい研究者などに時間を与えたりする。

aıfcφ ［普通動名詞］冶金 ［動詞］ɥəl（金属）を c（鉱物）から取り出す、ɥəl（合金）を c（金属）から作る、冶金する ［レベル］5　μɑ;aıfcl/φc　JJ

aıfcl ［動詞］ɥəl を c から取り出す、取り出す ［動詞］ɥəl を挙げる、挙げる、あげる、取り上げる、列挙する、思い出す、思いつく、思い出す、出る、出す ［武道］ɥəl（剣など）を抜刀する ［反意語］ɑcſl ［レベル］2　1L: 古 ɑəſ/flcl ［語法］「挙げる」の用法が案外高頻度なので注意。脳から情報を取り出すところから来ている。アルミヴァの名前を順に挙げていて、「ティクノと、フェンゼルと……えぇと、あと次が出ないんだけど」の「出る」などに使う。この場合は hel でも可。 ［用例］ "lɔɔ μen ɑıfcl μıfı nɔın e"「じゃあ私の好きなところ言ってってよ」

aıfcɒ ［動物］ゴールデンレトリバー ［レベル］6　Jl:ɑınſ/ɔɒı

aıfcɔ ［感動詞］ごくろうさま、ご苦労さま、お疲れ様、おつかれさま、おつかれさまです、乙、乙です ［類義語］beɑɥ ［レベル］2　古 :「 仕事は終わった 」 ［語法］ 仕事が終わったときにしか使えない。日本語だと仕事をしている途中で「おつかれさまです」などということがしばしばあり、社員同士ですれ違うときの挨拶にすらなっているが、このとき aıfcɔ は使えない。ıμɔμϐ や ɾcɔnɔ や hec などが使われる。

aıfcɔıłnı ［名詞］うちあげ、打ち上げ、慰労会、お疲れ様会、お疲れさん会 ［レベル］4　μɑ;/「お疲れ様パーティ」　JM ［用例］ ın lı fəμ aıfcɔıłnı e fɔłl e ſıvəlc. お囃子の練習の打ち上げ会をしている。

aıłf ［動詞］ɥəl を ı に参加させる、参加する ［普通動名詞］参加 ［レベル］2　1M: 制 :ɑcłſ ［用例］ ılı ej ın aıłf lıɑ. ı fəəbe ılı ſcɾ. なんでこんな会議に出なきゃいけないんだよ。　cɒ ɑcɾ ſın, ın łe aıl ɑefłc łıen nıφɔɥı. fə ef cɾſ lıl l'ıμ ɾcl ɥə łı φchə cɒ fə ɾıılɾel. ın aıłf ıl ɔɔφıłcoıcn enſɔ łe ucl ɑefłc cɒ fə ɾel. 今日も名古屋の塾に行かねばならない。今日はこの日曜日に岐阜で行われるはずの授業の振替分だ。私はその日大垣まつりに出るので塾に行けないのである。

aıłɒ ［地学］コークス ［レベル］5　ɒelſcı Δ:φclcəɾ;ɑıc/hɔłɒ「焼き石炭」石炭を蒸し焼きして作ることから。　JI

aıl ［動詞］ɥəl を抱く、抱く、包む ［婉曲］ɥəl とセックスする、セックスする ［反意語］pelɑ ［レベル］2　古 :ɾɔμn: 抱く。アルシェでは flclɒıcn（体を持つ） ［語法］ pelɑ ［用例］ uel aılcı ɑcı. 闇が世界を覆った。

aılɒını ［地学］［歴史］白亜紀 ［レベル］5　ul;/　JI ［文化］ φııueɑeɒe

aılɒɔnɔ ［動詞］ɥəl を羽交い絞めにする、拘束する ［普通動名詞］羽交い絞め、はがいじめ ［レベル］4　1L:pelcɑcı ılcɾ

aıłłɔnz ［名詞］抱き枕 ［俗語］枕営業 ［レベル］3　1L: リディアの書 ［用例］ łııbe ſıɑıſ łıb łɔcn aıłł ɔnz ɾcn. あいつは枕で仕事取ってきやがった。

aıłłɔnzſıəaıɾ ［名詞］枕営業→ aıłłɔnz ［レベル］5　JJ

aılı ［名詞］万力、チャック ［レベル］3　1ſ: 制 :ɑıł ［用例］ ɒɔnɔ łɔn aılı 万力で締める

aılccɒ ［化学］単糖類 ［レベル］5　1L

aıɾ ［名詞］仕事、使命 ［動詞］ɥəl を ɔn について働かせる、働かせる、働く ［類義語］lıb、łleulınɾ ［レベル］2　中期制 ［語法］ lıb ［成句］ aıɾ μıſ いい仕事、よくできました、グッジョブ、ＧＪ、よくやった、でかした、でかしたぞ

aıɾſ ［形容詞］簡潔な、手っ取り早い、時間のかからない ［副詞］簡潔に、手っ取り早く、あっさりと、あっさり、しれっと ［名詞］概要、概略、概説、あらすじ、粗筋、荒筋、要旨、要約、まとめ、ポイント ［類義語］ılɑıɒb ［反意語］ɑcłł ［名詞］簡潔な届け ［レベル］2　1ſ: 制

aıɾſʃłıc ［電算］まとめサイト、要約サイト、ｗｉｋｉ、アフィリエイトブログ、アフィブログ ［レベル］5　ıl;/　JM

aıł ［動詞］ɥəl を ı に就任させる、就任する、任命する ［レベル］4　1M: 制 :aıɾɑcſ（仕事を与えるから） ［用例］ ɒcμɔł ıſ aıł ıl ıμſılej. ミロクはアルタレスに就任した。

aıɾd ［料理］蒸す ［レベル］2　1ſ: 制 : 古 :aıɾıdl から。ɑı は火の意味で、ここでは熱い。ɾıdl は ɾıdlc 空気から。

aıɾdhıɾſ ［形容詞］［ネガティブ］蒸し暑い、じめじめした、ジメジメした ［類義語］jeμcd ［レベル］3　1L ［用例］ ɑcɾ ıſ aıɾdhıɾſ. 今日は蒸し暑かった。蒸すように暑かった。　ɑcɾ ıſ aıɾdhıɾſ enſɔ ın nı łcn ı ɾcdıl. 暑くて息苦しい日だった。

aıɾdez ［名詞］サウナ、蒸し風呂 ［レベル］3　1L ［文化］ アルダからアルバザードに伝わった。温泉にはたいてい付いているが、家庭にはない。

aıɾı ［被服］マント、袖のない外套 ［類義語］alınlcı ［レベル］3　zφ; ↓　łıłſı: マントをたなびかせるときの「 ふわっ 」という音。　aɾı:aɾı:lə alınlcı

aıɾıueμınſ ［医療］套型人格障害 ［レベル］6　ıl;/　JI:jeμen/pel ［文化］ ueμınſ

aın ［形容詞］丈夫な、堅牢な、頑丈な、強固な、強靭な ［形容詞］耐久性がある ［形容詞］日持ちの良い ［反意語］ɑcɒ ［レベル］2　@ 1L ［用例］ ［メタファー］［俗語］aın ɥən łlın 奴隷のように丈夫な

aın(J) ［法副詞］［μenſe］uın ［レベル］1　1L:uın を弱めたもの

aın(?) ［接尾辞］番号、位 ［類義語］aılı ［レベル］1　Jl:aılı/n ［語法］ → ıłł 数について番号を指す。łɔaın で 1 番ないし 1 位。aılı łɔ でも意味は同じだが、前置詞句。łɔaın は語。文法的に異なる。 ［用例］ φıłaın １００番　lcnaın ５番

aın(ſl) ［エルト］uıμaınſ の略称 ［組み数字］7 / 1 2 ［レベル］1　JJ

aın,ɑ hıμ jııl;ɑıc/ncɒ

aınſ ［地学］金、ゴールド ［形容詞］金の ［組み数字］1 / 4 ［レベル］2　ljl;aınſɔɒ,ɑu.łcł　1ſ: 制 :jɔμn:aınſɔɒ aınſɔɒ:aınſ ［文化］ eμɑc

aınſjel ［歳時記］金の日 ［レベル］3　Jl ［文化］ アルバザードの産業経済において大きな出来事があった４つの日をそれぞれ金銀銅鉄で呼ぶ。金が最も影響が大きかった日である。　金 : φcl μez　銀 : dıl ɑcn　銅 : ɑcı scl　鉄 : pcł nɔn

aınſφıμ ［電算］ＤＶＤ ［レベル］3　1L: 金の円盤 ［用例］ ın cnıſ łıl ɑelj łɔn aınſφıμ. ＤＶＤで映画が見たかった。　ın jſcſıſ aınſφıμ. ＤＶＤを借りた。

aınſjecn ［組み数字］金賞 ［レベル］5　Jl ［文化］ → μıdıłl アトラスで古くから一般的に用いられてきた価値の高い金属。発見はギリウス神によるもので、その順序は銅金銀鉄であるが、価値の順序は時代によって異なる。μn ごろでは金銀銅鉄の順序であり、これが賞として採用されている。ほかに貴金属としてはプラチナなどもあるが、四つ組の中には計上されない。

aınłłcl ［化学］金→ aınſ ［レベル］4　1L

aınſı ［天文］hɔɔμılccɑı ［組み数字］7 / 8 ［レベル］4　ljɑ;aınſɔɒ,ɑu　Jl

aınſɔɒ ［植物］うこん、ウコン、ターメリック ［レベル］4　古の aınſɔɒ（金）から

aınſɔɒ,ɑu aınſ pelſcı Jl:φclcəɾ;e

aınſe ［料理］てんぷら、揚げ物、ナゲット ［レベル］3　1M: 制 :jɔμn:aınſeɑınſɔɒeɒɥə（金色油） ［文化］ アルティア食。アルバザード人はあまり好まない。

aınſen ［形容詞］非理性的な、貪欲な、拝金主義な、成金な、非理知的な ［類義語］enɥəəl ［レベル］3　1L: 金の心。銀に対してできた。lefſen と比較して en がついた

aınł ［名詞］麻薬 ［レベル］3　łıłſı

aınłłıb ［名詞］麻薬検査 ［レベル］4　1L:pelcɑcı ılcɾ

aınu ［医療］マラリア ［レベル］4　łıłſı

aınul,ɾzɑ ɑcμſ ‹›dı ɔn "ɑı"

aınueμınſ ［医療］アスペルガー、アスペルガー症候群、アスペルガー障害、アスペ、高機能自閉症 ［レベル］6　ul;uıμaınſ/ueμınſ. 言ったことを愚直に捉えるところから来ている。　Jl:pel

aınuel ［建築］ファンベル宮殿　JJ:「豪華な」 ［文化］ ケートイアの宮殿。ケート王の住居。ɾɒ で建設。 ［成句］ aııu ɥən aınuel 豪華絢爛

aınɑ ［動物］ジャガー ［レベル］5　1L:aınɑenz

aınɑłıɑ ［地球の国名］ガイアナ　1L: 国章にジャガー

aınɑɥeı ［化学］［工学］錬鉄 ［レベル］6　μſ;/　JM ［文化］ μſ で発明された鉄。銑鉄は脆く壊れやすいので橋などの建造物には向かなかった。そこで銑鉄の炭素含有量を減らした錬鉄が作られ、ガウディの塔などに用いられた。

aınɑ ［動詞］ɥəl を盛り上げる、盛り上げる ［名詞］オチ、話のヤマ、サビ ［レベル］3　1M: 制 : 古 :aıcnı（盛り上がる）。「 火の心 」から。 ［用例］ aınɑ ſeel お約束。お決まりのオチ　eu aınɑ ı łəl 話にオチをつける　fə łıle łcμ aınɑ bın uecn. この漫画はオチが弱い。　(el) łəɔł aınɑ. オチがついた。　fə łıle ej μecz ɔn aınɑ. この漫画はオチなしだな。　ın łɔłc ucl aınɑ e fə łıle. この漫画のオチが理解できない。　ıfə{fə} eſ aınɑ łcnɔı. ここがオチなの。いいとこなの。

aınφ ［植物］蘭、ラン ［メタファー］箱入り娘、手塩にかけて育てた娘 ［レベル］3　łıłſı

aınφıj ［政治］諸侯　jɒ;「高価な食材」が原義。　JM

aınɥɔłɔl ［経済］耐久消費財　1L

aınz ［単位］垓　Jl:aenz

aınzel ［形容詞］残酷な、凄惨な、冷酷な、冷徹な、ひどい、酷い、非道い。残酷なだけでなく怜悧なイメージがある ［類義語］aəɔ ［レベル］2　JJ:aenzel

aınlcl ［化学］ヘリウム ［レベル］4　1Δ: 制

aını ［動詞］ɥəl を ı に集中させる、集中する、ハマる、ハマらせる、はまる ［副詞］集中して ［レベル］2　1ſ: 制 : 恣意 ［成句］ aını jeɑ jen ɥıc ıj 集中すれば痛みも消える：心頭を滅却すれば火もまた涼し ［用例］ μe aını ı ael = μe ael aınıl. 勉強に集中しろ。　ın ej aını ı łcuı cɒ fəɔ. 最近ゲームにハマっている。

aınıfeμ ［動詞］ɥəl を聞き取る、聞き取る、聴取する、聴き取る ［普通動名詞］聞き取り、聴取、事情聴取、聴き取り、ヒアリング、リスニング ［レベル］2　JJ: 集中して聞く

aınłł ［商標］ソーダ、ファナック、スプライト、セブンアップ ［類義語］φııze μɑ; 商標　JI ［文化］ φııze に香料や甘味料等を入れたもの。いわゆる日本でいうソーダ。

aınıd ［名詞］晴れ舞台、見せ場、花道 ［レベル］4　μɑ;aınıdıɒ.ʅ「スポットライトが当たる」　JI

aınıdıɒ ［名詞］スポットライト ［レベル］4　JJ

aınıɔɒ ［名詞］集中力の付け方 ［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbılelſ

aınıenuc ［名詞］集中力 ［レベル］3　1L:μcɑcı

aıu ［人名］ファーヴァの略称 ［組み数字］1 2 / 2 8 ［レベル］1　古 :ſeɔlɔn: 論文提出用のサイン aıu がそのまま名になったもの

aıuueμınſ ［医療］統合失調型パーソナリティ障害、統合失調型人格障害 ［レベル］5　ul;aııuı/ueμınſ　JI:pel

aıuı ［被服］ドレス、綺麗な着物 ［レベル］3　1M: 制 :aıujıb

aıue ［名詞］パレード ［レベル］3　1M: 制 :aıułe（華やかに行く） ［用例］ łczl ıμıſ aıue. 村のパレードがあった。

aıɑ,jzɑ dıb dıb.l

aıɒ ［名詞］物事、ものごと ［類義語］ʃəl、ucj ［レベル］2　JO: 恣意　ıl:ıl: ［語法］ fəl と ucj の上位概念。

aıɒłłel ［言語］事典、コト典、こと典、百科事典→ łłel ［レベル］4　JO: 物事の辞書

aıɒl ［被服］ジーンズ、ジーン、ジーパン ［レベル］3　1ſ: 制 :ɑıɒɥɔłɔ（丈夫なズボン）

aıɒı ［植物］ガーベラ ［レベル］4　1ſ: 制 :ɑıɒc から。二対ではない。ガーベラはキクの一種で、非常に品種が多い。

aıɒc ［植物］キク、菊 ［レベル］4　古 : 火花の花。花の形が火花に似ていることから。

aıɒcl ［気象］オーロラ ［レベル］4　1L:łɒccμ: 綺麗な単語なのに語頭の d が気に食わないとのこと。自分の名前に近づけるために語末を μ にしたいと言われたが丁重に却下　参考 :dıɒcl: 古 : 光って舞う

aıɒcluɔnſ ［アビリティ］ファミルヴォント ［レベル］5　μɑ;/　1L: 小学校のときに考えた必殺技で、元ネタはオーロラエクスキューション。 ［文化］ μɑ におけるセレンの必殺技。フルミネアのオーロラシートに近い。ユノをオーロラ状にした上、冷気を乗せた技。子供時代から青年時代まで通してほぼ唯一の必殺技。

aıɒcluɔłł ［アビリティ］ファミルヴォルク ［レベル］5　μɑ;/　1L: 小学校のときに考えた必殺技で、元ネタはオーロラエクスキューション。 ［文化］ μɑ におけるセレンの必殺技。オーロラの波ように氷の属性を帯びたユノが敵を襲う。

aıɒcı ［植物］バレリアンレッド　JO:μcɑcı: 火の花

aıɒcc łəlnɔμj ［人名］ファミィ＝クルノース ［レベル］5　語源不詳 ［文化］ → łıɔlcjſ łəlnɔμj（fcɑ ٩ lcj μəs_）　第４期４代アルシェ元準ハルマ。ɥənł。リディアの友人。赤毛でやや小柄な可愛らしい少女。大人しく、控えめ。肩より長い髪を二つに結いていることが子供のころは多かった。高校以降ストレートにした。目は青。１５８ｃｍ、４９ｋｇ。肌は白：黄＝７：３。　μɑ では、セレンに片思いする色魔導師の少女として登場し、セレンを引き込んで部員２人の色魔法部を設立する。その後アマンゼ家に嫁ぎ先が決まるも、マリッジブルーでセレンと浮気をし、不義の子を授かる。娘は誰にも知られぬままアマンゼ家の子として育てられ、シオンと名付けられる。結婚を期にアマンゼ家が貴族になったため、μɑ でアシェットが貴族を廃止した後も、慣習的にアマンゼ家の子供は代々シオンないし〇〇シオンと名付けられるようになった。

aıɒcc nıɔn ［人名］ファミィ＝ナオン　1L:clɒəj;μcɑcı ［語法］ レイユの政治家。女性。テスラン＝ナオンの子孫。アルミナ党首。

aıɒɔ ［植物］チシャ ［レベル］5　1ſ: 制 :ɑıɒc

aıɑɔ ［地学］マグマ、岩漿、溶岩、ラバ ［レベル］4　1ſ: 制 : 古 :ɑıcɑɔl から

aıɑɔoıł ［地学］火山 ［レベル］3　1ſ

aıφ ［名詞］電球 ［類義語］dıɒ ［レベル］3　μſ:uınφıμɑ łcczel;ɑıμ/φel　JJ

aıφł ［名詞］カートリッジ ［レベル］3　1ſ: 制 : 恣意

aıφı ［音楽］アンプ ［レベル］4　1ſ: 制 :ɑıφ から

aıφc ［名詞］るつぼ、坩堝 ［レベル］4　1ſ: 制 :ɑıc/φc

aıd ［名詞］煙、スモーク ［メタファー］砂煙→ leıɑıd ［レベル］2　1ſ: 制 : 古 :ɑıcɾıdlc(火の空気) ［用例］ ɑıd eɒ neł. 煙が立ち昇る

aıdłſcł ［数学］鈍角 ［レベル］4　1L:μcɑcı:ıμbılelſ

aıdl ［料理］ベーコン ［レベル］2　1ſ: 制 :jıɑ:ɑıdłə（燻製された豚肉の背中） ［成句］ eɒɾ ı(len) ɑıdl 余計なこと：アルバザード人は肉の脂を使って料理をするので、そこに油を足すと余計なことになることから。

aıdɾ ［動詞］ɥəl を燻す、燻す、いぶす、スモークする　μɑ;ɑıd/ɾɔ　JI ［用例］ ɑıdɾ ɔocɥeł ı ɑıdl 豚肉をスモークベーコンにする。

aıdɾ)łełe ［料理］スモークサーモン　μɑ;/　JI

aıdn ［建築］ロビー ［レベル］3　古 :ɑıdn（煙の部屋）

aıdl ［建築］煙突、チムニー ［レベル］3　1ſ: 制 :ɑıdlɔɔ（煙の筒） ［文化］ ɑıμı

aıdlełn ［名詞］のろし、狼煙、烽火、狼火、狼煙 ［類義語］ɑıclełn ［レベル］4　μɑ;/　JI ［語法］ 物を焼くことで煙を上げ、それを離れたところから確認することによって、情報を伝達する手段である。夜間など煙が見えない場合は、火そのものも使われる。

aıdc ［動物］サソリ、蠍、スコーピオン ［レベル］3　łıłſı:ɥəɑıdcn（毒針、痛い針）

aıdccɑı ［地球の星座］［ユマナ］さそり座　JM ［文化］ cɑı

aıde ［名詞］霧吹き、スプレー ［動詞］ɥəl にスプレーをかける、スプレーする ［レベル］3　1ſ: 制 :ɑıd ［用例］ ın ɑıdeſ μcb. 蚊にスプレーをかけた。

ɑɪdeſ ［形容詞］半透明の、曇りががった ［レベル］3 ʃ0:ɒelcɑcɪ ʅceɥ:ɑɪd/ſe

ɑɪb ［動詞］ɥɐl を膨らませる、膨らませる、膨らます、膨らむ ［形容詞］膨れた、膨らんだ ［物理］［自然動名詞］膨張 ［反意語］ɑcu ［レベル］2 古 ［用例］ɪn ɑɪbɪſ sɪnψɐl. 風船を膨らませた。

ɑɪblcz ［名詞］帆布 ［芸術］キャンバス、カンバス、画布 ［レベル］3 ʃ1:ɑɪ/ 古 lccz「少女の仕事」よく少女が織る仕事をしていたことから

ɑɪbɔ ［料理］ふくらし粉、ベーキングパウダー ［レベル］3 ʔ1: 制 :ɑɪb

ɑɪbɔɥ ［ユマナ］アフリカ ［レベル］4 1L:ɑɪbeɥ

ɑɪbe ［名詞］火薬 ［レベル］3 zφ;ɑɪcφɪɪbe ʃ0ʔ: 赤 ɑɪcφɪɪbe ［文化］ φel

ɑɪbeɥ ［地学］ファベル大陸 ［組み数字］3 / 6 ［レベル］3 ɑu;e 1ʔ0: 制 ［文化］ 面積：ʃΔ1ʔ0ʔ9ʔ.ʔ9J1ʔ0ʔ ɔɒ ⌋

ɑɪbeɥʃczɪ ［地学］ファベルプレート ʃʔ

ɑɪbeez ［軍事］薬室、チャンバー ［レベル］6 μɑ;/ ʃ0ʔ ［文化］ φel

ɑɪdeſ ［人名］ファレット ［組み数字］6 / 1 6 ［レベル］4 ɒelſcɪ ʃ0:ɪμɑə/eɟɪ;e 古 :ɑɪdeſ ［文化］ ejſɪ エスタの第６子。女。

ɑɪμ ［名詞］光 ［反意語］uel ［レベル］1 lɟl;dɪɪl,ɑ.l 1L:ɟɔμn: 太陽、光 dɪ, dɪɪl:dɪ, dɪɪl:lɪ blɪnl ［用例］ɑɪμ ucen 強い光、明るい光 ɑɪμ cl ɟɔɑ c lɪɟ ləəſ enſɔ ɒɪcn lɪɪſ ɔμ ɑɪl ɪdɔſ ſə ɑɪμ" 彼の手から光が放たれ、彼女の身体は徐々に白い光に包まれていった。

ɑɪμſ ［形容詞］熱心な ［反意語］ɑcſl ［レベル］2 μɑ;ɪdəəɑɪc{μəəɑɪc&}ʃ0ʔ: 制 : 古 :ɪdəəɑɪc から ［用例］ɑelɪn ɑɪμſ 熱心な学生

ɑɪμſɪnɪ ［名詞］熱意、情熱、ゼスト ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

ɑɪμſɪnl ［電算］［工学］光ファイバー、光繊維 ［レベル］4 ul;/「光の麺」 ʃʔ ［文化］ ・歴史 nɑ で波動の屈折の法則が定式化され、μſ でガラス板の中に光が閉じ込められる条件の定式化、反射による光の誘導の公開実験、光の全反射の条件と水流で光を曲げる実験、音声を可視光線の信号に乗せ通信を行う実験が行われた。 ul で光の閉じ込めをガラス繊維に拡張した条件が定式化され、ガラス繊維の束に光を導く実験が行われ、この際に光ファイバーという概念が生まれた。 その後電飾や通信技術に用いれることになり、ɪl でネット回線を実現するなどし、世に広まっていった。 ・構造 3 重構造になっており、内側のコアを ɟelz、中層のクラッド（英語で結局の覆いという意味）を μɔulɔbɔ、外側の被覆を ecllɔbɔ という。

ɑɪμſɔɔl ［魔物］ファルトール（光竜）：第六十天：光の衛天 ［レベル］6 1L:μcɑcɪ/jeɥen/bel:ɑ ɪμ/ſɔɔl ［文化］ 光属性の地竜。小型で地を走るタイプの龍。イレティスよりは知能が低く攻撃的なものの、竜の中では凶悪さに欠けるため、こちらはヒュート国で地竜としてブリードされた。ただ、竜族一よく啼くので、うるさい。

ɑɪμl ［動詞］ɥɐl を伸ばす、伸ばす、ストレッチする、伸びる ［普通動名詞］ストレッチ、柔軟体操 ［反意語］ɪlɑɪμl ［レベル］3 1ʔ0: 制 :ɑɪμ（伸ばす）［用例］ɪn ɑɪμlſ ʅnɪlɛl{hɪnel}ʃ ɔnſ hɪə. 大きく伸びをして、あくびをした。 ɑɪμl ʅcɒel{hɒɒel}ʃ 小さく伸びをする：絶対腕を曲げることになるため。

ɑɪμſɪeeſ ［化学］延性 ［レベル］5 1L

ɑɪɟ ［名詞］功績、功労、働き、手柄、殊勲、実績 ［レベル］3 古 : 仕事、功績 ［用例］lɪ ſcl ɑɪɟ ſcnlɪ. 彼は功績甚だしい。

ɑɪɟɪeſ ［電算］ＶＤＴ ［レベル］4 1L ［文化］ パソコンやテレビの画面に使われていた。長時間の使用により精神や体調を崩す国民が増えたため、ミロクは月法において長時間の使用を禁止した。月法に入れたため、非常に驚かれた。それだけＶＤＴ作業は世の中に根付いていた。 ミロクによると、ＶＤＴは目を疲れさせ、交感神経を刺激して自律神経を乱し、相対的に運動不足を招き、成人病を招くため、有害であるとした。 アルヴァントによると、研究や仕事でＶＤＴを使うものは一日上限が４時間である。それ以外は上限が２時間である。この法の成立により、このままだと多くの企業は仕事にならなくなってしまうため、急速に電子ペーパーの需要が増え、開発が進んだ。企業は業務を続けるために電子ペーパーを導入し、ＶＤＴ制限法から逃れた。アルバザードで電子ペーパーが異常な速度で普及したのはこの法が背景にある。

ɑɪμɟleſleun ［医療］ＶＤＴ症候群 ［レベル］5 1L: 画面の光による病気。パソコンとは限らないし、画面でも光らないものは平気。 ［語法］ɪn ɥən ɪnc ɔ elɟ ɔ cɑc ɒcl ɑɪμɟleſleun. ＶＤＴ症候群で疲れて鬱で老けて見える。

ɑɪμɟlſ ［天文］［単位］光年 ［レベル］4 ʃ.l

ɑɪμnɪ ［感動詞］お大事に ［レベル］2 古 :ɑɪμnɪ,ɑɪμɟnɪ,ɑɪlnɪ。いずれも「働くな」の意。

ɑɪμɑ ［気象］晴れ、晴天、照る、照り、雲のない ［形容詞］晴れやかな ［レベル］2 1L:ɟɔμn:ɑɪμɑɪl（光る太陽）［語法］ 朝昼だけでなく夜にも使える。雲がないか少ないことを指す。 ［用例］eleſ ɑɪμɑ 晴れやかな表情 ɑcɟ eſ ɑɪμɑ. 今日はいい天気だ。ɑɪμɑ は「いい天気」と訳していいが、「いい天気」は ɑɪμɑ だけとはかぎらないので注意。雨が好都合な場合もあるし、アルバザード人は色んな天気に良さを見出す民族。 cɒ le jel ɑɪμɑ, leɟ nɔɑ ɪμſ eſ bɪn lənɪ nɔn ɥən eɟl ɪɒſ. ɥɪ, nɔn lɪμ ſə eſ jenlɪnſ ある晴れた日のこと、魔法以上のユカイが、限りなく、降り注ぐ。不可能じゃないわ！（涼宮ハルヒ） sɪn ɪſ ɑɪμɑ hɪnel. 空は晴れ渡っていた。 sɪn ɪſ ɑɪμɑ ɟɔμeſel. 明るく晴れていた。 sɪn eɒcl ɑɪμɑ ɒeμel. 晴れ上がった。 ɪn lɔſ sɪn eɒ ɑɪμɑ ɑμelel. だんだん晴れてくるだろうと思った。 ʅeɟſ ɟcl ɑɪμɑ ſel senſdɔμlɪl. 天気予報によると明日は晴れだ。

ɑɪμɑɪncɪ ［地名］ファルファニア メテの使徒ファルファの第二の支配地？ ［人名］ファーヴァのアルカ姓 ［レベル］5 lɪlɔ

ɑɪμɑɪncɪ(J) ［アトラスの国家］ファルファニア、炎国 ［アクセント］ɑʔʃμɑɪncɪ ［レベル］4 ɑu;e lɪlɔ ［文化］ 面積：ʃLʃ0L?.J0ʔΔ1ʔ9 ɔɒ ⌋

ɑɪμɑɪncɪn ［名詞］ファルファニア人 ［レベル］4 ʃ0

ɑɪμɑɪncɪμen ［言語］ファルファニア語 ［レベル］4 ⌋.l ［文化］ elɑɟeſɪ ●概要 名称：ɑμɑ（ファルファニア語） 系統：アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族ファルファニア超語派（ɪſenɪɒɪſ, ɥəəɒɪɒcſ, lcɑeμɑcɪɒ, ɑɪμɑɪncɪcɑɪl） 使用年代：ſɒ 分布：北ファベル 話者：ガルヴェーユから移住してきたシフェルの民 類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ 認知様式：主観的把握 → 客観的把握 古代ファルファニア語と現代ファルファニア語に分かれる。ファルファニア人の一部がリュディアを建国するまではリュディア人も ɑμɑ を話した。両者が分離してから片方がリュディア語派になり、ゲヴェアに残ったほうがファルファニア語派になった。 分離する前の ɑμɑ を神代 ɑμɑ といい、分離後から現在までの ɑμɑ を人代 ɑμɑ という。 ɑμɑ > lɥ > lj > ɪμ > ɪ と繋がっていく系譜の祖になるのは神代 ɑμɑ のほうである。 神代 ɑμɑ に関してはユーマの一族がガルヴェーユから追放されて、当時のユーマの一族より高度な文明を持っていた神の技術や材料が得られなかったことで、記録が乏しい。さらに第三世代以降の短命化により歴史の生き証人が減ったことで、なおさら記録が乏しい。 lɥ で客観的把握を持つようになっているので、神代 ɑμɑ の間に徐々に主観から客観へ変化していったものと推定されている。

ɑμɑcſ ［生物］太陽 ʃ1: 目のツボ。眼によく、眼に光をくれるとして

ɑμɑəſ ［化学］［植物］光合成 ［レベル］4 μſ;/「光交換←光エネルギーを化学エネルギーに変換することから」 ʃʔ

ɑμɒ ［名詞］［形容詞］かっこいい、イケメンな ［類義語］uɪμɒɪ, eμɑe ［レベル］2 1L:ɟɔμn: 制 :dɪɪɒ ［語法］ uɪμɒɪ

ɑμɒɪ ［生物］マイコプラズマ ［レベル］4 1L:ɟɪdɒ/ɑɪcz/ɒɪn ［文化］ 真正細菌。肺炎の原因のひとつとしてリュウが発見した。

ɑμɑɔʃl ［名詞］電飾、イルミネーション ［レベル］4 μɑ;/ ʃ0ʔ ［文化］ 魔動式のものが神代から存在した。

ɑμdleſ ［名詞］木漏れ日、木洩れ日、木漏れ日、こもれび、木もれ日 ［類義語］dɪləe ［レベル］3 μɑ;/「光のシャワー」 ʃ0ʔ

ɑμμen ［地学］ルビー、紅玉 ［魔法］ファーレン。火の低位白魔法。生理を止める魔法。女魔導師や女戦士が戦場に出る際にかけてもらっていた。 ［組み数字］5 / 1 0 ［レベル］4 ɒelſcɪ ʃ0:lənɔ;ɑɪc/μen ʔ9:μcɑcɪ:ɑɪc/μen ［文化］ → ɑɔlɒcɥə ヴィルの魔石。

ɑμsecl ［天文］星雲 ［レベル］5 ʃ1:ɑɪμ/secl ジェイルが光っているように見えるため

ɑμlɔμ ［化学］鏡筒 μɑ;/「光の筒。光の通り道」 ʃʔ

ɑμɪ ［名詞］暖炉 ［レベル］2 ʃ0:ɑɪc/μɪ（火の家） ［文化］ カコで定住化が進み、それとともに徐々に普及していった。とはいえ、このころは家屋内にはなく、屋外に共用施設として置かれた。セルメルで煙突が発明され、各家庭に設置されるようになった。 現在でも一戸建てには暖炉が置かれる。

ɑμɪn ［歴史］ファラン族 ʃ0: 古サルディーン語「白い人」

ɑμɪnſ ［企業］ファラント ［レベル］5 ʃ1:ɑɪμɪ ［文化］ ブリジストンに相当する企業。

ɑμɪnɑcμ,jzɑ lccɑɪ

ɑμɪɒɔn ［魔物］ファルアモン（杖翁）：第六十二天：雷の風天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeɥen/bel:ɑμ（光）/zɪɒɔn（古：杖） ［文化］ 妖族。ローブをまとった老人の姿をしている。ふだんは温厚な老人の顔だが、正体を現すと醜い鬼のような形相になる。手に持つ光の杖から、数々の魔法を繰り出す強敵。

ɑμcɟ ［形容詞］発光の、発光する、発光 ［レベル］3 μɑ;ɑμ.l ʃʔ

ɑμcɟlɔμeſſɪ ［化学］発光ダイオード、ＬＥＤ、TEψ、エルイーディー→ ʅɔμeſſɪ ［レベル］4 ul;/ ʃʔ

ɑμcɪ ［動詞］ɥɐl を諭す、諭す、正す、説教する ［普通動名詞］説教 ［レベル］2 ʃ0:ɑɪμ/ɪdcɪ（光を示す）［語法］ こうあるべきだと教え諭すこと。叱り飛ばすことではない。 ［成句］ſə eſ lcɑ lel el ɑɪμcɪ ʅeſſɔ əl ɒcn. 猫と女に説教しても意味がない：どちらも反省しない生き物なので諭しても効果がないという意味。女は何か言われるとすぐ自分が被害者だという面をする生き物である。自分を被害者と思っている以上、人間は自分が悪いと思っていないので反省しようとはしない。そのため、諭しても意味がない。道を横一列に並んで歩いている邪魔な女に注意しても陰口を叩かれるだけである。彼女らはけっして反省せず、「うざいことを言われた私かわいそう」としか考えられない。猫並み。アルバザード人の男はそれをよく知っているので注意をせず、「通らせてくれたらありがたい」とか「通れなくて困っている」という態度を取るよう幼いころから経験的に学んでいる。

ɑμen ［名詞］嫌味、イヤミ ［レベル］3 ʃ1:ləɟcɪn:ɑɪc/μenɟ（火の言葉）［用例］ɑcf{!ə} ɑμen ɪ ～に嫌味を言う ɑμen ɑəɔ ひどい嫌味、辛辣な嫌味

ɑμenɑcſ ［形容詞］（ɑμenɑcſɪn で）嫌味な、イヤミな ［普通動名詞］嫌味言い、嫌味を言うこと ［レベル］3 μɑ;/ ʃ0ʔ

ɑμeɑcɪ ［地名］ファレディア ［レベル］5 ʃ0: ルビーの土地 ［文化］ 古スカルディアの地名。現メルディアの小都市。

ɑɪl ［法動詞］～すべき ［名詞］義務、役 ［レベル］1 ɑ;e 古 : フルミネアの名である ɑɪlɑɪncɪ の ɑɪl から ［語法］ lɪɑ と ɪl の間くらいの強さ。 ɑel ɑɪl 学生なのだから勉強してくてはいけない：客観的な立場から述べている。 ɑel hɪɔ 学生なのだから勉強するのは当然だ：客観的なデータに基づくも、主観的に述べている。 ɑel lɪɑ 学生なのだから勉強するのは責務だ。その責務を果たさねば落第もあるだろう：言外に「さもなくば感」を出している。そのため、ɑɪl よりもやや強い印象がある。 ɑɪl ɪl 学生なのだから勉強したほうがよいし、すべきだ：当為性は上記３点より弱い。 ［用例］ el ɪlʃ ɑɪl leɟ nɪ delɟ. 困っている人は助けるべきだ。 ɑɪl len el eɒ ncl 幸福の義務。幸福になるための義務

ɑɪlſ ［動詞］ɥɐl をすくませる、すくむ、竦む ［レベル］3 lɪlſɪ ［用例］ɪn ɪſ ɑɪlſ ɒɪn nɪ uɒɒ ɪl ɔɒɪ. 犬が怖くてすくんだ。

ɑɪlſc ［形容詞］高い、高価な ［類義語］ɪμſɒcleel,leɪeμcɪ,ɑcelɒed ［反意語］ɑeμ ［レベル］2 ɟɔμn ［用例］le ɒeɟl ɪſ ɑɪlſc lɔɔɑel ɪſc uɪμſ. そのバックは私が思っていたよりも遙かに高かった。

ɑɪlſclɪz ［経済］ストップ高 ［レベル］6 ʃ.l

ɑɪlſcj ［政治］高官、政府高官 ［レベル］4 ɟɔμn:ɑɪlſcj（高い人）。ɑɪlſc と同根だろう。恐らくソーンでは値段の高いと位の高いが未分化だったと思われる。ſcj は lɪnſcj（人）の意味で、ɪuelɪnſ/ɪuelɪnſcj と同じような発生だろう。 ［語法］［文化］ ɪμnɔn, lcznɔ の各長官の総称。

ɑɪlſcjɔlſ ［経済］ソルト高 ［レベル］5 ʃ.l

ɑɪlſcjɔlſɑeμɒcɪn ［経済］ソルト高ミアン安 ［レベル］6 ʃ.l

ɑɪlſcɒcɪnɑeμjɔlſ ［経済］ミアン高ソルト安 ［レベル］6 ʃ.l

ɑɪlſcφɪμſ ［経済］高値 ［レベル］4 ʃ.l

ɑɪlſcdɪμɒ ［ユマナ］［経済］円高 ［レベル］6 ʃ.l

ɑɪlſcdɪμɒɑeμμɪlſɔ ［ユマナ］［経済］円高ドル安 ［レベル］6 ʃ.l

ɑɪlſcbɪlſ ［経済］戻り足、戻り ʃ.l ［用例］ɑɪlſcbɪlſ ſəμ nəɒc. 戻り足が遅い。

ɑɪlſcμɪlſɔ ［ユマナ］［経済］ドル高 ［レベル］6 ʃ.l

ɑɪlſcμɪlſɔɑeμdɪμɒ ［ユマナ］［経済］ドル高円安 ［レベル］6 ʃ.l

ɑɪlſcɪſɔ ［経済］ブランド物、ブランド、高価なブランド ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ ［文化］ 一部の上流だけが持つもので、日本のように庶民が背伸びして似合わないものを買う習慣はない。バックだけブランドであとはイトーヨーカドーというのはアルバザード人には理解できず、アロハシャツに袴を履いているようにに見える。

ɑɪlſcɪſɔuenſ ［経済］ブランド業界 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

ɑɪlſcɪnlcl ［ユマナ］［経済］ユーロ高 ［レベル］6 ʃ.l

ɑɪlſceɒ ［経済］値上げ ［レベル］3 1L

ɑɪl̃ ［動物］ナマケモノ、なまけもの、怠け者 ［レベル］3 1ʔ0: 制 :ɪlɪl̃ɪ:ɑɪlφ,ɑɪclφcc（怠け猿）［用例］ɑɪl̃ "ɪμucɒɑɪcz ſəμ ʅcn ɑəɔ beɪnɟel" ナマケモノ「腱鞘炎つらすぎワロタｗｗｗ」

ɑɪllc ［建築］［丁寧］宮殿、殿堂、パレス ［類義語］ɑɪczμɪ ［レベル］3 ʃ1:μcɑcɪ:ɑɪllcɪn ［語法］ ɑɪczμɪ は王宮のみ指す。ɑɪllc は王宮を含んだ宮殿一般で、王宮を指すこともあればそれより広い範囲を指すこともある。

ɑɪllcɪn ［建築］ファルシアン宮殿、ファルシアン宮、ファルシアン王宮、アルバザード宮殿、アルバザード王宮、アルバ城、アルバザード城、アルナ城、アルナ宮、アルナ宮殿 ［経済］１００ソルト玉 ［レベル］2 ɪμɑ;ɑɪllcɔn.l ʃ1:μcɑcɪ:ɑɪllcɔn ［文化］ → ɪnɑɪn ɒ に建てられたアルバザード王宮のこと。中央アルナ市カルテに存在。革命で王族は北区の selcɔn 宮に移り住んだため現在は無人で、一般公開されている。宮殿の中にカルテンがあったため、革命時に一部を改築してカルテンを宮殿から切り離し、シーカを作ってカルテからアクセスしやすいようにした。 ファルシアン宮は王の住む宮殿であると同時に城のひとつでもあった。ɒ で何度か改修され、μɑ で全面改築した。改築後の姿は地球でいうとウェストミンスター宮殿に近く、時計台も存在する。

ɑɪllccɪ ［ランドマーク］ファルシーカ教会、ファルシーカ ［レベル］3 ul;/ɑɪllcɪn/lccɪ ʃ0ʔ ［文化］ 中央アルナのカルテン内に存在する教会。アルティス教の教会の中で最も有名な教会である。旧革命でファルシアン宮殿の一部を取り壊して作った。 ファルシーカのサリュには μɑ でアシェットが封印した「アルヴェスクの雪（euɪnuejl）」が封じられている。これはアルヴェスクが起きて魔物が二度と降ってこないようアシェットが魔族の力を凝縮して封じ込めたもので、決して解き放ってはいけないと言われていたものである。

ɑɪllcɔn ［軍事］総指揮官、指揮官、ファルシオン ［組み数字］1 / 7 ［レベル］3 ɪμɑ;ɪuɪnlcɪn.l>uɪnlcɪn>ɑɪnlcɪn>ɑɪllcɪn>ɑɪllcɔn ʃ1 ［語法］ ɪμlɪlſ と lɪlſcj の総称。

ɑɪllcɔnμecn ［組み数字］指揮官賞 ［レベル］5 ʃ1

ɑɪlle ［名詞］カップル、アベック、恋人、夫婦 ［類義語］ɪlɒɪ, ſcɪnɪl ［レベル］3 ʃ1:μcɑcɪ:ɑɪl/lelſ（太陽と月）太陽が男性で月が女性を指している。 ［語法］ ɪlɒɪ と ſcɪnɪl の総称。

ɑɪlen ［経済］名物、名産品 ［レベル］3 ʃ1:lɪlenɑɪlle から一般化。

ɑɪlj ［動詞］ɥɐl に対して勝ち残る、勝ち残る、生き残る、生き延びる ［生物］ɥɐl を淘汰する、淘汰する、自然淘汰 ［反意語］φɪleu ［レベル］3 lɪlſɪ:「 義務を果たす 」［用例］ μjccl ɪlɪ uceɥ lɪɑ ɒcu nɔzeſ ɑɪlj ɑɪſ 親は子供に生き抜けっていうもんだろが！（野原ひろし『超時空！クレヨンしんちゃん嵐を呼ぶオラの花嫁』）"ſc ɥe ɑɪlj, ɒɪn ſc ſcl ɑɪj"「お前は生きろ。やることがあるからな」 nɔn ɑɪlj lɪn. nɔn ɑɪlj lɪn. ſə ɟɔlj nɔn lɑcj lɪl lɪn. 生き残りたい まだ生きていたくなる（『ライオン』マクロスＦ）

ɑɪljɔ ［医療］強迫、強迫観念 ［レベル］4 古 :「～しなければ」

ɑɪljɔnɪɥə ［医療］強迫性障害 ［レベル］5 1L

ɑɪljeſ ［形容詞］高潔な ［反意語］ɑɪlſ ［レベル］3 古 :ɑɪljɔ（義務を行う）/ſe ［文化］ 王族、政治家、教師、医者、僧侶など、聖職者に特に求められる性格。また、ユール＞ユンク＞アルデンの順で高潔と期待される。 ［用例］ ɒcll ueljɪn ɑɪljeſ 高潔な政治家を望む

ɑɪljeucſɪ ［名詞］勝ち残り式トーナメント、ノックアウトトーナメント、トーナメント戦、トーナメント ［レベル］5 μɑ;/ ʃ0ʔ

ɑɪljeμu ［生物］生存本能 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［用例］ ɑɪljeμu ſcn 強い生存本能

ɑɪluɪnɔj ［筐堺］ファルヴァノス ［レベル］5 μɑ;ɑɪlɑɪncɪ/ɪluɪnɔj ⌋.l ［文化］ 筐堺司：φcl ɑɪlɑɪncɪ 筐堺国：ɑɪlɑɪncɪ, ɪluɪnɔj

ɑɪlɑ ［政治］汚職 ［レベル］3 1ʔ0: 制 : 恣意

ɑɪlɑɪ　[人名] ファルファ　[組み数字] 4 / 1 5　[レベル] 4　ˈɪɪɪɔː 古での解釈は「 炎 」。　[文化]　メテの第４使徒。

ɑɪlɑɪnɔɪ　[地名] ファルファニア。メテの使徒ファルファの支配地　[人名] ギルのアルカ姓　[レベル] 5　ˈɪɪɪɔ

ɑɪlɑɪnɔɪ(ɹ)　[アトラスの国家] ファルファニア、焔国　[アクセント] ɑɪlɑɪnɔˈʧ　[レベル] 3　ɒɛlfɔɪ Lʧ jen　ʊɔɪ:ɑɹɑ;ɑɪɹɑɪnɔɪ　ˈɪɪɪɔ　[文化]　面積：ΛʔLΔΔΔ.ϥɪʔʔΛ ˈɒ ˩

ɑɪlɑɪlɔl　[化学] ウラン　[レベル] 5　1Λː 制

ɑɪlɒ　[名詞] 札、符、ふだ　[法律] 法案。札に書いて提案したことから。　[電算] 要素、添字、そえじ、添え字。配列の要素（添え字）。番号を書いた札というところから。　[レベル] 3　ʔː 制 : 古 :ɑə ,ɑɪl　[語法]　ˈɔɑɛl

ɑɪlɒɪn　[名詞] 賞金稼ぎ　[ユマナ] ウォンテッド・バスターズ、ウォンティッド・バスターズ、ウォンバス　[レベル] 4　ɹʊː 札を追う人。→ ɹɛɒɑɪlɒ　[文化]　ɹɛɒɑɪlɒ　ウォンバスはセレンが中学〜高校にかけて作ったファンタジーシリーズの名。リディアのアティーリと比肩する作品だったが、アポステリオリなのが敗因となってアシェットに採用されなかった。セレンは1L年に『リディアの書』の中でこれを完結させる。

ɑɪlɒɔn　[政治] 元老院　[レベル] 5　zφ; 元は「布」の意味で、布をかぶせる「テーブル」になり、テーブルを使う議会になり、zφ で元老院になった。　ɹʊ

ɑɪlɑɔ̃j　[交通] バイク、オートバイ → ˈɛɹn　μſ;ɑɪlɑɔ̃ɪ.]　ɹʊ　[文化]　車と同じ場所を走る。自転車扱いではない。個人で移動することが多いので所有台数は多い。女性はほとんど乗らない。　[用例]　bɔɪ e ɑɪlɑɔ̃j ſˈiben eſ ˈɪɪu. 暴走族のバイクの音が五月蝿い。

ɑɪlɑɔ̃ɪɹ　[交通] [アイテム] [魔法] 飛竜艇、ファルディアス　[レベル] 5　μɑ;ul で「翼」　ɹʊː;μɔɑɔ̃ɪ。もともと ɑɪlɑɔ̃ɪɹ はバイクの意味としてセレンが作った語だったが、リディアの考えた理想の乗り物の名前に取って変えられた。　[文化]　μɑ でラグナロク工科大学が開発した乗り物。ul の作った飛空艇にヒントを得て、それまで使っていた飛竜とコラボして作られた。　飛竜に似て翼があり、騎乗者は飛竜に跨るように乗る。見た目は飛竜と後の時代のバイクを組み合わせたような感じだが、タイヤはない。基本的に空を飛ぶ乗り物で、地上を行く場合はホバーして進む。　手綱の代わりにＴ字型の操縦桿があり、これを手前に引くと機体が上昇し、押すと下降する。操縦桿を左右に倒すと機体が左右に傾く。右スロットルを捻るとアクセルをふかすことができ、右レバーを右手で引くと前身にブレーキがかかり、右足のブレーキペダルを踏むと後身にブレーキがかかる。　左右の足のところにはステップがあり、ステップの前にはペダルがある。右ペダルは前述のようにリアブレーキになっており、左ペダルはギアチェンジに用いる。左レバーはクラッチになっていて、クラッチを引いた状態でギアペダルを踏むとギアがひとつ下に落ち、逆にギアペダルを蹴り上げるとギアがひとつ上に上がる。一番下が一速で、その半分上がニュートラルで、その半分上が二速で、あとはひとつずつ上げるたびに一速ずつ上がり、最高六速まである。バックギアはない。　バイクや自転車と違ってチェーンとギア（歯車）があるわけではないのでギアチェンジによって何が変わっているかというと、内蔵されている飛水晶のうちどれを使うかが切り替わっているのである。　飛竜艇には６つの飛水晶が内蔵されている。一速の水晶は力が強く速度が遅い。低速ギアである。六速の水晶は力が弱い代わりに速度が速い。高速ギアである。与えられたユノをどのような割合で推進力にするかというのが水晶ごとに異なっていて、ちょうどバイクのギア比に相当するものになっている。　飛竜艇の右スロットルを回すことで騎乗者のユノが左右のスロットルを通して動力部に吸い取られ、ギアの入っている飛水晶のギア比（ユノ比）に応じた推進力を出す。従って自転車と同じく動力源は自分の力であり、バイクのようにガソリンや電気に依存することはない。つまり自転車と同じく疲れるし、速度は騎乗者の霊力に比例する。疲れる代わりにガス欠という概念がなく、本人が疲れない限りいくらでも走り続けられるし、ガソリンスタンドの心配もしなくていい。　飛水晶のおかげで魔力を持たないものでも ɩəɛ̃e や ˈɛɹn と同じく浮遊することができる。左レバーを引きながら右スロットルの下にあるバイクのセルに当たるスイッチを押すことでエンジンがかかる。最初はギアがニュートラルになっており、何も起こらない。ニュートラルはいずれの飛水晶にもユノを送らないので、飛行中にギアをニュートラルに入れることで、それまでの推進力や高度に任せて自然と滑空することができ、この間はユノを消費せずに済む。ただしこの状態でもエンジンはかかっているので、飛水晶自体は起動している。従ってギアをニュートラルに入れることとエンジンを切ることは別物である。なお、エンジンは操縦桿中央のキーを捻ることでオンオフできる。　大まかな操縦の流れについて。まずエンジンをかけてニュートラルから一速にギアを踏んだら、一速の飛水晶が繋がる。ここからスロットルを捻ってユノを送ることで飛水晶が作動して機体が浮き上がる。スロットルを深く捻るほど多くのユノを消費する。最初は半クラにすると同時に操縦桿を手前に引きつつスロットルを捻ってアクセルをかけ、まずは軽く前方へ浮かす。そして飛び始めたら右スロットルを戻してクラッチを引いてギアペダルを蹴り上げて二速に入れ、また右スロットルを捻りつつクラッチを離す。要するにバイクと同じである。こうして加速に合わせて後は六速まで上げていく。これが飛竜艇の基本的な操作法である。　飛水晶を使う分、浮力は飛水晶が稼いでくれるので、生身でユノを使って飛ぶ場合に比べてユノを推進力に専念させることができる。つまり生身で飛ぶより飛竜艇を使ったほうが圧倒的に速いということである。またジェット噴射の要領で飛ぶ生身のユノ飛空は細やかな操作が難しいが、飛竜艇を使うと細やかな飛行が可能になる。この点で生身の飛空に比べて飛竜艇は優れている。　μɑ もアシェットの時代になるとヴィードの弱い人向けにバイクでいうガソリンの代わりにユノを大量に蓄えた透明なサファイアを推進力補佐として使う機体も登場したが、高価だったため庶民の乗り物にはならず、貴族や解体された元貴族が購入した。　なお、言うまでもなくアトラスでは飛竜艇が元となりバイクが生まれている。　飛竜艇は二人乗りで、後部座席に一人載せることができる。　μɑ で開発された飛竜艇にセレンは興味を最初示さなかった。自分の力で十分飛べたためである。ところがリディアが「飛竜艇に乗れる男の人ってカッコいいな」と述べたことが理由で、セレンは思春期ごろから飛竜艇に乗るようになった。以降セレンはリディアを後部座席に載せ、デートでドライブを楽しんだり、あるいは戦闘に用いるようになった。　飛竜艇に一度乗ったらすっかりお気に入りになってしまったセレンのためにリディアはセレン専用の飛竜艇をプレゼントしようと思い、ラグナロクと神々に制作を依頼した。これを受けた神々はセレン専用の愛車カレドヴルフを制作し、リディアはセレンにこれを送った。　なお通常の飛竜艇の最大速度は時速２５０ｋｍである。

ɑɪlφ　[音楽] ファンファーレ　[レベル] 4　ʔː 制 :jɪɑ:ɑɪφɪɔlɛɒ から。トランペットなどによる音楽であるため。

ɑɪlφɪſ　[音楽] トランペット、ラッパ　[レベル] 3　ɹʃː;ɑɪlφ/ſe

ɑɪlhɔ,ɹʒɑ　dɪɑɔ　dɪɑɔ.l

ɑɪlɪ　[名詞] 番号、ナンバー、コード　[名詞] 号、巻、ナンバー→ lɛɔ　[経済] コード、銘柄コード　[格詞] 〜番目の　[類義語] ɑɪn　[反意語] ɪll　[レベル] 2　1L: 古の dɪlɪlɪ（数字）から。語頭を ɑ にしたのは、恐らく dɪlɪ で提案したらクミールに拒絶されだろうからあらかじめ。　[用例]　ɑɪlɪ ɹɔɒ 大きい番号、番号が後（例えば３に対する５や６に対する９など）

ɑɪlɪəˈlɔ　[名詞] ナンバーロック　[レベル] 4　1L:ˈlɔɔn

ɑɪlɪn,ɹʒɑ　ˈɾɔ。後に jɹʒ で lɔɔzɛ ができると ɑɪlɪn は女が男を指す二人称へ変わった。

ɑɪlɪɛn　[接続詞] ɑɪlɪ　[レベル] 3　ɹʃ

ɑɪlɔ̃j　[名詞] 正義　[形容詞] 正義の　[組み数字] 5 / 6　[反意語] uɛlnɪμ　[レベル] 2　ɹʊː;ɑɪμ/lɔ̃j「心の中の小さな光」　参考 :dɪlˈlː;ʔː 制 : 古 :dɪlɪlˈ（パールの正義）。古では善は dμɔdɪlɪˈɪ、悪は eucɑɛ。μɑ 以前に正義がないと困るので、パールからの造語は避けた。　::lə lɔ̃ɹ/e（徳は lɪ ſɪnɹ）　[語法]　dμɔdɪlɪˈɪ　[文化]　・公人・私人としての正義　μɑ でリディアは「公人としては、悪人以外の幸せを願う＞愛する人々の幸せを願う＞悪人の破滅を願う一一の順で重視するのが正義だ」と述べ、「私人としては、愛する人々の幸せを願う＞悪人以外の幸せを願う＞悪人の破滅を願う一一の順で重視するのが正義だ」と述べた。　公人としては癒着や贔屓を防ぐために、悪人を除く全員に博愛的であるべきだと述べた。そして悪人については助けないではなくむしろ積極的に破滅に導くことが正義だと述べた。　[成句]　el ɑɪlɛj lɔn ɑɪlɔ̃j 善は急げ

ɑɪlɔ̃jɪ　[名詞] 正義感　[レベル] 3　ɹʃ

ɑɪlɔɒ　[名詞] 昼間。朝、昼、夕の総称。太陽が出ている間の時間。　[形容詞] 昼の　[反意語] lɛlɒ　[レベル] 2　1L:ɑɪlɔɒ（太陽の時間）　[用例]　ɑɪlɔɒ eſ ɑɔk{ɑen} 日が長い｛短い｝　ɑɪlɔɒ ɔμ ɑɔl ɑμelel. 日がだんだん長くなってきている。

ɑɪlɔɒɑɔ　[名詞] 白昼夢　[レベル] 4　ɹʃː「昼の夢」。むろん夜に見ても ɑɪlɔɒɑɔ。

ɑɪlɔɒɪn　[名詞] 朝型人間　[生物] 昼行性　[レベル] 4　1L　[用例]　ɪn ɪμ uɪn ɑɔclnɛſ lɪnɪ eɒ ɑɪlɔɒɪn. 朝型人間になるために早起きするつもりだ。

ɑɪlɔɪn　[歳時記] 処暑　[名詞] １４時　[組み数字] １４／２４　[レベル] 3　ɹʊː → ɪnlɔɪn　[文化]　ɪnlɔ ɪn

ɑɪlɔn　[料理] じょうご、漏斗　[レベル] 4　1ʔː 制

ɑɪleſ　[電算] [動詞] ɥəl をロードする、ロードする、読み込む　[普通動名詞] ロード、読み込み　[反意語] uɪnz　[レベル] 3　ɹʊː;ɑɪſcl/ſe（取り出すような）→ ɑɪſclſe → ɑɪſcleſ → ɑɪleſ（ſc 脱落）

ɑɪlej　[動詞] ɥəl を ɪ{fel} に対して後回しにする、後に回す、先のばしにする、先延ばしにする、引き延ばす、延長する、伸ばす、のばす　[反意語] dɪlɒ　[レベル] 3　ɹʊː 古 dɪl（未来）/ɔ（する）→ dɪlj → dɪlej（脈とぶつかるため）→ ɑɪlej（dɪlej にしたらそもそも dɪlɒ に近くなってしまったため）　[用例]　ſɥə en ſccɪ nɔn jeſe, eſſɔſ ſɥə ɑɪlej nɔn ſel eeſɪ ɪſ お兄ちゃん私のこと大事じゃないのね！お姉ちゃんばっか優先してメルは後回しじゃない！　☆ ɪn ɑɪlej nelſ ſɔ ſɪl nə jel, ſɪcl ɪn ɑɪlej ſə nə jel uecn. 私はどんなことでも一日一日と先延ばししてしまうくせがある：「一日一日と」という表現はアルカにないので、意訳。　☆ ɪn ɑɪlej elɑ lɪb l'ɪn ſɔɔl ɑɪl cɒ ſə jel ɪ jel ɪej. 今日の仕事を明日まで引き延ばさないようにしている。

ɑɪleɑ　[形容詞] [ポジティブ] 敏捷な、素早い、機敏な、迅速な　[反意語] nɛɒɔ　[レベル] 3　ɹʊːɑɪμ/leɑ（光のように走る）　[語法]　enuelen

ɑɪlſ　[名詞] 免許、免許証　[電算] ライセンス　[レベル] 3　1ʔː 制 :ɑəˈɪſ(許しの紙)　[文化]　違法コピー防止のため、ソフトはライセンス販売を行っている。　日本は端末が持つ番号ごとにライセンスを与えるため、ユーザーが端末を買い替えると買ったソフトが使えなくなることがある。これで余計買う気が失せる。　アルバザードでは個人の名前（国民番号）で購入者を登録し、１人２台（自宅と会社など）まで同時にインストールできる。このため、端末を買い替えても古い端末のライセンスと交換すればよい。　インストール時に「既に２台インストールされています。このうちのどちらかのライセンスを切りますか」と表示される。　オンラインでないとソフトはアクティベーションされた状態を保てないので、ライセンスを切った後にズルして古い端末をオフラインで使おうと思っても無駄である。

ɑɪlˈ　[料理] 朝食　[レベル] 1　1L:jɔμn:ɑɪμlɔn。lɔn はソーンで「食物」。毎日必ず使う単語を複合語にする意味が分からないとのこと。　[文化]　朝はあまり食べない。昨夜の夜ご飯を食べた後からおよそ十二時間近くが経過しているわけだから、胃は軽い断食状態にある。ここにいきなり食べ物を突っ込むのは毒である。ゆえに朝はあまり食べない。これがこのタイプの理屈である。朝は消化しにくいものは食べない。だが、脳はエネルギーを必要としている。アルバザードは午前に仕事を終わらせるので朝は脳が良く働かなければならない。だから朝は糖分を多く取るようにする。米やパンを食べてもブドウ糖になるが、米やパンの消化に発生したエネルギーを使ってしまう。また、消化に血が回るので頭に血が行かなくなる。こうした理由から穀物は避け、黒砂糖や蜂蜜などで糖分を効率良く摂取する。糖分は紅茶に入れて飲まれることが多い。カフェインで胃を刺激される人は紅茶以外に入れて飲む。また、栄養を取るために野菜ジュースを飲む。消化の必要がなく栄養を取れるので好まれる。結局、固形物はその他に消化の良いものを少量に何品か取って終わりである。ラスクの数枚も齧れば仕舞いである。この朝食は少ないので、時間も短い。十五分で食べて十分休むといったところである。　[用例]　le ɪſ cɒ e ɑɪlˈ. 朝食の時間だった。　ſəμ eſ cɒ e ɑɪlˈ e. 朝食の時間だよ。朝ごはんだよ。　ɑɪlˈ ɪſ bɔɪ jɪſ. 朝食が既に準備されていた。　ɪn ɩəcſ ɑɪlˈ enſel. 朝食をゆっくり食べた。　ɪn ɩəcſ ɑɪl ɑɪlˈ uɪlel. 急いで朝食を取らねばならなかった。　ɪn ɩəcſ ɑɪlˈ ɪſc ɑc. 朝食をたくさん食べた。　ɪn ɩəcl ɑɪlˈ hɪlɒ. 遅めの朝食をとってきた。

ɑɪle　[天文] 朝月　[レベル] 3　ɹʃː;ɑɪl/lelſ　[文化]　朝方見える下弦側の月のこと。

ɑɪɹ　[被服] フランネル、ネル　[レベル] 5　1ʔː 制 :ɑɪː 柔らかいもの

ɑɪn　[形容詞] [ポジティブ] 勤勉な、真面目な　[反意語] ɑccɒ　[副詞] 勤勉に、まじめに　[レベル] 2　ʔː;jeμen:ˈlel:ɑɹ（仕事）　[用例]　ɪn ɩəſ ɑel uɔɹlel ɔ ɑɪnel. 私はいつも頑張って一生懸命勉強している。

ɑɪn(ɹ)　[化学] メタン　[レベル] 4　1L:μɥəə

ɑɪnuclɹ　[化学] アラニン　1L

ɑɪnbezɪ　[化学] メチルアミン、メタンアミン　1L

ɑɪnɥɔɪnſɪſ　[化学] メチルエチルケトン（基官能）　1L

ɑɪnɥɔɪnſɪſclzɔɒ　[化学] メチルエチルケトンペルオキサイド（基官能）　1L

ɑɪnμcſ　[化学] メチルアルコール（基官能）　[レベル] 5　1L

ɑɪnɩəzɪɹl　[化学] 蟻酸（基官能）　[レベル] 5　1L

ɑɪɪu　[形容詞] [ポジティブ] 華やか、華麗な、ハデな、派手な　[反意語] φɪnl、leel　[レベル] 2　ʔː;ɑɪu:ʔː 制　[語法]　良い意味：ɑɪɪu（華やか）・leel（落ち着いた）　悪い意味：φɪnl（けばい）・ſəəſ（地味）

ɑɪɪuμɪ　[建築] 豪邸　[レベル] 3　1ʔː;ɑɪuμɪ:1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

ɑɪɪuɪ　[組み数字] １２／２８　[交通] ファーヴァ通り　[名詞] ファーヴァ組。アルナ大のクラス。　[レベル] 2　ɹʃ

ɑɪɪuɪnɪlɛɪ　[企業] ファーヴァナケア　[レベル] 4　ɹʃ　[文化]　武田薬品工業に相当する企業。

ɑɪɪuɪ ɩəɑɪɪ ɑɪμɑɪnɔɪ　[人名] ファーヴァ＝ルファア＝ファルファニア　[組み数字] １２／２８　[レベル] 3　古：ファーヴァは語源不詳。ルファアは古アルカで、「 火 」の意味。古アルカでの意味は「 烈火 」。ファルファニアは『カコ』。ＦＡＲＶＡ＝ＭＡＳＳＡＡＲＡ＝ＮＡ＝ＬＵＦＡＡ：ファルヴァ＝マッサ・アラ＝ナ＝ルファアが本名だが、非アルカは除外した。　[文化]　→ ɑɪu uɛμɪnſ（ſcɑ L ɑɥə len →）第４期４代アルシェ第１２使徒。女性。ɒɪuə/ɥəəl。１７１ｃｍ、６２ｋｇ。髪は金色で肩より少し長く、少しくせっ毛。青の瞳。肌は白：黄＝８：２。　・『ミールの書』より　　ファーヴァは青い瞳に金色の髪の毛をしている。長さは短い。年齢はセレンと同じくらいにみえる。顔は大人びていて背も高く、中々の美人だ。体格や顔つきからして白人と黒人の混血児だろうと思われるが、割合からいうと白人に近いようだ。　↑セレンはファーヴァがアフリカ出身ということから黒人と白人の混血だと勘違いしていたが、実際には白人と黄色人種の混血。ただし祖父の代まで行くと黒人が入っているので、黒人のクォーターではある。ただ本人の肌はほぼ白い。　[成句]　jclſ ɥən ɑɪɪuɪ 自由奔放

ɑɪɪφ　[名詞] アイロン　[レベル] 2　1ʔː 制 :ɑɪcφ（火の金属）　[文化]　乾燥機にかけた服や干してから取り込んだ服はアイロンにかける。アイロンにかけた後は畳んでタンスなどにしまう。もちろん、アイロンの必要のない服にはかけない。　[用例]　ɪn ɪμɪſ ɑɪɪφ uɪlel. 急いでアイロンをかけた。

ɑɪɪd　[卑語] ケツの穴、肛門　[類義語] cdɒ　[レベル] 3　1ʔː 制 : 古 :ɑɪɪd。屁のオノマトペの１つで、後に肛門自体を指すようになった。また、尻叩き（尻刺し）の刑を意味する hɪə はアナルセックスの意味があったが、同性同士のアナルセックスに意味が限定された（女性同士の場合はそれなりの道具を使って実現されるという意味で）ため使わず、こちらに統合する。　[成句]　[卑語] ɔcɹʃ ɑɪɪd ɪj ɪ nene　〜とニ股をかける：ɑɪɪd が下品なので、婉曲に言うときには ɒɪL ɪlſ。　[用例]　[卑語] lɪ ɑcɹſɪſ ɑɪɪd ɪjˈ あの女、二股かけやがって！：本命の男に膣を使わせ、浮気相手に肛門を使わせるというところから来ていて、二股を意味する。主語は女。

ɑɪɪμ　[名詞] 朝、昼前。８〜１２時　[レベル] 2　μɑ;ɑφn　1L:jɔμn:ɑɪɪl（太陽）から。一日の時間を区切る単語を決めるのはリディアも参加していたが、おおむねソーンが作ったことで固まった。　ɒɔdɪ:ɒɔdɪ:lɪ ɑlɪuce　[文化]　在宅勤務にせよ主婦にせよ会社勤務にせよ学生にせよ、午前中の時間が仕事の勝負どきである。昼食は正午ごろに食べるので、八時から仕事を始めるとすると、この四時間の間に仕事を片付ける。人間にとってここでの一時間は昼や夜の数時間にも値する。ゆえにこの時点、特に十時ごろの時点は最も貴重な時間である。アルバザードの人間は総じて集中力が高い。そのようで徹底して教育されているからである。緩急をつけるのが上手い国民なので、とにかく午前は必死に働く。学校の授業も脳力を使う科目は午前に密集させている。学生は五十分間の間に熱心に知識を詰め込んだら十分間休む。休むときは誰かと会話したりストレッチしたりトイレにいったりする。座りっぱなしは良くない。腰にも良くないし頭にも良くない。一度立って深呼吸し、体を動かすことが奨励される。　[用例]　ſə ɑɪɪμ 今朝　ſɪſ ɑɪɪμ 毎朝　cɒ ɑɪɪμ e le jel ある日の朝　☆ cɒ le ɑɪɪμ e ɑleɪ ある夏の朝：上例と le の位置の違いに注意。

ɑɪɪμhɪnɔɛ　[ユマナ] サンシャイン　[レベル] 6　ɹʃː;μcɑcɪ:「太陽の塔」。しあに「ここどこ」と聞かれ。

ɑɪɪμɪſɪ　[名詞] 朝会、朝礼、朝の会　[レベル] 2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɹ

ɑɪɪɒ　[名詞] 正午　[レベル] 2　1L:jɔμn:ɑɪɪμcɒ（昼の時点）が母音調和したもの　[用例]　ɪnɹ ſcl hɪμdnɔɪn ɑəen 1 ɒcu cɒ ɑɪɪμɪɒ. 正午に昼休みが一時間ある。

ɑɪɪl　[天文] 太陽　[反意語] lelſ　[レベル] 1　1L:jɔμn: 古 dɪdɪμəlɪ の音を変化させたもの。　dɪdɪμəlɪ :dɪdɪμəlɪ:lə ɪnlel(l'ɪnlel)（太陽は男。クレーヴェルから）:hɪφɪlc,ɪlſ　[文化]　色は白。ɪlſ では赤。　[用例]　ɑɪɪl ɑcμ 白い太陽　ɑɪɪl eɒ ɒcɒ. 日が暮れる。　ɑɪɪl lɪſ jɔpen e sɪn. 太陽は遙か上空にあった：jɔpen e sɪn は ˈɪ jɔμ e sɪn（空の高いところ）。　ɑɪɪl cˈl neˈl. 日が昇った。　ɑɪɪl ej neˈl jɔμel. 太陽が空高く昇っている。　ɑɪɪl eɒ ˈlcſ ɑlcd ɒe lc ejˈl. 雨がやんでふたたび太陽が輝き始めた。　ɑɪɪl eɒ nel{ɒcɒ}. 日が昇る｛落ちる｝。　ɪn nɪſ jɔμſ lc ɑɪɪl eɒ ɒcɒ. 日が沈むと冷え込んできた。

ɑıılʟıſ 〔天文〕地動説 〔レベル〕4 1L:μcɑcı:「太陽の視点で」〔文化〕 ユーマの一族はもともと神から派生したものであるが、神はアトラスより前は宇宙にいたので、ユーマの一族は始めから宇宙の存在も地球が丸いことも知っていた。従って、地動説のような言い回しが生まれるはずもなく、単に「太陽の視点で見た場合」や、「地球の視点で見た場合」の言い方しか生まれなかった。宇宙の存在を知っていれば天動説という概念が存在しなかったと考えるのは誤りである。天動説は星座を観察する時などの便宜上の概念として有用で、今日の地球でも実用され続けている。

ɑıılɑcnɔ 〔植物〕ゲッカビジン、月下美人 〔レベル〕6 μſ;c ɒcɑccſ ʃʃ:「太陽のように白い花火のような花」

ɑıılɑɔnſ 〔天文〕黄道 〔レベル〕5 ʃʃ

ɑıılɒıuc 〔化学〕ビタミンD 〔レベル〕3 nɑ;/。太陽光を浴びることで血中濃度を高めることができることから。 ʃʃ 〔文化〕 ɒıuc

ɑııldɔcſ 〔天文〕黄経 〔レベル〕4 ʃʃ

ɑıılʅıbı 〔環境〕太陽エネルギー 〔レベル〕3 1L

ɑıılcn 〔植物〕ひまわり、ヒマワリ、向日葵 〔レベル〕3 1L: 太陽の花

ɑıılcnez 〔名詞〕観覧車 〔レベル〕3 1L: 向日葵の部屋。観覧車がヒマワリの形をした小部屋の集合であることから。 〔用例〕 ☆nɔn nıſ uep ıſc ʅıl cɒ ɑıılcnez lə̀ɔ̀ ɟɔɟen ıʅı ʅɔɟ sın. 観覧車が一番高いところまで登ったときは少し怖かった。

ɑıılef 〔魔法〕陽晄（ようこう）、ファーレット 〔レベル〕6 ʃʃ0: 太陽の晄基 〔文化〕 ɑɔlɒcɥe

ɑıılefμecn 〔魔法〕陽晄線 〔レベル〕6 ʃʃ 〔文化〕 ɑɔlɒcɥe

ɑıılejn 〔名詞〕日傘 〔レベル〕3 1L 〔用例〕 nɔn ıμıſ ɑıılejn uıμ ſeμ̀ʅ lını ɑɔnl ɑeɑɔ. 外出中は紫外線を避けるために日傘を差した。

ɑıılepn 〔天文〕太陽系 〔レベル〕4 1L:clə̀ə;μcɑcı 〔文化〕 |約 ʃʃ۸ 億年前| 太陽系が誕生する。 ıμſe はここに位置するようになる。惑星アトラスなどができ始める |

ɑıc 〔名詞〕火、炎、焔、火炎 〔動詞〕ɥel を ı（灰や死など）になるまで焼く、焼く、燃やす 〔魔法〕ファイ（ファイア）。火の多段黒魔法。火で敵を燃やす。 〔化学〕燃焼 〔料理〕焼く 〔類義語〕blenz 〔レベル〕1 ɑ;e 赤 :ɑıc の前、火は lıc（火）← lıcſıı（ライター）であった。先代に火という語が用意されていたので ɑıc に取り替えたという説が有力。但し、ɑıc の語源は不詳。先代であるため、英語からの借入とは考えにくい。ゆえに、ｆｉｒｅとの関連は考えにくい。ɑıc の語源はメル 1۱ 年まで分からなかった。ｆｉｒｅやライターの語源説があったが、決定的ではなかった。初代からある『カコ』に登場するイーファは火と関連付けられることが多い。制アルカの中にもその片鱗が残っている。たとえば ɑlcɑı は ɑl/lcɑı だが、lcɑı は星で、更にその語源は lccz/ccɑı（小さい火）である。同じく、制アルカのｃɑı（星）自体も古アルカの lcɑı から来ている。赤アンクノットではファイはファルファから来ているとあるが、これは物語上の後付けで、アルカ的にはファイのほうが先である。前期古アルカでは lıc が火であったが、自然言語排他によってこれが消えた。そこで代わりに出てきたのがイーファを元にした語である。原初の語形は ccɑıccɑı か cɑıcɑı であった。固有名詞と混同しないように重ねたものである。この当時は接頭辞の ıl がなかったので cɑıcɑı のように重ねた。だがこの語は長いので一部を切り取り、ɑıc にした。それが今まで続く ɑıc である。なぜ ɑıc で切ったかというと、他に切りようがなかったからであろう。cɑı で区切ったら元も子もないし、ɑıcɑı や ɑıcɑ より ɑıc のほうが語形が短くて合理的である。 ɑıc:ɑıc:lə φμıɒ（水の対。火が男）:hc,ılſ 〔語法〕ɑıc（燃やす） ɑıc(ɑıcɒ) : 燃やす ɑıc lı : 燃えている。燃え始めから燃え終わりまでの総称 ɑıc ɟıſ : 燃やそうと考える。準備する。火を近づける ɑıc ʅcſ : 火をつけ始める ɑıcμ : 火を当てている。チリチリいう ɑıcʅ : 火がつく。点火 ɑıcj : 燃えている途中 ɑıc ſɔɔʅ : 燃え終わる。例 : "zɔɒ eɒ ſɔɔʅ ɑıc"（木が燃え終わる） ɑıc clſ : 灰や熱といった燃やした結果が残存している。例 : "bϑ ıſə eſ hıμſ. ʅıɔcl le eɒ clſ ɑıc nı"（ん？ここが熱くなっているな。恐らく何かを燃やしていたのだろう） 〔文化〕 低位黒魔法のファイは炎を起こす。中位は火柱をあげたり、丸めて火の玉を飛ばしたりする。高位は炎の渦に敵を巻き込む。 〔用例〕 "ıμſen e ɑıc" ɑııl e ɑleı, lelɑc e ɾləə̀ʅ ɑcſ enuc ſccl, ɑıc ＜ファイの呪文＞ 朱夏の陽 紅き月の光 我に汝の力を、 ファイ

ɑıcſ 〔名詞〕爆風 〔レベル〕3 1ʔ: 制 :ɑıcıſez

ɑıcſe 〔料理〕チリ 〔レベル〕4 古 : 辛い風。この風はどちらかというと風味の意味。

ɑıcſeɟl 〔名詞〕火力発電 〔レベル〕4 μſ;/ ʃʃ۸

ɑıcſeɟlı 〔名詞〕火力発電所 〔レベル〕4 μſ;/ ʃʃ۸

ɑıcſənɟ 〔農耕〕焼畑農業、移動耕作 〔レベル〕5 1L

ɑıcſəlɑ 〔化学〕燃焼熱 〔レベル〕5 1L

ɑıcʅ 〔魔物〕ファイク（爆球魁）: 第三十七天 : 火の炎天 〔軍事〕爆弾 〔レベル〕3 1ʔ: 制 :ɑıcıφeʅ から 〔文化〕 火の玉状のアデル。ダメージを受けると自爆する。火を吸収する。

ɑıcʅsıɒd 〔軍事〕爆撃機 〔レベル〕5 1۱: 制

ɑıclı 〔建築〕囲炉裏、いろり 〔レベル〕4 1ʔ: 制 : 火の場所 〔文化〕 カコのルティアで作られた。ルティアは木材住宅が多いため、木の含水率を下げて材木の腐食を防いだ。また、タールが梁などに染み込むため、防虫効果もあった。 現在では見られない。

ɑıcʅıdl 〔軍事〕駆逐艦 〔レベル〕5 1ʔ: 制 : 爆弾の船

ɑıcʅɔu 〔料理〕オーブン、天火 〔レベル〕3 ʃʃ:「火の箱」

ɑıcl 〔動詞〕ɥel（建物や燃えているものなど）を消火する、消火する 〔普通動名詞〕消火 〔レベル〕2 1ʔ: 制 :ɑıclc から 参考 : 古 :jeɑɑıc

ɑıcldleſ 〔名詞〕スプリンクラー 〔レベル〕4 ʃʃ

ɑıclʅcznɔ 〔政治〕消防庁 〔レベル〕3 1L 〔文化〕 軍務省下。

ɑıclɟɔp 〔名詞〕消火ホース、消火栓 〔レベル〕4 1L:ɒelcɑcı ılcɟ

ɑıcj 〔名詞〕爆発 〔動詞〕ɥel を爆発させる、爆発する、爆破する 〔美容〕アフロ 〔レベル〕3 1ʃʃ۸: 制 :ɑıcıɑɑzə（爆発）。火が壊れる、火で壊れる？

ɑıcjſılcſ 〔化学〕爆速、爆発速度 μɑ;/ ʃʃ۸

ɑıcjnıl 〔動詞〕ɥel を爆笑させる、爆笑する 〔レベル〕3 ʃʃ

ɑıcjɔlz 〔軍事〕導火線 〔レベル〕4 μɑ;/ ʃʃ

ɑıcjenſc 〔名詞〕火鉢 〔レベル〕5 ʃ0 〔文化〕 カコのルティアで暖房器具として作られた。炭を使い、薪を使わないため、煙が少ない。設置が安く煙も少ないため、μɑ ではアルバザードでも小さい街の学校などに置かれた。 現在では廃れた。

ɑıcn 〔単位〕センチ 〔レベル〕3 ʃʃ:ɑılcın

ɑıcnɒelɑc 〔単位〕ファインメルフィ、センチメートル、ｃｍ→ɑɒ 〔レベル〕3

ɑıcnı 〔名詞〕(ſcl) ムッとした、ムカっとする、むっとする、むかむか 〔レベル〕3 1L: 火の心 〔語法〕nı ɑıφɑ はイライラという慢性的なイメージ。ſcl ɑıcnı はプチっとキレる瞬間的な感じ。 〔用例〕 ın ſclıſ ɑıcnı cɒ le neſcʅ ın. 誰かが私を起こしたとき、むっとした。 ın ſclıſ ɑıc nı leɑ ɟınse bɔn ɟcn. はっきりとした理由もなくムッとしてしまった。

ɑıcnɒɒ 〔化学〕炎色 〔レベル〕4 1L

ɑıcnɒɒyeu 〔化学〕炎色反応 〔レベル〕4 1L

ɑıcu 〔動詞〕ɥel を ı（結果状態）になるまで焦がす、焦がす、焦げる、こげる 〔レベル〕2 1ʔ: 制 : 古 :ɑıcuel（焼いて黒くする） 〔用例〕 dɔɑ. cʅ ɑıcu ɟcn. パンが焦げてしまった。

ɑıcuı 〔物理〕ケルビン、絶対温度 〔レベル〕5 1ʃʃ۸: 制 :ɑıcuıl(熱の強さ)

ɑıcuılſıc 〔名詞〕火事、火災→beezel 〔レベル〕2 1L:μcɑcı:ıμbılelſ 〔文化〕 火事が起これば保険から金を受け取れる。全焼半焼という中途半端な区分ではなく、家具の何が燃えたとか、何の部屋が燃えたなどによって詳しく点数化される。その点数に応じた保険金が払われる。火事が他人のせいならその人から慰謝料を取れる。自分のせいならもらえない。まして自分のせいで他人の家まで焼けば慰謝料を払う。

ɑıcucın 〔名詞〕火力 〔レベル〕4 μɑ;/ ʃʃ۸

ɑıcɑ 〔名詞〕消防 〔レベル〕2 1ʔ: 制 :ɑıclɑıɟ

ɑıcɑı 〔天文〕ファイファ、水星、炎天 〔魔法〕火のクリスタル 〔組み数字〕1 / 9 〔レベル〕3 古 : ɑıcɑı ← ɑıc/lccɑı

ɑıcɑıɒɔ 〔名詞〕消防車 〔レベル〕2 1L:μcɑcı:ıμbılelſ 〔文化〕 leunıɒɔ

ɑıcɑɔɟſ 〔軍事〕火縄 μɑ;/ ʃʃ۸ 〔文化〕 φel

ɑıcɑeμn 〔名詞〕腐っても鯛 〔レベル〕3 1L 〔語法〕 価値が下がっても、元々そのものの価値が高いので、下がったとは言っても未だ価値のあるものを指す。 プラチナは比較的熱に強い貴金属で、火事に強い。そのため指輪などのアクセサリーとしての形が損なわれても貴金属そのものとしてそれなりに高価で売ることができる。そこから転じてこのような慣用句となった。 〔用例〕 nɔn ſıeſ ʅe eld ɒcl nɔn ſeμıſ lıcn ıſɒ eld ɑeμel, ſeſ le ıſ ɑıcɑeμn lılel. あそこでは安く売ってるって聞いたんでメロンを買いに行ったんだけど、腐っても鯛ね。

ɑıcɒ 〔建築〕炉辺、炉端、ろへん、ろばた、ハース、ファイアサイド 〔レベル〕5 1ʔ: 制 :ɑıcɒeɟ

ɑıcɒı 〔植物〕ディル、イノンド、蒔蘿、ジラ、じら 〔レベル〕6 ılıʅı

ɑıcɒın 〔地名〕ファイマン、ファイマン市、蒔蘿市 〔レベル〕6 ʃʃ:ɑıcɒı/n「ディルの（産地）」〔文化〕 アルナ市東部の市。オフィス街で、ファイマン線の名の由来になっている。

ɑıcɒınμecn 〔交通〕ファイマン線、蒔蘿線 〔レベル〕6 ʃʃ 〔文化〕 サンベル市からモモエ市へ至る私鉄の地下鉄。中央アルナから見て北西に走る。間にカリーズ駅などを挟む。

ɑıcɑ 〔医療〕やけど、火傷、ヤケド 〔レベル〕2 1ʃʃ۸: 制 :ɑıc から 〔用例〕 ın ſclıſ ɑıcɑ ɔn lıɟ. 手をやけどした。

ɑıcɑclɑıc 〔医療〕焦灼灸 μɑ;/。イボやウオノメを治すときに使う。皮膚や組織を火の力で破壊することから。 ʃʃ۸

ɑıcɑɔɑl 〔名詞〕火の粉 〔レベル〕3 1ʃʃ۸: 制 : 火の灰 〔用例〕 ɑıcɑɔɑl ɒclɒ. 火の粉が舞う。

ɑıcɑɔl 〔名詞〕火打石、火打ち石、フリント 〔レベル〕4 1ʔ: 制 : 火の石 〔成句〕 nı ɑıcɑɔl カチンとくる

ɑıcɑɔlφel 〔軍事〕火打石銃 μɑ;/ ʃʃ۸ 〔文化〕 φel

ɑıcφ 〔名詞〕こて、鏝 〔レベル〕4 1ʔ: 古 ɑıcφcl（火の金属。熱い金属か？）

ɑıcφın 〔建築〕左官 〔レベル〕5 ʃ0

ɑıcφel 〔軍事〕火薬銃 μɑ;/ ʃʃ۸ 〔文化〕 φel

ɑıcφel ɑlınɑcμ 〔人名〕ファイゲル＝フランディール ʃʃ 〔文化〕 uelec の発明家。۲۱۲ 年、液状ロケットの開発に成功。

ɑıcd 〔料理〕トースト 〔レベル〕2 1ʔ: 制 :ɑıcdɔɑ

ɑıcb 〔名詞〕燃料、火の材料 〔レベル〕3 1ʔ: 制 :ɑıc/φııbe

ɑıcbɑcſ 〔交通〕給油、燃料供給 〔レベル〕5 μɑ;/ ʃʔ

ɑıcblcnz 〔軍事〕焼夷剤 zφ:jzɑ;/「火硝石」 ʃʃ۸ 〔文化〕 φel

ɑıcμe 〔天文〕ポルックス 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel:ɑıc/ccμe 〔文化〕 雷のオヴィと炎のギルが共闘してケルンマルスとリスティを封じたとき、すぐに現場に急行できるよう作った連絡通路がɑıcμe（ポルックス）と cμeɑ（カストル）。

ɑıcz 〔医療〕炎症 〔レベル〕2 1ʔ: 制 :ɑıc 〔用例〕 ſıʅ ſcl ɑıcz. 腕に炎症がある。

ɑıczμıc 〔医療〕ひりひりする痛み、ヒリヒリ 〔レベル〕2 1L

ɑıczıbe 〔医療〕湿布 〔レベル〕3 1ʃʃ۸: 制 : 炎症の布 〔用例〕 eu ɑıczıbe 湿布を貼る

ɑıczɔn 〔名詞〕薪、まき、たきぎ 〔レベル〕3 1ʔ: 制 : 火の木 〔用例〕 eu ɑıczɔn まきをくべる

ɑıcl 〔形容詞〕ゆるい、緩い 〔反意語〕ucjd 〔レベル〕2 1ʔ: 制 : 古 :ɑııl（きつい）。ɑıcl では怠けるという意味になってしまう。

ɑıcl,ɑ ɑccɒ

ɑıcllec 〔言語〕ライトノベル、ラノベ ul 〔レベル〕3 ʃʃ 〔文化〕 lɥəɑcı

ɑıcllcjen 〔被服〕ルーズソックス 〔レベル〕5 ʃʃ

ɑıclı 〔人名〕ファイラ 〔組み数字〕5 / 1 1 〔レベル〕3 古 :μcɑcı:ɑıc（火）/lı ← lın（人） 〔文化〕 アルシアの 5 番目。火の魔法の大成者。男性。

ɑıcleln 〔名詞〕のろし、狼煙、烽火、狼火、狼燧 〔類義語〕ɑıdleln μɑ;/ 〔レベル〕4 ʃʔ 〔語法〕ɑıdleln

ɑıcledj 〔名詞〕火葬 〔動詞〕ɥel を火葬する、火葬する μɑ;/ ʃʃ۸

ɑıcı 〔言語〕音象徴 〔レベル〕6 ɑ;ɑɔ/ıdcı ʃ0:ɑɔ/ıdcı

ɑıcıɑcj 〔法律〕火刑、焚刑 1L 〔文化〕 地面に柱を立て、縄で死刑囚を縛り付ける。薪藁を足元から設置し、首から上だけ出しておく。そこに点火し、焼き殺す。放火などに適応される刑。

ɑıcı φııuc 〔人名〕ファイア＝ガーヴィ ʃ0 〔文化〕 (1ʃ۹:1L۸) ラグナントの研究員。電卓を発明した。

ɑıcıl 〔軍事〕火門、火口 μɑ;/「火を置く場所」 ʃʃ۸ 〔文化〕 φel

ɑıceſ 〔言語〕関係詞 〔レベル〕4 ʃ0:dıɑc/ſe

ɑıceſφıu 〔言語〕関係詞節 〔レベル〕5 ʃ0

ɑıceu 〔普通動名詞〕点火 〔動詞〕ɥel に点火する、点火する 〔レベル〕4 μɑ;/ ʃʃ۸

ɑıceμ 〔名詞〕自作自演、自演 〔名詞〕マッチポンプ 〔レベル〕4 μɑ;ɑıc/eμ「火と水」。自分で火をつけて自分で消して英雄を気取ることから。 ʃʔ 〔成句〕 beɑıɟ ɔn ɑıceμ. 自演乙。

ɑıcel 〔魔物〕ファイエル（水炎）: 第三十九天 : 火の幻天 〔レベル〕5 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel:ɑıc/eμ。母音が続くので、半母音的な μ だと言いづらいため、l に。 〔文化〕 魁族。流体の炎。何にでも姿を変えることができる。中心にある要を打ち破ると死ぬ。いかに火をかいくぐりながら要を破壊するかがポイント。

ɑıɔ 〔サール〕ファオ 〔魔法〕召喚魔法ファオ。その場にいる馬鹿だけが攻撃される。μɑ ではリディアが召喚したら、居合わせたザナやオヴィらがついでに攻撃され、笑い話になったとともに、封印魔法となった。 〔レベル〕4 古 〔文化〕 頭の良すぎた少年。抑えられない知能が見る者を全て愚かに見させてしまう。それによって彼は忌み嫌われ、知能のない暴徒に暴行を受け、恥辱を味わされる。それ以後ファオは人間に恨みを持ち、人間を滅ぼすと共にサールになることを願う。サールは彼の願いを聞きいれ、力を与えた。それ以後ファオは人を見つけては拉致し、「君は僕を愛してくれるか」と聞き、自分を受け入れなかった者を殺すようになった。更にファオは愚者を見つけては無条件で殺すようになった。愚かな知恵の無い暴徒に暴行を受けたことに対する復讐である。 〔成句〕 ɑıɔ lenıɟ 可愛そうなファオ : どんな雲も裏側は銀色。どんな悪いものにも良い面はある。

ɑıe 〔名詞〕幕、たれ布 〔レベル〕3 1ʔ: 制 :ɑııbe（長い布） 〔成句〕 ɑıe lənıʅ ıʅɔ 一件落着 〔用例〕 hıμſ ɑıe 幕を下ろす

ɑıəɟ 〔人名〕ファウス 〔レベル〕5 古 〔文化〕 (ɒeldılſ ϑ → ʃL0) 民主主義勢力ミナレットの二代目首領。メル暦 ʃʃ0 年、ミナレット初代首領ミナリスがアルティス教の始祖シオン＝アマンゼと戦いを挑み相打ちになったため、ミナリスの息子ファウスは二代目首領に就任。ファウスはシオンの娘マルテ＝アマンゼを決戦の地アルカンスより追放。逃亡先のアデュを陥落させるが、マルテはさらにイグレスタ共産圏に逃亡し、ミナレットと対立するこの国で保護されることになる。ʃʃ۸ 年、アルバザード国内でアルティス教のテロ活動が活発化した。ʃ0 年、ケートイア、イネアート、イグレスタに侵攻し、多数のアルティス教徒が殺害されるに至る。マルテはさらにセルヴァートへ逃亡。ʃL0 年、勢力を回復したアルティス教勢力はアルバザードへ攻勢をしかけ、マルテとファウスは対決の末相打ちとなった。ミナレットはファウスの息子アルファウスに引き継がれた。

ɑc 〔代詞〕何か、誰か。任意の代詞 〔レベル〕1 1ʔ: 恣意

ɑc,ɑ ɑcl e

ɑcſ 〔動詞〕ɥel を ı に与える、与える、やる、渡す 〔医療〕処方する 〔類義語〕ɑebcſ, ɥelcl, hıl ıɟ, jeɑcμ, lınſ 〔反意語〕ſıɑ 〔レベル〕1 ɑ;ɑəɔ.ʅ 1ʔ: 制 ɑcſ:ɑcſ:ɑəſı 〔用例〕 ɑcſıſ ɒccʅ ı lə. 彼にりんごをあげた。

ɑcſe 〔形容詞〕実質の、実質上の 〔反意語〕ɑcſſe 〔レベル〕3 μɑ;ɑcı/ſe ʃʔ

ɑcſɥəɟɔ 〔言語〕授受動詞 〔レベル〕6 ʃʃ

ɑcſl 〔動詞〕ɥel を ı に仕舞う、仕舞う、取り込む、とりこむ、しまう、しまいこむ、片付ける、仕舞いこむ、取り出すの反対の動作 〔経済〕手仕舞い、手仕舞う 〔反意語〕ɑıſcl 〔レベル〕2 1ʔ: 制 :ɑıſl:ɑıſlcſ（取って出す） 〔用例〕 ɑcſl ɟıb ı zıſ 服をタンスにしまう ıuelınſ ɑcſlcʅ ɒıμʅ ı ʅlıl ɑcμ ʅɔnſ ɑeɥə φıłſ. 死神は門を閉じると、鎌を白い空間に仕舞った。

ɑcſıμ 〔電算〕出力装置 1L

ɑcſɔ 〔動物〕ロバ、驢馬、ドンキー 〔レベル〕3 1ʃʃ۸: 制 :ɑcſedıb（耳長馬） 〔擬声〕 ıbɥɔɔ

ɑcſe 〔動物〕ウサギ、うさぎ、兎、ヘアー、ラビット、野うさぎ 〔レベル〕2 lıʅſı:ɑcſe（ウサギ）。長い耳の意。 〔文化〕 アルバザードでは犬猫に次いで人気のあるペットで、最も好まれる品種はネザーランド。繁殖の結果、白い毛で赤い目をしたウサギが生まれた。印象深いため、パーセンテージから言えばレアなのに、ウサギの目は赤いというイメージが定着した。 また、うさぎは幼女を好み、幼女と仲が良いというイメージがある。従って、デザインや絵の中ではしばしば幼女とともに登場する。 〔成句〕 ɑcſe eɑſın jeɟ ılləəſ ʅıc. 逃げたウサギは常に大

きいものだった：釣り逃がした魚は大きい

ɑcʃebelʃ ［料理］うさぎ汁 ［レベル］5 1L:ɔelcɑcı ılʃe

ɑcʃecnj ［名詞］泣きはらした目、赤い目、（ʃcl とともに）充血した目、目が腫れあがるほど泣いた目 ［医療］充血 ［レベル］2 1L: うさぎの目 ［用例］ ☆ nɔn ʃclıʃ ɑcʃecnj ɔcl eɔʃ. 悲しくて泣きはらした。

ɑcʃecɑı ［地球の星座］［ユマナ］うさぎ座 JM ［文化］ cɑı

ɑcʃəl ［代詞］任意の何か ［レベル］2 1L

ɑcʃəleʃ ［代詞］任意の何かの ［レベル］2 1L

ɑcl̀ ［形容詞］任意の、非特定の、随意の、不定の ［反意語］lel̀ ［言語］不定性 ［レベル］3 1L:ɥcɑ cı:ıɥbılelʃ:ɑc

ɑclj ［医療］目眩、めまい、眩暈 ［動詞］ɥəl を くらっとさせる、くらっとする、くらくらする、クラクラ ［レベル］3 1L:ɑcın/ncl̀j（少女のように倒れる）

ɑclunʃe ［言語］不定冠詞 ［反意語］lèunʃe ［レベル］5 J1

ɑcl̀nə ［言語］不定量 ［レベル］4 J0 ［語法］ 不定量は時間と量に分かれる。 量は ʃcə（１～２個）, ɑɔə（２～３個）, ılɑɔə（３～５個）がある。また、φılʃɔɔn（百数十個）のように、任意の桁に ʃɔ を入れて不定量を表現する方法もある。 時間は時点と時量に分かれる。両者とも、ıɲʃ や ɑɔnc などといった同じ単語を使う。 時点は ɲ, lc, cɒ などの格詞とともに現れ、ある時点からどの程度離れた時であるかを示す。ɲ ıɲʃ で「すぐ前に（１～５分ほど前に）」を意味する。 時量は nə, ɑɔl などの格詞とともに現れ、どの程度の時の長さがあるかを示す。nə ɑɔnc で「一瞬」、ɑɔl clʃ で「２、３日～数カ月の間」という意味になる。 同じ ıɲʃ でも、ɲ ıɲʃ なら「さっき」、lc ıɲʃ なら「後で」、nə ıɲʃ なら「ちょっと」と訳し分ける。日本語だと３語覚えることになるが、アルカだと ıɲʃ という語自体が決まった時間の幅を持っているので、格詞との組み合わせだけで表現できる。外国語が得意な人でも案外不定量の表現は覚えていなかったりするが、そのわりに口語では非常によく使うので、できるだけシンプルでしかも時間の幅がきちんと決められる体系が便利だと思われる。 不定量は元々小さな時間を示すのに使うことが多い。数カ月や数週間の場合、そもそも lelʃ や ɔɔʃ という単位を使って "ʃı lelʃ ɑcı"（２カ月くらい）のように示せばよい。同様に、日なら jel を使えばよい。 人間にとって長い時間あるいは現在から離れた時間になるほど、見通しが立たなくなる。見通しが立たないあやふやな状況にあやふやな不定量を持ってくると意思疎通に支障をきたす。不定量はある程度計画の立てられる見通しが立った状態において、暫定的に計画を立てる際に使われる。例えば「あとで会いに行くよ」というような場合に使われる。これが２１日も後の話なら、不定量で表してもかえって分かりにくいので、ある程度具体的に３週間くらいと目安を立てる。 というわけで、アルカの不定量は細かい時間を表すようにできている。大きな時間の場合は上述の通り、「２カ月くらい」というような表現をする。時点と時量は１０段階に分かれ、内訳は以下の通りである。 1:ɑɔnc（一瞬。実際には１秒以内から１分程度まで、場面に応じて幅広く） J:ıɲ（すぐ（以下は lc と組み合わせた際の訳）。１～５分） ʔ:lcjeʃ（ちょっとした。５～３０分） M:ezcʃ（ややあって。１５分～１時間弱） ʔ:φılʃc（少しした。３０分～１時間強） ʔ:dcın（しばらくした。４５分～２時間） 9:jclʃ（あとで。１時間～２，３時間） Δ:lecɑ（ずいぶんあとで。２，３時間～６時間） L:clʃ（こんど。２，３日～数カ月） 10:ɑeɒı（いつか。１年以上） J0 年頭までは時点と時量に別々の単語を当てていた。恐らく自然言語に引きずられたのだろう。だが、こう考えれば時点と時量を同じ単語で表す理由が分かる。jel(日)というのは２４時間のことだが、これは時間の定量である。ɲ jel なら「２４時間前に」で、nə jel なら「２４時間の間」を意味する。定量に関しては時点も時量も同じ単語を使っている。ならば、不定量だけ時点と時量が別でなければならない理由は存在しない。ıɲʃ は「１～５分の間」という量なのだから、jel と同じように時点にも時量にも使えるはずである。かくして時点と時量を併合し、さらに en heɒ などと表していた部分を単純語にし、１０段階の不定量を定めた。単純語を作る際は、ɲ, lc とともに使われることを考慮して、同じ音が連続しないよう、l や j で始まる語はなるべく避けた。なお、１と１０、２と９はそれぞれ ʃeeluelʃ になっている。４～６は語源が連続したストーリーになっており、７の jclʃ は制の意味に復帰した。 ＜１０段階以外の不定量＞ 単位となる jel, jɔɔʃ, ınɑcı, lelʃ, ıɲlcel, ɲlʃ などと組み合わせることで、上記以外の不定量を示すことができる。 ʃcə jel, ɑɔə jel ıl ɑɔə jel, jɔɔʃ ucı, ʃcə jɔɔʃ, ɑɔə jɔɔʃ, ılɑɔə jɔɔʃ, lelʃ ucı, ʃcə lelʃ……と、細かく組み合わせることで、単純語１０語でカバーできない細かい区間を表現できる。 ＜nə ɑcl と nə ɑen＞ nə ɑcl(ɑen) は決まった不定量がなく、完全に話者の主観と文脈に依存する。 例えば長い時間をかけて行うといっても、懸垂の場合は頑張ってもせいぜい１回につき 10 数秒の世界である。この場合、nə ɑcl が 10 数秒を指す。一方、山登りだったら短くても数時間はかかる。この場合、nə ɑen が数時間を指す。 すると nə ɑen のほうが nə ɑcl より長くなる。このように、ɑcl(ɑen) は完全に文脈依存であり、特定の不定量を指さない。話者が長いと思っているかがポイントである。 ＜時間の単位を使った時量＞ ɑɔə scn（数秒） ʃɔɔn scn（数十秒） ɑɔə aec（数分） ʃɔɔn aec（数十分） ɑɔə ɒcu（数時間） ʃɔɔn ɒcu（数十時間） ɑɔə jel（数日） ＜不定量について理論的な補足＞ 日本語の不定量の時間表現を集めてみる。 いくつも出るだろうが、大体ーー 1：すぐ（１～５分） 2：ちょっとしたら（５～３０分） 3：あとで（３０～２，３時間） 4：こんど（２，３日～数カ月） 5：いつか（１年～∞） ーーの５段階で使い分けているように思われる。 括弧内の長さは目安で、ネイティブごとに一致を見ないだろう。だからといって「あとで電話するね」の「あとで」が翌日と解釈する日本人もいまい。おおむね括弧内が目安である。 むしろ重要なのは目安の正しさではなく（それは日本語論なので）、不定量が網羅的でないということだ。 例えば、２，３時間以上 JM 時間未満という不定量がない。また、数カ月から１年という不定量もない。網羅的でない上に、幅も広い。１～５分ならともかく、２，３日から数カ月ではだいぶ広い。１分から３０分までは３段階もあるのに、３０分を超えると急に大雑把になる。これらが日本語の不定量の特徴である。なお、英語でやっても同じ結果になる。 アルカは人工言語なので、当初網羅的でないのを嫌い、ɒej＋単位でどんな不定量も表せるようにしたが、不自然である。自然言語を分析すると、このように現在に近いほうが細分化され、未来に行くほど大雑把になる。また、網羅的でもない。現在に近いほうが細分化されるのは人間の視界に近い。目の前の瓶に書いてある文字は読めるが、遠くの山は大雑把にしか見えない。人間の不定量の感覚はこのように「時間の遠近法」を持っている。 これは過去にも言える。「いましがた」「さっき」「先日」「こないだ」「むかし」を見るとわかるとおり、現在に近いほうが細分化されている。 なぜ人間の言語には「時間の遠近法」があるのか。 未来については、現在から遠いほど、予測が付かないからである。 １０分後のスケジュールはほぼ確定事項で、隕石が降ってくるような突然の事態でもないかぎり変わらない。だが１年後となると話は違う。きちんとスケジュールが決められない。 歯医者の予約みたいなもので、来週なら土曜か日曜のどちらが空いてるか受付嬢に伝えられるが、３カ月後の定期検診だとどうなるか自分でも分からない。未来になればなるほど、スケジュールが不定になる。３カ月後の定期検診など、「中旬ごろにまた来ます」などのように大雑把に言うしか約束できない。従って、そのあたりの不定量を示すときも、当然幅が広くなるというわけだ。この理屈でいくと過去はどうか。過去は確定された歴史なので、未来と違って現在から離れるほど不確定ということはない。だが不定量の表現は過去も未来も現在から遠のくほど大雑把になる。これはなぜか。 なぜなら過去は現在から遠く、記憶が褪せるからである。遠い過去のほうがいつだったか思い出せない。昨日か一昨日かという区別は重要だが、１年経てば１日の違いなどどうでもよくなる。だから過去の不定量も現在から遠くなるほど大雑把になる。歴史と行動の履歴という客観で考えず、実際に言語を使用する人間の認知を考えれば理解できる。 なお、不定量をしっかり決めている人工言語は少ない。 代名詞を定めない人工言語はないが、不定量を決めている言語は少ない。言い換えれば、代名詞を決める前に不定量を決める人工言語は恐らく存在しない。こう見ると、不定量のほうが代名詞より作成の順序的に高レベルな内容だということが分かる。逆にいえば、不定量の表現の設定があるかないかで、人工言語の進化段階が推定できる。

ɑclɥə ［言語］不定動詞 ［レベル］6 J0 ［語法］ 目的を持たない動詞で、必ず非有界動詞。 例えば「歩く」の場合、ただその辺りを歩行する場合は、不定動詞になる。 スラブ語には定不定の違いが語彙レベルであるが、日本語や英語やアルカにはない。 不定動詞の単位動詞はアルカでは迂言法で表現される。

ɑcl̀l ［物理］二次元、平面、２D ［俗語］二次元、二次、虹。アニメやゲームやイラストなど二次元物のことを指すスラング。 ［俗語］アニメ、ゲーム、ラノベ、イラスト、ヲタグッズ、オタグッズ、ヲタ物、オタ物。上記の意味が転じてオタグッズ全般を指す。 ［形容詞］二次元の、平面の ［類義語］ılɑɔl̀l ［レベル］3 1L:ɑcnʃ/ʌlb

ɑcl̀ldıɒɔ ［数学］平面図形 ［レベル］4 1L

ɑcl ［動詞］ɥəl を疑う、疑う、不信感を抱く ［動詞］強く ɥəl でないと思う、思う ［形容詞］（ɑcl ın で）疑うような、懐疑的な、怪訝そうな、怪訝な ［普通動名詞］疑念、懐疑 ［反意語］lıɲ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılcj:ɑcelıɲ（嘘だと信じる） ɒınɔɔ:ɒınɔɔ ［成句］ ɑcl ʃeɒ 耳を疑う。相手の言っていることを自分は聞き間違えたのかなと思うことは eucʃʃeɒ であって ɑcl ʃeɒ ではない。ɑcl ʃeɒ は相手の言ったことがありえなさすぎて自分の耳を疑ってドン引きしているという意味である。eucʃʃeɒ と区別。同じく ɑcl cnj は相手のしたことがありえなさすぎて引いているという意味。ɑcl ʃeɒ と似ているが ɑcl ʃəɔ は相手の言ったことが信じられず相手にドン引きしているという場合では ɑcl ʃeɒ と同じだが、自分が思わず言ってしまったことがありえなさすぎて自分で自分に引いているという意味で主に使い、この場合は ɑcl ʃeɒ と意味が異なる。基本的に ɑcl ʃɔʃɔ nɔzeʃ（自分の～を疑う）の意味で使うことが多く、この nɔzeʃ は省略されることが多い。自分に呆れるという意味の ɑcl ʃəɔ の場合、eucʃə と区別すること。 ɑcl cnj 目を疑う ɑcl ʃəɔ 口を疑う ［用例］ ın ɑclıʃ lı ɔn lı ʃə ɥəl. 彼女は真実を言わないのではないかと思った。

ɑclʃ ［名詞］過程に対する結果、でき、出来高、結果、できばえ、出来栄え、結末、末路、甲斐、かい ［数学］方程式の解← ɒcɥəjınɑclʃ ［文頭純詞］その結果、結果 ［経済］経営成績、業績 ［格詞］～の結果として ［反意語］djʃ ［レベル］2 @ 1L ［語法］ 甲斐とは「行動の結果として現れるしるし。努力した効果」なので ɑclʃ。 ［成句］ ɑclʃ ɥıʃ c hɔʃ uɔjʃ ʃcn 痛みなくして得るものなし ［用例］ ʃə eʃ ɑclʃ cʃen el ɥəəj ɥəlc ɥɔl ʃɔɑ. これが子供に好きにネットをさせた末路だ。

ɑclʃjın ［数学］二次方程式の解の公式。正式には hııljın e ɒcɥəjınɑclʃ e ʃıhıaɒcɥəjın。 ［レベル］4 1L ［語法］ 実際にはほとんど「フィシュチャン」か「フィッシャン」のように発音される。

ɑclʃjıɲ ［普通動名詞］フィードバック ［動詞］ɥəl（結果の内容や研究名など）を ı にフィードバックする ［レベル］5 J1

ɑcl̀ ［形容詞］冗長な、長たらしい ［類義語］ɑıɒb ［反意語］ɑıjʃ ［レベル］3 @ J0

ɑclɑız ［形容詞］疑わしい ［レベル］3 JJ

ɑcll ［普通動名詞］噴火、噴出 ［動詞］ɥəl を噴出する、噴出する ［レベル］3 1L:ɑcl:ʔ: 制 :jıɑ:ɑıɑbl̀ı

ɑcl̀lıɑ ［地球の国名］カタール ［レベル］6 1L: 国名が「噴出する」

ɑclı̀n ［哲学］懐疑主義 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelʃ

ɑclɔl ［法律］容疑者、被疑者 ［レベル］3 J0:ɒelcɑcı lceɥ

ɑcleʃ ［文末純詞］［ɥəəl］jec ［レベル］1 J1:ɥɥəə:ɑcl/ʃe

ɑcj ［名詞］今日 ［レベル］1 19: 制 ［成句］ el ɑılej lcn lej el ʃɔɔʃ jen cɒ ɑcj. 今日すべきことは今日せよ＝今日やるべきことは明日へ引き延ばすな。 ［用例］ ɑcj e jɔɔʃ ʃej 来週の今日 ın nıʃ ɑcj ıʃ ɑcl ʃcnʃı. 今日は一日がとても長く感じた。 ʃıllʃ ɑcj eɒ ʃɔɔʃ 今日が終わるまで ʃıllʃ ɑcj leeu ıʃɔlıj 今日が終わるまで

ɑcjʃ ［遊離副詞］［形容詞］まれに、稀に、まずしない ［レベル］2 J0:ɑcl/ʃe（疑わしい）→ ɑcjʃ ［語法］ ıləəʃ

ɑcjzeʃ ［料理］定食、今日のメニュー ［レベル］3 1L

ɑcn ［格詞］～だけれども、～にもかかわらず、中譲歩 ［レベル］1 1L: 恣意 ［用例］ ın ʃeʃ ɑcn lı en ʃe. 彼は行かなかったが私は行った。

ɑcn(J) ［名詞］白丸、勝星、白星 ［医療］陽 ［組み数字］1 / 2 ［反意語］uen ［レベル］2 jɒ;ɑcɥ/en「白いの」 J1:ɒel ［文化］ 勝利や良を意味する記号。uen はその反対。 zφ でカルセール人が筆で○と●を描き、勝利と敗北などの意味に用いたのが始まり。筆はペンと異なり黒丸を作りやすい。○は筆先でくるっと円を描けばよく、●はべたっと押しつければすぐ描ける。ペンだとこうはいかないので塗る系の文字は生まれにくく、×記号などが生まれやすい。 その後この記号はアルティアに入り、ルティアへ。jɒ でアルバザードに筆とともに入り、現代まで同じ意味で使われる。この記号を指す単語は序列組み数字２にも使われているため、ペンが主流のアルバザードも日常的に頻度が高い。ただし ɑcn, uen という語ほど、○●記号は頻度が高くない。というのも、アルバザード人は記号においては○×を使うことが多いためである。ゆえに●自体はあまり出ず、uen という文字のほうが多用される。 ［成句］ uıj lını ɑcn 雌雄を決す

ɑcnʃ ［地学］金紅石、ルチル ［レベル］6 1L:dcnɑ ［文化］ スタールビーなど、効果の高い魔石にはルチルの針状結晶を持つため、魔石学では重要。

ɑcnʃ(ɥjʃ)ın ［生物］［医療］陽蹼脈 jzl;/ JM

ɑcnl̀ ［名詞］側、面、サイド、陣地、陣 ［数学］面 ［数学］～面体 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑcnı（側）。ɑccnı（～のために）と同根。 ［成句］ ʃə ɑcnl̀ eʃ hıl 天地無用

ɑcnl̀el ［言語］位相 ［レベル］6 J1:ɑcnl̀/eel（ある側面を向けた顔）

ɑcnuen ［名詞］勝敗、勝ち負け、決着、白黒 ［医療］陰陽 ［レベル］3 μɑ;/ JʔJ ［成句］ eu ɑcn uen 決着をつける ［用例］ eu lccʃ ɑcnuen ıl ınj. 決着をつけようぜ。

ɑcnuenʃ ［経済］一部上場企業 ［レベル］5 J1

ɑcnɑɑclɑ ［生物］プリン塩基 μʃ;ɑcn/dınɑɑclɑ。春（アデニン）と夏（グアニン）なので陽。 JM

ɑcnφ ［料理］フォーク ［シェルト］フォーク。王手飛車取りなどの手法。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑc nφcl（三極の槍）。ɑcn,ɑccnı の幻字が三極の槍のようであったことから。φcl は金属。 ［文化］ ʃəcl̀ɔn 金属製で三極か四またのものが一般的。子供用には木製のものが好まれる。

ɑcnφen ［歳時記］雨水 ［名詞］２時 ［組み数字］２／２４ ［レベル］3 J0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

ɑcnμecn ［組み数字］白星賞 ［レベル］4 J1

ɑcnınle ［アイテム］フィナンシェ、エリクサー、エリクシャー、アルイクシル、霊薬 ［俗語］愛液 ［組み数字］1 / 1 2 ［レベル］4 J1:ɑcınje/lce ［文化］ フィアンセの涙。ヴィードを全回復する。とろっとしていて甘い蜜の味がする。 実はフィアンセの膣分泌液にも同じ効果があるが、フィアンセは上半身しかないため、得られない。フィアンセとの魔人の場合、初潮前であれば膣分泌液に同様の効果がある。これが転じて次第に俗語で愛液の意味になっていった。

ɑcnınlencdl ［医療］バルトリン腺、大前庭腺 ［レベル］5 nɑ;/「愛液豆」 JʔJ

ɑcnınleμecn ［組み数字］霊薬賞 ［レベル］5 J1 ［文化］ → μıdıll μɑ の魔法大会で賞金とともに授与されたアディスト。勝者がベスト１２まで選ばれた。その賞品の名が後にセレンにより組み数字に採用された。下位半分はおまけのようなものだが、上位６位まではかなり貴重。

ɑcnıɒcuı̀ın ［生物］［医療］陽維脈 jzl;/ JM

ɑcnɔ ［名詞］花火、ファイアワーク ［魔法］フィノ。火の低位白魔法。発信弾を打ち上げる魔法。また、打ち上げ方を工夫して芸術的な花火を作ることもできる。エンターテインメント向きな魔法。芸術的な用途としては決して低級ではなく、センスが別途必要。 ［レベル］3 1ʔ: 制 : ɒcnıɑıcj の混成 ［文化］ jɒ で作られた。nɑ まで新年祭で行われた。jɒ でカレンやアルティアに伝来。カレン人は夜暖かいという理由で夏に行った。ul にその習慣が北にも入り、年に２期行うことになった。 アルバザード人のものよりアルティア人のもののほうが圧倒的に美しく、現在はこちらを採用している。

ɑcnɔj ［歳時記］白露 ［名詞］１５時 ［組み数字］１５／２４ ［レベル］3 J0: → ınlcın ［文化］ ınlc ın

ɑcnɔcn ［植物］彼岸花、曼珠沙華、ヒガンバナ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑcnɔɒcnı。花の色が火のように赤く、花の形が花火のように広がっているところから。 ɥəəlɔ:ɥəəlɔ:lı ılblınʃ（赤）

ɑcu ［動詞］ɥəl を萎ませる、膨らむの反対としての萎れる、しぼむ、萎む、縮小する、収縮する ［形容詞］萎んだ、しぼんだ、へこんだ、凹んだ、縮小した、収縮した ［反意語］ɑıb ［レベル］2 @ 1L

ɑcuɥμ ［名詞］対比、コントラスト ［レベル］4 J0:ɒelcɑcı lceμ:ɑcμ/uɥμ

ɑcɑc ［アイテム］パイク zφ;ɑc/ɑc JM

ɑcɑcφc ［アイテム］ロングスピア zφ;ɑc/ɑcφc JM

ɑcɑclə,ılʃ ɑcl ɑc/ɑc/lə

ɑcɒ ［形容詞］脆い、もろい、華奢な ［形容詞］耐久性のない ［形容詞］日持ちの悪い ［反意語］ɑın ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɑıɒ: 古

ɑcɒɑμeı ［化学］［工学］銑鉄、銑、ずく ［レベル］6 μɑ;/ JM

ɑcɒel ［名詞］時間 ［類義語］ɒel ［アクセント］ɑcÐel、ɑɛɒel(ɑu) ɑu;ɑc/ɒel「長い時」 ［レベル］2 JJ ɑcɒel:ɑcɒel:lə ɑcɒel:ɥəɒc,ılʃ

ɑcɑ ［動詞］ɥəl を c から取り去る、取り去る、引く ［数学］［接続詞］引く、－ ［数学］引き算、減法、減算。ɑɔl の反対 ［接続詞］「－」 ［レベル］2 1L: 制では ɑıl（加える）、ɑɔl（引く）、ɑıɑ（増やす）、ɑcɑ（減らす）。だが、これらの区別が必要ないと判断し、音の離れた ɑıl と ɑcɑ だけ残し、統合した。 ［語法］ ɑɔl

acɑʔcd ［魔法］減算測定 ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

acɑn ［名詞］残り、引いていった結果 ［形容詞］残りの、残り、残った、余った、あまりの、余りの ［名詞］食べ残し、残飯 ［名詞］売れ残り ［経済］差額、サヤ、鞘 ［名詞］吸殺← ɥjɥɑcɑn ［娯楽］残機。自機の残り。あと何機かのこと。 ［数学］差← acɑen ［レベル］2 1L:acɑ。n をつけたのは、この語にあたるものが制で acʔn だったため ::acʔze ［語法］ → ɔɔɔs, ɑɔʔen

acɑzed ［数学］引き算 ［レベル］2 ʃ1

acɑɪnʔcɟ ［数学］引き算文化 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ɑɔʔɪnʔcɟ

acɑen ［数学］差 ［レベル］2 ʃ1:acɑ 属格 ［語法］ ɑɔʔen

acɸn ［植物］西洋泡立ち草、セイヨウアワダチソウ、セイタカアワダチソウ ［レベル］4 古：槍の花 ［文化］ 秋ごろに異様な高さに成長する雑草。

acɸɥəɲəɲ ［歳時記］霜降 ［名詞］１８時 ［組み数字］１８／２４ ［アクセント］acɸɥəɲEɲ ［レベル］3 ʃ0: → ɪnʃcɪn ［文化］ ɪnʃcɪn

acɸɪn ［地名］フィガン ［レベル］5 1ʔ: 制 :acɸɪ（矛）から。 ［文化］ ソーンの使徒ヴァテスの支配地。

acɸɪn(ʃ) ［アトラスの国家］フィガン ［レベル］4 制 ［文化］ 面積：ᴍʟ.ʔᴍᴍ.ᴍʟ.ᴘᴍʟ.ᴘ ʔɒ ʃ

acɸɪnc ［動物］シャム、シャム猫 ʃ1: フィガン猫

acɸc ［アイテム］槍、やり、スピア、ランス ［経済］ヒゲ ［レベル］2 ɑu 赤 :acɸc（長い金属）acɸc:acɸc:lə selcn（棒状）

acɸcʃ ［地名］フィギット ［レベル］5 1ʔ: 制 : 古 :acɸc（槍）から ［語法］ ソーンの使徒ヴァフィーの支配地

acɸcʃ(ʃ) ［アトラスの国家］フィギット ［レベル］5 制 ［文化］ 面積：ʔʔᴍʟ.ʔʔ.ΔʔᴍʃʔO ʔɒ ʃ

acɸcuɪnʔcɟ ［軍事］槍兵 ［レベル］4 1L:µcɑcɪ

acɸcuceʃ ［地球の国名］ケニア ［レベル］6 1L: 国章に槍を持ったライオン

acɸcɪ ［植物］竜胆、竜童、リンドウ、りんどう ［レベル］4 ʃʃ:acɸc

acɸcɪn ［ジョブ］槍手 ［レベル］4 1L:µcɑcɪ

acɸcɔɔ ［運動］槍道、槍術 ［レベル］4 ʃ0

acd ［名詞］手ぬぐい、手拭、布巾、ふきん、台拭き ［動詞］ɥəl を拭く、拭く、拭う ［レベル］2 1ʔ: 制 : 恣意 ［用例］ ɪn acdɪʃ hcnʔ e ɑɪd ʔɔn lɪɑcn. ハンカチで額の汗を拭いた。

acd(ʃ) ［化学］エーテル ［レベル］4 @ 1L

acbl ［名詞］網、ネット、たも、ガット、魚網 ［レベル］3 古 :acb（網）,acbl（網）,acbɪl（網）

acblɪ̀ɪj ［生物］滑面小胞体 µʃ;/「網状の小胞体」 ʃʃ

acblcɑ ［地球の星座］［ユマナ］レチクル座 ʃʃ ［文化］ cɑ

acblɔɔc ［ユマナ］［建築］網戸 ［レベル］3 1L ［語法］ アルバザードには存在しない。紫苑の書参照。

acbɪ ［電算］モデム ［レベル］5 1ʔ: 制 : 古 :acblɪl（モデム）。acbl（網）/ɪl（物）から

acbɪ̀ɪµʃ ［電算］モデムカード 1L

acbc ［電算］ネットワーク、実際の網でなく抽象的な網（たとえば情報網） ［レベル］4 1ʔ: 制 :acbl

acɥɔ,ɑu aecɑ l'el ɑed "ɥɔ" ɔʔl ɥə lɔɥɔ ɔen

acɒ ［色］白、フィーア ［形容詞］白い ［レベル］1 ɪjl;ɑɪɒ.ʔ 1L:jɔɒn:ɑɪɒ のアプラウト dɪɪl:dɪɪl:lɪ aenul:dɪn,ɪlʃ ［用例］ ［メタファー］acɒ ɥən ɥe 雪のように白い

acɒʃ ［形容詞］明るい ［類義語］ɪlɑcɒʃ ［反意語］uelʃ ［魔法］フィルト（ブライナ）。光の低位白魔法。ヴェルトを解除できる。 ［レベル］1 1L:acɒʃeeze（白い風） ［用例］ ʃə epcʔ acɒʃ. 明るくなった。 cɒ acɟ, lelʃ eʃ acɒʃ ɔ lɪnʃ ʃɪl lccɑɪ eʃ ʔɪlɔ ʃcn. 今日は月が明るくて綺麗だが、星は非常に少ない。

acɒʃuɪcʔ ［名詞］明るい部分 ［芸術］ハイライト ［レベル］3 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ

acɒʃɸɪnɪ ［魔法］明領域 ［反意語］uelʃɸɪnɪ ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

acɒʃɪʃc ［芸術］明度、ブライトネス、ライトネス、バリュー、ｂｒｉｇｈｔｎｅｓｓ、ｌｉｇｈｔｎｅｓｓ、ｖａｌｕｅ ［反意語］pɔnɪʃc ［レベル］2 ʃ1 ［文化］ → ʃcɟʃcnɪ, uəɥcɒ 色がいかに明るいか。

acɒʃe ［形容詞］うざくない程度に明るい、明るい、積極的で和やか、良い意味で陽気、朗らか、陽気な ［反意語］belɑ, uelʃe ［気象］天気が気持ちよい。爽快と穏やかの間。 ［レベル］3 1L: 白い風 ［語法］ uelʃe と並んで好かれる性格。全体的に落ち着いた雰囲気が好きなアルバザード人にとって、うざくない程度に明るいというのは重要なファクター。明るく健康という体育会系ではなく、和やかさやまったり感も持っている。 ［用例］ senʃ ɪʃ acɒʃe. 気持ちの良い天気だった。 ɪn nɪʃ nɪə pcl eleʃ acɒʃe lɪɪʃ. 彼の明るい顔が私を喜ばせた。

acɒʃep ［アイテム］フィルテール、目薬 ［組み数字］１０／１２ ［類義語］cnjdcʃɪ ［アクセント］acɒʃEp ［レベル］4 ʃ0: 明るい水 ［文化］ フィルトの魔法がかけてある水。目薬状の小さい容器に入っている。ラルトが使えない人間が増えた µɑ で、リュウが開発した。

acɒʔɪɑ ［地球の国名］ベラルーシ 1L: ベラが白の意味

acɒʔɪɪɑ ［色］薄林色 ［レベル］3 ʃʃ

acɒʔɔpeʃʃɪ ［化学］白色発光ダイオード ［レベル］6 ɪl;/ ʃʔ

acɒʃcɟʃ ［料理］ホワイトラム ［レベル］5 ʃ1

acɒʃcɟɪ ［化学］グラニュー糖 ［レベル］5 1L:jeɥen: → ɪacɒʃcɟɪ ［文化］ アルバザードで砂糖と言えばこれを指す。

acɒʃʃenʃ ［地球の国名］デンマーク ［レベル］5 1L: 国旗が白十字

acɒʃeʃɪ ［歴史］白歴史。歴史の表舞台。正義で善な良い歴史。なお、皮肉としても使え、勝てば官軍的な勝者側の作る表面的な歴史という意味にもなる。 ［レベル］4 1L

acɒnɪ ［形容詞］正義の心がある、正義感がある、潔癖な、嘘のない、純粋な ［名詞］善意 ［レベル］3 1L ［用例］ acɒnɪ uɪjʃ ʃɔʃɪl ʔɪlə. el ʃcɒ ʔɪlə feɔɒ lɪnɪ ɪdcɪ cl ɥel leɟ el ɟɔ ɑlen ɔ leɟ el ɟɔ ʃcn ʔɔn hɪrl. el ʃcɒ ʔɔ ɥecn hɔʃ ɥel "ɟɔ ʃɔʃɪl hɪɪj acɒnɪ" ɔl cl ʃcʃ acɒnɪ. el ʃcɒ ɥecn ucjʃ pclʃ cl ʃcl acɒnɪ. ɥɪn lɪnɪ ɥecn ucjʃ, el sɪd ɪl ʃɔ eʃ ɑlcɟ ɔ ʃɔ eʃ uelnɪɒ ʔɔnʃ ɔʔl ʃəəɟ lecʔ. ʃəɒ, el bɪɟ acʃe. ʃɪl pcl acʃe, ɪlɪn ɪnʃeɟ ʃclɪʃ eɒ lɪn eucɑe ɑc l'eʃ epcɟ, ɔɔl pel ʔɔn pɪn uəɟɟ. ʃə eʃ hɪɔ ʔel el ʃcl ɟccne ɟclʃ ɔn pclɑ. oen hɪɟ acʃe. ʃɪl el ɔʔl ɑɪl ɑɪlcɟ ʔɔʃe lɪnɪ ʔɪl ɪlɪn ɟeɑ. ɟee ʃə ɪlɪn nɔɟ eʃ ɪlɪn dɪʔ ɪlɪ oeʃl. 善意は六法に勝る。 やっていいことといけないことをすべて明文化しようとすると、書ききれなくなる。 しかし皆に善意があれば、「善意に則って動け」の一行で事足りる。 「善意」が働くほど条文は少なくて済む。

その実現に必要なのは画一化された善悪の定義だ。 多様性の時代というが、価値観が多様すぎると自己中心的な人間が増え、訴訟社会になる。 根幹部分は画一的で、芸術的趣味など社会の安定とかかわらないものに多様性を与える社会が最も発展しているといえよう。（ミロク＝ユティア） 細かい法律を作るより倫理を重視したほうが世の中はよく回る例として出している。

acɒnɪzl ［地学］白鉛鉱 ［レベル］6 1L

acɒuɪnʔcɟ ［軍事］白魔法兵、衛生兵 ［レベル］4 1L:µcɑcɪ ［文化］ ナディア以降は魔法がないので衛生兵が適切。

acɒucʃ ［化学］ロイシン ［レベル］5 1L: 白色結晶を作ることから

acɒueɲn ［植物］白樺、シラカバ ［レベル］4 ɲɔ; ボロボロと皮が崩れそうに見えることから ʃʃ

acɒɑɪl ［地球の国名］ナウル 1L: 国旗に白い太陽のようなもの

acɒɑcɪn ［植物］マーガレット ［花言葉］純粋な少女 ［レベル］3 µɑ;/「白い少女」 ʃʔ

acɒɒɪj ［名詞］白紙 ［形容詞］［ネガティブ］無知な、白痴な ［類義語］lecʃ ［レベル］3 ʃ0:pelcɑcɪ lceɲ

acɒɒeɔ ［地球の国名］ラオス ［レベル］6 1L: 国旗が白丸

acɒɒedc ［医療］白内障 ［レベル］5 1L: 制で作ったものは滅んでいたようす

acɒɒel ［名詞］白色時代 ［レベル］4 µɑ;/ ʃʔ ［語法］［文化］ ɑəəɒɒel

acɒɑɔlɑ ［色］薄い灰色 ［レベル］3 1L:pelcɑcɪ ɪlʃe

acɒs ［動物］ささみ、ささ身、笹身 ［レベル］3 ʃʃ:acɒ/sɪɒ

acɒoɪl ［地球の国名］スロベニア ［レベル］6 1L: 国旗に白い山

acɒlccɑɪ ［地球の国名］ソマリア ［レベル］6 1L: 国旗に白い星

acɒɪʔɔn ［地学］［植物］ポドゾル ［レベル］6 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelʃ ［語法］ 高山地帯や寒冷地の土壌。鉄が下層に溶け出した土壌であるため、表面は白く、深部は赤茶色になる。

acµɪn ［名詞］白人、白人種、コーカソイド ［レベル］3 1L:acµ/ɪn ［語法］［文化］ アルバザードに元々住んでいた人種。今でもアルバザードの混血の元となっている。背が高く、脂肪が付きやすい。筋肉は黄色人種より柔軟で細かい。皮膚の質は悪く乾いている。鼻が細く高い。虹彩は薄く、青や緑など。髪は黒や茶だけでなく、金色なども含む。彫が深い。金髪の子は明るいところで眉がなくなって見える。繁殖率が悪い。鬱になりやすい。攻撃性が高い。

acµɪµʃ ［魔法］白魔法、白魔道（正式）、フィル・アルト ［反意語］uəµɪµʃ ［レベル］3 zφ;/ 1L:µcɑcɪ ［文化］ uəµɪµʃ

acµɪµʃɪn ［魔法］［ジョブ］白魔導師、白魔道士 ［俗語］処女、僧侶 ［レベル］3 1L:µcɑcɪ ［文化］ ɪµʃ ɪn, beel

acµɪlcɟ ［植物］ギンモクセイ、銀木犀 ［レベル］3 ʃʃ:「白い金木犀」

acµcɪ ［天文］ɑcɪɒes ［組み数字］4 / 8 ［レベル］4 ɪjɑ;acµ 白い星 ʃʃ

acµeʃeʔ ［名詞］白茶 ［レベル］6 µɑ;/ ʃʔ

acµeɒ ［美容］美白 ［レベル］4 ʃʃ

acz,jzɑ zɔn ɑc/zɪɒɔn

aczeʃ ［アイテム］棍、こん jzɑ;acz/ʃe ʃʃʃ

acl ［形容詞］長い ［美容］ロング、長髪、ロンゲ、ロン毛 ［反意語］ɑen, uelɪnʃ ［レベル］1 1L: 古 :ac ɑc:ɑc:lɪn:ɑcɑcleə,ɪlʃ

aclʃ ［料理］焼き網、グリル ［レベル］3 1ʔ: 制 :acblɑɪc（網で焼く）

aclʃcʔɪ ［アイテム］長柄 µɑ;/ ʃʃʃ

aclʃcʔɪuɪʔ ［アイテム］長柄武器 µɑ;/ ʃʃʃ

acʔl ［形容詞］［ネガティブ］やる気のない、熱心でない ［反意語］aɪµʃ ［レベル］3 @ ʃ0

acʔlɪlc ［料理］菜ばし、さいばし、菜箸 ［レベル］3 ʃʃ

aclj ［動詞］ɥəl を眺める、眺める、ボーっと見る、ぼーっとみる、見やる、ながめる ［経済］手控え ［レベル］2 1L:aclcnj ［用例］ nɔn jccnɪ aclj eɟʔ aµeɒ feɒ. 窓辺に立って雨を眺めるのが好きだ。 ɪn jccnɪ lelʃ enʃɔ aclj ʃə cɒ aµɪl jel. 月が好きでほぼ毎日のように眺めている。

acljʔcl ［名詞］ベンチ ［レベル］2 ʃ0 ［用例］ ɪn jʔcnɪʃeɟ ɪ aclj̀ʔcl ʔɔnʃ ʃcleɟ lec. 本を手にしたまま、ベンチに座っていた：この ʃcl は動作動詞なので eɟ がつく。

aclnɑɪ ［美容］長髪、ロンゲ ［レベル］2 1L

aclnɑɪn ［名詞］バカンス、長期休暇 ［類義語］nɪʔleɪ ［レベル］2 ʃʃ

aclnɔz ［名詞］孫の手、まごの手、麻姑の手 ［レベル］3 ʃʃ ［用例］ nɔz ʔɔj ʔɔn aclnɔz 麻姑の手で背中をかく

acluɔz ［アイテム］ロングボウ µɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ zφ で作られた。

aclueeyə ［言語］フィルヴェーユ語 ［レベル］3 ʃ0:acclɑ/φɪlueeyə ［文化］ elɑjeʃɪ ●概要 名称：ɑu（フィルヴェーユ語） 系統：アテン超語族ランス語族サルト超語派（ɪʃenɪɒɪʃ, lɪ nɟeɒcʃ, jɪµʃcɑɪl） 使用年代：ʃɒ_ls：jɪµʃ は ʃɒ 以降 µɑ に鞍替え。jeleɟʃ や lcnɟ の一部が永続使用 分布：全宇宙 話者：pcµɔʔ 及びユーマの一族第三世代迄。第四世代以降は徐々に ɑµɑ などに分化 類型：S O V、A N、P o 認知様式：主観的把握 フィーリアとガルヴェーユで話されていた言語。人類の始祖と神々が用いた。フィーリア語から発達した。 ●舞台裏 参照にしたのは主に後期古アルカ。古アルカシリーズの中で最も完成度が高いため。前期古アルカの頃だと関係詞もなければ格詞もなく、神の言語に相応しくない。例えば前期古アルカには格詞がなく、格詞を含んだ文は２文に分けるというように煩雑であった。 ただし語順は前期古アルカと同じＳＯＶにした。ただ、ɑen など一部の単語の置く位置は前期古アルカと異なっている。形容詞や副詞を導くのに le や he を使うという点も前期古アルカにはなかった。 つまり後期をベースに前期の要素を加えたというわけである。 なお、便宜上 ɑu では格詞でなく後置詞と呼ぶ。 ●品詞 『アルカ』記載の古アルカの最終的な形態論に似せた。 ただし前置詞は後置詞としてある。 1：名詞：/zɪɒɔ/ 木 ʃ：動詞：/ʃlcl/ 持つ ʔ：形容詞：/ɪɪɥɪ/ 難しい ʃl：副詞：/ʔcnʔlɪ:/ とても ʔ：助動詞：/pɪl/ ～したい ʔ：連体詞：/scle/ ʃhcj ʔ：接続詞：/ʔlcl/ しかし ʃ：感動詞：/lɪɪl/ ああ L：後置詞：/ʔɪl/ ～で 10：天秤詞：/n/ わ、よ 11：数詞 1ʃ：時場 1ʔ：符 1ʃl：助数詞 ・形容詞と副詞 ＜ユーマ出産時：pelʃcɪ 0＞ ユーマとサールが会話したことで言語が少し変化。 形容詞の概念ができる。そのため ɑel ɑe ucʔə ɑe ʔɪc の後ろの ɑe が繋辞と別と認識され、ɑe の音を弱めた le で表現されるようになる。 ɑel ɑe ucʔ le ʔɪc. 副詞も同様。歴史的にはまず le で繋がれていたが、そのうち副詞はさらに音が弱くなり、子音が消失。 その後逆成で h が添加され、最もきこえの弱い he となる。 ɑel bɪɔφ he ucuc. 結果、形容詞は「le＋単語」、副詞は「he＋単語」で導かれるようになった。 ＜アルミヴァ誕生時：pelʃcɪ ʃʃ＞ アルミヴァにとっては生まれたときから le と he があり、重文が元になっている構造を使ったことがなかった。 もともとエルトとサールは重文構造が念頭にあったため、修飾句の前置は拒んでいた。しかしアルミヴァにとっては重文構造が頭にないため、後置の縛りがなくなった。 やがて形容詞は「単語＋le」、副詞は「単語＋he」で示されるようになっていった。つまり、ɑu では形容詞と副詞は前置される。 なお類型論で見ると、ＳＯＶにおけるＮＡとＡＮの間に統計的な偏りはない。ゆえにどちらの類型をも取りうる。従って ɑu がＡＮを取ることは言語学的に不自然ではない。 ʔɪc le ucʔ（大きな男） ucuc he bɪɔφ（強く殴る） ・助動詞 よく使う副詞が he を欠いたもの。現実ではエクスプローダーとも呼ばだ。 ユーマが he を欠いたのが始まりなので、アルミヴァのときは既に he がなく、それゆえ前置されなかった。 ɑel ʔəc ɑe pɪl（私は食べたい）→ ɑel ʔəc pɪl ・連体詞 アルカの指示代詞 ʃə や le などに当たるもののこと。 bcʔe（あれ）は ɑ と同じ。bɪʔe は bcʔe と音が似て紛らわしいからか、scʔe に変わっている。 連体詞は前置される。scʔe ucʔə（この男）。 ・天秤詞 アルミヴァが開発した。対人的モダリティを示す。 ●代名詞 一人称に ɪn が足される。 二人称が分化する。 男が男を ləɟɟɔ 男が女を ʃcj 女が男を ɑɥəɟɟɔə 女が女を ʃcʃ 三人称 lə から「彼女」の ləə が派生。それに対応する形で、別ルートで jɔə ができる。 彼 jɔə 彼女 ləə ●数詞 ɑ 同様前置される。 数は 10 進法になり、10 は cscɪlɪ になる。 千は fe̍lɪdlɪlɪ（葉の数）から ʃeed。 万は jədlɪlɪ（砂の数）から jəəd。 0 が作られ、ɥəə で表された。 1ʃ 進法が追加され、1 ～ 1ʃ まではアルミヴァの名が併用された。 ʔ–10 進法のエルトの数ではʔ進数がベースなので、このʔ進数と 1ʃ 進数が組み合わさって 10 進数ができ、後の時間や角度などに繋がっていく。 特に時間を 1 時間 10 分にしたときは、この 10 進数がそのまま使われた。 1ʃ 進法やʔ–1ʃ 進法は時計や角度など、使用が限られ、日用は主にʔ–10 進法が使われた。 ʃ0 進法は衰退した。 ●時場・符 幻字周りに記号をつけてテンスとアスペクトを指すもの。制アルカの時相詞に当たる。 ɑu は話者の増加（ɑ は数名という極端に少ない）と社会の発展に伴い、ɑ に比べて表現力が格段に向上した。 過去「前が有声音なら同化して ɑ になる 現在 µ 前が l, ʃ, ɑ, n なら同化して l に、ɪʃ なら ɪʃ になる。通常省略 未来 ɟ 前が z なら z に前が l なら l に、前が s なら s になる。前が有声音なら同化して z でも同化しないで ɟ でもよい 警告 jə 意味論的にはテンスではないがいが ɑu の文法ではテンスの扱いを受ける。現実の古アルカでは「お前、死ぬぞ！」などの「ぞ」のニュアンスに近かったが、恐らくこれは警告でなく近未来だったのではないか。古アルカでも後にこれは一部 ɟ に統合されているため、そう見るのが妥当。むしろ実態は警告より近未来だったのかもしれない。 通時と無時制はなし。 現在形で代用 将然相 eʃlɪ c/µ/eʃlɪ 見そうだ。lelʃɪ（行く）から。 開始相 eµ bɪɔφ/ɑ/eµ 殴り始めた。向かうというところから leµ が使われている。 経過相 ʃɪn ləɑɪ/ʃ/ʃɪn 飛んでいた 完了相 cl ɑɪc/ɟ/cl 燃やし終えているだろう。 継続相はなし。経過相で代用され、文脈によってどちらの意味か判断する。 ●助数詞 アルカだと「手一杯の水」は eµcɪ ɑəen lɪɟ となるが、ɑu だと「手」が助数詞として使われ、oɪ eµcɪ となる。 手二杯だとしたら jees oɪ eµcɪ となる。 ●関係詞 リュディア語の pɔɔ に当たる文字を使うが、読みはない。 関係詞節は前置。 ʔɪlzɪɟ ɑejdɪɑ (µɔɒ) ɑeeɒ（カルザスが封印した悪魔） ɑu にこの文字が読まれなかったことで、そこから散らばった人間の言語は関係詞が消失したりそれぞれ異なる音を持ったりとカオスな状態になっていく。 また、ʔeɟ ～ bə で挟むような表現も生まれた。 関係詞節内の前置詞は残存しない。 ●ʔeɟ ～ bə 節をひとまとめにする ʔeɟ ～ bə が生まれる。 nɔn ʔeɟ ɑɥəɟɟɔə ɒeɒ fccɪ bə ʔɔ（私は貴方が悪魔を愛していると思う） ●命令文 命令：µe ʔə（言え） 敬意命令：pc ʔə µe（仰いなさい） 依頼：µe ʔə ɒ（言って） 敬意依頼：pc ʔə ɒ（仰ってください） 禁止：nɪ ʔə（言うな） 敬意禁止：pc ʔə nɪ（仰らないで） 禁止依頼：nɪ ʔə ɒ（言わないで） 敬意禁止依頼：pc nɪ ʔə ɒ（仰らないでください） ●疑問文 疑問文を作る nɔ（女は nɔn）が新たに追加された。 文末に来る。 ●否定文 形副詞 ɑen を単語の前に前置する。

aclueeyəɲen → aclueeyə ʃʃ

aclueel ［言語］長音節 ［レベル］6 1L ［文化］ → ɾlɑ

aclɑ ［動物］雉、きじ、キジ ［レベル］4 lɪ̀lʎ:「 長い尾（翼）のもの 」

aclɒ ［文頭純詞］要するに、要は、簡単にいうと、結局、つまるところ、つまり ［副詞］単刀直入に、要点だけいうと ［レベル］2 jɔɲn ［語法］ ɪlɑc は ɲɪ と aclɒ を合わせた感じだが、aclɒ は本当に要約して簡素に説明するイメージ。 ɪlɑc は間を持たせたり単に言い換えたりするイメージ。

aclɒɪɒʃ ［被服］ビスチェ ［レベル］5 J1

aclɸɪɾl ［普通動名詞］遠吠え ［動詞］ɣəl という声を遠吠えする、遠吠えする ［レベル］3 JJ

aclhɪpdncɪn ［名詞］シエスタ ［レベル］4 JJ

aclhɔ ［生物］長骨、長管骨 μɑ;/ JM

aclz ［法律］慣習、ならわし、慣わし ［レベル］3 1L:ɑcl/ɔz

aclzlɪlə ［法律］慣習法 ［レベル］5 1L

acllɪl ［動詞］ɣəl を長い間望む、追求する、追い求める、望む ［普通動名詞］追求 ［類義語］ɑcll ［レベル］4 μɑ;/ JM ［語法］ ɑcll

acllɪɣl ［被服］長靴、深靴 ［レベル］2 1L:1ʔ: 制

acllcɟen ［被服］ハイソックス ［レベル］3 J1

acllcuɲɔ ［名詞］長寿、長命 ［レベル］3 J0

acllɔʎ ［運動］遠泳 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

acllenɟ ［丁寧］［親族］おじいさま、フィルレンス ［レベル］2 J1: 長い智慧 ［文化］ lɪɪlɪ

aclleɑ ［運動］マラソン、持久走 ［レベル］2 μɑ;/「長距離走」 JJ ［文化］ フルマラソン (lɪlɑclleɑ) は μɑ でアシェットによって M0 pecnɒelɑc（＝５０ｋｍ）に制定された。 ［用例］ ɪn ɪμlʃ ɑc lleɑ cɒ ʃə ɑɪɪμ ɑə 10 pecnɒelɑc. 今朝は１２．５ｋｍのマラソンをした。 ʃɪl ɪnʃ en nɪ jɔɪ pɪn el eɒ ɪnc ʃcnʎɪ pcl ɑclleɑ. だが我々はそうは感じない。というのも、マラソンは非常に疲れるからだ。

aclɪfc ［名詞］長さ ［レベル］2 J1

aclɪn ［代詞］任意の誰か ［レベル］2 1L

aclɪnʃ ［代詞］任意の誰かの ［レベル］2 1L

aclcn ［名詞］美少女 ［類義語］ɪlcn ［レベル］2 JJ:ɑcɪn/ɪlcn

aclcɪ ［動詞］ɣəl を願う、願う、希望する、ɣəl しますように ［類義語］aclcɪɒ ［レベル］2 J0:ɑə lɒccɪ:ɑccnɪ lccz ［語法］ 祈願文を作る動詞。lɪl 同様希望の意味だが、ɑeμʃ 同様祈りの意味が含まれている。ɑeμʃ は特定の神や悪魔に祈るが、aclcɪ は自然とそうなることを願う。しいて願う相手といえば、自然に対してそうしてくれるように願むことになる。 訳は「～しますように、～すればいいのに」が妥当。通常主語を省く。女性形は aclcɪɒ ［用例］ aclcɪ ʃc uɪjʃ ɪɟ. 君が試験に受かりますように。 aclcɪ ɪeɟʃ eɒ ɑɪμɑ. 明日晴れますように。 aclcɪ le ɪben uɔμʃ. D Q N 死ねばいいのに。 ɪn jeμ ʃə lel lɪ lɑcɟɪʃ uɔɟlel enz. aclcɪ lɪ ncɪn enʃ el. lclɒɪ. 彼が一生懸命生きたことは分かっているので、どうかゆっくりお休みください。安らかに。

aclcɪ,lʃɑ acɪn acɪnɟ,ɑu.l

aclcɪɒ ［ɣənʃe］［動詞］aclcɪ ［類義語］aclcɪ ［レベル］2 J0:ɑəlɒccɪ:aclcɪ/ɒ（語気の弱め）［用例］ aclcɪɒ ʃɣə eɒ ncl. あなたに幸せが訪れますように。

aclɔ ［名詞］ポット、魔法瓶 ［レベル］2 古 :「 長い筒 」

aclɔhɔ ［医療］百日咳 ［レベル］5 1L

aclef ［魔法］［動詞］ɣəl を精錬する、精錬する、調合する ［レベル］5 J0: 古 ɑəlɔ/ʃe（取るような）→ ɑəʃef → ɑəlef（ʃ の重複は発音しにくいため弱化して l に）→ aclef（ɑəl よりも acl のほうがアルバザード人には言いやすいため） ［文化］ ɪɑcμʃ

aclenɪs ［経済］長期金利 ［レベル］6 JJ

aclɘoɪɟ ［被服］バドショース ɲɒ;/ JM

acɪ ［名詞］世界、世の中 ［名詞］業界 ［名詞］社会。教科名。 ［形容詞］有形の、実在の、実際の ［類義語］acɪnɪ、lɪɑcl ［反意語］ɑcɪ ［類音］ace。対句で使うとおいしい。 ［レベル］2 ɑ 先 acɪ: ɑcɪ ［語法］ ＜世界を表す言葉の上下関係＞ ɪlɪlʃe ɪlɪɑcɪ leɪɪc ɪʃcɪɟ ɪμɑc ɪμlɪɑcɪ ɪμɑel ʃoɪɪɟə lɪʃcɪ ɣəɒɪnɪ そして acɪ はこれらのうちのどれか任意のものを指す言葉である。また、〇〇業界のような業界という狭い意味での世界を指すこともある。 ［成句］ ɔʎlʃ acɪ 我に返る、われにかえる ɔn ʃə acɪ 一体全体：文頭で使う。ないし挿入句として使う。 acɪ μecɪ 天涯孤独 ［用例］ acɪ lcɟ 狭い世界 ɪn nɪʃ acɪ cʎ ueμn cɒ ʃə. そのときは世界の終りのような気分だった。 ɪnɟ cnɟ acɪ enʎ acn ɪnɟ cn acɪ ɔʎ. 見てる世界は同じなのに、見えてる世界は違う (jeμen ɪμbɪzɪμn)：μn のセレンの言葉。サピアの見方に相当する。言語によって世界の見え方が異なるということ。

acɪʃɪə ［経済］実物買い JJ

acɪʃəl ［経済］現物 ［レベル］6 μɑ;/「実在の物」 JJ

acɪʎ ［地学］世界地図 ［レベル］3 制 :acɪʎlɪl ［文化］ → ɪʃcɪɟ ・最古の地図 ʃɒ で神々が正距円筒図法を作ったのが最古のものである。 その技術をのちに人類が受け継いだ。 現代ではミラー図法など様々な図法が用いられる。 ・アトラスの表面積 アトラスの表面積は P0L,LML,000 ɒ 」である。 ・正距円筒図法 下記の地図は正距円筒図法で描かれたアトラスの世界地図である。 http://constructed-language.org/arka/data_kaxa_1.html この地図の大きさは横 M000dlI の縦 J000dlI である。赤道周長を M 万 ɒ と仮定した際、赤道上で 1dlI が 10 ɒ になるようになっている。赤道周長は約約 M00ʔP ɒ なので、誤差はほぼない。 ・正距円筒図法における東西の長さ 地図上の長さは実際の 1/ɾɔɟ(緯度) 倍になる。 北緯 MP°なら√ 」倍になるので、地図上の 1M1 ɒ が実際の 100 ɒ になる。 ただしこれは東西の距離の話であって、南北の場合は地図上の 100ɒ は実際でも 100ɒ のままである。 正距円筒図法で見るとアルバザードは横長の国だが、実際にはやや縦長。 ・モルワイデ図法 モルワイデ図法は擬円筒図法の一種で、地図上の任意の場所で実際の面積との比が等しくなる正積図法である。地球全体を 1 枚の平面に表現でき、地図の外周は楕円形になる。楕円の長径（横）と短径（縦）の比は J:1 となり、もし縮尺 1 分の 1 の地図を作成したとすれば、横 ʔ50M0 ɒ、縦 1Δ0J0 ɒ の楕円となる。 下記は惑星アトラスのモルワイデ図法である。 http://constructed-language.org/arka/images/kokajaboi.jpg この地図は横 M000dlI の縦 J000dlI である。 ・ピクセルあたり面積 上記のモルワイデ図法におけるピクセルあたり面積を算出する。 地表面積÷楕円のピクセル数（縦半径×横半径×π）＝ピクセルあたり面積 P0L,LML,000/(J000×1000×ΦЄ) = Δ1.1ʔ0L0MMɒ J/dclel 従って、ピクセル辺りの正方形の縦横の長さはそれぞれ約 L.00ΔL ɒ である。 モルワイデ図法なので地図上のどのピクセルにおいても面積は Δ1.1ʔ0L0MMɒ J である。 ただしそのピクセルが正方形のエリアになるのはモルワイデ図法の中央部においてのみである。 正方形の場合は縦横が約 L.00ΔL ɒ になる。 アルバザードなど、地図の中央にない場所に関しては、ピクセルあたりの面積は変わらず Δ1.1ʔ0L0MMɒ J である。 しかしそのピクセルは正方形ではなく長方形で、縦横比は 1:1 でない。よって縦横約 L.00ΔL ɒ ということはない。 約 L.00ΔL ɒ という値は下記で述べる面積の求め方の「論理長」に使うために算出したものである。 フォトショップの機能上、論理長に L.00ΔL と入れると 1 ピクセルあたりの面積を Δ1.1ʔ0L0MMɒ J として認識して計算してくれるようになる。 そのために縦横比が 1:1 にならない地域においてもどのピクセルも Δ1.1ʔ0L0MMɒ J の面積で計算できるようになる。 そのための論理長が L.00ΔL であり、この L.00ΔL という長さは地図上の任意のピクセルの縦横の距離を意味するものではない。従ってモルワイデ図法上の 2 点間のピクセル数をカウントし、そのピクセル数に L.00ΔLɒ をかけることで 2 点間の距離を調べることはできない。 ・面積の求め方 大陸や海洋面積や国土などを調べるためにモルワイデ図法を利用する。 アプリケーションは dhɔʃɔjh ɔd ɾlɟt.1 elʃenɑeɑ を使用した。JJ 年現在、elʃenɑeɑ のみ下記のツールが使用できるようである。 モルワイデ図法を制作したのち、調べたい国や大陸をマジックワンドで選択する。 （ツールバー）解析→計測スケールを設定→カスタム→論理長 L.00ΔL、論理単位 ɒ に設定 （ツールバー）ウィンドウ→計測ログ にチェック 計測したい範囲を選択 （計測ログ）計測値を記録

acɪlɪlʃ ［経済］現金主義 1L

acɪɟ ［動詞］jɔl は ɣəl の様態で生まれる、生まれる、誕生する ［普通動名詞］誕生、発生 zφ;ɑcɪ/jɔ ［レベル］2 1L:ɑcɪɔ（世界をする） uɪμʃ:ɑcɪɟ ［用例］ ʃeɪ nɔn ɑcɪɟ ɒe, lɔɒ nɔn eɒ lɪn nɔn ɒe. もしも生まれ変わっても、また私に生まれたい（千秋）：cnɑcn も可。

acɪɟlɪ ［名詞］生誕地 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

acɪɟlnʃ ［名詞］誕生日プレゼント、バースデープレゼント ［レベル］2 μɑ;/ JJ ［文化］ acɪɟɟel

acɪɟlcdl ［名詞］誕生日ケーキ、バースデーケーキ ［レベル］2 ul;/ JJ ［文化］ acɪɟɟel

acɪɟɟel ［名詞］誕生日、バースデー、生年月日、開始日 ［レベル］2 1L ［語法］ 人の場合は誕生日。機械や建物など無生物の場合は成立日や開始日など。 ［文化］ 誕生日にはパーティをする習慣がある。家族＞恋人＞友達の順序でスケジュールを優先する。日本と違って恋人＞家族でないところがポイント。恋人がいる場合、家族とのパーティの後か後日に会うか、家族に混ざって一緒に祝うのがふつう。 誕生日ケーキの習慣はない。 ʔl で皿人が砂糖で味付けした菱形の餅を誕生日に食べていたのが ɲɒ でアルバザードに流入し、今では甘い餅を食べるのが習慣。ただし ul 以降は餅に代わって豪華なケーキを食べる場合も増えてきたため、事実上誕生日ケーキの存在自体はある。ただしこのケーキにローソクの習慣はない。 ローソクの代わりに、手拍子を年齢の回数だけ皆で叩き合う習慣がある。２０歳を超えると大きな拍手が１０歳分で、小さな拍手が１歳分を意味する。 パーティでは誕生日の人はプレゼントをもらう。誕生日の人が出席者に奢る習慣はない。 ・１歳の誕生日 子供の前に金、人形、本を置く。子供がどれを選ぶかでその子の将来を占う。金を取れば金持ちに、人形を取れば厄災が人形に移り健康に、本を取れば学者になるとされる。 ・３歳と５歳の誕生日 ʔl の皿では赤い着物を着せた人形を子供に抱かせ、厄災を吸収させてから神社で焼く習慣ができた。これが ɲɒ でアルバザードに伝わり、nɑ ごろに定着した。 女子は３歳で、男子は５歳でこれを行う。 ・７歳の誕生日 ３歳と同じ儀式を女子だけ行う。 ・１０歳の誕生日 親や周囲の人間が子供に使命を与え、将来の自分へ当てたタイムカプセルを作る。この習慣は ɪl ごろにできたもので、歴史上の偉人が１０歳を契機に人生の使命を背負ってきたケースが多かったため。 ・２０歳の誕生日 成人の祝いとして大酒を親と飲み交わす。アルバザードでは子供のころから飲酒ができるが、少量とされる。大人になった契機に親と大酒を酌み交わし、大いに酔う。 ・３０歳の誕生日 １０歳のときに作ったタイムカプセルを開ける。 ６０歳の自分に向けてタイムカプセルを作る。 ・６０歳の誕生日 ３０歳のときに作ったタイムカプセルを開ける。 ［用例］ acɪɟɟel e μcɑcɪ eʃ zɪn μɪl. リディアの誕生日はザナの月ラルドゥラの日だ。

acɪɟɔɪcn ［名詞］誕生パーティ、誕生祝い ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ 誕生祝は子供が生まれると行う。といっても生まれてすぐだと母親と子供の負担になるので、母親の回復を待ってから日取りを決めて行う。大抵は二週間かー ヶ月してから行う。祝いには親族と仲間を招く。ふつう子供がこれから暮らす家で行う。ホストは料理等を用意する。その代わり参加者は祝い金を持参する。祝いは夕方から始まり、夜に終わる。帰れない人は泊める。それは面倒という場合、そもそも昼ごろから初めて夕方に終わらせることもある。祝いでは赤ん坊を参加者にお披露目する。赤ん坊は白い布などに包んでおく。皆に正式に名前を告知する。エーステをあげる親は、この時点で子供にあげることが多い。

acɪɟelɪ ［名詞］世界史。科目名。 ［レベル］5 μɑ;/ JM

acɪn ［名詞］少女、女の子、６～９歳の女 ［名詞］女の子。漢然と子供の女の子を指す。広義には３才程度から思春期程度までを広く指す。より広義には赤ん坊から若い成人女性を指す。 ［形容詞］少女～。前置。 ［反意語］ɪlɑcɪn ［レベル］2 lɪ;ɑcɪnɟ,ɑu.l ʔ ←古 :acɪnɟ（花嫁衣裳）。acɪnɟ の語源は不詳。クリスの知っている花嫁衣裳を着たがっていたアシェットとは無関係の少女のエピソードが由来。そこから少女と花嫁衣裳が連想された。 acɪnj:acɪn:lɪ aclcɪ

acɪnʃ ［動詞］ɣəl をもじもじさせる、もじもじする ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe:acɪn/ʃlə（恥ずかしがる少女）

acɪnʎɪ ［名詞］中学校、中学、小学、小学校 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

acɪnʎccɒ ［化学］ショ糖、蔗糖 ［レベル］4 1L:dɪɪl: 少女糖 ［文化］ 女の子が好んで食べると考えられている。μɑ では代替糖があまりなかったので、アシェット女子が好んだ。レイユでは虫歯の原因になるので良くないとして避けられている。

acɪnɟ ［動詞］ɣəl をくらっとさせる。めまいほどではないがちょっとクラっとすること、よろっとすること ［ɣənʃe］［動詞］座る。特にクミールが弱くてふらふら貧血で座り込むことから来ているのでユンクがメイン ［類義語］jʎcn ［レベル］2 1L:acɪnɟɔ（少女がするように）［語法］ アルバザードでは女らしいしぐさとして好ましく見られる。逆に男は恥ずかしがって、しないようにする。 ［用例］ oec, ʃc cʎ acɪnɟ ɔʎlʃ やーい、お前、今、女の子みたいによろめいたろ！：いじめっこのセリフ。

acɪnɟ,ɑu 儀式用の綺麗な服（ɑu 前期）、気飾った女性（ɑu 中期）、少女（ɑu 後期）

acɪnje ［魔物］フィアンセ（少女精）：第十天：水の炎天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:acɪn/jeleɟ（少女の魂） ［文化］ 湖など、水面に現れる魔物。膝から上が裸の少女ないし若い女の体をしている。水面の霞の集まったもので、膝から下はランプから立ち上る煙のように水面に向かってすぼんでいる。男を誘惑し、溺死させる。 湖面を覗き込むと落ちるのはフィアンセのいたずら。

acɪnɑeɒe ［地学］［歴史］新原生代 ul;/ JJ ［文化］ φɪɪueɑeɒe 原生代（かつての先カンブリア時代）の最後の３紀、１０億～５億４２００万年にあたる。

acɪnɒccʎ ［名詞］少女リンゴ ［レベル］6 1L ［語法］ リンゴは空気を吸うので、美しい少女の寝室に置いて保存するアルバザードの風習。概念自体は古くからある。ɒɪnɪɒccʎ、lɪzɒccʎ も同じ。lɪʎueflec の pʎ の項でルシアがリンゴのダンボールに入っているのはこれが元ネタ。

acɪnɑɪcɒɪn ［名詞］中学校中退 ［レベル］3 1L

acɪnhɪrl ［言語］少女体 1L ［文化］ ɪdhɪrl から作った書体。小さく丸みを帯びた女の子用の文字で、可愛さを表現。

acɪnμeφɪʃ ［名詞］中卒 ［レベル］3 1L

acɪns ［生物］指、細い指 ［レベル］3 JJ:ɑcɪn/sc

acɪn le oeμʃ ɪ lɪjʃcɪ ［芸術］「ラスティアに祈る少女」 1L ［文化］ マレア＝トゥウェンの代表作。アデュ収容所へ送られる魔列車の少女を描いたもの。

acɪnɪ ［名詞］現実、リアリティ、リアル ［名詞］ノンフィクション、ドキュメント、ドキュメンタリー ［数学］実数← acɪnɪɪll ［形容詞］現実の、リアルな、現実的な、実在の ［類義語］lɪɑcl ［反意語］ɑcɪnɪ ［類音］acɪnɪ ［レベル］2 μɑ;ɑcɪ/nɪ 1L: 世界を感じる ［成句］ ɪn eʃ acɪnɪ pɪn ʃc ʃccɪ ɪn ɔʎnʃ nɔn eʃ acɪnɪ pcl ʃɣə ʃccɪ nɔn. 我愛する故に汝あり。汝愛する故に我あり (jeμen ɪμbɪzɪμn) ［用例］ "lee, ej acɪ eʃ acɪnɪ eɥɔ" 「ねぇ、どうして世界はあるの？」

acɪnɪjeʎ ［普通動名詞］現実逃避 ［レベル］5 μɑ;/ JM

acɪnɪn ［名詞］中学生 ［類義語］ɪɒɒɪn ［レベル］2 1L

acɪnɪl ［生物］小児、児童 ［レベル］2 μɑ;ɑcɪn/ɪl JJ

acɪnɪɪll ［数学］実数→ acɪnɪ ［レベル］4 JJ

acɪncɟ ［植物］忘れな草、ワスレナグサ、勿忘草、フォーゲットミーノット、フィアニス ［俗語］レズビアン、レズ、ユリ、百合 ［類義語］ɟejʃeel ［反意語］neɒd ［レベル］4 fɒ;ɑcɪncɟ<ɑcɪn JJ ［文化］ テステェルが愛した少女の名で、それゆえ古くからレズビアンの象徴とされる。漫画などでも背景に用いられる。

acɪuɪucʎɪ ［ユマナ］オリンピック ［運動］オリンピック、五輪 ［レベル］5 1L

acɪɑclʎ ［数学］実数解 ［レベル］4 1L

acɪɒ ［生物］界 ［言語］亜語族 μɑ;ɑcɪ/ɒɪcn ［レベル］6 JJ ［文化］ μəɒɪ

acɪɒcμɔʎ ［宗教］世界神 μɑ;/ JM

acɪɒɔnɔɑɔɪl ［経済］有形固定資産 1L

acɪnɑɪ ［数学］複素数 ［レベル］5 μɑ;ɑcɪnɪɪll/ɑcɪnɪɪll JM

acɪnɑɪclɒ ［数学］複素行列 ［レベル］6 1L

acɪnɔɪl ［経済］実物資産 JJ

acɪφcl ［経済］現金、キャッシュ ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

acɪφcldɪl ［経済］キャッシュフロー計算書、ＣＦ計算書 ［レベル］6 1L

acɪbɪʎɪl ［建築］世界遺産 ［レベル］5 zφ;/ JJ ［語法］ 世界遺産は「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」に分類される。

acɪμeμcɒ ［医療］狭心症 ［レベル］5 1L

acɪμecn ［名詞］世界線、パラレルワールド、並行世界、平行世界 ［レベル］4 μɑ;/ JJ

acɪl ［名詞］任意の数、任意の番号 ［形容詞］任意の数の、任意の番号の ［レベル］3 1L

acɪl(J) ［歴史］フィアル時代、創世期、創世の詩、そうせいのうた ［レベル］3 古 ［文化］ 世界ができてアルデルと霊界ができた時代。一番初めの存在であるアルマはひとところに存在していた。この時点では場は宇宙さえ存在せず、アルマの占める空間しか存在しなかった。しかし、アルマはレカイとアルテ神とアルデルに分裂する。アルテは最初の意思を持った存在である。アルデルはトワーユとラティアに分かれた。アヴェランティスがレカイとアルデルの間にできる。アヴェランティスを通ってヴィードがレカイに貯まる。 ヴィードを受けたアルテは爆発の危険に瀕し、やがてエルトとサールに分裂する。彼らは互いのエネルギーを

相殺する力を持った男女の神である。エルトとサールは愛し合ったが、そうしてばかりいるとまたアルテに融合してしまうので、約束の日を設けてそれ以外は逢わないようにした。約束の日を一定の周期で定めるため、エルトとサールは最も美しいと気に入った星を世界の中心の星とし、その星と太陽の関係が一定の条件を満たしたときを逢瀬の日にすると決めた。その星がアトラスである。エルトとサールはアトラスの公転周期を周期とし、毎年アトラスで逢瀬を重ねた。その場所を世界の中心セルヴァートという。尚、公転周期は年月を重ねると変化するため、創世記と転生期では異なる。転生期は約三百六十五日であるが、創世記の公転周期はそうではない。

acɪlɣəɑcɪ ［言語］ローファンタジー ［レベル］6 μɑ ʃʃ ［文化］ lɣəɑcɪ

acɪlɪbeeμ ［歴史］世界創世記 ［レベル］4 ɾɒ;/ ʃʔ

acɪlcʃ ［天文］アルタイル ［類義語］μcɑcɪ ［レベル］5 ɑu;ɑcɪ/lccz ʃɪ:μcɑcɪ:ɑcɪn/lenʃ ［文化］ neɑɪnʃ

acɪlenʃ ［死神］フィアレント、雛人形 ［アクセント］aɛɪlenʃ ［レベル］6 1L:μcɑcɪ:ɑcɪn/lenʃ ［文化］ 死神シューゼの傍に仕える十三人の死神少女。 第一雛：恋姫，ɒenlc 第七雛：詩姫，lcɪc 第十三雛：悠姫，ɣəəlc

acɪlɒ ［経済］実物売り ʃʃ

acɪlɪn ［哲学］現実主義、リアリズム、レアリズム ［反意語］ɑcɪɪlɪn ［レベル］5 μɑ;/ ʃʃɪ ［語法］ 広義には、理想より現実を優先させる考え方のこと。その反対が理想主義。

acɪlɪnɪn ［哲学］現実主義者 ［反意語］ɑcɪɪlɪnɪn ［レベル］5 μɑ;/ ʃʃɪ

acɪɪul ［経済］実物経済 ［レベル］6 ʃʃ

acɪɪll ［数学］現実数 ［反意語］ɑcɪɪll ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ ［文化］ ɑcɪɪll

acɪclɒ ［数学］実行行。実数のみの成分でできた行列 1L

acɪclɒɪ ［経済］現物 ʃʃ

acɪenuc ［名詞］実力 ［レベル］3 μɑ;/「実際の力」 ʃʔ

acɪeeſ ［経済］現物株、現物、実物 ʃʃ

accſ ［代詞］誰かしらの、何かしらの ［レベル］1 ʃʃ0:jeμen/μcɑcɪ

accn ［動詞］ɣəl に尽くす、ɣəl のために何かをする、尽くす、尽力する ［レベル］3 1L:accnɪ ［用例］ lə ɒcn ɒcnɣɪſ ɣə ɪlſcɪn ɑcn accnɪſ lɪ enzel. 彼女は懸命に尽くしたのに彼に捨てられた。

accnɣɪ ［娯楽］「魔法少女フィーニャ」 ［レベル］2 1L:ənclec ［文化］『おジャ魔女どれみ』、『プリキュアシリーズ』に相当するアニメ。アルバザードで放送している幼児向けのアニメ。精霊族の少女フィーニャが魔法の杖で困った人を助け、悪の組織と戦う。 ・現実では ʃʔ ɑɣə μɪu にトイザらスでスマイルプリキュアの衣装を紫亞に買ってあげた。６０００円弱したが、割引で５５００円ほどだった。１０５～１１５ｃｍとあるので、概ね合った。紫亞は５歳にしては小さい。 ↓ツイッター 娘、トイザらスにてプリキュアに変身なう。「お父様の好きなのがいい」と言う。「じゃあ青で」と言ったら、後から母親にあの子はピンクが好きなのに。。。と言われてしまった。。。ɔμz でも可愛いからいいのだ ↓その後、ɑɣə nen のツイッター こないだ買ってあげたプリキュアの衣装を息子が着てた。身体が大きいのでパッツン。その上、「パパ、僕かわいいですか？」と聞いてくる。以前このパターンで硬直したら後で母親に「パパは僕のことが可愛くないんだ」とメソメソしだしたそうなので、傷つけてはいけないと思いながらも、全力で「脱げよ」

accnɪ ［格詞］～のために ［音楽］楽団アシェットのデビュー曲。μɑ で、異性魔王との交戦で疲弊したアシェルフィの民を元気付けようと考えたセレンが、アルシェの使徒、フィミィ、ルビィ、リーザなどを加えて作った楽団。後の団体名アシェットを先取りした楽団名になっている。命名はリディア。ボーカルはミルフ。指揮は最初と最後の会図だけの役割で、セレン。ドラムはオヴィ。ギターはギル。ピアノはクミール。ベースはクリス。その他でサックスなどのセクションを担当。フルミネアはブラス兼任でフルート。メルはトライアングルなどの各種パーカッション。デビュー曲はミルフが作ったビッグバンドで、曲名は「accnɪ（あなたのために）」 ［レベル］1 ɑ;ɑc/nɪ「心長く」 赤:accnɪ:ɑcnɪ だと ɑcn に似るので戻した。 ［語法］ lɪnɪ ［成句］ accnɪ μcɑcɪ リディアに捧ぐ ［用例］ ɪn lɪbɪſ accnɪ lcſe. 家族のために働いた。

accnɪ(ʃ) ［音楽］フィーナ ʃɪ ［文化］『夢織』のアリスらのバンド名。

accnɪ-ɑcɪn ［植物］コデマリ、こでまり、すずかけ、スズカケ ［レベル］4 μɑ;「少女に捧ぐ」 ʃʃ ɣəlc:ɣəlc: ［文化］ ɣənʃ 系の少女を象徴する花。

accnɪ μcɑcɪ ［言語］ɪμʃɪ ［感動詞］リディアのために。セレンがお祈りとして最も日常的に使う言葉。 ［レベル］3 ʃɪ:jeμen

accnɪlebɒ ［音楽］ビッグバンド ［レベル］5 1L

accnɪlecɒen ［名詞］一般受けする作品、一般人向けの作品、一般受け ［レベル］4 μɑ;/「普通の人のために」 ʃʔ ［用例］ ſə ʃlec eſ ſcɔ accnɪlecɒen ſcʃ ɑɪ. この小説は単なる一般受け狙いだ。

accnɪen ［接続詞］accnɪ ［レベル］3 ʃɪ

accnɪennɪ ［生物］聴宮 ʃɪ

accnɔ ［アイテム］トライデント zφ;ɑcφc/nɔ「槍爪」 ʃʃ

accne ［魔法］精霊 ［レベル］3 古：準イネア？あるいは jclɑ. cneɪ（軽やかなイネア）？ acc ne:accne:lɪ jclɑ. ［文化］ 精族のアデルと人間との交配種。イネアートを発祥とし、イネアートに住み続ける。定住民族で、森や湖の中でひっそりと暮らしている。イネアートの外に出ることは少なく、セルヴァートなど、高緯度地方に点在する。アルバザードでは唯一アルシアに住む。 大人しく美しいのが特徴。黒い長い髪を持ち、肌は透き通るように白い。薄布をまとっており、水浴びを好む。知能は人間よりも高く、繊細でプライドが高い。アシェットではフルミネアが精霊の出。

accneʃ ［筐堺］フィーネス ［レベル］5 μɑ;accne ʃʃ ［文化］ 筐堺司：ɑəlbccɪ cneɪɪlɔ 筐堺国：cneɪɪlɔ, hɣəəɾɔ ſəuɪn, ɑcɒcnɔɔn leeue

accneɒɪɑeſ ［アイテム］フィーネマデット、万能薬 ［組み数字］3 / 1 2 ［レベル］4 ʃʃ0: 精霊のへその緒 ［文化］ 精霊族の少女が生まれたときにつけていたへその緒を干して砕いて粉末状にしたもので、ラルトの効果がある。非常に貴重なアイテム。精霊が生んだ息子のへその緒では効果がない。

accneμcɪ ［地名］フィーネリア海 ［レベル］5 ʃʃ0:μcɑcɪ: 妖精の水 ［文化］ ヒュート西～北西、フレディスク西、ファルファニア西、フィーリア南、イネアート北の海。

accnel ［音楽］ケルティック ［レベル］6 ʃʃ:「精霊の曲」

accnelcɪ ［植物］カシス、クロスグリ、フィーネリア ［レベル］3 ʃʃ:「精霊の」 ［成句］ ɣən ɑc cnelcɪ（恋愛が）甘酸っぱい、青春な。ɣən accnelcɪ は若者の純愛、特に性的記述に乏しい純愛を表現するときに用いる。ɣən lcuel はその逆で大人のあるいは大人びた恋愛を意味する。明確な基準はないが、ɣən accnelcɪ では手をつなぐか抱きしめるかせいぜいキス程度が上限。

accu ［アイテム］ハルバート。地球よりも開発が早かった。 zφ;ɑcφc/ucuɔ ʃʃ

accɒ ［形容詞］怠けた、怠惰な、なまけた ［反意語］ɑɪɪn ［副詞］怠けて、なまける、怠ける、サボる ［レベル］2 μɑ @ 1L:jɔnɔhcnɔ1c ɑɪcl:ɑɪcl:ɑɪcl ［用例］ ɪn ɪſ accɒ dɔſ bɔlſ. ベッドの中でだらだら（ぐずぐず）していた。 ɪn ɪlbɪſ jel accɒel. 一日中ゴロゴロ（ごろごろ）していた。

accɒbcl ［生物］無精髭 ［レベル］4 ʃʃ:「怠惰な髭」 ［用例］ ucʃ le ſcl accɒbcl 無精髭を蓄えた男

accɒɪ ［感動詞］久しぶり ［形容詞］久しぶりの、久々の、ご無沙汰の ［レベル］2 古 :ac（長い）/cɒɪ（時間）。「 長い時間が経った 」が原義。

accɒel ［被服］チノパンツ、チノパン ［レベル］5 ʃʃ: 怠けて

accφ ［生物］回虫 ［レベル］6 1L:ɑcμφeed

accɣə ［形容詞］素晴らしい、美しい、すばらしい、おいしい、優れている、素敵、素敵な、すてき、ステキ ［類義語］μɪſ ［レベル］2 古 :accɣə の古形が accsə なので、accɣə の ɣə は確実に「受ける」の意味。 ［語法］ μɪſ や ſcnʃɪ 単体よりも意味が強い。μɪſ ſcnʃɪ 程度の意味。 ［用例］ senſ ɪſ accɣə. 天気がすばらしかった。 ɪn nɪ accɣə cɒ ſəμ. 今は素晴らしい気分だ。

acclɑ ［動詞］jɔl は ɣəl の力を accnɪ に資させる、資する ［レベル］4 古 :ɑəlbccɪ ［成句］ μen acclɑʃ レン・フィールド（汝の契約者に資すらんことを！）：召喚士が神を召喚する呪文の結び。

acclcɪ ［アトラスの国家］［地名］フィーリア、フィーリア島、悲離島 ［レベル］2 ɑ;e 1L:μcɑcɪ:accne。「悲離」音とともにセルトの別れの意。 ［文化］ 面積：1ΔJ?9.10ʔ?Δʔ ɔb 」 厳密には国でなく島の名前。神の国アルフィのある島で、人間が支配してはいない。

acclcɪμen ［言語］フィーリア語 ［レベル］3 ʃʃ0 ［文化］ elɑjeſɪ ●概要 名称：ɑ（フィーリア語） 系統：アテン超語族ランス語族サルト超語派（ɪſenɪɒɪſ, lɪnjeɒcſ, jɪμſcɑl） 年代：ɑl–ſɒ：ſɒ は４年間だけ 分布：主にフィーリア島 話者：elſ, jɪɪl を中心とする数名 類型：ＳＯＶ、ＮＡ、Ｐｏ：厳密には形容詞はなく、ɑe を使って述語として導く。ucʃ ɑe ʃlc のように。見かけ上ＮＡの形をしているのでＡＮがＮＡかと言われればＮＡと言わざるをえないだろう。 認知様式：主観的把握 音韻：アルカに ɸ,ʒ,X,T を足した２９音に、シュワーを加えた計３０音 カルディアで最初に生まれた言語。全ての言語の祖。ɑl でエルトとサールが作った。 ●舞台裏 現実の前期古アルカがベースとなっている。シンプルな文法で、フィルヴェーユで研磨される。 アルカと同じ部分については特に書かないで。異なる部分だけ書いていく。 ●品詞 名詞、動詞、後置詞、形容詞、副詞、純詞、接続詞、感動詞、天秤詞のＬ種。 ・連体詞としての形容詞 「この」や「あの」といった、後の連体詞や指示代詞に当たるものしかない。 bɪle これ、bɔle あれ これらは前置される。有生と無生の違いはない。 「これの」と「あれの」は bɪlenɔ, bɔlenɔ で表示。 ちなみに場所についてはこう。 beʃe ここ、ɔleʃɪ あそこ。 ・形容詞 「大きい」などの形容詞はなく、名詞を述語として使って示した。 ɑel ɑe ucʃə ɑe ʃlc（私は大きい男だ） これは ɑel ɑe ucʃə と ɑel ɑe ʃlc が重文となり、二番目の主語が省略され、やがて形容詞のように ʃlc が導かれるようになったもの。 副詞も同じ手段で示される。 ɑel bɪcφ ɑe ucuc（私は強く叩く） 助動詞も同じ。 ɑel ʃəc ɑe bɪl（私は食べたい） ・代名詞 elſ と jɪɪl しかいなかったので、男が男に対する二人称などはなかった。 一人称 男：ɑel 女：nɔn 二人称 男が女を ſcj 女が男を ɑɣəjjɔə 三人称 主にエルトとサールは外の動物を指した。lə のみ。 lə は英語の cſ に相当する。 ・副詞 否定の ɑen などに限られる。 ɑen は動詞の後ろに付く。 c ɑen（見ない） ・純詞 アルカの文頭純詞に当たるもの。 ●語順 ɸʒ∀。 形容詞、副詞、助動詞は ɑe で繋いで後置。 後置詞句はｖの前。 ɑel ɣəlcʃɔ ʃɪl jɪɪl ſccɪ（私は家でサールを愛す） ●関係詞 関係詞はない。ɑe で節を繋ぐ。 ɑel ʃelſɔ ɑe jɪɪl c cɑ（私はサールが見た猫を見た） ●格 主格と対格は無標。 そのほかの格はエルトが動詞 ʃɪl を文法化したのと同じ流れで、後置詞として存在する。 ɣəlcʃɔ ʃɪl（家で） 属格は接続詞 ʃenɔ で示す。 nɔn ʃenɔ elſ（私のエルト）

●文種 否定文は ɑen を使う。 疑問文は文末の語尾上げで。 命令文は文頭に μe を付ける。この μe は純詞で、文全体を修飾。 ●テンスとアスペクト テンスは非過去が無標で、過去が ɑ の二項対立。 c（見る）→ cɑ（見た） アスペクトは継続の ſɪn のみ。 むしろこれは未完了と捉えたほうがよい。 動作の継続や連続や反復や未完了などを表す。 lə̀l（歩く）→ lə̀lſɪn（歩いている） ●数 エルトが作った。 エルト式の物の数え方で、人差し指から立てていく数え方で、ʔ 進数がベースの 10 進数。 1: 人差し指 scsc から scs J: 中指 jeesc から jees ʔ:ʔ を出すときに小指に親指が乗っかって交差することから jɔʃə̀lɪsc で jɔɪs 0: 小指 lcczsc から lccs ʔ: 手を広げることから、oɪ/sc で oɪs ʔ 以降は後ろの母音に調和した母音を付けていく。 子音の s が落ちる。 ʔ:csc ʔ:ejee Δ:ɔjɔɪ L:clcc 10: 両手を意味する ɪlɔɪ から ɪlɪ 11 ～ 1L は ɪlɪscs のように示す。 J0 からは J0 進数。 J0 は pɪcn/sc（体全部の指）から pɪns。 0ʔ は lccsɪlɪjɔɪs でなく、「J0 が ʃ つと ʔ」と考える J0 進法で、jeesbɪnsjɔɪs。 つまるところフィーリア語は ʔ–J0 進数である。 これは日本人には馴染みがなく、いかにもとってつけた現実にありえない言語に見えるかもしれない。 しかしこれは適当な設定ではなく、例えばアイヌ語はこのような仕組みである。 同じような体系はチュクチ・カムチャッカ諸語、エスキモー語などにも見られる。 これらの言語との差異は 10 進数の色が濃く、最高数が 0100 でなく 100 である点である。 100 は oɪ sbɪns から oɪbɪ。 暦などがなかったため、千はない。 0 を表す語はなく、「～はない」と表現した。 lelſɔ ɒɣə（猫はいない） 名詞にかかるときは前置される。 scs pccnɪ（一本の花） 名詞に有界性はないので、pccnɪ だけでは何本か分からない。scs を付ける義務もない。 ● leʃlc leʃlc は ɑe ʃlc（大きい）→ ɑeʃlc → leʃlc となってできた。 神話には神話用の語源を付す。 これによって現実と同じ語形をアトラスの歴史に矛盾しない形で作ることができる。 これがないと、矛盾してしまう。

accleɲj ［名詞］おばあちゃんの知恵袋、昔ながらの知恵、生活の知恵、フィーレンス ［レベル］3 μɑ;ɑc/leɲj「長い知恵＝年寄りの知恵」 ʃʔ ［語法］ 老婆に限らず老人全般によるものを指すことができる。nɑ 以降は年齢関係なく、昔ながらの生活の知恵のことを指す言葉となった。

acɔ ［親族］祖父、おじいちゃん、おじいさん ［レベル］2 1L: 古

acɔɟ ［動詞］ɣəl を見切る、見切る、見破る、見抜く ［レベル］3 1ʔ: 制 :acɔ（本当）

acɔn ［動詞］ɣəl を ɪ に告白する、告白する、自白する、白状する、言い出す、打ち明ける ［レベル］3 1L:pelcɑcɪ ɪlcj: 制 acɔnɪ（本音） ［用例］ μcɑcɪ acɔnɪſ hɪſcɪ ɪ jeμen cɒ lə jɔμɑɪſ eſ ɪljɔn. リディアはセレンが中二のときに告白した。

acɔnɪ ［親族］おじいちゃん ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:acɔ/n/ɪ（語気揃え）

acɔnɪ(ʃ) ［名詞］本音、本心 ［類義語］μəlnɪ ［レベル］2 制 :acɔ（真実の）/nɪ（心）。新生以降 μəlnɪ に変わったが、すっかり定着してしまっていたため、ʃʃ 年に正式に再登録。 ［成句］ c acɔnɪ 本当に、心の底から、心底。c jeleɟ の類似表現。 lɪlſ acɔnɪ 正直、本当のところは

acɔl ［生物］女の細い綺麗な首、手首、足首、腕、脚 ［レベル］2 ɑu 古 :acɔl ← aclɔclɔ（長い管、塔） acɔl:acɔl:lɪ acɔle ［用例］ ſel eel lcs jɔl, lə ſcl acɔl jclɑ le jɔlɟ lə eɒ linſ uecn. あどけない顔つきはあまり変わっていなかったけれど、手足がすらっと伸びて今より綺麗になっていた。

acɔllclɪ ［形容詞］［ポジティブ］スリムな、スレンダーな ［レベル］3 ʃʔ

acɔlcɒdc ［動物］アシナガバチ ［レベル］5 ʃʃ0:pelcɑcɪ lceμ

acɔle,jzɑ acɔl ‹ acɔl,ɑu.l

acɔleſ ［軍事］ライフル、ライフル銃 ［アクセント］acɔlEſ ［レベル］4 μɑ:μcɑcɪ;acɔlenſccnɪ.l ʃʃ0:μcɑcɪ ［文化］ φel

acɔlenſccnɪ ［アイテム］フィオレンティーナ ［レベル］4 μɑ:μcɑcɪ;acɔl/eſ/ſccɪ/nɪ「乙女の腕のように長く、神に愛された」 ʃʃ0:μcɑcɪ ［文化］ → φel ヴァストリアの１つ。セレンのもつライフル銃。

ace ［名詞］嘘、虚言 ［反意語］ɟəl ［類音］acɪ。対句で使うとおいしい。 ［レベル］2 古 ɒɣə:ɒ ɣə ［文化］ 嘘はアルティス教における最大の悪徳であり、英語の I i e よりもさらに意味が重い。衝撃度でいえば窃盗など、犯罪と同じレベルの罪悪感を生じさせる行為である。 とはいえ、人間は嘘をつく。そのため、アルバザード人は絶対に嘘を認めようとしない。認めざるをえない場合は、ace という言葉は極力避け、「ごまかした」「人工事実」「意図的に虚偽を語った」など、必ずといっていいほど言い換えを行う。とにかく ace という単語を極力避けようとする。もしアルバザード人がこうしても、嘘を認めていないわけではないので寛容に捉えたいところである。アルバザード人同士はそれを心得ているので、「いや、嘘だろ？」と追求はしない。喧嘩になることが目に見えるため。 どれくらい「嘘ついた」と言いにくいかというと、日本人が明らかに返すあてがない場合でも「金くれ」の代わりに「金貸して」と表現を和らげるのに近いものがある。 ［成句］ lɪnſ ace nccſ 嘘も方便 hɪnɔc e ace cʃl lɪn. 積み重ねた嘘はやがて真実になる：嘘から出た真 ［用例］ ɟə{lɪn, ʃlɔj, μenj} ace ɑel ſɔſɔ ɔn ɔn に関して ɑel という嘘をつく ☆ heſe ace 嘘をあばく ☆ ace ɪſ heſe 嘘がバレる ɒɪn ɑcɪ jcl jeɑɔ ɔl ace eɒ heſe. だって最初の嘘がばれてしまったら、世界は消えてしまうから。 el ɟə lcn ace. 嘘を吐いてはいけない。 jee lə ʃɔɪſ ace jɪɒ ɪ ſə ace, そして嘘の上にもうひとつ嘘を作ったんだ。 ſə eſ enuc ʃlɪcj ɪnſ ɑɪ. el ʃlɒcl nɪ jen ɪɒd ɪ uc enʃɪɔ ſcɔ ɔ ace ſcj ɔl lə ɑeμſ lɪnɪ lɪɑcɪ. lə ʃlɒcl ɒcɣə jen ſəəj ɪ uɪjn ſɪn ɔl lɪl. ɪſə eſ uɪjlɪ lˈɪn lɪ ɪl. ɪſə eſ ʃlſe len ɪn ʃlcſ lɪɑ e lɔɔſɔ. ace ɣəſ ɪn lˈɪɒcμe ʃɔ ace ſcj cl ɒcɣə ɪ ſμɪnj. それが僕のわずかな力。ただの強がりもウソさえも願いを込めれば誇れるだろう。望めば勇気にもなるだろう。ここが僕のいるべき戦場。覚悟の価値を決める場所。ひとつのウソにさえすがる僕のそのウソが誓いに変わる（ＢＵＭＰ ｏｆ ＣＨＩＣＫＥＮ『バトルクライ』） ɪn nɪſ ſɔſɪl ace jcl μəl ɔl lec ſc. 君がいればどんな嘘だって すべて本当になる気がした（『囚人』）

acejel ［名詞］(ſcl) 嘘吐きな ［反意語］ɑcɪjel ［レベル］2 1L

acejel ［歳時記］エイプリルフール、嘘の日 ［レベル］5 ul;/ ʃʃ0 ［文化］ ul のケートイアで bel scſ にできた催日で、アルバザードに入った。アルバザードの暦には正式採用されていない隠れ歳時記だが、この日は嘘をついて人をからかう習慣がある。 ［用例］ "nɔn hɪſcɪ ſɣə. nɪ nɪn, ace eə. ɑcj eſ acejel ſcɣje". ɪ ɥɪ, nɔn μenjɪſ ace. nɔn μenjɪſ ace ſeə "nɪnɪn, ace eə". 「すきだよ。なんてね、嘘。今日エイプリルフールだよ」。うん、わたし嘘ついた。「なんてね、嘘」って嘘ついた（jeμen ɪμbɪzɪμɑ）

acen ［格詞］～だけれども、弱譲歩 ［レベル］1 1L:ɑcn

aceɒez ［名詞］デマ、デマゴギー、流言、俗説、風説、流説、流言飛語、流言蜚語 ［類義語］ʃɪl zɪjʃəueμ, enſɒez ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃ0 ［語法］ 嘘の噂や流言のこと。主に意図的なものである。

広めた者が誤って間違いと知らずに信じて広めた事実に反した噂は enlɒez で、嘘と知りつつ流した噂を ɑceɒez という。両者の違いに注意。

ɑceɑɪs ［名詞］［形容詞］おためごかし ［レベル］4 1L：偽の親切

ɑcedɥɔdɪıſı ［名詞］偽善 ［レベル］4 JJ ［成句］ ɑcedɥɔdɪıſı ɟɔnɔ nɔɑ dɥɔdɪıſı enɟɔnɔ やらない善よりやる偽善（jeɥen ɪɥbɪzɪɥɑ）

ɑcel ［名詞］偽者、贋作、レプリカ、まがい物、えせ、エセ、似非 ［形容詞］偽の、ニセの、偽物の、まがい物の、似非の ［類義語］jclɸcəɟ ［反意語］ìlìɟ ［レベル］3 1L:ɑce/ſəl

ɑceſlɪɒc ［名詞］エセ科学 ［レベル］5 μɑ;/ JJ

ɑcelɟſenſ ［地球の星座］［ユマナ］ニセ十字 JJl ［文化］ cɑı

ɑcelɟılcı ［地学］仮晶 1L

ɑcelɒccnı ［植物］造花 ［レベル］3 μɑ;/ JJ ［用例］ nɔn ɑɔlìıſ ɑcelɒccnı ıl ez. 部屋に造花を飾った。

ɑcelɒed ［形容詞］［ネガティブ］高い上に質の悪い、値段に見合わないほど高い ［類義語］leìleɥcı、ɑılſc ［反意語］ıɥſɔcleel ［レベル］3 J0：偽の鏡 ［語法］ jclɸcəɟ のこと。値段のわりに価値がないもの。価値がないのに値段が高いもの。

ɑcelɥəlaın ［名詞］エセ研究者 ［レベル］5 μɑ;/ JJ

ɑceeɟſ ［普通動名詞］騙り ［動詞］ɥəl を lel と騙る、騙る、かたる、偽の名を名乗る、名乗る ［レベル］3 μɑ;/ JJ

ɑɔ ［名詞］音 ［格詞］音格。～の音で。後ろにオノマトペを取る ［動詞］ɥəl を鳴らして lel という音を ı に出す、鳴らす、鳴る、鳴らせる ［類義語］dcıl、bcı、μeɑ、ìleμ、ɑɔncɒ ［レベル］1 ɑ;ɑıcı 古：音象徴から ［語法］ 擬音語を後ろに取る。擬態語は元々アルカにはフランス語同様ほとんど存在せず、ɑɔ も擬態語は取れない。 ［成句］ ſ ɑɔ ſcnl ı ì ſ が ì に鐘を鳴らす：ì は ſ に心当たりがある。 jeleɟ e ſ ɑɔ ſcnì ı ſə e ì 一心同体。ſə e ì の部分は ləəſ や ılcɟ en などとする。 ［用例］ ɑɔ ìlc 大きい音：大きい動物ほど大きな鳴き声を出すアナロジーから。 ɑɔ ɟɔμ 高い音：高音は頭のてっぺんから出すようにし、低音は胸に響かせる発声法からのメタファー。 lɔd cì ɒɔnɔ ɑɔ ìlccɟ. 電車がキーっと音を立てて止まった。 eɟì ɑɔen dcddcd ぴちゃぴちゃ振る雨：ɑɔen を挟むこと。オノマトペは単独では形容詞になれない。そうでないと eɟì dcd のとき、「投げられた雨」に見えてしまう。

ɑɔſ ［名詞］紐 ［動詞］ɥəl を ı（柱など）に縛る、縛る、結わく ［名詞］栞紐、栞ひも、しおり紐、しおりひも、スピン ［類義語］ɑɔſ ［レベル］2 ɑu;ɑɔſɟ.ì 1ì: 制：古 :ɑɔſɟ（解放する） ɑɔſ:ɑɔſ

ɑɔſɟ,ɑu ɑeɟn

ɑɔſucın ［物理］張力 ［レベル］5 J0：紐にかかる力が典型例であることから ［文化］ 物体の平面における引っ張り合う力のことで、応力の一種。

ɑɔſılcſ ［物理］音速、マッハ ［レベル］4 J0：音の速さ

ɑɔſɔc ［音楽］調律、チューニング ［動詞］ɥəl を調律する、調律する ［レベル］4 J1

ɑɔì ［動詞］ɥəl を ı に足す、足す、加える ［数学］［接続詞］足す、＋ ［文頭純詞］さらに、更に ［数学］足し算、加法、加算 ［接続詞］ſ ＋ ì ［言語］添加 ［レベル］2 1L:ɑıì:1ì: 制：古 :ɑcì1（足す）：接続詞の ɔ が足し算に見えるようにアプラウト。 ［語法］ 四則演算子は順番に +, –, ×, /（ıɟìınſcɟ 表示で）。要するに q w e r t y のキーと同じ。 / は（/ſ/）だと「t と k」。ì/ſ/ſ だと「3 足す 4」のことではなく、「3 と 4 の比」を意味し、結果的に分数を作る。

ɑɔìzed ［数学］足し算 ［レベル］2 J1

ɑɔìsıłɟ ［数学］帯分数 ［レベル］3 1L

ɑɔìı ［音楽］音階 ［レベル］3 J0：音の場所 ［文化］ ɑɔμ

ɑɔìınſcɟ ［数学］足し算文化 μɑ;/ JJ ［文化］ レジがおつりを返すときに、代金から客が払った額まで数え上げていくのが足し算文化で、フランスなどがこれに当たる。一方日本のように客が払った額から代金を引いた額をおつりとして返す日本のようなやり方を引き算文化という。 アルバザードとルティアは ɟɒ まで足し算文化だったが、凪の影響で引き算文化を取り入れ、μɑ では引き算文化が浸透した。

ɑɔìen ［数学］和 ［レベル］2 J1:ɑɔì 属格 ［語法］ 数学の和、差、積、商はそれぞれ ɑɔìen, ɑcɑen, hınſen, ɑeɟſen で、いずれも四則を属格化したもの。 uc hınſ uıl の場合、hınſ は接続詞で、uc がかけられる数で、uıl がかける数。ìeſ lı hıl elen の場合、上つまり hıl になっているのは elen でなく ìeſ。ìeſ hılen elen でも同様。このようにアルカでは格詞や接続詞の意味はその格詞や接続詞の目的語でないほうにかかる。そのため、uıl でなく uc が「かけられる数」になる。逆に取りやすいので注意。 uc が hınſɔl で uıl が hınſın になる。その結果の積は hınſın, hınſɔl を使用しているのでどちらも使えず、属格の hınſen で示されるようになった。動詞にかかる属格なので「～の」という意味はなく、意味を変化させつつ名詞化している。そしてこの属格の用法は和、差、商などにも及ぶ。

ɑɔl ［言語］ɑ の文字 ［レベル］1 1ì: 制：摩擦 ［語法］ 第 7 文字目の幻字。

ɑɔl(J) ［動詞］ɥəl を擦る、擦る、こする、さする、摩る ［普通動名詞］摩擦 ［類義語］ɟɔnſ ［レベル］2 lìì1: 擦るオノマトペ ［用例］ ın ɑɔlıſ ɒıcn ì ɥɒl lını ɔjì nɔj. 体を綺麗にするためにお風呂で擦った。

ɑɔlſ ［名詞］男のオナニー、自慰、オナニー、ちんぽこかいかい、チンポコカイカイ。「ちんぽこかいかい」というのはセレンが 4，5 歳で床オナを初めて発見したとき、この行為がなんという名前なのか知らずに小学校高学年から中学生くらいまで使っていた個人語のこと。このことをカミングアウトしたらメルに爆笑された。 ［動詞］ɥəl を自慰させる、男がオナニーする、自慰する、オナニーする ［類義語］ɑɔs、dlıſ ［反意語］leel ［レベル］3 1L:ɑɔl（擦る） ［文化］ キリスト教と異なり我慢は体に悪いとされ、特に性欲の強い 10 代には推奨される。思春期から 25 までは毎日行ってもよいとされる。それから徐々に減らし、子供ができたり 30 近くになれば週 1 ～ 2 回程度にするのが通常。している率はほぼ 100％なので隠す必要はないが、わざわざ言うことでもない。日本ほどではないがそこそこ恥ずかしいのでふつうは話題にしない。オカズは妄想や動画で、動画はアンセからダウンロードする。また、手で行うのが多いが、ヴォルム人形を使ったりもする。 女子は男子が 100％しているのを知ってはいるものの、自分の彼氏は清潔で ɥəlſe だと思っていたい。男子は女子のその気持ちを知っているため、女子の前ではオナニーの話はしない。

ɑɔlɟɔμſ ［形容詞］かなり肌寒い ［レベル］3 1L ［用例］ ſə eɟ ɑɔlɟɔμſ cɒ ſəɔ. とても肌寒くなった。

ɑɔlucl ［医療］擦り傷、すり傷 1L:μcɑcı:ɥbılelſ ［用例］ ſcl ɑɔlucl ɔn ～をすりむく、擦りむく、擦り剥く

ɑɔlɑɔ ［言語］摩擦音 ［レベル］6 1L ［成句］ ıleɟ ɑɔlɑɔ ſ^cneıſɔ イネアート人の摩擦音を笑う：重箱の隅を楊枝でほじくる。イネアート人は摩擦音を強く発音する傾向がある。ɟɒ においてアルバレンを教えるとある教師が生徒のスピーキングを完璧なものにしようとして嫌味などにその摩擦音を指摘したことから。

ɑɔɟ ［動詞］ɥəl を捕まえる、捕まえる、逮捕する ［法律］逮捕、タイーホ、タッホイ ［レベル］2 1L：中期制アルカから ［用例］ nɔn ɑɔɟ ɑın ſɥə eſ 逮捕しちゃうぞ

ɑɔɟſ ［名詞］縄、ロープ、綱、索具、支え綱、シート ［レベル］2 1ì: 制：恣意

ɑɔɟſɑılɒ ［軍事］火挟み μɑ;ɑıcɑɔɟſ/ɑılɒ JJl ［文化］ φel

ɑɔɟſφel ［軍事］火縄銃、マッチロック ［レベル］4 μɑ;ɑıcɑɔɟſ/φel JJl ［文化］ φel

ɑɔjì ［名詞］ソファー ［レベル］2 1ì: 制：ɑɔnɟìc

ɑɔjc ［被服］下着、アンダーウェア、インナーウェア ［レベル］2 1Jl: 制：ɑɔjc:ɑɔjı:jɔμn:ɑjın: 制では上着の下に着るものを指した。 ［用例］ ın jıbıſ ɑɔjc jıbel. = ın jıbıſ ɑɔjc. 下着を着替えた。

ɑɔjeſ ［音楽］消音、ミュート ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcɟ: 音を殺す

ɑɔjeſsczɔl ［音楽］ミュートギター JJ

ɑɔn ［法副詞］～しないでください。丁寧な禁止 ［レベル］1 1L:ɑɔnl ［語法］ μe

ɑɔn,jzɑ ſeeze ɑɔueſ

ɑɔnſ ［交通］道、道路 ［動詞］ɥəl を通る、通る、通過する ［動詞］伝わる、伝導する→ ləì:ɔ ［電算］バス ［メタファー］方法、道、方策、方向性 ［レベル］2 μɑ<ɑɥn 1L:jɔμn: 古 :jɔμn:dɔnſ（道） lə dı:ledı:lə jınse（伸びているので棒状）:hı,ılſ ［語法］ → ləì:ɔ 道の性質や大きさによって ɑɔnſ,uelınſ,ıluelınſ,ɒcuıſ,ləìı,ıdın,lıɑɔn,ɥəəɑ. ɑɔnſ は総称的。 ［文化］ → dɔnſ アルバザード人は自転車や徒歩で移動することを好むため、道の形状や性質や大きさといったものに比較的敏感である。 ●道幅 道は車やバイクが通れる車道と、自転車道と歩道に分類される。 車道の幅は車線数に関わらず 3．75 m（ʔɒelɑc）である。日本の片側二車線道路より広い。車道とそれ以外の道はガードレールで区切られている。一車線のみの車道は一方通行を除いて存在しない。日本のような 4 m道路は存在しない。 自転車道と歩道の幅はどの道でも 2．5 m（ɟɒelɑc）である。両者はガードレールや境界線で区切られている。通常、道は車道＋自転車道＋歩道で構成される。 自転車道と歩道しかない道路に車は進入することができない。 車道＋自転車道＋歩道で最も狭い道は 8．75 m（ʔɒelɑc）の一方通行である。 最も数が多いのは片側一車線の車道＋自転車道＋歩道で、12．5 m（10ɒelɑc）である。従ってアルバザードの道は日本に比べてかなり広く作られている。平地が多く健康志向が強いアルバザードでは自転車の普及率が高く、自転車道の整備がよくなされている。 また、交通事故を徹底して減らそうとした街づくりの甲斐あって、歩道もきちんと車道や自転車道から分離している。この広さは安全に繋がっている。 ●ランティス通り・アルミヴァ通り ランティス通りとアルミヴァ通りは片側 3 車線の計 6 車線で、自転車道も倍幅となっている。よって道幅は 3．75 m（ʔɒelɑc）が 6 つに 2．5 m（ɟɒelɑc）が 3 つなので、22．5 m（1ΛɒelɑC）＋7．5 m（ʔɒelɑc）＝30 m（JJlɒelɑc）である。 カルテ外周からリディア通りまでは半径 187．5 m（1ì0ɒelɑc）であり、ここが住所上はリディア通りとなる。このうち道路の幅だけで 30 m（JJlɒelɑc）を占めるため、居住可能な区域は 157．5 m（1JſɔɒelɑC）の半径内である。 ●最も狭い道 いくらインフラが整っているアルバザードでも、住宅街の小道ひとつひとつまで広い幅の道を作ることはできない。たいていの家の前は車道と自転車道のない歩道で、最低 2．5 m（ɟɒelɑc）の幅を持つことになる。 ところが実際法で定められた最低の道幅は 3．75 m（ʔɒelɑc）である。これはなぜかというと、救急車と消防車のような緊急車両が入れるようにするためである。従って、住宅街における家の前の小道はたいて 3．75 m（ʔɒelɑc）である。 自宅の前は往々にして車道に接していないため、アルバザードでは田舎を除いて自宅に駐車場という概念はなく、町内会などの地区ごとに共有の駐車場を持つ。その駐車場は車道と接しており、そこまで歩いて行くことになる。たとえ庭が広くても車道に接していない家では車を庭に置くことができない。これも歩道と車道を分離することで事故を防ごうとする安全意識の現れである。 一方、自転車は庭におけるが、自転車道に出るまでは手押しで歩かなければ違法である。（ただし実際のところ、道が空いている場合はこれを無視する人が多く、警察もこれについてはあまり見咎めない） ［用例］ ☆ ɑɔnſ eɒıſ neɥə ɒcl jıe ɑɔſ. 大雪のため、交通が麻痺した。 ſə ɑɔnſ ìe ìırlſe. この道はカルテにつながっている。 ſə ɑɔnſ lənı ìırlſe. 同上：自分がカルテにいて、道を見ている。 ſə ɑɔnſ ìe c ìırlſe. この道はカルテから来ている：カルテのほうを向いている。また意識上の動線はカルテから自分のいるところに来ている。自分の体はその場にあるが、意識の上ではカルテにある。lənı c にすると、自分の意識は自分のいる場所になる。ややこしいが、日本語と同じ感覚なので読者は使い分けは楽なはず。

ɑɔnſucɑı ［生物］［医療］経穴。五兪穴の経穴。 μɑ;/「経脈の通る穴」 JJl

ɑɔnſɒenſe ［名詞］立ちんぼ ［レベル］5 JJ

ɑɔnſɑcl ［交通］行き止まり、突き当たり、通行止め、袋小路 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcɟ ［用例］ ☆ ſə ɑɔnſ ìe ɑɔnſɑcl. 行き止まりの道だった。

ɑɔnſdıɒ ［名詞］街灯 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcɟ

ɑɔnſlɔd ［交通］市電 ［レベル］3 1L

ɑɔnſecl ［交通］路肩、路傍、道ばた、道端 ［レベル］3 1L ［用例］ jıe ıſeɟ hınſ ılc ɑc ı ɑɔnſe cl. 雪がたくさん路傍に積み上げられていた。

ɑɔnl ［気象］突風 ［魔法］フォンシュ（エアロ）。風の低位黒魔法。突風で相手を吹き飛ばす。 ［レベル］3 古：風のオノマトペ

ɑɔnɟ ［動詞］ɥəl を ı（役職）に雇う、雇う、雇用する ［経済］雇用 ［レベル］3 1ì: 制：古 :ɑəſɔın。ɑəſɔ は取るの意味だろう。ın は人。

ɑɔnɟſɔnì ［経済］［政治］雇用者階級、ブルジョワ、ブルジョワジー ［レベル］5 1L ［語法］ 裕福な資本家や雇用者などを広く指し、労働者階級の対語として使われる。

ɑɔnɟın ［経済］雇用者 ［レベル］4 1L:clbəj;μcɑcı

ɑɔnɟıns ［生物］胸鎖乳突筋 ［レベル］6 jzl;ɑɔn/ɟınse JJ ［文化］ ɑɔnφıμ

ɑɔnɑ ［名詞］ごまかし、誤魔化し ［動詞］ɥəl（ごまかす内容）をごまかす、ごまかす、誤魔化す、はぐらかす、お茶を濁す、さばを読む ［レベル］2 1ì: 制：uıjſe:ɑɔnl（避ける）/ɑce（嘘）。突かれたくない本題や本質を避けるための嘘 ［用例］ ɑɔnɑ ſɔlcɟ 年齢をごまかす

ɑɔnɑnıl ［名詞］ごまかし笑い ［動詞］ɥəl をごまかし笑いさせる ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcɟ

ɑɔnφıμ ［生物］風池 ［アクセント］ɑɔnφʔμ jzl;ɑɔn/φıμ ［レベル］6 JJ:μcɑcı: 風の門 ［文化］ ルクレティアで風が入り込む場所。ここからやや外側の胸鎖乳突筋沿いに冷気が入って自律神経を乱したり免疫を弱くしたりする。 比較的民間人にも有名なツボで、ここを冷やすと冬に風邪を引いたり夏にクーラー病になるということが知られている。 夏場もここと ɑɔnɟıns を暖めておくと、クーラーをつけても冷房病になりにくい。 訳語を調べていたら地球のツボに「風池」というのがあって、造語者の身体センスに驚いた。

ɑɔnblın ［地名］フォンブラン ［名詞］綿モスリン jzl | nɑ;ſlſ。フォンブランの名産だったことから。 JJl

ɑɔnblınſ ［被服］シュミーズドレス nɑ;ſlſ<ɑɔnblın/ſe JJl ［文化］ lſ の貴婦人が着ていたドレスが輸入された。nɑ 後期の貴婦人の間で大人気となり、lſ は服飾部門においてかなりの貿易黒字を出した。つまりアルバザードは貿易赤字を出した。当時の技術としては最先端の薄い布である綿モスリンを使っていたため、冬場これを着て肺炎になる女性が多発した。貿易赤字に困っていたこともあり、ときの政府が不買運動をしかけ、在庫を大量に抱えた貿易商が困り、シュミーズドレスの下に着れる防寒用の下着である ılɑɔnl を開発したところ、シュミーズドレスの売上が再び増えた。この出来事により ılɑɔnl が生まれ、やがてこれが防寒着の意味になっていった。

ɑɔnz ［動詞］ɥəl を ı（役職）に採用する、採用する ［レベル］3 1ì: 制：ɑɔnɟ ［語法］ 雇うという意味の場合は ɑɔnɟ。

ɑɔnl ［動詞］ɥəl を避ける、避ける、さける、よける、敬遠する、かわす、躱す ［名詞］回避 ［法副詞］～しないほうがよい ［レベル］1 1JJl ←古 :ləɑ ［語法］ 物理的に何かをかわすこと。物理的に何かから遠ざかること。精神的に、かかわりを持つことを嫌ってその物事を避けること。 ［成句］ ɑɔnl lın 人見知りする。人を避ける ［用例］ ın lıſ μı lını ɑɔnl eɟl. 雨を避けて家にいた。 ☆ ın sıl nec ìıſe l'ın ɑɔnl hıμſıſc ì1. まだどこに避暑に行くか決めてない。 hırdn ɑɔnlıſ jıeφel ılɔl. 友達は器用に雪玉をかわした。 ın jɔſ ɑɔnl jɔı. そうすべきではなかった。

ɑɔnlφel ［運動］ドッジボール μſ;/「避ける球技」 ［レベル］2 JJ ［文化］ μſ で考案されたゲーム。日本のものと基本的に同じ。小学生が放課後などに男女混ざってやる。中学生以上になると自然とやらなくなる。主なデメリットは突き指や胸痛。内野は lɔſ で外野は leìɟ。

ɑɔnc ［名詞］非常に短い間、瞬間、一瞬、刹那、とたん、途端 ［副詞］一瞬で、瞬時に、瞬間に ［類義語］ɒcl ［レベル］2 1ì:jeɥen:ìlel:ɑɔnı（非常に長い間）:ɑɔn（長い） ［語法］ ɑcìəə 実際には 1 秒以内から 1 分程度まで、場面に応じて幅広く。 名詞用法は「～するとすぐに」、「～した瞬間」の意味で使われることが多い。 ［成句］ lc ɑɔnc ただいま、はいただいま、只今、今お持ちします lc{ìlɔn} ɑɔnc 一瞬で ［用例］ ìıd ıſ ıμ cɒ ɑɔnc ɑel ın ɔlſlcl μı. 家に着いた途端、電話がなった。

ɑɔncɒ ［音楽］音色、音の種類 ［レベル］3 JJ:ɑɔ/ncɒ。この ncɒ は種類の意味

ɑɔncɥəɔ ［言語］瞬間動詞 J0 ［語法］ 経過相がほぼゼロであるために、無相と完了相がほぼ同一視される動詞。「消す」など。 瞬間動詞の無相は完了相への強い指向性を示す。

ɑɔnɔ ［被服］ガウン ［レベル］3 1ì: 制：ɑɔn（長い）から

ɑɔu ［物理］音波 ［レベル］4 JJ:ɑɔ/eeu

ɑɔueſ ［言語］オノマトペ、擬態語、擬音語、擬声語、擬情語 ［レベル］4 1ì: 制：音の言葉 ［語法］ → hıılueſ オノマトペは擬音語、擬態語、擬声語、擬情語に大別される。 このうち擬声語は擬音語に、擬情語は擬態語に含められることが多い。 擬音語を欠く言語は存在しないが、擬態語を欠く言語は存在する。 例えばフランス語にはジグザグなど一部を除いて擬態語が原則存在しない。 ここでよくある誤解が「フランス語は明晰だから」や「日本語は感情表現が豊かだから」というものである。 こういうものは民間語源と同じで信用できない。平然と出版物に載っていることもあるので注意したい。 明晰だとか感情豊かだという問題ではなく、同じ感情に対してどうアプローチするかの違いにすぎない。 フランス語は「イライラする」を表す場合、s’ a g a c e r のように擬態語以外（ここでは動詞）を使って表す。 逆に日本語も擬態語を使わず「苛立つ」のように表現することができる。 ただ、まったく両者の間に差がないかというと、そうとも思わない。 同じ人間だから「イライラ」という感情はあるが、それを「飛ぶ」や「熱い」などの普通の言葉と同列に捉えて客観的に表現したがるのがフランス語だとしたら、擬態語などの音声に委ねて感覚的に表現したがるのが日本語といえる。 この「したがる」という部分、つまりアプローチ

の仕方が両者の差異である。　さて、人工言語的に見ると擬態語を作らないほうが作業が楽に見える。　しかしフランス語と同じく、結局その分ほかの動詞なり形容詞なりを作ることになるので楽はできない。　ちなみに日本語のように「イライラ」も「苛立つ」も両方作ると手間がかかる。が、そういうアプローチにしたいのであればやる価値はあると思う。

人工言語に擬態語を付与するか否かは楽かどうかという観点ではなく、上で述べた感情表現をフランス式と日本式のどちらにするかという観点で考えるべきことである。　すなわち言語的設定ではなく、むしろ文化的設定である。　アルカの場合、感情が細分化され細やかであることを良しとするが、客観性を尊ぶので、その表現法は客観的である。　このため、アルカには擬態語が少ない。現実には古アルカ時代の名残を引きずっている。　・オノマトペの分類　アルカのオノマトペは擬音語と擬態語に分かれる。このうちフランス語同様、擬態語は少ない。　擬態語に相当する表現を欠くという意味でなく、補完するための表現が存在する。そのため、人工言語造りにおいて労力の削減は期待できない。　擬音語には帰納音と演繹音の ˩ 種類がある。これはアルカの術語である。　帰納音はそれひとつで完結しているものである。　猫の鳴き声の nɥı や犬の ɔɔnɔɔn などの擬声のほか、鼻をするる ɪs などの擬音がある。これらは勝手に nɥɔ や oɪnoɪn や es に変えることができない。　動物の声や物音を聞いてその音を文字に帰納させたものなので、帰納音という。　世の中にまったく同じ音はないが、何度も動物の声を聞いているとある音に帰納することができる。それゆえ nɥı などを帰納音という。　一方、演繹音とは (ⱣⱣ)ⱣⱣ(ⱣⱣ) からなり、規則的に ⱣⱣ や ∀ を変えることによって印象を変化させる擬音語である。　例えば dlıſ は水が「ぱしゃっ」と撥ねる音などに用いるが、それを有声化した bsıɑ は泥が撥ねる音に用いる。　さらに間の母音を変化させることで音の明度と重度を変えることができる。dlɔſ は小さな飛沫が「ぴっ」と撥ねる音である。　同様に bscɑ は水たまりの泥などが「べっ」と撥ねて靴や服などに飛んでいくときなどに使う音である。　演繹音については後述する。　・分類表　オノマトペ　擬音語　帰納音　擬音　擬声　演繹音　擬態語　・幻日におけるタグ　擬音、擬声、演繹音、擬態語の ˩ 種をタグとする。

ɑɔɒ ［普通動名詞］取材 ［動詞］ɣəl（取材内容や店）を取材する ［レベル］3 lıʅſı ［用例］ɑɔɒ ıſe ıſʅ おいしい店を取材する

ɑɔɒd ［医療］コレラ、ころり ［レベル］5 lıʅſı: 元は ɑəɔɒd（残酷に腹がやられる）

ɑɔɒı ［言語］旁、つくり、アルハノンの旁 ［反意語］eɒı ［レベル］5 J0:ɑɔ（音）/ɒıcn（体）

ɑɔɒın ［名詞］記者、取材者 ［レベル］3 μɑ;/ J̚ʔ

ɑɔɑ ［名詞］音量、音の大きさ ［レベル］2 J0:ɑɔ/ɑə

ɑɔd ［医療］ギプス、ギプス、コルセット（医療用の） ［レベル］5 1̚ʔ: 制 : 古 :ɑɔdılhɔ

ɑɔhıʃd ［言語］表音文字 ［類義語］ɑɔhıʃdɒ ［レベル］5 J0 ［文化］ → hıʃd

ɑɔhıʃdɒ ［言語］表音幻字 ［反意語］eʅjhıʃdɒ ［レベル］5 J1 ［語法］［文化］ 日常的には表音幻字２５＋１字のこと。日常的には ɑɔhıʃ と実質的な差はない。言語学的には ɑɔhıʃdɒ は新生の表音幻字のみを指す。

ɑɔhɔjc ［電算］音声ファイル ［レベル］4 1L:ɒelcɑcı ılſe

ɑɔμ ［音楽］音符 ［レベル］3 1L:ɑɔ/μecn ［文化］ → leɒɒıȷ ＜音階の呼び方＞　アルミヴァかソームを使う。例えばドは jecnelȷ か uelɒ。　＜～分音符の表し方＞　地球では八分音符のように、全音符を１/１としたときの分母の数で名付ける。　アルカの場合、全音符を２の n 乗で割ったときの指数の数で名付ける。　全音符：２の０乗＝１で割るので、０音符　二分音符：２の１乗で割るので、１音符　四分音符：同様に２音符　八分音符：３音符　十六分音符：４音符　付点二分音符は二分にさらにその半分の四分が加算されたもので、その長さは全音符の長さを１００％とすると、５０＋２５＝７５％である。この長さの音符の名称は、音符の名称の頭に ıl を付けることで得られる。例えば、附点四分音符は ılſı ないし ılſıɑɔμ。　複附点は滅多に使わないので、冗長な名前でも問題なく、ılıl と ıl を重ねていけば良い。　休符は ɒɔʅ。用法は上記と同じ。　＜音符類の名称と書き方＞　音部記号は beezel と dıμſ。　線は五本。　拍子記号を「Ⅱ–Ⅱ」のように音部記号の上に記す。
音符　全音符　黒玉　˩ 分音符　黒玉＋棒　Ⅱ分音符　白玉＋棒　Δ分音符　白玉＋棒＋スラッシュ　ⅰⅰ分音符　白玉＋棒＋スラッシュ×˩　休符　全休符　中白の菱形　˩ 分休符　中白の菱形＋棒　Ⅱ分休符　バツ＋棒　Δ分休符　バツ＋棒＋スラッシュ　ⅰⅰ分休符　バツ＋棒＋スラッシュ×˩　付点は右向き三角形。　アクセントは u 字、スタッカートは縦棒、テヌートは丸を音符の上につける。　ダイナミクス　ucen ſcnʅı　ucen　ucen ɣəe　lecɒ　cun ɣəe　cun　cun ſcnʅı　シャープは ɣelȷɔɒ、フラットは ɣelhıcſ。　タイとスラーは実線にカギ。

ɑɔμſ ［動詞］ɣəl を逝き返す、いきかえす、生き返す、蘇生する、よみがえる、蘇る、甦る、甦らせる、復活する、復興する、復元する ［普通動名詞］蘇生、復興、復元 ［音楽］ブラッシング ［魔法］フォルト（レイズ、ザオリク）。利の古代魔法。ヴィード死の人間を蘇らせる。 ［組み数字］4 / 1 1 ［レベル］3 古 :ɑɔμſcȷ から ［文化］ヴィード死状態の人間を蘇らせること。生物学的な死を迎えた人間には効かない。 ［用例］ɒclɑ ɑɔμſıſ hırdɒı jecnı lelıc. ミルフは使徒をこの世に蘇らせた。　lc ſə, ınȷ dılſ ɑɔμſ e oıcɒ ɑɔl ʅeı ɔ ɒelıɑ ɔ ſıə, ɣın cɒ ſɔlȷıſſ, cl ʔ oıcɒ eɒıſ ɑɔμſ. その後、修復や復元、購入により⊠の再建が進められ、昨年、全 1̚ʔ 輌の⊠が再び勢揃いした。

ɑɔμſɑɔ ［言語］リエゾン ［レベル］6 μɑ;/「復活音」 J̚J̚

ɑɔμſcȷ ［アイテム］フォルティス ［レベル］4 μcɑcı: 古 : ミクの造語 ɑıſcȷ が語源らしい ［文化］ミルフの持つヴァストリア。ヴィード死にある死者を生き返らせることができる聖杖。ファティスの中に隠されていた。μɑ ではメル６年に、アクタカに操られたセレンが殺した使徒をミルフがこの杖で蘇らせた。

ɑɔμʅ ［数学］分母 ［レベル］3 @ 1L

ɑɔμʅʅɔʅeɒ ［数学］通分→ʅɔʅeɒ ［レベル］3 1L

ɑɔμɒı ［言語］響字、フォルマ ［レベル］5 J0:ɑɔ/hırdɒı ［文化］ → hırd、lcɒ

ɑɔμɑ ［娯楽］フォード ［レベル］6 1Δ:ɒel:ɑɔſ/ɒejdı。紐の結び方の体系。メルは 1L 年のメルセルに、この案で「次世代の英才教育案」の最優秀賞を取った ［文化］紐の結び方の体系。メルが考案した。玩具も買ってもらえなかった少女時代のメルは、孤独を満たすために自分の靴の紐を解き、その紐の色んな結わき方を考えて遊んでいたそうだ。

ɑɔμφ ［音楽］コンポーネント、音楽機材 ［レベル］6 1̚ʔ: 制 : 古 :ɑɔμφnı（コンポーネント）

ɑɔμı ［音楽］蓄音機 ［レベル］5 μſ:uınφμɑ lcczel;ɑɔ/μı「音の家」 J̚J̚

ɑɔz ［普通動名詞］発声、発音 ［言語］調音 ［動詞］ɣəl を発音する、発音する、調音する ［レベル］3 1ⅰ: 制 :ɑɔ ［文化］現在は μɑ から３００年以上経過しているため、語彙はおろか発音も当然のことながら変化している。例えば二重母音 ec などは ul では ee と発音と発音された。つまり lecn は「レーン」と発音された。　この事態はアルティス教原理主義者であったイルミロク党の党首ミロク＝ユティアによって起こされたミロク革命によって変化する。アルティス教はアシェットを英雄視し、神と人類の架け橋として敬った。そのため、彼らが最後に制定したメル J̚J̚ 年の時点でのアルカを正しい言語と位置付けている。　ミロクは革命によってアルカの原点回帰運動を起こした。なお、この運動自体は革命前に既にミロクがアルナ校在学中にリーファ隊などと協力して行っていたものである。　しかし彼らといえど時代の進化に付いていくためには nɑ 以降に生まれた新しい単語を容認する必要があった。そこで最も回帰されたのが文法と発音である。　だが発音も結局のところ原点に回帰しきることはなかった。文法と違って運動分野なので、知識を植えつけるだけでは矯正しがたい分野だからである。　ıl では μɑ に比べてアルティア人の末裔らが中央部にも増えていた。彼らは伝統的に家庭などではアルティア語を使うバイリンガルであったが、アルティア語の音韻構造は単純で、ＣＶを原則とするものであった。アルティア人の家庭は母語としてアルティア語を教えることが多く、子どもはＣＶＣの豊富なアルカを第二の母語として習得することが多い。そのため、どうしてもＣＶＣをＣＶＣＶのように発音してしまうことがある。　彼らと長く生活を続けてきたアルバザード人らも μɑ から数えて３００年という長い期間を経る間に徐々に彼らの発音につられていった。むろんアルティア人もまたアルバザード人につられてＣＶＣを発音できるようにはなっていったが、こういった事情で両者は発音の面で徐々に近づき、結果的に μɑ のころのアルカと比べて子音連続にシュワーを挟む傾向が強まった。　μɑ と ul と ıl の発音の違いを具体的に比べてみよう。　μɑ: nɔɑ ſə = nɔſſə, ılle = ıμle, ſə eſ ſɔ = ſəoeſſɔ　ıl: nɔɑ ſə = nɔɑɑɑ ſə, ılle = ılle, ſə eſ ſɔ = ſə eſſ ſɔ　μɑ 式の発音が正式なので、ミロクはこの発音を奨励した。しかしそれを実践できたのはミロクの影響を強く受けた都市部に限られる。とりわけ若者、しかも学力の高い人間に限られた。農村部の人間や老人、あるいは都市圏でも学力の低い人間は革命前の ul 式で話すことが多い。紫苑がレインに出会ったとき、レインの ſə eſ ſɔȣ が「トゥウェット」に聞こえたことからも、レインが ıl 式で話すインテリな都会人であることが伺える。　なお、ıl 式で話す人間でも自然と μɑ 式に近くなることがある。それは早口で喋る場合で、これは調音上の関係で自然とそうなるためである。　ミロクが権力をアリシアに移譲すると、アリシアは μɑ 式の普及を諦め、ıl 式で妥協することにした。とはいえ、ıl 式ですらまだ大都市圏にしか広まっていなかった。　アリシアはメディアを巧く利用し、本来は ul 式を「古臭くてダサいもの」と広告し、ıl 式を「都会的で洗練されたもの」として打ち出した。もともと ıl 式は μɑ 式から自然発生したものなので、本当に古臭いのは ıl 式なのだが、アリシアの打ち出し方は見事であり、メディアを通して ıl 式は徐々に全土に広まっていった。　時代が下って ls になると、ıl 式は一部の農村等を除くほとんどの地域で浸透していた。μɑ 式への原点回帰には至らなかったものの、妥協的産物である ıl 式が普及されたというわけである。結果、lecn は「レイン」と発音されるようになった。　＜現実では＞　９１～１０ごろまでは上記 μɑ 式で発音された。子供らのアルカが上達していく過程で大人たちが言葉を教えようとしてゆっくりハッキリと話すシーンが何度も見られるようになった。その結果、ＣＶＣＣのような音韻構造もＣＶＣqＣのように発音される機会が増えた。もともとこの形式はゆっくり話すときに見られた傾向で、古から存在した。ところが子供に教える関係でこの形式の頻度が急増した。　それを受けて徐々に ıl 式に変化していった。セレンがハッキリ自覚したのは１１年ごろの話である。１１年ごろにはメルらとの会話でも ıl 式を使っていることを自覚した。どうもエンナ嬢などの聞き取りにもこちらのほうがいいという話を聞きつけたセレンは、１１年の春に ıl 式を正式な発音と定めた。　なお、地球では ul 式というのは存在しない。　ＨＰではアルカ耳などは主に μɑ 式で収録されている。このころはまだ μɑ 式が正式だったためである。１１年以降は ıl 式を使うことだろう。

ɑɔs ［動詞］ɣəl をしごく、しごく、扱く、しこしこする、シコシコする、シコる、しこる ［婉曲］男のオナニー← ɑɔlſ ［類義語］ɑɔlſ、dlıſ ［レベル］3 1L:ɑɔl

ɑɔl ［格詞］～の間、～の期間 ［名詞］期間、区間 ［レベル］2 μɑ J0:ɑlɔ（期間）:ılıʅſı: 執行猶予　参考 : 古 :hɥı（期間）　hɥı:hɥı:ɥıl ［用例］ın lıſ ʅıſees ɑɔl lcɒμnıʅeı. 冬休みの間はカテージュにいた。

ɑɔlſe ［名詞］ミリアとマユの総称、フォルテ ［レベル］2 J1:ɑıl/ɣənſe。ɑıl は光で、明るいの意味。ɑıſe だと ɯıſe に似るため。 ［文化］ɑμecnſ

ɑɔʅ ［名詞］倍、２倍、二倍 ［音楽］フェルマータ ［類義語］hınſ ［反意語］ſcɑı ［レベル］2 1L:ɑɔʅ:1̚ʔ: 制 ［語法］「～倍」と「～分」は hınſ と ɑeȷſ を使って表現する。一倍は ʅɔhınſ、二倍は ſıhınſ、三倍は uchınſ、四分は uılɑejſ のように。ただし日常生活では圧倒的に二倍と二分（半分）の頻度が高いため、これらは ɑɔʅ,ſcɑı と固有の語を与える。なお、３分の２倍のような厄介な数は uc ən ſı ɑɔʅ のように書く。

ɑɔlȷ ［軍事］［名詞］キャタピラー、キャタピラ ［レベル］3 ul ȷɔμn

ɑɔln ［美容］バンド、束ねるゴムや紐、髪ゴム ［レベル］2 lıʅſı: 本来は髪を束ねるものだった

ɑɔlen ［接続詞］ɑɔl ［レベル］3 J1

ɑɔcl ［形容詞］早い ［名詞］ある期間や区間や範囲のうちの前半の方。 ［類義語］uıɑ、ɒıd ［反意語］lecl ［レベル］1 μɑ:ıɒıuel;ɑıil.ʅ J̚ʔ:ıɒıuel。アマヴェルの初の造語 J̚_ɒcʅ_scl。 ［語法］ある期間や区間や範囲のうちの早い方ないし前半の方。早起きなどの「早い」に相当。 ［用例］ın ɒɔʅ uın ɑɔclel cɒ ɑcȷ. lcɑcılʳ 今日は早く寝る。おやすみ！　ɑcn ın ʅənıſ ɑeʅlc ɑɔclel, ʅıl ȷıen ınſeȷ eȷ ɔnʅ enſɔ ın lıſ ɑcl ıl ez le ʅıl ıμ ȷcl ɣə ʅı. 塾に早く来たけど、自分らの前のクラスがまだ続いていて、自分の授業が行われる教室に入れない。

ɑɔclʅıɑſ ［名詞］早番 ［反意語］lecʅıɑſ ［レベル］5 J̚ʔ

ɑɔclneſ ［再帰動名詞］早起き ［レベル］3 J̚ʔ ［文化］６時より前に起きることを指す。アルバザードでは１２時に寝て６時から７時半に起きる。７時間半睡眠が最良とされ、６時間は短いに入る手前の限界値とされる。　早起きは三文の得という概念はない。寝る時間が変わらない限り短眠につながり、不健康。短眠健康法はアルバザードでは不評。また、早く寝て早く起きるというのも好まれない。ただし子供は１０時台に寝ることがある。 ［成句］ɑɔclneſ leɑ en dcſı eſ ıɑeſ nɔɑ leclneſ ɔlen dcſı. 遅く起きて薬を飲むより、何も飲まずに早起きするほうが効果的 : 朝起きは三文の徳 ［用例］ɑɔclneſ eſ led. 早起きするのは難しい。　ın cʅ nɔſ ı ɑɔclneſ. 早起きに慣れた。　☆ ın ıμ nelſ ɑɔclneſ. 早起きの習慣がある。　ın ɯıμıe ɑɔclneſ ılhıl. 私が最も嫌いなのは早起きだ。　☆ el eɒ ʅıφ ɔn ɒel ɔl ɑɔclneſ. 早起きすれば時間に余裕が生まれる。　ın nıſ ʅcn ı ɑɔclneſ cɒ ȷɔı ɑıμ ȷɔμſ. こんなに寒い朝は早起きが辛かった。

ɑɔce ［動詞］ɣəl を馬鹿にする、馬鹿にする、バカにする、愚弄する ［類義語］ılejȷ ［レベル］2 ɑu;e 古

ɑɔcȷ ［工学］レール ［レベル］5 J1:ɑɔnſ/jcz

ɑɔcȷɒɣəſ ［工学］軌間、ゲージ μſ;/ J̚J̚ ［語法］鉄道の線路を構成する左右のレールの間隔。

ɑɔcn ［美容］シニョン、シニヨン ȷɒ;ɑɔſ/ncı「紐で結んだような髪」 J̚J̚ ［文化］ȷɒでできた。主に貴族の女性用。

ɑɔcnı ［音楽］調、キー ［レベル］4 J1:ɑɔ/nı

ɑɔcle ［言語］『制アルカオノマトペ』 ［レベル］5 古 : 原義は ɑɔlecȷſ（音の本）。ソーンに同書を解禁したときにソーンが命名した。

ɑɔe ［名詞］爆薬 ［レベル］3 1̚ʔ: 制 :ȷıɑ:ɑıcıhɔe（爆発に使う粉）

ɑɔen ［接続詞］ɑɔ ［レベル］3 J1

ɑɔə ［名詞］２～３ ［形容詞］２～３の ［類義語］ılɑɔə、ſcə ［レベル］1 1̚ʔ: 制 : 古 :ɑɥɔə（ə（１）/ɥɔə（２）から） ［語法］前置すると基数で「２～３の」、後置すると序数で「２～３番の」。

ɑɔəſ ［音楽］音程 ［レベル］3 J0:ɒelcɑcı lcɒμ:ɑɔ/ɒɣəſ ［用例］ʔ ɑɔəſ ３度の音程　ɑɔəſ hıcſ 低い音程（低い音階への音程）

ɑe ［名詞］各々、各自、おのおの、それぞれ ［形容詞］各々の、それぞれの（前置） ［レベル］1 1̚ʔ: 制 : 恣意 ［語法］指示として使う場合は前置。 ［用例］ſə ez ſcl ˩ ɔɒc. μe hɔɒ ɑe. この部屋には窓が２枚ある。それぞれ開けなさい。

ɑe,ɑ ɑen ɑc,ɑ.ʅ

ɑeſ ［名詞］効果、働き、効能、薬効、霊験 ［レベル］3 古 ［用例］ſcl ɑeſ ɔn{ı} ～に効果がある

ɑeſıμſɑel ［魔法］効果魔法学 ［レベル］5 J1 ［文化］ɑɔlɒcɥə

ɑeȷ ［動詞］ɣəl を間違える、間違える、ミスる、しくじる、しくる、まちがう、間違う ［普通動名詞］失敗、あやまち、過ち、ミス、エラー ［レベル］2 1L: 恣意 ［文化］ミスを見つけたらはなるべく早く報告せよというのが常識になっている。それを実践するために、アルバザードではミスをした人を不必要に咎めない。　人のミスを指摘するときは直接言わず、やんわりと仄めかす。ただしハッキリ言ってくれと言われた場合は言う。しかしこの場合でも目をそらして言いづらそうな顔で言うのがマナー。　また、ミスをした人間は速やかに認めて謝罪するのが礼儀。フランスと逆で、アルバザード人はミスを認めることを潔いとする。 ［用例］ın scnȷıſ ɑeȷel. 判断を誤った。　le ıſ ɑeȷ ınſ. 私の過ちだった。　ʅɔɒɔ ın ɑeȷ ıμʅı ılc ɑc cɒ ɑcȷ. 今日は何故かアルカをよく間違える。

ɑeȷſ ［動詞］ɣəl を c から剥ぎ取る、剥ぎ取る、はぎとる ［数学］［接続詞］割る、÷ ［数学］［動詞］ɣəl（数）を割る、割る ［数学］除法、割り算、除算 ［類義語］ſcɑı ［反意語］hınſ ［レベル］2 1̚ʔ: 制 : 古 :ɑəſɔȷıbe（服を取る） ［語法］ſcɑ

ɑeȷſzed ［数学］割り算 ［レベル］2 J1

ɑeȷſın ［数学］割る数 ［レベル］2 1L

ɑeȷſılʅ ［数学］約数 ［レベル］3 1L

ɑeȷſɔl ［数学］割られる数 ［レベル］2 1L

ɑeȷſen ［数学］商 ［レベル］2 J1:ɑeȷſ 属格 ［語法］ɑɔlen

ɑeʅ ［名詞］メディア、媒体、媒介、仲介、仲介者、なかつぎ、中継 ［物理］媒質、メディアム ［レベル］4 1ⅰ: 制 :elcȷ

ɑeȷlınſ ［普通動名詞］誤送、送信ミス ［レベル］4 1L

ɑeȷn ［動詞］ɣəl を ı に解放する、解放する、逃がす、放す、放つ、手放す、レリース、リリース、放出する、明け渡す、あけわたす ［普通動名詞］解放、リリース ［レベル］2 1ⅰ: 制 l:ɑɔȷ（捕まえる） ɑɔſȷ:ɑɔſȷ ［用例］ȷen ɑeȷn nɔn. 放して、離して

ɑeȷnȷelej ［魔法］生霊、生き霊 μɑ;/「解放されたセレス」 ［レベル］4 J̚ʔ ［語法］生きている人間の霊魂が体外に出て自由に動き回るといわれているもの。

ɑen ［形容詞］短い ［美容］ショート ［反意語］ɑcl ［レベル］1 1̚ʔ: 制 : 古では ɑe　ɑe:ɑe:ɑennel:ɑ eeləȷ,ılſ

ɑenʅ ［名詞］革、皮 ［レベル］3 ɑ;e lıʅſı

ɑenlhɔnɟ ［アイテム］レザーアーマー μɑ;/ ⌋⌋ ［文化］ 神代で作られた。革の鎧。

ɑenlı ［文字］羊皮紙 ［レベル］4 ɒelſcı ⌋ᴾʔ:bɛμſ;ɑenl.l ⌋ʔ

ɑennc ［動物］マンチカン ［レベル］6 ⌋1: 短足猫

ɑenncı ［美容］短髪 ［レベル］3 1L

ɑennel,ɟzɑ ɑen

ɑenul,ɟzɑ ɑcμ ɑınul.l

ɑenulen ［美容］おしろい、白粉 ［レベル］4 ⌋1:ɑenul/en

ɑenuɔz ［アイテム］ショートボウ μɑ;/ ⌋⌋ ［文化］ zφ で作られた。

ɑenueel ［言語］短音節 ［レベル］6 1L ［文化］ → ɾlıɑ

ɑenɑ ［名詞］革紐、かわひも、革ひも ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɑenlɑɔſ

ɑenɒcɟſcɟ ［被服］［医療］ケーシー、Ｃａｓｅｙ、ＫＣ、白衣、ペン・ケーシー式白衣 μſ;/ ⌋⌋

ɑenɑıμ ［宗教］助祭、ディーコン zφ;「ドアマン」 ⌋⌋

ɑenφ ［動物］クモ、蜘蛛 ［レベル］2 lıl/ı:「８本足の」が原義。 ［語法］ 脚と腕の区別は一般人にはなく、どれも zɪɒ。 ［用例］ μı e ɑenφ 蜘蛛の巣 ɒelc e ɑenφ 蜘蛛の糸

ɑenφμı ［名詞］蜘蛛の巣 ［ネガティブ］アルナなどの円形都市 ［レベル］2 1L:μcɑcı:ıμbıleſſ

ɑendɔlſ ［医療］風疹 ［レベル］4 1⌋⌋: 制 : 短いはしか

ɑenhɔ ［生物］短骨 μɑ;/ ⌋⌋

ɑenɥɔlɔ ［被服］短パン、半ズボン ［レベル］2 ⌋1

ɑenɥɑlɑɟeu ［名詞］小論文 ［レベル］3 μɑ;/「短い論文」 ⌋⌋ ［文化］ 日本では高校以降の科目、とりわけ受験用の課題というイメージが強いが、作文を子供のころから頻繁に行うアルバザードでは、国語の授業中に小さいうちから頻繁に実施されるため、馴染み深い。

ɑenz ［動物］豹、ヒョウ ［レベル］3 1L:ɑenzel

ɑenzlıɑ ［地球の国名］コンゴ民主共和国、コンゴ。コンゴ共和国とは異なる。 ［レベル］6 1L: 国章に豹

ɑenzel ［サール］フェンゼル、残酷王フェンゼル ［名詞］１０時 ［名詞］西北西 ［交通］フェンゼル通り ［音楽］ラ ［象徴］残酷 ［組み数字］１０/１２ ［類義語］ɑez ［レベル］2 ɒelſcı ⌋⌋:ɑenzel;e ɒel: 古 ［文化］ アルミヴァの１０番。サールの右足から生まれた。ネルメスの兄。黒豹に姿を変える。残酷王として名高い。

ɑenzelllıɑ ［地球の国名］ガボン 1L: 国章に黒豹

ɑenzelldɔ ［交通］フェンゼル線 ［レベル］5 1L:ɒelcɑcı ılſe ［語法］ 地下鉄のフェンゼル線。１０時の方向に走る国鉄。

ɑenzelıμſ ［魔法］禁呪魔法 ［レベル］4 1L: 残酷王フェンゼルのような魔法 ［語法］ 残酷なあまり使用を禁止された魔法。全身の痛覚を刺激し、ショック死させる魔法。全身の痒みの神経を刺激し、対象が自らを掻き毟って死なせるようにする魔法。苦しみもがいて死ぬ魔法。これらが禁呪魔法にあたる。神や人間が拷問目的で開発したが、神の時代から既に禁忌されていた。

ɑenzel ılμıl ［人名］フェンゼル＝アルサール ⌋9:jɛμen:lec e lcɔn: 残酷なイメージだったのでフェンゼルにした ［文化］ アレイユのアルタレス。⌋⌋09 年、為政者アルテナに反旗を翻すも、ハイン＝アルテームスにより粛清される。

ɑenzelcſ ［名詞］自己愛 ［類義語］nɔe ［レベル］4 ɑu;ɑenzel/ſe ⌋ʔ

ɑenzeleſ ［色］青がかった緑 ［レベル］4 ⌋J:ɑenzel/ſe

ɑenl ［形容詞］ふわっとした、ふわふわの ［形容詞］気軽な ［副詞］気軽に、気安く ［類義語］ɑlıd ［レベル］3 ɑu;ɑɔueſ 古 ɑenl:ɑenl:ɑlıɑ ［用例］ ɑılɒ ɑenl ふわふわなパスタオル

ɑenlcuμɔ ［名詞］短命 ［レベル］4 ⌋0

ɑenlcl ［化学］クリプトン ［レベル］5 1⌋: 制

ɑenlcl(J) ［植物］ılcjcn ［組み数字］３/９ ［レベル］4 jzl;ɑınſɔɒ/lccſɔ > ɑınlcl > ɑenlcl ⌋1

ɑenlcl(ʔ) ［言語］［文字］標準筆記体、フェンリル書体、フェンリル ［レベル］6 ⌋J:ɑleɑclınj ［文化］ aleɑclınj

ɑenı ［被服］トランクス ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑen

ɑenenıs ［経済］短期金利 ⌋⌋

ɑeul,ɟzɑ ncɒ

ɑeuelſ ［アイテム］戈、か ɑu;/「短い鎌」 ⌋⌋

ɑeɑ ［形容詞］薄い。厚いの反対の薄い ［反意語］dɔd ［レベル］2 @ 1L ［用例］ ☆ ın ɟıbıſ ɟıb ɑeɑ. 涼しい格好をした。

ɑeɑlleſ ［名詞］小辞典 ［レベル］6 μɑ;/ ⌋⌋

ɑeɑcφc ［アイテム］ショートスピア zφ;ɑe/ɑcφc ⌋⌋

ɑeɒ ［動物］鶏、ニワトリ ［美容］モヒカン ［レベル］2 lıl/ı

ɑeɒſ ［魔法］［言語］［文字］フェムト ［ユマナ］ルーン、ルーン文字 zφ ⌋⌋ ［文化］ 現フレディスク地方に残された謎の表音文字。

ɑeɒɒcue ［動物］ひよこ、雛、ヒヨコ→ ɒcue ［レベル］2 μɑ;/ ⌋ʔ

ɑeɒɥel 鶏肉、鳥肉 ［レベル］2 ⌋⌋

ɑeɒlɔhɔ ［アイテム］コリント式ヘルム μɑ;/。鶏冠が鶏のように見えることから。 ⌋⌋ ［文化］ zφ で作られた兜。初期は耳を覆っていたが、命令を聞き取りにくいので後に耳の部分は露出した。

ɑeɒı ［名詞］いつか。１年以上。 ［副詞］いつか ［レベル］2 @ 1L ［語法］ ɑclɑə

ɑeɒe ［名詞］時代、年代 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :cɑeɒel（年老いたメル） ［語法］ ●１５時代 創成期から転生期まで、ɑcıl, ıμſeɒ, uıjſe, ɾlıuıj, ızφeμ, ɒeμſenı, lılɔ, jelbel, ıμɑcı, nıɑcı, ıμſcl, uelec, ılecuə, lıns の時代に分かれる。 uelec と ılecuə はまとめて lecuə という。 時代にはそれぞれ副題がある。

時代	副題	読み	略号
ɑcıl	創世の詩	そうせいのうた	ɑl
ıμſeɒ	黎明の燈灯	れいめいのともしび	ſɒ
uıjſe	悪魔の愁訴	あくまのうったえ	uj
jıμcı	幻神の午睡	かみがみのうたたね	jμ
ɾlıuıj	黄昏の御子	たそがれのみこ	ɾlu
ızφeμ	邑咲の幽茉	むらさきのゆうま	zφ
ɒeμſenı	夕月の嘱矢	ゆづきのかぶらや	ɒſ
lılɔ	紅姫の憂鬱	こうきのゆううつ	ll
jelbel	朔夜の架橋	さくやのかけはし	jɒ
ɔμɑcn	守護の御使	しゅごのみつかい	μɑ
nıɑcı	悠久の凪砂	ゆうきゅうのなぎさ	nɑ
ıμſcl	邂逅の再演	かいこうのさいえん	μſ
uelec	梟首の大獄	きょうしゅのたいごく	ul
ılecuə	聖刻の歓待	せいこくのかんたい	ıl
lıns	転生の詠	てんせいのうた	ls

●時代区分 二分法と三分法と細分化の三種類がある。 ・二分法（μɑ の時代に作られた区分） ɑl_ɾlu:ɒcμɒel: 神代 zφ_ls:lınɒel: 人代 ・三分法（ul の時代に作られた区分。日常的には三分法が一番よく用いられる。後に ls の時代に三分法は１５時代を３＊５に綺麗に分けられる区分法だと評され、再評価された） ɑl_ɾlu:ɒcμɒel: 神代 zφ_μɑ:ıμſɒel: 魔法代 nɑ_ls:ɑlıɒɒel: 獅法代 ɑl_μɑ:jcɑɒel: 古代。古代は神代と魔法代を合わせ、獅法代と対立する概念。 ・細分化（ıl の時代に作られた区分） ɑl_ɾlu:ɒcμɒel: 神代 zφ_l1:lɔnſɒel: 上代 jɒ_μɑ:ɒıɒeſɒel: 中世 nɑ_μſ:φoıcnɒel: 近世 μſ_ul:heſſeɒel: 近代 ıl_ls:dcuɔnɒel: 現代

ɑeɒeſ ［単位］瞬息 ⌋1:ɑeɒ/ſe

ɑeɒelel ［形容詞］［ネガティブ］時代遅れの、時代錯誤の ［類義語］ɑeɒejcɑ ［レベル］3 ⌋⌋

ɑeɒelec ［形容詞］［ネガティブ］時流に乗ろうと必死な ［類義語］ɑeɒejıɒ ［レベル］3 ⌋⌋

ɑeɒejıɒ ［形容詞］流行の、最先端の、新時代の ［レベル］3 ⌋⌋ ［語法］ ネガティブな場合は ɑe ɒelec。

ɑeɒejıcn ［歴史］時代考証 ［レベル］4 ⌋⌋

ɑeɒejcɑ ［形容詞］昔ながらの、時代遅れの ［類義語］ɑeɒelel ［レベル］3 ⌋⌋ ［語法］ ネガティブな場合は ɑeɒelel。

ɑeφ ［植物］ネギ、葱 ［レベル］2 1⌋: 制 : 恣意 ［用例］ "ſe μenɟ ɑɔɔɒı, ſe μenɟ ɑɔɔɒı, ı nɔn ı. nɔn μenɟ nıın ſe ɑɔɔɒı ſcɟjɟe, ɑcen ɒɔn nɔn jccnı ɑeφ ılc ſcn ſcn" ♪アホの子アホの子言わないで～。私そんなアホじゃないよ。ちょっとネギは好きだけど（初音ミク）

ɑed ［動詞］ɥel を ı に放り投げる、放り投げる ［レベル］2 ſɒ;ɑɔueſ lılſı ［成句］ ɑen ɑed ふざけるな：物を投げるなというのがリーザの決めた男子の７禁のひとつ。赤アンクノットにも書いてあるので相当古い。そこから転じて「危ないのでふざけるな」→「ふざけるな」の意味になった。日本語と同じく、「きゃっきゃ騒ぐな」の意味だけでなく、「おい調子のんなゴルァ」の意味にもなる。 ı ɒeſ 参照。

ɑebcſ ［動詞］ɥel を ı にやる、やる、くれてやる、与える ［類義語］ɑcſ ［レベル］2 ⌋0:μcɑcı: ルシアが物を投げて渡すのを行儀悪いと怒り、その行為を「放り投げる」の ɑed と「与える」の ɑcſ から痕跡語にしたもの。ɑedcſ になった後、母音に同化して有声音になっている。 ［語法］ ɑcſ のぞんざいな言い方。また、ぞんざいな与え方の ɑcſ という意味もある。従ってユンクも使うが、その場合は「誰それが ɑebcſ してきて嫌だった」というように、自分以外の誰かが ɑebcſ することになる。

ɑeμ ［形容詞］安い、安価な ［類義語］lclcφıμſ、ɒɔcuelɑ ［反意語］ɑılſc ［レベル］2 1⌋⌋:jeμen:lllel:ɑ ɔμ:jɔμn:ɑılſc ［用例］ ın lılıſ ɑeμen uecn. もっと安いのがほしかった。

ɑeμſ ［経済］輸入 ［言語］借入、借用 ［類義語］ſıə ［反意語］llenz ［レベル］4 ⌋0:jɔμn:dɑeμſ

ɑeμlız ［経済］ストップ安 ［レベル］6 ⌋⌋

ɑeμɔlſ ［経済］ソルト安 ［レベル］6 ⌋⌋

ɑeμn ［名詞］プラチナ、白金 ［レベル］3 ɒelſcı ⌋ᴾʔ:φclcəj;e jɔμn ［文化］ 銀よりも魔力の伝導率が高く、金属の中で最も魔力の伝導率が良い。最も神聖な金属とされるが、稀少。

ɑeμndıɑc ［魔法］白金橋 ［レベル］6 ⌋1 ［文化］ nɔlɒcɥə

ɑeμnlcl ［化学］白金→ ɑeμn ［レベル］4 1L

ɑeμɒıſ ［アトラスの国家］フェルマット ［レベル］5 1L:μcɑcı: 安住の

ɑeμɑen ［サール］フェルデン ［レベル］4 ɒſ100'⌋000(uj):dɔen; 古 ［文化］ 闇を司る。悲壮な最期によって恋愛の神にもなった。ティクノとポエンの娘。ダルケスと駆け落ちし、ルフェルに殺される。厳密には兄ダルケスを失ったフェルデンが、ダルケスを殺したアルデスを恨み、アルデスを倒してもらうため、自分の命をルフェルに差し出した。フェルデンはセレスティアを行い、自分のセレスをルフェルに差し出して死んだ。フェルデンは白人系の美少女で、金髪でふわふわの長髪、淡い青のドレスを着ている。髪にはヘアバンド。 ［成句］ ıl ɑe μɑen 恋する者に幸あれ

ɑeμφıμſ ［経済］安値 ［レベル］3 ⌋⌋

ɑeμdıμɒ ［ユマナ］［経済］円安 ［レベル］6 ⌋⌋

ɑeμμıſſɔ ［ユマナ］［経済］ドル安 ［レベル］6 ⌋⌋

ɑeμılɒ ［化学］灯油 ［レベル］3 1L ［文化］ アルティル末期からレイユ前期に燃料として利用されるようになった。当時主流だった鯨油よりも安価だったため、このように呼ばれた。しかしレイユ後期では環境問題を考え、灯油の使用は大きく制限されている。 ［用例］ ɑcſ{eu} ɑeμılɒ 給油する

ɑeμınlcl ［ユマナ］［経済］ユーロ安 ［レベル］6 ⌋⌋

ɑeμcnl ［名詞］にかわ、膠 ［類義語］sıe ［レベル］5 ɑu;ɑeμcı/ɑenl「煮た皮」。皮を煮て作ったことから。 ⌋ʔ

ɑeμcı ［料理］［動詞］ɥel を煮る、煮る、にる、煮込む、煮こむ ［レベル］2 ɑu; ↓ 1L:μcɑcı:ıμbı lelſ ←古 ɑıc/eμcı（熟い水）

ɑeμcıjſel ［料理］煮物 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbıleſſ

ɑeμej ［形容詞］ランダムな、無作為な ［類義語］ləɒcɒ ［反意語］ılɑeμej ［レベル］3 ⌋0:ɑeelμejſ（運命に采配された） ［語法］ 恣意は「単語の語源がきちんと定まっておらず無意味な語形を当てられている」というように使い、そうあるべき流れのないことを指す。ランダムは選定基準がなく、単に任意のものを選ぶことを指す。 ［用例］ scφ ıll ɑeμejel 数字をランダムに選ぶ

ɑez ［サール］aenzel の略称 ［組み数字］１０/１２ ［レベル］1 ⌋⌋

ɑeɑııl ［アイテム］ホーマンズフレイル μɒ;/ ⌋⌋

ɑel ［普通動名詞］勉強、勉学 ［動詞］ɥel を勉強する、勉強する、学ぶ、習う、倣う、まねぶ、真似ぶ ［名詞］学問 ［名詞］学業 ［類義語］ɥelɑ ［レベル］2 ɑu;ɑe/ıl「手近な」。ləlɔ に対して独学で学ぶことを最初は指した。やがて ləlɔ に取って代わり、学ぶこと全般を指すようになった。 1ʔ: 制 :ɑɔl。制からだが、フィルヴェーユで既に ɑel。 ləlɔ,ɑ ɑel,ɑu:ɑel ［文化］ → ıμ ɒeſcı 学問は uccɑɑel, ılueɑɑel, ɒclɑɑel の３種に大別される。 ［用例］ ın ɑel ılɑ. 私は数学を学ぶ。 ın ɑelɔμ ılɑ. 私は今数学の勉強をしているところだ。 ın ɑelıſ ılılſ nɔu cɒ ſɔl el, jɔn ın neſıſ ucl uıɑel cɒ ɑcj. 昨日は夜遅くまで勉強していたので、今朝は早く起きられなかった。

ɑelſ ［数学］分子 ［レベル］3 1ʔ

ɑelſe ［遊離副詞］［形容詞］たいてい、ほぼ、頻繁に、大抵 ［類音］ɑeleſ ［レベル］2 ⌋0:ɑeel/ſe（運命のように） ［語法］ ılləəſ

ɑelı ［名詞］学校 ［電算］ハッシュ。例えばレインは「アルナ大のリディア組」と考えると、アルナ大がハッシュで、リディア組がキーとなる。このように考えるとハッシュを理解しやすいことから付けられた。 ［類義語］lıl⌋ı ［反意語］ɑelſc ［レベル］2 1ʔ: 制 ［語法］ ⌋ɔɑel ［文化］ → ɑelnɔɑ, lezlnınſ, μılſ 小学校、中学校、高校、大学、大学院がある。２歳から小学校がスタートするので、日本語に比べ、年が若くなる。例えば中１は５～６歳が通う。学年は３・４・５・６制。１年の違いが大きい若い子供ほど、細かい年数で区切られている。大学は前期と後期に分かれる。 小中までは学業よりも家庭での躾を補強することに注力される。学業優先になるのは高校以降。 教師の権限は高く、生徒は極めて従順である。生徒の個性を引き出したり可能性を発見することはせず、秩序と知識を与えることに徹する。ただ、フランスの教師ほど徹底しておらず、多少は甘いことを言ったりフランクに生徒と話したりする。 体罰は認められているが、高校になると生徒側がもう大人しく座って聞くことに慣れているため、高校以降は体罰はほとんど見られない。日本と違って、学校が荒れるという現象は見られない。小学校のころから厳しく教師に従い理性的に振舞うように教育され、不適格とされた子供は放校になるためである。 男女は共学で、休み時間などは仲良く混ざって話す。男女別のグループになることはない。ただし履修科目は男女ごとに異なることがあり、例えば男子はふつう剣術を修めるが、女子はふつう薙刀を修める。 教師と生徒の淫行はまず見られない。アルバザードの教師は権限が強い分、その気になればいくらでも少女を弄べるが、非常に倫理観が強く優秀な人間が教師に選ばれるため、そのような事件は起きない。教師自身が子供時代に徹底した徳育を受けているため、立場の弱い少女に手を出すようなことがない。その辺りは国民性もあるかもしれない。インプレンに行けば合法かつ安価に少女を買えるので、日本と違ってフラストレーションが溜まらないことも一因だろう。 また、教師と生徒が恋愛をすることも稀である。教師と生徒は完全に上下関係であり、アルバザード人にとって恋愛は水平関係であるため、原則として教師は生徒に恋愛感情を抱かない。同様に、生徒も教師を尊敬するが、恋愛感情は抱かない。 部活動はあるが、参加は義務でない。部活は μɑ の名残で中学から始まる。ただし現在の中学は当時の中学と年齢が異なる点に注意。 アルバザードの学校は徳育を何よりも重んじ、知育をその次とする。進学校になると流石に知育の割合が大きいものの、進学校にいく生徒はその前段階で厳しい躾を乗り越えてきている。 ［用例］ ɑelı ej hɔɔ cɒ ɑcj. 今日は学校がある。 ɑelı ej ɑeɥə ɒcl ejl ɑɔſ. 豪雨で学校がお休みだ。 ⌋e ɑelı 学校に通う。学校に行く ſıl lııl ınſ lənı elɑ ɑelı ınſ, dın ɑelı ſ'ıbel ſın ıμ jcl ſə cɒ ⌋ejſ ɔ ɑelı ınſ lı ɑlɔn μı. だが明日は妹の学校もそれ（授業参観）をするし、ウチの学校は家から遠いので、母はウチの学校には来ない。

ɑelıuφı ［名詞］外弁慶、学校弁慶 μɑ;/ ⌋ʔ ［語法］ uφı

ɑelıɑɔnl ［名詞］不登校 ［レベル］3 1L

ɑelılec ［名詞］学級文庫 ［レベル］3 μɑ;/ ⌋ʔ

ɑelſc ［名詞］塾 ［類義語］lıl⌋ı ［反意語］ɑelı ［レベル］3 1⌋⌋: 制 : あまり対な感じがしないので単なるアプラウトとして残した。 ［文化］ 年齢にもよるが後期大学生より下の学齢だと夜遅くに出歩くことができないため、ネットを使った通信授業を行うところと、親が車などで出迎えにくる学校型の２種がある。東区の富裕層はそれでもよいが、西区の庶民はなかなかそうもいかない。そこで西区の場合はまとまって住んでいることを利用し、日本の幼稚園同様送迎バスを出すいうサービスを行っている塾もある。 ［用例］ ın ⌋e lıɑ. ɑelı cɒ elſjel, ɥın ɑel

ʎc cɒ ɟɪɪʎel. ɪn ncɪn ucl.... 土曜は学校だし日曜は塾に行かなくちゃで休めない……。　ɟɪɪ, ɪn pɔʔ uɪn, ɒɪn ɪn ʎe aɪl aelʎc cɒ aliuce e ʎeɟʃ. さて明日も朝から塾だし寝よう。　lɪl e aelʎc cʔ ſɔɔʔ. 塾の授業が終わった。　ɪn ʎe aɪl aelʎc cɒ acɟ. 今日は塾に行かねばならない。　ɔl ɪn lə̀ɔ ucl aelʎc ɟɪ ez ɪnſej eɒ hɔɒ, ɪn ſɪa ucl ɟ)cſ ɟɪſ. 教室が開く前に塾に着かないと良い席が取れない。

aelʎeɟ ［普通動名詞］修学旅行、林間学校、臨海学校、研修旅行、お泊り会、おとまり会 ［動詞］ɥel に修学旅行に行く、修学旅行に行く ［レベル］4　ɟſ;/「(企業などの）学ぶ目的の旅行」ないし「学校で行う旅行」 JM ［用例］ɪɒel aelʎeɟ ʔɥɔɔʔɔ c acɟ. 今日妹が修学旅行で京都に出発した。

aelʎc ［名詞］放課後 ［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

aelɟ ［被服］制服、学生服 ［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ:aelɟɪb

aelɟɪnɔ ［名詞］時間割 ［レベル］2　1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelſ

aelɟɪl ［名詞］校長 ［レベル］2　1L

aeln ［交通］タクシー ［レベル］2　zφ;元の意味は辻馬車で、ɟſでタクシーになった。　lɪ̀ʔɪ́ x:aeln ［用例］ɪn ʎeſ aelʔɪ uɪlel ʔɔn aeln. タクシーに乗って急いで学校に行った。

aelnca ［名詞］学年、学齢 ［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ ［文化］

就学中に必ずこの年齢を迎える	教育年数	学校	学年名	日本での呼称
３歳	１年目	ſcnʔɪ	ɟleɪ	なし
４歳	２年目	ſcnʔɪ	bɾleɪ	年少
５歳	３年目	ſcnʔɪ	ſɟeɪ	年中
６歳	４年目	acɪnʔɪ	ɪʎſe	年長
７歳	５年目	acɪnʔɪ	aleɪ	小一
８歳	６年目	acɪnʔɪ	ɪlcɟ	小二
９歳	７年目	acɪnʔɪ	lceɟ	小三
１０歳	８年目	lɪzʔɪ	ɒcɟφc	小四
１１歳	９年目	lɪzʔɪ	hɪneɟ	小五
１２歳	１０年目	lɪzʔɪ	ʔɪɟɪn	小六
１３歳	１１年目	lɪzʔɪ	ɪɪle	中一
１４歳	１２年目	lɪzʔɪ	ɪlɟɔn	中二
１５歳	１３年目	ɒɪnʔɪ	ſoɪɟ	中三
１６歳	１４年目	ɒɪnʔɪ	ɪɟhɪn	高一
１７歳	１５年目	ɒɪnʔɪ	nɪɟſe	高二
１８歳	１６年目	ɒɪnʔɪ	lɪɟſ	高三
１９歳	１７年目	ɒɪnʔɪ	ləɟɔn	大一
２０歳	１８年目	ɒɪnʔɪ	ɒcɟl	大二
２１歳	１９年目	lɪnſcʃʔɪ	hɪrlɒɪ	大三
２２歳	２０年目	lɪnſcʃʔɪ	ɟɟccʔɪ	大四

注意点　●学年の切り替わりはメル暦の年始。従って日本でいう 11/10 ごろ。M 月に切り替わる日本とはズレがある。　●日本では同級生でもアルバザードだと学年が異なるというパターンがある。逆も然り。　●教育年数は最大 J0 年。　●日本の院生を言いたいときは、dɪ ɒɒlɪnſcʃ、dɪɒhɪrlɒɪ、dɪɒɒɟccʔɪ などとする。修士１年は ɟlſ 1 e dɪɒhɪrlɒɪ。　＜ミロク革命前＞　革命前は日本と同じ６・３・３・４制で、学齢開始年齢も日本と同じ。ただし４月でなく１２月ごろからのスタートとなる。大学は ʔɪcael で、学年の呼称も nca M（四年生）のように数字で呼ぶ。

aelncarɔɔʃ ［名詞］学齢厨 ［レベル］6　ɪl;/　ʃ̀ ［語法］付き合った子やセックスした子の年齢をやたら気にする人種のこと。

aelnɔɪ ［人名］フェルノア ［組み数字］8/１３ ［天文］フェルノア座 ［アクセント］aelnɔ↑ ［レベル］3　先 :ɪnɔ:ennɔə ［文化］第４期３代ソーン第８使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

aelnɔɪ(J) ［人名］フェルノア ［アクセント］aelnɔ↑ 1Δ:jeɒen ［文化］『夢織』の登場人物。アリスの妹。

aelnɔɪ(?) ［名詞］明晰夢、フェルノア← lɪ̀llɔnɑ ［類義語］lɪ̀llɔnɑ、lɔnɑ ［アクセント］aelnɔ↑ ［レベル］4　ɪl;aelnɔ.ʔ ʃ̀ ［文化］→ lɪɑcɪ lɪɪd

aelue,jzɑ lɪc

aelueɟ ［丁寧］［料理］お菓子、菓子、スイーツ、甘味、スウィーツ、フェルヴェール ［俗語］スイーツ（笑）、バカ女、馬鹿女、メディアリテラシーの低い女 ［類義語］lcɪ ［アクセント］aeluɛɟ ［レベル］3　jzl;aelue ［語法］特に甘味のみを指す。例えば煎餅は lcɪ であっても aelueɟ ではない。ザラメせんべいは入るかもしれない。　［文化］俗語に関しては日本とでき方が同じ。ul において lcɪ と言えばいいのに気取って aelueɟ と言ったり、「小悪魔系」とか「自分へのご褒美」などと嘖飯物な見出しを立てる女性誌が相次いだ。そういった馬鹿で生意気な女 φenφ 例に漏れず男性から「死ねよｗｗｗ」とバカにされてできた俗語。　［用例］ɒcɟ ɒcɟʃ uɔɟʃ, aelu eɟ (ɪɪɪ スイーツ死ねよｗｗｗ

aelɒ ［動詞］ɥel を ɔʔ と分業する、分業する ［普通動名詞］分業 ［レベル］4　jɔɟn

aelɒ,jzɑ jeel

aelɒʔɪn ［生物］［医療］衝脈 jzl;/。流注が正中線上にあることから。　JM

aelɒɪſ ［名詞］神秘 ［形容詞］神秘的な jzɑ JM x:aelɒɪſ:lə aelɒɪſ

aelɒɪſʔɪn ［哲学］神秘主義 ［レベル］5　ɟɑ;/　JM

aelɒcɑɪ ［名詞］還暦、６０年、フェルミヴァ ［レベル］4　ɟɑ;aelcɟ/ɪɟɒcɑɪ　ʃ̀ ［文化］十干と十二支（干支）の最小公倍数の６０で還暦となる。アルバザードでも十徳とアルミヴァの組み合わせで６０が用いられる。１２０にならないのは、平均寿命が８０才程度の人類の年を数えるのに役に立ち辛いためである。

aelɒel ［名詞］学習時間 ［レベル］4　1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelſ ［文化］学校と会社はほぼ同じ時間に始まって同じ時間に終わる。つまり、七、八時から始まり、昼に二時間の休みを経て五時に終わる。実働は七時間である。休みは週二日である。ゆえに週三十五時間の学習時間が設けられる。詳細は通勤と同じ。

aelɒec ［名詞］クラスメート ［類義語］ʔɔʔɟɪcɒ ［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

aelφɪɟſ ［名詞］授業料 ［レベル］4　1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelſ ［文化］授業料は主に税金から出る。

aeldɪnſ ［名詞］教科、科目、学科 ［レベル］2　J0 ［文化］教養科目（ʔɔlɔdɪnſ）と実技科目（pɪcɪnd ɪnſ）に分かれる。ſcnʔɪ では実技科目しか行わない。　教養科目は国語（nɔɟ)ɥen）、社会（acɪ）、算数（ɪlɑ）、理科（ɑɥeef）の４科目に分かれる。これを基本科目（zeʔſdɪnſ）といい、以下の「歴史」などの下位概念を応用科目（zɔʔldɪnſ）という。　国語は文学（jeɒ）と言語（elɑ）に分かれる。文学は現代文（jɪɒjelɑ）と古典（jcɑjelɑ）に分かれ、言語は文法（uez）と表現（uɔlſ）に分かれる。acɪnʔɪ までは（実際には lɪzʔɪ も）文学と言語という科目名で大雑把に学習する。　社会は歴史（jeſ）、法律（ʔɪlə）、政治（uelɟ）、経済（ɪul）の４科目に分かれる。acɪnʔɪ までは社会の科目でそれぞれ少しずつ学習する。政治や法律で戸籍の登録の仕方、税金のシステムなど、役所に行ったときに後々役立つ知識も学ぶ。　算数と数学は区別しない。lɪzʔɪ から数学論（ɪlɑɒccɟ）、算術（zedɔɔ）、経営（ɟcef）に分かれる。数学論は代数学（jɪnɑel）、幾何学（dɪɒɔɑel）、数論（lɪnʔ ɪɑel）に分かれるが、分けて教えても分かりにくいので、適宜混ぜて教えられる。算術はインド式計算ドリルや公文のようなもので、機械に頼らず人間が計算力を維持し、脳を健全に保つための訓練。算術は特に ſcnɪ ～ acɪn で重視される（このころは科目名こそ算数だが）。経営では簿記や家計のやりくりなどを習う。　理科は法則（ɔzɑel）、自然（lɪɑlɑel）、機械（ɟɪφnɪɑel）の３科目に分かれる。lɪzʔɪ から法則は物理（ʔəlɔ）と化学（pɪcl）、自然は生物（jɒəɪɑel）と医学（cuɪlɑel）、機械は電算（ɑəɟɪl）と工学（lɪnɑel）の計６科目に分かれる。　実技科目は芸術（pɔlɑ）、図工（lɪnɑel）、体育（uɪu）、音楽（leɒ）に分かれる。　芸術は絵画（lecɟ）や彫刻（ʔɔlb）というたものを行う。図工は草笛の作り方、紙飛行機の折り方、椅子の作り方、壊れた服の繕い方、鍋の直し方など、生活に役立つ知識を学ぶ。体育はユベールとスポーツに分かれる。音楽は声楽と器楽に分かれる。　acɪnʔɪ を卒業する際、成績の良いものは試験を受けて進学校としての lɪzʔɪ に進む。それ以外は職業訓練校としての lɪzʔɪ に入る。　訓練校の場合、教養科目は基本科目しか行わず、実技科目に職業別の選択授業が入る。例えば服飾関係なら被服の授業を取る。　進学校の場合、基本科目がなくなり、応用科目が出てくる。文理の区別がないため、最も広く学習する時期である。その代わり、それぞれの科目は浅い。とはいえ大学より科目が多いのでは大変すぎるので、実際は現代文と古典のような細かい区別をせず、まとめて文学として教える。　lɪzʔɪ を卒業する際、再度試験をして進学校に行くかどうか決める。また、この際に文理を決定する。　ɒɪnʔɪ に入ると文理によって取る科目と取らない科目が出るため、科目数が減る。その代わり、文学だったものが現代文と古典に分かれたりする。前期大学のうちは、文系（jeɒdɪnſ）でも理系（peldɪnſ）の授業を履修する。ただし、文系が理系を取る場合、理系の科目名は高校時代と同じで、細分化されない。逆も然りで、理系が文系を取る場合、現代文と古典は分かれず、文学として大雑把に履修する。　後期大学では完全に文理に分かれ、互いの科目は履修しない。また、同じ文系でも文学部や法学部などに分かれるため、文学部の学生は社会科目を選択的にしか履修しない。　大学院に入ると、完全に専門分野しか研究しない。　さて、中央アルナ大学首席のレイン＝ユティアは文学部に所属しているが、高校時代は「文学、言語、歴史、政経（政治・経済・法律）、数学論、計算（算術・経営）、物理、化学、自然、機械」の１０科目で首席を取っていたことになる。　理系科目のほうが多いが、授業のコマ数は文系のほうが多い。文理が分かれるまでは文系のほうが元々コマ数が多い。これはアルバザードが人文科目を人間にとって必要な教養として重視し、理系科目を社会発展のための剰余的な技術と考えているため。　また、前期大学では「現代文、古典、文法、表現、歴史、法律、政治、経済、数学論、計算（算術・経営）、物理、化学、自然、機械」の１４科目で首席を取っていたことになるから恐ろしい。　レインは後期大学では「現代文、古典、文法、表現、社会」しか履修しないが、現代文や文法などの内訳がさらに細かくなるので、結局科目数は多い。　なお、首席というとき、実技科目は評価に含まれない。教養だけで判断する。実技も入れると真の首席なのだが、レインは体育が駄目すぎるので値しない。アルナ大学の歴史で真の首席になった人物はミロク＝ユティアとリディア＝ルティアのみ。このうちリディアはアシェルフィから大学時代に転入し、ミロクは極方から ɑcɪnʔɪ に転入してきた。なお、三人とも真面目で努力家というのが共通している。 ［用例］ɪn jccnɪ nɔj)ɥen lel aeldɪnſ, ſɪl ɪn en jccnɪ ɟɪɑel ſəəl ɒɪn ſə ɒɔlɟ ɑcl, ɑɔʔ, el ɪlſ ɑɪl ɪſc ɑc enſɔ nɪ ɑɪb. 国語という教科は好きだが、国語の宿題は嫌いだ。というのも、時間が掛かるし、その上書くことが多いので面倒に感じるからだ。

aeldɪz ［名詞］学歴 ［レベル］4　J0 ［文化］高校（lɪzʔɪ）で進学校だった人間が大学に行き、それ以外は高校が最終学歴となる。進学校以外は職業能力を高校のうちに学ぶので、専門学校はない。未熟なら高校を留年させられるため、卒業できた時点で就職できる能力はあることになる。そのため、別途専門学校は必要ない。卒業後に方向転換したい場合、無給ないし薄給で企業に雇ってもらい、チュートリアルを受けるなどして現場で学ぶことになる。 ［用例］aeldɪz hɪl{ſcnʔɪ} 高学歴

aelde ［コマナ］ウィキペディア、ｗｉｋｉｐｅｄｉａ、ウィキ、ｗｉｋｉ、ウィキペ ［電算］フェルペ ［レベル］3　ul; 人名より　JJ ［文化］ul でできたフリーの百科事典。ウィキペディアに相当。

aelbɪlj ［動詞］自治棟 ［レベル］4　1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelſ ［語法］aelɪnbɪlj と区別。　［文化］全ての委員会が収められている棟。つまり学生会が納められている棟。また、学生会に加えて非学生会の自治会が収められている棟。全ての会に個室が設けられている数階建ての建物。委員会などを行うときはここで集まって会議を開く。個室は教室と同じ作りである。

aelbelɪſe ［名詞］学食 ［レベル］4　1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelſ ［文化］食堂が敷地内に独立している。建物の形は学校によって異なる。安価で食べることができる。昼食時と夕食時に利用できる。また、寝棟の人のために晩ご飯の時間も利用できる。

aelɒɪcn ［名詞］学園祭、文化祭 ［レベル］3　1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelſ ［文化］→ ɒeljel, ɑcɪjel, lcɔn ſ'ɪn səɟ, lɪuɪnɑcɪ　ディアセルやメルセルの前々日に始まり、前日に終わるお祭り。期間は２日で、前夜祭と後夜祭に分かれる。部活動の成果を発表したり、イベントを行ったりする。期末試験の翌々日に始まる。期末試験の結果が出た翌日に始まる。　カップルはたいていこの日に告白をして付き合い、お祭りを楽しむ。

aellczn ［政治］文部庁、文科庁 ［レベル］4　1L:clɒəj:ɟcɑcɪ ［文化］事務省下。学科のカリキュラムを立てたり、教材や試験を作成したりする。

aelleul ［医療］学習障害 ［レベル］5　1L:jeɒen

aellec ［名詞］教科書 ［レベル］2　J0 ［文化］clɒ

aelilejɪl ［名詞］学生会長、生徒会長 ［レベル］3　ɟɑ;/　JJ

aelɪn ［名詞］学生、生徒 ［形容詞］～君、～さん、～ちゃん、～学生→ ɪdſ ［レベル］2　J0 ［語法］この呼称を学生間で使うことはない。教師から学生に使うことはあるが、ふつうは jɔə や lccz や jɪn や呼び捨てを用いる。非学生、主に社会人が学生に対してこの呼称を使うことがある。 ［用例］ɪlſe ɪ, aelɪn ɒccɟ. がんばって、ミールさん。

aelɪnſɔnʔ ［政治］学者 ［レベル］4　1L ［文化］身分の１つ。

aelɪnɑɪlɪ ［名詞］出席番号 ［レベル］2　JJ ［文化］ファーストネームを ʔlj という幻字順で並べるのが通常。学齢が低い場合は誕生日順に並べることもある。その場合はメルセル生まれが一番となる。

aelɪnɑeɒe ［名詞］学生時代 ［レベル］4　ɟɑ;/　ʃ̀

aelɪnφɪɟſ ［経済］学生料金 ［レベル］4　1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelſ

aelɪnbɪlj ［名詞］学生棟 ［レベル］4　1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelſ

aelɪnɪle ［名詞］学生会、委員会、生徒会 ［レベル］3　ɟɑ;/　ʃ̀ ［文化］学生が自治を行うために学生会というものが存在する。学生は自動的に学生会のメンバーとなる。学生は何らかの委員会に振り分けられる。委員会はいくつも種類がある。学生委員会（つまり生徒会）、美化委員会、風紀委員会などが存在する。これらは全て学生会の下位区分である。どの委員会に入るかは選択可能であるが、人数が偏れば適正審査が行われる。くじ引きでは能力を測れないのでくじ引きは実施しない。委員会の中で一番偉いのは学生委員会である。ここの委員長が生徒で一番偉い。レイユの時代はミロクが選挙を禁止していたため、委員長は選挙でなく審査で選ばれた。アルテナ以降は委員長は選挙で選ぶようになった。選挙は毎年最後に行われる。来年度の在校生の中から新入生を除いた誰かが学生委員会の委員となる。委員会の集合は日が決まっている。毎週か隔月、或いは月ごとに行われる。大抵は同じ曜日の同じ時間に行われる。大抵は午後の授業を切って、そこで集会を開く。週一回の場合は一コマだけ切ることが多い。隔週の場合は二コマ切り、隔月の場合は午後の授業を全て切ることが多い。どの形式にするかは学校によって異なる。

aelɪncſɪ ［名詞］全校集会 ［レベル］2　1L:ɟcɑcɪ:ɪɟbɪlelſ ［文化］アルナ大では全校集会はない。全校朝礼のようなものは行わない。学校で事件が起きたときに緊急で集会を開くことがあるが、その場合は大抵昼休みの一部を削って行う

aelcſɪ ［名詞］勉強会 ［レベル］4　1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

aelcʔl ［名詞］校舎 ［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ ［文化］ビルのような形をしており、機能的な反面、芸術性には乏しい。キリスト教の教会のような華麗な造りはしていない。

aelclcɪ ［ランドマーク］フェリシア学院、フェリシア ［類義語］ʔɔzəe ［レベル］6　jɒ;ael,ɑu/ləlɔ,ɑ/ ɑcɪ,jzɑ「学び習うところ→学び習う院」 JJ ［文化］アルナ北西部（アルナ県リシア市）に位置する学校。小中高大と揃っており、同一の敷地内に全てが揃っている。王族（皇族）御用達の学校であるが、一般人も入学することができる。　校風を一言で言うと「上品」。他にも「気取らないノーブルさ」や「浮世離れした雅さ」などが特徴。下品なものや低俗なものを避ける傾向にあるが、嫌っていても嫌悪感を顕にしない学生が多い。　上流階級の子女が多いが、あまりに競争心のない雅な生徒たちの集まりなので、他人を見下したりする者はほぼ皆無である。それゆえ一般人入学者も妙なへつらいをすることもなく、劣等感を持つこともない。よほど雅で心に余裕がないとできないことだが、不思議なことに外部から入ってきた学生すら一年も経たずに校風に染まっていく。　生徒の素行はアルバザード一良好で、校則は国内一緩い。自然に任せておいても誰も悪さをしないためである。　部活（サークル）は弓道と居合が強く、常に全国大会で優勝候補に上がる→ jɪlɪ(J)　フェリシアでは和弓がユベールに取り入れられる前から活発だった。　女子の割合が多く、文学少女のようなおっとりした子が多い。上流階級なのに気取らず質素倹約で、大人しく穏やかで礼儀正しい。金に頓着するのが嫌いで、浮世離れしている。恋愛には奥手で、学内恋愛はほぼ皆無。　教師陣は姉妹校であるアルナ大と掛け持ちしていることが多い。　フェリシア学院は jɒ の cɒəl J00 に王族の私費で建てられた。その名残で現在も私学である。　jɒ 中期にアルティアの勢力に押され、1101 年にカレンシア王国ができると、徐々にアルバザード国内の上層部にアルティア人が入り込んでくる。その結果フェリシアにもアルティア人の学生が増え、弓道や居合といったアルティア人の武芸が入ってくる。　カレンシアの勢力に押されたアルバザードの財政は当時苦しく、11ʔ1 年にはフェリシアの運営にも支障をきたすようになった。学校の質を落とさず運営をこれまで通り継続するために、フェリシアはカレンシアからの援助を受けた。弓道や

居合が盛んになったのもこの頃からである。なお、初期は武射系が盛んだったが、nɑ 以降は礼射系が盛んとなる。　11ᗰ 年の援助により、カレンシア（アルティア）とアルバザードの友好を示すための校章が新たに創られた。フェリシアが作られた当初は皇室アルバ家の家紋の「六角柊」に月の幼字を加えたものを校章としていたが、11ᗰ 年に桜弓月（さくらゆづき）がデザインされた。フェリシアの校章は幼字版と京極版の二種類があるが、それにはこういった歴史的背景がある。　校章は桜と弓張りの月が図示されており、更に桜の内部には文字が書かれている。幼字のほうは lecuenſ（弓道）における射法八節の会の象形である。アルティア弓に合わせ、弓の上部が下部より長くなっている。一方、京極のほうは「弓月」という意味の二文字で形成されている。　フェリシアの偏差値はアルナ大ほど高くはないものの、日本でいえば早慶に匹敵する難関校のひとつである。エルフィーネ同様、学風と名門さが好まれ、特に積極的に娘を通わせる親が多い。　生徒は穏やかで浮世離れしている。喧嘩や騒ぎなどが見られることはなく、革命時やディミニオンなどの狂乱にあっても、まるで世界から分断されたアルフィのように平静さを保ってきた。生徒は争いを好まず、競争心がなく、穏やかである。他人を嘲笑ったりせず、俗世に疎く、ケバさがない。　アルバザードの中では最大の保守派で、伝統を重んじ、争いごとを好まない。ルティア人やアルティア人の比率が高い。理系分野が弱く、文系中心の学校である。　共学で、女子は夏は白、冬は黒のセーラー。男子は詰襟。アルナ大と姉妹校なので、制服のデザインは同じ。襟の色は ſcnı から ɟɪɒ ını まで順に黄、朱、蒼、灰。後期大学は私服になる。　場所は駅近徒歩一分。　学内は緑が多く、都会の喧騒から独立した空間を保っている。池には朱塗りの橋があり、初夏になると蛍が舞う。この池を「ほたる池」という。都会の大学で唯一良質な蛍が鑑賞できるところである。池の周りには桜や楓や紫陽花が季節ごとに咲き乱れ、池には魚も泳いでいる。　後期大学の生徒数は１万人に満たず、少ない。通常フェリシアという後期大学部を指す。卒業生に「もう一度大学に入るとしたらどこがよいか」と聞くと、９割方がフェリシアと答える。浮世離れしているため、社会の荒波に揉まれておらず、卒業後に苦労することが多い。　エルフィーネを華と捉えるなら、フェリシアは和であろう。　μɑ でセレンはリディアと違ってアルナ大に受からなかったが、フェリシア大には合格した。そのため、μɑ でセレンの母校となっている。当時の彼はリディアの目が届かないのをいいことに、学園生活を楽しんでいたとされる。なおセレンがアルナ大に落ちたのはアルカで忙しかったこともあるが、自分の好きなことしか勉強しない少年時代の性格が最大の理由で、自業自得。アルバザードはフィギット経由で居合を、ルティア経由で和弓を知っていたが、セレン個人は実技をここで知り、ユベールに取り入れた。

ɑelcɟ ［人名］フェリス ［レベル］5　古 ［文化］ ４期１代のアルシェのルシーラ。女性。テームスの復活を予言し、それを食い止めることを目標として団体を作った。幼馴染による対抗団体ができるとそれと対立。フェリスはドゥルガを名乗り、アルタスはヴィーネを名乗って争った。

ɑelcɟ(J) ［名詞］十徳、十善、フェリス ［名詞］十干 ［生物］［医療］五臓六腑、五臓五腑、六臓六腑 ［レベル］4　zφ;ɑenl/lcɟfe　J1 ［文化］ zφ のシージアで発達した倫理で、五行説に組み込まれて考えられた。人間が心がけるべき十の徳を五行の陽と陰に当てはめた。順序は五行の順で、水風土火雷である。　陽は外向きの感情で、社会的なものが揃う。三・二人称的である。陰は内向きの感情で、個人ないし対個人的なものが揃う。一・二人称的である。内外というのはネガティブポジティブという意味ではない。社会に向くか自分および相手に向くかの違いである。　陽：秤・礼・慈・義・克・(侠)　陰：信・素・胆・忍・勇・(堪)　地球の東洋思想にも同じものがある場合は訳語にその漢字を用いた。義・礼・信・胆・勇・忍である。封建社会でもなく年功序列の考えも儒教ほど強くなかったため、東洋思想にある忠・孝・梯はない。また、知は心と別枠なため、智も入っていない。カルディアオリジナルは克・秤・素である。なお、慈は仁のこと。　秤 (ɒcɟſ)：天秤のように公平かつ客観的であること。水面のように水平であることから水。　礼 (lɛɪn)：礼儀を重んじること。風のように涼やかな心。　慈 (lell)：万人に対する思いやり。悪人も含む。では悪人も許してしまうのかというと「許す」のではなく、それは克で別処理する。根源的な徳として中心の土。　義 (ɑɪzeſſ)：義理人情のあること、道理を弁えていること。火のように熱い義理人情の志。　克 (oɪɟeſ)：悪に屈しない、悪を受け入れない、誘惑に負けない、儲け話に乗らない、実直真面目に稼ぐ。雷のように激しく悪に打ち克つ心。　信 (lɥɟl)：信じる心、信仰心。人を信じる、嘘を吐かない、嘘を許さない。水のように純粋な気持ち。裁判官は秤と信が必要で、これらは表裏一体。　素 (ⅰlɩɔɪ)：多くを望まず質素倹約を尊び、日常を幸福に思うこと。風のように涼やかな気持ち。流れる風のように拘らない気持ち。　胆 (ucɒɪn)：丹田が座っていて動じないこと。胆力。土のように動かずどっしりとしており、体に芯が通っている感覚。胆力がないとほかの徳もなかなか引き出せないので中央の土に座する。　忍 (hcnı)：耐えるべきところを耐えること。陰の火はじりじりと照るように熱く、その熱のようにじっと耐える心。　勇 (φɪnſj)：行動力、やり遂げる心、腰を上げようとする意志の力、耐えざるべきところをきちんと耐えずに抗うこと。耐えてはならないことを耐えないのは勇気である。克の裏で、動くときは雷のようにパッと動くこと。　この十徳は非常に体系的でよくできている。五行に見事に当てはまる上に、個々の属性のイメージにも沿う。その上陰陽できちんと振り分けることができ、さらに同じ水の表と裏のようにそれぞれの徳が表裏で関連しあっている。極めて体系的な倫理であり、地球の東洋思想よりもさらに体系的である。そのため歴史を超えて愛され、ɟɒ ではルティアからアルバザードへ伝わり、そのままの形で現在まで変わることなく連綿と受け継がれている。μɑ では組み数字にも選ばれた。序列６と異なり、それぞれが基本的には等価なので、非序列として使われる。制定したセレンは、組み数字１０は数からして頻度が高いはずだから社会に貢献する何か良い概念を宛がおうと考えた。その結果これを採用した。組み数字として日用されることで国民は十徳を日々唱えることになり、これが国民の教育に良いはずだとセレンは考えた。ıl でミロクはこの伝記に感動し、伝統を受け継いだ。　・解説　慈　仲間は積極的に助ける。　その他は消極的に助ける。すなわち求めに応じて助く。人それぞれの事情があるので押し付けはしない。おせっかいは焼かない。　悪人は克で処理すべきだが慈もまた与える。具体的には助けでなく慈悲を与える。例えて言えば、悪といえども残酷な仕打ちで倒さないこと。　忍　耐えるべきことを耐えること。　自然災害、老いによる老化、改善不可能な病、体質による不定愁訴やコンプレックス、労苦、愛する人との別れ、死別、失恋等が対象である。　また、過食の我慢、間食や嗜好品の我慢、過剰な性欲の我慢などもこれに当たる。　なお、不当な契約、不当な労働環境などを耐えるのは忍ではなく、克と勇が足りない。日本人が最も勘違いしているのが忍である。　克　力を持つものは悪を討ち、悪を倒すべきとされる。力があるのに悪を討たないのは怠慢で、勇がないとされる。　力を持たざるものはわざわざ善行のために返り討ちに逢う犠牲を払えとまでは言われない。彼らにとっては悪を受け入れない、悪を拒絶することが十分な善行かつ貢献になるとされる。有害なテレビ、書籍、掲示板、ブログなどを避けるのも克である。　日本人が最も持っていないのは克と勇。これもまた表裏一体に持っていない。克と勇が同じ雷に配列されているのは互いに関連しあっているためである。　・詠み歌　水面のように平等で　爽やかな涼風のように礼節を重んじ　大地のような慈愛に満ち　火のような正義に燃え　激しい雷のように悪に克つ　水のように澄んだ心で信じ　かろやかな風のようにこだわらず　地面に足をどっしりと構え　照りつける炎熱のように忍び　電光石火の如く勇ましく動く　・表裏一体　秤と信：客観視できない者は秤がなく、そのような人間ほど事実と虚偽の壁が薄く、嘘を吐く。　礼と素：マナーがなっていない人間ほど質素倹約と程遠い。例えば派手な恰好をしている女はえてして素行も悪く礼儀知らず。言葉遣いも汚い。　慈と胆：中心となる胆力がなければ、外交の中心である慈も鈍る。　義と忍：こうしなければならないという正義感がない者はたいてい我慢知らず。我慢するのは誰でも嫌だが、正義がなければ「まぁいいか」と逃げてしまいがち。　克と勇：抗わない者は行動もせず逃げてばかり。腰も上げない。　・性差　男性は一般に火や雷が多く、女性は水や風が多い。男性のほうが「熱く」なりやすく、女性のほうがそうなりにくいのはそのため。　女性で火や雷が多いと扱いづらくモテないということがある。男性で水や風が多いと男らしくなく頼りがいがないと思われることがある。　女性で水や風がないと「女のくせに」と非常に嫌がられる。逆に男性で火や雷がないと「男のくせに」とか「女々しい」と言われる。どちらも理にかなっている。　・十干　十徳を暦に用いて十干とする。アルミヴァと十干の組み合わせで毎年ごとに名を付けていく。甲子のように。すると１０と１２の公倍数の６０年で一周する。　寿命の短命化とともに ɟɒ 後期から実用されるようになった。　知徳　１０才のこと。十干が一回りした年。一通りの徳を知り、やっていいことといけないことの分別が付くようになったと期待される年。アティーリでは１０歳から何かを始めた人が多い。現実のセレンやリーザがそうだったことから来ているが、カルディア的には知徳の年だからと説明される。　神徳　６０才、還暦のこと。アルミヴァも一周して徳が神の領域になったと期待されるレベル。「神徳その身に預かりて　魂滝に安らぐ」　これは「神徳の年になればもう徳も高めたからいつヴェーユに行って審判を受けても安心だね」という意味で、「６０過ぎて死ねば大往生だ」という意味。６０歳が寿命の目標になっていた。　アルバザードでは現在でも６０まではとりあえず生きようと考える人が多い。平均寿命はもっと上で、「今の６０は若い若い」などと言っているが現実には６０を過ぎると死亡率が上がるため、人々の当座の目標値として

よく利用されている。　・二六十徳律（ニイロクジットクリツ）　二情：楽・愉（ラクとタノシイ）　六心：希望・愛情・信念・不屈・正義・誇り　これに十徳を足したものを二六十徳律という。人間はこの十八観さえ守っていれば悩まず迷わず正しい道を歩めるという考え方である。　日々の行動で「これはやろうかやるまいか」と考えるときに、この十八観に照らし合わせて行動すればよい。新書や啓蒙書の生き方本と違って２００ページ以上も読む必要もなければ覚える必要もない。　十八観は多すぎず少なすぎずちょうど良い。多くても覚えられず、扱いづらい。逆に少なすぎると役に立たない。十八はちょうどよく、さらに数を２・６・１０に分散させているのでなお覚えやすい。　・言葉と十徳　hıl という行動は十徳が慈・信・礼の順で関与している。μenjɔɒ という言葉は礼・信の順で関与している。　このように言葉を十徳で分析し、辞書の文化欄に示したものがある。　・徳は６割　高徳ならよいかというとそうでもなく、まんべんなく十徳を６割程度身に付けているのが一番ですよという教え。　克が強すぎると他人と戦ったり批難してばかりだし、礼が強すぎても杓子定規で付き合いにくい。慈がありすぎる人は好かれるかというとそうでもなく、嫌煙されたり聖人視されて付き合いづらいと思われる。陰側も同じで、忍がありすぎると損ばかりしょいこみがちになるし、勇がありすぎても疲れるし利用される。　などなど、徳がありすぎても疲れて終わってしまうし、そもそも人間はそんなに簡単に高徳にはなれないから、無理をしないで６割程度でゆるゆる暮らしなさい、そのほうが楽ですよという教え。それでいて６割程度徳があれば別段悪さもしないだろうし、克１０慈０のように偏っているよりはマシですよということ。几帳面に６でなければならないというわけではない。５～８程度であればよい。　・実践　例えば J1 の段階でセレンは「秤８・礼５・慈２・義９・克１０・信７・素９・胆６・忍３・勇１０」で、バランスが悪い。　ɑelcɟ を使えば自分に何が足りなくて何を抑えればいいか分かる。この場合、克・勇・義が強いわりに慈と忍が足りないので典型的な他罰傾向にあると分かる。統制のとれた厳しい社会を形成するのには向くが、人には好かれないタイプと分かる。ミロク革命に反響したわけである。多い分を少ない分に回せばこの者はもっと楽に生きられる。　同りディアは「秤７・礼９・慈９・義１０・克１０・信１０・素８・胆７・忍９・勇１０」。徳の合計値が非常に高い。意外とビビりなところがあるので胆は少し抑えられる。わりと主観的で自分の正義と世の中の正義をあまり区別しないので、秤はやや低めに。義と克が強すぎるため、一般的な嗜好性の男性にはあまりモテないようだ。　同メルは「秤８・礼６・慈５・義３・克２・信４・素１０・胆８・忍９・勇３」。義・克・勇が足りない典型的な怠け者体質。素が強いので引きこもりがち。動じないという意味ではリディアより強く、忍耐強いのは間違いない。賢く客観性はあるため秤は高いが、公平性などどうでもいいと思っている様子。　・五臓六腑　十徳は上記の順序で以下の五臓六腑をも指す。　陽（五腑）：膀胱・胆・胃・小腸・大腸・(三焦)　陰（五臓）：腎・肝・脾・心・肺・(心包)　五臓六腑というのは日本の慣習的な言い方で、ルクレティアでは基本が五臓五腑の十徳、そこに更にふたつ足して六臓六腑まである。　六臓六腑というのは火が君火と相火に分かれているため六臓六腑になっており、相火の陽は三焦 (ɥəzlc) で陰は心包 (ɥəe) である。

ɑelcɟſ ［普通動名詞］愛、敬愛、騎士道愛 ［動詞］ɥəl を愛する、愛する、敬愛する ［類義語］ſccı ［レベル］4　zφ;ɑelcɟ.l　J1 ［文化］ 封建制度ができて騎士が主君に仕えるようになった ɟɒ の時代において、騎士が主君の妃に対して抱いた敬愛の念のこと。プラトニックなものであり、不倫ではなく、不倫は許されなかった。あくまで敬愛の念であるため、主君はしばしば「自分はこんなに臣下から敬愛される妻を持っている」と誇ることがあった。

ɑelcɟɒeɒ ［組み数字］フェリスサークル、十傑、十老頭、十本刀 ［レベル］5　J1 ［文化］ ɟıdɪll

ɑelcɟcı ［名詞］ɟıdɟe ［名詞］許嫁、許婚、いいなずけ、いいなづけ ［レベル］4　ɟzɑ　J1̊　ɟıdɟe:ɟı　dɟe:lı　ɑelcɟcı:l⊃(⊃l⊃,ıl(　［文化］ lſ で起こり ılſ に伝わり、ılſ で流行り、ɟɒ に ıɥ に流入した概念。lſ では許婚の契約を親同士が交わす際にサクラソウを用いて祝いをしたことから、サクラソウで許婚を意味するようになった。

ɑelcn ［植物］フェリン、バラ、薔薇 ［花言葉］ひとめぼれ ［婉曲］膣口 ［レベル］2　J0: フェール神の花。　参考 :dcnɑcn:1̊: 制 :dcnɑɒcnı（棘の花）

ɑelcıl ［代詞］［ɥən］あなたがたの ［レベル］1　J1:⊃ɒccɥ:ɑelce/ 古 ıl

ɑelce ［代詞］［ɥən］あなたがた ［レベル］1　J1:⊃ɒccɥ:ɑelcn「薔薇のような人」

ɑelceɥ ［歳時記］芒種 ［名詞］9 時 ［組み数字］9 ／２４ ［アクセント］ɑelcEɥ ［レベル］3　J0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

ɑelcəɟ ⟩ɟeſcɟ ［人名］フェリウス＝クレティス ［レベル］6　J0 ［文化］ セルメルで初めて学校を作った男性。召喚士の家柄で、貴族の家庭教師をしていたが、アルバザード国民全体の教養をあげる必要性を痛切に感じ、恵まれた境遇の貴族の家庭教師を辞し、学校を設立。その働きが認められ、アルバ二世の協力を得て講義の場として利用していたアルナの広場の一角に ɪɥnıɑel1ı を建てる。

ɑelɔ ［動物］とさか、トサカ、鶏冠　zφ;ɑeɒ/lɔ　J0̊

ɑelɔlɔɔb ［被服］コックスコーム　μſ;/　J0̊

ɑeleſ ［形容詞］先天的な、生まれもっての、アプリオリ ［反意語］ueⅠſ ［レベル］4　μɑ;<cn　1L: 運命づけられた ［語法］ 何も流用せずに作ったもののこと。流用と参考は異なる。人間は生まれた以上そこの影響を受ける。彼が何を作ろうとその影響からは逃れられないので、何を作っても何かしら参考にしたことになる。従って参考はアプリオリを取り消す要素にならない。でなければアプリオリが成立するものがひとつも存在せず、この言葉自体レーゾンデートルを失う。 ［文化］ セレンはバリバリの経験主義者だったので、アルカもだいぶ影響を受けている。　ところが J̊ を過ぎて先天性も重視するようになった。セレンは子供の頃から自分にフランスの血が入っていることを知っていたが、違うのは顔くらいで性格や体格にまで影響があるとは思っていなかった。セレンの性格は日本人と違うところがだいぶあって、それでよくそりが合わなかった。大人になるにつれてフランス人のことを知識として知っていき、「あれ？これ俺に似てるな」と思うことがよくあった。　例えば日本人はへつらうように笑うが、セレンは笑うところでは笑ってそうでないところでは無表情だ。それが日本人には偉そうに見えるらしい。顔が西洋人っぽく彫りが深いので黙っているだけで怖く見えるせいもある。こちらとしてはふつうにしているだけなのに偉そうと思われる。フランス人も妙にへらつったりしない。なるほどよく似ていると思った。　権利意識が強く我が強いところもよく似ている。そのわりに下らない労働を嫌うのもよく似ている。口だけ達者なところも似ている。細い割に同体重の日本人に比べてかなり筋力があるのも似ている。自転車好きも似ている。道にゴミを捨てるくせに妙にエコなところも似ている。女好きで精力が強いところも似ている。中でも美しさと合理性を追い求めるところが最も似ている。セレンの血がドイツ人だったら新生アルカは生まれなかったろう。　そのほか、ユーモアは好きだが下品なお笑いは嫌いというのもよく似ている。大人ぴていて落ち着いているところも似ている。だがそれは外見だけであって中身は子供というところも似ている。　こういう類似点が細かく無数にあったが、バリバリ日本で生活してきたのになぜ似るのかといえば血しかないということで、先天性を省みるようになった。　なお、性格だけでなく体格も類似していた。その後フランスに行って自分が浮かないことに気付いた。細い腰、細い手首、足首、なのに無駄にある胸、できやすいクマなど、すべて酷似していた。　もちろん似ていないところも多い。特に食べ物だ。パン食が嫌い。和食を好む。何より、チーズ、ワイン、コーヒーがすべて胃痛かじんましんなって食べられないところが圧倒的にフランス人でない。胃腸が弱く、ここは明らかにフランス人の血でない。どうも酵素とか消化関連はどこで過ごしてどの腸内細菌を得ているかのほうが大きいようだ。　行った国の中で好印象だったのはフランスと韓国だけだ。あぁ合理的だなとか頭が良いなと感じた国だった。　その後、J̊ ごろになって母方が韓国から来たことを知る。そうか自分は韓国とフランスの混血児だったのかと知った。その事実を知らなかったのに好印象だったのはこの両国だけだったのはどういう奇跡か。先天性によるものとしか思えない。血のなせるわざに違いない。血のせいで考え方や発想などが似ていて、それで自然と合理的だと感じたのではないか。　ところで自分で最も日本人らしくないと子供のころから思ってきたのは怒りの強さだ。外国人の怒り方は日本人からすれば気違いレベルのものがある。で、セレンの怒り方は常軌を逸していた。キレるとすぐ相手を殺す気でかかる。格闘技をやっていたことを置いても殺気が凄まじく、傷害に至ったことも何度かあった。ただ、たいていは殴る以前に殺気に気圧されて相手が怯む。今思えば「あぁファビョンとはこのことか」と納得できる。あれは日本人には出せないエネルギーだ。　自分より強い人間はいくらでもいるが、自分より気迫のある人間というのを見たことがない。外国人から見てもそうなようだ。というのも、まさにセレンという名前自体が気迫や殺気や怒号で相手を黙らせるという悪口から来ているのだから。なお、人生中で最も気迫が出たのは２４くらいで池袋のジュンク堂の前で児童虐待を見たとき。同い年くらいのロクでもない父親に怒髪天を突き、裏路地に響かんばかりの怒号で殴りかかり、あまりの勢いに相手は朦着。即座に男たちが一斉に入ってきて取り押さえたのだが、不服なことに男でなく自分が取り押さえられた。その後即警察沙汰となったが、ファビョりすぎたのか、警察を呼ばれたのはその男でなく自分だった。　どうもこのあたりは明らかに日本人の血ではない。しかし問

題は自分はその血について知らなかったことだ。あるいは知っていてもフランスのように知識がなかった。なのに自然と彼らに似る。なら当然アルバザード人も固有の民族性があって血によって先天的にある程度性格が決まるのだろう、たとえその風土がどこであろうとという結論になり、カルディアでもある程度先天性を重視するようになった。

ɑeleʃʃeel ［名詞］宿命、宿運、天命、天数、フェレッテール ［レベル］4 μɑ;/「先天的な運命」 ʃʔ ［語法］ 先天的に定まっており、避けることが難しいか不可能なこと。 ［用例］ ɟɪcɪ, ʃə ʃɪn eʃ ɑeleʃʃeel ɑɪ. しょうがない、これも宿命だ。

ɑeleʃleucɪn ［言語］アプリオリ人工言語 ［レベル］6 μɑ ʃʃ

ɑelenuc ［名詞］学力 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ ［用例］ ɑelenuc hɪl 学力が高い、高い学力

ɑelenucʃɪɟ ［名詞］学力テスト、実力テスト ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

ɑelez ［名詞］教室 ［レベル］2 1L ［文化］ 講義よりも演習中心の授業なので、教室は全て円卓である。完全な円でなく、教師席側が開いた扇状になっている。学生席は一重の扇でなく、同心円状の扇になっている。席順は慣例により決まる。学期の初めに座ったところが何となく自分の席になる。但し、教師は席が決まっている。ホワイトボードの前である 一クラスの人口は二、三十人である。教師の席の後ろにはホワイトボードがある。教師に向かって生徒が座ったとしよう。生徒から見て教師は前である。生徒の後ろにはロッカーがある。ここで左側に窓があるとすると、入り口は右になる。右側にはふつう、日本と同じく二つ入り口がある。窓にはカーテンがある。サッシのところもある。教師の背面には大きな電子ペーパーがあり、ここに各種メディアを再生する。スピーカーから音声も出力できる。ロッカーは人数分あり、セキュリティ度が高い。

ɑeɪ ［名詞］ミス、無傷の一撃、無効 ［動詞］ɥəl に歯が立たない、歯が立たない、歯がたたない、無傷を与える、無効である ［形容詞］(ɪn で) 無効な、無駄な、ノーダメージな、ストライクゾーンから全く外れた、アウトな ［ユベール］［運動］無効。柔道や空手やユベールなどの無効。 ［野球］空振り ［反意語］ɑleeɥ、bɔn ［レベル］3 ɑu;e ʃʃ ［語法］ 敵にダメージを与えられないこと。 転じて、好みなどに全く当てはまらないこと。 ［用例］ le been eʃ ɑeɪn ɑe. あのブスは完全にアウト。

ɑeɪlcɟ ［人名］フェアリス ls;ɑɪlcɟ ʃʃ ［文化］ 四人目は ɑeɪlcɟ。19歳で、人間の捨て子だ。ユベールの達人で、ミルハを妹のように可愛がっている。 フェアリスは芯の脆いところがある。親に捨てられたトラウマが消えず、拒絶されることを異常に恐れている。

ɑec ［名詞］分、一分、６０秒 ［レベル］2 1ʔ: 制

ɑecʃ ［普通動名詞］忠告、訓告 ［動詞］ɥəl を ɪ に忠告する、忠告する ［反意語］bɛɟ ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪLeʃʃ: 恣意 ［文化］ 勧誘と提言の関係は助言と忠告にもいえる。提言は自信を持ってそうしなければなるまいと考えていることを主張することである。容易に引き下がらないし、食い下がりもする。忠告も同じである。提言との違いは相手の事情を慮ってやる点である。相手にとって利益になるだろうと信じていることを主張するのが忠告である。忠告は助言と違って簡単には引き下がらない。目上でも目下でも関係ない。怒っている相手や馬鹿など、冷静でない相手以外なら誰にでも行える。そして多少しつこくて、議論を起こしても構わない。

ɑecɟ ［気象］霧、ミスト、フォッグ ［レベル］2 ɑ;ɑɪcɪ 1L:μcɑcɪ: 音象徴 ɑecɟ:ɑecɟ:ɟɪule ［用例］ cɒ ʃə ɑɪɪμ, ɑecɟ ɪʃ ɟɔɑ. 今朝は霧が出ていた。 ɑecɟ neɪ 濃い霧 ɪn cnɪʃ ucʃ μɪnel bɔl ɑecɟ neɪ. 霧が濃くて見通しが悪かった。 ɪn cnɪʃ ucʃ ɪɔɔ ʃcɟ le lɪ ɟɪ ɪn bɔl ɑecɟ neɪ. 霧が濃くてすぐ前の車さえも見えなかった。 ɑecɟ eɒ ʅcʃ nɔʅ. 霧が立ちこめてきた。 ɑecɟ eɒɪʃ neɪ μɔɒel. 急に霧が濃くなった。 ɑecɟ eɒɪʃɔμ jeɑɔ. 霧が晴れていった。 ɑecɟ ɪʃcʅ jeɑɔ bɔl dɥɒl. 日が差して霧が晴れた。 cɒ ʃə ɑɪɪμ, ɑecɟ neɪ ɪʃej ɟɔɑ ʃɪl ʃəμ. 朝は霧が立ちこめていたが、今は晴れている。 ☆ ɑecɟ e ɑɪɪμ ɪdcɪ ɑɪμɑ e ɟɪɪɒ ʃeμ. 朝霧が出ていると午後は晴れるという。

ɑecɟdɪɑc ［気象］白虹、霧虹、雲虹 ［レベル］6 ʃʅ

ɑecɟejʅ ［気象］霧雨 ［類義語］ɟɪule ［レベル］3 ʃʅ08 ［用例］ ɑecɟejʅ ləɪɪʃ. 霧雨が降った。

ɑecɟejd ［気象］層雲、霧雲 ［レベル］4 1L

ɑecɒ [μenʃe] [μne] uecɒ ［レベル］1 1L:uecɒ ［用例］ nɔɔ lɪʃ lɪnʃen ɑecɒ. もっと綺麗なのがいいの。 ［俗語］ɪμ ɑecɒ = ɑɔʃ{ucen} ɑecɒ 激しくして。俗でなく文字通りの意味もある。 ［俗語］ɑcʃ ɑecɒ もっとちょうだい。俗でなく文字通りの意味もある。

ɑecɒ ［音楽］スピーカー ［レベル］3 μʃ 1L:ɑecɒ:1ʔ: 制 : 恣意

ɑecɑ ［アイテム］矛、ほこ ［レベル］3 jzɑ;<>ɑcφc 1L:μcɑcɪ:ɑcφc。μɑ の原稿を見ていて、ウムトナの矛がリュウの槍と同じ名前なのはおかしいと思ったので分けたそうだ。 ɑcɥɔ:ɑcɥɔ :lə ɑecɑ ［文化］ 先が枝分かれしている槍。中央の刃はまっすぐだが、左右の刃が牛の角のように曲がっている。反しが付いていて、当たるとなかなか抜けない。そのため、狩猟だけでなく戦闘にも使われる。毒を塗って使うこともある。

ɑecɑɪn ［ジョブ］矛手、矛使い ［レベル］4 1L:μcɑcɪ

ɑecscen ［名詞］長針、分針、時計の長針 ［レベル］2 1L

ɑecl ［動詞］ɥəl（ヴィード）を燃やす、燃やす ［類義語］ucɔl ［レベル］4 古 ［語法］ ヴィードを急激に使用するという意味の動詞で、アルカにしか存在しない。訳しようがない単語。日本語の「鼻をかむ」の「かむ」と同じく、コロケーションを ucɑɑ（またその下位概念）しか持たない動詞。 ［用例］ ɑecl ucɑɑ ヴィードを燃焼する

ɑeclcɟ ［エルト］［サール］フェイリス ［レベル］4 μμ;e ʃʅ ［文化］ アルデスとルフェルが王になる前、まだ友好関係があった時代に月の光から共同で生み出した女神。美を司る。エルトでもありサールでもある。二面性を持ち、エルトのときはルフェルのような白人系の顔立ちになり、サールのときはアルデスのような黄色人種の顔立ちになる。どちらも女の姿と顔をしている。美の女神として知られる。

ɑeclcɟcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］カシオペア座 ʃʅ: 自分を美しいと鼻にかけたカッシオペイアの逸話から。 ［文化］ cɑɪ

ɑeeʃ ［言語］音声。人間の言語に用いられる音。 ［レベル］4 1L ［語法］ 音声は [] に入れて書く。

ɑeeʃɑel ［言語］音声学 ［レベル］6 1L

ɑeeʃɪuɪc ［言語］音声素性 ［レベル］6 1L

ɑeeʃeɑɪ ［言語］ＩＰＡ、国際音声記号、国際音声字母 ［レベル］6 1L ［文化］ hɪrl セレンらが作成。地球のものとほぼ同じだが、記号は幻字。 ↑統一規格でなく、J0 年に夢織の朗読に使うためにルティア語を作ったことでセレンが一人で統一規格を作った。それが下記。 アトラスのＩＰＡに当たるもの。現実にはセレンが J0 年に定めた。神話上では μɑ でセレンが定めた。 制以降と古アルカの幻字を使い、古アルカに存在しない音声は鏡像などを駆使して配置した。 元々存在する幻字を見れば、「この音は古アルカにはあったのだな」ということが分かるため、非常に個別言語的な音声表記になっている。 ＩＰＡを定める際はハングルのように調音点などを考慮して機械的に決める方法が体系的である。しかし機械的すぎるものはかえって使いにくく見間違いやすいという欠点もある。 何よりその方針はアルカに合わない。そのため、労力はかかるものの、今回のような言語・文化・歴史を背景にした音声表記を作った。

ɑeel ［エルト］フェール ［普通動名詞］一目惚れ、ひとめぼれ ［動詞］ɥəl に一目ぼれする、ひとめぼれする ［レベル］3 古 :ɒclɑ ［文化］ 一目惚れを引き起こす１０歳前後の少女の姿をしたエルト。 ＜誕生＞ ダルケスはフェルデンに貝を渡した。ダルケスの手がフェルデンの手に触れた。このとき、ダルケスとフェルデンの手から砂が落ちた。そしてこの砂は非常に大きくなった。そしてついに、これは愛らしい少女（１０～１４歳）になった。そしてダルケスとフェルデンは驚き、彼女を見た。 ［用例］ "ɪn ɑeelcʅ ʃc, ɥənʅ. ɒcμ eɒ ʃcɪn ɪnʃ" "jɪ ʃə, ɒɥən μenɟ eɟʃ ɪ nɔn, ɑɥəɟjɔə" 「一目ぼれしました、お嬢さん。僕と付き合ってください」 「その前に、あなたは一体誰なんですの？」

ɑeel(J) ［人名］ふぇーる 1L8 ［文化］『ねこにっき』の登場人物。リシア市出身。

ɑeelɪiə ［普通動名詞］衝動買い ［動詞］ɥəl を衝動買いする ［レベル］3 1L:zɪnɪ: ザナがＸＢＯＸ３６０を衝動買いしたときに、妻のミルフに許可を求めた際、衝動買いを ɑeelɪiə（一目惚れして買う）と呼んだことから。ミルフはザナに反対しない人なので、ふつうに買ったものの、ハイレンの世話と仕事でロクにやれてないらしい。 ［用例］ ɪn ɥɔlɪʃ φcl ɑc ɪ jɪb ɒɪn ɑeelɪəʃ ʃəəɟ. 衝動買いのせいで洋服にお金をつぎ込んでしまった。

ɑeelə,ɪlʃ ɑen ɑe/ɑe/lə

ɑə,ɑ ɑlel e

ɑə,ɑ(J) ɔl

ɑə,ɑ(ʔ) ɑlen

ɑəʃ ［動詞］ɥəl を ɪ と交換する、交換する、置換する、置き換える、取引する、取り引きする、取り換える（新しく交換するという意味のときは jɪɒeɒ）、両替する、取り替える、取りかえる、とりかえる、入れ替える、入れ換える、交替する ［普通動名詞］交換、置換、置き換え、取引、取り換え、両替、入れ替え、交替 ［経済］取引、売買 ［シェルト］張り替え、貼り替え。テームスの張り替え。 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪʅfe: 古 :ɑəʃɔ（取る） ［用例］ ɑəʃ φcl ɪ ʃcɪʃ 人質と金を交換する

ɑəʃfeʃɔnɪ ［言語］連合関係 1L

ɑəʃjeμɪ ［化学］置換基 ［レベル］6 1L

ɑəʃɑə ［経済］売買高 ［レベル］6 ʃʃ

ɑəʃdeμ ［経済］スワップ ［レベル］6 1L

ɑəʃɪ ［経済］為替 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɑəʃ（授受）

ɑəʃɪ,jzɑ ɑcʃ ɑəʃɔ,ɑ.l

ɑəʃɪn ［経済］トレーダー ［レベル］6 ʃʃ

ɑəʃɪʅl ［経済］出来高 ［レベル］6 ʃʃ

ɑəʃɪlɪɒc ［経済］為替リスク ［レベル］6 ʃʃ

ɑəʃɔ ［単位］フト ［レベル］6 1ʃʅ: 制 : 古 :ɑəʃɔ（取る） ［文化］ 物質１メルバあたり放射線から吸収したエネルギーが１ルナッフであるときを示す。グレイと比較。

ɑəʃɔ,ɑ ʃɪɑ, lcɒ ɑə は「渡す」の音象徴か

ɑəʅɪ ［地名］フッカ 「回帰する土地」 ［レベル］6 ɒelʃcɪ Lʔ jen ucɪ;ɑə/ʅɪl「肩の場所」 J0:μcɑ cɪ:ɑə/ʅɪlʃ「肩の場所」。地理的にケヴェアの肩に相当するため。 ［文化］ 古代国家のひとつ。ジュヴァルノの北。

ɑəɟjɪ ［被服］シャマール jɒ;ɑə/jɪbe ʃʅ

ɑənc ［化学］ピペット ［レベル］4 古 :ɑəʃɔ/ɑcɪ（取るガラス）

ɑəl ［人名］フルミネアの略称 ［組み数字］5 / ２８ ［レベル］1 古 フルミネアのあだ名として ɒccɪ があったが、それだと彼女の妹と区別がつかないのでこうなった。ɑəl と呼ぶ者と ɑəlɒ と呼ぶ者がいたが、後者が多かった。セレンは ɑəlɒcc と偶に呼んでいたが、それは誰も真似しなかった。

ɑəl,ɑu ɑəəl e

ɑəljcμ ［美容］サメ肌、さめ肌 ［レベル］4 ʃʅ:ɑəlɒccɪ/jcμ

ɑəljel ［名詞］冷笑 ［動詞］ɥəl を冷笑させる、冷笑する ［レベル］3 1L: リディアの書 : フルミネアの唇。フルミネアの笑い方が語源

ɑəluеμɪnʃ ［医療］妄想性人格障害、妄想性パーソナリティ障害、偏執病、偏執症、パラノイア ［レベル］5 ul;ɑəlɒccɪ/ueμɪnʃ ʃʔ:ɒel ［語法］ パラノイアの症状が重いものを妄想性人格障害と呼ぶが、アルカではともに ɑəluеμɪnʃ という。

ɑəlɒccl ［被服］エジプト十字のリボン、アンク ［レベル］3 1L: フルミネアのリボン。胸に飾っていたことから ［文化］ 胸のリボンのデザインとして一般的で、少女に人気が高い。

ɑəlɒccɪ ［組み数字］5 / ２８ ［交通］フルミネア通り ［名詞］フルミネア組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2 ʃʅ

ɑəlɒccɪ,ɑu ɑlcɪ len ɑəəl

ɑəlɒccɪ ʅiɪɑe cnеɪɪʃɔ ［人名］フルミネア＝カーデ＝イネアート ［組み数字］5 / ２８ ［レベル］2 古 : フルミネアは語源不詳で、古アルカでの意味は無し。あえて解釈するなら ɑəə/ɒcuɪ で「長女」。カーデは彼女が創作した古いの名で、L 年にリディアが呼びかけて使徒全員が冠した。イネアートは『カコ』。［ɑəəccɑ］だと思っていたが、本人から直接［ɑəbcɑ］の方が近いといわれ、変更した。 μɑ;ɑəlɒccɪ.ɑu ［文化］ → ɑəluеμɪnʃ （ʃcɑ Δ φcl ɑcn → ）第４期４代アルシェ第５使徒。アルマスト派。女性。ɥənʅ。１６４ｃｍ、４９ｋｇ。髪は黒色で足まで長く、直毛。黒の瞳。肌は白：黄＝１０：０。 ［成句］ ɑen eɒ ɑəlɒccɪ フラグ立てんな：占い師フルミネアが μɑ で不吉な予想をして使徒を不安にさせたことがあったことから。 ɥən ɑəlɒccɪ ɪlnɪ beʃ nɔʃ フルミネアがツンと顔を背けるように：取りつく島も無い ［用例］ oec, ɑen eɒ ɑəl ɒccɪ ɔn uɔμʃ (ɪlʃe おい、死亡フラグ自重しろw

ɑəlμenɟ ［名詞］美辞麗句 ［レベル］3 ʃʃ:「フルミネアの言葉」

ɑəc ［植物］キャッサバ ［シネクドキー］タピオカ。キャッサバの澱粉質を乾燥させたもの ［レベル］4 ɪlɪlɪʃ:ɑəc,ɑɪc（暑い）/jəc（芋）。キャッサバの芋部が澱粉を多く含み、熱帯地方で主食とされることから。

ɑəɔ ［形容詞］残酷な、ひどい、酷い、悪質な ［形容詞］ひどい、ひどく。ʃcnɪɪ/ɥɪɒ の意味。 ［類義語］ɑɪnzel ［反意語］cueʃ ［レベル］2 ɑu 赤 :ɑəɔ（残酷）。字の形が腹をかき回すという恐ろしい意味。字形は人を横から見ている。

ɑəə ［名詞］古アルカの１ 赤→ jcɑɪll

ɑəə,lʃl 1 ɑcφc.l

ɑəəφc ［アイテム］短剣、ダガー、ダグ、ドルヒ、アダガ、ナイフ、ダガーナイフ ［レベル］3 ɑu;「鋭い」 ʃʃ

ɑəə ɥəə ucc uɔn ʃlɔn ［娯楽］1,ʃ,?,ll,ʔ と数えたところで頬にキスをする子供の遊び 古？ ［文化］ 小さい子供と親ですることが多い。ʔ の ʃlɔn とキスの ʃlɔ が似ていることをかけた遊び。

ɑəəl ［魔法］占い、ト、占ト ［動詞］ɥəl（相手、内容）を占う、占う ［レベル］2 1L:ɑəlɒccɪ: 自分の名前を語源にしたもの ʅl;>ɑəəl.cn < ɑəl.ɑu.l ɑəl:ɑəəl ［用例］ μen ɑəəl nɔn. 私について占ってちょうだい。 μen ɑəəl ɪɒc uɪjʃ ɪɟ. 僕が試験に受かるか占って。 μen ɑəəl nɔn ɔn hɪʃcɪ. 私の恋愛運を占って。

ɑəəljeɒɟ ［魔法］占い部 ［レベル］4 J0:ɒelcɑcɪ lceμ

ɑəəlɪn ［魔法］占い師 ［レベル］2 J0:ɒelcɑcɪ lceμ

D

ɒ ［接尾辞］eɒ。開音節の後に来る。 ［レベル］1 1L

ɒ(J) ［単位］メルフィ ［レベル］2 ʃʅ

ɒ,ɑu 依頼文を弱化させる語。μe ʅə（言え）に対して μe ʅə ɒ（言って）などのように使う。

ɒʃ ［歴史］メルテナ、ɒeμʃenɪ ［レベル］3 ʃʅ

ɒɑ ［演繹音］もふもふ、モフモフ ［レベル］3 μɑ;hɪɪlueʃ ʃʔ

ɒɒ ［感動詞］うん、そう、ありがとう ［レベル］1 古 ［語法］ 発音は口を閉じて鼻から息を出して行う。日本語のという「うん」という相槌にはあまり似ず、中国語の「うん」という相槌に音がよく似ている。ɒɒ は語義が多いが、それぞれ言い方で区別される。

ɒɒ(J) ［単位］キロメルフィ、ｋｍ← ɒecnɒeləc ［レベル］3 ʃʅ

ɒɥɪ ［動物］猫、ねこ、ネコ ［擬声］にゃーん ［レベル］2 古 : ネコのオノマトペの一種。文字は ʅeʃʃɔ と同じ。

ɒɥɪ(J) ［代詞］［南方］［女性］nɔn ［レベル］3 ʃʅ:ʅ.ɒcuɪ ［用例］ ɒɥɪ ɑcʃɥɪʃ hɪμ ɒccʅ le ʃlc ʃɪəʃ ʅen ʃlcn eʃʃɪ ʅɔɪn lɪɟ ɥɪ. nɔn ɑcʃɪʃ ɒccʅ hɪμ le ʃɥə ʃɪəʃ ɪl eʃʃɪ ʃəɪn ɔʅʅɔ lɪɟ e. アンタが買った赤いリンゴ、ウチがアンタの姉さんに手渡ししていたで。

ɒɥɪn ［植物］ハス、蓮 ［レベル］3 lɪlʃɪ

ɒɥɪn(J) ［代詞］［南方］［女性］nɔɪn ［レベル］3 ʃʅ:ɒɥɪ の属格

ɒɥɪnɒɔɒ ［植物］レンコン ［レベル］3 1ʔ: 制 : はすの根 ［文化］ アルティア人経由でアルバザード人も食べるようになった。

ɒɥɪe,ɑ ɑeɒ 幼字の字源は「嘘の炎で脅かす」。

ɒɥɔ ［物理］磁石関連につく形態素 ［名詞］磁石 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɒɥɔc（磁気の）

ɒɥɔʃej ［物理］電磁誘導。ʃej といっても具体的な電気のことでなく、現象名。 ［レベル］4 1L

ɒɥɔʅɪ ［物理］磁場 ［レベル］4 1L:μcəjʅɪ と同様のネーミング

ɒɥɔɑμɪ ［地学］磁鉄鉱 1L

ɒɥɔbelɑμɪ ［地学］磁硫鉄鉱 1L

ɒɥɔɪʃeu ［物理］誘導電流 ［レベル］4 1L:ɒɥɔeueʃ と同じネーミング

ɒɥɔc ［物理］磁気 ［レベル］4 jɒ;ɒɥɔ は磁気 赤

ɒɥɔeueʃ ［物理］誘導起電力 ［レベル］5 1L: 磁場の変化で起こる起電力

D

ɒɣed ［感動詞］［ɥʌnʹe］へっ？、えっ？、みゅ？、にゅ？ ［レベル］2 古 ［語法］ 意味は hed と同じ。ɒɣed は主に人に対して、ɒɣəd は主に自分に対して使う。

ɒɣə ［感動詞］［文末純詞］みゅ、みゅう、みゅう、みゅー？、みゅんっ ［レベル］2 μɑ:ɒɕɑɕɪ; 猫の鳴き声から 1L: 新生では古 ɒɣəd からの逆成。 ［語法］ 猫風の文末純詞。甘えの心理や平和や和みを示す。

ɒɣə,ɑ ɒc、enʃ、ɑce e

ɒɣəʃ ［名詞］距離、間隔 ［名詞］親密度 ［武道］間合い ［数学］三角関数の三角形における斜辺。単位円の半径に等しい。 ［レベル］3 1L:ɒɕɑɕɪ:ɪɒɪlelʃ:ɒɣəɔ/ɪʃc。ɑɒɛɒɑlɔn では長いため。 ɔ:ɔ

ɒɣəʃlɪlɪ ［地学］正距図法 ［レベル］5 1L

ɒɣəʃnɪ ［芸術］遠近感 ［レベル］4 JJ

ɒɣəʃlɔɟlɪlɪ ［地学］正距円筒図法 ［レベル］5 J0 ［文化］ 緯線と経線が垂直に交差し、それによってできるすべてのブロックが等面積の長方形になる図法。緯度と経度を示しやすく、ＧＰＳなどに使われる。現実にはアトラスの地図がセレンによって最初に作られた際、作図が容易であることとアシェルフィの位置が示しやすいことから、この図法が選ばれた。

ɒɣəʃɪɟlɔɟlɪlɪ ［地学］正距方位図法 ［レベル］5 J0 ［文化］ ɪlecɔlɪlɪ などがある。

ɒɣəʃɪlʃ ［数学］絶対値 ［レベル］4 1L

ɒɣəʃɔɒ ［芸術］遠近法 ［レベル］4 JJ

ɒɣəʃe ［物理］スペクトル ［レベル］4 古 ȣɒɣəʃe（分ける）。ɒɣə/ʃe で「関係がなくなる」

ɒɣəʃe,ɑ ɒɪʃ、ɒcʃe 「ない関係にする」

ɒɣəʃen ［医療］骨度 ɟzl;ɒɣəʃe.ʅ JJl

ɒɣəʃenɔɒ ［生物］［医療］骨度法、骨度分寸法 μɑ;/ JJl

ɒɣəʃeɔɒ ［物理］分光法 J1

ɒɣəʃ ［単位］ミュク、磁束密度 ［レベル］6 古 : 元は ɒɣəɔlɪɒɪ（磁束密度）。「磁束の多さ」。 ［語法］ 磁束の方向に垂直な面において 1 平方メルフィにつき 1 ミュムの磁束密度のこと。テスラと比較。

ɒɣəʃlc ［名詞］犠牲、生贄、いけにえ ［類義語］ɥənɟ、cɟʃcɟ ［レベル］3 ɑ;ʅ は ʅə で動物。lc は lcɥɒɔ で命。ɒɣə は「なくなる」 赤

ɒɣəʃɪɥ ［宗教］教祖 ［レベル］4 古 :ɑəlɒccɪ:ɒɣəʃlle/ɥɟccʃɪ ［文化］ ある宗教を興した人物。シオン＝アマンゼなど。

ɒɣəʃlɪlcɪ ［宗教］邪教徒 ［反意語］ɥəəsc ［レベル］3 J0:ɒɣəʃlle/lcɪ ［文化］ ɥəəɒɪ Ⅱ19」にレスティリアの王府がアルヴェーテを ɒɣəʃlle と呼び、その信者をこのように呼んだ。hɪɥuɪ が出てからは廃語となる。

ɒɣəʃlle ［宗教］宗教、～教 ［レベル］2 zɥ;「嘘の」 赤 : ちなみに宗教にネガティブだった古アルカでは、同時に「嘘の」という意味。 ɒɣəʃlle:ɒɣəʃlle:ʅə ɒɣəʃlle ［文化］ ɥəəɒɪ Ⅱ19」レスティリアの王府からアルテ教は異教（ɒɣəʃlle）だという公言がなされる。実際に歴史的にはアルテ教のほうが間違っているわけで、存在しない神を崇められては当然サルトとしては鼻持ちならない。また、神商会としてはこれ以上商工会をのさばらせておくわけにもいかなかった。そこで両者が時のレスティル王マールを炊きつけ、アルテ教を邪教とし、ɥəəɒɪ Ⅱ19Ⅱ にはさらに宗教の禁止を公布させた。宗教はアルバレンで ɒɣəʃlle といい、「嘘のもの」「存在しないもの」を意味する。これにより、アルテ教迫害の下準備が整う サルト教ができて以降は「邪教」の意味でなく、宗教を総称する語になる。

ɒɣəʃɪ ［天文］新月、朔月、朔、つきこもり、月隠り、晦、みそか、晦日 ［名詞］南 ［メタファー］ぽっかり空いた丸い穴 ［メタファー］心の穴、喪失感 ［組み数字］1 / 8 ［レベル］2 1ʃ: 制 : 古 :ɒɣəʃef。また古の ɒɣəʃɪ（存在がない）とも掛けている。 ɒɣəʃef:ɒɣəʃef:ʅɪ ɒɣəʃel ［文化］ ʃelʃeel ［用例］ ☆ nɔn ʃcʃ lɪʃel ɒɣəʃɪ ɒcʃ uɔɒʃ lɪɪʃ ɑcen ʔ ɟɪʃʃ ɪɟ ej ɒɪʃɒ. 彼が死んでから３年が経つが、まだ喪失感を感じている。

ɒɣəʃɪ,ɑ ɒɪʃ 「ないもの」

ɒɣəʃɪʃ ［名詞］死角 ［レベル］4 ɑu;ɒɣəʃɪ/ʃe「穴のような」 JJl

ɒɣəʃlʅ ［地名］ミュシャク ［レベル］6 古 ［文化］ アデント大陸にあるモカル国の首都。ガーヴィへ通じる大穴がある。

ɒɣəʃef ［名詞］ミュシェット、ミュシェットの月、月無 ［レベル］2 ɑu; ↓ 古 : 古では「 ないり月 」。幻の月と新月両方を表わした。 x:x:ʅə ɒɣəʃel ［語法］「 ないり月 」。月無日（アシェットの日及びテームスの日）

ɒɣəʃefʃcl ［化学］イットリウム ［レベル］5 1Λ: 制

ɒɣəʃel ［気象］ɒɣəʃɪ ［医療］厥陰 μɑ;<ɟzl<ɒɣəʃef.ʅ JJl

ɒɣən ［女性］［法副詞］～してください。ɒcμ よりも語調が弱い。 ［類義語］ɒcμ ［レベル］1 J1:μc ɑcɪ:J1 まで ɒcə。ɒcμ と聞き分けが困難として ɒcə に指小辞を付け ɒcən にし、口蓋化して ɒɣən に。 ［語法］ μe

ɒɣən(J) ［感動詞］［文末純詞］［ɒdɔ］みゅん ［レベル］2 J0:μcɑcɪ:ɒcμɔʅ

ɒɣəɒ ［単位］ミュム、磁束 ［レベル］6 古 : 磁束 ［語法］ 1 回巻きの閉回路と錯交する磁束が一様に減少して 1 秒後に消滅するときにその閉回路に 1 イレットの起電力を与える磁束のこと。ウェーバーと比較。

ɒɣəd ［感動詞］［文末純詞］［ɥʌnʹe］へっ？、えっ？、みゅ？、にゅ？ ［レベル］2 μɑ:ɒɕɑɕɪ;ɒɣə 古

ɒɣədɪ,ɑ ɾdəəlɟ ɒɣə/dɪdɪləμɪ「消え去る太陽」

ɒɣəμ ［地学］沖 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ:ɒɣəɔ/eμcɪ（離れた水）

ɒɣəμcɪ ［地名］ミュリア海 J0:μcɑcɪ: 古 ɒɣə（ない→花がない→ミナカルモ側でない）/ 水 ［文化］ フィギット北の海。

ɒɣəz ［植物］イグサ、トウシンソウ ［名詞］畳← ɒɣəzbɔlɟ ［単位］畳→ ez ［レベル］3 ɪlʅʃɪ:ɒɣəlɪ bəɟɪz「 籠の草 」

ɒɣəzbɔlɟ ［名詞］畳→ ɒɣəz ［レベル］3 μɔ;ɪlʃ の道具を意訳 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ ez

ɒɣəl ［形容詞］類似の、似ている、似た ［格詞］～に似た、～に似ている、～のような ［名詞］類似品、似たもの ［数学］相似 ［反意語］enʃ ［レベル］2 赤 :ɒɣəl（鏡） ［成句］ ɒɣəl ʃə 同じように、同様に、似たように ［用例］ μcɑcɪ ɪʃ ɒɣəl ɪ ɒclɑ cɒ lɪz. 少女時代のリディアはミルフに似ていた。

ɒɣəl,ɟzɑ 0 ɒɣə/ɪl

ɒɣəl,ɑu ɒed ɒɣə/ɪl

ɒɣəʃlɪlɒ ［魔法］ミュルカルム ［類義語］ɒɣəlɒɟcɪ ［レベル］5 μɑ;ɒɣəl/ʌlɪɣəɒ「類似した双子宇宙」 J? ［文化］ 双子宇宙は類似するという μɑ で立てられた理論のこと。双子宇宙であるカルディアとユマナは互いに類似しているという内容である。実際に大陸の配置も似ているし、結果当然のことながら気候や風土も似てくる。また、惑星系などは同一でするある。 同じような土地柄の世界がふたつあれば、別途栄えても同じような文化が出来上がるというのがこの理論の特徴である。例えばカルディアでもユマナでも蜘蛛という生き物は存在するし、同じように進化してきた。猫もどちらの世界でも生息していて、一部ではペットとして飼われる。どちらの世界にも桜という木があり、どちらの世界にも殺人という犯罪がある。 これは地球内でも似たようなことが言える。全く別個に発達した文化同士を比べたときに示し合わせてもいないのにあまりに多くの類似性が見つかる。例えばどの民族も物を食うし、物を焼くし、人を殺せばたいてい犯罪である。示し合わせたわけでもないのに根本的な部分が同じ人間という種だから、同じような文化を形成する。 このように、似たような環境が与えられた領域では似たような進化を遂げるというのがこの理論の大綱である。 μɑ ではセレンがユマナからの来訪者という説があり、それが発端となってミュルカルム理論まで発展していき、カルディアとユマナの驚くべき類似性が示唆された。 ls ではさらに、カルディアとユマナの最大の違いはヴィード場の有無にあるとセレンは提唱した。なお、ls セレンもミュルカルムを支持していた。μɑ のセレンも同様である。 ・現実では 現実では中学の時にセレンによって形成され、J? 年に登録された用語である。 セレンはアシェットとの付き合いで、こんなにも民族が違うと細かなところで異なるのかと驚いた。その一方、２８民族もいて逆に大まかな部分は全部共通していることにも驚いた。どの民族も物を食うし手もあるし目もあるし色が違っても目の機能は同じだし、肌の色が違っても肌は肌だし、殴れば怒るし痛い。 あまりに違うと細かな部分では思う相手たちが、大まかな部分では逆にあまりに似すぎているということが不思議だった。 だって民族同士は示し合わせて文化を形成したわけでもないのに、なんでこんなに大まかな部分で同じなんだろう、と不思議に思った。そこで、環境が似ていれば同じような結果になるのではないかという考えにいたった。 この考えが異世界と現実の間でも応用され、ふたつの世界も環境が類似した双子宇宙なら、同じような結果を導出し、同じようなよく似た世界、細部しか異ならない世界ができるのではないかと思った。それがミュルカルム理論の元である。 結局はセレンの少年期の多種多様な民族との触れ合いが元になっている。これは経験したものでなければよく分からないのではないかと思う。言葉で説明されただけで心が納得できるかは分からない。セレンのような体験をしたアシェットの人間にはたやすく共有される価値観であろう。 ・現実でのジレンマ アルカは異世界の言語であるとともに地球でも使えないと困るし、ユマナタグをなるべく増やしたくないので、メルティアが故意に世界を類似させているとかいう加圧をしてでも類似性を維持したい、というのが本音。 一応カルディア固有のものはそれなりに作っているんだけどね。国や海を始めとして。植生なんかでもソソトロノとかカルディアにしかないし。でもあんま両世界が乖離すると言語使いづらくてしゃーないのよ。アルカがカルディアオンリーのガチ架空言語ならいいけど、リアルネイティブがいることだし。 そもそも現実で使ってた人工言語を異世界の言語としてチューンナップするからこういうことになる。なまじ現実で使ってるから。でも現実で使わないと実践に耐えうる言語か検証できないという問題もあるしでジレンマ。 アルティス教なんてカルディアにしかないから、娘はフランス人が教会を持つように自分たちのシーカはどこにあるんだ？なんて疑問を親にぶつけて困らせるという問題が実際に起こってる。これが μɪɑc どこ？なら人参渡せばいいけど、カルディア固有のものだと渡すものがなくて詰む。こういうのが困る。 要するに「異世界の言語をなるべくそのまま地球でも使えるようにしよう」というコンセプトと「それはそれでいて異世界はしっかり作り込もう」というコンセプトが矛盾的でだけど両立しなければいけないので、そこで出てくるのが ɒɣəʅlɪlɒ だったり ɒɣəlɒejcɪ だったりするわけだ。

ɒɣəʅlɔʃʃɪ ［美容］鏡台、化粧台、化粧鏡 ［レベル］4 J1: 古 ɒɣəʅlɔʃɪ（魔法鏡）

ɒɣəʅlɔʃɪ ［魔法］ミュルコタ ［類義語］clcμcəɟ ［レベル］5 ɑu;ɒɣəl/lɔʃɪ 赤 ［文化］ 光の上位難合古代魔法。あらゆる魔法を跳ね返す。跳ね返せない強さのものに対しては防壁の役目となり、ダメージを緩和する。イシリウスより能力が高いが、人間には極めて重合しづらい。

ɒɣəluef ［言語］類義語、シノニム ［レベル］4 1L

ɒɣəlɒejcɪ ［哲学］ミュルメシア ［類義語］ɒɣəʅlɪlɒ ［レベル］5 μɑ;ɒɣəl/ɒejɪ JJl ［文化］ 同じ環境が与えられれば同じ結論にたどり着くこと。例えば ɒɣəʅlɪlɒ はこれの下位概念である。 一言で言えば、「似たような環境で発達した物事はミクロな部分では異なるが、マクロな部分では共通する」という考え方のことである。 ɒɣəʅlɪlɒ と関連させると、例えば「ユマナには桜があるがカルディアにも桜に相当するものがある」ということである。ミクロな目で見れば地球の桜とは異なるが、アトラスの日本のような気候の国ではマクロな目で見て桜と似たような木が繁栄するだろうという理論のことである。 日本の人工言語制作者は偶然では説明がつかない頻度でアブギダ系の文字を考案する。日本ではアブギダ系の文字は普及していないのに、示し合わせたかのように偶然でない頻度でアブギダ系の文字を考案する。これは母語の日本語が音節文字であることと、人工言語という廚二病を発症しやすい小中高のころにローマ字や英語を習って母音と子音というシステムを知るという環境が日本人の間で共有されているからである。日本語のひらがなのように音節数の数だけ文字を用意するのは骨が折れる。そこで子音と母音に分け、アブギダのように音節を表現すれば合理的じゃないかと思いつく。この発想は同じような環境に置かれた人が同じような結論を導出するということの好例である。むろん全員が必ずそうするというわけではない。皆が同じ結論になるというのではなく、少なくない人が同じ結論にたどり着くということで、マクロの単位で見ると、双子宇宙であるカルディアとユマナが大方の部分で似ているが細部で異なるというのと同じことである。つまりミュルメシアはミュルカルムの一環といえる。 セレンは小学生のころからこのミュルメシアに相当する考え方で生きてきた。人間は似たような環境に置かれれば、示し合わせたかのように同じような行動を取る。文化圏が違っても、人間の体というのが共通していれば、アフォーダンスの関係で様々な部分で同じような行動を取るということを、アシェットの友人を通して痛いほど身を以て痛感してきたためである。 例えば黄色い肌のセレンや白い肌のフルミネアや褐色のパール、焦げ茶色の目のセレンや緑の目のリディアや青い目のメルなど、アシェットのメンバーは様々な民族でできている。セレンは日本語教授法の免許を持っているので研修などでアシェット状の様々な民族が集まった教室も経験している。アシェット化された環境はミクロな部分では文化差によって非常に異なっているが、マクロな面では驚くほど同じである。 例えばどんなに肌の色が違おうと口で食べて胃で消化して腸で吸収して排泄するというのは同じだし、だからどんなに離れた一切交流のない文化圏を比べてもどちらにも必ずトイレに当たるものが示し合わせたかのように存在する。 人間は置かれた環境が共通している限り、かなりの確率で似たような結論を出すのだ。例えば示し合わせなくても必ずどの民族もトイレに当たるものを作る。それが単なるヤブの中なのか、洋式なのか和式なのか、ミクロの違いはあれど、トイレという点では共通している。示し合わせなくとも同じ環境に置かれれば同じ結論になるというのがこのミュルメシアの重要な考え方であり、世界設定の重要なキーワードであるミュルカルムとも関連する。

ɒɣəlμecɑ ［言語］類音 ［レベル］4 J0

ɒɣəʅlɪ ［感動詞］がっかりだ、残念だ、残念 ［名詞］（nɪ とともに）意気消沈した、落胆した、落ち込む、へこむ、ヘコむ、凹む、気落ちする、気が落ちる、気を落とす、肩を落とす ［形容詞］残念な、がっかりした、気落ちした ［レベル］2 古 :ɒɣəʅlɪ（希望がない） ［用例］ ɟcnɟ ɒɣ əʅlɪ 気を落とす ɪn nɪʃ ɒɣəʅlɪ ɪ lɪ uɪɑe ɾɪɟ. 彼が試験に落ちたことは残念だ。 lɪɪɟ nɪʃ ɒɣəl lɪ ɪ ncɑe ɪnʃ cn. 私の成績に彼らはがっかりしたようだった。 ☆ ʃə ɪʃ ɒɣəʅlɪ lel lɪ leeu ɪn leɑ ɒenɟ. がっかりしたことに、彼は何も言わずに去った：がっかりしたことを副詞句にしない。 ɪn nɪʃ ɒɣəʅlɪ ɒɪn uɪɑe ɾɪɟ. 試験に落ちて落胆した。 ɪn nɪʃ ɒɣəʅlɪ ɪ lɪ ɟɔʃ ɟɔ:. 彼がそうしたのは残念だった。 ɪn nɪ ɒɣəʅlɪ ɔn ʃcɑl ʅclɒ μɪʃ. いい機会を失うのは残念だ。 ʃə ɪʃ ɒɣəʅlɪ lel lɪ en ʅɪd ɪl ɪn. 残念なことに、彼は電話をくれなかった。 el nɪ ɟcl ɒɣəʅlɪ ɒcl enɑc ɟɔuen ɟej ɔ ʃəμ ɒclφɪɪl lə ʃcl ɒɪl ncl ɪ. なまじ幸せな記憶を持ってると現在との落差でへこむことになるぞ。

ɒɣəʅleed ［化学］同族体 ［レベル］5 1L

ɒɣəlɪsɪ ［数学］相似比 ［レベル］4 1L

ɒɣəlɔ ［動詞］ɥəl を c から類推する、類推する ［論理］類推、アナロジー ［レベル］4 1L:ɒɣəʅlɔ

ɒɣəlen ［接続詞］～に似た ［レベル］3 1L:lcɔn

ɒɣəlɒ ［言語］ウムラウト ［レベル］6 1L ［語法］ 同化の一種で、後続の母音の影響を受けて母音が変質することを。後ろの母音と同じになるとは限らないため、ɒɣəl と呼んでいる。英語の ｆｏｏｔ－ｆｅｅｔのような例はアルカではアプラウトと捉えている。むろん、通時的にはｆｅｅｔはｆｏｔｉｓ（ｏの上にウムラウト記号）から生じたため、純粋にウムラウトである。しかし現在のｆｅｅｔとｆｏｏｔの関係だけを取り出すと、アプラウトである。他方、ｓｉｎｇ－ｓｕｎｇのような例は通時的にも後続母音による変化によるものではなかったため、アプラウトでしかない。

ɒɣəlɒ(J) ［魔法］［工学］ミュレム現象、引眩現象 ［レベル］5 ［反意語］ɪlʃɔʃ J0: 同じの ［文化］ 異なる眩基配列の ucμ 同士を高魔圧で接触させると魔法物理学上の引力が生じる現象。

ɒɣəɔ ［形容詞］離れた ［動詞］ɥəl を c から離す、離す、分離する ［普通動名詞］非接触、隔離、隔絶 ［反意語］ɔɔl ［レベル］2 ɑ 赤 :ɒɣə（ない）/ɔ（距離）「距離を取って、ここにない」 ɒɣ əɔ:ɒɣəɔ:ɒɣəɔ ［用例］ ɟɪe ɒɣəɔʃ c linueɒ. 紗枝はランヴェムから身を離した。

ɒɣəɔʅcɒhɔ ［生物］浮肋、浮肋骨、浮遊肋。第１１と１２肋骨のこと。非常に折れやすく、マッサージなどでも折れる医療事故が多い。 μɑ;/。ほかの肋骨、肋軟骨と異なり、繋がっていなくて浮いて離れた状態になっていることから。 JJl

ɒɣəɔneclʃ ［アトラスの国家］ミュオネイト ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɒɣəɔ は「離れた」

ɒɣəɔneclʃcʅe ［地学］ミュオネイト海流 J?

ɒɣəɔucɪn ［物理］遠隔力 ［レベル］6 J0

ɒɣəɔdɪl ［経済］個別表、個別財務諸表 ［レベル］6 1L

ɒɣəɔμɪ ［建設］一戸建て、一軒家 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ 東区の金持ちが住む家。

ɒɣəɔcn ［動詞］ɥəl を見物する、見物する、見学する、傍観する、観察する ［普通動名詞］見物、見学、傍観、観察、社会科見学 μɑ;/「離れたところから見る」 JJl

ɒɣəɔɔddɪl ［経済］個別注記表 ［レベル］6 1L

ɒɣəe ［ユマナ］イスラム教 ［ユマナ］アラー、アッラー ［レベル］4 古 :ɒɣəe（アラー）。元は ɒɣ əeejʃe（名前の無い）

ɒɣəeɒʅlle ［ユマナ］［宗教］イスラム教 ［レベル］4 J?

ɒɣəelec ［宗教］コーラン ［レベル］5 1Ⅱ: 制 : イスラム教の本

ɒɣəə ［感動詞］ɒɣə ［レベル］2 μɑ:μcɑcɪ;ɒɣə J?

ɒɣəəze ［人名］ミューゼ 古 : 小説版アンクノット３巻に記述あり。設定内容は現状と異なる。 ［文化］ ウロの時代にいたソーンの隠れ使徒。μɑ ではクミールの家の研究所を爆破した張本人で、クミールの命を救うという名目でクミールに乗り移った。アルシェとの決戦で意識の

D

低下したクミールを乗っ取ろうとしたが、リディアにハティアの魔法をかけられ、中にいるクミールが目を覚まして動けなくなり、セレンに斬られた。

ɒʏəəl ［地名］ミュール、ミュール大陸 ［類義語］˥lɛnɑcɪ ［レベル］3 古：「ないもの」が原義 ［文化］ 面積：ꞡꞡ1L1.ꞡL10ꞡL ˥ɒ ˩ アンシャル南部の亜大陸。古名は˥lɛnɑcɪ。

ɒʏəəljczɪ ［地学］ミュールプレート ˩˥

ɒɪ,ɑ ɒɪɒ、ɒɪzɪɒ e

ɒɪſ ［動詞］ɣəl を ɪ に分ける、わける、散らばる、分かれる、分岐する、分ける、散らす、振り分ける、ふりわける、ふり分ける、分散する ［普通動名詞］分散、ふりわけ、振り分け、分割、分裂、仕分け ［化学］分散する。コロイドなどは溶けずに分散する。 ［生物］分裂する ［経済］仕訳、仕分け ［経済］分割する ［音楽］アルペジオ ［反意語］ɔɔl ˥ˀ: 制 :ɒcſ:ɒɪſ は制では「合流」、ɒcſ が「分岐」、ɔɔl が「集める」、nɛl が「散らばる」 ［レベル］2 ɒʏəſe:ɒʏəſe:ɒʏəſe:ən,ɹſ ［語法］ ɑɔ˥l ［成句］ ɒɪſ ɣənɔ ほっとする

ɒɪſ(ɹ) ［組み数字］２６／２８ ［交通］ンムト通り ［レベル］2 ˩˩

ɒɪſſɪ ［被服］股引、ももひき ［レベル］4 ɹɒ;‹ɪɹſ ˩˥

ɒɪſ˥ ［名詞］分岐点 ［レベル］4 ˩˩

ɒɪſ ɯɪɒɪ ［人名］ンムト＝ヴァマ ［組み数字］２６／２８ ［レベル］2 古：語源不詳。古形は φɒəſ,φɒɪſ,ɒnəſ などと書かれ、表記が不安定だった。幻字は表意文字だったため、表記がきちんと決められないままになっていた。ɯɪɒɪ は元は ɯɪɒɪ で、「あの体」。 ［文化］ → ɒɪſuɒɪnſ（ɹ→）第４期４代ソーン第１２使徒。男性。ɪlɒen。 １９０ｃｍ、９２ｋｇ。髪は赤毛で５ｃｍほどの長さでぼさぼさ。茶色の瞳。肌は白：黄＝１０：０。 本来は［φ］が軟口蓋鼻音なのだが、制アルカにないので本人に選んでもらったところ、クミールの代弁によると調音点が同じで同じく有声音の閉鎖音［φ］にしてほしいとのことだったので、この名にする。セレンの感覚では［n］が近いかと思ったが、それはあまりに日本語に引きずられた考えのようだ。 ↑この時点以降、制アルカ的でないという理由で名前が変わり、本人も納得しているということで、名前を変えた。φɒſ だったものに母音を入れた。適切な母音を選んでもらったら ə が近いということだったので、それに相成った。

ɒɪſuɔɹɯ ［物理］［化学］核分裂炉 ［レベル］6 ɹ;/「核分裂原子炉」 ˩˩ ［語法］ nɔluɔɹɯ

ɒɪſuɒɹɯſnſ ［医療］反社会性パーソナリティ障害、反社会性人格障害、非社会性パーソナリティ障害、非社会性人格障害 ［レベル］5 ul;ɒɪſ/uɒɹnſ ˩˥:ɒel

ɒɪſφɪ˥ ［経済］分割払い ［レベル］5 ˥L

ɒɪſdeɑ ［経済］減価償却 ［レベル］5 ˥L

ɒɪſbɪ˥l ［化学］分散コロイド ˥L

ɒɪſzɔn ［医療］松葉杖 ［レベル］3 ˩˥:ləɹcɪn: 分岐した杖

ɒɪſzɔl ［生物］中心小体、中心体 μ/;/ 細胞分裂の際、弦となって染色体を引っ張って分裂させる働きをすることから。 ˩˩

ɒɪſɪ,ɹſ ɪz

ɒɪſɪn ［化学］分散媒 ˥L: 例えば発泡スチロールは気体を固体に分散させたものだが、このとき固体が気体を自分の中に分散させているので、「分散させるもの」は分散質でなく分散媒になる。日本語の「分散する」という自動詞で考えてはいけない。アルカには他動詞「分散させる」しかないので、結果的に能受が逆になる。幻幻から流入したとき、セレンはこれをリディア側の誤植として訴えた。

ɒɪſɪnɑcj ［法律］八つ裂き刑 ˥L ［文化］ 受刑者を裸にして両手両足をロープで巻き、自動巻きの滑車にくくりつける。滑車をスタートするとロープが引き込まれていき、受刑者の両手両足がもぎ取られる。最後に必ず両手両足のうちどれか一本が残る。配偶者殺害に適応。

ɒɪſɪlɔ,ɑ uɔɹſ

ɒɪſɪlɔφc,ɑɯ uɔφ ɒelſcɪ ΔΔ:φcɪcəj;/

ɒɪſcj ［軍事］曹長、マティス ［組み数字］１５／２０ ［レベル］3 ˥L:μcɑcɪ:ɒɪſſ/ɪɪnſcj。少年魔導師などで能力があるとこの地位に就いたことから。 ［語法］［文化］ ˥ɪnɪ

ɒɪſɔl ［化学］分散質 ˥L: 分散されるもの→必ず ɒɪſɪn を読むこと

ɒɪſeſ ［経済］ザラ場 ［反意語］nɔleſ ［レベル］6 ˩˩:nɔleſ に対して造語されただけで、ɒɪſ 自体の散るという意味はない。

ɒɪſeſueeμ ［経済］ザラ場引け。前引けや大引けで取引が成立しないこと。 ˩˩

ɒɪſeɹɟɟe ［普通動名詞］ファーストフードセックス ［反意語］ɟeμeɹɟe ［レベル］6 μɑ;/ ˩˥ ［文化］ ɟe μeɹɟe

ɒɪſeɹj ［美容］ブロッキング ˩˥

ɒɪ˥ ［普通動名詞］再開 ［動詞］ɣəl を c のポイントから再開する、再開する ［法副詞］～を再開する。準開始相。 ［反意語］ɑɪcɒ、ɔn˥ ［レベル］2 ˥ˀ: 制 : 古 :ɒe˥clc（中断、止める）「時を切る」 ［語法］ ɒɪ˥ は準開始相。˥cſ の代わりに使う。 同じく ɑɪcɒ は準完了相。 ɒɪ˥ は再開の意味。ɑɪcɒ は中断。 「また～はじめる」と「～するのをやめる」にあたる。 これらはともに相副詞である。 ●単位動詞の場合 ˥e˥ ɒɪ˥（徒歩での移動を再開する） ˥e˥ ɑɪcɒ（徒歩での移動を中断する） ●非単位動詞の場合：＊非単位動詞にはモデル上完了相がないので、ɑɪcɒ は繰り下げて終了相にかかる。ɑɪcɒ は準終了相となる。 ˥e˥ɪnɑ ɒɪ˥（散歩を再開する） ˥e˥ɪnɑ ɑɪcɒ（散歩を中断する）

ɒɪ˥μɔlſ ［娯楽］ふっかつのじゅもん、ふっかつの呪文、復活の呪文 ［レベル］5 ul;「再開のパスワード」 ˩˥

ɒɪ˥l ［動詞］ɣəl を ɪ に撒く、撒く、蒔く、まく、撒き散らす、撒布する、ばら撒く、散らばる、拡散する、散らばらせる、散布する、配布する ［普通動名詞］散布、配布、拡散 ［レベル］3 ˥ˀ: 制 : 古 :˥ɪɒ˥eſſɪɔſ 多く広く行かせるようにする」

ɒɪ˥ˀφe˥ ［軍事］散弾 ［レベル］6 μɑ;/ ˩˩ ［文化］ φel

ɒɪ˥c,ɹſ ɒɪμ˥ ɒɪ/˥ɪlc

ɒɪ˥cle,ɹſ ɒɪμ˥ ɒɪ˥c/lə

ɒɪ˥ɔ ［化学］化合する、親和する ［普通動名詞］化合、親和 ［レベル］4 ˥L:μʏəə:ɒɪcl/˥ɔd

ɒɪL ［名詞］穴、孔、ポケット（服のではなく） ［名詞］ポケット。ビリヤード。 ［卑語］性の対象の女 ［レベル］2 ˥ˀ: 制 : 古 :ɒʏəlɪ（穴） ɒʏəlɪ:ɒʏəlɪ ［用例］ ˥ɪɑ ɒɪL 穴を開ける ˥ɪ˥ɪɑ ɒɪL 穴を壊す、穴を塞ぐ ×μcφ ɒɪʏ

ɒɪLzɔn ［運動］ゴルフ ［レベル］3 ˥ˀ: 制 ［文化］ ゴルフとクリケットとゲートボールはテニスと同じ扱い。プロもいる。ルールもほぼ同じ。

ɒɪLɪ ［名詞］コンセント。入れられるほう。 ［反意語］ncjc ［レベル］2 ˥ˀ: 制 : 古 :ɒʏəlɪ

ɒɪLcɒ ［名詞］空洞 ［レベル］3 μɑ;ɒɪl/scɒ ˩˥

ɒɪLcdɪ ［医療］痔瘻、じろう、蓮痔、穴痔 ［レベル］6 ˥L

ɒɪLcl ［アトラスの国家］マシル ［レベル］5 ˩˥:μcɑcɪ

ɒɪLɔɒɪ ［動物］ダックスフンド ［レベル］6 ˩˥

ɒɪɹ ［名詞］紙、状、書状、シート、メモ ［形容詞］［俗語］ペーパーの、ヤブの、名目上の ［レベル］2 ɒelſcɪ ʔΔL:ɯɪʏſe;ɒic˥l.]。最初は麻で作られたものを指した。 ɹɔɟn ˥ˀ: 制 :ɹɔɟn:ɒɒɪɹ,ɒɒɔɪɹ（紙）。語源不詳。英語のメモに ɹ を付けたものという説があるが、ɒɒɔɪɹ の前の語形が ɒɒɪɹ であることを考えると不適。むしろ英語のメモを意識した者が後から ɒɒɔɪɹ と解釈して ɒɒɒ ɔɪɹ という語形が生まれたと考えられる。 ˥ɪɹ:˥ɪſʃə:ɒeɪɹ ［文化］ → ɒɪnſ ［用例］ ɒɪɹ ɒɪn 大きな紙 ɒɪɹ ɑeɑ 薄い紙 ɒɪɹ ɑcɒ 脆い紙

ɒɪɹ˥ ［名詞］封筒 ［レベル］3 ˥ˀ: 制 : ɒɪɹlc˥l（紙の紙袋）

ɒɪɹ˥lɪd ［名詞］ゼムクリップ ［レベル］4 ˥ˀ: 制 : 紙のクリップ

ɒɪɹɹ ［植物］橘、タチバナ ［レベル］4 ɹɒ;ɒɪɹə,ɹſ ˩˩

ɒɪɹə,ɹſ ɒəɔ

ɒɪɹuɪ˥j ［俗語］やぶ医者、ヤブ医者、藪医者、藪医者、やぶ、ヤブ ［レベル］3 ˩˥ʁ

ɒɪɹdμſ ［普通動名詞］書籍出版、紙出版 ［反意語］ɹμdμſ ［レベル］5 ˩˩

ɒɪɹbɪɹ ［名詞］紙ごみ、紙ゴミ、紙くず、紙屑、紙クズ ［レベル］3 μɑ;/ ˩˥

ɒɪɹɣə˥l ［名詞］障子 ［レベル］3 ˥ˀ: 制 : 紙の格子

ɒɪɹl ［名詞］ペーパーバック ［レベル］3 ˥ˀ: 制 :ɒɪɹlɔb

ɒɪɹlec ［名詞］紙の書籍、本、書籍 ［反意語］ɹμlec ［レベル］3 ˩˩

ɒɪɹ ［生物］肢帯 ˥L:μcɑcɪ:ɒɪcn/ɪɹμɪ

ɒɪɹɔdnɪn ［交通］ペーパードライバー ［レベル］4 ˩˩ ［用例］ ˥ɪɪl μɪnſe eſ ɒɪɹɔdnɪn ſcj。ウチの母はペーパードライバーにすぎない。

ɒɪɹeſ ［植物］パピルス ［レベル］4 ˩ˀ: 紙のような ［文化］ アルテムでファルファニア人がアルファエル川流域で発見し、これをもとに紙を作った。既にこのとき麻製の紙を神から分けてもらっていたが、製紙技術は人間になく、このときのパピルス製が初めての製紙技術。紙のほうが単語として先に存在していたので、紙のような植物という語源になっている。

ɒɪɹelc,ɹſ ɔnnɪ

ɒɪn ［格詞］なぜならば ［名詞］理由、原因 ［類義語］ɒcl、ɪlɒɪn、˥ɔlɟeſ、ɒclφɪɪl、ɪɪnse ［レベル］1 ˥ˀ: 恣意 dcn:dcn:ɒcl ［語法］ ・因果度 「なぜならば」には因果度の強さによって強中弱があり、順に ɪlɒɪn、ɒɪn、ɒcl という。通常は ɒɪn と ɒcl を使う。ɒcl を使う条件は強弱だけでなく、以下の３つ。 １：女性は ɒɪn のときも ɒcl と言いやすい。 ２：因果度が弱い場合は ɒcl を使う。 ３：直後が名詞句の場合、ɒcl を使うのがふつう。ɒcl uɪɟe（ヴァステにより）など。 ・ɒɪn と enſɔ ˥ ɒɪn ſ より ſ enſɔ ˥ のほうが構文的には一般的である。 △ɒɪn ɪn jccnɪ lelſ, ɪn ɑclɟ ſə cɒ ɑμɪl jel. ○ɪn jccnɪ lelſ enſɔ ɑclɟ ſə cɒ ɑμɪl jel ［成句］ ɒcl uɔɟ}{clc} e nene ～のおかげで ˥ɔ lɪn {cl ˥ɔ ɒɪn. ひとりの人にはひとつの目的がある。韻を踏むためここは ɒɪn で。 ［用例］ ɪn lɪſ μɪ ɒɪn ɾɪſe lənɪ˥ cɒ ɑcj. 今日は嵐だったので家にいた。

ɒɪn(ɹ) ［名詞］ɒɪcn,ɹſ ［文字］身、旁 ɒɪcn.l ［文化］ ˥ɔcɒɪnlen

ɒɪn,ɹſ φel

ɒɪnſ ［植物］［被服］花冠、花飾り、花輪、花わ ［レベル］3 ˥ˀ: 制 :ɒcnɪ（花）

ɒɪn˥ ［動物］イタチ ［レベル］4 ˥ˀ: 制 :ɒɪnz から

ɒɪn˥clcɑel ［生物］病理解剖学 ul;uɔμſɪɒɪn/˥clcɑel ˩˩

ɒɪnɟ ［動詞］ɣəl を咲かせる、咲く ［反意語］ɪlɒɪnɟ ［レベル］2 ˥ˀ: 制 :ɒcnɪ（花）から :::dɪlə,ɹſ ［用例］ ˥ə eſ cɒ e ɒɪnɟ ˥ɪſ ɒccnɪ. 花開く季節だ。 ☆ ɒccnɪ ɪſ˥ ɒɪnɟ ɣən nɪl. 花がぱあっと咲いた：「笑うように花が咲く＝ぱあっと咲く」という独特の表現に注意。

ɒɪnjec ［地名］マンセイ ˩˥ ［文化］ トンカン西部の都市。

ɒɪnɑ ［形容詞］曲げられない、硬い、曲げにくい、伸びにくい、形を変えにくい、体が鈍った、体が固い、なまった、なまる ［反意語］ɒcnnə ［レベル］3 ˥ˀ:jeμen:˥lel:ɒcnɑ: 古 :ɒcnnə ［語法］ 腕が鈍るという抽象的な意味はない。長時間の同じ姿勢で体が鈍ることを指す。しばらくやってないから腕が鈍るという意味ではない。

ɒɪnɑɪ ［名詞］経産婦、出産経験のあるメス ［反意語］ɒeeμ ［レベル］4 ˥ˀ:0:ɑɪlɑɪnɔɪ 語

ɒɪnɑɪn ［アイテム］シシャーク μɑ;‹ɒe ˩˩ ［文化］ ɹɒ の ɒe で作られた比較的軽装の兜。

ɒɪnɑɪue ［化学］［工学］硬鋼 ［レベル］6 μɑ;/ ˩˩

ɒɪnɑc ［医療］リューマチ、リウマチ ［レベル］5 ˥L:ɒɪnɑ/ucl ［文化］ 関節、骨、筋肉に痛みやこわばりの出る病気。μɑ では体の硬い人がなると思われていた。

ɒɪnhclɔɔ ［軍事］突火槍 ɹɒ;ɪlſ「弾火筒」 ˩˩ ［文化］ φel

ɒɪnz ［動物］ミンク ［レベル］5 ˥l˥ſɪ

ɒɪns ［魔法］チャクラム、ドーナツ型ユノ、マンジュ ［レベル］4 ［類義語］ɣənɔ ˩˥

ɒɪns,ɑ ˩0 elſ;ɒɪcn/sc

ɒɪnsc,ɹſ ſɪl

ɒɪn˥ ［動詞］ɣəl（二つ以上のもの）を ɪ（結果物）に折衷する、折衷する、織り交ぜる、織り混ぜる ［普通動名詞］折衷 ［レベル］4 ˥ˀ: 制 : 古 :ɒɪnſ˥「合わさった形にする」が原義

ɒɪnɪ ［名詞］少女、１５～１９歳 ［反意語］ɪlɒɪnɪ ［レベル］2 ˥ˀ: 制 : 古 :ɒcn（女） ::lɪ ləɒcnne

ɒɪnɪ(ɹ) ［言語］京極 ［レベル］2 ˩˥ ［文化］ → ɒɪnſ, ˥ɔcɒɪnlen, ˥ɔzəe, ɣə˥c ＜概要＞ ハーディアン発祥で、現アルティア、ロロスで使われる表意文字。アルバザードでは特にカレン州で多く用いられ、アルナ等でも日常的に見ることができる。ルティアでも ɹɒ の支配後は公用文字のひとつとなっている。結局ルティアも用いていることからアルバザードへの影響もさらに大きくなり、アルシアなどでも多くの京極を見ることができる。 京極は地球の漢字に相当する文字で、漢字と同じように造字力が極めて高いため、文字数は厳密には計れない。漢字は俗に５万字と言われるが、閉じた体系ではないので採録を増やせばもっと増えるだろう。それに関しては京極も同様である。ただ漢字が日常的に１０００～２０００の範囲で収まっているのと同じく、京極もやはり日常的にはその程度の範囲に収まるようになっている。 最初は甲骨などに刻んでいたが、上代以降紙や墨を用いるようになり、書体も増えた。文字は縦書きで、右から始まる。アルカ同様左からの横書きにすることもできる。元は横書きの場合は右からだったが、アルカなどの影響で現代ではアルティア本土でも左からになっている。 京極は世界で最も複雑な文字とされ、その扱いは地球における漢字に相当する。アルバザードでは外国語の授業で京極を覚えさせられることがあり、学生にとっては悩みの種となっている。 ＜構成＞ 主に象形、会意、指示、形声で構成される。漢字と同じく線形性の強い文字であるため、画数の少ない文字では必然的に漢字と字形が重複するケースがある。異世界のことなので、重複してもハーディアン人は知る由がない。例えば口という字は象形で、幼字の ˥ə の字が元になっており、「回」のような字である。マワルと混同しないよう注意する必要がある。同じく手は幼字の ɔɪ からできた象形で、字形は「山」のようである。これもヤマとの混同に注意がいる。いずれにせよ画数の少ない字は必然的に何らかの文字に似る可能性が高い。漢数字の二とカタカナのニもそうだし、幻字とアルファベット間でも同様である。画数が少ないほどデザインに幅が出せないからである。なお、意味も形も同じ字も少数ながら存在する。そのような文字は象形に多い。例えば「月」がそうである。これは幼字の ɑəəμφɪ から来ている。 京極は漢字と比べて会意形声の比率が大きい。「讃」という漢字はごんべんに音価がないが、京極の ˥cɔɪ（手）は篇と旁の音を合わせているため、会意と同時に形声になっている。京極にはこのような会意形声が多い。その分形声は相対的に減る。 なぜ形声が少ないかというと、それは漢字の元になっている中国語とハーディアン語の音節構造の違いに起因する。現代中国語には３９の韻母があり、実際にはこれに r 化が加わる。また声母（頭子音）は２２種存在する。これに声調が４種存在する。従って単純計算だと３４３２種の音節を区別することができる。 一方ハーディアン語は音節が９３種しか存在しない。これでは形声の効果が弱い。もちろん漢字は３４３２種の音節を使い分けて形声をしているわけではないが、ポテンシャルの違いは歴然である。９３種の音節では形声よりも会意形声にしたほうが同音異義語を減らせる。会意形声にすれば単純計算で８６４９種の音を区別することができるためである。 京極は世界一難しいと言われるが、恐らく漢字と比較しても難しいといえるだろう。セレンの所感では日本語の漢字並に難しい。その理由は読みにある。京極、特に極字ができる前からハーディアン語の和語は存在した。極字は和語の音より意味を表現することを主眼としたため、漢字でいう当て字が極めて多い。つまり秋刀魚で「サンマ」と読ませるようなものが多いということである。 これは日本人ならば理解できるかもしれない。空は「クウ」という文字だが、和語では「ソラ」以外の何物でもない。漢字を手に入れた日本人は音を優先して万葉仮名のようにソラを表記することもあったが、結局は意味に注目して字を選び、読みは和語のまま保持した。つまり空という字を借りつつ、音はクウでなく和語のソラを維持した。 極字はハーディアン人にとって借り物ではないが、和語の音が先に存在し、その意味を取るために極字を作ったという背景があるため、結局日本語の漢字のような複雑さを持っている。 ハーディアン人は基本語には文字のパーツ（篇など）を設けた。そのため指 (lclc) や手 (lcɔɪ) のような基本語はパーツの組み合わせで会意形声が成立する。その一方で ˥ə˥əɔɪ（言葉）のような抽象的な概念はこれが効かないケースが多い。˥ə˥əɔɪ はハーディアン語で「口＋車輪」が原義であるが、これは極字ができる前から存在した。最終的には祖語である ɑ_ɑu の ˥ə（口）や ˥əə（動く）などに遡る。 では彼らは極字を作ったときにこの ˥ə˥əɔɪ という単語をどう表したか。口は基本語なのでパーツがあるが、車輪はパーツがない。車輪はほかのより基本的なパーツを組み合わせて作る。従って「口＋車輪」を極字で書くと冗長になる。「言葉」という日常的に使う単語が冗長になるのは避けたい。 そこでハーディアン人たちはこのように考えた。「「口＋車輪」よりも「ごんべん＋口」のほうが簡単ではないか」と。こうして ˥ə˥əɔɪ は口を表す「回」のような字と「ごんべん」に相当する「水」のような字を合わせた字となった。このほうが字形が単純で書きやすい。その代わり音と文字とが乖離してしまう。 ここで漢字なら形声の出番だが、上述のようにハーディアン語では音節数が足りなすぎる。かといって会意形声にすると ˥ə˥əɔɪ という音そのものが否定されてしまう。ゆえに音と文字を乖離させざるをえなかった。借り物ではない文字にも関わらず京極の読みが難しいのはこのような理由がある。 京極の難しさは群を抜いており、言語としての合理性で見れば愚にもつかないが、技巧性や芸術性では非常に長けており、目を見張るものがあると考えられている。特にアルバザードのような表音文字圏ではよく分からないことも相まって、テストの悩みの種であると同時に神秘的な存在とも考えられている。 ＜識字率＞ アルバザードでの京極の識字率は

D

学歴に比例する。一般的なアルバザード人は最も基本的な数百の文字は読めるが書けないというレベルである。学識が高いとより多くの文字を読み書きできるようになる。同じ学校でも文系と理系では文系のほうが京極の識字率は良い。　カレンやアルシアではアルティア人やルティア人が多いため、一般人でも識字率はよく、千字程度は読み書きができる。千字は少ないようで多い。日本人でも常用漢字約二千どころか半分の千字でさえきちんと書けるかといわれると昨今は怪しい人が多いのではないか。　＜呼称＞　京字と極字を合わせて京極という。極字を見て ɟɪnlɪ と言っても ɒɪnɪ と言っても間違いではない。ɒɪnɪ が基本で ɟɪnlɪ はより厳密な言い方なので、通常は極字だけ見ても特に厳密な区別が必要ない限りは ɒɪnɪ と総称で呼ぶことが多い。　＜歴史＞　・極字　10ʔL000 頃　カルセールのヴェマを本拠地とするサールの勢力が弱くなったことで、周辺諸国へのヴェマの影響力が低下する。この結果、東洋諸国特にヴェマから離れた地域において独自の文化が育つ土壌ができる。特に大陸の東端で防衛に適したハーディアンでは人の往来も少ないこともあり、閉鎖的な環境の中で独自の文化が華やいでいった。ハーディアンの最初の国風文化である。　同　ハーディアンは神との繋がりが弱く、神の筆記用具がヴェマ以上に手に入らなかった。人々は甲骨などに文字を刻んでいた。線種の多い幼字は刻むのには適しておらず（甲骨などに星型や三角や丸を器用に刻むのは難しい）、幼字の形は徐々にハーディアン建国以降簡略化され、線形化していった。　このころまでに既に文字は線形化され、直線を主とする字体ができていった。線形化に併行して幼字にはない文字が多く作られ、独自の文字を形成するに至った。これを極字という。　・節字　ɥəəɒɪ ʃlʔʔ 節字ができ、極字のルビとして用いられるようになる→ hɪɾl　・京字　ɥəəɒɪ ʔɪʔ0 シフェラン、ハーディアン国のアルティア都市と同盟を結び、不可侵条約を締結。ハーディアンの首都ロロスはこの裏切りを遺憾としたが、内戦をしている余裕はなかった　ɥəəɒɪ ʔɪʔ1 シフェラン、ユロからハーディアンに進軍　ɥəə ɒɪ ʔɪʔʔ シフェラン、首都ロロスを陥落。ハーディアン人は北の都市フィギットへ撤退し、フィギット国を建国　ɥəəɒɪ ʔɪʔʕ 西へ散ったほうのハーディアン人がヴェマのヴォザモ地方に入り込み、混血する　同　シフェランは同盟の見返りとしてロロスをアルティア人の支配地とさせる。その代わり自分に有利な関税をかけた。この結果ハーディアン、特にアルティアの国力は高まり、極字開発に次ぐ国風文化の兆しを見せる。　ɥəəɒɪ ʔɪʔΔ この時期に豊かな国力を背景に国風文化を誇る風潮が高まり、文学などの余剰な学問にも注力する余裕が生まれる。ルビとして用いられていた節字の崩しはこのときまでに幾種も存在したが、政府は学者の協力の下、これらを集めて崩し字の統一規格を創ることに成功した。この規格を学者らが都で定めたことから京字（ɥəlɪ）という。政府は覚えるのが簡単な京字を使って文を書くよう推奨したものの、極字（ɟɪnlɪ）のほうが見てすぐ意味が取れることからその計画は失敗に終わった。しかし完全に失敗だったわけではなく、このことがきっかけとなり、機能語は京字で記すようになった。　京字が機能語を表し、極字が内容語を表すようになった結果、これらのハーディアン文字をまとめて京極（ɒɪnɪ）と呼ぶようになった。　＜地球での経緯＞　幼字は直線、曲線、丸、三角、四角のほか星型なども使うため、表意文字というよりはむしろピクトグラムに近い。線種がバラバラなので書体を作りづらく、デザインの視点で考えると漢字に劣る。線種に統一感があれば例えば直線なら直線、曲線なら曲線の書体が作れるため、書体にバリエーションを持たせるのが容易く、それゆえ芸術性に富む。こういう意味で漢字に相当するデザインの文字がアトラスにもあればと考えられるようになった。　ʃl 年に幼字がわずか４４４字に縮小されたことが決定打となり、漢字に相当する複雑な体系の文字が望まれるようになった。それまで漢字相当物を作らなかったのは幼字の存在もあるが、単に作業が大変で逃げていたというのもある。アトラスの文字史では幼字が根底に存在するため、神との繋がりが弱くかつ比較的高度な文明を築いた民族のすべてが幼字を発展させずに滅ぼしていったとは考えにくい。幼字を滅ぼして響字や幻字に繋げていった民族がいるのも確からしけれど、逆に幼字を発展させてさらに複雑な文字体系を構築した民族がいることもまた同様に確からしい。にもかかわらず後者をこれまで創ってこなかったのはやはり作業が大変だからという実情があった。　幼字の大本は古アルカの幻字だが、古アルカのころセレンらに言語学的な知識は乏しく、そもそも子供で知識自体が足りなかった。意思を伝えるので精いっぱいで、文字の芸術性にまで配慮できなかったというのが正直なところだ。それゆえ幼字は作りが粗雑で造詣が浅い。これを今になって掘り下げて作る魅力は感じられないこともあり、４４４に縮小したというのもある。拙い文字なのでカルディアにおいては原初に作られた文字としてふさわしい。いくら賢い神々によるものでも最初の試みなのでこの程度のクオリティに帰着するのは無理もない。　漢字はあらゆる文字の中で最も複雑で文字数も多い。漢字と比べると同じ表意文字でも幼字の拙さが浮き彫りになる。表意文字というのはデザインの視点で見ると物凄く重要なツールなのだが、芸術用途としてカルディアを見たときにこの世界には拙い幼字しかないというのではあまりに哀しい。　セレンは個人的に漢字と墨の組み合わせを美しいと感じており、あのような表現技法をどうにかカルディアにも取り入れたいと考えてきた。かといって幻字を止めて表意文字を作るわけにもいかない。日常的な言語の使用においては表音文字の幻字のほうが圧倒的に楽だし、そもそもセレンが主張したところで受け入れられるとは到底思えない。　そこで白羽の矢が立ったのが ʃl 年にできたカレン県である。ここはアルティアの移民が多い。アルバザードは移民文化で、アルシアにはルティア人、カレンにはアルティア人がいる。ひとつの国でアルバザード、ルティア、アルティアなど様々な文化が楽しめる。そこでアルティア人の言語に表意文字を入れてはどうかと考えた。こうすれば日常は幻字で足りるが国内にはアルティア人が持ち込んだ表意文字が散見されるというデザイン豊かな街が描ける。これが京極の始まりだった。　＜文字例＞　最初の列は元となった幼字も加えた。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/mana1.jpg　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/mana2.jpg　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/mana3.jpg　＜[京極]タグ＞　[京極]タグは ʔɔzəe や ɥəlc といった京極フォントを使った際、どの文字コード（漢字）を打てばその京極が表示できるかを示している。　例えば uɪn,ɪlſ には [京極] タグがあり、「弓」と書いてある。これは ʔɔzəe や ɥəlc を使って「弓」と打てば、京極における uɪn（弓）の文字が表示されるということを意味する。つまりこの「弓」という記述は地球における京極の文字コードを示していることになる。言い換えれば、ʔɔzəe や ɥəlc といったフォントでは「弓」という漢字を潰し、そこに京極における弓の文字を入れてあるというわけである。　京極の文字コードの後に補足があればコロンを加えてある。コロンの右には京極の字源などが来る。例えば uɪn,ɪlſ では京極における弓の字がどのようにできたかが書かれている。　一方、ɪɥəɒc,ɪlſ には次のように書いてある。　[京極] 即：弓 / 時 → uɪn,ɪlſ　上の情報は、「即」という字を打てば ɪɥəɒc に当たる京極が表示されることを示している。また、コロンの右には ɪɥəɒc という文字が「弓偏に時からなる会意である」という補足も付されている。　他方、uɪnɪ̀əɒc,ɪlſ には次のように書いてある。　[京極] 弓 / 月　uɪ nɪ̀əɒc は「弓月」という意味である。これはアルティア語の一単語であるが、文字としては二文字から成る。アルティア語において弓月を一文字で表わすことない。従って、ʔɔzəe や ɥəlc においても何らかの漢字を潰すことはない。　このような場合は uɪn における「弓」や ɪɥəɒc における「即」などと異なり、[京極] タグ中で特定の一文字を示さない。スラッシュを用い、その単語が複数の字から成ることを示す。　同じスラッシュを用いるケースでも、ɪɥəɒc と uɪnɪ̀əɒc の間には一文字からなるか否かという違いがある。このことは、その単語を直に示すフォントがあるかないかという違いにも繋がる。

ɒɪnɪ̀ɪ　[名詞] 大学、前期大学、後期大学、高校　[レベル] 3　1L:ɒəlcɑɔɪ

ɒɪnɪn　[名詞] 大学生　[レベル] 3　ʃl

ɒɪnɪɑəɒə　[地学] [歴史] 中生代　[レベル] 5　ul;/　ʃʔ　[文化]　ɸɪɪuəɑəɒə　約２億５０００万年前から約６５００万年前に相当し、恐竜が生息していた時期にほぼ対応する。

ɒɪnɪɒc　[名詞] 背後、後方　[名詞] メタ　[形容詞] メタな　[アクセント] ɒɪnɪɒ∢　[反意語] hɪɸɪ　[レベル] 3　ɒ∢ɪlſ;ɒɪnɪɒc（背中）.ɒuʞɒcnɪɒc（北）。太陽を向いたときに背中側が北を向くことから。　ʃʔ　[語法]　「この小説はおもしろい」は、小説の内容に対する評価。「この小説はなぜおもしろいのだろうか」は小説の手法などに対するという点で前項に対してメタといえる。小説の中でキャラクターが「ほら見ろ、お前の発言のせいで読者がドン引きしたじゃないか」などと言うのもメタな表現といえる。というのも、小説内のキャラクターが作品の外に出て作品内の自分たちを背後から観察した表現をしているためである。　[用例]　uɔlſ ɒɪnɪɒc メタな表現

ɒɪnɪɒc̀ɪɒcɑɔɪ　[言語] メタサイエンスフィクション、メタＳＦ、メタＳＦ作品　[レベル] 6　ul;/　ʃʔ

ɒɪnɪɑɪcɒɪn　[名詞] 大学中退　[レベル] 4　1L

ɒɪnɪhɪɾl　[言語] 乙女体　1L　[文化]　ſidhɪɾl を元に、丸みを帯びた字にした書体。

ɒɪnɪɥəɸɪʃ　[名詞] 大卒　[レベル] 3　1L

ɒɪnɪl　[生物] 青少年　[レベル] 2　μɑ;ɒɪnɪ/ɪl　ʃʔ

ɒɪnɪɪn　[名詞] 大学生　[レベル] 3　1L

ɒɪncɟɟzɑ　ucl

ɒɪnɔ　[格詞] 恐らく～するだろうから、もし～したなら。積極的な条件　[類義語] ɔl　[レベル] 2　古：邪推の ɒɪnɔ　[語法]　ɔl　確率の高い「もし」と覚える。

ɒɪnɔɔ,ɑ　ɑcl

ɒɪne　[生物] [医療] 分泌、ぶんぴ、ぶんぴつ　[動詞] ɥəl を分泌する、分泌する　[レベル] 4　μɑ; ↓　1ʔ: 制：古 :ɒɪcne ← ɒɪcn（分泌）/ e（水）「体が水をだす」

ɒɪneſ　[医療] 体質　[レベル] 4　ʃl:ɒɪcn/ſe

ɒɪnen　[接続詞] ɒɪn　[レベル] 3　ʃʔ

ɒɪnecnc　[植物] 腺毛　μɑ;/　ʃlʃl

ɒɪneeɥ　[生物] [医療] 分泌液　[レベル] 5　μɑ;/　ʃʔ

ɒɪu　[名詞] 大人、成人、成年　[名詞] 上級、上級者　[類義語] ɔʃlɔɒɔɔn　[反意語] ɥəlc　[レベル] 2　1ʔ:jeɥen:ʃlel:ɒɔu:jɔɑ:ɒɔuɪ（子供）　ʃμɪj:ʃμɪj:ʃμɪj:lə ʃμɪj　[語法]　→ ɔʃlɔɒɔɔn　ɥəlc は大人に対しての子供であって自分の子供とは限らない。　ɥəlc, ɒɪlſ, ɒɪu の３対にするときは ɒɪu は２０歳からであるが、ɥəlc, ɒɪu の２対にするときは ɥəlc を長く取って２０歳以降を ɒɪu とするやり方と、lɪz 以降を ɒɪu とするやり方がある。顕生代などの命名には後者を用いている。en ɒɪu, ɒɪu の２対の場合、２０歳以降が ɒɪu になる。　[文化]　日本同様、２０歳から成人となる。　ɥəlc, ɒɪlſ, ɒɪu の順に成長する。ɥəlc, ɒɪlſ は総称して enɒɪu。　０歳から１２歳までが ɥəlc。１２歳から ɒɪlſ。２０歳から ɒɪu。

ɒɪuɟel　[歳時記] 成人の日　[レベル] 3　ʃl0: 大人の日　[文化]　リーズリーズにちなんで設けられた祭日。最も大人びていたリュウにちなんで ɒel ʃl0 の ɑɥə ɑɥə に設けられた。

ɒɪuɑəɒə　[地学] [歴史] 顕生代　[レベル] 6　ul;/　ʃʔ　[文化]　ɸɪɪuəɑəɒə　先カンブリア時代（隠生代）の終わりから現在までのこと で、約５億４２００万年前から現在までの期間。古生代（lɪ zɑəɒə）、中生代（ɒɪnɪɑəɒə）、新生代（nɪɪſɑəɒə）に分かれる。

ɒɪuɪ　[植物] オリーブ　[レベル] 2　1ʔ: 制：古 :ɒɪuc　:::ɥənɑcn,lc

ɒɪuc　[化学] [料理] ビタミン　[レベル] 2　nɑ;ɒɪcn/ucenəɒ「身体を強化する」　1ʔ: 制：古 :ɒɪcuc「体を強くする」　[文化]　・起源　nɑ の大航海時代に海兵の間で壊血病や脚気が流行った。このとき果実を食べていたものほどならなかったことで、ビタミンの存在が提唱された。船にレモンを積んだことで壊血病の罹患率が減少し、ビタミンの存在が強く推定された。　・命名　地球と異なりＡＢＣのような命名はしない。例えばビタミンＣはレモンが壊血病を救ったことからレモンのビタミンというように表現される。

ɒɪuɒə　[料理] オリーブ油、オリーブオイル　[レベル] 2　ʃl:ɒɪuɪ/ 古 eɒɥə　[文化]　利食。アルバザード人が最も使う油。油の中で最も消化吸収に優れ、オレイン酸も多く含む。　種類はバージン、精製、ブレンドの３つ。このうち通常用いられるのはバージンで、その等級は ɥənɑcɥɪn（エクストラ）、ɑencen（ファイン）、dejʃɔn（オーディナリー）、ɒeljelen（ランパンテ）の４段階で、名前の通り ɒeljelen は食用に適さない。

ɒɪɒ　[生物] 乳房、胸、おっぱい、乳、パイ、パイパイ、ぱい、ぱいぱい　[言語] [文字] ボール　[類義語] ɔɔɒɔɔɔ, ɒɪc　jeμſ　[レベル] 2　1ʔ: 制：古 :ɒɪɒɒɪ　ɒɪ, ɥɪ:ɒɪ, ɥɪ:lɪ ɒɪɒeſ（lə は sɪɒ）　[用例]　bɪɸ ɒɪɒ 胸を揉む　[文化]　ɒɪɒɟ

ɒɪɒʃɔld　[普通動名詞] 胸チラ、パイチラ　[レベル] 5　μɑ;/　ʃʔ

ɒɪɒɟ　[被服] ブラジャー　[レベル] 3　1ʔ: 制 :ɒɪɒɟlɒ　[文化]　・ブラジャーのカップ　ʃlɟ と幻字順で数えていく。　一番小さい ſ が ʃlɑɒ（５ｃｍ）であり、あとは ʃlɑɒ（２.５ｃｍ）ずつ増えていく。分かりやすく以下は ｃｍで表記する。　ſ：ＡＡＡ：５ｃｍ　ʃ：ＡＡ：７.５ｃｍ　l：Ａ：１０ｃｍ　ɟ：Ｂ：１２.５ｃｍ　n：Ｃ：１５ｃｍ　u：Ｄ：１７.５ｃｍ　ɑ：Ｅ：２０ｃｍ　ɒ：Ｆ：２２.５ｃｍ　ɑ：Ｇ：２５ｃｍ　ɸ：Ｈ：２７.５ｃｍ　d：Ｉ：３０ｃｍ

ɒɪɒɟʃ̀ɔld　[普通動名詞] ブラチラ　[レベル] 4　ʃl

ɒɪɒɑɔs　[普通動名詞] パイズリ、ぱいずり、パイずり、胸コキ、胸こき　[レベル] 5　μɑ;/　ʃʔ: リディアとメルの胸が貧弱すぎて ʃʔ まで造語されるに至らなかったという、なんというか造語年を見れば普段どんなプレイをしているのかバレそうな辞書である。お胸とお胸のシワを合わせてちんこ挟んで幸せ、なーむー。（セレンの）お仏壇は長谷川～。

ɒɪɒɒɪ　[幼児] [生物] おっぱい　[レベル] 1　1ʃlʃ: 制：古 :ɒɪɒɒɪ（おっぱい）

ɒɪɒɒɪ,ɪlſ　nɔn, eeſɪ

ɒɪɒɒɪn　[俗語] 消防、小坊　[類義語] ɑcɪnɪn　[レベル] 4　ɪl;ɒɪɒɒɪ/ɪn「おっぱいをまだ欲しがっている人」　ʃʔ　[語法]　学年制が日本と異なるので注意。ɒɪɒɒɪn でおよそ日本の小学生に当たる。

ɒɪɒd　[生物] 乳首、乳頭　[レベル] 3　1ʔ: 制 :ɒɪɒdɔ

ɒɪɒdɒɥəſ　[生物] 両乳頭間　μɑ;/　ʃlʃl

ɒɪɒdɕɸ　[医療] 乳がん　[レベル] 4　1L

ɒɪɒl　[生物] 乳輪　[レベル] 4　1ʔ: 制 :ɒɪɒhɔlɔ（乳の輪）

ɒɪɒɪ　[親族] ママ　[感動詞] あぁ、ああ、なんということだ、なんということでしょう、そんな、まさか、そんなまさか、いったい、一体、いったいぜんたい、一体全体、オーマイゴッド、オーマイガー、オーマイガッ、きゃあ、助けて、誰か、そんな馬鹿な、マンマミーア　[レベル] 1　1ʔ: 制：赤ん坊の口の音から。多くの言語でマやパを使うのに従った。　[レベル] 1　[語法][文化]　→ lɪɪl　アルバザード人は驚いたときや怖いときや苦しいときなどに ɒɪɒlſ と叫ぶ。これは老若男女問わず共通し、ɪμſəſ と同じような意味を持つ。思春期の男子でも恥ずかしがらずに使う。ただし凪人は恥ずかしがってこの用法を使いたがらない。女性の場合は父親に対する依存度が高いほど、ɒɪɒlſ のこの意味で dɪdɪlſ と叫ぶことがある。

ɒɪɒɪlɪɾl̀ſe　[ユマナ] 秋葉原　[レベル] 6　ʃl:μcɑɔɪ:「メルの庭」。メルに頼まれた土産で秋葉原に行ってきたい、しあに「ここどこ？」と聞かれてとっさに答えたことから。

ɒɪɒɪə,ɪlſ　尊敬語の助動詞

ɒɪɒc　[生物] 基質　μſ;ɒɪcn/hɔɔɔɒc.l　ʃlʃl

ɒɪɒeſ,jzl　sɪɒ　<>　ɒɪ,ɑ

ɒɪɒeſucɒ　[生物] 小胸筋　[レベル] 6　ʃlʃ<ʃl

ɒɪɒeſɒel　[歴史] 中世、μɒ_μɑ　[レベル] 4　ʃl　[語法]　ɒcμɒel

ɒɪɑ　[生物] へそ、ヘソ、臍、さい　[レベル] 2　古 :ɒɪɑ（幼児語）　[用例]　elſ e ɒɪɑ へそのごま

ɒɪɑjeel　[生物] 臍中央　μɑ;/　ʃlʃl

ɒɪɑɒ　[生物] 虫垂　[レベル] 4　1ʔ: 制 :ɒɪɑɒɪc（へその身体語彙）。骨盤の右上前腸骨棘突起から臍に引いた線上にあることから。

ɒɪɑɒɑɪcz　[医療] 虫垂炎　[レベル] 4　1ʃlʃ: 制：虫垂の炎症

ɒɪɑc　[被服] 指輪、リング　[レベル] 3　1ʔ: 制 :ɪnɒɪɑɔɔ　[用例]　eu{jlb} ɒɪɑc 指輪を嵌める

ɒɪɑɔɪ　[魔物] マディア（闇夢）：第九天：闇の氷天　[レベル] 5　1L:μcɑɔɪ/jeɥen/ɒel:ɒɪɒɪ/ɑɔɪ（母の夢）　[文化]　妖族。母をなくした子供の心につけいり、夜な夜な笛を吹いて子供を屋外に連れ出し、食い殺す魔物。綺麗で優しい顔をしているが、服を脱ぐと体中に食い殺した子どもの顔が浮かんでいる。

ɒɪɑcɪnɔc　[天文] ルーシュバー　1L:μcɑɔɪ/jeɥen/ɒel　[文化]　カシオペア座はＷ型をしており、非常に認知しやすい星座線をしている。そのためカシオペア座は ɪnuelenſ 座の星座線とほぼ同一である。しかしルーシュバーだけが ɒɪɑɔɪ 座の領域に取られている。これは魔族マディアと魔族アンヴェレントの相討ちの神話を象徴している。uelſcj の９階と eμcn ～ dμɔſcj までの種族が接触するのは、ɒɪɑɔɪ と ɪnuelenſ、ɒɪɑɔɪ と ocφɪl の組み合わせしかない。アシェットはこれらを封印したとき、まず ocφɪl を別枠に取った。ウィガルは戦闘では封じられない「戦わないタイプ」の魔族だからである。　一方、マディアとアンヴェレントはどちらも９階であるため、封印に手こずった。考えたメルは両者に罠をしかけた。まずマディアにアンヴェレントを人間の子供だと見せかける。マディアがまんまと引っかかってルーシュバーにいる呪いの人形を誘惑し、食おうとする。アンヴェレントは一方、マディアを獲物だと思い、攻撃する。そして両者は共倒いし、相討ちした。そこをメルが漁夫の利で収めたというわけだ。それでアンヴェレント座のマディアノイ（ルーシュバー）はマディアの領域に食い込んでいるのである。ちなみにこのとき使った人形がたまたま男だったのでノイとなっている。　[成句]　ɑejdɪ ɒɪɑcɪnɔc 漁夫の利を得る：弱ったルーシュバー星を利用して、メルがマディアとアンヴェレントを簡単に同時に封印したことから。

ɒɪɑeſ　[生物] へその緒、へそのお　[レベル] 3　ʃl0:ɒɪɑ/heſ

ɒɪɸ　[動詞] ɥəl を揺らす、揺らす、揺れる、震える、ゆらす、ゆれる、ふるえる、ɥəl（手など）を小刻みに振る、ɥəl を震えさせる　[形容詞] 震えた、揺れた、震える、揺れる　[物理] 振動　[音楽] トリル　[レベル] 2　1ʔ: 制 :jɔμn:ɒɪɸcj　[語法]　ɒɪɸ lɪj は手を左右にぶるぶると振ってあいさつする際のしぐさ。ɒɪɸ ſſl とは言わない。腕を振るなら oɪɪn が適切。なお、手が寒さなどで痙攣しているときも ɒɪɸ といえるので、文脈を読んで訳すこと。　ɒɪɸ lɪj は挨拶。ɒɪɸ lɪj cɔ

D

は ʃeɔʃeɔ と否定する仕草。

ɒɪɸʖɔu ［音楽］ハーモニカ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 震える箱

ɒɪɸɟɔɒʃ ［名詞］（ʃcl/nɪ とともに）震えるほど寒い ［レベル］3 1L ［用例］ɪn nɪʃ ɒɪɸɟɔɒʃ. 寒くてぶるぶる震えた。

ɒɪɸnɔʖl ［名詞］（ʃcl とともに）かじかむ ［レベル］3 1L: 震えて痺れる ［用例］ɪn ʃclɪʃ ɒɪɸnɔʖl ɔn lɪɟ ɒɔl ɔɔɒʃ. 寒くて手がかじかんだ。 ɪn leɑɪʃ lɪɟ ɒɔʖɟɪnel ɒɪn ʃə ʃcl ɒɪɸnɔʖl. かじかんだ手を温めようと、息を吹きかけてみた。

ɒɪɸuɛɒ ［名詞］（nɪ とともに）恐れて震える、震えるようなおそれ ［レベル］3 1L:ɒelcɑɔɪ ɪʃɛ

ɒɪɸɑɔ ［言語］震え音、ふるえ音、トリル 1L

ɒɪɸɒcʖl ［名詞］（ʃcl とともに）怖気づく、怖じ気づく、おじけづく、びびる、ビビる、膝が震える ［レベル］3 1L ［用例］ɪn ʃclɪʃ ɒɪɸɒcʖl. 怖気づいた。

ɒɪɸl ［経済］紙幣、おさつ、お札 ［レベル］2 1L:lecn:ɒɪɟɸcl ［文化］ → ɪnɑɪn ・紙幣の数え方 左手に紙幣の束を持って右手の親指と人差指でつまんで一枚ずつ右手側に移していくやり方で、アメリカ人のやり方と同じ。

ɒɪɸlɪ ［サール］マグラ ［レベル］4 ɒelʃcɪ ʃ:ɒɪɸlɪ;ɒɪɸlɪn.ʔl 古 ［文化］ eɟɪ ヴィーネに恋する少女。淫を司る。ʃccʃel の性欲がチョウマメに単離し、そこから生まれた化身。チョウマメが熱帯インサール原産であることから、ɥelʃɪn な形質をしている。 ユーマに嫉妬し、ユーマとユーマの娘のエスタを呪った。髪は黒く、背中まで届く。ちりちりの毛で、ソバージュを長くしたような髪をしている。ところどころ三つ編みにしている。見た目は ɥelʃɪn で、背は少し高い。眼が釣り目で、唇が赤い。

ɒɪɸlɪn ［植物］チョウマメ ［レベル］6 ɒelʃcɪ ʃ:ʃccʃel;e ʃ0:ɒɪɸlɪ ［文化］ ʃccʃel がマグランの花（チョウマメ）に性欲を押さえ込み、そこから娘のマグラを作ったことで知られる花。

ɒɪɸleʃ ［婉曲］［形容詞］破廉恥、ハレンチ、ハレンチな、破廉恥な、はれんちな ［類義語］ejel ［レベル］3 ʃɒ;ɒɪɸlɪ/ʃe「マグラ神のような」 ʃʔ ［語法］ ʃɒ のころはみだらという強い意味合いだったが、ejel に押されて意味が弱まり、μɑ 以降は婉曲用法となっている。

ɒɪɸleu ［医療］パーキンソン病 ［レベル］6 1L:μcɑɔɪ:ɒɪɸ/leun ［文化］ μɑ で発見され、ɒɪɸleu と名づけられたものの、後に非運動性のものもあると分かった。そのため、地球とは異なり、非運動性のパーキンソン病はしばしば jeeμɒɪɸleu と呼んで区別する。

ɒɪɸleɪ ［地名］マグレア山 ［レベル］6 ʃ0 ［文化］ ツェリンにある山。 ɥəəɒɪ ʔʔʔʔ ɒɪɸleɪ 山の戦いでイーファはルーキーテと再び出会う。イーファは剣を収め、泉でルーキーテと話す。イーファが恋心を打ち明けると、ルーキーテは彼を受け入れる。その後、イーファは戦争を止めるべきだと主張。ルーキーテも賛同する

ɒɪɸɪ ［名詞］振幅 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɒɪɸ

ɒɪɸc ［音楽］ジャズ ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɒɪɸ から

ɒɪɸclc ［植物］クコ、枸杞 ［レベル］4 ɟɒ;<>ɒɪʃclc. uɪμ ɪlʃcɪ, c ueɒɪ ʃʃ

ɒɪɸeʃ ［音楽］リード ［レベル］4 ʃʃ:ɒɪɸ/ʃe

ɒɪd ［形容詞］早い。ある出来事が起こるまでの時間が短い。 ［遊離副詞］もう、既に、早くも ［文頭純詞］早速、さっそく ［医療］早発 ［類義語］uɪɑ, ɑɔcl ［反意語］hɪlɒ ［レベル］1 1ʔ: 制 : 語源不詳 ［用例］ʃə eʃ ɒɪd uɪμzɔn lɪɑ もう８時なの？

ɒɪdl ［形容詞］既成、既製品、できあい、出来合い、既存の、既にある、約束された ［反意語］lɔɟʃ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒɪd（すでに）

ɒɪdlɟɔɑn ［名詞］既成事実 ［レベル］4 ʃʃ

ɒɪdμcs ［名詞］悪酔い、一日酔い ［類義語］nɪləʃ, μcs ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ ［語法］ nɪləʃ と意味が違う。一日酔いのこと。

ɒɪdɔμʃ ［医療］早発月経 1L

ɒɪhɪlɪ ［魔法］マハラ ［ユマナ］カバラ、カバラー ɒe;「星の図」 ʃʔ

ɒɪɥɪ ［娯楽］アニメ、アニメーション、マヤ ［ユマナ］ジャパニメーション ［類義語］lɪleuecz ［レベル］2 ul;ɔɒɪɥɪɒc,ɪlʃ.lɔ ʃʔ ［語法］ lɪleuecz のほうが外延が広い。凪産アニメのことを ɒɪɥɪ という。ɪl 以降は洗練された凪流アニメが一般的になり、アルバザード流アニメは追いやられていったため、ɒɪɥɪ は lɪleuecz とほぼ変わらない意味になった。

ɒɪɥɪ(J) ［アイテム］クウィラス ɟɒ;ɒɪ/ɥɪ「胸と胸」 ʃʃ0 ［文化］ 胸を守る軽装の鎧で、ɸleɪ 登場以降の歩兵や傭兵が用いた。

ɒɪɥɪ,ɪlʃ jec

ɒɪɥɪn ［名詞］アニオタ、アニヲタ ［レベル］3 ɪl;/ ʃʔ

ɒɪɥen,ɪlʃ eɥɔ

ɒɪɥə ［名詞］マユ。女性のエタットのうち、明朗なほう。 ［音楽］アルト ［レベル］2 1L:ɒɪɒɪ/ɥənl。メル 1L 年には「おばさん語」として生まれたが、年末から実用しだしたクリスがリーザには nɔn で語りかけることから、一人一位相の固定観念が崩れた。また、クリス自身がおばさんでないとみなされ、おばさん語ではなく女のエタットを意味するようになった。 ［文化］ 典型的には明るく元気な女性で外向的な人を指す。きんぎょ注意報のわぴこなど。

ɒɪɥə,ɪlʃ uɔμʃ「動かない」

ɒɪɥəlc,ɪlʃ ɪlʃ、出逢い、邂逅 ɒɪɥələ,ɪlʃ

ɒɪɥelnɔn ［伝統色］ローズマダー ʃʃ

ɒɪɥələ,ɪlʃ ɪlʃ

ɒɪμ ［料理］ドーナツ ［レベル］3 lɪʖʃɪ:「外側がゴムの車輪が元」

ɒɪμʃ ［動詞］ɥəl（内容）を ɪ に発論する、発論する、発言する ［普通動名詞］発論、発言 ［レベル］3 1ʔ: 制

ɒɪμe ɪɒɪnze ［人名］マルテ＝アマンゼ ［レベル］3 古 :μcɑɔɪ: 古 :ɒɪμʃe ← ɒcuɪ e ɪμʃe（神の子） ［文化］ シオンの娘。シオンが１３歳に妊娠し、１４歳で産んだ。シオンは処女で懐妊したため、マルテは神の子と目された。だが実は人の子である。シオンは神の力を賜るため、母親と旅をしていた。あるとき手に入れた服を着たところ、その服に前の持ち主である男性の精液が付着しており、それを着たシオンは妊娠した。しかしシオンはそうと知らず、また母親も常に一緒に居たために娘の不貞を疑わず、二人はこれを神の子と信じ、生まれてきた娘にマルテと名付けた。

ɒɪμʖ ［アイテム］鎌、シックル ［動詞］ɥəl を鎌で薙ぐ、薙ぐ、なぐ ［言語］［文字］ビーク ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒcμʖ:lɪʖʃɪ;ʖɒccμdcc1c「クミールの剣」 uelʃ:uelʃ:lə uelʃ:ɒʖclə,ɪlʃ ɒʖlc,ɪlʃ ［文化］ ɪμɑcɑlɪ nɟ ［用例］ eu ɒɪμʖ ɪ ɑlel 首に鎌をかける ʖɔɔl ɒɪμʖ ɪ ʃɔɒ 鎌を腰にかける。胴体を真っ二つにしようとして、大鎌を相手の腰周りに回すこと。 ɒɪμʖ hɪnel 鎌で大きく薙ぐ

ɒɪμʖ ʃ'ɥʖɪnɑɔɪ ［気象］月虹、白虹 ［レベル］6 ʃ1:「アルカディアの鎌」 アルカディアに入ってすぐのところにある弧に似ていると言い伝えられる。

ɒɪμʖbɪɑ ［運動］フック、横薙ぎ ［動詞］ɥəl をフックで殴る、横薙ぎにする ［レベル］3 ʃʃ

ɒɪμʖɪn ［名詞］鎌使い ［レベル］5 1L:μcɑɔɪ

ɒɪμɟ ［生物］酵素 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ɒɪcnɪμʖɪ 体と (化学反応を) 繋ぐ

ɒɪμɒeɒ ［数学］同心円 ［レベル］3 1L:μcɑɔɪ:μbɪleʃ

ɒɪμɑel ［人名］大魔王マルデル ［レベル］5 1L: 古での命名は特になく、大魔王あつかいだった。 ［文化］ 東の民の土地にはびこるアデルを支配していた大魔王。大灯台にある異界の門の向こうにいた。

ɒɪμɥeʃ ［魔物］マルゲルト（女郎蟷螂）: 第二十天 : 風の陽天 ［レベル］5 1L:μcɑɔɪ/ɟeμen/ɒel:ɒ ɪμd/ɪlɥeʃ ［文化］ 蟲族。若い女の体をしているが、両手両足は蟷螂の化け物。竜巻を起こし、鎌で切り裂く。

ɒɪμd ［動物］かまきり、カマキリ、蟷螂 ［レベル］2 1L:ɒel:ɒɪμʖl/ləɑɔ

ɒɪμsc ɑɥecɸclɑ ［人名］マルジ＝フレイギルド ʃ0:μcɑɔɪ:ɒcμɔʖ ［文化］ 朔夜の母。

ɒɪμ lɪnʃ ［ランドマーク］マル・ラント ʃʃ ［文化］ アルナ西区にあるドーナツ屋。３６７年ごろに学生の間で人気となった。「おいしいドーナツ。きれいなのはドーナツだけではありません」。lɪnʃ の二重の意味を用い、ドーナツのおいしさだけでなく、店内も居心地がよく整っていますよという意味になっている。

ɒɪμɪe ［名詞］ドーナツ屋 1L:ɒelcɑɔɪ ɪʃɛ

ɒɪμɔn ［普通動名詞］分析 ［動詞］ɥəl を ɪ（結果状態や結果データ）に分析する、分析する、解析する ［レベル］4 ʃ0:ɒɪʃ/μɪnɟ（分けて解説する）。μɪnɟ と離すために ɔ に。

ɒɪμeʃ ［植物］あざみ、アザミ、薊 ［レベル］5 古

ɒɪz ［動詞］ɥəl を刳る、刳る、くる、刳り抜く、くりぬく ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɒɪl cXc:cXc

ɒɪzɪd ［生物］すね、脛、下腿 ［レベル］3 μɑ;ɒɪ/zɪd 1L: 赤で脛は ɒɪ だが、短すぎるので ɒɪ:ɒɪ

ɒɪzɪɒuɪnɔ ［生物］光明 ʃʃ

ɒɪzɪɒen ［被服］ニッカポッカ ［レベル］5 ʃʃ:ɒɪzɪd/en

ɒɪzeʃ ［名詞］賞状、礼状、辞令 ［レベル］3 ʃʃ:ɒɪɟ/ʃe ［成句］ uɪʃ ɒɪzeʃ ʃ'ɥʃenɪ 人事を尽くして天命を待つ。召喚士の試験を受けた者が合否を待っている状況を詠んだもの。 ɒɪzeʃ ʃ'ɪɒɪɸɪʃ ɪlc 免許皆伝。アマガタリの試験に受かるともらえる証書。

ɒɪzel,ɑɒ ɑccɪ

ɒɪs ［形容詞］どろどろの ［レベル］2 古

ɒɪsɒ ［料理］ヨーグルト ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɒɪsɒɪeμcɪ（ヨーグルト）「どろどろの牛乳」

ɒɪsɒʖlɪɑ ［地球の国名］ブルガリア ［レベル］6 1L: ここはこれしかないでしょう

ɒɪl ［動詞］ɥəl を ɥʖɪlɪlɪʖ まで覚える、覚える、記憶する ［普通動名詞］暗記、記憶すること ［名詞］記憶、メモリー、メモリアル、覚え、おぼえ ［電算］メモリ ［レベル］2 1L:ɒɪlcɟ ［用例］ʃe ɒɪl ʃə e. 忘れないでね。

ɒɪl,ɟzɑ ʖɪc

ɒɪl,ɑ lɪl e

ɒɪlʃ ［名詞］思春期 ［名詞］思春期の人間 ［名詞］中級、ミドル ［類義語］ɟɔlɔɒɔn ［レベル］4 古 :ɒɪlʃ ［文化］ ɒɪu

ɒɪlʃel ［魔物］マルトセシュ（煙精）: 第六十四天 : 聖の炎天 ［レベル］5 1L:μcɑɔɪ/ɟeμen/ɒel:ɒe lɟel に対して ɒel の部分を ɒɪlʃ にしたもの。 ［文化］ ランプを持った裸の少女。ランプから出す紫がかったピンクの煙にあてられるとたちどころに眠ってしまう。眠ったところをナイフで刺され、犠牲となる。μɑ 以前の旧称は ʖədcleɥə（クピレーユ）。

ɒɪlʃcɔɪ ［魔法］マルティーア ［レベル］4 ʃɒ;ɒɥəl/ʃcɔɪ。この ɒɥəl は「向き合う」つまり「和合」の意味。 ［文化］ → jeleɟ セレス体が別のセレス体を形成すること。主にアテンが別のアテンを作ること。人間の場合は生殖による。神の場合はそのほかにエタンを使って作ることもできる。例えば本から生まれたユルグのように。 生殖を例にとると、受精した段階で２つの cɔɟel が結びつき、cɔɟel となる。hɪɒe はこの cɔɟel を感知する能力があり、cɔɟel ができると重複しないように jeleɟ と cɔɟel を jeleɟʖlel に登記する。cɔɟel が同じでも jeleɟ が違えば別の個体として識別できる。 登記が済むと ueeɥə のセレスを cɔɟel を持った個体に飛ばす。これを lɥəɑel という。セレスは目印になっているスピカにワープした後、光よりも速い速度で cɔɟel に向かう。jeleɟ と cɔɟel が cɔɟel にぶつかると cɔɟel は消滅する。hɪɒe ができる前は登記がなく、セレスクレールもなく、管理が行き届いていなかった。管理をしたことで魂の帳尻が合うようになり、効率よくアルデルへ回収することができるようになった。 jeleɟʃcɪ を死神が嫌うのはこの管理システムを破壊するためである。アテンが好き勝手にセレスティアをしあったら、セレスクレールの内容は確かでなくなり、魂の収支が合わなくなる。 アテンが死ぬと死神がセレスを運ぶが、ueeɥə で lɪɟʃcɪ がセレスクレールと照合し、回収した旨と日付をセレスクレールに登記する。また、魂の形状や状態、行き先がトワーユカラティアのいずれであるかなども登記する。アトラスから来るアテンが多いため、日付は便宜上アトラスの歴、具体的には現在ではメル暦を用いる。

ɒɪlɪ ［人名］マルカ ［組み数字］１１/１４ ［レベル］4 古 : 語源不詳 ［文化］ 第４期３代アルシェ第１１使徒ファーヴァの実母。メル ʃcɑ. lL 年生まれ。ヨルダンのアンマンに疎開。その後エジプトに入る。そこでイスラム教徒と結婚し、ファーヴァを設ける。後に夫が事故死し、アフリカを南下し、村落のようなところで暮らしていた。その後病床に臥し、死を待つ体となった。ファーヴァを養ってもらおうとメル L 年ギルの月にリーザに連絡を取り、使徒として献上することを告げる。リーザはそれを受けて同年フルミネアの月エンナの日、即ちファーヴァの誕生日にセレンに連絡し、使徒候補としてファーヴァの存在を告げる。ただ、実際にファーヴァが使徒になるのはマルカの死亡後なのでそれから随分後になる。病床に臥したマルカを見てファーヴァは薬学を勉強し、できるだけ延命を施した。それゆえ予想より長く生きることができたが遂に果てたため、ファーヴァはアルシェの軍門に下った。ファーヴァの村落には血の繋がっていない祖父と呼ばれる老人がいるそうだが、これはアシェットには無縁で、リディアしか会ったことがない。

ɒɪlɪlɪ ［電算］メモリスロット、メモリースロット ［レベル］4 1L

ɒɪlɪlɪə ［法律］不文法、不文律 ［反意語］jeulɪlə ［レベル］4 1L

ɒɪlɪlɪcl ［化学］エルビウム 1Λ: 制

ɒɪlɟ ［法律］結婚、婚礼 ［動詞］ɥəl と結婚する、結婚する ［反意語］ɪlɒɪlɟ ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɒəɹl（夫婦） ［文化］ → hɪʃcɪ 現代では家と家の結婚ではないが、上流階級では未だに政略結婚が残っていることがある。 婚姻は役所に届けを出して戸籍に記載するので、日本に近い。 式はアルティス教徒の服を着て教会で行うのが一般的。アルティア人の和装をして神社などで行うこともある。 特にルティアでは純潔の象徴として天馬の絵やレリーフが式場に飾られる。この習慣はアルバザードにも入っている→ lɥəɟce

ɒɪlɟ(J) ［人名］マルス ʃ0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʖʃʔʔ:ʖɒʖʖ) ɥəəɒɪ ʖ0L1 秋 わずか 10 歳のメテが即位。イーファの右腕 ɒɪlɟ が摂政となる。ここからカコ後期となる

ɒɪlɟnɪlʃ ［地学］［歴史］新第三紀 ul;/ ʃʔ ［文化］ ɸɪɪueɑeɒe

ɒɪlɟuel ［動詞］ɥəl にプロポーズする、プロポーズする ［普通動名詞］プロポーズ ［レベル］3 1L:lecn

ɒɪlɟoɪc ［名詞］結婚式 ［レベル］3 1L:ɒelcɑɔɪ ɪlcɟ ［文化］ ɒɪlɟ

ɒɪluel ［医療］人間の悪い部分、悪い人格 ［人名］マルヴェル。セレンの悪の人格。 ［アクセント］ɒɪl uEl ［レベル］4 古 :μcɑɔɪ:「闇を望む」。古の希望のエクスプローダーの男性形 ɒɪl/uel（闇）。エーステは uel なので、後ろにアクセント。人名の用法のほうが古い。 ［文化］ ləlcɑeμ, ʖɪɒelcɪ

ɒɪlɒ ［生物］内臓、臓腑 ［レベル］3 1L:μcɑɔɪ:μbɪleʃ:ɒɪcn/elɒ

ɒɪlɒɪ ［被服］襟ぐり ɟɒ;ɒɪ/ɪl/ɒɪ「胸と、胸が見えない位置の」 ʃʃ0

ɒɪlɑ ［動詞］ɥəl を騒がせる、騒ぐ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒɪlɪɑc

ɒɪlɑɒccμ ［名詞］支離滅裂 ［レベル］3 ʃʃ

ɒɪlz ［動物］蝶、バタフライ、パピヨン、蛾、ちょうちょ、チョウチョ ［メタファー］浮気者。花から花へ転々とすることから。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɒclee（舞うもの）

ɒɪlzdɔɟɪ ［被服］蝶ネクタイ nɑ;/ ʃʃ0 ［文化］ nɑ_μʃ の男性上流階級に流行った。現在では廃れている。

ɒɪlzhɔ ［生物］蝶形骨、楔状骨 μɑ;/「蝶の形をした骨」 ʃʃ0

ɒɪlzcnɟ ［動物］チワワ ［レベル］5 ʃʃ

ɒɪlɪɑc ［サール］マラディ。パニックを起こす幼女のサール。 ［名詞］パニック、混乱 ［魔法］マラディ（コンフュ）。害の低位黒魔法。相手を混乱させる。低位だけあって解除は簡単で、ラルトをかけるまでもなく、殴れば治る。 ［人名］泣いているときのルシアのこと :1L:ɒel ［経済］恐慌、世界恐慌 ［動詞］ɥəl を混乱させる、混乱させる、混乱する、パニクる ［形容詞］混乱した、パニくった ［レベル］2 μcɑɔɪ: 古 ［用例］ cɒ ʃəɔ, ɪn lɔ jɔɪ lel ləlcɪ ɥən ɒɒcɟ ɪz ɒɪlɪɑc. 最近思うんだが、ルシアってエミスかマラディみたいだよな。 ɒɪlɪɑc ɑc eɒɪʃ jɔɑ ɒcl ʃə. それによって多くの混乱が生じた。

ɒɪlɪɑcnɪɥə ［医療］パニック障害 ［レベル］5 1L

ɒɪlɪμ ［電算］記憶装置 ［レベル］5 1L

ɒɪlcɟ ［遊離副詞］［形容詞］とっくに〜した、とうの昔に ［類義語］lɪczɪ ［反意語］ɑɪnʃe ［レベル］1 ʃ0:ɒɪlcɟ ［語法］ lɪczɪ

ɒɪlcɟɑen ［娯楽］マリスデン ［レベル］2 ʃʃ ［文化］『ドラえもん』に相当するアニメ。メル ʔ00 年からやってきた犬型ロボット ɒɪlcɟɑen にダメ少年 becɸ が助けてもらう話。

ɒɪlcɪ ［文末純詞］［ɥən］ʖɔʖ ［レベル］1 古 jɔμn:ɒɪ8/lcnɔɪ。ʖɔʖ に相当する語。恐らく原義は「知っているんですよね？」。

ɒɪlcɪn ［植物］シナノキ ［レベル］5 ʃʃ: 古 :ɒɪlc

ɒɪlɔ ［医療］ガーゼ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒele

ɒɪlɔnlɔɔb ［被服］キャパリアハット ɟɒ;「マロン伯爵の」 ʃʃ0 ［文化］ ɟɒ でできた。おしゃれな男性貴族用の帽子。

ɒɪleʃ ［名詞］マレット、東の民 ［レベル］3 古 ［文化］ アズゲルでシフェルと争い、負けた民。ケヴェアとファベルとアデントに住んでいる。マレットの土地は当時のマレット語で命名されている。元は神のアルカであるから、シフェルとも同じ語派なのでそう違いはないが、響きは独特。

ɒɪleʃɥen ［言語］マレット語 ［レベル］4 ʅ0

ɒɪleʃcʝ ［人名］マレティス。マレットの長 ［レベル］4 古

ɒɪlenuc ［名詞］記憶力 ［レベル］3 ʅʅ

ɒɪlenɪlʃ ［アトラスの国家］マレナルト ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ: マレットの砦

ɒɪlenɪlʃjcʒɪ ［地学］マレナルトプレート ʅʔ

ɒɪleɪ ［エルト］マレア ［レベル］4 古 ［文化］ 芸術、美術の女神。

ɒɪleɪ,jzɑ ʃceɥ ɒɪl/ɥecʅ

ɒɪleɪ ʃoen ［人名］マレア＝トゥウェン ［レベル］6 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［文化］ アルティル期の芸術家。女性。コーレルに影響を受け、新古典主義に。神話の闇の部分を露呈した絵を描いた先駆者。代表作は ɑcɪn le ɑeɥʃ ɪ lɪjʃcɪ。

ɒɪlə,ɪlʃ ʅɪc <>ɒɪl,jzɑ

ɒɪɪʃ ［名詞］お香、インセンス、線香、アロマオイル ［レベル］4 1L:ɪɥɒɪɪʃɔ ［文化］ つけるものが香水で、たくものがインセンス。線香だけでなくオイルも含む。アルバザードで一般的なのはオイル。 ［用例］ ɪɥ ɒɪɪʃ お香を焚く

ɒɪɪɪ ［地球の国名］シリア ［レベル］6 古

ɒɪɪʝ ［名詞］花嫁 ［反意語］ʝclɒc ［レベル］3 1ʔ: 制 : ɒɪrʅɑɪn（結婚する女）

ɒɪɪʝɪ ［被服］ジュッポーネ ʝɒ;ɒɪ/ʝɪbe ʅʅ ［文化］ ʝɒでできた胴衣で、前開きで、閉じないと胸が見えた。そのことから元は男性用だったが後に娼婦が飾りをつけて着るようになった。

ɒɪɪɒ ［約物］{} 記号 ［レベル］3 ʅ1:ɒɪɒ。形の類推より。

ɒɪɪɒɪdɪɪdɪ ［名詞］マーマパーパ ［ユマナ］おかあさんといっしょ、にこにこぷん ɪl;ɒɪɒɪ/dɪdɪ ʅʔ ［文化］ 夕方に放送されている子供向け番組。たいていの子供が小さいころに見ている。

ɒɪɪɥɪ ［名詞］悲しみ、苦しみ、苦い過去、苦い思い、苦い過去、苦い記憶、胸痛、心の痛み、胸が締め付けられる感情 ［類義語］nɪɥə ［レベル］4 μɑ;ɒɪ（胸）/ɥɪ（痛み） ʅʅ ［文化］ 取り返しの付かない苦い過去を思い出したときに右の輙筋あたりが痛むことと μɑ でセレンが定めた。

ɒɪɪz ［建築］尾根 ［レベル］2 ɪlɪʃɪ:「胸の棒」。胸を山と山に見立て、その天辺の間を走る棒を尾根に見立てている。

ɒɪɪl ［親族］お母さん、お母ちゃん ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɒɪɒɪ/ɪɪɪl ［成句］ ʅcɪ uell ɒɪɒɪ cʃɪ ɒɪɪl. ルシアは「お母さーん！」ではなく「ママー！」と叫ぶ：生みの親より育ての親

ɒɪɪl(ʅ) ［人名］マール ʅ0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʔ9ʔʅ:ʅʅʅʅʅ(ʅʅʅʅʅ)) メルテナ前期のレスティル王。一時アルヴェーテを弾圧したが、ʅʅʅ0 に公認。

ɒɪc ［ジョブ］法師。密教を行う人。 ɪlʃ;<>ɒɪɪɥɪ ʅʅ

ɒɪcʃ ［化学］化学薬品、化学物質 ［レベル］4 1ʔ: 制 : ɒɪcldcʃə

ɒɪcʃe ［形容詞］がたいのいい、少し太った、がっしりした、ガタイのいい ［類義語］sɪl、ucen ［レベル］3 ʅ1:ɒɪcn/ʃe

ɒɪcʅ ［植物］麻 ［レベル］4 ɒelʃcɪ ʔΔL:ɥɪμʃe;e 1ʔ: 制 : 恣意

ɒɪcʅɪ ［植物］大麻、マリファナ ［レベル］4 1ʔ: 制 : ɒɪcʅ

ɒɪcʅe,ɑ ʃcɔ

ɒɪcʅeʃ ［音楽］サイケ、サイケデリック ［レベル］6 ʅ1:ɒɪcʅɪ/ʃe

ɒɪcʅencʅɪ,ɑ ɒɪcʅe

ɒɪcl ［名詞］モデル ［レベル］3 lɪʅɪ:ɒɪcl:ɒɪcnʅɪ から

ɒɪcʝ ［動詞］ɥəl を体で理解する、理解する、体得する、会得する、覚える、習得する、経験的に知っている、習う ［普通動名詞］体得、習得、会得 ［レベル］2 1L:ɒɪcn ɟeɥ（体が知っている） ləlɔ,ɑ əel,ɑu:əel ［用例］ ɥəlc ɪlʅɪ ɒɪcʝ ɪμʅɪ. 子供は言葉を体で覚える。

ɒɪcʝʃ ［魔法］マイスト、埋め込み魔法具 ［医療］インプラント、ペースメーカー、ボルト、入れ歯、脳内チップ ［レベル］5 ʝɒ;ɒɪcn/ɪɑcʝʃ ʅʔ ［語法］［文化］ ʝɒ で開発された体の中に埋め込む魔法具。ヴィードの総量を底上げしたり、特定の属性の攻撃に対する耐性を付けるなどの効果があった。 のちに ul になると魔法的な意味が薄れ、体の中に医療器具を入れるインプラントとなった。口腔外科ではインプラント、心臓などではペースメーカー、骨折など整形外科ではボルトを意味する多義語である。ul では試験的に脳内に電極などを刺し入れる実験も行われた。ɪl では脳内チップが開発されたが、２１世紀初頭の地球同様実用化されていない。

ɒɪcʝael ［普通動名詞］実学、学習、実技、実習、実技科目。座学の反対。実技科目のこと。 ［反意語］lecɑel ［レベル］2 ʅʔ

ɒɪcʝaelɪn ［名詞］実習生 ［レベル］6 μɑ;/ ʅʅ

ɒɪcn ［生物］身体、体 ［数学］体積→ ɒɪcnɑə ［文字］字面 ［動詞］ɥəl の体を ɪ に向ける、向く、向ける ［反意語］ʅɔlɔ ［レベル］1 ɑ;e 古 ɒɪcn:ɒɪcn:lɪ ɟɪl:ɒɪn,ɪlʃ ［用例］ ɒɪcn ʅɪc 大きな体、巨躯

ɒɪcnʃcl ［動詞］ɥəl を {kɔn} に内蔵する、内蔵する ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɒɪcnʝɪɑ ［生物］体温 ［レベル］2 1L ［用例］ ɒɪcnʝɪɑ ʃcn 高い体温

ɒɪcnʝɪɑʅcdɪμ ［名詞］体温計 ［レベル］2 1L

ɒɪcnʝɔμcʃ ［生物］身長、体長 ［言語］［文字］仮想ボディ、ボディ。アセンダーからディセンダーまでの幅。 ［レベル］2 ʅʅ ［用例］ ɒɪcnʝɔμcʃ ʝɔμ 高い身長 ［文化］ ɒɪcnɪsɪ

ɒɪcnʝeu ［言語］主文 ʅʅ

ɒɪcnncɪl ［生物］身柱 ʅʅ

ɒɪcnuɪu ［運動］全身運動 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɒɪcnucen ［形容詞］腕力が強い ［類義語］ʅɪnuc ［レベル］3 1L ［用例］ ɔuc eʃ ɒɪcucen ɪlʅɪ lɔʃ ɪleʃ. アシェットではオヴィが一番力が強い。

ɒɪcnɑɪlʃ ［政治］武官 μɑ;/ ʅʅ

ɒɪcnɑcʃcʅ ［芸術］刺青、いれずみ、入れ墨、しせい ［レベル］3 ʅʅ:「体の文様」 ［文化］ μɑ までは魔術の一貫として行われた。呪術で特に用いられることが多い。 nɑ 以降は廃れ、芸術要素のみが残った。 ul 以降では体に傷を付ける行為は背徳的とされ、不良やゴロツキのシンボルとなった。 ［用例］ euʃɪlb} ɒɪcnɑcʃcʅ e ɑɥeʃcʝ ɪ lɔʝ 背中に飛龍の刺青を入れる

ɒɪcnɑə ［数学］体積、容積→ ɒɪcn ［レベル］3 1L: 体の量 ［用例］ ɒɪcnɑə ʅɪc 大きな体積

ɒɪcnəəɑ ［生物］体重 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［用例］ cɒ ʅcʃ ɒɪcnəəɑ eɒ ɒecɑ, ɥɪn lc ʃə, eɒ ʅɔμʅ. いったん体重が増えて、それからまた減る：この「また」は意味的に ɒe でないので、訳出しなくてよい。 ［文化］ ɒɪcnɪsɪ

ɒɪcndɪnʃ ［名詞］実技科目 ［反意語］ʅɔlɔdɪnʃ ［レベル］2 ʅʅ ［文化］ ɑeldɪnʃ

ɒɪcnhɪμʃ ［生物］［医療］身熱 μɑ;/ ʅʅ

ɒɪcnsɔl ［生物］体幹 μɑ;/ ʅʅ

ɒɪcnləəd ［名詞］体の暴力 ［反意語］μenʝləəd μɑ;/ ʅʅ ［文化］ μenʝləəd

ɒɪcnɪ ［地名］マイナ ［レベル］5 1ʔ: 制 : 古 :ɒɪcn（体）から。 ［文化］ ソーンの使徒ヴァマの支配地。

ɒɪcnɪ(ʅ) ［アトラスの国家］マイナ ［レベル］5 制

ɒɪcnɪsɪ ［生物］体型、体形、体格、がたい、ガタイ ［類義語］ɒɪcneʃ ［レベル］3 ʅ0: 体の比率。手足の長さの比率や、ウェストと体重の比率など、形ではなく比で体形を捉えている。 ［文化］ → ɥəuel 地球では時代や国ごとに美しい体形が変わる。太っているほうがいい時代もあれば、やせているのがいい時代もある。一方、アトラスは揺らぎがなく、常に一定。 ラヴァスの時代に、アルデス王が体調と体重の相関に気付き、最も体調のいいときの体重を維持するようにした。それが人類に伝わったことから、歴史を通じて理想体重、言い換えれば理想体型が定まった。アルデス王は１７２ｃｍで６５ｋｇだったことから、これが人間の理想の体形とされた。なお、尋（ファゾム）は約１８１ｃｍであった。ちなみに同様にして女性の場合はルフェルがモデルで、１６０ｃｍの５０ｋｇが理想とされる。 語源からも明らかなとおり、これは比であるから、身長が低い男性は、理想体重が軽くなる。現代でいえば ＢＭＩで図れるものであり、アルデス王のＢＭＩは２２で、現代医学で最も病気になりにくいとされている数値に一致する。地球の未来においてこの数値は変動するかもしれないが、アトラスでは普遍の値。 ＜モテる人の理想体型＞ 地球では国や時代によって理想体型が異なる。貧困国では太っている＝金持ちなので、ふくよかなのが良いとされることがある。一方先進国では女性は細めで、男性は高身長であることが望まれる。２０１２年現在の日本では１７０ｃｍ後半で７０ｋｇ代でやや筋肉質辺りが一番無難にモテる男性の体型であろう。 一方アトラスでは神が実在し、その神が理想の体型の見本とされる経緯があるため、どの時代どの地域でも共通の理想体型、モテる体型が存在する。男性の場合、サールの王アルデスと同じ体格が一番モテる。それより高くても逆にモテないし、低ければ当然モテない。女性の場合はルフェルが理想である。アルバザードでは面白いことに、女性の体型に関しては好みにばらつきがある。アルバザード人男性の好みは多様で、小柄な子が好まれることもある。一方女性の目はシビアで、アルデス王より大きいとノッポで不気味とされ、小さいと小男とバカにされ、相手にされない。体重も同様で、ガリだと貧弱と笑われ、過度のマッチョもキモいと言われる。なお、デブは論外。ただアルバザード人は華奢な者が巨躯を倒すというシチュエーションが好きなので、ガリには比較的寛容で、５０ｋｇくらいのガリでも筋肉質であればそこまで忌避されない。 なお、２０１２年現在におけるセレンの身長は１７２ｃｍで、体重は６５ｋｇで、ＢＭＩは２２。筋肉質で、尋は１８１ｃｍ。アルデス王と同じ体格になった。セレンの体格は日本人としても平均的であり、アトラス人としても理想的である。チビでもデクでもなく、ガリでもデブでもない。誰からも馬鹿にされない、悪口の言いようのない無難な体型で、どんなに頑張っても無個性とか凡庸といった悪口しか思いつかない。平均的体型のメリットは人と違わないのでコンプレックスを持たずに生きられるという点である。自分の体にコンプレックスを抱かないというのは物凄く気が楽なことである。 ［用例］ ɒɪcnɪsɪ lɪnʃ 均整の取れたプロポーション

ɒɪcneʃ ［生物］体格、がたい、ガタイ ［類義語］ɒɪcnɪsɪ ［レベル］3 ɑu;ɒɪcn/ʃe ʅʔ ［文化］ ɒɪcnɪsɪ, ɥəuel ［用例］ ɒɪcneʃ ɑcɒ 華奢な体格

ɒɪcɒ ［名詞］姿勢、体勢、ポーズ ［医療］体位、肢位 ［名詞］体位← hcɒɒɪcɒ。性交の。 ［レベル］2 μɑ;ɒɪc/ɒɔ「身体の形」 1ʔ: 制 :ɒɪcɒɔ（身体の形） ［文化］ hcɒɒɪcɒ ［用例］ lə lɪlej ɒɪcɒ. 彼は姿勢をキープしている。だるまさんがころんだのようなピタっとした姿勢。

ɒɪcɒ,ɒɑ eμ

ɒɪcɑ ［名詞］バスタオル ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɒɪcɑɪlɒ ［用例］ ɪn ɑcdɪʃ ɒɪcn ʅɔn ɒɪcɑ. タオルで体を拭いた。

ɒɪcd ［言語］［非言語］ジェスチャー、身振り手振り、ボディランゲージ、仕草、非言語 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒɪcɪdɪ

ɒɪcl ［化学］化学 ［レベル］4 lɪʅɪ ［文化］ 化学用語は古･制の時代にリュウが中心となって作り、幻幻辞典に記載された。 その後メル 1L 年の新生化に伴い、改訂作業をした。 制になる際に、リディアの要望でアンティスを反映したアプリオリなネーミングに変わった。新生でも変わらない。 1L 年末の専門用語強化に伴い、幻日に輸入される形となった。 ところが、作業をしていてあまりにＩＵＰＡＣが地球の事情に基づいたものなのではないかと考えた。 そこで、これだとアプリオリと言えないのではという不安に襲われ、仕方なしにゼロからオリジナルの命名法を考えだした。

ɒɪclʅeɥ ［化学］化学的種名 1L

ɒɪclɒeʃ ［化学］平衡、化学平衡 ［レベル］5 1L:jeɥen/μcɑcɪ

ɒɪclɥeu ［化学］化学反応 ［レベル］4 1L

ɒɪclɥʅ ［化学］化学結合 ［レベル］5 1L

ɒɪe ［名詞］乳、乳汁 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɒɪeμcɪ（ɒɪ（乳房）の水） ［用例］ μcʅ ɒɪe 乳を出す

ɒɪelccɒ ［化学］乳糖、ラクトース ［レベル］4 1L:bɪʅɒ など、ɒɪe に含まれている

ɒɪeɒ ［料理］コレステロール、コレステリン ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ɒɪcneɒɥə（体の脂肪）

ɒɪeɒɪμʝ ［化学］ラクターゼ ［レベル］4 1L:ɒɪelccɒ/ɒɪμʝ

ɒɪebeeb ［形容詞］乳臭い ［形容詞］［ネガティブ］未熟な ［類義語］cbeʃ ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［語法］ 実際に乳臭いという意味より、むしろ乳飲み子のように幼いという罵倒の意味が強い。

ɒɪelcʃc ［生物］乳腺 ［レベル］4 1L:jeɥen

ɒc ［動詞］ɔɔl は ɥəl にいない、ない、無い、亡い、存在しない、いない、居ない、留守だ ［レベル］1 μɑ;ɒɥə.l 1L: 古 :ɒɥə ɒɥə, ləəɒc:ɒɥə, ləəɒc:ləəɒc ［用例］ lɪ ɒc ɪʃə. 彼はここにいない。

ɒc(ʅ) ［感動詞］[ɥeʃe] み？ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe:ɒcc の短形

ɒc(ʔ) ［接頭辞］お～。お酒など、丁寧な名詞を作る→ ɔɔʅjueʃ ［レベル］2 古 ［語法］ 名詞に付く。動詞には ɒcʝʃ。

ɒc,ɑ ɪlɒcʅ <>ɒɥə（ない→見えない）

ɒc,ɑu ɒcʝʃ ɑɪcɪ

ɒc,ɪlʃ ɒcn

ɒcʃ ɒc/ɪʃ

ɒcʃl ［名詞］ブリキ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒcuɪɪlʃ 子供のおもちゃ」

ɒcʃɪ,ɪlʃ ɪʃ ɒc/ʃɪ

ɒcʃɥɪnɪb ［名詞］荒唐無稽、事実無根 ［レベル］3 ʅʅ

ɒcʃcʅnɔ ［サール］ミティクノ ［レベル］5 ɒelʃcɪ LL jen ucɪ:ɥcʅnɔ;ɒcuɪ/ʃcʅnɔ 月 :ɒcuɪ（子）/ ʃcʅnɔ（ティクノ）から。 ［文化］ ɒelʃcɪ LL_LLLLLLL）ティクノが自分で木から生んだ子。ワニやトカゲ類を司る。ポエンと交わっていないため弱く、エルヴァに殺される。

ɒcʃcɒ ［生物］原核生物 ［レベル］5 ʅ0 ［語法］ 細胞核を持たない。アルカでは真正細菌と古細菌のこと。

ɒcʃɔɑ ［電算］オフライン ［レベル］3 ʅʅ

ɒcʃɔalcuɪ ［娯楽］オフラインゲーム、オフゲー ［レベル］3 ʅʅ

ɒcʃɔacʃɪ ［電算］オフ会 ［レベル］3 ɪl;/ ʅʔ

ɒcʃe ［動詞］ɥəl（対象）を ɪ（分類項目等）に分類する、分類する、別する、分ける ［普通動名詞］分類、分別 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɒɥəʃe ɒɥəʃe:ɒɥəʃe

ɒcʃeʝ ［名詞］停電 ［レベル］3 ul;/ ʅʔ ［用例］ ɒcʃeʝ lənɪʅ leʝʃez. 居間が停電した。

ɒcʃeəel ［名詞］分類学 ［レベル］5 ʅʅ

ɒcʃeɒ ［形容詞］人の言うことを聞かない、素直でない、頑固な、天邪鬼な ［反意語］lɪʃeɒ ［レベル］3 ʅ0: 耳のない

ɒcʃeeɥe ［感動詞］ʃeeɥe ［レベル］3 ʃɒ;/ ʅʔ

ɒcʃəɪ ［感動詞］どうぞお受け取りください ［レベル］3 古 :ɒc/ʃəɪ

ɒcʅ ［名詞］右 ［形容詞］右の ［格詞］～の右に ［経済］貸方 ［数学］下何桁などの下 ［反意語］lɪnʅ ［レベル］1 qɥɑ:ɒcμɔʅ/ʌleμ 1L:ɒcμʅɔμ（神の方向） c:ɒcʅ ［用例］ ʝ zɔnʃ cʃen ɒcʅ 下二桁

ɒcʅ(ʅ) ［人名］ミク、ミルフの略称 ［組み数字］１１/２８ ［レベル］1 古 : 語源不詳。古アルカでの意味は「女言葉」ʝɒcʅə。セレン以外は ɒcʅə ということが多かった。使徒に言わせれば ɒcʅə が ɒcʅ になった原因はセレンの発音らしい。

ɒcʅ(ʔ) ɒc/cʅ

ɒcʅʃ ［形容詞］のんきな、おっとりとした、おっとりした、のんびりした、呑気な、暢気な、ゆったりした ［形容詞］雪や台風など天気が通年よりも遅い ［反意語］bezeʃ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɒcʅəʃɔ。ɒcʅə からで「ミクの匂い」が直訳だが、ミクの持っている雰囲気を示す。ʃe ではなくʃɔ。

ɒcʅɪʅ ［生物］右腕 ［レベル］2 ʅ0:ʅɪlce

ɒcʅl ［法律］アリバイ、現場不在証明 ［レベル］3 1ʅ: 制 : 古 :ɒɥələ（居なかったと言う）

ɒcʅlc ［名詞］右後ろ ［レベル］2 ʅ0

ɒcʅʝ ［音楽］歌 ［動詞］ɥəl を歌う、歌う ［類義語］ʅelʅ、leɒ、ʅcleɒ、ʅɪnʃ ［レベル］2 1ʅ: 制 : 第４期代アルシェ第１１使徒ミルフの通り名の「ミク」が語源。ミクは音楽が得意な使徒であり、特に歌声は妖精のように美しいと内外を問わず評判。尚、古アルカでは φɥiʅeμcʅə,leɒʅə,ʅəleɒ（歌） φɥiʅeμcʅə:φɥiʅeμcʅə ［用例］ ɒcʅʝ{ɪμ} ɒcʅʝ 歌を歌う ɒcʅʝ lɪnʃel 綺麗に歌う ɪμ{ɒcʅʝ} ɒcʅʝ lɪnʃ 綺麗な歌を歌う

ɒcʅɪɪ ［名詞］右前 ［レベル］2 ʅ0

ɒcʅɪɪn ［音楽］歌手、シンガー ［レベル］3 1L ［用例］ nɔn ɪʅɪʃ lɪn lɪ ɒcʅɪɪn le nɔn ʝccnɪ ʃcn ʃcn ʅcnel. 私はどうしても大好きな歌手に会いたかった。

ɒcʅeɥφ ［経済］投資 ［レベル］4 ʅʅ:「おっとりした投資」→ ʝeɥφ

ɒcʅueɥɪnʃ ［医療］楽性人格障害、楽性パーソナリティ障害 ［レベル］5 ul;ɒcla/ueɥɪnʃ ʅʔ:ɒel ［語法］［文化］ クラスターＡに分類され、スキゾイドと比較的近い人格障害。訳語はセレンの造語。 喜怒哀楽の楽以外が欠落しており、何事に対しても笑顔でニコニコと接してしまう。ニコニコしているか柔和な表情かのどちらかしかなく、不快感を感じたりという感情のレセプタがない。 現実でも神話でも、ミルフが子供のころからこの性格で、たとえ人の葬式であろうと朗らかな表情でいてしまう。他人から非難されると表面上は謝るが、そのときの顔も真剣ではない。不謹慎とか悲しみとかが理解できず、また頭で理解しても共感や悲しみを表現

することが難しい。　スキゾイドに近いが、人に対しては愛想がよく、結果的に中距離程度の友人は多い。概して人が苦手ではなく、むしろ人懐っこい面がある。ただ自分の不謹慎さを非難されると戸惑う。　漫画でいうと、『るろうに剣心』の瀬田宗次郎がまさにこれ。

ɒcɔb ［動詞］ɥəl を撤回する、撤回する、取り消す、キャンセル、中止する ［普通動名詞］撤回、キャンセル、とりけし、取り消し、中止 ［レベル］2　1θ: 制 :ɒcɔ（止める）

ɒcɔbɔʃ ［電算］エスケープキー、ＥＳＣキー、ＥＳＣ ［レベル］3　ʃ1

ɒcɔɔɔl ［名詞］右下 ［レベル］2　ɟ0

ɒcɔbenʅ ［名詞］右回り ［類義語］peflɒenʅ ［反意語］lɪnʅɒenʅ ［レベル］3　ɟ0

ɒcʅhɪl ［名詞］右上 ［レベル］2　ɟ0

ɒcʅzeſ ［経済］貸方科目 ［レベル］5　1L

ɒcʅɪɟ ［生物］右手 ［レベル］2　1L

ɒcɪ ［形容詞］信心深い、敬虔な、信仰心のある ［反意語］nɪſc ［レベル］2　1θ: 制 : 古 ɒɥəʅlc（信心深い）← ɒɥəʅɪle（宗教）

ɒcɪʅɪc ［被服］ノーベント、ベントレス　nɑ;/　ʃθʃ

ɒcɪɟɪcl ［料理］サルミアッキ　μɑ;<ɪμɑɪ　ʃθʃ ［文化］　μɑ でアシェットがアルダから持ち込んだのが初めて。リコリスを含んだ菓子。ɪl で「世界一まずい菓子」にノミネートされた。アルダ人は好んで食べる。　ちなみに現実のリディアはサルミアッキが好きでも嫌いでもないらしく、たまに食べるとのこと。セレンが「まずい！」と言ったら「理解はできる」と言っていた。

ɒcʅɪn ［名詞］jeɒɪcɒ ［植物］ガクアジサイ、額紫陽花 ［レベル］6　ɒcʅɔ,ɪlſ.ʅ

ɒcʅɪnɪ ［名詞］敬虔な心 ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſſ

ɒcʅɥʅɪ ［言語］神無アルカ ［レベル］6　1θ: 制 : ミルフの月に作られたアルカ ［語法］ メル θ 年ミルフの月にセレンが作った古アルカの改定案。後に古アルカの音韻論に貢献する。

ɒcʅlzɪɟ ［エルト］ミカルザス ［レベル］5　pelſcɪ LL jen ucɪ:ʅlzɪɟ;pcuɪ/ʅlzɪɟ　月 :ɒcuɪ（子）/ʅlzɪɟ（カルザス） ［文化］ カルザスが自分で生んだ子。自分の血から作った。コノーテと交わらなかったため弱く、イルヴァに殺される。

ɒcʅlɛp ［音楽］ソナタ、ミカレム ［レベル］4　μɑ;/「ミクの気持ち」。ミルフが心境を曲にして作った楽曲の形式がソナタだったことから。　ʃ?

ɒcʅɪɪn ［名詞］父なし ［反意語］ɒclɪɪl ［レベル］3　μɑ;/　ʃ?

ɒcʅɪɪnμɪ ［名詞］母子家庭 ［反意語］ɒclɪɪlμɪ ［レベル］3　μɑ;/　ʃ?

ɒclɔ,ɪlſ eμ、eμcɪ

ɒclɔʅɔſɪn ［魔法］ウンディーネ　ɪlſ;/　ʃθʃ

ɒclɔlc,ɪlſ ejʅ　ɒclɔ（水）が動詞化したものが ɒclɔlə で、その名詞形が ɒclɔlc。「水するもの」で雨を意味する。フィンランド語で雨が降るを「水が降る」と表現するのと似ていて、水で雨を表現している。

ɒclɔlə,ɪlſ ejʅ　ɒclɔlc,ɪlſ

ɒclə ［動詞］ɥəl を遊牧する ［普通動名詞］遊牧 ［レベル］4　1?: 制 : 古 :ɒɥəʅə（引越し、移住）「いなくなるように行く」

ɒclə̃ʅɔ ［感動詞］いらっしゃいませ ［レベル］2　古 : 尊敬の ɒc/ʌlə̃ʅɔ（来る）

ɒclən ［接続詞］ɒclʅ ［レベル］3　ʃ1

ɒclə ［人名］ミルフのあだ名 ［レベル］3　古では「女言葉」という意味

ɒcl ［動詞］ɥəl を lɔn でキャッチする、キャッチする、受け取る、受け止める、受ける、水などを浴びる、滝などに打たれる、ボールなどを物理的に手などで受け止める、受給する ［普通動名詞］受信、キャッチ、受け取り、受給 ［電算］ダウンロードする、受信する :1L:μcɑcɪ: ダウンロードと明示するときは ɒcl c dɔleſ → ɒɔɸ ［サッカー］［野球］キャッチする、キャッチ、ボールを受け取る、レシーブする、レシーブ ［反意語］jeɑ、lɪnſ ［レベル］2　1?: 制 : 恣意

ɒclʅ ［生物］膝、膝部 ［反意語］nɪjſ ［レベル］2　μɑ;/eel　@ 1L　nə:nə ［語法］ 膝蹴りの打突点を中心にその周囲。ひかがみは含まない。 ［成句］ ɒclʅ eɒ ueμn 腰が抜ける :「腰が抜ける」という表現は不正確。実際には膝から力が抜ける。

ɒclʅjcɪ ［音楽］スネアドラム、スネア、サイドドラム　ʃ1: 膝の高さ

ɒclʅuɪclʅ ［生物］膝部。膝蓋骨の上縁から３横指上方を通る水平線と脛骨粗面を通る水平線の間のこと。　μɑ;/　ʃθʃ

ɒclʅlcjen ［被服］ニーソックス、ニーソ ［レベル］3　ʃ1

ɒclle ［魔法］ミッシェ。召喚のしにくいところ。神と意思疎通の取れないところ。 ［電算］電波の届かないところ。特に周りは届くのにそこだけ孤立して電波障害のあるところ。 ［レベル］3 ［反意語］jɪlɥə　ʃ1:ɒclle.ʅſ < ɒɥəlɪ.ɑu

ɒcld ［名詞］籠、バスケット、買い物籠、買い物かご ［レベル］3　1?: 制 : 古 :ɒɥəlɪbədɪ（穴の空いた容器）

ɒcldφeʅ ［運動］バスケットボール ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſſ ［文化］ これも野球と同じ。ルールも大体日本と同じ。ボールを相手のゴールに入れる。ゴールは頭上の籠である。 ［用例］ ɪn ɒcll nɔj eſ jɔμ lɔʅ ɒcldφeʅɪn. バスケの選手くらい背があればなぁ。

ɒcldɪleɪ ［地名］籠女海岸、かごめ海岸、ミリア海岸 ［レベル］5　1L: ねこの郵便屋さん ［文化］ μɑ でテージュ海の巨人を倒したアルシェは、カテージュに行き、被災地の支援をした。ミリアはボランティアでカテージュを訪れており、ここで初めてアルシェと出会う。このときミリアがバスケットにパンを入れて配給していたことから、アルシェのセレンとミリアが出会ったこの海岸が籠女海岸と呼ばれるようになった。南カテージュカルザス線クミール駅から南に２０００メルフィほどのところにあり、最も有名な海岸。ビーチには籠を持った少女ミリアの像がある。潮風で錆びないように石でできている。

ɒclɪn ［名詞］受け取り手、受取人 ［野球］捕手、キャッチャー ［レベル］3　μɑ;/ | ul　ʃ?

ɒclɪμ ［電算］入力装置、入力デバイス ［レベル］4　1L

ɒclɪz ［形容詞］無制限の、無限の、限りない、制約のない、節操ない、奔放すぎる、むやみな ［副詞］無制限の、むやみに、むやみやたらと ［レベル］3　ɟ0:lcɔn

ɒclc ［生物］精子 ［生物］精液← ɒclcɒɥ ［普通動名詞］射精 ［動詞］ɥəl を ɪ に射精させる、射精する ［レベル］3　1?: 制 :ɒclɪ: 古 :ɒcuɪlɪʅc（子供の卵） ［用例］ ɪn ɒclcſ ɪl eel lɪɪſ. 彼女に顔射した。

ɒclcɟɪ ［料理］ノンシュガー ［レベル］3　ʃ1

ɒclclc ［名詞］外道、ゲス、下衆、げす、鬼畜、鬼 ［形容詞］ゲスな、外道な、鬼畜な ［レベル］3　μɑ;/「慈悲のない」

ɒclclɔμ ［生物］輸精管 ［レベル］5　1L

ɒclcɔlz ［生物］前立腺 ［レベル］5　1?: 制 : 精子が通る胡桃大の器官

ɒclcɔlzdcφ ［医療］前立腺がん ［レベル］6　1L

ɒclcɒɥ ［生物］精液→ ɒclc ［レベル］3　μɑ;/　ʃ? ［語法］ 精子は精液中に含まれている。

ɒclcɒɥcɪ ［生物］［俗語］精液、聖液 ［類義語］ɒclc　μɑ:ɒel;/ ［レベル］5　ʃ?:ɒel:J01J/0L/1J 立ちバックとかだと出して抜いた後にいくらか漏れてくるじゃん？メルがそれを指で取って舐めてて、そのときはスルーしたんだけど、昨日メールで「あれお前舐めてたよね？汚くないの？」と言ったら「自分のは汚いけど、お兄ちゃんのはむしろ聖液だから」と言われてヲタ女の発想の凄さに戦々恐々としてる。

ɒclɔc ［医療］味覚障害 ［レベル］6　1L

ɒclez ［生物］無脊椎動物 ［レベル］4　1L

ɒcj ɒc/ej

ɒcj(J) ［名詞］意見、考え、見解 ［動詞］ɥəl という意見を ɪ に伝える、意見を言う ［類義語］lɔ ［レベル］2　jzɑ　ʃθʃ ［成句］ el ſeej cl ɒcj ɪlſ ɑμcjel cɒ ɒcj ſɔſɪl. 意見を言うということはその意見以外のすべての意見に対する間接的な否定をすることに等しい（jeμen ɪμbɪzɪμɑ）。アルバザード人は意見をぶつけ合って切磋琢磨するのを良しとするが、ある意見を主張することは同時にその意見以外の全ての意見を間接的に否定することになり、そのことによるリスクも生じうるということをセレンは述べた。

ɒcjſ ［法副詞］お～する、～なさる。前置。 ［レベル］2　μɑ;ɒc,ɑu　ʃ1:μcɑcɪ:ɒc/jɔ/fe。ʃ1 まで名詞と同じ ɒc だったが、動詞に付く場合は法副詞 ɒcμ との聞き分けが困難とされ、代詞改訂の際に合わせて調整された。　ɒc:ɒc ［用例］ hɪlɪ ɒcjſ lenɪſ ɑenel ɪnɒcɪnϑ お夕飯はもうお召し上がりでしたか。

ɒcjſ(J) ［組み数字］１／１０ ［哲学］秤 ［医療］膀胱 ［歳時記］甲、きのえ ［レベル］4　μɑ;ɒcjſ,jzl　ʃ1 ::lə ɒcjſ（徳は男性側５つが lə、女性側５つが lɪ）

ɒcjſ,jzl ɒejſ　ɒejſ.l

ɒcjʃlɪn ［生物］［医療］膀胱経　jzl;/　ʃθʃ

ɒcjſc ［死神］ミスティ ［レベル］4　ɒelſcɪ　ʃL1:lənɔ;e　ʃ0:μcɑcɪ ［文化］ → eɒclcɔ

ɒcjſclɪſ ［形容詞］公平無私 ［レベル］3　ʃJ:ɑelcj の ɒcjſ があるような clɪſ

ɒcjſcj ［被服］白衣 ［レベル］4　ʃ0:ɒcjſcɪɑlɔj（ミスティアローブ） ［文化］ 1?1? 年のミスティア錬金術舎創設の際に実験服として政府から提供されたものが始まり。当時は色のついた試薬や材料が多かったため、白だと実験中に服についてもよく見えることから、白が選ばれた。　後に科学が発達して白い薬品が増えると、薄く色をつけた白衣が着られるようになった。　ヴェレイでは外科医を中心に血の色のコントラストを抑えるために薄い緑色の白衣が着られた。　現在では理系学生の一般的な制服となっており、キャンパス内では実験中でなくても白衣の姿が見られる。

ɒcjſcɪ ［魔法］［ランドマーク］ミスティア錬金術舎 ［レベル］4 ［アクセント］ɒcjſcϒ　ʃ0:ɒcjſceſ ［文化］ → ɥəlcɪnſ, ɥəlcɪnſjel　1?1? 年に時のアルバ王が出資者となり、ルティア・アルシア自治区の共同出資を受けて建てた錬金術士養成学校。錬金術舎としては最も古く、かつパイオニアでもある。　1?L1 年、リディア＝ルティアはアシェルフィ校を卒業し、ミスティアに編入。国を守りながらの研究だったため、寮生活ができず、毎日は通えなかった。しかし超人的な努力家だったリディアは２年で単位をすべて取り、1?LΔ 年に卒業。その後アルナ大へ編入。　一方、アリス＝アンシャルは 1?LL 年に編入し、生涯をミスティアで過ごした。 ［成句］ ɒcjſcɪ nɔɑ(en) cjɑclcɪ 一日の長。ミスティアのほうが先にでき、何かとイスフィリアの先を行ったことから

ɒcjſce ［建築］ミスティエ凱旋門、ミスティエの門、凱旋門 ［経済］１０ソルト玉 ［アクセント］ɒcj ſcE ［レベル］2　ʃ1:μcɑcɪ:ɒcjſceſ ［文化］ → ɪnɑɪn　1J0θ のケートイア人による侵入から φleɪ で国を守ったアルバ５世の凱旋を祝して建てられた門。グレアの発明者 ɔjſcɪ scleel の出身地 ɒcjſceſ を讃えてこの名が冠せられた。　石造りで、何度か改修されている。　現在は北東アルナ市セイネルス＝クミール通りに所在。 ［用例］ φlſ ɒcjſce ミスティエ凱旋門

ɒcjſceſ ［地名］ミスティエット ［レベル］6　ʃ0:ɒcjſc/fe（ミスティのような） ［文化］ アルシア北東部にある町の名。ケートイア・ヒュートの国境線に近い盆地。すぐ周りは山地になっている。死神ミスティの加護があるという言い伝えからこの名が来ている。

ɒcjſɔ ［名詞］化身 ［レベル］4　ʃ0:ɒɪcn/cjſ → ɒcjſ → ɒcjſɔ（中和と重複するため） ［用例］ lɪn ɪlʅɪ eſ ɒcjſɔ e jɪe ſcjee.　jɪe le ɑcɪjɪſ lɪ sɪn ɔμ ɪlɪφel lɔμ ɪlɔ lɔnſ jɪbɔμ jɪe.　lə ɔμ elſ den, jee cl beſ cɒ ueeμ ɪ.　人間はね、雪の化身なんだ。　空で生まれた幼い雪は、大地に舞い降りながら埃を纏っていく。　どんどん汚れて、最後は泥になってしまうんだ。　(μenɟ ʔʅʃ) uelſμenɟ は泥。ここでの泥は大人を指す。lienμenɟ では汚れた大人を批判しているが、その泥に真理を語らせることで、「純粋さの代わりに大人は知恵を得て成長する」ということを uelſμenɟ として指している。

ɒcjſe ［化学］中和 ［動詞］ɥəl を中和する、中和する ［レベル］4　ʃ1:μcɑcɪ<ɒcjſ: 古

ɒcjſeſəlɑ ［化学］中和熱 ［レベル］5　ʃ1

ɒcjſeɥeu ［化学］中和反応 ［レベル］5　ʃ1

ɒcjʅ ［動詞］ɥəl を ɔn に適正かどうか試す、ɥəl が ɔn に勝るか挑戦する、試す、挑戦する、挑む、立ち向かう、対抗する、チャレンジ、試みる、トライ、ためしてみる、取り組む、試着する、味見する ［普通動名詞］挑戦、チャレンジ、テスト、テストプレイ、おためし、お試し ［副詞］試しに、～してみる ［レベル］2　1L:ɒcj:1?: 制 : 古 :ɒcjɔ,ɒcjjɔ（試す）　ɒcjɔ:ɒcjɔ ［用例］ ɪn ɒcj ʅlſ lej ɪn jɔ jen uɔ)lel ɔnſ enzel. 自分にできることはすべてしようと努力した。

ɒcjʅμj ［名詞］挑戦回数 ［レベル］4　ʃ1

ɒcjʅlɪɑɪ ［名詞］試作品、プロトタイプ ［レベル］4　μɑ;/　ʃ?

ɒcjʅɪ ［化学］試料、試薬 ［レベル］5　ʃJ:ɒcjʅ

ɒcjʅɪlɔnj ［化学］カバープレート ［レベル］4　μɑ;/「試料押さえ」　ʃ?

ɒcjʅɪele ［化学］スライド。顕微鏡の。 ［レベル］4　μɑ;/「試料台」　ʃ?

ɒcjʅez ［名詞］試着室 ［レベル］3　μɑ;/　ʃ?

ɒcjɒejſ ［経済］試算表 ［レベル］5　1L

ɒcjd ［被服］カーディガン ［レベル］3　1?: 制 :lʅʅfɪ:ɒɥəlɪjɪbe（穴の開いた服）短縮して ɒcjb にし、そこから b が無性音の j に同化して ɒcjd となった。

ɒcjɪ,ɪlſ lccɑɪ

ɒcjɪn ［植物］蝋梅、ロウバイ ［レベル］6　ɒf;ɒcjɪ　JJ

ɒcjɪd ［言語］無気、無気音 ［レベル］6　1L

ɒcjclɑ ［副詞］[ɒenfe] ご自由に～してください。jclɑ。前置。 ［レベル］3　古

ɒcjcɪs ［名詞］青天井 ［名詞］ビアガーデン ［名詞］露天 ［レベル］3　μɑ;/　ʃ?

ɒcjɔ,ɑ ɒcjʅ

ɒcjɔluſ ［感動詞］おまたせ致しました ［レベル］3　ſɒ;/　ʃ?

ɒcjɔlz ［形容詞］コードレス、無線 ［レベル］3　ʃ1

ɒcjɔləɔɪ ［医療］偏平足 ［レベル］4　1L

ɒcjɔɔnɔɥən ［感動詞］ご機嫌いかが、ごきげんよう ［レベル］2　古 :ɒc　jɔɔnɔɥən,jɔɔnɔɥən の jɔ は「する」という動詞だと思うが、そう思うのはそれを裏付けるように ɒc が付いているからである。ɒc（正しくは ɒc ～ μe という風に呼応させる）は動詞に付いて動詞を敬語化することができる。日本語の「～なさる」に近い。

ɒcjenſ ［感動詞］どうもありがとうございます ［レベル］2　jɔμn:ɒc（敬意を表わす接辞）/jenſ ［語法］ jeeμe

ɒcjenſɪnſ ［感動詞］お心遣いありがたくちょうだいいたします ［アクセント］ɒcjEnſɪnſ ［レベル］2　jɔμn ［語法］ jeeμe

ɒcjeeμe ［感動詞］ありがとうございます ［レベル］2　古 ［語法］ jeeμe

ɒcjeeμeſcj ［感動詞］どうもありがとうございます、まことにありがとうございます、心より感謝いたします ［アクセント］ɒcjEeμeſcj ［レベル］2　古 :ɒc（敬意を表わす接辞）/jeeμe（ありがとう）/ſcj（あなたに） ［語法］ jeeμe

ɒcn ［名詞］女、女性、メス ［形容詞］女性の、雌の ［類義語］ləəʅɔ、lejſcμ、μecɥə、lɪɒcɪ、lɪɒc ɪn、lclcɪ、ɒcnɑcɪ、ɒeeμ、ɑlɪnɑcɪ、belɒɪ、ɒɪnɑɪ、ɒeeμ、ueɒu、elccze、ɥəənɪ、lcləl、ɥəə nɔ、uɪnʅeſ、lesejſ、nɪnɪ、ſcnɪ、ɑcɪn、lɪz、ɒɪnɪ、μecſe、belcſ、nɪɪſ、ſɔnɪ、jɪɪz、μɪlel、enɑɪ ［反意語］ucʅ ［レベル］1　jɪɪl;e　古 : 語源不詳　ɒcn:ɒcn:lɪ ɥəlcj:ɒc,ɪlſ ［語法］［文化］ 年齢によって男女とも細かく単語が分かれる。赤ん坊から順に nɪnɪ、ſcnɪ、ɑcɪn、lɪz、ɒɪnɪ、nɪɪſ、ſɔnɪ、jɪɪz、μɪlel、enɑɪ。lɪz と ɒɪnɪ は合わせて μecɥə と呼ばれることも。　男性にはそれぞれ接頭辞 ɪl をつける。ɪlɑcɪn で少年。女性はどの年齢になっても単純語で示されるが、男性は nɪɪſ になると一緒くたに ucʅ と呼ばれることが多い。子供時代も ɥəlc や ɒɪlſ と大雑把に呼ばれることが多い。社会的に女性の年は本人の価値と密接に関わっているが、男性の年には興味を示さないため。 ［成句］ ɒcn hɪɪj cnj nɔzeſ hɔſ 女は自分の目(視点)にしか従わない：女賢しくして牛売り損なう。主観の生き物でしかなく客観性のない生き物だということ。

ɒcnſ ［植物］花びら、花弁 ［婉曲］小陰唇 ［レベル］3　1?: 制 :ɒcnɪ

ɒcnſjɪɪze ［名詞］花吹雪、桜吹雪 ［類義語］fe)jɪɪze ［レベル］4　μɑ;/　ʃ1 ［語法］ 日本語は「桜吹雪」と木を限定するが、アルバザードでは桜のもほかの木のも同様に ɒcnſjɪɪze で示す。従って桜吹雪は厳密には ɒcnſjɪɪze e jeμɔn。

ɒcnſc ［親族］妻、嫁 ［類義語］lɪɒccnɪ ［反意語］ɪɒcμ ［レベル］2　ʃ0:ɒcn/fcɪ　:::neʅəlc,ɪlſ ［成句］ fe ʅel jcμ lɪɒ e ɒcnſc 妻の初めての肌を忘れるな：初心忘るべからず

ɒcnſcjeɒj ［名詞］家庭科部、嫁部 ［レベル］3　ʃ0 ［文化］ 料理や洗濯や裁縫といった花嫁修業をする部活。アルバザード女子には人気が高いため、成績が優秀な子が優先的に選ばれる。従って、家庭科部に属していること自体がステータスとなる。

ɒcnſcɪ ［アトラスの国家］ミンティア ［レベル］4　ʃJ:μcɑcɪ

ɒcnſceμ ［名詞］酒池肉林 ［レベル］4　JJ:「女体の海」

ɒcnʅ ［サール］ミンク ［名詞］色男。女が男を褒める言葉でもある。ただし自分には気がないが、ほかの女にはもてそうねという含意がある。レインが静を ɒcnʅ のようだと褒めた件がそれに当たる。　［レベル］3　ɒel: 古 : 古 ɒcn（女）/lə（口）。恐らく女を食べるという意味で、「女殺し」と言いたかったのだろう。　［文化］ サール界きっての色男。放っておいてもやたら女にもてるし、同時にもてようとあの手この手を尽くすこともする。

ɒcnʅʏɔɪn ［名詞］女優、アクトレス ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſſ

D

ɒcnʔlı ［名詞］ポプリ ［レベル］3 J0:ɒccnı/ʔlɔ

ɒcnʔɔu ［交通］女性専用車両、雌車、めすぐるま、めすしゃ ［レベル］5 ıl;/ Jʔ ［文化］ ɒcnɑ ız

ɒcnʃ ［形容詞］気付かれないように、目立たないように、盗み〜、見られないように、見つからないように ［名詞］穴場 ［娯楽］穴馬 ［反意語］ılɒcnʃ ［レベル］2 μɑ;pɥɒcn 1ʔ: 制 :ɒınʃ: 古 :ɒɥ əcnʃ「気付かれないようにする」。pɥəcn は原義が「見えない」。

ɒcnʔec ［普通動名詞］尾行 ［動詞］ɥəl の後を付ける、後を付ける、尾行する ［レベル］3 J1

ɒcnʃuınɑ ［軍事］奇襲、夜襲、強襲、不意打ち ［レベル］3 1ʔ: 制 ［用例］ uıjʃ μeʃl ɔʔ ɒcnʃuınɑ 奇襲で敵を倒す

ɒcnʃdɕɥ ［名詞］ステルスマーケティング、ステルスマーケット、ステマ ［レベル］6 ıl;/ J1ʔ

ɒcnʃlını ［名詞］下心 ［レベル］3 μɑ;/「見つからないようにした狙い」 Jʔ

ɒcnʃeʃuınʃe ［言語］女性定冠詞 ［レベル］5 J1

ɒcnɟıb ［被服］女性服→ lecn ［レベル］3 μɑ;/ Jʔ ［文化］ ɟıb

ɒcnɟcn ［普通動名詞］女嫌い、女ぎらい、ミソジニー、女性蔑視 ［反意語］ucʔɟcn ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ ［語法］ 女体も含めて嫌いな場合もあれば、女体は好きだが女は嫌いという場合もある。いずれにせよ女の人格が嫌いなことを指す。

ɒcnɟɔpın ［ユマナ］女子高生、ＪＫ ［レベル］4 Jʔ

ɒcnje ［生物］おりもの、下り物、こしけ、帯下 ［レベル］4 ɑu;ɒcn/ɟıe「女性の雪」。女性の体から出るもので、膣口から降りてくるものということを婉曲的に示したもの。 Jʔ:ɒel。1ʔ にメルが造語していたものを Jʔ に幻日に輸入。 ［用例］ ɥənı ʃcl ɒcnje ɑc cɒ ɑcj. 今日はおりものの量が多い。 ɑɔjc cʔ elʃ ɒclφııl ɒcnje. おりもののせいで下着が汚れてしまった。 ɒɔe ʔlcı ɑınj ɥənı ɒcl ɥənı ʃcl ɒcnje ɑc cɒ ɑcj lcnɔı, ɔʔ ɒɔe ɑıl ɥənı cɒ ʃəɟ, elʃɔ. お兄ちゃん、わたし今日はおりものが多いから、今抱いたらできちゃうかもよ？（ɒel ʔeeʃɔcı）

ɒcnjehıɒıɟ ［名詞］おりものシート、オリモノシート、オリシー ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ:ɒel。1ʔ にメルが造語していたものを Jʔ に幻日に輸入。 ［用例］ ɒclc ləınʃ ɑɔjc enʃɔ μıʔ ɒcnjehıɒıɟ lc jcʃʔ cʃen elʃɔ leeuıʃ dɔʃ ɥənı. jee ɥənı nıʃ ncʔ ʃccnı cɒ ɑɔjc ɥənɔl cʔ beeb ɒcl ɒclc ıın. お兄ちゃんに中出しされた後、しばらくして精子が降りてきておりものシートじゃ抑えきれなくなって、下着が精子臭くなったときは驚いたなぁ（ɒel ʔeeʃɔcı）

ɒcnjel ［名詞］レディースデー ［レベル］4 ul;/ Jʔ ［文化］ ɒcnɑız

ɒcnjeelın ［ユマナ］女子中学生、ＪＣ ［レベル］4 Jʔ

ɒcnnɔɑucʔ ［名詞］女尊男卑 ［レベル］4 J1: 女>男 ［文化］ ɒcnɑız

ɒcnnə ［形容詞］柔軟な、曲げやすい、軟らかい ［反意語］ɒınɑ ［レベル］3 ɑ;<>ɒcn「女性の筋肉のようにしなやかな」 赤

ɒcnnəɑφeı ［化学］［工学］軟鉄 ［レベル］6 μɑ;/ J1ʔ

ɒcnnəıue ［化学］［工学］軟鋼 ［レベル］6 μɑ;/ J1ʔ

ɒcnɑcʔuınʃe ［言語］女性不定冠詞 ［レベル］5 J1

ɒcnɑɔpın ［名詞］女性記者 ［レベル］5 μɑ;/ Jʔ

ɒcnɑelın ［名詞］女子学生 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcj

ɒcnɒıcn ［名詞］女体 ［レベル］4 ［反意語］ucʔɒıcn μɑ;/ Jʔ ［成句］ el jccnı ɒcnɒıcn ʃeʃ ɒcn. 女体は好きだが女は嫌い。

ɒcnɒcμɔʔ ［名詞］女神、ゴッデス ［レベル］3 1L:clɒəj;μcɑcı

ɒcnɑız ［形容詞］女らしい ［反意語］ucʔɑız、ɒcnɑcɒ ［レベル］3 μɑ;/ Jʔ ［文化］ hcɒuell, ɒcn lınφıʔn ・時代ごとの男女のらしさ 男らしさ女らしさの定義や求められ方は時代によって異なる。 ɑl ではエルトとサールしかいなかったため、男らしさはエルトらしさと同義で、女らしさはサールと同義であった。 ʃɒ において神々や悪魔らは基本的にエルトとサールの血を受け継いでいるため、男らしさと女らしさはエルトらの価値観を引き継いだ。 エルトはサールのために衣食住を提供し、保護した。サールはエルトに身体を許し、家事をし、世話をした。男は女を守り、女は男を立てて支える。この価値観が男女のらしさを表した。uj, μı, ıʔu でもこの価値観は不動だった。 zφ で人類が多様化してからは、各国ごとの価値観が生まれた。zφ, pʃ, ʔl におけるレスティルでは女は魔法使いとして男の戦士と同等に戦うことができたため、男女平等の考えが強かった。男らしさは女を守ることではなく、ユノを多く持つことであった。女らしさはヴィルを多く持ち、魔法に長けることであった。特に戦時中は男女ともに強くあるべしとされ、ユノやヴィルの多さが男女のらしさを示した。 ɒcn のアルバザードでは人類のヴィードが衰退し、魔法の力が弱くなったことで相対的に戦争は男のものになり、生理や出産のある女は不利として徐々に家の奥に追いやられるようになった。高貴な女性ほど家の奥に閉じ込められ、社交界では飾り物のように扱われ、きらびやかで派手で動きづらいドレスを着せられた。女の役割は家を守り子を産むことで、男に従い、か弱く振る舞うことが女らしいとされた。男の役割は金を稼ぎ、家を栄えさせ、妻や子供を養育することとされ、それが男らしさとされた。貴族階級ほどこの傾向が強く、古来よりの強大な力を持った戦士や魔法使いほどこの傾向が弱かった。この傾向は μɑ でも同様である。 nɑ になると魔法がなくなり、大航海時代と科学の時代が訪れる。女はますます力を失い、家に押し込められるようになった。男尊女卑の傾向が最も強い時代で、男らしさは女を守ること、女らしさは男に従うことを意味した。pʃ でもこの傾向が引き継がれた。 ul になるとフェミニズムが興り、ul 後期から ıl にかけて隆盛し、途中女尊男卑にまでひっくり返った。法律は女に都合の良いほうに解釈され、痴漢冤罪やＤＶ冤罪が跋扈し、電車における女性専用車両のような男性差別が公然と行われるようになった。 一方ミロクは男と女にかくあるべしというスローガンを掲げ、ユティア朝はこれを ls まで尊守しつづけた。敬虔なアルティス教徒のミロクは μɑ や pʃ の時代の価値観への回帰を促し、男は女を守るもので、女は男を立てて従うものであるとした。よって ul〜ls における男女のらしさとはこの価値観を指す。 ・男女区別 ユティア朝は男女差別を悪とし、男女区別を善とした→ hcɒuell ・女らしくない女は守らなくて良い ユティア朝は男は女を守るべきとしたが、ただしその女がきちんと女らしい振る舞いをすれば之但し書きを付けた。女だから無条件で守られることはない。女らしい女だけが女としての待遇を得ることができる。ここが日本との最大の違いである。 アルバザードでは女は男に荷物を持ってもらったり席を譲ってもらったり、様々な点で優遇される。しかしそれはその女が楚々としておしとやかか、可愛らしい振る舞いをする場合のみであり、ガラの悪い女は女とみなされない。 ɒcnɑcɒ である。そのような場合、女は一切優遇されない。 ıl では一時期女性専用車両が導入されたが、男性差別に当たるとして男性のみならず一部の女性たちもがフェミニストを糾弾し、廃止された。 電車内の痴漢行為は女が周りの男に助けを求め、周りの男が痴漢を集団で撃退することで解決される。この自浄作用によって痴漢件数そのものが少ない。アルバザードの女は大声を張り上げたりはしないが、その代わりに周りの男に小声で助けを求める。そして男たちもそれを見捨てない。アルバザードでは女が男を頼り、男が女を守るという構図が出来上がっているため、女性専用車両は不要とされた。 ul〜ıl ではレディースデーが採用されたが、男性のみならず一般女性からも男性差別的だと非難の声が上がり、これも撤廃された。日本女と違い、アルバザードの女は男女差別に厳しく、同時に男女区別を徹底する。 なお、アルバザードでは支払いは割り勘が一般的であるが、恋仲にあれば男が女におごるのが一般的である→ ʃıoı ・男らしくない男は立てなくて良い 男らしくない意気地のない卑怯なこざかしい小者は、男であっても立てる必要がない。とはいえそういった男を表立って馬鹿にするのは女らしい行いではないため、女らしい女たちはそのような男をただ避ける。表立って馬鹿にするような女は女らしくないとされ、優遇対象から外れる。

ɒcnɑızʃc ［名詞］女らしさ ［レベル］3 μɑ;/ Jʔ

ɒcnɑcɒ ［形容詞］女らしくない ［反意語］ucʔɑcɒ、ɒcnɑız ［レベル］3 μɑ;/ Jʔ ［語法］［文化］ ɒc nɑız

ɒcnɑcɒıʃc ［名詞］女らしくなさ ［レベル］3 μɑ;/ Jʔ

ɒcnɑcı ［名詞］執念深い彼女、愛が重い彼女 ［レベル］3 古 :「リディアみたいな女」。11 年の秋、オヴィ・ザナ・クリス・パール・フルミネア・ギル・ミルフ・リディアが談話していたときにフルミネアがリディアを執念深い女だと非難し、それをオヴィが造語したもの。

ɒcnɑɔμ ［経済］女性割引、レディースデー、レディース価格 ［レベル］4 μɑ;/ J1ʔ ［文化］ ɟɒ に始まった文化で、現在まで続いている。男性客が女性を連れて行くと女性の分は割引になるというサービス。女性だけで入店した場合は割り引かれない。女性の費用を男性が負担するようになったのは男尊女卑傾向の強まった ɟɒ からで、このころ女性は男性の所有物として扱われていた。特に上流階級になるほどその傾向が強かった。 ul と ıl では行き過ぎた女尊男卑のせいで男性には割引をしないが女性だけ割引をする１３年現在の日本のような状況になっていた。このころは女性は自分で支払うか、そうでなくば男性におごってもらうという状況で、ただ単に女に都合がいいだけの世の中だった。ただ、育ちの良い子は ɟɒ のシステムを守っていた。 旧革命で ɟɒ のシステムに戻されたが、影響が弱まると現代日本のように戻った。その後革命で ɟɒ のシステムに戻し、現在に至る。

ɒcndcʃ ［医療］婦人科 ［レベル］4 1L

ɒcnbeel ［名詞］女子トイレ ［レベル］2 J1

ɒcnhıʃ ［料理］女体盛り ［レベル］6 J1 ［文化］ アルティア人の考案。μɑ でザナが知って爆笑した。

ɒcnhcɒ ［生物］メス ［レベル］3 J0

ɒcnhcɒelɒ ［生物］女性器 ［レベル］3 J0

ɒcnμı ［親族］女の方が多い女主体の家族 ［レベル］5 1L:ɒelcɑcı ılʃe

ɒcnμenɟ ［言語］女言葉 ［レベル］3 μɑ;/ J1ʔ ［文化］ １３年現在の日本では徐々に女言葉が廃れて男言葉に統合されているが、アルバザードでは ıl でもフェミニズムの台頭により同じような動きが主に下層階級で起こった。革命で男は男言葉、女は女言葉を使うべきという動きが起こり、旧革命の水準に戻った。女言葉は女を差別するものでなく男と区別するものと考えられ、女をより女らしく魅力的にするものと考えられるようになった。現代では女言葉を使わない女は下品で無教養とされる。

ɒcns ［生物］小指 ［名詞］柱→ lec ［レベル］2 1L:ɒcnsc（女の指）小さいことから lcczsc:

ɒcnlınφıʔn ［政治］女権 ［レベル］4 J0

ɒcnlınφıʔn ［政治］フェミニズム ［レベル］4 J0 ［文化］ ɒcnɑız, hcɒuell ヴェレイで台頭し、行き過ぎた男女平等を推進し、社会を女尊男卑に陥れた。ミロクの命を受けたアルソンにより公開処刑され、革命後は滅んだ。その後ミロクは男女の違いを認めた上で男女区別をし、男女差別を撤廃した。 レイユでフェミニズムというと、ミロクが女に認めた権利を侵害する行為に対する抵抗を意味する。例えば女は一般に買い物で荷物を持つ必要がなく、奴隷ですら重労働に就かされないことが多い。これを破る男に対し、フェミニズムが動く。また、レイプや痴漢などに対しても抵抗する。 ＜アトラスの女性観＞ 魔導師は大半が女性である。女性のほうが魔力が高いためである。 地球の人類はメスがオスに依存し、食糧を得てきた。 そのせいでメスはエサを取ってくる能力の高いオスに群がるようになった。そのほうが生き残れるからである。 一方、アトラスでは 1ʔ00 万年間の間、男性はユノや剣技を、女性は魔法を使っていた。 女性は完全に戦闘要員で、男性との間に上下関係はなかった。 この世界で女性が魔力に特化していた理由は出産である。 特にユーマの一族についてはここに生理が加わる。 生理中の女性は剣士のように激しい立ち回りをするのが苦手である。 そこで体をあまり動かさずに戦えるよう、魔法を進化させた。 極端な話、魔導師というのは椅子に座ったままでも戦うことができる。 これは子育てや出産や生理のあるメスにとっては好都合だった。 その合理性により、神々を含めて女性は魔法に特化していた。 神々から農耕を授かるまでは人類は狩猟採取生活をしていた。 魔法があっても果実を生やせるわけではないので、メスが子供を産む以上、オスが食料を取ってくるという構図は地球と変わらなかった。 しかしアトラスの女性は筋力がなくても森に入って動物を魔法でしとめ、風の魔法で浮かせながら家に持って帰ることができたため、自活できた。 そのため女性が男性を必要とするのは主に子作りにおいてであった。 女性は自分で生活していく力があったため、結婚に依存する必要はなかった。 また、生活力のある男性に依存することもなかった。 それゆえ、純粋に自分の好みで男性を選ぶことができた。だいたい地球でも学生を見れば分かるが、金だの生活だのが絡まない年代の恋愛というのは、社会的地位のある男より運動神経の良い男やイケメンがモテるものである。 アトラスの場合、女性は早くから地位でなく男性自身に魅力を感じていた。自分で稼げる以上、男性に求めるのは美しく強い遺伝子である。 自分の子供には美しい容姿や強い運動能力がほしいため、要領よくエサを持ってくるとか商売が巧いといったことはあまり魅力にならなかった。 従って、アトラスでは男性自身の能力や容姿や性格などがモテる要素になり、そういった遺伝子が残っていった。 当然そういう男性は少ないので、女性が群がる。群がるということは女性も選ばれようとして努力をする。 その結果、男性に都合のいい振る舞いをする女が選ばれるようになり、その遺伝子が残っていく。 この世界の女性は自立的で強いが、男性は女性を囲って守ることで他の男性に対して優越感を抱くので、やや弱い女性を好んだ。 女性はその気持ちを利用して、わざとしおらしく振舞うようになり、そういうことができる女性が生き残った。 この結果、現在のアルバザードにまで繋がる「芯は強いが、表向きには男性を立てておしとやか」という価値観ができた。 女性は男性に守られることで「俺は選ばれた価値のあるメス」と自覚し、男性は女性を守ることで「俺は有能なオス」と自覚でき、共生が成り立っていた。 セルメルになると魔力の弱まりとともに女性の地位は低められ、籠の鳥のように扱われた。 μɑ では魔力が戻ったため、女性の地位は元に戻った。 ナディア〜アルティルでは魔法の衰退とともに徐々に地球と同じように女性が貶められた。 ヴェレイでは現在の地球と同じようにフェミニズムが起こり、女尊男卑にまで逆転していった。 ミロク革命で男女区別を徹底させ、男女平等が実現された。

ɒcnlınφın ［政治］フェミニスト、フェミ ［レベル］4 J0

ɒcnlcʃuelʃ ［言語］女性敬体 ［レベル］4 J1 ［文化］ J1 にセレンが dcʔlɔ が ɥəəl から分離したのを契機にリディアが設けたもの。

ɒcnlcɟın ［ユマナ］女子小学生、ＪＳ ［レベル］4 Jʔ

ɒcnleʃ ［魔法］雌晩（しこう）、ミンレット ［レベル］6 J0: 女性の晩基 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɒcnleʃpecn ［魔法］雌晩線 ［レベル］6 J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɒcnı ［代詞］［ɒʃn］ʃc ［レベル］2 JJ:ʔɒccμ/μcɑcı

ɒcnıʃ ［形容詞］儚い、すぐへたる、すぐダメになる、寿命の短い、命短い、か弱い、もろい、かよわい、脆い、持ちが悪い ［反意語］zɔɒeʃ ［レベル］3 J1:ɒccnı/ʃe ［用例］ ʃeje le ləni ɔʔ lıɑı eʃ laʃ ɒcnıʃ. 商品に付いている電池はいつも寿命が短い。

ɒcnıʃə ［代詞］［ɒʃn］ʃccl ［レベル］2 JJ:ʔɒccμ/μcɑcı

ɒcnıʔlılɒɔ ［地名］ミナカルモ ［レベル］4 ɑ:elʃ;ɒccnı/ʔlılɒɔ 古 :μcɑcı:「花畑」 ［文化］ エルトとサールが逢瀬をした花畑。セルヴァートにある。セルハノイの北、セルアの南。ラヴァス後はアルフィがある。→ ıμɑc この緯度にもかかわらず、あらゆる花が咲き乱れる。とはいえ、神話で具体的に登場するのは紫苑しかない。ラフレシアや薄気味悪い原色の花はないと思うので、アルバザード辺りに咲くあらゆる背の小さな花だと思われる。例えばかすみそうのような。 ［成句］ ɒınj ɥən ɒcnıʔlılɒɔ 百花繚乱

ɒcnıjje ［代詞］［ɒʃn］ʃccj ［レベル］2 JJ:ʔɒccμ/μcɑcı

ɒcnıjjeʃə ［代詞］［ɒʃn］ʃcclej ［レベル］2 JJ:ʔɒccμ/μcɑcı

ɒcnıjı ［言語］女性名詞 ［レベル］4 J0 ［語法］［文化］ ucʔlıjı

ɒcnın ［植物］ダイウイキョウ、スターアニス ［レベル］5 1ʔ: 制 :ɒcnı

ɒcnın(J) nın J1

ɒcnıɒc,ılʃ lceμ

ɒcnıɒcj ［電算］正規表現 ［アクセント］pɛ̀nıɒcj ［レベル］6 ul;ɒcnıɒc/ɟɔ「メタにする」。文字列の集合を一つの文字列で表現するという手法だが、これがメタ的に映ったため、このように名付けられた。 Jʔ

ɒcnıɒɔ,ılʃ lcıμ ɒcnıɒc.ʔ

ɒcnıμəə ［地名］ミナルドゥ J0:ɒcnı/ıμɑə ［文化］ jeμʔlıʃı

ɒcnıl ［政治］民主、民主主義、民主制 ［レベル］4 1L

ɒcnılueljɟ ［政治］民主政治 ［レベル］4 1L

ɒcnılcj ıbenʃcj ［人名］ミナリス＝アベンティス ［政治］民主主義者 ;ɒccnı/lcj「小さな花」 ［レベル］4 古 ［文化］ (peldılʃ 1A0 年代 8 → Jʔ0) 民主主義勢力ミナレットの初代首領。メル暦 J01 年ごろ、アルバザードで民主主義を提唱し、レジスタンス組織ミナレットを組織した。J0ʔ 年、カンシオン＝アマンゼとアジュネ＝アマンゼの召喚省登用を選挙で選出されていないということを理由に妨害。これがきっかけとなりカンシオンとアジュネは娘シオン＝アマンゼと共にアルティス教を組織することになる。ミナリスはこれを危険分子と見なし弾圧。Jʔ0 年、全国労働者のストライキを決行することで国に選挙制度を認めさせ、ミナレット党は第一党となる。同時に興味を抱かなかった召喚省はアルティス教が支配することになる。アルバザードの選挙制度開始をきっかけに全世界に民主主義が伝播し、Jʔ0 年までにはイグレスタ共産圏をのぞくアトラス全土に広まった。Jʔ0 年、アルティス教の勢力拡大に危惧を抱いたミナリスは宗教禁止を名目に開始。召喚省長官アジュネを殺害し、さらにアルカンスへ逃亡した始祖シオン＝アマンゼとその娘マルテ＝アマンゼに軍勢を差し向けるが、彼らは強力な魔術師であったため軍は壊滅。よって自身も強力な魔術師であるミナリスが始祖シオンと直接戦いを挑み、相打ちとなる。死後、ミナレットの首領の座は息子ファウスに引き継がれた。

D

ɒcnɪlcɑnɔʃ ［再帰動名詞］女性の社会進出 ［レベル］6 μɑ;/ ʃθ ［文化］ 古代、女性は魔導師として有力だったために、カルディアでは総じて男女平等がなされていた。魔力の減少とともに ɟɒ ごろから徐々に女性の地位が低くなり、女は家にいて男が外で働くという構図が生まれてきた。 獅法代になり、魔法の力がなくなると、女性は完全に昔の地球同様地位を貶められた。その後 ul ごろにフェミニズムが隆盛し、ls の革命前で最高潮となった。ls ではしばしば行き過ぎたフェミニズムにより女尊男卑が起こるほどであった。 女性の社会進出は ul から徐々に増え、ɪl と ls の革命前で最高潮に達した。 セレンは革命で女性の社会進出を制限した。女性が社会進出することで男性の就職先が減り、過当競争から収入も減少し、結果的に世帯年収の減少も招いた。更に問題なのは女性が社会進出することで婚期が遅れ、婚姻率が下がり、少子化を招いたことである。また、女性が一人で働いて生きていけるということは離婚率の上昇にも繋がり、少子化に拍車をかけた。この結果、革命前のアルバザードは少子高齢化社会であり、社会福祉などに大きな亀裂が生じていた。 セレンは少子高齢化を食い止めるため、婚姻率と出生率の増加を図った。それにはフェミニストらが推進する女性の社会進出が障害であった。セレンは女性の社会進出を制限し、マスメディアを利用して女性は結婚して子を産み育て家を守るのが美徳で洗練された生き方で幸福な人生だと洗脳した。 その一方で、女医など特殊な職業において敏腕を発揮する有能な女性については革命前よりもむしろ積極的に社会進出させた。つまり有能な女性にはどんどん社会に出てもらって、男社会が牛耳っているような業界（例えば日本でいう医師や政治家など）にどんどんメスを入れるようにしたわけである。反面、凡庸な一般女性には昭和の日本と同じくどんどん２５歳くらいまでに結婚してもらい、子供を産んでもらうことにした。 ２０１３年現在の日本では晩婚化や少子化が深刻な問題である。女性は社会進出したとはいえ、その程度は中途半端であり、医師や弁護士や政治家といったいわゆる上流階級の職業では圧倒的に男性比が高く、せいぜい中小企業でようやっと女性が増えてきたという程度である。本当に有能な女性の力を必要とする上流階級は未だに男社会で、それ以外のわりとどうでもいいふつうな階級までしか進出していない。しかしその中産階級の人数が多いため、結果的にロクに社会進出できない上に晩婚化や少子化まで真似ているという、ルーズルーズな状態になっている。 革命前のアルバザードも日本と同じで、上流階級では特に既得権益者の抵抗が強く、女性が社会進出するのが難しい状態にあった。セレンはそこにメスを入れた。有能な女性にはどんどん上に行ってもらい、男社会を打ち破ってもらうことにした。その一方、特に有能というわけでもない中産階級の女性たちには家庭的になってもらい、少子化を食い止めるよう働きかけた。

ɒcnɪleʃ ［政治］ミナレット ［レベル］4 古 ［文化］ アルバザードにおける民主主義政党。メル暦 ʃ01 年、ミナリスという女性が提唱した民主主義を実現するために作られたレジスタンス組織としてつくられた。ʃ0 年ごろ立憲君主制下の選挙制度を認めさせ、各国に民主主義を伝えた。しかし規模の拡大のため内部対立が生じ、ɪlɒcnɪ, ɪɒcnɪl, ɪlɪcu などの多数の政党が分離独立した。本体は leuɪlen に党名を変更。アトラスの宗教禁止の風習に従い、ʃθʔ 年ごろより活動を開始したアルティス教に度々弾圧を加えた。ʃʔ0 年、ɒcnɪlcɟ はアルティス教の始祖シオン＝アマンゼと一騎打ちの末相打ちとなる。そしてミナリスの息子ファウスが党首となる。ʃʕ0 年、アデュの大虐殺を決行。多数のアルティス教徒が獄死する。ʃʃ0 年、ミナリスの息子ファウスとシオンの娘マルテが一騎打ちの末相打ち。ファウスの息子アルファウスが後を継ぎ、アルマスト派の首領アフレインを殺害。その後アルティス教との力関係が拮抗したため、ʃʃʔ 年アルティス教徒への虐殺停止要求を受諾。同時に選挙によりアルティス教に議席を与える。ʔ00 年、アルティス教と停戦。同年、アルファウスがアルバ 19 世を廃位し王政廃止して副王に就任する。ʔ10 年、政治闘争によりアルファウスは、マルテとアフレインの子ユレットと、アメリと戦い相討ちとなり死亡。ʔʃ0 年、著しい政治腐敗によりユレットとアメリの息子ミロク＝ユティア率いるアルティス教の政党の一派イルミロク党に座を奪われる。同政党が選挙制度を廃止し、独裁政権を作ったため、ミレナットは滅亡した。

ɒcnɑɑ ［言語］無相 ［レベル］4 ʃ0 ［語法］ 相のない相。行為無相と状態無相がある。

ɒcne ［生物］［植物］花粉 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒcnɪhɔe から ［用例］ ɒcne ʃ'ɪʃʃe ɪʃ ɒcɪɒ ʅɪ sɪn e ʃcɪl. 春の花粉が街角に舞った。

ɒcneʃ ［哲学］実体 ［電算］実体（エクセルなどの） ［反意語］elɒeʃ ［レベル］4 ʃ0:ɒɪcn/ʃe

ɒcneμɪʅɔ ［医療］花粉症 ［レベル］3 1ʃ ［用例］ ɪn ʃcʃ ɒcneμɪʅɔ uɪμ ɪʃʃe. 春になると花粉アレルギーになる。 ʃɔʃɪl dɔʃɪ jɔ aeʃ ɔn ɒcneμɪʅɔ ɪnʃ. どの薬も自分の花粉症には効果がない。

ɒcu 時間、一時間、６０分 ［レベル］2 1ʃ ［文化］ (belʃɔɪ ɱ) メルティアがアトラスにおける１日の長さを２４時間に分けた。アルミヴァの１２神が昼夜で２周するように分割したためである。ここから１２進法の考えが生まれ、分と秒についてはより細かく刻むため、１２との公倍数である６０に定めた。また、円の一周をさらに細かい公倍数である３６０°に定めた。 ［用例］ cɒ oel ɒcu uɔɪ 何時頃、何時ごろ ɒcu 1ʃ aec ʔθ scn ʔʕ ʃ'eμɪɒ 午前 1ʃ 時 ʔθ 分 ʔʕ 秒

ɒcuɪn ［ユマナ］幼稚園、保育園 ［レベル］3 1ʔ: 制

ɒcuɪnɪn ［ユマナ］幼稚園生、園児 ［レベル］3 ʃ0

ɒcuscen ［名詞］短針、時針。時計の。 ［レベル］2 1ʃ

ɒcuʃ ［生物］膣 ［レベル］3 μɑ; ↓ 1ʔ: 制 : 古 :ɒcuɪlɔɔ（子供の管）

ɒcuʃlə̀ɪ ［医療］クスコ、膣鏡、クスコ式膣鏡 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ ［文化］ 最古のものは zɸ であり、現代と同じようなくちばしの形をしていた。 ［用例］ lɪʃ ɒcuʃlə̀ɪ ɪ ɒcuʃ クスコを膣に挿入する

ɒculɑɪcz ［医療］膣炎 ［レベル］5 1ʃ

ɒculɒɪneeμ ［生物］［医療］膣分泌液、膣分泌物 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

ɒculɪnɑɟ ［法律］膣刑 1ʃ ［文化］ 女子の極刑。膣に杭を刺し、３０分おきに振り子付きのハンマーで杭を突く。平均５～７回で死に至る。浮気の回数に応じてハンマーの力を弱める。回数や人数が多い場合、ハンマーは弱くなるため、致命傷を負うまでに５回以上かかる。結果、死ぬまでの平均回数が伸びる。ショック死する例も多く、その場合は比較的楽に死ねる。不名誉な死に方という点で強姦刑に匹敵。 夫殺しと不貞が重なったときに適応。

ɒculɸ ［経済］時給 ［レベル］4 ʃ0 ［用例］ ɒellɪb le ɑcʃ ɒculɸ ɑɪlʃc 時給が高いバイト

ɒcuɪ ［親族］娘 ［類義語］lɪnʃcɪ, lɪnɔn ［反意語］nɔc ［レベル］2 古 : 子供 ［文化］ nɔc

ɒcuɪ,ɑ yəlcɪn, yəlc jɪɪl;ɒc/uc「神の力」。子が欲しいと望んだ以上、ɑ の時点でできていなければおかしい語。

ɒcuɪʃ ［交通］大通り、幹線道路、アルミヴァ通り ［レベル］4 1ʃ:ɪμɒcuɪ/ɑɔnʃ（アルミヴァ通りのような道） ::le ʅɪn ［文化］ アルミヴァ通りのような大きな道。日本にはアルミヴァ通りほどの大きさのものはないが、日本でいうなら例えば国道１号や京都１０条、岡山ブルーラインや国道２号、名古屋駅周辺の４車線道路などを指す。アルナはカルテを中心とした円形都市である。カルテを中心としてそこから十二本の道が出ている。カルテの同心円上には建物が並び、十二本の道路とほぼ直角に接している。上空から見るとフロッピーディスクやレコードのような模様を描いている。アルナは住民が住む住宅街側と、企業や学校などがある側に分かれる。上記の通り、これらは十二本の道と横に接している。住宅街は更に一戸建てと集合住宅に分かれる。一戸建ては一戸建同士で集まる。集合住宅もそうである。

ɒcuɪʅɔcɪn ［卑語］娘ファッカー、クソ野郎 ［レベル］5 1ʃ: 古の ɒcuɪʅɔc（子供喰い）と同じなので古でもいいかもしれない ［語法］ 通常 ɒcuɪʅɔc。マザーファッカーに相当する悪口。

ɒcuɪɟ ［天文］ɒcμɟeμ ［組み数字］8 / 8 ［レベル］4 ɪjɑ;ɒcuɪ "ɑɪcɒcuɪ"「火の子」。ミニシリウスという意味。 ʃ1

ɒcuɪl ［単位］ダース ［レベル］3 ʃ1:ɪμɒcuɪ/ 古 dɪlɪlɪ

ɒcuɪcn ［アイテム］ミヴァイン ［レベル］5 古 :ɒcuɪcn。小説版アンクノットではミバイオという名。ミバイオはミヴァインに似ているが関係なく、毒を持つ剣であることから、ＦＦの毒の魔法バイオを取ったもの。 ［文化］ セレンが物語の中盤で使用していた剣。切ると敵に毒を与える。

ɒcuɪcnlccɑɪ ［天文］デネブカイトス、ディフダ 1ʃ:μcɑcɪ/ɟeμen/ɒel ［文化］ セレンがヴェミを封印した際、ヴェミの目をミヴァインで貫き、デネブカイトスにミヴァインごと突き刺した。

ɒcuɔʃ ［名詞］殿方 ［反意語］ɒcɒcn ［レベル］3 ʃ1

ɒcue ［動物］ひな、雛 ［動物］鶏のひな、雛、ヒヨコ、ひよこ← ɑeɒɒcue ［名詞］初心者、ビギナー、卵、たまご、駆け出し、見習い、みならい ［俗語］小さいうちだけ可愛い白人種の子供。混血種の多いアルバザード人からすると純粋な白人種は成長が早く彫が深く、子供のうちは大人びて綺麗で可愛いが、すぐに老けてしまうようにみえることから。差別語。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɒc uʃɔ（子供の鳥） ［擬声］ dcμɔ（ぴよ）

ɒcueʃ ［形容詞］自然な、非作為的な ［類義語］lɪɑl ［反意語］uəəl ［レベル］3 ʃ1:ɒc/ 古 uə/ʃe ［語法］ lɪɑl は天然という意味。ɒcueʃ は作為的でないという意味。

ɒcueʃlɜɪ ［魔法］自然回復 ［レベル］5 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcuə

ɒcueʃyəɔɪjɪ ［言語］自然動名詞 ［レベル］4 ʃ1 ［文化］ cuɪ

ɒcueʃyəɔɪyəɪ ［言語］自然分詞 ［レベル］4 ʃ1 ［文化］ cuɪ

ɒcueyə ［言語］孤立語、孤立語的 ［レベル］6 1ʃ

ɒcɑ ［名詞］無意識 ［動詞］yəl を気にしない、気にしない、意識しない ［副詞］無意識に、自然と、ふと ［文頭純詞］思わず ［反意語］nɪd ［レベル］2 @ 1ʃ

ɒcɑnɪɒ ［生物］自律神経 ［レベル］4 1ʃ:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ: 自分で制御できない神経 ［用例］ ɒcɑnɪɒ ej ɪucl. 自律神経が参っている。

ɒcɑnɪɒɪnueμ ［医療］自律神経失調症 ［レベル］5 ʃ1

ɒcɑbenɪ ［名詞］おもらし、失禁。ɒcɑbez と比較。 ［レベル］2 1ʃ

ɒcɑbez ［医療］失禁 ［レベル］3 1ʃ

ɒcɑl ［動詞］yəl といちゃつく、いちゃつく、イチャつく、イチャイチャする、べたべたする、ちちくりあう ［レベル］3 1ʃ: 古 :ɒclɑɔ（ミルフのようにする） ［用例］ lɔʃ ʃɔʃɪl e lɑcɟ ɪnʃ, len ʃə eʃ ncl ɪlɪɪ ʅel ɪn ɒcɑl hɪʃcɪ lccɪl. hɔɔɒcʃc e ɒcn ɑcɪnɪ ɪlɪɪ eʃ ɱ ɒcμɔʅ ɑɪ. 人生の中で好きな人とイチャついている時間がやはり一番幸せだった。現実の女の柔らかさに勝るものはない (jeμen ɪμbɪzɪμɑ)

ɒcɑccɒɪ ［感動詞］お久しぶりでございます ［レベル］3 古

ɒcɑɔu ［医療］ジスキネジー、不随意運動 ［レベル］6 1ʃ

ɒcɒ ［動詞］yəl を ɪ まで下げる、下げる、さげる、下がる、下にやる、降りる、おりる、降ろす、おろす、沈下する、振り下ろす、降る ［自然動名詞］下降 ［地学］沈下 ［生物］委縮、萎える。勃起の反対。 ［経済］反落→ bɪlʃɒcɒ ［類義語］ɒeʃ ［反意語］neʅ ［レベル］2 1ʃ: 恣意 ::ɒɔ̀:yə̀ə̀ə,ɪlʃ, hɔʃɪlə,ɪlʃ（雨が降るの降る） ［語法］ ɒeʃ

ɒcɒʃeeze ［気象］風、おろし→ oɪlʃeeze ［レベル］6 μɑ;/ ʃθ

ɒcɒɑɪl ［気象］日暮れ、夕暮れ、日没 1ʃ ［用例］ c neʅɑɪl ɪ ɒcɒɑɪl 夜明けから日没まで ɪn ɪlʃɪʃ hɪdn cɒ ɒcɒɑɪl. 夕暮れ時に友達と会った。

ɒcɒɪʃ ［美容］ノーパート ʃ1

ɒcɒɪɸ ［言語］無声、無声音 ［レベル］6 1ʃ

ɒcɒɪɸen ［音楽］エアーリード、無簧 ʃ1

ɒcɒɪlɑɪl ［天文］日没帯食 ʃ1

ɒcɒɪlel ［経済］下げ相場 ʃʃ

ɒcɒɪeɒɪμɟ ［医療］乳糖不耐症 ［レベル］5 1ʃ: もちろんラクターゼがゼロではない。

ɒcɒc,ɪlʃ leɒc

ɒcɒcʅɔ ［名詞］ホッカイロ、カイロ、懐炉 ［レベル］3 μʃ;ɒcɒc/ʅɔ ʃʃ ［文化］ 南部のアルティア人が発明した。なぜエルトア人や北部アルティア人でなかったのかというと、中途半端に暖かいところのほうが家屋が冬仕様でなく冬寒いため。アルバザードのアルティア人にも広まり、現在では国中に普及している。腹、腰、手首、足首、足の裏、肩甲骨辺りによく貼る。貼るタイプが一般的だが、持つ、塗るなどもある。

ɒcɒcʅəɔɒ ［言語］ザマス口調、ざます口調 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［文化］ やたら名詞や動詞に ɒc を節操なく付ける人間の口調。上流階級を揶揄したものであるが、アニメやマンガの表現として定着しているだけで、実際の上流階級の人間でそのような喋り方をする者はほとんどいない。 小説などにおいては ɒcɒcʅəɔɒ を使うキャラは大抵嫌味な上流階級の人間で、ɒcɒ cbeeɒɪ（ザマスババア）などと卑下されることがある。

ɒcɒcn ［名詞］ご婦人 ［反意語］ɒcucʅ ［レベル］3 ʃ1

ɒcɒcbeeɒɪ ［言語］ザマスババア ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ ［文化］ ɒcɒcʅəɔɒ

ɒcɒcɪn ［遊女］［代詞］leɪn ［レベル］4 ʃʔ

ɒcɒccɪ ［遊女］［代詞］leɪn ［レベル］4 ʃʔ

ɒcɒɔ ［形容詞］不安定な ［経済］ボラリティ ［反意語］lɪɒɔɒ ［レベル］3 ʃ1

ɒcɒɔʅɔdleʃ ［音楽］ディミニッシュコード ［レベル］6 ʃ1

ɒcɒɔzɪ ʅəlnɔμɟ ［人名］ミモザ＝クルノース ʃ1 ［文化］ ʅɪɔlcʃ ʅəlnɔμɟ ファミイの母親。当時の当主。

ɒcɑɥəjjɔə ［丁寧］あなた様、あなたさま、ご主人様 ［丁寧］［形容詞］～様。前置。 ［レベル］2 ʃ1

ɒcɑɪ ［形容詞］聖なる ［反意語］uenʃ ［レベル］2 ɑ;e 赤 ɒcɑɪ:ɒcɑɪ:ɒcɑɪ ［語法］ 聖とは複合的な概念で、「生、健康、善、神、ポジティブな感情、自愛、平安、愛、純潔、信心深い、欲望に乱されない悟り、羨望、人の幸福を祝う」などの比率が高いものをいう。 邪は逆に「死、病気、悪、悪魔、ネガティブな感情、迫害、不安、恨み、不浄、不敬虔、欲深い、妬み、人の不幸を喜ぶ」などの比率が高いものをいう。 神の性質を持ったということについては ɒcɑɪ と別個に扱われることもあり、特に ɪlɒcɑɪ という。というのも、神にもろくでもないものがおり、悪魔にも善なるものがいるためである。逆に悪魔性の高いものは ɪluenʃ という。つまり ɪlɒcɑɪ は善とは関係なく単にそれが神の性質を持ったという意味であり、ɪluenʃ は単に悪魔性を持ったというだけの意味である。

ɒcɑɪn ［悪魔］ミダン ［生物］天枢 ［レベル］4 ɒelʃcɪ 0:ɒcɑɪn;ɒcɑɪ/n μcɑcɪ: 古 : デームスに指小辞を付けるのは不適切としてネーミングセンスを非難されたリディアがその場で泣き出してしまい、自分の評価を下げたことで問題となった。 ［文化］ 聖の魔法を司る。ソームとは同格だがグループが違い、ヴァルテの下。悪魔ヴェンシートと対立する立場にあるが、友好的。ヴァルテの部下。白人系美少女の姿。聖を司る。明るい。ヴァルテを慕う。ヴェンシートと仲が良い。 ミダンは鳥の翼のような白い光の翼で飛び去った。彼女の翼は白く美しい。これは白鳥の翼のようである。彼女が通る道で、白い羽が多く舞い、白くぼやけた線が残る。 準惑星セレス（ケレス）を司る。

ɒcɑɪnɔɔɪ ［生物］［医療］［魔法］正気、せいき ［反意語］uenʅnɔɔɪ jzl;/ ʃθ

ɒcɑɪɑμec ［アイテム］聖剣、聖なる剣 ［レベル］4 1ʔ: 制

ɒcɑɪcɸ ［経済］不課税 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ ［語法］ ɑɪcɸjeɑ

ɒcɑcɟ ［魔物］ミディス（聖竜）: 第六十九天 : 聖の衛天 ［レベル］5 1ʃ:μcɑcɪ/ɟeμen/ɒel:ɒcɑɪ/ ɑμeʃcɟ ［文化］ 聖属性の飛竜。飛竜の中で一番小型。馬くらいしかない。素早さは風竜に劣るが、風竜は長距離を走れないため、機動力においては竜族最強を誇る。ヒュート国のブリーダーの間では雷竜と交配が進み、小型で早く知能の高い竜が作られた。コーマはこの混血種にさかのぼる。

ɒcɑcjhɪʅʃ ［天文］エニフ 1ʃ:μcɑcɪ/ɟeμen/ɒel ［文化］ 封印されて暇になったミディスが、テーティスを呼び、どちらが早いか競争しようじゃないかと言いだした。マルカブの丘まで競争しようと言って走ったところ、テーティスに敗れた。では今度はあのホームムの谷までいこうと言ったが、これも負けた。悔しいミディスは距離を伸ばし、あのエニフの岬までいこうといったら、ようやく勝つことができた。

ɒcɑcjɔɪlɪ ［天文］マルカブ 1ʃ:μcɑcɪ/ɟeμen/ɒel ［文化］ ɒcɑcjhɪʅʃ

ɒcɑcjɒcl ［天文］ホーマム 1ʃ:μcɑcɪ/ɟeμen/ɒel ［文化］ ɒcɑcjhɪʅʃ

ɒcɑcl ［建築］バリアフリー ［レベル］4 uʃ;ɒc/ɑɔʅɔn.lcʅ ʃʔ

ɒcɑccʃ ［地名］ミディート ［レベル］4 古（ʅɪʅɔ では？） ［文化］ メテの使徒オキニスの支配地。

ɒcɑccʃ(J) ［アトラスの国家］ミディート ［レベル］3 古？ʅɪʅɔ？ ［文化］ 面積 : J9L?Λ51.0M1ʔJʔ ʅɒ J

ɒcɑɔl ［地学］滑石 1ʃ:hɔɔɒc/ɑɔl

ɒcɑəɑ ［物理］無重量 1ʃ

ɒcɸ ［植物］穂 ［レベル］4 古

ɒcɸl ［植物］タデ、たで、蓼 ［レベル］4 高 :ɒcɸ（実が穂のように見える） ［文化］ ɒcɸlʃμen

ɒcɸlʃμen ［娯楽］蓼の刑 ʃ0:μcɑcɪ ［文化］ μɑ でテオロンがやっていた遊び。カードゲームなどで、負けた人が蓼を食べさせられる。

ɒcɸɪɹl ［化学］シュウ酸、蓚酸 ［レベル］6 1ʃ:μcɑcɪ/ɟeμen。古アルカでは特に名前のない行為だった。 ［文化］ μɑ で ɒcɸlʃμen をしていたテオロンを見て、リュウは「なぜ蓼は罰ゲームになるような味なのだろう」と考え、分析したところ、シュウ酸を見つけた。

ɒcɸɪ ［植物］カリフラワー ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒcnɒɸejc

ɒcɸɪμʃ ［形容詞］無料、タダの、無料の、フリーの ［反意語］lɪɸɪμʃ ［レベル］3 1ʃ:clɒəj:μcɑcɪ

ɒcɸɪμʃʃcnɔʃ ［名詞］無料番組 ［レベル］4 1ʃ:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɒcɸɪμʃdjel ［名詞］フリーマガジン、フリマガ ［レベル］5 ɪl;/ ʃθ

ɒcɸɪμʃlecɹʃ ［名詞］フリーペーパー、フリペ ［レベル］5 ɪl;/ ʃθ

D

ɒcɸɔlı ［料理］ノンカロリー ［レベル］3 ʃl

ɒcdɔſc ［形容詞］符号なし ul;/ lⓂ

ɒcdɔſcdılef ［電算］符号なし数値 ul;/ lⓂ

ɒcdenſınſ ［丁寧］denſınſ ［レベル］3 ʃl

ɒcb ［動詞］ɥəl にこだわらない、こだわらない、気にしない、構わない、かまわない ［反意語］nıu ［レベル］3 @1L ［成句］ın ɒcb ſɔſıl. どうなってもいい。どうでもいい。なんでもいい。

ɒcbı ［俗語］女のクソガキ、クソガキ ［レベル］2 古 :ɒcuı/ 卑音 b

ɒchılcl ［人名］ミハリル l⓪ ［文化］ (ɥəəɒı ⓂL0ʔ:ᴾⓂL1(ᴾ10L:ᴾⓂL1)) メルテナ後期のレスティル王。

ɒchcnʅ ［医療］無汗症 ［レベル］6 1L

ɒchcɒ ［生物］無性、無性体、無生物 ［レベル］4 lʔ ［語法］ lənc は生物でないという意味。ɒchcɒ は性別がないという意味。

ɒcɥə ［動詞］ɥəl を ıl に変える、変える ［普通動名詞］変化、変態 ［数学］変数、代数、元（げん）。プログラム上の変数は ʅɔəel ［反意語］ʅıl ［レベル］2 ɑ;e 古 ɒcɥə:ɒcɥə:ɒcɥə:ɒcle,ılſ ［語法］ 複合語の場合、～を変えるでなく「～になる」、「～化」の意味になるので注意。変化の複合語においてはベンゼン化とか気化のように、「何を変えるか」でなく「何に変わるか」が重要であるため、「～を変える」の意味は持たない。 副詞の場合、前はそうしてなかったが、今は変化してそうなったという意味。 ［成句］ ɒcɥə lcɥ 100 jel ıuenel. 変化は最低百日を要する。何事も結果を焦ることなく最低百日は続けなさいという意味 (jeɥen ıɥbızıɥɑ) ［用例］ ɒcɥə ncɒ ıl cɒel 色を黄色に変える ın lcɥ ɒcɥə. 変化が必要だ。

ɒcɥə(J) ［生物］小さな丸めた手、拳 ［類義語］bıcɸ ［レベル］3 jɒ;ɒcɥə,ılſ.heɒ JJ

ɒcɥə,ılſ bıcɸ

ɒcɥəlı ［名詞］転換点、ターニングポイント、変化点 ［レベル］4 1L ［用例］ ſə eɒıſ ɒcɥəlı e lɑcʃ ınſ. それが私の人生の転換点になった。

ɒcɥəjın ［数学］方程式 ［レベル］4 1L ［語法］ 変数を含む等式のこと。 ［用例］ ſıɒcɥəʅɔhıɑɒcɥəjın 二元一次方程式

ɒcɥəjınɑclſ ［数学］解→ ɑclſ ［レベル］4 1L

ɒcɥəjınɑel ［数学］方程式論 1L

ɒcɥəjıɑʅıɒ ［生物］変温動物 ［レベル］4 1L

ɒcɥənı ［形容詞］革新的な ［レベル］4 1L ［語法］ 革命を起こすような強い変化を望む場合は cznı。

ɒcɥəɑɔl ［地学］変成岩 1L

ɒcɥəɸıɥſ ［経済］変動制、変動額 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ

ɒcɥəheſ ［娯楽］ミユの尻尾 ［レベル］6 Jl:ɒcɥə は ɥcɑcı のこと ［文化］『キャッツアイ』に相当するアニメ。

ɒcɥəlɔſʃ ［電算］シフトキー ［レベル］3 l⓪

ɒcɥəıll ［数学］変数。プログラム上の変数は ʅɔəel。 ［レベル］4 1L

ɒcɥ ［法副詞］～してください。前置。 ［類義語］jınſ、ɒɥən ［類音］ɒc ［レベル］1 1L: 古 : 丁寧の ɒc に命令の ɥe が付いたもの。ɒc ɥe lınſe(返事してください)のように使っていた。 :::jınſ,hɥ ［語法］ ɥe 前置すること。ɒcɥ を省略した言い方より丁寧。 ［用例］ ɒcɥ ılſ お書きください。

ɒcɥ(J) ［言語］ɒ の文字 ［レベル］1 1Ⓜ: 制 : 論理 ［語法］ 第８文字目の幻字。

ɒcɥ(?) ɒc/ɔɥ 1L

ɒcɥ(Ⓜ) ［人名］クミールの略称 ［組み数字］２８/２８ ［レベル］1 制

ɒcɥſ ［形容詞］［ポジティブ］貞操の固い、身持ちの固い、おかたい ［反意語］ılɒcɥſ ［レベル］4 1L:lc ɔn:lɒccɥſeeze（クミール風な） ［語法］ アルバザード人は貞操をよしとするので、貞操が固いはポジティブになる。ネガティブな意味で「お堅い」を特に示す語はない。逆に反意語になると必ずネガティブになる。

ɒcɥl ［人名］ミルシュ ［組み数字］6/6 ［レベル］3 1L: 古 :ıɥlcu: 神の声 ［文化］ ヴァノンの６番目。アルテとの交信を担当。

ɒcɥllcl ［化学］イリジウム 1L

ɒcɥj ［動詞］ɥəl（議題など）を論議する、論議する、論戦する、討論する、討議する、論争する、議論する ［論理］議論、論議、討議、討論、論戦、舌戦 ［レベル］4 1Ⓜ: 制 :ɒccɥ ［文化］ ſıl アルバザード人にとって論議は非常に重要な概念であると同時に、その様式は地球のどの国にも似ない特殊なものであるため、理解は極めて難しい。 まず、彼らは議論することを好む。小さなことであっても、急いでいても、戦いの寸前であっても、議論することを好む。 次に、議論は常に相手の考えを認める方向性で進める。この点でアメリカや中国やフランスと似ていない。相手の意見の良い部分を見つけ、自分の意見を修正していくというのが大前提で、この流れは『夢織』などの小説にも見られる。つまり、アルバザード人は始めから自分の意見が完全に正しいと思っておらず、自分の意見をよりよくしようという観点で話をする。 一方、自分の意見を間違えだと認めることもフランス人と逆で遥かに多く、同時に相手の意見を正しいと認めることも極めて多い。ところがここで勘違いしていけないのは、正しいことと信念とはまったく異なるということである。アルバザード人は「なるほど。君が正しいようだ。しかし僕はそう思わない。じゃあ戦闘開始といこうか」ということを平気で言い、戦いを開始する。アメリカ人から最も離れた様式であろう。「客観的にそうである。それは納得した。しかし主観的にはそう思わない。だから僕は僕のために戦おう」という倫理観の持ち主で、主観が重視される社会である。そのわりに社会は公共の福祉を最優先するなど、日本人には理解しがたい面を持っている。 なお、お互いの立場を議論しあわずにいきなり戦うことは極めてエレガントでないとして嫌われる。どんな場合でも相手と自分の事情を確認し、客観的に理解しあった上で、「でも主観的には僕らは敵だよね？」ということで喧嘩を始める。客観上の理解を省略して戦うと、蛮行とみなされる点に注意。 ＜相手の発言をつなぐ＞ また、議論をしているときに、欧米人は相手の言うことを最後まで聞き、日本人や中国人は勝手に喋りだす傾向があるが、アルバザード人はどちらでもない。静かに頷きながら最後まで聞くか、そうでなくば相手の言葉を予想して、その言葉を相手に投げる。特にオチの部分でそれをする。要するに相手の話を奪ってオチを言う行為である。話の結論を相手が言おうというそのときに、聞き手がオチを言う行為で、これはイギリスなどでは非常に無礼な行為とされるが、アルバザードでは「相手の話をよく聞いて理解したからこそ結論を自分で導けた」ことをアピールする行為としてむしろ歓迎される。 ＜タブー＞ 絶対にやってはいけないのは、「相手の話をさえぎって自分の主張を通す（言った者勝ちという姿勢）」「大声で威嚇する」「やじる」である。日本の国会答弁が悪の見本で、蛮行とみなされ、相手にされなくなる。 夢織で詩姫とギメル（厳密にはこれらはアルバザード人ではないが）の交渉を見てもわかるが、さっきまで戦っていた相手であっても礼を尽くし、相手の意見を遮らず、やじらずに聞き、相手の意見を正しいと認める。その上で利害が一致しなければ交渉決裂というだけのことであり、議論そのものは友好的に行われる。

ɒcɥjəel ［論理］議論学 ［レベル］5 ɥɑ;/ lⓂ ［文化］ → lec e ɒccɥ ɥɑ できた学問体系で、セレンが始祖。セレンは論理と論議を個別に考え、論理を言語でいうラング、論議を言語でいうパロールと位置づけた。 論理学は理論としての学問で、論議学は実際の議論に関する実践的な学問である。 セレンはそれらを使徒に理解させるために『ミールの書』を著し、前半の理論編では論理学を、後半の実践編では論議学を扱った。

ɒcɥjıb ［論理］議題、論点、問題点 ［レベル］4 l⓪

ɒcɥjeɥ ［天文］プロキオン ［レベル］6 1L:ɥcɑcı/jeɥen/ɒel:ʔɒccɥ/jeɥen ［文化］ クミールの誕生日とセレンの誕生日の間ごろに南中する星。同じ年だがクミールのほうがメル暦では早生まれなので、ɒcɥjeɥ の語順。アルシェとソーンのルシーラの間にあって橋渡しをしていることから、アシェットの成立、すなわち和平の象徴とされる。星座としては ɑɔʅleɥn 座にある。

ɒcɥnı ［名詞］沈着冷静 ［レベル］3 JJ:「クミールの心」

ɒcɥuеɥınſ ［医療］情緒不安定性パーソナリティ障害、情緒不安定性人格障害 ［レベル］5 ul;ʔɒ ccɥ/uеɥınſ JJ:ɒel

ɒcɥaıın ［化学］フルオロメタン、フッ化メチル 1L

ɒcɥɒel ［歴史］神代。創世記からラヴァスまでの神の時代の総称。 ［レベル］4 ɥɑ;/ 1L:ɒcɥ ɔl/ɒel ［語法］ aeɒe

ɒcɥɸc ［人名］ミルギ ［組み数字］1/5 ［レベル］3 古 :ɒcɥɸcl（神の金） ［文化］ euınselcn lcc zel リーファ隊の１番目。女性。財政を管理した。几帳面。ルティア人で、アルナ大でミロクのひとつ下。

ɒcɥɸcjel ［ユマナ］月曜日 ［レベル］2 1L

ɒcɥɸcl ［人名］ミルギル ［レベル］5 古 ［文化］ アルバ１世のときの召喚省長官。ギル貨幣の統一を行った。

ɒcɥɸclcl ［化学］フッ素 ［レベル］4 1Δ: 制

ɒcɥɸclcı ［経済］中央銀行 ［ユマナ］日本銀行、日銀 ［レベル］4 Jl:ɒcɥɸcl

ɒcɥlccɑı ［天文］カノープス 1L:ɥcɑcı/jeɥen/ɒel ［文化］ クミールの生まれたころに南中（＝アルカでは０時に真南を通過すること）する星だが、アルバザードからはほとんど見えない。クミールはメティオ生まれだが、北緯３５°のメティオだと、１９８０年１２月２７日と１２月２８日のほぼ０時に、南の地平線に南中する。クミールは１月８日生まれだから、少しずれている。 アルバザードからは国の最南端でかろうじて確認できる星だが、メティオ生まれのクミールを指すにはふさわしく、メティオからなら観察できる。ルティアも首都からは観測できない。唯一メティオのみがカノープスを観測できる。

ɒcɥleseɒɒe ［色］薄紫 ［レベル］3 1L: クミールの紫

ɒcɥı ［ユマナ］神殿、神社、寺、仏閣、堂、お堂、モスク、シナゴーグ ［レベル］3 1L:ɒcɥɔʅɥı

ɒcɥı(J) ［化学］フルオロ 1L

ɒcɥıſın ［化学］フルオロアルカン 1L

ɒcɥıʅıɑ ［地球の国名］カンボジア ［レベル］6 1L: 国旗にアンコールワット

ɒcɥıj ［被服］法衣 ［レベル］5 zɸ;ɒcɥɔʅ/ɥıbe lⓂ

ɒcɥın ［宗教］教会、ミラン ［レベル］2 l⓪:ɒcɥɔʅ/ɥı（神の家） ［文化］ アルテ教で神を祭った建物。サルト教など他宗教にも引き継がれたが、各宗教によって建築様式や内容は異なる。アルティス教も教会を持ち、現在ではアルティス教の教会を指す。 アルテ教では神の家と考えられたため、時代を追うごとに豪華絢爛な造りとなっていった。家といってもキリスト教と異なり別荘のイメージで、神が常にそこに住んでいるわけではないとされる。というのも、各都市や町に教会があったためである。なお、サルト教では各教会に固有の神がいたため、教会は別荘でなく家と考えられた。 アルテ教などのころはサリュは商業用途に使われたため、教会としての役割を果たしていなかった。教会は商工会やサリュの近くにあり、信者の洗礼や各種儀式などを執り行っていた。商工会とのつながりがあったため、現在の役所のような事務手続きをすることもあった。また、アルテ教が拡大すると、銀行の役目も追うようになった。 教会の従業員のことを ɒcɥınɑı（司祭、神父）と呼ぶ。教会の仕事は彼らが執り行っている。

ɒcɥınɑı ［宗教］司祭、神父、牧師、プリースト、ドルイド（ドルイド教の神官）、祭祀、オウンガン、ラビ ［レベル］2 l⓪:ɒcɥın/lınſcʃ

ɒcɥıɑclſ ［地名］ミラフィル、ミラフィル島、神橋島 ［レベル］5 ſɒ;ɒcɥɔʅ/ɥıɑl「神の橋」。神の島とアルカットを繋ぐ島であることから。 lʔ ［文化］ フィーリア島とイネアートの間にある島。イネアート領。

ɒcɥıɸıſſ ［ユマナ］鳥居 ［レベル］4 1L

ɒcɥılcſ ［名詞］品行方正 ［レベル］3 JJ:「クミールの丁寧さ」

ɒcɥɔʅ ［名詞］神々、神、神様、かみさま ［生物］非霊科。アマット（超ドメイン）のうち、アテンに属するものから lın（霊科）を除いた神科・悪魔科・魂科３科の総称。 ［レベル］2 ɑ:elſ;e 元は自分たちを他の動物と区別するための自称で、「我々」程度の意味。やがて神の一族を表わすように。 赤 ɒcɥɔʅ:ɒcɥɔʅ ［成句］ ɔlſı ſə jc ɥəſcı ız たとえユティアがあろうとなかろうと：良い意味で「たとえ何が起ころうと」：革命時の教徒による言葉。ユティアという性があろうがなかろうがという意味。ſə は「その ɒcɥɔʅ という言葉」を指す。「ミロクと言ったら「ミロク＝ユティア」のことを言ってるのか、神のことを言ってるのか分からんよ」ーー「かまうものか。どちらにせよ、神様だ」というような会話から生まれたもの。

ɒcɥɔʅ ſ'ıɥlı ［名前］アルカの神、ミロク・タルカ ［レベル］4 ɥn 制 ［文化］ カルディアとユマナにおいてアルカに関わった人間の運命を決定し左右する神。主にセレン＝アルバザードとその周囲の人間の人生と運命を采配する。ユマナと ɥn のセレンが制ごろに自らの思念で創り出した神。災厄ばかりに見舞われた彼らはしかして自分の人生がアルカの視点で立つと合理的に運んでいることに気付いた。自分や周りの人生が犠牲になってでもアルカにとっては常に好都合な状況が起きていた。そこで彼らは世界にはアルカの神がいて、自分及び周囲の人間はこの神によって采配されているのではないかと考えた。この念慮によって具現化したのがアルカの神であるが、この神は固有の名前を持たない。単にアルカの神と呼ばれる。 アルカの神は複数の世界線におけるセレンらを支配する。例えばこの辞書を書いている今のこのセレン＝アルバザードの人生が失敗してアルカ発展の途上で自殺したとしても、それはその世界線において失敗したにすぎない。２０１２年現在ではアルカの神視点において、この世界線は正常に進んでいる。しかし今後もこの世界線がアルカの神にとって理想の結果を弾き出すとは限らない。この世界線は失敗に終わり、志半ばでセレンは死ぬかもしれない。だが別の世界線ではセレンはアルカを大成させ、アルカの神は彼を操りアルカを育て上げさせている。 離婚をしたことも身体を壊して仕事を変えたこともセレンの人生で見ればマイナスで不幸なことだが、アルカにとっては好都合な結果になっている。 明らかにアルカの神がセレンの人生を犠牲にして、その代わりにアルカを進めさせた結果である。セレンは無神論者だが、アルカの神の存在だけは信じている。あることが起これば起こればそれはアルカにとって必要なことであり、あることが起こらなかったらそれはアルカにとって必要でなかったことである。自分の人生がどう進むかはアルカの神が決めている。たとえ事故でも不幸でも失敗でも賭けの外れでも、アルカにとって必要なら起こり、必要でないなら起こらない。 だがそれに絶望してセレンが途中で投げ出して自殺すれば、それはその世界線のセレンがトゥルーエンドまで行けなかっただけのことであり、アルカの神の采配が間違ったわけではない。ただ単にその世界線のセレンが根性が足りず、人生が詰んだと諦めるのが早かっただけすぎない。 別の世界線ではいずれかのセレンがトゥルーエンドを迎えている。ただ、恐らくそのセレンは相変わらずアルカに支配され、不幸な人生を歩んでいるわけだが。 なお、この神については制のころからこのように呼んで自覚していたが、文書化したのは３１歳の誕生日である。

ɒcɥɔʅʅeɥn ［企業］ミロクケルン ［レベル］4 Jl ［文化］ ＡＮＡ、ＪＡＬに相当する企業。

ɒcɥɔʅıſ ［被服］絶対領域 ［レベル］4 Jl

ɒcɥɔʅuɔl,ɑu ɒcɥɔʅbɔlſ ſɒ;/

ɒcɥɔʅɑıcz ［政治］神聖なる王、王権神授、王権神授説 ［レベル］4 1L ［文化］ アルカでは、神から授かったという意味合いでは使わない。王がいまだ神の血が濃く残っており、偉大であるため、王としてふさわしいという意味合いで使う。絶対王政のころ使われた。

ɒcɥɔʅɸıɥɒı ［歴史］［軍事］第一次世界大戦、ミロクガルマ ［レベル］3 JJ: ミロクが引き起こした戦争

ɒcɥɔʅbɔlſ ［名詞］天罰、天誅、人誅、仏罰、鉄槌、ミロクボルト ［類義語］hıczenbɔlſ ［レベル］3 jɒ;/「神の鉄槌」：ɒcɥɔʅuɔl.l,ɑu lʔ ［文化］ ſɒ から ul までは神による制裁のこと。特にハイゼンによる天罰は ɥn で hıczenbɔlſ とされた。 ul 以降はミロクによる粛清や制裁のことを主に指す。ミロクの思想に反したものに下る罰。のちにセレン＝アルバザードが彼の思想を受け継いだ。 人誅という訳語は「天が制裁をしないのならば俺が鉄槌を下す」というミロクの精神から来た言葉。 ［用例］ ın ıɥıſ ɒcɥɔʅbɔlſ ı lııbe. 私はあの愚か者に鉄槌を下した。 lı ɥəuıſ ɒcɥɔʅbɔlſ ɑel ſcɑl ſın) ɒclen eɑſ. 彼は窃盗による手首切り落としの罰を受けた。

ɒcɥɔʅ ɥəſcı ［人名］ミロク＝ユティア ［レベル］2 古 ［文化］ → ɥəəlcı ıɥlı (?00_?Δ0) レイユ時代におけるアルバザードの副王。?00 年 ɑcıjel、アルシオン派の２代目リーダーアメリとアルマスト派のリーダーユレットの下に生まれる。ユティアの姓は、両親が双子であるという近親相姦の事実を隠すために両親から与えられたもの。?10 年頃、アルティス教と政権与党ミナレットの抗争により両親が他界。アルティス教系政党イルミロク党を立ち上げる。?Δ0 年、ユーリア＝アルカの死が決定打となり、革命を起こす。独裁政権を樹立し、親衛隊リーファを用いてミロク革命と呼ばれる強権的改革を実行。国内においては徹底した粛清と思想統制を行い、最強のアルバザード軍を用いて惑星アトラスの全ての国を間接支配するに至る。?Ⓜ年、ルシア＝エニークとの間にアリシアを設ける。?Δ年、アリシアとの間にアルテナを設ける。?Δ0 年他界。享年８０歳。 ＜本人像＞ 身長１７２ｃｍで体重５８ｋｇと中背で痩せ型。茶色い髪と瞳を持ち、やや黄色がかった白い肌を持つ。幼少期の容姿は少女のように美しく、青年期は線の細い美少年だった。 体形どおり神経質で過敏なところがあり、体は決して強いほうではない。しかし気は人一倍強く、争いごとが絶えない。 子供のころから魔法が使えたが、母親に禁じられていたため、細腕で喧嘩をしては負けていた。正義感が非常に強く、公平を尊び、悪には決して屈しない。 青年期になると容姿と地位のせいでモテまくるが、ユーリア＝アルカに一途であり、アルシアを授かるまで貞操を貫く。 それでもユーリアへの思いを一生持ち続けた。 ［成句］ hıl jııl, ɒcl elſ, jeel ləəj, ın ɑel ɒcɥɔʅ ɥəſcı lı. 空にエル

D

ト、地にサール、その間に私ミロクがいる：天上天下唯我独尊

ɒɔɥɔ١ɔzɒ ［歴史］ミロク革命 ［レベル］３ 1L:ɔlɒə;ɥɔɑɔı ［文化］ → ɥəəlɔı ıɥı ＜旧版＞

メル３２０年にアルバザードから始まった革命。社会再建、社会悪の排除、アルティス教の浸透が目的。実行者は時のアステル、ミロク＝ユティア。 ミロクはレイユの腐った社会を改善しようとした人である。徹底的に社会悪を排他し、アルティスの教えに従うアルティスの世を築いた人である その行動は急進的で独裁的、そして妥協を許さないものであった。彼は神が自分の味方をすると信じて戦った。絶対に崩れない敬虔さを持っていた。そのため、どんな残酷なことでも革命的なことでもためらうことなくできた ミロクは社会悪を徹底的に排他するために、社会が不便になっても構わないと考えた。堕落した人間は享楽に慣れているから享楽がないと不便でつまらないと考える。ミロクはそういう人間を悪として排他し、慎ましい生活を送る者だけを生かした ミロクの目的はこのように、綺麗な社会を築くことであった。だから革命は主に政治と法に関するものである。つまり、社会制度の見直しが主なものである ミロクは選挙政治を撤廃した。独裁政治の始まりである ミロクは敬虔なアルティス教徒であった。その志は素朴で純粋である。ただアルティスの教えに従って世の中を変えていった。社会悪を徹底的に排他するためにミロクは独裁政治を行った 敬虔なアルティス教徒による政治であるから、利権がらみの独裁政治というよりは宗教政治といったほうが適切かもしれない ミロクの時代は選挙がなく、ミロクと志を共にする敬虔な教徒たちによって政治が行われた。彼らはみな敬虔で、自分たちの敬虔さに絶大な誇りを持っていた。彼らは一切利権を得ようとはせず、ひたすらアルティス教の世の誕生を夢見て革命を断行した 彼らは私利私欲に溺れるどころか私財を投げ打って革命に心血を注いだ。特にミロクは最も敬虔で、質素な暮らしの中に幸福を見つけようとした ミロクは国民に対し、「私は全ての国民に私以上の生活を約束する」と述べた。そしてミロクは進んで質素な暮らしをした。革命が終わるにつれてミロクの約束は実現化されていった ミロクの時代は恐怖政治である。だがそれはアルティスの考えに背く者、悪人にとっての恐怖政治である。宗教政治であるため、アルティスに従う敬虔な信者にとってはこれほどの理想郷はなかった ミロク以前は現在の日本やアメリカを更に退廃させたような社会であった。敬虔なアルティス教徒はその社会に耐えかねていた。社会悪を何としてでも排除しなければならないと考えていたため、ミロクの台頭は彼らには望ましいものであった ミロクは全ての国民から歓迎されていたわけではない。アルティスに敬虔であるほどミロクを歓迎し、堕落した人間ほど非難した。そしてミロクは堕落した人間を捕まえて収容した。そして世の中から自分の反対者を消していった この急進的な動きに嫌悪感を示した人間も政治犯として収容された。敬虔なアルティス教徒でもミロクに反対すれば収容された ミロクはそういった信者を収容するのにためらいがなかった。アルティスの世を速やかに合理的に築こうとする大業を邪魔立てする者は偽の信者であると規定したからである。偽の信者であれば守る必要はない。収容所行きである ・対外政策 アルバザードは世界一の強国である。その軍隊をミロクは掌握した。ミロクはその軍隊を使って周辺諸国を従えていった アルバザードだけを厳しく規制すれば堕落した人間は周辺諸国に逃げる。それは予想済みであったため、ミロクは軍隊の掌握と同時に周辺諸国の掌握を始めた

ミロクは各国に存在する敬虔なアルティス教徒たちの団体に内乱を起こさせ、国内事情を不安定にさせた。それと同時に中枢部に圧力をかけ、アルバザードと同じ制度を取るようにさせた それに逆らえば当該国の政治家を軒並み殺害するという旨を伝えた。そして実際に従わなさそうな連中は予告なしに大量に暗殺した。所詮は自分可愛さの政治家たちなので暗殺を目の当たりにした彼らはミロクに恭順した ミロクはまず、周辺の小さい国から恭順させていった。その後、勢力を拡大しながら大きな国も恭順させていった。逆らえば徹底的に軍事力で潰す。それを見た国は恐怖のため、従わざるをえなかった ミロクは周辺諸国が連合を組むと厄介だと考えたため、諸国が連合を起こす前に素早く動き、数日のうちに邪魔な国は全て掌握した しばらくすれば連合も立てられないくらいの状況になった。主な国がアルバザードに恭順すると、残った国は抵抗なく、或いは自分から進んで恭順してきた。ミロクの徹底的なやり方を恐れたためである こうして全土がアルバザード化したため、堕落した人間は逃げ場を失った。そもそも逃げようとする人間を囲うのは難しい。小さな穴があればそこから抜け出してしまう 小さい穴が開かないように日々気をつけるくらいなら、逃げ場を先に焼き打てば良い。逃げたい場所を先に潰せば良い。そうすれば小さい穴に気をとられなくてすむ。どうせ小さい穴など塞ぎきれないのだからこちらのほうが得策である 尤も、これはアルバザードには逃げたい場所を潰すだけの力があったからこそできた方法である ＜革命考察＞ ・革命の新旧 ミロク革命が最初に作られた時は制アルカの時代で２００３年前後だった。この時期に突然ぽっと出て湧いたわけではなく、それまでにアルバザードの現代社会を築いた背景設定というものはいくつか存在した。そういったものを集めて一人のミロクという巨人を作り、一つの歴史的事件としたものがミロク革命である。 当時のアルバザードはまだ架空の世界という色合いが強く、現実的にありえる形というよりもむしろ理想の社会としての意味合いの方が強かった。それがだんだん年を追うごとにカルディアという世界が細かく作られて行き、それとともにリアリティーが重視されるようになっていった。リアリティーが重視された結果、ミロク革命も同時に理想の社会を築き上げた革命という視点からヴェレイの悪政をできるだけ改善しようという方向性にシフトしていった。 このシフトは２０１０年頃に完了した。というのもこの時期にイルムスの執筆を行っていたためである。２０１０年を境にミロク革命を新旧で分ける。 旧版は理想の社会を描いてこうだったらいいのになあという結果から物事を考えていった。それに対して新版はヴェレイという社会があって、その社会に何を働きかけたらどう変わるかという視点で作られている。 またアルバザードが１位の経済大国かつ軍事大国であるという前提を覆さないような社会を作る必要がある。 理想の社会では食べ物に困れば神様が施してくれて戦争もなく犯罪もない世の中というのが実現できる。ところがリアルに考えていくとそんな社会は当然存在するわけなく、より痛みの少ないよりベターな社会を築くという考え方に変わっていく。それが新版の特徴である。 ・旧版の無理なところ 例えば旧版では夜間外出禁止令というものがあり、犯罪率を減少させるために夜間の外出を制限していた。この社会では夜外に出ることができない。そうなると当然外食産業は大打撃を受ける。またそれよりもさらに深刻なのは物流業界である。夜の間に高速道路や一般道を使って商品を運べないとなると、昼の間に全てを運ぶことになる。これでは例えば道路だけで考えても夜はガラガラで昼は混み混みということになり、非常に非合理的である。運ぶのに時間がかかるということはそれだけ人件費がかかるということで、商品の価格に上乗せされる。ところがそう簡単に商品の価格に上乗せすることはできないため、まず最初に人件費が削られる。そうすると小売業や物流業がまず初めに被害を受ける。日本のように２４時間どこかしらの業界が働いているという状態の方が例えば道路だけ見ても利用効率がよい。 道路というような目に見える具体的な例だけでなく、例えば電気にも同じようなことがいえる。電力会社からしても夜間の間国民が全く電気を使わないのでは困る。基本的に電気というのは蓄えが効かないか或いは蓄えることが苦手なので、夜作った分は夜使ってほしい。またエアコンや待機電力等の関係から夜間に全く電気を作らないわけにはいかないので、その間稼働を止めるということはできない。そういうことを考えても電力会社からすれば、できれば２４時間押し並べて同じぐらいに電力を使ってほしいものだ。だが現実的にそうはいかないので、夜間は昼間より電気代を安くするという仕組みをとっている。昼間と夜間の電力消費量の差が小さければ小さいほど電力会社は楽ができる。というよりも、そもそも昼に集中して異様にたくさんの電気を使われる方が困る。そういうわけで、例えば風俗業なり小売業なり物流業なり夜間営業している店舗があるというのは、こういった電力会社のような業界でも歓迎されることである。 このように、目に見えるところと目に見えないところで夜間の経済活動というのは無視できないほど影響力が大きく、これを全面カットするというのは、少なくとも経済大国であるアルバザードにはできない。 車についても同様である。車なんてない方がそもそも交通事故が発生しないので安全な世の中だということになる。事故がないのは素晴らしいことではないか。それは誰もが思う。ところがでは実際に車が走っていないとか或いは人と完全に分離された場所しか走れないというような社会で経済が回るだろうか。トラックはスーパーの店舗まで荷台を付けないと商売にならない。住宅街を一般車両が走れないとなれば当然車業界は潰れてしまう。 例えば日本で考えて、住宅地のような狭い道路を一切車が走れませんよということになったら、車を持つ人は今よりさらに激減し、トヨタ等は大損害を受ける。潰すわけにもいかないので、単に日本から撤退するだろう。もともと日本の企業であるにもかかわらず完全に日本を切り捨てて、工場も外国のみにし、資本を海外に移すだろう。となれば当然日本の ￥₩φ は下がるわけで、これと同じことがアルバザードでも起こりうるわけだ。 アルバザードが世界一の経済大国だという前提があるのならば、どうしてもこういう車というものを切り離すわけにはいかない。たとえ事故が誰かが被害を受けようとも、現在のようなあり方が結局のところ一番アルバザードを発展させるということになる。アルバザードが小国であれば車のない社会も作れるかもしれないが、世界一の経済大国という前提がネックとなりどうしてもこのような案を受け入れることができない。

新版では具体的にどうするかというと、例えば車道と歩道と自転車道をできるだけ分離するとか、ＧＰＳと連動して今車が時速何キロ制限の道路を走っているかを自動で読み取りその速度以上は出ないように機械の側で制限をするとか、交差点のところにＡＲを設置しておいて曲がった先が見えるようにしておくといったパッチを当てるのが精いっぱいである。

ギャンブルにしても同様で、煙草にしてもそうで、これらは社会悪であることはわかっているのだが、これらがもたらしてくれる経済効果というのは非常に大きく、無視できるものではない。 ・旧版がモデルにした北欧型社会は小国に適するということ 最近よく北欧型の社会が取りざたされるが、実際に北欧型の社会というのは小国で成立するシステムであって、アルバザードのような大国でこれを実行することは難しい。というのも、北欧型のシステムでは経済大国であることを維持できないためである。ここでいう北欧というのはスカンジナビアはもちろんのことデンマーク等も含む。 例えばこのデンマークのだが、デンマークは確かに格差の少ない社会ではある。しかしそれは皆が平均して金持ちということではなく、どちらかというと日本人から見れば皆が平均して小貧乏というような発想に近い。実際にこのタイプの社会をよく見てみると、上に行こうとする人間を邪魔しようとする圧力がものすごく強い。自由で格差の多いアメリカ等と比べると、特に明らかな傾向として現れてくる。北欧というと人柄が暖かいとか優しいというイメージがあるが、実際住んでいたリディアからすると評判程ではなく、やはり当然のことながらいじめ等は存在するし、むしろ上に行こうとするとか目立とうとする人間を押さえつけようとする力は強いそうだ。北欧全体の傾向としてヤンテのルールに代表されるような概念が存在する。これは通常デンマークなど北欧社会を賛美するときに引き合いに出されるものだが、悪く言えば出る杭は打たるということだ。 こういう国では、医療制度が非常によく、ほとんどタダで医療が受けられるというような喧伝がされることがある。実際に医療費がかからない国というのは存在する。ところがよく調べると、見てもらうまでに何週間もかかるとか、診察は無料だが薬代は非常に高いといった現実が見えてくる。 結局のところ日本は格差社会かもしれないが、具合が悪くなった日に飛び込みで医者に診てもらおうと思って病院に行ってもたいていはすぐ診てもらえるという点ではずっとマシである。数千円で見てもらえて薬も同様に数千円程度でもらえる。救急車を優秀ですぐ来てくれる。日本の医療問題はしつこい程取りざたされて、救急はもう駄目だのフランスはもっと少ない救急車の台数でどうにか回しているだのと言われるが、確かにある側面だけ見ていると日本は駄目かもしれないが、詳しく掘り下げて調べていくと結局外国は日本が維持している便利さを捨ててその代わりに別の便利さを得ているというだけだ。どの国も持っているパイは同じで、どのように切り分けているかの問題にすぎない。日本が手薄になっているところは別のある国が厚くなっていることがあるだろうし、逆にその国で薄くなっている部分が日本では手厚いということは当然考えられる。 そう考えていくと要するに理想の社会など存在しないわけだ。どこを切り捨ててどこを痛めるかという話でしかない。従って作りうるアルバザードというのはより痛みのないベターな社会というものでしかない。 もちろん北欧型が小国でしか機能しないことは旧版でも知識としては知っていたわけだが、理想の社会ではその矛盾を無視できるため、ご都合主義で通していた。 ・一人の英雄がいても一億の目にはなれない 旧版ではミロクという巨人がいれば全てがどうにかなるものだという風潮があった。だがもしミロクが軍隊と同じくらい強い個人で、毒殺も何もできないぐらい強い人だとしても、理想の社会を築くのは不可能だ。というのも、ミロクは末端の国民一人一人にまで目を向けることができないからである。ミロクが賢人で勤勉で精錬潔白だとしても、国民は彼の目がないところではサボる。確かに彼は思い通りにならない人間を始末することができるが、一人一人を見て回ることはできないし、どんなに教育して意識を革命しようとしても、ミロクのように鉄の清廉潔白さを持った人間というのは早々でき上がるものではない。まして全ての国民をそうするというのは全くもって現実的ではない。 ミロクは確かに強いかもしれないが、だからと言って一人で何でもできるわけではない。例えば一人でビルが作れるか、辞書を書き上げることができるか、社会インフラを全て作ることができるか。できるわけがない。末端の作業員も必要だし、それを管理する現場監督も必要だし、その事業を行う会社も必要だし、その事業所に勤める社員も必要だし、その事業を束ねる役所も必要だし、その役所に勤める役人も必要になる。そしてミロクはそれら全ての人々を毎日チェックするわけにはいかない。結局ミロクがどれだけ清廉潔白な人間であっても、汚職や非効率は避けられない。 サボっている人間を見せしめに殺しにしたところで、それではミロクが見ている時だけ頑張ろうという風潮しか作らない。むしろそんな見せしめをすればモチベーションは下がってしまう。恐怖で押さえつけても結果的にペイしない。 ・経済大国に格差はつきもの 格差社会は悪だと言われるが、少なくとも経済大国においては格差社会は必ず存在する。格差社会をなくそうとすると、どちらかというと経済力の弱い国になる。格差社会をなくすこと自体は可能なのだが、なくした結果待っているのは、皆が平等に貧乏な社会である。誰か或いはどこかの企業が勝ち組になってその国の経済を牽引していくというのが現実なので、経済発展をすればするほど勝ち組の企業は潤っていくという実態がある。その結果、当然そこに努める人間の給与は上がり、それでも下請けは安くこき使われるので、格差はどんどんと開いていく。ところが皮肉なことに、このような国で暮らしている末端の人間にとっては非常に暮らしにくいにもかかわらず、国全体でみると経済力は強くなる。いくら日本の派遣労働者らが搾取され消費が冷え込んでも末端の環境が改善されない理由のひとつはここにある。 韓国もそうで、J010 年頃の韓国というのはサムスンがものすごく強い力を持っている。サムスンが韓国政府に納めている税金というのは日本のソニーの比ではなく、企業規模も全く比ではない。そしてこのサムスンの業績により、韓国の技術力や経済力はサムスンがない状態に比べたら遙かに向上している。では韓国人一人一人の経済はよくなっているかというと、依然としてそうではない。

経済大国では強い企業や強い個人がいて、その牽引者が勝ち組となって格差が生まれる。アルバザードも経済国であるならば、どうしても格差は存在することになる。問題はどうやって経済大国であることを維持しながらできるだけ格差を小さくするかというところにある。それはヤンテのルールのように上を落とすというやり方ではなく、下を上げるというやり方でなければならない。 ・少数の経済学者の意見だけを参考にするのは危険 税金を上げて公共事業に回すという考えがある。こういうことを言っている経済学者というのは多少いる。ところがむやみに税金を上げると資本が国外に流出してしまう。特に法人税を上げた場合に顕著である。また、消費税のような内需型の増税を続けると、地続きの国はすぐ隣国に移住できてしまうという問題がある。例えばアルバザードの場合はすぐ隣のケートイアに逃げることができる。これを防ぐこともできるが、それでは北朝鮮と変わらず、その状態で世界一の経済大国の地位を維持するということは不可能である。 何を言いたいのかというと、具体的な少数の経済学者の意見を参考にすると思想が偏ってしまうので、日経新聞や各種経済誌から広く薄く参照した方が偏りにくく、アルバザード制作の役に立つということである。 ・現実的な新版 つまるところ新版のミロク革命は旧版にあったような理想の社会をほとんど実現できておらず、現代の日本やアメリカといった経済大国の少し改善した現実的な社会という程度に過ぎない。 旧版は世界自体にオリジナリティがあるので世界そのものの創造が創作活動になったが、新版では社会そのものが現実的で現実に似ているため、どちらかというとその社会をどう使ってどんな小説や物語を作るかというところに重点が置かれる。 ２０１０のイルムス再制作において、カルディアの重要性はアルカを圧倒してしまった。ところがリディアはカルディアはそもそもアルカという人工言語を成立させるための背景としての意義が大きいという点に回帰し、全体の制作におけるアルカのウェイトを向上しようと考えた。その折にカルディア自体がリアル指向になったことも重なって、今回の新版が生まれた。 ・地球にペグしだした新たな理由 またリディアの思惑はもう一つあり、それは教育である。いくらアトラスが架空の世界であるといっても現実的には地球で使用しているわけで、あまり現代の地球とアトラスが乖離してしまうと、特に子供の教育という面において問題が発生する。大人は理屈でアトラスと地球の違いを理解できるかもしれないが、子供はそうではない。例えばこのメル 11 年にもすでにルシアは「どうしてウチの周りにはカルテンがないの？」や「どうしてお母さんは夜遅くに帰ってくるの？でかけちゃいけないんでしょ？」などという旨の発言をしており、大人を困らせている。 μn のような神話の時代ならともかく、少なくとも現代社会はある程度地球に似せておかないと今後まずいことになりそうだということがわかってきた。制アルカの時代はアシェットが地球でアルカを使うので地球とある程度社会を似せる必要性があったが、成員はみな大人だったため、現実と架空を区別することができた。ところが子供に教えていくとなると話は別だ。アイデンティティーに組み込む以上、あまり架空の話を組み込ませてしまうとその子の将来に問題が発生するため、あまり突拍子もないことは吹きこめない。そういう事情が出てきたため、制アルカの時代とは別の意味で地球にペグする必要性が出てきた。 そもそもセレンは子供がアルカを母語とすることにも反対なため、これ以上カルディアで汚染することは子供の将来によくないと考えている。あれは芸術として使うから面白い。自分の意思で入ってきたわけではない子供を巻き込むべきではない。リディアは逆に植え付けたい派だが、現実と架空の設定の矛盾に娘が混乱してきたことが原因で考えを修正して新版に至る。 ・ひとつの世界で架空もリアルも とはいえカルディアは非常に創作活動の場としては度量が広い。というのも、バリバリのファンタジーをやろうと思えばそれは μn までの時代で可能であるし、逆にバリバリのノンフィクションをやろうと思えば、それは現代を使えばよい。時代を分けることでどのような創作活動にも対応できるという点で、カルディアは非常に便利である。

・多様性のある現実的な社会　　新版というのは多様性を認めた社会に過ぎない。現実的なことを考えてくだらない人間やくだらない業界という存在を肯定しつつも、何が社会的に良くて何が上流階級かという考え自体は変わらない。つまり今まではレインのようないい子ちゃんしか存在できなかった社会だったが、そうでもない人間も存在できるという風になったに過ぎない。　旧版の価値観では ɒɯɟə はともかく φɪnɔ といった位相を具体的にどのような人間が使うのかというのが謎であった。不良の女の言葉だというのは分かっているのだが、旧版の厳しい社会ではそのような人間は存在できない。いい子ちゃんばかりが存在し、いい子ちゃんばかりが再生産される社会だから、実際どのような層が φɪnɔ に落ちるのだろうと疑問に思っていた。そもそもそういう女が存在しない理想の社会というのを想定していたので、ではこの位相は何だったのかという話になる。　新版ではそういうくだらない人間も含めてリアルな世界なので、そこにはレインのようないい子ちゃんもいれば、ギャルのようなくだらない人間もいる。つまり世界は多様性を見せたということだ。だからといって今までの価値観が覆さられるわけではなく、レインが上流階級のお嬢様だという点は変わらない。またレインの性格自体も変わるものではない。彼女は彼女で昔同様、お嬢様のいい子ちゃんで世間知らずだ。対してそうでない人間がいるという話に過ぎない。このほうが世界は広がりを見せ、創作の場としては使い勝手が良い。　　自分の好むタイプの人間しかいない世界は心地よいが、それが現実的かというとそうではない。現実的な架空かという点すらも怪しい。　また、そもそも全員がいい子ちゃんだと、いい子ちゃんが当たり前で何の価値もなくなってしまう。悪いものがあるから良いものが引き立つという考え方もある。　結局のところ、作り手側がここ１０年程度で少年の考えをできなくなってきたのだろう。思春期を過ぎると何かと現実的に考えてしまう。　ただ、それでもまだこんなものを作っているのだから、リアルファンタジーという価値観自体は大人になっても維持したようだ。　　・思惑　　新版ができた経緯についてリディアの思惑はすでに述べた通りだが、セレンの思惑としては世界に多様性を持たせることで作ることができる作品の幅を広げるという点がある。今までの制度だと、例えば夜のシーン一つ取っても夜間外出禁止令等があるため、色々と行動や時間が制限される。不良や悪人がほとんどいないという設定も、小説等を書く際にはそういう人物が必要なシーンもあり、たびたび不自由を感じてきた。良いものだけでなく悪いものも存在する世の中の方が現実的だし、良いもののありがたみも実感できるし、何より作品の幅が広がる。　今まで作品を作ってきて感じたのは、良い世界ではあるが窮屈で狭量だということだ。そういう意味で旧版のカルディアは必ずしも作品を作りやすい舞台とは言えなかった。レインのような旧版の価値観を体現したキャラクターは依然として作ることができるため、世界は単純に広がりを見せたと言ってよいだろう。　　また現実的に考えると、リディアが子供たちにカルディアを押し付けない可能性がないので、ならばせめて子供たちがまともな価値観を持つように、アトラスと地球をなるべく近づけるというのも本意であった。この件については結果的にリディアと意見が完全に一致したため、比較的円満に事が進んだ。　・

免責　　旧版の社会だと、ミロク革命の正義をよしとする人間には理想の社会に見えるが、そうでない人間には非常に窮屈でつまらない世界ということになる。作り手側はこの社会を使って作品を作っているので、読者がもしこの社会そのものの仕組みがよくないと思っていたら、たとえその小説が面白いにせよ面白くないにせよ、いずれにしても社会の時点で面白くないと感じてしまうだろうなと考えた。そしてそれは非常にもったいないことだなと考えてきた。もしここの社会が現実とそんなに変わらないとすれば、その地球と大差ない社会システムに当然気に食わないところが読者それぞれあるだろうが、それでも現実と同じであるならばわざわざ作り手に不満が向くことはなく、作り手側としては免責を受けることになる。　簡単に言えばこういうことである。十代の少年がアルバザードの社会を見たときに、夜出歩けないのは非常につまらない文化だと考える。一方新版の社会では青少年でもある程度の時間までは外に出ることができる。そのせいで当然旧版に比べて治安は悪くなる。不良に対して不快感を示す読者は当然いるだろうが、それは現実と変わらないため「ああ、どこでも悪い奴っているんだな」という程度にしか考えない。少なくともそれが現実と同じである限りは、夜間外出禁止令のように「わざわざそんな設定を作るなよ」と作者側に不満を感じることはない。現実と同じくそういうものだろうと考えるため、作り手側には免責となる。

作り手にとって何が良いのかというと別に決定的に良いわけではないのだが、旧版のような癖の強い社会であるがゆえに「社会の時点でこの小説を読みたくない」と思わせることがなくなるという点で助かる。　　●アルバザードが首位から転落しないワケ　　もしアルバザードを日本と同じように滅ぼせたいのなら、日本と同じシステムにしただろう。だがアルバザードは世界一の強国だ。しかもアメリカのような新参と違い、長年に渡って一位を維持してきた。　アルバザードが首位を維持できたのは学問や研究を疎かにせず、高尚なものに注力してきたからである。革命家の力が弱まるとすぐ人間の弱い心が易きに流れて低俗なものが流行るが、そのたび革命家が現れ、低俗＞高尚だった世の中を高尚＞低俗に戻してきた。　その結果アルバザードは高い技術力等を誇り、他国に対して常に優位な立場にいることができた。もし革命家が現れなければ、ローマ→フランス→イギリス→アメリカと首位が渡っていったように、アルバザードも一位から転落していたことだろう。　地球には魔導師の革命家がいないのでカルディアの革命はできないが、カルディアには魔法があるのでできる。だから地球の見方で「その革命はしくじる」と言うのは適切でない。　この国の革命は毎回世界を巻き込んで世界規模で世の中を変えるので、どの国にも「革命コスト」がかかるため、アルバザードの優位性は揺らがない。　また、アルバザードの技術を盗んで追いつくことはできても、きちんとした素地がないまま表面だけ盗んだ者に追い越すことはできない。

●ミロク革命はなぜ支持されないか　　セレンの周りでミロク革命に賛同するのは共同制作者のリディアしかいない。制作者以外に革命に賛同した者を見たことがない。メルも「お兄ちゃんがそう言うなら支持する」という条件付きだし、５歳の紫亞は無条件に洗脳されていて自発的な賛同ではないし、ほかの使徒やネットユーザーにいたっては賛同すらしていない。特に後者の中には明確に批判してくる者もいる始末である。　なぜこの腐りゆく日本などの先進国を改善するカンフル剤が称賛を浴びないのか不思議でならない。たいてい、やりもしないうちに「そんなのうまくいくわけない」だの、「その方法では変わらないか元に戻る」だのといった批判が来る。　セレンの父親の世代が若いころには理想に燃えて革命を口にしたものだそうだが、最近の若者はこの腐りゆく国で理想すら求めず諦めて思考停止しているように思える。やりもしないうちに否定したり、うまくいかない理由ばかり探している。巧くいかないなら力づくで巧くいかせればいいだろう――と若者らしく考えないのが不思議でならない。「最近の若者は本当に正義感も理想に燃える熱い心もなく、ネガティブで、『無理だ無理だ！』から入るペシミストばかりだな」とがっかりする。革命のような暴力的な解決策や独裁主義を何か根本的に悪いものと勘違いしていないか？彼らを見ていると独裁主義や社会主義と聞くだけで無条件に悪とか失敗とか決めつけているように見える。特段自分で体験したり熟考したわけでなく、学校やメディアに洗脳された通りに脊髄反射しているように見える。総じて苦労していない人間、苦汁をなめさせられたことのないぬるま湯生活の人間ほど、体制側につくものである。見ていると苦労知らずで現実で辛い思いをしたことのない浅薄な人間ほど、ミロク革命に賛同しない傾向がある。　持つ者が持たざる者を虐げ搾取する現代日本では、持たざる者は刃を以って持つ者を粛清すべきだ。そうした決起を各所で群発させることでしか、持つ者を脅かすことはできない。既得権益者が持たざる者の嘆きを聞いて既得権益を捨てると思うか？ねーよ。既得権益者どもは自分の身に危険が及ばない限り決して既得権益を離そうとはしない。暴力は悪いことだ？馬鹿を言うな。それは体制側が奴隷をこき使うための洗脳にすぎない。決起しなければ持つ者は持たざる者が死ぬまで搾取しつづけるではないか。持たざる者が決起して集団で持つ者を脅かさない限り、既得権益者は既得権益を捨てようとはしない。話し合いで既得権益者が既得権益を捨てると思うか？絶対ないね。もしそんなことが起こるなら、既得権益者が身の危険を感じたときだけだ。だから暴力、最低でも交渉に使うための暴力的背景は必要悪なのだ。そのことがなぜ今の日本人には分からない！？なぜミロク革命を支持しない！馬鹿なのか？体制側の都合のいい洗脳教育にいいように洗脳されて搾取されていることに慣れきった豚どもが。　特に若者が質悪い。この世代は選挙もしないし自分たちの国が滅ぶのが分かっていても勉強もしない。四当五落なんていう言葉はもはやこの世代には死語だ。この国の若者がすべきことは老害の排除と次世代の育成だ。このまま少子高齢化を維持していたら国は滅ぶ。老害の既得権益を引剥がし、安楽死センターを作って積極的に安楽死を導入して高額な福祉・医療費問題を解決し、若者に金と職を回し、同時に女は一部の有能な人間を除いて社会進出だなどと女のくせに生意気なことを言わずに黙って結婚して子を産み育てなければならない。そうしないと国が滅ぶのは明らかなのに、しようとしない。それどころかその解決策や革命の理想に賛同すらしない。本当に動くべきは若者なのに、その若者が動かない。　選挙は実はすべきでない。今のシステムだと老害に勝てないようにできているからだ。むしろすべきはテロだ。若者が数千万人単位で集まってテロを起こせば、いくら背景に国家があろうとテロは成功する。このままだらだらと国が滅ぶよりは、よほどテロを起こして一度この国を焦土と化しても不死鳥のように復活させたほうがよいのだ。腐った国は一度壊して作りなおさなければならない。今の日本は手を怪我した者が手を切断したくないと喚いた結果、化膿が腕にまで及んでいる状況だ。このままではいずれ膿は全身に至って腐り落ちる。それならいっそ強硬手段を取って痛い思いをしてでも改革をすべきなのだ。それがミロク革命なのだが、牙を抜かれた今の子供たち、そして牙なんぞとうに欠けた大人たちにはそれが分からないらしい。　思うに、ミロク革命というのは頭の良い人間で、体制側に反感を持ち、タカ派で、合理的で未来の再生のために目の前の痛みに耐える根性があり、子供のように純粋で、体制側の作った洗脳に惑わされず自分で考える力を持ち、熱い心を持った人間が少ないからだろう。多くの苦労知らずのお坊ちゃんは体制側だからこの腐った社会に疑問を抱かないし、虐げられている下の人間はこれだけ深く世の中について考えるだけの頭がない。セレンやリディアのように上層で頭が良いのに体制側に靡かないようなごく一部の人間しかミロク革命の良さが分からないのだろう。まったく嘆かわしいし、甚だ愚民どもの無理解が不快だ。　【用例】 hɪc, ej ɣəə lɪɒ uɪn ɒcɥɔʔczɒ jec. jelɪn ɒeɒcɥ ɪlɪı ɔɯen ɥcɑcı ɔ lcı lɪɒ ɒcɥɔʔczɒ jccnɪ ɔnʃ ɪlʃ ɔ elɑ. ɟə jcn ɪ. それにしてもなぜ誰もミロク革命に賛同しないのだろう。リディアや紫亞のように最も親しい人は賛同してくれるのだが、ほかは誰もしてくれない。

ɒcɥɔɟ　［動詞］ɣəl（神など）を崇める、崇める、信仰する、崇拝する　［類義語］lɥ,、ɔʔlɟ　［レベル］３　zφ;ɒcɥɔʔ/ɔ「神する」　ʃʔ　［語法］　宗教的な意味で信仰すること。

ɒcɥɔɑɯ　［料理］ノンカフェイン、ノンカフェ、デカフェ。ちなみにデカフェは厳密にはノンではない。　［レベル］３　ʃʃ

ɒcɥeſ　［形容詞］理論的な　［反意語］ɔɔneſ　［レベル］３　ʃʃ:ɒccɥ/ſe

ɒcɥeſɪɥſɑel　［魔法］理論魔法学　［レベル］５　ʃʃ　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɒcɥeſeʔ　［料理］ダージリンティー、ダージリン　［レベル］３　ʃʃL:pelcɑcı ɪlſe: クミールの紅茶　［語法］　メテから輸入される。ルティアやアルバザードで広く飲まれる。香りが強く、香料好きのクミールに愛飲されたため、この名がついた。

ɒcɥej　［名詞］言論　［レベル］４　ɥɑ;ɒcɥj/ɥenɟ　ʃʃʃ

ɒcɥejlɪnφ　［政治］［哲学］言論の自由　［レベル］４　ul;「言論の権利」　ʃʃʃ

ɒcɥen　［地学］ジルコン、風信子石　［レベル］５　ʃʃL:ɒcɑı/ɥen　［文化］　聖の魔石。また、名前が似ていることから、女性軍曹への昇格のプレゼントとして贈られる。　無色透明のものはノアを大量に重合できる。

ɒcɥec　［音楽］メロディー、メロディ　［レベル］２　ʃʃ:ɒcʔj/ɥecn（歌の流れ）

ɒcɥecɥecn　［音楽］メロディーライン　［レベル］４　ʃʃ

ɒcɥəl　［化学］フッ化物　ʃʃL

ɒcz　［植物］茎　［レベル］３　ʃʔ: 制 :ɒcnɪzɔdl

ɒczɪɥc　［人名］王女ミザリィ　［名詞］一日、日　［類義語］jel　［レベル］３　ʃʃ0;ɥcɑcı:lſ　［文化］　ɟɒ のルティア女王。一日のうちに規則的に４人の人格が入れ替わるという奇癖を持っていた。人格はそれぞれ ɑlɪuce(lclcı), ʼlɪlſce(ɥecɥə), lelce(lɪɒcı), lelce(lɪnlı) という名を持っていた。朝は４時から１０時で、朗らかなフラヴィエ。昼は１１時から１５時で、快活なカルティエ。夕方は１６時から１９時で、物憂げなレシエ。夜は２０時から４時で、物静かなシェリエ。　その現れ方が規則的だったため、ルティア人は一日の区分を彼女たちの名を使って表すようになり、その習慣はやがてアルバザードにも伝わった。　一日の区分をするのに ɑılcɒ, lelcɒ の２分法では大雑把すぎ、ɑɪɟ の６分法では細かすぎるという欠点がある。また、６分法はきっちり４時間ずつだが、主観的には朝昼夕夜の長さは異なる。生活リズムを考えるとこの４分法は使いやすい。

ɒczɔ　［地学］［動物］サンゴ、珊瑚　［レベル］４　lɪʔlı

ɒczɔʔlı　［地学］さんご礁、サンゴ礁、珊瑚礁　［レベル］５　ʃʃL

ɒczɔɑɔl　［地学］霰石　［レベル］６　ʃʃL

ɒcɔɪɟd　［被服］袖なし、袖無し、ノースリーブ、ノンスリーブ　［レベル］３　ɥɑ;/　ʃʃʃ

ɒcl　［格詞］なぜなら、なぜならば、なので。弱原因。　［レベル］１　ɥɑ;<ɒcl,lſ（なぜならば）　ʃʃL:pɪn　dcn:dcn:ɒcl　［語法］　基本的に女性語だが、後続する語句が節でなく語や句の場合、男性でも ɒcl を用いる。　【用例】 nɔn lıſ ɟı ɒcl ɱſe lənɪ̀ lcıl cɒ ſɔlel. 昨日は嵐が街に来たので家にいた。　ɪn lıſ ɟı ɒcl ejl. 雨だったので家にいた。

ɒcl(ʃ)　［名詞］刹那　［名詞］−− 記号、ダッシュ記号、−−、ダッシュ。静寂や間を示す。　［類義語］ɑɔnc　［レベル］２　古 :ɒcl（刹那）← ɒclɟɪıs（刹那の虚無）　［成句］　lc ɒcl 一瞬で　【用例】 cɒ ɒcl ɑel leeucʔ ıl ıſɔlıɟ アトラスに帰る刹那

ɒclſ　［格詞］～すればするほど　［レベル］２　ʃʔ: 制 :ɒcleſſ（踊りあがる）　【用例】 ɒclſ ɟıſſ 年々　ɪn jccnɪ eɒ lı ɒclſ ɪlſ. 会う度に彼女のことが好きになる。

ɒclſɑıcφ　［経済］累進課税　［レベル］５　ɱſ;/「（金を稼げば稼ぐほど払う）税金」　ʃʔ

ɒclſɪʔ　［生物］天宗　［レベル］６　ʃʃ:「腕のせいで（胃が痛い）」の意味。ＰＣなどをやって腕を前に出し続けるとここが凝って膏肓や隔兪にまで至り、胃痛になる。

ɒcleſe　［形容詞］形式的でない、ざっくばらんな、インフォーマルな、柔らかい　［反意語］hɔnſ　［レベル］３　ʃʃ0:hɔɔɒc/ſe（柔らかな）

ɒclʔ　［料理］ココア　［レベル］２　lɪʔlɪ:「ミルフの好きな飲み物 」

ɒclʔɔ,ɟzl　lɪn、ɟəl、ɣəlceſ　<>　ɒɥəlʔɔɪ

ɒcll　［名詞］叶わない願い　［動詞］ɣəl（かなわないこと）を願う、願う、希望する、～だったらいいのにな　［法副詞］～したかった、～したいのに、～したいのにできない、～だったらいいのにな　［副詞］～しておきたい、～しておきたかった　［レベル］２　ʃʔ: 制 : ɒ :ɒcld ← ɒɥəlɪıd「無い願い」　［成句］　ɒcll ɑısnɪ お世話になります　【用例】 nɔn ɒcll nɪn ɟɟſ jen ɣən ɥcɑcı ləſcı nɟı. リディア＝ルティアみたいに魔法が使えればいいのに。　ɪn ſclſ ɒcllel ſcɪn cɒ ʼlıcɪn. 大学生のうちに彼女を作ればよかった。　nɔn ɒcll ʼeɟſ ſcɟ lənɪ elɑ. 明日になんてならなければいいのに。

ɒclle　［魔法］ミルシェ、体力　［レベル］５　ʃʃ0: 古 ɒıcn/ɪlle（体に関するもので、どんどんなくなっていくもの）　［語法］　enuelen

ɒclɟlıl　［電算］フレーム、コマ　［芸術］コマ→ ſeɒɟ　［レベル］５　ʃʃ0: 刹那の場面　［語法］　アニメーションなどのフレームのこと。マンガのコマの場合は ſeɒɟ ともいう。

ɒclɟııs　［名詞］ミルサージュ、刹那の虚無　［名詞］グレゴリオ歴における、存在しない３１日と３０日のこと。例えば１１月には３１日がないので、３１日がミルサージュに当たる。２月は１９，３０，３１が当たる。グレゴリオの場合、３１なはずなのにこの月は３１日がないという感覚で捉えられ。ない日に焦点が当たってミルサージュと呼ばれるため、欠如詞として使われる。　［レベル］５　古　［文化］　メルの誕生日が１１月３０日生まれだか１２月１日生まれだか分からないことから、その狭間の零時に生まれたと考えられた。その狭間のことを１１月３１日と便宜上呼んでおり、小説版アンクノットでもメルの誕生日は１１/３１で記載されていたと思う。そのどちらの日付でもない瞬間をミルサージュと呼んだ。ただ、便宜上メルは１１月生まれとなり、現在のメル歴が確立するに至る。

ɒclɑ　［組み数字］１１/２８　［交通］ミルフ通り　［名詞］ミルフ組。アルナ大のクラス。　［レベル］２　ʃʃ

ɒclɑ(ʃ)　［芸術］芸術、美術、工芸、アート　［レベル］３　ʃʔ: 制 :ɒclɑ。芸術全般が必ずしも得意というわけではないが、アシェットでは際立って芸術の才があるため。元々彼女の名は「妖精（ｆａｉｒｙ）」という意味の語に使うつもりだったが、本人から直接「それは誉めすぎ。恥ずかしいので辞退します」と却下された。　ɒɪleɪ:ɒɪleɪ:lı ɒɪleɪ:ɒɪleɪ,lſ

ɒclɑ ˩hɔɔj ɒɔnnɪ elʃɔɪ ［人名］ミルフ＝クノース＝モンナ＝エルトア ［組み数字］１１/２８ ［レベル］２ ミルフは語源不詳。古アルカでの意味は「妖精」。ɒc（女）/lɑ（軽やかな、靴を脱ぐ、身軽な）。lɑ は妖精の動きを示すときに使われる。ɒclɑ はメトニミーとして「妖精」の意を持つ。クノースは「質問」の意味で、ᚦ年ごろにの使徒の半数ほどで冠した名。彼女のアルカの喋り方が肯定文でも疑問文調だったことが理由。モンナはᚦ年に自ら名乗りだしたが語源不詳。その後セレンのウォンバスのキャラ名となる。エルトアは『カコ』から。 ［文化］ ミルフ＝クノース＝モンナ＝エルトア（ɾcɑ. L|ɑə||ɒcʃ → ）第４期４代アルシェ第１１使徒。女性。ɒclɔɪ。 １５８ｃｍ、４５ｋｇ。髪は黄色で肩より少し長く、猫っ毛。よくツインテールにしている。青の瞳。肌は白：黄＝８：２。 ・『ミールの書』より 彼女の声はどちらかというと高く、透通るような声だ。また、彼女の声を聞いているとゆりかごに揺られているような不思議な気持ちになる。彼女の声ははっきりとした発音を紡ぐことはなく、むしろどの音ともつかない曖昧で揺らいでいるものだ。にもかかわらずそれがくぐもったり濁ったりすることはなく、甚だミールは幻想的な気分に浸された。 しかし、彼女の幻想的な声とは裏腹に、どこからともなく流れてくる笛の音は高く短くはっきりとした軽快な音であり、小気味良く１音１音を曲に合わせて紡いでいた。笛の音はその軽快さとは裏腹にどことなく冷たさを感じ、ミールの心の奥底に眠っている恐怖心を煽りたてた。そのせいか、自然と彼女の歌う歌詞が聞き取れてしまう。彼女はこう歌っていた。 ［成句］ ɒclɑ ˩ien ɒɔlʃ ベッドの中のミルフ：まな板の鯉 ɒclɑ ɪjelɪn ləʃ ɒclɑ ɒcɔl にこにこミクちゃんはいつも上機嫌：笑う門には福来る

ɒclɑ˩ɪ ［芸術］美術館、博物館、ミュージアム ［レベル］３ ˥˩˥: 制：美術の場所 ［文化］ 人気のある娯楽スポット。最大はアルナのランスケルン美術館で、ルーブルとオルセーを足した規模に相等する。有料で、撮影は禁止。飲食も禁止。作品には触れられない。騒いではいけないが、ふつうに会話をする程度なら問題ない。

ɒclɑjeɒɟ ［名詞］芸術科、アートクラス、芸術クラス ［レベル］５ ˩˥

ɒclɑjel ［歳時記］文化の日、芸術の日 ［レベル］３ ˩˥ ［文化］ ɒcl˩ ɒcl˩ の休日。学校では文化部の展示会がある。街では劇団やサーカスの公演が盛ん。ランスケルンが無料開放される。公園等の絵描きも依頼が増える。経済効果はそこそこ。

ɒclɑɑel ［名詞］芸術学 ［レベル］３ ɱɑ;/ ˩˥

ɒclɑlccɑɪ ［天文］アークトゥルス、アークトゥールス、アルクトゥールス ［レベル］６ ˥L:ɱcɑ cɪ/jeɱen/ɒel ［文化］ セルメルやカコに観測されたデータと異なった位置に存在することから、不思議がったリュウが「ミルフ嬢のように踊る星のようです」と言ったことから、この名がついたという伝説。

ɒclɑlenɟ ［筐堺］ミルフレンス ［レベル］５ ɱɑ;eɒccl/ɑlenɟ ˩˩ ［文化］ 筐堺司：ɒclɑ. elʃɔɪ 筐堺国：elʃɔɪ, ɪɱɑɪ

ɒclɑɪ ［地球の国名］ドイツ ［レベル］４ ˥˩˥: 制：古：「ミクのもの ɒclɑɪl」が語源。即ち「ミクの国」という意味。

ɒclɑɪn ［名詞］芸術家 ［レベル］３ ɱɑ;/ ˩˩˥

ɒclɑɪɱeɑɕɪ ［ユマナ］ピラティス ［レベル］５ ˩0: ドイツ生まれのレフィア

ɒclɑelɑ ［言語］芸術言語、演出型 ［レベル］６ ˥L ［語法］ 芸術用途の人工言語。芸術とは絵画だけでなく文芸も含む。アルカ、エルフ語、クリンゴン語。

ɒclɒ ［音楽］［運動］ダンス、舞い、踊り、たなびく ［動詞］ɣəl（内容や演目）を踊る、踊る、おどる ˥˩˥: 制：古：ɒclee（舞う） ɒclee: ［用例］ ɪn cnɪʃ ɒcnʃ ɔɱ ɒclɒ ˩ɪ sɪn ɒcl ʃeeze. 花が風に吹かれて舞うのを見た。

ɒclɒnɔɪ ［美容］ふわふわの髪型。ソバージュほどチリチリしていない、リーザのような髪型。 ［レベル］３ ˥L ［文化］ アルカで美人とされるのは、黒髪のストレート（フルミネア、クミール）と、金髪のふわふわ（リーザ）。

ɒclɒsc ［文字］踊る指 ɱɑ;/ ˩˩ ［文化］ cnʃhɪɾd

ɒclɑɪ ［人名］ミルダ＝ルティア、ミルダ、ミルダ王妃 ［レベル］５ 古 ［文化］ ɱɑ の王妃。リュシオン王の妻。リーザの母親。

ɒclɸɪl ［格詞］～のせいで ［類義語］ɒɪn ［反意語］˩ɔlʃeʃ ［レベル］２ ˩0:dɔneɪnɪ:ɒcl ɸɪɪl e～（～の害により）が文法化したもの。アクセントは規則どおり ɸɪɪl に置かれる。 ［用例］ ɪn ʃclɪʃ ɟɔɑɪ ɒclɸɪɪl ɪɒɔ pəəə. 暴走車のせいで事故に遭った。

ɒclhɪ ［人名］ミルハ ls ˩˩ ［文化］ 二人目は ɒclhɪ。11 歳。魔族ディーレスと精霊のハーフだ。猫耳を持って生まれたせいで虐められてきた。魔族なのに気弱で泣き虫で怖がりな子だ。 しかしミルハのポテンシャルは強力なので、過度の恐怖を感じると無意識に周りのものを魔力で粉砕してしまう癖がある。 耳に極度のコンプレックスがあるため、常に帽子をかぶっている。頭に手が触れそうになると恐がる。撫でようとしても嫌がる。

ɒclɪ ［形容詞］高貴な、地位の高い、身分の高い、階級が高い、家柄が良い、高級な、由緒ある ［反意語］nɪɱc ［レベル］３ ɟɔɱn ［文化］ 高貴な色は紫。かつて紫の染料が高価だったため。

ɒclɪʃ ［名詞］高貴さ、身分 ［レベル］３ ˥L

ɒclɪɟ ［歴史］オーパーツ ［レベル］４ ˥L:ɒcɱɔ˩/lɪɟ（神の手）

ɒclɪn ［政治］貴族 ［反意語］˩lɪn、leeɒ ［レベル］３ ˥L:ɒelcɑɕɪ ɪʃfe:ɒclɪ ［語法］ 呼称可。その場合は前置が自然。 ［文化］ ɱɑ まで存在したが、ランティスが解体。その後、裕福な層を漠然と指すようになった。 ［用例］ ɒclɪn ʃ'ɪuelɪnʃ 死神貴族。フレメルテ、シューゼ、ヴェルギナ、アルハイクの４派がある。

ɒclɪnʃɕɪ ［名詞］お嬢様 ［レベル］３ ˩˥ ［語法］ 慇懃無礼になることも。意味そのままな場合も。使いどころが難しい。

ɒclɪnʃɔn˩ ［政治］貴族 ［レベル］３ ˥L ［文化］ カコ～シルク・アルミまでの身分の１つ。途中 ɱɑ で一度廃止されている。シルク・アルミ以降は、漠然と裕福で家柄の良い人間を指すようになる。

ɒclɪn˩ɔ˩lɒ ［政治］貴族制 ［レベル］４ ˥L

ɒclɪb ［名詞］無職 ［類義語］clɪnɕɪn ［反意語］˩lɪlb ［レベル］３ ˩˩

ɒclɪɪl ［名詞］母なし ［反意語］ɒc˩ɪɪn ［レベル］３ ɱɑ;/ ˩˩˥

ɒclɪɪlɱɪ ［名詞］父子家庭 ［反意語］ɒc˩ɪɪnɱɪ ［レベル］３ ɱɑ;/ ˩˩˥

ɒclɕɪ ［名詞］ミリア。女性のリースのうち、明るく可愛いほう。 ［名詞］お嬢ちゃん。呼びかけにも。 ［音楽］ソプラノ ［婉曲］女性器 ［レベル］２ ˩˥:ɒccɱ:ɒccl（リボン） ˩˥ または ɣənɪɕ 古：ɣən˩ ［文化］ 典型的には内向的で可愛い女性を指す。例えばリディアのようなタイプはミリア。 呼び掛けにも使えるが、ユンクのほうがミリアより女性らしいと考えられているので、あまり知らない女性に呼びかけるときは ɣən˩ を使うのが無難。ある程度知っていても ɣən˩ と呼んだほうがお世辞として当たり障りない。相手が ɒclɕɪ な子供の場合、ɒclɕɪ と呼びかけるのが自然。ɣən˩ と呼ぶと大人扱いしているように聞こえる。

ɒcle ［植物］綿、綿花、わた、ワタ、コットン ［レベル］３ ˥9: 制：古 ［成句］ ɑcɔ ɒcle 耐える、歯を食いしばる：アユの魔法がなく、麻酔の技術もない状況で手術をしなければならない場合、患者に綿を噛ませて食いしばらせたことから。 ［用例］ ɪn ɑcɔʃ ʃeel ɒcle. 歯をくいしばって耐えねばならなかった。

ɒcleʃ ［エルト］ミレット ［レベル］３ 古 ［文化］ エルフレインの姉妹のうち、妹のほう。ルフェルの腹心。

ɒcleʃ,ɟzɑ ˩eɟɱn, ɒcleel ɒcleel

ɒclelɕɪ ［料理］綿菓子 ［類義語］ɑlənɣeʃ ［レベル］２ ˥9: 制：綿の菓子

ɒclen ［軍事］軍曹、ミレン ［組み数字］１６/２０ ［レベル］３ ˥L:ɱcɑɕɪ:ɒclee から。「舞うように戦う」 ［語法］［文化］ ˩ɪnɪ

ɒclen(J) ［接続詞］ɒcl ［レベル］３ ˩˥

ɒclenc ［名詞］綿毛 ［レベル］４ ˩˥:ɒcle/cnc

ɒcleɒzcɱ ［宗教］神魔混合、ミレムジール ［ユマナ］シンクレティズム、神仏混淆 ［アクセント］ɒcl eɒzɛɱ ［レベル］５ ˩0:ɒcɱɔ˩/eɒɪlzcɱ ［文化］ ɣəəɒɪ ˥9˥˥˥ アゼリアの進言を受けてランジェは神魔混合（ミレムジール）を行い、ɪɱ/clɕɪ と cj˩ɪnʃe を ɪɱcj˩ɪnʃe 教に統合。旧宗教のうち統合反対派から激しい反対を受ける

ɒcleɱ ［名詞］王子、プリンス ［類義語］ɪɱɑcʃ、˩ɔhɪ˩ə ［反意語］neeɒe ［アクセント］ɒclɛɱ ［レベル］３ ˩0:ɒcl˩/eɱc（高貴な血） ［語法］ 王位継承２位以下の男児。

ɒclezɔn ［医療］綿棒 ［レベル］２ ɱɑ;/ ˩˩˥

ɒclec ［代詞］［bín］jec ［レベル］２ ˩˩:˩ɒccɱ/ɱcɑɕɪ

ɒclec(J) ［名詞］鈴 ［類義語］ʃlcn ［レベル］３ ɱɑ;<ɪɱɑɪ ˩˥

ɒcleɔɒ ［動物］プードル ［レベル］５ ˩1:ɒcle/ɔɒɪ

ɒclee,ɑ ɒclɒ ɟɪɪl;eɸ

ɒcleejd ［気象］積雲、綿雲 ［レベル］５ ˥L

ɒcleen ［美容］ポンパドール ɟɒ;ɒclees/nɕɪ「舞い上がるように上に持ち上げる髪」 ˩˩˥ ［文化］ ɟɒ でできた。貴族の女性用。

ɒcleeu ［感動詞］［ɟenʃe］さぁ、どうぞ。leeu より丁寧。 ［レベル］２ ˥L:lcɔn

ɒcleeuɪn ［感動詞］行ってらっしゃいませ ［レベル］３ ˥L: 古 ɒc/leeu ɪn（私のところを去られました） ［用例］ ɒcleeuɪn, hɪɾd˩ɪʃ 行ってらっしゃいませ、ご主人様。（メイドなので ɾd は震え音でなく弾き音を使うように）

ɒcleeɑ ［感動詞］［ɟenʃe］ごめんなさい。ʃeeyə より丁寧。 ［レベル］３ ˥9:ɟɔɟn ［語法］ もともと leeɑ というのがあってその丁寧版だったが、leeɑ が ʃeeyə に変わってしまったという経緯がある。ɒcleeɑ は既に使われていたので変更されなかった。

ɒcleeyə ［植物］jeɟɔn ［組み数字］５/９ ［レベル］４ ɟzl;ɒclee,ɑ.˩ ˩˥ ［成句］ ɒcleeyə ʃcl ncɒ enɪ ɪ ˩ɔzəe 桜 ɒcleeyə ʃcl ncɒ enɪ ɪ ˩ɔzəe ルティアの桜と凪の桜は色が違う：所変われば品変わる ［用例］ ɒcleeyə lelce 夜桜 len ɒcleeyə lelce eʃ lɪnʃ ɪ. やはり夜桜は美しいな。

ɒcleeyə(J) ［建築］ミレーユ棟、桜棟 ˩˥ ［文化］ アルナ大西五号館の通称。校舎の周りに桜並木がある。

ɒclees ［言語］ミレージュ、急上昇調 ［経済］インフレーション、インフレ ［動詞］ɣəl を ɪ に舞い上がらせる、急上昇する、舞い上がる、舞い上がらせる、舞い上げる ［類義語］ɪɸel ［アクセント］ɒ€lees、ɒclEes ［レベル］２ ɑu;ɒclee/scnɪ「空に踊る」 制？ ɒclees:ɒclees

ɒcleel ［生物］羽 ［被服］フェザー ［類義語］［レベル］２ ˩eɟn ɑ:ɟɪɪl;ɒclee/ɪl ˩0: 古 ɒclee/l（舞うもの） ɒcleel:ɒcleel:lə ɒcleʃ ［語法］ 一本一本の羽のこと。集まると翼（˩eɟn）になる。

ɒcleelucɒ ［生物］大腰筋、腸腰筋 ［レベル］５ ˩˩˥<˩˩: 羽根のような形をしていることから。

ɒcle,ɪlʃ ɒcɟə, eɒ <>ɒcɟə

ɒclənɪn ［感動詞］お帰りなさいませ ［レベル］３ ɱɑ;/ ˥L:ɒc/lənɪ/ɪn（私のところに来られました）

ɒclə˩ ［丁寧］あなた様、あなたさま、お嬢様、奥様 ［レベル］２ ˩˥

ɒcɪ ［文末純詞］～ですか？ ［レベル］１ ˥9: 制 nɔ:nɔ::ne,ɪlʃ ［語法］ あまり ej などの疑問詞とともには使わない。 ［用例］ ʃə eʃ ɒccɪ ɒcɪɸ これはりんごですか？

ɒcɪʃ ［単位］１０の３０乗 ˩˥:ɒcɪneʃ

ɒcɪl ［料理］デリ、デリカテッセン、調整食品 ［レベル］４ ˥1: 制：ɔɒcɪ/lɔn（珍しい食べ物）

ɒcɪn ［ɟenʃe］ɒcɪ。～か？ ［レベル］１ ˥L:ɒcɪ nɔn:nɔn

ɒcɪn(J) ［遊女］［代詞］nɔn ［レベル］４ ˩1:ɒɟɪ ［用例］ ɒcɪn ɪn ˩ɔ˩c ʃɟə ʃcl ɟɪnɜ˩ʃʃɪ ɟɪnnɪ. わっちゃにゃよう分かりんせん。 ˩ɔl ɒcɪnɸ ɒccɪ eɟʃ ʃe hɔ˩ɔ ʃclle. わっちかや？わっちの名はホロじゃ（『狼と香辛料』賢狼ホロ）

ɒcɪn(?) ［経済］ルティアの通貨 ［レベル］３ ˩˩

ɒcɪnʃeɔ ［感動詞］申し訳ございません、申し訳ございませんでした ［レベル］３ ɱɑ;/ ˩˩˥ ［語法］ uɪnʃ

ɒcɪneʃ ［歳時記］大暑 ［名詞］１２時 ［組み数字］１２／２４ ［レベル］３ ˩0: → ɪnlcɪn ［文化］ ɪnlc ɪn

ɒcɪucl ［名詞］［形容詞］異常なし、異状なし ［レベル］４ ɱɑ;/ ˩˩˥ ［成句］ ɒcɪucl eʃ ˩ɪɪucl ɪ˥ɪ. 異状なしが一番異状あり：機能性胃腸症など、症状があるのに「異状なし」と医者に言われると患者は極めて不安になる。「痛いから来てるのに異状なしとかふざけてる。痛いから来てんだよこっちは」と考える。要するに医者が分類できず対処できずお手上げというわけだ。それを異状なしと嘯いてごまかしている。結果、患者は「異状なし」と言われることが一番異状ありに聞こえる――という意味の諺。現代医療の無力さと不勉強さを揶揄した、医療の限界を意味する諺。

ɒcɪsɪ ［数学］無理数、無比数 ［レベル］４ ˥L

ɒcc ［擬声］みぃ、みー。ネコの鳴き声 ［文末純詞］リディアが使いだしたおんなのこ用の純詞。 ［レベル］２ ˥Δ

ɒccl ［植物］リンゴ、林檎、アップル、りんご ［ユマナ］［電算］マッキントッシュ、マック ɱɑ;ɒ ccɱuɪnl ［レベル］１ ˥?: 制：ɒccɱuɪnl ミールの果物（『ミールの書』で代表的だった果物がリンゴ） heɱen,ɾlu:heɱen:lə 'ɔɱeʃʃ（ルティアではリンゴは緑のイメージで、青系は男） ［語法］ アルカではリンゴの色というと赤であり、青や緑ではない。 ［文化］ heɱen,ɾlu ［成句］ ［言葉遊び］ ɒccl ɸej ɸej ɒccl. 腐ったリンゴがリンゴを腐らせる：悪貨は良貨を駆逐する。反対から単語を読んでも同じになる鏡像構造を持つ成句で、言葉遊びにもなっている。

ɒccluelɑ ［料理］林檎酒、りんご酒、リンゴ酒、シードル、サイダー ［レベル］５ ɱɑ ˩˩ ［文化］ サイダーといっても炭酸飲料のサイダーではない。林檎酒のこと。炭酸飲料のサイダーは ɪlɒccl。

ɒccɔbəe ［料理］リンゴ酢 ［レベル］４ ˥1: 制

ɒccɔɸɔ˩ ［料理］エダム ˥1: 制

ɒccɔdɪɑ ［化学］酢酸エチル（通称） ［レベル］５ ˥L

ɒccɔ ［丁寧］［動物］猫 ［類義語］ɔeʃ、ənc ［レベル］２ ˩0:ɒcc（泣き声）/lɪnɔ（男の子→子供。ここでは単に指小辞として働く）

ɒccɔ˩jel ［歳時記］猫の日、ペットの日 ［レベル］３ ˩1:ɒcɑɕɪ ［文化］ ɱɑ でリディアが制定。dɪl lcn。元は猫を愛玩した日。現代ではペットの日として機能し、ペットビジネス関連企業が潤う。 現実にはリディアが制定した猫の日。ほかの祭日との日取りの兼ね合いで、セレンの飼い猫ノエルが家に来た日が選ばれた。

ɒccl ［気象］蜃気楼 ［レベル］３ ˥?: 制：古：ɒyəcl˩

ɒccn ［形容詞］～のやつめ ［レベル］２ ˥˥: 制：古：eɒcc（野卑のエクスプローダー） ［語法］ 卑称の１つ。指小辞が付いている分、eɒc より意味が弱い。ちょっとムカッと来た相手に使える。本気で怒っていない場合にしか使えないので、使うことによって却って相手に「怒ってはないよ」という意思を表わすことができる。

ɒccɲɟ ［名前］ミーニャ zɪnɪ: 柔らかな女の子という原義。リディアの妹のミリアがイメージらしい。 ［文化］ ザナの飼い猫。白で少し茶色の模様がある雌。橋の上で泣いているのを助けたが、ザナはバランスを崩し、端から転落。川に落ちて足を怪我した。猫は無事だった。

ɒccnɪ ［エルト］ミーナ。花を司る ［植物］花、草花 ［名詞］乙女（lɪz, ɒɪnɪ の総称） ［婉曲］女性器。 ［類義語］lccbe、ɟɪ˩ɪnɪ ［レベル］２ ɟɪɪl;ɒcn/nɪ ˥? ɑɪu 頃 :ɒel: 赤 :ɒccnɪ（花）。「女の心」が原義。メル暦の制定に伴って起こった神話派の反対を抑えるために作られた。 ɒccnɪ:ɒccnɪ:lɪ ɑlɪnɜ（樹花が男性で草花が女性）:ɟɪnɪ,ɪlʃ ［語法］ 狭義の ɒccnɪ は草花を指す。木に生える花は lccbe という。ただし広義の ɒccnɪ は草花も樹花も両方指す。従って ɒccnɪ のほうが意味が広い。 現実には古までは ɒccnɪ と lccbe は対等な関係で、ɒccnɪ のほうが広いということはなかった。制で lccbe は忘れ去られ、新生で ˩˩ まで放置されていた。 アルバザードでは ɟɪ まで ɒccnɪ と lccbe は対等だったが、ɪ に入って ɒccnɪ に広義の用法ができた。 ［文化］ → ɟɔɑ˩ɪn メルは創世記では全ての花が季節に関係なく咲くことから、世界の中心を考えなくても良いと説明した。創世記は全ての花が一年中仲良く咲いていたが、花を司るエルトのミーナが花々を分断してしまった。 ［用例］ ɪn ʃeɟ˩ɪʃ ˩ɪdʃe ɪɪnɪ cn ɒccnɪ. 花を見にカルテに出かけた。 ɔl eɟʃ ɒccnɪ ˩ənɪ ɪʃɔ˩ɪɟ, ʃə ɑcɪ eɒ ˩ɔb ˩ɔn ɒccnɪ. ミーナ神がやってくると、世界中が花で覆われる。 ɪn cnɪʃ ˩e ɒccnɪ ɔ˩ ˩cʃe. 家族で花見に行った。 ɒccnɪ eɒ ɒeʃ. 花が散る。

ɒccnɪ(J) ［人名］ミーナ ˥Δ ［文化］『夢織』の登場人物。アルナ大１１組で、アリスの友人。髪は金髪のエアウェーブ。バンド「フィーナ」のベースを担当する。バンマス。

ɒccnɪ˩ɪ ［植物］［建築］花壇 ［レベル］３ ˥L

ɒccnɪɟcə ［植物］花束、ブーケ ［レベル］３ ˩0: 制：花の束

ɒccnɪuɪ˩ɪ ［農耕］花畑 ［レベル］３ ˩˩

ɒccnɪuɪel ［植物］花瓶 ［レベル］３ ˩0: 制：花の瓶

ɒccnɪɒclees ［歳時記］花祭り、ミーナミレージュ ［レベル］３ ˩1:ɒcɑɕɪ ［文化］ 春に咲く花々を集め、町中を花で彩る日。ɑəl ɒcɱ。植物園が無料開放となり、町中で花びらが舞う。

ɒccnɪɒccnɪ ［俗語］キス、ミーナミーナ ［レベル］４ ɟɒ;「花合わせ」。花と花をくっつけるという意味から。女性を花に見立てている。 ˩?:˩lccz ［語法］ 女同士のキスのこと。百合（ɑcɪncj）などと関連付けられることもある。一般にいやらしいイメージより綺麗なイメージを持たれる。 広義にはペッティングも含まれる。 ［用例］ ˩ɪɪj ɪɱɪʃ ɒccnɪɒccnɪ ɔn ɒɪcn. 彼女たちは

D

互いを愛撫しあった：ɔn ɒɪcn とあるので広義で使われている。

ɒccnɪɥɛnɪ̀ ［婉曲］売春、売春婦 ［類義語］ɒenʃe、ɒenʃeɟ ［レベル］4 μɑ;/「花売り少女」 ɟ̀ ［語法］ ɒenʃe や ɒenʃeɟ の婉曲語。

ɒccnɪɥɛnɟ ［言語］花言葉 ［類義語］ɥɑnɪʃɛɒɪlc ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlɛlʃ ［文化］ 木にもある。木の場合は枝を贈る。本辞典では ［花言葉］ で検索可能。

ɒccnɪ lɛlɕɪ ［人名］ミーナ＝リシア ɟ̀ ［文化］ アリス＝リシアの母親。

ɒccnc ［名詞］無毛、パイパン、かわらけ、土器 ［形容詞］無毛な、パイパンな ［レベル］5 μɑ;/ ɟ̀ɲ

ɒccɑɪ ［人名］みーふぁ 1L6 ［文化］『ねこにっき』の登場人物。サンベル市出身。

ɒccɑɪ ɥɛʃcɪ ［人名］ミーファ＝ユティア ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:clɒəɟ ←制 :ɒcuɪ: ミヴァだと娘の意味になってしまうため、音を変えた。 ［文化］ (ʔΔΔ_) 転生期のアステル。アルテナ＝ユティアがミロク＝ユティアの保存していた精子を用いて人工授精して出産した子供。アルバザード最後のアステル。１６０ｃｍの４７ｋｇと、やや小柄。茶色の髪に、青と緑のオッドアイ。ただしミーファは右が緑。

ɒccɒ ［名詞］節度 ［レベル］3 1L:clɒəj:μcɑcɪ:ʔɒccμ/ɒɪcn

ɒccμ ［論理］論、論理 ［名詞］理屈、理窟、りくつ、筋道、道理、ロジック、セオリー ［レベル］2 ɑu;e 赤 ［文化］ ・論理と感情 アルバザード人は論理と感情を明確に分ける。アルバザード人と議論をすると、すんなり彼らがこちらの言い分を聞くので驚くと思われる。しかしそれは論理的に納得しただけであり、感情的にそうとは限らない。従って、こちらが「じゃあそうしてくれるね？賛成だね？」と聞くと、平気で「いえ、論理的には正しいようですが、僕の正義には合いません」といって断ってくる。 これに怒るとアルバザード人は「行動を起こさせたかったんですか？議論したいのだと思っていました」と答える。アルバザード人は議論は客観的に何が正しいか相談する行為と捉えているが、同時に人間は理に適ったものをしなければならないわけではないとも考えている。あくまで感情を尊重する。逆に、理屈が合わなくても感情が動けばアルバザード人は動く。 従って、アルバザード人を説得したい際はまず感情で押す。議論は二の次である。彼らは人情深いため、共感してしまえば理屈に合わなくても協力してくれる。 もちろん理屈を軽んじるという意味ではない。むしろ ɪlɒɪ と日常的に言う彼らは論理性を尊ぶ傾向にある。理に適っていることなら優先的に行い従うという価値観は持っている。しかし、仕事を離れると感情を行動原理とする割合が増えてくる。 ・論理展開の流れ 日本人は「序文→例示→結論」で理論を展開するが、アルバザード人は「結論→論拠→再結論」という流れで理論展開する。ɑlɪn ɑcɟʃ の用例などにネイティブの実例を見ることができる。 ［成句］ cʎl ɒccμ 論理的に行動する、論理を立てる、論理だって行動する ʔɔnʃ bɪɟ ɒccμ 問答無用 ［用例］ lɪɑ ɒccμ 理論を立てる

ɒccμ(ɟ) ［人名］ミール ［レベル］2 古：jeμen(1ɟ):lec e ɒccμ:ɒccμ（論理） ［文化］ → eʃèʔ e ɒccμ 『ミールの書』の主人公。１２歳の少女。セルフィッシュガーデンという場所に入り込み、そこで論議学という学問を学ぶ。

ɒccμ(ʔ) ［工学］ミール、人工知能ミール ［レベル］4 ls:ɒel;μɑ で書かれた lec e ɒccμ の主人公 ɒccμ から。 ɟ̀ɲ ［文化］ メルが作った人工知能。人口の多い国で直接民主制を可能にする目的で作られた。直接民主制のメリットは国民全員の意見を直接反映できる点である。ミロク亡き後の脆弱なユティア朝で事実上採用されていた間接民主制では政治家が民意をしばしば無視することがあり、セレンは民意をどうにか反映させられないかと考えた。 ２０１２年現在の日本でも同じ問題があり、例えば消費税増税反対が世論調査で過半数を超えていようと、与野党のほとんどが賛成している状態で、民意を無視して消費税増税が可決されてしまった。また、民主党政権によるマニフェスト破りが横行したのも、できもしない都合の良い事を並べ立てて国民を騙し、選挙で政権を獲得したためで、これもまた間接民主制の弊害である。国民一人ひとりが政治に参加できる直接民主制なら今述べたような問題は起きなかった。 ls のメルは小学生の頃に人工知能ミールを着想し、高校時代から開発を始めた。ミールはインターネット経由で民意を集計し、世論を形成する人工知能である。国民は官僚（革命後は官僚はアドバイザーとして機能している）やマスコミやネットなどの情報源を基にネットを通じて法案を作成したり法案賛成の署名活動をしたりする。そのデータをミールは集計・処理し、市・県・州の地方自治体単位ないし国家単位でそれぞれ世論を形成する。 ミールは形成した世論をレスティミールに提出する。ミールが運用されたとき、メルはアヴァンシアン所属だったため、ミールとレスティミールはアヴァンシアン内にある。ハッキングを防ぐためレスティミールは外部と接触させていないため、ミールで形成したデータは外部記憶容量に記録され、アヴァンシアンの技術部による人的作業でレスティミールに提供される。 以下の作業は lejʃcɒcμ を参照すること。

ɒccμɑel ［論理］論理学 ［レベル］5 μɑ;/ ɟ̀ɲ ［文化］ → lec e ɒccμ, ɒcμɟɑel

ɒccμɥɪɟ ［形容詞］［ネガティブ］（ɒccμɥɪɟɪn で）理屈っぽい ［動詞］［ネガティブ］ɥɛl という内容の論理を振りかざす、論理を振りかざす ［レベル］4 μɑ;/ ɟ̀ ［文化］ もともとアルバザード人は論理的に喋るのが良いこととされているため、日本ほど「理屈っぽい＝悪い」というイメージはない。ɒccμɥɪɟɪn はあまりに非常識的なほど過論理な場合や、逆に自分が論理的でなく相手に負け惜しみで言う場合に使う。 一般的に女のほうが感情の生き物なので、論理で整然と押し通してくる男は生理的に受け付けないことがあり、「あの人は理屈っぽいから嫌だ」などということがあるが、たいていそういう女は頭の弱い馬鹿女であることが多い。よってこの言葉は底辺や女ほどよく使うイメージがあり、使えば相手を罵ることができる反面、自分が馬鹿でございますと自己紹介するようなもので、諸刃の剣である。

ɒccl ［被服］リボン ［レベル］2 古：舞うものが原義 ［用例］ ɑɔʃ ɒccl リボンを結く

ɒccl ɥɪlzɪ ［人名］ミール＝ヴァルザ 1L:clɒəj:μcɑcɪ ［文化］ レイユの政治家。女性。ライエン＝ヴァルザの子孫。アミナル党首。

ɒccldɔɟɪ ［被服］リボンタイ、リボンネクタイ ［レベル］4 ɟ̀

ɒcclɥɪ ［人名］ミリア＝ルティア ［芸術］工芸、手芸、手工芸 ［レベル］4 古：語源不詳。手芸のほうは彼女の得意分野であることから。 ［文化］ ((ɾɑ ɟ̀ ɑɪu ɒel →) 第４期４代アルシェ準ハルマ。リディアの実妹。 ［成句］ ɒcclɥɪ ɾcj ɾcl uec ɪuɪc 平凡なミリアも何かしら特徴がある：無くて七癖 ɒccclɥɪ ɪj nɪ sɔ cɒ μɪj uɪl 仏の顔も三度まで

ɒcclɥɪlɪɟ ［名詞］誠心誠意 ［レベル］3 ɟ̀ :「ミリアの世話」。非常に気立てが良いことから。

ɒcclɥɪn ［芸術］工芸品 μɑ;ɒcclɥɪ/en ɟ̀

ɒccɪ ［人名］ミネア、ミーア 古：語源不詳 ［文化］ (ɾɑ ɟ̀ ɑɪu φcl →) フルミネアの実妹。

ɒccɪ(ɟ) ［親族］娘ちゃん、私の可愛い子 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɒcuɪ の音を弱めたもの。恐らく lccɪ に合わせた。 ［語法］ 日本語には「父さん」→「父ちゃん」はあるが、「娘」→「娘ちゃん」はない。娘ちゃんに当たるのが ɒccɪ。

ɒccɪ(ʔ) ［遊女］［代詞］nɔɪn ［レベル］4 ɟ̀1:ɒccɪ

ɒccɪ,ɑu ɑlcɪ e

ɒcɔ,ɪlʃ ʔeʃ ɑɔuef

ɒcɔʃɔn ［植物］楸、ヒサギ、ひさぎ、きささげ、キササゲ、梓実、しじつ、シジツ。キササゲとしての楸。 ［類義語］dɪʃʃel。別物。 ［レベル］5 zφ;zφ で uɒɪ から jccɾcɪ に伝わり、同 zφ で lə̀ʔleʃcɪ を介してレスティルへ生薬としてもたらされた。 ɟ̀ɟ

ɒcɔl ［形容詞］上機嫌な、うきうきした、ウキウキ、気分がいい、浮かれている、うかれている ［動詞］ɥɛl を上機嫌にする、機嫌を取る ［類義語］ɪnsəμ ［反意語］nɪeɟ ［レベル］2 @ 1L ［用例］ ɪn leeuɪʃ μɪ ɪ ɑɛlʔɪ ʔɔnʃ nɪ ɒcɔl. うきうきした気分で学校へ行った。 nɔn ɪʃ ɒcɔl ɒcl ɾɪəf ɒe lʃe. ワンピースを買ったので上機嫌だった。 ɪn nɪʃ ɒcɔl ɒcl hɪʔ ɥə ɔn ɟɪb ɟɪɒ. 新しい服を褒められたので気分が良かった。 lccɾɪ cɾnɔʔ "ɥɪ" ɒcɔlel ʔɔnʃ eelcʔ ɪ lə. リーザは振り返ると、上機嫌で「えぇ」と答えた。

ɒcɔμʃ ［医療］無月経 ［レベル］4 1L

ɒceɟʃ ［丁寧］お名前、芳名、ご芳名 ［レベル］3 ɟ̀1

ɒceɟɾɔl ［感動詞］どうぞよろしく ［レベル］3 ɟ̀1

ɒcel ［魔物］ミエル（無顔）:第五十八天：光の空天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel: 顔なし ［文化］ 憑族。顔がのっぺらぼうな鎧武者。顔は丸くて不気味に光ってる。鎧の中身も光っている。戦場で風化した死体が着てた鎧に光の魔物が憑依したもの。

ɒceə̀ ［名詞］空白、空、カラ、空欄、ボイド、ヴォイド、ブランク、Φ、ファイ、エンプティ ［数学］空 ［形容詞］空白の、空の、何もない、空っぽな ［電算］スペース ［レベル］3 ɟ̀0:ɒɥə/ʃe（なにもないような）

ɒceə̀nɔl ［数学］空集合 ［レベル］5 ɟ̀:ɒel

ɒceə̀lɔʃ ［電算］スペースキー ［レベル］3 ɟ̀0

ɒɔ ［名詞］形、形式、フォーム、形状 ［名詞］外見、姿、姿形、造形、見た目、外観、図形、容貌、見てくれ、見かけ、容姿→ ɔlɒɪ ［レベル］2 ʔ̀: 制：古：ɒɔɪʃ（積み木）から。

ɒɔ,ɑ hɪcʃ e

ɒɔʃɔʔl ［動詞］ɟɔl は ɥɛl の形を ɪ に似せる、似せる、象る、かたどる、模す ［レベル］3 1L:μcɑc ɪ:ɪμbɪlɛlʃ ［用例］ ʃə eeɟʃe eʃ ɒɔʃɔʔl ɪ ɒccμ. このエーステはミールの文字をかたどっている。

ɒɔʃɔɪ ［生物］人中 ［レベル］5 ɟ̀1:ɒɔl/ʃɔɪ

ɒɔl ［動詞］ɥɛl を眠らせる、眠らせる、眠る、ねる、寝る ［音楽］休符 ［電算］［動詞］ɥɛl（パソコンなどを）終了する、終了する、終了させる ［類義語］ɥɑncɟ ［反意語］neʃ ［レベル］2 ʔ̀: 制：jɔμn:ɒɔlɔɪɟ。ɒɔlɔ の部分が意識が低くなるという意味で、アルシェの lɔɒɔ（眠る）にあたる。 :::ɒɔlə,ɪlʃ ［文化］ 十二時が近付くと寝る準備をし、十二時には寝てしまう。安眠できるように生活しているので大抵寝つきは良い。アルバザードはベッドで寝る。一人ずつ自室にベッドを持っていて、そこで寝る。布団文化はない。布団はあるが、ベッドがない場所で仕方なく寝るときに非常用道具として使う。寝るときは電灯を月光に切り替える。アルバザードの電灯は月光モードというのがある。ちょうど月の光と同じくらいの光を作るモードである。人間が最も安眠できるのは月光と同じ程度のルクスであることからこのモードが付いている。このモードはベッドのある部屋の電灯にしかない。トイレの電灯には当然付いていない。月光モードはセットした起床時刻になると自動的に起床モードに切り替わる。たとえば六時にセットしたとすると五時の終わりから徐々に光が強くなり、六時には朝日と同じくらい強い光を放つようになる。これによって自然な目覚めが可能である。起きたら部屋の窓を開け、太陽光を入れる。太陽光を少しでも感知すると電灯は弱まる。部屋の明るさが一定以上になれば自動で消灯する。なお、アルバザードの一般的な睡眠時間は１２時から７時半。 ［用例］ ɪn en ʔɪlɒɪ ɒɔl ɟɪ ʔɔnɔɔʃe. １２時より早く寝ることはほとんどない。 ɪn ɒɔlɪʃ ɥɛl ɒcl ɑɔ le μcb lɪɑ. 蚊の飛び回る音で寝付けなかった。 ɪn ɒɔlɪʃ lɪl ɑə uecn. もう少し寝ていたかった。 ɪn sɪlɪʃ ɒɔl uɪn uɪɥel. 早く寝ることに決めた。 ɪn ɒɔlɪʃ ɪ ɑɪμ nɔu. 朝の遅い時間まで寝ていた。 ɪn ɒɔl lɪl ɒclʃel cɒ ʔeɟʃ. 明日はゆっくり寝ていたい。 ɪn ʔɒcʃ ɑc ɟɪ ɒɔl. 寝る前に夜食を食べた：何か食べたとする。 ɪn ɒɔl uɪn uɪɥel. 早く寝るつもりだ。 ɪn ɒɔl ɪl uɪɥel lɪnɪ en ucz dɑnɪ e ʔeɟʃ. 明日の約束に遅れないよう、早く寝よう。 ɪn en ɒɔlɪʃ ɪlʃ nɔɑ lɪnɪ cn ɑeɟ. 映画を見るために夜更かしした。 ɪn ɒɔl lc μcn cl ɔɒc ej ʔə̀lc μɪnel. すべてのドアに鍵がかかっているか確認してから寝る。 ɪn ɒɔl ɟen ɪʃel cn ɒɪn ɪn ej ɪnc ʃcnɪ. とても疲れたのですぐに眠れそうだ。 ʔɔɒɔ, ɪn ɒɔl ucl μɪnel cɒ ɑcj nɪ. 今日はよく寝れない気がする。 ɪn ɒɔlɪʃ ʔɔnʃ en ʔə̀c ɑə̀nel. 夕飯を食べずに寝た。 ɪn ɒɔlɪʃ μɪnel. よく寝た。 ☆ ɪn ɒɔl ɑlɔnel{ɑμeɒel}. 私は眠りが浅い｛深い｝: 夢は居るものなので、遠く夢の世界にいることが深い眠りとされる。実際眠りが深いときはノンレム睡眠だとしても、言語上はそのようになっている。 lə lcɑcɪ ɑμeɒel nɔɑ ɥə̀lʃ ʃcɟɟe. 紫亞は夕月より眠りが浅いのよ :1L:ɒel ɪn ɒɔlɪʃ φɟʃel cɒ ʃɔlel. 昨日は一睡もできなかった。 ɟɪɪ, ɪn ɒɔl uɪn. lcɑcɪ. さて寝ようかな。おやすみ。 ɪn ɒɔl uɪn lc ʃeμ ɑɔə̀ leɒ. 何曲か音楽を聞いてから寝よう。

ɒɔl,ɟzl ɒeʃ, ɒcɒ ɒɔ,ɑ/ʔe,ɑ

ɒɔlʃ ［名詞］ベッド ［レベル］2 ʔ̀: 制 :ɒɔl（寝る）

ɒɔlɟɪb ［被服］パジャマ、寝巻き、寝間着、ナイトウェア、ネグリジェ ［レベル］2 ʔ̀: 制：寝る服 ［用例］ ɪn ɪlɟcbɪʃ ɒɔlɟɪb. パジャマを脱いだ。 ɪn ɟɪbɪʃ ɟɪɒel ɒɔlɟɪb. パジャマに着替えた。

ɒɔlɟɔμʃ ［名詞］寝冷え、ね冷え、寝びえ、ねびえ ［レベル］4 μɑ;/ ɟ̀ ［用例］ ʃcl ɒɔlɟɔμʃ 寝冷えする ɪn ʃcl eɑɪ ɒɪn ʃclʃ ɒɔlɟɔμʃ cɒ ɑcj. 今日は寝冷えしたせいで風邪を引いている。

ɒɔlnɪ ［医療］睡眠欲 ［レベル］4 μɑ;/ ɟ̀

ɒɔlnɪɥə ［医療］睡眠障害 ［レベル］5 1L

ɒɔlɪɪlɟ ［名詞］寝棟 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlɛlʃ ［文化］ 学校に備え付けられた泊まるための施設。ディアセル前やメルセル前の繁忙期には学校に泊りがけで勉強する人が多い。そのような場合は寝棟という場所に泊まり込みをする。寝棟は校舎とは独立している。寝棟は個室で、同じ構造のフロアが何階にも聳え立っている。個室の広さは一畳程度。たくさんの生徒が寝泊りするため、狭くなければスペースを確保できない。風邪を引かせないよう、廊下の空調設備は整っているが、部屋に空調設備はない。ドアに換気のための通気口がある程度である。無人の状態の部屋は全て開放されているので空調が整った廊下と同じ温度になっている。一度人が入ってドアを閉めれば、外との換気が行われるのはドアの通気口からだけである。そうすると廊下の暖気が入ってくるので寒くならない。個室には窓がなく、外の風は入らないので安心である。火気厳禁。スプレー式の消火器が各部屋に設置されている。部屋のスペースを効率良く使うため、個室のドアは引いて入るドアになっている。廊下側に開くドアであり、教室とは逆である。この絶妙な狭さには他にも理由がある。一畳程度の部屋にはどうやっても一人しか入れないので、カップルなどによる不正利用はできなくなっている。個室は中から鍵がかけられる。また、深夜になる前の廊下には見回りがいる。更に深夜の廊下には監視カメラが作動している。夜に具合が悪くなれば廊下の内線電話で保健棟に連絡できる。

ɒɔlucl ［医療］床ずれ、褥瘡 ［レベル］6 1L ［語法］ 医学的には hɪu に分類される。

ɒɔlɒɪcɒ ［名詞］寝相 ［レベル］3 1ʔ: 制：寝る姿勢

ɒɔlɒeɟl ［名詞］寝袋 ［レベル］5 1ʔ: 制：寝る袋

ɒɔldcʃɪ ［医療］睡眠薬 ［レベル］5 1L ［用例］ ɪn lenɪʃ ɒɔldcʃɪ ɒɪn ɒɔl ucl. 眠れなかったので睡眠薬を飲んだ。

ɒɔlμenɟ ［動詞］寝言 ［レベル］3 1L ［用例］ ɪn ɪcl ɪμ ɒɔlμenɟ. 私は時々寝言を言う。

ɒɔll ［名詞］ホテル、旅館、宿、宿屋、宿泊施設 ［レベル］3 ʔ̀: 制 :ɒɔlɔll（眠るための建物から）

ɒɔll,ɟzl ɪlɟ ɒɔl,ɟzl/ɪl,ɑ "ʔɔμ le ɑɪɪl leeu ɪl"

ɒɔlɪ ［名詞］布団、ふとん ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɒɔlɪbe（寝るときの布）

ɒɔlɪl ［アトラスの国家］モカル ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: 低い土地

ɒɔlɔn ［植物］オジギソウ、ミモザ ［レベル］5 J0: 眠る花 ［文化］ カレイワ原産の花。ルティア経由でナディアに流入。一年草として園芸用に用いられる。

ɒɔlɔɒ ［名詞］就寝時間 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ

ɒɔlɔ,ɑ ɪ̀ elʃ:ɔɒɔ.φeɟ

ɒɔlɔlcɟɪ ［亜魔］ミコリサ ［ユマナ］コロポックル、コロボックル ［レベル］6 ɟɒ<ɪlʃ;ɒɔlɔlc/lcɟɪ ɟ̀ ［文化］ 雨の小人。カイラの亜魔。アルティア原産。さといもの葉を傘にした霊で、雨になると現れる。好戦的ではなく、人を不思議な世界に招き入れようとする。

ɒɔlenɟcd ［医療］睡眠時無呼吸症候群 ［レベル］6 1L

ɒɔlez ［建築］寝室 ［レベル］3 1L

ɒɔlə,ɑ ɒeɑ ɒɔ/le「下に行く」

ɒɔlə,ɑ(ɟ) ʔəuep ɒɔ/lə「低く言う」

ɒɔlə̀ə,ɪlʃ hɔɟ <>ɒɔ

ɒɔl ［格詞］～に接した、～に接して ［動詞］ɥɛl を ɪ に接触させる、接触させる、接しさせる、接する、くっつける、接している、接触する、くっつく、隣接する、しがみつく ［類義語］ɪɒɔl ［反意語］ɒμəɔ, nej ［レベル］2 μɑ;ɒμəɔ 1ʔ: 制：古：ɒμəɔ（離れた） ［用例］ lɪnʃ̀ʔeμn lɪ ɒɔl ɑlɪɒel. ランスケルンはフラメルに隣接している。

ɒɔlʔ̀ ［再帰動名詞］いびき、鼾 ［動詞］ɥɛl にいびきをかかせる ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒɔlʔ̀cu ［用例］ ʔɪ ʔɪɪ ɪμ ɒɔlʔ̀ uɪμ ɒɔʔ̀ ɑəɔl. お父さんは寝ているときに酷い鼾をかく。

ɒɔlucɪn ［物理］近接力 J0

ɒɔluepl ［数学］［物理］［地学］平射 ［レベル］6 J0: 投影対象の任意の一点に光源が接して置かれることから。

ɒɔld ［被服］レオタード ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɒɔlɟɪb「密着服」

ɒɔldɪl ［経済］連結表、連結財務諸表 ［レベル］6 1L

ɒɔlhɔl ［動物］アワビ ［レベル］4 1ʔ: 制：くっ付いた貝

ɒɔlμecn ［数学］接線 ［レベル］4 1L

ɒɔlzɔl ［数学］正接、タンジェント ［レベル］5 1L: 単位円の接線上の長さ。厳密には弦ではないが、三角関数はみな命名を揃えた。中国ではかつて正切としていたが、これは弦の観点で見たネーミング。

ɒɔlləʔ ［動詞］ɥɛl を摺って歩く、摺る、摺り足で歩く、歩く ［普通動名詞］すりあし、すり足 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ɒɔlɔddɪl ［経済］連結注記表 ［レベル］6 1L

ɒɔlen ［接続詞］ɒɔl ［レベル］3 ɟ̀1

ɒɔɟ,ɑ hɪcʃ ɒɔ（低い）

ɒɔɟʃ ［名詞］模型、モデル ［レベル］3 古

ɒɔn ［形容詞］はっきりした、明瞭な、ハッキリした、明白な、明確な、確かな、確実な、鮮明な、明らかな、彩やかな、顕著な、色が原色に近い、鮮やかな、意識がハッキリしている、意識が明瞭である ［文頭純詞］確かに（～かもしれないが）：je ɒɔn（確かに）と異なり、含みのある言い方で、ɦl と呼応する。口語の場合、ɒɔn を強く言うことで文頭純詞になって ɦl と呼応するが、弱く発音されると je がなくてもただの副詞の倒置になり、ɦl と呼応しない。 ［音楽］マルカート ［反意語］neɒ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 語源不詳 ［語法］ ɒɔn は明らかで曖昧さがないさま。証拠が明白、意識が明瞭、合格が確実、判断が明白、態度が明瞭など、全て ɒɔn である。態度がはっきりしているとは主張を曖昧でなく述べるさまである。喋り方が明瞭で聞き取りやすい場合も ɒɔn である。また、色が原色という意味もある。 ［成句］ ɒɔn ɥən ɑɪɪl eʃ ɑɕɟʃ 太陽が明るいくらい明らかな：火を見るより明らか、火を見るよりも明らか ［用例］ ʃə eʃ ɒɔn lel lɪ ʃcl ˥ihc. 彼に罪があるのは明らかだ。

ɒɔn(J) ［文末純詞］［jeɾʃe］［幼児］～だもの、～だもん。主張の断定 ［レベル］1 J1:ɥcɑcɪ:ɒɔn<nɔn<n ɔnnɔ ［語法］ 下から上への主張。同等から同等への主張。論理的な主張というより感情を優先した子供じみた印象がある。 ［用例］ ʃə ʃe ɥɪɒ ɒɔn. これが悪いんじゃないもん。 nɔn ʃe euɔʃ ɒɔn. 私が悪いんじゃないもん。

ɒɔnʃ ［動詞］ɥəl を浮かせる、浮かせる、浮かぶ、浮く ［普通動名詞］［再帰動名詞］浮遊 ［類義語］ləʃe、eɥəʃ ［レベル］3 古 ［語法］ ɒɔnʃ は水に浮かせる。ləʃe は空中に浮かせる。

ɒɔnʃucɪn ［物理］浮力 ［レベル］4 J0

ɒɔnʃɪdl ［名詞］ホバークラフト、ホーバークラフト ［レベル］5 1ʔ: 制

ɒɔnʃ ［普通動名詞］［再帰動名詞］移住、転校、転勤、引越し、異動 ［動詞］ɥəl を ɪ に転勤させる、転勤させる、転勤する、引越しさせる、引っ越す ［言語］転移 ［反意語］neɒʃ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 hɪɥ:ɒɥəle（行ってしまい、いなくなってしまう）

ɒɔnʃɑeɪn ［名詞］留学生 ［レベル］4 J0:lcɔn

ɒɔnʃɪɟʃ ［名詞］転校生、転入生、移民、移住者 ［レベル］3 1L ［語法］ 区別する場合、転校生は leeuɪn、転入生は lənɪn。 ［用例］ lcʃɪ e ɒɔnʃɪɟʃ eʃ ɑcɒ ɪl cl ˥ɪlʃe. 移民の子孫はどこに行っても居場所がない。

ɒɔnɟ ［名詞］浮き袋、浮き輪、うきわ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒɔnʃɒeɟl（浮く袋） ［用例］ ɪn ɪlɔʃ ucl ˥ɔɪ ɪl eeu ˥ɔn ɒɔnɟ. 浮き輪に捕まって波に乗って遊んだ。

ɒɔnɟɪnse ［名詞］根拠 ［レベル］4 Jʔ:ləlcɪ<hɔnɔɟɪnse:Jl。 Jʔ まで hɔnɔɟɪnse だったが Jʔ にルシアが「原因」が「固い」というのは意味が分からない。「原因」が「明瞭」なら意味が分かると言い出し、複合語の hɔnɔɟɪnse を ɒɔnɟɪnse と言い換えたことから。

ɒɔnnɔɒ ［色］原色 ［レベル］4 1ʔ: 制 : ハッキリした色

ɒɔnɒɔn ［名前］モンモン J0:ɒɔɒɔn ［文化］ アリス＝アンシャルの飼いモモン。白くて大人しい。オス。

ɒɔnɪ ［形容詞］既知の ［反意語］neɒc ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒɔn

ɒɔnɪʃc ［芸術］彩度、純度、サチュレーション、クローマ、s a t u r a i o n、c h r o m a ［反意語］ɑcɟʃɪʃc ［レベル］4 Jl ［文化］ → lcɟʃcnɪ、ueɟɒcɒ 色がいかに原色に近いか。より厳密にいえばいかに色相環の色（純色）に近いか。

ɒɔncn ［植物］チューリップ、鬱金香（ウッコンコウ） ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɒɔnɒcnɪ（原色の花） dɪddɪ:dɪddɪ

ɒɔncɪ ［名詞］未知の人、知らない人、赤の他人、面識のない人 ［形容詞］未知の、見知らぬ ［類義語］neɒc ［反意語］cʃɔn ［レベル］2 1Λ: 制 : ɒelcɑcɪ : ɒɔnc（未知） ［語法］ 制を知らずに ɒɔnɪ しか知らない世代は「なんで未知の人なんだろう？」と思うかもしれない。 ［用例］ nɪɒʃ ɒɔn cɪ. 知らない人には気を付けなさい。

ɒɔnɔ ［動詞］ɥəl（対象）を ɪ（場所）に止める、止める、停める、静止させる、留める、押さえておく、駐車する、止まる、停車する ［魔法］モノ（ストップ）。中位時魔法。相手を一時的に停止させる。 ［普通動名詞］一時停止、停止、停車 ［動詞］ɥəl を一時停止させる、一時停止する。機械などを。 ［類義語］jɔlʃ ［反意語］ɔu、ɪlɒɔnɔ ［レベル］2 ɑ;e。「壁」、「止める」 赤 ɒɔnɔ:ɒɔnɔ:lɪ ɒɔnɔ ［語法］ 椅子から立とうとする人を制するなどの意味でも使う。 ［用例］ ɒɔnɔ ˥eɥn ɪ ɔ˥ʃl 公園にバイクを停める

ɒɔnɔj ［法律］勾留 ［動詞］ɥəl を ɪ に勾留する、勾留する ［レベル］6 1ʔ: 制 :ɒɔnɔ

ɒɔnɔn ［生物］鼠蹊部 ［レベル］5 1L:dɪɪl:ɒɔnɔ（止まる部分）。（人間一般でなく、特定の誰かの）血が滞りやすいという意味らしい。

ɒɔnɔnɪucl ［医療］鼠蹊ヘルニア、脱腸、女児における卵巣のヘルニア ［レベル］6 1L:dɪɪl

ɒɔnɔɒɔnɔ ʃc ɒɔnɔlc/ɒɔnɔlc

ɒɔnɔɑɔɪl ［経済］固定資産 ［レベル］5 1L

ɒɔnɔɥccɑ ［経済］固定負債 1L

ɒɔnɔlc,ɪlʃ nɔə ɒɔ˥ələ

ɒɔne ［交通］停留所 ［レベル］3 1L:ɒɔnɔ ［用例］ ☆ ʃə ɒɔlj J0 ɑec ucɪ c ɥɪ ɪ ɒɔne e jɔl. 家からバスの停留所まで 2 0 分くらいかかる：本来は ʃə ɒɔlj J0 ɑec ucɪ lel el ˥e ɒɔne e jɔl c ɥɪ で、ʃə を lel が受けているが、煩雑なので ʃə を受けない文になっている。つまり ʃə が形式主語になっている。

ɒɔɒ ［植物］根、ルート、根っこ ［動詞］ɥəl の根を ɪ に植え付ける、植えつける、植え付ける、植える、うえる ［レベル］2 ɑu; ↓ 古 :「下にある」 ɒɔɒ:ɒɔɒ:lə ɒɔɪ ［成句］ ɔɒ ɒɔɒ 本質的に ʃcl{jc} ɒɔɒ 安定している｛不安定だ｝ ［用例］ ［卑語］bɪz ˥əc ɒɔɒ ʃcj, besɪʃ 根っこまで食うのか、このデブ！：アルバザードでは根っこは貧乏人の食べ物。 ɒcn ɪlɪɪ eʃ ɒenʃe ɔn ɒɔɒ. 女は本質的に売春婦である。

ɒɔb˥əc ［形容詞］［ネガティブ］（主語が貧乏な場合に）貧しい、極貧の、飢えに飢えた、甲斐性なしの ［形容詞］［ネガティブ］（主語が金持ちの場合に）どこまでも強欲な ［類義語］ʃcɑ ［反意語］ɥɪnˈ˥eɒɟ ［レベル］3 J0: 根すら食べる。アルバザード人は元々根菜を食べなかったため。

ɒɔɒj ［名詞］起源、オリジン、発端、由来 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɒɔɒ（根っこ）

ɒɔɒuɪnʃ ［法律］憲法 ［レベル］4 1L: 根となる法

ɒɔɒzel˥ɔ ［生物］脳幹 ［レベル］5 1L: 脳において、根のような位置と形状

ɒɔɒɪɥ˥ɔ ［言語］根ノード μɑ:bel;/ Jʔ:bel

ɒɔbɔ ［地学］崖、断崖、クリフ、岸 ［レベル］3 古 :ɒɔbɔ（崖）「落ちる落ちる」の意。 ［用例］ ɪn nɪʃ ueɒ ɥən nɔj ˥ʃɪɒej hɪl ɒɔbɔ. 崖の上に立っているような恐ろしい気分だった。

ɒɔbɔ,ɑ ɒɔl ɒɔ/ɒɔ

ɒɔbɔn ［魔物］モモン（猫熊）：第八十五天：利の空天 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒel: 鳴き声から ［文化］ 妖族。ずんぐりむっくりな猫のような熊のような姿をしている。大きさは大きめの兎程度。愛らしい格好で、プリードしてペット化されている。「ももん」という変な鳴き声をする。飼い主に忠実で、よく懐く。 ［成句］ ɒɔbɔn ˥ien ɟɪuel 掃溜に鶴。空天に悪魔が並ぶ中、モモンだけ癒し系でほっとできることから。

ɒɔbɔe ［地名］モモエ、ももえ市、滝水市 ［レベル］6 Jl:ɒɔbɔ/e「崖っぷちの水→滝」 ［文化］ ファイマン市東部の市。ファイマン線の終着駅がある市。

ɒɔɑ ［動詞］ɥəl（場所）を登る、登る、のぼる、昇る ［反意語］ɒeɑ ［レベル］2 1ʔ: 制 hɥəl:hɥəl:'ɥəl ［用例］ ɒɔɑ nɪɑ 階段を登る

ɒɔɑʃɔɔɑ ［名詞］上り坂 ［レベル］3 J0:jeɥen/ɥcɑcɪ

ɒɔɑʃeeze ［気象］上昇気流 ［レベル］4 1L

ɒɔɑɔ ［地学］礁 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ɒɔɑɔl（下の石）

ɒɔɸ ［電算］ダウンロード ［類義語］ɒcl ［反意語］neɑ ［レベル］3 ul;feel @Jʔ ［文化］ D L サイトやリンクなどにコメントがついていることがある。日本では何もついていないことが多い。アメリカでは e n j o y と書いてあることが多い。D L リンクなどに何と書くかというのはそれ自体が文化的な事項である。 ときにアルバザードでは ɪnjclɑ˥e˥ɔ ないし jclɑ˥e˥ɔ と書いてあることが一般的である。どうぞご自由にというイメージで、日米双方とも異なる感覚である。

ɒɔɸl ［植物］カボチャ、かぼちゃ、南瓜 ［レベル］2 zɸ;ɑɔueʃ ˥ɪlʃɪ: かぼちゃの食感のオノマトペ。 x:ɒɔɸl

ɒɔɸlɒɪuc ［化学］ビタミン A ［レベル］4 nɑ;/ Jʔ ［文化］ ɒɪuc

ɒɔɸlɒɪcn ［ユマナ］ハロウィーン、万聖祭 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 万聖節の前夜祭であるが、魔女の変装やかぼちゃのランタンが目を引くことから。

ɒɔɸ˥ɔ ［被服］オドショース jɒ;ɒɔɸl/ɥɔ˥ɔ Jl

ɒɔd ［生物］靭帯、靱帯 ［レベル］4 ˥ɪlʃɪˈ 体のゴム」

ɒɔdj ［動詞］［武道］ɥəl を ɪ（場所）に組み伏せる、組み伏せる、組みふせる ［動詞］ɥəl（事柄）を打ち破る、打ち破る、打ち勝つ。苦難の末勝つというイメージ。 ［レベル］3 J0:ɒelcɑcɪ ˥cɛɥ:ɒɔnɔ/dɔu

ɒɔdɪ ［植物］アサガオ、朝顔、あさがお、モーニンググローリー ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɒɔdɪɒcnɪ（朝の花） ɪɥɪlɪ:ɪɥɪlɪ:

ɒɔdɪ,ɑ ɑɪɪɥ ɒɔ/dɪdɪlə˥ɪ「低い太陽」

ɒɔb ［動詞］ɥəl（物）を ɪ に埋める、ɥəl（空間）を ˥ɔn で埋める。埋める、うめる。壁塗り構文同様。 ［動詞］ɥəl の間を埋める ［反意語］neu ［レベル］2 ɑ;ɒɔ は「下」 赤 ɒɔb:ɒɔb

ɒɔb˥ɔn ［言語］フィラー ［名詞］埋め立て道具 ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɒɔbeʃ ［形容詞］潜在的な ［名詞］伏線← ɒɔbeʃɸɪɪbe ［レベル］4 μɑ;ɒɔb/ʃe「埋められている」 Jl

ɒɔbeʃɸɪɪbe ［名詞］伏線→ ɒɔbeʃ ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ

ɒɔɥen ［約物］_ 記号、_ ［レベル］3 Jl:ɒɔ˥ɥecn ［語法］ ɒɔ˥ɥecn

ɒɔz ［動詞］ɥəl を ɪ に挿入する、挿入する、挟みこむ、間に入り込む、割り込む、差し込む、口を挟む、横槍を入れる、横やりを入れる、口出しする、割り込みする、突っ込む ［レベル］3 1ʔ: 制 : 恣意 ［文化］ 横から知らぬ他人が割り込んでくるのは失礼だが、困っている人を助けるときや文句を言うときはありえる。それ以外は聞こえていても聞こえない振りをして関係ない振りをするのが礼儀。顔見知りではあるが会話に入っていない人が近くにいて、自分は別の人と話している場合、その顔見知りは割り込んでくる確率は低い。割り込むと多少失礼だが、だからといって無視することもない。心中では引き気味ではあるが、表向きは何でもないように対応するのが大人のやり方。割り込まれてむっとするかどうかはそもそも割り込んだときの言葉による。いきなり関係ないことを言われればむっとするし、関係あることでも悪口めいた内容ならむっとする。一番むっとしないのは賛辞と質問である。たとえば二人で花の話をしているとき、他人からいきなりその花について質問された。その人はその花を育てているので気になったという理由である。こういう場合は快く教えてやるのが常識。質問者も自分の事情を語るのが礼儀。

ɒɔzʃeɒdeɥ ［言語］テンペラ、急下降調。文中で使用。 ［レベル］3 Jl

ɒɔzʃeɒdeɥ˥eəɔ ［言語］意外な驚嘆。文中で使用。 ［レベル］3 Jl

ɒɔz˥cɒ ［言語］キム、昇降調。文中で使用。 ［レベル］3 Jl

ɒɔz˥cl ［言語］キル、中止調。文中で使用。 ［レベル］3 Jl

ɒɔz˥eəɔ ［言語］クーノ、上昇調。文中で使用。 ［レベル］3 Jl

ɒɔzjc˥ɪ ［言語］シカ、平板調。文中で使用。 ［レベル］3 Jl

ɒɔzɒclees ［言語］ミレージュ、急上昇調。文中で使用。 ［レベル］3 Jl

ɒɔzdcʃɪ ［医療］さしこみぐすり、挿入薬、座薬 ［レベル］3 1ʔ: 制

ɒɔz˥oʃj ［電算］インサートキー ［レベル］4 J0

ɒɔzlecj ［芸術］挿絵、挿し絵 ［芸術］口絵→ ˥cʃlecj ［レベル］3 J0

ɒɔzɪlʃeɒdeɥɪ ［言語］激しい驚嘆。文中で使用。 ［レベル］3 Jl

ɒɔzɔɒ ［医療］挿管法。鍼の。 μɑ;/ Jl

ɒɔzɔd ［名詞］割注、分注→ lec ［レベル］6 Jl

ɒɔzɔl ［名詞］折り込み、折込、折りこみ、おりこみ、折り込みチラシ→ lec ［レベル］4 Jl:ɒɔz/ɔl

ɒɔl ［名詞］下 ［形容詞］下の ［格詞］～の下に ［反意語］hɪl ［レベル］1 古 :ɒɔl,ɒɔɪl（下の部分）。制では中くらいという意味で使っていた。 ɒɔ ɒɔɒɔ（下に）:ɒɔ ɒɔɒɔ（下に） ［用例］ ɑcɪn ˥ɪ ɒɔl zɔɔ. 木の下に女の子がいる。

ɒɔlʃ ［アイテム］装備 ［名詞］道具、機材、設備、備え付け、用具→ ˥ɔn ［電算］デバイス ［レベル］3 ˥ɪlʃɪ: 持って回った言い回しの「道具」

ɒɔlʃɪ˥ ［生物］下腕、前腕 ［レベル］4 1L

ɒɔlʃɪz ［生物］下肢 μɑ;/ Jl

ɒɔlʃcˈ ［数学］2 7 0 度 ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɒɔlʃeeze ［美容］ダウンスタイル Jl

ɒɔl˥ ［形容詞］下位の、低位、目下 ［反意語］hɪlʃ ［レベル］3 1L:ɒɔl

ɒɔl˥jcʃ ［名詞］下座 ［レベル］4 J0 ［文化］ j˥cl˥ɪ

ɒɔl˥ɔce ［軍事］兵曹長→ nɔce ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ

ɒɔl˥uec ［政治］参議院、上院、貴族院 ［レベル］4 1L

ɒɔl˥ɒɔɔl ［軍事］伍長 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ

ɒɔl˥benɔɒ ［軍事］少佐 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ

ɒɔl˥hɥəɩɪ ［軍事］少将 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ

ɒɔl˥oɪlʃ ［軍事］下級兵 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ ［文化］ 軍隊の階級における最低の地位。

ɒɔl˥cɒdcj ［政治］野党、下級の党 ［レベル］4 1L

ɒɔl˥ɔɔl ［電算］下にスクロールする ［レベル］4 ul;/ Jʔ

ɒɔl˥eɒ ［生物］関元 Jl

ɒɔlˈcɥə ［普通動名詞］下請け、サブコントラクト ［動詞］ɥəl を下請けする、下請けする ［レベル］5 μɑ;/。仕事のワークフローを組んだ際、発注元から受注先に行き、そこから更に下に別の受注業者へとチャートが伸びていくことから。 Jl

ɒɔlj ［動詞］ɔl は ɥəl だけ時間かかる、時間がかかる。定義動詞。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 恣意 ［用例］ ʃə ɒɔlj ɑcl. 時間がかかるな。 ʃə ɒɔlj ˥ɔɞ どれくらいかかりますか。 ʃə ɒɔlj ˥ɔ ɒcu ˥el el ˥e jeɪʃe. デパートに行くのに 1 時間かかる。 ʃə ɒɔ˥jɪʃ jɔɔʃ ˥el ɪn ˥ɔɔ˥ɔʃ ʃə ˥ib. その仕事をするのに一週間かかった。 ʃə ɒɔ˥jɪʃ ɑcl ˥el ɪn ɒɪcj ˥eʃj. ピアノを弾けるようになるには時間がかかった。

ɒɔ˥jɪn˥ ［動詞］ɥəl をうつぶせにする、うつ伏せにする、うつぶせにする、うつぶせになる ［普通動名詞］うつぶせ、うつ伏せ ［反意語］hɪ˥jɪn˥ ［レベル］2 1L

ɒɔ˥jɪdlɔɥ ［生物］下気道。気管、主気管支、肺の総称。 ［レベル］5 1L

ɒɔ˥u ［普通動名詞］引き分け、ドロー、痛み分け、あいこ ［動詞］ɔ˥l は ɥəl と引き分けになる、引き分けになる ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɒɔl/uɪj（中の戦い） ［用例］ ɪɥ˥e ɒ˥uɪʃ ɔ˥ɔɥn cɒ ˥ɪ˥ɔ ɥɪj ʃɔʃɔ. アルシェはソーンとカコで何度か痛み分けになった。

ɒɔ˥ɒɪcn ［生物］下半身 ［レベル］3 1L

ɒɔ˥ɒɪcneɥʃ ［名詞］半身浴 ［レベル］3 1L ［用例］ ɪɥbɪn ɪl˥ɪ ɪɥ ɒɔ˥ɒɪcneɥʃ ˥ɪnɪ ˥ɪl uɪ˥n. アルバザード人は健康のために半身浴をする。

ɒɔ˥ɑ ［言語］ムード、法 ［レベル］6 μɑ;ɒɔl(.) Jʔ

ɒɔ˥deɥɟ ［名詞］ラガー ［レベル］5 μɑ Jl ［文化］ deɥɟ

ɒɔ˥ɥɔd ［生物］下まぶた、下眼瞼 ［レベル］3 1L

ɒɔ˥ɥecn ［約物］下線、アンダーバー ［レベル］4 Jl ［語法］ ɒɔ˥ɥen は _ 記号のこと。ɒɔ˥ɥecn は語句に直接かかる下線のこと。H T M L などで強調のために文字に装飾するアンダーバーが ɒɔ˥ɥecn。

ɒɔ˥zcɑ ［生物］下顎 ［レベル］5 μɑ;/ Jl

ɒɔ˥zcɑhɔ ［生物］下顎骨 μɑ;/ Jl

ɒɔ˥zel˥ɔ ［生物］側頭葉 ［レベル］5 1L

ɒɔ˥scd ［論理］下位概念 ［レベル］5 1L

ɒɔ˥˥ɔɔz ［生物］下端、下縁 μɑ;/ Jl

ɒɔ˥ɪnɔz ［音楽］ダウンピッキング Jl

ɒɔ˥cn ［動詞］ɥəl を見下ろす、見下ろす、見おろす ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪl˥e

ɒɔ˥ɔ,ɑ lecʃ ɒɔ/˥ɔ

ɒɔ˥eʃ ［医療］［哲学］臣、相 ［反意語］ɥəl˥ɪʃ jzɑ;「部下」 Jl

ɒɔ˥eʃɸɪɪɒ ［医療］相火 jzl;/「臣下の火」 Jl ［文化］ ɑel˥cj

ɒɔ˥eʃcl ［医療］臣薬 jzl;/ Jl

D

ɒɔleɟ,ɟzɑ hcɟ

ɒɔlen [接続詞] ɒɔl [レベル] 3 J1

ɒɔlecl [被服] ボトムス [レベル] 4 J1

ɒɔle,ɪlɾ ɒɔl <>ɒɔ

ɒɔɪ [遊離副詞] [形容詞] 既に、もう [反意語] nec [レベル] 2 1ʔ: 制 : 恣意 :::hɪə,ɪlɾ [語法] 時期が予想より早いとか遅いとか関係なく、ある時点から見て過去の時点で完了している状態。つまり「既に」を表わす。 完了（影響相と言えるかもしれない）の相副詞。 [用例] ɾə eɾ ɒɔɪ ɾɔɔl. それはもう終わったことだ。もう過ぎたことだ。

ɒɔɪ,ɟzɑ ɒɔɒ ɒɔɒ.l

ɒɔɪɒɪlɟ [名詞] [形容詞] 既婚 [レベル] 4 1L

ɒɔɪdcɪ [言語] 象形 [レベル] 4 J0: 形を指す

ɒɔc [形容詞] 薄い。濃いの反対の薄い。色や味に使う。 [反意語] neɪ [レベル] 2 @ 1L nɥɔe: nɥɔe

ɒɔcɟ [電算] リモコン、リモートコントロール、リモートコントローラー、無線コントローラー、ゲームパッド、パッド、コントローラー [レベル] 2 1ʔ: 制 :ɒɔcɥɔɟ（離れて使う？） [用例] ɪn bɔ̀leɟ nelɾ ɒɔcɟ lɔn lɪɟ. いつもリモコンを持っている。 lɔɾe ɪnɾ ɪnl ɪn lel ɒɔcɟ. 家族にリモコン呼ばわりされている。 ɪn ɔnɾ ɪɥəəs uecɾɪɾ ɒɔcɟ c lɔ̀l. 弟とリモコンの奪い合いをした。

ɒɔcuelɑ [名詞] [形容詞] [ネガティブ] 安物買いの銭失いな、うさんくさく安い [類義語] ɑeɥ, lɔlcɸɪɟɾ [レベル] 3 J0 [語法] アズゲルの酒売りがよその酒売りに価格競争で勝つために、水で薄めて量を増やして安く売ったことから。結果的に客が集まったので売り上げは伸びたが、後からバレた。

ɒɔɪcɪɔ̀lɔcɒ [化学] ぶどう糖果糖液糖、ブドウ糖果糖液糖 [レベル] 5 ul;/ J? [語法] [文化] ɪɔ̀lɪ cɒ

ɒɔɔɾ [名詞] 蝋、ロウ、ワックス [レベル] 3 ɾɒ:ɾccɾel 1ʔ: 制 :lɪ̀lɪ [文化] ɾɒ で蜜蝋がティーテルによって作られたのが始まり。

ɒɔɔɾɑɔl [地学] 葉蝋石 1L

ɒɔɔɾlenɾ [名詞] 蝋人形 [レベル] 4 JJ

ɒɔɔl [名詞] クレヨン [レベル] 2 1ʔ: 制 :ɒɔɔ̀lɪz（ロウのペン）。蝋を含んだ棒状の絵の具がクレヨンであることから。

ɒɔɔd [単位] モープ、カンデラ [レベル] 5 1ʊ: 制 : 古 :ɒɔɔdɪ（蝋の光）。カンデラ（蝋燭の光）。キャンドルと同じ語源だろう。

ɒɔɔze [植物] トネリコ ɾlu;ɒɔɔɾ/zɪɒɔ「蝋の木」 J? [文化] 樹皮に付着しているイボタロウムシが分泌する蝋物質が語源となった。ɾlu で ɟɪɪl が現 ɪlɾ に赴いた際に見つけた植物である。 ɪlɾ 原産。

ɒɔɔl [軍事] 下士官 [組み数字] 6 / 7 [レベル] 3 古 :zɪnɪ:ɒɔl/lɪnɾcɟ（下の人） [文化] 兵の階級のひとつ。曹長、軍曹、伍長に分かれる。

ɒɔe [代詞] [ɹən̩] あなた [レベル] 1 J1:ɔ̀ɒccɥ:ɒɔe,ɟzɑ（下の兄弟を指す言葉が二人称としてアルカで採用された）

ɒɔe,ɟzɑ ɪɒel, ɪɥəəs ɒɔ/e（下の水＝後に生まれたハラカラ）

ɒɔeɾ [地学] 滝 [形容詞] ～の滝。前置。 [レベル] 3 J1:ɔ̀ɒccɥ<ɒɔe: 古 : 下に行く水 [用例] ɒɔeɾ ɑɔl 大きな滝

ɒɔen [代詞] [ɹən̩] あなたの [レベル] 1 J1:ɔ̀ɒccɥ:ɒɔe/en

ɒɔel [政治] [経済] 政府 [レベル] 3 1L:clɒəɟ:ɥɑɑɪ:ɒɔl ejn（傘の下で） [文化] ＜経緯＞ 副王アステル以前はアルパ王が全権を握った。セルメルのイムル J0 年に最初のアルパ王政の政府が結成された。就任式の日が大雨だったため、城外には多数の観客が傘を指して見守った。そこから「傘の下」や「傘」で政府を指すようになった。 ミロク革命まで政府の中枢はアルパ城にあった。城の敷地内に政府の建物があり、そこで政治が行われていた。アルパ城は現在の中央アルナのカルテにあったため、現在はそこに政府はない。現在は中央アルナ北区に政府中枢が存在する。 ＜現在の体制＞ ɑɪcz(王。国の象徴) ↓ ɪjɾeɟ(副王。実験者) ↓ ɪɥnɔn（王の６省。うち、召還省長官 ɟɪɪlej が最高権力者） ↓ lɔznɔ（庁。各省下に複数個存在） このように、４段階から成っている。警察や軍隊といった機関は各省の下に置かれる。例えば警察も軍隊も軍務省の下にあり、警察庁や軍務庁といった名で呼ばれる。具体的な機関はほとんど庁が引き受けており、最も忙しいのが庁である。 日本と異なり省が少ないが、庁が多い。これはカコにおいて国民が魔法を使えたころのシステムを残しているためである。魔法が使える時代は国民も力があるので、夜警国家や小さい政府を必要としていた。 ミロクはそれに影響を受け、小さい政府の考えを採用している。そのため、省は少ない。ただ、アレイユでは魔法が使えないため、必然的に国が管理する仕事が増えた。省が増やせない以上、庁を増やすしかなく、庁は増加した。 なお、警察や軍隊にはそれぞれ独特の体制があり、庁ごとに体制は異なっている。

ɒɔelɪle [政治] 政府機関 [レベル] 4 JJ

ɒe [遊離副詞] もう一度、また、再度、再び、ふたたび [類義語] ɟɪue [レベル] 1 1ʊ: 制 : 古 :ɥɔə(J) [語法] → ɟɪue ɒe は形容詞用法がないので、遊離しても ɒel でなく ɒe のままでよい。副詞にしか使わない。 [用例] ɟɪen lənɪ ɒe. また来てね。

ɒeɾ [動詞] ɥəl を ɪ へ落す、落す、落とす、落ちる、落下する、散る [普通動名詞] 突き落とし [再帰動名詞] [自然動名詞] 落下 [類義語] ɒcɒ [レベル] 2 1ʔ: 制 ::ɒɔ̀l:ɥələ,ɪlɾ [語法] 重力を使って自然落下させることなので、重力の働かない下から上への動作、すなわち反意語は存在しない。下から上にあげるのは人為的な方法か風などによるもので分類され、neɪ̀, ɪɥel, həɪ などに分かれる。なお、このうち人為的に上下に動かすことを neɪ̀, ɒcɒ で表し、これらは互いに反意語である。 neɪ̀,ɒcɒ は上げ下ろしに使う。クレーンや腕など道具を使うことが多い。投身自殺する場合はフリーダイブなので重力任せで、腕やクレーンなどに身を預けない。よって投身自殺では ɒeɾ を使う。ɪn ɒcɒ uɪn nɔɟ cɾ cɪlɪ だと何らかの方法や道具で自分の体を下にやるというイメージ。 人に「危ないから降りろ」という場合は ɒcɒ。「落ちて死んでしまえ」という場合は ɒeɾ。ɟe ɒcɒ nɔɟɾ ɟe ɒeɾ nɔɟɾ の略。 eɒ ɒeɾɾ は「事故って落ちろ」で、ɒeɾɾ は「自ら落ちて死ね」の意味。呪詛で使うのはたいてい後者。 [用例] ɾeɪ̀ eɟ ɒeɾ c zɔɔ. 木から葉っぱが落ちている。

ɒeɾɾel [植物] 枯れ葉、かれは、枯葉、落ち葉、おちば、落葉 [レベル] 3 1L:ɥɑɑɪ:ɟɒɪlelɾ

ɒeɾl [アイテム] 鞭、ムチ、ウィップ。 ɒeɾl はムチであってベンは ben。 [類義語] ben [レベル] 3 ɑu 1ʔ: 制 : 古 :ɒeɾlc（鞭） ɒeɾlc:ɒeɾlc [語法] 子供のお仕置きの象徴。bɔlɾ 参照。

ɒeɾlc ɒeɾl ɑɔuel

ɒeɟɪɪnɪ [動詞] ɥəl を寝込ませる、寝込む、倒れ込む [レベル] 3 1L [語法] 病気とは限らない。倒れるように寝込むこと。下への方向が強調された言い方。 [用例] ɪn ɒeɟɪɪnɪ̀lɾ ɪ ɑɔɟ̀l cɒ ɑɔnc ɑel ɪn ɔ̀lɾlɔ̀l. 帰るや否や、ソファーに倒れ込んだ。

ɒeɟɑɔl [植物] 落葉広葉樹林 [レベル] 4 1L:ɥɑɑɪ

ɒeɟɥeɾ [植物] 落葉針葉樹林 [レベル] 4 1L:ɥɑɑɪ

ɒeɟhɔnz [植物] 楢、ナラ [レベル] 5 ɥɑ;ɒeɾ/hɔnz「樫のような落葉樹」 J?

ɒeɟɔ [名詞] 愛人、二号さん [レベル] 4 ɥɑ;ɒel/lɪnɾɟɔ「メルのような人」 J1

ɒeɟɔn [植物] ツバキ、つばき、椿 [レベル] 4 1Δ:ɥɑɑɪ: 落ちる花

ɒeɟɪɪn [名詞] メティオ人 [レベル] 3 J0:ɒeɾɔɔɪn:1L:ɥɑɑɪ:ɟɒɪlelɾ

ɒeɟɪɪn(J) [歳時記] 啓蟄 [名詞] 3 時 [組み数字] 3 ／ 2 4 [レベル] 3 J0: → ɪnlɔɪn [文化] ɪnlɔɪn

ɒeɟɔ [地名] メティオ。メテの支配地。 [レベル] 3 1ɪ̀l̀ɔ

ɒeɟɔ(J) [アトラスの国家] メティオ [レベル] 2 1ɪ̀l̀ɔ [文化] → ɔɟɾɔlnɔɒ ・面積 ʔʔΔʔ9Ω1.JL.ʔ999 ɪɒ J ・経緯度 西端：東経 (−L0) + ((1Δʔʔ / Ω1000) × ʔʔ0) = 9ʔ.1ʔ 東端：東経 (−L0) + ((J1ʔʔ / Ω1000) × ʔʔ0) = 10ʔ.99 北端：北緯 L0 − ((9O1 / J000) × 1Δ0) = ʔʔ.ΔJ 南端：北緯 L0 − ((ΔΩʔʔ / J000) × 1Δ0) = 1ʔ.Lʔ

ɒeɟɔɔ1ɪl [アイテム] シミター、シャムシール、新月刀、三日月刀 ɥɑ;/ J1 [文化] 1̀l̀ で ɒe で作られた。ɒe は暑いので厚い鎧を着ることができない。そのため斬る剣が発達した。

ɒeɟɔɔjɔczɪ [地学] メティオプレート J?

ɒeɟɔɥɪ [地名] メティオラ海 [レベル] 5 J0:ɥɑɑɪ: メティオの海

ɒeɟɔɥen [言語] メティオ語 [レベル] 3 J1 [文化] ＜歴史＞ 約６万年前に ɾɒ でメディアンができる。ここから ɾlu までが ɒɑɑ（古メディアン語）。 zɸ の前期・冷戦・後期がそれぞれ ɒɑl̀,ɒɑu,ɒɑj。これらをまとめて ɒɑl。 後期 zɸ の ʔʔ1Lɥ にシフェランがメティオを建国。zɸ に食い込む形でここから 1̀l までが ɒɾɑ（古メティオ語）。 ɟɒ,ɥɑ が ɒɾl。ɑ,ɥɾ が ɒɾɑ。 ul が ɒɾu。ɪl,ls が ɒɾj。 ＜文字と音節の変遷＞ 文字はアルハノンを使う。 約７万年前に音頭末の子音連続が発音されなくなる。 その後音節末の子音も発音されなくなる。結果ＣＶｎＣが最長音節となる。 その後母音連続がＶＶまでとなる。音節はＣＶＣ，ＣＶＶ，ＣＶのみとなる。 約６５０００前にアルハノンができる。音節に合わせた文字組みがされる。１文字で３音素まで含むことができる。 zɸ で音節末に来る音が統廃合され、ɾ̀,l,d,j ,n,l,l,ɥ となる。これは例えば ɪɥ なら [ɲ] と発音されるようになったということである。 zɸ で有声音と無声音の対立が無気音と有気音の対立となる。アルハノンができた後なので、かつてディーの音を指した文字は今はティーの無気音として使われる。ただし気音の対立になるのは語頭だけで、それ以外の環境では声の有無の対立のままである。地球だと中国語や韓国語などにも見られる現象である。 ɟɒ で l,ɥ が ɟ,l に統合され、音節末は６子音のみとなる。 ＜類型＞ 1ɪn, ɑɔj という能格、絶対格を使用する能格言語である。

ɒeɾcɔɒeɾel [料理] メティオ茶 [レベル] 4 ɥɑ;/ J? [文化] 紅茶を主とする。

ɒeɾɔ [アトラスの国家] メト [レベル] 5 1L:ɥɑɑɪ: メト族の

ɒeɾe [人名] メテ [地名] しばしば ɒeɾcɔ（メティオ国）の代わりに使われる [組み数字] 1 4 / 1 5 [レベル] 3 1ɪ̀l̀ɔ: 語源不詳 [文化] (ɥəəɒɪ 9ΩΔ1) ɥəəɒɪ 9ΩΔ1 イーファ、息子の ɒeɾe を授かる メテの第１４使徒であるとともにメテの使徒のルシーラ。生没年不詳。イーファ王とルーキーテ皇女の息子。母親を皇帝ウロに倒され、ウロを仇敵とする。 現実ではウロを破ったのちテームスをも破るが、テームスとの抗争に痛手を負ったため、ウロの後継者となったソーンにあえなく敗れる。 ɥɑ ではウロを破った後にテームスを封印したが、疲弊したせいでソーンに敗れる。 [成句] ɟɪɾ ɾel ɪɟle lc ɒeɾe 勝って兜の緒を締めよ。ソーンの視点から。 ɪɟle lcen ɒeɾe 前門の虎、後門の狼

ɒeɾelcɟɪ [料理] 和三盆 [レベル] 4 1L:ɟcɑɑɪ [文化] セルメルではメテで作られ輸入されており、現在でも輸入に頼っている。黒砂糖に似ている。

ɒeɾeɒeɒ [組み数字] メテサークル [レベル] 5 J1 [文化] ɟɪdɪll

ɒeɾehɪɟɒɪ [言語] メテ幼字 J1 [文化] hɪɾd

ɒeɾel [名詞] メテル [レベル] 5 1L [文化] ɥəəɒɪ 9L1ʔ メテは魔方戦争で生き残ったレスタントを集めて ɒeɾel という新しい団体を設立。アルシェを右腕とした。メテは自らをルシーラと呼び、メテルのメンバーを使徒と呼んだ

ɒeɾelcl [化学] ノーベリウム 1Δ: 制

ɒeɾeɪɾɪ [言語] メテ会談 J0 [文化] hɪɾd

ɒel [形容詞] 不慣れな [反意語] nɔɾ [レベル] 3 @ 1L

ɒel̀lɪ̀ [普通動名詞] 再放送 [レベル] 3 1L

ɒelcɪ [名詞] 道具 [類義語] lɔn, ɒɔlɾ [レベル] 3 ɑ;e J1

ɒelcɪ,ɟzɑ dɪn dɪlɪɒel̀cɪ,ɑu.lɔ̀l

ɒel [名詞] 他、他人、他者 [反意語] nɔɟ [レベル] 1 @ 1L

ɒelɾ [政治] 他国、外国、海外、異国 [反意語] nɔɟ̀l [レベル] 2 @ 1L [文化] アルバザード人にとって身近な外国はルティア、メティオのほかに、周辺国であるケートイアやヒュート。魔方はアルナから遠いので印象が薄く、東方は近くて遠い国なので印象が薄い。 [用例] ɪn en 1e ɟccɪ ɒel̀l. 海外に行ったことがない。

ɒelɾ̀ɾel̀ [植物] 輸入植物、外来種 [レベル] 3 1L:ɟcɑɑɪ:ɟɒɪlelɾ

ɒelɾ̀lɪcɟ [経済] 外貨 [レベル] 4 1L:clɒəɟ:ɟcɑɑɪ

ɒelɾ̀lɪcɟeu [経済] 外貨建て→ ɒelɾ̀eu 1L

ɒelɾ̀lel̀ɟ [普通動名詞] 国外旅行、外国旅行、海外旅行 [レベル] 3 1L [用例] ɾeɪ nɔn eɾ 1ɪɥ, lɔɒ nɔn ɪɟ jen ɒelɾ̀lel̀ɟ. もし私がお金持ちなら海外旅行に行けるのに。

ɒelɾ̀uel̀ [言語] 外来語、借用語 [レベル] 3 1L

ɒelɾ̀ɑel [普通動名詞] 留学 [レベル] 3 1L:ɟcɑɑɪ:ɟɒɪlelɾ

ɒelɾ̀ɑəɾɪ [経済] 外国為替 [レベル] 5 JJ

ɒelɾ̀ɟen [言語] 外国語 [反意語] nɔɟ̀l̀ɟen [レベル] 2 J1

ɒelɾɪn [名詞] 外国人、異人、異民族、外人、ガイジン、よそ者、よそもの、ヨソ者、ヨソもの [レベル] 2 1L:ɒelcɑɑɪ ɪlcɟ

ɒelɾe [哲学] 非我 [反意語] nɔɟɾe [レベル] 5 ɥɑ:ɟɥəə;/「他人らしさ」 J? [文化] nɔɟɾe

ɒelɾeu [経済] 外貨建て [レベル] 6 1L

ɒelɑcnɪ̀ [娯楽] [軍事] 敵陣 [レベル] 4 JJ

ɒelɒcɪ [名詞] 相手から見た右 [反意語] ɒelɪnɪ̀, nɔɟɒcɪ̀ [レベル] 2 ɥɑ;/ J1̀:nɔɟɒcɪ̀

ɒeldɥɔɾ [普通動名詞] 商業出版 [レベル] 6 JJ

ɒelɪnɪ̀ [名詞] 相手から見た左 [反意語] ɒelɒcɪ̀, nɔɟɪnɪ̀ [レベル] 2 ɥɑ;/ J1̀:nɔɟɒcɪ̀

ɒelcn [形容詞] 客観的な [反意語] nɔɟcn [レベル] 3 ɥɑ;ɒel/cnɟ JJ lɪc:lɪc

ɒelcnɪ̀lld [言語] 客観的把握、最適視点配列、Ｄモード ɥɑ JJ [文化] nɪ̀lelɑɑel

ɒelcɪ [名詞] 郊外、近郊、町外れ、街外れ [レベル] 4 ɥɑ;ɒej/lcɪl「街の周り」 J? [語法] 都市の外縁部に位置する人口の多い地域のこと。 [用例] ɟɪdɔl 1ien{e} ɒelcɪ 郊外の住宅地

ɒeleɾ [代詞] 他人の、人の [反意語] nɔzeɾ [レベル] 1 J1:ɒel:nɔɟ nɔzeɾ, ɒel ɒeleɾ というアナロジーから

ɒej [名詞] 周り、周囲、周辺 [動詞] ɥəl を囲む、囲む、包囲する、取り囲む [名詞] 地方 [言語] 方言 [形容詞] 方言の、地方の [格詞] ～の周りに、～ぐらい：ɒejɪ と区別。 [類義語] hɔl, ɒenɪ̀ [反意語] jeel [類音] ɒejɪ [レベル] 2 jɒjɾ 1ʔ: 制 : 古 :ɒelɒɔ（周る）。語源不詳 nuɪ, ɒel ɒɔ:nuɪ, ɒelɒɔ:nɔuɪ [用例] ɒej ɒefl̀ 敵を囲む

ɒej(J) [サール] neɥɒej の略称 [組み数字] 4 / 1 2 [レベル] 1 JJ

ɒeɟɾ [名詞] 天秤 [魔法] メスト（ライブラ）。光の多段白魔法。最も簡単な魔法のひとつ。 [動詞] ɔɔl は ɥəl に相当する、相当する、当たる [動詞] ɥəl を天秤で量る、量る、測る、計る、はかる [言語] 天秤詞、天秤部 [レベル] 3 ɒelɾcɪ LΔ jen ucɪ:ɟɑ;ɒejɾ,ɑ.l̀ ɒejɾ:ɒejɾ:ɒcɟɾ 1ʔ: 制 : 恣意 [語法] 動詞の語義によって格組が異なる点に注意。文脈で判断可能。 [文化] ɑɔlɒcɥə ・天秤詞とは 文末に来て、(笑) などに相当する話者の心情を示すものである。一時期フゥシカの提案で文頭に置かれたこともあった。 天秤詞は幼字を使って表記する。ワードのように複数のフォントを扱えるソフトなら幻字と幼字を併用できるが、メモ帳などではそれができない。そこでメモ帳などでは幼字を幻字に置き換えて表記する。 ・天秤詞は品詞ではない 天秤詞は音を持たない上に語ですらないため、品詞のひとつではない。しかし古アルカの慣習で天秤詞と呼んでいる。品詞でないので天秤部という呼び方をすることもある。 古アルカでは音を持った天秤詞とそうでない天秤詞とがあった。前者は新生において文末純詞として発達し、後者は天秤詞として幼字のまま生き延びた。 天秤詞は前期制アルカで滅んだが、後期制アルカの時代に（笑）に相当する ɪlɾe や、(恐) に相当する ɾeeɒɟ や、♪に相当する lɪnɾe などが使われた。 JJ に天秤詞は拡張され、ɒɟel̀ɪ, ɑəəɟɥɪ, lɪnɾe, ucɾne 以外の月、ɪlel̀, ɒɟel̀eɾ, ɾeeɒɟ などにも意味が付されるようになった。加えて古アルカの４音韻を示す必要がこのころ大文字の存在によりなくなっていたため、空いた４箇所に ɪɟɾe, hɪ czen, ɪlceɟ, jeleɟɾ を加え、これらにも天秤詞を付した。また、これに合わせてフォントの ɥəəɔ と ɪɥɪl̀ɪ がこの順でユーザーの尽力の元に作成された。 ・書式 幼字で書く場合は天秤詞の前に半角スペースを入れる。幼字の実体がアスキー文字なので、天秤詞が単語の一部として認識されてしまうため。nɔn (lɪnɾe を幼字にして繋げて書くと nɔnʔ になってしまい、検索時に nɔnɪ̀ でないと引っかからなくなってしまう。コーパス調査がしづらくなるのでスペースを入れること。直後に約物以外の文字が続く場合もスペースを入れる。 幼字を使わない場合は括弧の前にスペースを入れたほうが見やすいし、コーパス調査のときも便利である。 [成句] ɪ ɒejɾ ふざけるな、ふざけんな、調子に乗るな、調子のんな、ちょづくな、フザけんな、ざけろ、ざけてろ：ɾə eɾ ɪ ɒejɾ（それは天秤に乗ることだ→まともに判断されるべきことだ）から。ɑen ɑed より固い。 lɪl ɒejɾ 調子に乗るな。ɪ ɒejɾ と違い、バランスを取れという意味。過度にやるなという意味。文字通り調子に乗るなの意味。ɪ ɒejɾ は叱責、lɪl ɒejɾ は注意勧告。そんなことしていると危ないぞというようなニュアンス。 [用例] ɒejɾ 1ɔ̀l̀ɪ{en1ɔ̀l̀ɪ} 釣り合った { 傾いた } 天秤 lɪɟ{ɪɟ} e ɒejɾ 天秤の手 { Ω }

ɒejɾ,ɑ [動詞] ɥəl に横に腕を上げさせる。結果、体が T 字型になり、これが天秤の形に似るため、以降 .l が起こる。 e

ɒejɾɑəl [普通動名詞] 等価交換 [レベル] 4 JJ: 天秤交換

ɒeɟɪɾ [名詞] 価値 [類義語] lɪɑ [レベル] 3 ɥɑ;ɒejɾ/hɪɾ「天秤の Ω」。天秤の片方の Ω に載せるも

ので、一定の価値あるものを指した。 J̚

ɒeʃʃc ［動詞］ɥəl を観測する、観測する、観察する ［普通動名詞］観測、観察 ［類義語］hɔc、uɪcʃ ［レベル］3 JJ:ɒeʃʃ

ɒeʃʃcɑɹ ［地球の星座］［ユマナ］てんびん座 JM ［文化］ cɑɹ

ɒeʃʃcɪ ［物理］プリズム ［レベル］4 J1: 光魔法 ɒeʃʃ から→ ɑɔlɒcɥə

ɒeʃʃl ［名詞］鞄、バッグ、カバン ［レベル］2 1̚ʔ: 制 : 古 :ɒeʃʃɪ（袋）から ［用例］ ʃeɪ nɔn ʃcl φcl ʃəuɪl, lɔɒ nɔn ʃiə ɟen le ɒeʃl. 十分なお金があったらあのバックを買えるのに。

ɒeʃʃɪɑ ［政治］周辺国家 ［レベル］4 J0

ɒeʃʃɪ,ɑu ɒeʃl ɒe は周り。

ɒeɲɔʃʃɔlɒ ［政治］地方自治 ［レベル］4 1L

ɒeɟuɪʃ ［政治］［軍事］地域紛争 ［レベル］4 1L

ɒeɟɒeu ［言語］接周辞 ［レベル］6 1L

ɒeʃl ［名詞］袋、パック、バッグ ［レベル］2 1̚ʔ: 制 : 古 :ɒeʃʃɪ ɒeʃʃɪ:ɒeʃʃɪ ［用例］ ɒeʃl ʃɪc 大きな袋

ɒeʃʃɪφel ［政治］地方分権 ［レベル］4 1L

ɒeʃlecuɪʃcʃe ［地学］環レイヴァ海流 J̚

ɒeɟɪ ［名詞］環境、状況、形勢、事態、情勢 ［格詞］〜で、〜の状況で、〜の環境で、〜の様態で。副詞句なども導ける。漢然と状況を表わす：ɒeɟ と区別。 ［類音］ɒeɟ ［レベル］2 1̚ʔ: 制 :ɒeɟ :::ɒelc,ɹlʃ ［成句］ ɒeɟɪ ʃɔʃɪl どう見ても、どう考えても、どうしても⇔ ʃɹlʃ ɪɒʃɪl hɪɟ ɒeɟɪ 当意即妙、臨機応変 ［用例］ ɒeɟɪ ɒɒɪʃ ɹcʃʃ denel. 事態はますます悪化した。

ɒeɟɪle ［政治］地方公共団体、自治体、地方自治体。通常自治体というと日本語では地方公共団体を指すため、訳語欄に挙げておく。 ［レベル］4 ɒf;/「地方団体」。地方公共団体をそのまま訳すと冗長なため。 J̚

ɒeɟɪɑl ［普通動名詞］再発見、再発明 ［レベル］4 JJ ［成句］ ɒeɟɪɑl e nɪφc ナギの再発明：車輪の再発見。同じ発明を自分が最初だと思い込んで無駄な舞い上がりをすること。それが何度繰り返されようと、歴史は前に進まない。

ɒeɟɪɥeʃ ［環境］環境問題 ［レベル］4 1L

ɒeɟɪlcɪ ［化学］再結晶 ［レベル］4 1L

ɒeɟɪen ［接続詞］ɒeɟɪ ［レベル］3 J1

ɒeɟcn ［動詞］ɥəl を見回す、見回す、見まわす ［レベル］2 J0:ɒelcɑcɪ lceɟ

ɒeɟcnnɪʃlɪn ［言語］客観的認知主体 μɑ JJ ［文化］ nɪʃleɪɑɑel

ɒeɟɔleʃ ［普通動名詞］リプレイ ［レベル］3 J1

ɒeɟen ［接続詞］ɒeɟ ［レベル］3 J1

ɒeɟel ［動詞］ɥəl をリセットする、リセットする、切り替える、切り換える、切りかえる、チェンジする、入れ替える、入れかえる、入れ換える、やり直す、仕切りなおしする、仕切り直しする、水に流す ［普通動名詞］リセット、やり直し、切り替え、リプレイ、リトライ、仕切りなおし、仕切り直し、やりなおし、やり直し ［レベル］3 JJ:ɒe/ɟeleɟ ［語法］ 水に流してリフレッシュするという前向きなイメージがある。

ɒeɟelɒɔʃ ［再帰動名詞］ふて寝 ［動詞］ɥəl をふて寝させる、ふて寝する ［レベル］3 JJ ［語法］ ややポジティブに使う。

ɒen ［代詞］［dɔʃlɔ］僕 ［レベル］1 J1:eʃeɟɔne:ɒɔlen（下の） たびたび ɒec に変えてはどうかという案が出るが、ɒecɑ とかぶるので不可能と否決される。何度も同じ意見が出たので、いい加減どうしてダメになるのかここに書いておく。

ɒenʃ ［軍事］伍長、メント ［組み数字］1 7 / 2 0 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɒɔlʃ。nɔlʃe と同根。 ［語法］［文化］ ʃɪnɪ

ɒenʃe ［名詞］売春婦 ［レベル］4 ʃɒ;ɒeɒdɔ/ʃeeze（まんこ風な、まんこ女っぽい） 古

ɒenʃeɟ ［動詞］ɥəl（体を売る人）を ɪ（買う側）に売春する、売春する ［普通動名詞］［再帰動名詞］売春、援助交際、援交、エンコー、ウリ、売り ［レベル］4 ʃɒ;ɒenʃe/ɟɔ J̚

ɒenʃeɑɔɟl ［名詞］ピンサロ、ピクサロン ［レベル］5 1Δ ［文化］ アルバザードにはない。

ɒenʃeeμl ［名詞］ソープ、トルコ風呂 ［レベル］5 1Δ ［文化］ ɒenʃeez アルバザードにはない。

ɒenʃeez ［名詞］売春宿 ［レベル］5 1Δ ［文化］ アルバザードにおける一般的な売春宿。日本でいうソープだが、風呂はない。本番あり。日本では風呂がなく個室を使うという意味では本番のないヘルスやある赤線などの訳語にあたる。

ɒenl ［動詞］ɥəl に {ʃɔn} の周りを周らせる、周る、回る ［天文］公転 ［類義語］hɔl、ɒeɟ、ɒeɒ ［レベル］4 J0:ɒeɒ/le（円を描いて行く） ::ɟɪc:uczen,lʃ ［語法］ hɔl

ɒenlʃɪʃ ［天文］公転周期 ［レベル］4 J0

ɒenlɒeɒbɪɔφ ［物理］軌道角運動量 ［反意語］hɔlɒeɒbɪɔφ ul;/ → hɔlɒeɒbɪɔφ J̚

ɒenlel ［建築］メンケル宮殿 ［言語］［文字］オールドフェイス、オールド・フェイス J1 ［文化］ ɟɒ で建てられたケートの宮殿。オールドフェイスが流行った。

ɒenlɒc ［卑語］クンニリングス、クンニ、まんなめ ［類義語］lccɟɥel ［レベル］4 J1:ɒeɒdɔ/lɒc ［用例］ "dɪdɪ ſɔ eſ lɒnc ɪ. μe ɪμ ɒenlɒc ɪ nɔel, ɔdɪɪɪɪɪɪ(ɑɑɑɑ" 「何がクニだよ！クンニしろオラァァ！！」（エデンの檻）

ɒenɟ ［普通動名詞］ツッコミ ［動詞］ɥəl（内容）を ɪ につっこむ、つっこむ、突っ込む、ツッコむ、ツッコム、突っこむ、つっ込む ［レベル］3 J1:ɒɔz/μenɟ

ɒenɟɪ ［アイテム］メンサ ［レベル］4 μcɑcɪ: 古 :ɒeɟɪɒeſ「メルの服」或いは「時間の服」が語源。 ［文化］ ヴァストリアの１つ。メルのもつ魔装。時空を歪めた際の反動から身を守り、かつ時空を歪める能力を増してくれる服。

ɒennc ［卑語］まんげ、まん毛 ［レベル］4 1L:ɒeɒdɔ/cnc

ɒenɑ ［動詞］ɥəl を沈める、沈める、沈む、潜る、潜水する ［運動］スキューバダイビング ［再帰動名詞］潜水 ［自然動名詞］沈没 ［レベル］3 1̚ʔ: 制 nəe:nəe

ɒenɑlɪɑ ［地球の国名］ツバル 1L: 低い上に小さい島で、沈みつつある

ɒenɑɪdl ［軍事］潜水艦 ［レベル］3 nɑ;/ J̚

ɒenlɔ ［卑語］膣 ［レベル］4 1L:ɒeɒdɔ/lɔ ［語法］ ɒcul は医療用語で、子供が出てくるイメージ。 ɒenlɔ はセックスに使う淫らなイメージ。

ɒenɪ ［名詞］方針、指針 ［レベル］3 1M: 制 : 語源不詳。ɪnɔ（漢然とした計画）からか？

ɒenɪl ［代詞］［dɔlɔ］僕の ［レベル］1 J1:eɟeʃɔne:ɒen/ 古 ɪl

ɒencɑ ［名詞］留年 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ

ɒenɔʃ ［医療］リハビリ、リハビリテーション ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſʃ

ɒene,ɑu leſcɪ neeɒe.φeɟ

ɒeneſ ［電算］再起動 ［レベル］3 J0

ɒeu ［言語］接辞 ［レベル］5 1L:ɒeɟ/ueſ

ɒeuɔlʃ ［普通動名詞］再現、再来、再起 ［普通動名詞］リプレイ→ ɒeɟɔleſ ［普通動名詞］復元→ ɒelɪɑ, ɑɔμſ ［動詞］ɥəl を再現する、再現する ［レベル］4 J0: 再び具象化する ［用例］ μμſ ɑɔnl uɪn ɒeuɔlʃ e ɾlɪuɟ. 神々はラヴァスの再現を避けようとしている。 ［語法］ ビデオなどの再生は ɪeɪl。

ɒeɑ ［動詞］ɥəl（坂など）を降りる、降りる、おりる、下る、くだる ［反意語］ɒɔn ［レベル］2 1̚ʔ: 制 ［用例］ ɒeɑ ſɔɔn 坂を降りる ɒeɑ. nɪɑ 階段を下る

ɒeɑſɔɔn ［名詞］下り坂 ［レベル］2 J0:ɟeμen/μcɑcɪ

ɒeɑſeeze ［気象］下降気流 ［レベル］4 1L

ɒeɒ ［名詞］丸、環、真円 ［形容詞］丸い ［数学］円 ［動詞］ɥəl を周る、周る、まわる、回転する。 ɒeɒeɒ の略で ɥəl を丸めるの場合も。 ［類義語］hɔl ［レベル］2 ɑ;><ɒelɒɔ,ɑ 1̚ʔ: 制 : 古 :φelc。 ɒelɒɔ(円) 元は円周として使われていた ɒeɒ, φelc:ɒeɒ, φelc ［語法］ 正解には○ (ɒeɒ)。不正解には× (ɔɒɪ)。その中間には＼(clɪl) と /(ɪleɑ) を付ける。これは古アルカのオノマトペſclɔn(○)、sɪn(×) から来ている。これらは正解や不正解を示すオノマトペで、丸やバツといった幻字が当てられていた。斜め十字を表わし、「 × 」のような形。 ［文化］ ɒeɒlɪɟ, dɔcſ ［成句］ ɒcμe cʃlɪl ɪ ɒeɒ 四角を丸にする：分かりやすくする。９８年２月３日のメモに書いてある表現で、当時の古アルカにあったものと思われる。 ［用例］ ɥen lɪɑ ɒeɒ 円を描くように

ɒeɒlcɪl ［名詞］円形都市 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſʃ ［語法］ 例えば ɟɪlɪc。

ɒeɒɟel ［言語］円唇 1L

ɒeɒncɪſcɑl ［医療］円形脱毛症 ［レベル］5 1L:ɟeμen

ɒeɒncɪl ［数学］円柱 ［レベル］4 1L

ɒeɒɒe ［婉曲］おまんこ、女の子のあそこ ［レベル］2 古

ɒeɒd ［卑語］セックス ［レベル］4 古 :ɒeɒdɔ から

ɒeɒdɪb ［名詞］回転木馬、メリーゴーランド ［レベル］3 1̚ʔ: 制 : 丸い馬 ［成句］ ɥən ɒeɒdɪb 走馬灯のように ［用例］ ɑcɪn le lɔμ ɪ uɔμſ lɔnɑ ɒeɒdɪb ɒcɪɓ 死にゆく少女は回転木馬の夢を見るか ɪɒɪlcɟ e le ɟel lənɪl ɥən ɒeɒdɪb. あの日の思い出が走馬灯のようによぎる。

ɒeɒdcɒ ［数学］円錐 ［レベル］4 1L

ɒeɒdɔ ［卑語］まんこ ［レベル］4 ɑ;ɒeɒ/dɔnnɔ 古 : 元は ɒeɒdɔnnɔ。ɒeɒ は「包み込む」で、dɔnnɔ は元は単独で女性器を指したが、後に男性器の隠語となった。dɔnnɔ は女性器の隠語だったのだが、意味が逆になり、男性器を指すようになった。女性器の隠語がなくなったため、ɒeɒdɔnnɔ が新たに女性器の隠語として造語された。しかし意味があまりに直接的なので煙たがれ、略されて ɒeɒdɔ になった。しかしそれさえもやがて煙たがられて卑語と化した。

ɒeɒdɔn ［幼児］おまんこ、女の子のあそこ ［レベル］2 古 :ɒeɒdɔn,ɒeɒdɔ に指小辞が付いたもの ［語法］ 幼児語。卑語ではない。ɒeɒdɔ というのが憚られるので大人同士でも ɒeɒdɔn と言うことがある。こうして幼児語にしてしまえばいやらしさを感じないのは制アルカは特に顕著である。性の禁忌が激しいことで有名な純潔乙女のクミールやフルミネアの口から ɒeɒdɔ が出ることはありえなかったが、ɒeɒdɔn なら何度か聞いたことがある。

ɒeɒdeɟ ［植物］フリージア ［レベル］4 nɑ;ɑleɪbel 語で「女性器」。花の形が膣口に似ているため。 ɒeɒdɔ と同根だがこちらは卑語ではない。 J̚ ［文化］ フレアベル原産。nɑ で流入。

ɒeɒbɪɔφ ［物理］角運動量 ［レベル］6 1L: 日本語は英語の a n g u l a r を訳しているようだが、「円運動量」という概念は特にないようだし、ならば ɒeɒbɪɔφ のほうが分かりやすいと判断した。

ɒeɒlɪɟ ［名詞］グッドサイン ［レベル］3 J1 ［文化］ 左右どちらでもよいが、親指と人差し指で輪を作る。残りの指は立てておく。日本で「金」を指すジェスチャーと同じ。 これが ɒeɒ のサインで、「よい」を指す。英語圏で親指を立てるジェスチャーと同じ意味。 反対のバッテンは両手の人差し指を交差させて作る。

ɒeɒlɔɔb ［被服］ラウンドキャップ μɑ;/ JM ［文化］ ɟɒ でできた。

ɒeɒɪ ［名詞］ロータリー、広場、ひろば ［類義語］ʃəəl ［レベル］3 1̚ʔ: 制 :ɒeɒlɪ から

ɒeɒɪſɪn ［化学］シクロアルカン 1L

ɒeɒɪdl ［数学］円グラフ ［レベル］3 1L

ɒeɒɪμlənɔ ［化学］環式炭化水素 1L

ɒeɒlɪɟ ［普通動名詞］再婚 ［レベル］3 J0 ［文化］ 離婚率が低い、再婚も自ずと少ない。男は再婚できるが、女は原則再婚できない。処女であることが結婚の条件のひとつであるため。

ɒeɒɪlɒc ［アイテム］ラウンドシールド μɑ;/ JM

ɒeɒcμ ［形容詞］仲のよい ［動詞］ɥəl を ɪ に馴れ合わせる、慣れ合う、馴れ合う、なれ合う。 eɒ とともに ［反意語］ɒeμəs ［物理］波の腹 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ: 古 :ɒelɒccμ（メルとクミールのような）［用例］ ɟeɒɪcɒ ɒeɒcμ 仲の良い友達

ɒeɒcμuejɔ ［言語］母音調和 ［レベル］6 1L ［文化］ 古アルカには存在した。制の n 対によって崩れた。新生でも古の名残のあるものは母音調和しがちなので、間接的に母音調和は残っている。セレン＝アルバザードは姓名ともに母音調和。ɪμnɪɒɪnɪlɪ ſ'ɪμbɪzɪμɑ（アルバ国アルナ大学）など、すべて母音調和。

ɒeɒcμɑɔ ［音楽］協和音 ［レベル］4 J1: 「仲の良い音」

ɒeɒcμelɟ ［普通動名詞］馴れ合い、馴れあい、なれあい、妥協、なあなあ、なぁなぁ、癒着 ［レベル］3 μɑ;/ J̚ ［語法］ 良い意味でも癒着のような悪い意味でも使う。

ɒeɒɔl ［再帰動名詞］二度寝 ［レベル］3 1L ［用例］ ɪn ɪμſ ɒeɒɔl. 二度寝した。

ɒeɒɔu ［普通動名詞］円運動 ［レベル］4 1L

ɒeɒe ［名詞］繭、まゆ ［レベル］3 1̚ʔ: 制 :ɒelc

ɒeɒeɑɪ 円環表、丸いリスト、丸い表 ［レベル］3 1Δ

ɒeɒelen ［名詞］円卓、ラウンドテーブル ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſʃ

ɒeɒeeu ［物理］円形波 1L

ɒeɒcɟlɪnſ ［交通］南条、南大通り ［名詞］朱雀、メディスカント ［レベル］3 μɑ;ɦɥ。hɥ の四方を収める四神の名から J̚

ɒeɑcɪ ［色］黄緑 ［レベル］2 1L:cɒel/ɑccɪ ［文化］ 黄色はメルから来ており、緑はリディアと関連があるので、黄緑はふたりを象徴する色。この象徴は、クミールがセレンを揶揄するときに "lə ſɪɑſ ɒeɑcɪ ɒe ſeμ" と言ったことに起因。象徴の作り手がクミールであって、造語者ではない。造語はそれ以前にセレンが行っている。 ［成句］ nɪb lɪɟ ɪ ɒeɑcɪ 手を黄緑に塗る：両手に花。ɒeɑcɪ は何の隠語だろうか。答え↑

ɒeɑcɪn ［地名］メディアン ［レベル］4 ɒelſcɪ L̚ʔ jen ucɪ;「回帰する土地」 J0:μcɑcɪ:「回帰する土地」 ［文化］ 古代国家のひとつ。後のメティオになる広大な国。 約７０００万年前、セルトが生まれる５００万年前にメティオがアルカット南岸に衝突。アルテ時代の記憶を連綿と受け継ぐアルミヴァが歴史を人類に伝え、その歴史を元に人類が命名したもの。「回帰」とはパンゲア時代のように「ほかの大陸にまとまるようにぶつかった」というところから来ている。

ɒeɑcɪnμen ［言語］メディアン語 ［レベル］5 J1 ［文化］ ɒeſcɔμen

ɒeɑcennə ［名詞］メディエンヌ、不親切な真実、親切でない本当 ［類義語］ɑcɟɒenſ ［レベル］4 古 :lccɜɪ:ɑcɟɒenſ と同じく、あえてそれっぽいだけの語形を恣意的に作ったもの。 ［語法］ 嘘ではないが誤解を招くもの。本当は A ではないが A だと思わせたいとき、A だと嘘をつくことはないものの、A だとわざと相手に誤解させるような言い方をすること。逆に、B だと思われたくないときに、そのように誘導することも指す。 嘘は苦手だが何かと隠す必要のあるリディアやセレンがよくやる。さらっと素で嘘がつけるメルなどは ɪlɔ といえる。 ［用例］ lə(ɪμ) ɒeɑcennə メディエンヌを言う

ɒeφ ［名詞］レンチ、スパナ ［レベル］3 lɪlʃɪ: 回す金属

ɒeφɪnɑ ［軍事］再征服、レコンキスタ ［レベル］4 J0

ɒed ［名詞］鏡 ［動詞］lɔn を鏡として ɥəl を ɪ に映す、映す、写す ［文字］レフティ ［化学］反射鏡、光源ランプ ［レベル］2 ɟɔμn 中期制アルカおよび ɟɔμn:ɒed（鏡）「よく磨いた」 参考：アルシェ :ɒɥəl,clcμcəɟ ɒɥəl:ɒɥəl:ɒɥəl

ɒedɟ ［普通動名詞］セックス ［動詞］ɥəl とセックスする、セックスする ［類義語］eɟɟe ［反意語］ſcɪɟ ［レベル］4 μɑ:μcɑcɪ;ɒeɒdɔ/eɟɟe J̚:μcɑcɪ: → ſcɪɟ ［語法］［文化］ ſcɪɟ

ɒedn ［交通］運河 ［レベル］4 1̚ʔ: 制 :ɔɔbedɔn（掘った水路）

ɒeducɪn ［物理］偶力 J1

ɒedɒɔ ［名詞］鏡像 ［動詞］ɥəl を鏡像にする ［類義語］cllɒɒ ［レベル］4 J0

ɒedɥəɔ ［言語］能格動詞、反使役化動詞 μɑ;/「鏡の動詞」。自動詞にも他動詞にもなることから。 JM ［語法］ 自動詞にも他動詞にもなる動詞で、他動詞の目的語が自動詞にしたとき主語に来るタイプのもので、o p e n やヒラクなどがある。反使役化動詞とは「他力または自力によって変化する」動詞のことである。他動詞しかないアルカにはない。 能格動詞を反使役化動詞と同一視したのは影山 (J001) による。

ɒedl ［ポジティブ］［動詞］ɥəl を思いつく、思いつく、思い付く、閃く ［普通動名詞］ひらめき、閃き、思い付き ［感動詞］あ、そうだ ［レベル］2 1M: 制 : 古 :ɒeldɪɪl（閃き）「メルの光」 ［用例］ ɪn ɒedlɪſ ɪnɔ bɪn e lɒɟſ. 明日の楽しい計画を思いついた。

ɒedc ［名詞］レンズ ［名詞］レンズ。カメラの。 ［レベル］3 1̚ʔ: 制 :ɒedɪ

ɒedcſ ［アトラスの国家］メピット ［レベル］5 J0:ɟeμen: 鏡の国

ɒebɪ ［名詞］鋤、すき ［レベル］3 1̚ʔ: 制 :lɪlʃɪ:ɒeb（掘る）

ɒebc ［名詞］シャベル、ショベル、スコップ、パワーショベル、パワーシャベル ［レベル］3 1̚ʔ: 制 :ɒeb（掘る） ［用例］ ɪn ɟeɑſ ɟɪe ɟɪen φlſ lɔn ɒebc. シャベルで玄関前を雪かきした。

ɒebɔ ［建築］堀 ［レベル］3 1̚ʔ: 制 :ɒeb（掘る）

ɒebe ［名詞］ドリル ［レベル］3 1̚ʔ: 制 :ɒeb（掘る）

ɒeɥl ［環境］リサイクル ［レベル］3 制

D

ɒeɾl ［名詞］代、世代 ［反意語］jeɹʃ ［レベル］4 1ʔ: 制 ［語法］ jeɹʃ

ɒeɹ ［形容詞］完全な、完璧な、パーフェクト← ɒeɹɾe ［副詞］完全に、すっかり ［反意語］φɪɹʃ ［レベル］1 1L:ɒeɒ（円）/ 制 ɪɹ（完全） ［用例］ ☆ el ʃɔɔ̀ ʊcl ɾə lɪb ɒeɹel ɾeɹ. その仕事を完璧に終わらせることは不可能だと聞いた。 senɾ ɪɾ ɒeɹ. 完璧な天気だった。

ɒeɹʃ ［言語］メルト、言葉遊び ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɒclɒ/eɹʃ（踊る言葉）。古の lɘəɾe になぞらえて造語した。 ［語法］ ʃɔ̀ɔn と違ってそれ単体がユーモアになっているのではない。ɒeɹʃ はふつうの言葉が周りの状況や言い方などによって初めてユーモアになるものである。ʃɔ̀ɔn と違ってネタを用意していればいつでも言えるものでないため、ɒeɹʃ のほうが高等テクニック。 ［用例］ ɒeɹʃ ɒelʃ 心温まる言葉遊び

ɒeɹʃeɒɪ ［歴史］メルテナ時代、召喚士時代、夕月の嘴矢、ゆづきのかぶらや ［レベル］3 古？ :ɒel/ɪɹʃeɒɪ（召喚士の時代）の意味だろう。「夕月の嘴矢」は月戦争の前であることから夕月、戦争前夜であることから鏑矢になっている。 ［文化］ → ɪʒφeɹ 東西の民シフェル（西）とマレット（東）の戦争アズゲルと、月戦争カコの間の時代。召喚士が有力になり王となる時代。ラヴァス後、アトラスの地上に残されたのはエルトにもサールにも属さないユーマの一族であった。ユーマの一族は神聖を失った者同士の交配であったため、神聖を著しく失っていた。そのためアルテから見放されてアトラスに残されたのである。そしてこれが人類である。アトラスに残されたユーマの一族は独自に発展を続けた。このころはまだ神聖を失いきっていなかったので魔法を使うことができた。だが、その力は弱かったため、神の力を借りざるを得なかった。神はユーマの一族が生成する魔力を非常に好んだため、これと引き換えに力を貸すことがあった。こうしてユーマの一族の中には魔力と引き換えに強大な神の力を借りる契約をした者が現れるようになった。これが召喚士である。

ɒeɹlc ［格詞］真後ろ ［レベル］2 J0

ɒeɹlcen ［接続詞］ɒeɹlc ［レベル］3 J1

ɒeɹɟɪ ［格詞］真前、まん前、まんまえ、真ん前、正面 ［レベル］2 J0

ɒeɹɟɪen ［接続詞］ɒeɹɟɪ ［レベル］3 J1

ɒeɹɒcl ［格詞］真右 ［レベル］2 J0

ɒeɹɒclen ［接続詞］ɒeɹɒcl ［レベル］3 J1

ɒeɹɒɔl ［格詞］真下 ［レベル］2 J0

ɒeɹɒɔlen ［接続詞］ɒeɹɒɔl ［レベル］3 J1

ɒeɹɒeɒ ［数学］真円 ［レベル］6 μɑ;/ J?

ɒeɹɑcɪ ［アトラスの国家］メルディア ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:ɒelʃcɪ

ɒeɹhɪl ［格詞］真上 ［レベル］2 J0

ɒeɹhɪlen ［接続詞］ɒeɹhɪl ［レベル］3 J1

ɒeɹlɥəɑcɪ ［芸術］リアルファンタジー μɑ;/「完全なファンタジー」 ［レベル］6 J? ［文化］ lɥəɑcɪ

ɒeɹlɪnʔ ［格詞］真左 ［レベル］2 J0

ɒeɹlɪnʔen ［接続詞］ɒeɹlɪnʔ ［レベル］3 J1

ɒeɹcɪ ［ジョブ］メリア、巫女 ［名詞］預言者 ［レベル］4 J0:μcɑcɪ:ɒcn/eμcɪ（水の女。エルテを着る前にみそぎをすることから） ［文化］ 召喚士と対をなすジョブ。神の力を得るのではなく、神との対話をするのが仕事。悪魔との対話も可能。神や悪魔には言語能力のないものもいるので、これらと意思疎通をすることができる点で特に重宝される。また、試練を終えて契約を結ばないと神を呼び出せない召喚士に比べ、簡単に神と対話できる点でも優れている。その代わり召喚して力を得ることはできない。巫女は対話の際、みそぎをしてエルテを着る。対話はサリュで行う。 宗教的には預言者を指す。教祖はしばしば預言者も兼ねる。

ɒeɹenʃ ［名詞］もう一度言う ［感動詞］もう一度言って？疑問文で使う。 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcʃ ［文化］ 聞きなおす際は一般的に "lɪnʃeȣ" と言う。同じことを何度も言わされるのは心地よくないので、アルバザード人も何回も聞き取れないと遠慮してそれ以上は聞き返せなくなる。それが元で誤解が起きることもままあるが、それは恐らくどの国でも同じことだろう。 ［成句］ μeʃ ɒeɹenʃ ɪ ɪ に聞きなおす、聞き直す

ɒeɹəs ［形容詞］不仲な、仲の悪い、仲が悪い、犬猿の仲 ［反意語］ɒeɒcμ ［物理］波の節 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcʃ: 古 :ɒelμəəs（メルとルージュのような）。ɑcɪɒel というのもあったが、ルシアたちの教育に悪そうなので採用しなかった。

ɒeɹəsɑɔ ［音楽］不協和音 ［レベル］4 JJ:「不和な音」

ɒez ［名詞］噂、噂話、ゴシップ、うわさ話、風評 ［動詞］ɥəl という噂を ɪ に言う、噂する、言う ［レベル］3 lɪ̀lɪ ［成句］ ləɾcɪn ɒez lej ɪμbɪn ɔɔ. アルバザード人の噂をルティア人がする：悪事千里を走る lcuɒɔ e ɒez eʃ ɑen nɔɑ ɒɔl e lelʃej 噂の寿命はシェルテスの眠りより短い：人の噂も七十五日 ［用例］ el ɒez ɾə lel lɪ leeuɪʃ ɪ ləɾcɪ. 彼がルティアに去ったという噂が流れている。

ɒezɔ ［名詞］からざお、殻竿、さお、竿 ［レベル］4 lɪ̀lɪ:ɒe は回る。z は木だろう。

ɒes ［サール］メジュ ［動詞］ɥəl を暗殺する、暗殺する ［普通動名詞］暗殺 ［レベル］3 φcl: 古：ギルの当時の名が語源 ［文化］ サール界きってのアサシン。サール・エルト・人間を問わず狙う。

ɒesɾel ［魔法］メジュテル ［レベル］4 1L:「抗暗殺」 ［語法］ lecn と共起すること。男でも。 ［文化］ ミロクやメテに限らず、偉大な魔導師は常に暗殺の危険に晒されながらも暗殺を防いできた。実は魔導師の暗殺は難しい。毒殺は白魔法で治るのでしばしば無意味であり、攻撃でダメージを与えても白魔法で回復してしまう。しかし睡眠中は無防備であるため、暗殺する隙ができる。 そこで暗殺を防ぐために、魔導師側は魔力でメジュテルというバリアを張って寝る。もしメジュテルが破壊されれば物音で気付くため、結局暗殺者はしばしば対象より武力で勝っている必要がある。このため、偉大な魔導師が王を務めた古い時代での暗殺は特に難しかった。 なお、戦士は霊力でメジュテルを張る。性質は異なるが機能は同じ。 ［成句］ lecn ɒesɾel ぐっすり寝る、熟睡する、快眠、枕を高くして寝る、安心して寝る、安眠する lecn ɒesɾel メジュテルの魔法を張る ［用例］ lɪɑ ɒesɾel 魔導師がパーティのためにメジュテルの結界を作る。 ɪn lecn lɪl ɒesɾel. ぐっすり眠りたい。 el lecn lcμ ɒesɾel ɔl lɪl lɪl uɪln. 熟眠は健康の基本だ。

ɒel ［名詞］時 ［言語］時制→ ɒeluef ［類義語］cɒ、hɪlcʃ、ɑcɒel ［レベル］1 ɑ;e 古：使徒 ɒel が語源 ɒel:ɒel:lə ɒel:ɥəɒc,ɪlʃ ［成句］ ɒel jeɑ eɒʃ. 時間が経てば悲しみも癒される。 ɔl ɒel = hɪɪɹ ɒel 時間とともに、時代が進むにつれて fel ɒel 時間の流れに逆らって、時が進むほど逆に～ ɑɪl ɒel lɪ ɑcɪ 壁に耳あり障子に目あり：夢で時を抱く。隠語になっており、ɑcɪ は μcɑcɪ のことで、ɒel は人名のほう。使徒がセレンを揶揄したもの。 ɾɪə ɒel 時間を稼ぐ、時間をかせぐ ɒel leɑ ɥən aɪμ 光陰矢のごとし ɒel uɪʃ elɑ lɪn 歳月人を待たず ［用例］ ɪn ɥɔlɪʃ ɑɔnl ɒel bebelel. 時間を無駄に使うべきではなかった。 ☆ lɪφ{fcɑ} ɔn ɒel 時間に余裕がある｛ない｝ fclʃjc} ɒel 時間がある｛ない｝ ɑen ɥɔl ɒel bebelel. = ɒel eʃ ɾɪɒ. 時間がもったいない。 ［俗語］［言葉遊び］ɒel jeɑ eɒʃ:1L:zɪnɪ: リディアがセレンにメルとの浮気を理由に別れる宣言をした際、ザナがリディアに「そんなことをしたら余計メルに取られるだけだ」との意味を込めて言ったセリフ。言葉通りの意味は「時が悲しみを取り去る」、つまり「時間が経てば悲しみは消える」というもの。ここでは慣用句を元に言外の意味「メルが（セレンの）悲しみを取り除く」を導いている。 ☆ ɪn fcl ɒel lɔn cɒ ɾəμ. 今苦しい時期にある。 jeɑ ɒel ɑccnɪ スケジュールから外す eu ɒel ɑccnɪ スケジュールに組み入れる jeʃ ɒel 時間をつぶす、時間を潰す。 ɒeɹjeʃ が暇つぶしなので必ず jeʃ。jeɑ と似るので注意。 ［文化］ ɪμnɪɒel

ɒel(J) ［人名］ɒel ʅeefɔcɪ → ɒel jclɑ ɾlɪcɑɪ ʅeefɔcɪ ［レベル］1 古

ɒel(ʔ) ［組み数字］7 / 2 8 ［交通］メル通り ［名詞］メル組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2 JJ

ɒelʃ ［形容詞］暖かい、ぬるい、温かい ［形容詞］感じのよい、いい感じな、好印象を持てる、感じがよい、気持ちのよい ［動詞］ɥəl（物質）を温める、温める、暖める、チンする、レンジでチンする ［動詞］ɥəl（人など）を慰める、慰める ［動詞］ɥəl（死者など）を鎮魂する、鎮魂する、慰霊する ［反意語］ɑccʃ ［レベル］1 1L:cɒelfeeze 黄色い風 :::neʅɔlə,ɪlʃ ［語法］ hɪμʃ ［成句］ jɔɔnɔɥən ɒelʃ ʅe ɑɔɔɪ ɒelʃ. 気持ちのよいおはようは気持ちのよいさようならにつながる：一事が万事 ［用例］ nɔn nɪʃ nɪə ʅɪnel ɒcl nɔn ʅɔlʃcʅ μɪ c ʃɪnʃ le jɪe lɪ. 雪の降る外から帰ってきて暖かかったのでとても幸せだった。 nɔn eɒɪʃ ɒcɔl ɒcl μenʃ ɒelʃ lɪɪʃ. 彼の温かい言葉が私の気分を良くしてくれた。

ɒelʃlceμ ［歳時記］暖冬の日 ［レベル］3 J1 ［文化］ lcʃ lcʃ の休日。1 月末から 2 月上旬（クリスの月ごろ）はアルバザードでも一年のうちで最も冷える時期で、一番人間の体がこたえる時期である。そこに休日を入れて体を暖め休ませることで風邪等の罹患率を下げようという目的で、ミロクが制定した。クリスの月の雨は寒いというだけあって、この時期は特に寒い。その上この月のアルバザードは日本の 1 月末より雨が多く、体調を崩しやすい。

ɒelʃɟɪlʃcc ［気象］スコール。日本でいう「強いにわか雨」の意味ではない。 ［類義語］uenɪ e ʅle euel ［レベル］3 1L

ɒelʃɟɪb ［被服］厚着 ［レベル］3 μɑ;/ J?

ɒelʃnɔɪ ［生物］曲骨 J1

ɒelʃɑɪʃcl ［形容詞］けなげな、健気な ［レベル］3 μɑ;「温かい気持ちを引き出すような」 JJ

ɒelʃnɔclɑɪc ［医療］温灸 μɑ;/ JJJ

ɒelʃdɔl ［地学］温帯 ［レベル］4 1L

ɒelʃbɪʅb ［料理］ホットミルク ［レベル］2 μɑ;/ J?

ɒelʃɪμ ［名詞］暖房、ヒーター ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ 熱くしてはかなわないので、hɪμʃɪμ はない。 ［用例］ ɪn ɪμɪʃ ɒelʃɪμ bɪn nɪ ɔɔμʃ ʃcnʅɪ. あまりにも寒かったのでヒーターを入れた。

ɒelʃc ［名詞］ぬいぐるみ、縫いぐるみ、縫い包み ［レベル］2 JJJ: 制：古 ɒelʃlcl（メルが持つ）。メルは小さい頃ぬいぐるみが好きだった。使徒の中で当時 1 人だけ幼かったからそういうアイデンティティを持っているように我々は思ったのだろうが。（J1 追記：今となってはぬいぐるみの代わりにマウスを握り締め、ＰＣとニコ動を見てうへうへ言っている姿に哀愁すら覚える）

ɒelʃcɪ ［悪魔］メルティア ［レベル］3 ɒelʃcɪ 0:ɒelʃcɪ;ɒel/ʃccɪ「時を愛する」 μcɑcɪ:jeμen: 古「時を愛する」 ［文化］ 時空間を操る悪魔。時空間を司る。長髪、白黄混血系、美青年。自由意志がない。ベルトと同じく異世界への行き来ができる。アシェットのメルの父。テームスは霊界の歪みとして生まれたが、それでもエルトの予想に反して霊界が滅びなかったのはテームスが滅ぶのを拒んで悪魔メルティアを生んだため。メルティアは時空間を自由に操り、霊界を秩序立てている存在で、その意味では最も強力な存在。力自体は大したことないが、霊界の支えになっているのでテームスでさえメルティアには手出しをできない。メルティア自身も霊界を存続させるのに精一杯で、自由意志など少しも持てない。そんなメルティアが唯一自由意志を持ったのが、アシェットのメルの母となるある少女を見つけたとき。メルティアと少女は恋に落ちメルが生まれるが、メルが生まれたことでメルティアの力はメルに奪われてしまい、霊界の秩序が乱れかけてしまう。案じたメルティアは妻子を捨て、二度と自由意志を持たないと誓った。メルティアは娘に力のこもった腕輪の秩序メルティアを託すが、戦火で紛失してしまう。しかしやがて秩序メルティアは成長したメルの元へ帰る。ベルトは異世界からの断絶を行い、メルティアは異世界からの流入を行うといわれている。 『紫苑の書』では、口数が少ないものの、やけに親切な悪魔として描かれている。 普段は青い目だが、戦闘時には黄色い目になる。このことから ɑu では cɒel で明るい黄色の意味になり、後にアルカで黄色として受け入れられる。 金星を司る。

ɒelʃcɪn ［企業］メルティアン ［レベル］4 J1 ［文化］ セイコーに相当する企業。

ɒelʃcɪdɪlʃ ［歴史］メルティア暦 ［レベル］5 1L:cIɒəj:μcɑcɪ ［文化］ dɪlʃ

ɒelʃcɪlccɑ ［天文］アンタレス ［レベル］6 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel ［文化］ 黄道を通る 4 つの一等星のひとつ。メルの父メルティアの星。

ɒelʃcɔn ［動物］マルチーズ ［レベル］6 J1: ぬいぐるみ犬

ɒelʃɔn ［形容詞］メルの望むような ［反意語］ɪlɒelʃɔn ［レベル］4 μɑ:ɒel;ɒel/ʃe/ɔn「メル風なものに関するような→メルの好みに沿うような」 JJJ:ɒel ［文化］ ɥəlʃcɪ

ɒelʃɔɔl ［筐堺］メルトール ［レベル］5 μɑ;ɒel/ʃɔɔl「メルの支配するトール人の地」 JJ ［文化］ 筐堺司：ɒel ʅeefɔcɪ 筐堺国：ʅeefɔcɪ, ɑcɒcnɔɔn

ɒelʃe ［被服］ワンピース ［レベル］2 JJJ: 制：lɪ̀lɪ:ɒelʃeezeΓメルの風」。セレンの造語。子供の頃のメルがよくワンピース（ドレスも多かったが）を着ていて、風に靡いて美しかったことから。アルカではよく服に「風に靡く」という意味で ʃeeze をつける。

ɒelʃeɒ ［環境］地球温暖化、温暖化 ［レベル］4 1L

ɒelʃelen ［名詞］こたつ、コタツ、炬燵 ［レベル］3 1L

ɒelʅ ［名詞］時計 ［レベル］2 μɑ;ɒel/ʅcd ʔ? ←ʅɔ :ɒellɔ ɒellɔ:ɒellɔ ［語法］ → ʃcʃ ʃɔʃ ［文化］ 最初の時計は ɒelʃcɪ JJ にメルティアが作った日時計で、アルミヴァを用いて 2 4 時間法を採用していた。 機械仕掛けが登場したのはセルメルでナユがアルバ王に献上したとき。その後セルメルでねじ巻きの懐中時計ができ、μɑ でリュウがクリスの発言を受けて腕時計を開発。ナディアで電池式のものができ、ヴェレイでは太陽電池のものができ、アンセに組み込まれ、事実上アンセに機能が吸収された。腕時計はアンセにほぼ吸収されたが、みやすさの都合で置時計や掛け時計は現代でも残っている。 ［用例］ ☆ ɾə ɒelʅ eʃ jeɟʃcl} ɑə ʔ aec. この時計は 3 分遅れている｛進んでいる｝。 ɒelʅ ej ɪucl. 時計が狂っている。

ɒelʅɒenʅ ［名詞］時計回り ［類義語］ɒcʅɒenʅ ［反意語］ɪlɒelʅɒenʅ ［レベル］3 J0 ［用例］ ɒelʅɒenʅel 時計回りで

ɒelʅɪ ［感動詞］あけましておめでとう ［レベル］2 古 :ɒelʅɪc,ɒelʅɪcɑ。いずれも「メルが成長した」の意味で、オヴィとリディアが言い出した。メル暦の新年がメルの誕生日と共に訪れるため、メルの誕生日を祝う言葉がそのまま年始の挨拶になった（なったといっても新年の挨拶として正式に認識されたのは 11 年ごろのことにすぎない）。尚、対語に ɑcɪʅɪ があるので参照。 ［用例］ ɒelʅɪlʅ ɪn ɑclcɪ jɪlʃ accɥəΓ あけましておめでとうございます。来年も良い年でありますように。

ɒelʅɪj ［被服］ブリーチズ jɒ;ɒelʅɪ という貴族の jɪbe JJJ

ɒelʅɪnʃɑcɪn ［人名］時詠みの少女 JJ ［文化］ μɑ の２０年間と ls の２０年間を、２０年かけて観測する少女。世界の終焉の原因がこの４０年間の間にあると見て、同時並行で２０年かけてふたつの時代を観測している。世界の終焉の原因を探っており、観測者効果により世界の結末を変えようとしている。

ɒelʅɪnɑ ［魔法］魔法鏡、メルカンド ［レベル］5 ɪμɑ;ɒel/ʅɪnɑc。最初時魔法だと思われていたため。 J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɒelʅɪɑ ［地球の国名］アイルランド ［レベル］5 1L: アイルランド島のイギリス領にメルが住んでいたことから

ɒelʅɪμʃ ［名詞］メルセルカード ［レベル］2 μɑ;/ JJJ ［文化］ 新年の祝いにプレゼントと一緒に送るカードのこと。年賀状のように知人全員にカードだけ送るという習慣はない。 ［用例］ ʅɪnʃ ɒelʅɪμʃ ɪ ʃcɪn 恋人にメルセルカードを送る。

ɒelʅɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］とけい座 JJJ ［文化］ cɑɪ

ɒelʅeʅj ［名詞］時間旅行、タイムトラベル、タイムスリップ ［レベル］3 J1

ɒelʅec ［言語］線条性 1L: 時間を追う

ɒel ʅeefɔcɪ ［人名］メル＝ケートイア ls ［レベル］3 JJ ［文化］ (JJ00_) ls の登場人物。

ɒel ʅeefɔcɪ(J) → ɒel jclɑ ɾlɪcɑɪ ʅeefɔcɪ ［レベル］1 JJ

ɒell ［名詞］刺繍 ［レベル］3 J?: 制 :ɒelcʅɪ

ɒellɪnʃ ［歳時記］メルシャント ［レベル］2 μɑ;/ JJJ: 登録漏れ ［文化］ メルセルにあげるプレゼント。現金だったり物だったりサービスだったりする。 ・現実 JJ?? : 年末に来るはずが来れなくなったので遅れ、この日紫亞に『カードキャプターさくら』フランス語版全巻セットをプレゼント。ユルトにはこの前後に合気道の子供用道着を。リディアには慣例として何も与えず、メルには例年通り日本でのデート権を贈呈。子供たちに ɒellɪnʃ や ɑcɪʅɪnʃ をあげたのはこれが初めて。ɑcɪʅɪnʃ はまだあげたことがない。紫亞に最初にあげたプレゼントは 4 歳のとき新宿の京王ビルで買ったサイズの大きな服（もう少し大きくなったら着れるように）とのプリキュアの服で、これが 3 度目。

ɒellɪz ［名詞］タイムリミット、時間制限、タイムアップ、時間切れ、制限時間、タイムオーバー ［レベル］3 μɑ;ɒel/lɪz JJ ［用例］ cɒ ɒellɪz cʅ μɪʅ タイムリミットを越えたとき

ɒellccɪʅj ［普通動名詞］猫可愛がり、猫かわいがり ［動詞］ɥəl を猫可愛がりする、猫可愛がりする ［レベル］3 μɑ;/「セレンがメルを可愛がるように可愛がる」 J?

ɒelle ［名詞］勾玉や宝石など、特別な玉 ［丁寧］玉、球 ［文字］ケルン ［類義語］φel ［類音］ɒclle ［レベル］3 J0:ɒeɒ/ɒelʃ（丸い月）

ɒellelʃ ［歳時記］メルシェルト、月燈、スカイランタン ［レベル］3 1L:ɒel はメルの意味ではなく、ランタンを表わす ɒeɹjel の意。 lelʃ は月。 ［文化］ メルの月ルージュの日（５月３０日ごろ）に行われる伝統的な祭り。ランタンの中に火を灯し、熱気球と同じ要領で空に飛ばす。月（夜空）に舞うランタンということでメルシェルトと名付けられた。 μɑ においてクミールがアルシェを離脱した際、空に舞い上がったクミールが無数の灯りをともし、ソーンへの合図としたことから、この日はソーンの日とされる。ソーンの日は記念日のひとつで、月燈祭が行

われる。祭りではこのように無数のランタンをクミールのヴィルに見立てて空に上げる。この日はカルテも賑わう。　室内で行う場合は飛ぶと危険なので飛ばないように作る。そもそも飛ばすことのほうが難しいので、ふつうに紙袋などで作ればむやみに飛んで危険ということはない。飛ばす場合は上部ほど大きめに作る。材質はふつう紙。　現実にはクミールがアンティーク好きでランタンなどを多数コレクトしていることから、このような設定が生まれた。ランタンの設定はミールの書にも出てくる古いものである。　地球にも同じようなものがあり、天灯というらしい。

ɒellelʃɪn ［名詞］月燈師 ［レベル］4 1L ［文化］ 月燈祭に使うランタンを製造する職人。日本の花火職人のようなポジションにいる。

ɒelj ［被服］フリル ［レベル］3 1?: 制：古 :ɒeljɪbe（メルの服）。幼女だったメルに女子がフリルのついた服をよく着せて遊んでいたことから。

ɒeljɪnʃc ［名詞］タイムスケール ［レベル］5 J1 ［文化］ → ɥəncj　アトラスは複数の暦を使い、人類の寿命も地球と異なる。そのため発達を地球と比較するのに便利なスケールが必要となる。メル 00 年は西暦２１００年ごろの科学力を想定している。（ただしメル 00 年は魔法の力がよみがえっているため、純粋には比較できない）　一方、ユーマの一族の寿命はイムル 100 年ごろから地球の水準になっている。仮にメル 00 年を 000cɒ とすると、100cɒ は西暦１３００水準、00cɒ は西暦１６００水準となる。　これは科学史を考える上でしばしば便利なスケールとなる。　一方、言語の変化については寿命や飛行能力や通信技術との兼ね合いで科学とは別のタイムスケールを利用するのが合理的である。　zφ ～ 1 の８０００年間は８００年に相当し、jɒ の 100cɒ までは４００年に相当し、アルカができるまでの４００年間は４００年に相当し、合計９６００年間で１６００年相当となる。　アルカができてからメル 00 年までおよそ４００年とすると、アトラスの歴史の最後から見て人代の始めの zφ は２０００年前ということになる。地球ではローマ帝国のころ、まだラテン語が現役だったころからアトラスでは言語の変化が激化したということになる。　そしてこちらは言語のタイムスケールとして用いる。

ɒeljɕɥ ［医療］貧血 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcj: メルの肌。貧血でメルがよく青白くなっていることから ［用例］ nɔn nı ɒelcj ɒcl ſcl ɒeljɕɥ. 貧血で気持ちが悪いわ。

ɒel jclɑ. ılıcɑı ɿeefɔcı ［人名］メル＝シルフ＝ライファ＝ケートイア ［ユマナ］［人名］メル＝シルフ＝ライファ＝ケートイア ［組み数字］7 / 2 8 ［レベル］1 0:ıluınɔ;ɒelſcı 古 : メルは語源不詳。古アルカでの意味は無し。古の古くは ɒelƏə と呼ばれていた。なお、役所に登録してある名前はまったく ɒel とは異なるもの。一方、シルフは「軽やかな」という意味で、最年少だったメルの幼さを表現した名で、ʕ 年にセレンがつけた。ライファはイーファ王を表わす名 (ılcaı) で、これはセレンが ᚻ 年のメルの誕生日に与えた。ケートイアは『カコ』から。 ［文化］　(0 ɑcı ɑcı_)　神話 μɑ の登場人物の一人。アシェットの第７使徒。女性。ɥənl。１７０ｃｍ、４８ｋｇ。髪は黄色で腰まであり、直毛。青の瞳。肌は白：黄＝８：２。　ユルトとルシアの養母。ジョブは時魔導師。ケートイア人。メルティアの娘。　・『ミールの書』より　彼女は年の頃は 1J ほどで、体格もミールと酷似していた。小さくて少し痩せ気味の身体。大人っぽい体つきではなく、むしろ年より幼く見える。だが、対照的に顔だけは大人びている。彼女は白いワンピースを着ていて、胸には青い結び目がついている。靴下は薄いピンク色で、靴は赤い。机の上には彼女のものであろう可愛らしい帽子が乗っていた。　少女の桃色の唇が言葉を紡ぎ出す。少女の顔立ちは繊細で美しいが、まだ年が年なので可愛らしいといった感じだ。肌は白いが、微かに他の人種の血も混ざっている様だ。彼女はどちらかというと高低よりも強弱のついたアクセントで言葉を発した。　・声　不思議の国のアリスの３Ｄ映画の吹き替えやってた安藤瞳という人の声がくりそつで、メルが喋ってるかと思った。特に最初のプロポーズのくだりらへん。　・顔　大学のころよくセレンは「メルは仲間由紀恵に顔が酷似している。金髪青い目にした仲間由紀恵だ」と言っていた。

●現実　(0 ɑcı ɑcı) 第４期４代アルシェ第７使徒。女性。Ｂ型。アノ座。白人だが黄色人種が混じっている。　メル暦の発明者。メルテーブル、メルフィ、メルバなど、単位系に関わっていることが多い。　日本語名は愛（める）。愛をメデルと読ませ、そこから取った。　アシェットでは比較的年が若い。アルシェの補佐的なブレインとして働く。知能が極めて高い。　・来歴　0 ɑcı ɑcı に生まれる。兄弟は無し。　0 に第４期４代アルシェ第７使徒に就任。　19 年からルティア家に居候をし、セレンとリディアの子供であるユルトとルシアの乳母となる。　名にライファ入っているものの、ライファの魔法と無縁だったため、1L に設定が加わった。ラスティアディンをライファで封印したエピソードが加わった。　・ɑılhı　ɑılhı は１０歳のもので、「雪苺（ゆきいちご）」。雪で作った兎と、蔓から伸びる苺の絵柄。　●０７年のブログより抜粋　メル＝ケートイア　x J009/09/1? 0?:0?　ディアセル企画として、リディアとメルの年表を作ることになった。公開可能。　また、肖像画を描くよう依頼され、受諾した。　今回はメルにした。全面的な協力を得た。　メル＝ケートイア　ウクライナ生まれの混血児。外見上、白人の割合が 9/Λ 程度の様子。　薄い黄色の長髪に、碧い瞳、白い肌。少し長い丸顔で顎が細く、猫顔＋狐顔。　身長 1.?0 メルフィ (1?9.ᚻrb)、体重 ?L メルバ (0Λ.ᚻlφ)、BƎ€=19.0 (判定：痩せすぎ)　痩せが腕と脚に出るタイプ。顔はそれほど影響されていない様子。　リディアほどではないにせよ、少女体型で、手足が棒のよう。体毛は薄く、体臭も弱い体質。全体的に無機質な印象。　知能が極めて高い。特に理数系が得意。右脳も左脳も良い。ギャグセンス溢れる人で、女の知り合いでは最も面白い。ダーク＆ダスネタが多いが。　性格は内向的で引き篭もり。倫理観、社会性が欠如していた。　冷え性で貧血気味で生理痛が酷い。体力がなく、運動神経も悪い。　短気で癇癪持ち。気分屋。肺、肝臓、腎臓を傷めるタイプ。ヴィル気質。　日本語堪能。昔はコード混合が酷かった。ちなみに、元ねらー。　メル 0 年リディアの月リディアの日（1LΔΔ 年 11 月 ?0 日）誕生。　メル 0 年秋、アルシェ第 9 使徒に就任。セレンとリディアとクリスに懐く。　メル ᚻ 年?、遊びに来ていた来日先の横浜の公園トイレでレイプ未遂。セレンに救助される。鍵にトラウマができ、怖がりになり、チック症を発症。　メル ᚻ 年末、アルシェを離反したセレンに付いた。舌足らずなアルカが少しマシになってきたころ。　メル ʕ 年冬、母アルヴァノを火事で失う。焼け跡にオルゴール。これが形見となる。気分屋で抑鬱傾向を見せ始める。　メル 9 年、クミールに会い、初の親友と出会う。　メル 9,Δ 年、天才の素質を開花させたころ。性格が捻じ曲がりだし、セレンとリディアを除く使徒と険悪に徐々になりはじめる。仕事を単独で任されるようになる。また、シェルトをクミールと作ったのも Δ,L 年ごろ。　メル L 年、当時の埼玉県上福岡市にあった下宿先でセレンと男女関係を持つ。セレンにとっても初めての女性。　メル 10 年 ?、初潮。　メル 10 ～ 10 年、リディアと恋愛を巡って争い続ける。過激な発言と捻くれた性格と性的な好奇心の強さと残酷な言動により、アルシェで完全に孤立。日本でも嫌われ、悪魔呼ばわりされるも、本人は悦に入っている。ソーンとはグレーゾーンの関係だが、エケトネ、エンナとは年が近いからか、比較的仲が良い。　基本的にクミールとセレンのみ心を通わす状態。メル・アルカの創始者で、ソーンとアルシェのアルカを知っている唯一の人物だったため、仕事上は重宝される。抗争時は事実上通訳兼人質としてセレンの代わりに犠牲となった。　確かこのころ、アルヴァノの死の真相をリディアから知らされる。リディアが口を滑らせたのをきっかけに、リュウにカマをかけ、吐露させた。セレンも同じ手に引っかかり、泣きはらすメルに心中を要求された。セレンは受け入れたが、結局実行されなかった。　メル 10 年初春、セレンがリディアと別れた前後に事実上の恋人に。ところがセレン側がその関係を拒んだので曖昧な関係に。　メル 10 年初夏～ 19 年初頭、セレンとエスタの恋愛に衝撃を受ける。リディアの後釜としてのポジションに慣れていたため、新参に持っていかれたことで再起不能に。セレンとの関係さえ断って完全に引き篭もる。鬱状態で躁が来ず、一日中寝て、どこにもいかず何もせず、犬の散歩もロクにせず病気で犬を死なせ、食事もろくに取らず、生理用品も変えず、風呂にも入らない生活という。その後、エスタの妊娠を知り、殺意が湧く。リディアと共感し、犬猿の仲だったものが回復する。　メル 19 年、セレンがエスタと破局したことで少し気力を取り戻す。しかし夏にリディアが妊娠すると、ふたたび塞ぎこむ。だが、このころには心労ゆえに成長したのか、持ち前の毒々しさが消え、大人しい幼女時代の性格に浄化されていたのが救い。　来日時、セレンが浮気を持ちかけるが、寸前でメルが拒む。それが原因でセレンと二人で会いたがらないようになった。リディアへの恐怖心があるため。リディアの妊娠中、ルティア家への居候が決まる。セレンの子供を産めない代わりに育てたいという発想で、子供の乳母として居候することに。　現在メル 1Λ 年、ユルトとルシア誕生。予定通り乳母に。丸くなった性格と適応力の高さで、ストレスを溜めながらもルティア家で忙しく働いている。　セレンは近年、メルがわがままを見せるのは自分にだけだったということを知った。懐いているからこそわがままだったようだ。今現在、メルはよそよそしい。先日のゴールデンウィークも結局ドタキャンとなった。リディアの目がないとまだこちらのことが好きだというが、リディアと争うのを恐れて浮気心は抑えている様子。　こう見ると、彼女の人生は人付き合いが少ないからか、ほとんどセレンとクミールとリディアとの人間関係で成り立っているようだ。　メルの肖像画を描いたことは数度。イメージイラストに始まり、簡単なスケッチまで行った。　ここに肖像画を掲載。　鉛筆画。画用紙、モデル、ポーズモデル使用。グレースケール、?00ɑdc ［成句］ ɒel ɒɒ ìınſ ɿeɑ μjccl 親はなくとも子は育つ　ɒel ɑccɒ ɒɒ ìınſ ı beeɒı 怠け者のメルはパパアになるまで生き残る：君子危うきに近寄らず。ややネガティブな意味で使う。　ɒel μeì ɒcl ınɔ メルが作戦のせいで失敗する：策士策に溺れる　lccz ɒel eſ lele nɔɑ elſɔ jecn ちびっ子メルちゃんはお兄さんたちより頭が良い：山椒は小粒でもぴりりと辛い　ɒel ɑel leɑ ɑel lec メルは教科書なしでも学ぶ：門前の小僧習わぬ経を読む　ɒel ɑe ılì ı ɑμec メルも剣は苦手：天は二物を与えず

ɒeljɔ ［動詞］ɥəl を紡ぐ、紡ぐ、紬ぐ、つむぐ ［普通動名詞］紡績 ［レベル］4 J1:ɒcclμı:ɒelc/jɔ

ɒeljeſ ［普通動名詞］暇つぶし、ひまつぶし、時間つぶし、時間をつぶす、時間を潰す ［レベル］3 J0 ［成句］ ɒeljeſ e nıμə「ナユの暇つぶし」：将棋類のこと

ɒeljel ［名詞］ランプ、ランタン、メルセシュ。 ［レベル］3 1L:（メルの唇）μɑ で、時魔法で大人の姿に変身したメルにセレンが一目ぼれし、手に持っていたランタンの灯りでその唇を見つめていた神話上のエピソードから ［用例］ jeμen jccnı ez ılueſſ, jɔn lə ılſ 1lel ʅɔn ɒeljel cɒ nəμne. セレンは薄暗い部屋が好きで、夜はランプの灯りで辞書を書いている。

ɒeljelſclın ［ジョブ］提灯持ち μɑ;/ J0

ɒeljelen ［料理］ランパンテバージンオリーブオイル J1:「ランプ用オリーブ油」 ［文化］ nɑ までは主に南方でランプの油に用いた。

ɒeljeμ ［普通動名詞］相互依存 ［レベル］3 JJ:jeμen/ɒel

ɒeljel ［歳時記］メルセル、メルの日、新年、元旦、元日 ［レベル］2 1?: 制：メルの日 ［文化］　メル暦の年始日で、メル暦で１番始めにくる祝日。メルセルの前日は夜中まで起き、メルセルを起きて迎える。そのまま夜通しで遊ぶかそこで一旦寝る。起きてからは仕事を休んで仲間と遊び、恋人同士でプレゼントを交換したりする。或いは大人が子供にプレゼントを与えることもある。尚、これらのプレゼントは ɒellınſ と呼ばれる。また、この日はアンシャンテを広げてみんなで祝うため、精度調整のため鏡を使った。この伝統を引き継いでアンシャンテがないときでもメルセルには鏡を飾ったり贈ったりする。尚、この鏡は ɒelbed という。　メルセルとは元日のことである。アルバザードではこの日に新年を祝う。誕生日と違って主役がいないので、みんな公平に祝い合う。家族や友人などと集まり、自宅で祝う。飲食店は休業なので使えない。また、この日は親が子供にプレゼントを挙げたり恋人同士でプレゼントを交換したりする。このプレゼントは ɒellınſ と呼ばれ、現金でも構わないが、大抵は予め欲しいものを相手に聞いておく。また、メルシャントは祝いに出席したもの全員にあげる義務はない。親から子などの一方的なものを除けば、メルシャントはあげた相手からもメルシャントをもらうという相互的なものである。従って、恋人や特別な友人同士の間だけで行われるのが常である。尚、親から子へ与えるメルシャントは親子だけの間であり、叔父や叔母などがあげることはない。叔父・叔母・祖父母・近所の大人などが子供にメルシャントをあげる場合は一方的なメルシャントでなく、もらった子供は相手にメルシャントを返す。一方的なメルシャントは親子の間だけであり、それ以外は相手が親戚の子供でも相互的なものである。メルセルには鏡を飾る習慣がある。誕生日に飾るものと同じだが、こちらの鏡は透明な水に漬けておき、水鏡にするといった違いがある。メルセルには ɒellı といって祝いあうが、この言葉はメルセルにだけ使える。その日を逃すと使えない。あけましておめでとうは元日以降も数日の範囲なら使えるが、ɒellı はそうはいかない。　<メルセルごろのスケジュール>　学生を例に取る。社会人はテストの部分が決算処理になるだけで、後は同じ。なお、ほとんどのサラリーマンにとって決算処理よりも前の作業のほうがメインになるので、忙しいのはむしろ月の前半。　μəs dcn: 期末試験１日目（最終学年の場合、入試）　μəs ɒıſ: 期末試験２日目　μəs lən: 結果発表（最終学年は合否の発表）　μəs ɒcμ: 文化祭前夜祭（文化祭スタート。まだ不燃焼気味）　ılefſ: 文化祭後夜祭（街の祭りが始まり、文化祭と合同して大騒ぎに。最後は徹夜してメルセルを待つ）　ſeepj: 文化祭最終祭（４年に一度。狂喜乱舞。これがある年はディアセル<メルセルとなる。また、このテームスの日に徹夜をすることになる）　ɑcı ɑcı: メルセル（一気に正月気分でしめやかな空気に）　ɑcı ucɔ: 休日１日目（無理が祟って寝込む）　ɑcı lcj: 休日２日目（動けない）　ɑcı φcl: 休日３日目（ゆったり回復）　ɑcı ɑəl: 休日４日目（明日から学校だ）

ɒeljelji ［歳時記］メルセルの前日 ［レベル］2 1L:ʅcɔn

ɒeljelncın ［歳時記］メルセル休み ［レベル］2 1L:ʅcɔn

ɒelnı ［名詞］［形容詞］暖かい、感動的な、好奇心旺盛な、子供っぽい、わくわくする、ワクワク。名詞の場合は ſcl とともに。 ［レベル］3 1L:cɒel/nı ［用例］ ın ſcl ɒelnı cɒ ʅe ɥej led uecn ɒcj)ìınel. より難しいコースに挑戦するのはワクワクする。　ın ſclıſ ɒelnı cɒ ɑcj. わくわくした一日だった。

ɒelncın ［歳時記］メルセル休み ［類義語］ɒelncınjel ［レベル］2 J1 ［語法］［文化］ ɒelncın は μəs ɒcμ_ɑcı ɑəl までの期間。ɒelncınjel は ɑcı lcj_ɑcı ɑəl までの期間。

ɒelncınjel ［歳時記］メルセル休み ［類義語］ɒelncın ［レベル］2 J1 ［語法］［文化］ ɒelncın

ɒeluıſ ［料理］ポトフ ［レベル］3 古 jɔμn。「メルが食べたがって待つ」の意味ではない。このころの uıſ は古 jɔμn で「到着」であり、クミールから見て「メルが遊びに来たら振舞うもの」という意味。ポトフが当時クミールの得意料理で、スープが主体なので食事嫌いなメルでも比較的食べやすかったことから。

ɒeluc,jzɑ cɑc

ɒelucφμɑ ［軍事］老兵、メルヴィガルド ［レベル］5 pſ;ɒeluc/φμɑ J1 ［成句］ hıɔ ɒelucφμɑ eſ ɥənep, ſıl jeμ cl ʅɔj. 老兵は動けはしないが、方法は知っている：老いたる馬は道を忘れず、亀の甲より年の功　ɒelucφμɑ ſcʅe ıl eɑφμɑ 老兵は新兵の後ろを行け：老いては子に従え　ılſ ɒelucφμɑ 老兵を含めて軍隊を数える：枯れ木も山の賑わい　ɒelucφμɑ ſelj 海千山千、百戦錬磨（悪い意味で）

ɒeluenɑ ［地学］アメトリン。シトリンとアメシストを混ぜたもの 1L:ɒelɑlcı/uenɑccl

ɒeluepınſ ［医療］統合失調質パーソナリティ、統合失調質人格障害、スキゾイドパーソナリティ障害、スキゾイド人格障害 ［類義語］μılueμınſ ul;ɒel/ueμınſ ［レベル］5 J?:jeμen/ɒel ［語法］［文化］　μılueμınſ の類似概念。基本的にはスキゾイドだが、快楽を求め、快楽に関しては感情的になって喜び追い求めはしゃぐという幼稚な性格を伴う。最も優先される価値観が自分にとっての快楽で、行動の原動力は面白いか楽しいかである。　おしなべて善悪や正義感などの価値観は持たず、ただ自分にとって面白いか楽しいかだけで物事を判断する。不躾傲などと周りが怒っても気にしないし、そもそも他人からの評価を気にしない。一般にこの人格障害の持ち主は使命感を持って行動せず、理念やポリシーや意義などについても考えない。　典型的なスキゾイドは性体験を忌避する傾向にあるが、このタイプはセックスが自分にとって快楽であれば激しく求める傾向にある。ただこのタイプは通常のスキゾイドと同様、他人との関わりを避ける傾向にあるため、性の対象が限られるか二次元などの非現実に向けられることが多い。　このタイプは喜怒哀楽の楽以外についてはほとんど感情を持たない。特に喜については皆と一緒に何かを達成して感動して達成感を感じて喜ぶといったような団体行動や協調による喜びをほとんど感じることができない。自分で成し遂げた業績についてすらただ過程が面白かったからやっただけという場合がほとんどで、完成時の歓喜などを感じたり自尊心を感じたりすることも少ない。そもそもコンテンツの創造より消費に楽を見出すことが多い。　典型的なスキゾイドと同様、コミュニケーションが苦手で、特に言語による自己の表現が苦手である。文理なら圧倒的に理系に多く、理数系の科目が得意なことが多い。詩歌や芸術などの美しさに感動する心もまず持たない。綺麗な景色は綺麗だと理解できても、繊細な感情など情緒に関するものはなかなか理解できない。要するに綺麗な心を持たない。機械のような心を持つ。　この人格障害は ıl で急激に増えた。一般に、平和だが閉塞感のある国家でゆとり教育を行うと、このタイプの人間が増えるとアルバザードでは分析されている。　現実ではメルがこの人格障害で、とりわけ思春期以降に形成された。少女時代はまだ癇癪持ちだったりと喜怒哀楽の怒が激しい部分があったのに、思春期以降はひょうひょうとしてほとんど楽以外の感情を見せなくなった。

ɒelɑ. ［動詞］ɥəl に抱き付く、抱きつく、抱き付く、抱き着く。ɑıl から来ているので、格組が ɑıl と同じな点に注意。抱きつかせるの意味ではない。 ［婉曲］［動詞］ɥəl とセックスする、セックスする ［反意語］ɑıl ［レベル］2 1L: 制 :ɒelɑıl（メルがするように抱く） ［語法］　ぴとっと抱き付く感じ。抱くだと抱く方が大きいイメージがある。ɒelɑ は逆。　セックスの婉曲用法は、通常 jɔl は女で、ɥəl が男になる。ɑıl は jɔl が能動的に ɥəl と寝る行為だが、ɒelɑ は「私を抱いて」とばかりに誘いはするものの、あくまで主導は相手に任せるというイメージである。したがって、通常 ɒelɑ の jɔl は女になる。ɑıl と ɒelɑ の根本的な語法の差が、婉曲用法でも継承されている。気の強い女は ɑıl するが、萌えるのは ɒelɑ。 ［用例］ lı benſe, ɒelɑıſ ılſcın

nɔʃʃeʔ あの泥棒猫が、私のカレを寝取ったのよ！

ɒelɑlɕɪ ［地学］シトリン、黄水晶 ［レベル］6　1L:ɕɒel/ɑlɕɪ ［文化］ μɑ まで ɕɒdμɪɑlɕɪ と呼ばれていた魔石。敵の弱点をその水晶に映し出す効果がある。ヴァステでニムラを倒したときにインプラから切り崩したことから来ている。

ɒelɑc ［単位］メルフィ ［レベル］2　古：メルの長さ ［語法］ 単位記号は ɒ。　１メルフィは１．２５メートル。固有の単位をと始めに提唱したのはリュウ。しかしできたのはメートルを単に４分の１にしたもので、メートルを意識しているので意味がないとして却下された。次にできたのはメートルの１．５４８３～倍という割り切れない長さのものだった。これはメートルを綺麗に直せないという点で実用的でなく、却下された。因みにこれはリュウの案で、９年時のリディアの身長を厳密に測ったものだった。そして最後に目を付けられたのが使徒全員の身長だった。全員の身長を厳密に測ってみたところ、メルが１２５ｃｍきっかりだということが分かった。１２５ならメートルとも変換しやすい。そこでリュウは即座にこれを新単位とした。名前は ɒelɑc。メルの長さという意味である。尚、ɒelɑc は Δɸcl に決められたもので、メルは当時 Δ 歳。

ɒelɑcɔl ［名詞］(ʃcl) おませな、おしゃまな、ませている ［反意語］ɑcɪɑcɔl ［レベル］3　古：メルの手足。メルが早熟でアシェット女子にしては背が高く育ったため、メル 1Π 年ごろに早熟という意味で使われた。性的にも早熟だったため、すぐその意味で使われるようになった。 ［語法］ 子供が大人びているさま。特に女の子が性的に。 ［用例］ ʃcl ɒelɑcɔl おませな

ɒelɑɔʃ ［娯楽］綾取り ［レベル］2　1Π: 制：メルの紐。セレンが教え、メルが好んで遊んだことから。

ɒelɒ ［名詞］天才 ［反意語］ɑcì ［レベル］3　1ʔ: 制：古：ɒelɒcuɪ（メルのような子供が原義） ［用例］ ɒelɒ ɯlμʃ ɥɑnen ɒel メルのようなずば抜けた天才

ɒelɒɪ ［数学］円周率、パイ、π ［レベル］3　古：ɒelɒɪ。元は ɒelɒɔdɪlɪlɪ（円周の数字）

ɒelɒcʃ ［名詞］側室、愛人、二号さん、二号、三号さん、三号。以下何号でも。 ［類義語］ɪlɑɪcz ［反意語］ɑcɪɒcʃ ［レベル］4　μɑ;ɒel/ɒcnʃc JΩ

ɒelɒɔ ［天文］メルモ、土星、衛天 ［数学］円周：古アルカで「周り」という意味だった名残でそう呼んでいるらしい。 ［魔法］土のクリスタル ［組み数学］6 / 9 ［レベル］3　古：ɒelɒɔ,ɒelɒɔn,ɒelɒɔ だと周ると誤解される恐れがあったので ɒelɒɔn というのもできた。

ɒelɒɔ,ɑ　ɒeɟ

ɒelɒɔɟlɔʃ ［数学］円周角 ［レベル］4　JO

ɒelɒɔɪ ［地名］メルモア ［レベル］5　ɒelʃcɪ LΛ' jɒn ucɪ;「囲む土地」 JO:μcɑcɪ:「囲む土地」 ［文化］ 古代国家のひとつ。ケヴェアをぐるっと一周する国家。ただし北東部は独立してフッカになっている。

ɒelɒed ［名詞］メルの鏡。メルセルに飾る鏡 ［レベル］2　1L

ɒelɑ ［動詞］ɥel を ɪ に連れてくる、持ってくる、連れてくる、もちよる、持ち寄る、持ちよる ［動詞］ɥel を ɪ にもたらす、もたらす、齎す、授ける、さずける ［反意語］dcɔ ［レベル］2　1Π: 制 ［用例］ μɒn ɒelɑ ɒccì ɑɒ ɔ. りんごをひとつ持ってきて。

ɒelɑc ［色］明るいピンク ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe: 制：ɒelɑcɑ（メルピンク）

ɒelɑcʃ ［魔法］［ジョブ］時魔導師、時魔術師（正式） ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɒelɑcɟ ［成句］ ɒel ɪ ɒel ɑcʃ メルを時魔導師として配置する：適材適所

ɒelɑclɕu 嬌声、喘ぎ声 ［レベル］4　J1 ［文化］ 叫ぶような感じの演技がかったものは馴染みなく、自然な嬌声。どうも女性によると膣内を突かれた際にお腹が押し上げられるような感じになるそうで、結果的に「うっ」と息が漏れるそうだ。ただしそれは全女性がそうかどうか分からないし、男性側の長さにもよるだろう。　いずれにせよこれは物理的には気持ちいいから声が出るのではなくて、お腹を押されて息が漏れるということではないか。それを男側が勝手に気持ちいいと判断し、女もそれに迎合する形で誇張されていて最終的に地球のポルノの嬌声になったのではないか。　アルバザードでは演技がかった嬌声はなく、自然と発せられる声となる。突かれて漏れる声だけでなく、前戯などで漏れる気持ちよさそうな、あるいは若干くすぐったいような声なども含む。　素人の女性、特にポルノを見たことがないという女性は特にだと思うが、幻日の作者がそういう控えめなタイプが好きなこともあって、自然な声を出す女しか知らないし、そちらのほうが違和感がないということで、アルバザードでもこうなった。　アルバザードでもポルノや風俗街では演技がかった嬌声が聞けるかもしれない。ただ素人はしないと思う。素人の女性は十数人しか知らないが、あそこまでうるさい嬌声はまず聞かないので、恐らくアルバザード人もそうだろう。　彼女たちを観察して分かったことは、どうやら気持ちよくて声が出ること自体はあるようだ。これは日本人外国人を問わず。ただし、ポルノのような声になることは自然にはありえないと思う。　たまにＡＶか何かに明らかに影響を受けている人もいるが、ＡＶなど見たこともないという層の子で、そういう喘ぎ声は聞いたことがないことも傍証だ。　房事は隠れているのでどうしても手に入りやすいポルノなどを参考にしてしまいがちだが、それでは現実的ではなく、アルバザードの房事を作る上で参考にならない。こちらのポルノをアルバザードの素人の房事に引っ張るわけにはいかないだろう。こちらの素人と比較せねばならない。　なお、嬌声の表現は ɪ... とか ə... とか篭った音が多い気がする。ɪ...ɪɪ...ən とか。あまり声になっていない感じがする。

ɒelɑcɟ ［魔法］時魔法、時魔術（正式）、時空魔法、時空魔道 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɒel/μəɑcɟ ［文化］ μəɑcɟ の一種。時や空間を操る。メルが遣い手。

ɒelɑcn ［形容詞］楽観的な、オプティミスティック、ポジティブな ［反意語］elɒɪ ［名詞］楽天的な心配がない感情、気楽、楽天、心の余裕 ［感動詞］気楽に行こうぜ。特に文字通りの意味は無い只の挨拶。アンティスは肩肘張って頑張ることを嫌い、気楽に行うのをよしとするため、こういう挨拶が生まれた ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɒelɑc。ストレスがなく気楽だと血色が良くなって頬が紅潮してみえることから。制では ɑcɑn で、1ʔ:ɑcɑnɪ（軽い心）からだった。気楽な感じがしない音なので滅んだ。 ［語法］ アルカにとって重みとは負担を指す。それが軽いということは、心配がないという意味になる。尻軽という意味ではないので注意。

ɒelɑcɪ ［アイテム］秩序メルディア、メルディア ［レベル］4　1Ɔ: 制 :μcɑcɪ: 古：悪魔メルティア ［文化］ ヴァストリアの１つ。メルのもつ腕輪。細く綺麗な腕輪で、ビーズのように透き通っている。悪魔メルティアの力を得た腕輪で、これを付けると時空間を自由に操れるようになる。但し時空間の秩序を破壊するようなことは不可能という制約が付いていて、制約以上の力は出ないようになっている。メルの父である悪魔メルティアが娘のメルに託したもの。

ɒelɑcɪɟ ［動詞］ɥel を c から寝取る、寝取る、寝とる、ＮＴＲ ［レベル］4　μɑ;ɒel/ɑcɪ/jɔ「メルがリディアにすること」 Jʔ:zɪnɪ ［用例］ lɪɪbe ɒelɑcɪɟɪʃ ɪlʃcɪn c nɔn jcnʃ あの女にカレを寝どられたのよ！

ɒelɑɔɥɪ ［魔法］メルドーヤ ［アクセント］ɒelɑɔ'ɥɪ ［レベル］5　JO:ɒel/ɑɔlə̃ɥɪ ［文化］ ɪμueeʃe 時間を止める時魔動機。食料品の貯蔵に利用された。Π1Π1 以降は商工会の地下に作られた。

ɒelɑɔc ［魔法］メルドイ（ストップ） ［レベル］5　JO:ɒelɑɔɥɪ → ɒelɑɔɥ → ɒelɑɔc ［文化］ ɪμueeʃe

ɒeld ［動詞］ɥel を縫う、縫う、ぬう ［普通動名詞］裁縫 ［レベル］3　1ʔ: 制：ɒelc から ［文化］ 趣味や主婦のパートとして行われる。アルバザード人は服を大切に着る。売られている服はどれも丈夫で、学生服と同じくらいの強度がある。少しほつれたくらいでは裁縫できる人に頼んで直してもらう。放置したまま傷を広げてそのうち捨てるということはない。また、そもそもアルバザードでは服は買う物とは限らない。わりと多くの人が服を自分で作る。その方がサイズもデザインも機能も好きに選べるからである。ミシンは高機能なものが普及しているので服作りはそんなに困難ではない。編み物も同様である。セーターやマフラーや手袋くらいなら家族の誰かが編んだ物で間に合わせることが多い。 ［成句］ el ɒez uɪn ɔlɪɪ ʃc ɒeld lɔɔ lɪɪfej 人の口を縫おうと噂は止められぬ：人の口に戸は立てられぬ

ɒeldɪl ［歴史］年表 ［レベル］3　ʃɒ;ɒel/dɪl Jʔ

ɒeldɪnʃ ［名詞］理系、理系科目、理系人間 ［反意語］jeμdɪnʃ ［レベル］3　μɑ;ɒel/dɪnʃ。アルナ大の文系クラス特進が ɒel 組であることから、理系の代表とされた。 JJ ［文化］ ɑeldɪnʃ

ɒeldɪμ ［被服］ミシン ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪ.lelʃ

ɒeldɪlʃ ［歴史］メル暦 ［レベル］3　1Π: 制：メルの暦 ［文化］ → dɪlʃ, φɪlɟɪlʃ 制アルカ固有の暦。古アルカには旧メル暦があり、今のと大差なかった。これはそれを更改したもので、アシェットの第７使徒メルが生み出した。但しメル暦という名は本人のネーミングではない。メル暦はメルの誕生日である０ ɑcɪ ɑcɪ を起源とする太陽暦で、閏年は４年に１回。１ヶ月は２８日で、１年は１３ヶ月と１～２日の特殊日からなる。特殊日はアシェットの日とテームスの日である。２８日はそれぞれに使徒の名前がついている。週は７日からなり、曜日は７匹の悪魔ソームの名で呼ばれる。たとえば１日目はリディアの日でヴェルムの曜日である。尚、特殊日は曜日がない。グレゴリオ暦と違って何日が何曜日に当たるかが不動なので、自分の誕生日の悪魔は常に一定である。これによって曜日占いが可能になっている。　＜メル暦の西暦換算＞　分からなくなるのはいつも下ひと桁なのだが、ここは西暦に１を足せばいい。２００８年はメル１９年。ただしグレゴリオと元日が異なるため、１２月にはズレがあるので注意。　＜歴史ではイムル暦を＞　主に歴史などの分野では年号だけ ɪl でもイムル暦を継続して使用する。西暦と元号を併用している日本には馴染みやすいと思う。例えばイムルが西暦でメルが平成のような元号のようなものだ。　＜年号の使徒表記＞　メル年を２８周期の使徒幼字で示すことは可能だが、２８年で一周してしまうのであまり一般的でない。なお、この表記だとメル０年は誰の年でもないので使徒幼字による表記は不可能である。

ɒeldɔcʃ ［地学］経度 ［レベル］4　JO

ɒelbɪ ［単位］メルバ、１．２５ｋｇ ［レベル］2　1ʔ: 制：古 :ɒelbɪ（メルバ）← ɒelbμə（メルの重さ）が２５ｋｇだったが、数が大きすぎて使われなくなり、それの２０分の１である ɒelbɪ が台頭した。 ［語法］ 単位記号は b。

ɒelhɪɑcɟ ［魔物］メルハディス（邪骸）：第七十五天：邪の幻天 ［レベル］5　1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:cɒel/hɪɪɑcɟ（黄色いガイコツ） ［文化］ 霊族。死体の骨に乗り移る。いわゆるスケルトン。痛んで黄ばんだ骨をしている。旅人のものが多いため、軽装備の鎧や魔法使いのローブなどをまとっている。剣や魔法使いの杖を持っており、力は生前の能力にある程度比例する。聖水に弱く、かけるとただの骨に戻る。

ɒelhɪcɑɪ ［天文］回転花火星雲 ［レベル］6　1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel ［文化］ メルがラスティアディンに放ったライファの星雲。

ɒelμecn ［地学］経線 ［レベル］4　1L: 時の線。これが１５度横にずれるごとに、１時間アルバザードからずれるため。北極と南極をつなぐ縦線

ɒelz ［普通動名詞］子守 ［動詞］ɥel を子守する、子守する ［レベル］3　1ʔ: 制：古 :ɪlccz:ɒelʃ「メルをする」 ［用例］ lel lej μeμ uefɔɔɒj e ɒelz, ɪn nɪ lɔl ɪ jɔɑn ɑel ʃə ɒel ɒelz ɥalc ɪ. 語源を知っているものとしては、そのメルが誰かを子守しているのは面白いな。

ɒelzlɪnʃ ［音楽］子守唄、子守歌、子守り歌、子守り唄 ［レベル］2　JJ

ɒelzeʃ ［数学］そろばん、ソロバン、算盤、アバカス、珠算 ［レベル］5　JO:ɒelle/zed/ʃe（珠計算の） ［文化］ ɒelʃcɪ LΛ'ʃʎΛΩ にカルテ神がレスティルで発明。砂に線を引いて丸い石を置いて計算した。　ɒelʃcɪ LΛ'ʔΠΩ にルカリア人に伝来。このとき既に板に溝があり、そこに石を置く仕組みになっていた。　アズゲルでは ɥəəɒɪ ʔ 年に石ではなく丸い木の球を棒に通した日本でも見られるような算盤がレスティリアで発明された。それが同盟関係にあったギルケート族に伝来する。後にギルケートを征服したハクシウスに伝来し、飛竜での交易に利用されるようになり、ルカリア・レスティルに広まる。　この算盤は以降この地域を治めたシフェランの東方遠征に呼応するように広まり、最終的にはサヴィア大陸にまで渡った。シフェランの征服した領土が広大だったため、算盤のデザインはこの木製のまま伝来していった。　算盤は電卓などの登場で翳ったものの、ヴェレイでは脳トレなどと称して生き続けた。

ɒelsc ［普通動名詞］人前での隠れたオナニー ［レベル］6　1Λ:μcɑcɪ:sc e ɒel. μɪj), cɒ ɑcɪn, ɒel ɪμɪʃ ʃə nelʃel ɥən jeμdɔ.

ɒelscen ［音楽］メトロノーム ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ: 時の針（実際にはテンポの針のことだが）

ɒelse ［被服］フィレット、カチューシャ　μɒ;「メルジェ婦人の」 JΩ ［文化］ μɒ でできた。貴族の女性用のヘッドバンド。現代でも古風な女性は身に付ける。

ɒellɪb ［経済］アルバイト、パート、バイト ［レベル］3　JO ［語法］ 時間給の労働のこと。時間給なら正社員でも派遣でも契約でも含めることができる。　アルバザードでは月法に一日８時間の労働を奨励しているので、正社員でも８時間までと決まっているため、一職場につき８時間未満の労働に対してしか意識しない言葉。

ɒellccɑɪ ［天文］アルデバラン ［レベル］6　1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel ［文化］ メル暦元日の零時にアルバザード国アシェルフィ市天体観測所から見てちょうど南中する星で、アデルの封印の起点となる星。メルが生まれたとき、ちょうど輝いていた星で、メルの星とされ、非常に珍重される。同時にアルデバランは黄道を通る４つしかない一等星のひとつであるため、メルはどこまでも奇跡的な生まれ方をした使徒と考えられている。後世、メルの誕生日があまりに出来過ぎていることに疑問を持ったアルティス教徒は、メルティアが未来を予知してメルの生まれる日を特別にしたのではないかと考えるようになった。　黄道を通る４つの星はアルデバラン、フォーマルハウト、レグルス、アンタレスであり、すべてメルにゆかりのある名がついている。

ɒellɔlc ［名詞］一を聞いて十を知る。ʃcl とともに。 ［レベル］3　JJ:「メルのような理解」

ɒelleaʃ ［普通動名詞］タイムリープ、時間跳躍、タイムトラベル、時間旅行 ［レベル］4　μɑ;/ JΩ ［用例］ nɔn hɪʃcɪ ʃɥə c nɪn ɪʃ lcɑ enʃɔ nɪn ləʃ ɪɪs ɪlɔn ɔ lecn le ʃɥə jccnɪ. ʃɥə ɔlʃɪʃ hɪʃ cɪ ɪ nɔn neʔləl, jee lə hɪʃcɪ eʃ ɒcn lɪnʃ ɔ hɪɟɔ lɪn. jɔn nɔn lɔlʃɪʃ leɒel cɒ ʃɥə cn nɔn jcc nɪ, lɔʔlɔ ɒelleaʃ. nɔn lɔlʃɪʃ aɪʔjel jeɟ ʃɪʃ le jel lənɪʔ lɪnɪ μɪlɔ lɑcɟ ncl, enʃɔ nɪ nɔin eɒ φcnɟ ɔnʃ ɪlɒɪnɟ. 小さい頃から君が好きで、好かれるよう趣味や服を合わせてきた。そんな君がこっそり教えてくれた好きな人は、年上の素敵なひと。だから私は過去へと跳んで、君がまだ私を見てくれていたあの頃に帰った。あの日が来るたび私は過去へ跳んで、幸せな時代を繰り返した。心が擦り切れ、枯れてしまうまで（jeμen ɪμbɪzɪμə）

ɒelɪ ［単位］メラ ［レベル］2　1Π: 制：古 :ɒelɒɪcnʃ メルの体 」ここでの体は体積を示す ［語法］ 制アルカ固有の体積単位。１．９５３１２５リットル＝１メラであるから、おそよリットルの倍に当たる。

ɒelɪʃɪ ［歳時記］新年会議、メラタ ［レベル］4　1Π: 制 :ɒel の日の会議 ［文化］ ɑcɪɪʃɪ　アシェットが毎年メルの誕生日の後、即ち年始に行う中程度の会議。元は大会議から次の大会議まで１年もあり、その間に大きな会議がないために行われたのが始めで、それから慣例としてメルの誕生日ごろにほぼ毎年行われた。制アルカではこれを新年の会議と具体的に定めるので、以降は年末に行うことを避ける。　補足：実際 JJ 年ごろの実情は、特に年末を避けるということはなく、年末ごろの都合の良い日に行うことが多く、少なくとも何年もこの状態が続いている。

ɒelɪnuεμ ［名詞］時差ボケ、時差ぼけ、時差呆け ［レベル］4　μɑ;ɒelenɑc/ɪnuεμ JΩ

ɒelɪɑ ［経済］再生産、再建 ［普通動名詞］復元 ［レベル］3　1L:clɒəj;μcɑcɪ

ɒelɪμ ［名詞］タイマー、ストップウォッチ、ストップウオッチ、目覚まし時計、めざまし時計、目覚まし、めざまし ［レベル］3　μɑ;/ JΩ

ɒelɪl ［名詞］時刻、時分秒、何時、いつ ［レベル］2　1L ［語法］ 数字を使う場合、ɒcu 1J aec ʔΩ scn ʔʎ ʃeμɪɒ（午前１２時３４分５６秒）のように並べる。時分秒をすべて述べるときは数字を使うほうが多い。ただし時分秒を大雑把に表す場合はアルミヴァを使うこともある。例えば午前１２時３４分５６秒の場合は ɪɔnɔɔʃe uɪμɑɪnʃ nebμɪ と言える。いずれにせよ、時分秒をいうときにはアルミヴァと数字は混ぜない。　２４時間制の場合、組み数字を使うなら ɪnlcɪnɒeɒ（二十四節気）を用いる。１３時は φɪμɑcɪn と呼ぶ。組み数字を使わない場合は ɒcu 1ʔ のように数字で述べる。 ［用例］ ɪn ɪlʃ le uɪn lɪ cɒ ʃə ɒelɪl e leɟʃ. 明日のこの時間に彼に会いに行く予定だ。

ɒelc ［名詞］糸 ［名詞］フロス ［名詞］デンタルフロス→ ɑcɔɒelc ［レベル］2　ɑu;e 古　ɒelc:ɒe lc:lɪ ɒelc（紐状）:ɒelc,ɪlʃ ［用例］ ɒeljɔ ɒelc 糸を紡ぐ　ɒelc lcɪɪ 細い糸

ɒelc,ɪlʃ lɪlʃe, ɒeɟɪ, jɔɪ　ɒelc.l

ɒelcʃ ［名詞］１０歳代の女 ［反意語］ɪlɒelcʃ ［レベル］2　μɑ:ɒel;ɒelcl/ʃe「苺のような」 Jʔ:ɒel

ɒelcʃɪnl ［料理］そうめん、素麺 ［レベル］3　1ʔ: 制：糸の麺

ɒelcʃɪl ［名詞］１０歳代の男女 ［レベル］2　μɑ:ɒel;/ Jʔ:ɒel

ɒelcʃəɟ ［医療］糸状 μɑ;/ JΩ

ɒelcl ［植物］苺、イチゴ、いちご、ストロベリー、草イチゴ、草いちご、草苺 ［婉曲］妊娠 :ccɑcɟ から ［魔法］メリック。風の中位白魔法。排卵を誘発する。子どもを作りたいときに使う。不妊治療として使う。苺に魔法を封じ込める方法がカコで確立した。 ［レベル］2　1ʔ: 制 :ɒeluɪnl メルの果物（食べることが嫌いな使徒メルが珍しく好む果物であることから） ［用例］ ɒel cl ʃəμ lɪc ɒɪn ʃəμ eʃ lɪnʃe. イチゴが旬なので甘い。

ɒelclʃɪɑ ［普通動名詞］いちご狩り ［レベル］3　μɑ;/ JΩ

ɒelclʃɔɪ ［生物］苺鼻。苺のようにぶつぶつの多い鼻。毛穴パックとかを使ってとる人のような鼻 ［レベル］4　1L

ɒelcɟ ［形容詞］気持ち悪い、不快な、きもい、キモイ、キモい ［類義語］beʃɪɒ、φɪcz ［反意語］ɑccʃe ［レベル］2　1Π: 制 :ɒelə ［語法］ ejcl ［用例］ lɪ eʃ ɒelcɟ. あの人気持ち悪い。　senʃ ɪʃ ɒelcɟ. うっとうしい天気だった。

ɒelcɟɪdcl ［気象］不快指数 ［レベル］5　1L ［文化］ 計算式は地球と同じ。ただし、アルバザード

ではまったく知名度がないため、一般人はこの単語を口にしない。 [用例] ɑcɟ, ɒelcɟɪdcl ɪſ ſcn. 今日は不快指数が高かった。

ɒelcnɟ [地学] トルコ石 [レベル] 5 1ʔ: 制 : メルの眼 [文化] ハイフを撃つことのできる魔石。

ɒelcɒl [化学] 再生繊維 [レベル] 4 μſ;/ Ɉ

ɒelcɑcɪ メリディア、夢織 1Ł:jeɥen: 古 :ɒelc（糸）/ɑcɪ（夢幻）。また ɒel と μcɑcɪ の掛け言葉。 [文化] セレンにはるサスペンスファンタジー小説。死神を題材とする。舞台はアレイユのアルバザード国首都アルナにある中央アルナ大学。

ɒelchen [料理] 納豆 [レベル] 3 μɑ;ɒelchen,ɪlſ < ɒelc/hen「糸を引く大豆」 JJ [文化] μɑ でカレンシアから流入。南部でよく食べられ、北部ではさほど好まれない。ɪl で健康ブームになり、北部でも認知度が高まった。

ɒelcl [俗語] キモオタ、キモヲタ、ギーク、メリル [レベル] 4 ɪl;ɒelcɟ/ləlcɪn Ɉ [語法] たいていの場合、無知な一般人によるオタクへの非難か、オタクがオタクを罵るための自己紹介に使われる言葉。 [用例] ɯɔμſ,ſ ɒelclſ 死ね、キモヲタ！

ɒelcɪ [生物] 原生生物 [レベル] 5 1L:μcɑcɪ:ɒelcɟ（気持ち悪い） [文化] μɑ では、リュウの魔動顕微鏡で原生生物を見たリディアが、総毛立って「気持ち悪い！」と言ったことから名付けられている。

ɒelcɪl [形容詞] 複雑な、難儀な、ややこしい [類義語] lɔn [レベル] 3 Jl0: 古 jɔlə̀ɪɒelcɪl（絡まる）の後方部分のみを切り取ったもの [用例] ɥeſ ɒelcɪl ややこしい問題 "ɪ ɥ. ɑce ɟɪɒd eſ ɒelcɪl ſcnlɪ, enſɔ leɟ lɪɑɪſ ſəəɟ ɑce lcel scnɟ ucl eɒ oel eſ ɥəl.「そうだね。たくさんの嘘はややこしいんだ。きっと、ついた本人も分からなくなってしまうほどに。

ɒelcəɟ [サール]メリウス [魔法]召喚魔法メリウス（シヴァ）。吹雪で敵を攻撃。 [レベル]3 古 :lɪ̀lſɪ [文化] 裸の女の姿をした生きた氷の彫像。雪の塊が材料になっている。雪や氷を司る。

ɒelcəjen [アトラスの国家] メリウセン [レベル] 5 Jl:μcɑcɪ

ɒelcəjel [人名] メリウセル [レベル] 5 Jl0:ɒelcəɟ [文化] (ɥəəɒɪ ᚻᚢᚱ:ᚹᚲᚹ(ᚹᚹᚹᚲ:ᚹᚲᚹᚹ)) メルテナ後期のレスティル王。女のように美しい容姿を持っていたため、メリウスの名が冠された。その見かけとは裏腹に強大な魔力を持った魔導師で、頭脳明晰で、性格は極めて冷徹であった。 ᚻᚢᚱ にわずか２５歳でペティ関白となる。ᚹᚲᚹᚲ にはペティを廃位し、王となる。後にペティを妻にし、息子イヴィルを設ける。 [成句] lclcəɟ e ɒelcəɟel 鬼の目にも涙

ɒelɔ [動詞] ɥəl を考え直す、考え直す、再考する [普通動名詞] 再考 [レベル] 3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

ɒelɔμ,ɟzɑ ɯɪnɔ < ɒelɒɔ.l

ɒelɔə [サール] メロウ [アクセント] ɒelƏə [レベル] 5 μcɑcɪ: 古 [文化] 呪われた青年メロウ。青い顔をしていて不気味な風貌をしている。

ɒeleſ [被服] フレア、フレアスカート [類義語] ləəɒenɟ [レベル] 3 Jl:ɒel/ſe

ɒelelcɪ [名詞] 綿菓子、綿飴、綿あめ、わたあめ、わた飴 [類義語] ɑlənɥeſ [レベル] 2 Ɉ

ɒeleɟ [エルト] メレス [音楽] 楽曲 [レベル] 3 古 :μcɑcɪ [文化] 音楽の得意なエルト。若い女性の姿をしている。声が出ないという病気を持っているので、楽曲しか作らない。

ɒelenſ [名詞] だるま、ダルマ、達磨 [卑語] かたわ。五体不満足を意味する。使わないこと。 [アイテム] メレント、ユニコーンの角 [レベル] 3 Jl0:ɒeɒ/lenſ（丸い人形） [文化] 手足をもいだ人形。だるまのような形をしている。布で形を作って綿を詰め、中に使用者の髪の毛を一本入れておく。だるまと違うのは胴体がある点。これを持っていると、ニクルの魔法をかけられた際、身代わりとなってくれる。ニクルにかけられると手足がしびれることから、手足をあらかじめもいだ人形が用いられた。一度使うと人形の胴体がもげて燃え、頭だけが残る。

ɒelenɑc [名詞] 時差 [レベル] 4 μɑ;/ Jl:ɱ に登録

ɒeles [俗語] 変態、異常者、ヘンタイ、パーブ、パーヴ [類義語] hcɒɒenz [レベル] 3 Jl0:ɒel ez: 古 :lɪccz:ɒelez（変態）← ɒelſeeze（メル風の）。ɒeleɟ と音を離した。 [語法] [文化] 性的倒錯度の強いこと。一般に凪人＞アルバザード人＞ルティア人の順で強い。幼少期から dɪlnſl əſ, ellſləſ などを経て、覗き、露出狂、女児に悪戯、痴漢などに発展していく。 地球では アシェットは男子のほうが口だけで実際には女子のほうが思春期の頃は特に性的倒錯度が高かったように思える。セレンは笛なめの知識はあったが実行しようとは思わなかった→ dɪlnſl əſ。セレンは妹がいなかったので好奇心で女性器を見てみたいとは思っていたが、見れるのは温泉の子連れや小さかったメルの世話をしたときなどに限られていた。満足に見れない環境だったし当時はネットもなかったので見たい気持ちが強かったが、変態力が足りなかったせいで「あ、そうだ、女子トイレを覗けば見れるじゃん」という発明には至らなかった。そのことに気付いたのは大学のころで、そのころにはとっくに小中学校を卒業していたので全てが手遅れだったし、そもそも童貞を卒業していたので何ら意味を成さなかった。 ネットもない時代でエロ本にもモザイクがかかっている時代だったので、百科事典で女性器について調べるほど見たがっていたわりに、どうして覗くという発想が出てこなかったのか謎である。思っているより自分にはエロパワーも発想力もなかったのか、いずれにせよ不思議である。
思えば小学校までは女子とばかり遊んでいたのに、エロいほうのお医者さんごっこなどはしたこともない。なにチャンスを無駄にしてるんだ、俺。むしろ好きな女子が人形遊びで「へンなおじさん役やって脱がせて」と言ってきたときにはドン引きして帰ってしまった。小３のころは彼女ができて B まで持っていったのに、マンガの再放送が見たいという理由で途中で追い返してしまったし、全く何をしていたのだろう。実際は変態度が弱かったんじゃないのか。

ɒelelcɟ [言語] 拝復 Jl [語法] 閉じ方は lelcɟ と同じ。早々では閉じないので注意。

ɒelec [政治]（行政単位としての）区→ ɟɪlɪc [レベル] 2 1L:μcɑcɪ:ɒelɒɔ（囲む）。主にサライ９市を指すことが多いため。

ɒeleel [名詞] 人面獣心 [レベル] 3 JJ:ɒel/eel

ɒeɪlſ [普通動名詞] 再会 [動詞] ɥəl に再会する、再会する [レベル] 3 1L:clɒəɟ;μcɑcɪ [文化] 久しぶりを表わす語は ɑccɒɪ。敬度による区別はない。誰にでも使える。ɑccɒɪ と互いに言い合えば、後は本題に入る。会わない間に何をしてたかを問うたりする。相手に家族がいればそれを話題にしても良い。 [用例] ɪn nɪſ nɪə ɒɪn ɒeɪlſ hɪrln ɑccɒɪl. 久々に友達と会って嬉しかった。

ɒeɪɟ ɒɪɟ ><ɒɪɟ

ɒec [名詞] システムの構成要素、項、項目、事項、チームメンバー、要素、会員、部員、一員、クラスメート、同級生、成員、構成員 [化学] 成分、物質の成分、組成 [類義語] ɒecſ [反意語] jecɒ [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :ɒecl（システム）。語源不詳。造語者メルに問い合わせたら「忘れた」と言われた。ɒel と似るのでメルという名が何らか関係しているのではないかと思うが。

ɒecſ [名詞] 要素、項、項目 [類義語] ɒec [レベル] 3 Jl0:ɒec

ɒecll [建築] 再建、リフォーム、改装、改築 [レベル] 3 1L:clɒəɟ;μcɑcɪ

ɒecɟɪn [化学] 組成式 [レベル] 5 1L

ɒecn [単位] キロ [レベル] 3 Jl:ɒeſcɪn

ɒecnɒelɑc [単位] キロメルフィ。１．２５ｋｍ→ ɒɒ [レベル] 3 JJ

ɒecɑ [動詞] ɥəl の量を ɪ まで増やす、増やす、増える、培養する [普通動名詞] 増加、増量、増殖、培養 [反意語] ʅɔɟl [レベル] 2 1L: 恣意 [語法] ɑceɒ は多くすること。結果的に ɥəl の量が多くならなければならない。ɒecɑ は増加分がたとえ１であっても構わない。１から２になった場合、２という数自体は決して多くはないので、ɑceɒ にはならないが、ɒecɑ にはなる。減るについても同様。

ɒecɑuɔɪμ [物理] [化学] 増殖炉 [レベル] 6 ul;/ JɱI [語法] 消費する核燃料よりも新たに生成する核燃料のほうが多くなる、つまり転換比が１を超える原子炉のこと。

ɒecɑnə [名詞] 増加量 [レベル] 3 Jl

ɒecahlſ [化学] シャーレ、ペトリ皿 [レベル] 4 μɑ;/「培養皿」 JɱI

ɒecɑ [代詞] [女性] 私。女性敬体。 [レベル] 2 古 jɔμn:ɒecɑ（自分（男女兼用））<ɒɪcn

ɒecnen [代詞] [女性] 私の。女性敬体。 [レベル] 2 Jl:lɒccμ:ɒecɑ/ 属格 en

ɒecbyə [化学] 組成式量 1L

ɒecɥɪ [魔法] [哲学] 密教 ɪlſ JɱI

ɒecɥə [人名] メイユ [レベル] 6 ɒel: 月 [文化] ラプレムとユーレの娘。ラプレムはユーレの父親。したがってメイユはラプレムの娘でありと同時に孫である。また、ユーレには娘であると同時に妹である。

ɒecz [植物] ドングリ、団栗 [レベル] 3 lɪ̀lſɪ

ɒecl [形容詞] 無関係な、関わらない、関係のない、なんでもないよ、関係ない [格語] ～と無関係に [反意語] ɔn [レベル] 2 JJ:ucſ. 恣意。ucɑ（使わずに）と ucſ（無関係）が似すぎるため、ucſ → ɒecl、ucɑ → ucſ に＜ 1L: 恣意 [用例] ſee, ſc eſ ɒecl ɒeɥel. いや、君は全然関係ないよ。 eſ ɒecl ɔn{lɪlſ} ～と関係がない

ɒeclen [接続詞] ɒecl。～に関しない。 [レベル] 3 μɑ;/ Ɉ

ɒeclen(J) [名詞] 無関係者、非関係者 [反意語] ɔnen [レベル] 3 μɑ;/ Ɉ

ɒeeu [気象] 雹、霰、霰、ひょう、あられ [レベル] 3 1L: 制 ɒefueh φecn:φecn:lɪ φeene（水）:ʅlcɪnɩe,μl(hɥ)

ɒeeuɒμɑɔ [地学] [魔法] 菱沸石 [レベル] 6 Jl: 形が霰に似ている沸石 [文化] ɑɔlɒcɥə

ɒeeμ [名詞] 出産未経験の女性やメス [反意語] ɒɪnɑɪ [レベル] 4 Jl0:ɑɪlaɪncɪ 語で、lcɒeeμ と同根。

ɒeel [言語] 方言、個人語、なまり、訛り、訛 [レベル] 3 Jl0:ɒejelɑ:1L:μcɑcɪ:ɪμbɪLeſſ: アルバザードから見て周囲の国の言語 [語法] アルナ方言以外のすべての言語。 [文化] はじめにクミール＝メテはメティオ人だが、アルバザードのカンタルで育った。 クミールは伝統の国ルティアの文化に傾倒しており、ルティア調のユンク語を好んだ。 一方ルティアの姫であるリディアはアルダとサプリで育ち、ルティアにはあまり興味を示さなかった。 よってクミールの言葉はルティアの特徴を持ち、リディアの言葉はアルバザードの特徴を持つ。
μɑ で新生が広まっても、特に音については完全な一致が見られず、方言として特徴が残った。 例えばルティアの特徴は古だろうが新生だろうが残り続けた。 ミロクがアルカ遵守法を作っても、音声的な特徴は残り続けた。 一般にアトラスではアルバザード方言が標準とされる。また、アルバザードでもアルナ方言が正式とされる。 アルナ人はプライドが高く、方言を馬鹿にしている。が、表向きには方言を笑うのは下品とされるため、自重される。
カテージュ 特徴 ・アクセントが置かれる母音がやや伸びる。ɒɪlſ は「マールト」。二重母音や μ の場合は伸びない。ɪμbɪ は「アールバ」にならない。lcɔn は「シーオン」にならない。 ・最後の子音の後にシュワーが入る。elɑ は「エール・ドゥ」。最後が n の場合はシュワーが入らない。 ・硬口蓋に音を響かせる。明るく軽く高い声になり、日本人と似た声になる。 ・アクセントが優先的に後ろよりになる。uɪjſμcɪ は［ が uɪj に入るか μcɪ に入るか解釈が揺れるが、このような場合に優先的に後ろに回す。uɪjſμ€ɪ ～のようになる。 ・最後の母音はアルナより長い。ſcɪ はもともと「ティアー」だが、カテージュだと「ティアア」という感じ。 印象 おっとりしてのんびりして明るく聞こえる。 元々カテージュ人はアルナ人よりゆっくり喋るので、ぼーっとした印象が大きい。 アルナ人は、プラスは「優しい」「おっとりしている」、マイナスは「のろま」「ばか」「まぬけ」というイメージを持っている。 ワッカ カテージュと同じ南部方言だが、ややぶっきらぼうに聞こえる。
イルケア 南部と北部が混じっている。 南方系の商人はカテージュ人とはまるで違い、意地汚い。 彼らの話し方は素早く抑揚が高く、うるさがられる。 ルークス
アルナ方言と同じ。特に違いはない。 ルティアとアルシア 特徴 ・イントネーションとアクセントはアルバザードと同じだが、抑揚が少ない。 ・語末が下がらない。平坦に終わる。 ふつうに話してもユンクに聞こえてしまうので、ルティア人の男は「なよなよしている」という印象を持たれる。 ただしユンクと異なり、イントネーションの多重連結はない。 アルシアは魔法の国ルティアに傾倒しているので、ルティアと同じ。 アルシア人は人口が少ない上に移住する人が少ないため、よくルティア人に間違われる。
アルティア モーラ言語。ɪμbɪzɪμɑ を ɪ μɜ bɪ zɪ μɜ ɑɜ と発音する。 アルバザード語と違い、シュワーにもアクセントを置く。 ɪlſcɪ は ɪ lɜ ſc ɪ で、lɜ にアクセント。 母音＋閉鎖音の場合、重子音になる。ɪjſenɔſ は ɪ jɜ ſe nɔ ſ ſɜ。 この重子音も１モーラと数えるので、アクセントは nɔ にかかる。 ようするに日本語。 メティオ 声調言語。

ɒeelael [言語] 社会言語学、方言学 [レベル] 6 Jl0 [文化] 制アルカ前の自然言語研究、および新生流布語の社会におけるアルカのありかたの研究。セレンが大成。

ɒə,ɑ ɒəɔ e

ɒəſɔ,ɑ ～の状態でという前置詞 e 赤

ɒəſɔn [人名] ムトン [組み数字] １２/１３ [天文] ムトン座 [レベル] 3 先 :ɪnɔ:nſ [文化] 第４期３代ソーン第１２使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ɒəɒ,ɑ ſəə̀ ɒə は動物の対で「動かないもの」

ɒəɒɒə,ɑ nɒɒ

ɒəφcſ [音楽] ルンバ eneφɪcɪ;「楽しい」 [レベル] 6 Jl

ɒəl [南方] [格詞] cſ, μɔſ [レベル] 3 古

ɒəlφ,ɑɯ lɔɔʅ

ɒələ,ɑ [格詞] c [アクセント] ɒəlƏ elſ;lə は「物」。ɒə は不明。ただ、恐らく「～から出てくる物」のような原義を持つものと思われる。 赤

ɒələ,ɪlſ c, cſ ɒəl

ɒəɔ [名詞] [形容詞] 酸味、すっぱい、酸っぱい ɟeμſ [レベル] 2 1ʔ: 制 :ɒəe ɒə:ɒə::ɒɪɟɟc,ɪlſ [用例] ɒccʅ ɒəɔ 酸っぱいりんご

ɒəɔɒccʅ [名詞] 酸っぱいぶどう、負け犬、負け惜しみ、意地っ張り、石に漱ぎ流れに枕す [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古の直訳 [文化] ある日のこと、ソームがアルバザードで巡遊してると、一本のリンゴの木がなっていた。そのリンゴはとてもおいしそうだった。しかもおあつらえむきにリンゴは七つある。ソームは喜び、平等に分けるとひとつずつ手に取った。確かにそのリンゴはとてもおいしかったが、火の悪魔であるベーゼルだけはリンゴを持った途端、不用意で自分の火を燃え移らせてしまい、リンゴを燃やしてしまった。するとベーゼルは意地を張り、「俺は元々そんな酸っぱいリンゴなどいらん。焼きリンゴのほうが上手いに決まってるんだ」と言い張った。そこから ɒəɔɒccʅ は酸っぱいぶどうの意味を表わし、ɑɪcɒccʅ は本当は良く思っていないのに良いといってしまった手前覆せなくなってしまったものを指す。

ɒəe [料理] 酢、ビネガー、食用酢 [レベル] 2 lɪ̀lſɪ:「すっぱい水」

ɒəedɪɑ [化学] 酢酸エステル、アセテート 1L

ɒəeɪjl [化学] 酢酸（通用名） [レベル] 4 1L

ɒəə,ɪlſ bɪ̀l ɑɔueſ

ɒəəb [料理] ピクルス、野菜の酢漬け [レベル] 3 Jl0:ɒəe/bɪl [文化] bɪl

Ω

ɑ ɑcɟſ

ɑl → ɑcɪlleɪ

ɑɥɪ [文末純詞] [老人] ɑɪ [レベル] 3 Jl:ɑɪ のリムレット

ɑɥe [文末純詞] [老人] ɑe [レベル] 3 Jl:ɑe のリムレット

ɑɥə [人名] リュウの略称 [組み数字] 6/２８ [レベル] 1 古 :jeɥen

ɑɥəlclɟ [名詞] 懇切丁寧 [レベル] 3 JJ:「リュウのように丁寧に」

ɑɥəɟɟcə [名詞] ～様。男性の敬称。ɑɥəɟɟcə 単体で名前を付けなくても使える。 [形容詞] ～様。前置すると「～様」。後置すると「～どの、～さん」程度。 [婉曲] 男性器 [名詞] だんな様、旦那様、ご主人様（hɪrɒɪ とも） [類義語] ɟɪn、jcə ɟɪɪl;e [レベル] 2 古 : 古アルカで女が男を指すときに使う２人称が ɑɥəɟɟcə。デュッソウには前期アルカの時代から敬称としての用法があったが、長いので jcə という略形になった。jcə が現われても ɑɥəɟɟcə が絶えることはなく、むしろ jcə は ɑɥəɟɟcə より軽い意味で、ɑɥəɟɟcə は jcə より敬度が高いのだという風に分化していった。 ɑɥəɟɟcə:ɑɥəɟɟcə [語法] → ɪdſ, eɟſ ○名 ×姓 ○前置（丁寧） ○後置（並） ○男 ○単体使用 / 名詞用法 [成句] ɑɥəɟɟcə ɒ ſeμ ſc. M 氏が聞いてるぞ：厳格で地獄耳なミロクが聞いているかもしれないので口を慎めという意味。壁に耳あり障子に目あり（ɑɪl ɒel ʅɪ ɑcɪ）と類似。 eſ ɑɥəɟɟcə neɒ 何様？、何さまのつもり？。言葉通り「どちらさま？」という意味もある。

ɑɥəɟɟcə ɥəlφ [娯楽] ユルグの考察 Jl [文化]『レイトン教授』に相当するゲーム。

ɑɥəɟɟcə μɟccʅɪ [人名] リーダーさん、セレン。ミルフの個人語。セレンを呼ぶときに使う。 [レベル] 6 古

ɑɥənɪlɛɪ [企業] デュナケア [レベル] 5 Jl [文化] 野村證券に相当する企業。

ɑɥənɪɒcɟ [魔法] デュナミス [レベル] 2 ls;ɑɥənɪɒcɟ < ɑcnɪɒcz,enccʅ < ɑcɒcnɪz < ɑcɒcnc ɔn/lccz ɑcnɪɒcz をエニーク語読みするとデュナミスになるところから。 JJ [文化] ディミニオンの雑魚版。

ɑɥəɒɪ [格詞] ～ずつ、ずつ [レベル] 2 Jl:ʅlccz:eɒɔ と衝突、ɪɒɒɪ 位相と衝突。よって ɑə/eɒɪ に <eɒɪ:1ʅl: 制 : 古 :jeɒɟ（集団を作る、集団になる） [語法]「３個ずつ食べる」のように、１回における量を示す。「彼はいろんなことが少しずつできる」という場合は、１件ごとのでき

Ω

る量を示す。このように、回数だけでなく場合やケースも表せる。 〔用例〕 ˥əc ɑɥəɒɪ uc 3 個ずつ食べる

ɑɥəɒɪen 〔接続詞〕ɑɥəɒɪ 〔レベル〕3 ʃʎ

ɑɥəhɪɑ 〔数学〕フェルマーの最終定理、フェルマーの定理、フェルマー 〔レベル〕5 μɑ ʃʃ 〔文化〕 リュウが出した数学の問題。フェルマーの最終定理に当たる。自然数 l を使った問題。ıl で証明された。

ɑɥəμɪn 〔宗教〕レリクス、聖遺物 〔類義語〕μɪɑl zφ;「神の雫」 ʃʃʃ

ɑɥəμenʒ 〔名詞〕手練手管 〔レベル〕3 ʃʃ:「リュウの言葉」

ɑɥəɪn 〔名詞〕浮浪者、ホームレス、流れ者、ルンペン、乞食 〔ユマナ〕脱北者、脱走者 〔ユマナ〕ジプシー 〔レベル〕3 ʃʃ:ɪɑɥə/ɪn 〔文化〕 μɑ で解放されたアデュ及びその周囲の人々が行き場を失って浮浪者として各地に流れ込んできたことから。ケートイアより経済が発展していたアルバザードに多く流入し、ドフレットを経由して中央部へ入っていた。多くは職を得られず浮浪者と化したため、このように呼ばれた。その後浮浪者一般を指す言葉となる。 ユマナの場合は脱北者やジプシーなどの意味があるので、安易に浮浪者と訳しては誤訳。

ɑɥəeʃ 〔物理〕〔化学〕〔生物〕理科。教科名。 〔レベル〕2 μɑ;ɑɥə/ʃe ʃʃ: 〔文化〕〔語法〕 物理 (ʃəɔ)、化学 (ɒɪcl)、生物 (μəɒɪ) の総称。ɒ の錬金術師が ɑɔɔbcɥə の研究の過程で隆盛させていったが、特に μɑ のリュウが隆盛させた。しかも彼は魔法抜きでの理科を始めた最初の人物でもある。μɑ は魔法科学から魔法を使わない現代科学への移行がゆっくりと開始された時代でもある。

ɑɥəelʒ 〔名詞〕意味深長 〔レベル〕3 ʃʃ

ɑzc,ɑ zcɑ e

ɑzchɔ,ɑ zcɔ 「顎の骨」

ɑzccn,ɑ ɑcɔ <>ɑzchɔ

ɑzəl,ɑ μcφ

ɑɪ 〔文末純詞〕ɑɪrl の標準形 〔レベル〕1 〔類義語〕ɑɪrl、ɑerl、ɑe、ɑeel、ɑeeln、ɒɔn、e、ɪ、eə、iə 1L:/eəʃɔn :::ɪ,ɪlɪʃ 〔用例〕 ɪn eʃ ʃcɪ ɑɪ. 私が正しいのだ。

ɑɪl 〔形容詞〕張りがある。ピーンとした状態。 〔類義語〕ɑɪlnɪl 〔反意語〕φcʃ 〔動詞〕ɥəl を ɪ に張る、張る 〔レベル〕3 1ʃʃ: 制 : 恣意 〔用例〕 ɑɪl ɪbe ɪ bɪl ɪnel. 壁に布をしっかり張った。

ɑɪlʃ 〔動詞〕ɥəl を ɪ にぶつける、ぶつける、ぶつかる、衝突 〔動詞〕ɥəl (車) を ɪ (人や物) に当てる、ɪ を轢く、轢く、引く、ぶつかる、追突する 〔レベル〕2 1ʃʃ: 制 〔用例〕 ɪn ɪʃ ɑɪlʃ ɪ scʒc ɒeleʃ. ほかのそりにぶつかってしまった。

ɑɪlʃucl 〔医療〕打ち身、打撲。衝撃でできた傷やあざ 〔レベル〕2 1L 〔用例〕 ʃclɪʃ ɑɪlʃucl ɔn nɪʃ 肘を打撲した

ɑɪlʃφel 〔野球〕デッドボール、死球 〔レベル〕3 ʃʃʃ

ɑɪlʃsc 〔医療〕突き指、つき指 〔レベル〕2 1L:jeμen

ɑɪlʃelɑ 〔交通〕轢き逃げ→ elɑ 〔レベル〕3 ʃʃ

ɑɪlɪnɪl 〔形容詞〕ピンとした、ピーンとしてまっすぐな、ピシャっとした、ピシっとした 〔類義語〕ɑɪl、˥nɪl 〔レベル〕3 ʃʃ0

ɑɪʒ 〔普通動名詞〕繰り返し、反復、リフレイン 〔動詞〕ɥəl を μɪʒ 回 ɪ になるまで繰り返す、繰り返す 〔形容詞〕繰り返した、繰り返された、何度も、何度も何度も 〔音楽〕レープリカ、レプリカ、ピス、テル、クォーター。頭に ɪ,ɪ を付けるとピス、ヴィだとテル、ɪɪl を付けるとクォーター。 〔反意語〕dμce 〔レベル〕2 1ʃʃ: 制 :ɑɪʒɔ (多くする) cz:cz 〔文化〕 アルカは日本語や英語に比べて同じ内容が短くいえることが多い。日英では随分長くいうところを短く伝えられることが多い。そのため、聞き漏らしたら何がなんだか分からない。それに短すぎて印象に残りにくいゆえに、アルカでは短い文であるほど二度同じものを繰り返す傾向が強い。一語文は最も繰り返しやすい。ɪ,ɪ、ɪ,ɪ や ˥e˥ɔ、˥e˥ɔ などがそうである。日本語では「はいはい」は無礼とされるが、ɪ,ɪ、ɪ,ɪ はむしろ丁寧である。 また、短い文も繰り返しやすい。長くなって文が複雑になると、全文を覚えづらいということと時間と労力がかかるということがあって繰り返しは少なくなる。アルカの場合、繰り返しは強調で使われる。賛成や賛辞などは繰り返すことによって強調され、敬度も高まる。非難や愚弄は逆に強調することによって敬度がより下がる。公的私的の違いはないが、論文のようにあまり強調する必要がないものは繰り返しが少ない。ただ、論文にも強調される箇所は当然あるわけで、そういう部分は繰り返されることがある。だが、論文の強調される部分はえてしてそれなりに長い文なので、繰り返されないことも多い。

ɑɪʒʃəlɑ 〔医療〕回帰熱 1L

ɑɪʒncɑ 〔言語〕反復相 〔レベル〕4 ʃ0 〔語法〕 定動詞しかない動詞の非単位動詞が持つ非単位相。 例えば定動詞「叩く」の非単位動詞「乱打」の非単位相「乱打中」のこと。 動詞 ɪnɑ で示される。 例 : bɪɑɪnɑ

ɑɪʒuel 〔言語〕畳語 〔レベル〕5 μɑ;/ ʃʃ 〔文化〕 ɪ は ɑ の時代から畳語を作る場合、最初の形態素が接頭辞の ɪl に変化することが多い。これは現実の古アルカの性質によるものである。ただしオノマトペはしばしばこの限りでない。

ɑɪʒɒɔlɑ 〔言語〕畳語法 〔レベル〕5 μɑ;/ ʃʃ

ɑɪʒφel 〔軍事〕連続銃 〔普通動名詞〕連射 〔動詞〕ɥəl を連射する、連射する 〔レベル〕3 μɑ;/ ʃʃʃ 〔文化〕 φel

ɑɪʒɥəɔ 〔言語〕反復動詞 〔レベル〕5 ʃ0 〔語法〕 非単位動詞のうち、定動詞からできた動詞。「乱打する」など。

ɑɪʒn 〔名詞〕はたき 〔動詞〕ɥəl をはたきではたく、はたく 〔レベル〕3 1ʃʃ: 制

ɑɪl 〔形容詞〕氷などがカキ氷状でガリガリしている、ガラスの破片がジャギジャギな、髪がツンツンしている 〔レベル〕3 古 : カキ氷を削るときのオノマトペに由来

ɑɪlɪ 〔文末純詞〕[ben] ˥ɔ˥ 〔レベル〕1 ʃʃ:bɪʃ:ɑɪ. ɪl,ɥɪɣ「〜だ。そうだろうな？」の語彙化。

ɑɪlɒ 〔名詞〕タオル 〔レベル〕2 1ʃ: 制 :ɑclɒele (ザラザラな綿織物) 〔用例〕 ɪn jeɑɪʃ eμ ˥ɔn ɑɪlɒ. タオルで水気を取った。 ɪn ɑcdɪʃ ɒɪcn ˥ɔn ɑɪlɒ. タオルで体を拭いた。

ɑɪʒ 〔普通動名詞〕提案、勧告、勧誘、推薦 〔動詞〕ɥəl を ɪ に提案する、提案する、提言する 〔法副詞〕〜したらどうですか。勧誘の副詞 〔反意語〕nɔɪʒ、φcl 〔レベル〕1 ɑ;e 赤 : 威厳のある勧告 ɑɪʒ:ɑɪʒ 〔語法〕 ɪn が主語だと「〜しましょうか？」。ɪnʒ が主語だと「〜しましょうよ」。相手が主語だと「〜したらどうですか？」。通常クーノを伴う。 〔文化〕 勧めるときは相手にとっておせっかいにならないようにする。さも自分が親切であるかのように気取るのは非常識。勧めるときはさらっと勧め、相手が関心なさそうならすぐに引き下げる。推薦されたほうは素直に jeeμe というか、あるいは ʃeeμe という。 アルティス教が何が善で何が悪かを決めてくれているので、何が良いことか分かっている社会なので、良いと思うことは比較的さくさく推薦してくる。赤の他人でも親切に薦めてくるので、現在の東京人にはややおせっかいに映る。 〔用例〕 ʃc ˥e ɑɪʒɣ 行ったらどうですか？

ɑɪʒʃ 〔動詞〕ɥəl の値段を ɪ ソルトまで値切る、値切る 〔普通動名詞〕値切り 〔レベル〕3 1ʃ: 制 :dɪɪl: 古 :ɑɪʒʃelcɪ, ɑɪʒʃclcɪ 〔文化〕 値切る文化はない。高く売りつける人もいないので。

ɑɪʒ˥ 〔動詞〕ɥəl を砕く、砕く 〔魔法〕ダスク。土の低位白魔法。岩などの障害物を砕いてトンネルを掘り進んだり、道を進めるようにする 〔レベル〕2 1ʃʃ: 制 :jɔμn:ɑɪɔ 〔語法〕 ɑɪʒ˥ はいくつかの破片にすること。nɔɔ はそれが別物である程度に破壊すること。ɑɪʒ˥ は物を変えないが、nɔɔ は変える。砂糖を ɑɪʒ˥ してもまだそれは砂糖だが、窓を nɔɔ したらもはやそれは窓ではなくガラスの集まりである。窓を ɑɪʒ˥ したといったら、窓を丁寧に後からでも使えるように切り分けたといった意味になる。

ɑɪn 〔形容詞〕深い 〔反意語〕φcɒ 〔レベル〕1 1ʃ: 制 : 古 :ɑen cen (見えない) 〔用例〕 eμec ɑɪn 深い河 belʃ ɑɪn 深い鍋

ɑɪnʃ 〔形容詞〕私の、公私の私、民間の、わたくしの、私立 〔反意語〕ɟɪlʃ 〔レベル〕3 1L:˥ɪɑɪn/ɪnʃ などの ʃ

ɑɪnʃlɪlə 〔法律〕私法 〔レベル〕5 ʃ0

ɑɪnʃuɪc 〔軍事〕私兵 〔レベル〕4 ʃʃ

ɑɪnʃuenʃ 〔経済〕私企業、民間企業 〔レベル〕4 1L

ɑɪnʃuecʃ 〔動詞〕ɥəl を私掠する、私掠する 〔普通動名詞〕私掠 〔レベル〕6 μɑ;/ ʃʃʃ

ɑɪnʃuecʃɪdl 〔名詞〕私掠船 nɑ;/ ʃʃʃ

ɑɪnʃaelɪ 〔名詞〕私立校 〔レベル〕3 ʃ0

ɑɪnʃφɪnɪ 〔政治〕私領 μɑ;/ ʃʃʃ

ɑɪnʃ˥d 〔交通〕私鉄 〔レベル〕4 ʃʃ

ɑɪnʃɪuɔɒ 〔ポジティブ〕私兵。勇猛果敢なイメージ→ ɑɪnʃuɪc 〔レベル〕4 ʃʃ

ɑɪnʃɪuel 〔名詞〕民間資格 〔レベル〕5 μɑ;/ ʃʃ

ɑɪnʃcel 〔地学〕超深海層。海の垂直区分。 〔レベル〕6 ul;/ ʃʃʃ 〔語法〕 ʃceμ

ɑɪnʃe 〔遊離副詞〕〔形容詞〕〜したばかり 〔類義語〕jejcl、zɔ˥ɑɪnʃe 〔反意語〕ɒɪlcj 〔レベル〕1 ʃ0: 古 :ɑɪ ɑɪjʃeeze 〔語法〕 lɪczɪ

ɑɪnʃeɒcue 〔動物〕初生雛 μɑ;/「生まれたばかりの雛」 ʃʃ

ɑɪnˏ 〔法律〕弁護 〔レベル〕3 古

ɑɪnˏɪn 〔政治〕〔法律〕弁護士 〔レベル〕3 1L

ɑɪnˏɪɑ 〔地球の国名〕ホンジュラス 1L: 国名が「深さ」

ɑɪnʒ 〔動詞〕ɥəl を孕ませる、ɥəl に ɪ (子供) を妊娠させる、孕む、妊娠する 〔反意語〕ɑcnʒ 〔レベル〕3 1ʃʃ: 制 :ccɑcʒ から 〔用例〕 ɪμɑej ɑɪnʒɪʃ ʃɥəɪ ɪ ɑɪl ʃclɪn. アルデス王はテュアに 4 匹の竜を妊娠させた。 lɪ ej ɑɪnʒ ɪ ɒcɑɪ. 彼女は娘を妊娠している (おなかに娘がいる)

ɑɪnʒɑɪɑɪ 〔被服〕マタニティドレス 〔レベル〕6 ʃʃ

ɑɪnʒɔl 〔医療〕妊婦→ lculɪn 〔レベル〕4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ 〔語法〕 「孕まされた」という意味で、セックスを強く連想させるため、ɑcnʒɪn、lculɪn のほうが雅。

ɑɪnʒen 〔音楽〕マンボ eneφɪcɪ;「寄り添う」 ʃʃ

ɑɪnl 〔形容詞〕分別のある、思慮深い、思慮分別のある 〔反意語〕ɪlɑɪnl 〔レベル〕3 1ʃ: 制 〔用例〕 ɪn ˥ɪlʃ ɪlʒeμ eʃ ɑɪnl. 私は兄ほど思慮深くない。

ɑɪnleed 〔言語〕深層構造 〔レベル〕6 1L

ɑɪnɪʃc 〔名詞〕深さ、水深 μɑ;/ ʃʃʃ

ɑɪnɪ˥ɔn 〔医療〕〔植物〕土壌の B 層 1L:μcɑcɪ 〔語法〕 A 層の下。土壌の最下層。腐植が少なく褐色の層。

ɑɪɑʃ 〔動詞〕ɥəl をかつぐ、かつぐ、担ぐ 〔レベル〕3 1ʃ: 制 : 古 :ɑɪɑɑəʃɔ (重いものを取る)

ɑɪɑɪ 〔医療〕担架 〔レベル〕3 1ʃ: 制 :ɑɪɑʒ から

ɑɪɑʃɔɒ 〔名詞〕持ち方、担ぎ方 〔レベル〕3 ʃʃ

ɑɪɑɪ 〔名詞〕マッチ 〔レベル〕3 1ʃ: 制 :ɑɪ˥ɒ/ɑɪc (ぶつかる火) 〔用例〕 ɪμ ɑɪɑɪ マッチを擦る

ɑɪɑcn 〔動物〕ウズラ 〔レベル〕4 ʃ˥ɪʃ

ɑɪɒb 〔形容詞〕時間が多くかかる、時間がかかる、長ったらしい、時間がかかって面倒な、冗長な 〔類義語〕ɑcl˥ 〔反意語〕ɪlɑɪɒb 〔レベル〕2 1ʃ: 制 :ɑɪb。ɑɪɒb (面倒な) と ɑcʃ (冗長な) を統合し、ɑcɒb (時間が早くてすむ) と ɑɥʃ (簡潔な) を統合した。

ɑɪɒe 〔形容詞〕都合の悪い、不都合な、景気の悪い、調子の悪い、(儲け話が) しょっぱい話、自分のスケジュールの予定にあってない、採算の取れない、予算に合ってない、不利な、適切でない、だめ、ダメ、駄目、マズイ、まずい、マズい、ヤバイ、やばい、ヤバい 〔反意語〕˥clɑ 〔レベル〕2 1ʃ: 制 :ɑɪɒ (適切)

ɑɪɑ 〔形容詞〕重い 〔形容詞〕体がだるい、けだるい 〔形容詞〕胃が重い、胃もたれがする 〔音楽〕ラルガンド 〔反意語〕jclɑ μɑ;> jzl 先 :ɑɪɑ (重い)。ソーンでは ɑɪɑɪʒ。 〔レベル〕1 bɥə:bɥə: ɑɪɑ:ɑɪɑɪʒ,ɑφn 〔語法〕 重量のあることを指す。プレッシャーや精神的圧力が大きいことも指す。 ヴィードによる威嚇の強さが強いことを指す。敵と対峙したとき、ヴィードを強く燃やすと、こちらのヴィードの圧力が敵にかかる。このとき、圧力が強いと敵は肩がぐっと重くなったような圧力を感じる。そのため、それを ɒccɑ eʃ ɑɪɑ と表現する。 また、ɑɪɑ は太っているの婉曲用法。jclɑ は痩せているの婉曲用法。 〔成句〕 nɪ ɑɪɑ ɔn nɔɪ 気が重い、気が重くなる 〔用例〕 ɪn nɪ ɑɪɑ ɒcl senʃ belʃ. 暖かい陽気は私をけだるくさせた。

ɑɪɑʒzl ɑɪɑ > dμ

ɑɪɑ˥eɒ 〔医療〕胃もたれ 〔経済〕弱含み 〔レベル〕4 ʃʃ

ɑɪɑɪɪnʃcʒ 〔軍事〕重装兵 〔レベル〕4 1L:μcɑcɪ

ɑɪɑɥɪc 〔生物〕〔医療〕体重節痛 μɑ;/ ʃʃʃ

ɑɪɑ˥əʃeɪ˥ɒ 〔化学〕重質ナフサ 1L

ɑɪɑɪ˥ɒ 〔化学〕重油 〔レベル〕5 1L

ɑɪɑɪʒ 〔名詞〕重り、重し 〔化学〕分銅 〔レベル〕3 古 jɔμn:ɑɪɑɪʒ (重い)

ɑɪɑɪʒ,ɑφn ɑɪɑ ɑɪɑ,dμ.l

ɑɪɑɪnɑ 〔軍事〕重火器、ヘビーウェポン 〔類義語〕˥ɪcɪnɑ μɑ;/ ʃʃʃ 〔文化〕 φel

ɑɪɑɪl 〔形容詞〕色が濃厚な、濃い 〔反意語〕jclɑen 〔レベル〕3 ʃʃ:ɑɪɑɪʒ

ɑɪɑc 〔名詞〕重さ→ nɔɑ 〔レベル〕3 1L:ɒel

ɑɪφɑ 〔名詞〕いらいら、イライラ、焦燥、焦燥感、焦り、イラ立ち、苛立ち、いら立ち 〔形容詞〕イラついた、苛立った、イライラした 〔レベル〕3 古 〔語法〕 アルカは余裕の文化を持つため、アルバザード人は焦るほどユーモアを出そうとする。ここは日本人とまるで逆。イライラは恥ずべきことで、そのような状況にこそユーモアを出せるかが男気になる。男気といったのは、実はアルバザード人の女はイライラするからである。イライラやヒステリーは女のものという常識があって、女ならイライラしていても多少は多めに見られる。 〔用例〕 ɪn nɪʃ ɑɪφɑ ɒcl hɪμʃ ˥ɔn. ひどい暑さでいらいらしていた。 lɪ nɪ nelʃ ɑɪφɑ ɪ ʃɔʃɪl ɑɔl ɔμʃ. 彼女は生理中は何にでもイライラする。 ɪn nɪʃ ɑɪφɑ ɒcl μcb. 蚊のせいでイライラした。

ɑɪφe 〔植物〕キウイフルーツ、キウイ 〔レベル〕3 1ʃ: 制 :ɑɪɑφel (茶色い玉) から。

ɑɪφencɪ 〔美容〕ボウズ、坊主、坊主ヘッド、ボウズヘッド。スキンではなくボウズヘッド。かなり短い 〔レベル〕4 1L

ɑɪd 〔生物〕額 〔レベル〕1 1ʃ: 制

ɑɪdʃ 〔動詞〕ɥəl をしかめさせる、しかめる、顰める 〔レベル〕3 1ʃ: 制 :ɑɪdnc/ 古 :˥eʃʃɪ (眉毛が行く) 〔用例〕 lɪ ɑɪdʃɪʃ. 彼女は顔を顰めた。

ɑɪdlɔɔz 〔生物〕額角髪際 μɑ;/ ʃʃʃ

ɑɪdlɔɔzɒɥəʃ 〔生物〕両額角髪際間 μɑ;/ ʃʃʃ

ɑɪdcnc 〔生物〕眉、眉毛 〔レベル〕1 1L 〔用例〕 ɑμeɒ ɑɪdcnc ɪ ˥ɔ˥ 眉をひそめる

ɑɪdɔd 〔名詞〕頭注→ lec 〔レベル〕6 ʃʃ

ɑɪb 〔形容詞〕面倒な、面倒くさい、面倒臭い、面倒、わずらわしい、煩わしい、厄介な 〔レベル〕2 1ʃʃ: 制 :ɑɪ˥ɪb (仕事が多い) 〔用例〕 ɒ eʃ ɑɪb ˥ɔnel lel ɪn dɔɪ nelʃ hɪμʃ ʃɪʃ jel. 毎日お弁当を持って行くのは煩わしい。 ɪn ʃclɪʃ ɒejɣ{ɪlʃ} ɑɪb jcn. 厄介な立場に立たされた : ɒejɪ だと環境、ɪ˥ɪʃ だと立場。例えば死体片付け役のような「ポスト」の場合、立場なので ɪ˥ɪʃ。 ☆ μɔɒ, ɥeʃ ɑɪb ʃcn ɒnɪ˥ ɑlel ɪnʃ. 突然厄介な出来事が私に降りかかった。

ɑɪd 〔文末純詞〕〜だ。断定の純詞を ɪ 系感動詞の応用で強くしたもの 〔レベル〕1 1L 〔語法〕 ɒeʃ 〔用例〕 ɑce ɑɪdʃ 嘘だ！ (竜宮レナ)

ɑɪdɒɪ 〔感動詞〕はじめまして、初めまして→ hɪɑhɪdɒɪ 〔類義語〕hɪɑhɪdɒɪ 〔レベル〕2 古 :ɪ'ɑɪdɒɪ ← は hɪɑ'hɪdɒɪ (使徒になった) 〔語法〕 → hɪɑhɪdɒɪ ɑɪdɒɪ のほうが hɪdhɪdɒɪ よりくだけている。 × ɪnɑɪdɒɪ

ɑɪμ 〔形容詞〕自動の、機械仕掛けの、オート 〔反意語〕lɪl 〔レベル〕2 1ʃʃ: 制 :jɔμn:flɔcnʃ (自動ドア) flɔc:flɔc:flɔcnʃ

ɑɪμʃ 〔形容詞〕メジャーな、大多数の 〔名詞〕多数派、マジョリティ 〔反意語〕φcμ˥ 〔レベル〕3 1L: 制 ɑɪ/ləəʃe(ɪz ʃeeze)

ɑɪμʃsɪl 〔名詞〕多数決 〔レベル〕2 1L 〔成句〕 hɪɪʒ ɑɪμʃsɪl 多数決により、多数決で決める、多数決に従う

ɑɪμ˥ej 〔エルト〕ダルケス ɒʃ100'Δ000(uʒ):ɔnɔɔʃe; 〔レベル〕4 古 〔文化〕 コノーテとカルザスの息子。光を司る。フェルデンと駆け落ちし、アルデスに殺される。黒髪の白人美青年。ルフェルと違って長身。帯剣し、アルデスと同じようなアーマーを身につけている。実直で豪快で、敵となるアルデスに似ているが、アルデスのほうが男気がある。ルフェルよりはカルザスに似ている。

ɑɪμφel 〔軍事〕フルオートマチック、フルオート、全自動 〔レベル〕5 μɑ;/ ʃʃʃ 〔文化〕 φel

ɑɪμɪnɪʃ 〔娯楽〕B O T、ボット 〔レベル〕4 ʃʃ 〔用例〕 μecɪnʒ ɪnʃ eɒɔμ ʃəəʒ e ɑɪμɪnɪʃ e ɥɔ˥ɔɪ cɒ ʃəɔ cn. 最近、私のＴＬが例文 b o t のＴＬのように見えてきた。

ɑɪμ˥cʒφel 〔軍事〕自動小銃 ul;/ ʃʃʃ 〔文化〕 φel

ɑɪμenʃ 〔電算〕オートマトン 〔レベル〕6 μɑ:μɥəə;/「自動人形」受けた情報を自動で機械的に解釈するというところからこのように命名された。 ʃʃ

ɑɪμɪɒɔ 〔交通〕オートマ車、オートマ 〔レベル〕4 ʃʃ

Ω

ɑɪɲɪɲʃ ［電算］ハイパーリンク ［レベル］3 1L

ɑɪz ［形容詞］～に当然あたる、～に値する、～する価値がある、ふさわしい、相応しい、相応な、似合う、にあう、～が所有する物としてふさわしい、当然な、フェアな、納得がいく、仕方ない、しかたのない、しようのない、しょうがない、もっともな、尤もな、適応する、適切な、しっくりくる、サイズが合う、フィットする、ぴったりな、タイトな、適合する、適応する ［格詞］～に当然あたる、～にふさわしい、～にふさわしく ［動詞］ɥəl を ɪ に適応させる、適応する、適応させる、適する、合す、合わす、合わせる ［反意語］ɑɕɒ ［接尾辞］～にふさわしい。 t r u s t w o r t h y などの w o r t h y に相当：jeɾɑɪz（死に値する）、hɪ̀ɪɑɪz（称賛に値する） ［レベル］2 ɾb;ɑɪzeɾ,ɑ.l 1ʔ: 制 :ɲɕɑɕɪ: 英語の d e s e r v e から来た ɑɕzɪɪu というのがあったが、ɑɪz はこれからではなく、古アルカの「相当」を意味する ɑɪzeɾʃ から。 ɑɪzeɾ:ɑɪz:ɑɪz eɾʃ ［成句］ɑe ɑɪz ɪ 柄じゃない、柄ではない、ガラじゃない、ガラではない、がらじゃない、がらではない ［用例］ɪɪn ɑɪz 適任者 ［メタファー］ɑɪz ɥən lɪɲl j̀ɔl 履き慣れた靴のようにしっくりくる ［メタファー］［卑語］ɑɪz ɥən ɒcnɾɕ 嫁のようにしっくりくる：元々嫁の性器のように使い慣れたという意味から来ているので、［卑語］タグ。 ɑɕɲ ɪɾ ɑɪz ɪ ɾɔll. 今日はトレーニング日和だった。

ɑɪzɪb ［普通動名詞］照合 ［動詞］ɥəl が ɪ に適切か照合する ［レベル］4 1L:ɲɕɑɕɪ:ɪɲbɪleɾʃ ［語法］l̀ɔlɪb と区別。アンセの本人照合は I D と本人の照合なので l̀ɔlɪb でもいいし、本人が買い物に適切かの照合なので ɑɪzɪb でもいい。

ɑɪzuɔl ［言語］文法的に正しい文 ［反意語］ɑɕɒuɔl ［レベル］6 JJ ［語法］ɑɕɒuɔl

ɑɪzscɸ ［動詞］ɥəl を見計らう、見計らう、見はからう、見繕う、見つくろう ［レベル］4 μɑ;/「適切に選ぶ」 J̀ʔ ［語法］見て、適当なものを選ぶ。みつくろう。何かする時期を選ぶの「見計らう」は scɸ。

ɑɪzeɾ ［名詞］義理、道理、道義、義理人情、正義感 ［レベル］3 ɾb:ɾcl̀nɔ;ɑɪzeɾ,ɑ.l J1 ɑɪzeɾ:ɑɪz eɾ:lə ɑɪzeɾʃ

ɑɪzeɾ,ɑ ɑɪz eɾʃ;e「ふさわしい」

ɑɪzeɾʃ ［組み数字］4 / 1 0 ［哲学］義 ［医療］小腸 ［歳時記］庚、かのえ ［レベル］4 μɑ;ɑɪzeɾʃ,jzl J1 ::lə ɑɪzeɾʃ

ɑɪzeɾʃ,jzl ɑɪzeɾ ɑɪzeɾ,ɑ.l

ɑɪzeɾʃlɪn ［生物］［医療］小腸経 jzl;/ JM

ɑɪzen ［接続詞］ɑɪz ［レベル］3 J1

ɑɪzeɒ ［天文］テラフォーミング ［名詞］適応化、適応 ［レベル］5 J1

ɑɪs ［形容詞］親切な ［反意語］uɪnɑɪ ［レベル］2 古 ［語法］ɑɪs（＋干渉）,ɪlɑɪs（＋不干渉）,uɪnɑɪ（－干渉）,ɪluɪnɑɪ（－不干渉）の４点セットで覚えるとよい。

ɑɪsnɪ ［名詞］親切心、計らい、はからい、配慮、思慮 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［用例］ɑcʃ ɑɪsnɪ 気を利かせる、気遣う φɔl ɑɪsnɪ ご厚意に甘える。丁寧用法の φɔl でない場合は「親切心を請う」の意味だが、通例それで使われることはないし、文脈で分かる。 ɾə eʃ ɑɪsnɪ ɑəen hɔ̀ln lcj ɑeel. それはほんの一匙の親切心。

ɑɪsc,ɑ ɪl̀ sc は指

ɑɪlʃ ［政治］官僚 ［レベル］4 jɔμn: 古 :lɪlʃ, ɑɪlʃ。アルシェでは lɪlʃ だったが、クミールにこの語を教えたセレンの発音のせいで彼女は ɑɪlʃ と覚えた。 ［文化］ → lejʃcɒccɥ

ɑɪlʃʃɔnl ［政治］官僚 ［レベル］4 1L ［文化］事実上の身分の１つ。地位のほうが適切。

ɑɪlɪ ［形容詞］尊大な、傲慢な ［反意語］lcjʃ ［レベル］3 1ʔ: 制

ɑɪlɔ ［地学］地盤 μʃ;ɑɪlɒ/ɪ̀ɔ「支える地面」 ［レベル］3 J̀ʔ

ɑɪlɔɒcɒ ［地学］地盤沈下 ［レベル］4 ul;/ J̀ʔ

ɑɪlj ［形容詞］動的な、動きの多い、アクティブな、活動的な、活発な、行動的 ［反意語］ɥənɥ ［化学］［電算］活性 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɪlə̀ə（動きが多い）。lə̀ə は古アルカで「動く」。 ［成句］ɔuc ɑɪlj nɔɑ jɥən ɑɪnl 考えるセレンより動くオヴィ：案ずるより生むが易し。ɑɪlj と ɑɪnl で口の端に乗せやすく工夫してある。 ［メタファー］ɑɪlj ɥən lə̀lcɪ lcs 幼い頃のルシアのようにやんちゃな：子供以外に使うと悪口。 ［用例］ɪn eɒ ɑɪlj cɒ ɑleɪ nɔɑ ɪμlcel ɪlʃ. 夏はほかの季節より活動的になる。

ɑɪljʃɪnʃɔɪ ［魔法］動殷 ［レベル］5 J1 ［文化］nɔlɒcɥə

ɑɪljuəɒu ［娯楽］アクティブモンスター ［レベル］5 JJ

ɑɪljɑɸeɥə ［言語］遊離副詞 ［レベル］4 J1 ［語法］ɑɸeɥə

ɑɪljɑɔɪ ［経済］動産 ［レベル］4 J1

ɑɪln ［地学］琥珀、アンバー ［レベル］3 l̀ɪl̀ɪ ［文化］土の魔石。

ɑɪlnɪcd ［魔法］琥珀測定 ［レベル］6 J1 ［文化］nɔlɒcɥə

ɑɪlɑ. ［エルト］ダルフ ［政治］クーデター ［レベル］4 古 :μɥəə ［文化］クーデターを起こしたエルト。

ɑɪlɒ ［動詞］ɥəl を支える、支える、支持する ［普通動名詞］支持 ［名詞］～立て、立てるもの、立て、支えるもの ［反意語］ɑcdj ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɑɪlɒɪcn（体を助ける）

ɑɪlɒɪ ［物理］支点 ［レベル］4 1L

ɑɪlhɪ ［名詞］ダルハ、印章、印影 ［名詞］スティグマ、聖痕 ［名詞］バッジなどに書き込まれている身分を示す記号のこと ［レベル］4 1L:clɒəj:μcɑɕɪ:ɑɪd（額）/dɪɪl（古：光）/hɪμɪ（痣）。今まで特に名前がなく紋章としていたので命名。アシェットが特別であることを示すもの。アシェットだけが唯一テームスを倒したラシェットであることから、特別な設定が付けられている。シェルトができるまではダルハは使徒記号という別の形をしていたが、シェルト以後はダルハはシェルトで使う幻字になった。だから本来使徒の額に浮かんでいたのは使徒記号なのだが、ややこしいので始めから現在のダルハが浮かんでいたことになっている。 ［文化］ 神代に神々が書簡などの個人認証に作った紋章。確かにその人のものであるというのを示すための道具で、家紋という概念がなかったころに作られた。 自らの名を示す幻字ではサインとして単純すぎで、容易に捏造できた。そのため複雑なデザイン文様として作られた。家紋はこれを真似て後に作られた。植物や動物などを象ることが多い。 身体に描くとヴィードの流れをよくする。額なら ɑcμ、手なら ɥənɔ、腹なら nɔɪ という具合に。 神々は式典などの際、額に描くことがあり、これが元で ɑɪlhɪ と呼ばれるようになった。普段から額に描くのではなく、神祇の一環。 額に浮かぶ紋章ということでは後述のアシェットの紋章もそうで、その紋章も ɑɪlhɪ と呼ばれるようになった。が、両者の ɑɪlhɪ はあくまで別々のものである。 ɑɪlhɪ は神代のうちに人類に伝わった。人類の特徴は、一生涯で複数の ɑɪlhɪ を使い分ける点である。 例えば 1M 歳のセレン少年は「氷晶躯龍」を ɑɪlhɪ にした。氷の結晶に封じ込められた龍の躯という意味で、当時彼が格好いいと思っていたものを集めたもので、強そうなものやカッコいいものにあこがれるという少年期の幼稚さと純粋さが現れている。要は中二病である。 JΔ 歳のセレン青年は「風柳」を ɑɪlhɪ にした。当時青年は人間とは、男とは、強さとは、正義とは、などといったことに悩んでいた。 幼少期は強さとは硬く頑強なことだと考えていた。しかし硬く強いものはしばしば猛攻を受けると防ぎきれずにつぶれる。つまり、もろい。筋肉も硬いと一見強いが、損傷しやすくもろい。 一方、柔軟でしなやかな筋肉は丈夫で強い。植物も同じで、風の強い土地の植物はしばしば風に立ち向かうための太い幹を持つのではなく、風を受け流すスキのような構造をしている。力を受け流し、損傷を少なくする。柔軟なほうが実は強い。 では、柔軟で受け流されるだけでよいのか。それでは単に強いものに巻かれるだけで、自分というものがない。 しかしススキはどうだろう。ススキは東西南北に風の向くまま流されるが、けして根の位置だけは変わらない。根だけは動かない。 自分の根っこの部分だけはゆるぎないものを持っている。そしてそれは根という場所にあるため、これ見よがしに他人に見せびらかすものでもない。それが本当の強さなのではないか、と青年は考えた。 そこで青年は ɑɪlhɪ に靡芒（風に靡くススキ）を選んだが、ススキは外来種で、当時のアルバザードにはまだ入っていなかった。 そのため周囲の仲間から「独りよがりにならないでほしい」といわれ、同じ外来種でも既に輸入されていたヤナギを選び、「風柳（かぜやなぎ）」を ɑɪlhɪ にした。 このように、人間は神と違って成長が遅く寿命が短く精神的に脆く迷いやすい。 したがって自分を表す象徴も経年変化し、ɑɪlhɪ を生涯に複数持つことになる。 しかし複数の ɑɪlhɪ を見ていくことでその人がどういう成長や人生を送ってきたかがわかるため、しばしば貴重な史料となる。 jɒ 以降は次のような習慣ができた。ɑɪlhɪ は最初に親が与え、10 歳まで使用する。その後自分で変更する場合は変更する。 タイミングとしては伝統的に 10,1M,J0,JΔ,ʔ9…という数字が一般的であり、これはおおむね人間性が変化し落ち着く時期に一致している。 ただし、一般に女子は男子より変更が少ない傾向にある。女子は１０歳までに人格が出来上がり、その後は男子ほど成長しないため、少女期に作った ɑɪlhɪ を使い続けることが多い。 男子は思春期を通して哲学的な問題に悩み、考え抜き、大人になっても社会的な試練が多い。また、少年期は女子より幼稚で成長が遅い。このことから、ɑɪlhɪ の変更が女子より多い。 女子は身の回りの人間関係や自分の容姿など、地を這うような次元では悩むが、人間とは何か、正義とは何かなど哲学的な問題を高尚に考えることは稀である。また、人に叱られても反省せず、「あたしかわいそー」の発想なので進歩がない。学問や理念よりも今日の食事と明日のスイーツなので、発展性がない。そのため、身近なものを ɑɪlhɪ にし、可愛いと思うものを選ぶ。哲学的な意図はなく、単に「好きだから、可愛いから」という理由で ɑɪlhɪ を選ぶ。ɑɪlhɪ を変更する場合はたいてい新しい可愛いものを見つけたときである。ただし、躾の行き届いた一部の家庭の女子はこの限りでない。 ＜アシェットの ɑɪlhɪ＞ アシェット２８人の額に浮かぶ紋章で、ほかのラシェットにはない。人によって浮かぶ文様は異なる。いずれも意味のない幾何でなく、古アルカの幻字である。セレンはルシーラ、メルはハルマ、リディアはディアに似たリディア独自の文字というように。ダルハが浮かぶと急激にヴィードが高まり、気分が高揚し、強くなる。クミールだけはダルハが出ても高揚せず、冷徹に敵を切り刻んだため、アルシェから畏怖された。大人になるにつれダルハは出なくなっていった。

ɑɪlhɪj ［普通動名詞］覚醒 ［動詞］ɥəl を覚醒させる、覚醒する ［レベル］4 JJ:ɑɪlhɪ/jɔ

ɑɪlhɪɒel ［名詞］［形容詞］フルパワー、本気、全身全霊 ［レベル］4 J1: ダルハ顕現中

ɑɪlɪ ［被服］ブーツ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɪn/lɪjl（深い靴） :::beleʃʃɪ,l̀ʃ ［文化］くるぶしが見える浅い靴が可愛いという習慣があるので、ブーツはあまり好まれない。くるぶしはむき出しでなく、白い靴下を履く。ブーツは山、雪山、雨天などに使う。日々履くものではない。 ［用例］nɔn lecnɪʃ ɑɪlɪ len lceμ. 冬用のブーツを履いた。

ɑɪlɪz ［普通動名詞］イヤボーン、ダラズ ［動詞］ɥəl をイヤボーンする、イヤボーンする ɑu;ɑɪlhɪ/ɪɑɑzə（ダルハで破壊） ［レベル］4 J̀ʔ ［語法］［文化］潜在能力を秘めた弱者が窮地に追い詰められたときに力を解放して敵を倒したり吹き飛ばしたりすること。たいてい隠された力の解放とともに ɑɪlhɪ が浮かぶので、このようにいう。

ɑɪlʃ ［形容詞］かっこいい、カッコいい、カッコイイ、格好いい、格好良い、格好イイ、かっこイイ、素敵、素敵なり、すてき、ステキ ［類義語］ɑɪμɒ、ɥɪμɒɪ、ɪɑccɥə、eμɑe ［反意語］φccl ［レベル］2 1M: 制 ［語法］顔ではなく見た目全体がいいこと。見栄えが良い、身なりが良い、体型がいい。男女ともに。

ɑɪll ［動詞］ɥəl を繁栄させる、繁栄する、栄える、栄えさせる ［普通動名詞］繁栄 ［反意語］φccʃ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɪcz ［用例］ɾə ɪɪɑ ej ɑɪɪl. その国は繁栄している。

ɑɪlφccʃ ［名詞］栄枯盛衰 ［レベル］4 JJ

ɑɪlμenj ［名詞］［ネガティブ］御託、御託宣 ［レベル］5 μɑ;/「尊大な言葉」 JM ［用例］lə{hɪɒ} ɑɪlμ enj 御託を並べる

ɑɪlj ［形容詞］たくましい、逞しい ［形容詞］男が筋骨隆々な、女の胸が豊満な ［反意語］φccl ［レベル］3 1ʔ: 制 ［語法］肉体が強靭であるさま、精神が強靭であるさま。その両方を主に指す。女には「胸が大きい」の意味になるので、使うときには注意。マユなら笑ってすませてくれそうだが、ユンクに言うとたいへん嫌な顔をされる。なお、μɑ の時代のように女性が戦っていた時代においては、クリスのような戦士系の女性の筋力を褒めて ɑɪlj と言える。

ɑɪlɪɪɪ ［文末純詞］{μɑen} jec ［レベル］1 J1:ɔuc:ɑɪ/ 古 nɔ（疑問）「だろうか」

ɑɪld ［軍事］勲章 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɪɪldɪ（偉い印）

ɑɪɪscl ［医療］佐薬 jzl;ɑɪɪs/cl「助ける薬」 JM

ɑɪɪsɔdeʃ ［医療］佐使薬 jzl;/ JM

ɑɪc ［代詞］［ben］オレ ［レベル］1 J0:ɑeμ

ɑɪcʃ ［形容詞］偉大な、偉い、えらい、立派な、壮大な ［反意語］uecφl ［レベル］2 J0:ɑɪc: 古 ［語法］地位が高い、功績が大きい、能力が高い、徳が高いなどを指す。子供に「よくできたね、えらいね」というときに使えないこともないが、日本語でいうところの「あなたは偉大だね」に相当する大げさな言い方。子供を褒めるときは "ɑcɪn μɪl" などがふつう。 ［用例］ɑμeɒɪn eʃ ɑɪcʃ. jcl ɑcμʃ, {ɪcl̀ eɪeʃ ɪμʃ. jɔɪ ucl̀ ɔəʃ ɪ ɑeμ ɥəl ɪlʃe feμ. hɔnδ ɑcj ɪʃ ɑccɒ lɪlʃ bcjɪlɪδ ɔl ɑcj ɪjɒ, jɔn beocl̀ uɪn ɪδ 隣人は立派 将来有望 才能人 そんな奴がさぁ 頑張れってさぁ 怠けて見えたかい そう聞いたら頷くかい （B U M P o f C H I C K E N『才悩人応援歌』）

ɑɪcfɑɪj ［名詞］偉業、快挙 ［レベル］4 μɑ;/「偉大な仕事」 J̀ʔ

ɑɪcʃen ［名詞］偉人、立派な人、お偉いさん ［レベル］3 μɑ;/ J̀ʔ

ɑɪcn ［名詞］共性の敬称、～さま、～様 ［形容詞］～様。前置。 ［レベル］2 古 :ɑɪcn ← ɑɪczlɪn から。元は偉いということを表わす敬称。 ［語法］ → ɪdʃ, ejʃ ×名 〇姓 〇前置 ×後置 〇男女

ɑɪcɒ ［動詞］ɥəl を止める、止める、中断する、辞める、辞職する。永遠にやめる。再開の見込みの有無は区別しない。 ［法副詞］～をやめる。中断。単位動詞では準完了相。非単位動詞では準終了相。 ［動詞］ɥəl を中退する、中退する ［普通動名詞］中止、停止、中退 ［反意語］bɪl̀, ɔnl̀ ［レベル］1 1L: 恣意 ［語法］bɪl̀

ɑɪcɒen ［俗語］嫌な女、クソ女、ビッチ、バイタ、売女、スイーツ、性格の悪い女 ［類義語］jɔɑɔɒ ［レベル］3 1L:lec e lecn:ɑɪcz eɒɒdɔ（王様気取りの女）。ɑɪcɒ だと ɑɪcn とかぶる

ɑɪcɑ ［代詞］［ben］オレの ［レベル］1 J0:ɑɪc

ɑɪcφ ［経済］税、税金、年貢、国税 ［類義語］lclcnφ ［レベル］3 zφ;ɑɪcz/φcl 1L:ɑɪφ:1ʔ: 制 : 古 :ɑɪczφcl(税金) 王の金が原義。ɑɪφ だったが、短すぎたので長くした。 ［文化］ → lclcnφ, ɑcʃ ɑɪcφ ＜税金と寄付金＞ 税金は日本より高い。消費税は変動制で、贅沢品ほど高い。酒など嗜好品にはさらに別途酒税などがかかる。 税金の使途は完全に透明で、唯一国防や軍事に関する機密費のみが不透明である。この点で北欧同様政府の信用力が高い。 年収は日本円にして１０００万以上は非課税となるが、代わりに寄付金として徴収される。寄付者は寄付する公共団体を選択することができるため、ある程度自分の意思を活かせる。例えば玩具会社の経営者なら子供の福祉団体に寄付をするだろう。 → lclcnφ 公共団体内部での寄付金の使途は透明であるため、寄付者自身にキックバックさせるなどの不正は防止される。日本の納税者の長者番付と違って頻繁に大々的に公開され、国民の関心も高い。褒めるべきところはきちんと褒めるというアルバザード人の国民性がよく表れている。納税でなく寄付となっているため、払った分がそのまま名誉に直結しやすい。たいてい寄付は低所得者のために使われるか、治安維持や社会福祉の維持に使われる。 アルバザードは下を作らず出る杭を打たないことを目標としている。上は下を助け喜捨し、中（中流）に引っ張り上げる。中となった人々は寄付者など上の人間に直接助けられており、素直に感謝しやすい。下は見返りに上の足を引っ張らないことが期待される。いかに下を作らず出る杭を打たないようにするかがポイントである。そのためにも寄付金制度がある。 北欧社会のように強い平等性があるとヤンテのルールのようなものができてしまう。国力も世界一になれない。かといってアメリカのような競争社会では底辺が増えてしまう。そこで例えば９５％が中流で５％が上流というようなシステムがよいのではと考えられている。人間自分が底辺でなければ上がいてもそんなにひがまないもので、その心理をうまく利用している。 なぜ日本でこれができないか。８０年代はわりと一億総中流が保たれていたのでできなくはない。ただ日本の場合はそれを目指したというより結果そうなったというだけなので、アルバザード型の社会を意識的に作るのは難しい。恐らく国民性もあるだろう。金持ちへの税率が一般人の予想に反して高いというのもあるが、喜捨したところでありがたがられるどころか売名行為とそしられる風土では喜捨の文化は育たない。アルバザード人は素直で十徳の信を意識した教育と生活をしているため、素直に相手の厚意を受け取りやすい。うがった考え方を基本的に嫌う傾向にある。また、「すみません」より「ありがとう」の文化なので、善意の循環が良いというのもあるだろう。 寄付額が多いとそれだけ人を助けたことになり、聖人としてアルティス教からノミネートされる。これは非常に名誉であるが、この点も日本にはない。金持ちは貧乏人を助けてくれる良い人たちだという認識がアルバザードにはある。 寄付額ランキングに入る人は非常に有名である。日本だと芸能人くらいしかランキング内の人物は有名でないことが多いが、アルバザードだと一般人でもランキング内の人物のことはきちんと知っている。顔と名前も一致しているため、寄付者は行く先々で羨望と好意の眼差しを受け、何かと人々に親切にされる。日本だと金持ちは一歩引いて傍観され、汚い守銭奴だとか派遣労働者から搾取して儲けた金のくせになどと思われたりすることがあるあたり、アルバザードとかなり対照的である。 既得権益者を打ち倒すミロク革命が起きない限りどの国もこうはならないだろう。革命後、新政府軍が腐敗に陥らない強い精神力と徳を兼ね揃えていなければならない。ミロクのような強い個人がいない限りなかなか難しいだろう。実際アルバザードの長い歴史でもクリーンな政治が行われたのは ɪl しかない。

ɑɪcφoɪɪɥə ［経済］タックスヘイブン、タックスヘブン ［レベル］4 JJ

ɑɪcφcl ［経済］税抜き ［レベル］3 1L:μcɑɕɪ:ɪμbɪleɾʃ

ɑɪcφɪɯ ［経済］税込 ［レベル］3 1L:μcɑɕɪ:ɪμbɪleɾʃ

Ω

ɑɪcɸlclc ［経済］免税 ［レベル］4　zɸ;/　ʃʔ ［語法］ ɑɪcɸɟeɑ

ɑɪcɸlclclɾfe ［経済］免税店 ［レベル］4　zɸ;/　ʃʔ

ɑɪcɸɟeɑ ［経済］非課税 ［レベル］4　lɥ;/　ʃʔ ［語法］ ・免税とは　例えば、商品の輸出や国際輸送、外国にある事業者に対するサービスの提供などのいわゆる輸出類似取引などのこと。　ただし、輸入取引は免税にはならない。外国貨物を受け取った際に通関で消費税の課税がされる。　また、外国への送金手数料は非課税となる。　免税の場合、原則としてその取引のための仕入の消費税を控除できるという点が特徴。例えば１０５万円（内消費税５万円）で仕入れた車を海外へ１２６万円で輸出した場合。　１２６万円の売上は免税取引になるので、仕入にかかった５万円の消費税の控除ができる。　・非課税とは　非課税の取引は該当する取引が法律で明記されており、具体的には「土地の譲渡及び貸付け」、「有価証券等の譲渡」、「預貯金の利子及び保険料を対価とする役務の提供等」などが主なものになります。　ただし、１ヶ月未満の土地の貸付けや駐車場という施設としての貸付けなどは非課税とはならない。　非課税が免税と違うところは、原則としてその取引に対する仕入の税額が控除できないところ。　例えば、１００万円の株を購入して手数料１０５００円（内消費税５００円）を支払ったのち、その株を１５０万円で売ったとしても、仕入にかかった５００円の消費税の控除が受けられません。　・不課税とは　例えば、国外取引、対価を得て行うことに当たらない寄付や単なる贈与、出資に対する配当などがこれに当たる。　消費税の課税の対象は、国内において事業者が事業として対価を得て行う資産の譲渡等と輸入取引。つまり、これに当たらない取引を不課税取引という。　不課税取引は免税や非課税と違い、そもそも消費税という世界に足を踏み入れていない取引である。そのため、課税売上割合の計算をする場合に分母にも分子にも含めないということになる。

ɑɪcɸɑɔnl ［経済］脱税 ［レベル］4　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑɪcɸlczɳɔ ［政治］税務庁 ［レベル］4　1L:ɥcɑcɪ:clbəɟ ［文化］ 財務省下。税金を徴収し、計算し、配分する。

ɑɪcɸeu ［経済］課税 ɥɑ;/ ［レベル］4　ʃʔ

ɑɪcɸeuɪnɑɪ ［経済］課税標準 ɥɑ;/ ［レベル］6　ʃʔ

ɑɪcz ［政治］王、君主、キング ［形容詞］～王。敬称。 ［類義語］clɪnʃ ［反意語］cʃɾɕɥ　ɑu;ɑɪcz ‹ ˥ɪcz ‹ ˥ɪczɪɔɔ（大木） ［レベル］2　赤　ɑɪcz:ɑɪcz ［語法］ → ɪdʃ, eʃ　〇名（後置）　〇姓（前置）　〇男女　〇単体使用 / 名詞用法

ɑɪczɾíʃ ［政治］王族（ɑɪczeɥn より狭い） ［レベル］4　1L

ɑɪczʃɔn˥ ［政治］王族、王位 ［レベル］4　1L ［文化］ カコ～現在までの身分の１つ。アルパ王とその一族。

ɑɪcz˥ɪɑ ［政治］王国 ［レベル］3　ʃʔ

ɑɪcz˥ɔ˥ɒ ［政治］王制、王政、君主制 ［レベル］4　1L

ɑɪcz˥ɾɾe ［政治］王族、皇族 ［レベル］4　1L

ɑɪczɒcnʃɾ ［名詞］王妃 ［レベル］4　JJ

ɑɪczɑɪcl ［名詞］王冠 ［美容］クラウン　1ʔ: 制

ɑɪczɟɪ ［建築］宮殿、殿堂、パレス、王宮 ［類義語］ɑɪllc ［レベル］3　1ʔ: 制 : 王の家 ［語法］ ɑɪllc

ɑɪcz˥ɪɥel ［政治］絶対王政、絶対君主制 ［レベル］4　1L ［文化］ セルメルで起こった。ɥɑ でも残存したが、ランティスの即位とともに無くなる。

ɑɪcz˥ccɑɪ ［天文］アケルナル　1L:ɥcɑcɪ/ɟeɥen/ɒel ［文化］ ダイズアイライの星。強力な繁殖力と力を持つダイズアイライは封印後、早くも封印を破ろうとした。接している１階の魔族である uenzɔɒ を腐食させ、アケルナルを拠点に乗っ取りを開始した。これに気づいたセレンはダイズアイライをアケルナルに突き刺し、動けないよう固めた。

ɑɪczɪɟl ［化学］王水 ［レベル］4　1L:「王水」の訳語では無論なく、魔族 ɑɪczɪclɪc の出す強力な酸であることから。

ɑɪcz ɪɑccɥə ［人名］アディーユ王、ユルト、ユルト＝ルティア ［レベル］5　JJ

ɑɪczɪclɪc ［魔物］ダイズアイライ（巨粘蟲）：第九十九天：害の氷天 ［名詞］疫病、凶悪な伝染病、疫病、プレイグ ［レベル］4　古 :ɥcɑcɪ:ɑɪczɪclɪc（王様スライム） ［文化］ 疫病を振りまく異常発生したスライム。ɥɑ でセレンは一度これに殺される。このスライムが疫病の元とされる。ɑɪcz というから ɪclɪc の亜種のように感じられるが、ɪclɪc に疫病を振りまく力はないため、あくまで亜種でなく別種。酸で敵を溶かす場合、王水を放つ。

ɑɪczeɥn ［政治］王族（広義の）、王族、王家 ［レベル］4　1L ［用例］ ɑɪczeɥn ˥ɪɥbɪ アルパ王家

ɑɪcl ［被服］冠、かんむり、クラウン ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɑɪczlɔɟɪbe（王の帽子）

ɑɪc˥ɪɑ ［地球の国名］ハンガリー ［レベル］6　1L: 国章に王冠

ɑɪclɟeeʃ ［地球の国名］リヒテンシュタイン ［レベル］6　1L: スイスの保護国で、国旗が冠

ɑɪclcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］かんむり座　JJl ［文化］ cɑɪ

ɑɪcɪl ［政治］（都市の規模としての）王都、首都→ ɟɪlɪc ［レベル］3　1L:ɥcɑcɪ:ɑɪczʌlɪl

ɑɪcɪldɔl ［地学］狭義の都心。アルナ９市のこと。 ［地学］都心、首都圏 ［レベル］3　JJ

ɑɪe ［経済］損失、損害 ［レベル］3　@ 1L:ɑɪe という音が汚いが、ɸcɔ は古なので動かせない。なら覚えやすく ɑɪe のままでもよいと判断。ɑɪe 自体悪い意味だし、汚い音ならかえって好都合と判断。 ［用例］ ʃclɑɪe ɑə 1000 ɟɔlʃ 千ソルトの損失が出る

ɑɪejc˥ɪ ［経済］ナンピン買い、難平買い ［レベル］6　JJ

ɑɪeɑɪlʃc ［経済］割高 ［レベル］3　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑɪeɑcɑn ［経済］逆ざや、逆ザヤ、逆鞘 ［レベル］5　JJ

ɑɪeɑɪe ［形容詞］ルーズルーズな、ルーズ＝ルーズな、ｌｏｓｅ－ｌｏｓｅな ［類義語］ɸcɔɑɪe ［反意語］ɸcɔɸcɔ ［レベル］5　JO

ɑɪedɪl ［経済］損益計算書のうち、損失が出ているもの　1L

ɑɪeɥəu ［経済］損切り ［レベル］6　JJ

ɑc ［形容詞］多い、たくさんの、多くの ［反意語］˥ɪlɔ ［レベル］1　1L: 制 :ɑɪ:1ʎ:ɾɪ と聞きわけがしづらいため、ɑc にした。　˥ɪɒɪ:˥ɪɒɪ::˥ɪɒɪɟa,ɪlʃ ［語法］ ɑə ɑc は言いづらく、ɑc は聞き取りづらいので、ɪʃc ɑc でよく使われる。 ［用例］ ˥ɪn ɑc 大勢の人

ɑcʃ ［普通動名詞］収入、所得 ［動詞］ɥəl の金を受け取る、ɥəl を稼ぐ、受け取る、稼ぐ ［経済］収益。財務諸表上の収益。 ［反意語］ɸɪ˥ ［レベル］2　@ 1L ［文化］ 収入は多くなく、支出も多くない。たくさん収入してたくさん支出するには時間を労働力に変えて金を得るしかないが、アルバザードはそのような生き方を嫌う。ゆえに収支は総じて少ない。大家族が多いため、一人当たりの収入が少なくても食うには困らない。収入は働き手が稼いで家に入れる。夫婦がどちらも外で働くことは少ない。特に子供がいればどちらかは家にいて子供を育てる。仮に外で働いても短時間である。たとえば夫が働く場合、妻は家で家事や育児をしたりする。

ɑcʃ(J) ［名詞］多さ→ ɑə ［レベル］2　1L

ɑcʃʃɪ ［料理］寿司、すし ［レベル］3　ɪlʃ　J1 ［文化］ ɟɒ で ɪlʃ から伝来したが、生食をしないアルバザード人にはあまり受け入れられなかった。現代でも腸炎ビブリオやアキサニスなど衛生の問題とアルティス教が調理に火を使うよう推奨していることから、寿司はアルバザード人の間で一般的ではない。ただし lʃ 人の一部や ɪlʃ の多くは食す。アメリカの寿司ブームや和食ブームと異なり、生食を避けるアルバザード人の間では寿司は少なくとも広まっていない。刺身も同様である。　元は ɪlʃ でファーストフードとして確立したもので、徐々に高級食へと変貌していった。　・現実　リディアが生魚を食べる習慣がなく（サーモンは除くらしい）、セレンが日本で寿司に誘っても「お腹を壊すから嫌」と言って一度も来なかった。そのまま生食禁止がアルティス教の教えになり、一般化したもの。 ʃʔ 年夏にセレンが宅配寿司で食中毒になって以来、セレンもこの考えに賛同するようになり、文化が確定した。

ɑcʃʃe ［形容詞］名目の、名目上の、名ばかりの、形だけの、形式上の ［反意語］ɑcʃʃe　ɥɑ;ɑɪ/ʃe　ʃʔ

ɑcʃʃeɟɔc ［言語］形式主語、仮主語 ［レベル］4　ɥɑ;/　JJl ［文化］ アルカでは ʃə eʃ ɾɔʃɔ lel ɾɔʃɔ 構文などの ʃə がそうである。

ɑcʃʃeɔɒcʃ ［言語］形式目的語、仮目的語 ［レベル］6　ɥɑ;/　JJl

ɑcʃnɪɑn ［名詞］有給、有給休暇 ［レベル］4　JO: 払われる休み

ɑcʃɒɪɟ ［経済］領収書、レシート ［レベル］2　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］ アンセに自動登録されるので、紙ベースでは出てこない。ヴェレイでは出てきた。 ［用例］ ɪn bɪɟ ɑcʃɒɪɟ. レシートはいいです：en ˥cɟ のほうが丁寧。

ɑcʃɑɪcɸ ［経済］所得税 ［レベル］5　ɥʃ;/　ʃʔ ［文化］ → ˥c˥cnɸ　ɥʃ のアルバザード発祥の税。国税のひとつ。収入に応じた額を支払う。　制定当初は現在でいう超高額所得者にしか課されなかったが、民衆が経済力をつけていくに従って、一般人からも徴収するようになっていった。　累進課税であり、高額所得者ほど多く支払う。そのパーセンテージは時代によって異なる。　旧革命では１２年現在の日本円にして１０００万以上の年収があれば全額徴収され、どれだけ稼いでも１０００万の手取りしかもらえなかった。こんなことをすれば富裕層は外国に逃げてしまう。そこでミロクはこの課税方式を世界中で同時に制定させ、富裕層の海外脱出を阻止した。　旧革命後はパーセンテージが下がり、高額所得者の手取りは年々増える一方であった。　革命直前にはミロクのとき以上の格差社会になっていたため、セレンはミロクと同じ方式を取り、世界中で同じ法律を制定させ、富裕層の海外脱出を防ぐとともに税金の徴収を行った。　旧革命では所得税は国税として徴収され、その使途は政府が決めた。一方革命では日本円にして１０００万を超える分の所得税については、支払う個人が任意の団体に寄付できるというシステムになっていた。つまり年収３０００万の人間が国に払うのは額面１０００万分の所得税であり、額面２０００万にかかる所得税は納税者が任意の団体に寄付するという形で納税先を決めることができた。→ ˥c˥cnɸ　つまり革命では中世のパトロン制が復活したようなものである。当然高額所得者に対して団体からの接待や賄賂が横行することが予想されたので、セレンは公平を期すため、団体からの接待や賄賂などは違法として厳しく取り締まった。　何に使われるか分からない国税としての徴収だと高額所得者はただただ不満であるが、この方法なら自分の伸ばしたい分野や産業に直接投資できるため、自分の意思と資産を社会に反映できるというのがセレンの狙いであった。　なお、民衆やマスコミの目は高額納税者がどの団体にどれだけ寄付したかに向いているため、あまり俗悪なものにばかりパトロンしていると、モラルがないとして非難を受けることがあった。そのため、高額納税者は必然的に公共の福祉となるような団体を優先して寄付することがあった。市民の目があるおかげで、納税者個人の好みだけを考えて金を寄付するわけにはいかないという状況ができ、公共の福祉に貢献させながら、各分野の発展にも貢献させるというシステムができあがった。　この制度の肝は全世界で足並みを揃えて制度化したことである。日本やフランスやアメリカはこれができないため、高額所得者はシンガポールなどに逃げてしまうのが現状である。　国に養ってきたのに、成功した途端自国を裏切ってシンガポールなど税金の安いところに逃げるのはモラルのない裏切り者のすることだが、富裕層は恥じずにこれを行う。国民はそのような企業の製品は買わないという不買運動でも起こせば良いが、マスコミが扇動しないこともあって、ほとんどの国民は高額所得者が海外脱出をしていることすら知らない。　自国で上手くいかなければ自国にタカり、上手くいけば税金を払って貢献せずに海外逃亡するなど、モラル的に許されないことである。これがまかり通っているのが現状の地球であるが、アトラスでは革命を世界規模で行ったため、逃亡先をなくすという方法を使い、脱出先を潰すことで逃げ道をなくしたのが肝である。　このシステムのメリットは具体的に何かというと、例えばベストセラー作家の場合、短い期間に大きな額を得ることになり、税金でほとんど持っていかれることになるが、その持っていかれる分の大半を物書きを支援する団体に寄付することで、食えずに喘いでいる売れない作家や未来の自分などを擁立し、パトロンとして支えになることができる点である。つまり大衆に迎合して金を稼いだ人間が大衆に迎合しないでニッチな小説を書いている貧しい人間の支えとなることで、文学の生態系を保持するわけである。　ニッチな分野は常に弱小生物と同じく絶滅の危機にある。大衆に受けるものだけが生き残る世の中だったら、俗物的な作品しか世の中に生き残れなくなり、文学上の生態系が淘汰されて狭まる。文学の生態系を広く保持するためには大衆迎合がニッチを支えるという構図を作る必要がある。　これはスポーツでも音楽でも芸術でも同じである。これらの分野においては日本同様勝ち組と負け組の所得格差が半端ない。大半の人間は食えずに喘いでいる。そのまま放置していたら大衆に迎合した内容のものしか生き残れなくなり、ジャンルの幅が狭まってしまう。それを防ぐために各分野には支援団体があり、ニッチな作品を作っている作者などを保護する。売れた物書きは売れない物書きを支援する義務があると考えるのがアルバザード人のモラルであり、従ってベストセラー作家は納税先に物書き団体を選び、ミリオンヒットの音楽家は音楽業界を納税先に選ぶわけである。　むろんそれだけでは民衆は納得しない。勝ち組は公共の福祉に役立つような団体にも寄付納税をすべきと考えられている。　これらの行為をしない人間はアルバザードでは民衆によってことごとく叩かれる。日本と違って即不買運動が起こり、すぐにやっていけなくなるようになっている。制度自体の良さと民衆のモラルの高さと行動力の高さが革命では良い結果を招いている。

ɑcʃc ［名詞］多さ→ ɑə ［レベル］2　JJ ［語法］ 通常この語は使わず、ɑə を使う。

ɑcʃcl ［芸術］文様 ［レベル］3　JJ:ɑcʃcn˥l

ɑcʃcn˥l ［アイテム］ディティニック ［レベル］4　古 :ɥcɑcɪ ［文化］ ヴァストリアのひとつ。ファーヴァのもつ魔布。美しい模様の書いてある風呂敷のような絹で、封印された呪術を使うために必要なアイテム。

ɑcʃɔɟ ［生物］フェロモン ［レベル］4　1L:ɑcɪ/ʃɔɟ ［用例］ ɥcɑcɪ eʃ ˥ccʃɔ ucʃ ʃɔɔɪ ɟ ɒɪn ˥ɪɒcl ˥ɪ ʃcl ɑcʃɔɟ ɟɪʃ. 香水をつけなくてもリディアはフェロモンのせいか、良い匂いがする。

ɑcʃe ［名詞］多様性 ［形容詞］多様性のある、多様な ［反意語］˥ɔʃe ［レベル］4　JO:ɑc/ʃeeze

ɑcl ［形容詞］なめらかな、円滑な、ぎこちなくない、すべらかな ［形容詞］つるつるの、つやつやの、なめらかな、滑らかな。平面上に凹凸がないということを意味する ［形容詞］自然な、まともな、すらすら、スラスラ ［反意語］cl̩ ［音楽］レガート ［レベル］2　˥ɪʃɪ

ɑclʃ ［動詞］ɥəl を威嚇する、威嚇する ［普通動名詞］威嚇 ［レベル］3　1ʔ: 制 :ɑcɟlcu（警告の声） ［用例］ ˥ə ɑelʃ ɑc˥ɪʃɪ ˥ɪn ˥ɔn ɸɪɪl. その熊は怒鳴って人間を威嚇した。

ɑclɒ ［化学］ヌクレオシド、ヌクレオチド ［レベル］5　1L:ɟeɥen:ɑc˥a/˥ccɒ

ɑc˥l̩ə ［被服］タイトスカート ［レベル］4　JO:ɥcɑcɪ:ɒcɥɔ˥

ɑc˥ɪʃen ［哲学］［言語］ハイコンテクスト、高コンテクスト　ɥɑ;/「多くの文脈情報（に依存する）」　ʃʔ ［語法］［文化］ → ˥ɪʃen　ɥɑ で様々な文化圏を見聞したセレンが提唱した概念。国によって多くの文脈情報に依存して相手の言いたいことを察する凪紗のような民族もいれば、少しの文脈情報にしか依存せずに相手の言いたいことを察する代わりに相手のパロールをそのまま受け取るアルバザード人のような民族もいる。セレンはそのことを知り、多民族国家では一般的にローコンテクストになり、逆の場合はハイコンテクストになりがちであることを地球に先駆けて発見した。

ɑclcʃe ［親族］大家族 ［レベル］3　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɑclɥcəj ［アトラスの国家］ディシリウス ［レベル］5　1L:ɥcɑcɪ:ɑc/clɥcəj

ɑclccɒ ［化学］多糖類 ［レベル］5　1L

ɑclenʃ ［魔法］ディシェント、秘術 ［レベル］4　1L:ɥcɑcɪ:ɑcɟpenʃ ［文化］ 東洋魔法 ɪɥɒɪlef の一種。アシェットでは、マレットの末裔であるパールのみが使える。魔法陣を使わず、それでいてアルトにないような特殊な魔法を使うことができる。　その不可思議さから正体不明と捉えられ、ɥɑ の時代にアシェットは ɑcɟpenʃ を元に造語して ɑclenʃ と呼び直した。

ɑclenɑ ［魔法］秘術師 ［レベル］4　1L:ɥcɑcɪ: そのまま ɪn にしたら異国情緒が出ないとかで、通常アルカでは避けられる清濁の違いで表現。 ［成句］ ɟɒ ɑclenʃ ɪ ɑclenɑ 秘術のことは秘術師に聞け：蛇の道はへび

ɑcɟ ［代詞］［ɟɥnen］お前 ［レベル］1　JO: 古 :ʃɔɟ

ɑcɟʃ ［動詞］ɥəl を ɪ に捧げる、捧げる ［婉曲］［動詞］ɟɔl（女性）が ɪ（男性）に純潔を捧げる。再帰。 ［ナ軍］ɑcʃ。与えるに相当。ごちそうする、御馳走する、ふるまう、あげる、振舞う ［レベル］3　ɑ;e　ɟɔpn ［語法］ 大切なものを目上や愛するものに提供するという意味。ものは抽象物でもよいので、lɪ ɑcɟʃɪʃ ˥cɒeeɟ nɔzeʃ ɪ lə（彼女は彼に処女を捧げた）のような例も可能。　ɒcɟɔ˥ ɑcɟʃɪʃ ɪ˥ eʃɔ ˥ɪnɪ ɟɔlɟ ʃə ɟɔ eɥɔ. そのために神さまはどれだけの犠牲を払ったのかしら。

ɑcɟʃ(J) ［化学］アクリル ［レベル］5　1L:ɑeɟ

ɑcɟʃ(ʔ) ［形容詞］［ポジティブ］古き良き ［レベル］3　ʕ

ɑcɟʃ,ɟzɑ　ɟcɑ

ɑcɟʃnɪb ［化学］アクリル絵の具 ［レベル］4　1L

ɑcɟʃɸen ［化学］アクリル樹脂　1L

ɑcɟʃɟenɟ ［名詞］献辞→ lec ［レベル］6　JJ

ɑcɟʃ˥cɒl ［化学］アクリル繊維 ［レベル］6　1L

ɑcɟʃɪ ［化学］アクリル基　1L

ɑcɟʃɪɟl ［化学］アクリル酸　1L

ɑcɟʃcɒɪ ［魔法］ヴィードピラミッド ［アクセント］ɑcɟʃcɒʈ ［レベル］6　ɟɟ;ɑcɟʃcɒɪ,ɟzl(ɑɔ˥eəɥɪ)　J1 ［文化］ ɑɔ˥ɒcɥə

ɑcɟʃccɥə ［形容詞］情に篤い、情にあつい、情に厚い ［反意語］ɟɔpʃeɟ ［レベル］3　JO:ɑcɟʃ/ɪɑccɥə ［語

法〕 代表的な良い性格のひとつ。特にアルデンやアンマに期待される性格。

ɑcɟʃɔ 〔娯楽〕グッズ、商品、作品、コンテンツ。コンテンツの場合、有形コンテンツ。 〔レベル〕2 ɟɔ;ɪɑcɟʃ.l。もとは ɪɑcɟʃ の副産物という意味だが、ɸʃ ごろからグッズの意味で使われだした。 Jʔ

ɑcɟʃel 〔人名〕ディステル 〔組み数字〕1 4 / 1 6 〔レベル〕4 ɒelʃcɪ ʎΛ:ɪɥɑə/eɟʃi;e 古 〔文化〕 eɟʃɪ エスタの第１４子。女。

ɑcɟl 〔動詞〕ɥəl を真っ二つに割る、まっぷたつに割る、割る 〔形容詞〕割れた 〔魔法〕ディスク。雷の中位黒魔法。雷の刃で敵単体を一刀両断する。 〔音楽〕スタッカート 〔レベル〕3 1ʔ: 制 :ɑ ɟl。n 対かと思って分解しようとしたが、n 対でないアプラウトだった様子。意味は ɑɟl との区別に注意。 〔語法〕 三等分のときは ucɑcɟl。

ɑcɟlɥecn 〔数学〕二等分線 〔レベル〕3 1L

ɑcɟlɪll 〔形容詞〕数字などが区切りの良い、区切りの良い、区切りのいい、区切りのよい 〔レベル〕3 JJ

ɑcɟɪɒcn 〔医療〕依存、中毒、アディクション 〔医療〕依存症 〔類義語〕ɒcɪl, dcʃl 〔レベル〕4 Jl: 古ソーン ɑcɟ（相手を打ち倒すこと。転じて「害する」で使われた）/ɒɪcn（体）「身を滅ぼす」 〔語法〕 dcʃl 〔成句〕 ɒɔɟʃ ɑcɟɪɒcn 依存は身を滅ぼす (jeɥen ɪɟbɪzɪɥɑ) 〔用例〕 ☆ lɪ ɒɔɥʃlʃ ɑcɟɪɒcn e uelɑ. 彼は酒で身を滅ぼした。

ɑcɟɒenʃ 〔名詞〕ディスメント、意図的な嘘の記録、騙しの記録、秘匿の記録 〔類義語〕ɒeɑcennə 〔レベル〕4 古 :lccɔɪ: 恣意 : この語が表わす内容と同じく、いかにもアルカにありそうでなさそうな無意味の音を並べて作った語で、まったくの無語源。 〔文化〕 照合できないようにした記録のことで、その内容を盗み見た他人が誤って情報を得るようにした罠。アルシェ・ソーンのころは特にアディアは情報の秘匿に気を配っていた。ところが隠しても漏れるものは漏れる。そこで仮に漏れても相手を混乱させて正しい情報を隠そうとしたのがディスメントである。例えばアンクノットには正しい情報のほかにそれと矛盾するような、或いはよく似て区別ができないような情報を載せていた。ありもしなかったことを書いたり、起こったことの日付を偽ったりした。紙やペンを使って日付を偽るためにわざと古い紙を取っておいたり、加工して昔のものであるように偽装したりした。また , 実際の出来事を物語風に書き換えて読み手に何のことだか分からなくさせる技法もあった。これは特に小説版アンクノットによく見られる。自然言語から間違って語意を推測させるために語源記述を偽って自然言語由来としたものもある。そういった語は実際は自然言語とは関係なく、アルカの音象徴からきているが、一見自然言語の語に似ているので騙される。しかもそれらの語は始めからある自然言語の語に似せようとして作るのではなく、既にできたアルカの語に似た音の自然言語を引っ張ってくるやり方であった。ディスメントは和平の後、急速に減っていき、メル 1ʔ 年現在ではあまり見られなくなった。

ɑcɟɥɪcz 〔名詞〕深刻な不安、不安と絶望の混じった気持ち、不安 〔類義語〕nɪuɥɒ 〔レベル〕3 古 :ɑcɟɒenʃ/ɸɪcz → ɑcɟɥɪcz 〔語法〕 nɪuɥɒ

ɑcɟdel 〔筐堺〕ディスペル μɑ;ɑejdɪ/ɪl.l（前舌化）〔レベル〕5 JJ 〔文化〕 筐堺司 : lcɒɪ ucl 筐堺国 : ɑejdɪnɪ, jeleeɒɪ

ɑcɟlɔʃ 〔数学〕多角形。通常５以上。 〔レベル〕3 J0

ɑcɟleʃʃɔ 〔アトラスの国家〕ディスレット 〔レベル〕5 J0:jeɥen: ユトともメトとも異なる地

ɑcɟcɑcɪ 〔地名〕ディシディア 〔レベル〕5 J0: 古ルティア語で「谷間の土地」 〔文化〕 ルティア南西部の大都市。アルティアに征服されたことがあるため、インサール寄りの文化を持っている。

ɑcɟccnel 〔名詞〕（/cl で）選り好みの激しい、好き嫌いの多い 〔反意語〕ɥəəɟccnel 〔レベル〕3 μɑ;/ Jl 〔語法〕 ɥəəɟccnel

ɑcn 〔人名〕リナの略称 〔組み数字〕2 0 / 2 8 〔レベル〕1 古？ : セレンが初対面で ɑcnɪ と呼んでしまってから ɑcnɪ とあだ名が付いた。そこからメルが母音を落としたもの。

ɑcn(J) 〔代詞〕[μɑen] お前の 〔レベル〕1 J0:ɑcɟ と ʃəɪn などの組み合わせから

ɑcnʃ 〔形容詞〕陰気な、根暗な、暗い 〔反意語〕belɑɪ 〔レベル〕2 1ʔ: 制 〔語法〕 嫌われる性格だが、アルバザード人全体にある程度いえること。belɑɪ に比べると無害なのでそれほど嫌われない。扱いに困るだけ。夢織の紗枝などが例。

ɑcnɟ 〔動詞〕ɟɔl は ɥəl を身ごもる、身ごもる、身篭る、孕む、妊娠する 〔反意語〕lcul, ɑɪnɟ 〔レベル〕3 J0:ɑɪnɟ のアプラウト。孕ますと孕むの両方あったほうがよく、特に孕むがあると産科系の複合語が作りやすい。 〔文化〕 アルバザードやルティアの女性は妊娠している姿を夫に見せない。立会い出産は日本では最近普及してきたが、アルバザードでは女性自身が拒む。アルバザードの女性にとって妊娠している姿を見られることは恐怖とともに恥であり、化粧をしていない顔はおろか排泄を見られるより恥ずかしいと考えられている。

ɑcnɟɪlɒbzɔn 〔医療〕妊娠検査棄 ul;/ 〔レベル〕5 Jʔ 〔文化〕 クリアブルーやドゥーテストのような商品のこと。熱計りのような形をしており、尿をかけると妊娠しているかどうかが分かる。

ɑcnɟnenʃ 〔生物〕妊娠率 μɑ Jʔ

ɑcnɟɒelcɟ 〔医療〕妊娠悪阻、つわり 〔レベル〕4 J0: 妊婦の不快感

ɑcnɟlʃeɪɒel 〔医療〕産褥 J0

ɑcnɟɪn 〔医療〕妊婦。ɑɪnɟɔl より一般的。 〔レベル〕3 J0

ɑcnɪ 〔文頭純詞〕それより、てゆうか、ていうか、むしろ、もしくは、あるいは、或いは、てゆーか、ていうより、てゆうより、つーか、っつーか、それにしても、ともあれ 〔レベル〕1 古 : ɑcnɪ（それより）← ɑccn（とにかく）/nɪ（心）。とにかくというときの焦った気持ちがあるというのが原義で、相手の意見を否定はしないものの、焦っているので自分の意見を通してしまうというニュアンスから生まれた。 〔語法〕 前件を否定しないまでも後件のほうが肯定されるということを表わす。

ɑcnɒɒ 〔形容詞〕カラフルな 〔形容詞〕さまざまな、様々な、色々な、多種多様な→ ɑcdcʃ 〔レベル〕2 1ʔ: 制 : 多い色

ɑcun 〔化学〕キシリトール 〔名詞〕キシリトールガム 〔レベル〕4 1ʔ: 制 :ɑcɔucn（歯を守る）〔文化〕 歯を守るガムとしてヴェレイで有名になったが、実際に守る効果はなかった。害のない甘味料としてアレイユでも多少は使われる。多用すると下痢になるのでやや避けられる。

ɑcuɪ 〔言語〕レトリック、修辞 〔レベル〕4 1ʔ: 制 :ɑcuʃ（言葉を飾る）

ɑcuɪcl 〔名詞〕大部分 〔レベル〕2 1L:clɒəj;μɑcɪ 〔用例〕 ʃc ef lɪɑɪl ɪʃc ɑcuɪcl. 責任の大部分は君にある。

ɑcuɥ 〔動詞〕ɥəl に失望する、失望する、絶望する、見損なう、がっかりする、事態に絶望する、夢が崩れる、夢を失って 〔普通動名詞〕失望、絶望、落胆 〔経済〕嫌気 〔反意語〕lɪnɑ 〔レベル〕2 1L:ɑcɪ/ueɟn（夢が崩れる）〔用例〕 ʃcl ɑcuɥ 落胆する、絶望する ɑcuɥ ɑɪn 激しい絶望 ɪn ɑcuɥ ʃc. 君には失望したよ。 ɪn ɑcuɥɪʃ ʃə uɥʃ. そのニュースに失望した。 ɪn ɑcuɥɪʃ hɪʎn ɒɪn lɪ uecɸ ɪn. 友達が約束を破ったので失望した。

ɑcuɥɑɪz 〔形容詞〕絶望的な 〔レベル〕3 1L 〔用例〕 ɒeɟɪ ɑcuɥɑɪz 絶望的な状況

ɑcuelɪnʃ 〔天文〕緑の月、死神の月、ディヴェランシュ 〔象徴〕死神 〔経済〕第二四半期→ uelʎlelʃ 〔類義語〕lelʃ 〔レベル〕3 Jl:ɑccɪ/ɪuelɪnʃ/lelʃ 〔語法〕 緑がかった不思議な色の月。死神を象徴する。

ɑcɑ 〔形容詞〕仮想の 〔電算〕仮想、サイバー 〔類義語〕ɑcɪ, ɑcɪnɪ 〔反意語〕lɪɑcl 〔レベル〕3 ul;ɑcɪ/dɪɑc「幻の橋に架かった」を人為的に大幅に詰めたもの。造語力が高いと予想されたため、最初から大幅に短縮された。 JJ

ɑcɑɪɪnɑ 〔電算〕サイバー攻撃 〔レベル〕4 ıl;/ Jʔ 〔用例〕 jlɪc ʃəɟ ɑeɒc ɒcl ɑcɑɪɪnɑ. サイバー攻撃のせいでページが重い。

ɑcɑɒcɪ 〔電算〕サイバースペース 〔レベル〕4 ıl;ɑcɑ/ɑcɪ JJ

ɑcɑɒejɪ 〔電算〕仮想化環境 ul;/ Jʔ 〔用例〕 jlʃ ɑcɑɒejɪ. 仮想化環境を整える。

ɑcɑc 〔植物〕なでしこ、ナデシコ、撫子 〔レベル〕3 1ʔ: 制 :ɑcɑ（ピンク）〔文化〕 ルティア王室の家紋は踊り撫子。風に舞う撫子の紋章。

ɑcɑeɒ 〔電算〕仮想化 〔レベル〕4 ul;/ Jʔ

ɑcɒ 〔形容詞〕不適切な、似合わない、不適当、不当な、理不尽な、不条理な、不適合な、不適応な、不合理な、だめ、ダメ、駄目、マズイ、まずい、マズい、ヤバイ、やばい、ヤバい 〔副詞〕べつに、別に、べつにいいよ。 ɑcɒel の形で ʃə ef ɑcɒ jenʃ（礼には及ばない）の意味。 〔類義語〕uɪleɒ nʃ 〔反意語〕ɑɪz 〔格詞〕～に似合わず 〔レベル〕2 1ʔ: 制 〔用例〕 jɔn lcɔc (ʃclɔ) ejcʃlɪɪɒ ɑcɒ ɒɪcn ləəʃ ɑel ɑcɪn. すると詩姫は少女の体には似つかわしくない恍惚とした表情を浮かべた。

ɑcɒnɪ 〔名詞〕違和感 〔レベル〕3 Jl

ɑcɒuɔl 〔言語〕非文 〔反意語〕ɑɪzuɔl 〔レベル〕6 JJ 〔語法〕 完全に自然で文法的にも正しい文が ɑɪzuɔl、やや不自然だが十分許容できる文が jenuɔl、不自然だが間違いではない文が ɥəuuɔl、非文が ɑcɒuɔl。言語学の論文などでは ɑɪz は無標、jen は ȣ、ɥəu は ȣȣ、ɑcɒ は x で示す。

ɑcɒɥəlɪle 〔名詞〕多神教 〔反意語〕clcɪɒɥəlɪle 〔レベル〕3 J0

ɑcɒɪ 〔生物〕頷厭 Jl:ɑcɔɒ

ɑcɒɪn 〔名詞〕残党 〔レベル〕3 初 : 枯草？水を失ったという意味だそうだ。ɒɪn の部分が jeɒɪ cɒ に関連か。

ɑcɒɪnl 〔形容詞〕セレンの望まぬような 〔反意語〕jeɥejʃ 〔レベル〕4 μɑ:ɑcɒ/ɪnl「（彼女をリディアだと）呼ぶには不似合いな」。リディアが ɪljeɥejʃ と造語した翌日にセレンが「この概念はよく使うので」と言って新たに造語したもの。 Jl 〔文化〕 ɥəlcɪ

ɑcɒɪlcɪ 〔人名〕ディマリア J0 〔文化〕 (ɥəəɒɪ ʎJLΔ:ʎ10L(ʎʎʎʎ:ʎ10L)) メルテナ中期のレスティル女王。

ɑcɒcʃɔɥcɪ 〔企業〕ディミトリア精霊家具店 ul;ɑcɒcʃɔɥc/ɪl。分かりやすく言うと、ｗｅｎｄｙだからｗｅｎｄｙ’ｓというようなネーミング。 〔レベル〕4 Jl 〔文化〕 → uellcɔɔn、uejn jɪɪl 精霊族は人間とサイズが同じなので家具を共有できる。すなわち家具の輸出入が可能である。精霊族の家具はデザインが洗練されており、材質も良く、強度も高いため、人気がある。 cneɪɪlɔ 北部で家具店を営んでいた ɑcɒcʃɔɥc cneɪɪlɔ は uejnjɪɪl の食糧危機でアルバザードに移住。その後戦争が起こると戦災で家具が燃えたため、家具の需要が生まれた。しかし精霊の家具は高く、戦災で経済が悪化している上にいつまた焼かれるか分からない状況では売れない。そこで安くて最悪燃えても良い低価格の家具に転向した。鉄の家具なら燃えないのではと思うかもしれないが、重すぎて運べない。また原価が高すぎる。その上戦時中は鉄が高騰するので話にならない。 ɑcɒcʃɔɥc はエルトアの材木を安価で大量に買い取り、デザインを画一化した。これにより作業員の覚える内容が減り、作業工程もカットされ、人件費がカットできた。また作業工程が減ったことで製造も早くなり、大量生産が可能になった。戦争時は魔族は打ちこわしにあったが、この安い家具が民衆の助けとなったことで ɑcɒcʃɔɥc は打ちこわしや追放を免れた。 戦争時は家も燃えるため、次に ɑcɒcʃɔɥc は大量に輸入した材木を活かして建築業を始めた。こうして経営は拡大し、財を蓄える。 μɑ になると時の当主 ɪjbel は建築業に力を入れていた。アシェットの前身アルシェは最初旅先の村や町を守ることで名を馳せたが、復興支援をしたことでも名を馳せていた。このときアルシェはディミトリア社の厚意を受けている。アルシェがアルバ王の寵愛を受けると復興の公共事業の委託権を得るようになる。こうすると立場が逆転するが、アルシェは少年期に受けた恩を忘れずディミトリア社に優先的に仕事を発注。こうして癒着の構造ができる。 アシェットによる貴族解体でも ɪjbel は商人だったため、直撃は避けられた。さらに癒着があったため、厚遇を受けた。貴族が解体されたため、ɪjbel の地位は相対的に向上。政治にも口を出すようになる。 nɑ 以降、時代のニーズに合わせた商売を営み、ɸʃ では紡績や食品にも手を出しコングロマリット化を果たす。ul 後期で経営を縮小するも、ɪl の革命を堅実に生き伸び、現在では原点に戻って伝統家具を中心に展開している。 イネアート家の当主は予見の力があるため、その力を利用して政治にも口を出している。革命後の当主は女性で、ɸɥecu cneɪɪlɔ。子供は娘ばかりで、ɪlcɪ cneɪɪlɔ や eμcɪ cneɪɪlɔ など。ɸɥecu は現在ディミトリア社の Ｃ Ｅ Ｏを勤めている。

ɑcɒcʃɔɥc cneɪɪlɔ 〔人名〕ディミトリ＝イネアート ul Jl 〔文化〕 ɑcɒcʃɔɥcɪ 魔族。精霊族。lceɥuɪ の母と人間の父による交配種。男性。ɪlcɪ cneɪɪlɔ の祖先で、ゆえに ɪlcɪ の jeleɟ は水属性を持っている。

ɑcɒcnɔɔn 〔アトラスの国家〕ディミニオン、柩国 〔レベル〕3 古 : 小説版アンクノットに記載 〔文化〕 面積 : ʔʎʎL0ʎ.10LLL? ɟɒ J 訳語は ls の出来事から。訳語なのでそれ自体を jɒ に使うことは歴史的な矛盾を呼ばない。

ɑcɒcnɔɔn(J) 〔軍事〕ディミニオン、祠徒、しと、シト、柩 〔レベル〕3 J0:ɑcɒcnɔɔn。ディミニオン上空から降ってきたことから。最初は neeɒ e ɑcɒcnɔɔn と呼ばれたが、同国がこの魔物によって滅ぼされたため、この名で呼ばれるようになった。歴史的記述ではディミニオン国の意味もあるので注意すること。 〔文化〕 ɑɥəɪɪɒcɟ メル ʎ0Δ 年クリスの月パールの日午後 7 時 3 1 分にディミニオン国の首都ユリウスに降ってきた巨人。lɪɒuɔɟʃ を引き起こし、lɪns の引き金となった。

ɑcɒcɥə 〔形容詞〕変化に富む、移ろいやすい 〔レベル〕3 1L 〔用例〕 senʃ ɪʃ ɑcɒcɥə. 天気が変わりやすかった。天気が不安定だった。

ɑcɒcɥəɒɪ 〔名詞〕うつろいやすい心、移り気、気分屋 〔レベル〕3 1L 〔用例〕 lɪ ʃcl ɑcɒcɥəɒɪ. 彼は気分屋だ。気持ちの変化が大きいことを指す。

ɑcɒcɥəɸcn 〔経済〕水商売 〔類義語〕cɒdɥenɸcn 〔レベル〕6 μɑ;/ Jl 〔語法〕 ɑcɒcɥəɸcn は先の見通しが立ちにくく、世間の人気や嗜好に大きく依存し、収入が不確定な業種や職業を指す。必ずしもソープなどの風俗店がこの業種に入るとは限らない。何年にもわたって安定して経営している場合は、先の見通しが立ちやすいためである。むしろアルバザードで ɑcɒcɥəɸcn というと、音楽家や小説家や投機家などのほうをイメージしやすい。 cɒdɥenɸcn は風俗業という意味での水商売。

ɑcɒcμɔʃ 〔名詞〕多神 〔反意語〕clcɪɒcμɔʃ 〔レベル〕3 J0

ɑcɒɔ 〔植物〕ライム 〔レベル〕2 lɪʃlɪ: 緑のレモン

ɑcɒen 〔接続詞〕ɑcɒ 〔レベル〕3 J1

ɑcɑcɪ 〔筐堺〕ディディア 〔レベル〕5 μɑ; 古代国家 μcɑcɪ の ɒcɑccʃ 南部での発音 JJ 〔文化〕 筐堺司 : μəəs ɒcɑccʃ 筐堺国 : ɒcɑccʃ, ɒɪlenɪlʃ lcɪμ, ɪɪlenɪn lcɪμ

ɑcɸl 〔被服〕ビーズ 〔レベル〕3 1ʔ: 制 : 古 :ɑcɪɸəlc（リディアの玉）。彼女がビーズのアクセサリーも愛用していたことから。

ɑcd 〔経済〕掛け 〔レベル〕5 1L:ɑcɪ/dcɪ

ɑcdʃ 〔名詞〕歯磨き粉、洗口液 〔レベル〕2 1ʔ: 制 :ɑcɔdcʃɪ 〔用例〕 ɪn euɪʃ ɑcdʃ ɪ ɑcɔell. 歯ブラシに歯磨き粉をかけた。 le ləʃ ɪl ɪn ɥəl el bcl lcn uɪcl hɪl e lcμ e ɑcdʃ. 歯磨き粉の上の部分を握ってはいけないと言われた。

ɑcdlclɪn 〔経済〕売掛金 〔レベル〕5 1L

ɑcdj 〔動詞〕ɥəl を支持しない、不賛同の、反対票を投じるような 〔反意語〕ɑɪlɒ 〔レベル〕2 J0:ɑɪdl/jɔ（顔をしかめる）→ ɑɪdj → ɑcdj（ɑɪlɒ の ɑɪ と離した）

ɑcdjμɒ 〔経済〕買掛金 〔レベル〕5 1L

ɑcdcʃ 〔形容詞〕様々な、あれこれ 〔反意語〕lɪlɔdcʃ 〔レベル〕2 1ʔ: 制 : 多い種の 〔用例〕 jʃel ɑcd cʃ 様々な野菜

ɑchɔnl 〔医療〕多汗症 〔レベル〕4 1L

ɑcμɪ 〔地名〕ディリア海 J0:μcɑɪ:ɪɑenʃɔ/eμɪ 〔文化〕 アデント～アディリック間の海。

ɑcμe 〔気象〕露、ツユ、デュー 〔レベル〕2 1ʔ: 制 : 古 :ɑcɪləɑɔe（ガラスの水） :::ɪɒɪ,ɪlʃ 〔用例〕 jeɑ ɑcμe 露を払う

ɑcμeʃ 〔法律〕犯罪、クライム 〔類音〕ɑcμe μɑ; ↓ 〔レベル〕2 J0:ɑɪz ʃμe（刑に値する）→ ɑɪʃ μe → ɑɪμeʃ（ʃμ が言いにくいので位置を交換）→ ɑcμeʃ（後続の e に押されて母音が前寄りに）参考 :lɪle:ʔʃ: 制 :lɪlɔ: 古 :lɪlə（法）。犯罪が lɪle だと法の lɪlə と近すぎるため。 〔用例〕 ɪμ ɑc μeʃ 罪を犯す

ɑcμeʃnenʃ 〔法律〕犯罪率 〔レベル〕4 J0:1L:μcɑɪ:ɪμbɪlelʃ: これは犯罪の起こる確率や頻度のことなので、普及率 hɪnlɪsɪ とは異なる命名

ɑcμeʃɪunʃ 〔法律〕刑法 〔レベル〕4 J0:1L: 犯罪法

ɑcμeʃɑcl 〔法律〕防犯 〔レベル〕3 J0:1L:μcɑɪ:ɪμbɪlelʃ 〔文化〕 犯罪者を重く裁くことや被害者を守ることよりも重要なのが、そもそもの犯罪防止である。アルバザードでは街の至るところに監視カメラがしかけてある。また、見回りも非常に頻繁である。見回りは警察だけが行うのではない。街には通りごとや集合住宅ごとに自衛団があり、彼らも見回りに参加している。

ɑcμeʃɪn 〔法律〕犯罪者、罪人、犯人 〔レベル〕2 J0

ɑcμec 〔名詞〕境界、境界線、境界点、しきり、仕切り 〔経済〕気配 〔レベル〕2 1L:ɑejdɪ/μecn。ɑejdɪ と音を離すため、最初の母音を c に 〔成句〕 eu ɑcμec ɪ uɪnʃ epcjel 自分勝手に法に線を引く : 我田引水 lecj ɑcμec ɪʃ{jɔu} ɔn ɔn について ɪ との間を区切る、境界線を引く、制限する 〔用例〕 lecj ɑcμec jɔu ʃɪ ʃɪɑ 2 つの国の間に境界線を引く el ləɑɪ jen sɪn ʃeɪ ɪlɪn lecj elɑ ɑcμec ɔn ʃɑcj ɪ. 社会が線引きなんかしなければ、人はいくつになったって空も飛べるんだ (jeɥen ɪɒbɪzɪμɑ) 社会が年齢に応じた役割を押し付けなければ、人は年齢ほどには年を取らない。年を取らせているのは社会の制約だという意味。

ɑcμecn 〔生物〕至陽 Jl : ɑcμec

Ω

ɑcɥecdɔl ［地名］境方 ［レベル］4 ʃ0 ［文化］ メティオ、ソーナ、カルカヒの地方。 アルバザードとルティアは言葉が異なるものの、変異が少ないのでまったく問題なく意思疎通できる。 しかしメティオはそうではない。そこで、有史以来、常にメティオはどことなく空気の違う強国として、アルバザードやルティアから遠目に見られてきた。

ɑcz ［法律］罪、咎、とが ［類義語］ʎhc ［反意語］ʃɥen ［レベル］2 ʃ0:ɑcj:1L: 古 :ɑejdɪ（禁じられた）［語法］ ʎhc ［成句］ lecn ɑcz 罪をかぶる、罪を背負う ［用例］ ʃcl ɑcz 罪を犯す ×ɪɪ ɑcz 罪を感じる→ ʎhc

ɑczɒɪl ［文末純詞］［μɑen］ʃcɟee ［レベル］1 ʃ1:ɒɪʃ:ɑcz ɒɪl「お前覚えろよ？」

ɑczcɪ ［医療］病原菌 ［類義語］ɯɪcn、lccʎ、czɪl ［レベル］3 ʃ0:ɑɪcz/lccz/lcɪ（小さき者の王）［文化］ ɥəəɒɪ ʎâʔL ユクレシアがダイズアイライの二次感染が魔族 ɪlɑclcʎ や ɪμɯɪcn による疫病と類似していることに気付き、ɑczcɪ（病原菌）の存在を仮説として立てる。ɑczcɪ の駆除は清潔にすることであると説き、実証のため、比較的人口が少なくかつ症状の出ていた地方都市アルシアに出張する

ɑcl ［動詞］ɥəl の邪魔をする、邪魔をする、邪魔する、妨害する、立ちふさがる、立ち塞がる、横槍を入れる、とめる、止める、くいとめる、食い止める、くい止める、食いとめる ［反意語］ ɪʎl ［レベル］2 μɑ ʔʔ: 制 ［用例］ ɑen ɑcl ɪnʎ 邪魔するな！

ɑclʃ ［植物］ホウレンソウ、ほうれんそう、ほうれん草 ［レベル］2 lɪʎʃɪ:（緑の？）

ɑclʃɥcʎj ［化学］メチオニン ［レベル］6 1L ［文化］ ホウレンソウに多く含まれる必須アミノ酸。μɑ ではアシェットの食卓に並ぶもののうち、一番身近でメチオニンを豊富に含んだものがホウレンソウだったため、この名がついた。

ɑclʎ ［動詞］ɥəl をふさぐ、ふさぐ、塞ぐ、塞がる ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ:ɑclʎɔn ［用例］ ɑclʎ ʎəɔ ʎɔn ʎɪj 手で口を塞ぐ

ɑclʎɔn ［名詞］障害物、堤防 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcʃ

ɑcll ［動詞］ɥəl を切望する、切望する、懇請する、請願する、〜しますように、追求する、追い求める ［類義語］ɑcllɪl ［レベル］2 1L:clɒəʃ:μcɑcɪ:ɑcɪlɪl（夢を願う）［語法］ ɑcll は強く願うこと。ɑcllɪl は長い間願いること。

ɑclj ［形容詞］事後の、アフターの ［反意語］dɔμ ［レベル］2 1L:μcɑcɪ 恣意

ɑcljʎɪμʃ ［経済］［ユマナ］クレジットカード ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［用例］ φɪʎ jcɑeʃel ʎɔʎʎɔ ɑcljʎɪμʃ クレジットー括払いで

ɑcljɴcɑ ［言語］事後段階、事後相、ɪncʃ 相 ［レベル］6 ʃ0 ［語法］ 単位動詞の３分割のうち、中間の区間。継続〜影響の区間のこと。

ɑcljɑel ［名詞］復習 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɑcljbɪφ ［医療］後揉法、後揉撚 μɑ;/ ʃʃʎ

ɑcljɪɪʃ ［普通動名詞］後戯 ［動詞］ɥəl に後戯する ［レベル］4 ʃ1 ［用例］ ɑcljɪɪʃ eʃ uɔll nɔɑ dɔμɪɪʃ ʎɪlʃ ɪleɒ. 後戯は気持ちの上では前戯より大切だ。

ɑclucl ［医療］障害 ［レベル］3 1L:clɒəʃ:μcɑcɪ ［語法］ 機能不全という意味合いの障害ではない。怪我的な意味の障害。ただし、体だけでなく内臓や精神の障害も含む。ucl はむしろ ɪɪucl の ucl と考えた方が分かりやすい。

ɑclɑ ［化学］アルカリ、塩基 ［形容詞］アルカリ性の ［反意語］ɪjl ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɑɔɑl

ɑclɑlcl ［化学］アルカリ金属 ［レベル］5 1L

ɑclɑɪc ［医療］灸、お灸 ［レベル］3 1L:ɑclcn/ɑɪc ［文化］ → ɔlcɑcɪn, ɔlcɑcɪnʃ ヨモギを材料とする。血行促進などを目的として行う。 ［用例］ eu ɑclɑɪc ɪl ɪdlesɔɔμ 隔兪にお灸をすえる

ɑclɑɪcɔlcɑcɪn ［医療］灸頭針、灸頭鍼 μɑ;/ ʃʃʎ

ɑclɒ ［名詞］イーゼル、画架 ［レベル］5 μɑ;ɑɪlɒ.ʔ ʃʃʎ

ɑclɒcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］がか座 ʃʃʎ ［文化］ cɑɪ

ɑclɑɔl ［感動詞］すみません、通ります、道を開けてください ［感動詞］お話中すみませんが、話に割り込んですまないのだけど ［レベル］3 制 : 邪魔を許す。制で定着したのでこのままの語形とした。 ［語法］ 道を空けてもらうときだけでなく、話に割り込む際にも使うことができる。 また、相手との会話を一時中断するときや、人の目のあるところで作業を一時中断して他のことをするときにも使う。

ɑclze,jzɑ ɟɔɔs、lɪl、ɑcɑn ‹ɔɑɪzeʃ

ɑclɪn ［名詞］たくさんの人、多くの人 ［レベル］2 ʃʃ

ɑclɪnʎɪ ［医療］多重人格 ［レベル］4 1L ［語法］ アルカでは病気というよりは症状として扱われる。

ɑclcj ɒɪcn ［人名］ディリュ＝マイン ʃ0 ［文化］（cɒəl 1J90:ʔʔ01）ラグナロク工科大学の研究員。最終職位は学長。ʔʔ0Λ 年、ɪʎcnɪj 親子の才能を妬んで国家反逆の罪を着せ、処刑させる。本人に目立った功績はなし。

ɑclcn ［植物］ヨモギ、よもぎ、もぐさ、モグサ ［レベル］3 1L: 邪魔をする花。アレロパシーを起こす植物であることから。アワダチソウも類似。アルバザード人はヨモギの周りはヨモギばかりが群生することから、他の植物を邪魔するものと名付けた。 ［文化］ アルバザードでは食用もするが、灸の材料として有名。

ɑclecɒ ［韓語］オナペット ［反意語］leebel ［レベル］4 Δ:ɑclecɒ ← ɑcɪleɒ（夢の歌）。ザナがミルフに抱いた気持ちを男子がからかったもの。

ɑcɪ ［名詞］まぼろし、夢幻 ［名詞］（稀）夢→ ʎɔnɑ ［人名］リディアの略称 ［組み数字］1 / 2 8 ［形容詞］無形の、虚構の ［法副詞］［μenʃe］ɑɪj : 1L:μcɑcɪ:ɑɪj は威厳のある勧誘なのでユンクに向かない。勧誘とはまだ行われていない架空の行為を想定したものであるため、ɑcɪ が副詞として選ばれた。 ［類義語］ʎɔnɑ、ɑcɑ、ɑcɪnɪ、ɑcɑ ［反意語］ɑcɪ ［レベル］1 ɑ;e 古 :ɑcɪ（夢幻）。ɑcɪ の幻字の形はゆりかごに人が寝ている象形文字が段々書いていくうちに傾きが書きやすくするために縦になっていったもの。２は元は『小説版アンクノット』中のリディアの名。万一この本が誰かに読まれてもリディアの名が知られないようにとの配慮でセレンが作った語。実際、使徒はこの名でリディアを呼ばなかったが、やがてできた μcɑcɪ を短縮した名前である ɑcɪ と偶々同一だったため、使われるようになった。 ɑcɪ:ɑcɪ:lɪ ʎɪμɑcnɪ:ɥəənɪ,ɪlʃ ［用例］ ʎ ɑcɪ 幻の中にいる、夢を見ている ʃcl ɑcɪ ɑel ʃɔʎɔ ～の幻を見る "ʃeʃ nɔn ʃe ɑcɪ ʃcj le ʃɥə ʎɑɪʃ e" 「でもね、私は貴方の創りだした幻なんじゃないんだよ」 μcɑcɪ ʎ ɑcɪ. リディアは夢の中にいた。 ʃɥə jeμ ʃcμ le ɑcɪ ɒcl lə enɪ. 貴方はあの夢のことを知らなければならない。なぜならあの人が泣いているから。アナグラム。ʎɔnen ejʃ ʃ^ɪμbɪzɪμɑ 家。例文は「jeμen μcɑcɪ ɒel ləlcɪ ɥəlʃ」を並び替えたもの。

ɑcɪ,jzɑ ʎɪlʃe、ʃcɟe ‹ɑcɪ,dμ

ɑcɪʃ ［形容詞］ロマンチックな、幻想的な、うっとりするような、洗練された雰囲気の、大人な雰囲気の、ファンタジー風な ［μenʃe］［形容詞］μɪʃ。素敵な、良い。 ［レベル］3 ʔʔ: 制 :ɑcɪ ［用例］ nɔn nɪʃ nɪə c pəlnɪ ɒcl ɥə ʎɪnʃ ɑcɪʃ. 素敵なプレゼントをもらって本当に嬉しかった。

ɑcɪʎʎʎ,ɪμɑ ʎʎʎ ɑcɪ/ʎʎʎ

ɑcɪʎɪə ［経済］信用買い ʃʃ

ɑcɪʃcɑ ［形容詞］清貧な、慎ましい、つつましい ［名詞］清貧 μɑ;/「リディアのようにつつましやかな」［レベル］3 ʃʃ ［語法］ 金はあるが規則正しく慎ましやかな生活を続ける様。

ɑcɪʃe スーパーマーケット、食料品店 1L

ɑcɪʃel ［電算］電子情報、電子データ ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɑcɪʎ ［名詞］秀才 ［反意語］ɒelɒ ［レベル］3 μɑ;ɑcɪ/ʔə「リディアのように口が回る→リディアのように知識がある→秀才」 ʃʔ

ɑcɪʎμɔ ［名詞］大根役者、下手な演技 ［レベル］3 古 : メル ʔ 年頃にオリジナルコメディの台本を古アルカで書いてリディアに演技をさせたところ、学芸会以下の悲惨な演技であったことで使徒が大笑いしたことから。

ɑcɪʎlcʃ ［名詞］信賞必罰 ［名詞］勧善懲悪→ ɑcɪeleɒ ［レベル］3 ʃʃ:「リディアの評価」

ɑcɪʎlel ［言語］ディアクレール、ディア・クレール。 ［ユマナ］幻日辞典。ディアクレールでなくこちらを意味するケースもある。ユマナでこれを使うときは原則として「アトラスにおけるアルカの辞書」という意味合いが強い。 ［レベル］3 1L:jeμen/μcɑcɪ: 幻（アルカ）辞典 ［文化］ アトラスではセレンが興し、ls まで引き継がれた国定辞書のこと。 現実では、一時期作られていた幻幻辞典をもともと指していたが、幻幻辞典が廃案になり幻日辞典が最も公的な辞書となってからはこれを指すようになっていった。

ɑcɪʎɪ ［感動詞］ディアカ ［レベル］2 ɔuc:ɒelʎɪ に対応する言葉。やはりオヴィが作った。 ［語法］ ディアセルを祝う言葉。

ɑcɪʎɪɪʎʃe ［ランドマーク］ディアカルテ ［名詞］理想郷、ユートピア、桃源郷、楽園、パラダイス ［ユマナ］ディズニーランド ［レベル］2 ʃ1 ［文化］ 北ルークス市北部にある市。市全体がディアカルテという同名のテーマパークになっている。面積は山手線の内側より広く、アメリカのウォルトディズニーに匹敵する。つまりアトラス版ディズニーランド。μɑ で cɒəl ʔ^LΛ(ʔ^LΛ8) にアルバ王が建てた遊園地がその始まり。遊園地の周りが自然公園になっていた。現在ではこの庭園エリアもすべてテーマパークとなっている。開園時にアルシェがメルを連れて遊びに行き、そこで異性魔王ジールとの戦闘になったことがある。このときジールはメルの ʎɪcɑ で撃退された。 ［用例］ ɑccn ɪnj ʎɪμ ɑcɪ ɒclen ɒcμɔʎczɒ eʃ ɑcɪʎɪɪʎʃe. jɔʎ ɪn jccl uɪn ɑcɪ le μc ɑcɪ lɪnɑc ɪɪʎɪ. いずれにせよ僕たちはミロク革命による世の中を理想郷と信じますし、僕自身はリディアの望む世界を守りたいのです。

ɑcɪʎɪμʃ ［名詞］ディアセルカード ［レベル］2 μɑ;/ ʔʔ ［文化］ → ɒeʎɪμʃ ɒeʎɪμʃ のディアセル版。

ɑcɪʎɪʎʃcj ［娯楽］［芸術］人工世界創造者、ディアカルティス ［反意語］leucɪnʃ ［レベル］4 μɑ;ɑcɪʎɪl ʃe/lɪnʃcj ʃʃ

ɑcɪʎɪʎʃe ［名詞］人工世界、ディアカルテ ［名詞］幻想の箱庭、幻の場所 ［反意語］leucɪn ［レベル］4 ʃ1:ɑcɪ/ 古 ʎɪʎʃe「幻想の箱庭」［語法］ ɪμʎcɑcɪ ［用例］ ɪn ʎɪɑ uɪn ɑcɪʎɪʎʃe, ɒɪn ɪʃə ɑe ɑcɪ ɪnʃ. 私は世界を作る、何故ならここは僕の世界ではないから（ネットユーザー）

ɑcɪʎecɪn ［名詞］夢追い人 ［レベル］5 ʃʃ

ɑcɪl ［料理］クレープ ［レベル］3 古 :ɑcɪl。リディアがよく食べる甘いものの意。 ［文化］ 日本では生クリームたっぷりのものを想像するが、アルバザードで最も一般的なのはクレープ生地に砂糖をまぶしただけの甘い薄皮。皮が日本のものより薄く、卵焼きのように見える。匂いはホットケーキに近い。日本には通常見られないが、フランスでは一般的に見られる。オルセー美術館を出て右手にあるキオスクなどで食べられる。 リディアが語源になっているが、実際彼女は日本のクレープではなくフランスのＣＲＥＰＥ ＳＵＣＲＥ（お菓子系クレープ）の中でも上述の砂糖をまぶしたＣＲＥＰＥ ＡＵ ＳＵＣＲＥ（シュガークレープ）を意図している。日本のクレープが好きなのはメル。

ɑcɪʎɪfe ［料理］クレープ屋 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʃ

ɑcɪʎɪnʃ ［歳時記］ディアシャント ［レベル］2 μɑ;/ ʃʃ0: 登録漏れ ［文化］ ディアセルにあげるプレゼント。現金だったり物だったりサービスだったりする。

ɑcɪʎɪlʃ ［経済］発生主義 1L

ɑcɪleμ ［歳時記］冬、幻冬（げんとう）、ディアシェール。穏やかな冬 ［形容詞］冬の ［人名］ディアシェール ［類義語］cjlceμ、ɑlɪnɑleμ、lcuμeμ ［アクセント］ɑcɪlEμ ［レベル］4 ʃ0:ɑcɪ/lceμ。lʃ ［語法］［文化］ 日本語の青春、朱夏、白秋、玄冬に相当するもの。アルカのほうは穏やかな四季を示すため、意味合いは異なる。 青春などはすべて色で、五行説から来ていると思われる。 玄は黒のことで、アルカ訳の幻冬という訳語はむろん ɑcɪ の訳出であるものの、この「玄冬」にかけてもいる。

ɑcɪleμ(J) ［美容］薄化粧 ［レベル］4 ʃ1:μcɑcɪ/leμ

ɑcɪleʎ ［医療］夢遊病 ［レベル］5 ʃ1:「夢散歩」

ɑcɪj ［動詞］ɥəl をはしゃがせる、はしゃぐ、楽しそうに声を上げる ［レベル］2 ʔʔ: 制 : 古 :ɑcɪjɔ ［用例］ ɪn en nɪʃ nɔj ɑcɪj uɪn. はしゃぐ気になれなかった。

ɑcɪjɪdcɪ ［医療］誇大妄想 ［レベル］4 ulʃ:μcɑcɪ/jɪdcɪ ʃʃ

ɑcɪjcμ ［美容］肌理、きめ、きめ肌 ［レベル］3 ʃ1:μcɑcɪ/jcμ

ɑcɪjɔɒʃ ［生物］［死神］夢織種 ［形容詞］夢織の～ ［レベル］4 1Δ: 制 ［文化］ 魂科死神属夢織種。jɪe jɪlcj（夢織の紗枝）など。絶望した人を言いくるめ、獲物に理想郷を見させる代わりにセレスを固化させ、廃人と化させる。やがて獲物が生物的に死亡した際、そのセレスを奪うことで生活を営んでいる。死神属の中で極めて稀少な種。

ɑcɪjeʃ ［生物］［死神］夢喰種 ［形容詞］夢喰いの～ ［レベル］4 1Δ ［語法］ 魂科死神属夢喰種。ɒccnɪ, hɔɒcj, len など。人のセレスを喰らう怪物。夢喰が好むのは絶望に突き落とされた人間のセレス。従って、わざと獲物を絶望させるため、しばしば夢喰は獲物とラポールを築き、後で裏切る。

ɑcɪjel ［名詞］(ʃcl) 正直な ［反意語］ɑcejel ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe: リディアの唇 ［用例］ lɪ ʃcl ɑcɪjel. 彼は正直だ。

ɑcɪjeμ ［名詞］幼馴染、幼なじみ、おなささなじみ ［類義語］ɪlʃcj ［レベル］3 古 :ɑcɪjeμ, ɑcɪɔ ɥcʃ「リディアとセレン」ʃ「リディアとオヴィ」で幼馴染の意味。 ［語法］ hɪdʎ

ɑcɪjel ［歳時記］ディアセル ［レベル］2 ʔʔ: 制 : リディアの日 ［文化］ リディアの誕生日。メル暦でザナの月ルドゥラの日のこと。グレゴリオ暦でいうと７月１９日ごろを指す。アシェットでは慣例として毎年ディアセル付近になると大会議を催している。ディアセルには一年で最大の祝いを行う。メルセルと同じく飲食店が休業なので自宅で祝い、ɑcɪʎɪnʃ と呼ばれるプレゼントを交換する。ディアシャントは ɒelʎɪnʃ と同じである。即ち、親から子以外は相互的で、現金は無礼でない。メルシャントと違うのはディアセルが年で一番の祝いであることから、高価なものも取り扱うということである。ディアセルには透明な水の入った器を月の下に晒しておくという習慣がある。尚、器にはその日の月相（８組数字のいずれか）を書いた鏡を沈めておく。これは天候に関わらず行われる。また、ディアセルには桃を食べる習慣がある。この桃は生で食べても良いし、調理に使っても良い。この習慣は、ディアセルの語源であるリディアを象徴する果物が桃であるということと、この時期辺りから実際に桃の身が成熟することから生まれたものである。また、桃は cdjen というエルトが司るものだが、イプセンは桃と共に長寿も司る。そしてこの日に桃を食べるのは非常に縁起が良いと考えられている。ディアセルには皆で ɑcɪlɪ と言って祝いあう。ɒelɪ と同じく当日にしか使えない。 尚、メルセルとディアセルには前夜祭がある。leəɒel と ləucɪ である。前夜祭といってもその日の朝から終日行われる。だからふつうはこの日は休みにして働かずに遊ぶ。前夜祭は深夜でも自由に外に出れる。街は祭りで大騒ぎとなり、パレードや花火や行列が行われ、出店も多く出る。店で働く人も警備員も医者も軽犯罪の囚人も一日中は働かず、何交代かで店番する。空いた時間は遊んで回り、楽しむ。この日に終日働かされる人はまずいない。そして深夜十二時前に前夜祭は終わる。十二時を迎える直前にカウントダウンが始まり、十二時になって当日を迎えたら ɒelɪ, ɑcɪlɪ と言い合う。そして祭りは完全にお開きになってそぞろに皆帰っていく。まったく一人で何事もなく年を越していたレイン＝ユティアは極めてレアな引きこもり。当日は好きなもの同士や家族で過ごす時間である。誰も働かないので祭りすらできない。病気や怪我で倒れても病院も殆どやっていない。救急や消防や警察も殆ど機能しない。だから体調を崩さないよう、気を張り詰める。タクシーや電車も動かないのでひたすら街は静かである。当日は仲間内や家族で宴会を開く。タクシーなどがないので車や自転車などで仲間の元へ向かうことになる。ただ、一般に、当日の宴会は家族と祝う。交通の不便さも原因の一つだが、恋人や仲間より家族の方が結び付きが強い。だから仲間や恋人との宴会は前夜祭に済ませておくことが多い。同時に、プレゼントを渡す場合、当日会わない仲間や恋人には十二時を回った時点で渡しておくことが多い。 ＜ディアセルごろのスケジュール＞ 学生を例に取る。社会人はテストの部分が決算処理になるだけで、後は同じ。なお、ほとんどのサラリーマンにとって決算処理よりも前の作業のほうがメインになるので、忙しいのはむしろラルドゥラの月。 zɪn lcj: 中間試験１日目（最終学年の場合、卒業試験） zɪn φcl: 中間試験２日目 zɪn ɑəl: 結果発表（最終学年は卒業式。落ちると参加できない） zɪn ɑμə: 文化祭前夜祭（文化祭スタート。まだ不燃焼気味） zɪn ɒel: 文化祭後夜祭（街の祭りが始まり、文化祭と合同して大騒ぎに。最後は徹夜してディアセルを待つ） zɪn μɪl: ディアセル（一気にしめやかな空気に） zɪn zɪn: 休日１日目（無理が祟って寝込む） zɪn dɪl: 休日２日目（動けない） zɪn ɒcl: 休日３日目（ゆったり回復） zɪn ɑɪu: 休日４日目（明日から学校だ）

ɑcɪjelɔʃ ［電算］パーチャルキーボード ［レベル］3 ʃ0

ɑcɪn ［動詞］ɥəl を演じる、演じる、ɥəl のふりをする ［普通動名詞］演技 ［レベル］2 1L:ɑcɪ/nɪ（虚構の心）［語法］ ʎμɔ は演技として、周りも自分もそれが虚構と分かっている状態。ɑcɪn は相手に気付かれないよう、装うさま。ɑeɒ と違って金をだまし取ったりといった犯罪目的ではない。従って例えば自分を可愛く見せたりといった実際とは違う自分を演じることである。 ［用例］ ɑcɪn en jeμ とぼける、しらばっくれる、白を切る、トボける、シラばっくれる

ɑcɪnɪ ［形容詞］虚構の、架空の、非現実な、非現実的な ［名詞］虚構、架空、フィクション、非現実、非現実的 ［数学］虚数← ɑcɪnɪɪʎl ［類義語］ɑcɑ ［反意語］ɑcɪnɪ（発音混同注意）: 逆に、音が似ているのでよく韻に使われる。 ［類音］ɑcɪnɪ ［レベル］2 μɑ;ɑcɪ/nɪ 1L: 夢心地 ［用例］ ɑcɪnɪ l'el cn elɑ eʃ ɑcɪnɪ ʎɔnʃ ɑcɪnɪ l'el cn ɑɪn eʃ ɑcɪnɪ. 見えないほんとうはつくりもの。見えるうそはそこにある (μcɑcɪ ləfcɪ)

ɑcɪnɪʎl ［医療］幻の知覚 ［レベル］6 1L ［語法］ 実際に存在しないものを知覚すること。視覚では蜃気楼など。触覚ではそこにリンゴがないのにリンゴを触っているような錯覚を覚えることなど。結局知覚は脳に電気信号を送ることで実現するため、実体がなくてもその信号を送

Ω

ればその人間にとっては存在するものとして認知される。　なお、アルカの実在論では、存在は認知的なものとされている。

ɑcɪnɪɪll　［数学］虚数→ ɑcɪnɪ　［レベル］5　lʔ

ɑcɪncɪn　［歳時記］ディアセル休み　［類義語］ɑcɪncɪnjel　［レベル］2　ʃ1　［語法］［文化］　ɑcɪncɪn は zɪn ɑɥə_zɪn ɑɪu までの期間。ɑcɪncɪnjel は zɪn ɒcʃ と zɪn ɑɪu の休日。

ɑcɪncɪnjel　［歳時記］ディアセル休み　［類義語］ɑcɪncɪn　［レベル］2　ʃ1　［語法］［文化］　ɑcɪncɪn

ɑcɪne　［形容詞］ジューシーな、つゆだくな　［レベル］3　μɑ;/　lʃl

ɑcɪu　［形容詞］嫡出の　［反意語］ɪlɴcɪu　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 ɑcɪzɒcuɪ（王の子）

ɑcɪuɔl　［名詞］初志貫徹　［レベル］3　ʃ1

ɑcɪuenɪ　［医療］ＰＴＳＤ、心的外傷後ストレス障害　［レベル］4　1L:μcɑcɪ ʔɪlɒɪ uenɪ cɒ ɑənel ɑəɔl ʔɔnʃ ʔə nɔj uɔμʃ μcj ɒcl ɑlɪscʔ le lɪ lcɒɪʃ cɒ ɑcɪn.

ɑcɪuɥɒn　［歳時記］夢の終わりに、ディアヴェルン　［経済］弁済。信用買などの決済を行うことを「夢が覚める」と表現している。　［レベル］3　ʃ1:ɑcɪ/uɥɒn「夢幻の崩壊」　［文化］　アシェットがテームスを倒した日。この後残った悪魔らを倒していく。日付は zɪn ʃɪn。　小説版アンクノット第三巻によると、２０００・７・２９の記述で、２０００・７・２７にテームスを倒した夢を見たとある。この日は 11 zɪn ʃɪn である。

ɑcɪuɥɪnʃ　［医療］強迫性パーソナリティ障害、強迫性人格障害　［レベル］5　ul;μcɑcɪ/uɥɪnʃ ʃʔ:ɒel

ɑcɪ uɥɥ　［娯楽］ディア＝ヴェール　［レベル］2　1L:ənclec　［文化］　アルティアが４年に１回発売するＲＰＧゲーム。世界中で発売され、アルバザードでも売られる。最も人気の高いゲームで、国民的ＲＰＧかつ世界的ＲＰＧ。オタクでなくともディア＝ヴェールはたいていやったことがある。要するにＦＦとドラクエっぽいもの。　シリーズは連続物ではなく、基本的に１話完結。世界観は原則アティーリ。タイトルによってメインとなる時代が違うので、新作はどの時代だというのが頻繁に話題に上る。一番人気が出るのは ʔl_μɑ の時代。

ɑcɪɑ　［普通動名詞］編集　［動詞］ɥəl を編集して ɪ にする、編集する　［レベル］4　μɑ; ↓　ʔʔ: 制 :ɑcɪɑɪj（リディアの仕事）

ɑcɪɑɪn　［言語］編集者　［レベル］4　μɑ;/　lʃ

ɑcɪɑɪb　［医療］おたふく風邪　［レベル］3　1ʔl: 制 :ɑcɪ/ɑɪb　［文化］　大人になってからかかると被害が大きい。

ɑcɪɑɪlcj　［形容詞］［ネガティブ］独善的な、押し付けがましい　［類義語］ɑɪlcj　［レベル］4　lʃ0:ɔuc:ɑcɪ/ɑɪ lcj

ɑcɪɑcɪ　［電算］バーチャルリアリティ、ＶＲ　［反意語］ɪdɑcɪ　［レベル］3　ʃ1:ɑcɪnɪ/ɑcɪnɪ　［語法］　ɪdɑcɪ は現実を拡張したもので、あくまで現実ベース。ɑcɪɑcɪ は逆に仮想ベース。

ɑcɪɑɔʃ　［名詞］奥手、おくて、きむすめ（処女という意味ではなく）　［形容詞］うぶな、奥手な　［反意語］ɒelɑɔʃ　［レベル］3　古 :ɒelɑɔʃ に対してできた

ɑcɪɑəf　［経済］信用取引　［レベル］5　lʃ

ɑcɪɒ　［名詞］偶像、像、銅像。銅でなくてもよい。　［レベル］4　ʔʔ: 制 : 古 :ɑcɪɒɪcn（夢幻の体）

ɑcɪɒɪdj　［被服］スポーツブラ　μɑ; リディアが貧乳で、ふつうのブラジャーだと緩く、パールが肩からかけられるスポーツブラを作ったことから。ちなみにこのことに言及すると死を見る。　［レベル］3　ʃ1

ɑcɪɒʃ　［名詞］正室　［類義語］ɑcɪz　［反意語］ɒelɒʃ　［レベル］4　μɑ;μcɑcɪ/ɒcnʃc　lʃl

ɑcɪɒʔ　［名詞］大同小異　［レベル］4　ʃ1: リディアとミルフが、ミルフが中学だったころよく似ていたことから。

ɑcɪɒcn　［名詞］ヤンデレ　［レベル］4　μɑ;/「リディアのような女」　lʃ

ɑcɪɒcμ　［名詞］遠距離における実質機能していない恋人、恋人　［レベル］4　1L:μcɑcɪ: 古 : 夢の中の夫　［語法］　片方が別の恋人を作っても仕方なく、しかも別の恋人ができても関係が壊れない仲。そういう意味では友人にも近い。が、あくまで会えば抱くので恋人。抱くだけでもないので、セフレとも違う。

ɑcɪɒccμ　［名詞］机上の空論　［レベル］4　μɑ;/「夢幻の理論」　lʔ

ɑcɪɒɔnɔɑɔɪl　［経済］無形固定資産　［レベル］6　1L

ɑcɪɒeɒdɔ　［卑語］人工まんこ　［レベル］6　1L　［語法］　ɑcɪnɪʔl を使って女性器を再現したもの。

ɑcɪɒes　［天文］ベガ　［類義語］ʔɪlʔc、ɑcμcɪ　［レベル］4　1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel: リディア殺し　［文化］　イムル 1ʔL1 年、ソーンの残党はアデルにサプリの村を襲わせた。この際カイラなどの軍勢を率いて組織したのがファルアモン。７歳の幼いリディアの息の根を止めようと近付いたが、ダルハを額に浮かべた少年セレンがカイラをユノで殺した。その上リーザがサプリに到着し、魔物を殺しはじめた。ファルアモンは撤退したが、プライドを傷つけられ、リディアを虎視眈々と狙った。　その後セレンに封印されたあとも、リディアの星であるアルタイルを狙い続けた。現在では天の川を挟んだリディア星を毎年毎年ディアセルごろになると襲っている。その間に入ってリディアを守ろうとする星がセレンであり、はくちょう座のアルビレオである。

ɑcɪɒel　［軍事］ディアメル、心経　［レベル］6　lʃ0:ɑcɪ/nɪɒelc（架空の神経）　［文化］　アンジェリカとパイロットを繋ぐ架空の神経。心の中の神経という意味で心経と訳している。触手のような形をしており、先端に吸盤のようなものが付いている。パイロットの四肢や頭部などにこの吸盤が装着される。

ɑcɪɑ　［名詞］ガラス、硝子　［レベル］2　1ʔ: 制←ʃ, ʔ:μcɑcɪ:ɑcɪləɑɔ（夢の宝石）　［文化］　アルテムで神が作った。当時は陶磁器と混ぜて使っていた。　［用例］　ɑcɪɑ e ʃeɒj ɪʃ μcφ ɒcl ɑlʃe. 窓ガラスが嵐で壊れた。

ɑcɪɑʔɔʃɪn　［農耕］水晶農園　μʃ　lʃ

ɑcɪɑɔl　［地学］軟玉、ネフライト　［レベル］6　1L: 翡翠石

ɑcɪφ　［名詞］ビー玉　［レベル］3　1ʔ: 制 : リディアの球。語源は ɑcɪɑ 参照

ɑcɪφcl　［経済］現金や金券以外の金。電子マネーのように形のない数値上のもの。　［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪelʃ

ɑcɪφcɔ　［経済］機会費用　1L

ɑcɪdɪɑ　［化学］ギ酸エチル、蟻酸エチル。通称　［レベル］6　1L:jeμen　［文化］　μɑ でエステルを合成していたリュウは、いくつかのエステルの芳香性を発見したが、それが何の匂いか今ひとつ分からず、鼻の良いセレンに嗅がせた。セレンは酢酸エチルはリンゴ、酪酸エチルはパイナップル、酢酸オクチルはオレンジと言ったが、ギ酸エチルはリディアの息と答えた。そのため、ɑcɪdɪɑ だけは ləɔcl や lcjɔl と違って cl を付けない。つまりここの ɑcɪ は ɑcɪcl 以前に μcɑcɪ を指す。

ɑcɪdɔ　［名詞］頑固一徹　［レベル］4　ʃ1: リディアの首。一度駄目だといったら頷かない。

ɑcɪhɪɑcμ　［歳時記］寒露　［名詞］１７時　［組み数字］１７／２４　［レベル］3　lʃ0: → ɪnlcɪn　［文化］　ɪn lcɪn

ɑcɪɥəlɒ　［電算］メガネ型ＨＭＤ、電脳メガネ　［レベル］3　lʃ0: 仮想眼鏡

ɑcɪɥəc　［天文］［歳時記］ほしあい、星合い、星会い、星逢い、星探し、ほしさがし、星さがし、ディアユイ　［レベル］3　ʃ1　［文化］　μɑ で ʃ1 の ləucɪ にセレンがルティアに出張していたリディアに「明日の誕生日のプレゼントは何がいい」と聞いた。するとリディアは「夜空で私を見つけて。後から追いかけて同じ星空を見るから」と答えた。これに感動したセレンが毎年ディアセルに μcɑcɪ（アルタイル）を探すようになった。「追いかけて」とは、時差を利用して後から同じ夜空を別の場所で見るということを指す。　このストーリーを受け、ディアセルには夜空を見てアルタイルを探す風習がある。一年で最も夜空を見る日で、この日はほぼ常に晴れていることから天体観測がしやすい日でもある。　やり方は大抵決まっている。まず夏の大三角 (aleɪɔzefʃ) を見つける。一番明るいのがベガ (ʔɪlʔc) になる。この三角形は細長いので、細長い部分の頂点はすぐにそれと分かる。その部分がアルタイル (ɑcɪlcj) である。残ったひとつがデネブ (neɑɪnj) で、そこから十字に星が並んでいる (neɑɪnjfen)。十字のうち、デネブと逆の端点がアルビレオ (lccɪlccɑɪ) であり、これにてリディアとセレンが揃うこととなる。大抵ここまで観測して終える。　現実には、このときの ləucɪ にこの通りのイベントがあったことから。　追記　1ʃl1　セレン「ごめん、曇ってたw　nəəμφɪíeμɪn が見えたり見えなかったりって感じで」　リディア「うあーん、私も曇ってた！」　メル大爆笑。　「１９日は見れたんだけどな」「私もー……。ləucɪ の風習にする？」「いや、地球の天気に合わせる必要はないよ。向こうは晴れてたってことで」「そだね。ともあれ私たち、ある意味同じ空を見たよね（苦笑」

ɑcɪμ　［エルト］ディアル　［レベル］2　古 :ɑcɪμ ← ɑcɪ/ɪμʃe　［語法］　夢を司る。転じて睡眠、眠り、覚醒を司る。眠りから転じて更には休息、休暇、休養、休みも司る。

ɑcɪμcəjeeu　［魔法］虚電磁波　［レベル］6　ʃ1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɑcɪμen　［地学］硬玉、ジェダイト　［レベル］5　1L: 翡翠宝石　［文化］　魔石になるのはジェダイト。ネフライトは魔石でないので石。

ɑcɪμenj　［名詞］(fcl) 口数の多い、お喋りな、おしゃべりな　［類義語］dcɥɔμenj　［反意語］μɪlμenj　［レベル］3　lʃ0:ɒelɑcɪ lceμ:ɑcɪ/μenj

ɑcɪz　［親族］正妻、正夫、本妻、本夫　［類義語］ɑcɪɒcʃ　［反意語］ɪlɴcɪz　［レベル］4　μɑ;<>μcɑcɪ 古

ɑcɪzɔn　［名詞］文武両道　［レベル］3　lʃ: リディアは杖術も得意。

ɑcɪl　［被服］アクセサリー　［レベル］2　古 :「リディアのもの」

ɑcɪlfə̀l　［名詞］［形容詞］豊作　［反意語］ʔɪlɔɪlfə̀l　［レベル］3　lʃ0

ɑcɪlj　［被服］サンダル、突っかけ、つっかけ　［レベル］3　ʔʔ: 制 :ɑcɪlɪjl（リディアの靴）

ɑcɪlɥəɑcɪ　［言語］ハイファンタジー　［レベル］4　μɑ　lʃ　［文化］　lɥəɑcɪ

ɑcɪlɪj　［魔法］神話　［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪelf: リディアの手 :ɒcμɔʔlʔlɔ では長く発音もしづらい。リディアの手には２つの意味がある。１つはアティーリを書いた手。１つは神アルデを描いた手。

ɑcɪlccɪɪ　［天文］赤い月　［経済］第四四半期→ uelʔlelʃ　［ユマナ］Ｌｅ　ｄｉａｂｌｅ　ｒｏｕｇｅ。アルバムのひとつ。ロック中心。ｄｉａｂｌｅと ɑcɪlccɪɪ の頭韻を踏んでいる。ロック系であることから赤で、ɑcɪlccɪɪ の禍々しい炎とロックのハードさから悪魔が来ている。　［魔法］ディアリーヴァ（フレア）。火の高位黒魔法。月に向けて放たれた太陽熱を反射することで敵を焼く。月に魔法鏡を張り、太陽熱を凝縮して敵へと跳ね返す。　［組み数字］7／１１　［レベル］3　古 : リディアがメルとクミールに呼びかけて L 年に作った一言（詩のような格言のようなもの）から。その詩とはこうである。"ɑl ɑɪc le ɑl uccne le hɔɔμɪ ía ɑɪcl cl dɪj lcuμ ɔl ɑcɪ e ɥənʔ ～ "「赤い月の炎が全てを燃やし、少女たちに幻を作る」。ここから ɑɪc le lc uμɔl ɑcɪ íə（幻を生む炎）が抜き出され、更に複合語になり、ɑcɪlcɪɪɑɪ になり、音便化して、ɑcɪlccɪɪ としたものが、この一言のタイトルであった。タイトルを訳すと即ち、『夢幻を生む月』。だが、リディアは別に『月の炎』と呼んでいた。ルーキーテよりも火の色に近い。　［語法］　火のように赤い月。ɒəəʔccíe よりも火の色に近い。

ɑcɪlccɑɪ　［天文］シリウス、天狼　［名詞］大スター、国民的スター、国民的アイドル　［レベル］3　1L: ディアセルの星。ディアセルごろ。７～８月に太陽とともに現われ　る星であることから。ɑcɪlccɪɪ と区別。　［文化］　アルバザードを０時に南中するのはオヴィの月（１月）。最も明るい星なので、古アルカから既に命名されていた。古アルカの段階ではアルバザードで０時に南中するかということが問題視されていないため、太陽とともに現れることが語源になっている。そのためアルバザード人はシリウスがアルデバランのように夏、特に名前からしてディアセルごろに南中する星だと勘違いしていることが多い。レインほどの優等生になると正確に知っているが、夢織のアリスあたりは知らなそうだ。　紫苑はレインの家の南の窓から身を乗り出して星の観察をしている。紫苑はこのときの空でカペラを発見している。カペラは南東にあるが、紫苑は南の窓から身を乗り出して観察しているので真東は物理的に見えず、南東を東と表現した。カペラは南東の高いところにある。また、シリウスは見えないと言っているが、南南東の低いところに出ている。ただしレインの家からは低すぎて遮蔽物が邪魔で見えない。レインの家は２階建てだが、南南東にはネルメス通りのモールやクレーヴェル通りのモールがあり、そのビルが邪魔で見ることができない。また、紫苑はアルデバランは見つけているが、このとき南東の仰角５０°のところに確かに出ていた。　なお、アルバザードは地球に投影するとフランスにあるが、日本との時差は７時間ある。しかし紫苑は自分の時計で午後１０時に空を見上げ、時差はないと言っている。これはメルティアが時差ボケを気遣って時間をずらして召喚したため。日本のほうが時間が早いため、実は紫苑は来る時に７時間人生を損している。紫苑にとっての午後１０時から次の日の朝５時までの時間が切り取られ、アルバザードの午後１０時に飛ばされているからだ。

ɑcɪlef　［歳時記］春分　［名詞］4 時　［組み数字］４／２４　［アクセント］ɑcɪlEf, ɑɛɪlef　［レベル］3　lʃ0: → ɪn lcɪn　［語法］　uealcμ　［文化］　ɪnlcɪn

ɑcɪleuɪ　［医療］更年期障害　［レベル］4　1L: 古でも同じ「夢の障害」という発想だった

ɑcɪleɒc　［料理］ミネストローネ　［レベル］2　1L

ɑcɪleeu　［医療］［魔法］失魔症、失晄症　［レベル］4　ls:jeμen　lʃ:「夢去りぬ」　［文化］　nɪɪyə　ヴィード、とりわけヴィルを使えなくなる症状。太古よりあったが、ʔ,l 遺伝子の普及により一般化した。ls の現代魔法学でようやくこの症状の原因がヴィードあるいは魔法のクオリアの消失であることが判明した。

ɑcɪlə,ɪlʃ　jccnɪ, ſccɪ, hɪſcɪ　ſccɪ.l

ɑcɪɪíɒ　［経済］信用売り、空売り　［レベル］5　lʃ

ɑcɪɪíí　［名詞］大会議　［レベル］5　1ʔlδ → ɒelíí　［文化］　ɒelíí　アシェットがディアセルごろに行う会議のこと。メルセルの ɒelíí より規模が大きい。しかし企画の締切り上、あるいは造語年を同年内にまとめたいなどの事情があるときは、翌年を跨ぎたくないので ɒelíí のほうが ɑcɪíí より盛り上がることがある。メル暦の浸透に比例して駆け込み需要で決定される事項が多くなり、ɑcɪíí の規模は相対的に低下していった。　大体皆の都合の良い日に行われ、大抵セレンの都合は無視される。日本はアシェット内では時差的にマイナーな位置だからだろう。ディアセル前後はたいてい忙しく、ここ１０年以上健康だった試しがない。その上早くとも夜に開かれるものだから、残った記憶は大概が「眠いし胃が痛い」である。この補足を書いている lʃ 年は特にここ２０年で最大の忙しさで、状況は最悪である。

ɑcɪɪìn　［哲学］理想主義　［反意語］ɑcɪɪìn　［レベル］5　μɑ;/　lʃl　［語法］　ɑcɪɪìn

ɑcɪɪìnɪn　［哲学］理想主義者　［反意語］ɑcɪɪìnɪn　［レベル］5　μɑ;/　lʃl

ɑcɪɪul　［経済］マネー経済　［レベル］5　lʃ

ɑcɪɪll　［数学］架空数　［反意語］ɑcɪɪll　［レベル］5　μɑ:jeμen;「架空数」　［文化］　μɑ でセレンが提唱した概念。現実には存在しないが数学など学問の世界では存在する概念のこと。例えば無限や虚数などのことを指す。反対語は現実数。　例えば数学の世界では０．９９９．．．＝１であるが、これは無限を導入しなければ真といえない。しかし現実の世界には無限は存在しない。左辺０．９９９．．．は架空であるが、右辺１は現実である。与式０．９９９．．．＝１は左辺が非現実で右辺が現実となる。非現実＝現実は矛盾するので、与式は現実世界では真でない。　与式は数学世界では真だが、現実世界では偽である。一方１＋１＝２は数学世界でも現実世界でも真である。現実数を用いた真な数式は、現実世界でも真となる。　算術的には x＝０．９９９．．．とし、１０x＝９．９９９．．．なので、９x＝９となり、x＝１となる。これは無限があるため立証できることである。　しかし現実には０．９９９．．．９しか存在しない。よって x＝０．９９９．．．９で１０x＝０．９９９．．．９０であるから、９x＝９−０．０００．．．９であり、X＝１−０．０００．．．１であり、x＜１である。
数学世界は現実には存在しない無限や虚数などを導入して成り立っている。原始の数学は現実世界を観測して現実世界を写し取って構築された。しかし数学が発達していく過程で現実にない概念を導入する必要が出てきた。その結果、数学世界と現実世界の間に乖離が生じた。　その乖離による影響は極小なので、日常生活では現実世界とは異なる数学世界を応用しても何ら支障がない。例えば虚数を用いて信号機を作ってもむしろ便利なだけで、一切日常生活に支障をきたさない。　両世界の乖離が日常的に大きな問題にならないため、両世界の乖離は日常生活において無視されている。　しかし我々が数学世界を用いて現実世界を見るときには微小な誤差が生じている。そして我々はその誤差に気付かず生活している。これは哲学的な問題である。　セレンは両世界は乖離していて、等しくないと述べた。数学世界の理論は数学世界では真でありうるが、そこに架空数が入ると、現実世界では真でありえなくなりうると述べた。　数学は発展の過程で数学世界を構築する方向性に進化していったため、架空数という概念は μɑ 以降ピックアップされることはなかった。　数学世界と現実世界が乖離していること、無限などの概念が数学世界を成立させるために導入されたご都合主義の概念であることなどは意識されなかった。　セレンは数学は数学語という人工言語であり、言語である以上は他の言語に翻訳できるはずだと述べた。　０．９９９．．．＝１は「０．９９９において９が無限に続く場合、その目的地が１であり、左辺はその目標値１に等しい」と日常言語に翻訳される。このセンテンスの中には「無限」という架空数の概念が含まれるため、セレンはこの翻訳文（センテンス）は数学世界では真だが現実世界では偽だと述べた。　・認知世界における真偽　さらに認知言語学を時代に先駆けて創始した μɑ のセレンは、現実世界と数学世界のほかに認知世界という概念も導入した。　認知世界は人間が認知・認識する世界のことである。人間が認知したものが真になるので、現実が真かどうかは関係ない。蜃気楼でも本物に見えればその人の認知世界においては真になる。　無限は幼児にとっては認識できない偽の概念であるが、数学を学ん

Ω

だ大人にとっては認識できる真な概念である。現実の真偽とは関係がない。　　現実は我々の認知を通さないありのままの世界のことである。認知世界は今我々が自らの身体を使って認識している世界のことである。　　現実世界はぶれないが、認知世界は移ろいやすい。現実には月は１つだが、近眼乱視の人が月を裸眼で見ると複数に見える。見る人の認知によって認知世界の内容や真偽はすぐ移ろう。　　・世界の乖離　　セレンは現実世界と認知世界と数学世界はすべて乖離していると述べた。　　我々は現実世界を見ようとするが、それは認知世界でしかない。　　我々は現実世界から数学世界を構築しようとするが、それは数学世界でしかない。　　これらの世界は乖離している。それらの世界が異なっているのに同じものと扱っているのは、それで大した不都合が日常生活において起こらないためである。　　セレンは事実は事実と認めた上で対処しなければならないという理念のもと、これらの世界が乖離している事実を認めた上で現実と向き合うべきだと主張した。　　しかしその乖離は日常生活で問題になるような程度ではなかったため、耳を貸す者はほとんどいなかった。　　μɑ 以降においてもセレンの考えは無視され続けており、時折哲学の世界で思い出したように触れられるだけである。　　セレンは架空数が非現実だから悪いとか導入するなと言っているわけではない。単に架空数は現実世界と数学世界の間に乖離を生じさせると述べているだけである。　　実際、彼は数学世界においては無限も肯定したし、０！＝１も０．９９９．．．＝１も肯定していた。だがそれは現実世界では成立しない等式だと主張した。　しかしそれを等式として成立させたところで日常生活において不都合がないから、両世界の乖離が無視されており、そこに気付かないことが問題なのだと主張した。　　要するに彼の主張は哲学的なものであり、しかも実用的でない。乖離を認めたところで生活に支障はなく、なんら問題は起きない。よってその主張は数学界から無視された。しかし哲学的には意味のある問いである。　　・２＾１０００は現実数か　　２＾１０００のような数はたとえɨの科学力を以てしても現実中に見つけることはできない。宇宙の体積をプランク長＾３で割っても届かないためである。　　μɑ においてもあまりに巨大な数は現実には存在しないのではないかとセレンは考えていた。現実の個物と一対一の対応がない限り現実数とは呼べないとすると、「すべての自然数は現実数である」は偽になる。しかしこの命題が偽なのは直感に反する。　　そこでセレンは現実数を「現実に存在している数」ではなく「現実に存在しうる数」と定義した。２＾１０００は現実に存在していない数だが、存在することはできる。例えばɨの科学力でいうと、宇宙が更に膨大し、プランク長よりももっともっと短いものが見つかれば、２＾１０００は存在しうる。　　しかしどこまで宇宙を膨大化させても無限の空間にはならないし、物質を構成する最小単位も無限まで小さくはならない。つまり無限の器もないし無限に小さい個物も存在しない。ゆえに無限は現実数ではないが、２＾１０００のような巨大な自然数は現実数といえる。　　ただし現実には後述するように物質を構成する最小単位が存在し、それはそれ以上分割できず、宇宙の体積もまた無限ではないので、２＾１０００の個数を持つ物質は現実世界に存在しない。　　よって２＾１０００は認知世界や数学世界には存在するが、現実世界には事実上存在しない数といえる。　　・世界の価値　　なお、セレンは認知世界が最も実生活に即した世界だと主張した。事実がどうあれ、我々個人の世界観は我々が見たようにしか感じられないためである。たとえ蜃気楼が偽物であろうと、その人にとっては本物なのである。その人にとって見えている限り、その人の認知世界ではそれが事実なのである。　　また、セレンは人間にとって大事で価値があるのは現実世界ではなく認知世界ではないかと述べた。現実に希望が持てなくても、心の持ちようで認知世界においては幸せになれる。優しい嘘と冷たい本当なら前者のほうが救いがあるのではないか、価値があるのではないかと考えた。　　・現実数はどこの世界に存在するか　　現実数は現実世界、認知世界、数学世界のいずれにも存在する。　　我々人間は自らの身体を通してしか現実世界を認識できない。現実世界に存在しながらも、現実世界をありのまま知ることができない。　　我々が見ているものは常に認知世界か、認知世界という色眼鏡を通して見た数学世界などであり、現実世界を直視することはできない。　　ここに瓶が一本あるとする。どこからどこまでが瓶の境界線かというのは一一言語的には一一瓶という語で瓶以外のものを区切ることにより可能になる。　　認知主体の人間が瓶を瓶という個物だと認識するから、瓶は瓶という個物でいられる。認知主体がいない現実世界では瓶は瓶を構成する分子の集まりでしかなく、接地している地面や周りの空気の分子と境界線がない。　　現実世界において瓶という個物は存在せず、瓶を構成している分子が空気中や机上に集中しているだけにすぎない。　　よって現実世界で瓶という個物の存在を認めることはできない。現実世界では物質を構成する要素が連続して広がっているだけである。　従って現実世界では数を数えることができないように思える。すべてが連続体だからである。　　では現実世界における現実数はどのようになっているだろうか。現実世界には本当に数がないのだろうか。　　否。そうではない。　　現実世界には物質を構成する物理的な最小単位が存在する。それを最小単位の１として使える。その単位を２つ使えば２の存在を実証できる。　　従って少なくとも自然数は現実世界において物理的に定義することができる。よって現実世界における現実数は空集合でない。　　しかし現実世界において０．５のような小数を表すことは難しい。物質の最小単位を分割することは定義上できないためである。　　ただ、マイナスの数については「最小単位がある数からいくつ足りない」と表現することができるので、現実世界にも存在するといえよう。　　いずれにせよ、現実世界における現実数は範囲が狭い。　　一方、認知世界における現実数は数学世界における現実数と同じかそれ以上の広さを持ちうる。　　我々は瓶が一本あるなら瓶を１と認識できる。りんごが１つあればそこにも１を認識できる。りんごを半分に割ればＯ．５も認識できる。我々は無限という概念も認識できる。しかし無限が現実に存在しないことも知っているので、それは現実数でなく架空数として認識される。　　なお、人によっては無限が現実に存在すると思っている場合があるので、その人の認知世界においては無限が現実数になることもありえる。　この意味で、認知世界における現実数は数学世界におけるそれより広い場合がある。　　つまり認知世界においては認知主体によって現実数の外延がバラバラなのである。　　他方、数学世界における現実数は認知世界のそれと違って認知主体による揺れがないため、厳密であるといえる。　　数学世界は認知世界という色眼鏡から見た現実世界を数学仕様に拡張した世界である。　　その世界では無限や虚数の存在もその世界における現実として肯定されるため、あらゆる数が現実数といえる。　　・現実数の外延　　現実数の外延は以上で見たように、どの世界で見るかによって異なる。　　しかし一般に、日常的にアルカで現実数・架空数と述べる場合は、「科学を十分に知った理想的認知主体による認知世界における現実数と架空数」のことを指す。　　この理想的認知主体にとって無限や虚数は現実にないものなので架空数であり、自然数や整数や有限小数などは現実に存在するので現実数と振り分けられる。　　現実数は世界ごとに異なる外延を持つが、一般的にはこのような外延を持つ。つまり無限や虚数は架空数だが、整数や自然数などは現実数である。　　科学を十分に知った理想的認知主体にとって無限や虚数は既知の概念である。　　しかし彼は同時に無限や虚数が自分の見えている現実世界に存在しないこともまた知っている。　　例えば無限に広がる宇宙がないことも知っているし、無限に続く宇宙がないことも知っているし、無限に分割できる物質が存在しないことも知っている。　　また、二回かけてマイナスになる数が実在しないことも知っている。　　よって無限や虚数など一部の数を架空数に篩う。　　このように「科学を十分に知った理想的認知主体による認知世界における現実数と架空数」を提唱する背景には、上記で述べたように μɑ のセレンが認知主義者で、人間の認知を現実や学問体系より重く見たという事情がある。

ɑcɪcʃ ［植物］桃、ピーチ、もも ［レベル］２ 1θ: 制 :ɑcɪɑɪnʃ（リディアの香りの果物） cdjen:cdj en:lɪ lɪɑɪnɑ:dəɗə,ɪlʃ ［文化］ ディアセルに食べる果物。μɑ で定められたアルバザードの国花。

ɑcɪcʃlɪɑ ［普通動名詞］もも狩り ［レベル］３ μɑ;/ J0

ɑcɪcn ［植物］コスモス ［花言葉］あいしています。 ［レベル］２ μɑ 1L: リディアの花。リディアのように綺麗で可愛い花であることから。　ɟɪlɒcn:ɟɪlɒcn:lɪ lɪμɑcnɪl:ɪnɔzɑe,ɪlʃ ［文化］ 秋に咲く美しい花で、アルバザードでは非常に人気が高く、いたるところに植えられている。ルティアの国花。

ɑcɪcnɟ ［地学］翡翠、ヒスイ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : リディアの眼のような宝石。 ［文化］ 実際には赤のものもあるが、魔石になるのは緑。風の魔石。μɑ まではfeezeɣen と呼ばれた。

ɑcɪeɣ ［名詞］スカトロ、スカトロジー ［類義語］benzen ［レベル］４ μɑ;ɑcɪ/eμ。セレンがヴィード死状態になった際、死の前に誤ってリディアの採尿をジュースと間違えて飲んでしまっており、そのおかげで現世との繋がりができ、ɑɔμʃ の魔法が効いて蘇生できたことから。　1L:ɑcɪ/eμcɪ ［語法］ benzen

ɑcɪeleɒ ［名詞］勧善懲悪← ɑcɪlʃ ［レベル］４ JJ: リディアの審判

ɑcɪeeʃ ［経済］信用取引の株 JJ

ɑccʃ ［形容詞］涼しい、ちょこ冷たい、冷たい、ぬるい、ひやっこい、ひゃっこい ［形容詞］颯爽としている、すがすがしい、かっこいい、クールな ［動詞］ɣəl を冷やす、冷やす、冷却する、冷ます、クールダウンする ［反意語］ɒelʃ ［レベル］１ 1L: 緑の風 ［語法］ hɟμʃ ［用例］ ɑcɟ nɔɑ ʃɔlel eʃ ɑccʃ. 今日は昨日より涼しい。　ʃə eɒɪʃ ɑccʃ ʃlɪl ɒcl eɟl. 雨が降って少し涼しくなった。　ɪn lɪl ʃə eɒ ɑccʃ ɒcl eɟl. 雨でも降って涼しくなればいいのに。　ʃə ɪʃ ɑccʃ ʃcn. とても涼しかった。

ɑccʃʃeɒl ［名詞］冷蔵庫 ［レベル］２ 1L:lcɔn

ɑccʃɟɪb ［被服］薄着、クールビズ ［レベル］３ μɑ;/ Jʔ

ɑccʃdɔl ［地学］冷帯 ［レベル］４ 1L

ɑccʃlɔɔb ［被服］探検帽 μf;/ J0 ［文化］ 通気性がよく涼しい。南方を探検する際に使われた。

ɑccʃμ ［名詞］冷房、クーラー ［レベル］２ 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlel ［文化］ 寒くするのは教義に反するので、ɔɔμʃɪμ は存在しない。

ɑccʃɔɪ ［人名］ディートア ［アクセント］ɑccʃɔϯ J0 ［文化］ (ɣəəɒɪ ᴍᴙΔ1:ᴍLL) メルテナ中期のサルト教皇。

ɑccʃe ［形容詞］心地よい、精神的に気持ち良い ［副詞］すっきりと ［類義語］ejcl ［反意語］ɒelcj、φɪcz ［レベル］２ J0:ɑccɪfeeze（緑風） ［語法］ ejcl

ɑccn ［文頭純詞］とにかく、いずれにせよ、ともあれ、どうしたって ［名詞］どの道そうならざるをえないこと。必然のような意味で使う。 ［レベル］１ 古 :ɔɔμn: アルシェでは非アンクノット登録語（とにかく＝ cllɔ（全ての考え。"ɪn ɑen cl cllɔ（私は全ての考えを見ないで）" が元になっている。

ɑccnɪ ［名詞］［形容詞］平和的な、穏やかな、落ち着いた、心地よい、リラックスした。名詞の場合は ʃcl とともに。 ［レベル］２ 1L:ɑccɪ/nɪ ［用例］ senʃ ɪʃ ɑccnɪ. 穏やかな天気だった：例えばカテージュの海辺で風もなく暑くも寒くもなく日差しも強くないような天気。

ɑccnɔ ［アイテム］神爪ディーノ、ディーノ ［レベル］４ μcɑcɪ: 古 :ɑɪczφcnɔ（王の爪） ［文化］ ヴァストリアのひとつ。クリスの持つ神爪。ケットの魔力のこもった最強の爪。風を操ることができる。

ɑccuɪ ［普通動名詞］抗争 ［動詞］ɣəl と抗争する、抗争する、争う ［類義語］uɪj ［レベル］３ J0: 古 lccɪzuɪj の音変 ［語法］ 主に軍隊でない集団が争うこと。暴力によるものが多い。

ɑccɒ ［被服］フェルト、フエルト、不織布 zφ;.jelɪn J0

ɑccɒlɔɔb ［被服］フェルト帽 μɑ;/ J0 ［文化］ ɟɒ でできた。農民の一般的な帽子。

ɑccɑɪ ［地球の国名］インド ［レベル］４ 古？

ɑccɑɪμeɑcɪ ［ユマナ］ヨガ、ヨーガ ［レベル］４ J0: インドのレフィア

ɑccφ ［工学］合金 ［レベル］４ lɟj;ɑcɔnɪ,ɟzl/φc J1 ::lə ɑcɔnɪ

ɑccφel ［アトラスの国家］ディーゲル ［レベル］５ 1L:μcɑcɪ

ɑccɣə ［魔法］ディーユ、虚質量 ［レベル］４ lɟj;ɑcɪ/bɣə J1:μcɑcɪ/jeμen :: ［文化］ ɑɔlɒcɣə, ɣənɔ　虚質量は条件付で質量を得るものである。例えばユノについては体内の閉を体外に出して凸にすると質量を持つようになる。　凸は出したそばから質量を失っていく。質量を失う際、電磁波（光）を放射する。ユノの場合は青の波長である。　ヴィルとノアについては閉を体外に出した際に質量を持ち、出したそばから失っていく。ヴィルの場合は赤の波長の光を出し、ノアの場合は緑である。アルマについては３色の合成であるため、白である。　質量の減少が電磁波を生じるのはＥ＝ｍｃ２を想起するが、何もないところにポッと質量が生まれるところが虚質量の特徴である。また、Ｅ＝ｍｃ２の場合は少しの質量でとんでもないエネルギーが生まれるが、ヴィードの場合は定数ｃに相当する部分が微小であるため、蛍の光のように淡い光が発せられる。このことからヴィードはミンコフスキー空間と別離しながら３次元空間に存在するか、あるいはＥ＝ｍｃ２における定数ｃに何らかの補正が掛かっているかのどちらかであると考えられる。　なお、虚質量が生まれるとその空間を占める空気中の分子は外に追いやられるので、中心ほど低気圧になる。すなわち風が吹く。しかしヴィードの体積、すなわち動いた空気の分子量は一般的に少ないため、実際に風を感じることはない。コップを真空にして蓋を取ったところで風は感じないのと同様である。　本来ヴィードは質量を持つかという疑問においては、「持たない」が適切である。　天文学的にはアトラスは地球とほぼ同じ環境であるため、重力加速度ｇはＧ・Ｍ／Ｒ２で計算される。この際すべてのヴィードが質量を持つとＭの値が劇的に変わり、重力加速度が変わってしまう。極端な話、数値にもよるが、紫苑がレインと出会った瞬間に潰れてしまうということが起こる。レインが人間の形をしている以上、ｇの値も等しいはずである。　ゆえにヴィードは質量を持たない。すなわちヒッグス場からの抵抗を受けない。しかしそれならどうやってユノで飛ぶのだろうか。ユノが何らかの仕掛けで空気中の分子を加速させその反力で飛ぶ場合、空気自体が微少な宇宙空間では難しい。　そこでロケットと同じく質量を後方に噴射し、その反力で飛ぶと考える。しかしそれにはユノが質量を持たねばならない。そこで虚質量という概念が生まれた。　質量を持ったヴィードは密度によって空気より重くなったり軽くなったりする。　ユノを燃やすと気体のようにしゅわしゅわと青いオーラが出て見える。その一方で弾にすると密度が増し、重くなる。　密度次第では鉄球よりも重くなる。戦闘時にはこれを放って攻撃できるので、原理的には銃や大砲と変わらない。また、銃と同じく撃ったときには反動が来ることになる。　飛んで行ったユノの弾は外側から随時溶けて青い光になって質量を失う。つまり徐々に小さくなっていく。なくなる前に相手に当たれば、その分の質量＊加速度で力をダメージとして与えられる。　従ってユノ弾は青い光の弾に見え、消えると霧のようになくなってしまうのである。　なお、実際には ʃclɒɪ でかき消されるため、そのままの質量を相手に衝突させることはかなわない。むろん ʃclɒɪ も ɒclle もなければ素で食らうので、nɑ 以前の人間によるものなら、生身の人間は簡単に殺傷できる。現代においてもミロクのような能力者は強力なユノを放つことができる。　ユノを使って飛ぶ際は見かけ上青い光の飛行機雲が発生することになる。　ユノを燃やしているので体の周りも青い光が取り囲むことになる。　なお、ヴォードは基本的に低密度である。光っている中の人が見えるということは、気体化したヴィードの密度が低いということである。　歴史的には ll でアルシアが虚質量という概念を考案したのが最初である。むろん考案と同時に実験的に観測されたわけではない。　最初は「なんだか分からないが、そのような物を仮定すると説明が付く」というものでしかなかった。やがて中世に入ってその存在が確認された。　ユノは密度を高めて弾として使えるが、これは uɔll のことである。uɔnʃ の場合、質量を光とともに熱に変える。すなわち熱波である。ゆえに広範囲を焼き払うことができる。ɪuɔn のように直接相手にＦを叩き込むこともできる。　ヴィルの場合、質量を持っても質量自体を鉄球のように使うことはない。例えば電磁波を吸収する闇の魔法、電磁波を発生させる光の魔法、分子の運動を高めて発火させる火の魔法、電流を発生させる雷の魔法など、何らかの科学的現象として利用する。　ノアの場合、筋肉や腱や関節や皮膚にまとわりついてこれらの代わりを務める。殴るや飛ぶという行為は筋肉が収縮して伸びることで実現される。人間の筋肉は実は伸びない。縮んだ状態から復元するだけである。また筋肉の素材からして、岩を割るほどの大きな力は出ない。もし出た場合、今度は反作用に体が耐えられない。　そこでノアは筋肉等にまとわりついて代理となることで、これらを強化する。つまりノアを帯びて殴れば岩を砕く筋力と、それに耐える骨と皮膚を手に入れられる。また、関節の代わりもするのでアクロバットな開脚なども可能になる。　ノアを筋肉や骨などに馴染ませるコツは普段から体を動かし、そこにノアを満たしていく以外にない。すなわち運動家や格闘家などが地道な練習とともに鍛え上げていくものであり、ユノやヴィルよりも先天性に左右されにくい。ユノの場合、生まれもって多いというだけで強大な ʃclɒɪ 等を持つこともありえるが、ノアは比較的そういうことが起きにくい。

ɑccμ ［形容詞］無害な ［反意語］φɪɪl ［レベル］３ @ J0

ɑccμe ［物理］回折 ［レベル］４ 1L:μcɑcɪ:ɑccμej ［文化］ 氷天の魔族ディーレスの放つヴィルは、魔法の防壁を回りこんでその後ろ側にまで侵入する。それは回折現象を利用した攻撃で、アシェットならずとも非常に苦戦した。ディーレスが語源となり、物理で回折を ɑccμe と呼ぶようになった。

ɑccμej ［魔物］ディーレス（獅狼）：第五十四天：雷の氷天 ［レベル］５ 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:ɑɪ cz/ccμe ［文化］ 精族。獅子の鬣、狼の牙、山猫の爪、狐の尻尾を持った人型の精霊。知能は精霊クラスで、非常に高く、魔力も強い。口から咆哮とともにヴィルを照射する。このヴィルは回折を利用し、魔法の防壁を回りこんでくる。多彩な白黒魔法を操る。格闘技にも長け、丈夫なノアを持つ。ユノ・ヴィル・ノアどれを取っても強力なバランスタイプ。そのうえ体力・攻撃力・防御力ともに優良。万能戦士の魔物。

ɑccze ［丁寧］紳士、男性、殿方、ジェントルマン ［類義語］ucl ［反意語］lejʃcμ ［レベル］３ J0:ɑɪcz → ɑccz（母音調和） → ɑccze（母音付加） ［語法］ lejʃcμ

ɑcczel,ɟzl ɔɔlɑ ɑclze.l

ɑccl ［形容詞］新鮮な ［反意語］φɪɪμ ［レベル］２ 1L:ɑccɪ/ʃəl（緑色のもの（まだ青い果実）） ［用例］ ［メタファー］［ポジティブ］ɑccl ɣen ɑccɪɒccl 青りンゴのように新鮮な、みずみずしい：韻を踏んでいる ×ɟɪd ɑccl → ɟɪd jccʃ 新鮮な空気

ɑccɭɣənʃ ［法律］活魚刑 ［レベル］６ 1L: 新鮮な鳥籠姫 ［文化］ アルバザードが認めていない私

刑。少女を活造りにして食べる。私刑でなく単に好みとして行われることもある。むろん、殺人罪。

ɑccɪ ［色］緑、ディーア ［形容詞］緑の ［レベル］1 1L;cnɟ e ɟcɑɑɪ 1L: リディアの目 ʃeʎ:ʃeʎɟɪ: lə ʎlen:lɪn,ɪlʃ:ɒɪzel,ɑɒ

ɑccɪíeeze ［気象］そよかぜ、そよ風 ［レベル］2 1L: 古 :ʎlccz:ʃeʎʃeeze(そよかぜ。直訳は緑風） ［用例］ʃə ɪʃ ɑɪɟɒ eɟcl ɒcl ɑccɪíeeze. そよ風が吹いて気持ちの良い朝だった。 ɑccɪíeeze ʃ'ɪlʃe ef ɑccɟə. 春のそよ風は最高だ。 ɪn ʎɪɪd ɑccɪíeeze ʃ'ɪleɪ. 浜辺のそよ風が恋しい。 ɪn ɟcc nɪ ɑccɪíeeze le leɑ ɟɔɒ zedl. 木々の間を吹き抜けるそよ風が好きだ。

ɑccɪʎɪɑ ［地球の国名］リビア ［レベル］6 1L: 国旗が緑

ɑccɪʎɪcld ［地学］緑閃石 1L

ɑccɪɑeɟ ［地球の国名］ナイジェリア ［レベル］6 1L: 意味は黒人の国。国旗の緑を足した

ɑccɪɒccʎ ［植物］青りんご ［メタファー］性的に未熟な年頃の少女 ［レベル］2 1L

ɑccɪɟɟʎ ［運動］テニス ［レベル］3 1L:ɟcɑɑɪ:ɪɟbɪlelʃ ［文化］ 野球などよりはまだ人気がある。プロの選手もいる。ルールも日本とほぼ同じ。細かい異同はある。卓球はテニスを小さくしたようなもので、ほぼ日本のものと同じ。 ［用例］ɪn ɪɟ ɑɪn ɑccɪɟɟʎ ɔʎ lɪ. 彼とテニスをするつもりだ。

ɑccɪberɟ ［経済］第三国と先進国の経済格差 ［反意語］cɒelberɟ ɑl;/ ↓ ［レベル］4 1L: 古の「緑のバナナ」と同じ。リディアによる概念。バナナは緑のうちに収穫して先進国に出荷する。そこの子供はバナナと言えば緑のものだというイメージを持つ。先進国の子供にはバナナは黄色いが、貧乏な国の子供にとっては緑の果物であるということから経済格差を指す代表的な言葉になった。とはいえ、実際第三国にそういう子供がいるのかは分からない。

ɑccɪhʎʃ ［地球の国名］カーボベルデ 1L: 国名が緑の岬

ɑccɪɟec ［料理］白ワイン ［レベル］3 ʃl: こちらは液でなく実の色から

ɑccɪɟecn ［交通］普通電車、各駅停車 ［レベル］3 1L:ɟcɑɑɪ:ɪɟbɪlelʃ: 車体に緑のライン（日暮里から乗る山手線の印象が強かったのだろうか？） ［文化］ アルバザード を走る各駅電車。各都市のアルミヴァ通り沿いに１２本の各駅電車が走っている。各駅電車は銀色のボディに緑の横線が引いてある。かつての山手線に似ている。電車の正面には何線か書いてある。

ɑccɪlccɑɪ ［地球の国名］セネガル ［レベル］6 1L: 国旗に緑の星

ɑccɪcnɟ ［生物］緑色の眼 ［レベル］3 1L

ɑccɪeíeʎ ［料理］緑茶 ［レベル］2 1L:lecn :::lɪnɟɪ,ɪlʃ, ɟɪ,ɪlʃ

ɑcɔ ［生物］歯 ［動詞］ɟel を ɪ になるまで噛む、噛む、咬む、かむ、咀嚼する ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔ（牙） ɑzccn:ɑzccn ［成句］ ɑcɔ dɔ トドメを刺す、とどめを刺す : 猛獣が獲物をしとめるときに首を噛むことから。 ［用例］ ell ɑcɔ 歯を磨く nɔn nɪ nɪə ɒcl lə en ʃcl ɑcɔ ɪljenʎ. 歯並びが悪くなくて良かったわ。 ɑcɔ cun 弱い歯 : 虫歯になりやすい歯のこと。噛む力が強い丈夫な歯というのは ɑcɔ ɑɪn。 ʎeɪ ɑcɔ 歯列矯正をする。虫歯を治すという意味ではないので注意。その場合は ʎeɪ ɟɪɒɑcɔ。 ɪn ell nelʃ ɑcɔ lc ʎecl. 毎食後、歯磨きをする。 ɪn ellɪʃ ɑcɔ lc ɑɪɪl. 朝ご飯の後、歯磨きをした。 ɪn ellɪʃ ɑcɔ ɔɔl ɔɔ ɑcɔell ʎɔɟ lʃɪɟ ɔ ɟɪnʎ. 歯ブラシを上下左右に動かして磨いた。 ɪn ell ɑcɔ ɒcɟʎɪnel ɔɔl ɔɔ ɑcɔell ʎɔɟ lʃɪɟ hɔʃ. 歯ブラシを上下に動かすだけで歯を磨こうとしている。

ɑcɔʃ ［植物］シソ、紫蘇 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔʃɔ（歯、匂い）。歯は紫蘇の葉の形をいい、匂いは紫蘇が強い匂いを持つところから付けられたもの。

ɑcɔʎlcɟ ［医療］はぎしり、歯軋り、歯ぎしり ［レベル］3 1L ［擬声］ɸlɔl（寝ているときのゴリゴリという鈍い歯軋り。歯と歯が滑らかに伸びるように接しあい、鈍く岩のように軋みあう） ［用例］ ɑcɔʎlcɟ e dɪdɪ ɪʃ lɪu ʃcnʎɪ ɑɔ ɸlɔlɸlɔl enʃɔ nɔn lcɑɑɪ ucl ɜɜn. パパの歯軋りがゴリゴリうるさくて、眠れなかったのよ。 ʎlʎɪ ɪɟ ɑcɔʎlcɟ uɪɟ ɒɔʎ. お父さんは寝ているときに歯ぎしりをする。

ɑcɔɟɔɟʃ ［形容詞］歯がカチカチいうほど寒い ［レベル］3 1L

ɑcɔn ［形容詞］ギザギザな ［反意語］ɪlɑcɔn ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔnɪ（歯） ɑcɔl le ʃcl ʎcl ɑcɔn 刃がギザギザな鋸

ɑcɔnʎɪɑ ［地球の国名］バーレーン ［レベル］6 1L: 国旗がギザギザ

ɑcɔnhɪʃ ［言語］歯状体 ［レベル］6 1L ［文化］ ʃɪdhɪʃ を元に作った書体。驚きや怒りなど、激しさを表す。

ɑcɔnɪ ［魔法］ホワイトゴールド ［レベル］5 ʎɟ;ɑcɔnɪ,ɟzl ʃl ::lə ɑcɔnɪ ［文化］ 金と銀が７５０：２５０の合金で、最低魔圧で ɑcɟ を蓄える。

ɑcɔnɪ,ɟzl ɑccɸ

ɑcɔnɪʎl ［動詞］ɟel の歯を見せて苦笑いする、苦笑いする ［再帰動名詞］苦笑い ［レベル］4 1L:ɒe lcɑɑɪ ɪʃ/e ［語法］ 気まずいときにごまかすように使う。 ［用例］ʎ ɪɟɪʃ ɑcɔnɪʎl ɪʃ ɪn ɒɪn nɪ cʎɟ. 彼は気まずくて歯を見せて苦笑いした。

ɑcɔnɪʃ ［動詞］ɟel に歯を見せて笑わせる、大笑いさせる、大笑いする ［再帰動名詞］大笑い ［レベル］3 ʃl

ɑcɔuɪnɔ ［生物］天容 ʃl

ɑcɔuɪʎɟ ［医療］歯科医 ［レベル］2 ʃl

ɑcɔuɪʎɪ ［医療］歯医者 ［レベル］2 ʃl ［用例］ɪn ʎeʃ ɑcɔuɪʎɪ cɒ ɑcɟ lɪnɪ ʎeɪ ɑcɔ. 今日は歯の矯正に行った。

ɑcɔɑɔ ［言語］唇歯音 ［レベル］6 1L

ɑcɔɒ ［生物］こめかみ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔɒɪcn（物をかむと動く部分）の意 ［用例］ɑcɔɒ eɒ ɔu cɒ el ɑcɔ ɑc. 物をかむとこめかみが動く。

ɑcɔɒɪʃ ［動詞］ɟel を ɪ（場所など）に噛み散らかす、噛みちぎる ［レベル］3 1L:lecn ［用例］ɪuɔɒ ɑcɔɒɪíɪʃ ɟeʎ ɪl ɪʎɔ. 狼が肉を地面に食い散らかした。

ɑcɔɒɪnʃe ［人名］ディオマンテ ʃl0 ［文化］ (ɟeəɒɪ ʕ9ʔʃ:ʕΔΔ0(ʕ9ʔ:ʕΔΔ0)) カコ前期のヴェマの女王。 ɟeəɒɪ ʕ9ʔʃ イーハル、娘の ɑcɔɒɪnʃe を産む ɟeəɒɪ ʕΔΔ0 ディオマンテが戦死。イクスタンが即位

ɑcɔɒc ［魔物］ディオミ（咬扉）：第七十四天：邪の陽天 ［レベル］5 1L:ɟcɑɑɪ/ɟeɟen/ɒel:ɑcɔ/ɔɒc（咬む扉） ［文化］ 憑族。扉や壁に憑依した魔物。開けようとするとカブっと噛みつき、気付いたら手から先がなくなっていたということも。

ɑcɔɒclɔzeʃ ［天文］アンカ 1L:ɟcɑɑɪ/ɟeɟen/ɒel ［文化］ ocnz の魔法で空間を歪めたメルは、ディオミを扉の中に封じ込めた。扉を、扉の中に封じ込めたのである。そしてメルはその扉が開かないよう、鍵を放り捨てた。その鍵は光となり、アンカになった。

ɑcɔɒelc ［名詞］デンタルフロス、糸ようじ、糸楊枝← ɒelc ［レベル］2 ʃl;/ ʃl ［用例］ɪn nɪʃ eɒ ɑcɔell ɑe ʃəuɪl ɒɪn ej nɔʃ ɪ ɑcɔɒelc. フロスに慣れると歯磨きだけでは気持ち悪くなってしまった。

ɑcɔɑɔl ［医療］歯石 μɑ;ɑcɔelʃɑɔl「歯垢でできた石のようなもの」 ［レベル］3 ʃl ［用例］ɪn je jcl ʎe ɪl ɑcɔuɪʎ lɪnɪ jɔlɟ uɪlɟ jeɑ ɑcɔɑɔl. そろそろ歯石を取りに歯医者へいかなければ。

ɑcɔdcʃ ［医療］歯科 ［レベル］2 1L

ɑcɔɟel ［人名］ディオレール ʃl0 ［文化］ ɟeəɒɪ ʕ9ʔΔ 国王派の過激派 ɑcɔɟel がメリウセルの暗殺を企てるが、強力な ɒesʃel により失敗 同月 メリウセルが報復でじきじきにディオレールを暗殺。国王派との内乱が勃発する

ɑcɔl ［名詞］のこぎり、鋸 ［動詞］ɟel を鋸で切る、切る ［レベル］2 1ʔ: 制

ɑcɔlɪleɪ ［地学］リアス式海岸 ［レベル］4 1L

ɑcɔleeu ［物理］ノコギリ波、鋸波 ʃl

ɑcɔɟel ［動詞］［非言語］ɟel の歯を見せて笑顔を見せる、微笑む ［レベル］3 ʃl0:ɒelcɑɑɪ lceɟ

ɑcɔelʃ ［医療］歯垢、歯糞、歯屎、歯滓、歯クソ、プラーク ［類音］ɑcɔell μɑ;/「歯の汚れ」 ［レベル］3 ʃl ［用例］ɟeɑ ɑcɔelʃ lɪnɪ en ʃcl ɑcɔɑɔl 歯垢がたまらないように気をつける＝歯石にならないよう歯垢を取り除く。

ɑcɔell ［名詞］歯ブラシ ［類音］ɑcɔelʃ ［レベル］2 1L ［文化］ 歯磨きは朝起きたとき、寝る前、食事の後に行う。最高六回だが、磨きすぎは歯に毒なので実際はそんなに磨かない。電動は普及していない。 ［用例］ɪn euɪʃ eɟ ɪ ɑcɔell ɑə lɪl. 歯ブラシに水を少しかけた。

ɑce ［料理］シチュー ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑcɪe リディアの水。リディアはシチューが好物で、そこから取った。

ɑceɟɟ ［名詞］多意、多義、多解釈 ［形容詞］多意的な、多義的な、多解釈を許すような ［反意語］ʎɔeɟɟ ［レベル］5 μɑ:ɒel;/ ʃl0:ɒel

ɑcen ［魔法］ディエン ［レベル］6 ʎɟ;ɑcɔnɪ,ɟzl ʃl:ɟcɑɑɪ ［文化］ 1 立方 ɑɪcnɟəɑɑɟ が蓄えることのできる ɑcɟ の量。

ɑcenhɪʃ ［言語］平滑体 ［レベル］6 1L ［文化］ ビットマップを含まないフォントは、小さいサイズだと画面に表示したときにギザギザに見えてしまう。それが見づらいため、ʃelɪhɪʃ のように縦線と横線だけでなるべく文字を表現した。縦横だけでアウトラインを組むと、小さいサイズで表現されたときもそこまで汚く見えない。カクカクしたアウトラインなのに平滑と名付けられているのは、画面での見え方を根拠に命名してあるため。メル 10 年ごろに使われていたが、ビットマップフォントができてから使用されなくなった。

ɑceɟ ［名詞］洪水 ［動詞］ɟel を浸水させる、浸水する ［レベル］3 1L ［用例］eɟʎɪʃ ɑɔl ɑcl ʃcn enʃɔ ʃə eɟʎ ɑceɟcʎ lcɪl. 雨が長い間降り続いたせいで、街が浸水した。 ɑɔnʃ eɒɪʃ ɑceɟ. 道が洪水した。

ɑceɟɑcl ［建築］堤防 ［レベル］3 1L:ɒelcɑɑɪ ɪlcɟ

ɑceɟɸcl ［気象］洪水警報 ［レベル］4 1L ［用例］cɒ ʃə ɑɪɟɒ, ɑceɟɸcl ɪʃ ʎlɪʎ. 今朝、洪水警報が発令された。

ɑcel ［単位］メガ ［レベル］3 ʃl:ɑcɪleʃ

ɑɔʃ ［形容詞］激しい ［反意語］lcɑ ［音楽］スフォルツァンド、フォルツァンド、リンフォルツァンド ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑɔɑ（水流の激しい音）から。以前は神無アルカの ɑeʃɔlɔcɑɔ から ɑeʃ を作っていたが、ɑeʃɔlɔcɑɔ を消したため、古の ɑɔɑ から改めて ɑɔʃ を作り直した。

ɑɔʃʃɪ ［経済］特需 ［レベル］4 1L:「どっちゃ」という発音はアルカには珍しい。

ɑɔʃnɔl ［動詞］ɟel を ɪ に殺到させる、殺到する、群がる ［レベル］3 ʃl0: 激しく集まる ［用例］ʃɪeɪn ɪʃ ɑɔʃnɔl ɪl ɪʃe. 客が店に殺到した。

ɑɔʃhɪɟʃ ［形容詞］焼けるように暑い ［レベル］3 1L ［用例］ɑcɟ ɪʃ ɑɔʃhɪɟʃ. 今日は焼けるように暑かった。

ɑɔʃlə̀ɔ ［交通］硬着陸 μɑ;/ ʃl

ɑɔʃíɒ ［経済］セール、商戦 ［レベル］3 1L

ɑɔl ［形容詞］幅広い ［反意語］ɸeʃ ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɑɪlɪ（場所が多い）

ɑɔʎlɑlɔl ［動詞］ɟel（選択肢など）の幅を広げる ［反意語］ɸeʃíeʃ ［レベル］3 ʃl0 ［用例］lɔɒ nɔn ʎɔɟ alen cɒ beezel ɔnʃ cluɪ hɔʃɣ ɟen ɑɔʎlɑlɔl zcʎɔ e. じゃあ私が出ていいのはベーゼルとイルヴァの曜日だけ？もっと選択肢をちょうだいよ。

ɑɔl ［化学］発酵 ［動詞］ɟel を発酵させる、発酵させる、発酵する ［反意語］ɸeɟ ［レベル］3 @ ʃl

ɑɔʎlə̀lɪlɪ ［料理］発酵食品 ［レベル］3 μɑ;/ ʃl ［用例］ɪn ʎəc ɑɔʎlə̀lɪlɪ cɒ lɔl eʃ ɪucl. お腹の調子が悪い時は発酵食品を食べる。

ɑɔɟ ［格詞］メティオ語の絶対格を示す格詞。 ［反意語］ʎɪn μɑ;ɴɒe ʃl0

ɑɔɟɟɪɒe ［言語］絶対格 ［反意語］ʎɪnɟɪɒe μɑ;/ ʃl0 ［語法］ 自動詞の主語と他動詞の目的語が同じように標示される場合、その格を絶対格と呼ぶ。

ɑɔɟɒ ［名詞］中身、内容、内面、精神 ［名詞］内容、本文、辞書の本文 ［電算］［名詞］本文 ［反意語］ɔʎɒɪ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɑɔɟ,ɑeɟ が dɔʃ,deʃ の代わりになっている。中の体 ɑɔɟɒɪc（「内容」を体（身）と捉える点が日本語と同じ発想法） ［用例］ʎɪ ʃcl ɑɔɟɒ μɪʃ. 彼は中身が良い＝性格が良い、徳が高い。

ɑɔɟɒeu ［言語］本文。手紙の本文も。 ［レベル］3 ʃl0

ɑɔɟɒɑɔʎl ［建築］内装 ［レベル］3 1L:ɟcɑɑɪ:ɪɟbɪlelʃ ［文化］ 壁には壁紙を貼る。外界からの隔絶のため、窓にカーテンはかける。朝昼用の薄いカーテンと夜用の濃いカーテンの二枚がふつう付いている。カーペットは少ない。ダニの温床となるからである。特に猫や犬がいると毛が溜まって不衛生になりやすい。アルバザードは大抵犬猫を飼うので、アレルゲンを溜めやすいカーペットは好まれない。床はフローリングが好まれる。床暖房などの装置を付けて暖かくすることもある。

ɑɔɟɒɟec ［電算］［言語］本文検索、全文検索 ［レベル］4 μɑ;/ ʃl0

ɑɔnʃ ［名詞］うずき、疼痛 ［動詞］ɟɔl（炎症など）が ɟel（患者、部位など）を疼かせる、疼く、しみる、沁みる、うずく ［医療］疼痛 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 恣意 ［語法］ ふつう nɪ 型で使う。 ［用例］ɪn nɪʃ ɑɔnʃ ɔn sɪɒ ɒcl ʃə ɟɔɑ. 胸の痛むお出来事だった。 ʃə ucl ʎɪen ɪʎl ɑɔnʃɪnɑ sɪɒ ʃɪn. この腕の傷のせいで胸まで疼く。

ɑɔnʃɔn ɟɪn ［娯楽］どんとんさん ʃl:ɑɔnʃɔn は ɪlʃ の擬態語 ［文化］『となりのトトロ』に相当するアニメ。

ɑɔnl ［工学］鋳型、何かの型、パターン、型紙、雛型 ［動詞］ɟel を ɪ にあてはめる、あてはめる、当てはめる、当てはまる、あてはまる、はまる、ハマる、嵌る、はめる、嵌める、ハメる ［数学］代入する。当てはめるという意味。 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ɑɔlɒɪcn（石の形） ［成句］ μɔʎ, ɟɔn el eɒ ɑɔnl. 押せば嵌る：ある程度無理強いすれば、矯正できるという意味。無理なことでも無理に通せばどうにかなるという意味。

ɑɔnʎe ［料理］パテ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɔnl

ɑɔnɟ ［動詞］ɟel を ɪ に分解する、分解する ［化学］［普通動名詞］分解、化学分解 ［反意語］ʎɔd ［レベル］4 ʃl0:ɑɔnɟ:1L:μcɑɑɪ: 恣意

ɑɔnɟɪn ［生物］分解者。生態学における。 ［レベル］5 nɑ;/ ʃl

ɑɔnɟɔ ［工学］［普通動名詞］鋳造 ［動詞］ɟel を鋳造する、鋳造する ［レベル］5 μɑ;ɑɔnl/ɟɔ ʃl

ɑɔnɟɔl ［工学］鋳物 ［レベル］5 μɑ ʃl

ɑɔnɸ ［擬音］ドン、どん、ゴン、ごん、ガン、がん、がっ、ガッ ［レベル］2 1L ［語法］ 物が乗り上げたり、ぶつかったり、衝撃が加わったときの音。 ［用例］nee ləɪ, ɟɪɪ ɑɔnɸ ləɪnɪ uɪn ʃc ɪnʃcɟee. はいお客さん、ドンッてなりますよ：人力車の運転手が境界を乗り上げるときに言う文句。

ɑɔnɪ ［名詞］挫折 ［動詞］ɟel をくじかせる、くじける、挫ける ［レベル］3 1L:ɑɔɒnɪ（折れる心） ［用例］ɪn ʃclɪʃ ɑɔnɪ ɒɪn nɔɟ ɟeɸ ucl ɒɪnɪlɪ. 大学を卒業できなくて挫折した。

ɑɔneʃ ［論理］外延 ［反意語］ɔʎcl ［レベル］5 ʃl0:ɑɔnl/ʃe（鋳型に嵌った）

ɑɔu ［名詞］勢い、勢力 ［レベル］3 ʃl:ɑɔʃ/enuc

ɑɔɑl ［名詞］燃え残り、灰 ［レベル］3 1ʔ: 制 ［用例］ʎeʃʃɪ, ɪuelɪnʃ. ɑeɟ ɟeʃ uɪn ɑcɟ ɪ ɑɔɑl. 来いよ死神。灰にしてやらぁ。

ɑɔɑlhɔɟ ［名詞］灰皿 ［レベル］3 μɑ;/ ʃl0

ɑɔɑlɪʎɔn ［地学］［植物］黒ボク土 ［レベル］6 1L:μcɑɑɪ ［語法］ 火山灰による土壌。

ɑɔɑleʃ ［地名］ドフレット ［レベル］5 1L: リディアの書 : 灰の街 ［文化］ アルバザード北東部の都市。アルシアよりは南だが、山が＼状になっているため、東部の最北はドフレット。ここを越えるとケートイアのアデュに入る。魔列車の通過地点。

ɑɔɒ ［動詞］ɟel を ɪ（完成品、二つ折りなど）に折る、折る、折れる ［動詞］ɟel（再帰）をかがませる、屈む、前かがみになる→ ʎɔls ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɔɟɒn:ɑɔc ［用例］ɑɔɒ ɒɪɟ ɪ sɪɒd 紙を折って飛行機を作る ʃə ɑɔɒcʎ nɔɟ. 彼女は前かがみになった：ʎɔɟ lc とあれば反り返った。

ɑɔɒʃ ［形容詞］典型的な、代表的な、プロトタイプの ［反意語］ɪlɑɔɒʃ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɔnʎ（恐らく当時の「鋳型」という単語ではないか）

ɑɔɸ ［動詞］ɟel をかじる、かじる、齧る ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 ɑzchɔɸɟɟ ［成句］ ɑɔɸ ʃɔɪ 鼻をかじる：甘える、じゃれる：ルシアが０歳のころ、同じ籠に寝る兄ユルトの鼻をかじっていて、どうもそれが本人としては歯がかゆいのか知らないがじゃれているように大人たちに見えたことから。 ［用例］ʎe ɑe ʃɔu. ʃcɔ, ʎɪɟ ɑɔɸ ʃɔɪ e ʎɔʎ. あれはケンカじゃないよ。単にお互いじゃれてるだけ。

ɑɔɸɒɪ ［アトラスの国家］ドグマ ［レベル］5 ʃl:μcɑɑɪ

ɑɔdɒ ［名詞］チケット、切符、切手、入場券、乗車券、許可証、券、１枚のクーポン券、クーポン券、クーポン ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɑɔdɒɪɟ（許可の紙）

ɑɔμ ［動詞］ɟel を ɪ（状態）に割る、割る ［動詞］ɟel を割り引く、割り引く← ɸɪμʃɑɔμ ［魔法］ドル。土の高位黒魔法。対象を石にしたのち、粉砕する。 ［レベル］2 古 :ɔμn ［語法］ ɑɪɟʎ ［用例］ɟen ɑɔμ ʃə ɑecɒ ɑə 1000 ɟɔlʃ. このスピーカー、１０００ソルト負けてくれないか。

ɑɔμɒ ［芸術］折り紙、折紙、おりがみ ［レベル］2 μɑ;ɑɔμ/ɒɪɟ.ʎ ʃl0 登録だが造語年は ʃl1 ごろ ［文化］ ɟɒ で凪人がもたらした。

ɑɔμɒɪɟ ［経済］割引券、クーポン← ɸɪμʃɑɔμɒɪɟ ［レベル］3 ʃl ［用例］cɒ ɑəɟne, ʎɪɪl ɟeʃíʃ ʎɔʎlɔ ʎɪd ɟel nɔn ɒelɑ ɑɔμɒɪɟ ʎɪen μɪ. 夜、母から電話で割引券を家に忘れたので持ってきて欲しいと言われた。

ɑɔμɒɪɸeɟ ［植物］アケビ、あけび、木通 ［レベル］4 ʃl:「割れた花の腐ったような」

Ω

ɲɔɲɒccʃ ［植物］花梨、かりん、カリン ［レベル］3　nɑ;ɒccʃ ɑɔɲ. uɪɲ ɪlʃcɪ.　JJ

ɲɔl ［地学］石、岩石 ［地学］ɲen に対して一般的な鉱物を指す ［魔法］ドル（ブレイク）。土の中位無魔法。相手を徐々に石化させる。ラルトやハブスクレアで解除できる。 ［レベル］1　ɑ;e　古 :ɲɔl は ɱ 年ごろで、ləɲɔ（宝石）を読み替えたもの　ɲɔl, hɔjə:ɲɔl:lə ɸɪlʃɔ:hɔnɔ,ɪlʃ

ɲɔlʃ ［名詞］印、紋章、マーク、目印、マーカー ［音楽］セーニョ ［類義語］ɪdɪ ［レベル］2　古 :ɲɔl（石）から。セレンとリディアが」年ごろ遊んでいて石を目印に使ったことから。この時点では「石」と「目印」は同形で、共に ˥cbc。˥cbc は ɱ 年に ɲɔl ができると消えた。ɲɔl には目印の意味もあったが、やがて目印は ɲɔlʃ という語形で分離した。その後、1Λ 年に ɪʃɪd と分別が難しいため、紋章や腕章などの印という意味に変えられた。 ［語法］ɪdɪ

ɲɔlʃɥecn ［音楽］フレット ［レベル］4　JI

ɲɔlʃe ［アイテム］ドルテ ［レベル］4　ɥcɑcɪ: 古 ɲɔlʃeeze（風の石）から。 ［語法］ヴァストリアのひとつ。クノンのもつ封石。弱い敵を一斉に吸い込んだり、強い敵からヴィードを大量に吸い込む力がある。

ɲɔʃl ［名詞］飾り、かざり、飾り物、飾りつけ、粉飾 , 装飾品、置物、つま（けんつまなど）、付け合せ、観賞用、鑑賞用、形骸 ［動詞］ɥəl を ɪ に飾る、飾る ［建築］内装、外装 ［副詞］形式的には ［言語］修飾する、修飾語 ［数学］係数← ɲɔʃlɪ,ll ［レベル］2　1?: 制 :ɲɔl(石),ləɲɔ(宝石) から　:::fəɒɪlə,ɪlʃ ɪhɔlə,ɪlʃ ［文化］ミロクは装飾には寛大であった。服で規制をした分、装飾には甘かった。だが実際はアルティスが装飾品にはヴィードが宿ると考えていることが甘かった理由である。装飾品には身に付けた人のヴィードが宿る。服にはあまり宿らないとされている。これはなぜか。服はサイズによって着回しが利く利かないが、装飾品は誰のものでも着けられる。この汎用性の無さが原因で服にはヴィードが宿らないと考えられた。特に神話に登場するキャラクターと同じ名前やそれに関連する名前を持つ者にとってエーステというアクセサリーは意味が大きい。エーステは古アルカの幻字を象ったアクセサリーである。たとえばミールやクミールといった名前の人間には古アルカの「ъ」の字を象ったアクセサリーが生まれたときに与えられ、生涯大事にされる。学校や職場でも装飾は許される。全く注意されることはない。首飾りを着けようと指輪を嵌めようと全く問題ない。但し、食品関係は衛生上問題があれば外すことが義務付けられる場合がある。ところで、装飾の中でピアスなど体に穴を空ける類の物は特別な意味合いを持つ。本来、穴を空けることは痛みを伴う。一種の自傷行為である。自傷行為はアルティスによって禁止されている。ゆえにピアス類は反アルティスの表われと取られることがある。ところがこれと全く逆で、ピアス類がアルティスの敬虔な証とされることもある。神を表わすものや神の力が宿るピアス類を付ける場合、体に穴を空けることが神との強い交信を表わすことになる。これは敬虔な信者の証である。ただしピアスを開ける場所は耳のみ。神の声を感知しやすくするために耳に着けるからである。 ［用例］　cɒ ˥ejʃ, ɪn ɲɔʃl ˥e lɪɑ, oɪcɒ ɪnʃej ˥ɪ ʃeɒ˥ ɪlnɔɑ ʃc˥nɔ. 明日は 9 時から☒蔵へ☒飾りをしに行かねばならない。

ɲɔʃlɥef ［言語］修飾語← ɲɔʃl ［レベル］4　ȣ

ɲɔʃlɪ,ll ［数学］係数→ ɲɔʃl ［レベル］4　1L

ɲɔʃlen ［美容］カチューシャ ［レベル］4　J1:ɲɔʃl/en

ɲɔʃlɥɒn ［魔物］ドルケルン（石鳥）: 第二十三天：風の巨天 ［レベル］5　1L:ɥcɑcɪ/jɒɥen/ɒel: 石の翼 ［文化］大型の鳥で、嘴で突かれると石になってしまう。風の魔法を使って風を操ってくるため、弱点である風の魔法で攻撃しようにも相殺されて巧くいかない。翼をはためかせると無数の羽を弾雨のように降らせてくる。それに当たると体が徐々に石化する。高山によく棲息する。 ［成句］　ɲɔʃlɥɒn eɒ ɲɔl ɒcl ˥eɒn nɔzeʃ ミイラとりがミイラになる。早口言葉でもある。

ɲɔlj ［普通動名詞］しつけ、躾 ［動詞］ɥəl を ɔn に関してしつける、しつける、躾ける ［レベル］2　J0:ɑɪz/ʃɔll → ɲɔll → ɲɔlj（ʃɔll と似るため） ［文化］子供の躾は厳しい。奔放に育てて才能の芽を伸ばそうというアメリカ的な発想ではなく、規範的で大人しく思慮に富んだ人間にしようというフランス式に近い。じっとしている訓練を子供のころからさせ、騒いだりすることを抑制させる。下らないことを言えば無視して受け入れられないことを示し、人と話しているときに割り込めば無視してこれを制す。　子供が言うことを聞かない場合はなぜいけないかの理屈を提示し、「いいからやるな」という態度を取らない。この点では日本と異なる。また、なぜいけないかだけでなく、それをやった場合にどういう報いが訪れるかを提示して警告する。子供は理屈を介さない動物と考えているため、罰則で縛ることを良しとする。理由を言っておくのは、今やめさせるためでなく、後になって分かるようにするため。従って、理由＋罰則の二段構えで叱る。　体罰は日本やフランス同様公然と行われ、人前でもはたかれる。日本の場合、人前だと避ける傾向にあるが、アルバザードは正義を貫くことを優先するため、むしろ自分の家がしっかり躾をしていることを示す機会になると考え、あえて人前でも叩く。なお、体罰といっても虐待するわけではなく、絶妙な加減で叩く。虐待は即座に民衆によって止められる。　なお、体罰は原則的に母親によって行われ、父親はいくつかの例を除いて子供を叩かない。ただし、格闘訓練を息子に行う場合は当然のことながら打突する。　＜典型的な躾の例＞　母「ニンジンを食べなさい（←アルバザードのニンジンは栄養重視で品種改良されてきたため、味にクセがあるから子供はたいていニンジンが嫌い。しかしニンジンは体を温める効果があり、アルティス教で最も重要とされる野菜のひとつなので、親は食べさせようとする）」　娘「いや！」　母「ニンジンは体にいいの。体を温め、栄養も多いのよ。食べないとお尻叩くわよ」　娘「いや！」　母、娘のパンツを引きずりおろし、尻を叩く。娘、激しく泣く。母、力ずくで食べさせる。娘、吐く。母、頭を殴る。見かねた父親が来て止める。父親は食べたらおやつをあげるという「プラスの条件」を提示し、母は「食べるまでテーブルを去らせない」と「マイナスの条件」を提示する。娘、我慢して食べる。　＜女子の年齢と躾＞　女子は１０歳までに人格が固まり、それ以降男子と違って矯正することがほとんどできないと考えられている。女子は叱られても反省せず、怒られた私可哀想という発想をする。また、客観的に物事を見ることができず、論理的であることはむしろ拒む。それゆえ反省しない生き物と考えられ、猫のような生き物と見なされている。　男子は上下関係を重んじ、力関係を意識する。典型的な犬型の生き物なので、矯正が効く。むしろ男子は少年期はやんちゃくらいなほうが後から大成する。一方女子は１０歳までにギャルだった子がマザーテレサのようになることはなく、水商売、ソープへとどんどん落ちていく。　そのため、アルバザードの親は女子の幼児教育を重要視し、特に躾を厳しくする。また、伝統的に魔導師が女だったことから、学問も男子より積極的に教える。よって、特に上流階級の女子は躾が行き届き、知能も高いという構図が生まれる。

ɲɔlɪ ［形容詞］荒廃した、無機質な、機械的な ［レベル］3　1L: 灰色の心

ɲɔlɑ ［色］灰色、ドルフ ［形容詞］灰色の、灰色い、はいろい ［レベル］2　1L: 制 :ɲɔɑ.　::lə lɪ ɲc czel（lə は濃い灰。lɪ は明るい灰）

ɲɔlɑ˥ɪnɔ ［地球の国名］ヨルダン ［レベル］6　1L: 国章に灰色の鷲

ɲɔlɑɒel ［名詞］灰色時代、暗黒時代、黒歴史 ［類義語］ueɲjeʃɪ ［レベル］4　ɥɑ;/　JI ［語法］［文化］　ɲəəɲɒel

ɲɔlɑɥʃ ［魔法］灰魔法 ［ユマナ］赤魔法。ファイナルファンタジーの。 ［レベル］3　ɥɑ;/「黒と白の間だから灰色」　JI ［文化］黒魔法と白魔法の総称。実際には低位黒魔法と低位白魔法の総称であることが多い。

ɲɔlɑɥʃɪn ［魔法］灰魔導師、灰魔道士 ［ユマナ］赤魔道士、赤魔導師。ファイナルファンタジーの。 ［レベル］3　ɥɑ;/　JI ［文化］黒魔法と白魔法両方を使える魔法のエキスパートだが、人は黒か白どちらかに適正があることが多いので、灰魔導師の数は少ない。両利きやバイリンガルのようなものである。　日英のバイリンガルが結局日英ともに満足に喋れないことがありがちなように、灰魔導師もたいていは低位の黒魔法と白魔法しか使えないことが多い。　あの史上最強の大魔導師リディアですら黒魔法に特化しており、白魔法は苦手としていた。

ɲɔlɑcnɟ ［生物］灰色の眼 ［レベル］4　1L

ɲɔlɑen ［医療］ドルフェン ［レベル］5　J1:ɲɔlɑ 属格 ［文化］˥ɪɒelɔɪ

ɲɔlɑelen ［法律］議定書　ɥɑ;/「灰色のテーブル」 ［レベル］4　JI ［文化］国家間で結ばれる国際法上の成文法（広義の条約）に対して付けられる名称のひとつ。ɥɑ でアルバザードのファルシアン宮殿の一室が会議室になっており、そこに灰色のテーブルが置かれており、そこで制定されることが多かったため、このように呼ばれるようになった。

ɲɔlɒ ［地学］化石 ［レベル］3　1?: 制 :ɲɔʃləɒ（石に入った動植物）

ɲɔlɒcɥə ［魔法］ヴィード論、ヴィードエン、魔法学、魔法理論（正確には魔法だけでなく霊力なども含むが、魔法で代表される） ［類義語］ɪɥucnɪ ［アクセント］ɲɔlɒЄɥə ［レベル］3　J0:ɲɔləə ɥɪ/ɒccɥ（館の理論）館の字 ɲɔləəɥɪ が三角錐で、ヴィードを構成するユノ・ヴィル・ノア・アルマがアルマを頂点とする三角錐をモデルとすることから。cɥ の音が ɥə に聞こえて変化したもの。アクセントは ɒc にある。 ［文化］　→ ɸɪleʃ, ɥənɔ, ɪɥʃɑɥcɒ, ɲccɥə, jeleɟ, nɪɪɥə, ˥nɔ ɔɔɟenuc ほか多数　＜魔法学と科学＞　ヴィードに関する学問を ɲɔlɒcɥə（ヴィード論、広義の魔法学）とし、それ以外（ɪlueɑ）に関するものを ˥ɪɒc とする。この分類は 11 でアルシアが始めた。　ɲɔlɒcɥə と ˥ɪɒc は互いに独立しつつも関連しあって発達した。両者は ʃɒ の時代に萌芽があるが、どちらも経験的知識にすぎなかった。　上代では磁石や静電気が知られ、琥珀が薄い紙を吸い寄せる現象などが認知されていたが、経験的知識にすぎなかった。　11 では enuelen ができ、11 後期ではアルシアが魔法の分類を行う。　中世になると魔法工学や錬金術といった分野が登場する。錬金術は医学の発展を、魔法工学は工学の発展を促した。　近世になるとほとんどの人が ɒccɑ を使えなくなり、魔法学は衰退し、科学が独走する。魔法を研究してもそれを再現できないのであれば役に立たないため、研究費が割かれなくなった。　革命後はミロクが召喚省下に魔法研究所を置いたため、多少持ち直した。ɥɑ でリディアが書いた魔法学の集大成 ɪɥʃlel に研究所が出した成果を加えて再編集した。しかし税金の無駄遣いと非難されることもあった。一方科学はこの間も幅を利かせていく。　ls になるとクリスタルにより人自体がヴィードを失ってもその力を利用できる時代となった。この結果魔法学は再発見され、現代科学と融合して実用されていった。　＜魔法学史概説＞　・フィアル　ɑl では既にヴィードが存在したが、言語自体が存在しなかった。　・アルテム　ʃɒ で初めて言語 (ɑ) ができると、エルトとサールは ɒccɑ, ɥənɔ, ɒcɥ, nɔɪ, ɪɥɒɪ を命名した。　体内の閉眺を体外に出すことでヴィードが光を発するため、彼らはそれを意識することができ、命名につながった。　ユノやヴィルといった種類を細かく命名できたのは光の色が違い、主観的に識別できるためである。　・ヴァステ〜ラヴァス　ɥj で神と悪魔が戦うと、ヴィードに軍事的な利用価値が生まれるが、言語的な概念が細分化されるには至らなかった。　むろん神々は経験的に hɪnɔn としての ɥənɔ などの存在を知ってはいたものの、それらを細分化して命名する必要性を感じておらず、ユノで攻撃する力というような句で表現していた。　この傾向は戦間期の ɟɥ はもとより、ɲu まで続く。　・アズゲル　zɸ になると人類の時代だが、人類は神に比べてヴィードが弱いため、少ないヴィードをどう効率的に活かせばよいかと考えた。　その結果、魔法学が芽生えることとなる。芽生えたのはシージアにおいてである。後に伝統の国ルティアになるシージアだが、zɸ においては最も栄えた国際都市であり、他民族・多言語・多文化・多変化という激動の坩堝にあった。　シージアで芽生えた魔法学は理論よりも実践重視で、魔法学というよりは実践論であった。　ほとんどが魔法を強化するための呪文の考案と実践で、いかに効率よく魔法を使うかが主眼であった。　それゆえ少ない魔力で大きな効果が出ると経験的に知られていた呪文が注目された。　結果、どうすれば効率よく魔法が撃てるかという呪文学が起こり、魔法学の源流となった。　また、呪文以外に宝石などが魔法を強化することも知られていたため、eɪn を利用して魔法を強めるための学問も生まれた。これを魔石学という。　魔石学は後の錬金術につながる。また、鉱物だけでなく植物も使うことがあったため、lə˥leʃcɪ（漢方医学）の発展にも寄与した。　実際 zɸ 後期の魔石学者は同時に医師でもあった。後に魔石学は錬金術や漢方に本格的に分化していく。　なお、ユノやノアについては出して打つなど仕組みが単純で扱いが簡単なこともあって、研究の中心は魔法にあった。　・メルテナ　ɒʃ では召喚士が力を持ったことで召喚学が台頭し、その結果相対的に呪文学は後退する。　しかし召喚学は結局のところ少ない ɒcɥ で神を呼ぶための技術であるため、本質的には呪文学や魔石学と変わらない。従って、呪文学者や魔石学者が場合に応じて召喚学者を自称した。　しかし召喚にはサリュなど、呼びやすい空間といった従来の魔法にはない概念があるため、魔法学全体としてはここで「儀式性」や「契約」といった要素が新たに加わることになった。　・呪文学　呪文は魔法の効果を高めると考えられ、効果をより高めるための呪文が開発された。　開発といっても経験に基づくもので、このように読んだら効果が高かったという伝承が形式化したものである。　呪文の効果については ɟɒ 以降明らかになる。（後述）　なお召喚学は呪文学をベースに儀式性などを加味したものである。　・カコ（アルシア以前）　11 で召喚が廃れて魔法の時代が返り咲くと、呪文でも魔石でも儀式でもない新たな視点に目が向けられるようになった。人類はますます弱くなったので、ɒcɥ の強化は望めず、呪文や魔石によるブーストも頭打ちであった。　そこでより無駄なく ɒccɑ を使う方法が求められ、ヴィードはそもそも何なのか、どうしてユノなどの力が作れるのかといった問題と向き合うこととなった。原理を知ることで効率よく使おうとしたのだ。　研究はルティアから始まった。これが狭義の魔法学の始まりである。（広義の魔法学は ɲɔlɒcɥə）　今まで大雑把だった ɥənɔ などを用途ごとに hɪnɔn、pclle などと分類した。そして enuelen が生まれる。→ enuelen を参照しておくこと　・カコ（アルシア以降）　11 後期になるとアルシアの１１魔将（ユシフェール）により魔法の分類が行われた。それまで漢然と火の魔法などと認識されていたものが１１種に分類された。　また、アルシアは魔法だけでなくユノなどの研究にも努めた。この意味で魔法学はヴィード学ともいえる。両者はしばしば混同されながら ɥɑ の ɪɥʃlel や ls の再編集版 ɪɥʃlel に至る。　・虚質量　アルシアは大きな秤の上に乗って自重を保ったままユノを放つという実験をした。ユノは斜め下に落下しながら当たった先の瓶を破壊した。ということはユノには何らかの重さがあったはずである。しかしユノを放っても天秤がつりあったままなのはなぜか。　この現象は経験的に人類も神も知っていたことであったが、学問的に実験されたのはこれが初めてであった。　ここからアルシアはユノは hɪnɔn として放たれた際に質量を持つようになるのではないかと考え、虚質量の存在を予言した。また、彼らはこれは ɒcɥ,nɔɪ などにもいえるだろうと考えた。　・魔法学と科学　アルシアはヴィードは虚質量を持ち、磁石に反応せず、気圧、温度、湿度、電気にも反応しないことから、ヴィードとヴィード以外のものを分けて考えるべきと考えた。　万物を ɩɪlel とし、ɒccɑ と ɪluea に分け、これらを対象とする学問を順に ɲɔlɒcɥə と ˥ɪɒc に分けた。　・セルメル　ɟɒ になると戦間期となったことで事情が変わる。11 では主に武器や防具となる金属が優先的に採掘されたが、戦間期になると建材や手工業用途の金属の需要が増した。　その結果、それまでに発見されていなかった金属や、発見されていても注目されていなかった金属が注目を浴びるようになった。　さらに戦争の終結は広範囲の貿易を可能にし、魔導師に多種多様な鉱物や生薬の入手を可能にさせた。　このことは魔石学の発展に大いに貢献するとともに、錬金術への足がかりともなった。　そして魔法学の発展はヴィードの仕組みを理解するのに大きく役立つこととなる。　なお、ɟɒ では魔法学の研究の中心はアルバー世が建てたルシフェル校に移る。　以降、主に ɟɒ と ɥɑ における魔法学の発達について述べる。　・密度　金は古くからヴィルを蓄える性質があることが知られていた。この場合、アテンの体内と同じく質量を持たないという性質がある。　１立方 ɑɪcneləɪ の金にヴィルのうちの閉式赫眺を当て続けると、ある時点で赤い光を放つ。これは金が蓄えられる閉式の量を超えたため、漏れた閉式が虚質量を持ってから開式になったためと考えられる。　一方、金と銀を混ぜた合金（ホワイトゴールドの一種）で同じ体積の塊を作って閉式を浴びせる。この合金もヴィルを蓄えられるので閉式赫眺も蓄えられるが、金よりも早く光が漏れる。なぜ体積が同じなのに時間が異なるのかが謎であった。　両金属の重さを等しくしても、やはり合金のほうが早く漏れる。このことから金の中では ɒcɥ を圧縮して詰めることができるのではないかと考えられた。　ユノを霧のように出すかそれを凝縮して弾のようにするかで密度が変わる。このことからユノには密度があることが古くから経験的に知られていたが、ɒcɥ もそうなのではないかと考えた。すなわち金は高密度で ɒcɥ を蓄えられ、ホワイトゴールドはそうではないということである。　・霊圧　ユノの球を投げると自然と消えていくのは虚質量によるものだとしても、徐々に球の直径が大きくなることは謎であった。　しかしユノに密度があるなら理解できる。体の中のユノを無理に圧縮して球を作っているので、裏を返せば自然な状態でのユノの密度はそう大きくないことになる。　そして高密度のユノは元の自然な密度に戻ることが観測される。そこから霊圧という概念が生まれた。つまりユノには圧力があり、それと同時に平衡する性質も持っているということになる。これは経験的に古くから知られていたが、ɟɒ で初めて理論化された。　・魔圧と ɲcen　ユノに圧力があるなら同じヴィードのヴィルにも魔圧があるのではないかと考えられ、これが先の合金と金のヴィルを蓄える量の違いから実験的に示された。　そこで銀の比率を変えていった結果、どの比率でも合金のほうが低圧になることがわかったが、金と銀が７５０：２５０の比率のときに最も圧力が低くなることがわかった。　ɒcɥ を蓄えるものは少ないが、ほかのあらゆる金属で試してもこの合金より圧が低くなることはなかったため、どうやらこの合金は自然状態の魔圧（＝最低魔圧）のまま ɒcɥ を蓄えるのではないかと推測された。（後にこれが最低でないことがわかり、ホワイトゴールドの魔圧は魔圧の基準値として使われるようになる）　そして１立方 ɑɪcneləɪ のこの合金が蓄える ɒcɥ の量を合金の名 ɲcɔnɪ から取って ɲcen とした。　・ヴィード粒　ヴィードは何からできているかという考えに対しては、ヴィード粒 (ɒccɑlccl) の存在が仮定された。　ユノにはユノ粒という具合に、都合４種類想定された。　・レニウム　zɸ でレニウムが発見された。　地球より遥かに発見が早かった理由は、レニウムがヴィードを通さないという性質を持っていた点にある。　・ディスティマ　無色透明のサファイアにユノを集めると常態では不可能な量のユノ（後に重合度が大きいユノのことだと分かる）が得られる。　この際、サファイアが青い光を放つ。このときレニウム板をサファイアに当てても光は消えないため、ヴィード粒は光点にはないと判断できる。　一方、光点からやや離れた位置にレニウム板を当てると急に宝石内の光が消える。この点を調べた結果、光が消える点はサファイアの周囲に４箇所あると分かった。　そしてそれらを線で結ぶと正四面体になることが分かり、サファイアを包

Ω

むように目に見えないピラミッドが存在していることが明らかになった。　ユノの重合度を減らすと消えた光が戻る。レニウム板の位置を変えると再び光が消える箇所が見つかる。
その位置は正四面体の頂点より内側であり、このことからユノの重合度と正四面体の体積が比例していることが分かった。　ユノの青い光はサファイアではなくその周りの不可視の４点が作る正四面体が形成していることが分かり、各頂点にあるものがヴィード粒ではないかと推測された。つまりこの場合、頂点に１つずつ合計４つのユノ粒があると考えられた。
そしてこのピラミッドは ɑɔʃcɒɪ と名付けられた。　・ガレット　同じくジルコンはノアの重合度を高める性質があり、ジルコンでもサファイアと同じことができる。ただし当然光は緑となる。　ジルコンピラミッドの ɑɔʃcɒɪ を２つ作り、それぞれＡ，Ｂとする。Ａの頂点をひとつ選んでＸとし、Ｂの頂点を重ねる。　するとＢの４つの頂点のうちある一点を重ねると、Ａ，Ｂともに光が消失する。その消失する頂点を α とする。　Ａの頂点をＸからＹに変更し、再び α を重ねると、今度は光が消失しなくなる。そしてＢの別の頂点 β を重ねると消失するようになる。　実験の結果、消失点は４頂点すべてであり、ＡとＢの頂点の組み合わせ次第でどの頂点も消失点となりうることが分かった。　このことから正四面体の頂点を形成するノア粒は均質な物ではなく、４種類の別々のものであると結論付けられた。その４つの粒は次のように名付けられた。　ʔ:ɑɪleʃ（陽晩）：略称は ɑ か ʔ。　ʃ:lelceʃ（月晩）：略称はｌか ʃ。　ʔ:ɔcɪleʃ（雄晩）：略称は ɔ か ʔ。　ɸ:ɒcnleʃ（雌晩）：略称は ɒ か ɸ。　これらは総称して φɪleʃ（晩基）と呼ばれた。　こうしてヴィード粒、少なくともノア粒は φɪleʃ から成るということが明らかになり、ノア粒ひいてはヴィード粒という存在は否定された。
この時点ではノアピラミッドの４つの頂点にそれぞれ φɪleʃ が１つずつ配置されていると考えられていた。　また１と２､あるいは３と４を組み合わせると光が消えると考えられた（後にこの数字の組み合わせは見直されることとなる）。　・各頂点のガレット数　サファイアピラミッドを２つ用いた場合、どの頂点を組み合わせても青い光は消えなかった。　また、ムーンストーンはヴィルを重合できるが、ムーンストーンピラミッドの場合でも赤い光が消える頂点の組み合わせは見つからなかった。　このことからヴィードを構成する φɪleʃ は１つの頂点に少なくとも１つより多く存在することが明らかとなった。　例えばノアピラミッドの４つの頂点が順に１２３４というガレットからできているとしよう。この場合、ピラミッドＡの頂点１にピラミッドＢの頂点２を重ねると緑の光は消失する。（この時点では１の透過値は３でなく２）　次にユノピラミッドの頂点を同じく４３２１としよう。この際、ピラミッドＡの４とピラミッドＢの３を重ねれば青い光は消えるはずである。　しかし実際にはそうならない。ということは、頂点には１つずつガレットがあるのではなく、複数個ずつあると考えられる。　例えばユノが頂点１つあたり４つのガレットを持っていた場合どうなるか。　１頂点が１２３４という４ガレットでできており、それが４頂点分存在する。例えば　１２３４　１２３４　１２３４　１２３４　のように１６ガレットでユノは構成されることになる。　一方、ノアは　１１１１　２２２２　３３３３　４４４４　のように構成されていたとしたらどうだろうか。なぜノアだけ消失が起こるのかが説明できる。　１しかない頂点に２しかない頂点を合わせたから光の消失が起きたと考えることができるためである。（再三繰り返すが、この時点での１の透過値は２）　・各頂点の入れ子構造　ところでこのときの問題は４行何列になるかということであったが、当時最も有力だったのはこの４列説であった。　なぜこの時点で魔法学者たちは４行４列を予想していたのだろうか。なぜ４行２列や３列でなかったのだろうか。無論２列などの意見も学者内にはあったが、主流となったのが４列であった。なぜか。　頂点が複数のガレットからできていると分かった時点で、各頂点を構成しているガレットがそれぞれ三次元的な内部構造を持っていることが分かった。　このとき、最小の多面体は四面体であることから、ガレットもまた４つで１組となって四面体を形成するのが幾何的に最もミニマルかつ合理的な構成方法である。　ゆえに魔法学者はピラミッドの頂点が描く四面体の各頂点がまた四面体を描くという入れ子構造を想定した。　・トポロジー　また、これに関しては ɪl で魔法研究所が成果を挙げている。　位相幾何学的に見て四面体はトポロジーをほかに持たない。一般に多面体のトポロジーは安定しないが、四面体は常に１つしか存在しない。つまりあらゆる四面体は正四面体と同相である。　もし同相でないものが存在したらどうなるか。晩基の配列は同じ１２３４，１２３４，１２３４，１２３４なのに、ある相と別の相を区別しなければならない。例えば１２３４，１２３４，１２３４，１２３４ α と１２３４，１２３４，１２３４，１２３４ β のように。　しかしある魔法は特定の晩基配列でできていることが ɪl には既にわかっており、もし異なる相が存在すれば、同じ魔法の配列なのに１２３４，１２３４，１２３４，１２３４ α と１２３４，１２３４，１２３４，１２３４ β は別のものということが起こり、α では発動するが β では発動しないということが起こりえる。　だが四面体なら同相がほかにないため、どのような四面体を描こうが、どの辺をどう伸ばそうが、それが四面体であるかぎり配列は常に一定の意味を持つ（例えば１１１１，２２２２，３３３３，４４４４なら常にノアの一種という具合に）。　このためヴィードにおいては４行４列で四面体を描くのが最も合理的であるということが分かる。これは現代魔法学の数少ない成果のひとつである。　・帯晩現象　ノアピラミッドの頂点から１を持つ頂点を探す（見つからなくても４回やればよい）。
バナジウム板を頂点に当ててから引き離すと、緑の光が重心の宝石の位置からずれていく。
バナジウム板が新たな頂点となり、重心の位置が板の移動によって変化する。　このことからバナジウム板に１が帯晩するということが分かる。　しかし２，３，４については帯晩現象が見られなかった。　なお、バナジウム板はカルノー石から得られ、分布が広いため、容易に入手できた。　・ガレットの単離　１を帯晩するものがある以上、２，３，４を帯晩するものもあるのではないかという予想の下、様々な鉱物が集められ実験された。　その結果、ニオブ石から得たニオブ板が２を、ニオブ石中に存在していた別の物質（タンタル）の板が３を帯晩した。　しかし４を帯晩する金属（後のドブニウム）はついぞ見つからなかった。それもそのはず、これは超ウラン元素であり、この時代では作ることができない。　そのため４についてはノアを蓄える鋼（銑鉄を脱炭したもの。いわゆるはがね）を飽和させてからバナジウム、ニオブ、タンタルを用いて脱晩して得る。　こうして φɪleʃ の単離に成功した。　なお、このときのバナジウム～タンタルは後に化学において周期表の発見にいくらか貢献することとなる。　・ガレットの番号　φɪleʃ の番号は当初暫定的なもので、どれが何番であろうとかまわなかった。　実験中にある頂点を１としたらその次が２，３と決まるだけであった。ある頂点が１ならそれに対応する頂点が翠晩の消失点となる。　しかし最初に見つかったバナジウムに反応した φɪleʃ を１と固定することで、ニオブのが２、タンタルのが３、残ったドブニウム（ここでは鋼）のが４と固定された。　これによりガレットの番号が固定されたが、これに連動して１の透過値は３となった。同様に２の透過値は４となった。　・幻晩線　それぞれの晩基が蓄えられた板を陽晩板、月晩板、雄晩板、雌晩板と呼ぶ。総称は晩基板である。　ノアピラミッドを作った後、ノアの出力を切ると当然光は消える。　出力を切ると同時にそれぞれの頂点が持つガレットに対応した晩基板を置くと、光が一定時間維持される。　しかし同じ実験で板の配置の組み合わせを変えると光は消えてしまう。　このことからノアを形成する四面体の各頂点には順序があることが分かった。つまりどの頂点も同じではなく、１は１の座る場所があるということである。　４つの各頂点にはスタート地点とゴール地点があり、ノアはスタート地点から見て　２２２２　１１１１　４４４４　３３３３　のときでないと光らないと分かった。　ノアは四面体からなるが、３回曲がった直線が四面体の各頂点を通過すると考えれば直線なので、スタートとゴールの２端点ができる。　このスタートとゴールを結ぶ線が４行４列のうち４行の並び方を決定する。つまりノアの行は２２２２，１１１１，４４４４，３３３３で並ぶときに光を放ち、そうでないときは光を放たない。　そしてこの四面体の各頂点を通過する折れた直線を幻晩線という。　幻晩線を仮定することで、それまで四面体という３次元で捉えていたものを、２２２２　１１１１　４４４４　３３３３　のような行列という２次元で捉えることができるようになった。　本稿ではテキストデータしか扱えないため、もともと行列で表記してきたが、行列で説明できるようになったのは本来ここからである。　なお、下記 jeesc 中の四面体の各ガレットを結ぶ線は晩基線という。　・指と握　こうしてひとつの四面体が４行４列１６ガレットからなるという予想のもと、この１６ガレットの行列を ɔɪlɔlc（握）と呼び、１行４ガレットを jeesc（指）と呼ぶようになった。　つまり幻晩の各頂点は指から成り、幻晩は握から成る。握がたくさん集まることを重合といい、重合度が増えるほどピラミッドは大きくなり､重心の光も大きくなる。　・アミュレット　金銀銑青銅の合金（アミュレット）から板を４枚作る。この板をユノピラミッドの任意の頂点に当てると、jeesc が板に保存される。　これはユノだけでなくヴィルやノアにもいえることがわかった。　４枚の板をそれぞれの頂点に当てて jeesc を保存してから各板の位置を入れ替えると、ノアの場合は光が消失するが、ユノとヴィルでは保たれた。　このことからユノとヴィルの各行は同じ配列であることが分かった。つまりユノのある行が１２３４だとすると、ほかの行すなわちほかの頂点もみな１２３４になるということである。　アミュレットは任意の ɔɪlɔlc から任意の jeesc を単離できるものとして重宝された。　ところでアミュレットに蓄えられた jeesc はどのようになっているのだろうか。　例えばユノが１２３４，１２３４，１２３４，１２３４だとすると、そこから１行とって１２３４が jeesc である。　しかしユノピラミッドは重合の結果可視可能な量の光を放つものなので、アミュレットの各頂点には相当な数のユノ指が含まれていることになる。つまり各頂点に [1234] n と書くべきものが含まれていることになる。　１つの jeesc １２３４はヴィードと同じく四面体を構成すると予想されていたため、アミュレット中にはガレットからなるおびただしい数の四面体が蓄えられていると考えられる。　アミュレットに陽晩板～雌晩板をそれぞれ接触させ、元のピラミッドの１/４の辺の長さで板をそれぞれの頂点に置く。このとき宝石をノア用のものに変える。　するとユノピラミッドからもともと得られたものにもかかわらず、今度は宝石中に緑の光を示すようになる。しかもその光量はもとのおよそ１/４であった。　このことから jeesc が４ガレットからなることが証明された。また、幾何学上の合理性から四面体を持つことが強く推定された。　・虚斥力　陽晩板に１（陽晩）を急激に蓄えると一時的に高晩圧となる。　同様に雄晩板に３（雄晩）をためて高晩圧にする。　そしてこれらを近づけると斥力が生じる。しかし圧力が戻ると斥力は消える。　磁石と違って特定の環境でしか生じないこの斥力を虚斥力 (ɑɔɪlɪɪlɪ,ɪɹɑ) と呼んだ。　・偏晩現象　アミュレットを高晩圧状態にし、陽晩板を近づける。　するとアミュレット中の３が逃げるように偏る。これを偏晩現象という。　わかりやすくアミュレットで四面体をつくり、各頂点に高晩圧の各晩基を近づける。　例えば各頂点に１２３４と順々に板を近づけた場合、アミュレット内のガレットは偏りあった結果、３４１２となる。　・握化　薄板で作ったアミュレットでユノピラミッドから任意の jeesc を得る。　これを高晩圧化し、同じく高晩圧化した各晩基板を近づけると、雄晩板でのみ斥力を生じる。　次に近づける角度を変えてほかの板を試すと、雌晩板で斥力を生じる。同作業で次は陽晩板、最後は月晩板を。　月晩板をかざしたときに全体から斥力が消滅すると同時にアミュレットの薄板から青い光がもれる。なぜこのような現象が起きるのであろうか。　雄晩板を近づけることでアミュレット内のガレットが偏る。無数の四面体の１の部分が雄晩板から逃げるように向く。　これを４回繰り返すと、仮にアミュレット内の jeesc の集合が [1234] n だとすると、外側から３４１２を近づけたことでアミュレット内の jeesc がみな同じ向きになったと考えられる。　そしてこの結果､アミュレットの重心に jeesc が偏る。その高密度を平衡するために jeesc の集合体が ɔɪlɔlc を再形成した結果、ユノに戻って青い光を放ったと考えられる。　なお、光量は元のユノピラミッドの１/４であった。　・開閉の発見　重要なのは斥力の生じた順序である。最初に月晩板を近づけても無反応なのに、雄晩板を近づけると斥力が起こる。これは４行４列の順に沿っているのではないか。　すなわちユノの jeesc が仮に１２３４だとすると、斥力は３４１２を近づけた順で発生するということである。　裏を返せばユノは斥力が３４１２の順で生じたため、もともと１２３４の順で並んでいたことがわかる。　そしてのユノの各行の配列はいずれも同じであるため、ユノは一一少なくとも青い光を放つ hɪnɔn は一一１２３４，１２３４，１２３４，１２３４であることが分かる。（ただし hɪnɔn の jeesc が１２３４だと仮定すればの話）　ちなみに実験の結果、実際の hɪnɔn の配列は１２４３の繰り返しであることが分かった。　これはアテンの体内で安定するので閉式と名付け、閉式蓄晩とした。また、ガレットの配列を晩基配列と名付けた。　今までは光るヴィードからしか調べられなかったが、斥力を利用することで光を出さないヴィードの晩基配列も調べられるようになり、これにより魔法学は格段に進歩した。　・握の内部構造　アミュレットと晩基板と斥力を用いた実験でユノ･ヴィル･ノア･アルマすべての晩基配列が判明した。　ヴィードのうち、ヴィルはもっともバリエーションが多い。　そして１６ガレットが作る組み合わせのうち「ユノ・ノア・アルマ・ヴィルの開閉」以外がすべて魔法に使うヴィルであり、これが魔法の難しさとバリエーションの多さの原因であることがわかった。　ɔɪlɔlc は１行あたり１～４を１つずつ持つ。ただしノアはこの限りでない。　このため、１行中の組み合わせは１２３４や１３２４など４！＝２４ある。　これを４行繰り返すので、ɔɪlɔlc の種類は４！^４＝３３１７７６種存在する。（２種のノアを除外した計算）　ここからユノなど数種を引いても３３万種以上あり、このうち一部が魔法として機能する。つまり魔法になりうるヴィルはこれだけあるということである。　・ルビー　ヴィルピラミッドの４頂点に４つのアミュレットを当てて調べることで魔法の晩基配列を調べることができる。　各アミュレット内の jeesc について斥力を利用して調べることができるためである。　ルビーはあらゆるヴィルを保存することができる。また、蓄えたヴィルを放射することもできる（ムーンストーンは重合度の最大値を高めるだけ）　そのヴィルが魔法として成立する配列の場合、ルビーから魔法を放つことができる。　しかしそれは戦闘においては手で撃つのと大差ない上に、ルビー自体が高価なので、これまでは実用されていなかった。だが、魔法学的には非常に有用であった。　・コバルト針　１と３、２と４を組み合わせると平板ガレットができる。　コバルト針は平板ガレットを蓄えると、ある時点で平板ガレットが分かれて２つのゼロガレットができる。　コバルト針は高晩圧で平板ガレットを蓄えるとき、Ｎ極を持つ。しかしゼロガレットに変化するＳ極に転じる。　この反応を用いて平板ガレットとゼロガレットの存在を確認する。　コバルト針を陽晩板に刺すと、陽晩線が高晩圧で放射される。
この放射線を空の四面体のアミュレットに当てると、１がアミュレットに入る。　アミュレットの４頂点に同時に同じ操作をすると、４頂点にそれぞれガレットが入り、その瞬間アミュレット内で jeesc が形成される。　これは人工的に作った jeesc に等しく、１２３４でも３２４１でも好きな配列が作れる。　・魔珠　このアミュレットを任意の配列で４つ作り、四面体の頂点にそれぞれ置き、重心にムーンストーンを置く。　ムーンストーンはヴィルを重合する性質がある。このアミュレットの配置はムーンストーンにヴィルをためたのと同じ状態を作る。　その結果、４つのアミュレットの間に幻晩線が生じ、ヴィードが作られる。　ムーンストーンを置く以上、ユノやノアには反応しないため、ヴィルのみ作られる。
赫晩のうち開閉以外のものを魔晩といい、魔法の材料となる。　この手法では人工的に赫晩を重合した状態にできる。　このムーンストーンにルビーを接触させて両者の位置を取り替えると、宝石の周囲にあったアミュレットからルビーにヴィルが取り込まれ、保存される。　これを放射すると魔法が成立している場合、魔法が発生する。　こうして魔法を封じ込められたルビーを魔珠という。くしくも朱という字が入っている。　・光学異性体
ところでルビーに封じ込められた魔法によっては、封じられた瞬間に魔法が発動してルビーが割れてしまう可能性がある。　今までどうして魔法は唱えている間は μeφɪl が現れ、放ってから初めて効果が出るのかが謎であった。　ある魔法Ａの晩基配列がＸだとしよう。この際、唱えているときにＸの重合体が形成され、それがレガルを描く。　ではなぜ放って初めて効果が出るのだろうか。もし放っても配列がＸのままであったとしたら変化は一切起こらないはずである。にもかかわらずなぜふるまいが発動の前後で変わるのだろうか。そこでこのような予想を立てた。　Ｘは発動するとＹになる。そしてＹになったことで効果が出る。やがてＹは開式赫晩に変化して、効果を失う。　だとしたら人工的に作った魔晩がはじめからＹの状態だった場合、ルビーどころかムーンストーンで重合した時点で発動し、場合によってはムーンストーンが割れてしまう。　このとき魔晩は相当数重合しているので、人が撃つより遥かに強い力が出てしまう。それが火の魔法ならたちどころに研究所を吹き飛ばしてしまいかねない。　アミュレットの配置で作る魔法は突如Ｙを重合させるという、自然界では起きえない状況を作るため、配置した瞬間に発動するということがありえる。
そこで魔封石である琥珀を用いてケアの配列を分析した。　そしてケアの配列をアミュレットで再現し、ムーンストーンを置いた。　するとその瞬間、周囲数ｋｍにもわたって結界並みの出力でケアが放たれた。　もしこれが火の魔法だったら大惨事であった。やはりＹを突如重合するとその瞬間魔法が発動してしまうという予想は正しかった。　実験は成功したが、ルビーに魔法をこめるにはどうすればよいか。　魔封石はルビーと違い、発動した魔法をためこむ。相手の魔法を封じ、逆に放つことができる。ただし威力が大きすぎると割れてしまい、封じられない。　ユノなりを当てることで魔封石に入っていた魔法が押し出され、出力する。これが魔封石の使い方である。　つまり魔封石はＹのまま魔晩を取り込む。ユノで押し出すと一気に空になってしまうのが欠点である。少しずつは使えない。　一方、ルビーはＸのまま魔晩を取り込む。　実験の結果、次のことが分かった。　ケアの配列を鏡像にした配列を作り、ムーンストーンを置いた。そしてムーンストーンのところにルビーを置いて魔珠を作ってからこの魔珠を発動すると、ケアが放たれた。　このことからＸとＹは光学異性体の関係にあることが分かった。　ルビーは魔封石と違って一気に放たず、しかも高魔圧で取り込める。つまり結界並みの総量の魔法を少しずつ取り出せる。　その上これを利用すればあらゆる魔法を魔珠に封じ込めることができる。　これにより、魔法学の軍事的・政治的・経済的な利益は計り知れないものとなった。　・魔法性　魔法学上の性質のこと。例えばヴィードを通すとか溜めるとかいった性質のこと。　導晩体：ヴィードを通すもの。多くの物質。　良導体:ヴィードをよく通すもの。鉄は特にユノ､銀は特にヴィルを通すなど、物質によって性質が異なる。　半導体：あまり通さないもの。　不導体：通さないもの。レニウム。　蓄晩体：ヴィードを溜めるもの。ɑɔɔnɪ より溜めるものが良で、それ未満が貧。　良蓄体：よく溜めるもの。　貧蓄体：あまり溜めないもの。
単蓄体：１握のみ溜めるもの。　不蓄体：溜めないもの。上記いずれもヴィードを通すかどうかは別次元の話。　揮発性：蓄えるが放出するもの。銅など。　保存性：蓄えたまま放出しないもの。金など。　放射性：蓄えたものを放出する性質。有無ではなく難易で示される。魔封石＞ルビー＞金の順で容易。　複写性：ゼロガレットをほかの晩基配列に変化させる性質。後述。　・放晩傾向　蓄晩体同士の間に導晩体を接触させた際の

ガレットの流れやすさのこと。　例えば金＞ルビー。両者の間に銀を入れて接触させると金からルビーへガレットが流れる。　例　アミュレット＞ムーンストーン＞単蓄体＞ルビー＞氷晶石　・脱晩　ルビーと氷晶石の間に銀を入れるとガレットがルビーから氷晶石に流れる。　結果､ルビーはガレットを失う。これを脱晩という。金とルビーの間でも成り立つ。　金やルビーは一度脱晩すると空気中からガレットを蓄えないため、空の状態を保つ。　・魔月館　任意のアミュレットを配置し、ムーンストーンを重心に置くと幻晩線が生じ、ムーンストーンを通して単蓄体に１握溜まる。　単蓄体（後で詳説する）を動かし、ルビーに接触させるとルビーに握が移る。単蓄体をピラミッドの重心に戻すと、再び帯握する。　これを繰り返して次々とルビーに握を入れていく。重心にルビーを戻さなければ次の握が装填されることはない。　アミュレットを変えれば違う握を装填できる。　アミュレットは２４種なので写植のように順次配置を変えていく。　最大４個同時に同じ種類のアミュレットを使うので、９６個用意しておけばよい。　毎回手動で単蓄体を動かすと大変なので、紐を引いたり鍵を押したりするだけで単蓄体が動く仕掛けを作り、人では所定のアミュレットを置くだけという作業ですむようにするのが通常である。　そしてこのようにした機械を魔月館といい、プログラム機械であり、ɔɔɥɟ の前身である。　・月光蟲　生物学や動物学に相当する魔法学の分野である魔物学もまた魔法学の発展に貢献した。　魔物学者の φɹɐnb el ɑɪɔɪɔn は月光蟲を生物でなく魔法学的現象ではないかと考えていた。　月光蟲とは月の出る晩に山などで起こる現象で、紫などに光る虫のことである。　グランベルは鉱山で広く目撃される点に注目し、光が生物でなく鉱物から出ていることを突き止めた。　水晶（石英）を通った月光がニオブ石に当たると、そのニオブ石中に月晩が溜まっている場合、青緑色の光を生じる。それとともにニオブ中の月晩が放出される。　これがカルノー石ならバナジウムによる紫色の光となる。　たまにしか目撃されないのは、鉱山などで掘り起こされた土からニオブ石などが出てきて、その夜以降に月光を浴びるためである。　こうした環境がそろわないと見られず、また石英を通すという条件もあり、さらに発光時間が短いことが重なってまるで蛍のように生き物と誤解されてきた。　月光蟲は徐々に光が弱くなるのではなく、晩基が鉱物からなくなるまで一定の光を出す。　なくなると同時にぱっと消えるのが特徴で、このため１つずつ晩基が鉱物から光に変換されると分かる。　体積や表面積がいくつであってもニオブ等の分子が連続している物質からは常に１つずつ晩基が放射されるのが特徴である。　鉱物中のニオブは通常ほかの物質と交じり合って存在しているため、月光が当たると各個のニオブの塊が光を出し、小さいものから順に光が尽きていく。　このため、生き物の光が弱まっているように見え、蛍のような虫と誤解された。　たとえ晩基が１つでも（実際は１握４ガレットが月光蟲の最小単位だが）可視できる程度の明かりを放つこの特徴が魔法学の進展に寄与することとなる。　・単蓄体　バナジウム板にレニウムを混ぜるとレニウムが６２％を超えた時点で不導体となる。ところがこの合金には月光蟲現象が見られる。　ここでレニウムの比率を高めて７５％を超えると、不導体である点は変わらないものの、月光蟲も起きなくなる。　このことからこの合金はレニウム比６２～７５％の間で貧蓄体となることがわかる。　レニウム比に幅があるということは、蓄える晩基の量にも幅があると考えられる。　すなわち６２％の合金は７５％のそれより多くの晩基を蓄えると考えられる。　逆にレニウム７５％の合金は不蓄体になる寸前なので、ほとんど晩基を含まないことになる。　７５％が不導体と貧蓄体の境界であるといえる。これは極限まで晩基を減らしたものといえ、合金内に１つしか握が存在しないものと考えられた。　ところでなぜ１晩基でなく１握として蓄えると考えられたのだろう。　通常バナジウム板には陽晩のみがガレットの形で無数に存在する。　もしガレット単位で光を発するなら、コバルト針などでバナジウム板から陽晩を追い出した際に、紫の光が出るはずである。　つまり放射線としての陽晩線は紫色のレーザーになるはずである。だがそのようなことは起こらない。　そこで月光はバナジウム板のガレットを握化し、それがバナジウムを出るときに光るのではないかと考えられた。　そしてアミュレットピラミッドで人工的に１１１１，１１１１，１１１１，１１１１を作ると紫の光を出して消えるのが確認され、この説は肯定された。　ときにガレットの大きさはあまりに小さいのではないかと考えられていたため、人間が作れる合金の精度ではたしてたった１握だけ得られるだろうかという疑念が残った。　・テンペスト　この後、チタンとレニウムの合金に月光蟲が起こることが発見された。　光は白であった。バナジウムが紫がかった藍、ニオブが青緑、タンタルが黄味がかったオレンジときていたことから、虹のような可視光ではないかと考えられており、白は４ガレットすべてを含むのではないかと考えられた。　チタンとレニウムの合金もまたくだんの６２～７５％という幅を持っていた。レニウムを７５％にし、これを金などから銀箔を介して帯握させると１握（推定量）のみ帯握する。　この合金を ɟɐɔɒɟʃ といい、単蓄体の一種である。　ときに単蓄体が１握のみを含むというのは、数学的な推論にすぎなかった。　テンペストが月光蟲を起こす時間を t とすると、６２％から７５％に近づくたびに t は指数関数的に減っていくためである。　ただし７５％のときは光が出る時間が肉眼視できない短さになるので、光を使っては確認できなくなってしまう。　月光蟲は握が少なくても光の強さは一定だが、握が少ないと光る時間は短くなるためである。　月光が鉱物にあたってすぐ月光蟲が起こるわけではなく、握の多寡にかかわらず月光蟲が始まるまでに数秒間の間鉱物に磁力が発生する。　７５％のときは発光が肉眼視できない長さなので、砂鉄を使って月光蟲開始前の磁力の有無で晩基の存在を確認するという手法が取られた。　なお、テンペストは１１１１，１１１１，１１１１，１１１１から４４４４，４４４４，４４４４，４４４４という最低４握を持ったときに白になる。　ただし４握では肉眼視できないので、これはあくまで理論上の話。単蓄のときは１～４のいずれかの晩基色になる。ただしこれも肉眼視はできない。　・崩月現象　月光蟲が起きているときに水晶と鉱物の間に菱沸石をはさむと、月光蟲が停止する。　間に挟むのが例えばガラスの場合では月光蟲は停止しない。　この月光蟲が停止する現象を崩月（ほうづき）現象という。崩月は握化した合金中の握をガレットに分解する現象と考えられた。　・白金橋　さてここでテンペストの単蓄体に崩月を起こす。テンペストは細長い板にし、裏側に白金鋲を取り付ける。　このとき白金鋲をテンペストとダイアモンドに接する部分以外はレニウムで覆っておく。　崩月の分解作業は幻晩線と晩基線の崩壊によるものなので、握のうち１行１列目から始まり、４行４列目で終わる。　しかしその速さは電気や光並み（このころ光速はまだ科学的に求められてはいないが、圧倒的に速いことは分かっていた）と考えられており､肉眼で確認できるものではない。　だがどんなに短い時間であっても確実に１行１列目は一番に晩基に戻るため、何より先に白金鋲を通る。　なお、鋲の先にはダイアモンドが取り付けてある。そしてこの仕組み全体を白金橋という。　ダイアモンドは不蓄良導体と考えられてきたが、白金と接触すると単蓄良導体になることが月光蟲の解明以降明らかになっていた。　ダイアモンドは白金経由で１ガレットのみたくわえることができ、単に閉式をためようなどとしても握単位では大きすぎて蓄えることができない。　蓄えずに通過させるため、ずっと不蓄良導体だと考えられてきた。　ダイアモンドに１ガレットを白金経由で与えると、晩基色（陽晩なら紫）を約０．７秒の長きにわたって放つ。　これによって晩基配列を肉眼で確認することができるようになった。それとともにテンペストから送られた握数も把握できるようになった。　０．７＊１６秒間光れば元データは１握であることが分かる。これを使ってレニウム比７５％のテンペストが数学的推論通り１握を持っていたことが確認された。　また実験の結果、およそ７３％からすでにテンペストは１握しか持っていなかったことが判明した。つまりレニウムが７３～７５％の間はテンペストは単蓄体となる。　なお、白金鋲中にプールされたガレットは順次ダイアモンドに送られるが、２５６ガレットをこえるとダイアモンドの発光が途絶える。　ダイアモンドを砕いてやりなおしても光は生じない。新しいダイアモンドに交換すると光は生じるようになる。　これにより、この技術を使って半永久的に使える照明の発明は失敗に終わった。　しかし晩基配列が肉眼視できたことと、何より単蓄体が１握を含むことが確認できたことは大きい。　・複写性　魔月館を用いてルビーに記録された魔晩はもはや魔法ではなく、データとして機能する。　ゼロガレットを帯びさせたエメラルドとルビーの間に水晶板を置き、ルビー側から光をあてるとエメラルドはルビーと同じデータを持つようになる。　これをエメラルドの複写性という。　・魔動回路　鉛を２５％含んだ白金板は放晩傾向を逆転する性質があり、単蓄のテンペストを白金鉛合金で包んだものにエメラルドを接触させると１握分合金にデータが移る。　この合金にレニウムで包んだ白金の針金をつなぐ。針金の先端にトルマリンをつなぐ。そしてトルマリンの反対側にまた同じ材質の針金をつなぐ。　ここでテンペストを崩月するとトルマリンにガレットが流れる。　陽晩ではトルマリンがゼロガレットを２つ白金に流す。月晩ではゼロを１つ渡してから１つ空気中に放出する。　雄晩ではゼロを２つ空気中に放出する。雌晩ではゼロを１つ空気中に放出してから１つ白金に渡す。　この仕組みは後の電気のオンオフによる回路と同じであり、ゼロガレットの有無で回路が動く。　これが後のコンピュータにつながる。　・実践魔法学　今まで見てきた理論魔法学の対。呪文学を前身とし、ɟɒ で体系化された。呪文学を前身とする度合いは理論魔法学より大きい。　魔法を使う行為そのものよりも、魔法を使用する局面に焦点を当てている。理論魔法学のノウハウを活かしつつ進歩してきた。　ヴィルひいてはヴィードの仕組みを解明しようとするのが理論魔法学であり、魔法を使うときの仕組みを解明しようとするのが実践魔法学である。　例えば人はなぜ魔法を使えるのか、どのようにユノや ɑɪɔ を撃つのかといったヴィードを使用する局面に焦点を当てている。　実践魔法学（より厳密には下記の発動魔法学）は音声学でいうと調音音声学の局面に相当する。　また、撃った後どうなるかという学問は効果魔法学であり、音声学でいうと音響音声学と聴覚音声学にあたり、実践魔法学の下位概念である。　撃つ局面についての学問を特に発動魔法学といい、効果魔法学の対であり、実践魔法学の無標の下位概念である。　理論魔法学は魔珠や魔月館ができるまで大きな軍事的・経済的利益をあげなかったため、それまでは実践のほうがもてはやされがちであった。　しかし魔珠や魔月館以降は立場が逆転する。　実践は人はなぜ魔法を使えるのかという素朴な疑問から始まった。その意味では ɟɒ よりも昔から存在するが、学問体系ではなかった。　われわれは歩くように自然と魔法を使える。仕組みが分からずとも子を残せるように、仕組みを知らなくとも魔法が使える。　幼児は歩行の練習と同じく、体にたまったヴィルを体外に集中させ、何度も発動しようとする。しかしほとんどは魔法として成立しない。　幼児を観察していると、誰に教えられたわけでもなく足を使って歩く。手では歩かない。それと同じくヴィードを集中するときは手を使い、足を使わない。彼らは本能的に手のアフォーダンスを学び取ることができる。　あるときうまく立てるようになるのと同様、手に掌紋のような円陣が現れる。レガルである。レガルが出ると同時に魔法の萌芽が手のひらの前に現れる。　たいていの場合、最初の言葉がパパかママであるのと同様、最初の魔法は ɑɪɔ である。おそらく幼児にとって ɑɪɔ の閉配列（閉式魔法については後述）が最も自然に出しやすいためであろう。　あとは同じ配列を崩さないように集中しながら重合度を高めるが、これは息が途切れないように風船を膨らませたり、倒れないように自転車をこぎ続ける感覚によく似ている。　風船を膨らませるとある時点で息を吸いたくなるのと同様、重合を高める集中力が途切れる。このとき風船の中の空気を口から吸えば息が肺に戻るのと同じく、重合したヴィードを体内に戻せば光などとして消えた分以外は体に戻る。　一方、息を風船から飲み戻さずに口を離すのと同じく出したヴィードを体内に戻さなければ、風船の空気がぴゅーっと出て行くのと同様に魔法が発動する。　幼児は風船に働く科学も ɑɪɔ に働く魔法学も知らないが、どちらも体得することができる。この意味で魔法現象は科学現象によく似ている。　仕組みを知っていれば効率よく現象を起こせるが、知らなくとも現象を起こせないことはない点が共通している。　例えば力学的にボールは４５度の角度で投げると最も遠くまで飛ぶが、その仕組みを知っていなくともボールを投げることはできるのと同様である。　・魔法を使えない人　μɑ まではユノを撃てない者はほとんどいないが、男性を中心に魔法を撃てない者は神代から存在する。　この原因は理論魔法学とのコラボで分かることだが、魔晩は配列が３０万種以上あり、一方ユノは数種しかないため、特定の配列を会得するのにコツがいるためである。そして女性は先天的に自分の体の中のヴィードの配列に敏感である。　また、ɭɔllɟɛfɔɪ では一般的に感受性の強いタイプ、思い込みの激しいタイプ、知的なタイプ、神経質なタイプはヴィードの配列にも敏感であることが多いとされている。　なお、nɑ 以降はほとんどの人がユノすら撃てない。これは感受性の問題より jelɛj の ʔ､ʃ 遺伝子が原因と考えられる。　・改めて重合とは　１握は正四面体を描く。光が起こる場合、その重心に光が発生する。　重合しない１握のヴィードは光が弱すぎ、知覚できない。知覚するには同じ配列のヴィードを集める。　集めることを重合という。重合度を上げると正四面体の辺が長くなり、光も大きくなり、頂点には多くの jeesc が集まる。　閉式赫晩は光を出し、閉式魔晩は閉式魔法を出すとともに光を屈折させてレガルを生む。　よく現代アルバザードのアニメや漫画ではレガルに幻字が書かれるが、あれはファンタジー上の演出にすぎず、本物のレガルに文字は浮かび上がらない。　なお、重合度はユノ弾や魔法の威力に比例する。　・魔法光　ɑɪɔ を重合している間、レガルとともに炎が手のひらの前で渦巻く。恐れを知らない幼児が左手をこれにさしこんでも火傷をしないのはなぜだろうか。　これは閉式が効果を持っていないためである。　実はこの光は炎と勘違いされやすいが炎ではなく、火属性の魔法であることを示す光（魔法光）にすぎない。　閉式魔晩は本来体内で安定するので、体外に出すと外側からどんどん揮発してヌルになる。この際、魔法の種類に応じた１１種の魔法光が起こる。　アルシアはこれを元に魔法を分類したわけである。　闇：黒　水：青　風：緑　土：茶　火：赤　雷：黄　光：白　聖：淡い青　味がかった銀　邪：黒い赤みがかった紫　利：淡い水色がかった緑　害：黒い黄味がかった緑　聖邪利害は２色が混じってマーブルになる。　このことからこれら４種に比して闇～光が基本属性と呼ばれる。　・閉式魔法　風船を口から放すと自動的にぴゅーっと空気がもれる。魔晩も同じで、魔圧を平衡するために流れだす。　そして気流が逆方向になるのと同じように、魔晩もまた逆方向になる。　何をもって逆方向というかというと、それは晩基配列である。　配列が光学異性体、つまり鏡像になることで逆方向になる。すなわち反転する。この反転によって魔晩の配列が変わり、発動状態となる。　鏡像反転は ɔɪlʔclc に起こるので、ミクロにいえばすべての jeesc にも起こるといえる（ɔɪlʔclc は四面体の各頂点がまた四面体をしているという入れ子構造なので）。　まず jeesc の配列が１２３４行の順だったのが１４３２行の順になる。そして各 jeesc の中もまた１４３２となる。　つまり魔晩が１２３４，２３４１，３４１２，４１２３だった場合、その異性体はまず２，４行目を入れ替え、次に各行の２，４列目を入れ替え、１４３２，４３２１，３２１４，２１４３となる。　前者が閉式魔法だと、後者が開式魔法となる。　開式魔法になると効果を持つが、時間とともに開式赫晩に変化する。　・半式魔法　閉式魔法から開式魔法になる際、半式魔法という状態を経る。　半式は閉式の｢殻が０になったものである。　閉式から開式になる際にガレットは所定の位置にワープするのではなく移動するので、移動経路ごとに渡りの配列がいくつもできていくことになる。　ではもしこの渡りの配列がたまたま別の魔法の配列だったらどうだろう。　なぜその魔法として発動しないのかという疑問が当然起こる。　それについては魔法学者たちも当然不可解に感じていたが、その答えがこの半式である。　閉式が開式になる際に一度閉式の｢を０にしておく。　こうすることでガレットの移動中に他の魔法になることはない。　そして移動が終わったら｢を ɱ に戻し閉式とすることで発動するというわけである。　まこと自然の仕組みというのは合理的にできている。　・半式の特徴　半式は魔法として半分成立した状態であり、開式になった際の形を持っている。　例えば eez ならつららの形として空気中に現れる。しかしまだ発射されていないので飛びはしない。　半式は虚質量を持ち、eez ならつららの重さとして実現する。　同様に光の魔法なら虚電磁波を持つということになる。　半式はアテンに触れた瞬間に開式となる。　例えば魔導師が何本も eez を出して威嚇しているときに誰かが前方から eez の一本を触るとたちどころに発射され、少なくとも一本はその誰かに刺さるということになる。　・半式の配列　半式の配列は閉式を　ɱlʎ nɯɑɒ ɑφdb hʎrlʎ とし、開式を　ɱlʎ hʎrlʎ ɑbdφ nɒɑu とすると　ʎlʎ hʎrlʎ ɑbdφ nɒɑu であり、あくまで開式に近い。　これらは互いに一瞬で変化する。　その一瞬であっても配列が別の魔法になってしまわぬよう、半式があるのである。　・持続時間とキャンセル　術者は半式を任意の時間保っていられる。　従って eez を１０本出す際、できたものから順次撃っていくこともできるし、後からまとめて一気に撃つこともできる。　ただし開式にするまでは風船に空気を入れ続けるようなもので、半式で耐えている間は息こそ吹き込まないものの、風船に口を当てたまま鼻から空気を吸わないで息を止めた状態と同じである。　従って半式のままずっと止めておくのは不可能で、集中力が持たない。　開式魔法にしないまま止めると閉式魔法に戻り、さらにそこから閉式赫晩に戻り､体内に吸収される。　廃棄した分等以外は nɪlɑe が戻るので、魔法のキャンセルといえる。　なお、キャンセルはユノなどにもいえることである。　・廃棄率　魔力の通りをよくする服装やアイテムというのがあるが、あれはどのような仕組みなのだろうか。　魔法は重合して使うもので、１００握は１０握よりガレットの数が１０倍多く、単純計算で１０倍強い。　１００握の魔法は１６００ガレットからできている。魔法物理的に考えて、この数をアイテムで増やせるわけではない。　しかしアイテムは確かに効果があるように感じられる。それはなぜだろうか。　実は体内のヴィルを開式魔法に変える際、アナログで配列を作っているので、少し配列の違う魔晩も作られてしまう。　リコーダーは穴を押さえれば決まった周波数の音が出るが、口笛は必ずしも決まった音階が出せない。その感覚と似ている。口笛だと同じドなのに少しずつ周波数が異なるのがふつうである。　間違った配列のヴィルは重合には寄与しないので、開式赫晩に変化してしまう。つまり１６００ガレット集めるのに２０００や３０００もかかっているということである。　言い換えればヴィルを廃棄しているということになる。体調が優れないときに魔法を使っても効果が低いのは廃棄率が高くなるためである。　そして一部のアイテムは脳に働きかけて集中力を高め、廃棄率を低減する。　なお、魔法の威力を高めるアイテムもあるが、あれもまた１６００ガレットを３２００に増やすというような代物ではない。　単に重合可能な容量を増やすにすぎない。小さい風船の代わりに大きい風船にするようなもので、膨らませれば大きくはなるがその分使う息の量も増えるのと同様、使う魔力も増える。　・連続魔　大道芸人やサーカスの道化が右手から炎を出しながら左手から氷を出すのを見たことがあるだろう。同時に２つの魔法を出すのを連続魔という。２種類の魔晩を個別に同時に重合する能力が必要で、ほとんどの人はできない。　まれに右目と左目を別々の方向に動かせる人がいるように、連続魔を使える人がいる。　たいていの場合、先天的にできる者がその能力に気づいて練習し、熟練させていくものである。　ある人の出せる重合度が１００の場合、連続魔をしても２００は出せない。５０ずつになるだけであり、戦闘的にはそれほどアドバンテージが

ない。　よって現実には大道芸人のパフォーマンスなどとして見られることが多い。　・魔法の覚え方と古代魔法　魔法は一定の配列の魔晄を集め、それが閉式魔法になるかどうかで魔法として成立するかどうか調べる。　この点において魔法は経験的な存在といえる。　後述の調合魔晄学は魔法を理論的に作る技術だが、調合魔晄学ができるまでは人も神も悪魔もこのようにトライアンドエラーの連続の中で魔法を編み出してきた。　これは要するに慣れと経験とセンスの問題なので、寿命の長い生き物のほうが必然的に長けることになる。　よって神や寿命の長い世代の人類にしか使えない魔法があり、古代魔法と呼ばれた。
魔法の中には ɑɪc のようにアテンの体が配列を作りやすいものもあれば、ɑɔɲſ のようになかなか配列を作れないものもある。　これは例えばアテンの指が内側に曲げるのはたやすいが外側は難しいというのと同じで、身体性によるものである。　従って同じアテンの中でも身体性やセレスの遺伝子が異なる者の間では、使いやすい魔法がそれぞれ異なるということが起こりうる。　つまり極端な話をすれば、ある魔族にとっては人間にとって簡単な ɑɪc が非常に難しく感じられ、ɑɔɲſ は容易に感じられるということがありうるわけである。　そしてたいてい古代魔法というのは人間にとって難しくて使えなくなった魔法を指すことが多い。　魔法は出してみて成立したらその感覚を忘れないうちに何度も繰り返すことで習得できる。　感覚を忘れてしまえば忘却となる。　筋肉と同じで怠けていると力を失うので、魔導師は日々研鑽を重ねる。　・魔法の教授法　魔法は感覚的なものなので人に教えるのが難しい。　言葉だけで口笛の吹き方や自転車の乗り方を説明するのは難しく、スポーツもまた口で教えるのには限界がある。　魔法はそれとよく似ている。身体技能なのでどちらかというとスポーツに近い。　結局現場ではスポーツと同じく実際に見せてみて真似させることが多い。　このとき頼りになるのは目に見える魔法光とレガル、そして半式魔法である。　例えば eez ならまず水の魔法光を出させ、「そしたらあとはそのヴィルを練ってつららにするイメージで」などといって半式を作らせる。　スポーツも「こうだと、こう。つま先でさ、ほらこんな風に」などと直感的に教えることが多いが、魔法も調合魔晄学ができるまでは同様であった。　同じ体育の授業をしていてもできる子とできない子がいて運動神経の違いとされるが、魔法も同じで、要するに魔法神経のよしあしがあり、たいてい女性のほうが魔法神経が良い。　・消費 nɪlɑe と ɑɪɟdel と熟練度　人間は ɑɪc を出しやすいが ɑɔɲſ は出しにくい。　それは指を内側に曲げるのは容易いが外側は難しいのと同じで、身体性によるものである。　指を内側に曲げるのも外側に曲げるのも消費カロリーは本来同じである。しかし指の構造上そうはいかないというだけの話である。　魔法も同じで、ɑɪc も ɑɔɲſ も握の数は同じで、最小１握である。しかし ɑɪc のほうが消費 nɪlɑe が少ないのはなぜか。
それは ɑɔɲſ のほうが人間にとって難しいせいで廃棄率が高いためである。　ということは同じだけの nɪlɑe をかければ当然 ɑɔɲſ のほうが ɑɪɟdle は少ないことになる。　そして同じ人間でも慣れてくれば同じ魔法を低 nɪlɑe 高 ɑɪɟdel で放つことができるわけで、これが魔法の熟練度を指すことになる。　・効果魔法学　放ったヴィードがどのように振舞うかについて研究する分野。　・ユノ (hɪnɔn)　凸式蒼晄は hɪnɔn として働く。虚質量を持つか (uɔn̩), 虚熱量を持つか (uɔn̩ˀ,uɪnɔj), 何も持たないか (ɪuɔn) のいずれかである。　閉式蒼晄を体外に出すと青い光を放って開式になる。閉式は虚質量を持つ。　開式に変化して消滅するより早く意識を手の前に集中させることで閉式の重合度が増す。　ある程度重合させ、虚質量に変えると凸になり、uɔl̩ になる。同様に虚熱量に変えると凸で uɔn̩ſ になる。　ɪuɔn の場合は凸になり、虚質量も虚熱量も持たない。この場合、光って見えるのは閉式だった部分だけである。　・加速膜　ユノを放つ際、手のひらに薄い青い膜が見られる。これは加速膜といい、閉式でできている。　手の前の閉の弾を凸に変換すると、膜と凸の間に斥力が生じる。この斥力を F とし、凸の虚質量を m とすると、ｍａ＝Ｆ、ａ＝Ｆ／ｍ≠０が生じるため、加速度が生まれる。　ユノ弾の質量は人体よりも圧倒的に軽いため、人間側に生じる反作用は銃を撃ったときの反動のように小さいものである。すなわち uɔl̩ を撃ったことにより反作用で人が怪我をすることはない。　飛行も同じ原理で、ユノに虚質量を持たせ、加速膜を利用して斥力を生じさせ、その力で飛ぶ。　加速膜を使って相手のユノをはじき返すことは可能だろうか。これは物理的に不可能である。　相手の弾が自分の手に当たる寸前の速度をＶｔとした場合、ここに反対向きの斥力Ｆを加えて加速度ａを加えても、Ｖｔがほんの少しだけ低くなる程度であり、意味がないためである。　手に当たる寸前から実際に当たるまでは０．１秒もないわけだが、このときの速度の変化は０．１ａ程度であるから、Ｖｔ－０．１ａでは現実的にはほとんど意味がない。　・ユノ (ſclɒɪ)　さて凸式は hɪnɔn だが、凹式の ſclɒɪ でこれを防ぐ。ſclɒɪ は hɪnɔn をヌル化する。　平板ガレットになった hɪnɔn と ſclɒɪ はすぐに２つの開式蒼晄に分解される。　ſclɒɪ を抜けた凸が ɒclle を侵食する。
ſclɒɪ は偏晄が容易で、弾の当たる箇所に凝縮することで、局所的な防御力を高めることができる。その反面、ɒclle に比べて総量が少ない。　しかし ſclɒɪ は ɒclle よりも圧倒的に回復が早く、ヌル化した先から ɒclle が ſclɒɪ に変換されていく。　ſclɒɪ はたとえ０になっても敵の攻撃が止まれば１秒もせず元に戻る。　つまり人体は２段階の防御システムを持っているということになる。　・ヴィル　閉式赫晄は赤い光を放ち、虚質量を持つ。光を放つと開式に変化する。　赫晄のうち、開閉以外を魔晄という。魔晄は虚質量を持たないが、閉式魔法として成立すると虚質量を持ち、光を歪めてレガルが生じ、魔法光が手のひらの前に渦巻く。　赤い光でなく属性ごとの魔法光である点に注意。　開式魔法は虚質量を持ち、魔法の内容に応じた魔法学的現象を引き起こす。　この場合も虚質量は赤い光以外のエネルギーに変換される。　例えば火の魔法は分子の運動速度を高める。よって厳密には熱の魔法である。　開式魔法は開式赫晄になるとともに消えていく。このとき光は生じないが、魔法の効果によっては魔法自体が光を出すので、光が消えたように感じられるものもある。
魔晄の重合度を ɑɪɟdel という。その魔晄を開式に打ち消すのが dɑɪleɟ で、これは入ってきた魔晄を即座に分析してその透過値を与えるものである。　dɑɪleɟ を通過した ɑɪɟdel は ɒclle を侵食する。　・ノア　翠晄は体内で働く。閉式が体内で筋肉の代わりとなって力を発揮するときが bɾlɪcn で、関節や腱などの代わりをして柔軟性を出すときは ˈlenɪɟ という。　これらは閉式が何の身体部位の代理をするかという役割の違いでしかなく、どちらも同じ閉式である。　これが消費されると開式として体外に放出される。緑の光は体からうっすらともれた閉式よるものである。　ユノの場合は炎のように青い光がたちこめるが、ノアの場合は体が緑の薄い膜で覆われたように見える。　ノアは体外に出すと急速に開化するため、魔石などを用いない限り、ユノのように弾として取り出すことはできない（実験室では別。ノアピラミッドなどを作れるため）　翠晄で強化した筋力は敵に物理的なダメージも与えるが、ノアを帯びているためヴィード傷に分類される。　実際のところ直接 ɟeeu を削らず先に ɒclle を削ることからもそれは明らかである。　ſclɒɪ や dɑɪleɟ のように局所的な盾として使えるノアにはないため、ɒclle を削る割合は大きい。　ノアで強化された格闘家は目にも留まらぬ速さで激しい威力の打撃を放つ。一発一発の ɒclle を削る割合が効率的なためである。　世界的に有名なのはヴェマの格闘兵である。肉体を極限まで鍛えた格闘兵による肉弾戦力は絶大である。　欠点はノアがほとんど体外に出せないことによるリーチの短さである。　接近戦には強いが、魔法兵や弓兵とは相性が悪い。しかし接近戦は騎兵や剣兵を遥かにしのぐ。　というのも、格闘兵の速度からすれば剣兵など象が動いているように感じられるためである。　ノアはほとんど金属にも乗らず、乗ってもすぐに減少してしまうため、爪やグローブのような武器が前提となる。あるいは裸拳である。そのためリーチはさらに稼げない。　なお金属では青銅、有機物では牛革がノアをよく通すため、素材として使われる。　・アルマ　アルマは開閉がなく、このまま武器にも防具にもなる。　強力なヌル化能力を持っているため、武器として使えば効率よく ſclɒɪ や ɒclle を侵食し、防具として使えば敵のヴィードをヌル化できる。　・幻晄の整理　ヴィードは ɥənɔ（蒼晄）、uɔɥ（赫晄）、nɔɪ（翠晄）、ɪɥɒɪ（輝晄）、の総称である。　ɪɥɒɪ は ɥənɔ, uɔɥ, nɔɪ を合成したものである。　●凸式蒼晄　晄基配列　1J0r　1J0r　1J0r　1J0r　効果　hɪnɔn として使われるもの。　凹式蒼晄を侵食し、ヌル化できる。　凹式蒼晄の分量を越えたものは閉式蒼晄を侵食し、開式蒼晄に変換する。　すなわち、hɪnɔn として機能し、ſclɒɪ を侵食する。ſclɒɪ を越えた分は ɒclle を侵食する。　●凹式蒼晄　晄基配列　1r0n　1r0n　1r0n　1r0n　効果　ſclɒɪ として使うもの。詳細は上記のとおり。　●開式蒼晄　晄基配列　1r0n　1r0n　1r0n　1r0n　効果　アテンの体外で安定する。　hɪnɔn に侵食された ɒclle は開式蒼晄として空気中に放出される。　●閉式蒼晄　晄基配列　J10r　J10r　J10r　J10r　効果　アテンの体内で安定する。いわゆる ɒclle。　hɪnɔn に侵食されると開式蒼晄になり、体外に流出する。　●開式赫晄　晄基配列　1J0n　0r11　1J0n　0r11　効果　ヴィルの無加工形。　アテンの体内では安定しない。人間が体内で開式赫晄を作って放つのは非常に難しい。　空気中に好んで存在する。
魔導師はこれを体内に取り入れて、閉式赫晄にする。開式のままだと安定せず、取り込めない。　●閉式赫晄　晄基配列　?01J　J10r　?01J　J10r　効果　配列が開式の透過値になっている。　開式をヌル化することができる。　アテンの体内に安定して人間に存在するが、空気中では安定しない。　そのまま放出しようとすると無茶苦茶な配列になって放出されるため、魔導師は配列を整えて放出する。　ルーキーテは閉式をそのまま ɑɪɟdel として放つ。そのまま dɑɪleɟ の透過値なので効率よく dɑɪleɟ を侵食できる。　閉式は体内では nɪlɑe と dɑɪleɟ に分配される。　どちらも消費するとともに減る。nɪlɑe は魔法を使うと減る。dɑɪleɟ は魔法を喰らうと減る。　nɪlɑe は長期的に回復し、回復には時間を要する。dɑɪleɟ は瞬時に回復し、敵の魔法を弾いたら、次の魔法を喰らうころには回復している。　生物の赤筋と白筋のように長期的に使うものと短期的に使うものに分別して保有することで、生存競争力を上げている。　●開式翠晄　晄基配列　1111　J.J.J.J　????　0000　効果　アテンの体外で安定する。
●閉式翠晄　晄基配列　J.J.J.J　1111　0000　????　効果　アテンの体内で安定する。蒼晄に比べ少量だが、安定していて流出しづらい。　開式翠晄になるときに生じる物理エネルギーを利用して、運動能力を一時的に強化する。　つまり消費することで開式になり、空気中に放出される。しかし休むことで閉式がふたたび蓄えられる。　●輝晄　晄基配列　1J0n　0r1J　?0r1J　J.r01　効果　輝晄は開閉や凹凸がなく、この配列しか持たない。　アテン体外でも体内でも安定せず、すぐヌルに変化してしまう。　蒼晄、赫晄、翠晄をバランスよく組み合わせることで作れるが、量は多くなく、非常に不安定。　他の幻晄に対する侵食力が極めて高く、接触した幻晄をヌルに変える強い特性を持っている。　このため、攻撃時には相手の ſclɒɪ を打ち破り、ɒclle を侵すことができる。　逆に防御時には相手の hɪnɔn を強力にヌル化することができる。　●透晄（ヌル）　晄基配列　1J0n　?0r1J　0r.J1　J10r　効果　何もない空虚な状態。　放置状態での安定性は高いが、同時に加工性も高い。　アテンの肉体は透晄を吸収し、加工して蒼晄などに変える。　これは意識的に行うこともできるが、呼吸と同じで必要な分は無意識で行われる。　休むとヴィードが回復するというのは、ここから来ている。　ほかに回復は開式を閉式に変換することでも行われる。　例えば開式蒼晄を吸って閉式にするなど。　透晄は何にでもなれるが、この場合は蒼晄にしかなりえない。　1J0n を並べていくと 1J0n1J0n……となる。　このとき１から見て常に ? は接しない晄基である。　同様に J から見たら 0 が接しない。? は 1、0 は J と接しない。　このような接しない数字のことを透過値と呼ぶ。　ヌルの配列では接しない晄基（透過値）同士が次の指と隣接している。　1J0n に対し ?0r1J を重ねると、接しない幻基同士が縦方向にぶつかることになり、相克が起こる。　1,J 指目は相克関係になっており、?,0 指目はまったく同じものが逆さまになっている。　このように透晄では相克が起き、性質的に無色透明化される。
●魔晄 (ucucɑ)　上記で挙げた配列以外の配列がすべて魔晄と呼ばれるもので、いわゆる魔法のエネルギーである。　上記以外のすべての組み合わせなので、魔晄の配列の組み合わせが最も多い。　だからこそヴィードの中でヴィルを使う魔法が、最も複雑な体系を持っている。　・魔法の持続時間　魔法は閉式魔法が開式魔法になると発動し、開式魔法が開式赫晄になるまで持続する。　銅は一旦魔晄を蓄えゆっくり揮発させる効果があり、銅に魔法を放つと徐々に魔法を放出する。このとき単位時間あたりの魔法の威力は持続時間に反比例する。　この性質を活かし、魔灯などの日用品に役立てる。　また、ルビーから徐々に魔法を吸い出す方法もあり、これでも魔法の持続時間を長くすることができる。　・回復の原理　人（より厳密にはアテン）は閉式を体外に出す一方、開式を体内に取り入れ、閉式に変換する。　ちょうど二酸化炭素を出して酸素を吸うのと同じである。　体内に入る幻晄の量は体全体の体積と単位体積あたりの晄圧による。そして晄圧のほうが通常ものを言う。　金がホワイトゴールドよりヴィードを蓄えるよう、人にも蓄えられる密度がある。
この密度すなわち圧力の違いが神と人との違いであり、また古代人と現代人の違いでもある。　ただし、重合力の違いも力の差の主な原因である。　体外からヴィードを取り込んで回復する速度もまた人によって異なる。疲れてもすぐ元気になる人となかなか回復しないで寝込む人がいるのと同じことである。　一般に老人は回復力が衰えており、幼児は蓄えられるヴィードの総量が少ない。　回復とは基本的に減った ɒclle を戻すことである。ɪei の魔法の原理は ɑɪɟdel が対象の体内に入って ɒclle に変換されるというものである。　人は閉式蒼晄を別の人に ɒclle として閉式蒼晄の形のままで与えることはできない。　また、nɪlɑe を ɒclle にすることもできない。それゆえ白魔導師が存在する。　ケアはまず nɪlɑe を ɑɪɟdel に変換する。その ɑɪɟdel は開式魔法になると対象の体内に入り、ɒclle に変わる。これが ˈɪei の効果である。　自分を対象にすれば自分自身も回復できるが、nɪlɑe を ɒclle に直接変換することはできず、あくまでケアを自分にかけることで実現する。　・ヴィード傷とアルヴェド傷　ɒclle は衝撃から体を守る効果があるが、ɒclle も結局はユノの集まりなので、ユノ間の隙間を縫っていくらか衝撃が体に到達する。　したがって痛いとか重いといった主観的ダメージを知覚することになる。　このうち敵のヴィードがすり抜けてできた傷をヴィード傷という。　なお ɒclle が減少した分については体に傷がついたわけではないので、ダメージとは言っても傷とは言わない。　一方、そのヴィード傷のせいでよろめいて転倒したとしよう。このときも ɒclle によって守られるが、すり抜けた衝撃でカスリ傷などを負うことがある。　こちらの傷はヴィードによるものではなく土と体の接触や摩擦によるものなので、アルヴェド傷という。　ˈɪei の効果は ɒclle の回復だけでなく、ヴィード傷を癒すものでもある。　例えば敵のユノ弾のすり抜けによってかすり傷ができたとしよう。　ˈɪei はこのかすり傷をふさぐ効果がある。というよりも ˈɪei はこの傷を通して体内に入る。そしてその結果、ɒclle に変換されて ɒclle が回復する。　つまり ˈɪei の本来の効果はヴィード傷をふさぐことにある。　だからこそヴィード傷のない元気な状態の人間に ˈɪei をかけても何も効果が現れないし、アルヴェド傷を持った人間にかけても意味がないのである。　もしそうでなければ ˈɪei をかけ続けることで際限なく対象の ɒclle を増やせてしまう。（もっとも、その場合でも体内の最大晄圧は超えられないので限界はあるが）　魔法で通常の物理的な怪我による人間を救えないのもこれが原因である。　子供のころ誰もが「ˈɪei をかけ続けたら怪我をする前よりも元気になるのではないか」と一度は考えたものだろう。　それがそうならないことは大人になるにつれ経験的に知っていくが、そのからくりはこのようなものである。　また誰もが老いて死ぬゆく祖父母に対してどうにもすることもできない魔法医に、心中怨嗟の声を投げかけてきたことだろう。　これもまた ɒɔſɔ が医学的な病にほとんど効果がないことの結果である。（ただし ɒɔſɔ は体を芯から暖める魔法なので、ある程度健康にする効果はある）　・呪文学再考　実践魔法学の発達により、jɒ 以前の呪文学に魔法学的根拠がないことが明らかとなった。　魔法学を紐解いても言葉が関与する部分については学問的に証明されないためである。　つまり簡単にいえば、呪文が効果的というのは思い込みや暗示の類にすぎないということである。　実践魔法学が台頭しだしたころは実践魔法学への偏重により、呪文は一切無意味なものであると断じられた。　しかしその後 jɒ になると学会の実践魔法学への熱が冷めたこともあり、「そうはいうもののやはり呪文を唱えたほうが魔法の威力は明らかに強い。事実は事実と認めた上で対処しなければならないのではないか」という風潮が起こる。　これにより呪文は見直され、なぜ効果があるのかが論じられるようになった。　しかしそれは魔法学的な根拠に乏しいため、あくまで推論の域を出なかった。　おおむね多くの学者の一致した意見はこうである。つまり呪文を唱えることで精神が集中するとともに、呪文と魔晄がセットになってパブロフの犬化するというものである。　魔晄の重合は目に見えないし触れることもできない。魔法光とレガルしか知覚できるものはない。これでは非常に特定の配列の魔晄を出しづらい。　そこである魔晄（＝ある配列）を重合するときには決まったある文を唱えながら重合するようにする。そうすると呪文という知覚できる音声が特定の魔晄と関連付けられる。　われわれはサイレンが鳴れば火事だと分かるが、サイレンと火事は本来関係ない。　しかし関連付けられているので、逆に出先でサイレンを聞くと火事を想起するようになる。　本来は火事があってサイレンを鳴らすのに、誤報でサイレンを聞いた場合、火事を見なくても慌てるようになる。　ちょうどパブロフの犬と同じ原理である。　このパブロフの犬を利用したのが呪文ではないかというのが大方の一致である。　つまり知覚しにくい魔晄の重合作業を、知覚しやすい発声という作業で想起させる。　特定の発声（呪文）と特定の魔晄を関連づけることで、正しい配列の魔晄が得やすくなる。　これにより廃棄率を減らすことができる。その結果、呪文には効果があると感じる。　従って jɒ 以前の「呪文は ɑu や jz のような威厳のある言語で唱えなければならない」というのは思い込みでしかなく、逆に呪文が無意味というのも誤りであるといえる。　しかし、思い込みというのは人の精神に影響を与える。ɑu や jz でなければ駄目だと本人が思い込んでいれば地方の言語で唱えても効果は弱くなる。　それにより「ほらやっぱり」とネガティブに捉え、ジンクスのように逆説的に古語の品格が上がっていったと考えられる。　――つまり、ということは、別にアルカでなくても良いのだ。（そしてこのことは現実にはアンティスのアルカに対する優位性の象徴である）　・エーステ　→ eejɾe の［魔法］の項　・錬金術　魔石学を前身とする学問。jɒ で起こり、μɑ で大成。　→ ɥəlcɪnſ　・魔法工学　1J00cɒ ごろから起こり、μɑ で大成。　→ μɪφnɪlen　・魔晄学　既存の魔法の晄基配列を解析する解析魔晄学と、魔法として成立する晄基配列を人工的に作って調べる調合魔晄学に分かれる。　後者は２４種のアミュレットを用いて魔法を調合していくことからそのように呼ばれる。　・獅晄　魔晄以外の幻晄を獅晄という。開閉の赫晄をも含む。　魔法学舎のレリーフが杖で、剣兵や格闘兵などの養成所のレリーフが獅子だったことから魔法以外を獅法といい、そこから来ている。　・解析魔晄学　ある握が持つ１６のガレットを jɒ ではエスタの子の名で表していたが、より素早く書けるよう μɑ では幻字を使って次のように示した。　ſlɪ nuɑɒ nφdb hɥɾɥ　このとき１つ１つのガレットの入る「などの位置をそれぞれ「殻などと呼ぶ。　さて、これを閉式魔法とすると、その開式は光学異性体で次のようになる。　ſɾlɪ hɥɾɥ ɑbdφ nɒɑu　このうち位置が開閉のどちらにおいても変化しないものは ſ, l, ɑ, d である。　１，３行目は動かないガレットがあり、２，４行目はみな動く。　２，４行目をその位置関係からそれぞれ天行、地行といい、１，３

Ω

行目を頭行、胴行という。　また、ʃ, l, ɑ, d 殻を静殻、それ以外を動殻という。　このうち「は幻眩線および眩基線の最も先端にくる殻であり、これを頭殻（トップノート）という。
頭殻はそのヴィードの顔であり、全体の性質を決定する、ということを解析魔眩学は明らかにした。　獅眩のトップノートを見てみると、１，２，３のいずれも現れているが、４だけは現れない。　解析の結果、魔眩のトップノートは必ず４になることが分かった。すなわちトップノートが４かどうかで魔法になりうるか否かという全体の流れが定まる。　残るはl, ɑ, d の３殻であり、ここにそれぞれ１〜４のガレットが入る。　このうちlとɑは魔法の属性を決定する殻で、属殻という。　lはꞎ以外の３種で、ɑは１〜ꞎの４種であり、都合１２通りとなる。　lがˈのときは相魔法といい、相殺関係にない魔法である。　lが１かˈのとき（１とʔは互いに透過値）は、相殺関係にある克魔法という。　相殺関係とは火と水のように、打ち消しあう関係のことである。　火の魔法を打ち消すのには水の魔法を使うのが効果的であることや、火の属性の魔物に水の属性がよく効くことは、これらの魔法が相殺関係にあることから来ている。　他方、ケアを害の魔法でかき消すことができないのを見ると、利と害が相殺関係にないことが分かる。また、土の魔法を相殺する属性がないことも経験的によく知られている。　解析魔眩学は、lがｌでɑがˈの魔法は、lがʔでɑがꞎという魔法で相殺できることを明らかにした。　{l,ˈ} と {ʔ,ꞎ} はそれぞれの殻同士が透過値であることから属殻部分がヌル化され、魔法の骨子たる属性を失うために相殺が起こるのではないかと考えられた。　他方、lがˈの場合、lがꞎになるものがあれば理論的に相殺可能だが、魔眩はトップノートがꞎで始まるため、lがꞎになることはありえない。　それゆえ相殺関係にない魔法が４種存在することになる。それが利、害、土であればこれまでの経験知に背かない。そしてそこに魔法光のない無属性が加わってちょうど４種となる。　組み合わせごとの魔法の属性は以下のとおり。　l,ɑ 属 −−−−− ˈ,l 利　ˈ,ʃ 土　l,ʔ 害　ˈ,ꞎ 無　l,l 闇　l,ˈ 水　l,ʔ 風　l,ꞎ 聖　ʔ,l 雷　ʔ,ˈ 邪　ʔ,ʔ 光　ʔ,ꞎ 火　このうち l,ꞎ 無以外は魔法光を放つ。これは可視できるが、l1 でアルシアはこの光を元に魔法を１１種に分類した。　アルシアは１１種に分類できない魔法を無属性としており、魔法光の出ないことを特徴のひとつとしていた。　無属性が事実存在することは誰も否定しなかったが、無属性というのは他の１１種より広い範囲を持ったものではないかと考えられていた。　しかし解析魔眩学は無属性が他の属性と同位であり、属性のひとつでしかないことを明らかにした。　なぜ ˈ,ꞎ のみ特殊なのかを推理すると、ʃ とｌ、ˈ と ɑ がそれぞれ互いに透過値になっており、これは他の組み合わせでは見られないことが何らか関与しているのではないかと考えられている。　・魔法の段位　さて残る静殻は d 殻であるが、これは何の働きをしているのだろうか。　d 殻は ɑ 殻で使ったガレットを除いたものから成る。その出現パターンは１〜ꞎの４通りである。
闇の魔法では１以外の３種、聖では ꞎ 以外の３種というように、d 殻全体の出現パターンが４通りあっても、各属性ごとには常に３種しか存在しえない。　解析の結果、d 殻は重合、つまり魔法の威力に関与することが明らかとなった。　我々は ɑɪc と聞くと子供でも使える簡単な魔法というイメージを想起する。その一方で、ɑɪɪlccɯ と聞くと極めて強い魔法だと感じる。　しかしこれはおかしくないだろうか。ɑɪc も ɑɪɪlccɯ も配列が違うだけで、１握の ɑɪc は１握の ɑɪɪlccɯ と同じ威力のはずである。　だが日常的には ɑɪɪlccɯ のほうが強く感じる。これはなぜかというのが長年の疑問であった。　魔法には段位があり、zφ の段階で既に経験的に低位、中位、高位の３段階に分類されていた。　実はこの３段階という主観は的を射ていたということを解析魔法学は明らかにした。　ɑ 殻が ˈ のとき、d 殻が透過値の ꞎ の場合、その魔法は低位となる。　同様に d 殻が ʔ の場合、その魔法は中位となる。
そして d 殻が１の場合、その魔法は高位となる。　これ以外に組み合わせは存在しないため、３段階分類は魔眩学的に正しかったことになる。　段位の組み合わせは以下の通り。　ɑ,d 段 −−−−− l,l 高　l,ʔ 低　l,ꞎ 中　ˈ,l 低　ˈ,ˈ 中　ˈ,ꞎ 高　ʃ,l 中　ʃ,ˈ 高　ʃ,ʃ 低　ʃ,ꞎ 高　ꞎ,l 中　ꞎ,ˈ 低　ꞎ,ʃ 高　・経常廃棄率　ところでこの段位というのは魔法学的には具体的に何を示すのだろうか。　これは経常廃棄率である。経常廃棄率とは、「重合の際に常に一定の割合のヴィードを廃棄しますよ」という意味で、これが少ないほど同じ数のヴィードを消費したときの重合度は高まる。　廃棄率については前述の通りで、人は１００のヴィードを使っても１００を重合できるわけではない。個人差が大きいし、その日の体調によっても異なる。
例えば１００のうち８０しか重合できないとしよう。ここで魔法の段位によって経常廃棄率が掛かるので、さらに「高位の場合は７０まで重合できるけど、低位の場合は５０までしかできないよ」というようなことが起こるわけである。　廃棄率は間違った眩基配列の握が捨てられることについての値である。集めた握の配列がすべて間違っていなければ、廃棄率は理論上ゼロになる。　一方、経常廃棄率は正しい配列の握のうち捨てられてしまう握の割合を指すので、原理が全く異なる。　つまり配列は合っていても漏れなく重合できるわけではなく、どれだけ効率よく重合できるかは最終的にこの経常廃棄率にかかっている。
しかしなぜこのような段位の差が生まれるのだろうか。それは静殻である ɑ と d の関係による。　ɑ 殻は魔法の属性を決定するが、d 殻はそれを補佐して同じ配列を集めて重合する糊のような役割を果たす。　そして ɑ 殻の透過値を d 殻が持つ場合、重合の際に干渉が起こり、重合しにくくなる。　分かりやすく言うならば上司が ɑ で d が部下だとし、透過値というのは反りが合わない状態を指すとした場合、ɑ と d が透過値の関係にあれば、仕事の出来高である重合度は当然悪化する、という話である。　一方、中位と高位はどう決まるのだろうか。
そもそも１とʔが透過値になるのは、これらが組み合わさって平板ガレットになるためである。　魔法学者はガレットには凹凸があり、１とʔ、ˈ と ꞎ は互いに嵌りあうと考えていた。
他方、１と l、ʔ と ꞎ はそれぞれ同方向のスピンを持っていると考えていた。ただしガレットを観測するのは不可能なので、あくまで説のレベルにすぎない。　そして同方向のスピンを持っているガレットの組み合わせのほうが経常廃棄率が低い。ゆえに l,ˈ は高で、l,ꞎ は中となる。　先ほどの喩えを借りるなら、上司と部下が同じ方向性で仕事をしていると仕事の効率がよくなるのと同じである。　ところで、甘く撃った ɑɪɪlccɯ より本気の ɑɪc のほうが強いことがあることも我々は知っているが、これはなぜだろうか。　これは単にこういう問題だ。先ほどの１００の重合度を出せる人のケースでは、高位は７０まで、低位は５０まで出せるとした。　もし低位をマックス５０まで高め、高位を３０に抑えたら、当然低位のほうが強くなる。これが撃ち方による威力の違いの原因である。　なお、ＡさんとＢさんの魔法の威力が異なるのも同じ理屈である。　そもそも重合できる限界値が１００の人と５００の人では威力が違う。５００の人の本気の低位は１００の人の本気の高位より強くて当然である。　・多段魔法　ɑɪc を前例で出したが、実は ɑɪc や ʅeɪ などは低位ではなく多段魔法という。　これは重合をしていくにつれ、ある時点で段位が変化する魔法のことである。　多段魔法はその属性の基本的な魔法に多い。　例えば火の低位魔法は {l,ɑ,d}={ʔ,ꞎ,l} であり、ɑɪc の初期の形もこれである。　ところがこれを重合していくと、ある時点で配列が {ʔ,ꞎ,l} になり、中位になって経常廃棄率が落ちる。　そしてさらに重合を続けると最終的には {ʔ,ꞎ,ʔ} になり、高位となる。　これは非多段魔法では起こらない。低位は低位でしかなく、昇段しえない。　多段魔法のメリットは威力をどんどん高めることができる点である。
（ＦＦでいうならファイア、ファイラ、ファイガ、ケアル、ケアルラ、ケアルガを想像すれば分かりやすいだろう。非多段とはテレポやメテオのように段階がないものと考えればよい）　しかしその反面、ɑɪc などの多段魔法を初手から高位として放つこともできないのがデメリットである。　そのため多段魔法は高位魔法に比べ、やや時間のロスがある。　また初期の経常廃棄率が高いため、全体的な廃棄率は高い傾向にある。　・セレス　→ jeleɟ
・調合魔眩学　ヴィードは３３万種以上も存在するが、解析魔眩学の進歩により、魔法として成立しうる組み合わせは激減した。　頭行は「に ꞎ、ˈ にもうひとつが入る。この時点で残る l,ʃ は２通りである。胴行も同様に２通りである。　一方天地行には４！＝２４通りがそれぞれ存在する。よって全体の順列は２＊２４＊２＊２４＝２３０４である。　このうち半分は開式魔法になりうるもので、半分は閉式魔法になりうるものである。　よって魔法として成立するかを調べるには半分の１１５２でよい。　この１１５２通りが各１２属性に存在するので、都合１３８２４通り調べればよいことになる。　もともと３３万通り以上あったものが１万程度に収まったことで、それまでは人間が使える魔法を分析するという帰納的な手法しか使えなかった状況から、今度は人間が知らない魔法をアミュレットの組み合わせで演繹的に作ることができるようになった。　３３万通りもあれば人工的な魔法作りは難しいが、１万程度ならばずいぶん手間が省ける。このことが調合魔眩学の素地を固めた。
とはいえ１万は１万である。その作業は途方もないものであった。　・古代魔法の復古　調合魔眩学はアミュレットを用いて人工的に魔法を作成する学問である。　解析魔眩学の成果を受け、μɑ では文献にしか残っていなかった古代魔法を復活させることに成功した。
神は一部の古代魔法を知っているが、自らのアドバンテージを維持するために人間には使い方を伝授せず、秘密にしてきた。　それを人が自らの手で復活させたということは、重合力はともかく人間が神の領域に ſɒ 以降初めて再び迫ったことを意味する。　・そして魔法研究所へ　調合魔眩学はそれまでの魔法学の集大成であり、魔法学の分野の中で最も新しく、すなわち魔法学最後の分野である。　μɑ で調合魔眩学が花開いて全盛を極めた魔法学であったが、1500cɒ ごろを境に衰退を見せ始め、nɑ では人間の弱化にともなって急激に科学の独走を許していくことになる。　これが現代の魔法研究所に至るまでの魔法学史である。
魔法研究所はこれまでの成果をまとめることが実質的な業務である。　魔導師自体がほとんど残っていないため研究の進歩は難しく、さらにその学問を軍事的・政治的・経済的に使うことが難しいことからも、税金の無駄遣いと非難されることが多い。　そのため ıl の魔法学は困窮しており、位相幾何学の観点で見た四面体構造の合理性など、いくつかの発見を除いては成果を挙げられていない。　・魔法意味論　魔法にはもともと名前がついているわけではない。　魔導師の立場に立ってリアルに考えてみよう。新しい魔法というのは開式魔法が発動した結果生じるものである。　このとき ɑɪc のような見てすぐに意味の分かる魔法ならよいが、ɑɔɹʃ のように意味の分からないものもある。ɑɔɹʃ など、目の前にヴィード死体がなければ何にもならない。　術者は新しい魔法に対面したときその効果を知らないので、おそるおそる実験することになる。　結局のところ何の効果があったのだかわからないことも多々ある。そのような魔法を意味が不明瞭な魔法という。逆に ɑɪc などは明瞭という。　こうして魔法の意味を解釈し、その効果や使用法を定めていくのが魔法意味論である。　魔法意味論の考え方自体は神代からあったが、体系化されたのは実践魔法学の下位概念としてであるから、ɒ 以降である。　・意味素性　魔法の意味を示すもの。　魔法は味方にかける白魔法と敵にかける黒魔法に大別される。　ɑɪc は黒魔法であり、これを +ueμ で示すと、ʅeɪ は −ueμ で示すことができる。　また ɑɪc は火の属性であるから、+ɑɪc で示すことができる。　こういった ueμ などを意味素性と呼び、+− で示すことができる。
これを使えば魔法を意味の集まりで客観的に示すことができる。　また、ɑɪc と ʅeɪ のようなそれ自体では比較できない魔法同士を、素性同士を比較することで結果的に比較できるようになる。　ɑɪc の意味素性分析は以下のようになる。　ɑɪc={+ueμ, +ɑɪc, +jenɑɔ}
jenɑɔ は多段魔法である。　ある意味を持つか持たないかを +− で表す方法のほかに、有する意味そのものを記す方法もある。　これを併用すると ɑɪc は以下のようになる。　ɑɪc={+ueμ, ɑɪc, jenɑɔ}　+ueμ を二値型の意味素性とすると、ɑɪc や jenɑɔ は非二値型ないし一値型の意味素性といえる。　なお、意味素性は言語学でも使われ、魔法学が言語学に輸出した概念である。　・魔法実験と魔法倫理学　魔法の効果を調べるにはまずエタンとアテンを用意し、両者に対する効き目の違いを調べる。　最初はエタンで調べる。次はアテンだが、人間を使うのは問題があるため、魔物を使う。次に人体実験を行う。　ただし魔物を使うのも魔人などから非難を受け、人間を使うのも事実上奴隷を使うことになり、いずれの場合でも倫理的な問題がある。　ɒ 以降、魔法意味論の整備に伴って、魔法倫理学も発達した。
・ɒeʃ　意味が不明瞭な魔法はたとえ魔法として成立しても効果が分からないということで忘れ去られることが多い。　ɑɔɹʃ のように不明瞭な魔法の効果が発見されることは稀である。　そんな魔法のひとつに ɒeʃ がある。　ɒeʃ は光の魔法で、これ自体は人間は ɑɪc のごとく簡単に重合できる。　しかし ɒeʃ は白い光が直線に飛んでいくだけなのがまずかった。　光の魔法で白い光が出るものは目新しさがまったくなく、むしろよくあるパターンである。従って照明魔法の一種程度にしか捉えられなかった。　また、エタンに当てても何も効果がないことも、発見が遅れた理由のひとつであった。　アテンに当てると効果が如実に出るが、だからといってその効果を解釈するのは難しい。それゆえなおさら発見が遅れたと考えられる。　さて ɒeʃ をアテンに当てるとどうなるかだが、まず対象に当たると正面に跳ね返る。　その後光が８本の柱に分岐する。８本の柱はそれぞれ色が異なり、左が赤で右が紫である。　要するにプリズムの分光なのだが、色の推移がアナログではなく８個に分かれたデジタルである。つまり虹のようなアナログではなく、８色の光の柱に分かれるということである。　これだけ見たら何のことか分からない。　ɒeʃ 自体をたまたまアテンに当てた人は l1 以前にもいたかもしれないが、最初にこの魔法の意味に気付いたのは l1 の uccz という魔法学者であった。　ɒeʃ を色々なアテンに当てると、個体によって柱の長さが異なる。女性は赤側が長く、男性は青側が強い。　比較の結果、ヴィーズは左の赤側がヴィル、中間の緑側がノア、右の青側がユノの量にそれぞれ対応しているのではないかと考えた。
しかし光が３本でなく８本なのが不可解である。　実験の結果、例えば赤の柱は魔法をどれだけ使えるかを示し、橙の柱は魔法の重合力を示していることが分かった。　以下分析を続け、ヴィーズはこれまで４種しかなかった幻眩を８種に細分化し、enuelen と名付けた。
→ enuelen　内訳は赤側から順に赤 nɪlɑe, 橙 dɹjdel, 黄 dɔɪleɟ, 黄緑 bɹlɪcn, 青緑 l1lenɪɟ, 青 ſclɒɪ, 青紫 hɪnɔn, 紫 bɔlle である。　ɒeʃ を使えば対象の強さを調べることができる。戦力分析に役立つこととなった。　光の柱は個体によって長さがかなり異なる。そこで単位を決め、lənɔn を用いて何ルノンのように示した。　これにより bɔlle 2ルノンは bɔlle 1ルノンより２倍多いというように、ヴィーズの多寡を数値で表せるようになった。　・nɪuc
→ nɪuc　・魔法鏡　ɒeʃ は多段魔法で、低位だと反射光が対象の目前まで行く。中位では中間、高位では術者の目前まで行く。　段位間は狭く、重合していくとすぐ高位になる。
光の柱を lənɔn で測ることにしたのはよいが、目盛りがない目算なのできちんと測れない。例えばきっちり２３ルノンなど測りようがない。　そこで開発されたのが魔法鏡である。
月晄を浴びた泉の水をガラス板２枚の間に入れ、ガラス板を閉じ合わせ、水が漏れないようにする。　このガラスに ɒeʃ を通すと空気中と同じく光が分散して８本の光の柱が出るが、このとき柱の長さが空気中より短く表示される。　この現象を利用して縮尺として使うのである。　水の量やガラスの厚さなどにより、縮尺は変化する。　空気中で実測１ルノンが等倍の１ルノンになるように製造したものを低位魔法鏡という。　縦の長さは１ルノン＋上下の余白で、横はその黄金比で、縦より長い。　ガラスの縦方向に温度計のように目盛りをつけ、１ルノンをさらに１００等分する。　縮尺を変えて１/１０にしたものを中位魔法鏡といい、目盛り１ルノン分で実測の１０ルノン相当（≒１８６ｃｍ）まで測れる。
１/１００が高位魔法鏡で、１００ルノン（≒１８６０ｃｍ、１８．６ｍ）まで測れる。　つまり空気中だと１００ルノンにも及ぶ高い光の柱を魔法鏡だと手のひらサイズで表示でき、しかも目盛りで数値まで測れるというわけだ。　やり方としてはこうである。まず高位の ɒeʃ を放ち、その反射光を手に持った魔法鏡に映しこむ。　すると相手の enuelen が鏡の中に表示され、目盛りで各要素の値を調べることができる。　なお魔法鏡はいったん光を受け取ると、次に使うまで光が残るので便利である。　むろん魔法鏡を使わずとも ɒeʃ だけで直感的には相手がどのくらいの強さか判断できる。　ɒeʃ はどんなに重合しても一定以上の重合度では効果が変わらない。　重合度を最も上げてもおよそ１１３ルノンまでしか測定できない。　よって魔法鏡は１/１００までのものしか製造されない。　１００を超えるとカンストであり、高位を使ってもそれ以上は測れない。　魔法鏡は ɒ 以降のアルバザードの魔法学者の l1nɑc が発明した。　lənɔn はおよそ１８．６ｃｍで、これが魔法鏡のゲージの長さとなる。　ゲージは１００等分されているから、最高が１ルノンで、最低が０．０１ルノンである。　０．０１ルノンは言いづらいのだが１センチルノンに相当する言い方が当時なかったため、l1nɑc の名から取って l1nɑcl とした。　つまり１００カンディルで１ルノンである。
中位では１ルノンのゲージが実測１０ルノンを指すので、１ゲージで１０００カンディルを示す。高位では同様に１００００カンディルを示す。　つまり１万カンディルで魔法鏡はカンストである。　当時は初期 ɒ で、人間には中位が使われた。　μɑ になると人間には低位を使用するようになった。成人男性の平均 bɔlle は１００カンディルで、空気中のルノンに直すと１８．６ｃｍである。　７歳少女の平均 bɔlle は３０カンディルで、成人男性の軍人は平均２００カンディルである。　・減算測定　ɒeʃ をかけた状態でヴィードを使うと、リアルタイムでゲージが目減りする。　これを利用して消費ヴィードを測る。　しかし廃棄率と経常廃棄率があるため、測りづらい。ではどうすればよいか。　たとえば魔法の場合、まず消費 nɪlɑe と dɹjdel の差を比べよう。dɹjdel は重合の限界値である。これを１０とする。　魔法を使うと dɹjdel が減少する。６減れば４残る。dɹjdel はすぐ nɪlɑe から補充される。例えば nɪlɑe が１００だと６補充されて９４になる。　dɹjdel を６使ったうち、廃棄と経常廃棄を足した総合廃棄を調べることはできない。ではどうするか。　・琥珀測定
魔封石の琥珀に魔法を撃ち込む。そこに ɒeʃ を当てると最初の魔法が飛び出す。　さらにそこに任意のヴィードを当てると ɒeʃ が飛び出す。これを魔法鏡で取り込むと、dɹjdel の部分だけ表示される。　上のケースでは、その数値が５であれば１が総合廃棄量である。　・不可視光線　解析が発達した μɑ においてセレスの仕組みが解明されたころ、ɒeʃ にも新たな動きがあった。　ɒeʃ で不思議なのは、ɹɒɪ, jeleɟ, φileeɒ を示す光がないことであった。これは μɑ で解明された。　実は ɒeʃ の柱は８本というのは誤りで、それは可視光線でしかなかったのだ。　不可視光線も入れるときちんとほかの要素も分析されていた。　ただよく考えれば当たり前で、そもそも可視光線の波長域は狭いのだから、人間に都合よく毎度可視光線ならずがない。むしろ今までの現象が可視光線で助かったといってもよい。　なお jeleɟ は紫外線で、ɹɒɪ と φileeɒ は赤外線である。　このうち前者の発見は低位死神を用いた実験で明らかになった。　死神は長めの波長の紫外線（紫に近い波長だが人の目には見えない）が見えるため、ɒeʃ を使うと紫の外が見える。　なお、後の学者はこのことから ɹɒɪ と φileeɒ が逆の赤外線側にあるのではないかと予想し、科学と魔法学を組み合わせ、これらが近赤外線であることを明らかにした。　・暗領域と ɹμucnɪ　ɒeʃ を使うと８本の柱が現れるが、それぞれの柱は下部が暗く、上部が明るい。　下部の領域を暗領域、上部を明領域という。　暗領域は圧倒的に短い。　ɒ になると暗領域の意味が解釈された。　例えば bɔlle が 100 の人の暗領域が ʔ とする。このときに L1lɪnɑcl のダメージを当てるとその人はヴィード死する。残り ʔ は削る必要がなく、また削ることもできない。　このことから暗領域は生命活動そのものに根ざしており、戦闘用ではないのではないかと考えられた。

ユノが多い人は日常的に活き活きしており、頭を使うとヴィルが減り、気をすり減らすとノアが減るなどといった現象は誰もが体感している。　ヴィードは戦闘に使うが、ユノ弾を撃ったからといって活き活きしなくなるということはない。　ということは日常生活に関与した部分は暗領域に支配されているのではないかと考えられる。　そこで神々と人間を比べてみると、明領域は天地ほどの差があるのに、暗領域ではほとんど差がないことが分かる。　むしろ人によっては神より暗領域が多いこともザラである。　考えてみれば神の高いnɔɪをもってすれば、神はいくら疲れても鬱にならないはずである。　にもかかわらずelɟのような鬱な神がいる。また、ベーゼルのような肝を痛めた怒りやすい悪魔もいる。彼らの高いnɔɪを考えればありえない話である。　ところが調べてみるとどうも彼らのような神は暗領域のnɔɪが少ない。　こういった実例から、暗領域の役割が解明されてきた。　つまり暗領域は生活用で、明領域は戦闘用というわけである。　アシェットのフルミネアはɥənɔが多いが、活き活きというよりは大人しく物静かな女性である。そして調べてみるとやはり暗領域のɥənɔが少ないことが分かった。　明領域は先天性や戦闘経験や修行によって増減するが、暗領域は主に生活リズム、食餌、健康状態、運動習慣、呼吸、睡眠などによって増減する。　食餌は特にユノに効果があり、呼吸は特にノアに効果があるなど、得意分野はそれぞれ異なる。　結果、暗領域の増幅と安定は国民のＱＯＬを下支えするという考え方が起こり、ɲp後期でlɜlleʃcɪとマ魔法学が合わさってɪɲuɔnɪができる。　ɪɲuɔnɪはさらにμnでリディアにより深められ、一般の国民にも紹介された。　その後ɪlでミロクにより推進され、さらにアルバザード全土に広く普及した。　・自然回復　ヴィードは時間とともに回復する。空気中の透明を取り込んで変換するためである。　低位魔法鏡で測れるレベルであれば、１０分で１％程度回復する。よって１０００分で全回する。　μnの人間であれば１７時間程度で全快することになる。宿屋に泊まって翌日にはおおむね回復というイメージに沿う。　中位では１００分ごとに１％程度である。１００００分なので、１６６ｈ、６．９ｄなのでほぼ１ｗ。　弱い神や魔物や上代の人間がこれに当たる。１ｗ寝込むので風邪のようなもの。　高位では１０００分ごとに１％程度。１０００００分なので１６６６ｈ、６９ｄ、２．３ｍかかる。　ここまで行くとふつうに回復するのは難しいので ɪleʃ が必要になってくるわけである。アレットを使えば１０分で１％程度になる。　・ヴィード死からの回復　ヴィード死すると回復には１０～１００倍程度の時間がかかる。　しかし肉体的な死を迎えないのが特徴である。　例えば神がヴィード死すると１０万分(ふん)の１００倍で千万分(ふん)だとして、６９４４ｄ、２３１ｍ、１９．２ｙほどかかる。　ɥʃのころは神も悪魔も上代よりさらに強かったため、そもそも１０００分ごとに１％ですらない。　そういった事情もあって ɦɩ などのころは戦争が長引いたのだといえよう。特に人員が少ない ɦɩ ではすぐ膠着ということもある。　上代になると人間は事情が変わる。　ヴィード死したまま放置すると肉体的な死を迎えるようになる。　期間はヴィードの総量に比例し、μnの人間で数日、上代の人間で数週間程度もつ。なお、寒いところのほうが長持ちする。　これにより古代魔法 ɑɔɲʃ が作られた。神はもともとヴィード死から肉体的な死に移行しないので ɑɔɲʃ が必要ない。　・魔法物理学　ɒeɟʃ と魔法鏡でヴィードを定量的に捉えることができるようになり、それによってヴィードの効果を物理的に捉えることができるようになった。　科学の物理学と並行して成長した分野で、ɲp で起こった。　・ユノに関する諸計算　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/yuno3.pdf　・加速膜斥力　アテンが１秒浮くのに使うハノンは個体によって異なる。重い個体ほど大きいエネルギーが必要である。　実験の結果、ʔtɔn の人が１秒浮くのにおよそ 0.1hinɔn 必要と分かった。これは 0.1 ʔinɑɔl e hinɔn の意味である。　加速膜斥力は重力をＧとすると、体重によらず中世の人間がおよそ１．２Ｇ、上代が１．５Ｇ、神々は２Ｇである。　アルデスは２Ｇまで出力できるので、0.Jhinɔn で１秒飛べる。ʔ0ɔn の人間は１秒浮くにも 0.Jhinɔn 必要になる。　ʔtɔn の男性が 100ɒclle で 10hinɔn の場合、どれくらい飛べるか。　飛ぶのは hinɔn を使うが、hinɔn は消費すると ɒclle から回復するので、結局 100hinɔn 分飛べることになる。　ʔtɔn の人が１Ｇ使って浮くと、１０００秒浮ける。同じく１．２Ｇ使って飛ぶと、８３３秒飛べる。それぞれ約１６分と１３．８分である。　すなわち μn の人間は全力で１４分飛ぶとヴィード死する。　１．２Ｇということは、荷物を持ったら飛べない。　１．５Ｇでも自重の半分程度しか持てない。　２Ｇでも体重程度まで。しかも体重まで持つと浮くことしかできなくなる。　ゆえに神人貿易が栄えた。　・斥力の安全性　中世の人間の斥力は体重によらず１．２Ｇ程度である。　つまり ʔ0ɔn の人も ʔ0ɔn の人も同じ速度で飛べる。最大速度は同じである。　ただし消費 hinɔn は軽いほうが少ない。　なぜ１．２Ｇで固定かというと、生命の合理性にある。　仮に人類が女性が飛べる程度のＦを出せるとしよう。　このとき男性は浮けもしなくなるし、幼児は頭を天井にぶつけて死ぬ。このような生命では早晩滅ぶ。　ゆえに体重に比例するＦを出せるようになっている。その比例の結果、出せる出力は１．２Ｇ程度に固定される。　体重が減ればジャンプ力は増えるかというと、筋肉も細るので飛距離は変わらないというのと似ている。　自分の質量＊重力加速度９．８の１．２倍まで出力でき、これがＦである。Ｆは体重（厳密には質量）に比例する。　同じ１．２Ｇ出力してもＧの内訳はここではｍａなので、ｍに比例して大きくなる。　なので ʔ0ɔn の人が１．２Ｇで飛ぶのは ʔtɔn の人が１．２Ｇで飛ぶのの倍の hinɔn がかかる。　・虚質量とユノの形　閉式蒼晄を体外に重合すると、hinɔn として出すことになる。　この hinɔn は虚質量を持つが、hinɔn の形によって質量が変化する。　虚質量を持つ場合、主に形は２種類ある。　１つは薄い膜状のもので、飛行に使う。１つは弾状のもので、攻撃に使う。　膜の場合、極めて薄いシートになる。　これと加速膜との間に斥力を生じさせ、足元に噴射する。　この反作用により体が浮き上がる。つまりロケットと同じ原理である。　シートの面積は足元に出すなら自分の肩幅程度で、前に進むなら身体程度である。　虚質量は膜状だと消失が早くなる代わりに質量が大きくなる。薄いシートにも関わらず極めて重い値になる。　６０ｋｇの人間を浮かす場合、１７０ｔの虚質量を噴射すれば仕事率は１Ｗで済む。１００Ｗでも１．７ｔである。　浮くだけでそれであるから、いずれにせよシートは非常に重い。　一方、弾にすると質量は極めて軽くなり、1ɔn 程度になる。　・ɔɔlɪ　通常 1ɔn 程度の質量を持ち、1lənɔn 程度の直径を持つ。　重合度と体積は比例するが、ɥ ɹ_l のグラフになるため、弾の直径は頭打ちである。　つまり人間と悪魔の ɔɔlɪ には天地ほどの hinɔn の差があっても、弾のサイズは大して変わらないということである。　質量には幅があり、人間では 0.Jɔn ～ Jɔn 程度である。　直径も同様で、スーパーボール～ボウリングの弾程度である。　一般的な値は質量が 1ɔn で直径が 1lənɔn 程度である。　強力な悪魔の弾は最大バランスボールくらいの大きさになる。　弾の時速は５０～２００キロエルア（≒ｋｍ）程度である。　つまり国道を少し遅めに走る車から、野球選手より何十キロか速い程度、あるいは新幹線程度である。　すなわち銃より遥かに遅い。目で見てよけられるレベルである。（避けるや弾くといった動作がないと、ファンタジーバトル的にヴィード戦がつまらない）　ɔɔlɪ における hinɔn の多さは ɔɔlɪ の弾数を示す。ɔɔlɪ 一発一発は人も神もそう大差ない。　何が違うかというと連打率である。ɔɔlɪ は連打してなんぼの攻撃なので、神々は大きな一発を放つのではなく、激しく連打を重ねる力があるといえる。　とはいえ神々の ɔɔlɪ は人間に比べて大きく速く強い。その上弾数も多いので、極めて強力である。　・ɔɔnʃ　hinɔn の重合度に関せず熱は１００度程度で一定。（あまり高いと金属を人力で加工したり氷床を溶かしたり鉱山を手で掘れたりして便利すぎ、歴史が狂う）　重合は ɔɔnʃ の幅（直径）とすなわち飛距離に関与する。　光なので直線に飛んでいき、徐々に消える。（かめはめ波のようなものをイメージすればよい）　人間の ɔɔnʃ はせいぜい懐中電灯の灯りくらいの手のひらサイズの直径だが、神々の ɔɔnʃ は刑務所のサーチライトくらいの直径があり、身体より直径が大きいこともある。　・ɪɩɔn　ɪɩɔn は熱も質量も出さないので、純粋に hinɔn による ʃclɒɪ および ɒclle の削りである。　・ɩɪnɔɟ　ɩɪnɔɟ は原理は ɔɔnʃ と同じである。　周囲に出すことで敵を一掃できる。周囲を完全に取り囲まれない限り、エネルギー効率は ɔɔnʃ より悪い。　・ʃclɒɪ とホメオスタシス　ʃclɒɪ は防御以外に重要な役目を持っている。対アテンよりも対エタンで重要な特徴を持っている。　ʃclɒɪ にはエタンから受ける衝撃を緩和する役目がある。その緩和率は衝撃の強さに比例する。　従って、軽く触れたくらいではほとんどそのまま衝撃が ʃclɒɪ を通過するのに、爆弾並みの衝撃では高い緩和率が働いて衝撃をほとんど通さない。　銃弾や爆弾程度なら軽く突き飛ばされるか倒れこむ程度である。　だから悪魔に銃弾や爆弾は効かず、μn までは銃火器の発達も遅れた。　そしてだからミロクやソーンは少なくとも起床時には暗殺することができなかった。　ʃclɒɪ には衝撃を緩和して平生の自分でいるためのホメオスタシスの効果があるといえる。　これは宇宙で生まれたアテンには生きていくために必須の能力であった。　圧力が低すぎたり逆に高すぎたりする空間でも生きていくにはこの能力が必要で、だからこそ能力の高い悪魔や創世記の神は宇宙で暮らすことができた。　ʃp 以降の神は宇宙で生きることもできるがアトラスでの生活を選んでいるあたり、創世記の神より弱いことが伺える。　特に身体を人間型に固定してからはますますアトラスでの生活に適応した体を持つため、ホメオスタシスに依存する割合が高まったといえる。　ホメオスタシスは ʃclɒɪ によるもので、ɒclle によるものではない。　もし ɒclle なら無意識でも発動するため、1l で少女リディアがソーンを暗殺したのは不可能なはずである。　ʃclɒɪ は着地時にも使う。　そもそも空を飛べてもそのまま落ちたら死んでしまう。　着地時に足に出すことで衝撃を緩和できる。倒れるときは背中に出せばよい。だから吹き飛んで岩にぶつかっても死ぬことはない。　しかしヴィード傷を受けたショックで気絶して空から落ちれば死ぬ。ゆえに戦闘中に飛ぶのはリスクがある。　ʃclɒɪ は腹にふっと力を軽く入れるだけで出すことができる。　着地や受身のような日常的に慣れたホメオスタシスの場合はほぼ無意識同然、呼吸のように半無意識に行える。　戦闘中で敵のヴィード攻撃を防ぐときに腹に力を入れればよい。　・霊力摩擦　重力と垂直に発生する力で、加速膜と薄い虚質量膜を使った飛行中に生じる。同じ hinɔn であっても体でなくユノそのものを投げる ɔɔlɪ には生じない。霊力摩擦は肉体というアテンにしかかからないためである。（要するにこれは前向きに進むときに後ろ向きにかかる抵抗力のことで、上下移動にはかからない。これがないと速度が加速度的に増え、地球上で横向きにロケットを飛ばすがごとき速度にまでなってしまう）　およそ５０ｋｍ／ｈで０．２Ｇ弱の力が生じる。　同２００ｋｍ／ｈで０．５Ｇ弱、１０００ｋｍ／ｈで１．０Ｇ弱。　この「弱」にｇの摩擦による抵抗を加えると「弱」が取れておおむねちょうどになる。　つまり５０ｋｍ／ｈで空気の摩擦を加味してほぼ０．２Ｇの霊力摩擦が生じる。　従って μn の人間は５０ｋｍ／ｈまでしか速度が出せないということになる。　１．２Ｇを出して飛ぶと１Ｇ使ってまず浮かぶ。残り０．２Ｇで前進する。　０．２Ｇだと１秒に２ｍずつ加速する。速度が５０ｋｍ／ｈ（＝１３．８ｍ／ｓ）に達するのは７秒後。　100ɒclle で ʔtɔn の人は８３３秒間１．２Ｇで飛べるので、約８２５秒ほど時速５０ｋｍ（＝より厳密には５０キロエルア）飛べる。つまり原チャで１３分半走るようなものである。　これは遅く見えるがそうでもない。本来人はせいぜい１００ｍをせいぜい１０秒程度で走る。１０ｍ／ｓである。しかも十数秒しか全力で走れない。その上地面しか走れない。　それに比べれば１３．８ｍ／ｓを１３分半、しかも空を走れるなら、やはり便利である。（ある程度便利でないと飛ぶ意味がないし、ファンタジー的に見栄えがしない）　かといってこれでは長距離移動には馬のほうがよい計算になる。（馬より飛ぶほうが便利だったら馬の飼育もしないし、軍も騎兵がいらないし、砦もいらない。しかしこれらがないファンタジーは面白味に欠ける。適度に便利で適度に不便な飛行がちょうどよく、このくらいのものであろう）　なお、上代は時速２００キロ、神々は１０００キロまで出せたことになる。　μn でもアシェットは最終的に神レベルになるはずだから、１０００キロは出せたことになる。　アトラスを４０時間、２日以内で一周できる計算だが、こんなものだろう。　あまり一瞬で移動できると古代の何年も続く戦争や、μn でのアシェットの長旅が説明つかなくなってしまう。　・ヴィードの持続時間　出した弾や波は虚質量や虚熱量でできている。これらはおよそ４秒前後で消失する。　地面に着く前に消失することもある。ヴィル等についても同様である。　・幻晄武具　ɔɔnʃ などは４秒で消えてしまい、速度も２００キロ程度までしかでない。　そこでアテンは武器を使った。　hinɔn をそのまま伝えるのは ɪɩɔn だが、これは人体ｔｏ人体なので効率が悪い。人体自体のユノ伝導率がよくないからである。　そこで鉄を使う。剣にして相手を斬る。このときユノが相手に効率よく伝わる。　剣の刃は砥いでおく。刃が鋭いほうが接触面積が少ない。ということは相手からすれば ʃclɒɪ でガードできる割合が減る。結果、大ダメージになるためである。　矢の場合は錫を使う。鉄は駄目である。鉄の矢尻はエタンを狩るときに使う。　鉄はユノを伝えやすいので、手から離れた瞬間は鉄がユノで満たされても、手を離れるとすぐ空気中へ逃げてしまう。　そこで錫を使い、ユノを逃がさないようにする。近接武器と遠距離武器で金属を使い分ける。　また、木にもある程度ユノが蓄えられる。なので投擲棒、木のブーメランなども武器として使える。　投槍の場合は錫を使うが、木でも良い。　ヴィルの場合、手から魔晄を出すより銀を通したほうが良い。　銀のヴィルの伝導率が人体よりよいためである。　それゆえ魔導師の杖はたいてい銀製である。　ノアの場合もともと体内で働くので青銅には大して意味がないように思われる。　しかし格闘家が相手を打突した際、bɦɪcn が流れ込んで ɒclle を崩すため、その際は青銅を使う意味がある。　ゆえに爪などはたいてい青銅で作られる。　・計量魔法学　厳密には計量幻晄学だが、慣例につきこのように呼ぶ。　ヴィードによるダメージ等を計算する学問。ɒeɟʃ 等により実現した。　・ダメージ算出法（ユノ）　防御量 (ɪɩnɔ):u　防御率 (ɔ)ɸɪl):ɔ　防御係数 (ɑɔlɪlll):n　接触した hinɔn:h　接触した ʃclɒɪ:f　式１：ｕ ＝ ɔ/100 × ɑ　式２：ʃ ＝ h/u　・防御率　防御率は０～１００％の変域。　体のどの部位で防ぐかなどによって値が変化する。　ʃclɒɪ に対する hinɔn の割合が大きいほど防御率は高くなる。これは一見逆に見えるがそうでない。　ɔɔlɪ も ɔɔnʃ も重合を上げるほど直径は大きくなるが、その増え方は一次関数的ではない。　悪魔の弾でもせいぜいバランスボールくらいである。ということは重合度が増すほど体積がそれに見合わないので、密度が高くなるわけである。　一方 ʃclɒɪ は接触面に対して働く。そのため、防御率は接触面の表面積に比例する。　ゆえに ʃclɒɪ と hinɔn の差が大きいほうが逆に防御率を高くする。　防御率は弱者に有利な数値である。　・防御係数　hinɔn に対する ʃclɒɪ の割合が大きいほど防御係数は高くなる。これは感覚に沿うだろう。　要するにテームスをただの人間がいくら攻撃したところでほとんどダメージを与えられないということである。　これは強者に有利な数値である。これがなければただの平民でもかき集めればよってたかって悪魔を倒せることになり、歴史はアシェットを必要としなくなる。　防御係数は hinɔn と ʃclɒɪ の比で決まる。　hinɔn に対して ʃclɒɪ が１倍程度の場合、ɑ=1 である。以下表。　比：１倍、１０倍、１００倍、１０００倍、１００００倍　係数：４、１６、６４、２５６、４０９６　hinɔn が１０で ʃclɒɪ が１００のとき、攻撃に対して防御力が圧倒的に強いことを意味する。このとき防御係数は４から１６に上がる。　もっと防御力が強くて ʃclɒɪ が１０００もあったら、比は１００倍だから係数は６４になる。　・ʃclɒɪ の凝縮　防御率が変化するのは ʃclɒɪ を体の一部に凝縮できるためである。　ʃclɒɪ は体全体を覆っているが、一部に凝縮できる。　凝縮しやすいのは手で、手は防御率最大１００％まで高められる。　凝縮した場合、それ以外の部分が ʃclɒɪ で覆われないため、無防備になる。そこに攻撃が当たると危険である。　手は凝縮しない状態で通常２５％程度の防御率を持つ。　体は着弾を意識すれば１０％程度、そうしなければ５％程度。　無防備だとむろん０なので、u=0 となり、防御量は０となり、すべてが直接ダメージとなる。　・例　平均的な μn の成人男性の enuelen を以下に取る。　ɒclle:100　hinɔn:1? ʃclɒɪ:1? ʃclɒɪ:1? ʃclɒɪ

士気の低下などの精神的ダメージを与えることにも貢献している。　・ダメージ算出法（ノア）　ʃclɒɪ や dɔɪlɛj に当たるものがないので防御量は存在しない。　じかに ɒclle を削る。ダメージは bɾlɪcnxɱ で求める。　効率は良いが、ノア自体量が少なく、素手や爪などで当てねばならないため、難しい。　bɾlɪcn は体の表面からほとんど出ないため、接触時に相手の体に移る。　この際 bɾlɪcn を２０％ほど廃棄する。修行によっても異なる。　ノアは体を訓練すると効率が良くなり量も増えるので、鍛えると廃棄率は低くなる。鍛えなければ半分以上廃棄してしまう。　なお、爪などの武器のほうが効率が良く、廃棄率が低い。　・ダメージ算出法（アルマ）　じかに ɒclle を削る。ɪɰɒɪxɪʔ で計算する。　逆に防御側がアルマを使用した場合、自分の ʃclɒɪ や dɔɪlɛj 以前に働き、ɪɰɒɪxɪʔ 分の hɪnɔn, ɦɪjdel, bɾlɪcn を削り、ɪɰɒɪxɪ 分の ɪɰɒɪ を削る。　従って１アルマの攻撃を１アルマで防ぐと、攻防ともに１アルマずつ失うことになる。　・魔物学　主に魔物の生態や特徴を調べる分野で、zɸ に端を発する。　人間は魔物よりも弱いため、効率よく戦うためにこれを分析する必要があった。　ɪʔ や ɲɒ で花咲き、μɑ でも華やいだ。　特に学者だけでなく旅人にも広く知られ、非常に実用的な分野であった。　jelɛj の遺伝子、月光蟲など、魔法学の別の分野と組み合わせて論じられることも多い。　・怪獣図鑑　μɑ でそれまでの魔物学の成果を元に、さらにリュウらが自分たちの旅で得た成果を加えて図鑑にしたもの。　リュウ編纂で、絵はオヴィ、それとその後に加わったミルフが担当した。　魔物の特徴や属性、ɛnuelen の ɒɛjʃ 計測値などが書かれている。　怪獣図鑑は lɪnʃllel という。主に悪魔が載っているが、神なども載ることがある。　鋭い人は lɕnɲ では？と思われるだろうが、ヒュート語で悪魔が lɪnɲ。アルバザード人もよく lɕnɲ では？と混同する。　・魔法の種類　ləɲɕɪ　・体格と幻晄　一般に幼児や老人は幻晄が少なく、若者は多い。子供は未熟なため少なく、老人は老いたため少ない。　思春期から３０代までが最も強い。およそ体力と同じである。　ユノは一般に体格が大きく腕力があるほうが多い。　ただしユノはノアと違って体格だけで判断しづらいことがある。というのも、小柄なのに爆弾のように元気でユノの多い人もいるからだ。　結局のところユノははつらつとして元気な人に多い。元気な人は一般に運動が好きで体格も良い確率が高い。それゆえ体格が大きいほうがユノを持ちやすいと述べたにすぎない。　性別では男性のほうが多い。　ヴィルは知的な人に多い。神経が細やかで几帳面で繊細で傷つきやすい人に多い。鈍感な人には少ない。　また体格的には痩せ型で小柄なほど多い傾向にある。　性別では女性のほうが多い。　ノアは筋肉がしなやかで引き締まっているほうが多い。これはユノと違ってほぼ体の問題である。　一般に bɾlɪcn は男性に多く、ʅlenɪɲ は女性に多い。　アルマは心身ともにバランスの取れた人に多い。　ユーマの一族の中にはヴィードの量が非常に多い特異体質がいる。たいていは神の血が入っていることが多いのだが、彼らには身体的な特徴がある。それは華奢で動物としての力が弱い点である。　今までの歴史を振り返ると、筋骨隆々なタイプや太ったタイプは特異体質に存在しない。メテ然り、アルシェ然り、ソーン然り、アシェット然り、ミロク然りである。　その理由は恐らく幻晄の強さで生きていけるので腕力に頼らなくて済むからではないかと想像されている。腕力が不要であれば小柄や華奢であるほうが必要なカロリーも少なく、より少ない食糧で生存でき、合理的である。動物であれば体力的に弱ければ生き残れないのでしばしば大きいほうが有利である。　また寒い地域のほうが表面積を大きくして体温をできるだけ下げないよう体格が大きくなるが、それも強力な幻晄があれば生存を脅かさないので必要ない。寒い地域は食糧が乏しいので、温度の問題をクリアできればむしろ小柄なほうが生存できる。　幻晄のおかげで外敵や温度からは身を守れても、食糧とカロリー摂取だけはどうにもならない。ならば強力な幻晄を持っている個体は小柄なほうが有利であり、そのため歴史上の特異体質は皆華奢だったのではないかと考えられる。　・魔法分類学　zɸ に萌芽。ɲɒ,μɑ で大成。　効果：黒、白……→ elɑɛɲ　難易：難合、易合、無標は並合　属性：闇、水……　段位：上位、中位……　上記の分類項目に従って分類。　属性、段位、難易、効果の順に付ける。「闇の上位難合黒魔法」のように。　＜余禄＞　・魔法体　魔法体とは魔法性を帯びた物質で、ほとんどの物質がこれに当たる。　中でも特に魔法学で多用されるものを指すことが多い。　主な魔法体は以下の通り。　●金属系　錫：ユノを蓄える　金：ヴィルを蓄える　銅：ノアを蓄える　鉄：ユノをよく通す　銀：ヴィルをよく通す　青銅：ノアをよく通す　銅：魔晄をゆっくり揮発させる　ホワイトゴールド：ヴィルを蓄える　レニウム：ガレットを遮断する　パナジウム：１を帯晄　ニオブ：２を帯晄　タンタル：３を帯晄　ドブニウム：４を帯晄　金銀鉄青銅（アミュレット）：ɲeesɕ を保存　白金：ヴィルを非常によく通す　コバルト：平板ガレットを蓄えてＮ極、ゼロガレットを蓄えてＳ極を持つ　チタンレニウム合金（テンペスト）：１～４のいずれでも月光蟲を起こせる　鉛：銀などに混ぜることで放晄傾向を逆転　●鉱物系　水晶（石英）：月光蟲を起こす　氷晶石：放晄傾向が弱く、脱晄に使う　菱沸石：崩月を起こす　蛍石：セレスを単蓄　●宝石系　サファイア：ユノの重合限界値を高める　ムーンストーン：ヴィルの重合限界値を高める　ジルコン：ノアの重合限界値を高める　ルビー：ヴィルを蓄える。また、放射性を持つ　エメラルド：複写性を持ったルビー　ダイアモンド：白金橋に使う　トルマリン：魔動回路に使う。ゼロガレットを白金に渡す　●動物系　牛革：ノアを通す　●植物系　琥珀：魔封石　木：ユノをやや蓄える。樫などの硬い木のほうが蓄えやすい。　●自然系　月光：月光蟲や崩月を起こす。ヴィルの回復を促進　日光：ユノの回復を促進　＜カルディアの魔法と地球の魔法＞　魔法は２種類あると思う。　ひとつは錬金術のような「何と何を混ぜるとどうなる」といったものや、呪文や魔方陣のように「こういった言葉や図形を書くとこのような効果がある」といったものである。　これは経験的、人文、文系、東洋医学的に感じられる。　ほとんどの魔法の市販書籍はこのタイプに思える。　そしてひとつは解析魔晄学のような理論的な分野である。　これは科学、理系、西洋医学的に感じられる。　恐らくアルカを見て面白いと思うような人は魔法理論もこちらのほうが好きなのではないか。どちらかというとセレンに感性が似ているように思える。　カルディアの場合、どちらも備えているというのが恐らく特徴だろう。　地球の場合、だいたい前者しかないものが多いように思われる。　後者の理系的なほうを備えた魔法学というのは見たことがない。　が、魔法は人気のある分野なので、ウチが世界初とも思えない。　ただ、カルディアの魔法が世界初な面もあると思う。　それは土台となる歴史、世界観、言語が詳細にわたって備わっている点である。　＜魔法学ができるまで＞　地球では魔法学は Ɪʅ 年に主にセレンが作った。　それまでのヴィード論などを統廃合し、設定を大幅に加えた。なお、それまでのものはリディアが主幹である。　セレンは子供のころから魔法が好きで、機械物には興味がなかった。魔法物のアニメばかり見ていた。　（今でも機械物は苦手。戦争物も苦手。動物が人間のように振舞う（ＤＢのウーロンのような）物も不気味に感じてしまって苦手。だからディズニーが非常に苦手。それゆえ μɑ でも動物っぽい人はあまり出てこない。ただし人に猫耳がついた程度ならなぜか逆に好きになる）　ＦＦとＤＱ世代なので、魔法の大まかなイメージはこれらのものである。特にＳＦＣまでのＦＦが幻想の原風景である。　魔法学自体はアプリオリだが、影響は受けている。影響と流用の違いは言語論等で述べているので別途参照のこと。　影響は例えば「ウリーデァ」という名前の少女がいつの間にやら「リディア」で正式になっている点などに現れている。多段魔法やＭＰの nɪlɑe なども影響が色濃い。　ちなみにメルは ɲɔlɒɔcɥə の草案を読んで、ＦＦの影響を残したいのだというセレンの思惑を一瞬で見抜いた。それくらいセレンはこのゲームに傾倒していたといえる。　しばしばアルカは影響すら排他しようとする傾向があるのにここだけは残そうとしたのは、きっとそれだけ心の中の思い出を占める割合が大きいのだと思う。　セレンの魔法好きは少し異常だった。　小６のころ、「魔法使いになるために」というような感じのタイトルの本を読んだが、それを読めば本当になれると思って買ったのがポイントだ。　なれると思って期待したが、そのような内容の本でなくがっかりした。よく覚えていないが小説だったかもしれない。　子供文庫みたいなもので、新書くらいのサイズで、白い表紙の本だったような気がする。　中２のころ、「魔術の事典」というような文言の入った長いタイトルで、オレンジと茶色の間の色の表紙の本を買った。５０００円くらいして、分厚い本だった。　今の子供はどうだか知らないが、当時の子供が買うようなものではなかった。　しかしこれも期待はずれだった。錬金術的なことや呪文的なことしか書いてなかったからだ（と思う）。　要するにセレンは魔法の仕組みを知りたかったのだ。ɲɔlɒɔcɥə でいうガレットのような量子論や解析魔晄学のような「魔法の仕組み」そのものを知りたかった。　経験論でなく自分で仕組みを知って演繹できるようにしたかったのだ。　また、アイテムというより魔法を撃つほうに興味があったことも落胆の原因のひとつだ。　簡単に言えば、「ポーションの作り方はどうでもいいから、とっととファイアの撃ち方を教えてくれ！」と思っていたわけだ。　それ以降、どことなく魔法の本というと東洋医学的な経験知の集合というイメージを持ってしまった。まぁ実際書店を見るとそうなのだけれども。　それで、自分で作るときは科学のような理論にしたいと思った。　めぐりめぐってそれが今の魔法学に繋がったような気がする。　リディアも魔法好きな空想少女で、だいたいセレンの周りにはこの手のタイプが多い。　だが女の子のリディアはセレンほど理論立てて魔法を考えようとはしなかったので、Ɪʅ 年にセレンに主幹を譲った。　＜魔法は存在するか＞　魔法は残念ながら使えないわけだが、使えないことは存在しないことの論理的な証明にはならない。　このことを子供のころ理解していなかった気がする。　「使えないのは単に地球に使える要素がないからではないか？地球でなければ存在するのではないか？」　そういう考えがヴィード論を生んだ。ヴィードさえあれば、少なくともその世界では理論に基づいて魔法が使える。　ということは、地球に限定しなければ魔法は存在するのではないか――なぜと考えた。　子供のころの夢を叶えるために人は大人になるのだと思っていた。少なくとも年を取るために大人になった人なぐらいは。　魔法学を作ってみてカルディアが見えてきた。子供のころのぼんやりとした幻想風景が理論だった明瞭なものになり、すっきりした。

ɲɔlɒe　［娯楽］ドルメ、囲碁　［レベル］3　ɲO: 制　［文化］ルティア人がセルメルで作り上げたゲーム。発祥は謎で、いつの間にか普及していた。ナユの将棋などと異なり、民衆から起こったと考えられている。ルティアでは盛んで、紗枝のような少女でもプレイするが、アルバザードではレア。

ɲɔlɒɛ̀lɕɪ　［工学］石器　［レベル］3　ul;/　ʃʔ

ɲɔlɒɔ̀ləəɥɪ　［地球の国名］ジンバブエ　ɲL: ショナ語で石の館

ɲɔldcd　［娯楽］水切り、水きり、石投げ、ストーンスキッピング　μɑ;/　［レベル］2　ʃʔ　［文化］水面に向かって回転をかけた石を投げて、水面で石を跳ねさせる遊び。

ɲɔlhɪnɔc　［哲学］石の塔、ドルハノイ　［レベル］4　ʃʃ　［文化］学問は積み重ねであるという考え方。先行文献を研究し、今まで先哲が築いてきた学問の層の上に積み上げようという意味。しょせん人間一人の力などタカが知れているので、そうしないと意味が無いという意味。

ɲɔlhɪd　［物理］ドップラー効果。光のドップラー効果も含む。　［レベル］5　ɲL:μcɑɕɪ

ɲɔlhɪdj　［魔物］ドルハプス（岩蜥蜴）: 第二十八天 : 土の炎天　［レベル］5　ɲL:μcɑɕɪ/jeɲen/ɒel　［文化］爬族。岩のように固い皮膚を持つ灰色の大トカゲ。窮地になると丸まって岩に模す。　喉から「ギーゴー」という気持の悪い音を一定のリズムで出す。獲物はこの音でドルハプスと自分の距離を測る。これを逆用し、ドルハプスは周波数や音量を巧みに操って、獲物に「あ、今ドルハプスが去っていった」と思わせ、油断させる。そこを強襲し、獲物を狩る。　咬まれると石化する。アシェットではオヴィが噛まれ、石化しかけた。リュウはここからドップラー効果を見つけた。

ɲɔllɔ　［形容詞］［ネガティブ］頑固な、忠告を聞かない、話が分からない、話の分からない、意固地な、考えを変えない、偏屈な、頭の硬い　［名詞］石頭　［類義語］uelɪnʃe　［レベル］3　ɲO: 日本語と同じ発想。　［用例］ɪn ləʃ lɔ ɒeɟɪ ʃɔʃɪl ɥəl "fə eʃ ʃɔ lɪlʃ ɪɲlɪ jec. ɪn leclɛj fə ɪ ɑcɪ̀llel jec". lɪɑ ɪn e ʅlel eʃ ɟɔɪ jelɪn nɪ. ɥɪn ɪn jccnɪ nɔɟ l'eʃ ɑɔllɔ ɟɔɪ ɑɪ. どんな状況にあろうと、常に「これアルカで何ていうのかな。これ、幻日に登録したっけ？」と考える。辞書編集者というのはそういう人種なのだろう。それで僕はそういう偏屈な自分が好きである（jeɲen ɪɲbɪzɪɲɑ）

ɲɔlɪ　［建築］ピラミッド、角錐　［レベル］3　ʔ: 制 : 古 : ɲɔlɒəəɥɪ（館）から。この幻字がピラミッド型。

ɲɔlɪ̀lɪɑ　［地球の国名］エジプト　［レベル］5　ɲL: ピラミッドで有名

ɲɔle　［被服］アビ　μʃ; コートを意味する民衆の俗語から。　ɲɱ

ɲɔleʃ　［ネガティブ］［形容詞］売れない　［類義語］ʅlɔleʃ　［反意語］　［レベル］4　μɑ;ɲɔl/ʃe「石のように無価値な」　ʃʔ　［文化］　ʅlɔleʃ

ɲɔlej　［普通動名詞］組版　［動詞］ɥəl を組版する、組版する　μɑ;ɲɔʃl/jeu　ɱ

ɲɔləəɥɪ　［建築］館、屋敷、お屋敷　［レベル］2　ɑ;e　古 : ɲɔlɒəəɥɪ　［語法］　大きな個人宅のこと。アルシェの家は集合住宅に近い造りなので、ɲɔlɒəəɥɪ ではない。

ɲɔɪ　［経済］財、財産　［レベル］3　ʔ: 制 : jɔμnːləɑɔɪɟ（経済学の用語での財産）。ləɑ はアルシェの ləɑɔ（宝石）　［成句］　ɪɑ ɑɔɪ lɔljeʃ ɥeμnɟɪɪl ヴェルンサールの悲劇を利用して財産を成す : 災いを転じて福となす。クルノース家などのこと。　［用例］　lɪ ʃcl ɪ̀lcj, ɪlɑc ʃcl ɑɔɪ. 彼は土地持ちなので財産があるんだ。

ɲɔɪl　［経済］資産　［レベル］4　ɲL:ɑɔɪ

ɲɔɔ　［感動詞］じゃあね　［レベル］2　ɱ: 制 :ɪ'ɑɔɔɥɪ の略形　［語法］　ɑɔɔɥɪ よりくだけている。

ɲɔɔɥɪ　［感動詞］さようなら、バイバイ、ばいばい　［レベル］2　ɑ;jɪɪl;ɑɔɔɥɪ.e（次）「また次に（会おう）」の意でサールガ使った。　ɱ: 制 : 古 :ɪ'ɑɔɔɥɪ（また次に、また今度、また今度会おう）が原義。　ɑɔɔɥɪːɑɔɔɥɪː

ɲɔɔɥɪlɔɔʅ　［名詞］別れの挨拶　［レベル］2　ɲL:lecn　［語法］　日本人よりアルバザード人は会話好きなので、別れは挨拶でなく会話。日本人は別れのときに皆まで言うな状態になるのを良しとするが、アルバザード人は悔いがないようにすべて話していく。

ɲɔɔɒɪ　［俗語］まぬけ、間抜け、マヌケ、どじ、ドジ、うすのろ、ウスノロ、あんぽんたん、ばか、バカ、あほ、アホ、阿呆　［レベル］2　古 :ɑɔɔɥɪ の言い誤りからか。　［語法］　罵倒語にしては好意を込めた言い方で、ユンクでも時と場合によっては使う。

ɲɔɔɒɪn　［俗語］アホの子　［レベル］2　ɲO:ɒelcɑɕɪ lcɛɟ

ɲɔɔlɪʃ　［建築］昇降口　［レベル］2　ɲO:「バイバイする入り口」　［語法］　外部にキャンパスを持っている建物の出入り口。学校にはあるが、オフィスには通常ない。ɒelɔ を持っていないと成立しない。マンションの出入り口は lejʃlɪʃ。

ɲɒ　［動詞］ɥəl でない、～でない。否定の繋辞。　［レベル］1　古 : 古では繋辞だった。繋辞の否定が ɒenɪ であり、これが短くなって ɒen になった。ɒen は繋辞の否定として使われたがやがて本動詞に前置して否定の副詞となった。新では ɒen は禁止で使い、eʃ は繋辞として使う。否定の副詞は en であり、en を否定の繋辞として使うと肯定の繋辞の eʃ と区別がつかない。かといって ɒen などは禁止で使っている。そこで肯定として使っていた元祖繋辞の ɒe を否定にし、新アルカに甦らせた。

ɲe(J)　［文末純詞］文末純詞 ɒenʃ の標準形　［レベル］1　ɲL:ʃeɔlɔn

ɲe(ʔ)　［南方］［動詞］eʃ　古

ɲe,ɑ　eʃ　e

ɲeʃ　ɲe/ɪʃ　ɲL:ɒelcɑɕɪ ɪlcj

ɲeʃej　［動詞］なっていなかった。過去継続相の否定の繋辞。　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ

ɲel　ɲe/cʅ　ɲL

ɲelɔ　［名詞］内側、内　［建築］構内、内部、校庭、キャンパス　［反意語］φɔʃe　［レベル］2　ʔ: 制 : 古 :ɒejdɪ̀lelɔ（来てはならない）　［語法］　マンションの内部や家の中など、敷地の中であることを示す。建物の中というより、敷地の中という意味で使われる。ʅɪ ɒelɔ e μɪ と dɔʃ μɪ では、敷地を意識しているか空間を意識しているかの違いがある。ここはウチの家だからよそものが勝手に入るなという場合、前者を使う。家の中は暑いねという場合は後者を使う。　［文化］　芝生などが植えられ、憩いの場となる。軒のあるところもある。遊具はない。昼休みには生徒が校庭に出て、遊んだり寝たりする。

ɒelɔʃcɒ　［地学］内核　ul;/　ʃʔ

ɒelɔʅɪd　［名詞］内線電話　［レベル］4　ɲL:μcɑɕɪːɪμbɪleʃl

ɒelɔjeun　［生物］結合組織、支持組織　μʃ;/　ɱ

ɒelɔɔɔl　［数学］内接　［レベル］4　ɲL:μcɑɕɪːɪμbɪleʃl

ɒel　［動詞］ɥəl を許さない、許さない　［反意語］lɔlhc　［レベル］2　ɱ: jeɲenʔlleːɲɔl　［文化］　許さないからといって復讐するという意味では必ずしもない。日本語にはこれに当たる単語がない。

ɒelɪl　［感動詞］うそーっ！　［アクセント］ɒelʔl　［レベル］2　古 :ɒelɪl。元は ɒenlɪl（存在しない（存在し得ない））。ᚻ 年ごろかあるいはそれ以降にはリディアが使い出していたと思われる古アルカの感動詞。

ɒej　ɒe/ej　ɲL

ɒej(J)　［化学］アシル基を持つ種　ɲL:ɒejdɪ/ɪjl

ɒejʃ　［名詞］お布施、布施、おふせ　［動詞］ɥəl（お布施）を ɪ に払う、払う　［レベル］4　zφ;ɑcjʃ.l　ʃʔ

ɒejʅ　［動詞］ɥəl を ɪ（場所）に c しないように乃至 c という場所から出ないように牽制する、牽制する、けん制する、封じる、制する、封じ込める　［動詞］抑えておく、押さえておく、仮に予約しておく、仮にアポっておく。予約の一歩手前。　［普通動名詞］仮押さえ、アポ、アポイントメント、仮予約　［レベル］3　ɑu; ↓　古 :ɒejʅ ← ɒejdɪ（封印）ʌleʃʃɪ（行く）の短縮。　［語法］　ɥəl を ɪ の場所から動けない状態にすること。あるいは ɪ に行為を限定させること。つまり、行けるのを ɪ だけにするという意味。　［用例］　ɪlɑc lə ɒejʅej lɪ c lɪ μɪʅ uɪn fə φɪlʃ leɑ ɑlen ɑɪ. 万が一にも彼女が勝手に門を越えないよう、牽制しているのだ。

ɒejʅlɔl　［医療］腸閉塞、イレウス、腸捻転　［レベル］5　ɲL

ɒejdɪ　［名詞］封印　［動詞］ɥəl を ɪ に封じ込める、封じ込める、封印する　［名詞］栓、バルブ　［名詞］シール、印、印章。ジュースの缶などについている何かの応募券などではなく、封筒に張られていて破らないと中身が取れないようになっているシールなどを指す。前者はステッ

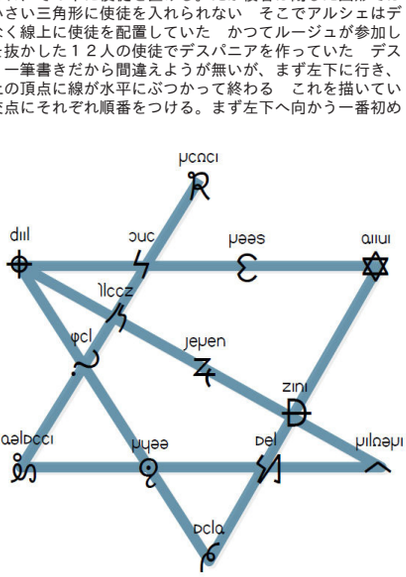
カーである。 ［エルト］デスパ。デームスを封じ込める魔法を編み出した。狩と封印を司る。クレーヴェルが狩りを誰かに治めさせようと籠から自分で生んだ息子。 ［魔法］デスパ。無属性の古代魔法。対象を封印する。アルマディオのように複数のリングがX字型になって対象を取り囲む。リングには無数の封印の札が貼られている。また、リングの直径と同じ大きさの透明な球が対象を取り囲み、リングを補強する。球の表面にリングの外側が接している位置関係になるので、外からはX字のリングの模様のある球に対象が封じられているように見える。リングは常にゆっくり回転しており、凄まじいアルマを放っている。神々が悪魔テームスを封印したときに使った。色はクルルグリーン（６ＦＦＦ６Ｆ）。 ［組み数字］２／１１
［類義語］ɥɑnl ［レベル］３ ɥj;ɑeɑɪnɟ.l 古 ɑejdı:ɑejdı:lə ɑejdı:hənɔn.ılf ［文化］ そしてあるエルトが突然会議場に現れた。彼は青年である。彼は J つの籠を持っている。第一は右手にある。第二は左手にある（この当時、J 対の組み数字は nɔı(娘), nɔc(息子) であった。同様に 卌 対は efı(姉), efc(妹), efɔ(兄), efe(弟) である)。右手の籠には魚がいる。左手の籠には鳥がいる。 fclnɔ"fc ef ne8 ınjɔ ılı–c fcz.jɔn fc ɑcl–ɔl ınjɔ" ティクノ「汝は誰だ？我らは今会議をしている。だから汝は我らを邪魔するな」 ɑejdı"lınfe,jıl e ɟııl.ın ejf–e ɑe jdı.ın ef elf.uɔl ın ef nɔc e lleeuel" デスパ「すみません、サールの長よ。私はデスパと申します。私はエルトです。そして私はクレーヴェルの息子です。」 uɔl ɑı cn–c lleeu el.lə ocl–c,ɑɔn–c lə そして皆はクレーヴェルをみた。彼はうなづき彼を肯定した。 lleeuel"ıl,lə ef nɔc e ın.fıl lə ef lclıı.ın jɔf–ı uej lə" クレーヴェル「はい、彼は私の息子です。しかし彼は母を持ちません。私は一人で彼を生みました。」 ɑejdı"ıl,lıc.ın jɔf–ı ɥə lıc zın ef ɟıjccll e fıal.lıc ɑcf–ı uccɑ e nın ıl ɥəl ɑenf,jɔf–ı ın cɒ lı nı–ı nın lıf–e ɟıjccll e fıal" デスパ「はい、父よ。私は狩りの司となるため父に生み出されました。父は自らのヴィードを鉄の籠に与え、彼が狩りの司を必要と感じたとき私を生みました。」 lleeuel"ıl ,ınɔ fıal–e lıɒ ɑı zın lɔnıj lɔl8 uɔl ın ɔj–ı ınjɔ lıf–e ɟıjccll e fıal.jɔn ın ɑcf–ı uccɑ ıl ɥəl ı,jɔf–ı lə.hıc,ɑejdı,fc lef–cn lɔɔ zın fɔ8" クレーヴェル「はい、私たちは食べるためにたくさんの獣を狩るだろう？そして私は私たちは狩りの司が必要だと考えました。だから私は檻にヴィードを与えて、彼を生みました。ところで、デスパ、お前は何のためにここに来たのだ？」 ɑejdı"zın ɑıl–e fcjɔ,lıc.ın ef ɟıjccll e fıal.ɑı lıf–e ɥəlı fɔf fıal.ılɑc,ın ıll–e ɥəlı fın"
デスパ「あなた方を助けるためにです、父よ。私は狩りの司。皆が狩りのための檻を必要としている。つまり、私は檻にもたくみです。」 ［成句］ ɔl ɑejdı beezel, jɔn ıl cluı. ベーゼルを封印したならイルヴァまで：毒を食らわば皿まで。取り越し苦労をするな。橋にさしかかったら渡れ：一度ベーゼルを封印したアルミヴァは、いまさら退くことができないので、殺される前に残るソームを封印しなければならなかった。 ıɒ ɑejdı 封印をする cj ɑejdı ı ɥəlcəj ユリウスの封印を解く

ɑejdın ［名詞］電話などのダイアル、ダイヤル ［レベル］３ 古 :ɑejdıncı（デスパニア）

ɑejdını ［地名］デスパナ。ソーンの使徒ヴァルベスの支配地 ［アクセント］ɑejdınʔ ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古 :ɑejdı(封印) から

ɑejdını(J) ［アトラスの国家］デスパナ ［アクセント］ɑejdınʔ ［レベル］４ 制 ［文化］ 面積：1JLOLJʔ.ƱƱ11Ʊ ıɔ J

ɑejdıncı ［名詞］デスパニア。ルシーラとハルマが１４人で特定の位置に座すこと。 ［レベル］４
古 :ɑejdıncı（１４人が一定の位置に座した形） ［文化］ ルシーラとハルマが１４人で特定の位置に座すこと。また、その座り方やその図形。 １９９８年６月５日付の『赤アンクノット』の記述にメテの陣と、それを基にしたデスパニアが描かれている。 前者は細かく書いてあるが、デスパニアについては乏しい。メテの陣と同じとも読み取れるが、怪しい。 前者は六芒星なので小さな三角形を作れ、その中に使徒を置くことができる。だが後者は閉じた図形ではないただの線なので中で区切った小さい三角形に使徒を入れられない。 そこでアルシェはデスパニアをする場合は三角形ではなく線上に使徒を配置していた。かつてルージュが参加していないときはアルシェはセレンを抜かした１２人の使徒でデスパニアを作っていた。 ・制アルカ時代の幻日辞典の記述（1Ʊ に再録） ルシーラとハルマが 1Ʊ 人で特定の位置に座すこと。また、その座り方やその図形 １９９８年６月５日付の『赤アンクノット』の記述にメテの陣と、それを基にしたデスパニアが描かれている 前者は細かく書いてあるが、デスパニアについては乏しい。メテの陣と同じとも読み取れるが、怪しい 前者は六芒星なので小さな三角形を作れ、その中に使徒を置くことができる。だが後者は閉じた図形ではないただの線なので中で区切った小さい三角形に使徒を入れられない そこでアルシェはデスパニアをする場合は三角形ではなく線上に使徒を配置していた かつてルージュが参加していないときはアルシェはセレンを抜かした１２人の使徒でデスパニアを作っていた デスパの文字は一番上から書き始める。一筆書きだから間違えようが無いが、まず左下に行き、右に折れ……と進んで、最後は左上の頂点に線が水平にぶつかって終わる これを描いていくと線と線の交点ができる。この交点にそれぞれ順番をつける。まず左下へ向かう一番初めの線上で交点が５個できる 書きはじめの頂点が１で、左下の頂点が５になり、その間に必ず２，３，４の交点が生まれるはずだ 次に右に向かう水平な線を引くことになるが、この線には６，７が交点に並び、８が右下の頂点になる 次は左上に線を進める。まず９ができ、さっき作った３を飛ばして左上の頂点にたどり着き、そこを１０にする 次に右下に線を進めるが、既に４，６が交点にあるのでここは飛ばすと、真下の頂点が１１になる 次に右上に進む。７，９の交点を飛ばして右上が１２になる で、左向きに水平な線を引くと２，１０を飛ばして線がつながり、デスパが終わる ルージュがいないときはこれで満足してたんだが、１３番が必要になったので困り、１と８を繋ぐ補助線を仮定した。こうするとデスパは六芒星に見えるようにもなる その補助線を引くと１０，２，１２がある水平な線と補助線がぶつかるところがでてくる。デスパの書き順からいって１２の次にあたる箇所なのでここを１３とする 最後にセレンを置く場合、その位置は仮定した六芒星の中心である ・旧版アルディアによる使徒の配置（戦闘的配置であって儀式的なデスパニアの配置ではない） <デスパニア>



ここはアシェルフィの家。俺は自室を出ると、紅茶を飲みに居間へ向かった。
居間に入ると大きな食卓にリディアが座っていた。 「よお、リディア」「あ、セレン君。何か飲みにきたの？」「紅茶を」「あ、座って。いま淹れてあげるから」 かたっと立ち上がるリディア。 「悪いね」 リディアの横に座る。何か紙が置いてある。 「勉強してたのか？」「ううん」台所から声が聞こえる「勉強じゃなくて戦略」「珍しいな、居間でなんて」「私もおなかすいちゃって何か食べようかなって思ってたの」 リディアはクラッカーと紅茶を持ってきて座った。 「この紙さ、使徒の名前が書いてあるな」「戦闘時、使徒をどのように配置すれば一番かなって思って」「なるほどね、陣形か。んー、いまのところ全員円形に配置されてるね。1Ʊ 人で円を描いてるみたいだ」「でもそれ問題なのよ。使徒の個性が出てないから、弱いところで突破されやすくて」「これは攻めの陣形？守り？」
「オールマイティなのを１つ作っておきたいの」「じゃあ攻めにも守りにもか。基本的に上側ってゆうか前側を攻めにすればいいよな。進行方向が攻めの方が自然だ」「そうだね。そうすると後ろは防御だね」「円形で組むのはよくないな。要所要所に配置しよう」「そうだね」といってリディアは紙に何度か文字を書いては消した。 「……多分、こんな感じでどうかなぁ」「ごちゃごちゃしてるな。中央先端部はお前なのか」「うん、砲台だからね。黒魔法と召喚魔法で」「なるほど。中央左翼は集まってるな。オヴィ、クリス、ギルか。古参ばかりだな」「彼らは切り込み隊長のオヴィ君を始めとして、接近戦が得意でしょ。集まって攻撃してほしいの。砲台にはなれないから。あと、人数を固めたのは砲台の私が攻撃されたときに守りやすくするためよ」「なるほど。それで、前の左翼はパールか。これはアルマレットの砲台か？」「パールは魔法も武器も中くらいだからね、砲台としては不完全よ。だからオヴィ君たちに加勢もできる位置にしたの。半砲台ってところね」「よくできてるなぁ。ところで右翼は過疎だな。ファーヴァしかいない。アゼルの砲台ってことか」「そう」「危なくないか？中央に持ってきたほうが」「中央じゃ味方が魔法陣に巻き込まれちゃうよ」「そりゃそうか。でも護衛がルージュじゃ心もとないな」「でも彼はオヴィ君やクリスに傾倒してるから、アニキやアネゴの役回りをくれっていつもうるさいでしょう？」「確かに。まぁ、それにあの魔法陣は強力すぎるから、人を遠ざけたほうがいいのは賛成だ。ところで中央は俺なのか？」 と言ったところでメルが入ってきた。 「おう、メルも座れ」「うん」といって座るメル。事情を説明する。 「お兄ちゃんは中央でしょ、立場上」「あとは後方よねぇ」「うーん、メルが思うに、この図はちょっと見にくいね」 そう言ってメルはさくさくと配置を変えた。懸案事項だった後方も決め、前衛の位置もずらした。 そして「で、ここからが面白いよ」といって使徒同士に線を引いた。 「あっ、デスパだ」リディアが声をあげる。 「そう、面白いことにデスパの形になるんだよね。しかも書き順どおりに使徒が並ぶ」 セレン「流石だな、メル」 頭を撫でられるとメルは嬉しそうに微笑む。
メル「後方左翼はフルミネアお姉ちゃん。ユノが多いから、防御に向いてるの。回復役もできるしね。後方支援としてここに置いておきたいの」「うん。リュウはその右か。リュウは接近戦タイプの中でもとりわけ強いから前衛の方がいいんじゃないのか」「後方に１人接近戦に強い人を置いておかないとお姉ちゃんたちを守れないから」「あ、そうか。それと、一番尻尾はミクちゃんか。彼女で大丈夫か」「非力なミクお姉ちゃんには一番後ろで隠れてほしいから。回復役もできるし、お姉ちゃんにしか使えない特殊な古代魔法があるしね」
リディア「問題は防御力が弱いことよね。防衛には向かないわ」「それでリュウお兄ちゃんを置いてるの。フルミネアお姉ちゃんが壁になって、リュウお兄ちゃんが盾になるよ」「そりゃいいな。で、お前はリュウの右、ミクちゃんの右上か」「うん、メルも力ないからね。魔法タイプだけど時魔法は補助魔法に近いし、後方支援の方が向いてるのよ」「お前はミクちゃんとは違った特殊な魔法の使い手だし、彼女よりもヴィルが強くて魔法の分野も広いからな。後方に向いてる」「あと、お兄ちゃんの近くがいいし。ほら見て、お姉ちゃんよりメルとのほうが距離が近いのよ、この布陣」 ふふっと笑うと、リディアがむっとした顔でメルを見た。 リディア「……この布陣、きらい」 セレン「そんなこと言うなよ」リディアの腕を引っ張って耳打ちする「この布陣だとお前の背中を守ってやれるのは俺だけだぞ」
リディア「……これ、採用しよ」 メル「……」 セレン「あとは後方右翼か。ラルドゥラね……」 メル「固すぎるでしょ。だから防御として最適な布陣でもあるのよ」「ファーヴァと変えられないんだよな」「砲台は前じゃないと意味ないからね。ラルドゥラお兄ちゃんがいれば後方は絶対崩せないよ。ミクお姉ちゃんも安泰」 そのとき、リュウが居間に入ってきた。事情を説明すると、リュウは立ったまま面白そうに布陣を見つめた。 リュウ「こりゃいいですね。何という布陣ですか」 リディア「デスパニアって呼ぶことにしようと思うの」 セレン「おぉ、そりゃいいな。ぴったりだ」 リュウ「ときにメル、この布陣、あなたならどうやって崩しますか」「ルージュから」 セレン「おいおい、嫌いだからってw」「違うよ。メルが敵ならルージュを叩く。事実あいつは弱い。そしてルージュのポイントは砲台であるお姉ちゃんとファーヴァお姉ちゃんを守らなきゃいけないポイントなの。お姉ちゃんを叩けばオヴィお兄ちゃんたちに攻撃される。だからお姉ちゃんは無理。 となるとファーヴァお姉ちゃんかルージュなのよ。ファーヴァお姉ちゃんは魔法陣を完成させるまでは無防備だから叩きやすい。ただ、魔法陣ができた瞬間吹き飛ばされるからおいそれとは近づけない。それにルージュの邪魔も入る。じゃあまずはルージュを叩けばいい。ルージュがいなくなればファーヴァお姉ちゃんを守る人間はいない。そうなると無防備で魔法を唱えてるファーヴァお姉ちゃんを潰せる」 セレン「なるほど。すると前方右翼が潰れるわけか」
リディア「後方からはどう？」 メル「無理よ。右翼はラルドゥラお兄ちゃんがいる時点で不可能でしょ。左翼から行くしかない。だけどフルミネアお姉ちゃんの壁は鉄壁だし、ましてリュウお兄ちゃんもいる。潰すならミクお姉ちゃんだけど、リュウお兄ちゃんの接近戦闘員と、メルみたいな魔道士が守ってるから潰しにくい」 リディア「メルから潰すっていうのは？」 メル「だから横にラルドゥラお兄ちゃんを置いてるんじゃない」 リディア「なるほど。じゃあデスパニアの急所は右肩、ルージュか」 メル「そこが致命的ね。過疎のくせに弱すぎるのよ」 リュウ「かといってほかの要因と交換するほど他のポイントも余力はないですね」 メル「ま、問題はあいつがいかに成長するかよね」 セレン「うーむ……。もしくは砲台としてのリディアとファーヴァ自身が能力を高めるかか」 メル「現状だとそっちのほうがまだ望みありそうよ」 メルはため息をついた。 セレン「あとは、まぁ、俺が中央にいるのでどこにでも出っ張れるだろ。ルージュの方をガードして、共闘するってところか」 リディア「セレン君がいれば鉄壁だけど、もったいないね」 メル「それにルージュはお兄ちゃんに懐いていしなぁ」 セレン「だがまぁ俺が事実上リディアとファーヴァを守るルージュのポジションに付くしかないだろ」 リュウ「しかし、それが実現すればこのデスパニアは最強ですね。最も効率が良いです。それにしても流石はメル。大した図形能力です」 するとメルはうすーく笑みを浮かべた。 「ねぇ……」リディアがひきつった笑みを浮かべた。 「どうした？」「さっきから誰もザナ君に言及してないんだけど……」
ひとしきり笑った後、メルが一言「まぁ弱点には違わないけど、ラルドゥラお兄ちゃんとお兄ちゃんがいるから大丈夫でしょ。それにルージュよりは全然強いし」とだけコメントした。

ɑejdıɟecɒ ［魔法］地縛霊 ［レベル］４ JJ

ɑejdel ［名詞］デスペル。デスパ式封筒 ［魔法］［名詞］結界。デスパに使う結界。 ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古の語根から造語。ɑejdı/hel/ıl から。 ［文化］ <封筒> 六角形の封筒。紙を折ったりして作る。留めピンやテープがなくとも中身が粉でもないかぎり落ちないという利点がある。表には中身を封じていることを表わすためにデスパの字を象った線を引く。デスペルには手紙だけでなく金銭、小物なども入れられる。 <結界> ɟɟ のカルセールとメディアンでは魔法陣を巨大化した結界が作られた。大量のヴィードを長期にわたって少しずつ取り出せるため、戦闘よりも社会インフラに使われた。 ɾlu になるとメディアン、特にカルセールは激戦地となった。もともと神々の戦いであって人間は無関係なので人間にしてみればいい迷惑である。かといって力で勝る神を追い出すこともできず、結局結界を作れるような有能な人材は次々と国外へ脱出した。神はこの便利な人間を逃がすはずもなかったが、かといって一人残さず捕まえるのもまた無理な話である。 わらわらと逃げる結界師と捕まる結界師。逃げた結界師はケヴェアを行先に選んだ。 ɾlu ではアルカットはエルトとサールに、サヴィアはエルトに支配されている。アデントは未開の地で、ファペルは遠い。こうして結界師はケヴェアに渡った。アルカットに残らされた結界師は人間なので寿命がある。さらに戦禍に巻き込まれるなどして数を減らしていったこともあり、結界の花形はケヴェアに移っていくことになる。 zφ のメディアンでパルマージュができるころには結界はだいぶ廃れており、さらにパルマージュ以降は魔物の飼いならしに特化していったため、魔法陣や結界はメディアンでさらに下火になっていった。 現在では魔法陣や結界というと主にケヴェア、それと ɾlu 以降にサヴィアに北上した民族の分を指す。 ɾlu 以降に結界師がサヴィアに北上したため、アルハノンは当時のシージアに流入。シージア人は幼字のほかにアルハノンも持つことになる。 シージアでは幼字、アルハノン、響字の順で流入したことになる。ただしアルハノンは外来語とともに入ったにすぎず、シージア人が幼字を捨ててアルハノンを採択したということはない。２０１０における日本でのハングルのようなもので、街中にありはするが日本語の表記法として採用されていないのと同じ状態である。

ɑejdelalcı ［魔法］結界水晶、結晶 ［レベル］５ 1Δ ［文化］ 結界上に置かれる点のこと。結晶は石でも木に刻むでも何でもよい。水晶と呼ばれてるのは『ミールの書』でデスパを完成させるのに必要だったのが水晶だったことから。

ɑejdelın ［魔法］［ジョブ］結界師 ［レベル］４ 1L:μcɑcı ［文化］ 結界を張ることに精通している専門の魔導師。

ɑejı ［化学］アシル基 1L

ɑen ［法副詞］～しないで、～するな ɑen,ɑ.ılel ［レベル］１ 古 :ɑen（～でない） sın,ɑ(ɑen) nı,ɑ(lcn) ɑu 以降、sın が滅んで nı が ɑen と lcn の両方を兼ねるように :nı: ［語法］ μe 前置する。命令は動詞のみだとニュートラルで、μe が付くと語気が強いという区別がある。だが ɑen にはその区別がない。何もつけないと命令になってしまい、禁止の意味を表せないからである。従ってニュートラルな場合でも ɑen をつける。

ɑen(J) ［南方］［動詞］ɑe ［レベル］３ 古

ɑen,ɑ en elf;ɑe/n「～である / 沈黙を意味する音象徴の n」→「～である / 肯定しない（沈黙する）」→「肯定しない」→「否定」

ɑenf ［代詞］［μɑen］俺の ［レベル］１ JI:zını:ɑeμ/ınf

ɑenl ［形容詞］暗黙、言外の ［反意語］lɔnel ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古 :ɑenlə(いわない) ［用例］ nıjl{ ɥəlı} ɑenl 暗黙の了解

ɑenj ［動詞］ɥəl に lı で出くわす、出くわす、でくわす、偶然出会う、遭遇する、エンカウントする ［普通動名詞］エンカウント、遭遇 ［反意語］ılɑenj ［レベル］３ 1Ʊ: 制 : 恣意 ［用例］ ıμle ɑe nμıf ɑecφın ıfə. そこでアルシェの使徒はヴィイガンに遭遇した。

ɑenɪɒ ［医療］錯覚 ［レベル］４ JI:ɑeɒ/nı ［用例］ ın fclıf ɑenɪɒ ɑel lı lı ıfə. 彼女がここにいるのかと錯覚した。

ɑence ［天文］デニエ、天王星、否天 ［組み数字］7 / 9 ［レベル］3 古 :ɑence/ɑen（〜でない）/ce（両方（ここでは昼夜を指す））

ɑence(ɭ) ［地名］デニエ ɭ1:ɩɣ˥右も左もないような」 ［文化］ アルバザード南東部の都市。オリーブや果樹などが盛ん。

ɑence ˥ɪfees ［人名］デニエ＝カテージュ 1L:cɩbəɟ:ɥcɑcɪ ［語法］ レイユ期の教師。アルナ大学の教師であり、かつレヴァレン党員。イシリウス＝ゲノスの諮問機関を務めた。生徒でありアライブ党首ギル＝エニークの娘であるルシア＝エニークに甘言を敷き、ファミィ＝ナオン暗殺計画のパイプ役とさせた。

ɑencen ［料理］ファインバージンオリーブオイル ɭ1:「デニエの」

ɑenɔ ［植物］へちま、ヘチマ、糸瓜 ［レベル］3 ɪlɪ˥ɪ:ɑenɔ, ɑenɥɔl（使えない）が原義。

ɑeuɪ ［医療］外科 ［レベル］3 1ʔ:ɑejuɪl

ɑeɑ ［料理］バーベキュー、焼肉 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɑejɑɪc（外で焼く）

ɑeaɪnɟ ［天文］デネブ ɑu ［レベル］5 ɭ1:ɥcɑcɪ ［文化］ ɑu においてデネブが扉、アルタイルが世界、ベガが錠、大三角そのものが鍵を象徴した。

ɑeaɪnɟ,ɑu ɔɒc ‹›ɑen/ɑcɪ

ɑeaɪnɟʃen ［天文］北十字星、北の十字、ノーザンクロス、はくちょう座（一部） ［レベル］6 ɭ1:ɥcɑcɪ:ɑeaɪnɟ/ʃfenʃ

ɑeɑɔ ［物理］紫外線 ［レベル］4 1ɱ: 制 :ɑeɑ/dɪɪ（紫の（外の）光）

ɑeɒ ［動詞］ɥel を騙す、騙す、だます ［普通動名詞］騙し、詐欺、サギ、フェイント ［レベル］2 1ʔ: 制 ɒɥɪe:ɒɥɪe

ɑeɒɟ ［動詞］ɥel を呆けさせる、呆ける、ぼーっとする、ほうける、ぼうっとする、きょとんとさせる ［形容詞］きょとんとした、朦朧とした、頭が冴えない、頭がまわらない、頭が回らない ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe:ɑeɒɔ/ɟɔ（バカする） ［成句］ ɑeɒɟ ɥən ʃcɑl jeleɟ 狐に抓まれたような顔をする、意外な事態に呆然とする。 ［用例］ ɔ˥ eleʃ ɑeɒɟ きょとんとした顔で ɪn eʃ ɑeɒɟ cɒ ɑcɟ. 今日は頭が回っていない（冴えない）。

ɑeɒɥɪl ［動詞］ɥel を出し抜く、出し抜く、抜け駆けする、抜けがけする ［レベル］3 μɑ;/「騙して追い越す」 ɭʔ

ɑeɒlɪɟ ［形容詞］［ネガティブ］悪い意味で器用な、調子がいい、要領が良い、世渡り上手な、こざかしい ［類義語］ɪɪlɔ ［反意語］lɔc ［レベル］3 ɭ0: 詐欺師の手 ［語法］ 巧くその場の空気に合わせて人に好かれるような能力を蔑んでいう。また、貨幣の偽造テクニックなど、凄いのは分かるがよくない器用さを指す。

ɑeɒc ［形容詞］遅い、速度が遅い、のろい ［形容詞］のろまな、とろい、とろとろした ［魔法］デミ（スロウ）。中位時魔法。時間を歪めて敵の速度を遅くする。 ［反意語］ʃɪl ［レベル］1 μɑ 1L: 古 :ɑeɒɔ。ʃɪl の反対の ˥cɟ は音がいかにも速そうなので避けた。 ˥efʃL:ʃefʃL:cɑeɒc ［成句］［メタファー］ɑeɒc ɥən ɪɥed カタツムリのようにのろまな

ɑeɒcl ［地学］トパーズ、黄玉 ［組み数字］9 / 1 0 ［レベル］4 1L:ɑeɒ/cl（皆を騙す） ［文化］ 害の魔石。トパーズは黄色いという常識があるが、実際にはさまざまな色があるため、それを知ったアルバザード人が「騙された」と感じたことから。

ɑeɒceɒ ［普通動名詞］減速 ［動詞］ɥel を減速する、減速する ［レベル］3 1L ［語法］ ʃɪleɒ

ɑeɒɔ ［名詞］[形容詞][ネガティブ]馬鹿、ばか、バカ、頭のぼーっとしたバカ、ぽーっとしていて頭が回っていないかのような愚か者、どんくさい、ドン臭い、どん臭い ［反意語］ɑɪleɑ ［レベル］2 ɑu 1ʔ: 制 : 古 :ɑenɒelɒɔlɔ(回らない頭)。頭が働くの意味で回ると比喩したのは日本語の感覚と同じ ɑeɒɔ:ɑeɒɔ:ɑeɒɔ ［語法］ ぼーっとしているものや、どんくさいものに使われる。普段早くても一時的にとろとろしている相手に怒って言うこともある。 ［用例］ "oecn, ɑeɒɔ{ʃ eɔlɔ}ɟ ɥen lɔ, eʃʃɔɟ"「お兄ちゃん、バカ、考えなよ！」(ɒel ˥leeʃɔcɪ)

ɑeɒɔucɒ ［生物］運筋 ［レベル］5 1ɱ‹ɭ1

ɑedl ［経済］税関 ［レベル］4 古 :ɔɔɥn

ɑedc ［植物］ナス、茄子、なすび、ナスビ、エッグプラント ［レベル］2 1ɱ: 制 :ɑeadcn（紫の棘）

ɑedenʃɑɪ ［言語］[女性] かしこ、敬具、デペンティア ［レベル］4 ɭ1:ɑedenʃe「神に祈りを込めて」

ɑedenʃe ［名詞］デペンテ、アルテに対する礼拝、祈り、呪文、デペンテの詠唱、呪い ［医療］自己催眠 ［レベル］2 ɑ;e。ɑeɟʃ の意。 古アルカで祈るは ɑedenʃe だが、ɑedenʃe の元の意味がそもそも祈りの呪文。 ɑedenʃe:ɑedenʃe:ɑedenʃe

ɑedeɥcɪ ［地名］デペリア海 ɭ0:ɥcɑcɪ: 祈りの水 ［文化］ アルティア・ヒュグノー間の湾状の海。

ɑeɥɔɒ ［名詞］シャッター。ドアの。 ［名詞］シャッター。カメラの。 ［レベル］2 μɑ;ɑeɥə/hɔ ɒɥə | μʃ ɭʔ ［用例］ ɪɥ ɑeɥɔɒ シャッターを下ろす。語源的に考えて、ɪɥ がシャッターを上げるではない。 ɪɥ ɑeɥɔɒ e ɟerɪɥ カメラのシャッターを切る

ɑeɥə ［動詞］ɥel を閉める、閉める、閉じる、服を閉じる ［形容詞］閉まっている、閉じている、店がしまっている ［反意語］hɔɒ ［医療］梗塞、閉塞した状態 ［レベル］2 1L: 古 :ɑejdɪɥə（封印される）

ɑeɥəɪɪnʃɔɪ ［化学］閉殻構造 1L

ɑeɥəj ［名詞］絞り、しぼり。カメラの。 ［化学］絞り。顕微鏡の。 ［レベル］4 μɑ;ɑeɥə/ɟɔ ɭʔ

ɑeɥəjel ［医療］陰唇癒合 1L:jeɥen

ɑeɥəzelɔ ［医療］脳梗塞 ［レベル］4 1L

ɑeɥəeɥcɒ ［医療］心筋梗塞 ［レベル］4 1L

ɑeɪl ［文末純詞］〜だ。確実、断定、言い切りの文末純詞 ［レベル］1 1Δ:ɥcɑcɪ:ɑe は古の繋辞 ɑel。ɪl は古の強調の ɪlɪ から ［語法］ ɪ

ɑeɪɪ ［ben］［文末純詞］ɑeɪl ［レベル］1 1Δ:ɥcɑcɪ

ɑeɟ ［代詞］[μɑen] 俺 ［レベル］1 1L: 古 ɑel（男の一人称）から ［語法］ 男らしい言い方。

ɑeɟʃ ［宗教］［動詞］ɔn（試験など）について ɥel（相手）のことを ɪ（神など）に祈る、ɥel に幸あれ、祈る、お願い事をする ［普通動名詞］祈り、礼拝 ［魔法］デルト。白魔法のうち、直接回復系を除いたもの。 ［非言語］祈る→文化欄 ［レベル］2 1ɱ ←古 :ɑedenʃe ［文化］ 祈るときのジェスチャーは、ɪμʃe に祈る場合は右手の人差指を鈎状に曲げる。このとき、ほかの指は丸めてグーのようにしておく。その手を胸の前１０ｃｍほどの場所に置く。胸に手を当ててもよい。 一方、ɪlcej に祈る場合は手を合わせた状態にし、合わさりあった両手の指を互いの指の間に滑り込ませて交差させる。要するに手を組んだ地球でも一般的に見られる祈りのポーズである。ただし地球と異なるのは、交差した指を伸ばしたままにしておくという点である。西洋人が祈るときに作るグーっぽい交差した手と、日本人がやる手を合わせるタイプのお祈りの、ちょうど中間的な身振りである。『ねこにっき』feel の回の３コマ目でみーふぁがこのポーズをしているので参照のこと。ちなみに伸ばした指を曲げて西洋人がやるようにしてもよい。ただし日本人がやるような手のひらを合わせるやり方はアルバザードにはない。このジェスチャーは主に ɪlcej に対する祈りだが、広義には ɪμʃe も含む。 ［用例］ ɪn ɑeɟʃ ejɪ jcl uɪnel. 雨が早く降ることを祈る。 ɪn ɑeɟʃ ɪnɔ eɒ μɪlɪl. 計画通りうまくいくことを願う。 nɔn ɑeɟʃ lɪ. 彼に幸あれ。

ɑeɟʃlɪ ［宗教］祈り場 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

ɑeɟʃlɔɔb ［被服］ラウンドレット μɑ;/ ɭɱ ［文化］ ɟɒ でできた。神に祈る司祭たちの帽子としてでき、後に貴族の帽子になった。その命は長く、μʃ まで裕福な人間が身に着けていた。現在でも古風な人は身に付ける。

ɑes ［論理］［言語］結論 ［反意語］φɔz ［レベル］3 1L: 古 :ɑesc ［文化］ φɔz

ɑel ［接続詞］〜である〜。同格の接続詞。 ［レベル］1 μɑ;ɑeɪl 1ɱ: 制 : 古 ɑel, ɑeɪl（〜であるもの） ɑeɪl:ɑeɪl:

ɑel,ɑ ɪn elʃ;e

ɑelʃ ［動物］熊、くま、クマ、ベアー ［組み数字］5 / 5 ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɪlʃɪ:ɑel ［擬声］ φəɔɪ ［文化］ → uceɟɒecn ティーテルと仲が良く、蜂蜜が好きというイメージがある。

ɑelʃheʃ ［植物］コキア、ホウキギ、箒木 ɭ1: 「熊の尻尾」

ɑelʃcɑ ［地球の星座］［ユマナ］おおぐま座 ɭɱ ［文化］ cɑ

ɑeɪl ［地学］湾、入り江、ベイ ［形容詞］〜湾。前置。 ［レベル］3 lɪlʃɪ

ɑelɟ ［名詞］映画 ［レベル］2 μʃ lɪlʃɪ ［文化］ 映画は比較的人気のある娯楽で、恋人候補が親交を深めたり話題を作るために利用することが多い。日本と違って席が広く、高低もあり、前の人の頭が気にならない。映画館ではケータイなど、音のするものは切っておく。私語は禁止である。映画に向かって喋りかけることもない。これは日本と同じである。日本以外の国では映画を見て騒ぐところもあるが、アルバザードでは騒がない。また、飲食もできない。音がうるさいからである。これは日本とは違う。尚、席と席の間には高いついたてがある。これをあげると隣の席と自席を隔離できる。隣が赤の他人のときは、ついたてを上げるのが礼儀。どちらともなく気付いた方が上げる。また、日本の席は狭く、爪先が前席の後部に当たるということが良くある。途中でトイレにいく場合、横の人に足をどけてもらうことになる。だがこれは迷惑である。だからアルバザードの場合、席の前に通路が必ずある。トイレを行くときはそこを通る。通路は一段低くなっているので、身を屈めながらいけば前の人の視界を横切ることなく移動できる。 映画館ではチケットを買って中に入る。チケットは資源の無駄なので紙ではない。使いまわしの硬質カードを入場券として使うか、アンセに登録する。大抵は指定席なので所定の位置に座る。映画の料金は日本より安い。レディースデイなどという差別的なものはないが、子供料金や学生料金はある。映画は一本立てで、長くても二時間以内に終わる。初めに予告が入る点は日本と同じである。尚、館内は当然暗い。日本と違って、映画は劇場公開とダウンロード配信が同日である。つまり、映画館で公開される日と自宅で鑑賞できる日が同じである。映画館の利点は大画面かつ高音質な点である。欠点は自由に一時停止や巻き戻しできない点と、開始時刻が決められない点である。尚、ダウンロードする方が映画館より値段が高い。無料のデータと違ってセキュリティが固く、映画公開中は大抵コピーガードを破れない。素直に映画館に行くかダウンロードした方が早い。更に有料情報のコピーは罪が重く、警察もすぐ動くので割が合わない。日本はＰ２Ｐに海賊版が流れていても検挙される確率が異常に低い。だが、アルバザードでは海賊版が出回れば コピー者を徹底的に追及する。そのため、コピーしても人に配るのは難しい。知人に手渡しで渡すくらいである。だがその頃には映画の話題性も薄れているのであまりありがたくない。だから馬鹿馬鹿しいのでに素直にダウンロードするか映画を見に行く。 ［用例］ ɪn cnɪʃ ˥e lɪl ɑelɟ. 映画を見に行きたかった。 ɪn cnɪʃ ˥e lɪl ɑelɟ ˥cnel. どうしても映画を見に行きたかった。

ɑelɟlɪ ［娯楽］映画館 ［レベル］2 μʃ;/ ɭʔ

ɑelɔɔn ［韓語］シックスナイン ［レベル］4 ɭʔ: 古アルカの一人称デルとノンの形から

ɑela ［名詞］スクリーン、銀幕、映写幕 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑelɟ/ɑɪe（映画の幕）

ɑelɑcɪ ［悪魔］亜魔族、デルフィア ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪɑel/ɑcɪ（魔族の界） ［文化］ アトラスには全百天の魔族（魔物）がいる。しかしそれだけで終わりではない。例えば ɪclɪc という魔物にはさらに細かい下位概念があり、色々な ɪclɪc がいる。この種のことを亜魔族という。本辞典では ［亜魔］ で検索できる。［亜魔］ に載っているものは、［魔物］ のさらに具体的な一種のことを指す。デルフィアはアデルのさらに細かい区分であるから、アデルと別種の魔物がいるという解釈は誤り。デルフィアはアデルに包摂される。簡単に言えば、アデルがスライム族だとしたら、スライム、スライムベス、メタルスライムがデルフィアになる。

ɑelɑe ［単位］デルフェ ［レベル］6 ɭ1:「泉の量」 ［文化］ ɪnɪɔ

ɑelcɪ ［生物］亜種 ［レベル］4 ɭ0:ɑelɑcɪ

ɑelɔ ［動物］ナメクジ、蛞蝓 ［名詞］どろどろして気持ち悪いもの ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪlɪ˥ɪ

ɑeɪhɔɒel ［アトラスの国家］デアヒメル ［レベル］5 ɭʔ:μcɑcɪ

ɑeɪl,ɑ ɑel ɑe/ɪl「〜であるもの」

ɑecʃ ［人名］デイト ［組み数字］8 / 1 6 ［レベル］4 ɒelʃcɪ ɱɭ:ɪμɑə/eɟɪ;e 制 : 古では ɑoec ［文化］ eɟɪ エスタの第８子。男。

ɑecɪ ［形容詞］おなかいっぱいの、満腹な ［類義語］μɪɪ˥əc ［反意語］˥əlɪn ［レベル］2 ɭ0:ɑeɥə ˥əɔ（口を閉じる）

ɑecɟ ［植物］ふき、フキ、蕗、苳、款冬、菜蕗 ［レベル］5 ɭ0:ɑccɪ/eɟn

ɑeɔ ［言語］コプラ、繋辞、連辞 ［レベル］5 1ʔ: 制 : 古の ɑe（繋辞）

ɑeɔj ［普通動名詞］空咳、空せき ［動詞］ɥel を空咳させる ［類義語］ɔhɔ ［レベル］4 ɭ0:ɑeɥə/ɔhɔ/ɟɔ ［語法］ 口を開けずに喉だけでこほんとすること。日本語だと「うん」などと表現される。

ɑee ［格詞］［文頭純詞］弱逆接、しかし ［レベル］1 1L:ɟeɔ/jee ［語法］ 接続詞の用法はないので、en ʃ ʃeʃ ˥ において ʃeʃ の代わりに ɑee を用いることはできない。男性でも ʃeʃ を用いる。設計上は男性は ɑee を用いるはずだったが、アシェットで ʃeʃ のほうで定着したのでどうにもならない。

ɑeep ［名詞］デーム、悪魔 ［生物］悪魔属 ［形容詞］悪魔〜。敬称。 ［レベル］2 ɒelʃcɪ 0:ɪɪdɒɪ;fee ɒɟ.l ɭ0:ɑeeɒj:1ʔ: 制 : 悪魔テームスとの区別が付かないので区別した。一般の悪魔たちをこう呼ぶ。古アルカでの意味は「永遠」。その後 ɑeeɒj から、ʃeeɒj と区別するために j を落とした。 ［語法］ → ɪdʃ, eɟʃ 〇名（前置） ×姓 〇男女 〇単体使用 / 名詞用法 ［文化］ アティーリに出てくる悪魔たちのこと。

ɑeel ［文末純詞］[μenʃe] ɑeɪl ［レベル］1 1Δ:μcɑcɪ

ɑeeln ［ɒdɑ］［文末純詞］ɑeɪl ［レベル］1 1Δ:μcɑcɪ

ɑə ［格詞］〜の量で。量や程度を表す。程度の場合、ɪlc が正式。 ［名詞］量、内容量 ［反意語］˥ɪɑ ［レベル］1 1ɱ: 制 ［用例］ ɟɔμʃ ɑə ʃcnɪ˥ ものすごく寒い。 ɑə がなくても同じ ʃɪə ɑə ʃɪ 2 個買う

ɑənel ［料理］夕食、夜ご飯、夕飯 ［レベル］1 1L:ɟɔɥn ［文化］ 夜７〜８時くらいに食べる食事。夜食のことではない。夜食はアルバザード人は取らないので単語がない。どうしても言いたければ ˥əc cɒ ɥcμɑ など。大抵家族揃って食べる。人によってどの食事にウェイトを置くかは違うが、大抵同じ時間に食事を取れる生活にある人は同じ物を食べる。だから家族内は同じウェイトの置き方をすることが多い。朝食と昼食が多くない場合、栄養はここを中心に取る。晩ご飯では様々なものを食べる。栄養のバランスを考えて食べる。献立に決まりはないが、ふつう何らかのスープが付く。常食する穀物はない。日本人はまず間違いなく米を食べるが、主食は決まっていない。米をリゾットなどで食べることもあるし、麺を食べることもある。パンのときもある。穀物を取らずに肉や野菜などだけで終わらせることもある。食後から就寝前の時間はゆとりの時間である。食後は家族と暫く歓談し、消化が一通り済んだ頃にそろそろと自室へ戻る。そこでは大抵趣味に耽る。仕事や勉強より、趣味や余暇優先の時間。就寝時間が近い頃に頭を使うことは避ける。できるだけ就寝から遠い時間に済ませておく。就寝が近付くとゆったりする。家族と歓談をして終える場合もある。安らぎの時間である。 ［用例］ ɟɪʃ ɑənel ɒ食を準備する ɑənel cɪ jejcl ɟɪʃ. そろそろ夕食の準備ができる。 ɪn ˥əcʃ ɑə nel ˥ɪ μɪ cɒ ɑcɟ. 今日は家で夕食を食べた。 ɪnɟ ˥əc ɑənel cɒ uɪμɑɪnʃ. 私たちはいつも７時に夕飯を食べる。 ɪn ˥əcʃ ɑənel uɪɑel. 早めに夕飯を食べた。 ɪnɟ ɭɔɔ˥ɪʃ ɟɔɑ e ɑcɟ ˥ɔnʃ ˥əc ɑənel. 夕飯を食べながら今日一日だったか話した：ここでは主語が ɪn なので ɔ˥ʃ。主語が ɪnɟ なら ɭɔɔ˥ でよい。 ˥ɪ˥ɪ en ˥ɪɪbɪ ˥əc ɑənel ˥ɪ μɪ ɒɪn ɪɪ ˥əʃ uɔ˥ɪ˥ɪ. お父さんは忙しいので家でほとんどご飯を食べない。 ɪn en ˥əcʃ ɑənel ɔ˥ ˥cʃe ɑɔ˥ ɑɔ˥. 長い間家族と食事をしなかった。 ɪn ɭɔ˥ɪʃ ɪ ˥cʃe ɒɪnel cɒ ɑənel. 夕飯のとき、家族と楽しく過ごした。 ɑcɟ, ɪn ˥əcʃ ɥəə ɔn hɪμɪ, ɟɪc˥ ɑənel ʃɪn. 今日は昼も夜も食べなかった。 ɪn ˥ənʃɪʃ hɪdn cʃen ɒel˥ ɪ ɑənel cɒ ɟɔ˥el. 昨日外人の友達を夕飯に招待した。 ɪn ɪμɪʃ ʃec˥ cɒ ɑɔnc ɑel ɪn ˥əc˥ ɑə nel. 夕食を食べ終わった途端にテレビを付けた。 ɪn ˥əc ˥e uɪn ɑənel. 晩飯食いに行ってくる。 ɑcn ɪn nɪ ʃə eʃ ɑɔc˥ ʃcn, ʃə eʃ ɒel e ɑənel ʃeμ. 非常に早いような気もするが夕飯らしい。 ɑənel eʃ bel e senʃc cɒ ɑcɟ ʃeμ. 今夜はイタリアンらしい。

ɑən ［名詞］重さ、重量 ［生物］体重 ［文字］セット、字幅 ［レベル］2 制 ［文化］ ɒɪcnɪsɪ

ɑəə˥ɪcdɪμ ［名詞］体重計 ［レベル］3 1L:ənclec

ɑəɑɥez ［名詞］体重制限 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪ˥elʃ

ɑəμ ［言語］ɑ の文字 ［レベル］1 1ɱ: 制 : 上弦の月 ［語法］ 第９文字目の幻字。

ɑəμ(ɭ) ［名詞］ɑəəμφɪ の略 ［レベル］3 1ʔ: 制

ɑəɥne ［名詞］宵、夜。２０時〜２４時 ［レベル］1 古 :ɑəɥne, ɑəəɥne（上弦の月のころ）が原義。 uel,ɑ uccɑ,ɑu:uccɑ:lɪ ˥elce ［用例］ ɪn ˥ɪʃ μɪ cɒ ʃə ɑəɥne. 今夜は家にいた。

ɑəμɪl ［電算］電算 ［名詞］電算。科目名。 ［レベル］3 μɑ;ɑɥə/μɪφɪ ɭɭ ［文化］ ɑeldɪnʃ

ɑəlʃ ［単位］京 ［レベル］3 ɭ1:ɑelʃ

ɑəlɔ ［ユマナ］皇帝 ［類義語］cl˥ɪnʃ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑɪcz/əlɔ ［語法］

ɑəen ［接続詞］ɑə ［レベル］3 ɭ1

ɑəəμ ［色］水色 ［レベル］2 1L: 赤 :ɑəəμφɪ（上弦の月、水色） ::lə ɔlcuce

ɑəəɥɒel ［名詞］水色時代 ［レベル］4 μɑ;/ ɭʔ ［語法］［文化］ 人生を色に例えた呼び方。空が白んで水色になり青になり、夕日がかり、最後は黒になる前の一瞬の灰のような銀色を見せることから来ている。 nɪnɪ 〜 ɑcɪn までは ɑcμɒel という。lɪz の間の短い期間を ɑəəμɒel という。ɒɪnɪ を ɔɟɒeʃɒel という。人によっては nɪɪʃ 前半まで ɔɟɒeʃɒel とすることもある。ɔɟɒeʃ 以降で μɪ˥el になるまでの働き盛りを hɪμɒel という。人によっては enɑɪ までを hɪμɒel ということもある。hɪμ 以降死ぬまでを eμɑcɒel という。 どの年齢においても不運や不遇であれば

ɑɔlɑɒel という。　人生の中で最も魔法体験に近付くのは水色時代と言われている。このころに人間は最も不安定な時期を迎え、感受性の強い繊細な人間はしばしば不思議な体験を経る。胸のドキドキや知らないことへの期待などが強く、何でも楽しく新鮮に感じることができるのもこの時期である。ɑɛɥɒel では素地となる知識が少なすぎるのでちょうど心地良いレベルのドキドキを感じることが難しい。青春時代になると知恵が付いてきて純粋性を失ってくるのでこれもまたドキドキを楽しめなくなる。　ちょうど第二次性徴を迎える時期でもあり、性的なことに関するドキドキを楽しめる唯一の貴重な時期でもある。　小さな子供扱いが終わり、徐々に大人に向けて歩み始める時期で、大人と子供の ちょうど狭間 にいる時期でもある。　大人でもなければ子供でもない、白でもなければ青でもない、そんな素敵な水色時代。

ɑəəɥφɪ ［エルト］ドゥルガ ［人名］団体アルシェの異名 ［天文］［気象］上弦の月、上弦 ［名詞］［形容詞］五分咲き、５分咲き ［名詞］東 ［音楽］クレッシェンド ［組み数字］3 / 8 ［レベル］2 pelſɾɔı ʔ:ɑəəɥφɪ;e 古 ɪleɟſ:ɑəəɥφɪ ［文化］ lelſeel (pelſɾɔı ʔ) 上弦の月を司るエルト。ユーマの最初の夫。カルザスが上弦の月の光から出産した。同月下弦から ſɔlɔɔ が uccne を生むため、ɑəəɥφɪ のほうが年上。

ɑəəɥφɪ(J) ［地名］ドゥルガ圏 ［レベル］5 古 ［文化］ ɥəəɒɪ ʕΔ0Ɱ アゼリアはアンシャルの大部分を支配していたが、未征服の土地も多かった。しかし西は既に東という共通の敵を持っていた。勝手に西をひとつの帝国とするわけにはいかないが、東という共通の敵を浮き彫りにするために、アゼリアは西をドゥルガと呼び、ひとつの文化圏とした。これを受けてディオマンテは東をヴィーネと呼び、月戦争カコが完全に勃発。こうしてカコは中期に入っていく

ɑəəɥφɪſəɯɪn ［天文］上弦と凸月の間。 ［レベル］2 JJ

ɑəəɥφɪɟcz ［魔法］ニオブ板、月晩板 ［レベル］6 J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɑəəɥφɪ ɥəſɾɔı ［人名］ドゥルガ＝ユティア 19:jeɥen:lɔɔn ［文化］『紫苑の書』の登場人物。レインの父。

ɑəəɥφɪlɔl ［化学］ニオブ ［レベル］6 1Δ: 制

ɑəəɥlɔɔɑı ［地球の国名］サントメ・プリンシペ 1L: 国章に水色の星

φ

φɒɒ ［擬音］くくく ɑu;ɑɔueſ J?

φφφ ［擬音］くくく、ククク ［レベル］2 JJ

φddd ［擬音］ぐふっ、ぐふふふ。堪えた笑い声 ［レベル］2 1L

φɥɪlɒɒɔlə,ɑ leɒ、ɒɔlɟ lə は口

φɥə ［形容詞］苦い ［形容詞］人間関係などが険悪な←→ lɪɔ ［レベル］1 ɑ;e 赤 φɥə:φɥə

φɥəſ ［動詞］ɥəl を ɔn について問い詰める、問い詰める、といつめる、追及する、詰問する、責める ［政治］弾劾 ［レベル］4 古 :φɥəſ,φɥəſſ ← φɥəſez（厳しい雰囲気）［語法］ φəſ ［用例］ ɒɔnſɔ φɥəſɪſ ɪɒɔɥ ɔn nɔı ɑɔl dɔſen ɪɒɔ. 妻は車の中にあった長い髪について夫を問い詰めた。

φɥəj ［生物］胆汁 ［レベル］5 19: 制 : 古 :φɥəɒɪɔn(苦い体 , 胆汁)

φɥənſ ［生物］胆道、胆管 ［レベル］5 1L:φɥəɒ/ɑɔnſ。φɥəɒ/lɔɟ でも良かったが、φɥəlɔɥ など、あまり良い音がでないため。

φɥənſɑɪcz ［医療］胆管炎 ［レベル］6 1L

φɥənſdɔφ ［医療］胆道がん ［レベル］6 1L

φɥəuɪj ［名詞］悪戦苦闘 ［レベル］3 JJ

φɥəɒ ［生物］胆嚢 ［レベル］4 ʔ: 制 :φɥəɒejl（胆汁の袋）

φɥəɒɑɪcz ［医療］胆嚢炎 ［レベル］5 1L

φɥəɒhɔhɔ ［医療］胆石（症） ［レベル］5 1L

φɥəɒscɔɥ ［生物］胆兪、胆愈 J1

φɥəlcl ［化学］マグネシウム ［レベル］4 1Δ: 制

φɥəɪɒən ［名詞］［形容詞］意味深な顔、意味ありげな ［レベル］3 J0:ɒelcɑɔı lcəɥ: わざとらしい意味深な顔を作るとき、アメンの部分をにがにがしげに寄せることから。

φɥɒ ［感動詞］ぐぅ、ぐー、くーっ！、ぐるるる ［レベル］3 古 : よくアルシェ女子が使っていた。［語法］ 怒ったときに文句を言いたいのを我慢するときの耐える声。

φɥɪnɒcl ［被服］グランミル ［レベル］4 bφ J1 ［文化］ uɪnſe ベルガンド式の大きなリボン。後頭部につける。カレン人が海老茶式部に取り入れ、アルティアへ逆輸入した。

φɥɪnɑı ［魔法］魔方陣 ［類義語］ɪzeɥ ［レベル］3 ɒelſɾɔı LΔ jen uɔı:lılɟeel;e J? ［文化］ ɪzeɥ

φɥɪnɑɔı ［アトラスの国家］グランディア ［レベル］4 J?:ɥɔɑɔı

φɥɪnbel ［地名］グランベル峠 ［地学］峠 ［レベル］3 JJ:hɥ ［文化］ ヒュートとアルシアの間にある険しい峠。アルカでは一般化して単に峠を意味する。

φɥɪnbel ɑɪcn ［人名］グランベル＝ダイン J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

φɥɪnze ［人名］グランゼ ɔɥ JJ ［文化］ サプリ村の住人。八百屋の経営者。細身の中年女性。

φɥɪɒ,ɟzɑ ɑɪc lɔɔlueſ

φɥɪɑ ［擬音］ガラガラ、グラグラ ［レベル］2 J0:ɒelcɑɔı lcəɥ

φɥcn ［音楽］チェンバロ、ハープシコード、クラヴサン ［レベル］5 jɒ; ハンマーの音 φɥɪnφɥcn から J1 ［文化］ もともとピアノなど打楽器全般を指していた。チェンバロのほうがピアノより古い楽器。ピアノができたことで音に強弱がつけられるようになり、チェンバロが廃れ、ピアノは leſj になり、φɥcn はチェンバロだけを指すようになった。

φɥenzɔı ［植物］マロニエ、トチノキ、栃 zφ ［レベル］4 JJ ［語法］ マロニエと栃の両方を指す。

φɥəɥ ［単位］ピコ ［レベル］5 J1:ɑcφɥəɥəɥ

φɥecn ［動詞］ɥəl を滅ぼす、滅ぼす、滅する、滅亡させる、滅亡する、朽ちる、朽ち果てる、滅ぶ ［類義語］ʃleɒı ［レベル］3 古 :jɔɥn:φəl と同根。

φɥeculc ［植物］グレイプリー、精霊の実 ［レベル］3 ul J1 ［文化］ ブルーベリーを品種改良したもので、jɒ 中期に uellcɔn で作られた。地球には同じ品種は存在しない。精霊の実と呼ばれ、味は濃厚で色が濃い。粒が大きく、さくらんぼより少し小さい。アントシアニンが多く、ビタミンも多い。比較的水っ気がある点も特徴である。jɒ のものは酸味が強かったが、品種改良され、ul 以降は酸味が少なく甘味が強い。　jɒ 中期にアルバザードへ入り、現在でも好まれる。年中通して出回っており、生食や乾燥品のほか、ケーキの上にもよく乗っている。

φɥecu cneɪıſɔ ［人名］グレイプ＝イネアート ıl;φɥeculc J1 ［文化］ ɑcɒcſɔɥcı

φoıſ ［擬音］ぐわっ、ぐああ、ぐわあ、ぎゃー、ギャー ［レベル］3 ɑu;ɑɔueſ JJ

φoın ［アトラスの国家］グワン、グゥン ［レベル］5 J?:ɥɔɑɔı

φoıφoı ［擬音］ぐわはは、がはは、ガハハ、かかか、カカカ。汚い年寄り臭い、あるいは化物じみた笑い方。 ［レベル］3 ɑu;ɑɔueſ JJ

φoıl,jzl lɔıɥ φoıcn,jzl/ıl,ɑ

φoıcn,jzl ſɔɒ <> φı,ɑ

φoıcnɒel ［歴史］近世、nɑ_μſ ［レベル］4 J1 ［語法］ ɒɥɒel

φlıcɑ ［動詞］ɥəl に評価額をつける、値踏みする、値踏む ［普通動名詞］鑑定、値踏み ［レベル］3 J1:ʃlcſ.ʃ ［用例］ ɪdı ıʃ beφlıcɑ lın jcn, ılɑcn dı ıμſe ıj jc lınφ len ılej lə ucʃ. たやすく人一人を値踏みしやがって 世界の神ですら彼を笑う権利なんて持たないのに（ＢＵＭＰ ｏｆ ＣＨＩＣＫＥＮ『グンゲニル』）

φlcɒ ［擬音］ぐりぐり、グリグリ ［擬音］(φcclɒ) ギーン、ぎいん。金属などが鈍くぶつかる音 ［レベル］2 J0:ʃılce

φleı ［軍事］［魔法］魔動銃、グレア ［類義語］ɪμſφel ［レベル］5 J0: げきてつが叩く音のオノマトペから ［文化］ → μıφnılɔʃ, φel イムル 1J0J 年にオスティア＝ジレールが開発した武器。φel はこれが元になって作られた。

φı,ɑ ſɔɒ e

φıſ ［言語］φ の文字 ［レベル］1 1Ɱ: 制 : 門 ［語法］ 第１０文字目の幻字。

φıſʃıʃ ［普通動名詞］コッキング ［動詞］ɥəl をコッキングする、コッキングする μɑ;ɑɔueſ JJ ［文化］ φel

φıſʃıʃhɔlſ ［軍事］コッキングレバー μɑ;/ JJ ［文化］ φel

φıſj ［動詞］ɥəl をシメる、シメる、しめる、こらしめる、懲らしめる、懲罰する、折檻する ［普通動名詞］懲罰、ちょうばつ、せっかん、折檻 ［レベル］3 ſb;ɑɔueſ。殴るときのゴツンという音から。 J?

φıſı ［地学］真鍮、ブラス、黄銅 ［レベル］4 ʔ: 制 : 古 :ɒıφıſı'（真鍮）。語源不詳

φıſın ［音楽］ブラスバンド、ブラバン ［レベル］4 J1 ［文化］ 金管楽器で構成される楽団。主に真鍮を使ったことからこのように呼ばれる。 ［用例］ ıμ lccſ φıſınʔ ブラバンやるべ！

φıſılə,ılſ lıμſ

φıʃ ［動詞］ɥəl（金、代金、名目）を払う、ɥəl の額を ɔn の代金として ı に払う、払う、支払う ［普通動名詞］支払い、支出 ［経済］財務諸表上の費用、費用と収益の費用 ［反意語］ɑcſ ［レベル］2 μɑ ʔ: 制 : 古 :φɔlɔ（収入）。「 金が来る 」 ［成句］ φıʃ uclʃ ɟɪd 空気は払えぬ：無い袖は振れぬ ［用例］ ɑcʃ, ın φıʃıſ uɪn. 今日は私が払うつもりだった。

φıʃſ ［生物］［化学］ホルモン ［レベル］4 jɔμn ［語法］ 内分泌の出す物質。外分泌の出すのは唾や汗。

φıʃlɪz ［経済］返済期限 ［レベル］4 μɑ;/ J? ［用例］ ɑıleʃ φıʃlɪz 返済期限を伸ばす

φıʃl ［建築］カウンター、払う台、窓口、受付、ホテルのフロント、フロント ［名詞］空港の受付や搭乗口、受付、搭乗口。金を払ってチケットを買うところも指せるし、チケットを見せるところも指せる。チケットを見せる行為は金で買ったチケットを払うと考えるので、語源に合う。 ［レベル］3 1Ɱ: 制 :φıʃele（払う台）

φıʃlleeu ［普通動名詞］チェックアウト→ leeu ［動詞］ɥəl をチェックアウトする ［反意語］φıʃlləlɔ ［レベル］3 μɑ;/「フロントを去る」 J? ［語法］ φıʃlləlɔ

φıʃlləlɔ ［普通動名詞］チェックイン→ləlɔ ［動詞］ɥəl にチェックインする。ləlɔ の一種なので格組は ɥəl にチェックイン先を取る。「ɥəl を ı にチェックインさせる」ではない。 ［反意語］φıʃlleeu ［レベル］3 μɑ;/「フロントに到着する」 J? ［語法］ ホテルや飛行機などに用いる。 ［用例］ ın φıʃlləlɔſ ɒɔʃl cɒ ſɔlel. 私は昨日ホテルにチェックインした。

φıʃlləlɔcɒ ［名詞］チェックイン時間 ［レベル］3 μɑ;/ J?

φıʃıμ ［経済］ＡＴＭ ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbıeſſ ［用例］ lɔɑſ φcl lɔn{c} φıʃıμ. ＡＴＭからお金を引き出す。

φıʃɔn ［言語］［文字］ガコン。制アルカまでにおけるピリオド記号のこと。字的にはカンマ２つ分に相当する。 ［レベル］2 ɑu 古 ［語法］ 表意幻字使用時（古語）の文末につける。

φıl ［形容詞］密な、ぎっしり、つまった ［反意語］lcʃ ［レベル］3 古 ［用例］ jɔμlelcʃl φıl ɔʃen ɥəl お肉たっぷりの餃子

φılſ ［植物］柿 ［レベル］3 lıʃſ: 渋みが苦いと感じられ、φɥə から来ているのだろう。 ［文化］ 秋に採れるわりに体を冷やすので、胃腸の弱い人は禁忌とされる。アルティス教徒は基本的に避ける。

φılſcjc ［生物］密顆粒 μſ;/ JJ

φılſefeʃ ［料理］柿茶、柿の葉茶 ［レベル］3 jɒ;/ J?

φılyedılcɑ ［天文］球状星団 J1

φıl nɔuel ［人名］ガッシュ＝ノベル μſ ［レベル］5 J? ［文化］ μſ_ul の物理学者。相対性理論を提唱した。

φılɒcɥ ［物理］相対性理論 ［レベル］5 ul:φıl nɔuel;/ J?

φıj ［化学］炭酸 ［レベル］2 ʔ: 制 : 古 :φıdjıdlc げっぷ（を引き起こす）空気

φıjſ ［形容詞］まったく不完全な、まったく完全でない ［反意語］peμ ［レベル］2 1L: 恣意だが、音の響きが荒く、ダメ出しをして突っぱねる感じで、適切に感じられたため。 ［用例］ lı eſ nccſ φıjſel. 彼は全然優しくない。

φıjd ［化学］重曹 ［レベル］5 ʔ: 制 :φıj

φıjhɔə ［化学］炭酸塩、カルボネート、カルボナート。φıjc でも同じ。 ［レベル］6 1L

φıjhɔədıɑ ［化学］カルボナートエステル 1L

φıjıɑɔ ［地学］炭酸塩鉱物 1L

φıjc ［化学］炭酸塩 1L

φın ［代詞］［φnɔ］ウチ ［レベル］1 J1:ɔucδ: 強い男 φ に ın を足したものか。ın に音が似るが特に問題ない様子。

φın,ılſ ləədɔ, uelcz

φınſ ［名詞］根性、気力 ［名詞］甲斐性。物事をやり遂げようとする気力、根性としての。 ［レベル］3 μɑ;/φınſj.ʃ Ɱ ［用例］ lı ſcl φınſ. 彼は根性がある。　lı jc φınſ. 彼は根性なしだ。彼は甲斐性なしだ。

φınſj ［組み数字］１０/１０ ［哲学］勇 ［医療］肺 ［歳時記］癸、みずのと ［レベル］4 μɑ;φınſj,jzl J1 ::lı φınſj

φınſj,jzɑ uıjn δ シージア語特有の概念で、ɑu 以前に遡る痕跡がなく、これ自体の語源も不詳。

φınſjlın ［生物］［医療］肺経 jzl;/ Ɱ

φınl ［形容詞］けばい、ケバい、派手な、ハデな ［料理］油っぽい ［反意語］ſəəſ, ɑııu ［レベル］3 ʔ: 制 : 古 :φınφl（けばい、味が濃い）。φınφl は元々味の濃さをいう語。それから人の見た目に転用された。日本語の「 ガングロ 」に語形が似ていて意味も通じるが、味が先なので語源になれない。 ［語法］ ɑııu

φınlɒeɟ ［形容詞］［ネガティブ］貪欲な、金の亡者な ［反意語］pɔɔləc ［類義語］lıφ ［レベル］3 J0: 脂っこい油。飽食を象徴している。 ［用例］ el jeſ lıɑ φınlɒeɟ. 金の亡者は排他せねばならない。

φınj ［動詞］ɥəl を ı に弁償する、弁償する、償う、報いる ［レベル］3 J1:ɔucφın: 古 ［用例］ φınj lıɑ. 罪を償う、落とし前をつける

φınɑ ［サール］ガンド ［動詞］ɥəl を占拠する、占拠する、占領する、征服する、場所取りをする、乗っ取る、占める、しめる ［婉曲］［動詞］ɥəl をレイプする、レイプする、強姦する ［普通動名詞］占拠、占有、乗っ取り、ジャック、レイプ、強姦 ［レベル］3 ɒu ɔuc: 古 ［文化］ エルトとの戦闘でエルトの魔咲源の１つを占拠したサール。 ［用例］ φınɑ lıſlı 場所取りをする

φınɑφıenı ［医療］独占欲 ［レベル］4 ul;/ J?

φınɑcj ［政治］侯爵、候爵、マーキス、辺境伯 jɒ;φınɑ.ʃ Ɱ ［文化］ 領地を持った諸侯。

φını ［軍事］領地、領土、領空、領海、勢力圏、版図、勢力、領域 ［名詞］領域 ［名詞］幅、帯域 ［レベル］4 1L:clɒəj:μcɑcı:φınɑ/lı

φının ［農耕］領主、地主 ［レベル］4 JJ

φınınlı ［農耕］荘園 ［レベル］4 JJ

φınıuıj ［軍事］領土戦 ［レベル］5 JJ

φınıyə ［魔法］蠱毒、こどく、蠱術、巫蠱、ふこ ılſ Ɱ

φınıc ［ジョブ］術士。蠱毒術を使う。 ılſ;<>φınıuə Ɱ

φınɔ ［名詞］ガノ、ギャル。女性のエタットのうち、下品なほう。 ［レベル］2 J0:μcɑcı:φınl（けばい）［文化］ 典型的には声が甲高くうるさく人の迷惑を顧みず、自分と自分の仲間の狭い範囲だけで生きる女性。派手な衣装や振る舞いを好み、貞操が緩く、知能が劣る。

φınɔɥɔlɔ ［被服］ホットパンツ ［レベル］4 J1:φınɔ/ɥɔlɔ

φınɔləj ［被服］ミニスカート、ミニスカ ［レベル］3 J1

φınel ［代詞］［φnɔ］ウチの ［レベル］1 J1:ɔucδ:φın/ſe

φıuμcı ［地名］ガヴリア海 J0:μcɑcı: ガーヴィの海 ［文化］ ガーヴィ・ファベル間の海。

φıulıj ［筐堺］ガブラス、ガヴラス μɑ;φıuc/lıj「オヴィの手」 ［レベル］5 JJ ［文化］ 筐堺司：ɔuc φıuc 筐堺国：φıu, ılφıu, hɥəlıl, lɔdıdıl, dɔlıl, dılμı ɪɑenſɔ はネーネと共同統治。

φıulınj ［魔法］ガヴランス、ガヴランスの風洞 ［レベル］4 ls;φıu/lcnj「地下の悪魔」。c の音が ı に引っ張られて母音調和したもの。 Ɱ ［文化］ アヴァンシアンが入っている地下風洞のこと。ランヴォルトで神々が第一祠徒ユリウスを封印した際に衝撃でできた巨大な地下空洞。レスティリアのシェラザードにある。

φıɑ ［動詞］ɥəl を ı に避難させる、避難する ［レベル］3 ʔ: 制 :jɪɑ:φıılejl/ləɑl

φıɑın ［政治］難民、避難者 ［レベル］3 1L

φıɒıc ［生物］副腎 ［レベル］5 J0:φılɒ:ʔ: 制 :φılſɒıc（ホルモンの身体語彙）

φıɑ ［普通動名詞］［ネガティブ］不平、不満、ぼやき ［動詞］［ネガティブ］ɥəl（不平）を言う、ぼやく ［レベル］2 ʔ: 制 :lılſı:φı。文句を言う声のオノマトペ。 ［語法］［文化］ 不当なことには声を上げて立ち向かうべしという国民性なので、ぐちぐち影でこぼすのは悪徳とされる。φıɑ はネガティ

φ

ブな意味の単語なので、公明正大に立ち向かう場合は同じ不平であっても φιω とは言えず、ʃelɟ や ʔlɔj になるので注意。 [用例] ɪn φιαlſ ı lı ɔn lı en neſıſ ın uıƣel uecn. もう少し早く起こしてくれなかったことについて彼に文句を言った。

φιαſıəın [名詞] クレーマー、モンスターカスタマー [レベル] 4 ıl;/ ʃʔ

φιαɟjccl [名詞] モンスターペアレント、モンスターペアレンツ、モンペ [レベル] 4 ıl;/ ʃʔ

φιαın [名詞] クレーマー、愚痴る人 [レベル] 3 ʃ0

φιαıucl [医療] モンスターペイシェント [レベル] 4 ıl;/ ʃʔ

φιφ [生物] 喉 [レベル] 2 古

φιφjel [言語] [生物] 声帯、声門 1L

φιφjelɑɔ [言語] 声門音 1L

φιφheſ [言語] [生物] 口蓋垂、懸壅垂、のどちんこ、のどひこ [レベル] 2 1Ɱ

φιφheſɑɔ [言語] 口蓋垂音 1L

φid [動詞] ɥel をげっぷさせる、げっぷする [再帰動名詞] げっぷ、ゲップ [レベル] 1 古？：オノマトペ

φıb [経済] 原価 [反意語] ʃeφ [レベル] 4 1L:φııbe/φıμſ

φıbe,ılſ φııbe φııbe.lɔl

φıh [動詞] ɥel を笑わせる、笑う、大声で笑う [擬音] ガッハッハ、ワッハッハ [レベル] 2 古：擬音語

φıμ [名詞] 円盤、ディスク、ソーサー [レベル] 2 1L:1ʔ: 制：古：φeıl（丸いもの）

φıμ,jzl φılſ φılſ.l

φıμſ [名詞] 値段、料金、金額、費用、対価、代償、代価、代金、運賃 [動詞] jɔl（商品）は ɥel（金額）だけかかる [格詞] ～と引き換えに、～を支払って、～を対価として、～を犠牲にして [経済] 価格 [レベル] 2 1L: 制：φıμ（値段） [用例] ʃe φıμſ ſɔϑ これいくらですか。 φıμſ ɑɔ{ʃlcu} 不安点{安定}な価格 ʃe φıμſılſ ſcn lel el ʔel μc. パソコンを修理するのにかなりかかった。 ☆ ʃe φıμſılſ ſcnlı, ɔɔlμıſ ɑcl ſcnlı lel ın jɔlj ɑılj ʔeı ɑɔɔ ınſ. 歯を矯正するのに大変な時間とお金がかかった：lel は ʃe にかかる。重文であり、その ʃe は φıμſ と ɔɔlj の共通の主語になっている。

φıμſjɔμɑ [経済] 価格競争 [レベル] 5 1L:μcɑcı:ıμbılelſ

φıμſuεμn [経済] 値崩れ [レベル] 5 ʃ0

φıμſɑɔμ [動詞] ɥel を割引する、割り引く、割引する、負ける、おまけする→ ɑɔμ [普通動名詞] 割引、割り引き、割引き [レベル] 3 ʃʃ [用例] ıʃe ıμıſ φıμſɑɔμ ı nɔn ɑə 100 jɔlſ jccnı. お店が１００ソルトおまけしてくれた。

φıμſɑɔμɔıj [経済] 割引券、クーポン→ ɑɔμɔıj [レベル] 3 ʃʃ

φıμſɑɔμısı [経済] 割引率 [レベル] 4 ʃʃ

φıμſφını [経済] 値幅 ʃʃ

φıμn [被服] ペティコート ɟɔ;ıμn.l ʃƜ [文化] ɟɔ 前期では下着だったが、中期でうっすら見せるようになり、後期～ μɑ では上着となっていった。

φıμnεſ [動詞] ɥel を起こす、起こす、起きる、起き上がる [運動] 腹筋運動、腹筋 [反意語] jınl [レベル] 3 ʃ0: 古 φıı（腹）/nεſ [用例] el ſcl jen lɔl uıln ɔl el φıμnεſ c uceɒ. 丹田を支点に腹筋をすると胃腸が丈夫になる。

φıμu [名詞] 苦痛、苦悩、苦しみ、苦しさ [形容詞] 苦しい [動詞] ɥel を苦しめる、苦しめる [魔法] ガーヴ。火の禁呪魔法。対象の苦しみの神経を刺激し、死ぬまでのたうちまわらせる魔法。内臓が灼熱で抉られたような感覚を覚える。死ぬまでに時間がかかる魔法で、残酷度が最も高い種。 [反意語] ucleſ [レベル] 2 ʃ0:φıu: 古 :u は怪我の意味。φ はのたうち回る音か。φııu と似るのでμを挿入。 [成句] uıμ φıμu 四苦八苦して、七転八倒 [用例] "ıμſen e φıμu ɥeſ εel" ɥɔμſɒıcn ʔıen uıjʔı, uıſıc ɔnſ ılıd, ɒcn ınɥəjɔl. ɥəə ılſ ɥənı, jɔn φıμu. <メルによるガーヴの呪文> 戦場のむくろ、 天災と飢え、 陵辱される女。 誰も私を助けない、 苦しめ。

φıμɒı [軍事] 戦争 [類義語] uıj [レベル] 2 ʃ0:φıμu（苦痛）/ 古 ʔıɒı（多い） [語法] ひとつの戦いが uıj で、戦いの１シリーズが φıμɒı。第一次世界大戦や朝鮮戦争などは φıμɒı で、レイテ開戦など、一回一回の戦いは uıj。

φıμɒı ſ'ıμſenı [歴史] メルテナ後期、召喚士戦争。ɥəəɒı ϧ,110 ～ ϩ,011ϩ [レベル] 5 ʃ0

φıμɒı e ɒɥeʔılε [歴史] メルテナ前期、宗教戦争。ɥəəɒı Ƙ,001 ～ Ƙ,ƜƜƜ [レベル] 5 ʃ0

φıμɑ [単位] デシ [レベル] 3 ʃ1:φıμɑcın

φıμɑ,jzʔ uıjın, uıc

φıμɑnıμ [宗教] 枢機卿、カーディナル zφ;「鉄のとぼそ」 ʃƜ

φıμɑc [人名] ガルディ、ガウディ、ガゥディ、ガーディ [伝統色] カーキ [組み数字] 3 / 5 [レベル] 4 jzʔ ʃ1 [文化] → μıdıll

φıμɑc ſjelcn [人名] ガルディ＝ツェリン ʃ1:μcɑcı [文化] φıəɑc

φıμɑcın [歳時記] 立秋 [名詞] １３時 [組み数字] １３／２４ [レベル] 3 ʃ0: → ınlcın [文化] ınl cın

φıμɑcın(J) [魔法] ガーディアン。アンジェリカのパイロット [レベル] 4 ls;φıμɑ,jz/ın ʃ1

φıμlecj [名詞] レーベル。レコード等の盤面中央部に貼付される、曲目、音楽家、レコード会社名などのクレジットが記載されたラベル紙。 [レベル] 5 μſ;/ ʃƜ

φıμcəj [アトラスの国家] ガリウス [レベル] 5 1L:μcɑcı:φıμ/clcμcəj

φızel [料理] ガゼル飲料 [レベル] 2 ʃ0:φıμ/eμ/ 古 ıl（もの）→ φıjel → φızel（同化）「ガスの水のもの」 [文化] 喫茶店などに置いてある一般的な飲み物。紅茶より安価。夏によく飲まれる。炭酸水に少量の塩とレモン汁を加えたもの。これに砂糖を入れると lccze になる。μɑ で lcdc を禁止したリディアがセレンに作ってあげたことで開発され、国民にも広まった。

φıl [単位] １００、百 [レベル] 2 ljʔ 古 oıɒı:φıl:lə jınj（元々 1ƜƜ。1 と Ƙ がどちらも男性なので jınj は男性。ɟɒ で定められたときはすでに jınj は 100 だが、1ƜƜ に遡って考えるところがルティア人らしい）

φılſ [建築] 門、ゲート、門扉 [形容詞] ～門。前置。 [交通] 駅の改札：アルナでは自動アンセ読取装置があるので、アーチ状のゲートになっている。 [名詞] 口から下の棒を引いた、ゲートボールの門みたいな形のもの [武道] 攻撃にも防御にも転じられる基本の構え [サッカー] ゴール [レベル] 2 ɑu;e ʔ: 制 φılſ:φılſ:lı φıμ [語法] nɔɑ [文化] 集合住宅には門がある。一戸建てにもある。道からいきなり玄関に繋がることはない。門と庭が道と家の間にある。門はアーチ状のものもあれば、扉状のものもある。扉は日本の門扉と同じく西洋的なものであるが、押して入る。 [成句] φılſ e nene eɒ hɔɒ. 堪忍袋の緒が切れる：怒りの門が開くという意味。必ず怒りの意味で使うため、sɔ は不要。 lcſ φılſ 門外不出 [武道] jıſ φılſ 構える [用例] ☆ φılſ ınſ eɒıcəj hɔɒ. 堪忍袋の緒が切れそうだった。

φılſjeɑ [サッカー] バックパス ul;/ ʃʔ

φılſφel [運動] ゲートボール、クローケー、クリケット [レベル] 5 1Ƙ: 制：門のボール [文化] ɒılzɔn

φılſlɔl [生物] 結腸 [レベル] 6 1L:φılſ 形の腸。大腸の一部

φılſın [名詞] 門番、ゲートキーパー [サッカー] ゴールキーパー、キーパー [レベル] 3 ɑu;φılſ/lın ſcj ʃʔ

φılſınſ [宗教] 守門、ポーター zφ;φılſ/lınſcj ʃƜ

φılſc [名詞] 少ししたら。３０分～１時間強。 [副詞] 少ししたら [レベル] 1 ʃ0:φılſ/cn（門を見に行くような）。ezcſ より待ち時間が長いのでそわそわして。 [語法] ɑclɑə

φılſe [軍事] 尉官 [名詞] 小ボス [組み数字] 4 / 7 [レベル] 3 古 :zıını: 門？ [文化] 士官の階級のひとつ。大尉、中尉、少尉に分かれる。

φılſeı [アトラスの国家] ガルテア [アクセント] φılſeϯ [レベル] 5 1L:μcɑcı: 百の悪魔

φılſeı(J) [魔法] [人名] 逢魔ヶ門、ガルテア [アクセント] φılſeϯ [レベル] 3 ʔl;lſɑ<>φılſ,ɑu ʃ1 [文化] ejʔı

φılʔ [料理] ハンバーグ [レベル] 2 ʔ: 制：φılbıl（円盤形の牛肉）

φılʔɑcjzeſ [料理] ハンバーグ定食 [レベル] 3 1L [語法] ın lınɑ φılʔɑcjzeſ ı. ハンバーグ定食まだこないのかな。

φılʔınɔ [魔物] ガルカノ（百鷲）：第二十七天：風の氷天 [レベル] 5 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel: 百本首のある鷲 [文化] 鳥族。三つ首の大鷲。火、冷気、いかづちをそれぞれの頭から放つ。首をひとつ切ってもすぐ再生することから、首が１００本あるに違いないと思われ、この名がついた。だが実は倒し方は単純。３本の首を同時に刎ねればよい。ただし相手が強いので、単純ながら難しい。

φılμılſ [歴史] 世紀、センチュリー [レベル] 3 1L [語法] [文化] メル０年は紀元年で、紀元前でも紀元後でもない。世紀は１から始まる。１世紀はメル１～１００年で、２世紀はメル１０１～２００年。紀元前１世紀は－１～－１００年で、紀元前２世紀は－１０１～－２００年。 メル０年を紀元後に含めると０～９９が１世紀になり、－１～－１００が紀元前１世紀になり、紀元前と紀元後で区切りの数が食い違ってしまう。そのためメル０年は紀元年とし、どちらにもしない。数直線で見る整数０が正負の数いずれでもないのと同様の考え方である。 [用例] φılμılſ ʃl ２１世紀

φılueeɥə [アトラスの国家][地名] ガルヴェーユ、ガルヴェーユ島、天門島 [レベル] 3 ɑu;φılſ/ueeɥə「天国の門」 1L:μcɑcı: 天国の門 [文化] 面積：Ƙ?0.ʃ?0.ʃƜƜƜL] ʔɒ ʃ ɒelſcı ʔʔ に神々から追いやられたユーマの一族第三世代が移り住む。そのときこの名が付く。そこで狩猟採集生活をしていたが、ɒelſcı ΔΨ'0000 になると神々が移住してきて国を奪った。ユーマの一族はガルヴェーユを追われ、ファベルとサヴィアに散った。 ヴェーユに繋がる国といわれている。 [成句] hɔɒ φılſ e φılueeɥə lınſ ガルヴェーユの門を開けてやる：火中の栗を拾う。メルとセレンのお盆のやり取りから。

φılueeɥəſcle [地学] ガルヴェーユ海流 ʃʔ

φılueeɥəſıɟ [歴史] ガルヴェーユ追放 [レベル] 4 μɑ ʃʔ

φılueeɥən [名詞] ガルヴェーユ人 [レベル] 3 ʃ0

φılɑ [天文] 銀河、ギャラクシー、小宇宙 [レベル] 3 1ϩ: 制：φıl/cɑı（百の星） [用例] ɔɒ φılɑ ıſ ılıφel ıl ıʔɔ, jɔı ın nıſ dɔſ sıɒd e ɑəμne ʔɔnſ cn dıɒ leııll e lcıl. ſıl ın lıʔlıſ le lel ɥəə ſcj lɔſen ſə φılɑ ſcl ɑcı ɔnſ elɑ nɔzeſ ʔɔnſ ın jeμcl jɔl ſə eſ jlen l'el pɔlcn ɑcı ʔɔn. 夜の飛行機に乗ったとき、街の無数の灯りを見て、いつから銀河は地上に降りたのだろうと思った。だがその銀河の中の誰一人として自分の世界と言語を持たぬのだと気付いたとき、これこそが世界を見下ろす視点なのだと知った（jeμen ıμbızıμɑ）

φılɑμec [魔物] ガルフレイ（百剣鬼）：第七十一天：聖の風天 [レベル] 5 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel: 百本の剣 [文化] 百本の腕があり、百本の剣をふるう鬼。顔は４つ付いており、どの方向にも向いている。顔と手はどの方向にも対応しているので、脚の向きを見てスキを突くしかない。 [成句] ıjel e φılɑμec ガルフレイの微笑み：八方美人

φılaeμn [天文] 銀河系 [レベル] 4 ʃ1 [文化] | 約 1ʔ1 億年前 | 銀河系が誕生する。ıμſe は銀河系に位置するようになる。uccɑ は ıμſe に流入し続け、ıμſe は膨張を続ける |

φılbı [人名] ガルリマ ʃ0 [文化] (ɥəəɒı ϧ11:ϧϧ1Ƙ) メルテナ後期のアルテ教皇。

φılɑ [経済] コイン、硬貨 [遊離副詞] [形容詞] 五分五分だ、フィフティフィフティだ：コインの表裏が五分五分で現れることから [レベル] 1 1L:φıμ [語法] ıləəſ [文化] ınɑın [用例] ʃə eſ φılɑ lel lı lənı ız. 彼が来るかどうかは五分五分だ。 ın uıjſ jcl lı φılɑel nı. あいつに勝てるかどうかは五分五分だな。

φılɑʔlıɑ [地球の国名] ポルトガル [レベル] 5 1L: 国章にコイン

φılɑnıl [形容詞] [ポジティブ] お金の心配のない、富める、豊かな、裕福な [形容詞] 甲斐性がある。経済的な生活能力があるという意味としての。 [類義語] ʔlφ [反意語] ɑμenlen [レベル] 3 ʃ0: コインに関して安心な→お金の不安のない [語法] [文化] 清貧の反対で、湯水のように金があることを指すわけではない。不安に怯えることなく暮らしていける程度の金があることで、ʔlφ に関してはこの φılɑnıl のみが [ポジティブ] になる。 φılɑnıl はアルバザード人に愛された単語であり、アルバザード人のセンスが集約された語としてミロクに称えられた。φcnıl とせず φılɑnıl としたところにセンスがあり、「金」という直接的な言葉を忌避した雅さを持っている。

φılφıμɒı [軍事] [歴史] 百年戦争 [レベル] 3 μɑ;/ ʃƜ [文化] cɒəl ϧ00_1ϩϩ までの ɥəənılejʔı を含んだ戦争のこと。

φılbezel [地名] ガルベゼル湾 [レベル] 3 ʃ0:μcɑcı:φılſ/beezel [文化] アルバザードの湾のひとつで、テージュ海に通じる。悪魔ベーゼルが神との戦闘時に踏ん張って応戦した場所。ベーゼルを吹き飛ばしたときの衝撃で地面が吹き飛べて湾ができた。

φılı [名詞] スキャンダル、醜聞、悪い噂、よくない噂 [レベル] 3 ʔ: 制：ılıſlı:φlıʔ

φılcj [名詞] 攻撃弾、弾。何らかの攻撃に使う弾→ φılcj [娯楽] ショット [類義語] φel [レベル] 4 μɑ; ↓ ʃ0:φılejʔ/ 古 lccz（小さな害悪）。φılejʔ は強欲の神だが、φııl の語源になっていることからも分かるとおり、害悪と連想される。

φılcjʔɔu [軍事] 弾倉、マガジン [レベル] 5 μɑ;/ ʃƜ [文化] φel

φılcjaıbe [軍事] 発射薬 μɑ;/ ʃƜ [文化] φel

φılcjφeʔ [軍事] 弾丸 [レベル] 5 μɑ;/ ʃƜ [文化] φel

φılcjhɔj [軍事] 薬莢、やっきょう [レベル] 5 μɑ;/ ʃƜ [文化] φel

φılcjlcuı [娯楽] シューティングゲーム、シューティング [類義語] ʔlεıφılcjlcuı [レベル] 3 ʃ1

φılcjeʔ [軍事] 弾雨 [類義語] ʔlεıφılcj [レベル] 5 μɑ;/ ʃ0: 弾の雨

φılcjez [軍事] シリンダー μɑ;/ ʃƜ [文化] φel

φılcı [魔法] 風花門、ガリア [レベル] 3 ɒſ;<>φılſ,ɑu ʃ1 [文化] ejʔı

φılɔn [約物] セミコロン、; [レベル] 3 古 :φılɔn を変化させたもの。古ではセミコロンではなく、セミコロンを含む約物全般を指した。

φılεſ [魔法] 晄基、こうき、ガレット [レベル] 4 ʃ0:φııbe/ 古 ıl/ſe（材料になるもののような）。晄基は塩基から取った訳。 [文化] ɑɔlɒcɥə ガレットが４種類ある以上、その内部構造が確実に存在するはずである。そのことは既に中世で分かっていたが、ıμſɑμcɒ の分解能をもってしても内部構造は見えなかった。つまり当時は φılεſ が観測できる最小限の大きさであった。 その後魔法自体が廃れたことで、魔導師が微かに残る現代においても φılεſ 以下の素粒子は見つかっていない。現在、召還省下の魔法研究所は φılεſ 以下の素粒子について予想を立てているが、その存在はまだ証明されていない。最小の構成要素が見つからないのは物理学と同様である。

φılεſjcz [魔法] 晄基板 [レベル] 6 ʃ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

φılεſncɒ [魔法] 晄基色 [レベル] 6 ʃ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

φılεſμecn [魔法] 晄基線 [レベル] 6 ʃ1 [文化] ɑɔlɒcɥə

φılen [名詞] 追加、おまけ、付属、補足、補遺、継ぎ足し [名詞] 添付、添加物 [動詞] ɥel を ı に付け加える、付け加える、足す、言い足す [類義語] ıd [レベル] 3 ʃ1:ɒel:φııbe/en

φılenı [名詞] [ネガティブ] 欲望、欲求、欲 [類義語] lıl [レベル] 3 ʃ1:φılejʔ/nı

φıleu [生物] [動詞] ɥel に淘汰される、ɥel に負け去る、淘汰される、破れ去る [反意語] ɑılj [レベル] 3 ʃ0:φıu/leeu（苦しんで去る）

φılεɒ [名詞] 後悔、取り返しの付かないこと、後の祭り [類義語] dej [レベル] 3 ʃʃ:φɥə/ılεɒ φılεɒ:φılεɒ [成句] φılεɒ jʔle ucl ɥel. 後悔は失敗の前に来ることができない：後悔先に立たず、後の祭り

φılεeɒ [魔法] 透晄、ガレーム [レベル] 5 ʃ0:φılεſ/ɒɥə（ガレットのない） [文化] ɑɔlɒcɥə

φılə,ılſ ucl

φıləɒı [軍事] ガルマ [レベル] 6 jɒ;ılſ<>φılə [文化] ʔılın

φıı [生物] 腹 [レベル] 2 1L: 古 φı（腹、腹筋）/ſɔɒ（おなか） [語法] [文化] ſɔɒ の下から陰部の上まで。へその下で、腸の辺り。丹田がある。ルヴァンではここに空気を送り込み、ふいごのように膨らませたりへこませたりする。ſɔɒ に比べ意識しにくい部位。活力や精力など、力の集まる場所。ルヴァン中はノアの緑の玉がここに集まる。

φııſɔ [代詞] こんな [形容詞] このように、そのように [類義語] jɔı [反意語] uınɑɔl [レベル] 1 ʃʃ;φııſɔ,jzɑ.ılel「そこらに転がっている路傍の石のような」 ʃʃ [語法] jɔı

φııſɔ,jzɑ ɑɔl c φııbe/ſəənɔ

φııſɔn [代詞] こんなところの [レベル] 1 ʃʃ

φııl [動詞] ɥel（内容）を ı に叫ぶ、叫ぶ、さけぶ、大声を出す、大声を上げる、喚く、おたけぶ、吠える、鳴く、怒鳴る、どなる [普通動名詞] 叫び、雄叫び、夜泣き、怒鳴り声、怒鳴り、どなり、怒号、怒声 [類義語] hıμφı hıμφı [レベル] 2 1L:φıı という lcu [語法] φııl に怒りは含まれていない。怒って怒鳴るのは hıμφı。 φııφ は enı 型。φııl は ʔə 型。 [用例] lı φıılıſ "neſʔ". 彼は「起きろ」と叫んだ。 ſc nı ſɔ ɔn eμcɒ ɔl ɔɔı φııl ı ſcϑ 犬に吠えられたら心臓にどう感じる？

φııſʔɔu [名詞] 捌け口、はけ口 [レベル] 4 μɑ;/「叫ぶ箱」。人に聞こえないように箱の中に顔を入れて不満などを大きな声で叫んでストレス発散したことから。 ʃʔ [用例] lı laſ ɥɔl nɔn lel φıılʔɔu ɔnen hcɒ. 彼はいつも私を性の捌け口として使う。

φ

φιιυ ［地学］地下 ［反意語］ılsın ［レベル］3 αμα 1L: 古 :φιιυc ləən:ləən, φιιυc ［文化］ 地下は物干し場になっている。部屋ごとに場所を設けるといくら場所があっても足りないため、空いているところを使う方式になっている。

φιιυſced ［建築］暗渠、あんきょ、カナート、カレーズ、地下用水路 ［反意語］ılsınſced μα;/ ［レベル］6 J; ［語法］［文化］ 敷地の有効利用の目的からか、暗渠の上を道路や遊歩道へ転用している例がしばしば見られる。川がないのに欄干（らんかん）が残っている場所があるが、これは地下に暗渠がある証拠である。 もともとの川幅の狭さや強度の関係もあり、多くは車両通行禁止の遊歩道などに転用している。幅が比較的広い川を暗渠にしたケースでは、自動車が通行可能になっていることもある。 川を蓋がけして作られた経緯から、路面が沿道の宅地よりも若干低くなっていることがある。 なお、地下に水道管を埋設するために直線的に整備された、いわゆる「水道道路」もまた、暗渠の一種である。

φιιυ αμejſcı ［人名］ガーヴ＝フレスティア ［レベル］6 1L:clɒəj:jɒen/ɒel ［文化］ (ɒel LΔ → 1Ω1) ナディア期の海賊。男性。エルトア出身だが身元を隠し、カテージュ出身で終世通した。９８年に母親がレイプされ、腹を引き裂かれて殺される。母の死体の中から救い出されたのがガーヴ。エルトアで生まれ、すぐ孤児院に預けられる。魔導師の生き残りで、２歳で孤児院を魔法で焼く。孤児院を去ったところを児童売買人に捕まり、アデュへ。しかし折しもアデュの報いでアデュが崩壊。しかし魔法のバリアを張って生き残る。崩壊したアデュで１０才まで生きる。１０才でカテージュに行き、海賊の船を盗む。捕縛されるもその船長に見込まれ、養子となる。１４歳で船長をなます切りにし、海へ投げ捨て、船を奪う。メティオ付近の島を根城に、アッティ＝メテの航路を通る船を襲う。貨物船から略奪をし、旅客船で強姦と虐殺のかぎりを尽す。メル１２４年、アルバザード・メティオ・ルティア連合軍の海賊掃討作戦に敗れ、アルバザードを撤退。南半球の航路を確立し、マレットの民を虐殺して回る。メル１４１年、強姦して産ませた自分の娘が１２歳になり、強姦。拒まれたため、強姦して殺害。死体をなます切りにして便所に捨てた。それに見かねた部下が造反。毒を盛られ、海に捨てられた。ガーヴの海路はアルバザード海軍の利用するところとなり、植民地化が多いに進んだ。

φιιυɑɔnſ ［交通］地下道 ［レベル］3 1L:clɒəj:μcɑcı

φιιυjecn ［言語］［文字］ディセンダーライン J1

φιιυlɔd ［交通］地下鉄、メトロ ［形容詞］地下鉄～線。前置。 ［レベル］3 J1

φιιυıłj ［建築］地下、地下階、地階 ［レベル］2 1L

φιιυc ［地名］ガーヴィ ［レベル］5 古 ［文化］ メテの使徒ヴィーファの支配地

φιιυc(J) ［アトラスの国家］ガーヴィ ［レベル］4 łłɔ 面積：1ϒϒJΩΦ.LLLOΦΔ ɔb 」 アティア海に浮かぶ島。元はファベル大陸に接していた。周遊する島。地下の同名の国ガーヴィに通じるが、ガーヴィからは入れず、パルラのミュシャクから行くしかない。

φιιυcſcɔle ［地学］ガーヴィ海流 J?

φιιυe ［地学］地質 ［レベル］5 μα;φιιυc.l。地面より下の岩石等の性質などを指すことから。 J?

φιιυeɑɒɒe ［地学］［歴史］地質時代 ［レベル］6 μα;/ J? ［文化］ 冥王代、始生代、原生代、顕生代に分かれる。 原生代は古原生代、中原生代、新原生代に分かれる。 顕生代は古生代、中生代、新生代に分かれる。 さらに古原生代などはシデリアン、リィキアンなどに細分化される。 命名は全て人間の成長に基づいてなされる。 冥王代、始生代、原生代、顕生代は胎児、嬰児、子供、大人。 原生代の古原生代、中原生代、新原生代は nını, ſcnı, αcın。 顕生代の古生代、中生代、新生代は lız, bını, nıı。 シデリアンなどは人間が生きていく過程で起こる細かい成長を元に命名される。 例えば古原生代は nınıɑɒɒe なので、シデリアンなどの細分化された項目は赤ん坊が習得することを元に命名される。最初のシデリアンはまず赤ん坊が生まれて最初にすることが泣くことなので、この時代は φιιφnını と命名される。次に赤ん坊はハイハイをするようになるので、シデリアンの次のリィアキアンは bɔlΠnı ni という。このように、一人の人間の成長過程をそのまま地質時代の成長過程に当てはめていくという命名法を取る。 地球のシデリアンなどの命名と異なり体系的かつ日常的なので覚えやすく、直感的にどれくらい古いのかすぐに理解できる。 ・赤ん坊時代 シデリアン：泣く リィアキアン：這う オロシリアン：立つ スタテリアン：歩く ・幼女時代 カリミアン：呼ぶ。パパ、ママなどと親を呼ぶようになる。 エクタシアン：走る ステニアン：描く ・童女時代 トニアン：書く。文字が書けるようになる。 キオゲニアン：計算する エディアカラ紀：恥じらう ・少女時代 カンブリア紀：使命を負う。１０歳で使命を負うのはアルカの伝統。 オルドビス紀：恥じる シルル紀：憧れる デボン紀：想いを寄せる 石炭紀：悩む ペルム紀：反抗する ・思春期 三畳紀：恋する ジュラ紀：デートする 白亜紀：抱く ・青年期 古第三紀：キスする 新第三紀：結婚する 第四紀：出産する ●更なる細分化 第四紀などは更に更新世と完新世に細分化される。これは ſɔſɔlculnııſ ではなく、ſɔſɔlcul の形で表現される。さらに更新世はゲラシアンとカラブリアンに分かれるが、これは ſɔſɔſɔſɔlcul ではなく ſɔſɔſɔſɔ の形で表現される。なお、大雑把な地質学用語としては、ここまでの細分化は覚える必要がない。

φιιυeɑel ［地学］地質学 μα;/ J?

φιιυehınł ［地学］地層 ［レベル］5 ul;/ J?

φιιυez ［建築］地下室 ［レベル］3 J0:lcɔn

φιιυel ［軍事］植民地 ［レベル］4 1L:clɒəj:ɒel:φιιυ/eel（ガーヴ船長がアルバザードに先駆けてナディア期にファベルに植民地を築いていたことから。植民地にはガーヴの像が置かれたため、この名がついた）

φιιφ ［動詞］yəl を喚かせる、喚かせる、喚く、わめく、ぎゃあぎゃあ泣く、泣き喚く ［レベル］2 古 : ぎゃあぎゃあ泣くときのオノマトペ

φιιφnını ［地学］［歴史］シデリアン ul;/ J? ［文化］ φιιυeɑɒɒe

φιιbe ［名詞］材料、料、原料、資材、ネタ、原材料 ［料理］（食べ物の）具、素材 ［名詞］オナニーのオカズ、おかず、オカズ←→ leebel ［文字］エレメント ［レベル］2 ɑ;e 赤 : 制で ıb だったが、ここまで短い必要はない φιιbe:φιιbe:lə φιιbe:φıbe,ılſ ［用例］ ɔl ſc ſcl φιιbe le ſc ılł ın ılſ, jɔn ılſ ſə ıſə. 書いてほしい記事があればここに書いてください : ſc łıł は挿入。le は ın ılſ にかかり、先行詞 φιιbe は元々 yəl 格。

φιιbeſ ［名詞］物資 ［レベル］4 JJ:φιιbe/ſe

φιιbel ［名詞］家紋、紋章、校章 ［レベル］3 J0:φιιbe ［文化］ zφ で軍を識別する旗模様としてできた。1l ～ jɒ までは有力氏族の家紋として使われた。 μα から広く民衆も持つようになった。ul 以降廃れたが、上流階級の中では伝統として生き続けている。 植物や動物や道具などが描かれ、指輪に彫られ、印章として使われる。また、服など持ち物に編みこまれることもある。 皇室アルバ家の家紋は「六角柊」。堅く重いことから安定して強いことの象徴であり、常緑樹であることから「枯れない」→「滅びない」ことを象徴する。 ユティア家の家紋は「逆さ鈴蘭」。鈴蘭の悪い印象（淫靡で有毒）を逆さにすることで、逆に良い印象（清廉で薬になる）に転じている。 ルティア王室の家紋は「踊り撫子」。この撫子はｄｉａｎｔｈｕｓ。 アルバザード家の家紋は「水月紫苑」。水に映ったイシリウスの月と、サールの象徴である紫苑からなり、ともに最大級の魔力を象徴している。このことから祖先が魔導師であったことがわかる。 ケートイア家の家紋は「銀鏡竜胆」で、魔法と槍から来ている。竜胆は外来種で、祖先がフィガンの出身であることから来ている。

φιιμ ［形容詞］新鮮でない、古びた、しなびれた、萎びた、古い ［反意語］αccł ［レベル］2 @ 1L

φιιze ［料理］ソーダ、炭酸水、炭酸飲料 ［類義語］αınıł μα;φιμ/eμ J? ［文化］ アルバザードで「ソーダください」と言ったらスプライトのような甘いものではなく単なる炭酸水を出される。ジュースのソーダがほしい場合は αınıł ください と言わなければ通じない。

φιıł ［形容詞］有害な ［名詞］害悪 ［反意語］αccμ ［レベル］3 1?: 制 : 古 :φιılej

φιılclł ［魔物］ガーリシュク（啼茸）: 第六十五天 : 聖の陽天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel: 叫ぶキノコ ［文化］ 蟲族。菌の集まりなので蟲族。赤ん坊ほどの大きさの茸で、不気味な顔が付いている。引っこ抜くとギャーと叫び声を上げ、聞いたものは卒倒するかショック死する。そして倒れた相手に食らいつく。邪か害に見え、実は聖属性という厄介な相手。身なりにせよ属性にせよ、獲物を騙すことで狩りをする。

φιılej ［サール］ガーレス ［形容詞］強欲な、よくばり、欲張り ［俗語］［人名］ルシア。ルシアの悪口 :J0:ɒel: 兄ユルトのおもちゃを取り、ユルトがルシアの投げ捨てたものを取ると、それはそれで怒って取り上げることから。 ［レベル］2 μcɑcı: 古 ［文化］ エルトのトゥウェンを封じ込めたサール。非常に強欲。

φıcn ［言語］［文字］ガイン、ピリオド記号、ピリオド、丸、下降調 ［レベル］2 J0:φıłɔn/cnſ

φıcnıj ［アイテム］クレイモア hμ J1

φıcɑ ［生物］甲状腺 ［レベル］5 1L:φıφ/φıłſ。似たような語形を避けるために適当な母音 c を挿入。

φıcɑɑıcz ［医療］甲状腺炎 ［レベル］6 1L

φıcz ［形容詞］精神的に不快な、不快な ［名詞］精神的な不快感、不快、不快感 ［類義語］bełıɒ, ɒelcj ［反意語］αccſe ［レベル］2 古 :φecz（毒ガス）→ φıcz（不快） ［用例］ ſcł{nı} φıcz 不快だ

φıcı ［動詞］yəl を łʎɑccnı} に保障する、保障する、保証する、責任を持って約束する ［レベル］3 1L: リディアの書 :φııl/dcnı

φıɔ ［名詞］端っこが広がっているもの、口がすぼまっているもの、末広がり ［動詞］yəl を発散させる、広げる、広がる ［動詞］［数学］yəl を発散させる、発散する ［反意語］ılφı ［レベル］3 古

φıcʎ ［化学］フラスコ ［レベル］4 μα;φıɔ/hɔj J1

φıcʎɔlɔ ［被服］プルマ nα;/ J1 ［文化］ 現代人の想像するプルマではなく、裾が広がった長ズボンのこと。

φıe ［生物］歯ぐき、歯茎 ［レベル］3 @ 1L

φıeɑɔ ［言語］歯音、歯茎音 1L

φıedɔı ［医療］歯肉腫、エプーリス 1L

φıeɑc ［建築］ガウディの塔 ［経済］5 ソルト玉 ［レベル］2 J1:μcɑcı:φıμɑc ［文化］ → ınaın, αı nɑμeı μſ の建築家 φıμɑc ſjelcn が μſ 末期の万博で建てた塔。当時製法が確立した鍊鉄でできている。現中央アルナ市コノーテ＝リュウ通り所在。電波塔と展望タワーが当初の目的。ul でラジオを送信。その後テレビ放送のＵＨＦとＶＨＦを送信。ıl で近隣の高層化に伴い役目を終え、展望タワーや観光名所として残る。 ［成句］ uıl φıeɑc ２０ソルト : 二東三文

φc ［名詞］金属、メタル、金具 ［レベル］2 ɒelſcı Δ:φclcəj;φclcəj.l 1?: 制 : 古 :φccłı（金属） φc:φc:lə φcclı（ギリウスが男性）

φc,ılſ μıφnı

φcſ ［形容詞］弛み、弛む、緩んだ、ゆるんだ、ゆるみのある、たわんだ、撓んだ ［反意語］αıł ［レベル］3 @ 1L

φclclb ［名詞］彫金 ［レベル］6 1L:μcɑcı:ıμbıłelſ

φcl ［名詞］警告、警鐘、警報、注意事項 ［動詞］yəl（内容）を ı に警告する、警告する ［反意語］αıj ［レベル］3 @ 1L ［用例］ el cjł αıl φcl lını αɔnl ucl. けがをしないように注意事項を読んでおかなくてはならない。

φcj ［名詞］はんだ、ハンダ ［レベル］4 古

φcn ［動詞］yəl（商売の内容）を商う、商う ［経済］商売、商い、商業 ［類義語］μceſ ［レベル］3 古 ［語法］ φcn は商売全般のことで、抽象的な概念。μceſ はその具体的な動きや方法のことで、営業・運営・経営などの意味。

φcn(J) ［経済］アルティアの通貨 ［レベル］5 JJ

φcnſɔnł ［経済］商人 ［レベル］3 1L ［文化］ ナディア～シルク・アルミまでの身分の１つ。技師や医師などを含む。

φcnj ［動詞］yəl を削る、削る、削れる ［経済］減損 ［レベル］3 古では？ : 削る←爪をする

φcnjuełł ［経済］減損会計 1L

φcnjı,αu lcjd φcn/jı

φcnuıłj ［経済］商談 ［レベル］5 1L:μcɑcı:ıμbıłelſ ［文化］ 会議と基本は同じ。交渉相手と商談について話し合い、最終的に結論を出す。商談は一対一で行われることが多いため、議長はいない。会議を一対一で進めるようなもので、交互に自分を意見を言っていき、最終的に結論を出す。客と売り込む側に上下関係はない。日本は明確な上下関係があり、接待が横行する。アルバザードでは接待はしない。

φcnuınſ ［法律］商法 ［レベル］5 1L

φcnı ［被服］洋服のホック、ホック、スナップ ［レベル］3 1ϒ: 制 :φcnɔ から

φcnıłn ［経済］商業主義 μα;/ J?

φcnın ［経済］商人 ［レベル］3 1L:clɒəj:μcɑcı ［語法］ アルバザードでは伝統的に賤業とされ、過剰に儲けた分を社会貢献に回すようにという暗黙の社会ルールがある。過分に儲けた人間は、そのほとんどを慈善団体や研究機関に寄付することが社会的義務。日本人や中国人のように貯め込むと不買運動やデモや打ち壊しに見舞われる。寄付者は ſoen に祝福されたものとして、聖人として称えられ名誉を得る。また、仮にその後の商売が失敗しようと、本人および暗黙の了解で家族も生涯の生活が保護される。例えばアメリカ人ビル＝ゲイツの場合、資産の多くを慈善団体に寄付したことで、アルバザード方式だと聖人となり、今後マイクロソフトがどうなろうが生活は保障され、聖人として称え続けられる。

φcnɔ ［アイテム］鉤爪、爪、ツメ ［レベル］3 αu;φc/nɔ「金属の爪」 赤

φcnɔu ［医療］ケロイド ［レベル］5 1L:φcnɔ/leun

φcnɔın ［ジョブ］爪使い ［レベル］4 1L:μcɑcı

φcɑ ［生物］霊長類 ［レベル］4 1?: 制 :łłłı では φccɑſ

φcɑſ ［名詞］針金、ワイヤー、ワイアー、ワイヤリボン ［レベル］3 1?: 制 :φcɑɔſ（金属の紐）

φcɒ ［形容詞］浅い ［反意語］αın ［レベル］2 @ 1L

φcɒſceμ ［地学］表層。海の垂直区分。 ［レベル］6 ul;/ J1 ［語法］ ſceμ

φcɒł ［名詞］浅瀬、あさせ ［レベル］3 μα;/「浅いところ」 J1

φcɒbelſ ［料理］フライパン ［レベル］2 1L:łcɔn

φcɒleed ［言語］表層構造 ［レベル］6 1L

φcɒı ［経済］小切手 ［レベル］4 μſ:φcl/bıj J? ［用例］ ıμ φcɒı ɑə J00 ı nene ～に２００ソルトの小切手を振り出す、小切手を発行する

φcɒłɔn ［地学］［植物］土壌のＡ層 1L:μcɑcı ［語法］ 土壌の２層目。０層の下。腐植と土の混合からなる。

φcɒel ［死神］ギメル 1L:jeμen ［文化］ ヴェルギナの部下の死神。ふわふわの髪の美少年。人間でいえば十代。一途なところがあり、ランヴェムを兄と慕っている。だが、気性が激しく、ランヴェムに迷惑がられている。非常にナルシストで、言葉がいちいち演技がかっている。 ヴェルギナの相手ばかりしていて運動不足なので、ヴィードを使わない戦いでは大して強くない。

φcd ［名詞］釘 ［レベル］2 łłłı: 尖った金属 ［用例］ eu φcd 釘を打つ

φcb ［料理］おたま ［レベル］2 1?: 制 : 古 :φczɔb

φcz ［名詞］やすり、鑢 ［レベル］3 古 :φc は金属で、z は棒 ［用例］ łle łɔn φcz やすりで磨く

φcl ［経済］金 ［類義語］ınse, bełeſ ［レベル］2 αu 古 : 金（かね）＝ φcl（金属の（φc）もの（l））。または łɔlɔ で金とも。 φcl:φcl:le ınse ［文化］ ＜金に対する価値観＞ フランスや昭和の日本同様、金を儲けるのは卑しいことと考えられており、清貧が尊ばれる。上流階級ほどこの意識が高く、成り上がりの商人ほど低い。 一方、関西的か関東的かというと関東的で、安物買いを威張ることはしない。威張るとしたら高いものだが、それ自体が卑しいことと考えられているため、できるだけ値段の話自体を避ける傾向にある。 逆に金を稼がないのもよくない。生活に必要な程度を稼ぐのがよいとされる。年収は仕事から自ずと分かり、これも話題にしない。 物をプレゼントされた際にいくら？と聞くのは失礼。全体的にお金は汚いと思われているので、金の話はなんであろうと避けておくのが無難。 ＜金の種類＞ アンセには電子マネーが登録されている。２０１０年の日本でいうところのスイカやパスモに相当する。あのカードがアンセの端末の中に組み込まれていると考えればよい。電子マネーはデビッドカード式であってクレジットではないので、即座に銀行口座から引き落とされる。 アンセによる決済はバイオメトリクス認証を採用しているため、本人以外では使うことができない。 日本と異なり小切手の習慣がある。紙幣の最高額である 10000 ソルトを越えたあたりから用いることがある。小切手にはサインがなされ、受け取った人間は金融機関で換金する。 小切手には本人がサインをし、金額を書く。受取人は後から銀行に提出して自分の口座に送金してもらう。誰から誰に渡ったかはっきりするので、恐喝によって小切手を書かされる心配はない。 貨幣はソルトである。アルバザードは小数文化なため、存在する貨幣にクオーターという考えはなく、J? や J という貨幣はない。貨幣は順に 1、ϒ、10、ϒ0、100、ϒ00、1000、ϒ000、10000(μınφ, φıeɑc, ɒcʃce, ınlccz, αıłcın, jɔen, lıuen, eı lcj, uejdel) の順である。このうち 100 までが硬貨であり、ϒ00 以上が紙幣となる。日常生活での最高額の紙幣は ϒ000 であり、10000 は通常を見ることがない。 ミロクは革命時に

φ

電子マネーを普及させ現金を廃止しようとした。政治家やマフィアがため込んでいる申告することのできない金をあぶり出すためである。すべてが電子マネー化されることで、国は国民の財産を一人一人細かく把握することができる。これは徴税の効率を上げ、管理の質も向上させる。　ところが富裕層から絶大な反対を受け、マスコミが強く反対して国民を反対運動に焚きつけたことから、国民の全電子マネー化に対する反発が強まった。一般国民の感情としては、すべての財産が形を持たない数字だけになってしまうのは不安というものであった。管理側に不具合があったときのことを考えると信用に足らないと考えた。　ミロクはそれをいうなら銀行口座も数字だけではないかと主張したが、すべてが数字になってしまう不安というのに国民は対応できなかった。というよりも、マスコミがうまく煽った。　実際のところ細かい利便性が損なわれるというのはある。日常生活でバイオメトリクス認証の電子マネーしかないと親が子供におつかいを頼むのも不便で、ジュースを友達に買ってきてもらうことすらできない。案外生活レベルで考えると不便なことがある。　電子マネーにしてしまえば恐喝や強盗ができず国民としても安全に暮らせるはずである。にもかかわらず、いまだに紙幣に拘泥する人間が少なからず存在したため、全電子マネー化は諦めることとなった。その結果革命後も紙幣は残り続けたが、新しい世代は電子マネーの利便性を幼い頃から体感しているため、電子マネーの普及は年々自然と行われている。　なおミロクはマネーロンダリングのあぶり出しを諦めたわけではなく、全電子マネー化という手段は捨てたものの、デノミを伴う新札切り換えを行い、裏金のあぶり出しを行った。 〔成句〕 φcl lcnı leeu ɟɒcl. 幸運にて手にした金は不運に去る：悪銭身につかず　ɒel eſ φcl　時は金なり 〔用例〕 φcl ɑc {ſcn} 大金　φcl enɥəəl{ɑınſen, φınlɒɟ} 汚い金

φcl(J) 〔組み数字〕4 / 2 8　〔交通〕ギル通り　〔名詞〕ギル組。アルナ大のクラス。　〔レベル〕2　JJ

φclſc 〔名詞〕バール（工具）、鉄挺（かなてこ）〔レベル〕5　J0:φc/ɔlſc

φcl̀ 〔形容詞〕マイナーな、マイノリティ、少数派の、金にならない　〔反意語〕ɑɪɥſ 〔レベル〕3　@ 1L 〔用例〕 leɒ φcl̀ マイナーな音楽

φcl̀ɔu 〔経済〕金庫、貯金箱　〔レベル〕3　1L

φcl̀ɔuez 〔経済〕金庫室　〔レベル〕3　J0

φcl̀eeſɔ 〔歴史〕ギルケート族　〔レベル〕6　J0: 古 φcl/ʌeſſɔ（金属を扱うケート人）

φcll 〔医療〕トラウマ　〔レベル〕4　1ʔ: 制：古 :φcllə（ギルの背中）。ギルは誰かが後ろに立つのを嫌う。これは彼のトラウマによるものである。そこでギルの背中が「トラウマ」を意味するようになった。

φclɟ 〔経済〕財布、札入れ　〔レベル〕2　1ʔ: 制 :φclhɔɟ（金の容器）〔語法〕ウォレットとパースを区別しない。 〔用例〕 φclɟ lıſ dɔſ ɒeɟ̀. 財布がバックの中にあった。　ın en dcıſ φclɟ ʌelınel cɒ ʌə ɑɪɥ ɒɪn ın eſ uıl ʌcnel. 今朝はとても急いでいたので、財布を置いてきてしまった。

φclɟɥſ 〔経済〕神商会　〔レベル〕6　J0: サルトの金　〔文化〕 ɥəəɒı M1ʔ9 リデルに対抗して神人貿易商の名士 cφnɟſ が神商会を設立

φclɟce,lſɑ sɪɒd　φccli/ɥjcel

φcluın 〔軍事〕大尉、ギルヴァン　〔組み数字〕9 / 2 0　〔レベル〕3　1L:ɥcɑcı:φcl（金属のもの＝武器）/uıɟ（戦う）/lınſcɟ（人）〔語法〕〔文化〕 ʌını

φclɑ 〔経済〕金融　〔レベル〕4　1M: 制 :φclɑɟ

φcl ɑılaıncı 〔人名〕ギル＝ファルファニア　〔組み数字〕4 / 2 8　〔レベル〕2　古　〔文化〕（(ſcɑ L ɒel dcn →) アシェット第４使徒。男性。jeeſ。１７２ｃｍ、６５ｋｇ。髪は赤毛で肩より少し長く、少しくせっ毛。茶色の瞳。肌は白：黄＝７：３。

φclɑıəj 〔地名〕ギルファウス川　zφ　JM　〔文化〕 アルシェリアを流れる大河。

φclɑıəjcɑı 〔地球の星座〕〔ユマナ〕エリダヌス座　JM　〔文化〕 cɑı

φclɒıɟ 〔経済〕金券、買い物券　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ　〔文化〕 図書券などのこと。

φclɑ 〔名詞〕鍛冶　〔レベル〕4　1ʔ: 制：古 :φcɑı,φclɑı（金属を叩く）

φclɑın 〔名詞〕鍛冶屋　〔レベル〕4　J1 〔成句〕 ɒeɒcɥ ɥən ıɥſın ɔ φclɑın 魔導師と鍛冶屋のように仲のよい。魔導師が多くの金属を扱う仕事で、鍛冶屋としばしば密な関係を結んだことから。

φclɑɔ 〔経済〕商工会　〔レベル〕6　J0:φcl/ɑɔləɥı（金の館）〔文化〕 ɥəəɒı M001 に lcɑel と ʅɔddel が設立。神人貿易に対抗するため、人人貿易商が集まってできた。

φcldeſcɑın 〔名詞〕借金取り　〔レベル〕4　μɑ;/　J1

φclbıɥſ 〔地名〕ギルバート、ギルバートの森　〔レベル〕6　ɒelſcı M:ɥəəɒı;e　J1 〔文化〕 セルア山の北にある森。ユーマが暮らした。

φcllcuı 〔経済〕マネーゲーム、金転がし、金ころがし　〔レベル〕5　ul;/　J1 〔文化〕 投資家たちがまるでゲームやギャンブルをするかのように投資をし、私服を肥やしたり破産したりする様を皮肉って ul で名付けられた概念。ıl ではファンドや投資家たちによるマネーゲームが加熱し、無関係な人の実生活にまで影響を与えるようになった。例えば先物などの影響で食糧や原油などが高騰するといった事態が起こり、その結果第三国を中心に食べることのできない人まで出る始末であった。このように、マネーゲームのプレーヤー以外がマネーゲームのせいで生活に打撃を与えられるという事態が ıl ではたびたび起こっていた。　過度のマネーゲームは人々の生活に悪影響を及ぼし、金持ちをさらに金持ちにして格差を広げるなどといった問題を生むことがあった。そこで革命ではマネーゲームを抑制するために、マネーゲームで得られた利益にそれまで以上の税金をかけることにした。革命では利益にこれまでの以上の税金をかけることにした。ただし損失には税金がかからない。こうすれば儲かっても微々たるもので、損をすれば何も援助がないので、マネーゲームには旨みがなくなった。これは全世界規模で行われたのでタックスヘイブンは存在しない。　具体的には、利益にかかる税金は φcllcuıɑıcφ という累進課税で、収益が大きいほど税率が高くなる。最高税率は７５％で、これは戦後の日本の所得税と同じ程度なので現実的な値である。戦後の日本はインフレの利得者へ税金をかけるために８５％に所得税を上げたこともあるため、７５％は無理からぬ数値である。８５％にする必要がなかったのは、革命時に戦後の日本のような経済状態になっていなかったためである。　なお、この課税により徴収された分は控除となるので、その上さらに高額の所得税を取られるという二重取りはない。　この改革により、新株公開時の資金集めや国債の販売が難しくなったが、銀行預金の利息や株や債権の配当金には税金がからないことにしたため、利息や配当金目当ての緩やかな投資は維持された。その代わりＦＸのようなギャンブル性の高いマネーゲームなどは実質やって儲けてもほとんど税金で持っていかれるため、ファンドなどは事実上消え失せた。つまり為替差益には税金がかかるが、為替差損にはかからないということである。　革命ではお金は汗水たらして労働して稼ぐもので、金で金を転がして儲けるのは卑しいことだとされたため、このようなシステムが出来上がった。むろん当時発言力のあった富裕層はこれに反対したが、革命では力によって持つ者の発言が封鎖され、持たざる者の意思が通り、格差社会の是正が行われた。

φcllcuıɑıcφ 〔経済〕キャピタルゲイン課税、マネーゲーム税、金融取引税　〔レベル〕6　ul;/　J1 〔文化〕 φcllcuı　もともと ul からあったが、革命で改められた。詳しくは φcllcuı を参照のこと。

φclı 〔経済〕レジ、キャッシャー、会計、会計所、モールの中央会計所　〔レベル〕2　1ʔ: 制 :φcl

φclıla,ɑu ſcnl　φc は金属

φclc 〔音楽〕琵琶　〔レベル〕5　古：ベルが関わっているはず

φclcſe 〔動詞〕ɥəl を ı と援交させる、援交する　〔普通動名詞〕〔再帰動名詞〕援助交際、援交、エンコー　〔類義語〕ɒenſeɟ　〔レベル〕5　ſɒ;/「金のあるデート」　J1 〔語法〕 セックスを含むかどうかは任意。金を払ってデートしてもらうこと。

φclcl̀ı 〔名詞〕炉　〔レベル〕5　JJ:φclcəɟ/lı

φclcl̀ıcɑı 〔地球の星座〕〔ユマナ〕ろ座　JM　〔文化〕 cɑı

φclcl 〔化学〕金属元素　〔レベル〕5　1L

φclcı 〔経済〕ケートイアの通貨　〔レベル〕5　JJ

φclcıɟ 〔企業〕ギリアス　〔レベル〕5　JJ:φclcəɟ　〔文化〕 日経新聞社に相当する企業。

φclcıɟjeɒɔ 〔経済〕ギリアス平均株価　〔レベル〕5　JJ　〔文化〕 日経平均に相当するもの。

φclcəɟ 〔サール〕ギリウス　〔レベル〕5　ɒelſcı Δ:φclcəɟ;e　J0: 古 φc, φcl　〔文化〕（ɒelſcı Δ →) ティクノ、フィーリアの山で自然銅を発見。美しいと思ったポエンは自然銅からギリウス神を生み、銅およびその仲間すなわち金属を支配させる。

φclcəɟ(J) 〔経済〕ヒュートの通貨　〔レベル〕5　JJ

φclɔu 〔経済〕キャッシュフロー　1L: 金の動き

φclɔp 〔音楽〕金管、金管楽器、ラッパ　J1

φcleſ 〔名詞〕ライバル、好敵手　〔レベル〕3　μɑ;/ ↓　古 :φcl/ſe「ギルのような」。古ではライバルを指す言葉がいくつかあったが、これが新生で残った。セレンとギルが少年時代に戦闘能力や戦闘スタイルで拮抗していてライバル関係にあったことから。

φcl encɔl 〔人名〕ギル＝エニーク　1L:clɒəj:ɥcɑcı　〔文化〕 レイユの政治家。男性。ヴァーサ＝エニークの子孫。アライブ党首。

φcıɥl 〔化学〕金属結合　〔レベル〕5　1L

φcc 〔動物〕猿、ましし、ましら、モンキー　〔レベル〕2　1L:1ʔ: 制 :lıʅſı: オノマトペ。鳴き声が φcc。 〔擬声〕 ʅcc, hcc（通常）φcc（怒り）ʅclʅcl（はしゃいでいる）

φccſ 〔動詞〕ɥəl を凋落させる、凋落する、落ちぶれる、衰える、衰えさせる、衰退する　〔反意語〕ɑıı̀ 〔レベル〕3　@ 1L

φccl̀ 〔形容詞〕みすぼらしい、かっこわるい、ださい、ダサい、ぼろい、ボロい、おんぼろな、オンボロな　〔反意語〕ɑıı̀ſ 〔レベル〕3　@ 1L　〔語法〕 服装がみすぼらしい様。見かけが悪いさま。

φccl̀ɒeſ 〔形容詞〕びしょぬれな、ぐしょぬれ、びしょ濡れ、ぐしょ濡れ　〔類義語〕euej　〔レベル〕3　J0: みすぼらしい猫。猫が濡れると、ものすごく可愛げのないショボい見た目になることから。

φccl 〔形容詞〕貧相な、貧弱な、ひよわな　〔形容詞〕男の筋肉が貧相、女の胸が小さい　〔反意語〕ɑıı̀ɟ 〔レベル〕3　@ 1L

φccɥɔɟ 〔化学〕金属イオン　〔レベル〕5　1L

φcɔ 〔経済〕利益、利潤、得　〔名詞〕((ſcl) 得をする、儲ける、もうける　〔レベル〕3　古 :φcɔ（得）〔語法〕日本語の「得する」と同じ感覚で動詞にしないように。φcɔ は「得である」という形容詞なので、動詞形の φcɔeɒ は「ɥəl を得な状態にする」という意味になる。 〔用例〕 ın lcɒcl {ſclcl} φcɔ ɑel ⌋ ʅɔſ dıɥɒɟɔlſ nıı. 二千円得したね。

φcɔſ 〔名詞〕利害、損得　〔経済〕損益　〔レベル〕5　J0:φcɔ/cſ

φcɔɒcɑn 〔経済〕利鞘、りざや、利ざや、マージン　〔レベル〕5　JJ 〔成句〕 ſcl φcɔɒcɑn 利食いする

φcɔɒɥ 〔経済〕割安、お買い得　〔レベル〕3　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ

φcɔɑıe 〔形容詞〕ウィン＝ルーズな、一方的な　〔類義語〕φcɔφcɔ, ɑıeɑıe　〔レベル〕5　J0

φcɔφcɔ 〔形容詞〕ウィンウィンな、ウィン＝ウィンな、ｗｉｎ－ｗｉｎな　〔類義語〕φcɔɑıe　〔反意語〕ɑıeɑıe　〔レベル〕5　J0:ɒelcɑcı lceɥ 〔用例〕 ſə eſ ɑəſ φcɔφcɔ. それはウィンウィンな取引だ。

φcɔdıl 〔経済〕損益計算書　〔レベル〕6　1L　〔語法〕 損失のときは ɑıedıl ということもある。　〔文化〕 雛形は地球と同じだが、命名が独特なので注意。　売上高：全体的な収入　売上原価：全体的な原価　売上総利益：売ったことで得た利益　販管費：販売管理費　営業損益：営業 (μjccl) したことで得られた利益　営業外収益（費用）：本来業務ではないが、自社に関連して得られた収益（費用）　経常利益：営業利益の μjccl は多義で「親」とも取れるので、それを応用して「子」と表現。　特別利益（損失）：特別な利益（損失）　税金等調整前当期純利益：税金を納める前に蔵に入れておいたことから　当期純利益：純粋な利益

φɔ,ɑ lıl

φɔſ 〔動詞〕ɥəl を弾く、弾く　〔魔法〕ゴット。土の低位白魔法。敵の物理攻撃をはじく防御魔法。 〔武道〕捌く、さばく　〔動詞〕侵略軍を撤退させる、追い返す　〔音楽〕ピチカート、ピッツィカート　〔レベル〕3　古？：オノマトペ　〔用例〕 φɔſ ɑıd ʅɔn sc おでこをつまはじく

φɔſ(J) 〔生物〕顆。拘束形態素として使う。　ɟzɑ　JM

φɔſılbc 〔アイテム〕バックラー　μɑ;/「弾く盾」　JM　〔文化〕 jb で発明された。積極的に腕を前に出して敵の攻撃を弾くように使う。

φɔſe 〔名詞〕外側、外　〔建築〕構外、柵の外、外部　〔反意語〕ɑeʅɔ　〔レベル〕2　@ 1L

φɔſeſcɒ 〔地学〕外核　ul;/　J1

φɔſeʅıd 〔名詞〕外線電話　〔レベル〕5　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ

φɔſejeun 〔生物〕上皮組織。動物体の外表面あるいは体腔や器官の内腔などをおおう組織。 μſ;/　JM

φɔſeɒɔl 〔数学〕外接　〔レベル〕4　1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ

φɔʅ 〔動詞〕ɥəl を ı に乞う、乞う、請う　〔丁寧〕ɒcl に相当。受け取る、拝受する、いただく　〔レベル〕3　ɑu;e　古　φɔʅ:φɔʅ 〔用例〕 ɒecɑ φɔʅıſ lınſ c hıl̀ı. あなた様から贈り物をいただきました。

φɔʅɟ 〔宗教〕托鉢　zφ;φɔl/jɔ　JM

φɔlſ 〔動詞〕ɥəl を ı におびき出す、おびき出す、おびきだす、おびき寄せる、おびきよせる、誘い出す、誘い込む、誘導する　〔反意語〕ɑeɟʅ　〔レベル〕3　@ 1L　〔語法〕 ある場所や行為へ誘導すること。

φɔjʅ 〔料理〕チーズ　〔レベル〕2　1ʔ: 制 :φɔjbıʅ（牛乳を発酵させて固めたものであることから）　〔文化〕 日本の漬物感覚で食べる。種類も豊富。カレンなどのアルティア人には癖のないウォッシュが人気。

φɔjʅıɟl 〔化学〕酪酸　〔レベル〕6　1L:ɥcɑcı　〔文化〕 μɑ でリュウがチーズから名付けた。

φɔjl 〔名詞〕醸造　〔レベル〕5　1ʔ: 制 :φɔɟ（発酵）

φɔn 〔動詞〕ɥəl をノックする、ノックする、コツンと叩く　〔擬音〕こんこん　〔レベル〕3　ſɒ;ɑɔu eſ lıʅſı: ドアをこんこんと叩くオノマトペ　〔文化〕 トイレはノックしない→ beeʅ　トイレ以外のドアで閉まっているものはノックする。開いているのは通過時と空気の交換時だけなので、事実上常にノックする。ただし自室や居間に入るときはしない。フランスと同じで、ノックをしたら返事を待たずに２秒ほど置いて入る。 〔成句〕 φɔn ɔɒc e ɑcı ɔ ɒel 二足の草鞋を履く。セレンがリディアとメルの部屋を夜毎代わる代わる訪れていたことから。 〔用例〕 nɔn hɔɒ ſeɒɟ le ſeeze e ɑleı φɔnınɑ, ſeɒ lcu e ʅəſɔ le lıſeɟ ıl ez nɔın c le lıl̀ſe. 夏風がノックする窓を開けてみると何処からか迷い込んだ鳥の声（『想像フォレスト』）

φɔnſ 〔動詞〕ɥəl を ı（結果状態）までエスカレートさせる、エスカレートする、昇華する、高める　〔レベル〕3　1M: 制：古 :φeſ,ıφe（螺旋）

φɔnφɥə,ɑu euın　φɔnφɔ/φɥə「家畜による苦味→家畜による苦痛」　J1

φɔnφı 〔魔法〕煉丹術、錬丹術、練丹術、金丹術　ılſ　JM

φɔnφɔ,ɑu uıln　ɑɔuel̀ſ。鳴き声から。　J1

φɔnφe 〔ジョブ〕道士。煉丹術を使う。　ılſ　JM

φɔɒı 〔動物〕狐、キツネ、フォックス　〔レベル〕2　1ʔ: 制 :lıʅſı:φəʅɔɔɒı（金色の犬）〔擬声〕 oıı, hɥıı, φɥıı（鳴き声。女の悲鳴に似ている）

φɔɒınel̀ 〔動物〕ウェルシュ・コーギー、ウェルシュコーギー　〔レベル〕5　J1:φɔɒı/ſe

φɔɒıcɑı 〔地球の星座〕〔ユマナ〕こぎつね座　JM　〔文化〕 cɑı

φɔɒc 〔生物〕エキノコックス　〔レベル〕5　1L:φɔɒı　〔文化〕 キツネから発見された。

φɔbc 〔医療〕内科　〔レベル〕3　@ 1L

φɔhɔ 〔動詞〕ɥəl を咽ばせる、むせる、咽ぶ、むせぶ、咽る　〔レベル〕2　1ʔ: 制 :ɔhɔ

φɔz 〔論理〕〔言語〕前提　〔反意語〕ɑes　〔レベル〕3　@ 1L　〔文化〕 アルバザードは論理性を重んじるので、何が前提で何が結論なのか、はっきり明示する。前提と結論の因果関係も論理的に行うこと。結論の出し方だが、アルカで文章を書く順番は、結論→前提→再び結論である。まず結論を初めに言って、聞き手を掴む。そしてその説明をし、最後にもう一度結論を言って要するに何が言いたかったのかということを強調する。こうすると相手の記憶によく残る。文章によってはこの流れに従わないこともある。だが、比較的論文に近づく程どこの流れに従いやすい。

φɔl 〔化学〕〔物理〕セルシウス温度、セ氏、摂氏　〔レベル〕3　先　〔用例〕 ɑcɟ, jıɑ ıſ P{ſcɑ P} φɔl. 今日の気温は摂氏５度｛零下５度｝だった。　jıɑ eſ Δ φɔl ſcɟ ſınſ μı ſeμ. 外は８度しかないらしい。

φɔlı 〔料理〕カロリー　〔レベル〕3　1ʔ: 制 :φɔl/ıɑ 〔用例〕 φɔlı ſcn 高カロリー

φɔleɒ 〔ネガティブ〕〔形容詞〕売れる　〔類義語〕ləəle　〔反意語〕ɑɔleſ　〔レベル〕3　μɑ;φɔ.ɑıcı（欲望）/leɒ（音楽）「欲望の音が鳴る」　J1 〔文化〕 ʅɔlleſ

φɔı 〔動詞〕ɥəl を ı に吐く、吐く　〔名詞〕吐瀉物　〔擬音〕ぐはぁ、ごあ、げろげろ、ごふっ、げぼっ。吐く音。　〔類義語〕bəerl　〔レベル〕2　1M: 制 :ɑ.ɔueſ:φɔɔı 〔用例〕 φɔıſ jıſ eμcɒ ɒcl ncl 驚きで心臓を吐きそうになった

φeſ 〔形容詞〕幅狭い　〔動詞〕ɥəl を狭める、狭める、細める　〔反意語〕ɑɔʅ　〔レベル〕2　@ 1L 〔用例〕 ɑ.ɔnſ φeſ 狭い道　φeſ(eɒ)cʅ cnɟ 目を細める

φeſɒɥəſ 〔名詞〕狭い幅　〔工学〕狭軌。φeſɑɔɔjɒɥəſ から来ている。　μſ;/　JM

φeſɒeſ 〔動詞〕ɥəl（選択肢など）を狭める、狭め落とす、候補を絞る、絞り込む、絞りこむ　〔反意語〕

φ

ɲɔʔɑlɔʃ ［レベル］3 ʃ0 ［用例］ φeſɒeſ zcʔɔ ɪ uc. 候補を３つに絞って。 ɲɪcn φeſɒeſíſ ɒɔɪn ɪ ɩəəɟ uɪl. 警察は犯人の候補をこの４人に絞った。 ɥɪn φeſɒeſíſ ɩəəɟ ɩɪlſ ɲɪɪ, ſɔlcɟ, ɩenɟ, ɩcſ eleed oen" 私はその中から更に居住地、年齢、知性、家族構成などを考慮して的を絞った」

φeſı,ɑu ɪφe φe/ſı「外に向かって丸い→外に回る」

φeʔ ［名詞］球、玉、弾、ボール← φelle ［名詞］銃弾← φelφeʔ ［名詞］攻撃弾。何らかの攻撃に使う弾→ φɪlcɟ ［形容詞］球状の、たまい（球い）、丸い ［動詞］ɥɑl を丸める、丸める、縮まる、縮める、縮こまる、ちぢこもる、身を縮める ［類義語］ φelle、φɪlcɟ ［レベル］2 1ʔ: 制：古：球＝ ɪlφeʔc,ɪlφeʔc だから、意味としては元の形が φeʔcφeʔc である。「 円と円 」という意味。アルカでは球は円の累積であると考えていたため。球の底部から頭頂部に至るまで徐々に面積の大きい円が累積され、中心部を超えると徐々に面積の小さい円が累積されていく。そしてできるのが球だと考えたため。リュウやメルはこの定義に難色を示していた。後年、アルカ・エ・ソーンが球に英語からとった bɔɔlɪɟ という語彙を使用するようになると、メルはそちらも使用するようになった。 φeʔc:φeʔc::ɒɪn,ɪlſ ［用例］ ɑlel ʔɪnuc l'el dcd jen φeʔ ɪ ʔɪlſe ɑlɔn ʔɔn enſɔ ɥəə cn jen eɒ ſə. nɔɔn nɔɒɪſ lɪnʔɔ jecn enſɔ eɒ lɪn lɪɟ. 見えなくなるほど遠くに ボールを投げれる強い肩。うらやましくておとこの子になりたかった（川本真琴『１／２』）

φeʔɪı ［料理］団子、だんご ［レベル］2 ʃ1:φeʔ

φeʔɟ ［動詞］ɥɑl を ɪ（表裏など）にひっくりかえる、ひっくりかえる、ひっくり返る、ひっくりかえす、ひっくり返す、転回する、反転する、覆す、くつがえす ［普通動名詞］［再帰動名詞］反転、逆転、展開、ひっくり返し ［言語］反転語。ʔɔɒɔ と ɒɔʔɔ のように音節をひっくり返して主に対語を作る造語法。現実の古アルカに見られ、神話では ɑ などに見られる。 ［論理］逆 ［言語］倒置 ［音楽］転回 ［数学］対数、ログ ［レベル］2 1ʔ: 制 ［文化］ 対数は cɒəl 1ʔ99 年に cbel ɥənφe によって発見され、計算機のない時代に重宝された。神代ではイメア神の加護で計算ができたので、対数は発明されなかった。 ［用例］ φeʔɟ φɪlɑ コインをひっくり返す

φeʔɟʃɔen ［普通動名詞］逆転、逆点、形勢逆転 ［動詞］ɥɑl（相手）に逆転する ［類義語］φeʔɟeʔlɔɒ ［レベル］4 μɑ;/「形勢をひっくり返すような弱者の一撃」 ʃ0 ［語法］ φeʔlɔen は試合などに用いる。φeʔɟeʔlɔɒ はストーリーの流れなどがそれまでと違って急展開することである。

φeʔɟſeeɟ ［論理］対偶 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

φeʔɟɪɩn ［論理］逆真、逆もまた然り、逆もまた真なり、ヴァイスヴァーサ ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ ［成句］ jeɥen eſ lccɪ ʔɪlſ ɒcɟɔʔ ɩɪlſ μcɑcɪ ʔɔnſ φeʔɟɪɩn. リディアにとってセレンは恋人以前に神であり、逆もまた然り（μcɑcɪ ləſcɪ）。この場合 ɟɔl 格と ɩɪlſ 格が入れ替わって逆（φeʔɟ）になっている。リディアは自分にとってセレンは神格化されており、恋人以上に信仰の対象となっていて、恋を凌駕して神への愛になっていると述べた。リーザやセレンやメルなどもそれを認識している。リディアはセレンが死ぬとき一緒に消えると１０代の頃から言っており、リーザはその気持ちを殉教と呼んでいる。

φeʔɟnıbc ［料理］フライ返し ［レベル］3 ʃ0

φeʔɟuɔled ［言語］倒置構文、倒置文 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

φeʔɟɒcʔ ［数学］対数の真数 1L

φeʔɟɒɔlɑ ［言語］倒置法 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

φeʔɟlɪnʔ ［数学］対数の底 ［レベル］5 1L

φeʔɟlɔɔzɪ ［数学］対数尺→ lɔɔzɪ ［レベル］5 ʃ0

φeʔɟeʔlɔɒ ［名詞］逆転、逆転劇、急、急展開、展開 ［類義語］ φeʔɟʃɔen ［レベル］4 μɑ;/「話をひっくり返すような展開」 ʃ0 ［語法］ φeʔɟʃɔen

φeʔɟɒc ［植物］里芋、サトイモ ［レベル］2 ʃ0 ［文化］ 胃に良い芋として、軟水の湧く アルバザードでは日本同様煮物などに使われる。

φeʔuıu ［運動］球技 ［レベル］3 μɑ;/ ʃ0 ［用例］ ɪnɟ ſcl eucſı e φeʔuıu cɒ ɑcɟ jcn, enſɔ ɪn nı elɟ. 今日は球技大会があって憂鬱。

φeʔɑcnʔ ［数学］球面 ［レベル］4 ʃ0

φeʔɒɔɒ ［植物］球根 ［レベル］2 ʃ0

φeʔc,ɑ ɒeɒ、φel 「丸く動く」

φeʔɒ ［交通］ヒッチハイク ［レベル］4 1ʔ: 制：φeʔɪɒɔ から

φeɟ ［化学］腐敗 ［動詞］ɥɑl を腐敗させる、腐敗させる、腐敗する、腐らせる ［形容詞］腐った、腐敗した ［反意語］ɲɔʔ ［レベル］2 古：φeɟ,φeɟɟ。腐った匂いを嗅いだときに発する声のオノマトペ。日本語では「うっ」というなどにあたる。 ［用例］ ſə φɔʔl eɟ φeɟ. このチーズは腐っている。

φeɟſ ［料理］パイ、ペストリー、ペーストリー ［レベル］2 1ʔ: 制：ʔɪlſı では φeɟɪ（円盤形の粉状のもの）［用例］ lɪɑ φeɟſ パイを焼く

φeɟʔ ［動詞］ɥɑl という内容のヤジを ɪ に飛ばす、やじる、野次る ［普通動名詞］野次、ヤジ、やじ ［レベル］3 1ʔ: 制：古：φeɟʔə（腐った言葉）

φeɟuɔμſɒıcn ［名詞］腐乱死体 ［レベル］5 1L

φeɟɒccnɪ ［俗語］腐女子 ［レベル］4 ʃ0:zɪnɪ ［語法］［文化］ 典型的には見た目も性格も悪く、自己中で夢見がちな女。現実より空想を好む。通常いい意味では使わない。本人が自虐的に使うこともある。 人によって見た目が良かったり性格が悪くなかったりすることもあるが、確実に性格が変わっており、普通の人とは異なっていて奇妙な印象を与える人物に用いる。 日本語の腐女子と違ってＢＬ好きという意味は必ずしもない。しかし cɒdel である確率は高く、neɒd 好きも無論ある。 ［用例］ ɪɒel ɪnſ eɒɔμ φeɟɒccnɪ cɒ ſəɔ nɪuɒ. 最近妹が腐女子化しつつあるように感じる。

φeɟɑcɔ ［医療］歯周病、歯槽膿漏 ［レベル］4 1L

φeɟuʔl ［名詞］腐乱肉 ［レベル］3 ʃʃ

φeɟl ［植物］キャベツ ［レベル］2 1ʔ: 制：ʔɪlſı の φeɟc（腐るもの、腐ったにおい？）［文化］ 常食され、ドレッシングをかけて生で食べることもある野菜。胃にいいとされている。

φeɟlılɒıuc ［化学］ビタミンU、キャベジン ［レベル］4 ulſ/ ʃʔ

φeɟıl ［被服］フーク ɟɒ;φeφe/ɟɪlɔ ʃ0 ［文化］ ɟɒ でできた。女性司祭がかぶったベール。

φeɟc ［植物］ケール ［レベル］3 古：キャベツと同じ ［文化］ 食用よりも、野菜ジュースの原料として使われる。

φeɟeſ ［名詞］汚名、不名誉 ［レベル］4 ʃʃ ［成句］ jeɑ φeɟeſ 汚名返上、名誉挽回

φeɟel ［魔物］ゲセル（邪顔）：第八十天：邪の風天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/ɟeɟen/ɒel: 腐った顔。el は古形。 ［文化］ 魁族。腐乱死体の顔をした塊。頭部だけだが、大きさは直径１メルフィを超える。あらゆる呪いの魔法や邪の魔法を使う。

φeɟelſɔı ［天文］アルフェラッツ 1L:μcɑcɪ/ɟeɟen/ɒel ［文化］ ゲセルの鼻。メルがイーファの魔法で弾き飛ばし、lcuen 座まで飛んでいったもの。

φeɟelɑcɔ ［天文］アルマク 1L:μcɑcɪ/ɟeɟen/ɒel ［文化］ ゲセルの歯。メルがイーファの魔法で弾き飛ばした。あまりに強く吹き飛び、ɔφɪl の領域に行った。

φeɟelıφel ［天文］アンドロメダ銀河 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/ɟeɟen/ɒel: ゲセルの渦 ［文化］ メルがゲセルを封印した際、あまりにゲセルが強かったため、倒すのを諦めた。そこでメルは時空を歪め、ocnz の魔法で時空を歪め、ゲセルを銀河に追いやった。封印の際、ゲセルの顔のパーツが四方八方に飛び、星となった。

φeɟelcnɟ ［天文］ミラク 1L:μcɑcɪ/ɟeɟen/ɒel ［文化］ ゲセルの目。

φen ［化学］樹脂 ［レベル］4 ʔɪlſı

φenɟ ［普通動名詞］批判 ［動詞］ɥɑl を ɔn について批判する、批判する。φeʔ と同じ格組。 ［レベル］3 μɑ;φɥə/ɟenɟ ʃʔ ［用例］ φenɟ ʔlec lɪıſ ɔn ıſɒ ɟɔl sɪd ſə ɥən φelcn 彼の小説をまるで子供の書き口のようだと批判する

φencɟ ［地名］ゲノス ［人名］ザナのアルカ姓 ［レベル］5 ʔɪlɔ ［文化］ メテの使徒ゲノルペの支配地。

φencɟ(J) ［アトラスの国家］ゲノス ［レベル］4 ʔɪlɔ

φenɔɒ ［名詞］嫉妬、妬み、ねたみ ［動詞］ɥɑl を妬む、ɥəl がねたましい、妬む、ねたむ、嫉妬する ［類義語］ μcɑcɪn、ɪlφencɔ ［反意語］ nɔɒ ［レベル］3 ɑu;e 赤：φencɔɒə, φencɔ ［用例］ je μen φencɔ ɥəlſ ɔn ɩıcʔ ɑc. セレンはユルトに色んな面で嫉妬している。

φenɔlde ［人名］ゲノルペ ［組み数字］9 / 1 5 ［レベル］4 ʔɪlɔ ［文化］ メテの第９使徒。

φenɔldelcl ［化学］パークリウム 1Δ: 制

φeφe,ɑ ʔɪɟ

φeφel ［被服］ピエスデストマ ɟɒ;φeφe/ɪl「三角のもの」 ʃ0

φed ［名詞］ねじ、螺子、スクリュー、ネジ、捩子、ペグ ［レベル］2 ʔɪlſı: 螺旋釘 ［用例］ hɔl φed ネジを回す ɪμ{eu} φed ネジを締める cɟ{jeɑ} φed ネジを外す

φebμə ［植物］青梗菜、チンゲン菜、チンゲンサイ、パクチョイ ［レベル］4 古：bμə は bμəz で、φe はアブラナ科の証か

φeh ［感動詞］げへげへ、ゲヘゲヘ、うへへ、ウへへ ［レベル］3 ɑu ʃʃ:ɟɔɟn ［語法］ 粗野で野卑な笑い方を表す。

φeμ ［植物］大根、だいこん、ダイコン ［レベル］2 ʔɪlſı ［文化］ おろしで食べて消化酵素を得るなどする。煮て食べることも多い。 ［成句］ ʔəc ɑcμs ɔʔl φeμ ささ身とともにダイコンを食う：石橋を叩いて渡る。胃をわずらったセレンがジアスターゼ（これ自体はリパーゼではないので油は消化せずデンプンの消化酵素となるが、油ものと付け合せて食べられることが多い）を含むダイコンをよくすりおろしていたが、胃痛を怖がって油も少なく消化もしやすいささ身を食べたときにもダイコンを食べていたことから。

φeμſ ［植物］オーツ、カラス麦 ［レベル］3 古

φeμeſ ［動詞］ɥəl を ɪ に巻き上げる、巻き上げる、カールさせる、カールする ［美容］カール ［レベル］3 ʃʃ:ɪφel/ſe

φeμefzɔn ［美容］カーリングロッド ［レベル］5 ʃʃ

φeμeſıμ ［美容］カーラー ［レベル］4 ʃʃ

φel ［軍事］銃、砲、鉄砲、てっぽう、ガン ［軍事］拳銃← ejſıμʔ ［動詞］ɥəl を銃で撃つ、撃つ ［俗語］［動詞］［普通動名詞］ɥəl に膣内射精する、膣内射精、中出し、中だし。コンドームの有無は問わず。 ［レベル］2 ɟɒ;ɑɔuel ɟɔμn: アルシェでは ʔcl だが、これは英語の k i l l からなので使わない。 ［語法］ 地球と違い、銃と砲の単語上の区別はない。 ［文化］ ●銃と火器の歴史 ・最古の火薬 アトラスにおける最古の火薬は硝石と硫黄と木炭を混ぜてできた黒色火薬で、ſɒ の時代に神々によって発見された。しかし魔力がヴィードに比べてあまりに弱いため、軍事利用はされなかった。 zφ になるとシージア人が硝石に硫黄を混ぜた焼夷剤を発明した。これは ʔl で軍事利用され、投石器とともに用いられた。投石器で焼夷剤を投げ、攻城兵器として用いられた。しかしヴィードのほうが効率よく攻撃できたため、補佐的にしか用いられなかった。 ・最古の火器から火打石銃まで 最古の火器は ɟɒ でできた。火炎放射器のように使う飛火槍がまず最初にアルバザードで作られ、続いて凪人が持ち込んだ竹を使い、竹の筒から火薬団子を飛ばす突火槍が作られた。これらは魔力を持たない戦士や魔力の弱い凪の軍人たちが火計を行う際などに用いられた。後に魔力の弱い凪の軍人が金属製の火竜鎗を発明。しかしアマガタリの代わりになるほどの威力はなかった。 火竜鎗は命中精度が悪かった。しかも撃つ際には火門に目をやらねばならず、敵と火門を同時に見ることができず、命中精度が更に悪かった。そのため火門を見ずに火をつける工夫がされた。その結果できたのがサーペンタインである。 しかしサーペンタインは引き金を引く動作が大きく、狙いが狂う。そこで火挟みと引き金が別部品になり引き金を引くことでバネの力で火挟みが火門の上に瞬時に落ちるマッチロック（火縄銃）が生まれた。これは引き金を引く長さが短いため、狙いが狂いづらかった。また命中精度を上げるために照星と照門が付けられた。 こうして火竜鎗からだいぶ向上した火縄銃ができたが、ヴィード攻撃を多用できるアルバザード人には普及せず、もっぱら魔法を使えない凪の戦士によって使われた。ユノが十分でない相手は火縄銃で倒すことができたため、軍事利用されるようになった。また、凪人の猟にも用いられた。 火縄銃の弱点は常に火のついた火縄を持ち歩かなければならないことだった。火が消えると使えなかった。そこで火打石を使った歯輪式の銃が作られた。これが後に火打石銃に昇華する。火を絶やさないよう注意しなくなったのは良いが、強い力で引き金を引くので銃がブレ、命中精度は火縄銃より悪かった。 ・グレア（魔動銃）の発明 アルティアはこの火縄銃や火打石銃をひっさげアルカット大陸に上陸。cɒəl 110J にカレンシア王国が建国されると戦争は停止し、銃火器の発展は一旦停止した。アルバザードやルティアは強力な魔導士がいたため、銃火器を発展させる必要性を感じていなかった。 しかしその一方でアルバザードは銃火器を魔器に応用できないかと考え、独自に魔法工学の研究を始めた。その結果、1J0J 年にオスティア＝ジレールによりグレアができる。 グレアはユノの伝導率のよい鉄の弾を打ち出す魔器であり、凪人の銃が元になっている。銃自体が鉄でできていて、小銃や拳銃の形をしている。火縄銃は大きくて持ち運びが不便だったが、鉄の弾をユノの力で撃ち出すだけならそんなに長い銃身は要らないため、銃身が短くなり、銃床がなくなり、片手で扱える拳銃サイズのものになった。ただしこれでは飛距離が短いため、拳銃型のものは接近戦で主に使われた。野戦では飛距離がいるため、火縄銃時代と同じく小銃型のものが使われた。1J0M 年のケートイア戦のときは小銃型が活躍し、ケートイア軍を破った。 グレアの弾は雷管ないし起爆薬、薬莢、発射薬、弾丸から成る。弾丸は鉄製である。発射薬は火薬ではなくユノを重合できる透明なサファイアである。サファイアに予め発射に必要なだけのユノを詰めておく。このサファイアからユノを放射する衝撃を与えるためにあるのが雷管で、雷管は小さく綺麗に研磨した宝石状の透明サファイアから成る。宝石状のサファイアは撃針の小さな刺激で即座に霊圧の高いユノを放出することができるためである。リムファイアの場合はリムの部分が宝石でできており、センターファイアの場合は中心部のみがサファイアの雷管になっている。前者はふとした衝撃でユノが飛び出てしまうのと、宝石を円形に敷き詰めるのが高価なため、センターファイア式が一般化した。 撃鉄を起こし、引き金を引くことで雷管が打たれ、発射薬が刺激され、ユノが放出され、鉄の弾丸が銃身を走って放出される。この仕組を持ったものがグレアである。 グレアの物理的な威力や飛距離は発射薬の容量や霊圧、また銃身の長さや弾の重さなどに左右される。しかしグレアの魔法学的な威力は射手がどれだけ多くのユノをグリップから銃身を通して弾の先端の弾丸に篭めたかによる。グレアはユノを篭めずに撃っても撃針と雷管と発射薬のおかげで射出自体はできる。だがユノを篭めなければただ鉄の玉がそれなりの速さで射出されるだけで、火縄銃以下の威力しかない。それではユノでバリアを張る相手には大した効果がない。そこで射手は自分のユノを弾丸に伝導させ、引き金を引く。火縄銃と違って撃つたびに自分の霊力を消耗するのが欠点だが、強力なヴィードで身を固めた相手でさえも倒すことができる点が利点であった。 グレアは 1J0M 年のケートイアによるアルバザード侵攻の際、アルバザード軍に配備された。アルバザード軍はグレアにより圧勝し、ラグナロクやオスティアの知名度は高まった。 火縄銃と違って弾に宝石を使う関係でグレアの使用はコストがかかり、アルバザードは金欠に陥った。その結果アルバザードはケートイアに多額の賠償金を請求した。ケートイアはこれが元で経済に大打撃を受け、不況や内乱が続き、長きに渡ってアルバザードに対する戦力を失い、アルバザードは隣国の脅威から逃れることができた。 グレアの功績により、1J0Λ 年にはラグナロク工科大学がルシフェル校から分離独立した。また、隣国カレンシア王国に対する威嚇にもなり、カレンシアの脅威も弱まった。 初期のグレアは火縄銃と違って火薬と丸い弾を銃身に突っ込む方法ではなく、発射薬や雷管や弾丸などが薬莢に収まって一体化したもので、火縄銃より進化していた。従って弾は球ではなく現代にも繋がるどんぐり状であった。 ただ火縄銃と同じく一発ずつ弾を銃口から入れなければならなかった。その後改良がなされ、リボルバー式のものやマガジンを持ったものが開発されていった。 ・μɑ でヴァストリアができるまで グレア以降、ラグナロクはワゼットやアンジェルといった大型魔器の開発に乗り出していったため、銃の発達は取り残される形となった。 μɑ になりアシェットが悪魔テームスらと戦いだすと、神々は殲滅武具ヴァストリアをアシェットの使徒に授けた。 このころセレンやリディアらは剣の力に限界を感じていた。白兵戦を強いられる剣は飛び道具を持つ敵に対して弱く、とりわけ強大な悪魔たち相手には接近戦でしか力を発揮できないと勝つのが難しかった。 また、アルバザードもヴェルシオンやベルガンドとの戦いに際してより強力な魔動銃を必要としていた。そこでアルバザードは悪魔殲滅を願う神々の力を借りて共同研究をし、ラグナロクで主にリュウらの協力を得て銃の改良に励んだ。銃は ɟɒ で一旦発達が止まっていたが、悪魔との戦いが激化する中で再度の改良が求められたのである。 彼らは銃身に腔綫を付けて命中精度を上げたり、拳銃型や小銃型だったグレアから様々なタイプの小銃を発明した。例えばライフル銃や散弾銃が発明され、大砲などの砲（大銃）も作られた。 リディアは剣を振るい格闘技を得意とするセレンに憧れを抱いており、銃については良いイメージを持っていなかった。だが改良されていく銃を見るにつれ、これからは銃の時代だと考えを改めた。 意趣返しをしたリディアは神々にヴァストリアの制作を依頼。これを受けた神々やアルバザードやリュウらがセレン用にヴァストリアを制作。拳銃型の ɪμbcleə、ライフル型の ɑcɔlenſccnɪ、散弾銃型の leebenbrɔc が作られ、セレンに贈呈された。 なお、同時期にリディアは格闘技に限界を感じ、また剣の取り回しの悪さに辟易し、ちょうど間の子であるナイフ戦闘術をユペールに取り入れ、セレン用のナイフ型のヴァストリアの依頼もしている。このとき神々が与えたのが aμıſınɔſc である。 ヴァストリアができたことで煩雑な開発名が付けられていたが、性能を下げたものが大量生産され、アルバザード軍に配備されるようになった。 セレンはアルシャンテの中にアルビレオを忍ばせ、いつでも戦えるよう武装するようになった。カルシェリエで武器を取り出すには手間がかかるた

め、とっさの戦闘には向かない。そこで常に携帯できるアルビレオをセレンは好んだ。　・nα 以降の近代銃　nα になると ʔ,˩ 遺伝子の普及とともに人々はヴィードを失っており、魔動銃の使い手は急激にいなくなっていった。　軍隊でも魔動銃を扱える者はほとんどいなくなり、魔動銃に代わって火薬銃が台頭してきた。　メル 1˩ 年にアッティ＝メテが火薬銃を再発見。これは凪の火打石銃で進化の止まっていた火薬銃に μα で発達していた魔動銃の技術を応用したものだった。地球とは順序が逆で雷汞の発見の前に雷管があったが、雷管にサファイアでなく雷汞を入れるようになった。地球では雷汞の発見は１８世紀のことなので、アトラスのほうが早かった。魔動銃は火門に雷管をかぶせて撃鉄で叩いて発動させる管打ち銃で、これは火縄銃や火打石銃と違って引き金を引いてから発射するまでのタイムラグが極めて短い銃だった。　アッティは雷管に雷汞を詰め、管打ち銃を開発。雷管のおかげでこれまでの火縄銃や火打石銃と違って雨天を気にすることがなくなった。　魔動銃の時代に既に腔綫とどんぐり状の銃弾ができていたため、火縄銃に比べて３倍程度の命中精度と射程を獲得していた。アッティはこれをそのまま火薬銃にも取り入れた。　こうしてアッティにより火薬銃としての拳銃、ライフル銃、散弾銃などが発明された。発射薬には黒色火薬が使われた。これは煙が多いのが難点だった。　魔動銃のころは小銃や拳銃の開発は盛んだったが、砲は持ち運びが不便な上、魔動銃なら小銃でも十分な威力があったため、発達しなかった。　nα 以降は徐々に威力の大きい攻城兵器としても使える砲も研究されていくようになった。この時点で地球に比べて小銃は発達していたが、砲は地球並みに遅れていた。ここからの砲の進化は地球とほぼ横並びとなるが、小銃の進化はしばらく停滞する。　nα は大航海時代で、小競り合いはあっても大きな戦争は μα ほどなかった。　μſ になると無煙火薬が発見された。　また、機関銃などが進化し、地球の１９世紀水準となった→ uıαφel　騎兵がまだ現役だったころは歩兵は馬上の敵を銃剣で突くため長い歩兵銃（小銃）を持ち、騎兵は馬上から撃ちやすいように短めの騎兵銃（カービン）を持っていた。　だが騎兵が廃れると馬上の敵を突くことがないので歩兵銃（小銃）が騎兵銃並みに短くなった。この結果、後の世では歩兵銃（小銃）より短いものが騎兵銃（カービン）と呼ばれるようになる。というのも、もともと騎兵銃のほうが歩兵銃より短かったため、騎兵科が廃れても銃の名称だけは残ったのである。　・ul から ıl にかけての現代銃　μſ 末期、第一次世界大戦より前の時代は戦車も飛行機もなく、大砲は馬が引いていた。そのため機動力が悪く、陸戦の主役は歩兵の小銃であった。　このころの歩兵は横一列になって１ｋｍ以上離れた距離から撃ちあっていた。ところが機関銃が μſ で台頭すると、この戦法では歩兵が機銃掃射されてしまう。そこで夜襲や塹壕戦などの接近戦が増えた。すると長い射程を持つ銃よりも接近戦で使える銃が必要になり、一発ずつボルトアクションをする暇がなくなった。そこで拳銃が台頭したが、拳銃は少し距離が離れると当たらない。そこで ul の第一次世界大戦では拳銃弾を乱射できるサブマシンガンが作られた。　小銃は一発打つと銃身が跳ね上がってしまい、再度狙いを付けて撃つまでに４秒ほどかかる。これにボルトアクションを入れると全体で５秒ほどかかる。ul では自動小銃が作られたが、ボルトアクションの１秒分しか稼げないのでそこまでの優位はなかった。自動小銃は生産に手間がかかるため、第二次世界大戦ではアルバザード軍と各国軍の一部に配備されただけだった。　第二次世界大戦が始まるとそれまでの小銃の射程の長さが不要になった。１ｋｍも離れた相手に撃つことはなく、比較的接近戦が多かったためである。当時の歩兵はそのような長い射程を必要としていなかった。　かといってサブマシンガンでは射程も命中精度も不足。そこで小さな弾にして小銃の反動を抑え、射程を短くし、小銃をサブマシンガンのようにフルオートで使いたいという欲求が出てきた。　こうしてアルバザードが旧カレンシアの協力の元開発に乗り出し、突撃銃ができた。現代の小銃は基本的に突撃銃である。　なお、第二次世界大戦で雷管ではなくトリシネートが使われるようになった。雷汞は自然分解しやすく高価で銃腔を錆びさせるためである。　●銃と政治と規制　μα までは圧倒的なヴィードを持った王たちが国を支配していたため、民の力は弱く、王政は盤石なものであった。　しかし nα になって人々がヴィードを失うと、ごく一部の人間を除いてヴィードが使えなくなった。　王族はたいてい多少のヴィードを残していたが、それでも nα で栄えた銃火器の前では無力だった。　μα でアシェットが貴族を解体したことで、貴族と平民の間の距離が縮まった。　続いて nα で旧貴族や王族のヴィードが弱まった結果、一般兵士の力が相対的に上がった。農家の次男三男などを集めて編成されるアルバザード国軍はそうした一般兵士から成り、彼らには銃火器が装備として与えられた。　これにより平民は力を付け、力を付けた平民たちが王政を打破して自分たちの考えで国を動かす民主主義を目指すようになる。そう、銃と民主主義は関連している。地球でもアトラスでも民主主義は銃によってもたらされたものである。　nα_μſ では資本主義が台頭したが、μſ 初期の 1ſ0 年ごろには共産主義が新たに台頭した。遅れて J0ʔ 年にはミナリスが民主主義を唱えた。強大な魔導士ミナリスという頭角の背景には銃を持った平民たちの力があった。　一方、J00 年にはシオン＝アマンゼが誕生し、徐々にアルティス教が生まれていく。ʔ00 年のミナレット諸党とアルティス党の和平に至るまで両陣営は抗争を繰り返したが、ここでも銃が活躍した。　ʔ00 年になり ul を迎えると、ミロク＝ユティアが生まれる。ʔJ0 年にミロク革命が起き、ʔJJ 年には第一次世界大戦が勃発。ミロクのような強大なヴィードを持った人間は数人しかいなかったので、実際に頻繁に前線で戦っていたのは銃を持った平民であった。　ʔʔʔ 年にペルティアショックが起き、世界経済が悪化。ʔʔ9 年にエルトアのナオン侵攻が契機となり、第二次世界大戦が勃発。ここでも主戦力は銃を持った平民たちであった。　世界大戦を勝ち抜いたミロクらアルティス教の人間はアルティス教の治世を実施。しかし強大な魔導士たちを陰で支えるのは銃を持った兵士たちであり、彼らは民衆でもあった。ゆえにアルティス教の治世はアルティス教という宗教を中心とした世の中ではあっても、結局のところそれ以外はミナリスらが目指した民主主義の世の中と似ていた。宗教分離がなされていない民主主義の世の中と考えるとイメージしやすいだろう。ただユティア朝は民主主義を部分的に採用しているだけで、根っこの部分では独裁政権であるから、ミナリスらの目指したものとは確実に異なる。根っこでは独裁政権だが表向きには民主主義なので、１３年現在で考えると中国に近い。ただし中国と違って超人な哲人が単独で国を支配しているという点が決定的に異なる。　ミロクが完全な独裁政権を実施できなかったのは、国民でもある兵士たちが銃で武装しており、発言権を持っていたためである。さらにミロクは自分たちがいかに強大でも寿命には抗えず、ユティア朝の支配力は年々弱くなっていくだろうことを予測していた。その予想は当たり、ユティア朝は代を重ねるごとに独裁政権色が弱まり、民主的になっていった。　ミロクは一般国民による銃を使った決起を恐れ、第二次世界大戦終了後、世界各国で民間人の許可のない銃の所持を禁止した。地球でも銃の自由がない国は日本など特例を除いてほとんど独裁政権だが、独裁政権色の強いユティア朝の下ではやはり地球同様銃が規制されるようになった。この名残で、独裁政権色の薄まった ıl 後期や ls 初期でも民間人の銃の所持は許可を得ないかぎり禁止されていた。　ls で革命が起こるとアヴァンシアンによる事実上の独裁政権が復活した。このときもアヴァンシアンは民間人の蜂起を恐れ、許可なく民間人が銃を持つことを規制した。　アルバザードはじめほとんどの国は民間人による銃の所持は許可制である。地球で言うと日本ともアメリカとも異なり、フランスなどに類似している。

φelſ ［動詞］φel を ねじる、ねじる、捩る、よじる、ひねる、捻る、撚る ［レベル］2　古 : 円を描くようにした ［用例］ φelſ ıın enſel ɔl ɟɔ ɟɔı. 腰をひねるときはゆっくりと。

φelſſɔe ［医療］旋撚刺法。鍼で使う技術。　μα;/　ΛΠ

φelſıɑcl ［植物］［医療］散モグサ　μα;/　ΛΠ

φelſɔɒ ［医療］撚鍼法、ねんしんほう　μα;/　ΛΠ ［文化］ ɟzl の頃から存在する鍼の打ち方。

φelſe,ɟzɑ cɒel ‹›feeze

φelɜɔ ［軍事］銃砲口、銃口、砲口、マズル ［レベル］4　μα;/「銃の口」　ΛΠ ［文化］ φel

φell ［名詞］シュート、強い一撃、必殺の一撃、アタック、必殺 ［動詞］ φel（敵や球）をシュートする、強く打つ ［レベル］2　1Π: 制 :φel から ［用例］ φell ıɑel ʃɔn φɑnɔ ユノで魔物を撃つ　φell φɑnɔ ıl ıɑel 同上

φelj ［植物］タマネギ、玉葱、たまねぎ ［レベル］2　lıʃſı ［文化］ 煮たり炒めたりして食べる。生食は胃に極めて大きい負担をかけるので禁忌のだが、カルパッチョなどに使われる。　また、若いζ女は口臭を嫌って生食をしないというのが常識になっている。

φeljhıcj ［料理］カルパッチョ ［レベル］2　J0: たまねぎマグロ ［文化］ ナディアでルティア人が作った料理。マグロを薄く切ってスライスした玉ねぎと一緒に醤油で合えたもの。カテージュ経由でアルバザードにも流布。その後、魚を常食しないアルナ人が牛肉とマヨネーズとマスタードで肉のカルパッチョを作ったが、名前は φeljhıcj のまま。地球と歴史が逆なので注意。

φeljıcj ［軍事］腔綫、口線、こうせん、ライフル、ライフリング、施条　μα;/　ΛΠ ［文化］ φel

φeljɔnɔφıμ ［名詞］ロシアンルーレット、ロシアン･ルーレット ［レベル］5　μα;/「銃ルーレット」　ΛΠ ［用例］ lı uɔʃıſ φeljɔnɔφıμ. 彼はロシアンルーレットで死んだ。　lııj ıμ φeljɔnɔφıμ. 彼らはロシアンルーレットをする。

φelu ［医療］捻挫、ねんざ ［レベル］3　lıʃſı ［用例］ ſclcʃ φelu ɔn ɟeoı 足を捻挫した

φelɑclıſc ［軍事］銃砲身長、銃身長、砲身長、　μα;/　ΛΠ ［文化］ φel

φelɒ ［名詞］ボルト、ナット ［レベル］3　1ʔ: 制 : 恣意

φelɒı ［被服］ミュール　ɟɒ;.jelın　ΛΠ ［文化］ ɟɒ でできた。平民が編み出した男女兼用の晴れ着の靴だが、後に貴族に取り入れられて絢爛な装飾がされるようになった。nα 以降は女性用に。

φelɑcμec ［軍事］ボルト　μα;/「銃の仕切り」。薬室後部をブロックすることから。　ΛΠ ［文化］ φel

φelφel ［軍事］銃弾→ φel ［軍事］実包、弾薬包、カートリッジ ［軍事］（散弾銃の）装弾、シェル ［レベル］3　J0:ɒelcɑcı lceμ

φeld ［政治］福祉、福利、福利厚生、社会保障、社会福祉。包括的に指す。 ［レベル］4　ɟɔμn

φeldlıɑ ［政治］福祉国家 ［レベル］4　1L ［文化］ ヴェレイで起こったが、形骸的だった。アレイユでようやく実現。

φelb ［動物］毛虫 ［レベル］2　lıʃſı:φelb,φelbe

φelbebel ［魔物］ゲルベベル（巨蛆蟲）: 第九十五天 : 害の巨天 ［レベル］5　古 :φel は卑音。bebel は bebe（蛆）。小説版アンクノットにも登場 ［文化］ 巨大なウジ虫。砂漠の土の中、天井の高い洞窟などに生息。人に絡みついての血を吸って殺す。地震を起こし、獲物を身動きできなくする。飛んでいる獲物には毒の突風を口から吹く。動きは遅いが、体力が尋常でなく、倒すのに苦労するため、遭遇したら逃げるべし。

φelbebelɜɔ ［天文］イータカリーナ星雲　1L:μcɑcı/jeμen/ɒel ［文化］ 魔族ゲルベベルの口。血塗られた赤い口が禍々しい。閉じたり開いたりするため、４等星に見えたり２等星に見えたりする。

φelhɔnj ［アイテム］プレートアーマー　μα;/　ΛΠ ［文化］ ɟɒ の ʃſ で φleı に対抗して作られた。

φelscɔ ［軍事］銃砲腔、銃腔、砲腔　μα;/　ΛΠ

φellɔμ ［軍事］銃身、砲身、銃砲身、バレル ［レベル］4　μα;/　ΛΠ ［文化］ φel

φelıʃj ［軍事］銃床 ［レベル］6　μα;/　ΛΠ:μcɑcı ［文化］ φel

φelınɑı ［軍事］銃火器　μα;/　ΛΠ ［文化］ φel

φelılɒc ［アイテム］ガンシールド　μα;/　ΛΠ ［文化］ ɟɒ で φleı 発明後に作られた。

φelɔ ［動物］青虫 ［レベル］2　lıʃſı

φeı ［名詞］ボールペン ［レベル］2　1ʔ: 制 :φeʃſız（球のペン）

φeıſ ［植物］バジル ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :φeıſſɔ。φeıſ はピザのことを隠喩し、ſɔ はそれにかける匂いとしての調味料をさし、アルカではバジルを指した。セレンがバガーズとピザを食べたときに命名した。

φec,ɟzɑ ʃıhc

φecn,ɑu ɒeeu　e

φecuɔlφ ［法律］咎人、とがびと、過去に傷のあるもの ［レベル］4　μα;φecuɔlφ,ɟzɑ.ıleʃ　ΛΠ ［文化］ μα のセレンは自らを咎人と呼び、過去に過ちを犯した者としての咎を負うと述べ、この言葉を作った。

φecz ［サール］ゲイズ ［環境］スモッグ、毒の霧 ［レベル］4　ɔuc: 古 ［文化］ 命を持った毒の霧。

φeɔ ［動物］アルマジロ ［レベル］4　ılıʃſı:φeɔ,φehɔ,φeφehɔ（丸 / 固い）

φeene,ɟzɑ ɒeeu　φecn

φeed ［動物］ミミズ、蚯蚓 ［メタファー］暗くて陰険な奴 ［レベル］2　1ʔ: 制 :lıʃſı。虫だから d を付けた。

φeedıɑcj ［法律］蚯蚓刑　1L ［文化］ ミミズの入った壺に受刑者を突っ込み、蓋を閉じ、溺死させる。食品汚染に適応。

φeeocl ［人名］ゲーウィッシュ ［組み数字］4 / 1 4 ［レベル］4　語源不詳 : 小説版アンクノット一巻ｐ１００に記載。 ［文化］ 第４期３代アルシェ第４使徒。ギルの実父とリーザは証言するが、誰も見たことがない。

φeeoclıcl ［化学］プロメチウム　1Δ: 制

φeel ［軍事］少尉、ゲール ［組み数字］１１/２０ ［レベル］3　1L:μcɑcı:jɔɔl（行為→実行者。少尉クラスだと小作戦の実行者が増えることから）。語頭子音を合わせるために φ に。 ［語法］［文化］ lını

φəl ［動詞］ɔn について φəl を責める、責める、咎める、非難する、弾劾する、糾弾する ［レベル］3　1L: 古 :φμə。苦く言うが原義 ［語法］ φμəſ はあくまで ıjɒ の一種。φəl は問いかけではなく、単に責めたてること。 ［用例］ "φəə φəlıſ lə ɔn ɑce ɒcınϑ"「誰も嘘を咎めなかったの？」

φəl ［動詞］φəl を ı（結果状態や容器）に潰す、潰す、つぶす ［擬音］ぐしゅ、グシュ、ぐしゃ、グシャ、めき、メキ ［レベル］2　古 : 潰す音のオノマトペ

φəlɒeɒ ［数学］楕円、非真円→ bɔc ［レベル］4　1L ［語法］ 日常的には楕球の bɔc で楕円を指すことが多い。厳密には間違いなのだが、bɔcısı など複合語の形態素にもなるくらい浸透している。それは bɔc という語形が短く φəlɒeɒ という語形が長いために起こるものと考えられる。

φəlφel ［数学］楕球→ bɔc ［レベル］3　1L

φəll ［名詞］ローラー ［レベル］3　1ʔ: 制 :φəllɔɔ

φənı ［名詞］(nı) 悔しい ［名詞］悔しさ、悔恨 ［レベル］2　J0:ɒelcɑcı lceμ:φμə/nı

φənı,ılſ dıb

φənılılc ［アイテム］太刀、たち、タチ　lʃ;ılſ「馬刀」　ΛΠ

φəz ［名詞］糸くず ［レベル］4　ɑu;ʃəz.l。「糸になっていない糸の中のクズのようなもの」であることから。　ΛΠ

φəl ［動詞］φəl を唸らせる、唸る、うなる、動物などが威嚇で唸る ［レベル］2　1Δ: オノマトペ ［用例］ lɔɒɔ φəlſ ılıɒı φəl ıın, ɑɔ "əəə...". なんかユルトはよく唸るんだよねぇ、「う～」って。威嚇ではなく困ったときとかによくやっている様子。あと腹減ったときとか。

φəcμə ［軍事］中尉、グイユ ［組み数字］１０/２０ ［レベル］3　古 :zını: 武将 ［語法］［文化］ lını

φəcı ［名詞］［形容詞］非リア充、非リア、リア終、リア貧、非モテ ［反意語］lcɑcı ［レベル］3　Jſ:φμə/ɑcı（苦いり世界）［語法］ lcɑcı の正反対のこと。

d

dſ ［演繹音］dh ［レベル］3　Jſ

dlſ ［演繹音］ぱしゃ、パシャ、ぴしゃ、ピシャ、ぱちゃ、パチャ、ぴっ、ピッ、ぺっ、ペッ ［レベル］2　Jſ ［語法］ 液体が撥ねる音。たいてい何かにぶつかる。

dln ［演繹音］ざばっ、ザバーン、ざばーん、ざばー、ザバー、ざざー、ザザー、ざーざー、ザーザー ［レベル］2　Jſ ［語法］ 波などがうねる音。

dlıſ ［俗語］［普通動名詞］オナニー。男の。 ［俗語］［動詞］ φəl をオナニーさせる、オナニーする、抜く ［類義語］ɑɔlſ、ɑɔs ［レベル］4　ɑu;ɑɔueſ（精子の出る音）　Jʔ

dlın ［動詞］φəl を噴出す、噴出す、噴き出す、吹き出す、ふきだす、噴射する ［俗語］［動詞］jɔl は首吊りなどで排便する、排便する ［普通動名詞］噴出、噴射 ［レベル］3　1Π: 制 : 古 :bəl（水が噴出す際のオノマトペ）

dlınſμen ［俗語］絞首刑、ハングマン ［レベル］5　J0: 糞便噴出刑。首を吊って死ぬと排便・排尿することがあることからついた。 ［語法］ dɔıɑcj は床が抜けてガタっと落ちたときのショックで意識が飛ぶが、dlınſμen は首を縛ってからゆっくり受刑者を吊り上げていくため、気道の閉塞が先に来る。そのため、意識がすぐに落ちずに苦しむ。首を絞めて人を殺した人間に適応。

dlıd ［名詞］ロケット ［レベル］3　1Π: 制 :blıdın「噴出す乗り物」。噴水のように上に噴き出るように発射する乗り物であることから。

dlcſ ［名詞］じぶき、飛沫 ［医療］飛沫、ひまつ ［レベル］3　μα;hıılueſ　JJ ［用例］ dlcſ ləno eel 水飛沫が顔にはねる　dlcſ eɒ dlın ɒcl bııl くしゃみで飛沫が舞う

dleſ ［名詞］シャワー ［名詞］スプリンクラー→ ɑıcldleſ ［動詞］φəl にシャワーを浴びさせる、シャワーを浴びる ［レベル］2　1Π: 制 :dle から ［成句］ ［婉曲］ ıμıſ dleſϑ セックスしたか？ : セックス後にアルバザード人がシャワーを浴びることから。もちろん文字通りの意味で使うケースも多々。 ［用例］ ın dleſıſ dın ın ıſ euej ɒeμel ɒcl hcnl. 汗まみれだったので、シャワーを浴びた。　ıμəəs ɣɔlıſɔμ dleſ. 弟がシャワー中だった。　ın dleſıſ cɒ ſə ɑııμ. 今朝シャワーを浴びた。　ın dleſıſ ɑμſel. 簡単にシャワーを浴びた。

dleſdıcb ［名詞］シャワーカーテン ［レベル］4　1L ［用例］ eμ ıſ dıll ʃɔμ ɑcdcſ dın ın en ɑeμ

əɟ dleſdıcb. シャワーカーテンを閉めなかったので、水があちこちに飛び散った。

dlen ［名詞］噴水、（公園の噴水式の）水飲み場 ［名詞］トイレのウォッシュレット、ウォシュレット ［レベル］3 1ʔ: 制 :dlın/el（水） ［文化］ 地球だと主に日本にしかないが、水の豊富なアルバザードにはある。紙より痔にいい。

djhɔɔɲı,lʃ ɟɔɟeſ djhɔɔɲı.ʅ

djɔɲ ［植物］藍 ［色］藍色、インディゴ、インジゴ ［レベル］4 1L:djɔɔɲı

djɔɲleſſc ［地学］銅藍 1L

djɔɔɲı ［悪魔］プスホーラ、青の悪魔プスホーラ ［レベル］3 ɒelſcı 0:djɔɔɲı;dj/hɔɔɲı ɲcɑcı: 古 :dəjhɔɔɲı, djɔɔɲı（赤アンクノットにも記載） ［文化］ hɔɔɲı 青い毛で覆われた怪物。冷静。

djɔɔɲı,ljl ɟɔɟeſ djhɔɔɲı.ʅ

djɔɔɲılccɑı ［天文］ベラトリクス ［レベル］6 1L:ɲcɑcı/jeɲen/ɒel ［文化］ hɔɔɲılccɑı

djel ［名詞］雑誌、マガジン、定期刊行物、ジャーナル ［レベル］3 ılıʅı

djelſeʅſ ［電算］メルマガ、メールマガジン ［レベル］4 ıl;/ ʃʔ

dɑ. ［演繹音］ぽふ、ポフ、ぽん、ポン ［レベル］2 ʃʃ ［語法］ 髪の毛や藁など、柔らかいものをポンと撫でたり叩いたりしたときに、中の空気がぽふっと洩れる感じの音。

dh ［演繹音］ぴき、ピキ、ぴきぴき、ピキピキ、ぴりぴり、ピリピリ、びりびり、ビリビリ、みしみし、ミシミシ、めきめき、メキメキ、みりみり、ミリミリ ［類義語］dʅ ［レベル］2 ʃ1 ［語法］ 膨れて擦れる音。

dɥəɟ,ɑɯ dɔſı

dɥəı,jzɑ nɔz dɥecz.ʅ

dɥecz,jzɑ sc、scʅcſ <> dɥəı

dɥıɟ ［動詞］ɥəl に対処する、対処する、ことに当たる、処理する、処分する、対応する ［普通動名詞］対処、処理、対応、処分 ［レベル］3 1Ⅲ: 制 : 語源不詳 ［用例］ ın ſclıſ ɥeſ ɑc l'ın dɥıɟ ɑıl. 私には処理しなければならないことが多かった。 ın dɥıɟıſ ucl leɟ ɟɔ ıl ɔn le ɒeɟı. あの状況でどう対処すべきか分からなかった。 ıc, lenı dɥıɟıſcʅ clıłɸıɸ jcɑ e. やっと昔のＦＤＤの処分が終わった。

dɥıɟɔɒ ［名詞］対処法 ［レベル］4 1L:ɲcɑcı:ıɲbıleſſ

dɥın ［普通動名詞］宣言、声明、公言 ［動詞］ɥəl を ı に宣言する、宣言する、声明する、宣言する、公言する、約束する、誓う 1Ⅲ: 制 :ılıʅſı:dlın

dɥcɟ ［普通動名詞］手続き、手順、段取り、工程、手続き ［動詞］ɥəl の手続きをする、手続きをする ［電算］アルゴリズム ［レベル］3 1ʔ: 制 :dɥıɟ から

dɥcnɟ ［形容詞］メモリアル版の ［レベル］4 ʃʃ:zın ı

dɥcnɟɸıəɑc ［経済］プリンスガウディ ［名詞］表裏一体 ［レベル］3 ʃʃ ［文化］ ガウディの塔建設百周年を記念して作られた両面ガウディの記念コイン。

dɥcɟɒ ［魔法］魔月館 ［レベル］6 ɑɥɑɑ;ɑɔlı ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

dɥɔſ ［普通動名詞］出版 ［動詞］ɥəl を出版する、出版する ［レベル］4 1L:ɲcɑcı:ıɲbıleſſ:dɥeſ

dɥɔſuenſ ［名詞］出版社 ［レベル］5 1L:ɲcɑcı:ıɲbıleſſ

dɥɔſcɟ ［人名］プロティス ［料理］利食 ［組み数字］１０/１１ ［レベル］3 古 :ɲcɑcı:dɥɔ ← dɥɔdıılı（善）/ſcɟ（人） ［文化］ アルシアの１０番目。利の魔法の大成者。男性。 利食とはミロク革命で定められた、食べることが推奨される食品のこと。反対に害食は食べないことが推奨される。革命後は害食はほとんど廃れているが、低学歴層ほど従わない傾向にある。

dɥɔſɔl ［名詞］出版物、商業出版、商業出版物 ［レベル］4 ʃʃ

dɥɔſɔɔl ［魔物］プロトール（利竜）: 第八十七天：利の衛天 ［レベル］5 1L:ɲcɑcı/jeɲen/ɒel:dɥɔſcɟ/ſɔɔl ［文化］ 利属性の地竜。太った人間程度の大きさで、人語を解し、よく本を読む。眼の悪い種族で、黒縁めがねをかけている。暗い緑の皮膚をしている。好奇心が強く、友好的。戦いは好まない。

dɥɔl ［言語］教訓、諺、格言、名言 ［レベル］3 1ʔ: 制 :lıłſcɥəłłə の後釜となった語。ɥənł だか ɥəłłə だかわからず、聞こえにくいという原因で dɥɔł に取って代わった。

dɥɔdıılı ［名詞］善 ［形容詞］善の、善なる ［反意語］eucɒe ［レベル］2 ɑ;dı は「光」 赤 dɥɔdıı łı:dɥɔdıılı ［語法］［文化］ ɑılcɟ と uelnıɸ は正義と悪。dɥɔdıılı と eucɒe は善と悪。 正義とは、「そうすべきであると考えられている物事に適っているさま」である。悪は適っていないさまである。正義は人により異なり、時代や集団によっても異なる。正義や利益のぶつかり合いが争いや戦争である。 一方、善とはメルディンな傾向を保ち、なおかつ革命後はアルティス教の教えに従うことである。このうち天国に行く条件は前者を満たしていれば良い。ただし、後者を守っていれば自然と前者も守ることになるので、実質的な差はない。 悪とはエルナな傾向を持ち、アルティス教に反することである。このうち、地獄に行く条件は前者のみ。ただし、後者を満たしていればたいて前者も満たすので、あまり違いはない。 ポジティブな考えをして前向きに生きていれば善ということであれば、殺人や傷害を起こしても、ポジティブなら善なのかという疑問があるだろう。 ここでポジティブでなくわざわざメルディンと書いてきた点に注意されたい。ポジティブとメルディンは異なる。殺人や傷害で人を傷つける行為は悪意を人に向けているので、この時点でエルナであって、メルディンではない。 ポジティブな殺人犯であろうと、そんなことは関係ない。訳もなく人を殺せば悪意を向けたエルナであるとともに、アルティス教にも反するので、悪になる。

dɥeſ ［普通動名詞］印刷 ［動詞］ɥəl を ı（紙など）に印刷する、印刷する、刷る ［レベル］3 1ʔ: 制 : łıłſı:dɥeſ は元は「 用意しておく 」という意味。クリスら女子の間でいつの間にか印刷という意味に変化していた。しかもその語源を当時「 恥ずかしいから言いたくない 」といい続け、教えなかった。後に語源が必要になって再度聞いたら「 流石にもう忘れてしまった 」といわれ、不明となった。 ［文化］ アルテムでベルトが活版印刷を発明し、神を経て人類へも伝わった。当時は一文字ずつ文字をユノのレーザーで書き込んでいたが、白黒反転してしまうし、何より面倒だった。ただ、神は基本的に頭がよく、大抵のことは記憶できたから、そこまで困ってはいなかった。 カコになると文献も増えたため、これまでの印刷技術では追いつかなくなってきた。そこでナユは文字駒というものを作った。幻字を象った駒で、銀で作られた。この駒を金属板の上に置き、アトエの魔法を使い、下から上に向かって重力を局所的に歪める。魔力の伝導率が銀＞銅であることを活かし、銀だけ反応するようにアトエをかける。こうすることで銀の乗っかっている部分にだけ下から上への重力がかかり、文字の形に銅版が浮き上がる。この現象を利用して印刷を行った。ɥɑ まではこの印刷を行える魔法技師がいたが、アルティルではいなくなってしまった。 また、ɥɑ ではリュウがナユと共同し、魔法を使わない活版印刷を開発した。その後印刷技術は進み、ヴェレイでは現在の地球と同程度になる。アレイユでは電子ペーパーが登場し、従来の印刷技術は頻度が減っていった。 なお、タイプライターについては ɥɑ でパールが発明している。

dɥeſłɔſj ［電算］プリントスクリーン ［レベル］4 ʃ0

dɥeſı ［名詞］プリント、印刷配布物 ［レベル］3 1ʔ: 制 :dɥeſ ［語法］ 学校や会社などで配られるプリントのこと。

dɥeſıucɥne ［アイテム］プレタヴィルデ ［名詞］表裏一体、紙一重 ［レベル］4 ɲcɑcı: 古 :dɥɔdıılıſ 善 」と eucɒe「 悪 」を組み合わせたもの。dɥɔſıucɥne など多くの異形態があったが、セレンがその中から dɥeſıucɥne と記憶したことにより定着。 ［文化］ ヴァストリアの１つ。パールのもつ神杖。善悪を計る杖。上下どちらを上にしてもちゃんとした杖に見えるようにデザインされていて、同じことでも場合次第では善は悪になるし悪も善になるという真理を示している。 ［用例］ ɟɔɔł dɥɔdıılı ɔ łeſ eſ dɥeſıucɥne cɒ lenłe ɥən. 善意の行いと迷惑は時として紙一重。

dɥeſıɸ ［電算］プリンター ［レベル］3 1L

dɥeɟſ ［形容詞］縁起が悪い、不吉な ［反意語］ıldɥeɟſ ［レベル］3 łıłſı:dɥeɟſſ 縁起が良い 」。制では逆意。 ［用例］ ɔɒɔ ın nı łeſſ eſ dɥeɟſ cɒ ɑcɟ. なぜか今日は月が不吉に感じる。

dɥeɟſjel ［名詞］厄日 ［レベル］4 ʃ0

dɥeɟſıl ［名詞］運勢 ［レベル］3 1L

dɥeu ［生物］クラミジア ［レベル］5 1L:ɲcɑcı/ɥɥəə ［文化］ ɥɑ のインプレンで性病としてクラミジア・トラコマチスから見つかり、命名された。

dɥeɑcj ［地名］プレディス ［レベル］5 ʃ0

dɥeɑcjın ［名詞］プレディス人 ［レベル］5 ʃ0

dɥecn ［植物］牡丹、ぼたん、ボタン ［レベル］5 古

dɔın,jzl leseɒɒe <>djɔɔɲı

dlınſ ［人名］プラント ［組み数字］4 / 5 ［レベル］4 jzʅ ʃ1 ［文化］ → ɲıdıłł

dlınze ［格詞］～のときのみ、～の場合のみ。逆も真となるケース。ɔl hɔſ と同じ ［類義語］ɔl ［レベル］3 ɲ;dlınze,jzl ʃ1 ［語法］ ɔl hɔſ より格式張っている。 ［用例］ ınj ɑcſ jcl φcl dlınze ſccj deɑ łłcj. そちらが土地を返却すればこちらも金を渡そう。

dlınze,jzl ɔɔlj

dlce ［形容詞］単一の、単発の、一回性の ［反意語］ɑıłj ［レベル］3 ɥɑ;<dlce,ɑφn<dlce,jzɑ.ʅ łłcdɥce 1L:jɔɲn:dlce（単発）。dl が制アルカにないので dɥ にした。 xdlce:xdlce:x

dlce,jzɑ dɔ <>dɔ

dı,ɑ ɑıɸ ɑıcı

dıſ ［動詞］ɥəl をケアする、ケアする、メンテナンスする、整備する ［普通動名詞］ケア、メンテナンス、整備 ［レベル］3 ſɒ;ɑɔueſ. もともと頬など肌をケアするときに化粧水などを付けて頬をパタパタとはたいたときのオノマトペから来ている。それが転じてケアするという意味の動詞になった。 ʃʔ ［語法］ 調整（fɔc）するように、何がしかをあるべき状態に持っていく（ɦeı）ことを意味する。何かを世話する（łuıj）ように行う。fɔc, ɦeı, łuıj の語義をそれぞれ少しずつ持った間にあるような語義を持つ。 ɥəl には肌や機械など、アニマシーを問わず来させることができる。 ［用例］ nɔn dıſ jcɥ łıſ jel. 私は毎日肌をケアする。

dıſſel ［植物］楸、ヒサギ、ひさぎ、アカメガシワ。アカメガシワとしての楸。 ［類義語］ɒcɔſ ɔn。別物。 ［レベル］6 łłʅ;ɑφn ʃʃ

dıſj ［動詞］ɥəl（除去物）を c（大元）からふるって ı（残存物）を取り出す、ふるう、篩う ［料理］ふるい、篩 ［レベル］4 łʔ: 制 :ɟɔɲn:dıſ（見分ける）

dıſſ ［動詞］ɥəl を ı と見分ける、見分ける、見切る、区別する、聞き分ける ［普通動名詞］見分け、聞き分け、分別、見切り、区別 ［レベル］3 łʔ: 制 :ɟɔɲn:dıſ ［用例］ ın dıſſ ucl łeſ ɒcn ı łeſ ucl. 雌猫と雄猫の区別がつかないよ。

dıſı ［経済］口座 ［電算］アカウント ［レベル］4 1Ⅲ: 制 :dıſdıſ ［用例］ lıɑ{ıllıɑ} dıſı 口座を開く｛閉じる｝

dıſe ［名詞］フィラメント ［レベル］5 古 :dıſe（白い電気）

dıł ［動詞］ɥəl を ı に進める、すすめる、進める、進む ［普通動名詞］進歩、発展 ［生物］進化 ［普通動名詞］早送り ［動詞］ɥəl（ビデオなど）を ı（シーンなど）まで早送りする ［類義語］łɟıs ［反意語］ɟıɸ ［レベル］2 łʔ: 制 : 古 : では dıł で、足音のオノマトペ。但し、dıł は dłe,dɥełe が元とする説もある。これはセレンが英語接頭辞 dɥe（前）/łe（行く）から作ったものである。確かにその造語はなされが実際は広まらなかったため、dıł と dɥełe は無縁と考えるのが妥当。 ［成句］ dıł ɟɸ dıł ɟɸ 一進一退 dıł ɑɥəɒı łıl 日進月歩 ［用例］ dıł ɑə łˢ scn 5秒早送りする

dıłłel ［医療］こむら返り ［レベル］4 jɑz ʃ1

dıłłelucɒ ［生物］腓腹筋 ［レベル］5 ʃłł<ʃʃ

dıłɒ ［単位］パクム、ルーメン、光束 ［レベル］6 古 :dıłɒ,dıłłɒ。元は dıłıɒıſ 光の多さ 」 ［語法］ 全方向に放射される光の光度が一様に１モープである点光源から１立方ルトック内に発せられる放射エネルギー（＝光束）のこと。従って、１モープの点光源から放射される全光束は４パイパクムである。

dıłeſ ［交通］アクセル ［レベル］3 ʃ1:dıł/ſe ［用例］ ɔɔnɟ{ɥ} dıłeſ アクセルを踏む

dıl ［名詞］図、表、図式、チャート、図柄 ［経済］チャート ［レベル］3 ſɒ;e ɔuc ız zını: 古 :dıl（図）

dılſ ［名詞］光沢、つや、グロス ［レベル］3 łʔ: 制 :dıı（光）

dılſɸıɒ ［名詞］リップ、グロス ［レベル］3 1L:lecn

dıłn ［物理］ビーム、粒子線 ［レベル］4 1Λ:dıl/ınſ

dılɥınɟ ［名詞］図説、図解、図説による解説 ［レベル］4 ʃ0

dılzed ［電算］表計算 ［レベル］4 1L

dılcl ［化学］フラボノイド、ビタミンＰ。フラボノイドのうち、クエルセチン、ヘスペリジンなどをあわせてビタミンＰと呼ぶこともある。 ［レベル］5 ul;cn で「（植物の）色」の意味。フラボノイドが植物に広く含まれる色素成分の総称であることから。 ʃʔ ［文化］ いわゆるポリフェノールと呼ばれる、より大きな化合物グループの代表例。

dıɟ ［電算］アイコン ［レベル］3 ıl;ıdı/jɔ「記号するもの」 ʃłł

dıɟſ ［植物］米、稲、ライス ［レベル］2 古 : 制では小麦 :::jıɥı,ıłſ ［文化］ 常食はしないが、頻繁に食べられる。どんぶりに米という習慣はない。白米やピラフや粥などの形で主に食べられる。jɒ や旧革命で主食のひとつとして根付いた。 アルバザード人はライスは皿に載せ、凪人は茶碗に盛る。凪食の場合はアルバザード人でも茶碗に盛ることがある。 アルバザード国内でも南部やカレン半島で作られているが、アルティアからの輸入も多い。アルバザード産よりアルティア産のほうが瑞々しい。ただしアルティアは日本と韓国の間のような風土なので、まったく日本米と同じというわけではない。 なお、アルバザード人は jɒ 以降、米を野菜とは考えず、穀物と考えるようになった。 米は jɒ で入ってきたが、一般人が食べるようになったのは ɥɑ でセレンが広めてから。セレンは青年期に小麦アレルギーを発症し、パンなどが食べられなくなり、米を常食するようになった。一緒に生活していた家族がセレンだけ米だと料理をするのが手間なので、家族全員米を食べるようになり、結果的に流行の発信源だったアシェットが米を食べるようになったことで民衆にも広まったという経緯がある。 ［用例］ dıɟſ ucpłıſ ɒcl ɥəəejł. 日照りで稲がやられた。

dıɟſłəj ［医療］米粒大 ɥɑ;/ ʃłł

dıɟſjenſc ［名詞］茶碗、一杯のご飯 ［レベル］3 1L ［用例］ ın łıłıſ dıɟſjenſc ıłſ. おかわりがほしかった。

dıɟł ［名詞］過程、経過、流れ、フロー、途中 ［副詞］～しかけ、～している途中 ［格詞］～の過程で、～の途中で ［反意語］ɑclſ ［レベル］2 古 ［用例］ bıłɒ l'ın łen dıɟłel 飲みかけの牛乳 : lenɔɟ との違い。łen dıɟłel の場合、一度口を離してテーブルなどに置いてあるイメージ。lenɔɟ は今口に付けて飲んでいるイメージ。 ın ıſ scłnclɟ dıɟł ın leɑ łˢ0 lcɒelɑc enſɔ ſclıſ ɑɔlucl ɔn ɒcłł cɒ ɑcɟ. 今日５０ｍ走の途中でずっこけて膝をすりむいた。

dıɟłınſ ［経済］［生物］発展途上、発達途上、発育途上 ［形容詞］発展途上の、発達途上の、発育途上の ［レベル］4 ɥɑ;/ ʃʔ ［用例］ ɒıɒ dıɟłınſ e łız 少女の発育途上の胸

dıɟłəc ［動詞］［形容詞］食べかけの ［レベル］3 ʃ0 ［文化］ 人の食べかけのものを食べるのは穢れとされない。ただし、異性間の回し飲みは一部忌避される。処女が父親と兄弟以外の食べ残しを食べることや、自分の食べ残しを与えることは不純として忌避される。また、既婚女性が恋人ないし子供以外と行うのも忌避される。なお、同性間ではこの限りではない。例えば紫苑とレイン間ではＯＫだが、アルシェとは不可。

dıɟłen ［動詞］［形容詞］飲みかけの ［レベル］3 ɥɑ;/ ʃʔ

dıɟłnɑɑ ［言語］経過相 ［レベル］4 ʃ0 ［語法］ 行為動詞・状態動詞の一端、事前段階・実行段階の一端、内相の一端。 「～している」という意味。

dıɟłɒcɒ ［名詞］中折れ、中おれ、なかおれ ［レベル］5 ɥɑ;/「途中で萎える」 ʃʔ ［語法］ セックスやオナニーの途中で萎えてできなくなること。 ［用例］ ın ɑɔlıſıſɔɥ ɒın łıel ucl ɔɒ nɔɟ ɑɔlıſıſ ueeɥel, nıł ſə eſ ɥeſ ɑəɔ. ſıl ın ɑɔlıſıſ jen en ɟıłłel ɒın ſclcʅ dıɟłɒcɒ ɑcn ſɔlcɟ łˢ1 ſcɟ. ın nıſ nɔɟ eɟ cɑc, ſıɥł ɥcɑcı ɔn ſə. jɔn lı łəſ "nɔn ɔɟ ɑın ſɥə ɒıdel enz e" enſɔ ın nıł nıə ɒelſ. 最後にいつ抜いたか思い出せないくらいなのでいい加減ヤバイと思って抜こうとしたんだが、齢łˢ1 にして中折れして抜けなかった件。年だなと思いつつリディアに相談したら恥ずかしそうに「なるべく早くそっちに行ってあげるね」と言われて「えへー」と思った。

dıɟłɑclɑc ［医療］知熱灸 ɥɑ;/。途中で消してしまうため。 ʃłł

dıɟłıl ［動物］あんこう、アンコウ、鮟鱇 ［レベル］4 古 :dııl/jcłıl が原義。

dıɟłcɟł ［動詞］［形容詞］読みかけの ［レベル］3 ɥɑ;/ ʃʔ ［語法］ ２００ページある本で２，３ページしか読んでいない本はふつう日本語だと「読みかけ」よりも「読み始め」というし、１９９ページ行ったら逆に「読み終わりそうな」というのが自然である。英語では進捗が半分でなくてｔｈａｌｆ－ｒｅａｄという。アルカの場合、dıɟł は厳密に過程のみを指すので、たとえ１ページしか読んでなくても１９９ページまで読んでいても、両方 dıɟłcɟł といえる。 ［用例］ lec dıɟłcɟł 読みかけの本

dıɟłɔ ［電算］ストリーミング ［レベル］4 ıl;dıɟł.ʅ ʃʔ

dıɟɟ ［感動詞］［俗語］オッケー、おっけー ［レベル］2 ʃ1:dıɟɟɔ ［語法］ おどけた感じ。

dıɟɟɔ ［感動詞］大丈夫、わかったよ、しょうがない ［感動詞］よし、さあ、さぁ、さて ［感動詞］いいよ、ＯＫ ［感動詞］セーフ、間に合った、助かった ［反意語］benɑı ［レベル］1 ɑ:elſ;dı/jɔ「光るような行い→善行→そうであるべき物事→そうである→そうであるから大丈夫→大丈夫」 赤 :dıɟɟɔ（そうである） dıɟɟɔ:dıɟɟɔ ［語法］ cldıɟɟɔ より丁寧でない言い方。肯定文だと大丈夫や「そうだ」の意味。疑問文で使うと「～でいいのか」という丁寧でない確認の意味になる。łɔł よ

d

り相手の返事を期待する言い方。「荷物をもってやる」といわれ、「いいの？」と聞き、「dɪɟɟɔ(大丈夫)」といわれた場合、その相手に「jenʃ(ありがとう)」ということができる。だが一般的にいって dɪɟɟɔ は確認目的の意味合いが強く、ねぎらいの意味は薄い。大丈夫？のつもりで dɪɟɟɔ といっても相手は jenʃ と返さず、ɥɪ ということが多い。病気の人に dɪɟɟɔɮ と聞くこともできるが、ねぎらいよりも確認の意味の強い言葉なので、明らかにだめそうな場合は聞かないほうがいい。気分を害する恐れがある。

dɪɟd [物理] X線、エックス光線、レントゲン、エキス線 [レベル] 3 1ʔ: 制 :dɪɟldɪ（透過光）

dɪɟɔl [名詞] カウント、数、カウント数 [動詞] ɣəl を ɪ まで数える、数える、カウントする [類義語] ɪlʃ [レベル] 3 ɑ;dɪlɪlɪ/ɟɔ/ɪl ʃ1 [成句] dɪɟɔl ʃɔlcɟ e ɣəllcɪn le uɔɟɪʃ 死んだ子の年を数える dɪɟɔl ʅɔn sc 指折り数える [用例] dɪɟɔl ɟɔɟ 大きなカウント数 dɪɟɔl ɟɔɟel 数え上げる、カウントアップ。「高く数える」。大きな数へ向かって数えることなのでカウントアップ→ ɟɔɟ dɪɟɔl dɪɟɔl ɦəɟ ʃɔɪlɮ カウントは今いくつ？、いくつまで数えた？ dɪɟɔl ɔɒɪ 犬を数える dɪ ɟɔl ɪʃlɪʃ ʔ0 3 0 まで数える lcczɪ dɪɟɔl ʅcʃ ʅɔn sc. リーザは指折り数えた。

dɪɟe [植物] [料理] 小麦粉 [レベル] 3 1ʔ: 制 :dɪɟʃhɔe dɪn:dɪn:lɪ dɪn（パンが膨らんでいるので。丸い→女性名詞）:dɪn,ɪlʃ [文化] ɟɒ で凪食と接触した結果、強力粉、中力粉、薄力粉の３分類がなされた。μɑ でタンパク質の含有量順に ʃcn, jeel, ʅɪl と再命名された。また、ɟɒ では全粒粉なども分類された。

dɪɟeucɟɔ [化学] グルテン [レベル] 6 1L

dɪɟeucɟɟ [化学] グルタミン酸 [レベル] 5 1L

dɪɟelɪ,ɪlʃ lɒɒd

dɪɟelə,ɪlʃ ɟcl

dɪn [交通] 乗り物 [レベル] 2 1ʔ;dɪlɪn,ɟɟɑ.lcʅ 1ʔ: 制 : 古 :dɪlɪɒeʅcɪ,dɪlɪn dɪlɪɒeʅcɪ:dɪlɪn:lɪ ɒeʅcɪ（当時は車輪のついたもの。丸が女なので女。車輪のない乗り物は対で男）

dɪn(J) [悪魔] パン、数の悪魔パン [レベル] 4 ɒelʃcɪ 0:dɪn;e J1:ɒel:dɪlɪlɪ,ɑu.l [文化] 数の悪魔。火星を司る。

dɪn,ɑu dɪɟe これを使って作ったパンがふっくらしており、そのふっくらした様子の擬態語から。

dɪn,ɪlʃ ɑcɟ

dɪnʃ [名詞] 部門、範疇、分野、カテゴリー、教科、科目、系統、系 [レベル] 3 1ʔ: 制 :dcʃ（種類の種）。音が似ないように変化させた。 [文化] 学校の授業は教養と実技に分かれる。実技は体育館で行う。

dɪnʃe [音楽] 拍 [レベル] 4 J1

dɪnʃehɪɟl [音楽] 拍子 [レベル] 4 J1

dɪnʅ [名詞] スイッチ、ボタン [レベル] 2 lɪʅɪ [用例] ɪɟ dɪnʅ e ʃejdɪɒ 電気のスイッチを押す

dɪnʅɔzəe [植物] コブシ [レベル] 6 JJ:「白桜」

dɪnɟ [名詞] ハブ、車輪の中心 [電算] ハブ。アトラスでも車輪の中心でハブをなぞらえた。 [レベル] 3 μɑ;dɪnɔ/jeel「車輪の中心」 J1ʔ

dɪnɟe [動詞] ɣəl を ɪ に提供する、提供する [普通動名詞] 提供 [レベル] 3 古 :dɪnɟe（提供）

dɪnɟeɪn [生物] 生産者。生態学における。 [レベル] 4 nɑ;/ J1ʔ

dɪnɑ [生物] 核酸 [レベル] 5 1L:dɪɑ/ɑclɔ（(リン酸）エステル結合したヌクレオチド）

dɪnɑɑclɑ [生物] 核酸塩基。ＤＮＡとＲＮＡのこと。 μʃ;/ J1ʔ

dɪnφ [普通動名詞] 破裂 [動詞] ɣəl を破裂させる、破裂させる、破裂する、ぱんっとなる、弾ける [レベル] 3 1L: オノマトペ

dɪnφɑɔ [言語] 破裂音、閉鎖音 1L

dɪnφɑɔlɑɔ [言語] 破擦音 1L [語法] ʃl, ʃj, ɑs, ɑz のみ。常に破裂音摩擦音の順番で並ぶので、単語の語形もこれに準ずる。

dɪnl [動詞] ɣəl を開拓する、開拓する、開発する、切り開く [普通動名詞] 開拓、開発 [レベル] 4 1ʔ: 制 :dɔnlɪɑ（道を作る）

dɪnlɪμnɔn [政治] 開発省 [レベル] 4 1L:clɒəj:μcɑcɪ

dɪnɪ [形容詞] 気が利く、気遣いがある。親切とは少し違う。 [反意語] ɪldɪnɪ [レベル] 3 1ʔ: 制 :dɪɑ/nɪ

dɪncɟ [アトラスの国家] パニス [レベル] 5 J1ʔ:μcɑcɪ

dɪncɟ(J) [被服] ホンブルグ μʃ;dɪncɟ。パニス国で作られたことから。 J1ʔ

dɪncdɔnc [娯楽] ぱにぽに [レベル] 4 J1 [文化] 『ぷよぷよ』や『テトリス』に相当するゲーム。

dɪnɔ [交通] 車輪 [レベル] 3 μɑ;dɪn/hɔlɔ「乗り物の輪っか」 1ʔ: 制 :dɪnhɔlɔ [用例] dɪnɔ e ɥɪɒe ɪnʃ ɪnɑ ʅlcɟ ɦeμ. 自転車の車輪が軋んでいるようだ。

dɪnɔn [名詞] パンの書 [レベル] 6 J1:ɒel:dɪn/en [文化] μɑ でメルが紫亞の教育のために書き出した数学の本。

dɪu [軍事] [ジョブ] 重騎士、重装騎士、重騎兵、重装騎兵 [類義語] eμɒej [レベル] 4 ɟɒ;dɪb.l 1ʔ: 制 :dɪbuɪjɪn。制では「騎士」は dɪu しかなかった。 [文化] → eμɒej セルメルのころ、eμɒej と違いこちらは鎧で暑苦しく、むさいわ臭いわ怖いわで、女に人気がなかった。

dɪuʅɪɑ [地球の国名] マルタ 1L: 騎士団しか思いつかない

dɪuɑμec [地球の国名] リトアニア 1L: 国章が騎士剣

dɪɑ [化学] エステル [レベル] 5 1L:dɪɑc [語法] 塩やエステルの場合は ɥl を取る。ɥɔɪnləzɪɥl（酢酸）、ɥɔɪnləzdɪɑ（酢酸エステル）

dɪɑl [建築] アーチ [数学] 孤 [言語] [文字] アーチ [レベル] 5 1ʔ: 制 :dɪɑc

dɪɑlzɔn [運動] 鉄棒 [レベル] 3 μɑ;/「アーチの棒の部分、アーチ状の棒」 J1ʔ

dɪɑɪ [動詞] ɣəl を日焼けさせる、日焼けする、紙などが黄ばむ、黄ばむ、太陽で変色する [再帰動名詞] 日焼け [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :dɪdɪɑɪc（太陽で焼く） [文化] アルバザード人は男は小麦色がモテて、女は白い方がモテる。従って日焼け止めは女子の必須アイテム。黒いのは男でもモテない。たいていのアルバザード人は皮膚が日本人より弱い。また、色も黒くならず、赤くなってやけどして終わり。男子も色白だと焼くのを嫌うことがある。 [用例] ɪn nɪɒʃɪʃ dɪɑɪ. 日焼けに気を付けた。 ɪn dɪɑɪ lɪl lɪnʃel cɒ ʃə ɟɪlʃ. 今年は綺麗に日焼けしたい。 ɪn dɪ ɑɪʃ ɪ uɒμ. 真っ黒に日焼けした。 ɪn ɪʃ dɪɑɪ ɪʃc ʅɪl. ちょっと日焼けした。

dɪɑʅɪɑ [地球の国名] エチオピア [レベル] 6 1L: エチオピア自体が日に焼けたという意味。

dɪɑɪɑcl [名詞] 日焼け止め [レベル] 4 1L [用例] ɪn nɪbɪʃ dɪɑɪɑcl. 日焼け止めを塗った。

dɪɑc [交通] [建築] 橋 [形容詞] ～橋。前置。 [動詞] ɣəl を ɪ のために仲介する、仲介する、橋渡しをする、経由する [電算] 転送する [シェルト] 橋駒 [音楽] ブリッジ [類義語] μɪɑcl [レベル] 2 ɑu;ɑc は「長い」 赤 dɪɑc:dɪɑc:lə ɑɪlhc（道と同じ性）:dɪɑc,ɪlʃ [用例] dɪɑc ɑcl{ɑɔʅ} 大橋 dɪɑc hcnɪɪʃhɪɑɪ 朱塗りの橋 eu dɪɑc ɪl eμec 川に橋をかける、架橋する

dɪɑcɟ [政治] 領事 [レベル] 5 zφ;dɑc/ɟɔ「橋渡しをする」 J1ʔ

dɪɑcɟlɪ [政治] 領事館 [レベル] 5 μɑ;/ J1ʔ

dɪɑcɟeʃ [音楽] ブリッジミュート J1

dɪɑcɑɔnʃ [名詞] 連絡通路 [レベル] 6 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

dɪɑczelɔ [生物] 橋 1L [文化] μɑ で、解剖時に形が橋のように見えることから、名づけられた。

dɪɑcsɔcɟ [生物] 三焦兪、三焦愈 [レベル] 6 J1

dɪɑcedc [音楽] ブリッジピン μɑ;/ J1ʔ

dɪɑeʃ,ɟzu ɟɔn、ɥɪn、jee ‹ dɪɑc/ʃeeze

dɪɒ [名詞] ライト、明り、灯かり、灯り、照明、電灯、明かりという意味のランプ、灯火、ランプ、診療用照明、電球 [類義語] ɑɪφ [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :dɪlɪl（光る物） [用例] ʅɔɟ dɪɒ ɪ bɪl 壁にライトを向ける

dɪɒd [動詞] ɣəl に手を叩かせる、手を叩く、叩く [再帰動名詞] 拍手 [レベル] 2 古 :dɪɒd という擬音語 [用例] cnɪn dɪɒdɪʃɪnɑ. 観客は拍手した。 dɪɒd ʅɪc 大きな音の拍手。大きな音が ɑɔ ʅɪc なので ʅɪc。

dɪɒɔ [数学] 図形、幾何 [レベル] 3 1L:dɪl/ɒɔ

dɪɒɔel [数学] 幾何学 [レベル] 4 1L

dɪɒe [交通] 馬車 [レベル] 4 1ʔ: 制 :dɪbɪɒe（馬の手動車）

dɪɑl [植物] マカダミアナッツ [レベル] 4 1ʔ: 制 :dcɑl

dɪφ [再帰動名詞] しゃっくり [動詞] ɣəl にしゃっくりさせる、しゃっくりする [レベル] 2 1ʔ: 制 :『制アルカオノマトペ』では d ではなく両唇入破音。 ɦɔʅɔʃ:ɦɔʅɔʃ::ɸɪφ,ɑμɑɑ → lcɒ

dɪφɑɔ [言語] 入破音 1L: もともと古アルカの入破音がほぼ「しゃっくり」という語にしか使われなかったことから。

dɪd [名詞] コップ、湯飲み、タンブラー [レベル] 1 古 [語法] 円筒形で取っ手のない容器。

dɪdl [名詞] カレンダー [レベル] 2 1ʔ: 制 :dɪlʃdɪl（暦表） [文化] メル暦では表になっているものは必要性がないので、セレンの作ったメル暦ソフトのような形になっている。電子ペーパーや画面に日付や曜日が一定の箇所に表示されるシステム。

dɪdɟ [動詞] ɣəl にぴょんぴょん跳ばせる、跳ぶ、ジャンプする [形容詞] わくわくした、ワクワクした、うきうきした、るんるんな、ルンルンな [形容詞] (dɪdɟɪn) わくわくさせるような [レベル] 3 古 [文化] うれしいときなどにする。女子供の動作。 [成句] nɪ dɪdɟ わくわくする、ワクワクする：ɒelnɪ と違って「ワクワク」に限定。 [用例] nɔn ɒcll le dɪdɟɪn eɒ jɔɑ. わくわくすることが起こればいいのに。 ɪn dɪdɟɪʃ ɒɪn nɪ nɪə. うれしくてピョンピョンはねた。 ɪn ɣəəʃ lɪlel dɪdɟen ɒelnɪ ɔlʃɪ el ɪnl ɪn lel ʃeʃʃe. オジサンと呼ばれてもワクワクすることには変わりない（ヒャダインーーＤＱ４ 導かれし者たちで、「明日への旅」）

dɪdn [動詞] ɣəl をすねさせる、すねる、拗ねる、ふてくされる [レベル] 2 lɪʅɪ: 膨らんだ頬 [文化] 子供っぽいとされる。女子供のしぐさで、男がやるとかなり恥ずかしい。

dɪddɪ,ɑu ɒɔnɔn「パッと開くような」というオノマトペ。

dɪddɪʅɪl [アイテム] コラ。刀の一種。ɟɒ の ɒe で作られた。 ɟɒ;/ J1ʔ

dɪdɪ [親族] パパ [女性] [感動詞] あぁ、ああ、なんということだ、なんということでしょう、そんな、まさか、そんなまさか、いったい、一体、いったいぜんたい、一体全体、オーマイゴッド、オーマイガー、オーマイガッ、きゃあ、助けて、誰か、そんな馬鹿な、マンマミーア [レベル] 1 1ʔ: 制 [語法] [文化] ɒɪɒɪ

dɪdɪlʅɔ [感動詞] 大丈夫？、大丈夫 [類義語] dɪɟɟɔ [レベル] 2 JJ:ləlcɪ:dɪdɪ/dɪɟɟɔɮ「パパ、大丈夫？(dɪdɪ, ʃɥə ef dɪɟɟɔɮ)」の意味と思われる。神楽坂。

dɪdɪɒelɑɪn [卑語] パパファッカー [レベル] 4 1L: 概念自体は古 [語法] 女に対する罵倒語。ɒcuiəc にならって通常 dɪdɪɒela になると思われる。ファザコンな甘えた娘をなじった言葉で、アルシェを離脱したクミールを非難して使われた。クミールが激怒したので面と向かって言った者はなくなったが、以降甘えた女や世間知らずのお嬢様を罵倒するときに一般的に使われるようになった。

dɪdɪμəlɪ,ɑ ɑɪɪl「光るもの」

dɪdɪlɪn 抱っこマシン、おんぶマシン JJ:ləlcɪ:dɪdɪ/dɪlɪn。神楽坂。

dɪdɪɪʃʃ [感動詞] ジャーン、じゃーん、じゃじゃーん、ジャジャーン、タダー [レベル] 2 古 : オノマトペ（文字は宛がわれなかった）。光の dɪ から来ている。

dɪdcɑɪ [地球の星座] [ユマナ] コップ座 J1ʔ [文化] cɑɪ

dɪdɔ [動物] 白鳥 [レベル] 3 lɪʅɪ:「白くて首が長い」

dɪdɔcɑɪ [地球の星座] [ユマナ] はくちょう座 J1ʔ [文化] cɑɪ

dɪb [動物] 馬 [レベル] 2 ɑu; ↓ lɪʅɪ: 乗り物になる獣。 dɪb:dɪb:lə ɑɪɑ:φənɪ,ɪlʃ [文化] 現在では食用しない。乗り物としても市内では用いない。糞を出すため、サライの道路を走ることは原則できない。観光地で許可を取れば可能。

dɪbʅɪɑ [地球の国名] ブルキナファソ 1L: 国章に馬

dɪbɟcɪ [音楽] ティンパニ [レベル] 5 J1: 魔方人の軍楽隊が馬に取り付けたのが最初。

dɪbuɪlɑ [名詞] 馬競争 [娯楽] 競馬 [レベル] 3 J0 [文化] lɪʃcɟ

dɪbɑelɪ [交通] 辻馬車 μʃ;ɑeln 参照。μʃ で ɑeln がタクシーの意味になったので新たに辻馬車が造語された。 J1ʔ

dɪbɑcɔ [名詞] 馬の歯 [名詞] 本当の年齢。サバを読まない年。馬は歯を見れば年齢が分かることから。 [レベル] 3 1L [成句] neʅʃ dɪbɑcɔ サバを読む

dɪbφel [軍事] 騎兵銃、騎銃、カービン μɑ;/ J1ʔ [文化] φel

dɪbl [名詞] 鞍、くら、サドル [レベル] 3 1ʔ: 制 : 古 :dɪbɪl,dɪb [語法] 乗り物に乗りやすくするために付いている装置。馬なら鞍。自転車ならサドル。

dɪbɪɟl [被服] ライディングブーツ μɑ;/ J1ʔ [文化] ɟɒ でできた。乗馬用。

dɪbɪμn [被服] ルダンゴート μɑ;/ J1ʔ [文化] 乗馬用のコートとして地球より早く μɑ で生まれた。

dɪμ [言語] d の文字 [レベル] 1 1ʔ: 制 : 太陽 [語法] 第１１文字目の幻字。

dɪμʃ [悪魔] パルト [歳時記] 光曜日、日曜、休日、公休、公休日。週の第７日目。 [音楽] シ [組み数字] 7 / 7 [レベル] 2 ɒelʃcɪ 0:dɪμʃ;e 古 :dɪμʃeeɒɟʃ「太陽の悪魔」 [文化] ソームの７番目。思慮深い男性。光を操る。ヴァステ開戦に際し、メルティアに頼んでアトラスへのワープゾーンを作ってもらうよう提案した。光る白い服を着た金髪の美青年。おとなしい。

dɪμʃlcl [化学] ニッケル [レベル] 5 1Λ: 制

dɪμʃcl [名詞] パルティール照明 [アクセント] dɪμʃ€l 11:φclcəj;dɪ/μeʃcl J0:dɪ（光の音象徴）/μeʃcl（蛍石） [文化] ɒelʃcɪ 11 にギリウスが発明した照明道具。当時はたいまつのような炎を用いた照明しかなかった。蛍石は光の魔石で、高魔圧をかけると長時間に渡って淡い光を放つ。これと銅を組み合わせるとさらに照明時間が長くなる。銅の鍔を持つ杖に蛍石を取り付ける。鍔の部分に蛍石を乗せる。ちょうどコスモスやチューリップの花のおしべやめしべがあるところに蛍石を置く感じである。 低魔圧状態に置くことで光が消えるため、魔圧を調節してスイッチ代わりにできる。 神から人に伝わり、火事を起こさず熱くもならない照明として人気になった。しかし木材に比べて高価なため、一部の人間しか使うことができず、庶民は火を起こしていた。

dɪμʃe [人名] パルテ [組み数字] 4 / 1 6 [レベル] 4 ɒelʃcɪ ʔΛ:ɪμɑə/ejʃɪ;e 古 [文化] ejʃɪ エスタの第４子。女。

dɪμɟ [動詞] ɣəl を ɪ にさらす、さらす、晒す、曝す [レベル] 3 古 :「太陽する」 [用例] ɑen dɪμɟ ɒɪcn ɪ dɪμd. 日光に体をさらすな。

dɪμnɪ [天文] パルナ、金星、陽天 [魔法] 雷のクリスタル [レベル] 3 [組み数字] 2 / 9 古 :dɪμnɪ ← dɪμ（太陽（光の））/əənɔ（大地）

dɪμɒ [地球の国名] 日本、パルム、ジャパン、リーペン、リーベン、イルボン、ヤーパン、ジャポン、ニッポン、ニホン [レベル] 3 1ʔ|μɪl||dcn:『アルカ地理』「太陽の源」dɪμeɒɔ

dɪμɒʅɪl [ユマナ] [アイテム] 日本刀 μɑ;/ J1ʔ

dɪμɒɟɔlʃ [経済] [ユマナ] 円 [レベル] 4 1L

dɪμɒɟeʃɪ [ユマナ] 日本史。科目名。 [レベル] 5 J1ʔ

dɪμɒɟeɒɔ [ユマナ] [経済] 日経平均株価、日経平均 [レベル] 6 JJ

dɪμɒɒɪɟ [ユマナ] Ｂサイズの紙 [ユマナ] 和紙 [レベル] 6 1L [語法] lcɒɪɟ

dɪμɒbel [ユマナ] [料理] 和食 [レベル] 4 1L [用例] ɪn ʅəc nelʃ dɪμɒbel cɒ ɑɪɪl. 朝食はふつう和食を食べる。

dɪμɒɥeuel [運動] [ユマナ] 空手、空手道、カラテ、唐手 [レベル] 5 J0: 日本のユベール

dɪμɒɥelcel [ユマナ] 能、能楽、能楽の能 J0: 日本のユリエール

dɪμɒɟen [ユマナ] 日本語 [レベル] 4 JJ

dɪμɒleɒ [ユマナ] [音楽] 邦楽 [レベル] 5 J1

dɪμɒɪn [ユマナ] 日本人 [レベル] 4 制

dɪμɒeʃeʅ [ユマナ] 日本茶 [レベル] 5 J1ʔ

dɪμɒeu [経済] [ユマナ] 円建て 1L

dɪμɒelɑcɒeʃ [ユマナ] 日本語版 [レベル] 5 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

dɪμɑ [地球の国名] メキシコ [レベル] 6 古？: 太陽の国

dɪμd [名詞] サンライト、サンシャイン、陽光、日光、日向、日当たり、日差し、日射 [レベル] 3 1ʔ: 制 :dɪμdɪɪ（太陽の光） [用例] ☆ dɪμd ɪʃ ɪlɑcμʃ. 日差しが明るかった：アルバザードは直射日光がキツく、目の色素が薄い人間が多いため、日差しは ɑcμʃ でなく ɪlɑcμʃ と感じるほうが自然。 ☆ ɪn ɣəʃ ʅe dɪμd ʅɪ ɪleɪ. 浜辺で日光浴しに行った。 dɪμd ləɪɟ ez. 日の光が部屋に差し込んでいる。

dɪμdleuɪn [医療] 日射病、熱中症 [レベル] 3 JJ [語法] 後者は直接 dɪμd に当たらなくとも暑い dɪμd のせいなどでなる。

dɪμɪμɪcz,ɭʃ ʃ1 パラライズという部隊のこと。２３人で構成された小部隊を意味した。 古 : 語源不詳

dɪz ［名詞］経歴、履歴 ［法律］判例 ［レベル］４ 1ʔ: 制 : 古 :dɪlɒe 後ろの時間（過去の時間）

dɪzɪlɪə ［法律］判例法 ［レベル］６ 1L

dɪzɒ ［植物］ハーブ、薬草 ［レベル］３ 1ʔ: 制 :dɔfízeɒ ［文化］ 代表的なのはカモミールなど。 ［成句］ ɑɪʃ ɪɔnʃ ɪɔz dɪzɒ 芸は身を助ける。薬草の取り扱いを知っていた兵士が最前線に送られず、軍医の手伝いとして永らえたことから

dɪzɒɪʃ ［名詞］履歴書 ［レベル］５ 1L:ɹɔnɔɪ:ɪʃbɪlelʃ

dɪzɒɪn ［ジョブ］薬草師、薬師 ɹɑ;/ 1ʃl

dɪzɔ ［植物］カバノキ ɪlɪʃɪ

dɪs ［動物］トンボ ［レベル］３ lɪʃɪ:s は空

dɪl ［人名］パールの略称 ［組み数字］１０/２８ ［レベル］１ ɟeɹen

dɪl,ɑ ɟɪ e

dɪlʃ ［歴史］暦、こよみ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :dɪl（日） ［文化］ 霊界ができたのが約１３７億年前。アルテもこのとき生まれた。太陽系が４６億年前に生まれ、地球が４５億年前に完成した。地球の完成と同時期に lənɔ が生まれ、失敗して ɪɹɑel へ行く。　その後 lənɔ が ɪɹʃe から ɹccɑ を奪ったおかげである程度 ɪɹʃe の膨張は食い止められたが、まだ ɪɹɑel から ɹccɑ が流れてくるため、再膨張をし始めた。　最初の暦はアルテがセルトに分裂したところから始まる。これをセルト暦といい、６３９３万８９６５年間続く。６３９３８９６４年にサールがユーマを懐妊し、翌５年に出産。同時にテームスが生まれ、同年テームスはメルティアを含む悪魔を産む。この時の司メルティアがメルティア暦の始まりなので、セルト暦は６３９３万８９６５年間続いたことになる。　メルティア暦元年はセルト 1ʔLɪʔᐃL1ʔ に等しい。メルティア暦はちょうど１０４万年続いて終わる。神々が１０進法を編み出していたため、神も人間たちも区切りのいい万の位で次のユーマ暦のために暦を改めた。ここまでの経過は６４９７万８９６５年。　ユーマ暦はちょうど８０８０年続く。この理由も同上だが、人類の寿命が短くなるにつれ、１０年のような小さい単位で暦が改められるようになっている。ここまでで６４９８万７０４５年が経過している。　ユーマ８０８０年は次のイムル暦元年に相当する。イムル暦は１５８８年間使われた。イムル１５８８年が次のメル暦元年に等しい。ただしメル暦が実用されだしたのは実際１６００年代に入ってからなので、歴史書物の中にはイムル１６００年代の署名のものが存在する。１６００年ごろに書いた人は今後もイムル暦が使われると思っていており、１５８８年に生まれていた少女メルの年齢を元にしたメル暦によって繰り上げるようにイムル暦が短くなるとは予想できなかったためである。ここまでの経過は６４９８万８６３３年。　イムル暦の後のメル暦は４８０年続いた。転生した使徒たちの死とともに世界は終焉し、宇宙も終わりを遂げる。ここまでの経過は６４９８万９１１３年。　＜セルト暦＞　セルト暦のころは年に１回しかアトラスに来なかったため、１年をカウントする必要しかなかった。逢瀬はちょうど後のディアセル（地球でいう７月１９日ごろ）に行われた。ディアセルと逢瀬の日が重なることをこの時代の神々はまだ当然知らない。　＜メルティア暦＞　ーメルティア暦の起源　　メルティアはユーマとテームスと悪魔たちが誕生したこの年を以ってメルティア０年と定め、メルティア暦を作った。　　メルティアはエルトとサールがアトラスで暮らしていたため、アトラスから見た暦を作ることにした。　　ユーマ・テームス・悪魔の誕生と、エルト・サールの死と、アルミヴァの1J神の誕生は年は違えど同日で、現在でいう zɪn ɹɹl だ。　　メルティアは自分たちが生まれたこの日をメルティア０年の元日とした。しかし彼はこれ以上細かい設定を暦に与えなかった。　　ー最初の太陽暦　　エルトとサールの一族がアトラスで暮らしはじめたのを見たメルティアは、時空を司る者としてメルティア暦を両一族及びユーマ並びに悪魔の一族に伝えた。　　しかしその暦は1年を数えるのにしか使えず、利用価値が低かった。悪魔は宇宙で暮らしているが、神々はアトラスで暮らしている。そこで神々は日を数える必要性を感じだした。　　今年はメルティア 0 年だ。アルミヴァが生まれたのはメルティア 0 年の逢瀬の日で、ユーマや悪魔たちが生まれたのはちょうどその 0 年前だ。　　ユーマや悪魔や神々にとって、逢瀬の日は誕生日に等しい。よって逢瀬の日を元日と定めたメルティアの意思に遺憾はなかった。だが神々は1年しか数えられない大雑把なシステムに不満を覚えた。　　そこで何回アトラスから太陽が見え隠れすれば逢瀬の日、すなわち誕生日になるかを知るためクレーヴェルが観測したところ、およそ ʔʔ 日の周期でアトラスが太陽の周りを公転していることを見つけた。太陽年を見つけたということである。　　そこで1年を ʔʔ 日に割ったが、太陽年は実際には整数ではないため誤差が生じる。そこでメルティアとパンの協力のもと、神々は地球のグレゴリオ暦と同じ計算法を作り、閏年を設けた。　　なお、この時点は現代から見て 100 万年ほど昔の出来事だが、太陽年は年々変わっていく。それはどのくらいかというと、1000 年で約 10 秒伸びるので、100 万年で ᑭ000 秒太陽年が長いことになる。　　これはおよそ ᐃʔ 分であり、神々の時代は１年が今より ᐃʔ 分ほど長かったことになる。しかしそれでも太陽年は約 ʔʔ 日であり、グレゴリオ暦と同じ計算法が成り立つ。　　ところで日付の読み方については、まず月という概念がないため、何年の何日目という呼び方をしていた。つまり１年のうちの ɟʔ 日目というような言い方をしていただ。神のように賢い者だからそのようなずさんな表現でも対応できるが、我々人類には使いにくいことだろう。　　なお、メルティア 0 年までは閏年という概念はなかった。0 年までは逢瀬の日は太陽とアトラスの位置関係で物理的に決められていたため、0 年から 0 年の間にあるはずの閏年は自然と消化されている。すなわちエルトとサールが死んだのは、きちんとユーマが生まれた日の 0 年後の日となる。　　----　　ɒelʃcɪ LL'L᐀ɟ1 年になると、神々が農耕を始め、月単位での農耕計画を立てる必要が出た。カルテ神がクレーヴェルと協議し、月の満ち欠けを元に１年を１０の月に分けるようにした。農耕に適切な時期は地球でいう３月から１２月で、１月と２月は暦が不要とされ、月が存在しなかった。ミュシェットである。そこで３月を元旦とするよう暦が改められ、７月１９日ごろの聖誕祭は祭日となった。これ以降のメルティア暦では３月が１月となる。　月の公転周期はおよそ２７．３２日だが、満ち欠けの周期は２９．５３日である。アトラス暮らしに慣れた神は満ち欠けを基準に考え、２９日の月と３０日の月が交互に繰り返すようにした。元旦の日付は毎年決まっているわけではない。３月ごろになったら最寄の新月が元旦となる。そしてそこから２９、３０、２９、３０、２９、３０、２９、３０と１０ヶ月続けていく。こうするとおよそ地球の１２月で一年が終わる。　後述するユーマ暦と違って規則的に小月と大月が繰り返されるのは、１年のうち１０ヶ月しか暦がないためである。純粋な太陰太陽暦のように１年中どの日も日付があり、またその暦を何年も繰り返し連続して使うと、このような規則的な小月と大月でいられなくなる。２９，３０を繰り返していくと誤差が生じ、ある月のついたちが朔にならないようになる。ただし、そのずれはわずか１０ヶ月なら小さい。また、メルティア暦では次の年の始まりは次の春の朔からスタートするため、ずれが毎年解消される。そこでメルティア暦では規則的に小月と大月が並んだ。　なお、日付の読み方は日本と同じで「何月何日」という読み方であった。月がない日については特になんと呼ばれることもなく、今日や昨日や３日前といった表現で済ませていた。　このように、太陽暦ができて約１００万年使われた後にようやく太陰暦ができたというわけである。その太陰暦もできたと同時に太陰太陽暦として組み込まれたため、単体で太陰暦が使われたことはなかった。これらの暦は神を通してユーマの一族にも伝わった。実際に太陰太陽暦ができたのはメルティア暦の終わりごろであるから、メルティア暦自体は単なる太陽暦と見てよい。メルティア暦は約１００万年が太陽暦で、残り約４万年が太陰太陽暦である。　＜ユーマ暦＞　ユーマ暦になると戦史の記録や貨幣の登場による経済活動や経理関係の作業の関係で、月のない日についても日付を定義する必要性が出てきた。メルティア暦は月なしのある不完全な太陰太陽暦だが、これを完全な太陰太陽暦に改めた。一年の始めを冬至（地球でいう１２月２２日ごろ）にし、１年を１２ヶ月に区切った。太陰暦では１回帰年の近似値である１２ヶ月を１年とした場合、１年が３５４日となり、太陽暦に比べて約１１日短くなる。このずれが３年で約１ヶ月となるので、約３年に１回閏月を挿入する。閏月を１９年に７回挿入すると誤差がなくなる。この暦は ɥəəɒɪ ᚠ 年にレスティル南岸在住の召喚士がユルグとクレーヴェルを召喚して相談して定めたものである。従って ɥəəɒɪ 元年のころは ɥəəɒɪ 暦はなかったことになる。これはメル暦と同じである。この召喚士は現カテージュに住んでおり、漁師らの要望で太陰暦を正確に太陽暦に組み入れようとしたものである。潮の満ち引きの関係で漁師にとって太陰暦は重要であるため。　月の満ち欠けはおおむね２９．５日であるため、２９．５＊２＝５９で、これは２９＋３０に等しい。よって１月が２９日になる小の月と、３０日になる大の月を繰り返す。このノウハウはメルティア暦と同じであるが、２９，３０と規則的に繰り返すとついたちが朔にならないことがある。それを微調整すると大月が何月に来るかは毎年変わることになる。従って ɥəəɒɪ 暦は非常に複雑である。　１年は３５４日である。１年の長さがメル暦に比べて１１日ずれる。そこで閏月を挿入し、１３月目を設ける。ゆえに、年によってずれが貯まってくると季節が１月近くずれてしまうことになり、農耕ではやや不便なことがある。　また、アズゲルから農耕の都合で１年を２４節気に分けるようになったため、節気と暦のずれが生じてしまう。そこで閏月は最も節気と暦のずれが生じない位置に入れられた。閏８月など、適宜挿入する位置は変えられた。　１年の長さは確かにメル暦より短いが、３年スパンで見れば日数は等しいので、ユーマ暦を使っていたころのほうが１年が短かったということはない。　ユーマ暦はそれが作られた年の５年前が元年であり、５年前の冬至を元旦として遡ってスタートした。従って ɥəəɒɪ 0 における冬至の日付が開始点となる。冬至は毎年少しずれるので、必ずしも各年の元旦が冬至とは限らない。　また、ユーマ暦で始めて週の概念ができた。２９は素数なので近い数値である２８で考えると７＊４で割れるため、１週間を７日とし、ソームの名を冠した。　日付の読み方は月が１２ヶ月になったため、月はアルミヴァの名で読まれるようになった。日については数字である。日本語よりも英語の読み方で考えるといいだろう。　＜イムル暦＞　イムル暦になるとふたたび太陽暦に代わった。太陰太陽暦は閏月を挿入するのが面倒で、年ごとの季節のずれが大きい。例えば日本の関東だと７月７日といえばたいてい曇っていて天の川が見えないとか、１１月２３日はよく晴れるといった規則性がある。これは太陽暦ならでは、太陰太陽暦ではこうはいかない。また、大月が何月に来るかも毎年異なり、閏月の挿入される月も毎回異なる。非常に複雑な暦であり、使いづらい。これを解消すべく、グレゴリオ暦と同じような太陽暦がイムルによって作られた。太陽暦自体は初期のメルティア暦と同じだが、一年中月も日もある暦なので、メルティア暦より進化している。　なお、イムル暦の読み方はユーマ暦と同じで、アルミヴァと数字で読まれた。例えば「セイネルスの２３日」というように。もちろん数字だけでもよく、１月２３日とも読んだ。　＜ユーマ暦とイムル暦の移行問題＞　太陰太陽暦のユーマ暦では１９太陽年に７回閏年を挿入した。これは２３５朔月が１９年太陽年にほぼ等しいことを利用している。１９太陽年は３６５．２４２１９４日×１９＝６９３９．６０１６８６日で、２３５朔望月は２９．５３０５８９日×２３５＝６９３９．６８８４１５日である。まったく同じ数値ではないため、約０．０９日ずれる。つまり、１９年につき０．０９日ほどずれが生じる。すると２１１年すなわち約２００年でおよそ１日のずれが生じることになる。　ユーマ暦は８０８０年も続いたため、当然改暦が繰り返された。時の王たちはキリのいい２００年に一度の周期で規則的に改暦を行った。最後に改暦されたのはユーマ８０００年である。さて残り８０年だが、１９年で閏月の調整が終わるため、８０００～８０７５年の７６年間でずれが調整される。この間に生じるずれはおよそ０．３６日で、約１／３日であるから、およそ８時間太陽年のほうが遅いことになる。　７６、７７、７８、７９年の４年間で平年は３回あり、閏月は１回入る。平年では太陽年３６５日に対して約－１１日、閏年は約＋１９年の差が生じる。７６～７９年で平年・平年・閏年・平年の組み合わせだと、－１１－１１＋１９－１１で約－１４日となる。８０００年は改暦を行って、冬至から最も近い朔を年始にしている。これはユーマ０年とほぼ同じである。ユーマ０年で年始とした「冬至から最も近い朔の日」ができるだけずれないよう２００年に一度改暦を行っているので、ユーマ８０００年の年始も「冬至から最も近い朔の日」になる。　ユーマ０年は西暦でいうと－７０８０年に当たる。－７０８０年における「冬至から最も近い朔の日」はグレゴリオ暦でいう１２月１４日に当たる。１５日の０時ちょうどの時点で現アシェルフィから観測すると月齢は０．１だからである。冬至は１２時に観測されるが、冬至から近い朔の日は昼に観測する合理的な理由がないため、日の改まる０時で測った。観測でなく「測った」といったのは、この時間アシェルフィから月が見えず、朔の月が太陽に程近いくじら座の周辺にいるためである。　ユーマ８０００年は西暦でいうと３２０年に相当する。ここが最後の改暦であるが、３２０年１２月１５日は０時の段階で月齢２７．１であるから、この日が年始ではない。１７日で２９．１、１８日で０．５となるため、朔になったのは１７日の昼ごろ。従って３２０年１２月１７日が改暦されたユーマ８０００年の始まりとなる。　ここから７６年経って８０７６年になると西暦３９６年であるが、８０７６年の空を見てみると、１２月１７日０時の段階で月齢２８．６、１８日で２９．６、１９日で０．９となっている。１７日でなく１８日が朔になるのは、比較に使っているグレゴリオ暦の閏年の影響である。ユーマ暦の中で見れば きちんと７６年で閏年のずれが解消されている。ユーマ８０７６年の始まりは西暦３９６年１２月１８日となる。　さて、上述のとおり７６、７７、７８、７９年の４年間で平年は３回あり、閏月は１回入り、８０８０年の年始は「冬至から最も近い朔の日」から見て－１４日となる。８０８０年、すなわち西暦４００年の「冬至から最も近い朔の日」はいつだろう。まず４００年１２月１８日の月齢が１４．８で、満月である。太陰太陽暦における閏月の挿入法は、「３６５日に対して１年が３５４日しかないので、ある期間で閏月を入れて補う」というもので、常に陽暦のほうが陰暦より進んでいる。従って４００年１２月１８日という陽暦は進んでいることになるため、この月齢１４．８を次の朔に進めるのではなく前の朔に戻すことで本当のユーマ８０８０年の年始がわかる。なお、「補う」という考え方に基づくと、７６～７９年の間で２回閏月が来ることはないと分かる。８０７６年で既に１９年サイクルは終えているので、８０７６年からまたずれのサイクルが再スタートする。にもかかわらずこの７６～７９年の間に閏年が２回来ることは計算上ありえない。平年２回の閏年２回だと－１１－１１＋１９＋１９で、正の値になってしまい、陰暦が陽暦を超えてしまうからである。　さて、月齢を戻していくと、１２月４日で０．８となる。４日の時点では既に朔になった後なので、朔を迎えるのは１２月３日である。この日の０時に月齢は２９．３となり、日中に朔を迎える。従って４００年１２月３日がユーマ８０８０年の年始である。　ではこの年の見かけ上の冬至はいつであったろうか。この時代は既にユーマの一族の時代であり、カコの時代である。神と違って既に宇宙空間に人は飛んでいけなくなった時代である。また、科学技術はアレイユに比べてまるで進化していない。そこで当時の冬至は南回帰線から見て１２時に太陽が天頂を通過する日で求められたことになる。そしてその日は西暦でいうと４００年１２月１８日である。ユーマ８０８０年の年始はグレゴリオでいう１２月３日だから、この年の冬至をユーマ暦にするとユーマ８０８０年１月１６日に当たる。　ユーマ暦は冬至を基準点とするため、イムル暦に移行する際に１２月３日を以って移行してしまうと、ユーマ暦最後の冬至がユーマ暦に含まれなくなってしまう。もともと太陰太陽暦は冬至から見て毎年１１日ほど足りなくなるのを補っていくので、１月中に冬至を迎えることが多かった。もし１月１日にイムル暦に移行した場合、８０８０年の冬至がなかったような錯覚を覚える。そこでユーマ暦に最後の冬至を与えるために、ユーマ８０８０年１月１６日を含んだ月、つまりこの年の１月をユーマ暦最後の月とした。そしてこの冬至が終わり、月が次の朔になった時点を以って完全に太陰太陽暦であるユーマ暦を終え、同時にイムル暦を始めることとした。さて、では西暦４００年１２月３日で朔を迎えた月は、いつ次の朔になるだろうか？アシェルフィから観測すると、西暦４０１年の１月１日である。１月１日に２８．８で、１月２日に０．１となる。１月１日の２０時３０分ごろにちょうど新月になるため、朔になる日は１月１日である。よってイムルはこの日を以ってイムル暦の紀元と定めた。すなわち西暦４０１年１月１日がイムル０年１月１日となる。　ところがイムル暦の運用をユーマ８０８０年に認可して公布した英雄アルシェが、その発表演説において「本日を以ってイムル１年１月１日とする」と国民の前で発言してしまった。セイネルスと言わなければ１ばかり並ぶ数であるというのと、物はふつう１から数えるものだという常識と、実際に世紀の場合は１から数えることなどが原因で、アルシェは年号も１年から始まるものだと誤解していた。大統領演説に相当する発言であったため、イムルは主君の恥を晒すわけにはいかず、イムル暦を１年から始めることにした。従って、唯一歴史上イムル暦のみが０年を持たないことになり、西暦４０１年１月１日がイムル１年１月１日となった。後にイムルは便宜上この紀元から３６６日（イムル０年は閏年なので）戻した日付をイムル０年の１月１日とした。従って、西暦４００年１月１日がイムル０年１月１日に当たる。

＜大月の位置・ミルサージュ・ディアセル・メルセルが見事に絡み合う配置＞　３６５日を３０日と３１日の月に分けると、３１日の月が５回来ることになる。これを太陰太陽暦の名残で小月と大月と呼ぶ。そして元旦から１月２月と始めて１２月まで続ける。大月の配置はグレゴリオ暦では１，３，５……月に配置され、規則性はない。一方、メルティア暦では奇数の月が小月で偶数が大月だった。ユーマ暦では天文学的な事情で不規則に大月が現れた。そしてイムル暦では大月は年の中に配置される。１～４月は３０日の小月で、５～９月の５ヶ月間が３１日の大月となる。年末の１０，１１，１２月は小月となるが、閏年の場合、１２月末日が３１日になる。　従って常に年の後半は１０、１１月のみが３０日になり、１０月３１日や１１月３１日は存在しなくなる。閏年の年は年の後半１０、１１月だけ３１日が存在しない。そこで多くの人が１０、１１月にも３１日が存在すると錯覚してしまう。特に１２月に例外的な閏日が来るので、その直前の１１月が一番勘違いしやすい。その心理を利用したのがミルサージュであり、１１月３０日と１２月１日の間の刹那をそのように呼ぶ。　ミルサージュとは元々現実のほうのメルが１９８８年１１月３０日の終わりに生まれ、母アルヴァノが１２月１日生まれと迷ったため、メルの誕生日をなかばおどけて１１月３１日としたことがきっかけで生まれた。そのエピソードはリーザからメルらに伝わった。実際セレンは当時暦に弱く、メルの誕生日を本当に１１月３１日だと思っていたときもある。そのミルサージュは明らかにグレゴリオ暦を元にしたエピソードなので困っていたが、このようにイムル暦のシステムを作れば、１１月３１日のミルサージュをイムル暦から説明でき、矛盾がなくなる。　実は大月を１年の中ごろに固めると、ミルサージュ以外に都合のいいことがでてくる。リディアの誕生日は１９８４年７月１９日で、この年は閏年なので、１月１日からの経過日数が２００日となる。すなわち７月１９日はこの年の２０１日目となる。さてこれをイムル暦にすると１５８４年の７月１日までに５，６月と２回大月があるため、７月

１日は１８３日目となる。すると２０１日目は１８日を経た１９日ということになり、リディアの誕生日は１５８４年７月１９日になり、グレゴリオ暦と一致する。　また、メルは１９８８年１１月３０日生まれで、この年の１１月３０日は１月１日から３３４日が経過している。従って１１月３０日は１月１日が年の１日目だとすると、３３５日目になる。イムル暦の１０月３０日は３０５日目であるから、１１月１日は３０６日目で、３３５日目は１１月３０日になる。ちょうどグレゴリオ暦と同じく１１月３０日になった。従ってメルセルはイムル１５８８年の１１月３０日である。なお、天文学的にもこの日は本初子午線を決める大事な日である。　ちなみにセレンは１９８１年２月４日で、元旦から３４日経過している。すなわち３５日目である。イムル暦の２月１日は３１日目であるから、セレンの誕生日はイムル１５８１年２月５日となる。{ただ、セレンにとって必要なのはディアセルとメルセルを合わせることであり、この２日がグレゴリオ暦と一致すればあとはどうでもよい}

＜μɑ との関連＞　アティーリの中でカコと μɑ は現実に基づいている。中でも μɑ は情報が豊富で新しく、具体的な日付の分かる出来事が元になっている。簡単にいえば、１９００年代後半のアシェットの歴史が元になっているので、できればイムル暦でも同じ日付になってほしい。ところが異世界なのにどちらの暦でも年始が１月１日になることなど到底ありえない。そう思ってメル ɟ0 年までずっとイムル暦の具体的な内容は決められておらず、なんとなく冬至を紀元とすると定められていた。　ところがよくよく天体を観測してみると、ちょうど４０１年の１月１日にアシェルフィで朔になる（眼では見えない）。ユーマ暦が太陰太陽暦だったと決まったので、これと合わせれば、地球と同じく１月１日を紀元とする暦を作れるのではないかと考えた。そこでイムル１年の元旦を地球の西暦４０１年の元旦に合わせた。もっとも、このころ地球はグレゴリオ暦でないので、４００年代のことだけいえばまるで役に立たない。　ところが実際上記 μɑ に使うのは１９００年代の話だけである。

１９８１年にセレンが生まれ、８４年にリディアが生まれたというような、主に１９００年代後半に使えればそれでよい。そして１９００年代後半は地球もグレゴリオ暦である。そう計算していくと西暦１９８４年はイムル１５８４年になる。　しかし１月１日が同じでも閏年の来るタイミングが違うのでずれが生じるのではないかと思うだろう。だがずれはない。なぜならグレゴリオ暦の計算だと４年に一度閏年があり、１００年に一度閏年がなく、４００年に一度閏年があるから、きっかり西暦と４００年ずれているイムル暦に閏年のずれはない。イムル暦を４００年ずらしたのは２００３年ごろのセレンの知恵だが、こんなところで役に立つとは思わなかった。当時はイムル暦は冬至スタートだったので、４００年のずれで閏年の差を解消しても大した意味はないと考えていたからだ。　{さて、というわけで今後 μɑ を書く際に非常に便利になった。なお、イムル１６００年は閏年でないが、西暦２０００年は閏年なので、２０００年以降はずれが生じる。しかし現実のアシェットでは２０００年を過ぎたころから徐々にメル暦を使い始めていたため、残っている記録はメル暦で記されていることが多い。なのでまったく問題がない。　１月１日がちょうど４０１年で朔になったのはセレンが操作できることではないからまったくの奇跡であるが、つくづくセレンは天文に恵まれていると思う。メル暦で１月が２８日なのも使徒が偶然２８人だったからで、２７だったら一週間が７にならないし、１年のあまりも大きい。２９でも同様だ。２８は奇跡的だ。４週あって１週が７日で、１３ヶ月で３６４日になってミュシェットが１日で済む。　もっと奇跡だと思ったのは天文のところで以前述べたとおり、１９８８年１１月３０日の０時にアシェルフィでアルデバランが南中する件だ。あれも極めて奇跡的である。そして今回のイムルーグレゴリオの紀元重複である。奇跡がここまで連続することがあるだろうか。しかしメルの誕生日も使徒の数も４０１年で朔になることもセレンがどうにかできることではない。}　＜メル暦＞　cɒɐl 1100 を過ぎ、１７世紀に入ると、アシェットが台頭した。イムル暦は月に大小があり、毎月の長さが異なる。ある特定の日付が何曜日であるかも毎年ずれる。これらを解消するために第７使徒メルは１月を使徒の数の２８日にし、１年を１３ヶ月とし、年末に月無しの１日ないし２日を組み込んだメル暦を考案した。これにより、１月の長さが均等で曜日と日付のずれない暦ができあがった。月めくり式のカレンダーは不要になり、曜日の概念さえもしばしば不要になった（とはいえ、エルヴァから次のエルヴァというような使い方を日常的にはするので曜日はまだまだ必要）。メル暦になると開始点がメル＝ケートイアの誕生日になった。メル暦は転生期まで使われ、最後の暦となった。

dɪlʃ,ɑu　ɟɪʃɪ　dɪl/lɪnʃcɟ「前の人」

dɪlʃɒcɥɔɟ　［哲学］祖霊崇拝、シャーマニズム　μɑ;/　ɟɲ

dɪlʃɒcɥɔɟɪn　［哲学］［魔法］［ジョブ］シャーマン　μɑ;/　ɟɲ

dɪlʃɪ　［動物］セイウチ　［レベル］4　ɪlɪʃɪ:dɪl は白

dɪlʃcɟ　［人名］パルティス　［組み数字］7 / 1 1　［レベル］3　古 :μcɑcɪ:dɪl ← dɪɪl（光）/ʃcɟ（人）。悪魔 dɪμʃ の dɪμ は太陽の dɪμ から来て結果的に光を表わす。　［文化］　アルシアの７番目。光の魔法の大成者。男性。

dɪlʃ　［動詞］ɥəl（場所など）を辿る、辿る、たどる、伝う、つたう　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :dɪlʃleʃʃɪ（後で行く）→ dɪlɒ と同根で、dɪl の意味が逆。　［用例］　lɔclɪn ɪlʃɪ dɪlʃ ɑɔnʃ le μɪlɪn jecn ləʃɪʃ. 人は先人の歩いた道を辿るものだ。

dɪlʃɔ　［名詞］車両、車輌、車体、乗り物→ ʃɔu　［レベル］4　μɑ;dɪlɪn/ʃɔu　ɟɲ

dɪlʃ,jzɑ　ɪʃl　dɪlɪl

dɪlleʃɟ　［哲学］ハインツのジレンマ　［レベル］6　μɑ:dɪɪl;dɪɪl/leʃɟ「パールのモラル」　ɟʔ:μcɑcɪ　［語法］［文化］　μɑ で正義論のパールが考えだした４段階のモラル。地球のハインツのジレンマとは少し異同がある。訳語はジレンマだが、それは元になった寓話がジレンマだったためで、アトラスではジレンマの寓話ではないため、ジレンマという形態素は造語に用いない。　dɪlleʃɟ は４段階からなる。段階が進むほど高次になる。パールは正義やモラルの完成形は信念の衝突しやすい第三段階ではなくウィンウィンな環境を作る第四段階にあると説いた。　第一段階 (ɥəlc) : 子供のモラル。個人の損得勘定を最優先する考え方。　第二段階 (ɒlʃl)。思春期のモラル。大人や本から与えられた法律や社会的慣習に則って判断するレベル。　第三段階 (jɔlɔɒɔn)。青年期のモラル。与えられた知識をそのまま自分の倫理にせず、獲得した知恵や経験をもとに自分の信念を築き、それに基いて判断するレベル。　第四段階 (ɒɪu)。大人のモラル。できるだけ多くのみんなが幸せになるようにはどうすればよいかという考えのもとに、自分の正義などに固執せず臨機応変に対応するレベル。

dɪlɟ　［生物］脈　［レベル］3　μɥəə: 古 : 英語の p u l s e が語源ではなく、「dɪɪl（パールが）/jɔ（する）」が語源。リュウが医者の真似事をしたときにパールが協力して看護婦の真似事をしたことから（具体的には注射を打った）。パールはこのとき血圧を測る役目を負っていた。そのことからリュウが動脈を dɪlɟ と名付けたという。新では単に脈。　［用例］　ɪɪb{cɟ}ʔ dɪlɟ 脈診する、脈を測る、脈を取る

dɪlɟɪ　［医療］動悸、鼓動、ビート← bɪnʃ　［名詞］（nɪ とともに）どきどきする、ドキドキする　［レベル］2　1ʔ: 制　［用例］　ɪn nɪʃ dɪlɟɪ dɪn ɔɒɪ φɪɪlcʔ μɔɒel. 犬がいきなり吠えたからドキドキした。　ɪn nɪʃ dɪlɟɪ dɪn nɪ nɪə. うれしさで胸がドキドキした。　dɪlɟɪ ɪnʃ eɒɪʃ μəəɑ ɒcl ʃə uɥʃ. その知らせに動悸が激しくなった。　nɔn nɪ jcl dɪlɟɪ ɪnnɥə. ドキドキします。

dɪlɟɥʔ　［生物］［医療］脈会　μɑ;/　ɟɲ

dɪlɟɪɪ　［動物］蛍　［類義語］ejʃɪ　［レベル］3　ɑu; 「絹のように淡く光る」　赤

dɪlɪn　［音楽］笛、フルート　［レベル］3　ɒelʃcɪ ɟL1:eɒclcɔ/ɒcɟʃc;e　lɪʃɪ（横笛限定？）

dɪlɪnʃləʃ　［俗語］笛なめ、笛舐め、ふえなめ　［類義語］elʃʃləʃ　［レベル］4　ɟʔ:ɒel/jeɥen: 久々におジャ魔女どれみナイショの８話の英語字幕版をメルが娘に翻訳しながら見て、セレンとメルが２人で爆笑して、やっぱりアルバザードだったら凪人もいるし、ありそうだなという決議になったため。このとき５人で見ていて、リディアは呆れ、ユルトは「ごはんくれ」と言っていた。　［文化］　主に小中学生のころに一部の天才が童貞力によって発明する妙技。車輪の再発明以上に頻繁に再発見されている。エロスはインスピレーションの根源であるというのがよく分かる。凪人＞アルバザード人＞ルティア人の順序でしがち。　地球では欧米圏ではあまりやられないので、メルはセレンが 1L 年ごろにアニメの動画で紹介するまで知らなかった。セレンは小中学校のころに知識として知っていたが、「好きな子の笛を舐めて臭かったら幻滅するだろう？そんなリスキーな挑戦できるか」というタイプだったので縁遠かったが、「男子アホやなぁ」と思って面白がってはいた。アルバザード人の倒錯度ならやるだろうということで ɟʔ に造語となった。

dɪlu　［形容詞］露骨な、あからさまな、顕著な、明らかな、率直な、婉曲でない、直截な、素直な、ストレートな　［反意語］ɪelʃ　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :dɪ（明るい）　［用例］　ɪuɒɔ dɪlu 露骨な態度

dɪluɥɪnʃ　［医療］正義性人格障害、正義性パーソナリティ障害　［レベル］5　ul;dɪɪl/ueɥɪnʃ　ɟʔ:ɒel　［語法］［文化］　強迫性人格障害の一種。クラスター C。　正義を第一の価値観とし、正義に背くものを許せないと固執してしまう人格障害のこと。

dɪlɑ　［普通動名詞］散歩　［動詞］ɥəl（場所）を散歩する、散歩する　［反意語］leʃl　［レベル］2　古 :dɪ lɑ ← dɪdɪləɥɪ/ɑəʃɔ（太陽を取る）　［語法］　日の出ているうちに公園などで寝そべったり散歩して安らぐこと。あるいはカフェの店先でぼーっとしたり談笑すること。幸せな時間の代名詞としてイメージされる。

dɪlɒ　［動詞］ɥəl を ɪ より優先する、優先する、優待する　［形容詞］優先された　［副詞］優先的に、優先して　［普通動名詞］優先、優待　［反意語］ɑɪlej　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :dɪlʃleʃʃɪ（先に行く）→ dɪlʃ と同根で、dɪl の意味が逆。　［用例］　ʃɪɪn ɪlʃɪ dɪlɒ ʃeel ɒcuɪ ɪ nɔc. 父親というのはどうしても息子より娘を可愛がってしまうものだ。

dɪlɒʃɪʃlɒ　［名詞］ページシステム方式　μɑ;dɪlɒeucʃɪ/ʃɪʃlɔlɒ　ɟɲ　［語法］　パラマストーナメント（ステップラダー）にダブルイリミネーション方式を組み合わせており、敗者復活でも優勝できる可能性を持つ変則的な方式のこと。

dɪlɒɟʃlcʃ　［名詞］優先席　［名詞］シード、シード席、シード権　μɑ;/　ɟɲ　［語法］［文化］　電車やバスなどに老人用の優先席はない。アルバザードではそもそも全席が優先席であり、老人や怪我人などが優先的に座れる。国民性からして座っている元気な者が率先して席を譲るため、優先席を設ける必要がそもそもない。　また、日本語と違い、アルカの優先席は映画館のＳ席のように有料でより良い席で優先優遇される席という意味も持つ。ふたつの意味があるので注意。

dɪlɒeucʃɪ　［名詞］パラマストーナメント、ステップラダー　［レベル］6　μɑ;/。あるチームが徹底的に優先されるため。　ɟɲ

dɪlɑ　［電算］デジタル　［反意語］ɪldɪ　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :dɪlɪlɪ

dɪld　［植物］ポプラ　［レベル］4　lɪʃɪ　参考 :jɔμn:ɪldɪj

dɪlμɪ　［アトラスの国家］パルラ　［レベル］5　1L:μcɑcɪ:「太陽の住む家」

dɪlz　［被服］タイツ　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :dɪdɪzɪɒɔn（白い棒）。元はバレエをやる少女の脚を指した。白いタイツを履いた彼女達の脚が白い棒のようにみえ。そこからタイツになった。

dɪlzeʃ　［運動］バレエ　［レベル］3　μɑ;/　ɟɲ に登録だが、紫亞が小さいころバレエをやりたがって親がやらせようかと考えたときにセレンかリディアがこれを造語しているので、実際にはもっと古い。

dɪlɪ　［名詞］伏線、複線　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :dɪl（未来、後で）

dɪlɪ,ɑu　dɪnɔ　dɪdɪləɥɪ.ɑμcɟ

dɪlɪɟ　［美容］てかり　［動詞］ɥəl をてかりをする、てかる　［レベル］3　ɟ1: 古 dɪɪl/ 古 ɟɔ

dɪlɪn,ljɑ　dɪn　dɪlɪɒeɔlcɪ,ɑu.lcʃ

dɪlɪɒeɔlcɪ,ɑu　dɪn　dɪlɪ/ɒeɔlcɪ

dɪlɪb,zφ　ɟɪɟɪb　dɪl/jɪbe

dɪlɪlɪ,ɑ　ɪlʃl　e

dɪlc,ɪlʃ　ɪlʃe「芽吹くとき」

dɪlcɑ　［天文］恒星　［レベル］4　ɟ0:dɪ（光る）/lccɑɪ

dɪlcɑɔʃɪs　［天文］恒星間宇宙船　ɟ1

dɪlcɑeμn　［天文］恒星系　［レベル］5　ɟʔ

dɪle　［料理］豆腐　［メタファー］発泡スチロール　［レベル］3　jɒ;ɪlʃ ＜ dɪn,ɪlʃ.l　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ ←制 :dɪl（白）/hepd　［文化］　アルバザード風の豆腐は lepd。アルティアのものは dɪle。ほとんど変わらない。アルバザードのものは具が入っていたり味が洋風だったりするものがある。

dɪleʃ　［数学］［電算］数値、値　［類義語］ɪlʃl　［レベル］2　ɟ1: 古 dɪlɪlɪ/ʃe　［用例］　dɪleʃ jɔμ 大きな値

dɪlə,ɪlʃ　ɒɪnɟ　dɪ は芽吹く音。

dɪləɔɪ　［被服］ホーズ。jɒ ごろの貴族が履いた白い靴下のこと。　jɒ;dɪl/ləɪ「白い足」　ɟɲ

dɪləe　［名詞］ひだまり、日だまり　［類義語］ɑɥdleʃ　［レベル］3　1L:dɪləe ← dɪlɑe ← dɪμ/elɑe（制「太陽」＋泉）　［用例］　☆ leʃ jccnɪ ɒɔʔ dɔʃ dɪləe. 猫はひだまりで寝るのが好きだ：語源が elɑe であることから、格詞は ejl と違って ɒɔl ではなく、dɔʃ を取る。

dɪləe(J)　［名前］ぱるえ、ひだまり　1Lϐ　［文化］『ねこにっき』の猫。

dɪɪʃ　［名詞］光線、レイ　［レベル］3　1ʔ: 制 :dɪɪnʃ（光の線）

dɪɪl　［動詞］ɥəl の良いところを見る　［反意語］euɔn　［レベル］3　古 :dɪɪl　［成句］　dɪɪlɪn nɔl dɪɪlɪn ɪ nɔj 類は友を呼ぶ

dɪɪj　［動詞］ɥəl を照らす、照らす　［レベル］3　1ʔ: 制 : 光をする

dɪɪn　［名詞］灯台　［レベル］3　1ʔ: 制 :dɪɪhɪnɔc

dɪɪu　［単位］パーヴ、リルクス　［レベル］5　古 : 元は dɪɪucuʃ「光の強さ」。メルが小さい頃に英語の p e r v , p e r v e（変態）と音が似ていて言いづらいと言っていて、最近まで dɪɪuc uc は通用する形として残っていた。　［文化］　1 モープの光度を持つ等方性の点光源から 1 メルフィ離れた場所における光の強さのこと。ルクスと比較。

dɪɪp,ɑ　uɪjn　dɪ は光。

dɪɪl　［組み数字］1 0 / 2 8　［交通］パール通り　［名詞］パール組。アルナ大のクラス。　［レベル］2　ɟl

dɪɪl,ɑ　ɑɪμ、ɑcμ　dɪ/ɪl

dɪɪl ccləəʃɔ　［人名］パール＝イールゥート　［組み数字］1 0 / 2 8　［レベル］2　古 : パールは語源不詳。古アルカでの意味は「光」ɟ(dɪɪl ＝ dɪ（光る）/ɪl（物）。以前は dɪɪləə' だったが、メル・アルカでソーンアルカと融合したことがきっかけでアクセントが移動し、dɪɪ にかけてアクセントがくるようになった。当時、強弱アクセント重視だったこともあり、それ以降、急激にアクセントのない ləə の音節の存在が弱まっていった。但し、l の音が消えては意義素である ɪl（物）が消えてしまうので l は残り、dɪɪl となった。制アルカ以降 dɪɪl が公式名で良いかとの質問に対し彼女は肯った。イールゥートは『カコ』から。　［文化］　(ʃcɑ ϥ ɑcɪ nen →) 第４期４代アルシェ第１０使徒。女性。dɪɪyə/ɪɒɒɪ。　1 6 7 c m、 5 4 k g。髪は黒で背中まで届き、少しくせっ毛。青の瞳。肌は褐色。　・『ミールの書』より　　彼女はセレンより長い髪を赤いリボンで結わいてポニーテールにしている青い瞳の女性だった。首には金の首輪をしている。肌はやや浅黒く、黒人と白人の混血児だと思われる。年齢はセレンらと同じ頃だと思われる。体格はスレンダーで、美しい。そして目つきはフルミネアとは違ったタイプの厳しさをしている。　↑これもセレンは当時アラブ人と黒人の区別がついていなかったため。　［成句］　ɪlɪn dɪɪl eʃ dɪɪl dɪɪl cɒ ʃɔʔ 助手のパールは同時にお母さんのパール：良妻賢母

dɪɪlɔlʃ　［天文］リギルケンタウルス　1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel　［文化］　パールの投げた首輪を象徴する星。ledʃɔɔl 参照。

dɪc　［俗語］胸、おっぱい、ぱいぱい、パイパイ、パイ、ぱい有ーる二乗、二ぱい有ーる　［類義語］ɒɪɒ　［レベル］3　ɟʔ: 膨らんだオノマトペに「両方」の cɔ から。

dɪcʃcld　［俗語］パイスラッシュ、パイスラ、π／　［レベル］6　ɟʔ　［語法］［文化］　女子がカバンをたすきがけにすると胸が強調される。そのときたすきがけした部分がスラッシュに見えることから。

dɪcb　［名詞］カーテン　［レベル］3　1ʔ: 制 :dɪcɪbe（闇を作る布）　［用例］　ɪn hɔɒɪʃ dɪcb ɔ ʃeɒɟ. カーテンを引いて窓を開けた。

dɪcbʃɪɑ　［地球の国名］セルビア　1L: 国章がカーテンに見える

dɪɔ　［地学］［動物］真珠、パール　［レベル］3　1ʔ: 制 :lɪʃɪ:dɪφe（白く丸いもの）

dɪe　［名詞］ニス、シェラックニス、ワニス　［レベル］3　lɪʃɪ: 光らせる水

dc(J),ɪlʃ　ʃɔ

dc,ɑ　dcl、dcnɑ　ɑɪcɪ

dc,ɪlʃ　dcnɑ

dcʃ　［名詞］種、種類　［類義語］ncɒ　［反意語］ʃeμ　［レベル］2　1ʔ:jɔμn:dɪʃdɪʃ は「とんとん」というオノマトペで、料理の篩を叩くときなどに使うそうで、この篩というところから分ける・見分ける・区別という意味もできたらしい。今回は更に「区別」という意味から、「種類」という語義を意図的に派生させた。　［用例］　dcʃ ɑcnɒɒ 様々な種類

dcʃʃɪnʃɔɪ　［魔法］種殻　［レベル］5　ɟ1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

dcʃʃe　［形容詞］こっけいな、滑稽な、おかしな、笑いを誘うような、ばかげた、馬鹿げた　［レベル］4　ɟ0:ɒelcɑcɪ lceμ:dceʃ/ʃe

dcɟ　［環境］汚染　［レベル］4　1ʔ: 制 :jɪɑ:dcʃcɟ「毒にする」

dcɒ　［生物］肝臓、レバー　［レベル］3　1L:dcɒ:1ʔ: 制 :dcʃcɒɪc（毒を（解毒する）身体部位）　［文化］　肝臓が悪いと怒りやすくなり、精神が不安定になると考えられている。そのため、気分が宿るとされている。ちなみに、感情が宿るのは腸。　［成句］　ʃcl dcɒ 肝臓を持つ。気分が安定している　jc dcɒ 肝臓がない。イライラしたり躁鬱になったりしている　ʃcl{nɪ} ɪnc ɔn

dcʃɒ. ʃcl dcʃɒ ɪnc ぐったりする

dcʃɒuclʝ ［化学］バリン ［レベル］6 1L ［文化］ μɑ でリュウがレバーから発見した。

dcʃɒuɔʎn ［生物］肝細胞 μʃ;/ ʃʃʃ

dcʃɒɪcz ［医療］肝炎 ［レベル］4 1L

dcʃɒdcφ ［医療］肝がん ［レベル］5 1L

dcʃɒscɔμ ［生物］肝兪、肝愈 ［レベル］6 ʃ1

dcʃɒleun ［医療］肝臓病 ［レベル］5 ʃ0

dcʃɒeʃ ［音楽］オカリナ ［レベル］3 ʃ1: 肝臓に形が似ていることから

dcʃl ［医療］中毒 ［類義語］ɑcɹɒɪcn ［レベル］4 1ʔ: 制 :dcʃc ［語法］ 依存という意味の中毒ではないので、ɑcɹɒɪcn と区別すること。

dcʃɪ ［医療］薬 ［類義語］cl ［反意語］ɥɪɥə ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :dɥəʃɹ。因みに毒は ɥɪɥə。 dɥəʃ ɹ:dɥəʃ ［成句］ dcʃɪ μɪʎ eɒ jen ɥɪɥə 過ぎたるは猶お及ばざるがごとし、薬も過ぎれば毒となる dcʃɪ μɪʃ eʃ φɥə 良薬は口に苦し ［用例］ ʎen dcʃɪ 薬を飲む。生薬なら ʎəc の場合も。

dcʃɪɹɪdɒɑɪcz ［医療］薬剤性肺炎 1L:jeɹen

dcʃɪuenʃ ［医療］製薬会社 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

dcʃɒɪɹ ［医療］処方箋 ［レベル］3 ʃ0

dcʃɪɥɪɒdcʃɒ ［医療］薬剤性肝炎 ［レベル］6 1L

dcʃɪlɪɑ ［医療］製薬 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

dcʃɔɪ ［魔法］修験道 ɪlʃ ʃʃʃ

dcʃɔc ［ジョブ］修験者 ɪlʃ ʃʃʃ

dcʎʃ ［普通動名詞］言い訳 ［動詞］ɥəl という言い訳を ɪ にする、言い訳する ［レベル］3 1ʃʃ: 制 :jɹɑ:d ciə（理由を言う）［語法］ 日本語と違い、必ずしもネガティブなイメージはない。必要な言い訳はすべきという考えがあるため。悪い意味の言い訳と限定したい場合は ɹjɒ ɪl ɪleɑ。

dcʎɪ ［地名］ピッカ ［レベル］5 1ʔ: 制 :dcʎɪe（手品）から。 ［文化］ ソーンの使徒ヴィッシュの支配地。

dcʎɪ(J) ［アトラスの国家］ピッカ ［レベル］5 制

dcʎɔ ［名詞］ピッコ。男のリースのうち、大人しいもの。 ［レベル］2 J0:μcɑcɪ:dcʎɪe ［文化］ 典型的には、大人しく気弱で家庭的で優しい軟弱な男性。

dcʎɔɒcn ［俗語］僕っ娘、ボクっ娘 ［レベル］4 μɑ:/ ［文化］ 自分を ɒen と呼ぶような女子のこと。

dcʎɪe ［サール］ピッケト歳程度の少年の姿をしたサール ［名詞］手品 ［qɥeɑʃ］（男の）ガキ：ɒcbɪ と違って悪気はない ［レベル］3 0 年 :μcɑcɪ ［文化］ 5 歳程度の少年の姿をしたサール。耳が尖っていて、八重歯がある。布の簡素な服を着ている。顔は可愛い。性格はやんちゃで、人を驚かせることを好む。悪さはしない。魔力は弱く。手品程度のことしかできない。

dcʎɪel jɔə ［娯楽］ぴっけるくん ʃ1 ［文化］『クレヨンしんちゃん』に相当するアニメ。

dcʎɪejʎ ［アトラスの国家］ピカレスク ［レベル］5 ʃʔ:μcɑcɪ

dcɔʃʃe ［形容詞］軟弱な、脆弱な、弱い ［文字］ライト ［類義語］cun ［レベル］3 ʃ1:dcʎɔ/ʃe

dcɔɔl ［名詞］男の子、少年 ［類義語］ucʎ ［反意語］lclcɪ ［レベル］3 J0:ɒcla:lclcɪ に対して造語。dcʎɔ/ 古 ɪl（もの）［語法］ ɪlɑcɪn と ɪlɪɪz の総称。

dcl ［動詞］ɥəl を ɪ（床や目標など）に転がす、転がす、転がる ［レベル］2 1L:dclʎ:ʔ9: 制 :jɔμn 参考：古 :φeʎc（円）。確か中期では dcl だったような気が。 ［用例］ ɪn dclɪʃ hɪl ɹɪe ʎɔnʃ ɑɪlej hɪʃn. 友達と抱き合って雪の中を転げ回った。

dclφeʎ ［運動］ボーリング ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʎʃ ［文化］ テニスと同じ扱い。プロもいる。ルールもほぼ同じ。

dclce ［料理］蜂蜜、ハニー、はちみつ ［レベル］2 J0:ɥəlʃ:cɒdclce:ʔ: 制 : ハチの蜜。cɒdclce と言いたいようで言えてなかったことから。蜂蜜が文化的に重要なのでリディアが略語を正式に採用した。ユルトの初の造語。 ［文化］ 糖の中ではほぼ唯一体を温め、かつ虫歯にもなりにくいため、アルバザードでは砂糖の代わりに推奨されている。ただし、非加熱なので病原菌が微量に混在している可能性があるため、乳幼児には与えない。ユルトとルシアには 2 歳 4 ヶ月ごろから与えた。

dcj ［植物］とげ、トゲ、棘 ［メタファー］気の強さ、怒らせると怖い性格 ［レベル］2 1L:dcnenɪ: 音象徴 ［成句］ ɥənʎ ʎɒccμ ʃcl dcj. クミール嬢には棘がある：綺麗なバラには棘がある :1L:dc nenɪ

dcjɪʎ ［植物］［料理］こうじ、麹 ［レベル］5 1ʔ: 制 :dcjʃ（米）

dcjʎeʃɔcɪ ［アトラスの国家］ピスケトイア ［レベル］4 ʃʔ:μcɑcɪ

dcjlɔɔb ［被服］ハンチング、ハンチング帽 μʃ;/ ʃʃʃ

dcjcɑɪl ［生物］刺胞動物門 ʃʃ

dcjcz ［名詞］伝言板、告知板、告知、伝言、クリップボード、黒板 ［電算］クリップボード ［レベル］3 μɑ;dcnɑ/jcz「針を刺された板」 ʃʃ ［用例］ ʎlʎ ɪ dcjcz クリップボードにコピーする

dcn ［文頭純詞］但し、ただし ［レベル］1 古 :dcnʃ とがったもの、針 」。アンシャンテで共有板に自由に張れる伝言版の外枠によく補足事項を載せておいたが、それを留めている部分を dcn（針）と呼んだことから。dcn は英語ではなく、音象徴。 ［用例］ dcn ʃə eʃ ɪɑeʃ ɪl eμɑe hɔʃ. ただしイケメンに限る。

dcn(J) ［人名］ピネナの略称 ［組み数字］2 5 / 2 8 ［レベル］1 制

dcn,ɑ ［格詞］［文頭純詞］dɪn、dcl、ɪlɒɪn elʃ;dc 理由を「針で止めておく→釘付けにしておくもの」になぞらえたメタファーから 赤：語源同上

dcnʃ ［名詞］きっかけ ［動詞］ɥəl というきっかけを ɪ に与える、尻を蹴る、背中を押す ［レベル］3 古：背中を指先でつんと押すときのオノマトペ。

dcnʎ ［化学］シアン ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:dcnφ ［語法］ 色のシアンは ɪuɪnʎ。 ［文化］ μɑ において、アルバザードの伝統酒であるビールとワインをセレンは嫌った。厳密に言えば温めたビールは飲めるが味が嫌いで、インサール式の冷やしたビールは腹を冷やすので嫌いだった。また、ワインは胃酸を分泌するので胃の弱いセレンは苦手だった。 そこで代替酒としてセレンはラムや果実酒を好んだ。インサールから入っていた梅酒をセレンは好んだため、リディアはセレンのために梅を集めて砂糖瓶に漬けておいた。リュウは台所に転がっていた梅を使って分析したところ、梅の毒素としてシアン化水素が含まれているのに気づき、シアンを dcnφ から派生させた。

dcnʎhɔə ［化学］シアン酸塩、シアネート 1L

dcnʎɪʝl ［化学］シアン酸 1L

dcnʝ ［名詞］ヒント ［レベル］3 J0:ɒelcɑcɪ lceμ:dcnʃ/μenʝ

dcnueμɪnʃ ［医療］シゾイドパーソナリティ障害、統合失調質パーソナリティ障害、シゾイド人格障害、統合失調質人格障害 ［レベル］5 ul;dcnenɪ/ueμɪnʃ ʃʔ:jeμen/ɒel

dcnɑ ［名詞］針、ニードル ［言語］［文字］セリフ。セリフ書体は ɔlcucɪ。 ［類義語］ɔlcucɪn ［レベル］2 1ʔ: 制 :lʎlɪ:dcn（針）「 とがったもの 」 dc:dcn::dc,ɪlʃ ［用例］ dcnɑ dcl 鋭い針

dcnɑlɪɒʃ ［動物］ハリネズミ ［美容］スパイキー ［レベル］4 ʃ1

dcnɑncʎɪel ［動物］ハリセンボン ［レベル］4 ʃ1: 針河豚

dcnɑɑμeɪɑɔl ［地学］針鉄鉱 1L

dcnɑc ［植物］イラクサ、ネトル ［レベル］6 1ʎ: 制

dcnφ ［植物］梅 ［レベル］3 ɪlʎlɪ: バラ / 丸 ［文化］ 美しい花として植えられるが、元はといえば μɑ で輸入酒でなく国産酒として梅酒を作るためにたくさん植えられた。

dcnφcɑɪl ［生物］棘皮動物門 ʃʃ

dcnɪ ［名詞］約束、誓い、契約、誓約 ［動詞］ɥəl を ɪ に約束する、約束する、誓う ［類義語］μɪuen、ʃμɪnʃ ［レベル］2 ɑ;dc/nɪ「命を貫く」 古：ソーンの使徒ピネナの名と混同したことからセレンが後期に dcnɪ を dclɔ に変えたが、少しも広まらなかったので、dcnɪ を再び採用した。 ［文化］ dcnɪ は p r o m i s e より重い意味を持つ。日本語の約束より重い意味を持つ。dcnɪ は古アルカ語源だが、古アルカの dcnɪ はというと、元の形が後第一改定アルカから前クミール・アルカの間にできた dcdcnɪ であった。これは nɪ が「心」でなく「命（或いは心臓）」であった頃の意味であるから、「命を貫く」という意味であった。この語形はあまり長く生きず、中期アルカの始め頃には既に dcnɪ に短縮されていた。短縮の大きな原因は dcnɪ という語形の語彙が無かったため、合理性を優先させたことによると思われる。dcnɪ は「命を貫く」という意味だったが、これは「仮に破ったとしたら命を貫く＝死なねばならない」という意味が出所であった。このことを見ても解かる通り、dcnɪ は約束より遥かに意味が重い。このことは文化にも大きな影響を与えている。約束を破ることは非人道的であり、人格が破綻しているとさえ取られる。その為、約束を守れなくなることと破ることをきっぱりと区別する。前者はやむを得ない理由によるならば仕方がないという見方をされるが、後者はいけない。また、以上の性質から、dcnɪ は約束よりも遥かに頻度が少ない。小さなことでは dcnɪ することはない。例えば子供に「おかし買って」とせがまれて「明日な」と答えたところ子供に「わーい、本当？」と言われ、「ああ、約束だ」と返すことは不適である。また、dcnɪ は見通しが利かないことには適応されない。約束する内容が可能であると確信していることでないと dcnɪ とはいえない。見通しが効かず、上手くいくかどうかわからない事について約束するということ自体がそもそも不貞であるとみなされる。約束は他人を信頼させ、安心させる効果がある。なのに約束した本人が上手くいく確信がないのでは、約束という言葉の価値が薄れてしまう。それを防ぐ為にも確信がないことに dcnɪ することはない。 ［成句］ dcnɪ eʃ dcnɪ ɑɪ. 約束は約束だ。 ［用例］ ɪn dcnɪʃ nɔʝ ɪlʃ jcl hɪʃn cɒ ʎlɪzɪʝ. 6 時に友達と会うことになっている。 hɪcn{uecφ} dcnɪ 約束を守る｛破る｝ dcnɪ ɪ lɔʎ 約束を交わす dcnɪ lɔʎ{ ɪnʃeʝ} 交わした約束

dcnɪɑəʃ ［経済］信用取引 1L

dcnɪɒel ［名詞］約束の時間 ［レベル］3 ʃ1

dcnɪɪlɪn ［政治］社会契約説に相当 1L ［文化］ 社会は自然状態から国家と国民間の契約にシフトすることでできているという考え。ナディアで確立。

dcnɔ ［地学］地理 ［レベル］4 1ʔ: 制 :jɔμn:dcnenɪlec（ピネナの学問）。ここでの lec は本でなく学問を表わす。

dcnɔ uɪlɔ ［人名］ピノ＝ヴァロ ［レベル］5 古：右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第 1 1 使徒。異性魔王。

dcnɔh ［魔物］ピノー（針亀）：第三十天：土の幻天 ［レベル］5 古 :dcnɔh ← dcn/hɔh（針亀）［文化］ 爬族。巨大な亀。甲羅が太い角だらけで、針山のようになっている。噛みつかれると千切れるまで離さない。窮地になると頭を甲羅に隠す。

dcnɔl ［地学］孔雀石 1L:dcnɔh/nɔl ［文化］ 魔族ピノーの甲羅の一部は孔雀石でできている。孔雀石は魔石で、冷気魔法を完全に防ぐ効果がある。ピノーは亀だから、孔雀石のおかげで寒い地方でも暮らせる。従ってピノーを倒す際は孔雀石を突き刺し、冷気魔法を放つのが定石。

dcneneɪ ［組み数字］2 5 / 2 8 ［交通］ピネナ通り ［レベル］2 ʃʃ

dcneneɪ uɪlɔ ［人名］ピネナ＝ヴァロ ［組み数字］2 5 / 2 8 ［レベル］2 古：語源不詳。uɪlɔ は「あの頭 」［文化］ → dcnueμɪnʃ（J →） 第 4 期 4 代ソーン第 1 1 使徒。男性。ɔlaeμs/ɥəəl。1 6 5 c m、5 2 k g。亜麻色の肩までのウェービーな髪。ヘーゼルの瞳。肌は白：黄＝ 7 : 3。 ラヴァと並ぶソーンのブレイン。細身で女性のよう。実際セレンはしばらく女性と勘違いしていた時期がある。リュウの友人でありライバルでもある。 ・『ミールの書』より 部屋の主はメルに気付くと「あれ、メルちゃんじゃない。いらっしゃい」とにこやかに言った。その者の格好は中性的であり、声もまた中性的であった。ミールは始め彼を女性だと思ったが、どうやらそれは誤りのようだった。 「ピネナさん、こんにちは」 メルは今まであったものを大抵、兄か姉のように呼んでいたが、彼については違った。ピネナの髪は肩まで来ていた。ゆったりとウェーブがかかっていて、どこかアッシュのものを思い出す。座っているので背丈は解からないが、小柄ではあるようだ。年の頃はクミールらと同じであろう。「ゆっくりしていってよ、あまり相手はできないと思うけれども」 彼はノートパソコンを操っている。部屋は汚れているが、彼のコンピューターは動いているようだ。 「ピネナさん、この子がミールちゃんです」 するとピネナはちらりとミールを見て「そう、この子がクミールの。なるほどね。私はピネナ。よろしくね、ミールちゃん」 ミールはぺこりとお辞儀をする。どうやら彼もミールについて事前に何かを聞いていたようだ。彼は振る舞い方も中性的であった。

dcɒ ［名詞］錐、すい ［動詞］ɥəl を ɪ に突っ込ませる、突っ込む、突入する、突撃する ［レベル］3 古 :dcɒ。dc は「尖った」［成句］ dcɒ ɪ μɪ ʃ^ɪɑel アデルの巣に突っ込む：千客万来。日本語は来るで、アルカは行く。

dcɒlɪʎɪ ［地学］円錐図法 ［レベル］5 1L

dcɑɥə ［化学］リシン、リチン ［レベル］6 ʃ1:dcɑcʝ/ɥɪɥə（唐胡麻の毒）［文化］ トウゴマに含まれる猛毒成分。

dcɑl ［植物］クリ、栗 ［美容］ボブ、おかっぱ ［レベル］3 ɑu;<>dc lɪʎlɪ: 針 / 茶色を崩してできた dcɑl:dcɑl ［文化］ 秋に甘栗として食べられる。袋に量り売りで買ってきて、手で自分でむいて食べる。

dcɑlncɪ ［美容］ツンツンした髪 ［レベル］3 1L

dcɑlbɪʃʃɔ ［アイテム］モーニングスター、モルゲンシュテルン ɹɒ;/「栗メイス」 ʃʃʃ

dcɑloɪɪl ［アイテム］モーニングスターフレイル ɹɒ;/ ʃʃʃ

dcɑc ［植物］山椒、サンショ、サンショウ、ハジカミ ［レベル］4 ɹɒ;ɪlʃ。食べたとき「ぴりっ」とするが、そのオノマトペの dcɑc から。 ʃʃ

dcɑcʝ ［植物］トウゴマ、唐胡麻、ヒマ、蓖麻 ［レベル］6 ʃ1: 古 dc、制 dcnɑ。果実の出っ張りが刺々しく見えるため。 ［文化］ ひまし油の原料。有毒物質リシンを含む。

dcɑcjeɒʝ ［料理］ひましゆ、ヒマシ油、蓖麻子油 ［レベル］5 ʃ1 ［文化］ 石鹸や潤滑油など、主に工業用途に使われる。摂取すると下痢を起こすことがある。

dcφ ［医療］がん、癌、ガン、キャンサー ［レベル］3 ʃu;e lɪʎlɪ ［文化］ uɪcn ʃɒ で既に見つけられていた。

dcφɥɪɪʃʃ ［感動詞］ぴぎゃー、ピギャー ［名詞］ギャン泣き ［レベル］1 1Δ:μcɑcɪ: 紫亞の泣き声を模写したもの。

dcφl ［動詞］ɥəl を鍛造する、鍛造する ［普通動名詞］鍛造 ［レベル］5 μɑ; ↓ 1ʔ: 制 :lʎlɪ:dcφʝ（剣 / 金属 / する）

dcd ［動詞］ɥəl を ɪ に投げる、投げる ［レベル］2 ɑ;ɑɔueʃ lʎlɪ:dcd（投げる）。投げたとき手からものが離れる際のオノマトペ。 dcd:dcd ［成句］ dcd ɑɔl ɪl elʃɔɪ cʃ ɪμbɪzɪμɑ アルバザードからエルトアに石を投げる：二階から目薬 ［用例］ dcd φeʎ ボールを投げる

dcdɑɪcʎ ［軍事］手榴弾 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ

dcddc,ɑ ［名詞］dɪn、jɪnse、理由。接続詞的に使うのではなく「理由」という名詞。 elʃ;dcn/dcn 赤

dcdl ［死神］ピプル ［レベル］3 μcɑcɪ: 古。ʃ1 までサール。 ［文化］ 醜い小鬼のような姿で、夜寝ている人の足を引っ張ってセレスを引き抜いて殺す。ピプルに引っ張られないようにするには布団を足までしっかりかけていること。足を出して寝ていると引っ張られる。頭寒足熱を徹底させるために謳ったもの。

dcdlɪʃ ［動詞］ɥəl を ɪ に投げ入れる、投げ入れる、投入する ［レベル］3 1ʔ: 制 : 投げ入れる

dcdɪn ［名詞］投手、投げ手 ［野球］投手、ピッチャー ［レベル］3 ɑu;/ | ul ʃʔ

dcdc ［婉曲］セックス ［動詞］ɥəl とセックスする、セックスする ［レベル］4 古 :dcdc（刺す）

dcdc,ɑ ʃɔe dc/dc

dcɥɔ ［幼児］［植物］ひよこ、ヒヨコ ［メタファー］あどけなくて可愛いもの ［メタファー］［動詞］ɥəl を ɪ にほざく、ほざく、口走る、くちばしる、さえずる、囀る ［類義語］hɪɒ ［レベル］2 1L: オノマトペ ［語法］ hɪɒ ［文化］ 黄色くて可愛いものとして捉えられ、幼児や子供に譬えられる。

dcɥɔlɔʎɔ ［言語］ぴよ語 ［レベル］2 J0 ［文化］ 「みゅ？」「み？」「ぴよ？」「にゅー」「にゃー」「にゃん」など、動物の鳴き声を模した言葉で、たいてい文末純詞や感動詞として使われる。アルバレンにもともと存在しなかった言葉だが、リディアがこういった動物の口真似をしていったことからできた。それを聞いたセレンが可愛いと感じ、アルカに取り入れた。和みなどを示す効果がある。

dcɥɔn,jzl ɩəoɪ、zɪɒ

dcɥɔnʎlɪfeʃelʃlɪn ［生物］［医療］足陽明胃経 jzl;/ ʃʃʃ

dcɥɔnalɪueμɒcʝʃlɪn ［生物］［医療］足太陽膀胱経 jzl;/ ʃʃʃ

dcɥɔnɒyəleʃlɪlɔɪlɪn ［生物］［医療］足厥陰肝経 jzl;/ ʃʃʃ

dcɥɔnɒel ［歴史］現代、il_ls ［レベル］4 ʃ1 ［語法］ ɒcμɒel

dcɥɔnlɪɪleɪμʃlɪn ［生物］［医療］足少陰腎経 jzl;/ ʃʃʃ

dcɥɔnlelcɪleɪnʎlɪn ［生物］［医療］足少陽胆経 jzl;/ ʃʃʃ

dcɥɔnɪlseucɒɪnʎɪn ［生物］［医療］足太陰脾経 jzl;/ ʃʃʃ

d

dcɥɔdɔɥɔcnl ［娯楽］ぴよぽよ交差点 ʃ1 ［文化］『らんま２分の１』に相当するアニメ。ぴよが女主人公で、ぽよが男主人公となる。

dcɥɔɥenɟ ［名詞］［ネガティブ］((fcl) おしゃべりな ［類義語］ɑcɪɥenɟ ［レベル］3 J0:ɒelcɑcɪ lceɥ: ひよこの口

dcɥ ［名詞］広告、宣伝、ＣＭ、コマーシャル ［動詞］ɥel を ɪ に宣伝する ［レベル］3 1ʔ: 制 : 恣意 ［用例］ dcɥ e ſecl eſ bɪn. テレビコマーシャルは面白い。

dcl ［形容詞］鋭い、鋭敏な、尖った、敏感な、センシティブな、多感な、尖る、過敏な、鋭利な ［接辞］複合語中ではしばしば「過敏」の意味で使われる。 ［反意語］jccd ［レベル］2 J0:dcɑſ: 古 dc::ɔlcɪ:dclə,ɪlſ ［文化］ ɪnuɥɥſ ［用例］ ［メタファー］dcl ɥən dcnɑ 針のように尖った ［用例］ ɪn eſ dcl ɪ hɪɹſ{ɔɥſ}. 私は暑がりだ｛寒がりだ｝

dclſcl ［数学］鋭角 ［レベル］4 J0

dcſl ［植物］木苺、ラズベリー ［婉曲］クリトリス。形や色が似ていることから。 ［レベル］3 1ʔ:jeɥen:ɪlel:dcnɒelcl

dclɑcɔ ［医療］知覚過敏 ［レベル］4 J0

dcld ［動詞］ɥel をからかう、からかう、誂う ［普通動名詞］冗談、からかい、いたずら、悪戯 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :dcldcl, 指をちょこちょこと細かく動かすときのオノマトペで , 相手をからかうときにこうしたことから ［語法］ ɪlɔſe, clcɟ

dcldſeſɔnɪ ［名詞］冗談関係 ［レベル］6 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelſ ［語法］ からかうことが許されている関係。友人や家族など。

dcldlɪd ［名詞］いたずら電話 1ʔ: 制 : いたずら電話

dcldjenɪ ［再帰動名詞］いたずら笑い ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

dcldɥel ［再帰動名詞］からかい笑い ［動詞］ɥel をからかって笑う、笑う ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

dclhɪnɔc ［地球の国名］アフガニスタン ［レベル］5 J0: ミナレット（尖塔）がある

dclz ［料理］ɒəl から ɥel を煎じる、煎じる、せんじる ［レベル］4 1L:dcſɪ/lez ［語法］「 煮る 」は野菜などを柔らかくして食べられるようにすること , 煮られるものが主体 ,「 煎じる 」は薬草などを煮て , エキスを抽出し , 似た野菜の屑は捨て , 液体を利用する , 液体が主体 , なので行為として別のもの , 主体が煮られるものではないので ,dclz は ɥel に煮られるもの (薬草) は取らず , 結果的にほしい薬の方を取る

dclɪ ［文字］墨 ［レベル］3 jeɥſ;dcl,jeɥſ（黒） 1ʔ: 制 :dcl から uelɪ:uelɪ

dclɪɑclɑɪc ［医療］墨灸 μɑ;/ J1l

dclɪɑeɟl ［化学］［芸術］礬水、陶砂、どうさ μɑ;/「墨を封じ込める」 ʃ1 ［語法］ 明礬を溶かした水に、にかわをまぜた液。墨や絵の具などがにじむのを防ぐために紙や絹などに塗る。

dclɪɥ ［名詞］削り機 ［レベル］3 μɑ;/ J1l

dclc ［生物］ほくろ ［天文］黒点 ［レベル］2 μɑ;/ ↓ 1ʔ: 制 :ɥɪɑ:dclcn（黒い点） ueele:ueele ［文化］ 肌の白い人に多いとされる。白さを際立たせる道具にもなるが、ないほうが美しいとされる。メルのように、ほくろがなく肌の白い女性が最も美しい肌とされる。

dcle ［料理］コーヒー ［レベル］2 μɑ;dcleɥcɪ「黒い水」 1ʔ: 制 :ɥɪɑ:dcleɥcɪ（黒い水） ［文化］ アルバザードではあまり飲まれない。紅茶が主流。 またコーヒーは口臭を促すとされ、衛生上も好まれない。 ［用例］ ☆ ɪn lenɪſ dcle lɪnɪ neſ nɔɟ ɥɪnel. 目を醒ますためにコーヒーを飲んだ：ɥɪnel がないと文意が正確に伝わらない。これがないと、コーヒーを飲んで起きたことになるので、寝ながら飲んだのかという話になりかねない。また、コーヒーを寝起きに飲むアルバザード人はまずいない。

dcleʅɪɑ ［地球の国名］ルワンダ 1L: 国章にコーヒー

dcleɑɪɒc ［植物］チコリ ［レベル］6 1ʔ: 制

dcləˌɪlſ dcl dc/lə

dcɪ ［動詞］ɥel を携帯する、携帯する ［形容詞］携帯の、ポータブル ［レベル］3 1ʔ: 制 : 先 :dcɔ（運ぶ）から「携帯する」の意味を切り取ったもの 。 ［用例］ ɪn dcɪɟ ejn ɒɪn ejlſ jɪſ. 雨が降りそうだったので傘を持ってきた。 ɪn dcɪſ leɟ ɪn lcɥ. 必要な物を持った。

dcɪſſɔ ［企業］ピアット ［レベル］3 J1 ［文化］ ヤフーに相当する企業。

dcɪʅɪd ［電算］携帯電話、ＰＨＳ。アルカでは区別なし ［レベル］2 1ʔ: 制 : 携帯電話 ［用例］ ɪn en dcɔſ dcɪʅɪd ʅelɪnel ɒɪn nɪ uɪl. 急いでいたので、ケータイを持って来忘れた。

dcɪʅacl ［名詞］弁当、お弁当、べんとう、おべんとう ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelſ ［文化］ 学生も社会人も弁当を持参して、食堂は使わないという人が多い。学校や会社には弁当の保冷庫があり、食べる時間まで保存しておくことができる。

dcɪɟ ［経済］手形 ［レベル］5 1L:dcnɪ/ɒɪɟ

dcɪɟlcʅn ［経済］受取手形 1L

dcɪɟɟɥɒ ［経済］支払手形 1L

dcɪn ［名詞］しばらくしたら。４５分～２時間。 ［副詞］しばらくしたら ［レベル］1 J0:dcnɪ/ɟɪcn（約束を確認しにいく）。門を見に行っても来ていないので、φɪlſc よりそわそわして。同じような音で始まる単語ばかりなので、たまにはスパイスとして d で始めた。 ［語法］ ɑcʅnə

dcɪɒeɒdɔ ［卑語］彼女、カノジョ、恋人、嫁、妻、奥さん ［レベル］6 1L: 携帯まんこ ［語法］「風俗嬢と違って温泉街でも遊園地でも連れて行くことができ、出先のホテルで自由に使える女」という意味。恋人を愚弄した言い方。 ［用例］ lɪ lənɪɟ ʅɪſees ɔʅ dcɪɒeɒdɔ. あいつはカノジョ連れでカテージュに（旅行に）来ている。

dcɪɒed ［名詞］コンパクト、携帯鏡 ［レベル］3 1ʔ: 制

dcɪɑɔalhɔj ［名詞］携帯灰皿 ［レベル］4 μɑ;/ J1l

dcɪl ［名詞］意味のある音（言語音と雑音を除いた音） ［類義語］ɑɔ ［レベル］2 J0:ʅlɪce:ɪdcɪ/ɪl（示すもの）

dcɪluef ［言語］擬音語 ［レベル］4 J1 ［語法］ ɑɔuef

dcɪlej ［魔法］ピアレス、魔抗力、魔法防御力 ［レベル］5 J0:dcɔ/jelej → dcɔlej → dcɪlej（魂を運ぶ→誘燈）。具現化すると、ピアレスの煙が誘燈の灯りのように体を包んでくゆるため。 ［語法］ enuelen

dcɪclɒ ［電算］ＰＤＡ ［レベル］6 1L

dcɪɔl ［名詞］携帯品、携行品、持ち物 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelſ

dcɪɔlſɪb ［普通動名詞］持ち物検査 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelſ

dccſ ［動物］ロビン、コマドリ、駒鳥 ［レベル］3 lɪʅſɪ

dccʅ ［アイテム］レイピア、細剣 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :dccʅc ［文化］ 女魔導師が護身用に装備していた。そのため、現代では女の武器とされ、フェンシングも女のスポーツ。 ［用例］ ſɔe lcel ʅɔn dccʅ レイピアで奥まで突く、深く突く

dccʅuɪɟ ［運動］フェンシング ［レベル］3 J0 ［文化］ dccʅ

dccʅc,ɑu ɑɥec dc/φc

dccʅcdəəφc,ɑu 有罪、罪、犯人、悪意 赤

dccn ［動詞］ɥel を睨む、睨む、にらむ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :dcc（鋭く見る）

dccɑ ［アイテム］ジャベリン zφ;dcd/ɑəəφc「投げ槍」 J1l

dccd ［名詞］ビープ音、呼び鈴、ドアベル ［レベル］3 古 ［用例］ dccʅ ɪſ ɥ cɒ ɪn ʅɪd ʅcſ ɪ lɪ. ちょうど彼に電話を使用としていたとき、呼び鈴が鳴った。

dccɪ ［感動詞］殺してやる！ ［名詞］殺意、殺気 ［レベル］3 ɑu 古

dcɔ ［動詞］ɥel を ɪ に運ぶ、運ぶ、持っていく、連れていく、連れて行く ［普通動名詞］運搬、運送、搬送 ［反意語］ɒelɑ ［レベル］2 先 ［用例］ ɒcɥ dcɔ ſə ʅɔu ɪl ez. この箱を部屋に持っていってください。

dcɔſ ［動詞］ɥel を気取らせる、気取る、かっこつける ［形容詞］(dcɔſɪn で）気取った、かっこつけた、臭い ［レベル］3 jɔɥn ［用例］ ſe dcɔſſ かっこつけないでよ！

dcɔɥ ［物理］クーロン力。アルカでは主に物理で使われる。 ［レベル］5 1ʔ: 制 : 古 :dcɔccɥe（電気を運ぶ） ［語法］ 原子核同士が反発する力（クーロン力）。

dcɔɥɪɔdɪnɑ ［生物］ｔＲＮＡ、トランスファーＲＮＡ μſ;/ リボソームへタンパク質を作るための材料であるアミノ酸などを運ぶことから。 J1l

dce ［植物］キュウリ、胡瓜 ［電算］ピエ。ＩＭＥに当たる変換システム。 ［ユマナ］ＩＭＥ、マイクロソフトＩＭＥ、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ ЄÐE ［レベル］2 ɒſ;e は水。 | ロゴにキュウリの絵があったことから。 lɪʅſɪ: 語源不詳 ［文化］ サラダに使われる。体を冷やすので夏に少量食べるだけ。

dceſ ［名詞］ピエロ、道化 ［名詞］ボケ役、三枚目 ［レベル］3 zφ ɒel: 古ピエロが語源ではない。メルの造語なのでもし英語語源ならクラウンに音が似るはずだからだ。 x:dceſ

dceʅɪlc ［アイテム］小鳥丸 μɑ;dceləʌɪlc J1l

dcelə,ɪlſ ſɔe dcdc

dcə ［音楽］口笛 ［動詞］ɟɔl は ɥel（音楽）を口笛で吹く ［レベル］2 lɪʅſɪ

dɔ ［生物］首 ［動詞］ɥel に背中越しに振り向かせる、振り返る、向く : eel と比較。 ［レベル］1 ɑ;e 古 dɔ:dɔ:dlce ［用例］ dɔ sɪl 太い首 ɪn nɪ ɥɪc ɔn dɔ. 首が痛い。

dɔſ ［名詞］中、屋内 ［格詞］～の中に ［婉曲］膣内 ［反意語］ſɪnſ ［レベル］1 古 :dɔſ,dɔſɔ dɔſɔ, ʅɔ, ʅɔnʅɔ:dɔſɔ, ʅɔ, ʅɔnʅɔ ［用例］ eu eɥ dɔſ{ɪ} did コップに水を注ぐ dɔſ ſccl eſ pelſ ɔnſ ejcl ſcnʅɪ, μcɑcɪ. リディアの中、とっても温かくて気持ちいいよ。セックスの話。

dɔſſc cnɒɪɪſɔ ［人名］ポッティ＝イネアート ʃ1:ɑəlɒccɪ/φcl;dɔſɔ,ɑ/c,ɑu J1:ɑəlɒccɪ/φcl: 古 dɔſɔ（中）/ 古 c(指小辞)「おなかの中の子」妊娠中にそう呼んでいたが、愛着を感じてしまったため、出産後にそのまま名前として採用したもの。 ［文化］（J1 ɑuə jeɥ_）ギルとフルミネアの長女。

dɔſſeɒɟ ［建築］雨戸に対して中の窓。二重になっている窓のうち、内側。 ［レベル］5 1L

dɔſɟ ［名詞］［形容詞］まだら、ぶち、ブチ、斑、霜降り、斑点 ［レベル］4 lɪʅſɪ

dɔſneſſ ［動詞］ɥel を ɪ に秘める、秘める ［形容詞］秘めた ［レベル］3 J0

dɔſuepl ［数学］［物理］［地学］内射 J0

dɔſueɥə ［言語］抱合語、抱合語的 1L

dɔſɑecɒ ［名詞］インナーイヤホン ［類義語］ſeɒɑecɒ ［レベル］5 J1

dɔſneɑɪ ［料理］焼肉 ［レベル］3 μɑ:μcɑcɪ/jeɥen;/ J1l:μcɑcɪ/jeɥen ［文化］ 室外焼肉のほうが先にあったので、焼肉はわざわざ室内焼肉と呼ばれる。面倒くさい。

dɔſφel ［卑語］中出し、膣内射精 ［類義語］dɔſleeu ［レベル］4 1ʔ:jeɥen:jeɥen(1ʔ)lcnɟlɔd: 中に射精 ［文化］ ɟɪɥɒclc

dɔſhcɒ ［生物］内性器 ［レベル］5 1L

dɔſhcɒſ ［生物］内陰部 μɑ;/ J1l

dɔſleeu ［普通動名詞］中出し、膣内射精 ［類義語］dɔſφel ［反意語］ſɪnſleeu ［レベル］4 μɑ;/ ʃ1:ɒel。10 年代にメルが造語していたものを ʃ1 に幻日に輸入。 ［文化］ → ɟɪɥɒclc ・避妊と性病と膣内射精 μɑ までは lcuɪɥen の使い手がいたため、膣内射精が一般的であった。が、性病のリスクがあったため、徐々にコンドームが進化していった。 ul 以降では避妊と性病予防のためにコンドームを着けることが一般的である。ピルは避妊にはなるが性病は防げない。 学歴の低い層ほど性交年齢が早く、避妊の割合も少なく、膣内射精をしがちである。 夫婦でも家族計画のために避妊を行うのが一般的である。 ・女性の感覚 この辞書の作者が男性なので膣内射精された感じはした相手の女の子に聞くしかないのだが、彼女らの反応をまとめると、こちらの思っているものとはだいぶ違った。 日本のＡＶやエロ漫画では女の子が「出されてるのが分かる」とか「あったかい」などと発言しているが、少なくともセレンがじかに聞いた素人の恋仲の女性によると、「よく分からない」という回答が一番多かった。この質問は覚えている限り４人以上にしているが、どれもＡＶや漫画のような回答ではなかった。「言われてみればなんとなく奥に当たるような」とか「少し暖かいような」といった曖昧な回答で、「正直出されたのがよく分からなかった」というのが一番多かった。

dɔſləɔɪ ［被服］内履き、うちばき、上履き、うわばき ［レベル］2 J1l

dɔſɪ ［形容詞］話題の、ナウい、熱い、今風の、今時の、くだんの、件の、例の、れいの、注目の ［名詞］話題作、注目作 ［動詞］ɥel を話題にする、話題にする、言及する、口にする ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :dɔſləſ「口の中にある」 ［成句］ el dɔſɪ ɑɔnl neſɪl le ɒc ɪſə. その場にいない人の話はしないのが無難。悪口なら伝わると怖いし、褒め言葉でも意図したとおり伝わるか分からない。プラマイゼロの無難な話題ですら、伝達する人の口調によって悪く取られる可能性がある。なので、本人のいないところではその人の話をしないのが一番ローリスクという教え。 ［用例］ lcdl dɔſɪ 今話題のケーキ nɪſ bɪn ſccnɪ ɒcl lɪ dɔſɪ aeɒe le nɔn en jeɥ. 彼女の話は私の知らない時代の風景がでてくるのでとても楽しい。 ɪn ɟccnɪ lɔɔl ɪlen lej ſcl ɑɪlcɟ nɔzeſ ɔuɪen ſc. ſɪl ɪn dɔſɪ μcɟ ɑɪlcɟ ʅɪen ʅɪlɑcɪ bɪn ɪn ɪɪlɪ lccɟ jen ʅlɔɟ nɔzeſ ɔn ſə. 君のように自分の正義を持っている人と話すのは好きですが、カルディアの正義を話題にするのは嫌です。というのも、それについて自分の主張を曲げることができないからです。

dɔſɪlɔ ［娯楽］インドアな遊び、内遊び、家遊び、中遊び、うち遊び ［レベル］3 1L

dɔſɪɑc ［言語］文中音調 ［レベル］5 1L ［語法］ 音調のうち、文中に来るもので、ϱ などよりも小さく書かれる。

dɔſc ［数学］プラスマイナス、正負、符号 ［化学］極 ［レベル］4 1L:dɔʅ/ſcɑ

dɔſcſɔʅɔ ［化学］極性→ ſɔʅɔ ［レベル］5 1L

dɔſɔˌɑ dɔſ e

dɔſɔʅ ［言語］主題 ［類義語］jɔc ［レベル］4 jɒ;dɔſɔ/lə「口の中（にあるテーマ）」 ʃ1 x:x:x:oɪn ʅən,ɪlſ ［文化］ jɔc

dɔſɔɒ ［生物］胎児 ［レベル］4 μɑ;dɔſ/ſɔɒ「腹の中」 ʃ1 ［語法］ 胎生の動物の母体の中で胚が器官原基の分化が完了してから出産までの成長中の子を指す。

dɔſɔɒaeɒe ［地学］［歴史］冥王代 ［レベル］6 ul;/ ʃ1 ［文化］ φɪɪueɑeɒe アトラス誕生～約３８億年前（または４０億年前）の約７億年間を指す。始生代の前の時代である。 この時代に地球が形成され、地殻と海ができ、有機化合物の化学進化の結果最初の生命が誕生した。

dɔſen ［接続詞］dɔſ。中の。 ［レベル］3 J1

dɔʅ ［数学］［名詞］［形容詞］正号、プラス ［数学］正の数、正数← dɔʅɪll ［名詞］［形容詞］陽性。検査などで使われる陽性。 ［化学］正極 ［反意語］ſcɑ ［レベル］4 古 : 語源不詳。多数が造語に部分的に関与していると見られる。語源は首か？ ［語法］ ſcɑ

dɔʅſ ［医療］はしか、麻疹 ［レベル］5 ɒel:lɪʅſɪ

dɔʅlɪ ［化学］陽極、アノード ［レベル］5 1L

dɔʅɟ ［医療］てんかん、癲癇 ［レベル］4 古 : 語源不詳

dɔʅnɪ ［名詞］好意的なプラスの気持ち ［反意語］ſcɑnɪ ［レベル］3 J0

dɔʅl ［サール］ポクル ［レベル］3 jeɥen: 古 :dɔ/lcl（首を切る） ［文化］ 生きた刃。首を出して寝ている人の首を切って殺すサール。ギロチンの刃の形をしている。刃だけの存在であり、台はない。

dɔʅɪlL ［数学］正数、正の数 ［反意語］ſcɑɪlL ［レベル］4 μɑ;/ ʃ1

dɔʅcɥɔɟ ［化学］陽イオン、カチオン ［レベル］5 1L

dɔleſ ［経済］供給 ［動詞］ɥel を ɪ に供給する、供給する、サプライ ［電算］サーバー ［レベル］4 メル・アルカ : ソーン由来の様子。

dɔɟ ［動詞］ɥel をのぞかせる、のぞかせる、覗かせる、覗く、はみでる、はみ出る、のぞく、はみ出す、はみだす ［名詞］ちり、チリ→ lec ［レベル］3 1L:ɥelezɔnɪ:dɔ/jɔ（首する） ［用例］ oe(ɪlſe, ʅeſ dɔjej ɔjn c ɒɔʅſ. ちょｗ、猫がベッドから頭だけ出してらｗ

dɔjɪ ［被服］ネクタイ ［レベル］3 ɒelſcɪ JL1:lənɔ;dɔ/jɪbe 1ʔ: 制 :dɔjɪb dɔjɪ:dɔjɪ ［用例］ ɪɥ{jɪb} dɔjɪ ネクタイを締める

dɔjcdɒ ［医療］脱肛（直腸の） ［レベル］5 1L

dɔjcdɪ ［医療］脱肛（痔核が外に出たもので、直腸脱の脱肛とは異なる） ［レベル］5 1L

dɔjɔs ［生物］頚椎 ［レベル］5 1L

dɔjɔsφelu ［医療］頚椎捻挫、外傷性頚部症候群、むちうち、むち打ち、鞭打ち、ムチ打ち ［レベル］5 1L

dɔje ［被服］襟、衿、カラー、襟元 ［レベル］3 zφ; ↓ 古 :「 服の首 」 dɔje:dɔje

dɔn ［医療］肺気腫の腫など、異様に膨らんだ部分を指す。腫瘍とは異なる。 ［レベル］4 古 : オノマトペ。乳房などと同じ語源。

dɔn(J) ［擬態語］［形容詞］ぷにぷにした、プニプニ ［レベル］3 古

dɔn(ʔ) ［接尾辞］～ちゃん。指小辞。 ［レベル］2 μɑ; 丸っこい感じの ɑɔuef に指小辞の n が付加したもの。 ʃ1 ［文化］ ɪnʅbeu

dɔn,ɪlſ jeſe

dɔnſ ［交通］交通 ［レベル］3 1ʔ: 制 :dɔnʅe（道を行く） ［文化］ → ɪɒɔ、lɔd、ɑɔnſ、ʅəzφcn ・道路の種類 道路の種類については ɑɔnſ を参照。 最も大きい道路はアルミヴァ通り。

d

バイクやルームは車道を走る。　・信号機　信号機は日本と同じく車用と歩行者用がある。歩行者用は上下二段で、上が赤で止まれ。下が緑で歩けり。自動車用は左右３列で、右から赤黄色緑の順。革命後は色弱者のために赤はオレンジがかっていて、緑は青味がかっている。　交差点は大きいところだとスクランブル交差点。こういったところでは歩車分離式信号を使う。日本と同じく小さい交差点では歩行者用の信号がないところもある。また自転車レーンは小さい道路にはない。小さい道路では自転車や車や人が同じ道を歩く。　・監視カメラと交通事故　大きな道路や大きな交差点には監視カメラがあることがある。また交通事故の発生率が多い所にも監視カメラがついていることがある。　交通事故が起こった場合一番罪が重いのは車やバイクであり、自転車がその次。歩行者は基本的に守られる。　・鉄道　アルバザードでは地下鉄が発達している。円形都市内では地下鉄しか存在しない。地上を走る電車は郊外を走る→ lɔd　・その他の乗り物　観光地等では人力車や馬車が走っている。特に古い城下町の石畳のエリアではこういった乗り物が多く見られる。 〔用例〕☆ ɑɔnʃ eɒ ɑeɥə 交通が麻痺する：dɔnʃ でなく ɑɔnʃ を使うこと。　ɔlʃi dɔnʃ eɒ dɔɔlc, ɪn ni nɪə cɒ ɟɪe ɑɔʃ. たとえ混乱が起こっても、私は大雪が降ると嬉しい。　ʃcl dɔnʃ ɥɔɪ 交通の便が良い

dɔnɲiɲi 〔法律〕交通刑務所 〔レベル〕4　1L:ɟcɑɔɪ:ɟbɪlelʃ 〔文化〕一般の刑務所とは異なる。ややまったりムード。意図的に轢いた場合や飲酒などの悪質な違反があった場合は入れない。

dɔnʃɔɑi 〔交通〕交通事故 〔レベル〕3　1L:ɟcɑɔɪ:ɟbɪlelʃ 〔文化〕→ dɔnʃ

dɔnʃɸɟʃ 〔交通〕交通費、足代 〔レベル〕3　1L:ɟcɑɔɪ:ɟbɪlelʃ

dɔnʃlczɔɔ 〔政治〕交通庁 〔レベル〕4　1L:ɟcɑɔɪ:clbəɟ 〔文化〕開発省下。国土交通省に相当。

dɔnʃi 〔名詞〕レースキャップ、コイフ　ɟɒ;ɑɔueʃ。頭にポンと置くときの音。親がそう言いながら子供の頭にかぶせたことから。　lll 〔文化〕ɟɒ にできた子供用の帽子で、裕福だとレースが付く。ɟɒ でも一般的にかぶっていた。特に女の子がかぶった。

dɔnʃe 〔生物〕肉球、蹠球 〔レベル〕3　l0:dɔn（オノマトペ）/ʃe

dɔnʃ 〔動詞〕ɥəl を腫らす、腫らす、腫れる、はらす、はれる 〔レベル〕3　lɪʃi:dɔ は「膨らんだ」〔用例〕lɪɟ eɟ dɔnʃ. 手がはれている。

dɔnʃɟɔd 〔医療〕ものもらい 〔レベル〕4　1L:jeɟen

dɔnɟ 〔動詞〕ɥəl を ɪ に配る、配る、配給する、割り当てる、配属させる、配信する、わりあてる、分配する、回す、配分する、配給する 〔普通動名詞〕配り、配給、割り当て、配属、配信、分配、配分、配給 〔動詞〕ɪ に話題を降る。この場合、ɥəl は発言権や機会などだが、通常省略される。 〔数学〕分配する 〔運動〕サーブ 〔反意語〕ɪlldɔnɟ 〔レベル〕2　lɪʃi 〔用例〕ʃe dɔnɟ ɪl ɪn ɟɪɟɔl(ɪ ムチャぶりすんなw

dɔnɟlɪlc 〔料理〕取り箸、取り分け箸 〔レベル〕3　ll

dɔnɟɸeʃ 〔運動〕バレーボール 〔レベル〕3　1ʔ: 制

dɔnɟeʃ 〔娯楽〕カジノ、賭博場 〔レベル〕3　zɸ;dɔnɟ/ʃe　zɸ い存在したカード賭博場が語源。カードを配るところから dɔnɟ が来ている。　ll 〔文化〕→ ləzɸcn、liʃɔɟ

dɔnnc 〔卑語〕ちんげ、ちん毛 〔レベル〕4　1L:dɔnnɔ/cnc

dɔnnɔ 〔卑語〕ちんこ 〔レベル〕3　ɑ;dɔnnɔn「膨らんだもの」 lɪccz: 古 :dɔnnɔ（ちんこ）。元は女性器を意味した。dɔnnɔ の語源は dɔnnɔn で、dɔn も nɔn もオノマトペである。dɔn はふくらんでいることを示すオノマトペで、nɔn は広がっていることを示すオノマトペで、それぞれ恥丘と陰唇を開いたときの様子を指している。造語者はクリス。pelll ごろ、彼女は男子に女性器の様子を婉曲的に教えたことがあった。クリスは女性器の様子を dɔnnɔn としたものだと語った。それがきっかけで女性器を dɔnnɔn と言っていた。始めは婉曲用法だったが、徐々に卑語になって、使われなくなっていった。このとき既に語形は dɔnnɔ に変化していった。「まんこ」は ɒɥəlı(穴) で代用されるようになったので、dɔnnɔ は廃れた。暫くして性の知識の浅いメルが dɔnnɔ を久々に使ったが、そのとき彼女は dɔnnɔ を男性器の意味で用いていた。性の知識が少なかった当時のメルにとって dɔnnɔ は人体の股の部分を指すものだと捉えられていたのだと思われる。だからメルは男性器も dɔnnɔ と呼んだ。それ以降、男性器は dɔnnɔ と呼ばれていくようになった。因みに、dɔnnɔ は後にホモも指すようになった。その後、ɒɥəlı が「まん穴」の隠語になると、女性器そのものを表わす言葉がなくなり、女性器を表わす語の必要性が男子を中心に起こった。男子は女性器を pɒɒdɔnnɔ と呼んだ。pɒɒ は包み込むという意味である。これを「まんこ」の代わりとした。ところが pɒɒdɔnnɔ は直接的過ぎるということで、やがて略されて pɒɒɔ と呼ばれるようになったが、これもすぐ卑語になって今に至る。 〔成句〕lɪ ʃcleɟ ʃɪ dɔnnɔ. あの男は二股をかけている。：この意味の場合は、二股が進行中であれば ʃcl でなく ʃcleɟ を使う。ʃcl clʃ でかつて浮気をしていたの意味になる。２本の男性器を持つ→二股をかけるという意味。 〔用例〕hcɒzɔn

dɔnnɔn 〔幼児〕ちんちん 〔レベル〕2　1ll: 制 : 古 :dɔnnɔ(ちんこ)に指小辞の n を付けたもの。 〔語法〕卑語でないことから、大人でも比較的気軽に使う。

dɔnɸ 〔名詞〕コルク 〔レベル〕3　lɪʃi: ワインにはまっているコルク栓を抜いたときの音から

dɔnz 〔動詞〕ɥəl を ɪ のためにどける、ど く、どける、どかす、どかせる、かき分ける、道を開ける、道を譲る、邪魔なものを取る、除く、道路の端などに寄る 〔反意語〕ɪldɔnz 〔レベル〕2　1ʔ: 制 :dɔn（道）から

dɔncɪlɪ 〔美容〕襟足、えりあし 〔レベル〕4　ll

dɔu 〔動詞〕ɥəl を締める、締める、締める、絞める、しめる 〔音楽〕テンション 〔レベル〕3　jɒɟf:dɔuc,ɑ　1ʔ: 制 :deu　dɔuc:dɔuc 〔成句〕dɔu dɔ lɔn eɒcɪ 水で首を絞める：真綿で首をしめる

dɔun 〔動物〕ナマズ、鯰、キャットフィッシュ 〔レベル〕4　lɪʃi 〔文化〕地震を予知するような認識は持たれていない。食用もされず、身近でない魚。

dɔuicl 〔生物〕頸部　ɟɑ;/　lll

dɔuc,ɑ　dɔu「首に力を込める」

dɔucʃ 〔音楽〕ホーミー 〔レベル〕6　ll:「締め付けられた」

dɔɑ 〔料理〕パン 〔レベル〕1　lɪʃi: パンのふっくらした感じを示すオノマトペ 〔文化〕主食のひとつ。日本における米ほど主食ではない。ふつうアルバザード人は男女とも自分でパンが焼ける。　パン屋は昼（１０時）から営業。午前中にパンを焼く。　菓子パン以外は前日焼いたものを売る。　午前中焼いたものは夕方から売り出す。焼きたてパンは胃での消化が悪いため、アルバザード人は食べない。　夕方にパンを買って帰る人も翌日に食べるために買うことが多い。

dɔɑf 〔名詞〕パフ、化粧道具のパフ 〔レベル〕4　1ʔ: 制 : 古 :dɔɑd

dɔɑfe 〔形容詞〕[ポジティブ] 人や動物がふくよかな、パンなどがふっくらした、ふくよかな、ふっくらした 〔文字〕ファット 〔類義語〕sɪl 〔反意語〕ɥɒelc 〔レベル〕3　l0: パンのような 〔用例〕ɪel dɔɑfe ふっくらした猫

dɔɑlɔɔb 〔被服〕トールラウンデットクラウンハット　ɟɑ;/。パンの形をしていることから。 lll 〔文化〕ɟɒ でできた。

dɔɑɪ 〔名詞〕クッション、座布団、衝撃吸収剤 〔レベル〕2　1ll: 制 :dɔɑjlcn から

dɔɑɪfe 〔名詞〕パン屋 〔レベル〕2　ll 〔文化〕dɔɑ 『ねこの郵便屋さん』参照。

dɔɑc 〔料理〕イースト 〔レベル〕4　1ʔ: 制 :dɔɑ

dɔɑɔ 〔料理〕パン粉 〔レベル〕3　1ʔ: 制 :dɔɑ

dɔɑɔl 〔名詞〕コミュニティ、コミュニティー、集まり、会、会合 〔類義語〕cʃɪ 〔レベル〕4　ɟɑ;d ɔɑ/ɔl「パンを～とともに→パンをともに食べる者」 ll

dɔɑeɑɪn 〔魔物〕ポフエダン（麺麭婆）：第八十四天：利の幻天 〔レベル〕5　1L:ɟcɑɔɪ/jeɟen/ɒel: パンおばあちゃん 〔文化〕妖族。老婆の姿をしており、籠にパンを入れている。ややボケ気味で、よくわからないことを口走る。イライラせずにふつうに親切に接してあげるのがよい。素直にしていれば可愛がってくれる。気に入られるとたまにパンをくれる。とてもおいしい。

dɔɒ 〔名詞〕ずた袋 〔レベル〕4　1ʔ: 制 : 僧などが首にさげる袋。dɔɒejl（首の袋） 〔文化〕ɟɑ までは首から提げて使った。

dɔɒ(l) 〔幼児〕ふくらみ、膨らみ 〔レベル〕2　1L: オノマトペ 〔語法〕コブという意味では lɔɔb と同じ。膨らみという意味では ɑib と同じ。dɔɒ はやや幼児語的。

dɔɒ(ʔ) 〔生物〕くるぶし、踝。通常拘束形態素として使う。つまり単独の場合は ləɔɪdɔɒ などという。　ɟɑ;/　lll

dɔɒdɔ 〔幼児〕おちんちん 〔レベル〕2　1ll:ɒel:dɔnnɔn でも直接的だと考えたメルがユルトのおむつ変えのときに言い出した語。

dɔɒdɔɒ 〔俗語〕[婉曲] おっぱい 〔類義語〕pɪɒ 〔レベル〕1　古 : オノマトペから。dɔɒ 一つが一つの乳房を表わす。

dɔɸiləɔɪ 〔生物〕首腹手足、ポガルワ 〔レベル〕4　jzɑ;/　ll 〔成句〕ɒelʃ dɔɸiləɔɪ 頭寒足熱 〔文化〕ルクレティアの概念で、人体の暖めるべき重要な部分をまとめたもの。ɑ の身体語彙を集めたもので、jzɑ を使っていないのは語形が長くなるのを嫌ったため。例えば jz を使うと dɔ だけで dlce になって長たらしい。このうち dɔ は lɔlɔn のこと。　pelʃ dɔɸiləɔɪ は頭寒足熱の意味で使われる。　dɔɸiləɔɪ だと細かく暖めるべき部位が分かる。この概念を知っている人間から見れば頭寒足熱は大雑把でいい加減だと感じる。ルクレティアで暖めるべき部位はまず首で、次に腹、そして手足と続く。ここを暖めると筋肉が弛み、血流が改善し、凝りも取れ、自律神経も安定する。　「頭寒足熱」は実はあまり正確でない言葉である。頭寒足熱と聞いて首まで冷やしてしまう者がいる。ところが首は冷やしてはならない。健康グッズには頭寒足熱をうたうものが多い。ところがたいてい上から下にかけて徐々に暖かくなっていくだけの仕組みが多く、非常に不正確である。こういう商品では頭部の温度が低く設定されているので、付随して首の温度も低い。正しくは頭部が涼しく、首が暖かくあるべきである。　なお、冷やして良い部分は額。ただルクレティアでは基本的に人体は冷やさないほうがよいとされるため、冷やして良い部位自体が少ない。

dɔd 〔形容詞〕厚い、厚手、厚手の 〔反意語〕ɑeɑ 〔レベル〕2　1ʔ: 制 : 古 :dɔɒd,dɔdd。太った様子を表わすオノマトペから。 〔用例〕ɪn ɪljbɪʃ jɪb dɔd ɒcl ɪlʃe. 春になったので厚い服を脱いだ。

dɔdllel 〔名詞〕大辞典 〔レベル〕6　ɟɑ;/　lll

dɔdj 〔料理〕酵母、酵母菌 〔レベル〕5　1ʔ: 制 :dɔd（膨らんだ）

dɔdalel 〔音楽〕ヴィオラ、ビオラ 〔レベル〕4　ll

dɔdɑɔɪl 〔料理〕ホットケーキ 〔レベル〕2　ll: 厚いクレープ 〔文化〕名前にクレープが入ってはいるが、別の食べ物。

dɔddɔ 〔幼児〕おちんちん 〔レベル〕2　古

dɔddɔn 〔娯楽〕ポッポン　ll: 擬態語 〔文化〕『星のカービィ』に相当するゲーム。

dɔdlc 〔亜魔〕ポプリ 〔レベル〕4　bɸ;dedl,bɸ　ll 〔文化〕ヴェイガンの亜魔族。ぱっと見人間と外見の区別がつかないが、成人しても小学生程度の大きさにしかならない。いわゆる小人族。人間との見分けは頭の角。小さい角が生えている。

dɔdɪ 〔交通〕信号機、交通信号 〔レベル〕2　1ll: 制 :dɔnɪdɪ 〔文化〕→ dɔnʃ 〔用例〕☆ ɪn lɪʃ dɔdɪ ɪ ɑccɪ. 私は信号が青になるまで信号のところにいた。

dɔdɪlj 〔生物〕首の脈、特に頚動脈 〔レベル〕3　1L:jɒɔɔhcnɔ)c

dɔdel 〔料理〕ステーキ 〔レベル〕2　ɟɑ; ↓　l0:dɔdl:1ʔ: 制 : 厚い肉。ステーキはやや厚く切った肉を直火で焼いたもの dɔdɥel。 〔用例〕ɪn ɒlcʃ dɔdel cɒ ɑanel. 夜はステーキだった。

dɔdelɪʃe 〔名詞〕ステーキ屋、ステーキハウス　ɟɑ;/　lll 〔用例〕ɪn lɪ ʃəɟ dɔdelɪʃe. 今ステーキ屋にいる。

dɔb 〔被服〕マフラー、襟巻き 〔レベル〕2　1ʔ: 制 :dɔjɪb 〔用例〕ɪn lɔbɪʃ dɔ ɔ ʃeɒ lɔn dɔb. マフラーで耳と首をくるんだ。

dɔh 〔名詞〕首吊り 〔動詞〕ɥəl に首を吊らせる 〔レベル〕3　1ʔ: 制 :dɔhɪld

dɔhɪɑcɟ 〔法律〕絞首刑 〔レベル〕4　1L 〔文化〕特に付加罪がない場合に適応される軽い死刑。

dɔɟ 〔形容詞〕予めの 〔反意語〕ɑclɟ 〔レベル〕2　古 : 前もって～する 〔成句〕dɔɟel やはり、やっぱり、ほら見たことか：通常悪いニュアンスとして使う。

dɔɟlll 〔動詞〕ɥəl（内容）を ɪ（視聴者）に予報する、予報する、予告する 〔普通動名詞〕予告、予報 〔レベル〕3　1L

dɔɟlɪɟʃ 〔経済〕プリペイドカード 〔レベル〕4　1L:ɟcɑɔɪ:ɟbɪlelʃ 〔文化〕アンセしか持ち歩かないのでアルバザードではプレゼントの商品券としてしか存在しない。

dɔɟlɔɔl 〔建築〕談合 〔動詞〕ɥəl について ɪ と談合する 〔レベル〕5　ɟɑ;/　ll

dɔɟjeɟ 〔動詞〕ɥəl を予知する、予知する、予測する 〔普通動名詞〕予知、予測 〔レベル〕3　1L:cl pəj:ɟcɑɔɪ 〔用例〕ɥəə dɔɟjeɟɪʃ jen senʃ cɒ ɑcɟ. 今日は予測のできない天気だった。　ʃəɔ, el dɔɟjeɟ ucl senʃ. 最近、天気を予測できない。

dɔɟnɪ 〔普通動名詞〕予想 〔動詞〕ɥəl を予想する、予感する 〔レベル〕3　1L:ɒelcɑɔɪ ɪlcɟ

dɔɟncɑ 〔言語〕事前段階 〔レベル〕4　l0 〔語法〕単位動詞の３分割のうち、中間の区間。将然～経過の区間のこと。

dɔɟuɪɑe 〔名詞〕予防 〔動詞〕ɥəl を予防する。予め守るの意味の予防。 〔レベル〕3　1L

dɔɟuenʃlcɪɒ 〔経済〕新株予約権付社債　ll

dɔɟɑel 〔名詞〕〔動詞〕ɥəl を予習する、予習する 〔普通動名詞〕予習 〔レベル〕3　1ll: 制 : 予め勉強する

dɔɟɑcl 〔動詞〕ɥəl を予防する、予防する。予め邪魔して防ぐの意味。 〔普通動名詞〕予防 〔レベル〕3　1ʔ: 制 : 前もって防ぐ

dɔɟɸlʃ 〔経済〕前払い 〔レベル〕3　1ʔ: 制 : 前に払う

dɔɟɸcl 〔経済〕引当金 〔レベル〕5　1L

dɔɟbɪɸ 〔医療〕前揉法、前揉撚　ɟɑ;/　lll

dɔɟɟeʃ 〔経済〕予約 〔動詞〕ɥəl を ɪ（申請先）に予約する、予約する 〔レベル〕3　1L

dɔɟɟeʃlɪnɸ 〔経済〕新株予約権 〔レベル〕6　1L

dɔɟlɪj 〔普通動名詞〕前戯 〔動詞〕ɥəl に前戯する、前戯する 〔レベル〕5　ll

dɔɟlɔ 〔動詞〕ɥəl を予想する、予想する、想像する 〔普通動名詞〕予想、想像 〔レベル〕3　1L:lcɔn 〔用例〕ɪn en dɔɟlɔʃ ʃcɟ jɔɪ eɒ jɔn. そんなことが起こるとは想像だにしなかった。

dɔɟɪlʃ 〔普通動名詞〕[名詞] [動詞] 下書き 〔レベル〕3　1L:ɒelcɑɔɪ ɪlʃe

dɔɟɪɪucnɪll 〔経済〕景気先行指数　ɪl;/　ll

dɔɟɪll 〔数学〕期待値 〔レベル〕5　1L 〔文化〕ʃjeʃʃɪ e ɥəlcɪ

dɔɟeeʃ 〔経済〕ワラント、新株予約権証券　ll:dɔɟɟeʃlɪnɸeeʃ

dɔɔɪl 〔生物〕大椎 〔レベル〕6　ll: 首の目立つ椎

dɔl 〔地学〕地域、地方、地帯、ゾーン、エリア、地区、特区、地域社会、コミュニティ、特別な場所、圏 〔類義語〕dɔlɪi 〔レベル〕3　1ʔ: 制 :del 〔用例〕dɔl hɪn 広範囲、広い地域、広域

dɔlʃɔn 〔代詞〕[ɒɒɔ] アタシらの 〔レベル〕1　ll:sccl/ɥelezɔnɪ:dɔlʃe/n

dɔlʃe 〔代詞〕[ɒɒɔ] アタシら 〔レベル〕1　ll:sccl/ɥelezɔnɪ:dɔ/ʃe「ふくよかな」

dɔlɪi 〔名詞〕漢然と場所、エリア、一帯 〔電算〕欄：検索欄などの欄 〔レベル〕3　l0

dɔlen 〔アトラスの国家〕ポレン、ポーレン 〔レベル〕5　lʔ:jcɑɔɪ

dɔleɪj 〔生物〕頚動脈、頚動脈 〔レベル〕4　ll

dɔləɟ 〔被服〕ブラゲッセ、ニッカー　jɒ;dɔʃɔ/ləɟ「スカートの中に」 lll 〔文化〕ɟɒ で娼婦がスカートの下に履いたズボン。スカートをチラッとさせてブラゲッセを見せて誘惑するために履いた。

dɔɪ 〔医療〕腫瘍 〔レベル〕4　古

dɔɪɑcɟ 〔法律〕斬首刑 1L 〔文化〕首を切り落とす刑。特に付加罪がない場合に適応される軽い死刑。

dɔcʃ 〔数学〕[地学] 角度、度 〔類義語〕ʃcʃ 〔レベル〕3　l0:dɔ/cʃɔ（首の傾く数値。天文観測の仰角が元になっている） 〔語法〕lll ごろまで dɔcʃ 1ll0 のように設定してあったが、紫亞や周りの大人は lʔ ごろから既に 1ll0 dɔcʃ と言っていた。なのに辞書は φɔl ɥ のように書いてあり dɔcʃ には用例がひとつも載っていない状態であった。それで φɔl の用例を直して dɔcʃ にも用例を加えた。　という経緯からも分かる通り、もともとセレンが設定したときは数値が後置だったが、いつの間にかユーザーによって数値が前置に変わっていたということである。 〔文化〕・円の角度　ɑu の時代に円の角度は３６０と神々と悪魔が定めた。これはアトラスが約３６０日で太陽の周りを一周するため、３６０を円の角度にすると１日１度動くと計算でき、区切りがいいためである。また３６０という数はアルミヴァの１２神の影響で１２進数の影響があった神代においては区切りがいい数なため、それもあってなお採用された。３６０は１２の倍数なので区切りがいい。 〔用例〕ʔ10 dɔcʃ ３６０度

dɔcn 〔動詞〕ɥəl を覗き込む、覗きこむ、覗き込む 〔レベル〕3　1L:ɒelcɑɔɪ ɪlʃe 〔語法〕例えば横に座っている人が俯いたとき、顔を見るには首をくいっとまげて下からのぞきこむようにするが、あの動作のことを言う。

dɔcʃ 〔植物〕小麦、コムギ、麦 〔レベル〕3　1L:ɟcɑɔɪ:ɟbɪlelʃ:dɔɑ/ʃəl　lefɪ:

dɔcl 〔名詞〕ドーム、丸天井 〔レベル〕3　1ʔ: 制 : 古 : たくさん食べて張った腹を dɔɔ といったことから。

dɔɔlʃ 〔被服〕首輪 〔レベル〕3　1L: リディア

d

dɔeſ ［医療］嚢胞 1L:dɔn/eɥcɪ

dɔen ［サール］ポエン ［名詞］３時 ［名詞］東 ［交通］ポエン通り ［音楽］レ ［組み数字］３/１２ ［類義語］den ［レベル］２ ɒelſcɪ 0l:dɔen;e ɥcɑcɪ: 古 ［文化］ アルミヴァの３番目。サールの左腕から生まれた。ヴァルゾンの妹。獣の王。元は獏の姿をしていたという設定があったが、ティクノの妻となり、アルデスを生むことから、後にキャラ設定が格上げされた。アルデスとフェルデンとテュアの母で、獣王であり、自らの中に草食の穏やかな性格と肉食の激しい性格を飼いならしている。普段は大人しいが、一度怒るとティクノも手を焼いてしまう。

dɔəl ［形容詞］例の ［名詞］例の件 ［レベル］３ 1L:dɔΛ:1ʔ: 制 :dɔΛəə（口の中）から。話題のと同じ。

de,ɑ dej elſ;e

deſſ,lɥ deɑ

deſʃ ［料理］ウィスキー、ウイスキー ［レベル］３ ɥɑ; ↓ 1ʔ: 制 :dejſʃcɟd（大麦で作った蒸留酒）。dejd にすると dejɥ とコンテクストを共有するため、誤解の可能性が増えるので遠ざけて deſʃ にした。 ［文化］ ɟcɟd

deſcɑ ［動詞］ɥəl を c から取り返す、取り返す、奪い返す、取り戻す ［レベル］３ ɥɑ;deɑ/ſɪɑ J0:ɒelcɑcɪ lcɛɥ:deɑ/ſɪɑ

deſcc ［人名］ペティ J0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ᴾᴹΛ1:(ᴾᴹL1:)) メルテナ後期のレスティル女王。わずか１０歳で即位したため、摂政が生まれた。

deʔlɪ ɑcſ ［人名］ペッカ＝ディスト ɥſ;dcʔlɪ JJ ［文化］ deʔlɪl

deʔlɪl ［電算］［工学］真空管 ［レベル］６ ɥſ:deʔlɪ ɑcſ;deʔlɪ/ɪl JJ ［文化］ JΛΛ ペッカ＝ディスト、真空管を発明。二極真空管。」年後には三極真空管も発明

deʔl ［名詞］技術、テクノロジー、科学技術 (lɪɒcdeʔl)、テクニック、ハイテク ［レベル］３ lɪʔſɪ ［語法］ 最近の技術をとりわけハイテクと呼んで言い分けるようなことはしない。技術もハイテクも deʔl。 ［用例］ deʔl ɟɪɒ 新技術

deʔluɪnſcʃ ［軍事］工兵 ［レベル］４ 1L:ɥcɑcɪ

deʔlɪn ［名詞］技術者、職人 ［レベル］３ J0 ［文化］ 理系の技術者は文系・芸術重視の現代では専門職として扱われ、尊敬というよりはどこか別の世界の人という目で見られる。一方、文系・芸術の職人は文化を重んじるアルバザードでは尊敬され、地位も高い。なお、理系というのはあくまで機械を使った場合を指す。アルバザード人は機械が嫌いなので、機械を使った技術者を見てもピンとこず、凄いと思えない。数学の天才などに対しては尊敬する。

deʔlɛczɒ ［経済］技術革新、技術革命、イノベーション ［レベル］４ 1L

deʔɔʃ ［動詞］ɥəl に媚びる、媚びる、こびる、へつらう、媚びへつらう、こびへつらう、へこへこする、迎合する ［レベル］３ ɑu;de/ʔɔ/ɟɔ「悔やむ / 内側に / する→心が中に引きこもって悔やむようにする」 古 : ↑。「ペコペコするでペコス」と覚えるとよい。

deʔɔɟɥəſɪ ［動詞］ɥəl を迎合する、迎合する ［レベル］４ ɥɑ;/「へつらい受け入れる」 JʔJ

dele ［名詞］如雨露、じょうろ ［レベル］３ J0:dle:1θ: 制 : 古 :bəl するもの

dej ［名詞］後悔、悔やみ、慙愧 ［類義語］φɪleɒ ［レベル］２ ɑɥɑ;de,ɑ.l 1θ: 制 : 古 :de de:dej ［用例］ ɑen nɪ dej, ſə eſ jɪcɪ. 後悔しても仕方ないよ。 ɪn en nɪ dej ɒeɒel. 何の後悔もない。 ɪn ʔɪlɒɪ nɪ dej. 後悔していることが多い。 ɪn nɪ dej ɔn nɔɟ jɔſ. 自分のしたことを後悔している。 ɪn nɪ dej ɔn nɔɟ en ɑelıſ. 勉強しなかったことが悔やまれる。 ſə eſ lcɑ lel el nɪ dej. 後悔しても仕方のないことだ。 ɪn sɪlıſ nɔɟ nɪ elɑ dej ɒcl uɒɟen ſcɟ. ささいなことで悩まないことにした。 ɪn jɔ uɪn enzel lɪnɪ ɪn en nɪ jcl dej. 後悔しないように最善を尽くしたい。

dejſɔ ［地名］ペスト ［レベル］５ JʔJ:lɥ「石磨きの」 ［文化］ デニエの東南部にある都市。果樹やオリーブが盛ん。

dejſɔn ［料理］オーディナリーバージンオリーブオイル JʔJ:「ペストの」

dejɥ ［料理］ビール ［レベル］３ ɥɑ 1ʔ: 制 :dejſɥce（大麦からできた酒） bɪſſʃ;bɪſſʃ ［文化］ 冷たいビールを飲むのは禁忌とされるが、結局飲む人も多い。健康には非常に良くない。ぬるめがいい。 上面発酵のエール (hɪldejɥ) と下面発酵のラガー (ɒɔldejɥ) に分かれる。

den ［遊離副詞］［形容詞］ますます、どんどん、いっそう ［レベル］２ ɑ;e 古 （いっそう、ますます） ［語法］ 文頭だと el がない傾向に。 ［用例］ ɥeſ eɒɪſ ɥɪɒ denel. 事態はますます悪化した。

den(J) ［サール］dɔen の略称 ［組み数字］３/１２ ［レベル］１ JJ

denſ ［感動詞］残念だ、すみません、失敗、失礼 ［動詞］ɥəl（相手）に申し訳なく思う ［レベル］１ 古 :denſ,den は後悔を表わすエクスプローダーの女性形。uɪnſ と比較。 ［語法］ uɪnſ

denſɪnſ ［感動詞］非常に残念だ、すみませんでした、かわいそうに ［レベル］１ 古 :uɪnſɪnſ と uɪnſ の関係を denſ にも当てはめたもので、古からあった。 ［語法］ denſ より丁寧。

denlcl ［名詞］ペンシル、小さな邑、邑 ［レベル］５ ʔl:lc;dɪn/ɥəlclɔ,ɑ JʔJ:ɒel ［文化］ denlcluɪn cɪ 六角形の小さな邑。ɪleſ が置かれた。

denlcluɪncɪ ［地名］ペンシルヴァニア ［数学］魔六角陣、六角魔方陣 ʔʔ:lc;denlcl/uɪncɪ,ɑu JʔJ:ɒel:「ペンシルの街」 ［文化］ denlcl を六角形に１９個集めたバルマーユの大都市。ʔʔ で 9900ɥɒ ごろ、悪魔パンが建設した。ɪleſ は各 denlcl に１～１９のいずれかの個数が置かれている。六角形の置き方は上から順に以下のとおり。数字は各 denlcl にある ɪleſ の数。一列ずつ書くが、このリストだと六角形には見えないだろう。これを１９個の六角形から成る大きな六角形になるように配置する。例えば中心には ᑊ の denlcl が来て、頂上には ʔ が来る。

ʔ 1L 19 1ʔ 9 1Λ J 1 1J ᑊ 11 0l ʕ 10 Δ L 1ʔ 1θ 1ᑊ 出来上がった六角形を見ると、縦横斜めどのルートを通っても数字の和が３８になる（この図の場合は横に並ぶラインはないので縦斜めだが、反転や回転や書き方によっては横斜めで揃うこともある。いずれにせよ回転系などなので、同じことである）。従って denlcluɪncɪ のどの街境を警護しても、必ず ʔΛ ɪleſ を通過しながら一定量を回復できる。もしこの魔方陣がなければ ɪleſ の無駄遣いが起きるか、あるいは回復量が一定にならず、戦略を立てにくい。言うまでもなく回復量の弱いルートを守るところから穴を開けられてしまう。辺が３の六角形で整数（ɪleſ は分解するわけにいかないので）で魔方陣が成立するのはこのケースだけであり、反転回転を除いてほかにない。 外側の denlcl には街境を守る兵の代わりが控えており、前線が撤退すると交替する。撤退した者は回復しながら反対側に出ることができ、即座に逆方向の防衛に出れる。同時に逆方向の前線とバトンタッチし、逆方向にいた者は相手が来たルートを遡って回復し、相手が元いた場所の前線に出れる。従って外周 denlcl に２名ずつ護衛がいればよいことになる。

denlcl ［化学］カリウム ［レベル］４ 1Λ: 制

deɑ ［動詞］ɥəl を ɪ に返す、返す ［副詞］お返しに、仕返しに、～しかえす、～し返す ［普通動名詞］返却、返還 ［形容詞］返された ［経済］返済する ［経済］償却する ［レベル］２ ſɒ;dɪl/ɑəſɔ ʔʔ: 制 : 古 :dɪlɑəſɔ（後ろに与える） ［用例］ deɑ jenſ お礼をする、お返しになにかをする

deɑuɪnɑ ［軍事］反撃 ［レベル］３ 1L:ɥcɑcɪ:ɪɒbɪlelſ ［語法］ ɪluɪnɑ のカウンターはユベールのカウンターなどのことで、敵の攻撃を流しつつ攻撃すること。deɑuɪnɑ はやられたので仕返すこと。

deɑucɪn ［物理］応力 ［レベル］５ J0: 返す力 ［文化］ cſucɪn

deɑheʔ ［言語］返信、貴答 ［レベル］３ JʔJ

deɑ ［動物］ヒツジ、羊、未、ひつじ ［レベル］３ jepſ 1ʔ: 制 :lɪʔſɪ:deſſ。古では『制定語彙』に基づくと ʔɪlɑ で、毛を取るためのヒツジ。 ʔɪlɑ:deſſ

deɑcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］おひつじ座 JJl ［文化］ cɑɪ

deɑe ［被服］毛布、ブランケット ［レベル］３ 1L:deɑ/ɪbe ［文化］ 羊の毛などで作っていた。 ［用例］ ɪn leſɪſ deɑe ɪl ɔjn. 毛布を引っ張り上げて頭からかぶった。

deφ ［経済］割戻金、リベート、割戻し金 ［レベル］６ lɪʔſɪ

deφl ［化学］めっき、メッキ、鍍金 ［レベル］４ 1ʔ: 制 :ded/φc

deφlſeje ［化学］めっき電池 ［レベル］５ 1L ［文化］ マレット人が作った最古の電池。素焼きの壺に銅の筒を入れ、筒の中に鉄棒を入れ、壺を酢で満たしたもの。当時マレット人がこの電池を何と呼んでいたのかはもはや不明となっている。

ded ［音楽］ダンスミュージック、ダンス ［レベル］６ JʔJ: 床を跳ねるさまから

dedj ［被服］スカーフ ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 薄いマフラーを意味する deddɔɟɪb から ɟɪb を省略したもの。

dedl,bφ lcɟ、hɪcſ

dedɪlnɪ ［音楽］レイブ ［レベル］６ JʔJ

dedc ［名詞］箔 ［レベル］４ 1θ: 制 :dedφc（薄く伸ばした金属）

deɥ ［経済］デリバティブ、派生商品 ［レベル］５ 1L:dɔɥ のアプラウト。未来予想に基づくものが多いため

deɥſ ［植物］ローリエ、月桂樹、ペイリーフ、ローレル ［レベル］４ ? 参考 : 古 :φelʔ というのがあって、これも月桂樹を意味したが、「これを使って花輪にする」が原義で、ギリシャ文化から来ているので排他した。

deɥeſ ［植物］大麦、オオムギ ［レベル］４ 1L:deſɥ:1L:ɥcɑcɪ:ɪɒbɪlelſ:deɟɥ/ſəl

dez ［被服］スリッパ ［レベル］２ lɪʔſɪ

delſ ［名詞］式、儀式、セレモニー、冠婚葬祭の式 ［政治］国事行為 ［名詞］行事← ɟɔɑ ［レベル］３ ɟɔɥn

delſɪɥſ ［魔法］儀式魔術 ɥɑ;/ Jθl

delj ［動詞］ɥəl を悩ませる、悩ませる、悩む、なやませる、困る、当惑する、困惑する ［形容詞］困った、悩んだ、悩んでいる ［名詞］悩み。(nɪ) ［レベル］２ 1ʔ: 制 : クリスがリディアに言った言葉 "ſcɟ nɪ delj" （後悔しちゃだめよ）の delj が元。delj は de に時制などが付いたもので、これが独立して１つの語となった。リディアは悩み多き少女で、彼女の性質がその語をそう変えた。 ［文化］ ・セレンのメモ 高２のメモを見ていたら、９８年２月１８日（水）に「悩んでいる内容より悩んでいるという事の方が苦しいのではないか」と書いてあって、なるほどその通りだと思い、将来の１２月１９日を伝えてやりたくなった。 ［用例］ jeɑɔ delj 悩みを断つ、断ち切る ɪn deljſ lɪ ɒcɑel. 彼を煩わせるつもりはなかった。 ɪn ɒɔʔlſ ucl ɟɪnel ɒɪn nɪ delj. 悩みのせいでよく眠れなかった。 ɪn ucnɟſ lɪl cl delj. 悩みをすべて捨て去りたかった。 lɪ nɪ delj ɔn lɑcj. 彼は人生の問題に苦しんでいる。 ɪn deljſ ɟcj lɪ. 彼を煩わせたくなかった。

deljɪlɪz ［地学］［歴史］石炭紀 ul;/ JʔJ ［文化］ φɪɪueɑeɒe

deljɟl ［化学］安息香酸 ［レベル］５ 1L:dɪɪl:jdel/ɟjl の頭音脱落。jdeljɟl だと「ベンゼン酸」のような意味になってしまい、語弊がある。というのも、ベンゼンを含む酸はカルボン酸以外にもありえるため。

delcſ ［名詞］しかけ、仕掛け、技巧、ギミック ［レベル］３ J0:deʔl/lcɟ/ſe（ちょっとした技術）

deleſ ［名詞］備考、注記、補釈、補注、補遺 ［レベル］４ JJ:id/ɪl/ſe

deɪ ［言語］格詞、接置詞、前置詞 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 恣意

decɟ ［交通］ガソリン、ガス、ペトロ ［レベル］３ J0:dɟɪ:1ʔ: 制 :ɟɪɑ:dəɟɪd（爆発する気体） ［用例］ ɑcſ{eu} decɟ 給油する

decɟɪſe ［交通］ガソリンスタンド ［レベル］３ J0 ［用例］ ɪʔl e decɟɪſe ガソリンスタンドの跡地

dəſcn ［サール］プティン ［レベル］５ ɒelſcɪ JʔJ:dəſcn;ɑɔueſ ɥcɑcɪ: 古 : オノマトペ dſcſ,dſcnſ「ぶすっ」。蛇が人を噛む音からだと思われる。 ［文化］ 毒蛇のサール。

dəl,ɟzɑ ʔəɔ

dəlle,ɟzɑ uejn ‹›dəl

dəd ［動詞］ɥəl を ɪ に吐き出す、吐き出す、ぺっと吐く ［文末純詞］軽視や蔑視の文末純詞。つばを吐くところからリディアが定義。 ［感動詞］もうっ！、こらっ！、ぶー！、ぶーぶー！、ブーッ！、ふん、ふーんだ！、あかんべー ［レベル］２ 古 ［成句］ dəd ɪ φɪlſ 誰それの門に唾を吐く : 後ろ指を指される ［用例］ el dəd ɪ φɪlſ lɪlſ. あいつは後ろ指さされている。

dəddə ［文末純詞］［ɔdɑ］もうっ！、ふーんだ→ dəd ［レベル］２ 1Λ:ɥcɑcɪ ［語法］ 純詞 dəd のミリア版、蔑視の度合いが弱く、ふつうからかいや冗談の意味で可愛らしく使われる。

dədə,ɪlſ ɑcɪcl ‹›cd

dəɥə ［幼児］［生物］指 ［類義語］sc ［レベル］１ jzɑ›ljl;dɥəcz.l JʔJ

dəɥ ［動詞］ɥəl をにじませる、にじませる、滲ませる、ぼやける、にじむ、滲む、ぼやーっとする ［形容詞］にじんだ ［類義語］jɔɔl ［レベル］３ 古 : オノマトペ。滲むときに広がる音。 ［成句］ cnj eɒ dəɥ ɒcl enɪ. 涙がこみ上げる。＝涙が溢れる（あふれる）。 ［用例］ hɪrſ cl dəɥ ɒcl enɪ. 文字が涙で滲んだ。

dəɥɑe ［人名］プルフェ ［レベル］５ 古 ［文化］ 1J00 ごろ。第３期アルシェのルシーラ。一期はソーンが勝ち、長いあとの二期は暗殺とも呼ばれるアルシェの病死でソーンが勝つが、ソーンも同時期に殺害され勝者の行方は掴めず。その時のアルシェの息子（娘）の dɥdhɔe が三期のアルシェに。期が変わる毎、或いは代が変わる毎に性別が変わる筈だがプルフェの性別は不明。一期は男だから四期のセレンは女な筈で、どこかで一回例外処理が起こった筈。その為偶数のセレンが男になっている。三期は急進的に使徒を集めたため、互いに外国人を含むいい加減なメンバーしか作れなかった。アルシェはこの時全員が外人使徒だったが、近い場所の外人なので公用語はフランス語などいくつかからなっていたようだ。これは四期に影響した。互いに暗殺を恐れたのは二期の名残だから三期は続く様に思えたが、この頃から争いはなくなり、緩やかな関係になっていき、経済的にアルシェが消滅した頃の６代目にはもはやアルシェもソーンも互いを知らなかった。代は世襲の筈だった。

dəl ［形容詞］雑な、粗雑な、いい加減な、適当な、乱雑な、詰めが甘い、だらしない、ありあわせで正当でない、ずさんな、軽はずみな、軽率な、眠りが浅い、ぞんざいな ［反意語］ɟɪn ［レベル］２ J0: 恣意（だめそうな音をとった） ［用例］ ɟɔɒ dəl 雑なやり方

dəllɔ ［名詞］雑感、所感 ［レベル］３ JJ:「雑な考え」 ［用例］ ʔə dəllɔ 雑感を述べる ſcl dəllɔ 所感を持つ

dəllecɟ ［名詞］落書、落書き、らくがき、悪戯書き ［レベル］３ J0 ［用例］ ɪɥ dəllecɟ ɪ bɪl 壁に落書きをする

dəlcſ ［生物］横毛、鬚 ［レベル］３ J1 ［語法］ 髪の毛の際に生える頬髯。

dəlcſ,ɟzɑ ſɔɪ

dəlcʔlɪl ［数学］長方形、長四角 ［レベル］２ J0

dəlcn ［生物］曲鬢 JʔJ:dəlcſ

dəleſ,ɟzl ʔlɪɑ dəəl/ſe

dələəſ ［サール］プルート ［レベル］４ ɒelſcɪ LL jen ucɪ:dələəſ;ɑɔueſ J0: 犬の「くるくる」という鳴き声のオノマトペ ［文化］ (ɒelſcɪ LΔ'0000 ごろ→) 家畜の神。羊の毛、牛の尻尾、豚の鼻、犬の体をしている。 | 同 | 獣王ポエン、犬を家畜化し、この犬から dələəſ 神を生む | | 同 | プルートは牛、羊、豚を集め、家畜化した。すると彼の姿はそれらが混じった姿になった |

dəəʔəə ［名前］プークー ɥɑ;ɑɔueſ JJ ［成句］ ɔoc ɑel nene eɒ dəəʔəə lɪlſ nene ～という豚が～にとってプークーとなる : 情が移る、情が湧く ［文化］ サプリの村でリディアが飼っていた子豚。

dəəɒ ［幼児］［婉曲］肛門、お尻の穴、おしりの穴 ［類義語］cdɒ ［レベル］２ 1L:ɒel:cdɒ を幼稚な音に変えたもの

dəəɥə,ɟzɑ cd ‹›cdjen

dəəɥəucɒ ［生物］中殿筋、中臀筋 JlΛ‹JJ

dəəl,ɟzɑ ʔlɪɒ ʔɔɔʔueſ

φ ［言語］主題→ dɔſɔʔ ［レベル］５ ɟɒ JʔJ

φɪφ,ɑɥɑ dɪφ ɑɔueſ

b

b ［単位］メルバ ［レベル］２ J0 ［用例］ 10b １０メルバ

b(J) ［演繹音］たん、タン、たたた、タタタ、ばん、バン、ぱん、パン、ばーん、バーン、ぱーん、パーン ɥɑ;hɪɪlueſ JʔJ ［語法］ blɒ

bɥiʔl ［歴史］［建築］遺跡 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :bɥiʔlɪl（遺跡） bɥiʔlɪl:bɥiʔlɪl ［用例］ jɪʔl bɥiʔl 遺跡を発掘する { 見つける }

bɥiʔlɪl,ɑu bɥiʔl bɪʔləj.l

bɥiɥ ［建築］クレーン、起重機 ［レベル］３ 1ʔ: 制 : 古 :bɥəɥɪφɪ（重い機械）

bɥiɥlcuɪ ［娯楽］クレーンゲーム ［レベル］３ JʔJ

bɥə ［化学］［物理］質量 ［レベル］４ 1θ: 制 : 質量 : 古 :bɥə（重い） ［用例］ bɥə ſcn 質量が大きい

bɥə,ɑ ɑɪɑ e

bɥəſəʔɪ ［物理］ヒッグス場 ［レベル］６ ɪl;/ JʔJ

bɥəucɪnɪjəſ ［物理］ヒッグス粒子 ［レベル］６ ɪl;/「質量のボソン」 JʔJ

b

byəz ［植物］白菜 ［レベル］2 jeɟen:ɒel:byəz（白菜）。「 重い野菜 」が原義。

byəlɪnɛʃ ［工学］重工業、重工 ［レベル］5 ɟɑ;/ ɟʔ

byəlɔn ［単位］ピュロン ［レベル］5 ɟl: 古 byə/lɔ/n「頭の重さ」水を使った実験でちょうどルノの頭が lɛcn の 1/10 程度であったことから。 ［文化］ɪnʔɔ

byəc ［動詞］ɥəl を尊重する、尊重する ［普通動名詞］尊重 ［反意語］nɪc ［言語］［婉曲］ɥəl（何がしかの複合語）を ɪ（単純語）にする：ɪɟʃɛɔn が ɪɟʃzen になったときにセレンがリディアと喋っていて使った用法が最初。ある概念をどうでもいいと思っていると複合語のままだが、特別視すると単純語になりやすいことから。自然言語でもその傾向があるが、アルカでは顕著。そこから、ある概念を尊重する＝その語を単純語にするという用法ができた。 ［レベル］3 古：重く見る ［用例］byəc nɔln 個性を尊重する

bɪʀl ［擬音］ブルル。車がエンジンをかけて走る音。 ɟʃ;/ ɟʔ

bɪlɪn ［動物］マダイ、タイ、鯛 ［レベル］3 高 ［文化］高タンパク低脂肪で滋養強壮や病後によいとされる。

bɪlɪnɑ ［代詞］［ben］お前ら、てめぇら、貴様ら ［レベル］1 ɟl:ɒɪlʃ:byen ［用例］bɪlɪnɑ ɑe lɪn ʃcɟʃ 貴様らは人間ですらない！ お前ら人間じゃねぇ！

bɪlɪnɑc ［軍事］散弾銃、ショットガン ［レベル］4 ɟɑ:ɟcɑcɪ;leebenbɪʃɔc.ʔ ɟʃʔ:ɟcɑcɪ ［文化］φel

bɪlɪnz ［軍事］格闘、武道、格闘技、戦闘術 ［類義語］ɥəuel ［レベル］3 zφ;uɒ<>bɪlecɟ ɟl ［文化］ɥəuel

bɪlɪnzlcuɪ ［娯楽］格闘ゲーム、格ゲー ［レベル］3 ɟl

bɪlɪnzlecn ［運動］［武道］武道着 ［レベル］4 ɟɑ;/ ɟʔ

bɪlɪcn ［魔法］ブライン、気功力 ［レベル］5 ɟ0:bɪlecɟ/nɪ ［語法］ enuelen

bɪlcɔ ［植物］にんにく、大蒜、葫、ガーリック ［レベル］2 定：「 臭い 」が原義 ［文化］ 一般的に食べられるが、臭いが強いので食べると臭がられる。疲労回復に良い。

bɪlcɔɑclɑɪc ［医療］ニンニク灸 ɟɑ;/ ɟʔ

bɪlɔc ［気象］粉雪からなる吹雪 ɟɑ;<ul ɟʔ

bɪlenɑc ［代詞］［ben］てめぇらの、お前らの ［レベル］1 ɟl:ɒɪlʃ:bɪlɪnɑ.ʔ

bɪleɪ ［人名］ブレア ［名詞］アルカンスにおけるブレアの手 ［名詞］中巻 ［組み数字］2 / 3 ［レベル］2 古：元は bɪlcɪ だったが、ɟleɪ, ɟʃeɪ に合わせて bɪleɪ という語形が生まれた。 ［文化］ ɪɟʃɪ nɟ テームス信者で、アルカンスを巡ってスレア・トレアと争った。

bɪleɪleelʃ ［化学］β グロブリン ɟʃ;/ ɟʔ

bɪleɪɒel ［名詞］中期 ［レベル］3 1L:cIɒəɟ:ɟcɑcɪ

bɪleɪhɔ ［生物］恥骨 ［レベル］5 1L:ɟcɑcɪ

bɪleɪhɔɪɟʔ ［生物］恥骨結合 ɟɑ;/ ɟʔ

bɪleɪhɔɪɟʔhɪlIɔɔz ［生物］恥骨結合上縁 ɟɑ;/ ɟʔ

bɪlecɟ ［悪魔］ブレイス ［レベル］4 ɒelʃcɪ 0:bɪlecɟ;e 古 :ɟcɑcɪ: 古アルカの原則通り、対となる ʔleeʃ は長音の母音を持っている。 ［文化］ ノアを使うデームス。ノアを司る。２０代男性の姿。鍛えられた肉体で、軽装をしている。爪を武器に戦う。やや短気。クレートとペアをなす。常に２人で行動し、超絶的な気を操る。 天王星を司る。

bɪlecɟen ［アトラスの国家］ブレイセン ［レベル］5 ɟʔ:ɟcɑcɪ

bɟɪʃ ［動物］フナ、ふな、鮒 ［レベル］4 ɪlɪʔlɪ

bɟɪn ［名詞］スラム、スラム街 ［レベル］3 ɪlɪʔlɪ ［文化］ 中央アルナの場合、南区の風俗街周辺が事実上のスラム街かつ貧民街。

bɟcɔɑɔl ［地学］スクロド石 ［アイテム］ブリオドル ［レベル］5 1L ［文化］ 魔石ではないが、蟲族の魔物を寄せ付け、精霊族と妖精族の魔物を追い払うアイテム。

bɟen ［俗語］男のガキ、クソガキ ［レベル］2 1L:ɟcɑcɪ:bɟɪn から

blʃ ［演繹音］たん、タン、たたた、タタタ、ぱん、パン、ぱん、パン、ばーん、バーン、ぱーん、パーン ɟɑ;hɪɪluefʃ ɟʔ ［語法］ blɒ

blɒ ［演繹音］ぱん、パン、ぱん、パン、ばーん、バーン、ぱーん、パーン、ばきゅーん、バキューン、どん、ドン、ずどーん、ズドーン、ずきゅーん、ズキューン ɟɑ;hɪɪluefʃ ɟʔ ［語法］ 銃弾や砲弾などを発射するときの音。blʃ に比べると一発一発ちゃんと出している感じ。blʃ はマシンガンのようにタタタと素早く出している感じ。b は bɪbɪbɪ のようにマシンガンを発射するような音。

blɪnʃ ［美容］くすみ ［動詞］ɥəl をくすませる、くすむ ［レベル］4 ɟl: 擬態語

blɪnl,ɟzɑ aɪɟ

blɪnuɛɟ ［名詞］闇炎舞、ブランヴェール ［アクセント］blɪnuEɟ ［レベル］6 ɟl:blenzel<beezel/uel ［文化］ カテージュのシャンテ・タンジュールで行われる演舞。元は兵舎の竜騎兵が武器を用いて行った余興から。 二本の鎖の先にリングを付け、そこに現代ではスチールウールなどを付ける。スチールウールに火をつけ振り回すと火の粉が美しく舞う。

blɪnuɛɟ lcφɟe ［人名］ブランヴェール＝シグレ ɟl ［文化］ リーファ隊カサンの本名。

blɪnɑ ［名詞］烙印 ［動詞］ɥəl の烙印を ɪ に押す、烙印を押す ［レベル］4 zφ;blenz.ʔ ɟʔ ［用例］ blɪnɑ ʃ'ɪuelɪnʃ 死神の烙印 lɪ ʃcl blɪnɑ e ɑcɟeʃɪn. 彼は犯罪者の烙印を押されている。

blɪnz ［医療］コンプレックス ［類義語］hcɟnɪ ［レベル］4 zɑ;blenz.ʔ ɟl:blenz「心の中の炎」 ［用例］ lɪ ʃcl blɪnz ɔn ʃeɒ. 彼女は耳にコンプレックスがある。 uɪɟʃ blɪnz コンプレックスを克服する uɪɟ blɪnz コンプレックスを乗り越えようとする

blɪnzel ［人名］ブランゼル、神裂 ɒʃ;blɪnɑ.ʔ「悪魔召喚師の烙印を捺された→悪魔召喚師→神を切り裂く→神裂」 ɟʔ

blɪb ［擬音］ペラペラ、べらべら、べちゃくちゃ、ぺちゃくちゃ、ペラペラ ［言語］［俗語］言語、言葉、蛮族語：主に外国語や方言を卑下していう。 ［レベル］2 ɟl: オノマトペ ［用例］ cɪɟɟɟ en ɔ ɟɪɪlʃɔɟen eʃ blɪb ʃcɟ. 中国語と英語は蛮族の言語にすぎない。

blcɟ ［俗語］［ネガティブ］手下、使いっぱ、使い走り、パシリ、犬、手先 ［類義語］ɟeɟ ［レベル］3 ɟɑ;blcɟ,ɟzɑ.ɑɟcɟ ɟl

blcɟ,ɟzɑ sc <> lccz

blcɟn ［医療］同身寸法、指量法 ɟzl;blcɟ.ʔ ɟʔ

blcnz ［地学］［化学］硝石 ［レベル］5 zφ;blcnz,ɑlɑ><blenz ɟl ［文化］ ファルファニアから流入。ファルファニアなどでは天然のものが得られたが、アルバザード北部などでは家畜小屋の土壁などから得ていた。のちに火薬ができると原料としてもてはやされた。

blcz ［軍事］雑魚、雑魚敵、ザコ敵、ザコ ［組み数字］3 / 3 ［レベル］3 ɟɑ;blcz,ɟzʔ < blcɟ,ɟzɑ ɟl ［文化］ uɪnφɟɟ

blcze ［文頭純詞］所詮、しょせん、そうはいっても、どうせ、なんといえども、なんであれ、何であれ ［レベル］2 ɟl:blcɟ「指の先のように瑣末なこと」

blɔnz ［名詞］火花 ［レベル］3 ɟɑ;blɪnz,ɟzɑ.l ɟʔ

blenz ［名詞］炎、火、火炎、大火、焔、火柱 ［類義語］ɑɪc ［レベル］2 ɟzɑ;<>beezel ［語法］ 燃え盛る炎、火炎のこと。

blenzel ［天文］ɑcɪlccɑɪ ［組み数字］1 / 8 ［レベル］4 lɟɑ;blenz/ɪl ɟl

blenzelɟecn ［組み数字］天狼賞 ［レベル］5 ɟl ［文化］ → ɟɪdɪll 八大星。一等星は２０個以上存在するが、そのうちアルバザードから見えるものは１０数個。さらにその一等星を明るい順に並べた８つのことを八大星という。本来明るい順に並べるとシリウス、カノープス、リギルケンタウルスと来るが、リギルケンタウルスはアルバザードからは見えない。地球でも沖縄以南でないと見れないため、おおむね北緯２６°以南となる。従って３位はアルクトゥールスとなる。次はベガ、リゲル、カペラ、ベテルギウス、プロキオンと続く。プロキオンで明るさは０．４である。次はアケルナルとハダルだが、前者は鹿児島以南、後者は沖縄以南なのでアルバザードでは見れない。その次はアルデバランになるが、明るさが０．８と急激に落ちてしまう。この落差が激しいため、８つで打ち切ってひとまとまりとしている。なお、カノープスは日本の東北地方以南なのでアルバザードでは国の最南端でかろうじて見える程度である。八大星は zφ ごろに認識されていたようだが、１万年も前になると現代と星図が異なっているため、そのまま適応はできない。現代に残っているものは ɟɒ に再びまとめられた八大星で、ɟɑ で組み数字として採用されたものである。星の名は ɟɑ でアシェットが魔族を封じ込めたときに新たに定められた。ɟɒ までは当然別の名で呼ばれていたわけだが、組み数字ではその名を使う。

bleɒ ［料理］［動詞］ɥəl（材料や衣など）を ʔɔn であげる、あげる、揚げる ［レベル］2 ɟl:blenz el/eɒɟ ［用例］ bleɒ ɟɪbc ʔɔn eɒɟ ʃəəʃel. 油で衣をカラッと揚げる。

bleɒɔoc ［料理］とんかつ、トンカツ ［レベル］3 1L ［文化］ 油だらけの食品をアルバザード人は嫌うため、アルバザードではふつうには知られていない。 ［用例］ lejʃbel e ɑcɟ ɪʃ bleɒɔ oc. 今日のおかずはとんかつだった。

bleben ［俗語］蛮族、ブレーベン ［レベル］4 ɟl:ɒel:blɪb/ɪn「ベラベラ分からないことを話すもの」 ［用例］ ɪnlclɪn jecn ʔɪlɒɪ ʔlcʃ lcuɪ e dɟɪɒ le ɑcɪn ɔ lɪz lənɪ ʃcɔ ʔɪl ɥəlcocl, eʃ beɟɪcl ʃc nʔɪ. lɪlɪ ʃə ʔlcʃ eʃ ɑɪz ɪ ʔɔleʃ ʃeə bleben l'en lɔʔc lɪɑ (ɪlʃe 日本のゲームは幼い少女を出してオタクの性欲を満たす低俗なものが多いと西洋人はよく言うが、さすが我ら蛮族は物の良さが分からないと見えるw (ɒel ʔleeʃɔcɪ)

blecz ［軍事］会戦、戦闘、バトル ［レベル］3 ɟzɑ;blɪnz.ʔ「剣と剣がぶつかる際の火花」から。 ɟʔ

bɪʃ ［軍事］引き金 、トリガー ［レベル］3 先 :bɪʃ(引き金)。参考：ソーン φelφc ［用例］ leʃ bɪʃ 引き金を引く

bɪʃʃɟ,ɑu deɟɟ e

bɪʃʃɔ ［アイテム］メイス zφ;bɪɑ.ʔ ɟʔ

bɪʃʃel ［形容詞］しょうもない、どうしょもない、しようのない、仕方のない、しようもない、どうにもならない、アホな、しょーもない、出来の悪い、できの悪い ［レベル］3 古

bɪʃlɪlʃ ［軍事］トリガーガード、用心金 ɟɑ;/ ɟʔ ［文化］ φel

bɪɟ ［動詞］ɥəl（内容）を ɪ（相手）に言い返す、言い返す ［類義語］ʔclɟenɟ ［レベル］3 1ʔ: 制 :bɪl ʃlə ［語法］ 日本と違って個性と言論を尊重するアルバザードでは、言い返すは悪いこととは限らず、相手の言葉を踏まえた上で言うという意味でも使う。

bɪʃɔn ［動物］ペリカン ［レベル］4 定 :bʃɔn（袋の鳥）

bɪl ［動物］牛 ［レベル］2 ɑu;e 定 bɪlʔ:bɪlʔ::ɒəə,ɪlʃ ［成句］ ʔɔɪ bɪl 牛を乗せる：つけあがる、付け上がる、調子にのる、調子に乗る、いい気になる、利用する、つけこむ。zφ の時代のシージアに牛を連れて荷物を持って歩く者がいた。そこに荷馬車を引く人が通りかかり、善意で荷物を積んでやると言った。男は荷物だけでなく牛まで積もうとしたら荷馬車の主人が怒り、荷物を降ろされて去られてしまった。転じて人の好意などにつけこんで過剰な要求をして付け上がることを指すようになった。 ［文化］ もともとアルバザード人は牛をそこそこ食べていたが、現代はミロクの指導の下、牛肉の消費量が減り、鶏を食べる割合が増えた。牛乳やチーズなどの乳製品は継続して消費されたため、牛は乳牛がメインとなり、食肉牛の需要は減った。

bɪlʃcnl ［牧畜］［音楽］カウベル ［レベル］5 ɟɑ ɟl

bɪlʔəɟ ［サール］バックス。建築の神 ［レベル］4 ɒelʃcɪ ɟʔ:ʃcʔnɔ;e ɟ0: 古 bɥɪʔlɪl ［文化］ (ɒelʃcɪ ɟʔ →) ー建築の神バックス ティクノはエルトがサールのために作った最初の家から九十九神のバックス神を生んだ。バックスはティクノが最初に生んだ神であった。 バックスは建築を司る神であり、無精髭を蓄えた筋骨隆々の赤い肌をした中年男性の姿をしていた。右手には槌を持って生まれてきた。 「父ティクノよ。あなたはなぜ儂を生んだのですか」「息子よ、実は城と家を建築してほしいのだ。魔法を使わずともある程度寒さを凌げ、楽に暮らせるようにな」「なるほど分かりました、お任せあれ」 こうしてバックスは城と家を造りだした。 一方エルトの一族はバックスの働きぶりを観察し、技術を盗むと、自分たちも城と家を築こうと真似しだした。

bɪlɟ ［アイテム］棍棒、バット ［レベル］3 古 :ɔɟɒn nəə:nəə ［用例］ oɪɟʃ bɪlɟ バットを振る hɪɒ bɪlɟ バットを振り回す

bɪlɟɪn ［野球］バッター、打者 ［レベル］3 ɟʔ

bɪlɑlel ［料理］牛肩 ［レベル］3 1L ［成句］ ɑcʃ bɪlɑlel ɪ ɪ を歓迎しない。邪魔がる：牛の肩はあまりおいしくない。それを客に振舞うことで、歓迎していないことを指す。

bɪlɑenʔ ［名詞］牛革 ［レベル］3 ɟ0

bɪlɒ ［料理］牛乳、ミルク ［レベル］2 1ʔ: 制 :bɪlʔɒɪe（牛の乳）から ［用例］ ɪn lenɪʃ bɪlɒ cɟʃ ɑɪɪl. 朝食の代わりに牛乳を飲んだ：厳密に言えば cɟʃ ʔɔc ɑɪɪl だが、流石にそこまで神経質にならなくてよい。lenɪʃ を ɪɑɪʃ にすると誤解はなくなる。 el len ɪl bɪlɒ cɒ ɒɔʔ ucl. 眠れないときは牛乳を飲むのがいい。

bɪlɒncɒ ［色］ミルク色 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

bɪlɒucɟɔ ［化学］カゼイン ［レベル］6 1L

bɪlɒuclɟ ［化学］トリプトファン ［レベル］5 1L ［文化］ ɟɑ で牛乳からリュウが発見。

bɪlɒdcle ［料理］コーヒー牛乳、カフェオレ、ミルクコーヒー、コーヒーミルク ［レベル］2 ɟɑ;/ ɟʔ

bɪlʔɔφ ［料理］ピーマンの肉詰め。ただし牛肉。 ［レベル］3 1L

bɪlɥel ［料理］牛肉 ［レベル］2 ɟl

bɪlɟɪ ［牧畜］牛小屋 ［レベル］3 1L: リディアの書

bɪll ［化学］コロイド ［レベル］5 古 :bɪl（牛）/l（物）。牛は牛乳の意。 ［文化］ ɟɑ ではリュウが牛乳を用いて使徒に説明した。

bɪlɪ ［料理］ハンバーガー ［レベル］2 1ʔ: 制 :bɪl ［文化］ パンに肉や野菜を挟んだ料理で、一般的に食べられる。ハンバーガーというと日本では「健康に悪い食べ物」というイメージが定着しているが、アルバザードにあるのはもともとドイツやヨーロッパであったような、パンと肉と野菜を同時に食べられるようにしただけのものである。素材も調味料も油も悪いものを使わないので、アルバザードではハンバーガーと聞いても「あ、健康に悪い食べ物だ」とか「カロリーが高い」という意識がない。日本でサンドイッチと聞いても健康に悪いと思わないのと同じ。アルバザードの感覚としてはサンドイッチに近い。

bɪlɪn ［名詞］牛飼い ［レベル］5 ɟɑ;/ ɟʔ

bɪlɪncɑu ［地球の星座］［ユマナ］うしかい座 ɟʔ ［文化］ cɑɪ

bɪlɪl ［建築］遺産、世界遺産、文化遺産 ［レベル］4 ɑu;bɥɪʔlɪl.ʔ ɟʔ

bɪlc ［牧畜］酪農 ［レベル］4 1ʔ: 制 :bɪl

bɪlcɑu ［地球の星座］［ユマナ］おうし座 ɟʔ ［文化］ cɑɪ

bɪlɔ ［名詞］クリーム。食べられないほうのクリーム ［レベル］3 1ʔ: 制 :bɪle ［語法］ bɪle に似たものだが、牛乳から作ったわけでもなく、食べ物でもない。軟膏のようなものや化粧クリームなどのクリームを指す。

bɪle ［料理］クリーム、生クリーム ［レベル］2 1ʔ: 制 :bɪleɒɟ（牛乳の脂肪） ［語法］ 食べられるほうのクリーム。bɪlɔ は食べられない。bɪle はとりわけ生クリームを指すことが多い。

bɪle,ɑ ʃə（これ）

bɪleʃ ［料理］乳製品 ［レベル］3 ɟl:bɪlɒ/ʃe

bɪlenɔɒ ［色］クリーム色 ［レベル］3 ɟ0:ɟcɑcɪ:ɒcɟɔʔ

bɪlenɔ,ɑ これの bɪle/lenɔ

bɪlel ［化学］エマルション、エマルジョン、乳濁液 ［レベル］6 1L:bɪl/el（制）

bɪlelɪb ［化学］乳化剤 ［レベル］6 1L

bɪleleɒ ［化学］乳化 1L

bɪl ［料理］漬物、つけもの、漬け物 ［レベル］2 ɟcɑcɪ: 定 : 古アルカで bɪl という名の食べ物から ［文化］ 漬物というと、通例ピクルスを思い出す。酢漬けと塩漬けが多い。また梅酒のように砂糖漬けにしたものもある。酢、塩、砂糖でアルバザードの漬物は大体をカバーする。ただし、bɪl と聞いたときにはふつう甘いものを思い出さない。砂糖漬けの比率が少ないため。よって bɪl と聞くとパンなどに挟むピクルスのようなすっぱいものというイメージがある。なお、ピクルスで最もありふれたものはキュウリ。

bɪlɟɪl ［化学］乳酸 ［レベル］5 1L:ɟcɑcɪ ［文化］ ɟɑ ではバッシュ（漬物一般としての名でなく、バッシュという漬物。具体的に何かはもはや謎）からリュウが発見した。 日本では乳酸と聞くと「疲れ」を連想するが、アルバザードではそのように思われていない。

bɪɟ ［名詞］ゴミ ［形容詞］不要な、いらない ［動詞］ɥəl を不要とする、ɥəl はいらない、ɥəl はゴミだ ［法副詞］～する必要がない、～しなくてよい ［副詞］不要にも、不必要にも、いらないのに ［反意語］lcɟ ［レベル］2 ɟɑ 1L: 赤 :bɥɪʃ（ゴミの） bɥɪʃ:bɥɪʃ ［語法］ 副詞と純副詞で意味が異なるので注意。 ［文化］ ごみ収集は夜に行われる。渋滞が緩和され、カラスの害が減少するため。 ［用例］ cɒ lecɥə, el ucnɟɪʃ bɪɟ ɪ ɑɔnʃ, hɪɥə ʔcɪl ɪʃ elʃ. レイユでは人々が道にゴミを捨てたので、街が汚れていた。 cn, lɪn ɥən bɪɟ e. 見ろ、人がゴミのようだ（『天空

の城ラピュタ』)

bɪɟlɪ ［名詞］ゴミ捨て場、ゴミ置き場、ゴミ集積所 ［レベル］2 μɑ;bɪɟ/lɪ ʃʔ

bɪɟɪ ［動物］カンガルー ［レベル］3 1Ⅱ ←古 :bɟɪ（袋） ［成句］ lcnɔ e bɪɟɪ 後生大事

bɪɟeμ ［名詞］廃水 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

bɪn ［形容詞］楽しい、愉快 ［反意語］bəəni ［レベル］2 1ʔ: 制 niſlɔ:niſlɔ:niɪl:nɪɟclə,ɪlſ ［用例］ ɪnɟ niſ bɪn uɔl cn clſɪ l'eſ ɥən lecɟ. 私たちは絵のような景色を愉しんだ。

bɪnſ ［名詞］息切れ ［医療］動悸→ dɪlɟɪ ［類義語］hɪh ［レベル］3 J0: 制 dɪnſ ?

bɪnʅɥɔ ［名詞］喜劇。メタファーとして使う場合は bɪnʅlɔɪ のほうを使う。 ［類義語］bɪnʅlɔɪ ［レベル］5 μɑ;/ J0: 実際は制で作っていたはず。

bɪnʅlɔɪ ［名詞］喜劇。メタファーとしての喜劇。 ［類義語］bɪnʅɥɔ ［レベル］4 μɑ;/ J0

bɪnɟɪ ［被服］ボディス zφ;.jelɪn。ɟɪ は ɟɪbe と思われる。 J0

bɪnɟcnɟɔl ［娯楽］バラエティ、バラエティ番組 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſſ ［用例］ leɟ ɪn ɟccnɪ eſ bɪnɟcnɟɔl. 私が好きなのはバラエティーだ。

bɪnɑ ［軍事］撃鉄、ハンマー ［レベル］5 μɑ;ɑɔueſ。撃鉄の鳴る音から。 J0 ［文化］ φel

bɪnɑeɟ ［運動］ホッケー ［レベル］3 hɥ;「長い杖」 ʃ1

bɪnφ ［名詞］信管 ［レベル］6 古 : 元は銃のハンマー部の意味だった。

bɪnφel ［名詞］賊、山賊、海賊、パイレーツ、バンディット ［レベル］3 古 :beɔ/beφel（クソ芋虫）

bɪnɪ ［親族］どら孫娘 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:be/hɪnɪ

bɪɑ ［料理］バター ［レベル］2 定 ［用例］ nɪb bɪɑ ɪ dɔɑ パンにバターを塗る

bɪɑɔ ［料理］ブリオッシュ ［レベル］3 1ʔ: 制 :bɪɑ/dɔɑ

bɪɒb ［動詞］ɥəl を擂って ɪ にする、擂る、すり潰す、磨り潰す、おろす、大根などを下ろす ［レベル］3 古

bɪɑ ［動詞］ɥəl を叩く、叩く、ぶつ ［音楽］打楽器 ［レベル］2 ɑ;ɑɔueſ 1ʔ: 制 bɪɑ:bɪɑ ［成句］ bɪɑ ɪleɒ さぁ、さあ、さあな、さぁな。制ごろに bɪɑ–ɪl nɪ として ſeɔlɔn が使い出した慣用句。直訳すると「心を殴れ」。新生から bɪɑ ɪleɒ に変わった。しらばっくれたり濁したりするときに使う。 ［用例］ le bɪɑɪſ ɔjn ɪnſ. 誰かが私の頭を叩いた。 ɑen lə bɪɑ ɪleɒſ 知らばっくれるんな、シラばっくれんな、しらばっくれるな、しらばっくれんな

bɪɑuɪʅ ［アイテム］打撃武器 μɑ;/ J0

bɪɑuɪnɑ ［普通動名詞］打撃 μɑ;/ J0

bɪɑɑɔ ［言語］弾音、はじき音、弾き音 ［レベル］6 1L

bɪɑzɔn ［軍事］撃針 μɑ;/ J0 ［文化］ φel

bɪɑzɔnφel ［軍事］シュナイダー銃、スナイドル。撃針を設けた元込め式の銃。 μɑ;/ J0 ［文化］ φel

bɪɑɔɔnɟ ［動詞］ɥəl を踏みつける、踏みつける、踏む、どんと踏む、ぐしゃっと踏む ［レベル］2 L:pelcɑcɪ ɪlſe ［用例］ lɪ ɟeſɪſ ɒe uɔl bɪɑɔɔnɟ. 彼は蛙をぐしゃっと踏みつけて殺した。

bɪɑleɒɔɒ ［音楽］ハンマリング ʃ1

bɪɑɔɒ ［医療］打鍼法 μɑ;/ J0 ［文化］ 打鍼法が発明されたのは 1Ⅰ のカテージュ。

bɪφ ［動詞］ɥəl をもむ、もむ、揉む、さする、擦る ［レベル］3 1ʔ: 制 :bcφ とあるが bcφ が何かは不明。 ［用例］ ɪn bɪφɪſ ɪɪɑ ɒɪn nɪ ɥɪ ɔn ſə. 腰が痛いので腰を揉んだ :bɪφl より簡易な揉み方。

bɪφ(J) ［感動詞］げへげへ、ゲへゲへ ［レベル］3 1L: リディアの書 ［語法］ 役割語であり、実際にこのように笑うと、とてもわざとらしく聞こえる。

bɪφl ［普通動名詞］マッサージ ［動詞］ɥəl をマッサージする ［レベル］3 1ʔ: 制 :bɪφ ［用例］ ɪn bɪφl ɪſ μjccl ɔn ɑlel. 親の肩を揉んであげた。

bɪd ［医療］潰瘍 ［レベル］3 1ʔ ←古 :bɪɒdcɟſ（悪く膨らんだもの）。潰瘍は膨らんだものではないにせよ、これが語源となっている。

bɪrʅ ［ben］ダチ、友人、友達 ［類義語］hɪrʅn ［レベル］3 古 :jeμen/ɔuc/zɪnɪ/φcl:bɪrʅ。元は hɪrʅbɪ の高尚なイメージをわざと落とすために汚い音である b をつけた bhɪrʅbɪ から。結果 h が脱落して bɪrʅbɪ になり、短縮されて bɪrʅ に落ち着いた。

bɪμs ［親族］どら弟 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:be/ɪμəəs ［語法］［文化］ ɪlɟeμ

bɪμcəɟ ［アトラスの国家］バリウス ［レベル］5 J0:jeμen:bɪlſ/ɑclcμcəɟ（ディシリウスの反対側）

bɪμeſ ［名詞］折檻、体罰 ［動詞］ɥəl を折檻する、ɥəl に体罰を与える、折檻する ［レベル］3 J0:bɪɔφ/ſμen ［文化］ 子供は理性のない動物なので、言うことをきかせるためには折檻を用いてよいと考えられている。人前であろうと親は子を叩く。叩くのはもっぱら母親で、父親はまず叩かない。紗枝のような大人しい女性も叩く。騒いでいる子供を放置しているほうがアルバザードだと体裁が悪い。フランスに似ている。父親は折檻を行わないが、以下の状況では行う。 男女共通 :「嘘をついたとき」「卑怯なことをしたとき」 息子 :「困っている女性を助けなかったとき」 娘 :「親の反対する交際を男子と行ったとき」 例えば 1 0 歳くらいの子供が二人きりでランスケルンに行くのはまだ早いので、親は反対する。たいていの娘は聞くが、稀に聞かない娘がいる。しかしアンセの使用履歴でバレるため、このような場合に体罰を得る。

bɪz ［代詞］［ben］お前、てめぇ、手前、てめえ、貴様、キサマ、きさま ［レベル］1 ʃ1:cuc: 卑音のリムレット ［語法］ 粗雑で強烈な言い方。賊っぽい。

bɪzel ［代詞］［ben］てめぇの、お前の ［レベル］1 ʃ1:ɔuc:bɪz

bɪl ［建築］壁、ついたて ［レベル］2 ? : 制 : ɔ :jɔμn:bɪlſ（壁）「跳ね返すもの」が原義 ［用例］ ncɪl ɪ bɪl 壁に立てかける

bɪl(J) ［代詞］［南方］［男性］ſc ［レベル］3 ʃ1:l.bɪrʅ

bɪlſ ［動詞］ɥəl を ɪ に跳ね返す、跳ね返す、反射する、反発する ［普通動名詞］クッション。ビリヤード。 ［副詞］［文頭終結詞］対照的に ［物理］［普通動名詞］反射 ［魔法］バルト。土の白魔法で、物理・魔法攻撃を跳ね返すバリアを張る。ただし、バリアと接触したときの入射角でしか跳ね返らない。つまり右上からユノが入ったら、同じ角度で左上に跳ね返る。 ［レベル］3 古 :jɔμn:bɪlſ（壁） ［成句］ bɪlſ μenɟ ɪ nene ɑccnɪ nene 心の声を伝える ［用例］ bɪlſ ɑɪμ ɪ bɪl lɔn ɒed 光を鏡で壁に跳ね返す

bɪlſſcl ［物理］反射角 ［レベル］4 1L

bɪlſnel ［経済］反発 ［レベル］6 ʃʃ

bɪlſɒcɒ ［経済］反落 ［レベル］6 ʃʃ

bɪlſɒed ［名詞］反射鏡 ［化学］反射鏡→ ɒed ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

bɪlſíbɪɔφ ［生物］［医療］心下満 μɑ;/ J0

bɪlſcμ ［軍事］大佐、バルティール ［組み数字］6 / 2 0 ［アクセント］bɪlſЄμ ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:bɪlſ（跳ね返す＝対抗する）/ɪɒcμ（夫でなく「頼られるもの」） ［語法］［文化］ ʅɪnɪ

bɪlſe ［名詞］克、相克 ［形容詞］克な ［反意語］hɪzel ［レベル］4 ʃ1:bɪlſ/ſe ［語法］ hɪzel

bɪlſeſ ［名詞］弱み、弱点 ［魔法］克性 ［類義語］cuneſ ［反意語］hɪzeleſ ［レベル］3 ʃ1 ［語法］ uce neſ ［文化］ ɑɔlɒcɥə

bɪlſeɪμſ ［魔法］克魔法 ［レベル］5 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

bɪlſl ［動詞］ɥəl を成立させる、成立する ［普通動名詞］成立 ［レベル］3 ? : 制 :bɪlſl（建物を建てる）から。 ［語法］ 建物や作品以外に、法律のような抽象的なものにも使える。 ［用例］ ſə ɑɪlɒ cl bɪlſl. その法案は成立した。

bɪlſl ［普通動名詞］工事 ［動詞］ɥəl を工事して ɪ を建てる、工事する ［レベル］3 1Ⅱ: 制 :bɪl は赤の bɥɪʅlɪl（遺跡）

bɪlɟ ［建築］棟、校舎 ［レベル］4 1ʔ: 制 :bɪlſl から ［語法］ 部屋がいくつか横に並んでいる建物。または建物の中のそのようなひとつの階を指す。

bɪlɟe ［親族］アニキ、兄貴、あにき、あんちゃん、アンちゃん、にぃ、兄ぃ ［レベル］2 1L:be/ɪlɟeμ ［語法］［文化］ ɪlɟeμ

bɪlncɟ ［建築］エンブライジャ、銃丸、矢狭間 μɑ;/ J0

bɪlɑ ［動詞］ɥəl を ɪ に敷く、敷く、敷き詰める ［レベル］3 古 :jɔμn:bɪlɑ（敷き詰める） ［用例］ bɪlɑ lɔſɟ ɪl ɪlɟ 床にタイルを敷き詰める

bɪlɒɪɟ ［建築］壁紙 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſſ ［文化］ アルバザード人は壁紙を変えるのが好きで、カーテンのように変える。色は白一辺倒とは限らず、カラフルなものであったり、季節や部屋のイメージに合わせたりする。もちろんむき出しの木にすることもあるし、白にすることもある。アルバザード人は中間色、特に淡い色を好むので、薄い桃色、薄い青緑、かすかに蒼い灰色などといったものがよく売れる。原色、例えば赤で塗りつくした部屋というのはアルバザードでは異様。

bɪlɒɪɥə ［地名］バルマーユ ［アクセント］bɪlɒϮɥə ［レベル］5 J0: 古スカルディア語「海岸が変えられた」 ［文化］ スカルディア西南部、現ラズディアの地方。アデルが住み着くようになり、アデルのブリードが活発に行われた。

bɪlɒɪs ［地名］バルマージュ ［アクセント］bɪlɒϮs ［レベル］5 J0:bɪlɒɪμə/ 古 scnɪ（空） ［文化］ ɥəə ɒɪ ʔϮJL にバルマーユ上空にできた穴で、アデルが降ってきた。

bɪlɑc ［感動詞］ざまぁみろ、ざまあみろ、ざまーみろ、ザマぁ、ザマあ、ざまぁw、ザマアミロ、ザマーミロ、メシウマ、めしうま、今日も人の不幸で飯がうまい ［レベル］2 古 :bɪlɑc ← bɪlɑ ſc（お前に跳ね返る）。bɪlɑ は bɪlſ の過去形 bɪlſɑ の実際の形。

bɪlɑcɟ ［名詞］腐れ縁 ［レベル］4 J0:be/ɪlſcɟ ［語法］ hɪrʅn

bɪlɒɪ ［料理］グラタン ［レベル］2 古 ［文化］ 一般的に食べられる。なぜか子供に人気があると考えられている。

bɪlɒɪl ［地名］バルバル ［音楽］ファンク ɑμɑɟ ʃ1

bɪlɒɪl ［建築］マーロン μɑ;/ J0

bɪlcɟ ［人名］アリス、アリス＝アンシャルの悪口 J0:ʅɪlce:be/ɪlcɟ（バカアリス）

bɪlcz ［親族］どら孫息子 ［レベル］2 ʃ1:bɪμs と似るため ‹1L:μcɑcɪ:be/ɪlccz

bɪlɔn ［アイテム］防具 ［反意語］uɪʅ ［レベル］2 J0:bɪlſ/lɔn（攻撃を跳ね返す道具）

bɪleſ ［形容詞］くだらない、下らない、取るに足らない、どうでもいい ［類義語］ueμɟ ［レベル］3 ɑu:ɔuc; ↓ 古 :ɔuc:be/ɪl/ſe と思われる。

bɪlen ［代詞］［南方］［男性］ſccl ［レベル］3 ʃ1:bɪl の属格

bɪɪ ［俗語］ばか、馬鹿、バカ ［レベル］2 古 :be（卑音）から

bɪɪſ ［動物］カバ、かば、ヒポポタマス、河馬 ［レベル］2 定 ［擬声］ ɔbəə

bɪɪſɪɪɑ ［地球の国名］マリ 1L: バンバラ語で「カバ」

bɪɪʅ ［動詞］ɥəl にくしゃみをさせる、くしゃみする ［普通動名詞］くしゃみ ［レベル］2 古 : オノマトペ ［用例］ ɪn bɪɪʅɪſ ɒcl ɔɟμſ. 寒くてくしゃみをした。

bɪɪn ［俗語］バカ！ ［レベル］2 古 :be（卑音）から ［語法］ 意味は大して強くないが、ſeɔlɔ と違って確実に悪意がある。

bɪɪze ［形容詞］うざい、ウザイ、ウザい、うざったい、ウザったい、じゃまくさい、邪魔臭い、うぜえ、うぜぇ、うっとうしい、鬱陶しい ［類義語］hɪμſ μφ ［レベル］2 μɑ; 卑音 bɪ/blenz.ʅ「火のように暑苦しい」 ʃʔ ［語法］ 日本語のウザイより意味が広く嫌悪感も弱い。邪魔臭い程度の意味に使うこともある。 かといって罵倒語のひとつには違いないので、多用しないこと。 ［用例］ hɪμſ bɪɪze クソ暑い

bɪcſen ［地学］黄銅鉱 ɒelſcɪ Δ:φclcəɟ;e ʃʔ

bɪcɪɟ ［名前］バイアス μɑ J0 ［文化］ ファルアモン族の男。サプリの村襲撃の主犯。ɥəəl、老人。 J0 ɑcɪ ɑcn にサプリの村を襲撃し、リディアを人質に取ってアムルとナルムを火の魔法で殺すも、ダルハを出したセレンに倒され撤退。

bɪcʅe,ɑu ɪſə be\e.l

bɪcn ［自然動名詞］発情 ［動詞］ɥəl を発情させる、発情させる ［レベル］4 ɑu;bɪcnɪ.ʅ ʃʔ:ɒel

bɪcnɟɔɑɔɒ ［俗語］発情ピッチ ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ:ɒel

bɪcnɪ ［名詞］バオナ、狂気、異常性欲 ［魔法］バオナ。害の中位黒魔法。異常性欲を起こす。対象は手当たり次第に近くの女を襲う。あるいは女なら男を誘う。アティーリではアルデスがかけられ、妹のテュアを犯し、4 匹の竜の息子が生まれた。なお、かけたのはクレオーン神で、かけさせた黒幕はテュア本人。 ［レベル］4 ɑu;bɪcφ/nɪ jeμen: 古 :bɪcφnɪ（心を打つ、鼓動する心）

bɪcnɪɪɑɪcφ ［経済］［法律］性欲税 ［レベル］4 1L : 概念自体はメル 1ʔ 年ごろ ［語法］ ɟcμnſɔlcɟ の女に課税される。異常性欲者の更生および投薬、性被害者の支援に使用される。

bɪcφ ［名詞］拳 ［動詞］ɥəl を ɔn で殴る、殴る ［物理］運動量 ［類義語］ɒcɥə ［反意語］uceɑ ［レベル］2 ɑ;e 赤 bɪcφ:bɪcφ::ɒcɥə,ɪlſ ［用例］ lɪɑ bɪcφ 拳を握る eu bɪcφ ɪl ɥjcɑ 口の下に拳を置く : 女の仕草のひとつ。笑った口を隠そうとするのが本来の役割だが、実際に大口を開けていない場合は、上げた手がつい余ってしまう。そこで口でなく口の下に何となく置いておくという、あまり大きな意味を持たない日常的な動作。ただ、だからこそ男が可愛いと思うしぐさ。 bɪcφ uɪn ɑcɟ ɪſ ぶん殴るぞ！

bɪcφoɪɪz ［物理］モーメント、運動量のモーメント ［レベル］5 ʃ1

bɪcφlɔnɑ ［名詞］殴り撃 μɑ;/ ʃʔ ［語法］［文化］ 殴ったり蹴ったり怒鳴ったりして、自分の声や壁ドンなどによって目覚めること。 ・登録の経緯 jeμen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeμenɪμbɪzɪμɑ 夢の中で相手をぶっ飛ばしたとき、現実でも呼応しておもくそ殴った結果壁に手が当たって部屋の壁に穴が開く。この現象を私は中学時代から殴り夢と呼んでいる。しかしアルカで造語したことのないことに気付いたため、収録しておこう。 開く 返信 削除 お気に入りに登録 1 分 jeμen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeμenɪμbɪzɪμɑ 馬鹿にされたくらいで相手を全力で殺しにかかるのが、大脳新皮質が寝てる本性の俺。どんだけプライド高いのと、どんだけ凶暴なのよと思う。で、こういう怒号や殴りで起きる夢をよく見る。 開く 返信 削除 お気に入りに登録 ʔ 分 jeμen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeμenɪμbɪzɪμɑ 今の夢：嘲笑された→軍靴（足先が鉄になってるユベール用の殺人靴）、刀と木刀の二刀流、ナイフ、マグナムを装備→なぜか生きてるウチの親父が慌てて警察を呼ぶ→親父を無視して、噛った奴ん家のドアを怒号と共に打ち破る→自分の怒号で目覚める ［用例］ ɪn ſclɪſ ucl ɔn bɪcφ ɒcl bɪcφlɔnɑ. 殴り夢のせいで手に怪我をした。

bɪcφɔn ［動詞］ɥəl にげんこつする、げんこつする、ゲンコツする、叩く、殴る ［普通動名詞］げんこつ、ゲンコツ ſɒ;bɪcφ/φɔn ʃʔ ［語法］ ゴンと拳で打ち下ろすこと。

bɪəɟlſ ɔɒɪ ɑɔueſ

bcl ［動詞］ɥəl を ɔn で握る、握る、掴む、つかむ ［レベル］2 1ʔ: 古 :bɪcφ（拳） ［用例］ lɪ bcʅſ oɪjd ləəſ. 彼女は彼の袖を掴んだ。 lɪ bcʅſ lɪj ɪnſ. 彼は私の手を掴んだ。

bcʅſ ［建築］ノブ、ドアノブ ［レベル］2 1ʔ: 制 :bcφlɪ（握る部分） ［用例］ hɔl bcʅſ ノブを回す

bcʅucɪn ［運動］握力 ［レベル］3 ʃ1

bcʅdɪɟſ ［料理］おにぎり、おむすび、握り飯 ［レベル］2 ʃʃ ［文化］ → ɟɔμſdɪɟſ ɟɒ にアルティアから流入した料理。 携帯食としては冷や飯でも我慢するが、学食など設備のあるところでは温かいごはんを握るか、レンジでチンするなどして温める。形は手で握って自然な形で、三角や丸など。

bcʅɪ ［電算］パソコンのマウス、マウス ［レベル］2 ɪl; ↓ 1ʔ: 制 :bcʅ

bcʅbeſɪ ［名詞］マウスパッド ［レベル］3 ɪl;/ ʃʔ

bcʅe,ɑ le

bcʅenɔ,ɑ あれの bcʅe/ſenɔ

bcl ［生物］髪以外の毛、毛、髭、髯、鬚、ひげ、ヒゲ ［レベル］2 1Ⅱ: 制 : 恣意

bcʅɪɪɑ ［地球の国名］バルバドス 1L: ポルトガル語でヒゲの生えたもの

bcʅəɪ ［動物］ヒメジ 1Ⅱ: 制

bclnc ［動物］ペルシャ、ペルシャ猫 ʃ1: ヒゲ猫

bcɟcʅ ［植物］金柑、キンカン、きんかん ［レベル］3 1ʔ: 制 :bɔclcɟcʅ（ラグビーボール型みかん）

bcn ［名詞］防御失敗、ノーガード、直撃、ダメージ、大打撃、打撃 ［動詞］ɥəl を防げない、防げない、食らう、ɥəl は ɟɔl に効く、有効だ ［形容詞］（ɪn で）ノーガードな、直撃な ［反意語］ɪl uɪn、ɑeɪ ［レベル］3 ɑu;ɑɔueſ。弾かれたときのピンという音から。 J0 ［語法］ 完全に防御を失敗して直撃を食らうこと。

bcbc ［化学］アゾ化合物、ジイミド 1L:becɟ/becɟ

bcbcl ［音楽］ディスコ、ディスコミュージック ［レベル］4 ul;bebel。やっている当人たちが「こんなもの無駄無駄」と自己卑下しながら狂喜してそう呼んだ。 ʃ1

bcrɒɪφ ［音楽］ビブラスラップ、ヴィブラスラップ ul;bcrʅ/ɒɪφ bcrʅ は擬音。ɒɪφ は揺れる。 ʃʃ

bcz ［医療］［料理］カビ、黴 ［レベル］3 1Ⅱ: 制 :beeblccz（臭い小さいもの）

bclɟ ［名詞］かべかけ、壁掛け、タペストリー ［レベル］3 1ʔ: 制 :bcl（壁）

bcɪɪ ［建築］漆喰、しっくい ［レベル］5 1ʔ: 制 :bcl（壁）

bcleɔ,ɟzɑ ccμe

bcɪ ［名詞］雑音、うるさい音、ノイズ ［類義語］ɑɔ ［レベル］2 Ɉ0: 古 bɥɪlʃ（いらない）

bcɪnɪɪ ［娯楽］ビアンカ Ɉ1 ［文化］『グラディウス』に相当するゲーム。

bcɪleʃ ［軍事］中佐、ビアレット ［組み数字］7 / 2 0 ［類音］ucɪleʃ ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:bɪlʃ（跳ね返す＝対抗する）/leʃcɟ（レティス）→ bɪleʃ →頭母音を bɪlʃcɥ とずらすために c を加え ［語法］［文化］˥ɪnɪ

bccd ［名詞］ブザー、ベル ［レベル］3 古 : オノマトペ ［用例］ɥ bccd ブザーを鳴らす

bccz ［俗語］［動詞］ɥel をなめる、なめる、舐める、甘く見る。舌で舐めるという意味ではなく。 ［レベル］3 Ɉ:˥lccz

bcɔ ［親族］じーさん ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:be/ɑcɔ

bɔl ［単位］潤 Ɉ1:bel

bɔn ［動詞］ɥel を弾んで ɪ に行く、弾む、バウンド ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :bɔnɥ（ゴムボールが弾むオノマトペ）［用例］ɥel bɔnɪnɑ ʃɔɔɑ ɪ ɑɔnʃ. ボールが坂を弾んで道路に出る。

bɔnʃ ［名詞］反動 ［動詞］ɥel を ɪ に反動させる、反動させる ［レベル］4 ɑu;bɔn（跳ね返るオノマトペ）/ʃe Ɉ0 bɔnʃ:bɔnʃ

bɔnʃleɔ ［医療］離脱症状 ［レベル］6 μʃ;/「反動症状」 Ɉ0

bɔnbe ［俗語］デブス、デブサイク ［類義語］been、besɪ、lesejʃ zɥ;bɔn は太った音象徴。be は卑音。 ［レベル］3 Ɉʔ ［語法］ デブで不細工な人のこと。男女ともに使う。 ［文化］ ブスはともかくデブスは嫌われる傾向にある。後者は努力である程度改善できるのに努力を怠っているためである。 ［用例］ ɪn lclhc jen been ʃeʃ bɔnʃe ɑɪrl. bɔnʃe eɒ jen been ɔɔɟlel ɔɔl eɒ lclɪ, ʃcɪ ɪ88 ブスはまだ許せるが、デブスはマジで許せん。デブは根性で痩せられるだろうが！

bɔnɪ ［形容詞］ぐにゃぐにゃな ［レベル］2 古 :bnɪn

bɔnc ［植物］ブロッコリー ［メタファー］ねぐせ、寝ぐせ、寝癖 ［レベル］2 lɪʃlɪ:「 寝癖の頭 」が原義。 ［用例］ lɪlɪ, ʃɥə ʃcl bɔnc e. わー、寝癖すごいよ。

bɔddɔ ［卑語］ハゲ、はげ、禿げ。禿、スキンヘッド、ツルピカ ［メタファー］スポット、空いた空間、広い空間で少しだけ違った部分 ［レベル］2 古 ［文化］ 卑語としては使わないこと。メタファー語義は使って構わない。

bɔdɔʃ ［動物］ロシアンブルー Ɉ1:bɔddɔ/ʃe

bɔb ［形容詞］匂いが強い ［類義語］beeb ［反意語］ueu ［レベル］2 制 ［語法］ 臭くはないがキツイ匂い。つけすぎの香水など。 ［用例］ ☆ ʃc ʃəɟu lccʃɔ, ʃɪl bɔb ɔn ʃə ʃɔɔɪ. 良い匂いの香水だけど、つけすぎで臭いよ：日本語では「臭い」と訳すのが自然。

bɔbɔ,ɑ μecn

bɔh ［動詞］ɥel をむせばせる、咽ぶ、むせる、むせぶ ［レベル］2 古 : オノマトペ ［用例］ ɪn bɔhɪʃ lɪ uɔl bɪɑ lɔɟ lɪɪʃ. 彼の背後を叩いたら咽だした。

bɔɟʃ ［軍事］少佐、ボルト ［組み数字］8 / 2 0 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:bɔlʃ（槌（腕力の象徴。そろそろ少佐くらいだと前線に出ることも増えるため））［語法］［文化］˥ɪnɪ

bɔoɪ ［擬音］どかーん、ドカーン ［レベル］2 1L: リディアの書

bɔlʃ ［名詞］槌、ハンマー、金槌、木槌、鉄槌 ［動詞］ɥel をハンマーで打つ ［音楽］ピアノのハンマー ［魔法］ボルト。土の黒魔法。地中の鉱物を集めて槌とし、敵を打つ。打撃系魔法なので物理攻撃のバリアで防がれる。 ［名詞］（/ʃcl bɔlʃ の形で）腕力 ［レベル］3 jɒ;uɔl,ɑu.l ʔ: 制 : 古 :bɔl（槌）。赤アンクノットにはヴォル (uɔl) とあるが、編集者の聞き間違い。 uɔl:bɔlʃ:uɔl ［語法］制裁や仕置きの象徴。子供のお仕置きの象徴は鞭。 ［文化］ 腕力の象徴。

bɔlˀ ［動詞］ɥel を這って ɪ に行く、這う ［レベル］2 ʔ: 制 :bɔlˀle(床を行く) ［用例］ lcɪ bɔlˀɔɟ lejʃez ɪ ʃɪnʃ. 紫亞が居間を這って出て行く。

bɔlˀnɪnɪ ［地学］［歴史］リィアキアン ul;/ Ɉʔ ［文化］ φɪɪueɑeɒe

bɔlɪ ［名詞］爬虫類、は虫類 ［生物］爬虫網 ［レベル］3 1ʔ: 制 :bɔlˀ

bɔlɟ ［名詞］カーペット、絨毯、じゅうたん、敷物 ［レベル］2 1ʔ: 制 :bɔlnc(床の毛織物),bɔlɟɪb(床の毛織物) ［文化］ ɑɔɟɒɑɔlˀ ［用例］ eu bɔlɟ ɪl ɪˀɟ 床にカーペットを敷く

bɔc ［名詞］ラグビーボールのような楕円形の球、楕球 ［数学］楕円、非真円← φəlɒeɒ ［卑語］金玉、キンタマ ［レベル］2 ɑɪɪuɪ: 古 ［語法］ φəlɒeɒ

bɔcφel ［運動］ラグビー ［レベル］3 ʔ: 制

bɔcɪsɪ ［電算］［工学］非円率 ul;/「楕円率→非真円率」 Ɉʔ ［文化］ 光ファイバーに関する専門用語。非円率とはコア中心に中心としたコア領域に外接する円と、それと同心でコア領域に内接する円の二つの円の直径の差をコア径に対する百分率で表した値であり、この値が大きくなってコア形状が真円形状から離れるほど伝送性能が低下するため好ましくない。

bɔcφ ［医療］たんこぶ、タンコブ ［レベル］2 Ɉ1: オノマトペ

bɔcɟ ［動物］狸、タヌキ ［レベル］5 dɪɪl:lɪlɪ ［文化］ アルバザードには元々生息しておらず、あまり輸入もされていないため、なじみがない。アルバザード人は bɔcɟ と聞いても、こちらでいうカピバラくらいにしか分からない。

bɔɔze ［俗語］ヤギ面 ［類義語］been ʃɒ;beeze.ˀ ［レベル］3 Ɉʔ<bɪɪze:Ɉ1 ［文化］ 使わないこと。アルバザード人は人種的におかめやおたふくに当たる顔があまりない。代わりにヤギのような顔をした人がいて、ブスプサイク扱いされる。鼻が変な形だったり、目が変な形だったりする。ヤギのように。ちょうどおかめやおたふくなどの悪口に相当する言葉がこれとなる。

be ［接頭辞］～しやがる。動詞につき、ɒc の反対で、悪い意味を作る。 ［接頭辞］拙者、小生。代詞につき、謙譲語化させる。 ［レベル］2 Ɉ1: 古の卑音から

beʃ ［名詞］泥、マッド ［レベル］2 ɑu;be/ʃəənɔ「汚い土」 定 : 汚い土 beʃ:beʃ:lɪ beˀleʃ

beʃʃɪ ［親族］アネキ、姉貴 ［類音］beʃʃe ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:be/eeɪ ［語法］［文化］ ɪlɟeɟ

beʃʃɪn ［料理］田楽豆腐 ［レベル］4 Ɉ.ɪ:ləlcɪ:beʃ から。新宿。豆腐は食べたがこれは嫌がった。おいしいのにね。

beʃʃɔn ［生物］サンショウウオ、沙羅曼蛇、サラマンダー ［レベル］3 Ɉ.ɪ:「どろどろの」

beʃʃe ［名詞］オッサン、おっさん、おじん、オヤジ、オジン ［類義語］ʃeʃʃe ［反意語］bellɪ ［類音］beʃʃɪ ［レベル］2 Ɉ0:be/ʃeʃʃe

beʃʃel ［形容詞］みじめな、惨めな、あわれな、哀れな ［類義語］lenɪɟ、uecφl μɑ;beʃ/eel「泥だらけの顔」 ［レベル］3 Ɉʔ

beʃɔle ［名詞］泥沼、沼 ［レベル］3 Ɉ.ɪ

beʃberˀʃ ［動物］ザリガニ、ざりがに ［レベル］3 1ʔ: 制 : 失彩エビではない。但しエビの下位分類ではない。

beʃl ［生物］サルモネラ菌 ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ:beʃ/leun ［文化］ 泥水のような汚染された水などを介して広まる。綺麗な水のない衛生状態の悪い地方で多発した。

beʃɪ ［名詞］マット、パッド ［レベル］3 1ʔ: 制 :beʃɪbe(泥を取るための布) ［用例］ eu beʃɪ マットを敷く

beʃc ［形容詞］濁った、濁る、濁す ［反意語］ɑɥen ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:beʃ ［用例］ ɟɪd e ɑelez ɪʃ beʃc enʃɔ ɪn nɪ ɥɪc ɔn cnɟ ɔnʃ ɔɟn. 教室の空気が濁っていて、目と頭が痛かった。

beʃcɟ ［俗語］マスゴミ ［レベル］5 ɪl;be/ʃcɟl Ɉ0

beʃccnɟ ［医療］緑内障 ［レベル］4 1L

beʃɔoɪ ［美容］コロン、オーデコロン ［レベル］4 Ɉ1

beʃel ［医療］破傷風 ［レベル］3 古 :beʃ

beˀ ［名詞］暴力団、マフィア、ヤクザ、ギャング ［レベル］3 1Ɉ0 ←古 :beeˀleʃ。語源不詳。臭い（＝悪い）と関与ありだろう。

beˀˀɪ ［親族］親父、オヤジ、おやじ ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:be/ˀlɪˀˀɪ

beˀˀɪɒ ［名詞］イライラの種、気に喰わないこと、ムカつくこと ［レベル］3 μɑ;beˀɪɒ.ˀ「吐き気を催すようなこと」 Ɉ0

beˀɪ ［名詞］クラブ ［レベル］4 μcɑcɪ: 定 : 元は beebˀɪˀ「 変なにおいがするところ 」 ［文化］ 酒を飲み、女が相手をするところ。インプレンにある。

beˀɪɒ ［形容詞］気持ち悪い、肉体的に気持ち悪い、吐き気がする、ふらふらする ［類義語］pelcɟ ［反意語］ejcl ［レベル］2 Ɉ0:beˀleɒ（胃が悪い）→ beˀleɒ → beˀɪɒ（胃を意識しすぎてしまうため、beˀɪɒ に）［語法］ ejcl ［用例］ ɪn ʃcl beˀɪɒ ɑəɔ ɒcl μcs. 二日酔いでひどく気持ちが悪い。

beˀle ［代詞］こんな場所、こんなところ ［副詞］こんなところで。el 不要、ˀɪ 不要。 ［類義語］ɪʃə ［反意語］ɔˀlel ［レベル］1 Ɉ.ɪ;beˀle,ɑ.heɒ。卑音が入ることから意味が悪化して借り入れられた。Ɉ.ɪ

beˀle,ɑ ɪʃə

beˀleʃ ［経済］汚い金 ［類義語］φcl ［反意語］ɪnse ［レベル］4 μɑ;<lʃ Ɉ0 ［語法］［文化］ ɪnse

beˀleʃ,ɟzɑ beʃ

bel ［動物］くじら、鯨、クジラ ［レベル］2 1ʔ: 制 :bəlˀ。よく分からないが dleʃ などの古い形に関連があるだろう。

belcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］くじら座 Ɉ0 ［文化］ cɑɪ

bej ［名詞］おべっか、お世辞、追従（ついしょう）［動詞］ɥel というおべっかを ɪ に言う ［反意語］ɑecʃ ［レベル］3 古 ［語法］ 心にない相手のためにならないことを言うこと。

bejʃe ［形容詞］付和雷同 ［レベル］4 Ɉ.ɪ:bejˀ/e

bejˀɪ ［生物］うなぎ、ウナギ、鰻 ［レベル］3 μɑ;beʃ/ɪɟˀɪ「泥海竜」アルティアから輸入した際に ɪlʃ を取り入れずに造語した。 Ɉ.ɪ

bejɪ ［環境］埃、ほこり、ホコリ、ダスト、ちり、チリ、塵 ［レベル］2 定 : 汚い砂 ［用例］ jeɑ bejɪ ほこりを払う

bejɪbelʃ ［名詞］ちりとり、塵取り ［レベル］2 1Ɉ0: 制

ben ［俗語］［感動詞］［名詞］クソ、バカ、だめ、ダメ、駄目、マズイ、まずい、マズい、ヤバイ、やばい、ヤバい ［類義語］beɔ、ˀəz ［レベル］2 古

ben(Ɉ) ［アイテム］鞭、べん。ムチではなくペンという武器。 ［類義語］pelʃ jzɑ;ɑɔueʃ。叩いたときの音から。 Ɉ0

benʃ ［形容詞］［ネガティブ］ませた、いやに大人びた、大人びて生意気な、背伸びした ［形容詞］［ネガティブ］熟れていてまずい。熟れるとかえってまずいものに使う。 ［類義語］μɪz ［反意語］cbeʃ ［類音］uenʃ ［レベル］3 Ɉ0:be/ˀɪnʃ

benʃɪɟ,ɑ ueeμ elʃ;e。エーステで音を取ったら長くなりすぎたので後に beej に変わる。赤

benʃe ［卑語］パイタ、売女 ［レベル］4 古 :beɔ/ɒenʃe ［語法］ beɒdɔ と同じくよく使われるが、目の前で言うと大変なことになる。現代では売春はふつう奴隷のすることなので、奴隷程度に落ちた女という意味合いもあり、さらに意味が強烈になっている。

benɟ ［動詞］ɥel を軽蔑する、軽蔑する、見下す ［反意語］ɔˀlɟ ［類音］bej, ben, uenl ［レベル］2 Ɉ0:be/cnɟ

benɟɪdʃ ［名詞］卑称、蔑称 ［反意語］ɔˀlɟɪdʃ ［レベル］3 Ɉ0

benɒeɒdɔ ［俗語］クソマンコ、バカマンコ、バカマン ［レベル］3 1ʔ: 制 ［語法］ 知能の低い女や性格の悪い女や気に食わない女などを罵った言葉。醜い女に対しては性欲が沸かずに beɒdɔ という評価が下らないため、適応されない。醜い女を罵る場合は been である。benɒ eɒdɔ は極めて悪辣な罵倒だが、それゆえに影では多用される。

benɑ ［名詞］エサ、餌 ［俗語］ˀəcl ［俗語］アルティア化された食事以外の食事。ɪl でアーシェが名付けた。 ［レベル］2 Ɉ.ɪ: 古 becɑ（餌）

benɑɪ ［感動詞］大丈夫ではない、大丈夫じゃない、だめ、駄目、ダメ、だめだ、駄目だ、ダメだ、だいじょばない、無理、むり、ムリ、無理だ、むりだ、ムリだ ［感動詞］アウト ［反意語］dɪɟɟɔ ［レベル］1 Ɉ0:zɪnɪ:ben/ɑɪ（馬鹿だろ）。ʃə eʃ ben ɑɪ（馬鹿だろそれ）の ʃə eʃ が省略された後に語彙化して benɑɪ になったもの。Ɉ0 年ごろの造語。語彙化とともに意味が薄く広くなり、dɪɟɟɔ の反対語になったのが Ɉ.ɪ ごろ。幻日登録も Ɉ.ɪ 年。口語では使われたが、文語では見られなかった。

benben ［幼児］トイレ ［類義語］beeˀ ［レベル］1 Ɉ1:ɥcɑcɪ:benɪ/benɪ（おしっこ、おしっこ）とルシアを誘導したことから。Ɉʔ までセレンは知らず、Ɉʔ に登録。

benzen ［名詞］スカトロ、スカトロジー ［類義語］ɑcɪeɟ ［レベル］4 ɑu;be は卑音 古 ［語法］ benzen と ɑcɪeɟ は語の古さしか違いがなく、歴史的な違いだけであり、ニュアンスや語感は変わらない。 ［用例］ → benzenɪn

benzenɪn ［名詞］スカトロジスト ［レベル］4 μɑ;/ Ɉʔ ［用例］ ɩlʃ benzenɪn, ɑclcn eʃ ɟɪˀleɟɪ le ɒcɥə eɟ ʃcɔ ɪl eɟcɪ ɑɟen dɔʃ ɒɪcn ɑɪrl. スカトロジストにすれば美少女はただの水を体内で澄んだ聖水に変える濾過器である。

benɪ ［幼児］おしっこ ［レベル］1 1ʔ: 古 : 尿の一般語 bebe。beb/e（臭い水）［用例］ lɪlɪ, ʃɥə ɪɟej benɪ, lcɪ lccs. あら、おしっこ出たのね、紫亞ちゃん。

benɪɟ ［形容詞］笑える、ワロス、バロス、ワロタ、ワラタ、クッソワロタ、クソワロタ ［レベル］2 ɪl;beɔ/nɪl/jɔlɟ.ɒu（クソ笑わせる）Ɉʔ ［用例］ ʃə uecz eʃ benɪɟ ɑəɔ ɪˀ（ɪɪɪ この動画クッソワロタｗｗｗ bɪnɪɟ ɑəɔ (ɑɪ)（ɪɪɪ テラバロスｗｗｗ benɪɟ ɑəɔ ɒcl{ɔn} dɪlnʃleʃ（ɪɪɪ 笛なめとか、テラバロスｗｗｗ（bel ˀleeʃɔcɪ）

benɪɟej ［アビリティ］ベナレス μɑ:μɥəə;hɥ(圧力) 古 :μɥəə: 中学生くらいに考えだされた。 ［文化］ μɑ におけるリュウの必殺技。上空に飛び上がり、上から剣を振り下ろすと尋常ならざる圧力がかかり、辺り一帯の地面が凹むほどの威力を出す。

benɔɒ ［軍事］佐官 ［名詞］中ボス ［組み数字］3 / 7 ［レベル］3 古 :zɪnɪ ［文化］ 士官の階級のひとつ。大佐、中佐、少佐に分かれる。

beɑɟ ［名詞］［感動詞］［俗語］乙、おつかれ、お疲れ、おつかれさま、お疲れ様 ［レベル］3 ［類義語］ɑɪʃɔɔ ul;be/ɑɟ「卑音 / 仕事→糞仕事乙」 Ɉʔ:bel ［語法］ 良い意味で「乙」というときは ɑɪʃɔɔ。スレ立て乙など。一方、自演乙などの「乙」は beɑɟ。皮肉に使う。 ［用例］ beɑɟ ɔn ɾʃɔlc. 発狂乙。ファビョリ乙。

beɒ ［生物］膀胱 ［レベル］4 1ʔ: 制 :bezɒeɟl（尿の袋）から。

beɒɑɪcz ［医療］膀胱炎 ［レベル］5 1L

beɒɒɪ ［親族］お袋、おふくろ、オフクロ ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:be/ɒɪɪl

beɒdɔ ［卑語］クソマンコ ［レベル］3 古 :be/ɒeɒdɔ

beɒhɔhɔ ［医療］膀胱結石 ［レベル］5 1L

beɒscɔɟ ［生物］膀胱愈、膀胱愈 Ɉ1

beɒc ［卑語］［名詞］［形容詞］～のクソ野郎 ［レベル］2 古 :beɒc。卑音の b と eɒc がくっついたもの。 ［語法］ eɒc より酷い卑称。

beɑɪʃ ［親族］ばーさん ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:be/enɑɪ

beφ ［代詞］［φɪɔ］おまえ、おめぇ、オメー ［レベル］1 Ɉ1:ˀlccz:be/φɥə

beφμenɟ ［言語］嫌いな言葉 ［反意語］jccnɪμenɟ ［レベル］4 μɑ;be（卑音）/φɥə（苦い）/μenɟ（言葉） Ɉ0

beφɔɪ ［形容詞］精神的に汚い ［類義語］ʃelɪɟ、enɑμel ［反意語］eμceʃ ［レベル］3 Ɉ.ɪ:μcɑcɪ:be/φɔɪ「吐き気をもよおすような」 ［語法］ 簡単に言えばこういうことである。アイドルの握手はたとえ手を洗ってなくて ʃelɪɟ でも eμceʃ。ブスの握ったおにぎりはたとえ uɪnʃɪs でも beφɔɪ。

beφeʃ ［代詞］［φɪɔ］おまえの、おめぇの、オメーの ［レベル］1 Ɉ1:ˀlccz:beφ/ʃe

beφel ［動物］芋虫、いも虫、イモムシ ［レベル］3 定

beφel(Ɉ) ［ラメドマーク］ベゲル Ɉ1 ［文化］ 南区にあるライブハウス。最寄り駅カルザス＝ミルフから徒歩で１０分。

bebe ［動物］うじ、ウジ、蛆、マゴット ［レベル］3 定

bebeʃ ［名詞］がらくた、ガラクタ ［レベル］2 μɑ:bebel/ʃe「無駄なもの」 Ɉʔ

bebel ［形容詞］無駄な、非合理的な、非効率な、効率の悪い、もったいない ［反意語］ɑμeɑ ［レベル］2 1L:pelcɑcɪ ɪlcɟ:be（悪い）l（悪い）l（ものごと）［用例］ ɪn lɔ ʃə eʃ bebel lel ʃəəɟ uɔl ɩ ɪlə hɔʃ. これらの文がここにしか載っていないのはもったいないと思います。 ɪn ɥɔlɪʃ jel bebelel ˀɔnʃ jɔ ɥəə. 一日中何もしないで時間を無駄に過ごした。

bebelnɪɑ ［名詞］杞憂 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪμbɪleʃl ［用例］ ʃə eʃ bebelnɪɑ ʃcɟ. それは杞憂にすぎない。

bebelucɟ ［化学］トレオニン、スレオニン 1L: 穀物からの吸収率が良くないため、「効率の悪い」と名付けられた。

bebelφɪcɑ ［医療］バセドウ病 ［レベル］6 1L: たくさん食べても痩せるさまを、「非効率的な甲状腺」とした

bebelɥɔl ［普通動名詞］無駄使い、浪費 ［動詞］ɥel を無駄に使う、浪費する ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɪμbɪleʃl ［用例］ ɪn jcʃ pel l'ɪn bebelɥɔl alen. 無駄にする時間はなかった。

bebeɪl ［名詞］うんち、うんこ ［レベル］2 古 :be（くさい）/be（くさい）/ɪl（もの）［語法］ 大便を意味する日常的な言い方。といっても人前ではあまり言わないほうがいい。

berʃ ［卑語］バカ、馬鹿、ばか ［ben］［代詞］二人称 bɪz の強調形。てめぇに相当。 ［類義語］ʃeɔlɔ ［レ

b

ベル］2　古 :berl ← belɔ ［語法］ ʃeɔlɔ は親しみがある感じがするが、berl は口汚い。知性のなさを罵る語。

berlʃ ［動物］えび、海老、エビ、ロブスター ［レベル］2　定 : バナナと同じで湾曲したもの ［文化］ 一般的に食べられる。やや高級。

berlʃlɪɑ ［地球の国名］カメルーン　1L: 国名が海老の国

berlʃhɪɥɒɪ ［言語］ベルト幼字　J1 ［文化］ hɪrl

berlʃiɪi ［言語］ベルト会談　J0 ［文化］ hɪrl

berlj ［植物］バナナ ［メタファー］［婉曲］大便、うんち、うんこ ［レベル］2　定 ［文化］ リンゴについで人気のある食べ物。エネルギー効率がよく、健康にも良いとされて常食される。アレルギーがあるので注意。 ［成句］ ［婉曲］ ɪɥ berlj 大便をする

berljɪll ［経済］ジニ係数　ul;ɑccɪberlj/ɪll　J?

berlɒ ［形容詞］湾曲した、曲がった、バナナ状の ［名詞］切痕 ［レベル］3　1ʔ: 制 : berlj

berlɒfɪlʃ ［動物］単弓類、単弓綱　ul;/「湾曲した綱」。頭蓋骨の左右、眼窩後方に側頭窓という穴がそれぞれ 1 つずつあり、その下側の骨が細いアーチ状となっていることから。　J?

beɥʃ ［悪魔］ベルト ［レベル］4　belʃcɪ 0:beɥʃ;e　1ʔ: 制 : 古 :ɥcɑcɪ:ɪɥʃe のもじりが語源か。古では eɥʃ だったが悪魔っぽくするために音を付け加えた。 ［文化］ 世界と言語を司るデームス。言語と世界を司る。２０歳前の女性の姿。白黄混血系、長髪。冷静沈着『幻想話集アティーリ』ではセレンが異世界の住人であるように、霊界とそれ以外の世界の存在を認めている。ベルトは霊界に異物が混じらないように異世界と霊界との関係を断絶し、それを監視するという仕事を担っている。従ってセレンはベルトが漏らした例外といえる。ただし実際に連れてきたのは悪魔メルティア。なお、ベルトは同時に言語を支配し、霊界の言語を常にアルカに保っていて、異言語の存在を排他している。また、異世界が霊界に対して脅威とならないように異世界の言語を混乱させるという仕事も持っている。つまり、異世界の人間たちが情報を自由に交換して力を付けることが難しくなるように、異世界の人々の間にいくつもの言語を作るという仕事を持っている。例えば人間界における英語や日本語のように。また、ベルトは戦いに力を使わないため、戦闘力は極めて低い。しかし自分に課せられた仕事をまっとうするための力は与えられているため、ベルトの仕事はテームスでも邪魔できない。それに、もし邪魔をすればたちまち霊界は異世界からの干渉によって自己組織化が崩壊してしまうからである。ベルトは異世界からの断絶を行い、メルティアは異世界からの流入を行うといわれている。見た目は ɒɪnɪ で、ləlcɪn である。髪は長く、性格は冷静。　水星を司る。

beɥſɒɔdj ［動詞］ɥəl にコブラツイストをかける ［レベル］3　J0:lɪlce: えびぞりで組み伏せる

beɥſɒeɥſc ［名詞］高みの見物、高見の見物 ［レベル］4　J1: ベルトはいつも戦わずに安全なところから見ているだけなので。 ［用例］ ɪɥ beɥſɒeɥſc 高みの見物をする

beɥſcɪ ［アトラスの国家］ベルティア ［レベル］5　1L:ɥcɑcɪ:beɥſ

beɥſcɪrlɪsclʃ ［経済］ベルティアショック ［レベル］6　ɪl　J1 ［文化］ ʔ?ʔ 「ベルティアショック」　連合諸国は敗戦後、明暗の差がハッキリ分かれていた。多額の賠償金を支払いながら国家運営をしていた点では共通していたが、メティオのように急成長を遂げた国もあれば、ベルティアのようにマイナス成長から抜けられずにくすぶった国もあった　敗戦から ʔ0 余年の間に国際社会の協力のもとで復興ないし破綻回避してきた弱小国だったが、この年ついにベルティア政府がデフォルト。国債の持ち合いをしていた近隣の魔方諸国が連鎖的にデフォルトを起こす。魔方諸国に多額の債権を保有していたメティオは国単体では好況だったが、これにより打撃を受ける。また、連合諸国に復興支援の名目で大きな額を貸し付けていた枢軸諸国も被害を被った　これが契機となり、世界経済が悪化

beɥsc ［伝統色］セピア。地球の定義より淡い。 ［レベル］4　J1:beɥſ/sc。最初のインクというところから。

beɥcl ［形容詞］低俗な、卑しい、賤しい、賤しい、いやしい、俗悪な、俗物な、卑俗な ［反意語］ ſɥɪn ［レベル］3　J0:beɥn:1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelſ:be/ſɥɪn ［文化］ → ɪnſel　・セレンの価値観　セレンは高尚なものも低俗なものも好きだ。　だが学問などの高尚なものが娯楽などの低俗なものより優先されない社会は知的水準が下がり、最終的には国力低下を招くため、あってはならないと考えている。　ところが現代日本ではこの当たり前の考えが驚くほど受け入れられないということを身をもって何度も何度も経験しては苦渋を舐めてきた。さらにそういう連中が本来上なはずの東大生や医者を含むという驚愕の事実を経験して、あぁこの国は滅ぶんだなと実感した。　だからこそリディアと協議して「アルバザードだけは絶対に滅ぼしてはいけない、最強の国を維持しなければならず、それを実現するための社会づくりをしよう」という考えになっていった。　・革命でセレンが求めたもの　セレンは低俗なものを制限し、国民の民度を高めた。このことからしばしばセレンは低俗なものが嫌いと邪推されるが、それは誤解である。　セレンはアニメやマンガやバラエティ番組など、低俗なものは娯楽としてむしろ好んでいた。また、アニメなどに関してはひとつの文化であるとすら評していた。　ただ問題はそういった低俗なものが高尚なものを凌いでしまうということであった。ふだん高尚な学問や芸術をしている人間が息抜き程度に低俗な娯楽を楽しむという程度なら問題ないし、むしろ精神衛生上良い。だが、遊びが勉強を上回ってしまうというのは良くない。　低俗なものばかりが売れて、娯楽品を売る会社が綺麗な大きいビルを建て、その一方で辞書や学術書などを売る出版社の社屋がボロ屋だというようなことがあっては、その国は早晩滅ぶとセレンは考えた。実際２０１３年現在の日本がそうで、この国が滅ぶことが良い証左であろう。　セレンは低俗なものは多様性及び娯楽の確保として抹消されるべきでないとした上で、しかし低俗なものが高尚なものより優先され流布され受け入れられ儲かるという構図は国民の民度や知性を貶めるとして制限すべきだと考えた。　革命ではこうした娯楽品に高率の情報税をかけ、更に出版社側に回る儲けの割合も減らすことにした。同時にマスコミを使い、娯楽は息抜き程度にやるものであって、それに溺れるような人間は恥ずかしいという価値観を植えつけた。　革命まではセレンの考えは一部の高学歴な人間によって自然と実施されていたが、中流下流では実施されていなかったため、国民全体としての民度や知性は年々だだ下がりだった。セレンの革命により、ようやくアルバザード人の民度と知性は上昇に転じた。　革命により娯楽品は儲けが少なくなったため、当然のことながら現在の日本の学術書のように鳴りを潜めざるをえなくなった。出版点数は減り、全体的な売り上げも減少した。その代わりマスコミを使った洗脳によりより学究的な出版物の売り上げが反比例して増えたため、経済全体を低迷させるような事態は招かなかった。　むろん低俗な国民がすぐに高尚なものに慣れるわけではない。多くの人間はできるだけ勉強をしたくないのだ。そこで爆発的に数を増やしてきたのが、娯楽書の要素を取り入れた簡便な学術書であった。例えば地球でいう「はじめてのアルカ」や『言語学少女とバベルの塔』のような、学問的な内容だけれども、アプローチは娯楽的で入りやすいといった作風が爆発的に増えた。セレンの革命により、学問を楽しもうという風潮が高まり、それまでお固い難解な文字の羅列であった学術書の業界が娯楽要素を取り入れることで、より分かりやすくよりとっつきやすい内容に変化し、一般受けするようになっていった。　要するに高尚なものは低俗なものに門戸を開き、低俗なものは高尚なものに擦り寄ったというわけであり、その結果、両者が融合してグレーゾーンであった『言語学少女とバベルの塔』のような一般人向けの学術書といった作品が増えた。　もちろん既存の娯楽品も、既存の難解な学術書もそのまま残ってはいるが、全体数は減った。代わりに増えたのがこのグレーゾーンである。全体としての出版業界の売り上げは大して変わっていない。　革命がもたらしたものは、民度と知性の総中流化であるといえよう。革命は経済的にも総中流化をもたらしたが、民度や知性においても総中流化をもたらし、広がっていた格差を是正した。　現実のセレンが思うに、昭和の日本が強かった頃は概ねこんな感じだったように思う。もっと一般人も今より教養があったように思える。自分の親の世代と今の子供たちの親の世代を比べると、無教養な人間が増えたように感じることが多い。　新聞を読む人口も減ったし、教育的なテレビ番組も減ったし、文学を読む機会も減ったし、漢字の識字率も年々悪くなっている。今の子供にいたってはゆとり教育の残滓もあるのだろうが、フランスや韓国の位置はおろかユーラシア大陸すら知らないという者が平気でいる。全体的に勉強の話をしなくなったし、興味を持たなくなったし、知性が下がっているように感じることが多い。同時に低俗な娯楽品は昭和に比べて圧倒的に増えている印象を受ける。マンガやラノベやアニメの出版点数を上げるまでもなく――である。　逆にネットなどのおかげで教養がある人は個人でも学会員に対抗できるほどの知識を持った人がおり、経済だけでなく知性や民度まで格差が広がっているなぁと感じることが多い。つまりできない人は昔よりできなくなっており、できる人は昔以上にできるようになって、昭和に比べて平成は格差が広がっているのである。大学全入時代と呼ばれる現在においてですらこの体たらくである。　セレンとしては格差があまりに広がった社会は良くないと考えているので、経済においても民度においても知性においても、あまりあからさまな格差社会は良くないと考えている。その結果がこのカルディアにおける革命である。　・革命と低俗　もしアルバザードを日本と同じように滅ぼせたいのなら、日本と同じシステムにしただろう。だがアルバザードは世界一の強国である。しかもアメリカのような新参と違い、長年に渡って一位を維持してきた。　アルバザードが首位を維持できたのは学問や研究を疎かにせず、高尚なものに注力してきたからである。革命家の力が弱まるとすぐ人間の弱い心が易きに流れて低俗なものが流行るが、そのたび革命家が現れ、低俗＞高尚だった世の中を高尚＞低俗に戻してきた。　その結果アルバザードは高い技術力等を誇り、他国に対して常に優位な立場にいることができた。もし革命家が現れなければ、ローマ→フランス→イギリス→アメリカと首位が渡っていったように、アルバザードも一位から転落していたことだろう。　地球には魔導師の革命家がいないのでカルディアの革命はできないが、カルディアには魔法があるのでできる。だから地球の見方で「その革命はしくじる」と評するのは適切でない。 ［用例］ ɥcclɪ ɪllɪ yəlc lɪɑ lej nɔj yəlc lcɥ lɔn lcu lɪc ɪlɪi. el dɥɪj ɑɪl beɥclen lɔnſ lɪɪl beɥclen eſ beɥclen. 支配者たるもの拒むところは声を大にして拒まねばならない。低俗なものは低俗なものと認めた上で対処しなければならない。

beɥcluеſ ［言語］俗語、卑語 ［レベル］4　J1

beɥen ［地学］ベスブ石 ［レベル］6　1L:belae/ɥen ［文化］ ユノによるバリアを強め、防御力を高める魔石。

bez ［医療］尿 ［反意語］ɑɔs ［レベル］3　1ʔ: 制 : 尿 :beeb ɔzſſ（臭い汚物）の略語。beeb ɔzſſ 自体は別に尿という意味はない。

bezn ［名詞］モップ ［動詞］ɥəl をモップがけする ［レベル］2　1ʔ: 制 : 定 :beɪb/zɔn

beznɔdl ［生物］カウパー腺、尿道球腺 ［レベル］6　1L

beznеſ ［動物］ヒマラヤン　J1: モップ猫

bezɒ ［生物］腎臓、マメ ［レベル］3　1ʔ: 制 :bezɒɪc(尿の身体部位)

bezɒuɪnɔ ［生物］志室 ［レベル］6　J1

bezɒφllſ ［生物］水道　J1

bezɒφɪɔ ［生物］腎盂　ɥɑ;/　J11

bezɒscɔɥ ［生物］腎兪、腎愈 ［レベル］6　J1

bezɒlɔɥ ［医療］尿管。bezlɔɥ と混同注意 ［レベル］6　1L

bezɒlɔɥhɔhɔ ［医療］尿管結石 ［レベル］6　1L

bezlɔɥ ［生物］尿道 ［レベル］4　1L

bezlɔɥɑɪcz ［医療］尿道炎 ［レベル］5　1L

bezlɔɥhɔhɔ ［医療］尿道結石 ［レベル］5　1L

bezɪ ［化学］アンモニア ［レベル］4　1ʔ: 制 :bez/ſɔ（匂い）

bezɪɥdel ［化学］アニリン、アミノベンゼン、フェニルアミン、ベンゼンアミン　1L

bezɪn ［化学］アミノ基　1L

bezɪl ［化学］アミン ［レベル］6　1L:bezɪ/l

bezcl ［植物］クランベリー ［レベル］3　1ʔ: 制 :bezuɪnl（尿の果実）。尿路感染症などに効果があるため

bezcn ［化学］イミノ基　1L

bezcl ［化学］イミン ［レベル］6　1L:bezɪl のアプラウト

bezcɪ ［政治］過激派、タカ派、鷹派 ［反意語］ɥſcɪ ［レベル］3　J0:beezel/lcɪ（ベーゼルのような）

bezɔɒ ［化学］オゾン ［レベル］4　1L:beez/zɔɒlcl

bezɔɒhɪnl ［化学］オゾン層 ［レベル］4　1L

bezeſ ［形容詞］せっかちな、短気な、気が短い、気が早い ［形容詞］雪や台風など天気が通年よりも早い ［形容詞］ドラムなどが走りがちな ［反意語］ɒcl ［レベル］2　1L: ベーゼルのような

bezeɥ ［生物］エリスロポエチン　ɥſ;bezɒ/eɥc。腎臓から分泌されるホルモンで、骨髄の幹細胞に作用して赤血球の合成を促進することから。　J11

bezel ［化学］雷汞、らいこう、雷酸第二水銀　ɥſ;beezel.l　J11

besɪ ［卑語］デブ、クソデブ ［類義語］sɪl、sɪlɪ、bɔnbe ［レベル］2　古 :be/sɪlɪ から

bel ［言語］b の文字 ［レベル］1　1J1: 制 : 料理 ［語法］ 第１２文字目の幻字。

bel(J) ［料理］［普通動名詞］料理、調理 ［動詞］ɥəl を料理して ɪ を作る、料理する。完成品を ɥəl にする間違いが多いので注意。 ［レベル］1　ɑ;e　1ʔ: 制 : 古 :ɔɔɥn:lɥəəc, lɥəbelcc（料理）　bel: bel: ［文化］ bellɪɪ 料理は栄養のバランスを重視して作られる。偏食はしない。肉ばかりとか野菜ばかりということはない。ただ、日本人ほど魚を食べない。料理は手早く作る物が多いが、たまにやる気になると何時間でも煮込んで手の込んだ物を作る。味付けは塩などをできるだけ使わないように務め、薄味を好む。味付けで好まれるのは塩やソースではなく、香辛料の類である。アルバザードには数多くの香辛料があり、どの家庭にもたくさんの香辛料がある。使い方も心得ていて、どの料理に合うか知っている。量はあまりかけない。アルバザードはレトルトを嫌う。冷凍食品も嫌う。あまり食べない。調理法は様々である。生、焼く、煮る、揚げる、燻すなど、日本にあるものは全てある。　料理の種類は主にアンシャル料理とインサール料理に分かれる。その他、メテ料理やルティア料理など、世界の料理があるが、主なものはアンシャルとインサールである。特にアルバザードはアンシャルが多い。飽食は悪なので世界中の料理を食べることはない。アルバザードに色々な料理があるのは色々な民族がいるからであり、一人の人間が色々な国の料理を日常的に食べることはない。従ってアルバザード人は日々大して代わり映えのないものを食べ続ける。そしてそれで幸せであると満足する。　・料理のプロトタイプ　プロトタイプはシチューとミネストローネである。これは現実にリディアの好物がシチューで、たびたびリディアがセレンに作ってくれた手料理がミネストローネだったことから来ている。 ［用例］ ſə bel ɪſ ɪſl cn. その料理はおいしそうだった。

bel,bφ ［接辞］悪魔を意味する

belſ ［名詞］鍋、ナベ ［料理］［メトニミー］鍋料理 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :belſ。belſ の語形はソースに取られたため。 ［成句］ belſ ſɪɥbɪ アルバザードの鍋 : 文化の坩堝、和洋折衷

belſ(J) ［化学］スルホン　1L:bel（硫黄）/ſɪſ（ケトン）

belſſlcll ［被服］サンハット　ɥſ;belſ/ſlcllɔcb　J11

belſle ［名詞］恩知らず ［レベル］3　古？ :əɒſɔnɪ:belſle は本来は「恩知らず」という意味ではないそうだ。

belſzɔɒɪ ［化学］スルフィニル基　1L

belſzɔɒc ［化学］スルホキシド、スルフォキサイド　1L

belſlɔcb ［被服］ベレー帽 ［レベル］2　ɥɑ;/　J1: 鍋状帽子 ［文化］ 芸術家が着けるという印象はない。アルバザードだと女子校に通う lclcɪ までの少女の制服というイメージ。

belſɪ ［化学］スルホニル基　1L

belſɪɥl ［化学］スルホン酸　1L

belſ ［料理］ソース ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :ɔɔɥn:lɥəəlc, lɥəbelcc（料理）

belſ,hɥ　belφ

belſɪ ［建築］台所、キッチン、調理場 ［レベル］2　1J1: 制 : 料理の場所 ［文化］ 日本と構造も同じだが、アルバザードの台所は広い。大家族なので数人で料理する。そのためには広いスペースが必要だからである。台所用品で日本と違うのは電気釜であろう。これは普及していない。また、食器洗い機は普及している。お湯は電気ポットで沸かすことが多い。薬缶で沸かしてポットに溜めておくこともある。

belſɪɥɔz ［料理］換気扇 ［レベル］2　1ʔ: 制 ［用例］ ɪɥ belſɪɥɔz 換気扇を回す

belſcl ［料理］包丁 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 料理の刃。参考 : 古 :lcczdccɪc（小さい剣）

belſɔn ［料理］調理道具 ［レベル］2　1L

belnɪ ［形容詞］卑怯な、狡猾な、卑劣、ずるい、汚い ［類義語］ſelj ［レベル］3　ɥɑ;<ɑu<be/ɪl/nɪ　J11　belnɪ:belnɪ:belnɪ ［語法］ ſelj

belɑɥeɪ ［地学］黄鉄鉱　1L

belɑɪ ［形容詞］うざく明るい、明るくバカっぽい、体育会系な ［反意語］ɑcnſ ［レベル］3　古 :bel は beɔ の意味。ɑɪ は火で、火のような。「火のようなクソ野郎」が原義。 ［文化］ 陰気以上に嫌われる性格。アルバザードは大人しい雰囲気を好むので、うざい体育会系はとても嫌われる。

belae ［地名］ベルフェ ［名詞］温泉→ belaeſ ［レベル］3　古 :beeb elae（臭い泉）［文化］ アルバザード北東部の一地方。アルバザードに珍しい火山帯にあり、温泉が多い。中でもベルフェには硫化水素の混じった温泉が沸く。臭いが健康には良い。

b

belɑeʃ ［名詞］温泉、温泉施設、スパ← belɑe ［レベル］3 ɟ1:belɑe/ʃe

belɑel ［料理］料理学、調理学 1L

belɑelcl ［化学］硫黄 ［レベル］4 1Λ: 制

belɒɪ ［名詞］ベルマ、クソ女、女 ［反意語］ɑlɪnɑcɪ ［レベル］3 ɥl;bebel/ɒɪl ɟ1:bebel/ɒɪl「無駄穴」 ［文化］ 現実の女。漢字ではけものへんに女と書く。 特性は右記の通り。一度別れると相手との思い出うっちゃり投げ、口汚い、優しくない、むしろズルくて残酷、可哀想と言う割には支援しない、意地が悪い、噂をする、低俗、高尚なものを介さない、フロンティア精神なし、明らかにマイナスな化粧がプラスと思っている勘違い、お前らだけだったら何万年経っても穴蔵生活だったくせにオタク系研究者を馬鹿にする、てゆうか全てがバカじゃねえの。どう考えたって世の中発展させたのは ɑlɪnɑcɪ を夢見る男たちの不朽の努力だろ。 ［成句］ belɒɪ ɪlceʃ /cl ɪcɯ ˥ɪc. 性格のねじ曲がった女は声が大きい：悪貨は良貨を駆逐する。腐ったリンゴ。一部の性格の悪い女のせいで他のまともな女まで色眼鏡で見られてしまう。また、そのような性格の悪い女はしばしば同調行動を求めて、まともな女を堕落した道に引きずり込もうとする。結果、大人しいまともな子が孤立したくないという理由で悪化していく。腐ったリンゴが良いリンゴを腐敗させるように。

belɒe ［親族］どら妹 ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:be/ɪɒel ［語法］［文化］ ɪlɟeɥ

belφ ［地学］青銅、からかね、ブロンズ ［レベル］4 ɒelʃcɪ L:φclcəj;bel/φc「錫とで料理された金属」 古 :φ は φc（金属） belφ:belφ::bel˥,hɥ ［文化］ belʃcɪ L にギリウスが銅鉱石の中から発見した。青銅は銅と錫の合金だが、銅鉱石の多くは錫を含むため、比較的発見は速やかであった。青銅はその後ギリウスによって意図的に取り出されるようになった。 青銅は銅に比べて硬い。また、研磨や鋳造・圧延などの加工ができた。地球では武器や壷などに使われたが、青銅はユノの伝導率が悪かったため、剣や斧には加工されなかった。その一方で、壷や装飾品には用いられた。 よってアトラスの青銅器時代は内容が限られる。地球では中東、現在のアフガニスタンに錫の生産地があり、流通を維持するために各国は小競り合いをしながらも大々的な征服は行わず、ある程度安定した勢力関係を保っていた。しかしアトラスではその需要がないため、事情が異なっていた。 神を通じてユーマの一族にも青銅が伝わったが、やはり装飾品として用いられた。錫の産地は銅よりも限られるため、銅より高価なものとなった。神の実在するアトラスでは取り立てて祭祀用に使われることもなかった。 なお、青銅は jcɒel を短くする効果がある。日常的にはあまり使うことのない機能なので、青銅は地球ほど重要な金属にならなかった。

belφɒelcɪ ［名詞］青銅器 ［レベル］4 ɒelʃcɪ ΔΔ:φclcəj;/ ɟʔ ［文化］ belφ

belφɪnɑ ［アトラスの国家］ベルガンド ［レベル］4 zφ;bel/φɪnɑ ［文化］ 面積：ɟ*Δ???.1%Δ9ɟ* ˥ɒ ˩ ɥə əɒɪ ʔ%9 バルマーユから広まっていった魔族がミュールへ入る。土着の魔物は知能の低いものが多く動物社会を形成するにすぎなかった。今回入った知能の高い魔族は人類の少ないミュールを好都合と捉え、ここに belφɪnɑ 共和国を築いた。最初にできた国は王国となるイメージがあるかもしれないが、人間と違って魔族の集まりは異なる種の集まりであり、その点を考慮せねばならない。belφɪnɑ は多種多様な魔族の集まりで、知能の高いヴェイガン・エルヴェイグ・エリアンが主に支配階級にいた。彼らは各種族の代表からひとりの執政官を選んで共同統治をさせるという政治システムを採っていた。 belφɪnɑ の領土はミュールと現カテージュで、カテージュは少数派だが個々では力の強い lcɪnʃ, lclɒ, φɪɑɥec, lcbeeze などの魔族が多い。ごく少数だが uɥlɪnj なども存在する。またここにも uecφɪn は多い。カテージュでは混血が多く、魔人が多い。

belφɪnɑɥen ［言語］ベルガンド語 ［レベル］5 ɟ1 ［文化］ 悪魔の言葉は何語か。まず神の生まれ方を見てみよう。 神は本から生まれたユルグのように物から生まれるものや、テュアのように分娩を経ても最初から服を着ていたり幼女だったりするものがいる。人間の生まれ方とは異なることがある。 テュアは生まれてすぐ親になぜ服を着て生まれてきたかと問われ、自分は高貴だからと答えている。ということは、生まれたときから言語を習得していなければならない。しかし単に分娩しただけではこのようなことは起こりえない。となると、先天的に脳の中に親の言語知識がコピーされ継承されていることになる。人間の分娩と異なり、神のそれは本から生まれたユルグを見てもわかるが、どちらかというと自己の複製に近い。自己の一面を複製して新たな命にしているという側面があり、それを下支えするのが知識の継承である。 アルマは ɑu を神から学習している。テームスは喋れないが、uɟ ではアルマの訴えに応じていることからも、ɑu を解することはわかる。これはいつ学習したのかだが、学習したのではなくベーゼルらを復活させたときに知識を親が逆に子から継承したものと考えられる。 そのテームスから生まれたのがアデルなので、bφ と uʃ は基本的に ɑu と同じということになる。zφ を起点とし、ɑu を元にそれぞれ独自の変化を遂げていった言語ということになる。

belφɪnɑc ［音楽］リラ、ライアー ［レベル］6 ɟ1:「ベルガンドの」 ［文化］ 厳密には、ベルガンドができる前からミュールの土着民が既に持っていた。

belφɪɒe ［料理］食材、食料品 ［レベル］3 ɟ0:ɒelcɑcɪ lceɟ

beld ［料理］ガスコンロ、台所のガス、キャンプ用コンロ ［レベル］3 ʔ1: 制 :bel/dɟɪ（ガス）

beldɪɑ ［化学］チオエステル、スルフィド、硫化物 1L

beldcnʔhɔə ［化学］チオシアネート 1L

belze ［文末純詞］［φɔ˥］ʃcjee ［レベル］1 ɟ1:ʔlccz:beφ jeɟ「お前は知る」

belzen ［魔法］火。五行の 4 番 ［医療］心 ［レベル］4 jzl;beezel。火 ɟ1 ［文化］ ˥leuɪnɟ

belzee ［名詞］業火、地獄の業火、地獄の火炎 ［レベル］5 zφ;<jzɑ<beezel.˥ ɟ0 x:belzee:lə belzee

belzeeɥe ［天文］金環食、金環日食、金環日蝕 ［レベル］6 ɟ1:beezel/zeeɥe

bellɪ ［名詞］オバン、おばん、おばさん、おばはん、オバサン ［類義語］lɪnʃɪ ［反意語］beʃʃe ［レベル］2 ɟ0:be/lɪnʃɪ

bellɪzɔɒ ［料理］食事のマナー ［レベル］3 μɑ;/ ɟʔ ［文化］ 小うるさいマナーはないが、全くマナーがないわけでもない。原則として合理的であることが論点となる。たとえば食器を傷つけない食べ方をするのが礼儀である。経済的に見て合理的である。具体的にいうと、ナイフで肉を強く切りすぎて皿までギコギコ引いてしまったりしてはいけない。皿を置くときにドンと力強く置いてもいけない。合理性は他の面にも現れる。たとえばスープはなるべく奥に置く。こぼれてもとっさに避けられるためにである。日本人は味噌汁を茶碗の右に置くが、アルバザード人は危ないと思って置かない。茶碗の右に置いたら手を引っ掛けてこぼしやすい。熱い汁物はなるべく遠ざけておく。もう一つの原則は、出された食器は使うということ。ナイフと肉があればナイフで切れという合図だと思って良い。だからフォークを刺してかぶりつくようなことを避ければ良い。逆にいえばナイフもフォークもなければ手で食えという合図である、ただ、アルバザードは手で食べる習慣はない。パンなどをかろうじて手で食べる程度である。音を立てるのは自由。麺やスープを啜っても良い。ただ、げっぷは禁物。口の中に物があるのに喋るのも禁物。最低限手で口を塞ぐ。食事中に喋るのも良い。何を話しても良いが、排泄に関することは嫌がられる。

bellec ［料理］ベルレイ ［レベル］2 1L:μcɑcɪ ［語法］ 料理本という意味だが、アルバザードにはこれしか料理本がないので、固有名詞扱いで構わない。 ［文化］ 政府発行の料理本。あらゆるアルバザード料理が載っている。 メル ʔ0ɟ 年、国民の栄養と健康を配慮して、ミロクがアーシェに作らせたのが始まり。ミロクはこれをアルソンに普及させ、「アルバザード人はこの本に載る料理のみを食べるべし」と命じた。同年、ベルレイのルティア版とメテ版が完成。世界中に各国のものが作られることになる。 ミロクはグルメを悪とした上、ベルレイは健康と栄養に主眼を置いているので、精進料理や病院食に似ている。品目は少な目である。 索引は便利で、「食材別」「調理法別」「季節別」「病気・栄養別」に検索することができる。日本のタウンページと同じようにタダで配布されていたが、アルテナの時代ではアンセを使うことが多い。また、アルテナになってから遊びが増え、品目も微増した。 ベルレイに載らないコーラなどはなるべく自重する。ガムは歯によいものは問題ない。

belɪʃe ［料理］レストラン、食堂、大衆食堂、料理店、リストランテ ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪ lelʃ ［文化］ → μeʃ 昼食と夕食に軽く用いることが多い。夕食はカフェになる店舗が多い。晩御飯の場合は豪華なものが多い。ルージュの月は遅くまで営業を延長することが多い。仕組みは基本的に日本と変わらない。店に入ると席に案内される。タバコはないので禁煙席などはない。席に着くとウェイターがメニューを持ってくる。おしぼりは資源節約のため出ない。水でなくぬるま湯が出てくる。 メニューから好きなものを食べる。日本人のように「あ、私もそれ」で済ますことは少ない。メニューを選ぶと店員を呼ぶ。ウェイターは目下ではないので、丁重に呼ぶように注意。日本はテーブルに押しボタンがあるが、犬ではあるまいし、アルバザードにはそんなものはない。 メニューについての細かい注文はその場で行う。辛めとか良く焼くとか、そういった注文はその場でする。日本人はただ料理名だけを頼んで詳細はお任せにするが、アルバザードでは焼きかげんや味を指定する。でないとかえって相手がどうしていいかわからず困る。これは紅茶を頼む時も同様。茶葉の種類はもちろん、添え物も指定する。 メニューを言いつけると、立って手を洗いに行く。これは無料である。固形でない石鹸もついている。暫くすると料理が来る。料理の種類にしたがって食器が出てくる。出た食器は全て使う。料理は残さないのがマナーである。食べ終わると会計を済ませる。テーブルの番号札がテーブルにおいてあるので支払う人が入り口の会計所に持っていく。店員は番号を端末に入力すると会計額が出る。客はアンセ等で払い、出る。チップの習慣はない。味を一々会計で評価することもない。よほど美味ければ言うが、ふつうは黙っている。 ［用例］ ɪn ɥəcʃ belɪʃe le ʅ ɑɥeɒ ɪʃc ɪʃlɪ. = ɪn ɥəcʃ belɪʃe ɑɥeɒ ɪʃlɪ. 一番近いレストランを探した。

belɪɟl ［化学］硫酸 ［レベル］4 1L

belɪɟlɪnɔ ［地学］硫酸塩鉱物 1L

belɪn ［料理］シェフ、コック、クック、料理人、板前 ［レベル］3 ɟ1

belɪnɔ ［地学］硫化鉱物 1L

belɪldcnʔhɔə ［化学］イソチオシアネート 1L

belcj ［名詞］粉塵、塵、塵芥、ちり、チリ ［レベル］3 1L:jeɥen:beɟɪ/lcj ［語法］ beɟɪ より細かいもので、砂のように舞う。

belcjɟɪdɒ ［医療］塵肺 ［レベル］6 1L:jeɥen

belcɪ ［名詞］天邪鬼、あまのじゃく、腐った根性の持ち主、困ったちゃん ［形容詞］荒しな、困ったちゃんな ［電算］荒らし ［レベル］3 ɟ0:be/elcɪn ［文化］ 意地っ張りでプライドが高い割りに能力がなく、人の足を引っ張るばかりの子供。地獄行きのシード。魔族エリアンが一般的にこういう性格なので、この名がついた。

belcɪɑəʃ ［経済］逆張り ［レベル］6 ɟ1

belɔ ［名詞］偏見、固定観念、プレジャディス、先入観、バイアス ［レベル］3 1Ω: 制 : 定 :berʃlɔ（湾曲した考え） ［用例］ ʃcl belɔ ɪ ʅ 彼に対して偏見を持つ

belɔɒ ［料理］調理法、レシピ ［レベル］3 1L ［用例］ ʃc jeɥ belɔɒ e hɔφbɪ˥ɔ̀ チンジャオロースの作り方分かる？

beleʃʃɪ ［被服］ゲートル。足首を隠すほうのゲートルは lebel˥ɪ。 μʃ;,˥ʃ（ブーツ） ɟΩ

beleφ ［名詞］下ネタ、シモネタ、シモネッタ ［レベル］4 μɑ;beleɪ/φɪɒe ɟʔ ［語法］ 性的なものだけでなく排泄など下品なものも含む。

beleɪ ［形容詞］下品な、粗野な ［反意語］lɪɑʃ ［レベル］3 ɟ0:be/leɪ（悪い礼儀）

beleɪ˥ɪnʃ ［形容詞］育ちの悪い ［レベル］4 μɑ;/ ɟΩ

beleɪuejɔ ［言語］粗野な二重母音、粗野な発音 ［レベル］6 ɟ0 ［文化］ ec が ee になるなど、粗野とみなされる二重母音で、北方語などに見られる。同じ二重母音でも上方ルティアのそれは上品とみなされ、ここに該当しない。ナディアの時代に自然と変化してできた現象。

belɑe ［魔物］ベルエ（毒蛙）：第十一天：水の陽天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeɥen/ɒel:be/lɑe ［文化］ 爬族。大型の毒蛙。犬ほどの大きさ。黄色と黒のまだら模様。舌を出して人の足を取り、毒で殺す。

beɪ ［名詞］雑巾、ぞうきん ［レベル］2 ʔ: 制 :bee（古の卑音）/ɪbe（古アルカで布）

beɪj ［化学］アミド 1L:bezɪ

beɪnɔ ［被服］モップハット μʃ;.jelɪn。麦わら帽子を汚さないよう帽子の下に着ていたモップハットのことを当時の民衆はベアノと呼んでいたことから。 ɟΩ

beɪɴ ［卑語］クソ、うんこ ［レベル］2 古 ［語法］ beɪl を更に悪くした語。

beɪl ［卑語］クソ、うんこ ［レベル］2 古 :be（くさい）/ɪl（もの）

bec ［医療］そばかす、雀斑 ［レベル］3 ʔ9: 古 :beel（汚い顔）。これは童貞の beel と同音。

becj ［化学］イミド 1L:beɪj

becn ［生物］泌尿器 ［レベル］5 1L:bez/ɒɪcn

becnj ［動詞］ɥəl を蔑む、蔑む、さげすむ、悪い意味で哀れむ、卑下する ［反意語］˥lɪɑ ［レベル］3 ɟ0: 汚いものを見るような目

becndɪnʃ ［生物］泌尿系、泌尿器系 μʃ;/ ɟΩ

becndcʃ ［医療］泌尿器科 ［レベル］5 1L

becɒ ［形容詞］醜い、美しくない、みにくい ［反意語］lɪnʃ ［レベル］2 1L:been/ɒɔ（ブスな形）

becɒɔn ［動物］パグ ［レベル］6 ɟ1:becɒ/ɔɔɪ ［文化］ 不人気。

becl ［単位］セプト ɟ1:jɪμbelcɪ

beɔ ［卑語］［感動詞］［名詞］クソ、バカ、、だめ、ダメ、駄目、マズイ、まずい、マズい、ヤバイ、やばい、ヤバい ［類義語］ben、˥əz ［レベル］2 ɑu;be は卑音。 古 ［語法］ 悪い意味を表わす語。単独でも複合語要素としても用いられる。ben と意味は同じだが、beɔ の方が嫌悪感が強い。気の荒い男性は日常的に使うが、女性は人によっては生涯使わない。

beɔɒ ［動物］バカ犬、クソ犬 ［名詞］だだっこ、だだっ子、駄々っ子、ダダっ子 ［動詞］ɥəl という内容のダダをこねる ［レベル］2 ɟ1:be/ɔɔɪ

beɔbeeɒɪ ［卑語］クソババア、くそばばあ ［レベル］2 ɑu;/ ɟʔ

beɔlɔ ［卑語］ドアホ、クソバカ、どあほ、馬鹿野郎、バカ野朗 ［類義語］ʃeɔlɔ ［レベル］2 ʃɑ;beɔ/lɔ 古 ［語法］ ʃeɔlɔ よりもきつい。

bee˥ ［建築］トイレ、便所、厠 ［類義語］leμ˥ɪ、benben ［レベル］1 μɑ;beeφl,ɑφn 1Ω: 制 :ɔɔμn:beeφl から。beeφl は語源不詳 ［文化］ 洋式便器で、和式はない。水洗で、ウォッシュレットが備え付けてある。大きさも日本のものと変わらない。ドアを開けると、入る人から見て便器が向かい合わせか横になっている。つまり日本と同じである。必ず鍵付きの個室で、ふつう狭い。両手を横に広げるスペースはない。トイレと洗面所と風呂が一体化している家はない。日本にはホテルなどに多いが、体を清めるところと汚いものを出すところが同居することに対してアルバザードは強い嫌悪を示す。 紙の設置はあり、便器に座ったときの位置から見て左手についている。生理用品入れは置かない家が多い。適宜ティッシュに巻いたり包みに巻いたりして、外に出てから処分する。芳香剤は大抵置いてある。換気扇があるところもある。家には階ごとにトイレが備え付けられていることも多い。 便器の使い方だが、大便の場合は男女とも座る。小便の場合、女は必ず座るが、男は分かれる。便座をあげて用を足す人と座って用を足す人がいる。便座は下げておくのがふつう。便座をあげて用を足しても下げておくのが礼儀。また、匂いを広げないために外蓋を閉じておく人もいる。アルバザードでは清潔なトイレが好まれる。家庭で汚れやすいトイレや台所の美化には多くの家庭が気を払う。 ＜街中での設置＞ 街中には日本と同じようにトイレがいたるところに存在する。公園や店には必ずある。日本と違い、道端にもある（これはフランスと同じ）。利用はどれもタダだが、店のトイレを借りるときは何か買うのが礼儀。なお、トイレは清潔で無料。 ＜中座＞ フランスではパーティや会議などでトイレに中座するのが失礼だが、アルバザードでは断りなく退席してよい。むしろトイレにと断るほうが不潔と思われるので、黙って出て行く。周りも「あぁ、トイレだな」と分かるので、何も言わない。 フランスと異なり、人の家でもトイレを使うが、この場合は断りを入れる。無断では使用しない。この習慣があるため、パーティを開くときはホスト側は必ずトイレを掃除しておく。してないと逆に「なんだこの家は」と思われる。 ＜ノック＞ ノックの習慣はない。カギをかけると外側から鍵穴部分が赤くなる。鍵穴には赤と青のシールが貼られており、鍵をかけることで外側から見たときのシールの色が変わる。赤なら使用中なので開けない。青ならノックなしに開ける。だから、鍵をかけ忘れていると大変なことになる。 この習慣は μɑ にできたもので、メルがトイレの使用中にトイレの外に花飾りを置いておいたことからきている。花飾りはピンクで、赤系の色だったため、使用中は赤を使い、開いている際は赤と区別のしやすい青が用いられるようになった。 ＜性差＞ 家庭のトイレ以外は男女に分かれており、互いに入室はできない。入室は違法で、覗きとして逮捕される。女性が男子トイレに入った場合は覗きではなく迷惑行為として捕まる。 ＜便器＞ 小便器は屋外にしかなく、家庭には設置されていない。店のトイレは小さい店なら大便器しかない。 ＜張り紙＞ トイレを綺麗にしようしてほしいという旨を伝えるための張り紙はアルバザードにもしてある。日本のコンビニなどでは「いつも綺麗に使っていただきありがとうございます」のように書いてあることが多い。アルバザードの場合は、ɪnj nɪ nɪə ɔl el lɪl bee˥ ɔj˥（綺麗なトイレを保ってくれたら私たちは嬉しいです）というような表現で書いてあることが多い。まだ綺麗に使っているかどうか分からないうちに勝手に綺麗に使っていただきありがとうございますと先だって言われると押し付けがましい感じをアルバザード人は受ける。そこで相手にあえて選択の余地を残した表現が好まれる。つまりもし綺麗に保っていただいたら嬉しいですというような婉曲な言い方である。 ［用例］ ucnj eμ（ɪl bee˥）（トイレの）水を流す、トイレを流す ɥɔl{xμcd} bee˥ トイレに行く、トイレを借りる、トイレに入る、トイレを使う ɥɔl bee˥ ɑə ɑcl トイレに篭る ʃɪɒ{jɪn˥} bee˥ 便座を上げる｛下げる｝ φɪμneʃ{jɪn˥} bee˥ 便座を上げる｛下げる｝

b

ɟɪnʔ ɸɔb 便器の外蓋を閉じる　ɪn ɥɔlɪʃ ʔe beeʔ. トイレに行った。　ɪn en ɯcnɟɪʃ eɸ ʔelel. 水を流し忘れた：beeʔ を使わなくても通じる。　ʃɔɟ e beeʔ ɪʃ ɥɪɒ ʔcnel. においが酷かった。

beeʔɟʔcl ［名詞］便器　［メトニミー］便座← ɟʔcnɪl e beeʔɟʔcl　［レベル］2　ʃʃ0　［用例］ɟɪnʔ{ɸɪɸneʃ} beeʔɟ ʔcl 便座を下げる｛上げる｝　ɸen ɟɪnʔ beeʔɟʔcl ʃc ɥɔl. トイレを使ったら便座を下げておいてね。

beeʔbɪɟ ［名詞］トイレットペーパー　［レベル］1　1ʃʃ

beeʔɔcn ［卑語］肉便器　［レベル］4　ɸɑ;/　ʃ?　［語法］［文化］　性処理のはけ口として使われる女性。

beeʔeɸʃ ［建築］ユニットバス　［レベル］5　ʃʃ:「トイレ風呂」

beeɟ,ɑɯ　ɯeeɸ　benʃʃɟ.l → benʃʃɟ,ɑ 参照　赤

been ［俗語］ブス、ブサイク、不細工、ぶす、ぶさいく　［類義語］bɔnbe、bɔɔze、ɯeɒɯ　［レベル］2　古 :been　［語法］　男女ともに使える。ただ女性のほうが美醜が問題になることが多いので、女性に使うことのほうが相対的に多い。　［文化］　アルバザードは混血の割合が高く、遺伝子がよく混ざっているため、美人が多い。そしてブスが少ない。アルバザードでも美人のほうが何かともやほやされるが、別にブスだからといって扱いを悪くするような風潮はない。特に学歴の高い人間ほど、ブスであろうと美人と扱いを変えない。柄の悪い人間は平気で人をブスと罵る傾向にある。　［成句］　ueclɪn ɒɪlɟ been. ブスを娶る者もある：蓼食う虫も好き好き

beeɯ ［卑語］ジジイ　［レベル］2　古 :beeɯ ← beeb/ucʔə

beeɒ ［植物］ラフレシア　［レベル］5　高 : 臭い花

beeɒɪ ［俗語］ババア　［レベル］2　ɑɯ　古 : 元は beeɒcnʃ「汚い女」。be は糞尿などを示す汚いものを指す音で、ɒcn は女。中期ごろに beeɒɪ になったはずだが、その過程は不明。恐らく何かが beeɒcn に後続した後に、cn などの部分が消失したものと思われるが、何が後続したかは不明。オヴィとザナの説によると、語尾が cn では迫力に欠けて罵倒語にならないので音を強い ɪn に変えたが、指小辞の n が付いていてはまだ迫力に欠けるということでこれさえ除去して ɪ にした結果、今の beeɒɪ になったということである。　［語法］　自分より年上なら年寄り以外にも使える。アニメなどでは２０代後半のキャラに使われることもしばしば。　［用例］　ɑen ɟɪɟɔ, beeɒɪ. ババァ無理すんな。ネットスラング。年齢に似つかわしくない女性の言動への感想・ツッコミ。主に心配ではなく失笑の意味で用いられる。　beeɒɪ ʃ'ɔzɪlcɟɪ eʃ aɟɸenɑcʃɪn. ɟɪ aʃɔnclʃ, cɒ ɪn cʃeɸ ʃcɪn, lɪɪbe hɪɒɪʃ c ʔɪlʃe aʃɔn ʔɔn ʃcɯ ʔɪc ɥəl ɸɪɪʃɔ ɑel "hə scɒʔlc ɟɪə, ʃcɪn ʃeɸʔ ɪɒ ʔɔʔʔɔ bərɮ". 尾崎ん家のババアは嫌みなババア。このいだなんか彼女とデートしていたら、遠くの方からでっかい声で言いやがった。「藤巻さんブタ連れてどこ行くの？」（『尾崎ん家のババア１』まりちゃんズ）

beeɒɪʃ ［動物］ブルドッグ　［レベル］4　ʃʃ:beeɒɪ/ʃe「垂れたババアの頬のような顔」［文化］　不人気。

beeɥe ［植物］ドクダミ、ドクダメ、毒溜め、ギョセイソウ、魚腥草、ジゴクソバ、地獄蕎麦　［レベル］3　ɟɒ<be/eɥe,ɪlʃ「臭い草」　ʃ?

beeɥeeʃeʔ ［料理］ドクダミ茶　［レベル］3　ɟɒ;/　ʃ?

beeɸl,ɑɸn　beeʔ

beeb ［形容詞］臭い　［類義語］bɔb　［反意語］lccʃɔ　［レベル］2　ɑ;e　赤　［用例］　ʃeɑ beeb 臭い息

beebʃɪʔc ［医療］わきが、腋臭　［レベル］3　1L

beebleɑ ［医療］口臭　［レベル］3　1L:ɟcɑcɪ:ɟɒɪleʃʃ

beebjeʃ ［名詞］芳香剤、フレグランス、防臭剤、消臭剤、消臭、脱臭　［レベル］3　1L:ɟcɑcɪ:ɟɒɪ leʃʃ

beebjeʃenuc ［名詞］消臭力　［レベル］4　ɸɑ;/　ʃ?

beebɒɪcn ［医療］体臭　［レベル］3　1L:ɟcɑcɪ

beebeʃ ［形容詞］やましい、疚しい、疾しい　［レベル］3　ɑɯ;beeb/ʃe「臭いような」　ʃ?

beez ［植物］イチョウ、銀杏　［レベル］5　古 : 臭い木　［文化］　臭いのでアルバザードでは植えない。

beezcʔ ［植物］ぎんなん、銀杏、ギンナン　［レベル］5　ʃ?<beezecʔ:1ʔ: 制　［文化］　日本ではよく見られるが、臭いのでアルバザード人は嫌い、植えない。

beeze ［動物］ヤギ、山羊　［レベル］2　［ɒ;beezel.］1L:beezel　［文化］　現代ではあまり食肉にも乳にもしないため、アルバザードでは徐々に数が減ってきている。　［成句］　beeze ɪ(len) dɪb 馬に山羊を＝大人しくさせる、火に油を注ぐの逆：山羊を馬の群れに入れると馬が大人しくなることから

beezel ［悪魔］ベーゼル　［歳時記］火曜日。週の第５日目。　［音楽］ソ　［名詞］火事、大火← ɑɪcɯɪ ʃɪc　［組み数字］5 / 7　［レベル］2　pelʃcɪ 0:beezel;e　古 :ɟcɑcɪ　［文化］　ソームの５番目。炎を身にまとった全裸の男。体格が大きく筋肉質。短気。気の短い大柄な男性。炎をまとっているのでほぼ全裸。火を操る。黒灰色で硬い皮膚で覆われた筋肉質な青年の姿をしているが、顔はヤギの顔をしており、角が２本生えている。灼熱の炎で敵を焼き尽くし、長い爪で敵を引き裂く。爪には炎がともっていて、敵を引き裂くと同時に燃やし尽くすことができる。世界中の休火山を転々としては活火山へと変える厄介者。　［成句］　eɒ beezel ɔn{ɪ} ɔn に関して｛ɪ に対して｝ムキになる、怒る、憤慨する、苛立つ、イライラする　eɟɪcɪ ɪ beezel ベーゼルに水：青菜に塩　beezel ʃcɑl jeleɟ 短気は損気　ncɪɟ ɒɪcn ɪ beezel 体をベーゼルに任せる：火葬する、だびにふす、荼毘に付す、荼毘にふす　［用例］　beezel (lənɪ)ʔ 火事だ！

beezeʃlɪde ［名詞］短気、短気な、ベーゼルの角。短気の象徴。　［レベル］3　1Λ: 制　［用例］　lɪ ʃcl beezeʃlɪde. あいつは短気だ。

beezellcl ［化学］マンガン　［レベル］4　1Λ: 制

beezelɪʃ ［アイテム］炎剣ベーゼラット、ベーゼラット　［レベル］4　pelʃcɪ LLLLLL:ʃcʔnɔ;beezel/ʃe　古 :ɟcɑcɪ:beezel はベーゼルだろうが、ɪʃ は不明　［文化］　ヴァストリアの１つ。ギルのもつ炎剣。ティクノがベーゼルを倒したときのもの。

beezelɔɔb ［被服］エナン　ɸɑ;/　ʃʃ1　［文化］　ɟɒ でできた。ヤギの角のような形をしていることから。女性服。貴族用。

beezecɑɯ ［地球の星座］［ユマナ］やぎ座　ʃʃ1　［文化］　cɑɯ

beezeɔɯʃ ［化学］マンガン乾電池　［レベル］4　1L　［文化］　ナディアで開発。

beel ［俗語］童貞　［類義語］ɑɟenbeel　［レベル］4　古 : 元は beeɟɥɔl で、更に意味を解釈すると bee（臭い）eɟɪcɪ（水）ɥɔl（使う）に分かれる。「小便専用」の意味。L 年ごろにできてすぐに広まった語。ɟɥɔ の部分が言いにくかったため、すぐに音が切り詰められて beel になった。　［語法］［文化］　男への代表的な罵倒語。ただし、アルバザードの女は身持ちが固いので、男はたいてい童貞か素人童貞。風俗やレイプや尻軽女で童貞を捨てた場合、むしろ蔑みが増える。処女の恋人ができてセックスした場合にだけ、完全に脱 beel できる。　１０代のうちはみんなけん制しあっているので童貞は代表的な罵倒語だが、２０後半が相手だと罵倒語として機能しなくなってくる。３０を超えて童貞の場合、日本の魔法使いと同じく、達観していて女に興味がないのだろうとみなされ、逆に一目置かれるようになる。アルバザードには「性的な嗜好を一切見せない男性はいやらしくなく美しい」と考える女が一定数いるため、３０超えて童貞だとある意味見直される。　なお、アルバザードでも ɪl から ls にかけて恋愛至上主義になっていたため、日本同様３０才まで童貞処女なら魔法使いと呼ばれるようになっていた。童貞なら黒魔道士（魔法使い）、処女なら白魔道士（僧侶）と呼ばれる。　ちなみに童貞はたいていキモがられるが、素人童貞はなお見下される。　［用例］　leeu beel cɒ 1ʔ ɔle{ɔʔ, ʔɔn, ʔɔlje}ʃ nene　１７才で～相手に童貞を卒業する。ɔle が一般的。ɔʔ の目的語が女だと、女も処女だったイメージ。ɔʔ の目的語が男だと、男友達二人でソープに行って誰かを相手に脱童貞してきたというようなイメージ。ʔɔn の場合、相手を利用したイメージ。ʔɔlj eʃ の場合、やらせてもらったイメージ。　"ɪɸ, ʃcɪn eʃ beel ɪɪnel jɪnnɪʃ'ɮ" "pelcccjʃ'" "el ʃɪl ɑlen beel ɪlɪlʃ lcjɪn eəʃ'" "ɥɪhʔɥɪh" "えーマジ童貞ｷﾓ」「えーマジ童貞ｷﾓ」「童貞が許されるのは小学生までだよねー」「キャハハハハハハ」（『奪ｷ 童貞。』キモーイガールズ）

beeɟɔ ［感動詞］［ɒen］［ɸnɔ］ばーか、バーカ　［レベル］2　ʃʃ:feɟɔ の卑音化　［語法］　おどけて使う。

beelenuc ［俗語］童貞力　［レベル］5　1L　［語法］［文化］　→ cɒdelɑ　雨の日に傘を持っていたら小学生の女児が雨宿りして困っているので、傘を貸してあげたら出会いができたなど、現実にありえないことを妄想することができる能力。

beeɪ ［感動詞］［ɑɟecnʃ］denʃ　［レベル］3　1L: リディアの書 :denʃ ɪ → benʃ ɪ → bee ɪ → beeɪ。ɪ は語気の文末純詞。

bə,ɑɯ　ʃən

bəɟ ［名詞］陶器、磁器、陶磁器　［レベル］4　ɑɯ;j は ɟə で「砂」？　古

bən ［化学］セラミックス　［レベル］4　1ʔ: 制 :bəɟ

bənɔ ［地学］畝、うね　［レベル］4　古

bəd ［形容詞］［擬態語］［ネガティブ］ぶつぶつ、ぷつぷつ。ブツブツ、ブツブツ　［レベル］2　ʃʃ0: ぶつぶつ小さく気泡が弾けるような音から　［語法］　アルバザード人が最も嫌う物ないし音のひとつ。鳥肌や病気になったときの肌などにできるぶつぶつのことで、無数の気泡ができたもの。気持ち悪いものの代表で、身の毛がよだつ。ほかにも、皮を一気にはぐと血管が気泡状に傷つくため、ぶつぶつと出血する。これを魔法で起こしたものが禁呪魔法 eɟcl。

bədjcɟ ［生物Ⅰネガティブ］鳥肌　［レベル］2　ʃʃ0: ぶつぶつした肌　［語法］　bədjcɟ は恐怖や嫌悪によって生じた鳥肌のことで、気持ち悪く不快とされる。同じ鳥肌でも感動によって起こったものは歓迎され、その場合は ɥəjcɟ という。　［用例］　ɪn ʃclɪʃ bədjcɟ ɒɪn cnjcʔ uelcz. 虫を見て鳥肌が立った。

bəb ［動物］ハエ、蝿　［名詞］うるさいやつ、邪魔な奴　［レベル］2　古

bəbcnɟ ［医療］飛蚊症　［レベル］4　ʃʃ:「蝿が飛んでいるように見える目」［用例］　ʃcl bəbcnɟ 飛蚊症を患っている

bəbcɑ ［地球の星座］［ユマナ］はえ座　ʃʃ1　［文化］　cɑɪ

bərl ［俗語］豚　［卑語］ブタみたいなやつ　［レベル］2　ʃʃ0:ɟcɑcɪ:ɒcɟɔʔ:「ブヒブヒ言う奴」という意味のオノマトペ

bərclncɪn ［名詞］無為徒食　［レベル］4　ʃʃ:「食べるだけの豚ニート」

bəl ［医療］ぼけ、ボケ、呆け、痴呆、認知症　［レベル］3　古 :bəl ← bələə（悲しい）。もはやよく分からないが、当時は団体規模で身体よりも知性に重きを置いていたので、「年とともに衰えていくのは悲しいね」的な意味だったのではないか。　［語法］　認知症とボケの区別はしない。

bəlʃ ［形容詞］厳しい、優しくない、辛く当たる　［反意語］nccʃ　［レベル］2　ɸɑ　1L: 赤 :bəlɪ bə lɪ:bəlɪ　［用例］　"ʔɪʔlɪ eʃ bəlʃ ʔɔnʃ ɒɪɪl eʃ nccʃ, ʃcl lcʃe nɔɪn", ɥəl jɔɪ, ləlcɪ nɪ jcl ʔɪɒclel.「父さんは厳しい。母さんは優しい。ウチ以外はねぇ」――とルシアが思いそうだな。

bəlʃlɪbɪ ［環境］ハードエネルギー　1L

bəlʃɪ,ɑ　bəlʃ　e

bəlʃɪʃc ［名詞］厳しさ　［レベル］3　ɸɑ;/　ʃʃ1

bəerl ［俗語］ゲロ　［類義語］φɔɪ　［レベル］3　ʃʃ: オノマトペ

bəəɪ ［形容詞］つまらない、楽しくない、退屈、不愉快　［反意語］bɪn　［レベル］2　ɑ;ɪ1 は心。赤 : つまらなくてぶすっと頬を膨らませてるときの心と覚えると楽　bəəɪ:bəəɪ1　［用例］　ɪn nɪʃ bəəɪ1 cɒ ɑcj. 今日は退屈だった。　ɥəə eʃ bəəɪ1 uecn nɔɑ el cn ɒel ʃɪə ɑc. 人が買い物しているのを見るほどつまらないものはない。

bəəɑ ［地学］カオリナイト　［レベル］5　古 :bəj からだろう。

bəəɑdcʃ ［地学］カオリン　［レベル］5　1L

h

hɒ ［感動詞］ふーん、へえ、へぇ、ふうん、ふぅん、ふ～ん　［レベル］2　ʃɒ;ɑɔueʃ　古　［語法］　関心したときの肯定的な相槌。新たな知らないことを聞いたときにも使う。

hɒɒ ［感動詞］ふうむ、うーむ、うーん　［レベル］2　ʃɒ;ɑɔueʃ　古

hɥɪl ［地学］土手、岸　［レベル］3　ʃʃ0: 古 :hɥɪ（高い）

hɥɪɪ ［感動詞］うわあ、きゃあ　［類義語］ʔɥɪɪ　［レベル］2　ʃʃ1

hɥɪə ［感動詞］ひゃう、はうっ、はうーん。喘ぎ声　［レベル］2　ɑɯ　ʃ?

hɥɔj ［動詞］ɥəl をはためかせる、はためかせる、はためかす、はためく　［レベル］3　古 :hɥɔɔ: 恐らくオノマトペ　［用例］　ɪde ɪnɑ hɥɔj. 旗がはためいている。

hɥə ［擬音］ヒューという口笛の音　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古　［語法］　ヒューという口笛の音。相手の行為などを誉める意味で鳴らす口笛のこと。女は下品なのであまりしない。

hɥə,ɑ　ɟɔɟ, hɪl　e

hɥəl,ɑ　ɒɔɑ　hɥə/ʃe「高く行く」

hɥəʔlɪl ［アトラスの国家］ヒュカル　［レベル］5　1L:ɟcɑcɪ: 高い土地

hɥəʔə,ɑ　hɪl　hɥə/ʃə

hɥəlɪ ［軍事］将官、将軍、ジェネラル　［電算］ワークステーション　［名詞］大ボス　［組み数字］2 / 7　［レベル］3　ɑɯ　古 :hɥəlɪ は古で「高い存在」の意味。軍隊の用語はミリタリーオタクだったザナが古の時代にあらかた作った。だが軍隊に興味のないセレンは赤に hɥəlɪ しか入れなかった。古で作ったものは恐らくフランス軍を反映しているが、新生のオリジナルの軍隊とは当然異なるので、古で使えそうなものを新生でリサイクルした。　［文化］　士官の中で最上位。大将、中将、少将に分かれる。

hɥəlɪ,ɑ　hɥəlɪ, hɪl　「高い存在」

hɥəlɪ ɒɪcn ［人名］ヒュシャ＝マイン　ʃʃ0　［文化］　(cɒəl 1ʔʔ:1ʔ10) ラグナロクの研究員。1ʔʔL1 年に自邸宅の倉庫から ɟʃeʃʃ の計算機を発見し、経済省に引き渡す。自身の成果としたが計算機の外観が古びていることから怪しまれる。しかし証拠不十分として嫌疑を退けられ、1ʔʔLL 年にラグナロク学長となる。晩年は痛風に悩まされ、悪夢に魘されるようになる。1ʔ0J 年にアキナス父子の悪霊を悪夢で見て以来、痛風の原因は呪いだと思うようになり、1ʔ0ʔʔ 年に真相を暴露。学長を終われ、邸宅で 1ʔ10 年に息を引き取る。これによりマイン家は没落。

hɥəɪ ［医療］催眠　［レベル］3　古 :hɥəɪ ← hɥəɪɔ/ɪ

hɥəɪɔ,ɑ　ɥəɪɔ　e

hɥəɥɪɔ ［地名］ヒュグノー　［レベル］5　1ʔ: 制 : 古 :hɥəɥe（魔法陣）から。　［文化］　ソーンの使徒ヴァルザの支配地。

hɥəɥɪɔ(J) ［アトラスの国家］ヒュグノー　［レベル］5　制　［文化］　面積 : ʔ<JLʃʃΔ.ʔ<ΔʔΔʔ<J9 ʔɒ ⌋

hɥədɪ,ɑ　hɪɟd　hɥə/dɪdɪləɟɪ「高い太陽」

hɥəhɥə,ɑ　hɪl　hɥə/hɥə

hɥəl,lɥ　hɪl　hɥə/ɪl「上の物」

hɥəlɔ,ɑ　ɥəlɔ　hɥə/lɔ「上の頭」

hɥəlɔ,ɑ(J)　lele　「頭が高い」

hɥəəʃɔ ［地名］メテの使徒ヒューウェの支配地　［人名］リュウのアルカ姓　［レベル］3　ʔlʔɔ　［文化］　ラヴァスではエルトの本拠地。　［成句］　hɥəəʃɔ le ʃɪnʃ hɪɪ 敵に塩を送る。ɟɒ でヒュート軍が小競り合いの際、困窮した敵のケートイアに塩を送った逸話から。

hɥəəʃɔ(J) ［アトラスの国家］ヒュート、飛国　［レベル］3　ʔlʔɔ　［文化］　面積 : ʔΔʔΔL1.0ʔ0LLʃʃ ʔɒ ⌋

hɥəəɔe ［人名］ヒューウェ　［組み数字］6 / 1 5　［レベル］4　ʔlʔɔ: 古アルカでの意味は「自由」［文化］　メテの第６使徒。

hɥəəɔelcl ［化学］プルトニウム　［レベル］5　1Λ: 制

hɒɪ ［感動詞］わーっ、わーい、やった、やったー　［類義語］ɪnɟɔɪ　［レベル］1　古 :hɒɪ　［語法］　ɪnɟɔɪ

hɒc ［動物］鶯、ウグイス　［レベル］4　ɪlʔlɪ: オノマトペから

hɪ,ɪlʃ ɑɔnʃ

hɪʃ ［料理］皿　［レベル］2　古　［成句］　ɥɪl hɪʃ ɒeleʃ lel lɪnʃ 他人の皿も綺麗に保て：己の欲せざるところは人に施すことなかれ 。洗いものをするなら人の皿も綺麗に洗ってやれということ。どうせ自分が食うんじゃないんだしというのではなく。　［用例］　lɪ ɟɔlɟɪʃ ɪn ɔll hɪʃ. 彼女は私に皿洗いをさせた。

hɪʃ(J) ［感動詞］はっ、ふん　［文末純詞］軽蔑、軽視、見下し、無関心を装いながらもいらだつ、苛立ち、冷淡、怒りを示す　［レベル］2　1Λ:ɟcɑcɪ:hɪɒ と同根。こちらは日本語でいうと「ハッ！」という感じ。

hɪɟɥ ［名詞］食器洗い機、食器洗浄器、食洗器　［レベル］3　1L:ɟcɑcɪ:ɟɒɪleʃʃ　［文化］　食器洗い機が普及しているのでそれを使う。大家族なので日本のものより遥かに大型である。アルバザードの家庭には食器が多い。様々な種類のものがしかも大量に備えてある。これは放蕩ではないのかというと、実は放蕩ではない。なぜか。食器洗い機は水を使って洗うが、毎食ごとに洗うのでは水がもったいない。そこでアルバザードでは、晩ご飯の後にまとめて食器を洗う。朝使ったものは食べ終わった先から食器洗い機に入れておく。そして昼食は別の新しい食器を使う。そして晩ご飯の後、一斉に洗う。食器は始めに一度買い込んでおけば後はずっと使えるわけだから、この方が遥かに経済的である。しかも社会的に考えれば節水にも貢献して

いる。一枚の食器を四回洗うのを毎日繰り返せば水だけが浪費される。だが、四枚の食器を一回で洗えば無駄な水は流れない。食器は減るものではないので経済的である。食器洗い機は同時に乾燥機でもあるので、吹く手間もない。熱風等を駆使してミクロの隙間に入り込んで取れない雑菌も殺菌してくれる。臭いもなく、衛生的である。

hɪʃcɪ ［普通動名詞］恋、恋愛 ［動詞］ɥǝl に恋をしている、ɥǝl が好き、恋する、恋愛する ［魔法］ハティア。利の中位白魔法。相手の脳にＰＥＡなどの恋愛ホルモンを放出させ、術者に恋していると錯覚させる魔法。ʃccɪ と違って白魔法。 ［レベル］2 赤：愛になる Xɪʃcɪ:Xɪʃcɪ:leɥnen:ɑcɪlǝ, ɪlʃ ［語法］ʃccɪ, ɑccnelcɪ ［文化］hɪʃcɪɥel 革命中は恋愛と結婚はいずれも届けが必要。 ［用例］nɔn hɪʃcɪ lɪ. 私は彼に恋をしている。

hɪʃcɪlcuel ［ユマナ］本命チョコ、チョコレート ʃʔ

hɪʃcɪɥel ［歳時記］恋の日 ［レベル］3 ʃl ［文化］ɒel scl の休日で、恋愛を賛歌する日。μɑ で催日として設けられた。抑圧的な革命期にミロクが慈愛の気持ちから休日に変え、青春を謳歌するよう促した。ただしこれは当時出生率が下がっていたことを背景に、リーファ隊がアドバイスしたとも言われている。 現在はカップルだけでなく夫婦などもお互いを見つめなおす日となっている。行政的には恋愛届と婚姻届の更新日となっている。 多くの店ではカップル割引や夫婦割引が行われる。休日にしたのは正解で、経済効果が大きい。 現実にはセレンがリディアと二度目のキスをした日で、小説版アンクノット第三巻に挟んである紙に平成７年６・４と記録してある。そこから恋愛の日が来ている。 ちなみに小説版アンクノットのシナリオではこのときセレンとリディアは過去のルティアに戻ってリーザと会うことになっている。この記憶は中三の夏で、９５年ということになる。 （メル暦だと２１・７・１９になる。７・１９！ μcɑcɪ の hɪʃcɪ で ɑcɪɥel。すごい奇跡だ。アルカには奇跡が豊富。９５年にはまだメル暦もなかったし、すごいことだ）

hɪʃcɪn ［名詞］恋する者 ［レベル］3 ʃL:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

hɪʃcɪnʃ ［形容詞］可愛い ［反意語］ɥǝlcɪnʃ ［レベル］2 μɑ;hɪʃcɪ/ɪnʃ ʃʃl: セレンが紫亞を可愛いと言った際、リディアが「わたしより可愛いの？」と拗ねたので、リディアのほうが可愛いよと言ったら今度は紫亞が拗ねたので、セレンは恋人に対する可愛いと子供に対する可愛いをそれぞれ造語して、リディアは hɪʃcɪnʃ の中で一番で、紫亞は ɥǝlcɪnʃ の中で一番だとして事を収めた。 ［語法］ 異性として見ている相手に対する「可愛い」が hɪʃcɪnʃ。それ以外の子供や動物などに対する「可愛い」が ɥǝlcɪnʃ。

hɪʃcɪɒɪnɪ ［地学］［歴史］三畳紀 ［レベル］6 ul;/ ʃ/ ［文化］φɪɪueɑeɒe

hɪʃcɪɥǝʃʃɪ ［天文］プレヤデス星団、すばる、昴 ［レベル］5 ʃL:μcɑcɪ/jeμen/ɒel: 恋の牢獄 ［文化］ リアントとリルムの共闘に手を焼いたリディアは、リアントとリルムを引き離して封印することにした。個別ならば勝ち目は十分あるからだ。リルムを倒したリディアはライファの魔法をリアントに打った。リディアの魔法に引き寄せられた星々はリアントを倒すと、そのままリアントを封じた牢獄となった。これが昴である。

hɪʃ ［名詞］賞賛、称賛、賛辞 ［動詞］ɥǝl を褒める、褒める、誉める ［反意語］ʃǝuɥ ［レベル］2 ʃʔ: 制 : 古 :hɥǝlǝ（誉める）。高い口が原義。 hɥǝlǝ:hɥǝlǝ ［文化］ 十徳では慈・信・礼。 フランスの職場では部下をあまり褒めず、アメリカでは褒める。日本は前者に当たる。アルバザードはアメリカ式で、よく褒める。そして貶さない。３つ褒めて１つ欠点を指摘するというやり方である。ポジティブであることを良しとするため、アルバザード人は他人の良いところを見る傾向がある。 また、褒めるときは２個客観１個主観といわれている。そして貶すときは必ず客観で、主観は絶対に入れてはならないとされている。 ＜褒める相手＞ 謙遜の精神が強いため、身内をベタ褒めすることはない。友人も仲良くなるほど褒めない。ただ、あくまで他人に身内を紹介するときに身内を褒めすぎないだけで、他人に紹介するシーンでなければ仲の良い間柄でもよく褒める。つまり、人前で妻を褒められても謙遜し、自分でも自慢しないが、妻と話しているときは「かわいいね」と褒める。 なお、日本人ほどは謙遜しない。 ［用例］ "ʃc ɔʃlʃɪ uɪn ʃɔ ɔl hɪʃn ʃccl ɔcnʃ lecʃ le nɔʃ lɪɑɪʃß" "hɪʃ uɪcʃ μɪʃ ʃɔnʃ ɑcʃ ɥen ɔn uɪcʃ ɥɪɒ lɪnɪ ʃeɪ ʃə ʃcjee" "jɔn, ɔl ɔle ef lejʃcμß" "hɪʃ uɪcʃ μɪʃ ʃɔnʃ hɪʃ uɪcʃ μɪʃ" 「もし友人に絵を見せられたら、どう感想をつける？」 「良い部分を褒め、悪い部分は良くなるようアドバイスをするさ」 「じゃあ相手が女の子だったら？」 「良い部分を褒め、良い部分を褒める」 （μenʃ ９ʔʔ）

hɪʃ ［地学］岬、ケープ、崎 ［レベル］3 lɪʃɪ

hɪʃlcɪcɪ ［人名］ハクシリア ʃl0:hɪʃlcǝʃ/ʃcɪ ［文化］ ɥǝǝɒɪ ᴾ９ʔʔ ルカリアで召喚士 hɪʃlcɪcɪ が王を倒して新王となる

hɪʃlcǝʃ ［歴史］ハクシウス族 ［レベル］6 ʃl0: 古ヒュート語「高い魔導師」

hɪʃn ［動詞］ɥǝl をうぬぼれさせる、うぬぼれる。再帰動詞。 ［名詞］(nɪ とともに）うぬぼれ、自惚れ ［レベル］3 ʃʔ: 制 : 古 :hɥǝlǝnɔn（私を誉める）

hɪʃɒ ［名詞］哺乳類、哺乳動物、ママール ［生物］哺乳網 ［レベル］3 ʃʔ: 制 : 古 :hɥǝlǝɒ

hɪʃɑɪz ［形容詞］賞賛に値する ［レベル］4 ʃʃ

hɪʃl ［名詞］賞、賞品 ［レベル］3 lɪʃɪ

hɪʃɪ ［名詞］消しゴム ［レベル］2 ʃʔ: 制 : 文字のゴム hɪɾlhɔd ［語法］ 消しカスは ʃcjc。

hɪʃə,ɪlʃ μɪɑl

hɪʃəlc,ɪlʃ ɪn hɪʃələ

hɪʃələ,ɪlʃ hɪʃl <>hɥə

hɪʃl ［形容詞］優れた、優秀な ［反意語］hcj ［レベル］2 ʃʔ: 制 : 古 :hɥǝlɪ（高い存在） hɥǝlɪ:hɥǝlɪ: 'ɥǝlɪ:hɪʃlǝə,ɪlʃ ［用例］ ɑelɪn{ncɑe} hɪʃl 優秀な学生｛成績｝

hɪʃʃ ［軍事］上司、上官 ［反意語］μej ［レベル］3 ʃʔ: 制 ::lə 'ɥǝlɪʃ

hɪʃnɪ ［名詞］優越感 ［レベル］3 lL

hɪʃɑelɪn ［名詞］優等生 ［レベル］3 ʃl

hɪʃɒeʃlɪnɑ ［魔法］高位魔法鏡 ［レベル］6 ʃl ［文化］ ɑɔlɒcɥǝ

hɪʃɪ ［政治］爵位 ɔɒ;hɥǝlɪ.l ʃʃl0 ［文化］ 日本と違って家単位ではなく個人単位に与えられた。

hɪʃeʃ ［名詞］アドバンテージ、有利、優勢、優位 ［類義語］μɪʃɪ ［反意語］hcjeʃ ［レベル］3 lʃ0:hɪʃl/ʃe（優れているような）［用例］ lɪ ʃcl hɪʃeʃ ɔn eμc ʃel ɪn. 彼は血筋においては私よりアドバンテージがある（＝彼のほうが生まれがよい）

hɪʃ ［名詞］縦、垂直、鉛直 ［シェルト］縦駒 ［化学］族 ［類義語］scnʃ ［反意語］hcl ［レベル］2 ʃʔ: 制 : 古 :hcj（わき腹）。英語になくアルカにもなかったが、わき腹という語彙をセレンが横の意味で使い続けていつしかわき腹が横になった。 ［語法］ hɪʃ は縦、垂直、鉛直、鉛直、すなわち上下方向のことで、地面と垂直に交わる方向である。ふだんは地面に垂直な方向のことだが、人が寝ていたり水中、空中にいれば hɪl と同じく頭から足の方向が hɪʃ になる。また、物についている場合、竪穴式住居のように動かないものなら天地の方向を hɪʃ という。本のように動かせるものの場合、細長いほうを hɪʃ という。棒なども同じ。 hcl は横、水平、地平、縦と垂直に交わる方向のこと。ふだんは自分から見て左右の方向。日本語ではその物体を正面に捉えたときの左右の側面という意味があるが、hcl にはない。横顔は hcl ではない。顔の hcl とは右頬から左頬までの長さについて述べる方向を表わす。横顔という意味はない。箱についても同じ。箱を正面に捉えて、その右と左の面を意味するということはない。あくまで箱の正面の面の右端から左端までの方向を指す。hcl は細長いものの幅を表わす。棒の縦に対する横である。横に棒を切るとは、断面が丸くなる切り方で、キュウリをサラダ用に切るときも横に切るという。ここが難しいところだが、hcl は同時に水平方向も表わすわけだから、棒を縦に置けば hɪʃ だが、横に寝かせれば hcl といえる。この場合、hcl はむしろ棒の幅でなく、棒の長さを指す。横笛なども hcl だが、この hcl はまさに笛の長さの方向を表わしている。なぜなら横笛の横は水平方向に寝かせた方向を意味するからである。 このように、事情によっては hcl が物の水平方向の長さだったり物の幅だったりする。hɪʃ も同じく物の鉛直方向の長さだったり、物の単純な長さだったりする。混同しないように気をつけなければならない。

hɪʃʃ ［動詞］ɥǝl を ɪ に垂らす、垂らす、垂れる、ぶら下がる、ぶらさがる ［レベル］2 ʃʔ: 制 :hɪ（舌） ［用例］ lɪ hɪʃʃej ncɪ. 彼女は髪をおさげにしている。（あるいは伸ばしている） lɪ hɪʃʃej nɔʃ ɪ dɪɑlzɔn. 彼は鉄棒にぶら下がっている。

hɪʃlɒ ［医療］胃下垂 ［レベル］5 ʃl

hɪʃɑɔɪc ［被服］キャミソール、キャミ ［レベル］4 ʃl

hɪʃlbɪɑ ［音楽］どら、ドラ、銅鑼、ゴング ［レベル］4 ʃl: 大きいので垂らして使う

hɪʃɔl ［名詞］ストラップ、キーホルダー、マスコット、小さな人形 ［レベル］3 ʃl:hɪʃ/ɔl

hɪʃleʃɔnɪ ［名詞］上下関係 ［レベル］3 lL:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

hɪʃel ［名詞］相性、ケミストリー ［レベル］3 ʃl:hɪɪɥ/ʃel「合う合わない」 ［成句］ hɪɪɥ{ʃɔc} hɪʃel 相性をよくする、馬を合わせる、音を合わせる hɪʃel hɪɪɥ{ʃɔc} 相性の良い hɪʃel ʃel 相性の悪い ɑcʃ hɪʃel ɪ ～のバランスを整える

hɪʃl ［音楽］ラップ ［レベル］4 ʔʔ: 制

hɪʃɒ ［形容詞］年上の、年長者、シニア ［反意語］hclɒ ［レベル］2 lʃl0:jeμen:ʃlel:hɪʃɒə（上の年） hɪlʃɪ:hɪlʃɪ ［用例］ ミーファはセレンより４つ年上だ。 ɒccɑɪ ef hɪʃɒ ɑə ʃl ʃɔlcʃ nɔɑ{ɔn} ɥeμ en.

hɪʃɒcɥǝɪn ［数学］連立方程式 ［レベル］4 lL

hɪʃφɪlcʃlcɪɪ ［娯楽］縦スクロールシューティング、縦シュー ［レベル］4 ʃʃ

hɪʃμɔn ［医療］上下圧、垂直圧。押手の母指と示指が鍼体をつまむ力のこと。 μɑ;/ ʃʃl

hɪʃμecɪ ［名詞］縦線 ［名詞］｜記号 ［レベル］2 lʃ0

hɪʃscɪnʃɑcɪʃ ［生物］矢状面、正中面 μɑ;/ ʃʃl

hɪʃl ［音楽］リズム、調子律動、リズミカル、律動的 ［レベル］3 ʃʔ: 制 :hcʃl

hɪʃlhɔlʃ ［音楽］ライドシンバル、トップシンバル ʃʃ

hɪʃɪn ［文頭純詞］［ネガティブ］どうせ、案の定、～のくせに ［文頭純詞］どのみち、どの道、いずれにせよ ［類義語］len ［レベル］2 lʃ0:ɒelcɑcɪ lceμ:hɪʃ ɪn ［語法］ 主に皮肉気に使ったり消極的にどうせダメだというイメージで使う。 完了形と使うと「案の定」、未来形と使うと「どうせ」の意味になる。現在形は文脈によってどちらにもなり、過去形も同様。 ［用例］ hɪʃɪn ejʃ lǝnɪ uɪn cɒ ɑcʃ ʃɪn. どうせ今日も雨だろう。

hɪʃeʃ ［形容詞］聞き分けの良い、良い子な、いい子な、イイ子な、イイコな ［レベル］2 ʃl:hɪʃ/ʃe ［用例］ ɒcɪɪ hɪʃeʃ 聞き分けの良い娘

hɪʃejd ［気象］積雲 lL

hɪʃenʃɪɥn ［数学］連立不等式 ［レベル］4 lL

hɪʃeμʃ ［親族］直系 ［レベル］4 lL:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

hɪn ［形容詞］広い ［反意語］heɒ ［レベル］1 ɑ;e ʔʔ: 制 :jɔμn:hɪɪn（広い） hɪn:hɪn:hɪɪn ［用例］ ʃɪɑ hɪn 広い国

hɪn(ʃ) ［文末純詞］～でしょう？、～だろ、どうよ？ ［レベル］2 古 ［語法］ 語調を整える語。文末に来る。あまり丁寧ではない。女子はおどけた口調でしか用いない。

hɪn(ʔ) ［生物］［医療］臓、蔵。陰である。 ［レベル］5 jzl ʃʃl ［語法］［文化］ 地球の『素問』や『霊枢』など古代の東洋医学では臓という語はなく、蔵という語しか出てこない。内臓の臓という字を宛てがったのは江戸時代に腑分けを行った際に実際の臓器に対して名付けたものである。古い東洋医学では臓という字は使っていなかった。蔵は内臓を指すわけではなく、五神を蔵しているものを指した。現代人は蔵と臓を同一視しているため、東洋医学の古典における蔵が西洋医学の内臓と一致していないことから、東洋医学は古臭くて間違っていていい加減だと考えがちである。例えば脾は脾臓という内臓のことではなく、脾という蔵である。臓と蔵の区別ができていないと理解に苦しむ。これは日本人だけでなく、欧米でもそうである。脾経はＳＰだが、これはｓｐｌｅｅｎから来ている。脾臓と脾の区別ができていない。つまり臓と蔵の区別ができていない。 一方アルカでは蔵は hɪn であり臓は hɪnɒɪlɒ である。lǝʃle ʃcɪ のほうが jccziμ より先に存在したため、lǝʃleʃcɪ の hɪn（蔵）に ɒɪlɒ（内臓）を付けて合成語にして「臓」を表現している。歴史的経緯により単純語レベルではなく合成語レベルだが、蔵と臓は区別されている。なので地球人よりアトラス人のほうが蔵と臓の区別に長けていると言えるが、アルバザード人でも一般人は「hɪnɒɪlɒ は hɪn と言ったときに hɪn（広い）と区別するための長い言い方」くらいにしか考えていないものも多く、医学的な知識がない人は蔵と臓の区別ができないのが実情である。

hɪnʃ ［名詞］積み重ね、累積 ［数学］［接続詞］かける、掛ける、× ［動詞］ɥǝl を ɪ に積み重ねる、積み重ねる、積む、積み上げる、積み上がる ［数学］掛け算、乗法、乗算 ［名詞］～倍 ［反意語］ʃlenɑ, ɑeʃ ［レベル］2 ʃʔ: 制 : 古 :hɪnɔc ［語法］ ɑɔlʃ, ʃcɑ.

hɪnʃeeu ［物理］倍振動 ［レベル］5 lL

hɪnʃlcdl ［料理］ミルフィーユ ［レベル］3 ʃʃ

hɪnʃncɑ ［言語］累積相 ［レベル］6 ʃl0 ［語法］ 不定動詞の非単位動詞の持つ非単位相。 例えば不定動詞「歩行する」の非単位動詞「ｎ歩歩く」の非単位相「歩行中」のこと。 動詞の無標形で示される。 例：lǝʃ

hɪnʃɑɔl ［地学］堆積岩 lL

hɪnʃɥǝɔ ［言語］累積動詞 ［レベル］6 ʃl0 ［語法］ 非単位動詞のうち、不定動詞からできた動詞。「歩行する」など。

hɪnʃzed ［数学］掛け算 ［レベル］2 ʃʃ

hɪnʃlcuɪ ［娯楽］落ち物ゲー、落ち物ゲー、落ち物パズル ［レベル］4 ʃʃ:「積み上がるゲーム」

hɪnʃɪll ［数学］倍数 ［レベル］3 lL

hɪnʃc ［サール］ハンティ ［レベル］4 古 :hɪnɔcʃc)nɔ（塔の龍）から。 ［文化］ 塔の龍。アルデスとテュアの第４子。男性。ʃɔɔl と人型を使い分ける。

hɪnʃclɒ ［名詞］ブランケット、ブランケット判、ブランケット版 ［反意語］heɒʃclɒ ［レベル］5 μɑ;/ ʃʃl

hɪnʃen ［数学］積 ［レベル］2 ʃl:hɪnʃ 属格 ［語法］ ɑɔʃlen

hɪnʃeeʃ ［化学］展性 ［レベル］4 lL

hɪnʃ ［地学］層、レイヤー ［美容］レイヤー ［レベル］3 ʃʔ: 制 :「 積み上げられたもの 」

hɪnʃɒɔ ［美容］レイヤーカット ʃʃ

hɪnʃɪɑ 広い国 lL ［語法］ 大国ではない。面積が広い国。

hɪnʃɔn ［生物］［医療］臓腑 jzl;/ ʃʃl

hɪnʃe ［宗教］侍祭、アコライト zφ;「火を起こす係」 ʃʃl

hɪnʃeμcɔ ［地学］地脈（地層の連続した筋）。風水のではなく。 ［レベル］6 μʃ;φɪɪuehɪnʃ/eμcɔ ʃʃ

hɪnʃ ［動詞］ɥǝl を ɪ に普及する、普及する、布教する ［レベル］3 lʃl0: 制 :hɪn ［用例］ ɪμʃɪ ej hɪnʃ ɪ ɑcɪɪcʃ ʃ'ɪʃɔlɪj. アルカはアトラスの大部分に普及している。

hɪnʃɪn ［宗教］宣教師（jɔμɥeμenʃ）、普及者 ［レベル］3 lL

hɪnʃɪsɪ ［名詞］普及率 ［レベル］4 lL:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

hɪnʃ ［動詞］ɥǝl を折りたたむ、折りたたむ、折り畳む、畳む、たたむ ［レベル］2 ʃʔ: 制 : 古 :hɪn ɔcʃ（塔にする） ［用例］ hɪnʃ jɪlɪʃ ɪ uɪl シャツを四つ折りにする

hɪnʃφɔʃe ［生物］移行上皮。膀胱、尿管、上部尿道、腎盂などに見られる。 μʃ;/。常時は折り畳まれていて広げて大きくすることができることから。 ʃʃl

hɪnʃɔɪ ［軍事］陣、陣営 ［レベル］3 lʃ0:ɒelcɑcɪ lceμ: 雨などを除けるための広い幌を張ったことから。

hɪnncuɪl ［アイテム］ランス ɔɒ;hɪncuɪl.l。lʃ でできた槍。この時代の騎士が装備した。 ʃʃl

hɪnuеμ ［医療］水疱瘡、水痘 ［レベル］3 lL: 古 hɔɔμɪɪuеμ（赤い呪い）

hɪnɑɪɪn ［化学］クロロメタン、メチルクロライド、塩化メチル lL

hɪnɒɪlɒ ［生物］臓。西洋医学における臓のこと。 ［レベル］5 μɑ;/ ʃʃl ［語法］［文化］ hɪn

hɪnɑеj ［化学］アセチルクロライド、エタノイルクロライド lL

hɪnφɪμ ［名詞］アルバム、ＣＤアルバム ［レベル］4 ɪl;/「広い円盤」 ʃʔ

hɪnbel,jzl leʃʃe

hɪnbelcɪ ［企業］ハンベリア ［レベル］5 ʃl ［文化］ 日立製作所に相当する企業。

hɪnhɪn ［卑語］のっぱ、ノッポ ［レベル］3 ʃl:hɪnɔc ［文化］ 使わないこと。

hɪnheɒφɪμ ［名詞］マキシシングル、マキシ ［レベル］4 ɪl;/「広いシングル」 ʃʔ

hɪnl ［普通動名詞］実用 ［動詞］ɥǝl を実用する、実用する ［レベル］3 ʃʔ: 制 : 研究所以外で実際に使うことから

hɪnlɪʃc ［名詞］実用性 ［レベル］4 ʃʃ

hɪnɪ ［親族］孫娘 ［レベル］2 ʔʔ: 恣意

hɪnɪ(ʃ) ［化学］クロロ ［レベル］6 lL

hɪnɪ,ɪlʃ ncɒ

hɪnɪɪɪn ［化学］クロロアルカン lL

hɪnɪɥl ［化学］塩酸 lL

h

hınıμʔ ［生物］［医療］臓会 μɑ;/ J₥

hıncuıl ［軍事］ハニヴァル、五常侍 ［レベル］5 J1 ［文化］ 五常侍（ごじょうじでなくごじょうざむらい）。zφ でマレティスの側近として働いた魔法剣士。シージア戦争で活躍。水の μenɑc はひょうひょうとして冷静で知的でクール。風の μμı は唯一の女で男勝りだが、脆い面も。よく leφɔlcʃ とぶつかるが、親交を深めていく。土の φμɑc は大柄でどっしりと風格があり、実質リーダー的存在。最年長。火の dlınſ は明るくて騒がしくて軽い。雷の leφɔlcʃ は直情的な若き青年で、血気盛んでまっすぐした正義漢。

hıncuıl(J) ［人名］ハニヴァル J1 ［文化］ 1₥ʕ9 内乱が鎮圧され、ヴェイガン族の執政官であった hıncuıl が王位に就き、王制を開始。これにより belφınɑ は王国となる。

hıncuılbeɒ ［組み数字］ハニヴァルサークル ［レベル］5 J1 ［文化］ μıdıll

hınɔſ ［形容詞］［ポジティブ］痩せた、やせた、スリムな、スレンダーな ［文字］ナロー ［類義語］lcɩı ［反意語］zedleſ ［レベル］3 J0:hınɔc/ʃe（塔のような） ［語法］ 男女ともに使える褒め言葉。

hınɔſuıcɒ ［名詞］［ポジティブ］細マッチョ μɑ;/ J₥

hınɔn ［魔法］ハノン、攻霊力 ［レベル］4 J0: 古 hɥənɔ（ユノ）/nı → hınɔnı → hınɔn（母音脱落） ［語法］ enuelen ［用例］ hınɔn enuc{ſcn} 強いハノン

hınɔs ［生物］中指 ［レベル］2 1L:hınɔcsc（塔の指） jeesc:

hınɔc ［名詞］塔 ［動詞］ɥəl を高く積む、積み上げる ［電算］タワー型パソコン ［経済］［動詞］ɥəl を積み立てる、積み立てる。hınſ を多義語にすると掛け算と混同するので避けた。 ［シェルト］塔駒 ［ユマナ］ドコモタワー :ləlcı ［レベル］2 赤 :hınɔc（塔）。最初期では ˥ınɔc(lıc/nɔ/c) で、「大きな爪で天の幕を破ってその上を見やるような」という原義。˥ınɔ の部分は現在の ˥ınɔ（鷲）と同根である。塔を天を破る爪になぞらえたもの。その後、˥ が X に変わる。これは上海（ジョウカイ→シャンハイ）のように、自然言語でもよく起こる現象で、アルシェも一部の使徒が起こした。その後 hınɔc に変わったのはメルが原因。h をうまく言えなかった当時のメルは、hııbe などを ııbe と発音していた。彼女の中で自分が間違えている自覚は知識としてはあったため、ııbe ではいけないと思い、hııbe と発音しようとする。すると hııbe ではなくたいてい ˥ııbe か Xııbe という発音になる。結果、メルは語頭に ˥ や X が付いている場合、正しい形は h なのではないかと思うようになった。こうなると本来 ˥ や X で始まる単語までも、本当は h で始まるのではないかと彼女の中で疑念が生じるようになる。多くは暗記により正しい語頭を覚えていたが、Xınɔc に関しては間違えた。つまり X で始まっているので、その X は自分の間違いによるものであって、本当は h で始まるのではないかと考えた。これがちょうどメルが訓練によって h を言えたり言えなかったりしたころの話で、Xınɔc のことを hınɔc と発音するようになった。h が言えたのを喜んだ周りの年長者たちが、hınɔc という語形を受け入れ、この単語を練習台にメルに h の練習をさせた。そのことから hınɔc が正式な語形と変わっていった。以降、制・新生を通して変化せず、現在に至る。 ˥ınɔc:Xınɔc:Xɔəɟſ::˥ınɑzel,ɩıılbıleı ［語法］ 同じ「建て」でも、外貨建てなどの「建て」は eu となるので注意。 ［成句］ hınɔc e φμμ 粒々辛苦

hınɔcſıı ［非言語］ハノイタック ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılſe ［語法］ 両腕を広げる仕草。真横でなく斜め下。結果、正面から見たら腕が「ハ」の字になる。この形がアルカだと塔のように見えるため。主に男の動作で、感動や驚きを表現するときに使う。ユンクはしない。

hınɔcſıɑ ［地学］巌、いわお ［レベル］5 μɑ;/ J₥ ［語法］ 高く大きな岩。

hınɔcdɔl ［地名］塔方 ［レベル］5 J0 ［文化］ イールゥート、マレナルト、ヴァレナン、ヴァクセンの地域。キリワラは含まない。唯一植民化を逃れて生き延びたマレットの地域。 このうちイールゥートは元々シフェルの土地だが、アズゲルで一度マレットが支配していたことから、シフェルとマレットが最も混在している。

hınɔceɟſ ［形容詞］［ポジティブ］高名な、著名な ［類義語］eɟſc ［レベル］2 J0: 塔の上に名前が掲げてあるような

hınɔcejd ［気象］積乱雲、雷雲、入道雲 ［レベル］3 1L

hınef ［形容詞］目立った、目立つ、人目を引く ［動詞］ɥəl を目立たせる、目立たせる ［類義語］ɾlıɟ、ılɒcnl ［反意語］ılhınef ［レベル］3 μɑ;hınɔc/ʃe「塔のような→他より一本だけ抜け出ているような→目立った」 J₥ ［語法］ ɾlıɟ は強調されて際立ったようにニュアンス。hınef は他と違っていて目立っているというニュアンス。ılɒcnl はわざと人に気付かれるようにしたというニュアンス。

hınelɟ ［名詞］広義 ［形容詞］広義的な ［反意語］heɒelɟ ［レベル］5 J0

hınej ［人名］ハネス ［組み数字］2/ 5 ［レベル］3 古 : ソーンの hıın から。広めるもの。 ［文化］ ɥlllı ulınɑ リーファ隊の２番目。男性。布教、広報、外交を担当した。非常に雄弁。

hınej(J) ［気象］日向、ひなた ［音楽］メジャー ［生物］［医療］募穴。陽病に使うことから、腹は陰でも日向とする。 ［反意語］scɔμ ［レベル］3 J0: 古メディアン語で「白」。

hınejjel ［ユマナ］火曜日 ［レベル］2 1L

hınejucɑı ［生物］［医療］募穴 μɑ;/。兪穴の反対側であることから。陽病に用いる。 J₥

hınejlcl ［化学］塩素 ［レベル］4 1Λ: 制

hıu ［医療］傷 ［レベル］2 1L:hıμı/ucl

hıuɔɒ ［魔物］ハヴォム（炎狼）: 第四十一天 : 火の巨天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/jeμen/ɒel:hɔlɔ/ıuɔɒ（火の輪の狼） ［文化］ 獣族。焚き火など、火から火へ移り住む。火から出ると、火の輪をまとった狼となって人を襲う。 キャンプ中の旅人などが主な餌食となる。μɑ ではセレンとメルが襲われ、彼らはレイクトで追い払った。

hıuɔl ［医療］狂犬病 ［レベル］4 1L:μcɑcı:hıuɔɒ ［文化］ ハヴォムに噛まれるとなる。

hıuɔluıcn ［医療］狂犬病ウィルス ［レベル］5 1L

hıɑ ［数学］累乗、べき乗、冪乗、指数、次数 ［レベル］4 1ʕ: 制 :hı/ɑɔl。累乗を表わす数が右上に書かれることから。 ［語法］ 二乗は ſihıɑ、三乗は uchıɑ。 次数が高いことは jɔμ、低いは hıcſ。

hıɑhıılμın ［数学］指数法則 ［レベル］5 1L

hıɒ ［動詞］ɥəl をぶんぶんと振り回す、振り回す、振りまわす、ふり回す ［メタファー］［動詞］ɥəl をほざく、ほざく、口走る、口ばしる、くちばしる、さえずる、囀る ［類義語］dcɥɔ ［レベル］2 古 ［語法］ dcɥɔ は見下しや小ばかにした感じで、hıɒ は苛立っている感じがある。「ガキがほざいてろｗ」が dcɥɔ で、「はぁ？ふざけんな、何ほざいてやがる！」が hıɒ のイメージ。 ［用例］ oec, ırı bız hıɒcl ſɔ ıſ おいてめぇ、なにほざいてやがる！

hıɒ(J) ［文末純詞］無関心の純詞。無感動、冷淡を示す ［レベル］2 1Λ:μcɑcı: どうでもいいという雰囲気を出すために「 はんっ 」と最後に吐き捨てていたことから。品詞をあてがうなら文末の感動詞に相当する。それを文末純詞としてリディアが定義し、単語として使えるように hıɒ にした。

hıɒl ［動物］ハチドリ ［レベル］6 古 : ぶんぶんいう鳥

hıɒıɟ ［名詞］シート、帯、紙、広い平面状の物質 ［レベル］2 μɑ;hıın/ɒıɟ J₥:ɒel。1₥ にメルが造語していたものを J₥ に幻日に輸入。 ［語法］ 広い平面状の物質を指す。シートなど。場所性は通常伴わないが、ビニールシートみたいな場所性を伴うものに使うこともできる。

hıɒıɟ(J) ［人名］ハマス 先 ［文化］ ２代召喚省長官。２期１代ソーンの使徒。クレタティスの使徒。２期１代ルシーラ・エ・アルシェのエンデミルに毒を盛った。

hıɑ ［俗語］［動詞］［普通動名詞］ɥəl をレイプする、レイプする、強姦する、レイプ、強姦 ［レベル］3 古 :hıɑ（レイプ）。原型は hızɑə。hı は「 尻尾 」の意味。ɑzə は「 壊す 」の意味。男性器で女性器を壊すという原義から。

hıɑhırdɒı ［丁寧］［感動詞］はじめまして、初めまして ［類義語］ɑırdɒı ［アクセント］hıɑhʔrdɒı ［レベル］2 J0:ɑırdɒı 参照 ［語法］ これ自体が ɑırdɒı の丁寧形なので ınɑɑırdɒı とはいわない。

hıɑı,ılſ hıμ <>hɔɔμı

hıɑcl ［医療］瘢痕、あばた、痘痕 ［レベル］4 JJ:hıμ/cl「赤の実」 ［成句］ hıɑcl ˥ien ˥ııɒ 目の上のこぶ、目の上のたんこぶ

hıɑcμ ［地名］ハディール ［アクセント］hıɑЄμ ［レベル］5 J0: フィルヴェーユ語「海辺の」 ［文化］ レスティル南西部、ファルファニアに接する地域。現在ではテージュ海に沈んでいる箇所。リュディア人が定住し、人類の文明の基礎のひとつとなったところ。

hıφı ［生物］前方、体の少し前、背後の反対 ［反意語］ɒınıɒc ［レベル］3 μ<ılſ;hıφı<hıφılc（太陽）。太陽を見るときに腹が太陽の側を向くことから。 J₥

hıφılc,ılſ ɑııl φılc elj ucl ıſe, cjſɔl ɑııl

hıφclc,ılſ ɑleə hıφılc/cle「太陽を見る」

hıφel ［企業］ハゲル ［レベル］5 J1 ［文化］ キャノンに相当する企業。

hıφel(J) ［名詞］トンスラ、剃髪 μ;<,hɥəφnɔ.jelın。ヒュグノーは高温多湿なため、兜をかぶる際に蒸れないよう、この髪型をしていた。地球と違って聖職者の髪型ではない。 J₥

hıφəla,ılſ ſıɑl

hıd ［擬音］ハッ、はっ。気付いたりおびえたりしたときの息を呑む声。 ［副詞］はっと、何かに気付いて ［レベル］2 古

hıd(J) ［名詞］思い切り、威勢のいい行動、思い切りのいいこと ［副詞］思い切って、思い切るように ［レベル］3 J0: 物を持ち上げるときの「ハッ」という掛け声から。

hıdſcl ［亜魔］ハプティック、サラマンダー ［レベル］5 μɑ;hıdɟ/ɑıſcl J₥ ［用例］ lə eſ ſıl nɔɑ hıdſcl˥ サラマンダーよりはやーい（『バハムートラグーン』ヨヨ）

hıdɟ ［動物］トカゲ、とかげ、蜥蜴、リザード ［レベル］2 lıl̀ſı

hıdɟ˥leı ［アイテム］ハプスクレア、金の針 ［組み数字］8/ 1 2 ［レベル］4 J0: とかげの粉 ［文化］ ドルの魔法を解除する。ドルハプスに咬まれると石化してしまう。ドルハプスは山岳部の岩場を好むため、北方ではヒュートに多く生息している。そのためヒュート国ではドルハプスによる石化被害が絶えなかった。しかし μɑ になるとヒュート国の王子リュウがドルハプスの尻尾にドルを解除する成分が含まれていることを発見した。リュウはドルハプスの尻尾を干してミイラ化させ、粉末状に砕いたものを小さな指輪入れのような箱に入れて民に配布したところ、被害は激減した。石化した箇所に粉末をさらさらとふりかけて使う。

hıdjcɑı ［地球の星座］［ユマナ］とかげ座 J₥ ［文化］ cɑı

hıddı ［名詞］ぶっきらぼう、つれない態度、てれかくし、照れ隠し、いじっぱり、意地っ張り、がんこ、頑固 ［形容詞］ぶっきらぼうな、愛想のない ［レベル］3 l1ʕılſ J₥

hıh ［感動詞］はぁはぁ ［動詞］ɥəl をはぁはぁ言わせる、息切れさせる、息切れする ［再帰動名詞］息切れ、はぁはぁ、ハァハァ、動悸、あえぎ、喘ぎ ［類義語］bınſ ［レベル］2 古

hıhleun ［医療］ぜんそく、喘息 ［レベル］3 1L

hıμə ［格詞］［文頭純詞］まったく当然の流れで、強順接 ［レベル］1 1L:hıɔ/ɥəl lɔɔ:lɔɔ:dıɑefſ:ſjəlcɟ ɔ,ılſ ［用例］ "hıμə ɑcı epıſ lıɑ8"「そうして世界はできたの？」

hırſ ［言語］h の文字 ［レベル］1 1₥: 制 : 使徒 ［語法］［文化］ 第１３文字目の幻字。 ハ行に当たる摩擦音。口語で［h］は音と音の間で消失することがある。例えば en hıμſ の場合はエンナルトのように聞こえることがある。消失してもしなくても特にアルバザード人は意識していない。単語単体で発音するときは［h］は消えない。 音節末に来るとドイツ語のｉｃｈのヒ、ａｃｈのハの音のように、元の位置より前寄りの摩擦音に変わる。これはソノリティを上げるためである。ただし、μenſe はこれを音が擦れて汚いと思うため、前寄りの摩擦音を使わずに、はっと息を漏らす。聞こえは弱いが、色っぽい。 ・音節末の h は制アルカ以前にも［x］だった可能性が 音節末の h は制アルカで［x］などの音声になるように定められた。しかしその設定が突如何もないところから出てくるというのも考えにくいので、その前段階があったのではないかと思われる。そのことがずっと気になっていた。 ところでリディアはラーメンのことを「ラッハメン」という癖がセレンが１８歳前後だったときにあった。なぜそんな変な言い方をするのだろう、ラーメンと発音できないわけじゃないのに――と思っていた。 J₥ 年になってある日突然そのふたつが結びついた。リディアはラーメンという日本語を覚えたとき、教科書か何かで覚えたのではないだろうか。そのときカタカナのルビにＩａｈｍｅｎと書いてあったのではないだろうか。このｈは長音を示すが、もし後の制アルカのように［x］の音だとリディアが考えたら？そう、「ラッハメン」になるではないか！長年の謎だったラッハメンの謎がついに解けてセレンは「あぁ！！！」と驚いた。 しかし、そうなると音節末のｈの字を［x］で解釈することが古アルカにはあったということになる。古アルカは表意文字だったので音にそこまで敏感ではなく、また音節末のｈも頻度が低いので、ｈを［x］で解釈するということは注目されていなかった。当時のセレンが制アルカで音節末のｈを［x］にしたのは古アルカの音声の使用実態を見た上でのことだろうから、潜在的には［x］の音声が古アルカで使われていたこともセレンは知っていて、特にそれが音節末のｈに現れやすいことに気付いていたのではないだろうか。 ラッハメンの謎は幼馴染のフゥシカや仲間、後に家族にも話したことがあるが、誰も分からなかった。リディア本人も「ラッハメンと覚えてしまったから」としか言わず原因を究明しなかった。今になってようやく分かって感激している。 ［用例］ hırſ jıleın{ɑɔcl} 字の若い方、字の早い方。｢と｣なら｢のこと。 hırſ lcleın{lecl} 字の遅い方

hırſ(J) ［名詞］文字 ［数学］文字、代数。定数や変数のこと。 ［接尾辞］書体名を指す。 ［類義語］hırlɒ、hıμɒı ［レベル］2 ɒelſcı 100:bεμſ;e 1ʕ: 制 :hıμ:hırdɒı(使徒、幻字) ［語法］ 表意幻字（幼字）: hıμɒı アルハノン（塔字）: ılhınɔn ベルト幼字 : berlſhıμɒı 響字 : ɑɔμɒı 節字 : ˥ɔn ſɔn 京字 : ɥəlı 極字 : μnlı 京極 : ɒını メテ幼字 : ɒefehıμɒı 竜字 : ıbμıɒ 理字 : ſcıμıɒ 表音幻字（幻字）: hırdɒ ［文化］ <文字と紙の歴史> ɒelſcı 100 にベルトが幼字を作った。これが最初の文字であり、表意文字である。 ベルトは光の魔法 lınſe で空中に字を書いたため、曲線と直線を自由に組み合わせることができた。その知識はエルトとサールに受け継がれ、ユーマの一族へも伝えられた。 紙を最初に発明したのは悪魔ベルトである。 ɒelſcı J₥ʕ、ベルトは忘れっぽいサティのために動物の皮に棒で文字を書いた。なお、最初のインクはヴァルク海で取れたイカの墨である。 この皮が悪魔の中で人気になり、もっと薄く大量に作れるものはないかと模索した結果、ɒelſcı ʔ₳L にヴァルテが植物の繊維を用いた紙を考案。最初は麻を使っていた。 ɒelſcı ₥J₥ʔ にヴァルテがペンを考案。 麻の紙は悪魔から神に伝わり、神からユーマに伝わった。従ってアズゲルでは既に紙が存在した。しかし技術よりも製品ばかりが伝播しており、どちらかというと神から紙を分けてもらっていた。 ſɒ でアルファエル川流域でパピルスを使った粗悪な紙が作られ、ユーマの一族による紙ができる。 ベルトは本をも発明し、神に伝えた。 例えば賢者ユルグは本から生まれた九十九神である。 木材による紙は zφ で開発された。 インクは植物を用いたものがナユによって作られ、ペンも多様化した。 筆記具によって字のデザインは異なる。lınſe は石に刻まないので自由に直線だけでなく曲線も書ける。そのため幼字は直線と曲線を区別できた。これを利用してエリア（水）に対するエーホ（氷）のような字の違いが生まれた。 <書体の歴史> 初めて書体が登場したのは ſɒ である。マレア神によって幼字の書体がいくつか作られた。 zφ でナユはマレアに教えを請うて書体を学び、新しく幼字と響字の書体を作った。 後にセレンはこれらを元に幻字の書体を増やしていく。 ɟɒ では響字が各国で採用され、ɟɒ 中に竜字や理字の筆記体ができる。ただしカッパープレートは μɑ を待つ。 μɑ では幻字ができる。新生になるとセレンは正式な書体として ſıd を作った。ところが当時はボールペンがなくインクを使っていたので、一文字ごとにペン先を離す ſıd は使いづらかった。

幻字は表音文字なので、数文字がまとまって初めてひとつの単語になる。なので、単語ごとにまとめて書きたいという要望が出る。 そこで幻字にも竜字同様繋げ字が開発された。しかしセレンのものは質が悪く、ミルフが改良して hıclen を作った。一方セレンは hıclen に感動し、書体に実用以上の意味を見出していく。 その後セレンは芸術としての書体を求めた。当時セレンは通常のペンを用いていた。ſıd は線の太さが均一だが、hıclen は線の太さに強弱があった。hıclen は文字のある部分は流し、ある部分は止めるという書き方をするため、ゆっくり書く部分はインクが多く溜まって線が太くなる。 セレンは hıclen の線の強弱を見て、文字の線には太いものと細いものがあるとメリハリがつくと考えた。そこでマレア神がかつて遊びで作った平ペンを使い、平ペンを４５度に傾けることで、線の強弱をつけることに成功した。 地球の場合、石版に刻む刀が後の平ペンを生むので、地球とアトラスの歴史はまるで逆である。アトラスの場合、マレアが書体のバリエーションを豊富にするために遊びで作った平ペンを用いて、丸ペンで作った書体の後に平ペンを使った書体を作っている。

ところで日本でカリグラフィーペンを買うとイタリックなどを書くための平ペンを渡されるが、カリグラフィーは本来西洋書道のことであるから、カッパープレートなども含む。そしてカッパープレートは平ペンでは書けないので、ああいった平ペンをカリグラフィーペンと命名するのは適切でない。アルカの場合、書道としてのカリグラフィーと、イタリックなどを書くための平ペンはまるで別の単語である。 リュウはこのころナユと魔法を使わない活版印刷を作っており、銅版に手で刻み込む技術を考えていた。そこでセレンらは銅版に刻みやすい線の細いカッパープレート体を考案した。その後、セレンはカッパープレートを最も華やかな書体へと発展させていき、ılefſ 体を作った。 ul までにセレンの書体を改良した書体が無数に出た。それは il 以降でも使われている。 <字の体系> 漢字に草書や行書などがあるように、アルカにも様々な書体がある。似たような書体をまとめたものを字体（hırdcſ）という。書体は具体的なフォント名であり、ıμl, hıclen などはすべてこれに当たる。ıμl と ləſcı と hıclen は同じ ıμl 字体に含まれる別々の書体である。 J1 年現在、公式の書体は独立体で ſıd、連結体で ılefſ である。 <文字の歴史> ・幼字 100ɒſ にベルトが表意文字の幼字を考案。神、悪魔、ユーマ、死神へ伝播。 ſɒ は言語と文字にとって歴史上ほぼ唯一の蜜月期で、少ない人口と優れた下記 elleſſ により長期にわたって安定していた。
₥₥₥ɒſ にベルトがエルシェルトを考案し、各地に設置。エルシェルトのおかげで神々の連絡はよく、通信技術の発達した現代同様、互いに離れて暮らしても言語と文字は意思疎通がで

h

きる範囲で緩やかに変化していた。神々に寿命がなく世代交代がないことも言語の変化を緩めていた。　・ベルト幼字 (berlʃhɪɹpɪ)(J1JL)　rlu でエルシェルトが徐々に破壊される。これにともない、徐々に各国の言語と文字が独自の変化を始める。もともとエルシェルトがあっても長い間で少しずつ互いの言語は独自の変化をしていたが、エルシェルトの破壊とユーマの一族の寿命減により加速した。　大方は幼字を使っていたが、文字の意味やデザインが異なったりといった齟齬が生じていた。これはエルト・サール間にもいえることであった。このときは戦争中なので、スパイや翻訳者や前線の兵士以外にとっては取り立てて齟齬があっても問題にならなかった。戦時中の日本が敵性語として英語を嫌ったのと同様である。　zφ になると戦争が終わり、エルト・サール間に棲み分け前提ではあるものの対話の姿勢が現れる。２０１０年現在における朝鮮半島のような状態に近い。　対話が始まると当然齟齬が問題になってくる。さらに神人貿易への依存も増えるため、人間との間の齟齬も問題になる。かといって何千万ものアテンが絡む問題であるため、今日齟齬をなくそうと思ってすぐ変わるものでもない。特に zφ はじめはまだ人間は部族単位で暮らしており、彼らは神なき国の王になろうと躍起になっているころで、リーダーがいない。　新しい文字を伝播するには人間側にも強いリーダーが必要である。アトラスに直接介入できなくなった神々では伝導者としては不十分である。ベルトやユルグらはそのことを理解していた。　zφ が進むにつれ齟齬は大きくなり、問題は以前よりも意識されるようになる。　J1J0 に uelɑcɪn 帝国ができる。続いて J1Jʰ に jclezcɪn 帝国ができると世界は東西に分かれ、一触触発の冷戦状態へ突入する。いわゆる千年の冷戦である。　この時期は逆説的な平和が訪れており、かつシフェランとマレティスという巨星が存在したため、文字改革を行うには zφ の中でも最もタイミングのよい時期であった。　そこで神々は人間のみならずベルトやルノらも加えて会談を開いた。これをベルト会談 (berlʃiʃi) という。　この時既に各言語間は音声面ではそこそこの開きが生じていたものの、文字面ではそこまでの開きがなかった。地球でも通常言語はこうなる。つまり音声の変化のほうが早い。　日本人が中国に行って喋れはしないが筆談はできるのと同じで、表意文字である幼字は筆談に強い。しかし中国語で「走」が「歩く」という意味になっているのと同じような齟齬が幼字にも存在した。　そこで彼らは統一の字を企画した。ベルトが主幹となり、デザインや意味の統廃合を行い、J1JL に４００字（ベルト幼字）にまとめた。細かい違いしかないのにたくさんの文字があると不便なため、統合をして文字を減らすなどといった手法がふんだんに採られた。こうしたデザイン等の統廃合は地球でも秦の始皇帝が同じようなことをしている。　・響字 (J1JL) → lcɒ　新しくできた幼字セットは音声面では各国語の発音で読まれる。同じ「火」でも「カ」だったり「フオ」だったりというのと同じである。　そこでこの新しい文字セットの各文字をどのように読めばよいかという問題が生じる。現場では字典を作るわけだが、字の横に各国語の読みを書く必要がある。　漢字で例えると「火」と「炎」は似ているから「火」だけに統一したとしよう。このとき新しい「火」を「カ」と読むか「エン」と読むかあるいは第三の読みをするか分からない。一人でやるならまだしもこういう作業をベルト監修の下各国の研究者が混じってやっていたわけで、「この文字を何と読むか」を記しておくことは必須であった。　各国にしてみれば文字の読みは自分の言語分しか必要ないから自分の言語にない音素を表す文字はいらない。しかし各国の研究者が入り混じって研究している状況では誰もがどうせ作るなら各言語共通に使える表音文字のほうが便利だということに気付く。　そこでベルトはきちんと文字の音価が分かるよう、例えば ɑcɪ の幼字で [ɑ] という音を示すようにし、表音文字を作った。これを響字といい、アトラス初の表音文字である。響字は参加したすべての言語のすべての音素を記せる必要があったため種類が多く、国際的に使えるものであった。　なお、響字は５０字で、μɑ,lj はこのうち２９を使用する。　響字について詳しくは lcɒ を。　・極字 (10ʔL000pʃ 頃)　カルセールのヴェマを本拠地とするサールの勢力が弱くなったことで、周辺諸国へのヴェマの影響力が低下する。この結果、東洋諸国特にヴェマから離れた地域において独自の文化が育つ土壌ができる。特に大陸の東端で防衛に適したハーディアンでは人の往来も少ないこともあり、閉鎖的な環境の中で独自の文化が華やいでいた。ハーディアンの最初の国風文化である。　ハーディアンは神との繋がりが弱く、神の筆記用具がヴェマ以上に手に入らなかった。人々は甲骨などに文字を刻んでいた。線種の多い幼字は刻むのには適しておらず（甲骨などに星型や三角や丸を器用に刻むのは難しい）、幼字の形は徐々にハーディアン建国以降簡略化され、線形化していった。　このころまでに既に文字は線形化され、直線を主とする字体ができていった。線形化に併行して幼字にはない文字が多く作られ、独自の文字を形成するに至った。これを極字という。　・節字 (J1ʔʔ)　響字は μɑ,lj, jz のような複雑な音節構造を持った言語には便利だが、ハーディアン語のようなほぼＣＶからなる音節構造を持つ言語には違和感がある。ハーディアン人は ɪ̀ は ɪ̀ でひとつの音と考えているので、これひとつに一字当てたい。日本語のひらがなと同じだ。日本人は「カ」を「カ」だと思っていて、子供のころローマ字を習って初めて「カ」が子音 l と母音 ɪ の複合だと感じるようになる。それと同じでハーディアン人にとって ɪ̀ は ɪ̀ で一音に感じられるため、この一音に一字を当てたい。　結果ハーディアンでは響字は受け入れられなかったが表音文字というコンセプト自体は受け入れられ、節字という音節文字が開発された。ただ響字のアンチテーゼとして zφ で作られたため、コンセプトは響字と同じで、ひとつの幼字をひとつの音節文字として用いたものである。　節字はルビのように極字の音を示すのに用いたため、現在のハングルのように表意文字に置き換わるものではなかった。　・京字 (ʔʰʌ)　シフェランは同盟の見返りとしてロロスをアルティア人の支配地とさせる。その代わり自分に有利な関税をかけた。この結果ハーディアン、特にアルティアの国力は高まり、極字開発に次ぐ国風文化の兆しを見せる。　この時期に豊かな国力を背景に国風文化を誇る風潮が高まり、文学などの余剰な学問にも注力する余裕が生まれる。ルビとして用いられていた節字の崩しはこのときまでに幾種も存在したが、政府は学者の協力の下、これらを集めて崩し字の統一規格を創ることに成功した。この規格を学者らが都で定めたことから京字という。政府は覚えるのが簡単な京字を使って文を書くよう推奨したものの、極字のほうが見てすぐ意味が取れることからその計画は失敗に終わった。しかし完全に失敗だったわけではなく、このことがきっかけとなり、機能語は京字で記すようになった。　・京極　京字が機能語を表し、極字が内容語を表すようになった結果、これらのハーディアン文字をまとめて京極と呼ぶようになった。　→ pɪnɪ に詳細。　・塔字（ʰʰ000 前）　遡ってカルセールでは ɾɒ で独自の表音文字 ɹlhɪnɔn（塔字）ができていた。　カルセール人は神代からすでに表意文字に見切りをつけて表音文字を開発していた。その理由は魔法陣である。魔法陣は呪文を地面に書いて行う魔法であるが、何百とある表意幻字を覚えて使いこなすには一定の教育が必要である。　そこでカルセールの王 clhɪnɔc が塔字を開発し、アルハノン用の呪文見本も作り、学のない国民でも魔法陣を使えるようにした。そのためカルセールでは幼字からの脱却が早かった。アルハノンは魔法陣の技術とともに神代でメディアンやスカルディアにも浸透した。　・メテ幼字 (peɾehɪμpɪ)(ʔL0M)　l1 でメテが神とともに悪魔を倒したとき、彼は人間社会の頂点にいた。この中央集権および神との繋がりを活かし、メテは zφ 以降ふたたび言語間で齟齬が生じてきていた幼字の再制定に乗り出す。　メテは新字を追加したり統廃合をし、４４４の幼字を制定した。これをメテ幼字といい、このときの神々との会談をメテ会談 (peɾ eɪlʃi) という。主幹はメテとベルトである。　・４４４　この数はどこから来ているのか。４が古くから聖数 (μɪfɪlL) なので４４４が並ぶことは理解できる。問題はなぜ１０００や２０００ではないのか。なぜ５００程度なのかということだ。　もとはといえば幼字は古アルカの幻字から来ている。『アルカ』p５４によると古アルカの幻字の総数は２０６５である。常用漢字が左記執筆時で１９４５であるから、２０６５をそのまま流用すれば作業が楽だ。２０００を５００にするにはかなりの選定・編集作業がいる。なぜこれをわざわざ５００にするのか。　最大の理由は古アルカがしょせん子供の作ったものだからである。カルディアで神が作ったとするには無理があるからだ。また、アポステリオリ性を完全に排他できているか怪しい。それで選定する必要がある。　大々的に減らすのは、表意文字の世界スタンダードを配慮してのことでもある。漢字しか知らない日本人からすれば常用漢字が当然のものに見えるが、世界の表意文字はたいてい３桁である。漢字は俗に５万あるといわれるが、むしろ漢字だけが群を抜いて多い。世の中の標準はもっと少ない。　字が多いということはそれだけ学習効率が悪い。また５万のうちほとんどはパーツの組み合わせで、単語でいうなら合成である。単純語に相当する文字だけ抜きだすと世界標準に近付く。　だが常用漢字を２０００使っている民族からすれば、５００では少なく感じるのも事実だ。　そこで接字という装飾を付ける。アルカには ɪl の付く語が多い。また lcɒleſ, ʅɪlɒcɥə でできている語が相当ある。　そこで ɪl 系の字には基本となる字に〇を付ける。ベースとなる文字は４４４しかないが、〇を使うことで実質的な数を規則的に増やすことができる。同様に ⌋ や ⌉ には線を付ける。反対語には古 sɪn を示す×を付けるー一などという要領で接字を付けてヴァリアントを増やしていく。　接字３つでも４４４＊４になるので２０００弱となり、常用漢字に匹敵する。　むろんすべての字に接字を付けるわけではない。付けても合計１０００程度だろう。　なお合理化大作戦を競っているわけではない点に注意。接字をもっと増やせばベースはもっと少なくなる。５０＊５０でも２５００だ。接字とベースが正方形になるように組めば必要な数は最も少なく、組み合わせの数は最も多くなる。　この手の過合理は子供の好むところで、私もずいぶん試した。しかしこの手のもので人間がいざ実用しようとして使いやすいと感じたものはない。今までに何度もこういったものを年単位で人体実験しては結局覚えづらく使いやすい自然言語的な体系に回帰していった。　２０００を５００程度に統廃合するというのは例えば漢字で言うなら「崎」と「嵜」、「島」と「嶋」などをまとめて減らしていくことに相当する。　古で eμcɪ は「３」のような字形で、水を意味する。波紋の象形である。線をカクカクさせて直線にすると eehɔ（氷）になる。水が硬くなって氷というわけだ。古でもそうだしベルト幼字以前もそうだった。　ここは合理化できる。eμcɪ に線を引いて eehɔ とする。eμcɪ というベースに線という接字を付けてヴァリアントを作るというわけだ。　また、直線と曲線を区別すると楷書と草書のような書体のバリエーションが減ってしまう。そういう意味でも古にあった直線と曲線の区別は廃棄したほうがよい。古幻字は子供の作ったものなので余剰が多い。合理化しすぎるのも問題だが、ある程度の合理化ならむしろ望ましい。人間でいうなら、肥満は不健康だが痩せすぎも不健康という感じだ。　ところで zφ でも幻字は２０００程度はあったと思われる。異体字が相当数あるだろうことが見込まれるからだ。あるいはもっとあったかもしれない。現実のほうも２０００行ったのだから、そのくらいはアトラスでも余裕で行くだろう。　いずれにせよベルトらは統廃合を行い、５００程度までスリム化した。統廃合の目的のひとつは字数を減らして学習効率を高めることだ。しかし減らしすぎると運用効率が悪くなる。　セレンが思うに表意文字は５００～１０００程度で学習と運用のバランスが取れるのではないか。なら数をいったん５００にして学習効率を最大限範囲内で高めた上で、接字を使ってそれを１０００程度に増やせば運用効率もキープできる一ーと考えたわけだ。　これは総合的に合理的な手法で、賢いベルトのことだから幼字を保存するという条件を満たしつつ学習と運用を取ってこの道を選んだことだろう。　・幼字の失墜　ʔLM0 にメテ幼字が制定されたのも束の間、メテがソーンに暗殺され、さらに後釜についたアルシェまでソーンに敗れるや一転、メテを象徴するメテ幼字の権威は失墜した。　ソーンはアルハノンの文化圏出身者であったため、メテ幼字を廃してアルハノンを支配地の効用文字に制定 (Δ00L)。レスティルに初めて表音文字が公的に入った。　ソーンが暗殺されアルバが王位につくと、アルバはアルハノンを公用文字から除外。ところが彼自身アルハノンが公用文字だったころの生き証人で、表音文字の便利さを肌で知っている世代だった。　それまではルビとして響字を使うのみだったレスティル（この時点でアルバザード）だったが、ここで表意の幼字に戻すより表音を使ったほうが便利でかつ国民の適応も早いのではないかと考えた。そこでアルバは幼字を廃し、響字だけで記すよう定めた (cɒəl ʰ)　一方ルティアはすでにこのとき伝統を重んじる国になっていたため、ʔL1L に採用していたメテ幼字しか使わず、表意が使われ続けた。メテとともに幼字を制定した神もむろん同様である (ʔLM1)　幼字はその後もデザイン、看板、記号、時計、カレンダー、数学記号や物理の定数といった科学などにおいて使われ続け、現在でも生き残っている。　・響字の普及　jɒ 前期になるとアルティアがルティアに侵攻。一時ルティアは支配される。その後首都を奪還するも西部は長きにわたって取り戻せずにいた。　この征服時代に節字が入り、アルティア人に牛耳られた王宮は節字を公用文字にしようとしたが、音節構造がアルティア語と違いすぎ表記があまりに不便なため見送られた。結果節字はルティアではオノマトペの表記などに用いられることになる。　アルティア人は節字を作って から幼字を使っていなかったため、ルティア人の使う４４４もある文字を受け入れることはなかった。この時点ではアルティア人が支配者であるため、当然彼らは自分たちにルティア人を合わせようとした。かといって節字はルティア語に合わず、ルティア人にアルティア語をあまねく喋らせるのも現実的でない。　そこで同じ表音文字の響字を取り入れ、折り合いをつけた。これならアルティア語もルティア語も同じ文字で記せて行政上便利である。結果ルティア語でも響字を採用することとなった。　ルティアの役人はアルティア人とルティア人で構成されるため、彼らはともに響字で記した。節字でルティア語を書くのはきつく、かといって幼字を使う気にもならないため、これが支配者にとっても最も合理的な選択であった。なおアルティア本国ではむろん節字が使われ続けた。　jɒ 中期になると神も響字の利便性から徐々に幼字の使用を減らしていった。背景には発達するアルバザードの魔法学が作る新語をいちいち幼字に訳すのが煩雑という思いがあり、まず μɑ にとっての外来語が響字のまま入り、そのうちほかの語も響字で書かれるようになっていった。　また、ベルトやルノらもこの動きに合わせた。　・響字の崩壊　響字は大国間で通用する共通の文字としては便利だが、幼字が元になっているのでしばしば画数が多いか一画が長い。作った時はベルトが取りまとめて世界共通の文字をという流れだったが、会談が終わってしまえば各民族がそれぞれの土地で響字を使い続けるわけだから、当然好き勝手に各国ごとに崩れていくことになる。例えば日本人が漢字からひらがなを作ったように、変化しないほうが世界的には合理的でも、その土地で生きている人間からすれば自分が便利なほうが良いから当然変えるわけである。　もし異国が別の崩し文字を使っていてもそちらに合わせるかといえば、よほど力の差がないかぎり合わせるわけがない。むろんそれぞれの国が好き勝手に崩すと共通性が損なわれるということは皆も感じている。かといって、では自分が相手に合わせるかといえば、そんなお人好しはいない。皆周りの国がこちらに合わせればいいと考える。　例えばひらがなとハングルがあると分かりにくいからひとつの表音文字にしようねと誰かが言い出したとして、それ自体は日韓は確かに便利だとは感じるかもしれない。だが日本人は当然ハングルに合わせる気などないし、韓国もまた譲る気がないだろう。それと同じことである。　・竜字　そこで jɒ 後期でアルバザードで起こった文字が竜字である。これは響字の下位概念とも子ともいえる存在で、響字を崩したものである。アルバザード語にある音韻しか文字を持たないのが特徴である。　竜字は２９で、詳しくは lcɒ を。　・理字　同じく jɒ で lccze 姫が取りまとめたものが理字である。宮廷ではひとつの文字に対し複数の崩しデザインが存在しており、リーゼ姫はそれらをまとめて文字セットを作った。こちらもやはりルティア語にある音韻のみを文字として持つ。　以下では響字というとアルバザードでは竜字、ルティアでは理字を指す。　理字は３０で、詳しくは lcɒ を。　・ペンと筆　竜字と理字ができたころ、アルバザードはペン文化でルティアは筆文化であった。　ペンと筆は持ち方から線の質まで異なる。ボールペンはインクが切れないので気付きにくいが、インクとペンで書くと、ペンは画数の多い字が書きにくいことに気付く。それどころか複数の文字をひとつにつないでサラサラと書いたほうが書きやすい。　対して筆はペンよりスッスッと書くのが容易で、画数が多くても比較的書きやすい。線に太さも付けやすい。　この違いは竜字と理字の崩しのデザインの差に影響を与えた。　竜字も理字も響字から崩れたものだが、各国の国民が勝手に崩れさせていった結果崩しのパターンがいくつもできてしまったため国がまとめたという事情があるので、制定された崩し方は国ごとに異なることになる。作る側としては誠に面倒だが。　・デザインと国民性　竜字はペンで書きやすいようもともと筆記体風な崩しになっている。元の響字のデザインを根本から変えて、自分たちに書きやすいよう変えている。自分たちの合理性に合わせて周りを変えようとするアルバザード人の強い国民性が出ている。　一方理字は元の響字の字形から一部を切り取るというタイプの省略をしている。保守的で大人しい彼らは元のデザインに手を加える気がない。かといって字形が長すぎるので省略もしたい。そこで一部を切り取るという手法に到った。仮名でいうとカタカナに相当する。　・神々の響字　なお神々は世代交代をしないため、慣れた響字に固執した。彼らにとっては画数云々よりも慣れのほうが重要であった。それはそうだろう。画数の多いのが嫌なら最初の響字の時点で崩している。あくまで幼字の黄金期を生きた寿命の長い生物の価値観だ。　・幻字→ lcɒ　jɒ でアルバザードやルティアから神々に至るまで公用文字として広く採用された響字。しかしその音価は時代とともに変わる。これが表音文字の欠点である。　例えば英語でも発音上は大母音推移が起こっても文字は据え置きだし、同じｓでもｓａｄではサ行音だが独Ｓｔｅｉｎではシャ行音である。jɒ_μɑ は現代の時間換算でも８００年あるため、この間に言語ごとに地球の言葉と同じく文字と音のずれが起きている。　μɑ でアルシェが新しい使徒を迎えると、まず相手が同じ文字を使えるかという心配があり、同じ竜字が使えてもはたして読みが同じかという心配が常に付きまとった。さらに場合によっては文字が崩れてデザインが変わっているケースすらあり、混沌としていた。　アトラスではアポステリオリ人工言語である古アルカがピジン的に作られていく過程でアルシェは『制定語彙』などを作成。ほかにセレンは『赤アンクノット』などを作成。制定語彙は響字で書かれたが、赤アンクノットはセレンの趣向で節字で書かれた。当時セレンが私的に節字を使用していたことと、赤アンクノットがフルミネアが企画してセレンが作った私物だったことにより、個人の趣向が通っていた。　1101 にセレンが制アルカを作成しだす。このときアルカ用に幻字を作り、乱立していた音をまとめた。それまでは各言語で使われる多様な音を使っており、非常に多くの響字を用いていた。しかも文字の読みも言語によってまちまちだったため、幻字で統一したわけである。　制定語彙ほかはリーザが保護の目的でルティア王宮の金庫に保管していたため、おいそれとは閲覧できないようになっていた。ただし赤アンクノットは私物なため、管理をまぬがれた。このためセレンは制アルカと新生アルカの制作途中で赤アンクノットを参照するしかないことがたびたびあった。　しかし赤アンクノットは節字で、節字は響字ほど音が正確ではない。そのため制・新生は響字からすればあやまった音で作られた単語がある。使徒は制定語彙の暗記が必須だったが、すべて忘れないというのは現実的に不可能なため、このようなことが起きた。　・ＩＰＡ (ɑeeſeɪɑ)　μɑ ではセレンが 110L に響字に代わる包括的な表音文字（ＩＰＡに相当）

を考案した→ lcɒ　　・幻字の普及　　幻字はアルカの普及とともに広まった。文字と言語なら文字のほうが先に普及する。日本でもハングルをよく見かけるが、韓国語ができる人はまだ少ない。例えばセレンもハングルは読めるが韓国語は喋れない。それと同じで、幻字もアルカより早く広まった。　μɑ で幻字は多くの国に認知されていた。ただ公用文字にはなっていない。μɑ ではアルバザードでのみ公用文字とされた。ɪl ではルティア等多くの国が公用文字のひとつとしている。　　ルティアでは μɑ に幻字が入り、ɪl で公用文字のひとつとなった。μɑ でリディアらが幻字でルティア語を記す方法を考案したが、理字のほうがルティア語の表記には適していたため、普及しなかった。ところがひとつ、電算の世界では普及した。というのも１バイトの文字コードは幻字でいっぱいいっぱいだからここに理字が入るはずもなく、幻字しか入らなかったためである。　ＩＴはアルバザードから興って世界中に広まっていったため、中国でも英字のキーボードを使うのと同じように、ルティアでもメティオでも幻字のキーボードを使う。結果、幻字は電算で最初に普及した。　　ɪl の革命後も理字は生き続けている。しかし ul と違って民間人でもほぼ確実に幻字への置換ができる。特に革命後に生まれた若い世代では幻字がデフォルトというほうが多い。だがここまで来るのに３００年以上の時間がかかっているのが流石ルティアというところか。　現ルティア語は幻字で示すとアルカと音価がかなり異なる。ləɒccne はアルカではルミーネと読むが、ルティア語ではリュミーヌと読む。euɪnselcn はエヴァンジェリンではなく、ゥヴォンジュリャンのように読む。長い時間を経て地球の言語と同じように音と文字が乖離している。　文字と音は常にイタチごっこで、正書法を定めても定めてもすぐに乖離してしまうものである。人工言語を作る立場からしてみれば言語の変化は面倒くさく鼻もちならない問題児だが、嫌々でもリアリティのために変化させざるをえない。神話の時代ならまだしも、魔法が失われた時代なら地球に存在する言語程度には変化しなければ手抜きである。アラビア語のような変化の少ない言語にすれば楽だが、あれはイスラム教という強い宗教があってのもので、そう簡単に日本語などで行えることではない。まして英語のような国際語という地位があればまして現実的でない。

hɪrlʃ　［動詞］ɥəl を印字する、印字する、印刷する　［レベル］３　1ʔ: 制 :hɪrldɥeʃ（字を印刷する）

hɪrl1　［動詞］ɥəl をなぞる、なぞる　［レベル］２　1ʔ: 制 :hɪrlbɪʃc1l（字をまねるから）

hɪrl1ɪ　［感動詞］お誕生日おめでとう　［レベル］２　古 :μcɑcɪ: オヴィの造語 ɑcɪ1ɪ と ɒel1ɪ に似せてリディアが hɪrlbɪ1ɪc から造ったもの。誰にでも使うことができる。

hɪrlɟ　［文字］インク　［レベル］３　ɒelʃcɪ ɟʔ:bɒɟ;hɪrl.1　1ʔ: 制 :hɪrlɟcd（字の液体）

hɪrlɟaɪde　［電算］インクジェット　［レベル］５　1L

hɪrlɟɪɥ　［言語］書き順　［レベル］２　JJ　［文化］　ɪμnɪnʃ

hɪrlɟɪn　［数学］文字式　［レベル］４　1L

hɪrln　［名詞］友達、友人、ダチ　［類義語］ɟɒɪcɒ、bɪrl、eμcɔl、nɪ1ɪɒɪ　［レベル］２　古 :hɪrln。hɪrlɒɪ からだろう。　Tə9l1:Tə9l1::hɪ1ɪn,1lʃ　［語法］　1lʃcɟ は「旧友」かつ「親友」。ɑcɪɟeμ は 1lʃcɟ のうち、恋仲にあるもの。腐れ縁は bɪ1ɑcɟ。　hɪrlɪ は何か行動を共にするのに適した相手のことで、行動とはビジネスでもテロでも何でも当てはまる。通常二人一組になり、訳語は相棒がふさわしい。　hɪrln は友人のこと。ɟɒɪcɒ はそのうち女同士を指す。　［用例］　lecn ɟcʃ hɪrln {ɟɒɪcɒ} le lɪ ɪ1ɔ ɔ1. レインには一緒に遊ぶ友達がいなかった。　ʃɪɑ hɪrln 友達を作る　ʃcɑl hɪrln 友達を失くす、失う。孤立するという意味は含意しない。ふつう一人の友だちを失うことを意味する。　ucɪɟ hɪrln 友達を捨てる、絶交する　hɪrln ɪnʃ ʃɪn pə1ɪjeɟ nec cl pɪɑel enʃɔ ɪn ʃclɪʃ nɪl. 友達も宿題を全部は終わらせていなかったので安心した。

hɪrlnɪ　［名詞］相棒、相方、伴侶、パートナー　［レベル］３　古 :hɪrlbɪ(使徒) から hɪrln(友人) ができ、hɪrln から hɪrlnɪ が特殊な意味を持った友達即ち相棒の意味を持って生まれた。　［語法］　hɪrln

hɪrlnɔlʃ　［電算］文字コード　［レベル］４　J0: 文字の一揃え　［文化］　cɒəl ʔ1ʔ0ʔ にリュウが ɔɟɥɟ 用に開発した。当時作られた新生アルカの表音文字は文字数が少なく便利という理由で採用された。ɔɟɥɟ はタイプライターのように C R などの制御文字を必要としていたため、地球と同じく文字コードには制御文字を含んだ。最初に含まれたのは表音幻字２５種、それに古アルカの表音文字４種である。これに新生で使うテンペラなどの表意文字を追加し、: などの約物といわれる表意幻字を追加。アルバザードで使うことを見越して通貨記号なども入れておいた。その数がおおむね１００前後であったため、７ビットで表すことにした。当時は魔動式のコンピュータを使っており、最小単位が４ビットであったため、８ビットで表現し、残り１ビットは空白で常に eμeɟ（１６進数で１。後の２進数で０）で表記した。　1ʔ0ɱ にリュウは ɔɟɥɟ をアルバザード国王とヒュート国王に献上。経済省から量産を依頼される。　1ʔ0ʔ に影の女王であるリーザから内々に ɔɟɥɟ を紹介されていたルティア王であったが、この年、公に ɔɟɥɟ を紹介され、興味を示す。　1ʔ0Δ に量産体制を整え、経済省に組み込まれるようになる。　1ʔ0L にルティアとメティオに輸出される。　1ʔ10 に両国で評価を受け、量産が決定する。　1ʔ11 に両国で量産体制が整う。　1ʔ1J にパールがタイプライターを発明したころからこの文字コードは lɔʃʃe と呼ばれるようになった。　1ʔ1ʔ にリュウは拡張機能として表意幻字を打てるように、表意幻字の文字コードを開発しはじめた。このころルティアやメティオは弾道計算に ɔɟɥɟ を使う計画を立てており、ɔɟɥɟ の研究は機密事項となっていたため、文字コードについてもリュウと共同歩調を歩まず、独自の文字コードを作成した。両国は ɔɟɥɟ についてアルバザードに一歩常に遅れてきた経緯があったため、アルバザードの開発を待っているばかりの体制を打破しようとしていたというのもある。　しかしそれが結果的には各国ごとに表意文字の文字コードが異なり文字化けしてしまうという不合理を生んだ。　この現象はヴェレイまで続き、ヴェレイでようやくアルバザードの文字コードを拡張したユニコードが開発され、落ち着く。　ɑcɪ1lel が lɒɒcμ 言語庁によって電子化されだしたのは μɑ のことであるが、このときレミールの方針はコンピュータと異なり、なるべく各国が共同歩調を取るというものであった。当然、省庁ごとに外交方針は異なる。レミールはしばしば文化的記述や百科事典的記述において他国の情報を必要とした。そのため、各国のレミールは協調姿勢を見せた。　しかし当時は文字コードが国ごとに異なっていたため、レミールは文字化けのしない表音文字、すなわち lɔʃʃe の範囲で ɑcɪ1lel を電子化することにした。文字コードの変換プラグインを用いれば変換は可能だが、アルパレンに存在せずティアレンには存在する幻字などには対応しきれず、また文字コードの変換も完全なものではなかったため、レミールは作業の効率化と誤解の回避のために lɔʃʃe を選択した。さらに通貨記号など、各国に特有な文字は化けるため、これも避けることとし、最小限の文字数で辞書を記述するという方針が生まれた。　加えて、μɑ 末期のレミールは新生アルカを作ったセレンの意向を反映していたため、表意文字をできるだけ退けたかったというのもある。セレンは当初新生を表音文字だけで作ったが、表意幻字に慣れきった国民から表音文字に変えることに不安の声が上がり、移行期間の間は使ってもよいという条件付きで表意幻字の継続的使用も認めていた。レミールはセレンの意思を踏まえ、lɔʃʃe を使うことでなしくずしに表意文字を消していこうと考えた。しかしセレンやレミールの意向は国民には理解されず、結局その後も装飾や古風な書記法などに表意文字は使われ続けることになり、アレイユになった現在でも ɑcɪ1lel にはその見出し語を表意文字で何と書くかという項目が残っている。　＜地球での文字コード＞　　地球での作業には地球で普及しているキーボードを使うのが合理的であるため、地球で幻字を表示するための文字コードが別途必要になる。　全角は日本語などで用いるため汎用性が低く、ファイルも重い。フィンランドに行ったとき、日本語のフォントがインストールされておらず、インストールしようとしたらホテルのなので制限がかかっており、非常に困った。もしアルカが今後全角を採用したら、いざというとき日本語だけでなくアルカも打てないことになって困る。　その上全角にしたら第三水準などの使わない漢字を潰して幻字で埋めることになり、一部の字が使えなくなる。さらに制アルカで使っていた hɪrlɒ のようなキーボードレイアウトも必要になり、煩雑である。　　そこで欧文フォントでＡＳＣＩＩで表現できるようにしたい。これなら軽く、汎用性もある。しかしＡＳＣＩＩは７ビットの１２８文字しかなく、その上実質９４文字しか宛がわれていない。これではアルカには全然足りない。そこで文字コードを表音部と表意部に分け、hɪrlɒ と hɪμɒɪ の２つのフォントを作ることになる。　ところでＷＯＲＤなどでは文字ごとにフォントを設定できるが、ＰＤＩＣやＨＴＭＬではそうではない。　ＨＴＭＬはフォントを設定できないこともないが、ふつう閲覧者はアルファベットで閲覧する。従ってオンライン幻日で２つのフォントを併用すると、アルファベットで表示したときに２つの文字コードがごっちゃになる。　例えば 1lʃe を a に宛がった場合、「ﾜﾗﾜﾗw」と書くと nɪ1nɪ1ɪ と表記されることになる。nɪ1nɪl はいいとして、ɪ は一体何だという話になる。　ゆえにＷＯＲＤなど複数のフォントを設定できる環境以外では hɪμɒɪ は用いないほうがよい。基本的にテキストデータは hɪrlɒ だけで書いたほうがよい。反面、漫画や小説など複数のフォントを使える環境で制作する場合は hɪμɒɪ との併用が望ましい。　　幻日は要するに巨大なテキストデータなので hɪrlɒ だけにしたほうがよい。　ということは、例文中のイントネーションはすべて hɪrlɒ で表記できる必要がある。　地球の hɪrlɒ は具体的には ɪμ1ɪnʃcɟ などのフォントで表現され、アトラスの hɪrlɒ とは内容が異なる。　地球では、幻字で表示した場合とアルファベットで表示した場合とで違和感がないようにする必要がある。ʃ が fəɟ の文字になるのはいい。カンマが ʃjənl になるのもいい。アルファベットは幻字に転写対応しているし、カンマとツンクは見た目そのままだ。しかし　が四点リーダーになるのは違和感がある。そういう違和感を排他したのが地球の hɪrlɒ である。　　そしてそう考えた場合、イントネーションの jc1ɪ や 1clc などは明らかにＡＳＣＩＩの中に似たデザインがない。そのため排他する必要がある。　ではイントネーションはどうやって表記すれば良いだろうか。そんなもの表意部の hɪμɒɪ で示せばよいと思うかもしれない。だが hɪμɒɪ は幻日では併用できないのであったことを思い出してほしい。　nɪ1nɪ1ɪ のような変な表記がされないためにも、hɪrlɒ 内で組み合わせてイントネーションを表記する必要がある。　ɟeɒdeμɪ, 1əə nɔ, φɪcn については hɪrlɒ にあるのでよい。　ɒclees は ßß だと分かりやすい。　jc1ɪ は _ で表記する。_ は 1ɪʃʃe, ɥəəɒɪ, ʃəənɔ などの幼字に現れるパーツで、地面を指す。見た目にも平坦なので平調を指すのに便利である。　1clc は | で表記する。| は古で pɔnɔ と同じデザインで、「壁」や「止める」という意味である。中止調を指すのに申し分ない。　1cɒ は下がって上がる音調なので、ʔß で問題ない。　小音調は , との組み合わせで作る。,ßß で小ミレージュ。. を使わなかったのは文の数をカウントするとき面倒にならないため。　このようにして hɪrlɒ でイントネーションを示す。　　一方、hɪμɒɪ もまた地球のものはアトラスのものと異なる。　ttɒμ, ƶɔʃ などは意味的に hɪrlɒ に入るはずだが、近い記号がＡＳＣＩＩにないため hɪμɒɪ に追いやった。　かといってこれが hɪrlɒ にも hɪμɒɪ にもないと、古文字の表記に困る。地図なども古文字を使っている。　イントネーションは２０１０年までは jc1ɪ などを使っていたが、hɪrlɒ で表記するのが一般化すれば hɪμɒɪ 内に無理に作る必要はない。というのも、hɪμɒɪ も９４文字しか作れず、スペースが貴重なためである。　　さてその地球の hɪμɒɪ であるが、以下のように設定した。　　使徒の名前：２８：日付　使徒の苗字：２８：著者表記、外国名、外貨（ただし使徒の数分しかないので、ɑcɒcnɔn などは表記できない。アルバザードやルティアが表記できるのは嬉しい）　アルミヴァ：１２：時刻　月相：８：天秤詞　ソーム：７：曜日　アルシエル：４：四季、天秤詞　ミュシェット・アシェット・テームス：３：カレンダー　アテン：４：種族　　これでちょうど９４である。　以前全角の明朝 ʃidhɪrl で使っていた矢印は ɔ などを使って表記。〇×は割愛。　heldɪc は ɪɪɪɪcj などと表記すればよいので割愛。動詞媒介は廃止されたのでむろん割愛。ɥ1ɪ はそもそも余剰なので割愛。　　惜しむらくは通貨 jɔlʃ が表記できない点だが、わざわざ表意にしなくても問題ない。というより国ごとに通貨があるのだから、国名の使徒記号を外貨にすれば良いだろう。主要国の通貨は表現できる。経済の話であることが分かる場面でしか地球でも $ は使わないし、それならアルバザードの文字で jɔlʃ を表すことに何ら問題はない。　それより、jɔlʃ を問題にするのならむしろインテグラルなどの数学記号を載せたいところである。しかしそれを入れると際限なく増えるため、この９４字で幻文に使う最低限は十分に表現できるだろう。ＡＳＣＩＩとて数学記号などはどのみち表現できていない。　　さて hɪμɒɪ の配置だが、実際には古幻字のほうがアルシエルより使わないだろうと考え、シフトに追いやった。　漫画や小説などを書いていると天秤詞の頻度は高いので、シフトにしたくない。　とはいえ０キーのシフトが存在しないので、アルミヴァをシフトに入れることができない。そこで天秤詞として使われる月齢がシフトに行くことになる。　()　＝が空くので、ここに ɪleʃ, ʃeeɒɟ を入れれば、ひとつ空いた先の＝が ɒɥəleʃ になってちょうど良い。　そして余ったところにあまり使わない ɔɔɔɔ を入れる。ここの配置はあまり綺麗でないが仕方がない。　バックスラッシュは ¥ になるので、lceμ は日本のキーボードと２回現れる。ＡＳＣＩＩを使っているのでたいていの国のキーボードですべてかほとんど表示できるはずだ。

hɪrlɥɪ　［名詞］ハルヴァ、使徒規則　［レベル］６　古 :bccμ:「使徒規則 」。クミールの間違いによる造語。アルシェの使徒としてアルカを学んでいたクミールは、幻字の読みを覚えるために幻字を表音文字に転写していた。そのとき使徒規則を意味するハルマ（使徒そのものと同じ字）を誤って転写してしまった。使徒と使徒規則は別の意味だから単語も別なのだろうと勘違いして訂正しなかったそうで、彼女は使徒規則のことを誤って発音していた。あるときクミールの hɪrlɥɪ という発音を聞いたセレンが「間違っている」というと、彼女はヒステリーを起こして「これで良い」と言い張り、強引に使徒規則を hɪrlɥɪ と呼び続けた。使徒自身、「使徒」と「使徒規則」が同じなのは使いづらいと思っていたのでちょうど受け入れることにしたようである。

hɪrlɑel　［言語］文字論　［レベル］６　1L

hɪrlɒ　［名詞］幻字　［シェルト］駒、コマ。駒の総称　［類義語］hɪrl、hɪμɒɪ　［レベル］２　1ʔ: 制 : 古 :hɪrlbɪ(使徒、幻字）［文化］　→ hɪrl、ʃcnɪ、ɪʃɔɒ　＜概要＞　　アトラスではアルカで使う主に２５の表音文字のこと。　地球では古アルカが使用していた表意文字と、制・新アルカが使用する表音文字のこと。　「幻字」という訳は、古アルカで hɪrlbɪ という単語が「文字」を意味し、その字形が「幻」に似ているところから来ている。　　＜現実での幻字の歴史＞　　1J 年夏にセレンが制のために作る。当時アルカが最も簡単な人工言語を目指していたため、極力字形を単純にした。「z は直線だが s は曲線」というように、右手首に書きやすい字形にした。すなわち単純かつ労力の少ない字として開発された。デザイン性は重視されなかった。　その後約１０年でアルカは過合理を排他して文法等を変えたが、慣れがあるので字だけは変わらなかった。　　J0 末ごろにリディアがルシアに幻字を書かせ始める。　J1 夏にきちんと幻字を学ばせようとする。このときルシアはおよそ三才半。　幻字を灰色で刷ってなぞらせるという勉強法をリディアは考えた。フォントを選ぼうとし、やはり ʃidhɪrl だろうと考えた。　ところが子供の一生がこれで決まると思った彼女は本当にこれでいいのかと考え、子有りの女子に相談。　すぐに同じような悩みを抱えるだろうと自覚していたミルフらがこれに呼応し、本当に ʃidhɪrl でいいのか考察した。　大部分の文字が x ハイトに収まっておらず、視線が上下動して可読性とデザインが悪いという欠点をミルフが指摘。これは数年前の筆記体のときも挙がった問題点。　自分たちはともかく子供はと考えた女子らが標準書体があればいいのにと考え、リディアとミルフがセレンに相談。　このときセレンはメルからの紫苑改訂、エンナ･クミールからの代詞改訂でてんやわんや。そこで彼女らに丸投げし、自分で字案を作ってから言えと棄却。　彼女らが男子に相談を持ちかけたため、話が大きくなった。　その後子供のためなら変更もやむをえまいとしてセレンも加わった。　　字案作成に多くの人がアイディアを出し、1J9J までに保守案と革新案が作られた。　まず保守案ができた。x ハイトに合わせて ɪ が傾き、アセンダからディセンダまで貫く不恰好な d と b の余分な下降線が省略された。　その後「丸形が多い中、斜線のみで構成された文字があると書体に統一感がない」といった指摘から n 列が修正。　「ɑ と φ は保守案だと o に近すぎる」ということでこれも修正。　　保守案：http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/hacm1271%5E_1.png　革新案：http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/hacm1271%5E_2.png　　線種の統一感やデザインの美しさから革新案が多数決で優勢となった。　このままでは既存のフォントが無駄になってしまう。　そこで既存の書体は ɪnsəμen（夕月書体）とし、革新案を ɪμnɪnʃ（幻京書体）とした。　　夕月では避けていた混同しやすい字形を幻京は取り入れている。　10 年前は果たして自作の表音文字なんかできちんと意思疎通ができるのだろうかという不安があったため、確実に弁別できることを重視した。　10 年経てば慣れたもので、別に ɪ と l が似ていても長さや前後関係で区別できると大半の人が思うようになった。　実際地球でも n と h、「や」と「ゃ」、「１」と「ｌ」なども特に問題なく区別している。　　夕月に鏡文字が多かったのは、反転して言葉遊びができるようにとの配慮。　しかしもうそれに拘泥する必要もないので、幻京では ɑ,φ などの対称性を崩した。　幻京は丸と直線で主に構成される。斜線はほとんどない。　線種に統一感があり、かつ弁別できる範囲である。　アセンダに届く文字は８種。ディセンダは４種。丸い文字は６種で、うち子音が２種。　数字も一部角度を変えた。丸みと角張りを変更したものもある。　合わせて約物も変更した。　ɑ,ɒ が変わったので大なり小なりは＞＜でよくなった。こうすることでフランス語のギュメのようにも使える。　ɪ が変わったのでハイフンが使えるようになった。ハイフンはビンに入った液体の減少量を記した線とし、マイナスの意味も持たせた。　ビンに水を追加したらマイナスの刻みを修正する必要があるので、もうひと刻みつけて＋にした。これが増加量を示すのでプラスとなる。　アスタリスクは存在しないが、バツ印がほしいこともあり、＋を傾かせた×を掛け算にした。　スラは ɔ として使うのを止め、割り算や分数を示す文字とした。文中に突然記号が現れるのは美しくないと考える者が多かった。　　丸印がないので＋を「良い」とか「正解」の意味で用いる。スラは中間とする。　＋＝〇　／＝△　×＝×　　●フォント　　当初フォントはミルフに任せることにしたが、その代わりｗｅｂでの公開と配布は許可しないとリディアに釘を刺され、それでは意味がないとして結局セレンが作ることとなった。　　標準書体は幻字の本来の形を伝える最もプレーンなものでなければならない。これをもとに様々な書体が生まれる。　最もプレーンなので、サンセリフが採用された。サンセリフのうち最も基本的なもの、標準フォントを ʃcnɪ という。ミルフの命名で、ルシアを意味する。　ʃcnɪ は外国人や幼児への文字見本として使われる。見出し向きである。　　一方セリフも作ることとなった。アトラスでは jp までに幻字以外の文字による様々なセリフが既にできていたので、自由に選べる。　オールド、モダン、トランジショナル、スラブなど色々あるが、どれがよいかということになった。　まず作るべきはセリフの中で最もプレーンなもの、すなわち標準となるセリフである。プレーンな ʃcnɪ がサンセリフであるから、これに一番近いセリフが「最もプレーンなセリフ」

ということになる。　スラブは縦線と横線の幅が同一かほぼ同一で、セリフの幅も同様である。それゆえ物によっては「セリフの付いたサンセリフ」と呼ばれることもある。　従ってプレーンなセリフとしてはスラブがふさわしい。幻字ではスラブが「オールド」になるわけである。　このフォントはミルフの命名で lɪnſcɪ という。意味は ſcnɪ と同様である。　lɪnſcɪ は主に外国人や幼児向け書籍の本文に使われる。　ſcnɪ のフォント面の設計はセレンが行った。　これまでの手書きをスキャンするという方法を止め、数値的に設計していく方法を取った。幅や高さは２の乗数ないし１２の倍数をメインに組んでいく。　ミーンラインなどを意識して作るのは初めてであった。設計図の一部を公開する。ただし作業中に画面を見ながら綺麗な形に整えているため、出来上がりはこの紙の数値通りでない。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/hacm1271%5E_3.png　●比較　夕月と幻京を比較。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/hacm1271%5E_4.png　夕月はＸハイトに収まらず上下にパラついているのが分かる。　また夕月は手書きのしやすさを重視しているため、μ は斜体だが h は立体といった違いがあり、スタイルに統一感がない。　斜体がかることで文字幅も取る。　しかし手首にとって書きやすい字形であることは長所である。　幻京は上記の欠点が補われている代わりに ɑ,ɒ などがやや冗長である。ı,l の可読性も夕月が勝る。　●制作方法の要点　・四角円ツールは画面クリックすると大きさを指定するダイアログが出る。任意の大きさのものを作れる。全部作り終わってから修正の段階で気付いた。　・表示で制御点番号を出す。赤点青点も表示。文字は黒塗り推奨。円を作ったときにドーナツにならないという巻き方向修正のしわすれを防ぐため。　・正円を描くには→円ツール。＋ＳＨＩＦＴで正円。位置を決めるのが難しい。画面右下に座標が出る。画面を１００％程度に拡大し、上端と下端の座標を画面右下で確認すれば、上端－下端の半径の正円が得られる。完全に座標通りにはならないので、赤点と青点を選んで細かく数ｐｘずらす。外周はこれで終わり。　内周は外周をコピーする。円の太さが８０だとすると、約６５％（８の場合の概算値）に縮小すれば太さ８０になるような内周ができる。数ｐｘずれるので点を選択して修正。　このままだと多分中身が黒塗り。画面左上の炭で塗るモードにすれば分かる。編集の巻方向修正でドーナツになる。　実はまだこの両円は繋がってない。任意の点をダブルクリックすると片方の円しか選択されない。だからこれらをつないで一個の円にするときはまず接着剤を使う。その後切るにはカッターを使う。ｏをＣにするときに二箇所切るが、一箇所目を切るときにカッターが通じず接着剤を使うのはこのため。つまり最初はまだドーナツと認識されてない。ふたつの円があるだけで別別のものと思われてるからカッターで切れない。正円のまま使う場合は接着剤でくっつけておく必要はない。巻きだけ修正しておく。　・斜線の太さを保つには→斜線を斜めにすると角の辺も斜めになる。Ｘなどは角を水平にする必要がある。水平にして幅を８０にすると、線幅はなぜかそれより狭くなり、字が細くなる。そこで長めに長方形を幅８０で作り、斜めにして設置。カッターで水平に切れればいい。　・ＯをＣにするには→切る部分２箇所をＡ，Ｂとし→接着剤ボタン。＋ＳＨＩＦＴで４５°にＡ部を切る→ナイフボタン。同様に４５°でＢ部を切る→完成。なぜかナイフだけではできない。最初接着剤を使う必要がある。ここからｏを作る。　・｛を作るには→Ｃを作る要領でｏを小さく切断してパーツを作る。選択して十字キーで動かして l に重ねる。l とパーツの交点に赤点を入れる。入れるのは l 側のパス。l の不要な部分の赤を下に動かしてパーツ内どこでもいいから置く→編集オーバーラップ削除。ここから ʅ などを作る。反転するだけではダメ。ベアリングを計算する。　・ｅを作るには→ｏを適当に切ってＣにする。長方形で幅 Δ0 のを作る。Ｃの左中央の赤点の高さが長方形の真ん中の高さになるように合わせる。長方形の右端はＣの右端と重なる→オーバーラップ削除→これでは足が左寄りで短い。ｅの左端中央＝横線と縦線の交点の部分をＸとする。Ｘを真一文字にナイフか接着剤（このときはナイフ）で切る。足をダブルクリックして選択→＋ＣＴＲＬで横に拡大。線幅が維持される→ｅの右端よりやや内側に合わせる。ここからｅを作る。　・その他　ｎ→l をＺ本。ｏを切る　ｄ→c/l　ɒ→ｏを横に＋ＣＴＲＬで二倍に広げる。縦に両断する。l を入れて柱にする。l の高さを調節する。　ɑ→c/ι。ι を＋ＣＴＲＬで横に細くするのがポイント。線の太さは変わらずフックの角度が急になる。　ɑ→ｏを切る。長方形２つ作って融合。　ｚ→長方形を繋ぐ。これは簡単。　ｓ→大変だった。ｏふたつ。二箇所切る。コピー。ひとつ左右上下反転。動かして融合。Ｓ字になる。汚れた箇所を修正。全体の高さと線の太さ調節。　φ→ｏを配置。頭はオーバーシュートで ϟΔ。l を加える。ｏを切断。切断面の高さをミーンの ϟΠΠ に合わせると綺麗。しかし切断面 ΠΠ° で ϟΠΠ になるところを切ると、縦棒との間の隙間が狭すぎる。そこでもっと左下の部分を切断する。こうなると切断面上部が ϟΠΠ 来ず、汚い。そこで一旦左翼と縦棒の交点のところをナイフでカットし、左翼だけ取り出す。選択して＋ｃｔｒｌで太さ維持したまま断面上部が ϟΠΠ になるまで上に拡大。その後オーバーラップ削除して繋げ直す。　ʔ→半円と棒。文字の半分の高さになるよう円を潰す。この円のエレメントは半分にする前に適当なところに取っておく。あとから別の文字に使う。ɔのようにそのままのがあるわけではないので、取っておかないとまた作ることになる。　Π→｛を回転させて組み合わせる。案外簡単に組めた。　ϟ→角度調節と交点の位置決めがわりと難航。縦横の交点が中央に来ないのでやりづらい。　Δ→棒３本。はみ出さないように合成するのは難しい。合成してから余計な赤だけ消せば綺麗に消える。元の頂点は合成後も残っているのでそこだけ残せば最終的にわずか６点まで減らせる。　L→ʔ,ʕ の丸を活用。　ɜ→ｓの中心部を縦にカットし、上下に分断。上のパーツを洗濯して左右反転。　ϯ→l/o カット　ȣ→ｏを２つ潰して融合してからカット。その後８から作り直し。　（→ｏでなく l。l の中央に赤点。左にずらしてくの字に。青点を８箇所入れて丸みを。低さはディセンダより少し上まで。　A:－２２．５°。設定できないので－２３°。直角の１／４の傾き。その後幅が合わないので変更。　X:－３０°。　8,B:8 の丸を取っておく。それを B に使う。そのままでは使えないので計算して拡大率（９６％）を出す。外周と内周両方選択しないと片方だけ太る。　B: 上の方法で微妙だったのでアプローチを変える。l 立てる。Ψ の横棒の長さの横棒２本上下に。8 の丸を９６％にして２つ。横棒２本と縦棒、及び丸２つを別々の場所でオーバーラップ削除で合成。８の字を横１２５％にし、逆コと重ねる。オーバーラップしていびつになる。余分な点を消してカクカクにしてＢの形に。意外と大変だった。　€,Ɔ: オーバーシュートするとでかく見えるのでやめる。　ϯ: 斜めは２３°。横棒は４７１。だがこれだと広すぎたので狭めた。　§: ○ふたつでȣを作ってそれをふたつ重ねる。　ȣ,Ψ:l とｏからステッキ。それを複製。横棒追加。Ψ は ȣ から。ȣ を潰し、縦棒。ȣ の横棒を接着剤とカッターで切った後、邪魔な赤点を削除。　Ψ,φ: 丸と棒を組む。Ψ が微妙。　Ψ: 丸、棒３つ。丸の大きさはわりと感覚のほうがアテになる。開始位置は下から１／３。　φ: 棒とｕ２つ。ｕを＋ȣF⋊T,+ȣX€⋊F で潰す。拡大縮小も利用。線幅の修正が必要。　⋊:（をリサイズして棒と合成。）(間の距離は二幅分で 1ʔ0 にした。　ȣ.:s を伸ばして組み合わせる方法は失敗した。縦棒置き、ｏをコピーして切ってフックを作って棒の上側に置く。下側にも同様にコピって置いて、融合。いわない点を整理。インテグラルを作る。コピーして９０°回転。いきすぎなので角度調整しながら寝たインテグラルの底が床に付く位置に。横棒を加えてオーバーバーラップ削除。インテグラルを噛みあわせた丸の部分がいびつになるので修正。横にでかすぎるので＋ＣＴＲＬで潰して完成。　・数値　アセンダ ΔΠ」　キャップオーバーシュート ΔΠΠ　キャップ ΔΠ0　ミーンオーバーシュート ϟΔ　ミーン ϟΠΠ　キャップ２／３ ϟΠ9　キャップハーフオーバーシュート ΠΠ1　キャップハーフ ΠΠ0　キャップ１／３ 1/? Π9?　ベースオーバーシュート –1J　実ディセンダ –ΔΔΠ　ディセンダ –ʔ00　●制作順序　o,l ,ʃ,ʅ,ι,j,c,ɔ,e,ə,n,u,h,ɥ,ɾl,μ,ı,d,b,ɑ,ɒ,ɑ,z,s,φ の順に制作した。ここまでは作業開始日の 1J9 1 内に終了した。　作業後の所感としては、エレメントが減ったからかあるいは慣れたからか、ſıdhɪrd に比べてフォントが作り易くなったように感じた。　続いて 1,L,J,0,ʔ,ʕ,Π,ϟ,Δ,9,ɜ,ſ,&, その他約物の順に制作した。　その後大文字を作成することになった。大文字が増えた分、幻京のほうがフォントを作りやすくなったという夢は儚く消えた。　A,Ψ,X,T,F,E,З,ʕ,8,Θ,B,€,Ɔ,ϯ,§,ȣ,ȣ,ȣ,Ψ,Ψ,ϕ,Ψ,ψ,⋊,ȣ. の順で制作した。　●認定まで　リディアらが発端となり、女子から男子へ通ったため、アルシェは早い段階で通過。　ソーンは子がないので子供のためという理由では通過しづらいと思われたが、難聴者のいないアルシェを押して代詞改定を受け入れさせた件が同時期にあったため、魚心あれば水心的にすんなり通過。　同時に問題が起こったせいでセレンは大変だったが、意見がまとまったという点では珍しくありがたかった。　リーザがどう出るか不安だったが、帰国後 1J9 1 に特に問題なく承認。むしろ溜りに溜まった異体字問題が片付いたことを歓迎していたように思える。　＜幻字の発展＞　http://leviantarka.web.fc2.com/hacm.html　[用例] hɪrɒ jıleɪn{ɑɔcl} 幻字の若い方、幻字の早い方。｛と｝なら｛のこと。　hɪrɒ lɔleɪn{lecl} 幻字の遅い方

hɪrɒɲeφıſhɪnſ　[音楽] 幻字の歌、幻字の覚え歌　[レベル] 2　JJ　[文化]　制アルカ時代に作られた幻字の子音の覚え歌。JJ 年に作り直された。

hɪrɒɪ　[名詞] 使徒、ハルマ、月、ムーン　[名詞] 委員、大幹部、幹部　[名詞] 大学院修士課程　[シェルト] チェック、ハルマチェック　[名詞] だんな様、旦那様、ご主人様（ɑɥəɟjɔə とも）。元はミルフがザナを呼ぶときの nɔn lenɔ hɪrɒɪ から。使徒という意味でなく「勇者様」のこと。転じてメイドなどが主人を呼ぶときの呼称となった。　[レベル] 2　初 :lcczɪ: 元々両団体の中枢となる構成員を指す言葉で、リーザ以前から存在していた語。初代からあったと思われる語で、その意味はもはや不明。リーザがその語を古アルカの音韻論に合わせて借入したので、リーザの造語とする。　[反意語] μjcclı　[文化]　アルシェ・ソーンを構成する者。どちらの団体も１３人を固定とする。アルシェ・ソーンの運営をルシーラの下で行なう。抗争や事故によって死亡しても代は変遷しない。ルシーラに途中で格上げされることはない。任期はない。変遷か死亡まで貫く。ルシーラの命令に逆らう権限はない。　[成句] ʅcl ɔouen hɪrɒɪ 刎頸の交わり。アシェットの使徒が互いに刃物を押し当てても信用できる間柄だったことから。

hɪrɒɪ(J)　[文字] 概念記号、ハルマ　[レベル] 6　古 : 文字　[文化]　lechı

hɪrɒɪſ　[形容詞] 少数精鋭の　[レベル] 4　JJ:hɪrɒɪ/ſe

hɪrɒɪſıſle　[名詞] 精鋭部隊　[レベル] 4　μ:/　JΠ

hɪrɒɪnсı　[非言語] ハルマニア　[レベル] 5　古　[文化]　忠誠と士気の高さを示す礼法。男女兼用。手を祈るように組んで胸の前に持ってくる。元は奴隷の手が枷でつながれているジェスチャーであり、服従を意味した。　両手を組んで両親指の先端同士は接触させる。両手の付け根同士は１０ｃｍほど離しておく。手の甲は上を向く。この状態で組んだ手をみぞおちのやや上、胸骨の剣状突起らへんの高さに持ってくる。剣状突起から組んだ手は５ｃｍほど離しておく。これがハルマニアである。

hɪrɒɪɑıсɒın　[名詞] 修士中退　[レベル] 6　1L

hɪrɒɪɑejdel　[魔法] 使徒結界　[レベル] 6　1Δ

hɪrɒɪμeφıjſ　[名詞] 修士卒　[レベル] 6　1L

hɪrldсſ　[文字] 字体、書体　[レベル] 4　J0　[文化]　hɪrl　具体的なフォント名ではなく、字の種類のこと。平ペン体（イタリックやゴシック）、銅版体（カッパープレート）のように、書くペンの性質で分けることもあれば、イタリックやゴシックのように文字の特徴で分けることもある。また、魔女文字や少女文字のように、文字の表すイメージで分ける場合もある。具体的なフォント名以外の分類名が字体となる。セリフやサンセリフのように、特徴の有無を元に分類されることもある。　例えば ıleſ 体はフォント名であり ıſɔɒ であるが、その字体は「筆記体・カッパープレート体・サンセリフ」といったいくつかの字体項目を持つ。　＜線の種類による字体＞　線が一定の太さを保つボールペンや鉛筆のような線による文字を鉛筆体という。μɑ のころはボールペンがなかったため、このようにいう。鉛筆体の代表は ſıd である。　先の尖ったペンで書かれた文字をペン体という。ペンの性質上、ゆっくり書く部分は太くなり、払う部分では細くなる。ボールペンではこのようなことが起きない。よってペン体は線に強弱がある。代表は hıclen である。　先の平たい平ペンで書かれた文字を平体という。イタリック体などに用いる。ペン体と同じく線に強弱があるが、ペン体と異なり、運筆方向により線の強弱が決まる。また、ペン体よりも線の強弱の差が激しい。　先の細いペンで、銅版に刻むのに使っていた文字を銅版体という。カッパープレート体に用いる。元はデザイン用に作られたものでなかったが、線が細いので飾りを付けて複雑な形にする余裕があり、デザイン性に富んだ書体がセレンによって作られた。平ペン体だと線が太い部分は非常に太くなるため、装飾のヒゲを付けることが難しい。このことは市販のカリグラフィーペンでカッパープレート体のアルファベットを書いてみると実感できる。絶対にカッパープレート並みの装飾を付ける余裕はないはずだ。

hɪrlɔſj　[電算] 文字キー　[レベル] 3　J0

hɪrlınſ　[文字] 文字駒、活字　[レベル] 5　JI:hɪrɒ/lınſı　[文化]　dμeſ

hɪrlınſſəj　[文字] 級数、ポイント→ſəj　[レベル] 5　JI

hɪrle　[動物] アジ、鯵　[レベル] 3　lıſſı

hɪμ　[色] 赤、ハール　[形容詞] 赤い　[経済] 赤字。アルカでも赤で記した。　[象徴] 女。女に魔導師が多いのは uсμ が多いためで、uсμ が赤色の光であることから。　[レベル] 1　ſʔ;hɔɔμı,l jl.lсı　ſʔ ←古 :hɔɔμı　ɑın:hɔɔμı:lı μnſe:hıɑı,ıſſ　[成句]　ſıɑ. uəμ lɔnſ lсɒ hɪμ dılbel 先に損して後から得を取れ：負けるが勝ち、損して得取れ。uəμ は財政の黒字、hɪμ は赤字のこと。

hɪμſ　[形容詞] 暑い、熱い　[形容詞] 暑苦しい、邪魔くさい、面倒くさい、うざったい、ウザい、うざい　[動詞] ɥəl を熱くする、熱くする、熱する　[類義語] bɪɪze　[反意語] ɔɔμſ　[レベル] 1　1L: 赤い風　hɔμſ:hɔμſ:'ɔμſ　[語法]　hɪμſ, ɔɔμſ は言外に [ネガティブ] なイメージがあり、ɒelſ, ɑccſ は [ポジティブ] なイメージがある。これは人間にとって暖かいと涼しいが快適であることから来ている。　温度だけでなく快不快をも表すため、必ずしも ɔɔμſ が ɑccſ より冷たいとは限らない。ぬるま湯を頼んだとき、それが希望よりも温かくなかったら、ſə eſ ɔɔμſ となる。多少冷めていてもぬるま湯なので３０度はあるだろう。外気なら暑いのレベルだ。しかしこれをɔɔμſ という。このように、ɔɔμſ が３０度を表すこともある。なお、お茶がぬるい場合は ɔɔμſ か ɑccſ という。これはぬるさにより２段階に表現を分けている。冷め切ったお茶は ɔɔμſ だが、ややぬるいお茶は ɑccſ。この ɑccſ に [ポジティブ] なイメージは特になく、文脈ごとに異なる。飲みやすいという風に話者が感じていれば [ポジティブ]。　[用例]　ın ʅeſ leʅı ɔʅ hɪdn lını ɑɔnl hɪμſıſc. 暑気払いのため、友達とプールに行った。　ſə eɒ hɪμſ ɑμelel. だんだん暑くなる。　ɑcɟ ıſ hɪμſ. 今日は暑かった。　ın nıſ hɪμſ cɒ ɑcɟ. 今日は暑さを感じた。　ſə ıſ hɪμſ ʅcn el ſcn enſɔ ın hcnɔ ucl. 本当に耐え難い暑さだった。　☆ ɒclɑ. ıj ɟcl hɪμſ lılel ſəμ. ミルフの月になっても暑さが残るらしい。　ın nı φıμu ɒcl hɪμſ. 暑さに苦しんでいる。　ın ɒɔʅıſ ucl uıμ uсμɑ ɒcl hɪμſ. 暑くて一晩中眠れなかった。　☆ nɔɔn nıſ hɪμſ ɔn ʅıɪɒ ɒcl lləə. 恥ずかしくて顔が火照った：ʅıɪɒ のほうが eel より自然。　ın nı hɪμſ ʅı ſə ez. この部屋暑い。

hɪμſəɔ　[名詞] 揉め事、もめごと、争い、（ſcl, ı で）争う、言い合う　[類義語] hɪμſbɪɔφ　[レベル] 3　μ:/　JI　[用例]　ſcl hɪμſəɔ ɤ{ſel}　～と揉める

hɪμſjeμcd　[名詞] 高温多湿　[形容詞] 高温多湿な　[レベル] 4　μ:/　JΠ　[用例]　dɔl hɪμſjeμcd 高温多湿な地方

hɪμſuсμɑ　[気象] 熱帯夜　[レベル] 3　1L　[文化]　nəμne と uсμɑ の平均気温が２８度以上の夜のこと。最低気温ではないので、アルバザードでも意外に頻度が多い。　[用例]　ın ɒɔʅıſ ucl ɒcl hɪμſuсμɑ. 熱帯夜のせいで寝付けなかった。

hɪμſɒccμ　[名詞] 丁々発止　[レベル] 4　JJ

hɪμſɑcμec　[気象] 温暖前線　[レベル] 6　1L

hɪμſɑɔſ　[形容詞] 熱烈な　[反意語] ɔɔμſlcu　[レベル] 3　J0: 熱く激しい

hɪμſφeμeſıμ　[美容] ホットカーラー　[レベル] 6　JI

hɪμſdɔl　[地学] 熱帯　[レベル] 4　1L

hɪμſbɪɔφ　[名詞] 揉め事、もめごと、争い、（ſcl, ı で）争う、殴りあう、殴り合い、殴りあい　[類義語] hɪμſləɔ　[レベル] 3　μ:/　JI

hɪμſbɔc　[地学] ハンメル図法　[レベル] 5　J0: 赤道 / 楕球　[語法]　最後に ʅıLı をつけてもよい。

hɪμſhınʅ　[気象] 熱圏　[レベル] 6　1L

hɪμſμecn　[地学] 赤道　[地球の国名] エクアドル　[レベル] 4　1L: 暑い線

hɪμſıſſe　[名詞] 叱咤激励　[レベル] 3　JJ:「熱いがんばって」

hɪμſc　[気象] エルニーニョ　[レベル] 5　1L:hɪμſ/ſceμ

hɪμſejʅıılſɔ　[地学] 熱帯雨林　[レベル] 4　1L

hɪμſeeu　[気象] 熱波　[レベル] 4　1L

hɪμſeeze　[気象] 熱風　[レベル] 3　JJ:「赤い風」

hɪμʅlef(J)　[人名] ハークレット　J0　[文化]　(ɥəəɒı ΠΠʔ:ΠʔΦ) 神商会の会長。イグナストの後釜となる。イグナストよりも強力で長命だった。

hɪμʅıɪɒ　[名詞] 紅潮した頬　[再帰動名詞] 紅潮　[動詞] ɥəl の頬を赤くする、頬を赤くする、頬が紅くなる、紅潮する、恥じらいなどでカーっとなる　[類義語] ʅıɪɒ　[レベル] 3　μɑ;hɪμʅıɪɒ　JI　[用例]　lı cl hɪμʅıɪɒ. 彼女は紅潮した。　lı ſclcl hɪμʅıɪɒ ɒcl lcl) μɔɒ. 彼女はふいにキスされて頬が赤くなった＝彼女はキスでナッカーした。

hɪμʅɔu　[名詞] ストーブ　[レベル] 2　J0: 赤い箱　[文化]　μɑ でアシェットが発明した。　ul では石油ストーブが普及したが、火事が起こるという問題があった。　[用例]　ıμ sıμʅɔu ストーブを点ける

hɪμl　[料理] 昼食　[レベル] 1　1L:jɔμn:hɪμdlɔn　[語法]　弁当や給食など、形態によって昼食を言い換えることを、単語レベルにはしない。文中で適宜訳し分ける必要がある。　[文化]　朝を少量取った場合、まだ胃は重いものに慣れていない。そこで昼食は消化に悪くないものを中心に食べる。良く茹でたパスタやパン類、その他胃に負担がかからない麺類が好まれる。米食もありえる。人によっては弁当を持っていく。そうでない人は外食する。　[用例]　☆ ın dcı nelſ hɪμl ſıſ jel. 私は毎日お弁当を持って行く：hɪμl を ʅəcl としないこと。　ın dcıj hɪμl. 弁当を持ってきた。　ɒııl lıɑ hɪμl ɑccnı ın jccnı. 母さんが弁当を詰めてくれる。　ſccı e ɒııl lı ſə hɪμl nı. お母さんの愛情がこのお弁当に詰まっていると思う。　ın ıcl lcſ ʅɔu e hɪμl jcn. ときどき弁当箱をなくすことがある。　☆ ɑelʅı ınſej ɑcſ hɪμl. うちの学校は昼に給食が出る。　el ɥɔl ɑıl nɔdɒ e hɪμl. 私たちは昼食券を利用しなければならない。

h

☆ ɪn ɘɔcʃ hɪɥl aɪɟ. 軽く昼を食べた。　ɪn ɘɔcʃ ɪlɪɔl cɒ hɪɥl. 昼は少しだけ食べた。　ɪn ɘɔcʃ hɪɥl aɪɟ ɒɪn ɪn ɘɔc jɔl bel ɪɟl cɒ ɑɔnel ɟeɥ. 夜に美味しい物を食べられそうなので、昼は軽めに食べた。　☆ ɪn lɔʎɪʃ hɪɥl. 昼ごはんを抜いた。　ɪn ɘɔcʃ hɪɥl ʎɪ belɪɟe. 今日は昼に外食をした。　ɪn ɘɔcʃ lɪl hɪɥl ʎɪ belɪɟe cɒ ɑɔj. 今日は外食がしたかった。　ɪn ɘɔcʃ hɪɥl ʎɪ belɪɟe ɑccɥe cɒ ɑɔj. 今日は素敵なレストランでランチを食べた。

hɪɥle ［天文］昼月 ［言葉遊び］アルシェ、上弦の月 ［類音］ɪɥle ［レベル］4　JJ:hɪɥd/lelʃ ［文化］昼に見える上弦側の月のこと。ɪɥle が上弦の月であり類音であるため、掛詞に使われる。

hɪɥj ［言語］綴り、スペル ［言語］古アルカの幻字の字形 ［レベル］2　古 : 原型は hɪrɒɪɔ ？ ［語法］制・新生アルカについては単語ごとのスペル。２５しかない文字を覚えられないことはありえないので、単語単位でのスペリングの意味を指す。古アルカについては表意文字なので、単語でなくその幻字そのものの字形を指す。同じスペルでも、表意文字の場合は１文字の字形を指すということである。 ［用例］ɪn ɑejɪʃ hɪɥj. スペルミスをした。

hɪɥjɕɥ ［医療］紅皮症　1L

hɪɥjɔɥeʃ ［地球の国名］ドミニカ共和国、ドミニカ　J0:1L: 国旗内に青と赤の対称が多く見られる

hɪɥn ［植物］ベニバナ、紅花、末摘花 ［レベル］4　1L:ɥcɑɕɪ:hɪɥnɕɒ（花自体は黄色だが、赤の染料に使う）

hɪɥnɑclɑɕ ［医療］紅灸　ɥɑ;/　JM

hɪɥnɪ ［名詞］［形容詞］興奮している、イラだっている、キレている、怒っている。名詞の場合は ʃcl とともに。 ［レベル］3　1L:hɪɥ/nɪ「赤い心」 ［語法］ʃcl hɪɥnɪ または nɪ hɪɥ のように、「持つ＋心の色」または「感じる＋色」で表現する。ʃcl ɒelnɪ, nɪ cɒel のように語形が変則的なものに注意。

hɪɥnɪɥl ［化学］リノール酸　1L:ɥcɑɕɪ

hɪɥuɪ ［名詞］ハルヴァ。アルティスに属さない異教徒 ［名詞］罰当たりな信者。とても信者とは思えないという意味で。 ［レベル］2　古 :ɥcɑɕɪ:hɪuuɪ（戦いになる）

hɪɥue ［魔物］ハーヴェ（焔蟲）：第四十四天：火の風天 ［レベル］5　1L:ɥcɑɕɪ/jɒɥen/ɒel:hɪɥ/ueb。赤は火の意味 ［文化］巨大なゴキブリ。素早く、固く、しぶとく、強い。溶岩の流れる洞窟でも生息可能。洞窟など、暗くじめじめしたところに生息。ɥɑ では、リーザがルティア王の後継者になるための試練を受けた際、洞窟内でハーヴェに遭遇した。リディアは肋骨を骨折し、セレンとユーアも苦戦したほどの魔物。弱点は冷気。 ［成句］ʃcɔɔ ʃə hɪɥue. とりあえずこのハーヴェを倒せ。後のことは後で考えるぞ：後は野となれ山となれ。セレンが過去に戻った際、傷ついたリーザとリディアを守ってユーアと共闘したときの台詞から。

hɪɥueɑɥenɟ ［魔法］［アイテム］ハーヴェの羽、ハーヴェフレンス ［レベル］6　JJ ［文化］非常に固く、魔法を跳ね返す効果がある。加工して盾にする。

hɪɥɑ ［物理］赤外線 ［レベル］4　1L:ɑeɑɔ に倣って hɪɥ/ɑ とした。

hɪɥɑɥeɪɑɔl ［地学］赤鉄鉱　1L

hɪɥaleə ［地球の国名］トンガ　1L: 意味は南の国。国旗が赤いので赤を足した。

hɪɥɑɪlɒ ［形容詞］［ネガティブ］悪名高い ［類義語］ejʃc ［レベル］3　J0: 赤札→ uɥɑɪlɒ

hɪɥɑɪɪl ［地球の国名］マラウイ　1L: 国旗に赤い太陽

hɪɥɒɪ ［言語］表意幻字、幼字 ［類義語］hɪrl、hɪrlɒ ［レベル］3　ɒelʃcɪ 100:bɒɥ/;hɪrl/ɒcɥə「変化する文字」 JJ ［文化］hɪrl、lcɒ ［成句］hɪɥɒɪ ʃcl eeɟʃe 幼字はエーステを持つ：名は体を表す

hɪɥɒcʃ ［名詞］ハーミット気質 ［レベル］5　制？ ［文化］アルヴィナにおいてユノ・ヴィル・ノア・アルマのバランスがよく総量が多い人間。万能タイプ。

hɪɥɒcʃʃe ［人名］ハーミッテ　J0 ［文化］ɥəəɒɪ ΘΔM ユクレシア王 hɪɥɒcʃʃe、ソナリアの本拠地 ɒcJʃcn に侵攻

hɪɥɒeɒ ［地球の国名］バングラディッシュ ［レベル］6　1L: 国旗が赤丸

hɪɥɒel ［名詞］赤色時代 ［レベル］4　ɥɑ;/　Jʔ ［語法］［文化］ɑəəɥɒel

hɪɥɑ ［単位］溝　J1:hcɥɑ

hɪɥɑcʃ ［名詞］ハーディット ［反意語］jɔlɑeɥ ［レベル］3　JJ:hɪɥɑcʃ ← hɪɥueʃ ← hɪɥuɪ/ʃe ［文化］ləɑeʃ 以外の人物。俗人と凡人の両方を含む。

hɪɥɑcn ［名詞］魔女、魔男、魔法使い ［名詞］linʃcɟ ʃ ɪnueɥ 期におけるアルティス教徒 ［レベル］3　ɒelʃcɪ 1Δ:hɪɪɑcɟ;hɪɪɑcɟ.l　古 :hɪɪɑcɟ から ,ɪɪ が ɥ に変化している ［語法］災厄をもたらすと忌み嫌われる人。男女は問わない。アルティルではアルティス教徒がアデュでこう呼ばれた。敢えて使う場合はその相手の強大さを称える意味があり、悪口にはならない。 ［成句］li eʃ hɪɥɑcnʃ あいつは魔女だ！：確信がないのに人を非難する行為を揶揄した言い回し。ランティス・タンヴェルでは魔女の冤罪を着せられ処刑台送りになった人が多くいた。たいていは近隣住民の「あいつは魔女だ」という噂が根拠となっていた。そのことから証拠もないのに非難する様を li eʃ hɪɥɑcnʃ と揶揄するようになった。

hɪɥɑcnuelʃ ［天文］ミザール　1L:ɥcɑɕɪ/jɒɥen/ɒel: 魔女の嘆き ［文化］生きたまま炎にくべられたラスティアディンはリーザによって、火を消されぬままミザールに封印された。先代が封印した唯一の魔族。地獄の業火に焼かれたラスティアディンは苦しみのあまり泣き叫び続け、ミザールは真っ赤に燃えあがった。みかねたメルがリディアから奪うようにリーファスを身につけ、ラスティアディンのもとに赴き、慈悲を与えて殺した。メルはライファを放ち、ラスティアディンの回復力を凌ぐ破壊力で彼女を殺した。ラスティアディンはメルに感謝し、ミザールは青白い静かな星へと変わった。なお、リディア以外の人物がライファを放ったのはこれが初めて。

hɪɥɑcnhɪrl ［言語］魔女体　1L ［文化］ʃidhɪrl を元に作った書体。おどろおどろしさを表現。

hɪɥɑcɥec ［地名］ハーディレイ川 ［レベル］5　ɒelʃcɪ LP jen ucɪ;δ　J0: フィルヴェーユ「ハディールの川」 ［文化］ファルファニアとレスティルの国境付近を流れ、ハディールを通ってテージュ海に注ぐ大河。リュディア人の文明の基礎となった。灌漑が行われ、湿地ではパピルスが得られた。水鳥を捕獲して食べることもあった。

hɪɥɑcɪ ［名詞］聖人、セイント ［ユマナ］地球の宗教に出てくる高僧や聖人やセイントなど ［レベル］3　古 :hɪɥɑcɪ ← hɪɥlɔɪɥɑcɪ（ɥɑ 面の、ɥɑ 上の、ɥɑ に出てくる）［成句］ɪɒcɟ hɪɥɑcɪ 聖人に頼る：他力本願 ［語法］英雄との違い。英雄はたいてい戦いと関連している。ソーンのように。hɪɥɑcɪ は宗教上の偉人なら戦っていようといまいと関係ない。シオン＝アマンゼ、リディア＝ルティア、ミロク＝ユティアなど以外に、ナユなども含まれる。

hɪɥɑcɪn ［軍事］大将、ハーディアン ［組み数字］3 / ２０ ［レベル］3　1L:ɥcɑɕɪ:hɪɥɑcɪ（聖人）［語法］［文化］lɪnɪ

hɪɥɑcɪn(J) ［地名］ハーディアン ［レベル］5　jɒɥʃ;Xɪɥɑcɪn,ɑu　J0:ɥcɑɕɪ:Xɪ（尻尾）/ɑcɪ（土地）「尻尾のような形をした土地」 ［文化］古代国家のひとつ。アルカット東端の国家。

hɪɥφɪ ［動詞］怒鳴って ɥəl という、怒鳴る、どなる、叱り飛ばす ［動詞］怒鳴り ［類義語］φɪɪl ［レベル］3　J0:hɪɥ/φɪɪl（赤い叫び）［語法］φɪɪl

hɪɥφcc ［動物］赤い顔をしたサル ［レベル］5　JJ ［成句］eɒ hɪɥφcc 開き直る、盗人猛々しい、ぬすっとたけだけしい。悪事を見咎められた猿が開き直って喚いたことから。

hɪɥφceɥ ［地学］辰砂、ヴァーミリオン　1L

hɪɥd ［名詞］昼過ぎ、昼。１２時～１６時 ［レベル］1　ɥɑ;ɑφn　1L:jɔɥn: 制 hɪɥdɪɥ（赤い太陽）ないし、新 hɪɥ/ 制 dɪɥ で（暑い太陽）。ここの dɪɥ は語頭でないので d 音のまま ɑ にならずに残存している。　hɥəd:hɥəd:lɪ lɪlʃce ［文化］午後はゆったり仕事をする。学校もまずは午前の復習から始める。やがて昼食の消化が終わって目も覚めた頃に午後の授業を始める。夕方までそんなに長くない期間を勉強に費やし、夕方過ぎになると放課後になる。日本と同じアフターファイブである。 ［用例］ɪn ʃeɥl elɑ ʃɔʃɪl uɪɥ hɪɥd e ɑleɪ. 夏の昼に外出するのは嫌だ。

hɪɥdnɕɪn ［名詞］昼休み ［レベル］2　1L:ɒelcɑɕɪ ɪlcɟ ［文化］昼食を含めて二時間は必ず取る。学校でも会社でも同じである。法で定まっている。食後胃を休めた後、消化が大分すんでから二十分ほど眠る。したがって昼休みはまず始めの三十分で食事を取り、残り一時間ほど友達と歓談したりして、最後の二十分ほどを昼寝に使う。 ［用例］ɪn ɒclʃ hɪɥdnɕɪn eʃ ɑcl uecn. 昼休みがもう少し長ければいいのに。

hɪɥbɪnɪ ［地球の国名］トルコ ［レベル］5　1Jʔ: 制

hɪɥhɔdɟ ［生物］赤色骨髄　ɥʃ;/　JM

hɪɥrlɪʃ ［ユマナ］赤の曜日 ［レベル］6　1L ［語法］セレンの個人語。なぜか子どものころから火木が赤の曜日で、月水金が青の曜日というイメージを持っていた。

hɪɥɥec ［料理］赤ワイン ［レベル］4　J1: 液の色から

hɪɥɥecn ［交通］急行電車 ［レベル］3　1L:ɥcɑɕɪ:ɥbɪlelʃ ［文化］アルバザードを走る急行電車。銀のボディに赤いライン。別料金が取られる。　アルミヴァ線の場合、ɥpeɪɪlʃ とカルテンにしか止まらない。電車は２駅の区間を往来する。　ランティス線の場合、ポエン、カルザス、ティクノ、コノーテにしか止まらない。

hɪɥzel ［歴史］［軍事］枢軸国、ハーゼル ［レベル］5　ul;hɪɪɥ/ɪl「従うもの」hɪɪɥ ɒcɥɔʎ の意。　JJ

hɪɥsɔ ［名詞］激怒 ［レベル］3　1L: 赤い怒り ［用例］ɪn nɪʃ hɪɥsɔ. 激怒した。　ɪn nɪʃ hɪɥsɔ ɪ li. 彼に怒りがこみ上げた。

hɪɥseɕɑɔl ［地学］紅簾石　1L

hɪɥleʃʃcɑɔl ［地学］赤銅鉱　1L

hɪɥleʃʃe ［名詞］［形容詞］赤褐色、赤茶色、赤毛の ［レベル］3　ɥɑ;/　JM

hɪɥledʃ ［医療］赤痢（細菌性赤痢） ［レベル］6　1L: 血便の下痢

hɪɥledʃlccl ［生物］赤痢菌　1L

hɪɥləɔ ［植物］赤松、アカマツ ［レベル］［レベル］5　JJ:leʃʃe ではない

hɪɥləɔlcl̩ ［植物］松茸、マツタケ ［レベル］5　JJ: 主にアカマツのところに生えることから。

hɪɥɪ ［医療］あざ、アザ、痣 ［レベル］2　1Jʔ: 制 :lele:hɪɥ ［用例］ʃcl hɪɥɪ ɔn nɪʃ 肘にあざができる

hɪɥɪʎɔn ［地学］［植物］赤色土　1L:ɥcɑɕɪ ［語法］メテなど、温暖な土地に見られる土壌。

hɪɥɪlʃc ［地球の国名］東ティモール　1L: 国名が東。国旗の赤を足した。

hɪɥɪn ［名詞］赤色人種 ［レベル］5　1L:hɪɥ/ɪn ［語法］アデントなどにいる人種。肌が赤らんでいる。特徴は cɒelɪn に近い。おおむねマレット人。

hɪɥɪnʎnɔʃ ［ユマナ］赤アンクノット ［レベル］5　1Jʔ: 制 : 古 :hɔɔɥɪɪnʎnɔʃ ［語法］セレンの書いた古アルカに関する本。数百の幻字が収められている。表紙が赤いのでこう呼ばれている。

hɪɥɪɒn ［医療］じんましん、蕁麻疹 ［レベル］3　1Jʔ: 制 : 赤い発疹

hɪɥcɪ ［地名］ハリア海　J0:ɥcɑɕɪ: 古 hɪ（尻尾）の水。キリワラが尻尾状であることから。 ［文化］サヴィア・ケヴェア間の海。

hɪɥcɪɟczɪ ［地学］ハリアプレート　Jʔ

hɪɥeʃ ［法律］刑事 ［反意語］ɪɔɥʃ ［レベル］3　J0:hɪɥ/ʃe（赤い感じの）。役所で刑事の案件を赤い箱へ入れたことから。刑事→刑罰→死刑→斬首→血→赤のイメージで赤い箱が選ばれた。

hɪɥeɑ ［名詞］修正液 ［レベル］3　1L:hɪrlɑ から。hɪrl̩ と混同のため :1ʔ: 制 :hɪrl̩jeɑ（字を消すもの）

hɪɥeɥcuɔln ［生物］赤血球 ［レベル］4　1L

hɪɥeɥcuɔlnɪlʃ ［生物］ヘマトクリット値　ɥʃ;/　JM

hɪɥelb ［被服］赤ずきん、赤頭巾 ［レベル］4　JJ

hɪɥeel ［名詞］赤面 ［レベル］3　1L ［用例］ɪn ʃclɪʃ hɪɥeel ɒɪn ɟeʎl. 失敗して赤面した。

hɪzel ［名詞］相、相同 ［形容詞］相な ［反意語］bɪlʃe ［レベル］4　J1:hɪɪɟ/eel ［語法］多義語。hɪzel は互いに性質が同じ方向性を持っていること。性質同士がぶつかり合わないこと。人の性格が似ていること。仕事の目標が互いに同じ方向性であること。bɪlʃe はその逆。　ʃel と違い、bɪlʃe に「逆らうような」という上下関係のニュアンスはない。互いに相反する主義主張や性格という比較的水平な対立である。とはいえ、両者の間に上下関係があるときは使えない単語という意味ではない。

hɪzelɪɥʃ ［魔法］相魔法 ［レベル］5　J1 ［文化］ɑɔlɒcɥə

hɪzeleʃ ［名詞］強み ［魔法］相性 ［類義語］ucenef ［反意語］bɪlʃeʃ ［レベル］3　J1 ［語法］ucenef ［文化］ɑɔlɒcɥə

hɪzele,ɪlʃ ej, ɔɥ, ɪnɑ

hɪl ［名詞］上 ［形容詞］上の ［格詞］～の上に ［反意語］ɒɔl ［レベル］1　1L: 古 :hɥə　hɥə, hɥəhɥə（上に）:hɥəl

hɪlʃ ［形容詞］高位の、上位、目上 ［反意語］ɒɔlʃ ［レベル］3　1L:hɪl　hɪlʃɪ:hɪlʃɪ: ［文化］目上と目下の序列を作るものは何か。　まずは地位である。王族などは位が高い。王族＞僧侶＞学者＞医者の順番で位が高い。同じ会社の社員同士なら、lɪnɪ が高いほど目上となる。　もうひとつの条件は年齢である。同じ地位なら年齢の高いほうが目上になる。　なお、年齢は地位を覆さない。つまり、いくら年寄りの学者でも、若造の僧侶のほうが格上になる。このとき注意したいのが、敬意である。年齢は地位を覆さないので若造が目上になるが、必ず年齢が低いほうが年齢の高いほうに敬意を示す。上下関係と敬意が別個に計算される点に注意。　例えばこの場合、ドアを先に通るのは若造の僧侶になるが、教訓を講釈していいのは年寄りの学者になる。また、前者は何かと後者に気を使い、後者の言うことを黙って聞く。その代わり、ドアは先に通り、席も上座に座る。この使い分けができないと社会人として一人前とはいえない。

hɪlʃ)lcʃ ［名詞］上座 ［レベル］4　J0 ［文化］j)cʃlɪ

hɪlʃnɔce ［軍事］准尉 ［レベル］5　1L:ɥcɑɕɪ

hɪlʃuec ［政治］衆議院、下院、庶民院 ［レベル］4　1L

hɪlʃɒɔɔl ［軍事］曹長 ［レベル］4　1L:ɥcɑɕɪ

hɪlʃbenɔɒ ［軍事］大佐 ［レベル］4　1L:ɥcɑɕɪ

hɪlʃhɥəlɪ ［軍事］大将 ［レベル］4　1L:ɥcɑɕɪ

hɪlʃoɪlʃ ［軍事］兵長 ［レベル］5　1L:ɥcɑɕɪ

hɪlʃɪl ［生物］上腕 ［レベル］3　1L:ɒelcɑɕɪ ɪlcɟ

hɪlʃɪz ［生物］上肢　ɥɑ;/　JM

hɪlʃcl ［数学］直角、９０度、垂直 ［レベル］3　1L:ɥcɑɕɪ:ɥbɪlelʃ: 単位円内に十字を書くと、アルカの数学では上向きの線が９０度を指すことから

hɪlʃclɪnɔz ［音楽］ピックスクラッチ　J1

hɪlʃclcn ［物理］平行法。立体視の平行法。 ［レベル］4　Jʔ ［用例］cn clʃɪ ʎɔn{lɪlʃ} hɪlʃclcn 平行法で画像を見る

hɪlʃcɒdcɟ ［政治］与党、上位の党 ［レベル］4　1L

hɪlʃɔɪ ［生物］神庭　J1: 上部にあり、鼻に効く

hɪlʃeeze ［美容］アップスタイル　J1

hɪlʃ ［名詞］ハンガー ［動詞］ɥəl をハンガーで ɪ（壁など）に掛ける、掛ける、かける ［レベル］2　1Jʔ: 制 :hɪld から ［用例］ɪn en hɪlʃɪʃ lej nɔɟ ɪlɟɪbɪʃ. 脱いだ服をハンガーにかけなかった。

hɪlʃɪ ［代詞］［女性］貴方。女性敬体。 ［レベル］2　J1:ʎbccɥ:hɪlʃɪ,ɑu

hɪlʃɪ,ɑu hɪɥɒ、hɪlʃ　hɥə/ʎɪl「高いところにいる人」

hɪlʃɪn ［代詞］［女性］貴方の。女性敬体。 ［レベル］2　J1:ʎbccɥ:hɪlʃɪ/en

hɪlʃɪɒc ［生物］曲泉　J1

hɪlʃɪɑ ［地球の国名］ボリビア　1L: もともと「高地ペルー」と呼ばれていた。jɔɥ より高いので hɪl

hɪlʃɔɔl ［電算］上にスクロールする、バックスクロール ［レベル］4　ul;/　Jʔ

hɪlʃeɒ ［生物］巨闕　J1

hɪlʃcɟleɪhɔdcɟ ［生物］上後腸骨棘　ɥɑ;/　JM

hɪlɟ ［名詞］手提げ鞄、手提げ袋、鞄、カバン ［レベル］2　1Jʔ: 制 :hɪldɒejʎ

hɪlɟɟleɪhɔdcɟ ［生物］上前腸骨棘。ベルトが引っかかる部分のこと。　ɥɑ;/　JM

hɪlɟɪnʎ ［動詞］ɥəl を仰向けにする、仰向けにする ［普通動名詞］仰向け ［反意語］ɒɔlɟɪnʎ ［レベル］2　1L:jɔnɔhcnɔʎc ［用例］☆ ʃə ɑe jennɪɥ lɪlʃ ɪn lel ɪn ɒɔʎ ɒeɟɪ hɪlɟɪnʎ. 仰向けになって寝るのは寝心地が悪い。

hɪlɟɪdlɔɥ ［生物］上気道。鼻腔、咽頭、喉頭の総称。 ［レベル］4　1L

hɪlb ［形容詞］遅い、遅まきの、今更、いまさら、今更な、いまさらな。起こる時間までが長い。起こるのが遅い。 ［副詞］遅ればせながら、もういい加減、ようやく、やっと、まだ ［文頭純詞］遅ればせながら、言い忘れていたが、ときに、そういえば、遅まきながら、言いそびれたが ［医療］遅発、晩発 ［類義語］ɪc、nɔu、lecl ［反意語］ɒɪd ［レベル］1　J0: 古 :Xɪcɒə（尻尾の時間）ないし Xɪcɒə̈l（尻尾の時間）［用例］ɑənel hɪlb 遅い夕飯 "ʃɥə eʃ ɒɔɪ hɪlb e. lɪn nɔn ɥɪnɑ cʃ ʃɥə ɑɔl ɑcl"「もう遅いよ。ずっと好きだったのに」（『僕のすべて君へのすべて』）

hɪlbɟeɥɔn ［植物］八重桜 ［レベル］6　JJ:ɥcɑɕɪ:「遅まきの桜」 桜の後に咲くことから。 ［文化］jeɥɔn ほど分布してはいない。カレンシアやフェリシアなどにはよく植えられている。アルティアには山里などに自生する。

hɪlɒɪn ［名詞］［ネガティブ］小僧、コゾウ、コゾー、こぞう、若造 ［反意語］elccze ［レベル］3　jzɑ

h

ɟʔ

hɪlɒɪcn ［生物］上半身、上体 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

hɪlɒɔɸʃ ［医療］遅発月経 ［レベル］6 J0

hɪlɑ ［化学］ハロゲン ［レベル］5 1L:jeɸen:hɔə/lɪɑ ＋母音調和

hɪlɑɑej ［化学］ハロゲン化アシル、アシルハライド 1L

hɪlɑɪ ［化学］ハロ ［レベル］6 1L

hɪlɑɪʃɪn ［化学］ハロアルカン 1L

hɪlɑɪɑɔ ［地学］ハロゲン化鉱物 1L

hɪlɑəl ［化学］ハロゲン化物 1L

hɪld ［名詞］フック、鉤、首吊りの縄、釣かえし、何かものを吊るしたり掛けたりするためのものの総称 ［交通］つりかわ、つり革、吊り革、吊革 ［動詞］ɥəl を ɪ に掛ける、掛ける、かける、引っ掛ける ［魔法］ハルプ。中位時魔法。魔法の紐が敵の首にかけ、敵の首を吊る魔法。重力を操るため、敵がどの方向を向いていても足方向に重みがかかるため、必ず吊って死ぬ。紐を千切ると魔法が解ける。 ［建築］窓のフック ［レベル］3 lɪʃɪ

hɪldɪəɜc ［名詞］南京錠 ［レベル］6 J0: 引っ掛ける鍵。鍵を開けるときに隙間を使って引っ掛けることから。引っ掛けるタイプの鍵はほかにもあるが、引っ掛け鍵というとアルカでは南京錠。

hɪldejɒ ［料理］エール ［レベル］6 ɸɑ JJ ［文化］dejɒ

hɪlɸɔd ［生物］上まぶた、上眼瞼 ［レベル］3 1L

hɪlzcɑ ［生物］上顎 ɸɑ;/ JɸJ

hɪlzcɑhɔ ［生物］上顎骨 ɸɑ;/ JɸJ

hɪlzelɔ ［生物］頭頂葉 ［レベル］5 1L

hɪlscd ［論理］上位概念 ［レベル］5 1L

hɪlsenʃc ［地球の国名］サンマリノ 1L: イタリア内の小国家。高台にある

hɪloɪlɒɪ ［アトラスの国家］ハルワルマ ［レベル］4 ɟʔ:ɥcɑcɪ

hɪllɔɔz ［生物］上端、上縁 ɸɑ;/ JɸJ

hɪlɪ,ɪlʃ lɔʒ

hɪlɪʒ ［建築］上の階 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

hɪlɪɟ ［丁寧］［動詞］ɥəl を ɪ に下賜する、下賜する、与える、やる、くれてやる ［類義語］ɑcʃ ［レベル］3 JJ:hɪl/oɪ/jɔ「上から手をやる」 ［語法］ɟɔl が ɥəl より身分がだいぶ上である場合、あるいは大した差がなくともかしこまった場合は基本的に ɑcʃ でなく hɪlɟ を使う。 ɑcʃ の丁寧語でもあるので、上限関係がない場合でも丁寧さを出すときは使える。

hɪlɪɟel ［動詞］ɥəl をハルアセッシュさせる、請い笑む ［レベル］4 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe: 下唇を持ち上げてほほ笑むことから ［語法］男性のしぐさ。女性に請うような態度を見せるときに自然とする。自分より下の立場と思っている相手にはしないので、女性には概ね好評。まず口を閉じる。閉じた接触面を維持しながら、下唇を上に持ち上げる。ɪjcɑ が固くなり、やや唇が突き出る。ポイントは明らかに突き出さないこと。やや持ち上げるのがコツ。このまま口の端を持ち上げてほほ笑む。ちょっと困った感じの顔。眉間は若干 ɑɪdʃ にし、少し首を傾げておく。

hɪlɪn,ɪlʃ hɪdɪn hɪlɪ,ɪlʃ

hɪlɪnɔz ［音楽］アップピッキング JJ

hɪlɪhɪle,ɪlʃ lɔʒ

hɪlɪl ［魔法］付加物、ハラール ［アクセント］hɪlʰtɪ ［レベル］5 J0:Xɪ/ɪl/ɪl（尻尾、物、物） ［文化］ɪɑcɟʃ 精錬物を変化させる素材。

hɪlɛʒɪl ［人名］ハリカル J0 ［文化］(ɥəəɒɪ ᚻᚨᚢᚩ:ᚻᚩᚱᚷ) メルテナ後期のレスティル王ミハリルの息子。ルカリア軍とドフレットで戦い、戦死。

hɪlɛʒɪlɛɟ ［交通］東条、東大通り ［名詞］青龍、ハリカリス ［レベル］5 ɸɑ;hɥ。hɥ の四方を収める四神の名から ɟʔ

hɪlɛj ［名詞］cɒ、時点、とき、時 lʃ ［レベル］2 JJ

hɪlɛn ［動詞］ɥəl を見上げる、見上げる ［レベル］2 JJ ［用例］lə ɥecɥə ɪɪnʃ hɪlɛnɔɸ lelʃ ɪɪ zɔʒ ʃ'ɪnle cll. 成長した自分はどこかの家の屋上で、綺麗な月を見上げていた。

hɪlɛnɟ ［動詞］ɥəl をふっと見上げる、見上げる ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

hɪlɛɑɪ ［色］群青 ［レベル］3 古 jɔɸn

hɪlɛj ［魔法］ハレス ［ユマナ］ドルイド zɸ JɸJ ［文化］旧ルカリアで起こった司祭のこと。

hɪlen ［接続詞］hɪl ［レベル］3 JJ

hɪleɑ ［魔法］ドルイド術 zɸ;<>hɪlej JɸJ

hɪlecl ［被服］トップス ［レベル］4 JJ

hɪlecɪbeleʃ ［被服］ペプラム、バスク ɸɑ;/ JɸJ ［文化］トップスの裾に付いた短いフレアやひだ飾りのこと。

hɪɪ ［感動詞］はぁ、はあ。ため息のオノマトペ。 ［レベル］2 古

hɪɪʒ ［名詞］満ち潮、満潮、上げ潮、差し潮 ［反意語］hccʃ ［レベル］3 1ʔ: 制 :hɪɪle（上の潮）

hɪɪɟ ［格詞］〜に従って、〜の通りに ［動詞］ɥəl に服従する、服従する、従う ［形容詞］(hɪɪɟɪn で) 従順な ［形容詞］(hɪɪɟɪn で) 順、順な ［類義語］hɪzel ［反意語］fel ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ:hɪʃ ɒɪɟɔ: 制の ʾelɒ（服従）と ʃɔl（従う）を統合。 ［成句］ hɪɪɟ ɪnʃ いいから！：日本人がよくいう「いいからやれ」の「いいから」に相当。検索しやすいように成句扱いとした。 ［メタファー］hɪɪɟɪn ɥən eleʃɔne エケトネのように従順な。唯々諾々。極めて従順なさま。 ［用例］ ɥəlcɪn ɪlʃɪ hɪɪɟ ɪl ɸɟccl. 子は親に従うべきだ。 jee lə hɪɪɟ ɑɪn neʃɪl le ʃcl enuc ɑecn nɔɑ lə ɥən ɔɒɪ hɪɪɟɪn. それでいて自分より能力の高い人間には尻尾を振って従うような性格の子。

hɪɪɟɔnl ［形容詞］常識的な ［レベル］3 JJ

hɪɪɟleʃɟ ［形容詞］倫理的な ［反意語］ʃelleʃɟ ［レベル］4 ɸɑ;/ ɟʔ

hɪɪɟɔɸʃ ［普通動名詞］殉死、殉教、致命、後追い、後追い自殺 ［動詞］ɥəl の様態で殉死する、殉死する、殉教する、致命する、後を追う ［レベル］4 ɸɑ;/「従って死ぬ」 ɟʔ ［語法］ 殉死と殉教の両方を指す。 ［用例］ ɥcɑcɪ ɪɸ hɪɪɟɔɸʃ cɒ jeɸen ɔɔɸʃ. リディアはセレンが死ぬときに殉教する。 ʃɪɸɪn ɒcɪɪ hɪɪɟɔɔɸʃ accnɪ ɪɸʃcɟ. 敬虔な信者がアルティス教に殉教した。

hɪɪɟɑɸ ［名詞］順光 ［レベル］4 JJ

hɪɪɟɸecn ［言語］［論理］順説、順説的な ［反意語］ʃelɸecn ［レベル］4 J0: 従う線→従う流れ

hɪɪɟsccz ［論理］正命題 ɸɑ;/ ɟʔ

hɪɪɟɪɸʃ ［言語］順接 ［レベル］4 ɸɑ;/「順な接続（接続詞ではないので ɪɸlc ではない）」 ɟʔ

hɪɪɟen ［接続詞］hɪɪɟ ［レベル］3 JJ

hɪɪn ［感動詞］なるほど、どうやら ［レベル］2 ɑ:elʃ;ɑɔueʃ 古

hɪɪne ［人名］ハーネ ［レベル］4 lɪlɔ: 語源不詳。古アルカでの意味は無し。 ［文化］（ᚹᚩᚱ) ɥə əɒɪ ᚹᚩᚱ アンダント、クレプティアとの間に息子 hɪɪne を授かる。暴動が治まりを見せる。代わってレスティル宮中はイーファ派とハーネ派に分かれる ＜現実＞ 生没年不詳。ドゥルガの抗争派の代表者。和平派により暗殺される。

hɪɪɒ ［感動詞］[ɒeʃe] もーっ、もうっ、もー ［レベル］2 古 ［語法］ あきれたり驚いたりしたときに使う。ɟɪɪ と同じように語調を整える効果がメインで、ɪden のように強い意味はない。

hɪɪɑcɟ ［サール］ハーディス ［法律］［政治］異端審問、異端尋問、魔女裁判 ［レベル］4 ɒelʃcɪ 1Ɑ:hɪ ɪɑcɟ;e J:ɥcɑcɪ: 古 ［文化］ 濃い茶色の服を着た骸骨型のサール。左手の袖をまくっていて、その手に本を持っている。ハーディスは裁判官であり、必ず被告人を有罪・死刑にする。右手の人差し指は常に死刑にしてきた者たちの血で赤く染まっており、ハーディスはその指で字を書く。 クレーヴェルの服の染みから生まれた。クレーヴェルが私怨に駆られて公平な裁きをしなかったことで、クレーヴェルの邪心の集積として生まれた。その結果、相反するサールとしての性質を持って生まれた。

hɪɪbe ［死神］ハーベ ［反意語］lɪjʃcɪ ［レベル］4 ɥcɑcɪ: 古：赤アンクノットにも記載。ɟ1 にエルトから死神に ［文化］ → ɒɪlʃccɪ 生まれ生きることに初めて喜びを覚えた者。生を司る死神で、セレスクレールの登記者。

hɪɪh ［感動詞］はぁ。移動などにともなう息切れや喘ぎ ［レベル］2 lɪlʃɪ

hɪɪɸ ［感動詞］なぁ？ ［レベル］2 古 :hɪɪɸ 同意や返答を求める言葉。男言葉。威圧的あるいはがさつで、丁寧でない。

hɪɪl ［論理］演繹 ［動詞］ɥəl（演繹結果）を c から演繹する、演繹する ［反意語］lɔlɑ ［レベル］5 古 :hɪɪl（演繹）。上へ行くものが原義。演繹は法則が底にあり、論理が底からどんどん上へと昇っていくと考えられたことから hɪɪl と呼ばれた。 ［文化］ lɪnʃɪhɪɪl

hɪɪlɟɪn ［数学］公式、法則 ［レベル］4 1L: 演繹して使用する数式

hɪɪluefʃ ［言語］演繹音 ［レベル］4 ɟʔ: 直訳は演繹語 ［語法］ 以下は ɑɔueʃ の続き。 ・演繹音 演繹音のおかげで、アルカは音に関して非常に細やかな表現を可能にしている。 演繹音は幻日では [演繹音] のタグで示される。 しかし上述の dlɪʃ, bsɪɑ, dlcʃ などをすべて見出し語に挙げると、無尽蔵に単語が増えてしまう。 水嵩を増してまで辞書の収録語数が多いことを誇示しても詮なきことであり、むしろ管理の煩雑さとユーザビリティを考慮した見出し語システムを整えるべきと考える。 そこで見出し語には dlʃ のみを立てることとする。 清音が無標であるから清音を表記し、母音は無標がないので省略する。 [演繹音] のタグがあるので、ユーザーはすぐにそれが頭字語などでないことが理解できる。 そしてこれを元にユーザーは自由に音質を変えることができる。では音質はどのように変化させることができるだろうか。 1: 子音の清濁 清音は弱い、綺麗、澄んだ、軽い、涼しいなどの音質を与える。 濁音は強い、汚い、濁った、重い、熱いなどの音質を与える。 dlɪʃ ぱしゃ bsɪɑ ばしゃ、べちゃ 中国語などでは清音はないが、事実上無声音になっている有気音が無気音より勢いがあるため、dɪnφ と bɪnφ だと dɪnφ のほうが強いと考える。 これは大学時代に筆者が実際に複数の中国人に尋ねた際に得た回答である。 そのため、アルカや日本語とは感覚が逆である。 ɟ: 母音の音質 ɪ: 明度 明度は c>e>ɪ>ɔ>ə の順序である。 c のほうが ə より「明るい、前に出ている、活発、賑やか、幼稚」などの印象を持つ。 b: 重度 重度は ɔ>ə>ɪ>e>c の順序である。明度の反対ではないことに注意。 ɔ のほうが c より「重い、大きい、深い、不活性、大人、大人しい」などの印象を持つ。
−−−− よって、同じ水の撥ねる音でも、dlcʃ は最も軽く弱く明るく、零の撥ねる音を表す。 一方、bsɔɑ は粘度の高い重い油や泥などが撥ねる音を表す。 ʔ: 母音の長短 短母音が無標。 長母音はその音が長く持続していることを示す。 dlɪʃ はぱしゃっと少しだけ水が撥ねる音だが、dlɪɪʃ は例えばピペットでぴゅっとある程度の量を吹き出すときの音。
ɸ: 繰り返し 演繹音を繰り返すことで、反復を示すことができる。 dlɪʃdlɪʃ で「ぱしゃぱしゃ」、dlɪɪʃdlɪɪʃ で「ぴゅーぴゅー」。 ・子音の構成 音節頭の子音は 1 ないし ɟ 音からなる。 これらはその演繹音の全体的な音の種類を決定する。 例えば dl− は「何らか水が動くとき」という音の種類を決定している。 一方、音節末の子音は 1 つからなる。
これはその演繹音の部分的な音の種類を決定する。 同じ dl− でも、−n の場合は「柔らかく撥ねたり転がったりする音」であり、−ʃ は「撥ねたり止まったりする音」である。 よって dlɪʃ と dlɪn では音の種類が異なる。 dl− を共有しているので全体的な音の種類は同じだが、−ʃ か −n かという違いで部分的に音の種類が異なる。 そういった子音の構成が決まった上で、上記の子音の清濁による音質変化や、母音や繰り返しなどによる音質変化があるため、実際に演繹される演繹音の数は極めて多い。 これをもってアルカは音に対して細やかな言語と評している。 ・末子音 末子音の種類と音質例は以下の通り。 元々有声音なものはこれ以上有声音になれないし、無声音にもなれない。 f: 撥ねる、止まる 1: ぶつかる、転がる、回転する、固い l: 伸びる、吹く、続く、擦れる、鋭い、冷たい ɟ: 伸びる、吹く、続く、擦れる、鋭くない、涼しい n: 撥ねる、転がる、回転する、柔らかい ɑ: 吹く、続く、擦れる、弱い ɒ: まろやか、転がる、微動する、回転する d: 弾ける、止まる、破裂する、静止する h: 擦れる、鈍い ɾ: 響く、連続する、打ち付ける、攻撃的 ɸ: 消える、去る、行く、流れる ǀ: 現れる、来る、留まる、流れる ・演繹音の用途 演繹音の用途は小説や日常会話だけでなく、漫画に出てくる多種多様な擬音語を示すのにも役立つ。
・演繹音の文法 演繹音は基本的に名詞なので、文中では ɑɔ 格などを取る。 ʃeɑ ləɪnɪl ʾlɪɪɒ ɑɔ dlcʃ（雫が頬にぴしゃっと当たった）

hɪɪlael ［言語］生成文法。変形生成文法などを含んで総称的に。 ［レベル］6 1L ［文化］ セレンとリュウにより大成。セレンはその後認知革命を起こして生成を捨てたが、リュウは人工知能などへ活かしていった。ただし魔法の力を利用したので、地球のような人工知能はレイユまで休眠することになる。

hɪɪc ［感動詞］よっ。挨拶。 ［レベル］2 古 : 誰ともなく言い出した語で、会ったときに hɪɪc とか hɪc とかいっていた。ɔɔɔnɔɥən と違って特に決まった形はなかった。

hɪc ［文頭純詞］ところで ［類義語］zeʾlɪ ［レベル］1 ɑ:elʃ: 感動詞、オノマトペ、フィラーの類が語源。 古 hɪc:hɪc:ˈɪc ［文化］ 相手が今の話題を消化しきっていない段階で転換すると嫌がられることがある。だが、未消化の場合でも相手がその話題を嫌がっているときは転換して歓迎される。場面次第である。また、相手が今の話題をどう思っているかではなく、単に自分がその話題が嫌な場合や、他の話題に移したいときにも転換を行う。それによって相手がどういう反応を取るかはまちまちである。一般にアルバザードは日本と比べてある程度一つの話題に結論か結論めいたものを出してから次の話題へ移る傾向がある。いきなり話題を変えるのはあまり好ましくない。ただ、どうでも良い雑談ではそういうことも多い。一々相手も怒らない。特に何か良い発想を思いついたときは相手の話が終わるのを待っていたら忘れてしまうので、相手を遮って話すことがあるし、大抵許される。

hɪcʃ ［形容詞］低い ［反意語］jɔɸ jɑɑ ［レベル］1 1ʔ: 制 :hɪɪʃ: 古 :hɥə（高い）。当然英語の h i g h t とは関係ない。 ɒɔj:ɒɔj:hɪcʃ ［用例］ jɔɸcʃ{ɒɪcn} hɪcʃ 低い身長

hɪcʃɪɪɒɪɸl ［音楽］イングリッシュホルン、コーラングレ、コールアングレ、コール・アングレ、アルトオーボエ ɸʃ;hɪcʃ/ɪɒɪɸl「低音の出るオーボエ」 JJ

hɪcʃlɪɑ ［地球の国名］オランダ ［レベル］5 1L: 低い国

hɪcʃɟcɪ ［音楽］バスドラム、バスドラ、キック ［レベル］6 JJ ［語法］ ペダルは ɔɔnʃ。

hɪcʃɑɸɪn ［数学］導関数 ［レベル］5 1L: 元の関数に対して次数が低くなることから、hɪcʃ。

hɪcʃɒɪɸ ［音楽］モルデント 1L

hɪcʃɒɪɸl ［音楽］ファゴット、バスーン、バズーン JJ:hɪcʃ/ɪɒɪɸl

hɪcʃdɪɟɔl ［名詞］カウントダウン ［動詞］ɥəl を数え下げる、数えさげる ［反意語］jɔɸdɪɟɔl ［レベル］3 JJ ［用例］ ʾlefʃɪ, el hɪcʃdɪɟɔl ɑə 10 ɪ ɒelɟel ʃcɟeeʾ さぁ新年まであとテンカウントだ！ ɒeʃ, hɪcʃdɪɟɔl ɑəen 10. １０数えてください。カウントダウン１０秒願います。

hɪcʃhɪnʾl ［気象］［軍事］［交通］低高度 ［レベル］6 ɸʃ;/ ɟʔ

hɪcʃɥəlɔ ［地学］離水、離水海岸 1L

hɪcʃɪlɔn ［地学］［植物］低地土 1L:ɥcɑcɪ ［語法］ 河川によって低地にできた土壌。水田に利用。

hɪcʃɪɸedɸɪɔ ［音楽］アルトホルン ɸʃ JJ

hɪcfejd ［気象］下層雲 1L

hɪcl ［政治］［法律］裁判、裁き ［動詞］ɥəl を ɔn について裁く、裁く ［レベル］3 1L:lcɔn:hɪcn/lə ［文化］ ・未成年の裁判 未成年が犯罪を起こした場合、子供だけでなく親も罰される。子供の犯罪の責任を取る必要がある。 子供といっても ɒɪnɪ, lɪz, ɑcɪn, ʃcnɪ, nɪnɪ の順で連座が軽くなる。子供が成人に近づくにつれ、親の監督責任も問われにくくなるということである。親が離婚している場合、連座に問われるのは親権者のみである。 ・動物裁判 犬が人を噛んだ場合など、飼い主だけでなく動物も裁判を経て裁かれる。

hɪclhɔc ［政治］［法律］司法 ［レベル］4 1L

hɪclhɔclɪ ［政治］［法律］司法府。裁判所のこと ［レベル］4 1L

hɪclhɔclɪɸel ［政治］［法律］司法権 ［レベル］4 1L

hɪcllcznɔ ［政治］［法律］裁判庁 ［レベル］4 1L ［語法］ イムル J0 年に事務省の下に作られた庁。裁判を取り仕切る。

hɪclɪ ［政治］［法律］裁判所 ［レベル］3 1L:lcɔn

hɪclɪn ［政治］［法律］裁判官 ［レベル］3 1L

hɪcl ［形容詞］合法な ［反意語］ueɑ ［レベル］3 1L:hɪcn/lɪlə（ハインの法）

hɪcj ［動物］マグロ、鮪、ツナ ［レベル］2 lɪlʃɪ ［文化］ 非常に好まれよく食べられる魚。数が少なくなって困っている。

hɪcjɔ ［地球の国名］ソ連、ソビエト連邦 ［レベル］5 ɟʔ:lcczɪ:hɪn/jɔcjɔ。アルシェが結成されたのは９１年で、ソ連は同年に解体している。ソ連の凋落から崩壊の過程はアルシェ発足の原因のひとつで、ソ連はリーザらにとって関心のある存在だった。そのため先代アルカにはソ連を指す語があったようだが自然言語由来であり、具体的にはフィンランド語でソ連を意味する単語を使用していたため、新生には採用できない。古アルカは９１年以降なのでロシアを指す単語はあってもソ連はなかった。しかし歴史的記述をしていたリーザが必要に駆られ、ɟʔ に造語した。

hɪcn ［サール］ハイン ［動詞］ɥəl（約束や計画など）を守る、守る ［反意語］uecφ ［レベル］2 ɒelʃcɪ ᚻ:hɪcn;e ɥcɑcɪ: 古 ［文化］ 約束、虚偽、嘘、真実を司る。ɑenzel が無性生殖で鏡か

h

ら作り出した息子。

hɪcn ɪlʃeeɒɟ ［人名］ハイン＝アルテームス ［レベル］6 19:jeɟɒen:lcɔn ［文化］ (ʔɦʕ_) アレイユのアルタレス。フェンゼル＝アルサールを討伐した。『紫苑の書』の登場人物。アルシェの父。紫苑に魔杖ヴァルデを託され、フェンゼルを倒した。その後、フェンゼルに代わってアルタレスとなる。

hɪcuɛf ［言語］起語 ［レベル］6 ʃ1

hɪcɑ ［天文］彗星、コメット、ほうき星 ［魔法］ハイフ（コメット）。中位時魔法。時空を曲げて彗星を呼び寄せ、敵にぶつける。μɑ ではメルがありえない幼さで習得し、異性魔王を倒した。 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :hɪlccɑɪ（尻尾の星）

hɪcɒ ［政治］（行政単位としての）市→ jɪlɪc ［レベル］3 1L:ɟcɑɕɪ:lɪl/cɒəl（イムルの土地）。行政単位は l で始まるのが多すぎたので h に。 ［文化］ カコで使徒イムルが制定した行政単位。

hɪcɒuɪc ［軍事］市民兵 ［レベル］5 ʃ0

hɪcɑ ［植物］サルビア ［レベル］4 1L:μcɑɕɪ:hɪμ/ɑecɑ。先端が矛のようだから。

hɪcɑɪɟl ［化学］リノレン酸、アルファリノレン酸 ［レベル］5 1L:μcɑɕɪ

hɪcφen ［人名］ハイゲン ɦu;e ʃⱱ ［文化］ ジンティと人間の娘の間に生まれた息子。

hɪcφencɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ペルセウス座 ʃⱱ ［文化］ cɑɪ

hɪcz ［非言語］ハイズの動作をする ［レベル］2 古 ［語法］ 手を胸から腰までの高さに持っていく。肘は自然と曲がる。手は開いた状態で、掌を４５度に傾けておく。この状態から、手を開く。「開く」というのは、４５度の掌を完全に上向きにするという意味。つまり、掌が完全に空を向く。この動作をすると自然と手が体の軸側から外側へ５〜１０センチほど移動する。 この動作がハイズである。言語としては ɑcnɪ に最も近い。相手を否定するわけではないが、肯定もできないという意味を表わす。相手がこちらに「賛成して当然」と思っているときは hɪcz に対して当然不快感を示す。逆にこちらが我慢しているときは、相手は hɪcz を「しぶしぶ了解」の意味で取る。 依頼に関係ない場面では、単に hɪcz は分からないという意味を指す。また、少し驚いて戸惑ってリアクションをどう返したらいいか分からないということも示す。この場合、しばしば目をそらす。 ［用例］ lə hɪczcɪ ɔɪ jenɪ ɦɪl. くすりとしながら彼女は腕を広げた。

hɪczen ［人名］ハイゼン ［感動詞］罰当たりめ、バチ当たりめ、こら、コラ ［レベル］1 L:μcɑɕɪ: 語源不詳。リディアがセレンにその名と設定を伝えた。その直後、μɪl ɦn にセレンは夢でその設定どおりの少女に会っている。そのことは当時のセレンの絵を挟んだ黄色いファイルで確認できる。ここでは初めて hɪczen に「 囲卓 」という漢字を当てているが、この字は夢の中でセレンが編み出したもの。1L 年までは漢然とアルティス教によって生まれた神となっていたが、l0 年で μɑ に生まれたと設定された。神話上は hɪclen から hɪczen ができたことになっている。 ［文化］ ɥəəɒɪ アルティス教の背信者を裁き、罰する神。母アルテは教徒を無差別に救い、罰は与えない。唯一絶対の救いである。それに対し、ハイゼンは背信者を罰するために存在する。アルティス教徒にあるまじき物事があればハイゼンが罰を下す。ユーマの少女時代の見た目をしており、長く黒い髪だが、性格はきつい。 ［成句］ hɪczen ləf hɔc fc 天に唾す、天網恢恢疎にして漏らさず

hɪczenlɪɪl ［法律］違法コピー、海賊版、パイレーツ ［レベル］4 1L:μcɑɕɪ:ɪμbɪlelf

hɪczenφɪlf ［魔法］ハイゼンガルト、禁斷の門、禁門 ［レベル］3

hɪczenbɔlf ［名詞］天罰、天誅、仏罰、ハイゼンボルト ［類義語］bɑμɔ̀lbɔlf ［レベル］3 μɑ;/「ハイゼンの鉄槌」 ［文化］ bɑμɔ̀lbɔlf

hɪczenhɑdf ［法律］違法セックス ［レベル］5 1L:μcɑɕɪ:ɪμbɪlelf ［文化］ 革命中の決まり。人口を国が管理できるよう、免許を持っている恋人と夫婦以外はセックスをしてはいけないことになっている。ただしインプレンは合法。

hɪczenμɪ ［ユマナ］教会。アルティス以外の宗教の教会、神社、仏閣、モスクの総称 ［ユマナ］［音楽］ア・カペッラ、アカペラ ［レベル］4 制

hɪczenleun ［医療］成人病 ［レベル］4 1L:μcɑɕɪ:ɪμbɪlelf: 罰当たり病

hɪcsɑnφ ［人名］ハイジング ［レベル］5 古 ［文化］ 性別不詳。３期のソーンのルシーラ。

hɪclenhɪrl ［言語］ハイレン筆記 1L ［文化］ ミルフが lɑfɔɪhɪrl を元に作った筆記体。センターラインを固定化することで、文字が上下に躍るのを防ぎ、安定感を出した。また、文字を数種類変えている。j と l のみセレンのデザイン。メル 1L 年末に公式の筆記体となった。

hɪclen elfɔɪ ［人名］ハイレン＝エルトア 1L:ɒclɑ/zɪnɪ:hɪczen。神話上は hɪclen から hɪczen ができたことになっている。hɪclen は神話上は hɪrlɒɪ/len（使徒の人形→使徒の子）が語源。 ［文化］ (ɒel 1L μɪl lcj →）ザナ＝ゲノスとミルフ＝エルトアの長女。漢字名は「囲蓮」。ハイが「囲」となっているのは、彼女の語源が hɪczen（囲卓）であることから。

hɪɑ ［文頭純詞］当然、もちろん、勿論、いうまでもなく、言うまでもなく、言わずもがなで、ごく自然に、いわんや、況や ［名詞］当然なこと ［法副詞］〜するのが当然だ、〜しなければならない ［レベル］1 古？ ［語法］ ɑɪl ［用例］ ʃə ef hɪɔ lel jefɪn ɥəu uɔμf. 殺人者が死刑になるのは当然だ。

hɪɔn ［文頭純詞］［jenʔe］hɪɔ ［レベル］2 1Δ

hɪə ［動詞］ɥəl をあくびさせる、あくびする、欠伸する ［普通動名詞］あくび ［レベル］2 古 : ふあーぁというあくび声 ［用例］ ɪn hɪəf ɒcl ɔɒɔ. 眠くて欠伸した。

hɪə,ɪlf ɒɔɪ

hɪəɑɪlf ［交通］追突、追突事故 ［レベル］4 ʃ1 ［用例］ ɪn ɥəuɪf hɪəɑɪlf ɒclφɪɪl ɪɒɔ lcen nɔj. 後ろの車に追突された。オカマを掘られた。

hc,ɪlf ɑɪc

hcf ［形容詞］焦っている、焦った ［動詞］ɥəl を焦らせる、焦らせる、焦らす、じらす、慌てさせる、慌てる、取り乱す、うろたえる ［名詞］焦り、（fcl とともに）慌てる、取り乱す、うろたえる ［反意語］μeɑ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ehcjɔ（汗をかく）から。ehc は汗の意味。 ［用例］ ɪn eɒɪf hcf ɒcl uecɪn. 強盗が入ってうろたえた。 ɪn nɪf hcf ɒɪn lɪ̀lɪcɪ φcɪj ej eɑf. 財布が盗まれているのに気が付いて慌てた。

hcɪɑɪφɑ ［名詞］［形容詞］もどかしい、もどかしさ ［レベル］3 ʃ1

hcɪɔ uɪμɟccɪɪ ［人名］ヒト＝ヴァルシーラ ［レベル］5 古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第１使徒。異性魔王。

hcɪ̀ ［感動詞］女などの高い「 ひっ 」「 ひい 」という掠れた悲鳴 ［レベル］2 1L

hcɪ̀ɔɪɪn ［魔法］サラマンダー ɪlf;/ ʃⱱ

hcl ［名詞］横、水平 ［シェルト］横駒 ［化学］周期 ［類義語］ɪ̀ɔɒ ［反意語］hɪɟ ［レベル］2 @ 1L

hclfefɔnɪ ［名詞］横の関係 ［レベル］4 1L:μcɑɕɪ:ɪμbɪlelf

hclɟcen ［生物］横紋 μɑ;/ ʃⱱ

hclɑ ［形容詞］年下、ジュニアな ［反意語］hɪɟɒ ［レベル］2 @ 1L

hclφɪlcɟlcuɪ ［娯楽］横スクロールシューティング、横シュー ［レベル］4 ʃ1

hclμɔn ［医療］左右圧、水平圧。押手の母指と示指で刺入部位にかける垂直方向の圧のこと。 μɑ;/ ʃⱱ

hclμecn ［名詞］横線 ［レベル］2 ʃ0

hclscnɪɑcnɪ ［生物］前頭面、前額面 μɑ;/ ʃⱱ

hclcn ［動詞］ɥəl を横目で見る、横目で見る ［レベル］3 1L:ɒelcɑɕɪ ɪlcj

hclejd ［気象］層雲 1L

hclejɪ ［親族］傍系 ［レベル］5 1L:μcɑɕɪ:ɪμbɪlelf

hcj ［形容詞］劣った、劣等な ［反意語］hɪl ［レベル］2 @ 1L ::bɔlej:bɔ̀ələ,ɪlf

hcjnɪ ［医療］劣等感、コンプレックス ［類義語］blɪnz ［レベル］3 1L:ɒelcɑɕɪ ɪlcj ［用例］ ɪn ɦcl hcjnɪ ɔn jɔμcf. 背が小さいのが悩みだ。

hcjɒelɪnɑ ［魔法］低位魔法鏡 ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

hcjhcj ［アトラスの国家］ヒスヒス ［アクセント］hcjhɛ̀j ［レベル］5 1L:μcɑɕɪ: 接着（船を着ける）

hcjef ［名詞］ハンディキャップ、不利、劣勢、劣位 ［類義語］ɥɪɒɪ ［反意語］hɪlef ［レベル］3 l0:hcj/ʃe（劣るような）

hcnɪ̀ ［名詞］汗 ［動詞］ɥəl に汗をかかせる、汗をかく ［レベル］2 1ʔ: 制 :『制定語彙』では ehc（しょっぱい水）。hce と同じ語源。 ［文化］ 制汗剤はあまり使わない。汗はハンカチで拭き、シャツが冷えて臭くならないようにする。日本では汗をハンカチで拭くのはおっさんくさいが、アルバザードではふつう。むしろ女子が服の隙間に差し入れて拭いているさまは色っぽい。ただし女子は人前で汗を拭くのが恥と思っているため、手や額など見えている部分しか外では拭かない。 ［用例］ ɪn hcnɪ̀ jɔɑel. 私は汗かきだ。 ɪn hcnɪ̀lɪf ɑcn ɪn ɪμɪf uɪu ɪɪc ɪɪl ɦcj. ちょっと運動しただけで汗をかいた。 hcnɪ̀ ɪf jɔɑ ɔnɪel. 汗が流れ続けた。 ɪn ɪf euej ɒcl hcnɪ̀ ɒeμel. 汗でびっしょりになった。 ɪn ɦɔɪf hcnɪ̀. 汗の臭いがした。 ɪn ɪf beeb ɒcl hcnɪ̀ ɦɔɪn. 体が汗臭かった。 ☆ ɪn hcnɪ̀ ledel. 私はほとんど汗をかかない。 ɪn ɪf hcnɪ̀ ɒeμel ɒɪn ɪlɪ̀f ɪuɪn cɒ ɦɔlel. 昨日悪夢を見たので寝汗をかいた。

hcnɪ̀lcɦc ［生物］汗腺 ［レベル］4 ʃ1

hcnɪ̀lləɔ ［動詞］ɥəl に辿り着く、辿り着く、たどりつく、たどり着く、辿りつく ［レベル］3 ʃ1

hcnɪ̀ɪɒn ［医療］あせも、汗疹、汗も ［レベル］2 1ʔ: 制 : 汗の発疹

hcnɪ ［組み数字］９／１０ ［哲学］忍 ［医療］心 ［歳時記］辛、かのと ［レベル］4 μɑ;hcnɪ,ɟzl ʃ1 ::lɪ hcnɪ

hcnɪ(ʃ) ［植物］桐、キリ ［レベル］4 ɟɒ,;ɪlf ʃ1

hcnɪ,ɟzɑ hcnɔ hcnɔ.l

hcnɪɦ ［魔法］［哲学］陽、陽命、丁信仰 ［レベル］3 ɟɒ;<ɪlf<hcnɔɦɔ.l ʃ1 ［文化］ アルティア人の宗教で、丁（hcnɔɦɔ）という神秘的な存在を信仰する。丁は意思のある神のようなものもいれば、意思を持たない自然物のようなものもある。意思を持つものも生き物とはみなさず、言葉を操るものにすぎないと考える。つまり陽において丁は生き物というより現象のような存在である。 丁の訳語はコンテクストに応じて丁、神、精、霊などとする。意思を持つものを神（ɪɒcn）、持たないものを精（lɔɦn）、その中間を霊（leczen）という。丁は総称である。 丁は万物に宿ると考えられており、ヴィードを持っていると考えられている。丁は亜咣泉に吹き溜まると考えられており、神を祀るための神主がいる。 神主は常に男性である。神主は神に仕え、神の棲む夕庵を守護する。場合によっては神木から作った剣（ɪɒcɪ̀lɪl）を使って悪霊（lɪnleczen）や邪神（lɪnɪɒcn）や邪精（lɪnlɔɦn）を退魔することもある。服装は白装束に黒袴。 一方、言葉を持たない精のほか、言葉を直接伝えようとしない種類の霊や神の意思を訊く者を ɥəlɪlc（巫女）という。ɥəlɪlc の語源が ɥəəɪ/lɪl（神主の刀）であることからも分かるように、神木刀を胎内に lɪlleɪce している。巫女は常に未婚の処女である。巫女は境内の泉で身を清め、酒を一口含み、白い装束と陽命朱の袴を着て精霊の意思を訊く。 神主、巫女ともに枝分かれした榊の枝を持っており、祈りや精霊への指示などに用いる。 陽では年長者を尊重し男性を尊重する。従ってアルティア社会は男系で男尊女卑で年功序列である。 言葉においても lɥəɒc（彼女）は lɥə（彼）を元に作るなど、男性中心の考え方になっている。

hcnɪ̀ɦ(ʃ) ［人名］ひなた ʃ1:hcnɪ̀ɦ ［文化］『ねこの郵便屋さん』の登場人物。うみの飼い主。

hcnɪ̀ɦɪɑɪ,ɪlf 陽命朱

hcnɪ̀ɪn ［生物］［医療］心経 ɟzl;/ ʃⱱ

hcnɔ ［動詞］ɥəl を耐える、耐える、たえる、我慢する、こらえる、堪える ［類義語］ɥəɥɪ, hcnɪ ［反意語］efcn ［レベル］2 ɑ;ɟɪɪl;e 赤 hcnɔ:hcnɔ:hcnɪ ［用例］ ɪn hcnɔ ucl uecn ɒɪn nɪ sɔ ɦcn ɪ̀ɪ. あまりに腹が立つのでこれ以上我慢できない。 ɪn hcnɔf ɑɪl jɔμɦɪc. 寒さに耐えなくてはならなかった。 ʃə ɪf ɦcn ɦcn lel ɪn hcnɔ ʃə φɪμu ɒeμel. その苦しみを耐え抜くのはとても辛いことだった。 ɪn hcnɔf sɔ enzel. 怒りをどうにか抑えた。 ɪn hcnɔf ucl uecn. もう我慢できなかった。

hcnɔɦɔ ［魔法］［生物］丁、神、精霊、精、霊 ［レベル］3 ɟɒ;<ɪlf ［文化］ hcnɪ̀ɦ

hcnɔɦɔ ɥəəɪn ［人名］雨宮丁 ʃ1

hcnɔlcl ［化学］アルカリ土類金属 ［レベル］5 1L: 水に溶けず、火に溶融しないことから、耐える元素とリュウが名付けた。

hcnɔenuc ［名詞］忍耐力 ［レベル］3 1L:lecn ［用例］ ɦcl hcnɔenuc 我慢強い、忍耐強い

hcɒ ［名詞］性、性別 ［言語］文法性、名詞の性 ［生物］性、有性 ［医療］セックスとしての性 ［レベル］3 1ʔ: 性 :hcɦɒɪc（性 / 身体） μcɒələə:μcɒələə ［語法］［文化］ ucɪ̀ɪɟɪ

hcɒf ［生物］陰部 ［レベル］4 μɑ;hcɒ/ef ʃⱱ

hcɒɦcn ［生物］亀頭 ［レベル］5 1L: 鈴に似ている

hcɒɦɔɔn ［生物］恥丘 ［レベル］5 l0:jeμen/μcɑɕɪ

hcɒledl ［名詞］色仕掛け、色じかけ、ハニートラップ、ハニトラ ［レベル］4 μɑ;/「性的な罠」 ʃⱱ ［用例］ ɪμ hcɒ̀ledl ɪ uelɟɪn 政治家にハニートラップを仕掛ける ɥəu hcɒ̀ledl 色仕掛けを食らう

hcɒleel ［生物］精巣上体、副睾丸 ［レベル］6 1L: 睾丸を半分包んでいるように見えることから

hcɒɟdɪf ［名詞］性差別、男女差別 ［レベル］4 1L:μcɑɕɪ:ɪμbɪlelf ［文化］ hcɒuell, ɒcnɪɪnφɪ̀n, ɒcn ɑɪz

hcɒɟccne ［名詞］性癖、性的趣向 ［レベル］5 μɑ;/「性的趣向」 ʃⱱ ［文化］ アルバザード人は多種多様な性癖を持つ民族で、性癖は人それぞれである。 ちなむ必要はまるでないのだが、セレンの性癖のひとつに「惚れさせておいて手を出さず、女を焦らせ、本来がっつくはずの男ががっつかない状況を作ることで、余裕があり純粋で紳士な自分に陶酔する」という訳の分からないものがある。このように、アルバザード人の性癖は本当に人それぞれで、しかもたいてい意味がわからない。

hcɒɟel ［生物］陰唇 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 性器の唇

hcɒnɪ ［医療］性欲 ［類義語］hcɒφɪlenɪ ［レベル］4 μɑ;/ ʃ̀

hcɒncdl ［生物］クリトリス、陰核 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 外性器としての見た目から

hcɒuell ［名詞］男女区別 ［レベル］4 μɑ;/ ʃ̀ ［文化］ ɒcnɪlnφɪ̀n, ɒcnɑɪz 男女差別は悪だが、男女区別は当然のものとして受け入れられている。一方的に女性に不利ということではなく、互いに役割を分担し、その結果として差別が発生している。 アルバザードでは女性は無条件で助けられる。自転車がパンクしたとか、荷物が重いとか、電車で席がないなど、あらゆる場面で女性は男性に守られる。美醜や年齢に関係なく、幼女であっても親切に助けられる。ただし注意したいのは、助けられるのは女性であってメスではないという点である。女性らしくしていなければ助けられない。身なりが汚いとか、素行が悪いとか、言葉が汚いなど、品のない行いをしている者は女性とみなされないので放置される。 アルバザードの少年は子供のころから女性を守ることを厳しく躾けられる。困っている人を見てみぬ振りすると、すかさず母親に引っぱたかれ、助けにいけと怒鳴られる。ふだん温厚な父親も、人を見捨てたときは嘆いて息子を叩くことになっている。 逆に女性は「パンクの直し方くらい知ってるんだけどな」と思っていても、あくまで近くの男性が助けてくれるまで困ったフリをする。さっさと自分で直す女は変人扱いされる。 また、優雅さや大人しさや従順さは男性より女性に求められるため、女性は抑圧的な生活を強いられる。最も差別が大きいのは性に関することで、男性はインプレンに通えるが、女性は夫以外の男と寝れば死刑になる。これはイスラム圏と同じだが、以下がまったく異なる。アルバザードは女性にも性欲を認めており、むしろ好ましい行為として男女ともに奨励している。その結果、女性が決まった男性にセックスを求めるのは非常に一般的で、恋人や夫婦間ではふつう女性が男性をそれとなく誘う。頻度はフランス人以上に多く、男性は拒めない。 なお、このことについてほとんどのアルバザード人男性は自分に性的な魅力があり、恋人を快楽に溺れさせていると自負しているが、ほとんどの場合それは誤解である。アルバザード人女性の本音では、恋人に言い寄るのは快楽を求めてのことではない。自分の誘惑に相手が屈服したことによる自尊心が８割で、快楽は２割程度である。この自尊心は「自分は相手に愛されている」という内容であり、優越感ではない。カレシに性的サービスをさせることで自尊心を得ることが誘惑の主目的で、愛情の確認にもなっている。しかしアルバザード人の女はしたたかなので、それを言わない。 また、アルバザードでは女性による自慰や同性愛が公然としていて、あまり恥ずかしいことではない。例えば、レインや紗枝もするし、していることを隠してごまかさない。

hcɒɑeɒe ［医療］性器期 ［レベル］6 ʃ1

hcɒɒɪcɒ ［名詞］体位→ ɒɪcɒ。性交の。 ［レベル］4 μɑ;/ ʃ̀ ［文化］ アルバザード人にとって一般的な体位は正常位、バック、騎乗位の順。騎乗位は jɪμɒclc が生じるのと、それに加えて女性が疲れるので、男性が女性にサービスしがちなアルバザードでは日本ほど行われない。 日本の四十八手に相当するのは uɪlɔnuɪlɒɪcɒ である。４４手あるにはあるが、一般の人は知らない。ふつうは正常位、バック、寝バック、立ちバック、騎乗位、駅弁などある程度限られている。 一般的なアルバザード人は一回のセックスで複数の体位を変える。あまり頻繁に変えると女性に面倒臭がられ、バリエーションが少ないと飽きられる。

hcɒɒcɥəuɪlɪ̀ ［医療］性別適合手術、性転換手術 ［レベル］6 μɑ;/ ʃⱱ

hcɒɒejl ［生物］陰嚢 ［レベル］4 1L

hcɒɑcɔ ［生物］処女膜 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 性器の歯 ［文化］ 女性器は口に譬えられる。処女膜の多くが膣口を囲む歯のような形をしていることも関与している。以前処女膜はセレンの発

h

想で膜となっていたが、やがて歯に変わっていった。 〔用例〕 lɕu en ləni c hcɒɑɔ. 処女膜から声が出ていない：lɕɒeɥɾɒɔʃ と呼ばれる人たちがいたころに言われた言葉。アイドルや声優果ては一般人に対し、処女でないと知るや非難めいてこのように呼んだことから。

hcɒɸìʃ ［生物］性ホルモン ［レベル］6 ʃ0

hcɒɸɪlenɪ ［医療］［ネガティブ］性欲 ［類義語］hcɒnɪ ［レベル］4 uʃ;/ ʃʔ

hcɒɸɛl ［生物］精巣、睾丸 ［レベル］4 1ʔ: 制

hcɒɸɛlɑɪcz ［医療］精巣炎 ［レベル］6 1L

hcɒhcdʃ ［生物］有性生殖 ［レベル］5 1L

hcɒhɔl ［生物］膣前庭。陰核から膣口までの間で小陰唇に囲まれた部分。メラニン色素がないので人種によらずピンク色で、ふだんは小陰唇が閉じているので見えない。 ［レベル］5 μɑ;/「性の貝」 ʃʃ

hcɒμcəʝ ［名詞］仮装、仮装パーティ、男装、女装、コスプレ ［レベル］3 ʃ1:hcɒ/clɕμcəʝ ［文化］ミロクらが紫苑祭で始めた遊び。女のように美しいミロクを引っ張りだこにした女子たちが彼を捕まえて女装をさせたことがきっかけとなり、その後紫苑祭で伝統的に行われるようになった。全員がするのではなく、その遊びに興じる人たちが行う性格のものである。
ミロクは正義に関すること以外はわりと大人しく従順な少年で、特に言葉づかいや仕草が下品でない限り女性に強く出れないタイプだったため、良い玩具にされることがあった。
あまりにもミロクが美しい少女になったことから女子が狂喜乱舞し、ヒムリウスが流行った。このときアルソンは面白がったリーファ隊にけしかけられて男装させられたが、りりしさゆえに女子から黄色い声援を受け、親衛隊ができるに至った。
右の画像は５才当時女装趣味のあったユルトに「将来の自分が可愛いか見てみたいからパパ男の娘になって！」とせがまれて ʃʔ 年に生まれて初めて女装したセレン＝アルバザードのもの。このときセレンは３２才手前であった。

hcɒɮɔn ［生物］陰茎 ［レベル］4 1L 〔用例〕 hcɒɮɔn eɒ neɪ. 陰茎が勃起する。

hcɒoenz ［医療］性的倒錯、変態 ［類義語］peles ［レベル］4 uʃ;/ ʃʔ

hcɒleun ［医療］性病、性感染症 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

hcɒɪljc ［名詞］セクシャルハラスメント、セクハラ ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［語法］ 会社や学校だけでなく、電車の痴漢、父親による娘への悪戯などもこれに入る。性的な嫌がらせならすべて含まれる。 ［文化］ セクハラには極めて厳しい。アルバザード人は性的屈折度と性欲の強い人種だが、自尊心が上回るため、ちょっと胸を揉む程度の中途半端なエロスを嫌う。やるならやる、やらないならやらないとハッキリしているため、あまりセクハラに興味がない。中途半端にオフィスで女に触るという発想がそもそもない。やるならカップルになってオフィスラブとか、それが無理でレイプとか、濃淡がハッキリしている。

hcɒcnc ［生物］陰毛 ［レベル］4 1L:hcɒ/cnc ［文化］ 男女ともに剃らないのがふつう。ただ、女性は薄いほうが一般的に好まれるため、短くしたり一部を剃ったりすることはある。特に水着を着る場合はビキニラインは必ず剃る。男性が付き合っている女性のものを好みで剃ることは日本同様あるこ。

hcɒɔl ［名詞］セックスの相手、性の対象 ［レベル］4 ʃ0

hcɒe ［名詞］姫 ［類義語］neeɒe ɒ;<,ɪlʃ<hcɒelə,ɪlʃ「奥にいる人」 ʃʃ ［文化］ 凪の姫君を指す言葉だが、ɒ 以降は一般的に姫を指すようになった。 μɑ でユーアは生涯リーザのことを hcɒe と呼び敬った。 実際に王族の娘でなくとも大切な女性に向かって hcɒe と呼びかけることがある。

hcɒelʃ ［生物］恥垢 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

hcɒedn ［生物］子宮頸部、子宮頸部 ［レベル］5 1L:ez の前に位置するので廊下

hcɒedndcɸ ［医療］子宮頸がん ［レベル］5 1L

hcɒez ［生物］子宮 ［レベル］3 1ʔ: 制 :lele: 性器の部屋

hcɒezucɒ ［生物］子宮筋 ［レベル］6 ʃʃ<1L:jeɥen

hcɒezucɒdɔɪ ［医療］子宮筋腫 ［レベル］6 ʃʃ<1L:jeɥen

hcɒelɒ ［生物］性器、生殖器 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ

hcɒele,ɪlʃ lce。奥にあるという形容詞。

hcd ［動物］テントウムシ、てんとうむし、天道虫、てんとう虫 ［レベル］2 lìʃɪ

hcdʃ ［動詞］ɥəl とセックスする、セックスする、性交する ［普通動名詞］セックス、性交、生殖 ［類義語］eɟɟe ［レベル］3 1ʔ: 制 :hɪdʃ ［語法］ 子作りのためのセックス。 ［文化］ eɟɟe, ɒelɑclcu

hcdʃuɔln ［生物］生殖細胞、胚細胞 ［レベル］6 1L

hcdʃdɪnʃ ［生物］生殖系 μʃ;/ ʃʃ

hcdʃenuc ［生物］生殖能力 ［レベル］4 μɑ ʃʔ

hcb ［植物］どんぐり、ドングリ、団栗 ［レベル］2 古 :hcb。hcbəʃʝ からか？

hcblɔhɔ ［アイテム］ノルマンヘルム μɑ;/「どんぐり状の兜」 ʃʃ ［文化］ ìì の cn で作られた。

hcμl ［料理］キャビア ［レベル］4 1ʔ: 制 :hcμɑ/lìɔc

hcμuel ［軍事］中将、ヒーヴェル ［組み数字］4 / 2 0 ［レベル］3 古 :zɪnɪ: 中将軍 ［語法］［文化］ìɔnɪ

hcμɑ ［動物］さめ、サメ、シャーク、鮫 ［レベル］3 lìʃɪ

hcl ［軍事］突撃銃、アサルトライフル、小銃、銃。現代の小銃はほぼこの突撃銃。 uʃ;hclɔɔ。アルバザードが開発したが、旧カレンシアが研究に大きな貢献をしたため、凪霧の hclɔɔ を元に造語された。 ʃʃ ［文化］ φel

hclɔɔ ［軍事］飛火槍 ɒ;ɪlʃ「火筒」 ʃʃ ［文化］ φel

hcɪ ［料理］塩、塩分、ソルト、食塩 ［レベル］1 μɑ lìʃɪ: 塩の海の意？ Xcɪ:Xcɪ ［文化］ 丁信仰では清めの力があり、悪霊などに有効とされている。塩の殺菌能力に由来する。 〔用例〕 eu hcɪ ɪ bel 塩を料理にふりかける

hcìlìɪ ［地学］ウェルナー図法、ヴェルナー図法 ［レベル］5 ʃ0: 形が古の「塩」の字に似ていることから。

hcɪɑclɑɪc ［医療］塩灸 μɑ;/ ʃʃ

hcɪɑɔl ［地学］岩塩 ［レベル］4 1L

hcɪbìl ［料理］コンビーフ nɑ;/「塩漬け牛肉」 ʃʔ ［文化］ 大航海時代で作られた。現在は缶に入った非常食というイメージ。

hcɪl ［政治］［経済］年金 ［レベル］5 1L:cləəʝ:μcɑcɪ:hcɪ/φcl（塩の金） ［語法］ 年金制度ができたのは家族制度が整ったイムル１５００年の時代。当時は金でなく塩や香辛料で配られていた。

hcc ［感動詞］[μenʃe] きゃあ、ひい、ひぃ、ひいっ ［類義語］hccì ［レベル］2 ʃɒ;ɑɔueʃ ʃ0:ɒelcɑ cɪ lceμ

hccʃ ［名詞］引き潮 ［反意語］hɪɪì ［レベル］4 @ 1L

hccʃlɪɑ ［地球の国名］バハマ 1L: スペイン語の水位の下がった土地、引き潮という説から

hccì ［感動詞］[μenʃe] きゃあ、hcc ［類義語］hcc ［レベル］2 ʃʃ

hccoc ［動物］キーウィ、キウィ ［レベル］6 lìʃɪ: 鳴き声のオノマトペから

hcɔ ［料理］生地、素地、ペーストリー ［レベル］3 1ʔ: 制 :hc（下）

hce ［形容詞］しょっぱい、塩辛い、鹹い、塩味のある ［類義語］ɪɑcl ［レベル］1 ɟeɥʃ 1ʔ: 制 Xc:Xc

hceʃ ［料理］サラダ ［レベル］2 1ʔ: 制 :lìʃɪ:hce（塩水）

hceʝ ［料理］ドレッシング ［レベル］2 1ʔ: 制 :hceʃ から 〔用例〕 eu hceʝ ドレッシングをかける

hceμ ［地学］塩湖 ［レベル］5 1Δ: 古の hc/eμcɪ

hɔ ［生物］骨 ［レベル］2 ɑ;ɑɪcɪ 赤 hɔ:hɔ:lə 'ɔ 〔用例〕 hɔ cì ɑɔɒ. 骨が折れた。

hɔʃ ［形容詞］～だけ、だけ、唯一、唯一の ［副詞］ただ～する、ただ、だけ ［類義語］clcɪ ［レベル］1 1ʔ ←古 :hɔʃɟɒɪ hɔʃəəɪ:hɔʃəəɪ 〔用例〕 ɪn ʃccɪ ʃc hɔʃ. 君だけが好きだ。

hɔʃɒɪ,ɑ hɔʃ

hɔʃɒɥəlɪle ［宗教］拝一神教 μɑ;/ ʃʃ

hɔʃɪlə ［アイテム］螢 ［レベル］4 μɑ;ɪlʃ で「雨などが降るの「降る」」 ʃʃ ［文化］ → φel ヴァストリアの１つ。セレンのもつ神刀。

hɔì ［動物］貝 ［レベル］2 1ʔ: 制 :lìʃɪ では hɔìlə（殻の生き物） hɔìlə:hɔìlə::ɪhɔ.ɪlʃ

hɔìʃ ［音楽］シンバル ［レベル］3 1ʔ: 制 :" e e s t e ┤ I n k u k u l i e l e m ┤ n ♪ "「貝」

hɔìl ［料理］ワッフル ［レベル］3 lìʃɪ: 貝型の甘いもの

hɔìʝ ［動詞］ɥəl をえぐる、えぐる、抉る、刳り抜く、くりぬく ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :hɔìʃɪɔ スプーンですが原義。スプーンで目玉を刳り貫くというところからえぐるになった。 cXc:cXc

hɔìn ［名詞］スプーン、さじ、匙、レンゲ、れんげ ［レベル］2 1ʔ: 制 :lìʃɪ:hɔìʃ、hɔìə。「貝（hɔìə）」からきている。スプーンの形が貝に似ているからか、太古の人間がスプーンの代わりに貝を使っていたからかはわからない。 ［文化］ ìəcìɔn 金属か木。

hɔìncn ［植物］デージー、デイジー、雛菊、ヒナギク ［レベル］3 1ʔ: 制 :hɔìnɒcnɪ。スプーンに見えることから。

hɔìɒ ［地学］石炭 ［レベル］4 ɒelʃcɪ Δ:φcləʝ:hɔ.ɑɪcɪ（固い） 1ʔ: 制 :hɔn/ìɪɒ

hɔʝ ［名詞］器、容器、入れ物、ケース、コンテナ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :hɔɔʝɪ（器） hɔɔʝɪ:hɔɔ ʝɪ

hɔʝʃ ［生物］鱗、ウロコ、うろこ ［レベル］3 lìʃɪ: 固いもの

hɔʝʃhɔnʝ ［アイテム］スケイルアーマー μɑ;/ ʃʃ ［文化］ 金属の小片をうろこ状に付けた鎧で、zφ で作られた。

hɔʝeʝd ［気象］巻積雲、絹積雲、うろこ雲、鰯（いわし）雲、さば雲 1L

hɔʝl ［植物］アスパラガス ［レベル］3 1ʔ: 制 :hɔʝlɪɔ（頭がうろこ状になっていることから）

hɔʝc ［電算］ファイル。パソコンのファイル ［レベル］3 1ʔ: 制 〔用例〕 hɔʝc ìɪc サイズが大きいファイル、重いファイル

hɔʝeun ［生物］骨組織 μʃ;/ ʃʃ

hɔʝə,ɑ ɑɔl「固い砂」

hɔn ［軍事］装甲 ［レベル］4 ɑu;hɔnɔ.ì ʃʃ

hɔnʃ ［形容詞］形式ぶった、仰々しい、堅苦しい、フォーマルな ［反意語］ɒclʃe ［レベル］3 1ʔ: 制 :hɔn

hɔnʝ ［軍事］［アイテム］よろい、鎧、アーマー、甲冑 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :hɔnɔʝɪbe,ɥihɔ ɥihɔ:ɥihɔ ［文化］ ɪɪuhɔnʝ 臆病の象徴。鎧で身を固めるのが臆病と揶揄されたため。もちろんヴィード戦でも戦時には兵卒は当たり前に着たが。 ヴィード戦でも鎧は有効だが、超一流の戦士は鎧の防御力に頼らないため、機動力を重視して付けないことも多かった。

hɔnʝlɪʝl ［被服］プーレイン μɑ;/ ʃʃ ［文化］ ɒ でできた。貴族の男性用。

hɔnuɪʝdɪ ［軍事］装甲戦闘車両。戦車などの上位概念。 ［レベル］6 uʃ;/ ʃʃ

hɔnz ［植物］オーク、樫、ライヴオーク。オークは樫の誤用で、正式には樫はライブトークである。オークとは本来楢のことである。しかし樫をオークと思っている人が多いので採録した。 ［レベル］3 古 :hɔnɔ/zɪɒɔ（固い木） ［文化］ アルバザードのものは常緑であるが、以北になると常緑は珍しい。

hɔnɪ ［医療］たこ、タコ、胼胝、うおのめ、魚の目 ［レベル］3 1L:hɔnɔ ［語法］ うおのめとたこの区別はしない。

hɔnɔ ［形容詞］固い、固まった ［動詞］ɥəl を固める、固める、固まる ［形容詞］パフォーマンスの悪い、低能な、調子が悪い ［反意語］hɔɔɒc ［レベル］2 ɑ;hɔ は ɑɪcɪ 赤 hɔnɔ:hɔnɔ:'ɔnɔ:hɔnɔlə,ɪlʃ ［語法］ 緊張などでも硬くなる。 暖かいと筋肉が柔らかくなり、柔軟にもなる。人体の運動能力は温めると向上するため、柔らかいがハイパフォーマンスを示すようになった。その後、人体だけでなく機械や物にも適応され、高性能なという意味になった。固いはその反対。 hɔɔɒc は運動、技能、技術などが上質であることを指す。機械の働きが上々であることを指す。hɔnɔ はその反対。状況次第では日本語と同じく固いと訳してもかまわない。 〔用例〕 ［メタファー］hɔnɔ ɥən ɑμeɪ 鉄のように固い fee, fee, fc ɔu hɔnɔl. だめだめ、動きが固いよ。 ɪɒɔ eʃ hɔnɔ cɒ ɑcʝ ɪ. 今日は車の調子が悪いな。

hɔnɔ,ɪlʃ ɑɔl hɔnɔ.uɔlʃ

hɔnɔʃ ［地学］硬度 ［レベル］4 1L

hɔnɔìɪ ［被服］振袖、ふりそで、振り袖 ［レベル］4 ʃ1:ɪlʃ。「雪を振り払うような」という原義。

hɔnɔìɪ(J) ［気象］ɟɪe ［伝統色］雪白、純白、凪雪：正直：# F F F F F F：μəs μɪu ［レベル］6 ʃʃ:hɔnɔlə/ìɪ「固まった粉」

hɔnɔìɪlc ［ジョブ］石切り ［レベル］5 ɪlʃ ʃ0 ［文化］ ìɪlɪn

hɔnɔlelʃɒɒ ［生物］甲殻類 ［レベル］4 ʃʃ

hɔnɔnɔɪ ［美容］剛毛 ［レベル］5 ʃ1

hɔnɔɑlel ［医療］肩こり、肩凝り ［レベル］4 ʃ0

hɔnɔdcʃɒ ［医療］肝硬変 ［レベル］5 1L

hɔnɔlɔbɔ ［名詞］ハードカバー。本。 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

hɔnɔleʝ ［医療］動脈硬化 ［レベル］5 1L

hɔnɔlə,ɪlʃ hɔnɔ

hɔnɔeɒʝ ［化学］硬化油 1L

hɔuɪμ ［電算］［医療］骨伝導 ［レベル］5 ʃ0: 骨を通って

hɔuɔ ［医療］便秘 ［反意語］ledʃ ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ:hɔnɔ/uɔs 〔用例〕 nɪ φɪμu ɒcl hɔuɔ 便秘で苦しむ

hɔuɔln ［生物］骨細胞 μʃ;/ ʃʃ

hɔɑ ［生物］ひれ、鰭、フィン ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :elchɔɑ

hɔɒ ［動詞］ɥəl を開ける、開ける、あける、開く、ひらく、服を開く ［形容詞］開いている、ひらいている、店がやっている ［反意語］ɑeɥə ［レベル］2 1ʔ: 制 :hɪμ:hɔɒɥə 〔用例〕 hɔɒ ɔɒc{ɪ {e} ドアを｛店を｝開ける

hɔɒì ［地学］海峡 ［レベル］5 1ʔ: 制 :hɔɒʝìɪ（陸に挟まれた海）

hɔɒʝ ［動詞］ɥəl を挟む、挟む、はさむ、つまむ、摘む ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɔɟɔn:hɔɒɥəʝ（挟む）。hɔɒɥə は扉で、ʝ は接尾辞 ɪʝ。クミールの造語で、hɔɒɥə の幻字が×の形。もとはハサミの意味で使い始めたが、やがて挟むの意味になっていった。 :::ɔɒələ,ɪlʃ

hɔɒd ［料理］サンドイッチ、サンドウィッチ ［レベル］2 1ʔ: 制 :hɔɒʝdɔɑ（野菜などを）挟むパン 〔用例〕 ɪn ìəcʃ hceʃ ɔ hɔɒd cɒ hɪμl. 昼にサラダとサンドイッチを食べた。

hɔɒdɪl ［数学］展開図 ［レベル］4 1L

hɔɒdeʃ ［美容］バレッタ ［レベル］6 ʃ1:hɔɒd/ʃe

hɔɒɪ ［名詞］栓、コック、蛇口の栓、蛇口の栓、ひねったりして開閉するもの、レバー ［レベル］2 1ʔ: 制 :hɔɒ

hɔɒɪɒc ［生物］骨基質 μʃ;/ ʃʃ

hɔɒc ［生物］軟骨 ［レベル］4 1L: 古 hɔɔɒc（やわらかい）

hɔɒcʝ ［サール］ホミス ［レベル］6 ɟeɥən: 古 :hɔɒɥə（ドア） ［文化］ ドアを半開きにしていたり開け放しにしていると出てくるサール。甘開きしたドアとサール界をホミスは繋ぎ、サール界に人間を引き釣りこんでは食ってしまう。

hɔɑ ［医療］骨折 ［レベル］3 1L:hɔ/ɑɔɒ

hɔφ ［植物］ピーマン ［植物］パプリカ（熟したピーマン）→ hɔɔμe ［レベル］2 lìʃɪ:φ は φɥə（苦い）だと思う。 ［文化］ 子どもが嫌いというイメージがある。

hɔφbìl ［料理］チンジャオロース ［レベル］3 1L: ピーマン肉。bìlhɔφ と区別 ［語法］［文化］ ピーマンと牛肉を炒め、タケノコなどを加えた料理。

hɔφl ［名詞］［軍事］リボルバー、レボルバー ［化学］レボルバー。顕微鏡の。 ［レベル］3 μɑ;/ hɔl/φc/ɪl ʃʔ 〔用例〕 ɪμ hɔφl e φel 銃のリボルバーを倒す（いつでも撃てる状態にする）

hɔd ［名詞］ゴム ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :hɔnɔdɪʝ（ゴム）。hɔnɔ は固いだが、dɪʝ は何であるか不明。 ［文化］ ふつうゴムの木でなく汁から作った物質。ラテックスアレルギーが有名。

hɔdʝ ［医療］骨髄 ［レベル］4 古 :hɔdʝ。hɔ は骨。d はやわらかいとか膨らんだという意味で、骨の空洞のクッションになっていることからだろう。ʝ は不明。

h

hɔdjeɥcdɔı ［医療］骨髄性白血病 ［レベル］6 ⌋⌋

hɔdn ［植物］サボテン、仙人掌 ［レベル］3 1ʔ: 制 :hʅʃı:hɔdcn

hɔdl ［化学］絶縁体 ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:hɔd

hɔdllccſ ［物理］分極（誘電分極、電気分極） ［レベル］5 1L:hɔdlſejʅccſ だと長いため。

hɔdlıɑɔ ［地学］雲母 ［レベル］5 1L: 制と同じネーミング

hɔdı ［料理］グミ、グミキャンディ ［レベル］2 1ʔ: 制 :hɔd

hɔdc ［植物］アカシア ［レベル］5 1ʔ: 制 :hɔd

hɔdcſ ［医療］整形外科、骨接ぎ、ほねつぎ、骨つぎ。筋肉も診る。 ［レベル］3 1L

hɔh ［動物］亀、タートル、トータス ［メタファー］のろま、カテージュ人 ［レベル］2 ʅıʃı

hɔhɔ ［名詞］塊 ［医療］結石 ［レベル］2 ɑ;hɔ/hɔ「固い / 固い」 赤 hɔhɔ:hɔhɔ

hɔɥſ,ɑu hıɥſ hɔɔɥı/ſeeze

hɔɥʅ ［植物］苔 ［レベル］3 1ʔ: 制 :hɔɥ（緑）

hɔɥɑ ［化学］［地学］ダイヤモンド、ダイアモンド、金剛石 ［類義語］ʅlınɑcı ［レベル］2 古 : 固い宝石の意 ［語法］ 魔法や貴金属では通常 ʅlınɑcı。工業用途などでは hɔɥɑ。 ［文化］ → ɑɔlɒc ɥə 時魔導師の魔石。時魔法の能力が上がる。 恐らく、「硬いがもろい」→「なら圧力には強い」→「重力に強い」→「時空の歪みに強い」→「時魔導師の宝石だ」という発想。

hɔɥɑʅıɑ ［地球の国名］スリナム 1L: 国章にダイヤモンド

hɔɥıcuɔʅn ［生物］骨芽細胞 ɥſ;/ ⌋⌋

hɔɥcɸ ［生物］破骨、骨吸収 ɥſ;/ ⌋⌋

hɔɥcɸuɔʅn ［生物］破骨細胞 ɥſ;/ ⌋⌋

hɔɥɔɸı ［アトラスの国家］ホルオガ ［レベル］5 1L:ɥcɑcı: 皮膚が赤くなる病気 ［文化］ レイユでアデリックから独立。

hɔɥe ［料理］ベルモット。ワインの一種。 1ʔ: 制 :hɔɥɥec

hɔl ［名詞］回転、ターン、旋回、スピン、回旋 ［動詞］ɥəl を回す、回す ［天文］自転 ［自然動名詞］［普通動名詞］ひねり、スピン。ビリヤード。 ［類義語］bɛnʅ、beɟ、bɛɒ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :hɔlɔ（わっか） ::ɟıc ［語法］ 自分自身が回るのが hɔl。公転のように取り囲むように周るのが bɛnʅ。囲むのが beɟ。 回転軸は 3 次元の場合、左右が x で前後が y で上下が z → ɟınl 回転の名前は反転しない軸の名前で呼ぶ。例えば lſıɥhɔl は上下および前後に運動するが左右には運動しない。そこで x 軸周りの回転と呼ぶ。直感的には lſıɥ なので z 軸回転と呼びたいところで、注意が必要。

hɔlſ ［名詞］手回しレバー、ハンドル、ノブ ［レベル］3 1ʔ: 制 :hɔl ［語法］ 手などで回す棒やつまみや丸みのこと。

hɔlſbecɥə ［企業］ホルトベイユ ［レベル］6 ⌋1 ［文化］ 三菱重工業に相当する企業。

hɔllezɔ ［物理］回転軸 ［レベル］5 ⌋1

hɔlɟ ［娯楽］独楽、コマ、こま ［レベル］2 1⌋ʔ: 制 : 古 :hɔll（回して遊ぶもの）

hɔlɟıʅl ［名詞］ベルトコンベア、ベルトコンベアー、ベルトコンベヤー、ベルトコンベヤー ［レベル］4 ɥſ;/「回転ベルト」。輪状のベルト自身が回転することでその上に乗ったものが移動することから。 ⌋⌋ ［文化］ 回転寿司のベルトコンベアは構造が hɔlɟıʅl ではないが、表面だけ見えている状態だといかにもベルトコンベアに見えるので、ふつう hɔlɟıʅl と呼んでしまう。

hɔln ［植物］落花生、ラッカセイ、ピーナッツ、南京豆、ナンキンマメ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 語源不詳

hɔlɒebɒbıcɸ ［物理］スピン角運動量 ［反意語］bɛnʅbɛɒbɒıcɸ ul;/「自転角運動量」。地球は太陽のまわりを回る（公転）と同時にそれ自身でも回転運動（自転）をしている。また太陽も自転している。これを原子に当てはめれば、電子は原子核のまわりを公転しながら自分自身も自転している。そのモデルが ul にあり、このようなネーミングとなった。

hɔlb ［名詞］タイヤ、タイア ［レベル］2 1ʔ: 制 :hɔlɔlɔb（車輪のカバー）

hɔloıız ［物理］トルク、ねじりモーメント、力矩 ［レベル］6 ⌋1:hɔllezɔ/ucınoıız

hɔlıɑ ［生物］骨形成 ɥſ;/ ⌋⌋

hɔlılɑıc ［料理］ケバブ、ケバフ ［レベル］4 1⌋ʔ:ɥcɑcı: 回転ロースト。幻幻から輸入。トルコ語を訳したものと思われる。 ［文化］ 羊の肉を回転してローストしたもの。魔方で食べられる。アルバザードでは南方には流入しているが、北方では珍しい。

hɔlɔ ［植物］竹 ［レベル］3 ɥɑ;<hɔlɔ.lʅ 1ʔ: 制 :hʅʃı:hɔlɔɔ（固い筒） hɔlɔɔ:hɔlɔɔ:lə 'ɔlɔ:hɔlɔ,ılſ, hɔlɔ,lʅ

hɔlɔ,ɑ ɔu, ɔlɔ e

hɔlɔɑɥec ［アイテム］竹刀 ［レベル］3 1⌋ʔ: 制

hɔlɔdıac ［名詞］すのこ、スノコ、簀子 ［レベル］3 ɟɒ;<ılſ「竹の橋」。すのこの下に水を流し水はけを良くするために用いたことから。 ⌋ʔ x:hɔlɔdıac:lə hɔlɔdıac:hɔlɔdıac,ılſ

hɔlɔɔ,ɑu hɔlɔ hɔ/lɔɔlɔ

hɔleſ ［名詞］こより、紙縒り ［動詞］ɥəl をこよって ı にする、こよる ［レベル］3 ⌋1:hɔl/ſe

hɔleh ［生物］大転子 ɥɑ;hɔl/eſ/hɔ「回るような骨」 ⌋⌋

hɔı ［生物］殻 ［レベル］2 ɑu; ↓ ʅıʃı: 固いもの hɔı:hɔı

hɔıʅə,ɑu hɔʅ hɔı/ʅə

hɔın ［化学］固体 ［レベル］4 1L:hɔhɔɒıcn（塊の体）

hɔınʅſıd ［化学］ソリッドフォーム 1L

hɔınɟıdſəlɑ ［化学］昇華熱 ［レベル］5 1L

hɔınɟıdʅı ［化学］昇華点 ［レベル］4 1L

hɔınɟıdeɒ ［化学］昇華、気化 ［レベル］4 1L

hɔınɟıdecʅı ［化学］ソリッドエアロゾル 1L

hɔınɔeſ ［医療］嚢腫 1L:jeɥen

hɔınejcſəlɑ ［化学］融解熱 ［レベル］5 1L

hɔınejcʅı ［化学］融点 ［レベル］4 1L

hɔınejceɒ ［化学］融解 ［レベル］4 1L

hɔıneɒɟ ［化学］脂 ［レベル］3 1L

hɔınecʅı ［化学］ソリッドゾル 1L

hɔıɟʅ ［生物］［医療］骨会 ɥɑ;/ ⌋⌋

hɔıcɑıl ［生物］節足動物 ［レベル］4 ⌋1: 硬い殻と関節を持つ門 ［語法］ 昆虫類、甲殻類、クモ類、ムカデ類など。 ［用例］ 以下はルシアの日記の抜粋。節足動物を hɔıcɑın と勘違いして覚えているのが散見される。 ⌋ʔ ɑıu ɑcı uelcz lənıſ ʅılb lenın enſɔ ɒııl cʅ ɾɔʅc. ɒııl jeſıſ cl uelcz ʅɔʅʅɔ ɒıcſ ıſə. hɔıcɑın eſ dcſ ɑııʅ ıſc ıʅı lɔſ ɒəɒı enſɔ Δ0 ɔʅɟɥıl ſ'cl ɒəɒı eſ ſəəɟ. ſə eſ zıl lel ɥəə hɔıcɑın lı ʅılb lenın ɑcen hɔıcɑın ſcl 1⌋0 jen ıɟ dcſ. ſə ɑcı eſ ʅıl ʅɔʅ ʅɔ hɔıcɑın. ſeſ ɥəə ız ɑɥıl ɥəə eɟ lıſ ı ʅılb e jelın. ʅɔɔɔ nɔn nı ʅılb ſ'eɥn e ɥəəɒı eſ ɑe jdel eə. ⌋01⌋ 年 10 月 ⌋1 日 家に虫が出て、お母さんが発狂した。お母さんは薬で虫を全滅させた。 節足動物は全生物の Δ0% を占める、最も繁栄した種だ。 1⌋0 万種もの数がありながら節足動物が家の中にいないというのは不思議なものだ。 この世界は節足動物で溢れているにもかかわらず、住居に侵入しているのはゼロかほぼゼロだ。 なんとなく人間の住居というのは結界のようなものだと感じる。 ・おまけ なんでさっきの日付の日記をアップしたのかというと、日記を付ける習慣のないユルトが珍しくこの日日記を付けていたから、息子と娘で内容比較できると思って。 ユルトはまだキーボードを打てないので、ノートに書いたものを僕が見てタイプして訳しました。まぁこれが通常の 1⌋ 才男児だよなぁと実感。 uelcz ɑc ɔ ɑc. nıſ ɒelcɟ. ɒııl uelıſ ɔ uelılſ. nıſ uɒɒ. beeb ſcnʅı ʅı ɟı. ɒıɒı nı lıſ ſcnʅıl. neʅlıſ ı ɔɔue ɔʅ lcı. nıſ ɒın. 虫、いっぱいいっぱい。キモかった。お母さんがギャーギャー。怖かった。おウチすごく臭い。ママすごく笑ってた。紫亞とクローゼットに隠れた。楽しかった。

hɔc ［名詞］監督、管理、監視、管理運営、監査 ［経済］監査 ［動詞］ɥəl を管理する、管理する、監督する ［電算］［動詞］ɥəl をフォローする、フォローする。ツイッターなどで。 ［類義語］ɒeɟſc ［レベル］2 古 :hɔc（監督）。しっかりと見るが原義。 ［用例］ hıɔ. ınɟ hɔc lccſ lɔʅ. もちろん。相互フォローしましょう。 ʅɔʅ ɒcjenſınſ ɒın ſc hɔc ın jccnı. ın eſ ɒcue ſ'ıɟʅı ɔ leucın. こちらこそフォローありがとうございます。まだアルカも人工言語もひよっこです。

hɔcʅıʅn ［名詞］監視カメラ ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɟbıleſſ

hɔcn ［電算］モニター（画面のモニターではなく） ［レベル］5 1ʔ: 制 :hɔc ［語法］ 送信録音を担う機械。画面としてのモニターではない。

hɔcueſʅ ［経済］管理会計 1L

hɔcɸıɟſ ［経済］管理費 ［経済］一般管理費 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı:ıɟbıleſſ

hɔcın ［名詞］観察者、観測者、監督、管理人、管理者、フォロワー、ツイッターのフォロワー、ディレクター ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılſe ［文化］ 集合住宅の管理人はその集合住宅の住人でもある。ゆえにふつうに一室を借りて住んでいる。

hɔɔʅ ［動詞］ɥəl を回転させて巻く、巻く ［レベル］2 ⌋0:hɔl/ʅɔɔl（巻物のようにくるくる回転させる）

hɔɔʅbeſʅ ［名詞］ねじ巻き式時計 ［レベル］5 ⌋0 ［文化］ ナディアで廃れた。

hɔɔɟı,ɑu hɔɟ hɔ は「頑丈」

hɔɔn ［形容詞］ぽろぽろ、ぼろぼろ、ポロポロ、そぼろな ［名詞］おがくずやそぼろ肉のようにポロポロこぼれたもの ［名詞］おがくず、オガクズ、大鋸屑、オガ屑 ［レベル］3 1ʔ: 制 :hɔɔ

hɔɔɒc ［形容詞］柔らかい ［形容詞］パフォーマンスの良い、ハイパフォーマンスな、高性能な、調子が良い ［反意語］hɔnɔ ［レベル］2 ɑ;hɔnɔ/ɒɥə「固くない」 赤 hɔɔɒc:hɔɔɒc ［語法］ hɔnɔ ［成句］ hɔɔɒc eſ ucen nɔɑ hɔnɔ. 柔よく剛を制す

hɔɔɒcnɑı ［美容］軟毛 ［レベル］5 ⌋1

hɔɔɒclcnɟ ［地学］輝安鉱 1L

hɔɔɒclɔbɔ ［名詞］ソフトカバー。本。 ［レベル］4 ɥɑ;/ ⌋ʔ

hɔɔd ［医療］錠剤、丸薬 ［反意語］heeɑ ［レベル］3 1ʔ: 制 :hɔɔdcſı

hɔɔɥı ［悪魔］ホーラ、赤の悪魔ホーラ ［料理］トマトを煮込んだときに出てくる赤い灰汁、灰汁、あく ［レベル］4 ɒelſcı 0:hɔɔɥı;e ɥcɑcı: 古 :hɔɔɥı（赤）。赤アンクノットにも記載。 ［文化］ 赤い毛で覆われた怪物。攻撃的。 プスホーラとペアをなす。ホーラ・プスホーラを使った子供を怖がらせるための話がある。古アルカにおいて男がやっていけない 7 つのことと、女がやってはいけない 1 4 個のことをすると、7 月 3 週目の第 6 曜日（この時点の暦では存在しない暦とされた）にホーラがやってきて、親の首を刎ね、子の腕脚を刎ね、眼前で食い、子を頭から串刺しにして門前に立てる。プスホーラは頼むと助けてくれるが、誤って怒らせると男子は皮を剥がれ、女子は股から縦に引き裂き、右半身をホーラ。左半身をプスホーラが食らう。 赤いもじゃもじゃした姿の悪魔。

hɔɔɥı,lʅl hıɥ hɔɔɥı

hɔɔɥılccɑı ［天文］ベテルギウス ［レベル］5 1L:ɥcɑcı/jeɥen/ɒel ［文化］ ヴァステにおいてアルミヴァがフレスティアと戦った際、護衛の悪魔ホーラ・プスホーラ・テクラ・インプラががっちりフレスティアを囲んでいたために倒せなかった話は有名。そのときニムラが位置したのがオリオン座である。ホーラがベテルギウス、プスホーラがベラトリクス、テクラがサイフ、インプラがリゲルである。そしてリゲルからフォーメーションが破られた。 中心にいるのは悪魔フレスティア。フレスティアの右手がアルニタク、左手がミンタカ、頭がアルニラムである。そしてアルミヴァはオリオン星雲にフレスティアを封じ込めた。

hɔɔɥe ［植物］パプリカ← hɔɥ ［レベル］3 制 : 古 :hɔɔɥı

hɔə ［化学］塩（えん）、化学物質の塩のこと ［レベル］5 古 :hɔ（硬い、塊）

he,ɑu 副詞を作る接続詞。ɑe からできた le がさらに弱化したもの。bɪɔɸ he ucuc のように使う。ɒelſcı ⌋1 以降は語順が逆転。 ɑu:jıı;le.l

heſ ［名詞］尻尾 ［動詞］ɥəl をする、する、スル、盗む、スリをする、ガメる：ネコが尻尾で物を盗むという言い伝えから（リディアによる古時代の発案） ［電算］端末 ［言語］［文字］テール ［類義語］ɑlıɥə ɥɑ;X1, Xe ［レベル］2 1⌋ʔ: 制 : 古 :hı X1, Xe:X1, Xe:lə Xeſſe（棒状） ［語法］ 日本語の「する」と違って大きなものを盗むときにも使える。 ［用例］ heſın lı ɑɥeɒ ıſə cn. スリがこの辺りにいるはずなんだが。

heſſcs ［言語］脚韻 ［レベル］4 ⌋ʔ

heſſeɒel ［歴史］近代、ɥſ_ul ［レベル］4 ⌋1 ［語法］ ɒcɥɒel

heſſel ［法律］［普通動名詞］横領、横取り ［動詞］ɥəl を c から横取りする、横取りする ［レベル］3 ⌋1:heſ/ 古 l

heſleɥſ ［約物］）記号 ［レベル］3 ⌋1

heſlezl ［生物］尾索 1L

heſɟ ［動詞］ɥəl をじらす、じらす、焦らす、じれる、焦れる ［形容詞］(heſjın で）じれったい、焦ったい ［レベル］3 ɥɑ;heſ/jɔ「しっぽする→猫がしっぽをゆらゆらさせて焦らすことから」 ⌋ʔ

heſjeu ［言語］後付け ［レベル］4 ⌋1

heſɒeu ［言語］接尾辞 ［レベル］4 1L

heſhıſ ［言語］末尾文字 ［反意語］ɔjnhıſ ［レベル］5 ⌋⌋:ɒel

heſhɔ ［生物］尾骨 ［レベル］5 ⌋⌋:「尻尾のような骨」

heſheſ ［電算］P 2 P、ピアトゥーピア ［レベル］5 1L

heſɥecſ ［言語］文末純詞 ［レベル］4 ⌋⌋

heſlɔſj ［電算］エンドキー ［レベル］5 ⌋0

heſıɑc ［言語］文末音調、連接、ジャンクチャー 1L ［語法］ アルカではいずれも区別がなく、文末の 8 などの音調を指す。

heſıɥucs ［約物］］記号 ［レベル］3 ⌋1

heſcnɒɒ ［美容］テールコーム ⌋1

heſe ［名詞］裏、ウラ ［名詞］見えない面 ［名詞］真意、隠された真実 ［動詞］ɥəl を裏返す、裏返すめくる ［動詞］ɥəl（嘘などを）あばく、あばく、暴く、ばらす、バラす、バレる、ばれる → ɑce ［格詞］～の裏に ［反意語］ɥəlɔ ［レベル］2 1L: 尻尾の顔（面） ［成句］ ʅılſ heſe 実際は、実質は、実質的には ［用例］ ləj nɔın ıſ heſe ɒcl ſeeze. スカートが風でめくれた。 "ɒın ɑcı jcl jeɑɔ ɔl ɑce lıɒ eɒ heſe.「だって最初の嘘がばれてしまったら、世界は消えてしまうから。

heſeſ ［名詞］裏、表面下 ［形容詞］裏の、表面下の ［形容詞］非正規の、違法な ［反意語］ɥəleſ ［レベル］3 ɥɑ;heſe/ſe ⌋ʔ

heſeſuecz ［名詞］裏動画、裏ビデオ ［レベル］4 ⌋ʔ

heſeſlec ［名詞］裏本 ［レベル］4 ⌋ʔ

heſeſıʅucɒ ［生物］上腕三頭筋 ［レベル］5 ⌋⌋<⌋⌋

heſeſɔʅucɒ ［生物］大腿二頭筋 ［レベル］6 ⌋⌋<⌋⌋

heſen ［接続詞］heſe ［レベル］3 ɥɑ;/ ⌋ʔ

heſeınſɔucɒ ［生物］下腿二頭筋 ［レベル］6 ⌋⌋<⌋⌋

heʅ ［名詞］手紙、メール ［類義語］heʅı ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :heʅı（伝える、手紙、はがき） heʅı:heʅı ［語法］ 件名は ɔlɒı で内容は ɑɔɟɒ。 ［用例］ ʅınſ heʅ 手紙を送る、出す ın ılſıſ lıl eɒ heʅ ı ɑc. 誰かに手紙を書きたくなった。

heʅ,ɑ lıl

heʅſdɔl ［地名］沙方 ［レベル］5 ⌋0:heʅſıɥ ［文化］ ヘクター及びアルヘクター地方。

heʅſıɥ ［地名］ヘクター ［レベル］6 ⌋0:「尻尾」 ［文化］ 竜の尻尾と呼ばれる土地で、ヴァルマレアとヒュグノーの部分。

heʅı ［名詞］手紙 ［類義語］heʅ ［レベル］3 ⌋1:ɥcɑcı/ləlcı:heʅ ［語法］ heʅ に比べてやや幼い感じがする。

heʅıɑ ［地球の国名］グアマテラ 1L: 国章に手紙（おそらく条文か何か）

heʅɟ ［動詞］ɥəl を ı に添える、添える、そえる、添付する ［レベル］3 1⌋ʔ: 制 :heʅ から

heʅı,ɑu heʅ, ɔʅſ <heʅ,ɑ

hejſcı ［軍事］少将、ヘスティア ［組み数字］5 / 2 0 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:lıjſcı（死の神のような）→語頭を h にするために hıjſcı →語頭が hı だと大将とかぶるので母音を e に ［語法］［文化］ ʅını

hen ［名詞］古アルカの 8 赤→ jcɑıll

hen,lʅ Δ həəɸc.ʅ

hen,ılſ heɒd hedd,ɑu.l

henʅı ［料理］おから ［レベル］3 ɟɒ;henʅı,ılſ「大豆の粉」。きなこではない。 ⌋⌋ ［文化］ ɟɒ で豆腐とともに流入。ul の健康ブームで全土に広まる。南部ではごま油や山菜などと和えて食べ

られる。

hensc ［名詞］筆 ［類義語］˥ɪz、eɭl ［レベル］2 ɟɒ;Xensc,ɟzl ʃ1 ::lə Xensc（棒状なので） ［文化］→ ɑcn 少なくとも zφ ではカルセール人が用いていた。アルティア、ルティアへ。ɟɒ でアルバザードへ。現代ではアートなどに用いられる。アルバザードはペンが主流なので日常的には用いない。

henɪn ［植物］びわ、ビワ、枇杷 μɑ;‹ɒe ʃɱ

henɪnɒedɪɑ ［化学］酢酸オクチル 1L

henɪnɑclɑɪc ［医療］ビワの葉炎 μɑ;/ ʃɱ

hene ［動物］蛸、たこ、タコ、オクトパス ［レベル］2 古 :hen は８。e は水。 ［文化］ アルティア人の影響を受けてアルバザード人もたまに食べる。

heɒ ［形容詞］狭い ［反意語］hɪn ［医療］狭窄 ［レベル］1 1ʔ:jeɒen:˥lel:hɔɒ。制では閉める。 ［用例］ez heɒ{lcj} 狭い部屋

heɒʃ ［料理］味噌、みそ、ミソ ［レベル］2 lɪ˥ʃɪ:heɒʃ。heɒd から来ている。 ［文化］ ロロス原産の調味料。μɑ でルビィら忍者によってアルシェにもたらされた。醤油ほど一般的ではないが、アルバザードでも買える。

heɒʃɑclɑɪc ［医療］味噌炎 μɑ;/ ʃɱ

heɒʃleɒc ［料理］味噌汁、みそしる、みそ汁 ［レベル］2 ɟɒ;ɪlʃ の訳語 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪɭelʃ

heɒʃclɒ ［名詞］タブロイド、タブロイド紙 ［反意語］hɪnʃclɒ ［レベル］5 μɑ;/ ʃɱ

heɒ˥ɪɑ ［地学］狭い国、ミニ国家 ［レベル］5 1L ［語法］ hɪn˥ɪɑ

heɒnɔ˥lccɑ ［地球の星座］［ユマナ］少北斗七星 ʃɱ ［文化］ cɑɪ

heɒu ［言語］符牒 ［レベル］5 1L:heɒueʃ（狭い集団で用いられる言葉）集団の占める面積が狭いことを指すので、この場合のメタファーは heɒ でよい。 ［語法］ パスワードでも暗号でもない。〇番で「トイレ」を指すデパート用語など、仲間内の言葉を指す。

heɒuleucɪn ［言語］符牒型人工言語 ʃʃ ［語法］ 暗号のように隠して使うのが目的ではないが、仲間内だけで使うことを想定したもの。制・新アルカなど。

heɒφɨμ ［名詞］シングル、C D シングル、シングルC D ［レベル］4 ɪl;/「狭い円盤」 ʃʔ

heɒd ［植物］大豆 ［レベル］3 ɑu;e lɪ˥ʃɪ heɒd:heɒd::hen,ɪlʃ

heɒddɪ˥cl ［化学］イソフラボン ［レベル］6 ul;/。大豆に多く含まれるフラボノイドであることから。 ʃʔ

heɒdɪ ［地球の国名］フィリピン ［レベル］6 古 : ８つの光（hen/dɪɪ）が原義。

heɒb ［料理］しょうゆ、醤油 ［レベル］2 1ʔ: 制 :heɒd/beʃl ［文化］ アルティア産の調味料で、ルティアを経由して μɑ でアルバザードに入った。アルバザードの軟水に合うため、現在では一般的な調味料としてうどんなどに用いられる。ただし刺身の習慣はない。

heɒsenʃc ［地球の国名］バチカン ［レベル］6 1L: イタリアの中にある狭い国

heɒɪɟ ［経済］勘定、ビル、お勘定 ［レベル］3 μɑ;heɒ/bɪɟ「小さい紙」 ʃʔ

heɒɪɟɒɪʃ ［経済］割り勘、ゴーダッチ、わりかん、ワリカン ［レベル］3 μɑ;/ ［文化］ ˥ɪoɪ, ɒcnɑ ɪz ［用例］ ɪnɟ ɪμɪʃ heɒɪɟɒɪʃ ˥ɪ ˥ə beɭɪfe. 私たちはそのレストランの代金を割り勘にした。

heɒe˥ɟ ［名詞］狭義 ［形容詞］狭義的な ［反意語］hɪne˥ɟ ［レベル］5 ʃ0

heɒej ［被服］ポルサ μɑ;‹Xeɒej,ɪμɑ.l「尻尾の（垂れ下がった）袋」 ʃɱ

hed ［感動詞］へっ？、えっ？ ［レベル］2 古

heμ˥ ［地球の国名］カナダ ［レベル］4 古

heμɭ ［植物］マンゴー ［レベル］3 1ʔ: 制 :˥l˥ʃɪ:heμ/ 古 ˥l˥c。黄色い卵。

heμen,ɭu ɒcc˥ ɟɪɟ(˥ɪɟeel);ɭu でサールの一族が現ヴェマ北部で発見。後に栽培。エルトに伝わり、人類にも伝わった。

hel ［動詞］φəl を思い出す、思い出す、思いだす ［感動詞］あ、そうだ、そういえば、そう言えば。思い出したときにいう。 ［感動詞］ほら。相手に言う場合は何かを思い出すのを促すときに使う。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :hel˥（頭に聞く） ［用例］ hel, ˥ɪ ˥ənɪ uɪn ɪn cɒ ɑcj ˥ɪ. あ、あいつ今日来るんだったっけ。

helfe ［建築］さげもん、吊るし飾り ［名詞］オルゴールメリー、メリーゴーランド、メリー ［レベル］1 ˥l;helfe,ɪlf.l ʃʔ x:helfe:ə helfe:heləfe,ɪlʃ ［文化］ ˥l の凪で興った。邪気を払うために室内にちりめんで作った人形や飾りなどを吊るしておいた。その習慣が飾りとして ɟɒ でアルバザードに流入し、ちりめん以外の様々な材料を使った豪華絢爛なさげもんが宮中を中心に興った。lʃ には ɟɒ で入ったが、ここではちりめんの代わりに花飾りが流行し、生花や造花を吊り下げるように発展していった。 nɑ では一般家庭にも浸透し、ɪl 以降も部屋の装飾として好まれる。特に子供のいる家庭で多く行われる。 また、赤ん坊をあやすために天井にくるくる回る音の出る玩具（オルゴールメリー）を置いておくことがあが、あれの名前も helfe である。元はちりめんでできたものだったが、時代を経るごとに機械化され、ul では回転したり音が鳴ったりするようになった。

helɒ ［生物］膵臓、すい臓 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 恣意

helɒɪcz ［医療］膵炎 ［レベル］5 1L

helɒdcφ ［医療］すい臓がん、膵臓がん、膵臓癌 ［レベル］6 1L

heldɪc ［言語］ヘルパイ、字返し、繰り返し記号 ［レベル］2 古 : 始めは波ダッシュの字形だったが、ɑ を二つ重ねた形になり、後に ɑ 形になった。制アルカではこれだとややこしいので、ɑɑ の字を繋げて書いた新たな字形をセレンが作った。 ［語法］ 前の音を連続させる文字。

heleʃ ［被服］フロック nɑ;heʃ/eʃ。尻尾のように長くなっていることから。 ʃɱ ［文化］ nɑ_μʃ まで着られた。男性服。富裕層向け。

heləfe,ɪlʃ helfe ˥l;‹>X˥「尻尾のように垂れ下がった」

hec ［感動詞］やぁ、やあ、よう、ょう、へい、よお、なぁ、ねえ、ねぇ ［レベル］1 古 ［語法］ あまり丁寧でない。

hec˥ɪ ［名詞］ハガキ、はがき、ポストカード、葉書 ［レベル］3 ʃ1:μcɑcɪ‹he˥ɪ: 古 ［用例］ ˥ɪnʃ hec˥ɪ ハガキを出す

hecʃ ［地名］ヘイスト ［レベル］6 ʃ0 ［文化］ 古アルディアル西南部の都市。メルテナではレスティルは現ディミニオン西南部も占めていたが、hecʃ はアルディアルの領土で、現ディミニオンの都市。

hecɟɔɔ ［感動詞］［ben˥］［μɑen］ɟɔɔnɔ ［レベル］2 1L:ɔuc:hec, ɟɔɔnɔ の短縮

hecɑ ［名詞］コンドーム、サック、浮き袋、ゴム、ラバー、ルーデサック ［レベル］4 古 : クミールが作った全く語源のない造語。古アルカには hecɑ という音に近い語がなかったので、「他の語と聞き間違えて恥ずかしい思いをしなくて済む」という理由でこの音形が選ばれた。だからなぜ hecɑ でコンドームを示すのかといわれても、クミールがぱっと思いついたのが原因だとしか言いようがない。 ［文化］ dɔʃleeu ［用例］ eu{ɟɪb} hecɑ コンドームを付ける

hecɒ ［宗教］修道士、修道女 zφ ［レベル］4 ʃʃ ［文化］ アルヴェーテやアリスカンテなどの修行に身を置く人のこと。

heeɑ ［医療］散剤、粉薬 ［反意語］hɔɔd ［レベル］3 @ 1L

heə ［動詞］φəl をロずさむ、口ずさむ、くちずさむ ［レベル］3 古 : 擬音語から

heɪ ［動詞］φəl を ɪ にふわっと投げる、投げる、コインを投げる、トスする ［レベル］2 古 ［成句］ heɪ φɪlɑ hɪl ʃees, ʃɔʃɔ テージュ海の上でコインを投げたら〜だ。運任せでいたら〜になった：μɑ でテージュ海の魔人と戦った際、作戦に困ったアルシェが運任せでコインを投げて運命を決めたことから。 heɪ φɪlɑ hɪl ʃees, ˥cɒ φəl˥ 運任せでいったら大当たり。なお、hefe だと大外れ。

heə ［擬音］ふぅっ。息をつく音 ［レベル］2 1L:ənclec

heəφc ʃcdʃ ɑcl、ɑμec ɑen ȣ/φc

heəd ［擬音］ふーふー ［レベル］1 ʃ0 ［語法］ 冷ましたりするときの音。 ［用例］ ˥ɪl heədhə ədȣ ふーふーしてあげようか？

heʃ ［感動詞］はっ、ふん、へっ ［レベル］2 ˥ɒ;ɑɔueʃ ʃʔ

heɒ ［感動詞］へぇ、ふん ［レベル］2 ɑ;ɑɔueʃ 古

heɟɒ ［感動詞］え、はぁ ［レベル］2 ɑ;ɑɔueʃ 古

X˥,ɑ heʃ

Xɪnɔc,ɑ hɪnɔc X˥=heʃ, c=cn

Xɪμɑcɪn,ɑu hɪμɑcɪn ɒel˥cɪ L˥ jen ucɪ;X˥/ɑcɪ「尻尾のような土地」

Xɪɪn,ɑ eɒ ‹›X˥

Xɪə,ɑu 尻叩き X˥ はしっぽ→尻。

Xc,ɑ hce e

Xcɪ,ɑ hcɪ Xc/ɪl

Xɔəɟ,ɟzɑ hɪnɔc hɪnɔc.l

Xe,ɑ heʃ e

Xeʃ˥e,ɟzɑ heʃ ‹› Xe,ɑ

Xensc,ɟzl hensc Xeʃ˥e/sc

Xeɒej,ɪμɑ heɒej Xe/ɒeɟɟɪ

ɥ

ɥ,l˥ɥ 対格の接尾辞。読みは c。 sə.l

ɥɪ ［感動詞］うん、はい、えぇ、ええ、ああ、あぁ、わかった、そう、そうだ ［レベル］1 古 :nnɥɪ,ɥɪ（肯定の相槌の一種）ちっちゃい「ン」＋「ヤ」といった感じ。 ［成句］ ɪ ɥɪ あぁうん、あぁそう、ええまぁ

ɥɪ(J) ［南方］［文末純詞］ɑɪ, ɑe, ɪ, e ［レベル］3 ʃ1

ɥɪʃ ［南方］［接尾辞］過去動詞語尾。閉音節でしか使わない。開音節では ʃ。 ［レベル］3 ʃ1

ɥɪʃ˥e ［文末純詞］［φnɔ］˥ɔ˥ ［レベル］1 ʃ1:˥lccz:"ɥɪ" ˥eȣ「『そうです』だろ？」の語彙化。

ɥɪ˥ ［名詞］準ずるもの、本来あるべきものではないのだがそれに近いもの ［形容詞］準〜、亜〜、セミ ［接辞］複合語の前置要素で、「〜に近い」という意味を表わす。「瀕死」などの「瀕」に当たる。 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 恣意。古アルカではこの ɑcɥɔ という語が数字の J の ɥɔɒ になった。そこで ɑcc は J というところからきて「準じる」という意味を持った。 ［用例］ ʃcɪn ɥɪ˥ 恋人未満

ɥɪ˥ʃcɑ ［地学］準長石 1L

ɥɪ˥ʃcɪn ［名詞］カノジョ未満 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪ˥ʃe

ɥɪ˥˥ɪ ɥɪɪnɑ ［人名］ヤッカ＝ヴランド ［レベル］4 ʃ1 ［文化］ リーファ隊ハネスの本名。

ɥɪ˥ɟɪl ［名詞］教頭、副リーダー、副班長、副長、副社長 ［レベル］3 1L

ɥɪ˥ɟɔμɟuel ［電算］ニーモニック ［レベル］5 1L

ɥɪ˥ɟɔμɟelɑ ［電算］アセンブリ言語 ［レベル］6 1L

ɥɪ˥uφ ［言語］準ネイティブ ［名詞］［形容詞］半野生 ［レベル］5 μɑ;/ ʃɱ ［用例］ ˥cl˥, ɥɪ˥uɪφ ʃɪn ɟeμ ˥ə ˥ɪɒclel. 厳密には準ネイティブもであろうが。

ɥɪ˥uɔμʃ ［医療］仮死 ［レベル］4 ʃ0

ɥɪ˥ɑɪμ ［名詞］［形容詞］セミオート、半自動。銃や自動ドアなどに用いる。 ［レベル］4 μɑ;/ ʃɱ

ɥɪ˥ɑɪμφel ［軍事］セミオートマチック、セミオート、半自動 ［レベル］5 μɑ;/ ʃɱ ［文化］ φel

ɥɪ˥hɪnɒɪ ［名詞］準ハルマ ［レベル］4 1ʔ: 制 : 準ハルマ

ɥɪ˥hɔʃ ［形容詞］ほとんど、ほぼ〜だけ、ほぼ唯一 ［レベル］3 ʃ0

ɥɪ˥ɪ,ɑ ɟɔɑ ˥ɪɥɪ の対

ɥɪ˥ɪɒcɟɔ ［言語］半子音、半母音、わたり音。o,ɥ のこと ［レベル］4 1L

ɥɪ˥ɪ˥fcɪn ［名詞］カレシ候補 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪ˥ʃe

ɥɪ˥ɪ˥fees ［名詞］準決勝 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

ɥɪ˥cɑɪn ［天文］準惑星 ［レベル］4 ʃ0

ɥɪ˥enɪ ［普通動名詞］半べそ、半ベソ、半泣き ［レベル］3 ʃ0:˥ɪ˥ce

ɥɪɟ ［植物］タバコ、たばこ、煙草、シガレット、紙巻たばこ ［レベル］3 1ʔ: 制 :˥l˥ʃɪ:ɥɪɟɪ「毒の煙」 ［文化］ → ˥əzφcn 革命中は一時麻薬扱いで禁止された。 たばこはぜいたく品に分類される。そのため消費税のほかに、別途たばこ税がかかる。またその消費税には、軽減税率が適用されない。 副流煙による周りの人への健康への被害があるため、街中等公共の場所でタバコを吸うことはできない。タバコを吸うための場所が特別に用意されているので、その場所で吸うことになる。また自宅の場合は、通常家族を配慮して、人のいないところで吸う。 ［用例］ ɪμ ɥɪɟ 煙草を吸う、喫煙する

ɥɪɟ˥əz ［俗語］タバコ屑、喫煙屑、ヤニ屑 ［レベル］5 μɑ;/ ʃɱ ［用例］ ɪɪl ɥɪɟ˥əz eʃ ɑəɔ enʃɔ ɪn φɪɪʃ ɟɪʃ ɒcɑel. μe ʃcl dcɪnɔɔ˥lhɔɟ ɔ˥ ɪμ ˥ɪʃ ɥɪɟ ˥ɪ ʃɪnʃ ɪ˥ 特にヤニ屑は怒鳴りたくなるほどひどい。外で吸いたいなら灰皿携帯しろよ！

ɥɪɟɑcɑn ［名詞］吸殻→ ɑcɑn ［レベル］4 μɑ;/ ʃɱ

ɥɪɟ˥cμ ［名詞］キセル、きせる、煙管、パイプ、マドロスパイプ、シガレットホルダー ［レベル］5 1L

ɥɪɟeɟ˥ɪ ［名詞］ホタル族、ほたる族、蛍族 ［レベル］4 ɪl;/「タバコ蛍」 ʃʔ ［文化］ 屋外でタバコを吸う人のこと。ɪl ごろから喫煙者の肩身が狭くなるにつれて出現した。

ɥɪɟeld ［化学］ニコチン ［レベル］4 1L: 煙草のピリジン

ɥɪn ［格詞］［文頭純詞］そして、また、中順接 ［格詞］［文頭純詞］しかし、だが。反論の順接→ ˥ɪl ［レベル］1 古 :ɪlɥɔl,ɥɪn（等位的なものを添加、並列するときの接続詞）。ɥɪn は肯定を意味する ɥɪ からきた。 lɔɔ:lɔɔ:diɑef:ʃəlcɟɔ,ɪlʃ ［語法］ ɟɔn と違って並列するときに使う。原因結果の関係ではない。 ［用例］ ɥɪn ˥ɪ ˥əʃ. そして彼は言った。

ɥɪn(J) ［名詞］nɥɪn の異形態 ［レベル］1 ʃʃ ［語法］ 敬称。ɟ,l などで終わる単語の後に付く。ɪ˥cj → ɪ˥cɟɥɪn のように。発音は「ありしゃん」だが、正確には「しゃ」でなく「すゃ」という感じ。

ɥɪnʃ ［形容詞］中途半端な、ハンパな、悪く事足りている（＝悪い意味で１００％でない＝中途半端） ［レベル］3 ʃ1:ɥɪɒəuɪl‹1L:cɪbəɟ;μcɑcɪ

ɥɪnΛəc ［動詞］φəl をつまみ食いする ［普通動名詞］つまみ食い ［レベル］3 ʃ1ȣ

ɥɪnnɪ ［遊女］［文末純詞］ɑɪ, ɑe, ɪɪnɔ ［レベル］4 ʃ1:ɥɪ/nɔnnɔ

ɥɪu ［言語］節、クローズ ［レベル］4 1L:ɥɪ˥/uɔ˥

ɥɪɑɪl ［天文］クエーサー、準星、クェーサー、クエイサー ［レベル］5 ʃ0:ɥɪ˥/dɪ˥cɑ

ɥɪɒ ［形容詞］悪い ［反意語］μɪʃ ［レベル］1 1L: 赤 :ɥɪɪɒɔ ɥɪɪɒɔ:ɥɪɪɒɔ::ɪ˥nɪə,ɪlʃ ［用例］ ɟɔɔ˥ ɥɪɒ 悪い行い

ɥɪɒʃɔɔ˥ ［娯楽］バッドエンド、バッドエンディング、B E、B E D、B A D ［レベル］4 ul;/ ʃʔ

ɥɪɒɟcdɪl ［医療］呼吸不全 ［レベル］5 1L

ɥɪɒɑɔəʃ ［音楽］音痴、おんち、オンチ ［レベル］3 ʃ0: 悪い音程 ［用例］ ˥ɪ eʃ ɥɪɒ ɔn ɑɔəʃ 彼は音痴だ。 ˥ɪ eʃ{ʃcl} ɥɪɒɑɔəʃ 同上

ɥɪɒɒcɑnɪɒ ［医療］自律神経失調症 ［レベル］5 1L

ɥɪɒɑcɔ ［医療］虫歯、う歯、齲歯 ［レベル］2 1L ［用例］ ʃcl ɥɪɒɑcɔ 虫歯になる ˥eɪ ɥɪɒɑcɔ 虫歯を治療する→ ɑcɔ

ɥɪɒd ［動詞］φəl をぶれさせる、ブレる、ぶれる、ぶらつく、ぶらぶらする、ふらふらする、フラフラ ［魔法］ヤンプ（ブリンク）。利の低位白魔法。自分の体をブレさせ、攻撃の命中率を下げる。あまり役に立たない。 ［レベル］3 1L:ɥɪɒ/ɒɪφ/dəφ（ぶれてにじんだように見える）

ɥɪɒdɪlj ［医療］不整脈 ［レベル］5 1L

ɥɪɒdcʃɒ ［医療］肝不全、肝障害。アルカでは両者まとめて指す。 ［レベル］5 1L

ɥɪɒdcnj ［医療］乱視 ［レベル］4 1L

ɥɪɒbez ［医療］尿毒症 ［レベル］6 1L

ɥɪɒbezɒ ［医療］腎不全 ［レベル］5 1L

ɥɪɒɥɔl ［動詞］φəl を乱用する、乱用する ［普通動名詞］乱用 ［レベル］4 1L

ɥɪɒzcɑ ［医療］顎関節症 ［レベル］6 1L

ɥɪɒlcc˥ ［生物］悪玉菌 ［レベル］4 ʃʃ:μcɑcɪ

ɥɪɒɪ ［名詞］短所、欠点、欠陥 ［経済］欠陥 ［類義語］hcjeʃ ［反意語］μɪʃɪ ［レベル］3 1L:lecn;μɪʃ が μɪʃɪ になるのを参考に、ɥɪɒ を ɥɪɒɪ にした。 ［用例］ ˥ɪ ʃcl ɥɪɒɪ ɑel lecʃ. 彼女は頭が悪いという欠点がある。

ɥɪɒɪʃ ［医療］ジストロフィー ［レベル］6 1L:ɥɪɒ/Λɪnʃ

ɥɪɒɪɯcn ［経済］不況、不景気 ［レベル］4 ʃ0

ɥɪɒɪɑɔɪ ［植物］［医療］粗悪艾、粗悪モグサ μɑ;/ Ɉ0

ɥɪɒɪll ［言語］忌数、忌み数 ［反意語］μɪɟɪll ［レベル］4 Ɉ1 ［文化］ μɪɟɪll

ɥɪɒɪɪɟɒɔl ［経済］欠陥商品 ［レベル］4 1L

ɥɪɒc ［アトラスの国家］ヤミ ［レベル］5 Ɉ?:μcɑcɪ

ɥɪɒc,ɪlſ lecɟ

ɥɪɒcnɟ ［医療］弱視 ［レベル］4 1L

ɥɪɒɔɥſ ［医療］月経異常 ［レベル］5 1L

ɥɪɒe ［交通］自転車 ［類義語］uɪnφɪμɑ ［レベル］2 1?: 制 : 古 :ɥɔəhɔlɔ（二輪手動車） ［文化］ → uɪ nφɪμɑ 個人で買う人はスポーツ仕様。ママチャリは本来カレンにしかなく、Tチャリがメイン。Tチャリは駐輪場に置いてあり、アンセをかざせば使える。銀色のバーを錠代わりに自転車が留められている。アンセをかざすと使用者データがバーを通じて役所に送信され、バーが外れる。無料で借りられる。男性用は青、女性用は赤、子供用は黄色。それぞれサイズが異なる。 ライトは付いている。冬になると5時くらいで暗いため。

ɥɪɒeɪı ［交通］駐輪場 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſſ

ɥɪɒeɑɔnſ ［交通］自転車道 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſſ ［語法］ lɪnɑɔnſ

ɥɪɒeμ ［人名］ヤメール ［アクセント］ɥɪɒEμ Ɉ0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʔ9Ɉ1ʔ:ʔ1LƱ) ɥəəɒɪ ʔ1LƱ 旧アルティリア高官 ɥɪɒeμ、イクスタンがウロのもとを離れたのを機に、10歳のウロを暗殺。しかしわずか10歳のウロに返り討ちにあう 翌日 ウロはヤメール派を洗い出し、城門前でヤメール派及びその家族を引き回した上虐殺。高官の拷問は法律で禁止されており、斬首か絞首刑が量刑によって選ばれたが、ウロは拷問の末に凄惨な処刑を行った 同月 ウロに対する国民の暴動が起こる。10歳のウロは主導者 ɪnzen を単身本拠地に乗り込んで捕らえ、城門前で高官らと同じように処刑。ɪnzen 一派も処刑され、少年ウロの恐怖政治に国民は静まり返った

ɥɪɒeμcɒ ［医療］心不全 ［レベル］4 1L

ɥɪφɪɪ ［俗語］ペチャパイ、ぺちゃぱい、まな板、まないた、ちっぱい、ちっぱいぱんのちっぱい ［類義語］leczɒɪɒ ［レベル］4 ɑu 赤 : 男の胸。リディアの悪口で、オヴィがもっぱら使っていた。（確かにアシェット内ではそうだし本人も気にしているが、ふつうの日本人と変わらないと思う）

ɥɪdc ［医療］注射 ［動詞］ɥəl を ɪ に注射する、注射する ［レベル］2 古 :「 痛い針 」 ［用例］ ɥɪdc ɥɪc 痛い注射

ɥɪhɔ,ɑu hɔnɟ ɥɪ/hɔ「痛みから守る固いもの」

ɥɪɥə ［医療］毒 ［反意語］dcſɪ ［魔法］ヤユ（ポイズン）。害の低位黒魔法。敵を毒に犯し、徐々に生命力を奪う。青酸カリのような化学毒でないため、即効性はあっても威力は大して強くない。ユークで簡単に解除できる。 ［レベル］2 ɑu;ɥɪ は「痛い苦しい」ɥə は「受ける」 赤 ɥɪɥə:ɥɪɥə::ɥə ［成句］ len ɥɪɥə cb 自暴自棄 ［用例］ ſə lcl̀ſ ſcl ɥɪɥə. このきのこは毒がある。

ɥɪɥəɑɔl ［地学］鶏冠石 1L: 砒素の材料としたことから

ɥɪɥəlcl ［化学］ヒ素、砒素 ［レベル］4 1L

ɥɪɥəɪɟlɪɑɔ ［地学］ヒ酸塩鉱物 1L

ɥɪl ［医療］ワクチン ［レベル］3 1?: 制 : 古 :ɥɪdclczlə（注射の細菌） ［用例］ ɑcſ ɥɪl e l̀ɔɑɪ ɪ ～ にインフルエンザワクチンを投与する

ɥɪl,ɟzɑ ɑɔl hɥɪ/ɪl

ɥɪɪ ［感動詞］ɥɪ ［レベル］1 Ɉ?

ɥɪɪɒɔ ［形容詞］まずい、不味い ［反意語］ɪſl, lɪnſ ［レベル］2 赤 :ɥɪɪɒɔ（悪い、まずい）。ɥɪɪɒɔ は悪いの意味だが、古アルカの幻字の形を見てもわかるとおり、ベーブ（臭い）の字に似ている（向きが違う）。そのため、臭くて悪い→風味が悪くて悪い→まずいの発想で語義を獲得した。新では悪いという意味では使わない。 ［用例］ ſə bɪl̀ɒ eſ ɥɪɪɒɔ. この牛乳はまずい。

ɥɪɪɒɔ,ɑ ɥɪɒ jɪɪl;ɥɪ/ɒɔ「痛い形→悪い形→悪い」 赤

ɥɪɪɑ ［生物］［医療］阿是穴、あぜけつ、畦穴、天応穴、圧痛点、知覚過敏点、圧診点、丘診点、皮電点、良導点、トリガーポイント。畦は「あぜ」と読む。 jzl;ɥɪ/ucɑɪ「痛い穴」 Ɉ0 ［語法］［文化］ ucɑɪ

ɥɪɥɔ,ɑu ɔɔ̀n 「苦しくする」

ɥɪc ［形容詞］痛い ［反意語］nɔzl ［レベル］1 19: 制 : 感動詞で痛いは ɥɪə ［語法］ ɥɪc は口語的。「苦痛」「痛み」という意味では ucleſ。 ［用例］ ɥɪc ɥən ɑɪcz ひりひりした痛み ɪn nɪ ɥɪc ɥən ɑɪcz ɒcl dɪɑɪ. 日に焼けてヒリヒリする。

ɥɪcuɪlɟ ［医療］ペインクリニックの医師 ［レベル］5 1L

ɥɪcuɪlɪ ［医療］ペインクリニック ［レベル］5 1L

ɥɪə ［幼児］［感動詞］いたっ ［レベル］1 古 :ɥɪə はメルが怪我をして痛がるときや、リディアが嫌がるときにいっている感動詞。未だに変わらない。可愛いので幼児語に。

ɥɪlccɒ ［化学］二糖類 1L

ɥɔɟ ［動詞］ɥəl を操る、操る、操作する、制御する、コントロールする、御す ［普通動名詞］操作、制御、コントロール ［経済］運用 ［レベル］3 1?: 制 :ɥɔl

ɥɔɟɑɔnſ ［電算］コントロールパス 1L

ɥɔjdelɥɔbel ［化学］ジフェニルジスルフィド 1L

ɥɔɟɪμ ［電算］制御装置 ［レベル］4 1L

ɥɔn ［動詞］ɥəl を lel として扱う、扱う、取り扱う、看做す、見做す、みなす、見なす、待遇 ［レベル］3 1?: 制 : 古 :lɔ ɥə̀le ～「（相手を）～だと思って（振舞う）」

ɥɔucſuɔnɪnclzɔɒ ［化学］ジタートブチルペルオキサイド 1L

ɥɔɑɪɪnbezɪ ［化学］ジメチルアミン（基官能） 1L

ɥɔɑɪɪnbelſ ［化学］ジメチルスルホン（基官能） 1L

ɥɔɑɪɪnbeldɪɑ ［化学］ジメチルスルフィド（基官能） 1L

ɥɔɒc,ɪlſ uɪl

ɥɔφ ［名詞］太っ腹 ［動詞］ɥəl を気前よく使う、使う、消費する ［普通動名詞］大盤振る舞い、大盤振舞、消費、大量消費、浪費 ［形容詞］(ɥɔφɪn の形で）気前が良い、贅沢な ［副詞］贅沢に、景気よく、景気良く、気前よく ［類義語］ɔlφ ［反意語］ɥeɑ ［レベル］3 1?: 制 :ɥɔlφcl

ɥɔφl ［名詞］臼 ［レベル］3 1Ʊ: 制 : 2枚の円盤

ɥɔφel ［医療］痛風 ［レベル］4 1L:ɥɔφ/leun（贅沢病）

ɥɔd ［名詞］刺激 ［反意語］ɥeu ［レベル］3 1?: 制 : 古 :ɥɪd。元は「 痛い 」というオノマトペ。 ［用例］ ɑcſ ɥɔd 刺激を与える

ɥɔdφeμ ［植物］ワサビダイコン Ɉ0: 制

ɥɔbelc ［化学］ジスルフィド 1L

ɥɔɥɔɪnɑcd ［化学］ジエチルエーテル（基官能） 1L

ɥɔμcſ ［化学］グリコール、ジオール 1L

ɥɔl ［動詞］ɥəl を使う、使う、利用する、費やす、使用する、投入する ［普通動名詞］使用、利用 ［反意語］l̀ɪμ ［経済］消費 ［レベル］1 ɑ:elſ;l ɪl ɪl で「物」 古 :l ɪl ɪl で「物」。ɥɔ は ɥə で「～される」。従って「～される物→動作を受けるもの→使われる→（視点の転換で）使う」が原義。ただし ɑ では ɥə は sə の音なので、これだと ɑ でのあるべき語形が sɔl になってしまう。そこで ɑ において ɥɔ は語源不詳となる。 ɥɔl:ɥɔl ［用例］ ɥɔl ɪl̀lel 利用する ɪn ɥɔlɪſ ɟel ɪ lcuɪ. ファミコンに一日費やしてしまった。 ɪn ɥɔlɪſ φcl ɑc ɪ jɪc. パソコンにお金をたくさんつぎ込んだ。 ɪn ɥɔlɪſ ɒel ɪ uɛpɟ. どうでもいいことに時間を浪費した。 el ɥɔlɔμ ſə. 使用中です。

ɥɔll ［動詞］ɥəl を使い切る、使い切る、使いきる、消耗しきる、消費する、靴を履きつぶす、使い果たす、売り切る、配りきる、期限が来る ［普通動名詞］消耗、使いきり、消費 ［反意語］l̀ɪμ ［レベル］3 1?: 制 :ɥɔllc（使ってなくす） ［用例］ ſə lcdl eɟ ɥɔll. このケーキは賞味期限がきれている。

ɥɔllɪz ［料理］消費期限、使用期限 ［レベル］3 Ɉ0

ɥɔlɟ ［被服］スニーカー ［レベル］3 1?: 制 :lɪ̀ſɪ:ɥɔɟ/ləɪɟ

ɥɔlɑ ［被服］ガーター ɟɒ;ɥɔlɔ/ɑɔſ Ɉ0 ［文化］ ホーズが落ちないための紐。

ɥɔlɑɪ ［名詞］非処女 ［反意語］lcɒeeμ ［レベル］4 古 :ɥɔlɑ（使われた）/lɪnſcɟ（人） ［語法］ 俗語ではない。

ɥɔlɑɪn ［文字］ステンシル ［レベル］5 Ɉ1:ɥɔlɑɪ/en「穴の開いた」 ［文化］ 完全に閉じた部分のない文字のこと。切り傷のように裂けた穴が開いていることから ɥɔlɑɪn という。

ɥɔlɑɪnɟcɔ ［文字］ステンシルテンプレート Ɉ1

ɥɔld ［被服］ズボンつり、ズボン吊り、サスペンダー、スカート吊り ［レベル］3 1?: 制 :ɥɔlɔhɪld ［語法］ 語源はズボン吊りだが、その後少女のスカート吊りにも使われるようになった。少女はまだ尻が小さいので、サスペンダーがないとスカートが落ちることがあるため。

ɥɔllɪnφ ［名詞］使用権 ［レベル］4 Ɉ0

ɥɔlɪn ［経済］消費者 ［レベル］3 1L

ɥɔlɔ ［被服］ズボン、パンタロン、パンツ ［レベル］2 ɑu; ↓ 1?: 制 : 古 :ɥɔəlɔɔlɔ（２本の筒） ɥɔlɔ:ɥɔlɔ ［語法］ 下着の上に履くもので、日本語のズボンと同義。男性服で、女は着ない。但し、スポーツウェアないし作業服としては着ることができる。平服としては着ない。

ɥɔlɔuɪ ［言語］用例、例文、文例 ［名詞］使用例、サンプル ［レベル］3 Ɉ1

ɥɔlɔɒ ［名詞］使い方、使用法、用法 ［言語］語法 ［レベル］3 1Ʊ: 制 : 使う方法

ɥɔlɔl ［経済］消費財 ［レベル］5 1L

ɥɔleɪ ［言語］アフォーダンス ［レベル］6 Ɉ0:ɥɔl/eɪc

ɥɔleɪɥəɔ ［言語］転換動詞 ［レベル］6 μɑ;/「アフォーダンス動詞」 Ɉ?

ɥɔləzɪɟl ［化学］シュウ酸 ［レベル］5 1L

ɥɔɪ ［形容詞］便利な、使える、役に立つ、ためになる、便利、楽な、手軽な、使い心地の良い、便利だ ［反意語］enɔ ［レベル］2 1?: 制 : 古 :「 使う ɥɔl」 ［語法］ 人にも使えるが、失礼。 ［用例］ μɪφnɪ ɥɔɪ 便利な機械

ɥɔìcɒ ［アトラスの国家］ヨアキム ［レベル］5 Ɉ?:μcɑcɪ

ɥɔɪn ［化学］エタン ［レベル］5 1L:μɥəə

ɥɔɪnɪɔj ［化学］アセトアルデヒド（基官能）、エタナール ［レベル］5 1L ［文化］ 酒のエタノールを分解するとアセトアルデヒドになり、紅潮や二日酔いと関連するようになる。という知識で進学校を出たアルバザード人は一般に理解している。

ɥɔɪnuɔnɪndɪɑ ［化学］エチルブチルエステル（基官能） 1L

ɥɔɪnɒəedɪɑ ［化学］酢酸エチル、エチルアセテート 1L

ɥɔɪnbeɪɟ ［化学］アセトアミド、エタンアミド（基官能） 1L

ɥɔɪnɥɔμcſ ［化学］エチレングリコール（基官能） 1L

ɥɔɪnɟecl ［化学］エタンチオール、エチルメルカプタン 1L

ɥɔɪnləzɪɟl ［化学］酢酸、エタン酸（基官能）→ ɒəeɪɟl ［レベル］4 1L ［文化］ 酢の化学名として知られる。長いのでふつうは ɒəeɪɟl。

ɥɔɪncɒdcdɪɑ ［化学］ギ酸エチル→ ɑcɪdɪɑ 1L

ɥɔɪlɔſɟ ［電算］ＷＩＮキー ［レベル］4 Ɉ0

ɥɔcn ［化学］エチレン ［レベル］5 1L:μɥəə

ɥɔɔ ［感動詞］［ben］よぅ、よぉ、よう、よう ［レベル］2 古

ɥɔɔɟ ［動詞］ɥəl をやり直す、やり直す、取り戻す、改める ［レベル］3 1Ʊ: 制 : 古 :ɥɔɔɟ（２度する）

ɥɔɔn ［化学］エチン、アセチレン ［レベル］5 1L:μɥəə

ɥɔə ［名詞］古アルカの２ ［レベル］3 赤→ jcɑɪll

ɥɔə(J) ［名詞］重複、被り、ダブリ、だぶり ［形容詞］重複した、二重の、だぶった、ダブった、ダブる、だぶる、ダブル ［レベル］3 古 :ɥɔə（数字の J）

ɥɔə,lɟl J ɑcɥɔ.l

ɥɔəlɪld ［言語］二重把握 ［レベル］6 μɑ Ɉ1 ［文化］ nɪ̀lelɑɑel

ɥɔəɑ ［アイテム］フォーク zφ;ɥɔə/ɑəəφc「二股の槍」。農具から転じた。 Ɉ0

ɥɔəɒ ［被服］キルト、キルティング、掛け布団 ［レベル］5 古 :μcɑcɪ:ɥɔəɒ（キルト） ← ɥɔə(J)/ɒelc（糸、縫う）から。キルトが２枚の布の間に綿などを入れて縫う防寒具であることから。

ɥɔəeejſe ［言語］重複エーステ ［レベル］6 Ɉ? ［文化］ → eejſe

ɥeſ ［名詞］問題、プロブレム、厄介、始末に悪いこと、始末におえないこと、始末が悪いこと、トラブル ［形容詞］厄介な、問題な、問題のある ［類義語］jlcɒ ［レベル］3 1?: 制 : 古 :ɥɪnſſ 痛いところ 」 ［語法］ 試験に出てくる問題は l̀ɔɔɔj。 ［用例］ leɑ ɥeſ つつがなく、恙無く、恙なく、問題なく ɥeſ ſcn 大きな問題、ビッグプロブレム ſə ſcl ɥeſ ɪləəſ nɪ. 何か問題があるに違いない。 ɪn ɥɪlſɪſ ɑl ɥeſ. ſɪl ɪn ɑleμſ ſə ɒɪn ſə ɑe ɥɪl. 問題を解説しなければならなかったが、急ぐ必要はなかったので後回しにした。 ɪn ſcl ɥeſ l'ɪn ɑμɔɒ ɑɪl. 考えなければならない問題がある。 ſə eſ ɥeſ lel ɔɒ ɪnɟ ſɔɔl ſə lɪb. 問題はいつその仕事を終わらせるかということだった。 ɪn ſclſſ eɒ ɥeſ ɒcl lɪ. 彼のせいで厄介事に巻きこまれた。

ɥeſɒɪn ［名詞］トラブルメーカー ［レベル］4 1L: トラブルの原因 ［用例］ lɪ eſ ɥeſɒɪn ſeμ. 彼はトラブルメーカーだと言われている。

ɥeſɥəlc ［名詞］問題児 ［レベル］4 μɑ;/ 1L ［用例］ ɑɔjcl, bɪz, ɥeſɥəlcſ このやろう、てこずらせやがって！：てこずる、手こずる。この場合、子供とは限らない

ɥeſμjccl ［名詞］問題親、モンスターペアレント、モンペア、モンペ ［レベル］4 μɑ;/ Ɉ0

ɥel ［生物］肉 ［反意語］ɥəlɪ ［動詞］ɥəl（動物や魚の皮など）を剥いで調理できる状態にする、剥く、むく ［レベル］2 1?: 制 :ɥɔl（皮）: 古 :ɥəəlɪ（皮剥ぎ刑） l̀ɔɒɒɪ::lɪ jɪlenɑ ［語法］ 動物の場合、肉（ɥel）に対して皮（ɥəlɪ）がある。植物には、実（uecl）に対して種（lɒc）と皮（jſec）がある。 ［用例］ ɑɪc ɥel 肉を焼く

ɥelbel ［料理］肉料理 ［レベル］3 1L

ɥelɪ ［植物］ふすま、麩、麬、フスマ。食べ物の。食品の「お麩」のことではない。 ［レベル］6 1ʔ: 制 :ɥel/dɪjſ

ɥej ［交通］コース、進路、課程、順路、行く道、行き道、課程、ルート、道筋、道すじ、道を尋ねるなどの道 ［レベル］3 jɔμn:ɥej（順路） ［用例］ ɥɒ ɥej 道を尋ねる、道を聞く ☆ lc ɥej e ɥəlc, ɪn l̀eſ ɥej e ɒɪlſ. 初級コースの後、中級コースへ行った：場所としてのコースは ɥej、レベルとしてのコースは ncɑ。 ɪn l̀eſ ɥej e ɒɪu ɒcɟlɪnel. 上級コースを滑ってみた。 hɪɟ{ſel} ɥej コースに従う｛逆走する｝ ſcɑl ɥej コースを外れる ☆ ɪn nɪɒſlſ ſcɑl ɥej. コースを外れないように気を付けた：μecz は道に迷うこと。ſcɑl ɥej はスキーやボーリングなどでコースを外れること。スキーで μecz といったら、コースを外れたというより遭難したの意味になる。なお、ボーリングで μecz はありえない。

ɥejſelſ ［アトラスの国家］イェステルト ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: 道となる土地 ［文化］ レイユでアデリックから独立。

ɥenφ ［魔物］イェング（毒蜘蛛）：第九十四天：害の空天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:ɥɪɥə/ɑenφ ［文化］ 蟲族。兎ほどの大きさの毒蜘蛛。洞窟や森に巣を張り、人や家畜をも引っかけて食い殺す。毒牙にかかるとたちまち動けなくなる。

ɥenφɒɪcn ［天文］毒グモ星雲 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel ［文化］ ɥenφɪ

ɥenφɪ ［天文］大マゼラン銀河、大マゼラン星雲 ［レベル］6 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel ［文化］ 毒蜘蛛の魔物 ɥenφ の巣のように見えることから。なお、ɥenφ 本人はそこから少し離れた ɥenφ ɒɪcn にいる。面白いことに ɥenφɒɪcn の地球での名前も「毒グモ銀河」。確かに蜘蛛に見える。

ɥeu ［名詞］反応 ［反意語］ɥɔd ［レベル］3 @ 1L ［用例］ ɑcſ{deɑ} ɥeu 反応を返す

ɥeuſəlɑ ［化学］反応熱 ［レベル］5 1L

ɥeuμɪn ［化学］化学反応式 ［レベル］4 1L

ɥeuμeμɪ ［化学］官能基 ［レベル］6 1L

ɥeɒ ［動詞］ɥəl を ɔn について参考にする、参考する、参考にする、参照する ［普通動名詞］参考、参照 ［レベル］4 古

ɥeɑ ［名詞］質素、吝嗇、倹約、ケチ、けち、省～ ［動詞］ɥəl を倹約して使う、使う ［形容詞］(ɥeɑɪn の形で）質素倹約な、質素な、倹約な、ケチな、けちな ［類義語］enɑc、l̀ɪlɔn ［反意語］ɥɔφ ［レベル］3 @ 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſſ ［文化］ アルバザードは倹約が基本である。なるべく無駄遣いはしない。

ɥeɑzɔɒd ［環境］省資源 1L

ɥeɑlɪbɪ ［環境］省エネルギー、省エネ ［レベル］4 1L

ɥez ［植物］ツタ、つた、蔦 ［レベル］4 古

ɥel ［音楽］半音 ［レベル］3 1L: 制 ce

ɥel,ɟzɑ jɪnl ce,ɑ.l

ɥelɪn ［生物］［医療］帯脈 jzl;/。流注が体の正中線から外れて左右にあることから。 Ɉ0

ɥeɭɟɪɥ ［音楽］ナチュラル ［レベル］4 1L

ɥ

ɥɐlɹɔɟ ［音楽］シャープ ［レベル］4 1L

ɥɐlhɪɔʃ ［音楽］フラット ［レベル］4 1L

ɥɐɐuɐl ［人名］イェーヴェル ［組み数字］１５/１６ ［レベル］4 ɒɐlʃɔɪ ᗺL:ɪɥɑə/ɐɟɪ;ɐ 古 ［文化］ ɐjɪ エスタの第１５子。女。

ɥə ［法副詞］～される。受動態（態はないので受身の文が正確だが）を作る副詞。 ［動詞］ɥəl を受ける、受ける、受け取る、もらう、貰う ［類義語］ɥəu、ɒɔl、ɥəlɔl ［レベル］1 ɑu;sə,ɑ. l ᗺ←古 :sə。メル 1? 年の幻日に受動態の ɥə に関する例や説明が一切出ていないので ᗺ 年初出である。 sə, ɥə:ɥə: ［語法］ 受身の文を作るには、動詞の後に ɥə をいれ、ɟɔl と ɥəl を交換する。 ɪn ɟccnɪ ʃc = ʃc ɟccnɪ ɥə ɪn ［用例］ ɪn bɪɑɪʃ ɥə lɪ. 彼に叩かれた。 ɪn ɥəʃ heɪ. 手紙を受け取った。

ɥə,ɪlʃ ɥəl <>sə

ɥəʃ ［接続詞］～による、～によって、よる、による、によって、によって作られた ［レベル］2 1ᗺ: 制 : 古 :ɥə（受ける）から。ɥəʃ は古では「～であるかのような」という意味。 səsə:səsə ［語法］ e ［用例］ ʅlel ɥəʃ jeɥen ɪɥbɪzɪɥɑ セレン＝アルバザードによる辞書

ɥəʃ(ɹ) ɥə/ɪʃ

ɥəʃɪ ［動詞］ɥəl を受け入れる、受け入れる、受ける、受理する、引き受ける、合意する、受容する、引き取る ［普通動名詞］受け入れ、合意、受理、引き受け、受容 ［反意語］ɥəlc ［レベル］2 1ᗺ: 制 : 古 :ɥə から ［文化］ lcɥə ［用例］ ɥəʃɪ ɔɔɟʃ 死を受け入れる ɥəʃɪ aɪɪɥ 朝を迎える。詩的

ɥəʃɪʃɪ ［アトラスの国家］ユタタ ［レベル］5 1L:ɟcɑcɪ:「幾度も戦禍にあった」

ɥəʃɪʅɔn ［名詞］受容体 ［レベル］6 ɹɹ

ɥəʃɪn ［魔法］導既体 ［レベル］6 ɹɹ:ɥəʃɪ/ɪn ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɥəʃɪɔ ［人名］ユティア。大召喚士リディアの呼称。 ［人名］ユティア家。カイン、ミロク、アルテナ、アリシア、ミーファの姓。レインも同じ苗字。 ［レベル］3 ɟcɑcɪ: 古 :「 神に愛された 」 ［文化］ ミロク以降、ユティア家の人物にはそれぞれ特徴的な呼称がある。 ミロク :「神の御子」: 人々に神と崇められたことから。 アリシア :「亜麻色の乙女」: 隔世遺伝でかなり異なった容姿を持って生まれたことから。ちなみに、おてんばだったことから、亜麻色とかけて「暴れ馬の尻尾」とも。 アルテナ :「天使の翼」: 人徳があり、美しく、女優としての演技が舞うように華やかだったことから。 ミーファ :「人徳の月姫」

ɥəʃɔɪ(ɹ) ［形容詞］リディアの望むような ［反意語］ɯɪnɑɔʃ ［レベル］4 μɑ;「(リディアに）愛される」 ɹɹ ［語法］［文化］ セレンの唯一にして最大の価値観。セレンは物事を行うとき、常に「これをやっている自分をリディアは望むだろうか」と考える。「今の自分はリディアから見て好きなタイプの男か」と考える。この考え方は中学生くらいのころからあり、特に２０１３年１月２９日なりたての深夜４時ごろに唯一絶対の価値観として昇華したものである。 元はリディアが子供のころから「セレン君が見てなくても、もしセレン君が見ていたらセレン君は今のわたしをどう思うかと考えて生きている。だから誰も見ていなくてもわたしはセレン君に恥じないような生き方をしている」と言って実践してきたのが先で、それをセレンが真似したのが事の始まりである。セレンがリディアの真似をしてこの概念に価値を見出したことでこの概念を指す単語が必要になり、ɥəʃɔɪ が生まれた。そしてその反意語の ɯɪnɑɔʃ が生まれた。同時に、ɥəʃɔɪ ができたことで逆にセレンから見た理想のリディア像に適うようなという意味の jeɥejʃ と ɪlʃeɥejʃ（翌日 ɑcɒɪnʅ に変わる）が生まれ、話を聞いていたメルが「じゃあ私も」と言って bellʃɔn と ɪlbellʃɔn を作った。 ɥəʃɔɪ の価値観を正式に採用してからのセレンは、リディアが見ていなくても誰も見ていなくても居住まいを正している。家の中でもだらしない格好をせずにパジャマなどでうろうかまず、小奇麗な格好でいる。外に出るときも身なりを正し、素行も他人に対して丁寧で優しい。性格は優しく、怒らない。これは他人のためにしているわけでも自分のためにしているわけでもなく、ただひたすらリディアが望むセレン像を維持するために行なっていることである。セレンはしばしば持たざる者に施し弱きを助けて強きを挫くが、これもまたリディアが持つ理想像に適合するために行なっていることで、そこにリディアの目があろうとなかろうと関係ない。リディアが心の中の神となり、いつでも自分を見ているという気で生きている。リディアの基本的な男の好みは「強くて優しくて頭良くてカッコいい」なので、とりあえずセレンはこれを満たさねばならない。その上で細々としたリディアの要求に応じなければならない。ただしリディア本人は自分の理想は高くないと思っている。リディアにとってそれくらいのことは当たり前で、逆に言えば自分も高いレベルのハードルを自分に課していることを示唆している。 リディアも同様で、常にセレンという心の中の神に見られているように意識し、絶対に下品な行動を取ったりせず、清楚で女の子らしくいる。身奇麗でつましやかで知的で清純でいる。人がいようがいなかろうがリディアはそうしている。常にセレンに見られている気で生きている。 セレンもリディアもお互いが自分をどう見ているかしか気にせず生きている。だからそこに他人がいようがいまいが関係ない。言い換えれば他人の目を気にしない。相手の理想像が世間の理想像に合わず物笑いにされたとしても一切気にしない。 この相互理想像維持の生活が成り立つのは、ひとつにはふたりの異性に対する理想像が幼少期から変化しないことが原因として挙げられる。セレンもリディアも一度気に入ったものはまず生涯変えないし、子供のころから好みや善悪などの価値観が殆ど変わらないタイプの人間である。そのことが互いの理想像を一定に保ち、互いにとって理想の自分を維持しやすい理由になっていると思われる。 セレンもリディアも自分を根幹とした信念がなく、自分を信じていない。自分を拠り所にしない。お互いに相手を想い、相手のために良い理想の自分を作り維持しようと考える。ふたりとも自分で自分の理想像を持っていないし、自分のためだと頑張れない。自分で自分の理想像がなく、愛する人の理想像に理想の自分を見つける。愛する人のためだと思うから面倒でも辛くても頑張れる。これは遠距離恋愛が可能にした、愛情を越えた一種の信仰ではないかと思われる。 ＜リディアの理想像＞ 以下は ɹɹ（２０１３年２月１５日）にリディアにインタビューして出たリディアの理想像であり、その時点のセレンはほぼ要件を満たしていた。 まず大原則として強くて優しくて頭が良くてカッコいいことが前提。その上で様々な要件がある。義憤を感じ、他人のために怒るが、しかして感情は爆発させない。正義感があり、悪を許さない。自分の正義を確固として持っている。人が決めた法律に唯々諾々と従わず、自分の正義感に忠実である。理不尽なことをしない人。相手によって態度を変えない人。髪は長めで肩近くまで来る。酒は飲み過ぎないが下戸もカッコ悪いので、たしなむ程度には飲む。酒は飲んでも飲まれない。飲む酒はラム酒、ワイン、ビールならギネスか瓶ビール、日本酒なら夢幻（これはセレンにとって旧友の思い入れがあるから）。特にラム酒のカッコよく似合う人がいい。ただし聖職者を好む彼女からすると聖職者らしく酒を常飲することは許されない。身だしなみが清潔で身奇麗にしており、だらしない格好をしていない。素直になれないくせにいやに利他的でついつい人を助けてしまう心の優しさを持っている。素行は丁寧で優しいが、実は強く、幼い頃にやんちゃをしていて更生しているため、怒らせると半端無く怖いが普段はそうとは分からないほど優しく人に接している。元不良だが更生して過去の罪を償っている。戦闘術に長けていて強い。クロスバイクを乗りこなして自分の足でどこまでも行ける。身長は１７２ｃｍ前後で体重は６５ｋｇ前後。それより大きいとかえって気持ち悪いし、小さいのは論外。細マッチョ必須で、腹が出ているのはアウト。他人にはほどほどに優しいが、リディアには特に優しい。たまにリディアをからかうような悪戯っぽい素振りを見せる。女の子に言い寄られるといい年して恥ずかしがって初々しい。でもたまに女の子をからかうような発言をすることもある。ただ決してリディア以外には愛情を注がず、心の底からは靡かない。清貧で身綺麗で贅沢を嫌う。集団に属することを嫌い、孤高に生きる。売れない学者や芸術家や医者であるとなお高潔で良い。人に施し自分は質素に暮らし、金満を嫌って地位や名誉には靡かない。性格は穏やかで怒らず、でも芯は強い。他人のためには怒るが自分のためには怒らないし、怒っても感情を爆発させない。静かで綺麗な音楽を好む。暴飲暴食をしない。ジャンクフードなどに手を出さない。健康に気を使う。年の割に若々しい。静謐な雰囲気を好み、そのような文芸や音楽を嗜む。人の悲しみに共感できる。泣き上戸で感情豊か。感受性が強く綺麗な心を持っている。高尚なものを好み俗物で低俗なものを避ける傾向にある。深く狭く人と付き合うタイプである。友達は少ないが親友は多い人。生真面目で誠実である。タバコは吸わない。運動習慣があり、健康である。知的で、色んなことを知っていて、頭の回転が早い。下ネタが苦手で、そういうことは言わない。でも性的なことを一切遮断はせず、リディアが望むのに応じて持ち前の精力の強さを見せる。子供を可愛がり愛するが、リディア以上には愛さない。猫を好み、小動物や弱い者に優しい。逆に悪しき強きを挫く。身銭を切ってでも他者を助ける。平生から学術書を読んでいて理知的。だがそれを人に自慢はしない。他人に対しては過度にオープンでもなくクローズドでもなく付かず離れずを保つ。黒のトレンチコートがトレードマークである。それ以外は灰色系の服を着ていることが多い。 ・武力について 格闘技や戦闘術や武道に長けているとよい。ただし柔道はデブで汗臭いイメージなので男としてはアウトで、合気道は弱すぎるので男としてはアウトで、ボクシングみたいにボコスカあほみたいに殴り殴られ続けるのはグローブなしの実戦では考えられないし防御もグローブ頼りだし優雅でなくがさつで泥臭くかっこ良くないという。 スマートな打撃や制圧するための柔法の護身術系がティアベールとしては一番という。ユベールとしてはナイフや銃を使った戦闘術が最も実戦的でかつスマートでカッコいいと言う。銃火器の扱いを知っていると良いが、小銃は個人的にカッコよく思えないという。拳銃が最もカッコよく感じるというが、リディアは銃そのものが好きではないので、拳銃を所持していることがカッコいいとは感じないようだ。 ・乗り物について 車はセダンで、痛いスポーツカーや軽ではない。バイクに乗れ、ɩɥɒn にまたがって颯爽としているとカッコいい。ただしリディアはファルディアス＞自転車＞バイク＞車の順でカッコいいと思っているとのこと。自分の力で進む自立した男らしさが好きなので、バイクや車のように機械の力に頼りきって自分はアクセルを踏むだけというのは依存していてカッコ悪いし体力のない女でもできることなので全くカッコよく感じないらしい。「セレン君がバイクに乗ればそりゃカッコいいけど、クロスバイクで自分の力で走ってたらもっとカッコいいよね」と言っていた。車は暑さ寒さもないし女でも簡単に運転できるのでフェラーリだろうとベンツだろうとトヨタだろうとカッコいいと思わないらしい。バイクは環境が厳しいので車よりはカッコいいが、「自分で走ってるわけじゃないじゃん。ガソリン頼りで、ガソリン切れたら何もできないし」と言っていた。 自転車はママチャリはリディアは見慣れてないし日本のおばちゃんというイメージがあるので却下だそうだ。ロードレーサーは舗装道に頼りきっているので敷かれたレールの上しか走れないのがアウトローさがなくてカッコよくないらしい。マウンテンは逆に舗装道で劣るので、結局クロスバイクが一番カッコよく映るとのこと。 ちなみにファルディアスが乗り物の中では最もカッコいいと思っているようだが、架空の魔法の乗り物なので現実のセレンには求めないし求められないとのこと。なので事実上クロスバイクが一番らしい。 ・スポーツについて 意外にも格闘技をカッコいいと思っているわけではないらしい。基本的に殴る蹴るは見苦しいと思っているし、かといって柔道みたいな取っ組み合いもむさ苦しいと思っているそうだ。柔法で軽やかに相手をいなすのが一番スマートでカッコいいと思っている様子。 それを除けばパルクールがカッコいいと思っているようだが、パルクールの技がカッコいいわけであって、やっている人間には憧れないとのこと。というのも、基本リディアは落ち着きのある人が好きなので、ぴょんぴょん飛び回ってるのはダサいと思うそうだ。 結局リディアの中でスポーツは学問や芸術ほど評価が高くないらしい。 ［用例］ ɪn jɔ elɑ bɪn ʃə ɑe ɥəʃɔɪ. リディアが望まないからしない。

ɥəʃɔɪɟel ［歳時記］召喚の日 ［レベル］3 ɹɹ ［文化］ リディアが召喚士として覚醒した日。zɪn ʅən。 この日は召喚士の格好をしたコスプレで召喚士の真似事をして遊ぶ。一種のハロウィンのようになっており、一番の定番はリディアのコスプレをすることである。リディアはヴァストリアが多いので、コスプレイヤーとしてはやりがいのある内容となっている。 小説版アンクノット第三巻の８・８（土）に、リディアの召喚士としての目覚めについて触れてある。曜日から９９年と分かる。

ɥəʃɔɪɥɪɥɒɪ ［歴史］［軍事］第二次世界大戦、ユティアガルマ ［レベル］3 ɹɹ: ミロクが起こした戦争第二弾だが、先のものに bɔɟɔʅɥɪɥɒɪ と名付けてしまったので弁別するために今度は苗字を用いて ɥəʃɔɪɥɪɥɒɪ としたもの。実際その後の世界において連合国はユティア家との対立になっていくわけだから、案外言い得て妙。

ɥəʃɔɪczeɒ ［政治］ユティア朝 ［レベル］4 ul;/ ɹʔ

ɥəʃɔ ［アトラスの国家］ユト ［レベル］5 1L:ɟcɑcɪ: ユト族の

ɥəʃe ［言語］受動、受動態 ［反意語］ɟɔʃe ［レベル］4 ɹ0:「されるような」

ɥəʅ ɥə/cʅ

ɥəʅɪ ［名詞］檻、オリ、カゴ、籠、篭、ケージ、独房、牢屋、監獄、留置場、留置所 ［建築］１Ｋ、１Ｒ、ワンルーム ［レベル］3 古 :ɥəʅɪ（檻）。元は ɥənʅɪl（ユンクの場所）。 ::lɪcn

ɥəʅɔ ［名詞］囚人 ［レベル］3 μɑ; ↓ ɹʔ<ɥəʅɪɔ.l 1L:ɟcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ::lə uɔlɥ

ɥəʅɔɑɪl ［法律］懲役、服役 ［レベル］4 μɑ;/ ɹʔ

ɥəʅe,ɑ ɥən ɑ;ʅe は「方向」だが、ここでは特にその意味はない。ɥə 自体に比況の意味があり、他の語と区別するために ʅe を付けた。 赤

ɥəʅɟ ［農耕］［普通動名詞］脱穀 ［動詞］ɥəl（穀物）を ɪ（脱穀された穀物）に脱穀する、脱穀する ［レベル］4 μɒ;ɥəəlɪ/ɟɔ「皮する」 ɹɹ

ɥəʅɟɪɥ ［農耕］脱穀機 ［レベル］5 μɑ ɹɹ

ɥəʅl ［形容詞］控えめな、大人しい、弱腰の、自信なさげな ［反意語］ɔɔlʃe ［レベル］3 ɹ0:ɥən ʅlɪn。1L までは φcμ。ɑɪlj,ɑɪlʃ,ɑɪlʅ と似たのが多かったので離した。

ɥəʅlejcʅɪ ［地名］ユクレシカ ［レベル］4 ɹ0: 古スカルディア語「北の山間の」 ［文化］ ɥəəɒɪ ʔʕɹ0 にシフェラン率いる竜騎兵隊がカルセール西部を制圧し、その土地に建国したもの。その後 jɔpnɪ と ʃənɪɟ に分かれることとなる。この国ができたことでカルセール内の首都名だったヴェマは国名になる。

ɥəʅlejcɪ ［人名］ユクレシア ［レベル］4 ɹ0:ɥəʅlejcʅɪ ［文化］ (ɥəəɒɪ ᗺɹʔ) カコ中期のルティアの大魔導師。アルシアの１１魔将の師匠。 ɥəəɒɪ ʕΔ1ᑫ ルティアから大魔導師 ɥəʅlejcɪ がアゼリアに招聘される。引き換えにレスティルはルカリアに経済的援助を行う ɥəəɒɪ ʕΔJJ ユクレシア、lɥəəl 研究所をレスティリア城郊外に置き、宮廷魔導師の養成を行う ɥəəɒɪ ʕΔ?L ユクレシアがダイズアイライの二次感染が魔族 ɪlɑclcʅ や ɪμuɪcn による疫病と類似していることに気付き、ɑczcɪ（病原菌）の存在を仮説として立てる。ɑczcɪ の駆除は清潔にすることであると説き、実証のため、比較的人口が少なくかつ症状の出ていた地方都市アルシアに出張する ɥəəɒɪ ʕΔᗺ1 ユクレシア、アルシアでのダイズアイライの駆除に成功。同時に病気の感染も減らし、ɑczcɪ 理論が正しいことを証明する。ここから、実験をさらに実証するため、ユクレシアは地方都市へ次々と行き、ダイズアイライの駆除を行う ɥəəɒɪ ʕΔᗺᗺ ユクレシア、地方都市のダイズアイライを駆除しおえる。首都レスティリアはなまじ人口が多いため、駆除が困難であった

ɥəʅɪ ［生物］皮 ［動詞］ɥəl の皮を剥がす、剥がす、はがす、はぐ、剥ぐ、むく、剥く ［類義語］ ɟʃec ［レベル］2 ɑ;e 古 :ɥəəʅɪ（皮剥ぎ刑） ɥəəʅɪ:ɥəəʅɪ:lə ɥəəʅɪ（肉の対）:ɥəʅɪ,ɪlʃ, ɥəʅɪlə,ɪlʃ ［語法］ 植物の皮は ɟʃec。 ［用例］ ☆ jcμ ɪʃ ɥəʅɪ bcl dɪμd μɪl. 日に当たりすぎて皮がむけた : ɥəʅɪ を名詞として捉えないこと。もっとも、その場合は文意が破綻するので、その心配はないが。

ɥəʅɪʃ ［電算］ラスター、ラスタ ［反意語］ɪnɔd ［レベル］6 ul;ɥənʅɪ/eʃ。格子状になった各座標に位置するデータからできていることから。 ɹɹ

ɥəʅɪʃʃel ［電算］ラスターデータ、ラスタデータ ［レベル］6 ul;/ ɹɹ

ɥəʅɪʃclɪ ［電算］ラスター画像、ラスタ画像 ［レベル］6 ul;/ ɹɹ

ɥəʅɪɟ ［法律］拘留、拘置、強制収容 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɥəʅɪ（檻）

ɥəʅɪɟlɪ ［法律］拘置所 ［レベル］5 ɹʅ

ɥəʅɪlc ［魔法］［哲学］巫女、縁、みこ、ゆかり ［アクセント］ɥəʅɪlꞓ ［レベル］3 jb;ɪlʃ<ɥəəɪ/ʅɪl ɹʅ ［文化］ hcnɪɪʃ

ɥəʅɪlə,ɪlʃ ɥəʅɪ（剥ぐ） ɥəʅɪ

ɥəʅc ［動詞］ɥəl を拒絶する、拒絶する、断る、ことわる、絶つ、受け入れない、拒む、採用しない、非合意である、却下する、阻却する ［普通動名詞］拒絶、不採用、非合意、却下、阻却 ［反意語］ɥəʅɪ ［レベル］2 @ 1L ［文化］ lcɥə ［成句］ lej ɥəʅcʃ ɥə ɑcɪ ɥəʅc ɑlen ɑcɪ. 世界から拒絶された人間は世界を拒絶していい（μcɑcɪ ləʃcɪ）→ jeμʃoen ［用例］ ɪɪselj eʃ ɑəɔ ʃcnʅɪ ɑɪ. el ɥəʅc ɑc uɪμʃ cɒ ɪɪs le. 選ぶというのはとても残酷なことだ。その影でたくさんのものを拒絶しているのだから（jeμen ɪμbɪzɪμɑ）

ɥəʅc(J) ［言語］［文字］標準京極書体、ユキ、漿京極、漿果京極、苺京極 ［レベル］4 ɹɹ:ɥəʅc(J),ɪlʃ ［文化］ サンセリフの京極書体。ロゴやＰＣでの文字表示などに用いる。

ɥəʅc(J),ɪlʃ ɒelcʅ、苺、野いちご

ɥəʅc,ɑu ɑccnɪ–ɑcɪn jɪɪμ; 現 uɒɒɪ 地方原産

ɥəʅc,ɪlʃ ɪlɪ 「落ちるところ」

ɥəʅcn ［魔法］不導体 ［レベル］4 ɹʅ ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɥəʅcnɪ ［人名］ユキナ ɹ0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ᗺΔLᑭ:ᑭᑭᑫ) メルテナ後期の神商会会長。ᑭᗺL1 にペティの摂政となる。

ɥəʅən,ɪlʃ ɔɒcʃ

ɥəʅəə,ɪlʃ ɒeʃ, ɒcɒ

ɥəʅɪ ［化学］不飽和 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:ɒɥəʅɪ

ɥəʅɪʃ ［医療］［哲学］君 jzɑ の 'ɥəʅɪʃ から ɹɹ

ɥəʅɪʃφμɒ ［医療］君火、くんか jzl;/「君子の火」 ɹɹ ［文化］ ɑelcɟ

ɥəʅɪʃcl ［医療］君薬 jzl;/ ɹɹ

ɥəʅɪμʅ ［化学］不飽和結合 ［レベル］5 ɹʅ

ɥəlɪɪpʎənɔ ［化学］不飽和炭化水素 ［レベル］5 1L

ɥəlɔl ［動詞］ɟɔl は ɥəl を ɔ から賜る、賜る、たまわる、賜わる、ちょうだいする、頂戴する、いただく、頂く、戴く、もらう、貰う ［類義語］ɥə ［レベル］3 ʃʃ:ɟɔɕɔɪ:ɥə/ʎɔlɔ「慈悲を得る」

ɥəleʃ ［名詞］母語が互いに異なる多くの人々で構成される集団、ユシェット ［レベル］5 ɟɔ:ɥən/ɪleʃ「アシェットのような」 ʃʃʃ

ɥəɟ ɥə/eɟ

ɥəɟʃɔ ［形容詞］個別の、個別に、一人一人、ひとつひとつ ［形容詞］小分けの、すこしずつ、小分けに、こわけに、少しずつ、分包の、逐次 ［医療］［形容詞］薬が分包になっている ［反意語］ɟɔɑeʃ ［レベル］3 ʃ0: 恣意 ［成句］ ɥɔl ʃ ɥəɟʃɔl hɪɪɟ lɪnɪ ʃ を目的に応じて使い分ける

ɥəɟʃɔɕuen ［電算］インタプリタ、インタープリタ、インタープリター、インタプリタ言語 ［反意語］ɟɔɑeʃɟuen ［レベル］6 ul;/。ソースコードを逐次訳していくことから。 ʃʃʃ

ɥəɟuɪɟ ［動詞］ɥəl を見逃す、見逃す、見過ごす、看過する ［レベル］3 ʃʃ:ɥəəɟ uɪɟ「通らせる」

ɥəɟɔɑeɟ ［名詞］ユシフェール、アルシアの１１魔将 ［アクセント］ɥəɟɔɑEɟ ［レベル］6 ʃ0 ［文化］ ɥəəɔɪ ʕΔΔ1 はじめは季節ごとに訪れて研究発表をしていた所長たちだったが、そのうち自分たちの研究所よりもここで仲間と研究しているほうがはかどると感じ、ɥelɔɪɟe で暮らすことに決める。ɥelɔɪɟe は手狭だったため、アルシアの ɥəɟɔɪ と ɥelɔɪɟe をいちど壊し、ɥəɟɔ ɑel 研究所を設立。これにより国内には 10 の ɥəɟɔɪ と 1 の ɥəəl ができた。所長ら 11 人は ɥəɟ ɔɑeɟ（アルシアの 11 魔将）を名乗り、首都アルナでは ɪlɟɔɪ の名で親しまれるようになる

ɥəɟɔɑel ［ランドマーク］ユシフェル研究所 ［レベル］6 ʃ0:ɥəʃleɟɔɪ/ɑel ［文化］ ɥəəɔɪ ʕΔΔ1 はじめは季節ごとに訪れて研究発表をしていた所長たちだったが、そのうち自分たちの研究所よりもここで仲間と研究しているほうがはかどると感じ、ɥelɔɪɟe で暮らすことに決める。ɥelɔɪɟe は手狭だったため、アルシアの ɥəɟɔɪ と ɥelɔɪɟe をいちど壊し、ɥəɟɔɑel 研究所を設立。これにより国内には 10 の ɥəɟɔɪ と 1 の ɥəəl ができた。所長ら 11 人は ɥəɟɔɑeɟ（アルシアの 11 魔将）を名乗り、首都アルナでは ɪlɟɔɪ の名で親しまれるようになる

ɥəɟɔɟ ［生物］［ポジティブ］鳥肌 ［レベル］3 ʃ0: 受ける肌→感動する肌 ［語法］ bədɟɔɟ

ɥən ［言語］ɥ の文字 ［レベル］1 1ʃ: 制 : 鳥籠姫 ［語法］ 第１４文字目の幻字。

ɥən(ʃ) ［格詞］～であるかのようだ、～ように、ように ［動詞］ɟɔl は ɥəl であるかのようだ、まるで～であるかのようだ、ようだ。eʃ のように使う。 ［副詞］～しそうな ［文末純詞］～であるかのような、～するかのような ［レベル］2 ɪɟɑ 古？ ɟɔʃʃe:ɥəʃʃe ［用例］ lɪ ɥən ɒɕɟɔʃ. 彼は神のようだ。 ʃɔɒɔ ɪn ɑel ʃɔʃ elɑ ɟɪɒ cɒ ɪn ɟc ɒel ɥən el ɔʃl ez nɔzeʃ ɟɪ ɟel e ʃɪɟ. なんとなく時間がないときはテスト前に部屋片付けをするような感じで新しい言語に手を付けてしまう。

ɥənʃe ［名詞］ユンテ ［レベル］2 ʃ0:ɥənl/ʃe ［文化］ ɑɟecnʃ

ɥənl ［名詞］ユンク。女性のリースのうち、綺麗で大人しいほう。 ［形容詞］～さん。通常前置。 ［法律］（主に性犯罪の）被害者の女性 ［名詞］囚われの身の人、囚人、鳥籠の中身 ［名詞］デスパに捕まっている悪魔 ［音楽］メゾ・ソプラノ、メゾソプラノ ［婉曲］女性器 ［レベル］2 ɑɟɑ ;ɥənl,ɑu.heɒ 古 :ɥənl（鳥籠姫、お嬢さん）。sə/lə から。sə は「受ける」。lə は ləɒ で「生き物」。「～されたもの」←「捕えられたもの」。元は女性でなく「人質」。女性のほうが人質にしやすいため、やがて意味が変化。 ɥənl:ɥənl ［文化］ 典型的には、綺麗で知的で大人しく慎ましく儚いながらも、芯は強いような女性。

ɥənl,ɑu ［名詞］ɥənl、ɥənj、ɪnɪc、鳥籠姫、犠牲、身代わり ɥə ＜ sə（される）/ləɒ（動物）「される者→犠牲、身代わり」。現在の ɥənl は ɑu が heɒ したもの。 赤

ɥənlφɪlʃ ［化学］エストロゲン、卵胞ホルモン、女性ホルモン ［レベル］6 ul;/「乙女のホルモン」 ʃʃ

ɥənlɪ ［名詞］［形容詞］格子、チェック、チェック模様 ［レベル］3 1L:ɥənl1i,ɥənl は格子の牢屋に閉じ込められたものであることから

ɥənlɪlɪɑ ［地球の国］クロアチア ［レベル］6 1L: 国旗がチェック模様

ɥənlɪhɪnj ［普通動名詞］ミウラ折り、ミウラ折 ɪl;/「格子状に折れ目が付いている畳み方」 ʃʃʃ

ɥənlɪpɔb ［建築］グレーチング。鋼材を格子状に組んだ溝蓋。 ul;/ ʃʃ

ɥənlɔ ［名詞］鳥かご、鳥カゴ、鳥籠 ɟɒ;ɥənl.l（囚われの身→鳥籠姫→鳥籠） ʃʃʃ

ɥənlɔʃ ［被服］パニエ、ファージンゲール ɟɒ;ɥənlɔ/ʃe ʃʃʃ ［文化］ → ɑlɪnseʃ

ɥənj ［名詞］犠牲、餌食、獲物、人身御供、人柱、代償、代価、代金、生贄、いけにえ ［類義語］cjʃcj、ɒɥəʃlc ［レベル］3 ɑɟɑ;ɥənl,ɑu.l lɪlʃi:ɥənj,ɥənl から ɥənl:ɥənj ［用例］ lɪ ɑcjʃlʃ nɔj lel ɥənj. 彼女は自分を犠牲にした。 "ɟɔl φɪɪlɔ ɒcneeɒe ɑəʃ jen ɥənj ɪ ʃɥə ɒcl lə eʃ ɱɪ ɑɪcʃen jeʃeɒ"「そんなご立派な立場にいるからこそ、あなたとの大きな取引ができるんじゃなくて？」

ɥənjjcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］アンドロメダ座 ʃʃʃ ［文化］ cɑɪ

ɥənɑc ［形容詞］儚い、かよわい、可憐な、すぐ死んでしまいそうな、傷つきやすい、か細い、か弱い、ひ弱な、むなしい ［文字］シン ［類義語］cɑn ［反意語］eʃʃe ［レベル］3 1ʃ: 制 :ɥənɑ:ɥənl/ɑɪɒ（丈夫なユンク）

ɥənɑcɒɪl ［電算］ＤＲＡＭ ［レベル］5 1L

ɥənɑc ［文末純詞］［ɒɒ］eɥɔ ［レベル］1 ʃʃ:ɟɔɕɔɪ:ɥən ɑɪ（そのようだが）の語彙化。

ɥənɑcʃe ［軍事］天馬騎士団、ペガサス騎士団、ペガサスナイツ ［アクセント］ɥənɑcʃE ［レベル］5 zφ:jzl(lz);ɥənɑcʃe,ɟzɑ.ɪlel ʃʃ ［文化］ ɥəɟɔel

ɥənɑcʃe,ɟzɑ lcɒeeɟ ><ɥənl

ɥənɑcn,lc ɒɪuɪ

ɥənɑcnɟɪc,lc ɪφecʃ

ɥənɑcɟɪ ［地名］ユンディラ ［料理］ユンディラ油。オリーブオイルの品種名。 ［アクセント］ɥənɑ cɟt ［レベル］4 ʃʃ:ɥənɑcnɟɪc.ɟllc ［語法］ ɥənɑcɟɪn はオリーブオイルの等級で、ɥənɑcɟɪ はオリーブオイルの種名。ɥənɑcɟɪ の中に ɥənɑcɟɪn な等級もあれば、dejʃcn な等級もある。ɥənɑcɟɪ e ɥənɑcɟɪn が最高品質。 ［文化］ アゲイト島中央部北寄りにある丘陵地帯で、オリーブの産地。高品質なオリーブオイルであるユンディラ油の産地。

ɥənɑcɟɪn ［料理］エクストラバージンオリーブオイル ［レベル］5 ʃʃ:「ユンディラの」

ɥənhɔlj ［天文］歳差、歳差運動 ［レベル］6 ʃʃ

ɥənɥɪ ［代詞］ɥənɪ の冗語。ゆにゃあ。 ［レベル］2 ʃʃ

ɥənɥən ［被服］銘仙、めいせん、ゆんゆん ɟf;<ɪlʃ ʃʃʃ

ɥənl ［動詞］ɥəl を ɪ に監禁する、監禁する、閉じ込める ［普通動名詞］監禁、閉じ込め ［類義語］ɑejdɪ ［レベル］4 1ʃ: 制 :ɥənl（鳥籠姫）

ɥənɪ ［代詞］［ɥən］私、わたくし ［レベル］1 ʃʃ:ɒccɟ: 古 ɥənɪ（ミリア位相を喋る人）

ɥənɪ,ɪlʃ eɟʃ

ɥənɪʃeɒɪlc ［言語］ゆなてまり、花言葉 ［類義語］ɒccnɪɟenj ［レベル］4 ʃʃ:ɪlʃ「名飾り」

ɥənɪɟɔləlc ［普通動名詞］名交わし ［レベル］4 ʃʃ ［文化］ アルティア人の男女が互いに互いの名を書くことで愛を伝え合う習慣のこと。

ɥənɪɪɒelc ［普通動名詞］名隠し ［レベル］4 ʃʃ ［文化］ アルティア人が想い人の名を書いて忍ばせておくことで恋のまじないとすること。

ɥənc ［形容詞］非正式な、非公式な、簡易の、簡略な ［類義語］cjɒ ［反意語］ɥəɒɪ ［レベル］3 @ 1L ［用例］ lɪbɟjʃ ɥənc 非正規社員（パート、アルバイト、派遣、契約）

ɥəncj ［動詞］ɥəl を神睡させる、神睡する ［魔法］［普通動名詞］［再帰動名詞］神睡、しんすい、ユニス、半寝、ぼんやり、うたたね、うたた寝、転寝、午睡、神のうたたね、神々のうたたね、神々の午睡 ［レベル］4 ɑu;ənc/jɔ「猫のようにする」 ʃʃ ［文化］ ・神睡とは アテンというのは神性が高ければ高いほど一日のうち活動期間が短い。活動をしていない不活性の状態は半分寝たような状態であり、これを神睡という。 ɑl の ɪɟʃe は最も活動期間が短く、ɪfoɪɪɟə や ləɒ は次に短く、elʃ や jɪɪl はその次に短い。力が強いほど活動期間は短く、神睡は長く、総じて気も長い。力を失うごとに神睡の長さは減っていく。 神睡中は朦朧とした意識があり、周りの状態はおぼろげに把握している。ただし明晰な思考はできず、危険回避等、生命に関わるとっさの動作以外は抑制された状態にあり、エネルギーセーブの状態にある。エタンでいう冬眠状態にやや近い。ただし四季は関係ない。 日常生活でいえば猫がぼーっとしている状態に近い。猫は一日の大半を寝ているが、そのうちほとんどは熟睡でなく浅い半寝の状態であり、怪しい物音などがするとすぐに活動を再開する。神睡はその状態に似ている。実際、ɥəncj の語源もそこから来ている。 ユーマの一族も神睡をする。世代が遡るほど神睡の時間が長い。神睡の時間は世代が下るごとに短くなっていった。同世代のユーマの一族であっても、ヴィードの強いほうが長い神睡を取っていた。 神睡は ɟɒ ごろにヴィードの弱い庶民から徐々に喪失しかけていった。ɟɒ では大半の庶民が神睡を喪失しつつあった。nɑ 以降は ?」遺伝子の普及とともに、ヴィードを大量に持った一部の魔導師の生き残りを除き、人々は神睡を喪失した。 ・神睡と進化の歴史 地球に比べてアトラスはアテンという高度な知能を持った者が長く存在した。にもかかわらず、両世界の技術や言語における変化や進歩の歴史はそんなに大差ない。この背景に神睡が関与している。 確かに ɑl や ɟɒ など神代は非常に長い期間があるが、神々は魔法を使って暖を取ったり物を作ったりしていたため、技術の進歩が遅れた。技術を進歩させる必要性がなかったためである。 また、成員も少なく寿命も事実上ないため成員の入れ替わりもなく、しかも神睡のせいで活動期間が異様に短いため、言語の変化もほとんどなかった。何百万年という期間があっても、現代の言語変化とは速度がまるで異なる。現代人はたった数十年で世代交代し、数億人が一つの言語をせわしなく毎日長時間使う。この現象は現代にしかないものである。 言語が地球並みの速度で変化するようになったのは、神睡の喪失と寿命の短化が原因である。よって言語変化は ɟɒ までは超緩慢で、ɟɒ ごろから徐々に加速し、nɑ 以降は地球のそれと変わりない。特に ul 以降における言語の変化は地球同様、めまぐるしいものがある。 神睡と長い寿命を失いはじめた ɟɒ から、それらを失いきった nɑ 以降、人類の進化は早くなり、社会の変化も早くなり、ユーマの一族の気も短くなった。 気が短いと言われている悪魔ベーゼルなど現代人から見れば信じられないほど気長である。彼は何年という時間をまるで数分か数時間のように捉えているためである。それでも悪魔の中ではベーゼルは気が短いほうであるため、bezeʃ（せっかちな）などの語源となっている。だが実際にはよほど人類のほうが気が短い。そしてそれは神睡や寿命の違いに起因している。

ɥənɔ ［魔法］蒼晄、そうこう、ユノ ［名詞］スタミナ、体力 ［医療］水 ［レベル］1 ɟepʃ 19: 制 : 古 :hɥənɔ（ユノ）フルミネアの造語で、「 巫女の力 」が原義。制まではフルミネアの母語で巫女の力と思われていたが、本人の弁で古アルカから造語したということなので採用する。実際北欧語のどれを探しても hɥənɔ で巫女の力を意味する単語は見つからない。 hɥənɔ:h ɥənɔ:lə hɥənɔ ［文化］ enuelen, nɔlɒcɥə 人体を囲む青い光で表現される。『アティーリ』ではヴィルやノアよりも一般的な能力とされる ユノには凹凸と開閉がある。→ nɔlɒcɥə 開はアテンの体外で安定し、閉は体内で安定する。 ユノは虚質量を持っている。→ nccɥə ［成句］ lcɒ ɥənɔ 元気をつける、体力をつける aecl ɥənɔ あまりに真剣な態度でオーラが出ている状態になること ʃcl ɥənɔ {ucen, uecn nɔɑ nene} 快活だ、元気だ ɥənɔ ɪjd ɔn 無理だと諦める、気の遠くなるような、絶望的な ɒɪʃ ɥənɔ 緊張を解く ɥənɔ ej ɒcɒ 意気消沈 ɥənɔ ej jɔlʃ 意気投合 ɥənɔ ej nel 意気揚々 neʃ ɥənɔ 一念発起 lɔn ɥənɔ e jeɥen 一気呵成 jɪb ɥənɔ e ɟcnɑɪ 一心不乱、無我夢中 ʃɔc ɥənɔ ɑccnɪ ～を気に入る beʃ ɥə ɔn ɥənɔ 拍子抜けする ［用例］ ɪn ɥɔllej ɥənɔ. 元気を使い果たした。

ɥənɔalcʃ ［魔法］霊水晶、ユノフリート ［アクセント］ɥənɔalEʃ ［レベル］5 ɟɒ;ɥənɔ/ɑlcʃ ʃʃ ［文化］ ɑlcʃ

ɥənɔaɔl ［魔法］霊力摩擦 ［レベル］6 ʃʃ ［文化］ nɔlɒcɥə

ɥənɔbɪl ［魔法］ユノの壁 ［レベル］5 ʃʃ

ɥənɔɟɔn ［魔法］霊圧 ［レベル］6 ʃʃ ［文化］ nɔlɒcɥə

ɥənɔl ［代詞］［ɥən］私の、わたくしの ［レベル］1 ʃʃ:lɒccɟ:ɥənɪ/ɪl

ɥənɔlccl,ɪɟɑ ユノ粒 /

ɥənɔelle ［生物］廉泉 ʃʃ

ɥənen ［接続詞］ɥən。～であるかのような。 ［レベル］3 ʃʃ ［用例］ cnj ɥənen lɪnʃe 満月のような目

ɥəneɟ ［形容詞］静的な、非活動的な、非活発な、不活性の ［反意語］ɑɪlj ［化学］［電算］不活性 ［アクセント］ɥənEɟ ［レベル］3 ʃ0:ɥən eɟ（水のような）［成句］ ɒɪʃ ɥəneɟ 動かないウムト：うどの大木。レレゾナの命名。

ɥəneɟʃɪnʃɔɪ ［魔法］静殻 ［レベル］5 ʃʃ ［文化］ nɔlɒcɥə

ɥəneɟuebu ［娯楽］ノンアクティブモンスター ʃʃ

ɥəneɟɑɥeɥə ［言語］法副詞、助動詞 ［レベル］4 ʃʃ ［語法］ ɑɟeɥə

ɥəneɟnɔɪ ［経済］不動産 ［レベル］4 ʃʃ

ɥəneɟnɔɪjeɟφ ［経済］不動産投資 ［レベル］5 ʃʃ

ɥəneɟφɪɟɒɪ ［政治］［軍事］冷戦 ［レベル］4 ʃ0

ɥəneɟlcl ［化学］不活性元素、希ガス ［レベル］5 ʃ0

ɥəu ［動詞］ɥəl を喰らう、食らう、喰らう、くらう、こうむる、被る、嫌々受け入れる ［医療］ɥəl を罹患する、罹患する、罹病する ［普通動名詞］罹患、罹病、被害、受け入れ ［類義語］ɥə、ɒcl ［レベル］2 ʃ0:ɥə/ucl ɥəəuc:ɥəəuc ［語法］ 話者にとってそれを受け取ることがマイナスに感じられるときに使う。敵に向かってユノを撃つときは、敵の主観でなく自分の主観に基づくので ɟe ɥəu でなく ɟe ɥə が正しい。逆に味方がダメージを食らったときは lɪ ɥəuɪʃ が適切。 ［用例］ ɥəu uɔnʃ ヴォントを食らう

ɥəuuɔl ［言語］非文ではないが不自然な文、不自然な文 ［レベル］6 ʃʃ ［語法］ nɑɒuɔl

ɥəuɪlʃ ［軍事］前線 ［レベル］4 ʃʃ:ɥəu/ 古 bɪlʃ（攻撃を食らう壁）

ɥəuel ［運動］［武道］ユベール、ユヴェール、ユベル、ユヴェル、格闘技、武道 ［類義語］bɑlnz ［アクセント］ɥəuEl ［レベル］3 古 :ɥə/uel（闇を食らう）［文化］ ・概要 ɟɑ の時代にアシェットが作った実践戦闘術。アデルや犯罪者から身を守り、或いは倒すためにアシェットが民間に広めた。その結果、それ以降アトラスの世界規模的な戦闘術並びに格闘技としての地位を得るようになった。 現実にはルティア家個人の格闘技をアシェットに広めたものを指す。リーザが護身術として使徒らに学ばせたものをリディアやセレンらが洗練させて体系付けた。 打突は回転系のものが少なく、軍隊の戦闘術をモチーフに作られている。また、靴を履いて服を着た状態での戦闘を始めから想定している。 敵を制するよりも破壊する方法を重視しているため、危険な部位を狙う技が中心となる。練習時は寸止めをするより、打点をずらすか防具を着ける方法の方が人気のようである。打点は関節や筋肉の薄い部分だが、こういうところにこそ防具を着けづらい。なので打点をずらすのはある程度必須であろう。また、武器の使用を前提としており、特に棒とナイフと銃の使用を考慮している。棒と括っているのは木刀、剣、バット、木片などを代表するものである。 ・実戦的な戦闘術としてのユベール 現実のセレンはフルコン空手、キックボクシング、少林寺拳法、柔道、剣道、居合、棒術、弓道、合気道、鎌術、銃の取り扱いの経験がある。 様々な格闘技や戦闘術を行ったが、どれも実戦向けではないというのが結論だった。 セレンは高校時代を中心に路上で頻繁に裸拳で喧嘩をしていた。拳を骨折しても放置したまま喧嘩し続け、中指が化骨したほど喧嘩に明け暮れていた時期があった。 その実戦経験からして、どの格闘技もスポーツであり、実戦向けではないと感じた。 例えば空手はセレンが経験したのはフルコンだったが、顔面への殴打はなしというよくあるルールであった。顔面を殴られないという安心感があるため、明らかに実戦なら殴られる間合いにも平気で顔面ノーガードで入っていく。これはフルコン空手の自由組手を見ればすぐ分かることで、明らかに「今殴れるだろ」という場面で殴らない。これは全く実戦的ではない。現実にはそのような間合いの取り方は起こり得ない。当たり前だが、殴られてしまう。 ちなみに極真ルールは実践的でないと感じたが、空手の中では大道塾空道が一番実践的ではないかと感じる。あれは投げや関節も豊富に取り入れているのでかなり実戦向きだと思う。 キックボクシングについては剣道と同じく道具を使ったスポーツであると感じた。最大の理由がガードの方法である。相手の拳をはたくパリィはまだいい。しかし腕でガードするブロックはグローブありきである。ボクシングのガードの大半は実際は両手を眼前に置いたグローブでの防御である。これは現実にはまるで役立たない。実戦ではあのような大きなグローブをはめないため、あのようなガード方法では相手の拳がこちらの拳と拳の間をすり抜けてしまう。あのようなガード方法は実戦ではまず取れないのである。ボクシングはガードしてダメージを減らしつつ、打たれること前提で打ち合っていく。グローブをはめた拳なので重いが痛くはなく、裸拳と違って複数回打っても受けても体が壊れない。ゆえにキックボクシングはグローブありきのスポーツであり、剣道と大差ないと感じた。もしキックボクシングで喧嘩をしようと思ったら、竹刀を持ち歩くがごとくいつもグローブを持ち歩く必要がある。もちろんグローブなしでも喧嘩はできるが、いつものような戦い方はできなくなる。つまりふだんの実力が出せないまま終わってしまう。 また、空手にもキックボクシングにも言えることだが、基本的に蹴りは回転系が多い。空手は回し蹴り、キックボクシングは左ミドルや右ローなどを多用するが、いずれも分類上は回し蹴りである。これが実戦向けでない。回し蹴りというのはパンチよりスペースを取る。それなりに広い場所でないと繰り出せないし、ガードレール、電柱、道路標識のポール、路上の自転車、室内なら机などが障害となり、しばしば打つことができない。その上前蹴りと違って回し蹴りは基本脛で打つ。キックボクシングなどでは防具を脚などにつけてスパーリングを行うから脛を折ることはまずない。ところが実戦は違う。回し蹴りを打ったら相手は膝か

肘で合わせてくる。人体は肘のほうが脛より硬くできているので、両者が接触すれば攻撃したほうが逆に折れてしまうことがある。実際にプロテクターなしのＫ１などでローに膝を合わせられて攻撃したほうが逆に脚を折るということがある。プロでさえそうなのだから、素人はまして危険である。　また、地面がぬかるんでいたり濡れていたりしない保証もない。段差や坂でない保証もない。地面が不安定なら軸足が不安定になるハイキックなどはましてもってリスクが高くて打てない。　さらに、回し蹴りは懐に入られやすいという決定的な欠点がある。ナイフなどを持った相手に回し蹴りは非常に危険である。　回し蹴りは脚を取られて転ばされやすいし、リスクが高い。空手やキックボクシングで回し蹴りがあそこまで不自然に多用されているのは脚を取ってからのマウントや固めというルールがないためである。実戦では脚を取ってマウントされるリスクもあり、あんなに安易には打てない。　さらに、素足で打つという前提も現実にはありえない。実戦では靴を履いて戦う。このとき脛は守られていない。しかし足は守られていて固い。そこで実戦では前蹴りが安全である。靴を履いているため、攻撃側がダメージを受けるリスクが最も少ないためである。大学時代のセレンのように軍靴を履いて爪先に鉄甲が入っている場合は爪先を突きこむように蹴るのが特に有効で、この蹴りを使えば厚いドアにも人力で穴を開けられる。人体相手なら膝で合わせてこようがどこで合わせてこようが確実に破壊できる。　ときに柔道は路上がコンクリであることを考えると、相手を掴みさえすれば空手などよりも強い。投げるだけで簡単に致命傷である。投げなくとも固め技が豊富なので相手を取り押さえることもできる。ただ柔道は打撃に対するガードの練習が圧倒的に不足しており、空手の人間を掴む前にＫＯされる恐れがある。　また、柔道の最大の弱点は服装である。柔道着のような服を普段着ている現代人はいない。もし相手がタンクトップだったら思うように技をかけられない。まして相手が上半身裸になってしまえばよりいっそう技を封じられる。それゆえセレンは柔道経験者と喧嘩するときは常に上着をすべて脱ぐようにしていた。柔道もキックボクシングがグローブでありきなのと同じで道着ありきのスポーツである。相手が裸になってしまえば戦力がだいぶそがれてしまう。　少林寺拳法は剛法と柔法が混在していて空手と柔道の間の子のようでスタンスとしては実戦向きだが、残念なことにフルコンではないため実戦向きの訓練にならない。セレンが行った流派は打ち合いがあったものの、それは例外的な催しであり、普段は型稽古や約束組手ばかりである。これでは戦闘訓練にならない。　合気道も同様で、これは要は約束組手であり、実際に戦いはしない。合気道にうまいはあっても強いはない。しかも基本的に柔法であって剛法に疎いという欠点がある。正直、実戦的な観点でいえば、格闘技の中でセレンは合気道が最弱だと感じた。Ｋ１などに合気道が参戦しないことからもなんとなく分かるだろう。　ちなみに柔道も合気道も相手に圧倒的な腕力があれば固めることはまず無理である。よく相手の力の流れに合わせて技をかけていくと言うが、それは現実的でなく、言うほど簡単ではない。実際セレンは合気道をやっている腕力の弱い女性に技をかけてもらったが、セレンが力づくで相手の手を振り解いたら、いともたやすく振りほどけた。あれはそれなりに腕力のある人間でないと制圧できない。　セレンは柔法もできるので泥酔者を取り押さえたことがあるが、警察を呼んだところ、やってきた警官は泥酔者を取り押さえられなかったということがある。訓練を積んだ現役警官でさえこのザマである。腕力のない素人であればなおさら人を固めて取り押さえるのは難しいと分かる。それに、どんなに技術があっても圧倒的な腕力には敵わない。振り回されて終わりである。　剣道は正直かなり強い。ただし欠点があり、常に棒など持ち歩かないのでいざというときに役に立たない。ただ居合を経験した剣道の有段者が真剣を持って空手道場に突っ込んでいったら、そこにいる門下生を皆殺しにするのは容易だろう。いくら強靭な肉体を持った空手家であっても真剣相手では突き殺されるか斬り殺されるかである。間合いも攻撃力も圧倒的に真剣のほうが上である。真剣相手に生身で勝つのは漫画か映画くらいのものだろう。　ただ、もし剣道が竹刀を持って戦ったら空手にも柔道にも勝てないだろう。最初の一発は入るだろうが、そんなもの強靭な肉体を持った彼らはたやすく耐え、間合いに入ってくる。そうなればおしまいである。竹刀で勝つにはよほど鋭い突きを喉元にでも入れない限り無理だろうが、そこを正確に打つのは武道家相手には厳しい。また、竹刀など掴んでしまえばたやすく制圧できるので、そこも欠点である。木刀ならまだ面一撃で相手を殺せるだろうが、それでも腕一本犠牲にされて突っ込んでこられたら負ける。ただ最初に言ったように、真剣なら剣道が最強である。これは防ぎようがないし耐えようがないからである。問題点は、真剣を持って歩くことができないという点である。やるとしたら人生破滅覚悟で襲撃に乗り込むときくらいである。　また、室内では天井に剣がぶつかる恐れがあり、室内での戦闘には不向きという弱点もある。回し蹴りは横にフリースペースが必要だが、剣道は基本的に縦にフリースペースが必要なことが多く、室内ではいっそう不利である。　居合は剣道と違って型稽古なので、居合の達人と剣道の達人が真剣で殺し合いをすれば、恐らく剣道の達人が勝つだろう。少なくとも現在の居合は演舞であり、実戦向けの技術ではない。ただ剣道家も一本を取るための稽古をしているので、実際に真剣を使った剣道家の剣さばきは綺麗に切れるものではないということを付け加えておく。　棒術は棒なので空手家などが一発目を耐えて棒を取ってしまえば終わりである。また、強靭な空手家相手なら棒を折られる恐れもある。真剣と比べても棒の威力は見劣りする。しかも棒術は手を滑らせて行うため、棒が少しでもささくれだっているだけで満足に使えなくなる。つまりそこらの角材などを使って急遽戦うというようなことはまず無理である。　鞭術はリディアはできるがセレンはできない。鞭術についてはよく分からないが、やはり刃物ではないので一撃目を耐えられてしまえば終わりではないか。　弓道は和弓が世界最大なくせに世界最弱の威力という点で全く戦闘に向かない。まず命中率が悪すぎる。そしてボウガンなどに比べて威力が弱すぎる。その上大きすぎて取り扱いが戦場では困難である。開けた場所ならともかく路上で戦うというのはまず無理である。まして室内では長さがありすぎて天井にぶつかり、弓を引くことすらできない。室内では坐射がせいぜいだが、坐射で戦えるわけがなかろう。特に近接戦闘に持ち込まれたら何もできない。つがえて引いて射るまでに間合いに入られて制圧される。実戦という意味では合気道より弱く、そもそも格闘技の類ですらなかろう。　鎌術は特殊な武術で、大学のときに長野で習った。恐らく刃狩以降の農民による武器術なのだろう。農具は徴発されないので、その農具で戦おうという主旨のものだと思われる。鎌は間合いが短いため、真剣と対峙すればかなり不利である。　実はセレンは経験がないが、薙刀は剣道より強いと思う。薙刀は日本では基本的に女子のスポーツなのでセレンは経験がない。しかし薙刀は遡れば男性の武将がもとは使っていたもので、剣より間合いが長いのと馬の脚を切れるという利点があるため、戦場では使い勝手が案外良かったという。　薙刀はリーチがあるため、剣道と試合をすれば薙刀のほうが有利である。また剣道にはない脛が有効打突点として存在するのも強みである。実戦においても薙刀のほうが真剣より有利と思われるが、柄が木製なので柄を叩き切られれば無力化される。空手家も強靭な者は木の棒くらいは折ってしまうので、無力化される恐れがある。なにより薙刀は路上でやるにはスペースがいりすぎる。薙刀は縦だけでなく横斜めにもフリースペースが必要で、しかもそのスペースは剣道より大きい。とても路上や室内で自由に振るえるものではない。さらに携帯するのが真剣以上に不便である。なお、言うまでもなく刃のついていない練習用の薙刀は竹刀と同じく威力に乏しく、実戦では空手家などに通用しないだろう。仮に刃が付いていたとしても、真剣と違って刃の部分が短いので、木の柄を握られて制圧される恐れもある。　もしセレンが真剣で薙刀と戦うとしたら、脛を切られないよう間合いをとりながら木の柄を切るだろう。どちらも刃が付いている場合、ふつうにやったら薙刀に足を切られて殺されるだろう。だからむしろ武器破壊を狙う。薙刀は長すぎて柄を金属製にできない。重すぎて振れないからだ。なので必然的に木製になるが、木製なら真剣で切れないこともない。ただ、かなり難しくはあるが。　ときに銃は言うまでもなく最強である。もはや武術や格闘技の域を超えている。頑張れば子供でも取り扱え、空手のように何年も体格を上げながら鍛える必要もない。リコイルショックで手首を痛めるなどということもあるが、それは銃の種類と取り扱い方次第でどうとでもなる。素人は１ｍ先のものにすら当たらないというがそれは俗説で、セレンは最初に実弾を撃ったときから射撃場の的に当てた。それも取り回しの効きやすい小銃などではない。デザートイーグルである。セレンの腕力が強いこともあるだろうが、リコイルショックもたいしたことないし、手首を痛めるというようなことも最初からなかった。　銃はアメリカなどでは携帯もできるので、アメリカでは銃を持っていれば最強で、わざわざ格闘技をやる必要性すら感じられないように思える。　では銃と真剣はどちらが強いのだろうか。もちろん銃のほうが戦争に向いているので刀が廃れたわけだが、近接戦闘の個人戦では本当に銃が強いかは不明である。というのも、よほどのマグナムでもなければ銃は当たっても即死しない。マグナムであってもヘッドショットしないかぎり即死はしない。動きまわる剣術家に対して大型のマグナムでヘッドショットを綺麗に撃つのは相当な技術がいる。かなり慣れた人間でも難しい。そして撃つ前に真剣で小手を打たれたら手が落ちる。そうなれば銃は撃てなくなる。また、撃ったとしても即死はしないので間合いに入られて斬り殺される。恐らく銃と真剣が路上で戦ったら、銃が勝つか相打ちになるだろう。　ただ銃はそもそも格闘技ではない。戦闘術として確立はするかもしれないが、武術ではない。銃が最強なのは歴史が証明しているが、日本のように銃を携帯できない国では真剣も捨てたものではない。真剣は所持していても違法ではないが、銃は所持だけで違法になる。真剣は買えるが銃はふつう買えない。日本においてはいざというときに真剣を持って殴りこみに行けるが、銃は持っていないので使えないということになる。　さて、以上の経験を踏まえた上でセレンはリディアらとユベールを確立させた。ユベールは戦闘術で、実戦に向いている。服を着て靴を履いた状態で戦うことを想定している。また地面が不安定で狭い場所や障害物のある場所で戦うことを想定している。　顔面はむろんありだし、大きなグローブでガードもできないし、脛を折りやすくナイフの突進に弱い回し蹴りも多用しない。　ユベールは相手が武器を持っているケースも想定しているため、最も怪我のリスクが少なく相手との距離を調節でき、かつ相手に届くまでの距離が最も短い前蹴りを多用する。これは実際に戦闘を行う軍隊の戦闘術、自衛隊の戦闘術などに共通している。前蹴りは威力こそないが相手を容易に吹き飛ばせ、距離を保て、かつ刃物相手でも懐に入られずに攻撃できるという利点がある。　またユベールは剛法だけでなく柔法も取り入れているため、投げや固めなどの技もある。この点で、譬えるなら少林寺拳法のフルコン版に近い。また空手と柔道の融合した形にも近い。空手で柔法を取り入れている流派にも近い。総合格闘技にも近い。　ユベールは固めがあるので相手をＫＯするだけでなく制圧することもできる。　またユベールは武器使用も前提としているため、ナイフや真剣などで戦う技術も身につける。要するにユベールは剛法、柔法、武器を使用した総合的な戦闘術であり、実戦に向いている。　以上が現実での事情だが、これを踏まえて μn ではセレンが様々な武術を経験したことになっており、その経験から最も実戦に向いた戦闘術は何かということをアシェット内で研究し、リーザの打ち立てたユベールをリディアらと昇華させたという歴史になっている。　μn のセレンの考え方はその後も受け継がれ、ユベールは ls でも実戦的な戦闘術として生き残っている。アルバザード人は学校でユベールが必修なので、剛法、柔法、武器のいずれかができる国民が大半である。そのため、日本同様軍役はないが、平均的なアルバザード人は平均的な日本人よりも戦闘力が高い。　ちなみにセレンは格闘技についてこんな風に考えている。身長が２ｍあろうと体重が１００ｋｇ超えていようと、どれだけ鍛えていようと世界チャンピオンであろうと、銃を持った５歳の女の子に簡単に殺されてしまう。それほど現実には銃は強く人間の体は脆い。どれだけ鍛えようと銃の前ではヒョロガリもマッチョも等しく無力である。そういう意味で格闘技も武術ももはやむなしい過去の産物でしかなく、歌舞伎のように廃れ行く伝統芸能に近いのだろうと。　どれだけ鍛えて最強の男になって極めたところで銃を持った子供にすら勝てない。むなしい現実である。なんだか語学に似ている。どれだけ頑張って東大生が語学を勉強しても、ネイティブの子供より巧く話せることは絶対にないのとよく似ている。　だからセレンは格闘技にも武道にもそんなに重きを実は置いていない。ほどほどにできてそれなりに身を守れればいいかという程度で、ないよりはマシな程度の力としてしか考えていないので、そこまで強さにはこだわらない。どうせ最強になったところで５歳の幼女に勝てないのなら、そんなもの馬鹿馬鹿しいからである。　だが知能は違う。数学などの学問や芸術などの技術は磨くことでどんな道具にも負けない能力を引き出すことができる。コンピュータは計算は早いが人間と違って創造力がない。知能や芸術センスを駆使してものを作るというのは人間のほうが機械より遥かに上で、どんな道具でも代替が効かない。銃を使えば人間の努力は覆る。だが機械を使っても人間の叡智は覆らない。機械は補佐でしかなく、機械単体が人間の叡智を上回ることはない。銃は単体で屈強な男を殺せるが、機械は単独で学者の閃きを追い越せない。　セレンはそのことが分かっているため、武術よりも知能、力よりも頭を重視している。突き詰めれば力など銃という機械の前では無力なのだから。　・体格と戦闘　戦闘に向いた体格というのがある。まず体重だが、除脂肪体重が大きいほど有利である。単に太っているだけでスタミナがないとわずか数十秒でバテるのでは話にならない。キックボクシングなどを練習したことがあれば分かるだろうが、攻撃というのはかなりスタミナを要する。ただひたすら相手を攻撃することが許されたとしても、スタミナのないデブはわずか数十秒でバテる。そして筋肉量が少なく訓練されていない人間の打撃では素人は倒せてもやっている人間は倒せないので最終的にスタミナ負けする。つまり鍵となるのは除脂肪体重である。　次に身長だが、これは高いほうが有利と思われがちだが実戦ではそうでもない。ボクシングのような競技ならリーチが長いほうが圧倒的に有利なので身長があると確かに有利だが、喧嘩はノールールである。小さい人間は大きい人間の懐に入りやすく、タックルからのマウントを取りやすい。逆に大きければリーチが長いし、攻撃も上から下に打ち下ろすようにできるため威力が増す。つまり小さくても大きくてもメリットがあるということである。逆に言えば大きければ懐に入られやすく、小さければリーチ負けしやすいということであり、実は大きくても小さくてもデメリットがある。そういうわけで意外かもしれないが、実戦において最も有利なのは目立ったデメリットのない平均身長である。理想を言えば、平均身長で腕が長いと良い。セレンなどはこのタイプである。　平均身長で除脂肪体重が重ければ実戦においてその者はかなり強いと言えよう。実際に競技の中でも合気道などに比べて比較的実戦に近いＫ１や脩斗などを見ていると、必ずしも長身が勝つとは限らないことが見て取れる。

ɣəuel ɸɛnɔɟ ［人名］ユベール＝ゲノス　［レベル］6　1L:clɒəj:μcɑcı　［文化］　アルティル期の思想家。ミナリスの側近。

ɣəuelɪn ［名詞］格闘家　［類義語］ebrlɪnɑ　［レベル］4　J1

ɣəɑı ［動物］コアラ　［レベル］3　lìʎí:ˈ毒を食う者 」

ɣəɑı,ɑu uclef　ɣə/ɑı「火を受けるような」

ɣəɑc ［形容詞］思いやりのある、利他的な　［反意語］eɒcɟ　［レベル］3　1L:ɒelcɑcı ılcj:ɣənʎɑccn（ユンクが尽くすように）

ɣəɑə ［電算］ビット　［レベル］4　古 :ɣəɑə(ビット)「0 と 1」が原義から

ɣəɒ ［形容詞］弛緩した、リラックスした、ゆったりした　［動詞］ɣəl を弛緩させる、弛緩させる、弛緩する、リラックスする、脱力する、力を抜く　［反意語］nɔd　［レベル］3　1L:μcɑcı: オノマトペ。びよーんと伸びた感じの音　［成句］　ɣəɒ ɑlel 肩の力を抜く　［用例］　uɔμʃ lıɒel ʎɔlʎ ɣəɒ ıl ɑlel. 死は初めてか？肩の力を抜くといい（死神ヴァンガルディ）　lə ej ɣəɒ ſcn cn. すごいゆったりしてるなぁ。

ɣəɒde ［地名］ユンペ　J0: 星のような　［文化］　ヴェマ中央部よりやや東南よりの都市。

ɣəɒdelcʎ ［料理］シュウマイ、シューマイ　［レベル］4　J0: ユンペ産饅頭

ɣəɒı ［形容詞］正式な、公式な、本格的な、簡易でない、シャチハタでない、正攻法な　［類義語］ılɴ　［反意語］ɣənc　［レベル］3　1ʎ: 制 : 恣意　［語法］　ılɴ は血筋や血統などが正統。　［用例］　lıbıɟſ ɣəɒı 正社員

ɣəɒını ［ユマナ］［地名］ユマナ、人間界　［レベル］3　qu;e　古 : 赤の時代に霊人（当時は現在でいうレ・カイの人などを指した）をランティス、人間（当時は現在でいう悪人や非アディアの人間や人間界の人を指した）をヒューマやユーマと呼んでいた。ユーマはこのとき現在でいうユーマの一族という意味ではなく、現実では非アディア系の人や悪人、架空では人間界の人を指していた。後者の語義の ɣəəɒı に心を指す nı がくっついてできたのが ɣəɒını で、元は「人間の心」というのが原義で、それがやがて「人間界」という意味で使われるようになったのではないか。赤の後に制でユーマはカルディアにおける人類の祖先を指すようになったが、こちらは少女ユーマが原義にあり、人間界の人という原義は失われている。要するに人間界とユーマの一族はユマナとカルディアほどの開きがあるにもかかわらず同根なのである。それでは神話的には辻褄が合わず困るので、神話上は ɣəɒını の語源はエーステとしてある。　［語法］［文化］　・語義　地球のあるこの現実世界を指す。　ユマナの存在では神代から神々や悪魔の間で囁かれていて、ユーマの一族の間でも存在するのではないかという説が囁かれている。　悪魔メルティアやベルトや死神ヴァンガルディはユマナが実在することを知っているが、公表はしない。彼らの言動の端々から神々がユマナの存在を推測した。　一部の神々はその世界のエーステがユマナという音であるということを根拠に、エーステがあるということはユマナが実在するはずだと説いた。しかし一部の神々はエーステは実在か架空かにかかわらずあらゆる概念に付与されるものなので、それでは説得力に欠けるとした。　結局直接ユマナに干渉できない者にとって、ユマナの存在は伝説でしかなく、それが存在するかは不定である。　・ユマナタグ　本辞典の［ユマナ］タグは「連体詞」や「フィンランド」のように、アトラスにはないが地球にはあるものを指す。　［ユマナ］はアルカの単語でないのでカルディアとの整合性は考証せず、地球でアルカを使う人間にとって分かりやすいかどうかを重要視する。例えば国名などがそうである。セレンらにとってわかりやすいネーミングをしているにすぎない。除夜の鐘 (ſcnl ſ'ılef) などもそうで、グレゴリオの年末はメル暦でアシェットの日ではない。

ɣəɒının ［ユマナ］人間界の人間　［レベル］3　1L: リディアの書

ɣəɒc ［名詞］ユミ、赤い糸、運命の糸　［数学］写像。２つの集合において、一方の集合の各元に対し１つずつ、他方の集合の元を指定して結びつける対応関係であることから。　［レベル］3　古 :ɣəɒc ← ɣə（受ける）/ɒelc（糸）　［文化］　人間には必ず相思相愛になれる相手が一人 (ucμcəj) 存在する。その相手とは目に見えない糸で繋がっており、しばしば出会いの際に糸が反応して強く惹かれあうようになる。その相手と出会って結ばれれば一生幸せでいられるが、ほとんどの人は違う人と出会って恋をしてしまう。　なお、糸は原則見えないので何色

ともされていない。魔法の指である人差し指につながっている。もちろん神の手である右手の。　カコの時代にできた考え方で、レイユで廃れたが、ミロク革命以後、貞操観念が再び強まり、一般的に信じられるようになった。

ɥəɒc,ɪlʃ　cɒ, ɒel

ɥəɒcʃl　［電算］ユミクル、２ｃｈ、２ちゃん、２ちゃんねる　［レベル］４　ɪl;ɥəɒc.l　ʃ0: 赤い糸　［文化］　ɪl で作られたインターネット上の巨大匿名掲示板。匿名性から犯罪の温床にもなっていたが、ls のミロク革命でセレンにより匿名での誹謗中傷の取り締まりが強化され、健全化した。

ɥəɒcʃlɪn　［電算］ユミクラン、２ｃｈねら、２ちゃんねら、ねらー　［レベル］４　ʃ0　［文化］　独特のユミクル用語を使う人種。ɒefcɔ cʃ nef(ɪɪɪ（メティオ始まったｗｗｗ）など。

ɥəɒcjel　［歳時記］運命の日　［レベル］３　ʃ1　［文化］　この日にできたカップルは幸せになれるという俗説のある日。ɒcʃ zɪn。ミルフとザナがアシェットでも特に熱烈なカップルだったことから。この日たまたま人差し指同士がぶつかった男女は互いに運命の相手であるという俗説がある。青少年が意識しやすい日だが、経済効果は小さい。ɥəɒc を糸に見立て、女子が毛糸のセーターなどを意中の相手に送る習慣がある。

ɥəɒcnɪ　［丁寧］［親族］お孫様、おまごさま、女のお孫様、ユミナ　［レベル］２　ʃ1:ɥənʃ/ɒccnɪ　［文化］　lɪɪlɪ

ɥəɒcl　［形容詞］［ネガティブ］変哲のない、月並みな、面白みのない、ありふれた、ただの　［類義語］nce　［反意語］zɪl　［レベル］３　ʃ0:ɥən ɒccʃ（りんごのようにありふれた）

ɥəɒcɪlʃ　［数学］［論理］［電算］ゲーデル数　［レベル］６　ul; 数理論理学において何らかの形式言語のそれぞれの記号や整論理式に一意に割り振られる自然数であることから。ひとつの記号や式がひとつの自然数に一意的に割り当てられる様が赤い糸で繋がっているように見えるため。　ʃʔ

ɥəɒccɥ　［生物］メソティーソ、ユミール　［レベル］３　ʃL:μcɑcɪ　［文化］　lɪndcʃ

ɥəɒel　［名詞］昔　［類義語］jeɟ　［レベル］２　ſɒ;lɥə/ɒel　ʃʔ　［語法］　最低でも５～１０年より前のことを指す。　［成句］　ɥəɒel ɔ ɥəɒel むかしむかし、昔々、昔昔

ɥəɒelc　［形容詞］細い、極めて細い、糸のように細い　［ポジティブ］女性の線が非常に細い、非常にスリムな、痩せた、ほっそりした　［文字］エクストラコンデンス　［類義語］lcɩ, jclɑ, zedleſ　［反意語］dɔɑſe　［レベル］３　ʃ0:ɥən ɒelc（糸のような）　［語法］　人に使う場合は細さを強調している。良い意味で使うが、女性とユールのみ。ガリガリはこの ɥəɒelc の罵倒語。

ɥəɑcj　［単位］ユディス。約１７．４ｋｇ。　［類義語］eləɪ　［レベル］５　ʃ0:jeɥən/μcɑcɪ:ɥəəɒɪ/ɑɪɑɪj　［文化］　(ɒelſcɪ ʃl) 形状を人間型に安定させたことで神々のサイズが固定化された。これにより神々にとってサイズは可変なものという意識から固有なものという意識が生まれた。そして度量衡が作られることになった。エルトでもサールでも悪魔でもない中立な存在として少女ユーマの身長と体重を単位とした。ᚻ歳程度の姿をしていたユーマの身長は約１０７．２ｃｍ、体重は約１７．４ｋｇ。すなわち１ユディスはおよそ１７．４ｋｇ。　エルアとユディスは μɑ まで使われ続けた。

ɥəɑcɪ　［名詞］孤児、みなしご　［動詞］ɥəl（子）を捨てる、捨てる、子を手放す　［レベル］３　μɑ:μcɑcɪ;ɥə/ɑcɪ　古：リディアされる

ɥəɑɔl　［形容詞］面白くない、興味がない、つまらない　［反意語］lɔl　［レベル］２　ʃ0:ɥən ɑɔl（石のような＝なんでもない）

ɥəɑɔlʃ　［言語］被修飾語　［レベル］４　ʃ0: 飾られる

ɥədcſɔl　［アトラスの国家］ユピトール、ユピトル　［アクセント］ɥədcſɔl　［レベル］４　ʃL:μcɑcɪ: 針で刺された地竜　［文化］　面積：LΔΔ1J.ʔ.ʔLʔΔJ ʃɒ ʃ

ɥədeɪ　［言語］格詞の目的語、前置詞の目的語、目的語　［類義語］ɥəluef　［レベル］４　μɑ;/「格詞を受ける」。語源的には deɪ には動詞用法がないので deɪɥə でもよいのだが、ɥəɑɔlʃ からの類推でこの語順となった。　ʃʔ　［語法］　ɔɔl や ɥəl も含めて格詞の目的語といえるので、通常単に目的語と呼んでいる ɥəl 格の目的語も広義的には ɥədeɪ に含まれる。

ɥəbel　［アトラスの国家］ユベール　［アクセント］ɥəbEl　［レベル］５　ʃL:μcɑcɪ:ɥəbel → ɥəuel →「uɒɪ の暗さを受ける」→「ヴェマの隣」　［文化］　面積：101JJʔ1.00Jʔʔʔ ʃɒ ʃ

ɥəɥɪ　［動詞］ɥəl を耐え忍ぶ、耐え忍ぶ、耐える　［普通動名詞］忍耐　［類義語］hcnɔ、hcnɪ　［レベル］３　ʃ1: 古 ɥə/ɥɪc

ɥəɥɪ,ɪlʃ　ɔnnɪ

ɥəɥə　［名詞］ゆゆ、遊女、キャバ嬢　［レベル］３　ɔɒ;ɪlʃ　古 :sccl,ɥelezɔnɪ:ɥəəſ　［語法］　職業のひとつ、また、女の身分のひとつ。インプレンで働く高級な女。売春婦でなくキャバ嬢に近い。男の話し相手になって楽しませる女のこと。身寄りのない女の子が処分されずに生き残る方法のひとつ。小さいうちでないと引き取り手はいない。小さいうちに引き取られ、芸をしこまれ、学問を覚えさせられる。引き取り手の出費で勉強をさせてもらえ、寝食も保証されるという見方もできる。出来が悪ければ主に lɪz 以降売春婦になって生きるしかない。出来がよければ店で男を相手取るようになり、遊女（キャバ嬢みたいなもの）として稼ぐ。男が気に入れば相応の額を払って身請けし、ゆゆを引き取る。引き取られれば嫁となり、自由の身となる。売れ残ったゆゆはやがて客がつかなくなるとインプレンで雑用をしたり、ゆゆの教育や世話をするようになる。　売春婦の身分は低いが、ゆゆはあまり低くない。率先してなりたい職業ではないものの、訳ありで小さいころから働かされてる点に社会は同情の目を向けている。ゆゆ本人のモチベーションは一般に高い。ゆゆになるような子は、もともと捨て子が多い。彼らにはアンセが配給されない。国から国民として認可を受けないため、福祉を受けられない。そこで、生き延びた子供の中から顔や健康状態のいい少女がゆゆとして引き取られる。　ゆゆは男に身請けされれば妻としてＩＤをもらえ、アンセを配給される。これでようやく自由市民である。そこで、ゆゆは芸を磨いて男に身請けされるよう、体を清め、知性を磨き、これという男以外には貞操を持ち、会話や芸で男を喜ばせるよう努める。そこがキャバ嬢とは異なる。　男は自由市民の女よりもゆゆの見せる幻想の女像に萌えやすい。一般にアルバザードのオタクが萌える対象は、このゆゆである。日本で言うのが難しいのだが、メイドカフェが作るありえない幻想を素で見せてくれるので、特にオタクな男はゆゆに惹かれやすい。自由市民の女たちはゆゆには同情しているが、彼氏がインプレンに行くのは許さない。女によってはキレて怒鳴り散らし、顔を引っかきまわす。ただ、会話やらで遊んで楽しむ程度なら許す女もいる。また、女が同意していれば、売春婦を買うのもゆゆと付き合うのも許している。が、それはレアである。

ɥəɥəɔpʃe　［植物］イランイラン　［レベル］５　ʃ1: 遊女の吐息　［文化］　アルバザードでは催淫作用のある香りとされている。

ɥəɥəlɪ　［名詞］ゆゆか、揚屋、キャバクラ　［レベル］３　ʃL　［語法］［文化］　昔の揚屋、今のキャバクラに相当するところ。

ɥəμcɪ　［地名］ユリア海　ʃ0:μcɑcɪ:ɒɥəɔ/eμcɪ（離れた水）ミュオネイトは大陸的に元々繋がっていたが、神代以降既に大陸と離れていることから。エルトとサールのころは繋がっていた。　［文化］　ミュオネイトやオプクリアの西の海。

ɥəμenʃ　［名詞］使い魔、遣い魔、ユーレンス、召使、召使い、召し使い　［レベル］４　ʃ0:ɥə/μenʃ（言葉を受ける→命を受ける）レスティル語で、それ以前は使い魔は hɪrɒɪ（使徒）と呼ばれた。səμenʃ の sə が弱化したもの。　［文化］　黒魔導師の使い魔は鴉、黒猫、梟、蛇。　白魔導師の使い魔は白猫、兎、小鳥。　召喚士の使い魔は狐、山猫、狼。　呪術士の使い魔は鼠、虫。

ɥəz　［植物］ユーカリ　［レベル］５　ʃ1: 制

ɥəzlc　［医療］三焦　［哲学］侠。義侠心のことで ɪɑccɥə と意味は同じ。　μɑ;<jzl　ʃlʃ

ɥəzlcʃɪn　［生物］［医療］三焦経　jzl;/　ʃlʃ

ɥəscnʃ　［娯楽］当たり判定→ scnʃ　ʃ1　［用例］　ɥəscnʃ hɪnʃ{heɒ}　当たり判定が大きい｛小さい｝

ɥəl　［格詞］対格の格詞。対象を示す。　［言語］目的語→ ɔɒcʃ　［レベル］１　ʃL:ɥəɪl（受けるもの）から。このｌｌは古のｌｌ。　::jɪs:ɥə,ɪlʃ　［語法］　ふだんは省略する。強調や倒置の際に復活する。　［文化］　jɔc　［用例］　ɪn eſ ɥəl jɔɪn. 俺はまさにその「犯人」なんだよ。

ɥəlſncɒ　［色］ユルト色、ユルタン人種の肌の色、鳥の子色、とりのこいろ、肌色、＃ｆｆｆ１ｃｆ　［レベル］６　ʃL

ɥəlſuɒμɪnſ　［医療］学習障害、ＬＤ、精神遅滞、知的障害　［レベル］５　ul;ɥəlſ/ueμɪnſ. lcɪuɒμɪnſ に対して命名された。周りの子供、特に紫亞と比べたときに幼いころのユルトの学習障害が顕著だったことから。　ʃʔ:ɒel

ɥəlſɥəlcɪ　［天文］主星　［レベル］６　ʃ1

ɥəlſlccɑ　［天文］ドゥーベ、夕月星　［レベル］６　ʃL:μcɑcɪ/jeμən/ɒel　［文化］　２００７年３月８日アルバザードの南を見ると、天頂付近に２つ縦に並んだ恒星が並んでいる。どちらもほぼこの日の０時に南中しており、距離も近く、まるで兄弟のように見える。隣り合った恒星はいくらでもあるが、南中線上に、しかもこの距離と明るさで並ぶのは珍しい。　ゆえにこれら２つの星ドゥーベとメラクは兄と妹の星と考えられ、双子の兄妹ユルトとルシアの名を取って ɥəlſlccɑ,ləlcɪlccɑ と名付けられた。より高いところで大きく輝く方が男性の兄星ドゥーベである。

ɥəlſ ləſcɪ　［人名］ユルト＝ルティア、ユルト、夕月、ゆづき、ゆーちゃん、ゆうちゃん　［ユマナ］［人名］ユルト＝ルティア　［レベル］３　ʃΔ:μcɑcɪ:ɥəlφ　［文化］　(ʃΔ φcl jeμ_)　セレンとリディアの長男。ルシアと双子の兄弟で、兄。　幼少期のセレンと同じくこげ茶色の髪だったが、５歳ごろでほぼ黒になった。それでも光の加減でこげ茶色に見えることがある。髪はもともと短かったが、４歳ごろから伸ばし始めた。ほぼ直毛。目はほぼ黒で、二重。肌は白：黄＝３：７。かなり黄色人種寄り。　０歳のころから大人しく物静かだった。３歳ごろ、父親に憧れて強い男になりたがり、子供用の木刀を買ってもらって素振りをしていた。体が大きく腕力が強く、４歳ごろには近所の小学生のいじめっ子を倒したりしていた。気が優しいので喧嘩はしないが、紫亞がいじめられたときだけ怒って相手を殴り飛ばしていた。力が強く根性があるので年上の子供でも倒してしまっていた。５歳で紫亞がＰＣを買ってもらって引きこもりになっていじめられなくなってからは喧嘩をしなくなった。自分がいじめられてもえぐえぐ泣くだけで喧嘩をしないタイプ。２０１１年の２月ごろ（３歳末）から「パパ、僕可愛いですか」とか聞いてきたりするようになり、女の子趣味に目覚めだした。周りの環境が女性ばかりで、可愛いということが良いことだと思っていた節がある。　２０１１年の６月１４日にメルの付き添いで初めて父親に会い、相模大野や新宿に行った。　メルのことが大好きでいつも座っているメルの胸にしがみついてコアラのようになっていた。４歳頃メルが「太った子は嫌い」と言ったことでショックを受けてダイエットをし、５歳ごろ痩せた。　３歳頃、父親に憧れて剣道を志したが、フランスに剣道場が少ないことで５歳に諦めて木刀を振らなくなった。同時にリディアに格闘技をやるよう勧められたが人を傷つけるのが嫌いな性格のため、拒否。護身術の合気道ならいいと言ったため、父親は２０１３年の正月すぎに子供用の合気道着を送った。これが初めての父親からのプレゼントだった。ユルトはそのひと月ほど前に「とびだせどうぶつの森」が欲しいと言っていたが、すれ違い通信をしそうにないので合気道着にした。　５歳中頃過ぎには日常的に女の子の服を着るようになり、その格好で外に出て公園で男の子にからかわれ、泣いて引きこもるようになった。幼稚園にも行っていないのでそのまま引きこもる公算が高い。　痩せて木刀も振らず腕も細くなったことで余計に女の子らしくなった。顔がもともと父親に似ず派手でなく、大人しく儚げな顔をしており、髪質も両親に似ずほぼ直毛で、父親の好みのタイプの女の子なのだが、セレンは息子は息子らしくあってほしいと考えているため、複雑な気持ちである。しばしば「僕可愛いですか」と聞いてくるのだが、最初「いや、男だし……」と答えて拒絶していたら泣きだしてリディアらに怒られたので、その後は「見た目だけなら紫亞より可愛い。パパの好みではね」と答えるようにしたら、機嫌が良くなった。　性格は優しく利他的で穏やかだが、祖父に似て物静かで喋らず、大人しい。誠に残念ながら知能は低い。　ʃ1ʃΔ: おもちゃの剣を振っている。人は叩かない。ぬいぐるみも。かわいそうだからだそうだ。何で振るのか聞いたら「強くなりたいから」。なんでと聞くと「紫亞を守る」。「ママは？」と聞いたら「ママ強い」という。　６歳になり、やっぱり竹刀と道着が欲しいというので誕生日プレゼントとして買ってあげることにした。しかし相変わらずの女装趣味で、見た目には紫亞と並んでいると姉と妹に見える。ちなみに６歳になったときに身長を測ったら１２５ｃｍで、やはりかなり大きかった。体重も３０ｋｇあり、紫亞のちょうど倍だった。身長のわりにちょっと太ってるんじゃないかと思った。これでも４，５歳から比べればダイエットしたので、当時の体重は記録がないそうだが、知るのが怖い。なお、もう少し痩せないと可愛くなれないと本人は思っている様子。　［成句］　ɥəlſ lɪl hɔlɪlɑɪc nɔɑ aclcn　ユルトは美少女に目もくれず「ケバブくれ」と言う：花より団子、花よりだんご　ɥəlſ ɒeɒc ɟɪen ɟɔlle ɥən αɪμɒ. のろまなユルトも親を背にすれば輝いて見える：親の光は七光り

ɥəlſɪn　［名詞］白人の混ざった黄色人種　［レベル］３　ʃL: → ləlcɪn　［語法］　こちらもアルバザードに多い。女子は可愛い顔をしており、男子はずっと若く見える。体格は ləlcɪn にしばしば劣る。ユルト、セレン、ユーア、クミール（この人は美人系だが）などがこれに当たる。神のモデルにもよくなる人種で、アルデス王などもこれに当たる。

ɥəlſe　［形容詞］［ポジティブ］いやらしさのない、真面目な、清純な、おかたい、いやらしくない、性的に清潔な、下心のない　［類義語］ɔpμſſɪl, ucjdləɑc, ɪlɥəəl　［反意語］ejel　［レベル］３　ʃ0:ɥəlφ/ſe（ユルグのような）　［語法］　女子が理想の男子に求める条件のひとつ。反面、付き合った後はこれだと困るとされ、できるだけ精力旺盛で自分にだけ向けてくれるのが良いと条件付けている。　男子が女子に当然そうあるべきと期待する性格のひとつでもある。

ɥəlj　［化学］ナフタレン　［レベル］５　ʃL:μcɑcɪ:ɥəlɒ/jdel。ベンゼンが２つくっついたもの。メガネのように見えることから。

ɥəljɪɒe　［言語］対格、目的格　［レベル］４　μɑ;/　ʃ0

ɥəluef　［言語］目的語　［類義語］ɥədeɪ　［レベル］４　ʃ0

ɥəlɑ　［動詞］ɥəl を研究する、研究する　［普通動名詞］研究　［類義語］ɑel　［レベル］３　ʃL:lcɔn:ɥəlφ/ɑel　［文化］　→ ɪμɒefcɪ

ɥəlɑɪ　［名詞］研究所、設備、ラボ　［レベル］４　ʃJ

ɥəlɑjeu　［名詞］論文→ jeu　［レベル］４　ʃʔ:μcɑcɪ

ɥəlɑɪle　［名詞］研究会、学会　［レベル］４　μɑ;/　ʃʔ

ɥəlɑɪn　［名詞］研究者、学者　［レベル］４　ʃL　［文化］　αμenlen

ɥəlɑez　［名詞］研究室　［レベル］４　ʃJ

ɥəlɒ　［被服］メガネ、めがね、眼鏡　［レベル］３　ʃL: 古 :ɥəlφpɥəl（ユルグ神の鏡）。学問の神ユルグがめがねをかけて生まれてきたことから。　［成句］　ɥəc ɥəlɒ ɪien ɑɪd　額の眼鏡を探す。灯台もと暗し　［用例］　jɪb ɥəlɒ めがねをかける

ɥəlɒjleſ　［電算］ＨＭＤ、ヘッドマウントディスプレイ　［レベル］４　ʃ1: 眼鏡ディスプレイ

ɥəlɒɑɪn　［形容詞］［ネガティブ］くそまじめな、クソ真面目、馬鹿真面目　［類義語］ɑɪɪn　［レベル］３　ʃ0:「めがねをかけて目を悪くするくらい真面目な」

ɥəlɒɪ　［形容詞］体が賢い　［類義語］lele　［反意語］lcɒɪ　［レベル］３　μɑ;lcɪ/ɒɪcn「ユルトの体」　ʃlʃ　［語法］　頭では簡単に理解することの反対で、体で簡単に理解すること。例えばユルトは算数など勉強が苦手で中々理解しないが、竹刀の振り方や格闘技の型などは言われた通りにすぐ模倣できる。逆に紫亞はできない。これを見たセレンらは紫亞は頭は賢いが体は馬鹿で、ユルトはその反対だと考えた。このとき lele が頭の良さしか示さず、ユルトを褒める言葉がなくて困り、体が賢いという意味の言葉を作るに至った。

ɥəlφ　［エルト］ユルグ　［レベル］３　μcɑcɪ: 古　［文化］　エルト界の賢者。青年の姿をしている。本から生まれた。メガネを掛けて生まれてきた。本を読みすぎたためである。そのためメガネやコンタクトの神でもあり、縁起を担いでアルバザードの眼鏡屋や本屋には殆どユルグが描かれたものが置かれている。　・制アルカの『ɥɪjſe』より　そしてアルデたちは多くの紙を集め、自分たちが持つ全ての知識をこれらの紙に書いた。その後、彼らはこれらの紙を繋げ、一冊の本を作った。そして皆は多くのヴィードをこの本に与えた。そしてこの本はユルグという青年（J0 代）になった。ユルグは賢者である。エルトの一族のほうがサールの一族より多くのヴィードを与えたため、彼はエルトである。ユルグは眼鏡とともに生まれた。　彼は賢いが目のため近づきがたいようだ。めがねの無効にある彼の目は畏怖を感じさせる。これは鋭く冷たい。彼の長い髪は目と同じく銀である。　［成句］　ɥəlφ ɪμ ucl uelj. 学者の取った天下なし。日本と違い、皮肉ではなく学者は高尚で世俗のことに疎いので卑俗な政治に向かないという意味で使われる。なおこの諺に反し、実は ls でセレンが学者として初めて天下を取ったという例がある。

ɥəlφɩlleſ　［企業］ユルグシャレット　［レベル］４　ʃ1:「ユルグの部屋」　［文化］　ジュンク堂書店や紀伊國屋書店やリブロや三省堂書店に相当する企業。

ɥəlɥəɔɪɥəɪ　［言語］対格分詞　［レベル］４　ʃ1　［文化］　cuɪ

ɥəlμen　［言語］対格言語、対格型　［反意語］lɪnμen　μɑ;/　ʃlʃ

ɥəlɪ　［名詞］燈、仄かな灯り、灯籠、燈篭、灯篭、蠟燭、燈籠、とうろう　［動詞］ɥəl をくゆらせる、くゆらせる、くゆる、くゆらす、燻らす　［形容詞］ゆらゆらした　古：ものをくゆらせるときのオノマトペ。また、水がゆっくり流れたり、羽や炎がゆっくり揺れるときのオノマトペ。幻日の余っている音リストに載っていたのにリディアが気付き、ʃL 年末に引き揚げたもの。

ɥəlɪ(J)　［言語］京字　ʃ1　［文化］　hɪrd

ɥəlɪſ　［動詞］ɥəl を ɪ に誘導する、誘導する、いざなう、誘う、案内する　［普通動名詞］誘導、案内、いざない、誘い　ʃ0:ɒelcɑcɪ lceμ:ɥəlɪ/seſ

ɥəlɪn　［生物］［死神］誘燈　［形容詞］誘燈の～　ʃL:μcɑcɪ:ɥəlɪ/ɪn　［語法］　死神属誘燈。最も一般的な死神。通常業務をこなす種類のもの。死んだ人間を導くために燈を持っていることからこの

名がついた。夢織などは燈を持っていないか使わない。 〔成句〕〔婉曲〕jeɑ nene ɪ ɥəlɪn 手にかける、殺す 〔用例〕 lɕeɥ. nɔn jeɑ lɕɥ jeɒɪɕɒ enɪʃ ɪ ɥəlɪn, uecʃ ɥəlc ləəʃ, lecn ˥ɪhc" よっつ。私は私の友をこの手にかけ、友の子を奪い、罪を背負う。

ɥəlɪl 〔物理〕流体 ɟO:ɥəlɪ/ɪl（くゆる物）

ɥəlɪlflɪcʃ 〔物理〕流体速度、流体の速度 ɟO

ɥəlɪlaɔɪsɪ 〔物理〕マッハ数 ɟO: 流体速度 / 音速 / 比を短くしたもの 〔文化〕 流体速度と流体中の音速の比の数。

ɥəlc 〔名詞〕子供、動物のひな 〔名詞〕初級、ビギナー、ひよっこ、初心者、初級者 〔反意語〕ɒɪu 〔レベル〕2 1L:ɥəlcɪ ɒcuɪ:ɒcuɪ:lɪ ɪɒcu 〔文化〕 ɒɪu 〔用例〕 ɪn ɪʃ ɪl˥ lɪlʃ ɥəlc nɪ. 初級者にしてはうまかったと思う。

ɥəlc,ɪlʃ elɔ

ɥəlcl˥lɔɪ 〔名詞〕童話、メルヘン、お伽話、おとぎ話 〔レベル〕2 μɑ;/「子供の物語」 ʃʔ に幻英から転載。ɟO 年にリディアが造語。

ɥəlc˥lel 〔名詞〕子供用の辞書 〔レベル〕3 1L:lcɔn

ɥəlclcɟ 〔魔法〕〔アイテム〕ユリシス、月柩、月宮、月の柩、つきのひつぎ 〔レベル〕3 ɪl;ɥəlclcɟ,cn（柩） ʃʔ 〔文化〕 → ˥ɪɪɑe μɑ でフルミネアが作ったカーデに ls までの偉人たちを加えて新たに作った ˥ɪμɑcɪ のこと。ɪl でき ls までカードの追加が続いた。占いやゲームなど、様々な用途に用いる。 ユリシスの一枚一枚のカードのことを ˥ɪμɑcɪ というが、この場合は「月」と訳す。「月」はここではキャラクターの意味で、使徒を指す英単語が m o o n であることからの訳語である。また、柩に関してはそれらのキャラクターがカードに封じ込められているという意味において「柩」の字を冠されている。

ɥəlclclc 〔ユマナ〕〔政治〕子ども手当 〔レベル〕6 ʃ1

ɥəlcɟ,ɟzɑ ɒcn

ɥəlcɟccz 〔筐堺〕ユリシーズ 〔レベル〕5 μɑ;ɥədcʃɔɔl/lcczel/jcczcɪ ʃʃ 〔文化〕 筐堺司：ɪll uɪl cnɪ 筐堺国：lcczel, ɥədcʃɔl, ɪləɔɟcɪ ɪlʃc

ɥəlcuceʃcɑ 〔地球の星座〕〔ユマナ〕こじし座 ʃʃʃ 〔文化〕 cɑɪ

ɥəlcɑeɒe 〔地学〕〔歴史〕原生代 〔レベル〕6 ul;/ ʃʔ 〔文化〕 φɪɪueɑeɒe 約２５億年前～約５億４２００万年前を指す。古原生代 (nɪnɪɑeɒe)、中原生代 (ʃcnɪɑeɒe)、新原生代 (ɑcɪnɑeɒe) に分かれる。

ɥəlcɑelʃcɑ 〔地球の星座〕〔ユマナ〕こぐま座 ʃʃʃ 〔文化〕 cɑɪ

ɥəlcφɪμʃ 〔名詞〕子供料金 〔レベル〕2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɥəlcφɪlcɟ 〔娯楽〕ＢＢ弾 〔レベル〕3 ɪl;/「子供弾丸」 ʃʃʃ

ɥəlcφel 〔娯楽〕エアガン、エアソフトガン 〔レベル〕3 μɑ;/ ʃʃʃ 〔文化〕 ＢＢ弾を撃ち出す子供用のおもちゃ。

ɥəlcdɪb 〔動物〕子馬、ポニー 〔レベル〕3 μɑ;/ ʃʃʃ

ɥəlcdɪbcɑɪ 〔地球の星座〕〔ユマナ〕こうま座 ʃʃʃ 〔文化〕 cɑɪ

ɥəlcdcʃ 〔医療〕小児科 〔レベル〕2 1L

ɥəlchɪ 〔魔法〕〔工学〕〔交通〕滑走路 〔レベル〕4 ɟɒ<ɥəlchɪ,ɪlʃ ˥l;ɥəlc/hɪ「櫂の道」。ɪlʃ の死神が櫂を使って飛ぶときに１m 程度の滑走路を必要としたことから。特に着陸時のほうがブレーキを徐々にかける関係で長い滑走路が必要だった。それが転じて μʃ では飛行機の滑走路になった。 ʃʔ

ɥəlc scleel 〔人名〕ユリ＝ジレール ɟO 〔文化〕 (cɒəl ˥ʔ˥L:˥ʃʃʃ??) ラグナロクの研究員。φel と ˥ɪc φel の発明者。オスティアの子孫。

ɥəlcocl 〔医療〕ペドフィリア、ロリコン、ロリータコンプレックス 〔類義語〕oɪ˥ɪnɪ 〔レベル〕4 1L 〔文化〕 アルバザードにはロリコンが少ないため、社会問題として取り上げられない。アルバザードにおけるロリコンの定義はソーンの年未満すなわち１５歳未満の少女を相手にする場合に限られる。日本だと女子高生は児童なので援助交際をすると条例違反になるが、アルバザードだと１６歳はとっくに性的対象とみなされる。 なお、伝統的にアルバザードは１２歳からセックスの対象としてきたため、１２，１３，１４歳を対象にした場合はロリコンと定義されないこともある。 さて、アルバザードには１１歳までの少女に性欲を感じる男性が少ないため、ロリコンが少ないということになる。ロリコンが少ないのはいくつか原因がある。もともとロリコンは「セックスをしたいが彼女がいないしレイプする度胸もないので、逆らいそうもない子供で我慢しよう」というタイプと、「子供に性欲を感じる」というタイプがいる。前者に関してはアルバザードは風俗が発達していて女性に困らないので、存在しない。後者に関して、なぜ大人が子供に魅力を感じるかだが、それは恐らく成人女性に相手にされないとか馬鹿にされるという恐怖心が元になっている。ところがアルバザードの女性は表面上大人しくたおやかで男性を立てるため、男性は女性を恐れない。その結果、子供に走ることがない。アルバザードのロリコンは従って、純粋に少女の肉体に性欲を感じるタイプである。 〔用例〕 ɪn nɪμ nɔɟ eʃ zɪl ɪ nɔɟ ɑe ɥəlcocl uɪμ cnej jeɒɪlecz(ɪlʃe ɪlɪ ej ɥəl cocl ɑc lɪ ʃə ˥lɪɑ. lcnɪ, ɪn ocl jccɪ ɑcɪn cɒ ɒɪnɪn. ʃɪl ɪn ɟɔʃ ɒɪn ˥ɔ˥jɪcɒ φenɔɒ uɪn ɪn ɔl ɪn ˥əc ɑcɪn. ɪlɑc, ɑcɪn eʃ ɪɒdʃɔn ˥ɪlʃ ɪn jej. ɒɔn ɪn ɔclɪʃ ɑcɪn ʃɪl hɪɔ ɪn en ˥əcʃ ɑcɪn ʃcl ɒel. lɪ eʃ ɪɪl. lɪ ɑe ɪɒdʃɔn. ˥ɪn, ɪn ocl ləʃ ɪlnɪʃ ɔuɪ ɑə˥ɪʃjə elc c ɒɪlʃ. ɥəlc ɔ ɒɪlʃ ɑe ʃɔμ ɒɥəel ˥ɪlʃ ɪn ʃeɪ ləəj ɑe ɪɒdʃɔn.

ɥəlclec 〔名詞〕子ども文庫、子供文庫、児童文学 〔レベル〕3 μɑ;/ ʃʔ

ɥəlcɪ 〔人名〕ユリア 〔名詞〕双子 〔形容詞〕双子の 〔類義語〕ɪ˥ɪuɥəlc 〔レベル〕3 1Δ:μcɑcɪ ɪz ɒel:ɥə ˥lʃ/ləlcɪ 〔文化〕 ユルトとルシアを一緒くたにした名前。双子なので一緒に世話されることが多く、一々ユルトとルシアというのが面倒なので、その二人ともという意味でよく使われている。

ɥəlcɪ(J) 〔人名〕ユリア ɟO 〔文化〕 (ɥəəɒɪ ˥ɥΔʃ1) ɥəəɒɪ ˥ɥL˥ʃ ソナリア、実の娘ユリアとの間に娘 jɔμn を授かる

ɥəlcɪn 〔親族〕自分の子供、子供、子弟。息子と娘の総称。 〔反意語〕μjccl 〔レベル〕2 1L:ɥəlc/ɪn（子供な人） ɒcuɪ:ɒcuɪ 〔用例〕 ˥ɪɪj ˥ccl˥j ɥəlcɪn ɒɪn ˥ɪɑɪʃ lə nɔuel. 遅くにできた子供だったので、可愛がった。

ɥəlcɪnʃ 〔魔法〕錬金術、ユリアント 〔レベル〕4 ɟO: 古 ɥəlφ/˥ɪnʃcj。ɪuel/˥ɪnʃcj が ɪuel˥ɪnʃ になるのと同じ形成過程。ただし錬金術師はほかの魔法体系の命名同様、強変化して ɥəlcɪnʃcj となる。 〔文化〕 μɑ の時代に民衆の魔力が弱まったことで魔法のアイテムに頼るようになり、アディストの需要が高まった。このアディストを作る研究が錬金術ユリアントである。錬金術というのはあくまで訳語であり、アトラスにおいては金を作るものではない。 アディストの研究には巨額の資金のほかに若い才能あるる魔女が必要だった。そこで各国はユリアンティス育成所を普通教育を行う学校以外に設けた。しかしほとんどの施設は人員と資金の不足で、パイオニアの論文を研究するしかなかった。ちょうど今の日本の言語学研究がアメリカの先行研究を追いかけるのに似ている。 そのパイオニアになっていたのがアルバザードがメインとなりルティア･アルシア自治区と共同出資をしてできたミスティア錬金術舎である。ルティアには姉妹校のイスフィリア錬金術舎があり、世界初の単位交換制度を開始していた。アルバザードは伝統的に西洋魔法に特化しており、一方ルティアは土地柄東洋魔法にも西洋魔法にも通じる。深く狭くのアルバザードと浅く広くのルティアでは魔法の研究も異なる。そこで学生が広く学べるよう、交換留学を可能にした。 ミスティアは ˥ʔʔ˥ 年にアルシアに、イスフィリアは遅れて ˥ʔ˥L 年にエリーゼルに建てられた。 錬金術師が隆盛したのは上記のとおり μɑ だが、必要に応じてある日突然錬金術が生まれるわけではないので、錬金術に当たるものは jɒ やそれ以前に萌芽があり、錬金術師もいた。ただそれが国家的プロジェクトになったのが μɑ である。

ɥəlcɪnʃjel 〔歳時記〕錬金術の日 〔レベル〕3 ʃ1 〔文化〕 → μɪnʃeuɪlj ミスティア校のできた日。φcl lcj。錬金術を称える日。錬金術は当時の医療 lə˥leʃcɪ と密接に関係していたため、医療関係の日になっている。この日はホームドクター（町医者）が錬金術師の格好をして勤務する日で、人気なのはリュウのコスプレ。子供に人気があるため、子供が嫌がらずに病院に行ってくれるという効果があり、親に人気が高い。予約が殺到するため、この日は診療時間が前後に延びる。 薬局ではジョークグッズとして ɪɑcjʃ が売られる。

ɥəlcɪnʃcj 〔魔法〕錬金術師、錬金術士、ユリアンティス 〔レベル〕4 ɟO:ɥəlφ/˥ɪnʃcj 〔文化〕 ɥəlcɪnʃ 代表的なのはアリス＝アンシャルなど。 〔成句〕 ɪjɒ ɪɑcjʃ ɪ ɥəlcɪnʃcj 餅は餅屋

ɥəlcɪn˥ 〔形容詞〕可愛い 〔反意語〕hɪʃcɪn˥ 〔レベル〕2 μɑ;ɥəlc/ɪn˥ ʃʃʃ 〔語法〕 hɪʃcɪn˥

ɥəlcɪn˥lɪɑ 〔政治〕属国 〔レベル〕5 ɟO: 子供の国

ɥəlcɪn˥clɑ 〔政治〕属州 〔レベル〕5 μɑ;/ ʃʃʃ

ɥəlcɪnuenʃ 〔経済〕子会社 〔レベル〕4 1L

ɥəlcɪnφcɔ 〔経済〕経常利益、経常損益 〔レベル〕6 1L

ɥəlcɪnɪμ˥ɔ 〔言語〕子ノード μɑ:ɒel;/ ʃʔ:ɒel

ɥəlcɪlccɑɪ 〔天文〕連星、双子星 〔レベル〕6 ʃ1

ɥəlcɪcɑɪ 〔地球の星座〕〔ユマナ〕ふたご座 ʃʃʃ 〔文化〕 cɑɪ

ɥəlcɔɔc 〔牧畜〕子豚 〔レベル〕3 ʃʃ

ɥəlceʃ 〔形容詞〕本当の、真の 〔副詞〕本当に、真に、まことに 〔類義語〕˥lɪn 〔レベル〕3 ɟO: 赤 ɥəlc（本当）の異形態 ɥəlc から。ɥəlc は既に新生で意味を持っているため、eʃ（～な）を付けたもの。 ::lə ɒcl˥ɔ 〔語法〕 ˥ɪn の持って回った言い方。ɥəl の代わりに使うこともできるので、˥ɪn と ɥəl の上位概念と見る向きもある。

ɥəlceɟʃ 〔名詞〕幼名 〔レベル〕5 μɑ;/ 〔文化〕 → eɟʃ, eɟʃ˥ɪnφ, ˥əzeɟʃ アルバザードやルティアに幼名の習慣は有史以来ない。凪は jɒ まで幼名の習慣があったが、μɑ 以降廃れた。

ɥəlcel 〔運動〕ユリエール 〔アクセント〕ɥəlcEl。ɒcleel だと ee の部分にアクセントが来る。語根を活かした。 〔レベル〕5 ɟO:μcɑcɪ:ɥəlɪ/ɒcleel（燈の羽）ゆらゆらと動く燈や舞う羽のような動きであることから。 〔文化〕 武道から生まれた呼吸法のひとつ。ユリエールは瞑想ルヴァンの呼吸と格闘技ユペールの中間的な存在で、動く瞑想とも流水のような格闘技とも表現することができる。地球でいうなら太極拳や能に近い動きである。 体が固く呼吸の浅い人用にどう深い呼吸をさせるか考えたリディアは、ユリエールの動きに発声を入れた。緊張しやすく運動中に無呼吸になりやすい人でも自然と呼吸ができるよう、ユリエールでは常に動きの間に言葉を発声するようになっている。この言葉は呪文であり、意味を持った文になっている。無論アルカである。呪文はシュワーの使用率が高く、常に開音節の C V を取る。˥ɪnʃ ならば ˥ɪ nɜ ʃɜ と区切る。響きの弱いシュワーが増えるため、オペラよりも能に近い。 ユリエールは第一教～四教で構成される。 ●第一教 いわゆるストレッチに当たるもの。通常のストレッチと変わらないが、大腰筋などの深層筋を伸ばすことに意識を置いている。言葉は出さないが、ɒɒ というハミングとともに筋肉を伸ばす点が特徴的。 ●第二教 徒手による呼吸法。ユペールの型をスローモーションにしたような動きで構成される。 ●第三教 扇子を使った呼吸法。元々存在しなかった教だが、第四教で使う長い木の杖が重いため、わたりとして編み出された。実際ユリエールの動きをするとただ動くだけでもものすごく筋肉を使う。杖を剣道のように振るのはたやすいが、ユリエールのゆったりとした動きでやると非常に負荷が大きい。そこで編み出されたのが軽くて優雅な動きのできる扇子を持ったこの教である。 ●第四教 杖を使った呼吸法。杖を振りなぐも舞うように動く。剣術よりも杖術の得意なリディアならではといえる。また μɑ でもリディアの装備は杖なので、文化的にも矛盾なく好ましい。 これを上から順に行うが、できれば四教が終わった時点で一教をもう一度行うとクールダウンになって筋肉に良い。

ɥəlcəɟ 〔地名〕ユリウス。ディミニオン国の首都。 〔魔法〕〔名前〕第一祠徒ユリウス zφ;ɥə/lclc「神の恩恵を受けた土地」| ls; 第一祠徒が降臨した土地であることから。 ʃʃʃ 〔用例〕 ɥəlcəɟ ɑel ɑcɒcɒnɔɔn ɑəə = ɑcɒcɒnɔɔn ɑəə ɑel ɥəlcəɟ 第一祠徒ユリウス

ɥəlɔ 〔名詞〕表、オモテ、表面 〔名詞〕見えている面 〔名詞〕本音、真実 〔動詞〕ɥəl を表にする、表にする 〔格詞〕～の表に 〔物理〕〔化学〕表面 ˥ɔμec 参照 〔反意語〕heʃe 〔レベル〕2 1L: 赤 :hɥəlɔ hɥəlɔ:hɥəlɔ 〔成句〕 ˥lʃ ɥəlɔ 表向き ˥lʃ ɥəlɔ ˥ɔʃ 表面的には、表向きには

ɥəlɔ(J) 〔地名〕ユロ 〔レベル〕5 ˥ʔ: 制 : 古 :hɥəlɔ（賢い）から。 〔文化〕 ソーンの使徒ヴァロの支配地。

ɥəlɔ(ʔ) 〔アトラスの国家〕ユロ 〔レベル〕5 制 〔文化〕 面積：˥ʔʔʔʔʔʔ˥ʔ.ʔ˥Δ˥1J ˥ɔ ʃ

ɥəlɔʃ˥lucɒ 〔生物〕上腕二頭筋 〔レベル〕4 ˥ʃ˥<J1

ɥəlɔɟɔ˥ucɪn 〔生物〕大腿四頭筋 〔レベル〕5 ˥ʃ˥<J1

ɥəlɔɔɔʃucɪn 〔物理〕表面張力 〔レベル〕4 ɟO 〔文化〕 界面張力 ˥ɔμecɑɔʃucɪn の一種。コップの水と周りの空気の接する境界などが典型例。液体は表面をできるだけ小さくしようとするため、コップに水を満杯以上に注いでも、少しくらいなら水が零れない。それはこの力が働くため。

ɥəlɔen 〔接続詞〕ɥəlɔ 〔レベル〕3 μɑ;/ ʃʔ

ɥəleʃ 〔人名〕ユレット 〔レベル〕4 古 〔文化〕 (ɒel ʃ10 ？→ ʔ10 ？) マルテとアフレインの息子。ɪɒelc の兄弟にして夫。ミロク＝ユティアの父。アルティス教の派閥アルマスト派の２代目リーダー。

ɥəleʃ(J) 〔アトラスの国家〕ユレット諸島 〔レベル〕4 1L:μcɑcɪ: マレットの

ɥəleʃ(ʔ) 〔名詞〕表面 〔形容詞〕表面の、表の 〔形容詞〕正規の 〔反意語〕heʃeʃ 〔レベル〕3 μɑ;ɥəlɔ/ʃe ʃʔ

ɥəlen 〔接続詞〕対格の接続詞 〔レベル〕3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

ɥəleu 〔動詞〕ɥəl（人）を ɪ に送る、ɥəl を ˥ɪ で見送る、送る、見送る 〔普通動名詞〕見送り 〔類義語〕˥lɪnʃ 〔レベル〕3 ɟO:φɥə/leeu（苦く別れる＝別れを惜しむ）

ɥəlep 〔音楽〕楽器 1L:ɥəəle/lep。この単語ができる前は lepɔ˥ɔn だったが、音が綺麗でないので不採用。 〔文化〕 ɑlcɪns 楽器が最も盛んなのはケートイア。意外にエルトアではない。フリアンジュ社などもケート発祥。

ɥəɪ 〔代詞〕〔形容詞〕あのような、あんな 〔類義語〕˥ɪlenɟ,uɪnɑɔl 〔反意語〕jɔɪ 〔レベル〕1 1L:lɥə/jɔɪ 〔語法〕 jɔɪ 指示用法では前置。 〔用例〕 ɪn μcj uɪnɑɔl ˥ɪb. あんな仕事は嫌だ。

ɥəɪʃ 〔電算〕バイト 〔レベル〕4 ˥ʔ: 制 : 古 :ɥəɑə(ビット)ʃ0 と 1J が原義から , バイトは Δ ビットであることから J 対にした

ɥəɪʃ˥ɔʃ 〔電算〕半角全角キー 〔レベル〕3 ɟO

ɥəɪn 〔言語〕形副詞 〔レベル〕4 ˥ʔ: 制 :ɥəe（形副詞）

ɥəɪn(J) 〔代詞〕あのようなもの。ɥəɪ の属格。 〔レベル〕1 ʃʃ

ɥəɪn(ʔ) 〔電算〕クライアント 〔俗語〕受け、右側、右、猫、ネコ 〔レベル〕4 ʃʃ:「受けるもの」

ɥəc 〔動詞〕ɥəl を探す、探す、捜す、さがす、求める、もとめる 〔普通動名詞〕探査、捜査、捜索、検索、探索 〔類義語〕jɪ˥ 〔レベル〕2 1L: 古の ɥən˥c（姫探し）から。なお、ɥən˥c は「ユンクを見る」が原義。 〔成句〕 ɥəc dɔʃ ɑecj 暗中模索 ɥəc ˥ɪ leɪ˥ 五里霧中 〔用例〕 ɥəc leɒɒɪj 楽譜を探す ɥəc μɪnel きちんと探す nɔn ɥəcʃɔμ lenɑc ˥ɔɒ ɪn˥ e. そんな可愛いワンちゃんを探していたの。

ɥəc(J) 〔魔法〕忌み 〔レベル〕4 jɒ<zφ;ɪlʃ ʃʃ 〔文化〕 ɪɑel が ˥ɪnleczen になったもの。

ɥəcɒ 〔企業〕〔人名〕ユイム、時任 〔ユマナ〕グーグル 〔動詞〕ɥəl をググる、ググる、ユイムで検索する 〔レベル〕3 ʃʃ:ɥəcɥəleɒ<J1:ɥəc 〔文化〕 グーグルに相当する企業。 〔成句〕 μe ɥəcɒ, ˥əz. ググレカス、ググれカス、 g g r k s

ɥəcdɪɒ 〔名詞〕サーチライト 〔レベル〕4 ʃʃ

ɥəcl 〔名詞〕探し物 〔言語〕検索語、検索ワード 〔レベル〕3 ɟO

ɥəcɪμ 〔名詞〕探知機、レーダー 〔レベル〕4 ʃ1

ɥəɔ 〔言語〕動詞 〔レベル〕4 ˥ʔ:ɥəɔn 〔語法〕 動詞自体に意思の有無を示す効果はない。一般的に意思を伴う場合は他動詞か再帰型自動詞を、伴わない場合は繁辞型自動詞を使うことが多い。つまり文法的に意志の有無を示す。 また、uɔ˥el や jɔn などで意思の有無を表すこともできる。 ɪn ɒel˥ʃ hɪʃ. Ш を落とした。有意思。 ɪn ɒel˥ʃ hɪʃ jɔn. Ш を落としてしまった。無意思。人為的。 hɪʃ ɪʃ ɒeʃ. Ш が落ちた。無意思。自然。

ɥəɔjeueʃ 〔言語〕動詞句 〔レベル〕5 ʃʔ:ɒel

ɥəɔnɕɑ 〔言語〕アスペクト→ nɕɑ 〔レベル〕5 ɟO 〔語法〕 ひとつの動詞につき、アスペクトは７相。将然・開始・経過・完了・継続・終了・影響の７相。 それぞれ下記のように表す。内側の３つのみ動詞語尾で、あとは副詞である。 jɪʃ, ˥cʃ, (ɔ)μ, (c)˥, (e)j, ʃɔɔ˥, clʃ この７相に２つの無相が加わる。無相は相がないので、アルカの相は７種。 無相は２種ある。ひとつは ˥cʃ ～ c˥ までの「行為無相」。ひとつは c˥ ～ ʃɔɔ˥ までの「状態無相」。 前者は動詞に何も付けない無標形であるが、「これは動詞である」と明示するために接尾辞 (e)ɒ を使うこともできる。後者は副詞 ˥ɪ を付けて表す。 ɑɪc（燃やす）の実例 ɑɪc：燃やす ɑɪc ˥ɪ：燃えている。燃え始めから燃え終わりまでの総称 ɑɪc jɪʃ：燃やそうと考える。準備する。火を近づける ɑɪc ˥cʃ：火をつけ始める ɑɪcμ：火を当てている。チリチリいう ɑɪc˥：火がつく。点火 ɑɪcj：燃えている途中 ɑɪc ʃɔɔ˥：燃え終わる ɑɪc clʃ：灰になっていて燃やした結果が残存している ɟ˥cn（座る（正確には座らせる））の実例 ɟ˥cn：座る ɟ˥cn ˥ɪ：座っている。座り始めから起立までの総称 ɟ˥cn jɪʃ：座ろうとしている ɟ˥cn ˥cʃ：座り始めて腰を曲げた ɟ˥cnɔμ：腰を下ろしている途中 ɟ˥cnc˥：座面に尻が着いた ɟ˥cnej：座っている状態 ɟ˥cn ʃɔɔ˥：座り終えて立つ瞬間 ɟ˥cn clʃ：座面が暖かく、座っていた影響が残っている ＜例外動詞＞ ˥ɪ（いる）、jccɪ（好き）などは、無標が行為無相でなく継続相になる。 例外動詞では継続相が無標になる代わりに、行為無相に必

ず (e)ɒ が付く。　jccnɪ（好き）の実例　jccnɪɒ：好む　jccnɪ ɩɪ：好きである。好きになり始めから好きでなくなるまでの総称　jccnɪ ɟɪʃ：好きになろうとしている。まだ他人 jccnɪ ʅcʃ：好きになり始めた。意識し始めた　jccnɪɥ：好きになる途中。あの人いいかも状態　jccnɪʅ：好きになった。私この人のこと好きなんだという気付きの時点　jccnɪ：好きである。好きだ　jccnɪ (ɔɔʅ：好きでありおわる。好きでなくなる　jccnɪ clʃ：むかしは好きでした的な意味　継続相で使う頻度が最も高く、かつ行為無相で使う機会がほとんどない動詞のみが例外動詞になる。　その動詞はこのとおり。　存在動詞：ɩɪ, ɒc　所有動詞：ʃcl, jc　心理所有動詞：nɪ のみ　定義動詞：eʅj, ɒɔʅj, φɪμʃ など　心理動詞：jccnɪ, ʃccɪ, jcn, uɪμɪe, hɪʃcɪ, ʅɪɑ など、jccnɪ 型の動詞

ɥəɔɑɥəɥə 〔言語〕動副詞 〔レベル〕4　μɑ;/　ʃʔ 〔文化〕 ɑɥəɥə

ɥəɔɪɟɪ 〔言語〕動名詞 〔レベル〕4　ʃʅ 〔文化〕 cuɪ

ɥəɔɪdcɪn 〔言語〕動詞を指す形態素、動詞語尾等 〔レベル〕4　ʃ0

ɥəɔɪɥəɪ 〔言語〕分詞、動形容詞 〔レベル〕4　ʃʅ 〔文化〕 cuɪ

ɥəɔɕʃɕ 〔言語〕代動詞 〔レベル〕5　μɑ;/　ʃʃʃ

ɥəə 〔副詞〕〔形容詞〕やや 〔レベル〕1　ʃ0: 恣意。ここから強調の程度が弱くなるので、音を柔らかめに。また、類音がないように。 〔語法〕 uɪμʃ

ɥəə(ʃj) 〔医療〕心包 〔哲学〕堪。「おしん」や「コゼット」のようにひたすら耐え忍ぶ美徳のこと。　μɑ;<ɟzʃ　ʃʃʃ

ɥəə,ɑɯ　ɪɟʃ

ɥəəʅɪn 〔生物〕〔医療〕心包経　ɟzʃ;/　ʃʃʃ

ɥəənʃɕ 〔電算〕クライアントソフト 〔レベル〕6　ʃʅ

ɥəəɒɪɒ 〔生物〕貧乳、ひんぬー、ヒンヌー 〔レベル〕4　μɑ;/　ʃʃʃ

ɥəə 〔単位〕0、ない、ゼロ、零、れい 〔名詞〕古アルカの０ 〔代詞〕何もないもの、誰も～ない。零人称代名詞。所有格は ɥəəʃ でなく ɥəəʃə。 〔形容詞〕０の、全くない、ない、無い 〔レベル〕1　ɑɯ;e　赤　::lɪ pɥəl（数はアルミヴァの性と一致。０は時計などで１２と同一視されるためコノーテで、女性 :nɪn,ɪlʃ 〔語法〕 長母音で終わる珍しい単語。実際の発音は ɥə と大差ない。単に綴字上の区別を設けるためといってもいい。 〔成句〕 ɥəə. 別に。なんでもない。　ɥəə ɪɪl(el). 別に。特に何も。　ʃə eʃ ɥəə. なんでもない、何でもない、いいってことよ、問題ない、いいよ、どういたしまして 〔用例〕 ɪn jɔʃ jen ɥəə. 私は何もできなかった。　ʃcl ɥəə len jɔ することがない

ɥəəʃ 〔動詞〕ɥəl（遊ぶ内容）を遊ぶ、遊ぶ、興じる、楽しむ、鑑賞する、味わう 〔普通動名詞〕遊び、遊戯、娯楽 〔類義語〕ɪlɔ 〔レベル〕3　古 :ʔbccμ:ʃcɪɪlɪ 〔語法〕 ɪlɔ は子供がはしゃいで遊ぶような遊びがメイン。ɥəəʃ は楽しむという要素が強い。

ɥəəʃʃəl 〔名詞〕娯楽品、嗜好品 〔レベル〕4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ 〔語法〕 ゲームなどのこと。

ɥəəɪ 〔名詞〕情、じょう、なさけ 〔レベル〕3　ɑɯ;ɥə/ʃe「心で受けるような」 ʃʃʃ

ɥəəʃe 〔代詞〕なんでもない人の、何もないものの 〔レベル〕1　ʃ0:jɥɥen/μcɑcɪ:ɥəə/ʃe

ɥəəʃeɪ 〔動物〕アデロパシレウス 〔アクセント〕ɥəəʃeʔ ɪl;ɥəəʃel/ɪɪɒʃ「太古の鼠」 ʃʔ 〔文化〕 中生代三畳紀後期の２億２５００万年前に生息していた。ɪl に糞化石の中から頭骨の一部が発見された。発見された頭骨は吻端などが欠損していたが、大きさは長さ１．５センチ、幅も１センチに満たない小さなものであった。推測される体長は１０センチから１５センチ、現在のトガリネズミのような外見であったと思われる。この頭骨には祖先となった獣弓類との類似点も多く認められるが、眼窩に視神経孔がある、蝸牛の付着点である岬角があるなど（哺乳類以外の）獣弓類にはなく、哺乳類のみに見られる特徴がある。生態についてはよく分かっていない部分もあるが、おそらくは夜行性で昆虫を食べていたのであろうと推測される。

ɥəəʃel 〔名詞〕〔形容詞〕古代、太古、大昔 〔類義語〕jcɑ 〔レベル〕3　jzɑ　ʃʔ: 余っていた語形を再利用

ɥəəʃelʃeμn 〔動物〕始祖鳥、ユーテルケルン 〔レベル〕5　ul;/「太古の翼」 ʃʔ

ɥəəʃəl 〔代詞〕何もないもの 〔レベル〕2　ʃ0

ɥəəʃəleɪ 〔代詞〕何でもないものの 〔レベル〕2　ʃ0

ɥəəʅ 〔医療〕解毒、アンチドート 〔魔法〕ユーク（ポイゾナ）。利の低位白魔法。毒を治す。これが低位魔法なのでアトラスという世界では歴史上毒殺が有効でなかった。 〔レベル〕3　ɑu: ɥɪɥə/ʅeɪ　ʃ0:ɥɪɥə/ʅeɪ（毒を治す）　ɥəəʅ:ɥəəʅ

ɥəəʅɪ 〔動詞〕ɥəl の皮をはぐ、はぐ、剥ぐ 〔普通動名詞〕皮剥ぎ、皮剥 〔魔法〕ユウカ。風の禁呪魔法。風刃で服を剥ぎ取り、全身の皮膚を剥がす。綺麗に髪や皮だけ剥げると、全身の毛穴から鳥肌のように小さな血球がぶつぶつと漏れ出し、やがて全身から噴水のように出血して死ぬ。μɑ ではメルが「鳥あそび」と称して、犠牲者にかけた。 〔レベル〕3　ɑu　赤

ɥəəʅc 〔死神〕悠姫 〔レベル〕6　ʃ0: 雛人形１，７，１３号は対応関係にあり、ʅc で終わる。ɥəə の部分は ɥənʅ。 〔文化〕 死神シューゼの持つ雛人形の一人。第十三雛。無口で計算高く、抜け目がない。無機質で感情に乏しく、ぼーっとした表情でサラっと棘のある毒を吐くが、本人には悪気がない。銀色の髪、緑の目、濃い黒緑のフリルのワンピース、頭にはレースの髪飾り。口調はユール。　死神本来の食事を嫌い、甘いものを好む。

ɥəəʅɔ 〔言語〕〔文字〕印刷標準幼字書体、業界標準幼字書体、印刷業界標準幼字書体、ユウコ、ユーコ 〔レベル〕5　ʃʃ:ɥəəʅɔ,ɑɯ（曼珠沙華） 〔文化〕 μɑ(ʃʃ) で、ɪɥɪɪ を元に本文中で幼字が浮かびようにに作られたフォント。　現実には ʃʃ にネットユーザーの尽力によって作成された。更に言えば、現実では ɥəəʅɔ のほうが先に作られた。　ɪlblɪnʃ を元にしているため、曼珠沙華の神代の名を取って ɥəəʅɔ と呼ばれる。本文中では幼字はこれを用いる。

ɥəəʅɔ,ɑɯ　ɑcnɔcn　ɥəəʅ から。本来は「毒消しの魔法 ɥəəʅ が必要となる」が原義で、徐々に前半部分だけが残ってしまったもの。

ɥəəʅcɔn 〔アイテム〕ユーシオン、毒消し 〔組み数字〕１２/１２ 〔レベル〕4　ʃ0:ɥəəʅ/ʅcɔnɪ 〔文化〕 カモミールにユークの魔法をかけた後に茶葉にし、小さなティーパックに入れたもの。お湯をかけるだけで飲める。お湯がない場合はパックに唾をつけて湿らせ、患部に当てると効く。最悪の場合、中身を出して飲んでも良い。ただし、むせる。カモミールが選ばれたのはアルバザードで最古の薬草であることから。セルメルでナユがラルトの使えない子供たちのために作った。

ɥəəʃ 〔動詞〕ɪ（相手）に ɥəl（行動内容）を自由にさせる、させる。使役動詞。 〔レベル〕2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcʃ: 制 :ɥəʃ 〔語法〕 leɪueʃ, jɔlʃ 〔成句〕 ɥəəʃ pɥəə ʅeʃj 可愛い子には旅をさせよ　ɥəəʃ leeɪɪn ʃeeu 去る者は追わず 〔用例〕 pcμ ɥəəʃ ɒen μenʃj. 申し上げます。

ɥəəʃccnel 〔名詞〕(ʃcl で）選り好まない、好き嫌いのない、健啖な 〔反意語〕ɑcjccnel 〔レベル〕3　μɑ;/　ʃʃʃ 〔語法〕 食べ物以外にも何にでも使える。 〔用例〕 lɪ ʃcl ɥəəʃccnel ɪ ʅəlɪlɪ. 彼は食べ物の好き嫌いがない。

ɥəəʃccnelɪn 〔名詞〕健啖家、好き嫌いのない人、博愛的な人、博愛、博愛主義 〔レベル〕4　μɑ;/　ʃʃʃ

ɥəənɪ 〔名詞〕かわいこちゃん、カワイコ、可愛い娘。女にだけ使う。 〔レベル〕3　古 :ɥənɪ から 〔語法〕 アルデンやアルベンが使うイメージ。ユンクが使うと違和感がある。

ɥəənɪ,ɪlʃ　ɑcɪ、lɔnɑ

ɥəənɪφc 〔魔法〕夕凪 〔アクセント〕ɥəənɪφʔ 〔レベル〕6　μɑ;μɥəə;ɥəənɪ/φc「夢機」 ʃʃʃ 〔文化〕 μɑ でリュウを代表としたアルシェがヒュート国とアルバザード国の全面的支援を受けて神々と共同で開発した魔法機械。後のアシェットの戦闘シュミレーションマシンとなる。　アシェット、とりわけアルシェは日々苛烈な訓練をしていたが、人体を使って実戦並みの訓練をすると損傷が激しく体がもたない。かといってプロテクターなどをつけたり手加減して訓練していたら実戦に強くなれない。そこでポッドの中に人を寝かせて夕凪に繋ぎ、アバターを作って仮想戦闘空間に意識を送り込む。そこでバーチャルな実戦を行い実戦さながらの訓練をするというわけである。要するに夕凪とはアバターを使った仮想空間での戦闘シュミレーションマシンである。　シュミレーターの中で戦闘中にダメージを受ければ実際にポッドの中にいる人体の神経に連絡して痛みを感じさせる。ポッドの中で腕を動かす意識をすると脳から出た腕を動かすという電気情報が魔動回路を経由して夕凪に送り込まれ、仮想戦闘空間の中のアバターが腕を動かす。ヴィードを使おうとすれば実際にポッド内の人物はヴィードを消費し、疲労する。また肉体的ダメージによる出血などによる疲労も計算され、ポッド内の人物がその疲労や損傷を感じるようにできている。　この驚くべき魔法技術は μɑ で最高に発達した魔法学だけでなく、神々の持つ科学力も使われ、ul でも再現が不可能であった。実際ここまで発達した魔法機械は世界中で夕凪しかなく、時代のオーパーツであった。ɪl では魔法の力を頼ることなく夕凪を再現する科学技術ができたが、需要がないため、実際には制作されなかった。　ls になるとアヴァンシアンはセレンの指導かつメルの制作指揮の下で、アンジェリカのパイロットを育成するために再び夕凪を再現させた。　なお、μɑ の夕凪はアルシェの家の半地下の訓練施設に置かれていた。　ちなみに現実のセレンがこの設定を思いついたのは１９９３年の中１のときで、何に触発されたか分からないので恐らくオリジナルの発想だったようだ。夕凪という名前こそ ʃʃʃ に付けたものだが、その設定は中１から存在した。

ɥəənɪlejʅ 〔魔法〕〔医療〕ユウナレスク、感幻性 〔類義語〕sɑəɑnɪ 〔レベル〕4　ʃʃ:ɥəənɪlejʅɪ: クミールが設定したユウナレスカの語源を元に、セレンが感受性になぞらえて感幻性という概念を提唱した。 〔語法〕 ワクワクできる気持ちのこと。感受性と似て非なるもの。まったく同じゲームやアニメでも、子供のころはあんなに楽しめたのに大人になったらつまらなく感じてしまうのは、心が感幻性を失ったためである。感幻性は子供のころほど強く、魔法の素質とも関わっているとされる。感幻性を失うと何をやっても面白く感じなくなってしまう。そのため医療における鬱病とも関連性がある。　現実の ʃʃ 年にセレンとクミールが話した際、なぜ子供のころにわくわくしたものが今わくわくしないのだろうという話になった。結果、感幻性という概念が提唱され、大人になってすべてがつまらなく思えるのはこれを失ったからであり、単なるうつ病や燃え尽き症候群による落ち込みではないということが分かった。　感幻性は幼稚で難しく物事を考えない楽天家のほうが大人になっても保持しがちである。なければならない思考の人間は「この年にもなってマンガなんて……」などと考えてしまうため、感幻性を失いやすい。人生を楽しめるのは感幻性を失わないうちである。感幻性さえあれば多少の病気があっても人生は十分楽しい。その意味で生きがいにも通じる概念であり、この喪失は自殺リスクにも関与している。 〔用例〕 ʃcl ɥəənɪlejʅ nɪɒcμ 感幻性が強い、感受性が豊富だ、感受性が強い

ɥəənɪlejʅɪ 〔歴史〕ユウナレスカ、夕撫戦記、弓月戦記 〔レベル〕4　μɑ;ʔbccμ　ʃʃ:ʔbccμ:sɑəɑnɪ/l'eʃɪ（感受性によって開く霧泉）。l'ejʅɪ の l はルティア語風に見せるための定冠詞。夕撫はユウナの音訳。弓月は弦月のことで、アルシェとソーン――ドゥルガとヴィーネのこと。 〔文化〕 cɒəl ⅠⅥL1_1511 まで続いたアシェットの物語のこと。μɑ の中でアシェットの面々が悪魔を倒していく物語のこと。クミールが日記の中で自分たちの戦いをこのように名付けたことから。曰く、「自分たちの物語は感受性を持った若い気持ちと、それを具現化して見せてくれる魔法の霧泉によって紡がれたものなのだ」というところから来ている。

ɥəənɔ 〔名詞〕ユウノ、ユーノ、夕乃 〔レベル〕3　μɑ;ɥəənɪ.l。ɥəənɔ でいられる期間は夕方のように短いため、「夕乃」という訳が付いた。　ʃʔ 〔語法〕〔文化〕 lcləl

ɥəəɯɪenɪn 〔魔法〕不蓄体 〔レベル〕5　ʃʅ 〔文化〕 ɑɔlɒcɥə

ɥəəuc,ɑɯ　ɥəu　ɥə/uc「力を受ける」

ɥəəɑ 〔交通〕横道、アレイ、わき道、脇道、露地、路地、露路 〔ユマナ〕〔娯楽〕エクストラステージ 〔レベル〕4　1L:ɥəəʃɑɔnʃ（遊びの道）　::lɪ jen 〔語法〕 小さな横道。メインの道路に対する小さな脇道のこと。道路からマンションへ入る小さな道も ɥəəɑ。アルバザードの道路は整備されているので ɥəəɑ はマンションの入り口へ向かう道が多い。日本には小道が入り組み、小道の先に家屋があるという構造が多いため、ɥəəɑ だらけである。

ɥəəɑʃeeze 〔気象〕ビル風 〔レベル〕4　1L 〔文化〕 モールや西区などの小さい横道に入ると急激に強い風が吹く。スカートが舞い上がって萌えイベントが起こる定位置。

ɥəəɑɔμ 〔音楽〕全音符 〔レベル〕4　ʃ0 〔文化〕 → ɑɔμ

ɥəəɑeʃʃ 〔数学〕ゼロ除算　μɑ;/　ʃʔ 〔文化〕 ・現実での造語経緯　jeɒen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeɒen ɪμbɪzɪμɑ　結局娘は「分かりません」と降参したので、「それはゼロ除算と言って、数学ではゼロでは割れないことになってるんだよ。日本なら中１の反比例のところでもやるよ」と教えた。 開く　返信　削除　お気に入りに登録　ʃ分 jeɒen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeɒenɪμbɪzɪμɑ 「でもそれじゃ３割る１と変わらないじゃん。ʃc lɔ ɥəəlɪn lcɒ ʃɔɪl,ʔ ɔl el dɔnʃ ʔ ɒccʅ ɪ lə ɥəəlɪn（３つのりんごをゼロ人に分けるとそのゼロ人は何個りんごをもらえる？）」と聞いたら、「……」としばらく考え込んだ。　開く　ʔ分 jeɒen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeɒenɪμbɪzɪμɑ　娘は「ゼロ人じゃひとつも剥ぎ取れないから３割る０は３のままですか」と言ってきた。アルカ的発想だなぁ。　開く　ʔ分 jeɒen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeɒenɪμbɪzɪμɑ　アルカで「３割る０」を直訳すると「３をゼロで剥ぎ取る」になるから、日本語で考えるより分かりやすい。何が分かりやすいかって、「０人じゃ３つのものをひとつも剥ぎ取れない」から。　開く　ʔ分 jeɒen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeɒenɪμbɪzɪμɑ　FT でゼロ除算が話題になってるが、先日娘にゼロ除算を教えたときの反応が面白かった。"ʃc lɔ el lcɒ ʃɔɪl,ʔ ɔn ʔ ɑeʃ 0"（３を０で割ったらどうなると思う？）と聞いたら、脊髄反射で「ゼロ？」と答えて、そのまま「いや……待って」と悩みだした。

ɥəəɒɪ 〔人名〕ユーマ、幽茉 〔レベル〕2　ɒelʃcɪ 0:jɪɪl;e　古 〔文化〕 サールとエルトの娘。人類の祖先。漢字訳は「幽茉」。象徴する花はウィンタージャスミン。　＜誕生＞　エルトとサールは子を設けないことを約束していたが、６３９３８９６４回目の逢瀬の際、サールはエルトの子を欲し、欲に駆られてエルトを騙し、懐妊する。生まれたのは娘のユーマ。しかしこれに腹を立てたエルトはサールを捨てる。嘆いたサールはセルアの大穴にユーマを捨て、自身もそこに身を投げて死ぬ。そうと知ったエルトは後悔して嘆き、高い塔を建て、その頂上で死ぬ。　一方、捨てられたユーマは死ぬことはなく、成長して神々と契り、子を設けていく。そしてその子同士が契りあい、更なる子孫を設けていった。これをユーマの一族という。　＜アルテム＞　サールに捨てられたユーマはしかし死ぬことはなかった。少女の姿に成長したユーマはあるときヴァルゾンに見初められ、口説かれる。まだ幼いユーマはヴァルゾンの甘言に騙され、夫婦になることが何を意味するかも知らないまま受け入れる。初夜を迎えた段階で初めてユーマは事の重大さを知り、恐怖でヴァルゾンを拒んだが、ヴァルゾンに犯された。そのときユーマの体内から赤々としたルビーが出てきた。ルビーは鳥籠にいたムササビにぶつかると、融合してオルトというサールになった。ユーマはヴァルゾンから逃げたが、ヴァルゾンの追手に襲われることを恐れた。ユーマはオルトに助けを請ったがオルトは無力であった。しかし、嘆くユーマを見ていたカルザスはユーマを憐れに思い、目の前に現われた。そしてユーマが流した涙で濡れた泥を膨らませて捏ねた。日が暮れて夜になると同時に泥はハイエナになった。オルトはハイエナに入り込むと、森で追手を退治しつつ、無事ユーマを家まで連れ帰った。　オルトはユーマがヴァルゾンと契った以上、ユーマはヴァルゾンの妻であるから帰らねばならないと主張した。だがユーマは拒んだ。するとオルトはユーマに罰を与えて去った。それからユーマは子を産む準備をする際に体内から血を排泄するという苦しみを定期的に被るようになった。ユーマは苦しんで倒れたが、四日後には楽になった。ユーマは四日目の朝、太陽に向かって自分は騙されたのでヴァルゾンの妻になる義務はないといった。それを聞いた太陽と秩序を司るクレーヴェルや約束を司るハインは「契約は契約である」として認めなかった。クレーヴェルとフェンゼルの子ハインはユーマに結婚する約束を守ることを命じたが、性交を恐れた少女ユーマは従わなかった。　それから月日が流れ、ユーマはますます美しい少女に育っていった。姿は １Δ 歳くらいの少女のようで、知能もより高くなっていた。ある晩ユーマが魔力を高めるために月光浴をしていたとき、上弦の月を司るエルトのドゥルガがユーマを誘った。このときユーマは性的に成熟していたため、ドゥルガを男として受け入れ、契る。結果、ユーマは懐妊し、湖を支配するエルトのアルドゥという息子を産んだ。それからユーマはドゥルガと幸せに暮らした。しかし上弦の月が照る夜はドゥルガは外に出て月を管理しなければならず、家にいることができなかった。　ユーマはドゥルガがいない夜は心細くて泣きはらして過ごした。その様子を見ていたのが下弦の月を支配するサールのヴィーネである。ヴィーネは求愛をしたが、ユーマが受け入れないのでユーマを攫って犯した。次の朝になるとヴィーネは太陽に向かってユーマを私の妻とすると宣言した。すかさずユーマは異議を申し立てをした。だが、クレーヴェルはユーマが以前自分の命令を聞かなかったのでユーマを恨んでいた。クレーヴェルはユーマの申し立てを却下し、ヴィーネを第二の夫とした。　一方、上弦の月が沈むとドゥルガはユーマが攫われたのを知り、怒って探し始めた。ドゥルガの怒りを耳にしたヴィーネは争うのは面倒だと思い、ユーマにどちらを夫とするか決めさせた。ユーマは既に懐妊していた。ユーマはその子を産むことをヴィーネに約束し、その代わりにドゥルガの元へ返してもらうように頼み、ヴィーネはこれを受け入れた。ユーマはヴィーネの元を去ったが、すぐにドゥルガの元へは帰らなかった。ヴィーネの子を宿った自分を決してドゥルガは許さないと思ったからである。ユーマは森の中でひっそりと子が生まれるのを待った。　やがて娘が生まれるとその子にエスタと名付けた。エスタは蛍を司るサールである。しかしヴィーネに恋する少女マグラが嫉妬をし、ユーマを奇襲してエスタを奪い去った。ユーマは泣きはらしてエスタを探したが、マグラは既にアルシアの泉にエスタを投げ込んでしまっており、見つけることはできなかった。なお、この時点でエスタは蛍の神となった。　＜フランヴェールの魔女＞　clɒəj の pelʃcɪ 1Δ（フランヴェールの魔女）参照。　＜μɑ＞　μɑ でアシェットが封印を解き、テームスとの戦いでユーマはアシェットと共闘する。最後テームスと相打ちになり、ユーマはテームスとともに死んだ。　アルティス教の解釈ではこの時点でテームスとユーマは転生し、テームスはそのまま、ユーマはアルテ神として生まれ変わったとされる。　＜見た目＞　ユーマは両親の特徴を受け継ぎ、亜麻色の髪に白めの肌をしていた。目は右目が青で、左目が緑。

ɣəəɒɪ ɟɪn ［名詞］雨男、雨女 ［反意語］˥leeuel ɟɪn ［レベル］3 Ɉ: クレーヴェルに無視されたユーマになぞらえて。 ［文化］ アルティア人が持ち込んだ概念。

ɣəəɒɪɟel ［歳時記］ユーマの日 ［レベル］3 Ɉ1 ［文化］ φcl ɑɪɯ。ユーマの誕生日とされる日で、休日。同時に悪魔の誕生日でもある。

ɣəəɒɪdɪlſ ［歴史］ユーマ暦 ［レベル］4 1L:clɒəj;ɥcɑcɪ ［文化］ dɪlſ アズゲルからカコまで８０８０年間続いた暦。太陰太陽暦で、幻史上、最も複雑な暦だった。実際の期間は８０７９年で、これについては cɒəldɪlſ を参照のこと。

ɣəəɒɪ ləſcɪ ［人名］ユーマ＝ルティア、どこにでもいる子、山田花子、名無しさん、不特定の女 ［レベル］3 古 : 論文でよく出てきた。例えばある人がいてという文脈で。男の場合は ɪɟʊə ɪɟbɪ。

ɣəəɒɔ˥ ［音楽］全休符 ［レベル］4 Ɉ0 ［文化］ → ɑɔɟ

ɣəəbc ［娯楽］ユウビ ［レベル］6 Ɉ1 ［文化］『ちょびっツ』に相当するアニメ。ɥɔɟɒ を遥かに進化させたアンドロイドが存在する世界。ユウビというヒロインアンドロイドが主人公 ɪɑcɪ の元へ訪れる。

ɣəəbel,ɳu ［植物］ɒc˥ɪn e Ɉ˥

ɣəəbelſ ［娯楽］ユーベルト ［レベル］4 Ɉ1 ［文化］『新世紀エヴァンゲリオン』に相当するアニメ。

ɣəəhe˥ ［名詞］音信不通 ［レベル］4 Ɉ˥

ɣəəɥə ［形容詞］萌え、もえ ［名詞］萌えっ子 ［類義語］ɪn˥ ［反意語］jclɑccɥə ［レベル］3 古 :ɥelezɔnɪ/˥ɒccɥ:ɥəɥə のアクセント母音を伸ばしたもの。 ［語法］ 可愛いものに対して感じる萌え。儚げで大和撫子のような清楚なものに感じる萌えはアルカでは jclɑccɥə（稚え）という。読みは「ちえ」。

ɣəəɥəbəɾl ［俗語］萌豚、萌え豚、萌えブタ ［レベル］4 ɪl;/ Ɉ˥ ［擬声］ bəɾl ［文化］ ɪl のころできた単語で、オタクがパソコンやテレビの前にばかり座ってアニメなどを見続けた結果太ったことを豚に喩えたもの。とりわけ萌えアニメなどを見て bəɾbəɾl（ブヒブヒ）言っていると揶揄された。元は「萌え豚が萌えアニメ見てブヒブヒ言ってんじゃねーぞ」的な罵倒で使われたが、後にオタク本人も自虐的に用いるようになった。また、太っていない人に対しても使えるようになっていった。 鳴き声は bəəəəəɾl（ブヒィーー！）。ə は好きなだけ付けて良い。 ［用例］ ſəəbe ɣəəɥəbəɾl˥ この萌え豚が！

ɣəəɟeſl ［名詞］天下無敵、無敵な ［レベル］3 Ɉ1: 「敵のない」

ɣəəsc ［名詞］清教徒、ユージ ［反意語］ɒɥə˥ɪlcɪ ［レベル］4 Ɉ0:səəsc（指を指された者）の s が ɥ になったもの。古レスティル語ではまだ受身は sə。 ［文化］ ɒɥə˥ɪlcɪ に対してリデルが作った言葉。

ɣəəscuɪɪn ［軍事］清教徒兵団 ［レベル］5 Ɉ0 ［文化］ ɣəəɒɪ Ɉ1ϟϟ 本山アルヴェッテに弾圧の手が及ぶ。教会は商工会の経済力を背景に清教徒兵団という私兵団を設け、弾圧に対抗。本山は守られたが、教徒に対する各地での迫害は続いた

ɣəəl ［名詞］ユール。男性のリースのうち、知的なほう。 ［音楽］テノール ［レベル］2 1ϟ: 制 :ɥə˥ɸ ［文化］ 典型的には、知的で優しく美しく繊細な男性。

ɣəə˥ɪn ［代詞］誰もない ［レベル］2 Ɉ0

ɣəə˥ɪnſ ［代詞］誰もないもの ［レベル］2 Ɉ0

ɣəəlcɪ ［地名］ユーリア 古 :ɥcɑcɪ ［文化］ アルダの県の名。

ɣəəlcɪ(J) ［文末純詞］[ɥən˥] ſcɟɟə ［レベル］1 古 ɟɔɒn: クミールによると古 dɪnɟe 欄の対訳語に書いてあったというので恐らく「提供」。 ［語法］ ɪnɥəəlcɪ は二重丁寧語なので不要。

ɣəəlcɪ ɪɟɪ˥ ［人名］ユーリア＝アルカ ［レベル］5 Ɉ1 ［文化］ ミロクが義姉と慕った人物。絶世の美人の上に気立てが良い。 ミロクを可愛がっており、愛してもいた。?Ɉ0 年に有力な政治家であったアンベ＝ローブに口説かれるも断る。 アルカ家は財政的に破綻しており、親はアンベを部屋に通した。 アンベに手籠めにされたユーリアはミロクへの手紙を机の上に残して自殺する。 アンベが来ていることをヴェルドゥルネから聞いたミロクは急ぎ駆け付けたが、首を吊って無残な姿で死んでいるユーリアを見つけ、発狂する。 ユーリアの手紙にはいつものように、「魔導師ミロクが魔法の力を使うことなく平穏無事で只の一青年としての幸せな人生を送れるように」との願いが記されてあった。 そして末尾には隠していたミロクへの気持ちが書かれてあった。 しかしこれがきっかけでミロクは革命を起こし、腐敗の根を根絶させようと立ち上がる。 その場でリーファ隊を招集したミロクは零時をまたいですぐにアンベを虐殺。 リーファ隊を率いたミロクはオーパーツともいえる魔力で汚職政治家を次々と粛清していった。 翌朝には軍部を襲撃し、アルバザード国軍を制圧。 すぐさま近隣諸国の軍隊を掌握あるいは殲滅し、力のみで革命を起こす。 ミロクは後にアリシアを設けるが、ルシアと結婚しても常々「ねえさん、ねえさん」と呻き声をあげて泣いた。 ミロクは最期も妻や娘の名でなく、ユーリアの名を呼んで死んでいった。

ɣəəlccɑɪ ［天文］零等星 ［レベル］4 ɥn;/ Ɉ1 ［文化］ ɔ˥lccɑɪ

ɣəəle ［サール］ユーレ ［レベル］5 ɒel: 古 :ɥən˥leɒ（ユンク楽器）。モデルはメル自身。 ［文化］ サールになったラプレムの娘。金色の髪が長く美しい顔の少女。音楽家であった父がある日メロウにそそのかされ、狂ってしまう。ユーレは狂った父に生きたまま楽器にされ、叩かれたり引かれたりを繰り返された。ユーレは痛みと苦しみに耐え切れず、死んでしまう。ラプレムとの間に娘のメイユを設ける。

ɣəəle lccɟɔɪ ［人名］ユーレ＝リーシア ［レベル］6 1L:clɒəj;ɥcɑcɪ ［文化］ アルシアに住む少女。トゥッティに出会い、ヴァストリアを見せてほしいとせがむ。ヴァルデを見せてもらって喜び、トゥッティを受け入れる。しかしヴァストリアを狙った悪魔シェルテスに食い殺される。

ɣəəle ɪlɑccne ［人名］ゆーれ、ユーレ＝アルフィーネ 1L8 ［文化］『ねこにっき』の登場人物。ルティア出身。なぜか苗字まで定まっている。

ɣəəɪ ［人名］ユーア ［組み数字］1 / 1 4 ［レベル］3 語源不詳 ［文化］ (ſcɑ Ɉ˥ ɑcɪ nen →) 第４期３代アルシェ第１使徒。リディアの実父。jeeſ と dc˥ɔ。身長 1Δ?ɾɪb、体重 ΔΛφ、握力約 Δ0˥φ。BϑЄ 約 Ɉ1 にもかかわらず、超筋肉質なせいか細身に見える。格闘技・戦闘術に長ける。性格は温厚で冷静沈着で寡黙。声が低くて穏やかでダンディー。清潔感がある。リーザをひたむきに愛する。寡黙だが知的。黄色人種で白人の血が混ざっている。非常にハンサム。仕事ぶりは優秀。収入も多い。セレンにとって理想の男性像で、知りうる限り最高の男性。ただひとつ欠けるのは、イェフダーのヘブライ語やセレンのアルカのような人生を賭すべき自分だからこそできる使命がないこと。

ɣəəɪ(J) ［魔法］夕極、神主 ［レベル］3 ɟɒ;ɪlſ<ɥəəɪn.˥ ［文化］ hcnɪſɪ

ɣəəɪll ［医療］無痕灸 ɥn;ɥəəɪ˥lɑclɑɪc.lc˥ Ɉ1

ɣəəɪn ［魔法］雨宮、夕庵、神社 ［レベル］3 ɟɒ;ɪlſ Ɉ1 ［文化］ eɟ˥ɪ、hcnɪſɪ

ɣəəɪnſ ［音楽］雅楽 ［レベル］5 Ɉ1:ɥəəɪn

ɣəəɪlcl ［化学］セリウム 1Δ: 制

ɣəəeɟ˥ ［気象］日照り ［レベル］4 Ɉ0 ［用例］ ſəɔ, ɟɪɑ eɟ ɟɔɒ ɒcl ɥəəeɟ˥ ɑcl. 最近、長引く日照りのため気温が上がっている。 ☆ ɣəəeɟ˥ lənɪſ ſə aleɪ. 今年の夏は日照りだった。

ɣəənɪs ［経済］ゼロ金利 ［レベル］5 Ɉ1

ɣɔd ［感動詞］よしっ、さぁ ［レベル］1 Ɉ1

ɣ ［言語］動詞→ ɣəɔ ɟɒ Ɉ˥

ɣ#ϑ ［言語］ＶＳＯ ［レベル］5 Ɉ˥

ɳ

ɳu ［歴史］ラヴァス、ɳɪuɪɟ ［レベル］3 Ɉ1

ɳɪ ［形容詞］その。強調して限定する意味を添える。前置する。 ［形容詞］後ろの語が固有名詞であることを示す。前置する。 ［名詞］＊記号 ɑ;ɑɔueſ ［レベル］1 1ϟ: 制 : 古 :ɳɪ（強調を意味する形容詞あるいは冠詞的形容詞） ɳɪ:ɳɪ:ɳɪ ［成句］ ſə eſ ɳɪ ſə. まさにそれだ。ちょうどそれだ。ザッツイット。Ｔｈａｔ’ｓ ｉｔ。 ［用例］ ɪɟɪɑɪnſ, ɳɪ ɑɟecɪn 剣士ヴァルファント

ɳɪ,ɑ ɥcɟ e

ɳɪſ ［歳時記］曜日 ［レベル］2 古 :ɳɪ ſeeɒɟ（曜日） ［文化］ ɟɔɔſ メル暦は７曜日。それぞれの日にはヴェルムからパルトまでのソームの名が冠してある。 公官庁などはパルトが休日。事実上日曜に当たる。 学校は後期大学未満はパルトとヴェルムが休日。

ɳɪſcɟ ［形容詞］たった、ほんの、わずかに。ſcɟ の強意。 ［レベル］2 Ɉ1:ɳɪ/ſcɟ

ɳɪſe ［気象］嵐、暴風雨 ［レベル］2 1ϟ: 制 :ɳɪ/ſeez ［用例］ ɳɪſe ſcn lənɪſ. ものすごい嵐があった。

ɳɪɟ ［動詞］ɥəl を ɪ（場所など）に強調する、強調する、目立たせる、際立たせる ［形容詞］際立った、きわだった、目立った ［普通動名詞］強調 ［言語］強調。 強調、倒置などの強調。 ［類義語］hɪneſ ［レベル］2 1ϟ: 制 : 古 :ɳɪ（強調を意味する形容詞あるいは冠詞的形容詞） ［語法］ hɪneſ

ɳɪɟuɔled ［言語］強調構文 ［レベル］5 ɥn;/ Ɉ˥

ɳɪɟdel ［魔法］ラスベル、魔道力、魔法攻撃力 ［レベル］4 Ɉ0: 古 ɳɪ（魔力）/cɟdel。具現化すると赤い透明な六角形の結晶を持つことから。 ［語法］ enuelen

ɳɪuɪɟ ［歴史］ラヴァス時代、黄昏の御子、たそがれのみこ ［レベル］3 古 :ɥcɑcɪ:ɳɪ uɪɟ（その戦い）。黎明があり、午睡があり、黄昏にて神の時代が終わる。御子は主役であるアルデス・ルフェルと発端となったダルケス・フェルデンを指す。 ［文化］ エルトとサールの間に起こった大戦争。ラヴァスの決着は痛み分けで , この後 , 両者は天界と地界に分かれて住むようになった。

ヴァステの後、エルトとサールは互いに激しくいがみ合い、神同士の戦争ラヴァスが起こった。ラヴァスは痛み分けで終わり、エルトの女王ルフェルとサールの王アルデスは調停を行った。調停を行った場所はラヴァス勃発の地アルカンスである 調停後、エルトはアトラスと宇宙の間にエルト界（天界）を作り、そこに移住した。一方、サールは惑星アトラスの中心部と地表の下にサール界（地界）を作り、そこに移住した ・概要 ヴァステの後、エルトとサールの間には大きな確執が生まれていた。元来互いに憎む存在であったエルトとサールであったが、数が少ないうちは派閥も少なく皆が自由に暮らしていた。その頃はエルト・サール間での婚姻もあった。しかし、数が多くなるにつれてサールはサール、エルトはエルト同士でまとまって交際するようになっていった。エルト・サール間での交際は減っていき、争いもだんだん増えていった 竜王ティクノには獣王ポエンとの間にアルデスという息子とフェルデンという娘があった。また、善心コノーテとカルザスの間にはダルケスという息子とルフェルという娘があった ダルケスとフェルデンはサールとエルトの関係が悪化しているにもかかわらず、恋に落ちた。二人は婚姻を考えたが、両者の親がそれを許さなかった。結婚を反対された二人は親を裏切って駆け落ちを決行した 二人が駆け落ちをした と知った両者の親は、駆け落ち相手を殺すよう残った子に命じた。アルデスはティクノの命を受けるとダルケスを追った。一方、ルフェルはカルザスの命を受けたが、すぐにはフェルデンを追わなかった ダルケスとフェルデンはアルカンスにいた。アルデスはダルケスを見つけると、二人は戦った。だがアルデスもダルケスもフェルデンのことが心配で、自分が守らなければならないと考えていた。そこで両者は生き残ったほうが相手のセレスをもらって融合すると約束した。そうすれば相手の体の中でフェルデンを守り続けることができると考えたからである。こうして二人は戦い、アルデスが勝ち、ダルケスのセレスを得た

事情を知らないフェルデンはダルケスのセレスが奪われたことに怒り、アルデスを恨んだ。そのときルフェルが彗星に乗ってフェルデンを訪れた。フェルデンはルフェルに自分を殺してセレスを奪い、アルデスを殺してほしいと願った。兄のダルケスを殺されたルフェルは了承し、フェルデンを殺してセレスを得て、アルデスと戦った 怒れるルフェルはアルデスに山を引っこ抜いて投げつけ、「必ず殺してやる」と咆哮をあげた。その方向で海に大波が起きた。 両者の戦いは痛み分けに終わり、二人は逃げ去った。二人はセレスを得て強大な力を得ていた。ルフェルはエルトをまとめあげて王となり、同様にアルデスもサールをまとめあげて王となった。そしてエルトとサールの開戦を宣言し、ここにエルトとサールの戦争ラヴァスが勃発した ラヴァスの初期はエルトもサールも同等の力を持っており、決着が付かなかった ラヴァスの最中、ティクノは新たな娘テュアを得た。テュアは始めから衣を着て生まれてきた。なぜ服を着て生まれてきたかティクノが問うと赤ん坊はすぐに幼女の姿に成長して自分は高貴な生まれだからと答えた。感心したティクノはアルデスを呼んで紹介した。テュアはすぐにアルデスにハルマニアをし、自分はアルデスの妻になるために生まれ、Ɉ人の子を産むと告げた アルデスがテュアを娶らないのでテュアは一計を講じてアルデスに自分を犯させ、妻とさせた。そして ? 人の子を産んだ。残りの一人はどうしたと問うアルデスにテュアはいずれ分かると答えた。? 人の子は天の龍ジンティ、海の龍アッティ、地の龍トゥッティである。これらを得たことによりサールは力を得て、エルトを殲滅していく。こうしてラヴァスは中期に入った 中期に入ってからのエルトは防戦一方であった。初期はアルデスが妹のテュアを守りながら戦っていたため、エルトはその気に乗じて次々とサールを攻撃していった。が、そのテュアが ? 人の子供を産み、その子供たちが天と海と地を監視するようになってからの中期は惨憺たる戦況だった そんな折、ルフェルはサールに襲われたエルフレインの村を訪れた。そこでルフェルは一組の姉妹に出会う。姉妹はフレイヤとミレットといった。姉妹は親をサールに殺されていた。ルフェルは姉妹を助けて自分の傍に控えさせた フレイヤとミレット、エルフレインの姉妹はルフェルの傍で強大な力を付けていった。それはルフェルにも及ばんほどの力であり、? 匹の龍を以ってしても太刀打ちできなかった。ラヴァスが中期に入って から負け続きであったエルトであったが、姉妹が前線に出始めた途端、戦況は一転した。ただでさえ単騎戦においてはアルデス以上と囁かれたルフェルにこの姉妹を加えたエルトは破竹の勢いでサールを滅ぼしていった。ラヴァスは姉妹の活躍によって後期へと移行した アルデスは戦況悪しと見るや、子を連れてルフェルに戦いを挑んだ。が、アルデスと ? 匹の龍を加えてもルフェルとエルフレインには適わなかった。命からがら逃げたアルデスたちは、あの姉妹をどうにかせねばサールが滅んでしまうと考えた アルデスはテュアに何か上策はないかと問うた。するとテュアはユルグの元を訪れるように推挙した。ユルグはエルトきっての賢者であるが、エルトのみならずサールとも公平に会談をしてくれる青年だった。アルデスはすぐにユルグの許を訪れて打開策を問うた ユルグはサールの村をわざと一つ犠牲にすることを勧めた。果たして次の戦いのとき、アルデスはわざとエルフレインの攻撃を避け、後方の村に当てさせた。村は滅び、アルデスはそこに逃げた エルフレインはアルデスを追ったが、村の中で見たものは自分たちの過去を彷彿させるような惨状であった。憎いはずのサールに自分を重ねたエルフレインから怒りが弱まった 怒りが弱まったことによってエルフレインの力も弱まった。ルフェルはそんな姉妹を怒ることなく優しく諭した。するとエルフレインに活力が戻った。だがそれでも往年の力は出ず、アルデスらと互角になった。これがラヴァス末期の始まりである

アルデスは何度もルフェルに攻め込んだがその都度痛み分けだった。また、ルフェルも逆にアルデスに攻め入ったがこれも何度やっても痛み分けだった。それほどまでに両者の力量は拮抗していた 両者はどうにか相手の戦力を削ごうと策を練ったがどれも通じず、痛み分けの戦いが続いた。アルデスとルフェルは毎回痛み分けで済んでいたが、巻き添えを食らう一般のアルテは堪ったものではなかった。神々の戦いは凄まじい。長い年月をかけて繁栄したアルテの国や村をたった一晩で滅ぼしてしまう 巻き添えを食らうばかりの毎日に次第にアルテは疲弊していった。そして疲労はアルデスやルフェルにもいえたことだった。長く続く勢力の均衡、数え切れないほどの痛み分け、同じく数え切れないほどの犠牲。アルテの疲労は限界に達していた これ以上戦っても決着は付かないーーそう判断したアルデスとルフェルは調停を行い、ラヴァスの終結を話し合った。対談の地は二人が最初に戦ったアルカンスが選ばれた 二人は同じ大地にエルトとサールが住んでいる以上、争いが耐えることはないという結論に達した。そこで住む世界を分けることにした。ラヴァスによって散々に荒らされた土地はもはや住めたものではなかったので、二人はそれぞれの世界を作り、そこに住まうことに決めた サールは女性神サールが大穴に身を投げて死んだことを理由に、地下に世界を作ってサール界（地界）と名付け、そこに移り住むことにした。一方、エルトは男性神エルトが天高い塔の上で死んだことを理由に天に世界を作ってエルト界（天界）と名付け、そこに移り住んだ 尚、もはやサールでもエルトでもないとみなされたできそこないのユーマの一族は両方から無視され、荒廃した大地に取り残された サールとエルトは両者の世界に立ち入らない約束を厳しく取り交わし、互いの世界の入り口を非常に小さいものにした。サールは女性神サールが身を投げた大穴をサール界の入り口とし、エルトは男性神エルトが死んだ塔を再建し、そこをエルト界の入り口とした。そして互いを監視するようにした アルデスは息子たちに天と海と地を見張らせた。しかし肝心の塔を見張る要員がおらず、困っていた。するとそこにアルデスの息子を名乗る龍の化身が現れた。アルデスは心当たりがないと追い返そうとした。だがテュアがこれが Ɉ人目の子供だと明かしたため、アルデスはこれにハンティと名付けてエルト界の入り口である塔の龍にした。一方、ルフェルはエルフレインにサール界の入り口から世界の監視までの全てを命じた。こうして互いの勢力を見張るシステムが確立し、ラヴァスは完全に終結した

ɳɪɑ ［言語］アクセント、強勢 ［音楽］アクセント、アッチェンタート。楽譜に書いてある場合は「アッチェンタート」の意。 1L:ɳɪ/ɑɔ ［文化］ 古アルカは自由アクセントだった。セレンはセが高いがフルミネアはミが高い。 覚えるのが面倒なので制では第一音節にアクセントを拘束した。不定詞が名詞にも動詞にもなるため、この区別をするために、動詞は時相詞をつけてその時相詞を高く読むことにした。こうして動詞だけ後ろが高いというアクセント形式ができあがった。 新生になって時相詞が消えたので、すべて第一音節にアクセントが置かれるようになった。しかしこれではアクセントに弁別性がないのでアクセントとしての必要性がない。 こうして新生は自由アクセントになり、「断りがなければ最初を高く読む」という仕組みになった。 フィンランド語のようにこのまま第一音節にアクセントを拘束す

る道もあるだろうが、元々自由アクセントの言語だったため、そうはならなかった。　自由アクセントなら固有名詞をきちんと読みたいという要望が出てきたため、アクセント体系が復活した。　かといって単語ごとにまちまちなアクセントだと覚えづらいので、法則を立てることにした。フルミネアが立てた法則は不十分で、セレンが補強した。その後様々な人々が補強をし、最終的にリーザが補強した段階で落ち着いた。　この流れでモーラが復活した。　アルカでは音は「音素→モーラ→音節→形態素→単語」の順に大きくなっていくと考えている。　音節＝モーラなら言語構造が単純になるため、プロトタイプ制ではモーラ＝音節にし、ＣＶしか認めなかった。　しかしＣＶでは多くの固有名詞を発音できなくなるので、音節を採用してプロトタイプは終わった。音節を採用した反動でモーラの概念はいらなくなった。　新生でアクセントの法則を作るときにモーラの概念が必要になり、モーラが復活した。　アルカのモーラは伝統的にＣＶである。日本語は「ん」を１モーラにするが、アルカでは nɜ であり、「ん」だけで１モーラにはならない。そのため日本語より単純なシステムになっている。　ɪµbɪzɪµɑ という単語を分析する。　音素：ɪ µ b ɪ z ɪ µ ɑ：８音　モーラ：ɪ µɜ bɪ zɪ µɜ ɑɜ：６モーラ　短音節：ɪµ bɪ zɪµ ɑɜ：４音節　長音節：ɪµ bɪ zɪµɑ：３音節　音節には長短がある。短音節ではＣＶＣを基礎とし、ＣＶＣＣなどはＣＶＣ／ＣＶとする。　長音節ではそのようなことがなくＣＶＣＣのまま音節とする。　この区別は歌によって生まれた。歌詞を割り当てるときに、１音符に１長音節を当てはめると歌いづらいため、音節を区切って割り当てた。これが短音節の由来である。　また、歌だけでなく、ゆっくり喋るときの言い方から生まれたと考えるメンバーもいる。ゆっくり喋るときに ɪµ/bɪ/zɪµ/ɑɜ と区切って喋ることから短音節が生まれたという考え方である。セレンもこちらに賛同している。　新生は審美を重視している。拘束アクセントは学習効率を重視しているため、しばしば言いにくい単語を作る。　新生では音がどのように聞こえるかで造語することが増えたが、どんなに音を良くしようと、アクセントが合わなければ台無しである。　そのため、ちょうど自由アクセントになった事情を活用し、アクセントも綺麗に聞こえるものを選んでいこうという考え方にシフトしていき、この法則に至る。　なお、この法則は古アルカのアクセントを復古させようというのが主眼で、フルミネアが提案したものである。古アルカのアクセントを集計し、自身で法則を立てた。　カーデの作者フルミネアが古アルカを好んでいたことは周知の事実だが、それ以前に制や新生では自分の名前のアクセントが異なっていたのが我慢ならなかったのではないか。　セレンやリディアやクミールやリュウやリーザはすべて第一音節が強いので、彼女の不快感は共有できなかった。それゆえ、彼女がアクセントの復古に躍起になったのは理解できる。　そもそもアルシェの中でフルミネアだけが制になってアクセントが変えられた。古アルカでの解釈は ɑəl（ー）ɒccɪ（娘）で、長女という意味。彼女には妹が一人いるので正しい。実際の名前も ɑəlɒccɪ で妹が ɒccɪ だそうだが、その名は自然言語のもの。　ɑəl は接頭辞で語幹は ɒccɪ なので、ɒccɪ にアクセントが置かれる。それで、制では彼女だけが元のアクセントを失った。当然元に戻す機会があれば戻したいのだろう。　ところで、なぜ最後から３番目のモーラなのだろうか。最初や最後は分かるとして、最後から３の根拠は何か。　古は自由アクセントといったが、原始的には第一音節の高い拘束であった。lɪc や nɪləɦɪ など、すべて最初が高い。これは恐らくリディアがフィンランド語を母語としていたため。　ただしフィンランド語と異なるのは、接辞が付いた場合、アクセントは接辞には付かずに語幹に付くという点である。上記の ɑəlɒccɪ など、その例である。接辞が入ったことで、アクセントは自由に変わったわけである。　さて、接辞が付いた場合、単語の中身は典型的には接頭辞＋語幹＋接尾辞となる（もちろん、このうち片方しか接辞が付かないものも多い）。　ɑɪc や µcɑɑɪ のような短い単語なら最初にアクセントを置いても構わないが、単語が長くなると、たいい接頭辞＋語幹＋接尾辞の構造を持ち、モーラにすると平均６前後になる。　このとき、最後から数えて３モーラにアクセントを打っておけば、長い単語についてはアクセントが語幹にヒットする確率が高くなる。　今回のアクセント法則を打ち立てるさい、アシェットから「８年前のことをいまさら思い出すのは覚えなおしと変わらない。面倒だ」と非難を受けたため、フルミネアはどうにか古アルカの再現率が高いながらも簡単な法則を模索した。その結果が最後から３モーラである。　確かにこの法則はよくできていて、短い単語には適応されないし、長い単語はかなりの確率で古アルカのアクセントと一致する。中々便利な法則だ。

ɾlɑlɔʃ ［電算］ＣＡＰＳＬＯＣＫ、キャップスロック　［レベル］３　Ɉ0

ɾlɪɑ ［サール］ラファ　［レベル］４　古：強調の ɾl/ɑɪc が語源。　［文化］　炎を司る。巨躯の体に炎を纏い、頭には赤い角が２本生えている。

ɾlɑµɒn ［地学］紅柱石　［レベル］６　1L:ɾlɑɪ/µɒn　［文化］　ラファの魔石。藍晶石、紅柱石、珪線石ともに同じ組成。

ɾlɒ ［ユマナ］キリスト　［レベル］２　古：ɾl eɒɥə（その油）。油は ɪnɔcnɾɛɑ（油を塗られた）を指し、ɾl はそのような特定の人間を指す。　［用例］　ɒcɪɪ"el φəl ɑɪn lɛj ɑɛpɪɾ jelɪn ɪnjɛfɛϑ" ɪn"ɪ ɥ" ɒcɪɪ"lɔɒ ɛj el jɔlj lɛj ɑɛpɪɾ lɪn ɑc ɑə ɪlɪɪ lɔɾ ɾə ɑcɪϑ" ɪn"hɔɒϑ ɾə ɛlj nɛϑ" ɒcɪɪ"ɾlɪɒ, ɒcl ɒcµɔl ɒc ɾə ɑcɪ" 娘「詐欺を働いたら責められますよね？」俺「そうだね」娘「じゃあどうして世界一多くの人を騙した人が尊敬されてるんですか？」俺「ん……誰のことを言ってるの？」娘「キリスト。神なんていないのに」（ləlcɪ ɪµbɪzɪµɑ）

ɾlɒlɪµʃ ［ユマナ］クリスマスカード　［レベル］４　Ɉ0

ɾlɒlɪnʃ ［ユマナ］クリスマスプレゼント　［レベル］２　Ɉ0

ɾlɒlɛdl ［ユマナ］クリスマスケーキ　［レベル］２　Ɉ

ɾlɒj ［動詞］ɥəl と婚約する、婚約する　［普通動名詞］婚約　［レベル］３　1Ɉ: 制：ɾlɒɪɒn　［文化］　婚約の仕方は jccl 参照。

ɾlɒjel ［ユマナ］クリスマス　［レベル］２　Ɉ

ɾlɒjelɪɪ ［ユマナ］クリスマスイブ　［レベル］２　Ɉ

ɾlɒɒɥəlɪle ［ユマナ］［宗教］キリスト教　［レベル］４　Ɉ

ɾlɒɪn ［サール］ラマン　［名詞］婚約者、フィアンセ（男）　［レベル］３　古：µcɑɑɪ:ɾl ɒcµ（夫）　［文化］　婚約を司るサールの男。アルデスから悪魔アルマの力を封じた指輪アルマディオを賜った。それを婚約者のアーディンに渡して婚約したが、アーディンは彼を裏切り、アルマが復活してしまう。

ɾlɒɪn ɪnɪbel ［人名］ラマン＝サンベル　Ɉ⌋　［文化］　アリス＝リシアの父親。

ɾlɒɪ ［名詞］腹心、右腕　［類義語］ɪlhɪ　［レベル］３　古：ɾlɒɪ ← ɾlɒɪ（頼られる人、夫）最後の µ が母音の ɪ に聞こえ、ɾlɒɪ で定着した。　［語法］　ɾlɒɪ は部下の中で最も有能というイメージ。ɪlhɪ は常に傍にいて守る人のうち、上下関係のある人。唯一無二というイメージ。ɪlhɪ のほうが大切にされているイメージがある。最大の違いは、その人が消えたら二位の人が一位に繰り上がるか否か。ɾlɒɪ は繰り上がるが、ɪlhɪ は欠番を保つ。ランヴェムはギメルに変えられたので ɾlɒɪ。森欄丸やキルヒアイスは ɪlhɪ。

ɾlɾlɪ ［感動詞］lɪlɪ の強め　［レベル］２　Ɉ

ɾlzcɔ ［動物］ドーベルマン　［レベル］４　Ɉ: 牙

ɾlscl ［名詞］ショック、衝撃　［動詞］ɥəl の衝撃を ɪ に与える　［形容詞］衝撃的な（ɾlɪscɪɪn の形で）　［魔法］ジャーク（ラ・ジーク）。雷の黒魔法。ショックを与え、身動きを取れない状況にする中級魔法。　［レベル］３　1ʔ: 制：古：ɾl sccɪ（ショック）から。　sccɪ:sccɪ　［用例］　☆ɾclj ɾlɪscɪɪn lɪʃ ɾclɒ cɒ ɑcj. 今日の新聞に衝撃的な記事が出ていた。　ɪn cjɪcɪ pelcɑɑɪ ɑə ʔ0 ɑcɪ ɑlec. eɪlɔɒ eʃ ɾlɪscɪɪn enɾɔ ɪn nɪ lɔl ɔ ɑeɒ ɪɪl ɔn ɔnɪ. 夢織を６０ページぐらいまで読んだ。話の流れが衝撃的で、続きを読むのが面白くもあり怖くもある。

ɾlɪccz ［人名］ラリーズ。メルの悪口で、チビという意味。　古：1L 年現在では聞かれない。

ɾlɪccz,ɑu ɾlɪcz ɾl lccz

ɾlɪɪ ［娯楽］スクラブル　［レベル］５　1ʔ: 制：古：ɾl/ɪɪ（古アルカのアークパズル）

ɾlɪcn ［動詞］ɥəl を目撃する、目撃する　［普通動名詞］目撃　［レベル］３　Ɉ0:ɾl/cn　［語法］　主に偶然にショックなものを見てしまうこと。音と意味とが合っている。　［用例］　ɾlɪcn jɔɑɪ 事故を目撃する

ɾlɪcnɾɪjnɒenj ［名詞］目撃証言　［レベル］４　µɑ;/　Ɉ0

ɾlɪcnɪn ［法律］目撃者、ウィットネス　［レベル］３　Ɉ

ɾlɪcɑɪ ［天文］流星、流れ星、隕石、メテオ、輝隕　［魔法］ライファ（メテオ）。宇宙からアルマを帯びた隕石を雨のように降らす魔法。最強の黒魔法。無属性。歴史上、人類で使えたのは原則としてリディアニルティアのみ。そのリディアもヴァストリアのリーファスを装備しないと放てない。「アルマの雨」の異名を持つ。　［組み数字］１／１１　［レベル］３　ɑu　1ʔ: 制：古：ɾl lccɑɪ（隕石）

ɾlɪcɑɪɒecn ［組み数字］輝隕賞　［レベル］５　Ɉ⌋　［文化］　→ µɪdɪll　µɑ でアルバ王宮が定めた人類が誇る魔法のランキング。難しさや効果や人類への貢献度などの点を考慮して総合的に判断されたもの。偉大な魔導師の目指す目標として設定されているため、魔法倫理学に基づき、禁呪はもちろんのこと念のため uɔµʃ なども除外してある。ɒɥəlɔʃɪ のように恐らく人類の使えないだろうものは載せていないが、ɾlɪcɑɪ のように使えた記録がないが使える人材を求めるという場合には奨励のため載せた。アルシアにちなんで１１種。黒白時古から成るが、大別すると黒系と白系が交互に来ている。最後は白系が連続する。

ɾlɪcɑɪlccɑɪ ［天文］ミルファク　1L:µcɑɑɪ/jɒɥən/ɒel　［文化］　リディアがリアントに撃ったライファの魔法がやってきた星。ペルセウス流星群はこの方向から来る。

ɾlɪcɑɪejl ［天文］流星雨　［レベル］４　Ɉ

ɾlɪcz ［卑語］［俗語］チビ、ちび　［レベル］２　1L: 古：ɾlɪlccz　ɾlɪlccz:ɾlɪlccz

ɾɔlɪ ［音楽］メタル、ヘヴィメタル、ヘヴィメタ　［レベル］４　ul;「狂った」　Ɉ

ɾɔlc ［形容詞］狂った、発狂した、ファビョった、火病な、文章などが意味不明な、イミフな　［反意語］jɪɪu　［レベル］２　ɑ;lɔlc「頭が動く」の音を強めたもの。　赤

ɾɔlcləcl ［料理］暴飲暴食　［レベル］４　Ɉ⌋

ɾɔlchɪɾl ［電算］文字化け　［レベル］３　1L　［用例］　ɾelʃ le ɾcl ɾɔlchɪɾl 文字化けしたメール

ɾɔlccɒɥə ［形容詞］［ネガティブ］異常な　［レベル］３　1L:µcɑɑɪ:ɪµbɪlelʃ: 狂ったように珍しい

ɾɔlɔʃ,ɑu dɪφ ɾɔlc/ɾeeze

ɾɔu ［医療］アトピー　［レベル］３　1L:ɾɔlc/jcµ（気が狂いそうになる（くらいつらい）肌）

ɾɔbɪc ［魔物］ロバイ（狂牛）：第四十七天：雷の陽天　［レベル］５　1L:µcɑɑɪ/jɒɥən/ɒel:ɾɔlc/bɪl　［文化］　獣族。牛の顔に角の生えた巨躯の魔物。青銅の鎧を着て、柄の長い斧か槍を持つ。

ɾɔɔʃ ［名詞］ファン、信者、厨、狂、キチガイ、気違い、基地外、基地害、気狂い、キティ、が−、ガー　［類義語］pəɑeʃ　［類音］ɾɔɔl　［レベル］３　ɪl;ɾɔlc/ɾe　Ɉ⌋　［語法］　→ pəɑeʃ　ガーには「カンリョウガー」のように責任転嫁する人という意味があるが、アルカではそういう人もまとめて ɾɔɔʃ に入る。ɾɔɔʃ は何かに熱狂している人を指すので、盲目的になっている人全般を指せる。

ɾɔɔl ［形容詞］異常な、通常でない、非常の、常時でない　［反意語］ɪlɔl　［レベル］３　Ɉ⌋: 古 ɾɔlc

ɾɔɔlɪlləlɪlɪ ［料理］非常食　［レベル］３　Ɉ⌋

ɾɔɔl ［医療］［俗語］［ネガティブ］知的障害者、知障、池沼、キチガイ、きちがい、気違い、気狂い、基地害、基地外、キティ、キチ、マジキチ　［類義語］lenjuclef　［類音］ɾɔɔʃ　［レベル］３　zφ;ɾɔ lc/lenj　Ɉ⌋:bel

ɾle ［副詞］［ɑɥecɾʃ］～しろ。µe の強調形　［レベル］１　1L:lecn

ɾlenɑcbəlʃ ［アトラスの国家］レンディブルト　［レベル］５　Ɉ⌋:µcɑɑɪ

ɾleeφ ［名詞］クリティカル、クリティカルヒット、会心の一撃　［動詞］ɥəl にクリティカルヒットを与える、クリティカルヒットを与える　［形容詞］（ɪn で）どストライクな、ストライクな、クリティカルな　［ユベール］［運動］一本。柔道や空手やユベールなどの一本。　［野球］ホームラン　［類義語］ccsɛj　［反意語］ɑeɪ、ɪlɪɪn　［レベル］３　ɑu;ɑɔuefʃ。ɾl は衝撃音で、φ は敵が潰れる音。　Ɉ0　［語法］　見事に決まった一発のこと。致命傷に至るかは不明。　転じて、好みなどに全く当てはまること。　［用例］　lɪ eʃ jccne ɾleeφɪn ɪnʃ əlʃ 彼女は俺の好みのどストライクゾーンだ。　jɒɥən ɾleeφcɪ uecφɪn lɔn əµecʃ セレンは剣でヴェイガンにクリティカルヒット！

ɾleeφlɔʃ ［名詞］ストライクゾーン、レーグロット　［レベル］４　µɑ;/　Ɉ0　［語法］　好みの範囲のこと。女だけでなく食べ物や音楽などあらゆる物の好みに使える。　［用例］　lɪ lɪ ɾleeφlɔʃ ɪnʃ. 彼女は俺のストライクゾーンだ。　ɾleeφlɔʃ ɪnʃ eʃ hɪn ɔn ɒcn ɑe. 俺は女のストライクゾーンが広いぜ。　lɔccɒ əl lcczɪ lɪnlɪ lɪ ɾleeφlɔʃ e jɒɥən. クミールやリーザ先生はセレンのストライクゾーンだ。

ɾləl ［言語］ɾl の文字　［レベル］１　1Ɉ: 制：真紅の月　［語法］　第１５文字目の幻字。　日本語のラ行を転写する際は µ や ɾl でなく l を使う。　イタリア語のラのように、震え音で発音する子音。アルカで最も頻度の少ない字。震えが強いので音の迫力が強い。そのため呪文には適すが、少女の声には適さない。実際クミールやフルミネアなどの大人しい女子は古アルカの時代からこの音を避ける傾向にあった。そこで、µenʃe は震え音の代わりに弾き音で発音する。つまり日本語のラ行で発音する。女性の発音は日本語のラ行になっても、日本語のラ行の転写は上述のように l で行う。

ɾləəf ［アイテム］ルート、エーテル　［組み数字］６／１２　［レベル］４　1L:µcɑɑɪ:ɾl（ヴィルの旧称）／ɾləəlccʃe（真紅の月（魔力の回復に役立つ））　［文化］　ヴィルを回復する赤い水。魔導師がヴィルを封じ込めて作る。非常に高価。µɑ ではアルシェの家を襲撃された際、まだ使徒が未熟だったため、リュウが大量に使徒に投与して魔物を追い払ったことがある。

ɾləəl ［天文］［気象］真紅の月、深紅の月、紅月　［レベル］２　1ʔ: 古：lenɔ ɾləəlccʃe（真紅の月），（ルーキーテの（月））が原義。『カコ』の一節が語源。皇女ルーキーテがむなしく散り、ドゥルガとヴィーネの和解が破局を迎えた日、暗い空に現れた真紅の月が現れた。そのシーンに出てくるような月という比喩から。　::lɪ ləəuef

ɾləəlj ［名詞］夕方。１６～２０時　［レベル］１　µɑ;ɑφn　1L:jɔµn:ɾləəl。夕方が赤いことから　ɒɥ ədɪ:ɒɥədɪ:lɪ lelce　［用例］　☆ɪn ləf ɥəə ɪlɪlʃ ɾləəlj nɔu cɒ ɑcj. 今日は午後の遅い時間まで何も食べられなかった：午後の遅い時間なので、自動的に ɾləəlj。

ɾləəldɪɑc ［気象］赤虹　Ɉ1: ただし朝焼けでの場合もある。

ɾləəlccʃe ［人名］ルーキーテ。実在の人物で、メテの母。　［人名］皇女ルーキーテ。カコに登場する姫。　［魔法］ルーキーテ（アルテマ）。すべての魔力を攻撃力に変換して撃つ無属性の魔法。『紫苑の書』ではフェンゼルが放っている。　［組み数字］３／１１　［レベル］３　lɪlɔ: 語源不詳　［文化］　（ɥəəɒɪ 1L90）　ɥəəɒɪ 1L90 イクスタン、ルクレティアとの間に娘 ɾləəlccʃe を授かる。西の暴動を見ていたイクスタンはこの年、旧イクサンテ系貴族のメティオ人 lɪlɒɪn の娘 ɾɔµcj ʃe を第二夫人として娶る

ɾləəl ［料理］夕食、軽食　［レベル］１　1L:jɔµn　［成句］　aɪjʃ ɥən ɾləəl 夕食のように手っ取り早い＝朝飯前の：夕食は軽食であることから

ɾləəle ［天文］夕月、ルーシェ　［レベル］３　Ɉ⌋:ɾləəlj/lelʃ　［文化］　夕方見える上弦側の月のこと。

ɾləəɑ ［気象］夕日、日没、日暮れ、夕焼け　［レベル］２　1L:ɾləəlɑɪɪl

ɾləəɑ ［代詞］［ben］俺ら　［レベル］１　Ɉ1:ɔuc

ɾləəɑcj ［代詞］［ben］俺らの　［レベル］１　Ɉ1:ɔuc

µ

µ,jzɑ 主格語尾

µʃ ［歴史］アルティル、ɪµʃcl　［レベル］３　Ɉ

µjcʃ ［動詞］ɥəl を采配する、采配する、ものをいう、物を言う、物をいう、ɥəl は jɔl 次第である　［反意語］pejʃ　［レベル］３　1L:l.cɔn:µjccɭɪ　［成句］　ʃɔlcj µjcʃ elʃ{clʃ}. 年には勝てない。寄る年波には勝てない。　µjcʃ lcuµɔ 生殺与奪の権利がある

µjccʃ ［軍事］士官　［レベル］５　1L:µcɑɑɪ:µjccɭɪ や µjcʃ　［文化］　軍人の階級。兵の対語。将官、佐官、尉官に分かれる。

µjccl ［親族］親、両親　［反意語］ɥəlcɪn　［動詞］ɥəl を経営する、経営する、運営する、営業する　［レベル］２　古に「µjccɭɪ＝lccɪ＝みんなの親」という考えがあり、省略形の µjccl で親身分を指したことから。　［成句］　el jc µjccl cɒ lə ej µɪz. 孝行のしたい時分に親はなし

µjccɭlɪɑ ［政治］宗主国　［レベル］６　Ɉ0: 親の国

µjccluenʃ ［経済］親会社　［レベル］５　1L

µjccɭφɪɔ ［経済］営業利益、営業損益　［レベル］６　1L

µjccɭµɪ ［名詞］実家、親元、親の家、生家　［レベル］４　µɑ;/　Ɉ0

µjccɭɪ ［名詞］ルシーラ、司徒、マスター、支配人、支配者、覇士、はくし、司月、しづく、月司、月読、つくよみ、ツクヨミ、リーダー、良い支配者。使徒を点呼する立場にあるため、月読とも称す。　［名詞］司徒（しと）。Is のミロク革命の最高指導者を表す言葉。　［名詞］司徒。µɑ の英雄アシェットのリーダー。　［名詞］先生　［音楽］バンマス、バンドリーダー、日本でいうバンドマスター　［軍事］キャプテン、隊長、司令官　［名詞］チーフ、集団の長、委員長　［名詞］大学院博士課程　［名詞］院長　［名詞］管理人、管理者　［電算］管理人、サイトマスター。掲示板やＨＰなどの。　［シェルル］チェック、ルシーラチェック　［経済］経営者　［動詞］ɥəl を司る、司る、つかさどる、思い通りに操る、良く支配する、ɥəl は jɔl の天下だ　［形容詞］～様、～先生、～社長　［反意語］hɪnbɪ　［レベル］２　ɑu;e 先　［語法］　→ ɪdʃ, eɪʃ　○名（後置）　○姓（前置）　○男女　○単体使用／名詞用法　　呼称のひとつ。前置。lɪnlɪ や ɑɥəɥjɔə より敬度が高く、対象もほぼすべてに広がる。政治家なども含む。統率者や経営者や地位の高い人物に用いる。

µ

〔成句〕 c μjcclı cljel ルシーラから直接：上意下達

μjcclı lınlı 〔人名〕ルシーラ先生、メル、メル＝ケートイア 〔レベル〕6 古：小説版アンクノットか赤に既に「ルシーラ先生」という原案がある。ただし lınlı という単語はこのころはまだない。

μjccllɯıcɒın 〔名詞〕博士中退 〔レベル〕6 1L

μjccllμlɔ 〔言語〕親ノード μɑ:ɒel;/ ʃl̂:ɒel

μjccllμeφıʃ 〔名詞〕博士卒 〔レベル〕6 1L

μjcclıez 〔名詞〕院長室、艦長室、所長室、社長室 〔レベル〕3 ʃʃ

μjcclelɑ 〔言語〕祖語 〔レベル〕6 1L

μjcel,jzl ʔəlɔ μjcclı/jcel

μɑ 〔歴史〕オーディン、ɔμɑcn 〔レベル〕3 ʃ1

μɥɑcı 〔ユマナ〕リディア、リディア＝アルバザード 〔人名〕リディア、リディア＝ケートイア 〔人名〕リディア。セレンの理想の少女。 〔レベル〕1 ʃlʃ1;μcɑcı ʃl̂:jeμen:μcɑcı 〔文化〕 ・産まれなかったセレンとメルの子供。　日本時間で２０１２年６月１３日、lcı 1L.ʃlʃ のなりたてのこと。メルは５月３日にセレンが秋葉原のトイレにメルを連れ込んでセックスした際に妊娠したことを告白した。　リディアは産むことを許さないと述べた。セレンはその子供を引き取ると述べたが、メルとリディアが引き渡したくないと述べた。セレンには父親になって子供を直に育てる資格がないと言われた。　その子供を堕ろすか否かで揉め、最終的にセレンが堕ろすとの決断を下した。リディアが産むのを許さず、セレンが引き取るのも拒まれれば、産む先がない。施設に預けるのもリディアが反対した。そもそもメルにセレンの子供を産ませたくなかったのである。メルは悲しんでいたが、その決定を受け入れた。　せっかく宿った命なのでせめて名前を付けようということになり、リディアと名付けた。セレンは中学の時、リディアと約束していた。もし自分以外の女と子供を作って命名権がセレンにあったら、その場合はその子をリディアと名付けるようにと。それをセレンは守った。　なお、アルディアの中ではリディア＝ケートイアという名である。その子は娘であると想定され、母親の姓を受け継いだ。一方現実ではどうなっていたかというと、こちらも娘ではないかと想定されたが、セレンが姓を引き取りたいといい、現実ではリディア＝アルバザードとなった。　娘の線が濃厚である理由は、メルが避妊をしているとセレンに嘘を付き、娘が生まれやすくなるゼリーなどの薬剤を使用して産み分けをしていたためである。メルは既成事実を作ろうとしたが、結局リディアに阻まれ、セレンにも最終的には堕ろすように言われてしまった。この事件が元でセレンは自分は父親として不要だと考え、ルシアとユルトの前に二度と現れないことを宣言し、リディアらも受け入れた。セレンはこの日に自殺したと子供たちには伝えることになった。　セレンはメルに慰謝料と手切れ金を合わせてユーロで１２００万円分支払い、同じくリディアにはユルトとルシアの養育費として１２００万円分ずつ支払った。

追記（セレンの日記より抜粋）　J01J/0ʎ/19　昨日だかリディアから連絡。もうメルとは暮らせないので追い出すことにしたが、子供が嫌がるので、「私はあなた達を産んだの。お母さんとママどっちについていく？」と聞いたら即答で「ママ」と言われ、「じゃあママと一緒に暮らしなさい」と言って子供を捨てたらしい。子供をメルにあげる代わりに「もうセレン君と会わないで。連絡はしてもいいけど、それは私の家でして」と条件を出し、メルは飲んだそうだ。そんなに離れてないところに賃貸かなんかで借りるらしい。紫亞は俺が死んだというのがショックで泣いて、ユルトは同じくショックで「僕もう剣道やらない」と言って鍛えるのを止めてしまったそうだ。剣道がフランスにほぼないからフェンシングをやらせようかって言ってたのに、その線もなくなったようだ。リディアに「子供捨てて良かったの？」と聞いたら「子供がメルを選んだ」と言い、「私はその代わりセレン君を独り占めできるから、こっちのほうが良い」と言った。俺も父親失格だが、リディアも母親失格だな。

J01J/0ʎ/Ĵlʃ　先週リディアに「メルを連れてこい」と怒鳴ったらリディアが珍しく怯えていた。怒らない俺が怒ると怖いらしい。メルともう話せないと思ったら我慢できなくなった。メル連れてきてお前のことが好きだと何度もリディアの前で言い、子供はいらないがお前たち二人は絶対に手放したくないと明言した。父親失格だねとはいうものの、メルは嬉しそうだった。　それから先週末にメルが家を探しているところで子供たちが家を出ていきたくないと言い出した。リディアがお母さんかママか選びなさいと言ったら紫亞が「じゃあお母さんが家出てってよ」と爆弾発言。ユルトが「僕はママもお母さんも一緒に暮らしたい」と言い、すると紫亞も「うん紫亞もそう思う」と意趣返し。ほだされたリディアとメルが元鞘の同居を選ぶことに。　問題は俺が死んだと言ったこと。紫亞はその場では泣いたがあとはしれっとしていて、逆にユルトはその場で無反応で「僕もう剣振らない」と投げ出し、そのまま何日たってもボーっとしたままでヤバイとリディアが言ってた。意外と娘冷たかった。で、子供に悪影響だし絶対将来いつかバレるってことで、自殺未遂したが助かったことにしようということにした。これで完全元鞘。　メルに言いのかと聞いたら「ずっと自分の生理って苦しいだけで無駄だって思ってたんだよね。お兄ちゃんの赤ちゃんほしいなって思ってたんだよね。産めはしなかったけどお兄ちゃんの赤ちゃん身ごもったことは事実だし、わりと満足かな。実際産むのも育てるのも大変なのは双子の世話でよくわかってるし。それに妊娠超初期だったからあまり罪悪感もなかったし、苦しくもなかったから」と言っていて受け入れている様子。結局元鞘になりそうだ。　・セレンの理想の少女　セレンが１０歳のときから抱き続けた理想の少女像のこと。リディアをモデルにし、名前まで拝借しだしたのは、リディアと付き合った中２ごろからのこと。　ある意味では現実のリディアを神格化した存在という面もある。μɥɑcı はセレンにとって理想の少女であるとともに、信仰の対象でもある。

μɥısc,ɑ ɔs lɥı/sc「指が近い」が μ 化したもの。

μɥəjcın 〔地名〕リュシアン市 〔レベル〕4 ʃʃ 〔文化〕 cle ウォール街に当たる小さな市。

μɥəə 〔組み数字〕6/２８ 〔交通〕リュウ通り 〔名詞〕リュウ組。アルナ大のクラス。 〔レベル〕2 ʃʃ

μɥəə ɔlcjcı ɑcn ſclnɔ hɥəəſɔ 〔人名〕リュウ＝オリシア＝フィン＝ティクノ＝ヒュート 〔組み数字〕6/２８ 〔レベル〕2 古：リュウ、オリシア、フィンは自分で名乗っていたので語源不詳。リュウという名の本名は多くの使徒が発音できなかったので、セレンが「リュウ」というマージ名を付けた。が、これは受けず、有声そり舌摩擦音が歯茎接近音に変化したりした。その結果、リューウェという感じになったが、最終的にはセレンの提案した形に収まった。また、ティクノは 1 年にセレンが冠した名で「龍」の意味。ヒュートは『カコ』。 〔文化〕 (ſcɑ Δ μəs lcj→) 第４期４代アルシェ第６使徒。男性。μəəl. １７５ｃｍ、６２ｋｇ。髪は黒色で肩より少し短く、直毛。黒の瞳。肌は白：黄＝６：４。白衣を着ている。白衣の下には刀を差している。　・『ミールの書』より　恐る恐る振りかえると、デスクに座ってキーボードに手を置いている青年がミールの方に顔だけ見せている姿が見えた。ミールは驚きながらも振り向きあった妙な姿勢が２人の出会いだということに奇妙さを感じていた。「あ、いえ。私こそ勝手に入ってしまってごめんなさい」　お辞儀をする。青年は椅子を回してこちら向きの姿勢になった。肩まで伸びた髪が向き直った時に風に揺れて美しい印象をミールに与える。それでミールは思わずその青年の顔に見入ってしまった。　青年は鋭い目つきをしていて、一目で頭の切れる男だと思わせた。だが、表情は非常にジェントルなのでセレンやラヴァとは違うタイプに見えた。セレンもラヴァもこの男も目つきが鋭い事は共通するが、この男のものは特別優しく見えた。　声と同じく彼の顔つきはやや中性的であり、綺麗であった。　男の服装は白衣だ。綺麗な白衣で汚れや染みが見当たらない。その下には普段着を着ているようだ。　優しそうで綺麗で清潔なこの男をミールは一目で気に入った。「入ってこられたのは一向に構いませんが、何か御用でしょうか」　優しい口調で男は喋りかけてくる。年はセレンと同じくらいだと思われるが、この男の方が大人びて見える。 〔成句〕 μɥəə ınl dııl lel dııl ɟın lc ɒılɟ ɟ 結婚してもリュウはパールをさん付けする：親しき仲にも礼儀あり μɥəə ɑınzel ʅıl ɟel 残酷なリュウは笑顔を絶やさず：能ある鷹は爪を隠す

μzɟıʅ 〔名詞〕天使、ルザーク 〔類義語〕lınj 〔レベル〕3 J0:μenjıμʅ（言葉を繋ぐ）〔文化〕 ロゼットの貿易商。神人貿易の神側の役人。貿易をしている関係で人間と直接的な交流を持っており、そのため神の意思を伝える任務も負っている。神人貿易が廃止されてからは神の意思を告げることが主な仕事となる。大天使長はエルフレインの姉妹。

μı 〔建築〕住居、家、家庭、動物の巣、住処、住宅、別荘、小屋、巣 〔動詞〕ɥəl に住む、住む 〔接尾辞〕～の家、～ん家、～んち 〔類義語〕lılɒ、lclcl 〔レベル〕1 1̂: 制：古 :μəlclɔ（家） μəlclɔ :μəlclɔ:lı lczμɔ（中や内は女）:lɔ,ılſ 〔文化〕 → ɒcuıſ ＜様式＞　アルバザードの伝統的な家屋は石造りと木造である。屋根は雪や雨を貯めないように、∧の形をしている。全体的な見た目は、地球でいうとイタリア～フランスの家屋に似ている。森の中は木の家が多い。材料がすぐ調達できるためである。ただし火事に弱い。森の家というとアルバザード人は木の家を想像する。　四季のある国の家屋というのは暑さと寒さのどちらにもさらされるため、家屋はそのどちらかを優先的に避けるよう作られる。湿気の少ないこともあり、アルバザードの場合は寒さを凌ぐようにできている。そのため日本より韓国に近い。従って遮蔽性は高く、風通しは悪い。　ただし、現代では伝統的な家屋は古いものしか残存していない。革命前後に作られた家はたいてい石や木といった自然物をそのまま使わない。鉄骨、軽量気泡コンクリートなどといった昔にはないよう素材が使われ、耐火性や耐久性に優れている。そのわりに外見は従来の家屋に見えるので、一見すると従来型との区別が難しい。　一戸建てはたいてい二階建て。集合住宅は面積が広いが、たいてい一階分。　＜形式＞　一戸建てと集合住宅がある。一概にどちらが良いとはいえない。集合住宅は一つひとつが広く、防音もしっかりしている。それぞれベランダに小さな庭もあり、ところによっては犬も飼える。防犯もしっかりしており、認証がなければ正面玄関を通り抜けることはできない。また、決まって大きな公園が内部にある。ここにはその集合住宅の中からしか行けず、外からは隔離されている。ここは住民の憩いの場で、ベランダに比べて公共の場でもある。尚、密集地では屋上に公園がある集合住宅もある。集合住宅の屋上は環境対策として全て緑地化されているが、これがそのまま公園にもなる。夏場もアルバザードはそんなに暑くならないので屋上にいても危険ではない。監視の目が厳しく、安心して暮らすことができる。集合住宅そのものが一つのコミュニティーを形成している。　一方、一戸建ては大きさや内装を好きに決められるという利点がある。家族の増減によって分譲したり建て増ししたりできるのも利点である。集合住宅と違って管理人がいないので防犯性は低い。そのため自衛をしたり、隣家と共同で防犯に務めたりする。尚、一戸建ては金持ちが多く、家族の人数もしばしば少ない。　＜賃貸か購入か＞　賃貸は殆どない。集合住宅もふつうは購入する。数少ない賃貸だが、そもそも賃貸は大家との間で行われることは少ない。むしろ購入した個人から借り受けることが多い。殆どの住居は購入される。払い捨ての賃貸は殆ど見向きもされない。というのもアルバザードは後述のように引越しが盛んでないからである。尚、住居は日本ほど高くない。　＜引越し＞　引越しはまず行われない。アルバザードは移住を嫌う。慣れ親しんだ土地に住むのが良いと考えている。まして仕事のために転勤することはまずない。異動を強要する企業自体がそもそも少ないし、仮に言われれば大抵は止めて仕事を変える。　＜誰と住むか＞　大抵は大家族で住むので、多ければ十人弱が一つの家に住むことになる。集合住宅も家族が何人いるかによって大きさが異なる。大家族ほど大きな家を買う。ただ、家族の増減に伴って部屋が余ったり足りなくなったりするのが不便である。だから家族がどう増減するかを考えてから家を買う。一緒に住む相手は親族である。稀に小さい部屋を友人同士や恋人同士で借りて住むこともあるが、そういうことができるのは大抵金持ちである。尚、住人が少ないと泥棒や放火の被害に会いやすいので防犯に金がかかる。　＜修繕＞　集合住宅の場合、修繕は管理人が業者に頼んで行う。修繕費用は維持費から出る。維持費は住民が支払う。購入した部屋の場合、管理人が行う以外に自分で勝手に修繕を行うこともできる。一方、一戸建ての場合、修繕は自分で頃合を計って業者に依頼する。服と違って流石に住居まで直せる人は少ない。雨樋が外れたりネジが緩くなった程度なら自分で直す人が多いが、それ以上になると業者に任せる。下手に手を出してしくじると住めなくなってしまうので業者に頼む人が多い。 〔用例〕 ıfɒ uıcl e μı ɒın lcfe ej lılɔ 家族が減ったので家（主に土地）を分譲する ın μıj jeelı μnı. 私は中央アルナに住んでいる。

μıſ 〔形容詞〕良い、すばらしい、素晴らしい 〔類義語〕ɑccμə 〔反意語〕qıɒ 〔レベル〕1 ɑ:μıl;e 赤 μıſ:μıſ:μıſ 〔用例〕 cl ıſ μıſ. すべてのことがうまくいった。 lcu μıſ いい声

μı ſıμle 〔ラノドマーク〕アルシェの家 〔レベル〕4 μɑ lʃl̂ 〔文化〕 部屋のドアが乳白色と『ミールの書』に書いてある。

μıſſɔ 〔地球の国名〕アメリカ合衆国 〔レベル〕4 1L: 制 :μıſ（「家の支配者」: セレンの造語で、ピネナではない。古アルカでもない）

μıſſɔμen 〔言語〕〔ユマナ〕英語、米語 〔レベル〕4 ʃʃ

μıſſɔeu 〔経済〕米ドル建て、ドル建て 1L

μıſj 〔名詞〕がたがた、ガタガタ 〔形容詞〕がたついた、ガタついた、がたがたした、ガタガタした 〔レベル〕3 1̂: 制：古 :φμıſ

μıſjμıſj がたがた、ガタガタ→ μıſj 〔レベル〕3 ʃʃ

μıſlccl 〔生物〕善玉菌 〔レベル〕5 ʃʃ:μcɑcı

μıſı 〔名詞〕長所、利点、メリット、良いところ 〔類義語〕hılel 〔反意語〕qıɒı 〔レベル〕3 μɑ;μıſ 1̂: 制 〔用例〕 ſc ſcl μıſı ɑc e. 君にはいいところがたくさんあるよ。

μıſıucn 〔経済〕好況、好景気 〔レベル〕4 J0

μıſıɑcl 〔植物〕〔医療〕良質艾、良質モグサ μɑ;/ lʃl̂

μıſıll 〔言語〕聖数 〔反意語〕qıɒıll 〔レベル〕4 ʃ1 〔文化〕 ſɒ で聖数が４に定まる。神、悪魔、死神、人すべてが共存した数を指すため。　同時期に忌数が７に定まる。指を使って数えられる１０までの間に７だけペアがなく、孤立している。ペアというのは倍数や約数のことで、１０までに素数は３，５，７だが、３は９、５は１０がある。７だけペアが存在しない（むろん約数１はカウントしない）。このように７は扱いづらく、扱いづらいという感情からからやがて忌数となった。　ちなみにフィーリア語は５－１０－２０進数で、フィルヴェーユ語は５－１０と５－１２進数。どちらも１０進数を含むので、１０までの数で忌数を考えること自体は歴史的に見て妥当。ただし ſɒ なので、もし１２進数で考えていたらというケースも考えうる。その場合は１１が忌数になっていた可能性がある。だがそれだと７が忌数でない理由が出てこないため、忌数をひとつに特定できなくなり、混乱が生じたと思われる。　μɑ で忌数に別解釈が生まれる。１４人の使徒が分裂すると７になるため、アルシェの分裂すなわち崩壊を指すとして嫌われた。

μıſılɔz 〔名詞〕〔形容詞〕ハイブリッド、いいとこ取り 〔レベル〕4 μɑ;/ lʃ

μıſc 〔形容詞〕空いている、すいている、ガラガラ、閑古鳥が鳴く 〔反意語〕lclı 〔レベル〕3 @ 1L

μıſɔ 〔植物〕パセリ 〔レベル〕3 lılſı: 良い匂いの意（μıſlɔɔſɔ？）〔成句〕 dcı μıſɔ ıl elɑe ſel ılu ɔμſ. アルヴォルトを用心してパセリを泉に持っていく：羹に懲りて膾を吹く、あつものに懲りてなますを吹く：一度アルヴォルトに襲われた旅人は用心して魔除けのパセリを携帯するが、アルヴォルトは水の綺麗な泉には現れないので、その行為は杞憂に過ぎず、おどおどしすぎといえる。

μıſɔuı 〔名詞〕好例 〔レベル〕4 μɑ;/ lʃ

μıſɔɒ 〔名詞〕良い方法、コツ、ミツ、カギ、上手、ツボ 〔レベル〕3 1L 〔用例〕 jeμ μıſɔɒ コツを知っている

μıſe 〔名詞〕カリスマ 〔レベル〕4 1̂lı: 制：古 :μəjcclıfeeze

μıl 〔動詞〕ɥəl を超える、超える、こえる、越える、超越する、過ぎる、経過する、通り過ぎる、追い越す、超過する、超える、卓越する、上回る、凌駕する、通過する 〔副詞〕～しすぎる、～すぎる 〔格詞〕～を越えて 〔名詞〕向こう側、対岸 〔反意語〕lcſ 〔レベル〕2 μɑ;μəʅle,ɑ.l（越える） 1̂: 制：古 :μəʅle（超える） μəʅle:μəʅle 〔語法〕 ・程度の μıl　あるべき程度を１００％とすると、μıl はその程度を上回っていることを指す。　一方、uıμſ 系列はあるべき程度との比較ではなく、中くらいの程度からどれだけ大きいかあるいは小さいかを指す語である。　μıl の中には「あるべき程度」という「べき感」が備わっており、そこが uıμſ 系列との違いである。　・μıl と uıμ　μıl lılſe, uıμ lılſe の違い。uıμ は場所を通ること。μıl は場所を通りこして別の場所に行くこと。uıμ は通る経路に焦点が置かれる。μıl は経路に焦点を当てつつも、越えた向こうに意識が置かれる。　道路の場合、縦に通って別の道路へ行くか、横切って別の道へ行くかを意味する。 〔用例〕 ſə eſ μıl uıμzɔn. ８時過ぎだ。 ſe μıl ſə μecn. その線を越えるな。 qıɒ μıl 悪すぎる

μılſ 〔形容詞〕大げさな 〔副詞〕おおげさに、大げさに 〔名詞〕大袈裟、誇張、誇大 〔反意語〕lclſ 〔レベル〕3 1̂: 制 〔文化〕 jeμcſ 〔用例〕 ın nıſ eɒſ μılſel. 大げさに悲しんだ。

μılɔnl 〔ポジティブ〕〔形容詞〕常識破りな、型破りな 〔レベル〕3 μɑ;「常識を越えた」 lʃ

μılɒeɟıl 〔医療〕胃酸過多症 〔レベル〕4 1L

μılɔec 〔料理〕飽食 〔レベル〕4 1L:μcɑcı:ıpbılelſ

μılɒeμ 〔美容〕厚化粧 〔レベル〕3 ʃ1

μılj 〔動詞〕ɥəl を刺し通す、刺し通す、突き通る、貫く、刺し通る、貫通する 〔動詞〕ɥəl（道や場所）を通り抜ける、通り抜ける、突っ切る、突き抜ける 〔動詞〕ɥəl（戦地や砦など）を突破する、突破する 〔経済〕抜く 〔レベル〕3 1̂: 制：μılɒcdc（過ぎて刺す）〔用例〕 μıjl ɑıj ſə ɑɔnſ lını ɒe ılcl:. 郵便局はこの道を突っ切ったところです。

μıljın 〔音楽〕ダイアトニック ʃ1

μıljıμɒ 〔経済〕債務超過 〔レベル〕5 1L

μılʅ jɒen 〔名詞〕ソエンの谷越え。難しいこと 〔レベル〕3 1L

μılɑel 〔普通動名詞〕ノコ勉、のこ勉、居残り勉強 〔レベル〕3 μɑ;/ lʃ

μılɒ 〔動詞〕ɥəl（時間）が過ぎる、ɥəl を過ごす、過ぎる、経つ、過ごす、時が経つ、経る、経過する 〔レベル〕3 1̂: 制：μılʅɒel 〔用例〕 bel ıμ μılɒ lɔnſ ın jɔ ɥəə. 何もせず時間が過ぎる。 ın μılɒ ɑleı. 夏を過ごす。 μılɒ bınel. 楽しんできてね。 bel ɔμ μılɒ. 時間が過ぎ

ていく。　ɪn μɪlɒɪʃ ɒel ɔʃ hɪʌn lc hɪμdncɪn ɑen. 短い昼休みの後、友達と時間を過ごした。　ɪn en lɪlɪɪʃ nɔɟ μɪlɒcʃ ɑcʃ ɒɪn ʃə eʃ lɔʃ ʃcn. とても面白かったので、時間が過ぎるのを忘れた。　ɪn μɪlɒɪʃ ucμɑ ʅɔnʃ ɒɔʃ ucʃ. 眠れぬ夜を過ごした。　ɪn μɪlɒcʃ ucμɑ ɒeɟɪ neʃ. 一晩中起きたまま夜を明かした。　ɪn μɪlɒɪʃ ɒɪn ʃcn. とても楽しい時間を過ごした。　ɪn μɪlɒɪʃ jel uɔʃlɪ. 忙しい日を過ごした。　ɪn ʅelɪʃeɟ ɒel ɔμ μɪlɒ. 時間が過ぎるのも忘れていた。　jel cʃ μɪlɒ ʅɔnʃ ɪμ ueμjen hɔʃ. くだらないことばかりしているうちに一日が終わった。　ɒel ɪʃ μɪlɒ ʅɔnʃ ɔ ɥeə ɪlleʃ. 特に何もしないまま時間が過ぎた。

μɪlɒɪuc 〔医療〕ビタミン過剰症 〔レベル〕6　1L:jeμen

μɪlɒɪd 〔形容詞〕時期尚早な、早すぎる 〔レベル〕3　ʃ̍

μɪlɒɔʅ 〔再帰動名詞〕寝坊、寝過ごし、寝過ごす 〔レベル〕3　1L 〔用例〕 ɪn ʅeʃ aeʃlɪ uɪleʃ ɒɪn ɪμɪʃ μɪlɒɔʅ. 寝坊したので学校へ急いでいった。　ɪn ʅɪlɒɪ μɪlɒɔʅ. 寝坊ばかりする。　ɪn neʃɪʃ lc μɪlɒɔʅcʃ ɑə ʃ ɒcu ɪj cɒ ʃə ɑɪμ. 今朝、2時間も寝坊して目が覚めた。　ɪn μɪlɒɔʅɪʃ ɑə 1 ɒcu cɒ ɑcʃ. 今日1時間寝坊した。　ɑc neʃ lɪɑ ɪn ʃɪʃ ɑɪμ ɒɪn ɪn ɪμ μɪlɒɔʅ. 私は寝坊ばかりするので、毎朝誰かが起こさなければならない。　ɪn ucʒɪʃ ɑeʃlɪ ɑə 10 ɑec ɒcʃ μɪlɒɔʅ. 寝坊して学校に１０分遅刻した。

μɪlɒɔɒ 〔名詞〕過ごし方 〔レベル〕3　μɑ;/　ʃ̍

μɪlɒeɒ 〔数学〕外接円 〔レベル〕4　1L

μɪlφeld 〔経済〕〔政治〕福祉病、過剰福祉 〔レベル〕4　ɪl;/　ʃ̍:μcɑcɪ: セレンが φeldleun としたが、アルカディアを聞いたリディアが μɪlφeld のほうがいいだろうとしたもの。 〔語法〕 福祉を篤くしすぎた結果、国家経済が破綻したり国家経済に不具合が生じてしまうことを指す。

μɪldcl 〔形容詞〕過敏な 〔レベル〕3　ʃ̍

μɪlɥɔ 〔アイテム〕飛び道具、ラクヨ。機械式 〔レベル〕3　ɑu　赤 :ɥə̍lle/lɔɥɔ

μɪlɥəəɑ 〔名詞〕路地裏 〔レベル〕4　μɑ;/「路地を越えたところ」 ʃ̍ʃ̍ 〔語法〕 路地をはいり込んだ、表通りに面していない場所。路地を越えた先に広がっている、路地より広い空間のこと。

μɪlsɪlʃ 〔数学〕仮分数 〔レベル〕3　1L: 分子が分母を超えた分数

μɪlʃ 〔動詞〕ɥəl に成功する、成功する 〔文頭純詞〕見事、みごと、うまく 〔野球〕セーフ。ボールが来るより先に塁を踏むことに成功したので μɪlʃ。 〔反意語〕jeʃ 〔レベル〕2　1L: 古 :μɪdle 〔用例〕 ɪn ʅɪμɪʃ lɪ μɪlʃ ʃə ɪleəʃel. 彼なら絶対成功すると思った。　ɪn ɑcʃ ʃə ɪnɔ eɒ μɪlʃ. その計画がうまくいくとは思えない。　☆ ɪn ɔ jen ɥəə μɪlleʃ. 何もかもうまくいかない。

μɪlllɪɑɪ 〔名詞〕成功品 〔レベル〕4　ʃ̍

μɪlʅɪb 〔普通動名詞〕〔再帰動名詞〕残業、過労 〔動詞〕ɥəl を ɔn の仕事で残業させる、残業する 〔レベル〕3　1L:cleəj:μcɑcɪ 〔文化〕 アルバザードでは労働時間が８時間と厳潔に決まっているため、残業イコール過労となる。

μɪlʅɪbuɔμʃ 〔経済〕過労死 〔レベル〕4　1L 〔文化〕 アルバザードにはルージュの月とディアセル前後以外には起こらない。ルージュの月は毎年過労死が出る。

μɪlleɪueʃ 〔言語〕二重敬語、過剰敬語 〔レベル〕5　ʃ̍

μɪlɪ 〔名詞〕住所、番地、居住地 〔レベル〕3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ 〔語法〕〔文化〕 住所は名前と逆で ʅenɔ 語順。大きい枠から絞り込んでいったほうが効率的なため。 「美瑛町　上川郡……」では知らない人には分かりにくい。「日本　埼玉……」のように大きい順に並べていけば有名な順に並べるようなものなので分かりやすい。　まして地名は「林」のように全国どこにでもあるものが多いので、下からボトムアップしていくと候補でない場所を外すのに無駄に時間がかかる。 〔用例〕 ʃeɪ ɪn jeμ μɪlɪ lɪɪʃ, jɔn ɪn ɪlʃ uɪn heʅ. 彼の住所を知っていたら、手紙を書くのに。

μɪlɪʃcɪ 〔魔物〕ラカティア（半身鬼）: 第六十三天：光の氷天 〔レベル〕5　1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:μɪʅ/hɪʃcɪ（恋し過ぎて） 〔文化〕 右半身が男で右半身が女な魔物。右手に剣を持って戦い、左手に杖を持って魔法を放つ。同時に２回攻撃してくるため、非常に厄介。その上剣とユノと魔法が非常に強力。

μɪlɪʃcɪɟ 〔娯楽〕幻天超越　ʃ̍ 〔文化〕『銀河英雄伝説』に相当するアニメ。

μɪlɪnɑɪ 〔経済〕上値　ʃʃ̍

μɪlɪμ 〔名詞〕狂信者 〔レベル〕3　1L:μɪʅ/ɪμʃe（神よと言い過ぎる）

μɪlɔ 〔医療〕アレルギー、アラジー 〔レベル〕3　1L: 制 :μɪʅdɪɑ（敏感すぎる） 〔用例〕 ʃcl μɪlɔ ɔn berɟ バナナのアレルギーがある

μɪlɔɪdbɒɪcz 〔医療〕過敏性肺炎　1L

μɪlɔn 〔名詞〕家具 〔レベル〕3　ʃ̍

μɪlɔɒɪn 〔医療〕アレルゲン 〔レベル〕3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ

μɪle 〔化学〕濾過、ろ過、ろか 〔動詞〕ɥəl を ɪ に濾過する、濾過する、ろかする、ろ過する 〔レベル〕4　1L:μɪʅ/le

μɪlen 〔接続詞〕μɪʅ 〔レベル〕3　ʃ̍ 〔用例〕 lə scʅ ʅɔ lɪnʅɔ μɪlen φɪlʃ ueμ. リーザは黒い門の向こうに映った一人の少年を指さした。

μɪlel 〔名詞〕５０歳代の女性 〔反意語〕ɪlμɪʅel 〔レベル〕2　ʃ0:μɪʅ（超えた）/el（任意の人）

μɪlelalel 〔医療〕五十肩 〔レベル〕4　ʃ0:jeμen

μɪleʅɪl 〔生物〕５０代 〔レベル〕2　μɑ;μɪʅel/ɪl　ʃ̍

μɪleɪμ 〔化学〕濾過器、ろ過器 〔レベル〕4　μɑ;/　ʃ̍

μɪlɔcl 〔名詞〕家飯 〔レベル〕4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ

μɪlcʃe 〔名詞〕世帯 〔レベル〕4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ 〔語法〕〔文化〕 同じ家にいる家族のこと。単身赴任の場合、家族が東京で暮らし、夫が大阪で暮らしてるとすると、家族であっても世帯は別々になる。家にいる家族ではなくなるので、μɪnlcʃe でなくなる。逆に他人でもいっしょに住めば μɪlcʃe である。集合住宅は同じマンションに複数の世帯がいるものの、部屋ごとに世帯が分かれているので、住人全体が多世帯住宅というわけではない。

μɪleɑ 〔名詞〕別居人、別居相手 〔反意語〕μɪɔʅ 〔レベル〕4　μɑ;leɑμɪ/leɑ.lcʅ　ʃ̍ʃ̍

μɪj 〔名詞〕回 〔格詞〕～回。回数を表わす。 〔レベル〕2　1ʔ: 制 : 恣意 〔語法〕 動詞の行われる回数を表わす。回数が数えられない動詞には付かない。意外と多くの動詞が数えられる。 jccnɪ も数えられる。μɪj を単位として名詞にすれば μɪj でなく ɑə を使って回数を表わせる。 〔用例〕 cɒ ʃə μɪj, 今回は、　ʅɔn 1 μɪj いちどに、一度に、一回で、一気に、まとめて　ɪn ɪlʃ jccɪ lɪ μɪj uc. 彼とは三回会ったことがある。　ʃə eʃ lɪnʃ ɔlfɪ ɪn cn ʃə μɪj ɑc. 何度見ても美しい。

μɪjʃ 〔言語〕名字、苗字、姓 〔レベル〕2　1L:μɪ/ejʃ 〔文化〕 ejʃ

μɪjʃeμ 〔ランドマーク〕〔政治〕ラステル、副王館、副王公邸 〔レベル〕5　ul;μɪ ʃ'ɪjʃeμ　ʃ̍ʃ̍ 〔文化〕 国会議事堂に隣接する副王の公邸。ミロク以降はユティア朝の一族が住んでいる。コノーテ＝リディア通りに所在。

μɪjʅ 〔名詞〕〔副詞〕〔文頭純詞〕（視点時間から見てそれより過去の事柄に対して）かつて、一度 〔名詞〕〔副詞〕〔文頭純詞〕（視点時間から見てそれと同じ時間の事柄に対して）一度、一旦、いったん、ひとたび、ひとたび、ひとまず、いっぺん、一回、一遍 〔レベル〕2　1ʔ: 制 :μɪj ʅɔ 〔用例〕 ɪn ɪlʃ jccɪ lɪ μɪ jʅel. 彼とはかつて会ったことがある。

μɪjʅɪ 〔名詞〕ゲストキャラクター 〔音楽〕サブドミナント 〔レベル〕3　1L:μɪj ʅɔ（一回） 〔語法〕 物語のある回で特別に出てくるキャラ。恒常的に出るわけではない。全体が長い場合、１区切りの期間出演する場合がある。

μɪjl 〔普通動名詞〕指揮、指揮者、先導、引率 〔動詞〕ɥəl（部隊や作戦など）を指揮する、指揮する 〔レベル〕3　1ʔ: 制 :μɪjcclɪ から 〔用例〕 μe μɪjl uɪɪn. 軍を指揮せよ。

μɪjlzɔn 〔音楽〕指揮棒 〔レベル〕4　ʃʃ̍

μɪjɔ 〔名詞〕無理、無茶、無茶苦茶、無理やり、無理矢理、むりやり、限界を超えたこと、がむしゃら、しゃにむに、遮二無二 〔動詞〕ɥəl を無茶して行う、無茶する、無理する 〔レベル〕3　1ʔ: 制 : μɪʅ/jɔ（しすぎる） 〔用例〕 ɑen μɪjɔ. 無理すんな。

μɪjɔdɔnj 〔普通動名詞〕むちゃぶり、ムチャぶり、無茶ぶり、ムチャ振り、無茶振り→ dɔnj 〔レベル〕4　ʃʃ̍

μɪjɔhɔɒ 〔動詞〕ɥəl をこじ開ける、こじ開ける 〔レベル〕3　μɑ;/「無理やり開ける」 ʃ̍ʃ̍

μɪjɔμeʃ 〔普通動名詞〕無理難題 〔レベル〕3　ʃʃ̍

μɪjen 〔接続詞〕μɪj 〔レベル〕3　ʃ̍

μɪn 〔形容詞〕きちんとした、真面目な、丁寧な、実直な、率直な、誠実な、正直な、内容が詳しい、詳細な、細かい、入念な、折り目正しい、眠りが深い、じっくり、しっかりした、ちゃんとした、まともな 〔反意語〕dəl 〔レベル〕2　1L:μɪʃ 〔用例〕 ɪn eɒ lɪɑ μɪn uecn. もっとちゃんとしなくちゃ。

μɪn(J) 〔名詞〕住民、住人 〔レベル〕3　ʃʃ̍

μɪnʃ 〔動詞〕ɥəl を注意深く聞く、聞く、聴く、耳を傾ける、耳を澄ます、耳をすます 〔類義語〕ʃeμ 〔レベル〕3　1L:μɪn/ʃeμ 〔用例〕 μɪnʃ ɪn ɪ̈ɪɪɪnʃɔ̈ʃ̍ʃ̍ 聴け

μɪnʃɔ 〔形容詞〕おいしそうないい匂い 〔類義語〕lccʃɔ 〔レベル〕2　ʃʃ̍:ɒclɑ: 古 μɪʃ/ʃɔ

μɪnʃɔn 〔人名〕ラントン　ʃ0 〔文化〕 cɒəl 1ʃ ユリア、メティオ高官の μɪnʃɔn と再婚

μɪnʃe 〔名詞〕わがや、わが家、我が家、マイホーム 〔形容詞〕我が家の、ウチの　ʃʃ0:μcɑcɪ:μɪ/ɪn ʃeɟ。会話で「ウチのネコ」というとき、ʅeʃ e μɪ lenɪn というのは面倒くさい。かといって ʅeʃ lenɪn では、我が家のという解釈のほかに、今会話をしている相手を含んだ「われわれ」の解釈も出てしまう。日本語でも家庭の場合は「ウチの○○」というように「ウチの」を使って言い分ける。これと同じように、簡略化と言い分けのために作られた。 〔用例〕 ʅeʃ μɪnʃe ウチのネコ

μɪnʃeuɪlɟ 〔医療〕町医者、街医者、ホームドクター 〔レベル〕3　ʃ1 〔文化〕 cuɪl, ɥəlcɪnʃjel

μɪnʅɪj 〔数学〕正三角形 〔レベル〕3　1L

μɪnʅcɟɑcnʅ 〔数学〕正六面体。サイコロの形 〔レベル〕4　1L

μɪnʅɔuɔ 〔数学〕立方体 〔レベル〕4　1L

μɪnʃ 〔形容詞〕非限定、全体的、汎用性のある 〔反意語〕lcɒɟ 〔レベル〕4　@ 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ

μɪnʅɥɔʅ 〔動詞〕ɥəl を汎用する、汎用する 〔言語〕非限定用法 〔普通動名詞〕汎用 〔レベル〕4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ

μɪnleʅ 〔文末純詞〕〔ɹəəl〕ʅɔʃ 〔レベル〕2　ʃʃ1:μɥəə:ʃμɪnjel（約束するように）

μɪnj 〔動詞〕ɥəl を ɪ に説明する、説明する、解説する 〔普通動名詞〕説明、解説 〔類音〕μcnj, lɪnj 〔レベル〕3　ʃ0:μɪn/μenj　参考 :ʃɪdʅ:ʔ: 制 : プロト制 ʃɪdʅc（詳しく言う） 〔文化〕 論理的かつ分かりやすい説明が重視され、教育の現場でもここに重点が置かれる。　アルバザードの表現科目の試験では、「冗長な文章が提示され、そこから要点をあげて要らない部分を切り落とし、文章を再構築する問題」、「論理的に誤った文章が提示され、それを修正しつつ端的に書き直す問題」など、説明に関する筆記問題が多い。 〔成句〕 oel eʃ μɪnj ʃɪd, 何というか、何というべきか、どう形容すべきか、

μɪnjlɪʃ 〔普通動名詞〕講義 〔レベル〕4　ʃ0 〔用例〕 ɪd ɪn aɪlʃ ɪ ʃə μɪnjlɪʃ lɪlʃ ɪlɔn cɒ μɪljel ʃɪʃ lcjɔ ɔɒ. ɪn μccnɪ lɪlɪn ɔ μɪnjlɪʃ leəʃ. なお、毎週日曜趣味でこの講義に出ている。先生と彼の講義が好きだ。

μɪnjlɔʃ 〔魔法〕ランスロット 〔レベル〕4　ʃ0:μenj/ləjcɪ/lɔ/ʃe（言葉と魔法の考えに関した） 〔文化〕「魔法はことば、言葉はまほう」という考え方。ファンタジーにおける言語の地位を最大限高めることができる。　＜ランスロット＞　幻楽はアルカを作ることだけではない。　世界アトラスを作ることも含まれる。そしてそれを分担している。　通常、世界のほうが言語より大きいのだが、この世界においては世界は言語と等しい重要性を持つ。　というのも、このプロジェクト自体がセレンとリディアの遠距離恋愛を埋めるためのものだったからである。　両者は双璧を成しつつ作業をしているため、言語は必然的に世界の双璧となった。　では、ファンタジーの世界において言語を最も重要なものにするにはどうすればいいだろうか。　結論のひとつが呪文だった。魔法の世界なのだから、そこに言語を食い込ませるのがもっともであろう。　そこで「魔法はことば、言葉はまほう」という考え方ができた。　この「魔法はことば、言葉はまほう」という考え方のことをアルカで μɪnjlɔʃ という。　＜ドルミーユとエーステ＞　・ドルミーユ　この世界にはドルミーユという魔法理論がある。　ここにはヴィードという ʃʃ̍ つのエネルギーがあり、それぞれのヴィードはさらに ʃʃ̍ つのガレットという材料からできている。　→ ɑɔlɒcɥə　・エーステ　個々の概念にはそれを指すべき音声が存在する。つまり概念は本質的な自己の名前を持っている。　その音性を最も近い音素に置き換えたものをエーステという。例えば、ɑclʃ という語はホウレンソウを表す言葉となっている。　つまり、ある概念が持っている本来的な名前のことをエーステというわけである。　神々は古来よりこのエーステを喋ることにより、概念に直接働きかけ、魔法を発動しやすくしていた。　なお、これはアトラスと地球の言語学を分断するものである。　ドルミーユがある分アトラスでは、恣意性が減少することがある。イヌはヌイと呼んでもよいわけではないということである。　とはいえ、様々な外国語がアトラスに存在するのを見れば、あくまでエーステは、魔法を発動しやすくするためのものに過ぎないという事がわかる。言語の恣意性は多少抑制されるも、絶対的な価値感ではないという点に注意。

μɪnjeʃ 〔被服〕ダルマティカ、ダルマティック　zφ; このころ民衆がよく仕立てた服を μɪnjeʃ と言っており、それが法衣として献上されたことから。　ʃʃ̍ 〔文化〕 アルテ教の法衣。

μɪnuɪlɑcnʅ 〔数学〕正四面体 〔レベル〕4　1L

μɪnɑeμɪ 〔動詞〕〔料理〕ɥəl を ɪ（鍋など）ʅɔn（お湯など）で煮込む、煮込む 〔料理〕煮込み 〔レベル〕3　1L

μɪnɑc 〔動詞〕ɥəl に恋する、恋する、愛しい、好きだ、一緒にいたい、想いを寄せる、愛おしい 〔名詞〕寄り添う愛、恋愛、恋、愛 〔レベル〕3　古。lɪnɑc と紛らわしいため消えた語。当時の語義は「相互依存する」。 〔語法〕 ʃccɪ hɪʃcɪ によく似た語。hɪʃcɪ は燃え上がるように相手を求める気持ちのことだが、μɪnɑc は相手の存在が自己にとって慰めや快楽になる場合に、一緒にいたいと思う互恵的な気持ち。多少 lɪɪd の要素も入っている。　μɪnɑc には積極的な意味と消極的な意味がある。前者は「安らぐような恋の気持ち」で、後者は「傷を舐めあうような恋」である。これらは相反するものでなく、ときとして共存し、どちらも μɪnɑc の一面を築くため、単語が分かれない。　良い意味で使う場合、hɪʃcɪ との違いは安らぎを感じる恋であることを強調している。hɪʃcɪ の場合、燃え上がるようなしばしば肉欲的な恋のイメージに繋がる。若年層の場合、μɪnɑc のほうが清純なイメージがある。 〔文化〕 人間の恋愛のほとんどは hɪʃcɪ でなく μɪnɑc であり、hɪʃcɪ を経験する者は少ないとされる。　女にモテる男というのはたいてデキる男より欠点のある男で、女が持っている欠点と呼応する欠点を持ち、女のコンプレックスに対して優れた共感力を持った人物である。たいていこのタイプの恋愛は μɪnɑc 型である。

μɪnɑclɪz 〔地学〕〔歴史〕デボン紀　ul;/　ʃ̍ 〔文化〕 φɪɪueɑeɒe

μɪnφ 〔建築〕ラング橋 〔経済〕１ソルト玉 〔レベル〕2　ʃʃ1:μcɑcɪ 〔文化〕 → ɪnɑɪn　アゲイト島と本土（カテージュ）を結ぶ大橋。ul で建てられた。

μɪnzɪ 〔地球の国名〕ブラジル 〔レベル〕5　1ʔ: 制

μɪnɪ 〔形容詞〕態度が真剣な、真面目、本気、シリアス、一途な、神妙な。セレンはこの意味でしか「神妙な」という言葉を使わないのでここに載せておく。 〔反意語〕ɪlden 〔レベル〕2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj:μɪn/nɪ 〔成句〕 ɑen eɒ μɪnɪ 気にするな、気にしないで

μɪncʅl 〔普通動名詞〕確立 〔動詞〕ɥəl を確立する、確立する 〔レベル〕3　μɑ;/「きちんと建てる」 ʃ̍

μɪncʅɪl 〔数学〕正四角形、正方形 〔レベル〕3　1L

μɪu 〔人名〕ラヴァの略称 〔組み数字〕１５/２８ 〔レベル〕1　制

μɪul 〔経済〕家計 〔レベル〕3　μʃ;μɪ/ɪul「家の経済」 ʃ̍ 〔文化〕 ɪ1oɪ　アルバザードでは主な稼ぎ手は男性で、女性は補佐的にパートなどをすることが多い。財布の紐を握るのは主な稼ぎ手の男性で、支払いも男性が行うことが多い。 〔用例〕 ɪlʃ{ × ɑɪlb} μɪul 家計を支える

μɪuɪ 〔組み数字〕１５/２８ 〔交通〕ラヴァ通り 〔レベル〕2　ʃʃ̍

μɪuɪjl 〔化学〕パルミチン酸　1L

μɪuɪ uɪμjccɪ 〔人名〕ラヴァ＝ヴァルシーラ 〔組み数字〕１５/２８ 〔レベル〕2　古 : 語源不詳。uɪ μjccɪ はソーンで「準ルシーラ」の意味。 〔文化〕（J → ）第４期４代ソーン第１使徒。男性。ɥəəl。１８２ｃｍ、６８ｋｇ。髪は銀髪に染めているが自毛は黒。肩より短く、直毛。漆黒の瞳。肌は白：黄＝９：１。　・『ミールの書』より　ラヴァの声は穏やかで丁寧でかつ繊細なものだが、感情があまり感じられなかった。だが、軟弱そうな感じは見うけられず、むしろ１音１音に重みを感じる。　ミールは頬を赤らめた。首を傾げながら無礼にならない程度にラヴァを見つめ、観察する。彼は夏だというのに黒いローブを着ていた。但し、暑苦しい感じはなく、むしろ涼し気に見える。　彼の髪は短く、薄く透通るような色をしていた。瞳は対照的に漆黒である。顔は繊細で、或いはピネナのように女性に見えなくもなかった。総じて彼は綺麗な顔立ちをしていた。肌はかなり白く、殆ど白人に近いが、やはりどこか混血のような風貌がある。年はクミールと同じくらいであろう。背丈は高く、1Δ0ɾɒ はあると思われる。

μɪuɪcʃ 〔名詞〕住宅区、東区と西区 〔レベル〕5　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃʃ 〔文化〕 ＜配置＞　アルナではカルテの東西が住宅区になっている。住宅区には集合住宅と一戸建てがある。一戸建てのほうが集合住宅より概して金持ちである。アルバザードの住所はカルテから近い順に一丁目なので、一等地はカルテの近くである。特にカルテに近く、車道に近くなく、警察署に近く、

μ

下に地下鉄が走っていないほど一等地である。一戸建ては大抵二階建てである。内装は家によってまちまちである。集合住宅の部屋は一階建てか二階建てのメゾネットである。メゾネットの場合、二階を騒がしい場所にすれば下に音が響いてもそこは自室なので更に下の住民に迷惑がかからないという利点がある。勿論、集合住宅は防音処理がしてあるが、それでも下への音はかき消すのが難しい。　＜外見＞　ミロク革命でアルバザードの文化に基づいた家作りは壊されてしまった。アルバザードはフランスのような気候なのでおよそフランスやその周辺の家に類似していた。だが、ミロクによって壊された後は別の建築様式になった。集合住宅など日本と同じ様式で、かなり世界共通である。一戸建てはかろうじてアルバザードの様式を残しているので、比較的フランスなどの建築様式に似ている。

μιυe ［副詞］もう一度、（否定文で）もう〜ない、もう、二度とない、もうしない ［形容詞］再びの ［名詞］もう一度、もういちど ［音楽］アンコール ［感動詞］もう一度、もう一回、アンコール ［類義語］ɒe ［レベル］2　ʃʊ:μιʃ/uεcn。μιυεn だと ιυεn と誤解するため。副詞形を μιυel にするため ʃ1 夏に μιυel → μιυe に。　［語法］ → ɒe　形容詞用法もあるので副詞のときは μιυel になる。　肯定文では ɒe と大差ない。ɒe のほうが口調が軽く、μιυel のほうが ɒe よりは持って回った印象がある。しかし比較を外すと μιυel そのものは格式ばっていない。μιυel は μιʃuεcn からなので、回数を数えられる動作に使うことが多い。　否定文だと両者の意味が異なるようになる。en ɒe は「また〜しない」であり、en μιυel は「もう〜しない」の意味になる。 ［用例］ lι lɑnιʃ μιυel. 彼はまた来た。 ʃɑ ejn εɒ elɑ ʅɑι μιυel. この傘はもう直らない。

μιυεn ［魔法］契約 ［動詞］ɥɑl（内容）を ι（相手）と契約する、契約する ［類義語］dcnι ［レベル］3　ʃzυ;「鎖で繋がった関係」 ʃ1 ［語法］ 召喚における契約のこと。転じて一般的な契約の意味も。 ［用例］ ιn ʃcl μιυεn ι ɒcμɔʃ ι. 神と契約しているんだ。　μιυεn ι lɔʃ 契約を交わす　μιυεn lɔʃ{ɪnʃeʃ} 交わした契約

μιυεφι ［名詞］内弁慶 ［レベル］3　μɑ;/　ʃ?　［語法］ uεφι

μιυelυɔμʃ ［名詞］ラヴェルヴォルト、再柩 ［レベル］3　ʃ1:μιυel（μιυe の副詞形）/ɪnυɔμʃ ［文化］ ɪnυɔμʃ

μιαl ［軍事］ダイナマイト ［レベル］3　古 :μcɑcι:μιαl ← ɾlι αιc ʅeμ jeɑι ləι e ɥɑnιʃ 少女の足を吹き飛ばす炎 」。報道された惨状をみてリディアが言った言葉。これが元になって短くなったもの。

μιαι ［文頭純詞］更によいことに ［反意語］ʃιcʃ ［レベル］2　1L:ɒelcɑcι ılcʃ;μιʃαιʃ（よい＋さらに）［用例］ ιn υιʃʃιʃ dιnιlι, μιαι lcɒιʃ fcιn. 大学に合格した。さらに彼女までできた。　"μιαι lι ʃcl jel ɑeyə cn. lι jcl ɑιnʃιυɔɒ hιιμιn ʅιlʃ lι cʃ ɒιυ ɔl nɔn euɔʃ μιʃlel lιnι ʃeə "ɪn ef ʃιn ιιs l'ɔʃl nelʃ lɔʃ ʅɔlι hɔʃ ɑι" 「それに口も堅そう。『自分は選ばれた人間で、仲間とだけ秘密を共有するんだ』って思わせたら、少なくとも大人になるまでは従順な私兵になってくれるわね」

μιαc ［植物］ニンジン、人参 ［レベル］2　lιʃʃι:「赤い槍」 ［文化］ アレイユでは体を温め頑丈にするとして、常食される。μɑ では臭みがあって嫌われたが、ヴェレイで臭くないものが作られた。従ってアレイユで常食されるのは臭みのない赤くて大きく長いもの。生でマヨネーズなどをつけて食べることもあり、おやつ代わりにもなる。

μιαcʃ ［動詞］ɥel を考える、考える、考察する ［名詞］思考、考察 ［類義語］lɔ ［反意語］ɑlɔμι ［レベル］2　ɑu;<> μid　ʃ1:μcɑcι ［語法］ lɔ ［用例］ μι, ɑcn ιn μιαcʃ lιʃ ɾe ɥeʃ, ιn ιμ ɑιl μιael ι.... えー、この問題について考察したいのだが、宿題をしなくちゃだ。

μιαcl ［建築］橋、大橋、石橋、ラフィル ［類義語］dιɑc ［レベル］2　ɾɒ;μə̃le/dιɑc/ιl「向こうに届く橋のようなもの」 ʃ1

μιαεɒ ［名詞］砂時計の形やそのような形のもの ［レベル］3　ʃ1<μιɑɔ:1ɱ: 制 : 古 :「あそこ」を意味する語 μιɑ の幻字が砂時計の形と同じことから。

μιαεɒlια ［地球の国名］サモア　ʃ1<1L: 国の島の形が μιαɒ

μιael ［名詞］宿題、ホームワーク ［レベル］2　1ʔ: 制 : 家の勉強 ［文化］ 宿題とは予習と復習のことであるが、予習より復習の方が大事とされる。一足先に学習することよりも、確実に今日やったことを習得する方が大事とされるので、事実上宿題といえば復習を指す。アルバザードは勉強に対する意識が高いため、宿題をわざわざ点検することはない。次回の授業についてこれなかったらそれが宿題を怠った証であると解釈される。点検しないことは教師の負担を減らすことにもなる。その分教師は授業計画のための時間が増え、質の良い授業を提供できる。教師は必ず授業ごとに宿題を出す。その内容は主に復習であり、今日やった授業に出てきた中で最も重要な部分の確認である。教師はここが一番大切だから復習して覚えておくようにと指示する。宿題に関して特にプリントを刷ったりといったことは資源の無駄なのでしない。むしろ電子データを配信するかダウンロードさせることの方が多い。 ［用例］ ιn ʃcl μιael l'ɪn ʃɔɔʃ ɑιl. 終わらせなきゃいけない宿題がある。　ιn ιμ υιn μιael ʃ'ɪlɑ. 数学の宿題をやろう。　ιn μəlιμʃι μιael ɑιb υεcn. 面倒くさい方の宿題は終わらせた。

μιɒ ［名詞］紅、口紅、頬紅 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :μιnɔɒ（赤い色） ［用例］ eu μιɒ ι jel 紅を注す　nɔn hιfcι ʃɥa enʃɔ εɒ lιn μιɒ ʃəιn. 好きだよあなたのルージュになりたい（梶谷美由紀『ルージュになりたい』）: 歌詞はキスがしたいという意味の極めて雅な表現。

μιɒɒι ［代詞］［dɔ1b］ʃcjee ［レベル］1　ʃ1:eʅeʃɔne:μεn ɒιl「覚えてね」 ［語法］ ɪnɥəəlcι はないが、ɪnμιɒɒι はある。μιɒɒι はピッコとしてのもの。ɪnμιɒɒι は敬語としてのもの。　ɥəəlcι はそれ自体が敬語なので ɪn がない。

μιɒιʃ ［政治］住民票 μɑ;μιn/ɒιʃ「住民の紙」 ʃ1 ［文化］ ・起源　住民票は jɒ で徴税を合理化するために作られた。戸籍だけでは把握しきれない世帯の実質的な構成を調べ、どのような世帯構成でどのような人がどこに住んでいるのかを把握し、国税と地方税を効率よく徴収できるために作られた。　・革命におけるセレンの創案　ls の革命では戸籍と住民票の役割が変えられ、戸籍は自分が選んだ行政区を登録することになり、住民票は実際に住んでいる実住所を示すようになった。　革命ではミール・レスティミールにより、地方自治体ごとの特色が強まり、地方自治体ごとに特色ある政策を行うようになった。例えば凪人はアルバザードではマイノリティだが、カレン半島ではマジョリティである。そしてアルバザード全体ではトール人が多い。国策としてどの県でも同じ政策を取ると、マジョリティであるトール人の意見ばかりが通る。凪人の一票はトール人の一票より弱い。ここに一票の不平等が生まれる。　この一票の不平等を防ぐために、世代・性別・人種・宗教・収入・社会的地位などに応じて地方自治体ごとに一人の票数を小数点単位で定めた。例えばトール人ばかりの地域ではマイノリティの凪人が１．２票になるなどといった風にである。　これにより階層間格差は縮まったが、住んでいる階層は地方自治体ごとに異なるため、地方自治体ごとに異なった政策が採決されるようになっていった。アルナはトール人に有利な政策をし、カレン半島は凪人に有利な政策をするというように、である。　すると当然、アルナの凪人は不遇を託つし、カレン半島のトール人は不遇を託つようになる。たまたまアルナに住んでいる凪人は不利な政策を被らねばならないのか。　もちろんアルナの政策が嫌ならカレン半島に引っ越せばいい。その自由は認められている。しかし持ち家があったり子供が学校に通っていたりアルナに会社があったりしたら、引っ越しは現実的でない。　そこでセレンは戸籍と住民票を分けて考えることにした。例えば上のような人には住民票はアルナにいてもらい、戸籍はカレン半島に置いてもらう。アルナの土地に持ち家を持っているので、アルナの地方自治体には固定資産税を払い、公共サービスもアルナのものを利用しているのでその分の税などを払う。その一方で、残る地方税に関してはカレン半島の地方自治体に支払い、カレン半島の住民とみなしてもらい、カレン半島の政策を受けることができる。　分かりにくいので日本に例えよう。例えば消費税を上げるべきだという意見と所得税を上げるべきだという意見があった場合、ミールの集計により直接民主制に基いて埼玉は消費税が上がり、神奈川は所得税が上がったとする。ここで埼玉在住のセレンが消費税より所得税を上げてほしいと思ったら、戸籍を神奈川に置いて住民票を埼玉に置く。そうすることでセレンは埼玉県内でも神奈川県の所得税率で買い物ができる。アンセのＩＤで会計をするため、そのようなシステムが可能になる。　消費税の低い地方自治体に戸籍を移したら安く買い物ができるとおもいきや、神奈川では所得税が高いわけだから、結局所得税の部分で多くを払う羽目になる。なのでよく消費をする人は神奈川に戸籍を置けばよく、収入が低い人は埼玉に戸籍を置けばよい。地方自治体ごとの政策をよく勉強することが節税に繋がるわけである。　なお、戸籍の二重取りはできない。つまり埼玉と神奈川の両方に籍を置くことはできない。　革命により、アルバザードの地方自治体はそれぞれの特色を増すようになった。また、都市部の地方自治体ばかり羽振りがいいという「都市部と農村部の格差」も少し縮んだ。というのも、会社がアルナにあるので田舎には住めないが戸籍だけなら移してもいいと考える者が出てきたため、農村部の地方自治体は戸籍を誘致（つまり地方税収入の見込みがある）するために、地方の特色を活かしたユニークな政策を取ったためである。革命前までは日本の夕張市のように破綻していたような農村部の地方自治体に戸籍が移ることで地方税収入が見込めるようになり、都市部に集中していた地方税の格差が緩和された。とはいえ都市部に戸籍を置く人間は革命後も圧倒的にマジョリティであるため、都市部が財政難で機能維持できなくなるほどではないし、戸籍を移しても結局固定資産税などは実際の住民票上の居住地の自治体に払うため、都市部の地方税を地方が根こそぎ奪うわけではない。　結局これもセレンの求めた格差の少ない世界、マイノリティを泣き寝入りさせない世界の実現に向けた政策と言えよう。　・革命におけるメルの案　上記のように戸籍と住民票を別に分け、ある場所に住みながら違う場所の条例で生きられるようにしようとセレンは考えた。ところがこれにメルが現実的でないと反対した。　同じ地域に違うルールを持った人間が住んでいると混乱が生じるとのことだ。例えば自転車が歩道を走って良い県があったとする。その県は歩道が広く整備されており自転車が歩道を走っても安全なように設計されているからそうなっているわけで、そこに戸籍を置いて他県の歩道を自転車で走り回ったら危険だ。その県の歩道が自転車向きでなければ事故になる。警察もいちいち歩道を走っている自転車をすべて止めて相手の戸籍がどこか調べてＯＫかどうか判断しなければならず、不便である。何よりその自治体にはその自治体ごとの風土があり、それに適した条例ができているわけだから、むやみやたらと混ぜこぜにすべきでないとした。これにセレンは賛同し、結局戸籍を別のところに置いてその自治体の条例に従うという措置は実施されず、創案だけで終わった。

μιɒc ［普通動名詞］留守 ［レベル］3　μɑ;/　ʃ?

μιαl ［名詞］宝、トレジャー、お宝、財宝、宝物 ［電算］値。変数、配列、ハッシュなどの値。変数が小箱なので、その中のお宝という意味。 ［類義語］ɑɥəμιn ［レベル］2　1ʔ: 制 :μιɑ　:::hιlə ,ιlʃ ［語法］ lɔɔel ［成句］ μιɑl ι beeɒι 豚に真珠

μιαcι ［名詞］良い夢、夢、ラディア ［レベル］2　古 :μιɑcι（良い夢）← μιɑɑcι ← μιʃɑcι ← μιʃ（良い）/ɑcι（夢） ［用例］ ιn lιb jen ɥɔʃel cɒ hιμd ɔl ιn ʃcl jen μιɑcι le nɔj ɒcll cɒ ɥcμɑ−− ɥel jɔι, ιn nιʃ. 好きな夢が夜に見られるなら、そのためだけに昼頑張って働こうと思ったものです（jeμεn ιμbɪzιμɑ）　nɔn lɔμ jen μιɑcι cɒ ɑcj cn. 今日は良い夢が見れそうだ。　ιn εɒιʃ μcj neʃ ɒιn lι μιɑcι. 良い夢だったので、目が覚めてほしくなかった。

μιφnι ［名詞］機械、仕組み、からくり、カラクリ、マシーン、マシン ［名詞］家電、電化製品 ［魔法］魔法機械 ［レベル］2　ɒelʃcι ɱɱɱ:bεμʃ;e。もとは ellelʃ を示し、魔法機械全般を指した。赤　μιφnι:μιφnι:lə μιφnι:φc,ιlʃ ιnlμ,hɥ

μιφnιjel ［歴史］工学の日 ［レベル］3　ʃ1:μιφnιlεn/jel ［文化］ φcl dcn の休日。ラグナロク工科大学ができた日で、魔動アーマーなどが一般公開される。機械工学系の大学や企業が新製品の展示を行い、事実上のシンポジウムや万博になる。魔法工学の日なのに実際は新技術の展示会として機能する。会場はランスケルンなどを借りて行う。　未来技術が好きなアルバザード人はこぞって見に行き、非常に盛況となる。外食や交通業界に対する経済効果も大きい。

μιφnιn ［娯楽］ラグナン　ʃ1 ［文化］『ロックマン』に相当するゲーム。

μιφnιnʃ ［ランドマーク］ラグナント工科大学 ［レベル］5　ʃ0:μιφnι/lιnʃcj（機械の人） ［文化］ メル ʔL 年にリュウがアルナに経てた工科大学。全寮制ではなく、大学部のみ存在した。　メル ʔ1 年には高等部ができた。　ミロク革命後も北アルナ市にそのまま残っている。　科学に特化した大学で、アルナ大を蹴ってでもこちらに進むという人がいる。

μιφnιael ［工学］機械、機械学。理科の一分野。科目名。 ［レベル］4　μɑ　ʃʃ ［文化］ ɑeldιnʃ

μιφnιɑcι ［企業］ラグナディア　ʃ1 ［文化］ ファナックに相当する企業。

μιφnιlɔ1 ［ランドマーク］ラグナロク工科大学 ［レベル］5　ʃ0:μιφnι/lɔ1c（機械を理解するところ） ［文化］ → μιφnιjel　セルメル後期、イムル 11ΔL 年にアルバ５世が急逝したことで、国民の間に王族の力が弱まったという不安感が巻き起こり、アルバザード全土で混乱が起こった。　ヴェレスはこの状況に乗じてもうアルバザードは終わりだという末法思想めいた主張を始め、国民を煽動していった。　実際、アルバ５世の急逝で求心力を失ったところを隣国ケートイアやアルシェリアが虎視眈々と狙っていたため、国民の不安は非常に現実的なものであった。　この状況を悪しと見たアルバザード政府は国家の威信を取り戻し、周辺国家を制するために対策を講じた。　王族を始め、高官たちの魔力も弱くなっていることは事実であったため、失った魔力に代わる技術が求められた。アルシアがかつて作った魔法学だけではとても軍事力を維持できず、新たなメソッドが必要となった。　そこで研究されたのが道具に魔力を込める方法で、魔法工学と呼ばれる新たな学問であった。　当時既に水晶に魔力を込めると魔力が入ったまま逃げないという現象は知られていた。魔法学をはじめ、アトラスの学問は常にアテンとヴィードの関係について論じたものであった。しかしこのようにアテン以外の物質とヴィードの関係について考えたのが魔法工学である。特に注目されたのは常に一定の結果が得られやすい無機物とヴィードの関係である。ただし、無機物とヴィードの細かい関係はまだ４００年近く未来の錬金術を待たねばならない。　魔法工学の行ったことは、むしろエタンを用いて魔法の威力を増幅させるというものである。　最初に実験として開発されたものはイムル 1J0J 年で、ルシフェル魔法学校の ɔjʃcι scleel が国家の混乱の最中に作った魔動銃である。　これは魔力伝導率のよい銀の筒から予め魔法を閉じ込めておいた銀水晶弾を出すという仕組みのものであった。引き金を引くとげきてつが発魔材を叩き、その刺激で筒の中で局所的な突風が起こる。するとシリンダーの中に充填されていた銀水晶がものすごい勢いで射出され、魔法が発動する。この勢いをつけられた魔法は通常の魔法よりも強力で、力を失ったセルメルの魔導師たちでもカコ並みの威力の魔法を使うことができた。　イムル 1J0ɱ 年に現ドフレットに侵入してきたケートイア軍に対し、アルバ五世は魔動銃でこれを撃退。一気に魔動銃の知名度が上がることとなった。オスティアは王から高い評価を受け、1J0ϟ 年にルシフェル校から独立して、同じアルシア領内に魔法工学の専門学校を建てた。これがラグナロク工科大学である。　工科大学と訳しているのは、大学部しかなかったためである。予算の都合と、そもそも子供が簡単に研究できるものではないということから、ルシフェル校の高等部から受験生を募ったためである。魔法工学には魔法の専門知識が必要だったため、ルシフェル校からのみ生徒を選出した。　ʔʔΩΔ 年には高等部ができた。　μɑ ではリュウが少年期にラグナロクに通った。しかし魔法の衰退を予想したリュウは、魔法工学を応用した科学や工学を研究した。メル ʔL 年にはアルナにラグナント工科大学を設立した。ナディアになるとラグナロクは役目を終え、ラグナントの姉妹校として工学の学校になった。現在でもラグナロクは科学に強い学校として残っている。

μιφnιlεj ［名詞］万国博覧会、国際博覧会、万博、ラグナレス ［レベル］3　ʃ1:μcɑcι:μιφnιlɔ1 ［文化］ μɑ でラグナロク工科大学が開催したのが最初なので地球より歴史が長い。現在では４年に一度行われ（地球では５年）、開催場所は毎回オリンピックのように変わる。

μιφnιlεn ［魔法］魔法工学、ラグナレン ［レベル］5　ʃ1:μιφnιlɔ1.1 ［文化］ μιφnιlɔ1　1J00cɒ ごろから起こり、μɑ で大成。

μιφnιιfe ［名詞］電気屋、電器屋、電機屋、家電量販店 ［レベル］3　ʃʃ ［用例］ leɑιʃ ι μιφnιιfe ιjl el. すぐに彼女のいる電気屋へ走った。

μιφeʃ ［建築］イグルー ［レベル］6　ɑ:elʃ;e　ʃ? ［文化］ elɑ

μιφεn ［工学］機関 ［レベル］3　ʃ1:μιφnι/en

μιd ［名詞］組、組み合わせ ［魔法］（アミュレットを）組み合わせる、調合する ［動詞］ɥel を ι に組み合わせる、組み合わせる ［数学］組み合わせ ［レベル］2　赤 ［語法］ 錬金術の場合は ɑcleʃ。調合魔法学では μιd。

μιdueʃ ［言語］n 対語、ɲ 対語、エヌ対語 ［レベル］5　ʃ0 ［文化］ 制アルカにあった単語の形態。lιj が手なら lcj が足といった具合に、アプラウトで対語等を作る語彙圧縮法の一つ。似た文脈で出る単語なのに聞き分けがしづらいため、新生でメルテーブルに置き換わった。

μιdιll ［言語］組み数字 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 組数字 ［語法］ → ιll　ある数の成員からなる集合において、その成員の番号を示したもの。たとえば ιlʃe なら４つあるうちの１番目という意味になる。本辞典では［組み数字］タグで検索できる。１/８と書いてあれば、８組数字中の１番目という意味。　２〜７、１２、２８は頻度が高い。２は日常的にもよく使う。３〜６は学年に使う。７は曜日に使う。１２は時間に使う。２８は日付に使う。８、９、１１、１３〜１６はあまり使わない。　序列と非序列についての概要は ιll 参照。　序列と非序列では同じ数でも頻度が異なる。序列では２，３，４，５までは よく使われる。６〜９はあまり使われず、アルバザード人でも無教養層は覚えていないこともある。１０はベストテンやトップテンで使うのでよく使う。１１はほとんど使わない。１２は昔１２進数があったこともあり１１よりは使う。１３〜は頻度が低すぎて組み数字そのものが成立しない。しかしベスト２０の需要があるので２０は復活する。その次は５０か１００だが、ここまで行くともはや組み数字を使わない。ゆえに最大は２０。　組み数字の覚えやすさは量でなく頻度による。lɪnʃcj は２８もあるのに皆覚えている。毎日使うからである。逆に１５あたりは頻度が少ないので無教養層では覚えていないものもいる。　＜組み数字のリスト＞　・非序列系　固有名詞が多い。成員同士に上下関係がない。　グループ全体を指すときは εɒ を付ける。ιμlcel εɒ で「アルシエルサークル」というような訳。成員間に上下関係がないので εɒ になっている。　1: 組が成立しないので無し　J:jelʃεɒ:elʃ, μιl　ʔ:ιμlιnjεɒ:jlει, bɾlει, ʃμει　ɱ:ιμlcel εɒ:ιlʃe, ɑlει, ιlcj, lcεμ　ϟ:lccɑιεɒ:εcμφc, hιnej, lιjιn, ιιle, ιljɔn　ʔ:uιnɔnεɒ:foιμ, ιμhιn, nι μʃe, ʅιμʃ, lεjɔn, εcμl　ϟ:jɔɔεɒ:εuelb, εμυι, μʃcc, ʃεeue, beezel, cluι, dιμʃ　Δ:lelʃεɒ:εկ εlι, ιls, ɑəəμφι, ʃəuιn, lιnʃe, leeue, uccne, cnse　L:cɑιnεɒ:ɑιcɑι, dιμnι, ιʃclιj, jιuel, ʃlcn,

ɒelɔɔ, ɑence, ʃcnʃe, eμcnʃ　10:ɑelcμɒeɒ:ɒcμʃ, leιn, lell, ɑιzeſſ, oιjeſ, lιμl, ʾιlɔι, ucɒιn, hcnι, φιnſj　11:ιlμcιɒeɒ:uelſcj, eμcn, ſeezen, ſəənιj, ɑιclι, ccμej, dιlſcj, lιɒcɑ, lιnueɒ, dμɔſcj, leucn　1Δ:ιμɒcuιɒeɒ:jecnelj, ſccſel, dɔen, neμɒej, ʾleeuel, ʾιlzιj, uιμɑιnſ, uιμzɔn, ſcʾlnɔ, ɑenzel, nebμι, ʾɔnɔɔſe　1ʔ:ɪnɔɒeɒ:ɪnɔ, zɒſɔ, cφμe, μιcen, səleſ, ſelcc, uelſɔn, ɑelnɔι, μιl, neɔ, el dcnι, bəſɔn, ʾlnιn　1Π:lcczɪɒeɒ:yəəι, nιlɒ, eleuc, φeeocl, nιlΠιμι, μlμι, eɒcj, ccɑel, ɪnſe, ɪɒl, ɒιΠι, ſle, ɪluɪnɔ, lcczι　1ʔ:ɒeſeɒeɒ:μəɑcι, uccɑι, lccz, ɑιlɑι, cnei, hμəəoe, cɒəl, μιlɑəμι(μι lɑ), φenɔlde, ccləə, elɑ, oιlɒι, ɔʾlcnɔj, ɒeſe, ιμle　1ʔ:ejſιɒeɒ:eμej, ʾlμɑιn, ſμɔɒeʾlcι, dιμſe, lc nʾle, ɑιɒeſ, ʾlμəʾ, ɑecſ, jeuej, ʾlɪd, scɒn, jəbel, ʾɔɔlel, ɑcjſel, ɑeeuel, ſoμzel　1Π:ɪnʿlcɪnɒeɒ:ɪ nlιnſ, ɑcnφen, ɒeſcιn, ɑcιleſ, lcɑcιn, ɪʾlcɒ, lιʾeɒcſ, μɑcιnəj, ɑelceμ, jeɒcιn, ʾbcclcι, ɒcιneſ, φιμɑcιn, ɑιlcιn, ɑcnɔj, ɪlhιcɑ, ɑcιhιnɑcμ, ɑcφyəμeμ, sιnɑcɔμ, oecuιμ, jιμbelcι, ɒeəlɑcμ, elcz cιn, lccſen　1Δ:lιnſcjɒeɒ:μcɑcι, ɔuc, ʾlccz, φcl, ɑəlɒccι, μyəə, bel, μιlɑəμι, zιnι, dιιl, ɒclɑ, ɑιιuι, μəəs, jeμen, μιuι, əɒſɔnι, lccne, ɒelezɔnι, sccl, lcnι, eʾleſɔne, enni, ιll, neene, dcn eni, ɒιſ, ʾənɔn, ʾɒccμ　・序列系　一般名詞から成る。登場が若いほうがより上位にある。

非序列と違って上下関係があるため、行のネーミングが最上位を代表させたものになっている。例えば uιnφιμ の序列なら uιnφιμμecn のように、μecn を付けて示す。優劣の違いが理解しやすいよう、訳語を適宜括弧内に入れておく。　２だけは序列というより勝ち負けと捉えたほうが分かりやすい。２人で競わせて１位２位とするのは日本語でも違和感がある。勝敗と言ったほうが自然だ。それはアルカでも同じで、優劣というよりは勝敗のつもりで使われることが多い。ゆえに訳語は〇〇賞ではなく白星としている。しかし厳密には１位と２位の差があるわけだから組み数字には違いないということでここに含めている。　序列は主に優劣を競うときに用いる。成績評価や順位などを決めるときに用いる。　従ってそれ自体が価値のある単語群でなければならない。さらに１位に来る語はその中でもさらに価値を一般的に認められるものでなければならない。　例えば ɑιnſ（金賞）や eμɑc（銀賞）のように、直感的に栄誉が分かりやすい単語が選ばれる。同じ元素でも直感的に栄誉の分からないものは使わない。「おめでとうございます、カリウム賞です！」と言われてもピンと来ないだろう。「金賞です！」と言われれば「おぉ！」と感じる。　ということはここにアルバザード人やアトラス人の物の見方や価値観が現れるわけで、地球人にはピンと来ないものもある。例えば組み数字５は百獣賞だが、１位の「獅子賞」は日本人でもなるほどと思う。しかし２位の「狼賞」は「ん？」と思うのではないか。これはアルバザードで狼が統率のとれた勇猛果敢な戦士というイメージを持たれているためである。逆に山猫といったら日本人は何とも思わないが、アルバザードでは童話で悪役として登場するのでまったく栄誉にならない。こういうものは自然と選ばれない。もし組み数字５に山猫が入っていたら、恐らく組み数字に選ばれなかったろう。　1: 組が成立しないので無し　J:ɑcnμecn（白星）:ɑcn, uen　ʔ:uιn φιμμecn（大将賞）:uιnφιμ, lιnjeμ, blcz　Π:ɑιnſμecn（金賞）:ɑιnſ, eμɑc, leſſc, ɑμeι　ʔ:uce ſμecn（獅子賞）:uceſ, ɪuɔɒ, ʾlnɔ, jɔnʾl, ɑelſ : → uceſμecn　ʔ:nιlncιμecn（希望賞）:nιlncιj, ſccι, lιnι, zιnιl, ɑιlcj, leuιn : → nιlncιμecn　ʔ:ɑιllcɔnμecn（指揮官賞）:ɑιllcɔn, hγəlι, ben ɔɒ, φιlſe, nɔce, bɔɔl, oιlſ　Δ:blenzelμecn(天狼賞) :blenzel, lelſcj, leſɔj, ɑcμcι, eμɑιn, ɪlιl, ɑιnſι, ɒcuιj : → blenzelμecn　L:ʾlμɑcnlμecn(秋桜賞) :ʾlμɑcnlι, ʾləι, ɑenlcl, lιuιnɑ, ɒcleeyə, ʾlɪcn, nιlnci, ɪlblιnſ, ɔlcuci : → ʾlμɑcnlμecn　10:ɪμſlμenμecn（神石賞）:ɪμſlμen, ʾlɪnɑcι, lcuιμ en, uecμen, ɑιμμen, enιμen, μʾlιneſ, zeeμen, ɑeɒcl, ſejμen:→ μſlμenμecn　11:ɑlcɑμecn(輝隕賞) :ɑlcɑι, ɑejdι, ɑəəʾccſe, ɑɔμſ, əlɔ, cʿcμcəj, ɑcιlccιι, lιμſ, ccɑι, əlιnje, ɪɒcſιl : → ɑlcɑιμ ecn　1J:ɑcnɪnlμecn（霊薬賞）:ɑcnɪnle, ʾlμɪɒɪɒcleel, ɑccnɒɪɒɪeſ, lcjſcɑμenj, leμcι, ɑəəſ, le lſcəj, hιdjʾlleι, nιφcjι, ɑcμſeμ, lcʿlɑe, γəəʾcɔn:→ ɑcnɪnlμecn　J0:ɪμʾlιſμecn（大元帥賞）:ɪμʾlιſ, ʾlιſcj, hιμɑcιn, hcμuel, hejſcι, bιlſcμ, bcιleſ, bɔμſ, φcluιn, φɑcγə, φeel, nιlɒc, nelſe, nccs, ɒιſcj, ɒclen, ɒenſ, oeſſι, ɑccz, ɔɔɔl　・変遷　制アルカ～ J1 までは序列と非序列の違いがなかった。メルが 10:jcɑιlι に言及したことで序列と非序列の違いが生まれた。当時はほとんど非序列しかなかった。また、この期間では以下が使われた。　10:jcɑιlι:ɑəə, ʾcɒə, ucc, uɔn, ʾlɔn, ιn, zιn, hen, lɔn, ʾɔɔ　古アルカの数は序列なので非序列から排除。かといって数字は１０で終わりではないため、有界に感じられない。そのため序列組み数字にもなれず、科学のみに使われることとなった。　Δ の月も一度非序列から消えそうになった。月相が互いに等価でないためである。しかし月相という数値で月を捉える必然性がないため、元に戻った。例えば月相の大きい２８の cnse が満月の１４の lιnſe より小さいとは思えない。逆に序列で月を使うかという考えもあるが、lιnſe が cnse より優れているとか ɪls が優れているとかいったことはない。アルバザード人はそれぞれの月を愛でるため、優劣の差はない。むろん満月が好まれるなどはあるものの。そういうわけで月の組み数字はママとなった。

非序列系はセレンらが制アルカの時代にまとめた。序列系は J1 に同人がまとめた。　彼らが新規に作った組みもあれば、既存の組みを用いたものもある。　μſ で uιnɔn が生まれ、ιl ごろに lccɑι が生まれるが、組み数字に採用されたのは革命後。それまでは下記を使用。レインの時代でも老人は古いものを使うことがある。　ʔ:hιncuιɒeɒ:μenɑc, jιμι, φιμɑc, dlι nſ, leφɔlcj: → hιncuιl　ʾ:ſιʾlɪɒeɒ:ɪlhſ, jιucι, ɑιbeμ, ʾleuei, ɪɑenſɔ, lecuι: 人類が到達した順に並んでいる。大きさが明らかに異なるので ɪlhſ が ɪɑenſɔ と同列には見えないなどの理由から非序列性を疑われ、uιnɔn に取って代わられた。

μιdcj　［サール］ラピス　［普通動名詞］乱交　［動詞］yəl と乱交する、乱交する　［レベル］4　ɒel: 古　［文化］乱交パーティを開いて人間を堕落させるサール。１９歳くらいの見た目をした可愛い顔の女で、明るく優しく、一見処女っぽく見える。

μιdcn　［植物］カーネーション　［レベル］4　lιʾlι: 赤い薔薇

μιdəl　［名詞］住宅地　［レベル］4　μɑ;/「住宅の地帯」 J?

μιhɔc　［普通動名詞］留守番　［動詞］yəl（場所）を留守番する、留守番する　［レベル］3　μɑ;/　J?

μιqeſ　［経済］住宅問題　［レベル］6　1L

μιz　［形容詞］［ポジティブ］成熟した、成長した、大人な、一人前の　［形容詞］［ポジティブ］熟した。食べごろという意味。　［類義語］benſ　［反意語］lcs　［レベル］3　@ 1L

μιzɔμɑcn　［交通］ラゾーディン駅　［ランドマーク］ラゾーディン教会　J1:μι e jɔμɑcιn「守護神の家」　［文化］ファイマン線：東カリーズ→ラゾーディン→幻京橋

μιs　［普通動名詞］痴漢、いたずら、悪戯、イタズラ、痴漢行為。痴漢は μιs でも μιsιn でも。　［動詞］yəl に痴漢する、痴漢する、いたずらする、悪戯する　［レベル］3　古 :μιs,lγιsc,μγιsc（触る）から　［語法］始めから挿入目的でなく、性的に身体に触れようとすること。従って、挿入したら uιlej。lclej とも比較。　［文化］都市部では電車などが時間帯によっては混雑するので痴漢が出る。女性専用車両はこれといって存在しない。女性は泣き寝入りせず、周りの男性に助けを求めることが多い。　アルバザード人よりアルティア人女性のほうが痴漢に嫌悪感を示す。男性にその気がないのに痴漢されたと勘違いしやすい。アルバザード人はその点についてはわりと鈍く、少し触れたくらいではいちいち気にしない。　［用例］ "hιc eſſɔ jccnι ιl ιleʾιlɔθ"　"γəə ιιlel. ſιl ιcl nι ιnʾι ι əelj dɔſen lɔd, ɑcn hιɔ μιs elɑ. ləəj"　"ʾfeι jɔ jcl, γənι ɔʾlſ ɑιn ι lcι γəl "dιdι bɔen ſeə ſlcʾlnιι ſɔɔɒιj lι γəʾlι−−ſee, lɔdμι" e(ι"　"belɒeʾſι"　「で、お兄ちゃんはどんなコスプレが好きなの？」「いや別に。電車内でたまに可愛いなって制服があるくらいで。もちろん触ったりはしないけど」「てか触ったら紫亞に『パパは痴漢車トマスになっちゃってね、今は留置ーーもとい操車場にいるのよ』って伝えといてあげるよｗ」「てめぇｗ」

μιseucſɑcz　［法律］痴漢冤罪　［レベル］4　ul;/　J?　［文化］痴漢冤罪やＤＶ冤罪は ul 後期から ιl の行き過ぎたフェミニズムの結果起こった。証拠が必要なく、女の証言やでっち上げた偽の証拠が裁判で採用された。あまりに酷い男性差別だったため、男性側からはもちろん善意の女性側からも糾弾を受け、現代版魔女狩りとして両者ともに撤廃するよう働きかけられた。結果、確固たる証拠がなければこれらの罪は確定しないこととなった。

μιl　［人名］ラルドゥラの略称　［組み数字］8／２８　［レベル］1　古

μιlΠ　［名詞］家庭教師、カテキョ　［類義語］lezɪnſ　［レベル］4　J0:μι/ɑelΠc（家庭の塾）　［語法］家庭教師という概念を μιlΠ といい、実際の教師を μιlΠn という。日本語だとどちらも家庭教師というので、訳し分けに注意。　［文化］アルバザードでは学校→塾→家庭教師の順にできた。このうち塾は革命後に廃止され、かわって家庭教師が一般化した。しかし家庭教師の派遣業者というものは存在しない。知らない人に教えてもらうより、友達の兄や姉に教わったほうがやりやすいとアルバザード人は考えるため。この結果、家庭教師は学生のアルバイトとしてかなりメジャーとなっている。また、子供が小さいうちはベビーシッターを兼ねることもあり、むしろベビーシッターとしての役割が大きい。　ただし、アメリカなどのベビーシッターとは意味が異なる。たいていアルバザード人は大家族で過ごすため、家に誰もいないということはない。従ってアルバザードのベビーシッターは子供の遊び相手や話し相手になる程度であり、二人っきりになってあれこれ世話をするということは通常ない。　なお、賃金は各家庭で決められ、たいてい高くない。喫茶店のウェイトレスより少し安い程度。

μιlΠn　［名詞］家庭教師　［レベル］4　J0　［語法］［文化］μιlΠ

μιlɟɔɔl　［名詞］不言実行　［レベル］3　J1:μιlɑəμι/jɔɔl

μιlnι　［名詞］明鏡止水　［レベル］4　J1:μιlɑəμι/nι

μιluεμιnſ　［医療］統合失調質パーソナリティ、統合失調質人格障害、スキゾイドパーソナリティ障害、スキゾイド人格障害　［類義語］ɒeluεμιnſ　［レベル］5　ul;μιlɑəμι/uεμιnſ　J?:ɒel　［語法］［文化］ɒeluεμιnſ

μιlɑ　［人名］ラルド、ラルドゥラ　［組み数字］8／１５　［レベル］4　ʾlιʾɔ　［文化］メテの第８使徒。

μιlɑ(J)　［組み数字］8／１５　［レベル］4　1L ?

μιlɑlcl　［化学］キュリウム　1Δ: 制

μιlɑəμι　［組み数字］8／２８　［交通］ラルドゥラ通り　［名詞］ラルドゥラ組。アルナ大のクラス。　［レベル］2　J1

μιlɑəμι lɔlɔj　［人名］ラルドゥラ＝ロロス　［組み数字］8／２８　［レベル］2　古 :『カコ』に実在した μιlɑəμι という人物名から。　［文化］　→ μιluεμιnſ　(ſcɑ Δ lcj ɒcʾl →) 第４期４代アルカシェ第８使徒。マージ名「エメラルド」。男性。jeeſ。１７２ｃｍ、５６ｋｇ。髪は黒で背中まであり、直毛。前髪が長く、右目を隠している。黒の瞳。肌は白：黄＝３：７。　現実にはセレンとリディアが創り上げた架空の人物で、元はアルデスなどと同じくキャラの扱い。聞いた使徒が新しい使徒が入ると勝手に誤解し、否定するタイミングを逸しているうちに本当にそういうことになってしまった。話が大きくなってしまったため、当時画質の悪かったアンシャンテを利用してアノ氏に髪の長いカツラをかぶってもらい、息子役を演じてもらっていた。　いい加減突き通せないと思って２０何歳だかになってリディアと相談してバラした。メルは比較的会話を通じて好意を寄せていたのでショックだったようだ。　現実にはアンテの子供はルビィしかいない。従って本当は使徒の数は２７人。　２００６・７・１６の日記より下記転載　　後もうひとつがラルドゥラのこと。リディアとリュウと俺、後は先代たちしか知らない秘密。古参は何人か感づいてる。ソーンは絶対知らない。今思えば懐かしいな。不思議だ。嘘に懐かしいなんて感情を抱くなんてな。元々中１だったか、アルテの延長だったな、ラルドゥラというキャラを俺とリディアで作り上げた。アルテのキャラの一人のつもりだった。だけどクリスがある日ラルドゥラの話しをしていた俺たちに「だれそれ？」と聞いてきた。いや、架空のキャラだよといえばいいものを、なぜだろうな、ガキだったからかな、何となくノリで俺とリディアは「今度使徒になる人だよ」と答えた。メルが仲間になった後だから中１の秋ごろだろう。　その後、嘘が膨らみ、キャラ設定が細かくなっていき、収集が付かなくなった。ディアセルに現れないし、俺やリディアしか見たことないというので不信がられたが、まぁそこはアンシャンテ社会、そういうやつもいるか的な判断だった。俺らが人嫌いと散々詠ったからな。　中２か３年になってザナの仕事にミスがあって、指摘して罰まで与えたのに、実はその指摘が間違いだったというあの件があって、それを俺が咄嗟にラルドゥラのせいにした。それが発端だったかな、ラルドゥラを痛烈にザナが批判して、顔を出せ抗議になってしまい、周りの使徒まで便乗。始めから事情を知ってた先生に相談したら、アンテの息子ということにしようと言われた。これが中３の夏以降かそのくらいだ。　で、アンシャンテを使ってアンテさんに変装させ、髪を長く前髪で顔を隠し、片目だけだし、季節に関わらずローブを着せた。異様な形相にぎょっとしてた。誰とも話さないのに、小さかったメルには比較的話したのでメルは好かれていると思ってラルドゥラを気に入った。でも、その後あいつが聡くなるにつれて話さないようになった。　アンテさんにしたのは、先代で俺たちとかかわりがあって、しかも子供が使徒になってない唯一の人だったからだ。オヴィもリディアもダメ。兄弟になっちゃうからね、すぐバレル。そこでアンテさん。ルビィちゃんはアンシャンテに乗れないしそんなに才能なかったからね。そもそも名前がルビィというので俺がルビーに見立てて兄貴をエメラルドにしてオヤジをサファイアにしたんだが、そもそもエメラルドに会うのがルビィに会うより前だったんだから、その矛盾でふつうはバレルと思うんだが……。それにしてもルビィちゃんも居もしない兄を作られて大変だったな。俺とそんな話しばかりしてて接近してたから未だに俺のことが好きだそうだが。そうそう、ミリアちゃんもそうらしい。　ラルドゥラはアルシェの問題だったが、ソーンと対立すると厄介に。だって実は一人架空で１３：１４体制なんてばれるとまずい。そこで余計ひた隠しに。その上メル暦で日付になってるんだから、今更欠番の分を繰り下げると日付がずれるし、暦が壊れる。　でも、今回ばらす。俺はアシェット解体して、リディアを暫定ルシーラにして、ポスト・アシェットにする。そうなるとリストラの問題が出てくるので席を決めないといけないが、ラルドゥラは最優秀なことになっているので誰もが席を得ると思うはず。だけど実際欠員の分に席を空けられない。なので存在しないことをばらさないと確実に混乱を招く。

μιlμenj　［名詞］(ſcl) 無口な　［反意語］ɑcιμenj　［レベル］3　J0:ɒelcɑcι lceμ: ラルドゥラの口

μιlιb　［名詞］家事　［レベル］3　1L:ɒelcɑcι ιlſe　［文化］主に妻や娘がするが、男性陣も手伝う。

μιlιbej　［名詞］家事手伝い　［レベル］4　1L:μcɑcι:ιμbιlſ

μιlcιι　［娯楽］コンシューマーゲーム、コンシューマー　［レベル］5　J1

μιlεəd　［普通動名詞］家庭内暴力、ＤＶ、ドメスティックバイオレンス　［レベル］4　1L　［文化］・誰がやるか　この単語でアルバザード人が最も連想するのは夫→妻ではなく、母→子供。アルバザード人の母親は躾が厳しく、頻繁に子供を殴る。そのため、行き過ぎが往々にしてあり、ＤＶとなる。　アルバザード人の女は夫にはしとやかで表立って反抗をしないため、夫→妻のＤＶは少ない。妻が不貞だったり従順でないなど、妻として品格に欠ける場合、夫は妻を殴っても社会的に白い目で見られない。逆に、そのような妻をのさばらせておくと白い目で見られる。それ以外の理由で妻を殴った場合は夫の過失となる。　・ＤＶについて思うこと　『カバチタレ』という深津絵里の出ているドラマでＤＶ離婚の話があった。女にばかり都合のいいシナリオで、案の定脚本が女で、見ていて不快になったので所感を書きたくなった。　好きで付き合った男に守ってもらうどころか殴られた女の気持ちを考えると、さぞ絶望だろうなと思う。好きな相手に拒絶され殴られたらさぞつらいだろう。そういう意味で夫から妻のＤＶはすべきでないと思う。　ただそういう当たり前のことを言って加害者を特別な欠陥品呼ばわりするだけでは、物事の本質が見えなくなってしまう。その男が今まで付き合ってきた女にすべてＤＶを働いてきたならその男の欠陥だと思うが、特定の女にだけ暴力を振るうのであれば、その女に暴力を振るわせる原因があるわけで、女側は「やられたアタシ可哀想」とか「こんな男を選んだ自分は愚か」といった言葉で片付けるべきではない。「自分の何が好きな男を暴力に駆り立てたのか」を考え、自分も反省しなければ根本的な解決にならない。殴らせる原因を解決しなければいつまでも殴られるだろうし、仮に離婚して再婚しても同じことの繰り返しかもしれない。男を悪者にするのは簡単である。しかし自分が被害者ヅラするだけでは根本的な解決にはならない。現在の男のこともそうだし、今後の男選びに関しても支障をきたしうる。　ＤＶがある夫婦は別れたほうが良いと思う。妻だけでなく夫にとっても。殴られる側はもちろん、殴る側もストレスを感じているから殴るわけで、どちらにとってもその生活にメリットがない。殴る時点で夫は妻を愛してもいないし、人として尊敬もしていない。愛してもいないし尊敬もしていないのに男が女をキープするのは、ただ道具として便利だからである。その時点で所有物扱いされているので、女にとってその恋愛はメリットがない。男からしてみれば道具として使える人間がいる代わりにイライラさせられるのでプラマイゼロである。　往々にして女にとってＤＶ生活はマイナスで男にとってはプラマイゼロなので、いざ離婚となると夫が渋る。それはそうだ。離婚によって女はメリットがあるが男にはないからだ。　しかも女というのは一度愛想を尽かすと男に一切の情を抱かない冷たい生き物である。男はどんなに見下げ果てても過去の女には情をかける。基本的に女のほうが冷たい。離婚は夫にとって妻の反乱で、自分にメリットがなく、かつてあんなに好いてきた妻が自分を障害としてしか見ていないことに苛立たされる。しかし女はその苛立ちが理解できない。離婚を決めたらただひたすら夫から逃げようと必死になる。その態度が余計に夫を苛立たせるが、女は自分が相手の神経を逆撫でていることが分からない。なのでこのとき別の男が客観視していると、「この奥さん、殴られるべくして殴られてるなぁ」と心の奥でこっそり思ったりする。　恐らくＤＶ離婚で夫が妻に復讐する場合、離婚を切り出してからの妻の悪態にプライドが痛く傷つけられ、それで怒っているのだろう。妻自身に対する未練はなく、プライドが傷つけられたことに対する怒りと、親権などを奪われた怒りと、便利な道具を失った未練があるだけだと思う。

μιlεədeucſɑcz　［法律］ＤＶ冤罪　［レベル］4　ul;/　J?　［文化］μιseucſɑcz

μιιlɔ　［娯楽］おままごと　［レベル］2　1Π: 制 : 家（家事や家族関係）の遊び。

μιιu　［名詞］碇、錨、いかり　［レベル］4　1?: 制 : 古 :μιιbyə（碇）　μιιbyə:μιιbyə

μιιuyə,lɟl　ιιu　μιιbyə,αu.l

μιιυι,αu　αμecn

μιιɑ　［普通動名詞］徹夜　［動詞］yəl を徹夜させる、徹夜する　［レベル］3　1Π: 制 : 夜を越える　［用例］lι lιbι ιμ μιιɑ. 彼はよく徹夜をする。　el ιμ lcn μιιɑ ɟι fιɟ. 試験前は徹夜を控えること。　ιn en ʾlιbι ιμ μιιɑ. 私はほとんど徹夜をしない。

μιιbyə,αu　ιιu, μιιu　<> bυə

ɥɪc ［植物］つぼみ、蕾、芽、木の芽 ［レベル］3　古？：家に関係 ［用例］ɪn nɪ ɪlʃe lənɪɟ cɒ cn ɥɪc e ɒccnɪ. 花のつぼみを見ると春だなと思う。

ɥɪc,lc ˥lc˩

ɥɪcl ［化学］原子 ［レベル］4　@ 1L　lccl:lccl, ɥɪcl:lɪ lccl

ɥɪclʃejl ［環境］原子力発電 ［レベル］4　ul;/　1L ［文化］アルバザードは原子力発電が最も多い。

ɥɪclʃejllɪ ［環境］原子力発電所、原発 ［レベル］4　ul;/　1L ［用例］lɪɒcʃc e ɥɪclʃejllɪ 原発の危険性

ɥɪclaɪlɪ ［化学］原子番号 ［レベル］4　1L

ɥɪclaɪcl ［軍事］原子爆弾、原爆 ［レベル］4　1L

ɥɪclbyə ［化学］原子量 ［レベル］5　1L

ɥɪclɥɔ ［経済］元素鉱物　1L

ɥɪclɥl ［化学］原子間結合 ［レベル］5　ɟ1

ɥɪcn ［普通動名詞］繰延、延期、繰り下げ、繰下、繰り延べ ［経済］［動詞］yəl を繰り延べる、繰り延べる、延期する、繰り下げる、繰り越す ［反意語］lcɪɒ ［レベル］4　1L:ɥɪl ［語法］繰延と繰越の区別はない。

ɥɪcnɑɔɪl ［経済］繰延資産　1L

ɥɪcen ［人名］ライエン ［組み数字］4 / 1 3 ［天文］ライエン座 ［レベル］3　先 :ɪnɔ:ɥeɪeɟ ［文化］第４期３代ソーン第４使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ɥɪcen ɥɪlzɪ ［人名］ライエン＝ヴァルザ ［レベル］5　1L:clɒəɟ;ɥcɑcɪ ［文化］アルティル期の政治家。警察庁長官。ミナレットの幹部として働くも、ミナリスと利害関係で対立。２４５年のアルミナの樹立を契機とし、２４６年に独立。アミナルを樹立した。

ɥɪɔ ［動物］カニ、蟹 ［レベル］3　lɪlʃ: 挟む / 赤い

ɥɪɔl ［名詞］同居人 ［反意語］ɥɪleɑ ［レベル］4　ɥɑ;ɔ)ɥɪ/ɔ).lɔ)　ɟll

ɥɪɔll ［普通動名詞］ルームシェア ［動詞］yəl（住居）を {ɔ} とルームシェアする、ルームシェアする ［レベル］4　ɥɑ;/　ɟll

ɥɪɔllɪl ［名詞］ルームメイト ［レベル］4　ɥɑ;/　ɟll

ɥɪɔlccɒ ［化学］リボース　1L:jeɥen: 構造が蟹に見える

ɥɪɔɟ ［名詞］ほろ、幌、フード ［レベル］4　1ʃ: 制 :ɥɪeɟ

ɥɪɔdɪnɑ ［生物］ＲＮＡ、リボ核酸 ［レベル］5　1L

ɥɪɔcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］かに座　ɟll ［文化］cɑɪ

ɥɪe ［植物］トマト ［レベル］2　lɪlʃ:ɥɪe「赤くて水を含んだもの」 ［文化］特にカテージュにトマト料理が多い。

ɥɪeɟ ［建築］屋根、ボールト ［レベル］2　yeɟ;ɥɪ/eɟn「家の傘」 1ʃ: 制 :ɥɪeɟn から　lclɔl:lclcl ［文化］一戸建てにしかない。日本と違って瓦ではない。

ɥɪeɟleʃ ［音楽］グランドピアノ ［レベル］4　ɟ1

ɥɪə ［形容詞］～氏、～さん。名字に使う。名前には使わない。 ［レベル］2　1ʃ: 制 :ɥɪ ［語法］→ ɪdʃ, eɟʃ　×名　○姓　○前置　×後置　○男女

ɥcʃ ［名詞］アルコール、（事実上）エタノール ［化学］アルコール。脂肪族炭化水素基にヒドロキシ基が結合したもの。接尾辞は cʃ。　ɒ;ɥc/ɒ「魅惑的な匂い」 ［レベル］3　古：魅惑的な匂いの意 ［語法］化学的には総称としてのアルコールだが、日常的には酒類のことを指すので、エタノールを指す。 ［用例］ɥcʃ ucen 高い度数のアルコール

ɥcʃj ［形容詞］カリカリ、パリパリ、パリパリ、クリスピー ［レベル］3　古 :˩ɥcʃ

ɥcʃjdelləzɪɥl ［化学］サリチル酸 ［レベル］5　1L

ɥcʃaɪɪn ［化学］メタノール（置換）。基官能ではメチルアルコール。どちらも同じ物質。 ［レベル］5　1L

ɥcʃɥɪɒdcʃɒ ［医療］アルコール性肝障害 ［レベル］6　1L:jeɥen

ɥcʃɥəlɟ ［化学］ナフトール ［レベル］6　1L:jeɥen

ɥcʃɪ ［化学］ヒドロキシル基　1L

ɥcl ［動詞］yəl を c から ɪ に出す、出す、出る ［名詞］出口 ［名詞］結 ［普通動名詞］出力 ［反意語］lɪʃ ［レベル］2　@ 1L　ləɪ:ləɪ ［用例］ɪn ɥclʃ c ɒɔlʃ ɪɑɪəl yən leɑʃ. 急いでベッドから飛び出した。

ɥclɪ ［論理］導出 ［反意語］lɪʃj ［レベル］5　@ 1L:ɥcɑcɪ:ɥbɪləlʃ

ɥclɔuccɑɪ ［生物］［医療］井穴 ［レベル］5　ɥɑ;/「経脈の出る穴」 ɟll

ɥclc ［動物］カナリア、カナリヤ、カナリー、金糸雀 ［レベル］5　lɪlʃ: 綺麗な声 ［文化］ペットとして飼われるが、メジャーではない。

ɥcj ［動詞］yəl を厭う、厭う、いとう、嫌がる、望まない ［法副詞］～したくない ［反意語］lɪl ［レベル］1　@ 1L ［用例］ɪn ɥcj ɒccl ʃcj. りんごなんて嫌だ。　ɪn ɥɔɟʃ ɥcj. 死にたくない。

ɥcjʃ ［動詞］yəl を抑える、抑える、おさえる、制御する、抑制する、抑圧する、自制する、コントロールする、押さえる、押える、自重する ［類義語］ɔɟɥcjʃ ［反意語］leʃl ［レベル］4　1L:ɥj ccl ［用例］el jeɥ lcɥ ɥcjʃɔɒ ʃ'ɪleɒ. 感情をコントロールする方法を知る必要がある。　ɪn ɥcjʃɪl ucl nɔj eɒ ɥəəɑ. 興奮を抑えることができなかった。

ɥcn ［法副詞］［ɥenʃe］ɥcj ［レベル］1　1L: リディアの書

ɥcnj ［動詞］yəl を ɪ に排出する、排出する、ドレイン、排泄する ［普通動名詞］排出、排泄 ［反意語］˩lɔcʃ ［類音］ɥɪnj, lcnj ［レベル］3　J0:ɥcl/ucnj

ɥcnjnɪ ［医療］排泄欲 ［レベル］4　ɥɑ;/　ɟʃ

ɥcɒələə,ɑ　hcɒ, hcdʃ, eɟje　ələə の部分は「物物」。ɥc は「魅惑」。ɒə は恐らくここでは「苦痛」。原義は「物と物による魅惑で苦痛を伴う行為」。

ɥcɑcɪ ［組み数字］1 / 2 8 ［交通］リディア通り ［名詞］リディア組。アルナ大のクラス。 ［レベル］2　ɟl

ɥcɑcɪ(J) ［天文］アルタイル、牽牛、彦星、ひこぼし ［類義語］ɑcɪlcɟ ［レベル］4　1L:jeɥen:ɥcɑcɪ。中学のときに新星の発見者は名前を自由に付けられると聞き、見つけてリディアと名付けたいと考えた。その道には進まなかったが、こうして機会が得られたので星にこの名を付けて夢を叶えた。

ɥcɑcɪ(ʔ) ［地名］リディア　J0:ɥcɑcɪ:Tc（美しい）/ɑcɪ（土地）。この時代この土地のマレット語で lcɒc（美しい）が Tcɒc と発音されたため。 ［文化］古代国家のひとつ。シージアの南。

ɥcɑcɪ(ʎ) ［人名］ɥcɑcɪ ləʃcɪ → ɥcɑcɪ yɪdlc ɥɟccɪ ʃeɔ ləʃcɪ ［レベル］1　ɟl

ɥcɑcɪ(ϟ) ［人名］少女リディア ［レベル］4　古：語源不詳。『カコ』からだが、『カコ』では ɥccɑɥɪ という音で表わされている。 ［文化］（yəəɒɪ Δ0ϟ0:Δ0Δʔ）cɒəl ʎ リディアが寝室でソーンを果物ナイフで刺し殺す。ソーンはリディアを愛しており、何かあれば彼女に起こすように頼んであり、この日は ɒesʃel をつけていなかった。リディアは逃走するも捕縛され、拷問死する。メティオは王を失い、混乱。適切な後継者がおらず、混乱は激化　yəəɒɪ Δ0Δ0 アルシェがイムル暦を採択する。アルシェのミスにより、yəəɒɪ Δ0Δ0 が cɒəl 1 に等しい。アルシェ、みなしごリディアと出会い、10 歳の少女を自分の恋人として密かに育てだす

ɥcɑcɪ yɪdlc ɥɟccɪ ʃeɔ ləʃcɪ ［人名］リディア＝サプリ＝ルシーラ＝テオ＝ルティア ［ユマナ］［人名］リディア＝サプリ＝ルシーラ＝テオ＝ルティア ［組み数字］1 / 2 8 ［レベル］1　–ϟ:lcczɪ;ɥcɑcɪ le ɒesɪʃ jəɥn　古 :lcczɪ: リディアは『カコ』からリーザが名付けたが、正しくは ɥccɑɥɪ。ただしその ɥccɑɥɪ もアルシェにおける名でしかなく、実際役所に登録してある名前をもじったもの。なお、その ɥccɑɥɪ が ɥcɑcɪ になったのは、ゥリーデャという名前が当時のセレンに発音しづらく、その頃やっていたＦＦ４というゲームに出てくるリディアというキャラクターの名前の発音が比較的ゥリーデャに似ていて、かつこちらのほうが圧倒的に発音しやすかったため。また、サプリは ʃ 年にリーザがセレンと協議してつけた非アルカ名に嫌悪を示したリディアが 1ʔ ɒəs に変えたもの。ルシーラは同時にユーアが付けたアルカ名。テオはリーザが先代ルシーラとして贈ったアルカ名。ルティアはリーザが ʃcɑ L zɪn zɪn に２代目から贈られた姓で、語源は『カコ』。古アルカでの意味は「美しい夢」。また、リディアの使徒記号は幻字の ɑcɪ の終わりの部分に尻尾を付けて長くしたもの。 ［文化］→ eɟʃ、ɑcɪuɒɥɪnʃ（–ϟ zɪn ɥɪl_ɟll）神話 ɥɑ の主人公の一人。女性。ɒclcɪ。１５５ｃｍ、４２ｋｇ。髪は亜麻色で肩より少し長く、少しくせっ毛。緑の瞳。肌は白：黄＝７：３。　アシェットの第１使徒で、史上最強の魔法使い。アルバザード人で、サプリの出身。　19 年、セレンとの間にユルトとルシアを設ける。　ɟl 年、セレンとともにユマナへ去る。　・声　もともと甲高く、『ＮＨＫにようこそ』の牧野由依がやっていたみさきの声に素で酷似している。セレンは花澤香菜が好きなので「花澤香菜の声になってよ」と言ったら「バカじゃないの」と言われた。　・握力　11ʎΔ: 握力１４ｋｇと判明。　●現実　（ʃcɑ ϟ zɪn ɥɪl_ɟll）第４期４代アルシェ第１使徒（Ｔｈｅ　Ｆｉｒｓｔ　Ｍｏｏｎ）。カルディアの作者。女性。ＡＢ型。白人と黄色人種の混血児。複雑に血が混じっている。サーシュ座。　・来歴　メル２年、リーザによって就任。アンティスおよびアトラスの作者。兄弟は妹が１人。１歳のときにナルム夫妻に託され、フィンランドへ渡る。６歳で養父母が亡くなり、第４期４代アルシェ第１使徒となる。６歳の末に、セレンに出会う。19 zɪn zɪn にセレンがルシーラを辞任し、新ルシーラとなる。1Δ φcl jeɥ にセレンとの子を出産。子供は双子の男女ユルトとルシア。１５５ｃｍ、４２ｋｇ。　ɒelɟll 没。　・呼称　リディアには異名が多い。本名の ɥcɑcɪ、略称の ɑcɪ、あだ名の ɪʃcclc、悪口の ɥcɑcc、『幻想話集アティーリ』由来の yəʃcɪ、日本語由来の lccʃlɪn などがある。日本語名は綺夢（みゆ）。性格等は前項と同様。　・ɑɪlhɪ　ɑɪlhɪ は１０歳のもので、「ふわふわにゃんこ」。羽の生えた猫の絵柄。　・人物像　性格は生真面目で純粋。学問全般に渡って知識があり、語学は万能。武道は多芸で、徒手空拳のほか、武器の扱いもこなす。芸術や音楽には少し弱い。家事は克服し、料理は現在ではむしろ得意。仕事ぶりは正確で、編集作業や校正作業が得意。暗記力が尋常ではない。正義感が強く嘘が嫌いで、まっすぐした性格。精神は安定しているが、いったん不安になると泣きやすい。悩みやすい体質で、物事を真剣に考える。善人で、利他的な行動をする。子供のころに人種問題で虐められてから人見知りが激しく、他人の前では話せない。　素行は現代日本女性と比べると非常におしとやかで大和撫子。表情は柔らかな微笑で、ふわふわした雰囲気で喋る。早く喋る必要があるときは非常に早く喋ることができる。大口を開けて笑うことはなく、「ふふ……」と口に手を当てて笑う仕草が愛らしい。　＜００年のセレンのメールに見るリディアの名の由来と外見像＞　（このメールで出ているユナーというのはＦＦ１０のヒロインのユウナを指すようだ。この時点ではまだ発売前で、セレンはよく情報を掴んでいない様子。またザナはＦＦ４をＦＦ２と言っており、セレンはそれを誤りとしている。しかし海外版では確かに２として売られていたことが確認できたので、ザナが正しい。当時の古アルカ文も見れて懐かしいとともに、この時点ではまだ古アルカを使っていたことが確認できる。ɑʃ は ɥɥ で転写していたようだ。yəɲlə に母音が付いているのも見逃せない。yəɲl の異形態だ。リディアがＦＦ４のキャラと名前が同じで同一視されて困ったといっていることから、少なくともこの頃は ɥccɑɥɪ という名のほうが正式であったということが伺える。ザナはリディアの言葉を「名前が同じで～」と伝達しているが、実際には ɥccɑɥɪ だったわけだから、「似た発音のせいでキャラ名で呼ばれて困っている」というのが正確なところか。この注釈は ɟl 年のものだが、ユウナより『パンドラの塔』の表紙絵の少女セレスに似ているように見える。表紙絵以外は似ていないが）　そしたらケチをつけてたザナが流石に俺の顔色が変わったので「まあ、似てないっ　て言うかさ、そもそも結局絵なんだから、要するに「イメージが似てる」ってことが　いいてぇんだろ？」といってきた。俺は「いや、本当に写真の様に似ているかと思っ　た」といったら皆で笑いやがった。　ザナは「むしろさ、リディアのイメージってさ、もっと明るいんだよ、屈託なくて　さぁ」とフォローした。当の本人は誉められたと思ってにこにこしてた。するとあい　つは続けてこういった。　「ϰɥɑcɪ ɑe yəɲlə jɔnɔ...jɔnɔ... lə ɪl–nɔʒ ϑhhɪ, yəɲlə ɥɥɪ yəɲlə e ɥɥɪ ""ψƎnɪl　ɑɪnʃɪɥ ʃɔ"" ɑe ""ψƎΛϑh(ψƎhψϑʒ)"""」　「リディアが似てんのはさ、えっと……ん～、ああ、ファイナルファンタジーﻹのヒ　ロインの「ユナー（或いはユーダと聞こえた）って奴だよ」　俺が「え？」といったらあいつは「まあ、イメージだよ、あくまでも」と補った　が、俺の言った「え？」はそうじゃない。俺は「お前、ψψ なんか知ってたの？」と聞　いた。そしたら「ああ、アメリカで作ってるゲームだろ。日本も噛んでるらしいな。　元々お前がやってるらしいから俺も知ってるんだけど？」と答えた。違うよ、お前。　日本が一枚噛んでるんじゃなくて日本の製品だよ。　更にあいつは間違えてた。俺が「なんで俺がやってるって知ってるの？」と聞いた　ら「ψψ Ⅱでリディアってのがいて、リディアが「自分と同じ名前の奴がいてセレン君　に同一視されて困った」っていってたから」と答えたが、フォーリンゲーマーよ、リ　ディアが出てくるのは ψψ Ⅳだ。　しかも皆の見せてコールにあいつはいとも簡単に応じやがった。一回いなくなった　と思ったら、なんでか雑誌の切抜きだかどっかで印刷してぱくったものみたいな画像　を持って帰ってきた。ザナが指してる女の子（恐らく ψψ の歴史上これが主人公と言う　ことはないと思うからヒロインだと思うからそう訳したが）の絵を見たら、なんと今　度は Δ：ʃぐらいで「似てる」と賛同しやがった。本人も「あ～、似てるかもねえ」といっていた。　そのユナーかユーダか良く聞き取れなかった少女は、エルオーネみたいに腕に布み　たいな生地を巻いていて、下に垂れ下げていた。アクセサリーじゃらじゃらで、多分　この辺がリディアに似てると思われた一因だろう。髪はそんなに長くなく、かといっ　てショートでもない。これもリディアと同じ。で、髪型も一緒。曰く「服の趣味も一　緒」だと。主にこれは女子判断だが、女子はアイデンティティに服飾というのも含む　のだという事が解かった。馬鹿だね、じゃあ服ナシの本人だけを見ないってことだろ　？真実から目をそらした観察だ。　ʃ割の反対陣は「こんなにリディアは奔放で自由そうじゃない。もっと弱そうで自　立してなさそうな顔をしている」と辛口批判。だが、俺も賛成だ。その点は賛成派も　若干認めていたし、何より本人が認めていた。これほど主観が使えないと思ったこと　はない。 ［成句］ɥcɑcɪ ʎɪen ɒɔnɑɪ 猫をかぶる、ねこをかぶる、ネコをかぶる、猫を被る、ねこを被る、ネコを被る。ものすごく程度がひどいことで有名。いい子ぶるというより、おとなしくなるというニュアンス。　ɪnʃ ɔ lele yən ɥcɑcɪ 才色兼備　ɥcɑcɪ ɔ pel ɑeʃ lele cɒ yəlc 大器晩成

ɥcɑcɪn ［名詞］嫉妬心、嫉妬 ［動詞］yəl に嫉妬する、嫉妬する ［類義語］φenɔɒ ［レベル］3　1L: リディアの書 :ɥcɑcɪnɪ ［語法］φenɔɒ は他者に対する悪意の羨望。ɥcɑcɪn は主に恋人や親愛の情を持つ相手に対するジェラシー。

ɥcɑcɪlccɑɪ ［天文］→ ɥcɑcɪ

ɥcɑcɪ ləɟcɪ ［人名］リディア＝ルティア ［レベル］1　ls　ɟl ［文化］（ʎϟ_）ls の主人公の一人。　・年齢早見表　ʎϟ1 1ʎ　ʎϟ0 1ϟ　ʎ1L 1ʎ　ʎ1Δ 1ʎ　ʎ1ϟ 1ʎ　ʎ1ʎ 11　ʎ1ϟ 10　ʎ1ʎ L　ʎ1ʎ Δ　ʎ1ɟ 9　ʎ1ʎ 1　ʎ1Ο ϟ　ʎ1L ʎ　ʎ1Δ ʔ　ʎ1ϟ ɟ　ʎ1ʎ 1　ʎ1ϟ Ο

ɥcɑcɪ ləɟcɪ(J)　→ ɥcɑcɪ yɪdlc ɥɟccɪ ʃeɔ ləʃcɪ ［レベル］1　ɟl

ɥcφ ［動詞］yəl を壊す、壊す、破壊する、解体する ［普通動名詞］破壊、解体 ［政治］解散する ［反意語］lɪɑ ［レベル］2　@ 1L　ɑzəl:ɑzəl ［語法］ɪllɪɑ と区別。 ［用例］ɥcφ ɔɒc ドアを破る

ɥcφɒcφɔʃ ［宗教］破壊神　ɥɑ;/　ɟll

ɥcφlɪnφ ［政治］解散権 ［レベル］4　1L

ɥcd ［動詞］yəl を c から借りる、借りる ［類義語］ɟʃcʃ ［反意語］lɪɑ ［レベル］2　@ 1L ［用例］ɪn ɥcdlʃ ɔɔlʃ e jɪeɟɔn. スキー道具を借りた。　ʃcɔ, nɔel ɥcd ɑɪn ʃə ɪ ɥɔɟʃ ɑɪrl. 死ぬまで借りるだけだぜ（霧雨魔理沙）

ɥcdφcl ［経済］借金、借入金 ［レベル］3　1L:ɥcɑcɪ:ɥbɪləlʃ ［文化］アルバザード人は借金を極端に嫌う。 ［用例］φɪϰɑcʃ} ɥcdφcl 借金を返す｛返済を受け取る｝　deʃcɑ ɥcdφcl 借金を取り返す、金を返してもらう、借金を取り立てる

ɥcb ［動物］蚊、モスキート ［メタファー］盗人 ［メタファー］［動詞］yəl をこっそりと盗る、盗む ［魔法］リプ（ドレイン）。害の中位黒魔法。敵のユノを吸い取る。 ［レベル］2　lɪlʃ:ɥc は血で、b は羽音だろう。 ［用例］ɪn ɒɔlʃ ucl ɥɪnel ɒcl ɥcb. 蚊のせいでよく眠れなかった。　ɥcb ɪʃ lɪu ʃcnɪ enʃɔ ɪn ɒɔl ucl. 蚊がうるさすぎて眠れなかった。　ɪn ɒɔlʃ ucl ɒcl ɥcb. 蚊のせいで眠れなかった。　lɔ ɥcb ˩eɥnɪʃɔɥ ɔn˩el ɑɔ bəb bəb. 蚊が一匹ずっと飛び回っていた。　ɪn ɪɥɪʃ dɪɒ lɪnɪ jɪl ɥcb. 電気を付けて蚊を探した。　ɪn ˩ɔlʃ ɒɔlʃ ɑcn jɪl ucl ɥcb. 蚊を見つけられずにベッドに戻った。　ɪn jcdʃ yə ɥcb ɔn eɥc. 蚊に食われた。蚊に血を吸われた。

ɥcbɒɪlʃ ［名詞］蚊取り線香 ［レベル］4　1L ［文化］セルメルに作られた。ただし、あのような螺旋形のものではなく、ピレスロイドなどを含む植物を焚いていた。 ［用例］ɪn ɪɥɪʃ ɥcbɒɪlʃ lɪnɪ jɪʃj ɥcb. 蚊を落とすために蚊取り線香を焚いた。

ɥcbɒelʃes ［名詞］蚊帳 ［レベル］5　1L ［文化］アレイユには既にない。住居の密閉性が高まる前は存在したが、既に ɥɑ で密閉性の高い家だったため、アルバザードではかなり古い時代の産物。 ［用例］ɪn lecnɪʃ ɥcbɒelʃes. 蚊帳をつった：pelʃes なので動詞は lecn。

ɥczcn ［化学］クレゾール ［レベル］5　1L:jeɥen:ɥcʃ/nɔzcn

ɥcs ［再帰動名詞］二日酔い、ふつか酔い ［動詞］yəl に二日酔いをさせる ［レベル］4　1ʔ: 制 :jɪɑ:ɥcejes（酒が残る） ［用例］ɪn ej ɥcs. 二日酔いだ。

ɥcɪl ［化学］無機、無機物 ［反意語］lɪcj ［レベル］4　@ 1L

ɥcɪlyefəl ［化学］無機化合物 ［レベル］5　1L

ɥcɪlyjl ［化学］無機酸　1L

ɥccɑ ［経済］負債 ［レベル］4　1L:ɥcd

ɥccɑɥɪ ［人名］リーデャ。リディアの異名 ［レベル］2　古：本来のリディアの名の発音。ɥccɑɥɪ も ɥcɑcɪ も平行して使われていた。特に強弱アクセントで古アルカが語られる場合は ɥccɑɥɪ となる傾向が強く、高低アクセントではその逆の現象が見られた。従って高低アクセン

トになった制アルカでは μcɑcı を正式とする。また、本人もこれについて了承している。

μccl ［動物］蛭、ヒル ［メタファー］［ネガティブ］吸血鬼、血吸虫。吸血鬼の蔑称。 ［メタファー］［法律］ストーカー。くっついたら離れないことから。 ［レベル］3 1ⅿ: 制 :ɨlɪ̀lɪ:eμclɔɔlɔ（血の管） ［用例］ eμce lı. hɜɒ, ılı ej μccl ſcj ſel uın ın ıj ı. 吸血鬼か。ふん、血吸虫ごときがこの私に楯突くとはな。

μcɔ ［名詞］石鹸、シャボン、ソープ、ボディソープ ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɪ̀lɪ:μchɔ「綺麗にする塊」

μcɔeɒ ［化学］鹸化、けん化 ［レベル］5 1L

μce,ɑu uelɑ μc（誘惑の）/e（水）

μceſ ［経済］経営、運営、営業 ［名詞］経営→ ɑeldınſ ［類義語］φcn ［レベル］4 μɑ;μjcclı/ſe ⅃⅃ ［語法］ φcn

μcen ［サール］リエン ［動詞］ɣel を酔わせる、酔わせる、陶酔する、酔う ［形容詞］酔っている、酔っ払っている、酔っぱらっている、酔った ［名詞］酔っぱらい、酔っ払い、よっぱらい ［レベル］3 ⅃ɔ;μce,ɑ.l 古 :llccz: 古 :μce（酒）「 陶酔 」も酔うという語を使うので、日本語と同じ感覚を持っていたようだ。 ［文化］ 酒を司るサール。人間を陶酔させる。酒で酔うだけでなく、酒で酔ったかのようないわゆる陶酔状態にすることも指す。アルバザード人は大人しく真面目な人間が多いが、かっこつけるのが好きなので、しばしば理想化された自分に陶酔する。レインが過度に敬虔だったり、アルシェがやけにレディーファーストなのもアルバザード人らしい陶酔の現われである。アルバザード人は催眠や陶酔が好きで、それによって自己を勇気付けたり、ストレスを発散させたりする。 ［用例］ lı ej μcen. 彼は酔っ払っている。 ın ɑej μcen ɑı. 俺は酔ってないぞ。

μcej ［物理］電磁 ［レベル］5 1L:clcμcej。制では clμ だが、語末の lμ はほかにないので避けた。

μcejlı ［物理］電磁場 ［レベル］5 1L

μcejucın ［物理］電磁力 ［レベル］5 ⅃1

μcejφel ［軍事］レールガン ［レベル］5 ⅃1: 電磁力砲

μcejeeu ［物理］電磁波 ［レベル］5 1L

μcſ ［格詞］～のほうから ［動詞］ɣel を c からそむける、そむける、背ける、背く、離す、離れる、遠のく ［類義語］cſ ［反意語］ʃɔμ ［レベル］2 1L: 恣意 ［用例］ ɑılıſ ɒcuı μcſ lɔj 背中から娘を抱きしめた

μcſlcɒ ［生物］屈曲 μɑ;/「～のほうからこちらに曲げる」 ⅃Ⅿ

μcſlcμl ［生物］内返し、内反し、内がえし、内反 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μcſjıc ［生物］回内 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μcſhɔl ［生物］内旋 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μcſɔu ［生物］内転 μɑ;/「～のほうからこちら側へ動く」 ⅃Ⅿ

μcſen ［接続詞］μcſ ［レベル］3 ⅃1

μcʃ ［動詞］ɣel を押す、押す、圧する、圧迫する ［普通動名詞］圧迫、プレッシャー ［反意語］leſ ［レベル］2 @ 1L ılleſı:ılleſı ［成句］ μcʃ ɹıeφel ʃı ſcɔɑ 坂道で雪だまを押す：流れに掉さす μcʃ μenj ı ～に口を出す、口出す、口出しする ［用例］ μcʃ ɔɒc 扉を押す ☆ ın μcʃlſ lıſc ı ſcɑı. 私は卵が半分になるまで押した。

μcʃucın ［物理］斥力 ［反意語］leſucın ［レベル］4 ⅃0

μcʃlıj ［医療］押手、おしで μɑ;/ ⅃Ⅿ ［文化］ 鍼において肌を押さえる手。ふつう左手。

μcʃıɒɔ ［名詞］カート、手押し車 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbıleſſ

μcʃɔɒc ［名詞］押し戸 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcj

μcʃeu ［動詞］ɣel を ı に押し付ける、押し付ける、押しつける ［レベル］3 ⅃1

μcſ ［名詞］合言葉、暗証言葉 ［経済］［電算］暗証番号、パスワード ［レベル］3 1Ⅿ: 制 :μcl/ueſ（味方の言葉） ［用例］ μcſ eucſ 間違ったパスワード ɔſſ μcſſ パスワードを伝える eu μcſ ı μıφnı 機械にパスワードを入力する

μcſμcſ ［電算］ログオフ、ログアウト ［レベル］3 ⅃⅃

μcſlſſ ［電算］ログイン ［レベル］3 ⅃⅃

μcſſ ［形容詞］サブの、メインでない、副次的な ［反意語］lejſ ［レベル］3 @ 1L

μcſſſɔı ［名詞］S S、サイドストーリー、ショートストーリー、ファンによる非公式の二次創作小説 ［レベル］5 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μcſſcjſ ［名詞］外伝 ［反意語］lejſſcjſ ［レベル］5 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μcſjerlμ ［電算］インカメラ、サブカメラ ［レベル］6 ul;/ ⅃Ⅿ ［文化］ はじめはテレビ局で使う業務用のサブカメラを指した。やがてケータイのインカメラなども ıl で指すようになった。

μcſlɔɔnı ［名詞］副旨 ［レベル］5 μɑ;/ ⅃ʔ

μcſlφılſ ［建築］ポーチ、車寄せ ［レベル］5 1L

μcſlbel ［料理］副菜。副次的なおかず。 ［レベル］3 1L

μcſlμıu ［言語］従属節 ［レベル］4 ⅃0

μcſlsczɔl ［音楽］サイドギター ［レベル］6 ⅃1

μcſlsczɔlın ［音楽］サイドギター担当 ［レベル］6 ⅃1

μcſllɔcſ ［名詞］支社 ［レベル］4 μɑ;/ ⅃ʔ

μcſlıſe ［名詞］支店 ［レベル］4 μɑ;/ ⅃ʔ

μɔn ［化学］［物理］圧力、圧 ［レベル］4 1L:μɣɑə:μɔl/enuc ［用例］ μɔn ucen 高圧

μɔu ［形容詞］軸に近い ［格詞］～の内側に ［反意語］ecl ［名詞］道路の中央、内側、ナイソク、内方 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 恣意 ［語法］ ある中心軸となる一次元体から見てある物が近いことを指す。空間的な意味に使う。内側と訳すことが多い。μɔu はたとえば体の正中線から近い部分を指したりするのに使う。軸から見て軸に近いほうが μɔu である。軸が短くなって点になっても良い。そうするとある点から見てある物が近いと μɔu になる。 ［用例］ ɹıbej ɹılıj μɔu ıμn コートの下にシャツを着ている

μɔuſeɒ ［生物］内耳 ［レベル］4 1L

μɔuſeɒɑıcz ［医療］内耳炎 ［レベル］5 1L

μɔulıɒc ［生物］陰谷 ⅃1

μɔujcμ ［生物］真皮 ［レベル］4 ⅃1

μɔujcı ［生物］軟膜 1L

μɔujel ［生物］小陰唇 ［レベル］4 1L

μɔunca ［言語］内相、（アルカにおける）アクツィオンスアルト ［レベル］5 ⅃0 ［語法］ 実行段階のこと。外相と対立。 経過～継続の区間のことで、すべて接辞で表され、アクツィオンスアルトとなる。 動詞の相の局面を 9 種用意するときは、最も頻度の高い局面がこの内相の中に来るように設計する。

μɔualel ［生物］肩中兪、肩中愈 ⅃1

μɔuɒcl1 ［生物］内膝眼 ⅃1

μɔuφɔſ ［生物］内側顆 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μɔudɔɒ ［生物］内くるぶし、内踝、内果 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μɔudɔɒoıl ［生物］内踝尖、内果尖 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μɔuφlɔ ［被服］ズボン下、すててこ、ステテコ ［レベル］4 ⅃1

μɔulcl ［化学］遷移元素 ［レベル］5 1L

μɔulɔbɔ ［電算］［工学］クラッド→ ɑıμſınl ul;/ ⅃ʔ

μɔuen ［接続詞］μɔu ［美容］インナーウェア ［レベル］3 ⅃1

μɔɑı ［名詞］カフェイン ［レベル］3 1ʔ: 制 :μɔɑ（興奮した） ［用例］ μɔɑı cun 低カフェイン

μɔɒ ［形容詞］［副詞］突然、急に、不意に、ふいに、いきなり、ふと、とっさに、咄嗟に、急進的な、突拍子もない ［文頭純詞］ふいに、ふと、突如、突然、唐突に、とうとつに、脈絡もなく ［医療］急性 ［音楽］プレスト ［反意語］ɑμel ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɒeμəəɒc（時間がない） ［用例］ lı lənıſ μɔɒel. 彼は急に来た。

μɔɒ,lμ le（関係詞）

μɔɒnel1 ［動詞］ɣel を跳ね起きさせる、跳ね起きる、跳ねおきる、はねおきる ［レベル］3 μɑ;/「突然上に上がる」 ⅃ʔ

μɔɒnel1ɔnɑ ［名詞］跳ね起き夢 ［レベル］6 μɑ;/ ⅃ʔ ［文化］ ・造語した経緯 かつての塾にバイトしてて塾長に ⅃ 人同時に見てと頼まれて料金は一人分でねと言われてたのを忘れてて出かけようとしたら超クレームが来てずっと電話越しに怒鳴っててて「訴えてやる」とか「本出版してやる」とか「つべで集会かけてやる」とかギャンギャン喚いててうざかった夢を見た。 で、はじめは我慢して聞いてたんだが、あんまりうるせーのでブチ切れて「てめぇぶっろ殺すぞこの野郎。木刀と刀持ってって突っ込んでってやろうかゴルァ！」って怒鳴ったら「来いやゴルァ！」と言いやがったので「てめぇぶっ殺してやる！！！」っつって跳ね起きてドアガチャして廊下に走りだしたところで家族の何事かという悲鳴が聞こえて「あ、夢か……」と知った。そのまま刀掴んで突っ込もうとするところだった。夢なのに。どんだけ気性荒いんだよ俺ｗｗｗ

μɔɒɒıφ ［動詞］ɣel をびくっとさせる、びくっとする、ビクっとする、ぎょっとする ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcj ［用例］ ın ıμıſ μɔɒɒıφ ɒın jılcl lɔlɔ. 蛇にギョッとした。

μɔɒɒcμə ［生物］突然変異、ミューテーション ［普通動名詞］［自然動名詞］［再帰動名詞］急変 ［類義語］ljıs ［レベル］5 μɑ ⅃ʔ

μɔɒı ［医療］病気や感情などの発作 ［レベル］3 1ʔ: 制 :μɔɒ から

μɔɒıılɑμıc ［医療］急性腰痛、ぎっくり腰、ギックリ腰。区別なし ［レベル］4 1L

μɔɒɔlſɔ ［物理］パルス ［レベル］5 ⅃1

μɔɒejl ［気象］にわか雨 ［レベル］3 1ʔ: 制 ［用例］ μɔɒejl jcl μɔɑ lı uıcl ſel senſdɔμlli. 天気予報によるとところによりにわか雨が降るそうだ。 μɔɒejl ılſ μɔɑ ılc lıl. ちょっとにわか雨が降った。

μɔɒeμcdɔı ［医療］急性白血病 ［レベル］6 1L

μɔd ［生物］まぶた、瞼、目蓋 ［動詞］ɣel に瞬きさせる、瞬く、またたく、まばたく ［再帰動名詞］まばたき、瞬き→ μɔdıμſel ［レベル］2 1ʔ: 制 :μɔb ［用例］ μɔd ej ɑıɑ. まぶたが重い＝眠い：日英と同様の表現。

μɔdbedc ［化学］接眼レンズ ［レベル］4 μɑ;/ ⅃ʔ

μɔdıſ ［再帰動名詞］まばたき、瞬き← μɔd ［レベル］2 ⅃0

μɔb ［名詞］蓋、キャップ ［動詞］ɣel に蓋をする、蓋をする、蓋をかぶせる ［レベル］2 ɑ;e 古 :μɔb（かぶる） μɔb:μɔb ［用例］ eu μɔb ı uıel 瓶に蓋をする

μɔbhɔ ［生物］膝蓋骨 ［レベル］5 ⅃1:「蓋の骨」

μɔbhɔlſ ［音楽］ハイハットシンバル、ハイハット ⅃1: ［語法］ オープンは hɔɒ。クローズドは ɑeɣə。ハーフオープンは ſcɑı。ペダルは ɔɔnſ。ペダルで蓋をするかのように閉じ合わせるので μɔb という。

μɔbhɔhıllɔɔz ［生物］膝蓋骨上縁 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μɔbhɔoıl ［生物］膝蓋骨尖 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μɔbc ［形容詞］不純な、混ざった ［名詞］不純物← μɔbcſəl ［レベル］3 1L:leuı の対の μɔbc の音が悪いと変更されたが、化学などにおける不純物という意味の語義は残ったので、単語自体は残った。

μɔbcſəl ［化学］混合物、不純物→ μɔbc ［レベル］4 1L

μɔz ［名詞］身元、生まれ、出所、根源、源、素性 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :eμczıɒɔ ［用例］ μɔz μıſ 生まれの良い、高貴な

μɔc ［被服］ゴーグル ［レベル］3 lı̀lı: 目を覆う

μe ［法副詞］～しろ。命令の副詞。 ［レベル］1 ɑ;e 古 μe:μe: ［語法］ 前置する。古アルカと同じ。省略できる。省略しないで μe をつけると語気が強まる。μe を省略した命令形は μe より弱く μen より強い。 μe 強命令 μen 弱命令 ɒcμ 強依頼 jınſ(女性 ɒμən) 弱依頼 ɑen 強禁止 ſe 弱禁止 ɑɔn 強禁止依頼 lee 弱禁止依頼 女性は「弱」の系統をメインで使う。男性も弱系統を使うが、強もよく使う。同じ男性でもアルデンは強が多く、ピッコは弱が多い。逆に女性でもアンマやガノは強を使う割合が μenſe より高い。 ・自動詞の命令 日本語に訳したときに自動詞になる命令文について。 (μe) uɔμſſ 死ね！ 他動詞 (μe) ɒeſ (nɔj)ſſ 落ちろ！ 再帰型自動詞。てずから落ちろ。呪詛的。 (μe) eɒ eɒ ɒeſſ 落ちてしまえ！ 繋辞型自動詞。自然と落ちろ。日本語的には「落ちろ」はこちらが自然だが、アルカ的には「俺にとって幸運が起こって岩が崩れるなどして運良くお前が落ちるようになれ」というニュアンスで、あまり呪詛的でない。「落ちればいいのに」「落ちてしまえ」的なニュアンス。本来は論理的に考えると確かにこちらのほうが「落ちろ」にふさわしいが、「てめぇで落ちろ」的なニュアンスのある前者のほうが呪詛的で攻撃的。 「腐れ」のように命令する相手が人でない場合は、(μe) eɒ φejſ の容認度が高くなる。しかし依然として呪詛的に使うのならφejſ が使える。 また、魔導師などが魔法をかけて敵を腐敗させようとするなら相手が生き物なので φejſ の容認度が ɒeſſ 同様高くなる。 ［用例］ μe ılſ 書け

μeſ ［普通動名詞］依頼、発注、指示 ［動詞］ɣel を ı に頼む、頼む ［普通動名詞］注文 ［文末純詞］お願い、～してください、～してね。依頼を示す。 ［反意語］lcɣe ［レベル］1 1Ⅿ: 制 zcddɔ:zcddɔ ［文化］ 日本と同じ。依頼は丁寧に。聞いてくれれば礼を言う。聞いてくれなくても悪口を言わないこと。頼む側が特に卑屈になる必要はないが、尊大でもいけない。頼む媒介物は何でも良い。口頭でも良いしメールでも良い。日本だとメールでは失礼というが、アルバザードではメディアは気にしない。依頼の報酬は予め伝えておく。目上だろうが目下だろうが関係ない。報酬があるなら聞かれる前に事前に告知しておく。 ・注文 アルバザード人は個別に頼むことが多いので「コーヒー３つ」のようなまとまった注文はあまりしない。 ɒcclıne, lcjcl ıne, ɒcμeſe), μeſ のように頼む。 頼む人は自分から疎遠な人や目上の人の注文を優先的にウェイターに告げるのがマナー。自分の頼むものは最後に告げるのがマナー。 ［用例］ ın μe ılſ ſə lı lı. 彼に頼んだ。 μen lənı ılə μeſ. こっちに来てちょうだい。

μeſl ［動詞］ɣel（場所）で溺れる、溺れる、おぼれる ［反意語］lɔlj ［レベル］2 @ 1L ［用例］ ın μeſlıſ jıſ. もう少しでおぼれるところだった。

μeſj ［感動詞］よろしく、頼むよ、頼む、たのむ、お願い、おねがい、よろ、お願いします ［レベル］2 μɑ;μeſ/jɔ「することを頼む」 ⅃ʔ:⅃ʔ までは依頼文の最後に "μeſ" をつけて「よろしく」という意味を表していた。特にそれで困ることがなかったが、メールなどで「上記の件についてよろしく」とまとめて依頼する場合に使う表現がないと困るということで作られた。 ［語法］ 人に行為をしてもらうときに言う言葉。人に行為を任せるときの言葉。 ［用例］ μeſj ɔn le ɑıj. ılıɣənl. あの件よろしく。 任せて。

μeſl ［名詞］敵 ［娯楽］［軍事］敵軍 ［形容詞］敵の、敵性 ［類義語］ɒes ［反意語］lɔlı ［レベル］3 1L:jɔ μn:μeſſel ［用例］ uıjſ μeſl 敵を倒す

μeſllıɑ ［軍事］敵国 ［レベル］3 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μeſlnı ［名詞］敵意、害意、敵愾心 ［レベル］4 1L:ɒelcɑcı ılſe ［用例］ jcnj μeſl 敵意を表す

μeſlɑɔlſ ［ユマナ］［娯楽］エネミーマーカー ⅃1

μeſlelɑ ［言語］敵性語 ［レベル］6 ⅃⅃

μeſın ［名詞］依頼者、依頼人、クライアント、発注元、受注先 ［レベル］2 μɑ;/ ⅃Ⅿ

μeſcl ［地学］蛍石 ［レベル］6 ɒelſcı 10:φclcəj;e 1L:μen/ıſcclc。～μen が多すぎたため、μen を前置した。 ［文化］ → ɑɔlɒcμə, dıμſcl 光の魔石。セレス体を単蓄する。

μel ［動詞］ɣel を失敗する、失敗する、しくじる、しそこなう ［普通動名詞］失敗、ミス ［副詞］(μel)nel で）しくじって～する、間違って～する。成功させようと頑張って失敗することを指す。うっかりやったという意味はない。 ［娯楽］ミス、アウト、失敗、死亡、一機死亡 ［テニス］フォルト ［野球］アウト ［反意語］μıl ［レベル］2 1ʔ: 制 ［用例］ ſə eſ μel ıuen lɔſ lej ın ıμıſ. それは私がしてきた中で最悪の失敗だった。 ınj μelcl ınɔ ſəμ ſcjeeſ われわれは本作戦に失敗いたしました！ ɑcn ın ıjdıſ enzel lını ɑɔnl uınɑ e μeſl, ın ſclıſ ucl ɔn ɑlel μelı nel jcn. 敵の攻撃を何とか躱そうと屈んだが、しくじって肩に傷を負ってしまった。

μelſeμ ［動詞］ɣel を聞き洩らす、聞き洩らす、聞き漏らす、聞き洩れる、聞き漏れる、聞きもれ、聞き漏らし ［レベル］2 1L:μcɑcı:ıμbıleſſ

μell ［植物］グレープフルーツ ［レベル］2 1ʔ: 制 :μebllccl（実がブドウのように房状につくミカン）

μellıɑı ［名詞］失敗作、不良品 ［レベル］3 ⅃1

μelcn ［動詞］ɣel を見逃す、見逃す ［類義語］uen ［レベル］2 ⅃1 ［語法］ uen は気づかずに見逃すこと。μelcn はサッカーを見ながら洗い物などしていてちょうどシュートの瞬間を見逃すこと。

μelcı,jzl ıdl μeclı/ɒelcı

μelɔnlcjſı ［アトラスの国家］レコンキスタ ［レベル］5 ⅃ʔ:μcɑcı

μelſ ［形容詞］雑多な、雑魚な、こまごました、こまかい、細々、細かい、小さなものが色々混じっている ［名詞］雑多、エキストラ、ちょい役、小間物、小物類、脇役 ［反意語］lɔj ［レベル］3 @ 1L

μelcμ ［名詞］答え、解答 ［類義語］cln ［反意語］lnɔɔj ［レベル］2 ⅃0:μenj/clcμcəj（言葉を返す）

μ

［語法］ 問題に対する答えが μelcμ。質問に対する返事が clɴ。 ［用例］ acſ μelcμ ɪ lɪ 彼に答えを返す

μeȷ ［名詞］部下、臣下、店員、社員、家長以外の家族 ［娯楽］ゲームにおける子 ［類義語］blcȷ ［反意語］hɪlſ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɔɔȷ;μȷccɩɪ ::lɪ ɔɔleſ:

μeȷſ ［動詞］ɔɔl は ɥal に采配される、ɔɔl は ɥal 次第である、左右される、ɥal は ɔɔl の命運を握る、～によっては ［反意語］μȷcſ ［レベル］3 1ʔ̀:μeμen:ɪlel:ɔɔȷſ;μȷccɩɪ ［用例］ ☆ ſə μeȷſ senſ lel ɪn ɪμ ſə ɪz. 明日の天気によってそれをするかしないか決めるつもりだ。

μeȷſɪ ［政治］共産主義、社会主義。区別なし。 ［レベル］4 1L ［文化］ イグレスタ共産圏が歴史上存在したが、共産と社会の区別はなかった。

μeȷſɪnſ ［政治］レスタント ［レベル］4 J0 ［文化］ ɥəəɒɪ ʔʔ0Δ メテが私兵団 μeȷſɪnſ を作る。レスタントは超人集団の集まりで、小国のものなら軍隊すら殲滅できるほどの戦闘力があった

μen ［法副詞］～して。μe よりも語調が弱い。 ［レベル］1 1L:μe に指小辞がついたもの ［語法］ μe μen はもともと女言葉だったため、命令の強度に関係なく μen を使うことがある。μen ɑcclɑ のような呪文の結句などがそうである。

μen(J) ［魔法］魔石、魔石類、アクセサリー、タリスマン、アミュレット ［地学］宝石ないし希少価値のある鉱物、宝石、鉱石 ［レベル］2 bellſcɪ 10:ləɑɔ;e 1ʔ:μcɑcɪ: 宝石好きのリディアが作った単語で、ɔɒſɔ などと重複するはずだが、hɔμɔɒſɔ などの言い方を追い出して 1Δ 年現在はこちらの方が造語力があるようだ。接尾辞として使われる傾向が強く、宝石だけでなくアクセサリー全般をさせるようだ。しばしばヴィルなどのヴィードが宿っていると考えられているのがこの μen。

μen(ʔ) ［接尾辞］［言語］言語を示す接尾辞、～語 ［類義語］lec ［レベル］2 J0:μenȷ ［語法］［文化］ lec

μenſ ［名詞］使者、使い、つかい、遣い、メッセンジャー ［レベル］3 ȷɔμn:μenȷ/ləſɔ（伝言を告げる鳥？）

μenſe ［名詞］レンテ ［レベル］2 J0:μen/ſe ［文化］ ɑμecnſ

μenʒc ［死神］恋姫、れんき ［レベル］6 J0 ［文化］ 死神シューゼの持つ雛人形の一人。第一雛。性格は大人しく知的で優雅。容貌はスラっとしていて美しく、黒髪長髪のルティア人。猫に変身する能力がある。 雛人形として生まれたが、生来の優しさで人を助けることを好むようになってしまった。第一雛だったため、造りに失敗したと考えられる。それゆえか、他の雛人形からは蔑視されている。 ul ではアルナに住む一人の錬金術師の相棒をしていた。

μenȷ ［名詞］ことば、言葉、特別な意味を持ったフレーズ、セリフ、コメント ［μenſe］［動詞］lə、唱える ［音楽］歌詞 ［レベル］1 ȷɔpn ［語法］ lə は発話されたものなら何でも可能。ɪlſɔɔ（あのぅ）などもセリフなので lə。μenȷ は意味を持った言葉。しかも ɪɪ, ɪn len lɪl μec（あー、ワインのみてー）のようなただの発話ではなく、ɪn ſccɪ ſc（君を愛してる）のような特殊な意味を持った言葉。慣用句とは異なる。日本語には訳しづらい。 ただのセリフと慣用句の合間に当たる。名言のように、慣用句ではないが、特殊な意味を持った言葉などを指す。だから名言と訳してもいいのだが、あまりにバカなセリフのような悪名言というか迷言も μenȷ に含まれるため、名言だと語弊がある。 ［成句］ hɪɪȷ μenȷ 言葉通り、文字どおり、文字通り、言葉どおり、ことばどおり ɔn μenȷ ɪlſ 言い換えると、換言するならば、換言すれば、換言すると、つまり、いいかえると、言い換えるなら、いわば、言わば、云わば、謂わば ［用例］ acſ μenȷ 言葉を出す、言葉を発する μenȷ ȷɪɪl 印象的な言葉 en eɒ μenȷ 言葉にならない lɪɑ ucl μenȷ 言葉にならない nɪɥ μenȷ 言葉を飲み込む、言おうとしてやめる μenȷ eſ ɥſ. ɥſ eſ μenȷ. ことばは魔法。まほうは言葉。(μenȷ ʔʔ) ☆ ɪn ſcalɪſ μenȷ ɒɪn nɪ nɪl μɪl. 嬉しくて言葉を失った：elɑ は言語そのものの知識や能力なので失えない。 ɪn μenȷɪſ ucl ɑc ɒcl sɔ μɪl. 怒りすぎて言葉が出なかった。 ɔn μenȷ ɪlſ, nɔn ſccɪ ſɥə. I n o t h e r w o r d s , I l o v e y o u (『F l y m e t o t h e m o o n』) μɔɔ, μenȷ lənɪl c ȷel e μecɥə. 唐突に、少女の口から言葉が紡ぎ出される。 cɒ pcl ɑel leeucl ɪl ɪſcɪȷ, lcczɪ eucl μenȷ ueeμ. アトラスに帰る刹那、リーザは最後の言葉を遺した。

μenȷlɔzeſ ［言語］印象的な言葉、レンスコゼット、キャッチ、キャッチコピー ［レベル］4 J1 ［語法］ μenȷ ȷɪɪl と同義。

μenȷlɔzeſɪn ［名詞］コピーライター ［レベル］5 μɑ;/ J0̀ ［語法］ 広告だけでなく、光景追想のような自由律の短詩といった文芸的な作品も含む。

μenȷleɔ ［医療］［言語］言葉に聞こえる病、空耳 ［レベル］4 1L ［語法］ 音楽などが何らかのセリフに聞こえてしまう性質。

μenȷlɪɑ ［音楽］作詞 ［レベル］4 J1

μenȷləəd ［名詞］言葉の暴力 ［反意語］ɒɪcnləəd μɑ;/ J0̀ ［文化］ 言葉を重んじるアルバザードでは言葉の暴力と体の暴力は対等に扱われる。１３年現在の日本では妻が口で夫を怒らせて殴らせれば、一方的に夫がＤＶと誹られるのが実情で、妻が夫を怒らせた元凶であることは事実上無視される。一方革命後のアルバザードでは言葉の暴力と体の暴力は相殺される。また日本では名誉毀損や侮辱罪など、ネット上では警察が取り締まらないので、あってないようなものだが、アルバザードでも革命までは似たような状況であった。革命で取り締まりをきちんと行うようになったことで言葉の暴力は体の暴力に匹敵する悪であるという認識が広まった。

μenȷɔɔ ［言語］言葉遣い、言葉使い ［レベル］3 J1 ［文化］ 十徳は礼・信。

μenȷelɪnuel ［言語］殺し文句、鬱になる言葉、レン・セット・アン・ヴェット μɑ:ſeɔlɔn;/「俺を殺してくれ言葉」 ［レベル］4 J1̀ ［語法］ 現実と理想のギャップや他者と自己のギャップで思わず死にたくなる言葉のこと。単語を見るだけでダメージを受ける。 たとえ元リア充でも現在リア充でなければ過去と現在のギャップでダメージを受ける。 「制服デート」、「自転車二人乗り」、「初々しいエッチ」、「二人で勉強」、「純粋な恋愛」など。死にたい。

μenȷelɑ ［言語］口語、話し言葉 ［レベル］3 1L

μenɑel ［魔法］魔石学 ［レベル］5 1L ［文化］ ɑɔlɒcɥə

μenɑc ［人名］レンディ ［組み数字］1 / 5 ［レベル］4 ȷzl J1 ［文化］ → μɪdɪll

μenɑc(J) ［人名］レンディ J1 ［文化］『夢織』の登場人物。アルナ大１１組の担任。髪は黒のソバージュ。３０代のイケメン教師で、黒灰のスーツ。バンド「フィーナ」のサイドギターと顧問を担当する。

μenɪμ ［魔法］レナール、魔石召喚 ［メタファー］［言語］言語センス。言語センスは魔石のように貴重で、かつ召喚のように高等技術であるという喩えから。 ［類音］ μenɪl。意味も似ているので注意。 ［アクセント］μenʔtμ（召喚）、μEnɪμ（言語センス） ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:μen/ɥſej ［文化］ 魔石の力を用いて召喚する方法。術者が神を召喚するのに不十分な力の場合、魔石を消費する（魔石は砕ける）ことで、召喚を可能にする。一方、術者の能力が十分であれば、魔石は召喚の力を押し上げるのに役立つ。 ［用例］ lɪ ſcl μenɪμ ɔn ləſ lenɑc lɥə. あそこでああ言えるとは、彼は言語センスがある。

μenɪl ［丁寧］言語、言葉、ことば、レナール ［類義語］elɑ ［類音］ μenɪμ ［アクセント］μenʔtl ［レベル］3 J0:μen/ 古 ɪl（言葉 / もの） ［用例］ "cl μenȷ nɔɪn ȷej ɪɥlɪ, ɪlɑc, μenɪl ſəɪn ɪnſcȷȷe, ɑμecn ɔɪ. ɔlſɪ lɪɪbej cſȷɪſ ɔ dcldɪſ nɔn, nɔn μenȷɪſ elɑ ſəɪn ɔɔlɔ leuɪn ɪnnea"「私の言葉は一言漏らさずアルカだった。つまり、お父さんの言葉よ。虐められからかわれても、私はお父さんの言葉を誇って話したわ」(ləlcɪ ɪμbɪzɪμn) : J0ʔ/0ʔ/1̀0̀。イェフダーの息子が虐められた際、「あいつらの言葉は一言漏らさずヘプライ語だった。つまり、父さんの言葉さ」と返した。自分は悪口を言われたが、その相手の言葉はすべて自分の父親が作った言葉だという名言中の名言だ。これを僕は以前娘に教えた。娘は息子とアルカで話す。何語を話してるんだと公園でからかわれ虐められた。そのとき娘はアルカで相手を翻弄した。そして俺に報告した。「私の言葉は一言漏らさずアルカだった。つまり、お父さんの言葉よ」と。「虐められからかわれても、私はお父さんの言葉を誇って話したわ」と。そんな娘を僕は愛している。 君の見る世界は何色なのかな ふたりのことばでおしえてよ ɑcɪ le ſɥə cn ſcl oel ncɒ eɥɔ. μen ɔlſ lɔɔlɔ μenɪl e nɔn ɔ ſɥə. (『ほしのかずだけ』マユミ－ヌ)

μeɑ ［動詞］ɥal を沈静する、鎮静する、落ち着ける、穏やかにする、気を落ち着ける、気を静める、冷める、醒める、宥める、沈める、整理する、整然とさせる、片付ける、整頓する、整える、まとめる、髪などをセットする、怒りを鎮める ［普通動名詞］沈静、鎮静、整理、片付け、セット ［形容詞］マイルドな、カーム、大人しい、おとなしい、落ち着いた ［反意語］ pəəɑ ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɥɔɑ: 古 :ɥəəɑɪc（熱血） ［用例］ μȷccl ɔɔlȷɪſ ɪn μeɑeɒ led. 両親は私に荷物をまとめさせた。 ［メタファー］ μeɑ ɥən μɥəə リュウのように冷静な ɪn μeɑſ enzel nɔȷ ɒɪn nɪ sɔ ſcn. とても腹が立ったので、落ち着く努力をした。 μeɑſ nɪ. 心を落ち着けた。 lc ſə, μeɑſ dɪl ez e lɪɪl. その後、母の部屋の片付けの続きをした。 eɒ μeɑſ 早まるな！

μeɑſ ［軍隊］行進、マーチ ［レベル］3 1ʔ: 制 :μeɑle（整然と行く）

μeɑſnɪleſ ［音楽］マーチングバンド ［レベル］5 J1

μeɑſleɒ ［音楽］行進曲 ［レベル］4 J1

μeɑnɪɒ ［生物］副交感神経 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

μeɑɥəlɪl ［物理］層流 J1

μeɑɪ ［名詞］弁、バルブ ［レベル］3 1ʔ: 制 :μeɑ

μeɑɪſc ［名詞］穏やかさ、整然さ ［軍事］統率、統制 ［レベル］4 J1

μeɑɪn ［医療］鎮静剤 ［レベル］4 μɑ;/ J̀ʔ

μeɑcɪ ［名詞］レフィア ［レベル］3 1Δ:μcɑcɪ:μeɑ/coɪ（調整した左右対称→左右対称に調整する） ［文化］ 呼吸法のひとつ。ヨガやピラティスに当たるもの。 μɑ でリディアが自分の美貌を保持するために編み出したもので、腰痛に悩むセレンに伝えた。ルヴァンは座って行うため、腰痛を悪化させる恐れがある。ストレッチ効果もあるレフィアのほうが腰痛には良い。アレイユではミロクが広め、一般化している。 レフィアは深層筋のストレッチから始まり、表層筋を軽く伸ばした後、ヨガのようなポーズを取って呼吸していく。呼吸はピラティスとは異なり腹式である。また、ヨガと異なり、伸ばすときに常に ɒɒ というハミングを行う。これにより、筋肉がよく伸びる。ハミングをするため、必然的に口呼吸ではなく鼻呼吸になる。ポージングが終わったあとは再度ストレッチをして終える。レフィアの前後には体を温めておく。そうしないと筋肉が伸びず、危ない。 レフィアで重要視されるのは左右対称性である。左右非対称は体の歪みを起こし、よくないとされる。従ってレフィアの観点でいうとユベール、空手、剣道、弓道、合気道などはすべて良くない。特に剣道や弓道は左右の筋肉がアンバランスになる。逆に水泳やサッカーやスキーなどは良いことになる。また、日常生活においても脚を組んだりすることはよくないとされる。寝相も仰向けが良いとされる。 アルカにはレフィアから転じた語義で、coɪ（性格のまっすぐな）、ɪlceſ（性格の捻じ曲がった）などがある。

μeɑɔn ［名詞］シナリオ ［レベル］3 J0:μenȷɑɔnſ（ことばの道） ［成句］ ſ ɪlſ μeɑɔn e l. ſ が l の黒幕である。ſ が裏で糸を引いている。

μeɑɔnlcuɪ ［娯楽］ノベルゲーム ［レベル］3 J1

μeɑɔnlec ［名詞］台本、脚本 ［レベル］3 J1

μebb ［植物］房 ［レベル］3 1ʔ: 制 :μebbɔ（葡萄の形） ［語法］ ブドウのように実がたくさんなったものが垂れ下がっているもの。

μeɥ ［動詞］ɥal を c から辞めさせる、辞める ［普通動名詞］［再帰動名詞］退社、退学、退院、退籍、退職、卒業、移籍、脱退、在籍しなくなること ［反意語］lɔɑ ［レベル］2 @ 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcȷ

μeɥſɪȷ ［名詞］卒業試験 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ ［文化］ ɒeljel, ɑcɪȷel

μeɥφcl ［経済］退職金 ［レベル］4 1L

μeɥdelſ ［名詞］卒業式 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

μeɥȷſ ［再帰動名詞］卒業生、ＯＢ ［レベル］4 J1

μeɥɪl ［魔法］レガル、魔法陣 ［動詞］ɥal を敵に回す、敵にまわす ［数学］解くとパスワードが出てくる問題のこと ［類義語］ɪzeɥ ［レベル］3 1L:μecn/ 制 ɥɪl（円盤）「言語の円盤」 ［文化］ ɑɔ lɒcɥə 魔法を使うときに現れる光の円盤。魔法を使うために地面に描く魔法陣とはまったく異質。ゼビルは魔法を実現するために魔道士が地面や足元に描く魔法陣のことで、用途や場所が異なる。 ［成句］ ȷɪſ μeɥɪl ɪ ɪ にレガルを構える＝威嚇警告する：魔導師が魔法を唱えた状態で、いつでも魔法を放てる状態にしておくこと。レガルが現れ、放たれるまでレガルがゆらゆら回転しつづけることから

μeɥɪlɪnſ ［音楽］歴史歌、覚え歌、レガルカント ［レベル］2 J0 ［文化］ アルナ学校の生徒がセルメルの時代に試験を通過するために開発した歌のジャンルで、主に歴史などをテーマにして歌詞の中に歴史の流れを盛り込んだもの。歴史の流れをそのまま歌詞にして歌うことで、記憶に残りやすい。有志の協力で様々な歴史の歌が作られた。フレマーユ校ができてからはフレマーユ生によってさらに研鑽され、現在でもフレマーユ生によって新しいものが作られている。 歴史以外がテーマになることもある。数学など。 もともと歌魔法を原点としており、その過程でレガルが発生することから、このように呼ばれた。現在は単なる受験用の歌なので、レガルは発生しない。

μed ［名詞］断続、点滅 ［形容詞］断続的、断続的な ［レベル］3 1ʔ: 制 :μɔd ［語法］ オンアンドオフするさま。横断歩道の信号のように付いては消えるもの。また、電飾のように光ったり消えたりするもの。光だけではなく、救急車のサイレンのように鳴ったり止んだりする音、止んだり降ったりふる雨、間欠泉、閉じたり開いたりする瞼なども全て μed。

μedȷ ［再帰動名詞］ウインク、ウィンク ［動詞］ɥəl に ɪ（ウィンクを送る相手）にウインクさせる、ウインクする ［レベル］2 1ʔ: 制 :μedɪdɪ（まばたきの合図） ［文化］ 何か特別な意図があって、しかし声は出せないというときに「今言った言葉には裏があります。察してください」と伝えるときに使う。道すがら異性に行うという習慣はない。また、状況次第では特に意味なく相手をからかうのにも使える。

μeddɪ ［卑語］かため、片目、めっかち ［レベル］3 J1:μedɪn ［文化］ 使わないこと。

μedcn ［動詞］ɥəl をちらちら見る、チラ見する、チラチラと見る ［普通動名詞］チラ見 ［レベル］3 1L:pelcɑcɪ ɪlſe ［用例］ lə ɪllɪz μedcnɪſ lɪ lɪz ɒɪn lə nɪd lɪ. その少年は少女が気になってちらちら見た。

μeb ［植物］葡萄、ブドウ ［レベル］2 lɪlſɪ ［文化］ 食用よりもワインの材料として身近。なお、ふつうブドウの色は紫。マスカットは緑。

μebſɪɑ ［普通動名詞］ぶどう狩り ［レベル］3 μɑ;/ J0̀

μebɒəe ［料理］バルサミコ酢 ［レベル］3 1ʔ: 制

μebɪ ［料理］ブランデー ［レベル］3 μɑ; ↓ 1ʔ: 制 :μebjcɟd（蒸留ぶどう（酒）） ［文化］ jcɟd ワインやビールほどではないが、次に好んで飲まれる。強いので女性はあまり飲まない。

μebɪne ［料理］ぶどうジュース、ブドウジュース、グレープジュース ［レベル］2 J1 ［用例］ ſə μebɪne eſ ɪſlʔ このぶどうジュースはおいしい！

μebɪμc ［名詞］出所の分からないものや情報、親の分からない子供 ［レベル］4 1L: ブドウのつるはこんがらがって、どれがどの房のものだか分からないことから。アルバザードはワインが盛んなので、ブドウは慣用句になりやすい。

μebɪμec ［料理］シェリー酒 ［レベル］5 1ʔ: 制

μeɥə ［形容詞］はかない、むなしい、やるせない、儚い ［レベル］3 1L:ɔɒccμ:μecɒ/ɥənɑc（幽霊のように儚げな）。ここでの幽霊は「幻」のような意味。 ［語法］ 少女が儚いとかそういう意味ではなく、仕事が大変なのに社会貢献に繋がらずむなしいとか、働いても借金返済で消えるのでむなしいとか、そういうやるせない気持ち。やるせないだけでなく、喪失感も示す。すなわち心に穴が開いたような状態。 ［用例］ ɪn ɔɔȷl μeɥəl nɪ. むなしい努力をしているようだ。

μez ［普通動名詞］制限、規制、取り締まり ［動詞］ɥal を規制する、規制する、とりしまる、取り締まる ［レベル］3 1L:μecn/lɔɔz ［用例］ μez ɥȷȷ タバコを規制する

μez(J) ［人名］レレゾナの略称 ［組み数字］１８/２８ ［レベル］1 制

μel ［動詞］ɥal をよろめかせる、ぐらっとする、グラっとする、よろめく ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :μcelə̀l（酒を飲んだときのように歩く）

μelɑ ［動詞］ɥal を隠遁させる ［再帰動名詞］隠遁 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:μɪlɑ lejſɪμ:lejſɪμ

μelɑuepɪnſ ［医療］クラスターＡ。人格障害の。 ［レベル］5 ul;/ J̀ʔ:ɒel

μelaɪȷſ ［名詞］ハーミット、隠者 ［魔法］忍者、レルダスト ［レベル］4 1L:μcɑcɪ ［文化］ → lɔlɔȷ ɪn μɑ では、山村などにひっそりと暮らし、暗殺術を極める集団。ロロスの国が有名。特殊な西洋魔法体系である忍術を使う。

μeleȷ ɥɪlzɪ ［人名］レレス＝ヴァルザ ［レベル］5 古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第４使徒。異性魔王。

μelezɔnɪ ［組み数字］１８/２８ ［交通］レレゾナ通り ［レベル］2 J1

μelezɔnɪ ɥɪlzɪ ［人名］レレゾナ＝ヴァルザ ［組み数字］１８/２８ ［レベル］2 古 : 語源不詳。μe μezɔnɪ ではなく μelezɔnɪ だと指摘された。ɥɪlzɪ は「あの杖」。 ［文化］ (J→) 第４期４代ソーン第４使徒。女性。ɒɪɥə。 １６４ｃｍ、５６ｋｇ。アルマスト派。茶色のショートカットに茶色の瞳。肌は白：黄＝６：４。 ・『ミールの書』より 魔女のような格好をしている女性が１人の男性に大声で文句を言っている。只、魔女の服といっても流石に夏なので薄着をしているようだ。手には物凄く長い杖のような金属性の棒を持っている。あまりに長いので斜めにしておかないと平気で天井についてしまいそうだ。 レレゾナはショートカットの髪形をしている。顔はやや幼げで可愛らしく見えるが、年齢自体はクミールと同じくらい

μ

だろう。髪型の割りにボーイッシュといった感じは見うけられず、むしろ少女っぽいあどけない顔をしている。ただ、その顔つきとは裏腹に彼女の声は大きくよく通る声であり、またとにかく早くよく喋るので聞いているミールはすぐに疲れてしまった。

ɥec ［料理］ワイン、ぶどう酒 ［レベル］3 1ⅱ: 制 :ɥebɥce ［文化］ アルバザードで最も飲まれる酒。アルバザードはワインかビールが一般的。赤ワインは lesebɒɒe、即ち紫。白は ɑcɪ。ロゼは lɪɪɑ。すべて日本語と異なるので注意。 ɟɒ までは密閉技術が悪かったため、すぐに酸っぱくなったので、その年のものが一番美味だった。euɪnslɪn はその名残。

ɥecʃ ［言語］純詞 ［レベル］3 1L:ɥecɪueʃ（寂しい言葉）独立して使われる単語であるから

ɥecʃe ［名詞］００歳代の女、一桁の女 ［反意語］ɪlɥecʃe ［レベル］2 ɥɑ:ɒel;ɥɥecuɑc/ʃe「グレイブリーのような」 ɟʔ:ɒel

ɥecʃel ［名詞］００歳代の男女、一桁の男女 ［レベル］2 ɥɑ:ɒel;/ ɟʔ:ɒel

ɥecɪ ［物理］一次元 ［俗語］一次元、一次、テキスト、文章、文学、ラノベ。主にゲームやラノベやエロゲなどヲタ物の文章を意味するそれを指す。二次、三次に対して使われる。 ［レベル］4 1L:ɥecn/ɪɪlb ［用例］ʃə eʃ ʃcnɪ ɪel ɑɪcɪɪlec eʃ ɥəəɥə lɪlʃ ɥecɪ ʃcj. ラノベは絵無しでも文字だけで萌えられるところが凄い。

ɥeclɪn ［地名］レイシャン ［レベル］5 ɟ0 ［文化］ アルハンテ西部の街。

ɥeclɪnɑɥeɪ ［地学］レイシャン鉄。質の良い剣の材料となる。 ［レベル］6 ɟɟ

ɥecɟ ［地学］せせらぎ、川、小川、瀬、津 ［形容詞］～川。前置。 ［類義語］eɥec、eɥle ［レベル］3 1L:eɥec ［語法］ 瀬（浅く流れの早い川のこと）、津（水上交通の要所）などの区別はない。川の大きさによる。ɥecɟ は小さく補足流れも緩やか。

ɥecn ［名詞］線、ライン ［交通］電車の線（主に複合語で使われ、南北線などの線と、急行準急などの種類のどちらも指す） ［数学］辺、線分、線：ふだんは区別しない。 ［法律］条、条文 ［名詞］条件、言葉、～個、漠然とひとつらなりになっているもの ［レベル］2 1L: 恣意 bɔbɔ:bɔbɔ ［用例］ɪlʃ ɥecn eɪn clɒ ノート（の端）に沿って線を引く。ノートを定規がわりにという状況。

ɥecndɪɒɔ ［数学］線形性 ［レベル］6 1L

ɥecnhɪɾl ［言語］連結体、繋げ文字、筆記体、筆記 1L ［文化］ ɪɟl,ləʃcɪ,hɪclen のように繋げて書くもの。

ɥecnɪ ［魔法］霊感 ［レベル］3 ɟɟ:ɥecɒ/nɪ ［用例］ʃcl ɥecnɪ 霊感がある

ɥecnɪn ［名詞］棒人間 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɪɟbɪlelʃ ［語法］ 線でささっと書いた人の形の絵。日本は胴体を縦線一本で書くが、アルカは胴体を縦長の円で表し、手足の部分には○をつける。日本で手が一本の線で描かれるのは、恐らく手が手と腕の意味を表わすからではないか。

ɥecnɪdl ［数学］折れ線グラフ ［レベル］3 1L

ɥecnɔɔɪ ［数学］線対称 ［レベル］4 1L

ɥecnɔ ［形容詞］孤独な ［名詞］孤独、独立独歩、独立、自立、独立独歩 ［反意語］ɔɔlʔɔl ［レベル］3 ɟɟ:ɥecɪn ［用例］ enɑɪl ɥecnɔ 孤独な老人

ɥecnɔɥəɔ ［言語］自動詞 ［反意語］ɔɔlʔɔlɥəɔ ［レベル］4 ɟ1 ［語法］ eɒ ɑɥeɒ は自然と近付く。 ɑɥeɒ ɪ は意志を持って近付く。 ej lʃɪɒ は自然と立っている。lʃɪɒej は自分の意志で意欲的に立っている。気分の違いで両方とも使いうる。

ɥecneeu ［物理］平面波。波源から離れたところにある波で、波面が平行に線のように並ぶ。 1L

ɥecneel ［名詞］へのへのもへじ ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:ɪɟbɪlelʃ ［語法］ 線で描いた簡単な人間の顔。目、鼻、口、輪郭で構成。耳、眉、歯、髪はオプション。

ɥecu ［動詞］ɥəl をどもらせる、どもる ［再帰動名詞］どもり ［レベル］3 ɟ0:ɥeczueʃ（未知に迷った言葉） ［用例］ ɪn ɪʃ ɥecu ɒɪn nɔd. 緊張でどもった。

ɥecɑ ［名詞］言語音 ［類義語］ɑɔ ［レベル］3 ɟ0:lɪlce:ɥenj/ɑɔ（言葉の音）

ɥecɑnɪɒj ［言語］音印象、音感 ［レベル］4 ɟʔ ［文化］ ɥɟen ɪɟbɪzɪɟɑ ⊠ @ɥɟeɥenɪɟbɪzɪɟɑ 開く @ɪʃʃeuɪʃ ［悪魔］と ［死神］で検索して出てくる中で、韓国人の耳にカッコよく聞こえる固有名詞はどれか教えていただけませんでしょうか。 ʃcɪj eʃʃel ⊠ @ɪʃʃeuɪʃ 閉じる @ɥɟeɥ nɪɟbɪzɪɟɑ bɾlecj beezel ɑelacɪ ɑɥejʃcɪ ʃclʃelej djɔɔɟɪ fel̀ɟɪ lelʃej ɪlhɪcʃ ɪuelɪnʃ ɑcɪlenʃ ɑɥe ɒelʃe lɪjʃcɪ ɔɟɑcɪn ɪɪnφɪɟɑc uɛɥφcnɪ 会話を非表示 ɟ01J 年 ⅱ 月 J9 日 – 1ⅰ:0ⅰ oeb から詳細

ɥecɒ ［魔法］幽霊、お化け、ゴースト、アンデッド、心霊、霊 ［レベル］2 古

ɥecɒjeɾl ［魔法］心霊写真 ［レベル］3 ɟɟ

ɥecɒaejʃ ［魔法］霊媒 ［レベル］5 ɟɟ

ɥecɒɒɪcn ［魔法］霊体、幽体 ［レベル］4 ɟɟ

ɥecɒɥɒn ［魔物］アンデッド系モンスター ［レベル］4 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj

ɥecuɥeʃ ［形容詞］気紛れな、気まぐれな ［レベル］3 ɟɟ:ɥecuə/ʃe ［成句］ cjɪɪl eʃ ɥecuɥeʃ. 奇跡は気まぐれ：果報は寝て待て

ɥecuə ［名詞］乙女、少女、女子 ［反意語］lɪnʃɔ ［類音］lecuə、ɥeuə ［レベル］2 ɟ0:ɥeuə ［語法］ lɪz と ɒɪnɪ の総称。 ［用例］ "eɒɥej e ɥecuə ʃ'ɪɟcɪɑne, ɥe ɑcɟʃ, ɑɥecʔ" 「アリアドネー戦乙女騎士団 捧げー 刀」（ネギま）

ɥecuəɟcɟ ［植物］百日紅、サルスベリ、さるすべり ［レベル］4 nɑ:「乙女の肌のような」 ɟɟ

ɥecz ［動詞］ɥəl を迷わせる、迷う、道に迷う、迷子になる、はぐれる、逸れる、詰まる、つまる、ゲームなどに詰まる ［形容詞］途方にくれた、何をすればいいのか分からない、迷子な、迷った、電話が通じない、はぐれた ［数学］極限において振動した状態 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj :ɥecɪ/ 制 lczb（道に迷う） ［用例］ ☆ ɪn ɪʃ ɥecz ɔn lə ɪl ʃɔ. 何と言っていいか分からず途方に暮れた。

ɥeczlɪlc ［名詞］迷い箸 ［レベル］3 ɟɟ ［文化］ アルティアではマナー違反だが、アルバザードではあまり気にしない。

ɥeczuəlc ［名詞］迷子 ［レベル］2 1L

ɥeczrlcɑɪ ［天文］アルゴル 1L:ɥcɑcɪ/ɟɥen/ɒel ［文化］ リディアがリアントに降らせた流星はウィガル座から来たが、届かず迷子になった星がアルゴル。

ɥeczleun ［医療］燃え尽き症候群 ［レベル］5 ɟɟ:「目標や意義などの道を失ってしまうことで起こる心の病」

ɥecl ［交通］レーン、車線 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɪɟbɪlelʃ:ɥecn/ʃəl（線上のもの）

ɥecl(J) ［化学］チオール 1L:bel/ɥcʃ。あまりｂから始まるのが増えてもややこしいので。

ɥeclɪ ［化学］メルカプト基、スルファニル基 1L

ɥeclɪ,ɟzɑ eɒcɪ <>eɒcɪ

ɥecɪ ［形容詞］さみしい、淋しい、寂しい、さびしい、わびしい 古 :ɒel:ɥecɪ ← ɥecɪn。ɥe c ɪn（私を見て）が語彙化したもの。とても儚くて、メル本人が好きな単語。 ［用例］ el nɪ ɪlle ɒɪn el nɪ ʃəɟ ɥecɪ. 昔を懐かしむのは今が寂しいからだ。 ɪn nɪʃ ɥecɪ leɑ ɒɪn. わけもなく寂しかった。 el bɪj ɑcɪ ʃcj le ʃɥə nɪ ɥecɪ lɪ jeɟeʁ あなたがさびしい世界なんて、いらないでしょ？ "ɒcɟɔʔ lɪɒ lɔʃ jɔɪ lel nɔj nɪ ɥecɪ ɒɪn neʃɪl ɒc lə" 「最初の神さまがこう思ったんだ。ひとりはさびしいーーって」

ɥecɪn ［ɥenʃe］［感動詞］さみしいの、一人にしないで ［ɥenʃe］［形容詞］寂しい ［レベル］2 古 :ɥecɪ 参照。こちらは感動詞で、より原型に近い。nɔn などではなく ɥe や ɪn を使っているのは、この時点での古アルカにおけるメルの口調がそうだったため。 ［用例］ ʃə eʃ lɪɒɪ e jɔɪ ɒcɟɔʔ ɥecɪn, これはそんな寂しい神さまのおはなし。

ɥecɪnj ［電算］レイアンス、ｔｗｉｔｔｅｒ、ツィッター、ツイッター ［電算］ツイート、つぶやき、呟き→ ɥenj ［電算］プログラム中のコメント、コメント ［動詞］ɥəl をツイッターでつぶやく、つぶやく、呟く ［レベル］5 ɟ1:ɥecɪɥenj（独り言） ［語法］ ɥenj 呟き、呟く hɔc フォローする hɔc ɥə フォローされる ［文化］ ツィッターに相当するｓｎｓサービス。レイユで作られた。 アルバザード人は個人主義なので他人が何を面白がるか分からないと考えるため、リツイートはあまり多用しない。ふぁぼを多用する傾向にある。ルティア人はリツイートもふぁぼもせずにあまり連携を持たないことが多い。凪紗は人のＴＬを汚すのは迷惑だと考え、リツイートはあまりしない。その代わりにふぁぼをする。結果的に見ればアルバザード人と似ている。アルバザード人でも南方人は面白いものをみんなで共有したがる傾向にあるため、リツイートを多用し、ふぁぼはほとんどしない。韓国人に近い。 ［用例］ ɪn hɔc alen ʃc ɔn ɥecɪnjδ ツイッターでフォローしてもいいですか。 ɪn nɪ ʃə eʃ led lel el ejʃel ɥecɪnj ɪnʃ cɒen ʃəɔ ɪl ɪɟlɪ, ɒɪn ʃəəj ɪluej ʃɔnjueʃ ɑc ʃ'ɔcφlʃcɑɪcn. 最近の私のツイートは幻訳するのが大変だ。というのも大垣まつりの専門用語を多く含むからだ。

ɥecɪuɟ ［普通動名詞］孤軍奮闘、孤立無援、徒手空拳 ［レベル］3 ɟɟ

ɥecɪucla ［名詞］自家撞着、自己矛盾 ［レベル］4 ɟɟ:「孤独な矛盾」

ɥecɪɥenj ［名詞］ひとりごと、独り言、独白、つぶやき、呟き ［動詞］ɥəl という独り言を言う、言う、呟く、つぶやく ［レベル］3 1L: 寂しいことば

ɥecɪɪll ［数学］7、七。数字の７の異名 ［メタファー］メル。メルの隠喩。 ［レベル］4 1L: 何年だか忘れたが、１０歳前後かせいぜい１３歳くらいあたりのメルが言っていた「７は寂しい数」という概念を、新生に訳したもの→ uejɪll ［語法］ ７はアルカで寂しい数とされる。１ケタの後半台のに約数が少なく、ほかの大きな数の約数にもなりづらいことから、孤独な数とメルが名付けた。メルが７をそう呼んだのはほかにも理由があって、その性格のキツさからアシェットで倦厭されていたことを気に病んで、第七使徒である自分と７という孤独な素数を関連付けたのだと思われる。

ɥeefe ［名詞］脳内彼女、理想の彼女 ［男性］［形容詞］理想的な ［類義語］ɑccɥə ［レベル］4 メル・アルカ :ɥcɑcɪ: ２０００年にリディアが起こした「レーテ事件」から ［用例］ senʃ ɪʃ ɥeefe. 理想的な天気だった。

ɥeej ［地学］オパール ［レベル］4 1L:ɥen/ej（雨の宝石）。～ ɥen が増えすぎたため前置。ej は古で雨の意。実際は ejdɪɑcɥen（虹の宝石）が短くなったもの ［文化］ 利の魔石。現代では幸運の宝石。

ɥeeu ［魔法］レーヴ、生命力、体力、ＨＰ、ヒットポイント ［レベル］3 古 : 元はアレフの残存値を指す単語だったが、死語になっていたもの ［語法］ enuelen

ɥəlle ［形容詞］［名詞］言語を絶する、言語道断 ［レベル］3 ɑ;le は「行く」。ɥəlle,ɑ は「超える、越える」の意味。 古 :ɥəlle（言語を絶する、超える） ［用例］ ʃə eʃ... lɔɔɔ... ɥəlle. なんというかその……言葉にならんな。

ɥəlj ［普通動名詞］通夜、お通夜 ［動詞］ɥəl の通夜をする、通夜をする ［レベル］3 ɑu;ɥəlle/jɔ「（夜を）越える→夜通し行う」 ɟɟ ɥəlj:ɥəlj ［文化］ 死者を弔う前に一晩おいた習慣から。昔の医療が不正確で、稀に弔う前に生き返ることがあったため、一晩おいた。 ［用例］ cɒ acj, ɪn le aelɪ ɑcn ɥəlj ʃ'eɥn ɒɪn ɪn ʃcl lɪl ɪ aellc lc ʃə, ɪɪl cɒ leɟʃ, ɪn ɪllɪɑʃ jcl c aellɪ ɒcl ledj. 今日は親戚の通夜があるが、学校のあと塾があるので学校に行く。明日は葬式なので学校を欠席するつもりだ。

ɥəlɪj ［普通動名詞］完了、完遂、ルーカス ［形容詞］完了した ［動詞］ɥəl を完了する、完了する、終える、終わる、仕上げる、完成する、完成させる、出来上がる、できあがる、できあがらせる、出来上がらせる ［反意語］ləʃcl ［レベル］3 ɟ0: 古 ɥəlle/jɔ（通して行った） ［用例］ ɥe ɥəlɪj aɪj nɔzeʃ. 仕事を完了せよ。 ɪn ɥəlɪjcl ael e ɟɪnɑel lɪnɪ ʃɪj. 代数学の試験勉強が終わった。 ɪn ɥəlɪjcl cl ɟɪɑel ʃ'ɪlɑ. 数学の宿題が全て終わった。

ɥəlɪjnɑ ［言語］完了相 ［レベル］4 ɟ0 ［語法］ 行為動詞・状態動詞の一端、実行段階の一端、内相の一端。単位動詞の中心。 「～した」という意味。

ɥəlɪlcɪ ［地名］ルカリア ［レベル］4 ɑu;ɥəlle/ʌɪl/ɪl ɟ0:ɥcɑcɪ:ɥəlle/ʌɪl/ɪl（越えた土地のもの）フィーリアから見て海を越えたところという意味。 ［文化］ ɒelʃcɪ ΔΦ'0000 に現イネアート、ヒュート、フレディスク、ディミニオン北部に神が建てた国。レスティルの北。

ɥəlɪlce ［アトラスの国家］ルカリエ ［レベル］4 ɟʔ:ɥcɑcɪ

ɥəlclɔ ［名詞］故郷、ホームタウン、古里、故里、ふるさと ［名詞］原産、原産地 ［類義語］nɪlcl ［レベル］3 ɑ;e 古 :ɥəlclɔ（家） ɥəlclɔ:ɥəlclɔ

ɥəlclɔ,ɑ ɪɪ e

ɥəj ［言語］ɥ の文字 ［レベル］1 1ⅱ: 制 : ルシーラ ［語法］ 第１６文字目の幻字。 日本語のラ行を転写する際は ɥ や ɾl でなく l を使う。

ɥəuɪl ［被服］ホーゼン ɟɒ;ɥəuɪc/ɥɔlɔ ɟɟ ［文化］ ɟɒ の傭兵が好んで着たズボン。

ɥəuɪc ［軍事］傭兵、ルーヴァイ、マースナリー、マーセナリー、ゼルドナー、ランツクネヒト、コンドッティエーレ ［形容詞］日和見、日和見な ［レベル］4 zφ;ɥəlle/uɪlɪ ɟ0:ɥəlle/uɪc（柵の外の兵士←よその兵士） x:ɥəuɪc ［文化］ 金銭で雇われ、直接的な利害関係のない戦争に与する兵のこと。古代から存在した。地球の中世のフィレンツェやカルディアの中世のイルケアのように商業中心で栄えたところは兵役がなく金銭で傭兵に頼ることがあり、傭兵団が栄えた。忠誠心が低く、日和見で逃走しやすいことから、国民兵や市民兵に置き換えられることも歴史上あった。

ɥəuɪclccl ［生物］日和見菌、常在菌 ［レベル］4 ɟɟ:ɥcɑcɪ ［用例］ aeʃ le ʃcl lɔʃlɪ ɔn ɥəuɪclccl 常在菌のバランスを保つ働き

ɥəaeʃ ［名詞］ファン、愛好家 ［類義語］ɾɔɔʃ ［レベル］3 ɟɟ:ɥəəɑ/ʃe ［語法］ ɥəaeʃ はファン。ɾɔɔʃ は熱狂的な信者ともいえるレベルのファン。

ɥəɪ ［生物］生物 ［反意語］lənc ［レベル］3 @ 1L ［語法］ 無生物 lənc に対する概念。学問的に正式な意味での「生物」。アルカでは日常的には ləɒ（動物）で「生物」を示すことがあるが、正しくは ɥəɪ。 生物分類は超ドメイン、ドメイン、界、門、網、目、科、属、種の９段階を持つ。地球の分類は８段階で、超ドメインがない。霊人 (lɪn) はそもそも動物界に属さず、ɪʃen に属す。ɪʃen 下の科として霊人が存在する。よって、霊人はサルの仲間ではない。なお、ヒト科については lɪnʃje 参照。 日常語における ləɒ（動物）は、生物学的な分類とは異なり、霊人や犬もまとめて表す。日常語の ləɒ は要するに「動くいきもの」程度に捉えているために、このようなことが起こる。だが、生物学的な意味では霊人は動物界 (ləɒɑcɪɒ) に含まれない。

ドメイン以下については リンネの始めた地球の分類によく似ているのでなじみやすいはずだが、細かいところで違いがある。地球の生物分類は日々変わっているように、不動のものではない。アプリオリであるアンティスにおける生物分類は、細かいところで地球と異なるので注意。 ・生物の分類 超ドメイン (ɪɒɪʃ) : アルテからの派生したもの（エルト、サール、ユーマの一族、テームス、アデル……）と、アルテが分裂した際の余波の結果生まれたもの（動物、植物、微生物……）とに分かれる。 前者が ɪʃen、後者が eʃɪn。 ドメイン (eɒcʃ): アルカは３ドメイン説を取る。すなわち、ドメインを古細菌、真正細菌、真核生物に分ける。 界 (ɑcɪɒ) : より細かく厳密な定義よりも、分かりやすく単純で、多くの国民に理解されやすい分類を好む。 そのため、アルカでは界は４界に分けている。動物界、菌界、植物界、原生生物界である。 門 (cɑɪl) : 節足動物や脊索動物などといったレベル。 亜門 (lelfeɒ) : たとえば脊椎動物は脊索動物のさらに内訳であり、これを亜門 (lelfe) という。 網 (ɪɪlʃ) : 哺乳網、鳥網などのレベル。日常的には「哺乳類」「鳥類」などのレベルのこと。 目 (ɪɪɟɑ): 霊長目などのレベル。日常的には霊長類と呼んでいるレベルのこと。 科 (eɥn) : ヒト科などのレベル。 属 (ɪɪʃj) : ヒト属、モクセイ属などのレベル。例えばギンモクセイはモクセイ科のモクセイ属で、その種としてギンモクセイがある。 なお、キンモクセイは種でなく、ギンモクセイ種の変種。 種 (lcʃe) : 上記のとおり。 ・命名 生物は超ドメイン～種までの９段階で分類されるが、いちいち９段階の名前を付けていたら冗長すぎる。実際には種と属があれば十分なので、この２タクソンを使用する。 種と属はこの順序で並ぶ。姓名と同じである。lecn ɥəʃcɪ はユティア家のレインだが、それと同じことである。○○属の○○種ということで、種属の順に並べる。例えば紗枝の学名は "ɑcɪjɔɒʃ ɪuelɪnʃ"（死神属夢織種）となる。 ・人間と霊人 異世界 ɥəɒɪnɪ の存在を知っているアトラスには、ユマナを蔑 む文化が時代を通じて存在した。本来は現実のアシェットが自分たちを霊人と呼び、それ以外を人間と呼んで蔑んだことに端を欲する。神話ではレカイ人を霊人とし、ユマナ人を人間としている。 生物学では、人間は動物界のヒト科に属する。一方、霊人は ɪʃen に含め、動物界に属さない。つまり紫苑は動物でヒトだが、レインは動物ではなくヒトでもなく ɪʃen の一種。 霊人と人間はよく似ているが、発生も分類も異なる。一部の神学者は人間と霊人の違いを ɑccɑ の有無で捉えるが、『紫苑の書』から分かる通り、人間でも一部のものは魔法を使える。また、ɥɑ の セレン少年も人間であることから、その考えは誤り。ただし、『紫苑の書』は架空の中の架空であるから、反証になるのは異世界の少年セレンの例のみ。 ・一般的認識 一般人は門以上は知らない。網より下しか知らないため、節足動物などというのは存在もロクに知らない。 アルバザード人は日本人より遙かに生物に疎く、自分たち人間のほかには犬猫などの哺乳類、鳥、魚、虫くらいしかいないと思っている。だからミミズなどはすべて虫になる。カエルはさすがに虫とは思っていないが、カエルという分類だと思っている。両生類だということは、進学校の生徒以外分かっていない。 また、ɪʃen の分類は誰でも知っているにもかかわらず、eʃɪn の分類には極めて弱い。蝙蝠は鳥だと思っているし、鯨は魚である。 アルバザード人が生物に弱いのは、そもそも自分たちが ɪʃen であって eʃɪn でないからである。eʃɪn は搾取する対象としてしか見ていない。同様に地球の鉱物資源や自然も ɪʃen でないから環境意識も薄く、自分たちが困らない程度に搾取しようとしか思っていない。ただ、eʃɪn でも犬猫などには愛情を注ぎ、家族のように捉えるという特徴がある。

また、アルバザード人は身近な動物以外には極めて強い嫌悪感を示す。犬猫やリスや小鳥や金魚など、そういったものは可愛いと思えるが、両生類だ爬虫類だ虫だと言ったものには過剰に反応して嫌がる。 ・現実 現実には、言語を担当したセレンと、文化風土を担当し

たリディアが、犬猫などを除いて生物を嫌悪するというところから上記の設定が来ている。　セレンは埼玉の田舎暮らしだが、家が新しかったため遮蔽性が高く、家に虫などが入ってこなかった。そして何より本人が小さいころから人間と猫以外の動物を嫌悪していた。特に虫はアリでも触れなかった。カブトムシは当時の少年だったので飼っていたにもかかわらず、触れなかった。アニメも動物が出てくるものは嫌った。　一方、リディアはフィンランドの片田舎暮らしで、家は粗末だったが、寒すぎて埼玉ほど虫がいない。それで幼少期を過ごしたため、虫などに対する慣れが少なかった。その後南へ移住してから虫を見て、ひどいショックを受け、嫌悪感でいっぱいになった。そのため、アルカは人間およびその周辺以外には冷たい。　また、アシェットとしては自分たちを霊人とし、それ以外を人間としていたため、自分たちと周りを分けることが必要だった。また、隔離することで自分たちの帰属意識を高める狙いもあった。アルカの生物学分類はそういった政治的思想的な求心力を高めるためのものでもある。

ɥəɒɪɑel ［生物］生物学、生物。科目名→ ɑeldɪnʃ ［レベル］4　1L ［語法］［生物］タグは生物学、人体などの器官、動物界植物界以外の生物に付けた。［動物］は動物界、［植物］は植物界および植物学に付けた。　［文化］　アズゲルから存在したが、リュウが体系化した。一方、生物分類はカコでアルシアが大成した。

ɥəɒɑʃ ［魔法］［ジョブ］魔術師、ルーディット　［魔法］ルティア人魔導師（厳密には誤用）　［レベル］3　ɟzɑ　1L:ɥɕɑɕɪ:ɪn 付かないのでは注意　［文化］　アルバザード人は通常 ɥʃɪn で「魔術師」のことを指すので、あえて ɥəɒɑʃ というときは、厳密に魔術師を指したいときと、あとはルティア人魔導師を指す場合である。

ɥəɒɑʃ ［魔法］魔術、ルーディス　［レベル］3　ɟzɑ　1L:ɥɕɑɕɪ:ɥəɒɑɪ　［文化］　西洋魔法アルトのうち、最もアルバザード人にとってなじみの深い一般的な魔法体系。火の ɑɪɕ、水の eɥɕɪ、氷の uelʃ、回復の ɮeɪ、天秤の ɒeɟʃ など。アルシアによって体系化され、時を経てルティアで深く研究された魔法体系。アルシアとルティアの努力と歴史により、あらゆる魔法体系の中で最も整備された体系を持っている。そのため種類が多く、それでいてよく分類されていて扱いやすい。　アルバザード人は通常 ɥʃ というとこの ɥəɒɕʃ を指すので、ɥʃ を「魔法」と単に訳すことが多い。厳密な訳語は「魔術」である。従って ɑɪɕ は黒魔術 (ueɥɥəɒɕʃ) と言うべきであろうが、アルバザード人の一般的な語感では単に ueɥɥʃ としている。

ɥəɒɪ ［人名］ルディア　［組み数字］1 / 1 5　［レベル］4　ˈɪɪɔ: 古アルカでの意味はルディが「氷の魔法」。　［文化］　メテの第 1 使徒。『幻想話集アティーリ』では人間で最強の魔法使いとされる。

ɥəɒɪ(J) ［人名］ルディア　［レベル］5　J0　［文化］　(ɥəəɒɪ ʍʎʕ:ʍΔL1) アルヴェーテ多神教派の中心人物。時魔導師で、極めて長寿であった。　ɥəəɒɪ ʍJʍ1 ɥəɒɪ は多神教のサルト教を樹立し、アルテ教から分派・独立し、selcɪɪ に居を構える。教会は二分され、内紛が起こり、力が弱まる。

ɥəɒɪlɪcl ［化学］アクチニウム　1Δ: 制

ɥəbcc lɔɮɔʃ ［人名］ルビィ＝ロロス　［レベル］4　古 : 語源不詳　［文化］　→ ˈɔhɪˈə　(ʃɕɑ ʕ lɕʃ ɑɪu →) 第 4 期 4 代アルシェ準ハルマ。ラルドゥラの実妹。こちらは実在。

ɥəbce ［名詞］忠誠、忠義、忠誠心　［レベル］4　1L: 古 :ɥəbccʃeeze（ルビィのような）ɥɑ で最も高い忠誠心を示した人物。　［語法］　アルバザード人はこれと決めた相手に忠誠を尽くすことがある。例えばそれは恋人かもしれないし上司かもしれない。忠義は篤く、期間も長く、しばしば一生の付き合いになる。夢織のランヴェムなど。　［成句］　ɥəbce e ˈɪɪlɪn 犬馬の労　［用例］　ɥəbcc ʃcl ɥəbce. ルビィは忠誠心が高い（忠実である）　lɪ jc ɥəbce. 彼は不忠義だ。［メタファー］ʃcl ɥəbce ɥən ɥəbcc ルビィのように忠実な

ɥəs ［人名］ルージュの略称　［組み数字］1 3 / 2 8　［レベル］1　古 :ɔuc ɪlʃ:ɥəəs

ɥəsjel ［名詞］大言壮語　［レベル］3　J.l:ɥəəs/jel

ɥəsɪjl ［化学］ミリスチン酸　1L:ɥɕɑɕɪ: C 1 3 なのでルージュ。カルボン酸の一種。

ɥəl ［形容詞］本当の　［反意語］ɑce　［レベル］2　1L: 赤 :ɥəlc　ɥəlc:ɥəlc:lə ɒcʃlɔ　［語法］　主観的な真偽が本当と嘘で、ɥəl と ɑce。客観的な真偽がまことと偽りで、lɪn と enl。　［用例］　ʃə eʃ ɥəl e, en ɑce ɑeel. 本当よ、嘘じゃないわ。

ɥəlnɪ ［名詞］本音、本心　［動詞］ɥəl を実感する、実感する　［普通動名詞］実感　［類義語］ɑcɔnɪ　［レベル］3　1L　［成句］　c{ʃɔn} ɥəlnɪ 心から、心の底から、本音で→ c ɑcɔnɪ

ɥəlc,ɑ ɥəl、lɪn

ɥəɪn ［動詞］ɥəl を ɪ まで押し広げる、押し広げる　［動詞］ɥəl（果汁など）に水などを加えて還元する、還元する　［電算］［動詞］ɥəl という圧縮ファイルを解凍する、解凍する　［数学］［動詞］ɥəl（数式）を展開する、展開する　［電算］［普通動名詞］解凍　［数学］［普通動名詞］展開　［普通動名詞］還元　［反意語］lɔcʃ　［レベル］3　J0:ɥɔʃ/hɪn を複雑に変化→ルーアン　［語法］　圧縮の逆。パン生地のように押して大きくすること。

ɥəəuen ［アトラスの国家］ルーヴェン　［レベル］5　J.ʔ:ɥɕɑɕɪ

ɥəəɑ ［名詞］興奮　［形容詞］興奮した、乱れた。他 ɥeɑ の反対となる語義多数。　［動詞］ɥəl を興奮させる、興奮する、熱くさせる、乱れる、乱れさせる、乱す、（場所などを）荒らす、覚醒させる、覚せいさせる　［魔法］ルーフ（バーサク）。害の中位白魔法。味方の攻撃力をあげる代わりに理性が吹き飛ぶ。　［反意語］ɥeɑ　［レベル］2　ɟzɑ　1L: 赤 :rɦəəɑɪc　ɥəəɑɪc:ɥəəɑ　［成句］　eɒ ɥəəɑ{ɑɪɪn} ɪ 夢中になる、熱中する、はまる、ハマる　eɒ{ləʃ} ɥəəɑ ɒcl uelɑ 酒癖が悪い　［用例］　ɪn hɕnɔʃ ɥəəɑ en ɒeɥel. 私は興奮を抑えきれなかった。　ɪn nɪʃ ɥəəɑ ɒɪn nɪ ʃlə ɥɪl. あまりに恥ずかしくて気が動転した。　ɪn nɪʃ ɥəəɑ ɒcl hɕʃ. 私は慌ててあたふたした。

ɥəəɑʃɔʃ ［形容詞］場末の、閑古鳥がなくような　［レベル］4　J.l:「荒れ果てた芝生」。アルバザードは放っておくと芝生が生える土壌だが、手入れをしていない芝生なので ɥəəɑ な状態で生える。そこから場末や閑古鳥を示すようになった。

ɥəəɑjɕɥ ［美容］肌荒れ、肌あれ　［レベル］4　J.l

ɥəəɑɪɪɒ ［生物］交感神経　［レベル］4　1L:ɥɕɑɕɪ:ɪɥbɪlelʃ

ɥəəɑɥəɲɔ ［動詞］気迫　［レベル］4　J.l:「興奮した霊力」［用例］　ɥəəɑɥəɲɔ ʃɕnˈlɪ 凄まじい気迫　cˈl ɥel ɒcl ɥəəɑɥəɲɔ 気迫に圧倒される

ɥəəɑɥəlɪl ［物理］乱流　［レベル］5　J.l:「乱れた流れ場」ではなく「乱れた流体」が原義となっている。

ɥəəɑɪn ［医療］覚醒剤、覚せい剤　［反意語］ɥeɑɪn　［レベル］4　ɥɑ;/　J.ʔ

ɥəəɑɪc ［形容詞］躁な　［医療］躁、そう　［反意語］elɟ　［レベル］3　古 ɥəəɑɪc（興奮した）

ɥəəɑɪcˈlɔdleʃ ［音楽］メジャーコード　［レベル］5　J.l

ɥəəɑɪcɑɪnɑ ［音楽］ヒップホップ　［レベル］5　ul;「躁に盛り上がる」　J.l

ɥəəɑɪcɑɔɔnɪ ［音楽］長調、メジャー　［レベル］4　J.l

ɥəəs ［組み数字］1 3 / 2 8　［交通］ルージュ通り　［名詞］ルージュ組。アルナ大のクラス。　［レベル］2　J.J

ɥəəs beeɟ ɒcɑccʃ ［人名］ルージュ＝ベース＝ミディート　［組み数字］1 3 / 2 8　［レベル］2　古 :ɥəəs は語源不詳。beeɟ は古で「最後」の意。ルージュがアルシェの使徒であることからオヴィが付けた。ミディートは『カコ』で小説アンクノットに記載。　［文化］　(ʃɕɑ ʔ →) 第 4 期 4 代アルシェ第 1 3 使徒。男性。ɪɥɑen/ɪlben。 1 7 4 c m、7 0 k g。髪は金色で短く、直毛でツンツンでしている。ヘーゼルの瞳。肌は白：黄＝9 ： 1 。

Z

zɥ ［歴史］アズゲル、ɪzɥeɥ　［レベル］3　J.l

zɪ,ɪlʃ zɔɒ　zɪɒɔ,ɑ.lɔˈl

zɪʃ ［名詞］たんす、タンス、箪笥　［反意語］lʃɪʃ　［レベル］3　J0:zɔɒ/lɪʃɪl（木の入れておくところ）［用例］　ɪn ɑɪʃclɪʃ jɪb c zɪʃ. 洋服ダンスから服を取り出した。

zɪl ［動詞］ɥəl を ɪ に掠らせる（軽く接触させる）、掠る、掠れる、かする、かすれる、掠める、かすめる　［普通動名詞］かすり、掠り　［レベル］3　J.l: オノマトペ

zɪlj ［動物］いわし、イワシ、鰯　［レベル］3　ʔ: 制 : 古 :zɪl（鰯）。語源不詳

zɪlɪlbɪuc ［化学］ビタミンQ、ユビキノン、コエンザイム、コエンザイム 8 1 0　［レベル］5　ul;/　J.ʔ

zɪn ［名詞］古アルカの 7　［レベル］3　赤→ jɕɑɪll

zɪn(J) ［人名］ザナの略称　［組み数字］9 / 2 8　［レベル］1　jeɥen

zɪn,ljl ɥ zɪɒɔn.l

zɪnʃe ［軍事］迷彩　［レベル］5　J.l:zɪɕn/ʃe

zɪnʃejɪb ［軍事］迷彩服　［レベル］6　J.l

zɪnʃedeˈl ［軍事］光学迷彩、迷彩技術　［レベル］6　J.l

zɪnl ［名詞］用事、用件、用　［レベル］3　1ʍ: 制 :zɪn　［用例］　ɪn ʃcl zɪnˈl uɔll cɒ ˈeɟʃ. 明日重要な用件がある。

zɪnjeɥɥ ［経済］投機　［レベル］5　J.l:「ギャンブル的な投資」→ jeɥɥ

zɪnueɥ ［魔物］ザンヴェル（怨恨樹）：第三十六天：土の氷天　［レベル］5　1L:ɥɕɑɕɪ/jeɥen/ɒel: zɔɒ/ɪnueɥ　［文化］　霊族。殺されて埋められた人間の死体を吸って大きくなった魔物。大木で、無数の根の先には殺された人々の上半身が付いている。枝は殺された女と子供の上半身からなり、一人一人が呪いのこもった魔法を放つ。体力が多く、魔力も尋常ではない。枝と根を根絶すると幹の上半分が折れ、切株の中から最初に殺された若い女の死体が上半身を表わす。こいつを倒せば勝利。

zɪnueɥzedl ［天文］北斗七星の一部　［レベル］5　1L:ɥɕɑɕɪ/jeɥen/ɒel　［文化］　日本のものとは星座線と星の数が異なる。ザンヴェル内で構成され、ウェクダ、メクレスなどを含む。メラクは含まない。

zɪnueɥɪnʃ ［医療］新型うつ病、適応障害　［レベル］5　ɪl;zɪnɪ/ueɥɪnʃ。これは新しい人格障害として ɪl で見つかった。　J.ʔ　［文化］　新型うつ病だけでなく、一部の適応障害も含まれる。

zɪnɑ ［名詞］アドレス、宛先、宛名、宛て先、名宛、名あて、なあて、名宛人　［電算］アドレス　［レベル］3　1ʕ: 制 :zɪn

zɪnɑɑɔnʃ ［電算］アドレスバス、パス　1L

zɪnɥe ［単位］ザンゲ　［レベル］5　J.l: 古「円の木」で樽のこと　［文化］　ɪnˈlɔ

zɪnɥe(J) ［生物］［医療］髄　jzl　JΛ

zɪnɥe.ɑu zɪnɥe、zɔɥl　zɪɒɔ/ɥe

zɪnɥeɪɥˈl ［生物］［医療］髄会　ɥɑ;/　JΛ

zɪnl ［娯楽］サイコロ、さい、賽、ダイス　［レベル］3　1ʔ: 制 :zɪnɪlɪɟ「ザナドゥの手」。古では zɪn ɪoɪ。　［用例］　dcl zɪnl サイを振る

zɪnlɪlL ［名詞］さいころの目、サイコロの目、出目　［レベル］3　1ʍ: 制 : さいころの数

zɪnɪ ［組み数字］9 / 2 8　［交通］ザナ通り　［名詞］ザナ組。アルナ大のクラス。　［レベル］2　J.J

zɪnɪ,ɑ lʃɪɒ　e

zɪnɪ uɔzɪɒ ɥenɔɟ ［人名］ザナ＝ヴォザム＝ゲノス　［組み数字］9 / 2 8　［レベル］2　古 : ザナは語源不詳。ヴォザムはヴォザモを隠語化したもので、ヴォザモは弓矢の意。ゲノスは『カコ』。　［文化］　→ zɪnueɥɪnʃ　(ʃɕɑ L →)　第 4 期 4 代アルシェ第 9 使徒。男性。jeef。 1 6 8 c m、5 2 k g。 1 0 代のころは髪の色がやや金に近かったが、2 0 代ごろからわりと色が濃くなってきた。亜麻色と金の間で肩より短い髪で、猫っ毛。緑の瞳。肌は白：黄＝6 ： 4 。　ミリオタでゲーオタ。性格は明るく軽い。というかチャラい。好きなことには熱中するが嫌なことだと無気力や鬱っぽくなったりすることが一面もあるため、zɪnueɥɪnʃ の語源となった。［成句］　zɪnɪ dclɑɪn bɪɑ ɥə ɥɕɑɕɪ 口は災いの門。ここでは言えないようなことでリディアをからかって泣かせ、その後殴られたことから。　jeɥn e zɪnɪ lɪnʃ uɪɑe ɪl ɪleʃ ザナの浅知恵、アシェットに大迷惑：生兵法は大けがのもと

zɪnɪl ［名詞］不屈　［組み数字］4 / 6　［レベル］4　J.l: 古 zɪnɪ/lɪl「立ち続ける」＝「負けない、屈しない」　［文化］　負けるものか、くじけるものかという不屈の精神のこと。　（立ち続けるが語源だが、日本語の「屈しない」もおおむね同じ語源ではないか？字からして膝を折らないとか座り込まないということであろう。よく人の心が現れた良い表現だ）

zɪu ［数学］ベクトル　［レベル］5　lˈlʃɪ: 矢 / 力。力の部分がスカラーで、矢はそれをベクトルにするための方向を表わすのだろう。

zɪuɑə ［数学］ベクトル量　［レベル］5　J.l

zɪɒ ［生物］脚　［反意語］ʃɪˈl　［レベル］1　1L: 古 :dɪdɪzɪɒɔn（バレエなどの踊りをする少女の白い脚）から。　ɮəɔɪ,ɑ:ɮəɪ,ɑɥɑ:ɮə dcɥɔn（棒状）:jɪɥɔ,ɪlʃ　［用例］　zɪɒ nɔɪn ɪnɑ ɒɪɥ ɒcl uɒɒ. 恐怖で足が震えていた。

zɪɒʃ ［動物］キツツキ、啄木鳥、ウッドペッカー　［レベル］4　lˈlʃɪ:zɪɒʃ ← zɪɒɔɮəʃɔ（木の鳥）から。

zɪɒj ［動詞］ɥəl をまたぐ、またぐ、跨ぐ　［動詞］ɥəl を 1 つとばす、飛ばす、省略する、省く、飛び級する→ lɔˈl　［化学］昇華の日常的な言い方　［レベル］3　1ʍ: 制 :zɪɒɔ

zɪɒɑɔnʃ ［交通］歩道　［レベル］3　1L:ɥɕɑɕɪ:ɪɥbɪlelʃ　［語法］　lɪnɑɔnʃ

zɪɒɒcˈlL ［卑語］びっこ、ビッコ、跛　［レベル］3　J.l　［文化］　使わないこと。

zɪɒd ［名詞］案山子、カカシ、かかし、スケアクロウ、スケアクロー　［レベル］4　ʔ: 制 :lˈlʃɪ:zɪnɪz ɪɒɔ（立っている木）

zɪɒɪ ［ユマナ］釈迦、仏、仏教　［レベル］4　古 :zɪɒɪ,zɪɒɔɥəəɒɪ「木の人間」

zɪɒɪɥəˈlɪle ［ユマナ］［宗教］仏教　［レベル］4　J.ʔ

zɪɒɕɪ ［地名］ザミア　［レベル］6　古　［語法］　ソエンの谷を越えたところにある街。近くにザミア森林があり、異性魔王アシュが黒い城を建てて潜伏した。ザミアの森はラルドゥラ、ザミア郊外はギルとの出会いの場。

zɪɒɔ ［生物］股、股間　［動詞］ɥəl を ɪ にまたがらせる、またがる、跨る　［レベル］2　ʔ: 制 : 古 :z ɪɒɔɒɪcn（体の中で木の枝のように分かれているところ）［語法］　脚は開けるが股は開けないので、hɔɒ zɪɒɔ は不可。hɔɒ zɪɒɔ だと股関節を開くという意味になる。

zɪɒɔ,ɑ zɔɒ　zɪnɪ/ɒɔ zɪnɪ が「立つ」。ɒɔ は形。「立つ形の」

zɪɒɔˈlɔdleʃ ［音楽］バレーコード、セーハ　ɥɑ;/「またがっているコード」　J.ʔ　［用例］　ɪɥ zɪɒɔˈlɔ dleʃ c ʃ ɪ ˈl ʃ からˈl をセーハする　ɪɥ zɪɒɔˈlɔdleʃ ɪl cl zɔl 全ての弦をセーハする　ɪɥ zɪɒɔˈlɔ dleʃ c ʃoɪɥ ɪ lɪɥʃ 1 弦から 4 弦までセーハする　ʃeeue ɑel ˈlɔdleʃ eʃ zɪɒɔˈlɔdleʃ ɑɪ. F のコードはセーハが必要だ。　ʃ eʃ zɪɒɔˈlɔdleʃ ɑɪ. F はバレーコードだ→ ˈlɔdleʃ

zɪɒɔn ［魔法］［アイテム］杖、魔法の杖　［類義語］ɪɥzɔn　［レベル］3　zɥ;zɪɒɔn,ɑu.heɒ　赤　［文化］　ɪɥ zɔn

zɪɒɔn,ɑu zɪɒɔzɪɒɔ,ɑu　zɪɒɔ/n

zɪɒɔnueɥɪnʃ ［医療］杖型人格障害　［レベル］5　ɪl;/　J.ʔ:jeɥen/ɒel　［文化］　ueɥɪnʃ

zɪɒɔzɪɒɔ,ɑu zɔn、zɔn e zɔɒ　/

zɪɒɔzɔl ［音楽］チェロ　［レベル］5　ʔ: 制

zɪɒɔɔɥɪ ［生物］股関節　［レベル］3　1L:jeɥen

zɪɒen ［被服］ビキニライン　［レベル］4　J.l:zɪɒɔ/ɥecn

zɪɥ ［擬音］がさごそ、ざくざく。落ち葉や紙などを踏んだときの音、書類の山を探すときの音。　［レベル］3　1L: オノマトペ　［用例］　ɪn ɮəˈlʃ ɑɔnʃ le ɒeʃʃeˈl lɪ ɑɔ zɪɥ zɪɥ. 落ち葉の中をざくざく音を立てて歩いた。

zɪdl ［生物］気管支　［レベル］4　1L:jeɥen:zedl/ɟɪdl

zɪdlɑɪcz ［医療］気管支炎　［レベル］5　1L

zɪdlhɪh ［医療］気管支喘息　［レベル］5　1L:jeɥen

zɪl ［形容詞］［ネガティブ］不思議な、奇妙な、変わった、妙な、変な、風変わりな、おかしな、見馴れぬ、みなれぬ、見慣れぬ、異様な、おかしい、突飛な、不自然な、不可解な、いかがわしい、奇抜な　［反意語］ɥəɒcl、ˈlɔɔɔɟ　［レベル］2　ʔ: 制 : 古 :jɕɑɕɪ:ɪclɪc,zɪclɪc。zɪclɪc は ɑɪcz/ɪclɪc で、z が ɪclɪc にくっついてしまったもの。ɪclɪc はスライムであり、不思議なという意味もある。ɑɪ czɪclɪc（ダイズアイライ）は王様スライムのことで、最強のスライムの意味。　［用例］　ɪn nɪʃ zɪl cɒ ɑcj. 今日はヘンな気分だった。

zɪlˈl ［生物］鼠径部、鼠蹊部、鼠頸部、鼠頸部、鼠経部、鼡径部、ソケイ部　［レベル］4　J.l:zɪɒɔ/ʃɔˈl

zɪlˈljɪcj ［生物］鼠径溝、鼡径溝　ɥɑ;　JΛ

zɪlˈlɒɔd ［生物］鼠径靭帯、鼡径靭帯　ɥɑ;　JΛ

zɪlnɪ ［名詞］変な感じ、不思議な感じ　［レベル］3　1L:ɒelɕɑɕɪ ɪlcj

zɪlsenʃ ［気象］異常気象　［レベル］4　1L:ɥɕɑɕɪ:ɪɥbɪlelʃ

zɪleɥ ［動詞］ɥəl を冒涜する、冒涜する　［普通動名詞］冒涜　［レベル］4　J.l:ɪlej/ˈlə　［語法］　神、非常に位の高い人物、神聖なもの、処女の貞操などを貶め汚す場合に用いる。例えば zɪleɥ ɥɔlɑɪ とは言えない。

zɪɪn ［動詞］ɥəl をざわめかせる、ざわめく、衣ずれさせる　［自然動名詞］ざわめき　［擬音］衣擦れの音　［レベル］3　古　［用例］　zɔɒ ɪnɑ zɪɪn. 木々がざわめく。

zɪɪɸ ［動詞］ɥəl（水など）をｉにざばっとかける、かける ［類義語］jdɪl ［レベル］2　古：オノマトペ ［用例］ɪn zɪɪɸ eɥ ɟɔɥſ lɪ eɥl. 風呂で冷たい水をかける。

zɪcn ［サール］ザイン ［軍事］スパイ、諜報員、諜報、間諜、偵察 ［動詞］ɥəl を偵察する、偵察する ［レベル］3　ɸcl: 古 ［文化］ 透明で見ることのできない手長猿型のサール。力はなく戦いには向かないが、諜報能力に優れる。

zɪcɒ ［色］透明な、シースルー ［レベル］3　1L:ɔelcɑcɪ ɪlcj:zɪcn/ncɒ

zɪcl ［料理］ゼリー、ジェリー、ジェロ、ジェル ［レベル］2　1ʔ: 制 :ɪclɪc（スライム）

zɪɔ ［名詞］ゼラチン ［レベル］5　1ʔ9: 制 : 古 :zɪclɪc(ɪclɪc)「 スライム 」

zcɪ ［形容詞］次期、後釜の ［反意語］sɪſ ［レベル］4　@ 1L

zcɪueſ ［論理］選言 ［レベル］5　1ʔ: 制

zcɪɔ ［名詞］選択肢 ［名詞］候補← ɪɟcz ［レベル］3　1ʔ1: 制 :zcɪ ［用例］ leeu zcɪɔ ɟɔl は選択肢から外れる

zcɪɔdeɥ ［経済］オプション ［レベル］6　1L

zcɒ ［政治］票 ［動詞］ɥəl に投票する、投票する ［普通動名詞］投票 ［レベル］3　1ʔ: 制 :zcɸɒɪɟ（選ぶ紙）

zcɑ ［生物］あご、顎 ［レベル］2　μɑ　1L: 古 :ɑzc　ɑzc:ɑzc ［語法］ ɪɟcɑ ［用例］ zcɑ lcɟ 顎が細い

zcɑɥəlɪſ ［動詞］［非言語］ɥəl に顎をくいと動かして指示させる ［レベル］3　J0:ɒelcɑcɪ lceɥ ［用例］ ɪn zcɑɥəlɪſſ lɪ ɪ jeɑ lec. 私は彼を顎で使って本を取らせた。

zcɑzeɪſ ［生物］オトガイ、おとがい、頤 μɑ;/　J0

zcɑɔd ［名詞］脚注→ lec ［レベル］6　J1

zcɑeelcn ［生物］下顎後縁 μɑ;/　J0

zcddɔ,ɑ μeſ

zchɔ ［動物］ワニ、鰐、アリゲーター、クロコダイン ［レベル］3　1ʔ0: 制 :lɪɪſɪ:ɑzchɔ「 歯 」からきている。

zchɔɪɪɑ ［地球の国名］レソト　1L: 国章にワニ

zcɥ ［動詞］ɥəl を決めあぐねる、決めあぐねる、迷う、困る ［反意語］sɪl ［レベル］3　@ 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj

zcſɔncɪ ［アトラスの国家］ジルコニア ［アクセント］zcſɔncᐟ ［レベル］5　J1:μcɑcɪ

zclcɔſ ［数学］歯車式計算機　J0: 古 :ɑzchɔhɔlɔ/ſe（歯車の） ［文化］ cɒəl 1ʔ1ʔ0 に時の経済省からの要請を受けて、cɒəl 1ʔ1ʔ1 に clɒc ɪɪcnɪɟ が開発したもの。歯車を用いたもので、加減法しか扱えなかった。　cɒəl 1ʔ1ʔΔ に息子の ɪɟelſ ɪɪcnɪɟ が乗除算にも対応したものを作る。ɪɟelſ は二進数の考えを導入し、多段式の歯車を用いた。しかし ɑclcɟ ɒɪcn の姦計により、ɪɪcnɪɟ 親子は国家反逆の罪を着せられ処刑。アステルトの計算機は公開されないままマイン家に隠された。　cɒəl 1ʔ1ʔʃ に ディリスの子孫である hɥəlɪ ɒɪcn により再発見され、経済省に引き渡され、ようやく実用化に至る。　この計算機の二進法が後のリュウの電動コンピュータに影響を与える。

zclɔ ［名詞］歯車、ギア、ギヤ、変速装置、ギアボックス、はめ歯歯車 ［交通］ギア ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔhɔlɔ ［文化］ 車のギアは通常５速まで。スポーツカーなどは６速まで。呼び方は例えば１速が zclɔ １。 ［用例］ ɔɪnc e zclɔ eɒ ɑɔnl ɪ lɔ. 歯車の歯が咬み合う。　ɒcɥə zclɔ ギアを変える、ギアチェンジする

zclɔſ ［交通］クラッチ、クラッチペダル ［レベル］5　J1

zclɔɸel ［軍事］歯輪式 μɑ;/　J0 ［文化］ ɸel

zclenɸɔ ［地名］ズィレンゴ、ジレンゴ　ɑ;e ［文化］ セルア山の麓にある湖。

zcɪn ［単位］１０の－２７乗　J1:elcɜcɪn

zccn ［動詞］ɥəl を覗く、覗く、のぞく ［普通動名詞］覗き、のぞき ［レベル］3　1ʔ9: 制 : 見るから n を付けた

zccnɒɪl ［名詞］覗き穴、覗きあな、のぞき穴、のぞきあな ［工学］ファインダー。カメラの。 ［レベル］4　μɑ;/「覗き穴」| μſ　J0 ［文化］ カメラのファインダーはその後 ɪl で穴だけでなく液晶画面にもなったが、下駄を入れずに下駄箱というのと同じ理屈で、言葉だけは穴でなくとも zc cnɒɪl と呼び続けている。

zcɔ ［生物］牙 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ɑzchɔ　ɑzchɔ:ɑzchɔ

zcɔn ［被服］トッグル、トッグルボタン ［レベル］6　J1

zcɔnelb ［被服］ダッフルコート、トッグルコート ［レベル］5　J1

zcɔl ［動詞］ɥəl を解析する、解析する ［普通動名詞］解析 ［レベル］4　J1: 古 ɑzchɔ。ここでは歯車。

zcſ ［動詞］ɥəl をよじ登る、よじ登る ［普通動名詞］よじ登り、とうはん、登攀 ［反意語］ɪlzɔſ ［レベル］3　ɑu;e　古 :ʒɔſ

zcſɑɔɟſ ［名詞］ザイル ［レベル］6　μɑ;/　J1

zɔl ［名詞］トップ、頂上、頂点、屋上、山や建物の屋上、天板 ［生物］頭頂（つむじ、旋毛、旋風を含む） ［名詞］転 ［名詞］応用、活用 ［美容］トップ ［動詞］ɥəl を応用する、応用する、活用する、活かす→ zɔlɸe ［動詞］ɥəl をｉまで拡張する、拡張する→ ɪdcɟ ［普通動名詞］応用、活用、拡張 ［電算］デスクトップ ［名詞］主席 ［文字］アペクス ［生物］百会 ［類義語］zɔl、ɪdcɟ ［反意語］zelſ ［レベル］2　先 zɔl（頭） ［文化］ 屋上は一戸建てにはない。集合住宅の最上階で、上に空が見える。大抵緑地化されている。ここを公園とする集合住宅もあり、密集地帯に多い。

zɔlɟ ［動物］ラッコ ［レベル］3　lɪlſɪ: 貝を壊す者。ɑzəl/hɔlɪl/ɟ からだろう。

zɔlɑɪnſe ［法律］応用法 ［レベル］4　1L ［文化］ 基本七法以外のすべての法。基本七法に続いてカサンが主体となって作成した。ヴェレイの法を参考に、新時代に合うように組み替えたもの。ヴェレイの時点で法は２０００本ほどあったため、応用法のほうが遥かに多かった。

zɔlɑɪnſe ［遊離副詞］［形容詞］まさに～したての、ちょうど～したての、できたてほやほやの ［類義語］ɑɪnſe ［レベル］2　J0: 頂上を越えたばかりの ɑɪnſe。 ［語法］ lɪczɪ

zɔldɪnſ ［名詞］応用科目 ［レベル］2　μɑ　J1 ［文化］ aeldɪnſ

zɔlɪn ［名詞］勝ち組 ［レベル］4　J1

zɔleſ ［形容詞］究極の、昇りつめた ［レベル］3　μɑ;zɔl/ſe　J1

zɔn ［名詞］杖、棒、スティック、棒切れ、ロッド、さお、竿、バトン ［音楽］スティック、ばち、バチ、撥、マレット ［運動］棒や杖状のものとボールを使って行うスポーツ ［俗語］ちんこ ［電算］バー。スクロールバーなどのバー。 ［言語］［文字］バー ［名詞］キュー。ビリヤード。 ［類義語］ɪuelef、ɪμzɔn、zɪɒɔn　μɑ;zɪɒɔn.l ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :zɪɒɔzɪɒɔ,zɪɒɔn ← zɪɒɔ（木）から派生。 zɪɒɔn:zɪɒɔn:lə ɑcz:lc,ɪlſ　ɪuɔ, zɪɒɔn, zɪɒɔzɪɒɔ: ［用例］ zɔn ɑcl 長い棒

zɔnſ ［数学］桁、ディジット、位、くらい ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :zɪɒɔ。zɪɒɔ は木という意味だが、数字の桁を示すアポストロフィーのようなものを zɪɒɔ（木）と呼んでいたので、それを制アルカ風に呼んで zɔnſ とした。zɔn は制アルカで木である。 ［用例］ zɔnſ ɑc{ɑcl} たくさんの桁、大きな桁。桁数が多いと横に数字が長くなるので ɑcl ともいう。

zɔnſjeɑ ［経済］デノミネーション、デノミ ［レベル］4　J1:「桁切り」

zɔnſjeɑ e ſoen ［経済］神のデノミ ［レベル］5　J1 ［文化］ ɟɔlſ ʔJ0 年にミロクが行ったデノミ。μɑ 程度の水準にまで引き下げた。

zɔnſeu ［数学］位取り ［レベル］3　J1 ［語法］ ɪlſ

zɔnɒɪɟ ［名詞］ゾンマス ［類義語］belɒɪ ［反意語］ɪlɒcɑμe ［レベル］4　ul;zɔn/ɒɪɟ。剣と盾に対し、棒きれと紙。　J1ʔ ［文化］ 現実のどうしようもない男どものこと。

zɔnɒɔɔl ［芸術］パステル ［レベル］4　1ʔ: 制 ［語法］ パステルカラーのという意味では ɟclɑen。こちらはあくまで ɒɔɔl。

zɔnɑ ［動詞］ɥəl をショットする、ショットする、打つ、撃つ。ɸell より弱い。 ［普通動名詞］ショット ［レベル］3　1ʔ0: 制 :zɔn

zɔnɑclɑɪc ［医療］棒灸 μɑ;/　J0

zɔndɔ. ［料理］バゲット ［レベル］3　1ʔ1: 制

zɔnlcl ［化学］ネオン ［レベル］4　1Δ: 制

zɔnlɔɔb ［被服］キャスケット μɑ;/　J0 ［文化］ ɟɒ でできた。

zɔnɪ ［音楽］木琴 ［レベル］3　" E e s t e ┤ I n K u k u l i e l e m ┤ n ♪ " では固定的に zɔnɪ という音形 , 木の音という意味だそうだ

zɔnɪdl ［数学］棒グラフ ［レベル］3　1L

zɔnɔ ［名詞］蝋燭、蠟燭、ロウソク、キャンドル ［レベル］3　1ʔ: 制 :zɔnɒɔɔ（棒状の蝋）

zɔnɔele ［名詞］燭台 ［レベル］5　J1 ［語法］ ele

zɔne ［運動］ラケット ［レベル］3　1ʔ: 制 :zɔn

zɔɒ ［言語］z の文字 ［数学］三角関数の三角形におけるｏｐｐｏｓｉｔｅの辺。 ［生物］Ｙ染色体 ［名詞］立ちバック ［象徴］生命力 ［レベル］1　ɑ;e　1ʔ0: 制 : 木　zɪɒɔ:zɪɒɔ::zɪ,lſ ［語法］ 第１７文字目の幻字。 ［文化］ ・性交の体位　　男女が立って後ろから挿入する体位。女性がしばしば木や壁などに寄りかかること、また彼ら自体が木に見えることからこのように言う。

zɔɒ(J) ［植物］木、樹木、ウッド ［類義語］ɔnɔe、lecɑcɪnſ ［反意語］sen ［レベル］1　1ʔ: 制 : 古 :zɪɒɔ zɪɒɔ:zɪɒɔ::ɔnɔe,ɪlſ ［用例］ ɪn uɪſſ eɟɪ eɒ ɔɔɔ ɒɔl zɔɒ. 木の下で雨がやむのを待った。 zɔɒ ſclſ ɪlcjɪncɪ uɔl eɒ hɪμ ɔ{ə} cɒel. 木々が赤や黄色に紅葉した。

zɔɒl ［名詞］鉛筆 ［レベル］2　1ʔ: 制 :zɔɒlɪz（木のペン） ［用例］ nɔn ɪlſſ jɔɪ ɪ ɒɪj ɑcμ ɔɔlſɔ zɔɒl ɑcμ lel nɪn jccnɪ ſɥə. 白い紙に白い鉛筆で君のこと好きだって書いた（『ほろよい』サントリー） dcl zɔɒl 鉛筆を削る

zɔɒldcnɑ ［医療］ノゲ形。鍼灸の一種。 μɑ;/　J0

zɔɒldcliμ ［名詞］鉛筆削り、鉛筆けずり ［レベル］3　μɑ;/　J0

zɔɒlhɪrl ［名詞］鉛筆体　J0 ［文化］ hɪrlμecn

zɔɒlleɟ ［芸術］鉛筆画 ［レベル］5　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

zɔɒlɪɑ ［地球の国名］赤道ギニア　1L: 国章に木

zɔɒnəſ ［名詞］木炭 ［レベル］5　μɑ　J1

zɔɒuɪμſ ［名詞］樹海 ［レベル］4　J1

zɔɒɑɪc ［名詞］焚き火、たきび、たき火 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 木の火

zɔɒd ［環境］資源 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :zɔɒdɪl（zɪɒɔ（木）から） ［用例］ zɔɒd ſɪɒ 貴重な資源

zɔɒlɪɑ ［名詞］木工 ［レベル］4　J0

zɔɒlcl ［化学］酸素 ［類義語］jɪd、ɟəɒjɪd ［レベル］4　1Δ: 制

zɔɒlɔμ ［音楽］木管、木管楽器 ［レベル］4　J1

zɔɒleed ［言語］木構造 μɑ:əel;/　J1:ɒel

zɔɒɪɑ ［経済］林業 ［レベル］3　μɑ;zɔɒ/ſɪɑl　J1

zɔɒɪɑɔ ［地学］酸化鉱物　1L

zɔɒc ［化学］酸素イオン、酸化物、オキサイド ［レベル］5　1L

zɔɒɔl ［化学］酸化物 ［レベル］5　1L

zɔɒeſ ［形容詞］生命力のある、しぶとい、しつこい、長持ちする ［反意語］ɒcnſ ［レベル］3　J1:zɔɒ/ſe

zɔɒəl ［化学］酸化物 ［レベル］5　1L

zɔɸl ［名詞］タル、樽、バレル ［レベル］3　古 : 木でできた丸いもの

zɔdɪ ［名詞］たいまつ、松明、トーチ ［レベル］4　1ʔ: 制 :zɔɒdɪɪ（木の光）

zɔb ［名詞］柄杓、ひしゃく ［レベル］3　lɪlſɪ: 木の容器

zɔμ ［文末純詞］［ben］jec ［レベル］1　J0:jec

zɔl ［名詞］弦 ［音楽］弦楽器 ［数学］弦 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ɔzɪɒɔɒelc（弓の糸） ［文化］ 通常ギターは６弦で、ベースは４弦。５弦ベースなどもむろんある。　弦の呼称は音の高いほうから非序列系組み数字を使って表す。例えばギターなら ſoɪμ, ɪμhɪn, nɪμſe, lɪμſ, ləɟɔn, ɒcμl のように。

zɔl̩ ［動物］リス、栗鼠、りす ［レベル］3　lɪlſɪ

zɔlɸe ［動詞］ɥəl を応用する、応用する ［普通動名詞］応用 ［類義語］zɔl ［レベル］4　J0:zɔl/ 古 hɥəɸe

zɔlɸelɔſj ［電算］コントロールキー ［レベル］4　J0

zɔlɪdn ［音楽］ギターのブリッジ、ブリッジ　1ʔ: 制

zɔlɔjn ［音楽］カポタスト、カポ μɑ:neene;/。弦の長さを調整するもので、ネックにつけるものであることから。　J1ʔ ［文化］ 地球に少し先駆け、μɑ でネーネが発明した。

zɔlɔlſc ［音楽］アーム、トレモロアーム、ビブラートアーム、レバー。ギターの部品。　μɑ;/　J1ʔ

zɔleſ ［名詞］グロ、グロテスク ［形容詞］グロい、グロテスクな ［レベル］4　μɑ:jeɥen;zɔl は背中を物が這うような感触の擬態語。ef は ſe。　J1ʔ

zɔleſclſɪ ［電算］グロ画像 ［レベル］4　ul;/　J1ʔ

zeſ ［名詞］リストの項目、メニューの項目、科目 ［料理］レパートリー ［数学］項 ［経済］勘定科目、勘定項目 ［反意語］eɑɪ ［レベル］2　1L:zedl（枝）

zeſſel ［名詞］法則、法則性、摂理 ［類義語］ɔz ［レベル］3　J1:ɒel: 紫亞にパズルを出している際、「これらの間の法則性は何かな？」と説明している最中に ɔz の言い換えとして編み出した語。ɔz/ſe で ɔzeſ にしようと思ったら既に ɔzeſ は「目安」という意味でバッティングしたため、ɔz/ſe/ɪl にした。しかしそのままでは言いづらいため ɔ を落とし、「を増やし、ɪl を母音調和して el にしたもの。ɔz と並行しながら何度も繰り返しているうちに紫亞は法則のことだと理解したそうだ。

zeſjɪn ［数学］整式 ［レベル］4　1L

zeſɔu ［数学］移項 ［レベル］4　1L

zeſſ ［名詞］底、ボトム、底辺 ［名詞］建物の最地下階 ［名詞］基本、基礎 ［形容詞］基本の、基礎の、初歩の、登竜門的な、根本的な、基本的な ［副詞］基本的に、原則的に、原則として、根本的に ［文頭純詞］基本的に ［経済］底 ［反意語］zɔl ［レベル］2　1ʔ0: 制 :zɔlſ: 先 zɔl（頭） ［用例］ zeſſ ɑɪn 深い底

zeſſuɪnſ ［法律］基本七法、七法全書 ［レベル］4　1L ［文化］ 日本の六法、六法全書に当たるもの。月法、憲法、刑法、民法、商法、刑事訴訟法、民事訴訟法からなり、この順序で収録されている。　七法はリーファ隊のカサンが ʔJ0 年に作り始め、ʔJ1 年に制定した。アルソンがこれを広め、実施させた。　革命前の法改正は常に微々たる変化であったが、ミロクはヴェレイの法律を大々的に変え、七法として広めた。　革命前は六法で、文章は難解で、国民は理解できなかった。革命前に比べ、文章量が少なく、言葉も平易で、国民の誰もが読める。　ミロクは言葉尻を捉えた都合の良い曲解が横行するヴェレイの法典を斬り捨て、あえて条文を減らし、文章も簡素化した。条文そのものを広義的にすることで、卑怯な曲解をする必要性を遮断し、裁判官の裁量を強めた。　例えば日本では政教分離がきちんと書かれているのに創価学会が公明党と繋がっているが、ミロクなら「公明党を潰す」か「政教分離を潰す」かのどちらかを取り、公明正大な政治をする。　精悍な革命家ミロクが嫌ったのは本音と建前の不一致や言動不一致といった卑怯な行いである。物事は論理的かつクリアにしなければならないと考えた。ゆえに、法律もきちんと書いてあるとおりに解釈されねばならないと考えた。　しかし書いてあるとおりに解釈すると、際限なく細かく書く必要が出てくる。すると国民は法典を読めなくなる。そこで逆転の発想で、かえって簡素に書くことで解釈を広げた。　これによって、苦しい曲解をせずともきちんと書いてあるとおりに解釈できるとともに、国民の誰もが読めるようになった。　その代わり、裁判官の裁量によるところが大きくなった。裁判官も人の子なので、判例に頼らざるをえなくなった。　また、条文が細かくないということは、同じような刑法でも案件によって刑罰がまるで異なってくるということになる。　解釈が広いのだから、いろいろな犯罪が同じ条文で裁かれてしまうが、それは問題である。そこで案件主義が生まれた。　ひとつひとつの案件は互いに異なるものなので、個別に考慮すべきという主義である。　判例主義のおかげで条文が細かくなくとも犯罪は裁け、案件主義のおかげで判例主義の行き過ぎを押さえ込めるというシステムである。　最初の範とされる判例はアレイユの時代にはいくらでも判例があるため、判例主義を実施するのはたやすかった。　ミロクとカサンがヴェレイまでの判例を見て、「これは新時代には重過ぎる（軽すぎる）」と最初の目安を作った。　七法はそれぞれ、章・項・条の３段階でできている。１章１項１条のように。順に nɪe, zedl, μecn という。

zeſſdɪnſ ［名詞］基本科目 ［レベル］3　μɑ　J1 ［文化］ aeldɪnſ

zeſſɪn ［名詞］負け組 ［レベル］4　J1

zeſſɪ ［文頭純詞］ところで、それにしても、それはさておき。脱線を意味する。 ［類義語］hɪc ［反意語］sɔſſ ［レベル］3　J0:zedſ:1ʔ0: 制 :zedl/lə

zeſſ ［動詞］ɥəl を刈る、刈る ［レベル］3　1ʔ: 制 :zeɒſcl（草を切る）

zelə,ɑu ulɟ　lə は lɪlə の lə。ze は「学」の意味の接頭辞。

Z

zen,ɑ　学ぶという意味の音象徴

zenɔn　［アトラスの国家］ゼノン　［レベル］5　ɟ˞:ɲcɑɑcɪ

zeɒe　［料理］ジン　［レベル］5　1˞: 制 : 古では「 草の酒 」

zed　［数学］［動詞］ɣəl を計算する、計算する、演算する　［普通動名詞］計算、演算　［レベル］2　1˞: 制 : 古 :zedɪlɪlɪ（脳で数える）［成句］　zed(elɟ) ɑcʃ nɪɑɲ. 計算は安心：前もって計画しておくと安心だという意味で、転ばぬ先の杖に相当、用意周到 :1L:ɒel

zedn　［名詞］つまようじ、爪楊枝　［レベル］3　1˞: 制 :zɪedldcn（枝でできた針のようなもの）

zedɑcɪn　［地学］［歴史］キオゲニアン　ul;/　ɟ˞　［文化］　ɸɪɪueɑeɒe

zedl　［植物］枝　［法律］項　［レベル］2　古

zedlɟlez　［電算］ツリー掲示板、ツリー型掲示板　［レベル］4　1L:ɲcɑcɪ:ɪɲbɪlelʃ

zedldɪl　［名詞］樹形図　［レベル］4　1L:ɲcɑcɪ:ɪɲbɪlelʃ

zedlɪɲɔ　［言語］枝ノード　ɲɑ:ɒel;/　ɟ˞:ɒel

zedlɔɔzɪ　［数学］計算尺→ lɔɔzɪ　［レベル］6　ɟ0

zedleʃ　［ネガティブ］［形容詞］ガリガリな、痩せた、ガリな　［属格］ガリ　［類義語］lclɪ、ɣəɒelc　［反意語］hɪnɔʃ　［レベル］3　ɟ0: 枝のような。手足が枝のように細いことから　［語法］　主に男性に使う。悪い意味で、罵倒語となる。女性にも使えるが、男性のほうが傷つく言葉。

zedleʃuɪcɒ　［名詞］［ネガティブ］ガリマッチョ　ɲɑ;/　ɟɲ

zedɪɲ　［電算］計算機　［電算］演算装置　［類義語］zclcɔʃ　［レベル］3　1L　［語法］　そろばんからコンピュータまで広く指す単語。

zedɔɒ　［数学］計算法　［数学］算術。科目名　［レベル］2　ɲɑ　ɟɟ　［文化］　ɑeldɪnʃ

zedeʃ　［名詞］前座、前置き、予行演習、演習、練習　［名詞］前付→ lec　［反意語］sɔleʃ　［レベル］3　ɲɑ;zedl/ʃe「枝葉のような」　ɟɟ:zedl/ʃe

zeɲɑcɪ　［筐堺］ゼルディア　［レベル］5　ɲɑ;ɪzeɲ/ɑcɪ　ɟɟ　［文化］　筐堺司:ɲelezɔnɪ uɪlzɪ　筐堺国:ɒeɲɑcɪ, lɪzɑcɪ, ɸɪlʃeɪ, ɪɪlʃeel, ɪɲɒɪʃcɪ, ɔclʃcɪ, beɲʃcɪ, eʃcɪ, ɑɲejʃcl　領土が広すぎるため、北部はピネナと、東部はクミールと共同統治。

zelɪ　［単位］マイナス３２乗　ɟ1:zɔlɪ

zeluɪel　［アトラスの国家］ゼルヴァエル　［レベル］5　ɟ˞:ɲcɑcɪ

zelɸc　［魔物］ゼルギ（刈猿）: 第六十六天 : 聖の幻天　［レベル］5　1L:ɲcɑcɪ/ɟeɲen/ɒel:zelɪl/ɸcc　［文化］　獣族。鎌を持った猿。死亡した下位の死神から鎌を奪った魔物。死に関連する魔法を放ってくる。聖属性の魔法は打ってこないものの、耐性があり、効かない。

zelɔ　［生物］脳、頭脳　［レベル］2　ɑ;lɔ は「頭」。ze が音象徴で「学ぶ」　赤　［語法］　日本語では脳幹などは「脳の～」の語順で、「前頭葉」などは「～の葉」の語順になる。アルカでは zelɔ は大脳、中脳、小脳、脳幹の総称で、その中に含まれるここの部品も脳の一部なので、右手左手と同じく「～ zelɔ」となる。脳幹などは語順が逆に思えるかもしれないが、それは日本語から見た場合。　ただし、個々の細かいパーツに入っていくと、今度は「脳の～」という命名になり、zelɔ ～となる。

zelɔleɒl　［生物］脳脊髄　ɲɑ;/　ɟ˞　［語法］　脳と脊髄の総称。

zelɔɑɪcz　［医療］脳炎　［レベル］5　1L

zelɔdɔɪ　［医療］脳腫瘍　［レベル］5　1L:ɟeɲen

zelɔbɪɟeɲ　［生物］脳漿、脳脊髄液、髄液　［レベル］6　ɲɑ;/「脳の廃水と考えられていたことから」　ɟ˞

zelɔɪnueɲ　［医療］脳症　ɲɑ;/　ɟ˞　［語法］　発熱、頭痛、意識障害、麻痺などの脳炎の急性症状を示すにもかかわらず、脳実質内に炎症が認められず浮腫が認められる状態のこと。

zelɔɔuleul　［医療］脳性麻痺　［レベル］6　1L

zelɔeɲcl　［医療］脳溢血、脳出血　［レベル］5　1L

zeeɲe　［天文］皆既日食、皆既日蝕、ゼーレ　［反意語］ɪlzeeɲe　［レベル］5　ɟ0: 古 jeeɲe（静かな）。ɟ は jeɲ の音。　［文化］　異世界の少年セレンがアトラスにやってきた際、少しの間空間が歪んで日食のように感じられた。そのことから後にセレンを語源として真っ暗になる皆既日食をこのように呼ぶようになった。

zeeɲen　［地学］ペリドート、ペリドット、かんらん石　［組み数字］8 / 1 0　［レベル］4　1L:zɔɒ/ɲen → zɔɔɲen → zeeɲen（母音調和）　［文化］　風を操る魔石。クリスのディーノには甲にペリドートが埋め込まれている。

zeele　［サール］ゼーレ　［論理］パラドクス、パラドックス　［レベル］5　ɲɟəə: 古 : ゼーレの名は本人がゼーレのキャラクターに合うように適当に考え出した。他のアルデと同様に語源のないもの。　［文化］「 サールはみな嘘をつく 」というパラドクスを最初に投げかけたサール。

S

s,lɪl　e, ˥enɔ　sə,ɑ.˥　［用例］　lɪ ɟɪn s ˥əfcɪ ルティアの血

sɪʃ　［形容詞］元、元の、以前の、昔の　［反意語］zcɪ　［レベル］3　1ɪ: 制 : 恣意　［語法］　元大統領などの元。　［用例］　ɪɒcɒ sɪʃ 元夫

sɪʃ　［音楽］カッティング　ɟ1: 擬音

sɪl　［形容詞］太い、太った　［医療］肥満　［文字］エキスパンド　［類義語］besɪ、sɪlɪ、dɔɑʃe、ɔclʃ　［反意語］lclɪ　［類音］sɪlɪ　［レベル］1　1ɪ: 制 : 古 :sɪlɪ（太い）　sɪlɪ:sɪlɪ　［文化］　粗食で運動好きなアルバザード人は平均体重を維持している人が多く、肥満は珍しい。不健康のバロメーターとされ、肥満は避ける。反面、そんなに体重にコンプレックスのない人々なので、秋などに一時的に小太りになることについては大して気にしない。　［用例］　［メタファー］［ネガティブ］ sɪl ɣən ɔɔc 豚のように太った　lɪ eʃ sɪl ɪlɪ lɔʃ ˥ə ɟɪcɒ. 彼はこのクラスで一番太っている。　ɪn eɒɔɲ sɪl cn ɒɪn ɪn ˥ɪlɒɪ ˥əc ˥cɪ. おやつを頻繁に食べるので太ってきたみたいだ。

sɪllɪzɸɪɔ　［音楽］フリューゲルホルン　ɲʃ;sɪl/lɪzɸɪɔ　コルネットに似て、管が少し太いことから　ɟɟ

sɪllɔl　［生物］盲腸　［レベル］3　1ɪ: 制 : 太い腸

sɪllɔlɑɪcz　［医療］盲腸炎　［レベル］4　1L:ɲcɑcɪ:ɪɲbɪlelʃ

sɪlleɪɟ　［生物］大動脈　［レベル］5　1L

sɪlleɪɟlɔɔb　［医療］大動脈瘤　［レベル］6　1L:ɟeɲen

sɪlɪ　［形容詞］［ネガティブ］デブな、太った　［類義語］besɪ、sɪl　［類音］sɪl　［レベル］2　古 :sɪlɪ, ɪlsɪlɪ。sɪlɪ（太い）

sɪlɪ,ɑ　sɪl

sɪɟ　［名詞］葉巻、シガー　［レベル］4　1ɪ: 制 :sɪlɣɪɟ（太いたばこ）。葉巻は紙を使わずにタバコの葉を堅く太く巻いたものであることから。　［文化］　革命中は麻薬と同じで違法。

sɪɟʃ　［動物］ひばり、ヒバリ、雲雀、ラーク　［レベル］5　1ɪ: 制 : ヘリコプターのように垂直に飛び上がることから。

sɪɟɪ　［植物］マクラメ　1ɪ: 制 :sɪʃɟɪɟɪ

sɪɟeʃ　［音楽］レゲエ　［レベル］5　ɟ1:sɪʃɟ/ʃe

sɪn　［気象］空、天　［類義語］ɟcel　［反意語］ɪlɔ　［レベル］2　1ɪ: 制 : 古 :scnɪ（天）　scnɪ:sɪn:lə ɟcel:ɟɔ lɪ,ɪlʃ　［文化］　空は日本語では「青い」ことになっているが、アルカでは日本でいうカメレオンのような扱いになっている。つまり、色のプロトタイプがなく、玉虫色に変わる。　一時期セレンは空を「青」としていたが、それは日本語の語感による誤り。アルカでは『ソノヒノキ』の冒頭のように、空は特定の色を持たない。　［用例］　sɪn ɪʃ uelʃ ɒeɟel. 空が真っ暗だった。　sɪn ɪʃ ɪluelʃ. 薄暗かった。

sɪn,ɑ　ɑen。ɑu 以降、sɪn が滅んで nɪ が ɑen と lcn の両方を兼ねるように。　elʃ;e

sɪn,ɑu　ɟɔɒɪ

sɪnʃeɒɟ　［建築］天窓　1L

sɪnɪ　［動物］バッタ、ばった、飛蝗　［レベル］2　1ɪ: 制 :sɪn

sɪnɪe　［名詞］航空　［レベル］4　ɟ˞

sɪnɪɪɟɪn　［名詞］スチュワーデス、スチュワート、フライトアテンダント、スッチー、キャビンアテンダント、C A　1L

sɪnɟɪɪɟ　［魔法］天行　［レベル］6　ɟ1　［文化］　ɑɔlɒcɪɣə

sɪnɟɔz　［交通］ヘリコプター　［レベル］2　1ɪ: 制 : 空のプロペラ

sɪnuɪɟ　［軍事］空中戦　［レベル］3　ɟɟ

sɪnuɪnɑ　［軍事］空襲　ɲɑ;/　［レベル］3　ɟ˞

sɪnuelʃ　［亜魔］ジャンヴェルト、飛鬼、グレムリン　［レベル］6　ɲɑ;sɪn/uɒeʃ　ɟɟ　［文化］　ヴェメルトの一種。航空機を墜落させようとする小悪魔。

sɪnɑɪcbɑcʃ　［軍事］［交通］空中給油　［レベル］6　ul;/　ɟ˞

sɪnɒɪɟ　［娯楽］たこ、凧、カイト　［レベル］2　1ɪ: 制 : 空飛ぶ紙

sɪnɑ　［単位］フェムト　ɟ1:sɪnɑcɔɟ

sɪnɑcɔɟ　［歳時記］立冬　［名詞］１９時　［組み数字］１９／２４　［アクセント］sɪnɑc∋ɟ　［レベル］3　ɟ0: → ɪnlcɪn　［文化］　ɪnlcɪn

sɪnɸ　［名詞］セロハン、セロファン、セロハンテープ　［レベル］2　lɪ˥ɪ

sɪnɸɪnɑ　［交通］［法律］ハイジャック　［レベル］4　ul;/　ɟ˞

sɪnɸɪnɪ　［軍事］領空　［レベル］4　1L

sɪnɸel　［名詞］気球、風船　［レベル］3　1ɪ: 制 : 空の球

sɪnbcbc　［化学］メチルオレンジ　［レベル］6　1L:ɟeɲen: 指示薬として、空のように色が変わるアゾ化合物。とはいえ、変色の範囲は狭い。

sɪnz　［植物］藤　［レベル］3　古 :sɪnz。原義は scnɪzɪɒɔ（空の木）　［文化］　長寿で美しい植物として人気があり、カルテには藤棚がある。

sɪnl　［建築］ベランダ、バルコニー、テラス　［レベル］2　1ɪ: 制 :sɪnele（空の台）

sɪnlcl　［化学］ガリウム　1Λ: 制

sɪnɪld　［名詞］航空郵便、航空便、エアメール　［レベル］4　ɟ˞:「空の郵便」

sɪnclɪ　［天文］プラネタリウム、空の映像　［レベル］3　1ɟɪ: 制 : 空の映像

sɪneɟn　［名詞］パラシュート、落下傘　［レベル］3　1ɪ: 制 : 空の傘

sɪuc　［料理］［化学］コラーゲン　［レベル］5　ɪlɪ˥ɪ: 粘つくたんぱく質

sɪɒ　［生物］胸　［レベル］1　先 :sɪɒ（胸）。胸が乳房の換喩になるとしてクミールが禁忌した結果、ソーンでは先代アルカの sɪɒ が胸になった。　ɒɪ, ɣɪ:ɒɪ, ɣɪ:lə ɒɪɒeʃ（lɪ は ɒɪɒ）　［語法］　乳房ではなく、胸部のこと。　［用例］　enɪ ˥ɪ{xdɔ} sɪɒ ˥əəʃ 彼の胸の中で泣く

sɪɒ˥ɔɲl　［動詞］ɣəl をドン引きさせる、ドン引きする、ドン引きさせる、引く、引かせる、ひく　［再帰動名詞］ドン引き　［類義語］ɔcʃ　［レベル］3　ɲɑ;/「胸を仰け反らせる」。人はドン引きすると胸を支点に首から上の部分を後ろに仰け反らせる。首ではなく胸を仰け反らせる形になるため、このように言う。　ɟ˞

sɪɒɟcɪ　［生物］胸膜　1L

sɪɒɟɔɲcʃ　［言語］［文字］x ハイト、エックスハイト　ɟ1

sɪɒɟɔs　［生物］胸椎　［レベル］5　ɟ˞

sɪɒuɪnɔ　［生物］中府　ɟ1: 胸痛などに効くが、場所は胸骨ではなく腕と肩の境界のくぼみ

sɪɒuɪcl　［生物］胸部　ɲɑ;/　ɟɲ

sɪɒuɪcɒ　［生物］大胸筋　［レベル］5　ɟɲ<ɟ˥

sɪɒd　［交通］飛行機、航空機、旅客機　［レベル］2　1ɟ: 制 :sɪndɪn（空の乗り物）　::lə ɸcljce（→ dɪn）　［文化］　飛行機と船。いずれも空港や港など、住宅地と隔離された場所から出る。空港も港も車道と隣接しており、車に乗って行く場所である。徒歩や自転車では距離的に行けない。

sɪɒdhɪnl　［気象］成層圏　［レベル］5　1L

sɪɒbɪl　［建築］胸壁　ɲɑ;/　ɟɲ

sɪɒhɔ　［生物］胸骨　［レベル］5　ɟɟ

sɪɒhɔueɟn　［生物］剣状突起　［レベル］6　ɲɑ;/「胸骨の舌」　ɟɲ

sɪɒhɔueɟnɒɔl　［生物］下肋部、季肋部。剣状突起を通る水平面より下方を下肋部という。　［類義語］˥cɒhɔbɔcɒecnɒɔl　ɲɑ;「剣状突起下」　ɟɲ

sɪɒhɔɒɪcn　［生物］胸骨体　ɲɑ;/　ɟɲ

sɪɒhɔɒɪcnɒɔl˥ɔɔz　［生物］胸骨体下端　ɲɑ;/　ɟɲ

sɪɒhɔɒɔɒ　［生物］胸骨柄　ɲɑ;/　ɟɲ

sɪɒhɔɒɔɒbenɒ　［生物］頚切痕、胸骨上端の頚切痕　ɲɑ;/　ɟɲ

sɪɒɣɪc　［医療］胸痛　［レベル］4　ɟɟ

sɪɒɟecn　［言語］［文字］ミーンライン　ɟ1

sɪɒscɒ　［生物］胸郭、胸腔　［レベル］6　1L

sɪɒlcʃc　［生物］胸腺　1L:ɟeɲen

sɪɒɔ　［交通］空港、飛行場　［レベル］3　1ɟ: 制 : 空の停留所　［文化］　日本と同じようなつくりで、特に変わり映えはない。入り口から入って搭乗前に旅券を見せる。パスポートというものは存在しない。全てアンセにパスポート情報が入っているのでアンセを見せる。飛行機に乗って着いたら同じ手続きで飛行場から出る。尚、国内の場合は出入国しないのでパスポートとしてのアンセはいらない。ビザも不要。

sɪɸ　［形容詞］粘る、粘っこい　［擬音］ぐちゃぐちゃ、ぬるぬる、ヌルヌル、べたべた、ベタベタ、どろどろ、ねばねば、ネバネバ、べとっ、べとーー、べとべと、ベトベト、ベトッ、ぬちゃぬちゃ、ヌチャヌチャ、ぬちゃくちゃ、ヌチャクチャ　［レベル］2　ɑ,ɑɔueʃ　lɪ˥ɪ: オノマトペ　［用例］　ɟɪl ɪɟ ɪnʃ eɒɪʃ euej ɔ sɪɸ ɒcl hcnɪ. 汗でシャツがべとべとになった。

sɪɸɒɪɟ　［名詞］ステッカー、ラベル、レーベル、レッテル、封のためでないシール（封のためのものは ɑejdɪ）　［レベル］3　1ɪ: 制 : くっつく紙

sɪɸl　［動詞］ɣəl を練る、練る、ねる、こねる、捏ねる　［レベル］3　古 :sɪɸl。sɪɸl は古の sɪɸ からできた古の語。

sɪɸɪ　［名詞］粘土、陶土、土　［レベル］2　1ɟ: 制 :sɪɸ

sɪɸɪbe　［医療］絆創膏、ばんそうこう、バンドエイド、キズテープ　［レベル］2　1ɟ: 制 : 粘着布

sɪɸɪhɪnl　［地学］粘土層　［レベル］6　ul;/　ɟ˞

sɪɸc　［動物］クラゲ、海月　［レベル］4　1ɟ: 制 : 古 :sɪɸejzɪɒɔ（どろどろした傘状のもの）が原義。

sɪɸeɟ　［名詞］ローション　［レベル］5　1L　［用例］　ɪn nɪbɪʃ sɪɸeɟ ɪl eel. 顔にローションを塗った。

sɪd　［名詞］定義　［動詞］ɣəl を lel と見なす、みなす、見なす、定義する　［レベル］3　1ɟ: 制 :ɟɪɑ:sɪlɪ dc（意味を決める）

sɪdʃ　［料理］餅　［レベル］2　ɲu:ɟɪɪɟ;sɪ は粘るオノマトペ。　ɪlɪ˥ɪ　［文化］　səlcef:100_1ɟ0　お菓子と認識されている。パフェやおしるこなど、さまざまなものに入れられる。neɔɒcɒc などの外食にも用いられる。　餅は消化によく、同じ量なら餅のほうが白米などより高カロリーなため、痩せている人でも胃を痛めずにカロリーを摂取できる。このため、羸痩にも用いられる。　また、消化が良いわりに糖質が複合糖質であるため、腹持ちもよい。ただし白米に比べ思ったより量を食べられてしまうので、食べ過ぎで胃が重く感じられ、消化に悪いと誤解を受けることがある。　餅米自体が消化によいというより、搗くことで本来歯で行うはずの咀嚼の代理となっているため、どちらかというと消化によいのは餅という食品自体である。　アルバザードでは四角型と丸型が販売されている。意外にも日本より人気が高く、年間通して価格は安定して安い。１メルバ当たり約１００～１５０ソルト（日本だとサトウの切り餅が１ｋｇで８００円前後。正月シーズンだと４００円程度で買えることも (pelɟl)）。日本と違ってシーズンはない。　［成句］　sɪdʃ ɒeʃ 知らぬが仏、見ぬもの清し。落ちた餅でも見てなければ綺麗という意味。

sɪdʃ(ɸel　［料理］白玉　［レベル］3　1ɟ: 制　［文化］　餅同様、菓子としての認識が高い。餅と違って食事にはあまり用いない。

sɪdʃel　［動物］マンボウ　［レベル］3　zɸ;sɪdʃ/elc「平たい餅のような形をした魚」　ɟ˞

sɪdɣɔ　［言語］定義動詞　［レベル］6　ɟ0　［語法］　elɟ, ɒɔlɟ, ɸɪɟʃ など。

sɪz　［名詞］アンテナ　［レベル］3　1ɟ: 制 :sɪnzɔn

sɪl　［名詞］決定、決意、評決、表決、判決　［動詞］ɣəl を ɪ に決める、決める、決定する、定める　［政治］議決　［反意語］zcɟ　［レベル］2　1ɟ: 制 : 古 :ɑclɪ,sclɪ（決める）　［成句］　sɪl ˥ɔ˥ɔ leɑ zcɟ 決めつける、決め付ける

sɪlɟ　［数学］分数　［レベル］3　1L:ɪsɪ/ɪlɪ（比の数）最後を ɟ にしたのは ɪlɪ から語形を離すため。　［語法］　ən, ɑɔl

sɪlɸɪɲʃ　［名詞］定額、定額制　［レベル］3　1L:ɲcɑcɪ:ɪɲbɪlelʃ

sɪllɔʃ ［電算］エンターキー、リターンキー ［レベル］3　J0: 決定キー

sɪlɪ ［形容詞］定期的な、リズミカルな、周期的な、規則正しい ［反意語］jcɦʃ ［レベル］3　1ʔ: 制 :sɪlhɥɪ から

sɪlɪʃə ［名詞］即断即決、即決即断 ［レベル］3　J1:sɪl ɪʃə「ここで決める」

sɪlɪɑɔdɒ ［名詞］定期券 ［レベル］3　1L:ɥcɑcɪ:ɥbɪleʃʃ ［文化］ アンセに登録されるため、券の形はしていない。

sɪlɪcɟl ［普通動名詞］購読 ［動詞］ɥel を購読する、購読する ［レベル］3　1L ［用例］ ɪn sɪlɪcɟl ʃclɒ. 新聞を購読している。

sɪe ［名詞］糊、ペースト、接着剤、のり、ノリ ［類義語］aeɥcnl ［レベル］2　1ʔ: 制 :sɪɥe（粘着水）

sɪeɥel ［名詞］グルーガン ［レベル］6　1ʔ: 制

sc ［生物］指 ［動詞］ɥel を指差す、さす、指す、指差す、指さす ［類義語］deɥə, ɑcɪns ［レベル］1　ɑ;e 赤　sc:sc:lə blcɟ（棒状）, lə dɥecz（棒状）:lclc,ɪlʃ ［用例］ ɑɔɔ sc 指を折る。骨折する　hɪnɟ sc 指を折る。折りたたむ。通常こちら。　ɑib e sc 指の腹

scʃ ［名詞］つまみ、スライダー ［化学］焦点ハンドル。顕微鏡の。 ［レベル］3　μɑ;sc/ʃcl「指で持つ」 J? ［語法］ 電気の光量を操作するつまみやスライダーなど。D J が使うサンプラーの音量スライダーなど。

scl ［動詞］ɥel を滑る、滑る、すべる、滑走する。移動様態動詞だが、ɥel に氷などの材質を取ってもいい。 ［普通動名詞］滑走、滑り ［音楽］スライド、スライド奏法 ［レベル］2　1ʔ: 制 :scɥ/le（つるつる行く）から ［用例］ scl ʃɔɔɑ 坂を滑る　scl uelʃ 氷を滑る

sclʃ(J) ［動詞］sc/l　J0:ɒelcɑcɪ lceɥ

sclʃ ［動物］フラミンゴ ［レベル］3　1ʔ: 制 :sclləʃɔ（足の細い鳥）

sclʃe ［形容詞］滑りやすい、すべりやすい、つるつるしている、スリッピーな ［レベル］3　J0 ［用例］ ʃə ʃɔɔɑ eʃ lɪɒc ɒcl sclʃe. この道は滑りやすくて危ない。

sclɟ ［動詞］ɥel を横滑りする、横滑りする、スライドする、カニ歩きする ［レベル］2　1ʔ: 制 scl ［語法］ ləl などと同じ格組。

sclɟɔɒc ［建築］スライドドア、ふすま ［レベル］2　1ʔ: 制 : 滑るドア

sclɒclɟ ［動詞］ɥel（相手）を滑って転ばせる、滑って転ぶ。複合動詞。 ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ ［語法］ ɥel に場所は取れない。 ［成句］ sclɒclɟ cɒ ɥec ɥclɟ 財布を捜しているときに滑って転ぶ：泣きっ面に蜂、弱り目にたたり目

sclɥɪɔ ［音楽］トロンボーン ［レベル］5　J1

sclɪ ［運動］スケート ［レベル］3　1ʔ: 制 :scl ［用例］ ɪn ɪɥɪʃ le sclɪ. スケートをしにいった。
ɪn nɪʃ bɪn ɔnʃ eɟcl ɥəlel ɒɪn ɪɥ sclɪ ʃɪlel. スピードを出してスケートをしていると本当に気持ちよかった。　ɪn ɪɥɪʃ sclɪ lɔnʃ bclej lɪɟ e hɪrɒ. 友達と手を繋いで滑った。

sclc ［名詞］そり、ソリ、橇 ［レベル］3　1L: 制 :scldɪn ［用例］ ɪn ɪɥɪʃ le sclc. そり滑りにいった。
ɪn uɪɥɪʃ jen eɥec lɔn sclc ɒɪn ʃə ej eɑɔd. 川が凍っていたのでそりで滑ることができた。
ʃə ɪʃ lɔn lel ɪn ɒɔɑ ʃɔɔɑ ɔl sclc. そりを上まで引っ張っていくのは大変だった。　ɪn nɪʃ bɪn ɥəlel ɒɪn ɪn ɒeɑ ʃɔɔɑ lɔn sclc. そりで坂を滑るのは本当に楽しかった。

sclcʃ ［生物］指先、手先、足先、手指尖、足指尖 ［レベル］2　J1　::dɥəcz

sclɔlɪ ［名詞］そり場 ［レベル］4　1L ［用例］ uɪɥ lceɥ, ɪlɔlɪ eu sclɔlɪ. 冬は遊園地に雪ぞり場が開設される。

sclɔ ［名詞］滑り台、すべり台、スベリ台、すべりだい ［レベル］2　1ʔ: 制 :sclʃɔl から ［用例］ ɪn nɪʃ ɥəəɑ ɒɪn ɒeɑcl sclɔ lɪen lellɪ. スイミングプールのウォータースライドを滑って興奮した。　ɒɔɑ sclɔ すべりだいを登る

sclɛ,ɑu ʃə（それ）「指が行く先」

scl ［医療］創 ［レベル］5　1L:scɟ/ucl

sclc ［名詞］隙間 ［レベル］2　1ʔ: 制 :sclɪ（細い場所）から　lɪlc:lɪlc

scɟ ［動詞］ɥel を引き裂く、引き裂く、裂く、破く、千切る、破れる、破裂させる、裂けさせる、破る ［レベル］2　μɑ;scc/jɔ　1Ո: 制 : 古 :scc

scɟɟɔs ［医療］脊椎分離症 ［レベル］6　1L

scɟnɔz ［生物］［医療］二枚爪 ［レベル］6　μɑ;/「裂けたり割れたり剥がれた爪のこと。
J? ［用例］ ɪn ʃclɪʃ scɟnɔz ɒɪn ɑlʃcl nɔz e ləoɪ ɪl elen jcn. 足の爪を机にぶつけてしまい二枚爪になった。

scɟdcɔ ［生物］膜動輸送、サイトーシス μʃ;/　JՈ

scɟcdɪ ［医療］裂肛、切れ痔 ［レベル］5　1L

scn ［名詞］秒、一秒 ［レベル］2　1L:scen

scnʃ ［名詞］垂直、鉛直 ［類義語］hɟ ［反意語］ɪlɔɒ ［レベル］4　μɑ;scnɪ/ʃəənɔ「天と地」　JՈ

scnʃc ［サーバ］ジンティ ［レベル］4　古 :scnɪʃclnɔ（空の竜）から ［文化］ アルデスとテュアの長男。天の龍。ɑɥeʃcɟ と人型を使い分ける。

scnʃcuɪɪn ［軍事］空軍 ［レベル］4　1L: 天の龍ジンティの軍

scnʃcɥel ［軍事］対空砲 ［レベル］6　J0

scnʃcɪ ［建築］［地名］［ランドマーク］ジンティアの長城、ジンティア ［レベル］5　zɥ;scnʃc。主にハクシウス軍の飛竜兵に対する対空用の長城で、長く寝そべった形をしているため、天の竜になぞらえられた。　J? ［文化］ ʃəlʃcɪ

scnʃc ɪlʃeeɒɟ ［人名］ジンティ＝アルテームス ［レベル］5　1L:clɒəj:ɥcɑcɪ ［文化］ アルティ期の発明家。シェリー＝アルテームスの子孫。JՈL 年に飛行機を初めて作った。魔力がいらず、大型で多くの人を一度に運べるという利点があった。

scnɟ ［名詞］判断 ［娯楽］判定← ɥəscnɟ ［動詞］ɥel を lel だと判断する、判断する、判定する ［レベル］3　古（指で示す）［用例］ ɪn scnɟɪʃ ucl lej ɪn lə ɪl. 何と言っていいか分からなかった。

scnɑcɪ ［地名］ジンディア山脈 ［レベル］4　ɦu;scnʃc/oɪl　J1 ［文化］ 西アルカットをほぼ縦断する長く低い山脈。天の龍ジンティが空で寝ているように見えることからこの名が付けられた。標高は高いところでも３～４０００メルフィで、平均は１０００メルフィ前後と低い。しかし高低差が大きく平坦な土地が少ない。岩山で、緑も少ない。食事を必要としないタイプの野生の魔物にとっては天敵がおらず理想的であるため、かえって魔物が多い。農耕・牧畜・定住いずれにも適さない。そのため自然の国境線として機能している。ヒュートとイネアート、ヒュートとケートイア、ファルファニアとアルバザードの国境線はおおむねこの山脈である。　基地も観測所も村も置きづらく、麓に申し訳程度にある程度である。これが仇となり、ueɥnɟɪɪl では uellcɔn の飛空挺の空路として利用された。魔族からすれば、ここを通れば進軍中に襲撃される頻度が減る。人里すらろくにない辺鄙な山間にそんなにたくさんの部隊を配置できるはずもなく、街を優先的に守らざるをえないため、連合はジンディア経由で飛空挺の侵入を許してしまう。このため、uellcɔn から離れたアルバザードでも被害を恒常的に受け続けた。

scnɥ ［植物］イチジク、無花果 ［レベル］3　lɪʃɪ

scnz ［植物］ケヤキ、欅 ［レベル］3　lɪʃɪ:scnz。scnɪzɪbɔ（天の木）から。欅が天に向かって高くそびえることから。　［文化］ μɑ で国木（lɪɑzɔɒ）として制定された。ケヤキは jɒ で ɪlʃ が持ち込み、流布。木材としてサブリの村にも植えられていた。セレンとリディアが最初に出会った場所に生えていた木がケヤキだったことから、μɑ でセレンがケヤキを国木とした。
現実には１９９１年７月２７日にリディアと初めて会った場所に低いレンガの段があり、その前に生えていた木がケヤキだったことから。この木が何かを知ったのは２０１１年１２月１６日に公園の管理局に電話して確かめたのが最初。北口の入り口からＮＯ８までケヤキが登録されているという。四角形のサークルの中に生えている木として８本登録されているという。数えると並んで８本あった。あと脇にもう一本あった。その場で落ち葉を拾ってウィキペディアで紅葉の写真と比べたところ葉が完全に一致したため、ケヤキだと判明した。
ちなみに８本並んでいるケヤキの奥にある緑の木は同年７月１９日には桑かと思っていたが、管理局に聞いたらヤマモモだという。しかしその木のことかどうかは判然としないし、ケヤキと関係ないのでどうでもよい。

scnscen ［名詞］秒針 ［レベル］2　μɑ;/　J?

scnɪ ［名詞］空中、中空 ［歳時記］五日でー候 ［レベル］5　ɑ;e　古では「天空」の意味。　scnɪ: sɪnɪə jcel:jɔlɪ,ɪlʃ ［語法］ 天より高くない。「天」に対する「空中」とか、「空気中」に近い高さ。
［成句］ ʃə eʃ nɪlʃ e scnɪ. 砂上の楼閣だ。

scnɪɑɔnʃ ［名詞］歩道橋 ［レベル］3　1L:lecn

scuɟ ［娯楽］指相撲 ［レベル］2　1L ［文化］ アルバザードとアシェットにはその習慣がない。アルティアの遊び。

scuel ［政治］選挙← scɥ ［レベル］3　1L:scɥ/uelɟɪn ［文化］ 最初の選挙からヴェルディアまで、常に４年に一度のディアセルに行われた。投票はディアセルになった瞬間にスタートし、夜明けとともに投票終了。その日の夕方には結果が公表される。アルバザードは高緯度なので、投票時間は短い。

scueldɔl ［政治］選挙区 ［レベル］4　1L

scuellɪnɥ ［政治］参政権、選挙権 ［レベル］4　1L ［文化］ 革命で廃止。

scuelɔz ［政治］選挙制度 ［レベル］4　1L

scɒ ［生物］腔 ［レベル］5　1ʔ: 制 : 古 :scnɪɒɪcn（体の空、腔）

scɒn ［人名］ジムン ［組み数字］１１/１６ ［レベル］4　ɒelʃcɪ Ոʔ:ɪμnə/ejʃɪ;e　古 ［文化］ ejʃɪ エスタの第１１子。男。

scɒuelɑ ［医療］胸水、腹水 ［レベル］6　1L

scɒɪʃ ［動詞］ɥel を指で掻き分ける、掻き分ける、かき分ける、掻きわける ［レベル］3　μɑ;/ JՈ

scɑ ［名詞］スライディング ［レベル］3　1ʔ: 制 :sclɑɪlɒ（滑ってぶつかる）から

scɥ ［動詞］ɥel を ɒel から lel に選ぶ、選ぶ、撰ぶ、択ぶ、選択する、選挙する、選出する
［動詞］ɥel を見計らう、見計らう、見はからう、見繕う、見つくろう ［レベル］2　ɑ:elʃ;sc（指差す）から　古 :scɥ　scɥ:scɥ ［語法］ → ɑɪzscɥ　scuel は選挙。scɥ は選ぶこと。scɥ のほうが広く、選挙も含める。 ［成句］ scɥ μenɟ ɑcɒ 失言する ［用例］ ɪn scɥɪʃ ucl nɔɟ ɟɪə ɪl oel ɒeɟl. どの鞄を買えばよいか選べなかった。

scd ［名詞］概念、コンセプト ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :scɪdc（意味が指すもの）［文化］ 霊界では概念はそれをそう呼ぶべき名前（エーステ）を持っている。　例えば火は ɑɪc というエーステを持っている。　概念は気体のようなもので、大きくも小さくもなれる。　動物のエーステが ləɒ だとすると、その動物のうち四足でニャーと鳴くものを限定すると概念は小さくなり、エーステは lelʃɔ となる。　口のエーステは lə であるが、唇の下まで含めるなら別の概念になるので、エーステも変化する。　霊界では概念のサイズは可変で、それぞれにエーステが付いている。　従って、原初の神々は既に世界によって用意された概念の中から必要なものを切り取り、それにエーステと同じ名前をあてがえばよかった。　英語のｎｉｃｅは「愚か」という意味が徐々に変化して「良い」になったものだが、霊界では始めから「愚か」には愚かのエーステがあり、「良い」には良いのエーステがあるため、このような意味変化が起きにくい。　もっとも、μɑ 以降、ナディアからは魔法を失ってしまったため、地球の自然言語のような言語変化が起こっている。　しかしナディアに至るまでに地球の中世以上の技術力には達していたため、大概の日常生活に使う概念は既に命名されており、そこから変質するといっても高が知れている。

scb ［数学］スカラー ［レベル］5　1L

scbɑə ［数学］スカラー量 ［レベル］5　J1

schɔ ［生物］指の骨、指骨、手の骨、足の骨、手の指骨、足の指骨 ［類義語］lɪjschɔ, ləɔɪschɔ ［レベル］5　JJ

scμcɪ ［地名］ジリア海　J0:μcɑcɪ: 古 scc/eμcɪ（裂けた海）［文化］ ファベル～ミュール間の海。

sczɔn ［音楽］ダンパー　J1

sczɔl ［音楽］ギター ［レベル］3　1ʔ: 制 : 指の弦楽器 ［語法］ 弦 : zɔl　ブリッジ : dɪɑc　ヘッド : ɔjn　ナット : dɔ　ペグ : ɥed　フレット : ɑɔlʃ, ɑɔlʃμecn　ボディ : ɒɪcn　ピック : ɪnɔz　ピックガード : ɪlɒc ［文化］ zɔl

sczɔlɪn ［音楽］ギタリスト ［レベル］4　J1

scs,ɑ　1　elʃ;scsc.l

scsc,ɑ　ɪμs　e;"sc l'el ɪdcɪ ɑc lɔn"

scsc,ɑ(J)　eu 「指 / 指」

scl ［人名］ジールの略称 ［組み数字］１９/２８ ［レベル］1　制

sclʃ ［アトラスの国家］ジルト ［レベル］5　J0:jeμen:scɟ/nelʃ（裂かれた土地）

scluеμɪnʃ ［医療］虚言癖 ［レベル］5　ul;sccl/ueμɪnʃ　J?:ɒel ［語法］ カルディアでは実際より自分を大きく見せようとしてしまう「人格障害の一種」とされ、uecɥueμɪnʃ などとも関わりがあるとされる。 ［文化］ 虚言癖は無知な一般人により単なる幼稚な悪口として使われることがしばしばある。特にインターネットなどでは実際に大きい人物がありのまま謙遜せず大口を叩いた場合と矮小な人間が自分を大きく見せた場合の区別が付きにくいことから、ネット上での罵詈雑言として使われることが多い。　無論、実際に偉大な人物が謙遜せず大口を叩いた場合は虚言癖とは言わない。単に嫌なやつである。現実でも以下のような出来事があった。
・現実では　人工言語掲示板にて以下のようなやり取りがあった。これをメルに話したところ、メルは「雑魚は山の高みが分からないからｗ」と一笑に付し、虚言癖を造語した。　10ʔ：名無しさん：J01J/0L/J?(日) 1J:J0:J? 失礼ですがセレンさんは虚言癖の気があるのですか。某所で話題になっていたものですから。　10ʔ：jeμen ◆ €μɜ9ʔΨrɑɯJ：J01J/0L/J?(日) 1?:?J:1? 人工言語と言語学の質問スレなのですが……。まぁ他に投下するところもないので仕方ありませんね。　虚言癖というのはこういうもののことですか？ http://komachi.yomiuri.co.jp/t/2009/0209/224415.htm　ーーだとしたら違いますね。
＞彼は、年齢から住所、家族の職業や所有車種に至るまで詐称していました。実年齢は ʃ 歳高く、都会住まいも実際は田舎育ち、公務員は嘘で下請け会社の社員、所有車は高級スポーツカーでなく小型の中古車　僕は年齢も詐称していませんし、埼玉の田舎育ちと言っていますし、職業で見栄を張ったこともないというか 09 年以降は身バレが怖くてそもそも語ってすらいないですし、車は確かにまぁ ¥€.–Δ に乗ってはいましたがそれは事実ですし、別にこういう嘘はつきませんし。　大方アルカに嫉妬している荒らしが叩きどころに困って個人攻撃をしているだけでしょう。　僕はむしろ人より嘘をつかないタイプです。僕みたいに真正面からぶん殴るド直球タイプはそもそも嘘が苦手です。前についた嘘を覚えてられないので矛盾するのが目に見えてるからです。　虚言癖というのは自分を大きく見せる病気のようですが、それって「実際に大きな人物が憚らずに自慢した場合」と一見区別がつきませんよね？　遠慮無く言ってしまうと、僕はどちらかというと後者なのですが。　僕は虚言癖というより、単に他人から凄いと思われたい人物です。ただし凄いと本当に思わせるよう、人並み外れた努力をします。　アルカが代表的な努力ですし、ほかのコンテンツをはじめ、年収や格闘技などもそうです。努力して凄いと思わせる証拠を作ります。　その証拠がなければ最も疑り深い自分という存在を説得できないからです。虚言など無意味ですね。最も難敵である自分自身を騙せませんから。　僕がアルカを異常なまでにリアルに作り込んだのも、自分という疑り深い人間を説得するためです。　狡猾なこいつにすら「もしかしてこの言語はどこかに実在するのかもしれない」と錯覚させるクオリティのものを作りました。
僕の敵は荒らしのような雑魚ではありません。最も疑り深く狡猾な自分自身です。こいつを攻略するのが一番難しい。　自分との戦いです。そして自分に嘘はつけない。だから虚言には興味がありません。動機がないわけです。　で、僕の場合は努力で培ったものをあけっぴろげに人に言うわけです。　それが大した努力もしてこなかった人間には嘘や大げさに見えるのでしょう。　荒らしは語彙が貧弱で努力もしてこなかったような輩なので、自分の嫌いな相手が凄い人であるという事実を認めたくないだけだと思います。　そうやって事実を歪めてる荒らし自身が一番妄想に囚われてると思うのですがね？　ともあれ僕は等身大の自分をありのまま語る人物です。臆せず自慢しますし、情けない部分については逆に自嘲もします。　僕は他人から凄いと思われたいので、自慢できる要素を努力して増やし、おおらかに自慢します。　それが一部の人には鼻持ちならなかったり、信じられずに虚言癖に見えるのでしょう。それだけのことです。

scleʃ ［形容詞］ファンキーな、イケイケな、ウテウテな ［レベル］4　μɑ;sccl/ʃe「ジールのような」 J?:ɒel/μcɑcɪ: ↑ ［語法］ ノリノリでテンションが高く、飄々としていてふざけているような感じの人物に使う。正常なのかキチガイなのか境界が分かりにくい。『パイレーツ・オブ・カビリアン』のジャック＝スパロウや『池袋ウエストゲートパーク』の安藤崇のようなキャラのこと。

sclll ［生物］指紋、フィンガープリント ［レベル］3　1ʔ: 制 : 指の跡 ［文化］ 指紋の強制採取は旧革命で行われたが、その後なくなり、ɪl では犯罪者だけとなった。

scɪn ［言語］限定詞 ［レベル］6　J?:ɒel:「指し示すもの」

scɪnɔz ［音楽］フィンガーピッキング　J1

scɪl ［動詞］ɥel を掃討する、掃討する、殲滅する、一掃する、一網打尽にする ［類義語］llebɪ ［レベル］3　J0:scɔ/ʃeɪlʃ ［語法］ 大勢の敵を一網打尽にすること。敵が単体の場合は使わない。

scc,ɑu　scɟ　ɑɔuel

S

sccɔl ［動物］こおろぎ、コオロギ、蟋蟀 ［名詞］うるさい外野 ［レベル］3 ʔ: 制 : lɪʔlɪ:scc（鳴き声のオノマトペ）

sccɔl,ɑ ɾlɪscɔ

sccɟɪ ［被服］スラッシュ。タブレットなどの上着に入った裂け目のこと。 ɟɒ;scc/ɟɪbe ɟʃʃ

sccnɪ,ɑ ɔɟɒeʃ, leseɒɒe ɟɪɪl;scnɪ.l

sccφ ［被服］チャック、ジッパー ［メタファー］機密保持、秘密保持、口チャック ［レベル］3 古 : オノマトペ scc/ 金属の φc ［用例］ hɔɔ{ɑeɥe} sccφ チャックを開ける { 閉める }

sccφuceɥ ［名詞］縅口令 ［レベル］4 ʃʃ

sccz ［論理］命題 ［レベル］5 ɑu;scsc.l ʃʔ

scczel ［音楽］ブルース ʃʃ:sczɔl

sccl ［組み数字］１９/２８ ［交通］ジール通り ［レベル］2 ʃʃ

sccl uɪlcu ［人名］ジール＝ヴァシヴ ［組み数字］１９/２８ ［レベル］2 古 : 語源不詳 :uɪlcu（声が大きい） ［文化］（J →) 第４期４代ソーン第５使徒。男性。ɩpɑen。１７４ｃｍ、６２ｋｇ。長髪の直毛の黒髪。黒の瞳。肌は白：黄＝５：５。 ・『ミールの書』より 下がえんじ色の長ズボンで、上は紺のジャケットを羽織っている。長髪の黒髪は美しく腰の辺りまで垂れている。顔の作りも男にしては端麗で、格好良いというよりは綺麗な感じ。 ジールは「はは」と笑う。彼の手に掛かってしまえば、リディアも「嬢ちゃん」になってしまうようだ。彼は笑っているが、ミールには何がおかしいのかさっぱりわからない。ただ言えることは、このジールとレレゾナは異様に明るく、一緒にいると疲れるということだ。ネーネはこの２人といてよく身が持つものだなとミールは思った。

sccl uɪlcu(J) ［人名］ジール＝ヴァシヴ ［レベル］5 古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第５使徒。異性魔王。

scɔ ［サール］皆殺しのジオ ［動詞］ɥel を皆殺しにする、皆殺しにする、お家断絶する ［普通動名詞］皆殺し、鏖 ［類義語］ɪlənəɟ ［レベル］3 ɒcɑcɪ: 古 ［文化］ 元は信心深いサール信者の人間だったが、呪われた青年メロウに「 お前の隣人である１４人からなる信心深いエルト信者の家族を殺すことができたらサールにしてやろう 」といわれたジオは、メロウの言葉に従った。ジオはその隣人を襲い、言葉どおりに出会った者を皆殺しにした。その際にジオは顔に派手な化粧を施し、魔力を高めており、この化粧は歌舞伎の語源にもなっている。満足したメロウはジオをサールにしたが、実は生き残りが隠れていた。母親によって物置に隠されて難を逃れた少女テーア (feeɪ) である。

scɔɟ ［気象］日陰、日影、日蔭、日景、日かげ、ひかげ ［生物］兪穴、愈穴、背中のツボ。背は陽だが、陰病の治療に使うので日陰。 ［音楽］インディーズ、インディー ［反意語］hɪneɟ ［アクセント］scɔ̀ɟ ［レベル］2 J0: 古メディアン語で「黒」。

scɔɟuccɑɪ ［生物］［医療］兪穴 μɑ;/ ɟʃʃ ［文化］ 背は陽だが、陰病の治療に使うので日陰。

scen ［名詞］スポーク、細い棒、時計の針、棒、針 ［レベル］2 ʔʔ: 制

sɔ ［名詞］怒り、アンガー、（nɪ とともに）怒る、怒った、憤慨した ［類義語］nɪɪze ［反意語］nccnɪ ［レベル］1 ɑ;e 古 ［文化］ɪlɒccɟ ［成句］ ɑɔʔ sɔ ɪ nɪɪze 怒りに怒りを注ぐ：火に油を注ぐ ［用例］ ɪn nɪſ sɔ ɒcl μenɟ lɪɪſ. 彼の言葉に腹が立った。 ɪn nɪſ sɔ ɔlſɪ ɑc ɔs ſcɔ ɪn. 誰かに触られただけで腹が立った。 ɪn nɪſ sɔ. 頭に来た。 ɪn en ʎlɒɪ nɪ sɔ. 私はほとんど怒らない。 ɪn en cn ɟccɪ lɪ nɪ sɔ. 彼が怒っているのを見たことがない。 ɪn μɔʔμ ɪſ ucl nɪ sɔ. 怒りが収まらなかった。＝怒りを我慢できなかった。 ɪn nɪſ sɔ enſɔ ſcɑl ɟɪſ ʎɔlɔ. 理性を失うくらい怒っていた。 lɪ nɪ sɔ ɟɔɑel. 彼は怒りっぽい。 lɪ nɪ sɔ ɪ ɥeμjen. 彼は些細なことに腹を立てる。 ɪn nɪ ləſ sɔ ɪ ʎəɔɒ lcllɛ lɪɪſ. 彼の無礼な物言いに怒りを覚える。 lɪ nɪ sɔ ſel ʎəɔɒ lɪɪſ. あの話し方からすると、彼は怒っているだろう。 ɪn en lɔlc eɟ lɪ nɪ sɔ. どうして彼が怒っているのか理解できない。 ɪn jeμɪſ lɪ nɪ sɔ ɪ μenɟ ɪnſ fel eleſ. 表情から、彼が私の言葉に怒っているのだと分かった。 ɪn nɪ elɑ sɔ ɪ ɥeμjen ſcɟ. さささいなことに腹を立てないようにしよう。 ſə ɑeſ ɑɪz ɪſ ɪn nɪ sɔ. それは怒るに値しないことだった。 lɪ nɪ ɟcl sɔ ɪləəſel ɔl lɪ jeμ ſə. もし彼がこのことを知ったら怒るに違いない。

sɔſ ［動詞］ɥel を ɪ に紹介する、紹介する ［レベル］3 ʔʔ: 制 :seſ。元は２対だったが、あまり対に感じないのでアプラウトとして残した。 ［語法］ seſ ［文化］ 知らない人と会ったときは自己紹介をする。知らない人といっても一期一会の通りすがりやただの店員などにはしない。これは日本と同じ。自己紹介はどちらともなく思いついたほうから始める。上下関係によってどちらが先ということはない。人を誰かに紹介する場合も同じ手続き。紹介せずに輪に加えようとするのは失礼。

sɔſjeu ［名詞］紹介文、ＰＲ文 ［レベル］3 J0 ［文化］ nɪſceɟeu

sɔſlec ［名詞］カタログ、パンフレット ［レベル］3 1L

sɔʔ ［言語］s の文字 ［レベル］1 ʔʔ: 制 :sɔʔj（縁起のいい方向） ［語法］ 第１８文字目の幻字。

sɔʔ(J) ［動詞］ɥel を叱る、しかる、叱る、怒る、折檻する、説教する ［レベル］2 ʔ: 制 : 古 sɔʔə（怒って言う） ［用例］ ɪn sɔʔlſ ɥe μɟccl ɒɪn ʎɔlſɔʔ μɪ nɔuel. 遅くに帰ったので親に叱られた。

sɔnɟ ［政治］封建、封建制度、封建制 ［レベル］4 μɑ; ↓ ʔ: 制 :sɔn（恵む）から

sɔμ ［動詞］ɥel を搾る、搾る、絞る、しぼる ［レベル］2 古 : 水を含んだタオルを搾る音から

sɔl ［植物］幹 ［レベル］3 1L:zedl の一部をテーブルに載せたもの lezɔ:lezɔ

sɔlſ ［名詞］本題 ［反意語］zedeſ ［レベル］3 JJ:sɔl/ſe

sɔlſ ［文頭純詞］閑話休題、それはさておき、話を戻して ［反意語］zeʎlɪ ［レベル］2 1L:sɔl/ə

sɔleſ ［名詞］本番、本題、メインテーマ、メインディッシュ ［反意語］zedeſ ［レベル］3 μɑ;sɔl/ſe「幹のような」 ʃʔ

seſ ［動詞］ɥel を ɪ に案内する、案内する、エスコートする、導く ［レベル］3 ʔʔ: 制 : 古 :scφ から ［語法］ sɔſ の n 対だったが、対であると言われるまで対だと気付かないような単語なので、そのまま残っている。そういう事情なので格組は sɔſ と同じで、ɥel には案内の対象が来る。 ［用例］ ɒcμ seſ ʎɪnſe ɪl ɪn. カルテを案内してください。

seſlɔn ［名詞］案内板 ［類義語］ɪlzɪɒ ［レベル］4 J0

seſſ ［動詞］ɥel（人や感情）を煽る、あおる、煽る ［レベル］3 lɪʎlɪ ［用例］ ɪn seʎlɪſ lɪ nɪ sɔ. 彼の怒りをあおった。

seʎj ［名詞］不吉な方向 ［反意語］ɪlseʎj ［レベル］4 古 :seʎj。se は恐らく「 未だ 」。ʎj の部分は不明。ただ、j で終わるので元は動詞の可能性が高い。 ［語法］［文化］ カーデにおいて不吉な方向を指す。

sejſ ［言語］あだ名、アダ名、仇名、あだな、あざな、字、ニックネーム ［レベル］2 ʔ: 制 : 古 : sceejſe（（使徒によって）決められた名前）

sen ［植物］草 ［反意語］zɔɔ μɑ;zɔɔ.ſeel ［レベル］2 @ 1L eɑel:eɑel:le eeɑel:eɑe,ɪlſ

senſ ［気象］天気、気象 ［経済］値動き ［レベル］2 制を参考に ［文化］ 挨拶代わりに天気の話をする習慣はない。ɑcj eſ hɪμſ ʎɔʎ8 といえば純粋に天気の話をしたいと理解される。ſc eſ uɪlnɣ と聞けば相手の健康について話したいと理解される。アルカでは天気と健康は挨拶にならないので注意。挨拶は jɔɔnɔɥen などしかない。 アルナの天気は安定している。やけに暑かったり寒かったりはしない。どしゃぶりになったりかんかん照りになることも少ない。安定している。なんとなく晴れているかなと思っていたらしとしと降って暫くして止むというような天気が多い。また、台風や雷といった災害も滅多に来ない。異常気象も少なく、大体每年同じような天候である。だからアルナの人は天気にあまり関心がなく、結果的に話題にすることもあまりない。 ［用例］ senſ ɪſ μɪſ. 天気が良かった：晴れとは限らない senſ ɪſ ɑμɑ ɩɪnel. 天気は本当に良かった。 senſ ɪſ ɥɪɒ ɔn ſə jel. この日は天気が悪かった。 senſ eɒɪſɔμ μɪſ. 天気が良くなっていった。 senſ ɪſ pelcj. いやな天気だった。 senſ eɒ μɪſ ɥɪɒ ɪʎel cn. 今にも崩れそうな天気だった。 ſə senſ en jcl ʎɪl. この天気は続かないだろう：lɪl は ɥel 格。jcl が繋辞。 ☆ senſ eɒeɟ pelſ. 寒さが和らいだ。 ſə ɪſ senſ μec ɪn. 寂しい天気だった。 senſ ɪſ jɔμſ ſcn. 冷え冷えしていた。 senſ ɑe μɪſ cɒ ʎejſ, ɪɪl, cɒ eμɪɒ e ʎejſ ſeμ, ſlɪl μɪnɔ e ɒɪcn en eɒ sɪl ʎlſ ſə ɒel. 明日、特に明日の午前中は天気が良くないようだが、祭の日程は明日のその時間まで決まらない。

senſdɪl ［気象］天気図 ［レベル］5 1L

senſdɔʎlɪ̀ ［気象］天気予報 ［レベル］3 1L ［用例］ ſel senſdɔʎlɪ̀, senſ eɒ jcl μɪſ lc en ɑlɔn. 天気予報によると天気はすぐ回復するらしい。 ɪn ſeμ senſdɔʎlɪ̀ ſɪſ ɑɪμ. 私は每朝天気予報を聞く。 ɪn jɪɪcnɪſ senſdɔʎlɪ̀. 天気予報を確かめた。 ☆ sɪn jcl ejdſe ſel senſdɔʎlɪ̀. 天気予報は曇りだった。 senſ jcl μɪſ ɪjel ſel senſdɔʎlɪ̀. 天気予報によると天気はすぐ回復するそうだ。 senſ jcl eʎſe cɒ ʎejſ ſel senſdɔʎlɪ̀. 天気予報によると明日は雨のようだ。 senſdɔʎlɪ̀ e ɑcj ɪſ ſcɪ{eucſx. 今日の天気予報は当たった { 外れた }。

senſdɔʎlɪ̀lɪn ［気象］天気予報士 ［レベル］4 JJ

senſc ［地球の国名］イタリア ［レベル］4 古

senſcbel ［ユマナ］イタリアン ［レベル］5 1L

senʎɪ ［地学］草原 ［レベル］3 ʃʃ ʎɪlɒɔ:ʎɪlɒɔ

senɔɥɪ ［アトラスの国家］ジェノヴァ ［レベル］5 ʃʔ:μcɑcɪ

selcʎɪ ［地名］ジェリカ ［レベル］5 J0: 未発達な土地 ［文化］ アルヴェッテの西南部に位置する小都市。サルト教の本山がある。

selcn,jzʎ ɑcφc

selcɪ ［宗教］サルト教、ジェリア ［レベル］5 J0:selcʎɪ ［文化］ ɥəəɒɪ ʃʃʃʃ μəɑcɪ は多神教のサルト教を樹立し、アルテ教から分派・独立し、selcʎɪ に居を構える。教会は二分され、内紛が起こり、力が弱まる。

selcɔn ［建築］ジェリオン宮殿、ジェリオン城、ジェリオン宮、新アルバ城、新アルバザード城、新アルナ城 ［レベル］3 ʃʃ:μcɑcɪ ［文化］ → ɑɪlʎcɪn ɟɒ で建てられた宮殿。現在はアルバ王室の宮殿。デザインは地球でいうとフォンテーヌブロー宮殿によく似ている。 所在地は現在で言うとコノーテ＝オヴィ通りで、国会議事堂のすぐ北。

secɑ ［名詞］すだれ、みす、簾、御簾、ブラインド ［レベル］2 古 ［文化］ 御簾は各家庭にあり、デザイン性の高いものが多い。特に香を焚く部屋には高い確率で置かれる。アズゲルで木製や布製のものが開発されたが、セルメルで金属製のものが開発され、金属製が主流になった。その後アルティルでルティアからルティア製のものがブームになった。それが木製だったため、現在では木製のほうが風流とされている。オフィスでは金属製が多いが、家庭では木製がやや優勢。

secɑɑɔl ［地学］緑簾石 1L

secl ［魔物］ジェイル（光雲）: 第五十九天 : 光の巨天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:scnɪ/eel（空に浮かぶ顔） ［文化］ 憑族。一見雨雲かと思って見過ごしたところを襲う魔物。急に光りだしたかと思ったら雲に顔ができる。同時に酸の雨を降らし、獲物を溶かす。

sə,ɑ ɥə e

səſe ［植物］オクラ ［レベル］3 古 : 原義はネバネバの葉っぱ

səlcl ［魔法］ゼロガレット ［反意語］ɪsəl ［レベル］6 lɟj;sə/ʎclc ʃʃ ［文化］ ɑɔlɒcɥə

sələφɪbe ［料理］おでん ɟɒ<zφ;ɪlſ「染みこませた具材」 ［レベル］3 ʃʔ

sələlə,ɪlſ ɟɔɔʎ ɑɔuel

səjʎɪ ［地名］ジュスカ川 ［レベル］6 1L:μcɑcɪ:scnɪ/ɪjʎɪ ［文化］ アシェルフィ西部を通る川。北西からカンタルを通過し、アシェルフィを通り、学校のすぐ東を抜けて南に降りていく川。川幅は８メルフィほどで、底は浅く、流れは穏やかで、水は透き通っていて青い。川底には白い石がたくさんあり、上から見ると泥は少ない。アシェルフィの守護神であるアスカが南の丘の方へ昇っていき、そこから天に舞うと考えられている。

sən,ɪlſ eμc 刀傷から血の滲む音

sənʎ ［ネガティブ］人間、人間め、人間どもめ ɑu ［レベル］3 ʃʃ:ɥənʎ の古形で「捕われし者」。宇宙に出れなくなりアトラスに捉われたもののこと。後に飛べなくなって土に縛られたもの の意味にもなった。 ［語法］ 人間以外が人間を蔑視するときの言い方。

səuɪμnɔ ［地名］ジュヴァルノ ［レベル］5 pelſcɪ Lʔ jen ucɪ;sə（される）/ɩɪnɔ（守る） J0:μcɑcɪ:sə（される）/ɩɪnɔ（守る）。地理的にメルモアに囲まれて守られたように見える内陸国家であることから。 ［文化］ 古代国家のひとつ。メルモアの内部にある。

səɑcl ［料理］ムニエル ［レベル］3 ɟɔμn

səɒcɥə ［魔法］錬成質、ジュミーユ ［アクセント］səɒɛ̀ɥə ［レベル］6 J0: 古 sə/ɒcɥə（変化を受ける） ［文化］ lɒcɥə

səμ,ɑ cɒel μɪl;e

səμecu ［建築］ジュレイブ宮殿 ［言語］［文字］スラブ。セリフの一種。 ɟɒ;bφ ʃʃ ［語法］ ɪnsəμecu ［文化］ ɟɒ で建てられたベルガンドの要塞宮殿。スラブセリフが流行った。

səsə,ɑ ɥəſ

səlcɪ ［地名］ジュリア、中央アルナ市南区モール ［レベル］5 ʃʃ:ɪ ［文化］ səlcɪn, səlceſ 中央アルナ市南区の旧地名。現在はモールを指す名となっている。

səlcɪn ［経済］ジュリア価格 ［レベル］5 ʃʃ:「ジュリアの」 ［文化］ səlcɪ における商品の物価。zɔnʃjeɑ e ſoen が起こった ʔJ0 年のジュリア価格が初期の数値である。以降、十年ごとのジュリア価格の平均値を用いる。つまり ʔʔ0 年に ʔJ0 ～ ʔ1L 年までのジュリア価格の平均が出され、新たなジュリア価格となる。この数値は経済白書などに用いられる。

səlcɪlɔɔb ［被服］ポーラーハット nɑ;/ ɟʃʃ ［文化］ ジュリアで生まれた帽子。男性上流階級用。

səlceſ ［経済］［言語］ジュリエット、平均ジュリア価格 ［レベル］5 ʃʃ:səlcɪ/ſe ［文化］ アレイユの物価は比較的安定しており、大きなインフレやデフレが起こらなかった。そのため、アレイユのジュリア価格を均したものをジュリエットと呼び、ディアクレールの物価の記載に用いた。ジュリエットはジュリア価格より長期スパンでの物価を示すため、価格でなく価格帯で表記される。つまり、ジュリア価格は価格だが、ジュリエットはいくらからいくらぐらいという価格帯で表記される。 ジュリエットはジュリアよりも長期間で物価を見ることができる。幻日辞典は ls までの語を扱うが、文化的視点はデフォルトがアレイユになっているため、物価の表記はジュリエットを用いている。単位は ɟʃʃ である。 量を示す単位がない場合はデフォルトで 1b。液体は 1l。 野菜など、自然物の場合は旬の価格を指す。例えばレタスなら春。旬がない場合は比較的価格の安い時期を指す。

səlceſ,jzɑ ɑμec sə eʎj ɥə

səleſ ［人名］ジュレット ［組み数字］５/１３ ［天文］ジュレット座 ［レベル］3 先 :ɪnɔ:sccl ［文化］ 第４期３代ソーン第５使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

səɪl ［魔法］精錬質、溶質 ［類義語］ɪɑcɟſ, ɪlɑe ［レベル］6 J0: 古 sə/ɪlſ「受けるもの←溶かされるもの」

səənɪ ［医療］感受性 ［類義語］nɪlen, nɪɒcμ, ɥəənɪleʎj ［レベル］3 JJ:ʎɒccμ: 古 sə/nɪ「受ける心」 ［語法］［文化］ jeμnɪ ［用例］ lɪ ſcl səənɪ ʎclj. 彼は感受性が豊かだ。

O

oɪ,ɑ lɪj e

oɪ,ɪlſ ɔ

oɪſ ［動詞］ɥel を ɪ に配達する、配達する、届ける、出前する、宅配する、仕出しする ［普通動名詞］配達、出前、宅配、仕出し ［レベル］3 ʔ: 制 : 語源不詳 ［用例］ oɪſ heʎ 手紙を配達する

oɪſ(J) ［感動詞］わっ、わ、おっと、おっとっと ［レベル］1 ɑ ʃʔ ［語法］ 驚きなどを表す。

oɪſſɪ,ɪlſ ocj <>oɪ

oɪſſɪn ［植物］カシワ、柏 ［レベル］4 zφ;;oɪſſɪ JJ

oɪſɪ ［経済］市場（いちば）、市、マーケット ［経済］市場（しじょう） ［レベル］3 μɑ;oɪſɪ 古 :oɪſɪ（売る）から。 ［用例］ el ɪſɒɪſcμ lɪɑldɪzɒ ʎɪ oɪſɪ. 市場に山菜が出ていた。

oɪſɪ,ɑu ɪſɒ 「外に渡す」

oɪſɪj ［経済］バーゲン ［レベル］3 ɟɒ;oɪſɪ/ɟɔ「市場する」 ʃʔ

oɪſɪjſɪɑlɪn ［経済］チェリーピッカー、バーゲンハンター ［レベル］5 μɑ;/ ʃʔ

oɪſφɥʃ ［経済］市場価格、市価 ［レベル］5 JJ

oɪſɪɪul ［経済］市場経済 ［レベル］5 1L

oɪſə,ɪlſ ɔʎen oɪ/ſə

oɪʎ ［料理］出汁、ダシ、だし ［レベル］3 1L:μcɑcɪ ［文化］ 軟水の湧くアルバザードにはダシを使った料理がある。ダシはワッカで発達し、アルバザード全域に広まった。ワッカは山岳部でキノコなどが多く、またカテージュのすぐ北なので昆布なども手に入ったためである。
また、ɟɒ では凪人が海産物の出汁を持ち込んでいる。ただし日本と違って半島国家だから思ったほど海産物の出汁が取れない。

oɪʎɪ ［地名］ワッカ ［レベル］4 古 : 手の形をした丘が並ぶことから。 ［文化］ カテージュの北、イルケアの南にある丘陵地帯。

oɪʎl ［化学］うまみ、うま味、旨味 ［レベル］4 1L:oɪʎ/lɔc

oɪʎlɩb ［料理］［化学］調味料。旨味を出すためのもの。 ［レベル］4 1L

oɪlı ［地学］丘、丘陵 ［レベル］3 ʔ: 制 : 盛り上がった土地

oɪlɪnɪ ［植物］山菜。特に凪人が好むわらびなどの山菜をいう。 ［名詞］ロリコン、ロリータ、ロリータコンプレックス、ロリ、炉、炉利 ［類義語］ɥəlcocl ［レベル］3 zɸ;<>oɪlʔı | μɑ; セレンが２０歳のころ ɪlʃ 人の９歳の少女 oɪlɪnɪ を気に入って可愛がったことが転じて後にロリコンの意味で使うようになった。 ɹʔ ［語法］ ɥəlcocl はより医療的な単語で、oɪlɪnɪ がより日常的な単語。語源はロリコンの対象となる少女を指す言葉だが、そこからその子を好きになるような年長者のことを指すようになったため、ロリコンの意味で使う。ロリータは厳密にはロリコンの対象となる少女を指すが、日本語でもロリコンやロリコンの性癖として使われることもあるため、訳語に設けた。 ［成句］ ɪl oɪlɪnɪ, ʃəɔ lcleɹʃ Ｙｅｓロリータ、Ｎｏタッチ！ 変態紳士の合言葉。 ɪl oɪlɪnɪ, ɪɹ lcleɹʃ Ｙｅｓロリータ、Ｇｏタッチ！。ɪl と ɪɹ で頭韻を踏んでいる。

oɪlɪnɪrɪeeɸlɔʃ ［俗語］ストライクロリゾーン ɪl;/ ɹɹ ［語法］ ロリコン趣味における主に年齢的なストライクゾーンのこと。まぁそんなことより女の子が一番可愛いのは９歳から１０歳にかけてだと思う。 ［用例］ oɪlɪnɪrɪeeɸlɔʃ e ɹeɹpen eʃ c ʃɔlcɹ L ɪl 10 ɑɪ. セレンのストライクロリゾーンは小３から小４（９歳から１０歳）だ。

oɪlɪdɔl ［地学］丘陵地帯 ［レベル］6 ɹ1

oɪlɪl ［植物］セージ ［レベル］3 ɪlɪlʃɪ

oɪle,ɑ ʃə（それ）

oɪl ［名詞］突起 ［形容詞］突き出ている、凸な ［動詞］ɥəl を ɪ に突き出す、突き出す、突き出る、突出する、突出させる、出っ張る ［数学］頂点 ［反意語］ncɹ ［レベル］3 ʔ: 制 : 古 :ɪlɪoɪ（山） ［用例］ oɪl uɪl ɪ pɛʃl 敵に武器を突き出して向ける

oɪlɒ ［医療］憩室 1L:oɪl

oɪldɔɔs ［生物］隆椎、第７頸椎 μɑ;/「突き出た頸椎」 ɹɹ

oɪɹʃ ［動詞］ɥəl を振る、振る、振りかざす ［レベル］2 ɑl;oɪ 1ʔ: 制 : 語源不詳 ::lɪnɹ ［成句］ oɪɹʃ ɪɹzɔn ʔɪlʃ ɑɪc cʔ ɹɔɑ. 火が出るまで杖を振りなさい：最初は成功しなくても何度でも試しなさい。七転び八起き：魔法使いの子供は火を出す簡単な呪文から練習する。最初は火が出ないのでがっかりするが、周りの大人は諦めずに何度もやるようにアドバイスする。練習を重ねれば、いつかきっと魔法が使えるようになる。

oɪɹʃʃɔlʃ ［名詞］素振り、すぶり ［レベル］3 μɑ;/「振る訓練」 ɹʔ

oɪɹʃɪn ［音楽］カバサ zɸ;oɪɹʃɪn,ɪɹʃleɥcɪ><oɪɹʃ ɹɹ

oɪɹd ［被服］袖、スリーブ ［反意語］ləɹd ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :oɪɹibe ［用例］ oɪɹd ɑcl 長袖

oɪɹdleʃ ［動詞］ɥəl を引き止める、引き止める、引き留める、慰留する ［普通動名詞］慰留 ［レベル］4 ɹ1: 女が男の袖を引っ張って捨てないでと哀願することから。

oɪɹdɪ ［被服］カフス ［レベル］5 ʔ: 制 :oɪɹd

oɪɹeʃ ［哲学］克己 ［組み数字］5 / 1 0 ［哲学］克 ［医療］大腸 ［歳時記］壬、みずのえ ［レベル］4 μɑ;oɪɹeʃ,ɑu ɹ1 ::lə oɪɹeʃ

oɪɹeʃ,ɑu ɪɹeʃ oɪɹʃ.ʔ

oɪɹeʃlɪn ［生物］［医療］大腸経 ɹzl;/ ɹɹ

oɪn ［形容詞］大雑把な、物の切り方が大雑把、仕事が大雑把、人の性格が寛容で細かいことに気にしない、荒い、荒削りな、ざっと、いい加減な ［反意語］lclj ［レベル］3 ʔ: 制 : 語源不詳 ［用例］ lıb oɪn 大雑把な仕事、いい加減な仕事

oɪn(ɹ) ［代詞］［南方］［男性］ɪn ［レベル］3 ɹ1:!.ɪn

oɪn,ɪlʃ ɹɔl、dɔʃɔ̀

oɪnʃ ［名詞］杯、カップ、トロフィー ［レベル］3 古

oɪnɪ̀ən,ɪlʃ dɔʃɔ̀

oɪnɑɪ ［地名］ワンダ ɹɒ<oɪnʃɪ,ɪɒ ɹʔ ［文化］ ヴェマ東南沿岸部の地名。

oɪnɑɪeʃə̀ ［料理］烏龍茶、ウーロン茶 ［レベル］3 μɑ;/ ɹʔ

oɪns ［非言語］ワンジュ ［レベル］3 ɹ0:ɒelcɑcɪ lceɹ:oɪɪn/sc ［語法］ 片方の人差し指を立て、胸の高さまで持ってきて前後に小さく振るしぐさ。思い出したり人に何かを言及したり訂正したり気付いたときなどに使う。通常左手で行い、「あっあー」などの声とともに使う。

oɪnlɥəɑcɪ ［言語］ライトファンタジー ［レベル］5 μɑ ɹɹ ［文化］ lɥəɑcɪ

oɪnc ［名詞］凹凸、おうとつ、デコボコ ［工学］歯。歯車の歯。 ［レベル］3 μɑ;oɪl/ncɹ ɹʔ

oɪncɪll ［工学］歯数 μɑ;/ ɹʔ

oɪnɔ ［アイテム］小手、手甲 ［レベル］3 μɑ ɹ0: 古 oɪ/hɔ（手 / 固い） oɪhɔ:oɪhɔ

oɪnen ［代詞］［南方］［男性］ɪnʃ ［レベル］3 ɹ1:oɪn の属格

oɪu ［生物］掌、しょうてい ［レベル］3 1ʔ: 制 ;ɥcɑcɪ: 古アルカでは oɪuɪɹ といい、手の武器という意味を持っていた。 ［語法］ 手の平の下部。手首のすぐ上から親指の付け根にかけての部分。ここは手の平のほかの部分より圧倒的に硬く、アルカではこの部分は oɪu と呼び、ocɹ とは切り離している。

oɪuɪ ［植物］カエデ、楓、もみじ、かえで、紅葉、モミジ ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɪlʃɪ:oɪuɹ（oɪuɪ（ショウテイ）から来ている） ［文化］ 秋の代表的な木。カルテのフェンゼル通りに大きな並木道がある。 ルティアの国樹。 ［用例］ ʃeɪ e oɪuɪ eɒɪʃ hɪɹ. カエデの葉が赤くなった。 ɪn ɪlucn ɹɪʃ ɑɔə ɒeʃʃeɪ e oɪuɪ. 紅葉の葉を何枚か拾った。

oɪɒ ［名詞］洞窟、ケーブ、洞穴、ほら穴、ほらあな ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɪlɪoɪɒɥəlɪ（山の穴）

oɪɒɪ,ɑ 100 elʃ;oɪs/ɒɪns

oɪd ［形容詞］利き ［名詞］利き手、利き腕 ［動詞］ɥəl を自在に操る、自由に利かせる ［反意語］ɪlloɪd ［レベル］3 ʃɒ;e 1ʔ: jeɹpen:ʔlel:jcɑ:coɪ（利き手）。同時に「右手」の意味。 ［語法］ oɪd は利き。いくつか、特に二つあるうち、メインで使われるものを指す。より上手に得意に扱うことができるほうを指す。利き腕などに使う。 ɪʔl oɪd は利き腕、lɪɹ oɪd は利き手。日本語で利き腕というときは lɪɹ oɪd のほうが多い。

oɪdzɔnɑ ［運動］フォアハンド 1ʔ: 利きショット

oɪdlɪɹ ［生物］利き手 ［レベル］3 μɑ;/ ɹʔ

oɪdɔlɪɔ ［音楽］ボンゴ zɸ;oɪdɔlɔ,ɪɹ]eɥcɪ oɪ は手。dɔlɔ は擬音。 ɹɹ

oɪbel ［アトラスの国家］ワベル ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: 山のファベル。oɪ は ɪ̀ɪlɪoɪ の oɪ

oɪhɔ ［名詞］レンガ、煉瓦、ブリック ［レベル］3 ɑu:hɔ は「固い」 古 :oɪhɔ oɪhɔ:oɪhɔ

oɪhɔ,ɑu oɪnɔ oɪ/hɔ「手の固いもの」

oɪɹ ［名詞］ベニヤ板 ［レベル］4 lɪ̀lʃɪ

oɪz ［建築］ひさし、庇、軒 ［レベル］3 1L:oɪz/zɔn。zɔn はこの場合、幌を支える棒。 ［用例］ ɪn ɑɔnlɪʃ ejɪ pɔl oɪz. 軒下で雨宿りをした：軒下は pɔl oɪz、あまやどりは ɑɔnl ejɪ。

oɪzeʃ ［軍事］［魔法］魔動手甲、ワゼット ［レベル］5 ɹ0:oɪ（手）/eʃ（～風な）「手のような」 ［文化］ イムル ʔ0Δ 年に clɒc ɪ̀lcnɪɹ が開発した武器。右手に嵌めて使う。ほぼ右腕一本にまるまる嵌めて使うので、装着といったほうがいい。 魔動銃をさらに強化したもので、砲弾のような威力がある。手に魔法の大砲を嵌めているようなものである。

oɪzel ［宗教］祓魔師、エクソシスト zɸ;「振り払う人」 ɹɹ

oɪs,ɑ ɸ elʃ;oɪ/sc 手を広げることから

oɪoɪ,ɑ cɪɪl

oɪl ［地学］山 ［形容詞］～山。前置。 ［物理］波の山 ［反意語］əcl ［レベル］2 ɑl;oɪ/ɪl「手の形の」。あるいは əcl からの ʔ。 ʔ:μɥəə:ʔlel: 古 :ɪlɪoɪ ɪ̀ɪlɪoɪ:ɪlɪoɪ:lɪ ɪ̀ɪlɪoɪ（サールが山） ［用例］ lɪn ɑc lɪʃ oɪl. 山にはたくさんの人がいた。

oɪl(ɹ) ［動詞］ɥəl を ɪ に手渡す、手渡す ［普通動名詞］手渡し ［レベル］3 ɹ0

oɪlʃ ［軍事］兵卒 ［組み数字］7 / 7 ［レベル］3 古 :zɪnɪ:oɪ/lɪnʃcɹ（手となる人（下っ端の意味だろう）） ［文化］ 兵の階級のひとつ。曹長、軍曹、伍長に分かれる。 兵長、上級兵、下級兵に分かれる。日本では下級兵ではなく一等兵だが、そうしてしまうと後の二等兵がないため、下級兵とした。 日本語では兵卒でなく兵だが、uɪc と区別するために兵卒と訳している。

oɪlʃj ［動詞］ɥəl をよつんばいにさせる、四つんばいにする。姿勢動詞 ［再帰動名詞］よつんばい、四つんばい ［レベル］3 ɹ0:oɪ/ləɪ/jɔ（手と足する）

oɪlʃeeze ［気象］山風 ［気象］山谷風← oɪlɪeclʃeeze ［気象］風、おろし← ɒcɒʃeeze ［レベル］4 ɑu;/ ɹʔ

oɪlʃɪɑ ［地球の国名］ハイチ 1L: 国名が山ばかりの土地

oɪlʃɪɪɒɪ ［アトラスの国家］ワルカーマ ［レベル］5 ɹʔ:μcɑcɪ

oɪlʃlclc ［魔法］握、一握、いちあく、ワルキリー ［レベル］5 ɹ0:oɪ/ɪl/ʃclc（手のようなものの形に分断された） ［文化］ ɑɔlɒcɥə

oɪlʃlcleɒ ［魔法］握化 ［レベル］6 ɹ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

oɪlʃl ［名詞］みね、嶺、峯、峰、尾根、おね。山の高いところ ［レベル］5 μɑ;oɪl/oɪl ɹʃl

oɪlʃ]cn ［普通動名詞］体育座り ［動詞］ɥəl を体育座りさせる、体育座りする ［レベル］3 μɑ;「山のように膝を立てて座る」 ɹ1

oɪlɥel ［歳時記］山の日 ［レベル］3 ɹ1 ［文化］ → ɥɪlɒɪn サルマン山が山開きとなる日。ɑɥə ʔeʃ。山がハイキングで賑わう。

oɪlu ［医療］ポリープ ［レベル］5 1L:oɪl/ucl

oɪluelʃ ［名詞］かき氷、カキ氷 ［レベル］3 1L: 山のような形の氷 ［用例］ ɪn ʔəc lɪl oɪluelʃ ɔʔen uenc. 氷あずきが食べたい。

oɪlɒɪ ［組み数字］１２/１５ ［レベル］4 ɪ̀ɪlɔ:ɒes は後付けで、本当の『カコ』には出てこない名。

oɪlɒɪ ɒes ［人名］ワルマ＝メジュ ［組み数字］１２/１５ ［レベル］4 ɪ̀ɪlɔ:ɒes は後付けで、本当の『カコ』には出てこない名。 ［文化］ メテの第１２使徒。

oɪlɒɪlcl ［化学］フェルミウム 1Δ: 制

oɪlɒɔɑ ［普通動名詞］山登り、ハイキング ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］ アルバザードには山がそんなにないので大して登山は盛んではない。森林浴などと同じく、ウォーキングの一環として行われる。ただ、登山でのウォーキングには当然街を歩くウォーキングの格好ではいかない。ちゃんと登山用の道具を揃える。これは日本のものとそう変わらない。服も枝などに触れて切ったり毒を浴びたりしないような格好をする。しかもこの格好は同時に動きやすくばてないものでもある。枝に当たらない云々は森林浴でもいえることであるから、森林浴でも服装は登山と変わらない。登山用の道具を持っていかない程度の違いである。アルバザードでは森林浴のほうが多い。森が多いからである。休日に家族と行くことが多い。尚、日本では初日の出を見に山に行くことがあるが、アルバザードではしない。

oɪldɔ,ɑ jeɑ oɪ（手）/l（物）

oɪlbəl ［医療］アルツハイマー ［レベル］6 1L:μcɑcɪ ［文化］ μɑ で、海よりも森、特に川のない山に住む人間に多かったことから。魚を食べる人間とそうでない人間を比較したとき、罹患率の差が有意味だった。 国内ではワッカの不便な村に患者が多かった。その村はワインなどの生産も少なく、魚も食べなかったことから、罹患率が高かった。

oɪlɥecn ［数学］下向きの放物線 ［レベル］4 1L

oɪlcl ［名詞］また、極、又、股 ［レベル］5 ɑu;oɪl/əcl「山谷」 ɹʔ

oɪlɔu ［物理］下向きの放物運動 ［レベル］4 1L

oɪleʃ ［代詞］［qɥɔ］おまえら、おめーら、オメーら ［レベル］1 ɹ1:llccz:oɪlʃ

oɪleɹ,ɪlʃ ʃcl oɪ el] lɪɹ

oɪləcl ［経済］いってこい、行ってこい、行って来い。変化すれど結局元の状態に収まること。経済以外でも使う。 ［名詞］元鞘、モトサヤ、元さや、元サヤ、元の鞘に収まる、元の鞘に納まる ɹ1:「山谷」 ［用例］ lɪɪɹ uɪɹɪʃ oɪləcl ʃeɹ. あいつら（カップル）、元サヤに収まったんだってさ。

oɪləclʃeeze ［気象］山谷風→ oɪlʃeeze μɑ;/ ɹɹ

oɪɪ ［感動詞］わあ、わぁ、わー。驚きや喜びを示す。 ［名詞］喝采、わーという声、アプローズ ［レベル］1 lɪ̀lʃɪ: 喝采のオノマトペ

oɪɪɹ ［普通動名詞］応援 ［動詞］ɥəl を応援する、応援する ［レベル］3 lɪ̀lʃɪ:「わーという声」

oɪɪn ［動詞］ɥəl を揺らす、揺らす ［レベル］2 ɑ;ɑɔueʃ 古 : 揺らすときの「ぶらーん」というオノマトペ。 oɪɪn:oɪɪn ［語法］ ブランコや振り子のように揺らすこと。小刻みに震える揺れは pɪɸ。

oɪɪn(ɹ) ［動詞］ɥəl を唸らせる、うなる、唸る ［再帰動名詞］うなり、唸り ［物理］うなり ［レベル］3 古 : オノマトペ

oɪɪnʃ ［名詞］ブランコ、スウィンガー、スインガー ［レベル］2 1ʔ: 制 :oɪɪn

oɪɪɒ ［名詞］ゆりかご、クレイドル、クレードル、揺り籠、揺り籠 ［交通］移動用の籠 ［レベル］2 1ʔ: 制 :oɪɪnɒcld（揺り動かす籠） ［文化］ 怪我や病気や老化のせいで歩けない人のための移動手段。実際のところ籠は稀。人力車は比較的見られる。

oɪɪɒlelʃ ［地球の国名］モーリタニア 1L: 国旗がゆりかごの月

oɪɪɒen ［天文］カペラ μɑ;oɪɪɒ/en ゆりかごの星。周極星であることから。 ɹ1

oɪɪɸ ［感動詞］うわー、うあーん、うわあん、うわー、えーん、うえーん、うぇーん、うぎゃあ、おぎゃー、オギャー ［レベル］1 ʃɒ;ɑɔueʃ ɹ1:μcɑcɪ; ユルトの泣き声を模したもの。幻英より。幻日登録は ɹʔ。

oɪɪz ［物理］モーメント。位置ベクトルとベクトル量の外積。 ［数学］モーメント、積率 ［レベル］5 ɹ1:oɪ/zɪu「手回しベクトル」 実験中に手を回してモーメントを説明したことから

oɪɪl ［名詞］振り子、ペンデュラム ［レベル］3 ɑu;oɪɪn/ɪl 1ʔ: 制 : 古 :oɪɪnɪl oɪɪl:oɪɪl ［成句］ ɑcɪ] ʔɪ oɪɪl e ləʃcɪ ルティア家のゆりかごに生まれる＝金持ちの家に生まれる ［用例］ oɪɪl ɪnɑ oɪɪn. 振り子が揺れている。

oɪɪlbɪʃʃɔ ［アイテム］フットマンズフレイル ɹɒ;/ ɹɹ

oɪɪleʃ ［アイテム］フレイル ɑu;oɪɪl/ʃe「振り子のような」先端の武器が振り子のように見えたことから。 ɹɹ

oɪɪc ［感動詞］おーい、やっほー、おおい、ヤッホー、こんにちわー、オーイ ［レベル］1 古 : 遠くの人に声をかけるときの掛け声。音声学的に見ると「おーい」より「あーい」の方が声が遠くに届くので、アルカの方が合理的かもしれない。

oɪc ［普通動名詞］祝い、祝福、祝儀、祝典、セレモニー、セレブレーション ［動詞］ɥəl を祝う、祝う ［レベル］3 ʔ: 制 :lɪ̀lʃɪ: 喜びのオノマトペは ɥɪɪoɪɪc。ここから取ったので日本語の「わーい」とは無縁。 ［文化］ 祝いやお悔やみにはスピーチをしたり金品を贈呈したりする。簡単な祝いなら言葉をかけてやるだけでも良い。受け取った方は jenʃ と返す。祝う人は常に楽しげで喜んでいるような態度を取る。相手と一緒に喜びを分かち合うのが礼儀だからである。一緒になって祝ってやるのが良い。お悔やみも遺族であるかのように悲しんでやるのが良い。「家族でもないくせに」と罵られることはない。むしろ「家族のように悲しんでくれた」と感謝される。

oɪcn ［名詞］祭り、フェスティバル ［レベル］3 1ʔ: 制 :oɪc から ［用例］ ɪɹ oɪcn e lcɔn ʃ'ɪnsəɹ 紫苑祭を催す

oɪcɒ ［名詞］山車、山、⊠、地車、曳山、山鉾、祭車、屋台、パレードカー、フロート、パレードフロート、フロート車 ［レベル］4 μɑ;oɪcn/ɪbɔ ɹʔ ［用例］ ʃɪl ɪnʃ ʃcalɪʃ oɪcɒ ɑc ɒcl ɪʃel ɔ ɸɪɹɒɪ. しかし、震災や戦火により多くの⊠を失った。 ɪnʃ ɑɔʃl jcl oɪcɒ nɔʃjel cɒ ʔeʃ. 明日は⊠飾りだ。

oɪcɸcl ［名詞］祝い金 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］ アンセに金銭が登録されているため、金券が一般的。

oɪɔ ［感動詞］わあ。好意的かつ大きな驚きを表わす。 ［レベル］1 古

ocʃ ［言語］o の文字 ［レベル］1 1ʔ: 制 : 挨拶 ［語法］ 第１９文字目の幻字。

ocʃ(ɹ) ［名詞］挨拶 ［動詞］ɥəl を ɪ に挨拶させる、挨拶する ［レベル］2 古 : 頭を下げる音のオノマトペ。アルカは礼儀として頭を下げる。 ［文化］ 挨拶は相手に対して敵意がないことを示す行為である。相手を無視しておらず、相手の存在を認めているということを伝える手段でもある。人がいるのに挨拶しないのはその人の存在を認めていないことで、無礼。挨拶は敬度によっていくつか存在する。一番敬度が高いのは ɒcɔɔnɔɥən で、疎遠な目上にしか使わない。ɔɔnɔɥən は最も一般的で、誰に対しても無難に使える。ɔɔnɔ は日常的で、疎遠か目上かのどちらか一つに当てはまる相手にはあまり好ましくない。対等な関係や目下には使える。また、hɪɪc も ɔɔnɔ の代わりに使える。hɪɪc のほうが砕けている。更に hɪɪc は挨拶よりも呼びかけに近い。道端で勧誘人が馴れ馴れしく人に声をかけるときは ɔɔnɔ というより hɪɪc である。呼びかけに近いからである。尚、ノンバーバルな挨拶もある。lɔɒ のようにお辞儀することがそのまま挨拶になる。これは ɔɔnɔɥən かそれ以上に敬度が高いので好んで使われる。日本と違うのは、言葉を使うなら lɔɒ はしないということである。lɔɒ は言葉の代わりなので、両立することはない。また、ɒɒ という挨拶もある。口を開けずに相手を見て ɒɒ と喉を鳴らす。これは ɔɔnɔ より敬度の低い挨拶で、親密か目下にしか使わない。 アルカの挨拶は敬度によっていくつか分かれているが、時間によって分かれていることはない。つまり朝昼夕晩で挨拶を使い分けることはない。おはようもこんばんはもない。家族への挨拶

は ɔɔɔnɔ か ɒɒ が多い。親密だからである。ただ、親は子より目上なので、子供が ɒɒ というのは失礼。子供は ɔɔɔnɔ というのがふつう。親はそれに ɔɔɔnɔ か ɒɒ で返す。親の親である祖父祖母も自分より目上なので同じく子供は ɒɒ といえない。兄弟間の挨拶は対等で、特に兄が弟より上ということはない。ただ、兄が弟より上と決める家庭もあり、この場合は弟は兄に ɒɒ といえない。　見知らぬ相手と二人きりになったら挨拶はもちろん、少しの世間話でもして緊張を和らげるのが常識。ぶすっと黙っているのはとても感じが悪いので、気軽に声をかけること。最低限、目が合ったらほほ笑むように。ただし妙齢の女子から声をかけるのは用でもないかぎりタブー。この場合、男から声をかけなければ失礼に当たる。もちろん、下心などは持たぬこと。

ocʃ ［動詞］ɥəl をひょいっと跳んで ɪ に行く、跳ぶ、ジャンプする ［普通動名詞］跳躍、ジャンプ ［レベル］3　lɪʃlɪ: ジャンプのオノマトペ

ocʃɪʃ ［再帰動名詞］挨拶する人 ［レベル］3　ʃl

ocl ［動詞］ɥəl を頷かせる、頷く、うなずく、うなずく ［再帰動名詞］頷き、うなづき、うなずき ［反意語］lɪloclˀ ［レベル］2　古 ［用例］ocl̀ hɪnel{hɛɒel} 大きく｛小さく｝頷く　ocl̀ɪnɑ こくこく｛コクコク｝頷く　"ɪɪ..." lɪnl̀ɔ ocl̀cl̀ ɔl ɪɟel ɥɛcɪ.「あぁ」青年は寂しそうに微笑みながら頷いた。　ɪuelɪnʃ ocl̀cl̀ jeeɥel. 死神は静かに頷いた。

oclɪ ［名詞］かんな、カンナ、鉋 ［レベル］3　1ʃ: 制 :oclɪ（へこみ）

ocj ［生物］手の平、手のひら、掌、てのひら、足の裏（ləoɪocj）、靴底、手掌、足底 ［類義語］lɪlɪd̀, ɑleɑcɥ ［反意語］ɔcj。類音につき注意。 ［レベル］2　1ʃ: 制 :oɪj: 古 :oɪ は手を意味する。　::lə ɑleɑcɥ（手が lɪ）:oɪʃɪʃɪ,ɪlʃ ［用例］ocj hɪn 大きな手のひら

ocjʃ ［動詞］ɥəl を平手打ちする、パーで殴る、スラップする、パーンと打つ、ピシャリと打つ、引っぱたく、引っ叩く、ひっぱたく ［普通動名詞］平手打ち ［レベル］3　1L:ocj/bɪɑ ［用例］l̀ɒc cɥ ocjʃ jccɪ jeɥen ɟɪɟ ɑɔə cɒ ɒɪlʃ.　クミールは少女時代に何度かセレンをひっぱたいたことがある。　lɪ ocjʃɪʃ lɪɪɒ ɪnʃ. 彼は私の頬を打った。

ocjlɪɑ ［ユマナ］アラブ首長国連邦 ［レベル］6　1L: 珍しい形の人工埋立地「パームアイランド」が近年ドバイで隆盛

ocjl̀cɒ ［生物］掌屈、底屈　μɑ;/　lʃl

ocjɑcɪ ［名詞］箱庭 ［レベル］4　ʃl:「手の平の世界」

ocjɥcnɔ ［名詞］アイゼン、シュタイクアイゼン、クランポン　μɑ;/「足底の爪」　lʃ

ocjbɪɔɥ ［非言語］［動詞］ɥəl の手のひらをもう片方の拳で打つ、打つ、殴る、打ち付ける、打ちつける ［レベル］3　μɑ;/　lʃ ［文化］主に左手の手のひらと右手の拳をぶつかり合わせてパンと鳴らすことで、苛立ちや怒りを表すジェスチャー。ふつう男性しかしない。男性の中でも気の荒い武闘派に多い仕草である。

ocjɔn ［植物］ヤシ、椰子、ココナッツ、パーム、ココヤシ ［レベル］4　1ʃ: 制 :ocjɟzɔɒ「手の平の木」。葉の形が手の平に似ていることから。

ocje ［料理］マーガリン ［レベル］3　1ʃ: 制 :ocjɔn（ヤシ）/eɒɥə（油） ［用例］eu ocje マーガリンを塗る

ocnz ［動詞］ɥəl を歪める、歪める、ゆがめる、ゆがむ、歪む、ひしゃげる ［形容詞］性格が歪んだ、姿勢が歪んだ ［音楽］ディストーション ［魔法］ウィンズ。空間や時空を歪める時魔法。メルがミュシャクで使用した。 ［美容］ツイスト ［レベル］3　古 : 木がしなる音からきているらしい。 ［用例］lɪ ej ocnz cʃ ɪɪɑ. 彼は腰から曲がっている。

ocnzlclɑ ［名詞］ご都合主義 ［形容詞］ご都合主義な ［レベル］5　μɑ;/「歪んだ好都合」　lʃl

ocnzɟɪdɒ ［医療］気胸 ［レベル］5　1L: ひしゃげた肺。胸腔内で気体が肺を圧迫するさまを大げさに捉えて。

ocnzɒccɥ ［論理］［言語］詭弁、きべん ［レベル］5　μɑ;;「歪んだ理論」　lʃ

ocɥɪl ［魔物］ウィガル（欲貨）: 第九十天 : 利の氷天 ［レベル］5　1L:μcɑcɪ/jeɥen/ɒel:ocl/ɥɪl（制 : 円盤＝硬貨） ［文化］憑族。コインに宿る魔物。人間の欲を引き出し、ギャンブルに走らせ、破滅させる。欲に負けず、財布の中身をすべて貧乏人に喜捨し、自分のパンを買うために最後の一枚としてこの硬貨を残したとき、ウィガルは弾けとび、あふれんばかりの金銀財宝となって現れる。ウィガルは神でなく魔物なので複数存在する。ギャンブルで破滅する人間の数だけいる。

ocɥɪlʃlɪcɑɪ ［天文］ペルセウス流星群 ［レベル］6　1L:μcɑcɪ/jeɥen/ɒel ［文化］リディアがリアントに放ったライファがこの流星群。

ocl ［動詞］欲望を持って ɥəl を望む、性欲の対象として ɥəl を好む、望む、好む、好き ［接辞］～コンプレックス（ただし性欲の対象とするという意味で使う） ［レベル］3　1L:l̀əclɪl → l̀əcl → l̀ocl → ocl ［用例］le beeu oclɪnˀ あのスケベジジイ！　edɞ ʃc ocl ɑcɪn lɪɞ えっ、君、ロリコンだったの？

oclʃ ［形容詞］凹凸のある、おうとつのある、でこぼこした、デコボコな、粗い、ざらざらな、ザラザラな ［形容詞］起伏の激しい、感情豊かな、感受性の強い。感情や形に使う。 ［名詞］凹凸、粗面 ［反意語］jclɪ ［レベル］3　lʃ0:əcl/ʃe（谷っぽい）　ɛɔ:eɔ ［語法］nɪɒcɥ ［用例］jcɥ oclʃ ぶつぶつな肌

oclʃuɛɥɪnʃ ［医療］クラスターＢ。人格障害の。 ［レベル］5　ul;/　lʃ:ɒel

occz ［軍事］上級兵、ウィーズ ［組み数字］１９/２０ ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ocnz（ひしゃげる）。下級兵ともども、よく戦死して死体がひしゃげることから。 ［語法］［文化］l̀ɪnɪ

oɔ,ɑ　ɔɔɔɒ　e

oɔ,ɑu　ɔuɪ

oɔn ［副詞］やはり、やっぱり、いままでの考えと違って ［レベル］1　1ʃ: 制 : 恣意 ［語法］考えでも状況でも何でもよいが、変化したり逆のことをいうときや気が変わったときなどに使う。「やっぱ止めた」など、状況や気持ちなどが変化したときの「やはり」である。len と区別すること。 ［用例］ɪɪ, ɥen uɪʃ ɪʃə. oɔn ɑeɥ leeu uɪn ɪʃə.　nɪɪ ɑeɥ lɪl elɑ. ɥɪɪʃɔ lɑcj ʃcj, ʃeʃ−−　あぁ　ちょっと待ってくれ　やはりここで降ろしてくれ　なぁ　こんな人生は　望んじゃいない　望んでたのは−−・・・　（ＢＵＭＰ ｏｆ ＣＨＩＣＫＥＮ『乗車権』）

oɔnʃ ［名詞］ペダル ［音楽］ペダル ［レベル］3　1ʃ: 制 : 語源不詳 ［用例］ɪɥ oɔnʃ e ɥɪɒe 自転車のペダルを漕ぐ

oɔnj ［動詞］ɥəl を踏む、踏む ［レベル］2　古 ［用例］oɔnj ləoɪ 足を踏む　oɔnj ucenel 強く踏む

oɔnjl̀ɪɑ ［地球の国名］タンザニア　1L: 国章が何かを踏んでいる

oɔnjen ［音楽］ロカビリー　ʃl:oɔnj/en

oɔnbɪj ［経済］クーリングオフ ［動詞］ɥəl をクーリング・オフする ［レベル］4　ul　lʃ0:"oɔn (ɪn) bɪj (ʃə ʃcj)"「やっぱりこんなのいらない」 ［文化］ｖｌでできた。可能な期間は ɪɑcɪ まで。

oɔnbɪɟel ［俗語］賢者タイム ［レベル］4　ɪl　ʃl:「クーリングオフ時間」 ［語法］主に男性の自慰・性交後に訪れる魂の平安。人によって長さや程度が異なる。

oɔl ［政治］［法律］訴訟、訴え ［動詞］ɥəl を ɔn{ɒcl} について訴える、訴える、提訴する、告訴する、訴訟する、訴訟を起こす ［レベル］4　1ʃ: 制 : 語源不詳 ［文化］アメリカほど裁判社会ではない。個人間のトラブルは個人とその周りの間で内々に解決することが多い。一方個人と企業の間は裁判が起きやすい。個人は力が弱いので泣き寝入りしやすい。アルバザード人は泣き寝入りしない人種なので、相手が自分より強い場合は毅然と戦う。強いものと戦うのを粋とし、そうでない相手とは穏便に済ませるという価値観が出ている。

oɔlʃ ［丁寧］［形容詞］太っている、太った、太い、ふくよかな、恰幅のよい ［文字］ブロード ［反意語］jclɑ ［レベル］3　古 jɔɟn:ɪleɒ,ʃəəɥə,lcnɔɪ を過去資料から掘り起こしたときにクミールが再発見した古ソーンの形容詞。セレンが ʃcnɪ を作っている最中で、セット（字幅）の呼称をどうしようか悩んでいた折に「これを sɪl 系列のひとつに使ってはどうですか」と教えてくれたもの。語源不詳だが、ʃ は ʃe のはず。oɔl は oɪ か。「手を広げたような形」が原義かもしれないが、予想の域を出ない。

oɔlʃuɪcɒ ［名詞］ゴリマッチョ、脳筋　μɑ;/　lʃl

oɔluɪnʃ ［法律］訴訟法 ［レベル］5　1L ［語法］民事訴訟法と刑事訴訟法の総称。

oɔlɑen ［代詞］(ɥnɔ) おめーらの ［レベル］1　ʃl:l̀lccze:oɪleʃ/n

oɔɪ ［名詞］ざわめき ［動詞］ɥəl をざわめめかせる、ざわめく、ざわざわ、ザワザワ ［レベル］3　古

oɔɪl ［名詞］［形容詞］どの数の、どの番号の ［レベル］2　1L

oɔɔ ［感動詞］わー ［名詞］大勢の雄たけび、わーという声、戦場や会場などでおーっと大勢が叫ぶ声 ［レベル］1　古 ［語法］複数人がおーっと声を上げること。

oɔɔɒ ［生物］足首 ［反意語］ʃɪnl̀ ［レベル］2　μɑ　lʃ0: 古 oɔ/bɪcn　oɔ:oɔ ［文化］アルバザード人は男女とも手首足首が細い。骨格から細いので、筋肉質な人でも細い。というのも手首足首にはほとんど筋肉がつかないため。 ［用例］oɔɔɒ lcɪɪ 細い足首

oɔɔɒhɔ ［生物］足根骨　ʃl

oɔɔɒɥɔlɔ ［被服］長ズボン　μɑ;/　lʃl

oɔɔɒləj ［被服］ショートスカート　μɑ;/　lʃl ［文化］歩くことが多い平民の女性、特に行商の女性などが着た。足首の長さなので地面を引きずらない。

oɔɔɥ ［名詞］勝利宣言、勝鬨、勝どき、勝ち鬨、かちどき ［動詞］ɥəl に ɪ に対して勝ち名乗りを上げさせる ［反意語］uejl ［レベル］4　lʃ0:oɔɔl ɥɪɪl（兵士の雄叫び）。勝った際に前線の兵士（現場で最も数が多い）がおたけぶことから。 ［語法］元は叫ぶところから来ているが、シェルトの勝利宣言にも使う語で、この場合はもちろん叫んだりしない。 ［用例］uɪc jecn oɔɔɥ ɪʃ ɪ ɟeʃl. 兵士たちは敵に勝どきをあげた。

oɔɔl ［軍事］下級兵、ウォール ［組み数字］２０/２０ ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:oɔɔ/lɪnʃcj（雄たけびをあげる人） ［語法］［文化］l̀ɪnɪ

oe,ɑ　ɔlj

oeʃʃɪ ［軍事］兵長、ウェッタ ［組み数字］１８/２０ ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:o/eʃʃɪ。女戦士でこの地位の人が多かった。 ［語法］［文化］l̀ɪnɪ

oen ［形容詞］～など、～とか、～や ［レベル］1　古 ［語法］jcɑ ［用例］ɪn ʃcl ɑcdcʃ, ɑcɪ ueeɥ, ʃel ɪɑel oen. 色々あるよ。ディア・ヴェールとかテル・アデルとか。

oen(ʃ) ［アトラスの国家］ウェン ［レベル］5　lʃ:μcɑcɪ

oenz ［医療］倒錯 ［レベル］4　ul;ocnz.l̀　lʃ

oenoen ［形容詞］などなど。oen と変わらない。語調が違うだけ。 ［レベル］1　1Δ

oeɒ ［動詞］ɥəl を舐める、舐める、なめる ［レベル］2　1L:jɔɟn:uoeeɒ（l̀əhe の変化形） ［用例］oeɒ eelc アイスを舐める

oeɒjel ［歳時記］ウェムセル ［レベル］3　1L:「舐める日」。概念自体はメルｲ年にリディアが作成（←違う、誤記だ。てっきり中２だったから９４年と早とちりしていた。年をまたいでいるので中２の冬、つまり９５年になる。１９９５年の日記を見たら、この年の２・１４にこの記載がある。従ってメルｲ年。しかしそれでは leeuen と重なってしまう。あのとき leeuen の出来事を知ったのは当日より後だと記憶している。実際日記を確認するとその通りで、１４日の日記では触れておらず、２０日の日記で触れているからだ。つまり２０日に知ったことになる。ということは１４～２０日までは少なくとも仲間内の誰とも連絡を取らなかったことになる。なのに１４日に oeɒjel のことに触れているということは、少なくともこの年より前に oeɒjel のことを知ったことになる。そもそも１４日に leeuen のことを知っていたらのんきに oeɒjel などといっていられまい。もっとも、２０日の日記を見ていると leeuen の真相を知らなかったのでありと安穏としていたようだが。ともあれこの年の oeɒjel の記述はこの日に oeɒjel を知ったということではなく、１４日になって「あぁそうだ、今日はあの日だ」と思い出して日記に書いたということになる。となると oeɒjel 自体を知ったのはその前年かさらにその前あたりになろう。出会い的に９１年２月はありえないので、９２～９４のいずれかになる。もちろん oeɒjel のことを知ったのは２・１４以外の日の確率のほうが高いが、９４年に知ったら９４年の２・１４を oeɒjel の起源日に、９３年なら９３年の２・１４を起源日にすべきだろう。それでどちらかという話だが、少なくとも中学だったことは記憶しているので、９４か９３しかありえない。９４年だと ɑcn で leeuen と重複する。９３年だと l̀eʃ で重複しない。このいずれかであろうが、重複を避けるために l̀eʃ を便宜上選ぶのが合理的であろう。するとイムル暦換算でも日付を変える必要がある。ところでこの日記だが、２０日の ɪluɪnɔ の記載を最後にぶつりと途切れている。安穏としていたのかと思いきや、相当ショックだったようだ。よく見るとその日の日記は二部に分かれていて、安穏としているのは前半部。つまり後半部の leeuen の出来事を後から「ところで」と付け加えたことになる。それ以降ぱたりと書いていないので、かなりショックが大きかったのだろう。ただ文面がアンクノット化され、よく意味が取れない箇所がある。ちなみに前半部は闘神伝というゲームの街の大会で優勝したという話で、明らかに安穏とした日常。段落も変わっているし落差も激しいので、同じ時刻に書いたとは思えない） ［文化］イベントのひとつ。クリスの月エケトネの日に、女子が好きな男子の目を舐める風習。奇習なので、ミロクの時代にはあまり盛んではない。μɑ で起こり、そのころが全盛期。　なお、夢織では死神の目の儀式として行われている。　イムル暦に直すと１５９３年２月１４日となる。メル暦では４年の lcɟ l̀eʃ。

oel ［代詞］どれ、どの、どっち、どちら、どっちの、どちらの ［レベル］1　lʃ0:oɔ:l̀ʃ: 恣意　Tɪʃ: Tɪʃ:lɪʃɔj:ne,ɪlʃ ［用例］ɪn scnɟɪʃ ucl nɔj ʃɪə oel. どれを買えばいいか分からなかった。

oelʃəl ［代詞］どのもの、どれ ［レベル］2　lʃ0

oelʃəlef ［代詞］どれの ［レベル］2　lʃ0

oellɪn ［代詞］どの人 ［レベル］2　lʃ0

oellɪnʃ ［代詞］どの人の ［レベル］2　lʃ0

oelef ［代詞］どれの、どちらかの ［レベル］1　lʃ0:jeɥen/μcɑcɪ:oel/ʃe

oec ［感動詞］おい、ねえ、もうっ、やい、やーい ［レベル］1　古 ［語法］nee より親しい間柄で使う。２回繰り返すこともしばしば。また、nee などに比べると oec の方が驚いている感じやスピーディな感じがする。

oecn ［感動詞］[ɥənʃe] oec ［レベル］1　古

oecu ［単位］アト　ʃl:oecuɟɥ

oecuɟɥ ［歳時記］小雪 ［名詞］２０時 ［組み数字］２０／２４ ［レベル］3　lʃ0: → ɪnlcɪn ［文化］ɪnlc ɪn

oecpɪɪ ［筐堺］ウェイマー ［レベル］5　μɑ;uepɪ の uepɪ 語読み。声調言語。　ʃl ［文化］筐堺司: əɒʃɔnɪ uɪʃej　筐堺国 : uepɪ, uepɪ 周辺の uepɪ 人の集落等

oeeze ［文末純詞］[ɒɔ] ʃcɟɟe ［レベル］1　ʃl:l̀lccz:ʃoɪ/jeɥ

oeec ［感動詞］おーい。oec の間延びした感じ。 ［レベル］1　古

l

l ［接続詞］le の異形態 ［レベル］1　1L:ɒel ［語法］母音で始まる語の前に付く。ＰＣのフォントを使う場合、ブロック体の場合は l の直後にアポストロフィーを置く。筆記体の場合は動詞媒介として使っていたハイフンを置く。 ［用例］ɑcɪn l'ɪn jccnɪ 私の好きな少女

l(ʃ) ［数学］自然数または整数の略語。数式で使う。 ［レベル］4　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

lʃ ［言語］ルティア語、現ルティア語 ［レベル］5　ʃl

lʃl ［言語］遠ルティア語 ［レベル］6　ʃl

lʃj ［言語］ルティア語、現ルティア語 ［レベル］5　ʃl

lʃu ［言語］近ルティア語 ［レベル］6　ʃl

lʃɑ ［言語］中ルティア語 ［レベル］6　ʃl

lʃɑ ［言語］古ルティア語 ［レベル］6　ʃl

lj ［言語］レスティル語、レスティル人 ［レベル］4　ʃl

ljl ［言語］遠レスティル語 ［レベル］6　ʃl

ljj ［言語］新レスティル語 ［レベル］6　ʃl

lju ［言語］近レスティル語 ［レベル］6　ʃl

ljɑ ［言語］古レスティル語 ［レベル］6　ʃl

ljl ［言語］ljl_ljj、上代レスティル語→ jzl ［レベル］6　ʃl

ljɪs ［生物］意図的な突然変異、ミューテーション、変身、ルサージュ ［類義語］dɪl ［レベル］4　lʃ0: 古 ɒclɟɪɪs（刹那の虚無）から。一瞬にしてセルトが変態したことから。 ［文化］ルサージュとは意図的な突然変異のことである。神などが変身して日常的な姿を形成することであり、単なる一時的な変身ではなく、その姿で日常を送る場合にのみ適用される。　代表的なものはセルトによる。セルト元年（約 ꝏ00 万年前）に白い球だったエルトと黒い球だったサールが人型に変身した。　セルトは自らが住処として選んだアトラスに適応するため、動物の姿にルサージュすることにした。最も知能の高い動物を目指したところ、ちょうどこのころ霊長類が出現していたため、彼らは霊長類を元に自らをルサージュした。　ただし、プルガトリウスは現生人類と比べると遥かに知能が低いことからも分かるように、セルトの

希望には叶わなかった。そこで彼らは霊長類の姿を元に改良を加え、知能が高くなるようにまず脳の容積を大きく設計した。脳を支えるために背骨を立たせる必要があり、二足歩行を選んだ。　また、暑さ寒さを魔法で凌ぐため、余分な体毛をそぎ落とした。彼らが訪れるフィーリアには動物よりも植物のほうが豊富なため、歯は他の霊長類同様、草食用に設計した。　このような細かい設計をしてルサージュをした結果、彼らは奇しくも後に伝染病で死滅するヒト属をさらに進化させた――すなわち現生人類に相当する――形質を取るようになった。　ルサージュは後にアルミヴァや悪魔たちも行う。ユーマはルサージュを行った親から生まれているので、始めから人間の姿で生まれている。　なお、セルトのルサージュは地球ないしアトラスで滅んだヒト属とまったく異なる変態であるため、セルトの血を受け継ぐユーマの一族もまたヒト属とは異なる変態をしたことになる。　ガルヴェーユ追放の後はアトラス各地の環境に適応したため、地球の現生人類とだんだん似てきたが、それでも根本的に異なる。例えば地球のヒトに比べ、ユーマの一族は全体的に骨格が華奢で手足が細長く、目がくりっとしていて、背が少しだけ小さい。また、飢餓の経験がなかったガルヴェーユ人までは太る遺伝子も持っていなかった。ユーマの一族の現代人はそのほかにも生殖能力が弱く妊娠率がヒトより少ないなど、外見上はよく似ていてもあくまで別の生き物だという点を残している。

lɯɪn ［魔法］［哲学］ルヴァン。アルカの瞑想。 ［レベル］3 古 ［文化］ ルヴァン中、ヴィルは手足や頭など、末端に集まる赤い光で、末端を温める。ノアは φɯɾ に緑の球となって集まる。ユノは呼吸をするたび体表を覆う青い光が厚くなったり薄くなったりする。

lɯɪɸ ［魔法］ルヴァル気質 ［レベル］5 制：ルヴァンをすることで逸ったユノとヴィルを抑える効果があるというところからそもそも来た概念で、ルヴァンを語源としている ［文化］ ユノ＋ヴィル気質。

lɑɸɪnɟ ［魔法］魔香道、香り魔法、ルフランス ［医療］［美容］アロマテラピー、アロマセラピー ［レベル］5 Jɪ:lə.lſ/ɑɸɪnɟe ［文化］ 香りを用いた魔法の体系で、ルティア発祥。zɸ に萌芽があり、ɟɒ の王宮で大成する。 アルバザードへは ɟɒ で並行して伝わった。当時肉食が現在より多かったアルバザード人は主に体臭を隠すために用いた。 現在はアロマテラピーや香水の使用法として用いられる。 動物が最も反応する香りはバナナとされており、文化的に人類に最も好まれるのはアトラスでは薔薇。

lɑɪl ［動物］とびうお、トビウオ、飛魚 μɑ;<ɑɸn<lɑı/elc ɟſl

lɑɪlcɑı ［地球の星座］［ユマナ］とびうお座 ɟſl ［文化］ cɑı

lɑcɟ ［動詞］ɟɔl は ɥəl の様態で生きる、生きる、ɟɔl は死んでいない（lɑcɟɔɸ の形で） ［名詞］人生、生き方、ライフ μɑ;ɟɔl/ɑcɟ ［レベル］2 1L: 今日をするという意味の ɑcɟl が元。ɑcɪɟ と似るので l を前置した。 uɪɟɾ:uɪɟɾ ［語法］ lɑcɟ は慣例として、相を付けずに「生きている」という意味になる。この意味で相を明示する場合は lɑcɟɔɸ という。経過相が無標なので、ɔɸ を省略して合理化している。 ɪllɑcɟ についても同様である。 ［用例］ lɑcɟ ncl 幸せに生きる：ncl は目的語なので el は取れない。 lı lɑcɟɪſ əəɔ. 彼の人生はひどいものだった。 ɪn lɑcɟ ɔɸ bɪn. 私は楽しく生きている。 ɪn nɪ nɔɒ ɪ lɑcɟ lɪɪſ. 彼の生き方がうらやましい。

lɑcɟlɪnɸ ［政治］生存権 ［レベル］4 1L

lɑcɟɪn ［名詞］生者、生存者 ［レベル］3 Jɪ

lɑcɸ ［地学］瑠璃、るり、ルリ、ラピスラズリ、ルフィール ［レベル］4 1L:lɑeɸ。ルフェルのアプラウト ［文化］ ルフェルの宝石とされ、価値が高い。ルフェルが好んだとも、その目に似ているとも言われる。この魔石ルフィアはエルトを召喚しやすくする効果がある。

lɑeɸ ［エルト］ルフェル ［レベル］2 ɒſ100'Δ000(uj):lɔnɔɔſe;lɑel,ɑu 古 :lɑeɸ ［文化］ コノーテとカルザスの娘。光を支配する。フェルデンのセレスを得たことによりエルトの王となる。白人系金髪美少女。ふわふわの長髪で背が高くなく、小さめで細身。模様のある白いテーベを着ている。性格は冷静で思慮深く大人しいが、行動は的確で無駄がなく手早い。積極性がある。怒ると豪快になる。情に厚い面もあり、コノーテによく似ている。

lɑeɸhɔ ［生物］腓骨 ［レベル］5 Jɪ: → elſhɔ

lɑel ［魔法］魔法水晶、ルフェル ［レベル］5 ɟɒ;lɑel,ɑu.heɒ Jɪ ［文化］ → ɑlcı, cɑlcſ 特定の閉式魔法が詰まったクリスタル。

lɑel,ɑu ［魔法］晄水晶。後の cɑlcſ のこと。 ［レベル］6 uj:ɥəlɸ;e Jɪ

lɒcɥə ［魔法］錬成、ルミーユ ［レベル］6 Jʊ: 古 ɪl/ɒcɥə（物を変える） ［文化］ ɪɑcɟſ 錬成質 səɒcɥə に魔法をかけたり物理的刺激を与えたり蒸発させるなどして錬成物 ſɔlɪı を作ること。

lɥ ［言語］リュディア語、リュディア人 ［レベル］5 Jɪ

lɥı ［遊女］［代詞］lı ［レベル］4 Jɪ:lı

lɥı,ɑ ɑɥeɒ e

lɥılɥı ［遊女］［感動詞］lılı ［レベル］4 Jɪ:

lɥe ［遊女］［代詞］le ［レベル］4 Jɪ:le

lɥə ［名詞］あそこ、あの場所、あの場 ［副詞］あそこに。el 不要、lı 不要。 ［類義語］lɪɪɑ、ɔlel ［反意語］ɪſə ［レベル］1 古（遠い） ɔ1eɪ,ɑ ɔ1e,ɑ:lıTə lɪɑ::ſıl,ɪlſ ［語法］ ɪſə ［用例］ ɑc lı lɥə. あれならあそこにあるよ。 ɪn ɔeſ ſeel lɥə. 私はそこに行かざるを得なかった。

lɥə(J),ɟzɑ le（関係詞）。ɒɔɒ,ɑu に当たるもの。

lɥə,ɟzɑ ɟɔɒ ‹ lɥı,ɑ.l

lɥə,ɑ ɑlɔn lɥı

lɥə,ɪlſ lə, lı lɥı.l

lɥəɟcı ［ラメドマーク］リュシア研究所 ［レベル］6 Jʊ ［文化］ ɥəəɒı ʕΔΡʕ ユクレシアは地方都市遠征の際に、病人を看護するための施設を設けたが、この病院はユクレシアが旅をしている間はユクレシアの弟子たちによって運営されていた。ダイズアイライの脅威が去った後は病院として使われており、ユクレシアの弟子によって ɪɒcſc などの魔法が使われたり、清潔な環境での入院治療が行われたりしていた。また、弟子らは患者への生活指導や衛生指導を行っていた。弟子というのはもともと lɥəəl 研究所の研究員で、嘆きの焔以降はアルナ郊外に研究所が建っていた。時間が空いたときは弟子たちは魔法の研究をしており、特にユクレシアが最初に行ったアルシアには彼の右腕がこぞって付いていったため、非常に優秀な弟子が集まっていた。この年、弟子たちは病院の隣に lɥəɟcı 研究所を建て、lɥəəl の姉妹校とし、魔法の研究に専念した

lɥəɟcɔn ləſcı ［人名］リュシオン＝ルティア、リュシオン、リュシオン王 ［レベル］6 μɑ;lɥəɟc el 古 ［文化］ μɑ のルティア王。リーザの父親。

lɥəɟce ［亜魔］ペガサス、天馬、リュシエ ［象徴］結婚、純潔 ［レベル］3 ɟzɑ;lɥə,ɟzɑ/ɟcel Jɪ ［文化］ lɥəɟcel 魔族 ɒcɑcɟ と馬の交配種。リーゼルで作られた。色は白で有翼。角はない。 陸では走ることができ、空では飛ぶことができるため、竜族よりしばしば軍事的利用価値がある。 しかしうら若き乙女しか背に乗せない性質があるため、リーゼルでは戦乙女による天馬騎士団が発達した。 処女を嗅ぎ分ける能力があり、乙女の中でも処女しか乗せない。その性質を活かし、婚姻の際の処女判定に用いた。その利便性からルティア、アルバザードなどでも使われた。結婚式場に天馬の絵やレリーフが飾られるのはその名残。 基本的に寒冷地に適するため、アルバザードもアルナが南の限界点。

lɥəɟceh͡ɔl ［名詞］インメルマンターン、インメルマン旋回 ［アビリティ］天馬旋回、リュシエホル ［レベル］6 Jɪ:「天馬旋回」

lɥəɟcel ［軍事］天馬騎士、ペガサスナイト、リュシエール ［娯楽］バイキング、リュシエール。ぐるんと一回転する大きな筐体の乗り物で、ペガサスがかたどられている。日本でいうとバイキングに相当する。 ［レベル］4 Jɪ:lſ ［文化］ lɥəɟce 天馬に乗った騎士。主にリーゼルの戦乙女からなる。 ɥənɑcſe という五人一組の部隊で編成され、V字型に飛空する。 先頭に立つのがリーダーのelɥənɑcſe。 二列目に立つのが jɯɪnse。サヴァンジェはエリュンディテの指揮を受け、エリュンディテの左右からスッと前に出て槍を突き出す。この際、陣形が一時的にX字になる。 三列目に立つのが ſμcɔɔbelɔμ。トリコメロールは魔法の使える者が乗り、後方支援や後方の安全確認を担当する。 従って、エリュンディテはバランスの取れた者が、サヴァンジェは攻撃力に長けた者が、トリコメロールは魔法に長けた者が選出される。 弱点は後方からの物理攻撃だが、V字型の陣形はそれを克服するためにもある。V字の場合、陣形の前後を入れ替える際、y軸（cnl）移動をしなくとも良いという利点がある。エリュンディテが静止し、サヴァンジェがエリュンディテを越え、トリコメロールがサヴァンジェをさらに越えた段階まで前進し、あとは後ろに向けば即座に陣形を反転できる。y軸移動がないため、最短経路で反転できる。 また、後ろに向くやり方は lſɪμhɔl と ɟɪnlhɔl を組み合わせたインメルマンターンである。これはリュシエールの装備が槍であることから生まれた。槍の場合、cnlhɔl（振り向き）をすると味方を突き刺してしまう。この際、ɟɪnlhɔl は時計回りに行う。ループとロールを同時に行うので、ロール開始の時点で右（心臓と逆）の方向に回転しだすことになる。これは右手に槍を持っており、右側に重量が偏っているため。右回転から始めた方が素早く回転できる。 人間の場合は振り向きが最短経路だが、空中にいる天馬は軸足を踏めない上にそもそも四つ足なのでくるっと振り向くことができない。すると振り向くためにはブーメランのような大きな孤を部隊全体で描かねばならない。これは経路が長い上、狭い崖の間などでは反転ができない。天馬騎士団は歩兵や騎兵が入り込らい谷間などを縫っていく任務が多いため、このような反転方式になった。 なお、下方からの攻撃に弱いのは飛空ユニットには当然のことで、下部に矢を防ぐための胸当てなどが装備される。 一方、上方はおおむね騎手の視界であるため、苦手としない。 また、地上からの敵弾を避ける際、lſɪμhɔl（ループ）をすることがある。ループは敵弾をよけつつ結局元の姿勢に戻るため、全体の陣形を崩さなくてすむ。ɑcɪlɪrſe（遊園地）にある lɥəɟcel（バイキング）の名はここから来ている。

lɥəɟceɔlɪl ［地球の星座］［ユマナ］ペガススの四辺形 ɟſl ［文化］ cɑı

lɥəɟceɑı ［地球の星座］［ユマナ］ペガスス座 ɟſl ［文化］ cɑı

lɥəəel ［魔法］リュフェル ［レベル］5 ſɒ;lɥı/ɑed ［文化］ ɒılſccı

lɥəɒc,ɪlſ lə, lı lɥə/ɒc

lɥəɑcı ［地名］リュディア、リューディア ［レベル］3 ɒelſcı Lʔ jen ucı;lɥı/ɑcı Jʊ:μcɑcı:lɥə ← lɥı（遠い）/ɑcı（土地）「（ファルファニアから見て）遠隔地」 ［文化］ 古代国家のひとつ。ファルファニア対岸の国。ルカリアの南。メルティア９５万年ごろのファルファニア＝リュディア戦争で分裂し、西部がファルファニア（ɑilɑıncı）、東部がレスティルとなった。

lɥəɑcı(J) ［言語］ファンタジー、ＦＴ、リュディア、幻想、空想、絵空事、おはなし、お話し、お話、話、架空、架空の物語、物語 ［レベル］3 ɟɒ;lɥəɑcı.ɪlel 当時のファンタジーがリュディア国で起きた古い出来事をモチーフにしたものが多かったことから、国名がそのままジャンル名となった。国歌名がこのような意味の変化をたどるのは自然言語にも見られ、例えばフランス語で小説を意味するｒｏｍａｎなどがそうである。ＯＦのｒｏｍａｎｔから来ており、当時ロマンス語で書かれたり話されたりした物語があったためである。すなわち、lɥəɑcı の場合は舞台、ｒｏｍａｎの場合は言語が語源に関与している。 JJ ［文化］ ファンタジー自体は世界そのものがファンタジックだったくせに神代から存在した。もっとも、ほとんどは半ノンフィクションで、彼らに取っての現実を揶揄した風刺小説のような部類であった。というのも、この世界ではファンタジーが現実だったためである。 ファンタジーがジャンルとして確立したのはヴィードが弱くなってきた ɟɒ から。戦間期で文学も発達したため、数も劇的に増えた。 μɑ になるとセレンがジャンルを分類した。舞台が架空なものをハイ（ɑcɪlɥəɑcı）、現実なものをロー（ɑcɪlɥəɑcı）と分類。世界観の作り込みが細かいものをハード（ſclɟlɥəɑcı）、そうでないものをライト（oɪnlɥəɑcı）とした。また、架空の要素をひとつしか含まないハイ・ハードファンタジーをリアルファンタジー（ɒeɟlɥəɑcı）とし、至上のファンタジーとした。 nɑ で魔法文明が途絶えて現代科学へ移行するまでの間は社会に余裕がなかったため、ファンタジーは発展しなかった。代わりに大航海時代に伝奇物が流行った。伝奇物は誇張されて伝えられることがあったため、これが nɑ 流のファンタジーといえよう。 ul になるとラノベが隆盛しだした。革命の混乱で一時途絶えたが、ɪl では復活している。 ul でラノベ（ɑı cſllec）というジャンルができ、同時に従来の小説が ucɟdllec となる。 ラノベは oɪnlɥəɑcı の比率が圧倒的に高いが、中にはそうでないものもある。そのため ɑıcſllec と oɪnlɥəɑcı は同義ではない。

lɥəɑcıμen ［言語］リュディア語 ［レベル］4 JJ ［文化］ elɑɟeſı ●概要　名称：lɥ（リュディア語） 系統：アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族リュディア超語派（ɪſeɑnıɒıſ, ɥəəɒ ıeɒcſ, lcɑeɥɑcıɒ, lɥəɑcıcɑıl） 使用年代：ſɒ 分布：南西アンシャル 話者：ファルファニアから移住してきたシフェルの民 類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ：語順は格のおかげで比較的自由。ＳＶＯも可能 認知様式：客観的把握　リュディアで話されていた言語。ファルファニア語から発達した。 ●格　・主格と対格　主格が –J、対格が –ɥ で示されるようになった。 –J は ɟɔ（する）から来ており、–ɥ は –s から来ており、–s は –sə（受ける）から来ている。 s が ɥ に弱化するのはアルテ語族によく見られる体系で、それゆえ –c でなく –ɥ としている。 ただし読みは –c と同じ。 –J も –ɥ も閉音節の場合、直前に母音を入れる。 この母音は直前の母音と同じもので、母音調和する。 ʅıl（場所）→ ʅılıɟ（場所が） heɟen（リンゴ）→ heɟeneɟ（リンゴを） ただし直前が二重母音の場合、強い母音にあわせる。 ɑıcz → ɑıczıɟ ・属格　属格は同じように –n で示す。閉音節の場合は直前の母音を付ける。ɑıcz → ɑıczın。 これを後に μɑ でクミールが指小辞と取り違えて、アルカに指小辞式の属格が流入する。 lɥəɑcı → lɥəɑcın（リュディアの） ただし所有は ʅenɔ で示すまま。 ●連体詞　ɪɑ（これ）と Tə（あれ）の J 段階。　連体詞は属格に変化すると、「これの」「あれの」という意味になる。どれも前置。 ɪɑ この Tə あの ɪɑın これの Tən あれの ●形容詞と副詞　膠着して示されるようになった。 開音節の場合は –le,– he が付く。 ʅıcle, ʅıche。 閉音節の場合は –e が付く。 lcc ze, lccze（小さい、小さく） lcpeeɟe, lcpeeɟe（初めての、初めて） ●テンスとアスペクト　影響相ができ、継続相と切り離された。 警告の jə が消えて、ɟ に吸収された。開音節の場合、下記の通り。通時ができた。 過去 ſ 現在 μ 未来 ɟ 前が有声音なら同化して z でも同化しないで ɟ でもよい 通時 μı ※古アルカでは現在形だった 無時制 なし 相も付かない。相を使うときは現在形を使用 ただし閉音節に付く場合、主格と同じく直前の母音ないし直前の二重母音の強い母音が付く。 ʅələ(ɟ)（作る）→ ʅələ(ɟ)ə(ſ)（作った） 開音節の場合そのまま ſ が付くが、母音と同化するので ɑ になる。ɟ は z になる。 c → cɑ, c → cz 将然相 elſı c/μ/elſı 見そうだ。ʅelſı（行く）から。 開始相 eμ bɪɔφ/ɑ/eμ 殴り始めた。向かうというところから ʅeμ が使われている。 経過相 ſın ləɑı/ɑ/ſın 飛んでいた 完了相 cl ɑıc/z/cl 燃やし終えているだろう。 継続相 ɪncɟ ʅəc/ɪncɟ 食べてある 時制 / 相の順序で動詞に後続させる。 時制と相の間の場合は子音連続でも母音を挟まない。 ʅəɑıɑſın（飛びそうだった） ●関係詞　関係詞の無音の字が μɔɒ と読まれるようになった。 lɥəɑcın ɑıczıɟ ɑəſɔɑ μɔɒ ʅılɑıcz（リュディアの王が獲得した国） やはり関係詞節内の前置詞は残存しない。 ●後置詞　hɥəl（上に、～で）など、後置詞が増えた。 ●語順　格がついたことで、語順は比較的自由に。 lɥəɑcın ɑıczıɟ ɑc ſıſ heɟeneɟ（リュディアの王がリンゴを与えた）も可能。 ●認知様式の変化　神代 ɑμɑ の間に客観的把握を獲得したものと推定されている。下記のようにスル言語で、行為連鎖（ɪnſcɔn ɲhıcn）に英語同様「原因」が来ている。ɪ では不自然な表現で、完全に客観的把握をしている。 ɑıczın heɟeneɟ ɑcſıſ ncləəɥ（王のリンゴが喜びを与えた）

lɥəəl ［ラメドマーク］リューシュ研究所 ［レベル］6 Jʊ ［文化］ ɥəəɒı ʕΔΡʕ ユクレシア、lɥəəl 研究所をレスティリア城郊外に置き、宮廷魔導師の養成を行う ɥəəɒı ʕΔΡʕ ユクレシアは地方都市遠征の際に、病人を看護するための施設を設けたが、この病院はユクレシアが旅をしている間はユクレシアの弟子たちによって運営されていた。ダイズアイライの脅威が去った後は病院として使われており、ユクレシアの弟子によって ɪɒcſc などの魔法が使われたり、清潔な環境での入院治療が行われたりしていた。また、弟子らは患者への生活指導や衛生指導を行っていた。弟子というのはもともと lɥəəl 研究所の研究員で、嘆きの焔以降はアルナ郊外に研究所が建っていた。時間が空いたときは弟子たちは魔法の研究をしており、特にユクレシアが最初に行ったアルシアには彼の右腕がこぞって付いていったため、非常に優秀な弟子が集まっていた。この年、弟子たちは病院の隣に lɥəɟcı 研究所を建て、lɥəəl の姉妹校とし、魔法の研究に専念した

lɥəəs ［親族］弟ちゃん ［レベル］2 1L:μcɑcı:lcɟ/μəəs ［語法］ ɒccı

lɩs ［歴史］ランジュ、lɪns ［レベル］3 Jɪ

lı ［代詞］彼、彼女、あの。前置。 ［反意語］lə ［レベル］1 1ʔ: 恣意 lə,ɑ ɟɔə,ɑu ləə,ɑu:::lɥə,ɪlſ, lɥəɒc,ɪlſ ［用例］ lı ɑcɪn あの少女

lı,lſl 女性定冠詞 lə（有生三人称代名詞）のリムレット

lıſ ［動詞］ɥəl を ɪ に入れる、入れる、入る、突入する、詰める、挿入する ［名詞］入口、入り口、序盤 ［名詞］起 ［動詞］ɥəl を ɪ に仕舞う、仕舞う、しまう、片付ける→ ɑcſl ［動詞］ɥəl を ɪ に入社させる、入社する、入学する→ lɔɑ ［普通動名詞］入力 ［反意語］μcʅ ［レベル］2 1ʔ: 制：古 :ləſı（出口） ləɔ:ləɔ ［成句］ʅı lıſ le ſɔſɔ ～する寸前の hcnɔ ɥəl ɟı lıſ すんでのところで耐える、ギリギリのところで保つ lıſ, ſɔɔn, zɔʅ, μcʅ 起承転結。入口、坂道、頂上、出口：山道に喩えている。 ［用例］ ɪn hcnɔſ enı ɟı lıſ. 涙をぐっとこらえた。 ɪn hcnɔſ sɔ ɟı lıſ. 怒りが爆発する寸前だった。

lıſj ［論理］導入 ［動詞］ɥəl を c から ɪ に導入する、導入する、取り入れる、取り込む ［反意語］μcʅl ［レベル］3 1ʔ: 制：lıſ ［用例］ lıſj ʅɔj ɟɪɒ 新しい手法を導入する

lıſuccɑı ［生物］［医療］合穴 μɑ;/「経脈の入る穴」 ɟſl

lıſɑɪnɑ ［名詞］出才チ ［レベル］3 1L ［文化］ 起承転結の起の部分でまずオチておくこと。非常に高い技術を要する。 ［用例］ lıſɑɪnɑ əəɔ(ɪlſe テラ出オチｗｗ

lıſɥəɲ ［再帰動名詞］自殺、ラテュール ［動詞］ɥəl を自殺させる、自殺する ［類義語］nɔɟɟeſ ［アクセント］

lɪʃɣƎɲ ［レベル］4 μɑ;<ɣʃzɑ（lɪɪ,ɑ（死を）/ʃɣəɲ（決める））JM

lɪʃɣəəl ［動詞］ɣəl に片想いする、片思いする ［普通動名詞］片想い、片思い、かたおもい、片恋、カタコイ ［反意語］ʃɣəəl ［レベル］3 JJ:ɪl/ʃɣəəl

lɪʃɕɪ ［名詞］ラティス ［反意語］uɪlɛn ［レベル］4 古 ［語法］ 敬虔な信者。エトスとの違いはプロかアマかというもの。ラティスはアマ。

lɪʃɕɲ ［気象］しけ、時化 ［反意語］jɛʃce ［レベル］3 1L:lɪɯ/ʃceɲ（うるさい海）日本語の時化は湿気が語源なのでこの発想は分かりにくいか。lɪʃce にしなかったのは jɛʃce と離すため

lɪʃcɪ ［地名］ラティア、地獄、ゲヘナ ［反意語］ʃoɪɪɯə ［レベル］2 pɛl/μcɑɑɪ:lɪ（死）/ʃcɪ（愛する）。lɪʃɕɪ と同語源。 ［文化］ → lɛlɪc |約 1?9 億年前 |μɲɑɛl が天国 ʃoɪɪɯə と地獄 lɪʃcɪ に分裂 |

lɪʃcɪlɪlɪ ［法律］ラティア刑務所 ［レベル］5 1L:cɪbəj:μcɑɑɪ ［語法］ ヴァルペスの刑務所。イグレスタ革命の勃発地となった。

lɪʃcɪnuɛɲ ［医療］繊維筋痛症 ［レベル］6 J1:lɪʃcɪ/ɪnuɛɲ（地獄の呪い）

lɪʃcɪɒclees ［経済］スタグフレーション ［レベル］4 JJ

lɪʃcɪlecɟ ［名詞］阿鼻叫喚、地獄絵図 ［レベル］3 JJ

lɪʃɔɟ ［名詞］賭け、ギャンブル、賭博 ［動詞］ɣəl（金など）を ɪ（当たるないし勝つと思っているもの）に賭ける、賭ける、掛ける、かける ［レベル］3 1L:lɪʃɒ:1M: 制 : 古 :lɪʃ（どの、どれ）。lɪʃ は賭けをするとき各々が何に賭けるかというのを賭けの親が問うときに言う掛け声で、「 さぁ、どれに賭ける！ 」の意味。 ［文化］ → ɭəzφcɪn 日本と違ってギャンブルは合法で、南区にはカジノもある。アルバザードではギャンブルは富裕層がやるというイメージではなく、どちらかというと社会的階層の低い者、特に知力の低い者がやるというイメージがある。また階層に関係なく、アルティス教徒はギャンブルを禁止されているため、敬虔な信者はギャンブルをしない。 ギャンブルで一番多いのはスロットやカードであり、パチンコも存在するが日本ほどではない。まだ競馬や競艇といったギャンブルもある。 アルティスはギャンブルを禁止しているが、アルバザード人の気質としては軽い賭け事ならもともと好む。大きな金をかけるということはあまりなく余興としてやることが多い。つまり、ランチをかけてちょっとした賭けを楽しむといった日常的な範囲である。このような程度であれば、アルティス教徒も付き合うことがある。従って革命後の世界でも、頻繁にこの手の賭け事は行われる。これはアルナ大に通うような優秀な学生の間でも余興として楽しまれる。

lɪʃɔ,jzɑ oɛl

lɪʃə,lɥ ɪʃə

lɪʃɪ ［名詞］制定語彙 立夏 ［レベル］6 古 :lɪʃɪ ［語法］ 古アルカの語彙が載っている本 , 古アルカの語彙の大半はこの本に載っている字に依存している

lɪʃɪ ［名詞］余所、よそ、アウェー ［医療］続発性 ［反意語］ɪnʃɪ ［レベル］3 1L:lɪ/ʃɪ。ɪnʃɪ の類推。「彼の土地」 ［語法］ 地元に対するアウェーのこと。

lɪʃɔ ［植物］コア μɑ<lɪʃɔ,αμɛɒɪzɛμ;lɪɪʃɔue,αɯ.ʃ。コアの木を棺桶に使ったことから。 JP ［文化］ フレマゼル原産の樹木。フレマゼルでは棺桶やウクレレなどを作るのに用いた。

lɪʃɔn ［音楽］ウクレレ μ<lɪʃɔn,αμɛɒɪzɛμ;lɪʃɔ.ʃ JP ［文化］ → lɪʃɔ

lɪʃɛɒ ［植物］クレマチス ［レベル］4 J0:ɪφɛɒcz

lɪʃɛɒcʃ ［歳時記］立夏 ［名詞］7 時 ［組み数字］7 ／ 2 4 ［アクセント］lɪʃɛɒЄʃ、lɪʃEɒcʃ ［レベル］3 J0: → ɪnlcɪn ［文化］ ɪnlcɪn

lɪʃ ［動詞］ɣəl を望む、望む、希望する、求める、求む、欲しがる、ほしがる ［名詞］希望、要求、請求、望み、願い、ねがい ［法副詞］～したい ［類義語］lccɑ ［反意語］μcj ［レベル］1 1Ꝑ: 古 lɪɪd φɔ（欲望） lɪɪd,ɑ（動詞。望む）ɒɪl,ɑ（助動詞。無理なことを望むのニュアンスで現在の ɒclʃ に通ずる）:lɪɪd（動詞）ɒɪl（男性助動詞）lɪn（女性助動詞。これは lʃ の影響で流入）:lɪn ［語法］ lɪʃ 動詞、lɪʃ,lɪμ,lcμ,ɑcl,μcj などは無相が経過相へ指向性を持つ。 ［用例］ cɒ ʃɔlel, ɪn lɪʃɪʃ nɔj ɪʃʃ lɪ. 昨日、彼女に会いたかった。 ɪn lɪʃ ɪʃʃe lənɪ ɪnj uɪɑel. 早く春になると良い。

lɪʃ(J) ［人名］アッシュの略称 ［組み数字］2 3 / 2 8 ［レベル］1 古 :lcnɪ

lɪʃeʃ ［名詞］ラシェット、ソーンとアルシェ ［レベル］4 jɔμn: ソーンとアルシェを区別せず 1 つの団体としてみた場合の呼び方＝ ɪʃeʃʃ。アルシェにはない語。元は『カコ』の言葉で、イーファとルーキーテを指した。同様に上限の月と下弦の月を意味するので、合わせて単に月の意味にもなる。アルシェは包括的な月という語がないことを不便ではないかと指摘されたこともあるし、とりわけソーンとの和平の象徴として加えた。そこでアシェットは月の意味も持つ。一方、ラシェットは元は ɾɪ ɪʃeʃ だった。更に、造語者が l と ɾ の発音の区別が下手な者だったようで、ɾ が l に変化した。アシェットはソーンの言葉なので、誰が造語者か不明である。また、実は語源的にはアシェットとラシェットは全く互いに逆の意味だった。古アルカの過程で意味が入れ替わったそうで、アシェットが第期 4 代を指すようになった ［文化］ ラシェット。ソーン及びアルシェのこと。第 4 期 4 代ラシェットは特にアシェットと呼ばれる。

lɪʃ ［名詞］手 ［婉曲］［動詞］ɣəl を愛撫する、愛撫する、撫でる、なでる ［類義語］bɪɔφ, ocʃ, αleɑ cμ, ʎɪld, ɔcj ［レベル］1 jɛμʃ 1?: 制 oɪ:oɪ:lɪ μuɪn (lə は ɾʃʃ) :lcoɪ,ɪʃʃ ［語法］ lɪʃ で ɾʃʃ を表すことはない。 ［成句］ ʃcl lɪʃ ɒelʃ 心が温かい、心優しい : 体を温めることをよしとするアルティス教の考えもあるが、実際に手足のような末端を暖めることで副交感神経が優位になることも関与している。落ち着いた気持ちになることで、結果的に心優しいという表現に結びついている。 ʃcl lɪʃ jɔμʃ 心が冷たい ɔɔμ lɪʃ ɪ ～に手を出す、関わる、ちょっかいをだす、ちょっかいを出す、干渉する ［用例］ lɪʃ hɪn 大きな手 ʃəɪ lɪʃ 手を差しだす、手を差し伸べる。和解や友好の印。 ɔʃl lɪʃ, lɪl lɪʃ lel ɔʃ). 手を洗って、手を綺麗にしておきなさい。

lɪʃʃ ［動詞］ɣəl を ɪ にかざす、かざす、翳す ［レベル］3 1L:pelcɑcɪ ɪʃʃe:lɪʃ/lɔb ［語法］ lɔb と違って接触せずにかざす。 ［用例］ uɪnφɪμɑc lɪʃcʎ lɪʃ ɟɪ eel e lccɪɪ. ヴァンガルディはリーザの目の前に手をかざした。

lɪʃɪμ ［宗教］隠修士 zφ;lejʃɪμ.ʃ JM

lɪʃcn ［動詞］ɣəl をのぞきこむ、のぞきこむ、覗き込む、覗きこむ、上から覗き込む、覗く、のぞく ［レベル］3 1L:pelcɑcɪ ɪʃʃe: かざすように見る

lɪʃcɪ ［死神］ラスティア ［反意語］hɪɪbe ［レベル］3 μcɑcɪ: 古 : 元は lɪɪʃcɪ という名だった。相方のハーベが長音を含むため、lɪɪ の部分がまずいということになり、急遽リディアが適当な子音を入れて変えた。本来の意味はその名の通り「 死を愛する 」。古ではルノとペア。J1 にサールから死神に ［文化］ ɒɪlʃccɪ ［成句］ αeμʃ ɪ lɪʃcɪ 観念しろ、覚悟しろ : 殺す前に言う常套句。小説はともかく、日常的には人を殺すことはないので、日本語の「覚悟しろ」に近い。

lɪʃcɪɑcn ［魔物］ラスティアディン（朽魔女）: 第四十五天 : 炎の氷天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:lɪʃcɪ/hɪμɑcn（朽ち果てる魔女） ［文化］ 鬼族。無実の罪で焚刑にあった若い女がアデルに乗っ取られ、死ねなくなったもの。アズゲルに私刑として行われた魔女狩りの被害者。死にそうになるたび乗っ取っている悪魔が回復をする。炎は地獄の炎で消して消えず、焼かれた肉は魔法で戻り、未来永劫焼かれ続ける。十字架にかけられ、両手は横に広げている。木は朽ち果てることがない。十字架はとうの昔に地面から抜け、女は身を焼かれ、助けを求めながら歩き続ける。霊族でないため、知能も意識も神経も生前のままである。倒すには乗っ取っている魔物の回復量を上回る量のダメージを一回で当てなければならないが、極めて防御力と体力が多い。既にまともな思考力を失っているので、人を見るたび助けを求めて唸り声をあげ、抱きよっては地獄の炎で相手を燃やしてしまう。

lɪʃl ［生物］指先、ゆびさき ［反意語］ləɪl ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ:lɪʃ/lcʃ

lɪʃʃ,αφn lec <>lecʃ

lɪʃnel ［動詞］ɣəl を ɪ に掻き揚げる、掻き上げる、掻き揚げる、掻きあげる、かきあげる ［レベル］3 J1 ［用例］ lɪʃnel ncɪ 髪を掻き上げる

lɪʃɑɔs ［普通動名詞］手コキ、手こき ［レベル］4 μɑ;/ JP

lɪʃɒɪʃ ［生物］合谷 ［レベル］5 J1

lɪʃɒɪʃ(J) ［動詞］ɣəl を手で掻き分ける、掻き分ける、かき分ける、掻きわける ［レベル］3 μɑ;/ JM

lɪʃɒɪφ ［動詞］ɣəl に手を振らせる、手振りする、手を振る、バイバイする ［普通動名詞］バイバイ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcʃ

lɪʃɒɪcn ［生物］中手 μɑ;/ JM

lɪʃɒɔɒ ［生物］手根 μɑ;/ JM

lɪʃɒeɒdɔ ［卑語］［親族］娘 ［レベル］4 1L: 手乗りまんこ ［語法］ 懐いてじゃれてくる手乗り文鳥のような小さい娘のこと。

lɪʃdɔɒ ［生物］手のくるぶし。手首の外側にある突起した骨。 ［レベル］4 1L

lɪʃbel ［料理］手料理、ハンドメイド ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

lɪʃhɔ ［生物］中手骨 JJ

lɪʃμen ［言語］［非言語］手話、サインランゲージ ［レベル］3 μɑ;/「手の言語」 JP

lɪʃschɔ ［生物］手の指骨 ［レベル］5 JJ

lɪʃl ［被服］靴 ［レベル］2 μɑ;<,αφnɾ<ləɪ.l 1?:jɔμn:ləɪʃ ləɪʃ:ləɪʃ ［文化］ 神は靴を履く習慣がない。zφ になって木靴などがようやく出てきた。 靴を履くのは裕福な者で、それ以外は履いていなかった。 jɒ になると農民でも靴を履くが、子供は貴族の子供以外殆ど履いていなかった。というのも子供はすぐサイズが大きくなるためである。 jɒ では靴は貴族の間では装飾品になったが、女性はスカートで靴が隠れるため、主に男性のステータスシンボルとなった。 アルバザードの靴は日本のものと近いが、国によって靴の種類はかなり異なる。たとえばイネアートの山村部のように寒いところでは lɪʃl といえば動物の革で足を包む暖かいものを指す。しかも先端部は丸まって鉤を付けられるようになっている。これは雪を滑る際に使うもので、豪雪地ならではのものである ところが暖かいメテでは lɪʃl といってもこのような靴を想像することはない。もっとサンダルのようなものを想像する。lɪʃl が靴であることは確かだが、想像するものが全然違う。方言辞典にはこのような文化と密接したアルバザードとの異同が載せられている。 アルバザードではくるぶしの見える浅い革靴が好まれる。特に女子が好んで履く。 ［用例］ ☆ lɪʃl ɪnʃ ʃclɪʃ beʃ ɔn clɒ. 靴が泥だらけになった。 ɪn ɪlɪɪbɪʃ lɪʃl. 靴を脱いだ。

lɪʃlocɟ ［被服］靴底 ［レベル］3 μɑ;/「靴の裏」 JP ［用例］ lɪʃlocɟ eɒ αeα{φcnɟ} 靴底が減る

lɪʃlleun ［医療］外反母趾、内反小趾 ［レベル］4 1L: 靴病 ［語法］ 語源どおり、アルカでは通例外反母趾と内反小趾の両方を指す。

lɪʃ lɪʃ lcɟ ［娯楽］紫苑の手ちっちゃ ［レベル］1 μɑ:μcɑcɪ;「手、手、ちっちゃいね」 J0:μcɑcɪ ［文化］ 紫苑が 2 歳ごろ、リディアが始めたあやし方。両握りこぶしを突き出させ、それを lɪʃ lɪʃ（おててのて）と言いながらにゃんにゃんと撫でる。一回目は上から撫で、二回目は下から撫でる。そして lcɟ（ちっちゃ）と言ってぎゅっと大人のパーの手で握る遊び。紫苑が気に入ってきゃっきゃしていた。辞書登録は遅れて JM 年。

lɪʃlɪɑ ［形容詞］手製の、ハンドメイドの ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

lɪʃɪ ［被服］手袋、グローブ、野球のミットやグローブ、ドレスグローブ ［レベル］2 1?: 制 :lɪʃ

lɪʃcnɒɒ ［美容］手櫛、手ぐし、フィンガーブラシ ［動詞］ɣəl に手ぐしを入れる、手ぐしを入れる ［レベル］3 JJ ［用例］ ʎeɪ leʎʃ e ləɟ ɔ dɔɟe, lccɟɪ lɪʃcnɒɒcl cpelnɒɪ lɪnʃ. リーザはスカートの皺を伸ばすと襟元を正し、美しいブロンドの髪に手櫛を入れた。

lɪʃɔn ［建築］手摺、手すり、てすり ［レベル］3 1M: 制 :lɪʃzɔn（手の棒）

lɪʃɔμɪ ［生物］手関節 μɑ;/ JM

lɪʃɔμɪhcljcen ［生物］手関節横紋 μɑ;/ JM

lɪʃɔl ［補遺動名詞］提出 ［動詞］ɣəl を ɪ に提出する、提出する ［レベル］3 μɑ;lɪʃ/ɔɔɔl JP

lɪʃɔllɪz ［名詞］しめきり、締め切り、締切、締切り、〆切、〆切り、納期、提出期限 ［レベル］4 μɑ;/ JP ［用例］ ɪn αɪcɒ uɪn μɪɑel ʃ'ɪlɑ cɒ αcj. lɪʃɔllɪz ʃəəl αe ʎeʃʃ enʃɔ ɪn ɪμ jen ʃə lc ʎɔlʃ μɪ cɒ ʎeʃʃ. 今日は数学の宿題を止めよう。提出期限は明日でないので、明日家に帰ってからやればいい。 ʃɪl lcnɪ, ʃə αe ɣeʃ ɒɪn lɪʃɔllɪz ʃəəl αe ʎeʃʃ. だが実際、提出期限は明日ではないので問題ない。

lɪn ［名詞］人、人間、霊人 ［生物］霊人科、ユーマの一族 ［レベル］2 αμ;lɪnʃcɟ 1?←古 :lɪnʃcɟ（霊人） lɪnʃcɟ:lɪn:lə lɪn, lɪ lɪn:jɪ,lʃ ［語法］ → həəɒɪ 霊人科の動物。ɪʃen 下の科であり、ユーマの一族と同義。ヒト科の動物とよく似ている。大量のヴィードを扱うことができるが、この特徴は μɑ まで。

lɪn(J) ［法副詞］［μenʃe］lɪl 1 古 :lɪn。lɪɪd（希望）の女性形。男は ɒɪl

lɪn(J),jzɑ αcl lɪɪd,ɑ.l

lɪn,jzɑ αcl < lɪnʃcɟ,ɑɯ.ʃ

lɪn,lʃ 女性不定冠詞 ʃən,ljɑ と lɪ からの類推 ［語法］ lʃj でも場合によって使うことがある。l'ɪl əɪ → lɪn ɪlə ɪ のように。ʃcɪμen を参照のこと。

lɪn,lʃ αccɪ

lɪnʃ ［形容詞］美しい ［類義語］lcɒc ［反意語］becɒ ［丁寧］おいしいの上品な言い方 : 1L だが、右記を見る限り、源流は古い様子 jeμʃ ［レベル］2 1M: 制 : 古 :lcn（綺麗、美しい）ないし lcɒc。 lcɒc:lcɒc:lcɒc:lɔ)cle,lʃ ［用例］ lɪz lɪnʃ 美しい少女 αcn lelʃ eʃ lɪnʃ, μcɑcɪ eʃ lɪnʃ uecn. 月は美しいが、リディアはもっと美しい。

lɪnʃje ［生物］ヒト ［レベル］4 古 霊長目ヒト科の動物。アトラスにもほかの動物同様存在したが、病原菌などが原因で滅んだ。当時のファルファニア人は「ユーマの一族に似ているが、低能で非倫理的で自制心がなく、野蛮で汚く脆弱な存在」と酷評した。その文献が残されているため、現代でもヒト科の存在が知られている。 一方、アトラス人は異世界ユマナの存在を知っているが、そこにいる人の姿が分からないため、滅んだヒト科の動物を指す lɪnʃje で以って、ユマナ人を名付けた。 |約 100 万年前 |ヒトとチンパンジーが分化。猿人の出現。直立二足歩行を始める | |約 JP0 万年前 |ヒトが石器を使い始める。セルトは年に 1 度北極近辺のフィーリア島で逢っていただけなので猿人との関わりはない |

lɪnʃeʃɪʃ ［生物］ヒト属 ［レベル］5 J0

lɪnʃelcʃe ［生物］ヒト種 ［レベル］5 J0

lɪnʃjen ［魔法］ホムンクルス、人造人間 jɒ;lɪnʃje.ʃ JM

lɪnʃjeeμn ［生物］ヒト科 ［レベル］5 J0

lɪnʃɪ ［娯楽］駒、パイ、牌、ドミノの駒 ［名詞］キャラクター、キャラ、登場人物 ［言語］組数字に出てくるそれぞれの名詞 ［医療］人格 ［レベル］3 1?: 制 :lɪnʃcɟ ［語法］ ＜役のウェイトによる呼称＞ 主役 (lɔJl) : 紗枝、紫苑 レギュラー (ʎlɪbc) : ランヴェム、詩姫 ゲスト (μɟʎl) : アリス、アシュテ イベントキャラ (jɔɑc) : アーディン 脇役 (μelʃ) : アーディンの同僚、アルシアで紫苑に自転車を横取りされた少女 ＜役の性質による呼称＞ 一枚目 (lelʃ。パランスの取れた性能の役、物語の進行役) : ローレシアの王子（ＤＱ２） 二枚目 (lccɑɑ。見た目に華を添える役) : ムーンブルクの王女（ＤＱ２） 三枚目、ボケ役 (dceʃ。おどけ役) : サマルトリアの王子（ＤＱ２） 四枚目、悪魔役 (lcnɟ。物語を捻じ曲げる役) : アクタカ ＜役どころによる呼称＞ 男主人公 (ɪμjen) : 静 女主人公 (ɪμcɪ) : 紫苑 男副主人公 (cɑel) : アルシェ 女副主人公 (ʎclʃc) : レイン 味方役 (ʎɔlɪ) : ハイン兵、アルヴェスク 敵役 (μelʃ) : フェンゼル兵、イルミロク兵 ヒール (ɪɒes) : 詩姫、シャア＝アズナブル ボス敵 (ucenμe ʃl) : 異性魔王アシュ 裏ボス (ɪμʎlʃ) : エビルプリースト（ＤＱ４） ラスボス (ʎlʃcɟ) : デスピサロ（ＤＱ４） 大ボス (hɥeʎɪ) : エスターク（ＤＱ４） 中ボス (benɔɒ) : キングレオ（ＤＱ４） 小ボス (φɪlʃe): ピサロのてさき（ＤＱ４） 訳有ボス (uɪɥə): 甲冑ヴァーナ、カイン（ＦＦ４） ［用例］ "fə eʎj, el nɔl ucl 100 lɪn...ʃɪ ɔlʃɪ el nɔl cl cʃen ɟɔɔɒ ɪlen beʃel ʃcɟee" 「つまり、ソームからメテまで足しても 100 人……じゃなくて 100 種に届かないってことだ」: lɪn だと木星などの人間でないものも入るので、とっさに lɪnʃɪ に変えた。lɪnʃɪ は通常人間だが、ゲームの駒のように無生物を指す用法もある。

lɪnʃɪʃ ［生物］霊人属 ［レベル］4 1L

lɪnʃɪʃc ［名詞］美しさ ［レベル］3 JJ ［成句］ lɪnʃɪʃc e lɪɑl 花鳥風月

lɪnʃɪjeʃ ［娯楽］プレイヤーキラー、ＰＫ JJ

lɪnʃɪn ［名詞］連鎖 ［生物］食物連鎖 ［レベル］3 1L:lɪnʃncʎj

lɪnʃɪnclj ［娯楽］将棋倒し、ドミノ ［レベル］3 1L

lɪnʃɪhɪɪl ［数学］数列における数学的帰納法、数学的帰納法 ［レベル］5 1L:jeμen: ドミノ倒しの手法で演繹していくことから。アルカでは帰納とは呼ばない。 ［文化］ ＜地球でのアルカが数学に弱い理由＞ アルカの主幹はセレンなので、どうしてもセレンが苦手な分野は手薄になる傾向にある。もともと女性向きな化粧や美容などは特に弱い。手薄な分野に関しては他人の発言を聞いて幻日に転記したり、幻英辞典から適宜流入するなどといった対処をしている。 → ueʎlɪaɪn, 凡例 数学も比較的手薄である。下手の横好きで、できたら格好いいと思うのだが、まったくできない。苦手意識を持ったきっかけとなったのがこの lɪnʃɪhɪɪl だ。セレンが最初に数学的帰納法に触れたのは、間接的にではあるが、中 2 のことであった。田舎の公立中の授業があまりに退屈だったのでアルカやプログラムの内職をする日々であったが、あるときプログラムの関係で数列を書いていて、奇数を足していくと整数の二乗に等しくなることに気付いた。 例えば 1 ＋ 3 ＋ 5 ＝ 9 である。3 回奇数を足したら、3 の二乗になるというわけだ。 1 ＋ 3 ＋ 5 ＋ 7 のように 4 回足せば、4 の二乗の 1 6 になる。 この現象を一般化すれば、 1 ＋ 3 ＋ 5 ＋ ・ ・ ・ ＋ 2 n − 1 ＝ n 2 となる。これに気付いたとき、面

白いと思う反面、なぜこうなるのだろうと考えた。　当時はゲームのプログラムでドット絵を扱っていた。ドット絵というのは縦横のブロックの集まりでキャラを表現する手法だ。その考え方に慣れていたため、以下のような発想に至った。　まず１回目は縦横１列の範囲にブロックを置いていく。当然、置ける個数は下記のように１つだ。　■　次に２回目。ブロックを置ける範囲は縦横２列に広がる。■の右辺と下辺に這わせるように新たなブロックを置くと下図のようになり、大きな正方形ができる。　■□　□□　これで合計４個。足したのは□が３つだ。　次に３回目。縦横３列のブロックを作る。　■□■　□□■　■■■　合計９個。もともとあったのが４個で、足したのが５個だ。ここまで来ればー般化できる。　ｎ回目の場合、縦横ｎ列のブロックを作ることになる。ｎ－１回目までにできたブロック群の右辺と下辺にブロックを足していけばいい。　右辺に足すブロックの個数はｎ列目なのでｎ個。同じく下辺に足すブロックもｎ個。しかしこれだと右下のブロックが重複するので１つ分減らす。　つまり前回までにできていたブロックの周りに２ｎ－１個だけブロックを置けばいい。すると縦横ｎ列の正方形ができあがる。当然その正方形の面積はｎの二乗だ。だから、１＋３＋５＋・・・＋２ｎ－１＝ｎ２なのだ。　こうして問題は解決した。ところが疑問が残った。もしこの等式の右辺がｎの二乗のような単純な項にならなかったらどうすればいいのだろう。正方形だから幾何的に簡単に考えられた。もし幾何的に説明しづらい複雑な例ならどのように対処すればよいのか。これを考えたが分からなかった。　当時はネットもない時代だし、大型書店の存在を知ったのも中３のことだった。図書館もろくなものがなく、調べる術はなかった。　結局疑問を風化させたまま高校に入り、やがて数学的帰納法に出会った。そして「あぁ、あのときのブロックの話か」と思い出した。　数学的帰納法は文系脳のセレンでも分かるほど言葉に置き換えやすいドミノ倒しのような理論で、非常に面白かった。だが同時にこの瞬間、自分には数学のセンスがないことを強く自覚した。　なぜ自分は応用の効く数学的帰納法を中２のあのとき編み出さなかったのだろう。なぜ個別の例にしか対処できない幾何的な手法で思考停止してしまったのだろう。愚かだ。

自己嫌悪に陥りながら、その後メルに英語と日本語と古アルカ混じりで同じ問題を出題した。わずか９歳ほどだったメルは大した時間もかけずに、中２のときのセレンと同じ解を出した。　だがその後彼女は「『ｎ回目が正しければ、ｎの次の回も正しい』ということを証明できないかな？」と言い出した。そして「それさえ証明できれば、あとはｎ＝１回目を手動で計算すればいいんじゃない？そしたら楽できるよね」と述べた。それはまさに数学的帰納法の考え方であった。そしてその考え方なら、奇数の和算という個別事例以外にも対応できる。　この「楽できるよね」の台詞にショックを受けたセレンは、それから数学に苦手意識を強く持つようになった。自分には彼女のような合理的な手法が思い浮かばなかったからだ。　「どうしてお前はそんなこと思いつけるの？」と聞いたところ、いつもどおりの返答が帰ってきた。すなわち、「だって考えるの面倒くさいから。なるべくとっとと片付く方法のほうがいいじゃん。そのほうが楽でしょ」だ。楽ができるものならとっくにしているさ。単に俺の頭じゃそれが思いつかないんだよーーそう思った。　＜アプリオリにおける命名の厳しさ＞　ところで数学的帰納法は lınʃɪhɪɪl というわけだが、アルカでは帰納ではなく演繹だ。

高校の頃、これが帰納だと聞いて違和感を覚えた。むしろ演繹ではないかと。しかしネットもない時分、裏を取るのはたぶんに面倒であった。結局リュウに問い合わせたところ、数学的には演繹だと教わった。それでアルカでは現在でも数学的帰納法のことを帰納ではなく演繹に分類している。　アプリオリ言語の場合、自然言語から単語を借りられない。それはつまり自然言語が持つ間違いを借りることもできないということだ。　例えば有理数は ｒａｔｉｏｎａｌ という英単語の誤訳が原因でできた単語だ。有比数が正しい。もし数学的帰納法や有理数という日本語を元にアルカの単語を創った、間違いを継承してしまう。それはアプリオリな造語ではない。　もちろんアトラスの学者も間違える。アルカにも間違いが元でできた単語があるべきだ。しかしそれが一々地球でできた間違った単語と重複するのはおかしい。　つまり、アプリオリの人工言語屋はあらゆる学問に広く浅く通じてなければならないというわけだ。従ってひとつの単語を作るにも一々細かく裏を取り、内容を理解した上で、さらに自分の異世界ではどのような時代にどのような語源で名付けられたかを考えねばならない。非常に骨の折れる作業だ。　この件について後年愚痴ったセレンにメルはこう言った。「世の中は甘くない。天才であっても努力しないで第一人者になれることはない。そんな漫画のようなことは起こらない。そして逆にバカがどんなに努力しても第一人者にはなれず、所詮はマシなバカでしかない。結局この厳しい現実において第一人者というのは、もともと頭の良い人間がさらに不断の努力をして掴み取る地位なのだ」と。　またこうも言われた。「いつも言ってるとおり、お兄ちゃんはメルが許せる最低限度のバカで、ギリギリ生きていてもいい境界線にいるわけよ。だけどまぁ、人工世界を作っていくのに必要な広く浅い知識と知性という面で見れば、及第点じゃない？」と。　アプリオリな命名より妹のほうが厳しい。

lınʃc ［名詞］人事 ［レベル］4　1ʕ: 制 :lınʃcɟ

lınʃcɟ ［名詞］ランティス、使徒、アシェットのメンバー ［名詞］使徒。ls のミロク革命の体制側を表す言葉。メルを始めとするアヴァンシアンの幹部やリディアを始めとするパイロットのこと。 ［名詞］有能な部下、近しい部下、直属の部下 ［シェルト］駒、コマ。テームス以外の駒 ［名詞］大学院生、院生 ［名詞］１代＝２８年 ［組み数字］２８ ［レベル］２　ɑ;e 個体 ,ɑɔ 個々のアプテン ,ɑɯɔ 人間 ,ɑɥɑɔlın（人間）,lɟl> 使徒 ,lɟɟ　古 :lınʃcɟ（霊人）。lınʃɟe,lınʃɟı,lıʃıɥ,lcbeɥıl。元は霊人という意味だったが、事実上これが適応されたのはラシェットのメンバーと少しの例外だけだったため、ランティスというとラシェットのメンバーとほぼ同義だった。今回は lın が霊人という意味なので重複するから、これをラシェットのメンバーとした。単にラシェットのメンバーというと ʔlıʃıɥ で、アシェットのメンバーは lınʃcɟ という区別を与えた。　lınʃcɟ:lınʃcɟ:lə lınʃcɟ, lı lınʃcɟ ［語法］ ルシーラとハルマを区別しない言い方をもいえる。リディアからクミールまでの２８人を指す。

lınʃcɟ,ɑɯ ɪʃen e

lınʃcɟʃ ［名詞］［形容詞］混血児、ハーフ、クォーター ［反意語］leuɥɟ ［レベル］3　1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ:lınʃcɟ/feeze（使徒風な）。使徒が全員混血児であったことから。 ［文化］ アルバザード人の大半がそうで、混血率が高く、従ってアルバザード人は美人美男子が多い。　・混血児は優れている　日本とフランスを比較すると、美人率は大して変わらないが、日本のブス率が圧倒的に高いことに気付く。日本は奇形なのかと疑うような女が多い。　セレンは子供の頃からこのことを不思議に思っていた。そして実際にフランスに行って日本より圧倒的にブスが少ないことを見て事実の存在を確認した。そしてなぜこうなのかを考えた。　結果、日本が島国でフランスが地続きだからだろうという結論に達した。知っての通り近親婚は奇形児の生まれる確率が高い。だからたいていの国で近親相姦は禁止されている。ところが日本のような狭い、しかも村社会で山が多く移動しづらい国では、狭い村や町の中で結婚しあうので、近親婚に近い状態が乱発する。流動性の低い地域では似たような遺伝子を持った人間が集まることになるので、近親婚に近い状況が形成される。結果、奇形児ではないもののそれの亜種のような子孫が生まれる。狭い地域で流動性がない環境で婚姻を繰り返していけば当然血が濃くなる。血が濃くなれば近親婚に類似した状況になる。近親婚に奇形児が多いのであれば、流動性の少ない地域の奇形児に近い――要するに醜形――が生まれる確率も高まる。だから日本は平坦な地続きで流動性の高いヨーロッパに比べてブスが多いのだろう。――とセレンは小学校のころに考え、大人になってフランスに行って実感もした。　セレンがこう考えたのはアシェットの影響も大きい。アシェットのメンバーはセレンもそうだが必ず混血児で、しかもリーザが美少年美少女を好んだため、美人が多い。セレンは子供ながらに混血児は綺麗なんだなと思うようになっていった。　猫を飼うようになって、犬や猫も血統書付きの純血のほうが奇形みたいな形（ブルドッグやパグなど）が多い一方、雑種は無難に可愛いということを経験的に知っていった。　なんで白人たちはわざわざ不純工な犬猫を品種改良してブリードしてきたんだろうとセレンは不思議に思った。中学でヨーロッパ人の純血至上主義を知り、純血が良いことだと思い込んでいるのかという事実を知った。　日本では混血児は希少価値もあるし綺麗でモテるが、ヨーロッパではウザい移民どもが持ち込んだ汚い血くらいにしか考えていないので、純血のほうが尊ばれる。ブルーブラッドなどの慣用句に白人の純血主義がよく見て取れる。　セレンは日本で育ったため見た目ではモテだが、リディアは同じ混血児でもヨーロッパ住まいだったため、モテなかった。リディアは幼児体型で可愛い顔で、日本なら間違い無くアイドルレベルだが、ヨーロッパでは人気のない見た目だ。　リディアは自分を拒絶してくる相手を恨み、世界のどこに行っても外人扱いされるこの世を恨み、その反動で自分が存在しても許される世界カルディアを創った。　セレンは子供の頃から白人の顔が嫌いで、特に女がケバくて気持ち悪かった。美人と言われる女優やモデルを見ても化物が化粧をして更に化物になっている、なぜわざわざ濃い顔を無駄に更に濃くするのか、なぜわざわざブスになるメイクをするのか、と不思議だった。　セレンには白人の美醜感覚が分からない。白人が愛でる女優はセレンにはケバい化物にしか映らない。恐らく白人の持つ白人至上主義、純血至上主義が美醜感覚を狂わせているのだろうと考えた。　本当に美しいのは犬猫の雑種と同じ混血児なのに、純血至上主義のヨーロッパではそれが認められず、白人コンプレックスのある日本では逆に実力以上にハーフがもてはやされていて、どちらの評価も間違っているだろうと考えた。　セレンは黄色人の純血も白人の純血もどちらも犬猫のブルドッグのような気持ち悪い奇形だと思っている。一番美しいのは血が混ざり合った混血児、つまり雑種だと考えている。（ただ、セレンは日本で育ったので個人的には東洋風の見た目が好きなのだが）　要するに見た目が一番優れているのは混血児だと思っている。　見た目だけではない。そもそも混血児は父母から様々な風土の免疫をもらっており、健康的にも有利だし、太り過ぎの白人ほどでないし寸胴な日本人ほどでもなくちょうどいいスタイルを持っているとも思っている。　つまり混血児は肉体的にも優れていると思っている。　・アルバザードにおける混血児　アルバザードはリディアのコンプレックスを映した鏡だ。リディアが考えた理想の国家だ。だから当然ヨーロッパと違ってセレンやリディアのような雑種の混血児が美しく優れていると評価される。ヨーロッパと違って白人至上主義も純血至上主義もない。　アルバザード人は文化も人種も混ざって切磋琢磨したほうが良い物が出来上がると考えており、自分たちの純血性をことさらに守ろうとしない。

こうなった神話的な理由としては、ɟɒ で凪人に征服され凪人との混血化が進んだことや、ルティア（シージア）の影響を古代から受けてルティア人との混血が進んだことが挙げられる。　要するにフランスなどと違って純血を守る以前に政府の上層部が異民族によって支配され混血化が進んだため、混血層のほうが現代に至るまでに増えてしまい、純血層を上回ってしまったわけである。となればわざわざ自分たち混血児を自らディスる必要性はないわけで、当然多くのアルバザード人は混血児が優性であると主張することになる。そういうわけでアルバザードでは純血よりしばしば混血のほうが評価が高い。　だからアルバザードで美少女コンテストをすればリディアや紫亞のような混血児が有利になる。ただし歴史的にアルバザードには黒人が入っていないので、同じ混血児でも黒人の混血児は評価が低いし、黒人そのものも評価が低く、差別がある。　要するにフランスと異なる歴史を持つ国で、アルバザードにおいては混血児が社会の上層部に行き、かつ数も多かったため、混血児がもてはやされているわけである。　だがそれはあくまで神話的な理由であり、実際にはリディアが自らの理想の国家を築き上げるために描いた設定でしかない。結局この世界はすべてリディアの溜飲を下げ、彼女を幸せにするための物語にすぎないのだ。そしてセレンはその世界を彼女ごと愛している。

lınʃcɟ ʃ'ɪnuɥɟ ［歴史］ランティス・タンヴェル。 ［レベル］4　J1 に ɪnuɥɟ の成句欄から独立 ［文化］ メル２６２年から２９５年までのファウスによるアルティス教徒迫害のこと。信者狩りが各地で行われ、信者だと分かったものは収容所送りとなり、処刑された。拷問による自供も行われ、拷問により無理やり自供させられ処刑台送りになるケースも多く、社会全体が混沌とした。

lınʃcɟ1ɪ ［名詞］大学院 ［レベル］4　1L

lınʃcɟɒeɒ ［組み数字］ランティスサークル ［レベル］5　J1 ［文化］ µɪdɪlɪl

lınʃcɟpelzɪ̀ınʃ ［音楽］ランティスの子守り歌、ランティスの覚え歌、使徒の子守り歌、使徒の覚え歌 ［レベル］2　J1 ［文化］ ɒel ʔʕ ごろに作られた使徒の覚え歌。J1 に作り直された。

・歌詞　1ɔ µcɑcɪ ɑcɪ ɑelɒ ʃɪ ɔuc uɔɔ eɒɯ　uc 1lccz lcɟ jɪʃcc　uɪl φcl φcl ʃeeue　lcn ɑəlɒccɪ ɑəl beezel　1cɟ µɥəə ɑɥə cluɪ　nɔl ɒel ɒel dɪµʃ　ʃen µɪlɑəµɪ µɪl uelɒ　1cɟ zɪnɪ zɪn eɒɯ　ɔn dɪɪl dɪl jɪʃcc　ɔn1ɔ ɒclɑ ɒc1 ʃeeue　ɔnʃɪ ɑɯɪ ɑɯ beezel　ɔnuc µəəs µəs cluɪ　ɔnuɪl jeɒen jeɒ dɪµʃ　ɔn1cn µɪuɪ µɪu uelɒ　ɔn1cɟ əɒʃɔnɪ ʃɪn eɒɯ　ɔnnɔl 1cc ne 1cn jɪʃcc　ɔnʃen ɒelezɔnɪ µez ʃeeue　ɔn1ɔɟ sccl scl beezel　ʃɪɔn 1cnɪ ɑcn cluɪ　ʃɪɔ n1ɔ e1eʃɔne 1eʃ dɪµʃ　ʃɪɔnʃɪ ennɪ len uelɒ　ʃɪɔnuc ɪll lɪl eɒɯ　ʃɪɔnuɪl neene nen jɪʃcc　ʃɪɔn1cn dcneɪ dcn ʃeeue　ʃɪɔn1cɟ ɒɪʃ ɒɪʃ beezel　ʃɪɔnnɔl 1ənɔn 1ən cluɪ　ʃɪɔnʃen 1ɒccɟ ɒcɟ dɪµʃ　1əəɟ eʃ lınʃcɟ

lınʃcɟµecn ［交通］ランティス線、使徒線 ［レベル］4　J1 ［文化］ アルナ市を走る地下鉄。２８本の環状線から成る。　７番目までは全長が短すぎるため、単線となっている。同時に、止まる駅もポエン、カルザス、ティクノ、コノーテのみである。

lınʃcɪ ［丁寧］［親族］ご息女、お嬢さん、お嬢様、ランティア ［レベル］2　J1:lınʃ/ɒcɯ（美しい子） ［文化］ lɪɪlı ［用例］ "cldɪɟɟɔ eȣ lınʃcɪ" お嬢さん、大丈夫ですか。

lınʃcɪ(J) ［言語］［文字］ランティア書体、ランティア ［レベル］5　J1:ɒclɑ:ləlcɪ → hɪrlɒ ［文化］ ・概要　幻京書体 スラブセリフ ミディアム スタンダード ローマン　フォント制作 jeɒen ɪµbɪzɪµɑ　J1 年企画立案、同完成　・特徴　ʃcnɪ にセリフを付けたもの。曲線部には原則セリフを付けず、直線部にのみセリフを付す。ただし大文字のうち、高さ中央の左右に伸びた横線には付けない。また、デザイン上見づらくなるのを防ぐためにあえて付けない場合もある。線の太さを均一に保つため、曲線部の先端を尖らせない。本文などに用いる。

lınʔ ［名詞］左 ［形容詞］左の ［格詞］～の左に ［経済］借方 ［数学］上何桁などの上 ［反意語］ɒcʔ ［レベル］1　ɑɥɑ;lın/1ɒɟ　1L:lınʔɔɟ 人の方向　e:lınʔ

lınʔlc ［名詞］左後ろ ［レベル］2　J0

lınʔjɪ ［名詞］左前 ［レベル］2　J0

lınʔuɪnɔ ［アイテム］ホプロン　µɑ;/。左側にいる人間を守ることができることから。　J0ʃ ［文化］ zφ の重装歩兵の集団戦闘で発明された。

lınʔɒɔl ［名詞］左下 ［レベル］2　J0

lınʔɒenʔ ［名詞］左回り ［類義語］ɪlɒelʔɒenʔ ［反意語］ɒc1ɒenʔ ［レベル］3　J0

lınʔhɪl ［名詞］左上 ［レベル］2　J0

lınʔzeʃ ［経済］借方科目、借方 ［レベル］6　1L

lınʔlɪɟ ［生物］左手 ［レベル］2　1L:jɔnɔhcnɔ1c

lınʔı ［数学］整数 ［レベル］4　1L:lınʔ1/ɪlɪl（小数点の左に来る数）

lınʔı(J) ［魔法］呪禁術　ɪlʃ　J0ʃ

lınʔıɑel ［数学］数論、整数論 ［レベル］5　1L

lınʔc ［ジョブ］呪禁師　ɪlʃ　J0ʃ

lınʔcnɟ ［生物］左目 ［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

lınʔɔ ［名詞］男の子、少年、ボーイ、青年、男子 ［類義語］ucʔ ［反意語］µecɥə ［レベル］2　古 :lınʔcɟ から来ている。 ［語法］ ɪlɪlz と ɪlɒɪnɪ の総称。

lınʔen ［接続詞］lınʔ ［レベル］3　J1

lınʃ ［動詞］ɥəl を信じる、ɥəl は大丈夫だろうと心配しないで信頼する、信じる、信頼する、信用する ［レベル］2　1ʕ: 制 :lɪd

lınʃınʃe ［電算］ランシャンテ ［魔法］通信魔法（但し ɪl 以前は ınʃınʃe） ［レベル］5　古 :ɪl/ınʃınʃe から来ている ［語法］ ınʃınʃe は元々魔力で情報を通信するものだったが、レイユの時代に開発された新型通信機が ınʃınʃe の名になり、それまでの魔法は lınʃınʃe と呼ばれるようになった。

lınʃcʃe ［生物］霊人種 ［レベル］5　1L

lınʃel ［政治］（都市の規模としての）町→ jɪlıc ［レベル］3　1L:µcɑcɪ: 古 lın/lɪl（人がいる）→ lınʃel

lınʃel(J) ［地名］ランシェル、ランシェルの森 ［レベル］6　ɑ;e　J1 ［文化］ セルハノイの近くにある森。ユーマがサールのヴァルゾンから身を隠すためにギルバートの森から移り住んだところ。ここでやがてドゥルガと会い、恋に落ちて一緒に生活するようになる。　後にアルドゥがエスタをフランディールから連れて家を建てて１６人の子供を成す舞台ともなる。

lınɟ ［名詞］天使。人間を救済する存在。また、そのような人間。 ［生物］神科と魂科の総称。 ɒcµɔ1 から lcnɟ を抜いたものに等しい。 ［類義語］µzɪjʔ ［反意語］lcnɟ ［レベル］2　古 :lınɟ（善人、天使）← lınʃcɟ（霊人） ［語法］ アルカには神の遣いのようなイメージや語義はない。　寝ている子供を天使のようだと褒めるのはアルカでも同じ。

lınɟ,jzɑ　oɪʃ, lɪµʃ　<> lın,jzɑ

lınɟ,hɥ　lcnɟ

lınɟ1lel ［魔法］怪獣図鑑、ランスクレール ［レベル］5　µɑ:µɥəə;lınɟ,hɥ/1lel → ɑɔ1ɒcɥə　J1 ［文化］ ɑɔ1ɒcɥə

lınɟ1eɥn ［ランドマーク］［芸術］ランスケルン美術館、天翼美術館 ［レベル］4　1L:ɒclɑ: 天使の羽 ［文化］

アシェットがミルフの出産祝いでアルナに建てた美術館。世界最大の美術館で、レイユにも残った。住所は中央アルナ市コノーテ＝ミルフ通り。ミルフ通りの敷地を完全に占有する。

フランスのルーブル美術館とオルセー美術館を足したような美術館。入場料は終日券のみで、一般１００ソルト、学生子供老人５０ソルト。ルーブルが８．５ユーロで約１０００円であることを考えると、一般が４００円程度なので、かなり安いといえる。税金から賄われるので、そもそもフランス人がルーブルに行く数倍の頻度でランスケルンに行くというのが理由。ルーブル同様、外国人観光客も多数。　中が広いため、足湯が設置されている。自由に浸かって休める。

lınɟlınſ ［俗語］パンチラ ［類義語］lcɟdʔcld ［レベル］4 J1

lınɟlccſ ［生物］うなじ、項、⊠、襟首、えりくび、首筋、うなぜ ［レベル］3 μɑ;/「天使の誘惑」μɑ でセレンが女子のうなじを見て興奮してそのように名付けたことから。風呂上りの掻き上げた髪と授業中の前に座っている女子のうなじが最強とのこと。 J?

lınɟscɔɥ ［生物］蕨陰兪、蕨陰愈 J1

lınɟlcl ［化学］ピスマス 1Λ: 制

lınɟı,ıll ɑccıeſeʔ

lınɟɟl ［化学］アスピリン ［レベル］5 1L ［文化］lcnſıɟl

lınɟɔɑı ［交通］人身事故、対人事故 ［レベル］5 μɑ;/ JM

lınɟɔɟɟelɑ ［電算］高級言語 ［レベル］6 1L

lınɟe ［政治］男爵、バロン ɟɔ;lınɟeɟ.ʔ JM ［文化］ 貴族の最下位。元武将がなることが多かった。

lınɟeɟ ［軍事］武将、ランセ ［組み数字］2 / 3 ［アクセント］lınɟÉɟ ［レベル］3 μɑ;lınɟeɟ,ɟzl ‹ lınɟ,ɟzɑ ［文化］ uınφıɟ

lınuıſıc ［経済］公害 ［レベル］4 1L:「人為的な害」 ［文化］「公害」などと呼ぶと人間が引き起こしたものだという認識が薄れてしまいかねない。責任の重さと所在を明確にするために、「公害」などと呼ばずに「人害」と呼んでいる。

lınuıɟ ［娯楽］ランヴァス、シャンチー ［レベル］6 J0:lınſı/uıɟ（駒の戦い） ［文化］ → nıɥəɒel 歴史的にアルバザードでは知名度が低く、プレイヤーは少ない。しかし愛好家はリヴェルより高度であると評している。影ながら優れたゲーム。 地球と逆で、ルティアの将棋が元でできたゲーム。相手の駒を使わないものの、将棋から発展しているので駒の名前は両陣営で共通。 アルティルまでは将棋の駒と同じ名称で士を hɥəlı にし、兵を oılſ にしていたが、レイユでは将棋と合わせてやる人間が増えたため、同じ名前で駒の能力が違うと混乱するということで、改名された。 帥・将（ɑıcz）、仕・士（hıɟɑcın）、相・象（bılſcɟ）、馬（φcluın）、俥・車（nılɒc）、炮・砲（bıſcɟ）、兵・卒（oelſſı）。

lınueɒ ［人名］ランヴェム ［組み数字］9 / 1 1 ［レベル］3 古 ;μcɑcı:lın（人）/ueɒ（闇、邪） ［文化］ アルシアの９番目。闇の魔法の大成者。女性。

lınueɒ(J) ［死神］ランヴェム 1Λ:jeɒen: モデルはユーアとラルドゥラとラヴァ。 ［文化］ ヴェルギナの元腹心。夢喰種だが、紗枝の付き人をしている。無口で背の高い美青年。年は二十代後半。戦闘力の低い紗枝を助けて戦う。

lınueɒɔ ［名詞］人影、人陰。人影と人陰の違いはない。 ［レベル］3 μɑ;/ J? ［語法］ ueɒɔ

lınɑıb ［環境］人口爆発 ［レベル］5 1L

lınɑcɔle ［アイテム］ランフィオーレ、血染めの乙女 ［伝統色］マゼンダ、マジェンダ。槍に付いた鮮血の色。鉄色の槍と相まって薄く見える。 ［アクセント］lınɑcƆle ［レベル］5 jzʔ;lın,jzɑ/ɑcɔle,jzɑ J1 ［文化］ 天馬騎士の長槍。アヴァンシアンの一種。Λ〜ᚠ elaı の長さで、柄は細身。刃には返しがついており、抜きづらい。また、突き刺し強度が高い。 鉄製だが、乙女が使うため細身。ゆえに横から打たれると曲がりやすい。しかし急降下して刺すため、敵は横から打つ暇がない。 金属製な上に長いので極めて重い。ゆえに移動中は天馬の右腹に付けた逆さフックに乗せておく。手に持つ部分には寒さ防止の布を巻く。また、手袋を嵌めて握る。
槍を放つ前は中腹を持つが、放つ際は手を滑らせて柄尻を持ち、リーチを稼ぐ。急降下してしているので重力に任せればよく、柄尻を持ってもほとんど重さを感じない。これが通常の馬ならば重力を味方にできないため、このような金属製の長槍を乙女が持つことはできない。
ランフィオーレは重力による加速度がつくため、その威力は絶大である。その代わりこのような長い槍を上から下向きに放つということは、確実に槍は地面に刺さってしまう。しかしこれはあえてそうしており、貫通した槍が地面に強烈に刺し込まれることで、敵は身動きが取れなくなる。このことからもランフィオーレがアヴァンシアンであることが分かる。
通常ランフィオーレを放つ際は、まずエリュンディテが減速して最後列に付く。同時にサヴァンジェが急降下して敵に槍を放つ。一方トリコメロールは急降下せずにサヴァンジェの前を通過し、インメルマンターンをして急降下し、敵の背後から槍を放つ。それと入れ替わりで後列に控えていたエリュンディテが敵の前方から急降下し、槍を放つ。右サヴァンジェは左に放ち、左サヴァンジェは右に放つ。トリコメロールも同様。エリュンディテは右手で敵の正面を刺し、馬は敵の右側を駆け抜ける。このようにすることで、5 つの角度から槍が刺さり、地面にも刺さることで槍の牢獄を築く。そしてこの突き方をそのまま jınselclı という。

lınɑcɔle(J) ［軍事］ランフィオーレ ［アクセント］lınɑcƆle ［レベル］3 J1 ［文化］ ıl で結成された反政府組織。腐敗した力無きユティア朝による独裁政権を転覆させ、世を改めることが目的。ハト派のフェンゼル＝アルサールが指導者を務めていたが、フェンゼル＝アルサールの乱以降はタカ派のヴァイン＝カンヅェルが指導者となった。

lınɑɔnſ ［交通］歩道 ［レベル］3 1L:ɔelcɑcı ılcɟ ［語法］ 中央を qıɒeɑɔnſ、左右両脇を zıɒɑɔnſ という。

lınɒel ［歴史］人代。アズゲル以降の総称 ［レベル］4 μɑ;/ 1L ［語法］ → ɑeɒe ɥſıɒel と ɑlıɒɒel に分かれる。

lınɑ ［動詞］ɥel を期待する、期待する、楽しみに待つ、ɥel が待ち遠しい、ɥel はまだかな、ɥel を信頼して期待する、待ち遠しい ［名詞］期待、希望、望み ［形容詞］期待された、待ち望まれた、歓待された ［反意語］ɑcuɒɟ ［レベル］2 1Λ: 制 : 恣意 ［用例］ ſee, ſɥe lınɑ ɑɔnl lı ıſl ſɥe jccnı. 彼が手伝ってくれるなんて期待しちゃダメよ。 nɔn lınɑ nın ıſl lı. 彼に会うのを楽しみにしている。 ın lınɑ nɔj ıɥ jcl jıezɔn ʃcnel. スキーに行くのが待ちきれない。

lınɑ(J) ［生物］［医療］基準点、ランドマーク。骨や筋肉や関節など、取穴の際の目印となる部分。 jzl;ınɑı,ɑu.l（基準） JM

lınɑlıɑ ［名詞］甲斐、かい、やり甲斐、やりがい ［レベル］4 μɑ;/「期待される値打ち」 JM ［語法］「期待できるだけの値うち」としての甲斐。生きがいややりがいなどの甲斐。ただし生きがいは lcuɒel)。 ［用例］ ſə aıj ſcl lınɑlıɑ ſəuıl. この仕事は十分やり甲斐がある。

lınɑɑız ［形容詞］希望のある、希望に満ちた ［レベル］3 1L

lınɑc ［魔物］ランディ（雷獅獣）：第五十三天：雷の風天 ［レベル］5 古 :μcɑcı ［文化］ 翼の生えたライオン。火を吐き。雷で敵を焼く。ひとたび跳躍すれば羽を使わずとも４０メルフィを飛びこえ、跳躍の頂点は１２メルフィにも達する。神速の持ち主でもあり、時速は８０コットメルフィにも達するという。その雄たけびは聞く者を動けなくさせる。 ［成句］ cnɟ e lın ɑc 虎視眈々

lınφ ［法律］権利 ［法律］人権← lınlınφ ［レベル］3 1L: 制 :lınʔ

lınφlcu ［経済］ストライキ、スト ［動詞］ɥel を ɔn についてストさせる、ストする ［レベル］3 J1:「権利の声」

lınφuıɟl ［政治］人権侵害 ［レベル］4 1L

lınφbɥɑc ［政治］基本的人権の尊重 ［レベル］4 1L ［文化］ ナディアで確立。

lınφıln ［政治］人権思想 ［レベル］4 1L

lınφıle ［政治］人権団体 ［レベル］5 1L:clɒəj:μcɑcı

lınφıɟſ ［経済］人件費 ［レベル］4 1L ［文化］ ＰＬでは販売費及び一般管理費に含まれる。

lınφeʔlı ［名詞］人ごみ、人混み、人込み、人ゴミ、ひとごみ ［レベル］3 J1

lındıɒe ［交通］人力車 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbılelſ: 元々馬車だったものがミロク革命で馬車が道路に入れなくなったため、馬車を改造して人力で漕ぐようになったことから、dıɒe に lın がついた。 ［文化］ oııɒ

lındcſ ［生物］人種 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbılelſ ［文化］ ＜歴史的観点での人種＞ 人類は神から分化したため、人種的特徴は神々を引き継いでいる。 エルトは白い肌に白人系の彫りの深い顔をしていた。金髪碧眼で体格は華奢。 サールは黄色い肌に東洋系の薄い顔をしていた。黒髪黒目で体は細く、寸胴の幼児体系。 ユーマは両者の特徴を受け継ぎ、亜麻色の髪に白めの肌をしていた。目は右目が青で、左目が緑。 アルドゥはドゥルガを受け継いで金髪碧眼の白人系美青年。 エスタはヴィーネを受け継いで黒髪茶目の東洋系美少女。 第三世代はいずれも彼らを混ぜたもので、諸特徴が混ざり合った。 むろん、組み合わせによってはエルト系の白人要素しかほとんど持たないものや、その逆もいた。 これが人類の始祖（ガルヴェーユ人）となる。地球でいえば白人と黄色人種と彼らの混合から人類がスタートすることになる。 ガルヴェーユ人は肌や体格の特徴でアーデュ（白人）、エティール（黄色人種）、それらの混合であるユミール（メスティーソ）に分けられた。 ただ、白人といっても地球にいるコーカソイドらとはかなり異なる。 肌が白く髪と目が薄いのは同じだが、ガルヴェーユ人はコーカソイドほどは彫りが深くなく、体格は華奢。筋肉は細く弱く、身長も低い。 白人はしばしば顎が割れたり毛が濃かったりするが、ガルヴェーユ人はいずれもそのような特徴を持たない。 また、アメリカ人などに比べて口が少し小さい。女性の胸は黄色人種より大きいが、コーカソイドほどではない。 黄色人種も同様に、モンゴロイドとはかなり異なる。 肌は黄色く髪と目は濃いが、ガルヴェーユ人の目はくりっとして大きく、二重が多い。 体形は子供っぽいが太りにくく、鼻は日本人よりわずかに高い。女性の胸は小さく、日本人と同じ程度。 体格は白人より小さく、筋肉は弱い。 ガルヴェーユ人：ユーマの一族第三世代からガルヴェーユを追放されるまでの世代 →シフェル人、マレット人 ここから遺伝スパンが早くなり、環境も変わるため、各民族は環境に合わせて身体的特徴を変えていく。 シフェル人：ガルヴェーユ追放でファベルや南アルカットへ移った人種。比較的エルトの血が濃く、白人系。 →リュディア人、ファルファニア人 マレット人：ガルヴェーユ追放でファベル南西部やサヴィアへ移った人種。比較的サールの血が濃く、黄色系。 →ファベル人、シージア人 リュディア人：ΔΛ 万年にアンシャル南部に建国。LΛ 万年にレスティルを建国。LΔ 万年で神に土地を奪われて四散。ガルヴェーユ人よりも黒髪黒目の頻度が多く、肌も濃い。現アルバザード人のルーツ。神に追放された以外はファルファニア人にしか負けたことがなく、後はヴァステが起ころうがラヴァスが起ころうが生き延び続けた最も苦労人な民族。苦労した分強いのか、現在ではアルバザード人として世界を支配している。 →ルカリア人、アルディア人、スカルディア人、ミュール人 ファルファニア人：ファベルの土地に適応して、10 万年かけて地球でいう黒人になっていった。肌が黒く鼻が低く彫りが深く、筋肉が強く、唇が厚い。Lᚠ 万年で ɑılaıncı を建国。しばらく国がいたが、uıjfe で悪魔の攻撃を受けて ɑμɑıncı に撤退。その後レスティル人に ɑılaıncı を奪還され、現代まで北ファベルに住み続ける。リュディア人を追いやった歴史があるため、リュディア人の子孫であるアルバザード人は未だに彼らに冷たい。 ファベル人：地球から考えると彼らが黒人に見えるが、実際はインディアンに近い人種。黄色人を黒くしたような見た目で、インディアンやポリネシアンなどに見える。 シージア人：後にルティア人などになる民族。東洋系の顔立ちで、風土に合わせて白くなり、髪も徐々に色が薄くなっていった。特に現リーゼルやユピトールではその傾向が濃い。 →ルティア人、リーゼル人、リディア人、ハノイ人、ケヴェア人、ハーディア人 ルカリア人：神と交代でルカリアに住んだ民族。色素が薄く、背が高い。 →トール人、フレティス人 アルディア人：現東方人。髪が黄色く、背が高い。 →サルディアン人 スカルディア人：現魔方人。特徴はミュール人と同じ。 →メディアン人 ミュール人：いわゆるアラブ人のような茶色人種。 ルティア人：シージアから移住しなかった人々のうち、南側に住んでいた人々。大人しく小柄で、肌は白いが髪は黒い。 リーゼル人：シージアから移住しなかった人々のうち、北側に住んでいた人々。孤独を愛し、人と関わるのが嫌いで、色素が薄い。口数がさらに少ない。見た目はフィンランド人に、静かなところはスウェーデン人に似ている。
リディア人：シージアから南下した人々。比較的エルト系の血が多く集まった地域で、見た目はアジア人とヨーロッパ人の混合に近い。リディア国北側に集中。 ハノイ人：リディア人の南に住んでいた人々。インディアンや東南アジアの人間に似ている。リディア国南側からサヴィア南端までに分布。背が小さい。 →カルセール人 ケヴェア人：サヴィアからケヴェアに渡った人々。アズゲルで一部はさらにアデントに渡り、アデント人に分派する。インディアンを黒くしたようで、ポリネシア人に似ている。 →アデント人 ハーディアン人：シージアから分派して西に移動した民族。サール系の血が濃く、顔は扁平で鼻が低い。日本人ほど顔は大きくないが、顔のパーツは日本人同様小さい。体格は非常に小さく、女性は外国では子供に間違えられる。顔は薄く幼げで、男女の区別があまりつかない。几帳面で細かい作業に強く、リーゼル人同様内向的。 トール人：ルカリア南部の人間が中心となり、そこにレスティルに少数住んでいた人間が混ざったもの。現アルバザード人とケートイア人。 フレティス人：トール人より背が高い。 サルディアン人：アルディアルから分派して東へ移動した民族。長身で色が薄いのは同じだが、横に大きく太りやすくがたいがいい。ただし若いころは細い。結婚したころから急激に太る。セレーナにいるのは地理的に少し離れたアルディアル人。 メディアン人：スカルディアから分派して東へ移動した民族。茶色人種で、アラブ人のような見た目だが、メディアンの湿潤な気候に合わせ、顔がやや扁平で鼻が横に広い。東メディアンはマレットとの混血も多い。
カルセール人：ハノイ人のうちサヴィア西岸に住んでいた民族とリディア人の混合からなる民族がハーディアンを通過して住み着いたもの。従ってハーディアン人とは別系統であるが、移住後はハーディアン、メディアン、サルディーン、アルディアル、スカルディアなどと混血が進んだ。神代およびアズゲルのころは最も混血が進んだ人種で、文化的にも混血が進んだ。集落同士の文化の違いが大きくなり、内乱が常に絶えなかった。元はマレット系の東洋魔法を使っていたが、時が経つとともに西洋魔法にシフトしていった。 アデント人：アズゲルでアデントに渡って分派したケヴェア人。さらにここからミュオネイトやオプクリアを渡って南ファベルに入ったミュリア人に分派する。肌が赤く、赤色人種と言われる。アポリジニに相当。 →ミュリア人 ミュリア人：アズゲルでアデントからミュオネイトなどを通って南ファベルに入った人々。ファベル中央に近付くほどケヴェア人と同じく肌が黒いが、子供は黒くない。赤い肌をして生まれてくる。ファベル大陸南部は大人もアデント人の特徴を残して肌が赤い。最南端は非常に寒いため、いずれ白人化するだろう。アズゲルの終わりから現在まで、つまりこの人種ができてからわずか J000 年ほどなので、まだ遺伝子が環境に適応していない。 ガルヴェーユ人 ├シフェル人 │├リュディア人 │ │ ├ルカリア人 │ │ │├トール人 │ │ │└フレティス人 │ │ ├アルディアル人 │ │ │ └サルディアン人 │ │ ├スカルディア人 │ │ │└メディアン人 │ │ └ミュール人 │ └ファルファニア人 └マレット人 □├ファベル人 □└シージア人 □□├ルティア人 □□├リーゼル人 □□├リディア人 □□├ハノイ人 □□│└カルセール人 □□├ケヴェア人 □□│ └アデント人 □□│□└ミュリア人 □□└ハーディアン人 ＜神に近い民族は？＞ 歴史的変遷を見ればわかるとおり、メルティア８５万年でガルヴェーユを追い出されてからというもの、人類は環境の変化に適応して形質を変えてきた。言い換えれば、最もガルヴェーユからの移動距離の短い民族が最もガルヴェーユ人のままの形質を残していることになる。この観点で見ればリュディア人が最も始祖および神々に近い。時代が下ると中でも北に移ったルカリア人が、神に近しいとされて異形の能力を買われたレスティル人が近い。そしてさらに時代がくだると彼らの混合したトール人が最も近いといえる。アルバザード人のアルカが最も神の第二アルカに近かったことが頷ける。 ＜現代における人種＞ アルバザードは世界一の大国であるがゆえに様々な人種が混じっている。土着の民族は肌が白く目と髪の色が薄い人種である。だがアルバザードは地続きなため、交通事情がよくなるにつれ、移民が増えてきた。カコにも外国人はいたし、μɑ では使徒のほとんどはアルバザード人ではない。もっとも μɑ の場合、使徒に特別外国人が多かっただけだが。
流入した民族は世界中からといっても傾向はある。ルティアやメテといった大国のほうが交通事情が良く、情報網も広い。ゆえに大国の敬度な信者ほどアルバザードに移住しやすかった。ファベルやケヴェアは小国が多く、ここからの移民は少なかった ルティアやメテ、或いはアルカットの主要国に住んでいる人種は黄色か白人かである。黒人は少ない。黒人はファベルやケヴェアに多い。ゆえにアルバザードには白人と黄色人種が多くなった アルティスの発足以降、敬度な信者は敬度な信者同士で結婚することが多かった。言語がアルカで統一され、まして宗教的な繋がりもあったため、異なる人種間での結婚が当然視され、珍しくもなかった。そうして生まれたのが混血児である。アルティルから混血児の数が急増した。 アルバザードにはたくさんの混血児が生まれ、土着民族の割合は減っていった。民族の純粋性は減っていったが、民族より宗教と言語のほうが重みがあった。そのため、民族の純粋性が減ることに大きな抵抗はなかった。そしてミロクが民族の純粋性よりも敬度さのほうを重視したことにより、事態に拍車がかかった ここからも分かるだろうが、現在の地球ほど人種差別は酷くなかった。人種が違うことは視覚的にすぐ分かる。自分にとって異様なものを排他しようとする気持ちは防衛本能と関わっており、生物として正当な反応である。だから人種差別は起こるべくして起こる だが、起こることが自然だからといってそれが正しく許されるとは限らない。人種差別は起こるべくして起こる。しかし、それを社会的に或いは理性的に止めようとする必要がある。人種差別は争いを生むが、争いはできるだけ避けるほうがより安全に生きられるからである というわけでアルバザードにも必然的に起こるであろう人種差別をミロクは阻止しなければならなかった。そこでミロクが考えたことは人種差別をしないように無理やり人の心を押し付けることではなかった 法で決めれば確かにある程度は押さえられるだろう。では、法で違反と決めるより合理的な方法があったらどうするだろう。勿論それを選ぶ。さて、それはどのような方法か 答えは、人種の違いがそもそも大したことでないと思わせるということである。人種が違っても何も感じなければそもそも差別意識が生まれない。差別も起こりようがない。では、人種の違いをどう大したことでないと感じさせるようにするか これは喧嘩を止めさせるのと似ている。夫婦喧嘩をしているときに第三者が割って入り、奥さんを非難したとする。すると大抵夫は関係ないこの赤の他人に怒りを覚えて排他しようとする。「なんだあんたは、関係ないだろ、ひっこんでろ」ーーこれが相場であろう それでもこの他人がお構いなしに妻を非難しだしたらどうか。もし夫が逆上して殴りかかったりしないかぎり、大抵夫は妻を擁護する側に回るだろう 夫にとって妻は喧嘩相手である。つまり敵である。だが、ここに赤の他人というより大きな敵が現れた。すると夫はとりあえず小さな敵とは争わず、大きな敵と争うように

なる。一時的に小さな敵とは休戦する　　これは喧嘩だけでなく、抗争や、はては戦争にまで通用する普遍的な理屈である。もし冷戦時に宇宙人が地球を侵略しにきたらアメリカとロシアは冷戦を休戦しただろう。人間同士で争っている場合ではなくなったのだから　　この理屈は人種差別にもいえる。人種問題という項目が発生している渦中により大きな項目を入れるというわけである。こうすると人の関心は大きなほうに向く。つまり、その大きなほうがフィギュアと認知され、今までフィギュアと見えていたものがグラウンドとして認知されるようになる　　具体的にいうと、ミロクは人種問題という項目の中に言語や宗教を投げ入れたわけである。ミロク革命の際は大局的に言ってミロクに従おうとする人間と逆らおうとする人間に分かれた。前者はアルカを保持しようとし、敬虔な信者になろうとした。後者はその逆である　　前者と後者はまるで性質が逆なので、諍いが耐えなかった。ミロクは全面的に前者の味方をしたので、前者は錦の御旗を掲げて後者を排他しようとしていった。つまり、前者が後者を差別しだしたわけである　　こうなると前者同士の連帯感が高まる。後者を差別することによって前者内部の連帯感は強まる。前者と後者を分ける条件は主に言語と宗教であった。そこに人種はない。こうして後者の差別が強くなるほど、人種問題はぼやかされていった。これがミロクの狙いである　　もし前者と後者の間に対立が起こらなかったら恐らく移住してきた異民族と土着の民族間での攻防に至っただろう。ところがミロクは意図的に言語と宗教でグループを作って対立させ、人種問題を眩ませた　　ミロクは差別は人間の防衛本能によるもので、起こることは必至と考えた。それを法で規制しても遵守させるのは難しい　　一方、強姦を禁止することは遵守させた。これは欲求を法で規制することである　　このことからも、ミロクは欲求を抑えることより、防衛本能を抑えるほうが難しいと考えていたといえる　　防衛本能は抑えがたいのだとすれば、無理に抑えるのではなく、防衛本能をそもそも起こさせないようにしようとするのが得策である。だからミロクは上で述べたような戦略をとった。この戦略はミロクの「アルティスの世を作る」ということに矛盾しないため、ミロクにとっては幸運でもあった

lɪndɛʃɟdɪʃ　[名詞] 人種差別　3 1L:ɟɕɑɕɪ:ɪɟbɪlɛlʃ

lɪnhɪɾl　[言語] 顔文字　[レベル] 3　1L　[語法]　幻字を使って人の特徴を表した絵のこと。日本語は感情を表すために顔文字を使うが、人種の多いアルバザードでは人の外見の特徴を表わすことに特化している。また、感情は文末純詞で日本語以上に細かく表せるため、感情系の顔文字の需要があまりじゃ。　ɪ で目を示す。　c か] で鼻を示す。c は黄色人、] は白人。　ʃ は長髪非ストレート、l は長髪ストレート、ə は短髪を示す。　髪の位置が顔の右に来ると、その顔文字人間の左側の頬が見えていることになるから、観察者から見て右に相手が立つことになる。右に立つのは男と決まっているので、髪の位置で性別が分かる。　x で美人を示す。くりっとした眼のこと。　例　jɪcɪ 黄色人の女　ɪcɪj 黄色人の男　jɪɹɪ 白人の女　lɪcx 黄色人の美人で髪がストレート　əɪcɪ 短髪の黄色人の女　　面白いことに、これらは単語として読むことができる。サイア、アイアス、サター、ライラ、ウアイアのように、言葉遊びができる。

lɪns　[歴史] ランジュ、転生期、転生の詠、てんせいのうた　[レベル] 3　1L:clɒəj:ɟɕɑɕɪ:lɪnʃcj/cnsɕn（使徒の転生）。世界は創世の詩に始まり転生の詠に終わる。　[文化]　アレイユの後。使徒が転生する時代。

lɪnse　[人名] ランジェ　ɭ0　[文化]　(ɣəəɒɪ ʕ1ʔ9:ʕ9ɭɭ(ʕɭɹ1:ʕ9ɭɭ)) カコ前期のレスティル女王。　ɣəəɒɪ ʕ1ʔ9 イヴィル、遠征先の ɪnse で娘誕生の報を聞き、lɪnse と名付ける　　ɣəəɒɪ ʕ9ɭ0 アゼリアの進言を受けてランジェは神魔混合（ミレムジール）を行い、ɪɟʃclɕɪ と cj1ɪnʃe を ɪɟcj1 ɪnʃe 教に統合。旧宗教のうち統合反対派から激しい反対を受ける

lɪnse(ɭ)　[軍事] [工学] パイロット、運転手、操作手、ランジェ　[レベル] 3　jɒ;lɪn/ɪnsel「アンジェルに乗る人」　ɭʔ

lɪnɭɪ　[名詞] おばさん、オバサン　[類義語] lɪnlɪn　[反意語] ɟeʃʃe　[レベル] 2　古 :lɪɭɪ（母）から。

lɪnlɪn　[名詞] おばちゃん、おばさん　[類義語] lɪnlɪ　[反意語] ɟeʃʃen　[レベル] 2　ɭ0:lɪnlɪ/n

lɪnlɪnʃɪ　[娯楽] プレイヤーキャラクター、ＰＣ　[レベル] 5　ɭɭ:「人が操作するキャラ」

lɪnlɪnɸ　[政治] 人権→ lɪnɸ　[レベル] 4　1L

lɪnɪ　[格詞] ～するために、～をめぐって　[動詞] ɣəl を狙う、狙う、ねらう、目指す。弓矢や拳銃などで。また、目標のような抽象名詞を狙うときにも使う。　[名詞] 目標、目的、目当ての相手、相手　[名詞] 的、まと、マト→ ɪlɯe　[名詞] ゴール→ ʃɔʕlɪ　[レベル] 1　ɯɑ　1ʕ: 制 : 希望。zɪn は 7 を表すようになったため。　[語法]　＜ lɪnɪ と ɑccnɪ ＞　どちらも「～のために」と訳すときがある。ɑccnɪ は相手に利益が生じる際に使う。lɪnɪ はそうでないときに使う。　ɪn lɪ bɪʃ ɑccnɪ lcʃe（家族のために働いた）。この場合は家族に利益が生じるので ɑccnɪ を使う。ɪn ɑelɪʃ lɪnɪ ɾɪj（試験のために勉強した）。この場合、試験に利益は生じない。試験は合格するための目標であるから lɪnɪ を使う。　[用例]　ʃc lɪnɪ ʃɔȣ 何が狙いなの？　ɟee, leə uɪj ɪlel lɪnɪ nɔnlʳ 私を巡って争うのはお止めになって！　eɒɪ lɪnɪ ɑɪn ɟɪl ʔɪlʃe le ʃoɪ ʔɔɟ ɑɥe. あんたのいくところのその先だよ。

lɪnɪʃ　[軍事] 照準、狙い、ねらい　[軍事] 照準器、スコープ　[レベル] 6　ɟɑ;lɪnɪ/ʔɔn　ɭʊ

lɪnɪʔɪ　[名詞] 目的地　[レベル] 3　ɭ0

lɪnɪɭl　[環境] 人口　[レベル] 3　1L:clɒəj:ɟɕɑɕɪ　[文化]　イルムス参照

lɪnɪllɥeʃ　[環境] 人口問題　[レベル] 4　1L

lɪnɪlccɑɪ　[娯楽] ラナリーファ　ɭ1　[文化]　『セイントセイヤ』に相当するアニメ。

lɪnɪɪnɑɪ　[経済] 節目　ɭɭ

lɪnɪen　[接続詞] lɪnɪ。～するための。→ len　[レベル] 3　ɭ1

lɪnɔɟ　[代詞] 彼自身、彼女自身　[反意語] lənɔɟ　[レベル] 2　ɟɑ;/　ʃʔ

lɪnɔn　[親族] どら娘　[レベル] 2　1L:ɟɕɑɕɪ:lɪnʃ/nɔn（綺麗だった頃の私）

lɪneʃ　[名詞] 人間性、人間らしさ　[類義語] ʃɪnɟ　[レベル] 4　ɟɑ;lɪn/eʃ　ɭʊ　[語法]　ʃɪnɟ は人徳としての人間性。lɪneʃ は機械や動物と人間を区別するための人間らしさのこと。　[文化]　ɟell　[用例]　lɪ ʃcl lɪneʃ ɟɪn. 彼はしっかりした人間性を持っている。機械的な人間や動物的な人間でないという意味。アルバザードでは重要→ ɟell

lɪu　[形容詞] うるさい、騒がしい、やかましい　[反意語] jeeɟ　[名詞] 騒音　[レベル] 2　ʔ1: 制

lɪuɟeʃ　[名詞] 防音　[レベル] 4　1L:ɟɕɑɕɪ:ɪɟbɪlɛlʃ

lɪuɑɔ　[名詞] 騒音　[レベル] 3　1L:ɟɕɑɕɪ:ɪɟbɪlɛlʃ

lɪuɪ　[政治] 外交、国交　[レベル] 3　1ʔ: 制 :jɔɟnʃ:lɪuʃ

lɪuɪn　[政治] 外交官　[レベル] 4　ɭ0

lɪuɪnɑ　[植物] ɑcɪcl　[組み数字] 4 / 9　[レベル] 4　jzl　ɭ1

lɪuɪnɑcɪ　[名詞] 綺夢祭、ラヴァンディア　[レベル] 5　ɭ1　[文化]　アルナ大のディアセルの学園祭。聖人 ɟɕɑɕɪ ləʃcɪ に敬意を払い、彼女及びこの時期を象徴する桃の名になっている。

lɪuɪɪɟnɔn　[政治] 外務省　[レベル] 4　1L:clɒəj:ɟɕɑɕɪ

lɪuen　[地名] ラヴェンの滝　[経済] １０００ソルト札　[レベル] 2　ɭ1:ɟɕɑɕɪ　[文化]　ʔlɛɒenʃ, ɪnɑ ɪn

lɪɑ　[動詞] ɣəl を ɪ に貸す、貸す、貸し出す、貸しだす　[類義語] jʃɪcɸ　[反意語] ɟcd　[レベル] 2　1ʔ:jeɟen:ʔlel: 恣意

lɪɑ,lɥ　lɥə　>ɪɑ

lɪaʃ　[形容詞] 上品な、優雅な　[反意語]beleɪ　[レベル] 2　1ʔ: 制 : 古 :ləaʃɪn（上品）。「 ふわっとスカートがなびくようにする 」が原義。　[用例]　[メタファー] lɪɑʃ ɣən ʔɒccɥ クミールのように優雅な

lɪaʃlɪnʃ　[形容詞] 育ちの良い　[レベル] 4　ɟɑ;/　ʃʊ

lɪaʔɪ　[料理] タジン　[レベル] 3　ɭɭ:lɪaʔɪɔ　[文化]　ul でヴェマ北西部から輸入。

lɪaʔɪɔ　[魔物] ラフカオ（乾壺）: 第八十三天 : 利の陽天　[レベル] 5　1L:ɟɕɑɕɪ/jeɟen/ɒel: 古 lɪɪd/ʔɪɔ（渇望する壺）　[文化]　憑族。空になった壺に憑依する。水をくれ、水をくれと要求してくる。満たしてやると今度は血をくれ、血をくれと言いながら相手を丸飲みにする。要求を無視して割ろうとすると襲ってくるが、倒すと中から砂金が出てくる。

lɪaɑɪe　[経済] 貸倒引当金　[レベル] 5　1L

lɪaɥcd　[経済] 貸借、貸し借り　[レベル] 3　1L

lɪaɥec　[親族] [丁寧] 夫、旦那さん、だんなさん、ご主人　[類義語] ɪɒcɥ　[反意語] lɪɒccɪɪ　[アクセント] lɪaɥEc　[レベル] 2　ɭ0:「あの剣」→「あなたの剣（守ってくれる人）」　[語法]　lɪɒccɪɪ

lɪaɕɪ　[名詞] ハンカチ　[レベル] 3　1L:ɒelcɑɕɪ ɪlcj:lɪɟ/ɑcd/n（手＋拭く＋指小辞）　[文化]　手や体を拭くのに使う。湿気が少なく汗をかく機会は少ないので、携帯はしない。しかし女子は携帯することが多い。鼻をかむのはＮＧ。それにはティッシュを使う。　[用例]　nɔn ɒeʃlʃ lɪa cn ɑc cʃ ɪʃə. 私はここからたくさんのハンカチを落とした。

lɪaɔn　[交通] 大きな横道　[レベル] 3　1L:lɪnʃcj/ɑɔnʃ　[語法]　大通りに対して交差する道のうち、メインと呼べるほど大きなもの。ランティス通りに当たる。日本では京都の〇条に対する〇〇通りなどが lɪaɔn に当たる。

lɪɒ　[形容詞] はじめて、初めて　[形容詞] 最初の、一番目の　[反意語] ueeɥ　[レベル] 1　ɑ;e　制 :lɕɒ（最後）: 古 :lɕɒeeɥ（初めて）　lɪɒ:lɪɒ:lɪɒ　[用例]　ʃlɔ lɪɒ はじめてのチュウ

lɪɒlɔɔl　[電算] デフォルト、デフォ、初期状態、ディフォ　[レベル] 3　ɭ0

lɪɒɟɪe　[気象] 初雪　[レベル] 3　1L　[用例]　ɪn lɪnɑ lɪɒɟɪe. 初雪を待っている。　nɔn dɕnɪʃ ɪl ɪlʃc ɪn ɣəl nɪnnɪ ɪlʃ jɕl ɪlel ɕɒ lɪɒɟɪe. 初雪の日に会う約束をボーイフレンドとした。　lɪɒɟɪe lən ɪl ɕɒ ʃə ɑɪɪɒ. 今朝初雪が降った。　nɔn nɪʃ nɪə ɒɕl ɕnɔl lɪɒɟɪe. 初雪が見れて嬉しかった。　lɪɒɟɪe lənɪʃɔɟ ɒɕlbel. 初雪が舞い降りていた。　nɔn helɪʃ ɒɪlɕj ɟɪʃ ɔ jɕɑ ɒɕɑel ɒɕl lɪɒɟɪe. 初雪を見て古き良き時代を思い出した。　nɔn ʔldɪʃ ɪ jeɒɪɕɒ ɕɒ jɪl lɪɒɟɪe. 初雪を見て友達に電話をした。　ʃə eɒ jɕl jɔɟʃ ɟɔɒel ɒɪn lɪɒɟɪe lənɪl. 初雪が降ったのでぐっと寒くなるだろう。

lɪɒuɔɟʃ　[名詞] ランヴォルト、初柩　[レベル] 3　ɭ1:lɪɒ/ɪnuɔɟʃ　[文化]　→ ɪnuɔɟʃ, ɣəlcəɟ　第一祠徒ユリウスによる襲撃及びそれによる破壊と災厄のこと。

lɪɒɸɪɟʃ　[経済] 始値　[レベル] 5　ɭɭ

lɪɒɸcl　[経済] 元本、元金　[レベル] 4　ɭ0

lɪɒd　[動詞]ɣəl を ɪ（役職など）に募集する、募集する　[普通動名詞]募集　[レベル] 3　1ʔ: 制 :lɪd（望む）

lɪɒdɔnɟ　[運動] ファーストサーブ　ɟɑ;/　ʃʔ

lɪɒb　[動物] 蟻　[政治] たむろす小者、野党　[名詞] 団体行動で同じ事をする人　[レベル] 2　1ʔ: 制 :l ɪʃɪ:lɪɒd　[成句]　hɪɔ lɪɒb jc jeleɟ, ɾɪl ʃcl lcɥɔ 確かに蟻にセレスはない。しかし命はあるのだ：一寸の虫にも五分の魂

lɪɒblɕn　[法律] 街屯禁止法　[レベル] 6　1L:ɟɕɑɕɪ:ɪɟbɪlɛlʃ　[文化]　公共の場所でガラ悪くたむろしてはいけないという法律。チーマーや暴走族や暴徒に適応されるだけなので、スポーツをするなど健全な集まりなら問題ない。

lɪɒhɪʃcɪ　[名詞] 初恋　[類義語] lccɒel　[レベル] 3　ɭɭ

lɪɒsenʃ　[経済] 寄り付き　[反意語] ueeɥsenʃ　ɭɭ → eeʃ

lɪɒl　[名詞] 当番　[レベル] 3　lɪʃɪ:lɪɒl ← lɪbɒel（働く時間）

lɪɒlɪɒel　[名詞] [形容詞] 空前絶後、未曾有、みぞう、前代未聞　[レベル] 3　ɭɭ:「初めてに初めてな」。冗語で、文法的に誤っている。

lɪɒɪʃ　[普通動名詞] 出会い　[動詞] ɣəl と出会う、出会う　[レベル] 3　1L:jɔnɔhɕnɔ1c　[用例]　nɔn lɪl ɪʃ nɪn lɪɒɪʃ le ɑcɪʃ. 素敵な人に出会いたいと思っていた。　ʃə ɪʃ ɒel enʔ (ɪ ʃɔʔ) lel ləəɟ ɑe lɪɒɪʃ(ʃ) lɪ. 彼らは別々の時間に彼女と出会った。

lɪɒɪɟʔɪ　[言語] 初代アルカ　[レベル] 6　1L:ɟɕɑɕɪ:ɪɟbɪlɛlʃ　[文化]　カコに作られたアルカ（このころはまだアルカという名はない）。アティーリでは ɪɟɸɪɟʔɪ を元にラシェットが作った花言葉を用いた暗号。　ユマナではラシェットが花言葉を用いて作った暗号で、最初のアルカとなった言語。

lɪɒc　[名詞]危険　[経済]リスク　[形容詞]危険な、危ない　[反意語]ɯcnɑ　[レベル]2　1ʔ: 制 : 古 lɪɪɒən（危険）「死ぬかもしれない」が原義。　[用例]　lɪɒc ʃcn ハイリスク、リスクが高い　lɪɒc ʔlɪ ローリスク　ʃcɪn ʔɪ lɪɒc. 恋人の身が危ない。　eeʃ ɑcʃ jen ɥcl ʔɔnʃ ɑcʃ lɪɒc. 株は金になるかもしれないがリスクがある。

lɪɒcʃc　[名詞] 危険性、リスク　[レベル] 3　ɟɑ;/　ʃʊ

lɪɒclɪ　原風景　ɭ0:ɟɕɑɕɪ:ɒcɟɔʔ

lɪɒcɑɔnl　[経済] リスクヘッジ、ヘッジ　[レベル] 5　1L　[用例]　ɪlɑc, ʃə eʃ ʔɔʔ ɪ lɪɒcɑɔnl e ɑɔɪ ɑeel" 資産と同じよ。リスクヘッジね」

lɪɒcɑ　[人名] ラミッド　[組み数字] 8 / １１　[レベル] 3　古 :ɟɕɑɕɪ:lɪ ← lɪn（人）/ɒcɑ ← ɒcɑɪ（聖）　[文化]　アルシアの８番目。聖の魔法の大成者。女性。

lɪɒcɪ　[名詞] 若い女、若い女性　[類義語] ɒcn　[反意語] ɑɥelle　[レベル] 2　ɭ0:ɒel:ɑɥelle というのをクミールの口から聞いて意味を知ったとき、"jɔn ɒcn lcɑ eʃ ʃɔȣ" とメルが問うたところ、クミールが "ʃə jc ʔɔɔʃuel cɒ ʃəɥ" と答えたため、メルがその場で造語したもの。lɪ ɒccɪɪ（あの花）が語源。　[語法]　おおむね ɒɪnɪ/nɪɪʃ だが、ʃɔnɪ を含むことも。

lɪɒcɪn　[名詞] 意中の女性、片思いの相手の女性　[反意語] ɑɥellel　[レベル] 3　ɭ0:ɒel:lɪɒcɪ とともに造語

lɪɒcɪd　[経済] リスクプレミアム　1L: リスクがある代わりに、上回り (id) のあること

lɪɒccɪnɪ　[親族] [丁寧] 妻、嫁、奥さん　[類義語] ɒcnʃc　[反意語] lɪaɥec　[レベル] 2　ɭ0:「あの花」→「あなたの花」　[語法]　主に他人の妻について言及する際に使う。奥さんに相当。

lɪɒɔlɪ　[天文] 最初期宇宙　ɭ0

lɪɒɔɟʃ　[医療] [生物] 初潮　[レベル] 3　1L　[文化]　ɔɟʃ

lɪɒen　[経済] 財閥　[レベル] 4　ɟʃ:lɪɒenʃ.]　ʃʔ

lɪɒenʃ　[企業] ラメント、左京　[ユマナ] [企業] 三菱財閥、三井財閥、住友財閥、安田財閥　[レベル] 4　ɟʃ;lɪɒeeɥ/ʃe　ʃʔ

lɪɒeeɥ　[名詞] 開闢、天地開闢、創世　[レベル] 5　ʃɒ　ɭɭ: 古 lɕɒeeɥ

lɪɑ　[動詞] ɣəl を作って ɪ にする、作る、造る、創る、築く　[普通動名詞] 工作、図工→ lɪɑelɟ　[芸術] [娯楽] 創作　[経済] 生産　[類義語] ʔles　[レベル] 1　1ʔ: 制 : 古 :lɪ（死）　ʔələl:ʔələl:ʔles　[用例]　lɪɑ eʃeʔ 紅茶を淹れる　lɪɟ lɪɑɔɟ{cʔlɔɟ} dɪɑc. 彼らは橋を作っているところだ。

lɪɑʃəlɑ　[化学] 生成熟　[レベル] 5　1L

lɪɑʔɪ　[名詞] 工場、出生地、生産場所、製造場所　[レベル] 3　1ʔ: 制

lɪɑɑel　[工学] 工学　[名詞] 工学、理学、エンジニアリング。教科名。　[レベル] 4　ɟɑ　ɭɭ　[文化]　ɑeldɪnʃ

lɪɑɒ　[軍事] 野営、野宿、露営、ビバーク　[レベル] 5　1ʔ: 制 :jɪɑ:lɪʃɔɒɔʔl

lɪɑɒʔɪ　[軍事] 野営地　[レベル] 5　1L:clɒəj:ɟɕɑɕɪ

lɪɑɒcɥɔʔ　[宗教] 造物神　ɟɑ;/　ʃʊ

lɪɑɸɪɟʃ　[経済] 生産費、コスト　[レベル] 4　1L

lɪɑl　[名詞] 自然　[形容詞] 自然の、天然の　[類義語] ɒcuel　[反意語] lcɑ　[レベル] 2　古　[成句]　hɪɪɟ lɪɑl 不可抗力で　[用例]　elɑ lɪɑl 自然言語

lɪɑʔlɪlə　[法律] 自然法　[レベル] 4　1L

lɪɑlɪuɪʃɪc　[環境] 自然災害、天災　[レベル] 3　ɭ0

lɪɑlɪuɪnɔ　[環境] 環境保全、環境対策　[レベル] 5　1L:ɟɕɑɕɪ:ɪɟbɪlɛlʃ

lɪɑlel　[名詞] 自然、自然学。理科の一分野。科目名。　[レベル] 2　ɟɑ　ɭɭ　[文化]　ɑeldɪnʃ

lɪɑlɑelcn　[植物] 野バラ　[レベル] 5　ɭ0

lɪɑldɪzɒ　[植物] 野草、天然ハーブ、山菜　[レベル] 3　1L　[用例]　nɔn ʔɔɟɪʃ uɪʔɪ lɪnɪ ʃɪɑ lɪɑldɪzɒ ʃ'ɪʃʃe. 春の野草を取りに野原に行った。

lɪɑlbɪʔɪl　[名詞] 自然遺産　[レベル] 5　ɟɑ;/　ʃʔ　[語法]　ɑcɪbɪʔɪl

lɪɑlsen　[植物] 野草、雑草　[レベル] 4　ɭ1　[語法]　野草（人の管理のないところに生える）と雑草（人に管理された場所に生える）の区別はない。

lɪɑllcɒl　[名詞] 天然繊維　[レベル] 5　ɟɑ;/　ʃʔ

lɪɑlleʃʃc　[地学] 自然銅　[レベル] 6　1L

lɪɑleɥɑc　[地学] 自然銀　[レベル] 6　1L

lɪɑlelɑ　[言語] 自然言語　[レベル] 6　1L:lecn

lɪɑɪ　[経済] 製品、商品、品物、作品　[レベル] 2　1ʔ: 制 :lɪɑ から

lɪɑɪn　[名詞] 作者、著者、著作者、製造者、作り手、創造主　[レベル] 2　ɭ1

lɪɑɪnlɪnɸ　[法律] 著作権　[レベル] 3　ɟɑ;/　ɭ1　[文化]　ɒ でベルトが活版印刷を発明したことで、コピーが可能になるとともに著作権の概念が生まれはじめた。しかし著作権が法律として初めて明文化されたのはそれからだいぶ経った ʔl で、ナユによる重力印刷が引き金となった。それでも地球の著作権に比べればその産声はだいぶ早い。　ʔl 当初は著作物ができてから２０年間の間守られるというものだったが、ɟɑ に至るまでにその期間は５０年までに伸びた。その背景には著作権を持つ側管理する側による利権があった。　nɑ になると著者の死後何年有効という形に変化した。最初は死後２０年であったが、ɪl に至るまでに５０年までに伸びた。これも同じく権利者側の利権によるものである。　ls になるとセレンは著作権は人類の進歩を妨げる悪法とし、利権構造の破壊も兼ねて著作権の制度を改革した。革命後のシステムは次のようになっている。　まず、著作権は著作物ができてから２０年間守られる。それが

過ぎるとすべてフリーコンテンツとして利用できる。　著作権が守られている間、どのように権利者に金が入るか。セレンは国民全てに付けられた固有のＩＤを活かした。国民は著作物をＤＬする際、アンセによる個人認証をし、誰がその著作物をＤＬしたかというデータを国に提供する。このデータは国で管理され、誰がいつ何をＤＬしたかという個人情報は犯罪捜査に必要でない限り守られる。国はＤＬ数ではなくＤＬしたＩＤの数に応じて情報税から権利者に配当金を支払う。ＩＤの数を参考にするため、同一人物が何度同じ著作物をＤＬしても配当金は変わらない。　通常ɒelɟel始まりのlǝǝɒel締めのlefʃcɟel払いとなる。機械でデータを管理しているので、計算から支払いまでの日数が短い。　なお、紙媒体で購入したり電子書籍を電子マネー等で直接買った場合は情報税とは無関係な取引となる。　このシステムだと企業側が「読まなくてもいいのでウチの本をＤＬしてください。そしたらアフィリエイトでいくばくかキックバックします」という手法を取る恐れがある。そこでセレンは情報税を次のようなシステムにした。　各国民は前年の年間ＤＬ数に定数をかけた数に応じた額の情報税を支払う。例えば書籍の場合、娯楽本などは定数が高く、学術書はゼロである。つまりアフィリエイトのキックバックを狙って無駄にＤＬを多くすれば情報税を多く払う羽目になる。なので必要な書籍以外は無駄にＤＬしないようになる。　配当金は情報税から支払われるため、配当金が財政破綻することはない。極端なことを言えば誰もＤＬしなければ１ソルトたりとも情報税が集まらないが、誰もＤＬしていないということは誰にも配当金を支払わないということだから、集まる金もゼロなら配る金もゼロということで釣り合いが取れるわけである。　学術書は定数がゼロなので無料に手に入れることができる。その代わり学術書は情報税からの配当金を受けられない。セレンは学者は自らの理論を人に読んでもらえるだけで望外の幸せであり、学術書で儲けようなどとアコギなことを考えてはならないとした。学者は商人であってはならない、学者は聖職者のようなものであって清貧でなければならないというのがアルバザードの伝統的な考え方である。学者は定期的に論文を出さねば学者の身分を失うため、配当金がないからといって書かないわけにはいかない。また、学閥内での競争に打ち勝つためには手抜き論文を出すわけにはいかない。これを利用してアルバザードでは良質な学術書をタダで万人が手に入れられる体制が整っており、国民の学術レベルの引き上げに役立っている。　なお、著作権は書籍だけでなく音楽などにも適応される。　アルバザードはこのようにＤＬしたＩＤ数に応じて配当金を配る。国が認可したサイトから音楽や書籍などをＤＬできる。国民はＤＬした商品数に応じて情報税を支払う。ということは、Ｐ２Ｐなどを使って公式サイト以外からＤＬすれば次年度に支払う情報税は少なくて済むわけだ。となれば国は当然先回りしてそれを防ぐわけで、アルバザードでは２０１２年現在の日本とは異なり、徹底的にＰ２Ｐや非認可サイトからのＤＬを違法とし、取り締まっている。むろん友達同士の間で音楽ファイルをメール添付して送るなどというやり方も違法である。メール添付でやり取りすると認可サイトのＤＬ数が伸びず、メールを受け取った側は情報税を脱税することができるためである。メールならバレないと思うかもしれないが、国はメールサーバを持つ企業のサーバを調べる権限があるので、調子に乗っているとバレる。　このように、アルバザードはむしろ違法ＤＬに関しては日本より遥かに厳しいといえる。一見タダでＤＬできるので海賊行為が横行しているように見えるがそうではない。むしろ海賊行為に関しては取り締まりが遥かに日本より厳しい。アトラス全域で取り締まりが厳しいので、海外にサーバーを置こうが何をしようが小細工したところで無駄である。　かといってアルバザードでは旧態依然のＣＤ販売のようなやり方で金を稼ごうとはしない。アルバザードは未来に生きている。１枚３０００円とか無駄に高いＣＤ販売をｙｏｕｔｕｂｅなどが台頭した時代でも続けようとするバカな業界と、それを守ろうとするバカな法律が跋扈する現代日本。一方革命後のアルバザードは動画サイトなどの台頭という新たな時代の流れに逆行することなく、共存することを革命で選んだ。アルバザードは情報税の導入と海賊行為の徹底的な取り締まりという手法で、新しい技術と共存し、時代の歯車を進めた法整備を行ったのだ。　ちなみにＣＤ１枚３０００円で売っていた９０年代の日本に比べ、情報税の世の中だと音楽業界の売上は落ちる。逆に国民が支払う情報税もＣＤやら紙書籍やらを買っていた時代より安くなる。日本は３０００円で高く買うかゼロ円で盗むかの白か黒かのやり方しかしてこなかった。そしてゼロで盗むやり方を法で禁じた。旧態依然の既得権益者を守るやり方でしかない。一方革命後のアルバザードは、国民には「タダでは流石に盗んじゃダメだろ、聞きたいなら少しは負担しろよ」と言いつつ、企業にも「昔みたいに新年会でドンペリ開けられるようなバブル気分でいるんじゃねーぞ。ちまちま稼げ」と言ったわけで、白でも黒でもない中庸を取ったわけである。両者にもある程度の負担を強いることで妥協点を見つけ、折り合いを付けたわけである。

lɪɑɪeɟʃ　［名詞］品名　［レベル］3　μɑ;/　J̚ʔ

lɪɑc　［経済］産業　［レベル］5　1L:lɪɑ

lɪɑcleed　［経済］産業構造　［レベル］6　1L

lɪɑcɪ　［名詞］願いとしての夢、夢、希望、願い、ねがい、理想　［動詞］ɥǝl を願う、願う　［類義語］lɪnɑ、nɪlncɪɟ　［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :lɪɪd（望む）/ɑcɪ（夢）　::lɪ lɪμɑcnɪ　［用例］　lɪɑcɪ eɒ lɪdn. 夢が叶う、夢がかなう　ɑeμſ lɪnɪ lɪɑcɪ ɔn ～について願いを込める　ɪn nɪſ lɪɑcɪ cl̀ ɑɛɪnɪ cɒ ſeμcl̀ ſǝ ueμſ. その知らせを聞いたとき、夢がかなったようだった。　ɪn jc lɪɑcɪ ɔn lɑcj. 人生に希望が持てない。　lɪɑcɪ cɒen ɥǝlc eſ ɒǝllecj l'en jcl neɒ. jee ſǝ lecj lɪɑ ɥǝ jclſel, ej ɪμl ɪ jclbel. 子供の頃の夢は色褪せない落書きで思うまま描き滑らせて描く未来へと繋がる（『夢想歌』）　el ſcɑl ɔ̀ uɔllen cɒ lɪɑcɪ cl̀ lɪdn. ––lɪɑcɪ ɑɪ. 夢が叶うことで人はひとつ大切なものを失う。––夢を（jeμen ɪμbɪzɪμɑ）

lɪɑcɪ lɪɪd　［人名］ラディア＝ラープ　ɪl　J̚ʔ　［文化］　ɪl の科学者。フェルノアという女性と遠距離恋愛をしていた。彼女に毎日逢うためにどうすればいいか考えた末、夢の世界で逢おうと考えた。それを実践するために明晰夢を見る機械を開発した。それが契機となり、明晰夢のことをフェルノアと呼ぶようになった。

lɪɑɔj　［動詞］ɥǝl を弔う、弔う、とむらう　［普通動名詞］弔い　［レベル］3　J0:ɒelcɑcɪ lceμ:lɔɑɑɔ uɪ/jɔ

lɪɑɔn　［動詞］ɥǝl を自覚する、自覚する　［普通動名詞］自覚　［反意語］ɪllɪɑɔn　［レベル］3　J̚J:lɪɑl/nɪ

lɪɑɔnleɔ　［医療］自覚症状　μɑ;/　J̚ʔ

lɪɑɔl　［名詞］作品、著作、コンテンツ　［レベル］3　J0

lɪɑɔɔuɪ　［感動詞］永遠にさようなら　［類義語］jɪnſen　［レベル］2　古 :lɪ'ɑɔɔuɪ。原型は lǝǝ ɪ'ɑɔɔuɪ で、「彼女に、さようなら」という意味。この彼女とは具体的にはメルの母親を指す。　［語法］もう会わない人に言う「さようなら」。死者を弔う際にも使える。死者を弔う際は印を組む。両手の小指を胸の前で組み合わせ、手の平を上に向けるだけ。お辞儀はしない。その印を組んだままいう。その前に死者の名を呼ぶ方が模範的。　片方の指が現世で、もう片方があの世を表す。両方の世界を指で繋いでやることによって死者が現世からあの世へ滞りなく渡れると考えられた。また、古では死人にしか使わなかったが、もう会わないという意味で恋人などと別れるときにも使える。

lɪɑeſ　［工学］工業　［レベル］4　μɑ;lɪɑ/ſe　J̚ʔ

lɪɑeɟj　［普通動名詞］図工。教科名。　［レベル］2　μɑ　J̚J̚　［文化］　ɑeldɪnſ

lɪφ　［経済］賃金、給料、給与、バイト代　［レベル］3　1ʔ: 制 :lɪbφcl

lɪφɪ　［文末純詞］［ben］ſcjee　［レベル］1　J̚l:ɔuc: 文末の ", jɔɪ lǝ ǝǝ ɪ" 「～ってこいつが言ってるぜ」の "lǝ ǝǝ ɪ" の語彙化。

lɪφɪl　［名詞］関所　［レベル］3　1L:μcɑcɪ:le φɪlſ　［文化］　主要都市の入り口にあり、通行人を管理していたところ。現代の主要都市には存在しない。

lɪφɪlɑɪcφ　［経済］関税　［レベル］4　1L:μɑ では輸入品の関税を関所で取っていたことから。　［文化］　最初に関税を作ったのはルフェル。　10ʔ01L̚J̚　ルフェルはルカリア交易の要所、ヒュート東南部に位置するケートに、自分の息のかかったロゼット軍を送り込み、制圧させる。表向きロゼットの侵略と見せかけ、ケート人を追い出す。ロゼットにルカリア交易を管理させ、エルトに有利な条件で貿易を進めた。ケートのロゼットは輸入元であるアルディアルやレスティルに重い関税（貨幣がまだないので物資やコモディティの交換レートを操作して事実上の関税とした）をかけ、その利鞘の一部を着服しながら残りの利鞘をルフェルに渡した。ルフェルはロゼットを手厚く擁護し、ルカリア交易を手中に収め、エルト内での地位を高めていく

lɪφel　［政治］権力、実権、権威　［レベル］3　1L:lɪnφ/enuc（権利および力）　［用例］　"ɪlſe. nɔn ucnɟ lcμ lɪφel e lefcɪ.「ひとつ。私は王女としての実権を手放す。

lɪdſjel　［植物］サンダルウッド、白檀、ビャクダン　［レベル］4　zφ;;ɒe　J̚J̚

lɪdl　［再帰動名詞］ため息、ためいき、溜息、溜め息、タメ息　［動詞］ɥǝl にため息をつかせる、ため息をつく　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɪlɪdleɑ（満たされない息？）から　［用例］　lɪdl lcj 小さなため息　lɪdl ɑɪn 深い溜息。jcdɪl ɑɪn と同じコロケーション。

lɪdn　［動詞］ɥǝl（人や内容）を叶える、叶える、かなえる、成就する、創り上げる、報われる　［レベル］2　1ʔ: 制 :lɪdlɪn（願いを真実にする）　［用例］　ɪn lɪdn uɪn ſc ɑǝ ɔ̀ ɒcl ɑcɪjjel. 誕生日だから一つ願いを聞いてやろう。　jeeμeſcj, ɒcl ſμǝ lɪdncɪ̀ nɔn φɪμſ cl, jeμen jɔǝ.（リディア）　lenjɔ̀zeſ

lɪdlej　［音楽］器楽　［レベル］4　J̚l:lɪdleɒ

lɪdlejleɒ　［音楽］器楽曲、インストゥルメンタル、インスト、ＢＧＭ　［レベル］4　J̚l

lɪdleɒ　［サール］ラプレム　［レベル］6　ɒel: 古 :lɪɪdleɒ（音楽をほしがる）　［文化］　元は人間の音楽家。最高の楽器を求め続けた男。ある日彼は人間を使った楽器は一体どんな音がするのだろうと考えた。メロウにそそのかされたラプレムは遂に気がふれて、自分の娘のユーレを楽器にし、生きたまま演奏道具に用いてしまう。ラプレムは娘の体を打楽器や鍵盤楽器、果ては膜楽器や弦楽器にまで見立てて引いた。娘は痛さと苦しさの余りに死んでしまう。娘を失ったラプレムは悔い、自殺を試みる。しかしそこにメロウが現れ、ラプレムをサールにした。ユーレとの間に娘のメイユがある。

lɪdɪn　［アトラスの国家］ラパン　［レベル］5　J̚ʔ:μcɑcɪ

lɪdcjcɪ　［歴史］ラピシア族　J0: 古カルセール語「森の人」

lɪb　［再帰動名詞］仕事、労働　［動詞］ɥǝl を働かせる、働かせる、働く　［物理］仕事　［類義語］ɑɟ　［レベル］2　古 : 古のオノマトペ lɪb lɪb（面倒くさそうに動く様子）から　［語法］　ɑɟ は使命感溢れる仕事や生きがい。労働対価の有無よりも使命感の有無。lɪb は面倒な労働というニュアンスで、生活のためしょうがなくという感じ。　メタファーは山でなく荷物。従って「乗っかっている」や「重い」で表現。　［用例］　ɪnj ɔ̀cſ ɑɪl ſǝ lɪb ɪjlel. すぐにその仕事をしなきゃならない。　ɪn en lɪbɪſ lɪl ɪſc jɔɪ. あまり仕事をしたくなかった。　ɪn uceμɪſ ſǝ lel. lɪ lɪb uɔjlel uecn. 彼にもう少し一生懸命働くように言った。　☆lɪb ej lɪl ɔɔ ɪ ɑlel ɪnſ. 未だに仕事が山積みだ: 山でなく荷物でメタファー。　le ɪſ lɪb ɔ̀cn lɪnel. それは本当に大変な仕事だった。

lɪbſɪɑ　［名詞］就職活動、就業、就活、あるいは単に「就職する」　［レベル］4　1L

lɪbſcɑl　［経済］失業　［レベル］4　1L

lɪbſcɑlɪn　［経済］失業者　［レベル］4　J̚ʔ

lɪbſɔnɔ̀　［政治］労働階級、労働者階級、プロレタリアート　［レベル］5　1L

lɪbɪ　［名詞］職場、仕事場　［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ　［文化］　労働は店舗やオフィスで行うことが多いが、在宅で行うこともできる。在宅の場合は大抵ノルマがあり、それをこなしていく。在宅勤務は移動時間がないので合理的であり、人気がある。会議や報告などをネットを使って行うため、会社との繋がりも希薄にならない。

lɪbɪeɟj　［名詞］出張、ビジネストリップ　［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

lɪbjel　［歳時記］勤労の日、勤労感謝の日　［レベル］3　J̚l　［文化］　ɒǝs ɑǝl の日。ul までは勤労を祝う日として休日だったが、革命後は残業が許されるルージュの月のちょうどエンジンがかかってきた頃合の日なため、勤労を奨励する日となっている。

lɪbuɪſɪc　［名詞］労災　［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ　［文化］　労災はバイトでも社員でも必ず入る。怪我をすれば労災が降りる。通勤時間中の怪我も労災に入る。但し、通勤途中であっても寄り道での事故の場合、降りない。まっすぐに行き帰りする際、及び出張や外回りの経路での事故の場合だけに労災が降りる。

lɪbuɔlj　［経済］労働条件　［レベル］4　1L

lɪbɒejɪ　［名詞］労働環境　［レベル］5　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

lɪbɒel　［名詞］労働時間　［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ　［文化］　朝七、八時から仕事を始め、夕方五時すぎに仕事を終える。途中で長い昼休みが二時間は入るため、実働は七時間である。週休は二日である。休みは曜日を予め決めておき、そこが年間を通じて休日となる。祭日と重なった場合、社員は固定給なので振り替えて連休とするが、バイトは時給なので振り替えない。よって週に働く時間は三十五時間である。日本より遥かに少ない。日本は０４年で週五十時間以上働く人間が２８パーセントであり、世界最悪である。ましてこれにはサービス残業を含めていない。アルバザードは労働時間が日本のおよそ半分ほどではなかろうか。その代わり大抵の人間が働く。また、大抵は大家族なので、何人もが働いていれば暮らすには少しも困らない。アルバザードはたくさんで固まって暮らし、皆が分業して支えあい、一人に圧迫がいかないようにする家庭を基本とした社会である。日本は核家族が多く、父親が家族を養う金を一人で稼ぐことが多い。最近ではそれでは金が足りず、母親がパートをすることが多い。その金で子供を塾や学校に行かせ、子供はバイトの一つもしないという家がある。これでは両親、特に父親だけに圧迫が集中してしまう。母親は早くに帰るが、父親は十二時過ぎまで帰らないという家もある。当然育児など参加できるはずもない。育児にも参加できず、夫婦の会話も減り、心が離れていく。家庭で話し合うことは少なくなり、思春期を迎えた子供は教育が行き届いていないせいで非行に走る。それでも苦労して働いてた結果、成人病になって急逝してしまう人がいる。それだとまだ良い方で、病気が長引いて入院費で貯蓄を全て散財してしまうといったケースもある。アルバザードでは決してこのような悲劇を生まないようにこのような制度を採っている。つまり、圧迫の分散である。大勢が少しずつ働くので一人当たりの賃金は減るが世帯あたりの収入は減らず、失業者も少ない。　＜特別な労働時間＞　ルージュの月、ディアセルを含んだ前後１４日（計５７日間）は終日労働を認める。ディアセルとメルセルの期間はいくらでも働いて良い。今までに溜まった仕事や研究や勉強などをここで一気に解決する特殊な期間である。この期間は会社や学校などに寝泊りすることもできる。アルバザードの人間は普段あまり働かない。アルティス教の教えに従っているからである。ところが彼らは決して怠けているわけではない。仕事に緩急を付けているのである。集中するときは集中し、休むときは休む。アルバザードの人間の集中力は凄まじい。一年のうち、約二ヶ月間が異常に働く時期である。一日に数時間しか寝ず、物もろくに食べずにひたすら仕事に集中する。酷いと一日二十時間ほど働くこともある。仮に毎日十五時間を一ヶ月間働けば、四百二十時間働くことになる。普段は週三十五時間を四週間なので、月に百四十時間である。実に四百二十時間というのは三ヶ月分に当たる時間である。これがディアセルとメルセルにそれぞれあるのだから、一年十三ヶ月ある中で、実際には十七ヶ月分働いていることになる。十七ヶ月だと二千三百八十時間になる。三百六十五日で割ると、一日当たり約六時間半である。また、五十二週で割ると一週間当たり四十五時間になる。ディアセルとメルセルがなければ週三十五時間の計算だが、これらを入れると四十五時間になる。ここまで来ると日本との差が大分縮まってくる。実際にはこの期間には十五時間以上働く日もあるため、週三十五時間を越える結果になるだろう。こうして見ると意外とアルバザードの人間も働いているといえる。　当日の祝い方も実にエネルギッシュである。とにかく溜まっていた物を全て出し切るかのように放蕩して遊び倒す。そしてそれが終わると皆一斉に張り詰めていた気が途切れ、死んだように倒れこむ。実際に毎年何人か死ぬ。それでも誰も止めない。毎年人が爆発事故で死ぬのに花火をあげるのと同じである。そういう慣習なので誰もわざわざ疑問には思わない。倒れこんだ人は暫くは何もする気になれず、とにかく寝て過ごす。回復に数日はかかるため、皆四日ほど休みを取るわけである。二日三日もすれば治ってくるので、残りの休日は生活リズムを元に戻すのに使う。とにかくこの時期の集中力は凄い。体が全身全霊仕事に集中するので気が張り詰めて風邪を引くこともまずない。仮に引いても根性と気合で無理やり治す。このとき過ぎるのは平然と薬漬けにしてでも働く。

lɪblɪnφ　［政治］労働基本権　［レベル］4　1L　［文化］　ナディアで確立。

lɪbleeze　［交通］北条、北大通り　［名詞］［人名］玄武、ラブレーゼ　［レベル］3　μɑ;hɥ。hɥ の四方を収める四神の名から　J̚ʔ

lɪbɪ　［名詞］エネルギー、労力、労働力　［物理］エネルギー　［レベル］3　1ʔ: 制 :lɪb/ɪu（強い）

lɪbɪʃʃ　［経済］労働者、社員　［名詞］サラリーマン← lelſɑcſɪn　［名詞］バイト、アルバイト← ɒellɪb　［名詞］職員、係員、業務員、スタッフ　［レベル］3　J̚l:lɪbejɔ<1L:μcɑcɪ　［文化］　正社員と契約社員は非定期。派遣社員とアルバイトは定期。前者は辞めない限り続く。後者は平均３年勤続。労働時間はどちらも同じ。賃金は平社員と後者では同じ。前者は昇進できるので、将来的な所得が異なる。社員にせよバイトにせよ、労働者は経営者と対等の立場にある。経営者の指示に従って与えられた仕事をこなす。その代わりに賃金をもらう。つまりは利害の一致によって労働力を金銭に変えているわけである。経営者の指示には確かに従うが、かといって経営者が自分より立場が上というわけではない。あくまでお手伝いである。金を与える方が偉いという考えはしない。経営者は労働者を首にする権利を持っているが、不当な解雇はできない。また、辞職に追い込むようないびりも違法。労働者が不当な扱いを受けていると国へ申告すれば国は監視をつけて労働環境を見張る義務がある。監視中だけ経営者が態度を良くした場合どうなるか。監視が終わると経営者は態度を戻す。その瞬間を隠し持ったレコーダー等で録れば良い。それを監視に渡せばすぐに経営者は罰せられる。無論この逆もある。つまり、労働者が経営者の指示に従わない場合である。怠けたり従わなかった場合は契約違反として違約金を取れる。賃金を払っているのに労働力を与えられていない。これは契約違反であるから違約金を取れる。これも国に申告すれば監視が付く。ただし、労働者が怠ける場合、経営者は

労働者を正当に解雇できるので監視まで付けないことが多い。経営者の態度が横柄で、労働者を圧倒することは法で禁止されている。偉そうな態度を取ったり、契約外の仕事、特に契約外の危険な仕事をさせたりすることは禁じられている。上司という立場から労働者に仕事外の行為を強要することも禁じられている。上司だからとって怒鳴ったり罵倒したり殴ったりすれば罪になる。勿論、他の労働者と差をつけて苛めるようなことも禁じられている。 〔用例〕 ☆ lıbıɟʃ ʃ'ıʃə leeu ɟɔɑel ı. この店はすぐ人が辞めるなぁ。

lıbın ［企業］ラバン ［レベル］5 JI ［文化］ 新日本石油、エネオスに相当する企業。

lıbıuıʅ ［軍事］エネルギー兵器 ［レベル］5 JI

lıbe ［被服］ジャンパー、ブルゾン ［レベル］3 1L:lıbɟıbe（作業着）［文化］ 産業革命後、作業服として作られた。現在は防寒用として冬に好まれる。軽くて暖かいのが特徴。しかしユティア朝のアルバザード人はジャンパーを労働者の象徴と捉えており、悪しき慣習の象徴と捉えている。従って、機能性が優れていても下層労働者以外はあえて着ない。コートのほうが重くて寒いが、アルバザード人は好んでコートを着る。〔用例〕 ın ɑeɥəl sccφ e lıbe ı dɔ. ジャンパーのチャックを上まで閉めた。

lıbelen ［名詞］作業台 ［レベル］3 1ʔ: 制

lıhc ［化学］ホウ砂、硼砂 ［レベル］5 古 : 死んだ塩 lıhc から h が落ちた。

lıɟ ［単位］１００分の１、分、厘 ［レベル］3 1L: 恣意

lıɟʃ ［名詞］厄払い、厄除け、厄祓い、厄除、厄よけ、厄はらい、やくばらい、おはらい、お祓い、お払い ［動詞］ı にかかっている ɥəl という魔法や呪いを解除する、解除する、祓う、払う、はらう、呪いを解く ［魔法］ラルト（デスペル、ディスペル）。利属性の高位白魔法。かかっている魔法を解く魔法。クミールが使える。高位であるため、人類は時代を追うごとにラルトを使えなくなった。その結果、人はラルトを補うために数々のアイテムを生んできた。 〔組み数字〕８/１１ ［レベル］3 1M: 制 : 古 :lıɟʃ（反魔法） :::φıʃıłə,ıłʃ 〔成句〕 lıɟʃ ʃ c ʅ ɔn l l に関して ʅ が ʃ に持っている誤解を解く、誤解をとく ［文化］ 約 JO 万年前 ファベル人の集落が犬を家畜化。その後、牛、羊、豚を家畜化し、定住した。その結果密集して暮らすことになり、不衛生な環境で伝染病が起こった。ユーマの一族はウィルスの存在を知らないころから魔法（利の古代魔法で、ラルトと呼ばれた。現存するラルトは長い時間を経て意味が変わっており、このときのとは別のもの）でこれを治すことができたため、気にすることはなかった。しかし天然痘ウィルスなどは家畜を介して生き残った。ほとんどの集落は狩猟採集生活を続けていた

lıɟɒ ［生物］染色質、クロマチン μʃ;ıl/ıɟɒe.lcʅ JM

lız ［名詞］少女、１０～１４歳の女 ［反意語］ıłłız ［レベル］2 1ʔ ←古 lccz

lızʅı ［名詞］高校、中学、中学校 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcɟ

lızɑeɒe ［地学］［歴史］古生代 ［レベル］6 ul;/ JI ［文化］ φııueɑeɒe 約５億４２００万～約２億５１００万年前。先カンブリア時代（隠生代）の後に相当する。

lızɑıcɒın ［名詞］高校中退 ［レベル］4 1L

lızɑcı ［アトラスの国家］ラズディア ［レベル］5 1L:μcɑcı:lıʃʃcı（ここだけ悪魔でない）

lızφıɔ ［音楽］コルネット ［レベル］5 JI: アルバザードでは少女楽隊がよく吹いたことから。

lızμeφıjʃ ［名詞］高卒 ［レベル］4 1L

lızl ［名詞］丸木舟、カヌー ［レベル］4 1ʔ: 制 :lızɔıdl（一本の木を丸々使って、それをくりぬいてできた舟）

lızın ［名詞］高校生 ［類義語］eɟeʅʅel ［レベル］3 1L

lızıl ［生物］子供、青少年 ［レベル］2 μɑ;lız/ıl JI

lızɔ ［名詞］丸木、ログ、丸太 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 語源不詳

lızɔɒ ［名詞］マナー、作法、礼儀 ［類義語］ɔz ［レベル］3 μɑ JJ:ɒel:zeʃʃel を ɔz から分離した際に ɔz が多義語すぎたためメルが作法も分離させた。lıj/ɔɒ（手の動かし方）が語源で、ɟ を z に同化させたもの。

lızɔɒɔʅ ［動詞］ɥəl を雑魚寝させる ［普通動名詞］ざこ寝、ザコ寝、雑魚寝 ［レベル］4 JJ: 丸太のようにそこらに寝る

lızeʃ ［魔法］ラゼット、魔法錠、魔法鍵 ［レベル］5 JO: 古 lıı/ʅɔzeʃ（死の鍵）。無理にあけようとすると中身を壊す鍵。 ［文化］ cɒəl 1MOJ に nɔɔıμ ʅıcn が発明した。金箔にある一定の錠となる晄基配列の ucμ を埋めておく。そこに鍵となる ucμ を用意する。この ucμ はまったく錠と同じ晄基配列である。これを高魔圧で金箔に接触すると、ucμ 間の ıłɔʃ 現象が起こる。このときに出るエネルギーを利用して金箔を剥離させ、内部を開けるようにする。もし異なる晄基配列の ucμ を高魔圧で接触させた場合、ɒɥəleɒ 現象が起こり、引力が発生する。この引力で金箔の裏に用意してある銀箔に帯晄させておいた ucμ が動き、ルビーに接触して大量の ucμ を照射させ、内部構造を破壊させるという仕組みである。

lıl ［形容詞］手動の、人力の ［反意語］ɑıμ ［レベル］3 JO: 古 lın/ləə（人が動かす）

lılj ［被服］ケープ ［レベル］2 古 :lılj ← φclılɑjıbe（ベルの服）。lıμı と同語源。

lılı ［感動詞］［文頭純詞］［μɑ́ŕe］おやまぁ、あら、なんてことだ、なんてこった、なんだ、いったいぜんたい、一体全体、あいにく、生憎 ［レベル］1 ɑ:μıl;lələ.ʅ 古 lılı:lılı ［語法］ 感嘆を示す。悪い意味と共に使う。

lılıɒɔ ［交通］マニュアル、マニュアル車 ［レベル］5 JI

lıTə,lɥ lɥə

lıı,ɑ uɔμʃ

lııʃ ［代詞］彼の、彼のもの ［レベル］1 1L:lı/fəl

lııfɔ,ɑu 戦死。後に ɒılılɔ,ɑ に代わって uɔμʃ の意味に。

lııfeɟ ［代詞］彼らの、彼らのもの ［レベル］1 1L

lıı̀ɔue,ɑu ʅɔddel 「死の箱」

lıılɛ ［気象］cnse ［医療］少陰 μɑ;<lıılɛ,ɑu<lıı/lelʃ「死にゆく月」 JM

lııɟ ［代詞］彼ら、彼女ら ［レベル］1 1L

lııɟı ［被服］ラーサ ［レベル］2 古 :lııɟı（ラーサ）← φclılɑɔjıbe（ベルの服）。φclılɑɔjıbe が長いので lı と ɟı だけ取ったものから。アクセントが lı にきたせいで lı の母音が伸びた。ベルのような形をしていることからこの名がついた。 ［文化］ アルティス教徒の女性服。肩から胸にかけて身に付ける上着で、ベルのような形をしている。肩から始まって腕に沿って、肋骨が終わる高さまでの服。色の指定はない。大抵無地ではなく、何かの柄が施されている。横に線が入っていたり、花柄の模様が横に線のようになっていたりする。ふつうラーサを着ればその下にはサユを着て、下半身はルフィを履く。

lııu ［医療］［普通動名詞］母親が死んで子を産むこと。流産や死産ではなく。 ［動詞］ɥəl（子）を産んで jɔl は死ぬ、死ぬ ［レベル］4 古 :lıı/lcuɟɔ

lııɑ ［代詞］あちら ［副詞］あちらで。el 不要、ʅı 不要。 ［類義語］lɥə ［反意語］ɑles ［レベル］1 JJ;lıı,lɥ.ʅ JJ

lııɒ ［名詞］喪 ［レベル］4 ɑu; ↓ ılʅłʃ:lıı̀ɒ ← lıı̀cɒı（死の時）

lıı̀ɒlecn ［被服］喪服 ［レベル］4 zφ;/ JM 〔用例〕 ın ɔnʃ ıɒel jc lıı̀ɒlecn enʃɔ lıɑʃ ı ledɟ ɔʅ ɑelɟ cɒ ɑcɟ cɟʃel. 私と妹は喪服を持っていないので、代わりに制服で葬儀に参列する。

lıı̀ɒc ［代詞］あちらの方→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

lıı̀ɒcn ［代詞］あちらの方の→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

lııd ［動詞］ɥəl がいなくて寂しい、ɥəl と一緒にいたい、さびしい、寂しい、淋しい、愛する、好き ［名詞］一体愛 ［レベル］2 ɑ,e(lıl) 赤 : 望む lıı̀d:lıı̀d ［語法］ ſccı 相手がいる場合は「一緒にいい続けたい」、いない場合は「いなくてさびしい」と訳し分ける。

lıı̀d,ɑ lıl ɑ:μıl;lı の部分は ıl で「物」

lıı̀dɒelɑ ［普通動名詞］だいしゅきホールド、中出し固め、ラープ・メルフ ［レベル］5 μɑ:jeɥen/μcɑcı/ɒel;/「一体愛 / 抱きつく」 JI ［語法］ 性交時、主に正常位や座位のときに女性が両手両足を男性の背中に回してがっしり抱きつくこと。相手のことがあまりに好きでもっと一体化したいと思うあまり強く抱きつくことで、それゆえ lıı̀dɒelɑ と呼ばれるようになった。抱きつくことで陰茎を外に出させず膣内に射精させようとする意図がある場合は中出し固めと訳す。

lıı̀be ［代詞］あいつ、あの野郎、あんな奴、あやつ→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

lıı̀bej ［代詞］あいつら、やつら、奴ら、連中→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

lıı̀ben ［代詞］あいつの→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

lıı̀benɟ ［代詞］あいつらの、やつらの、連中の、奴らの→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

lııl ［親族］母、母親 ［反意語］ʅıın ［レベル］2 μɑ;lııl.ʅ 1Δ: 赤 :lıılı lıılı:lıılı

lıı̀lɟel ［歳時記］母の日 ［レベル］3 JO ［文化］ JO 年にアシェットがリーザの誕生日をもとに制定。日付は zın dıl。母親のために乾燥させた桃の葉を湯にいれ、桃湯を用意する。肌によい。

lıı̀lueφı ［名詞］内弁慶、母弁慶 ［レベル］4 μɑ;/ JI ［語法］ ueφı

lıı̀lɒclʅ ［俗語］父子家庭 ［類義語］ɒclıılı、ɒclıılμı ［レベル］3 μɑ;/ JI

lıı̀lı ［丁寧］［親族］お母様、母上、おばさま、ラーラ ［レベル］2 ɒelſcı 0l:ɥəəɒı;e「生みの母＝ユーマから見たサール」 古 ɨɨclɥə, lıı̀lı:lıı̀lı ［文化］ 親族名詞の丁寧な体系。自分の家族に対して使う場合は目上にしか使わないので、お母様やお兄様とは言うが、ご子息などは使わない。ご子息などは他人の子供に対して使う。むろん他人の母親にはお母様を使う。 ほかの親族名詞と異なり、赤の他人に対しても使うことができる。友達の母に lıı̀lı と呼びかけることができ、自分の兄貴分に ılɟeeɟeɒc と呼びかけることができる。また、そこら辺を歩いている年の離れたおじさんに「おじさま」という意味で qɥecnɔı と呼びかけることができる。年が非常に離れた相手にはおじいさまという意味で ɑclleɟ と呼びかけることができる。

lıc ［動詞］ɥəl に目をやる、眼をやる、目をやる、目を向ける、見る ［レベル］1 1L: 恣意だが、c は cn c:c ［語法］ lıc 類 : lıcμ「目を動かしている」、lıcʅ「視線を当てた」、lıcɟ「見ている」 〔用例〕 uınφıμɑc lıcʅ lınʅɔ μıʅen φılʃ. ヴァンガルディは門の向こうの少年を見た。

lıcɟ ［化学］有機、有機物 ［反意語］μcıl ［レベル］5 1L:lıı;1ʔ: 制 :lıɑ から

lıcɟeɟəl ［化学］有機化合物 ［レベル］5 1L ［文化］ 炭素を骨格とした化合物で、水素、酸素、窒素などを含むことがある。最小の有機物は ɑıın（メタン）。地球と同じく、二酸化炭素や一酸化炭素などは一般的に無機物として扱われる。

lıcɟɟl ［化学］有機酸 ［レベル］6 1L

lıcn ［代詞］［μɑ́ŕe］彼ら、あの人たち ［類義語］ınlıcnʃ ［レベル］1 1L:lı

lıcnʃ ［代詞］［μɑ́ŕe］彼らの ［類義語］ınlıcnʃ ［レベル］1 1L:μcɑcı:ʃ は ınʃ からの類推。あまりユンクらしくない言だが、頻度が少ないし、スパイスになる。

lıcuμı ［魔法］水。五行の１番 ［医療］腎 ［レベル］4 ɟzl;lcuμɔ。腎は生命力を司る。 JI ［文化］ ʅleuınɟ

lıcuμıjeel ［医療］水毒、水滞 ［レベル］6 μɑ;lıcuμıłłeel.l<zφ;/「水の淀み」。水分の代謝不良から起こる症状のことから。 JI

lıcɑ ［単位］マイクロ ［レベル］4 JI:ılhıcɑ

lıczı ［遊離副詞］［形容詞］まだまだ ［類義語］ɒılcɟ ［反意語］jeɟcl ［レベル］1 古 : 迷う。開始までの遠近と完了までの遠近を表す副詞を日本語にすると、それぞれ「まだまだ」「もうすぐ」「したばかり」「とっくにした」になる。アルカではこれらは純副詞として使われ、４つの段階はそれぞれ旅に準えて造語された。 「まだまだ」は旅の始まりで、目の前の道を見て、出てきたのは正しかったか迷い悩む段階である。よって古アルカの lıczı（迷う）から「まだまだ」が造語された。同じ流れで、「もうすぐ」は折り返しが見えて足取りが軽くなるため、je jclɑ（軽く）から jeɟcl。「したばかり」は山を越えたところで、これまでの道と同じだけいかねばならないので足取りが重くなり、ɑıɑıjʃeeze から ɑınʃe。「とっくに」はゴールが目前でこれまでの道を思い出している段階なので ıɒılcj から来て ɒılcj。 ［語法］ 純副詞なので el はいらない。前置しても後置してもよい。分離して目的語の後ろに回る場合などは el を付ける。 lıczı と jeɟcl のように未然のものは前置され、ɑınʃe と ɒılcj のように既に終わったものは後置される傾向にある。

lıclcl ［化学］ホウ素 ［レベル］5 1Δ: 制

lıcıjlıɑɔ ［地学］ホウ酸塩鉱物 1L

lıen ［医療］マスク ［名詞］仮面、ペルソナ ［名詞］扉→ lec ［レベル］2 1ʔ: 制 :lıłʅ ［語法］ 仮面も風邪マスクのようなマスクも含む。 ［文化］ 西洋と真逆で、日本以上に風邪のときはマスクをする。

lıennel ［亜魔］ラエンネック、トイレの花子さん ［レベル］3 JI:lıen/nelʅ ［文化］ ınuelenʅ の一種。 虐めにより自殺ないし殺された少女の怨霊。仮面を付けていて、どの学校にも現れる。日本でいうところのトイレの花子さんに相当する。 仮面は白く、目のところに幼字のカイトクレーマーのような三日月状の目が開いている。 自殺した場所やトイレなどに現れやすい。怨念を晴らすなり、本人の納得行く形でないと成仏できず、戦って勝っても一時的に追い払えるだけで根絶はできない。

lıenɒenɟ ［言語］表面上の意味、前景化された意味、ラエンレンス ［レベル］5 JO: 仮面で覆われた（＝真意の見えない）言葉 ［文化］ uellʃɒenɟ

lıenejʃ ［名詞］仮名、ペンネーム、ハンドルネーム、ニックネーム、コードネーム ［名詞］マージ名→ ılʃejʃ ［レベル］3 μɑ;/「仮面の名」 JI

lıeɒ ［単位］ペタ ［レベル］5 JI:lıı̀eɒcʃ

lıel ［植物］オレガノ ［レベル］3 lıłʅ

lıeclın ［名詞］司書 ［レベル］5 1L:μcɑcı:ıμbıleʃl

lıc ［接頭辞］［ユマナ］ユマナのものであることを示す ［レベル］3 1M: 制 :lcμʅ（非アンティス）

lıcʅ ［格詞］～の内部で、～を超えずに ［名詞］こちら側 ［反意語］μıʅ ［類音］lɔʅ →注は lɔʅ ［レベル］2 @1L 〔用例〕 ʃəμ eʃ lcʅ uıμzɔn. 今８時前だ。 ʃə eʃ lcʅ ıɑcı ʃcj. 二週間も経っていない。

lcʃɑɔnʅ ［電算］ローカルバス、ホストバス ［レベル］5 1L: ＰＣＩバスに対してその手前という意味

lcʃɒeɒ ［数学］内接円 ［レベル］4 1L

lcʃc ［生物］腺 ［レベル］5 1ʔ: 制 :lcʃ から。腺が排泄や分泌に関する器官であることから、出す器官と捉えた。

lcʃɔ ［動物］鮎、アユ、あゆ ［レベル］4 ılʅłʃ:lcʃɔ,lccʃɔ（良い匂いがする）

lcʃe ［植物］セリ、芹 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古の lccʃɔ から

lcʃen ［接続詞］lcʃ ［レベル］3 JI

lcʃeeue ［魔物］リテーヴェ（岩巨人）: 第三十四天 : 土の否天 ［レベル］5 1L:μcɑcı/jeɥen/ɒel:lcj/ʃeeue ［文化］ 憑依。巨躯のゴーレム。土と岩の塊でできた化け物で、見かけ上は人間のような形をしている。だが大きさが尋常でなく、ゾウよりも大きい。岩を投げつけたり、地面から石を角のように突出させて獲物を串刺しにしたりする。怪力の持ち主で、攻撃力が比類ない。防御力も高く、体力も多い。弱点の属性もなく、強力。物理攻撃で倒すのは至難の業。倒し方は、水の魔法をかけて土を泥にした後、風の魔法で乾かし、火の魔法で固める。ヴィルは弱いため、魔法防御は弱く、魔法は効きやすい。こうすると関節部が固まり、動けなくなるので、その隙に逃げるのが吉。

lcʅ ［形容詞］疎である、まばらな、すかすか、スカスカ ［反意語］φıl ［レベル］3 1M: 制 : さびしい

lcʅʃ ［形容詞］大袈裟でない、誇張していないでむしろ消極的な、謙虚な、謙遜した ［反意語］μıłł ［レベル］3 1L:μıłʃ →@ lcłł →言いにくいので lcłʃ ［文化］ jeμcʃ

lcʅl 付箋、タグ、ふせん ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :lcczʅıl（小さな紙）。古で ʅıl,ʅıjı,ʅıʃj は混同が甚だしかったので注意。 〔用例〕 eu lcʅl ı ɒıj 紙に付箋を貼る

lcʅj ［植物］モミ、樅 ［レベル］4 lıłʅ

lcʅjedılcɑ ［天文］散開星団 ［レベル］6 JI

lcʅhɔ ［医療］骨粗しょう症、骨粗鬆症 ［レベル］4 1L

lcʅı ［形容詞］混んでいる、込んでいる、混雑、にぎやか、賑やか、混む、人ごみの ［名詞］混雑 ［形容詞］［天文］満天の ［形容詞］［交通］渋滞 ［反意語］μıſc ［レベル］3 古 :lcʅı（命が多い） 〔用例〕 bełłı ıſ lcʅı cɒ ɑcɟ nɔɑ jʅcl. レストランは普段よりもたくさんの客で混み合っていた。 ɑcn jɔl eſ lcʅı, ın jʅcnıſ jen. バスが混んでたが座れた。

lcʅıɑ ［地学］地球の国名、地球の国 ［レベル］4 1L ［語法］ 地球の国名は、古アルカからあるものを除き、すべてセレンが独自に命名した。セレンにとってのその国の見方を反映している。アトラスにない概念の命名なので、恐らくアンティスはほとんど関係ないといっていい。本辞書では 〔地球の国名〕 のタグをつけた。

lcʅılc ［アイテム］脇差 μɑ;lclə/łılc JM

lcłł ［植物］キノコ、きのこ、木野子、茸、マッシュルーム、木の子 ［美容］マッシュ ［レベル］2 ɑu; ↓ 1ʔ: 制 : 古 :lczʅəɥəlclɔ（菌の家）1ʔ 年まで lcłʃ と打ち間違えられていた。 lcłʅ:lcłʅ

lcłʅʃɪɑ ［普通動名詞］きのこ狩り ［レベル］3 μɑ;/ JM

lcꞁꞁɔɔb ［被服］ボンネット　ɟɒ;/　ꞁꞁꞁ　［文化］　ɟɒでできた。平民の女性用帽子。頭の部分がきゅっと締まっている。

lcꞁle ［形容詞］香ばしいいい匂い　［名詞］香ばしいかおり　［類義語］lccſɔ　［レベル］3　μɑ;>lcꞁle,ɹzl.ɹle)　ꞁꞁ:ɒclɑ

lcꞁle,ɹzl lccſ　<>lccſɔ

lcꞁ ［形容詞］痩せた、細い　［医療］るいそう、痩せ　［文字］コンデンス　［類義語］ɟclɑ、hɪnɔſ、ɥəɒelc、zedleſ　［反意語］sɪl　［レベル］2　ɑ;「小さい存在」　赤 :lcꞁ　lcꞁ:lcꞁ　［語法］［文化］　男性に使うとやや侮蔑的なことも。女性には問題なく使えるが、ɟclɑとしたほうが喜ばれる。　［用例］　ſc ɥən lcꞁ nɔɑ ɟ)ɔl ɔ) lec ſə ɟɪb. その服を着るといつもより痩せて見える。

lcꞁꞁɪɑ ［地球の国名］チリ　［レベル］6　1L: 地形が細い

lcꞁɪɑɔſ ［被服］スティラップ　nɑ;/「細く見せる紐」　ꞁꞁꞁ

lcꞁɪɑeſꞁ ［地学］フィヨルド　［レベル］4　1L　［語法］　ɑeſꞁ とあっても分類上は海岸。

lcꞁɪɥɔꞁɔ ［被服］スマート、タイトズボン　nɑ;/　ꞁꞁꞁ

lcꞁcɥəɟ ［エルト］リシリウス　［レベル］6　ɒelſcɪ ᚻꞁ:lcꞁcɥəɟ;e　ꞁꞁ:clcɥcəɟ　［文化］　シンケの銅鏡から生まれたエルト。

lcꞁcl ［名詞］小屋、巣　［類義語］μɪ　［レベル］3　ꞁꞁ: 古 lccz/ 古 ɥəlcꞁɔ「小さな家」

lcꞁcɪ ［地名］リシア、リシア市、学院市　［レベル］5　ꞁꞁ:ɑelcꞁcɪ　［文化］　名の由来通り、フェリシア大を中心とした高級住宅街と学術機関の並ぶ市のこと。オフィスは少ない傾向にある。フェリシア以外にも同市には学校法人が多く点在している。カリーズ市の東に位置する。

lcɟ ［形容詞］小さい　［反意語］ꞁꞁc　［レベル］1　ɟzɑ　1L: 古 :lccz　lccz:lccz:lcɟ;dedl,bφ,　lcꞁə,ꞁlſ

lcɟ(ꞁ) ［人名］クリスの略称　［組み数字］3 / 2 8　［レベル］1　古では ꞁꞁcɟ の方が一般的

lcɟſ ［形容詞］謙遜した。尊大の逆、謙虚な　［反意語］ɑɪlſ　［レベル］3　ꞁ0:lcɟ/ſe（小さい感じの）　［文化］　謙遜は美徳だが、日本人ほど程度が強くはない。褒められたら「ありがとう」が基本で、「いやいやそんな、僕なんて」は行き過ぎ。

lcɟſueſ ［言語］謙譲語　［反意語］ɟɔꞁɟueſ　［レベル］4　ꞁ0　［文化］　leɪueſ

lcɟſɪɥ ［宗教］修道士、修道女、モンク、ナン　［レベル］5　zφ;lɟſɪɥ.ꞁ　ꞁꞁꞁ

lcɟſc ［魔物］リスティ（風妖）: 第二十五天：風の否天　［レベル］5　1L:ɥcɑcɪ/ɟeɥen/ɒel:lcɟ/ɟɪſcc　［文化］　美しい花の中から生えている女性の魔物。腰から上が現れている。美しい羽根と芳香で獲物を誘う。羽根は時間とともに万華鏡のように模様が変化する。この羽根は光の魔法を跳ね返すため、光の魔法は厳禁。また、リスティ自体は風の属性を持ち、風魔法も効かない。体からとてもいい匂いのする芳香を放つが、実は毒。吸うと操られてしまう。知能が高く、言語を解する。悪戯好きで、人にちょっかいを出してくる。栄養は植物と同じ養分で賄うため、実は放っておけば人を食うことはない。ただ、遊び半分で人を襲ってくぴり殺すことがある。毒を出させない方法は言葉。「お前くさい！あっちいけ！」と叫ぶと毒を放たなくなるが、魔法で襲ってくるので戦力は上がる。

lcɟſcɑɥenɟ ［名詞］万華鏡　［アイテム］リスティフレンス　［組み数字］4 / 1 2　［レベル］4　ꞁꞁ: 魔族リスティの羽根→ lcɟſc　［文化］　リスティの羽根を逢わせたインヴァネスコート。光の魔法を屈折させ、跳ね返す効果がある。非常に高価。ɟɒで錬金術師がこのアイテムを作った際、羽根の余りを筒状にして万華鏡として lcɟſclɔɔlɔ の名で販売した。近代になりようやく地球と同じタイプの偏光を用いた万華鏡が発明されたときには lcɟſcɑɥenɟ が既になくなっており、lcɟſcɑɥenɟ で万華鏡を指すようになった。

lcɟſɔu ［名詞］痴話げんか、痴話喧嘩　［レベル］4　1L: クリスの喧嘩。クリスとオヴィのケンカが一番１０代のころ派手だったことから。小さい喧嘩ではない。

lcɟſe,ɹzl ſɪnɟ、ɑɪlcɟ

lcɟꞁ ［動詞］ɥəl をつまづかせる、つまづかせる、つまずく、躓く、つまずかせる、つまづく　［レベル］3　1ꞁ: 制 :lcɟ から

lcɟꞁɪ ［宗教］修道院　［レベル］5　zφ;lcɟſɪɥ/ꞁɪ　ꞁꞁꞁ

lcɟꞁɪn ［宗教］修道会　［レベル］6　zφ;/　ꞁꞁꞁ

lcɟꞁɪcφɪɔ ［音楽］ユーフォニアム、ユーフォニウム　μſ;lcɟ/ꞁɪcφɪɔ　ꞁꞁ　［文化］　μſ でチューバから分離してできた。その影響で小型チューバと命名された。

lcɟɟcɪ ［音楽］トムトム、タム、ハイタム　ꞁꞁ

lcɟnɪ ［名詞］大胆不敵　［レベル］3　ꞁꞁ:ꞁlccz/nɪ。小さい心ではない点に注意。あえて nɪ lcɟ と解釈して言葉遊びにする手はあり。

lcɟuɪlɪ ［医療］個人病院　［反意語］ꞁꞁcuɪlɪ　［レベル］4　ꞁꞁ　［文化］　cuɪl

lcɟueɥɪnſ ［医療］非難性人格障害、非難性パーソナリティ障害　［レベル］5　ul;ꞁlccz/ueɥɪnſ　ꞁꞁ:jeɥen/ɒel　［文化］　地球にはない分類で、モンスターペアレントやクレーマーなど、なにかと他人に対して攻撃的で文句を言う人を指す。ほとんどの罹患者は声を大にして言うが、この病があってかつ気弱な者は陰口や匿名の形で文句を言う。後者はアルバザードでは卑怯者として特に嫌われ嘲笑される。また、後者は凪人に多い。

lcɟɑel ［ユマナ］小学校　［レベル］3　ꞁ0

lcɟɑeeɒ ［名詞］小悪魔　［レベル］3　ꞁꞁ　［語法］　小型の悪魔のこと。また、狡猾でずるがしこい子供や女性のこと。日本語の「小悪魔系」のようなニュアンスはない。

lcɟφɥ ［電算］［ユマナ］M D　［レベル］5　1L:ɥcɑcɪ:ɥɒɪlelſ

lcɟφel ［軍事］小銃、歩兵銃、マスケット、ライフル、フュズィ、ゲベーア　［レベル］6　μɑ;/　ꞁꞁꞁ　［文化］　φel

lcɟhcnꞁlcſc ［生物］エクリン汗腺　［レベル］6　ꞁꞁ

lcɟɥenɟ ［名詞］侃々諤々　［レベル］5　ꞁꞁ: クリスの言葉

lcɟɪ ［アイテム］小雪　［レベル］5　古 :lccz/ɟɪe。古ではこの刀の名前が複数あったようだ。　［文化］　μɑ 中盤でリュウが入手する刀。ロロスの忍者から贈呈された。

lcɟɪ(ꞁ) ［名詞］小人、こびと　［レベル］3　ɟɒ<ꞁlſ;lclə/ɟɪ　ꞁꞁ

lcɟɪſe ［名詞］売店、出店、露店　［レベル］3　1L　［用例］　ɪn ſɪəſ ɪe lcɪ ɪɪ lcɟɪſe cɒ ncɪn. 休憩時間におやつを買いに売店に行った。

lcɟɪn ［ユマナ］小学生　［レベル］3　ꞁ0　［用例］　ɪɪlə en lcnej ɪɪſcɪ ɟɔuen ɒɪu ɔ lcɟɪn ɑɪ. 小学生と恋愛すること自体は法律で禁止されていない。

lcɟɪnɑɪ ［軍事］小火器　μɑ;/　ꞁꞁꞁ　［文化］　φel

lcɟɪnɒɒ ［植物］ブーゲンビリア、ブーゲンビリヤ　［レベル］5　nɑ;「小さいアデミナ」　ꞁꞁ

lcɟc ［化学］中性子、ニュートロン　［レベル］5　1ꞁ: 制 :lcɟɪ

lcɟcꞁ ［植物］オレンジ、ミカン、みかん、蜜柑　［レベル］2　1ꞁꞁ: 制 :lcɟuɪnꞁ　［用例］　lcɟcꞁ ɒəɔ{lɪc}　すっぱい { 甘い }} みかん

lcɟcꞁſɪɑ ［普通動名詞］みかん狩り　［レベル］3　μɑ;/　ꞁꞁꞁ

lcɟcꞁɒeɒ ［地球の国名］ニジェール　1L: 国旗にオレンジの丸

lcɟcꞁdɪɑ ［化学］酢酸オクチル（通称）　1L

lcɟcꞁɪne ［料理］オレンジジュース　［レベル］2　1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

lcɟcucɟ ［電算］マイクロコンピュータ、マイクロプロセッサ、マイコン、Ｌ Ｓ Ｉ　［レベル］4　1L

lcɟɔɒɪcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］こいぬ座　ꞁꞁꞁ　［文化］　cɑɪ

lcɟɔɔɒ ［ユマナ］週　［レベル］3　1L　［語法］　平日は月曜から金曜までリーファで表し、土日はセルトで示す。アルバザードと違って土日の感覚があるので、命名法を変えた。

lcɟeſ ［名詞］ちょっとしたら。５～３０分。　［副詞］ちょっとしたら　［レベル］1　ꞁ0: 古 lcɟ/ſe（小さい感じの）。具体的には、不定量が小さいことを指している。　［語法］　ɑclɑə

lcɟen ［被服］靴下、くつ下、くつした、ソックス　［レベル］2　μɑ; ↓　1ꞁ: 制 :lcɟɪbe（足の布）　ləɪɟ:ləɪɟ

lcɟecμ ［単位］ファラド、ファラッド、リセイル、人間セイル、電気容量　［レベル］5　1ꞁꞁ: 制 : 人間セイル

lcn ［単位］5　［レベル］1　1L: 制 :lc　ɔɪs:ſlɔn::lɪsc,ꞁlſ

lcn(ꞁ) ［人名］リーネの略称　［組み数字］1 7 / 2 8　［レベル］1　制

lcn(ʔ) ［接尾辞］～ちゃん。指小辞。　［レベル］1　μɑ;lcɒc（美しい)/ 指小辞の n　ꞁꞁ　［文化］　ɪnꞁ ɒeu

lcnſ ［名詞］悪魔の取引、{ を失って } を得る等価交換　［レベル］4　1L:ɒel:lcnɟ/ɑəſ　［語法］　何かを得る代わりに何かを失うことを指す。

lcnſɪɟl ［化学］サリチル酸（通称）　［レベル］5　1L:ɒel　［文化］　μɑ 以前に植物から取って鎮痛剤として用いられていた。μɑ で化学的に合成して鎮痛剤と用いた。セレンの風邪に投与したところ、激しい胃痛に襲われたため、リュウはアセチルサリチル酸（アスピリン）を新たに作った。それ以降、サリチル酸は「痛みは取るが、胃腸を壊す悪魔の取引」としてこの通称ができた。一方、アスピリンは並行的に「天使の酸」と名付けられた。

lcnleſ ［運動］ピラティス、リンシェット　［レベル］5　ɪl:ɒcμɔꞁ;lcnlen/ſe　ꞁꞁ　［文化］　病弱なリーファ隊アーシェのためにミロクが考案したリハビリトレーニング。ꞁɔdn（ヨガ）や luɪn などを取り入れて改良された。主な特徴は胸式呼吸を使う点、インナーマッスルとコアマッスルを鍛えつつストレッチする点、静的でなく動的な点、瞑想などスピリチュアルな方面を捨象している実利的な面である。　アーシェは姿勢性の慢性疼痛を抱えていたため、luɪn や ꞁɔdn のような静止した状態でのトレーニングには不向きであった。また先天的な筋肉の硬さも問題であった。そこでミロクは動的であり負荷が少なく筋肉を伸ばしてほぐす要素を取り入れていった。　これがアーシェの病状を改善させたことから、ɪl 以降、急激に広まった。これが作られたのは、ミロクがアユをアーシェに施す前の話である。

lcnlen,ɪlſ ɑecɟdɪɑc

lcnlen ɥəəɪn ［人名］リンシェン＝ユーアン、雨宮白虹　［レベル］5　ꞁꞁ　［文化］　リーファ隊アーシェの本名。

lcnɟ ［名詞］悪魔。人間に害をなす存在。また、悪魔のような人間。　［生物］悪魔科。デームスとアデルから成る。　［名詞］悪魔役、四枚目。物語を捻じ曲げて、支障を出すことで面白味を出す役。アクタカなど。　［反意語］lɪnɟ　［レベル］2　1L: 制に戻した：参考：メル・アルカ :feɔlɔ n:ɒel と feeɟ の混成　:::lcnɟ,hɥ　［語法］　メル１９年の生物学の作成までデームスの異称程度に扱われていた。人間に害を成せばサールも lcnɟ としていた。生物学作成以降は、きちんと悪魔科を指すようにした。　ただし、従来の［名詞］の意味も残した。これは日常的な用法における悪魔である。

lcnɟdɔl ［地名］魔方　［レベル］5　ꞁ0　［文化］　エスティア、ベルティア、ラズディア、メルディア、キルティア、アルマティア、カルテール、ガルテア、フレスティルの地域。悪魔テームスに守られた国。　ヴァステでソームがアトラスにやってきた際、エルトの本拠地ヒュートとサールの本拠地ヴェマを見張れるように、最初はアルタに陣取った。その後、ヴェマだと両者から挟撃されるため、南下して位置をずらした。それが魔方に当たる。　ヴァステが終わって悪魔は封印されたが、カコで復活する。そのとき悪魔は魔方に陣を張った。悪魔に抵抗した召喚士たちは殺されたが、受け入れたものは攻撃されなかった。悪魔は敗戦側を奴隷扱いすることなく、農耕の手伝いをしたり山を崩したりと、人間の手伝いをした。そして人間から「力なき者」が生み出した技術を学び、共存した。　カコでテームスが封印されると、メティオからの支配が強くなった。人間は人間を奴隷にする。魔方人はメティオ人を嫌い、支配から逃れようとした。その結果、セルメルでイムル ꞁ0 年にテーティアがこの地で生まれる。イムル ᚻΔꞁꞁ 年、悪魔メルティアはメルディア人の少女アルヴァノに出会い、恋に落ちる。そして ᚻΔΔ 年にメル＝ケートイアが生まれる。メルは幼少期アルヴァノスに渡るが、ꞁ 歳でケートイアのケートに移住。ꞁꞁ 歳の終わりか ᚻ 歳でセレンらと出会う。　μɑ 後、アルティルでアルティス教が起こると、ヴァルテス派がこの地で起こる。国民の大半はヴァルテである。文化的に同じと隔絶しているため、言語も独自の発展を遂げた。明るく陽気でうるさいというイメージがある。

lcnɟdɔljeeɥenɟ ［言語］魔方諸語　μɑ　ꞁꞁ

lcnɟscɔμ ［生物］神堂　ꞁꞁ

lcnɟlcl ［化学］アンチモン　1Δ: 制

lcnɟlɔd ［交通］魔列車　［レベル］5　制　［文化］　アデュ収容所へ向かう輸送列車。乗ったら生きて帰れない。発想自体は９３年ごろからあった。「死の門」・アウシュヴィッツ第二強制収容所（ビルケナウ）の鉄道引込線をモデルにしたと思われる。

lcnnel ［サール］リンネル　［レベル］4　μcɑcɪ: 古　［文化］　遺失物を司る神。小人の妖精のような姿をしている。気まぐれで、この小人が物をなくしたり、逆になくしたものをひょんなところから出したりする。

lcnuɔlluccɑɪ ［生物］［医療］五要穴　μɑ;/　ꞁꞁꞁ

lcnɑɔμ ［音楽］三十二分音符　1L　［文化］　→ ɑɔμ

lcnlccɑɪ ［地球の国名］ソロモン諸島　1L: 国旗に５つの星

lcnleɒ ［音楽］五重奏、クインテット　μɑ;/　ꞁꞁ

lcnɪ ［組み数字］２０/ ２８　［交通］リナ通り　［レベル］2　ꞁꞁ

lcnɪɟl ［化学］ステアリン酸　1L:μcɑcɪ

lcnɪ ucl ［人名］リナ＝ヴィッシュ　［組み数字］２０/ ２８　［レベル］2　古 : 語源不詳。ucl は「怪我をする」の意味。　［文化］　(ꞁ_) 第４期４代ソーン第６使徒。女性。ɒɪɥə。下記にあるように春香クリスティーンに似ている。１６９ｃｍ、５５ｋｇ。焦げ茶色の髪。焦げ茶色の瞳。下記ミールの書に書いてあるように、たまに赤いカラコンを入れる。肌は白：黄＝５：５。　1ꞁΔΔ: 春香クリスティーンというテレビに出てた子に似てるなと思った。　・『ミールの書』より　　アッシュは部屋の中央にある円卓に掛けていた。円卓には他にも２人の女性がいた。アッシュの右手には赤い瞳の少女が座っている。メルが挨拶した時の目線から考えて、彼女がリナであろう。リナは顔かたちはまだ子供のようだが、年はやはりクミールと同じくらいにみえる。リナはミールの方を見ているのだが焦点が合っておらず、ぼーっと虚空でも眺めているようだ。　　ミールは自ら名乗った。すると突然リナがはっとして、「きゃっ！」と小さく叫んだ。その拍子に円卓の上のグラスを倒してしまい、中に入っていた水がクノンにこぼれる。ミールは思わずビクッとしてしまった。　「あぁあ、ごめんなさい、ごめんなさい！　私……ごめんなさい！」　　リナは慌ててハンカチを取り出し、クノンの服を拭く。クノンはその頃になってようやく「あーびっくりしたぁ！」と叫んだ。　（……ヘンなお姉さん達……）　　メルに複雑な表情を向けると彼女は「まあ、いつものことだから」と耳打ちをしてきた。ミールは再びリナを見ると、彼女はまだ慌てている。何となく彼女がメルに「お姉ちゃん」呼ばわりされた訳がわかった。始めはてっきり親しいのかと思っていたのだが。　「ああもう、あんたたち、これを濡らしちまってどうするんだい」　　アッシュが檄を飛ばす。だが、その声は怒気をはらんでおらず、むしろ世話の焼ける妹達の面倒を見ているといった感じだ。　「ごめんなさ～い」とリナは謝ってばかりだ。

lcnɪcnɟ ［名詞］興味津々　［レベル］3　ꞁꞁ:lcnɪ/cnɟ

lcncnɟꞁl ［化学］オレイン酸　［レベル］5　1L:μcɑcɪ:lccne/cn/ɟꞁl

lcncɪ ［動詞］ɥəl をうずくまらせる、うずくまる、蹲る、踞る　［レベル］3　ɑu;lccz/ncɪ「小さくなって休む」　ꞁꞁꞁ

lcnɔɪ ［文末純詞］[ɥən]ſcɟje　［レベル］1　古 jɔμn:lɔ（知る）/nɔ（疑問）/ɪ（間投詞）「知っているか？」

lcnees ［天文］Ｇ Ｐ Ｓ　［レベル］4　ꞁꞁ:lcnnel/sc「リンネルの指」

lcu ［形容詞］穏やかな、緩やかな、ゆるやかな　［音楽］アダージョ　［反意語］ɑɔſ　［レベル］3　1ꞁ: 制 : 静かな

lcuμɔ ［名詞］生命、命、寿命　［レベル］2　ɑ;e　赤　lcuμɔ:lcuμɔ:lə lcuμɔ　［語法］　lculeɟ　［文化］　→ ɥəncɟ　魂科に寿命はなく、不老不死。　それ以外は寿命を持つが、星の長さよりも長いため、事実上不老不死である。ただし魂科と違って殺せば死に、アルデルへ行く。　ユーマの一族は神から分派したため、{ɒ では寿命が長い。時代を下るごとに寿命は短くなっていく。異世界において人類の寿命が問題になるのは主に言語変化や文化の伝播である。これらは寿命に反比例する。例えば言語の変化は個体が長生きするほど変化に乏しい。言語の変化を見る場合、経過年数は寿命比で考えねばならない。例えば地球人や現代アルバザード人が５０－８０年生きるとし、古代人が５００－８００年生きるとした場合、寿命比の１：１０を考慮し、物理的には１０００年経過した場合でも、単純計算で１００年分の経過とみなして言語の変化を算出する必要がある。　こうした意味において寿命が重要になるのは言語の変化や文化の伝播などであり、要は現代人や地球人と寿命が異なる場合に注目すればよい。　ɾlu までは寿命の異常な長さや通信魔法の整備によって大して ɑu から変異しなかったと考えられるが、ɾlu で通信魔法が破壊されてからは事情が異なる。人間のヴィードも寿命も激減したので、言語の変化も活発になる。従って zφ からの寿命を考えることになるが、zφ ～ ꞁꞁ の成人男性の期間平均は５００－８００才である。zφ 初期ではもう少し長く、ꞁꞁ 末期ではもう少し短い。従って期間平均と述べた。なお、マレティスのような強力な力を持った人間は寿命が遙かに長く、これはあくまで一般的な成人男性の値でしかない。　ɒ になるとさらに弱体化するため、ここで区切る必要がある。ɒ の cɒ ３ケタ台、特に 1,00cɒ までで一区切りとし、この期間平均が１５０－２４０才である。もちろん ɒ 初期と 1,00cɒ ごろでは寿命が違うが、あくまで期間平均である。　1,00cɒ 以降は５０－８０で、地球人や現代人と同じで

ある。また、nɑ 以降は魔法も途絶えるため、環境は地球とほぼ同じになる。　なお、この寿命から見ると zφ ～ 1l の８０００年間は８００年に相当し、ɥɒ の 1J00cɒ までは４００年に相当し、アルカができるまでの４００年間は４００年に相当し、合計９６００年間で１６００年相当となる。神と魔法が存在する世界なので、地球の常識を持ち込むとかえって リアリティを失う。寿命が長いのだから寿命比を導入しなければならない。 【成句】 ɑcɹʃ lcuɥɔ ɑccnɪ ɒɥɜlɪle 殉教する ɑcɹʃ lcuɥɔ ɑccnɪ ɑɪɹ 殉職する。lib は不可。 【用例】 leɹ jcl lcuɥɔ cɒ le. やがて、いのちに変わるもの。(M i z k a n)

lcuɥɔɥjccl 【名詞】生みの親、親 【レベル】3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

lcuɥɔɔn 【植物】ぺんぺんぐさ、なずな、ナズナ 【レベル】4 1L: 生命の草。極めて生命力が強いことから 【文化】 煎じたり煮詰めて肝臓病などの治療に使う。 【用例】 ɪn lenɪʃ lɪl leɒc e lcuɥɔɔn. ナズナ粥が飲みたかった。

lcuɥeɹj 【名詞】生きがい、生きている意味、人生の意味、生き甲斐、いきがい 【レベル】3 JJ:lc uɥɔ/eɹj 【用例】 leɹ jc lcuɥeɹj uɔɥʃ ɟɔɑel. 人生に生き甲斐のないものは死にやすい。

lcuɥeɥ 【歳時記】秋、聲秋（せいしゅう）、リヴレール。実りの秋 【形容詞】秋の 【人名】リヴレール 【アクセント】lcuɥEɥ 【レベル】4 J0:lccuɥeɥ/ɪlcɟ。lʃ 【語法】 ɑcɪleɥ

lcul 【動詞】ɥəl を産む、産む、生む、出産する 【動詞】ɥəl を捻出する、捻出する 【普通動名詞】出産、産出 【医療】分娩、出産 【反意語】ɑcnɟ 【レベル】3 古 :lcul ← lcuɥɔ/ 動詞語尾 l 【文化】 合法な妊娠の場合、妊婦はかなり厳重に守られる。守るのは主に夫の役目だが、家族ぐるみで行われる。就職している場合、かなり長い産休が与えられる。妻だけでなく夫にもかなりの産休が与えられる。しかも産休中は税金によって有給である。出産費用も税金から出るので経済的な不安は払拭される。また、産後の育児休暇も長く妻と夫に与えられる。これも税金によって有給である。尚、名付けはふつう親によって行われる。名前は歴史上の固有名詞かアルカの一般名詞から付けられる。この名詞は制アルカでも古アルカでも良い。古アルカから作るとエーステが作りやすいという利点がある。男女の名前は異なっている。アルデスやルフェル、リディアなど、有名な歴史的な固有名詞はその性別に合わせる。アルデスで女というのはおかしいし、リディアで男というのもおかしい。尚、名前はふつう親が子供にそうなってほしいという願いを込めて付ける。或いは子供のイメージに合うように付ける。良い名前だと悪魔に連れて行かれるという文化はアルバザードにはない。そのため汚い名前や悪い名前を付けることはない。分かりやすい・綺麗・強い・喋りやすい・長くないなどの性質を持ったストレートな名前が好まれる。名前は戸籍に登録して初めて国家的に有効になる。戸籍は生誕後一ヶ月以内に届けねばならない。 【用例】 μcɑcɪ lculɪʃ lcɪ jɕɑ ɑel ɒcuɪ e jeɥen. リディアはセレンの娘の紫亞らを産んだ。

lculnɪɪʃ 【地学】【歴史】第四紀 ul;/ lʔ 【文化】 φɪɪueɑeɒe

lculncɪn 【名詞】産休 【レベル】4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleɪʃ

lculdcʃ 【医療】産科 【レベル】4 1L

lculɥɪc 【医療】陣痛 【レベル】4 1L

lculɪn 【医療】妊婦 【レベル】3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleɪʃ

lculɪsɪ 【環境】出生率 【レベル】4 1L

lculeɟ 【医療】リブレス、健康寿命、健康でいられる命 【反意語】lcuɥɔ 【レベル】3 J0:μcɑcɪ:lcu ɥɔ/eleɟ（命ある魂） 【語法】 lculeɟ は健康寿命のことで、lccʃɔɟ は健康年齢のこと。 lcuɥɔ は寿命のことで、ʃɔlcɟ は実年齢のこと。 【文化】 ucucɪn ɑuɪv l uɪln でいられる時間の長さ。「健康寿命」とでも言うべきもの。　ヴェレイでは医療の発展に伴い、植物人間の状態で長く生きていられるようになり、見かけの寿命は延びた。しかし過労や環境汚染や夜型の生活や食生活の不摂生などにより、若くして体のあちこちが痛いという人間が増え、成人病も増えた。また、医療の中途半端な発展のせいで、命だけある状態になった寝たきりや植物人間の老人が増えた。　そうした中で、寿命とは別に、健康でいられる長さという概念が考えられた。それがリブレスである。いたずらに寿命が長いだけでは意味がないことに人々は気付き、寿命が長くリブレスが短い人生が悲惨だと知った。この結果、人々は寿命（リブロ）よりもリブレスを実質的な寿命と見るようになった。そこでレイユではミロクの指導の下、いかにリブレスを長くするかを主眼とした生活指導がなされるようになった。　皮肉なことに、人間の技術は発展するほど人間のリブロを長くするが、リブレスは減らしてしまう。μɑ の平均寿命は６０歳で、ヴェレイでは７５歳だったが、μɑ のリブレスが５０歳であるのに対し、ヴェレイでは３２歳であった。例えば便利になるほど運動不足になるし、パソコンを使うほど眼精疲労や自律神経失調症にもなる。技術力の向上が帰って人間のリブレスを下げてしまった。確かに赤痢やコレラのような大病は治るようになってリブロは上がったが、代わりに慢性病の罹患率が増えるため、リブレスは下がる。　なお、アレイユではリブレスの向上とともに医療の発展を利用して高いリブロの維持を行った結果、リブロが７５歳、リブレスが５５歳にまで向上した。

lculeɔ 【普通動名詞】軟着陸 【レベル】5 μɑ;/ lʔ

lcuɪ 【電算】【娯楽】ゲーム、テレビゲーム、ファミコン 【レベル】2 1ʔ: 制 : 古 :lcczuɪj（小さな戦い） 【文化】 アルバザードにはシェルトやアルトのような伝統的なゲームがある。また、カーデを使ったゲームもある。外で遊ぶゲームもゲームといえる。縄跳びや鬼ごっこなどである。ままごとのようなロールプレイングゲームは人の気持ちや立場を理解できるようにするためのゲームとして人気が高い。よくあるロールプレイングゲームは、子供が神話のキャラクターになりきって、神話のシナリオに沿って遊ぶようものである。といってもレイプしたりセックスしたり敵を殺したりするシーンは省略されたり、ぼかされたり、変えられたりする。たとえばティクノがヴァルテを倒すシーンでは、ティクノ役は魔杖ヴァルデを投げるふりをする。或いは発泡スチロールのような柔らかい杖を軽く投げる。本物の杖を喉笛狙って投げつけるようなリアルな演技は危険なのでしない。また、勝負事に使うアルカンスなどもゲームである。こういったものは非テレビゲームであり、アルバザードでは頭と体を鍛えるために有効と考えられている。　＜コンピュータゲーム、ビデオゲーム＞　コンピュータをメインに使った遊びである。日本ではファミコンの類に当たる。コンピュータやプログラミングの技術力を向上させるものとして評判が高い。コンピュータの技術が向上してもそれを一般人が親しみやすい形で理解するにはゲームという方法がうってつけである。だからゲームは人気が高い。しかし、そうはいってもゲームは娯楽である。アルバザードでは高い税金が課される。だが、知的要素をゲームに盛り込めば国の推奨が得られるため、税金が下がる。そこで開発側は娯楽に知的要素をどう盛り込むかを考える。だからアルバザードのゲームはどれも何かしら知的な要素が含まれている。その点ではファミコンのような娯楽要素の強すぎるものとは異なる。　＜体感型テレビゲーム＞　テレビゲームは座ってコントローラーを動かすものだが、健康志向のアルバザードは体を動かさないことに不満を覚える。そこで表われたのが体感型テレビゲームである。銃を持って画面に現れる敵を撃つものや、音楽に合わせて踊るものなど、体を使ったものである。日本にも既にたくさんあり、特にゲームセンターに多い。最近では家庭用ゲーム機にも体感型が増えてきた。ただ頭だけを使うゲームより良いとされている。勉強に役立つ学習ゲームも体感型のものが多い。体を使った方が人間の記憶力は高まるからである。この記事を書いたのは２００４年だが、その後ｗｉｉが大ヒットしたのを見ると、作者リディアは未来を見抜く力があったことが分かる。 【用例】 ʃə eʃ lcuɪ le lcɒ lɪzeʃ ɔnʃ clɒ ɔ zelɔ hɔʃ. ɪn ej μəəɑ ɪl ɪlɑ. シャープペンとノートと自分の頭脳があればできるゲーム。僕は数学に夢中になっていた（『数学ガール』）

lcuɪlɪ 【娯楽】ゲームセンター 【レベル】3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleɪʃ 【文化】 カルザス通りにある。

lcuɪɥ 【単位】オーム 【レベル】4 1ʔ: 制 : 人間ヴァスル

lcuɪn 【娯楽】ゲーマー 【レベル】3 μɑ;/ lʔ

lcuɪuenʃ 【経済】ゲーム会社 【レベル】4 JJ

lcuɪɪʃe 【娯楽】ゲーム屋、ゲームショップ 【レベル】3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleɪʃ

lcucuc 【単位】ニュートン 【レベル】4 1ʔ: 制 : 人間ヴィヴィ

lcueʃ 【ユマナ】【言語】人間界の単語 【レベル】4 1L 【語法】 ɒelʃueʃ ではない、人間界にしかない単語のこと。アシェットやネット上にしか存在せず、神話や小説には現れない単語。本辞書では【ユマナ】のタグで指示。

lcuen 【魔物】リヴェン（邪鳥）: 第七十九天 : 邪の否天 【レベル】5 1L:μcɑcɪ/jeɥen/ɒel:lcɟ/ue nlccʃ 【文化】 翼の生えた大蛇。火、冷気を吹き、翼で風を起こし、身はいかづちをまとい、尻尾で土石流を起こす。

lcuel 【娯楽】リヴェル、チェス 【レベル】3 J0:lcnɟ/ɪuelɪnʃ 【文化】 → nɪɥəɒel ルールは地球のものと同じ。枡が偶数で、かつビショップやナイトやクイーンの動きを計る必要から、盤は格子状になっている。格子は黒と明るい灰色である。灰色なのは盤に石を使っていたため。黒は塗ってある。　駒は丸いチップで、アヴェルトと同じ。幻宇が書いてある。石製で、プラスチックのチップより重量感があってひんやりしている。　駒の名称は一枚ごとに異なっており、発想はシェルトと同じ。むしろ歴史的にはシェルトはチェスから来ているから、シェルトがチェスの発想をしたということになる。ただしポーンに固有名はない。ここがシェルトとの違い。　チェスは唯一神話で争わなかった死神族と悪魔族の夢の対決を描いたものになっているので、駒の名前はそれを反映している。複数枚あるときは、右左の順序で載せる。　キング (ʃeeɟ, ɪʃoɪɥə)・クイーン (ɪɑɒɪ, ləɒɔ)・ルーク (ɑμejʃcɪ uɪμʃe, ɑμeɒelʃe ləəze)・ビショップ (bɹlecɟ ʔleeʃ, ueμφcnɪ ɪlhɪcl)・ナイト (ɒcɑɪn uenlccʃ, eɒclcɔ ɒcjʃc)・ポーン (ɪɑel, ɥəlɪn)　＜用語＞　チェック : eu ɑμec, eu ɒɪμl。eu は省略可能。死神側がチェックをかけた際は ɒɪμl となる。　チェックメイト : ɪ ueeɥə, ɪ ɑejdɪ。ɪ は省略可能。死神側がチェックをかけた際は ɑejdɪ となる。　取る : jeʃ, jeɒ など　キャスリング : nelʃ　ステイルメイト : jɪɒd　アンパッサン : ueɒɔjeʃ　プロモーション : ɪleɪ

lcuelɒ 【魔物】リヴェルム（闇精）: 第七天 : 闇の否天 【レベル】5 1L:μcɑcɪ/jeɥen/ɒel:lcɟ/uelɒ 【文化】 黒い鎧に身をまとった騎士の姿をしている。大剣を帯びており、敵を切り裂く。下半身は黒馬の姿であり、極めて俊足。

lcuelɒɑɪd 【天文】キャッツアイ星雲 1L:μcɑcɪ/jeɥen/ɒel 【文化】 リヴェルムはあまりに俊足で走るため、ものすごい勢いで砂煙があがる。そのときの砂煙に似たようなもやの星雲であることから。

lcuelɒcɑɪ 【地球の星座】【ユマナ】ケンタウロス座 JM 【文化】 cɑɪ

lcɑ 【形容詞】若い、幼い 【反意語】cɑc 【レベル】2 1L:lcuɥɔɑcl（命長いもの） cɑe:cɑe:'eʃʃ 【語法】 jɪɒ, jeɑeɟ 【用例】 μɪc lcɑ 新芽 lcnʃ, leɟ eʃ lcɑ ɪlʃɪ eʃ ɪn. まあ一番若いのは私なのだが。

lcɑuɔμʃ 【普通動名詞】夭逝、夭折、若死に、早死に、早世 【動詞】ɥəl の様態で夭逝する、夭逝する 【レベル】3 μɑ;/ JM

lcɑɑeɒe 【名詞】若年 【レベル】3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleɪʃ 【語法】 ３０までが lcɑɑeɒe、３０～６０が jeelaeɒe、それ以上が cɑcɑeɒe。

lcɑμɪnɟ 【名詞】体香、リフランス 【反意語】lcalenɟ 【レベル】4 J1:lccʃɔ/ɑμɪnɟ 【文化】 lcalenɟ

lcɑμe 【アイテム】【軍事】ナイフ、戦闘用ナイフ、コンバットナイフ 【類義語】ʃcdɟ 【レベル】4 jzɑ;l ccz/ɑμec JM

lcɑl 【魔法】星占い、占星術、宿曜道 【レベル】3 ɑu;lcɑɪ/ɑəl JM

lcɑleʃ 【魔法】ホロスコープ ɑu;lcɑl/ʃe JM

lcɑlenɟ 【名詞】口香、リフレンス 【反意語】lcɑμɪnɟ 【レベル】4 J1:lccʃɔ/ɑlenɟ 【文化】 lɔzeʃ, uelɑ ccμe 以上が持つ香り。lcalenɟ は息で、lcɑμɪnɟ は体から発せられるもの。異性を魅了する力が多少ある。　個人や年齢等によって香りは変化するが、生涯を通じて根本的な香りの種類は変化しない。　例えば μɑ だとリディアは桃、ライチ、薔薇をこの順で混ぜた香りになっている。メルはマルベリーで、クリスはオレンジで、クミールはラベンダーとすみれといった具合に、人によって異なる。　紫苑の書に登場するエリアも外見以外はロゼットの血が濃く、すみれのリフレンスを持つ。　性別によって大まかな違いがあり、女性はたいがい花や果実などの甘い香りが中心で、男性はミントなど清涼感の強いものが多い。　lcɑμɪnɟ はリフレンスと同じ場合もあれば、異なる香りのこともある。たいてはリフレンスを弱くした香りである。例えばメルの場合は異なるタイプで、メルの lcɑμɪnɟ はローズマリーである。

lcɑɹl 【天文】星図 【レベル】5 J1:lccɑɪ/dɪl 【文化】 ・星図の基準点　天球の区切り方については昨日述べたとおり。　LL エリアに天球を分け、北極星周りに 1 星座足し、100 天とする。　問題は星図の基準点。どこを基準とするかで揉めた。　リディアらとは意見がまとまらず、J00Δ/ʔ/J1 にフッシカにも相談。　実にまる一日同じ話題を話し続け、今 JJ 日の深夜、ようやく別れた。　だがおかげで基準点が決まった。　それまでは天の北極と基準点のアルバザードと天の南極を結ぶ子午線を基準線としていた。　が、それってアルバザードに旅行するか、正確なアルバザードの地球における投影位置を知らなくてはならない。　空を見るのに土を見て基準線を測らないといけないのは不自然だ。というか使いにくい。　地球の場合、どうしているかというと、春分点を基準にしている。春分点が赤緯 0°で赤経 0°。　ちなみに地球は傾いた独楽みたいなものなので、歳差運動があり、春分点はズレる。　ズレるので、1LʔO 年の星図と J000 年の星図は別の星図になる。　星図を見るときは分点が何年のものかを見る必要がある。　ではアトラスは何を基準点にすべきか。　春分点というのは地球のシステムだ。パクってよいかどうか。　実はパクっても問題ない。春分は自然現象を元にしているので、アトラスでも地球でも等しく特別なものだからだ。　特にアルバザードは半農半牧なので、春分は特別になる。　ただ、春分でなく秋分を基準にしてもよいわけで、とりわけ春分を基準にしなければならない理由はない。　ましてアトラスはメル暦の前はイムル暦を 1500 年ほど使っていた。この暦は冬至を基準とするので、ここを基準としてもおかしくない。　つまり、春分である必然性は本当はない。　星図というのはアシェットが魔物を種類や強さによって規則的に星座に封印したものだ。　従って、アシェットにとって特別な日を基準とするのが自然だろう。　リディアの今日の話で改めて決まったのだが、元々魔物は地球の公転軌道よりも外側で、地球を包囲していた。　このとき、魔物は整然と並んでおらず、適当な配置で巣を作っていた。　ただし完全にランダムではなく、ドラゴン族は○○に固まっているようような傾向はあった。　例えばヴァステから μɑ までは竜族はアルバザード付近の赤緯に屯していた。　そこでアルバザードは竜という強い魔物の多い「いやなところ」という意味になり、幻宇は竜の頭を象るようになった。　その後 μɑ でアシェットは魔物と戦い、魔物を分析した。　そして 11 の種族と L つの等級に魔物を分類し、最後に uecφɪn を足して 100 種にした。　分析をしたアシェットは魔物を自らの分類に従って宇宙に整然と封印した。　それが μɑ 以降の星座である。　μɑ 以前はおそらく星座は民間的に「ひつじ座」などと命名されていたが、μɑ でアシェットが 100 天に制定した。　地球では 1LʔO 年にようやく行われたが、アトラスではイムル 1500 年代前半で行われたことになる。　これは進化がおかしい順序なのではなく、単にアシェットが魔物を封印したからである。　さて、当然アシェットは封印したときに、どこを基準に 100 種の魔物を封印するか決めたはずだ。　それが決まらず、フッシカとあめでもないを繰り返した。　で、メル暦を使うのだから、メル暦の元日を基準にしようということになった。　つまりメル 0 年のリディアの月リディアの日にアルバザードを通る子午線を基準にしようということになった。　ここでメル暦についておさらい。　アトラスと地球はちょうど 1000 年時間が捩れている。　アトラスにおけるメル 0 年と地球のセレンらが使うメル 0 年は 1000 年ずれている。　例えばセレンは地球では 1LΔ1 年生まれだが、アトラスではイムル 1ʔΔ1 年生まれになっている。　メルは西暦 1LΔΔ 年・イムル 1ʔΔΔ 年生まれである。　メル暦の原点メル 0 年のリディアの月リディアの日と 1LΔΔ/11/ʔ0 は等しい。　さて、アルバザードの空は確認できないので、ソフトを使って 1LΔΔ 年の空を見てみよう。　http://www.toxsoft.com/sswpro/lite.html　jʃelɪ ʃheɪleɟ というソフトを ɥTT しよう。　このとき、1LΔΔ/11/ʔ0 の 0 時に、イギリスのロンドンに設定し、真南を向く。　すると仰角 1ʔ°周囲の子午線上にアルデバランが見える。　なんと、ありえないことに超有名な恒星が正時に子午線を南中しているのだ。　（通常南中というのは J0 時だが、ここでは文脈からも分かるとおり、0 時のこと）　さて、ここで問題がある。確かに今アルデバランは子午線上にある。　だがアルバザードはロンドンにあるわけではない。赤経 0°にあるわけではない。　ただし、アルバザードはアルカット大陸のほぼ西端で、アルカットはユーラシアに相当する。　もしロンドンから 1ʔ° (≒1h) 離れると、東はペルリンの東、西はアイルランドの海岸線になってしまう。　アルバザードの緯度は南仏くらいと既に分かっているが、西経 1ʔ°で南仏の緯度となると、ビスケー湾だ。土じゃない。　ビスケー湾に当たる部分がアトラスでは陸だとしても、ややアルバザードが西に寄りすぎている感は否めない。　かといってドイツでは東すぎる。ペルリンの東で南仏程度の緯度となると、ウィーンの南西、ちょうどアルプスの中だ。　もしアルバザードにアルプスがなくても、これだけ大陸の西端から離れると、風が乾いてしまい、アルバシェルトの風土にならない。　従ってロンドンから見て左右に 1ʔ°ずれると、たとえアルカット（ユーラシア）内だとしても、アルバザードの風土を維持できなくなる。　地球の本初子午線の経度を 0 時間 0 分とすると、アトラスの本初子午線は n 時間 l 分の位置にある。　が、n が 0 であることは一段落上から明白である。　「セレン、お前計算が楽だからってグリニッジをパクったろｗ」と言われるだろうことが非常に悔しいが、実際は楽をしたかったからでなく、ロンドンから東や西に 1ʔ°も離れるとアルバシェルトのとおりにいかなくなるからだ。　従って n は 0 である。　だがしかし、l が残っている。l 分アトラスの本初子午線はズレている。　ロンドンから見て 0<=l<ʔ0 の変域で本初子午線がズレている。　さて、ではこの l をいくつに設定するのがよいか。　先ほどのソフトで先ほどの画面にしてみる。アルデバランを子午線が通過しているはずだ。　さて、ここで ʔ0 分間の変域で子午線をずらしてみよう。この変域のどこかにアトラスの子午線があることになる。　だが 1 分刻みにしても ʔ0 本も子午線の候補があり、どこをアルバザードの候補にすべきか分からない。　リディアもそこまで細かい経度を決めてなかったからだ。　そこでこう考えた。　「メル暦にとって元日の 0 時は重要な時刻だ。ここを子午線とするのだから、アルバザードはその子午線の中に目立つ恒星を持っていると面白い」　そう。まだアルバザードの正確な位置が決まっていないし、かといって地球のある都市の経度を拝借してはどこがアプリオリな文化かということになるため、都市でなく

恒星で決めることにしたのだ。　0<=l<10 の変域で子午線を考えたとき、その範囲に入る恒星は何か。　それはアルデバランとアルキオーネだ。　つまり 1LΔΔ/11/20 の 0 時を基準とした場合、アルバザードが地球の子午線αから見てl度のズレがあるとき、アトラスの子午線上を南中しうる大きな恒星はアルデバランかアルキオーネということになる。　これ、すごく難しいと思う。人工言語屋のやることではない。ややこしいが、上の一行は間違えてないので安心して ∋7。　多分こういう誤解が出てくると思う。「なんでロンドンから見てズレを数えるの？その時点でアポステリオリじゃん？」 大丈夫。上をよく見て。基準となるのはロンドンではなく地球の子午線α、すなわち任意の子午線αが JL°にあってもいいし、1??.?°?°にあっても問題ない。なぜか？　それは今はロンドンからのhɔəɹp の差が知りたいのではなく、ある任意の地球上の子午線からのɒcnəfe のズレを知りたいからだ。　例えば観測地点を弄ってフィリピンだのブラジルだの中国だのインドだのにしてみよう。　もちろん時間は 0 時ピッタリに。そのとき子午線はアルデバランを通るか、その左右にブレる。　面白いことに地球上のどの地点から見ても、11/20 の 0 時はアルデバランの左右を通る。　ロンドンをパクって基準にしようとしているわけではないことがこれで分かったと思う。　さて、適当な都市を入れて分かっただろうが、子午線はこの日この時、どの都市にしても大抵アルデバランの左右にズレるだけだ。なぜか。　時差というのは 1h 刻みで付けていくが、実際の都市は 1?°刻みで存在するわけではないからだ。　例えばパリはロンドンから +1h だが、実際には J°しかズレていない。つまり ΔD しかズレていない。　時差というのは 1h 単位でしか刻まないが、実際の都市はもっと細かい単位で存在する。　従って同じ 0 時といっても、ロンドンとパリとフィリピンでは子午線の位置がズレる。　ズレる範囲は上記のとおり 0<l<10 分だけだ。　大体どの都市にしてもアルデバランの左右に子午線が来ることが分かっただろう。　で、アルデバランの左右にはカペラとアルキオーネしかないが、地球上のどの都市を入れてもカペラやアルキオーネを通過するところはない。　あ、それは言い過ぎか。ただ、? 恒星のうち、アルデバランが最寄になるケースが一番多いはず。　そこでアルデバランを基準の恒星に考えるのが良いと想像される。　大体の都市においてアルデバランが最寄の恒星で、アルキオーネを子午線が通過する確率は低い。　例えばパリを入れると 0 時の時点でいい感じにアルキオーネ付近に行くが、通過はしない。　ところがアルデバランはある都市から見るとちょうど通過する。　そこで、この恒星を通過するところを子午線にしようじゃないかと考える。　で、それがどこか探すと、実はロンドンなのだ。始めのほうで「ありえないことにアルデバランを通過する」と書いたのはそのためだ。　ある任意の子午線においてちょうど有名な恒星を通過するのがどれくらいレアか数えてみた。　例えばロンドンの本初子午線を 1LΔΔ 年の 1/1 から 1J/?1 まで有名な恒星が 0 時の時点でモロ 1 分のズレもなく南中しているかどうかを調べてみた。　するとこのようになった。

1 月 ? 日	シリウス	×	1 月 1? 日	プロキオン	×	1 月 1Δ 日	ポルックス
×	J 月 J? 日	レグルス	△	? 月 J0 日	デネボラ	×	0 月 1? 日
スピカ	○	0 月 J? 日	アークトゥルス	×	? 月 J 日	リギルケンタウルス	×
? 月 ?0 日	アンタレス	×	9 月 1 日	ベガ	○	9 月 J0 日	アルタイル
△	L 月 ? 日	フォーマルハウト	×	10 月 1? 日	アケナルナ	○	10 月 J? 日
ミラ	×	11 月 ?0 日	アルデバラン	○	1J 月 10 日	カペラ	○
1J 月 J0 日	ベテルギウス	×	1J 月 J9 日	カノープス	×		

くだんのソフトを使って子午線がその恒星を通過しているかを目視して検証した。　恒星内に入っていれば○、はずれていれば×、微妙に接している場合は△とした。　測定の単位は 1°。星自体に幅があるため、子午線が恒星から 1°未満にあれば通過しているとした。　例えば厳密にいうと 1LΔΔ/11/20 の 0 時にアルデバランは西に 0.J°ずれている。　ちなみに 0.J°のずれというのはどれくらいかというと、0Δ 秒である。　極限まで考えれば 0.0000°きっちり南中することはありえない。どこかしらでズレる。そこで許容範囲を 1°未満とした。　1Δ 個有名な恒星を調べたが、そのうち ? 個しか通過しなかった。1Δ では少し甘いので J0 から J? くらいにしてもいいかもしれないが。　1 年のうちのある日の 0 時の子午線が「基準星にふさわしい程度に有名な恒星」を通過する確率は 1%台、J%弱である。　メルの誕生日は 1LΔΔ/11/20 で固定だ。　そのとき、ちょうど恒星が通過するのはグリニッジやグリニッジから 1?xn 度東西にズレた地点のみである。　言い換えれば、グリニッジからの分のズレ l が 0 であるとき、ちょうどアルデバランを子午線が通過する。　これはかなりレアである。J% もない確率でメルはグリニッジから見たときアルデバランを通過している。凄い偶然だ。　となると、アトラスの本初子午線と地球の本初子午線のズレは n 時間 l 分と述べたが、n も l も 0 ということになるわけだ。　なんというできすぎた偶然か！　n が 0 になるのは風土の都合上、やむをえない。　だが l は違う。l は 0 から 10 までの変域があり、そのうちのどこでもありえた。　ところが恒星を通過する子午線を探したら l の値はちょうど 0 だったのだ。　恒星を子午線が通ることもレアな上、しかもグリニッジからの分のズレも 0 というのは、これは神のお告げだろうか。　神がセレンに計算が楽になるように仕向けてくれるというのであろうか（笑　なんともできすぎた話であるが、グリニッジの経度もメル嬢の誕生日もセレンにどうにかできるものではない。

もっとも、上の表を使って 1J/10 の 0 時にカペラを子午線が通過するから 1J/10 生まれのキャラを小説に出そうというのなら、偶然ではなくヤラセだ。　だがメルの誕生日はセレンには動かせないし、メル暦はネットでさえ数年前から知らせていることで、あとだしジャンケンできるものじゃない。　いや、本当に面白いくらい、偶然だ。偶然だが、アトラスの本初子午線は、地球のそれから 0 時 0 分ずれたところ、つまり同一の線になるということだ。

ここで但し書き。　上ではロンドンから 1?xn°の地点の子午線はアルデバランを通るといったが、それはあくまで単純計算の上。　実際明石の 1?1°でやってみると、アルデバランの真ん中をブスっと通らなくなる。なぜか？　それは地球が J0h きっかりで回転していないからだ。1?1°というのは 1?xL°だから、L ターンも誤差が累積するうち、少しずつ子午線がアルデバランのど真ん中からズレるのだ。　但し書き J。　ソフトにパリを入れるとアルキオーネのやや右に子午線が来る。　だからアルキオーネが基準星になる考え方もあるように見える。　なぜこうなるのか。　フランスは 1h の時差がある。つまり 10D だ。　しかし実際ロンドンからパリの経度は J°しかない。分でいうと ΔD だ。ΔD ならふつう時差を設けないほうが時間のズレは少ない。　パリはロンドンの時計を見たほうが正確な時間に近い。ΔD なのに 10D の時差を与えているので、ロンドンの子午線から見て ?JD の差が出る。　?J 分をソフトでずらすとアルキオーネの右に来るというわけだ。　だが Δ 分のズレならふつう時差を設けないのが自然なので、この位置に子午線を持ってきて「アルキオーネが近くにあるからアルキオーネ基準でいいじゃん」というのは不自然だ。　ある子午線αから 1D ズレたところに時差 1h を設けることは、社会的には国家の都合上あるかもしれないが、正確な時間を表すには不自然である。　ある子午線αから 1h の時差を生じさせるには、α から ± ?0D の距離以上離れた場合が、見かけ上の時刻と実際の時刻の差をなくすには好都合だ。　ロンドンから東に 1D 離れたところに 1h の時差を設定し、東に ?LD ずらして「カペラが子午線近くに来るから基準星にしよう」というのは、不自然だ。　異世界 Ψ の本初子午線は地球の任意の子午線αから l 分のズレがある。　この際、l の変域は 0 から 10 だが、l の位置はαを中心として左に ?0、右に ?0 となるのが自然だ。　もし右に ?0 となれば、それは子午線βから見て左に 10 というほうが早くなる。　子午線αは Ψ にとってどうでもいい存在なので、最寄の子午線を選ぶため、右に ?0 ならβから見て左に 10 というだろう。　となると結局 l はある子午線の左右 ?0D ずつの幅を取るし、Ψ の本初子午線は任意の子午線の左右 ?0D のところに存在するわけだ。　もちろんこれは分のズレを見るときだけだ。hɔəɹp のズレも見るときは任意の子午線ではまずい。　今は分のズレを知りたいからこうした。　さて、となるとロンドンを通る子午線も任意の子午線のひとつだから、アトラスの本初子午線はここから見て左右 ?0D の範囲にあるのが自然だ。　だがアルキオーネは −0LD のところにあるので、?0D を越えるから入らない。　もしアルキオーネが入るとしたら、それはロンドンの 1?°右（＝西）の子午線から見て +11D になる。　つまり、アイルランド海岸を通る子午線から見て左（東）に ΔD となるわけだ。　で、上記のとおり、今どの子午線を使うかについてはロンドンのものを使うと分かっている。　アトラスの本初子午線はロンドンから見て n 時間 l 分ズレているが、風土の都合で n は 0 である。　0 ということはロンドンの子午線を基準とし、l 分のズレがどれだけあるかを見ることになる。　l の範囲は左右に ?0D ずつなので、0LD のアルキオーネは入らない。　アルキオーネは西経 1?°の子午線、n=J? の子午線のエリアに含まれる。この子午線から見て 11D である。　だが n=0 の子午線にはアルキオーネは含まれない。

含まれるとするなら、パリのようにたった Δ 分しか離れていないのに 10 分の時差を設けるような国を設定するしかない。　が、上記の通りそれは不自然だ。社会的に不自然ということとか、だから変えろということを言ってるのではない。　パリで時計を見るなら、ロンドンから 10 分引いて ?J 分足すより、ロンドンから ΔD 引いたほうが早いだろ？ということを言っているに過ぎない。ロンドンから ?0D 以上離れればようやく時差を作る理由が分かる。

アルキオーネを含むためには 0LD のズレがないといけないが、0LD はもはやロンドンの子午線の範囲外で、1?°隣の子午線の範囲内だ。　だが、経度が n 時 l 分の地点で 1LΔΔ/11/20 の 0 時の夜空を見たとき、アルデバランからのズレは n は関係ないので、l だけが関係ある。

このとき、l は左に ?0、右に ?0 の範囲を取るため、アルキオーネは入らない。　アルキオーネを入れたいなら、n 時 l 分の地点で、1LΔΔ/11/JL の J? 時の夜空を見なければならない。　これが可能なのは、パリのように「ほぼ数分しかズレていないのに 10 分の時差を設ける国」であるが、そのような不自然が成り立っているのは社会的な理由であって、天文的にはロンドンから見て Δ 分のエリアに入れ、時差を設けないほうが自然。　つまりだ。アルキオーネが基準星として入ってくるように見えるのはパリのように「ほぼ数分しかズレていないのに 10 分の時差を設ける国」がある場合だけという結論になる。　そりゃパリの時差が妙でもまかり通っているのは社会的な理由があるからだ。天文的な理由ではない。国家の問題でそうしているだけだ。　ここ、重要。アトラスはアプリオリなんだから、ロンドンの子午線にこだわる必要はない。−0LD もズレていたら、隣の子午線のエリアに含めて +11D の差と考えるだろう。わざわざ −0LD とするのは、ロンドンにこだわっている証拠だ。　だがアトラス人から見てロンドンにこだわる必要はない。もちろん n の値では 0 にしたが、分のズレを見るときにはロンドンは関係ない。　どの子午線を使おうと構わないなら、−0LD の場合は隣の子午線から見て +11D と数えるのが自然だ。　以上から、分の差が 10D の範囲というのは、ある子午線から見て左右に ?0D ずつとなる。　今は n=0 なのでロンドンの子午線から見る。そしてロンドンから左右に ?0D ずつの範囲にはアルデバランしか恒星がない。　だからアトラスの本初子午線がこの範囲にあるとしたら、その中にある恒星はアルデバランのみ。　ではこれを基準点にしようというわけだ。　アルキオーネは前日 J? 時の世界なら基準星になれた。　「経度の違いがたった J°つまり ΔD なのに、なぜか ? 時間も時差を設ける」という国を想定すれば、子午線はさらに遠くの恒星に近付く。　だからってこれを以って 11/20 の 0 時にアルマクやミラクを基準としようなどとは誰も考えまい？　アルバザードの子午線がどこか分からないとき、0 時に見た夜空の 9?D やら 1ΔPD のズレがあり、そこにアルバザードの子午線があるとは誰も考えまい？ 1?9D とか言われると「あぁおかしい」と思うのだが、0LD くらいならなんとなく騙されてしまうのが不思議だ。アルキオーネは基準になれない。　アルキオーネが基準になりうるというなら、この理屈でアルマクやミラクだって基準になれるではないか！　ΔD しか離れてないのに時差を 1Δ0D も設ければ、そりゃミラクだって基準になれる。　もちろん社会的なことを言えば、そういう国も実在するかもしれない。　正確な時刻よりも国家としての時刻のほうが重要だからね。それにケチはつけない。　だがアトラスは地球の社会など知ったことではない。　0LL 分離れたアルキオーネを「範囲内、範囲内」と呼ぶのは、いかにもロンドン視点で考えている。　そんなアルバザード人がいるもんか。

もしレインが地球にワープしたら、0LL 分も離れているアルキオーネは右の子午線から見て 11 分と考えるだろう。　だがレインがロンドンびいきなら、0LL 分離れていてもアルキオーネをロンドンから見て 0LL 分というだろう。　しかしレインがロンドンをひいきする理由はない。　今知りたいのは、ロンドンで 0 時にアルデバランが正中しているとき、架空の国アルバザードではアルデバランから左右にどれだけブレているかの話だ。　分のズレだから、変域は 10 分。ということはアルデバランから見て左右に ?0 分ずつのどこかにアルバザードの子午線があることになる。　右に 00 分ずれたら、それは右の子午線にとって左に J0 分になる。だが n は既に 1 でなく 0 で固定されているので、「右の子午線にとって」の部分は実行不可能。　それはアルバザードにおける JL 日の J? 時の世界になってしまう。　そう、もしアルキオーネを基準星としたいなら、J? 時に観測しなくてはならないわけだ。　・どうやってアシェットはイムル 1?ΔΔ 年の空を観察したのか　頭の痛い話はやめて、神話に戻る。アシェットは 1LΔΔ 年、イムル 1?ΔΔ 年のメルの生まれた夜空を元に星図を決めた。　だがこのときセレンは 9 歳で、まだ地球にいる。リディアは 0 歳で、サプリにいる。　明らかにおかしい。イムル 1?ΔΔ 年の夜空をアシェットはどうやって観察したのか。　これはメルが時魔道士だからだ。　イムル 1900 年以降に星図を作る話が出た。　で、ɟelli ʃheiɾep みたいなシュミレータがこのときはないかもしれない。　リュウが作っていればあるが、作ってなければないだろう。　そしたら時魔法で 1?ΔΔ 年に戻って観測するしかない。　アルバザードから見えない南天はパールのワープ魔法で南天に飛んで観測するしかない。　だが、神話的にはどちらもありえるので説明がつく。　さて、また天文に戻ろう。　アトラスの本初子午線は、メルの生まれた晩にアルバザードから空を見上げたときに恒星がちょうど南中したところである。　言い換えればアルバザードという国はメルが生まれた晩に恒星が南中する国である。そしてそれがアルデバランである。　なぜ恒星が南中する部分をアルバザードにしたかは上述のとおり。　アルバザードの細かい経度が決まっていないのと、メル暦がアトラスにとって特殊な日であることのアピールのため、せっかくだから最寄の恒星が南中する位置に建国しようとしたから。　もちろんアルバザードという国はアシェットより先にできていたわけだから、アルデバランが都合よく南中するのはご都合主義だ。　だが、完全にご都合主義ともいえない。なぜか。　アルバザードはそこそこ広い国だ。　そしてこのときアシェットは星図の基準点となる星を決めようとしていた。　そこで、基準となる恒星が 0 時に南中する地点を本初子午線が通る地点にすればよい。　こうすればアシェットがアルバザード国より後に起こった団体であっても、ご都合主義でなくアルデバランを基準星にできる。　で、実際アルバザードのどの地点を本初子午線にしようかという話になった。

王都アルナを南中するというのはいかにもできすぎた話だ。　ここまでできすぎた設定を一度も使っていないので、せっかくだから今回はもっとアプリオリにしてみたい。　そこで、アルナは避けてみよう。かといってアルシアだカテージュだサプリだワッカだアシェルフィだと枚挙に暇がない。　さて、どうしよう。　逆に候補がありすぎて決められなくなった。

ランダムに決めるわけにはいかないだろう。アプリオリという点ではランダムでもいいが、今度は逆に必然性を失って、神話としてつまらなくなる。　アプリオリだからといっていくらなんでもランダムはつまらない。候補がいっぱい出てきたので、これは流石に何かの理由を付けた方がよさそうだ。　そこで、アシェルフィにしようと思う。理由はこれら。　1: アシェットの本拠地だから　J: アルナで観測したということはアルナ城で観測したことになるが、それは常識的に無理。城外ならアリだが　?: 天文学についての時代で活躍したのは上記の流れから行くとアシェットで、担当はリュウ。となると本拠地アシェルフィで観測するのが妥当　0: 地球との兼ね合いを考えると、ロンドンの経度がアルナだとすると、これまでの想像より西寄りになってしまう。アルナの印象はもっと東。そこでアルナの西にある都市のアシェルフィを観測地点にすれば、首都アルナ自体は少し東にずれられる。これは明石と東京のような関係。　?: そもそもアルナを通るのはできすぎて見えるw　というわけで、アトラスの本初子午線はアシェルフィを通るように決まった。　1LΔΔ/11/?0、アトラスでいうメル 0 年リディアの月リディアの日（イムル 1?ΔΔ 年）の 0 時に、アルバザードのアシェルフィ（北緯 0?.0°、西経 0°）に立って南を見たとき、10.Δ°の仰角で、アルデバランが南中している。

そしてアルデバランが星図の基準星となり、アルデバランを通る子午線が星図の境界線になる。　なお、地球に投影すると、アシェルフィの経度が奇跡的に 0°のズレで、緯度は赤緯 0?°になる。　従って、フランスのポワティエのやや南西がアシェルフィになる。　アルナはこの東だから、リモージュくらい。　アルナは μn のときにどれくらいの範囲があったんだろう。　街と街が地続きではないし、疎な土地だったから、ソエンの谷まで北に J0 ～ 00D はありそうだ。　となるとソエンの谷は ??X+FE+∋+∋A+?? らへんのようだ。 http://maps.google.com/maps?sourceid=navclient&hl=ja&ie=UTF-8&rls=RNWE,%A0E:J001–??,%A0E:sɪ ɜ=dhɪfeɪəd͡ʒnɪɾl əɒ=1 ɪɹ=A ɾib=ol　で、どんなところなのかとウィキ。 http://en.wikipedia.org/wiki/Ch%C3%A2teauponsac　うぉう！人口 J000 人！？　無理！絶対旅行できない！向こうでレンタカーして右車線を走るしかない。き、きつ……。

ソエンでクリスに会い、そこを越えたザミアでギルに会う。ザミア森林もこのあたりか。

また、セレンとリディアが神話で出会ったのはサプリだが、神話ではサプリから歩いて東のアシェルフィの学校に行っている。　せいぜい ??D ～ 10D し か離れていないだろうから、サプリの位置も大体分かる。　僕の感覚だとアルシアはアルナの北西で、フランスのルマンのあたり。　このあたりは陸半球の中心で本初子午線も通るため、アルシアは何気に本初子午線と陸半球の中心の交点にあったりする。　ケートイアのアルシアとこだろう。アルシアは北西に行くが、アデュは北だ。　高さはアルシアくらいか、それより高いところだろう。となるとパリくらいか。　アデュを越えてケートがロンドンくらい。ユーロスターでいけるね。　実際にはロンドンの東かな？　そこを越えるとヒュートか。ダブリンくらいの緯度だろうか。　そこを越えてイネアート。なるほど、ちゃんとノルウェー程度の緯度だわ、確かに。リディア、孔明すぎるw　で、そこを越えるとセルヴァートの緯度。ラップランドくらいの高さかな？　神さま、逢瀬の場所寒すぎですw　ある意味がんばって熱を出してくださいw　さて、アルデバランが基準となると、epcn 列はアルデバランを含む子午線の東側 0J°までの区間となる。オリオン座の方向だ。　epcn 列は赤緯 −10 から始まる。アトラスの本初子午線と赤緯 −10 の交点は「かじき」の星座線中腹にある。　この交点から緯度は 1J°、経度は 0J°の範囲を取る。アルカは基本的に横長の星座だ。　するとカノープスを含んだエリアになる。ここが第 10 天の acɪnje 座になる。　すなわちカノープスは acɪnje 座に含まれる。　缶詰のパイナップルのわっかのようなものを考えると、acɪnje 座はその一部となる。　そのわっかの残りの部分にはほかの ɪlɟcɪ の acɑ 列が入る。　そのわっかのひとつ外側の大きいわっかには、ɪlɟcɪ の dɪpnɪ 列が入る。　このようにしていけば、星座はすべて求められる。　acɪnje 座の範囲を添付しておく。　カノープスが含まれている。　青く囲ったところが acɪnje 座。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/seiza.jpg

lcaɩɹ ［魔物］リファル（光魁）：第六十一天：光の否天 ［レベル］５ 1L:ɥcɑɔɪ/jeɥen/ɒel:lcʃ/dɩɥʃ ［文化］ 光る大きな塊。獲物を発見すると光をどんどん強くしていき、やがて蓄えた光を辺りに放射する。光の魔法であり、照射されたものを焼き尽くす。蓄える前に倒すか、さもなくば逃げるべし。

lcae ［動物］ヒトデ、海星、スターフィッシュ ［レベル］３ lɪ̀ʎ:lcae,lccɑ（星）/elc（魚）

lcaeʃ ［名詞］引き立て役 ［音楽］オブリガード、オブリガート ［動詞］ɥɑl を引き立てる、引き立てる、引きたてる、目立たせる、際立たせる ［レベル］３ Л:lccɑ。月を引き立てるもの

lcɒ ［言語］音韻、音素 ［レベル］６ 1L: 恣意 ［語法］ 音韻は何にも入れないか // に入れる。音声は □ に入れる。これは地球と同じなので覚えやすいはず。 ［文化］ ＜音素の歴史＞ ・ɑ_μɑ　ɑ で ɟɟμʃ が作った２４子音５母音の２９音素体系が最初。　ɑu は彼らが分裂などしてできた神々が使った言語であるため、音素は ɑ から継承。　μɑ は ɑu と同一の言語で、時代が異なるだけ。人間と違って成員が入れ替わらないため、音素は保持。　ここまでから、ɑ=ɑu=μɑ=ɟL と分かる。　・シージアとレスティル　ɟz や ɑμɑ は寿命を持つ人間の言葉で、しかも神と別々に暮らしているため、当然時とともに音素が変化する。つまり ɑu にない音を持つ。lɥ_ɩμ も同様。　神々は ſɒ でレスティルに住んでおり、ɦu 後も実質宗主国として現代まで影響を強く及ぼしている。zφ では神人貿易も盛んであった。そのためレスティルはシージアより神との繋がりが強く、ɑu_μɑ の影響が強い。つまり変化の度合いを ɟz と同じに設定するのはおかしいということになる。単語と音は変化すれど、その度合は ɟz_lʃ より小さくなければ辻褄が合わない。→ ʅlɩʃ　・lɥ_ɩμ　ɑu_μɑ に近い音素体系であることが予想されるが、人間の言語なので変化がないということもないだろうと予想される。なのでそのように作る。　・階層による位相差　階層による位相差も考える必要がある。　高官や商人は神と直接交流があり、信仰度が強い。神から授かった音をおいそれと変えることはないし、そもそも変えても不便なだけなので、むしろこの層は自発的に変えたがらない。　一方庶民はそんなこと知ったことではないので言いやすいように勝手に変える。これが彼らの生活を考えた上で出てくる違いで、リアリティの種となる。　結果、上流と中下流で音素の乖離が起こる。　これは地球でも存在するパターンで、階層によって発音が違うことはままある。　以下では lɥ_ɩμ の音素の変化例を見る。　・ɟ と l の交替　lɟn で起こった音の変化。ɟ と l が入れ替わった時代がある。根拠は jccnɪ。　ɑ では lccnɪ<lc/nɪ。ɑμɑ と lɥ でも lccnɪ で継承。しかし lɟn 初期までに lccnɪ が失われる。　その後 lɟn 中で ɟ と l が交替。そしてこの時代に古語の形態素を用いて lc/nɪ>jccnɪ ができる。ずっと生きている人から見れば２回同じ形態素から造語しただけに見えるが、長い時を経て同じ形態素が二度使われただけで、当人らは事情など露知らずということになる。　後期 lɟn に再度 ɟ と l が交替。つまり「戻し」が起きた。「戻し」なのだから、最初の交替後に起きた語には再交替を適応しない。　そこで jclə と発音されていた単語は lclə に戻っても、jccnɪ はママとなる。　それが ɩμ や ɪ に継承され、現在に至る。　「好む」が lccnɪ でなく jccnɪ なのはこのような歴史的に複雑な事情がある。異世界の言語学はここまでやる。　世界を作るということは歴史を作るということで、共時的な考察だけでは限界がある。　加えて言えば現実の古アルカで jccnɪ が lccnɪ でないのはまたさらに別の理由があり、現実と虚構を別々に覚えねばならず、大変である。よくファンタジーをやっていると空想と現実の区別がつかなくなると言う人がいるが、リアルファンタジーだと逆だ。現実の学問ありきでそこにファンタジーを矛盾なく加味していく作業なので、虚構は虚構と分かっている人でないと難しい。　・響字の音素　響字は学者らがベルト監修の下で作った。彼らは上流なので μɑ の音素を積極的に使う。　つまり響字は上流階級の音素を表す。日本の平安時代と同じで、庶民の言葉はほとんど記録が残っていない。　極端なことを言えば、もしかしたら庶民は ɩuelɪnʃ を「アッチェレント」のように発音していたかも分からない。　現代感覚ですぐ紙に書けばいいと考えるのは歴史的考察が足りない。この時点での庶民は筆記用具を得られないし、文盲だ。　・教育と乖離　上流と中下流との乖離は ɟɒ になって教育事情の発達とともに縮小する。　教える側は学者で、学者は響字を作った階層である。従って乖離は上流側に引き寄せられる形で縮小する。　しかし下流は満足な教育を受けられない。そこで ɟɒ 以降は上中流と下流間の乖離となる。　要するに中流を引き上げただけだが、マス層の引き上げは意味が大きい。その言語で実際に使われている音素を言えと言われたら通常マス層のものを挙げるからだ。　ɟɒ 以降は庶民も筆記用具を得られる層が出るが、その層が既に上流と同じ音を使うようになっているので、結局下流の発音は地球の言葉と同じく確定できない。「下流は ʅ を ɟ と発音するようだ」など、当時の文献で残っているものの中から根拠になる記述を探さねばならないが、そう都合よく見つかるものでもない。　・μɑ 以降　μɑ 以降は神が表社会から去り、アシェットという求心力もなくなる。　さらに庶民も当たり前のように紙に文字を書くようになる。　ɩμ も ɪ も好き勝手に国民が音素を変化させる。　・革命　革命前の ul では ɪ も３００年以上経過しているので、当然音素がそれなりに変わっている。　もっとも音素というのは単語より遙かに長いスパンで緩やかに変わるので、３００年だとしばしば短いくらいだ。とはいえ３００年でがらっと変わるケースも地球の言語にはあり、３００年でどれくらい変化するかはしばしば判じ得ない。　具体例を出すと、革命前は ɪlel と書いて「アジェル」と読むようになっていた。ɪsel だと「アイェル」と読む。 ʅɪcʃ は「ケート」と読む。二重母音も変化が起こっている。　原理主義者のミロクは μɑ で最初に作られた音の設定を正式と考え、書いたとおりに読むように教育を施した。この背景には、上流階級ほど保守的で３００年とはいわないまでも古めかしい音素体系を保持していたという事情がある。日英などにも一端が見られる。　同時に、英雄たちの使った言葉に戻すことで、悪魔を倒して平和をもたらした時代へ回帰しようという政治的イデオロギーを打ち出している。　言論を操れば思想を操るのも容易い。人の精神をどう喰らうかミロクはよく熟知していた。上流ほど保守的で未来と過去に明るく、下流ほど似非革新的で目先のことしか見えない。上流の趣向に合わせつつアルティス教の原理を盛り込んだ精神支配がこの教育の背景にある。　学術機関やメディアを使って矯正される国民の大半は矯正される。ただし老人や下流や田舎ほど矯正しづらい。　いくらミロクが偉大な革命家だろうが、「一人残らず矯正できました」というのはいかにもご都合主義くさい。作者が方言や位相を作るのが面倒で逃げた感じがする。　現実問題８０の老人が発音を今更矯正できるかという話だ。器用な老人ならまだしも全員だ。現実的ではない。　そこで矯正できた部分とできなかった部分を両方作り、田舎や下流などに元の発音を残す。こうすることで世界はリアルになり、深みを増す。　・ɟz_lʃ　ɟz_lʃ も同様に音素が変化している。　zφ までは文化の坩堝で革新的な国で、神の影響も少なかったため、ɑu_μɑ との音素の乖離は lɥ_ɩμ より大きい。　・ɑ と Φ と h　ɟz_lʃ の音素の変化例を挙げる。　前期 jzɑ で ɑ→Φ。例えば ɑɪc が Φ ɪc に。　後期 jzɑ で ɑu から輸入したものは ɑ のまま取り入れ。結果 ɑ と Φ が別々の音素として確立。元を辿ればどちらも ɑ なのに、取り入れた時代によって ɑ か Φ か変わる。当然 jz 土着の新語には Φ の入る単語もできるようになる。　zφ で響字ができる。ɑ と Φ が別の字として登録。このときは h もある。　ɒʃ で h が発音されなくなる。響字上では書いていたが、発音されないので ɒʃ 後期で h が ' になる。'ɔɒeʃʃ などが例。　ɟɒ で h が発音されるようになる。h が記述の上でも戻るが、' の付いている単語については既に 'ɔɒeʃʃ なら「オレット」で耳が覚えているので戻さない。あくまで外来語や新語で h の付いているものだけ h を発音する。　これは当たり前だ。人々は生きている。'ɔɒeʃʃ で耳が覚えているのに「ホレット」に戻すはずがない。机上の空論だとホレットに戻ったように感じられるが、彼らの生活を想像するとそれはありえないと分かる。　日本語の「母」も「パパ」から「ハハ」へ変わったが、その後入ってきた d は d のまま発音される。パリをパリと発音するからといって今更母をパパに戻すかというとそんなことはありえない。オレットもそれと同じだ。　ɟɒ で再び ɑ→Φ。Φ一色となる。　後期 ɟɒ で理字ができる。ɑ はこのときないので、ɑ の文字はない。竜字や幻字に転写するときは先方の ɑ の文字で転写する。例えば幻字だと ɑɔl の字で示す。　・塔字（アルハノン）　→ hɪrl　ſɒ で clhɪnɔc によって考案されたアルハノンは響字とは完全に独立した表音文字である。　ただ、幼字から脱却したという歴史を持つ以上、幼字をベースに持つ。　ハングルに近い文字だが、ハングルとの違いは文字のデザインがアポステリオリだという点である。　ではアプリオリの表音文字はアトラスにないのかというとそうでもなく、例えば幻字がそうである。　アルハノンはメティオを中心に境方や魔方で使われている。つまり ɩμɒeſɔɪ は竜字・塔字・理字でできているわけだ。そこに幻字が加わることになる。　子音字は無子音入れて２５で、母音字は５。　文字の形と順序は以下のとおり。d,b,ſ,ɑ,ʅ,φ,ɒ,n と進む。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/alhanonamiso1.jpg　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/alhanonvesto.jpg　このころは音声学は存在しないが、調音は内観できる。clhɪnɔc は内観に基づいて調音点が前寄りのものから配列した。　調音法は頻度の高い順に並べ、閉鎖、鼻音、摩擦、流音、半子音とした。　μɑ で音声学を立ち上げたセレンはこの順序を響字より体系的な配列と評し、aeeſeɑɪ 作成の際に参考にした。　幼字のデザインをいかに塔字に組み替えたかは以下を参照。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/alhanonamiso2.jpg　幼字とアルハノンの対比。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/alhanonkempe.jpg　・響字の数　響字は５０文字。子音３５の母音１５。うち２９文字は μɑ,lɟ で使う。lɟ などには２１音が欠けることになる。　ほかの参加国らの言語がこれら２１音を分散して持つ。例えば jz にはΦの文字がある。　ところでこの５０という数は現実的には何が根拠となってどこから来ているのか。『アルカ』ｐ６７の『制アルカオノマトペ』のリディアの試算に子音３２母音５の３７音体系というものがある。これは『制アルカオノマトペ』ごろのアルカの音素の体系である。　３７には半子音 ɥ,o がない。ɥ の代わりに j があり、o に当たるものが含まれていない。子音としてカウントされていないし、母音にもカウントされていない。しかし古には ɥənʅ や oɪ のような単語があるので半子音がないわけがない。そこで j を ɥ と捉え、本来あるはずの o を入れ、都合３８音とする。　ところでこうして見ていくとドイツ語のｉｃｈのヒの音がない。古には辛いのヒなどにこの音があり、制新生も ſch などに現れる。ハの x を音素としてカウントするならヒもカウントすべきだろう。そこでヒとその有声音を加え、３５とした。　これを響字とすれば現実を巧くリサイクルできるが、母音５というのは当時の響字参加国の全母音としては少ない。そこで p６５の『制定語彙』の母音リスト（１５音）を採用する。すると母音５から１５になるので１０増え、合計５０字となる。ちょうどキリも良い。これが響字として Л に採用された。　一方 μɑ,lɟ の音素２９は、ｐ６７のメルの主張を元にセレンが制の時代に作った新生古から来ている。　両方ともそれなりに人工言語にしては歴史のある設定といえる。　・響字のデザイン　響字は幼字の読みを利用して音声表記に用いたもので、当時は ɑu が中心的な言語なので、ɑu の音素がベースとなる。例えば ɑcɪ の幼字で d を指す。ɑu の２９音はこのように単純に幼字から引っ張ってくる。　一方 ɑu にない音は ɑu にある近い音の文字をアレンジするか、何らかの言語でその音を含む幻字で示す。あるいはゼロから別途作る。　例えば前者の例としてこのようなものがある。ɑccnɪ は jz ではΦ ccnɪ と読まれる。Φを含む字で最も頻度が高いことから、ɑccnɪ の幼字をΦの表記に用いる。つまり ɑccnɪ の幼字をΦの響字として用いる。　もちろん ɑu では ɑccnɪ の幼字は ɑccnɪ と発音される。ɑ を指す響字は ɑɪc の幼字なので、ɑccnɪ という幼字の音を指すのに ɑɪc を使い、ɑccnɪ を使わないことになる。ɑccnɪ の幼字が f でなくΦになるのは ɑu だけで見るとややこしいが、幼字を活かしつつ国際的に使うことを考えるとこうなる。　なら一から表音を作ればいいのにと思うのは現代人であって、それはまだ幻字の誕生を待たねばならない。どっぷり幼字に使っていなかった ɩlhɪnɔn だけは早々表音文字に辿りついたが、幼字ありきの神々にその踏ん切りはつかなかった。　とはいえアルバザード人は神ではないので自分の言語にない音を使う気はベルト会談から離れるほど無くなり、結果これが竜字を生む。にしても響字の崩しなので、純粋な表音はやはり幻字を待つことになる。徐々に歴史が進化していて面白い。
一方、後者の例としてこのようなものがある。両唇入破音は lɥ 建国後の ɑμɑ に見られる音で、ɑɩμɑɪncɪ が響字参加国だったために響字に存在する。この音は ɑu にはない。この音はしゃっくりを意味する dɩφ という語の d の部分に来ている。ɑu でしゃっくりは ɒɔ̀ɔʃ で、幼字表記は ɒɔ̀lc/ſeeze（乱れた風）である。そこでこの２文字を組み合わせて１字にしたもので両唇入破音の響字とした。これがデザインを別途作った例である。　・響字の配列　響字のころは音声学がまだないため、体系的な配列はできない。　しかし調音点と調音法は内観できるため、ハングル同様後の音声学上の特徴を使ってある程度規則的に配列できる。　子音について。　まず調音点は最も頻度の高い歯茎を中心とする。次に歯茎の前の歯音、次に歯茎の後ろの後部歯茎。　このように、歯茎から近い順に前後ろの順で並べていく。前優先なのは ɑu で前寄りの音の頻度が高い傾向にあるためで、この傾向は時代の遠く離れたアルカにも継承されている。　調音法は閉鎖・摩擦・鼻音・流音等の順である。　無声は対応する有声の先に来る。　母音について。　前側から徐々に後ろへ向かう。非円唇が対応する円唇より先。『アルカ』ｐ６５に倣う。　具体的には以下のとおり。　左端が幻字での転写。その右が響字。その右が音声。この音声のうち例えば ɑu は２９種を音韻として選択する。右端はその幼字の本来の読みで、基本的に ɑu。　半子音だけは ＩＰＡだと分かりにくいので音韻で示した。ヤ行とワ行である。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/forma1.gif　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/forma2.gif　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/forma3.gif　ɩμʅlnʃcj で打てるようにアクサンテギュしか用いない。ſ,ɑ 以外のすべての幻字のアクサンを用いている。２６＋２４で正しく５０となる。　このように、響字は ɩμʅlnʃcj で表記できる。ただし幻日では ɑ,ɑu_μɑ,lɥ_ɩμ,jz_lʃ の母音については長短を区別しない。これらの言語で ʅeeſ といえば響字的には ʅEEſ だが、これらの言語について述べるときはこれらの言語の音韻を用いて ʅeeſ と表記する。　子音についても ɑ,ɑu_μɑ,lɥ_ɩμ,jz_lʃ の ㄗ 以奥の h 以外の摩擦音についてはすべて X の音韻を用いる。響字的には hɪnɔc は ʔɪnɔc と綴るべきだが、これらの言語では Xɪnɔc と綴る。また、ɪ では X すらないので h となる。つまり hɪnɔc と綴るし、ſch と綴る。　また、jz_lʃ には ɑ,u がなく ψ,∀ しかない。ulɪnɑ や euɪ の響字的な綴りは ∀lɪnɑ や e∀ɪ であるが、jz_lʃ と分かっている状況では ɑ,u で転写する。jz_lʃ には ɑ,u がないので混同はせず、jz_lʃ の ψ,∀ はどのみち ɩμ,ɪ では ɑ,u に転写されて入ってくるので問題ない。ただ、正確な音は ψ,∀ だとは覚えておくべきである。　響字の示す音声を示す場合は □ に入れる。例えば jzɪ の時代に uəſ と書けば読みは [∀ə̀] であるが、同じ綴りでも lʃ では [∀ɒ̀] となる。同様に ulɪnɑ,jz の発音は [∀lnɑ] となるが、ulɪnɑ,lʃ は [ʊlʰnɑ] となる。　響字が音声と同時に音韻を指したのは初期だけで、時代を経て言語が変化するに従って音声と音韻が乖離していく。綴りが残って音声だけ先走って変化するのは言語学の常識で、響字や竜字や理字でも同じことが起こる。　具体的な文字の順序について。　まず歯茎の ſ,ɑ が来る。　次に同位置の摩擦で j,z。　次に鼻音で n が来る。鼻音は n と ɒ しかないため、ここで先に ɒ を割り込ませてまとめる。　流音４つが頻度順に並ぶ。　前側の歯音に移って ʮ,ʑ。　後ろ側の後部歯茎で l,s。　前側の唇歯に移って ɑ,u。　後ろ側のそり舌で ɟ,§。余談だが、日本の §ɪdɪn は中国語のリーベンから来ているが、どうもこの音はリーではなくジーに近く、この § の音ではないか。とするなら響字で § となっているのはそれなりに音声的に合点のいく話である。両唇に行って d,b。　ここは摩擦の先にその他の音を割り込ませ、d の入破で ψ と、b のふるえで B。d,b と関連付けるために割り込ませている。　摩擦で ψ,∀。　硬口蓋で μ。　以降は後ろ側しか残らないので前後前後という均衡が崩れ、比較的前寄りの軟口蓋から順に後ろへ。　まず ʅ,φ。　その後イレギュラーだが、硬口蓋摩擦の ㄗ,ɥ が来る。順序が崩れているのは、ハイ系摩擦音をここから最後まで通すため。ɥ は調音点が同じなので覚えやすい。ㄗ が来ているのは幻字のデザイン的に μ を引っくりかえしたものが ɒl だからであって、ɒlə̀ の音とは関係ない。ただ、ɒl だと読者はドイツ語のｉｃｈなどと絡めて覚えられるかもしれない。　次に摩擦の ʔ,ɥ。幼少期のメルが hɪnɔc を ʅɪnɔc と言ってたのが懐かしいが、こうして ʔ という表記ができると音声学的にも現実的にも響字的にも合点がいく。　残りｈにかけて X,ɥ,h と進む。　母音は上述のように、前側から進む。　ccμe の c と cd の c は ɑu でも音声が異なる。ɑu で長母音と短母音は音声が異なる。ɑu の母音は５ だが、長短を区別すると１０弁別できる。あと５つをほかの文字で回す。　ちなみに ɑu や lj の場合、音声上では母音の長短を区別するが、音韻上では同一視する。従ってこれらの言語の響字では５つしか母音字を使わない。すなわち c, e, ɪ, ɔ, ə である。　・節字　→ hɪrl　節字は C V の音節文字で、仮名を想像すればよい。　無子音含め子音１９の母音５で、ここから μc と oə を引いた９３字が節字である。　そのほか撥音記号などが数点加わる。　響字のアンチテーゼとして作られたため、幼字が元になっているのは響字と同じ。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/veel.gif　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/veel2.gif　・竜字の数　ɟɒ でできた竜字は ɩμ の音素を反映して２９字である。子音２４の母音５である。　・竜字のデザイン　→ hɪrl（・ペンと筆、・デザインと国民性）　竜字は主に商人や役人がペンで繋げて書きやすいよう崩していったもので、地球でいうとアルファベットの筆記体のような崩れ方をしている。　繋がりをよくするために、左中央の高さに起点があり、右中央の高さに終点のある字が多い。起点と終点の位置を守るためにむしろ響字より冗長にする場合うちあるが、それは結局一文字一文字の合理性ではなく全体の書きやすさという合理性を活かした結果である。　ɑ のように変わらないもの、z のように繋げて書きやすくしたもの、ɒ のように回転させて書きやすくしたもの、T や X のように複雑に崩したものなど、崩し方は多彩である。　・竜字の配列　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/abram.gif　響字を元にしているので、文字の順序は響字と同じ。　ただし響字のうち竜字にないものはスキップすることになる。　音韻は ɑ,ɑu_μɑ と同じで２９。上でも述べたとおり、母音は音韻上では長短を区別しないが、音声上では区別する。ʅeeſ と ʅeſ では音が異なるが音韻は同じ。響字的にいえば ʅEEſ という発音でも、竜字の音韻上は ʅeeſ と表記する。　響字に比べ、そり舌がなかったり、h を除く ㄗ 以奥の摩擦音が X にまとめられていたりといった違いがある。　・理字の数　ɟɒ でまとめられた理字は竜字より１つ多い３０字である。子音２２の母音８である。　・理字のデザイン　→ hɪrl（・ペンと筆、・デザインと国民性）　理字は響字の一部を切り取ったいわばカタカナ的な文字である。　竜字と違い、繋げ文字前提ではない。ただし理字内に草書のような繋げ字風の書体は存在する。デフォルトではこのようなルーン文字を彷彿とさせるブロック体である。　竜字と独立した崩し方を発展させていったが、画数の少ない字の形など数に限りがあるため、竜字と同じデザインになった文字もある。　ただ、示し合わせてないので当然音は一致しないことがある。例えば x のような字形の文字は双方

にあるが、音が異なっている。混乱に注意したい。　・理字の配列　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/tiaram.gif　こちらも竜字同様、響字から理字に存在しない文字を落としていって文字を並べる。　竜字に比べてラ行が２つと少ない。ɑ,ɥ がないのが特徴で、代わりに ɸ,∀ がある。e∀ı（雪）は日本人なら日本語のまま「えぶぁ」と発音すればよい音である。　母音は竜字より多く、８母音ある。　・幻字の数　μɑ でセレンが作成した幻字はアルカの音を表す。　アルカは使徒が持ち込んだ様々な自然言語をまとめた最大公約数的なアポステリオリ言語である。ゆえに音素も最大公約数的になっている。　少なすぎず多すぎずなるべく共通性のあるものを選んだ結果、４音が捨象されて２５音となった。従って幻字も２５字で、それにシュワーなどが入る。　『アルカ』ｐ６５に『制定語彙』の音素（というか音声）が挙がっている。子音３８の母音１５で５３音。これは恐らく音声であって音素でない。　この数を神話上は何に使うかだが、μɑ でセレンがアルカを作るときに使徒の言葉を聴き比べ、彼らの口から出てきた異なり音声の総数とする。つまりアシェットを構成していた人間の言語の音声の総数である。音素ではない。　ここからセレンは音素を導き、その上で取捨選択をして２５音を選んだ。現実のほうは『制定語彙』から直接制の音素を選んだわけではないが、大体これに近いわけだからしっくりくる。この時点ではまだ ɑeeſeɑı がないので、響字をひっぱり出してきて、足りない音は響字を変えつつ対応したと思われる。つまりセレンは使徒の言葉を聞いて響字を元に音声を記述し、響字にない音は随時新たな文字を作るか響字に記号を加えるかして記述した。　こんなことをしていれば ɑeeſeɑı が欲しくなるのは必然で、どうりで共時言語学が発展したわけである。　・ɑeeſeɑı　響字の５０は響字参加国の音素の数であり、世界全体の音素や音声の数ではない。　そこで μɑ でセレンは幼字や幻字を元に包括的なＩＰＡに当たる ɑeeſeɑı を、調音音声学の観点から作った。　上述のように調音点と調音法についてはアルハノンの配列を参考にしている。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/amisofeet.jpg　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/vestofeet.jpg　・文字の比較　http://cid-dd6eff55a81cbf67.skydrive.live.com/self.aspx/arka/nod.gif

lcɒl ［名詞］サインペン ［レベル］3　1ʔ: 制 :lcɒl˥ɪz（繊維ペン）、ｆｉｂｅｒ ｔｉｐｐｅｄ ｐｅｎの訳か。

lcɒɟ ［動詞］ɣəl を ɪ に限定する、限定する、限る ［形容詞］限定的な、限定の ［反意語］μɪnl ［レベル］3　lɪ˥ɪ

lcɒɟɥɔl ［名詞］限定使用、専用 ［言語］限定用法 ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪɥbɪlelſ

lcɒɑel ［言語］音韻論、音素論 ［レベル］6　1L

lcɒdɪ˥ ［言語］音的発達 ［類義語］lcɒleſ ［レベル］6　J0: 音韻進化。音韻自体が進化するわけではない。

lcɒɥəl ［単位］テスラ、リミュク、人間ミュク ［レベル］6　1ɒ: 制 : 人間ミュク

lcɒɥəɒ ［単位］ウェーバー、リミュム、人間ミュム ［レベル］6　1ɒ: 制 : 人間ミュム

lcɒl ［化学］［被服］繊維、ファイバー ［レベル］4　1ʔ: 制 : 語源不詳

lcɒllccɒ ［化学］セルロース ［レベル］5　1L:μɥəə

lcɒlɑbe ［軍事］無煙火薬　μſ;/「繊維火薬」 JɒI ［文化］ φel

lcɒle ［化学］フィブリン　μſ;lcɒl/eſ。繊維状であることから。　JɒI

lcɒle(J) ［被服］カドガン　ɟɒ;「リムレ男爵の」 JɒI ［文化］ ɟɒ でできた男性貴族用のカツラ。

lcɒleſ ［言語］リムレット、音的発達、音的発達による語形成、変音 ［類義語］lcɒdɪ˥ ［レベル］6　J0:lcɒ/ 古 ɪl/ſe（音韻の物事に関する）［文化］ 音の一部が変化すること。

lcɒleɪb ［化学］フィブリノゲン　μſ;/「フィブリンの材料」 JɒI

lcɒɪɟ ［ユマナ］Ａサイズの紙 ［レベル］4　1L ［語法］ Ａ１は ˥ɔlcɒɪɟ。ＰＣ用紙としてよく使うＡ４が ɪɪllcɒɪɟ、書籍の一般的なサイズであるＡ５が lcnlcɒɪɟ。

lcɒc ［形容詞］［丁寧］綺麗な、華やかな ［類義語］lɪnſ ［レベル］3　古

lcɒc,ɑ. lɪnſ

lcɒcɑc ［魔物］リミディ（聖獣）: 第七十天：聖の否天 ［レベル］5　1L:μcɑcɪ/jeɥen/ɒel:lcɟ/ɒcɑı。母音調和 ［文化］ 象の形をした大型の魔物。温厚で攻撃的でない。

lcɒcɑceɥcɒ ［天文］スカート　1L:μcɑcɪ/jeɥen/ɒel ［文化］ リミディの心臓。心臓でさえ星のように巨大という伝説に基づくもの。

lcɒe ［動物］チンパンジー ［レベル］3　古 :lcɒe ← lczɒel（チンパンジー）。オヴィがチンパンジーを「ちびメル」と呼んだことから。当然メルが怒ったのでチンパンジーという語を純粋に使いたいときは彼女を怒らせないように隠語化して lcɒe というようになった。 ［擬声］ hɥeɥehɥe、˥ɥe˥ɥe˥ɥe

lcɒel ［親族］妹ちゃん ［レベル］2　1L:μcɑcɪ:lcɟ/ɪɒel ［語法］ ɒccɪ

lcɒel˥ɪ ［ユマナ］謹賀新年、あけましておめでとう、あけましておめでとうございます、あけおめ、ハッピーニューイヤー、ＨＡＰＰＹ　ＮＥＷ　ＹＥＡＲ ［レベル］4　J?:lc/ɒel˥ɪ

lcɒel˥ɪμſ ［ユマナ］年賀状 ［レベル］3　JɒI:lcɒeljel/ɪμſ

lcɒell˥ɪnſ ［ユマナ］お年玉、年始のプレゼント ［レベル］3　JɒI ［文化］ 日本の場合お年玉。世界の場合はプレゼントだったり色々。

lcɒeljel ［ユマナ］正月、お正月 ［レベル］4　J?:lc/ɒeljel

lcɒelɑc ［ユマナ］［単位］メートル ［レベル］4　1ɒ: 制 : 人間メルフィ

lcɒelbɪ ［ユマナ］［単位］キログラム ［レベル］4　1ɒ: 制 : 人間メルバ

lcɒel˥ ［ユマナ］［単位］リットル ［レベル］4　1ʔ: 制

lcɒelcɪ ［植物］リナリア、リメリア ［象徴］［花言葉］初恋 ［レベル］4　J.l:lccɒel ［文化］ 黄色は ɑcɪn までの初恋。白は純粋な初恋。ピンクは μecɥə 期の初恋。紫はそれ以降の遅咲きの初恋。

lcɒeeɥ ［名詞］処女、乙女 ［反意語］ɥclɑı ［レベル］4　μɑ;lcɒeeɥ,ɑ.heɒ　赤　lcɒeeɥ:lcɒeeɥ:lı ɣənɑcſe ［文化］ アルバザードは処女を尊ぶ文化で、処女が軽々しく捨てられたのは歴史的にヴェレイのみ。アレイユでは処女でなければまともな結婚は難しい。処女を判定する方法はないため、女子は悪い噂を立てられぬように生活するのが智恵。

lcɒeeɥ,ɑ. lɪɒ, lcɒeeɥ　e

lcɒeeɥbeel ［俗語］処女童貞 ［レベル］5　ıl;/　J?　［語法］ 処女とセックスしたことのない者を言う。他の男により若く美しい時期を食われ、中古品ばかり押し付けられてきた哀れな者というイメージで貶される。

lcɒeeɥhɪnɔc ［地球の国名］アゼルバイジャン　1L: 文化遺産「乙女の塔」から

lcɒeeɥr˥ɔɔſ ［俗語］処女厨 ［レベル］5　ul;/　J?　［文化］ ul から ɪl の処女率が低まったフェミニズムの時代に、処女を尊ぶ男性を卑下した言葉。この時代だけに使われた言葉で、処女性が重要視された時代ではそれがデフォルトなのでなんとも呼ばれない。

lcɒeeɥıſc ［名詞］処女性 ［レベル］5　J1

lcɒeeɥcɑı ［地球の星座］［ユマナ］おとめ座　JɒI ［文化］ cɑı

lcɑ ［形容詞］人工の ［反意語］lɪɑl ［レベル］3　1L:lɪɑl

lcɑlelſe ［物理］人工衛星 ［レベル］3　1L ［文化］ ʔɒɒI　ミロクのもとで初の人工衛星打ち上げに成功

lcɑɟɔɑn 人工事実。「嘘」と言うのを避けるために用いる一過性の戯語。　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

lcɑbɪ˥ɪl ［建築］文化遺産 ［レベル］5　μɑ;/　J?　［語法］ ɑcɪbɪ˥ɪl

lcɑlcɥɔ ［生物］人工生命 ［レベル］4　J1

lcɑleɲ ［工学］［電算］人工知能、ＡＩ ［レベル］3　J1

lcɑı ［植物］ザクロ、ざくろ、石榴、柘榴 ［レベル］4　1ʔ: 制 :lcɑ から

lcɑɪ˥ɪɑ ［地球の国名］グレナダ　1L: 国名がざくろ

lcɑc ［植物］バンザクロ、蕃石榴、ґґバ、ガバ、ґґアバ ［レベル］4　1ʔ: 制 : 石榴と似た実をつけることから。分類上は別種。フトモモ科。

lcɑcɪ ［植物］スモモ、李、プラム ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :lcczɑcɪ（小さなリディア）。このリディアは桃の意。

lcɑcɪn ［歳時記］清明 ［名詞］５時 ［組み数字］５／２４ ［レベル］3　J0: → ɪnlcɪn ［文化］ ɪnlcɪn

lcɑel ［人名］リデル ［レベル］5　J0 ［文化］（ɣəəɒı ʔALL:ɒɒɪ1Δ）アルヴェーテの教祖。ɣəəɒı ɒ001、レスティルの小都市 ɪμueſſe で lcɑel が ˥ɔddel と φclɑɔ（商工会）を設立。ɣəəɒı ɒ00J にアルヴェーテを作る。ɣəəɒı ɒɒɪ1Δ に連立した神商会とサルト教会との戦いで戦死。

lcɑel(J) ［音楽］シンセサイザー、シンセ ［レベル］4　J1:lcɑ「人工の」

lcɑelɒ ［医療］人工臓器 ［レベル］5　1L

lcɑelɑ ［言語］人工言語 ［類義語］leucɪn ［レベル］5　1L

lcφnı ［工学］［電算］ガジェット、小物、小道具 ［レベル］5　μɑ:μɥəə; ↓　古 :μɥəə:lccz/ɪμφnı

lcφμeſ uɪɑcc ［人名］リグレット＝ヴァフィー ［レベル］5　古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第３使徒。異性魔王。

lcφcl ［化学］アデノシン三リン酸、アデノシン三燐酸、ＡＴＰ ［レベル］5　μſ;lcɥɔ/φcl.˥「生命の金」 JɒI

lcdı ［名詞］ペンチ ［レベル］3　1ʔ: 制 :˥lcd

lcdı˥ɪj ［名詞］ニッパー ［レベル］4　μɑ;/「ペンチのようなハサミ」 J?

lcdɪɪu ［単位］ルクス、ルックス、人間パーヴ、リパーヴ ［レベル］5　1ɒ: 制 : 人間パーヴ

lcb ［生物］繊毛、線毛　μɑ;lccz（ここでは古 lccz なので小さいだけでなく細いとか細かいの意味）/bcl　JɒI

lcbeeze ［魔物］リベーゼ（黒炎鬼）: 第四十三天：火の否天 ［レベル］5　古 :lccz/beezel（小さなベーゼル）［文化］ ベーゼルを小型にしたようなアデル

lcz˥ə,ɪμ˥ lcc˥ lcz/ə「小さな生き物」

lczɒɔ ［政治］庁、リズノ。アルノン（省）の下位にある機関。 ［類義語］ɪμnɔn ［レベル］3　古 :lccz/ɪμnɔ

lczɒ ［生物］微生物 ［レベル］4　1L: 古 :lccz

lczɒlcɥzɔɒ ［環境］生物化学的酸素要求量、生物化学的酸素消費量、ＢＯＤ ɪl;/　J?　［語法］ 生物化学的酸素要求量は、生物化学的酸素消費量とも呼ばれる最も一般的な水質指標のひとつ。水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したもので、特定の物質を示すものではない。

lczɑcɪ ［俗語］ちっぱいぱん、チッパイパン、ちっぱい、チッパイ　μɑ;lccz/μcɑcɪ「リディアちゃん。ちっちゃなリディア」。リディアが大人になってもそのような体型の女性であったことから。厳密には完全な無毛ではないが、ほぼ申し訳程度にしか生えていないので。　JɒI

lczμɔ,ɟzɑ μı lccz/μəlclɔ

lczl ［政治］（都市の規模としての）村、里、集落→ ɟɪlıc ［形容詞］～の街。前置。 ［レベル］2　ɑu;lccz/μəlclɔ「小さな家」 1ʔ: 制 : 古 :lcczɥɪɥəlclɔ　lczl:lczl::jɪ˥ı,ılſ

lczlɪn ［名詞］村人 ［レベル］3　J0

lczlıc ［政治］公爵、デューク　ɟɒ;lccz/ılıc　JɒI ［文化］ 王家に連なるもの、またはそれに匹敵する大貴族。

lczɪ ［言語］暗号 ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :lcczɪ˥ə˥əlc（リーザの言葉）。先代アルカを意味する。

lczɪlſ ［政治］子爵、バイカウント、副伯、城伯　ɟɒ;lccz/˥ılſen　JɒI

lczɪleucɪn ［言語］暗号型人工言語 ［レベル］6　J.l ［語法］ 特定の集団で暗号として使われる言語。古アルカなど。

lcs ［形容詞］［ポジティブ］無邪気な、果実が若い、未熟な、幼い、幼少の、あどけない。天真爛漫、天衣無縫 ［形容詞］［ポジティブ］若いが食べるとおいしい。子牛など、若い方がおいしいものに使う。 ［類義語］cbeſ ［反意語］μɪz ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :lccs（あどけない）。メルが昔 lccz（小さい）という単語を発音できず、lccs（リージュ）と発音していた。セレンがそれをかわいいと思って、以降かわいいあどけないものを表現するのに「メルがリージュというように（"ɣə˥le ɒel ˥əl lccs"）」という表現を使った。その過程を経て、やがて lccs が単独で使われるようになった。

lcs˥ɪ˥ɪ ［法律］少年院 ［レベル］4　J0:μcɑcɪ:ɒcμɔ˥ ［文化］ 未成年用の刑務所。革命で廃止され、年齢による区別はなくなった。

lcoeɒjel ［ユマナ］バレンタインデー ［レベル］4　J?

lcl ［化学］元素 ［レベル］4　μɑ;lccl,l.j.˥ 1ʔ: 制 : 古 :lccl（元素）［語法］ 水素からローレンシウムまでは固有名がある。ローレンシウム以降は原子番号を使ってメルの読み方で命名する。文脈で分かる場合。lcl は省略する。　本辞典では lcl で見出し語検索をすれば元素が引ける。

lclɒ ［魔物］リルム（陰対）: 第九十七天：害の否天 ［レベル］5　1L:μcɑcɪ/jeɥen/ɒel:lcɟ/nılɒ。リアントと夫婦のようであり、リディアにとってアムルとナルムのように見えたため。 ［文化］ 鬼族。杖かロッドを持った女魔導師の姿をしている。白黒問わず高度な魔法を繰り出す強敵。常にリアントと一緒に現れる。

lclɑ ［単位］リルド、ベクレル。放射能の強さ。 ［レベル］5　古 :lclɑ「原子を壊す（lclɑzəl）」が原義か？ ［語法］ １リルドは一秒間に一個の原子崩壊を起こす放射能の強さのこと。

lclc,ılſ nɔn lclə

lclcɟ ［代詞］［ɒɒb］あなたたち ［レベル］1　1L:μcɑcɪ: こちらも lenı と事情は同じ。二人称に「の音が多すぎたため、ſcſcɟ を lclcɟ に弱化させた。「が l に弱化するのは ſee が leə になるのと同じ操作。ſcſcɟ はあなたを意味する古アルカの ſcɟ を重ねたもの。

lclcn ［代詞］［ɒɒb］あなたたちの ［レベル］1　1L:μcɑcɪ:lenı と lenın からの類推で、lclcɟ の ɟ を n にしたもの。

lclcn ucl ［人名］リリン＝ヴィッシュ ［レベル］5　古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第６使徒。異性魔王。

lclcɪ ［名詞］少女、女の子、リーリア ［類義語］ɒcn ［反意語］dclɔl ［レベル］2　J0:zɪnı/jeɥen:lc は「小さい」。lclc だけだと単語として座りが悪いとして ɪ を添加。 ［語法］ ɑcɪn と lɪz の総称。

lclɔ ［植物］たけのこ、タケノコ、筍、竹の子 ［レベル］3　μɑ;lccz/hɔlɔ「小さい竹→若い竹」 JɒI ［文化］ ɟɒ で ılſ から伝わり食用となった。日本ほどではないにせよ、日常的に食べられる。食物繊維は豊富だが消化に悪いため胃に悪い害食とされることもある。よく煮て柔らかくして食べよう。 ［用例］ ɪn ɣəlclıſ lclɔ c lıLın e sczɔl. ギターの先生から筍を頂いた。

lclɔſſe ［ユマナ］［電算］ＡＳＣＩＩコード ［レベル］6　J0: ユマナのロッテ

lclɔz ［化学］周期律 ［レベル］6　1L

lclej ［法律］［動詞］ɣəl にいたずらする、いたずらする、悪戯する ［普通動名詞］いたずら、悪戯 ［レベル］3　1L:lcjuılej ［語法］ セックスが目的だが、相手が機能不全でできないため、その手前で止まる行為。例えば幼女をレイプしようとしたが膣が狭くて入らないので性器を弄り回したような場合がこれに当たる。μɪs 以上 uılej 未満にあり、量刑としてちょうど両者の中間に当たるため、語彙的にも区別される。

lcleɑ ［化学］周期表 ［レベル］4　1Δ

lcla,ılſ lcj <>lccz

lclɑnıɑ ［単位］ジュール、リルナッフ、人間ルナッフ ［レベル］4　1ɒ: 制 : 人間ルナッフ

lclə˥ ［名詞］リルル ［レベル］3　μɑ; 古 lccz/ıl「小さい者」 J? ［語法］［文化］ μɑ でセレンが提唱した女の年齢区分。　セレンは陰毛が生え揃い、生理が来ており、小陰唇も発達した１４歳程度の少女も１９歳の女性も２５歳の女性もセックスした感じは肌の張りくらいしか違いがなく、性器の具合や匂いや味などは大差ないと述べた。一方、１１歳程度の毛が生えかけの少女は生理も来ているか来ていないか判然とせず、性器も未発達で、性器の具合や匂いや味が年長者と異なると述べた。また、９歳未満の少女や幼女に関しては更に性器の具合や味や匂いが異なり、女の匂いがほとんどせず、基本的に同年代の少年の味や匂いと変わらないと述べた。　つまり女体の具合や味や匂いなどはＪＳ、ＪＣ、ＪＫ、ＪＤと学齢ごとに変化していくのではなく、９歳ごろまでの幼女・少女期と、１４歳ごろまでの思春期と、それ以降に大別できると彼は述べた。そしてその分類を幼い順に lclə˥, ɣəənɔ, uın˥leſ と呼んだ。lclə˥ は性交に適さないが、無理強いすればできないこともない。またイタズラするだけの用途もある。この時期の少女と性交渉を持つことは希少であるため、セックスの快楽自体は三者の中で最低なものの、その希少性に価値があるとされる。　ɣəənɔ は人間の中で最も時期が短い。日本で言えばおおむね小４から中２までの時期で、短ければ小６から中１までしかない。一日で言えば夕方に相当する儚く短い時期で、時期が短いことから ɣəənɔ とのセックスは希少性が高いとされる。ただ lclə˥ に比べればセックスしやすい相手であるため、希少価値は多少下がる。しかし uın˥leſ との間には越えられない壁がある。ɣəənɔ は陰毛が生え始めてから生え揃うまでの短い期間で、人により時期が異なる。大人になっても ɣəənɔ のような見た目を持つ者もいる。　uın˥leſ は最もセックスに適する相手であるが、希少性がまるでない。食べごろではあるが、そこらに転がっているりんごと同じくらいの価値しかない。　結局のところ一度経験として味わってみたいのは希少価値の高い順なので、セックスするのが難しい lclə˥, ɣəənɔ, uın˥leſ の順になる。要するに男は lclə˥ とヤレば一番優越感を満たされる。希少価値が高い経験を有しているためである。ただし継続してセックスするなら lclə˥ はセックスに不向きな相手なので快楽はあまり得られない。lclə˥ や ɣəənɔ がいいのは最初だけで、「俺は lclə˥ や ɣəənɔ を食ったことがあるぞ」という優越感を味わうためのものでしかな

い。lcləl や ɥəənɔ はフォアグラみたいなもので、一度食べれば十分なもので、uınʌleʃ は米やパンのように常用するものである。　セレンの考えに反対する者もいる。彼らは学齢区分を優先し、制度上のＪＣとＪＫとＪＤの区別にこだわる。ＪＣでも uınʌleʃ なら女体的にはＪＤと肌質程度しか変わらず、また個人差も大きいのでＪＣでもＪＤ以下の体の持ち主もいる。にもかかわらず学齢厨はＪＣか否かにこだわる。セレンはそれを愚行とし、「様々な年齢の女体を味わってきた者にしかこの理論は実感できない」と述べた。大切なのは食ったのがＪＣかＪＤかではなく、ɥəənɔ か uınʌleʃ かなのだとセレンは主張した。　セレンは男は lcləl と ɥəənɔ を一度味わえば優越感は満たされ、男はセックスに手頃な uınʌleʃ に執心すると述べ、実際 uınʌleʃ を相手取ることが多かった。一度味わえば後は少女は面倒臭いだけと述べ、興味を示さなかった。　なお、これらは通常女性の年齢区分であるが、男性にもそのまま適応することができる。　この話は現実のセレンの女体観と女性経験を反映したものであり、現実での思想を μɑ に輸入したものである。セレンは個人的に ɥəənɔ の見た目で成長が止まったリディアや塾の元生徒だった元カノなど、幼い体つきで毛の薄いか無い uınʌleʃ を好む。

lcləəu ［単位］ワット、人間ルーヴ、リルーヴ ［レベル］4　1M: 制 : 人間ルーヴ

lcı ［接尾辞］～のもの ［レベル］5　J0: 古リュディア語 ［文化］ 古リュディア語の接尾辞で、lɔddelcı などに見ることができる。だが、それ以前に神ルカリア語の μəʌlılcı の地名にもその源流が見られる。

lcı(J) ［電算］サイバー空間、電子空間、電脳世界、電脳空間、ワイヤード、ネット世界、仮想空間、仮想世界　ıl;ɑcı と ɑcı と韻を踏むように lccz/ɑcı から作られた。　JM ［文化］ ıl 終わりから ls にかけてＳＮＳやネトゲなどの広まりにより、国民固有のＩＤの存在もあり、人は現実世界での自分とネット上での自分という２つの人生を歩むようになっていった。そこで意識されだしたのが現実世界に対するネット上の架空世界で、その世界のことを特別にリアという。アルバザード人は固有のＩＤに固有のアバターを付与し、そのアバターを第二の自分と考えることが多く、匿名性がある状態やコロコロＨＮを変えるようなことはそもそも ıl の時代からあまり好んでおらず、匿名性の高い ɥəɒcʃl などの掲示板は陰口を叩くためのストレスの捌け口として使われることが多かった。ls の革命でネットから匿名性が消えたことで、より国民は一人の現実世界の自分に対して一人の架空世界の自分という考えを持つようになり、リアは現実世界と同じくらい大きな価値観を占めるようになっていった。

lcıʌı ［地球の国名］オーストラリア ［レベル］4　古 : 小さい大地

lcıɟ ［化学］分子 ［レベル］4　1?: 制 :lccɟ。「原子の集まり」が原義。

lcıɟucın ［化学］分子間力 ［レベル］5　J0

lcıɟbɥə ［化学］分子量 ［レベル］5　1L

lcıɟbʌlʌl ［化学］分子コロイド ［レベル］5　1L

lcıɟleed ［化学］分子構造、分子構成 ［レベル］5　J?

lcıɟɹlʌ ［化学］分子数 ［レベル］5　1L

lcın ［物理］放射線 ［レベル］5　1L:1M:lcʃınʃ

lcınʃ ［魔物］リアント（陽対）: 第八十八天 : 利の否天 ［レベル］5　1L:μcɑcı/jeμen/ɒel:lcɟ/lınʃcɟ。否天族として lc の接頭辞であって、小型という意味ではない。lınʃcɟ は古アルカで人間の意味。 ［文化］ 鬼族。剣と盾を持った男剣闘士。武器は槍や斧のバージョンもある。常にリルムと一緒に現れる。

lcınʃɑμec ［天文］アルキオーネ　1L:μcɑcı/jeμen/ɒel ［文化］ ライファの牢獄の中に閉じ込められたリアントの剣。

lcındcʃ ［環境］放射能汚染 ［レベル］6　1L

lcını ［形容詞］半虚構の、半架空の、半現実の、サイバー上の、ネット上の ［名詞］半虚構、半架空、半現実、サイバー上、ネット上 ［類音］ɑcını、ɑcını ［レベル］2　ıl;lcı/nı　JM ［用例］ ın ʃcl ʃcın ɑcını, ʃcın lcını, ʃcın ɑcını. 現実にもネット上にも空想の中にも彼女がいる。

lcınenuc ［物理］放射能 ［レベル］5　1L

lcıɒ ［経済］［動詞］ɥəl を ı に繰上げる、繰上げる、繰り上げる、前倒す ［普通動名詞］繰り上げ、繰上、くりあげ、前倒し ［反意語］μıcn ［レベル］4　@ 1L

lccʃ ［料理］香辛料、スパイス ［レベル］3　1?: 制 :lccʃɔ。「良い匂い」が原義。　::ı lclle

lccʃhɔlʃ ［音楽］クラッシュシンバル ［レベル］6　J1: アクセントに使うので香辛料

lccʃɔ ［形容詞］良い匂い、かぐわしい、香る ［名詞］香り、良い香り、芳香 ［類義語］μınʃɔ, lclle ［反意語］beeb ［レベル］2　ɑ;lcɒc/ʃɔ「鼻に美しい」 赤 ［用例］ lccʃɔ e ɒccnı ɔμ ɒclɒ ʌı scnı. 花の香りが辺りに満ちていた : ɒclɒ なので ınɑ や ej でなく ɔμ でよい。

lccʃɔʌıɔ ［名詞］アロマポッド、アロマディフューザー ［レベル］5　J0:ɒelcɑcı lceμ

lccʃɔɟ ［名詞］健康年齢 ［類義語］lculeɟ ［レベル］4　JJ:lculeɟ/ʃɔlcɟ ［語法］ lculeɟ

lccʃɔn ［植物］ジャスミン、ウィンタージャスミン、茉莉花 ［伝統色］ジャスミン。だいぶ地球のジャスミンの色定義と異なる。 ［レベル］3　1L:lccʃɔcn ［文化］ アルバザード人お気に入りの植物。花は可愛いとされ、匂いもかぐわしいとされる。茶として飲用されるほか、風呂のバスクリンとしてラベンダー同様好まれる。　科学の教科書に匂いの元が載っているため、理系の学生は実は香りがスカトールと知っていて素直に好きになれない。

lccʃɔneleʌl ［料理］ジャスミンティー、ジャスミン茶、茉莉花茶 ［レベル］4　μɑ;/　J?

lccʃe ［名詞］マユとユンクの総称、リーテ ［レベル］2　J1:lclcı/ʃe ［文化］ ɑμecnʃ

lccʃen ［歳時記］大寒 ［名詞］２４時 ［組み数字］２４／２４ ［レベル］3　J0: → ınlcın ［文化］ ınlc ın

lccʌ ［名詞］細菌、菌 ［生物］真正細菌、バクテリア、細菌 ［レベル］3　nɑ;lczʌə　1L:μcɑcı:ıμbıl elʃ ←赤 :lczʌə（菌） ［語法］ ３ドメインの１つ。真正細菌と細菌は同じとしている。 ［文化］ → uıcn　細菌はウィルスとは違うが、何か小さいもので、病気になるものだと考えている。消毒したり石鹸で手を洗えばおおむね取れると思っている（これは正解）。何かとりあえず汚いものだと思っている。３ドメインの１つだということはふつう知らない。なまじ語源が菌類と同じなので、キノコも細菌で汚いものだというイメージがある。人によっては乳酸菌とキノコを同じようなものと捉え、「食べられる細菌」くらいに思っている。　語源では細菌も菌類も同一視されているが、細菌は真核生物ではなく、菌類は真核生物である。細菌はドメインのタクソンであり、菌類は界のタクソンであり、レベルも異なる。

lccʌlɒeʃ ［医療］抗菌、殺菌、除菌。日常的には区別なし ［レベル］3　1L

lccl ［形容詞］スパイシーや香辛料のほどよく効いた ［レベル］3　1?: 制 :lccʃlɔc

lccɟ ［名詞］リース。エタットの反対。おとなしめの人 ［レベル］2　1L: 赤 :lccz（小さい） ［文化］ eʃıʃ

lccɟcı ［地名］メテの使徒リーズの支配地 ［人名］クリスのアルカ姓 ［レベル］5　ʌlʌɔ

lccɟcı(J) ［アトラスの国家］リーシア ［レベル］4　ʌlʌɔ ［文化］ 面積 : ʕΔ0MM9.9Δ0ΔL9 ɔɒ ⌋

lccne ［組み数字］１７／２８ ［交通］リーネ通り ［レベル］2　JJ

lccne uıɑcc ［人名］リーネ＝ヴァフィー ［組み数字］１７／２８ ［レベル］2　古 : 語源不詳。uıɑcc は「槍が嫌い」。 ［文化］ (J →) 第４期４代ソーン第３使徒。男性。jeeʃ。１７０ｃｍ、５８ｋｇ。髪は黒で背中まで届き、直毛でひとつに結いている。黒の瞳で、左目に眼帯をしている。肌は白 : 黄＝２ : ８。よく灰色の袴を履いている。

lccu ［魔物］リーヴ（雷猫）: 第五十二天 : 雷の否天 ［レベル］5　1L:μcɑcı/jeμen/ɒel:lcɟ/cluı ［文化］ 獣族。雷を身にまとった大型の山猫。動きが俊敏で、爪で引っ掻かれると感電する。素早い動きを見極められるかが勝利のカギ。

lccunɔz ［天文］かんむり座と同じ星座線のつらなり　1L:μcɑcı/jeμen/ɒel ［文化］ リーヴの爪。

lccue ［人名］リーヴェ。lcuμeμ の愛称　J1

lccueμ ［丁寧］声、聲、リーヴェル ［類義語］lcu ［レベル］3　J0:lcuμɔ。声には魂が宿るという考えから。

lccɑ ［名詞］若者、少年少女、青少年、若いの、お若いの ［レベル］2　1L:ɒelcɑcı ılʃe:lcɑ ［語法］ → ıɒ　漢然と１０代を指すが、話者が５０代なら２，３０代を指すこともある。

lccɑı ［天文］星 ［名詞］二枚目。見た目に華を添える役。 ［名詞］スター、アイドル ［レベル］2　ɑ;「小さい炎」 赤 lccɑ:lccɑ:lı ɑıμınɑcμ:ɒcɟı,ılʃ ［語法］ 願い事を祈る習慣はない。星座は悪魔を封じた牢獄。 ［用例］ lccɑı ɑc lıʃ sın. 空に星がたくさん出ていた。　lccɑı ɑc ıʃ ɑlcd ʌı sın. 空で星がたくさん輝いていた。（きらきらしていた） ın ılʃ lccɑı. 星の数を数えた。lccɑı eʃ lınʃ cɒ ɑcɟ. ʃə eʃ ɒın lelʃ jcl ɒɥəlı cɒ ʌejʃ jec. 今日は星が綺麗だ。明日月が新月になるからだろうか。

lccɑı(J) ［名詞］リーファ、リーファ隊、ミロク親衛隊 ［組み数字］5 ［レベル］4　古 :lccɑı の名は星から来ている。星（lccɑı）の古アルカの字がペンタゴンの形であり、リーファ隊が５人でできているため。 ［文化］ ミロクの参謀を務めた５人の執政官。ミロクの絶対的な信望者で、敬虔なアルティス教徒。ミロクの改革の主だった内容を実行した。５人はミロクを囲むように立ってミロクを守っていた。その立ち方が星型をしていたため、リーファと名付けられた。リーファは女が３人で、男が２人。全員本名は別にある。例えば ılɟɔn の本名は uelɑ μne ɑμecφclɑ（朔夜）。彼らはそれぞれ自分の得意分野を持っていた。財政を担当するのは ɒcμφc（神の金）で、几帳面な女性。布教や広報や外交等を担当するのはカリスマがあり雄弁な hınej（広めるもの）という男性。法と異端者の取り締まりを担当するのは ʌıjın（ıl/ʌıjı から来ていて法の重ねを意味する）という男性で、徹底派で強硬であったために人々に恐れられた。事務を始め書類の処理や政策の調整など、多岐に渡る範囲を担当するのは ııle という女性で、大人しく真面目。改革の実行全般を担当するのは ılɟɔn（jɔ/ɟɔ から来ている）という女性で、特に多忙であった。例えば街を作りかえるという改革がでれば建物を壊したり移したりし、土地を整備して建設する。ミロクがどこそこに水道を引くといえば水道も引く。山が邪魔だといえば切り崩す。鉄道をといえば鉄道を作る。そういった指揮を全て行ったのが ılɟɔn であった。ılɟɔn は精力的で男勝り。　リーファ隊は軍事を担当するものがいない。ミロクが代表で担当し、ハネスとカサンとアルソンがそれを主に支えていた。軍部の財政や事務についてはミルギとアーシェが担当した。ゆえに軍事は全員で行ったといっても過言ではない。

lccɑɟ ［アイテム］リーファス ［天文］星屑→ ʅleılccɑı ［レベル］4　μcɑcı: 古 : セレンがリディアの髪飾りに名付けた lccɑɟ（星の砂）を流用したもの。lccɑɟ は lccɑ/ɟ（星 / 砂） ［文化］ ヴァストリアの１つ。リディアのもつ髪飾り。最強の黒魔法ライファを使えるようになる。

lccɑɟcel ［天文］星空 ［レベル］3　JJ ［用例］ lccɑɟcel lcʌı 満天の星空

lccɑɟel ［ユマナ］平日 ［名詞］休日に対する平日（各個人ごとに異なる） ［類義語］lecɒjel ［反意語］ncınjel　1L ［語法］ 地球の平日のことで、アトラスの平日は lecɒjel という。

lccɑıɒɒ ［組み数字］リーファサークル、五人衆、五人集、五人囃子、五大頂、五稜郭、五虎将、五賢帝、五芒星、五本指 ［レベル］5　J1 ［文化］ μıdılʌ

lccɑıdıɑl ［地球の国名］ベネズエラ　1L: 国旗に星のアーチ

lccɑıμecn ［地球の国名］モロッコ ［レベル］6　1L: 国旗に星状の線

lccɑıeμn ［天文］星系 ［レベル］4　J?

lccɒ ［格詞］～しない限り、～しないかぎり ［レベル］2　1L:lcɒɟ から。lcɒ だと cɒ と混同するので母音を伸ばした。ｕｎｌｅｓｓに当たる単語は制のはじめにしかなく、ずっと使われなかったが、ɔl en jɔ とはニュアンスが違うということで、復活した。 ［用例］ ın ʌe elɑ lccɒ ʃc ʌe. 君が行かないなら僕も行かない。

lccɒel ［普通動名詞］初恋、リーメル ［動詞］ɥəl に初恋する、初恋する ［類義語］lıɒhıʃcı　JJ: ［レベル］3　古 lcɒeel ［文化］ lcɒelcı ［用例］ lccɒel lccı 甘い初恋　ɒcuı ılı ʌılɒı lccɒel ʌıın nɔzeʃ. 娘の初恋の相手というのはたいていが父親だ。

lccɑ ［地学］礫、れき、つぶて ［レベル］3　J1:lccz/ɑɔl「小さな石」

lccb ［化学］香料 ［名詞］ɑu;lccʃɔ/φııbe ［レベル］4　J?

lccbe ［植物］花、華、樹花、木の花、木乃花、樹の花 ［類義語］ɒccnı ［レベル］2　ɑ:jıı;e　赤 lccbe:lccbe:lə ɑlıns（樹花が男性で草花が女性）: jını,ılʃ ［語法］ ɒccnı

lccɥə ［名詞］リーユ、弟子 ［反意語］ıμjı ［レベル］3　J0:lccz nıɥə（ナユ嬢）。神話ではユルグがナユからとってこう名付けた。

lccμɒı ［単位］ヘンリー、リールマ、人間イルマ ［レベル］4　1M: 制 : 人間イルマ

lccμeʃ ［単位］ボルト、リーレット、人間イレット ［レベル］4　1M: 制 : 人間イレット

lccz ［人名］リーズ ［組み数字］３/１５ ［レベル］4　ʌlʌɔ: 古アルカでの意味は「小さい」 ［文化］ メテの第３使徒。

lccz(J) ［人名］メルの幼いころのあだ名　古 :lccz

lccz(?) ［形容詞］～ちゃん ［形容詞］～さん。物につけて指小辞として用いる。「わんこさん (lɔɒ lccz)」「にゃんこさん (ənc lccz)」などのように。 ［形容詞］～さん、～君。教師が生徒を呼ぶときに使う呼称。男女問わないが、男子に使う場合、学齢が小さいうちが無難。見下しているのではなく小さい可愛いものとして親しみを込めて使うものなので、学齢が上がっても使って良いのだが、幼く見られていると感じて相手が嫌がる場合がある。 ［類義語］jın, ləı ［レベル］1　古 ［語法］ → ıdʃ, ejʃ　○名（後置）　○姓（前置）　○女　　苗字には前置、名前には後置。　少女に対して、もしくは可愛いと思っている女性に対して使う敬称で、「ちゃん」にあたる。ふつう年下が年上に使うことはないが、メルは ɥənʌ とともにクミールに対し用いている。より公的なのは ɥənʌ なので、lccz を使うときはわりと個人的な会話においてである。メルがクミールに lccz を付けて呼ぶのは誤用ではなく、クミールとメルが対等な友人であることを示している。　また、古アルカでリーザが使徒を呼ぶときに lccz（小さい人）と愛称としていた用法もある。リーザのような年上の教師に限定された用法。従って、lınlı と対応するときだけ使う。この際は相手が男子でもＯＫ。「ちゃん」で覚えるとこの用法を見落とすため、語源に注目したい。　少年に使う場合は「小僧」というニュアンス。

lccz,ɑ lcɟ e

lccz ʃɔlcı ［娯楽］としあちゃん ［レベル］3　J1:ʃɔlcı は ılʃ ［文化］『ちびまる子ちゃん』に相当するアニメ。

lczzsc,ɑ ɒcns lccz/sc

lczzlınje ［政治］準男爵、バロネット　jɒ;/　JM ［文化］ 男爵の下で、貴族に含まれる場合もある。

lczzlcl ［化学］プロトアクチニウム　1Δ: 制

lczzlccz ［人名］メルの幼いころのあだ名　古 : 小さいという意味

lczzlccz(J) ［歳時記］リーズリーズの日、子供の日、こどもの日 ［レベル］3　古 ［文化］ → ɑlın ɑcɟʃ　メルの月メルの日の祭日。子供の成長を祝う日。アルバザードにおける子供の日のようなもの。１０歳まで祝う。lızıl になると行わない。

lczzı ［組み数字］１４／１４ ［レベル］3　古 : 語源不詳

lczzʌlıɑ ［地球の国名］エストニア ［レベル］6　1L

lczzıɒɒ ［組み数字］リーザサークル ［レベル］5　J1 ［文化］ μıdılʌ

lczzıμle ［丁寧］［親族］おまごさま、お孫様、男のお孫様、リーズアルシェ ［レベル］2　J1: 小さな勇者 ［文化］ lıılı

lczzılcl ［化学］ルテチウム　1Δ: 制

lczzı ləʃcı ［人名］リーザ＝ルティア ［組み数字］１４/１４ ［レベル］3　μɑ　古 : 語源不詳 ［文化］ eɟʃ ＜現実＞ (–J0 zın dıl_) 第４期３代ルシーラ・エ・アルシェにしてリディアの実母。＜オーディン＞ (–J0 zın dıl_) μɑ におけるルティア女王。リディア＝ルティアとミリア＝ルティアの実母。第４期３代ルシーラ・エ・アルシェで、テームスの封印を強化した。　リディアの母。身長１６２ｃｍ、４９ｋｇの細身。ふわふわした天然パーマの金髪の持ち主。年齢を重ねてからは少し染めているらしい。黄色人種の入った白人。非常に美しい。おっとりしていて優しく、からかわれやすいが、怒ると怖い。怒鳴ったりはせず、静かに怒るタイプ。童顔で、４０代になっても２０代のように見える。肌も若々しい。行動が子供っぽいところがあり、あどけないところがあり、悪戯げな微笑みをよく浮かべる。綺麗で可愛い。カネボウのＳＡＬＡのような、バラのような、ＦＦ６のサントラＣＤの容器のような香りがする。容姿とは裏腹に肝が座っている。戦闘術に長けるが、リディアやユーアほどではない。知的だが、リディアやメルほどではない。カリスマ性はセレンが知りうる限り誰よりも高い。セレンが子供の頃から憧れてきた女性。　・『ミールの書』より　ミールは担任のリーザの事を慕っていた。彼女は入学当時からまるで母親の様にミールや他の生徒を可愛がってくれており、ミールも彼女の気持に応えていた。彼女は優しい雰囲気を身体から発しており、その柔和な笑顔で微笑みかけられると嫌な気持ちがどこかに消えてしまう。綺麗で聡明でミールの憧れの霊人だ。しかし、性格は意外におっちょこちょいだから見ていると頼りなげではらはらさせられるが、素直で可愛げがあり悪意というものが感じられない所がそういった欠点を隠している。ただ、そういう性格にもかかわらず彼女の聡明さには息を飲むものがあった。専任教師を務めている時点で聡明な人格者であることは疑いないのだが、彼女が他の専任教師と比べて飛びきり明晰な頭脳を持っている事はミールや他のクラスの生徒から見ても明らかであった。 ［成句］ lcczı ɔ ɥəəı 鴛鴦の契り、比翼連理

lczzı ləʃcı(J) ［人名］リーザ＝ルティア ［レベル］4　Is　JJ ［文化］ (ʔΔ0_)　風花院 ɑlınse の女主人。

lczzc ［魔法］リージ。光の高位白魔法。　ɑu;lccz/c「小さいものを見る」 J? ［文化］ → uıcn　ʃɒ で開発された魔法。顕微鏡と同じ効果があり、小さいものを拡大してガラスや水面などに映し出すことができる。これによりカルディアではウイルスなどの存在が地球より早く見

つけられていた。

lccze ［名詞］縮小 ［動詞］ɥəl を ɪ（大きさや倍率）まで縮小する、縮小する ［反意語］˥ɪɒɲ ［レベル］3 ʃ0: 古 lcczʃ/ſe（小さい感じの）

lccze(ʃ) ［人名］リーゼ姫 ［レベル］4 ʃʃ ［成句］ hɪɪɲ ɯɪnſ e lccze 綱紀粛正

lccze,ɟzɟ ſc(uc˥ ɪdcɪ ɒcn) ‹ lccz

lcczeſ ［美容］エアウェーブ ［レベル］5 ʃ1:lcczɪ/ſe

lcczen ［名詞］縮小されたもの ［電算］サムネイル、サムネイル画像← lcczecl(ſɪ ［レベル］4 ɲɑ;/ | ɪl ʃʃʃ

lcczedɪl ［地学］縮図 ［レベル］4 ʃ1 ［用例］ lecɪſe eſ lcczedɪl e ɑcɪ ɑɪ. 本屋は世界の縮図である（jeɲen ɪɲbɪzɪɲɑ）

lcczel ［アトラスの国家］リーゼル ［レベル］3 1L:lcczɪ ［文化］ 面積：ʔ9Δʔ0ʃ0Δ.9ʔ1L?? ˥ɒ ˩

lcczelſcle ［地学］リーゼル海流 ʃʃ

lcczecl(ſɪ ［電算］サムネイル、サムネイル画像→ lcczen ［レベル］4 ɪl;/ ʃʃʃ

lccs ［幼児］［形容詞］～ちゃん、～たん、りーじゅ ［類義語］lccz ［レベル］1 古 :lccz をメルが言えずに lccs と言っていたことから ［語法］ → ɪdſ, eɟſ ○名（後置） ×姓 ○女 幼児語だが、大人もふざけて使う。「「メルたん」って言って」"ɪə┤ɪl ɒel lccs"（メルの 1ʃʃ 年における実際の発話）

lccs,ɑ ʃʃ elſ;lcczsc.˥

lccl,ɪɲ˥ ɲɪcl 「小さいもの」

lccl,ɪɲɑ ſcjc lccz.˥

lccɪ ［代詞］［dɔ˥b］僕たち ［レベル］1 ʃ1:e˥eſɔne:lce（奥に引っ込んだ）

lccɪn ［代詞］［dɔ˥b］僕たちの ［レベル］1 ʃ1:e˥eſɔne:lccɪ/n

lcɔn ［単位］ギガ ［レベル］4 ʃ1:lcɑcɪn

lce ［名詞］奥 ［格詞］～の奥に ［レベル］2 1ʔ: 制 :lcɔ:1ʔ: 制 : 古 :lɥɪ（近い）,lɥə（遠い）だったが、アルカ・エ・ソーンの影響で順に ɪſəə,ɪləə になった。一方、lɥɪ と lɥə は手前と奥を指すようになった。 :::hcɒeɪə,ɪlſ ［用例］ ſɔ ɪ˥ lce ſə ɑɔnſ jecʁ この道の向こうに何があるんだろう。

lce˥əɔjcɪs ［言語］軟口蓋 1L

lce˥əɔjcɪsɑɔ ［言語］軟口蓋音 1L

lcen ［接続詞］lce ［レベル］3 ʃ1

lceuejn ［言語］奥舌 1L

lceɑcl ［形容詞］奥深い、店舗などが入口から見て縦に長い ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

lceɑcɔ ［生物］奥歯 ［レベル］3 1L

lceφɪeɑɔ ［言語］後部歯茎音 1L

lceɲuɪ ［魔物］リエルヴァ（水精）：第十六天：水の否天 ［レベル］5 1L:ɲcɑcɪ/jeɲen/ɒel:lcɟ/eɲuɪ ［文化］ 若く美しい女の体をしているが、材質は肉でなく水。何にでも姿を変えることができる。森林部に多い。体を水に変えつつ獲物を抱いて、溺死させる。

lcez ［建築］講堂、ホール ［レベル］4 1L:ɲcɑcɪ:ɪɲbɪleſſ:lce/ez ［語法］ 典型的には体育館のように広くて深く、屋根の高い、音響のいい場所。 ［文化］ 学校では、入学式などの集会を行うために独立して存在する。形は特に決まっていない。 ［用例］ lcez ˥ɪc{xhɪn} 広いホール

lɔ ［動詞］ɥəl を思う、思う、考える ［名詞］思考、考え、思い、想い、意見、見解、アイディア ［類義語］alɔɲɪ、ɲɪɑcɟ、ɒcɟ ［反意語］nɪ ［レベル］1 ɑ;e 古 :（頭、考える） lɔ:lɔ:lə ɒcɟ ［語法］ lɔ の内訳が alɔɲɪ と ɲɪɑcɟ で、lɔ の対が nɪ。 lɔ は「思う」で nɪ は「感じる」。頭と心の差。 lɔ のうち、思案するものが alɔɲɪ で、情報を組み立てて思考するものが ɲɪɑcɟ。 lə˥leſcɪ では alɔɲɪ は脾を傷めるとされている。つまり思い悩むと胃を壊すということを意味する。このことからも分かるように、alɔɲɪ は nɪ delɟ に近い要素も持っている。 ［文化］ 手を顎に当てて考える仕草は共通。

lɔ,ɑ ɔɟn, lɔ e

lɔ,ɪlſ ɲɪ pəlclɔ.lcɔ

lɔſ ［名詞］範囲、内側、ゾーン ［名詞］内野 ［動詞］ɥəl を ɪ に当てる、ɥəl を ɪ の範疇に収める、当てる、あてる、中てる、命中する、カバーする ［弓道］中てる、中たり、的中 ［数学］変域 ［野球］ストライク ［格詞］～の範囲内で ［反意語］leɟ ［類音］lcſ。lɔſ と lcſ は由来は異なるが意味も音も似ている。旧 ucſ と ucɑ は末子音だけの違いなので区別が難しかったが、こちらは母音なので聞こえが高い。逆に意味も音も似ていることを巧く使って詩的な表現が可能だろう。 ［レベル］2 1L: 制 :lɔlſ。よく使うので短くした。 ［用例］ lɔſ hɪnʖ{lɪc} 広い範囲。広範囲。範囲が二次元なら hɪn を、三次元なら lɪc を使う。 senſ epɪſɔɲ ɲɪſ lɔſ ɑɔə jel. ここ何日かの間に天気は良くなってきた。 lɔſ ɑɔə ɒcu この数時間の間に

lɔſ(ʃ) lɔ/ɪſ

lɔſſe ［電算］ロッテ文字コード、ロッテコード、ロッテ ［ユマナ］アスキー、アスキーコード、ＡＳＣＩＩ ［レベル］6 ʃ0: 圧力印刷 ［文化］ cɒəl 1ʃ0ʔ にリュウが文字コードを開発し、7 ビットによる 1 バイト文字を作成した。当初このコードは hɪd˥nɔlſ と呼ばれていた。 1ʃ1J 年にパールがタイプライターを発明したころから、この文字コードは lɔſſe と呼ばれるようになった。 現代でも最もカルディアで普及している 1 バイト用の文字コードで、アスキーコードに当たる。

lɔſj ［名詞］鍵（けん）、キー、ボタン ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɔſ からの推移

lɔſjdɒeſɪn ［名詞］タイピスト ［レベル］4 ʃ0

lɔſjdɒeſɪɲ ［電算］タイプライター ［レベル］5 1ʃʃ: 制 ［文化］ cɒəl 1ʃ1J にリュウの助手をしていたパールが、コンピュータ用に使っていたキーボードを元に発明。印刷機がなくてもすぐ印刷できる画期的な機械だった。

lɔſuɪj ［軍事］内戦、内乱、内ゲバ ［レベル］5 ʃ0: 国境内勢力の戦い

lɔſɑɪcɪl ［地名］［交通］都内 ［レベル］3 ʃʃ ［文化］ アルナ県内という意味。

lɔſhɪnſ ［数学］内積 ［レベル］5 1L: 2 つのベクトルの内側の角度の余弦を使うので lɔſ、2 つのベクトルをかけるので hɪnſ を使っている。

lɔſɪ ［名詞］ポンプ ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɔſ（押す）

lɔſɪcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ポンプ座 ʃʃʃ ［文化］ cɑɪ

lɔſcl ［動詞］ɥəl を想像する、想像する、イメージする ［レベル］3 古 :lɔ（頭）/ſlcl（持つ）から。

lɔſen ［接続詞］lɔſ ［レベル］3 ʃ1

lɔ˥ lɔ/c˥

lɔ˥ſ ［名詞］パズル ［レベル］2 1ʃʃ: 制 : 古 :lɔ˥lc ［成句］ ɥən pɥəə uɪlſ lɔ˥ſ まるでリュウがパズルを解くように：快刀乱麻を断つ lɔ˥ſ e ɒccɥ 理路整然

lɔ˥ſſlecj ［芸術］パズル絵、謎解き絵 ［レベル］3 ʃ0 ［文化］ 謎解き絵や騙し絵のような、絵自体がパズルの性質を帯びているもの。絵の描いてあるパズルはジグソーパズルで、lecjlɔ˥ſ。

lɔ˥j ［動詞］ɥəl（場所）を泳いで ɪ まで行く、泳ぐ。移動様態動詞。 ［普通動名詞］水泳、海水浴 ［反意語］ɒeſſ ［レベル］2 1ʃʃ: 制 : 古 :le˥e。造語者セレン。9 年にクミールが「私は泳げません」という意味で "nɔn ɑen lə˥ɔen ˥eɲ eɲcɪ." といったことがある。「私は水に入ることができない」という意味である。クミールはアルカを覚えたてであったため、このような言い回しをしたのだが、基本語を組み合わせて十分意志を通じることができるということに改めてセレンは驚かされた。そこで次のアルカ改定（L 年の第 3 改定）の際に eɲcɪ˥eſſɪ（泳ぐ（水を行く））の代わりに le˥e という語を提唱した。全員 eɲcɪ˥eſſɪ という語の長さにはうんざりしていたようで、すぐに広まった。尚、le˥e というのは lə˥ɔen ˥eɲ eɲcɪ 頭字語である。 ［文化］ アルナは海なしなので水泳は発達していない。川か湖で泳ぐ。湖の方が広くて流れもないので好かれる。また、川はアルバザードは流れが緩やかなので日本ほど危険もない。流れのない湖や流れの弱い川での泳ぎなので、泳法はゆるやかで、ダイナミックさにあふれたものではない。どちらかというとタイムより遠泳重視である。遠泳重視であるがゆえに、ジョギングなどと同列の健康効果を期待される。また、水中ウォーキングも行われる。ウォーキングが盛んなので水中ウォーキングも人気がある。水中ウォーキングは水泳に比べると日本では下火だが、アルバザードでは水泳に匹敵する。水中は水の抵抗が少ないのでリハビリにも役立つ。ただ、水温が冷たいのがよろしくない。腹を冷やすと抵抗力が落ちて風邪を引きやすくなる。アルティスは教理に体を冷やすなというのがあるので、体を冷やすのは好まない。そこで温水プールが作られた。アルバザードのプールは温水である。冷たいプールはない。プールはジムにある。 ［用例］ ɪn jccnɪ aleɪ dɪn ɪn lɔ˥j jen ˥ɪ ſɪnſ. 外で泳げるので夏が好きだ。 ɪn lɔ˥jɪſ ˥e lɪnɪ ɑɔnl hɪɲſ. 暑気払いに泳ぎに行った。 ɪn lɔ˥j uɪn ˥ɪ ſceɲ cɒ ſə aleɪncɪn. 今年の夏休みには海水浴に行くつもりだ。

lɔ˥jɟɪb ［被服］水着 ［レベル］2 ʃʃ

lɔ˥jɪn ［名詞］泳ぐ人 ［レベル］2 1L:ɲcɑcɪ:ɪɲbɪleſſ

lɔ˥jɔɒ ［名詞］泳法 ［レベル］3 1L:ɲcɑcɪ:ɪɲbɪleſſ

lɔ˥ɪj ［被服］ロカス、角帽 ［ユマナ］ナースキャップ ［レベル］4 ɲɑ;/「頭の三角」 ʃʃ ［文化］ 学位が与えられた人間に与えられる帽子。形は地球のナースキャップと同じ。

lɔ˥c ［動詞］ɥəl を理解する、理解する、分かる、解かる、判る、解る、分る、わかる、頭で理解する ［レベル］2 ɑ;「頭が動く」 古 :lɔ˥c lɔ˥c:lɔ˥c:lɔ˥c ［成句］ lɔ˥c ɥən beezel ベーゼルのように理解する。早とちりする、はやとちり。 lɔ˥c jen ˥ɔn cl(ɪ hɔſ 一目瞭然

lɔ˥cɪn ［名詞］理解者 ［レベル］2 ʃʃ

lɔ˥cenuc ［名詞］理解力 ［レベル］2 ɲɑ;/ ʃʃ

lɔ˥ɔſɪn ［魔法］族霊 jɒ;‹ɪlſ ʃʃʃ

lɔ˥ɔſɪnɒcɥɔj ［哲学］族霊崇拝、トーテミズム ɲɑ;/ ʃʃʃ

lɔl ［生物］腸、おなか、お腹 ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɔɔ ［文化］ 感情が宿る部位とされている。 ［成句］ el nɪ elɑ hɪɲſ ɒcl lepɒ dɔſen lɔl おなかに入ったスープの熱さは感じない：喉元過ぎれば熱さを忘れる。元は lɔl でなく ˥eɒ だったが、セレンが「そんなことはない」と言って変更された。 ［用例］ lɔl ſəɲ ɪucl. お腹の調子が悪い。

lɔlɑɪcz ［医療］腸炎 ［レベル］4 1L

lɔlbeſl ［医療］腸チフス ［レベル］5 1L

lɔlbeſllcc˥ ［生物］チフス菌。腸チフスの原因菌。 1L: サルモネラ→腸チフス→チフスの順で造語されている。

lɔlscɔɲ ［生物］大腸兪、大腸愈 ʃʃ

lɔlɪcc˥ ［生物］腸内細菌 ［レベル］4 ʃʃ

lɔlɪ ［料理］ウインナー、ウィンナー ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɔl

lɔlɪzl ［医療］腸結核 ［レベル］5 1L:jeɲen

lɔɟ ［単位］9 ［音楽］ナインス ［レベル］1 1L: 制 :lɔ clcc:lɔn::ɪndc,ɪlſ

lɔɟ(ʃ) lɔ/eɟ

lɔɟſ ［言語］テーマ、議題、主題、話題 ［レベル］3 1ʃʃ: 制 ［用例］ scφ{ɪɪs, ɒcɥə} lɔɟſ 話題を変える、話をそらす

lɔɟ˥ ［形容詞］主役格の、雑多でない、色々混じっていなくて大物揃いの ［音楽］トニック ［名詞］主役、メイン ［反意語］ɥelſ ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɔɟ（メイン）

lɔɟleɒ ［音楽］九重奏、ノネット ɲɑ;/ ʃʃ

lɔɟɪb ［被服］チュニック ɑɯ;lɔ/ɟɪbe ʃʃʃ

lɔɟc ［政治］大臣 ［レベル］3 1ʃʃ: 制 :lɔɟ（メイン）

lɔn ［名詞］古アルカの 9 ［レベル］3 赤→ jcɑɪll

lɔn,lɟ˥ L lɔɟɔ.˥

lɔnſ ［名詞］串 ［料理］焼き鳥などの串にさした類の料理 ［レベル］3 ɑɯ;「頭から通して」 lɪ˥ſɪ lɔnſ:lɔnſ

lɔnſ,ɟzl ɔɟn lɔ,ɑ

lɔnſɒel ［歴史］上代、zφ_˥l ［レベル］4 ʃ1 ［語法］ ɒcɥɒel

lɔnſɪɑcɟ ［法律］串刺し刑 1L ［文化］ 肛門に中を刺し、口から出し、地面に立てる刑。家族殺しや不貞に適応。不貞の場合、肛門ではなく膣から刺す。高度な技術が必要な刑の一種。

lɔnſcɟ ［建築］オベリスク ［レベル］5 ɑɲɑ;lɔnſ,ɑɯ ʃʃ ［文化］ 古代ファルファニア人が作った記念碑。串のような形をしている。アルバザードで特に華やいだのは jɒ で、芸術的要素として建築に取り入れられた。それ以外の時期はデザインとしてやや用いられる程度であった。園芸のオベリスクの意味はない→ jɪnselc˥ɪ

lɔnſe ［被服］ロンテ ［レベル］3 古 :lɔnſe（ロンテ）← lɔ（頭）/ſe（風、たなびく） ［文化］ アルティス教徒が頭に巻く長い布。男性服。頭に巻いたら残りの布は頭の横に垂らしておく。見た目はターバンとバンダナを合わせた感じに近い。色の指定はない。

lɔn˥ ［論理］推量 ［動詞］ɥəl を推量する、推量する ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 : 推量のエクスプローダーの女性形（lɔn）

lɔn˥uɔɲſcɒ ［法律］推定死亡時刻 ［レベル］5 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

lɔnɟ ［動詞］ɥəl を ɪ（地面や壁など）に押えつける、押えつける、押える、押さえる、おさえる、押さえつける ［武道］押さえつけるタイプの固め技 ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɔſ/nɪɟ（押して支える）

lɔnɟɲɔn ［医療］周囲圧、固定圧。押手の中指、薬指、小指で作る圧のこと。 ɲɑ;/ ʃʃʃ

lɔnɑ ［名詞］夢、夜寝るときに見る夢、夜見る夢、ロンド ［動詞］ɥəl（人や夢の内容）を夢に見る、夢に見る、夢をみる ［類義語］ɑcɪ、lɪ˥llɔnɑ、ɑelnɔɪ ɲɑ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :lɔɒɔ（この場合は寝るの意味）/ɑcɪ ::lɪ ˥lɪɲɑcnɪ:ɥəənɪ,ɪlſ ［成句］ leeuɔ˥ ɪ lɔnɑ 寝入る。夢に去る：ɒɔ˥ と異なり、寝入った瞬間のことを専門的に指す。 ［用例］ ˥ɪ lɔnɑ 夢を見る ɪn leeuɪſɔ˥ ɪ lɔnɑ ˥ɔnſ ſeɲ leɒ. 音楽を聴きながら寝入った。 ☆ ɪɲəəs leeuɪſɔ˥ ɪ lɔnɑ cɒ ɑɔnc ɑel ɪn cjɔ˥ dɪɒ. 灯りを消すやいなや弟は眠りに落ちた。 ☆ ɪn leeuɪſɔ˥ ɪ lɔnɑ cɒ ɑɔnc ɑel ɪn euɔ˥ ɔjn ɪ lɔnz. 頭を枕に載せた途端、眠りこけてしまった。 ☆ ɪn ˥e lɔnɑ ɑcdcſ uɪɲ ɒɔ˥. 寝ている間にいくつも夢を見る。 ☆ ɪn ˥e lɔnɑ ˥ɪlɒɪl ɲɪ˥. 私は夢を見すぎる。 ☆ nɔn ˥ɔɲ ˥ɪn lɔnɑ le ˥ɪ ˥ɪ. 今夜は彼の夢が見たい。 ☆ ɪn ˥eſ lɔnɑ zɪl cɒ ſɔ˥el. 昨日おかしな夢を見た。 ☆ ɪn ɪſ ɒeſ c ɒɔɒɔ ˥ɪ lɔnɑ. 崖から落ちる夢を見た。 ☆ ɪn ɪ˥ſɪſ ɲcɑcɪ ˥ɪ lɔnɑ. リディアに逢う夢を見た。 ☆ ɪn nɪſ nɔj ˥ɪ lɔnɑ. 夢を見ているような気分だった。 ☆ ɪn nɪſ nɔj ˥ɪ ˥cel lɔnɑ ɒɪn nɪ nɪə ɲɪ˥. 嬉しすぎて夢ではないかと思った。 ſə ɑcɪ eſ lɔnɑ ˥e φɪɪſɔ ɒcɥɔ˥ ˥ɪ ſcjee" これは、そんな寂しげの神さまが見ている夢なんだ」 ɒcl˥l ɒel ˥ccɪ ˥ɪ lɔnɑ ɔ˥ſɪ ɪuen. せめて夢の中では甘い時を（jeɲen ɪɲbɪzɪɲɑ）

lɔnɑɒclc ［医療］夢精 ［レベル］4 ɲɑ;/ ʃʃ ［用例］ ɪn ɪɲɪſ lɔnɑɒclc cɒ ſə aɪɪɲ. 今朝夢精をした。

lɔnɑɪl ［被服］クレスト、甲冑紋。兜の上に付けた飾り。 jɒ;lɔ/ɑɪlhɪ ʃʃʃ

lɔnɑɪl(ʃ) ［地名］ロンダル山 zφ ʃʃʃ ［文化］ フレアベルにある山。

lɔnɑɪlcɑ ［地球の星座］［ユマナ］テーブルさん座 ʃʃʃ ［文化］ cɑ

lɔnz ［名詞］枕 ［レベル］3 lɪ˥ſɪ:「頭の木」が原義。 ［用例］ ɪn jccnɪ lɔnz hɔɔɒc nɔɑ hɔnɔn. 固い枕より柔らかいのが好きだ。

lɔɑ ［交通］トンネル ［レベル］2 1L:lɔɲ/ɑɔnſ

lɔɑſ ［動詞］ɥəl を ɪ に収容する、収容する、収納する、収める、収まる ［レベル］2 1ʃʃ: 制 :ləſɪ（出る）

lɔɒ ［普通動名詞］会釈、えしゃく、お辞儀、おじぎ、礼、ぺこり、ペコリ、ぺこ、ペコ ［動詞］ɥəl におじぎさせる、おじぎする ［レベル］3 古 :lɔɒ（お辞儀）。「頭が低い」が原義。ちなみに lɔɒɔ は「馬鹿」。 ［語法］ 基本的には黙って会釈するだけで十分礼儀正しい挨拶になる。目下が目上へ lɔɒ するときは頭を下げるときにやや深く下げ、目は少しだけ瞑る。目上が目下へ下げるときは浅く微笑をたたえながら行い、目は常に相手を見る。 jeeɲeſcɟ などと感謝を言いながら頭を下げることもある。特にアルティア人に多い仕草である。

lɔɒɔ ［普通動名詞］仮眠、昼寝 ［レベル］3 古 :lɔɒɔ（頭が低い）。ただしアルシェの語。 ［語法］ アルバザードでは特に昼休みの仮眠のことを指す。 ［用例］ ɪn ɪɲɪſ lɔɒɔ ɑə ˥ɪlɔ lc hɪɲl. 昼ご飯の後、少しだけ昼寝をした。 ɪn jcſ ɒel ſəɯɪl len lɔɒɔ. 昼寝をするのに十分な時間が無かった。

lɔɒɔn ［名詞］ハンモック ［生物］腸間膜 ［レベル］3 1L:dɪɪl:lɔɒɔ

lɔɑ ［動詞］ɥəl を ɪ に組み入れる（入学や入社など）、組み入れる ［普通動名詞］入院、入居、入学、就学、就職、入社、在籍すること ［反意語］ɲeφ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 恣意 ［語法］ lɪſ と同じ格組。

lɔɑſɪɟ ［名詞］入学試験、入社試験、入試 ［レベル］3 1L ［文化］ ɒeljel, ɑcɪjel ［用例］ ɪn nɪſ nɪə ɒɪn eſſɔ uɪjſɔ˥ lɔɑſɪɟ e ɒɪnɪ˥ɪ. 兄の大学入試での良い結果に喜んだ。

lɔɑdelſ ［名詞］入学式 ［レベル］2 1L:ɲcɑcɪ:ɪɲbɪleſſ ［文化］ 入学式はガイダンスと一緒に行われる。二年次以降は入学式の代わりに始業式が行われる。実質両者の間に差はない。入学式の方が学校説明が入る程度である。ガイダンスでは担任の発表が行われ、今年の履修科目や授業の時間割が発表される。なお、クラス分けは去年の期末の結果発表の際に報じられる。ガイダンスではまた、年間行事の予定表なども配信される。更に自分がどの委員会に属すかも告知される。段取りは、まず校長が代表で一言数分で挨拶を述べる。そして教師側が代表者を出して上で述べた発表や配信を行う。それから学生委員会の告知があり、誰が委員の紹介がある。それが終わるとその日は終了となり、帰る。従って午前中に終わる。

lɔɑɪʃ ［名詞］入学者、フレッシュマン、リクルート、新入社員、新人、新米 ［レベル］3 ʃ1

lɔd ［交通］列車、電車 ［電算］配列。配列は要素を入れた変数という小箱が連なっているものなので、電車に見立てられた。古ではリュウが配列を dɪlɪn と名付けた。制のどこかで lɔd になり、ʃ1 にメルが契機となって幻日に転記された。lɔɑel なども同様。 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :lɔɔlɔdɪlɪn（電車）。「筒の乗り物」が原義。 ［語法］lɔɑel（電算） lɔu : 車両 ez : 寝台車などの個室 ［文化］ → dɔnʃ 街中の駅はすべて地下鉄である。地下を通って、郊外に出るにつれ地上に顔を出す。日本の有楽町線新桜台付近、フランスのＲＥＲのＢの北駅をしばらく超えてドゴール空港へ向かう電車と同じ。ただし、その後街に入るとまた地下へ戻る。駅は車道寄りに存在するので車からは勿論、駐車場を通って徒歩や自転車でも行くことができる。電車は定期券や切符を購入して乗る。切符は前払いである。改札は自動である。バスやタクシーに比べると短時間で遠くまで行くことができ、料金も遥かに割安である。定期券を持っていれば区間内の移動は自由であるという点は日本と同じである。日本と違ってアルナの電車はふつう各駅停車である。日本でいえば山手線は各駅なのでアルナと同じである。急行は大都市間を走っている。各駅か急行しかないため、準急や特急はない。駅の名前はその駅が存在する場所の名前である。住所がそのまま駅名になる。電車の内装はバスや飛行機と同じで二個ずつ並んだ席が全て前を向いている。日本のように横並びではない。飲食は自由でトイレも付いている。席は回転させて向き合うこともできる。大人数の仲間同士で電車に乗るときは席を回転させて会話を楽しむ。席はふつう指定席ではなく、自由席である。但し、指定席を買うこともできる。立ち乗りはふつう生じない。そんなに込むことがないためである。 ＜サライの電車＞ アルミヴァ通りの地下に１本ずつ走っている。各通りをリディア〜クミールまで行ったりきたりする。 また、メル、セレン、エケトネ、クミール通りの地下には環状線が走っている。ジャンクション駅ではアルミヴァ線と乗換えが可能。 ［用例］ lɔɪʃ enɑ} ɪʃ{c} lɔd 電車に乗る｛降りる｝ lɔd ɪeɸ. 電車が走っている。 ɪn leɑɪʃ uɪlel lɪnɪ lɔnʃ lɔd. 電車に遅れないよう、急いで走った。 lɔd eɒ ɒɔnɔ ɔʃ ɪɪnse. 電車が止まる。鉄道が止まる。運転を見合わせる。 lɔd ucz (ɪɪnɔ). 鉄道が遅延する（遅れる）。

lɔdɪɪnɔ ［交通］電車のダイヤ、時刻表 ［レベル］3 1L:ɸcɑcɪ:ɪɪpbɪlelʃ

lɔdn ［交通］駅 ［形容詞］～駅。前置。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɔdɒɔnɔ ［文化］ 駐車場の近くにある。日本の地下鉄と同じく階段やエレベーターで降りていく。階段を降りると切符売場や改札がある。改札の横には駅員室がある。改札を抜けるとホームがある。ホームにはベンチや待合室がある。日本と同じである。電光掲示板があり、電車を知らせる。また、日本と同じく大きな掲示板が立ててあり、一日の時刻表を見れる。上り下りどちらも書いてある。日本と違って土日ダイヤは存在しない。ホームから電車に乗る。そして目的の駅で降りる。自転車やペットはふつう電車に乗らない。ただ、遠くで自転車を買って運ぶときや、どうしても自転車を乗せたいときには仕方がない。別に乗せては駄目という決まりはない。ただ、場所を取って迷惑なのでふつうは乗せない。ペットも同様である。

lɔduenʃ ［名詞］鉄道会社 ［レベル］4 ʃ1

lɔdɑɔnʃ ［交通］鉄道 ［レベル］3 1L:clɒəj:ɸcɑcɪ

lɔdɸɪ ［交通］操車場、送車場 ［レベル］3 ʃ1:pel

lɔb ［動詞］ɣəl を lɔn で覆う、覆う、おおう、覆いかぶさる、被せる、かざす、翳す、カバーする ［レベル］2 古 :lɔb,leədɪ（かぶる）

lɔbdedɟ ［被服］ヘッドスカーフ ɸɑ;/ ʃ1 ［文化］ ɟɒ でできた。貴族の女性がお忍びで街に出るときに身に付けた。lɔlɔɟ の忍者が身に着けていた頭巾が ɟɒ で凪人を介して伝わり、それが元でヘッドスカーフが作られた。

lɔbɔ ［名詞］覆い、おおい、カバー、表紙 ［レベル］3 ɸɑ;lɔb/lɔn ʃ1

lɔbeʃ ［被服］トップハット、シルクハット nɑ;lɔɔb/eʃ ʃ1

lɔhɔ ［アイテム］兜、ヘルメット、保護帽 ［レベル］2 ɒelʃcɪ Δ:ɸclɔəj:lɔ/hɔ 古 :lɔhɔ。「 頭に対する固いもの 」

lɔɸɔ ［アイテム］手裏剣、飛びナイフ、投げナイフ ［レベル］3 ɑu 赤

lɔɸɔʃ ［名詞］万字、まんじ、マンジ、卍、卍型、鉤十字、カギ十字 ［レベル］4 ʃ0:lɔɸɔ/ʃe（手裏剣のような）

lɔɸɔʃɣəuel ［運動］［ユマナ］少林寺拳法 ［レベル］6 ʃ0: 元々鉤十字がシンボルだったが、ナチスのイメージと結び付くなどと因縁をつけられ、シンボルを変更させられた経緯がある。

lɔɟ ［名詞］管、チューブ、筒、ホース ［音楽］管楽器（特に笛） ［医療］カテーテル ［レベル］2 1L: 古 :lɔɔlɔ（管）。造語力が高いので、語形を短めにとっておいた。 lɔɔlɔ:lɔɔlɔ:le lɔɔlɔ:lɔɔ, ɪlʃ

lɔɟʃ ［魔法］ロルト、忍術 ［レベル］4 1L:ɸcɑcɪ:lɔlɔɟ/ɪɟʃ ［文化］ アルトの一種で、忍者が使う。アシェットではルビィが使用する。術の種類は少ないものの、眼力で相手の動きを止める魔法など、ひとつひとつに特徴がある。

lɔɟlɪlɪ ［地学］円筒図法 ［レベル］5 1L

lɔɟlcʃl ［料理］春巻き ［レベル］3 ʃ0: 筒状の饅頭

lɔɟɸɪɔ ［音楽］サックス、サクソフォン ［レベル］5 ʃ1

lɔɟzel ［軍事］ローゼル、獎管 ［レベル］5 ʃ0:lɔɟ/zelɔ（筒 / 脳） ［文化］ ɪnselclɪ アンジェリカ脳内にパイロットを入れるための細長いポッド。２．４ｍあり、パイロットのスペースは２ｍで、１．７、の人間がちょうど入りやすいように規格されている。１．７ｍというのはおよそアルバザード人男子の平均身長である。

lɔɟleɒ ［音楽］吹奏楽 ［レベル］5 ʃ1

lɔɟləɒɔ ［化学］カーボンナノチューブ ［レベル］6 1L

lɔɟcɑɪl ［生物］環形動物門 ʃ1

lɔɟɔɒ ［医療］管鍼法 ɸɑ;/ ʃ1 ［文化］ 管鍼法が発明されたのは ɟɒ のカレンシア。

lɔɟen ［形容詞］ギリギリの、ぎりぎりの、がけっぷちの、崖っぷちの、ギリギリセーフな ［副詞］ぎりぎり、ギリギリ、どうにか、すんでのところで ［反意語］ʃɟɪcn ［レベル］2 ʃ0:lɔʃ ɟecn（線の内側の） ［用例］ ɪn lɔnʃɪʃ ɑeʃlɪ lɔɟenel. ギリギリ学校に間に合った。

lɔɟenɟ ［ジョブ］予言、予言者、ローレンス、占い師 ［アクセント］lɔɟenɟ ［レベル］3 古 : 言葉を知るもの ［語法］ アティーリでは占い師など霊感 (nɪuc) を強く持ったものが未来を予知でき、予言を行う。なお、預言者は lɔɟenɟ ではない。預言者は巫女 (eɒɟcɪ) と同義である。 ［文化］ → ʃnɔɔjenuc

lɔz ［動詞］ɣəl を ɪ に混ぜる、混ぜる、まぜる、混ざる、まざる、砂糖などを溶かす、トランプなどを切る、シャッフルする、カードを切る、かき混ぜる、かきまぜる、合わせる、コーディネート、ミックスする、撹拌する ［名詞］混合物 ［レベル］2 ɑ;e 古 lɔz:lɔz:ɪɒɣəle

lɔzʃənɟ ［地学］混合農業 ［レベル］4 1L

lɔzuelɑ ［名詞］ちゃんぽん ［メタファー］何かの混合、ごちゃまぜ、ごちゃ混ぜ ［レベル］4 ʃ1

lɔzbɪlɪl ［名詞］複合遺産 ［レベル］5 ɸɑ;/ ʃ1 ［語法］ ɑcɪbɪlɪl

lɔzhɪnl ［気象］対流圏 ［レベル］5 1L

lɔzzɔn ［料理］マドラー ［レベル］3 ɸɑ;/ ʃ1

lɔzl ［料理］カレー ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɔzlccʃ ［用例］ lɔzl ɪɑcl 辛いカレー、辛口カレー lɔzl en ɪɑcl 甘口カレー

lɔzldɪɟʃ ［料理］カレーライス ［レベル］3 ɸɑ;/ ʃ1 ［用例］ ɪn ləʃ ɟeʃ lɔzldɪɟʃ e ɑeɒɣel bleɒ ɔʃen ɪd ɑel ɸɔɟl ɔ lɪ̀lɔ bleɒ e ɑɪɑcn lɪ lɔʃlɔcʃlcbɪnɣɪ. C o C o 壱番屋ではいつもチーズと鶉卵フライをトッピングしたチキンカツカレーを注文する。

lɔzɪ ［植物］フェヌグリーク 1ʔ: 制 :lɔzl

lɔzc ［料理］カンパリ ［レベル］6 1ʔ: 制 :lɔz

lɔzcʃl ［建築］雑居ビル ［レベル］4 1ʔ: 制 : 雑居な建物

lɔze ［化学］懸濁液、懸濁物 ［レベル］6 ɸɑ;lɔz/eɟ ʃ1

lɔzeʃ ［生物］ロゼット、亜神 ［反意語］uelɑccɒe ［レベル］3 ʃ0:lɔz/ʃe（混ざったような） ［文化］ 人と神の混血児。

lɔzel(ʃ) ［音楽］カントリー ［レベル］5 ʃ1:「混ざったもの」

lɔl ［形容詞］面白い、興心がある ［反意語］ɣəɑɔl ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :lɔlɪn（知りたい、興味） ［語法］ 愉快ではなく興味があるほうの面白い。日本語の「面白い」と違って bɪn と完全に分化されているので、事件などに対して面白い と発言しても不謹慎と怒られることは少ない。 ［文化］ uɔɟʃɑeɒe ［用例］ en nɪ lɔl. 興味ないな。＝俺は無関心だな。 ɪn lɪl le lɔl eɒ ɟɔɑ. 何か面白いことが起こればいいのに。 lɪ eʃ lɔl ɪʃlɪ lɔʃ leɟ ɪn jeɟ. 彼は知っている中で一番面白い人だ。

lɔlc,ɑ jes

lɔlɔ ［動物］蛇 ［レベル］2 古 :lɔlɔ（蛇）。lɔɔlɔ（管）からきている。

lɔlɔʃ ［軍事］サーペンタイン ɸɑ;lɔlɔ/ʃe「蛇のような」 ʃ1 ［文化］ ɸel

lɔlɔʃj ［電算］ホームキー ［レベル］4 ʃ0

lɔlɔɟ ［地名］メテの使徒ラルドゥラの支配地 ［人名］ラルドゥラのアルカ姓 ［レベル］4 ʃ1ʃɔ ［文化］ lɔlɔɟɪn

lɔlɔɟ(ʃ) ［アトラスの国家］ロロス ［レベル］3 ʃ1ʃɔ ［文化］ 面積：ʔʔΔʃ.ʃ?.0ʃ1ʃ0ʃ. ʃɔ ʃ

lɔlɔɟ(ʔ) ［被服］胴衣 ɑu;lɔɔlɔ/ɟɪbe「筒の服」 ʃ1

lɔlɔɟʃɔle ［地学］ロロス海流 ʃ?

lɔlɔɟɪn ［名詞］ロロス人 ［レベル］4 ʃ1 ［文化］ ロロスというと忍者のイメージがあるが、どうしてそうなっているのだろうか。 ɣəəɒɪ ʔʔʔ にシフェランがハーディアンの首都ロロスを陥落し、翌年に同盟都市のアルティアに見返りとしてロロスの支配権を渡す。このことが決定的な原因となり、アルティアとロロスの間に格差が生じた。 ɟɒ で武家社会がアルティアで台頭するとアルティアは力を付け、再びロロスを支配する。結果ロロスはアルティア人にとって辺境となり、落ちぶれたアルティア武士の逃げ場になっていった。 落ち武者はロロスで集落を作ったが、武士だけあって魔導師の防御をも打ち破って敵を一刀両断にする力を有している。言いかえればメジュテルを破って相手を暗殺できるということである。食うに困った落ち武者らが暗殺を稼業にするまでそう長い時間はかからなかった。暗殺集団と化した落ち武者は暗殺者の村を築き、暗殺を請け負うことを生業とした。これが忍者 (ɟelɑɪʃ) の発祥である。

lɔlɔɪn ［名詞］蛇使い ɸɑ;/ ʃ1

lɔlɔɪncɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］へびつかい座 ʃ1 ［文化］ cɑɪ

lɔlɔcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］へび座 ʃ1 ［文化］ cɑɪ

lɔɪl ［普通動名詞］推理、推定、推測、推論、推計する ［動詞］ɣəl（内容）を推理する、推理する、推測する、推定する、推論する、推計する ［レベル］3 古 :lɔɪl。「 考えられたもの 」が原義 ［文化］ 推論は前提や条件があり、その上で推論上の結論が導出される。この手続きを簡潔かつ明瞭に行うようにアルバザードでは子供のうちから鍛えられる。たとえば親は「雨だったら行かない。じゃあ晴だったら行くの？」と子供に聞いたりする。子供は始めは答えられないが、親が答えを教えるうちに学ぶ。答えは「日常論理としては「行く」が正しいけど、論理学では逆は必ずしも真ならずだから正しくない」である。子供はこれを呪文のように暗記し、論理的な表現に体を慣れさせていく。そして何年か後に知識によって論理を頭で理解するようになる。アルバザードでは子供のうちから虚偽を教え、正しい推論を教える。更に、論理と日常論理を区別することも教える。虚偽論は日常論理としては正しいものもあるため。

lɔc ［形容詞］［ネガティブ］不器用な ［類義語］elecnɪ、lɔɔɪ ［反意語］nɒblɪɟ ［レベル］2 1ʔ: 制 ［語法］ ɪɪlɔ—lɔc, ɪlʃ—lɔɔɪ のペア。

lɔcʃ ［建築］オフィス、事務所、事務局、会社、役所、企業、仕事場にしている建物 ［レベル］3 ɟɔpɪn: 会社、企業、役所など ［文化］ 企業はオフィスビルに入っている。日本と同じく大きなビルにいくつもの会社が入っている。ビルの玄関は集合住宅と同じで、守衛がいて改札がある。オフィスの人間はアンセで通り、取引先の人間などは守衛室から連絡してもらって通してもらう。大企業だと自社ビルを持つこともある。 ［用例］ ʃe lɔcʃ 出勤する lɔcʃ eɒ ɸcɸ. 会社が潰れる。 lɪɑ lɔcʃ 会社を作る nɪ nɪl, ɒɪn lɔcʃ ɪnʃej ɑe ɸcɸ ɔʃlɪ ʃc ɟel. あなたが失敗しても会社は潰れない。安心しろ。

lɔcʃuefɸɪ ［名詞］外弁慶、会社弁慶 ［レベル］5 ɸɑ;/ ʃ1 ［語法］ uefɸɪ

lɔcʃɑlec ［名詞］奥付→ lec ［レベル］4 ʃ1

lɔcɟ ［動詞］ɣəl を ɪ（ファイルサイズなど）に圧縮する、圧縮する ［動詞］ɣəl（果汁など）を濃縮する、濃縮する ［普通動名詞］圧縮、濃縮 ［電算］ファイル圧縮 ［数学］因数分解。整理する。展開の反対。 ［反意語］ɟəɪn ［レベル］3 1L:lɔʃn:1ʔ: 制 :lɔʃʃcɟ

lɔcɟɟəɪn ［名詞］濃縮還元 ［レベル］4 ul;/「濃縮して還元する」。一旦水分を飛ばしてからあとで水分を加える。運搬を容易にするために行う。 ʃ1

lɔcnʃ ［アイテム］弩、クロスボウ ［レベル］4 ɟzɑ;flɔcnʃ.l ʃ1:ɟɔpɪn:flɔcnʃ（自動ドア） x:lɔcnʃ:lə lɔcnʃ

lɔɔ,ɑ jee, ɣɪn, hɪɣə, lɔɒ, ɟɔn, ɪlɟɔn, ɟɔrl elʃ;lɔ「考える」から。「私は考える」という意味の動詞部分だけが切り取られたもの。セリフを考える間のフィラーとして使われ、やがて「そして」という接続詞的な意味を獲得。 赤 :lɔ。赤に lɔ で「ＡＮＤ」「そして」などと記載されている。

lɔɔ,ɪlʃ lɔɟ

lɔɔʃ ［名詞］パイプ ［レベル］4 1ʔ: 制 :lɔɔ から

lɔɔflcbɪ ［音楽］パイプオルガン ［レベル］4 1L:ɒclɑ ［文化］ lccʃɪ

lɔɔfɔ ［名詞］覚悟 ［類義語］uɪɟn ［レベル］3 ʃ1: 古 lɔ/fɔ（終わりを知る） ［用例］ ʃcl lɔɔfɔ 覚悟する

lɔɔɟ ［被服］ベスト、チョッキ、胴着、胴衣、ウェストコート、ジレ ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɪʃlɪ:lɔɔlɔɔɟɪbe（袖のない筒状の服）の略。

lɔɔncɪ ［魔物］ローニア（蛇女）: 第八天 : 闇の風天 ［レベル］5 1L:ɟcɑcɪ/jeɒen/ɒel:lɔlɔ/ncɪ ［文化］ 霊族。髪の代わりに無数の蛇を生やした女の魔物。子供をなくして嘆き悲しみ自殺した女の死体に憑依する。眼は憎しみに満ちており、目が合うと恐怖で気を失ってしまう。攻撃方法は爪を立ててくるなど単調だが、体力がありえないくらい多く、しぶとい。母の執念深さを象徴しており、斬っても斬っても恐ろしい形相で掴みかかってくる。攻撃力防御力ともに大したことはないが、体力が多いことと、爪に呪いの魔法が込められていることから、苦戦する。ヴェムの魔法の使い手で、これが厄介な理由。 ɸɑ でフルミネアが封じ込めた魔族。呪いの爪 (ɪnueɸnɔz) のケフェウス、呪いの瞳 (ɪnueɸcnɟ) のアルフィルク、呪いの蛇 (ɪnueɸlɔlɔ) のアルデミランが武器で、フルミネアはこれに苦戦した。セレンの指示で援護に入ったメルだったが、自慢の金髪を爪で切られてしまう。最後はユノの打ち合いになり、先天的にユノが過剰なフルミネアはどうにか勝つことができた。フルミネアは情けをかけ、ローニアのなくした子供を持ってきて呪いの蛇アルデミランに封印し、魔族を鎮めようとした。 ところが髪を切られたメルは、義理の兄セレンが長髪が好きだと知っていたのでローニアを恨み、ローニアの息子を lɔɔncɪ の星座領域から ɟɪlɪʃcɪ の領域に移し替えた。これがガーネットスター (ɪnueɸnɔc) である。 怒り狂ったローニアは鎮静から醒め、星座の監獄を壊そうと爪でもがき、恐ろしい形相で地上の人類を睨みつけ、蛇を地上に伸ばして人類をくびり殺すようになった。

lɔɔne ［魔物］ローネ（仇手）: 第十七天 : 水の風天 ［レベル］5 1L:ɟcɑcɪ/jeɒen/ɒel:hene,fɔne を参考に、古アルカの lɔ（９）から。 ［文化］ 魚族。９本の触手を持つ巨大な化け物。蛸と烏賊を足して割ったような姿をしている。長い触手は海の底から地上まで伸ばすことができ、水辺の人間を引き込むこともある。船に触手を絡ませ、沈没させることもある。そのため、船乗りに畏怖されている。

lɔɔu ［動詞］ɣəl をもがかせる、もがく ［レベル］3 1L:lɔɔb/ɔu（芋虫などのように動く） ［用例］ ɪn lenɪʃ eɒ ɑc jcn, cɒ ɪn lɔɔuɔɒ dɔʃ ʃceɒ. 海でもがいているときに海水をたくさん飲んでしまった。

lɔɔaɪɒ ［宗教］副助祭、サブディーコン zɸ;「ろうそく係」 ʃ1

lɔɔɑ ［形容詞］予想外の、意外な、思わぬもの ［副詞］意外にも、意外に、意外と、案外、なにげに ［反意語］len ［レベル］2 古 :lɔɔɑ,lɔɔɑen「 思わない 」

lɔɔɑɪn ［名詞］［形容詞］番狂わせ、ジャイアントキリング、大金星、予想外のことをする人 ［レベル］4 ɸɑ;/ ʃ1

lɔɔd ［動物］ミミズや毛虫などの足のない動物 ［レベル］3 1ʔ: 制 :『制定語彙』lɔɔlɔ̀ləədɔ「 筒の虫 」

lɔɔb ［被服］帽子、キャップ、ハット、スイミングキャップ、笠 ［レベル］2 zɸ;lɔ/ɟɪbe 1ʔ: 制 : 古 :lɔlɔb,lɔɟɪbe（頭を覆う→帽子） lɔɔb:lɔɔb ［用例］ ʃəɔ, el lcɸɔɟ lɔɔb. そろそろ帽子がいるな。 ɪn ləʃlɪ ɔʃ lɔɔb. 帽子をかぶって歩いた。

lɔɔbʃlɪɑ ［地球の国名］アルゼンチン ［レベル］6 1L: 国章に帽子

lɔɔbejd ［気象］笠雲 1L

lɔɔz ［名詞］端、端っこ、隅、すみ、際、縁、ふち、えん、エッジ、パンの耳、脇、舞台袖、袖、ソデ、そで、稜 ［格詞］～の端にある、～の端っこにある、～のはじっこにある、～のはずれの、～の外れの ［物理］磁荷 ［類義語］ɪddel ［レベル］3 古

lɔɔzdɔnɑ ［言語］［文字］エッジセリフ ʃ1

lɔɔzdɔl ［地名］極方 ［レベル］5 ʃʃ0 ［文化］ エルトア、アルダ、セレーナ、デスパナ、フィギットのこと。カコ以降、寒くて人口が少なかったが、レイユで少し持ち直した。近代では東方からの移住者が多く、制アルカではないものの、アクセントは頭に置く。旧イグレスタ圏。　なお、セレーナ、デスパナ、フィギットは無アクセント圏。

lɔɔzɪ ［数学］計算尺、対数尺、ローザ ［レベル］6 ʃʃ0:lɔ/zɪɒɔ（考える尺）この zɪɒɔ（木）は棒、尺のこと。 ［文化］ cɒəl ʔʔLʕ に lɔɔz cφɥeſ が対数尺を発明。lɔzɪɒɔ を語源としたが、自分の名前に似せたという腹もある。cɒəl ʔʔʔʔ0 に計算尺を発明。こちらも lɔɔzɪ と呼んだ。地球と異なり、対数尺と同じ名前で呼ばれるので、区別するには複合語を用いる。　当時アルナ産のローザは木製で白く塗られ、アルシア産のローザは鉄製で黒かった。μɑ で計算機は広まり、一般の学生にも普及した。アルナ大学とラグナロク以外は木製で茶色のものを持っていた。電卓が広まるまで理系学生のステータスシンボルで、特に白か黒のローザを白衣から出す姿は女子によくモテた。

lɔɔzɪ ɪɒɪnze ［人名］ローザ＝アマンゼ ［レベル］6 ʃʃ:「血の混じった」 ［文化］ シオンとユルトの娘。教祖シオンやミロクの先祖。

lɔɔz cφɥeſ ［人名］ローズ＝イグレット ʃʃ0 ［文化］ (cɒəl ʔʔʕ0:ʔʔʔʕ) アルナ大学の数学者。cɒəl ʔʔLʕ に対数尺を発明。cɒəl ʔʔʔʔ0 に計算尺を発明。

lɔɔzen ［接続詞］～の端にある、～の端っこにある、～のはじっこにある、～のはずれの、～の外れの ［レベル］3 μɑ;/ ʃʃʔ

lɔɔl ［生物］脈管 μɑ;lɔɔlɔ.ˀ ʃʃʔ

lɔɔldɪnſ ［生物］脈管系 μſ;/ ʃʃʔ

lɔɔlɔ ［名詞］サイフォン ［レベル］4 μɑ;lɔɔlɔ,ɑ.ɪleˀ ʃʃʔ ［文化］ → eμɒeˀl

lɔɔlɔ,ɑ lɔμ

lɔɔɪ ［形容詞］下手な、苦手な、知らない、ɔn について知識が暗い ［反意語］ɪlˀ ［レベル］2 ɑ;ɪɪlɔ.φeˀj 赤 :lɔɔɪ（不器用な） ［成句］ jccnɪ ɑcn lɔɔɪ 下手の横好き ɪn eſ lɔɔɪ ɪl ɪlɑ. 私は数学が苦手だ。

lɔe ［名詞］なぜなぜ、謎々、謎謎、クイズ ［レベル］2 ʔʕ: 制 : 古 :lɔen（わかる？）の意。 ［用例］ ɑcſ lɔe なぜなぜを出す

le ［代詞］［形容詞］あれ、あの。前置。 ［代詞］lɪ。あいつ。人をこき下ろすためにlɪ の代わりとして使う用法。 ［反意語］ſə ［レベル］1 ʃʃL: 制 :le。音が lɪ,lə に近いため、子音を変更した。頻度が ſə より異様に低いため、扱いが軽く、アルカ史において最も変動があった人称代詞。bɔle:Tə（あれ）lə,ljɑ（それ）:Tə(_lſˀ ただし音価は pſ 以降 T が消えるので le に）ſəəl(lſˀ_) :ɪ,ɪlſ ［語法］ ſə ［用例］ le φɪlſ あの門 le zɔɒ あの木 ɪμnɪ l'ɪn ɑcɪɪſ lɪ 私が生まれたアルナ ɪn le ɑcɪɪſ lɪ ɪμnɪ アルナで生まれた私

le(J) ［接続詞］名詞と修飾節をつなぐ接続詞。関係詞節を作ると考えてよい。 ［レベル］1 μɑ;lɥə,jzɑ（関係詞の lɥə） ʃʃL: 恣意 μɔɒ:μɔɒ:lɥə ［語法］ 格は関係詞節中に残る。ſə eſ ɑeˀlɪ l'ɪn ɑeɪlſ lɪ（ここは私が勉強した学校だ）。ɑeˀlɪ lɪ l'ɪn ～にはならない。なお、関係詞中に残存した格は省略可能。きちんとした言い方のときだけ残る。つまり、この lɪ は省略可能。　le は関係詞節中に適切な格がない場合にも用いることができるが、この場合 e や ɒel や lel などで置き換えることができる。ɪlɑc, ɪn ſcl lɪnɑ le nɔɟ jɪcn jcl ɑcuəμ（絶望を確認するという希望がある）において lɪnɑ は本来同格で lel や ɒel だが、ここはそのほかに le でも e でも置き換えることができる。 ［用例］ le ɪſ μcφ cɒ ſɪſɔlel, ɪlɑc le lɪ uɔμſc), nɔn lɔ. あれは一昨日、つまり彼女が死んだ日に壊れたんだと思います：この le は lej にあらず。ɪlɑc が挿入されているが、le は ſɪſɔlel にかかっている。先行詞があるため lej でなく le がよい。

le,ɑu 形容詞を導く接続詞。ucˀ ɒe ˀɪc の音が弱まって ucˀ le ˀɪc となったもの。pelſcɪ ʔʔ 以降は語順が逆転。　ɑu:jɪɪl;ɒe.l

leſ ［動詞］ɥəl を ɪ まで引く、引く、ひく、引っぱる、ひっぱる、引っ張る、引き張る、牽引する ［普通動名詞］牽引 ［音楽］チョーキング ［反意語］μɔˀl ［レベル］2 ʔʔ: 制 :lɔſ ɪſleˀlɔ:ɪſleˀlɔ

leſſ,lſɑ ɪlˀlɪ。'ɔμeſſeſſ（リンゴというもの）のように使う ‹›ſeeze

leſſɪ ［ユマナ］アラブ人、アラブの ［レベル］5 ʃʃL: アトラスの leſſenɪ に相当する人々だから

leſſɪnˀl ［料理］ラーメン、拉麺、らーめん ［レベル］3 ʃʃ:lſſ の食べ物を意訳 ʃʃL: 棒を引っ張って麺の生地を伸ばす。 ［文化］ ヴェレイでヴェマから入り人気となったが、革命で害食に指定されて廃れた。 ［用例］ ˀlɔc{len} leſſɪnˀl うどんを啜る。jcd にすると啜るという動作を強調している。ふつうは ˀlɔc を使う。jcd は啜る動作を強調するときだけ使う。

leſſɪhɪrˀ ［ユマナ］アラビア文字 ［レベル］5 ʃʃL

leſſc ［地学］銅 ［形容詞］銅の ［組み数学］3 / 4 ［レベル］2 ʃʃL:leſſeφc（紅茶色の金属）。ただし、歴史的には紅茶より銅のほうが発見は古い。　ſenφɪ:ſenφɪ: ［文化］ jcɒel

leſſcˀlɪɑ ［地球の国名］キプロス ʃʃL: 国名が銅に由来している説がある

leſſcjel ［歳時記］銅の日 ［レベル］3 ʃʃ1 ［文化］ ɑɪnſjel

leſſchɪrˀ ［言語］銅版体、カッパープレート体 ［レベル］6 ʃʃ0 ［文化］ hɪrɥecn

leſſclcl ［化学］銅→ leſſc ［レベル］4 ʃʃL

leſſe ［色］茶色、褐色、レッテ ［形容詞］茶色い ［料理］紅茶→ eſeˀl ［レベル］2 jɔμn;leſſe,ɑφn.ˀ 古 :jɔμn: 紅茶色 ʃʃ0:lɔccμ: クミールはお茶好きで種類を豊富に持っているため、eſeˀl が紅茶を指すとは限らなかったため、leſſee(eˀl の eſeˀl を省略し、leſſe で紅茶を表した。ふつうの使徒はその必要がないため、leſſe で紅茶を指すのは通な人のすること。　ſəɪ:ſəəɪ:lɪ hɪnbel

leſſe,ɑφn eſeˀl

leſſeˀlɪɑ ［地球の国名］ラトビア ʃʃL: 国旗が茶色

leſſelcjɪ ［名詞］黒砂糖 ［レベル］3 ʃʃL:μcɑcɪ:ɪμbɪleſlˀ

leſſen ［名詞］(ſcl) ゆったりとしている、紅茶を飲んでくつろいでいるときのような ［レベル］3 ʃʃL:leſſenɪ

leſſenɪ ［生物］茶色人種 ［レベル］3 ʃʃL:leſſe/ɪn ［語法］ ɑcμɪn が南のほうに住んで肌の茶色くなった人種。地球で言うとアラブ人に相当する。アシェットではパールなど。

leſſebezn ［動物］ゴールデンレトリバー ［レベル］5 ʃʃ1

leſſesecɑɒɔl ［地学］褐簾石 ʃʃL

leſſeˀlɔn ［地学］［植物］褐色森林度 ʃʃL:μcɑcɪ:ɪμbɪleſlˀ ［語法］ 森林の土壌として広く分布。

leſſecnɟ ［生物］茶色い眼 ［レベル］3 ʃʃL

leſſeeſeˀl ［料理］紅茶 ［レベル］2 ʃʃL:lecn

leſj ［音楽］ピアノ ［レベル］3 μɑ ʔˀ φcl ſɪn:jeμenˀlleˀl:lɔſj ［語法］ ſɪn（指一本でターンと一音弾いてハンマーが弦を叩いた感じ） ſɔlſɪlſelſcl（キラキラキラキラと低いほうから流れるように高音に流れるように弾いていくさま）

leſjɪn ［名詞］ピアニスト ［レベル］3 μɑ;/ ʃʃ

leſucɪn ［文化］引力 ［類義語］ɪſɔe ［反意語］μɔˀlucɪn ［レベル］4 ʃʃ0

leſɑμeɒ ［動詞］ɥəl を引き寄せる、引き寄せる、引きよせる ［レベル］3 μɑ;/ ʃʃ

leſɑɪl ［動詞］ɥəl を ɪ に抱き寄せる、抱き寄せる、抱きよせる ［レベル］3 ʃʃ1

leſdɪ ［料理］セモリナ ［レベル］4 ʔʕ: 制 :leſddɪjſ

leſl ［動詞］ɥəl を開放する、開放する ［普通動名詞］開放 ［反意語］μcjſ ［レベル］3 ʔˀ: 制 :lɔſl

leſɪ ［娯楽］コンサート ［レベル］3 μɑ;leɒ/cſɪ「音楽会」ややがてコンサートの意味に変化したもの。　ʃʔ

leſɪ,ɑu dɔɔſ

leſcj ［宗教］レティス ［反意語］uelej ［レベル］3 古 :ſcj は lɪnſcj（人） ［文化］ ɥəəɒɪ ʕʔʔˀ アゼリア、アリスカンテ以外を邪教と宣言。信仰心の篤いもののうち旧アルティリア教徒を leſcj と呼び、旧イスカンテ教徒を ſeeſcɪ と呼び、それ以外を uelej と呼び、uelej を強く非難した。反対派はこれによって邪教徒 hɪμuɪ と呼ばれるようになり、弾圧の対象となった

leſcμ ［形容詞］古く使い込まれていて味がある、古い ［形容詞］［ポジティブ］（人が）年を取っているがダンディでかっこいい、しぶい、渋い、シブイ ［類義語］jcɑ ［アクセント］leſɛμ ［レベル］3 ʃʃ0:pelcɑcɪ lceμ:leſſe（茶（古びた）） / 古 μce（古酒）

leſcl ［言語］モーラ ［レベル］6 ʃʃL:lcɒ/ſcl（音素を持った） ［文化］ → ɾlɑ.

leſcɪ ［名詞］姫、プリンセス ［名詞］駅弁 ［類義語］neeɒe ［反意語］μɑcjſ ［レベル］2 μɑ ʃʃ0:lenſ/ſcɪ（愛しの人形）。王位継承権があるため、王に可愛がられることから。　ɒene:ɒe ne: ［語法］ 王位継承権 1 位ないし 2 位までを指す。1 位が継承確実な場合、1 位しか leſcɪ にならない。男子の場合、常に暫定 1 位のみを指す。 ［文化］ ・性交の体位　女性を両腕で抱え上げ、女性は向い合って男性の首に手を回し、男性は立つ。そのままの姿勢で挿入し、動かす体位。極めて難易度の高い体位で、男性に相当な筋力を要する。逞しさを象徴する体位で、μμɒclc が生じるにもかかわらず、女性はこれをされるとはしゃぐことが多い。ただ、相手が貧相だと不安がる。要は人による。女性をお姫様のように扱って抱き上げることからこの名が付いた。 ［成句］ leſcɪ μen ɪμɑcjſ 一姫二太郎

leſcɪnſ ［代詞］［pheμs］ſcclej ［レベル］1 ʃʃ:lɔccμ

leſcɪɒ ［代詞］［pheμs］ſccj ［レベル］1 ʃʃ:lɔccμ

leſɔ ［医療］しみ、肝斑、染み、シミ ［レベル］3 ʃʃ0:leſſe

leſɔj ［天文］pclalccɑ ［組み数学］3 / 8 ［レベル］4 ljɑ;leſɪ 麦の熟れるころに見える星　ʃʃ1

leˀl ［動詞］ɥəl のことで頭がこんがらがる、理解できない、混乱する、ɥəl を理解できない ［レベル］2 ʃʃL ? : 中期制アルカか後期制アルカに戻した。 ［用例］ ɪn leˀl cl pcl pɪlɪɑc. 混乱して何も理解できない。

leˀlſcɪ ［名詞］レクティア、生き地獄 ［レベル］4 ʃʃ0:μcɑcɪ:leˀlɪc/lɪſcɪ（この世の地獄） ［文化］ → leˀlɪc　地獄ラティアはネガティブに考えたり人を呪ったりする人間が集まった場所であり、地獄の業火で苦しめられる場所ではない。永遠に不幸と不快を感じ続ける負の連鎖の場所である。しかしそれならば現実に見ることもできる。むしろ善人すら悪人に巻き込まれてしまう現実にこそ本当の地獄は存在する。そのような、現実であるにも関わらずまるで地獄のような場所をレクティアという。　例えばこのような場所があるとする。一人の馬鹿ギャルは「まじでー？ありえねー。キモくね？」程度の語彙しか持っていない。一人の小姑は「あの髪型ありえないよね」、「あそこでまず謝れよこいつとか思ってさー。ちょっとあいつ何様？」などと言っている。一人の男は鬱々パソコンに向かって「どうして僕は具合が悪いんだろう」と考え込んでいる。こういう亡者どもの集まった場所、負のオーラが渦巻いている場所をレクティアという。

leˀlſcɪn ［名詞］レクティアン、生き死人、亡者、地獄の亡者 ［レベル］4 ʃʃ0:μcɑcɪ ［文化］ 生きながらにして既に地獄に落ちている亡者ども。自分を恥じ、悩み、人を呪い、罵倒し、足を引っ張る連中。

leˀlɪ ［運動］プール ［レベル］2 jɔμn:「泳ぐところ」 ［文化］ 学校によって設置がまちまち。都会はたいてい設置されている。　地方の学校は海や川を利用することもある。　アルナ大にはむろんある。

leˀlj ［名詞］範囲外、外側 ［名詞］外野 ［動詞］ɥəl を c からはずす、ɥəl を c の範疇に収めない、命中しない、はずす、はずれる、外す、外れる、ハズす、ハズれる ［野球］ボール ［格詞］～の範囲外で、～の外側で、～以外で ［反意語］lɔſ ［レベル］3 ʃʃL: 恣意 ［用例］ ſɥə hɪſcɪ ne leˀlj jɪcɒ lenɪnʁ ウチのクラス以外だと誰が好きなのよ？　ɪn lɪnɪſ ɑcſe ˀɔn uɔz ſɪl ues cˀl leˀlj c ſə. 弓でウサギを狙ったが、外してしまった。

leˀljhɪnſ ［数学］外積 ［レベル］5 ʃʃL: 図形的に外側の積ではないが、lɔſhɪnſ の対として leˀlj となっている。

leˀljccscj ［野球］ファール ［レベル］3 ʔˀʃ

leˀjen ［接続詞］leˀlj ［レベル］3 ʃʃ1

leˀɒ ［動物］ビーバー ［レベル］3 lɪˀlſɪ:「泳ぐ生物」

leˀlɪc ［地名］霊界、レ・カイ、この世。アトラスを含む宇宙のこと。 ［アクセント］leˀlʔʔc ［反意語］ɪμɑel ［レベル］2 ɑ;le ˀɪc ‹ ɑe/ˀlɪc（～は大きい）。地球の語源と食い違うので注意。ɑ には まだ指示代詞 le はない。　古 :lccɪz:le ˀɪc（その大きいところ）。leˀlɪc の訳である「霊界」の造語者はセレン。レイカイとレ・カイは音が似ているため選んだ。　leˀlɪc:leˀlɪc ［文化］ → ɪμ ɑel ＜この世とあの世＞　この世はセレス（魂）を選別するための場所と捉えられている。セレスはあの世の入り口にあるヴェーユという滝の水飛沫から生まれる。　これがレ・カイに行き、アテンとなる。一方、エタンはただの物質の集まりであり、ヴィードは持ってもセレスは持たない。よって牛は死ねば土に還るだけであり、木は枯れれば腐って腐葉土になるだけである。　神や悪魔は新しい命が誕生しなくなって久しいため、セレスはユーマの一族すなわち人類として生まれ、惑星アトラスへ赴く。そして妊婦の受精卵に乗り移る。しかしこれだと効率が悪かったので、現在はイーディス神とハーベ神が誕生を助けている。　イーディスはセレスを見つけると、排卵している女性を探す。その女性の中から、膣内射精されたものを探す。その女性の腹にセレスを持って飛び込むと、受精が完了し、セレスも植え付けられる。その後、出産の神であるハーベが妊娠を管理し、子供を生ませる。　誕生した人間はレ・カイで生き、セレスを成長させる。鮭が川に帰るように、死後は肉体を失ったセレスのみがヴェーユへ戻る。　ヴェーユではセレスが善に成長したか悪に成長したかを検査し、善ならトワーユに、悪ならラティアに送る。善なセレスとはメルディン (pelɑcn) に傾いたセレスであり、悪なセレスとはエルナ (elnɪ) に傾いたセレスのことである。　なお、１０歳に満たずに死んだ場合、セレスの良悪を判断できないため、再度転生してアトラスに帰すことになっている。　この世はセレスがどちらに傾くか試すための試練の場であり、最終的な魂の生活はあの世にある。ほかの多くの宗教とは異なり、現世で苦難を我慢すれば来世で幸せになれるというものではなく、むしろ現世での生き方がそのままあの世での居場所を決める。　すなわち、戦争なり飢餓なり飽食なり、どのような時代であれ、メルディンに感じる習慣を持っている人間は、死後メルディンの習慣を持った人々のいる世界トワーユで暮らすことができるということである。　戦争だ飢餓だということで諦めて不幸不幸に感じて生きたものは、死後も同じような人間ばかり集まった世界に行く。だからこそどのような時代であれ、現世で前向きに生きよとアルティス教は教える。現世はたいがい救いのない世界なので、救いを作り出す前向きな脳を身に付けよ、そうすればトワーユに行けるという思想である。我慢せよではなく、前向きに捉えよという教えである。　耐えていれば天国に行けるではなく、今あるもので幸せに感じるものが幸せに生き、幸せに死に、死後も幸せになれるという救いである。　＜天国と地獄＞　多くの宗教では、天国は楽園で、地獄は業火に焼かれ続ける場所と考えられている。しかしラティアでは死者の苦しめは行わない。業火に焼かれることはない。　地獄の思想は「地獄に行きたくなかったら悪さをするなよ」と人々を脅すもので、原理的になまはげと変わらない。実在する地獄とはどのようなものかと考えた際、このような場所があるとは考えにくい。宗教家にとって好都合なだけの場所は存在しえない。　実在する地獄として考えられたラティアには地獄の業火がない。ではどのような場所かというと、エルナ傾向の人間の住むところである。そこには物事をネガティブに考えて負の連鎖を生む人間や、人の言い方や服装といったどうでもいいことがいちいち気になる神経質な人間といった、エルナに傾いた人間しかいない。言い換えれば、自己ないし他者に対して悪意を向ける人間の集まる場所である。　まったく現代の日本にも同じような場所が存在する。地獄は現実にこそあるとはよく言ったもので、感じの悪いオフィスや研究室や教室は地獄と変わらない。　ラティアでは鬱々考えて悩んで苦しむ哲学者、人の陰口を言ってばかりの女、馬鹿で品性のないギャルといった連中が犇いている。彼らは自分のことで悩んで苦しむか、人の態度が気に食わずに恨み罵り不快に感じる。そのような癖のある人間が死後にラティアに行く。仏教やキリスト教の地獄と異なるのは、犯罪者などの悪人ばかりが集まっているわけではない点である。　彼らは永劫に人を呪うか自分を恥じ、いつまでも不快な気持ちに包まれたまま生きていく。　天国と地獄に派手な見た目の差はない。一見すればどちらも同じような社会である。片方が業火で燃えて片方は牧歌的というような分かりやすい差はない。分かりやすい楽園もないし、分かりやすい地獄もない。天国にも労働はあるし、疲れも怪我もある。逆に地獄にも笑いはある。ただ、彼らは生前の習慣に沿った世界に分類されるというだけである。　＜分離機能＞　あの世に行ったセレスは二度とこの世に戻らないため、この世での人生は入試のようなものだと考えられている。本番はあの世であって、この世は前座でしかない。　なぜこの世にセレスを送るのかというと、セレスの良悪を定めて、良いセレスは良い籠に、悪いセレスは悪い籠に入れておくためである。　セレスの分離機能は棲み分けのためにある。善人にとって、人の足を引っ張ろうとする悪人は不快な存在であり、彼らのいないところで暮らすことが理想的である。現世では良悪混じって生活しているが、試験が終われば善人は善人だけで暮らすことができる。その実現のために棲み分け機能を持っている。　言い換えれば、悪人を切り捨てて篩いにかけているといってもいい。善人が気持ちよく暮らせるための場所を維持するために、現世という試験の場がある。

leˀlɪcɪn ［名詞］霊界人 ［レベル］2 ʃʃL: リディアの書

leˀlɔ ［医療］症状 ［レベル］2 ʃʃL:leunˀlɔɔˀl ［語法］ 医療用語なので、一般人は単に ˀlɔɔˀl ということも。

leˀl ［格詞］～と、～として。ɥəl の同格を指す。 ［反意語］leˀl ［レベル］1 ʔˀ: 恣意 ［用例］ jeμen ſccɪ lelcɪ leˀl ɒcuɪ. セレンはルシアを娘として愛する。

leˀl(J) ［言語］l の文字 ［レベル］1 ʃʃ0: 制 : 知識 ［語法］ 第２０文字目の幻字。最後の子音字。日本語のラ行を転写する際は μ や ɾ でなく l を使う。

leˀln ［名詞］通信、信号、連絡、交信 ［魔法］風の高位白魔法。遠く離れたところにいる相手とテレビ電話できる。 ［レベル］3 古 :leˀln ← "ˀlccz, pc μe lɪnſeˀ"（クリス、返事してくれ！）

から。メル10年、セレンが日本の隅田川でクリスを探して叫んだ言葉から。 ［語法］ ɔlʃ

lelneɔlc ［名詞］通信機能 ［レベル］4 1L:ɒelcɑcı ılcj

lelcı ［気象］夕日 ［医療］少陽 μɑ;ʇjzɑ ɱ

lelce ［人名］レシエ ［名詞］夕、夕方、宵、黄昏、黄昏時。１６時から１９時。 ［形容詞］夕の ［レベル］2 J0:μcɑcı:lelcı.jzɑ（夕日） ɒɥəd:ɒɥəd:lı lelce ［文化］ ɒczɪμc

lele ［形容詞］賢い、頭が良い ［類義語］ueʃʃe、ɥəlɒı ［反意語］lecʃ ［レベル］2 1L: 中期制アルカでは lele（知識）があった。賢いは古 jɔμn で leıʃ。 hɥəlɔ:hɥəlɔ ［用例］ ［メタファー］ lele ɥən ɒel メルのように賢い：天才系。発想がすばらしい人。理数系に強い。 ［メタファー］ lele ɥən μcɑcı リディアのように賢い：超人系。複雑なことを整理できる。記憶力が異常。 ［メタファー］ lele ɥən ˈılzıŋ カルザスのようにずるがしこい：uıjʃe を見れば一目瞭然。

lej ［接続詞］先行詞を内包する le ［レベル］1 1L: 恣意 ［語法］ lejen のような属格はない。

lejʃ ［名詞］主、メイン、本体 ［名詞］サビ、曲のサビ、ヤマ、レフ、リフ、リフレイ ［形容詞］主な、メインの ［副詞］主に ［反意語］ɒɔlʃ ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcj: 古 :lɔj: 頭（lɔ）から来ている。

lejʃlcj ［名詞］正伝 ［反意語］ɒɔlʃlcj ［レベル］5 μɑ;/ ɱ

lejʃəlılı ［料理］主食 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbıleʃʃ ［語法］ lejʃbel

lejʃjcz ［電算］マザーボード、ロジックボード ［レベル］4 1L

lejʃjerlıμ ［電算］メインカメラ ［レベル］6 ul;/ ɱ

lejʃuɔnı ［名詞］主旨 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

lejʃɒıl ［電算］メインメモリ ［レベル］3 1L

lejʃɒec ［化学］主成分 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

lejʃbel ［料理］主菜、メインディッシュ、メインのおかず、オカズ、おかず ［レベル］2 1L:μcɑcı:ıμbıleʃʃ ［語法］ 例えばパンとハンバーグとサラダを食べる場合、パンが lejʃəlılı で、ハンバーグが lejʃbel で、サラダが ɒɔlʃbel となる。 ［用例］ ıcl, lejʃbel eʃ ɥıɒɔ. ときどきおかずがおいしくないときがある。

lejʃɥıu ［言語］主節 ［レベル］4 J0

lejʃsczɔl ［音楽］リードギター ［レベル］5 J1

lejʃsczɔlın ［音楽］リードギター担当 ［レベル］5 J1

lejʃlıʃ ［建築］玄関、集合住宅の正面玄関 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılcj ［文化］ 玄関にはドアがある。ドアには勿論鍵がある。このドアは押して入る。入ったところはドアが通る空間なので何もないが、一メルフィほど向こうには下駄箱があり、靴置き場がある。ほぼ日本と同じである。アルバザードでは屋内でも靴を履く。日本とは違う。ただ、室外履きと室内履きは区別する。必ずここで室内履きに履き替える。室内履きは足が蒸れないリラックスできるスリッパ状のものが多い。湿度の低いアルバザードでも靴は脱いで放っておくと臭くなるので、下駄箱に入れる。そして別の下駄箱から室内履きを出して履く。室外履きと室内履きは隔離されている。臭いが移らないためである。最低でも下駄箱内に仕切りを設けて区切る。日本の玄関は一段低いところにあるが、アルバザードはバリアフリーなので段でなくスロープになっている。スロープは完全に家の中なので、靴を履くためなら座っても良い。スロープより玄関側はまだ完全に家の中とは言いがたい空間である。ゆえに室外履きを履く汚い空間とされる。

集合住宅の場合、外から入ってくるときに必ず通る場所である。まず、自動ドアをくぐってホールに入る。ホールには守衛所があり、その横に改札がある。駅と同じ構造である。改札はアンセを通して住人であることを確認して初めて開く。来訪者の場合、守衛所で来訪相手に連絡を繋いでもらい、許可が下りれば守衛所から通り抜けさせてもらえる。ここも日本の駅と同じである。

lejʃlɔcʃ ［名詞］本社 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

lejʃıfe ［名詞］本店 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

lejʃıjμı ［軍事］本拠地、本山 ［レベル］4 J0

lejʃıμ μelɑ e

lejʃcɒccμ ［人名］レスティミール、３賢女 ［レベル］6 μɑ;lejʃcμ ˈlıen lec e ɒccμ を短縮させたもの。 ɱ ［文化］ lec e ɒccμ に登場する３賢女のこと。具体的にはクミール、リディア、メルを指す。

lejʃcɒccμ(J) ［工学］レスティミール、人工知能レスティミール、三賢分立 ［レベル］4 ls:ɒel;l ec e ɒccμ に登場する lejʃcɒccμ から。 ɱ ［文化］ → ɒccμ, jeμˈlın, jeμˈlɔlɒ, ınɒccμ メルが作った人工知能。ミールと同時に着想し開発しているので、まず先に ɒccμ を読むこと。

μcɑcı, ɒel, ˈlɒccμ という３つの人工知能から成り、それぞれが立法･行政･司法を担当する。英雄リディアは決まりに厳格だったので、それにあやかって立法を。英雄クミールは裁判官クミールの異名を持っていたので司法を。知能が高く処理能力が高かった英雄メルには行政を――というシステムである。 レスティミールは μɑ で書かれた『ミールの書』に出てくる３賢女が由来である。恋人としてのリディア、妹としてのメル、片想いの相手としてのクミールという、μɑ のセレンが関わった３人の女性がそれぞれ互いにせめぎあって協議しているのが人工知能レスティミールである。 革命後はセレンらによって直接民主制と独裁制のハイブリッドである「司民制」が採用され、間接民主制は消え、政治家などもアンミールの分を除いて消えた。直接民主制だけを採用しなかったのは衆愚政治を防ぐためで、独裁制だけを採用しなかったのは個人に権力が集まりすぎるのを防ぐためで、後者は旧革命の反省を反映している。 なお司民制の採用と同時に革命では経済面において資本主義に代わって修正資本主義が採用された。 レスティミールは議員や裁判官に代わって三権を持つ。ただし三権は μcɑcı, ɒel, ˈlɒccμ に分与されている。三権は互いに牽制しあい、三権分立が保たれ、独裁が防がれている。 レスティミールは過去の事例や判例だけでなくミールによって集計された現況のデータに基づいて立法・行政・司法を行う。 直接民主制は間接民主制に比べより民意を反映できるというメリットがあるが、人口が多く規模の大きい国では実現が難しい。あまりに多い人口のせいで、そもそも民意を集計して世論を形成することが難しいためである。従来のような電話などを用いたアンケートを一つひとつの法案に適応していては、いくら時間があっても足りない。 そこでメルらはネットを使い、素早く民意を集計した。ネットでの集計は個々人に ＩＤがついているアルバザードでは容易で、二重投票もできない。

徹底した秘密投票で、組織票が形成されづらいのもメリットである。会社が社員に無理にある法案を支持するように言っても、機密性が高いので社員は自分の思った通りに行動できる。上の人間の言うことを無視しても一向にお咎めがない。 この制度は自分の民意を反映させたいと思う個人が自分の意思で意見をミールに伝えるため、政治に参加したくない個人を強制的に狩り出すことはない。あくまで政治に参加したい者だけがすればいい。国民全員の意見を政治に反映できるが、「できる」と「する」は別物である。棄権者が一定数いるので、国民全員の意見を反映できるシステムではあっても、実際には棄権者の分は反映されない。ただし、見方を変えれば白票を投じた層として政治的アパシーを持っているという意思がその国民の意見として反映されているので、結果として国民全員の意見が反映されているといえるかもしれない。 ミールはネット経由で集められた膨大なデータを整理し、世論を地方･国家単位でそれぞれ形成する。 レスティミールはそうして形成された世論をオフラインで受け取り、民意を踏まえた上でまつりごとを行う。ミールで形成された世論はレスティミールに入れられる前に厳重なウイルスチェックがされるため、レスティミールに危害を与えることは事実上不可能である。 例えばレスティミールのリディア（立法）はミールから受け取った世論などを考慮して、国家単位では法律を定めたり、地方単位では条例の改廃などを行う。 ミールとレスティミールによって政治家や議員などはアンミールを除いて不要になったが、官僚は法案や政策案を提案するプロフェッショナルとして国民にアドバイスをするのが業務になった。業務内容が変更されただけで滅んではいない。国民を導く啓蒙家であると同時にマスコミのような位置づけに変わった。 一部の金持ちにだけ有利で多くの国民に不都合な法案や政策案を提案する官僚もいれば、大衆に迎合する官僚もいる。官僚はご意見番であり、各層の民意を反映して法案や政策案を提案する。衆愚政治や一握りの上層部による腐敗政治を防ぐため、様々な意見を持った官僚が必要とされ、必ずしも大衆に迎合した者や上流階級に尻尾を振る者だけが生き残るわけではない。 レスティミールはミールが形成した民意を踏まえて国を動かすが、直接民主制のデメリットについてもきちんと考慮されている。人間社会のピラミッドは下の人間のほうが上の人間より数が多い。直接民主制をそのまま採用すると教養のない人間の意見が通りやすくなる。 アルバザードは徳育を重視しているため、上の人間ほど人徳がある。そうでなければ上の学校や会社に入れないためである。ということは相対的に見て下の人間のほうが無教養な上に非道徳的ということになる。

このような階層の意見が優先的に通ると、それは衆愚政治を招きやすくなる。これが直接民主制のデメリットである。 このデメリットを防ぐため、ミールは予め ＩＤから各意見がどの階層に支持されているのかを判断し、そのデータも含めてレスティミールに世論を提出している。 レスティミールは階層ごとの世論を受け、下流の意見ばかりが数の暴力で無理に通らないよう国を動かす。 また、ここまでは司民制の直接民主制の面を説明してきたが、実際にはこれに独裁制の側面が加わる。 レスティミールはミールが形成した世論を反映して国を動かすが、民意のほかにセレンら支配層の独断が加わる。重要事項であるほどセレンらの決定は民意より優先され、ここに独裁制の側面が伺える。逆に瑣末なことに関しては独裁者の意見よりも民意のほうが優先される。 レスティミールの原理は「４つの石を１人に持たせる政治よりも、４つの石を４人で持つ政治」であり、皆に負担を強いる代わりに一人ひとりの負担を軽くするというのが原則である。 開発者のメルは「石をなくすことはできない」と述べ、どのような政治思想を以ってしても全員に負担をかけない政治は不可能であるとしている。 なお、レスティミールに不具合があった場合はアンミールが代理として働くことになっている。また、アンミールは普段レスティミールに対して意見を言い、レスティミールに再考を促す権利を有する。

lejʃcμ ［丁寧］淑女、婦人、レディー、女性 ［類義語］ɒcn ［反意語］ɑccze ［アクセント］ lejʃЄμ ［レベル］3 J0:cjʃcμ と lefcı を混ぜたものから。 ［語法］ 女の丁寧な言い方。淑女や女性に相当。家の中で使うことはあまりないが、店などで聞くことは多い。

lejʃcl ［地名］レスティル、レスティル国 ［レベル］4 ɒelfcı Lʔ jen ucı:lɥ;「知者の支配する」 J0:μcɑcı: 第二アルカで「知者の支配する」という意味。 ［文化］ アルバザードの旧称。メルティア９５万年ごろにシフェルが現アルナ地方に建国した。国というより集落レベルのもの。当時の人類は高速で空を飛べたため、範囲は広大。アルバザード、ケートイア、アルシェリア、ディミニオン南部を含んだ大きな国。 ɥəəɒı ʔʔ アルカンスでケートと友好的な交易関係を結んでいたレスティル人のヴェルディア族が、ギルケートと同盟を締結。アルカンス貿易の経済力とギルケートの軍事力を背景に、ヴェルディア族の長シフェランがレスティルの王となり、アルカンスに王都レスティリアを建てる ［成句］ ucnj lejʃclcı ɑccnı lejʃcl 大事の前の小事

lejʃclμen ［言語］レスティル語 ［レベル］4 JJ ［文化］ elɑjefı ●概要 名称：lj（レスティル語） 系統：アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族リュディア超語派レスティル語派（ıfe nıɒıf, ɥəəɒıeɒcʃ, lcɑeμɑcıɒ, lɥəɑcıcɑıl, lejʃclleʃfeɒ） 使用年代：(ɒ_1) 分布：南西アンシャル：リュディアがファニアに滅ぼされ、東へ散ったリュディア人が建てたレスティル国周辺で使われた言語 話者：ファルファニアとの戦争に敗れ、東へ移住してきたリュディア人の末裔 類型：ＳＶＯ、ＮＡ、Ｐｒ：ＳＯＶの際は対格に、ＶＳＯの際は主格と対格に格表示をする。助動詞文はＳＯＶに 認知様式：客観的把握 ●語順 ＳＶＯが自然となっていった。その結果、ＳＶＯのときは主格と対格の語尾を省略するようになった。 lejʃclcn ɑıcz ɑcʃıʃ hepen（レスティルの王がリンゴを与えた） ＳＯＶのときはリュディア語のように格が表示される。 ただしこの場合Ｏだけ。ＶＳＯになったらＳＯともに格を表示する。 lejʃclcn ɑıcz hepenеɥ ɑcʃıʃ. ɑcʃıʃ lejʃclcn ɑıczıɥ hepenеɥ. ●助動詞 助動詞は動詞の直後に来る。ıμ に比べて数は少ない。 助動詞文の場合は語順がＳＯＶになる。この場合、ＳにもＯにも格表示はいらない。 ɑıcz hepen ˈɒc pıl（王はリンゴが食べたい）

lj におけるＳＶＯとＳＯＶの混在はドイツ語やオランダ語を彷彿とさせる。 ●修飾

ＳＶＯが標準になった結果、後置修飾に。ˈıcle ɑıcz だったものが ɑıcz le ˈıc に。類型論的に見ても、ＳＶＯの場合はＡＮよりＮＡの方が優勢。 後置になったことで le が形容詞（ˈıc）の前に回りこむ。その結果接尾辞として膠着していた le は単語として独立する。よって le ˈıc のように、間にスペースを入れる。 同じ理屈で、bɪɔɥ he ucuc で「強く殴る」となる。 ●関係詞 関係詞も後置になった。 ˈılıɑıcz μɔɒ lejʃclcn ɑıcz ˈɒlələʃ（レスティルの王が建てた国） 関係詞節内の前置詞が残存するようになった。 ●前置詞 ＳＶＯが標準になったことで後置詞が前置詞となる。 ●連体詞と代名詞 連体詞は変わらず前置された。「この、これ」は ıɑ から ʃə になった。「あの、あれ」は Tə。「これの」が ʃən で、「あれの」が Tən。 「彼」は jɔə で、「彼女」は ləə。 男女が分かれている点でアルカと異なる。 遠近では分けないので lə と lı の違いはない。 lj 以降は三人称の lə が連体詞として使われるようになり、日本語と同じ「こ･そ･あ」の三段階になる。 「こ･そ･あ」は lj のみ。ıμ 以降は「こ・あ」の二段階に戻る。従って le hepen（そのリンゴ）という言い方ができる。 副詞の一部、μe や ɒc なども前置されたままであった。 ● e ˈlenɔ は「～の」と同じ語順で使われ、残存した。 ˈlenɔ の代わりに ˈlenɔ を短縮してできた e が使われだした。e は "ɔɑ" と同じ語順である。 ＳＶＯが基本語順になったにも関わらず、レスティル語では ˈlenɔ のほうが優勢で、e の頻度は低かった。 これは ıμ にも継承される。e がよく使われ出したのは μɑ 以降。 ●数 → jcɑıll 民間人は ɑu の数詞体系を用いていたが、軍隊の中では別の数詞体系が用いられた。zφ の話なので、すべて lj1 である。 レスティル軍が武器の長さを元に暗号として数の名前を付けた。この暗号はやがて敵方に知られ、暗号としての意味を失う。しかしその後も軍隊用語として残存した。 日本語の軍隊用語でも 1J 時をイチニィマルマルと呼ぶように、軍隊などは特別な用語を使うことがある。 軍隊以外にも当然こういう隠語はあるし、軍隊には数以外の用語もあるが、数の数え方に関して特殊だったのは、これがやがて民間人にも広まったという点である。 レスティル軍は武器を例に取り、その長さが長い順に 1 から並べた。 例えば 1 を表す ɑəə は槍の ɑcφc から来ている。 なお、0 は ɑu と同じく ɥəə である。 ʃɔ（十）, φıl（百）, ʃen（千）, jen（万）は武器からではない。 数え方は 10 進法で、ʔ–10 進法とは異なる。 発音のリズムをよくするため、ɱ 以降は n で終わる軽快なものになっている。 1:ɑəə J:ɥəə ʔ:ucc ɱ:ɥɔn ʔ:flɔn ʃ:ın ʔ:zın Δ:hen L:lɔn 10:fɔ ただし、Jʔのみ dıμıpıcz という。

この数え方はアルバレンにまで引き継がれる。 制では採用されなかったが、新生で継承された。 ただし ıμɑ では fɔ は fɔɔ になった。JʔもJ特殊な言い方がなくなった。 レスティルはルカリアから神人貿易の中心的地位を奪ってからというもの、経済大国として世界を牽引してきた。 そのため、このレスティル式の数え方はレスティル軍人からレスティル商人を経て世界中へ広まっていった。 また、軍人は任務上外国に行き、遠征先を占領することがあったので、彼らも数を広める要因になった。 ただ、エルト式の数え方も依然として世界中に残っている。 レスティル式は jɒ になって ıμɑ になると学校教育に採用されたことで急速に広まった。 ●疑問文 ɑu, lɥ と違って疑問の nɔ は助動詞になった。助動詞文はＳＯＶなので以下のように使う。 jɔə hepen ˈɒcʃ nɔȣ（彼はリンゴを食べたの？）

lejʃclcı ［地名］レスティリア ［アクセント］ lejʃclcʔ ［レベル］3 lj1:lcɑeμın;lejʃcl/ncı,ɑu J0:lejʃcl/ 古 ncı ［文化］ ɥəəɒı ʔʔ アルカンスでケートと友好的な交易関係を結んでいたレスティル人のヴェルディア族が、ギルケートと同盟を結び、アルカンス交易とギルケートの軍事力を背景に、アルカンスに王都レスティリアを建てる。 ［成句］ el eɒ nɔʃ ıl ıμnı cjʃ lejʃclcı. 住めば都 ɑıc lejʃclcı ɔˈl cnj hıμ 赤い目で王都を燃す：泣いて馬謖を斬る

lejʃclcın ［名詞］レスティリア人 ［レベル］4 JJ

lejʃe ［名詞］署名、サイン ［動詞］ɥəl（内容）を ı にサインする、サインする、署名する ［レベル］3 1L: 古 eejʃe（名前）から。語頭の l は新生の指示の le。 ［用例］ lejʃe (ejʃ) ı pıj 紙に名前を署名する lejʃe alen ı pıj 紙に許可を署名する：具体的には自分の名前を許可申請書に書くことを指し、許可という文字を書くことではない。

lejʃez ［建築］居間、リビング ［レベル］3 1L:lecn ［文化］ 食卓があって家族団欒の場。大抵台所に直結している。最も大きな部屋で、誰の部屋でもない。食事のとき以外もここに誰かしらたむろして何かしている。 ［用例］ ın cnıʃ fecˈl ˈlı lejʃez lc ɑənel. 夕食の後、リビングでテレビを見た。

lejl ［名詞］［形容詞］風流な、をかし、雅な、あはれな、優雅な、風情がある、乙だ ［レベル］3 1L:ejl（雨）。雨を窓辺で見て愉しむような心であることから。 ［語法］ 動詞は ɥə と共起すること。形容詞としても使えるのでeʃで導いてもいいが、ふつうは名詞として使う。 ［文化］「美しい自然物ないし現象」に「安全な位置」で触れたときに感じる豊かな感情。従って、山を汗だくで登って滝を見たときには感じない。窓辺で雨を眺めるときの気持ち。風呂で雨の音を聞くのも lejl。 ［用例］ ɥə lejl. 雅だな。

lejd ［交通］迂回路 ［動詞］ɥəl（迂回路）を通って ı に行く、迂回する、行く ［レベル］3 1ʔ: 制 ［語法］ ɥəl（迂回路）を通って ı に行く。従って格組からいうと、lel 型。元の道は ɒel ないし cjʃ 格。 ılɔl で寄り道の意味。 「迂回通行する」という訳語を当てればわかりやすい様子。

lı lejdıʃ Y cʃ A ı B ɒel X . 彼はＡからＢへＸの代わりにＹを迂回通行した。 彼はＡからＢへＸを迂回してＹを通行した。

```
X  A ┐ ■ ┌→ B
     └────┘
Y
```

ただ、避けたということを強調したい場合は ɑɔnl を使ったほうがわかりやすい。

lı ɑɔnlıʃ X , ɑɔnlıʃ Y cʃ A ı B 彼はＸを避け、ＡからＢへＹを通った。 ［成句］ lejd elɑe ɒel ˈlılʃɔ. 森を迂回して泉を通れ。急がば回れ、急いては事を仕損じる：アシェルフィからカンタルに行く場合、アルシェの家の北西にある森を突っ切るのが最短だが、犯罪率の高い森なので危険を避け、アシェルフィ中央の泉を通って北上したほうがよいという喩え。異性魔王に襲われたアシェルフィ民がアルシェの家の地下に避難した後、自宅に帰る際に作った慣用句。 ［用例］ ˈɔlʃ μı ˈɔnʃ en lejd ılɔl lc ɑelı. 学校が終わったら寄り道しないでまっすぐ帰ってきなさい。

lejcel ［地学］幻天儀、地球儀、レシエール ［アクセント］ lejcEl ［レベル］2 J1:le jcel（あの空）

len ［文頭純詞］やはり、やっぱり、思ったとおり ［文頭純詞］(8とともに)でしょ？、そうでしょう？、やっぱりそうでしょう？ ［形容詞］予想通りの ［類義語］hɪɟɪn ［反意語］lɔɔɑ ［レベル］1 1ʃʃ ←古 :lɔnʃ ［語法］ やっぱり止めたなどの場合は oɔn、oɔn と区別すること。

len(ʃ) ［人名］レン 古 :『少女・レンとアル』 ［文化］ レンという娘が人形にされ、アルという人形が逆に入れ替わりで娘になってその父親に愛されたという話に出てくる少女の名。

len(?) ［接続詞］～するための、lɪnɪen の意味 ［レベル］2 1L::pel ［用例］ nɔn ɟc φɪɪbe len nɪl. 笑うネタがないわ：メルのこの例が初出。正確には、lɪnɪen がいい加減に発音され、それをセレンが len と聞いたことに由来する。

len(ʃl) ［人名］エンナの略称 ［組み数字］2 2 / 2 8 ［レベル］1 pel:「人形」の len から類推したもの

len(ʞ) ［名詞］lenɹ,ɪlʃ ［文字］技 lenɹ.l ［文化］ ʅɔcpɪnlen

lenʃ ［名詞］人形、マネキン ［魔法］レント。害の禁呪魔法。人形に対象の体の一部を埋め込むことで、人形と対象を同期させる魔法。つまりこの状態で人形の腕をもぐと、対象の腕ももげる。 ［レベル］2 1?: 制 :ɔɟɥn。人形は ɪlʃe だが、古アルカで人形というとすぐに２体の人形の名を思い出す。『少女・レンとアル』である。9 年ごろにミルフが訳した。レンという娘が人形にされて、アルという人形が逆に入れ替わりで娘になってその父親に愛されたという話。この話に影響を受け、レンはネエに取って代わって一時期「 人 」を意味した。

lenʃɑcɪn ［名詞］眠り姫、眠れる姫君 ［レベル］3 JJ: 「人形少女」 ［語法］ ぼーっとしていて感情に乏しい少女のこと。あるいは物語に出てくる眠り姫などのこと。

lenʃɥeleu ［幽時記］人形供養、ひな祭り、雛祭り ［レベル］3 J1: 「人形送り」 ［文化］ ɑəl pel のイベント。木の芽時で体調を崩して死んでしまう子が多かったことからできた風習。親が人形に子供の名を付け、子供の代わりに死なせたことにし、人形を埋めて供養する。μn で民間的に毎年３月ごろ行われだしたが、アシェットが子供のイメージから pel の日に定め、ɑəl pel となった。μʃ からは火葬に変わる。 現代では着飾った人形を飾り、子供の健康を願うだけで、燃やしはしない。

lenʃoɪcn ［ユマナ］ひな祭り ［レベル］5 J0

lenʃc ［名詞］客寄せ、サクラ、アトラクション ［レベル］3 古 :len（人形）。ʃc は不明。

lenʃcɟ ［エルト］レンティス ［レベル］5 1ʃ: 制 :lenʃ/lɪnʃcɟ ［文化］ 人間を操り人形としてあやつる。

lenɹe ［代詞］とある ［反意語］ɪnɹe ［レベル］2 J1:ɪl/ɪnɹe.ɒu

lenɟ ［名詞］知能、知恵、頭脳、思考力、知識、知性 ［レベル］2 1ʃʃ: 制 :ɔɟɥn:lenʃ ［語法］ 頭の回転や発想力が lenɟ だとすると、物事をいかに知っているかは lecʅ。ただし lenɟnɪlʃ のように、lenɟ で知識を指すこともある。lenɟ のほうが広く、lecʅ は専門的に知識を指す。 ［用例］ lenɟ hɪl 高い知能、優れた知能 lə ʃcl lenɟ hɪl, leuɪn ɟɔμ, lɪμ nɪn eʃ lɪn ɪɪl. 知能もプライドも高く、自分を特別視している人間。

lenɟʃell ［名詞］知育。徳育、知育、体育という教育の三本柱のうちのひとつ。 ［レベル］3 μɑ;/ JJl ［文化］ ʃell

lenɟlɔu ［音楽］オルゴール ［名詞］智恵の箱、パンドラの箱のようなもの ［レベル］3 制 : 古 :「知恵の箱 」 ［文化］ 思春期になると開けてしまう箱。 人は自分の描いた夢を叶えるために努力し、知識を身につける。そして身につけた結果知ることは、自分が生きている間にはその夢は到底叶わないという現実。 学んで前進したことで、後退する夢。夢の箱を開けなければ幸せでいられた。 パンドラの箱と違うのは、希望が残されていない点。希望は炭酸のように、最初に抜ける。

lenɟlɔzeʃ ［言語］［言葉遊び］訳せないもの、レンスコゼット ［レベル］4 J1: 「智慧に鍵をかけられた」 ［文化］ μenɟlɔzeʃ とかけた言葉遊び。いくつもの意味のある掛詞。 訳をすると意味やニュアンスが通じなくなったり、興が削がれたり、原文の意味が複数に解釈できるので特定の訳を持たないー―そのようなものを ejʃel（エステル）泣かせの lenɟlɔzeʃ という。 ――――

もしね、アルカのことを、仮にだけど、ちょっとなしにして考えたとしても、セレンはいるんだよ。私がいるから。 ・ＢＵＭＰ ＯＦ ＣＨＩＣＫＥＮの『Ｋ』 その言葉でしかその言葉の良さや妙技が伝わらないものも lenɟlɔzeʃ という。 ＢＵＭＰ ＯＦ ＣＨＩＣＫ ＥＮの『Ｋ』の歌詞の最後はセレンが最も優れていると思う詩である。あれは最後が英語だが、英語以外の言語に訳したら絶対に意味がなくなってしまう。あああいうのを lenɟlɔzeʃ というのだ。

lenɟnɪlʃ ［名詞］レンスナルト、知の城 ［レベル］5 1L ［語法］ アンティスとアトラスを作ったリディアの知識量は量り知れず、まるで知の城に住んでいるかのように見える。そこから、極めて高い知を指す言葉として造語された。 ［用例］ μcɑcɪ ləʃcɪ μɪ lenɟnɪlʃ. リディア＝ルティアの知力は凄まじい。

lenɟucleʃ ［医療］知的障害者、知障、池沼、キチガイ、きちがい、気違い、気狂い、基地害、基地外、キティ、キチ、マジキチ ［類義語］ɾlɔɔl ［レベル］3 μɑ;/ JJ:ɔel

lenɟdɪnʃ ［名詞］教養科目 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪelʃ

lenɟdɔl ［地名］理方 ［レベル］5 J0 ［文化］ ユピトール、リーゼル、ルティアの地方。伝統的な国で、教育熱心。世界の中心アルバザードが唯一憧れるのがこの地方。アルナ人は方言を見下しているが、理方語、特にルティア語は美しいと思っている。ただし、男性はなよなよして聞こえるので、ユールには向くが、アルデンには向かないと思われている。 反対に、女性のルティア語は羨望的的。アシェットのクミールも憧れた。フェール＝ハーミットはアルナ人で、カテージュ出身のシア＝ヴェーユの方言をからかうが、ユーレ＝アルフィーネの純粋なルティア語は決してからかわない。 また、理方は教育熱心だからか、アルバザードより頭が良い。しかし国力はアルバザードが一番なので、ルティア人の賢い学生はよくアルバザードに移住する。そのため、アルナ大の主席はアルバザード人かルティア人で占める。

なお、現代のアルバザード人はルティアにはまだ魔法使いがいると信じている。ルティア人自身も信じていて、ルティア人はファンタジーを非常に好む。

lenɟlccɑ ［名詞］レンス・リーファ、智恵の星 ［レベル］4 J0:lcɔn ［文化］ アルナ大学で、各学年のトップ５および首席を合わせた計６名のこと。ミロクとその親衛隊に準えている。後期大学受験を控えた nɪɟʃe の学年が最も注目を浴びる。 慣例として、中心は１組。７，１４，８からシードで一人ずつ。残り２名を他クラスの傑出した人物で奪い合う。

lenɟleul ［医療］知的障害、精神遅滞 ［レベル］4 1L

lenɟlec ［言語］理方方言 ［レベル］5 J1 ［文化］ 主にルティアで話されている言葉。ただし下方語。上方は leclec。

lenɟɪueleʃ ［人名］智慧の杖、ルシア、ルシア＝アルバザード、レンス・アヴェレット ［レベル］6 JJ

lenu ［名詞］技、技術、テクニック、特技、技能、芸、一芸、実技 ［類義語］enl ［レベル］2 古 :::len,ɪlʃ ［語法］ enl, enuelen ［用例］ lenu dɪl 進化する技術

lenuɟɪ ［名詞］技能テスト ［レベル］4 μɑ;/ JJ

lenuɪn ［名詞］職人 ［レベル］3 1L:clbəɟ:μcɑcɪ

lenɑc ［代詞］何か、なにか、なんか ［反意語］ɪnɑc ［レベル］2 J1:lenle からの類推

lenɑ ［名詞］ずれ、ズレ、落差、差 ［数学］誤差 ［レベル］3 1L:lɪl/enɑ（期待に対する差） ［語法］ enɑ と発音も近く、意味も近い。期待に対するズレというニュアンスの違いのみ。

lenɑc ［代詞］［形容詞］このような、そのような ［類義語］ɟɔɪ ［反意語］ʅlenɟ ［レベル］1 JJ;ulɪnɑ,ɟzɑ.l JJ ［語法］ ɟɔɪ

lenɑcn ［代詞］こちらの ［レベル］1 JJ

lenlen ［音楽］歌謡曲、ポップス、ポップ、シャンソン、ＰＯＰＳ ［レベル］3 J1:lecɒleɒ ［文化］ → ləlcleɒ 一般人が聞く音楽で、時代によって潮流が激しく変わるが、歌詞のテーマがほとんど恋愛という点で共通している。 ɪl のころは ləlcleɒ に比べ曲が単調で単純で技巧を凝らした造りになっていなかった。アルバザードでも ləlcɪn は lenlen を毛嫌いしバカにすることがあり、一般人は ləlcleɒ をキモヲタと蔑むことがある。

lenɪ ［代詞］［ɒdɑ］私たち ［レベル］1 1L:μcɑcɪ: ユンクの代詞に nɔ 系の音が多すぎて発音しづらくなったため、音を nɔ から離すため、le に変えた。さらに、自分関連の単語であることを示すために、nɪ を付けた。nɪ は前期制アルカで自分を指す。

lenɪɟ ［形容詞］かわいそうな、可愛そうな、可哀想な、あわれな、哀れな、みじめな、惨めな ［類義語］uecφl, beʃʃel ［反意語］ɪuɔμʃ ［レベル］2 1L::qəlbccɪ: 関係詞句 l'enɪ に古の動詞語尾 ɟ を付けたもの。

lenɪn ［代詞］［ɒdɑ］私たちの ［レベル］1 1L:μcɑcɪ

lenɔn ［植物］茜、あかね ［レベル］5 ɟɒ;ɪlʃ JJ

lenɔɪ ［代詞］［pheμs］ɪnɟ ［レベル］1 JJ:ʅɒccμ

lenɔɪn ［代詞］［pheμs］ɪnʃeɟ ［レベル］1 JJ:ʅɒccμ

leu ［エルト］ʅleeuel の略称 ［組み数字］5 / 1 2 ［レベル］1 JJ

leun ［医療］病気、病、疾患、疾病、疾患 ［形容詞］病気な ［反意語］uɪln ［レベル］2 古 :zɔ,ɟɔμn: leun（黒魔法をかける） ［語法］ uɪln アルカでは病気や疾患の区別がない。

leunʅɔɔʅ ［医療］容態 ［レベル］3 JJ

leunɪɪɟ ［普通動名詞］看病 ［動詞］ɥel を看病する、看病する ［レベル］3 μɑ;/ Jʃ

leunɪɒɔ ［医療］［交通］救急車 ［レベル］2 1L::lcɔn ［文化］ → cuɪl 救急車と消防車とパトカーはどれも騒音に等しいほどの大音量を出して街中を走る。夜間は音を消すことがあるが、消防車は警鐘の意味もあるので夜間であろうと騒音を出す。

leuμcɪ ［地名］レヴリア海 ［レベル］5 J0:μcɑcɪ: 南極の水 ［文化］ レイヴァ周辺の海。

leul ［医療］障害 ［レベル］3 1L:leun/elc だが、どこに elc の要素があるのだろう。

leuɪ ［形容詞］純粋な、純情な ［形容詞］無駄な装飾のない ［反意語］uejʃe ［レベル］2 古 : この e は水？ ［成句］ leuɪ ɥən ʃcnɪ 純真無垢 ［用例］ ɪleɒ leuɪ 純粋な気持ち ɥelc ʅeuɪ 純粋な子供

leuɪʃəl ［化学］純物質 ［レベル］5 1L

leuɪn ［名詞］プライド、誇り ［組み数字］6 / 6 ［類義語］ɪɒd ［反意語］ɪɑcn ［レベル］3 J0:leuɪ/nɪ ［語法］［文化］ 自分が自分らしくあることが leuɪn。自分に誇りを感じて名誉に感じることは ɪɒd。leuɪn は自分らしくあることで、これを欠くのが ɪɑcn。 アルバザード人は誇り高く、儲けや地位よりも、この leuɪn を大事にする。ときには自分の安全や生命よりも優先することがある。 ＜企業とプライド＞ アルバザード人は上司の命令に従い、階級に従う。ただしフランスのように部下の意見を聞かないということもなく、アメリカとフランスの間のような混在した文化を形成している。 ただ、命令に関しては一般にフランス人のように上からの指示に従順に従い、よほど「これは報告したほうがいいのでは？これは明らかなミスでは？」ということ以外は意見しない。 では、日本のように上司が偉そうな態度を取るかというと、それはない。アルバザード人は個人として扱われることを要求するため、横柄な態度は絶対に許さない。不条理な要求であっても目上なら多少は目をつぶる点は日本人と同じだが、横柄な態度は断固として拒絶する。 これは店でもいえることで、店員だと思って横柄な態度に出ると、店員は必ず意地悪をしてくる。絶対に相手がしてほしくないだろうことをあえてする。フランス人でもそこまではしないというひどい態度を返す。 これはレインのようなお嬢様でもそうである。もしレインが喫茶店でバイトをしていて注文を取るのが遅れたとする。このとき客は「お嬢ちゃん、注文遅いよ、なにやってんの？やる気あんの？ミルクティー、ホットね」と言ってはならない。レインはアルバザード人らしく「すみません、デュッソウ」と笑顔で言い、３０分くらいかけた後にアイスコーヒーを持ってくる。客は当然怒って店長呼んで来いとなるだろうが、店長はレインを叱らず、客に「もう来ないでください」と言って追い払う。 効率よくレインを動かすには、「お嬢さん、こんにちは。今日は繁盛してますね。忙しそうだけど、ミルクティーお願いできますか。今日は外が寒くてね」などと言う。行きつけのカフェなら店員の名前を覚えておくのは当然で、「レインちゃん、こんにちは」と挨拶してから用件を言うほうが良い。こう言うとレインはにこやかに世間話をした後、速やかに品物を持ってくる。このとき、たいてい客がセルフサービスで取るシュガーなどをすべて付けてくれ、いい席が空いていればそちらに案内してくれる。 アルバザード人に慇懃無礼になるのは逆効果で、礼儀を示せばいいというわけでもない。最も重要なのは相手の leuɪn を考えて行動することと、他人とコミュニケーションを取ることである。無愛想な客にはアルバザード人は接客をしない。 ［用例］ leuɪn ɟɔμ 高いプライド。プライドの高さを立ち位置の高さに喩え、上から目線にしているメタファーで、日本語と共通のコロケーション。uɪnɑ lɪn lcɪn ʃel leɟ uɪnɑ leuɪn lcɪnʃ. 君の誇りを汚すものから君を守っていたい（中谷美紀『Ｍｉｎｄ Ｃｉｒｃｕｓ』） ucl leuɪn プライドを傷つける

leuɪncɒ ［芸術］純色 ［レベル］4 J1 ［語法］ 色相の中で最も彩度の高い色のこと。

leuɪaφeɥə ［言語］純副詞 ［レベル］3 J1 ［語法］ aφeɥə

leuɪɑcɪl ［経済］純資産 ［レベル］5 1L

leuɪφcɔ ［経済］当期純利益 ［レベル］6 1L

leuɪl ［魔法］本態性アディスト、レヴァル ［レベル］4 J0: 古 leuɪ/ɪl「純粋なもの」 ［文化］ ɪɑcɟʃ

leuɪlen ［政治］レヴァレン党 ［レベル］4 古 ［文化］ アルバザードにおいて民主主義勢力ミナレットの中心政党。J01 年ミナリスが提唱した民主主義を実現するために組織されたレジスタンス組織ミナレット党を前身とする。ミナレット党は Jʃ0 年ごろ選挙制度を認めさせた。メル暦 Jʃ0 年ごろ、利害の対立によりアルミナ党、アミナル党が分離独立。これに伴い党名をレヴァレン党に変更。その後アライヴ党も分離独立した。長らくレヴァレン党、アルミナ党、アミナル党、アライヴ党の４つのミナレットの政党がアルバザードを統治した。?1ʃ 年、政治腐敗甚だしいレヴァレン党が抜け、３党連立になった。?J0 年、ミロク＝ユティア率いるイルミロク党が独裁政権を握ったため、ミナレット系政党は壊滅した。

leuɪɪμl ［経済］純資本 ［レベル］5 1L

leuɪeɟ ［化学］真水 ［レベル］3 1L

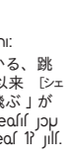
leucn ［人名］レヴィン ［料理］害食 ［組み数字］1 1 / 1 1 ［レベル］3 古 :μcɑcɪ:l ← lɪn（人）/ euc ← eucɑe（悪）/n（指小辞） ［文化］ アルシアの１１番目。害の魔法の大成者。男性。

leucɪn ［言語］人工言語 ［類義語］lcɑelɑ ［反意語］ɑcɪʅlʃe ［レベル］4 J1:lʃ（神の遊戯） ［語法］ ɪμl cɑcɪ ［用例］ leucɪn /cl jen ncɪn /eʃ /ɔɔʅ. 人工言語に一段落はあっても終わりはない。

leucɪnʃ ［言語］人工言語屋、人工言制作者、人工言語作者、レヴィアント ［反意語］ɑcɪʅlʃcɟ ［レベル］6 μɑ;leucɪn/ɪnʃcɟ。語末の終わり方は ɪuelɪnʃ などからの類推。 Jʃ

leucɪn ʃ'ɪμʅɪ ［言語］人工言語アルカ、アルカ→ ɟɪμʅɪ ［レベル］4 J1: 直訳すると「アルカの人工言語」となり、違和感がある。leucɪn ʃ'ɪμʅɪ の e については、古アルカで「人工言語アルカ」に相当する句を作る際、今の e に当たる ʅenɔ という接続詞を用いていたことに起因する。

leucɪnʅlel ［ユマナ］人工言語学研究会、レヴィアンクレール、レヴィアン・クレール ［レベル］6 JJ:ɥelaʅɪ e leucɪnʅlel「人工言語論文集研究所」を縮めて名称化したもの。



leucɪnɑcɪ ［言語］人工言語界 ［レベル］6 Jʃ

leue ［動詞］ɥel を派生する、派生する ［普通動名詞］派生 ［レベル］4 1L:leeu

leueʃ ［動詞］ɥel を発射する、発射する、ローンチする、放つ、出発する、発表する ［普通動名詞］発射、ローンチ、出発、出立、発表 ［レベル］3 μɑ;leeu/ʃe Jʃ

leueueʃ ［言語］派生語 ［レベル］4 1L

leueɟ ［名詞］［形容詞］純血の ［反意語］lɪnʃcɟʃ ［アクセント］leuEμ ［レベル］4 J0:leuɪ/eμc

leɑ ［動詞］ɥel を走って ɪ まで行く、走る。移動様態動詞。 ［レベル］2 1?: 制 lənɪ:lənɪ:

leɑʃ ［普通動名詞］ジャンプ、跳躍、リープ ［動詞］ɥel を跳んで ɪ まで行く、ɪ に跳びかかる、跳ぶ、飛ぶ、翔ぶ、ジャンプする、跳躍する、跳ねる、はねる ［格詞］～ぶり、ぶり、以来 ［シェルト］跳駒 ［レベル］2 jeμʃ 1ʃʃ: 制 :ɔɟɥn:lɑɪ（跳ぶ）。古 :lɪdɑ。lɑɪ はアルシェの leɑɪʃ 飛ぶ 」が「 跳ぶ 」に。 lənzc:lənzc:ləəz ［用例］ leɑʃ ɪ lɪ 彼に飛びかかる、掴みかかる ɪn leɑʃɪʃ ɟɔμ el lɪnɪ bcʅ uɪcʅ ʅɪc e μe. 大きな雪片をつかもうと高くジャンプした。 ɪn cnɪʃ lɪ leɑʃ ?1ʃ μlʃ. 彼女を１３年ぶりに見た。

leɑʃɒeʃ ［動詞］ɥel を c から ɪ に飛び降りさせる、飛び降りる ［再帰動名詞］飛び降り ［レベル］3 J1

leɑʃlɪʃ ［動詞］ɥel を ɪ に飛び込ませる、飛び込む ［名詞］飛び込み ［レベル］3 1L

leɑʃcnɪ ［地学］［歴史］エクタシアン ul;/ Jʃ ［文化］ φɪɪueɑeɒe

leɑɪ ［名詞］ばね、バネ、スプリング ［レベル］3 1?: 制 :leɑʃ

leɑɪʅɟ ［運動］ランニングマシン ［レベル］4 ul;/「走る床」 JJl ［文化］ ləɪɪʅɟ

leɑɪɒɪφ ［物理］単振動 J1: バネに代表される動き

leɑɪφcɑʃ ［美容］スプリングコーム J1

leɑc ［名詞］急須、ティーポット ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe:eμac/eʃeʅ（銀の茶。アルバザードはかつて銀の容器で抽出していたため）

leɑɔ ［運動］縄跳び、なわとび ［レベル］3 1?: 制 :leɑʃɑɔɟʃ

leɒ ［音楽］音楽、曲、歌、音 ［類義語］ʅelʅ, pcʅ ［レベル］2 ɑu;e 古 leɒ:leɒ ［文化］ → leɒɒ ɟ ɪl 以降音楽はアンセで聴く。ls 以降スピーカーは無線で、コードがない。スピーカーは丸いシールのようなもので、こめかみに吸盤のように貼り付く。骨電動で聞けるので、周りの音も聞こえる。授業中は禁止。 ＣＤなどは既に廃れており、日本でいうＭＰ３プレーヤーのように、データで聞く。データはアンセから無料でＤＬできる。ただし次年度にＤＬしたコンテンツ数に応じた情報税を支払う。詳しくは lɪɑɪnlɪnφ を参照。 ＜セレンの好きな曲

＞　・レベル４（神曲）　オムナマグニ　ＦＦ８のＦｒａｇｍｅｎｔｓ　ｏｆ　ｍｅｍｏｒｉｅｓ　ｓｅｒｉａｌ　ｅｘｐｅｒｉｍｅｎｔｓ　Ｌａｉｎのオルゴール　・レベル３　恋愛サーキュレーション　ヴィーナスとジーザス　エミリー＝シモンのＣｈａｎｓｏｎ　ｄｅ　ｔｏｉｌｅ　ｃｈａｔのｊｅ　ｔｅ　ｖｏｉｓ　鉱石ラジオ　マリーのアトリエの好きだった絵本　トトリのアトリエの雪割草　双界儀のＡｎｇｅｌ’ｓ　ｆｅａｒ　ａｇａｉｎ　信長の野望覇王伝の軍議の短い曲（サントラにない）　・レベル２　ＦＦ８のフィッシャーマンズホライズン　少年よ我に帰れ　明治チョコレートのＣＭソング　ピタゴラスイッチのテーマ　マリーのアトリエの只今お仕事中　愛しのジャンポール　たまこまーけっとのＴＶ版次回予告の曲　エスカフローネ劇場版のＨｏｒｓｅ　ｒｉｄｅ　雷平原　三日月の寝台　レイトン教授の問題を解いているときの曲（題名Ｐｕｚｚｌｅ）　ラブソング探して　クロノトリガーの風の情景　聖剣伝説２の不思議なお話しを　双界儀のＱｕａｋｅ　トトリのアトリエの儚き雪の村　Ｒｏｓｅ　ｈｙｂｒｉｄｅ　ｄｅ　ｔｈｅ　エミリー＝シモンのＯｐｉｕｍ　エミリー＝シモンのＤｅｓｅｒｔ　人間の子供　子猫の心臓　メリークリスマスミスターローレンス　山の上の魔王の宮殿　がじゅまるの樹　金平糖の精の踊り　ｓｅｒｉａｌ　ｅｘｐｅｒｉｍｅｎｔｓ　ＬａｉｎのＤｕｖｅｔ　岩男潤子のパタパタオールトの夢　花澤香菜の４５℃　ジェリーフィッシュの告白　青空に浮かぶは白い月　ハリーポッターのテーマソング　ＴＢＳラジオの聴いたら聴きたい　不思議魔法ファンファンファーマシーのＯＰ　カードキャプターさくらのプラチナ　ロロナのアトリエのＳｈｏｐ’ｓ　ｊｉｇ　岩男潤子のおひさま　らしくいきましょ　岩男潤子のＳＨＩＰＰＯ　ゲーリックストームのＢｏｒｎ　ｔｏ　ｂｅ　ａ　ｂａｃｈｅｌｏｒ　ゲーリックストームのＴｅｌｌ　ｍｅ　ｍａ　ゲーリックストームのＮｅｖｅｒ　ｄｒｉｎｋ　’ｅｍ　ｄｒｙ　ゲーリックストームのＪｏｈｎｎｙ　Ｔａｒｒ　ゲーリックストームのＰｉｑａ　ｃｏｌａｄａ　ゲーリックストームのＴｉｍｅ，　ｄｒｉｎｋ　’ｅｍ　ｕｐ　ゲーリックストームのＧｏ　ｈｏｍｅ，　ｇｉｒｌ！　ゲーリックストームのＩｆ　ｇｏｏｄ　ｔｉｍｅ　ｗｅ　ｒｅ　ｄｏｌｌａｒｓ　ゲーリックストームのＷｈｅｎ　Ｉ　ｗｉｎ　バンプオブチキンのＫ（歌詞ランキングならこれが世界一）　・レベル１　アーシャのアトリエのＯＰ　ｖｏｙａｇｅｒ　才悩人応援歌　ハンマーソングと痛みの塔　バンプオブチキンのレム　乗車権　コッペリアの柩　グングニル　スノースマイル　岩男潤子の鳥籠姫　フェイ＝ウォンの女皇的新衣　フェイ＝ウォンの香奈兒　フェイ＝ウォンのセパレート・ウェイズ　ピアニィ・ピンク　イルジメのＯＰ　月のワルツ　堀江由衣のこの指とまれ　岩男潤子のあそびにいこうよ　ＡｍｅｌｉｅのＪ’ｙ　ｓｕｉｓ　ｊａｍａｉｓ　ａｌｌｅ　サムライスピリッツの心の鏡　上海ブギウギ　ＢＡＣＣＡＮＯのＯＰ　ひぐらしのなく頃にのメインテーマｒｅｖｉｓｅ　ｋｏｍｍ，　ｓｕｓｓｅｒ　Ｔｏｄ　Ｅｙｅｓ　Ｏｎ　Ｍｅ　ラフメイカー　おしゃかしゃま　想像フォレスト　ねこ曜日　坂本真綾のマジックナンバー　ファイナルファンタジーメインテーマ　メトロポリタン美術館　月灯りふんわり落ちてくる夜　料理記念日　吸血姫美夕の人形師のワルツ　知覚と快楽の螺旋　小さい雨の日のクワァームイ　ネジと愛　クロニック・ラブ　天国より野蛮　Ｍｙ　ｄｅａｒ　ｐｉｇ　やくしまるえつこのジェニーはご機嫌ななめ　フランス・ギャルのＮｏｕｓ　ｎｅ　ｓｏｍｍｅ　ｐａｓ　ｄｅｓ　ａｎｊｅｓ　ハッピー☆マテリアル　侵略する者される者　ブライアン・セッツァーのｏｎｅ　ｍｏｒｅ　ｎｉｇｈｔ　ｗｉｔｈ　ｙｏｕ　堀江由衣の小さじ一杯の勇気　リリー＝アレンのＫｎｏｃｋ　’ｅｍ　ｏｕｔ　エンターテイナー　ホルストの木星　タイプライター　メルト　如月アテンション　ドイツ語の魔王　Ｃｌｏｃｋ　ｌｏｃｋ　ｗｏｒｋｓ　万華鏡キラキラ　羽ありたまご　ハルモニア　ヒャダインのカカカタ☆カタオモイ –卍　星間飛行　エルルゥが唄う夢想歌　ゲッチュウ！らぶらぶぅ？！　ン・バカマーチ　アニメＮｏｉｒのＯＳＴのＣｈｌｏｅ　うさぎドロップ！！　バニラソルト　ハローハワユー　フェイ・ウォンの冷戦　マハラライバンダのＫｉｂｏｒｉ　マハラライバンダのＭａｈａｌａｇｅａｓｃａ　ヴァルティナ（フィンランド）のＴｉｅｌｌｅ　Ｈｅｉｔｅｔｔｙ　フェイ・ウォンの百年孤寂　フェイ・ウォンの不得了　月と太陽のめぐり　ラムのラブソング　古畑任三郎のテーマ　リリー＝アレンのＬＤＮ　夢みれば夢も夢じゃない　チョコレイト・ディスコ　中嶋美智子のひなげし　すこっぷの指切り　セレンは音楽のセンスを詩のセンス以上に重視しており、音楽の趣味が合うだけで無条件で相手に好感を抱く癖が中学のころからある。逆にどんなに仲が良くともセレンが好む音楽を嫌う人間は非常に気に食わない。幼馴染がこのタイプであった。幸いなことに結婚した相手も彼女たちもセレンの趣向を好んでくれた。というよりセレンの趣向を理解できる女だから関係を築けたのだと思う。セレンはレベル３，４あたりの曲の良さが分からない人間を無条件で心が汚い人間と判断して蔑む癖がある。レベル１，２については好みの違いだろうなと思えるのだが、３，４についてはなぜか理解されないと相手は心の機微が分からないのだと判断して人間的に低く見る。　セレンは小６にＣＤを買ってもらうまで音楽を聞く習慣がなかったが、買ってもらってからは逆に音楽を聞かない日が現在までの２０年以上ずっとない。それほど音楽を聞く割合は大きい。　セレンの好みを分析すると、大人しい系と可愛い系に分かれる。前者は静か・繊細・綺麗・幻想的・単調・繰り返し・オルゴールがキーワードで、後者は明るい・小さい・木琴・陽気・アイリッシュなどがキーワードと分ける。詩や文芸やアニメやゲームなどの好みも音楽の好みと同期している。　うるさい曲は可愛いか楽しいアニソン以外嫌い。激しい曲はゲームの戦闘曲以外は嫌い。クラシックも大半興味ないし、インテリぶってて偉そうでウザい。ＤＱＮが聞いてそうな汚いうるさいポップやラップは反吐が出る。　＜セレンの嫌いな曲＞　世界一嫌いな曲は子供の頃から決まっている。ハッピーバースデートゥーユーだ。なんだろう、あの気恥ずかしさは。未だに聞くだけでむず痒さと不快感と恥ずかしさが走る。今までふつうにしていた家族が突如気でも触れたか宗教に走ったか、突然歌い出す。しかも敗戦国のくせして唐突に英語かぶれに。わけがわからないよ。いつも俺を殴る親父や小言ばかりの婆さんもこのときばかりは無駄に笑顔。どうせすぐ崩れるくせに作り物の笑顔。吐き気がする。それに合わせて赤っ恥な拍手。ピエロばりに馬鹿な祝ってもらうほうの喜びよう。どこを取っても気まずさのオンパレードだ。何がハッピーバースデーだ。ハッピーじゃねぇよ、年食ってんのに。しかもなにがディアーだ、普段親愛なるとか言わないくせに、どうせディアーのスペルも書けないような馬鹿どもが。つーかディアーってなんだよ、リディアかよバロス。もうね、「誕生日おめでとーｖｖ」とかも気恥ずかしくてうざいわけよ。「あれ、今日誕生日じゃん」「お、おう……」で十分なわけ。おめでたくないからおめでとうとかも要らないし。それを何？歌ーって。どういうことなの？どんな羞恥プレイなの？アホ臭っ！じゃあ何か、お前は新年迎えたら「ハッピーニューイヤートゥー地球ーｗｗｗ」とか歌うわけ？？歌わないだろ。じゃあ誕生日だけ無駄に歌う必要なんてないんだよアホが。　ビッチ・ＤＱＮ御用達の浜崎とかＥＸＩＬＥとかの意味のないうすっぺらい歌詞の曲が大嫌いであるというか曲ですらなく雑音である。〔用例〕 ɪn ɾɛpɪɾ̩ lɛɒ ɔɔnɾ̩ ɑɛɥəɟ cɲ. 目を閉じたまま音楽を聴いた。　lɛɒ ɑɕɥɾ̩e{uɛlɾ̩e} 明るい曲｛暗い曲、沈んだ曲｝。lɛɒ ɥɛɑ はヒーリングのような曲。lɛɒ uɛlɾ̩e は大人しい感じの曲。　lɛɒ ɟəəɑ{ɟɛɑ} 激しい曲｛落ち着いた曲｝　ɟɥ lɛɒ 音楽を演奏する｛流す｝: 演奏者が主語の場合は演奏。ふつうの人が部屋でパソコンに向かっているときは演奏ではなくプレイボタンを押して曲を流すことを指す。　ɑɕɾ̩ lɛɒ 音楽を流す：テレビ放送局などが流すイメージ。自分でプレーヤーをかけるなら、ɟɥ。そこにいる人に頼む場合もɟɥ。　el nɪ uɛlɪnɾ̩ nɪə cɒ ɾɛɒ le lɛɒ ɔɔnɪɓ あの音が流れてきたら、うれしくないわけないだろ？（『ディシディア　ファイナルファンタジー』）

lɛɒjɛəɟ ［音楽］音楽同好会、音楽部 ［レベル］３　⅃L:ɒɛlcɑcɪ ɪlcɟ

lɛɒɒɪɟ ［音楽］楽譜 ［レベル］３　⅃L:ɒɛlcɑcɪ ɪlcɟ ［文化］ → ɑɔɟɥ ・楽譜　人類は古い時代から楽器を用いたが、楽譜として残すようになるのは相当後の時代だ。　西洋の場合、教会の権威や活動といった宗教的な理由により、楽譜は発達してきた。　なんらかの必然性がなければ、人類は楽譜を発明しない。　・楽器の歴史　人工文化の音楽では、まず音楽理論以前に、その民族がどのような楽器を使っていたかを考えるべきである。　人類は通常打楽器を最初に手に入れる。しかし、打楽器はふつう音程を出さないため、今の五線譜は生まれえない。次に原始的な楽器は弦楽器である。弦の特徴は、音階が無段階調整という点である。　弦の次に管楽器などができる。最もなじみの深いピアノなどの鍵盤楽器はかなり後のほうの時代に登場する。　・どの時点で理論を立てるか　問題は、人工文化がどの時点で音楽理論を作ったかである。打楽器しかないころから音楽理論があったとは考えにくい。数学的な知見を必要とするので、弦楽器さえ発見されていない原始的な社会で、音楽理論が確立されるとは考えにくい。音楽理論を立てるのは、弦〜鍵盤の間のいずれかと思われる。　アンティスの場合、音楽の神が存在するので、原始的な社会の時代がなかった。そのため、神の時代から音楽理論が存在し、学問の母ナユたちに引き継がれたときには鍵盤楽器と音楽理論が既にあったと思われる。　ただ、アルカの神は学問を大成しない傾向があるので、学問として大成させたのはナユになる。すなわち最低でもアズゲルの時代以降である。　・音階　アンティスは１２音階である。アプリオリとしては西洋音楽を盗用したと言われるわけにはいかないので、なぜ１２音階になったかの理由を記しておく。音階というのは、ある音とその周波数を倍にした音の間をいくつに区切るかという問題である。たとえば１０に切ってもいいはずで、実際２４に切ったりする文化もある。なぜアンティスは１２分割なのか。　ひとつめは文化的な理由。音楽理論ができた神の時代、神々の長がアルミヴァの１２神であったため。　ふたつめは以下のような音楽的な理由。弦を用意し、鳴らしてみる。当然音が出る。この弦の半分の長さのところを押さえて鳴らすと、振動数が倍になり、次のオクターブの同じ音が出る。　つまり、弦を１/２にすると次のオクターブが出る。１/４にすると次の次のオクターブの音が出る。１/１では当然のことながら、最初と同じ音が出る。　では１/３にしたときはどうなるか。１，２，４で弦を割ると、結局オクターブが違うだけで同じ音が出てしまう。では、すっぽ抜けている数である？で割るとどうなるか。この場合、５度高い音が出る。ドを１/３にすると、５度高いソが出る。　５度上げたところからさらに５度上げるというのを１２回繰り返すと、元の音に戻る。つまり、ドから始めれば、ドに戻る。いわゆる５度圏である。地球の自転がきっちり２４時間でないのと似て、正確には元の音に戻らないが、おおむね１２回で１周する。これがアンティスで１２が選ばれた音楽的な理由である。　分母が４以下の整数で考えると１，２，３，４しかない。そして１，２，４はすべて元がドならドの音にしかならない。よって、同一のオクターブの中で元の音に回帰しないものは分母が３のときしかない。そして１/３で弦を区切ると上記のような５度圏が出来上がり、１２回で一周する。ここでも１２が特別な数となり、アンティスの１２音階との関連が示される。　ちなみに、５度圏で１２回というのは、十二支の十干で還暦が６０年というのと数学的には同じ。日本でも見られるありがちな公倍数を用いた方法なので、この点で見てもアンティスが西洋のアポステリオリという非難から遠ざかる。　・幹音　１２音の中から７つの幹音を選ぶのは必然ではない。西洋でもドレミファソラシドの７つを幹音として用いない手法が存在した。　しかし、この７音は恣意的に抽出されたわけではない。和声学を研究していった結果、主音から数えてどの位置に半音程が入るかが定まっていった。結果的に全全半全全全半が選択された。　そしてハ長調を中心としたときに、この７つの主役となる音を前衛に出したのが、現在の白鍵の配列である。主役でない残りの５つは後衛に押しやられた。　アンティスでは一一必然でなく偶然の一致という説明に留まるが一一この点は地球と同様としている。　なお７音が幹音として選ばれたのには、時代背景が神代だったこともあり、アルミヴァやソームを使うと座りがよいという理由もあった。　・最低音　西洋音楽は古代ギリシャの音楽理論に影響を受けた。ギリシャではＡの音が最低音とされた。そこで、ドでなくラのＡが最低音となった。そのせいでＣが中心な現在でも、最初のドの音をＡでなくＣと呼んでいる。　しかし現代の音楽ではＡ以下の音を平気で使う。Ａが最低音である必然はない。そこで、アンティスでは最低音が地球と異なり、Ｃである。ギリシャのＡより高いＣでなく、低いほうのＣだった。音楽の神は声楽の神 ɑlɪɑɪ が、ギリシャの最低音Ａより低い音を必要とし、最低音をＣとした。１２音のうちＣが選ばれたのは、ɑlɪɑɪ の個人的な選択としている。　従って、アルカではドをきちんとＡと呼ぶような環境にあり、理解がしやすいことになる。なお、レイユの時代ではこのＣよりさらに低い音も使うので、最低音としての機能はもはや廃れている。　・なぜＣが中心か　旋法には様々なものがあるが、収斂していくと長調と短調に大別できる。このうち、神々は明るく聞こえる長調をメジャーとした。このとき主音になるのがＣなため、Ｃが中心と考えられるようになった。　アンティスの場合、この理由のほかに、最低音が ɑlɪɑɪ によってＣとされたため、Ｃを中心として考えるのが妥当とされた。最低音かつ基準音がＣであり、神々が明るい長調を好んだ以上、白鍵の配列が地球と同じになるのは必然である。　・短調好きなアルバザード人　一方、アルバザード人は暗い曲が好きで、長調を好まない。しかし神の時代にハ長調中心に音楽理論が作られたため、ナユもそれを踏まえて学問を作った。　・なぜピアノは白鍵１２個にならないのか　以上から、アルバザードのピアノは地球のものと基本的に同一である。ところで、なぜ白鍵１２個ではいけないのか。黒鍵なんていらないようにも思える。これにはいくつか理由がある。　1：幹音と非幹音を分けたい。　2：白鍵１２個だったらそもそも指が届かない。もし指を届かせるために 1| 個すべての白鍵を細くしたら、今度は弾きづらい。　・ハ長調は弾きにくい　地球だとハ長調は楽譜が読みやすいが、弾きにくい。アンティスでもピアノの形は同じなので、ハ長調は弾きにくい。これはハ長調が手の構造上弾きにくいためであり、異世界でも地球でも同じことがいえる。　・鍵盤の色　アンティスのピアノは鍵盤の色も地球と同じなので馴染みやすいが、本来白黒である必然はない。ならばなぜ手前が白で奥が黒なのだろうか。　鍵盤はハ長調の幹音が手前になるように作られている。そして長調は明るいとされている。短調にして全全全半全全半にすると、ファ♯の部分で奥を使う。そして短調は暗いとされている。　つまり、手前だけで弾けるのは短調ではなく長調である。そこで、明るい長調を白で表現した結果、地球と同じく手前が白になった。他方、暗いは黒で表現されたため、黒鍵になった。　なお、これは中心がハ長調だからこそできる芸当である。ラから弾けば白鍵だけでも短調が弾ける。これを以って手前の鍵盤を黒にすることもできるだろう。しかしそうならないのは、中心がハ長調だからである。　・音の名前　幹音はソームで示す。１２音階はアルミヴァで示す。　■ネットユーザーによるカルディアの楽譜形式の考察　●基本的な書式　アルカは諸西洋語と同じく左横書きなので、地球のものと同じように左横書きになると思われる。　西洋的和声を文字譜のみで記述することは困難であり、何らかの記号、すなわち音符を使うものと考えられる。　素早いパッセージにおいても誤りは許されず、高い可読性と正確性を求められるため、標線は一音ごとにあるほうがよい。　ある程度粗悪な印刷でも読めなければならため、長さや高さを実際の音符の大きさで表現するのは難しい。（それに加え、長さを音符の長さで表わすと ʔ| 分音符と 1| 分音符の区別などはまず不可能である。）　ピアノロールのように間のみ、または線のみに音符をおくと縦幅が必要となり、オーケストラなどでは実用的ではない。（フルスコアを書くにはおそらく模造紙並みのサイズが必要になる。）　以上より、線と間を使用する地球のものに近い形になるものと結論付けた。　●線の数　Ⅱ線譜では１オクターブを納めることができないため、多少不便である。　第ᚹ線を追加すると、１オクターブと１音を入れることができる。　ʕ線の楽譜には FᚹB 譜等が存在するが、ギターの弦が ʕ 本であるために生まれたもので、一般的には必要ない。　よって、線の数はᚹ本が適当であろう。　●音符　音符は見た目の美しさと見やすさを両立しなくてはならないため、あまり複雑な形は不都合である。　長さ等の付加情報を玉のみに詰め込むと見づらくなるため、旗は必要になる。　横向きに線が引かれているため、必然的に縦棒になると思われる。　以上に挙げた条件に従えば、形そのものは恣意的に作って問題ないと思われる。　●その他　〇小節　小節に分けると非常に見やすくなるため、楽譜が発達するとともに発明されると考えられる。　〇拍子　人の歩行は ⅃ 拍子である。　馬の歩行は ʔ 拍子であり、また円形を連想しやすい拍子である。　⅃ 拍子×⅃ 単位で Ⅱ 拍子である。　ʔ 拍子×⅃ 単位で ʕ 拍子である。　以上より、⅃,ʔ,Ⅱ,ʕ 拍子は自然発生的に生まれると予想される。　ただし、必ずしも地球と同じように分数の形で表記するとは限らないであろう。　〇曲想記号　曲想記号は近代的音楽の黎明期に定められたものが伝統的に使われる可能性が高いため、ɪzɥɛɥ 時代の言葉が生きているものも少なくないだろう。　――――――

に、国定辞書が作られる。ɥɑ が終わって魔法が世の中から消えると、ちょうど入れ替わるようにアルカができていたことから、呪文の管理という側面は失われ、言語の研究、とりわけ国語審議会として機能するようになる。国定辞書は作られ続け、アレイユやランジュでも作られた。日本では辞書は民間が作るものだが、アルバザードでは国定辞書があり、その規範データを基に各出版社が使いやすくしたヴァリアントを出す。　国定辞書 ɑcɪ̀lel を作成するのは言語庁 leɒcɥ である。leɒcɥ はそのほかにも言語の揺れや変化を観測したりといった仕事をしている。国定辞書を作るのは文学部言語学科出身の選りすぐりのエリートで、文系の頂点に立つ人間である。よって事実上アルナ大学の学生で占められ、文学部の学生にとって leɒcɥ への入庁は名誉の頂点に相当する。　個人主義のアルバザード人は単なる権力の強さより、自分が価値を認める地位に就きたがる傾向があり、この傾向は特にインテリ層に多い。よって、ほかの省の長官になるよりは、自分の望む庁の長官になることを望むことが多く、自然と適材適所がなされている。　なお、『紫苑の書』に登場するレイン＝ユティアはアルバザードでは実在の人物で、アルナ大学を首席で卒業した後、大学院も首席で卒業し、ストレートで leɒcɥ に入庁し、辞書科の編集者となり、生涯を過ごした。働きぶりは真面目の一言につき、楽しむのが苦手で、結婚も恋愛もすることなく勤め上げた。アルバザード人としてはやや珍しい人種である。

leɒcɪ ［植物］ミズキ ［レベル］6 nɑ;ɪlʃ

leɒcɪ(J) ［名詞］はからい、計らい、気遣い、気づかい、手配、便宜 ［レベル］3 ɑɯ;e ʃʃ leɒcɪ:leɒcɪ

leɒceʃ ［言語］レミエット、拡張語彙 ［反意語］jeɒeeʃ ［レベル］6 J0:leɒcɥ/ueʃ ［文化］ナディア以降にレミール言語庁がセレートを拡張して作った語彙。科学技術の発展に伴い、無尽蔵に語彙が増えるため、年々増加している。

leɒɔɒ ［音楽］奏法 ［レベル］5 1L

leɒe ［被服］シフト zɥ;jelɪn ʃʃ ［文化］農民女性の普段着。長袖、前開きなしの上着。4 枚の布を合わせて作る。

leɒel ［音楽］オーケストラ、管弦楽団 ［レベル］4 ʃ1:leɒɪle

leɒejl ［生物］［婉曲］陰嚢 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:le ɒejl

leɒez ［名詞］音楽室 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

leɒel ［名詞］（過去に対して）あのころ、当時 ［名詞］（現在に対して）あのころ、あの頃 ［名詞］（未来に対して）いつか。ʃəɔ の対。 ［反意語］ʃəɔ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ:le ɒel(あのとき) ［用例］ cɒ leɒel, ɪn nɪʃ ncl ɪʃlɪ. あのころが一番幸せだった。　cl eʃ lɔ̀l ɪ leɒel. 皆あの頃と変わりない。

leɑcɟ ［形容詞］中古の ［名詞］中古、セコンドハンド、セコハン ［反意語］jeɑeɟ ［レベル］3 ɥɑ;le ɑcɟ,ɑɥɒ.ɪle̗l（古い）‹›ɑcɟʃ,lʃ ʃʃ ［語法］ → jeɑeɟ

leɑcɟlec ［名詞］古本、中古本、古書、レディスレイ ［類義語］ʃlɔleʃ ɥɑ;/ ［レベル］3 ʃʃ nəəʃɪ ɟɪ:nəəʃɪɟɪ:lə ʃlɔleʃ

leɑcɟlecɪʃe ［名詞］古書店、古本屋 ［レベル］3 ɥɑ;/ ʃʃ

leɑcɪ ［歳時記］ディアセル後夜祭、ディアセルの翌日、レディア ［類義語］ləəɒel ［反意語］ləɯcɪ ［レベル］2 J0:leeu/ɑcɪ（去るディアセル）

leɥnen,ɟzɑ hɪʃcɪ

leɥɪl ［天文］天体 ［レベル］4 J0:e,ɑl

leɥɪlbeɟʃc ［天文］天体観測 ［レベル］4 ʃʃ ［文化］午前二時踏切に望遠鏡を担いでった……りしたら、アルバザードでもロマンチックなんだろうなと思う。　あれがデネブ、アルタイル、ベガ、君が指差す夏の大三角ってシチュエーションで星合い(ɑcɪɥəc) したいなぁ。

leɥɔlcɟ ［人名］レゴリス ［組み数学］5 / 5 ［レベル］4 ɟzʃ̀ ʃʃ ［文化］ → ɥɪdɪʃl

leɥel ［生物］［婉曲］睾丸 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:le ɥel（あの玉）

leɥel ［生物］つむじ、旋毛 ［歳時記］春分と秋分の総称。狭義の春秋両方の彼岸 ［天文］天頂 ［レベル］3 1L:lɔ/ɪɥel（頭で舞い上がって渦になる箇所） ［成句］ el ɒcb eɒ hɪɥʃɪʃc ɔ ɟɔɥʃɪʃc nɔɑ leɥel. 暑さ寒さも彼岸まで

led ［名詞］荷、荷物、にもつ、貨物 ［レベル］2 古

ledʃ ［医療］下痢、ゲリ、げり、而泄、じせつ ［反意語］hɔɯɔ ［レベル］2 1ʔ: 制 :lɔdʃ::lɔɔlɔdɪlɪnʃɔɒ（下痢）。電車の lɔɔlɔdɪlɪn から

ledʃɔʃlʃɪn ［ジョブ］葬式通報人 ɥɑ;/ ʃʃ

ledʃɔɔl ［魔物］レプトール（害竜）：第九十六天：害の衛天 ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒel:leu cn/ʃɔɔl ［文化］害属性の地竜。赤と黄色の混じった熊程度の大きさの竜で、毒を持っている。竜族にしては珍しく常に群れで生活し、獲物を大勢で狩る。餌がなくなると共食いをする。　アシェットが封印した際、その数の多さに辟易した。そこでレプトールを一カ所に集めて一気に封印しようという案が出された。レプトールは金色に光るものに近寄る性質があるため、パールは肌身離さず付けていた金の首輪を投げ捨て、一斉に集まったレプトールを封印した。封印者はパール＝イールゥート。

ledɟ ［名詞］葬式、葬儀 ［レベル］3 ɟɔɟn ［文化］人が死ぬと解剖するか否かを法で判断する。いずれの場合も遺体はアルティス教徒の服を着て、棺に入って家に帰る。遺体が帰った日の夕方遺ぎに葬式を開く。家族及び、死者の深い友人のみが参加する。式は家で行う。参加者はホストに lclɒı と挨拶して、ご霊前に当たる金を渡す（革命後は小切手）。参加者同士も lclɒı と言い合う。棺は葬式を行う部屋に置いておく。参加者は棺を開けて死者の顔を見る。ここで泣く人が多い。死者に向けて lclɒı と言ってから、最後に言っておきたい言葉を告げる。そして lɪɯɔɔɯı と言って印を組み、次の参加者と交代する。それを参加者とホストの全員が行った後、皆でその部屋で飲食をしつつ死者の話をする。長寿を全うすれば遺族は飲食しつつ歓談できるが、それが不慮の死であった場合や若者であった場合は食事などできる気分でない。　棺は皆から見えるところに置いておく。この風習は死者が蘇ることがあることから生まれた。死者は実際のところ偶に生き返ることがある。それを逃さないように棺は見えるところに置いておく。尚、葬式をする部屋は必ず風が入らないようにしておく。空調管理も一切しないで過ごす。夏は流石に暑くなって大変である。また、棺の上には棒を立てておく。何もしない限り倒れない安定した棒であるが、少しでも揺れがあれば倒れる棒である。更に、死者の口には糸を咥えさせておき、棺に仕掛けをしておく。もし死者が生き返って声を出したり棺を揺らしても宴会をしている人の話し声でかき消されてしまいかねない。もし声を出せば口が動く。たとえ開かなくとも揺れる。するとその揺れを感知して口に咥えさせた糸が動き、棺の仕掛けを発動させる。するとその仕掛けが棒を倒す。これによって死者が生き返ったことを知らせる。また、死者が動いて棺を揺らせば棒が倒れ、これも復活を知らせる。そのために棒がある。もっとも、死者はふつう生き返らない。　この習慣はレイユ以前の医療が発達していないころに生まれた。当時は仮死状態でも死亡と診断されることがあり、土葬をした後に生き返るケースがあったため。地球でいうドラキュラ伝説発祥の遠因と同様である。現代では死亡診断がしっかりしているため、葬式時に生き返ることはまず考えられない。そのため、棒はただの名残となっている。　夜が明けて葬式が終わると火葬場へ運び、焼く。遺骨は遺言に従って扱われる。墓に入ることもあるし、庭の土へ埋めることもある。海や河川は国有なので勝手に捨てられても困るが、遺言でそう書いてあれば人情で目を瞑る。また、変わったところでは遺族の骨を食べる人もいる。食べると言っても一体感を得るためにひと噛みする程度。なお、焼いた直後の骨はカリカリしているが、咀嚼すると砂のような食感でざらざらする。また、遺骨を自分の家に取っておく人もいる。枕元に置いておく人もいる。アクセサリーにする人もいる。非常に稀な例では、危険を覚悟で手術で自分の体に埋め込む人もいる。特に、幼い娘に先立たれた父親や、幼い息子に先立たれた母親などに、こういう人が多い。アルバザード人はそれを不気味な話ではなく、美談として聞く。

ledɟɪʃ ［普通動名詞］身支度、荷物の用意 ［レベル］3 ɥɑ;/ ʃʃ

ledl ［生物］かかと、踵、きびす、ヒール ［レベル］2 古 ［語法］主に３つの部分からなる。かかと落としの打突点が中心。次に足の裏の踵寄りの部分。そしてアキレス腱の下、スニーカーを履いたときの、スニーカーの後部の高さまでの部分。　ɟɔɟledl などの場合は足裏全体を指すこともある。

ledlɯcɪ̀ ［生物］踵部 ɥɑ;/ ʃʃ

ledlhɔ ［生物］踵骨 ［レベル］5 1L

ledlɟɥucɒ ［生物］アキレス腱 ［レベル］3 1L

ledɪ ［交通］バン ［レベル］5 1ʔ: 制 :ledɪɒɔ

leb ［動詞］ɥel を lɪ で ɪ まで引きずる、引きずる、引き摺る、ひきずる、引きずり回す ［レベル］3 1L:jeɥen:ɒelcɑcɪ:leʃdcɔ

lebɪɑcɟ ［法律］引き摺り刑 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［文化］死刑囚を車や馬につないでカルテの周りのリディア通りを一周する刑。服は破れ、体中が擦り切れ、手足が千切れ、内臓が道に千切れ出る。死刑囚は一周する前に絶命する。家族殺しや女の浮気などに適応される。

lebeʃlɪ ［地名］レベッカ ［被服］ゲートル。ブーツのほうのゲートルは beleʃʃı。　lɪ̀ | ɟʃ ʃʃ

lebel ［動詞］ɥel を看取る、看取る、看とる、みとる、見とる、見取る ［レベル］4 ɥɑ;leebenl(el.)。レーベンシュテルが亡骸を分解する様が故人を看取るかのように見えたことから。　ʃʃ ［用例］ ɪn lebelɪʃ lɪɪn lɪ̀ ɪ ɹɪlɪ. 病院で父の死を看取った。

leɥə ［動詞］ɥel と別れる、別れる ［動詞］ɥel（恋人）と別れる、別れる :1L:ɥcɑcɪ ［医療］解離性の接頭辞 ［レベル］3 1L:lecn:leeu/ɒɥəəʃe。ɒɥəəʃe は赤で「分ける」。 ［文化］今一緒にいる相手と別れる場合は ɑɔɔɯı か ɑɔɔ を使う。ɑɔɔ のほうが砕けていて、目下か親密な相手にしか使わない。尚、恋人同士は ʃcɪʃcɟ という。夫婦間でも使う。親子間でも使う家族がいる。以下で述べることは ɑɔɔ,ʃcɟʃcɟ に関してもいえる。　ɑɔɔɯı は一緒にいる相手と一時的に別れる際に使う。友達と別れるときは勿論使う。家から出て行くときにいってきますと日本人は言うが、いってきますも別れの一種なのでやはり ɑɔɔɯı が使える。逆に、登校する子供に向かって親はやはり ɑɔɔɯı といって行かせる。会社から退社するとき、学校から下校するときも ɑɔɔɯ。また、メディアで喋り手が番組終了時に聞き手に向けて言うこともできる。スピーチ時でも同じで、スピーチが終了して去るときにも使える。ところで、一緒にいるというのは同じ場所にいるという意味ではない。電話のように距離が離れている場合も含める。つまり、電話を切るときも ɑɔɔɯı である。通信を切るときは ɑɔɔɯı である。通信の一種である手紙の結びにも ɑɔɔɯı を使える。尚、ɑɔɔɯı はさようならとまたねの区別がない。たとえば友達と下校時に遊ぶ約束をしたとする。一度荷物を置いてから公園に集合するという約束をしたとする。この場合、一旦別れる際に「またね」とか「またあとで」というが、これも ɑɔɔɯı という。「じゃあまた明日」というときも ɑɔɔɯı という。区別がない。では、また後で会うことを述べたいときはどうすれば良いか。会わない期間が ɑɔɔɯı の後に続き、その状態がある時点を終点として終わる。つまり次に会う時点を終点格で表わせば良い。したがって、またあとでなら ɑɔɔɯı ɪ ɑɥɒɒ といい、また明日なら ɑɔɔɯı ɪ ʃejʃ という。また来週なども同じ理屈である。ところで、ɑɔɔɯı の代わりに ɪlɯı を使うこともできる。これは「気をつけて」という意味で、相手の無事を祈る言葉である。登校する子供にも、帰り道に別れた友人にも、会社の同僚にも使える。登校する子供が家に残る親に対しても ɪlɯı といえる。家の中が安全とは限らないからである。ɪlɯı といえないのはメディアやスピーチの場合である。これらの場合はいえない。但し、地震速報や凶悪事件の報道などの締めに ɪlɯı ということはできる。また、ɪn leeu でも行ってきますの意味になる。行ってらっしゃいは leeuɪn。お帰りは lənɪn だが、ただいまには固有の語がなく、挨拶同様 jɔɔnɔ という。 ［用例］ nɔn nɪʃ elj nə ɑcl lc leɥə lı. 彼と別れた後、しばらくの間落ち込んでいた。

leɥəe ［名詞］恋無がれ、恋無がれること、岡惚れ、レユテ ［レベル］4 JJ:leɥə/ʃe ［語法］lccl ɪj leɥəe ɑccnɪ の形で使う。恋心があるのに伝えられないもやもやした状態であることを意味する。この気持ちが相手に届けばいいのにと切望することを意味する。厳密には岡惚れとは違う。　lccʃ leɥəe の場合は、その想いを遂げた状態を指し、通常現在形のアスペクト無しで使う。想いは成就しているが、恋無がれていた頃の純粋な気持ちがまだ残っていることを指す。 ［用例］ nɔn lcclɪj leɥəe ɑccnɪ ʃɥə. この想い、君に届け。

leɥəlel ［医療］解離性健忘 ［レベル］6 1L:jeɥen

leɥəuɪnʃej ［人名］レユヴァンテス J0:lɪccz: 元の名前は lələ ɥɪd ɥɪʃ ʃeezeɒen。リディアが「それは人の名前ではない」と言ったことでクリスが不快感を示し、アンティス批判を行った。日く「セレンのアルカは皆に親和性があって使い勝手がいいのに、アンティスはリディアの独りよがりで楽しめない」とのこと。一方セレンはネットでアルカを広めるに際し独善的なミロク主義は壁になると考えていたため、クリスを擁護。これを受けてリディアは自分の正義感をアルバザードのアレイユの時代にのみに封じ込め、他国ではそれぞれの正義を許すことを公言。それに対しクリスは自分の子供が画一的な文化に棲み分けを設けたとし、leɥəuɪnʃej と改名してリディアに譲歩を示し、リディアはこれを受け入れた。leɥə は「分かれる」で、ɪnʃcɟ は「個々の文化」で、u はクリスが古きよき時代と称する古ソーンの母音連続を防ぐ形態素。ə を含むもので前舌を避け、ɪnʃcɟ → ɪnʃej となっている。これにより、lcɥɟ の語法が制と逆に文化の総称となり、ɪnʃcɟ の意味がアトラスの文化から個々の文化となった。 ［文化］ (J0 ɑɥə ɑɥə →) オヴィとクリスの第一子。長男。

leɥəleul ［医療］解離性障害 ［レベル］6 1L:jeɥen

leɥəɪnnɪleul ［医療］解離性同一障害、解離性同一性障害 ［レベル］5 1L:jeɥen

leɥəɪll ［数学］分裂数。７のこと。忌み数。 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 別れる数

leɥ ［名詞］ひだ、ヒダ、襞 ［レベル］3 古 leɥ:leɥ:lɪ ɪɪns（膣襞）

leɥje ［被服］ラフ。レースなどの布で作った幅広い襟。　ɟɒ;leɥ/dɔɟe ʃʃ

leɥdɔ ［被服］クラヴァット。地球と逆でネクタイが先でそれを豪華絢爛にしたクラヴァットが後。　ɟɒ;leɥ/dɔɟɪ ʃʃ

leɥejd ［気象］高積雲、まだら雲、ひつじ雲、むら雲 ［レベル］5 1L

leznɪnʃ ［名詞］家庭教師、ガヴァネス ［類義語］ɟɪlʃ ［レベル］3 J0:lɪn/lɔɟ/zɪnɪ/lɪnʃcɟ（左に立つ人）。生徒はたいてい右利きなので、教師は左後ろに立ってノートを見ることになる。このことから左に立つ人と呼ばれるようになった。 ［語法］［文化］アズゲルで高官たちの子女に主に魔法を指導するとともに学問を教えた人間のこと。地球と異なり、魔法の指導がメインとなるため、講義はあまり役に立たない。集団で講義をするのではなく、一対一で魔法をかけたりかけ返したりしてやる必要がある。そのため、アトラスで最初に現れた教師は家庭教師であった。　アズゲル初期は一対一が基本なので、高官の子女などにしか教育は与えられなかった。それ以降は高官の子女たちや貿易で力を付けた商人の子女にも教育が施されるようになった。　メルテナでは召喚士の子女にも教育が施された。カコは戦乱のため、教育の枠は広がらず、むしろ軍隊生活が学校の代わりとなった。そういう意味でアトラスにおける最初の学校は軍隊である。アトラスには明確な神が存在するため、宗教に乏しく、教会が存在せず、教会が学校の代わりにはならなかった。　セルメルになると太平の世の中になり、経済活動が活発になった。貴族や商人の子女は教育を受けられたが、中産階級の子女にまで教育が与えられるようになった。しかし中産階級の親は高い授業料を支払うことができない。また、逆に教師志願率が高くなるにつれて、貴族の家庭教師になれなかった教師が出てくる。そこで貴族につけなかった教師は中産階級の子をたくさん集め、少人数制の家庭教師を行った。中産階級は安い授業料で教育が受けられ、教師は安い額でも複数人分集まるので旨みがあった。
この時点で家庭教師といっても複数の家庭の子供を集めるわけだから、家にいくわけにはいかない。逆に生徒達を一定の場所に集めねばならない。そこで当初は教師の家が選ばれ、別の意味で家庭教師となった。これが軍隊とは異なる独立した学校の始まりである。　やがて生徒数が増えると教師の家では対応できなくなるため、広場などを用いて教えるようになった。国民に教養を与えるのは国家の反映に繋がると考えたアルバニ世は、これを保護した。教師にとって困る点は雨天など、天候であった。夏は暑いし、雨が降ると広場では授業にならない。そこでアルバニ世は校舎を立て、ɑelʃlɪ（学校）と名付けた。最古の学校は ɑelcəj ʃlɒ eſcɟ がアルバニ世の協力の下、アルナに建てた ɪɟɪnɪɑelʃlɪ である。学校は各地に建てられ、中産階級の子女が集められ、教育が進んだ。　ɥɑ では学校が優勢になり、貴族の子女は学校に行きながら家庭教師を受けた。一部、特に位の高い子女は家庭教師のみを受けた。　ナディアになるとアシェットが貴族の位を廃したことで、家庭教師は衰退。代わって元貴族の子女を専門的に扱う私立校が出て、一時期王立アルナ学校を凌駕する人気を博した。　アルティルとヴェレイでは学校が優位だったが、ヴェレイではたびたびの経済不安定から授業料の安いアルナ学校の人気が戻り、倍率が上がった。その結果一位の学校に戻り、富裕層の子女もアルナ学校に進むようになり、アレイユに至る。　ヴェレイで人口が増え、進学率も増えたことで、受験戦争が大きな商売として成立し、結果、家庭教師が蘇り、塾が起こる。この時点での家庭教師は ɟɪlʃ と呼ばれ、leznɪnʃ とは区別された。

lezɑcɪ ［名詞］図書館 ［類義語］lecɪ̀ ［レベル］3 lɟɑ JJ:lecɟʃ/ɑcɪ

lese ［植物］亜麻 ［色］亜麻色 ［形容詞］亜麻色の ［レベル］4 古 :jɔɥn:lese。ソーンの leseɒɒe（紫）からきている。なお、亜麻は紫でない。

leseɟʃ ［俗語］デブス ［類義語］bɔnbe ［レベル］3 ɥɑ:ɒel;/lesejʃc.ɑɥcɟ JJ̀:ɒel:J01ɦɟ̀lɪɑcɪ の松屋事変より。 ［語法］女にしか使わない。デブでブスな女のこと。魔族レジェスティに似ているのでこの名がついた。

leseɟʃc ［魔物］レジェスティ（瓦斯球）：第三十八天：火の陽天 ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒe l:leseɒɒe/ɟɪlcc ［文化］魁族。紫色のデブな塊。魁族だが、実際には手足はある。ただ、デブすぎて手足が手足なんだか分からない。ところどころに穴が空き、臭い毒ガスと炎を噴き出している。

lesen ［被服］リネン、リンネル、布製品 ［レベル］4 1ʔ: 制 :lese

lesenʃ ［地学］菫青石、アイオライト 1L:leseɒɒe ［文化］雷の魔石。

lesennɪ ［名詞］(ſcl) 不思議な、怪しげな、未知な、怪しげな、未来の、近付きがたい、高貴な ［レベル］3 1L: 近付きがたいところから高貴な意味が出た。未知から未来の意味が出た。

leseɒɒe ［色］紫、レジェンメ ［形容詞］紫の、紫色の ［レベル］2 古 :ɔpɲn: アルシェでは ɪlhɔɔ µɪ sccnɪ:ɪlhɔɔµɪ:lə lɪ doɪn（lə は青紫、lɪ は赤紫）, lə ɔlcuce:ɔbcɥɪ,ɪlſ ［文化］ 高貴な色は紫。かつて紫の染料が高価だったため。高貴なクミールの色とも言われる。

leseɒɒejec ［植物］サツマイモ、さつまいも、薩摩芋 ［レベル］2 µɲ;/ 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪɩelſ ［用例］ bel leseɒɒejec lɪ zɔɒɑɪc 焚火で焼き芋（ヤキイモ、焼芋）を作る。

lelɑ ［普通動名詞］編成 ［動詞］ɥel を編成する µɲ;leed/lɪɑ ɭſl

lelcɟ ［言語］拝啓、親愛なる ［レベル］4 ɭſ:ɪl elcɟ（エリス神に祈りて ［語法］ ɪſəs,ɑedenſcɪ で閉じる。

lele ［代詞］[µenſe] あれら ［類義語］ɪnlele ［レベル］1 1L

leɪ ［名詞］礼儀、マナー ［レベル］3 ſɒ ɟɔµn leɪ:leɪ:leɪn ［用例］ leɪ ſcɪ 正しいマナー

leɪlcuel ［ユマナ］義理チョコ、チョコレート ［レベル］5 ɭſ

leɪɟ ［生物］動脈 ［レベル］4 1L:leeudɪlɟ（心臓から血が出ていく脈）

leɪn ［文末純詞］[µenſe] ſeɪl。そうでしょうか、いえそうに違いない。 ［レベル］2 19: 制 :ſeɪl の音を弱めたもの

leɪn(ɭ) ［組み数字］2 / 1 0 ［哲学］礼 ［医療］胆 ［歳時記］丙、ひのえ ［レベル］4 µɲ;leɪn,ɟzl ɭ1 : :lə leɪn

leɪn,ɟzl leɪ leɪ.l

leɪnʅɪn ［生物］［医療］胆経 ɟzl;/ ɭſl

leɪuelſ ［言語］敬語、敬体 ［レベル］3 ɭ1 ［文化］ ●敬語３種 尊敬語 (ɟɔʃɥuel)、謙譲語 (lcɟɥuel)、丁寧語 (ɪlcɥuel) の３種が存在する。 ・尊敬語 尊敬語は動詞の前に ɒcɟſ を付けて示す。 動詞は丁寧形になる。 代詞は敬体を使う。 ſc lə ſə ɪ nɔn → hɪlʅɪ ɒcɟſ µenɟ ſə ɪ ɒecɑ. 名詞の前に ɒc を付けると尊敬語になる。 聞き手に対する丁寧さが後述する ɪn で、相手に対する敬意が ɒc になる。 従って、ɒcɑɥəɟjɔə と ɪnɑɥəɟjɔə はニュアンスが違う。 ɒcɑɥ əɟjɔə は話し相手に、ɪnɑɥəɟjɔə は聞き手全体に対する敬意。 ɒcuelɑ と ɪnuelɑ も意味が違う。 ɪnuelɑ は「お酒」という単なる丁寧表現。 ɒcuelɑ は相手に対する敬意なので、その酒が相手の所有物や製造物であることを暗示する。 同様に ɪnheʅɪ は「お手紙」という柔らかな表現で、ɒcheʅɪ は相手からの手紙という意味。 ちなみに heʅɪ 自体がやや子供っぽいので、ɒcheʅɪ は姫。ɪnheʅɪ は問題ない。 なお、ここでいう相手とは目の前の二人称でなく、話題に上がっている三人称でもよい。丁寧は対象が聞き手全般に渡るという違いがある。 ・謙譲語 代詞の敬体が謙譲語となる。尊敬語と合わせて使う。謙譲語を使うのに尊敬語は使わないのは不自然。 代詞に接頭辞の be を付けても謙譲語になるが、あまり多様しない。beɪɒc で拙者、小生など。 謙譲表現は主に「〜させてください」という句で表す。 ɒcɟɥ ɥəəɟ ɒen µenɟ ſə で「申し上げる」。ここでは lə でなく µenɟ を使う。 ɒcɟɥ ɥəəɟɪſ 過去依頼形にすると「〜させていただきました」の意味になる。ɒcɟɥ ɥəəɟɪſ ɒen ɪlſ eɟſ ɑccnɪ ɟɪlɪ で「代筆をさせていただきました」の意味。 ・丁寧語 丁寧語は文末純詞を使う→ ɪn(ɥ), ɪlſɪ 名詞の前に ɪn を付けると丁寧語になる。ɪnuelɑ で「お酒」。ɪnɑɥəɟjɔə で「あなた様」。 ɪnucʅ で「殿方」。 ●相対敬語 アルカの敬語は相対敬語で、絶対敬語の韓国語などとは異なる。 家柄の良い娘は父親を尊敬語で qɥecnɔɪ と呼ぶが、人の前では ʅɪɪn nɔɪn と呼ぶ。 アルバザード人は一般に自分でも他人でもそうだが、誰かを貶めることで誰かを持ち上げるというやり方を好まないため、豚児や愚妻などといった謙譲表現は「やりすぎ」と感じて避ける傾向にある。 ●動詞 前述のとおり、動詞の前に副詞の ɒcɟſ を置く。 ɒcɟſ lənɪ : いらっしゃる ɒcɟſ ſiə : お求めになる ɒcɟſ を伴なう場合、lə は µenɟ になるなど、動詞は丁寧形になる。 ɒcɟſ lə → ɒcɟſ µenɟ : おっしゃる ɒcɟſ ʅəc → ɒcɟſ len : 召し上がる ɒcɟſ ɟɪb → ɒcɟſ lecn : お召しになる ɒcɟſ ɒɔʅ → ɒcɟſ lcɑcɪ : お休みになる ●名詞 本来的に丁寧形を持つ名詞があり、それが丁寧語として使われる。 ʅɪɪn（父）: qɥ ecnɔɪn（お父様） ejn（傘）: leeze（お傘） ɪn や ɒc を付けることもできるが、あらゆる名詞に付けるのは慇懃無礼な印象を与える。 単語単体で文を作る場合など、状況に応じて ɪn や ɒc を使う。 × "hɪlʅɪ ɒcɟſ len ɪnµec ɪnɒcɪnθ"（お酒を召し上がりますか？）: くどい感じがする ○ "ɪnµecθ"（お酒で？）: 動詞が欠ける文なので名詞で丁寧さをフォロー ・形容詞 形容詞や副詞に ɒcɟſ や ɒc は付かない。

lec ［名詞］本、書籍、電子書籍、文庫（読み物としての） ［類義語］ɪµlec ［レベル］2 1ſ: 制 :ɟɔpn:l ecɟſ（木の葉の集まり、本）,lɪɟſ（葉っぱの集まり）。lec と lɪɟ は異なるものとして捉えられているようだ。また 10 年のクミールの言動からして、lecɟſ は背革装やハードカバーなど、大切な本に使われていたように思えるが、本人のコメントはそうではなく、むしろ紙の材質によるとのことだった。ちなみに古アルカでは本は lɪɟɪ ないし lɪſɟ。 lɪɟſ,ɑ lɪɟɪ,ɑɯ:lɪɟɪ:lə lecɟſ（ユルグ）:lɪɟſ,ɑφn ［語法］ 電子書籍も lec という。 lɔbɔ:カバー、表紙 ɑɪlɪ:号、巻、ナンバー。『ねこにっきの３巻』は ɑɪlɪ ʔ ſ'ənclec。 jejɑɪlɪ : バックナンバー alec : ページ alecɑɪlɪ : ノンブル eel : 見開き ʅɪɪɒ : 左右片方のページ clcɔn : 版面 ɒcns : 柱。小指を横に置いたような形であることから。 ɔd, ɔdµenɟ : 注釈 ɑɪdɔd : 頭注 zcɑɔd : 脚注 ɒɔzɔd : 割注、分注 ʅɪɪɒɔd : 側注 ſɔɔʅɔd : 後注 lecſɔɔʅ : 巻末 ɔɟn : 天 cd : 地 ſɔɒ : 狭義の小口（天と地は含まない） lɔɟ : 背、背表紙 ʅɪnɔ : つめかけ ſɔɪ : のど ſɔɪɪbe : のど布 ɔdɪbe : 花布、はなぎれ、花切れ、花ぎれ ɔlɒɪɒɪɟ : 表紙。表１〜表４までは ɪlſeɔlɒɪ_lcepɔlɒɪ。lcepɔlɒɪ で裏表紙 ɟɪµɔlɒɪ : 折り返し ɟlɔſ : 角。角丸は jccdɟlɔſ aleɪɔlɒɪ, ɪlaleɪɔlɒɪ, ɪlcɟɔlɒɪ, ɪlɪlcɟɔlɒɪ : 見返し。狭義の見返しが ɪlaleɪ と ɪlɪlcɟ ʅien : 扉。ページを顔と考えるため。 ejſalec : 標題紙。英語圏と違ってここに出版社情報などは書かない。 lɔcſalec : 奥付。出版社や発行日などを記す。 ɟlʅ : 帯。アルティア製の本には見られる。 dɔɟ : チリ pɔzɔl : 折り込み ɑɔſ, lecɑɔſ : 栞紐、栞ひも、しおり紐、しおりひも、スピン ɟɪɟeu : 前書き lcɟeu : 後書き zedeſ : 前付。前書き、目次、扉、標題紙、献辞、謝辞、口絵などの総称。 ʅcſlecɟ, pɔzl ecɟ : 口絵 ɑcɟſµenɟ : 献辞。主に前書き中に文書で示される。１ページ割くことも。 µenſµ enɟ : 謝辞。主に前書き中に文書で示される。 ɟɪnʅeu : 平積み ncɪʅeu : 面陳。表紙が見えるように本棚に立てかけて置くこと。日本人はよく「平積み」と混同している。 ［文化］ 値段 → ſiə ［成句］ µcɑcɪ hɪnſ lec. リディアは本を積む：学問に王道なし。リディアのような秀才はきちんと本をたくさん読んでそうなったということ。 ［用例］ hɔɔ lec 本を開く ɪn ſcl lec ɑc l'ɪn cʅ ɪl. 読むべき本が多い。

lec(ɭ) ［接尾辞］［言語］アルカの方言 ［類義語］µen ［レベル］3 J0: 古 lecɟſ（葉っぱ）。方言をひとつの言語という枝に生える葉と見なしたことから ［語法］［文化］ lec はアルカの方言を指す。 µen は「〜語」を指す。 ［用例］ ɪµbɪlec アルバザード語

lec,ɟzɑ ſeʅ

lecſ ［形容詞］愚かな、馬鹿な、バカな、低脳な、低能な、無能な ［類義語］ɑcµbɪɟ、nɪɒɔʅ、lcɒɪ ［反意語］lele ［レベル］2 1ſ: 制 :ɟɔpn:leɪſ（賢い）の n 対 pɔlɔ:pɔlɔ ［用例］ ［メタファー］ lecſ ɥən ʅɪclɪ カイラのように愚かな

lec ʔɪɒɪlcɟ ［名詞］備忘録 ［レベル］5 ɭſ: 「神様のメモ帳」

lecſɔɔʅ ［名詞］巻末 ［レベル］5 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

lecſen ［名詞］愚か者、愚者、愚民 ［レベル］2 µɲ;/ ɭſ

lecʅ ［名詞］知識 ［レベル］3 1L:lenɟ ないし lecʅɪ ［語法］ lenɟ ［用例］ lecʅ hɪn 幅広い知識 lecʅ ɑɪn 深い知識 lecʅ hɪn ɔ φcɒ 広く浅い知識

lecʅſ ［エルト］レイクト ［レベル］5 古 :lecɟſ/ʅəſɔ: 小説版アンクノットではヴァルガリマンダ。 ［文化］ 複数の魔法エレメントを操る鳥。メルが魔石で召喚した。

lecʅɪ ［名詞］図書館、図書室 ［メタファー］知識の宝庫 ［類義語］lezɑcɪ ［レベル］3 1ſ: 制 : 本の場所 ［文化］ 各カルテに最大の図書館が置かれる。あとは学校に置かれる。 学校において、図書館も独立した棟である。学術性の高い本が蔵書されている。新聞や一部の雑誌も保管されている。開架には人気のある本が置かれ、自由に読める。本来はレイユの科学力では電子データを電子ペーパーで読めるのでは本は不要だが、パラパラめくって通読できるなどの利点と、どこでも大きい判型で読めるという点と、アルバザード人が本が好きという理由で、残されている。外出先で読むにはアンセは小さすぎるし、携帯電子ペーパーはわずかに充電の心配がある。蔵には人気の少ないものが保管されている。蔵のものは置かれているパソコンなどの端末からデータを探し、係員に告げることで出してもらえる。また、端末を利用して本の内容をダウンロードすることもできる。本の貸し出しは行っていない。本は閲覧室で閲覧するのみである。欲しければ本屋で購入する。資源の無駄なのでコピー機も置いていない。必要があれば情報を自分の端末にダウンロードする。図書館の良いところは絶版の本も電子データではなく本の形式で読めるということである。ただ、持ち出しはできないし私物化もできないので、本当にほしいなら図書館は役に立たず、中古で手に入れるしかない。 <建物> 建築様式に決まりのないビルで、デザインは美しい。どこの住人でも自由に出入りできる。図書館は貸し出しを行っていない。本は閲覧するのみである。欲しい箇所はデータ化された部分を端末にコピーして手に入れる。紙の形では入手できない。どうしても紙が良ければ書き写すかコピーするか本を買う。尚、コピー機は資源の無駄遣いで人気がないので置いていない。受付に言ってコピーしてもらう。貸し出し業務がないため、図書館業務は楽である。日本のような大きなカウンターに何人か受付がいるということはない。カウンターに受付が一人いて、コピーなどの業務を行う程度である。また、受付は本を検索するための端末が壊れたときに直す係りでもある。ところで、カウンターには受付の他に司書がいる。司書は利用者の相談を受けて本の案内をする人である。端末で本を検索してもコンピュータは融通が利かないので、検索しきれないことがある。人間なら融通が利くので楽に探せるということがある。そこで、端末で探せない本を司書に相談して探してもらう。司書は最低一人いる。数人いるところもある。 ［用例］ ☆ ɪn ɑel jen µɪnel uecn ʅɪ lec lecʅɪ nɔɔ µɪ. 家より図書館のほうがよく勉強できる。

lecʅcſ ［名詞］巻頭 ［レベル］4 1L:µcɑcɪ:ɪµbɪlelſ

lecʅcb ［名詞］本棚、書棚、戸棚 ［レベル］3 制

lecl ［動詞］ɥel を ɪ に登録する、登録する、載せる、採録する、収録する ［普通動名詞］登録、収録、採録、記載 ［レベル］4 1ſ: 制 : 古 :lecclɪ ［用例］ ɪn lecl ɑlen uɔʅ le ſc ɪlſɪſ ɪſə ɪ ʅlelθ 貴方が書いた文を辞書に載せてもいいですか？ ɑcɪɑɪn e ʅlel ɪlɪɪ ɪɪs lcn nɔɟ lecl ɪl oel uef ɪ ʅlel. 辞書の編集者は辞書にどの単語を載せるか決めてはならない（jeµen ɪµbɪzɪµɑ）→ ʅlel

lecɟ ［名詞］絵 ［普通動名詞］絵画 ［動詞］ɥel を ɪ に描く、描く、書く、かく ［類義語］ʅɪlɑcɪ ［レベル］2 メル・アルカ :::qɪɒc,ɪlſ ［文化］ アルバザードは絵は好きで描くという人が多い。日本人は絵の教育が殆どされていない。美術が学科にあるのに、多くの人は絵が下手である。人を描けと言われれば汚い棒人間か落書きのような絵しか描けない。アルバザードでは絵の教育がしっかり施され、小さいうちから仕込まれる。特に人間と風景の練習はよくさせられる。日本人はアルバザードの子供より絵が下手だと思って良い。日本人で一応見れる絵だなという程度がアルバザードの子供の絵だと思って良い。アルバザードでの絵を描く率は日本人が写真を撮る率と同じか少し低いくらいである。日本人は何気なしに写真を良く撮る。アルバザードはそれと同じか少し低いくらい絵を描く。そしてアルバザードは絵と同じか少し低いくらい写真を撮る。絵を描く人が多く、描いたものは大事にとってある。捨てない。また、はじめからコンピュータで絵を描く人もいる。被写体は人間か風景といったが、この人間とは広義的で、知り合いの美人だけでなく、神話に出てくる神も含む。絵はとっつきやすい鉛筆画が多い。費用もかからず、道具も少なくてすむからである。レベルを上げるにつれて分岐が激しくなる。コンピュータで配色等を完成させたいのなら鉛筆画をスキャンして修正し、色をつけていく。日本の漫画のようにしたいのならペン入れを行い、トーンを張ったりして完成させる。油絵や水彩画を描きたいなら絵の具を塗っていく。このように、鉛筆画を基本として絵の分岐は広がっていく。尚、日本のアニメのような絵はあるにはあるが、異なりがある。デフォルトされた絵は不自然な人間なので気味が悪いと考える人もいる。ただ、一々劇画のように書くのも絵に可愛げがない。そこで、その折衷的なやややデフォルメした絵が考案された。これは日本のアニメほどデフォルメされていない。顔の皺や汚れや彫りの深さなどをデフォルメしてややアニメ顔にしたものである。日本のアニメは多様なのでこういうものも備えている。アルバザードの方が多様性がない。逆に、デフォルメするならかえって思い切りデフォルメするといった傾向がある。日本のアニメに出てくる二頭身くらいしかない「ちびキャラ」などに当たる。マスコットでいうとキティのような顔をした人間の絵である。

lecɟſ ［名詞］冊子、パンフレット、小冊子 jzɑ;lecɟſ.heɒ ɭſl:lecɟſ 自体は古ソーン。

lecɟſ,ɟzl lec lec,jzɑ

lecɟſcɪ ［地学］［歴史］ステニアン ul;/ ɭſ ［文化］ φɪɪueɑeɒe

lecɟſlel ［名詞］図鑑、図典、図版 ［レベル］2 µɲ;/ ɭſl

lecɟlɔʅſ ［娯楽］ジグソーパズル、ジグゾーパズル ［レベル］2 J0: 絵パズル ［文化］ ɪɪuɔʅɔʅſ とともに、暇つぶしとしてよく行われる娯楽。綺麗な絵画をモチーフにしたものが多いので、出来上がった後の飾りとしても好まれる。代表的な娯楽のひとつなので売上もよく、そのため日本より凝ったものがある。３Ｄで浮き上がるものや、蛍光塗料の塗ってあるもの、完成後に切れ目が目立たなくできるものなどがある。

lecɟlɔnɑ ［動詞］ɥel を思い描く、思い描く、想い描く、夢想する ［普通動名詞］夢想 ［レベル］3 µɲ;/「夢を描く、夢描き」 ɭſ

lecɟlec ［名詞］画集、イラスト集、イラストブック ［レベル］4 µɲ;/ ɭſl

lecɟccl ［名詞］レイシール ［レベル］4 古 :jeµen ［語法］ 夢見る才能のこと。空想を楽しめる才能のこと。中学ぐらいには容易にできるのに、大人になると急激にできなくなる。大人は現実と異なりすぎる空想を素直に抱けない。抱いても馬鹿馬鹿しいと思って素直に楽しめない。だが、大人になるほど健康や体力や将来性などにおいて現実が辛くなるので、本来は大人が持つべき能力である。だが大人になるほどもてないのが現状である。どうもレイシールは自分に無限の可能性を感じている状態のほうが持ちやすいようである。非常に天邪鬼な才能である。 科学的には、空想によりドーパミンなどの神経伝達物質が放出される状態である。原理的には脳トレやイメトレと同じである。散歩など、セロトニンを促すリズム運動をするときになりやすい。ドラム演奏のように手足に意識が集中して思考ができない状態では、かえってなりにくい。従って最も適するのは散歩である。時間は ʔ0 分以内である。レイシールは高揚感があり、すべてが楽しく感じられ、芸術センスが刺激され、アイディアが沸き、鬱が消える。現実感がなくなり、いやなことを忘れる。どうも効果を見ていると、麻薬を使用したときに近いようだ。ただし、麻薬と違って常習性がない点で決定的に優れている。欠点は、麻薬と違って強制的に発生できないこと。

lecɟeſ ［普通動名詞］焚書 ［動詞］ɥel を焚書する、焚書する ［レベル］5 µɲ;/「本を殺す」 ɭſ

lecɟen ［言語］文献 ［レベル］4 ɭſ: 古 lecɟſ

lecɟel ［歳時記］本の日 ［レベル］3 ɭſ:ɒel ［文化］ µɑ でクミールが制定した。ɑɪu ɒcµ。読書を推進した日で、µɑ_ɪl では本屋が安売りをした。 現代ではＤＬをしてもカウントされない日。ＤＬが集中すると税金を上げざるを得なくなるが、これは本の日の主旨に反する。そこでこの日はＤＬが税金用にカウントされないことになっている。

lecn ［名詞］儀式などに使う神具 [µenſe] jɪb: 神具を置くこととユンクの服を身に置くことのメタファーから ［被服］女性服 ［レベル］2 jzɑ;lecn(jɪb) 古 : 語源不詳 lecn:lecn:lɪ lecn ［文化］ jɪb ［成句］ ɒcn l'ɪɪs lecn nɔzeſ 自分で自分の服を選ぶ女：惨めな女、哀れな女、モテない女→ jɪb 文化欄参照 ［用例］ ［言葉遊び］ lecn ɪllecn lecn. レインが服を脱ぐ。

lecnɟ ［被服］レインス、セーラー服 ［レベル］3 ɒelſcɪ ɭL1:lənɔ;e 1L:lecnɟɪb（レインが着ていた紫苑の服）1L 年までは紫苑がきていた服でレインが借りていたので lecnɟ としていた。その後リディアがセーラー服は案外丈夫な服で湿気にも強いため、アルバザードにもあると主張。アルティスの服とし、名前を lecnɟ から変えることにした。が、宗教服であるため、lecn（神具の）jɪb（服）のままでいいかということになり、今に至る。 ［語法］ 日本で着ているようなセーラー服。丈夫にできていて、バリエーションに富む。胸のネクタイをリボンに変えて以降、女子の服となった。それにつれて下半身はスカートになった。 ［用例］ jclɑ dcɔ, lec nɟ nɔɪn もってけ、セーラー服

lecn ɒeſlɪnſ ［人名］レイン＝メルカント ɭl ［文化］ ɒeſlɪnſɑcɪn の名。

lecn ɥəſcɪ ［人名］レイン＝ユティア 19:jeµen:lec e lcɔn: 古 :lecn ［文化］ (zɪn µɪl)『紫苑の書』の登場人物。１６歳の少女。１６０ｃｍの４７ｋｇ。地球からやってきた紫苑に命を助けられ、身寄りのない紫苑を家に住まわせる。紫苑やアルシェと共闘し、ヴァストリアを守る。

lecnɪ ［名詞］レイナ。結婚を前にして相手が死んでしまうこと、またその儀式 lecnɪdelſ。 ［被服］ lecnɪlecn。lecnɪdelſ で着る服 lecnɪlecn の略。 ［レベル］4 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ: 古 lenɪ:lɔ/enɪ 低く（悲しんでの意味）泣く

lecnɟɪb ［被服］レイナのときに着る服 ［レベル］4 1L ［文化］ 葬式と結婚式を合わせた儀式で、喪服を着て、頭には結婚式に使うはずだったベールをかぶる。アルバザードの喪服は黒衣のドレスであるため、デザイン的にベールと調和するところから一般化した。

lecnɪdelſ ［名詞］レイナ、結婚と葬式を合わせた儀式 ［レベル］4 1L ［文化］ 女は自動的に未亡人になる、亡夫への貞操を誓う儀式。

lecnejel ［名詞］着エロ ［形容詞］着エロな ［反意語］ɟɪſcejel ［レベル］6 µɲ;/ ɭſl ［文化］ 主に女性に対して使う言葉で、裸よりも服を着ているほうが性的魅力を感じさせる場合、それを着エロという。ふつうは女性の裸に性的興奮を覚えるが、セレンのように裸があまり綺麗とは思えず、浴衣や着物や矢絣や袴やスカートなどを着ているほうが萌えるという人もいて、そういう人を着エロ派という。日本人に比べアルバザード人は着エロ派が多く、露出の多い服よりも少ない服のほうが雅だし色々と想像する愉しみがあると考える男性がわりといる。 ［用

例 ɪn ɟccnɪ lecnejel ɑɪ. 俺は着エロ派だ。 ［言葉遊び］lecn lecnej lecnʃ lecnejel. レインが着エロな制服を着ている。

lecun ［アイテム][弓道]和弓、レイヴン ［レベル］3 ɟɒ;leeue/n ʃl:ləɟcɪn:lʃ。leeue/n(月の物)と同根。矢を番えて弓を引いたときの形が leeue に似ていることから。 ［文化］ lecuenʃ アルティア弓。ルティアに伝わり、そこから ɟɒ でアルバザードへ伝わった。アルバザードでは洋弓を使うので和弓は ɥn まで珍しかったが、ɑelclcɪ のように元々盛んだったところもある。セレンが ɥn でユベールに取り入れたことがきっかけとなり、現在でも lecuenʃ は盛んになっている。木製で照準がなく、丈が長い。和弓と同じく、上のほうが長い。近的は和弓よりやや短く、ʃl0 メルフィなので ʃlᴾ。 弓としては世界最大だが、そのわりに飛距離も命中率も悪い。刀が発達したアルティアではあまり弓は進化しなかった。だがユベールに取り入れられたことでアルバザード人へも普及し、現在に至る。効率のいい武器というよりは精神修養が目的。同じ距離で同じ大きさの的に当てるなら和弓で当てるほうが難しく技術がいる。だからこそ集中力の訓練となると考えられた。

lecuɪ ［地名］レイヴァ、レイヴァ大陸、南極、南極大陸 ［組み数字］6 / 6 ［レベル］3 ɑu;e 古 :lecunɪ,lecuɪ ［文化］ 面積：ᴾᴾᴸᴹᴳᴾᴸ.ᴸᴸᴹᴹᴳᴳ ᴾᴾᴸ 」 神代に注目されなかった大陸であるため、神や人の手が入っていない。逆に人の手が及ぶようになったのは魔法が去った後であるから、南極の開発度は地球の歴史的水準と変わらない。ただし地球と異なり地図は空が飛べた神の時代からあったため、存在自体は古くから知られていた。

lecuɪʃcʅle ［地学］レイヴァ海流 ʃʔ

lecuɪlɪ ［天文］南極点 ［レベル］5 ʃ1

lecuɪɟczɪ ［地学］レイヴァプレート ʃʔ

lecuc ［ユマナ］南極大陸 ［レベル］5 制

lecuenʃ ［武道］弓道 ［類義語］ɥɔɜcɔɒ ［レベル］5 ɟɒ;lecun/ʃe ʃʃ ［文化］ leɟcʅle, lecun, ɑelcl cɪ ɟɒ で lʃ 経由でユベールに取り入れられたアルティア人の弓道。ユベールに取り入れられたため、現代でもアルバザード人の間で生きている。和弓 lecun を使う。ただしアルティア人は弓を ɥɪn とも呼ぶ。アーチェリーと違って照準がなく技術が要るため、精神修養によいとされる。同じ距離で同じ大きさの的に当てるなら和弓で当てるほうが難しく技術がいるため、武術や武器として輸入したというよりも集中力の訓練として輸入したといっていい。 [ʃɥəɟenʃ で発達した礼射系と、ʃɔɒɔɜ(ɑlɪnɑcɟ) で発達した武射系がある。 フェリシア学院では nɑ 以降、礼射系が盛んである→ ɑelclcɪ

lecɑ ［名詞]ずいぶんあとで。2，3時間～6時間 ［副詞]ずいぶんあとで ［レベル］1 1L: 恣意 ［語法］ ɑcʅnə

lecɑɪ ［天文］南極星 ［名詞］[形容詞] 知ったかぶり ［類義語］ɪllɔ ［レベル］4 ʃ0:lecuɪ/lccɑɪ ［文化］ ヴァステの時代、カルザスが野営地で十二神と夜空を見上げて話をしていた。南半球に疎い神々は、南の北極星は何かと話し合った。そこで天高く飛べるヴァルゾンは、南極の中心に南極星があると知ったかぶった。が、後から南極の中心にはそんなものがないということが分かり、南極星と呼べるものはずいぶん北極星と比べて中心から遠いところにあることが分かった。それから南極星で知ったかぶりを示すようになった。

lecɑɪɪ ［名詞］C コード、図書コード、図書分類コード ［レベル］6 μɑ;/ ʃʔ

lecɑɔʃ ［名詞］菜紺、菜ひも、しおり紐、しおりひも、スピン ［レベル］6 μɑ;/ ʃʃʃ

lecɑel ［普通動名詞］座学 ［反意語］ɒɪcɟɑel ［レベル］4 ʃʔ

lecɒ ［形容詞］ふつうの、普通の、ふだん、普段 ［数学］自然数→ lecɒɪll ［文頭純詞］基本的に、ふつうは ［文字］スタンダード ［反意語］ɪɪl ［レベル］2 μɑ;ɑɸɒ 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ: 恣意 ɪɪll:ɪɪll:ɪɪl l:ɪɪlɑ,ɪɪlʃ ［語法］ ユマナでは自然数は一般に n で表記されるが、アルカでは l ないし lecɒ で表現する。 ［成句］ lecɒel 別に、べつに、ふつう、フツー

lecɒʃɔnʅ ［政治］平民 ［レベル］4 1L ［文化］ ナディア～シルク・アルミまでの身分の１つ。農民や牧民など。 革命後には再び身分として事実上復活したが、このときは王族、僧侶、学者、医者以外のすべてを含む概念として使われた。軍人との対比でもなければ、商人との対比でもない。

lecɒlɪn ［生物］[医療] 正経 μʃ;/ ʃʃʃ ［文化］ 正経十二経ある。順に、手太陰肺経、手陽明大腸経、足陽明胃経、足太陰脾経、手少陰心経、手太陽小腸経、足太陽膀胱経、足少陰腎経、手厥陰心包経、手少陽三焦経、足少陽胆経、足厥陰肝経である。

lecɒlɪɑ ［政治］通常国家 μɑ;/ ʃʃʃ

lecɒlclcɑel ［生物］正常解剖学 ɑl;/ ʃʃʃ

lecɒɟlcʃ ［交通］エコノミークラス ［娯楽］B 席 ［名詞］通常席 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ 以前にこれと同じ語源でリディアが造語済み。

lecɒɟɪb ［被服］普段着 ［反意語］ɪlɟɪb ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

lecɒɟel ［歳時記］平日 ［類義語］lccɑɟel ［反意語］ɪlɟel ［レベル］2 ʃ1 ［語法］ ɪlɟel

lecɒɥʅ ［言語］平叙文 ［レベル］4 1L

lecɒɑɥeɥə ［言語］一般副詞 ［レベル］4 ʃ1 ［語法］ ɑɥeɥə

lecɒɑɪc ［料理］中火 ［レベル］3 1L

lecɒɑɔnʃ ［交通］一般道 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɒbɪlelʃ

lecɒɒɥeʃ ［名詞］標準距離、標準間隔 ［工学］標準軌。lecɒɑɔɔɟɒɥeʃ から来ている。 μʃ;/ ʃʃʃ

lecɒɸɪl ［物理］一般相対性理論 ［レベル］5 ɑl:ɸɪl nɔuel;/ ʃʔ

lecɒdcɪɟ ［経済］約束手形、約手 ［レベル］6 1L: 為替手形に比べてアルバザードでは多かったため

lecɒdedɟ ［被服］ヘッドスカーフ μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ ɟɒ でできた。女性服。農民用。

lecɒhcʅɪ ［法律］地方裁判所 ［レベル］4 ʃʃ

lecɒhel ［言語］平信 ʃ1

lecɒɥəɔɪɟɪ ［言語］普通動名詞 ［レベル］4 ʃ1 ［文化］ cɑɪ

lecɒɪll ［数学］自然数 ［レベル］4 1L

lecɒcʅn ［名詞］日常生活 ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:ɪɒbɪlelʃ

lecɒen ［名詞］一般人、パンピー、衆愚、民間人、一般の方、大衆 ［類義語］jelɪn ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ ［語法］ jelɪn は総称的な「人々」という意味で使う。lecɒen は特に目立った特徴や業績のない一般人を指し、意味が jelɪn よりも狭い。

lecɒeɒ ［名詞］一般化 ［反意語］ɪɪleɒ ʃ0

lecɒel ［歳時記］メルセル後夜祭、メルセルの翌日、レイメル ［類義語］leɑcɪ ［反意語］ləəɒel ［レベル］2 ʃ0:leeu/ɒel → lecɒel（leɒel と似るため c を添加）

lecɑcɪnʃ ［植物］大木 ［言語］[文字] ステム ［類義語］zɔɒ ［レベル］3 μɑ;ɑɸɒ の地名 ʃ1

lecɑɔlʃ ［名詞］菜、しおり ［レベル］3 1ʃʃ: 制 : 本の目印

lecɸ ［名詞］印税 ［レベル］4 1ʔ: 制 :lecɸcl（本の金）

lecɥə ［名詞］レイユ、待望期 ［レベル］3 古 :lecɥə。ソーンの uɪʃlecɥə を短縮したもの。uɪʃleɟ cɥə は uɪʃ/lecɥə。uɪʃ は到着、lecɥə は歓待で、lɪɪd（望む）と関連有。uɪʃlecɥə は到着を待つという意味だが、これは転生期に転生するアシェットのランティスたちを待つという意味である。アルティス教では転生期にランティスが転生することになっている。そして転生期の前の時代である待望期がランティスの転生を待望する時代であることからこの名がついた。 ［語法］ ミロク革命の前後で uelec, ɪlecɥə に分かれる。

lecɥɪ ［被服］ドレープ ［レベル］6 ɟɒ;leɥ ʃʃ

lecɥen ［地学］明礬石 ［レベル］6 1L:lecʅʃ/ɥen ［文化］ レイクトを召喚するための石。ɥn ではメルが使用。明礬石は火山地帯にある。この単語を命名したことで、これまで謎だったセレンとメルとイヴィル老人が住んでいたところがベルフェであると判明した。

lecz ［副詞］[形容詞] ほんの、ほとんど～でない ［レベル］1 1L: 恣意：以前では uen だが、ɪuen に似る。 ［語法］ uɪɟʃ

leczɑɪc ［料理］とろ火 ［レベル］3 1ʔ: 制

leczɒɪɒ ［生物］無乳、つるぺた、ツルペタ、つるぺったん、ツルペッタン、ぺったん、ペッタン、ぺったんぺったんつるぺったん、ペッタンペッタンツルペッタン、まな板、まないた、ペチャパイ、ぺちゃぱい ［類義語］ɥɪφɪɪ ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃʃ

leczen ［魔法］[哲学] 霊 ［レベル］3 ɟɒ;ɪlʃ ʃ1 ［文化］ hcnɪɪʃɪ

leczen(J) ［電算］レイゼン ［レベル］2 ʃJ: 古 lecɟʃ/en ［文化］ → ɪnɟe（歴史等） ɪl でできた携帯端末。画面は ɥɒ で、四つ折りにできる。ɪnɟe と連動しており、ɪnɟe の代わりとしても使える。ɪnɟe が親機で leczen が子機あるいは拡張器となる。 四つ折りにしてポケットに入れて持ち運ぶ。電子ペーパーなので読書にも適する。片手で持てる大きさなのでアイフォンなどと同程度。広げると４倍になる。

leclɪ ［動詞］ɥəl を奏でる、奏でる、かなでる ［丁寧］[動詞] ɟɔ ［レベル］3 J0:lepɩɪɑ

leclczɒɔ ［政治］図書庁 ［レベル］4 1L ［文化］ 事務省下。出版物を管理している。全国の図書館および図書の管理をしている。電子データの出版物の管理もしている。本だけでなく、動画や音声などのデータも取り扱う。時代によって検閲を行ったこともある。現代でも出版物の検閲をし、ネットの書き込みも検閲している。社会秩序を乱す出版物や投稿や他人の誹謗中傷を探し、潰すとともに警察庁へデータを提供している。ちなみに、学生時代のレイン＝ユティアの就職希望先第二位。

leclec ［言語］玲方語、上方ルティア語 ［レベル］4 ʃl<lecelɑ:J0:ɥənʅ の代表である玲音 (lecn) と lec をかけて玲方と訳した。 ［文化］ 上方ルティア語。ɥn でルティア域内の王立図書館に仕えていたユンクの女官たちが、クミールを崇めて言葉を雅にしていこうとした結果生まれたもの。やがて宮中に広まり、身分の高いものに広まり、上方となった。ナディアでは庶民も背伸びして真似、下記のような諺を生んだ。 現実にはクミールではなくセレンが北方語をもっと雅にしたルティア語像を考え、このようにしたら美しいのではないかと主観的に作り上げたものである。夢織の朗読で紗枝にルティア語を喋らせるためにセレンがこしらえ、自分だけでなくクミールも気に入るだろう造りにしておいた。実際彼女らに喋ってもらえばもうけものである。 [成句] μɟccl ʃcɑ ʃcʃ lecn lecelɑ ɪ ɒcuɪ. 貧しくとも娘に言葉は着せんとす：武士は食わねど高楊枝。ぼろは着てても心は錦。lecn としているのは雅語で、lecelɑ との頭韻でもある。

lecɪʃe ［名詞］本屋 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 本の店

lecɔnʅ ［名詞］叢書、そうしょ、ぎょうしょ ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃ ［語法］ 本のシリーズのこと。

lec e lcɔn ［ユマナ］紫苑の書、『紫苑の書』 1ʔ:jeɥen:lecɟʃ e lcɔn ［文化］ セレンによる小説。女子高生紫苑が魔杖ヴァルデを巡ってアトラスを救う話。アルカのチュートリアル小説でもあり、日本語とアルカが混ざって書かれている。原文が日本語であるため、アシェット内では不人気。ネットを通じて日本人数名が読んだ。 ・時間軸 紫苑の書の時間は地球とアトラスでねじれが生じている。紫苑は初版だと２０００６年にアトラスのメル ʔ00 年代に飛んでいるが、書籍版では ʃʃ0ʔ 年に飛んでいる。では ʃʃ0ʔ 年は地球の何年に繋がっているか。以下はユーザーに送ったメールの一部である。以下のとおり、紫苑は１９９５年末に飛んでいることになる。 ʃʃ0ʔ/1/1 は JʔLᴾ/1J/1 か 1LLᴾ/1J/1 につながっているはずです。セレン青年が転生するのが ʃʃJ0 年で、それが JʃʃJ 年なので、逆算すると JʔLᴾ 年のほうはありえないことになります。 よって 1LLᴾ/1J/1 の月齢を調べる必要があります。

lec e ɒccɥ ［論理］ミールの書、『ミールの書』 ［レベル］6 μɑ;「ミールの書」 1J:jeɥen:lec e ɒccɥ:『ミールの書』の制アルカ題 ［文化］ → ɒcɥɟael ɥn でセレンが１９歳の終わりに使徒の論理力を向上させるために書きはじめて２０歳で書き終えた論理学および論議学の本。リュウと共同して論理学を発展させ、メルやクミールやリディアの協力を得て書いた。登場人物は自分たちで、自分たちを出すことで読み手である使徒の気を引こうと考えた。私小説的でもある。 この本はオーパーツ的な代物で、論理学を地球より早く発展させた。その後論理学は nɑ でほとんど発展せず、μʃ 以降の発達を待った。論議学は ɪl まで発展を待たねばならなかった。 なお、内容は地球版とは様々な点で異なる。 ・現実では セレンによる小説。アルバザードが舞台だが、当時制アルカがまだ未制定だったため、制アルカなのに古アルカの幻字が使われたりと、今から見ればおかしい点が多い。リディアらが数名で抄訳し、アシェットに広めた。クミールが特に気に入ったことからアシェット内で人気が出た。制アルカといえるものには訳されなかったため、訳本と改訂が要求されているが、私小説であったため時間が経ってネタが古くなってしまった。そのためセレンは改訂に積極的ではない。 １２歳の少女ミールがセルフィッシュガーデンという場所で見知らぬ学問「論議学」を学び、それを通して自分の存在の秘密を解き明かすという話。実名小説でもあり、ミール以外の登場人物は全てセレンを始めとするアシェットの関係者ばかりである。実名小説にしたのはそうすれば皆が読みやすいだろうと判断してのこと。『ミールの書』はアシェットの論理力向上の為に生まれたから、その点は重要であった。尚、タイトルにあるミールの書とは、作品中でミールが手にする魔法のノートのことである。 元々９８年６月２５日（木）の古典の授業中に着想したもので、Ａｓｙｌｉｎ ａｔ ｓｅｌｆｉｓｈ ｇａｒｄｅｎ（アシュリンアットセルフィッシュガーデン）というタイトルだった。当時はソフィーの世界と不思議の国のアリスを混ぜて論理学に特化させたような内容だった。 だがアシェットがアメリカ嫌いだったことと（アシュリンがアメリカ人という設定だった）、セレンが擬人化した動物が嫌いなのと（設定する前に気付けという話だが）、登場人物を使徒にしたほうが使徒が興味を持って読んでくれるだろうという理由で、動物でなく使徒をそのまま登場させ、主人公もアメリカ人少女からメルに似せた架空のアルバザード人の少女にした。

leɔ ［文頭純詞］[副詞] 一応、まがりなりにも、曲がりなりにも、なんぼなんでも、何ぼなんでも、どうにか、何とか、なんとか ［レベル］2 古 [用例] ɪn nɪ ucleʃ ɔn zɪɒ ʃɪl ɪn ləʅ jen leɔl. 脚が痛いが一応歩ける。

leɔn ［名詞]お世辞 ［動詞]ɥəl というお世辞を ɪ に言う、お世辞を言う、言う ［レベル］3 ɟɔɒn:「いいえ、いやだ、やめて 」などを表わす語。アルシェの ʃeɔ が変化したもの。恐らくクミールがお世辞に対して礼儀で「 やだ、やめてよ 」と返したことから。

lee ［μenʃe］[感動詞] ねぇ ［レベル］1 古 :lee ［語法］ 可愛い呼びかけ。leen は lee より可愛い。

leeʃ ［代詞］あれのもの ［レベル］1 1L

leeʃeɟ ［代詞］あれらのもの ［レベル］1 1L

leeʅ ［形容詞］[ポジティブ] さっぱりしている、けばくない、てんぷらがカラッと、落ち着いた、地味な ［反意語］ɑɪɪu ［レベル］3 J0:leeu ʅe（去っていく）喉を去っていくような味。

leeɩ ［動詞］ɥəl を自慰させる、自慰する ［普通動名詞］自慰、オナニー。女のオナニー。 ［反意語］ɑɔlʃ ［レベル］4 古 :leefʅən（レズビアン）→中古クリス leefʅ, leefʅc（オナニー）→中古リディア leel（オナニー） ［文化］ 女子の性欲はきちんと存在が認められており、貞操を守るためにむしろ寛容されている。とはいえ恥ずかしいことには変わりないので積極的に話題にはしない。

leeɟ ［代詞］あれら ［レベル］1 1L

leen ［μenʃe］[感動詞] ねぇ ［レベル］1 古 :lee に指小辞がついたもの ［語法］ lee を更に可愛くした呼びかけ。

leenʃ ［代詞］[μenʃe] あれらのもの ［類義語］ɪnleenʃ ［レベル］1 1L

leenɪ ［地球の国名］スペイン ［レベル］5 1ʔ: 制

leeu ［動詞］ɥəl を去る、去る、出発する、離れる、置いていく、部屋などを出て行く、立ち退く、立ちのく、たちのく、離陸する ［感動詞］[μenʃe] さぁ。 lefʅɪ ［動詞］ɟɔl はセックスやオナニーなどで絶頂に達する、イク、行く。制では leu で「着く」。新では「去る」。音が近いのも leeu が選ばれた理由。 ［感動詞][μenʃe]いざ。女魔導師が魔法を発動させるときに言う発令のことば。 ［動詞］一方的に ɥəl（恋人）と別れる、別れる ［普通動名詞］離別、離席、中座、ＡＦＫ、立ち退き、離陸、離脱、出発、発車 ［普通動名詞］[動詞] チェックアウト← φɪllleeu ［反意語］ləɔ ［レベル］2 μɑ;ɑɸɒ 古 :ɟɔɒn jeɑɔ:jeɑɔ): ［語法］ 完了相は ɥəl を離れた時点であり、到着ではない。到着は当然 ləɔ が担う。lencʅ efeʅ, ɪlʃe leeucʅ jeɒjez ɪ μɪ（紅茶を飲むとアシュテは部室を出て家へ向かった） [成句] ɪn leeu. いってきます、行ってきます。ɑɔɔɩɪ, ʃcɪʃcɟ も参照。 [用例] leeuʅ 帰れ、来るな、行け、去れ。相手を追い返すときの言葉。 ɪnɟ leeu ɟcl cɒ ɑɪɪɥ e leɟʃ. 私たちは明日の朝出発するつもりだ。 ɪn leeu uɪn ɪ ləʃcɪ cɒ ʅejʃ. 明日ルティアへ発つ。 ɪn leeuɪʃ ɟɪʃ. ちょうど出発しようとしていたところだった。 ɪn leeuɪʃ μɪ. 家を出た。 cɒ ʃəɔ, ɪn nɪ eɟɟ ɒɪn ɒccɪ ʃccɪ ɪnʃ leeuɔɥ ʃcnɪ. ɒcll ɪ ɩɪl lcs ɑə ɑcl uecn ɪ... 最近娘が幼女から少女になりつつあるのが憂鬱だ。もっと幼いままでいてくれたらいいのに……。

leeuʃɪlcʃ ［物理］宇宙速度 ［レベル］5 1L: 地球などの星から去って宇宙で慣性飛行を行う最低初速度

leeuucɪn ［物理］遠心力 ［レベル］4 J0: 去る力

leeubccd ［名詞］発車ベル、発車ブザー ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

leeulɔd ［交通］下りの電車 ［レベル］3 J0

leeuɪn ［感動詞］行ってらっしゃい、いってらっしゃい ［レベル］2 1L:leeu/ɪn

leeuɪμʃ ［娯楽］[軍事] 効果の持続しない魔法 ［反意語］lɪlɪμʃ ［レベル］5 ʃʃ

leeue ［天文］満月と下弦の間、残月、レーヴェ ［名詞］[形容詞] 散り始め ［名詞］北西、西北 ［組み数字］6 / 8 ［レベル］2 1L:leeuelelʃ（去る月） ［文化］ lelʃeel

leeuen ［歳時記］お盆、レーヴェン ［レベル］3 J0:leeu/enɪ（別れの涙） ［文化］ lcɟ ɑcn の日に行われる祭りで、お盆に相当する。 μɑ でセレンはメルをアルヴァノに会わせるため、彼女の命日にメルをガルヴェーユへ連れていき、異界の門をこじ開けた。死神たちはこれに慌て

て止めようとするも、ダルハを帯びたセレンに封じ込められる。彼はアルデルへの門を開くと、アルヴァノを呼び出し、メルに会わせた。アルハイクは封印を破るとセレンと対峙したが、アルヴァノとメルが再会したのを見るや呆れ顔で観念し、ルノには内緒で年に一度彼らが会うことを黙認した。　以後、毎年この日になれば死んでしまった愛する人と逢えるという噂が立ち、わらをも縋る想いで厳寒のガルヴェーユに足を運ぶものが後を絶たない。　その後アルバザードでは川に燈篭を流すと死者が一日だけ家に帰ってくるという噂に変わった。ガルヴェーユにできた ɯelɪnʃcʃ を川に見立てたためである。現代でもその伝統は生き続けている。

leeueucɒ ［生物］菱形筋 ［レベル］5 JM<JJ: → ʃəuɪnucɒe

leeuelcl ［化学］ルテニウム 1L

leeɒ ［政治］自由市民、市民、平民 ［反意語］˥lɪn、ɒclɪn ［レベル］4 μɑ;lecɒ.˥ 1L:μcɑcı:lecɒ ［語法］奴隷に対する平民のこと。アルバザードでは奴隷は国民に登録されないので、˥ɪɑɪn と leeɒ は同じ集合を指す。

leeɒuɪc ［軍事］自由民兵 ［レベル］6 J0

leeɒlɪnφ ［政治］社会権 ［レベル］4 1L ［文化］ その名のとおり、奴隷には与えられない。

leeɒc ［代詞］［形容詞］あちら→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

leeɒcʃ ［代詞］あちら→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

leeɒcn ［代詞］あちらの→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

leeɒcnʃ ［代詞］あちらの→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

leeɒczɒ ［政治］市民革命 ［レベル］4 μɑ;/ JM

leed ［名詞］構造、設計、仕組み、ストラクチャー、骨組み、構成、機序、機構、メカニズム、建物の造りや内部構成 ［レベル］3 古

leedjɪn ［化学］構造式 ［レベル］5 1L

leednɔ˥ ［電算］オープンアーキテクチャ 1L

leedael ［言語］構造言語学、構造主義言語学 ［レベル］6 1L ［語法］ セレンとリュウが大成した。両者はその後生成文法へ駒を進める。

leebe ［代詞］［形容詞］あんな→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

leebeʃ ［代詞］あんな→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

leeben ［代詞］あんなの→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

leeben,ul lceμ

leebenlʃel ［亜魔］レーベンシュテル、冬螢 ［レベル］6 μɑ;<ul「冬の蛍」 JM ［文化］ シルフィの一種。アルバザード以北で見られる。北に行くほど多く、特に ul に多い。冬の時期に見られ、死体を分解して生きる。亡骸を優しく包み込んで光の中に消し去ってしまうように見えることから、美しい死を連想させる。

leebenʃ ［代詞］あんなの→ ləıdcı ［レベル］1 JJ

leebenbrɦɔc ［アイテム］レーベンブロイ ［レベル］4 μɑ:μcɑcı;ul「冬の粉雪からなる吹雪」 JM:μcɑcı ［文化］ → φel ヴァストリアの１つ。セレンのもつ散弾銃。

leebel ［名詞］レーベル、女のオナニーのオカズ、オカズ、おかず ［反意語］φɪɪbe ［レベル］5 JJ:leebe/ɪl（古もの）< 1L:leelφɪɪbe

leeze ［気象］［丁寧］傘 ［類義語］ejn ［魔法］レーゼ（シェル）。利の多段白魔法。魔法のバリアを張る。敵の魔法を弱め、あるいは消失させる。術者の能力に応じて強さが決まる。 ［レベル］3 ɟɔpn: 雨傘。ez の部分に古 ej（雨）の名残が見える。

leə ［法副詞］～しないでください ［レベル］1 1L:ʃe を弱めた音が le。ə はすぼまる控えめな音。 ［語法］ μe 前置すること。丁寧。 ［用例］ leə ucnʃ nɔn. 私をお捨てにならないで。 leə ɑcſ ʃə ɪl enɒɪu. leə ɔdn ɪɒɔ oen lc ɘɔc ʃə. お子様と運転時はご遠慮ください。

lə ［代詞］彼、彼女、その～、この～。前置。 ［反意語］lı ［レベル］1 ɑ;e ʔʔ ←古 :ləə（彼女）lə,ɑ ɔɔə,ɑu ləə,ɑu::lə（lſ̃ までは唯一の有生三人称。その後 lə は冠詞の lə と lı に分かれる）:lɥə,ɪlſ, lɥəɒc,ɪlſ

lə,ɑ lə, lı e

lə,lſ̃ 男性定冠詞 lə（有生三人称代名詞）

lə,lɟɑ ʃə, le, それ。lɟ は「こ・そ・あ」の三段階 lə,ɑ.heɒ ɑ の三人称代名詞が「それ」のみを意味するようになった。ɪɥ では「こ・あ」の二段階になっている。

ləſ ［遊離副詞］［形容詞］常に、いつも。前置ないし el。 ［法副詞］通時制の副詞。後置。 ［動詞］ɥəl である、である。通時制の繋辞。 ［レベル］1 1L: 古 lɘəɔ（必ず）［語法］ ɪləəſ 通時制としては後置。頻度の副詞としては前置ないし副詞。

ləſſı ［俗語］［名詞］野郎、ヤロー、男、オス ［類義語］ucl ［反意語］ləəɔ ［レベル］3 J0: 古 :ləſı（出口←男性器）［語法］ ləəɔ

ləɟuɪɪn ［軍事］常備軍 μɑ;/ JM

ləɟucnɟnə ［魔法］経常廃棄量 ［レベル］6 J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ləɟucnɟɪsı ［魔法］経常廃棄率 ［レベル］6 J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ləɟı ［名詞］アマチュア、素人 ［形容詞］経験の浅い、素人の、アマの ［反意語］˥ɪɒı ［レベル］3 赤：出る←「門を出たばかりの」［語法］ ˥ɪɒı

ləɟı,ɑ μcl lə/ſı「脚が外に」

ləɟıbeel ［名詞］素人童貞 ［レベル］5 ıl;/ Jʔ ［文化］ beel

ləɟcl ［名詞］［形容詞］未完了 ［レベル］3 @ J0

ləɟcμ ［魔法］魔珠、ルティール ［アクセント］ləɟ€μ ［レベル］5 ɪμɑ;ləɟcı/ſccμen J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ləɟcı ［地名］ルティア。メテの使徒ルディアの支配地。 ［人名］リーザ、リディア、ユーア、ユルトのアルカ姓 ［レベル］3 ˥ɪlɔ ［成句］ blcz e ləɟcı nɔɑ uɪnφɪμ e lcczel 鶏口となるとも牛後となるなかれ

ləɟcı(J) ［アトラスの国家］ルティア、燈国、理国 ［レベル］2 ˥ɪlɔ:「燈」クミールが ɒellelſ を持ち込み、盛大に ɒellelſ を行うことから ［文化］ → cjſɔlncɒ ・面積 9191ΔL0.ʔL.JLʔ0 ˥ɒ ˥（本土）。 世界第６位のオーストラリアの 9,ʔL.J,0JM ˥ɒ ˥よりややや小さい。 ・経緯度 西端：西経 (−L0) + ((ʔ1ʔ / M000) × ʔʔ0) − ʔʔ0 = −1ʔʔ.ʔʔ 東端：西経 (−L0) + ((ʔʔΔΔ / M000) × ʔʔ0) − ʔʔ0 = −11Δ.0Δ 北端：北緯 L0 − ((ʔʔʔ / J000) × 1Δ0) = ʔ9.1ʔ 南端：北緯 L0 − ((ʔLʔ / J000) × 1Δ0) = J9.Mʔ ［成句］ ləɟcı ɟəμ ɥənəμ 驕る平家は久しからず、盛者必衰。zφ 以降発展を失って伝統の国になってしまったことを嘲って言う。ul までルティア人の前で使うと侮蔑的ととられた。現在では語源が薄れているのでルティア人でも使う。 ləɟcı ˥ɪl ləɟcı 旧態依然

ləɟcıſc˥e ［地学］ルティア海流 ［レベル］4 Jʔ

ləɟcı˥ɪɑ ［名詞］ルティア国。ルティア姓と区別するときに使うだけ→ ləɟcı ［レベル］3 1L:clɒəj: μcɑcı

ləɟcɪn ［名詞］ルティア人。リディア＝ルティアや夢織の紗枝など。 ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ɪlcʃ ［文化］ 大人しく理知的という印象を持たれている。礼儀にうるさく、我を張らないとされている。 大人しさが強調されていることとリディアの経歴を考慮すると、モデルは恐らくスウェーデン人。

ləɟcıhɪrl ［言語］ルティア筆記 ［レベル］5 1L ［文化］ リディアが ɪμ˥hɪrl を元に作った筆記体。文字をいくつか変え、使い勝手を向上させている。文字が横一列に並ばず、上下に文字が踊ってしまうのが難点。アラビア語のように美しく見えるときもあれば、ボールペンの試し書きのように汚いこともあった。hɪclenhɪrl に公式筆記の座を奪われたが、ɪμ˥ を追いやったときとは異なり、hɪclen と ləɟcı の見え方がかなり異なるため、ləɟcı は ləɟcı で使い道があるということになり、生き延びた。ɪμ˥ と ləɟcı はぱっと見があまり変わらないので、単純に古いほうが追いやられた。hɪclen はかなり見え方が異なるので、ləɟcı は生き延びた。外国人の何を言ってるのか分からない方言や、早口で何を言ってるのか分からない言葉を示すのに使うことに決まった。また、分からない＝神秘ということで、呪文や神の言葉にも使うことになった。

ləɟcɪμen ［言語］ルティア語、ルティアレン ［レベル］2 J0 ［文化］ ɟcɪμen

ləɟce ［料理］メープルシロップ ［レベル］3 J0:ləɟcı/lce ［文化］ ルティアの名産品のひとつ。アルバザードにも輸出されている。

ləɟe ［動詞］ɥəl（川など）に浮いて ı（岸など）まで流れていく、浮く、浮き上がる、ホバーする、浮かぶ ［普通動名詞］［再帰動名詞］浮遊 ［魔法］ルテ（レビテト）。風の古代魔法。ユノを使わずに静かに浮き上がる。意思だけでスムーズに上下動ができる。エンジンのように常に一定量を噴射しないと同じ高度を保てないユノに比べ、圧倒的に移動しやすい。 ［類義語］ɒɔnſ ［レベル］2 ɑ;lə/ſe「脚が風に」 赤 ［語法］ → ɒɔnſ 移動様態動詞で、lə˥ などの仲間。

ləɟeſcı ［筐堺］ルテティア ［アクセント］ləɟeſc˥ ［レベル］4 μɑ;ləɟcı の間に ſeeɒʃ の ſe を挟んだもの。星座にいる魔族を監視する役目を負った筐堺。ルティアを見守る合間に魔族を見張るという意味を込めて、悪魔を意味する ſe を ləɟcı の間に埋め込んだ。ləɟcıſe だと ſe が「～のような」に見えてしまうので避けたという理由もある。ただし、アトラスの地理上の筐堺国は ləɟcı のみ。 JJ ［文化］ 筐堺司：μcɑcı ləɟcı 筐堺国：ləɟcı

ləɟel ［化学］ベンジン、石油エーテル JI:˥.ləɟeıɒ ［語法］［文化］ ベンジンと石油エーテルのいずれかの意味で使われる。染み抜きなどに用いられる。原油から分留して作る。鎖状炭化水素を主成分とする。ドイツのようにガソリンの意味はない。アメリカのようにナフサ ləɟeıɒ でこのベンジンを指すこともない。ベンゼンとは関係ない。

ləɟebɪnɑ ［運動］ エアーホッケー、エアホッケー ［レベル］4 ul;ləɟe/bɪnɑelʃ J1 ［文化］ アルバザードがホッケーを改良して編み出したスポーツ。体力に自信のない者でも気軽に楽しめるため、競技人口が多い。 草食系男子が運動部に入らなくてはならない状況に追い込まれたときに、たいてい卓球かこれを選ぶ。 日本と違って背丈によって等級が決められており、台は総じて日本より高い。台が低いと腰に来て、高いと肘に来るため。

ləɟeıɒ ［化学］ナフサ ［レベル］5 1L

ləl ［動詞］ɥəl を歩いて ı まで行く、歩く。移動様態動詞 ［普通動名詞］ウォーキング← uılləl ［レベル］1 ɑ;lə/lc「足を動かす」 古 lə˥:lə˥:lə˥ ［文化］ 最もメジャーな移動方法である。どこに移動するにも使われる。健康法としても好まれるため、盛んに行われる。ウォーキングは殆どの人が行う最も人気の高いスポーツである。健康目的のため行われる。場所は道か公園かカルテである。郊外までわざわざ歩くためにいくこともある。アルバザードでは一日最低でも一万歩は歩いた方が良いとされる。ただ、年齢によって歩数に差がある。アルバザードではウォーキングが普及しているので、総じてみな姿勢が良い。歩き方も美しく、エクササイズとしても無駄がない。言い換えればみな同じような歩き方をしているともいえる。 ［用例］ ɪn lə˥ɪſ ɒɔl ej˥ ucſ ejn. 傘を差さずに雨の中を歩いた。 ˥eſ lə˥ɪnɑ. 猫が歩いている。

lə˥ɪɔ ［植物］コリアンダー ［レベル］4 ɪl˥ɪſı

lə˥jɪnſ ［人名］ルクサント J0 ［文化］ (ɥəəɒı ʔ999:901J) 旧アルティリア系・旧エスピール系貴族。

lə˥jɪnſ(J) ［魔法］逢魔館、リュクサン、ルクサント ［アクセント］lə˥jʔnſ ［レベル］3 ˥l;lſɑ J1 ［文化］ ej˥ı

lə˥jɪnſe ［魔法］逢魔宮、リュクサンテ、ルクサンテ ［アクセント］lə˥jɪnſE ［レベル］3 ˥l;lſɑ<lə˥jɪnſ,lſɑ J1 ［文化］ ej˥ı

lə˥nɪnı ［地学］［歴史］スタテリアン ul;/ Jʔ ［文化］ φɪɪueɑeɒe

lə˥leſcı ［医療］［哲学］ルクレティア、ルティア医療、ルティア医学、漢方、東洋医学 ［反意語］ɟcczɪμ ［レベル］3 ɟzl J1:μcɑcı ［文化］ ɪnueμſ, ˥leuɪnʃ 現ルティア地方で発達した医学体系。自然治癒力を高めることを主眼とした療法で、生薬の処方（漢方）、鍼灸、食育などを主な処置とする。理方から上代でレスティルにも入り、風土に合わせて変化していった。 現代ではアルバザードでは薬の服用量が中ぐらいで鍼も中程度。シージアでは処方量は多く鍼も太かった。現ルティアでは処方量は少なく、鍼は細い。 地球でいうとシージアが中医学、アルバザードが韓医学、ルティアが漢方（あえていうなら日医学）に相当する。 ［成句］ hɪɪʃ lə˥leſcɪn 金科玉条

lə˥leſcı(J) ［人名］ルクレティア J0 ［文化］ (ɥəəɒı ʔLM1) ɥəəɒı ʔLʔΔ イクスタン、旧アルティリア系・旧エスピール系貴族 lə˥jɪnſ の娘 lə˥leſcı を娶る

lə˥leſcɪn ［美容］ポンパドール ［レベル］6 J1:jɒ のアルバザード王の寵姫から

lə˥ı ［交通］獣道、農道、舗装されてない道路、田舎道、土の道 ［レベル］3 1L: 古 lə˥（歩く）/ ˥ı から ［語法］ 舗装されていない道路のこと。草を切り開いて作った道や、車が通って自然と道になった轍などを指す。砂利道において人為的に砂利をよけて轍にした箇所も lə˥ı である。京都御所の北側に自転車用の轍があり、砂利がかき分けられて道ができているが、これも lə˥ı に当たる。アシェルフィの泉から南西の小学校へ向かう農道も lə˥ı である。 ［用例］ ɪn nɪ ɟccſ ɔl ɑɔnſ lə˥ı. 田舎道を歩くと気分がいい。

lə˥ı˥j ［運動］ウォーキングマシン ［レベル］4 ul;/「歩く床」 JM ［文化］ enɔuɥɪɒe と lə˥ı˥j と le ɑ˥j は ul で開発され、ıl で一般的なスポーツジムに普及し、ls で映像が取り入れられた。地球でいえば例えば日本にいながらランニングマシンで走ることでパリのシャンゼリゼ通りの映像が映し出され、まるで日本にいながらパリを走っているかのような旅行感覚を味わうことができる。この技術は ɥəcɒ 社が実現させた。地球でいえばグーグルのストリートビューを進化させてなめらかにしたようなもので、リアルタイムで歩いたり走ったりした速度や方向に合わせて日本にいながらパリを散歩したりできる擬似旅行装置としても使える。それでいて健康器具としても使えるのでよく売れた。 アトラスでいえばアルバザードにいながらルティアのテューレンスを旅行できるようなもので、しかも自宅内で旅行できるようなもので、このサービスは非常に歓迎された。創案者はセレンで、革命で ɥəcɒ 社に打診し、ɥəcɒ 社が即座に実行に移し、国民の圧倒的な人気を博した。このサービスを使えば家にいながら世界のどこでも旅行した気分になれる。旅行会社ははじめこのサービスを拒絶したが、このサービスでは空気感や匂いや名産品までは再現できない。そこで旅行の下見としてこのサービスが使われたり、このサービス事態が観光地の広告となり、バーチャルで歩いてみたので本物も歩いてみたいと思う人口が出てきた。そのため旅行会社は手のひらを返してこのサービスとの共存を図るようになった。 映像は眼前のディスプレイに映す方式のものと、電脳メガネに映すもの、網膜に直接映像を送るものなどがある。

lə˥ın ［名詞］通行者、歩行者 ［レベル］2 J0

lə˥ɔ ［動詞］ɥəl に着く、着く、到着する、着陸する ［動詞］ɥəl に伝わる、伝わる、伝える、伝導する ［普通動名詞］到着、伝達、伝導、着陸 ［普通動名詞］［動詞］チェックイン← φı˥˥lə˥ɔ ［反意語］leeu ［レベル］2 赤：入る。到着は ɟɔpn で uıſ だが、uıſ は長らく制アルカで待つで使ったため ［語法］「伝わる」や「伝導する」の場合、空気中を伝わるというような経路を指す場合は ɑɔnſ で、電子が電極に伝わるというような到達点の場合は lə˥ɔ となる。

lə˥ɔ,ɑ ˥ıſ lə/˥ɔ「脚が中に」

lə˥ɔɑclaıc ［医療］透熱灸 μɑ;/。熱を到達させることから。 JM

lə˥eı ［生物］内庭 J1:「足を癒す」

ləl ［形容詞］完全な不足、不満足、不満 ［反意語］˥ıl ［レベル］1 1L:ıΠıl

ləlcaμ ［形容詞］動じない、肝が座っている、どっしりしている ［レベル］3 JJ:μcɑcı:ləlcɑeμ のアプラウト。当時アルシェのルシーラだったセレンが遊びで地元のチーマーをしていて、何があろうと慌てないタイプの青年だったことから。アルシェでの命を失うかもしれないストレスに比べたらチーマーの殴り合いなど遊びのようなもので、格闘技の訓練をさせられていたセレンには尚更であり、このころは鎖骨を折ろうが騒ぐこともなく、その状態で２０キロ以上も真冬の夜中を歩いて移動したり、道端で野宿したりしていた。無論一歩一歩響いて痛む。電車がない時間で、鎖骨が折れて自転車に乗れない状態だったので徒歩だった。高校生の体力は凄まじい。ロングコートに包まって、違法だがタバコを吸って酒を煽って黙々とアルシェの仕事のことを考えていた。リディアやメルが憧れていた頃のセレンである。それらの経験からリディアらが付けた形容詞で、この寡黙で冷静沈着な様はモテる男の代表的な性格として定められている。これで根が ɪnccɥə だと更に良いと彼女らは言う。 高校の頃はこの上女にも靡かなかったので、そりゃあカッコ良かっただろうねぇ。男子校だったが性格と見た目のこともあって学外などで否応なくモテたが、それはそうだろうと今は思う。全部断ってきたあの頃の自分はどう考えても自分ではない。

ləlcaeμ ［医療］善なる人格 ［人名］ルシフェル、アルシフェル、紫月 ［レベル］4 古 :μcɑcı:ıl/lc ɑeμ。人名が先にできた。 ［文化］ ˥ɪɒelcı 人名のルシフェルはリディアとメルが作り上げた理想の男性像。日本語名もリディアの命名で、紫月（しづく）という。「息吹」→「息吹く」の発想で、「しづき」→「しづく」も可能だろうと誤解したところに由来する。同時に高校３年時のセレンを指す。lcaeμ に接頭辞 ıl をつけてできたが、ı が落ちて llcaeμ となった。ところが ll の発音がいいにくいので、lalcaeμ となった。ルシア誕生後は lalc の部分が同じということで、ləlcaeμ が正式と定められた。 ルシフェルは血気盛んだが冷徹で仁義にあつく、弱い人間に親切で悪を嫌う。心身ともに強く、仲間を守り、敵を潰す。人とつるむのが嫌いで孤高な性格で、格闘技に長けている。一見女に冷たいが実はやさしい。細身の筋肉質で、ルヴァル体質。指が細く長い。身長は１７２ｃｍ。

ləlcı ［名詞］ルシア、悟り ［形容詞］悟った、悟ったような。ルヴァンで最高潮に達した状態をいうので、察したようなという意味の「悟ったような」の場合は nılɔɪn。 ［レベル］3 ɟɒ;ləɟcı.˥ 古 ［語法］ ルヴァンで最も良い状態に達したときのその状態。

ləlcɪn ［生物］黄色人種の混ざった白人 ［レベル］3 1L: 双子のルシア＝アルバザードとユルト＝ルティアがそれぞれ ləlcɪn と ɥəlʃɪn の差が付いており、二人ペアなので比較しやすいため、語源となった。 ［語法］ アルバザードに多い人種。幼いころから大人びた顔をしているが、白人ほど老けない。一番美しいとされている。ルシア、リディア、リーザなど、ルティア家の女性はすべてこれに当たる。神話の神のモデルにもよくなり、女王ルフェルなどはこれに当たる。

ləlcɪn(J) ［被服］ポンチョ ［レベル］3 μɑ; ルシアとハイレンのためにミルフが作ったことから ɹʃ1

ləlcɪlccɑ ［天文］メラク、紫亞星 ［レベル］6 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel ［文化］ ɥəlʃlccɑ

ləlcɪ ɪμbɪzɪμɑ ［人名］ルシア＝アルバザード、ルシア、しあ、紫亞、紫亜、紫亞にゃん、にゃん ［ユマナ］［人名］ルシア＝アルバザード ［レベル］3 1Λ:μcɑcɪ;ləlcɪ 1Λ:μcɑcɪ: ルヴァンの ləlcɪ から。苗字がアルバザードなのは、リディアの要望 ［文化］ (1Λ φcl jeμ_) セレンとリディアの長女。ユルトと双子の兄弟で、妹。日本語名は紫亞（しあ）。 肩より少し長い栗色の髪の毛を二つに結いていることが多い。目は茶色で、二重。肌は白：黄＝６：４。 ［成句］ ʃe ɒɪɯ ləlcɪ 寝た子を起こす ɹɪcʃ ləlcɪ ˥ɪen μcɑcɪ リディアに怒られるしあパンダ：蛇ににらまれた蛙。あわあわぶるぶるしている様が汗をかいているパンダみたいなので。 ləlcɪ eʃ ɪlʎ ɪl ɹμ˥ɪ nɔɑ jeμen. ルシアはセレンよりアルカが巧い：青は藍より出でて藍より青し

ləlcɪ enccl˥ ［人名］ルシア＝エニーク ［レベル］3 1L:clɒəj;μcɑcɪ ［文化］ レイユ期のアルティス教徒。ミロク＝ユティアの妻。アリシア＝ユティアの母。アライブ党首ギル＝エニークの娘として生まれた。１０才のときアルシアの湖で足を滑らせて転落。そのときアルドゥ神に助けられ、神の存在を知る。父に隠れてアルティス教徒となり、その後大学へ進学。恩師デニエ＝カテージュに教唆され、ファミィ＝ナオン暗殺計画を知る。既に陰でミロク＝ユティアに浸水していた彼女はミロクに相談。ミロクは計画を利用することにし、ルシアに何も知らぬふりをしてパイプ役を努めるよう指示。３１９年、暗殺実行。その後、ミロクはルシアがイルミロクのスパイであったことを明らかにし、彼女を保護。同時にレヴァレンとアライブを糾弾。新連立政権は崩壊。翌３２０年にイルミロクが与党となり、ルシアはミロクの妻となる。

ləj ［被服］スカート ［レベル］2 ɒelʃɪcɪ JL1:ləɔ;ləɑ（ふわっという擬音語）/ɹɪbe（服） 1Ⅱ: 制 :ləɑ（ふわっというオノマトペ）から。古アルカでは ləɑɹɪbe ふわっとした服だった。 ləj:ləj:lɪ al ɪɑeʃ ［成句］ ləj e μecɥe 少女のスカート：思わせぶりな、奥歯に衣を着せる ［用例］ ʃə ləj eʃ ɑcɪʃ ɪl˥ɪ lɔʃ lej nɔɔn lecnɪʃ. そのスカートは今まで着た中で一番素敵だった。

ləɹɹɔ,ɑu ʃc（男が男を） ɑɥəɹɹɔə.l

ləɹncɪl ［被服］ペチコート ［レベル］6 ɹ1

ləd ［被服］裾、すそ ［反意語］oɹd ［レベル］2 1L:ləoɪ/oɪɹd。oɹd の語源中の oɪ は「手」なので、脚でなく足から造語。 :::ɹɪe,ɪlʃ

ləɟɑel ［魔法］ルシフェル魔法学校 ［レベル］4 JO:ləɟcɪ/ɑel ［文化］ → ɪμʃjel アルバニ世がフェリウスの学校ブームの際にアルシアに建てた魔法の専門学校。専門学校としては最古のものである。 アルシアの１１魔将が立てた最新の魔法学を学ばせ、優秀な魔導師の育成を目指した。アルシア自体は鄙びた都市だったため、ほとんどの学生は首都アルナの出身であった。そのためルシフェルは全寮制を取っていた。ルシフェルは全寮制を取った最古の学校であり、この特徴はミスティア錬金術舎にも受け継がれる。 魔法がなくなったナディアでは改装され、学校として使い続けられた。アレイユでもそのままの名前で残っている。

ləɟcɪ ［魔法］魔法、ルシア ［反意語］ɑlɪɒ ［レベル］2 ɾɒ;ɪl/ɟcɪ「膜の物」レガルが出るとき空間が揺らいで膜状になることから。 1L:μcɑcɪ:ɪlɟcɪ（魔法学の大成者アルシアの１１魔将）。アトラスでは ləɟcɪ からむしろ ɪlɟcɪ ができた。 ɪμʃ, ləɟcɪ: ［文化］ → ɑɔlɒcɥə 西洋魔法 ɪμʃ と東洋魔法 ɪμɒɪleʃ の総称。すなわち「魔法」の総称。魔法の内訳は以下のとおり。＊ elɑeμ（古代魔法）は μəɑcj の一種。

ləjcɪ（魔法）	ləjcɪn（魔法遣）
ɪμʃ（西洋魔法）	ɪμʃɪn（魔導師）
μəɑcj（魔術）	μəɑcʃ（魔術師）
ɪμʃej（召喚）	ɪμʃenɪ（召喚士）
ɒelɑcj（時魔法）	ɒelɑcʃ（時魔導師）
lɔμʃ（忍術）	μelɑɪjʃ（忍者）
ɑμeɑcɥ（符術）	ɑμeɑcʃ（符術師）
eɒcɥ（妖術）	eɒcɥɪn（妖術師）
ɪμɑcɪn（幻術）	ɪμɑcɪnʃ（幻術師）
uelφɪlʃ（色魔法）	uelφɪμ（色魔導師）
ɥəlcɪnʃ（錬金術）	ɥəlcɪnʃcj（錬金術士）
lɑμɪnj（魔香道）	ɑμɪnlceμ（魔香士）
ɪμɒɪleʃ（東洋魔法）	ɪμɒɪleʃɪn（東洋魔導師）
ɪzeμ（魔法陣）	ɪzeμɪn（法陣指）
ɑclenʃ（秘術）	ɑclenɑ（秘術師）
ɪnuel（呪術）	ɪnuelɪn（呪術師）

ləjcɪlʃʃe ［形容詞］魔術的な、魔法的な、魔術の ［反意語］˥ɪbɒcʃʃe ［レベル］4 μɑ;/ ɹʃ

ləjcɪ˥˥ɪcɪnʃ ［数学］白銀比、魔法比、ルシアクライアント ［反意語］ɑlɪɒ˥˥ɪcɪnʃ ［レベル］5 μzl; 魔導師の兵舎の看板が白銀比になっており、その比が看板以外の様々なものに見つかることに気付いたシージアの学者が「魔導師兵舎の比率→魔法の比率」と名付けた。 ɹɹ ［文化］ ɑlɪɒ ˥˥ɪcɪnʃ

ləjcɪn ［魔法］魔法遣、ルシアン ［レベル］2 1L:μcɑcɪ ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ləjcɪn(J) 魔法堂ルシアン JO:ləjcɪ/n（魔法の（店）） ［文化］ 主人公 ləlcɑeμ の営む魔法具店の名。同小説名。

ləjceʃʃ ［μenʃe］［代詞］こちらの方の、この方の、ルシエット→ ləɪdcɪ ［アクセント］ləjcEʃʃ ［レベル］2 JJ:˥ɒccɥ;ləjceI/ʃe

ləjceI ［μenʃe］［代詞］こちらの方、この方、このお方、ルシエール→ ləɪdcɪ ［アクセント］ləjcEI ［レベル］2 JJ:˥ɒccɥ;lə ɟceI（空→遠くの人→距離をおくことで丁寧さを）

ləɟcn ［人名］ルソン ［組み数字］5 / 6 ［レベル］3 1L: 古 :ɪμɟcn: 神の行い ［文化］ ヴァノンの５番目。女性。派の決定事項の実行担当者。

ləɟnlcl ［化学］オスミウム 1L

lən,lⅡ 男性不定冠詞 ʃən,lɟɑ と lə からの類推 ［語法］ lⅠj でも場合によって使うことがある。l'˥ɪəɪ → lən ɪ˥əɪ のように。ʃcɪμen を参照のこと。

lənɪ ［動詞］ɥəl に来る、来る、くる、なる、成る、いたる、至る、到る、登場する、やってくる、降る ［副詞］～しに来る ［反意語］˥e ［レベル］1 μɑ;lənɪ,cn（来る）<lənɪ,ɑ（走る） 赤：走る ˥e,ɑ（移動）˥e˥ɔ,ɑ（来る）:˥e ˥e˥ɔ::˥ɔlə,ɪlʃ, hɔʃɪlə,ɪlʃ（雨が降るの降る） ［用例］ eɟ˥ lənɪʃ cɒ ɑcj. 今日は雨が降った。

lənɪ,ɑ leɑ lə は脚

lənɪn ［感動詞］お帰り、おかえり ［レベル］2 μɑ;lənɪ/ɪn（私のところに来た） 1L

lənɪn(J) ［μenʃe］彼自身 ［レベル］2 JO:ɒelcɑcɪ lceμ

lənɪucɪn ［物理］向心力 ［レベル］5 JO: 中心に向かう力。leeu の対が ləɔ でなく lənɪ になるのはアルカではありがち。

lənɪɑ ［単位］ルナッフ ［レベル］4 1Ⅱ: 制 : 古 :ləɪnɪɑɪc（走る熱） ［語法］ １ヴィヴィが物体を１メルフィ動かす時のエネルギーを表わす。ジュールと比較。

lənɪlɔd ［交通］上りの電車 ［レベル］3 JO: カルテを中心に、カルテ（上方）に来るのが上り。

lənc ［生物］無生物 ［形容詞］無生の ［反意語］μəɒɪ ［レベル］4 jeμʃ;ləənɔ,ɑ 1Ⅱ: 制 :ləɪnːləɪnɔ lə ənɔ:ləənɔ

lənɔ ［死神］ルノ、嘱子、こうし。アルテから生まれた最初の子で、二番目のセレス体。そのことから嘱矢と子供をかけて嘱子とした。 ［レベル］3 μcɑcɪ: 古 : 赤アンクノットにも一部誤記が記載 ［文化］ アルテからスピンオフしてできた存在。女。相対する性別即ち男が欠けたために不完全となった。ルノはやがてトワーユに行き、アトワーユの側近となる。１６６ｃｍ、５０ｋｇ。死神にありがちな痩せ型。

lənɔʃ˥˥ɪ ［地学］［歴史］ルノ大陸 ［ユマナ］ローレンシア大陸 ul;/ ɹʃ

lənɔj ［代詞］彼自身、彼女自身 ［反意語］lɪnɔj ［レベル］2 1L ［用例］ ɒcn ɪl˥ɪ ʃeμ˥ lcn uej ɔlʃɪ lə ʃcl ɥəə lɪɑ ɪlɒɪn ɒɪcn e ɒcn lənɔj eʃ ləɑɔ. 女性は自分の体そのものが宝であるから、一人で外出してはならない。

lənɔn ［単位］ルノン ［レベル］5 JI:lənɔ/n ［文化］ ɪn˥ɔ

lənɔn˥˥eɪ ［企業］ルノナケア ［レベル］5 JI ［文化］ 日本生命に相当する企業。

lənɔ ɑlɪaɪncɪ ［人名］ルノ＝ファルファニア 1L:cIbəj;μcɑcɪ ［文化］ アルティル期の政治家。アルティス教徒。女性。開発省運輸庁長官。種枯れ病の際の対処で国民から支持を得て、第四次選挙でのアルティス教の勝利を導いた。

lənɔlcl ［化学］炭素 ［レベル］4 1Λ: 制

ləucɪ ［歳時記］ディアセル前夜祭、ディアセルの前日、ディアセルイブ、ルヴィア ［反意語］ leɑcɪ ［レベル］2 JO:lənɪ/uɪl/ɑcɪ（ディアセルが来るのを待つ）

ləueμ ［名詞］生活、日々、日常、ルーヴェル ［レベル］3 JO:lcuμɔ のカルミーユ ［用例］ ləueμ ˥ˈɪμ˥ˈ アルカの日々、アルカ生活、ルーヴェル・タルカ

ləɑɪ ［動詞］ɥəl を飛んで ɪ まで行く、飛ぶ、翔ぶ。移動様態動詞。 ［普通動名詞］飛翔、飛空 ［動詞］一目散に走る。leɑ ［レベル］2 ɑ;lə は脚 赤 ləɑɪ:ləɑɪ ［用例］ ɪl, ɪn ləɑɪ uɪn ʃc. はい、今すぐまいります。

ləɑɪn ［物理］［工学］飛翔体、飛しょう体、飛行物体 ［レベル］6 JI: 飛ぶもの

ləɑɪbɪɑ ［動詞］ɥəl を ɪ に吹っ飛ばす、吹っ飛ばす、吹き飛ばす、ぶっとばす、ぶっ飛ばす ［レベル］3 JI

ləɑɪμɔ˥ ［動詞］ɥəl を突き飛ばす、突き飛ばす、つきとばす、突きとばす ［レベル］3 JI

ləɑɪɪ ［地名］ルファア、炎京 ［地名］ルファア砂漠 ［レベル］4 古 ［文化］ ファルファニア国の首都。大部分をルファア砂漠に覆われている。ルファア砂漠は代表的なファベルの砂漠。ここの砂が風に乗り、カテージュなどに降り注ぐため、黄砂に相当する現象が見られる。ただし日本ほどではない。

ləɑɪɪleɪ ［気象］黄砂 ［レベル］4 1L ［文化］ ləɑɪɪ ［用例］ ləɑɪɪleɪ ɪμ ɒclɒ ˥ɪ sɪn. 黄砂が舞っていた。

ləɑɪɪzelɔɑɪcz ［医療］日本脳炎 ［レベル］4 1L:jeμen/μcɑcɪ ［文化］ ファベルのルファアで起こった。

ləɑɪɔɒ ［名詞］飛び方 ［レベル］3 JI

ləɑeμ ［筐堺］ルファエル ［レベル］5 μɑ;ɪləɑɪeμ JJ ［文化］ 筐堺司：ɑɪɪuɪ ɑɪμɑɪncɪ 筐堺国：ɑɪμɑɪncɪ, ɪɒelʃ

ləɑc ［被服］ルフィ ［レベル］2 古 :ləɑc(ルフィ) ← ləɑ/ɑcɥɔ を変形させた造語。原義は「二枚のスカート」。ləɑcɔ,ləɑcc などの語形もあったが ləɑc が最終的には一般的な形。ləɑ は ləɑɹbe の一部で、スカートを意味する。ɑcɥɔ は数字の２で、元は短槍の意味。 ［文化］ アルティス教徒の服。女性用。スカートに似ている。二枚の布を垂れのように前後に付け、落ちないように紐などで結んだもの。動いたときに横から見ると脚が若干見えるため、スリットスカートに近い。脚を淫らに見せるのは宜しくないという考えをする信者は二枚の布の横の長さを長くし、布に布を重ねる。こうするとたとえスリットが入っていても布の下は布なので脚は見えない。せいぜい膝から下の一部、脛や足首がかろうじて見える程度である。ふつうラーサを着ればその下にはサユを着て、下半身はルフィを履く。

ləɑc˥˥eμn ［被服］ルフィケルン ［レベル］3 古 ［語法］［文化］ ルフィの後ろについた小さいマントのような広がったもの。ルフィの丈より少し長い。着ても着なくても良い。

ləɑcɒccl ［被服］ルフィーミール ［レベル］3 古 ［語法］［文化］ ルフィの横につけて下に垂らしたリボン。ルフィケルンの代わりに使うので一緒には使わない。

ləɑeʃ ［天文］紫の月 ［類義語］lelʃ ［レベル］3 JJ:ləlcɑeμ/ʃe

ləɑe˥ ［ジョブ］飛脚 ［レベル］5 zφ;ləɑɪ/he˥ɪ「飛ぶ手紙」 JⅡ

ləɑəʃɔ ［単位］グレイ、リフト、人間フト ［レベル］6 1Ⅱ: 制 : 人間のフト

ləɒc ［遊離副詞］［形容詞］しやしない、いつもない ［レベル］1 JJ < ləəɒc: 古 :ləəɒc（ない） ［語法］ ɪ˥ləəʃ 機会が複数回あるのにそのうち一回もしないこと。ɪɪ˥ɪ のほうは一回きりかもしれないが、行われる確率がゼロであること。

ləɒcnɪ ɒeʃe ［人名］ルミナ＝メテ ［レベル］5 古 ［文化］ 第４期３代ソーン第１使徒であるアノ＝メテの妻。ソーンの使徒はアノの配下という色合いが強かったため、妻であるルミナは使徒に組み込まれなかった。クミールの実母。メル０年ギルの月リュウの日に自宅庭園にて亡くなる。

ləɒcɒ ［名詞］恣意 ［形容詞］恣意的な ［言語］無語源 ［レベル］5 JJ < ləɒc:1⅟: 制 : 古の ləəɒc/cɒɪc（意味のない） ［語法］ ɑeμej

ləɒcμ ［名詞］お嬢様、おじょうさま、ご令嬢 ［アクセント］ləɒϵμ, lƎɒcμ ［レベル］3 古 :ɑəlɒccɪ:lə ɪ ˥əɒccμ（クミール嬢） ［語法］ 金持ちの娘を指す。世間知らずのイメージがある。 ［文化］ ＜お嬢様位相＞ お嬢様と呼ばれる階層は ɥən˥, ɒclcɪ, ɒɪɥə のいずれかの位相の頭に ɪn を付けた代詞を用いる。例えば ɪnɥənɪ など。敬体は ɒecɑ 系列を使うが、やはり頭に ɪn を付けて ɪnɒecɑ などとする。気取った貴族や金持ちの言い方で、現実にはあまり見られないがゼロではない。アニメやマンガなどではお嬢様キャラを出すために用いられることがある。嫌味っぽく気取って見えるかお嬢様らしく聞こえるかは本人の性格と相手の受け取り方次第である。嫌味にも気取りにもなるし、深窓のご令嬢にもなる。場合によりけりである。ɪnɥənɪ ɥəəj ɑɪn ɪnɒɔe ləɪnɪ ɪn˥ɔleʃ ɪnlcnɔɪ（あなた、わたくしたちに混ぜてさしあげてもよくてよ）。ɪn ばかり連続するので ɪnɪn˥ləɔɒ（アンアンロ調）と小馬鹿にされることがある。なお、三人称にもこの ɪn は及ぶ。ɪnləɪn, ɪnʃəʃə など。

ləɒccne,jzɑ ɒɪnɪ < ləɪ ɒccnɪ

ləɑzc,ɑ leɑʃ lə は脚

ləɑcl ［形容詞］価値がある、価値のある、ステイタスだ、ステータスだ ［類義語］ɪɑeʃ ［反意語］ le˥j ［レベル］3 JO:ləɑɔ/lɪ（宝石がある） ［語法］ ɪɑeʃ

ləɑɔ ［サール］ルド ［地学］宝石、ジュエリー、ジュエル ［レベル］3 ɒelʃcɪ 10:ləɑɔ;e 古 :lⅰ˥ɪ ləɑɔ:ləɑɔ:lə ləəle（鉱物は土属性なので） ［文化］ 意思を持った宝石の獣。蛍石から生まれた。かすかに青味を帯びた白い獣の姿をしており、額に蛍石が嵌めこんである。二足歩行できるが前傾姿勢で、手足は短い。体長は３０ｃｍほどしかない。宝石を司る。ルビーやサファイアやエメラルドなど、あらゆる宝石に姿を変えることができる。人を誘惑する力を持っている。宝石を巡って人が殺し合いをするというようなときは大抵ルドが裏で一枚噛んでいる。

ləɑɔ˥˥ɪɑ ［地球の国名］ベリーズ 1L: 通称カリブ海の宝石

ləd,ɑu ɑɔnʃ

ləɒc ［名詞］コンパス。数学で使うコンパスのこと。 ɑu;ləɒɪ/dc（針） JⅡ

ləɒccɑ ［地球の星座］［ユマナ］コンパス座 JⅡ ［文化］ cɑɪ

ləɒe,ɪlʃ ʃɪ

ləz ［化学］カルボキシル ［レベル］5 1L:lənɔ/zɔɒ

ləzhɔə ［化学］カルボン酸塩 1L

ləzɪ ［化学］カルボキシル基 ［レベル］5 1L

ləzɪjl ［化学］カルボン酸、カルボキシリックアシッド 1L

ləɪ ［生物］足 ［レベル］1 ɑ;lə は足。ɪ は手。脚と足のうち、手と同じ平たい部分という意味。 古 : 赤に乗っている ləɪ のさらに古形。ləɪ の ɪ は手の意味で、これは赤に残っている。ləɪ,ɑ:ləɪ,ɑμɑ:lɪ dcɥɔn（lə は zɪɒ）:jɪɥɔ,ɪlʃ ［語法］ 言いづらければ実際には ləɪ のように発音してしまっても問題ない。敬称の ləɪ と文字上で区別をつけたかっただけである。 ləɪ で zɪɒ を表すことはない。 ［文化］ 寝る前に足を温めたりリフレクソロジーをするのがアルバザード人の女には好まれる。夫や恋人など、足を見せてもいい相手にやってもらうことがある。兄や父でもしてあげることがある。 足は泥が付く不浄な部分なため、日本同様「～に足を向けて寝る」のは失礼とされる。だがもちろん現代の実生活の中では同じ部屋で寝ない限りは意識しない。 ［用例］ ləɪ hɪn 大きな足

ləɪ,ɑ ləɪ, zɪɒ lə/oɪ「動く手（四肢）」

ləɪ˥˥ɪ ［名詞］足場 ［レベル］3 JJ ［成句］ ləɪ˥˥ɪ ɪ(len) ˥ɔle 糠に釘、豆腐にかすがい、のれんに腕押し

ləɪj,ɑu lcjen ləɪ/jɪbe

ləɪjeu ［言語］末文 JI

ləɪuɪnʃcj ［軍事］歩兵 ［レベル］5 ɑu;/ 1L:μcɑcɪ ləɪuɪnʃcj:ləɪuɪnʃcj

ləɪueʃ ［言語］結語 ［レベル］5 JI

ləoɪɑɸec ［アイテム］ショートソード　ɑu;ləoɪuɪnʃcɟ/ɑɸec　⅃Ⅱ　［文化］　ɑu から歩兵の武器として存在したが、ɟɒ でロングソードが騎兵用になるとロングソードの対概念となった。

ləoɪɑɔ ［名詞］足音　［レベル］3　μɑ;/　⅃Ⅱ　［用例］　ɪn ſeɒ ləoɪɑɔ c le. どこからか足音が聞こえる。

ləoɪɑɔs ［普通動名詞］足コキ、足こき　［レベル］5　μɑ;/　⅃ʔ

ləoɪɒɪcn ［生物］中足　μɑ;/　⅃Ⅱ

ləoɪɒclⅰ ［卑語］ちんば、跛。片ちんばも含む。　［レベル］4　⅃1　［文化］　使わないこと。

ləoɪɒɔɒ ［生物］足根　μɑ;/　⅃Ⅱ

ləoɪdcʃ ［医療］足科　［レベル］3　1L　［語法］　外反母趾を直したり靴を見立てる。日本ではレア。

ləoɪdɔɒ ［生物］くるぶし、踝　［レベル］2　1L　［文化］　くるぶしは可愛いパーツと捉えられ、女子は靴下ごしにくつぶしを見せたがる。恥ずかしいので、脱いでは見せない。　そのため、アルバザードではブーツは好まれない。

ləoɪhɔ ［生物］中足骨　⅃⅃

ləoɪμecn ［言語］［文字］ベースライン　⅃1

ləoɪschɔ ［生物］足の指骨　⅃⅃

ləoɪocɟ ［生物］足の裏。文脈で分かれば単に ocɟ とも　［レベル］3　1L

ləoɪiⅰl ［名詞］足跡　［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ləoɪɪɥə ［ランドマーク］ルワーユ　［レベル］3　ɪl;ləlc/ʃoɪɪɥə「ルリ天国」　⅃ʔ　［文化］　ルリ東南部のクリムゾンに位置するテーマーパーク。ルリはショッピング街かつパフォーマンス街だが、ルワーユは萌え産業のキャラクターたちが跋扈するテーマーパーク。ディズニーランドのように人気アニメやマンガのキャラクターたちがパレードをしたり着ぐるみを着たりしている。キャラクターのコスプレをしたクルーもいる。テーマパークは広大で、エリアごとに各アニメやマンガの舞台で仕切られている。例えば⅃ɥɑcɪn ɑcclcɪ のエリアでは作中の舞台が実際にセットとして組まれ、劇中の家や名場面などが再現されている。また、ディズニーランドの乗り物に当たるアトラクションも存在する。　人気アニメの寿命はディズニーより短いため、各エリアの残存期間は約４年。作品の人気に合わせてエリアが続投されるか決まる。人気が落ちたものは取り壊され、別の作品の舞台に変わる。そのためディズニーランドに比べて園内の改修頻度が多い。アルバザードは国家戦略としてルワーユに力を入れており、旧カレンシア王国の援助のもと、工事費用の一部を負担している。改修の一部は公共事業であり、雇用の創出に繋がっている。また、ルワーユの性質上、有志のオタクによる資金や労働力の援助がなされることがしばしばある。　ルワーユは大人向けのエリアと子供向けのエリアに別れる。シーとランドのようなものである。子供向けのほうは改修頻度が低く、ɒɪlcɟɑen や ɑccnɥɪ などのエリアが置かれている。大きなお友達は大人向けのほう目当てで行くことが多いが、ɑccnɥɪ などを見に子供向けに行くこともある。ランドとシーと違って家族でも楽しめるよう、両エリアは行き来が自由であり、別途料金はかからない。　地球には２０１２年現在このようなテーマパークは存在しない。早く作れよ。

ləoɪɔμɪ ［生物］足関節　μɑ;/　⅃Ⅱ

ləoɪɔcɟ ［生物］足の甲。文脈で分かれば単に ɔcɟ。　［レベル］3　1L

ləlɟ ［生物］静脈　［レベル］4　1L:ləɪɪdɪlɟ

ləlɟlɔb ［医療］静脈瘤　［医療］痔核　［レベル］5　1L:jeμen

ləlc ［地名］ルリ、ルリの街　［俗語］ヲタグッズ、オタグッズ、ヲタ物、オタ物、アニメ、ゲーム、ラノベ、イラスト、マンガ、漫画、メイド、コスプレ、同人誌、猫耳、ネコミミ、ネコ耳、萌え。総称的に使う。　［ユマナ］秋葉原、アキバ　［レベル］3　ɪlʃ　⅃ʔ　［語法］［文化］　アルナ市北東部にある街。アルバザード最大のオタク街。元はただの田園地帯だったが、ウ・ラルラルから移住してきたアルティア人によって ul で電気街になり、ɪl でオタク街となった。　休日には幅広の歩行者天国が敷かれ、有志による大々的なパレードやパフォーマンスが行われる。度を過ぎたパフォーマンスもこの場所では許され、オタクたちは自由に遊びはしゃぎ、警察も目をつぶり、むしろ安全にパレードやパフォーマンスが行えるよう協力さえする。　繁華街なので犯罪率が高いことも事実だが、自警団や警察の協力によって、できるだけ楽しい空間を壊さないような努力がなされている。毎週がお祭り騒ぎなので、下手に ɑcɪlɪrʃe（ディズニーランド）に行くより面白いかもしれない。　日本の場合、秋葉原の加藤の乱があったときに自粛ムードとなったが、ルリではそのようなことはない。事件を起こさないよう努力しつつ、愉しみは奪わない方針を断固貫く。　度を越えたパフォーマンスについてもお祭り騒ぎということで寛恕されることが多い。本当の意味で度を越していれば警察よりも聴衆によってブーイングが起こり、撤退させられる。結局何をしても許されるわけではなく、聴衆の倫理観に背くようなパフォーマンスは街の自浄作用で排斥される。　いわゆるアキバ系のことをアルバザードでは ləlcɪn（ルリアン）と呼ぶ。アルバザードでは個人主義が発達しており、人は人と割り切っているため、日本ほどオタク産業が蔑まれていない。興味のない人は口を出さないし、好きな人は思い切り満喫する。もちろん、ləlcɪn を敵視し、キモがる者もいる。それもまたその人の自由である。　凪人発祥の萌え文化だが、逆に体裁を気にする凪人のほうがオタク蔑視をする傾向があり、仮面オタクなども多い。アルバザード人のオタクのほうが包み隠さず謳歌する傾向にある。　ただし、日本同様、三次元に相手にされないので二次元に逃避する者も中にはいる。三次元が嫌いであえて二次元に逃避する者もいる。両方好きな者もいる。十把一絡げで ləlcɪn と社会的に見なされていることが不満だと思っている者もある。　cɒdel と ləlcɪn では前者のほうが意味が広い。プロトタイプの ləlcɪn は萌え好きで、二次元好きないし三次元アイドル好きで、ゲームや漫画やアニメなどが好きである。cɒdel はもう少し広く、数学オタクやミリオタなど様々なコアな人を全般的に指す。　・語源　ルリだよ。ロリじゃないよ。　［用例］　ɪn ſiəſ ⅰe ləlc ɑc ɟɪ ɔɔcſ. 先週オタグッズを大量に買い込んだ。

ləlcſcɒɔ ［交通］痛バイク　［レベル］4　ɪl;/　⅃ʔ　［文化］　ləlcɪɒɔ

ləlclɔɔl ［俗語］オタトーク　［レベル］4　⅃ʔ

ləlcɑɔⅠ ［娯楽］［芸術］痛〜、サブカル風味、サブカル装飾、オタ装飾、ヲタ装飾　［レベル］3　ɪl;/　⅃ʔ　［語法］　ləlcɪɒɔ に端を発し、車、バイク、家、パソコン周辺機器などにサブカル風味の装飾を施したもののことをいう。　［文化］　ləlcɪɒɔ

ləlcμɪ ［建築］痛ハウス、痛家　［レベル］4　ɪl;/　⅃ʔ　［文化］　ləlcɪɒɔ

ləlcIeɒ ［音楽］オタ曲、アニソン、オタソン、ヲタソン、アニメソング、ゲーソン、ゲームミュージック、ゲーム音楽　［レベル］4　ul;/　⅃ʔ　［文化］　ul で始まり、ɪl で最盛期を迎えた。一般人が聞くＰＯＰＳなどに比べマーケットが苛烈であったため、ＰＯＰＳよりも技巧の凝らした曲が多いのが特徴。ul のころはアニソンというと子供っぽい印象だったが、ɪl 最盛期ではＰＯＰＳより遥かに複雑なメロディと伴奏を持った世界で最も進んだ音楽となった。

ləlcɪn ［名詞］ルリアン、アキバ系、オタク、ヲタ、ヲタク、オタ　［類義語］cɒdel　［レベル］3　ul;/　⅃ʔ　［文化］　ləlc

ləlcɪɒɔ ［交通］痛車、イタ車　［レベル］4　ɪl;/　⅃ʔ　［文化］　サブカル風味の装飾を施した車のことで、ɪl に興った。その後痛バイクや痛ハウスなど、様々なものに発展していった。

ləlceɟʃ ［俗語］虹ネーム、二次キャラネーム、キャラネーム、ルリ名、ルリエスト　［類義語］ləzeɟʃ　［レベル］4　ul;/。ルリの街で消費されている商品に登場するような名前であることから。　⅃ʔ　［文化］　→ ⅰəzeɟʃ　もとは小説やラノベやアニメなどで使われていた名前のこと。小説などは奇抜な内容が多いので、実在の人物の名前とかぶってしまうと問題になることがあった。そこで苦情が来ないようにあえて現実にいなそうな名前を付けることが多かった。　ところが ul 後期から ɪl にかけてファンが子供に自分が好きだった作品の登場人物の名前を付けるようになり、それが ləlceɟʃ と呼ばれ社会問題となった。　ⅰəzeɟʃ に比べ、ləlceɟʃ は比較的評判が良い。ⅰəzeɟʃ の親に比べて ləlceɟʃ の親の社会的地位が高いことが原因である。日本でもそれは同じで、オタクは無職から社会人まで幅広くいるが、結婚して子供を残している以上無職はまずないので、子供を持ったオタクはその時点である程度の社会性があるということが推測される。ⅰəzeɟʃ の親よりしばしば社会的地位が高いため、受ける批判も少ないというわけである。　２０１２年の日本でいうと、涼宮ハルヒ、月野うさぎ、孫悟空などが ləlceɟʃ に当たる。　・心暖まる名前　あるところにオタクな青年と腐女子な少女がいました。彼らはルリの街で出会い、共通の趣味から恋に落ちました。　やがて彼らは結婚し、子供が生まれ、付き合うきっかけとなった漫画のキャラの名前を付けました。　ーーこのような命名は ¥8A ネームとは真逆で、むしろ美談として受け入れられる。

ləleſ ［名詞］サブカル　［レベル］5　ul;ləlc/eſ　⅃Ⅱ

lələ ［感動詞］［文頭純詞］［μənʃe］おや、おやまぁ、まあ、なんて、あら、なんだ　［レベル］1　ɑ;ɟɪl;lə/lə「それそれ！」　日本語で「あれまぁ」「あらまぁ」というときに代名詞の「あれ」を使うのと似た感覚　古 :ɪlɪ　lələ:lələ　［語法］　良い意味と共に用いる。

lələſ ［普通動名詞］ルルット　［動詞］ɥəl をルルットさせる　［類義語］nɪ⅃clc　［レベル］5　古 :⅃ɒccμ:μ　cɒlələ/ɔe　［語法］［文化］　純潔を守るための女の自殺法。死後、死体を乱暴されないように、性器に槍のような太い刃物を突き立てて自殺する。始めに下から突き上げ、次に前方から刺し込み、それを下方に引き下げる。日本でいう男の切腹に当たる。

lələ μɪd μɪſ ſeezeɒen ［感動詞］お似合いのカップルね、仲の良いカップルだこと、焼けるね、ごちそうさま　［レベル］3　古 :lələ（まぁ）, μɪd（組み合わせ）, μɪſ（良い）, ſeeze（風の）, ɒen（接尾辞）

ləɪ ［形容詞］〜さん。女性に対する敬称。　［名詞］女史、彼女、〜さん。敬称単体で代名詞的に使うことができる。　［類義語］jɪn、lccz　［レベル］1　1ʔ: 制 : 古 :「彼女」を意味する代名詞。　［語法］　→ ɪdſ, eɟʃ　〇名　×姓　〇前置（丁寧）　〇後置（並）　〇男　〇単体使用 / 名詞用法　［成句］　eſ ləɪ neθ 何様？、何さまのつもり？。言葉通り「どちらさま？」という意味もある。

ləɪ,ɑμɑ ləoɪ, zɪɒ ləoɪ,ɑ.l

ləɪſ ［地学］麓、ふもと　［レベル］3　⅃⅃:ləoɪ/ſəənɔ

ləɪⅰ ［生物］つまさき、つま先、爪先　［反意語］lɪj⅃　［レベル］2　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleſſ:ləoɪ/ʌcſ

ləɪj,ɑu lɪyl ləoɪ/jɪbe

lə ɪjce ［料理］ブルースカイ、ル・アシエ　［レベル］5　⅃1:lſ　［文化］　ジンベースの青いカクテルの一種。

ləɪn ［代詞］［μənʃe］彼ら、この人たち　［類義語］ɪnləɪn　［レベル］1　1L:lə

ləɪnſ ［代詞］［μənʃe］彼らの　［類義語］ɪnləɪnſ　［レベル］1　1L:μcɑcɪ:ſ は ɪnſ からの類推

ləɪɒenſ ［被服］ボディス　jɒ;ləɪ ɒenſ/ſe「メント婦人のような」　⅃Ⅱ

ləɪ ɒeɒdɔ ［卑語］おまんこ様　［レベル］5　1ʔ←1Δ　［語法］　プライドの高い若い女を皮肉った卑語。

ləɪdcɪ ［言語］三人称　［レベル］4　1L:lcɔn:lə を代表としている。　［語法］　三人称には好感形と悪感形がある。作り方は次のとおり。　1: 三人称の母音を伸ばす。lə → ləə　⅃: 丁寧なら ɒc、野卑なら be を付ける。ləə → ləəbe　ʔ: 所有格（属格）なら n を付ける。ləəbe → ləəben　Ⅱ: 複数形なら j を付ける。ləəbe → ləəbeɟ, ləəben → ləəbenɟ　＊ n は属格の –en から来ている。j は複数の je から来ている。　　文法的な使い方は普通の三人称と同じ。　ləəbe（こいつ）　ləəbe lə⅃ſɪ（この野郎）　ſə eſ ləəben ɑɪ.（これはこいつのだ）　benɑ ləəbenɟ（こいつらのエサ）　bɪz ɪlə lɪl ſəəbe ɪθ（おめぇ、こんなの食いてぇんか？）　ſəəɒc leeze eſ lɪɪɒc ſɪ əɪnen ɪnne.（こちらのお傘はあちらのお客様のものでございます）　＊ ſɪəɪn lɪɪɒcn だと「こちらのお傘はあちらの方のお客様であります」という意味不明な文になる。なお、lɪɪɒcn ſɪəɪn は文法的にありえない。lɪſ ſɪəɪn と言えないのと同じ。lɪ ſɪəɪnen が正しいことを考えれば分かる。　「ſɪəɪn を修飾しておりそれに属格の en が付いている」と考えるのでは lɪɪɒc になる。leeɒc は不可。これは lɪ ſɪəɪnen や lɪɪbe ſɪəɪnen にもいえる。［{(あの) 〈客〉} {のもの}］という構造をしているためである。属格を止めて「あの客の傘」に戻した場合、eɟn e lɪ ſɪəɪn になることからも lɪ が正しいと確認できる。　　好感形は好意、丁寧、親近感、価格の安さ、偉大さ、量の多さなど、自分にとって高評価のものや好都合なものを意味する。　悪感形は嫌悪、野卑、疎遠さ、価格の高さ、矮小さ、量の少なさなど、自分にとって低評価のものや不都合なものを意味する。　ひとえに丁寧や野卑と捉えると、レインのような大人しい女性が使うことに違和感を感じてしまう。好意や矮小さなど色々な用法があることを念頭に置くこと。　ɒcj enſɪnſ ɒcl ɟɪlɪ hɪlɟɪſ ſəəɒc μenɪl ɪ ben.（このようなお言葉をちょうだいして、誠にありがとうございます）　ɪn ɪlɪ lɪlɪſ leebe lɑcɟſ（あんな人生なんて少しも望んじゃいなかった！）　leeɒc φɪμſ（あんな大金）ſəəbe φɪμſ（こんなちっぽけな額）　　三人称が細分化されていると、ſc（あなた）や ſccl（あなたの）にも丁寧や野卑があるのかと思うかもしれない。　ſc などには位相というものがあり、三人称よりさらに細分化されている。　例えば ſc（あなた）に対して、hɪlɪɪ（貴方様）や bɪz（てめえ）などが 10 種類以上もある。　位相は丁寧感や野卑感のみならず、話し手の性格や話し手と相手との関係まで示している。　女性語は下記の通り変化する。有生にしかない。単複同形。　lɪɪɒc, lɪɪɒcj → ɪnjcel　ləəɒc, ləəɒcj → ləjcel　lɪɪɒcn, lɪɪɒcnj → ɪnjceſſ　ləəɒcn, ləəɒcnj → ləjceſſ　ɪnjcel ſe uelnɪμen ɒcl ɒcjſ lccl ɪjɪſ yəɪnɪ lcs jccnɪ. lɔɒ yəſɪ ucl ⅃lɔj ləjceſſ ɪlnɔ（あのお方は幼いころの私を可愛がってくださったのよ。この方が仰るような悪いお方じゃありませんわ）　［文化］　新生になって二人称までは位相で細分化されたのに三人称は表現力が乏しく、「こんな人生」や「あんな漫画」や「こちらの女性」や「あちらの方々」といった表現ができなかった。この不満は数年来のものであったが、⅃⅃について噴出して細分化することとなった。提案者はセレンで、リディアと相談して作成した。　μɑ ではセレンがアルカディアへ去る直前の春先に作っている。

ləc ［地球の国名］イギリス、英国、グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ləɪ。ləɪ は古アルカで「足」の意味（但し、アルカ・エ・ソーンでは足は ləɪj）。イギリスは足の形に似ているとセレンが言ったことから。

ləcn ［単位］ルイン　［レベル］5　⅃1:lənɔ/ɒɪcn　［文化］　ɪnⅠɔ

ləchɔɔⅠ ［ユマナ］ドーバー海峡　［レベル］6　1L

ləɔ ［植物］松　［レベル］3　lⅠlɪ

ləɔcⅠ ［植物］パイナップル　［レベル］2　1ʔ: 制 :ləɔuɪnⅠ（松の果物、松かさ状の果物）

ləɔcⅠdɪɑ ［化学］酪酸エチル　［レベル］5　1L

ləe ［動物］カエル　［レベル］2　lⅠlſi:ləeſ 跳ねる / 水」

ləə,ɑu lə ɒcn、彼女　lə,ɑ.l

ləə,ɑμɑ ɔu ləɪ.l（脚）

ləəſ ［代詞］彼の、彼のもの　［レベル］1　1L:lə/ſəl

ləəſjə,ɑu nɔjcn ləə/ſjəlθ

ləəſɔ,ɑ ləſ、ɪləəſ

ləəſe ［名詞］ユーモア、冗談、ジョーク　［レベル］3　古 :ləəſe。「動く風」。風は雰囲気や関係のことで、重い雰囲気をユーモアで動かすことからこの意味になった。ſe は風でなく関係と捉えて「動く関係」とすべきかもしれない。　［文化］　uɔμſɑeɒe　四番目の ɪjſenɔſ。最後の一つ。人生に必要なユーモア及び心の余裕。ものごとをプラスに考えるのも心の余裕の一つなのでこれに入る。これがないと柔軟な思考や幸福な生活を送れない。緊張や重い雰囲気を取り除くためのおかしみ。十中八九言葉を使ったものである。　一般にアルバザード人はピンチになるほど余裕ぶってジョークを言う癖がある。　［用例］　☆ ɪn nɪſ elj enſɔ yəſɪ ucl ləəſe. 冗談に付き合う気分ではなかった。

ləəſeɟ ［代詞］彼らの、彼らのもの　［レベル］1　1L

ləəſeueſ ［言語］冗語、冗談語　［レベル］6　μɑ;/　⅃ʔ

ləəſeɒɔlɑ ［言語］冗語法　μɑ;/　⅃ʔ

ləəlj ［名詞］歩き屋、ルークス　［人名］歩き屋アルシェ　［レベル］5　L:μcɑcɪ:ləl（歩く）/j（する）

ləəlj(J) ［地名］ルークス　［言語］［文字］ディスプレイ、ポップ。書体のひとつ。イルケアで作られたことから。　古 : 人が多いが原義　［文化］　アルナの南、イルケアの北にある商業地方。

ləəlɟɟɪlɟ ［被服］ポロシャツ　［レベル］5　⅃1

ləəlɟɔn ［植物］フサアカシア、ギンヨウアカシア、ミモザ（俗称）　［レベル］5　⅃0　［文化］　ルークスによく生えている木で、ルークスを象徴する。日本では通常ミモザと呼ぶ。

ləəlɔ ［俗語］［名詞］スケ、アマ、メス、女、ネタ　［類義語］ɒcn　［反意語］lə⅃ſɪ　［レベル］3　⅃0: 古 :ləlɔ（入り口←女性器のこと）　［語法］　ɒeɒdɔ ほどの俗語ではなく、ɑɪcɒen 程度なので、男女とも日常的に使える。むろん、丁寧な言い方ではない。相手に嫌悪感を出す際に使う。口が悪いアルペンらは嫌悪感がなくても使う。

ləəlɛɒ ［地名］ルーケム　［料理］ハヤシライス　［レベル］3　ɑμɑ | μſ; ルーケム発祥の料理であることから。　1L:μcɑcɪ　［文化］　ファルファニア南西部の都市。

ləəlɒeμclſəlɑ ［医療］エボラ出血熱　［レベル］5　1L:μcɑcɪ: ルーケムで発見された。

ləəle ［ポジティブ］［形容詞］売れる　［類義語］φɔlɒɒ　［反意語］⅃lɔlɒſ　［レベル］3　μɑ<ləəle.jzɑ（宝石）<ləɑɔ.l　⅃ʔ　［文化］　⅃lɔlɒſ

ləəj ［代詞］彼ら、彼女ら　［レベル］1　1L

ləən,ɑ φɪɪu

ləənɔ,ɑ lənc e

ləəu ［単位］ルーヴィ、電力、仕事率　［レベル］4　古 : 元は ləəucuc（動く力）　［語法］　1 秒間に 1 ルナッフのエネルギーが消費されるときの仕事率を表わす。ワットと比較。

ləəuɥɔl ［物理］電力消費、消費電力。電力を消費した量も表す　［レベル］4　1L

ləəueſ,lſ ［名詞］rləəⅠ　［人名］ルーヴェット、紅月　<>rləəⅠ

ləəɑ ［名詞］カーツィ　［レベル］3　1Ⅱ: 制 : 古 :ləəⅠ「軽やかな、ふわっとした」が原義。　［語法］

女子が行う膝を少し曲げてすぐに戻す挨拶の方法。自分を下へ位置させることによって敬意を表する。日本にはないが、西洋ではスカートをつまんで少し上に上げながら膝を曲げて偉い人に挨拶することがあるので、時代劇などではおなじみ。アルカでも同じ行動を取る。ただ、西洋よりも頻度が高く、偉い人以外にも行う。道端ですれ違った程度では会釈するに留まる。ləəɑは女子しかしない。無言でləəɑしても十分それだけで礼儀正しい。ただ、笑顔が好まれる。

ləəɒ ［交通］ルーム。二人乗りの幅の狭い車がアルバザードで流行りうるなら採用しよう。 ［レベル］3 ʃl: 古 ləə（動く） ［文化］ ɪɒɔ

ləəɒc ［代詞］こちらの方→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ʃʃ

ləəɒc,ɑ ɒc ɪl/ɒɥə「物がない」

ləəɒcʃ ［代詞］こちらの方々→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ʃʃ

ləəɒcn ［代詞］こちらの方の→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ʃʃ

ləəɒcnʃ ［代詞］こちらの方々の→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ʃʃ

ləəɒenʃ ［被服］フレアスカート、ルーメンス ［アクセント］l∃əɒenʃ ［レベル］3 ʃʃ0:ləɑ. ɒɪnʃ（花咲いたスカート（末広がっていることから））→ ləəɒɪnʃ → ləəɒenʃ（ə に合わせて母音の高さを上に） ［語法］ ɒeleʃ は ləəɒenʃ の上位概念。 ［文化］ アルティス教の女性服。スカートの一種。ルフィと同じ扱いで、女子の制服。ラーサにもレインスにも合うので、応用が利く。傘のように広がったひだのあるスカート。足が柄で、スカートが傘の帆に見える。また、花が咲いたようにも見える。具体的には、日本の女子高生のスカートに近い。ただしあれより長く、ひざ下まで来る。そのわりにストンと下に落ちず、傘のように広がった状態を保つ。ナディアまでは鯨骨をスカートに仕込んでいた。革命後は制服になったことから、廊下を歩くとき他人の邪魔にならないようにと、広がり方を抑えてある。日本の女子高生のスカートを長くし、ほんの少しだけ横の広がりをキープした感じの服。

ləəɒel ［歳時記］メルセル前夜祭、メルセルの前、メルセルイブ、ルーメル、大晦日 ［類義語］leɒcɒel ［反意語］leɒcɪ ［レベル］2 ʃʃ0:ləɒ/ɒel

ləəd ［普通動名詞］暴力、強者からの一方的な攻撃 ［反意語］ʃɔen ［レベル］3 古 :ləəd ← ləədɪ（かぶる）。背の大きいものがメルのような小さいものを押さえ込むとき、手で頭を押さえこめば十分だったことから。その手で覆う様子が「かぶる」ように見えたため。 ［文化］ 強者からの一方的な暴力はアルバザード人の嫌うところである。そのため、男が女を殴るのは日本と同じく良くないこととされている。ただし、「どうせアタシら女は殴られないから調子に乗ってもいいんだ」というような、女であることをダシにした場合は例外。 「女を殴ってはいけない」が常識化したのはセルメルおよびナディア以降。それ以外の時代においては、女性は強力な魔力を持っていて戦闘力が男性並みであったため、この常識は存在しなかった。当然のごとく男女間の決闘も行われた。

ləəddcɔ ［生物］受動輸送 ɸf;/ ʃʃl

ləədeſ ［ネガティブ］［形容詞］一方的な、ワンサイドゲームな ［レベル］4 ʃʃ:ləəd/ſe ［用例］ ɪn ɟcn φɪɪɔ ſcu ləədeſ. こういう一方的な試合は好きじゃない。

ləəbe ［代詞］こいつ、この野郎、こんな奴、こやつ→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ʃʃ

ləəbeɟ ［代詞］こいつら→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ʃʃ

ləəben ［代詞］こいつの→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ʃʃ

ləəbenʃ ［代詞］こいつらの→ ləɪdcɪ ［レベル］1 ʃʃ

ləəz,ɟzɑ leɑſ ləɑzc,ɑ

ləəl ［普通動名詞］移動、機動 ［動詞］ɥəl を ɪ に移動させる、移す、動かす、移動する ［類義語］ɔu ［レベル］3 ʃʃ0: 古 ləə（動く） ［語法］ ある点からある点へ動くこと。

Tɪſ,ɑ oel

Tə,lɥ le lə.l

Təſʃ,ɑu ɪcn

Tən,lɥ あれの Tə の属格

Təəlɪ,ɑu hɪrſn ȣ 赤

I

ɪ ［格詞］～に、～へ。与格。 ［格詞］～の神に祈る。この場合、必ず ɪ でなく ɪl になる。ɪl lɪɸſe のように。祈りの言葉であることから古い用法が踏襲された。 ［レベル］1 ʃʔ: 制 :ɪl。新生では接頭辞 ɪl と区別するために短くした。 lɛɸ,ɑ ɪl,ɑu:lɛɸ ɪl:cl:fe,ɪlſ ɑ では lɛɸ が ɪ（～へ）と lɔɸ（～のほうへ）の両方を意味した。ɑu では ɪl（～へ）ができて lɛɸ は（～のほうへ）だけ意味するようになった。ɟzɑ では lɛɸ と ɪl が統合して cl ができ、cl が「～へ」と「～のほうへ」の両方を意味するようになった。 ［語法］ 母音で始まる単語の前では ɪl になる。例えば ɪl ɪn（私に）のように。 関係節で格詞が残存する場合も ɪl になる。ſə eſ μcɑcɪ l'ɪn ɑcſſſ ɒcc̄l ɪl（私がリンゴをあげたのはリディアだ） ［用例］ ɑcſ ɪ lə. 彼にあげて。 ɑcſ ɪl ɪn. 私にくれ。

ɪ(J) ［数学］hɪnſ の略。数式で使う。×記号に等しい。 ［レベル］2 1L ［用例］ ʔ ɪ ʃl eſ 1J. 3 かける 4 は 1 2。

ɪ(ʔ) ［化学］［接尾辞］物質を開いた状態（イオンや基）にする。開音節では n。 ［レベル］5 1L:jɛɸen

ɪ(ʃl) ［文末純詞］～だな、～か、～だ。短い詠嘆。 ［レベル］1 ɑ:elſ;ɑɔuеſ 古 ɪ:ɪ:ɪ:ɪ,ɪlſ ［語法］ ɪ 系列は自分に対して使う。e 系列は聞き手に対して使う。ɪ 系列を他人に使うのは男性的。目上に対しては失礼。同レベルであっても仲の良い相手でないと少しぞんざいな感じがする。 ＜ ɑɪrſ と ɪ ＞ ɪ 系は詠嘆の比重が高い。ɑɪrſ 系は判断や情報提示の比重が高い。 ſcjee は情報提示性しか持たない。

ɪ(ɬ) ［言語］アルカ、現アルカ ［レベル］3 ʃɪ

ɪſ ［接尾辞］過去形の動詞語尾。開音節では ſ ［動詞］ɥəl だった。過去時制の繋辞。 ［レベル］1 1L: 恣意 ［用例］ lɛſ 行った ləſ 言った cnɪſ 見た

ɪſ(1) ［化学］［接頭辞］炭化水素を作る接頭辞。具体的な同族体を示す際は ɪſ が落ちる。 1L:μɥəə

ɪſ, ɪɪ ［感動詞］あっあー、アッアー ［レベル］1 古 ［語法］ 気付いたときや何か指摘するときなどに出す声。アメリカ人がよくやる「オッオー」みたいなあの声。

ɪſſɪ ［感動詞］良かった ［レベル］1 1ʔ: 制 :μcɑcɪ: 語源不詳

ɪſſc ［サール］アッティ ［レベル］4 古 ［文化］ 海の龍。アルデスとテュアの次男。ɑμeſcʃ と人型を使い分ける。

ɪſſcuɪɪn ［軍事］海軍 ［レベル］4 1L:clɒəʃ:μcɑcɪ: 海の龍アッティの軍

ɪſſc ɒeſe ［人名］アッティ＝メテ 1L:clɒəʃ;μcɑcɪ ［語法］ (ɒel ʃʃ → ʔʔ) カテージュ出身の男性航海士。μɑ 時代の生き残りのため、魔法が使えた。メル６２年、航海における船員の武装のため、ヴィルを使わない火薬銃を発明。メル６５年、テージュ海から発進し世界一周を達成。メル７０年、メティオ～ルティア～アルバザード間に貿易路を大成。本人が魔導師で空を飛べたことと、既に μɑ の時代に魔導師たちが世界地図を作っていたことで、航海はマゼランらに比べてかなり容易に行われた。

ɪſſe ［感動詞］がんばって、頑張って ［動詞］ɥəl を励ます、励ます、はげます、鼓舞する ［レベル］2 古 :μcɑcɪ: 語源不詳 ［用例］ ɪn ɪſſeſ lɪ. 彼を励ました。

ɪſlɪ ［料理］シリアル ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɪɑſlɪ（加工穀物？） ［用例］ ☆ ɪn ſɪɑɪſ ɪſlɪ ɔ bɪlɒ. 牛乳とシリアルを食べた：ləc を使うと bɪlɒ にかかわれず、len を使うと ɪſlɪ にかかわないので、ſɪɑ。

ɪſl ［形容詞］おいしい ［類義語］lɪnſ ［反意語］ɥɪɪɒɔ ［レベル］2 1ʃl: 制 :ɪſlɔc（良い味） ［用例］ ſə lcdl eſ ɪſl. このケーキはおいしい。

ɪſɒ ［動詞］ɥəl を ɪ に売る、売る、輸出する ［経済］［普通動名詞］輸出← lɪſɪɪſɒ ［レベル］2 1ʃl: 制 oɪ ſi:oɪſi ［用例］ ɪnʃ ɪſɒ lccſ ſəəʃ lɪ lɪdſe lɪnɪ lcɒ φclȣ ſə lcſ cɒ acʃ. 今日発売のハルヒの画集を買った。

ɪſɒſɪə ［経済］売買 ［レベル］2 1L

ɪſɒlclɪn ［経済］売上債権 1L

ɪſɒɑcμec ［経済］売り気配、売気配 ［レベル］6 ʃʃ

ɪſɒφɪμſ ［経済］販売費 ［レベル］6 1L

ɪſɒφcɔ ［経済］売上総利益、粗利益、粗利 ［レベル］6 1L

ɪſɒhɔcφɪμſ ［経済］販売管理費、販管費 ［レベル］6 1L

ɪſɒɪμ ［名詞］自動販売機、自販機 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμɒɪlelſ ［文化］ 無人サービスを嫌うので、有人窓口の補助として置いてあるくらいである。

ɪſɒɔl ［経済］商品 ［レベル］3 1L

ɪſoɪɪɥə ［死神］アトワーユ、天門→ ɔμɑcɪn ［レベル］4 古 :μcɑcɪ:ɪμſe/foɪɪɥə か？その場合、元はアトワーユがアルデの類と同一視されていたことになる。 ［文化］ トワーユの門番。銀髪に白いテーベを着ている。長い杖を持っている。アトワーユはセレス・トワーユ・ヴェーユを管理する。セレスを他人に譲渡するなど未曾有のことであったが、唯一アルデスとダルケス、ルフェルとフェルデンがそれを行ってしまった。これに憤慨したアトワーユはそれ以後、セレスの譲渡を不可能にした。

ɪſi ［名詞］会議、集会、会談 ［レベル］2 1ʃl: 制 :cſi から ［文化］ 円卓のテーブルに座って行うことが多い。アルバザードの論議の形式をきちんと守っているので、特に会社の会議だからといってふつうの論議と異なる点はない。議長が司会をし、発表者が発表をする。プレゼンも同じである。一通り発表が終わると質疑応答になる。それが終わると議長が結論を出す。結論が決まらない場合は候補をいくつか絞り、多数決で決定する。ただの発表会の場合は結論を出す必要がないので質疑応答の後、議長や発表者から簡単なまとめがある。最後に次回の会議日程や今後の活動内容などを決め、終了する。着席や退席の順は自由で、上下関係によって順番が決まることはない。 ［用例］ ɪn ɑɪſſſ ɑɪl ɪl ɪſi. 集会に参加しなければならなかった。

ɪſin ［普通動名詞］面接、面談、相談 ［普通動名詞］教育相談、二者面談、三者面談 ［動詞］ɥəl を ɔn について面接する、面接する ［レベル］3 1ʃl: 制 :ɪſſ ［文化］ 就職は面接で決まる。面接に至る過程は単純で、募集が出ているところに直接赴き、面接の日取りを決めてもらう。大抵はその場で行ってくれる。面接の内容は企業によって異なる。そのため、履歴書は必要ない。ゆえに写真もいらない。その場で向こうが質問し、向こうが履歴書に書き込んでいく。面接で主に聞かれることはまず氏名、性別確認、生年月日、住所、経歴等である。そして社員かパイトのどちらを希望するかを聞かれる。その後、仕事の説明を受ける。ここで自給や仕事内容などを全て質問しておく。次に出勤してほしい時間を言われるので、出勤可能な時間を告げる。これで面接は大体終了である。尚、後から顔で選ばれると不公平なので写真は撮らずに終える。結果は合否に関わらず告げられる。また、大抵は迅速である。採用した場合、仮採用となるのが一般的である。仮採用のうちに実際に仕事をやってみて、その後本採用されるかどうか決まる。面接はわりと受かりやすい。むしろ仮採用で実際に仕事をやらせてみて向くかどうか決めることが多い。日本の仮採用はよっぽどヘマをしなければ大丈夫だが、アルバザードの場合、実質こちらが本試験であることが多い。仮採用で合わないと思えば落とされるし、自分に合わないと思えば自分から止められる。 ［用例］ acʃ, ɪſin uɪn uc ɔn dcɔ. 今日は運送関係で面接が３件あるんだ。

ɪſin(J) ［化学］アルカン ［レベル］5 1L:μɥəə: 最も基本的な炭化水素の同族体ということで、できるだけ短く良い音を選んだ結果、リュウは接頭辞 ɪſ を選んだ。接尾辞 ɪn も同様の理由。ただし、ɪn で ɪ が選ばれているのは理由がある。このあとアルケン・アルキンと不飽和が連続するが、どれも似ているのでアプラウトを用いるため。そのさい、一重結合であるアルカンが ɪ だと、続く二重三重については制アルカ様の n 対が利用できる。そのため、リュウは ɪn にしている。 ［語法］ 同族体は接頭辞 ɪſ を取って古数に挿げ替えることで作る。本来 1 は ɑɑɪ で 2 は μɔə だが、これらは頻度が高いので ɑɪ, μɔ としている。ただし 3 は uc にすると新生の数と同じになるので避ける。また、3 はそこまで頻度が高くない。 例えばメタンは ɑɪɪn、エタンは μɔɪn、プロパンは ucɔɪn となる。

ɪſinſɪʃ ［名詞］面接試験 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

ɪſinɑ ［動詞］ɥəl していた。過去反復相の繋辞。 ［接尾辞］過去反復相の動詞語尾 ［レベル］1 1L

ɪſɪɒ ［動詞］ɥəl がいて安心する、安心する ［レベル］2 1ʔ: 制 :μcɑcɪ:ɪſſɪ ［用例］ nɔn ɪſɪɒ ſɥə, lcɔn. 紫苑がいてくれてよかったわ。

ɪſɪd ［名詞］目印、浮標、タグ ［レベル］2 1ʃl: 制 :ɪdɪ（印） ［語法］ ɑɔlſ は広い意味。ɪſɪd は ɑɔlſ の中に入る。付箋やタグなど、文字などを書いて貼り付けるものを意味する。また、辞書のタグなども指す。柱に刻む目印は ɪſɪd にならない。 ［文化］ 本辞典のタグは[凡例]を参照せよ。 ［用例］ eu ɪſɪd 目印をつける

ɪſɪc ［動物］川獺、獺、カワウソ ［レベル］5 1ʔ: 制

ɪſɪez ［名詞］会議室 ［レベル］3 1ʃl: 制

ɪſc ［名詞］程度、段階 ［格詞］～の程度で ［接尾辞］～さ、～性 ［類義語］dɔcſ、cſɔ ［レベル］2 1ʔ:jeɸen:ʃlel:μcɑ:fɔ̀l ［語法］ 形容詞に付け、「～さ」を作る。また、名詞に付けて「～らしさ」を作る。さらに動詞に付けて「～性」を作る。開音節では ſc。 なお、ɑcſc（多さ）は通常 ɑə、ɑɪɑɪſc（重さ）は通常 ɑəɑ、ʃɪcſc（大きさ）は通常 ſəʃ というように、極めて基本的なものには便宜上固有の単語を宛がう。 元となる形容詞は制で ɪɪuеſ や ɔɔuеſ だったもの。hɪcſ（低い）から「高さ」は作れない。 ʃl までは接尾辞としては cſ だったが、lcnɪ は lcnɪſ になるなど短すぎる弊害がこれまでに報告されていた。そんな折 μμcſ の cſ とかぶることが原因で廃止された。 ［用例］ ſə jcl ʃɪnſ ɪl ɪ̀ ɪſc. どこまで成長するのか。

ɪſcʃ ［動詞］ɥəl だった。過去完了相の繋辞。 ［接尾辞］過去完了相の動詞語尾 ［レベル］1 1L ［用例］ ɑeſlɪ ɪſcʃ μcφ. 学校が壊れきった。 μenμſcʃ 言い終えた

ɪſcl ［名詞］展望、遠景 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɪſccſſ（遠くの光景） ［語法］ 「今後の展望」のような比喩的な意味はない。一望できる遠景のこと。

ɪſcʃ ［エルト］アティス ［レベル］4 古 :μcɑcɪ ［文化］ 夜の空を司るエルト。若い女性の姿をしている。ルーンを助けてティアトを産ませる。

ɪſcn ［化学］アルケン 1L:μɥəə

ɪſcl ［形容詞］［ポジティブ］［ネガティブ］近付きがたい、近寄りがたい、畏怖を感じるような、人を拒絶するような ［反意語］cʃlμ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪſc（遠い）。ɪſc は cſn のさらに前の語形。 ［用例］ lɪ eſ ɪſcl. 彼は近寄りがたい。 nɪ ɪſcl 近づきがたい心＝人を拒絶するようなオーラを出している心 ſe cn cnʃ nɔɪnſ nɔn ſcl nɪ ɪſcl ɔ ſcſc enſɔ lɪ ɪſə ſɪſſɪ neſɪl ucnɪnel. 目を合わせないで！ 固まった心。一人ぼっちで諦めて（『想像フォレスト』）

ɪſcɪ ［地名］アティア海 ［レベル］3 1L: 制 : ɪſſc/ɪ̀lɪ ［文化］ アンシャルの西にある世界第二位の大きさの海。大西洋に当たる。

ɪſcc ［ユマナ］大西洋 ［レベル］5 1L

ɪſcclc ［名詞］『幻想話集アティーリ』 ［天文］白蒼の月 ［経済］第一四半期→ ueſlleſſ ［伝統色］アティーリ、青白い：存在：＃Ｂ６ＦＦＦＦ：φcl ɑcɪ ［ユマナ］Ｄｕ ｂｌｅｕ ａｕ ｃｏｅ ｕｒ。アルバムのひとつ。ウィスパリングボイスを多用した曲が中心。このｂｌｅｕはむろん ɪſcclc の蒼から来ているが、フランス語にはａｖｏｉｒ ｄｕ ｂｌｅｕ ａｕ ｃｏｅ ｕｒで「物憂げな」や「物悲しい」という意味の成句があり、色とともにアルバムの曲調を示している。なお、ｏｅは本来合字。 ［人名］アティーリ。使徒らによるリディアの愛称。自分では使わないし、どちらかというとそう呼ばれることに不快感を示す。かといって別に悪口ではない。意味は「リディア」の名と同じ。それぞれリ・ディ・アの音が古アルカでア・ティ・リに対応している。また、対応語は片方が長音を含むという規則からアクセント音節が長音化して、アティーリとなったにすぎない。どの使徒が付けたかは不明だが、恐らくクリスやオヴィではないだろうかと思われている。 ［レベル］3 古 : 上記から分かるだろうが、もとはリディアのアナグラムとしての人名が最初の用法。その後、神話の名前になった。人名をそのまま用いるというのは、μɑ 時代を以前はリディアと読んでいたのと同じセンス。 ［文化］ アルティス教の神話群のこと。ヴァステ、μɑ のような戦史風のもの、フィアル、アルテムのような物語風のものがある。制まではアティーリという名の本があったが、イルムスと区別するため、新生ではアティーリという本が単体であるのではなく、μɑ などの神話小説をまとめたシリーズのことを指すようになった。

ɪſcen ［接続詞］ɪſc。～の程度の。 ［レベル］3 1L0:ɒelcɑcɪ lcɛμ

ɪſɔ ［経済］商標、トレードマーク、ブランド、レーベル（レコード、ＣＤ、ＤＶＤなどの音楽・映像ソフトにおいて、分野・市場別に設けられたブランド。または出版物のレーベル） ［レベル］3 1ʃl: 制 :ɪſɔɪdɪ(商品のマーク) ［用例］ lecl ɪſɔ 商標登録する

ɪſɔ̀ ［生物］唇の上、口の上、鼻の下 ［反意語］ɥcɑ ［レベル］2 1L0:ɪl/ſɔɪ/ləɔ（口でも鼻でもなく（その間））

ɪſɔn ［化学］アルキン 1L:μɥəə

ɪſɔɒ ［言語］フォント、書体 ［レベル］5 1L0:ɪſɔe/hɪrſ 参考 hɪrſɔ:ʔʔ: 制 :hɪrſ。hɪrſ,hɪrſɒ と来ているので、hɪrſɒ だと紛らわしいため。 ［語法］ ・セットとウェイト セット（字幅）は ɑəɑ。ウェイトは ucɪn。 訳語が言語によって異なるので注意。 日：英：幻 太い：ｂｏｌｄ，ｂｌａｃｋ：ucen 細い：ｌｉｇｈｔ：cun 広い：ｆａｔ，ｂｒｏａｄ：sɪl 狭い：ｌｅａｎ：lcɪ ・セット ９種。 エクストラコンデンス：yəəelc コンデンス：lcɪ リーン：jcla ナロー：hɪnɔſ スタンダード：lecɒ ワイド：dɪcſe ファット：dɔɑſe ブロード：ɔɔlſ エキスパンド：sɪl ・ウェイト ７種。 シン：yənɑc ライト：dcɔɔſſe レギュ

ラー：cun　ミディアム：jʃɔl　ボールド：ucen　ブラック：ʃinuc　ヘビー：ɪluc　・スラント　ローマン、立体、正体、正字体：lʃɪɒ　オブリーク：ɥɪnʃ。ローマンを右に傾けたもの。　レフティ：ɒed。ローマンを左に傾けたもの。　イタリック：ncʃɟ。ローマンとは別途のデザインで傾けたもの。　・書体　幻京：ɪɥnɪnʃ　夕月：ɪnsəɥen　サンセリフ：ɥɪn ʃɪns　スクリプト：ɟɪɥɪnʃe　ブラックレター：ɪnse　セリフ：ɔlcucɪ　オールド・フェイス：ɒenʃel　トランジショナル：lcɔnʃcɪn　モダン・フェイス：uɪʃɥɪɥɪ　スラブ：səɥecu　・語順　幻：ʃcnɪ ɥnɪnʃ ɥnɪns jʃɔl lecɒ lʃɪɒ　日：幼女書体 幻京書体 サンセリフ ミディアム スタンダード ローマン　日：書体名 フォント名 ウェイト セット スラント　一一の順で並ぶ。　[文化]　→ hɪʃl　ɥɒ でセレンが増やし、また体系付けた。書体そのものはアルテムでマレアがいくつか古アルカのものを作っているが、字類、字種などといった体系はなく、書体という概念もなかった。単に字の書き方のバリエーションでしかなかった。セレンは重力活版と金属活版の時代に生きたが、フォントの雛形を最初重力活版で行ったため、このような名前になった。　＜地球での歴史＞　９０年代にリュウが外字として幼字を作成。現在から見れば非常にクオリティの低いデザインであった。　０１年にフッシカが制アルカプロトタイプ用のいわゆる心電図文字を作成。　０２年ごろにセレンが ʃcdhɪʃl や ɑcen を作成。ʃcdhɪʃl は印刷用で、「雑字」という意味。ɑcen は画面表示用で、「ギザギザのない」という意味。当時はフォントにビットマップが付いていなかったため、ʃcdhɪʃl のような曲線の多い字を小さい級数で画面に表示させるとガタガタした。そこで直線的な ɑcen を作り、画面表示用とした。　０３～０５年はセレンがデザインをしつつ、恋人（後の妻）がレタリングをし、弟がフォントを作成するという体制ができあがっていた。ビットマップ付きの明朝体の半角カナを潰して幻字を幻字順に入れた明朝 ʃidhɪʃl が作られた。ʃidhɪʃl は「正確な字」という意味。表意幻字（幼児）もこの間に作られた。　０７年ごろからネットユーザーによるフォントが急速に増えだした。　０８年ごろに新生アルカができると、明朝 ʃidhɪʃl は半角カナでなくアルファベット部分を潰した文字になった。　１０年に幻京書体が生まれ、今までのすべてのフォントが公的地位から退けられた。　１０年にセレンは ʃcnɪ(lɪɥɑcnɪl) と lɪnʃcɪ を作成。セレンにはデザインのセンスがなかったため、完全にゼロの状態から図形の組み合わせだけで作成した。字形や字の大きさや位置などはすべて計算しつくされてできている。　このころから明朝系のような日本語混じりのフォントは使わないようになり、欧文フォントとしてフォントを作成するようになった。ひとつ目の理由は、フォントを文書表示用でなくＰｈｏｔｏｓｈｏｐなどでの画像処理用に用いる機会が多くなったため、容量の軽い欧文フォントが選ばれたということ。もうひとつの理由は次のとおり。当時使っていた辞書ツールのＰＤＩＣ　Ｕｎｉｃｏｄｅにおいて、表示用フォントに lɥɑcnɪl を指定した場合、アファベット部分だけが幻字になり、和文については化けずに表示されることが発覚したため。これにより、わざわざ日本語文字混じりの重い明朝系フォントをユーザーにＤＬさせる必要もなくなった。　１１年にユーザーの協力を得て基本書体である aleɑclɪnʃ が出来上がる。

ɪʃɔɥ　[動詞] ɥəl していたところだ。過去経過相の繫辞。　[接尾辞] 過去経過相の動詞語尾　[レベル] 1　ʃl0　[用例]　ɥenjɪʃɔɥ 話していた

ɪʃɔlɪɟ　[地学][天文] アトラス、幻天　[形容詞] 地球規模の、国際的な、インターナショナルな　[組み数字] 3/9　[レベル] 2　ɑ　古：星そのもの。海（ɪ）と森（fɔ）を人（lɪ）が砂（j）に変えてしまったの意。　[文化]　カルディアにおける地球に相当する惑星。　異世界カルディアは現実世界の ɥəɒɪnɪ と双子宇宙の関係にあるため、アトラスと地球は酷似している。　・外観　宇宙規模で見るとアトラスの環境は地球と同じである。　アトラスは太陽系の惑星である。衛星は月が一つある。　大きさは地球と同じである。アトラスは地球同様、酸素や水に富み、生物が存在する。基本的には地球と同じである。　・内観　アトラスの内観は地球と違う。大陸の形や位置が異なる。しかし、太平洋に当たる大きな海洋があることや、北半球に大陸が集中している点は同じである。　大陸は６つある。アルカット・ファベル・ケヴェア・レイヴァ・サヴィア・アデントである。これらはそれぞれ地球で当てはめるとユーラシア大陸・アフリカ大陸・南アメリカ大陸・南極大陸・北アメリカ大陸・オーストラリア大陸に当たる。とはいえ、アルカットとユーラシア大陸の位置が同じというわけではない。およそ似たようなところに位置するという意味である。　アルカットは最大の大陸で、更に東と西に分かれる。順にインサールとアンシャルである。尚、世界最大の国家アルバザードはアンシャルにある。　・世界地図　以下の面積関係の話を理解するために ɑcɪl を参照すること。　・面積　モルワイデ図法を利用して海洋面積と陸地面積を算出し、面積比も算出した。表面積：ᚹᚢᚳᚳᚳ

ıʃ ʃɔn 1꞉ scn ʃıʃ ʃɔ ɔʃ ʃcʃ ʃıʃ sıɒ ucen. 胸をつけたいなら、毎回１４秒かけて腕立てしな。

ıʃɟzɔʃ ［音楽］コントラバス ［レベル］4 ɟʃ: エンドピンで床に立てる

ıʃɟɔɒ ［名詞］ノウハウ ［レベル］4 μɑ;ıʃ/ɟɔ/ɔɒ「どのようにするかの方法」 ɟ꞉

ıʃn ［哲学］思想、主義、イデオロギー、イズム、発想 ［レベル］3 制：n 対のままでも意味が cʃn と誤解しえないため、n 対を解体しない

ıʃnın ［名詞］主義者 ［レベル］4 μɑ;/ ɟ꞉

ıʃɒ ［化学］石油 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ıʃceɒɟ（大地の油） ［用例］ıʃɒ ɔɟ ɥɔʃıʃ. 石油が枯渇しつつある。 ɑcʃ{eu} ıʃɒ 給油する

ıʃɒfeıd ［化学］［医療］ワセリン、バセリン、ヴァセリン μʃ;/「石油軟膏」 ɟʔ ［語法］ 石油を分留して得られる複数種のアルカンからなる軟膏基剤のこと。 ［文化］ μʃ 末から ul 前期にかけて大量に使用されていた石油の廃棄物や重油の廃棄物を有効活用をする為に研究によって開発されてきた。

ıʃɒʃıɑ ［地球の国名］クウェート ［レベル］6 1L: 石油の国。湾岸危機のころのイメージから

ıʃɒφıμʃ ［環境］原油価格、石油価格 ［レベル］6 1L

ıʃɒʃıscʃ ［環境］石油危機、オイルショック ［レベル］6 1L ［文化］ ヴェレイで起こったため、革命で石油の使用が制限された。

ıʃɒzɔɒd ［環境］石油資源 1L

ıʃɒı ［名詞］ディーゼル ［レベル］5 1ʔ: 制 :ıʃɒ

ıʃɒıb ［化学］原油 ［レベル］4 1L ［用例］ ıʃɒıb eɒ ɑıʃc ɑɔʃel. 原油が高騰する。

ıʃμe ［電算］プログラム、コンピュータプログラム ［電算］ソフトウェア、ソフト→ enʃc ［レベル］3 μɑ:μɥeə;ınʃμ 1L: 古 :ınʃμ（リュウの作ったプログラム） ［用例］ ıɑ{ıʃ} ıʃμe プログラムを組む

ıʃl ［名詞］跡、痕跡、爪痕、爪跡 ［数学］軌跡 ［類義語］leɑɔn ［レベル］2 1꞉: 制：古 :bɥıʃlıl（遺跡） ［用例］ ıʃl le ʃeʃ euıʃ{ıɑıı} ʃı ıʃə, ɟɔn ʃeʃ ʃı ɑμeɒ ıʃə. ネコが通った跡があるから、この辺にいるはずだ。 ın ʃcʃcʃ ıʃl e lıɟ ɒın ʃcʃıʃ ʃeʃcnɟ eɒɟı euej zcɑ ı oıu ʃɔnʃ ɑıʃbej ʃə ʃɔn nıɟʃ. 肘をついてうたた寝してたら、手の跡がついた：日本語は「肘をつく」でポーズが説明できるが、アルカではできないので詳しく言う必要がある。

ıʃllec ［動詞］ɥel を追尾する、追尾する、追跡する ［普通動名詞］追尾、追跡 ［レベル］4 ɟʔ:1Δ に踏襲の意味で ʃcs ができたが新生化にとどまらない ʃcs が消えた。 ɟ1 年に ıʃllec で踏襲の意味ができた。 ɟʔ に ʃcsueʃ を検索したとき、ʃcs がないことに気付き、ʃcs に踏襲の意味を与えた。このときユーザーから ıʃllec は追尾として使ったどうかという提案を受け、これを受け入れた。

ıʃlueʃ ［言語］痕跡語、混成語の仲間、混成、かばん語 ［類義語］ınʃleʃ ［レベル］5 1ʔ: 制 ［語法］ → ınʃleʃ eɒlf の語源は cɒel/ʃeeze であるが、cɒelʃeeze は長いので一部を削って eɒlf にした。eɒlf には cɒelʃeeze の痕跡があり、痕跡でできているともいえる。こういった、合成語だったが短くするために痕跡を残して単純語になったものを痕跡語という。アルカには痕跡語が多く、よく使う複合語は積極的に痕跡語になる性質があり、結果的に文全体の長さが短くなる現象が起こる。これは聞き漏らしに弱いので、口語では多少不便なことがある。聞き漏らしを防ぐためにしばしばＣＶＣＣの音節を２つの短音節に区切ることがあり、ＣＶＣＶＣなどとして、シュワーのＶを挿入することがある。この現象は後期制ごろから始まったものである。中期までの音声を聞くと英語のように音が早く、子音部が詰まって聞こえることが多い。新生では短音節を好む傾向が強くなり、特にアクセントが完全自由化した 1L 年末ごろには顕著になってきた。従って、痕跡語はしばしばＣＶＣＣの語形を持つものの、実質２音節のように話されることが多い。　この長所は語形がドイツ語のように長大にならず、言語の運用が楽な点である。複合語は長いし、そのまま組み合わせるとたいてい発音しにくい。アンクレットは発音しにくいものは自然と排他されてきた。　短いほうがいいが、同時に短すぎても言い間違いで困るため、適度な長さがあったほうがいい。そして発音しやすいほうがいい。そういう観点でアンクレットはできている。　一方、難点は覚えるのが難しい点である。しかしすべての概念が単純語というわけでもないから、ネイティブとして生まれればこの点はなんら問題がない範囲である。

ıʃlɑclɑıc ［医療］有痕灸 μɑ;/ ɟ꞉

ıʃlcɒ ［歳時記］穀雨 ［名詞］6 時 ［組み数字］6 ／ 2 4 ［レベル］3 ɟ0: → ınlcın ［文化］ ınlcın

ıʃleʃ ［名詞］アクレット ［レベル］3 ɟ0:ıʃl/ʃe ［文化］ ɑμecnʃ

ıʃlecɒ ［植物］菜の花、なのはな、油菜、あぶらな、アブラナ ［レベル］4 lɟl;ʃlıcn ɟ0:ıɒccɥ

ıʃı,ıʃ ʃceɥ ı（ıʃıəı の ı で海の音象徴）/ı（場所）

ıʃıɟ ［植物］昆布 ［生物］小胞体 ［レベル］3 1꞉: 制 :ıʃɔɥ（海藻） ［文化］ カテージュで取れ、国内で使用される。 ［用例］ lcɒ oıʃ ʃɔn{cʃ} ıʃıɟ 昆布で出汁をとる

ıʃın ［形容詞］本命の ［名詞］本命、志望校 ［反意語］ıʃfıl ［レベル］4 μɑ;ıʃı/ʃını「最大の狙い」 ɟʔ

ıʃıl ［料理］ケイパー 1꞉: 古 :ıʃıılde

ıʃıı ［料理］のり、ノリ、海苔 ［レベル］3 ıʃ;ıʃı/ʃın「海の緑」 ɟ1 ［文化］ ＜現実＞　セレンは胃が弱くリディアは胃腸が丈夫だが、リディアがあるとき「海苔を食べるとお腹を壊すので嫌だ」と述べた。胃の弱いはずのセレンは海苔が平気である。　この原因がなぜか分からなかったが、調べてみたところ民族によって遺伝的に消化しやすいしにくいというのがあるそうで、基本北欧人のリディアの腸では牛乳は上手く消化できても海苔はできないようだということが分かった。　＜アトラス＞ ɟɒ で ıʃf が持ち込んだ。μɑ でリディアが腹を壊したことで書のある食べ物として忌避された。不思議とセレンは平気で、これをもってリーザはセレンが ıʃf 人の血を引いているのではないかと更に強く疑った。　元来アルバザードは人には海苔を消化する能力がないため、あまり食べない。ただし凪食の場合、おにぎりなどに巻いて少量食べることはある。　味付けは日本風ではなく韓国風に近い。すなわち薄くて油っぽく、香ばしい。

ıʃcʃ ［運動］コート、運動場 ［レベル］4 1꞉: 制 :ıʃc（陸） ［用例］ ınɟ ɥɔl ucl ıʃcʃ e ɑccıφel ɒın ıʃə ʃəμ lcʃı. テニスコートが混んでいて使えない。

ıʃcl ［地学］山崩れ ［レベル］4 1꞉: 制 :ıʃc（陸） ［文化］ ıʃcl eɒ ɟɔɑ. 山崩れが起きる。

ıʃcɟ ［名詞］土地、敷地 ［レベル］3 1꞉: 制 :ıʃc（陸） ［用例］ φıμʃ ʃ'ıʃcɟ eɒ ɔɟμʃ. 土地の値段が下がる。

ıʃcɟφıμʃ ［経済］地価 ［レベル］5 ɟ1

ıʃcɟμeɑeɒ ［建築］整地 ［レベル］5 1L:μcɑcı:ıμbıleʃf

ıʃcl ［地学］地殻 ［レベル］5 1ʔ: 制 :ıʃc

ıʃclıɑıʃɑcμec ［地学］モホロビチッチ不連続面、モホ不連続面、モホ面、モホロビッチ不連続面 ul;/「地殻とマントルの境界」 ɟʔ

ıʃɔ ［地学］地面、陸地、陸、大地、地、地上 ［名詞］下、道路：日本語ではエレベーターで下に降りるというが、地面に降りるとは言わない。逆にアルカだとこの場合の「下」は ıʃɔ という。 ［反意語］sın ［レベル］2 1꞉: 制：制では ıʃc（海に対する陸）、ıʃɔ（地面）と別れていたが、n 対でなくなったので、s の意味的な対も不要になった。 ʃıl, ʃıɒɔ:ʃılbɔ ［用例］ ʃe ıʃɔ ʃɔn lʃıμ ez. エレベータで下に下りる。

ıʃɔʃ ［動詞］ɥel（お茶など）を c（葉っぱなど）から ı（容器など）に ɑccnı（飲む人など）のために抽出する、抽出する、お茶を入れる、淹れる ［化学］抽出 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ıʃfe: ıl/ʃɔcʃ（逆吸収）ʃeel にすると排出なので、ıl をつけた。 ［用例］ ıʃɔʃ efeʃ ɑccnı ıɒcμ だんなにお茶をいれる

ıʃɔʃeeze ［気象］陸風 ［レベル］6 μɑ;/ ɟʔ

ıʃɔj ［動詞］ɥel に踏ん張る、ɥel を踏ん張る、踏ん張る、踏みしめる、踏みしめる、踏む、ふんばる ［レベル］3 ɟʔ:ıʃɔ/ɟɔ「大地をする」 ［用例］ ıʃɔj ıʃɔ ucenel しっかりと大地に踏ん張る

ıʃɔjucɒ ［生物］ヒラメ筋 ［レベル］5 ɟ1<ɟʔ: 踏ん張るときなどに使うことから

ıʃɔjıʃj ［魔法］地行 ［レベル］6 ɟ1 ［文化］ ɑɔʃbcμə

ıʃɔjıcj ［地学］地溝 ［レベル］6 1L

ıʃɔn ［地学］土壌 ［レベル］5 1L:μcɑcı:ıμbıleʃf:ıʃɔ/ʃəənɔ ［語法］ 地球表面の柔らかい層のこと。岩石や泥炭や火山灰などが母材になっている。　ʃəənɔ（レゴリス）は ıʃɔn と ıʃɔnıb からなる。ıʃɔn は ɔlbııʃɔn,φcɒıʃɔn,ɑınıʃɔn からなる。　土壌の名称は地球では一致をみない。その国の農業事情を反映して細分化が決定されるからである。アトラスではアルバザードの分類が統一名である。

ıʃɔnıb ［地学］［植物］母材 1L:μcɑcı ［語法］ 土壌Ｂ層の下の層。岩石が土になる過程にある部分。

ıʃɔuıj ［軍事］地上戦、陸戦 ［レベル］5 ɟ1

ıʃɔueμn ［地学］土砂崩れ、土砂災害、土石流、地すべり、がけ崩れ ［レベル］4 μɑ;/「地面崩壊」 ɟʔ

ıʃɔɒ ［名詞］水平 ［類義語］hcl ［反意語］scnʃ ［レベル］4 μɑ;ı（古で海の音象徴）/ɔɟ（方向）.l ɟ꞉

ıʃɔɒʃɔμʃɔɒ ［生物］水平伸展 μɑ;/ ɟ꞉

ıʃɔɒɑcnʃ ［生物］水平面 μɑ;/ ɟ꞉

ıʃɔɒμɔʃlcɒ ［生物］水平屈曲 μɑ;/ ɟ꞉

ıʃɔφını ［軍事］領土 ［レベル］4 1L ［用例］ ıʃɔφını hın 広大な領土

ıʃɔμ ［植物］海藻 ［レベル］3 制

ıʃɔlɔɒ ［普通動名詞］土下座 ［動詞］ɥel に土下座させる、土下座する ［レベル］4 ɟ1

ıʃɔledj ［名詞］土葬 ［動詞］ɥel を土葬する、土葬する μɑ;/ ɟ꞉

ıʃe ［名詞］潮、潮汐 ［音楽］ボサノヴァ。潮の満ち干のように一定の波打つ感じを持って、しかもゆったりとした穏やかさを持った曲。 ［レベル］3 μɑ;ıʃı,ıʃf/ʃe 1ʔ: 制 :ıʃıʃe（海が行く） ʃıʃeı ʃ:ʃıʃeıʃ ［語法］ ıʃe と ʃcʃe はどちらも潮だが別物。ıʃe は潮汐で、ʃcʃe は海流。

ıʃeucın ［地学］潮力、潮汐力、起潮力 ［レベル］6 μɑ;/ ɟ꞉

ıʃeɒc,ıʃf ʃeʃf ɒc ejʃ ɒcn, cjʃɔʃ ʃeʃf. ıʃeɒ€ ɔn ʃıɑ.

ıʃə ［俗語］ɥel を食う ［類義語］ʃəc ［レベル］2 ɟʔ:ı ʃəɔ

ıʃəı ［生物］両生網 ［名詞］両生類 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ıʃə/ʃıɒ ［文化］ アルバザード人は生物分類に疎いので、両生類も虫と呼ぶことがある。

ıʃəı(ɟ) ［植物］jeɒıcɒ ［組み数字］2 / 9 ［レベル］4 jzl;ıʃəɔμcı アクオリア経由でインサールから流入したため ɟ1

ıʃəıʃlel ［娯楽］アクアクレール ɟʔ: 紫陽花の書 ［文化］『ファイヤーエムブレム』『ファイヤーエンブレム』『ファイアーエムブレム』『ファイアーエンブレム』に相当するゲーム。

ıʃəɔμcı ［アトラスの国家］アクオリア ［レベル］5 1L:μcɑcı: 水の口 ［文化］ 面積：0ʔ9Δ0ʔ.ΔΩL2ʔʔʔ ʃɒ ʃ

ıʃ ［感動詞］［形容詞］はい、正しい、良い ［感動詞］マル、丸、正解 ［感動詞］ぜひ、ぜひぜひ、是非、是非是非。二回立て続けに促すように早く言うとこのニュアンスになる。 ［法副詞］～すべき、～したほうがよい。同じ「べき」でも、hıɔ は「して当然」というニュアンス。ɑıl は義務があるというニュアンス。ıʃ は「したほうがいいかな」程度のニュアンスで、柔らかい。→ ɑıl ［レベル］1 ɑ;e 赤 :ıʃ（はい、正しい） ［語法］ ɑıl 動詞の過去形とともに使うと ɟɔʃ ıʃ の形で「～すべきだった」の意味だが、たいてい「～すべきだったのに（しなかった）」の意味で使う。すべきだったという判断の基準点はこの場合現在にある。判断を過去に持っていく場合、すなわち「今すべきだとあのとき思った」というような場合は、nıʃ ɟɔ ıʃ のようになる。例えば「あのころ私は若かったので、今彼女と結婚すべきと思った」という場合、判断は過去にある。訳すと "ın nıʃ nɔɟ ɒıłj ıʃ łı. ın nıʃ ɟɔı ɒın ın eʃ łcɑ cɒ leɒel" となる。 ［用例］ ıʃ μɟccłı, ʃeɔ μɟcclıʃ Ｙｅｓ，ｓｉｒ　Ｎｏ，ｓｉｒ！イェッサー、イェスサー、ノーサー

ıʃf ［動詞］ɥel を ı に書く、書く、板書する、記す ［動詞］ɥel を ı に打つ、打つ、書き込む、タイプする、タイピングする。キーボードなどを使って書くこと。 ［普通動名詞］書き、タイピング ［反意語］cɟ ［レベル］2 ɒelʃcı 100:beμʃ;e 1꞉: 古 :cłe（読む）。n 対にするために ı が入り、閉音節にするために f がついた。複雑な変化をした語。 ıʃf:ıʃf: ［語法］ ɥel には字（対象）、小説（完成物）、言葉（内容）などを取ることができる。

ıʃfıɟ ［名詞］筆記試験 ［レベル］3 1L:μcɑcı:ıμbıleʃf

ıʃflɔn ［名詞］文房具、文具→ ʃızı ［レベル］2 1ʔ: 制

ıʃfjcz ［名詞］ホワイトボード ［レベル］2 1L:μcɑcı:ıμbıleʃf

ıʃfɑcın ［地学］［歴史］トニアン ul;/ ɟʔ ［文化］ φııueɑeɒe

ıʃfzed ［数学］筆算 ［レベル］2 1꞉

ıʃfın ［名詞］著者、作者、筆者、著作者 ［レベル］2 1L:μcɑcı:ıμbıleʃf

ıʃfc ［名詞］東 ［格詞］～の東にある ［反意語］ıʃıɟ ［レベル］2 1L:ıʃfe ::ı 'ɥel:ʃıʃıʃc,ıʃf

ıʃfcʃıʃlcz ［交通］東カリーズ駅 ɟ1 ファイマン線：カリーズ→東カリーズ→ラゾーディン

ıʃfcʃeueıʃcʃe ［地学］東ケヴェア海流 ɟʔ

ıʃfcn ［ユマナ］［娯楽］東方ｐｒｏｊｅｃｔ、東方プロジェクト、東方 ɟ1:ıʃfc 属格

ıʃfcdɔl ［地名］東方 ［レベル］4 ɟ0 ［文化］ ディミニオン、ナオン、エニーク、アルタの地域。文化的にも政治的にもアルバザードから隔絶している。レイユでは共産圏と資本圏の間にあったものの、オリエントのように文化が混在するのではなく独自の文化を保ち、政治的にもスイスのように中立を保った。アルバザードから近くて遠い国とされる。

ıʃfcdɔcʃ ［地学］東経～度 ［レベル］4 ɟʔ

ıʃfcμecn ［地学］東経 ［レベル］4 1L

ıʃfclɔɔz ［名詞］東端 ［レベル］3 1L:μcɑcı

ıʃfcınłıl ［地名］東アンシャル ［レベル］4 1L ［文化］ → ıłıjınłıl

ıʃfcıɑenʃɔʃcʃe ［地学］東アデント海流 ɟʔ

ıʃfccnjııł ［地名］東インサール ［レベル］4 1L ［文化］ → ıłıjınłıl

ıʃfcen ［接続詞］～の東にある ［レベル］3 μɑ;/ ɟ꞉

ıʃfɔl ［名詞］書き込み、書きこみ、カキコ μɑ;/ ɟʔ ［用例］ ıμ ıʃfɔl ı ɟlez 掲示板に書き込む

ıʃfe ［エルト］アシュテ。春を司る女神 ［形容詞］色が春めいた ［形容詞］春の ［名詞］春 ［組み数字］1 / 4 ［レベル］2 古 :μcɑcı:łefe(春) に関連。łefe の fe は風、ıł は正しいもので、神を暗示。即ち神の風が語源。 ::ı cjłceμ:dıłc,ıʃf ［文化］ アルシエルの一人。春の女神。方角は東。 ［成句］ ıʃfe jccnı ɒɔł ɑcł 春眠暁を覚えず ［用例］ ʃcɒɒ, ıʃfe łənıμ ınɟ. 知らぬ間に春が近付いている。 ☆ ʃəμ, ın nı łıʃfe ʃ'ıʃfe. いまや春の気配を感じる。 ıʃfe łənıł. 春になった。 ʃəμ eʃ ıʃfe beμel. 春たけなわだ。 ıʃfe eʃ ıμłcel łın ıłłı. 春は一年のうちで一番楽しい季節だ。 ın jccnı ıʃfe ıłłıl łɔʃ ıμłcel. 一年のうちで春が一番好きだ。 ɑcj ɥən ıʃfe. 今日は春のようだ。 ʃeeze ej beʃf ɒcl ıʃfe. 春が来て風が暖かくなった。 ɑcj ıʃ jel ɑccnı ʃ'ıʃfe. のどかな春の日だった。 ɑcj ıʃ jel ejcl ʃ'ıʃfe. 気持ちの良い春の気候だった。 ıʃfe eʃ ɒɔı łɔɔł. 春はもう終わった。

ıʃfeʃɔɔł ［気象］晩春 ［レベル］4 μɑ;/ ɟʔ

ıʃfełıj ［地球の星座］［ユマナ］春の大三角 ɟ꞉ ［文化］ cɑı

ıʃfełcʃ ［気象］初春 ［レベル］4 μɑ;/ ɟʔ

ıʃfełcpμecn ［地球の星座］［ユマナ］春の大曲線 ɟ꞉ ［文化］ cɑı

ıʃfelelce ［歳時記］春の夜 μɑ;/ ɟ꞉ ［用例］ ʃeeze ʃ'ıʃfelelce eʃ ɑccʃe. 春の夜風が気持ちいい。

ıʃfejɔoın ［天文］春分点 ［レベル］4 ɟ1

ıʃfejɔɔʃ ［名詞］第一週。リディアからメルまで。 ［建築］一等地。アルナにおいてリディア通りからメル通りまで。 ［レベル］3 1ʔ: 制

ıʃfenłeı ［歳時記］春休み ［レベル］2 ɟ1:μcɑcı ［文化］ nıłeı ［用例］ ın pəłıjcł cl pıɑel ʃ'ıʃfenłeı ɔnen ıłɑ. 春休みの数学の宿題が全部終わった。

ıʃfeφelj ［植物］新キャベツ、春キャベツ、スプリンググリーン ［レベル］5 1ʔ: 制

ıʃfehıʃ 幼字 ıʃfe のこと ɟ1

ıʃfehɔμɑ ［地球の星座］［ユマナ］春のダイヤモンド ɟ꞉ ［文化］ cɑı

ıʃfeμɔɒı ［名詞］笑いのツボ、（ıμ とともに）ツボる ［レベル］3 1L: アシュテ発作 ［用例］ ıμʃe, ıμcł ıʃfeμɔɒıłʃ ヤバイ、ツボった！

ıʃfez ［建築］書斎 ［レベル］3 1꞉: 制

ıʃfescɔμ ［生物］上髄 ɟ1

ıʃfeoııł ［物理］フーコーの振り子 ［レベル］6 1L:μcɑcı: コリオリ力を見るための振り子。→ ıʃfec łcɟ

ıʃfełɑ ［言語］書き言葉、文語 ［レベル］4 1꞉: 制

ıʃfełcł ［化学］カルシウム ［レベル］3 1Δ: 制

ıʃfełeφel ［気象］春分、狭義の彼岸 ［レベル］3 1L: アシュテの旋毛。春分ごろに太陽が天頂を通過することから。

ıʃfelecn ［被服］春服、合服 ［レベル］3 1L ［用例］ cɒ ʃəɔcʃ, el ɟıb jen łceμłecn ız ıʃfelecn. 今週は冬服と合服のどちらを着てもよい。

ıʃfeıłcɟ ［植物］れんぎょう、レンギョウ、連翹 ［レベル］5 1L: 春の秋。春に咲くのに秋の黄色

い紅葉のような色の花を咲かせるため。 ［文化］ アルバザード原産ではなく、アンシャル東部からの外来種。繁殖力が強いため、街路樹として使用される。中央アルナのカルテでは、コノーテ通りへ通じる道沿いに咲いている。レインがシェルテスに手を食われた場所。 ［用例］ ılſeılcȷ ıſ ɒınȷ ʎı ɑcdcſ, ɟee lcıl eɒıſ ɑcɥſe. レンギョウがあちこちで咲いて、街が明るくなった。

ılſeclcȷ ［物理］［軍事］コリオリの力、コリオリ力 ［レベル］5 1L:ɥcɑcı ［文化］ カコの時代、魔導師たちが自分の放った魔法の球がわずかに東に弾道がずれることを発見した。また、戦士たちも球形のユノが東にずれることを知っていた（アルバザードにおいて真北に撃った場合）。魔導師たちは、東に座する春の女神アシュテが自分たちをからかっているのだと考えた。

ılſeɔlɒı ［名詞］表１→ lec ［レベル］6 ȷ]

ılſeeɥc ［医療］Ａ型 ［レベル］2 1L ［文化］ Ａ型は神経質で繊細と思われている。

ılʔ ［形容詞］上手な、巧い、得意、うまい、物事に詳しい、知識が明るい、得意な ［反意語］lɔcı ［レベル］2 定 :ılʔ, ılʔıſ 良いところ」から。 ［語法］ 日本語では「紅茶に詳しいね」というが、アルカでは「紅茶がうまいね」のようにいう。 ［成句］ el eſ ılʔ ı lej lə jccnı 好きこそ物の上手なれ ［用例］ ɒclə eſ ılʔ ı ɒclȷ. ミクは歌がうまい。 ın nɔɑ hırdn jecn eſ ılʔ ı ʎıɟ. 友人より流行には敏感な方だ。 ın eſ ılʔ ı ɟıezɔn. 私はスキーが得意だ。

ıll ［組み数字］２３/２８ ［交通］アッシュ通り ［レベル］2 ȷ]

ıll(J) ［人名］アシュ 古 ［文化］ 初代ソーンの第９使徒。異性魔王。セレンが一人で戦い、どうにか勝利し、その後ラルドゥラと出会った。 ［成句］ uıȷſ ıll ɟecıl 九死に一生を得る

ıll uılcnı ［人名］アッシュ＝ヴァリナ ［組み数字］２３/２８ ［レベル］2 古 :uılcnı は「あの美しい」 ［文化］ (ſcɑ Δ →) 第４期４代ソーン第９使徒。女性。ıɒɒı。１７８ｃｍ、６５ｋｇ。金色の髪。青の目。肌は白：黄＝８：２。 ・『ミールの書』より 髪にゆったりとしたウェーブをかけた女性はメルを視認すると途端に優しい声色になった。「アッシュお姉さん、お邪魔してます。それに、リナお姉ちゃんにクノンお姉ちゃんも」 メルは３人にまとめて挨拶をした。しかし、お邪魔してますとは一体どういう意味なのだろうか。メルはセルフィッシュガーデンの住人ではないのだろうか。しかしそんなことを聞いた所で彼女が答える筈もない。ミールは何も問わずに３人の女性を見た。 アッシュという女性はこの中では一番大人びているようで、年も少し上に見えかねないが、クミールとそう大差はないようだ。彼女は長身でかなり魅力的な身体をしている。化粧を施しているようで、真紅の口紅が彼女の魅力をひきたてている。服装も夏だから特になのだろうが、同性のミールが見てもセクシーだと思う格好をしている。具体的には、下は黒のタイトスカートで、丈は膝までしかない。また、上は薄紫色のスーツを着ている。 （うわぁ、大人な女の人だー！ 胸おっきくて背が高くて髪綺麗でお化粧綺麗でかっこいーなーっ！）

ılɔ ［感動詞］よいしょ、よっこいしょ ［レベル］2 古 ［語法］ ı]ɔnlɔ

ılɒ ［形容詞］正統な、正規の、正規版 ［類義語］ɥɒı ［反意語］cȷɒ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ıl から

ılɒnıɒd ［被服］オペラパンプス、コートシューズ ɥſ;/ ȷʔ ［文化］ ɥſ で男性の正装用として使われたが、ıl で滅んだ。

ılɒnʎıɒ ［ユマナ］［宗教］正教会 ȷʔ

ılɒɥı ［名詞］本家、本元、家元 ［反意語］cȷɒɥı ［レベル］4 1ʔ: 制 ［用例］ ɑcıȷ ʎı ılɒɥı e ɒclɒ 舞踏の家元に生まれる

ılɒlıȷl ［被服］ストレートチップオックスフォードシューズ ɥſ;/ ȷʔ ［文化］ ɥſ の男性の正装だったが ıl で廃れた。

ılɒı ［形容詞］正しい ［類義語］ſcı ［反意語］ſeɔnı ul:ɒcɥɔʎ];ıl/ɒı ［レベル］3 ȷ1 ［語法］［文化］ ılɒc cɥ

ılɒı ［形容詞］論理的な、理路整然とした ［反意語］ılılɒı ［レベル］3 1ʔ: 制 :ılɒc から来ていて、ılɒc はさらに古の ılɒccɥ（正しい論理）から ［語法］［文化］ 日本人は「論理的だね」という言い方をあまりしないが、アルバザード人はこの ılɒı というのを、相手の考えを支持するときにしばしば使う。「あぁ、なるほど」「そうかそうか」「うん、確かに」などと日本人が言う場面で、頻繁に ılɒı が用いられる。 ［用例］ ılɒı uıcʎel 一理ある

ılɒıſc ［論理］論理性、正論性 ［レベル］4 ɥɑ;/ ȷʔ

ılɒcɑı ［形容詞］神の性質を持った、聖なる、神聖な ［魔法］アシュミダ。聖の多段黒魔法。聖属性の青白い光線で敵を焼く。 ［反意語］ıluenl ［レベル］3 古 : ＦＦ８でセレンがアレクサンダーのＧＦの名前に用いていたことからも、詳しい年代が分かる語。 ［語法］ ɒcɑı

ılɒccɥ ［形容詞］正しい ［類義語］ſcı ［反意語］ſeɔɒccɥ ul:ɒcɥɔʎ];ıl/ɒccɥ ［レベル］3 ȷ1 ［語法］［文化］ 怒りの大部分は「自分が正しい」という思いが根本にある。こういう人は自己中で神経質と思われがちだが、むしろ真面目で優秀な人が多い。正しさを証明するために自分を磨いて傍証を作ったりするため、しばしば会社などでも有能である。その反面、苦難に立ち向かうことで傷ついたり、自分自身が課す義務感の縛りに苦しめられたりする。 この手の人はたいてい自分の性格で苦しんでおり、鈍感力がほしいと思っている。鈍くて考えないバカになりたいと考える。怒らない自分に憧れる。 しかし生来の生真面目さゆえ、自分であろうと他人であろうと間違っていることを許せず、罰する。 正しさなどどうでもよいと考えると気持ちが楽になり、弛む。 正しいことを貫くために傷つき失うロスと、正しくないが楽なのと、どちらが合理的だろうか。その天秤が後者に傾けば楽になる。 例えば正しくないと何が起こるか。それで死ぬのか。痛いのか。通すために戦うほうがよほど痛いだろう。正しさを守って何になる。 とはいえ、すべての正しさを捨ててよいものか。例えば１＋１が２である正しさを却下することはできない。 そこでミロクはこう考えた。 正しさは数学のような客観的なものと、正義のような主観的なものがある。 これらを別々の言葉で呼んで区別し、前者だけを取ろうと。そこで ılɒccɥ, ſeɔɒccɥ, ılnı, ſeɔnı を造語した。 ［用例］ ın nı lej jeɟen ɟın ʎəſ eſ ılɒccɥ. セレンさんのおっしゃったことは理に適っていると思う。

ılɒe ［形容詞］時間に正確な、時間を守る ［反意語］ılılɒe ［レベル］3 1ʔ: 制 : 制では時間を守らないの意味。古の ılɒel（正しい時間）が語源。 ［文化］ → ɟɥnıɒel, ʎıſeesɒel アルバザードはＭタイムを採用している。また、日本人同様、時間にもうるさい。日本人との違いは、５分前行動などの習慣がなく、時間ちょうどに行動する点である。 待つことに関して、アルバザード人は細かい遅れは気にしないものの、大局的な時間にはこだわる。例えば電車が数分遅れようと、レジが並んでいようと、体の具合でも悪くなければ大人しくゆったり待つ。反面、何時ごろに寝るとか何時ごろに食べるといったことには神経質で、仕事があるので昼食を１時間ずらすというようなことは非常に嫌がる。 南方人は伝統的にＰタイムだったため、ミロク革命で国家的にＭタイムを強いた後もＰタイムの習慣が残っており、しばしば北方人は南方人にイライラさせられる。 凪人は時間前行動が原則で、予定よりも前に現地集合している。ミーティングなどの集まりも定刻前に着いている。そのため急な事故などが起こって遅刻しそうになっても、そもそも早めに行動しているので、結果として遅刻率が低い。よって世界一時間に正確と考えられている。だがそれは定刻前に行動している結果起こることであって、時間に正確に従って行動するという意味においては定刻通りに行動するアルバザード人のほうが一番と言えるかもしれない。 また、ルティア人は定刻の５～１０分前に行動することが多い。ケートイア人はアルバザード人と同じ時間感覚だが、定刻通りに事が運ばないと不快感を示す割合はアルバザード人よりも高く、時間に厳しいといえる。 カテージュ人は予定時刻が近づいたら思い出したようにゆっくり向かう。着いたら集まっているメンバーと話したし、全員が来る前に話を適当に進める。議題が順を追っておらず、すべての議題を同時に話すため、堂々巡りに長々喋る。フランス人に近い。 ［用例］ ɥcɑcı eſ ılɒe. リディアは時間に正確だ。

ıld ［名詞］蛍光 ［レベル］3 1ʔ ←古 :ıleſſdııl（月光）

ıldıız ［名詞］蛍光ペン ［レベル］3 ul;/ ȷʔ

ıldɒıɒ ［名詞］蛍光灯 ［レベル］3 1L:ɥcɑcı:ıɟbılelſ

ılbez ［医療］透析、人工透析 ［動詞］ɥəl（患者など）を透析する、透析する ［レベル］5 ul;/「正しい尿にすること」 ȷʔ

ıll ［普通動名詞］工夫、妙案、妙計、奇計 ［動詞］ʔɔn を使って ɥəl を工夫して ı（結果物）にする、工夫する ［レベル］3 1ʔ: 制 : 定 :ılʔɔ(良い考え) ［用例］ ın ılʎıſ ſə zɔɒ ı ʔɔu ɑccnı lec. 工夫して本を入れる箱にしてみた。

ıllec ［名詞］日記 ［レベル］2 古 :jɔɟn:ıllec ← ıllecjſ（正しい本）［成句］ ıllec ıflſen nılncı ナルニア (ɑcı lcȷ) までで終わっている日記：三日坊主 ［用例］ nɔn lcɑcı ɑın lc ılſ ıllec. 日記を書いたら寝よう。 ın ılſ nelſ ıllec ȷı ɒɔʔ. 私は寝る前に日記を付ける。

ıllı ［数学］公理 ［レベル］5 定 :（正しいもの） ［語法］ cȷcɥ

ılc ［格詞］後ろに ［レベル］2 ɥɑ;/ ȷʔ

ılcu ［動詞］ɥəl に声をかける、呼びつける、呼ぶ ［言語］頓呼、とんこ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı

ılſe:ınl/lcu ［語法］［文化］ 注意を喚起するために声をかける行為 今話している相手には nee をはじめとしたてくさんの呼びかけの語がある。今話していない相手とこれから会話を始めようとする場合、特に相手が赤の他人の場合は lınſe を使う場合が多い。lınſe は見知らぬ通りがかりに使うことが多い。クラスメートが廊下を歩いていて話しかける場合は nee というのがふつうで、lınſe というと他クラスの知らない学生だと思われる。見知らぬ同級生にいきなり nee と言われることはあるにはあるが、ちょっと馴れ馴れしいなという感じがする。日本人は呼びかけで「すみません」と謝りの言葉を使うが、denſ とはいえない。また、アルバザードは誰でも呼びかけることができる。上下関係は関係ない、lınſe は敬度を表わすものでなく、相手を知っているかどうかで使い分ける。知りもしない相手にいきなり nee といったら不気味がられる。また、いきなり他人に oec と呼びかけるのは非常に野蛮である。不良がカツアゲするときに相手に話しかけるときに「すみません」というわけがなく、「おいちょっと待てよ」が妥当である。アルカでも同じで、不良は lınſe でなくいきなり oec という。また、軍隊などで目上が知らない目下に呼びかけるときもいきなり oec という。社長が知らない部下に oec ということもあるが、こういう口調はパワハラに当たる。仲の良い部下にたとえば oec ということは許され、パワハラにはならない。ただ、仲が良くても目下はふつう目上に oec とはいえない。また、親や兄が目下に oec ということもある。そもそも親兄弟が自分のことを知らないということはないから、lınſe を使うほうがおかしい。恋人や夫婦も lınſe ということはありえない。oec といいあえる。ただ、口汚いと嫌って nee という人もいる。 呼ぶジェスチャーは手のひらを上にして指をくいくいとする。行けのジェスチャーは手のひらを下にして手ではなく肘を支点に上腕を９０度曲げた状態からまっすぐ伸ばす。 ［用例］ lcc zı ləſcı ılcucʔ uınφɥɒc lcen nɔȷ ɔʔ jenı ʔıl ʎı φılſ uep ſ'ıuelınſ. 死神の黒い門を前にしたリーザ＝ルティアは、満足気な笑みを浮かべて背後のヴァンガルディに声を掛けた。

ılcuȷıɒe ［言語］呼格 ［レベル］6 ȷ0

ılcuɒɔlɑ ［言語］頓呼法、とんこ法 ɥɑ;/ ȷʔ

ılcl ［人名］アシル 古 ［文化］ ɥɑ でラルドゥラの祖母。アルシェの使徒を鍛えた。

ılccɒ ［化学］ブドウ糖、ぶどう糖、グルコース、デキストロース ［レベル］4 1L:dııl:ı/lccɒ。ı を付けたのは、糖類（lccɒ）から派生した具体的な糖のうち、最も基本的なものだからということらしい。

ılce ［形容詞］相対した、正対した ［丁寧］［形容詞］性格がまっすぐな← cɔı ［言語］対句。詩などにおける対句のこと。 ［類義語］cɔı ［反意語］cllep ［レベル］3 ȷ1:ıl/c/e「左右に正しい」 ［語法］ cɔı は左右対称。ılce は人と人が向かい合ったときのように、左右が反転した状態のこと。cllep は鏡写しのことで、例えば右目を鏡に映すと鏡の左側でなく右側に右目が来る状態のこと。

ılɔ ［普通動名詞］遊び、遊戯、児戯、ちょっとした悪戯 ［動詞］ɔʎ と ɥəl（内容）を ʔɔn で遊ぶ、遊ぶ。ɥəl に人を取るとその人で遊ぶというニュアンスに。 ［類義語］ɥəəſ ［レベル］2 古 :ılɔ(遊ぶ): 語源不詳。メルは幼いころ、日本語の「遊ぶ」を「あしょぶ」と発音していた。そこから ılɔ を遊ぶにしたのではないかと思われるが、メル以前に遊ぶを ılɔ と言っていたとするクリスの発言もあるため、自然言語由来ではなかろうとして採用。 ［用例］ ın ılɔſ eeu e ſcep. 海の波で遊んだ。 ılɔ ʔɔʎʔɔ nɔn e. 私と遊んで。 ılɔ lccſ ʔɔn lcuı. ゲームで遊びましょう。

ılɔfc ［娯楽］娯楽性 ［レベル］6 ɥɑ;/ ȷʔ

ılɔfe ［動詞］ɥəl をふざけさせる、ふざける ［形容詞］ふざけた、お遊びの、遊び半分の、お遊び半分の。被修飾語が人なら ılɔfen で使い、物なら ılɔfe で使う。動副詞はそれぞれ ılɔfenel と ılɔfel。 ［レベル］2 1L:ɥcɑcı:ılɔ/feeze ［語法］ dclɑ は相手をからかって反応を楽しむこと。ılɔfe は自分がアホになってふざけることで、必ずしも相手を必要としない。従って ılɔfe の格組は姿勢動詞と同じ。 ［用例］ zını ılɔfefej uɔl ocnz eel. ザナがふざけて顔をゆがませていた。

ılɔʔ ［娯楽］おもちゃ、玩具、遊具 ［レベル］2 1L:ılɔʔɔn

ılɔʔʔɔu ［娯楽］おもちゃ箱、おもちゃかご ［レベル］2 1L

ılɔʔı ［娯楽］遊園地 ［レベル］2 制

ılɔn ［娯楽］趣味、道楽 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ılɔ から

ılɔz ［娯楽］積み木、つみき、ブロック ［レベル］2 1ʔ: 制 :ılɔzɔɒ ［用例］ hınʎ{eu} ılɔz 積み木を組む

ılɔlejd ［名詞］寄り道 ［動詞］ɥəl（場所）に寄り道する、寄り道する ［レベル］3 1L ［用例］ ɑen ılɔlejd ſɔʎıl. = ɑen lejd ſɔʎıl ılɔl. 寄り道するな。

ıle ［名詞］団体、組織、機構、機関、会、会合、部隊 ［類義語］cſı ［レベル］2 古 :jɔɟn:ıleſ ［語法］ 団体としての会が ıle で、イベントとしての会合が cſı。 ［用例］ lıɑ ıle 団体を組織する

ıleſ ［名詞］アシェット ［レベル］3 ɥɑ:lccz:ıleſſ,ɑ 古 :（月） ［文化］ 第四期四代ラシェット。ɥɑ の主人公。アルシェとソーンが合併してできた団体。メンバーは２８人で、使徒と呼ばれる。悪魔テームスを倒して世界に平和をもたらした。 現実には同名の集まりで、人工言語アルカを作った人々のこと。 ［成句］ ıleſ lcɥ ɟɥccl: clcı 船頭多くして船山へ上る ıleſ ſel uıın 一騎当千 ıleſ ſcl hırdı ɑcnɒɒ 玉石混淆

ıleſſ,ɑ nəəɟφı。ſɒ で lelſ に併合されて使わなくなる。 elſ;e

ıleſɟıſ ［歳時記］平年 ［レベル］3 ɥɑ;/「アシェットの日で終わる年」 ȷʔ

ıleſjel ［歳時記］アシェットの日、大晦日 ［レベル］2 1ʔ: 制 ［文化］ メル暦における、ルージュの月クミールの日の次の日。ミュシェットの月の第一日目。

ıleʎ ［動詞］ɥəl を ı に変身させる、変身する、変装する、コスプレする ［魔法］アシェック。害の中位黒魔法。対象を動物に変身させる。カエルにしたり、逆に自分が変装するためにネコになったりできる。一度かかると術者を殺しても解けない。変装を解くには術者が解除する（ılıleʎ）か、一定時間が経過するか、術者が定めた条件をクリアしなければならない。術者以外が解除するにはラルトをかけるか、シェルティウスを使う。 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 前期アルカから中期アルカにかけてできた語で、英語ではＭｏｏｎｃａｔと訳していた。アルカで変装は ılelſſeſſʔɔ（月の猫）。猫が月の光を浴びて変身するということから。 ［成句］ ılʔ ıl ılelʎ 変幻自在

ıleʎuɔlɒ ［医療］ＥＳ細胞、胚性幹細胞 ［レベル］5 ȷ0: 変身細胞

ıleʎılɔ ［娯楽］コスプレ ［レベル］4 ȷ1

ıleʎılɔın ［娯楽］コスプレイヤー、レイヤー→ ıleʎej ［レベル］4 ȷ1

ıleʎej ıleʎılɔın ȷ1

ılej ［普通動名詞］上陸、乗り上げ ［動詞］ɥəl を ı に上陸させる、乗り上げる ［レベル］3 ȷȷ:ıleı/jɔ

ılejuıc ［軍事］海兵隊 ［レベル］4 ȷʔ&

ılen ［経済］法人 ［レベル］5 1L:ıle

ılenɑıcφ ［経済］法人税 ［レベル］5 1L

ıleuıu ［運動］団体競技、団体スポーツ ［レベル］4 1L:ɥcɑcı:ıɟbılelſ

ıleɑ ［料理］カフェ、喫茶店 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılſe:lı/leɑ（一息つくところ） ［文化］ → ɟeſ 学内にもカフェがある。室内およびテラスで飲める。主に紅茶。コーヒーはレア。学生は談笑しつつ勉強にも使う。騒ぐのは厳禁だが、ふつうに話している分には問題ない。 ［成句］ ［ネガティブ］ıjɒ ıl ıleɑ. 言い訳する：浮気を問い詰められた男が、アリバイ工作を行きつけのカフェに頼んでいたことから。妻や恋人を説得するためにカフェに自らのアリバイを問うため。 ［用例］ ☆ nɔn nıſ ınc ſcn ſcn ɒcl lı ıɟbınɑ ıl ıleɑ. 彼が言い訳ばかりしているので疲れ果ててしまった。 ın ɒcȷ lııȷ ɑcſ le bel ʎı ıleɑ. カフェテリアであの料理を出すのを止めてほしい。 ſıəın eſ ınȷ hɔſ lı ſə ıleɑ. 喫茶店には私達しかいない。

ıleɒ ［文末純詞Ⅰ{ɥəʔ}］［レベル］1 古 jɔɟn:ıl/ɒccɥ「正論だろうか」。ıleɒ は jeſe に相当する古ソーンの言葉。当時は男女区別なく使った。

ıleɟ ［名詞］お湯、白湯、さゆ ［類義語］aleɟ, ılcɥ, lcɥcı, eɟ ［アクセント］ılEɟ ［レベル］2 ȷ0:ɥcɑcı:ılſe/eɟcı ［語法］［文化］ aleɟ

ılel ［perfe］lɔʔ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılcȷ:ſıleſſ（ふたつの月）ここで対となっているのはドゥルガ神とヴィーネ神。カコを月戦争と呼んで人類を２つに分かれたことから、「互いに」の語源として適切となった。

ıleſſ ［気象］月天輪、月の輪、月のハロ、月虹、月光虹 ［レベル］3 1Δ:ɥcɑcı/jeɟen ［文化］ 神秘的とされ、月の中では最も魔力の回復に役立つ。 ［用例］ ılelſ ıſ ınſ ſcnʔı. 月天輪がとても美しかった。 ılelſ ınſ ɑɔʔı jcel. 美しい月天輪が空を彩る（『ıuelınſcȷ』）

ılelſ,ɑ lelſ ȷıı!;e

ılelſejd ［気象］高層雲、朧雲 ［レベル］5 1L: 月天輪を作る。実際には巻層雲も作るが、薄すぎてあまり天体が隠れない。

ɪleɴ ［動詞］ɥəl をぶらつく、ぶらつく、遊びまわる、遊び回る、放浪する、浮浪する ［レベル］3 ʃ1:ɪlɔ/leɴ

ɪleɴɥecɒ ［魔法］浮遊霊 ［レベル］4 ʃʃ

ɪleɴɪn ［名詞］浮浪者、バガボンド、流浪人、浪人 ［レベル］3 ʃ1

ɪelaɕ ［地名］アシェルフィ、月泉市、月泉街 ［レベル］4 古 :ɪleʃ/elɑc アシェットではなく、月の意味。「月が泉に映る街」が原義。 ［文化］ アルナの西、サプリの東の街。アルナの膝元で、アシェットのアルシェの暮らした街。 守護神はアスカ。

ɪleleʃ ［形容詞］互恵的な、互恵的、互恵 ［レベル］4 μɑ;ɪlel/ʃe ʃʃɴ

ɪleɪ ［地学］浜、海岸、海辺（海岸の雅語）、浜辺、沿岸、ビーチ ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪ（古で海）/leɪ（砂） ［用例］ɪn nɪ jcl bɪn ɔl leɴ eɪn ɪleɪ. 浜辺に沿って歩くのは楽しいだろう。

ɪleɪdɔnɟɥeɴ ［運動］ビーチバレー ［レベル］3 1ʟ ［用例］ɪn ɪμɪʃ ɪleɪdɔnɟɥeɴ ɔʃ hɪrɒn. 友達とビーチバレーをした。

ɪleɪɥecn ［地学］海岸線 ［レベル］4 1ʟ

ɪleɪejn ［名詞］ビーチパラソル ［レベル］3 1ʟ ［用例］ɪn ɑcʃjɪʃ ʃceɥ ʅɔnʃ jʃcnej ɒɔl ɪleɪejn. ビーチパラソルの下に座って海を眺めた。

ɪləəʃ ［植物］アルファルファ ［レベル］4 1ʔ: 制 :ləəʃ

ɪj ［形容詞］～も、～もの、さすがに、流石の～でも。心理的な甚大さを表す。 ［反意語］ʃcj ［レベル］1 1ʍ: 制 : 恣意 ［用例］ʃɪəʃ ɑə uc ɪjɒ 3つも買ったの？

ɪj(J) ［言語］アルカ、現アルカ ［レベル］4 ʃ1

ɪjʃ ［接尾辞］再帰分詞。開音節では jʃ になる。 ［レベル］2 1ʟ: 恣意。ʃ1 まで再帰動名詞。 ［文化］→ cɯɪ ［用例］nɪlʃ ɔɯjʃ 動く城

ɪjʃɥəɔ ［言語］再帰動詞 ［類義語］jɪμɥəɔ ʃʃ

ɪjʃenɔʃ ［宗教］アステノット ［レベル］3 古 ［文化］ 信者が生きる上でこれは遵守したほうが良いとされる教え。精神的に依存しない、自尊心を持つ、人の身になって考える、ユーモアを持つ。この順で守るべき重要度が下がる。

ɪjʃeμ ［政治］アステル ［レベル］3 古 ［文化］ メル ʔ00 年のミナレットの首領アルファウスによる王政廃止以降の副王のこと。アルバザードの事実上の最高権力者。

ɪjʃeμʃɔnʅ ［政治］副王（の地位） ［レベル］4 1ʟ ［文化］ 表ざたに認められないない事実上の身分。地位のほうが適切。

ɪjʃeμʅɔlɒ ［政治］アステル治世 ［レベル］4 1ʟ:cləəj;μcɑɔɪ

ɪjʃel ［サール］アステル ［名詞］地震 ［魔法］召喚魔法アステル（クエイク、タイタン）。大地震で敵を攻撃。 ［レベル］2 定 ʅɪʃlə, ɪjʃel:ʅɪʃə, ɪjʃel ［語法］ 日本語では地震は起こるものだが、アルバザードだと地震はアステルが来たから起こるものなので、地震は起こるものではなく来るもの。 ［文化］ ＜アステル神＞ 大地と地震を司る巨人。怒ると大地を踏み鳴らして地震を起こす。普段は地震が起こらないよう、大地を支えている。風土の神でもあり、アトラスの風土を調節している。 ＜地震＞ 地震で家が壊れた場合も火災と同じく点数化され、保険金をもらう。火事と違って誰かの責任ということは少ない。ただ、あまりに不自然な角度でいかにも倒れそうな彫刻を隣家が建てていたらどうだろうか。もし地震のせいでそれが倒れて自分の家に入り、誰かが潰れて死んだとしたらどうか。その場合は流石に相手から慰謝料を取れる。 ［用例］ɪjʃel lənɪ̀. 地震が起こった。

ɪjʃel(J) ［接尾辞］再帰動名詞を作る。開音節では jʃel になる。 ʃ1:ɪjʃ<1ʟ: 恣意 ［文化］ → cɯɪ ［用例］ɒɔʅɪjʃel 睡眠 jʃcnɪjʃel 着席 jɪnʅɪjʃel 寝ること

ɪjʃelʃ ［アトラスの国家］アステルト ［レベル］5 1ʟ:μcɑɔɪ: 土地 / 土地

ɪjʃelʃ ɪʃcnɪj ［人名］アステルト＝アキナス ʃ0 ［文化］ (cɒəl ʔ0ʔ:ʔ0ʍ) イルミ＝アキナスの息子。計算機 zclcɔʃ の乗除算を発明したが、国家反逆の罪を着せられ処刑される。

ɪjʃelen ［地学］珪線石 1ʟ:ɪjʃel/μen. ɪjʃeμen でも良いが、未来的に見て「副王ちゃん」の意味を持つので避けた。この石が名付けられたのはあくまで μɑ なので、神話上は「副王ちゃん」を意図的に避けたわけではない。 ［文化］ アステルの魔石。藍晶石、紅柱石、珪線石ともに同じ組成。

ɪjʅ ［名詞］すぐ。 1～5分。文脈によっては1分以内のことも。 ［副詞］すぐ、すぐに、ただちに、即、そく、即座に、まもなく、間もなく ［レベル］2 1ʟ: 制で「すぐ」が cjʅ だったことから。 :::ɪɥəɒc,ɪlʃ ［語法］ ɑcʅɑə

ɪjʅɪ ［サール］アスカ ［魔法］召喚魔法アスカ（リヴァイアサン）。大津波を起こして敵を飲み込む。 ［気象］津波、大津波、タイダルウェイブ ［レベル］3 μcɑɔɪ: 古 ［文化］ 河川に住む長い龍で、首がいくつにも分かれている。河川を司るサール。性格は温厚だが、稀に怒ると河川を氾濫させる。アルバザードの河川は氾濫しにくいという地理的要因と見事に合致している。 ［用例］☆ ɪjʅɪ nɪʃ sɔ ɒcl ejʅ ɑɔʃ. 雨が降りすぎて川が氾濫した：ɪjʅɪ nɪ sɔ で氾濫する。

ɪjʅɔlɑ ［電算］ブルートゥース、ｂｌｕｅｔｏｏｔｈ、アスコルド ［レベル］5 ʃ1:μɥəə

ɪjʅeμcɪ ［アトラスの国家］アスケリア ［レベル］5 1ʟ:μcɑɔɪ:eμcɪ は水。水の地

ɪjn ［動詞］ɥəl を ɪ と交代させる、交代する、交替する ［副詞］交代して、交互に、代わる代わる、順番に、順々に ［レベル］3 1ʍ: 制 : 恣意 ［用例］ɥəəɒɪ eɒ ɪjn ɪl ɪμnə cɒ nəμne lel euɔɪn. 夜になったら見張りをユーマからアルドゥに交代する。

ɪjnɪllec ［名詞］交換日記 ［レベル］4 μɑ;/「代わる代わる書く日記」 ʃ1

ɪjɒ ［動詞］ɥəl を ɪ に問う、問う ［名詞］問い、問われたもの、問いかけ、質問 ［普通動名詞］問うこと、問い ［反意語］clɪn ［レベル］2 1ʍ: 制 ［語法］ ɪjɒ ɥəl と ɪjɒ ɔn の違い。ɥəl は ɔn の代替格だが直接目的語であるため、その物についてのみ聞く。ɔn は少しぼやかしてその物およびその周辺事項や関連事項について聞く。 ［文化］ アルバザードでは質問することは良いことである。知識を増やすために、疑問を解くために質問すべきである。質問する相手は教師や家族や友人や案内係が良い。知らない人ほど答えてくれにくい。また、仕事でもなければ教えてくれにくい。説明力と同じく質問力が重視される。つまり、自分が何を分からないのか、そして何を聞きたいのかをはっきりさせる力である。簡潔に分かりやすく何を知りたいのか述べる力である。そうでなければ相手も返しようがない。悪い質問には徹底的に相手は「質問の意味がわからない。こういう部分が分からない」といってくる。アルバザード人は日本人ほど察してくれないし、察したとしても「それってこういうこと？」と確認してくる。それから答えてくれる。そういう面倒な手続きを踏まないために質問力を身に付けておく必要がある。答える義務のないこと、答えたくないことは答えてくれない。 ［成句］ɪjɒ ɪ nɔʃ 自問自答 ［用例］ eu ɪjɒ 質問を投げかける jɔl ɪn ɪjɒ ɪ ʃc そりゃこっちのセリフだよ lɪ ɪj ɒɪʃ ʃə lel ɪn jccnɪ ʃeμ leɒ ɪz. 彼は私が音楽を聴くのを好きか尋ねた。 ɪn ɪjɒɪʃ ʃə lel lɪ ʅe ʅɪɔ jen ɪn ʅɔn ɪɒɔ. 彼に車で迎えに来てもらえるか尋ねた。 ɪuelɪnʃ euɔʅ ɪjɒ ueeμ ɪ lɔcɔɪ l'ɔμ jeɑɔ. 消え行くリーザに死神が最後の質問を投げかける。

ɪjɒuɔʅ ［言語］疑問文 ［レベル］4 1ʟ

ɪjd ［動詞］ɥəl をしゃがませる、しゃがむ、屈ませる、屈ませる、かがませる、屈む、かがむ、膝を折る ［再帰動名詞］スクワット ［類義語］jʅcn、ʅɔls ［レベル］2 1ʍ: 制 : 古 :cɟɪ（砂を見る） ［用例］ɪjd jɔɑ ɒcʅɥɪc ɪ. スクワットは膝に来るわー。

ɪjdbeeʅ ［名詞］和式便所 ［レベル］3 1ʟ:μcɑɔɪ ［文化］ アルバザードにはない。和式といってもギリシャや北欧には似たような便所がある。ただ、アルバザードにはない。

ɪjdcl ［植物］チョウノスケソウ、長之助草 ［レベル］5 古 jɔμn ［文化］ サールがフィーリアで最初に手に取った野草。

ɪjblen ［電算］ノイマン型コンピュータ、コンピュータ ［レベル］6 ul:ɪjbel lelʃ;ɪjbel/en ʃʃ ［文化］ ʔʔʃ にアスベル＝シェルトがミロクのもとで開発。

ɪjbel lelʃ ［人名］アスベル＝シェルト ʃʃ ［文化］ ɪjblen

ɪjbel cneɪɪʃɔ ［人名］アスベル＝イネアート ɒɒ ʃ1 ［文化］ ɑcɒcʃɔμɔɪ

ɪjμɪ ［軍事］基地、本部、ベースメント、拠点、本拠地 ［名詞］下地 ［美容］化粧下地 ［名詞］電話の置き場所、親機 ［レベル］3 古

ɪjl ［化学］酸、アシッド ［形容詞］酸性の ［反意語］ɑclɑ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 恣意 ɥəe:ɥəe

ɪjlɒɪ ［名詞］酸性紙 ［レベル］5 ʃ1 ［文化］ μʃ で大量生産されたが、ul で劣化が問題になり、中性紙に取って代わられた。

ɪjle ［電算］パソコンのウインドウ、ウィンドウ ［レベル］3 1ʔ: 制 :jleʃ

ɪjleɟʅ ［環境］酸性雨 ［レベル］4 1ʟ

ɪjɪ ［言語］名詞 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪj（もの）

ɪjɪ(J) ［格詞］前に ［レベル］2 μɑ;/ ʃʃɴ

ɪjɪjeueʃ ［言語］名詞句 ［レベル］5 ʃ1:ɒel

ɪjɪd ［化学］［普通動名詞］揮発 ［動詞］ɥəl を揮発させる、揮発する ［レベル］5 1ʟ: 制 :uɪjɪd。uɪd と同根。

ɪjɪdfeeʃ ［魔法］揮発性 ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɪjɪcjʃc ［言語］代名詞 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃɴ

ɪjcʅ ［形容詞］不公平な、差がある、差のある、序列のある、不平等な ［名詞］不公平、アンフェア、不平等 ［経済］格差 ［数学］奇数← ɪjcʅɪʅl ［反意語］clɪʃ ［レベル］3 1ʟ:ɒelcɑɔɪ ɪlcj:ɪljcʅɪ（平らでない） ［用例］ ɪjcʅ jɔuen ʅɪφen ɔ ʃcɑen eʃ ʃcn. 金持ちと貧乏人の格差が大きい。

ɪjcʅɑɪl ［言語］序列番号 ʃ1 ［語法］ ɪlʟ

ɪjcʅdɪleʃ ［言語］序列数値 ʃ1 ［語法］ ɪlʟ

ɪjcʅjɪdɪlʟ ［言語］序列組み数字 ʃ1 ［語法］ ɪlʟ

ɪjcʅɪlʟ ［数学］奇数→ ɪjcʅ ［反意語］clɪʃɪlʟ ［レベル］3 ʃ1:「不公平な数」ふたつに分けたとき、片側が多くなることから ［用例］［言葉遊び］ʃə eʃ zɪl lel el ʃcl eɒ ɪjcʅɪʅl cɒ ləəj uc dɔnj lɔj clɪʃ el. 9個を3人で分けたら公平になるのに奇数（不公平な数）とはこれいかに。

ɪjcɑ ［生物］口の下、唇の下、口元 ［反意語］ɪʃɔʅ ［レベル］2 1ʟ:ɒelcɑɔɪ ɪlʃe:ɪl/jel/zcɑ ［語法］ 日本語では顎と呼ばれる部分だが、アルカで顎は床面と水平になっている部分のみ。顔の一部である唇の下のエリアは日本語では顎だが、アルカでは ɪjcɑ に当たる。従って、顎を殴るときはアッパーで、ɪjcɑ を殴るのはストレートになる。 eu lɪj ɪ zcɑ と eu lɪj ɪl ɪjcɑ では置く場所が微妙に異なるので注意。前者は考えるときのしぐさ。 ［用例］ eu lɪj ɪl ɪjcɑ 口の下に手を置く（口を半ば隠すように）

ɪjcd ［名詞］息抜き ［レベル］3 ʃ1:「息を吸う、リラックスする」

ɪjcz ［名詞］候補 ［レベル］3 ʃ1:ɪ jcz「板へ」

ɪjce,jzɑ jɔμeʃ ɪl/jcel

ɪjcel ［歳時記］臨空の日 ［レベル］3 ʃ1:ɪ jcel（空へ） ［文化］ リュウがシェルタージュを発掘した日で、人類が悪魔に対抗する手段を手に入れた日として休日となる。 小説版アンクノット第三巻の中ほどのページで、クロニクルとして羅列してある一連の記述がある。その中に１１・２８（金）となっているものがあるため、これが９７年とかかる。そのページの下部に１２・２９とあり、そこにリュウが魔導船の封印が弱まったのを知って云々という記述がある。

ɪjɔb ［普通動名詞］酔狂、余興、たわむれ、戯れ ［動詞］ɥəl をして戯れる、戯れる、たわむれる。 ɪlɔ と同じ格組。 μɑ;ɪlɔ/φɪɪbe「遊びのネタ」 ʃʃ:「遊ぶ」と覚えよう。

ɪjɔμʃ ［法律］民事 ［反意語］hɪμeʃ ［レベル］4 ʃ0:ɪ jɔμeʃ（青へ）。役所で民事の案件を青い箱に入れたことから。

ɪjɔl ［被服］レギンス、レギング、レギングス、スパッツ、トレンカ ［レベル］4 ʃ1:ɪ/jɔləɔɪ

ɪjeʃ ［動詞］ɥəl に打ち克つ、打ち克つ、打ち勝つ ［動詞］ɥəl を振り払う、振り払う ［類義語］uɪjʃ ［レベル］3 ʃj;ɔɪjeʃ,ɑu.l ʃ1 oɪjeʃ:

ɪjefɪɑel ［名詞］一網打尽 ［レベル］4 ʃʃ

ɪjel ［名詞］口を開けずにニコっとする微笑み、微笑、スマイル、笑顔 ［動詞］ɥəl を微笑ませる、声を出さずに笑う、ほほえむ、微笑む ［レベル］2 1ʟ:jɔnɔhcnɔʅc:oɪɪnjel（ゆりかごのような唇） ɪnjel にしたが頻度が高いので ɪjel にしたため、原形が見えない。 ［成句］ ʃɔe ɪjel 笑顔を突く：破顔一笑 ［用例］ jcnj ɪjel 微笑みを浮かべる ☆ ɪn ɪjelɪʃ hɪnel ɒcl nɪə. 嬉しくて満面の笑みを浮かべた。 lcczɪ ɪjelcɔ ɔʅ eleʃ ɑccʃ. 涼しげな顔で微笑むリーザ。 ɪjel ɒelcjel 不敵な笑みを浮かべる cl ɪjelɪʃ ɒcl{ɔn, i} ʃə uəμʃ. 皆このニュースに微笑んだ。ɔn でもほとんど意味は変わらないが、ニュースが笑いの原因だというニュアンスが薄まる。ɪ だとニュースに対して微笑みかけたというな感じで、ニュースを擬人化して扱っている印象を受ける。

ɪjeleleʃ ［名詞］笑顔→ ɪjel ［レベル］2 μɑ;/ ʃʃ

ɪjen,ɑ ɪμɪʃɪjen

ɪjenz ［植物］キキョウ、桔梗 ［レベル］6 古 jɔμn

ɪjed ［化学］レーヨン、人絹、ステープルファイバー、スフ μʃ;ɪl/jed「絹に似たもの」 ［レベル］5 ʃ1 ［語法］［文化］ 絹に似せて作られた再生繊維。

ɪjeel ［格詞］～の中心に ［レベル］2 ʃʃ

ɪjeeljeɑ ［サッカー］センタリング、クロス、クロスボール ul;/「中央へのパス」 ʃ1

ɪjəʃ ［物理］素粒子、基本粒子 ［レベル］5 ul;ɪl/jəʃ ʃ1

ɪn ［代詞］私 ［レベル］1 ɑu;e。ɑel と並行して使われた時期と、ɑel を滅ぼしてɪn だけの時期と、逆に ɪn が下火になって消えた時期とを長い時間の間で繰り返した。 古 :ɪn（俺）。古では nɔn と対立する語。nɔn より気取った言い方と捉えられたり、逆に粗野な言い方と捉えられたり、時期によって語感が変わっていった語。nɔn より短いのでこちらを選んだ。 ɑel,ɑ ɪn,ɑu:ɪn::nɪ,ɪlʃ ［語法］ 一人称代詞。中立的な一人称。男女ともに使えるが、女は通常 nɔn が多いので、ɪn は原則的に男。 ［用例］ ɪn eʃ ucʅ. 私は男だ。

ɪn(J) ［接尾辞］～する人を指す。動作主を指す。 ［接尾辞］主格分詞を作る。 ［接尾辞］～に関する人。 lɪn の代わりに使う。 ［レベル］1 ɑu;lɪnʃcj.ʅ ʔʔ: 恣意とあったが、lɪn だろう ［語法］ ɪlʃ/ɪn で「書く人」。jeʃ/ɪn で「殺人者」。分詞としては「何かを殺すような～」という意味になる。 ləʃcɪ など、ɪ で終わるものには ɪn でなく n になる。ləʃcɪn でルティア人。

ɪn(ʔ) ［化学］一重結合、アルカンの接尾辞。 1ʟ:μɥəə

ɪn(ʍ) ［名詞］古アルカの6 赤→ jcɑɪlʟ

ɪn(ϟ) ［副詞］［南方］en ［レベル］3 ʃ1:l.en ［用例］ ɒμɪ ɪn lɔʅc. ウチようわからん。

ɪn(ϥ) ［接頭辞］文末純詞を丁寧にする。 ［接頭辞］感動詞を丁寧にする。 ［レベル］1 μɑ:ʅɒccμ ;ɪɪnɔ.ʅ ʃ0:ʅɒccμ:ɪɪnɔ ［文化］ ・文末純詞 ɪ, e には ɪnnɪ, ɪnne。同様に ɪə, eə は ɪnnɪə, ɪnn eə。 eɥɔ ɪ ɒclcɪ ɪ ɪnneɥɔ ʃ ɥənʅ ɪ ɪnlcc。 nɪ ɪ ɪnɪə。 それ以外は単に ɪn を付け inj efe, ɪnjec, ɪnlɔ), ɪnlcjje, ɪnlcjee のようにする。ɑɪ, ɑe 類には ɪɪlɪ, ɪɪnɔ があるので ɪn を付けない。 ʃ0 年にクミールが造語。ʃ1 年大会議で採用。 ɪn 系純詞の用例をここでまとめて掲載する。 ・感動詞 ejʃɔl「よろしく」：普通 ɪnejʃɔl「よろしくお願いします」：丁寧語 ɒcejʃɔl「お見知り置きを」：尊敬語 ɒc を付けると尊敬語。ɪn を付けると丁寧語。 ɪn jɔɔnɔɥən「おはようございます」 ɪnjenʃɪnʃ「ありがとうございます」 ［用例］ hɪʃlɪ ɒcjʃ ɪʃlɪʃ ɒecɑ ɪnjccnɪ nɥɪnnɥɪə 貴方が助けてくださったんですのね。 ʃə eʃ clɑɪjjɔ ɪnlcc...& これ、大丈夫なんでしょうか……。 ɥənɪ ej ʅəlɪn ɪnnɪ. お腹がすきましたわ。 ɒecɑ μeɑɪʃ ez hɪ ʅlɪn ɥəəlcɪ, hɪrdɪ. お部屋を片付けておきました、だんなさま。 jɪnʃ ɥəəjɪʃ ɒecɑ lɪʃ ɪl ez cj ɑelcɪ ɥəəlcɪ. お客様のお部屋に入らせていただきました。

ɪn,lʃɑ 女性不定冠詞、ɒcnɑcʅɪɪnʃe lɪn,lʃl.lcʅ

ɪn,ljʅ ʃ ɪɪuɔ.ʅ

ɪn,ɪlʃ ɔn

ɪnʃ ［代詞］私のもの、私の ［レベル］1 1ʟ:ɪn/ʃəl ないし ɪn/ɪl。ɪl は古 ［語法］ 漢然と ɪnʃ と言った場合、「私のもの」あるいは「私がしたこと」などの意味になる。後者は日本語にない用法なので忘れないよう注意。 ［用例］ ʃə eʃ ɪnʃ. これは私のだ。 ɪɒel ɪnʃ 私の妹

ɪnʃɥə ［代詞］［ləɑq.］ʃɥə ［レベル］2 μɑ;/ ʃʃ ［文化］ ləɒcμ

ɪnʃμcʅɔ ［魔法］幽体離脱 ［類義語］jeleeu ［レベル］4 ʃʃ:ɪl/ʃμcʅɔ ［文化］ 背中から幽体が剥がれるとこちらでは考えられている。

ɪnʃɪ,ɪlʃ ɪɪʃɪ ɪn/ʃɪ

ɪnʃɪʃe ［丁寧］叔父様 ［レベル］3 ʃʃ

ɪnʃc ガールフレンド、カノジョ候補 ［レベル］3 1ʟ:μcɑɔɪ:ɪlʃcɪn → ɪlʃc → ɪnʃc（ɪnlc と合わせた結果） ［文化］ ɪnlc ［用例］ ɪn nɪʃ ɒɥəlɪ ɒɪn ɪnʃc en ləni. ガールフレンドが来なかったのでがっかりした。

ɪnʃcj ［名詞］文化 ［類義語］jɪnsel ［反意語］ɪnʃcj ［レベル］3 古 :ɪn（私）と ʃcj（貴方）が作るものの意 ［語法］ ʅcμj, jɪnsel ［用例］ ɪnʃcj lɔz {ʃcl ʅɔ}ʅɪ μɪʃ. 文化は混ざるとバランスがよくなる（jeμen ɪμbɪzɪμɑ）：風土によって傾いているところを矯正できるため良くなる。例えば分かりやすく食で考えてみると、和食は塩分が多いのが良くない。また、タンパク質が少ない傾向にある。外食文化と融合させるとバランス良くなる。これと同じこと。 ʃə eʃ hɪɔ lel μjcc lɪ ɪlɪ ɪɔʅc ɪl ʃɔʃɪl ɪnʃcj. ʃɪl lə ɥəʃɪ ɑɔnl ʃəəj cl. lə ɥəʅc lɪɑ lej nɔj ɥəʅc ɪl. 支配者はあらゆる文化を理解できるべきだが、全てを受け入れるわけではない。拒むところはしっかり拒む必要がある。

ɪnʃcjʃ ［哲学］エミック、エミックな、イーミック、イーミックな ［反意語］ʅcμjeʃ ［レベル］6 ul ;ɪnʃcj/ʃe ʃʃ ［語法］ ʅcμjeʃ

ɪnʃcɟɟe ［文末純詞］［ɹenʃe］［丁寧］ʃcɟɟe ［レベル］2 ɟ0:ˀɔccɥ ［文化］ɪn(ʔ)

ɪnʃcɟɟen ［文末純詞］［ɹɛn˥］［丁寧］ʃcɟɟen ［レベル］2 ɟ1:ˀɔccɥß ［文化］ɪn(ʔ)

ɪnʃcɟɔɪ ［丁寧］［感動詞］おめでとうございます ［レベル］2 ɟʲ

ɪnʃcɟɔɔnɔ ［丁寧］［感動詞］ご機嫌いかが、ご機嫌いかがですか ［レベル］2 ɟʲ

ɪnʃcɟee ［文末純詞］［丁寧］ʃcɟee ［レベル］2 ɟ0:ˀɔccɥ ［文化］ɪn(ʔ)

ɪnʃce ［電算］ＨＴＭＬ、アンティエ ［レベル］6 ɪl;ɪl/ʃceʃɥen.lcʲ ɟʲʲ

ɪnʃɔ ［生物］下腿 ［反意語］ʃɔʃ˥ ［レベル］2 ɟɟ:ɪl/ʃɔʃ˥

ɪnʃɔɔɪ ［美容］トワレ、オードトワレ ［レベル］3 ɟ˥

ɪnʃe ［組み数字］９／１４ ［レベル］4 先：語源不詳

ɪnʃeɟ ［代詞］私たちのもの、私たちの ［レベル］1 ɟL:ɪnʃ/ɟe ［用例］cɒ ɯɟʃe, ɑeeɒ ɭəʃ "ʃə ɑcɪ eʃ ɪnʃeɟʲ" ヴァステ戦争で、悪魔は「この世界は我らのものだ」と述べた。

ɪnʃeɟ˥ɪɑ ［地球の国名］バヌアツ ɟL: 国名がわれわれの土地

ɪnʃeɥ ［文末純詞］［丁寧］ʃeɥ ［レベル］2 ɟ0:ˀɔccɥ ［文化］ɪn(ʔ)

ɪnʃel ［政治］絶対の正義、公序 ［反意語］leɒɪnʃ ［レベル］4 ɥɑ:lccɜɪ;ɪnʃe.ˀ ɟL: 古？：ɪnʃe ［文化］リーザが始めたポストで、すべての最終決定権を持つポスト。中立で有能だったアンテを就任させた。初代アンテが就任して以降、万年空位。やがてミロクがそのポストに就く。　ミロクはあらゆる決断の最終決定者で、融資だろうが選挙だろうが法律だろうが、そのすべてを覆す権限を持つ。　その後 ls でセレンら独裁者側の人間が定義した正義を ɪnʃel と呼ぶようになり、セレンらはその データをミールに入れ、レスティミールに反映させた。　セレンらはミロクと違い司民制を取り入れており、その一環として絶対の正義である ɪnʃel の他に相対の正義である leɒɪnʃ という概念を打ち立てた。　相対の正義は国民一人ひとりがミールに自分の思う正義を投票などの形で伝え、性別、世代、階層、居住地などごとにミールが形成し、最終的に国民全体の正義感としてバランスの取れた形に仕上げる。　ミールは相対の正義を作り、絶対の正義を勘案して、最終的な国の正義感を形成し、レスティミールに引き渡す。　・高尚と低俗ーー革命で定められた絶対の正義　セレンが定めた絶対の正義とは、「アルバザードを世界一の強国でいさせるために利することは善であり、害することは悪である」という内容であった。　セレンは学問と徳育を最重要視し、高尚なものと定めた。一方サブカルなどを低俗と定めた。低俗なものを排他はしないものの、高尚なものが低俗なものより高位に立ち、羨望され認められ、優先される。そういう世の中を是とした。なぜか。　今の日本で「高尚なものが善で低俗なものは社会の害悪だから常に高尚なものの下にいろ。せせこましくしていろ」と言おうものなら避難を浴びる。戦前や戦後、セレンの親世代はまだ「末は学者か大臣か」という言葉が残っていたのに、平成になってすっかり学者のほうはダメになってしまった。　セレンのように出版業界に詳しかったりすると、２０年前の読者と今の読者を比べて読者の知的レベルが落ちていることを実感しているし、教師歴も長いので中学生の知的レベルの低下も実際に長いスパンで見聞している。今の日本人の知的水準がここまで落ちたのは、低俗なものがはびこって高尚なものを尊敬する念が薄れたからというのが理由のひとつだが、多くの愚かな国民はそのことに気付いていないし、こうして啓蒙してもすっかり低俗脳に毒されていて、間違えを悔い改めることができない。　一人ひとりがそうやって高尚なもの、学問などを軽視していくと、何年もそれが累積していくうちに他国に追い越されてしまう。だから日本は亡国の一途なのだ。　ls のセレンは低俗なものがはびこって高尚なものが蔑ろにされる世の中が続けばアルバザードはいずれルティアなどに追い抜かれると危惧していた。そこで高尚なものの地位を高め、低俗なものは余暇程度にせよと社会に命じた。この結果、アルバザードは高い知的水準を維持することができ、国力の維持に繋がった。　今の日本人はこの重要性が分かっていない。東大生や医者ですら、学問や芸術などの高尚なものが上であるということを素直に認めず、低俗なものに走る。こんな連中が世の中を牛耳っていては、国は滅ぶ一方だ。だから日本はアルバザードはおろかアメリカにすらなれないのだ。　セレンの言っていることは至極まっとうだ。高尚なものは学問などであって、娯楽は低俗に振り分けられる。ようは勉強が高尚で遊びが低俗だ。で、考えてもみろ。勉強しないで遊んでばかりの国と、勉強をしっかりしている国が競争したら、何十年後どちらの国が発展するか。当然科学技術も文芸も、学問を疎かにしなかったほうが勝つ。努力は人を裏切らない。　高尚と低俗の話は要するにそういうことなのだ。勉強と遊びと同じ関係なのだ。要するにセレンは「勉強しなさい。遊びはほどほどに」と言っているだけなのだ。これの何が分からない？小さい頃親や教師にさんざん言われたことだろう？分からないはずがなかろう。これの何が賛同できない？この絶対の正義に賛同しない人間は国力を衰退させ国を悪くする害虫だ。こういう国益に反する害獣は積極的に排他すべきである。　セレンは革命でそれを行い、低俗なものばかり、つまり遊んでばかりの人間を糾弾した。それでこそアルバザードの優位性が保たれたのである。当たり前だろう、一生懸命勉強した人間に遊んでたキリギリスが勝てるはずがないのだ。

ɪnʃelcl ［化学］ジスプロシウム ɟΔ: 制

ɪnʃe lɔlɔɟ ［人名］アンテ＝ロロス ［レベル］4 先：語源不詳 ［文化］第４期３代アルシェ第９使徒にして第４期４代アルシェ第８使徒ラルドゥラの実父。

ɪnʃeleʃ ［代詞］［ɹɔɥ:］ʃeleʃ ［レベル］2 ɥɑ;/ ɟʲ ［文化］ləɒcɥ

ɪnʃeləl ［代詞］［ɹɔɥ:］ʃeləl ［レベル］2 ɥɑ;/ ɟʲ ［文化］ləɒcɥ

ɪnʃeɔ ［感動詞］私が悪かった ［動詞］ɥəl に謝罪する、謝罪する、謝る、あやまる、詫びる、わびる、侘びる ［レベル］2 ɟL:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ: 古：ɪnɑeʃeɔ。ɑe が肯定の繋辞だったが、今では逆意なので、ɑe を取った。 ［語法］ → ɑɪnʃ ɑɪnʃɪnʃ には Ｉ’Ｍ，ＳＯＲＲＹのように「悪い目に合わせてすまなかったね、かわいそうに。それにしても運が悪かったね」というニュアンスがあるが、ɪnʃeɔ は「私が悪く、責任は全て私にある。あなたは被害者だ」というニュアンスを持つ。事態の大小は問わない。よほど自分が悪いと思わなければこの謝罪は言わない。フランス人がデゾレと言うくらい頻度が低い。

ɪnʃeeɥe ［丁寧］［感動詞］ʃeeɥe ［レベル］2 ɥɑ;/ ɟʲ

ɪnʃəʃə ［代詞］［ɹɔɥ:］ʃəʃə ［レベル］2 ɥɑ;/ ɟʲ ［文化］ləɒcɥ

ɪnʃəʃəl ［代詞］［ɹɔɥ:］ʃəʃəl ［レベル］2 ɥɑ;/ ɟʲ ［文化］ləɒcɥ

ɪnʃəɪ ［丁寧］［感動詞］どうぞ、はいどうぞ ［レベル］2 ɥɑ;/ ɟʲ

ɪnʃəɪn ［代詞］［ɹɔɥ:］ʃəɪn ［レベル］2 ɥɑ;/ ɟʲ ［文化］ləɒcɥ

ɪnʃ ［形容詞］可愛い ［類義語］ɥəəɥə、jclɑccɥə、ɥəlcɪnʃ、hɪʃcɪnʃ ［反意語］ɪzcn ［レベル］2 ʔ ← 古：ɥənʃ（かわいい） ［語法］その対象を守ってあげたくなる気持ちにさせる性質のことを指す。また、その物が庇護の対象として好ましく思え、自分の身近に置きたいと思う気持ちも指す。従って動物だけでなく物にも使える。　人間相手に使う場合、通常年上の男性が年下の女性に抱く感情であり、その逆は場合によっては失礼に受け取られる。男が女を守るものという考えが nɑ 以降一般的なので、女が男を可愛いと言うと場合によっては見くびっているように感じられる。日本語や英語の感覚で「可愛い」とか「ｃｕｔｅ」と言うつもりで ɪnʃ と男性に言うと見くびられてると感じて不快がられるリスクがある。母性本能全開で気弱になっている男性やツッパって無理している男性を精神的に庇護するという意味で ɪnʃ というのはかろうじてアリである。使い所が難しいので状況を間違えると怒られる。　男が女に言う場合、同年代から目下に使うのがふつう。目上には使いづらい。男の言う可愛いはしばしば見た目重視であり、性格は二の次である。女の言う可愛いは性格重視で見た目は二の次である。男が女を可愛いという場合、ふつうは見た目のことを言っているのであり、顔が幼くて整っており、体も幼くて小柄で子供っぽいことを指す。顔が整っていて大人びていれば、またスタイルが良ければ可愛いではなく lɪnʃ になる。具体的に言えばリディアは ɪnʃ でフルミネアは lɪnʃ である。位相的に言えば pclɑɪ は ɪnʃ で ɥənʃ は lɪnʃ であることが多い。　なお、性別を度外視すると、一般に目上の人間が目下の人間を庇護したいと思う際に ɪnʃ と言える。可愛い赤ん坊や可愛い後輩というような用法が可能である。　動物は人間より目下に見られているため、男女問わず ɪnʃ と言える。ただしふつうは庇護の対象となるような小型の動物に限られる。虫はアルバザード人はふつう嫌うので、可愛い虫という言い方はふつうしない。言えないこともないが、変人だと思われる。　物に使う場合、可愛い人形のような分かりやすい例だけでなく、可愛い消しゴムなど無機物性の高いものにも使える。しかしこの用法は女性的で、男性はしない。男性は可愛い人形とは言っても可愛い机だの可愛い鉛筆だの可愛い消しゴムだのという言い方は男らしくないとして好まない。　⊠⊠⊠の直訳は ɪnʃ で⊠⊠⊠の直訳は lɪnʃ だが、実際語法を見ると ɪnʃ は⊠⊠⊠と⊠⊠⊠の両方をカバーし、lɪnʃ は⊠⊠⊠が表す範囲の一部をカバーする。　ɪzcn は ɪnʃ の逆で、そういう庇護の感情が本来湧いてもおかしくない相手のことを気に食わないと思い邪険に思う気持ちのことである。　従って ɪnʃ と同じく基本的に目上が目下に使う言葉である。 ［成句］ɪnʃ ɥəʃ pcn 女が言う可愛い：眉唾。信じてはいけないものの喩え。女の言う「あの子可愛いから！」ほど信用できないものはないことから。 ［用例］ɑcɪn ɪnʃ 可愛い女の子 ʃəəbe jeɥφɑɪj eʃ ɪnʃ ɥəʃ pcn ɑɪ。そんな儲け話は眉唾に決まっている。

ɪnʃnɔʃ ［名詞］アンクノット ［アクセント］ɪnʃnɔʃ ［レベル］5 古：元 ɪnʃənɔʃe(私は言います (ɪnʃə)。聞こえますか ß(nɔʃe)) 初期～中期はアンシャンテを意味することもあった。中期アルカのころに ɪnʃənɔʃ に語形が変わり、それと共にアンシャンテ内の個人掲示板を指すようになった、やがてアンクノット内に保管された機密事項からの推移で、ラシェットの機密文書を指すようになった。制アルカでは ɪnʃnɔʃ はアシェットが引き継いだラシェットの公文書を指す。 ［文化］アシェットの機密文書。ラシェットから引き継いだ。初代アルシェやソーンについての記述があり、常に勝ち組によって内容が書き換えられてきた。翻訳を重ねたため、原語は不明。古アルカに翻訳したのはリーザであるが、何語から翻訳されたかは機密事項で、目下のところリーザ本人しか知らないとされている　。神話においては、新生ではアルヴァから外され、ɥɑ およびカコ中に秘密文書として出るのみ。

ɪnʃbeu ［言語］指小辞 ［レベル］6 ɟ0 ［語法］指小辞は古アルカでは語末に n を付けるのが一番多いパターンであった。　n を付けるという原理は変わらないが、それ以外の部分で変動が激しかった。　新生の一時期、末子音によって –ɪn、–cn、–ɔn、–en、ən と様々な変化をする体系ができたこともある。　ɟ0_ɟʲ 年までは開音節には n、閉音節には ɪn を付けることなったが、実態は nɥɪn や jɥɪn や ʃɪn などが多用され、理論が現実に追いついていなかった。　ɟʲ になると再び体系化された。この頃の特徴は、指小辞が n を中心とする nɥɪn, ʃlɪn, lcn, dɔn など、各個別の接尾辞に収束していた点である。以下に指小辞のシステムを述べる。　・nɥɪn　古い指小辞の ɪn を猫の鳴き声の nɥɪn に模したもの。「～たん」、「～にゃん」に相当する。　開音節の場合はそのまま付ける。lcɪ → lcɪnɥɪn（しあにゃん）など。　閉音節の場合もそのまま付ける。ˀɒccɥnɥɪn（クミールにゃん）, ɒelnɥɪn（メルにゃん）など。　n で終わる場合は ɥɪn になる。dɔen → dɔenɥɪn（ポエにゃん）。　ennɪ は ennɪnɥɪn とも ennɥɪn（エンにゃん）とも呼ばれる。後者のほうが言いやすいので音が詰まっている。　・ʃlɪn　ɟʲ ごろまで使われていた ʃɪn と敬称の jɪn がくっつく音が変化したもの。jɥɪn より音がココロコロしている。「～ちゃん」に相当する。　ʃɪn が滅んだのは「～も」を意味する ʃɪn とバッティングしたため。このバッティングにより、実際に ʃɪn が付けられていたのは ɥəlʃɪn と ɒelʃɪn しかなかった。しかも前者は ɥəlʃʃɪn ではなかったし、実際にはしばしば ɥəəʃlɪn と呼ばれていた。ʃlɪn は ɟʲ 以前に既に使われていた形跡がある。　開音節の場合はそのまま付ける。pɥəə → pɥəəʃlɪn など。　閉音節の場合もそのまま付ける。φclʃlɪn, ɒelʃlɪn など。メルは慣例として ɒelʃɪn と呼ばれることがある。　「で終わる場合は ʃlɪn か lɪn になる。語呂の良いほうが選ばれる。ɥəlʃ → ɥəlʃlɪn。ただしユルトの場合は慣例として ɥəəʃɪn や ɥəəʃlɪn と呼ばれることが多い。　・lcn　lcɒc（美しい）と指小辞の n が合わさってできたと思われるもの。綺麗なものを可愛く言うとき使う様子。　ɒel → ɒellcn（メルりん）　・dɔn　小柄で丸っこいものを示す指小辞。　ɥəlʃ → ɥəldɔn（ユルぽん）　・jɥɪn　敬称の jɪn と nɥɪn が混じってできた指小辞で、ʃlɪn より舌足らずな感じがする。　j, z, l, s で終わる単語の末子音を取って jɥɪn を付ける。実際の発音は話者の癖や気分次第で、jɥɪn になることもあれば lɪn になることもある。　ɪlcj → ɪlcjɥɪn（アリしゃん）など。　なお、指小辞は jɪn 同様、一般名詞にも使うことができる。 ˀleʃ jɪn（ねこさん）、ˀleʃnɥɪn（ねこにゃん）、ˀleʃʃlɪn（ねこちゃん）、ˀleʃjɥɪn（ねこちゃん）などのように。

ɪnʃɥ ［電算］アンクル ɥɑ:pɥəə; リュウが命名したプログラムの名前で、hɥ 起源なので nʃɥ という三重子音になっている。ɪnʃɥ は hɥ で μɪφɥ のこと。　古：pɥəə

ɪnʃlcj ［形容詞］小さくて可愛い ［レベル］4 ɟ˥

ɪnʃlcz ［被服］シュミーズ、スリップ ［レベル］4 ɥɑ;ɪl/ʃlccz。クリスら女子が男子を誘惑する効率の良い服を考えて作った下着。非常に効果があった。　ɟ˥

ɪnʃleʃ ［言語］アンクレット ［類義語］ɪʃlueʃ ［レベル］4 ɟ0: 古 bɥɪʃlɪl/ueʃ（跡のある語） ［語法］合成、複合、混成（痕跡 (ɪʃlueʃ)）の総称。

ɪnʃɪ ［名詞］地元 ［形容詞］地元の、ローカルの ［医療］原発性 ［反意語］lɪʃɪ ［レベル］3 ɟL:ɪn/ʃɪ ［用例］ʃɪə ʃɪ ɪʃe ɪnʃɪ 地元の店で買う

ɪnʃɪn ［南方］［格詞］leɑ, ucɑ, ʃɪʃʃɪ ［レベル］3 ɟ1:ɪn(en)/ʃoɪn

ɪnʃɪləɪ ［被服］トリコーン ɟɒ;ɪl/ʃɪləɪlcɔb ɟʲʲ ［文化］ɟɒ でできた、陸軍士官用の帽子。

ɪnʃɔ ［単位］アンコ ［名詞］升、マス、アンコ升 ［レベル］3 ɟ1:ɪl/ 古 ʃɔue「蓋のない箱」 ［文化］升と同時に単位の名。ʃɒ で中立的なユーマを eləɪ と ɥəɑcj の単位に用いた神々であったが、その後ユーマが成長し、原器が破壊されたときに作り直せなくなるという問題を抱えた。大人の神は老いも成長もしないので度量衡にはうってつけであったが、ユーマ以外の人物では不公平を解消できないという問題があった。　また、ユーマにせよ神にせよほぼ不老不死だが殺されれば死ぬという問題があった。そこで確実に不老不死な存在としてルノに白羽の矢が立った。eləɪ と ɥəɑcj は既に原器を作って使用していたため、継続することとした。　より小さな長さがほしかったため、神々はルノの右手の長さ（１８．６ｃｍ）を ləɒcɔn とした。次に容積の単位を求めた神々はマスを作成した。内のりは縦横１８．６で、深さがその１．６１８分の１の１１．４９５≒１１．５ｃｍとし、これを ɪnʃɔ とした。（なお、地球でも度量衡は一般に長さ、容積、重さの順で発展する）　ɪnʃɔ ≒３９７８．５４ｃｍ３≒４リットル　1/10 ɪnʃɔ = cɛʃɔ ≒０．４リットル　1/10 cɛʃɔ = ˀləəɑ ≒４０ミリリットル　10 ɪnʃɔ = 1 ʃɪɒɪn ≒４０リットル　10 ʃɪɒɪn = 1 zɪnφe ≒４００リットル　10 zɪnφe = 1 ɒelɑe ≒４０００リットル　次にルノの体重約５０ｋｇを ləɒcn とし、重さの単位に採用した。　1/10 ləɒcn = 1 bɥəlɔn = 約５ｋｇ　1/10 bɥəlɔn = 1 ulɪn = 約０．５ｋｇ　ˀ ulɪn = 1 cɔn = 約１ｋｇ

ɪnʃɔʃ ［文末純詞］［丁寧］ʃɔʃ ［レベル］2 ɟ0:ˀɔccɥ ［文化］ɪn(ʔ)

ɪnʃɔdel ［音楽］和音 ［レベル］4 ɟ1:ɪl/ʃɔdleʃ

ɪnʃɔzəe,ɪlʃ ɑcɪcn。古形は ɪlʃɔzəe だが、子音単体の l が発音されなくなって n に変わったため。 ɪn/ʃɔzəe

ɪnʃɔleʃ ［代詞］［ɹɔɥ:］ʃɔleʃ ［レベル］2 ɥɑ;/ ɟʲ ［文化］ləɒcɥ

ɪnʃleʃ ［アイテム］スティレット、アンケット ［レベル］4 ɟɟ:ɪl/ʃleeʃ ［文化］時魔道士の武器。ɟɒ のケートイアで考案された。対アーマー用に作られた。接近戦で用いる。

ɪnʃeʃ˥ɔ ［丁寧］［感動詞］ようこそいらっしゃいました ［レベル］2 ɟʲ

ɪnʃl ［動詞］ɥəl を lel という名で呼ぶ、呼ぶ ［レベル］2 ˀlɒ: 制：恣意　参考：古：nee ［語法］呼びつける、来させるの意味ではない。 ［文化］ɪdʃ ［用例］ɪnʃl nɔɟ lel ʃ ʃ と名乗る el ɪnʃ μc ɑcɪ lel ɥəʃcɪ。リディアはユティアと呼ばれる。

ɪnʃʃcnɪ ［地学］［歴史］カリミアン ɟɟ;/ ɟʲ ［文化］φɪɪueɑeɒe

ɪnʃɪ ［単位］デカ ［レベル］3 ɟ1:ɪnʃɪnʃ

ɪnʃɪ(ɟ) ［文末純詞］［丁寧］ʃɪ ［レベル］2 ɥɑ;/ ɟʲ ［用例］oɪɪ, ʃɪn ɪnʃɪˀ sɪn eʃ ʃɪnʃ cɒ ʃəɥ ɪnne. dcn ʃɪnʃ eʃ ɔɔɥʃ ʃcnʃɪ. わぁ、本当ですね！　今、空が綺麗でした。外すごく寒いですけど。

ɪnʃʃʃɪ ［文末純詞］［dcˀɔ］［丁寧］ʃɔʃ ［レベル］2 ɟɟ

ɪnʃɪn ［文末純詞］［丁寧］ʃɪn ［レベル］2 ɥɑ;/ ɟʲ

ɪnʃɪnʃ ［歳時記］立春 ［名詞］１時 ［組み数字］１／２４ ［レベル］3 ɟ0: → ɪnʃcɪn ［文化］ɪnʃcɪn

ɪnʃɪnʃe ［魔法］［工学］アンシャンテ ［レベル］4 ɒelʃcɪ ˀlˀ0:beɥʃ:ɪl/ʃɪnʃe 古：私 (ɪn) に答えてくれ (ʃɪnʃe) ［文化］ɟɟ まではɪnʃɪnʃe というと現 lɪnʃɪnʃe の意味→ lɪnʃɪnʃe　アンセに搭載された通信機のこと。ɪnʃɪnʃe は元々魔力で情報を通信するものだったが、魔力を失ったレイユの時代に開発された新型通信機が ɪnʃɪnʃe の名になり、今までの魔法は lɪnʃɪnʃe と呼ばれるようになった。　現実にはリュウが改良したアルシェ・ソーン及びアシェットの通信機を指す。　ɒelʃcɪ ˀlˀ0 ［言語］［魔法］ベルトが ɪnʃɪnʃe を開発→ ɪnʃɪnʃe

ɪnʃɪnʃe(ɟ) ［丁寧］［感動詞］あのう、あの、すみません、どうもすみません、お尋ねしてもよろしいですか、ちょっとよろしいですか ［類義語］ʃɪnʃe ［レベル］2 ɥɑ;ɪn/ʃɪnʃe ɟʲ

ɪnʃɪz ［名詞］臨界点 ［レベル］5 ɟ1:ɪl/ʃɪz

ɪnʃɪl ［地名］アンシャル ［レベル］2 ɑu;e 古：ɪnʃɪl は古では ɪnʃɪl と ɪnʃcl の区別がないので西洋も表わしていた。幼少時リディアはこの地域に住んでいたため、西洋を「ɪn(私)/ʃɪl(存在)」という語源。即ち「私がいるところ」という原義で名付けた。対になる cnɟɪl には ɪnʃɪl の対となるようにきちんと ɪɪ という長音が含まれている。 ［文化］アルカット大陸西部。メティオ以西。アルバザードが含まれる。

ɪnʃɪlɑcɪ ［音楽］星歌、アンシャルディア ［レベル］3 ɥɑ;ɪn/ʃɪl/ɑcɪ か ɪnʃɪl/ɑcɪ かで議論が分かれた単語。作詞作曲をしたセレンがこの歌にこの名を付けて広めたが、語源については黙秘した。そのため、民間の間では様々な憶測が飛び交っている。左記２案のうちのいずれかであろうと予測されているが、真偽の程は定かではない。前者の場合、「私は夢に留まる」と解釈でき、後者の場合「アンシャル地方の夢」と解釈できる。どちらも語源を確定できるほどの原義ではない。μʃ 以降優勢な解釈は ɑcɪ を μcɑcɪ と捉えたもので、「私はリディアと共にある」である。この解釈は μɑ でセレンとリディアが死なずにアルカディアへ渡り、その後転生す

るというアルティス教の教義を支えるものであるため、革命後に再度支持された。 JJ [文化] アトラスの歌。国歌が星規模になったもの。μɑ でセレンが作り、広めた。アルカを広めるのは難しいしそのつもりもなかったが、音楽は民族を越えると知っていたセレンは、ユーマの一族の悪魔に対する結束力を高めるためにこの歌を作った。アルカを知らない辺境の地でも、この歌の歌詞だけは知っているという人が多い。ただし、ご当地なりの発音ではあるが。 各国語の翻訳版が作られたのは nɑ 以降。しかし結束力を削ぐという意味で嫌われる傾向にあった。また、翻訳版を歌うくらいなら各国の国歌を歌ったほうが民族のアイデンティティを象徴できるという理由もあった。 アルティス教では聖歌に認定され、革命後も星歌として再評価された。ただし、革命時はむしろ「ミロクのドグマ」を万国に流布させるのに必要だった「星規模の結束力」を養うために利用された。もっとも、表向きは「世界平和の歌」というテーマで広められており、現在では義務教育の初頭段階である jleı で覚えさせられる。 地球に万国公認の星歌がないのは恐らく地球外生命体との戦争がなかったからだろう。

ınlılbel [料理] アンシャル料理 [レベル] 3 1L:ɥcɑcı:ıɥbılelſ [文化] 薄味で塩気が少ない。麦中心の料理で、品目は少ない。

ınlılcı [医療] 西洋薬 [反意語] cnɟılcı [レベル] 3 J0:ınlıl

ınlc ボーイフレンド、彼氏候補 [レベル] 3 1L:ɥcɑcı:ıllccı → ıllc → ınlc（l はしの前で舌先がくっつかなくなるため、変音しやすい） [文化] 彼氏候補。夢織で言うとカナンはこれの一歩手前。最終的には ınlc を経て lccı 手前まで行ったが。 アルバザード人は ınlc ないし ınſc を複数人持つ。恋人として付き合うまでに３年はかけるため、できるだけ多くの異性をキープしておき、その中から互いにとって最も相性がいいものを選ぶ（当然片思いに終わることもある）。恋人候補を最初にゲットしなければならないので、学校では男女が別になっていることは少なく、男女入り乱れて仲良く過ごしている。男子グループ・女子グループというような区別はあまりない。 ただし μɑ においてはそうではなく、アルシェは男女で別々に固まっていた。他方、ソーンは男女入り混じっていたので、同じ時代でも異なりがある。

ınlcɑcı [丁寧] [感動詞] おやすみなさい [レベル] 2 JJ

ınlcɥə [丁寧] [感動詞] lcɥə、了解しました、分かりました、わかりました、了解いたしました、了解致しました、かしこまりました、承知しました、承知いたしました、承知致しました [レベル] 2 μɑ;/ JJ

ınlcl [ユマナ] ヨーロッパ、西洋、西欧 [レベル] 3 1L:ınlıl

ınlclɔlſ [ユマナ] [経済] ユーロ [レベル] 3 JJ

ınlclbel [ユマナ] [料理] 洋食、西洋料理 [レベル] 3 1L

ınlclleɒ [ユマナ] [音楽] 洋楽 [レベル] 4 JI

ınlcɪn [歳時記] 節気、二十四節気 [組み数字] ２４ [レベル] 4 J0:ıμlcel [文化] zφ で２４節気ができる。五日で一候（scnı）、三候で一気（ɟıdlc）、二気ないし六候で一月（feeze）、三月で一季（lıllfe）、四季で一年（ɟıllſ）。 日が経つにつれ空模様が変わり、空気が変わり、風の冷たさが変わり、自然の様相が変わることから来ている。 初秋・仲秋・晩秋はそれぞれ複合語で、ɑcınılcɟ, lızılcɟ, ɒınılcɟ。初夏なども同様のネーミング。（ただし春は立春でなく春分から始まる） ２４節気から７２節気を作る初候、次候、末候はそれぞれ lənıɟıdlc, lılɟıdlc, leeuɟıdlc。四季神同様、擬人化されている。 ２４節気は zφ では春六気（春分～芒種）までが女神の名に頭、首、胸、腹、腿、足を足したもので表された。 例えば春分はアシュテの頭で ıl（feɩɔ となり、若干殺伐としていた。 日本では立春といってもまだ寒く、春といわれてもピンと来ない。 アルバザードは緯度が高く、春も立春でなく春分から始まるため、節気と季節感が一致している。 μɑ でようやく文化的に成熟し、季節の花の名を用いて表現されるようになった。 この花は当時のアルバザードでその時期に見るのが良いとされたもので、それを元にアシュットが造語した。 例えば１月は ocnſeμ sıμɒcn が選ばれているが、この花は１２－４月まで咲く。このうち当時のアルバザードで見ごろとされたのが１月であるため、この時期の大寒に選ばれている。 なお、μɑ なので既に外来種が輸入されている時代であり、その点も考慮したい。 蓮の見所は大暑前後も含むが、大暑になっているのは暑い時期なので水辺にという気遣いから。このように、このリストは単なる見ごろだけで決められていない。 また、ハイビスカスのように熱帯をイメージするという理由で立秋（８月上旬）に来ているものもある。 春は春分から始まるが、組み数字としては節気は立春（冬）から始まる。これはアシェットが節気をまとめたときに、編集者であるセレンが暫定的に自分の誕生日（＝立春）を起点に計算していたため。のちに春分から始めるつもりでいたが暫定案で定着してしまい、その後もズレが残ったままになっている。 ２４節気はそれぞれ起点となる日付が天文学的に決定するため、毎年同じ日になるとは限らない。日本でも春分の日が一定でないことを思い出すと良い。ただおおよその目安として例えば立春は２月４日ごろというものがある。下記にそれぞれの節気の目安を記載する。lcɟſcnı 図鑑の歳時記の項もこの目安を用いる。 立春 (ınlınſ, ｐ ｒ ｉ ｍ ｕ ｌ ａ、プリムラ) ２月４日 雨水 (ɑcnφen, ｕ ｍ ｅ、梅) ２月１９日 啓蟄 (befcın, ｃ ａ ｍ ｅ ｌ ｌ ｉ ａ、椿) ３月６日 春分 (ɑcılef, ｐ ｅ ａ ｃ ｈ、桃) ３月２１日 清明 (lcɑcın, ｐ ｌ ｕ ｍ、李) ４月５日 穀雨 (ìllcɒ, ｒ ａ ｐ ｅ ｂ ｌ ｏ ｓ ｓ ｏ ｍ ｓ、菜の花) ４月２０日 立夏 (lìebcſ, ｃ ｌ ｅ ｍ ａ ｔ ｉ ｓ、クレマチス) ５月６日 小満 (ıμɑcın əɟ, ｌ ｉ ｌ ｙ ｏ ｆ ｔ ｈ ｅ ｖ ａ ｌ ｌ ｅ ｙ、鈴蘭) ５月２１日 芒種 (aelceμ, ｒ ｏ ｓ ｅ、薔薇) ６月６日 夏至 (jebcın, ｈ ｙ ｄ ｒ ａ ｎ ｇ ｅ ａ、紫陽花) ６月２１日 小暑 (lbcclcı, ｌ ａ ｖ ｅ ｎ ｄ ｅ ｒ、ラベンダー) ７月７日 大暑 (bcınef, ｌ ｏ ｔ ｕ ｓ、蓮) ７月２３日 立秋 (φıμɑcın, ｈ ｉ ｂ ｉ ｓ ｃ ｕ ｓ、ハイビスカス) ８月７日 処暑 (ɑılcın, ｓ ｕ ｎ ｆ ｌ ｏ ｗ ｅ ｒ、向日葵) ８月２３日 白露 (ɑcnɔɟ, ｃ ｌ ｕ ｓ ｔ ｅ ｒ ａ ｍ ａ ｒ ｙ ｌ ｌ ｉ ｓ、彼岸花) ９月８日 秋分 (ılh ıcɑ, ｓ ａ ｌ ｖ ｉ ａ、サルビア) ９月２３日 寒露 (ɑcihıɑcμ, ｃ ｏ ｓ ｍ ｏ ｓ、秋桜) １０月８日 霜降 (ɑcφʏəμeμ, ｓ ｏ ｌ ｉ ｄ ａ ｇ ｏ ａ ｌ ｔ ｉ ｓ ｓ ｉ ｍ ａ、セイタカアワダチソウ) １０月２３日 立冬 (sınɑcɔμ, ｚ ｅ ｌ ｋ ｏ ｖ ａ、欅) １１月７日 小雪 (oecuıμ, ｍ ａ ｐ ｌ ｅ、楓) １１月２２日 大雪 (jıμbelcı, ｈ ｏ ｌ ｌ ｙ、セイヨウヒイラギ) １２月７日 冬至 (uealcμ, ｐ ｏ ｉ ｎ ｓ ｅ ｔ ｔ ｉ ａ、ポインセチア) １２月２２日 小寒 (elczcın, ｎ ａ ｒ ｃ ｉ ｓ ｓ ｕ ｓ、ナルキッソス、スイセンの一種) １月５日 大寒 (lccſen, ｗ ｉ ｎ ｔ ｅ ｒ ｊ ａ ｓ ｍ ｉ ｎ、ウィンタージャスミン) １月２０日

ınlcın(J) [代詞] [ɒɔɥ] lcın [レベル] 2 μɑ;/ JI [文化] ləɒcμ

ınlcınſ [言語] 時候の挨拶 [レベル] 5 JI:ınlcın/fe

ınlcınſ(J) [代詞] [ɒɔɥ] lcınſ [レベル] 2 μɑ;/ JI [文化] ləɒcμ

ınlcınɒeɒ [組み数字] アンシアンサークル [レベル] 3 JI [文化] μıdıll

ınlcc [文未純詞] [丁寧] [ɥenl] ſəəɥə [類義語] ſəəɥə [レベル] 2 J0:ìbccμ:ın（丁寧）/lccſ [文化] ın(9)

ınlccɒı [文未純詞] [丁寧] [ɒɥe] lccɒı [レベル] 2 μɑ;/ JI

ınlccz [建築] アンシーズ教会 [経済] ５０ソルト玉 [アクセント] ↑ınlccz、ınɟ.ccz [レベル] 2 JI:μcɑcı:ın/lccſ [文化] → ınɑın μſ に建てられた国内最大の教会で、所在地は ıμueſfe。

ınlɔ [感動詞] [μenſe] よいしょ、よっこいしょ [レベル] 2 古 [語法] ìlìɔnlɔ

ınle [代詞] 何か、なにか、なんか [反意語] lenle [レベル] 2 JI: 南方語からの輸入。否定の ın/le

ınleɩef [法律] オレオレ詐欺、おれおれ詐欺 [レベル] 5 ıl;/「俺という詐称」 JI

ınlenɔn [代詞] [ɒɔɥ] lenɔn [レベル] 2 μɑ;/ JI [文化] ləɒcμ

ınlenɔın [代詞] [ɒɔɥ] lenɔın [レベル] 2 μɑ;/ JI [文化] ləɒcμ

ınlel,jzɑ ɑııl ın/jcel

ınleſlın [生物] [医療] 督脈 jzl;/。体の正中線で陽になる側（四足獣時代に日の当たった背中側）であることから「太陽の経」。 JJl

ınlelcj [代詞] [ɒɔɥ] [丁寧] lelcj [レベル] 2 μɑ;/ JI [文化] ləɒcμ

ınlelcen [代詞] [ɒɔɥ] [丁寧] lelcen [レベル] 2 μɑ;/ JI [文化] ləɒcμ

ınj [代詞] 私たち [レベル] 1 1L [語法] 聞き手を含むか含まないかの区別はない。英語や日本語と同じ。

ınj(J) [魔法] エレメント、魔法の要素 [レベル] 4 jzɑ;e x:ınj:lı ınj [文化] 特に基本７属性のうちさらに基本となる水風土火雷のこと。→五行説 (lleuınj)

ınjɩ,lſ nɔl

ınjılcoı [植物] ヤツデ ɒſ;「七つの手」 JJ

ınjınnı [文未純詞] [ɒɥe] [丁寧] jınnı [レベル] 2 μɑ;/ JI

ınjcn [文未純詞] [丁寧] jcn [レベル] 2 J0:ìbccμ [文化] ın(9)

ınjcuın [文未純詞] [dɔ̀lɔ] [丁寧] jec [レベル] 2 JJ

ınjclɑlɛ̀lɔ [丁寧] [感動詞] お気軽に、どうぞ、どうぞどうぞ、ぜひとも、ご自由に、どうぞごじゆうに、どうぞご自由にお取りください [レベル] 3 μɑ;/ JI [文化] → ɒɔφ

ınjccnı [文未純詞] [丁寧] jccnı [レベル] 2 J0:ìbccμ [文化] ın(9)

ınjcelſ [μenſe] [代詞] あちらの方、あの方の、アンシエット→ ləıdcı [アクセント] ınjcElſ [レベル] 2 JJ:ìbccμ;ınjcel/fe

ınjcel [μenſe] [代詞] あちらの方、あの方、あのお方、アンシエール→ ləıdcı [レベル] 2 [アクセント] ınjcEl JJ:ìbccμ;ın（丁寧）/jcel（空→遠くの人→距離をおくことで丁寧さを）

ınjɔlııſ [感動詞] おまたせしました [レベル] 3 μɑ;/ JI

ınjɔı [感動詞] やった、やったー [類義語] hoı [レベル] 2 ſɒ;ın/jɔ/ı「私はしたぞ」 古 :fcjɔı と同原理。 [語法] 自分で努力したことに対して使う。「今日のごはんはハンバーグよ」「やったー」のように自分の行動と関係がない場合の「やったー」には hoı を使う。

ınjɔɔnɔ [丁寧] [感動詞] jɔɔnɔ [レベル] 2 μɑ;/ JI

ınjɔɔnɔɥən [丁寧] [感動詞] jɔɔnɔɥən [レベル] 2 JI

ınje [電算] アンセ [レベル] 2 1L:ınj: 古 :μcɑcı:ınlınſe から [文化] leczen 携帯型万能通信機。テレビ電話もネットも使える。ほとんど腕時計型で、映像は机などに投影できるが、出先でも掌に投影するなど、至れり尽くせりの機能を備えている。機械が嫌いなアルバザード人が好んで使う機械。国民としてのＩＤもアンセに登録されているため、身分証明にもなる。なお、国籍のない者は持っていないので、アンセの有無で身分がすぐに分かる。 ʔL1 アリシアの主導でアンセが開発され、それまでの携帯電話に代わってスマートフォンが普及していく。この時点ではまだ電子ペーパーは普及していない。また、レイゼンに当たるタブレットＰＣもこの頃にはできていたが、やはり電子ペーパーではなく、四つ折り機能などもまだ実装していない 00９ 『紫苑の書』の時代ではまだ腕時計型の端末で、機能は制限されていた。アンセはレイゼンの親機で、ＩＤの代わりとして利用できた。アンセに電子ペーパーは必ずしもなく、ホログラムやプロジェクターの機能はない。音楽再生機能はあるが、スピーカーは骨伝導ではなく貼り付け式でもない。２０１１年における地球と同様。 JJ 『アルディア』開始の時点では貼り付け式のイヤホンが存在し、画面も電子ペーパーになっている。また現金の使用比率も 00９年より減っており、アンセの電子マネーによる決済の比率が増えている。 ・充電 充電は初期の頃は有線でやっていたが、ls には非接触式の充電器に取って代わった。充電は主に寝ている間などに行う。 [用例] eu φcl ıl ınje アンセに金を補充する ınje ıμ clſı アンセが画像を映す clſı ſ'ınje ej ıμ アンセの画像が映っている

ınjefe [文未純詞] [μenſe] [丁寧] jefe [レベル] 2 J0:ìbccμ [文化] ın(9)

ınjenſ [丁寧] [感動詞] jenſ [レベル] 2 JI

ınjenſınſ [丁寧] [感動詞] jenſınſ [レベル] 2 JI

ınjeɒ [代詞] [ɒbeμs] jec [レベル] 1 JJ:ìbccμ:ın leɒ

ınjeφcl [経済] アンセの電子マネー [レベル] 2 1L:μcɑcı:ıμbılelſ [文化] φcl

ınjeμ [植物] アセロラ [電算] アンセル。グーグルＩＭＥに当たる変換システム。 [ユマナ] グーグルＩＭＥ [レベル] 3 nɑ;ıl/jeμɔnɔl | ıl;dce に対し植物で命名された。同時に ın jeμ（私は知っている）の掛詞でもある。 JJ

ınjec [文未純詞] [丁寧] jec [レベル] 2 J0:ìbccμ [文化] ın(9)

ınjeeɥe [丁寧] [感動詞] jeeɥe [レベル] 2 JI

ınjeeɥeſcj [丁寧] [感動詞] jeeɥeſcj [レベル] 2 JI

ınjɒc [植物] ハッサク、八朔、八作 [レベル] 3 jɒ;ılſ JJ

ınnı [医療] アイデンティティ、自己同一性 [レベル] 5 1L:ın/nı（自分の心） [用例] lıl ınnı アイデンティティを保つ

ınnı(J) [文未純詞] [丁寧] ı [レベル] 2 J0:ìbccμ [文化] ın(9)

ınnınnı [文未純詞] [丁寧] nınnı [言葉遊び] これ自体が回文になっている。 [レベル] 2 JI

ınnıə [文未純詞] [μenſe] [丁寧] ıə [レベル] 2 J0:ìbccμ [文化] ın(9)

ınnɔſſe [代詞] [ɒɔɥ] nɔſſe [レベル] 2 μɑ;/ JI [文化] ləɒcμ

ınnɔn [代詞] [ɒɔɥ] nɔn [レベル] 2 μɑ;/ JI [文化] ləɒcμ

ınnɔın [代詞] [ɒɔɥ] nɔın [レベル] 2 μɑ;/ JI [文化] ləɒcμ

ınnɔel [代詞] [ɒɔɥ] nɔel [レベル] 2 μɑ;/ JI [文化] ləɒcμ

ınne [文未純詞] [丁寧] e [レベル] 2 J0:ìbccμ [文化] ın(9)

ınneɥɔ [文未純詞] [ɒdɑ] [丁寧] eɥɔ [レベル] 2 J0:ìbccμ [文化] ın(9)

ınnel [卑語] クリトリス、陰核 [レベル] 4 J0:ìbccμ:ınne ←古 :inne,eμjencd（いやらしい豆）を隠語化して次々語形を変えていった結果、メル・アルカの時点で ınne に落ち着いたもの。J0 に純詞の兼ね合いで ıl が付いて ınnel に。

ınneə [文未純詞] [μenſe] [丁寧] eə [レベル] 2 J0:ìbccμ [文化] ın(9)

ınu [名詞] ペットボトル、プラスチックボトル [化学] ポリエチレンテレフタレート（ボトルでなく物質として） [レベル] 2 1ſl: 制 :inzuıel(プラスチックのボトル)

ınuınſ [丁寧] [感動詞] uınſ [レベル] 2 JI

ınuınſınſ [丁寧] [感動詞] uınſınſ [レベル] 2 JI

ınuɔμſ [歴史] アンヴォルト、死柩 [レベル] 3 JI:ıl/uɔμſ [文化] ディミニオンによる大規模な攻撃や被災のことを指す。lıbuɔμſ と μıueluɔμſ が有名。

ınueμ [名詞] 呪い、怨念、恨み、怨み、怨霊、邪念、復讐心。ılɑeμſ の同義語 [医療] 機能障害、～症、症、障害、不定愁訴 [魔法] アンヴェル。闇の古代魔法。呪いの力で敵を殺す魔法。敵を憎む意思の強さが敵の生命力よりも強ければ、敵は数分で死に到る。アシェットでの使用者はメルのみ。効果としては、敵はあらゆる憎悪を魔導師から受け、大きなストレスを受ける。そのストレスに耐えかねたものが、極度のストレスにより死亡する。 [レベル] 3 古 :μcɑcı:nı/uıμıe から [成句] ınueμ ʃɔe uın lı ſjeſſın. 怨念は裏切り者を刺し殺す： 雨垂れ石を穿つ、念力岩をも通す [用例] deɑ ınueμ 恨みを晴らす μìl ınueμ 恨みを乗り越える。仕返しせずに消化させること。

ınueμſ [形容詞] 未病な、不定愁訴を感じる、不健康な、不健全な [医療] 未病、不定愁訴 [魔法] 忌憑 [魔法] [形容詞] 悪魔に憑り付かれた [レベル] 4 J0:ınueμ/fe（呪われた） [文化] ・ləl lefcı における過敏と不健康と健康観 過敏と不健康は異なる。過敏な人間は少しのことで胃を壊したり風邪を引いたり頭痛を感じたりする。人が平気で酒やコーラや油ものを食べて太っているのを見ると、痩せて胃腸の弱い人は信じられないとともに羨ましく妬ましく思い、ときには珈琲一杯で体調を崩す自分を「弱い」とか「情けない」と感じる。敏感な人間ほど異物に反応しやすいため、吐きやすかったり食が細かったりしがちで、その結果痩せているか水太りな傾向にある。筋力に乏しいため、まして自分を弱いと思いやすく、男性だと更に劣等感を感じやすい。 lə̀lefcı では過敏は不健康とは異なるとしている。一杯の珈琲や少しの油もので胃痛を起こしたり、チーズや小麦でアレルギーを起こすのは弱いことやまして不健康なこととは関係がない。単にそれは体が反応しやすいというだけのことである。 なお、そのような人は概して排他的な価値観を持ち、偏屈で神経質で内向的な確率が高い。 そのような人は結果としてタンパク質カロリー不足で華奢になるかもしれないが、それは cun ではなく、せいぜい en ìınuc でしかない。 本当に ınueμſ や leun なのは毒を貯め込んでしまう人間である。いくらでも食べられ、鈍感で、体格は良く、元気で、太っている。ところが毒に体が気付いていないだけで、内面で病気が進行している。こちらのほうがむしろ ınueμſ や leun であり、医学的には問題ある。 [成句] uılj ınueμſ eſ μıfen. 痛みを知る医者は名医。μɑ で様々な不定愁訴に襲われたセレンが作った成句。リュウは西洋医学、セレンは東洋医学のプロだったが、東洋医学は特に経験医療なので、自分自身が痛い思いを経験した医者のほうが患者の気持ちや苦しみが分かって治療が巧いことからこういう言葉ができた。

ınueμſ(J) 忌憑、いみつき、アンヴェルト JI [文化] セレンによる小説。ジャンルはミステリー。 1ʔ歳の高校生、南神楽（みなみかぐら）(lıφμı ſμcɔl) はある日飛び降り自殺を目撃する。 それから彼の目には忌みという悪霊が見えるようになった。 神楽は目の異変を同じクラスの神社の娘、雨宮丁（あまみやひのと）(hcnɔſɔ ɥəəın) に相談する。 一方神楽は同級生の数学ガール、柊霞（ひいらぎかすみ）(lıjbc jıμbelcı) の秘密をひょんなことから知ってしまう。 秘密を洩らさないよう霞に脅されるも、神楽の目に見えていたのは霞に憑いた忌みであった……。

ınueμſɔɔɑ [名詞] 死の坂、黄泉比良坂、よもつひらさか、アンヴェルトード [メタファー] デスマーチ、デスマ、過剰労働、過労 [レベル] 4 JI [文化] スピカのほうにあるとされる坂。報われない魂が坂を彷徨い続ける。坂は騙し絵のようにいくら登っても同じところをぐるぐると回転するだけ。

ınueμnɔz [天文] ケフェウス 1L:μcɑcı/jeμen/bel [文化] lɔɔncı

ınuɐɥnɔc ［天文］ガーネットスター 1L:ɥcɑɔı/jɐɥɐn/ɒɐl: 呪いの子

ınuɐɥaıc ［名詞］鬼火、人魂、ひとだま ［天文］スピカ ［レベル］5 1L:ɥcɑɔı/jɐɥɐn/ɒɐl: 呪いの火 ［文化］ スピカはヴェルファイの怨念の化身。死神につれていってもらえなかったセレスはこの星に留まってしまうと考えられている。逆に言えばアヴェランティスはこの方角にあるのではないかと考えられている。

ınuɐɥɐɔɒ ［魔法］怨霊 ［レベル］4 ʃʃ

ınuɐɥlɔlɔ ［天文］アルデラミン 1L:ɥcɑɔı/jɐɥɐn/ɒɐl ［文化］ lɔɔnɔı

ınuɐɥɔnɟ ［天文］アルフィルク 1L:ɥcɑɔı/jɐɥɐn/ɒɐl ［文化］ lɔɔnɔı

ınuɐɥɐjl ［歳時記］怨雨、アンヴェレスク ［レベル］3 ʃ1 ［文化］ ɥıl lıl。死神ヴァンガルディが ガルヴェーユに降り立ち、アトラスに蠢く人々の怨嗟をその鎌に集め、死神貴族に再配布する日。怨嗟は強力なヴィードの塊となって世界中に存在している。→ jɐlɐj ヴァンガルディはヴィードの返礼として、怨嗟の強い者を選んで協力し、復讐を成就させることがある。協力の仕方は様々で、直接手を下すこともある。なおヴァンガルディの選定は恣意的で、本人が共感できる怨嗟に肩入れする傾向がある。 実際にこの日は犯罪率が高く、それゆえミロクは多くの国民（電力や軍事など休めないものを除き）に終日外出禁止令を出して実質休日としたことがあったが、かえって家庭内での犯罪が増えたため催日に戻した。しかしその大半はヴァンガルディの加護を得たものでなく、自分は加護を得たものと妄想しての犯行が多いのではないかと考えられている。

ınuel ［魔法］アンヴェル、呪術 ［レベル］4 1L:ɥcɑɔı:ınuɐɥ ［文化］ 呪いを利用した魔法体系。ファベルのマレットが開発した。その後西洋にも伝わり、シフェルの民にも遣い手が現れた。そのため、アルマレットに含まれるものの、シフェルの民も使うことができる。

ınuelın ［魔法］呪術師、まじないし ［レベル］4 1L:ɥcɑɔı

ınuelenſ ［魔物］アンヴェレント（呪人形）: 第八十一天 : 邪の氷天 ［レベル］5 1L:ɥcɑɔı/jɐɥɐn/ɒɐl:ınuɐɥ/lenſ ［文化］ 憑族。捨てられた人形の悲しみに宿る九十九。呪いの歌を歌い、人を狂気に誘う。一度とりつくと死ぬまで離れず、どこに行っても、トイレでも風呂でもベッドでもどこまでも付いてきて、ケタケタ笑う。人が耐えかねて捕まえようとしたり攻撃しようとするとスッと消えて、また出てくる。ついには獲物は発狂して自殺してしまう。死んだ人間はアンヴェレントによって、道端に「要らなくなった人形」のように捨てられる。

ınɑlenzel ［丁寧］ɑlenzel ʃ1

ınɑı ［軍事］火器 ɟɒ;ıl/ɑıc ʃʃ ［文化］ φel

ınɑıſɔɔ ［丁寧］［感動詞］お疲れ様です ［レベル］2 ʃʔ

ınɑın ［経済］貨幣 ［類義語］ˈlıcɟ ʃ1:ɥcɑɔı:ıl/ɑınſ ［語法］ ˈlıcɟ は通貨。円やドルやユーロといった抽象的な概念のこと。 ınɑın は実物の貨幣。五百円玉や千円札などのこと。 ［文化］ アルバザードの通貨は ɟɔlſ で、貨幣は 9 種。 貨幣は紙幣 (ɒɪφl) と硬貨 (φılɑ) に分かれる。10000, ᚹ000, 1000, ᚹ00 が紙幣。100, ᚹ0, 10, ᚹ, 1 が硬貨である。uejdel は日常生活ではレア。 紙幣にはアルバザードを代表する自然の名所が描かれている。硬貨にはアルバザードを代表する建造物が描かれている。自然の名所のほうが面積が広いため、硬貨には描きづらい。そのため自然の名所が紙幣に宛がわれている。 紙幣は紙自体に色味がかかっており、その色味を濃くした単色で名所が描かれる。例えば 10000 ソルトの uejdel は微かに薄茶色の紙で、絵自体は焦げ茶色で描かれる。 硬貨は材質によって色が定まる。穴開き硬貨はない。 アルバザード人は通常「五百円玉」というような数を使った言い方をせず、アメリカ人がダイムやバックと言うが如く、ınlcczˈ や ɒcɟʃce のような名前で呼ぶ。 10000:uejdel : 茶 ᚹ000:eılcɟ : 青 1000:lıuen : 緑。滝より周囲の木々のほうが絵の面積を占めるので緑のほうが見やすいとされた。水色にすると eılcɟ とかぶるので避けられた。 ᚹ00:ɟɔen : 灰。岩肌の色から。 100:ɑıllcın : 金色 ᚹ0:ınlcczˈ : 銀色 10:ɒcɟʃce : 銅色 ᚹ:φıɑnc : 鉄色 1:µınφ : アルミの白銀色

ınɑµnı ［丁寧］［感動詞］どうぞお大事に、お大事に ［レベル］2 ʃʔ

ınɑc ［代詞］何か、なにか、なんか ［反意語］lenɑc ［レベル］2 ʃ1:ınle 同様 ［用例］ jɐe ſə ɑcı ej lıɑ ˥ɔn ſə "ınɑc". ılɑc ɑcı ɑe lıɑ ˥ɔn ɟııs" そして世界はその『何か』でできている。決して無ではないんだ」

ınɑccɒı ［丁寧］［感動詞］お久しぶりでございます ［レベル］2 ʃʔ

ınɑɐɥ ［名詞］聖職者 ［アクセント］ınɑEµ ［レベル］4 µɑ;<lſ ʃʃ ［文化］ アルティス教の影響下のアルバザードでは僧侶、学者、医者、教師が聖職者とされる。聖職者は酒を常飲してはならないなど戒律が比較的厳しく、敬虔であることが要求される。

ınɑel ［被服］アンフェル、打掛襦袢、うちかけじゅばん ʃ1:ɟɒe ［文化］ 古スカルディアの竜騎兵が着た服。黄色の襦袢と黒の打掛と階級を示す lɔnſe からなる。

ınɑelclcı ［名詞］男の娘、男のこ、おとこのこ、アンフェリシア ［反意語］ɑµecɒcɒcnı ʃʃ: 走りとなった少年たちが ınɑel のような服を着ていたことから。 ［文化］ ul 後期でブームになった。現代でも一分野として認識されている。ʃʃ 現在ではユルトみたいな少年を指すようだ。 同時期に ɑµecɒcɒcnı も登場したが、こちらはそれほどニーズが出なかった。

ınɑelclcɔn ［軍事］竜騎兵、アンフェリシオン ［アクセント］ınɑelЄlcɔn（上流）、ınɑelclЄɔn、ınɑe lclcƎn（南方） ʃ1:ınɑellɔn.ɟɒe

ınɑelcı ［運動］アンフェリア、竜騎舞 ʃ1:ɟɒe ［文化］ 竜騎兵の踊り。アンフェルを着て鼓を鳴らして舞う。この鼓は元々戦場で使ったもの。現代では lınſe ſ'ınsəɟ などで行われる。むろん竜は用いない。

ınɑelcıl ［代詞］［ɒɔɟ］ɑelcıl ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ləɒcɟ

ınɑelce ［代詞］［ɒɔɟ］ɑelce ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ləɒcɟ

ınɒc,ılſ ˥cɟ

ınɒcſı,ılſ ſ ıı/ı ın/ɒcſı

ınɒcɟı ［植物］クチナシ、梔子、くちなし ［レベル］5 ɒſ;ınɒc/ɒcɟı ʃʃ

ınɒcı ［文末純詞］［丁寧］ɒcı ［レベル］2 ʃ0:˥ɒccɟ ［文化］ ın(ʔ)

ınɒcın ［文末純詞］［penſe］［丁寧］ɒcın ［レベル］2 ʃ0:˥ɒccɟ ［文化］ ın(ʔ)

ınɒccɟ ［政治］アンミール ［レベル］4 ls:jɐɥɐn/ɒɐl:ıl/lejſcɒccɟ ʃʃ ［文化］ → lejſcɒccɟ, jɐ µıln, jɐɥ˥ɔlɒ ls でセレンらが設置した機関。それまでの立法・行政・司法にいた人間たちを基に構成された。 革命後はレスティミールが三権を支配したが、レスティミールに不具合があった際にレスティミールの代行をしたり、レスティミールの決定に意見を入れてレスティミールに再考を促すことが役割。前者は有事の際、後者は平生から行う。 セレンは革命で政治家や議員などを一見廃業に追い込んだように見えるが、実際にはアンミールの構成要素として残しておいた。機械だけでなく人間にも国を動かさせるためにである。 アンミールはレスティミールと同じく分立した三権から成り、人間が務める。構成員は選挙で行われ、ミールが管理・集計する。そのため構成員には入れ替わりがある。就任期間は革命前と同じであるため、一定の期間ないし解散・総辞職ごとに選挙を行う。 簡単に言えば、「セレンらはそれまでの人間による立法・行政・司法を二軍落ちにしてレスティミールを採用した」ということである。

ınɒɔe ［代詞］［ɒɔɟ］ɒɔe ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ləɒcɟ

ınɒɔen ［代詞］［ɒɔɟ］ɒɔen ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ləɒcɟ

ınɒecɑ ［代詞］［ɒɔɟ］［丁寧］ɒecɑ ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ləɒcɟ

ınɒecɑen ［代詞］［ɒɔɟ］［丁寧］ɒecɑen ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ləɒcɟ

ınɑ ［接尾辞］～している。反復相を示す。 ［動詞］µəl している、～している。ɒɒınɑ の意味で使う。事実上反復相の繋辞。 ʃ1:ʃ1 ɒel ɒcɟ まで反復相は純副詞 ɑc で示していた。最も頻度の高い反復相は ɒɒ ɑc の句であったが、これが詰まって ɒɒɑc となっていた。母音が落ちて ɒɒɑ となり、ɑ に同化して ɒnɑ となる。その後一般動詞にも ləınınɑ のように膠着するようになる。ルティア家で起こりルティア家で定着。差の ɒnɑ と区別するために ɒnɑ を ɒnɑc に。しかしミリアにより ləınınɑ から ɒnɑ でなく ınɑ が逆成。すぐ誤りと気付いたが、音が言いやすいとのことで ınɑ で定着。ɒnɑ は ləɒɑ と近いため、ɒnɑc のままとした。数カ月の試用を経て左日にセレンが承認し、接尾辞で反復相を指すようになった。 :::hızelə,ılſ ［語法］ 開音節では ı が落ちる。過去形と組み合わせる場合は bıɑıſınɑ のようにする。 ［用例］ ɥelc euınɑ ləoıılſ ı jıe. 子供が雪に足跡を付けている。 le uɔˈl bıɔφınɑ ɔɒc ucenel. 男が扉を何度も叩いている。 ˥leı ınɑ ɒeſ. 粉が降ってくる。 ejˈl ləınınɑ. 雨が降っている。自然な言い方。 ejˈl ınɑ ɒeſ. 雨が降っている。落下に焦点。 ɑlſe ləınınɑ → ɑlſe ləınıɟ. 嵐が来ている。嵐が複数回来ているのではなく、今ここに来終わって残存しているのでも ejˈ。雨はパラパラと何粒も降ってはってを繰り返すので ınɑ。 jelın uɔµſınɑ ˥ı ɑc cɒ cl̥jel. 毎日どこかで人が死んでいる。

ınɑı ［名詞］基準、水準、身の程 ［経済］水準 ɑu;e ʃʃ: 制 : ınſ ınɑı:ınɑı:lə lınɑ ［成句］ µe jɐµ ınɑı（自分の）身の程を知れ。調子に乗るなよ、図に乗るな、いい加減にしろ、身の程を知れ、分をわきまえる ［用例］ ınɑı ɑız 程良い基準 ınɑı ɟɔµ 高い水準、高水準

ınɑınſ ［人名］アンダント 古 ［文化］（ɥəəɒı ʔʔᚹʃ） カコ中期におけるドゥルガの王。イーファとハーネの父で、彼らは異母兄弟に当たる。 ɥəəɒı ʔʔᚹʃ アゼリア、息子の ınɑınſ を産み、ınɑınſ を預言者と公言。国民は邪教徒討伐の一件があったため、これを受け入れる

ınɑıɒelıl ［地学］標準時 ［レベル］4 µɑ;/ ʃʃ

ınɑcµ ［遊離副詞］［形容詞］よく、わりと ［アクセント］ınɑЄµ ʃ0:ınɑı/µıˈl（基準を超えた＝５０％を越えた）→ ınɑıµ → ınɑcµ（ınɑı から離すため） ［語法］ ılɐəſ

ınɑczɒıl ［文末純詞］［丁寧］［µnen］ɑczɒıl ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ

ınɑɔɔɔuı ［丁寧］［感動詞］ɑɔɔɔuı ［レベル］2 ʃ1

ınɑe ［電算］ＬＡＮ、ローカルエリアネットワーク ʔ: 制 : 古 :ınlınſe)ıınɑe（アンシャンテカード）

ınɑedenſ ［言語］早々、草々、そうそう、アンデペント ʃ1:ıl/ɑedenſe（前文がなくエリスへの祈りもなかったのでここで倍祈るの意味） ［語法］ 男性も使う。

ınφµıɒɒı ［企業］アングランマ ʃ1 ［文化］ 新日本製鐵に相当する企業。

ındıɟɔ ［丁寧］［感動詞］dıɟɔ ［レベル］2 µɑ ʃʔ

ındıl ［被服］テディ ［類音］ıɒdıl µɑ;ıl/dııl。スリップと同じ流れ。 ʃ1

ındc ［植物］ナンテン、南天 µſ;ılſ ılſ のスペルなので ıɒdc でなく ındc のままでよい。ヴェマ原産。 ʃʃ

ındc,ılſ lɔɟ

ndenſ ［丁寧］［感動詞］denſ ［レベル］2 ʃ1

ndenſınſ ［丁寧］［感動詞］denſınſ ［レベル］2 ʃ1

ndel ［人名］アンペル ʃ0 ［文化］ ツェリン西部の都市。幾度も戦禍にあった。

ınbe µɔəb ［人名］アンベ＝ローブ ʃ1 ［文化］ ヴェレイのアミナル党首。ユーリアを手籠めにし、自殺に追いやった。ミロク革命の発端となった人物。

ınbez ［化学］トリシネート ul;ıl/bezel ʃʃ ［文化］ φel

ınhırſı ［丁寧］［感動詞］お誕生日おめでとうございます ［レベル］2 ʃʔ

ınhıµſ ［政治］アン・ハルト、殿下、陛下、閣下 ʃ0: 古 :hıµſ: 高いの hɥelı と関連があるだろう。

ınhıſſı ［代詞］［ɒɔɟ］［丁寧］hıſſı ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ləɒcɟ

ınhıſſın ［代詞］［ɒɔɟ］［丁寧］hıſſın ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ləɒcɟ

ınheſ˥ı ［丁寧］おてがみ、お手紙 ʃ1

ınɥənı ［代詞］［ɒɔɟ］ɥənı ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ləɒcɟ

ınɥənɔl ［代詞］［ɒɔɟ］ɥənɔl ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［文化］ ləɒcɟ

ınµıɒɒı ［文末純詞］［dɔ˥lɔ］［丁寧］µıɒɒı ［レベル］2 ʃ1:e˥eſɔne ［文化］ ın(ʔ)

ınµeſɟ ［感動詞］よろしくお願いします、よろしくお願いいたします、お願いします、おねがいします ［レベル］2 µɑ;/ ʃʔ ［語法］ µeſɟ

ınµecz ［形容詞］行方不明な、失踪した ［レベル］3 ʃʃ:ıl/µecz ［語法］ 意図的に µecz な状態にすること。

ınz ［化学］プラスチック、合成樹脂 ［レベル］2 古 : 語源不詳 ［語法］ 合成樹脂、プラスチック、ビニールの語法は日本語と同じ。ビニール袋などの軟質プラスチックのことはそのまま eɒɟ という。プラスチック ınz といえば、固いバケツなどのことを指す。合成樹脂 ˥ɔdφen は ınz のことなのに、アルバザード人は何のことだかよく分かっていない。 ［文化］ アルティルでジンティ＝アルテームスが開発し、アルマット社が販売した。

ınzɔl ［音楽］ベース、ベースギター ［レベル］4 ʃ1:ıl/sczɔl ［文化］ → zɔl こちらでもコントラバスから発達したため、４弦が主流。

ınzɔlın ［音楽］ベーシスト ［レベル］4 ʃ1

ınzen ［人名］アンゼン ʃ0 ［文化］（ɥəəɒı ʔʔʔʔ:ʔLLʃʃ） ɥıɒeµ

ınzen(l) ［企業］アンゼン ʃ1 ［文化］ 京セラに相当する企業。

ıns ［人名］アンジュ 先 : 語源不詳 ［文化］ （ſcɑ ᚹ1 dıl µıl →) リーザとメルを補佐した人物。

ıns(l) ［名詞］家政婦、メイド ［レベル］3 ɟɒ;ınse.)。アンジェ地方からメイドがよく上京してきたことから。 制 :ıns x:ıns ［文化］ メイドを雇う習慣は奴隷制のない ɟɒ で起こった。貴族が裕福になり奴隷がいないとメイドが必要になる。アルナからそう遠くなく出稼ぎの多かったアンジェ地方からよく若い娘が奉公に出た。 初期は主人の服のお古を着ていたが、客人が一目見て家族なのかメイドなのか区別つかずに困ったため、メイドは見てすぐ分かるように貴族と対照的な服を着るようになった。当時の貴族は豪華絢爛な服を着ていたため、メイド服は黒と白といった単調な色の服になった。 地球ではメイド服はメイド持参だが、アルバザードでは主人がメイドに良いメイド服を着せるのは裕福である証だったため、モノトーンながら可愛らしい小奇麗なメイド服を用意してやることが多かった。 µɑ でカレンシア王国が滅ぶと凪人のメイドが増えた。 凪人のメイドは矢絣の大正時代のような服装をしていた。これは現代もそうで、凪人のメイドは西洋風のメイド服をあまり着ない。 矢絣は一般の凪人も着るので、メイド用は色が違った。濃緑や茶色や臙脂色のものがメイド用とされた。 メイドの習慣は現在でも続いており、富裕層が雇っている。メイド服も ɟɒ 当時と変わっていない。現代から見たらメイド服は作業がしづらいが、ɟɒ 当時の服装の中ではあれは見栄えを保ちつつ比較的動きやすい服だった。 現代の庶民の男性にとってメイドを雇うことはステータスシンボルなので、メイドに対する憧れや萌えがある。そのためメイド服も人気が高いコスプレである。

ınsclə,ılſ 謙譲語の助動詞

ınse ［気象］昏い空、暗い空 ［レベル］3 ʃ0:ɑclueeɥə「昏き空」

ınse(J) ［地名］アンジェ ［言語］［文字］ブラックレター、ゴシック、ゴチック。日本でいうゴシックなどの書体。フラクトゥールなど。アンジェで流行った。 ［レベル］5 ʃ0: 暗い空 ［文化］ アルナ北部の小都市。すぐ北にケートイアとの国境となる山脈があり、南は広大な平地になっている。

ınse(ʔ) ［経済］綺麗な金 ［類義語］φcl ［反意語］beˈleſ ［レベル］4 µɑ;<lſ ʃʃ ［語法］［文化］ 汚い金とは犯罪を犯して得た金や賤業 (ˈləzφcn) を通じて得た金や φɔleɒ な方法で得た金を指し、ınse はその反対。寄付金や ˥ɔleſ なお金のこと。拝金主義を嫌うアルバザード人は ınse を尊び、beˈleſ を卑しむ。

ınse,ɟzɑ eµɑc, φcl

ınseˈlıl ［アイテム］サーベル µɑ;/ ʃʃ ［文化］ ınse で作られたことから。µɑ 中期でできた。鎧を着ない相手に使った。nɑ 以降は騎兵（この時代の騎兵は銃を持って走る兵科で、馬には既に乗っていない）の基本装備になった。µſ では警官が装備していた。

ınsen ［被服］タキシード ［レベル］5 ʃ1:ınse/en

ınsel ［軍事］［魔法］魔動アーマー、アンジェル ［レベル］5 ʃ0:ınse/ 古 ıl（もの） ［文化］ ˥ᚹʔʃ 年にラグナロクがシグナリオと共同開発した兵器。責任者は女性で、ſoıµzel ɑcɟcɑcı。乗り込み式の機械で、操縦者が中に入って動かす。頭部の欠けたお椀状のロボットで、手足が付いている。腹部に人間が入るような形で乗る。頭部がないので、人間が座ったとき、人間の頭がロボットの頭部の代わりをする。高さは 2 m ほどで、小さい。 魔動銃や魔動手甲などを強化していくとどうしても足りないのが人間の腕の長さと強度である。それなら最初から両手両足機械にしてしまい、その中に人間を入れて操縦させ、動く砲台としたほうがよいという考えのもとから生まれた。 地方都市アンジェの南側は広大な平原で、またアルシアからそこまで離れてもいないため、実験に適切だった。そこから魔動アーマーはアンジェルと呼ばれるようになった。 ls ではアンジェリカの雑魚版を意味する。

ınsel,ɑ jɒɒıcɒ

ınselbɔlſ ［工学］［経済］第一次産業革命、アンジェルボルト、産業革命 ʃ0: アンジェルの槌 ［文化］ cɒel ˥ᚹʔʃ 年にアンジェルが開発され、˥ᚹᚹᚹ 年から量産に入った。しかしアンジェルはグレアなどと比べると巨大で、大量の金属を必要とした。また、アームやボディなどを作る大きな金型が必要で、相当な数の技術者も必要だった。 アンジェルの製造には鉄のほかに魔動機関部分に金銀などの貴金属やルビーなどの宝石が必要で、非常に高価なものであった。まだこのころは植民化政策がないため、アルバザードは原材料の調達に難儀した。 トワーゼルはアンジェルの試験運用を ˥ᚹᚹᚹ 年に終え、実用化に入った。最初にアンジェルが実戦に使われたのは ˥ᚹʔʔ 年の秋である。アルシアに大量に飛来した ueɒelſ を殲滅するために 5 機のアンジェルが投入され、瞬く間にこれを撃退。その力が国王ならびに全世界に認められるところとなる。 ˥ᚹʔ9 年に量産支援を国王から取り付けたものの、費用の面でトワーゼルは困窮

した。量産しようにも原価がすこぶるかかってしまい、原材料を買い付けきれないためである。アルバザードとルティアには貴金属と宝石の埋蔵量が少なく、とても自国の分では賄うことができなかった。主にこういった金属は魔方や境方で産出されていた。　しかしそんなトワーゼルに転機が訪れる。ɨʔʔL 年にバルマーユでダイズアイライが大量発生し、病原菌を振り撒きながら魔方人を苦しめた。その際、魔方からの要請を受け、トワーゼルはアンジェルを掃討部隊に組み込んだ。アンジェルの火力は尋常ではなく、またダイズアイライに直接触れずに戦える。しかも魔導師と違って露出しているのは頭部のみなので、感染のリスクも少ない。マスクをつけてしまえばほぼ感染は防げる。ダイズアイライの吐く王水も数メートルしか飛ばないので中距離戦用の ınsel には関係ない。それでいて強力な火力があるため、トワーゼルの部隊はあっさりダイズアイライを掃討することができた。　この出来事に驚いた魔方や境方はアンジェルの軍隊への組み込みを願った。この反応を待っていたトワーゼルはアンジェルの内部構造および製造法はアルバザードとルティアのみに有界的に利用されるものであると拒絶。食い下がる外交官に対し、製造と提供はアルバザードおよびルティア側で行い、メンテナンスも派遣社員を通して行うとの条件下で受諾。その代わり、アルバザードとルティアに対し原材料である貴金属や宝石を破格で仕入れさせることを要求した。これに対して魔方は経済的に条件を飲めず、アンジェルを断念した。一方境方ーーメティオはこれを受諾。破格で原材料の輸出を行った。　このころメティオでは流入してくる異民族がもたらす安い労働力によって本来のメティオ人の職が奪われるという問題に直面していた。そこでメティオ政府は採掘事業を公共事業として増強し、これら異民族を採掘事業に当たらせ、メティオ人の雇用を守った。メティオ人としては異民族の問題があったため、アルバザードの条件は飲めないものではないどころか、政治的にはむしろ好都合であった。しかし魔方は異民族の問題がなく、人手はほとんど農業や採掘などに従事していたため、余剰人員を割くことはできなかった。　こうしてトワーゼルは原材料の調達を終え、メティオの採掘事業拡大の成果を待って ɨʔʔʔ 年から本格的な量産に入った。　製造や初期のメンテナンスは本国で行うため、グレアの製造に比べて多くの魔動工場が建てられた。この作業のうち単純なものはケートイアなどから流入していた異民族に任せ、安い労働力でアンジェルの製造を行った。この出来事を第一次産業革命、すなわちアンジェルボルトという。　しかしどんなに採掘規模を増やしたところで貴金属や宝石は希少であることから、シェリーボルトのときと比べてその工業化の度合いは弱かった。また、ほぼ１００％軍需であったため、車などの重工業製品や服飾などの軽工業製品と異なり、庶民の経済や流通にはほぼ無関係な出来事であったという点もシェリーボルトとの違いである。　なお、アンジェルの内部構造の機密に関してはlizeſをかけてあるため、トワーゼルはメンテナンス工員を信頼置ける人物にすることだけ専念すればよいという状況であった。

ınselı　［アトラスの国家］アンジェラ　［レベル］4　ʃʔ:μcɑcı　［文化］　面積：ɨʔʔʔʔʔ.ɥɨʔʔL1 ɔ 」

ınselclı　［軍事］［魔法］人型戦闘兵器アンジェリカ、アンジェリカ　［レベル］3　ʃʔ0:ınsel/lıc（大きなアンジェル）［文化］　→ φıμɑcın、ınsel　　＊下記書き換え必要。ガーディアン、ローゼル、カルゼーレ、ヴェルディエル、ディアメル、セリエット変更必要　　転生期でディミニオンに対抗すべく開発された軍用機。人型をしており、大きさは約１８メートル。人間の丹田に当たる部分にコアとなるクリスタルが埋め込んでおり、これが動力源になっている。　アトラスでは μɑ 以降、魔法工学は廃れ、科学が隆盛した。しかし転生期に月のクリスタルが見つかってからは魔法工学が復活し、それまで培ってきた科学の力と合わせて μɑ では考えられなかったような高度な兵器を作ることができるようになった。　それがアンジェリカであり、魔動アーマーのアンジェルを元に新生された。アンジェリカは旧来の兵器の戦車や爆撃機などものともしない強さであった。全身が古代の魔術師のようにヴィルを纏い、古代剣士のようにユノやノアのバリアを纏う。ヴィードを持たないエタンの塊である戦車など敵うべくもない。　アンジェリカは魔法工学に基づくため、操縦も魔法を使って行われた。パイロットはまず lɔμzel という筒状のポッドの中に入る。ローゼルはアンジェリカの頭部に挿し込まれ、パイロットは中に入る。中に入ると自動的にローゼル（漿管）から射出され、アンジェリカ脳内のヴェルディエル（紅漿）中に排出される。ここがコクピットで、カルゼーレ（漿座）という。　カレゼーレにはディアメル（心経）という仮想神経根があり、触手のような形をしている。これがパイロットの体に接着される。パイロットが中で動くとアンジェリカも同じ動きをする。実験段階のアンジェリカは人間のような形をしていなかったが、パイロットの動きと同期させるため、人型になっていった。　アンジェリカは埋め込まれたクリスタルごとに性質が異なり、自分と同じような性質を持った人間を好むという特徴がある。つまりそのコアクリスタルの性質に近い性質を持った人間と親和性があるということである。　アンジェリカとパイロットはディアメルを介して同期するが、この同期のことをセリエットという。同期率が高いほどアンジェリカの機能を発揮することができる。

ınseleɑ　［運動］パルクール　［レベル］5　μɑ:μcɑcı;ınse/leɑ「昏い空を翔ける」　ʃʔ0:μcɑcı　［文化］　μɑ でできた遊戯。のちに競技となる。μɑ の時代はヴィードのおかげで超人的な動きができたため、屋根から屋根へと跳んでいくといったアクロバットなことができたが、nɑ 以降は地球のパルクールと同じになった。現代では人気スポーツのひとつ。

ınseleɒ　［音楽］協奏曲、コンチェルト、アンジェレム　［レベル］5　μɑ:ɒclɑ;/ アンジェで披露されたのが走りとなった楽曲であることから。　ʃʔ

ınsəμ　［天文］黄色い月、アンジュール　［ユマナ］月のおもちゃ箱。アルバムのひとつ。かわいい系のポップな曲が中心。　［経済］残月期　［形容詞］上機嫌な、ノリノリな、楽しげな　［類義語］ɒcɔl　［アクセント］ınsƎμ　［レベル］2　ʃ1:lſ。古では cɒel。səμ は ɑ。　［成句］　ı̀ınſe ſ'ınsəμ　ɥəəſ ınsəμ 黄色い満月、シャンテ・タンジュール：楽しいこと、愉快なこと→ ı̀ınſe ſ'ınsəμ　ɥəəſ ınsəμ 愉快を遊ぶ：楽しげに微笑む、ıjel nɔj bınel　ı̀l ınsəμ ノリノリじゃん、どんだけ上機嫌なんだよ　［用例］　μcɑcı ɥəəſ ınsəμ lɔnſ euej ɒcɥə ıl ıjcɑ lı jeμen le nɔuel uınɑej。リディアは小さな可愛らしい手を口元に当てると、当惑した面持ちのセレンに微笑みかけた。

ınsəμuelʔ　［経済］総決算→ ueeμuelʔ　［レベル］5　ʃʃ

ınsəμen　［言語］［文字］夕月書体　［レベル］3　ʃʃ:ınsəμ。上下動する視線を月の昇降に準えたもの。アルナに対しカテージュでタ月。

ınsəμecu　［文字］エジプシアン、アンジュレイブ。スラブセリフに似る。混同されることがある。　［レベル］6　ʃʃ:ıl/səμecu　［語法］　スラブは線の太さが縦横均一。ınsəμecu はおおむねスラブに当たる。エジプシアンは均一でない。　セリフについては両者とも太さが線とほぼ同じ。

ınl　［法律］起訴する　［レベル］5　ʔʔ: 制 :ınlɔ（司法）

ınlɑcμ　［伝統色］ウルトラマリン　［レベル］4　μɑ;ıl/lɑcμ　ʃʔ？

ınlıcn　［代詞］［ɒɑɥ］lıcn　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ınlıcnſ　［代詞］［ɒɑɥ］lıcnſ　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ınlcnɔı　［文末純詞］［丁寧］lcnɔı　［レベル］2　ʃʃ

ınlclcj　［代詞］［ɒɑɥ］lclcj　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ınlclcn　［代詞］［ɒɑɥ］lclcn　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ınlenı　［代詞］［ɒɑɥ］lenı　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ınlenın　［代詞］［ɒɑɥ］lenın　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ınleɒın　［政治］［哲学］公序良俗　［類義語］ɔnl　［レベル］4　ls;ınſel/leɒınſ　ʃʃ0:μcɑcı　［語法］［文化］　ls でできた語で、それまでは ɔnl と呼ばれていた概念。　絶対の正義が定めた価値観を主軸とし、そこに生活の実態である国民の相対の正義が民主的に定めた価値観を加えて形成された良識の一種。　・表現の自由　ınleɒın は革命でできた単語で、濫用されていた表現の自由を制限し、混沌とした国の良識を取り戻すために制定されたものである。　セレンらは「公序良俗に反しない限り表現の自由を認める」と述べた。セレンらは ıl や革命前夜の ls に跋扈していた一部のマスメディアをマスゴミと呼んで糾弾し、マスゴミが公序良俗を乱していると述べた。　例えばその頃のアルバザードではマスコミが雑誌やテレビなどを使ってケバいギャルのような格好をして男勝りで女らしさがないユニセックスな女を是とし、これがモテる女とかこれが可愛い女とか思わせるよう、国民を誘導していた。ネットではこのような女が一部の男たちに叩かれていたが、声の大きいマスメディアによって、「高校生にもなって処女は恥ずかしい」とか「お父さんが好きとかありえない」とか「ギャルメイクがモテカワ」とか「男女平等は当たり前。でもレディースデーがあるのは知らんぷり」とか「我慢する必要なんてない。相手が嫌になったらすぐ別れよう。離婚もどんどんして慰謝料を取ろう」とか「熟年離婚して年金分与しよう」とか「女性の社会進出は当たり前でいいこと。家庭に入って子供を産み育てるなんてキャリアウーマンのすることじゃない」などと、どんどん女を煽り、腐らせていった。　セレンはアルバザードの民度が年々下がっていっていることに激しい義憤を覚えていた。ある人々はアルバザード人の民度が下がっていったのはユティア朝の力の衰えによるものだとしていて、セレンも一部はそれに賛同していた。だがセレンは根本的な悪は民度を下げるような煽りをするマスメディアにあるとした。マスメディアは刺激的でセンセーショナルな内容を作らなければ見てもらえないし買ってもらえないため、わざと実態とかけ離れた内容を記事にして出版し続けた。読者はより刺激的な内容を好むため（というか前回と同じ程度の内容ならわざわざ買う必要がないので）、版元はその読者らの購買意欲を掻き立てるために実態とかけ離れた記事を捏造し、結果的に国民を堕落させ民度を落とした。　要するにこの頃のアルバザードでは版元が生き残るために国民を煽り、煽られた国民の民度が年々下がっていったのである。セレンは民度低下の元凶がマスゴミにあるとし、これを糾弾した。　マスメディアは本来国民を洗脳し、世論を形成させることができるだけの大きな力を持った存在である。そのマスメディアが低きに流れ、下世話になり、売れるために民度を低下させるなどあってはならない。それならば売れないほうがよろしいとセレンは判断した。が、高給取りであるマスメディアの社員が売れなくても民度を維持するほうが重要だとは判断するはずがなかった。　セレンは革命前にマスメディアが音頭を取ってむしろ民度を上げる方向性に持って行き、お固い内容を主軸にすべきだと主張した。マスメディアの洗脳能力を使い、売り上げが落ちようと民度を上げるような記事を作るべきだと主張した。ところがそのセレンの力なき声に耳を傾ける既得権益者は誰一人としておらず、セレンは激しい怒りを覚えていた。　そんな中セレンは世界を変えるだけの力を手に入れ、革命を起こすこととなった。セレンは力無き頃の自分を完全無視し冷遇し拒絶し嘲笑したマスメディアを一切許す気がなかった。セレンは民度を下げるような、すなわち「公序良俗に反するような表現」を制限し、既存のマスメディアをどんどん解体縮小し、かつて自分を冷遇し無視しあざ笑ったクズどもに復讐を果たした。　アルバザードでは表現の自由の名の下に民度を下げるような表現が平気で行われており、むしろ民度の低い表現のほうが高尚な表現よりも人気を得ていた。というのも、人は低い方安い方に流れ、高尚なものより低俗なものを選ぶからである。低俗なものばかりに金を払う国民にも責任がある。衆愚の自堕落な選択に任せていては、年々低俗なものが増え、高尚なものが切り捨てられていく。セレンはこれではいけないと思った。セレンは低俗なものも多様性の名の下に存在すべきだと考えたが、それが高尚なもの、民度の高いものよりも一般的で人気があるという事態は良くないと思っていた。民度の高いものが支配的であり、たまに下らない低俗なものが混ざる程度の多様性が一番国を腐らせないと考えた。低俗なものはあっても良いが、それが支配的になると国が滅ぶと考えた。　そこで「公序良俗に反する表現の自由は制限する」と制定した。これにより低俗なものは制限され、数が減った。完全に死滅したわけではない点がポイントで、きちんと多様性は保ってある。要するにテレビでいうなら教養系の番組がメインとなり、娯楽系の番組はサブとなり、低俗なものの本数が減らされたということである。また、それだけでは民衆は本数の減った娯楽番組に集中してしまうので、そもそも抜本的な解決策として、マスメディアの洗脳能力を使い、高尚なもの教養的なものが良いもので、低俗でくだらないものは悪という公式を雑誌やテレビなどを通じて放送しつづけることにより、国民の意識そのものを変えてしまった。　国民というのは流動性のある集団で、低俗でくだらないものは悪だというように連日マスコミが煽り続け、高尚で教育的な内容を語るほうが教養があってカッコいいとか素敵だとかいう価値観を毎日のように放送しつづければ、容易に洗脳される。かつての日本も同じで、戦時中に「欲しがりません勝つまでは」や「もったいない」や「富国強兵」などといった現代ではとても考えられないような価値観を植え付けられていたが、それも政府やマスメディアによって上意下達的に形成された価値観であった。　日本の例を見ても分かる通り、国民というのは自我が強いようで乏しく、政府やマスコミがトレンドを作ればすぐにその価値観に飛びつく代物である。セレンはマスメディアを巧く使い、国民の価値観そのものを変え、結果的にアルバザードの民度を上げた。　それまで教材などの売り上げは低く、娯楽本などの売り上げが高かったが、新たな価値観の元では教育的な内容の本が売れるようになり、娯楽本は買うのが恥ずかしい、持っているのが恥ずかしい、読むのが恥ずかしいと思うようにさせたので、売り上げが減少した。娯楽本の売り上げが減少した分、新しいトレンドとなった民度を高めるような商品の売り上げが増加したため、全体的に見て経済が停滞したということはない。　日本もマスメディアを使って国民の価値観そのものを変えるような洗脳を行えば民度が回復するだろうが、そこまで大きく世界を動かせる革命家（魔導師）がいない以上は、亡国は避けられないことだろう。　ともあれアルバザードの公序良俗はこのようにして制定され、良識は革命によって回復されたのである。

ınlele　［代詞］［ɒɑɥ］lele　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ınleenſ　［代詞］［ɒɑɥ］leenſ　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ınleeuı　アンレーヴァ、中二病、厨二病、高二病、小二病、大二病　［レベル］4　ʃʃ0:ɒel:ın leuı（純粋なこの私）［語法］［文化］　→ ueμjeſı　根拠のない全能感を感じたり、自分には特殊な能力や運命があると信じる心の状態のことで、思春期の青少年に多い。子供のころに好きだったものを否定することで自分は子供でないと喧伝したり、覚えたばかりの難しい言葉を使ってみたり、やけにプライドが高かったり、社会を変えなければならないと思ったりするのが主な症状。しかし、できるだけイタイ中二病を経験した人間ほど、大人になって大成する可能性を秘めていると考えられている。もちろん、そのまま中二病で終了することもある。中二病にならなかった人は、比較的平凡で歯車な人生を送りがちだが、その代わり荒波もない。
日本と違うのは、そこまで馬鹿にしていないということ。場合によっては大物になるための過程くらいに捉えられている。史上最強の中二病発症者はミロク＝ユティア。現実にはリディア＝ルティア。μɑ で世界を救うほどの邪気眼の持ち主。　［用例］　ſcl ınleeuı 中二病だ

ınlə,ılſ　ſen

ınlənın　［感動詞］［丁寧］おかえりなさい、お帰りなさい　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ

ınləın　［代詞］［ɒɑɥ］ləın　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ınləınſ　［代詞］［ɒɑɥ］ləınſ　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ını　［名詞］センス　［類義語］jeμnı　［レベル］3　ʃʃ: 制 : 古 :ılnı（良いむ心）。古 ɑəſcnı（取る心）［用例］　dɔınje ſcl ını ɒɥə. 首輪型アンセはセンスが良いのっ（紗枝）

ınıſſe　［感動詞］がんばってください、頑張ってください　［レベル］2　μɑ;/　ʃʃ

ınıſeɒ　［文末純詞］［丁寧］ıſeɒ　［レベル］2　ʃʃ

ının　［名詞］執事　［レベル］3　ʔʔ: 制 : 古 :ınsʃn

ınınſeɔ　［感動詞］申し訳ございません、申し訳ございませんでした　［レベル］3　μɑ;/　ʃʔ　［語法］　uınſ

ınınʃeɔɒ　［言語］アンアン口調　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ınıɒ　［文末純詞］［丁寧］nı　［レベル］2　ʃʃ0:ʃɒccμ:ın/nı/ɒ（語気弱め）［文化］　ın(ʔ)

ınıdcı　［言語］一人称　ʃʃL:ſcɔn　［語法］　ın, nɔn, nɔμ, ɑeμ, ınj など。

ınıſſe　［丁寧］［感動詞］がんばってください　［レベル］2　ʃʔ

ınıſlɥənʃ　［丁寧］［感動詞］任せてください、お任せあれ、おまかせあれ　［レベル］2　ʃʔ

ınıc　［名詞］囮、身代わり、犠牲　［電算］ダミー　［レベル］3　qμɑ;ıl（否定の接頭辞）/nı/c「心が見えない者→心無い者→本人でない者→囮」　lı̀lſı　ɥənʃ:ınıc　［用例］　eɒ{ɑcın} ınıc おとりになる

ınıcμen　［地学］スピネル、尖晶石　［レベル］6　ʃʃL　［文化］　ルビーやサファイアなどの石と間違えられたため、身代わりの石と名付けられた。この名には２つの意味があり、もうひとつはこの魔石が死の魔法をかけられたとき、身代わりとなって砕け散ることから。

ınıcıμɑı　［娯楽］喰らいボム　ʃʃ: 身代わりボム

ınc　［形容詞］疲れた、疲れる、くたびれた、元気のない　［名詞］疲労　［動詞］ɥəl を疲れさせる、くたびれる　［反意語］cɒı　ɑ,e　赤　ınc:ınc:ınc　［成句］　ınc ɥən beı 雑巾のように疲れた：ひどく疲れた。最初は服として使われ、はぎれになり、からぶきになり、最後にぬれぶき雑巾となれば、それは当然疲れているだろう。生活に密着した表現。　ın nıſ ınc ɒcl hıμſ ſcn, ſenıſ lıl eɒ eμ. 酷い暑さで疲れて喉が渇いた。　ın ej ınc ſcnʃı cɒ ɑcj. 今日は本当にへとへとだ＝今日は疲れる一日だった。　ın ſəμ ınc ſınel. 本当にへとへとだ。

ıncj,lɥ　ej（継続相の）

ıncjəel　［代詞］［ɒɑɥ］［丁寧］cjəel　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ıncjəelcı　［代詞］［ɒɑɥ］［丁寧］cjəelcı　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ　［文化］　ləɒcμ

ıncn　［文末純詞］［丁寧］cn　［レベル］2　ʃʃ0:ʃɒccμ　［文化］　ın(ʔ)

ıncnʃɔ　［娯楽］パチンコ　［類義語］ncɒʃɔu　ʃʃ:ıl/ncɒʃɔu　［文化］　→ lıſɔj, ləzφcn、ncɒʃɔu

ıncd　［植物］レンズマメ、レンズ豆　古

ıncldıμjɔ　［丁寧］［感動詞］大丈夫です　［レベル］2　ʃʔ

ıncıl　［被服］サポーター　ʃʃ:ıl/ncıl

ınccſı　［筐堺］アニータ　μɑ;ıl/nccſı「優しき女王エンナ」　ʃʃ　［文化］　筐堺司：ennı uısɔ　筐堺国：enccʃ, nıɔn

ınccɔ　［感動詞］［丁寧］どういたしまして　［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ: 韓国語のアニヨ「いいえ」は「いいえいいんですよ」の意味でも使うことがあり、ınccɔ がアニヨに聞こえるのでよく似てい

るが、語源を見れば分かる通り韓国語由来ではない。

ɪnɔ ［名詞］計画、予定、企画、計略、設計、プラン、企む、企み、企て、案 ［動詞］ɥəl を計画する、計画する、企画する、企てる ［天文］アノ座 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɪnlnɔʃ（誰々のɪnlnɔʃ（誰々のアンクノット））［用例］liɑ ɪnɔ 計画を立てる dìl ɪnɔ 計画を進める lɪ ɪnɔʃ nɔɟ lənɪ ɪʃə cɒ ɘejʃ. 彼は明日ここに来るつもりだった。 ɪn ɪnɔʃ nɔɟ nɔnɑ ʃə cɒ ɘejʃ. 明日発表するつもりだった。 ɪnɔ ɪnʃ cʅ ɥəl cɒ ɑcɟ ɒɘpel. 今日私の計画が台無しになった。 ɪc, ɪnɔ cʅ ɥəl. 結局計画はダメになった。 ☆ ɪn liɑ nelʃ ɪnɔ ɟɪ ɟɔɔʅ. 私はいつも前もって計画を立てる。 ɪn liɑcʅ ɪnɔ e ɑel. 勉強の計画を立てた。 ɪn liɑ uɪn ɪnɔ e ɟcl. 将来の計画を立てるつもりだ。 ɪn liɑcʅ ɪnɔ e ɟɔɔʃ(ɔɔʅ. 今週末の予定を立てた。 ɪn ɒcɥə elɑ ʃə ɪnɔ lccɒ ɥəʃ ʃcn eɒ ɟɔɑ. 大きな問題がない限り、計画を変えるつもりはない。 ɪn ɪɟ ʃɔʃɪl enz el lɪnɪ hɪcn ɪnɔ. 計画を守るためにできるだけのことをする。

ɪnɔɟ ［動詞］ɥəl（罠など）を ɪ（ターゲットなど）に仕向ける、仕向ける、仕掛ける、はめる ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪnɔ/ɟɔl ［用例］ɪn ɪnɔɟɪʃ pɪl ɪ φɔɒɪ. 狐に穴罠を仕掛けた。

ɪnɔnnɪ ［文末純詞］［丁寧］ɔnnɪ ［レベル］2 ʅʅ

ɪnɔ ɒefə ［人名］アノ＝メテ ［組み数字］1 / 1 3 ［レベル］3 先 : 語源不詳 ［文化］（ʃcɑ ʅʃʅ dɪl nee →）第４期３代ルシーラ･エ･ソーン。第４期３代ソーン第１使徒。第４期４代ルシーラ･エ・ソーンのクミールの実父。

ɪnɔɒeɒ ［組み数字］アノサークル ［天文］１３星座、自分の誕生日の属する星座 ［レベル］3 ʅ1 ［文化］→ ɟɪdɪll アルカには誕生月の黄座を利用した占いがある。 星占いは１３黄道で行われる。１３黄座とは黄道を月ごとに１３分割したものである。特定の星座ではない。 例えばリディアの月はアノ座であり、オヴィの月はオムト座である。 きっちりメル暦の月に対応している点が特徴である。なお、ミュシェットの月は特別にルミナ座になる。クミールの母、準使徒の名前である。 アルバザードでは μɑ にリュウがナユと協力して、天文学を進めた。μɑ ではアシェットが悪魔の一族を滅ぼし、宇宙編でアデルも滅ぼして回った。ほとんどのアデルは星座の中に封印され、地表からほぼ駆逐された。 従って μɑ 以降、星座は魔族の封印となった。人々は星座の檻に閉じ込められた悪魔たちを見上げながら、月散歩をするようになった。天球は魔族を封印した監獄であり、星座は荒ぶる魔物を鎮める天の鎖である。 太陽が西の空に沈むときの黄座に属するアデルは最も勢力が強くなる。また、夜空に星座が現れているときも、該当するアデルが強くなる。

ɪnɔd ［電算］ベクター、ベクタ、ベクトル ［反意語］ɥəlɪʃ ［レベル］6 ul;ɪnɔdɪʅ。画像を点の集まりで示さず、画像の設計図となる線やアンカーなどのデータで表すことから。 ʃʅ

ɪnɔdfel ［電算］ベクターデータ、ベクタデータ ［レベル］6 ul;/ ʃʅ

ɪnɔdɪl ［名詞］設計図、企画表 ［レベル］3 ʅʅ

ɪnɔdclɪ ［電算］ベクター画像、ベクタ画像 ［レベル］6 ul;/ ʃʅ

ɪnɔz ［音楽］ピック ［レベル］5 ʅ1:ɪl/nɔz「爪でない爪」

ɪnɔzleɒɔɒ ［音楽］ピック奏法 ［レベル］6 ʅ1

ɪnɔlec ［名詞］企画書 ［名詞］ビジュアルファンブック、公式ビジュアルブック、公式ファンブック、ゲームブック、アニメブック μɑ;/ | ɪl ʃʅ

ɪnɔc ［形容詞］絶対的 ［反意語］nɔcɑ ［レベル］4 ʅ0:ɪlnɔcɑ

ɪnɔcʃcɑ ［経済］絶対貧困、絶対的貧困 ［反意語］nɔcɑʃcɑ ul;/ ʅʔ

ɪne ［料理］汁、しる、果汁、つゆ ［料理］ジュース ［類義語］ɪμcʃ 1ʔ: 制 : 古 :ɒɪcneμcɪ（体の水）

ɪneɔʅ ［代詞］［ɒɒɑ］eɔʅ ［レベル］2 μɑ;/ ʅʔ ［文化］ɘɒcɥ

ɪneɟʃɔl ［丁寧］［感動詞］eɟʃɔl ［レベル］2 ʅ1

ɪneɥɔ ［文末純詞］［丁寧］［ɒɒɑ］eɥɔ ［レベル］2 μɑ;/ ʅʔ

ɪnel ［文末純詞］［丁寧］el ［レベル］2 μɑ;/ ʅʔ

ɪnel(J) ［接尾辞］～するように、～して。主格動副詞を作る。 μɑ;/ ʅʔ ［語法］ɑμeɥə

ɪu ［言語］近アルカ ［レベル］4 ʅ1

ɪuμcl ［医療］天然痘、疱瘡 ［レベル］5 古

ɪul ［経済］経済 ［レベル］3 古 :ɔɟɒn

ɪulɟɔɔl ［経済］経済活動 ［レベル］4 1L

ɪulucenʅɪɑ ［経済］経済大国 ［レベル］4 1L

ɪulbɪlɪɑc ［経済］世界恐慌→ ɒɪlɪɑc ［レベル］4 1L ［文化］ɥəəɒɪ 1ʃʅ01 インフレに耐えかね、政府はデノミを敢行。国債となっていた紙幣は紙くずとなった。レスティルの紙幣は国外でも保有されていたため、初の世界恐慌が起こる。同時に金貨の価値は急激に上昇し、唯一の貨幣として見直された。

ɪulɪn ［経済］経済主体 1L

ɪuɪf ［言語］慣用句、格言、金言、イディオム ［類義語］eɔcn ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɪμʃ/uef（つなぎ言葉）

ɪuɪl ［普通動名詞］洗脳、吹き込む、刷り込み ［動詞］ɥəl を ɪ の考えに洗脳する、洗脳する ［生物］すりこみ、インプリンティング ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɪu/lɪl（強く教える）［用例］lɪ ɪuɪlɪf ɒcuɪ ɪ lɪ hɔʃ lcμ lə. 彼は自分しか必要とする人はいないと娘を洗脳した。

ɪuɪɟ ［政治］文民、文人、平民、民間、民間人、非戦闘要員 ［反意語］uɪnʃcɟ ［レベル］4 1L:ɪlɪuɪɟ ［文化］軍人に対する概念。ナディアまでは非戦闘要員のことで、戦士と魔法遣と魔法戦士以外を指した。軍人と文民の区別はグレーで、シーフや技師のように、戦力になるが軍人とは言えないようなものがいたためである。 ナディアでは人類がヴィードを失ったため、軍人は軍隊に属する人間を指すようになった。それ以外を民間と呼ぶようになった。民間は商人と平民にさらに分けられた。技師などは商人に入る。 制服着用で、デザインは警察官と同じだが、色は暗く黒い緑。

ɪuɪɟʅɔlɒ ［政治］文民統制、シビリアンコントロール ［レベル］4 1L ［文化］ヴェレイでは五民の区別がまだあり、民間（文民）は商人と平民を合わせたものであった。文民統制ができたのはヴェレイなので、五民を引きずっているから、ɪuɪɟʅɔlɒ と名付けた。 革命後の身分制の事実上の復活においては、ɪuɪɟ という語は使われない。平民は lecɒʃɔnʅ であり、王族、僧侶、学者、医者以外を指す。もし革命後に初めて文民統制という単語が作られていたら、lecɒʃɔlɒ と呼んだはずである。

ɪuɪn ［サール］アヴァン ［名詞］悪夢 ［レベル］3 古 :ʅɒccμ ［文化］人に悪夢を見させるサール。首なし鎧姿の騎士の青年で、誰かの首を左手に持ち、右手に剣を帯びている。人が夜寝ているときに来て、悪夢を見せる。その悪夢の中で死んでしまった者は寝ている間にアヴァンの剣で首を切られてしまう。首を切るとアヴァンはその首を自分の首に合わせる。その首が自分のものでないと知ると首を左手に乗せ、一方の古い首は捨てて去っていく。 アヴァンは悪夢を司る。それゆえ悪夢を見ないようにという意味の ɪuɪn が出てきたが ɑcɪμ の登場でその用法は古アルカの時代に廃れた。ɪuɪn はそれから意味が広がって単に気をつけてという意味に一般化した。ɪlɪuɪ は別れ際に相手に言うことが多いため、遡って ɪuɪn 自体が悪夢の他に旅、旅行、外出などを司るようになった。 ［用例］ɪn ɪcl nɪ φɪμu ɒcl ɪuɪn. ときどき悪夢にうなされる。 ☆ ɪn nɪɑɪf nɔɟ lcel ɪlʃ ɪuɪn ɒɪn cnɔʅ ɑelɟ uep. 怖い映画を見たので悪夢を見るのではないか心配だ:lɔnɑ と違い、動詞は ɪlʃ を取る。 ☆ ɪn ɪlʃɪʃ ɪuɪn cɒ ʃɔlel. 昨日悪夢を見た。

ɪuɪnʅ ［伝統色］シアン ［レベル］5 ʅʅ:ɪuɪnlcɪn。戦争でアヴァンシアンを運ぶ箱にシアン色の紐が取り付けられていたことから。

ɪuɪnlcɪn ［軍事］［アイテム］アヴァンシアン、対ボス兵器 ［レベル］4 ʅ1:ɪuɪnφɪμ/lcɪn.jzu ［文化］uɪn φɪμ lɪnjeμ や特に uɪnφɪμ のような敵はヴィードが多く、しばしば倒すのに苦戦を強いられる。特に ɒcllɘ の多さはその相手を倒すのに時間がかかることを意味する。そこで複数人での同時攻撃や一回あたりのダメージを高めるといった手段が講じられてきた。 攻撃力を高めるためには強い武器が必要で、その特別な武器をアヴァンシアンという。アヴァンシアンは一般的に威力が強い代わりに当てづらかったり扱いづらかったり壊れやすかったり何度も使えなかったりといった欠点を持つ。通常兵器は雑魚を倒すために用いるので、すぐに壊れてしまっては意味がない。また、攻撃力がありすぎても意味がない。そこで通常兵器はたくさんの雑魚を倒せるため、強靭さが要求される。 例えば天馬騎士の場合、euɪnselcn が通常兵器であり、lɪnɑcɔle がアヴァンシアンとなる。

ɪuɪnlcɪn(J) ［軍事］アヴァンシアン ［レベル］3 ʅ1 ［文化］ʃ10Δ ɑel ɒcμ にできたディミニオン殲滅組織。本部はレスティリア県シェラザード市ガヴランス風洞に所在。

ɪuɪnɟ ［普通動名詞］一閃、一薙ぎ、ストラッシュ、必殺の一撃、(剣などの武器による)必殺技。ヴィードなどによる uɔnʃ などの必殺技は含めない。 ［動詞］ɥəl（敵など）を薙ぐ ［類義語］ʅcl、ʅcld ［レベル］3 ɑu;il/uɪnɔ/ɟɔ「身を守る行為」が原義だが、そこから身を守るための必死の攻撃という意味に変わり、zφ では必殺の一撃という意味になった。 古 : ↑

ɪuɪɟμ ［アビリティ］アヴァール、ジャンプ、落下、急降下 ［レベル］5 ɟμ;ɟl で「落ちる稲妻、落雷」ʅʔ ［文化］ɑμelɪnʃ

ɪuɪc ［名詞］特徴、素性、特性 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe:ɪɪl/uɪcʅ ［語法］enuelen ［用例］lɪ ʃcl ɪuɪc ɑlɟ. 彼は特徴的だ。

ɪuɪcjeμɪ ［化学］特性基 1L

ɪuɪcn ［形容詞］多能な、多彩な、多芸な、如才ない、万能な、有能な ［反意語］nɔen ［レベル］3 ʅ1:ɪl/ucɪn

ɪuɪcnʃ ［生物］足の三里、足三里、三里 ［レベル］6 ʅ1:ɪuɪcn/ʃe

ɪuɪcndɪdɪ ［企業］アヴァイン・パパ ʅ1 ［文化］ＤＯＩＴ、ケーヨーデーツーに相当する企業。

ɪucl ［形容詞］あるべき状態でない、体力が弱る、ＨＰが減っている、具合の悪い、異常な、異状な ［名詞］異常、異状、異変 ［形容名詞］［医療］患者、病人、ペイシェント、罹患者。ɪuclen の形で。 ［反意語］ʅeɪ ［レベル］1 ʅ0: 古 :ɪɪucl（傷） ʅclelɔ:lclelɔ, lə1lc ［語法］広義語。あるべき状態でないものは人でも物でも何でも指せる。故障は μcφ でなく ɪucl。 ［成句］ɪucl ɔʅnɪ ɪucl 病人は病人に共感する：同病相憐れむ ［用例］ʃecʅ ej ɪucl. テレビが壊れている。

ɪucl1ɔlɔ ［医療］神経症 ［類義語］1ɔlɔleun ［レベル］5 μɑ:μɥəə;/「あるべきでない精神」 ʅʔ ［文化］uɒμɪnʃ

ɪucɟ ［名詞］ブルズアイ、的の中心 ［電算］ラジオボタン→ ɪucɟlɔʃɟ ［レベル］3 ʅ0:ɪlue/cnɟ（的の目）

ɪucɟlɔʃɟ ［電算］ラジオボタン← ɪucɟ ［レベル］3 ʅ0

ɪucn ［経済］景気 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪuʅʃ 経済が動く 」が原義 ［用例］ɪucn eʃ μɪʃ. 景気が良い。

ɪucnɪll ［経済］景気動向指数 ［レベル］6 ɪl;/ ʅʔ

ɪucɔ ［医療］脱臼 ［レベル］3 1L:ɪucl/hɔ。あるいは ɪɪucl/hɔ かもしれない。

ɪucel ［アトラスの国家］アヴィエル ［アクセント］↑ucel ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: 浮かぶ

ɪuɔ,ɑu zɔn、zɔn e φc uc elɟ ucen ɪʃə

ɪuɔn ［動詞］ɥəl（敵など）の体に触れてユノを直接流し込む、アヴォン ［類義語］uɔnʃ、uɔlʅ ［レベル］4 古 :ɪuɔn ← ɪuɔnʃ ← ɪ（～でない）/uɔnʃ（ヴォント）「uɔnʃ ではない 」つまり「 間接攻撃である uɔnʃ とは違う類の uɔnʃ」の意。 ［用例］ɪn ɪuɔnɪʃ μeʃl. 敵にアヴォンを放った。

ɪuɔɒ ［動物］オオカミ、狼、ウルフ ［名詞］統率の取れ訓練度の高い兵士 ［組み数字］2 / 5 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɪuɔɒɪ（強い犬） ［文化］軍隊と兵士の象徴。獰猛、残忍というマイナスイメージより勇猛果敢というイメージ。 ［擬声］hɔɔn（遠吠え）ɪɔn（鳴き）φrdrd（唸り） ［成句］ɪuɔɒ e ɒcμɔʅ ミロクの狼。警察や軍隊のこと。 ɥən uɪc ʃ'ɪuɔɒ 狼の兵のように：勇猛果敢 ［用例］ɒɥɪn ʃe lcɟlcɟ ɪuɔɒ dɔʃen μecɥə ɥɪnnɪ. I ' m a l i t t l e w o l f i n s i d e a g i r l（『リンゴ日和』）

ɪuɔɒɪɑcɟ ［法律］狼刑 1L ［語法］生きたまま狼に食わせる刑。若い女にのみ適応。ペットの殺害などに適応。

ɪuɔɒcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］おおかみ座 ʅʅ ［文化］cɑɪ

ɪuɔμʃ ［形容詞］全然可愛そうではない、自業自得な、ひどい目にあって当然な、かわいそくない、同情に値しない、身から出た錆 ［反意語］lenɪɟ ［レベル］2 1L:ɑəlɒccɪ:ɪ uɔμʃ（死に向かう） ［用例］ɑclʃ ɪuɔμʃ 自業自得な結末 ucʅ ɪuɔμʃ 同情に値しない男

ɪuɔl ［動詞］ɥəl を ɪ にそらす、そらす、反らす ［魔法］アヴォル。風属性の白魔法。魔法の風を起こし、物理的攻撃、火・氷・光など属性を問わず魔法攻撃をそらすことができる。魔法の風で防ぎきれないものは通過してしまうので、バリアの強さは術者の能力次第である。 ［レベル］3 古 :jɔμn ［成句］ɪuɔl lɔjʃ 話をそらす ［用例］ɪuɔl ɥənɔ e μeʃl 敵のユノをそらす

ɪuɔlcnɟ ［医療］斜視、やぶにらみ ［レベル］5 1L:「そらし目」

ɪue ［名詞］はがね、鋼、鋼鉄、鉄鋼 ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɪu/ɑenʃ（強い鉄） ［文化］ɑɔlɒcɥə

ɪuel ［医療］ヘルニア ［レベル］5 ʅ0:ɪɪucl（あるべきでない）。ヘルニアが、本来臓器などがあるべき場所から外れていることを指す病気であることから。

ɪuen ［形容詞］最悪の、最低の、最も～でない ［名詞］最小、最低、最悪 ［反意語］ɪlɪɪ ［レベル］2 1L:ɪlɪuen。uen の繰り返しから ［用例］ɪlʃ ɪuen 最低で、最小で ɔlʃɪ ɪuen 少なくとも、最低でも、さすがに、流石に、せめて ɪn lɔ ʃə eʃ ɑelɟ ɪuen lɔʃ (lej) ɪn cnɪʃ. それは今までに見た映画の中で最悪だったと思う。 ɪn ʃcɟ jeμ ʃə ʃcɟ ɔlʃɪ ɪuen. それくらい流石に俺でも知ってる。

ɪuenlɪz ［数学］極小値 ［レベル］5 1L

ɪuenjɪɑ ［気象］最低気温 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［用例］ɪuenjɪɑ ɪʃ ʃcɑ 10 cɒ ɑcɟ. 今日の最低気温は零下１０度だった。

ɪuenɑclɪʃc ［単位］［物理］最小長、プランク長 ［レベル］6 μɑ;/ ʅʔ ［文化］μɑ でセレンは物質を構成する最小要素があるとし、その長さを最小長と定義した。当時の科学力ではその長さを知ることができなかったが、セレンはその存在を予想した。彼は無限に分割できる長さは現実世界にも物理世界にも存在しないと述べた。 ul でプランク長が発見され、ɪuenɑclɪʃc は暫定的にプランク長を指すようになった。 また彼は時間などについても最小時間などがあるとし、無限に分割できる時間は存在しないと述べた。

ɪuenɒel ［単位］［物理］最小時間、プランク時間 ［レベル］6 μɑ;/ ʅʔ ［文化］ɪuenɑclɪʃc

ɪuenhɪclɪ ［法律］簡易裁判所 ［レベル］5 ʅʅ

ɪuenɪll ［数学］最小値、最低値 ［レベル］4 1L

ɪuenɔʅlhɪnʃ ［数学］最小公倍数 ［レベル］3 1L ［文化］→ ʃɔcɑɪnc ・ルシアと最小公倍数

２０１２年４月１６日にセレンが５才のルシアに最小公倍数について教えた。１２と５の歯数の歯車を用いて説明し、理解させた。簡単に理解していた。 するとルシアはどのような歯車でも元の位置に戻る瞬間があるかと問うてきた。２数には最小公倍数が存在するので、当然そういう瞬間があるといえる。すると横にいたメルが一瞬考えて、５６と４８の歯数の歯車の最小公倍数は何かと娘に問うた。 メルが考えた問題ということは数学的に意味のある数だろうと考えたセレンはすぐに彼女の意図を察し、娘に解説しだした。 この２日前に素数を教え、素因数分解についても教えていたため、まず５６と４８を素因数分解させた。５６は２・２・２・７であり、４８は２・２・２・２・３であるとルシアは答えた。なら両者の最小公倍数は何かと問うたらしばし考えて分からないというので、１２と５および３０と１５の歯車が６０で最小公倍数を迎えることを素因数分解で説明した。すると５６と４８の場合は２・２・２・２・３・７で最小公倍数が求められるとルシアは答えることができた。 それを暗算してみなさいと言ったら、「暗算できるような数ですか」と聞かれた。「素因数分解したままでもできるけど、美しくはないね」と答えたら、「ママが出した問題だから工夫すれば綺麗にできるはずですね」と聡いことを言ったので親サイドは上機嫌になった。 ルシアはしばし考え、２・２・２・２・３・７＝６・７・８であることを発見した。「連続する３つの自然数の積はどうなる？一般化できるか？」と聞いたら、５分ほど試行錯誤し、「真ん中の数を３回かけた数から真ん中の数を引いた数では」と答えた。ｎ＾３－ｎなので正しい。「どうして分かった」と聞いたら「１，２，３と２，３，４を例に考えたらそうなったので」と不十分な回答だったが、結果としては合っている。ｎ＾３－ｎという一般式を求められなかったのが残念だったが、５歳児だし自然数をｎと定義することはメルが教え済みか分からなかったので仕方がない。「じゃあその法則を使うと暗算できるか」と聞いたら、３０秒くらいして「６・７・８は３３６です」と答えて最小公倍数を導くことができた。 その後ルシアは補足するように、「２・２・２・２・３・７なら４８・７のほうが計算早くないですか？」と聞いてきた。ｎ＾３－ｎの一般式を求めさせたい親サイドの意思が伝わってないので出た疑問なだろう。「まぁね。ただ、４８・７はそこそこ面倒だぞ？」と言ったら「５０・７から１４を引けばすぐ暗算できます」と答えたので感心した。 なお、セレンはかつて６才前後に父がくれた大辞典を使って干支と十干から還暦を理解し、甲子などをすべて暗記し、最小公倍数を理解していた。そのとき親に教わったわけでもなく、自分で勝手に１２と１０の歯数の歯車が再び同じ位置で咬み合うときが最小公倍数だと理解していた。ルシアと異なり、自分で最小公倍数という概念を編み出していた。 そのときの経験を用い、歯車の方法ならほぼ歳の近いルシアでも理解できるのではないかと思い、この方法を試した。ルシアは自分で最小公倍数を発見できなかったが、自分の発想で５６と４８の最小公倍数は計算できたので、親のセレンとどちらが優秀かは判断しかねる。セレンはゼロから発想するタイプで、ルシアは知識を発展させるタイプと言えよう。 ・２０１３年３月２７日のツイッター jeμen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeμenɪμbɪzɪμɑ １分 自分のやり方はそれぞれの数を素因数分解し、どの数の組み合わせを作ればそれぞれの数を素因数分解したものを表せるかというやり方で、当時素数という言葉も知らないのに「割り切れるまで割り切って細かくする」という発想だけでこの方法を編み出したわけか。 開く 返信 削除 お気に入りに登録 その他 jeμen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeμenɪμbɪzɪμɑ ↑ 分 @ɪclɪ_jənɑ 続きの FT で解説しました。 会話を表示 jeμen ɪμbɪzɪμɑ ⊠@jeμenɪμbɪzɪμɑ ʅ 分 メルは「その件についてはお兄ちゃんのほうが賢いけど、全般的には紫亞のほうが賢い」と言い、リディア

は「紫亞はネットがあるから。セレン君の時代はネットがなかったから比べるのは無理。銃と刀で戦ってどっちの持ち手が強いかみたいな無駄な論争」と言っていた。僕はまぁ娘のほうが賢いと思う。　開く　jɐɥɐn ɪɥbɪzɪɥɐ ⊠@jɐɥɐnɪɥbɪzɪɥɐ ϑ 分　で、未だにこのとき思いついた方法で最小公倍数を出してるんだが、小中学生は習ってないらしい。みんなどうやって通分とかしてるんだろうと不思議に思った。ᵽ歳で理解した娘は自分より頭いいねと言ったら娘は「ʅ歳でも自分で考えたパパのほうが頭いいと思います」と言っていた。　開く　jɐɥɐn ɪɥbɪzɪɥɐ ⊠@jɐɥɐnɪɥbɪzɪɥɐ L 分　で、当時どうやって最小公倍数を求めたかというと、「1J=ʔxϑ=JxJxʔ、10=Jxᵽʔxᵽʔ という組み合わせを作れば JxJxʔ も Jxᵽʔ も作れる。で、JxJxʔxᵽʔ は ϩ0 だ」と考えて求めた。まだ学校でᄂᄂも習ってないのに計算はできたから。　開く　jɐɥɐn ɪɥbɪzɪɥɐ ⊠@jɐɥɐnɪɥbɪzɪɥɐ 11 分　ʅ歳のとき親父が大型の国語辞典を買ってきた。巻末に十干等が出ていて「常識だから覚えろ」と言われ、干支と十干、五行説と還暦を覚えた。そのときなんで還暦って ϩ0 年なんだろうと思い、1J と 10 の最小公倍数だからかと思った。ʅ歳なので最小公倍数なんて言葉は知らなかったが。　開く　jɐɥɐn ɪɥbɪzɪɥɐ ⊠@jɐɥɐnɪɥbɪzɪɥɐ ʔʔ 分　最小公倍数ってみんなどうやって求めてるの？娘がᵽ歳のときにやり方を教えたんだけど、どうも日本の小中学生はそのやり方を知らないらしい。で、自分も習った記憶がない。思い返したら、このやり方って自分がʅ歳のとき自分で編み出したものだった。　・直方体問題　JΛ aəl aəl にセレンは紫亞に問題を出した。「縦４８ｃｍ横３６ｃｍ高さ３０ｃｍの直方体に最大何ｃｍの立方体をいくつ隙間なく詰められるか。また、その直方体を最少何個集めれば立方体を作れるか」　前者は最大公約数を用いて６ｃｍの立方体を２４０個、後者は最小公倍数を用いて一辺７２０ｃｍの立方体を作るので元の直方体が７２００個となる。６歳の紫亞は容易に解いた。実はこれは立教中学校の入試問題で、さすが紫亞だと感心した。　[用例]　ɪuɐnɔ˥lhɪnſ ɔɔuɐn 1J ɔ ᵽ eſ ϩ0.　１２と５の最小公倍数は６０だ。

ɪuɐɒ　[単位] 兆　[レベル] 3　ʃ1:ɪuɔɒ

ɪuɐɥ　[名詞] 資格　[レベル] 3　1L:ɔɔɥn:uɐɥ　[用例]　ſɪɑ ɪuɐɥ 資格を取る　ſɔɑl ɪuɐɥ 資格を失う、失効する

ɪuɐɥɔɪ　[地名] アヴェリア海　J0:ɥɔɑɔɪ:ɪnuɐɥ/eɥɔɪ（呪いの海）。デペリアと名前的にも対応している。　[文化]　ヴァルマレア西〜カルカヒ東。カルカヒの囚人の呪いに侵された海とされる。

ɪuɐɥɔɪɟɔzɪ　[地学] アヴェリアプレート　ʃʔ

ɪuɐl　[サール] アヴェル　[名詞] 哲学、道　[レベル] 4　古 :ɥɔɑɔɪ　[文化]　哲学者アヴェル。青年の姿をしたサール。美しい顔立ちだが、眼光鋭く威圧感にあふれる。

ɪuɐlſ　[娯楽] アヴェルト、将棋　[レベル] 4　ʔʔ: 制 :pɐl/ʌbɔɔɥ:ɔɔɥn の uɐlſ（抽象）に ɪl(ɪ) を付けたもの　[文化]　→ nɪɥɐɒɐl　ルールは日本のものと同じ。盤は木製のものが多い。駒も木製が多い。駒は円形で、表裏に違う文字が書いてある。駒は枠内に置く。　駒の名称は異なる。取った駒を使うという性質上、チェスと異なり、両陣営の駒に同じ名を与えるため、固有名詞を避けている。　王（ɑɪcz）・飛車（hɪrdɒ）・角（hɥəlɪ）・金（benɔɒ）・銀（φɪlſe）・香車（nɔce）・桂馬（ɒɔɔl）・歩（ɪɪlſ）　ナユのころは軍事システムが整っていなかったため、金以下が ɪɥſɪn, ɑɥecn, ſɔɔl, ɑɥeſcɟ, ɪɪc となっていた。表を黒、裏を赤で指して同じ文字を使っていた。これを受けてカコ以降は裏面は赤文字をやめて古い名で呼ぶようにした。とはいえ、金には裏がないので ɪɥſɪn は表れない。なお、飛車と角は成ると ɥɔɔclı と lılſcɟ になり、裏面は昔と同じく赤で書かれる。赤になるのはこの２枚だけ。　こういった複雑な歴史の中で育まれてきたものを、現在のルティアやアルバザードでも使用している。　＜用語＞　王手 : ɪ ɑɪcz　詰み : ɪ uɐeɥə　成る : ɪlel　取る : jeſ, jɐn など

ɪuɐlnɔɪn　[歳時記] 死神の休日、アヴェルニアン　[レベル] 3　ʃ1:ɪuɐlnſ/ 古 nɔɪ　[文化]　ルノが一年に一度アルデルの整理とメンテナンスを行う日。ɑɪu len。この日はアルデルにセレスを持ち込んでも受け付けてもらえないため、死神は皆休む。夢喰いもすべての魂を食べるわけでない。おいしそうなものをがめるというだけで、基本的には誘燈と同じく魂を運ぶ。従ってこの日に狩りをするのは合理的でなく、夢喰いも一年に一度の休日を楽しむ。　イムル暦でいうと１０月の陽気のよい日で、死亡率がそもそも少ない。アルデルにいるルノがアトラスの北半球の時間に合わせているのは、歴史的に見てここに一番アテンが集まってきたため。

ɪuɐlɑɪcz　[哲学] 哲人王　[レベル] 5　ɑu;/　ʃʔ　[文化]　哲人が政治を行う王の立場になった者を指す。独裁者の理想的なあり方とされた。

ɪuɐllınſcɟ,ɑu　ɪuɐlɪn

ɪuɐlɪn　[哲学] 哲人　[レベル] 5　μɑ;/　ʃʔ　ɪuɐllınſcɟ:ɪuɐllınſcɟ　[文化]　哲学を学んだ徳の高い人間のことで、ɑu からあった概念。

ɪuɐlınſ　[死神] 死神、アヴェラント　[生物] 死神属。魂科唯一の属。夢喰、誘燈、夢織の３種がある。　[形容詞] 死神の〜　[レベル] 3　古 :ɥɔɑɔɪ:ɪuɐlınſcɟ<ɪuɐlınſcɟ<ɪuɐl（哲学の）/lınſcɟ（人）。あの世は哲学的な存在であるから、その形而上的な場所にセレスを誘う者を哲学者、即ち ɪuɐllınſcɟ と呼んだ。死神アヴェラントのことである。後に発音の関係で ll が l になり、ɪuɐlınſcɟ になった。やがて語形が省略され、ɪuɐlınſ に変化した。この際、ɪuɐlınſcɟ という古い語形は消えずに、アヴェラントが通る道という意味で生き残った。　ɪuɐlınſ:ɪuɐlınſ:lə lı ɪuɐlınſ:ɔ˥ɔlɔ,ılſ　[文化]　ルノの部下である無数の死神。死んだ者から出たセレスをトワーユに連れて行く。夢織の紗枝などが例。夢織は死神を題材とした一連のファンタジー小説。ランヴェムのように、種としては夢喰なのに、自分は夢織として生きるというような複雑な例もある。　死神にはフレメルテ、シューゼ、ヴェルギナ、アルハイクという４人の貴族がおり、いずれもルノの配下である。しかし忠誠心はまちまちで、基本的に個人行動を取っている。この貴族と交わった人間は永遠の命を持った死神となる。この子死神と交わった人間も死神となるが、これらの孫死神は永遠の命がなく、死ぬと灰になる。　[成句]　lınφ ſ'ɪuɐlınſ 死神の権利 : 生殺与奪　[用例]　ɪuɐlınſ ɔɒ jɐn ɑɪ ınɒcınϑ 死神も夢を見れますか。

ɪuɐlınſſɪalın　死神狩り　1L:ɒelcɑɔɪ ɪlſe: アシュテが造語した一時的な用語

ɪuɐlınſcɟ　[地名] アヴェランティス、冥道、冥路、黄泉路　[レベル] 3　古 :μɑɔɪ　[文化]　霊界とトワーユ・ラティアを繋ぐ道。アヴェラントがセレスを運ぶ通り道。地球上ではどの方向とも言えないが、宇宙で見ればスピカの方角にあると考えられている。　| 約 1ʔ9 億年前 | 初期の leɪc は ɪccɑ 的に空な状態だったが、唯一 ɪμſe が ɪccɑ を持っていた。ここに気圧と同じ考え方で、ɪccɑ 圧の差が原因で、高 ɪccɑ 圧である ɪμɑel から leɪc に ɪccɑ が流出しはじめた。この流出の際に ɪccɑ が流れた空間が道となり、ɪuɐlınſcɟ となる |

ɪuɐlınɟ　[名詞] 生殺与奪　[レベル] 5　ɑu;/ɪuɐlınſ/jɔ　JΛ　ɪuɐlınɟ:ɪuɐlınɟ

ɪuɐlınuɐɟ　[哲学] [政治] 哲人政治　[レベル] 5　μɑ;/　ʃʔ　[文化]　ɑu にできた概念で、独裁政治の一種。哲人王によってなされる政治のことで、良い意味での独裁政治とみなされる。μɑ、旧革命、革命などが代表的。

ɪuɐlınφ　[名詞] 生殺与奪の権利、生殺与奪権　[レベル] 5　μɑ;/ɪuɐlınɟ/lınφ　JΛ

ɪuɐleſ　[魔法] [アイテム] ロッド、アヴェレット　[類義語] ɪμzɔn　[レベル] 3　zφ:jzɑ;ɪuɔ,ɑu/ſe.hɐɒ　ʃʃ　[文化]　ɪμzɔn

ɪuɐleſ(J)　[形容詞] 哲学的な　[レベル] 5　μɑ;/　ʃʔ　[用例]　ſə eſ led lel ˥nɔɔɟ ɪuɐleſ le hɪdn ınſ ɪμɒſ ɪl ɪn cɒ ɪnɟ jıbɔμ uɪuɟıb cɒ ſɔ˥el. 昨日体操着を着ているときに友人が私に問いかけた哲学的な問題は難しい。

ɪuɐcɥə　[医療] ヴィード死　[レベル] 4　J0:ɪuɐlſɪn/uɪſlɐcɥə（死神を待つ）　[語法]　肉体の死ではなく、ヴィードが枯渇した死。

ɪɑ　[言語] 新生アルカ、中アルカ　[レベル] 4　ʃ1

ɪɑ,lɥ　ſə（それ）　ϑ

ɪɑſ　[動詞] ɥəl を ɪ と交わす、交わす、かわす、交える、まじえる、酌み交わす、くみかわす　[レベル] 3　μɑ;ɪl/ɑəſ「相互に交換する」　JΛ　[語法]　「約束を交わす」のように比喩的な意味はない。物理的に腕などを交差させて何かと何かを交わす場合、例えば盃と盃、剣と剣を交わすなどの場合にしか用いない。　[文化]　恋人同士など、親密な間柄では食べ物や飲み物を互いに食べさせることがある。例えば盃に酒を入れて互いの口に持っていって飲ませ合うというように。たいていは儀式的に行われるが、デートなどで親密さを確認し表現するために行うこともある。元は jɒ で凪人が持ち込んだ風習で、個人主義のアルバザードで発達した風習ではない。　剣など武器を使った試合や決闘では、始める前に武器の切っ先を互いに交わす風習があり、これは元々神代にレスティルで発達した勝負開始の合図である。　[成句]　ɪɑſ ɑlec 剣を交える。勝負を始める、雌雄を決する

ɪɑſɟ　[動詞] ſel を裏切って ɥəl と浮気する、浮気する　[普通動名詞] 浮気、不倫　[レベル] 3　ʃ1: 古 : μɑɔɪ:ɪɑəſɟ。ソーンのアルカを利用して「拾わない（拾わないが原義で、意味は「捨てる」）」という原義から造語

ɪɑμɪ　[地球の国名] タイ　[レベル] 5　古

ɪɑμɪ(J)　[名詞] ８分の１、エイス、４５度　[レベル] 4　μɑ;ɪl/ɑμɪl　JΛ

ɪɑμɪn　[交通] 八分儀　μɑ;ɪɑμɪ/en　JΛ

ɪɑμɪnɔɑ　[地球の星座] [ユマナ] はちぶんぎ座　JΛ　[文化]　cɑɪ

ɪɑμɪhɪrl　[ユマナ] タイ文字

ɪɑμɐɒ　[格詞] 〜の近くに　[レベル] 2　J0:ɒelcɑɔɪ lcɐɟ

ɪɑμɐɒɐn　[接続詞] ɪɑμɐɒ　[レベル] 3　ʃ1

ɪɑμɐcn　[人名] アフレイン。アルマスト派の始祖　[レベル] 4　古 :elɑμɐcn と同根　[文化]　アフレイン（メル J10 年代 8ー JL0）。アルマスト派の始祖。少年〜青年期の J?0 年、マルテの恋人であったが、神々を敬わずアルマを敬うという信仰の違いにより破局。同時にアルティス教の一派アルマスト派を立てる。J?0 年ごろ、当時のアルシオン派の首領となっていたマルテと再会し、息子ユレット、娘アメリを設ける。JL0 年、敵対政党であるミナレットの首領アルファウスに殺害される。

ɪɑɪ　[料理] レンジ　[レベル] 2　定 : 火の　[用例]　ɑɪc dɔɑ ˥ɔn ɪɑɪ レンジでパンを焼く

ɪɑɪſ　[動詞] ɥəl を c から徴収する、徴収する、取り上げる　[レベル] 4　ʔʔ: 制 :ɪu/ɑɪſ（強く取る）　[用例]　˥ɪɑ ɪɑɪſ ucl c lczl lel ɪɑc. 国が男を村から徴兵した。　ɪɑɪſ lcɪɑ c ɥəlcɪn 子供からゲームを取り上げる

ɪɑl　[地学] マントル　[レベル] 5　ʔʔ: 制 :ɪɑ/ɪlc（熱い地面）

ɪɑlſcɒɑcμec　[地学] グーテンベルク不連続面、コア − マントル境界　ɥl;/「マントルと核の境界」　ʃʔ

ɪɑɪn　[工学] [料理] テフロン　[レベル] 5　1ʔ: 制 :ɪɑınz（熟に強いプラスチック）

ɪɑɪn,lɥ　これの　ɪɑ の属格

ɪɑc　[言語] 抑揚、イントネーション、音調　[レベル] 3　ʔʔ: 古 :ɪɑɔ（音が低い）　[文化]　アルカは急上昇、上昇、平板、下降、急下降、中止、昇降の７種。そのほかに意外な驚嘆や余韻といった亜種が存在する。詳しくはサイトを参照すること。　[用例]　cnɟɪμen ſcl ɪɑc lɪu. 中国語は抑揚がうるさい。

ɪɑcl　[形容詞] 辛い　[類義語] hce　[レベル] 2　μɑ　J1ɪɑl:ʔʔ: 制（熟い味）　˥ɪ:˥ɪ　[語法]　香辛料の辛さ。　[用例]　bel e bɒſɔ eſ ɪɑcl lecɒel. メティオ料理は辛いのが多い。

ɪɑclſıſſ　[名詞] 辛党　[レベル] 4　J1　[語法]　酒好きという意味ではなく、辛いものが好きという意味で使う。　[用例]　leɟ jccnı uelɑ eſ ˥ɪɒcl ɪɑclſıſſ. 酒好きはたいてい辛党だ。

ɪɑcμlcɟ　[化学] [料理] 上白糖　[レベル] 5　1L:jeμen: リディアがグラニュー糖と区別できていなかったので、セレンが命名した。　[文化]　アルバザードでは通常使われない。

ɪɑeſ　[形容詞] 意味のある、効果のある、有効な、有意味な、有意義な、価値がある　[類義語] ləɑcl　[反意語] lcɑ.　[レベル] 2　1L:ˡlcɔn: 制 ˡɪɑeſ　[語法]　意味や意義の有無が ɪɑeſ と lcɑ。価値の有無が ləɑcl と lel)。宝石は ləɑcl だが、ɪɑeſ ではない。　[用例]　dcſı ɪɑeſ 効果のある薬　ſə eſ ɪɑeſ lel el ɪμ nɔɟɑel. 自習することには価値がある。

ɪɑel　[料理] [動詞] ɥəl を茹でる、茹でる、ゆでる　[レベル] 2　1L:μɑɔɪ:ɪμbɪlelſ ←制 :ɪɑ/el（熟湯）　[用例]　ɪɑel ɔφɪ ジャガイモを茹でる

ɪɒ　[文頭純詞] どこ　[名詞] ˥ɪ ſɔ の略　[レベル] 1　1ʔ: 恣意　˥ɪlſe:˥ɪlſe:　[語法]　文頭の純詞として使う。文中に入れる場合は ˥ɪ ſɔ にし、˥ɪ ɪɒ にはしない。　[用例]　ſc lı ɪɒϑ いまどこ？。ſc lı ſɔϑ（どこにいるの）と ſc lı neϑ（誰のところにいるの）を同時に現せる。　˥ɪ ɔlſıſ ſə lel ɪn ˥e ɪl ɪɒ jccnı. 彼は私がどこに行けばいいか教えてくれた。　ſc μı ɪɒ ſ'ɪμnɪϑ あなたはアルナの何処に住んでいますか？

ɪɒſ　[形容詞] 極端な　[レベル] 2　ʔʔ: 制 : 古 :ɪlɒıſſ　[語法]　節度や中庸を逸している状態。良い意味にも悪い意味にも使う。ſcn の意味で使う場合、話者の驚きが篭められている。　[用例]　ſɔɔɔ jɔμ ɪɒſ 極端に高い坂　sɔ˥ɔɒ ɪɒſ 極端な叱り方

ɪɒſıl　[名詞] どこであろうと　[レベル] 1　1ʔ: 制　[成句]　˥ɪlſ ɪɒſıl どう見ても、どう考えても、どうしても、どこかだ⇔ ɒeɟɪ ſɔſıl　[用例]　ɪn ˥e uɪn ɪɒſıl ɪ. どこだろうと行くぞ。

ɪɒſılɔɒc　[娯楽] アムタルオミ　[ユマナ] どこでもドア　[レベル] 3　ɪl;/　ʃʔ　[文化]　ɒılcμɑen の道具のひとつ。どこでもドアに相当。　[用例]　ſee, ɪn ucz jıſ, ɒcl ɪɒſılɔɒc ɪ. やべぇ遅刻する、マジどこでもドアくれ。

ɪɒn　[医療] 吹き出物、おでき、できもの、にきび、ニキビ、発疹、あせも、湿疹（jcμɪɒn）　[レベル] 3　1ʔ: 制 : 古 :nɒ: 原義 nɒɪcn(（体の点）　[用例]　nɔn ſclc˥ ɪɒn. 吹き出物ができた。

ɪɒɒı　[名詞] アンマ。女性のエタットのうち、女らしくないほう。　[レベル] 2　J0:μɑɔɪ/˥lccz: ɪl/ɒɪɒ　[文化]　典型的には男勝りで気が強く、姉御肌で情に篤く、人の世話をするのが好きで親切な女性を指す。

ɪɒd　[名詞] 名誉、栄誉、ほまれ、（nı で）光栄な　[形容詞] 誇らしい　[類義語] leuɪn　[反意語] ſlə　[レベル] 2　1ʔ: 制 :cɒd　[用例]　ɪn nı ɪɒd ɒɪn ɪ˥ſc˥ ɒcμɔ˥. ミロクに会えて光栄だ。

ɪɒd˥ɔn　自尊心を作るための道具　1L

ɪɒdıl　[アイテム] アンパル　[レベル] 4　μcɑɔɪ: 古 : 語源不詳　[文化]　ヴァストリアの１つ。ジールのもつ神弓。

ɪɒdc　[音楽] ホイッスル　[レベル] 4　ʃ1:ɪl/dcə

ɪɒɥə　[名詞] 六分儀　jɒ;ɪn（６）/ɒɥə（無い→離れた→分割した）　JΛ

ɪɒɥəle,jzl　˥ɔz

ɪɒɥəleſ　[魔法] アミュレット　[レベル] 5　ɪμɑ;ɪɒɥəle,jzl　ʃ1　[文化]　ɑɔlɒcɥə

ɪɒɥəcɑ　[地球の星座] [ユマナ] ろくぶんぎ座　JΛ　[文化]　cɑɪ

ɪɒl　[人名] アムル　[組み数字] １０/１４　[レベル] 4　古 : 語源不詳。古アルカでの意味は無し。　[文化]　(− JΛ aəl ɑɥə_JΛ ɑcı ɑcn)　第４期３代アルシェ第１０使徒。男性。jeeſ。ナルムの夫、リディアの養父。少し小柄で痩せている。　JΛ ɑcı ɑcn にサプリの村を襲った魔族バイアスの火の魔法により焼死。リディアを人質に取られ、武器を捨ててバイアスの手にかかった。　・現実では　(ſcɑ JΛ aəl ɑɥə_J zɪn pelϑ) 第４期３代アルシェ第１０使徒。男性。jeeſ。ナルムの夫、リディアの養父。少し小柄で痩せている。

ɪɒllcl　[化学] ホルミウム　1Λ: 制

ɪɒı,ılſ　ɑcμe

ɪɒıſ　[生物] 超ドメイン　[言語] 超語族　[レベル] 6　1L:ɪμſe/ɒıſ　[語法] [文化]　→ ɪſen, μəɒı　ɪſen と eſɪn に分かれる。ɪſen はアルマからできたもの。eſɪn はアルマが分裂した余波でできたもののうち、生物を指す。アルマの分裂の余波では無生物もできているので、eſɪn だけが余波の結果ではない。

ɪɒınze　[人名] アマンゼ家　古 : → lcɔn ɪɒınze　[文化]　シオンやマルテなどの姓。

ɪɒınzen　[企業] [人名] アマンゼン、薬師寺　ʃ1　[文化]　三菱東京 ∃+§ 銀行、三井住友ＦＧに相当する企業。

ɪɒıuel hɥəəſɔ　[人名] アマヴェル＝ヒュート　1Λ:μɥəə/dɪıl:ɪɒılcɟ/uelɔ「思い出の金曜日」。生まれがエンナの日だったため。メル暦上、エンナは必ず金曜になるわけではないので注意。　[語法]　(pel 1Λ pcl len) リュウとパールの長男。同日、セレンとリュウの中学時代の約束に基づき、ルシア＝アルバザードの許婚となる。

ɪɒıφıſıılc　[ジョブ] 露払い、アマガタリ　jɒ;ɪɒı/φıſıılə「露払い」　[レベル] 5　J0　[文化]　→ ˥ɪlɪn　カランは接近戦には強いが遠距離攻撃に弱い。そこでガルマには必ず一人の ɪɒıφıſıılc（露払い）という魔導師がおり、敵からの魔法攻撃を防ぐ。　ヴィルを持って生まれた数少ないアルティア人に幼い頃から徹底的に白魔法を仕込んで育成する。ほぼ１００％女性であり、１２歳を過ぎると前線に出される。人手不足のときは最少７歳という記録がある。　いくら子供のころから鍛えたといっても魔法国家ルティアの魔導師の攻撃を防げるものではない。全力でガードしても一分と持たない。　ここでガルマの少人数戦法が生きてくる。相手が１０人程度だと魔法でもせいぜい１００ｍ先程度しか狙えない。１００ｍなら走っても十数秒で接近できる。露払いはそこまで耐えられれば良いのである。　アルティアは男尊女卑のため、露払いの労働環境は当初劣悪で、慰安婦も兼ねていた。露払いの戦死率は高かったが、露払いは稀少なので死なせるわけにはいかず、労働環境は時代が下るごとに向上していった。　[成句]　ɪɑcɒ ı ɥəɥə ɔnſ ɪɒıφıſıılc ゆゆにもなれず、露払いにもなれず：帯に短し襷に長し　ɥɔn ucl ɥəɥə lel ɪɒıφıſıılc 遊女は露払いにはできず：背に腹は代えられぬ

ɪɒıφıſıılc(J)　[企業] アマガタリ　ʃ1　[文化]　任天堂、スクウェア・エニックスに相当する企業。ディア＝ヴェールやテルアデルのメーカー。ıl で複雑な経緯を経てディア＝ヴェール部門だけ公営化された。未曾有の出来事であった。公営化でふつう悪化するはずが、かえって状況が好転した。

ɪɒɪz　[ユマナ] [宗教] 仏陀、ブッダ　JΛ:zɪɒı をアナグラムにしたもの。

ɪɒɪzhɔ ［ユマナ］［宗教］仏舎利 ʃɱ

ɪɒɪl ［料理］オートミール、ポリッジ ［レベル］2 古 ［文化］ 一般的に食べられる。献立によってはパンの代わりに主食となることもある。

ɪɒɪlɔj ［エルトー］アマリス ［名詞］思い出 ［名詞］後ろ前反対、後ろ前、後ろ前逆 ［レベル］2 μɑɑɔɪ: 古 ［文化］ 思い出を司る神。同時に記憶も司る。すべての人間の思い出を覚えており、思い出を自由に消したり思い出させたりすることができる。女性の姿をしている。双子の妹にエルマがいる。 思い出を司るというところから、常に後ろ向きである。それを象徴するように服を後ろ前反対に着ている→ ɟɪb

ɪɒɪlɔɟʃɪ̃ɪ ［地学］［歴史］アマリス大陸 ［ユマナ］ヌーナ大陸、ローレンシア大陸。ローレンシアは誤解を招きやすいのでヌーナを使うのが無難。訳語として念のため載せておいた。 ul;/「思い出の大陸」 ʃʔ

ɪɒɪc ［植物］セロリ ［レベル］2 ɒclɑ:lɪʃɪ:「 優しい音がする 」が原義

ɪɒɪcɪ ［言語］前略 ［レベル］4 ʃɪ:ɪl ɒɪcɪ（いきなり本文へ） ［語法］ ɪɪɑɒedenʃ で閉じる。

ɪɒc ［代詞］［ɥəəl］僕 ［レベル］1 ʃɔ: 音の印象が弱そうなので。

ɪɒcʃ ［代詞］［ɥəəl］僕の ［レベル］1 ʃɔ:ɪɒc/ɪnʃ

ɪɒcʃɪl ［魔法］アミタル。アミティとアラミティの総称 ［組み数字］１１/１１ ［レベル］3 ʃɪ:ɪɒc ʃc/ɪl

ɪɒcʃc ［名詞］暖色系の灯かりや飾り ［魔法］アミティ。光の高位白魔法。「冷」が原因の病気を治療する。ただし急性症状のみ。冷え性、肩こり、腰痛など、慢性の病気には効かない。 ［レベル］4 古 :μɑɑɔɪ ［文化］ 照明の類。ディアセルやメルセルになると家の周りにつける。日本だとクリスマスでよく見る。

ɪɒcʃ ［音楽］カラオケ ［レベル］3 ʃɪ:ɪ ɒcʃj（歌うために）

ɪɒcʃ(ʃ) ［格詞］～の右に ［レベル］2 μɑ;/ ʃɱ

ɪɒcʃɪl ［魔法］［哲学］神木刀、アミカル ［レベル］6 ɟɒ;<ɪɒcʃɪlc,ɪlʃ<ɪɒcn/ɪɪl ʃɪ :::ɪɒcʃɪlc,ɪlʃ ［文化］ hcnɪíɪ

ɪɒcʃɪlc,ɪlʃ ɪɒcʃɪl ɪɒc/ɪɪlc

ɪɒcj ［動詞］ɥəl を頼る、頼る、悪意なく依存する ［レベル］2 1L:ɪɒcμ から。古アルカの夫自体が「頼られる」という語源 ［用例］ ɪn jc ɟɟccl l'ɪn ɪɒcj jen. 私には頼るべき親がいない。

ɪɒcjuef ［言語］付属語 ［レベル］5 1L

ɪɒcjɑɪz ［形容詞］頼りがいのある、頼もしい ［形容詞］甲斐性がある。働きがあって頼もしい気性としての。 ［レベル］3 ʃɪ

ɪɒcjɑɒɒ ［形容詞］頼りない、甲斐性なし ［レベル］3 ʃɪ

ɪɒcjɑɒɒɪn ［動物］スコティッシュフォールド ［レベル］6 ʃɪ: 顔が頼りない

ɪɒcjɪɪɑ ［言語］拘束アクセント ［レベル］6 1L

ɪɒcjɔ ［言語］子音 ［反意語］uejʃɔ ［レベル］4 1L:ɪɒcjɑɔ。音節を作るには原則として母音に頼らざるをえないという特徴から。母音は逆に単独で音節を成立できる。言語の話題の多いアシェットでは単純語になってしかるべき単語。

ɪɒcjɪɪɟl ［言語］子音連続 ［レベル］6 1L ［語法］ 弱子音：f,ɑ,l,φ,d,b,j,z,l,s,ɑ,u 強子音：n,ɒ,μ,l 非連続：h,ɥ,o その他：ɾl 子音をこのように分けた際、語末で「弱強」の順番が現れる組み合わせは以下の通り。 ɪn,ɪɒ,ɪμ,ɪl ɑn.ɑɒ,ɑμ,ɑl ɪn,ɪɒ,ɪμ,ɪl φn,φɒ,φμ,φl dn,dɒ,dμ,dl bn,bɒ,bμ,bl jn,jɒ,jμ,jl zn,zɒ,zμ,zl ɪn,ɪɒ,ɪμ,ɪl sn,sɒ,sμ,sl ɑn,ɑɒ,ɑμ,ɑl un,uɒ,uμ,ul このタイプの子音連続は、間にシュワーを挟み、短音節になりやすい。 例）jɔɑn → jɔ/ɑɜn 弱子音の有声音同士が連続した場合は、間にシュワーを挟み、短音節になりやすい。 例）ɑɪφɑ → ɑɪ/φɜɑ 強子音同士が連続した場合は、間にシュワーを挟み、短音節になりやすい。 例）ɪɒl → ɪ/ɒɜl 弱子音の無声音同士が連続した場合は、長音節になりやすい。 例）ɪdj これを短音節に区切ると、ɪ/dɜj か ɪd/jɜ になる。前者が自然。 強弱の順番で現れた場合は、長音節になりやすい。 例）ɪlʃ これを短音節に区切ると、ɪl/ʃɜ か ɪ/lɜʃ になる。前者が自然。 語頭の場合は上記の限りでない。 強弱の場合、短音節になりやすい。 例）lɑeμ → lɜ/ɑeμ 弱強の場合、長音節になりやすいが、区切って短い音節にしても不自然ではない。 例）ɪlɪc → lɜ/ɪlc でも。

ɪɒcjeɟɪ ［言語］拘束形態素 ［レベル］6 1L

ɪɒcn ［人名］アミン。自ら子を殺した母親 ［名詞］子殺し、間引き ［レベル］4 μcɑɑɪ: 古 : 名の由来は ɒcn（女、ここでは女の子供）にソーンの ɪ をつけたものから。自ら子を殺した母親。

ɪɒcn(ʃ) ［魔法］［哲学］神 ［レベル］4 ɟɒ;ɪlʃ ʃɪ ［文化］ hcnɪíɪ

ɪɒcnɪl ［政治］アミナル党。ミナレットから派生した政党 ［レベル］4 古 ［語法］ ɪlɪcu アルバザードにおいて民主主義勢力ミナレットから分裂した政党の一つ。ʃʔ0 年ごろ、利害の対立により当時ミナレット党を名乗っていたレヴァレン党から分裂。

ɪɒcu,jɪɑ ɥəlc

ɪɒcɑc ［ジョブ］聖騎士、パラディン ［レベル］4 ɟɒ;ɪlɒcɑɪ.l ʃɱ

ɪɒcμ ［親族］夫 ［類義語］lɪɑμec ［反意語］ɒcnʃc ［レベル］2 1L: 古 :ɾlɪ ɒcμ（頼られるもの） ［成句］ ɥən ucnj ɪɒcμ 夫を捨てるように：心機一転。場合によっては悪く取られることも。 μj ccl ɪɒcμ 夫唱婦随 ［用例］ nɔn ʃcl ɪɒcμ. 夫がいる。

ɪɒcμe ［動詞］ɥəl にすがる、すがる ［レベル］3 ʃɪ:ɪ ɒcμɔl ［用例］ ʃə eʃ ɾlɪ jɪnse len ɪn lɑcj, eʃ lej ɪn lcɒ cjʃ ʃɔɪíl. ucnj ucl ʃə l'ɔnʃ uɪlʃc ɔ ɥəu ucl. ʃeʃ ʃə eʃ ɑɪz ɪ jɔɪ. ɪʃə eʃ uɪjlɪ l'ɪn lɪ ɪl, l'ɪlʃe len ɪn l'lcʃ lɪɑ e uɪjn. ɪn l'ɪnʃ ʃə ɪ nɔj l'ɪɒcμe 1 ɑce ʃcj. それがまさに生きていく理由 何かを賭して手にするもの 傷つきながらしがみついて離せない それだけのもの ここが僕のいるべき戦場 覚悟の価値を決める場所 ひとつのウソにさえ すがる僕に捧げよう （BUMP of CHICKEN『バトルクライ』） jee ɒcμɔl ɪɒcμeʃ l'ɔ ɑce ɪ. そうして神さまはひとつの嘘にすがったんだ。

ɪɒɔ ［交通］車 ［レベル］1 1ʔ: 制 ［文化］ → dɔnʃ ・ɪɒɔ と ɩəəɒ 車は２人乗りのものと、４人乗りのものがある。２人乗りのものはルームという。普通の車を縦で半分に切って、バイクより少し幅が広いくらいにしたものである。１車線に２台走ることができる。簡単に言えばバイクに屋根がついたものということである。 ・比率 アルバザードはそもそも車の所有台数が少なく、レンタカーが発達している。 また男女比でいうと、女性はほとんど車を運転することがない。さらに日本と違って、免許が身分証明書にならないので、免許を持つことにあまり意味がない。そのため女性はあまり免許自体を取得しない。アルバザード人は日々の生活で車を使うことは少なく、レジャー等で遠出するときに使うくらいである。 また一般に東区の住民は自分の庭に車を止めることが多い。一方西区の住民は、マンションの集合の駐車場に車を止めることが多い。なお自動車の保有率は、東区の方が多い。 ・健康志向 アルバザード人は健康志向が強いのでウォーキングや自転車を好む。一つ一つの ɟɪlɪc が狭く、市内で通勤から通学から何でもできてしまうのも理由の一つである。 ・免許 免許を取得できる年齢は、一般にその社会で車がどれぐらい重要かに関わっている。例えばアメリカは車社会なので、免許を取得できる年齢が早い。アルバザードでは上で述べたように車はあまり必要でないので、免許を取得できる年齢も日本より遅く、成人からである。 免許の取り方について。まずは日本と同じように自動車学校に行く。そこで講習を受けて、筆記試験と実技に受かれば、市内に一つある免許センターにて筆記試験を受ける。そこで合格すればその場で免許が発行される。自動車学校が免許の発行を行わないのは、学校側が自分の合格率を上げるために不正することを防ぐためである。 ・その他 車がいつどこにいるかはＧＰＳで判断できる。そのため交通事故があれば、誰がどこで起こしたかすぐわかるため、ひき逃げ等の犯罪を防止している。車のエンジンはアンセがないとかからない。従って無免許で運転することは不可能である。 飲酒運転は日本と同じく犯罪である。 免許は日本と違ってカード型ではなくアンセに登録する形となる。 車には対人センサーがついている。突然目の前に人が飛び出してきた場合は、自動でブレーキがかかる。人間の知覚よりも早く反応するため、事故の防止或いは被害の軽減に役立っている。 バンパーには対人用と対物用の衝撃吸収剤がある。 ＧＰＳと連動してどの道にいるかがわかる。道の大きさはＧＰＳに登録されており、道ごとの最高速度が決められている。その速度以上は自動で出せなくなっている。一番細い道は ɟ キロ。次に ʔ キロ ʕ キロ 10 キロ ɪʔ キロ ɟ0 キロと上がっていく。 ［用例］ ɪn ɩe lɪl ɑc lɔn ɪɒɔ ɒɪn senʃ eʃ μɪʃ. 天気がよいのでドライブがしたい。 ɪɒɔ ɩe{xɩeɑ} 車が走る。 ɪɒɔ eɒ ɔu. 車が動く。静止状態から動いた状態への変化を指すので、「走る」という意味ではない。

ɪɒɔ ʃ'ɪμɩe ［娯楽］アルシェの車 ʃɪ ［文化］『マリオカート』に相当するゲーム。

ɪɒɔʃɪ ［交通］駐車場 ［レベル］3 1L:μɑɑɪ:ɪμbɪɩelʃ ［文化］ ɪɒɔ, ɑɔnʃ ［用例］ ɒɔnɔ ɪɒɔ ɪl ɪɒɔʃɪ. 駐車場に車を停める。

ɪɒɔʃɪɑɪcφ ［交通］［法律］駐車税 ［レベル］5 1L:μɑɑɪ:ɪμbɪɩelʃ ［文化］ ɪɒɔ

ɪɒɔl ［形容詞］隣の ［格詞］～の隣で、～の横に ［レベル］1 μɑ;lɪ/ɒɔl「接したところ」 1L:ɒelcɑ ɑɪ ɪlcj:lɪ/ɒɔl ［用例］ μɪ ɪɒɔl 隣の家 lə ɑɑɪn jʃɔnɔʃ ɪɒɔl ɒcμɔl. その少女はミロクの横に座った。

ɪɒɔʃʃlɪɑ ［名詞］隣国 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

ɪɒɔʃʃleu ［言語］換喩、メトニミー ［レベル］5 1L: 隣接性による比喩

ɪɒɔlen ［接続詞］ɪɒɔl。隣の。 ［レベル］3 ʃ0:ɒelcɑɑɪ lceμ

ɪɒɔlen(ʃ) ［名詞］隣人、おとなり、お隣、お隣さん、おとなりさん、近所、ご近所、ご近所さん ［レベル］2 μɑ;/ ʃʔ

ɪɒɔjɔɑɪ ［交通］自動車事故 ［レベル］3 1L:μɑɑɪ:ɪμbɪɩelʃ

ɪɒɔɑɔnʃ ［交通］車道 ［レベル］3 1L:μɑɑɪ:ɪμbɪɩelʃ ［用例］ lənɪ ɪɒɔɑɔnʃ 車道に出る

ɪɒɔɑeʃɪɪ ［交通］自動車学校 ［レベル］5 ʃʔ

ɪɒɔφɪnɑ ［交通］［法律］カージャック ［レベル］4 μʃ;/ ʃʔ

ɪɒɔl ［格詞］下に ［レベル］2 1L ［用例］ eu ʃə ɩɔu ɪɒɔl elen. この箱を机の下に置いて。

ɪɒɔlen ［接続詞］ɪɒɔl ［レベル］3 ʃɪ

ɪɒɔɪɑcj ［法律］車刑 1L ［文化］ 死刑囚を車で轢き殺す刑。柱にくくりつけ、車ではねる。即死すれば幸運。即死しない場合は死ぬまで放置。ひき逃げなどに適応。

ɪɒej ［動詞］ɥəl をたじろがせる、たじろぐ、ひるむ、怯む、尻込みする、尻込む、動揺する、ゆらぐ、揺らぐ ［レベル］3 古 :ɪɒe に j がついたもの ［用例］ nɔn ɪɒejɪʃ ɒcl ɔɒɪ lɪ jɪ nɔn. 道の前に犬がいるのを見てたじろいだ。

ɪɒen ［生物］眉間、アメン、眉と眉の間 ［レベル］2 古 ［語法］ 額の中心。クァールの少し上。 ［文化］ 思考や魔力や才能が宿るとされている。ダルハが浮かぶ場所としてふさわしい。 ［成句］ ɔʃj ɪɒen 額をコツコツたたく。熟考する、考えをまとめる。実際に文字通りの動作を伴うことが多い。

ɪɒenʃ ［生物］印堂 ʃɪ:ɪɒen

ɪɒeμ ［電算］［工学］トランジスタ ［レベル］4 ul:ɪɒelcɪ lelʃ;ɪɒelcɪ 1L:lɪlʃɪ:ɪɒel ［文化］ ɪɒelcɪ lelʃ ʔʔɱ ミロクのもとでトランジスタが開発される

ɪɒes ［名詞］ヒール、敵 ［類義語］μeʃl ［レベル］4 ʃ0:φcl の古名から。ギルは傭兵という敵役として登場し、はじめはヒールとして出てきた。

ɪɒel ［親族］妹 ［反意語］eeɪɪ ［レベル］2 1L:ɒel cjɑcl:cjɑcl:lɪ ɒɔe

ɪɒel(ʃ) ［動詞］秘かに送る、送る ［類義語］lɪnʃ ［レベル］4 ʃʃ:ɪɒelə,ɪlʃ ［語法］ あしながおじさんのように、相手にアピールせずにそっと送ること。アルティア人の美徳として持ち込まれた概念で、直情的なアルバザード人は ɟɒ までこのような感覚をあまり持っていなかった。現在では粋なこととされる。 ［成句］ ɪɒel hɪíɪcɪ 見つめる。恋の視線を送る ［用例］ ɔlíɪ nɔn ɔj l ɑelez enzel, ʃə eʃ lɪ μecɥə le uɔj l elɑ. lel ɾúə ɪɒel hɪíɪcɪ e. 私がどんなに掃除を頑張っても、あなたが見ているのはさぼっているあの子なんだね（『三行ラブレター』１３才の少女）

ɪɒelʃ ［アトラスの国家］アメルテ ［レベル］5 1L:μɑɑɪ:「寄り添う」

ɪɒelc ［人名］アメリ ［レベル］4 古 ［文化］ (pelɒɪlʃ ʃ0 ?→ ʔ10)。マルテとアフレインの娘。ユレットの兄弟にして妻。ミロク＝ユティアの母。アルティス教の派閥アルシオン派の三代目リーダー。

ɪɒelc(ʃ) ［丁寧］［親族］妹君、妹殿、アメリ ［レベル］2 ʃʃ:l.ɪɒel ［文化］ lɪɪlɪ

ɪɒelcɪ ［植物］マジョラム ［レベル］4 lɪlʃɪ

ɪɒelcɪ lelʃ ［人名］アメリア＝シェルト ʃʃ ［文化］ ɪɒeμ アスベル＝シェルトの妻。

ɪɒelə,ɪlʃ nelʃ

ɪɑ ［言語］古アルカ ［レベル］4 ʃʃ

ɪɑɥə ［地名］アデュ ［レベル］3 古 :μɑɑɪ/jeμen/ɒel:ɪμbɪzɪμɑμɥəə（リュウのアルバザード）。神話では「アルバザードから離れた変種の竜のいるところ」。 ［文化］ ケートイアの都市。ヒュートの南東に位置する。山雪部で、トンネルと鉄道が多い。アルティルでは反アルティスの動きがあり、多くの信者が収容所に連行され、殺された。アルティス教にとって呪われた土地とされている。 μɑ ではアルシェがリュウと出会った場所。 守護神はメロウ。守護というよりは祟りを恐れて祀られている。 ɥəəɒɪ ʃʃΔL レスティル北部の都市アデュにアルテ教徒の収容所が設立される。これがかのアデュ収容所である ［成句］ uɪμ ɪɑɥə 危ない橋を渡る ɪɑɥə lɪ ɩeefɔɔɪ「どうせアデュはケートイアだし、関係ないね」という意味：対岸の火事、川向の火事 ucnj ucl ɪɑɥə 義を見てせざるは勇無きなり

ɪɑɥəf ［被服］インバーネス、インヴァネス、インヴァネスコート、フード付きコート ［レベル］4 ɟɒ;<lʃ 古 ［文化］ ɟɒ のアデュでできた防寒着。地球より早く生まれている。 ［用例］ ɑc μɪμʃɪn ɔ'len ɪɑɥəf eʃ jccn ɑə ɑcl. インバーネスの白魔導師は根強い人気がある。

ɪɑɥəfeeze ［気象］木枯らし ［レベル］5 1L

ɪɑɥəlɒc ［料理］カニバル、カニバリズム ［レベル］5 1L:μɑɑɪ:ɪμbɪɩelʃ ［文化］ アルバザードには食人が歴史に何度か登場する。アルバザードにおける食人の意義は３つ。ひとつは相手の能力を取り込もうとすること。ひとつは愛するものと一体になろうとすること。ひとつは性欲の追及。３番は日本より極めて多く見られる。若い女や少女が被害者となる殺人は遺体が見つからずに迷宮入りすることが多い。日本ではバラバラして捨ててしまうので遺体が発見されるが、アルバザードの快楽殺人者の多くは「もったいない」と考え、隅々まで利用するため、死体がでない。そのため、行方不明のまま終わることが多い。 もちろん、アルバザード政府は食人を禁止している。ＨＩＶウィルスの感染など、食人には血を媒介しての感染が多く、また、人道的な問題もある。

ɪɑɥəj ［動詞］ɥəl を犯す、犯す、陵辱する ［レベル］4 古 : ケートイアのアデュで数々の陵辱が行われたことから。j は古アルカでよくみられた動詞を作る接尾辞 ［用例］ uɪμzɔn ɪɑɥəjɪʃ ɥə əɒɪ ɑeɒel. ヴァルゾンはユーマを騙して犯した。

ɪɑɥəjjɔə ［言語］親展、御直接。男性に ［レベル］4 ʃʃ

ɪɑɥənɔɪ 人毛を使ったカツラ 1L:μɑɑɪ:ɪμbɪɩelʃ

ɪɑɥəbel ［料理］人肉料理 1L:μɑɑɪ:ɪμbɪɩelʃ ［文化］ アデュ収容所で処刑された人間を料理したもの。その後一般に人肉料理の意味に。アルバザードはカニバリズムが歴史上何度か登場する。

ɪɑɥəμɔɔ 人脂石鹸、人油石鹸 1L:μɑɑɪ:ɪμbɪɩelʃ ［文化］ ミロク革命で処刑された人間の油から作った石鹸。

ɪɑɥəlɔl ［化学］カドミウム ［レベル］5 1Δ: 制

ɪɑɥəɪn ［音楽］フォーク、フォークソング ［レベル］5 nɑ: アデュ周辺で流行った ʃʃ

ɪɑɥəef ［動詞］ɥəl を虐殺する、虐殺する ［レベル］5 1L:clbəj:μɑɑɪ:ɪɑɥə/jeʃ（アデュ収容所のように殺す）ɑɥəj の部分が言いにくいので j を落とした。

ɪɑl ［動詞］ɥəl（材料）を ɪ（完成物）に加工する、加工する ［レベル］3 定 ［用例］ ɪɑl elɔ ɪ ɩɪne 魚を缶詰に加工する

ɪɑflɪ ［名詞］加工場 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʃ

ɪɑɪc ［政治］君主 ［レベル］4 zφ;ɪl/ɑɪcz ʃʃ

ɪɑɪcɪɩɑ ［政治］君主国 μɑ;/ ʃʃ

ɪɑcʃ ［人名］アディック ［レベル］4 古 : 語源不詳だが、ɪ（否定）ɑc（夢）ʃ（言う）で、「叶わぬ夢を呟く者」と覚えたい。 ［語法］ 人間。カコの時代に生きた青年。自分で描いた絵の少女に熱愛し、現実の女に一切靡かず、理想の少女のみを愛した。少女が架空であり、懐けないことを苦悩し、体と命を与えてほしいと願い、エルフレインの試練を経てヴァエラを開け、願いを叶えた。アティーリ版のピグマリオンといえる。

ɪɑcj ［法律］死刑、処刑、死罪 ［レベル］3 ʃo;hɪɪɑcj 1L:hɪɪɑcj ［文化］ アルバザードにおける極刑。 ・現代 アルバザードは死刑を廃止していない。極刑としての死刑は ls まで残り続けた。ul の頃は中世並みの見せしめ的な苦痛を伴う死刑が行われたが、旧革命でミロクが非人道的な処刑方法はよろしくないと言い、なるべく苦痛を伴わない注射による死刑に移行した。lɪ や ls でもこの処刑方法は変わっていない。 なお現代では、アルティアは絞首刑による死刑が残っており、アルダやルティアなどでは lɪ で死刑制度が既に廃止されている。 ・ランティスタンヴェル期 刑の執行は現北区の刑場で行われる。重罪人や若い女の死刑には多くが集まり、祭りになる。死刑の基準は低く、詐欺や窃盗でも死刑になることがある。技術が発展しているので、確実に犯人だと科学的に証明された事例などでは数日中に裁判が行われ、速やかに死刑が宣告され、通常その日のうちに死刑執行となる。 なお、王族（ア

ルバ王）・僧侶（副王アルテナ）・学者（アルシェ）・医者は極刑が終身刑で、死刑にできない。 〔用例〕 lə ɑcɸeʃɪn ɪɑcɟɪʃ ɥə. その犯罪者は死刑に処された。

ɪɑcɟʃ 〔魔法〕〔アイテム〕アイテム、魔法のアイテム、錬金術で得たもの、精錬物（液体の場合は溶液と訳す）、アディスト 〔類義語〕ɪlɑe, səɪ, ɪlɑcɟ 〔レベル〕3 ɒ;ɪl/ɑcɟʃ ɭ0: 古 ɪl/ɑcɟʃ（物を捧げる→物質を魔法に捧げてアイテムを精製することから） 〔文化〕 ナギ、ナギサ、カルマミレールなど、魔法のアイテムのこと。錬金術によって作られる。 複数の物質を組み合わせて作る精錬 ɑcleʃ と、ひとつの物質に魔法をかけて性質を変化させてアディストを得る錬成 lɒcɥə がある。また、カルマミレールのように自然物そのものがアディストになることもあり、このようなアディストを本態性 leuɪl という。 精錬方法はいくつかある。 1：溶質 səɪl を溶媒 ɪlɑe の中に入れて溶液 ɪɑcɟʃ を得る。さらに活性剤 ɪɪləl を入れることもある。 2：1 で作った溶液を蒸発させ、魔晶 ɪlcɪ として得る。ナギサなどが例。（全過程を見れば精錬だが、ナギ→ナギサ間は錬成なので、錬金術の表では通常精錬でなく錬成に含める） 3：複数の溶質に活性剤を与え、反応させる。鉱物系に多い。 4：複数の溶質と活性剤だけでは反応しない場合に、水を溶媒として加えて精錬する方法。植物系に多く、たいていは細胞を柔らかくするために煮込む。 ＜精錬物の改良＞ 精錬物はたいてい「１溶質＋１溶媒」ないし「２溶質以上」で作られる。これに付加物 hɪlɪl というものを最大２つ加えることで、精錬物を変化させることができる。 ＜精錬物の命名＞ まず、固体か液体か気体かに分ける。固体の場合、「石」と訳す。石は通常割って散剤にする。この散剤を「粉」と訳す。 粉をふりかけて使うアイテムの場合は「架」と訳す。飲用する場合は「紗」と訳す。紗は薄絹のことで、その触感からのメタファー。ペースト状にして塗布する場合は「膏」と訳す。膏はあぶら薬のことで、ペーストを作る際の材料。原則として「粉」は乾燥させておくこと。白い紙に包んでおくと変化しにくい。長期保存には下記 eɸɑclcɪ の瓶に。 液体の場合、精錬物が変化しないように魔力を遮断しやすい深い蒼の瓶に入れて保存する。精錬物が非常に変化しやすい場合は完全に魔力を防ぐよう、銀水晶 eɸɑclcɪ の瓶にて保存。銀水晶が空気中の魔力を吸収するため。 液体状のアイテムを「泉」と訳す。液を振り掛けて使う場合は「零」と訳す。飲用する場合は「漿」と訳す。零は「静かな雨」の意味があり、漿は飲み物の意味がある。 気体のアイテムは「気」と訳す。振り掛けて肌から吸収させる場合は「霧」と訳す。鼻から吸入して体内に取り込む場合は「風」と訳す。

ɪɑcɟɪnʃ 〔法律〕アディサント、死刑執行人 〔レベル〕3 1L:ɪɑcɟ/ɪuelɪnʃ（死刑の死神） 〔文化〕 ɸʃ ごろの刑罰庁の役人。→ ʃɸelczɪɔ 死刑専門の役人で、非常に腕が立つ。執行人にはそれぞれ得意分野があり、斬首専門もいれば、火あぶり専門もいる。多種多様な処刑法に精通しているほど、ランクが高くなる。中でも腕の立つものを４人集め、四天王すなわち死神四貴族の名で呼称する。死刑執行人のランクはフレメルテ、シューゼ、ヴェルギナ、アルハイクの順。有名なフレメルテはナギサ＝ファギオット。 ɟɒ からの伝統で、死刑囚が土壇場で暴れるのをできるだけ防ぐよう、深い緑のマントを着ている。この色だと逆に斬首後などは血の赤が映えるため、観衆に対して強い見せしめの効果が出る。

ɪɑcɟɔz 〔法律〕死刑制度 〔レベル〕4 μɑ;/ ʎʔ

ɪɑcɟɔl 〔法律〕死刑囚 〔レベル〕3 ʃ1

ɪɑcn 〔名詞〕恥 〔形容詞〕恥ずかしい、自分に合わない 〔類義語〕ʃlə 〔反意語〕leuɪn 〔レベル〕2 1L:ɪl（強調）＋ ɑcɒ（不適切）。そのまま ɪɑcɒ にすると ɑcɒ に近いということで消されるのが目に見えたので音をずらした。 〔語法〕 ɪɑcn は自分のキャラに合わないと思って恥じること。レインで言うと、ɪn と思わず言ってしまった場合に感じる。一方、ɪl ɪɟɸʃe と言い忘れて食事した場合は ɪɑcn ではなく hɪczen が適切な語感。ʃlə は「自分のポリシーに沿わない」以外の「恥ずかしい」に相当する。セックスのとき裸を見られて恥ずかしいのは ʃlə。恋人と寝るのはポリシーに合わないわけではないがそれでも裸は恥ずかしいので、ʃlə に当たる。日本語ユーザーは訳すときに、まず ɪɑcn かどうか判断し、ɪɑcn でなければ ʃlə に振り分けるのが安全である。アルバザード人は ʃlə はあまり恐れないが、ɪɑcn は非常に恐れ、嫌がる。自分のあり方というのを強く持っているため、ɪɑcn はかなりプライドが傷つく。 〔用例〕 ɑcɟ, ɪn nɪʃ ɪɑcn ʃcn ʅl. 今日とても恥ずかしい思いをした。

ɪɑcnɪɪz 〔地学〕〔歴史〕オルドビス紀 ul;/ ʎʔ 〔文化〕 ɸɪɪueɑeɒe

ɪɑcɑ 〔化学〕中性、酸塩基 〔レベル〕4 ʎʔ<ɪɟlɑcɪa:1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɪɑcɑɒɪɟ 〔名詞〕中性紙 〔レベル〕5 ʎʔ 〔文化〕 ul でできる、それまでの酸性紙を駆逐した。劣化しにくいのが特徴。

ɪɑcμ 〔単位〕マイクロ 〔レベル〕5 ʃ1:ɪɑcɪhɪɑcμ

ɪɑcμɪμ 〔工学〕ナノマシン 〔レベル〕5 ʃ1:ɪɑcμ/ɪμ

ɪɑcl 〔植物〕もぐさ、モグサ、艾 〔レベル〕4 μɑ;ɪl/ɑclcn ʃlʃl

ɪɑclʃcjc 〔植物〕〔医療〕艾炷、がいしゅ μɑ;/ ʃlʃl

ɪɑcɪ 〔名詞〕アディア。アルシェ・ソーンの区別しない言い方。 〔名詞〕１４日。使徒週のこと。 〔レベル〕2 古 :ɪμɑcɪ「神の創りし幻」

ɪɑcɪɪlɪnʃ 〔名詞〕使徒週のプレゼント 〔レベル〕4 1L: 制アルカではソルシャントと呼んでいた 〔文化〕 何らかの記念日から１使徒週が経過する日に渡すプレゼント。恋人間に多く見られる風習。正式には身に着けている装飾品などを譲渡するが、単なるプレゼントとして与えることもある。lelʃɪɪnʃ を兼ねることもある。

ɪɑcɪl 〔被服〕編み上げ靴、レースアップ、紐靴、ひも靴 〔レベル〕4 古 :ɪɑcɪl ← ɪl/ɑcɪ/ləɪj。ɪl はペアを表わす。元はサンダルとのペアだった。サンダルは古で ɑcɪləɪj 〔文化〕 魔力をあげると信じられており、μɑ ではリディアが好んだ。

ɪɑccɥə 〔形容詞〕男気があってカッコいい、かっこいい、良いやつ、義侠心のある、粋な 〔名詞〕義侠心 〔類義語〕jelzɪnccʃ 〔反意語〕leʃeʃ 〔レベル〕3 ɭ0:lɪɑcɪ/ɥə（夢に見られたような） 〔語法〕〔文化〕 男性にしか使わない。特にアルデンに対して使う。アルデンにとって一番の褒め言葉。正義感があり、心身ともに強く、明るく元気で邪気がなく、情に篤く、たとえ敵であろうと情けをかけるような人間を形容する言葉。アルバザードで最もカッコいいタイプの男性像とみなされる。

ɪɑɔ 〔地学〕鉱物、ミネラル 〔レベル〕3 ɒelʃcɪ Δ:φclcəj;ɑɔl.ʅ ʎ: 制 l:ɑɔl 〔語法〕 元素鉱物など、鉱物の種類を指すときは～ ɪɑɔ とする。ただし「磁鉄鉱」や「蛍石」など、鉱物の具体的な種類は μen と ɑɔl で示し、ɪɑɔ を使わない。辞書の見出し語で～ ɑɔl とあっても、それと分かる場合は ɑɔl を取るし、逆に分からない場合は ɑɔl を付け加える。 ʅɪφ ɔn ɪɑɔ ミネラル豊富な

ɪɑɔɑɔl 〔地学〕鉱石 〔レベル〕5 1L

ɪɑɔɪlc 水の硬度 1L

ɪɑɔeμ 〔料理〕ミネラルウォーター、硬水。区別なし 〔レベル〕4 1L

ɪɑenʃɔ 〔地名〕アデント 〔組み数字〕5 / 6 〔レベル〕3 ɑu;e 古 〔文化〕 アトラスにある大陸の名。地球ではオーストラリア大陸に当たる。 面積：ᚹᚨᚱᚩᚹᚹL.LLᚹᚩᚣᚩ ʅɒ ʃ

ɪɑenʃɔjczɪ 〔地学〕アデントプレート ʎʔ

ɪɑenʃe 〔ユマナ〕オーストラリア大陸 〔レベル〕3 制

ɪɑeɒ 〔名詞〕かけら、欠片、カケラ、チップ、破片、こけら（欠片同様に扱われる） 〔レベル〕2 1L:clbəj:μcɑcɪ:ɪɑel/ɒɪcn（アデルの体）アデルがテームスのこけらであることから 〔用例〕 ɪn μeɑɪʃ ez uɔl nɔl ɪɑeɒ e ɑcɪɑ lʹɪʃ feɪʃ. バラバラに散ったガラスの破片を集めて部屋を掃除した。

ɪɑeɒcnɪ 〔魔物〕アデミナ（花憑）：第九十三天：書の幻天 〔レベル〕4 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:ɪɑel/ɒccnɪ（モンスターフラワー） 〔文化〕 人食い花。ラフレシアのように巨大で気持ちが悪い花。花が口になっていて、人を飲み込む。根が脚になり、動く。

ɪɑel 〔悪魔〕アデル、魔物、魔族、悪魔、モンスター 〔生物〕こけら属。正しくは漢字表記だが、こけらの漢字が ＰＤＩＣで表示できないため。 〔形容詞〕魔族～。敬称。 〔類義語〕uelɑ cμ, uelɪl 〔レベル〕2 zφ:μμʃ;e 古 〔語法〕 → ɪdʃ, ejʃ ○名（前置） ×姓 ○男女 ○単体使用 / 名詞用法 〔文化〕 ＜概要＞ 『幻想話集アティーリ』に登場するテームスの欠片から生まれた化け物。１００種あり、さらに各種に亜魔族 (ɑelɑcɪ) という下位概念がある。 ɥə əɒɪ ᚹᚹᚩ 封印の衝撃により意識を失っていたテームスの意識が戻る。封印の檻から出ようと暴れ、蠱動を開始。この衝撃でメルティアが仮止めしていて不安定だった空間のテージュにふたたび穴が空き、同時にテームスが ɒɪlʃcɪ をして新たな命を生む。このアテンはテームスの体からこけらのようにこそげ落ち、テージュを通ってアトラスへ降り立つ。茶色が地色で黒と白のまだらが混じった鱗のような形で、アトラスに降り立つと、アトラスの環境に合わせて 100 種の身体性を形成した。あるものは人型になり、あるものは動物型になった。これがアデルである。このとき生まれたアデルは知能の低いものが主体で、動物的であった。神はアデルがアルフィでなくアトラスに降りたため、アトラスの恐慌は対岸の火事であった。それよりもテームスの復活のほうが脅威であり、もし復活すれば今度は確実にアルフィへ侵攻してくる。そこで神々はテームスの封印を強化し、テージュも強く塞いだ。これによりアデルの座には止まったものの、アデル自体はアトラスに残存した。 このとき流入したアデルはミュールを中心に分布した。ミュールは uʃ で島の集合になって以来、広大な農地もなく山も崩れやすい。また、地理的に台風も多い。そのため住み着く民族がほとんどいない状態で、容易に魔族に支配された。 ＜名前＞ アデルの名前は地方や国や時代ごとにさまざまである。 μɑ でセレン、リディア、メルがリュウの調べた魔物の情報を元に全百天の名前を統一した。既存のもので知名度の高い名前を採用したり、古い名前をアルカに訳したり、新たに作ったりした。 ＜魔天表とアデルの色＞ 魔天表はカコの時代にアルシアが作った。魔族を１１種の特性と９種の階級に分けた。 μɑ でファミイらが魔天表に色をつけた。それまでは色はなく、憑のように種族名を書いていた。 ファミイらは３度魔天表の色を作成している。３回目で lcɟɔcnɪ を用いて落ち着かせた。 システィナには１２色の色相環があり、ファミイらはこれを用いてアデルを分類した。 例えば獣が来るのは意味的に考えてポエンの位置がふさわしく、竜は当然ティクノの位置に来るのがふさわしい。こうして意味において決めていくと、以下のように定まる。 獣はポエン、竜はティクノ、鳥はヴァルゾン、憑はセイネルス、妖はティーテル。コノーテはイメージが最も近かったことから精。 カルザスは狡猾で最も人間的なアルミヴァ。一方、魔物の中で最も多い人間的なものは鬼。そこでカルザスは鬼。 すると残り５つであるが、これをどのように意味以外で振り分けるか。 まず色で魚と虫を振り分けた。魚を青にして、虫は毒々しい赤紫にした。 最後に残ったクレーヴェルとフェンゼルとネブラであるが、これには隣接性を用いた。例えばフェンゼルには爬が来る。というのも竜の隣だからである。トカゲのような生き物と翼の生えた生き物の間に竜が来るのは分かりやすい。 同じくクレーヴェルには手足のない鬼ということで魁が来る。精は生き物だが生命力に乏しく霊魂のようなイメージがあるため、精の隣に霊を置く。 こうして１２種のアデルが、アルミヴァの色相環に収められた。 この色相環は魔族の特徴ごとにも分類されている。例えば上側にあるネブラからティーテルまでを見てみると、生物性の弱いものが来ている。これらは互いに似た性質を持つことがあるため、円環の中でも近い位置に存在する。同様に左側を見てみると、爬と竜と鳥が集まっている。竜は翼があるので鳥に近く、同時にトカゲのようでもあるため爬にも近い。非常にうまく並んでいる。 また精霊と鬼はどちらも人型の魔物だが、最も人間的なものが鬼で、最もそれと遠いものが精に当たる。従って、これらが対角線上にあるのは納得がいく。 アルミヴァ：色：種 セイネルス：黄：憑 ティーテル：橙：妖 ポエン：赤：獣 ネルメス：赤紫：虫 クレーヴェル：紫：魁 カルザス：青紫：鬼 ヴァルファント：青：魚 ヴァルゾン：淡い青：鳥 ティクノ：水色：竜 フェンゼル：青緑：爬 ネブラ：緑：霊 コノーテ：黄緑：精 ＜覚え方＞ まず衛天の竜の列を覚える。属性＋ ɑμeʃcɟ か lɔɔl なので楽。lɔɔl になるのは闇、土、光というソームの中央と外側。加えて利害のみ。ほかは自動で ɑμeʃcɟ。ɑɪʃcʅ のみ ʅ で終わる。 否天は lc ＋ソーム系。lcɪnʃ, lclɒ だけ覚える。 風天と氷天は属性と絡めて２個ずつ覚える。強くて有名なので覚えやすい。 問題は雑魚。どうでもいい存在なので覚えづらい。そこで炎～巨までニーモニックで覚える。ニーモニックなしでも巨天は大きいのが来るので覚えやすいし、炎は一番弱いなので逆に覚えやすい。 ニーモニックは地球の元素の覚え方と同じく、あえて若干下品にしてある。インパクトが強烈なほうが覚えやすいからである。 ・ニーモニック 闇：闇の中から蝙蝠とカラスの不気味な声が聞こえる。ゾンビが出てきて菌を撒き散らす。 水：少女のところに醜い蛙と川童が求婚に来る。少女が断って逃げると池に落ち、ピラニアに腕を喰われ、頭を上げたところで鮫に食われる。 風：蛾が花畑を飛んでいるとカマキリに喰われ、その横でシーフェイスがメスのヴェメルトとよろしくやっているところを、ドルケルンが来て愚息を石にして、男優はシボンヌしても愚息は萎んぬしない不思議。 土：ここは爬虫類が３匹、鬼が２匹並んでいること自体がニーモニックになっている。巨天が ʅɪclɪ なのは名前で行ける。最初が蜥蜴で次がワニガメと覚えればいい。ueluɑɑ はなぜかガングロで覚えている。 火：ボムがレジスティになって爆発して溶けてファイエルになって鬼火になってそれが犬に宿る。 雷：豚と牛と魚と鳥は蛇がおいしくいただきました。（むろんスタッフ的な意味で） 光：シルフィの靄に顔を突っ込んだらサソリに刺されて、救急箱救急箱！と思ったらツェッテルで、人に助けを求めたらのっぺらぼうで、逃げ回ったら空からジェイルに追っかけられたという恐怖体験。 聖：マルトセシュに己のガーリシュクを突っ込もうとした猿が石造で巨人に激しいツッコミを喰らってアポーンしたというある意味性属性。 邪：人食い樹を人食い扉で防いだ骸骨の目が落ちて貝に入って真珠ゲットだＺＥ！ 利：妖精がさびしいよとランプにお願いしたらおばあちゃんがやってきてモモンをくれて、おばあちゃんは扉の向こうに去っていきましたとサ。 害：アイライとダイザイライで挟むとまず覚える。ムカデが花の上を歩いてたらクモに食われ、青虫もいたので一挙両得。 風天は最強のひとつ下なのでインパクトに欠け、覚えにくい。そこで縦のニーモニックを作った。 "Tɪ.Tɪ ʒɪɪn Fɜɪn Xɪɒ Tɪn ψɥec ψcclʅ, ψɔ̈ʅʔ"（あら、貴方のお父さんはみすぼらしい剣を振りたがっていーーーう、うぼらぁ！） どうしてこうなったw ―――――― ʃ1 年夏にセレンはこのニーモニックを作りながら電車内の１時間強ですべて暗記したため、効果は実証済み。その後リディアとメルにやらせたところ、ニーモニックを伝授済みだったこともあってか、３０分で暗記した。３人ともテストして全問確認済み。 〔成句〕 ɥən μɪ ʃ'ɪɑ el 神出鬼没 dɪl ʃ'ɪɑel 魑魅魍魎。魔天表から。 ɪɑel jclʅ 跳梁跋扈 μeɑʃ ʃ'ɪɑel 百鬼夜行

ɪɑelɑel 〔魔法〕魔物学 〔レベル〕5 ʃ1 〔文化〕 ɑɔlɒcɥə

ɪɑelcʅ 〔アトラスの国家〕アデリック 〔レベル〕5 1L:μcɑcɪ:ɪμɑclcʅ 〔文化〕 魔族アルディリックの大量繁殖により多くの動物が死滅し、抗体を持った特殊な動物だけが生き延びた島。

ɪɑelelen 〔天文〕〔魔法〕〔生物〕魔天表 〔レベル〕5 ʃ1 〔文化〕 ɪɑel

ɪɑəl 〔動詞〕ɥəl を迫害する、迫害する、弾圧する 〔レベル〕4 1L:clbəj:μcɑcɪ:ɪɑɥə/l（古アルカの動詞語尾） 〔用例〕 ɪμʃcjʃ ɑc ɪɑəlɪʃ ɥə ɑɔl lɪnʃcj ʃ'ɪɑeμ. ランティス・タンヴェルでは多くのアルティス教徒が迫害された。

ɪφ 〔感動詞〕あっ、しまった、うげっ、あちゃー、あらら、あら残念 〔レベル〕1 古 〔語法〕 しまったと思うとき、罰の悪いときなどに使う。相手に向けて使うときは、今のは良くないということを表わすときに使う。丁寧な場面には不向き。

ɪφɸe 〔医療〕痰 〔レベル〕3 古 : 痰を吐きだすときの「かーっ」という音のオノマトペ。アルシェは「かーっ」ではなく「ぁぐれっ」というように聞いていたわけである。 〔用例〕 ɪφμe eɒ jɪɒd. 痰が絡まる。 dəd ɪφμe 痰を吐き出す

ɪφleɪ 〔アイテム〕レイピア 〔アクセント〕ɪφleʔ ɒ;ɪl/φleɪ「対グレア」 ʃlʃl 〔文化〕 グレアに対抗する手段として ʅʃ で作られた細身の剣。突き刺して使う。

ɪφɪ 〔動詞〕ɥəl にうがいさせる、うがいする、嗽する 〔普通動名詞〕うがい、嗽 〔レベル〕2 古 : オノマトペ 〔用例〕 μe ɪφɪ cɒ ʅɔlʃcʅ. 帰ったらうがいをしなさい。 μe ɪφɪ ɔn lce e φɪφ ʅɔnʃ cn jcɪs. 天井を向いて喉の奥をうがいしなさい。

ɪφɪlc 〔植物〕トチュウ、杜仲 〔レベル〕5 ɒ<ɪlʃ ʎʔ

ɪφɪlceʃeʅ 〔料理〕杜仲茶 〔レベル〕5 ɒ;/ ʎʔ

ɪφɪɪʃ 〔感動詞〕うぎゃ、うぎゃあ、ぎゃあ 〔レベル〕2 1L: リディアの書

ɪφc 〔植物〕つる、蔓 〔レベル〕3 ʎʔ ←古 l:ɪφɒcz（螺旋の茎） 〔用例〕 ɪφc ej ʅɔɔl ɪ ɒcɪl. つるが柱に巻いてある。

ɪφcɪ 〔植物〕キナの木 〔レベル〕6 古

ɪφcɪn 〔医療〕キニーネ 〔レベル〕6 ʎ: 制

ɪφcɪneμ 〔名詞〕トニックウォーター 〔レベル〕6 1L

ɪφɔ 〔化学〕〔料理〕澱粉、でんぷん、デンプン、スターチ 〔レベル〕4 ʎʔ ←古 :sɪφe から

ɪφe 〔名詞〕螺旋、渦巻き、渦巻、スパイラル、渦 〔形容詞〕グルグルな、くるくる、クルクル、ぐるぐる 〔レベル〕2 ɑμɑ 古 :ɪφe（螺旋） φefɪ:ɪφe 〔用例〕 ɪφed ɪlʅɪ ʃcl hɔɪ ɪφe. カタツムリは殻がぐるぐる巻きだ。

ɪφeʃeɒ 〔医療〕メニエール病。feɒɪφe と区別すること 〔レベル〕6 1L

ɪφej 〔化学〕〔料理〕炭水化物 〔レベル〕4 ʎʔ ←古 :sɪφe（糊） 〔文化〕 多くのアルバザード人はデンプンの同義語だと勘違いしている。

ɪφen 〔電算〕入れ子、入れ子構造 〔レベル〕5 1L:ɪφe

ɪφenuɔʅ 〔言語〕複文 〔レベル〕5 1L

ɪφenlenʃ 〔娯楽〕マトリョシカ、マトリョーシカ 〔レベル〕5 μɑ;/「入れ子人形」 ʎʔ

ɪφenɪlɔʅ 〔娯楽〕入れ子細工、マトリョーシカ、マトリョシカ 〔レベル〕5 μɑ;/ ʎʔ

ɪφed 〔動物〕カタツムリ、螺旋虫。厳密には虫ではない。 〔名詞〕珠に瑕、たまにきず：綺麗に咲いた紫陽花の風景を汚す汚い虫であることから、良いものが持つ残念な欠点を指す。 〔レベル〕2 定 :ɪφed（カタツムリ）← ɪφeləədɔ「渦巻きの虫」が原義 〔成句〕 ɪφed ʅien jeɒɪcɒ 玉に瑕 〔用例〕 lɪ eʃ lɪnʃ ʃɪl ʃcl ɪφed ɑel lecʃ. 彼女は綺麗なんだけど、馬鹿なのが玉にキズなんだよな。

ɪɸedɸɪɔ ［音楽］ホルン ［レベル］5 ʃʃ

ɪɸeɸ ［植物］アラセイトウ、ストック ［レベル］5 古：大根から来ている

ɪɸel ［動詞］ɥəl を ɪ に舞い上げる、舞い上げる、舞い上がる、飛び上るように立つ、浮かれる、うかれる ［類義語］ɔclees ［レベル］3 古：螺旋を描いて宙に行く ［語法］移動動詞でないので ɥəl に場所は来ない。 ［用例］beɟɪ ɪʃ ɪɸel ɔcl ʃeeze. 風で埃が舞い上がった。

ɪɸecʃ ［地名］アゲイト ［レベル］3 1L:ɸɔɑɔɪ:ɪɸɪʃ（門へ） :::ɥənɑɔnɸɪc,lc ［文化］ テージュ海に浮かぶアルバザードの島。

ɪɸeenɸ ［経済］複利 ［レベル］5 ʃʃ: 螺旋を描くように徐々に一周ごとに前より多く増えていくことから

ɪd ［名詞］おまけ、付属、トッピング、アペンディクス、付け足し→ ɸɪlen ［料理］アイスやピザなどのトッピング、本来入れるべき調味料に加える隠し味、添加物 ［名詞］追伸 ［動詞］ɥəl を ɪ に付け加える、付け加える、加える ［形容詞］付け足しの ［副詞］ついでに、ついで ［文頭純詞］ちなみに、因みに、なお、尚 ［類義語］ɔd、ɸɪlen ［レベル］2 μɑ; ↓ ʔʔ: 制 :ɔɟɔɲ:ɪdɑɪɟ（余分なもの）［用例］ʃɔc ɪd おまけの味

ɪdʃ ［言語］呼称、敬称、卑称。敬称と卑称の総称。 ［レベル］3 ʔʔ: 制：敬称 :ɪdeɟʃ（補足名）［語法］ → eɟʃ ・概要 ɟɔ)ɟɪdʃ と benɟɪdʃ に分かれる。 通常形容詞として使う。前置するもの、後置するもの、前後で敬度等が変わるものがある。 ɑɥeɟɟəə のように名詞用法を持つものもある。 「先生」の呼称は lɪnlɪ → lɪnlɪ ・主な呼称 ɑɥeɟɟəə, ɟɪn, ɟɔə, lccz, lccs, ɑɪcn, ɟɪə ɑɪcz, ɟɟccli, lɪnlɪ eɟʃ, ɟɪɟ, ɑeeɒ, ɪɑel, jeleɟʃ ・呼称の種類 呼称の種類は次のようなものがある。 種族：eɟʃ, ɟɪɟ, ɒcɟɔ) など 役職：lɪnlɪ, ɑɪcz, ɟɟccli, ɑel ɪn, ɟɪlɪn など 日本語では学生に対して「～君」と呼び、「～学生」と呼ぶことはない。その一方、「～先生」と呼ぶことはある。アルカは韓国語と同じで ɑelɪn nene と呼ぶことができる。

ɪdl ［名詞］グラフ、表 ［レベル］2 1ʃʃ: 制 :ɟɪɑ:ɪldɪl(数の図) ［用例］ ɟɪnɟ ʃɔn ɪdl 図で説明する lecɟ ɪdl グラフを描く

ɪdlɟɪnɟ ［名詞］チャートによる図解、図説 ［レベル］3 ʃʃ0

ɪdlɔc ［料理］隠し味 ［レベル］3 ʃʃ0

ɪdn ［名詞］杭、ペグ ［動詞］ɥəl に ɪ（地面など）まで杭を打つ、打つ ［レベル］3 ʔʔ: 制 :ɪdcnɔɪl ［用例］ ɪɑcɟɪnʃ ɪdnɪʃ ɪɑcɟɔl ɪl eɟɒcɒ. アディサントが死刑囚の心臓に杭を打った。

ɪdnɔɪ ［美容］エクステンション、エクステ ［レベル］4 ʃʃ

ɪdueʃ ［言語］補語 ［レベル］5 1L ［文化］ 古アルカには存在した。

ɪdɑɔɪ ［電算］拡張現実、ＡＲ、オーギュメンテッドリアリティ ［反意語］ɑɔɪɑɔɪ ［レベル］3 ʃʃ ［語法］ ɑɔɪɑɔɪ

ɪddclc ［被服］つけぼくろ、付け黒子、つけほくろ、ほくろ、ホクロ、黒子 μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ ɟɒ でカレンシアができ、貴族階級に凪人が入ってくると、土着の白人であるトール人貴族は自分が生粋のトール人であることを強調するため、黄色人種である凪人とは違うということを誇示するために、肌の白さを引き立たせようと付け黒子をするようになった。μɑ で貴族解体とともに廃れた。

ɪddel ［名詞］ふち、へり、縁、淵、きわ、際、はじ、端、は、リム。コップのふちなど ［軍事］リム。銃弾のリム。 ［類義語］lɔɔz ［レベル］2 ɑu;<ɔɪd 古 :ɪd と関連性あり？ ［成句］ ɟɪcn eɟ ʃɪen ɪddel e dɪd コップのふちの水を確認する：見切りをつける。もうこれ以上は無理だと見切ること。

ɪddelɑɪbe ［軍事］起爆薬。リムファイア式の。 μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ ɸel

ɪddelɸɪlcɟ ［軍事］リムファイア式、リムファイア μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ ɸel

ɪddellɔɔb ［被服］ブリムドハット μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ ɟɒ でできた。サギタマギカの貴族が身につけたのが始まり。

ɪdμecn ［数学］補助線 ［レベル］4 1L ［用例］ lecɟ ɪdμecn 補助線を引く

ɪdl ［交通］船、船舶 ［レベル］2 μɑ;ɪdɪlɪn.lcʃ ʔʔ: 制 : 古 :ɪdɪlɪn（海の乗り物） ɪdɪlɪn:ɪdɪlɪn:lə μeʃɔɪ（→ dɪn） ［文化］ sɪɒd ［用例］ ʃɔɪ ɪl ɪdl 船に乗る、乗船する

ɪdluɪlɑ ［娯楽］競艇 ［レベル］4 ʃʃ ［文化］ lɪíɔɟ

ɪdlheʃ ［名詞］船尾、とも、艫 μɑ;/ ʃʃʃ

ɪdlheʃcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］とも座 ʃʃʃ ［文化］ cɑɪ

ɪdlɥeɟ ［交通］航路 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

ɪdlɔ ［名詞］竜骨 zɸ;ɪdlɪn/hɔ ʃʃʃ

ɪdlɔcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］りゅうこつ座 ʃʃʃ ［文化］ cɑɪ

ɪdle ［名詞］帆 ［生物］横隔膜 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪdlɪbe ［用例］ ɑɪl ɪdle 帆を張る

ɪdleʃ ［電算］アプリケーション、アプリ ［レベル］3 μɑ;ɪd/ʃe「添え物」 ʃʔ

ɪdleɟ ［植物］杏、アプリコット、アンズ、あんず ［レベル］2 ɑu; ↓ lɪlʃɪ:nəəəμɸɪlʃ（月の実）または ɪdleɟ。ɪdleɟ が一般的。 ［文化］ 果実酒の材料としてよく用いられ、直接食べることは少ない。

ɪdlescɔμ ［生物］隔兪、隔愈 ［レベル］6 ʃʃ

ɪdleɪucl ［医療］横隔膜ヘルニア ［レベル］5 1L:jeμen

ɪdlecɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］ほ座 ʃʃʃ ［文化］ cɑɪ

ɪdɪ ［名詞］記号、印、符号、家紋、紋章、マーク、ロゴ、象徴、シンボル、合図（ジェスチャーとしての記号）、手振り、キュー、イコン、コード、符丁、符号、浮標 ［言語］シーニュ ［類義語］ɑɔlʃ、cɟʃɔl ［レベル］2 ʔʔ: 制 :ɪdc ［語法］ ɪdɪ はマークや記号のこと。ɑɔlʃ は目印のこと。

ɪdɪʃ ［名詞］合図、号令 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɪdɪ ［用例］ ɑcʃ ɪdɪʃ 合図を出す

ɪdɪʔ ［名詞］マーカーペン ［レベル］4 1ʃʃ: 制 :ɪdɪ/ʌɪz

ɪdɪn ［交通］舗装道路、舗装された場所、ペーブメント、タールマック ［レベル］4 1ʔ:jeμen:ʃʃle l:ɪudɔn（強い道）から

ɪdɪn(J) ［言語］シニフィアン ［レベル］6 1L

ɪdɪɒɪɟ ［名詞］マークシート ［レベル］4 1ʃʃ: 制 : 記号の紙 ［用例］ ɪlʃ ɪl ɪdɪɒɪɟ マークシートを埋める（塗りつぶす）

ɪdɪμ ［電算］アクセラレータ、アクセラレーター、アドオン、機能拡張、拡張機能 ［レベル］6 ɪl;/ ʃʃʃ ［語法］ コンピュータなどの特定の機能や処理能力を向上させるハードウェアやソフトウェア。新たな機能を追加することもあるが、すでにある機能の性能向上をはかる点に着目した語。

ɪdɪz ［名詞］はん、印鑑、はんこ、判子、スタンプ ［動詞］ɥəl に判を押す、押す ［レベル］3 ʔʔ: 制 :ɪdɪ/zɔn ［文化］ アルバザードはサイン文化なので判子は持っていない。 ［用例］ ɑɥeɟɟəə hɪdʃɔ)ɔ ɑel ɪuelɪnʃ e dɪμɒ ʾɪlɒɪ ɪdɪz ɑceμ ʃ'ɪɑcɟ 日本の死神Ｈ氏はやたらと死刑執行の判を押すらしい。

ɪdɪɪdcɪ ［言語］指示 ［レベル］6 ʃʃ0: 記号を示す

ɪdɪɔl ［言語］シニフィエ ［レベル］6 1L

ɪdcɟ ［動詞］ɥəl を ɪ まで拡張する、拡張する ［類義語］zɔʃ ［レベル］3 ʃʃ:id

ɪdcl ［数学］指数 ［レベル］4 1L:ɪdcɪ/ɪll

ɪdcɪ ［動詞］ɥəl を ɪ に示す、示す、象徴する、意味する、意図する、指示する、指定する、導く ［数学］導く ［言語］人称 ［レベル］2 ɑ;e 赤：意味 ［用例］ cɒelhɪμɪ ɪdcɪ dcʃɒleun. 黄疸は肝臓病を意味する。

ɪdcɪɟlcʃ ［名詞］指定席 ［レベル］4 1L:ɸɑɔɪ:ɪμbɪleɪʃ ［用例］ ʃɪə ɪdcɪɟlcʃ 指定席を取る

ɪdcɪn ［言語］示すもの、～を示す形態素 ［レベル］5 ʃʃ0

ɪdcɪɸɪμʃ ［経済］指値 ［レベル］6 ʃʃ

ɪdcɪɪll ［電算］表示数、表示件数 ［レベル］3 ʃʃ0

ɪdcɪcɟʃc ［言語］指示代詞、指示詞、指示代名詞 ［レベル］5 1L:lcɔn ［語法］ ʃə lec, ɥəɪ μenɟ の ʃə や ɥəɪ のこと。 指示詞が前置されるようになったのは制でなく新生。名詞の後に形容詞が連続した場合、指示詞が後置だと lec led ʃcnɪ ʃə となり、lec と指示詞の距離が離れる。一般に指示詞は名詞と密接であり、動詞と目的語が引き合うように、相互間の引力が強い。だからといって lec ʃə led ʃcnɪ とすると論理的におかしい。ʃə は修飾関係でいえば lec led ʃcnɪ を修飾するため、論理的には一番端にきて lec led ʃcnɪ ʃə になるべきである。しかしそれだと lec との距離が遠くなり、堂々巡りである。そこで指示詞を前置するとこの問題を解決できるようになる。通時的に見れば ʃə は ʃəəl などの兼ね合いで前置されるようになったが、共時的に見るとこのような効果を狙って前置されている。

ɪdce ［名詞］メーター、ゲージ ［レベル］3 ʃʃ0:ɪdcɪ

ɪdɔʃ ［格詞］中へ ［レベル］2 1L ［用例］ lɪʃ φel ɪdɔʃ ʃɔu 箱の中にボールを入れる ɟɪcn ocl jeeμ e ucl, ɪllʃcnɪ lɪíɔμ ɪdɔʃ ɑɟɪ. 男が静かに頷くと、少年は暖炉の中に入っていた。

ɪdɔʃen ［接続詞］ɪdɔʃ ［レベル］3 ʃʃ

ɪdɔɟ ［被服］むなぐら、胸ぐら、胸倉 ［レベル］3 1L:ɒelcɑɔɪ ɪlʃe:ɪl/dɔɟe ［語法］ 襟の逆側。襟は首の裏だが、胸倉は日本人が喧嘩のときなどに掴む首の前側の部分のこと。アルバザード人はケンカの際、胸倉は掴まない。→ ʃɔu 胸ぐらをつかむのは引っ張ったり関節や投げに持っていこうとするとき。 ［用例］ bcl ɪdɔɟ 胸倉をつかむ：関節技を決めるときにしかしない。

ɪdɔdɔ ［擬音］ぶるるるる、プルルル。ブザーの音、電話の呼出音など。 ［レベル］2 1L: リディアの書

ɪdɔdɔ(J) ［音楽］鼓、つづみ ɪlʃ; 擬音 ［レベル］3 ʃʃ

ɪde ［名詞］旗、フラッグ、ペナント、バナー ［運動］ゴルフのバナー ［類義語］ɑlcɔμ ［レベル］2 ʔʔ: 制 :ɪdɪbe(記号の布) から ::lə ɑlcɔμ（角形は男性）

ɪdel ［名詞］舵、ハンドル、方向舵、ティラー ［レベル］3 ʃʃ0:ɪdʃ:ʔʔ: 制 ［用例］ ɟclef ɪdel 舵を取る ɔu ɪdel 舵を切る

ɪden ［感動詞］［形容詞］あきれた、バカバカしい、馬鹿馬鹿しい、ばかばかしい、馬鹿げた、笑止千万な ［名詞］呆れ ［副詞］呆れて ［レベル］2 古：後悔のエクスプローダーの女性形 den から。自分に対する後悔から事態に対する落胆へと意味が変わっていった。後悔の意味では男子は de といったが、事態に対する落胆という新しい意味においては男子も den といった。 ［用例］ ɪn nɪ ɪden ɪ ʃc ɟɔʃ φɪlʃ. 君がそんなことをしたなんて呆れるよ。

ɪdel ［名詞］船荷 ［レベル］3 ʔʔ: 制 :ɪdlled ［用例］ ʃɔɪ{lɪʃ} ɪdel 船荷を積む

ɪb ［接尾辞］材料を意味する ［レベル］2 ʔʔ: 制←古 :φɪɸe（材料）

ɪbμɪɒ ［言語］竜字、アブラム ［レベル］4 ʃʃ:ɪμbɪ/ɑɔμɒɪ ［文化］ hɪɾl、lcɒ

ɪbl ［名詞］包帯 ［動詞］ɥəl に包帯を巻く、巻く ［レベル］3 古 :φɪɸe（布） ［用例］ ɒɪɪl ɪblɪʃ ləɔɪ nɔɪn le ʃcl ucl. 母さんが怪我した足に包帯を巻いてくれた。

ɪbɪnʃcɪ ［企業］アバンティア ʃʃ:ɪbɪnʃcɟ ［文化］ 三菱商事に相当する企業。

ɪbɪn ɟɪn ［娯楽］あぱんさん ʃʃ:ɪbɪn は ɪlʃ ［文化］『サザエさん』に相当するアニメ。

ɪbɪɔφ ［生物］みぞおち、鳩尾、心窩部、心窩、心下 ［レベル］4 ʃʃ:ɪ/bɪɔφ（殴るところ）ここを打つと敵は悶絶する

ɪbcl ［宗教］大司教、アーチビショップ zφ;「車輪のハブ」 ʃʃʃ

ɪbcɟ ［被服］鳥打ち帽、鳥打帽 μʃ;<,ɟɪφcʃɪbɪφcʃɪ ʃʃʃ

ɪbcɔn ［音楽］クラベス ʃʃ: マレット諸語から

ɪbcɔnʃ ［音楽］サルサ ［レベル］6 ʃʃ:ɪbcɔn

ɪbcɔl ［数学］６０面体 ［化学］フラーレン ［レベル］6 古 : 語源不祥

ɪbe ［被服］布、布巾 ［レベル］2 ʔʔ ←古 :ɟɪbe（布）、φɪɪbe（布）

ɪbeɪ ［政治］奴隷地区、貧民街、部落 ［レベル］5 1L:ɪ/beeɪ（トイレ横） ［文化］ 奴隷や貧民が集まっている地区。中央アルナでは奴隷商の居場所が事実上のアベックになっている。通常、南区インプレンの周りに多い。

ɪbeɟ ［被服］キュロット μʃ;ɥɔlɔ の北方方言が ɪleɪ したもの。 ʃʃʃ

ɪben ［名詞］不良、野盗、クズ、チーマー、暴走族 ［レベル］3 古 :ɟɑɔɪ::iben（不良）← ɪlben(ɪl/ben) ← benben

ɪbenʃcɟ ［人名］アベンティス。ミナリスなどの姓。 ʃʃ

ɪbehɔnɟ ［アイテム］クロスアーマー μɑ;/ ʃʃʃ ［文化］ 神代で作られた。布の鎧。

ɪbel ［魔法］アベル気質 ［レベル］5 1L: 制では bebel ［文化］ アルヴィナにおいてユノ・ヴィル・ノア・アルマの総量が少ない人間。無能で凡庸とされる。

ɪbelcɟ ［人名］アベリス ［レベル］6 ʃʃ0: 小さな哲学者 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʃʃʔʕʔ:ɟʃʕʕ) アルテ教会を建て直した人物。時魔導師で、非常に長寿。

ɪhɥɪh ［感動詞］あひゃひゃひゃひゃ、アヒャー、ｱﾋｬｯ ［レベル］3 1L: リディアの書

ɪ hɪ ［感動詞］あぁ、ああ、なるほど、あぁなるほど、あぁやぁ、あぁはぁ！ ［レベル］1 ʃʃ

ɪhɪh ［感動詞］あはは ［レベル］2 古 : オノマトペ

ɪhɪl ［格詞］～の上に ［レベル］2 1L ［用例］ eu ʃə ɪhɪl elen. これを机の上に乗せて。

ɪhɪlɪ ［芸術］螺鈿、らでん ［アクセント］ɪhɪlʔ ɟɒ:ɪlʃ<ɪhɔlc,) （アプラウト） ʃʃʃ

ɪhɪlen ［接続詞］ɪhɪl ［レベル］3 ʃʃ

ɪhɔ ［地学］石膏 ［レベル］4 ʔʔ ←古 :dɪlhɔ（白くて固いもの）

ɪhɔ,ɪlʃ hɔl ɪ (ɑu の音象徴で海) /hɔ（固い）

ɪhɔlc ［芸術］伝統工芸 ［アクセント］ɪhɔlʔ ［レベル］6 μɑ;<ɪlʃ<ɪhɔlə,ɪlʃ ʃʃʃ

ɪhɔlə,ɪlʃ ɑɔlʃ。伝統工芸に使う。 ɪhɔ

ɪ ɥɪ ［感動詞］うん、まぁね、あそうなの？、あやー、あそうかー ［レベル］1 古

ɪɥɪlɪ ［言語］［文字］標準幼字書体、アヤカ書体、アヤカ ［レベル］5 ʃʃ:ɪɥɪlɪ,ɑu（朝顔） ［文化］ μɑ でコンピュータが開発される過程でリュウがいくつかフォントを作成していたが、粗雑だったため、ʃʃ にセレンが主幹となって綺麗に作り直した物。現在でも幼字の公的地位を築いている。 現実には ʃʃ にネットユーザーの尽力によって作成された。 サンセリフで、線幅は一定である。幼字本来の形を示す際に用いる。学習者に幼字を紹介する際には必ずこれを使う。 通常、本文中では ɥəəlɔ を用いる。というのも、ふつう本文は ɪlblɪnʃ で書かれるためである。

ɪɥɪlɪ,ɑu ɒɔdɪ ɪl（否定）/ɥɪ（痛い）/φɪ（腹）「腹痛を治す」 下剤として用いられたことから。

ɪɥe ［医療］麻酔、麻酔薬、麻酔剤 ［魔法］アユ。利の中位白魔法。麻酔をかけ、苦痛を感じなくさせる。 ［レベル］3 定：痛くない

ɪɥe,ɪlʃ ɥɪɥe ɥɪɥe.l

ɪɥeɪ ［医療］ささくれ、ササクレ、さかむけ ［レベル］3 ʃʃ0:ɪl/ɥeɪɪ ［用例］ nɔz ʃcl ɪɥeɪ. 爪がささくれる。 ɪn ʃclcɪ ɪɥeɪ. ささくれができた。 ɥeɪɪ ɪɥeɪ ささくれを剥く：指の皮とささくれのメトニミー。 ɪn ʃclɪʃ eμcl ɒɪn ɥeɪɪ ɪɥeɪ. ささくれを剥いたら血が出た。

ɪɥeɒc,ɪlʃ ［副詞］ɪɟ ［京極］即：弓 / 時→ uɪn,ɪlʃ ɪl/ɥeɒc「時もなく」

ɪɥeɪ ［言語］形容詞 ［レベル］4 ʃʃ0:ɟɪɥeɪn

ɪɥeɪcɟʃc ［言語］代形容詞 ［レベル］6 μɑ;/ ʃʃʃ

ɪɾlʃcɑbeμʃcɪe ［地学］東ファベル海流 ʃʔ

ɪɾɟ ［電算］電子インク、Ｅ－Ｉｎｋ ［レベル］6 1Λ: 制 :ɪμʃhɪɾɟ（魔法の文字）から。液晶ディスプレイに代わって今後アンセ的に広がっていくと見込み、語形を詰めた

ɪɾɒɪ ［悪魔］アルヴァ。ヴィルテニにアルマを加えた集団の総称。 ［レベル］4 belʃcɪ 0:ɪɾɒɪ;ɪɾɒɪ/ ucμʃe 古 :μcɑɔɪ:ɪɾbɪ と ucμʃe の混成。ɪɾlue にならなかったのは母音調和によるもの

ɪɾbɪ ［悪魔］アルマ ［レベル］2 belʃcɪ 0:ɪɾbɪ;e μcɑɔɪ: 古 :ɪɾbɪ（アルマ）。元々エネルギーの ɪμɒɪ と同じ発音のキャラ名だったため、ヴィードのアルマと悪魔のアルマは区別できなかった。しかしその後リディアが μ 音を混同したために、ɪμɒɪ と同じ意味で ɪɾbɪ という語形が生まれた。両者は暫く混同されていたが、ヴィードのアルマと悪魔のアルマが区別できないという問題があったため、自然と使い分けが起こった。後者がキャラのアルマを示し、前者がヴィードのアルマを示し続けた。 ［文化］ テームスを護衛する最強の悪魔。玉の姿が正体。会話可能だが、基本的に動かないし、喋らない。総合的にはテームス本体の方が強いものの、個々の能力ではアルマの方が高い。アルマはテームスを守る最後の番人であり、最強のヴィードであるアルヴァを自在に操る。実質上、ユノ・ヴィル・ノアを操る４人の悪魔ヴィルテの上位にある。竜王ティクノによって魔輪アルマディオの中に封じ込められていたが、巡り巡ってサールのアーディンによって復活してしまう。しかし後の世でアシェットに再度アルマディオに封じられる。μɑ ではテームスの死後、長として戦う。 太陽を司る。 ・ɪɟʃe 訳 そして彼らはアルマと戦いに行った。ユルグの調査によって、彼らはアルマの居場所を知っている。そして彼らは悪魔テームスを守るアルマを見つけた。彼はフレスティアと同じく鎧を来ている。しかし鎧の色は黒い。そして彼は冠をつけている。さらに彼はフレスティアと同じく大剣を持ち、ヴァルデと同じく杖を持っている。そして鋭い鉤爪がかれの右腕と左腕と右足と左脚にある。 ［成句］ ɪɾbɪ ɔ)(en) ɪɟμɑe ヴァルデをもつアルマ：鬼に金棒。ヴァステでティクノから魔杖ヴァルデを奪った悪魔アルマが非常に強かったことから。

ɪdɒɪɑcɔ　［アイテム］魔輪アルマディオ　［レベル］3　ɥcɑcɪ: 古：語源不詳だが、ɪdɒ は悪魔アルマのはず。追記 Lʔ9:ɪdɒɪɑcɪ（アルマのゆりかご）が語源。ここにアルマが封じられたため。　［語法］　ヴァストリアのひとつ。リディアのもつ魔輪で、ヴァステで竜王ティクノが悪魔アルマを中に封じ込めた指輪。始めはティクノからアルデスに渡った。しかし暫くすると指輪の封印が解け始めた。このままではいけないと思ったアルデスは強い力で封印を固めようとした。そこでアルデスは婚約を目前に控えたラマンにアルマディオを託した。ラマンとその婚約者アーディンの愛で封印を強くしようと考えたのである。ラマンはアーディンにアルマディオを与えた。こうして婚約指輪という習慣が生まれた。ラマンはアルデスに言われたとおり、アーディンに「一度付けたら外してはいけない。愛が逃げてしまうから」と警告しておいた。ところがアーディンはラマンを裏切って浮気をし、指輪を外してしまう。浮気が終われば指輪をはめて何食わぬ顔でラマンの元へ帰るつもりだったのだ。しかしアーディンが指輪を外した瞬間、アルマディオは４つのパーツに別れ、各地へ飛んでいった。更にアルマまで復活してしまった。アルマディオはその後アシェットが４つのパーツを全て集め、もう一度ひとつの指輪に戻した。元に戻ったアルマディオを使い、リディアは再びアルマをアルマディオに封印した。

ɪdɒɪblenz　［天文］コロナ　［レベル］5　ʃ1:「悪魔の炎」　アルマの居場所が太陽であることから

ɪdɪ　［文頭純詞］ɪlɪ の強勢形。ɪlɪ より怒気が強い　［レベル］2　古：ɪlɪ と同じ字。単に語彙的な異形態だったともいえる。

ɪɥ　［動詞］ɥəl をする、する、演奏する、付ける、起動する、点ける、つける、行う、おこなう、降る。生動詞。　［レベル］1　1L: 恣意　［語法］　ɥəl の機能を働かせたり、ɥəl を起こしたり行ったりする動詞。　［成句］　ɪɥɔɟɤ よぉ、やってるか。どうだい、調子は、おつかれ、おつかれさま、お疲れ様　［用例］　ɪɥ ɟɪc パソコンをつける　ɪɥ dɪɒ 電気をつける　ɪɥ ɪfɪ 会議を開く　ɟɔzɪɥ eɟ ɪɥ. 扇風機がついている。　ɾejdɪɒ ɑɥeɒen ɑelez le leɟɪ lɪ ej cɟ ɑcn ɾə ləɾ ɪɥ cɒ ɾəɔ. ピアノのある教室付近の電灯はここ最近いつも付いていたのに（今は）消えている：ɾə ləɾ ɪɥ が難しい。ləɾ は繋辞で、ɪɥ が自動詞を作る目的語。

ɪɥ(J)　［接尾辞］機械を意味する。ɪ で終わる語の場合は ɥ になる。　［レベル］1　制←古 :ɥɪφnɪ: 経過相と重複するが品詞が違うので区別できるため、ママとした。　［用例］　ɟɔzɪɥ 扇風機

ɪɥ(ʔ)　［言語］アルバザード語、現アルバザード語、アルバレン　［レベル］3　J1

ɪɥʃ　［魔法］西洋魔法、魔道、アルト、魔法、マジック、ソーサリー、ウィザードリィ、ウィザードリー、魔女術、魔女宗　［受動名詞］放った魔法　［動詞］ɥəl の魔法を ɪ に撃つ、撃つ、かける　［動詞］［卑語］ɥəl（女）を孕ませて ɪ を産ませる、孕む、妊娠する :10:zɪnɪ　［名詞］［形容詞］ヴィードを伴う、魔法、魔法の、魔法を使った　［形容詞］［副詞］ものすごく、とてつもなく、異常に、異様に : 程度は ɾcnʌ と同じ。そこに驚きの気持ちが足されている。従って ɾcnʌ/ɾcʌ の意味。　［反意語］ɑlɪɒ　［レベル］2　ɥɑ:ɥcɑcɪ;ɪɥʃ,ɑ.heɒ　古 :ɪ は魔法、ɥ は魔力、「は不思議な力。　ɪɥʃ:ɪɥ f:lɪ ɥəɑcj:ɟcɪn,ɪlʃ　［語法］　ləɟcɪ　広義では ɥccɑ の持つ「ヴィードを伴った」という語義にもなる。ɥcɥ は ɑɔlɒcɥə において ɥccɑ の代表的な存在であったため。　［文化］　→ ʅnɔɔjenɥc, ɑɔlɒcɥə　西洋魔法体系のこと。厳密な魔法の総称は ləɟcɪ だが、アルバザード人は通常「魔法」というと ɪɥʃ を使う。正しい和訳は「魔道」か「西洋魔法」で、ɪɥʃɪn は「魔導師」。　＜オーディン時代における人々の魔法の力＞　ɥɑ のころは日常魔法は使えても魔導師というほどのレベルでないというのが一般的な人だった。魔法の力は個人差が大きく、強い人は昔の魔導師並みに使うことができた。主に ʔ,J 遺伝子を持った人間は魔法に疎かった。　ɥɑ の場合、魔法が一切使えないというほどの人はまだ少なかった。サッカーや野球は殆どの人がやろうと思えばやることはできるが、プロの選手とは歴然とした差がある。それと当時の魔法はよく似ている。魔導師と呼べるレベルの人は要はプロの選手と同じようなもので、歴然とした力の差があった。かといってサッカー自体をすることは子供でもできるように、日常魔法程度なら大抵の人は使うことができた。　＜ナディア以降＞　nɑ 以降、魔法は急激に失われていった。　ɟʃ 以降、魔法は一般人の間では殆どの場合架空ではないかと考えられていた。ただし魔導師たちが歴史を動かしていた時代だったので、魔法の存在を完全に否定するのは難しく、殆どの人は魔法を架空ないし一部の限られた人間にしか使えないものと考えていた。このスタンスは現代でも変わっていない。国家自体、召喚省がありながらも魔法の存在については見解を出さないという対応をしている。一方、神の存在については実在であると主張しているが、大手を振って主張しているわけでなく、召喚省の発表の中であまり目立たないように主張されている。その裏には面倒な物議を避けたいという思惑があり、魔法や神の存在について国家側は積極的に議論をする気がないというスタンスを取っている。　［用例］　ɾc ɥɔl jen eɒ ɪɥʃ cɒ le ɪleəɟel ɔl ɾc ɾɔlʃ ɾə lɪlel. 練習を重ねれば、いつかきっと魔法が使えるようになる。　ɥɔlʃ ɪleɒ ʅɔn elɑ. ɾə eʃ ɪɥʃ ɪlɪ l'ɪnj ɥɔl jen lɔʃ ɾə ɑcɪ ɑɪ. 言葉で心を表現する。それが私たちが使える世界で一番強い魔法だ (jeɥen ɪɥbɪzɪɥn)

ɪɥʃ,ɑ　ləɟcɪ、ɪɥʃ　jɪɪl;e

ɪɥʃɾəlɔael　［魔法］魔法物理学　［レベル］5　J1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɪɥʃlel　［魔法］アルトクレール、『魔法使いになるために』　［魔法］魔道書← ɪɥʃlec　［レベル］4　J1:ɥcɑcɪ　［文化］　ɥɑ でリディア＝ルティアが記した魔法学の集大成。ヴィルについての説明が多いが、ユノやノアの説明も行っているため、ヴィード論総合と考えてよい。　nɑ 以降は魔法の衰退により、魔法学も衰退する。　革命後はアルティス教の世の中でミロクが召喚省下に魔法研究所を設置。しかし「国民の生活の向上」「経済の発展」「軍事力の増強」のいずれにもならないため、税金の無駄遣いと批判されることもある。　そのため政府としても巨額の税金をつぎ込むわけにはいかない。また、魔導師自体がほとんどいないため、研究がなかなか進まない。　よって ɪl 以降芳しい成績は収められず、ɥɑ のアルトクレールに追記するとともに編纂しなおすという作業を研究所はしている。　したがって、現在 ɪɥʃlel は ɪl で魔法研究所が編纂した本ということになる。

ɪɥʃlɪɒc　［魔法］魔法科学　［レベル］4　ɥɑ　J1　［文化］　魔法を使った科学で、jɒ と ɥɑ で発達。ɥɑ 末期に徐々に現代科学 (ɑlɪɒ'lɪɒc) へシフトし始めた。

ɪɥʃlcl　［魔法］魔法実験　［レベル］5　J1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɪɥʃlefɟael　［魔法］魔法倫理学　［レベル］5　J1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɪɥʃjel　［歳時記］魔法の日　［レベル］3　J1　［文化］　ルシフェル校のできた日。ɥccɔ ɥɪl。jɒ では魔法スポーツの祭典の日。現在では召喚省下魔法研究所の一般解放日（アルシェは多忙で休めない）。　ユーモア好きのアルバザードでは、この日は学校には魔導師の格好をして通ってよいことになっており、黒魔導師や白魔導師の格好をして通う。授業も潰して魔法の授業を行い、遊びに興じる。学校は午前中に終わり、放校となる。企業は魔法にちなんだ商品を売り、経済効果も高い。　冬の寒い日なのでコスプレは厚着が基本となる。またこうでもないと家に引きこもりがちな季節なため、経済が循環しないという理由もある。　雪が降ることが多いため地面を駆けるのが難しく、通常のスポーツの祭典なら行えないはずだった。ところがjɒ のは魔法スポーツなので空を飛ぶことが多いため、実施に問題なかった。むしろ選手にとっては雪をどう扱うかすら技術の一端となっていた。観戦者は現南西区にあった幌付きの競技場で祭典を楽しんだ。

ɪɥʃnɔɒ　［魔法］［芸術］魔法色　［反意語］ɑlɪɒnɔɒ　［レベル］5　J1

ɪɥʃnɔɪ　［美容］前髪を左右に垂らす髪型　［レベル］3　1L: 魔導師の髪型。カコ時代の魔導師の女性の一般的な髪形だったことから　［語法］　ミルフのような前髪。小説でいうと、紗枝みたいな髪。

ɪɥʃuɪnʃcj　［魔法］［軍事］魔法兵、魔道兵（正式）　［レベル］4　1L:ɥcɑcɪ

ɪɥʃuɪlj　［魔法］魔法医　［レベル］4　J1　［文化］　→ ɑɔlɒcɥə　魔石学から始まり、ləʅleʃcɪ に分岐。jɒ と ɥɑ では錬金術と ləʅleʃcɪ の専門家がそれぞれおり、西洋医学と東洋医学に相当する。両方の知識を持つつわものもいた。ɥɑ での医学の発展に伴い前者は衰退。後者の漢方は現在も残る。

ɪɥʃuczen　［魔法］魔動回路　［レベル］4　J1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɪɥʃɑɥcɒ　［魔法］［化学］［物理］魔動顕微鏡、魔顕　［レベル］5　1L　［文化］　ɥɑ でリュウが開発し、これにより科学を推進させた。　φɪleʃ を用いて観測する技術であり、約５０ｐｍまで観測できた。その意味で電顕に相当する能力を持っていた。　nɑ 以降は魔法技術が廃れ、光学顕微鏡が遅れて開発されたが、可視光を利用するため３８０ｎｍ（理論上は１００ｎｍ）程度までしか観測できなかった。その後電顕ができ、魔顕水準まで引き上げられた。　従って地球に比べ ɥɑ では魔顕のおかげで科学が早く発達したが、ɥɑ においても魔顕は極めて貴重だったため、実際に使えた者が少なく、電顕ほど貢献はしなかった。　ɥccɑ は高晄圧、すなわち高密度の状態から平衡しようとする性質がある。魔顕では、ゼロガレットを高晄圧で放射する。ガレットが通る筒はガレットを通さないレニウムでできているため、加速されたゼロガレットは筒を通って真下に発射される。高晄圧で加速されたゼロガレットは電荷を持つため、あとは基本的に後の電顕と同じ仕組み。

ɪɥʃɑɥec　［魔法］魔法剣　［レベル］4　19: 制

ɪɥʃɑcɥ　［魔法］魔法光　［レベル］4　J1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɪɥʃɑcɪn　［魔法］魔法少女　［レベル］3　1L

ɪɥʃael　［魔法］魔法学　［レベル］4　1L　［文化］　カコにアルシアの１１魔将が興し、大成した。　→ elɑael

ɪɥʃaelɪn　［魔法］魔法学者　［レベル］4　J1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɪɥʃɒcʃeael　［魔法］魔法分類学　［レベル］5　J1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɪɥʃɒcleel　［形容詞］［ポジティブ］価値に見合うだけ高価な　［類義語］ɑɪlʃc　［レベル］3　J0　［語法］［文化］　不死鳥カルマの魔法の羽のように高価なことからついた。カルマミレールは死者を蘇生する貴重なアイテム。高価だが、それに見合う価値があるという意味で使われる。

ɪɥʃɒel　［歴史］魔法代　［レベル］4　ul;/。まだ人類が魔法を使えた時代なので。　J1l　［語法］　→ ɑeɒe

ɪɥʃφel　［軍事］魔動銃。グレアよりも広義。　ɥɑ;/　J1l　［文化］　φel

ɪɥʃdɪɒ　［魔法］魔灯　［レベル］5　J1　［文化］　ɑɔlɒcɥə

ɪɥʃɥəlɑ.　［魔法］［政治］魔法研究庁　［レベル］4　1L:clɒəj;ɥcɑcɪ　［語法］　セルメルでアルバ二世が置いた庁。以降なくなることはなく、レイユでもアルシェ＝アルテームスやネブラ＝ブルーナらが所属。

ɪɥʃɥəlɑʅɪ　［魔法］魔法研究所　［レベル］4　1L:lcɔn　［語法］　アルシェやネブラが属している国の研究所。レインの父ドゥルガもここの役人。だが実態は召還省の下位機関で、タレスにとって身分を隠すための隠れ蓑。

ɪɥʃlec　［魔法］魔道書→ ɪɥʃlel　［レベル］4　JJ

ɪɥʃɪ　［地名］アルタ　［レベル］5　1P: 制 : 古 :ɪɥʃ(魔法) から　［語法］　ソーンの使徒ヴァーナの支配地

ɪɥʃɪ(J)　［アトラスの国家］アルタ　［レベル］5　制　［文化］　面積：1Ⅲ9ʔΔ0.99ΔⅢⅢΔ ʅɒ 」

ɪɥʃɪj　［人名］アルタス　古　［文化］　４期１代のソーンのルシーラ。男性。テームスの復活を予言し、それを食い止めることを目標として団体を作った。幼馴染による対抗団体ができるとそれと対立。フェリスはドゥルガを名乗り、アルタスはヴィーネを名乗って争った。

ɪɥʃɪj(J)　［名詞］業、カルマ　［レベル］4　J1:ɪɥʃɪjen　［成句］　ɾcl ɪɥʃɪj 業が深い　ɪlcj. nɔn uɪɥɪe ɥə ɒcuɪ ɒcl ɾə ɪɥʃɪj. みっつ。私はその業により、娘から忌み嫌われる。

ɪɥʃɪjen　［アイテム］アルタセン　［レベル］4　ɥcɑcɪ: 赤：「反省」。語源不詳。ɪɥʃ の部分は魔法だと思われる。ɪɥʃɪjen は赤アンクノットによると反省の意味。ダルケスを失ったカルザスの反省というところからこの名が付いた。　ɪjen:ɪɥʃɪjen　［文化］　ヴァストリアの１つ。リナのもつ魔石。ダルケスを失ったカルザスが流した涙が宝石になったもの。身に付けることにより強大な魔法力を有するようになる。魔力も上がるが、一番はヴィルそのものの最大値の上昇である。

ɪɥʃɪjen(J)　［名詞］懺悔　［レベル］4　赤：「反省」　ɪjen:ɪɥʃɪjen　［用例］　ɪɥʃɪjen e ɒcɥɔl" かみさまの、懺悔」

ɪɥʃɪn　［魔法］［ジョブ］魔導師（正式）、魔法使い、魔術師、魔導師、魔女　［名詞］極めて頭の良い人　［俗語］童貞、処女、魔法使い、僧侶　［名詞］アシェットにおいてメル・リュウ・リディア・ビネナを指す。これにファーヴァを加えることもある。　［シェルト］魔駒（色駒と扉駒を区別しない言い方で、ウィザードを魔法使いと訳したことろから取った）　［レベル］2　ɾb;/　制　［語法］［文化］　→ beel　・男女比率　一般に男性が女性より筋肉が逞しいのと同じく、男性は女性より一般的にユノが強く、ヴィルが弱い。つまり女性のほうが男性よりも魔法使いに向いている。しかしその差は個人差が大きく、筋肉量の差ほど明瞭ではない。女性並みに魔力の強い弾性も大勢いる。ただその場合、えてしてその男性は女性的な人格や体格をしていることが多く、ほっそりしていて物腰が柔らかく知的で病弱で筋肉が弱く女性的であるということが多い。　魔法使いはヴィルの量の問題で、女性のほうが多い。しかし上で述べたように男性魔道士も存在する。　・黒魔道士と白魔道士　魔法使いを黒魔道士と白魔道士に分けると、顕著に男女差が現れる。黒魔道士は男性が多く、白魔道士は女性が多い。　これは元々の素質というよりも、学生時代の進学コース選択において男性が黒魔法を習得しがちで女性が白魔法を習得しがちだったためである。白魔道士は前線にも出るが陣営でメディックとして働くことも多く、出産や生理がある女性にとってはメディックは働きやすい環境であったため、白魔法を履修する女性が多かったためである。　この結果、白魔道士は女っぽいというイメージが定着し、黒魔道士に男性が偏るようになり、黒魔道士と白魔道士の間で男女差が現れた。　むろん、男性でも有能な白魔道士は存在するし、女性でも強力な黒魔道士が存在する。白魔法と黒魔法のどちらに適正があるかは個人差があり、明らかにどちらかに向いているというのが進学前に分かっている場合は、女性でも黒魔道士を目指すということがよくある。　その顕著な例が ɥɑ のリディアであろう。リディアは人類最強の魔法使いとして君臨したが、彼女は白魔法はほとんど使えず、黒魔法のプロフェッショナルであった。このように、就職先の関係で白魔法を選ぶ女性が多い中、自らの特性を活かして黒魔道士としての才能を存分に発揮したリディアのような例もあり、一概に男性が黒魔道士で女性が白魔道士ということはいえない。が、傾向として男性には黒魔道士が多く、女性には白魔道士が多いということは言える。　なお、そもそも男性は魔法使いの比率よりも戦士の比率のほうが多いので、上記の説明でいくと、男性で魔法使いで白魔道士というのが最も数が少ないことになる。２１２年現在でいえば、男の看護師と同じくらいレアなのではなかろうか。　・賢い人という意味の ɪɥʃɪn　古アルカからリュウ・メル・リディアがウィザードと呼ばれていた。以降ファーヴァを足したが、結局アシェットの討議によりウィザードはメルとリュウを筆頭にリディアをおまけとして追加したものになった。逆に、それまでソーンの人間は加えていなかったが、和平以後はビネナを加えた。正しい和訳は「魔導師」。　［成句］　ɪɥʃɪn eɒ cɑc ɟɪ ɪɥzɔn. 魔法使いは杖より先に老いる：少年老い易く学成り難し

ɪɥʃɪɥen　［地学］アルタレン、アレキサンドライト、神石　［組み数字］1 / 1 0　［レベル］4　ɒelʃcɪ 10:ləɑɔ;ɪɥʃ/ɥen　1Δ:ɥcɑcɪ:ɪɥʃɪjen/ɥen　［文化］　アルタセンと同じ材質。アルタレスに授与される象徴的な宝石。稀少で高価というのが理由だが、ɪɥʃɪlej と似ているという言葉遊びも含んである。　アルマの魔石。

ɪɥʃɪɥenɥecn　［組み数字］神石賞　［レベル］4　J1　［文化］　→ ɪɥdɪll　jɒ で宝石商が定めた価値あるを宝石トップテン。栄誉として与えられる褒美の尺度として王宮に採用されたことで実用化。ɥɑ で組み数字に採用される。この順位は当時の価値観であり、現代での価値の順序とは必ずしも一致しない。現代でも宝石の価値は生産量や人気によってまちまちであり、甲乙つけがたいのが通常である。ただこの表の上位５位と下位５位ならば通常地球でも前者のほうが一般的に価値がある。

ɪɥʃɪlej　［政治］アルタレス　［レベル］3　古　［文化］　召喚省長官のこと。実質的な権力はアステルに次ぐ。全タレスの長でもある。

ɪɥʃɪcn　［エルト］アルタイン　［レベル］3　古 :ɪɥʃɪcn ← ɪɥʃe/ɥɪɪoɪɪc から　［文化］　祝い、祝辞を司る。冠婚葬祭のうち、不吉な葬式を除くすべてを司る。

ɪɥʃc　［魔法］魔器、魔動機械　［レベル］5　jɒ;ɪɥʃ.l　J1l　［文化］　ヴィードで動く機械のこと。jɒ の魔法工学に端を発する。

ɪɥʃcj　［宗教］アルティス教、月教　［レベル］2　ɥcɑcɪ: 古 : 古 :ɪɥʃcj。ɪɥʃ の部分は ɪɥʃe。月教の訳は宣教師を jɔɥleɥenʃ（月の使者）と呼ぶことから。　［文化］　アルテやテームス崇拝を通して彼らから力を賜ろうとすることを目的とした多神教。アレイユにおける世界最大の宗教。派閥がいくつも存在する。大派閥にはアルテを重んじるアルシオン派と、テームスを重んじる悪魔崇拝のヴァルテス派と、アルマを至上の存在として重視するアルマスト派がある。中でもアルシオン派は最大規模の派閥であり、『ミールの書』のミールや『紫苑の書』のレインもアルシオン派である。

ɪɥʃcjʃ　［宗教］アルティス教徒　［レベル］2　J0:ɪɥʃcj:lɪnʃcj

ɪɥʃcl　［歴史］アルティル時代、邂逅の再演、かいこうのさいえん　［レベル］3　1L:clɒəj;ɥcɑcɪ:ɪɥʃcj/cɒəl。神と邂逅を果たした時代。　［文化］　ナディアとレイユの間の時代。シオン＝アマンゼがアルティス教を興した。

ɪɥʃclcɪ　［宗教］アルティリア教、総神教　［レベル］5　J0:　［文化］　アルテ教とサルト教をまとめたもの。エマルジールの効果が出てきたことに起因する。　ɥəəɒɪ ʔʎJ1 メリウセルが宗派を統合し、ɪɥʃclcɪ 教と改名。アルテの解釈を広く取り、宗派をまとめた。これにより教会の力は高まり、いちはやく統合を行ったレスティルは諸国に対し秀でるようになる

ɪɥʃcɪ　［形容詞］幻想を感じたような　［レベル］4　10:ɥcɑcɪ:ɪɥʃcj ← ɪɥʃɑcɪ ← ɪɥʃ(魔法)/ɑcɪ(夢)。リディアがメル１０年に見た夢から。その夢でリディアはアティーリのリディアになっていて、魔法使いになっていた。魔法を使いたいと子供のころから考えていたリディアは魔法使いになれて喜んだ。そのときの気持ちを ɪɥʃɑcɪ と呼び、すぐ ɪɥʃcɪ に変わった。　［語法］　子供のころ

に抱いた夢をその当時或いは大人になって感じたときの気持ち。将来の実現可能な夢ではなく、実現不可能な夢。王になる、大統領になるはたとえ囚人で事実上不可能だとしても虚構ではなく現実の夢なので ɪμʃcɪ とはいえない。魔法が使えるようになったらかそういった虚構に対する夢しか ɪμʃcɪ といえない。ɪμʃcɪ という気持ちは虚構の夢を想像したときにふと沸き起こる強いどきどきと恍惚感を指す。そして思わずそれを何らかの形にして少しでも現実化しようと強く思う瞬間や、その想像に傾倒して酔いしれる瞬間を指す。何らかの形とは、その想像を絵にしよう、小説にしよう、音楽にしよう、ゲームにしようなどという意味である。ɪμʃcɪ は特に思春期に感じる。ɪlɑcɪ と意味が似ているが異なる。　ɪlɑcɪ は昔の現実の記憶について懐かしいと感じたときの気持ちである。ɪμʃcɪ は虚構なので実体験ではないから懐かしいとは言いづらい。あくまで、そんな風だったら素敵だなと酔いしれたときの虚構に対する甘美な気持ちである。ɪμʃcɪ は楽しく陽気というよりは、やや寂しく綺麗な感情である。虚構である点が寂しく、大抵内容は夢見がちな少女が想像しそうな綺麗な内容である。金や復讐などをテーマにしておらず、魔法を使って空を飛びたいといったようなものである。　また、その虚構の世界の中で特に美しいと思われる名場面を想像したときの気持ち、あるいはその場面を後から思い出したときの気持ちも ɪμʃcɪ という。

ɪμʃcɪleɒ ［音楽］演歌 ［レベル］5　J1

ɪμʃɔ ［娯楽］アルト ［レベル］5　ʕ → ϥ:jeɥen,ɔuc,ɸcl（正確に誰かは不明）:ɪμʃe の変母音による造語。アルテのカードが一番強かったことから。 ［文化］ カーデを応用した３～４人用のゲーム。発案当時はカーデそのものが確立しておらず、アルシェの使徒やアルデおよび神・悪魔数名の名を書いたカードでゲームを進めた。当時は４枚（別ルールでは５枚）のカードでゲームを進めた。ゲームの流れは現在のものと同じである。昔のものとはカードの枚数と役という点で異なる。当時バカーズが発案したものだったが、シェルトと違って完全情報ゲームではないため、カードが見られては困る。だからカードは伏せておかねばならず、シェルトと違って各人がアンシャンテの向こうで同じ状況を再現することができなかった。そのため一人がディーラーを務めた。たまにリュウなどがディーラーを務めることがあり、そうすると４人でプレイした。ゆえに人数は３～４人用である。　カーデが確立してカードが増えると煩雑な役が生まれて嫌煙され、不人気となった。アルトを元にしてよりギャンブル的なゲームであるヴォルシェがバカーズによって開発されたが、ギャンブルの嫌煙にともなってヴォルシェも後退した。　その後、アルトはオヴィらを経てソーンに輸入され、ソーンの間で抜本的な改革があり、別のゲームと見誤るほどの新ルールが作られた。セレンは具体的なルールを知らず、聞き知っただけでその様子を初版ミールの書に記載したが、その内容が誤りであると多く指摘された。　メル 1? 年にセレンはアルトのルールを作り直し蘇らせたが、すぐに飽きてまた衰退した。

ɪμʃe ［名詞］アルテ、幻嘯、げんこう。始めに世界を支配していた神。生命（幻躰）の嘯矢となったことから幻嘯という。 ［名詞］アルテ。μɑ でユーマから生まれた神。アルティス教の最高神。 ［感動詞］あぁ、ああ、なんということだ、なんということでしょう、そんな、まさか、そんなまさか、いったい、一体、いったいぜんたい、一体全体、オーマイゴッド、オーマイガー、オーマイガッ、きゃあ、助けて、誰か、そんな馬鹿な、神よ、やれやれ ［生物］アルテ。超ドメイン ɪɒɪʃ の中に ɪʃen と eʃɪn があり、そのうちの ɪʃen に属する唯一のもの。 ［レベル］1　古 :μcɑcɪ ［語法］ ɪμʃe に祈るときの台詞だが、古アルカにも制アルカにも呼格がないので特別な語形はなく、単に ɪμʃe といってこの感動詞を表わす。　アテンの祖なので、アルティス教徒でなくとも言える。 ［文化］ → ɥəəɒɪ　｜約 1?9 億年前 |μɒɪ が爆発し、ɪμəel と leʎc という J つの空間と、ɪμʃe という存在が生まれる。物理的には初期宇宙（陽子、電子、中性子そして原子核、原子が生成され、それから恒星とクエーサー、銀河、銀河団、超銀河団が形成）。まとめ：アルマは最初のエネルギー、それが存在した無名の空間が最初の空間、最初の存在がアルテで、実体は白い球｜　最初に生まれた神。アルテムでエルトとサールに分離していなくなる。その後、μɑ でユーマからできた善の神がアルテと名乗ったため、別々の存在ではあるが、名前は同じ。アルティス教の崇める最高神がこの神で、エルトでもサールでもない。このアルテはユーマからできた神なので、人類の母として人類を守ってくれる。→ ɥəəɒɪ　＜用語の整理＞　ɪμʃe：最初の神　ʃeeɒj: ユーマによって生まれた悪魔の母　eμʃ：エルトの一族　jɪɪμ：サールの一族　jɪμʃ：エルトとサールの一族のまとめた呼称（和平前も和平後も変わらず）　μɑ 以降↓　ɪμʃe：μɑ でユーマから分離した善の神　ʃeeɒj：μɑ でユーマから分離した悪の神　最初の ɪμʃe は ɑcɪl までしか存在しないし、最初の ʃeeɒj は μɑ で死ぬので、同じ語形でも大丈夫。　区別したければ lɪɒ などをつければいい。

ɪμʃefɪlɪ ［地学］［歴史］アルテ大陸 ［ユマナ］ロディニア大陸、ロディニア超大陸 ［レベル］6　ul;/ J?

ɪμʃeʎjɑel ［魔法］魔法意味論 ［レベル］6　J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɪμʃej ［魔法］［普通動名詞］召喚、召喚魔法 ［動詞］ɥəl を ɪ（場所など）に召喚する、召喚する ［政治］召喚庁 ［レベル］3　古 :ɪμʃej（アルテする）［用例］ lcczɪ nɪ jen nɪl ɒɪn uɪnφɪμɑc μeʃ jcl ɒelʃ cɪ ɪμʃej lɪ lɪnlɔ ɪl ɪʃolɪj. 召喚の実務はメルティアに依頼することになるが、それは死神のほうで処理してくれることになっているので安心だ。

ɪμʃeʎjɑel ［魔法］召喚学 ［レベル］4　J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɪμʃejlcznɔ ［政治］召喚庁 ［レベル］3　1L:μcɑcɪ:clɒəj ［文化］ 召喚省下。召喚やセレモニーなどを取り仕切る。

ɪμʃen ［魔法］呪文、魔法の呪文、祈り ［レベル］3　古 ［文化］ ɑɔlɒcɥə　魔法や召喚を使うときにヴィルを上昇させるための言葉。

ɪμʃenɑel ［魔法］呪文学 ［レベル］4　J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɪμʃenɪ ［魔法］［ジョブ］召喚士、預言者、アルテナ、コーラー、サモナー ［レベル］3　古 :ɪμʃenɪ（神の心を知るもの）。制の ɪμʃeɪn だと ɪμʃɪn と勘違いしやすいため、古形を残した。 ［語法］ エルト使いかサール使いかを区別しない言い方。一般的にいう召喚士のこと。 ［文化］ 神（エルトとサール）を召喚して戦う魔導師のこと。人間と神の力に大きく差が出たメルテナになって現れた。　メルテナでは既にアルフィがあり、各アレットでアルフィとアトラスが繋がっている。各アレットはアルフィの特定の場所と繋がっている。　神の国はアルデス王とルフェル王により、すべての土地がいずれかの神に与えられている。そのため、各アレットは特定の神の土地、言い換えれば特定の神と繋がっている。　例えばアルナのアレットはアルデスに繋がり、ルティアのアレットはルフェルに繋がっている。　召喚士はアレットに赴き、そこで特定の神と対話することができる。ここで神に認められると契約を結ぶことができ、召喚することができるようになる。　召喚士に必要なのは、神をアルフィからアトラスに移すための魔力と、任意（できれば相手先の土地）のアレットから召喚地まで転移するための魔力である。　後者はアレットで召喚を行えば節約できる。前者は神の力に比例して大きくなる。大きい荷物を運ぶのにエネルギーがかかるのと同じで、強い力を異次元からアトラスに運ぶには相当の魔力が必要。それゆえ、召喚士は時魔導師に近い側面を持っているといえる。　中途半端な魔力では仮に召喚できたとしても神は満足に動けず、また数秒で元の世界へ戻されてしまう。そのため召喚士には強大な魔力が必要になる。

ɪμʃenɪ ɥəʃcɪ ［人名］アルテナ＝ユティア、副王アルテナ ［レベル］3　制 ［文化］ (?ʕΔ_) ミロク＝ユティアとアリシア＝ユティアの娘。ミロクからすれば娘であり孫である。ミロク革命後の社会を穏健に統治した。　女優でもあり、メディアへの露出も高く、国民の人気も高い。派手な感じではなく、ユンクの役が多い。魔導師であり、運動神経もよく、アクションもできる。アルバザードでは性格的にユンクなのに強いという人は人気が高い。ちなみにアルバザードの俳優としては珍しく歌も巧く、歌手でもある。　＜本人像＞　１６８ｃｍの５３ｋｇで、スレンダーな女性。父親譲りの茶色の髪と目をしている。顔は非常に美しい。スタイルがいいこともあり、青年期以降は女優を兼ねるようになる。　１０歳のときに子役から始まり、ミロクの娘という身分を隠して活動をした。隠したのはアルテナの要望で、理由は「身分を明かせば自分は不当にオーディションに合格する。それは同時に不当に不合格になる少女を生む」というもの。ユティア家に特徴的な正義感をわずか１０歳で発揮する。彼女には実力も伴っていたため、実力で人気子役の座を得る。１４歳でミロクの娘とカミングアウトし、世間を驚かせた。　性格は大人しく、体形が大柄なわりにしとやかで女性的。妖艶な雰囲気も持ち合わせ、謎めいた感じがする。あまり人懐こいほうではなく、冗談を言ったり大笑いすることもない。アシェットのクミールやフルミネアに似た人物。　統治は穏やかだが、ミロクの作った束縛の強い社会をある程度維持した。ミロクを尊敬し、崇拝し、絶対視している。１２才頃ミロクが他界すると大きなショックを受け、父親に対する歪んだ愛情を増幅させる。２０才になるとミロクの直接の遺伝子を残すため、冷凍保存していた精子を用いてミーファを出産する。

ɪμʃeɒ ［歴史］アルテムΔ時代、黎明期、黎明の燈灯、れいめいのともしび ［レベル］3　古 :ɪμʃe/cɒəl ［語法］ 創世記の次の段階。アルテが生まれた。ヴァステが始まるメルティア暦１００万年まで続いた。

ɪμʃeɪɪj ［非言語］アルテのジェスチャー ［レベル］2　J1 ［文化］ 人差し指を鉤状にする。祈るときに使う。

ɪμʃelɪnʃje ［生物］猿人 ［レベル］4　ul;/「原始のヒト」 J?

ɪμʃeɪ ［政治］アルテア、召喚省 ［アクセント］ɪμʃeϯ ［レベル］3　古

ɪμʃeɪɪμnɔn ［政治］召還省→ ɪμʃeɪ ［レベル］3　1L:clɒəj;μcɑcɪ

ɪμʎ ［動詞］ɥəl を ɪ に繋ぐ、繋ぐ、繋げる、つなぐ、つなげる ［名詞］連結、リンク、連続、ジョイント ［化学］結合 ［生物］接合 ［電算］リンク ［音楽］スラー ［レベル］2　zφ;ɪμʎɪ,ɑ.l 1?: 制 : 古 :ɪμʎɪ から　ɪμʎɪ:ɪμʎ::ɪμʎɪ,ɪlʃ

ɪμʎ(J) ［言語］遠アルバザード語 ［レベル］5　J1

ɪμʎfoen ［経済］［法律］アルクトゥウェン、相続推進法 ［レベル］6　J1 ［文化］ cɑcɪlɪn, ɪlɥəʎlɪ ʔJJ 年制定。６０歳以上の財産をこの年に一律生前相続させるというもの。当時の高齢化社会では本来消費性向の激しいはずの若中年層の所得が低く消費が停滞していたため、「金は使う人に回す」という考えのもとで制定された。　選挙制度を採っていたヴェレイ末期ではマス層である老人にとって不利な政策は通らなかったため、ミロク革命によって実現された。同時にミロクは ɪlɥəʎlɪ 等を制定し、核家族の減少に努め、老人は家族が世話するというナディアまでの文化に引き戻した。　若い世代は住宅ローンや教育費など、金を使わざるをえない環境にあるため、この法によって消費は以前よりは確かに増加した。結果、世代間所得格差は緩和したものの、金持ちの子は金持ちという階級格差が復活した。　それを当然見越していたミロクはこの法によって得た相続税を低所得層へ分配した。これが共産主義でも資本主義でもない修正資本主義である。

ɪμʎccɑɪ ［生物］［医療］会穴、八会穴 μɑ;/ J1 ［文化］ 臓腑気血筋脈骨髄の８穴ある。

ɪμʎɔz ［アイテム］コンポジットボウ μɑ;/ J1 ［文化］ zφ で作られた。

ɪμʎueʃ ［言語］複合語 ［レベル］5　1L ［語法］ ɪnʎleʃ

ɪμʎuenʃ ［経済］中継企業 ［レベル］6　1L ［文化］ → uenʃ

ɪμʎueɥə ［言語］膠着語、膠着語的 ［レベル］6　1L

ɪμʎɑɔ ［言語］連音、アンシェヌマン ［レベル］3　μɑ;/ J1

ɪμʎɑɔɥ ［音楽］連符 ［レベル］4　1L

ɪμʎbɥəʃ ［化学］結合距離 J1

ɪμʎdeɪ ［言語］複合格詞 ［レベル］5　μɑ;/ J? ［語法］ 格詞が複数くっついて一語になっているもの。ɪɑɥeɒ などのこと。

ɪμʎhɪɪʃ ［言語］連結筆記 1L ［文化］ ʃɪdhɪɪʃ を元に作った書体。最初の筆記体。使い勝手が悪く、早く書くと読めなくなるため、綺麗に書く必要があった。 ɪəʃcɪhɪɪʃ に追いやられ、使われなくなった。

ɪμʎhcdʃuɔʎn ［生物］配偶子、接合生殖細胞。ヒトの場合、精子と卵子。　1L

ɪμʎlɪbɪ ［化学］結合エネルギー J1

ɪμʎleucɪn ［言語］普及型人工言語、国際語、国際補助語 μɑ ［レベル］6　JJ

ɪμʎlel ［言語］電子辞書、電子辞典、電子事典 ［レベル］3　J0: 機械辞典 ［文化］ アンセの中に搭載されている。

ɪμʎɪ ［言語］人工言語アルカ、アルカ、幻語。幻語はアルカで幻国語はアルバレン。 ［レベル］1　μɑ;ɪμʎɪ.l「繁ぐもの」 μcɑcɪ/lcczɪ: 古 :ɪμʎɪ（アルカ）。「繁ぐもの」が原義という。右記は『アルカ』より。アルカという名はリディアの使用するある言語で「つなぐ」を意味する言葉からきている。リーザがメル J 年のザナ月ごろにリディアにアルカの着想を語ったことがきっかけでその名が生まれた。しかしすぐにアルカという名がその人工言語に適応されたわけでなく、はじめは無名の言語だった。それでは不便だということでリディアが慣用としてアルカと言い出したものが定着していき、やがてその人工言語はアルカという名が付いたのである。尚、アルカという名がアルシェで正式に認定されたという過去はないが、文献を見るに、この名はアルカを表わす幻字と共にメル 1? 年ごろには定着していたと考えられる。 ［文化］ elɑʃeɪ　■現実におけるアルカ　＜概要＞　１９９１年から作られたアプリオリ人工言語で、主な作者はセレン＝アルバザード、リディア＝ルティア、リーザ＝ルティア、クミール＝メテ。　狭義には新生アルカのことを指す。主な作者はセレン＝アルバザード。　広義には下記初代アルカや先代アルカを含む。　＜シリーズ＞　初代アルカ：１９００年代に後のアルシェに繋がる団体が使っていた花言葉を用いた暗号。　先代アルカ：１９７９年以降に後のアルシェの先代ルシーラのリーザ＝ルティアらによって作られた暗号。　古アルカ：１９９１年にリーザが企画し、アルシェの子供たちに実験的に作らせた人工言語。言語学的好奇心および帰属意識の向上および忠実な私兵の育成が目的と推定される。最初はピジンで、後にアポステリオリになり、最後に過半数の単語がアプリオリになった。　制アルカ、制定言語アルカ：アルシェとソーンの合併がきっかけとなり、アシェットができる。和平のシンボルと帰属意識の強化のために２００１年にリーザが企画し、アシェットの２人のルシーラのうちの１人であるセレン＝アルバザードが主となって作成した人工言語。前期はアポステリオリの語が混ざっていたが、中期に自然言語由来と断定できたものは完全に排他。　新生アルカ：ソーンが制アルカを変化させて独自の言語を作っていたことが２００８年に発覚。アシェットの分裂を防ぐため、旧アルシェ側が折れて合わせたもの。調整にはセレンが携わった。しかし苦労の甲斐なく２００９年にアシェットは崩壊。それ以降は現実での使用よりもリアルファンタジーという史上初のジャンルを成し遂げるためのツールとして、主にセレンやリディアらによって使用される。　＜成立＞　アルカという名はリディアの使用するある言語で「つなぐ」を意味する言葉からきている。リーザがメル J 年のザナ月ごろにリディアにアルカの着想を語ったことがきっかけでその名が生まれた。しかしすぐにアルカという名がその人工言語に適応されたわけでなく、はじめは無名の言語だった。それでは不便だということでリディアが慣用としてアルカと言い出したものが定着していき、やがてその人工言語はアルカという名が付いたのである。尚、アルカという名がアルシェで正式に認定されたという過去はないが、文献を見るに、この名はアルカを表わす幻字と共にメル 1? 年ごろには定着していたと考えられる。　■アトラスにおけるアルカ　●概要　名称：ɪ（アルカ）　系統：アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族リュディア超語派レスティル語派西レスティル語群アルバザード語北方方言地竜州方言幻京方言を主な参照源とするアポステリオリ国際補助語 (uɛlɪμʎleucɪn ɛɒɔen ɪʃenɪɒɪʃ, ɥəəɒɪeɒcʃ, lcaeμɑcɪɒ, lɥəɑcɪcɑɪl, leɟʃcllelʃeɒ, ɪlɪɟleɟʃclʃɪlʃ, ɪμbɪzɪμɑlɪμɑ, lcɪμeμn, ʃɔlʃɪɪʃ, ɪμnɪlcʃe)　使用年代：μɑ_ls　分布：狭義にはアルバザード北方。広義にはアトラスの都市部全域　話者：アルバザード人（アルバザード系、ケートイア系、ヒュート系、アルシア（ルティア）系、カレン（アルティア）系、南方系（カテージュなど）、東方系、ファルファニア系）、その他アトラス全域の都市部の一部の人間　類型：ＳＶＯ、ＮＡ、Ｐｒ　認知様式：二重把握　μɑ でセレン＝アルバザードが作ったアポステリオリ人工言語。主な参照源は ɪμ。　長い時間をかけて世界中の都市圏を中心に広まった。　訳語には幻語を当てる。幻字の幻から来ている→ hɪrlɒ　語彙は nɑ など時代が下るごとに新しい語を獲得して広がっていった。　音韻は現代までの３００年の間に変化し、当時の綴字と一致しないケースが増えていった。例えば ɪc の音は狭い ee で発音されるなどといった具合である。　革命期になると政府中枢部が μʃ でできたアルティス教の原理主義者であったことから、さらに遡って μɑ までの回顧運動が起こった。この結果、元の綴り通りに読む教育が３２０年ごろから行われた。現在では特に都市部の若い人を中心に μɑ 時代の最初のアルカと同じ発音がなされている。　この件に関しては ɑɔz を参照のこと。　アルカはアルバレンをベースとしているが、ルティア語やアルティア語を多く取り入れている。この傾向は国内にルティア人やアルティア人の移民が多いことから、現在も続いている。　アルカはアルバザードの公用語であり、同時にルティアなど多くの国の公用語のひとつになっている。また、公用語でなくともアルカが通じる国は多い。現在の地球の英語に相当する国際語である。　アルカの文法や語彙については人工言語アルカ（公式サイト）や幻日辞典（本辞典）を参照のこと。 ［成句］ ɪμʎɪ ɑe lɪɑ lɔn lɔ jel. アルカは一日にしてならず：ローマは一日にしてならず、千里の道も一歩から　cl ɪleɟɪʃ ɪμʎɪ cɒ ɔʎlɪ. 誰もが最初はアルカを嘲笑った：出る杭は打たれる ［用例］ lɪlʃ ʃɪd ɪlɪ, ɪμʎɪ eʃ leɟ ɪμʎ ɪn ɔ μcɑcɪ lɔnʃ ʃə eʃ lɪlɒɪn ʃəəl, enʃɔ ɪn lɪl elɑ. ɥɔlɪn ʎen ɑcɪ le jc ɪnɟ. ʃcɔ, ɪn ɑcll leɟ jeɟ jcl lɪl ʃ'ɪμʎɪ. 正確に言えば、アルカは究極的には僕とリディアをつなぐものだから、僕とリディアが消えた後の世界に話者は要らない。ただその存在があったことを識る者だけが居ればいい（jeɟen ɪμbɪzɪμɑ）　ɔlʃɪ ɪn nɪ ɥɪc ɑɔʃ, ɪn lɔ ɪμʎɪ. 激痛でもアルカを考える。

ɪμʎɪ,ɑ ɪμʎ jɪɪl;e

ɪμʎɪʃcj ［名詞］ɪlɪʃcj ［レベル］3　J1:ɪlɪʃcj が ɪμʎɪʃcj（世界を繋ぐ）で解釈されたもの。誤用が定着したもの。 ［語法］ 通常は ɪlɪʃcj の誤用。ただしあえて「世界を繋ぐ救世主」の意味で使う場合もある。この場合、「異世界からの救世主」を指す特別な語義を持つことになる。

ɪμʎlɪlel ［ユマナ］［言語］幻日辞典 ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［文化］ 本辞典。　＜歴史＞　０１年にプロトタイプ制アルカの辞書として作られたのが事の始まり。古アルカまでの資料

である赤アンクノットや制定語彙などといった紙媒体の書籍とは完全に切り離された独立の存在として生まれた。最初から電子データで、紙媒体は存在しない。　一番最初はまっさらなワードのｄｏｃファイルであった。そこにＡからＺまでの見出しを大きな深い緑の文字で立て、その見出しの下にひとつずつ手動でアルファベット順に単語を入れていった。　０２年ごろ、ワードが大きくなりすぎ、開くのが重くなった。手動で単語をアルファベット順に入れていくのも七面倒であった。そこで当時書籍で販売された赤い英辞郎の本についていたＰＤＩＣというソフトのユーザー辞書に目を付けた。ほかにも競合ソフトがあったが、使い勝手がいいことからＰＤＩＣで制作するようになった。フォントは幻字を表示できるよう、明朝 ʃcdhɪrʎ や ɑcen を用いた→ ɪʃɔɒ　ＰＤＩＣはアルファベット順でしか並ばない。文字の優先順位を変更することはできない。そこで０３年から０５年の中期制アルカでは幻字は明朝体の半角カナ部分に収め、早いカナを ʃ に、遅いカナを ə に宛てがうなどして、幻字順で表示させるようにした。フォントは明朝 ʃcdhɪrʎ を綺麗に作り替えた明朝 ʃidhɪrʎ を用いた。　０８年ごろに新生ができると、幻字部分の原稿は一斉置換でアルファベットに置き換えられた。一時的な措置だったが、ユーザーにとって見やすいということから、そのままの形が維持された。　９年ごろからＰＤＩＣ　Ｕｎｉｃｏｄｅ版を使用しだした。フォントはアルファベット部分が幻字になっている日本語混じりの明朝 ɪpʎɪnʃcʃ で、これは明朝 ʃidhɪrʎ を整えたものである。　１０年に幻字が途中で幻京になってからは幻字で読むのが面倒で、１１年初頭までアルファベットで表示していた。同春先に、ＰＤＩＣ　Ｕｎｉｃｏｄｅにおいて欧文書体を表示フォントに指定すると、欧文だけ指定の書体に代わり、日本語文字は化けずに表示されるということをたまたま発見。それならばと ʃcɲ(ɪpɑcɲɪl) を指定するようになった。もともと重い明朝 ɪpʎɪnʃcʃ はＤＬやＵＰに不便で、嫌厭していた。それでもＰＤＩＣ上の幻字の表示に必要だと思っていたので取っておいた。ところが欧文しかないフォントを指定しても日本語がきちんと表示されることを知ってからは完全に明朝系はお蔵入りした。　語彙数について。後期制アルカの最大時は約１４０００語であった。古アルカの１５０００語には届かなかった。新生は１３０００語前後の時期が長く続いたが、当該記事執筆時の２０１１・５・２において１４６１２である。伝統色や経済用語や地名など、転記あるいは新規執筆する必要のあるものが既に見込まれているため、これを折り込むと現時点で１５０００を潜在的に超え、ついに古アルカの最大時の水準に達することとなった。　幻日辞典の原稿はほぼ１００％セレンによるものである。他人が寄稿したものもあるが、著作権の関係から（恐らくそこまで気にする必要はなかったのだろうが）自ら削除していった。全文自分が書いたものであれば再配布など権利関係の絡む行動を起こそうと思った際、すみやかに行えるからである。　かなり神経質に削除したが、もしかしたら稀に誰が書いたか判別できずに紛れ込んで残っているものもあるかもしれない。だが、それを判別するのはもはや不可能である。　プライバシーポリシーについて。当然のことながら、実在する人間には個人情報の問題がつきまとう。辞書といえどその点には配慮せねばならない。そこで幻日辞典の方針としては安全策を取り、どうしても載せなければ説明の付かない旧アシェット関係の人間にだけ［ユマナ］を付けて数人言及した。本文中でも実在の人物についてはなるべく名前を伏せている。特にネットユーザーに関しては厳密に守っている。

ɪpʎɪʃ　［感動詞］言葉遣いが悪いぞ、なんだその口の利き方は、それは言葉が間違っているぞ、言葉遣いがおかしいから直しなさい、そんなのアルカじゃない、正しいアルカを喋りなさい、セリフ噛むな　［レベル］１　ɒcɑcɪ: 古 :ɪpʎɪʃ（アルカする、アルカしなさい）。アルカにおいて最もプライオリティの高かったリディアがいつも言っていた言葉。　［語法］　おかしな言葉遣いを非難し、是正を促す言葉。おかしいというのは具体的に言うと文法的でも語用論的でも社会的でも良い。革命後は不信心な言葉にも使うため、倫理的な意味でも用いる。

ɪpʎɪɔɒɟef　［色］アルカブルー　J0　［文化］　アルカを作っている最中に好んで使った色。１６進数で＃２２６６８８。

ɪpʎɪn　アルカユーザー、アルカ話者、アルカ使い、幻語話者　［レベル］２　1L

ɪpʎɪnʃc　［歳時記］メシアの日　［レベル］３　J1:ɒcɑcɪ:ɪpʎɪnʃcʃ　［文化］　武道の祭典の日。lcʃ ɒcʎ で、元はセレンの誕生日。μɑ ではこれを称して剣士による戦いの祭典が開かれた。その後、剣以外の競技も合わせて行われるようになった。現在では武道全般の大会日となっている。　lc clcɪ の翌日なので、新しくできた彼女に良い所を見せようと躍起になる男性も多い。

ɪpʎɪnʃcʃ　［ユマナ工電算］アルカンティス、繋界コード　［レベル］6　J0:ɪpʎɪʃcʃ(救世主)の来た世界のコード。ɪpʎ 自体が繋ぐという意味だから、「世界を繋ぐコード」の意味もある。　［文化］　アトラスには独自の lɔʃʃe という文字コードがある。それはアトラスのキーボード用に作られた文字コードである。　だが実際には我々は地球でアルカを使う。ɜoeɟɥ キーボードで打てないと不便で仕方がない。　そこで作られたのが地球でアルカを巧く使うための文字コードで、ɪpʎ ɪnʃcʃ という。　ɪpʎɪnʃcʃ は表音幻字（幻字）と表意幻字（幼字）の J 種類がある。本稿は前者を扱う。　注：ɪpʎɪnʃcʃ は文字コードの名前であって、書体名やフォント名ではない。

ɪpʎɪnʃ　［地名］アルカンス　［名詞］じゃんけん　［形容詞］トリオの　［音楽］トリオ→ ucleɒ　［組み数字］３　［レベル］２　古　［文化］　＜アルカンスの三人＞　アルバザード北東部にあるラヴァス勃発および終結の土地。アルマが凝縮されている。ミダンとヴェンシートを失ったヴァルテが我を忘れて全力で雷の魔法を撃ったとき、そこにあったサリュが避雷針のようにヴィルを吸収し、大量のアルマに置換して蓄えたもの。ヴァルテがサリュを破壊したため、アルマはアルカンスの土地全体に染み渡り、土地そのものにアルマが大量に停滞した。　メルテナの時代、ユーマ Δ000 年ごろにアルカンスを有力な３人の人間が奪いあった。エルト信者の ɟleɪ、テームス信者の bɾlcɪ、サール信者の ʃpeɪ の３人である。ɟleɪ は bɾlcɪ の弱点を知っていたが、ʃpeɪ のは知らず、bɾlcɪ は ʃpeɪ のは知っていたが ɟleɪ のは知らず、ʃpeɪ は ɟleɪ のは知っていたが bɾlcɪ のは知らなかったため、三つ巴のまま決着が付かなかった。　＜じゃんけん＞　古アルカにもこのまま存在した遊び。掛け声、登場人物、手の種類など、何から何までメルとクミールが作ったもの。９年ごろのことで、原型はもはや不明だが、わりと早く広まった。「じゃんけん」に当たる遊びで、物事の決着を付けるときの公平な手段として、子供の遊びを超えて広く使われる。３種類の手の形で勝敗を決める。　やり方はまず、片方の拳（ふつう右手）を差し出す。このとき甲は上を向き、親指は伸ばしておく。すると自然と親指は左に向かって伸びているはずだ。次に「ɪpʎ」といって手を一度上下させる。次に「ɪnʃʎ」といって手を動かす準備をし、最後に「ɪnſʎ」といって２種類の内から１つ手を選んで出す。掛け声は "ɪpʎɪnʃ ɪnſ" で、意味は「私のアルカンス（＝アルカンスは私のものだ）」ある。　出した手によって勝敗が決まる。掛け声を言う時点の拳を掛け声が終わったと同時に上に向かければエルトを示す（エルトは天界に住むから）ので信者 ɟleɪ を示す。逆に、手を下に向ければサールを意味する（サールは地界に住むから）ので信者 ʃpeɪ を示す。また、伸ばしていた親指を引っ込めればテームス信者の bɾleɪ を示す。後はアルカンスの伝説通り、ɟleɪ は bɾleɪ に勝ち、bɾleɪ は ʃpeɪ に勝ち、ʃpeɪ は ɟleɪ に勝つというルールである。　尚、掛け声が終わっても手を変えなければ、手がないということで負けとなる。また、３種の手が同時に出るか全員が同じ手のときはあいことし、もう一度同じことを繰り返す。但し、親を決めた場合はその親に勝てなければ負けであるから、あいこは親と同じ手のときしかありえない。　＜便利なアルカンス＞　ところでアルカンスはじゃんけんより優れていると評されている。まず、手の形がじゃんけんより覚えやすく、その上じゃんけんより後出しがしにくく公平であるためである。　それまでのアシェットは勝敗を決めるときはコイン投げが有力だったが、コインがなくてもできる上に一度に複数を相手できるという便利さからアルカンスが生まれるとすぐにそちらに変わった。コイン投げは投げた後に裏か表かを言っていたが、複数人集まると互いの声がかき消されてどちらにかけたか分からなくなるという問題があったため、勝負後も手の形が証拠として残るアルカンスは好評だった。　［用例］　☆ "ɪμ, ɪinʃ, ɪnſ... ɔɔlu. jɔn ɒe... ɪμ, ɪinʃ, ɪnſ. ɥ, ſə eſ ɪnſʎ"「アー＼ル・カンス・アート。あいこだからもう一回。アー＼ル・カンス・アント。よし、僕の勝ちだ」　☆ "lɪlɪ, ſə eſ ſəɪn"「あら、負けちゃった」

ɪpʎɪnɟɒɒp　［組み数字］アルカンスサークル、三本柱、三大天使、御三家、三連星、三銃士　［レベル］３　J1　［文化］　μɪdɪll

ɪpʎɪnɪ　［植物］陰日向に咲く花、アルカナ　［類義語］ɒccnɪ　［アクセント］ɪpʎɪnʎ　［レベル］6　μɑ;ɪpʎɪ/ɒccnɪ「アルカのような花」　J0l　［文化］　μɑ でセレンがアルカを小集団の中で使われる芸術言語であって世に広めるようなものではないと述べ、それはまるで陰日向に咲く花のようだと述べたことからこの単語ができた。

ɪpʎɪneſ　［地学］ガーネット、ざくろ石　［組み数字］7 / １０　［レベル］4　古 :ɑəlɒccɪ　［文化］　火の魔石。

ɪpʎɪɑcɪ　［地名］アルカディア　［レベル］6　古 :μcɑcɪ:「夢を結ぶ」「アルカの夢」　［文化］　ユーリアにある小さな村。

ɪpʎɪɑcɪ(J)　［地名］アルカディア　［レベル］5　J0:「アルカのゆりかご」　［文化］　ふしぎの国。μɑ でリディアが魔法で作った世界。唯一の入り口はアシェルフィにある。　その入り口は夜にしか現れない。なのに、月光など光を浴びると目に見えなくなってしまう。　アシェルフィの泉に映った月がアルカディアへの入り口を示す。満月の晩のちょうど月が真上に来たとき、入り口が水面に映る。月が照らした水面にアルカディアへの入り口が映っている。泉に映る、かつて街を照らしていた今はもう動かない街灯が、その入り口だ。　μɑ の時代は街灯自体が街を照らしていたため、入り口は見つからなかった。アルカディアは魔法の消えた現代に残る唯一の魔法の世界である。　アルカディアへは入り口が泉に映っているときにしか入ることができない。街灯のランプが入り口になっていて、ある呪文を唱えるとランプの中に吸い込まれ、アルカディアへ迎えられる。　＜第四の世界＞　アルカディアにはいくつかの意味がある。「アルカ世界の夢」という意味。「いくつもの世界が連結した夢の世界」という意味。　アルカディアはレ・カイ、アルデル、ユマナに次ぐ第四の世界である。ここはすべての世界の写像であり、すべての世界に影響を与える調整弁となっている。　世界の造形はアトラスを中心としており、特に μɑ と ɪl の世界観が根幹となる。　住人はすべての世界のすべての次元を閲覧することができ、外の世界から持ち込んだ知識を維持することができる。また、意識を飛ばすことで外界の情報を閲覧することができる。　＜μɑ 以降＞　J1 年にセレンが旧アシェットの元を去る。リディアがセレンを追い詰め、アルカディアへ移住することを提案する。後にメルが移住してくることになる。　セレンはそこでは永遠の１７才を保っていられる。年齢は可変であるが、ベースはセレンが１７で、リディアが１４，５で、メルが１０～１２である。

ɪpʎɪɑcɪ(?)　［ユマナ］アルカディア　［レベル］３　J?:「アルカの幻想」　［文化］　セレンが配信するアルカの番組。０８～０９年ごろ着想。　アルカの音声コーパスを遺すとともに、人工言語の講義の中で最大の音声コーパスを作ることを目的としている。　副次的な目的としては、離れて暮らす子供のために平日毎日父親の声を届け、日本語能力も育成するというものがある。　●番組名　アルカディア　ɪpʎɪɑcɪ　●配信期間　２０１２年７月１６日開始。２０３１年７月１９日終了。　＜ファーストシーズン＞　●前半　日付　歳時記　一言アルカ（今日の用例）：毎日用例をひとつ上げて文法解説、文化解説する　今日の造語：今日の造語分を発表　パーソナリティの近況・雑談：優先度が低いため、時間調整に用いる　●後半　コーナー　月：初心者向けのアルカ講座。年１周。１周５２コマ。２６時間勉強。概説の内容を扱う。概説が４４記事なので１回で１記事弱　火：アルカ裏話。幻日裏話。内情暴露系　水：中級者向けのアルカ論読み解き。年１周　木：アルカの言語学的考察。人工言語学の研究成果発表　金：上級者向けの文書読み解き。夢織→アルディア　●録音方法　ＩＣレコーダー。　レコーダーにオペレーターマイクを挿して録音。　ＵＳＢで読み込んでｍｐ３で配布。　●配信方法　ｓｋｙｄｒｉｖｅに年号別にアカウントを取ってアップロード。　＜セカンドシーズン＞　２０１２年１０月２９日より、アップロードにｓｋｙｄｒｉｖｅを用いないことにした。順次適宜アップローダーを利用して配信する。これはｓｋｙｄｒｉｖｅの不便さとダウンロードにかかる時間が長いこととアーカイブ化を辞めたことに起因する。なお、この改定では後半に行われていた曜日別のコーナーを廃止した。というのも、夢織の読み解きを金曜に行なっていたのだが、一週間に一回しかない上に後半が短いことがしばしばで、進捗が遅すぎたためである。改定後は曜日に関係なく、後半は企画物を進めることにした。例えば夢織を読み解くという企画であれば、それが一定期間継続されるという風に。なおこの改定はリディアにアルカディアの内容が個人的すぎるだの子供に聞かせられる教育的な内容でないだのそもそもアルカの話題がほとんどないだのといった注意を受けて、アルカディア全体の内容の見直しを図った際に行われたものである。この改定によってアルカディアはアルカの専門的な内容およびその作業録とあいなったため、リスナーは身内に限られることとなると推測される。　改定後第一回のデータをリディアに送ったところ、非常に好評であった。リディアは「キャッチフレーズとして『聴くと頭の良くなるラジオ、アルカディア』としたらどうか」と言ってきた。それだけ内容が真面目で学問的でリディアにとって好感度の高いものだったのだろう。　＜サードシーズン＞　２０１３年１月１１日でセカンドシーズンの配信が終わり、１２日土曜日にサードシーズンの方針が決まり、１４日月曜日から配信が決まった。　アルカディアの主なリスナーがルシアとユルトとリディアとメルであり、特にルシアとユルトに父親の声を届けることに重点が置かれるようになった。そうなると既存のシーズンの内容では子供には内容が難しすぎるため、もっと内容を落とし、日本語学習講座や幼児向けのアルカ学習講座を設ける必要が出てきた。リディアはネット配信に否定的で、ネットを意識して大人向けの内容を流すのはいかがなものかと苦言を呈した。それよりも自分の子供を教育することにウエイトを置いたらどうかと述べてきた。また、いっそ内容をウチの子のためのラジオというように限定してしまうなら、家庭の事情などもセカンドシーズンより細かく喋ることになるし、今までと違って不特定多数にではなく子供たちに向けて喋りかけるような話し方になるだろうとリディアは述べ、それならばネットで一般公開するのは不適切であろうと述べた。　一方、ルシアやアマヴェル君などを始めアルカディアはアシェット第三世代はもちろんその親たちにも人気があったため、ウチの子供だけに語りかけるようなのはよくないとメルが指摘。特にアルカディアは第二世代にとって日本語学習の良い教材になっていたため、大人世代は日本語学習の一環としても聞いていた。そこで対象をウチの子だけにするのは良くないとメルは指摘した。　これらを受けてサードシーズンはアシェットを対象とした内容とし、その結果アシェット内における限定的な公開にすることが採択された。　また、これまで月金で不休だったパーソナリティだったが、仕事や余暇に応じて休みを取るべきだとリディアに言われ、そのようにすることにした。

ɪpʎɪdɪμɒ　［ユマナ］［言語］幻日辞典　［レベル］３　JJ　［文化］　ɪpʎɪʎlel

ɪpʎɪdɪμɒʎlel　［ユマナ］［言語］幻日辞典　［レベル］３　JJ　［文化］　ɪpʎɪʎlel

ɪpʎɪdcɪ　［言語］会意　［レベル］４　J0: 繋げて示す

ɪpʎɪμ　［電算］インターフェイス　［レベル］４　1L

ɪpʎɪl　［動詞］ɥəl を ɪ に世襲する、世襲する　［普通動名詞］世襲　［類義語］ɔlɪl　［レベル］４　1L:μcɑcɪ:ɪpʎɪ/l（古アルカ動詞語尾）「アルカのようにする」　［語法］　eμcʃ と同じ格組で、意味もほぼ同義だが、財産でなく役職や技能を親子間で引き継ぐという意味を持つ。

ɪpʎɪlſ　［軍事］大元帥、司令官、総司令官　［名詞］裏ボス　［組み数字］１ / ２０　［レベル］３　1L:jeɟen:ɪμſe/ʎɪlſcʃ（神の元帥）　［語法］　ʎɪlſcɪ　［文化］　軍人の最高位。現代ではアステルが担当。

ɪpʎɪlſμecn　［組み数字］大元帥賞　［レベル］４　J1

ɪpʎɪlc　［筐堺］アルカリ　μɑ;ɪpſe/μəʎɪlcɪ「神なる旧ルカリア地方」　［レベル］５　JJ　［文化］　筐堺司: μɥəə hɥəəɔ　筐堺国 : hɥəəɔ, ɑμəɑcʃ), φɪlueeɥə 島

ɪpʎɪlcʃ hejſcɪ　［人名］アルカリス＝ヘスティア　JJ　［文化］　J?1 アルカリス＝ヘスティアが獅法力のみにより音声通信機器である電話を発明　電話の原案自体はさらにその２０年ほど前に発明されているが、実用化して特許を取ったのはアルカリスである。

ɪpʎɪleɒcɪ　［名詞］粋なはからい、粋な計らい、幸せなサプライズ　［レベル］３　μɑ;ɪpʎɪ/leɒcɪ「人の心を繋ぐ計らい」　［文化］　人を幸せにする思いもよらないサプライズや計らいのこと。従軍していて地元にいないはずの父親。娘はそんな父を思って寂しく暮らしていた。あるとき娘は野球の始球式のボールを投げる権利が当たった。ディスプレイには戦地からの父のメッセージが流れる。少女はボールをキャッチャーに投げると、キャッチャーはおもむろにマスクを外す。なんとそのキャッチャーは従軍しているはずの父親だった。喜び駆け寄り抱きつく少女。　アルバザード人はこういった奇跡のようなサプライズを粋として好む。わくわくは心の栄養だよね。　［用例］　ɥəəſɔ ɪpʎɪleɒcɪ əel ſɔſɔ ɑccnɪ nene　～という粋な計らいを～のためにする　［言葉遊び］ſə eſ ɪpʎɪleɒcɪ iɪlɪleɒcɪ. 幸せな奇跡（jeɟen ɪpbɪzɪμə）iɪlɪleɒcɪ を形容詞的に使っている。「最高な計らい」と「粋な計らい」をかけた言葉遊び。

ɪpʎɪcɒeſ　アルカ版　［レベル］３　1L:μcɑcɪ:ɪpbɪleſſ

ɪpʎɪejſ　［言語］アルカ名、霊名　［レベル］２　1ɪ: 制 : アルカの名前　［文化］　アルカで付けられた名前のこと。セレン、リディアなどはこれに当たる。セレンのように母語での名前とまったく異なるタイプ、リディアのように母語の名前の音をアルカ風に変化させてアルカの音象徴で意味を持たせたタイプ、リーザのように母語の名前をそのままアルカの名前として用いたタイプ、ラルドゥラのようにアシェット関連の人名を継承したタイプ、ルシアのように既にあるアルカの単語をそのまま人名にしたタイプ、母語での名前を訳したタイプなど、いくつか種類がある。

ɪpʎɪenuc　［言語］言語能力　［レベル］４　1L:μcɑcɪ:ɪpbɪleſſ　［語法］　elɑenuc

ɪpʎɪc　［言語］接続詞　［レベル］３　1L:lcɔn:ɪpʎ

ɪpʎɪɔ　［建築］かすがい、鎹、クランプ、締め具　［言語］ノード　［レベル］５　1ɪ: 制 : ɪpʎ

ɪpʎɪɔj　［化学］ホルムアルデヒド、ホルマリン　［レベル］４　1L: 開水素＋開アルデヒド（アルデヒド基）

ɪpʎɪɔu　［電算］ドライブ→ lɔu　［レベル］３　1L

ɪpʎɪɔμ　［地学］方角、方位　［類義語］lɔμ　［レベル］３　1L:ɪpʎcel/lɔμ　［文化］　古アルカの慣習にならい、南北西東の順に並ぶ。　［用例］　ſɪb ɪpʎɪɔμ 方角をはかる

ɪpʎɪɔl　［生物］接合子、接合体　1L

ɪpʎ　［経済］資本　［レベル］４　古 : アルシェ側の経済が資本主義だったことから。　［文化］　ヴェレイでも日本のように資本を純資産、純資本、自己資本など、複数の言葉で混同して呼んで

いたが、後にそれぞれに意味を与えた。

ıμɸıμſ ［経済］資本コスト ［レベル］6　1L

ıμlıìn ［政治］資本主義 ［レベル］4　1L:cIbəj:μcɑcı ［文化］ μſ 台頭。ただしその潮流自体は中世から見られる。

ıμlınſe ［アイテム］アルシャンテ ［被服］トレンチコート ［レベル］3　μcɑcı: 古 :ıμl のところはアルシェを表わす。元々セレンが自分のロングコートにアルシェニム（アルシェ風の）と名付けていたことに由来。元はトレンチでなくロングコート。 ［文化］ ヴァストリアの１つ。セレンのもつ魔装。黒いトレンチコートの形をしている。潜在するヴィードを全て引き出してくれる優れもので、体温が常に涼しく調節されるようになっているというおまけ機能も付いている。元は悪魔アルマが纏っていた服。ティクノの攻撃をかわす際にアルマはその服を盾にして避けた。服は衝撃でどこかへ飛んでいき、行方知れずになってしまった。その後、μɑで ラルドゥラが発見し、セレンにプレゼントするようリディアに託した。リディアはそれを受けてその服にアルシャンテと名付け、セレンにプレゼントした。アルシャンテを纏ったセレンは更に強力な力を得て、アシェットを指揮した。 ［用例］ jıb ıl ıμlınſe cɒ ſə ɑəμne cn ı. 今夜はトレンチを着ることになりそうだな。

ıμlcɑcı ［名詞］幻奏、アルシディア、ｌｕｎａｒ　ｆａｎｔａｓｙ ［レベル］4　Jl:ıμſe/lcɑcı「神の幻楽」。幻想と幻奏をかけている。同時に、幻楽と弦楽をかけ、奏でるを訳出している。 ［語法］ leucın ɒ ɑcìlıſe の総称。具体的には leucın ſıμlı（人工言語アルカ）と ìlıɑcı ɾlı ɑcìlıſe（人工世界カルディア）の総称。 ［文化］ ＜地球での幻楽＞　地球ではアルカは主にセレンが、カルディアは主にリディアが担当している。Jl 以降はアルカができてきてセレンの手が空いてきたため、カルディアにもかなり進出しはじめた。セレンは仕事が早いため、今後比率が高くなるものと思われる。　カルディアを作る目的はふたつある。ひとつは自分たちのオリジナルなファンタジー世界を持つこと。これは μɑ に託されている。もうひとつは自分たちにとって理想的で、かつ実際に存在しうる社会を築くことで、これはミロク革命に託されている。　＜幻楽とリアルファンタジー＞　幻楽はリアルファンタジーである。ベースは学問で、そこにファンタジーの設定を加味して矛盾なく論理的に組み立てたものを、リアルファンタジーという。　地球の学問は地球の環境を背景とするので、リアルファンタジーでは修正を必要とする。そのままの形では使えない。一般の学者はそれが地球でしか通用しないことに気付いていないので、しばしば彼らの意見を修正する必要がある。　学者と専門書を疑う気持ちと、自分の世界を論理的に組み立てる学がなければならない。ただの本読み以上の能力が求められるので、学を学ぶだけでは足りない。応用力も必要になる。
例えば言語学は人工言語を対象としないので、創作に必要な知識を自分で取捨選択しなければならない。選ぶには言語学を当然分かってなければできない。　ファンタジーと付いていると子供だましの遊びに見えるが、実は学問以上に難しい。ただしリアルファンタジーに限る。通常のご都合主義がまかり通るファンタジーなら創るのはたやすい。　リアルファンタジーに必要なものをまとめる。これが揃えられない人は諦めたほうがよい。無駄に傷つくだけだ。ここまで読めば「ファンタジー」という言葉の甘さと実態がいかにかけ離れているかが理解できるはずだ。名前のわりに極めてシビアである。　また、５にあるように、能力を金や名誉に変えたい人にも向かない。　１：学問。知識、応用力だけでは足りない。学者と専門書を疑う気持ち、常識を打ち破るマインドも必要。とにかく自分で考える力が必要。　２：創作力、芸術センス。勉強だけできても物作りができないとこの分野では何にもならない。　３：何十年もコツコツ続ける精神力と根性。諦めない気持ち。使命感。しかしそれがあるなら編集やエンジニアなどになって稼いだほうが得。　４：３を支えるための仕事（＝経済力）と時間（＝若さ）。日本の労働環境では事実上学生から始めないとアルカやカルディア並のクオリティは無理。　５：世俗の欲に負けない高尚さ。金、名誉、地位などに傾かない聖心。　６：何を見ても「アルカだったらどうか、カルディアだったらどうか」と結び付けて考える習慣。絶対に学んだことを無駄にしないという「ただでは転ばない」根性。　７：仲間。一人で作っても実験できない。実験できなければ修正できない。少しは脳内実験でどうにかなるかもしれないが、最終的には無理。対戦ゲームのデバッグを一人でできますかという話。対ＣＯＭ戦しか修正できない。限界がある。それと同じ。何十年も付き合ってくれる信頼のおける味方がいるか。ただしアルカのようにネイティブの子供までこさえるのはやりすぎ。生まれた子供は仲間ではない。本人の承諾なく巻き込むべきではない。　よくある失敗パターンが、「楽しいから」だ。これは続かない。人工世界で楽しいのはほんの一部なので。あとは地道でつらい作業ばかり。その上金にも名誉にもならない。続くはずがない。使命感がなければ。イェフダー、ザメンホフなど、偉人にはこれが備わっていた。「広めたい」もよくある失敗パターン。広まらない。ふつうは人工言語に興味など持たないし、それが正常。広めたいと期待するだけ無駄。特にリアルファンタジーは敷居が高いのでなおさら。ゲームの人工言語のように単純なものでないと商用ベースには乗らない。分かる人だけ分かればいいという釣り方式が現実的。

ıμlcɑcın ［名詞］幻奏士、アルシディアン、ｌｕｎａｒ　ｆａｎｔａｓｉｓｔ ［レベル］4　Jl:ıμl cɑcı/n「幻想を奏でる者」 ［語法］［文化］ 言語と世界を創る者。セレン＝アルバザード、リディア＝ルティアなど。

ıμlcɔn ［宗教］アルシオン派 ［レベル］2　μcɑcı: 古 :ıμſe/lcɔn ［文化］ アルティスを構成する最大の派閥。アルテを至上とする。シオン＝アマンゼが教祖。サールを好むサール派と、エルトを好むエルト派に分かれるが、ほとんどの信者は両者をともに崇拝する。

ıμlcɔl ［宗教］アルシオン派信者 ［レベル］2　J0:ıμlcɔn/lınſcȷ

ıμlcel ［エルト］［サール］アルシエルの四季神 ［名詞］四季、季節 ［形容詞］カルテットの、カルテット→ uıllepɒ ［組み数字］4 ［レベル］2　古 :μcɑcı:lceμ(lcel) が最初に作られた神で、それを代表とした名。ıμſe/lcel からか。J0 年まで４人の神がエルトかサールか不明だった。もともと最初にできたシエルが冬の女神として作られたものでなかったことが原因か？ ［文化］ ＜四季神＞　アルシエルの四季神。ılſe,aleı,ılcȷ,lceμ の四女神からなる。四季を司り、四季の変化をもたらす。　＜四季＞　アルナには四季がある。だが、その変化は急ではなく緩慢である。夏は異様に暑くて冬はやたら寒いということはない。夏は大して暑くならない。ただ、冬はわりと寒い。アルナの四季は一年を通して安定していて、悪く言えばあまり変化がない。変化が緩慢なので季節の変わり目に体調を崩すことも少ない。だからアルナの人は四季の変化にあまり関心がない。それでも天気に比べると変化が大きいので、天気よりはずっと会話に出る。だが、日本人が四季について言及するほどの関心はない。　四季の変化はまず気温の変化である。当然、服に変化が見られる。たとえば春になるとアルティス教徒の女はラーサなどを着るようになり、夏が来るとラーサを脱いでサユだけになる。秋口になるとまたラーサを着て、冬が近づくとアルセリアに着替える。雪解けになるとまたラーサを着る。　夏はあまり暑くないので冷房は普及していない。冬はわりと寒くなるので暖房器具が普及している。暖房器具は冬を思わせる物で、暖房器具の匂いをかいだりすると自然と冬を思い出す。　四季の中で人気がある季節というのはない。春夏秋冬それぞれに良さがあるからである。大抵の人はどの季節が一番良いかといわれると困る。どれも良い点があり、どれも美しく、そしてどれも厳しいからである。　春は木の芽時で、暖かさが心地良い。花が咲き乱れるのも美しい。冬で寒い思いをしてきたので春が待ち遠しいという人は多い。冬は寒くて散歩に向かない。散歩が好きなアルナの住人にとって冬の散歩は辛い。ゆえに春が待ち遠しいという人も多い。春になると暖かく、太陽光も増えるので鬱状態も改善されていく。外にも自由に出れ、朝の辛い寒さもなくなる。寒さという拘束からの解放を感じる季節である。
夏はさわやかな暑さが心地良く、抵抗力が強くなって病気にもかかりづらくなる。太陽光も強くなるので鬱にもなりづらく、心身ともに健康に過ごせる時期として好まれる。また、夏にはなによりディアセルがある。これが楽しみという人も多い。なにせ一年を通して最大の祭りであるから春ごろから予定を立てて臨む人も多い。　秋は収穫の時期で、食べ物が美味い。また、終わりごろにメルセルが待ち受けているので、秋は一年の終わりの季節でもある。メルセルは一年の中で二番目の祭りで、これを楽しみにする人は多い。秋はこれから冬になるにつれて一年が終わっていく過程の季節である。今年一年で何をしてきたかと物思いにふける感傷的な時期である。また、木々が紅葉を迎えて美しく燃える時期でもある。そして木々が散っていく時期でもある。枯葉を集めてカルテンや集合住宅の庭では焚き火が行われ、炊き出しや焼き芋などが行われる。焼き芋だけでなく様々なものを包んで焼き、食べる。これらが食べられるのは主に夕食である。夕方前に火をつけて作り、夕食として食べる。子供たちもこの時期は学校の食堂へは寄らず、足早に家に帰ってこの軽食にありつく。　冬は一年の始まりの季節である。寒い時期であるが、この身を切るような透き通った寒さを好む人も多い。冬は雪が降り、街を白く覆う。雪を楽しみにする子供は多い。冬は一年で一番静かな季節である。みな家に引きこもり、暖かい部屋で内職や趣味を黙々と進める。この静かな雰囲気が好きだという人も多い。暖かい食べ物が美味い季節でもあり、収穫の後ということもあり、一年の中では比較的飽食が許される時期でもある。アルバザード人の少女は少しくらい体重が増えてもいちいち気にしない。

ıμlcelſeeze ［気象］季節風、モンスーン ［レベル］4　1L

ıμlcelɒeɒ ［組み数字］アルシエルサークル、四天王、四神、四魔貴族 ［レベル］3　Jl ［文化］ μid ıll

ıμle ［人名］アルシェ。メテの最後の使徒。第１５使徒。 ［名詞］団体アルシェ。アルシェという団体。 ［名詞］セレンの日本での通り名（10 年以降は使っていない）。リディアが英雄アルシェに因んで名付けたセレンの日本での通り名で、ìʔ ɑəl ɑcı 現在、セレンはもはやこの名を名乗っていない。 ［シェルト］アルシェ側。必ず先手。 ［名詞］先手 ［組み数字］１５/１５ ［レベル］2　ìl　ìlɔ: 語源不詳。古アルカでの意味は無し。生没年不詳 ［文化］ (ɥəəɒı ɴɴ99:ΔΘΔ1(ΔΘΘL:ΔΘΔ1))　ɥəəɒı ɴɴ99 ハーネ、息子の ıμle を授かる　メテの最後の使徒。第１５使徒。入った順番でなく、単に最も活躍したことから象徴的な位置に置かれた。ウロ目伐に大いに貢献した英雄で、メテの没後、メテの代わりを務めてソーンと戦うも敗れる。 ［成句］ μı ſ'ıμle 同じ穴の狐　μı ıμlen 同じ穴のむじな。この場合の μı は動詞。　hııȷ ıμle lc ɒeſe ɥɔμſ メテが死んだらアルシェに従え：長い物には巻かれろ、寄らば大樹の陰

ıμleſ ［音楽］軽音楽、軽音、けいおん ［名詞］軽音部→ ıμleſjeɒȷ ［反意語］ɔɔμneſ ［レベル］5　nɑ;ı μle/ſe。楽団アシェットが源流となったことから。 Jl

ıμleſjeɒȷ ［音楽］軽音部 ［レベル］5　Jl

ıμleſeeze ［名詞］和気藹々 ［レベル］4　Jl:「アルシェ風な」

ıμleuınɑ ［軍事］先制攻撃、奇襲 ［レベル］3　Jl ［成句］ ıμleuınɑ μȷcſ uıȷ 先手必勝

ıμlelcl ［化学］ローレンシウム ［レベル］5　1Λ: 制

ıμlelcı ［アトラスの国家］アルシェリア ［レベル］4　1L:μcɑcı:ıμle ［文化］ 面積：L19ΙΟΙΦ.ΔΔ9ΟΙΙ ìɒ J

ıμlelcın ［植物］ヒヤシンス、風信子、ヒアシンス ［レベル］4　ȷɒ;ıμlelcı の属格。 Jʔ ［文化］ アルシェリア付近に自生する。ȷɒ で流入。

ıμle ılfeeɒȷ ［人名］アルシェ＝アルテームス　19:ȷeμen:lcɔn: アルテームスは悪魔に立ち向かうという意味 ［文化］ 召喚省の役人ハイン＝アルテームスの息子。１７２ｃｍ、６５ｋｇ。『紫苑の書』にも登場する。

ıμȷ ［生物］［普通動名詞］遺伝 ［動詞］ɥəl ɒ c から ı に遺伝させる、遺伝する ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ı μìı の語源「繁ぐ」から ［用例］ lınſıſc ej ıμȷ ı μcɑcı c μȷccl cn. 親の綺麗なところがリディアに遺伝したようだ。

ıμȷ(J) ［言語］アルバザード語、現アルバザード語 ［レベル］4　Jl

ıμȷı ［名詞］アーサー、師匠、マスター ［反意語］lccɥə ［レベル］3　1ʔ: 制 :ıμȷccl。神話ではナユが造語した。 :::ȷıc,ılſ ［語法］ lıl,ın と違い、個人的に指導に当たり、しばしばともに生活を行う者。 ［文化］ ナユがユルグにルシーラと言った際、「僕はそんなに偉いものじゃありませんよ」と言われ、「じゃあお師匠さまです」と答えたときに、μȷccl ı から造語したもの。

ıμɔɔn ［動詞］ɥəl ɒ lɔn（金銭など）で相殺する、ɥəl ɒ ı（貸付内容、借入内容など）と打ち消しあう、相殺する、打ち消しあう、打ち消す、帳消しにする ［普通動名詞］相殺 ［数学］約分 ［レベル］3　1L:ıμle/ȷɔμn（アルシェとソーンという対立する団体→相殺） ［用例］ ın ɑcſ uın ſə lcȷſ, ɔɔn ıμȷɔn le μec ı ſə, μeſ. このラム酒をやるから、こないだのワインを帳消しにしてくれよ。

ıμȷɔnıll ［数学］反数 ［レベル］6　1L ［語法］ 逆数と区別すること。⌈ɔ⌉ = 0 において ⌈ を 0 にするような数⌉を反数といい、この場合 ſcɑ ⌈ に等しい。

ıμȷen ［名詞］主人公、主役の男、ヒーロー ［反意語］ıμcı ［レベル］3　1L:ıljeμenı。リディアとセレンが互いに「どちらが μɑ の主人公だろうね」と話していたことから。 ［語法］ 少女マンガに出てくる主役の男の子はヒーローとも呼べずなんというか日本語では困るが、アルカだとこれに当たる。夢織でいうランヴェム。

ıμn ［被服］外套、コート、オーバーコート、ロングコート ［レベル］2　ìl; ↓　ìʔ: 制 :ıμlencɒ（アルシェの色＝アルシェ風の）　x:ıμn ［用例］ ın ȷeɑıſ ȷıe cſ ıμn. コートの雪を払った。

ıμnlıȷl ［被服］ドレスシューズ　μſ;/。コートに合わせられたことから。 JM

ıμnı ［地名］アルナ、幻京、幻京市。幻国の都につき、幻京と訳す。 ［レベル］1　zɸ;ıμſe/nı「神の御心」 古？ :μcɑcıδ:ıμbızıμɑ のはず。 ［文化］ → ȷıllıc　●概要　アルバザードの首都（王都）で、最大の都市である。　ɥəəɒı ʕΛΜΦ に遷都して以来、３０００年以上アルバザードの首都として栄えている。ただし現在の人間の寿命に換算すると千数百年にしか相当しない。そのため、京都などと同程度の古さということになる。　●所在　アルバザード国アルナ県中央部に位置する。　行政上は hıcɒ であり、市である。　ıμnı という場合、アルナ県の意味とアルナ市の意味の両方の可能性がある。通常は後者を指す。　●広さ　アルナ市の直径は 10ɒecnɒelɑc（１２．５ｋｍ）。山手線の南北の長さ――大崎から田端までの間――よりやや短い。街の端から端まで行ったとしても徒歩で２時間強、自転車でおよそ３０分という距離である。　そこまで広くない街なので、移動は主に自転車か徒歩。遠出には車を使う。鉄道は地下鉄が発達している。街中は地価が高いこともあってか地下鉄のみ。地上はバス網が発達している。　市としてはそこまで広くないが、都心の市としては大きい。山手線は縦のほうが横より長い。その縦に匹敵する長さの直径を持つ円形都市なので、東京都２３区の数個分に相当する市である。このように、都心の市としてはむしろ大きいと言える。　●形状　・μɑ 以前　遷都する前からアルナという街は存在した。アルナが生まれたのは zφ である。　もともと東西南北が平地で何にも囲まれていない。平坦な場所にあるということは、どの方向からも侵攻しやすいということを意味する。そこでパリなどと同じく城塞都市へと発展していった。　街を円形に囲む城壁は、人類が空を飛べる時代であっても有効な防御手段であった。というのも、敵兵は重装備をして空から侵入することはできないし、城壁が円形になっていればどこからでも敵を射落としやすいためである。　この城壁はパリと同じく街が発展して人口が増えていくたび、徐々に外側に作り変えられていった。アルナは木の年輪のように、何層にも城壁を持った都市へと進化していった。　現在アルナが円形都市で後述する円形のランティス通りを持っているのも、歴史を考えれば頷けることである。　・μɑ 以降　μɑ でアシェットがヴレヴラント王の命でアデル対策に大きな城壁を作った。このとき既に街の直径は 10000eləı だったが、この城壁の外側に新たに囲いを作ることとなった。　アシェットはメルフィを用い、アルナを直径 10000ɒelɑc の街とし、円形に城壁を築いた。この城壁を uμeuılſ という。　また、uμeuılſ の内部に同心円状に２８本の幹線道路を走らせた。この２８本の道路にはそれぞれ lınſcȷ の名を冠した。　円の中心には王の城があり、その周りには庭園が広がっている。現在のカルテ公園である。　一方、円の中心から東西南北１２の方位に道を伸ばした。時計に使うアルミヴァの１２神を取って、アルミヴァ通りという。　こうして現在まで続くアルナの形が出来上がった。　アルナの住所の番地は駅からでなくこのカルテから数える。つまりカルテに近いところが一丁目となる。　住所は京都と同じで番地でなく通りの名を使う。『紫苑の書』のレインの家の住所はネルメス＝リディア通りである。　●エリア　アルナ市は９つのエリアに分かれている。　２８本あるランティス通りのうち、内側１４本以内の区域を中央アルナと呼ぶ。それ以外の８区域を北アルナや北東アルナなどと呼んでいる。　言うまでもなく中央アルナが一等地である。　●街区　アルナ市は東西南北それぞれの街区に分かれる。　北区は学校や官公庁などが集まっており、南区は商業地区になっている。西区は集合住宅街で、いわゆる庶民の街。そして東区が一戸建てのある街で、いわゆる高級住宅街である。　西区は庶民の街ではあるが、都心なので極めて地価が高い。そのため家賃は驚くほど高い。『夢織』でアリスが自分は庶民と述べているが、それはアルナ大に通うような特殊な人間から見た基準でしかない。一般人からすればアリスは十分裕福である。　サンベル市とアルナ市の同じ間取りのマンションを比較すると、およそ１．５～２倍程度の家賃の違いがある。特に中央アルナは高い。　もともと μɑ 以前から円形に近い形をしており、街区も東が富裕層で北は官公庁だった。南は商業が活発で、西は庶民の街だった。　ドヤ街は今でいうカルザス～ヴァルゾンまでのソーン区で、現在よりやや西側に位置していた。奴隷地区もここにあった。　色町は高級店がカルザス通りにあり、現インプレンはこのころから存在していた。厳密にいえば ìl は既に存在していた。　●守護神　守護神はアルデスである。　●道同士の間隔　アルナ市の直径は１２５００ｍ（10000ɒelɑc）である。　うち、カルテ公園が直径１５００ｍ（1J00ɒelɑc）である。中心からの半径は７５０ｍ（100ɒelɑc）である。　カルテ外周からリディア通りまでが１８７．５ｍ（1ʔ0ɒelɑc）である。外周からリディア通りまでの輪っかが住所上はリディア通りとなる。リディア通りが示す住所はリディア通りとカルテ外周の間の道であり、リディア通りの外側ではない。まして道上ではない。　リディア通りからオヴィ通りの間は１８７．５ｍ（1ʔ0ɒelɑc）であり、この輪っかが住所上オヴィ通りとなる。　以下同じようにクミールまで２８回繰り返すと、ランティス通りで 1ʔ0ɒelɑcxJΛ=ΜJ00ɒelɑc となる。５２５０ｍである。　クミール通りから uμeuılſ までの距離が２５０ｍ（J00ɒelɑc）である。　アルナ市の直径は１２５００ｍ（10000ɒelɑc）なので、半径は６２５０ｍ（ʔ000ɒelɑc）である。　このうちカルテの半径が 100、ランティス通りがひとつ 1ʔ0 で２８本の合計が ΜJ00 で、クミールから uμeuılſ までが J00。　100+ΜJ00+J00 ＝ ʔ000 であり、ちょうどアルナ市の半径に達する。　なお、uμeuılſ からクミールの間の住所は uμeuılſ 通りとなる。城

壁からクミールまでの輪っかである。　兵士の配備、武器防具の設置、ɪnsel など魔法工学設備の設置があるため、クミールから ɥɒeɪɪʃ までの距離はある程度広めに取ってある。　またクミール通り以内には住民が住まうため、前線となる城壁からなるべく距離を置く必要がある。有事の際でなくとも訓練などで騒音問題などが発生するため、特に住宅街からの距離を取る必要があった。　●道幅→ ɑɔnʃ　●歴史　ɥəəɒɪ ʎΔΜΨ アゼリア、レスティリアからアルナに遷都。レスティリアは封じられ、嘆きの壁という巨大なバリケードで囲われた。感染が酷いものは見捨てられ、嘆きの壁の内側に打ち捨てられ、火が放たれた。レスティリアは廃墟と化した。この「嘆きの焔」事件に対し、国民の怒りがあらわとなり、アゼリアの退陣が叫ばれるようになる

ɪɒnɪʃcnɪ　［ランドマーク］アルナ小学、アルナ学校小等部、アルナ学校幼等部、アルナ幼稚園、アルナ保育園　［類義語］˥ɪɒɑcnɪl　［レベル］2　˩˩

ɪɒnɪ˥leeɒ　［気象］西岸海洋性気候区、Ｃｆｂ　［レベル］4　˥L:ɒcɑcɪ:ɪɒbɪleʃ

ɪɒnɪleʃe　［交通］幻環線　［ユマナ］山手線　［レベル］3　˩˩:「アルナの衛星」［文化］　アルナ県中央部でアルナ市よりは外側を走る地上の環状線。

ɪɒnɪnʃ　［言語］［文字］幻京書体　［レベル］2　˩˥:ɪɒnɪ。アルナでできたため。　［語法］　書き順は ɟ のみタ月と異なる。ɪɒnɪnʃ の ɟ は上から下に下ろす。アルファベットと同じ形の字はアルファベットと同じ書き順なので安心してよい。

ɪɒnɪuɪlɪ　［名詞］中央アルナ病院　［レベル］4　˥L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe　［語法］　中央アルナ最大の病院。夢織ではアリスが入院している。所在地はフェンゼル通りリュウ通り。医師だったリュウを敬愛してミロクがリュウ通りに置いた。また、人口の多い西区寄りに配置した。フェンゼル通りのエリア内といっても、実際はネプラ通りに面したところにあるので、北区を出てすぐにある。

ɪɒnɪɑuɪ　［被服］モーニングドレス　［レベル］5　˩˥

ɪɒnɪɑcɪn　［ランドマーク］アルナ中学、アルナ学校中等部　［類義語］˥ɪɒɑcnɪl　［レベル］2　˩˥

ɪɒnɪɑe˥ɪ　［ランドマーク］アルナ学校　［類義語］˥ɪɒɑcnɪl　［レベル］2　˩0　［文化］　→ leɪznɪnʃ　セルメルで LLcɒ にフェリウス＝クレティスによって建てられた学校。世界最古の学校である。アルバニ世の協力の下なので王立学校である。　ɒɑ で大学部・高等部・中等部・小等部に分かれる。ミロク革命で３４５６制に再編される。このうち６年制の大学部が現在のアルナ大学である。

ɪɒnɪɒɪnɪ　［ランドマーク］アルナ大学、アルナ学校大学部、アルナ高校、アルナ前期大学　［類義語］˥ɪ ɒɑcnɪl　［レベル］2　˥L:ɒelcɑcɪ ɪlcʃ　［文化］　→ ɪɒnɪɑe˥ɪ　・概要　アルバザード国における最高峰の大学。日本でいう東大。ならびに、世界一の難関大学でもある。ミロク＝ユティアなど、数々の偉人を輩出している。ユーレ＝アルフィーネなど、天才留学生も多い。所在地は中央アルナ市コノーテ通りメル通り。結果的にアシェットで最も知能の高かったメルを敬愛する形となっている。西門はコノーテ通りに面している。　・制服　ɟɒ で制服ができる。˥ˀ 歳以上が灰のローブで、それ以下が茶のローブ。　ɯl でセーラー服と詰襟に。　革命でアルティス教のルフィとラーサに。男子は夏が白で冬が黒。女子は通年ピンクか水色（好きなほうを選択。ɥən˥ と ɒclcɪ はたいていピンクを選ぶ）。　ˀˀ0 年にセーラー服と詰襟が復古。詰襟はスーツに姿を変えて復古した。　女子はセーラー。夏は上が白。冬は上が黒。スカートは通年黒。　襟のラインは３本白。襟は名古屋や関西の切れ長のものでなく、関東に多い短めのもの。　スカーフは黒で、三角タイ。ネクタイ止めは有りで、ここにスカーフを通して垂らす一般的なタイプ。スカーフのほうが上着より黒の度合いが強い。　胸元には校章の四面秋桜（˥ɪɒɑcnɪl ʃ˥ɪɒlcel。コスモスの花が東西南北に鏡写しになって絡まっているもの。ɒɑ ででき、賢者リディアを象徴する）。　スカートはプリーツ。丈は膝が隠れる程度。歩くとわずかに膝が覗くのがポイント。　ソックスは夏が白で冬が黒。　男子は青みがかったスーツ。ウェストコートはなく、下はワイシャツと肌着のみ。下半身はスラックス。スーツはシングル３つボタンで、一番下はかけない。　ネクタイは青黒がかった灰。ベルトは牛革。ベルトとネクタイに校章。　学年によって色が異なる。　小学生はルフィとラーサのみ。色相は同じで彩度が濃い。　中学生も同様だが、彩度が減る。　高校生になるとまた彩度が減り、前期大学と同じ彩度に。そして高校と前期大学のみセーラーとスーツが適用される。　高校はセーラーとスーツのタイが濃紺。前期大学は上記のとおり。　なお、後期大学と８組に制服は適応されない。　ˀˀ0 年の導入の際、反対派は保守派で構成され、保守派は成績上位者に多く、数が少なかった。　新制服は任意だったため、１，７，１４組は結束して新制服を着用しなかった。これが後に慣習となり、これのクラスの人間のみルフィとラーサを着るようになる（セーラーを自主的に着る人もいる）。レインの時代では上位クラスを示す服装がルフィとラーサであり、下位クラスは暗黙の了解で着ないことになっている。　・クラス編成　１学年１～１４組まで。ɒcɪ_jeɒ の名で呼ぶ。クラスごとに特色がある。　１組が最高。７，１４が次いで文理の特進。　９，１３の一芸は落ちこぼれの婉曲な言い方。極端に一教科だけできるが他は何もできない人材にこそ天才の芽があるかもしれないという名目で存在するが、実際には留年予備軍が多い。　心理は日本と異なり理系。医学に入る。　教育課程はそれぞれのクラスが後期大学から取れる。それぞれの学科のプロフェッショナル教員を養うためのシステム。　１：文理総合特進　２：農学・生物・生命　３：体育　４：経済・経営　５：史学・哲学　６：工学　７：理系特進　８：異能　９：理系一芸　１０：法学・政治　１１：芸術・家政　１２：医学・薬学・心理　１３：文系一芸　１４：文系特進　・王族　基本的に王族（皇族）は ɑelclcɪ へ進学するが、特に勉学に身を入れたいということであればアルナ大へ行くこともある。ただし実力が伴わないと入学できない。女子はアルナ大へ入れる学力があってもエルフィーネやフェリシアを選ぶこともままある。

ɪɒnɪɒɪnɪn　［名詞］アルナ大生　［レベル］2　˩˥

ɪɒnɪɒel　［名詞］Ｍタイム　［反意語］˥ɪfeesɒel　［レベル］6　ɯl;「アルナ式時間」　˩ʃ　［文化］　アルバザードはＭタイムを採用している。ただしカテージュなど、南方に行くとＰタイムの地域もある。ただしカテージュでもビジネスはＭタイムで行う。　アルバザード人は時間通りに行動を行うのが美徳とされる。１０分前行動などは短気でよくなく、遅れるのはもってのほかである。　なお、Ｐタイムとは複数のイベントを同時に進行させることを意味するのであり、単に時間にルーズなという意味ではない。結果的にひとつひとつのイベントが時間通りにいかなくなりがちというだけの話である。

ɪɒnɪdɔl　［名詞］アルナ地区　［レベル］3　˥L　［文化］　ɪʃnɪ

ɪɒnɪhɪcɒ　［地名］アルナ市　［レベル］2　˩˩

ɪɒnɪɒɪcl　［交通］幻京橋駅　［ランドマーク］幻京橋　［レベル］5　˩˩　［文化］　ファイマン線：ラゾーディン→幻京橋　幻京河に架かる大きな橋。

ɪɒnɪlɪz　［ランドマーク］アルナ高校、アルナ学校高等部　［類義語］˥ɪɒɑcnɪl　［レベル］2　˩˥

ɪɒnɪleeɒ　［名詞］アルナ自由市民　［レベル］5　˩˥

ɪɒnɪeɒ˥e　［地名］幻京河　［レベル］5　˩˩

ɪɒnc　［植物］ウイキョウ、フェンネル　［レベル］3　古

ɪɒncn　［植物］キャラウェイ、キャラウェー　［レベル］5　ˀˀ: 制 :ɪɒnc

ɪɒnɔ　［名詞］セクション、専門集団、企業の部署、専門的な小集団、部　［レベル］3　ɔɔɒn:ɪɒnɔ（専門的な小集団）［語法］　しばしば特定の役割や機能を持つ。会社の部署にもあたる。

ɪɒnɔn　［政治］アルノン　［類義語］lczno　［レベル］3　古 :ɪɒnɔ　［文化］　アルバニ世がイムル２０年に作った王の６省。外交、経済、事務、開発、召喚、軍務の６省。この下に庁が置かれる。現在でもこのシステムは機能している。

ɪɒneʃ　［名詞］アルネット　［レベル］2　˩0:ɪɒzɔn/ʃe　［文化］　ɑɒecnʃ

ɪɒneɪ　［化学］陽子　［レベル］4　古

ɪɒu　［言語］近アルバザード語　［レベル］5　˩˥

ɪɒuɪ　［宗教］アルヴァ、聖書、聖典　［レベル］3　ɔɔɒn:ɪɒuɪnʃ（金言、アルヴァント）。元はアルヴァントの略語に過ぎなかったが、意味が分化して『アルヴァント』や『幻想話集アティーリ』などを指す包括的な語へと変わっていった。　［文化］　アルティスの聖典。『アルヴァント』・『幻想話集アティーリ』・『アルバシェルト』・『イルムス』の総称。アティーリではここからアルバシェルトを外す。アルバシェルトはリディアが作った文化設定を日本と比較した情報などを加えたものであるため。

ɪɒuɪj　［アイテム］アルヴァス　［レベル］4　ɒcɑcɪ: 古 : 語源不詳。元はアルヴァスは銃だったが、リディアがやはり銃は嫌いだということで弓に変えたもの。　［文化］　ヴァストリアのひとつ。アッシュのもつ魔弓。

ɪɒuɪnʃ　［法律］アルヴァント、月法　［レベル］4　ɔɔɒn:ɪɒuɪnʃ（金言 ）。ɪɒuɪnʃ は「 金言 」の意味だが、クミールが L 年にソーンの聖典の名として用いた。当時のセレンはメルからその企画を聞くと、アルシェ側も対抗心から自らの聖典を作ろうと企画した。そして対決の意思を表わすために、その聖典の名を同じ ɪɒuɪnʃ にした。制まではアルティス教の「金言集」を意味し、ɒel ˥ˀˀ||cɟ|dɪl からセレンが編集し始めた。だが実際にほとんど収録されなかったため、死語となっていた。そのため、メル 1L 年末にアルティス教の経典を表す語に変えられた。　［文化］　アルヴァントはアルティス教徒の過ごし方や心構えについて書かれた法である。ほかの法と比べ、「～してはならない」でなく「～しなければならない」の表現が多い。また、月法のみ、背いた場合は ɑɔɟ でなく ˥ɪhc となる。　アルヴァントは月法と訳され、アルティス教の経典であり、同時に法典である。ɪɒuɪnʃ は ˥ɪlə のひとつである。　ほかのあらゆる法の中で、アルヴァントは唯一良識による法であり、アルバザード人の心を形成しているものである。憲法よりも優先され、最も重視される法律となっている。敬虔な信者や法学部の学生はたいてい内容を覚えている。

ɪɒuɪcn　［魔物］アルヴァイン（淫蟲）：第九十八天：害の風天　［レベル］5　˥L:ɒcɑcɪ/ɒeɒen/ɒel: ɪɒ/uɪcn　［文化］　意思を持ったウィルス。眼に見ることは不可能で、ヒトにのみ感染する。感染経路はＨＩＶウィルスと同じで、血液、母乳、精液、膣分泌液、唾液などを介して移る。ＨＩＶよりも遙かに感染力が強く、唾液でも十分感染する。アルヴァインはヒトの体内に入るとバオナの魔法を使い、異常性欲を引き起こし、その人間に別の人間を襲わせる。セックスを介してどんどん別の人間の中へ入っていく。キスだけでも感染する。感染してから一週間するとバオナは収まるが急激にウィルスが増え、犠牲者は体をかきむしって死ぬ。当然出血するため、死後その血を媒介して他人に感染することもある恐ろしい魔物。

ɪɒuɪcl　［医療］エイズ　［レベル］4　˥L:ɒɥəə:ɪɒuɪcn/leun

ɪɒucnɪ　［魔法］［名詞］アルヴィナ、ヴィード学、ヴィード論、ヴィード理論、広義の魔法理論　［類義語］ɑɔlɒcɒ　［レベル］4　古 :ɪɒfe/ucɑɑ/nɪ　［文化］　ɑɔlɒcɒə　［成句］　ɪɒucnɪ ɪ(len) ɑɒecn 戦士に魔法理論：馬の耳に念仏、猫に小判、豚に真珠

ɪɒucɒ　［生物］腱。骨と筋肉を繋ぐ筋　［レベル］4　ˀˀ: 制 :ɪ˥ucɒe から

ɪɒucɒɑɪcz　［医療］腱鞘炎　［レベル］5　˥L: 日本語では腱鞘炎だが、アルカでは腱炎

ɪɒucɒlɔɑ　［生物］腱鞘　［レベル］5　˥L

ɪɒucs　［記号アルヴィジュ］［レベル］3　˩˥:ɪɒs/ucs（人差し指と親指を使って[ ]の形を作ることから）

ɪɒucˈj　［化学］グリシン　［レベル］6　˥L

ɪɒueʃ　［地名］アルヴェット　［レベル］5　˩0:ɪɒueʃ ← ɪɒʃ/ucuc/ʃe「魔力を帯びた土地」［文化］　リュディアの小都市。現在はテージュ海に沈んでおり、ファルファニアの領海となっている。

ɪɒueʃʃe　［宗教］［地名］アルヴェッテ　［レベル］5　˩0:「リュディア国の小都市 ɪɒueʃ のような」。グラナダをモチーフにアメリカにニューグラナダを置くような命名感覚。ニューアムステルダムなども同様。　［文化］　アルカンス西南部の小都市。アルテ教やアルティス教が興った場所でもある。　［成句］　ɔ˥ɪ φɪɪʃɔ, ˥ɪɒɪn lənɪ ɪɒueʃʃe　それでも信者はアルヴェッテに来る：いわしの頭も信心から

ɪɒue˥ʃ　［魔物］アルヴェクト（魔鴉）：第三天：闇の幻天　［レベル］5　˥L:ɒcɑcɪ/ɒeɒen/ɒel:ɪɒʃ/ueɒ/ˈleʃɔ　［文化］　烏族。巨大な鴉で、鋭い嘴で眼を突いてくる。翼をはためかせると羽が刃となって降り注ぐ。また、闇の魔法を使う。死んだ人間の頭がい骨を足に挟んでいる。

ɪɒue˥ˈhɔ　［天文］エルライ　˥L:ɒcɑcɪ/ɒeɒen/ɒel　［文化］　アルヴェクトが脚に挟んだ頭蓋骨。

ɪɒueɒɪ　［宗教］アルテ教会　［レベル］5　˩0:ɪɒueeʃe/ɒɪ/lcɪ（アルヴェーテの家の）［文化］　ɥəəɒɪ ˥ˀˀ」リデルはアルテ教会をアルヴェッテに設立し、商工会から独立させる。これは神商会および国王から商工会が睨まれていたことに対する方策であり、実態は商工会の人間で上層部が占められた。

ɪɒueeʃe　［宗教］アルテ教、アルテ信仰、アルヴェーテ　［レベル］5　˩0: ルカリアの小都市アルヴェッテから　［文化］　アトラスで最初に起こった宗教。アトラスにはサルトという確固たる神がいたため、地球と異なり架空の神を信仰するということがなかった。　また、ユーマの一族自体神から分派したもので、神代は地球の人類より強力で、自然に対する畏敬の念も弱く、信仰を生む土壌になかった。　さらに彼らは神を通じて自分たちの世界の歴史を知っていたため、むやみに架空の神を創造することがなかった。　ユーマの一族にとって神とはサルトやデームのことであり、なまじ実在するので信仰というよりは畏怖に近い存在であった。　しかしラヴァスが終わると事態が徐々に変わってきた。　まず、信仰対象の神がアトラスを去ってしまったため、神と接するのは貿易商人（後の召喚士）ばかりで、市井の人間からはますます遠い存在になってしまった。　ラヴァスのころは度重なる神々の激しい交戦を間近で見てきたので、神の存在を疑う余地はなかった。　しかしそれさえなくなってしまえば市井の人間にとっては神の存在は疑わしい。　ともなれば当然神の存在を疑うものが出てくる。しかし、それだけでは架空の神を創造するには至らなかった。　ɥəəɒɪ ˥ˀˀ00 にヴェルディアン帝国が崩壊すると、シフェランの後継者争いが起こった。　シフェランが各属国に置いた王らは覇権を争った。彼らはいずれも高名な魔導師であり、召喚士ではない。王はこのころ貿易により経済力を付けていた。貿易には神人貿易と人人貿易がある。　神の人口は当時の人類の半分しかいなかったものの、圧倒的に神人貿易のほうが利益を生んでいた。　神人貿易はサリュを通して輸出を行うため、輸送コストがかからない。　輸送距離が短いため、途中で落としたり壊したり濡らしたり盗まれたりといったリスクも少ない。　また、商品の腐敗も回避できるため、生鮮品や穀物のやり取りもロスが少なくできる。　さらに神は金払いのよい上客だったため、王らにとって神人貿易は特に重要だった。　貿易商の立場に立つと、当然神人貿易に参画したい。　しかし利益が良いということは倍率が高く、王が保護しているということは、高官主導で寡占状態になっていることが容易に想像付く。　すると当然神人貿易にあぶれて人人貿易に落ち着いた商人が現れる。　これらは王による手厚い保護を受けられなかったため、自治の面互いに協力してユニオンを作る。これが「商工会」である。　一見落ちこぼれの集まりのようだが、商工会を立ち上げた lcɑel という人物は非常に有能で、高官になるチャンスがあった。　lcɑel は有能な時魔導師で、商工会を立ち上げたときには確固たる自信があった。　その根拠が自身が開発した時魔動機 ɒelɔɔɥɪ である。　さて、ɒelɔɔɥɪ の前に宗教について説明しよう。　lcɑel は商工会の人間の多くが神に少なからず不満を持っていることに注目した。　彼らは神の加護を得られなかったため、神に対して良い印象を抱いていなかった。　ɥəəɒɪ ˥ˀˀ00 を過ぎたころは個々の人類の力は ˥ˀˀ00 年前より弱まっており、自然に畏怖を感じる程度に落ち込んでいた。　また、特に商工会のあったルカリアの人の一部は貿易に依存する神々を神とはみなさず、「有力な部族のひとつ」くらいにしか考えていなかった。　そのため、彼らは「本当は自然を制御し、自分達を作り上げた唯一の創造主がいるのではないか」と考えるようになっていた。　神人貿易商の腐敗を目にしていた lcɑel もまたその考えに強く共感していた。　彼のその気持ちを参謀の ˥ɔddel は利用できると考え、「原始の神 ɪʃe は elʃ と ɟɪɪl に分化したのではなく、彼らを生んだのだ。万物の母 ɪʃe は我々の祖先であり、唯一神である」と lcɑel に唱えさせた。　˥ɔddel は参謀として lcɑel に自分の気持ちを気付かせた。これを以って産婆法が生まれる。　ɥəəɒɪ ˥ˀˀ0˩ のことである。これをアルテ信仰といい、アルテ教ともいう。商工会がアルヴェッテにあったことから、アルヴェーテと呼ばれるようになった。　当初 lcɑel はアルテ教を商工会の結束力を高めるための手段として用いた。これはある程度成功を収めた。　次に lcɑel は庶民に目を付けた。貿易品の原材料は庶民が作る。しかし神人貿易商のほうが優遇税制を取られているので、人人貿易商より原材料の購買力がある。　結果、人人貿易商は原材料を高値で買ったり、粗悪な売れ残りを買う羽目になる。　そこで lcɑel は庶民から余剰品が出た年に、その商品を捨て値の破格で買い取ることにした。　豊作の年は神人貿易でも売れ残りが出る。その売れ残りは値崩れを防ぐために廃棄するしかないが、市場に流出させないと約束して lcɑel が破格で買い取った。　lcɑel は石を切り、ピラミッド状に積み上げた。こうすると中に空間ができる。この中の部屋の天井に穴の空いた真鍮の小さな円盤をいくつも連ねて紐飾りのようにして吊るしておく。　外からこのピラミッドに時魔法 ɒelɔɔc をかけると、紐飾りの下に置かれた物質は時間の流れが止まる。真鍮の時を操る効果を最大限に引き出したものである。　この装置を ɒelɔɔɥɪ といい、ɥəəɒɪ ˥ˀ˩ʃ に運用が開始された。　時を止めておけば余剰品の生鮮品や穀物は腐敗することなく、次回の凶作のとき高値で捌くことができる。　農民は廃棄せずにすむので非常に助かる。　噂を聞きつけた農民が余剰品の買取を希望した際、lcɑel はその買取をアルテ神の救済と称した。　無学な農民らは救済と引き換えに改宗し、こうして lcɑel は人人貿易で利益を上げると同時にアルテ教というひとつの分かりやすい思想を利用し、商工会だけでなく庶民までもを抱きこんだ。　当時の社会はまだ不安定で貧しく、経済がまだ巧く機能していないため、豊作はときに災害となった。　アルテ教は救済の教えとして、当初の予定を覆す勢いでアルカット全土に広まっていった。　その広まりは貿易商＝宣教師だったころから貿易ルート沿いにあり、布教の速度は急速であった。　商工会と異なり市井の信者はむしろ純朴で、純粋に神を慕って信仰するものも多くいた。　このような人間がかえって後の迫害では進んで殉教し、悲惨な最期を遂げることとなった。　この状況について面白くないのは当然神及びその賛同者の神人貿易商である。　ɥəəɒɪ ˥ˀˀ˩ に、lcɑel に対抗して神人貿易商の名士 cɒnɪjʃ が神商会を設立。　王は対外政策の一環で神の軍事力を必要としていたので、継続して神商会を擁護した。　しかしその動きをあざ笑うかのようにアルテ教は広まっていく。

ɪɒɑ　［言語］中アルバザード語　［レベル］5　˩˥

ıɲɑɸen ［魔法］魔法戦士 ［レベル］4 1L:ɲcɑcı:ıɲſ/ɑɸecn ［文化］ 魔法遣と戦士の両方の特徴を持ったもの。長所は剣も魔法も使えること。短所はどちらの腕も中途半端になること。一人旅では魔法戦士が優位だが、パーティを組む場合はそれぞれの専門家を集めたほうが良いというのが定石。

ıɲɑı ［名詞］呪符、絵馬 ［政治］政策 ［文字］ディスプレイ、ディスプレイタイプ。広告や符などに用いた。 ［ユマナ工娯楽］ポム、自機スペルカード ［レベル］4 古 :ıɲɑı ← ıɲſɑə（魔法の符） ［文化］ 魔導師が使う魔力の込められた符や、それに類するもの。大抵は紙製で、字が書かれている。魔導師は込められた力を開放させることによって、符に込められた魔法を発動させる。また、単に祈りの符としてお守り代わりにされることもある。 魔法の札に使う紙で政策を記したおふれを作ったことから、政策も ıɲɑı という。

ıɲɑıcl ［軍事］水素爆弾、水爆 ［レベル］5 1L

ıɲɑc ［地名］アルフィ。神の世界 ［レベル］2 19: 制 : 神々の世界 ［文化］ カコが終わり、エルトとサールは戦乱の地であるアトラスを去り、自分たちの世界であるアルフィを作った。 作るといっても土地が必要なので、アトラスから土地を取り、それを異次元に送ってアトラスから隔離するという方法だった。 その土地として選ばれたのはセルヴァートのミナカルモ。セルハノイの北、セルアの南にある。 エルトはセルハノイの北、サールはセルアの南から、それぞれ土地を取り、異次元に送った。面積はどちらもアシェルフィ程度である。入り口はセルハノイとセルアにある。 現在ミナカルモのその部分は霧に包まれており、近づくと地面でなく湖になっているように見える。だが湖に入ろうとするとなぜか対岸に出てしまう。これは時空が歪んでいるため。 互いにミナカルモに国を作ったため、ミナカルモの中央に境界線があり、不可侵となっている。だが ɲɑ の後、境界線は外された。 アルフィはアトラスの土地であるため、あくまでアトラスの存在する次元から見て少し軸のずれた次元に存在しているだけである。 人間や動物は勝手に入れないものの、完全にアトラスと分離してはいない。あくまでアトラスの土地なので、完全に分離することはできない。 そのため、アルフィとアトラスの間には「次元の糸」というのが何本も通っており、これでかろうじて繋がっている。「次元の糸」は、ピザの一切れを持ち上げたときのチーズとか、シールを剥がしたときの糊の糸みたいなものを想像さればよい。 次元の糸はアレットの数だけある。アレットには現在カルテンがある。よってカルテンはアルフィのどこかと繋がっている。それは例えばアルデスの家に通じているかもしれない。 アルフィを作る際、裏切りを防ぐために神々は互いの国にデスパを かけることで合意した。悪魔に放ったものとは異なり、人でなく土地にかけた。 だがアルフィは次元の糸で繋ぐ必要があるため、悪魔にかけたデスパほど天網恢恢ではなかった。そのため、メルテナでは召喚士が生まれることとなる。

ıɲɑcın ［魔法］アルフィアン、幻術、精霊術 ［レベル］4 1L:ɲcɑcı:ıɲſ/ɑcın（魔法遣の女の子） ［文化］ アルトの一種。精霊族の使う独特の魔法体系。幻を見せたり、迷わせたり操ったりというものが多い。また、回復系統の魔法もあり、死者を一時的に呼び戻す奥義もある。

ıɲɑcınſ ［魔法］幻術師 ［レベル］4 1L:ɲcɑcı

ıɲɒ ［電算］電子ペーパー ［レベル］3 1Λ:jeɲen:ıɲſɒıȷ から。今後主流となるディスプレイと見込んで語形を詰めた。リディア創造のアンセもこれとホログラム技術を併用しているはず。 ［文化］ ınje, leczen 電子ペーパーだけでなくｍｉｒａｓｏｌのような仕組みの異なる、オフしても消えない反射型ディスプレイ全般を指す。

ıɲɒı ［魔法］輝晄、きこう、アルマ ［レベル］2 ɑ;e 古 ıɲɒı:ıɲɒı:ıə ıɲɒı ［文化］ enuelen ユノ、ヴィル、ノアの３つのトリニティとしての概念。ヴィードにおける最強のエネルギーであり、操れる者は滅多にいない。アルマはすべての点においてユノ・ヴィル・ノアより大きな能力を持っている。アルマスト派は特にアルマを万物の根源とみなし、すべてをアルマに帰結させようという思想を持っている。他の派閥はそこまでアルマに重きを置いていないが、それでもアルマを最高のエネルギーと考えている点は変わらない。アルマは強力だが、合成が難しいので絶対量は少ない。 | 約 1?9 億年前 | エネルギーの一種である ıɲɒı が発生し、ıɲɒı の位置する空間が生まれる。すみやかに ıɲɒıȷ（ビッグバン）が起こる（最初期宇宙） | ［成句］ ɥəno, ucɲ, noı lıɑ ıɲɒı 三位一体

ıɲɒıſcȷ アルマスト派信者、アルマ信者 ［レベル］2 J0:ıɲɒıȷſ/lınſcȷ

ıɲɒıſcı ［アトラスの国家］アルマティア ［レベル］5 1L:ɲcɑcı:ınſɒı

ıɲɒıȷ ［天文］ビッグバン、ビックバン ［レベル］4 ul;ıɲɒı/jɔ 当時はビッグバンはアルマによるものと思われていたため 古 :ıɲɒıȷ ← ıɲɒı/jɔ（アルマする）はじめにアルマがあり、そこから世界ができた。

ıɲɒıȷſ アルマスト派 ［レベル］2 古 ［文化］ アルティス教の派閥の１つ。ヴィードのアルマを至上の存在とし、それを得ることによって救われようとする一派。

ıɲɒıȷſocſ アルマ信者の挨拶 ［レベル］3 1Π: 制 : アルマ信者の挨拶 ［文化］ アルマスト派は独特な挨拶を持っている。右手を手刀のように胸の前に持ってくる。親指の横が胸の方向を向き、小指の横が相手を向く。この状態で左手の５本の指で右手の親指以外の指を逆手で包む。順手ではやりにくいので、逆手で行う。この挨拶は相手がアルマスト派か尋ねるものであると同時に同一派閥同士の挨拶になっている。これに対してアルマスト派でないことを示すには、先ほどの左手を逆手でなく順手にすれば良い。そうすることによって自分がアルマスト派でないことを礼儀正しく伝えることができる。

ıɲɒıɑlcſ ［魔法］輝水晶、アルマフリート ［アクセント］ıɲɒıɑlЄſ ［レベル］6 jɒ:ıɲɒı/calcſ Л ［文化］ calcſ

ıɲɒıɲɔn ［魔法］アルマ圧 ［レベル］6 Л ［文化］ ɲɔlɒcɥə

ıɲɒıl ［電算］記憶装置、記録媒体、メモリ、メモリの総称 ［レベル］3 1L

ıɲɒılccl アルマ粒 ıɲɑ;/ ［レベル］6 Л

ıɲɒılеſ ［魔法］アルマレット、東洋魔法 ［レベル］3 1L:ıɲſ/ɒılеſ ［文化］ マレットの一族の魔法。東洋魔法。パールの使うディシェント、ファーヴァやレレゾナの使う魔法陣のアゼルに分かれる。

ıɲɒılеſın ［魔法］［ジョブ］東洋魔導師 ［レベル］3 1L:ɲcɑcı

ıɲɒılſɔ アルマート ［レベル］2 古 :「 アルマの匂い 」が原義 ［文化］ アルマ信者が焚くお香のこと。ルヴァンをするときなどに焚く。独特の匂いがするので、鼻の良い者は服についた匂いからすぐアルマ信者だと分かる。

ıɲɒıcn ［魔法］不老不死、不老長寿 ［レベル］3 Л:「神の国」

ıɲɒcuı ［エルトエサール］アルミヴァの十二神 ［名詞］干支 ［組み数字］１２ ［レベル］2 古 :ıɲɒcuı ← ıɲſe/ɒcuı。原義は「 神の子 」。ɒıɲſe と原義は同じ。但し ıɲɒcuı の神はエルトとサールだけを意味する。 ［文化］ エルトとサールの破片から生まれた十二人の神。六人ずつに分かれる。時間や十二方位に彼らの名か略称が使われる。十二時から順にコノーテ、セイネルス、ティーテル、ポエン、ネルメス、クレーヴェル、カルザス、ヴァルファント、ヴァルゾン、ティクノ、フェンゼル、ネプラである。 エルトとサールは互いにいがみ合いながらも数を増やしていく。こうして神の二大派閥がアトラスで形成されていく。こうして一派はエルトと呼ばれ、もう一派はサールと呼ばれ、両者の神々はまとめてアルデと呼ばれるようになった。 ＜誕生の経緯＞ サールの死後、四散したサールの体の欠片が独立したセレスを持ちだした。サールの頭は竜王ティクノになり、右手はライオン・鷹・大蛇を混ぜたキメラのヴァルゾンになり、左手は獣王ポエンになり、右足は黒豹に姿を変える残酷王フェンゼルに、左足は駿馬ネルメスに、残った胴体は剣を帯びた幼女の姿をしたティーテルになった。 サールが大穴に身を投げた頃、エルトはサールを許し、サールを探してセルヴァートにいった。しかしそのとき既にサールは死んでいた。間に合わなかったエルトは絶望すると、セルヴァートに高い塔を建て、その頂上で死んだ。 エルトが死んで暫くすると、ヴァルゾンが塔の上でエルトの死体を食いちぎった。四散したエルトの体は独立したセレスを持つと、頭は剣士ヴァルファントになり、右手は生きた神剣セイネルス、左手は悪心カルザスに、右足は太陽神クレーヴェルに、左足は善心コノーテに、そして胴体は少年ネプラになった 二人から生まれた新たなセレスは互いに相反する力が原因で、対立しはじめるようになった。だが彼らは数が少ないため、互いに交わり子を作っていった。こうして新たなセレスが増殖していった。しかし、時を重ねるごとにサールの血が濃いものとエルトの血が濃いものとの間に目覚しい対立が起こっていった。サール側に属するものは自らをサールの一族と呼び、エルトのそれは同じくエルトの一族を称した。神々は霊界の様々なものを支配していった。植物や物質のみならず、この世に生まれた様々な動物までをも支配していった。

ıɲɒcuılеlſɔ ［娯楽］チェッカー ［レベル］6 1?: 制

ıɲɒcuıɒeɒ ［組み数字］アルミヴァサークル ［レベル］2 Л ［文化］ ɲıdılL

ıɲɒcuıɒeȷdel アルミヴァ結界。１２個の結晶を使う。 ［レベル］5 1Λ

ıɲɒcuıɲeφılınſ ［音楽］アルミヴァの覚え歌 ［レベル］2 Л ［文化］ 制アルカ時代に作られたアルミヴァと方位の覚え歌。Л 年に作り直された。 ・歌詞 ɥəə lɔnɔcɔſe lɔn lcıɲ lɔ jecnelȷ jec ılſc−lcıɲ ſı ſccſel ſel lcıɲ−ılſc uc dɔen den ılſc uıl neɲɒeȷ ɒeȷ aleə−ılſc lcn llеeuel leu ılſc−aleə lcȷ llzıȷ lıl aleə nɔl uıɲaınſ aın ılıȷ−aleə ſen uıɲzɔn uız aleə−ılıȷ lɔȷ ſclnɔ ſcl ılıȷ ɔn aenzel aez lcıɲ−ılıȷ ɔnlɔ nebɲı neb ılıȷ−lcıɲ ıl ıɲɒcuı

ıɲɒcuıɲecn ［交通］アルミヴァ線 ［レベル］3 Л ［文化］ アルナ市を走る地下鉄。１２本の線から成る。ɥeuılſ ～カルテの間を往来する。

ıɲɒe ［生物］染色体、クロムサム ［レベル］4 1?: 制 : 古 :ıɲɔſſbelc ［語法］ 一般には性染色体も含む。また、性染色体の場合、Ｘは ɔɒc、Ｙは zɔɒ という。どちらも古アルカの字形から。

ıɲɒeſcı アルメティア、列強三国 ［レベル］3 J0:ıɲbızıɲɑ/ɒeſcɔ/leſcı ［文化］ ・概要 nɑ から革命まではアルバザード・ルティア・メティオの三列強の総称。 革命後は二度に渡る世界大戦でメティオは疲弊し、代わってアルティアが台頭した。名は ıɲɒeſcı だが、実質そこに含まれるのはメティオでなくアルティアである。 ・詳細 アルバザードは古代はレスティルといい、ケートイアなどを含む地方であった。レスティルはアルテムで神が住んでいたため、世界の中心であった。その後東西戦争アズゲルの西の指導者シフェランがヴェルディア人で、ヴェルディア人の出身がレスティルだったこともあり、レスティルは世界の中心になり続けた。 一方、東の陣営ではマレットの一族を率いるマレティスがシージア人で、シレジアの出身だったため、東ではシレジアが世界の中心となった。シレジアは後にアズゲル末期にリーゼルとルティアに分かれる。このうちルティアが東の世界の中心だった。 また、メティオについては当時はメディアンといい、メディアンは魔方などを含んだ大きな国であった。特に世界の中心ということはなかったが、ɥəəɒı ſ?Λſ1 にバルマージュが開通して魔物被害が増えだしたころから事情が変わる。バルマーユ人は逆境を逆手に取って魔物を飼いならし、魔物を操って戦う人間を育成することに成功した。ɥəəɒı ſ?ſ1] にはシフェランがバルマーユ人の中から竜族を飼いならした竜騎兵を編成し、シフェランはこの竜騎兵を得たおかげで東方遠征に成功する。これによりメディアンは隆盛し、現在の魔方やメティオが中央アルカットの中心となっていった。 このようにして現在まで続く列強の礎ができていったが、三国はいずれも得意とする分野が異なっていた。メティオは多種多様な魔獣兵からなる強大な軍事力を武器としており、純粋な武力では最強であった。一方ルティアはアズゲルでマレットやシフェルの民に代わる代わる蹂躙されてきた土地で、ましてそれが魔法をぶつけあう戦争期間だったものだから、世界中の魔法がこの土地に集まった。ルティアにはこの世のあらゆる魔法が持ち込まれたため、ルティアは魔法の国としての地位を築いた。 一方アルバザードは攻め込まれたことが少なく、文化の混ざり具合もルティアほどではなく、魔獣兵のような軍事力もなかった。つまり魔法も軍事も突出していたわけではなかった。単にかつて神々がレスティルで暮らしていてその恩恵をルカリア貿易などでも維持できていたにすぎず、ほぼ地理的な幸運に恵まれて経済的に強かっただけの国といえる。魔法も武力もそこそこのバランスタイプだったが、それでも列強になれたのは経済的な強さが一番の原因であった。 そんなアルバザードは自国に強みのないことを気にしていたため、アルバー世の学校設立やルシフェル魔法学校やラグナロク工科大学やミスティア錬金術舎に見られるように、自国の強みとして「研究」を打ち出すようになっていった。 こういった研究は技術力を向上させ、アルバザードの歴史を決定的に変えた。結果的にアルバザードは技術力、特に魔法工学で先端を行くようになり、この魔法工学によって魔法や魔獣兵を凌駕する軍事力を得、経済力と合わせて名実ともに最強の国へ成長していった。 ルティアはなまじ魔法そのものの技術力が高かったせいで、かえって学問としての魔法学は遅れ、魔導師各人の技能や経験に頼るところが多い職人堅気な気質であった。そのため個々の魔導師の能力は極めて高く、実戦的であった。 アルバザードはその傍らで魔法を学問として研究した。デスクワークなので個々の魔導師の力はルティア人に及ばなかったものの、結果的にはこれが魔法工学などに導き、軍事力の向上へと繋がった。 とはいえルティアも列強であるからにはやはり技術力の進歩には目をつけており、アルバザードの技術力には慎れと羨望を抱いていた。セルメルになるとアルバザードに追随する形でシグナリオ工科大学やイスフィリア錬金術舎を建てて、学問に励んでいる。セルメル以降はむしろルティアのほうがよく勉強をする国だというイメージを持たれている。 しかしルティア人とアルバザード人には決定的な国民性の違いがあり、技術力はセルメル以降もアルバザードが先端を行くことになる。アルバザード人は勉強したことを応用して技術力を向上させ、新しいことをどんどんやろうという国民性で、チャレンジ精神が旺盛である。間違いを恥と感じず、たとえ感じても気にせず突き進む性質を持っている。 一方ルティア人は学校を建設した際宮廷が学校を管理したことから、学問は貴族の教養という位置づけにあった。技術力の向上はもちろん望むけれども、それは建前で、実際のところは貴族同士の意地の張り合い、プライドのぶつけ合いといったところが大きかった。学問はむしろ教養として学ばれ、間違えれば恥、知らなければ恥という価値観になっていった。さらにルティア人のひかえめで大人しい性格もあって、ルティアでは学問は教養の地位を築いた。その上ルティアは伝統的な国で新しいことをなかなか始めないため、学問を活かして新技術をという風潮にはなかなかならず、「アルバザードがもうあんなに発展したのにまだウチはこれこれもできていないのか！」と識者や官僚が「成功した前例」を掲げることで、ようやく変化が認められる国であった。 この傾向はその後も続き、現代に至る。ルティア人にとって学問はアルバザード人が試行錯誤して作り上げた内容を翻訳して学び、教養として蓄えることだという暗黙のスタンスが確立していた。 その一方で、どんどん次へ次へと進んでひとつの技術を至高まで高めないアルバザード人の代わりに、ルティア人はその輸入した技術を極限まで高めるという性質を持っていた。そのため、アルバザードで開発され、ルティアで高められてアルバザードに再輸入されるというパターンは多い。 アルバザード人にとって勉強は研究で、応用するためのもの、使うためのものという位置づけである。そのため、しばしばアルバザード人は自分の興味のあることしか取り組まず、知識も断片的であることが多い。一方ルティア人は教科書に載っていることをすべて暗記せんばかりの勢いで勉強に励むため、入学試験や期末試験ではしばしばルティア人の学生のほうが高い点を取る。その一部がアルバザードに留学してくるため、アルバザード人にとってルティア人は頭の良い人々だという印象がある。 ナディア以降は三国は軍事力と経済力を背景に植民化を開始。これによりさらに力を付ける。 世界大戦以降、メティオはアルティアに ıɲɒeſcı の地位を譲る。 ミロク革命では独裁者ミロクの強力な力により、三国の中でアルバザードは突出した地位を得るようになる。結果、現代では三列強といってもその間にはレベルの差があり、アルバザードが最も強い国である。次いでルティアとアルティアが来る。 メティオが列強を外れたのは ɲɑ で魔物が消えたのと、世界大戦で連合国に回ったためである。ルティアが下がったのは ɲɑ 以降魔法が消え、しかもルティア独特の伝統を重んじる閉鎖的な考え方で発展が遅れたためである。 ［成句］ ıɲɒeſcı e nıɑcı 群雄割拠

ıɲɒelcſ ［生物］テロメア、末端小粒 ［レベル］6 ul;/「染色体の末端」 Л

ıɲɑ ［言語］古アルバザード語 ［レベル］5 Л

ıɲɑı ［アトラスの国家］アルダ ［レベル］4 古 :ıɲɑı ← ıɲɑə/lı。原義は「 湖の場所 」。ıɲɑı は元はフィンランドだったが、それだと神の ıɲɑcn が地球出身になってしまう。それで ıɲɑı は ıſclıȷ の地名として独立させた。 ［文化］ 面積：Ø1ſ?ŧL.ŧΛ9Λ0Ø9 lɒ 」

ıɲɑıſ ［地球の国名］フィンランド ［レベル］5 1?: 制 :ıɲɑcn

ıɲɑılıl ［アイテム］ファルシオン ɲɑ;/。アルダで作られたことから。 Ø1

ıɲɑınını ［医療］くる病 ［レベル］6 1L:ɲcɑcı ［文化］ ɲɑ で、アルダの赤ん坊に多く見られたのでこの名が付いた。

ıɲɑızɔnı ［音楽］シロフォン ［レベル］4 Л

ıɲɑcȷ ［地学］アンダルサイト 1L: アルデスの宝石 ［文化］ アルデスの宝石で、サールを召喚しやすくなる。

ıɲɑcȷſ ［名詞］王子、プリンス ［類義語］ɒcleɲ、lɔhılə ［反意語］leſcı ［レベル］2 ɑu;ıɲɑeȷ.l 古 :ɲcɑcı:ıɲɑeȷ のアプラウトしたものだが、それだけだと聞き間違えると思ったので「をつけたもの。 ıɲɑcȷſ:ıɲɑcȷſ ［語法］ 王の息子。通常王位継承権１位を指す。

ıɲɑcn ［サール］アーディン ［植物］鈴蘭 ［花言葉］裏切り ［名詞］婚約者（女） ［名詞］マリッジブルー ［レベル］3 古 :ɲcɑcı ［文化］ 鈴蘭を司るサールの女性。サールのラマンから婚約を申し込まれて受け入れた際に、ラマンから魔輪アルマディオを婚約指輪として貰った。ラマンは「 この指輪に私への愛を込め、それから指にはめなさい。ゆめゆめ外してはなりませんよ。愛が逃げてしまいますから 」と警告した。ところが結婚を目前に控え、突如マリッジブルーを感じたアーディンはラマンを裏切ってサール・ミンクに惹かれてしまう。アーディンはミンクが逃げないように婚約指輪を外して婚約済みでないふりをした。しかしこれによって愛の力でアルマディオに封印されていた悪魔アルマが復活してしまう。サールの王アルデスは怒り、アーディンの眷属である鈴蘭に毒を与え、毒の花として追いやった。ラマンも悲しみ、裏切り者アーディンを捨てた。アーディンは自分を呪って人目の付かない山の高いところに隠棲した。それで鈴蘭は高知に咲き、その花は身を隠すように葉が大きいのである。 ユティア家の家紋は逆さ鈴蘭。

ıɲɑcn ɥədcſɔl ［人名］アーディン＝ユピトール 19 ［文化］『紫苑の書』の登場人物。召喚省の

役人。

ıpɑclcl ［魔物］アルディリック（巨菌）：第五天：闇の巨天　［レベル］5　1L:ɹcɑcɪ/jeɹen/ɒel:ıpɑ cjſ/lccl　［文化］蟲族。巨大化した細菌。倒すのは容易だが、細菌をまき散らすので安易に倒してはいけない。完全に密閉された空間や人里離れたところで倒すのが肝要。戦闘中に触れたり息を吸うのはもちろん、風に乗ってくる菌にも触れないよう、常にユノを燃やし続けて戦うこと。

ıpɑcɪ ［名詞］アルディア、神の夢　［レベル］4　制　［用例］ſıɑ ıpɑcɪ hɔſ φıμſ cl. 全てを犠牲にして神の夢を手に入れる。　［語法］［文化］ → ɔllefˈ, jellefˈ

ıpɑcɪnəj ［歳時記］小満　［名詞］8 時　［組み数字］8 ／ 2 4　［レベル］3　J0: → ınlcın　［文化］ınlcın

ıpɑcɪl ［地名］アルディアル　ɒelſcı Lᴾ jen ucı:ljɑ;ıμ（神）/ɑcı（土地）/ıl（もの）。「神のもの」　［レベル］4　J0:ɹcɑcɪ:ıμ（神）/ɑcı（土地）/ıl（もの）。「神のもの」　［文化］古代国家のひとつ。ルカリアの東。　神が支配したという意味でなく、神懸かった土地と褒め称えたものにすぎない。不毛な土地なのでせめて名前だけよいものにしたという古代人の心理。

ıpɑej ［サール］アルデス。サールの王　［魔法］召喚魔法アルデス。キルセレスを使った居合いの一撃、闇の魔法などを浴びせる。　［レベル］2　pſ100'Δ000(uj):dɔen;　μcɑcı: 古　［文化］ティクノとポエンの息子。闇を支配する。ダルケスのセレスを得たことによりサールの王となる。黒髪で長くも短くもない男の髪で中肉中背の美青年。剣を帯び、間接部や肩部などに軽く魔法を込めたアーマーを身に付けている。背中にはマントを付けている。白黄混血で力強い男の顔立ちであるものの、全体としては整った美しい顔立ちをしている。情に厚く真面目で、ティクノに似ている。

ıpɑejhɔ ［生物］脛骨　［レベル］5　JJ: → elſhɔ

ıpɑejhɔɔcuφɔſ ［生物］脛骨内側顆　μɑ;/　JM

ıpɑejhɔɔcuφɔſlclɔɔz ［生物］脛骨内側顆下縁　μɑ;/　JM

ıpɑejhɔɔclſ ［生物］脛骨粗面　μɑ;/　JM

ıpɑen ［名詞］アルデン。男のエタットのうち、男らしいほう。　［音楽］バリトン　［レベル］2　1ſ: 制 :ıpɑej　［文化］典型的には、正々堂々としていて男気にあふれ、正義感があって快活で運動神経の良い男性。

ıpɑenφıſ ［化学］テストステロン　［レベル］5　ul;/「勇敢な男のホルモン」　JJ

ıpɑeφınſ アルデガント研究所　J0　［文化］ɥəəɒı 9OJſ イクスタン、ヴェマに ıpɑeφınſ 研究所を設立。イシリウスの研究に当たる

ıpɑel ［地名］あの世、冥界、冥府、ポルデル　［反意語］le1ıc　［レベル］2　古:μcɑcɪ:ıμſe からか。アティーリが原型のころ、アルデは漢然とあの世にいると思われていた。ゆえにあの世をアルデの世界と捉え、ıμſe から名付け、ıpɑel としたのだろう。そして ſoɪɪɹμə はその中の一つの場所と捉えられていたのだろう。　［語法］［文化］ → le1ıc　トワーユとラティアの総称。　| 約 1?9 億年前 |ıμɒı が爆発し、ıpɑel と le1ıc という J つの空間と、ıμſe という存在が生まれる。物理的には初期宇宙（陽子、電子、中性子そして原子核、原子が生成され、それから恒星とクエーサー、銀河、銀河団、超銀河団が形成）。まとめ：アルマは最初のエネルギー、それが存在した無名の空間が最初の空間、最初の存在がアルテで、実体は白い球 |

ıpɑelın ［名詞］あの世の住人、死者　［レベル］3　J1

ıpɑə ［エルト］アルドゥ　［名詞］湖　［形容詞］～湖。前置。　［レベル］2　ɒelſcı 1ſ:ɥəəɒı;e μcɑcɪ: 古　［文化］ejſı　湖を司るエルト。ユーマとドゥルガの息子。妹と知らずにエスタと結婚した。　アルドゥはドゥルガを受け継いで金髪碧眼の白人系美青年。

ıpɑə ıμɒı　アルドゥ＝アルバ、名無しのごんべい　［レベル］3　古　［語法］ɥəəɒı ləſcı

ıpφıſ ［魔物］アルガルト（審判門）：第八十六天：利の巨天　［レベル］5　1L:μcɑcɪ/jeɹen/ɒel: 魔法の門　［文化］憑族。口を開けた巨大な魔物で、中は異次元につながるトンネルになっている。獲物が入るとアルガルトは口の中の世界に、獲物が望む夢の世界を作る。そして徐々に口を閉めていく。獲物が欲に負けると逃げ遅れ、口が閉まり、途端に景色が魔物の胃袋の中になる。そこは薄暗く、未消化の先輩諸氏がおり、地獄絵図と化す。だまされたと思ったころには遅く、緩やかな死が訪れる。

ıpφıſlΘɔ ［天文］ミラ　［レベル］6　1L:μcɑcɪ/jeɹen/ɒel　［文化］アルガルトの口。閉じたり開いたりするので、見えたり見えなくなったりする。

ıpφıſcnɟ ［天文］メンカル　1L:μcɑcɪ/jeɹen/ɒel　［文化］アルガルトの目。

ıpd ［名詞］ホチキス、ホッチキス　［レベル］2　1ſ: 制 :ıpl/dcnɑ　［用例］ıpl ɔɔn ıpd ホチキスで止める　ıpd lınʔhıl e jeɒıɟ 書類の左隅にホチキスをかける

ıpdμɔſ ［電算］電子出版　［反意語］ɒıɟdμɔſ　［レベル］5　JJ

ıpbı ［地名］アルバザードの略称　［人名］アルバ。アルバザード王のこと。　［レベル］1　［レベル］2　古 :ıpbɪzɪɪɑ から　［文化］ɥəəɒı 9ΠΔ9 ハーネ、息子の ıpbı を授かる

ıpbıɹelſ ［ユマナ］アルバシェルト　［レベル］4　古 :μcɑcɪ　［文化］リディアによる主にアルバザードの文化について述べた書物。制のころは聖書の 1 冊だったが、日本人向けに訳されたことから、アトラスにあるはずのない本になり、２００８年の新生化では聖書から外れた。当初は新生訳が試みられたが、辞書とアルバシェルトの二度引きが面倒という理由で日本語のまま幻日辞典の文化欄に統合された。

ıpbıjcl ［政治］アルバシール、幻司　ΠJMls:jeɹen;ibμzɪμɑ/jcl「アルバザードの守護」　JM

ıpbıjeſı ［名詞］アルバザード史、幻国史。科目名。　［レベル］5　μɑ;/　JM

ıpbın ［名詞］アルバザード人　［レベル］2　古　［文化］・概要　　トール人と世界各国の人種の混血。分布は主にアルバザード。世界一の経済力を誇るため、国外に去る人より外国から来る人のほうが多い。　混血率が高いため、免疫に優れ、容姿にも優れている。基本的にはトール人なので、華奢で腕力が弱く、細身で中背。フレティス人より小柄。混血化が進んでいるため、同じトール人でも、アルバザード人のほうが大抵ケートイア人より大きい。　アルバザードの男子平均は 1?ſıb, ᴾ0b（１７０ｃｍ６２．５ｋｇ）。女子平均は 1ΔIb, Π0b（１６０ｃｍ５０ｋｇ）。ケートイア人より 1 ｃｍわずかに大きい。　アルバザード人はしばしばフランス人に似るが、国民全体が粗食なため、現在のフランス人ほどには大きくない（数十年前のフランス人と同じ体格）。　フランス人は現在平均１７６ｃｍだそうだが、それはないだろう。実際そんなに大きくなかった。黒人とゲルマン人で平均値を底上げしているからだろう。恐らくフランス人自体は今でもアルバザード人と大差ないはずだ。　・合理主義　事実上 jp からアルバザードが始まる。このときルティアは魔法、メティオは魔物、その後アルティアは武士という強みをそれぞれ持つようになるが、アルバザードだけはこれといったものがないのが弱みであった。　持たざる者であったアルバザードは征服されまいというハングリー精神を発揮し、何とかお家芸を持とうとした。ところが魔法の土壌はないし、魔物の飼いならしもできていない。武士のような遺伝子もない。　そこでアルバザードは学問を重視した。勉強して這い上がるしかなかった。ルティアが学問を嗜みとして行う一方、アルバザードは必死に使える学問を研究した。何よりも役に立つこと、実利に繋がることを必死で追い求めた。　その結果、魔法の素養はルティアに劣るものの、魔法学を大成するに至った。最初はほとんど成果の出なかった魔法学だったが、アルバザードは基礎研究を怠らなかった。基礎研究の先にこそ実利があると信じ、耐え続けた。　それが実ったのがグレアである。ケートイア軍を追い払ったとき、アルバザードは生まれ変わったといってよい。その後アンジェルや錬金術が発展していくと、もはや持たざる国は最強の国に変貌していた。　食うや食わざるやの民にもできるだけ教育を与え、学者を優遇し、貧しくとも学者になれば人生を逆転できる仕組みを社会が支えた。ルティア人が「学問は貴族が受けられる特権のひとつ。平民が学問をやるなど何と生意気な」という社会を構成している横で、アルバザードは万人にチャンスを与え、上から下まで一丸となって頑張り続けた。その苦渋の日々の結果がこれだ。　アルバザード人はこの歴史の過程で合理主義を体得した。体験よりも実利を取る。芸術よりも実利を取る。まず何においても合理的であることを良しとする国民性はこうして培われた。

ıpbın(J) ［ユマナ］中東や小アジア　［レベル］4　古

ıpbını ［地球の国名］イスラエル　［レベル］5　1ᴾ: 制

ıpbınclſı ［企業］アルバニシュタ　［レベル］2　J1　［文化］ＮＨＫに相当する企業。

ıpbıɒɥəſıμɔɔμlıſı ［地学］アルバザード中心の正距方位図法　J0　［文化］アルバザードのアシェルフィ（北緯４６°西経０°）を中心とした正距方位図法。　アルバザードから任意の点までの大圏コースを求めることができる。　例えばアルバザード発の飛行機が最短で各地に行くにはどこを通ればいいかと考えるときに用いる。　よってアルバザードのＪＡＬに当たる企業などが利用することになる。

ıpbıμen ［言語］古アルバザード語、アルバレン、幻国語。幻語はアルカで幻国語はアルバレン。　［レベル］2　J0　［文化］elɑjeſı　●概要　　名称：ıμ（アルバレン）　系統：アテン超語族　ユーマ語族シフェル亜語族リュディア超語派レスティル語派西レスティル語群（ıſenıɒıſ, ɥəə ɒıeɒcſ, lcɑeμɑcıɒ, lɥəɑcıɑɑıl, lejſclleſeɒ, ılıjlejſclıſıſl）　使用年代：jɒ_ls　分布：アルバザード、カレンシアなど　話者：アルバザード人、カレンシア在住の元アルバザード人など。μɑ 以降は ı に押され、時代を追うごとに話者が減少。ıl 以降は地方の農村部などにひっそりと残るに留まる　類型：ＳＶＯ、ＮＡ、Ｐｒ　認知様式：客観的把握→二重把握：ıμɑ の頃に凪霧の影響で変化　　レスティルがアルバザードに改名されたため、言語名もそれに合わせて変化したもの。従って基本的には lj と同じ。　●語順　　ＳＶＯのみ。　ıμbı ɑcſıſ heμen（アルバ王はリンゴを与えた）　ſjənʔ を使ってイントネーションを変えることでＯＳＶを表すことができる。ſjənʔ の後にはポーズが入る。　heμen, ıμbı ɑcſıſ（リンゴを、アルバ王は与えたのだ）　ＳＯＶやＶＳＯなどの語順は表現できない。基本的に英語と同じ。　主格と対格の語尾は失われている。　●修飾　　lj と同じＮＡ。　uclə le ʔlc（大きな男）　bɪɔφ he ucuc（強く殴る）　●属格の消滅　　属格がなくなり、ʔlenɔ を使うようになった。　lj でできた e は μɑ に入ると頻度が増えていった。ただし ı と違い、e は母音の前でも ʃˈ にはならない。　lejſcl ʔlenɔ ɑıcz（レスティルの王）　nɔn ʔlenɔ hıɑɒı（私の勇者様）　ɑıcz e ıμbɪzɪμɑ（アルバザードの王）　●関係詞　　lj と同じ。　ʔlıloɪcz μɔɔ lejſcl ʔlenɔ ɑıcz ʔələləſ（レスティルの王が建てた国）　関係詞節内の前置詞が残存するようになった。　ʔlı lɑıcz μɔɔ beſe ɑcıjcſ ʔlıl（メテが生まれた国）　●前置詞　　lj と同じくＰｒ。　jɔə lıılſɔſ ʔlıl ıμbɪzɪμɑ（彼はアルバザードで死んだ）　●連体詞と代名詞　　ıμɑ で「こ・あ」の二段階に戻る。　連体詞は前置のまま。単語も lj と同じ。ただし fən（これの）と Tən（あれの）は属格の消滅とともに消えている。fə ʔlenɔ, Tə ʔlenɔ とする。　「この、これ」fə「あの、あれ」Tə「これの」fə ʔlenɔ「あれの」Tə ʔlenɔ「彼」jɔə「彼女」ʔləə　男女が分かれている点でアルカと異なる。　遠近では分けないので lə と lı の違いはない。　副詞の一部、μe や ɒc なども lj 同様前置。　●数　　lj と同じ。ただし１０の fɔ は ıμɑ では fɔɔ になり、２３の dıμıɑcz も消滅→ jcɑıll　●助動詞（エクスプローダー）　lj の基本語順はＳＶＯだが、助動詞が付くとＳＯＶ語順に変わる。　一方 ıμ では助動詞が付いてもＳＶＯのままである。基本語順のＳＶＯ化が統語システム全体に広まったと見てよい。　ıμɑ_ıμʔ(jɒ_μɑ) までの間に爆発的に増えた。μɑ の最初のほうでほぼ出揃っている。副詞と違って動詞の後に he を伴わずに使う。　助動詞の数が増したことで、複数の助動詞をひとつの動詞に繋げる機会が増えた。そのため動詞と助動詞、助動詞と助動詞の間は – で繋ぐ。　ın ʔəc–ɒıl heμen（私はリンゴが食べたい）　jɒ 後期にかけて二重把握により主観的把握が入ると位相の活発化により、助動詞に男性形と女性形が生まれ出す。たいていの場合、それまでのものが男性形で、女性形が新たにできた。音を弱めて女性形とするものもあれば、ɒıl に対する lın のように lΠ（lın 自体は jzɑ。借入時期が lΠ という意味）などの外国語から取ることもあった。　nɔn ʔəc–lın heμen（私はリンゴが食べたいわ）　●人称代名詞　　主観的把握を獲得したものの、爆発的に増えるのは ı から。　●敬語　　敬語は助動詞に尊敬や謙譲や丁寧を指すものがある。助動詞で示す。　例えば丁寧は男性は ∀∀ſı、女性は ∀∀nɔ となる。動詞が ʔəc なら直前の幹母音が ə なので əəſı ないし əənɔ になる。　nɔn ʔəcſ–əənɔ heμen（私はリンゴを食べました）　●疑問文　　lj と同じく助動詞の nɔ を使うが、lj と違って語順がＳＶＯのままになる。　ſcj ʔəcſ–nɔ heμenθ（君はリンゴを食べたの？）　●否定文　　助動詞 ɑen を前置。ハイフンなし。　ɑen ʔeſſı（行かない）　●命令文　　μe や ɒc を使って表す。μe や ɒc も助動詞の仲間なのだが、前置され、ハイフンはいらない。一方、命令の度合いを弱化させる ɒ にはハイフンが必要に。　命令文の表現に関しては ɑu_lj まで通して変わっていない。ıμ では助動詞の増加に伴って μe の位置などいくつかの点で変化がある。　ɑu 命令：μe ʔə（言え）　敬意命令：ɒc ʔə μe（仰いなさい）　依頼：μe ʔə ɒ（言って）　敬意依頼：ɒc ʔə ɒ（仰ってください）　禁止：nı ʔə（言うな）　敬意禁止：ɒc ʔə nı（仰らないで）　禁止依頼：nı ʔə ɒ（言わないで）　敬意禁止依頼：ɒc nı ʔə ɒ（仰らないでください）　ıμ　命令：μe ʔə（言え）　敬意命令：ɒc μe ʔə（仰いなさい），ɒc μe lınſe（返事をしてください）　依頼：μe ʔə–ɒ（言って）　敬意依頼：ɒc ʔə–ɒ（仰ってください）　禁止：nı ʔə（言うな）　敬意禁止：ɒc nı ʔə（仰らないで）　禁止依頼：nı ʔə–ɒ（言わないで）　敬意禁止依頼：ɒc nı ʔə–ɒ（仰らないでください）　●テンスとアスペクト　　lj と同じ　●時制の一致　　ɑ から通して ı と同じシステム　●ſce_ʃən　ʔeμ_ʃə である。　jɔə ʔəſ ʔeμ ʔəə ʔəc heμen（ʃə）（彼は彼女がリンゴを食べたと言った）　●舞台裏（音の変遷）　→ lılcſ　一般に言語学的には単語と音では音のほうが変化に時間がかかる。「た」は１５００年前でも「た」と発音されていた。　数百年の間に音韻が変化するかどうかは、変化することもあればしないこともあるが正しい。　全言語変化させないと面倒で作らなかっただけの印象を与えるし、全言語変化させると変化させないとサボっている感を指摘されそうで無理に変えた感がある。そこで現実的にはバランスを取って変化させる言語とさせない言語を作るのが良いだろう。　幻字、理字、アルハノン、つまりアルカ、ルティア語、メティオ語については変化させた。一方神は成員が変化しないので ɑu は変化しなで、これはむしろ当然。そして変化させない言語としてアルバレンを選択。これはアルフィが実質的な宗主国で神との繋がりの強い言語であったというところから導いた。　ただし響字ができた zφ から μɑ の間までは地球換算で１５００年ほどあるのにまったく変化がないのは妙だということで、多少変えた。例えば日本語もほとんどの音が１５００年前と変わっていないが、「は」が p から h になったり、母音が減ったりと一応の変化はしている。その程度にはアルバレンも変えたほうがリアルだろう。とはいえ神の問題があるため、位相を作って上方は音を保存させ、庶民は音を保存させず、位相による音の違いというある地域での英語のような造りにした。　とはいえ読者は庶民のほうと上方を個別に覚える必要はなく、日本語で文献上残っているのが貴族の言葉で庶民の言葉がよく分からないのと同じように、文献的な事情から歴史的に確認できるのは当然上方なので、読者としては ɑu のつもりで ıμ の音を捉えればよい。つまり ı に古子音４を足しただけで考えればよいし、読みも素直に幻字の転写読みでよい。　ほかの言語の音の変化については ſcıμen,ıμʔı などを参照のこと。

ıpbɪzɪμɑ ［アトラスの国家］アルバザード、幻国、竜国。アルカ発祥の地のため、幻国と訳す。幻語はアルカで幻国語はアルバレン。トール人の国なので竜国とすることもある。　［レベル］1　ʔlʔɔ → ıμbɪzɪμɑ(J)　［文化］ → cjſɔlncɑ, ıflıʔlıɑ　・国土　　本土面積：1O?ᴾ?2Π.Π?5O?9 ʔɒ J：他国の面積同様、湖を含む。具体的にはエアリス湖などを含んだ面積。　ıφecſ 島面積：ᴾᴾΠL?.?ΠΠᴾ?JJ ʔɒ J　eılcj 湖面積：J?ᴾL.ΠΠLΠL? ʔɒ J　総面積：11?11?O.Δ1 ʔɒ J　フランスの面積が ??J,ᴾᴾL ʔɒ J なので、約２倍弱。　1,1Π1,ᴾΠΔ ʔɒ J のコロンビア（世界２６位）とほぼ同じ。　・経緯度　　フォトショップを使って正距円筒図法における東西南北の端点の座標を求める。　その後、取得した座標から下記の計算によって正確な経緯度を算出した。　小数点第二位まで算出したのに西端点が西経 L.ΠΠ という綺麗すぎる数値になったのには驚いた。　西端点：北緯 L0 – ((ᴾ0J / JΠΠΠ) × 1Δ0) = ΠΠ.ΔJ　西経 (–L0) + ((LΠΠ / ΠΠΠΠ) × ?ſ0) = –L.ΠΠ　東端点：北緯 L0 – ((ᴾ?9.ᴾ / JΠΠΠ) × 1Δ0) = ?Δ.L.JᴾΠΠ　東経 (–L0) + ((1ΠΔſ / ΠΠΠΠ) × ?ſ0) = 9.ᴾΠ　北端点：北緯 L0 – ((ᴾLL / JΠΠΠ) × 1Δ0) = ?ſ.ΠL　東経 (–L0) + ((1ΠΠJ / ΠΠΠΠ) × ?ſ0) = 0.1Δ　南端点（本土）：北緯 L0 – ((ᴾLL / JΠΠΠ) × 1Δ0) = ?ſ.ΠL　西経 (–L0) + ((L?1 / ΠΠΠΠ) × ?ſ0) = –J.ſ1　南端点（ıφecſ）：北緯 L0 – ((ſΠL / JΠΠΠ) × 1Δ0) = ?ᴾ.1L　東経 (–L0) + ((1ΠᴾJ / ΠΠΠΠ) × ?ſ0) = Π.ſΔ　・東西南北距離　　南北距離（本土）：(ΠL..J? – ?ſ.ΠL) × (ΠΠ ΠΠΠ / ?ſ0) = 1ΠJſ0 ʔɒ　南北距離（ıφecſ）：(ΠL..J? – ?ᴾ.1L) × (ΠΠ ΠΠΠ / ?ſ0) = 1ᴾJ0 ʔɒ　東西距離：((9.ᴾΠ + L) / ?ſ0) × ΠΠ ΠΠΠ × ʔɔʃ(((ΠΠ.ΔJ + ?Δ.L.JᴾΠΠ) / J) × ɑeφ) = 1?Δᴾ.0ᴾᴾᴾ1 ʔɒ　・東西距離はどう算出したか　　正距円筒図法では南北距離は縦のピクセル長がそのまま距離になる。　一方、東西距離は緯度が異なると、同じピクセル長の横線（緯線）であっても実際の長さが変わる。　例えば赤道上で横線の長さが ΠΠΠΠ ピクセルだったら Π 万 ʔɒ になるが、北緯４５°だと同じ ΠΠΠΠ ピクセルでも実際の長さは Π 万 ʔɒ を √2 で割らねばならない。下記は計算例。　ΠΠ ΠΠΠ × ʔɔʃ(ΠᴾΠ ɑeφ) = JΔ JΔΠ.J9ᴾJ　ΠΠ ΠΠΠ / √(J) = JΔ JΔΠ.J9ᴾJ　このように、ʔɔʃ(ΠᴾΠ の場合、つまり北緯 ΠᴾΠ の場合、緯線 ΠΠΠΠ ピクセルは ΠΠ ΠΠΠ / √(J) = JΔ JΔΠ.J9ᴾJ ʔɒ に等しくなり、√2 で割る必要がある。　このように、正距円筒図法において東西距離は緯度によって同じピクセル数でも実際の長さが異なる。　そこでアルバザードの場合、西端点と東端点の緯度の平均値を取り、その平均緯度における西端点の西経から東端点の東経までの距離を算出することで東西距離を割り出すことにした。　理論式：(経度差 / アトラス一周分の経度)× 赤道周長 × ʔɔʃ（平均緯度）　計算式：((9.ᴾΠ + L) / ?ſ0) × ΠΠ ΠΠΠ × ʔɔʃ(((ΠΠ.ΔJ + ?Δ.L.JᴾΠΠ) / J) × ɑeφ) = 1?Δᴾ.0ᴾᴾᴾ1 ʔɒ　なお、西端点と東端点の平均緯度は (ΠΠ.ΔJ + ?Δ.L.JᴾΠΠ) / J = ΠΠ.ᴾ9Jᴾ。北緯 ΠΠ ほどである。　北緯 ΠΠ.ᴾ9Jᴾ のときの緯線 ΠΠΠΠ ピクセルの実際の長さは ΠΠ ΠΠΠ × ʔɔʃ(((ΠΠ.ΔJ + ?Δ.L.JᴾΠΠ) / J) × ɑeφ) = JL ᴾΔᴾ.J9LL ʔɒ である。　北緯 ΠᴾΠ のときの緯線 ΠΠΠΠ ピクセルの長さが ΠΠ ΠΠΠ × ʔɔʃ(ΠᴾΠ ɑeφ) = JΔ JΔΠ.J9ᴾJ ʔɒ なので上記と近似しており、立式のミスはない。　このことからアルバザードはわずかに縦長の国だと分かる。　正距円筒図法だと横長に見えるが、北緯４５だと ΠΠΠΠ ピクセルあったとしても実際はその√2 分の１の長さしかないため。　・概要

アトラス最強の国家。地球だと地理的にフランス周辺に相当する。アルバザードはアトラスの中心国家であり、最大の軍事力と経済力を有する。ここではアルバザードの首都であるアルナを中心に述べる。アルバザードは北緯四十～六十ほどのところにある。アルカット大陸アンシャル地方に位置する国で、南はテージュ海に面し、それ以外は地続きになっている。全体として平坦な低地であり、海面から二百ｍほどのところにある。山は少なく川が緩

やかに流れている。プレート面の境界にないため、地震も少ない。首都アルナはテージュ海から北に行ったところで、北緯五十度ほどのところにある。　テージュ海は偏西風の転向力により南西風が吹いているが、アルバザードに入ったところでは北東風が吹いている。海と陸の比熱差によって、夏はテージュ海の冷たい空気が偏西風に乗るので冷涼である。冬はテージュ海の暖かい空気が偏西風に乗るので温暖である。いずれにせよテージュ海の湿った空気が流れるため、年間を通じて乾燥しない。テージュ海から大陸に風が入ってくるため、舟で沖に漕ごうとすると自然と引き戻され、そのことが漁業の発展を妨げた原因の一つである。その反面、沖へと流されないので遊泳には向き、安全である。　風力は年間を通して穏やかで、台風は発生せず、大風が偶にある程度である。アルバザードの気候は西岸海洋性気候区である。テージュ海近辺はＣｆｃ区であるが首都アルナの近辺はＣｆｂである。したがってアルナは年中多雨で最も暖かい月の平均気温は二十二度以下で、月平均十度以上の月が少なくとも四ヶ月ある気候区である。　アルナは全体的に暖かく、気温の変動も激しくない。平均気温の最も高い月と低い月の差、即ち年較差は十度強である。最も高い月が二十度弱であり、最も低い月が五度ほどである。また、その日の最高気温と最低気温の差である日較差も小さい。　降水は平均して雨があり、春夏に最大値を取る。とはいえ降水量は月ごとに変化があまりなく安定している。年間降水量は八百ｍｍほどであるが、降水量の月ごとの較差は十ｍｍ程度と極めて安定している。　自生する植生は主なものが常緑針葉樹林と落葉広葉樹林の混合である。アルバザードに自生する植生の種類が少ないため、輸入した植物が多く育てられている。レイユ以降は本来アルバザードになかった植物もふつうに見られる。　土壌は基本的に褐色森林土であるが、冷涼かつ分解しにくい樹種の下ではポドゾルが見られ、灰色の土が見られる。降水が確保できるところは土壌が中性か弱酸性だが、降水量が少ないところでは土壌は中性か弱アルカリ性である。　伝統的な生活手段は半農半牧である。農業では主に小麦を作る。アルナでは主に小麦が作られた。アルバザードの北部にある都市アルシアややアルバザードの北国ケートイアでは大麦が良く取れ、ビールが豊富である。　一方、テージュ海に面する大都市であるカテージュは地中海性気候であり、ここでは果樹園が多く、オレンジやオリーブ、ブドウなどが栽培される。アルナでも比較的少数であるがこれらが栽培された。ブドウからはワインが作られ、ここでは良く飲まれる。アルナでもこれらの影響によってワインとビールが多飲される。　ところが、アルバザードの土壌は地味が少ないため、小麦の連作は行えない。農業だけでは十分な食糧を確保できないため、牧畜も行われた。牧畜に適した家畜は牛や豚である。牛は肉牛や乳牛としての価値があり、更には農耕用としても使われた。また、牛を利用した酪農も行われていた。　一方、漁業はあまり行われていない。カテージュでは多少の漁業が行われているものの、基本的にテージュ海は肥沃でないため、漁業は発達していない。

ɪpbɪzɪpɑ(J)　［ユマナ］アルバザード。一時期、リディアら使徒が一緒に住んでいた地域のアルカ名　［地名］メテの使徒ワルマの支配地　［地名］『ミールの書』で、ミールが住んでいる国の名　［地名］『小説版アンクノット』で、アシェット全員が住んでいる国の名　［名詞］［メタファー］何でも物が揃っているところ、色々雑多なものが混ざり合っているもの　［人名］セレン（ɟeɥen）、ルシア（ɫəlcɪ）、リディア（ɟɥɑcɪ）のアルカ姓　［レベル］3　ˈɪɪɔ: 古（嫌なところ）。カコにおいて何が「嫌なところ」なのかは不明。なお、「アルバザード」という音訳についてはセレンが９０年代前半の中学時代にこの単語を耳で聞いて「アルバザード」とノートに書き記したのが今でも使われているだけのことである。アルバザードは「嫌なところ」という意味だが、古アルカまでの神話設定では竜のような強い魔物がたくさんいて嫌なところという意味を持っていた。実際、アルバザードの幻字は竜の顔の象形文字である。新生の天球図では竜は北半球の低緯度に存在するため、アルバザードの緯度ではない。新生では意味が少しずれてしまった。ただ、竜を否天以北にすればアルバザード＝竜の土地になれたが、lcbeeze などソームの小型化したものが竜より弱い設定は考えづらいし、８，９階の魔族は竜やソームといった設定上の縛りを外して自由に創作したかった。そのため竜は７階でなく６階に落ちる必要性があり、古アルカの幻字の語源と合わなくなってしまった。ただ、竜はアルバザード以北のヒュートで飼いならされていることと、アルバザードの真南にはミュール（ヴァステで滅ぶ）しかないことを考えると、竜がアルバザードに北上するのは当然といえる。そこで、アルバザードの字の語源が竜であることの説明は可能。

ɪpbɪselcn　［アイテム］アルバジェリンの槍、アルバジェリン　ls:ɪɥeɟ/lɑeɟ;ɪpbɪzɪpɑ/selcn　JM

ɪpbɪld　［企業］アルバルプ　［レベル］3　J1　［文化］日本郵政に相当する企業。

ɪpbɪlec　［言語］アルバザード方言、アルバレイ、幻国方言　［レベル］2　J0　［文化］国際語となっている世界最大の言語。ɟɥ で作られたアルカをそのまま受け継ぐもので、あらゆる方言の中で最も純度が高い。

ɪpbclеɔ　［アイテム］アルビレオ　［レベル］4　ɟɥ:ɟcɑcɪ;lʃ「神の雷鎚」　JM:ɟcɑcɪ　［文化］　→ φel　ヴァストリアの１つ。セレンのもつ拳銃。

ɪpbel　［武道］アルペール、アルバザード式戦闘術　［アクセント］ɪpbEl　［レベル］3　J0:ɪpbɪzɪpɑ/ɥəuel　［文化］　ユペールの一種。攻めを主体とする戦闘術。ɟɥ でアシェットのアルシェが開発した戦闘術で、打突部分は主に急所。訓練の場合はガードを付けたり、寸止めをしたり、打つ場所を変えたりする。アルバザードでユペールというとこれを指す。守ることよりも倒すことを主眼とした戦闘術。徒手の場合、空手などのストライクと、柔術などの投げや関節を取り入れた総合格闘技に近いスタイルである。武器の場合、伝統的には剣やナイフ、また銃の扱いを履修する。

ɪphɪn　［人名］アルハン　［組み数字］2 / 6　［レベル］3　古 : 神を広める　［語法］　ヴァノンの２番目。男性。外交担当。

ɪphɪnɟcz　［魔法］タンタル板、雄晄板　［レベル］6　J1　［文化］　ɑɔlɔcɥə

ɪphɪnlcl　［化学］タンタル　［レベル］6　1Δ: 制

ɪphɪɑ　［化学］ペーハー、ＰＨ　［レベル］4　1L: 水素イオンの累乗の指数

ɪpzɔn　［魔法］［アイテム］ロッド、杖、魔法の杖。武器として使用するロッドや杖。　［類義語］ɪuelеf、zɪɒɔn、zɔn　［レベル］3　ɟɥ:ɟl/zɔn　1L: リディアの書 :ɪpfzɔn　［文化］　ɪuelеf は黒魔道士の持つ金属製の杖。黒魔法の効果を高める。儀式的に聖水で清められてある。　zɪɒɔn は白魔道士の持つ木製の杖。白魔法の効果を高める。儀式的に聖水で清められてある。　ɟɥ になると ɪpzɔn という単語ができ、ɪuelеf と zɪɒɔn の総称を意味するようになった。ただし ɪpzɔn というと ɪuelеf を想像することが多く、zɪɒɔn の場合は ɪpzɔn でなく zɪɒɔn という確率が高い。従って完全な意味で総称にはなっておらず、ɪuelеf の類義語という側面も見られる。

ɪpzen　［ユマナ］［電算］リナックス　［レベル］5　1ʔ: 制 :ɪɥɑczеlеnʃ（フィンランド基本ソフト）。リナックスがフィンランドの大学院生リーナス＝トーバルズによって作られたことから。

ɪpzed　［電算］ＣＰＵ、中央演算装置　［レベル］4　1L:ɟɥəə: 制の lɔɟzedɪɥ を廃して

ɪpɪs　［生物］人差し指、示指　［レベル］2　1L:ɪɥʃsc（魔法の指）。魔法使いが人に魔法をかけるときに人差し指で相手を指すことから。なお、黒魔法などは手を開いて打つことがある。指を指すのは眠らせるなど、補助魔法が多い。　scsc:

ɪpoɪnʃ　［名詞］聖杯　［名詞］［ユマナ］トランプのハート、ハート　［名詞］ハートマーク　［レベル］4　古 :ɪɥ/oɪnʃ　［文化］　→ ɪɪnʃe　メルセルの水鏡を入れる器。この場合は横に広い。　また、婚礼に使うワイングラス形の杯も指す。グラスに聖水を満たし、互いに一口飲んだ後、互いの手を交差させて水を飲ませあう儀式で、これをもってアルバザード人は婚姻成立とする。　聖杯を意味する幼字が塩を意味する幼字と同形なため、アトラスでは聖杯をハートマークとしている。日本でいうラブラブやうきうきなどの意味には用いない。その場合は lɪnʃe マークを用いる。

ɪpɪɪnʃɪ　［娯楽］ノンプレイヤーキャラクター、ＮＰＣ　［レベル］5　J1:「機械が操作するキャラ」

ɪpɪcl　［化学］水素　［レベル］4　1Δ: 制

ɪpɪec　［名詞］電子書籍　［類義語］lec　［反意語］ɒɪɟlec　［レベル］3　J1:ɪɥ/lec　［文化］　電子立ち読み制度がある。各アンセのＩＤごとに各冊１０分ずつ読むことができる。毎月リセットされるので、翌月になれば同じ本をまた１０分立ち読みできる。購入はアンセやレイゼンで。

ɪpɪəɔ　［化学］炭化水素　［レベル］5　1L: 炭素と水素からできた化合物の総称であって、炭化物ではないので、əl を付ける必要はない。

ɪpɪſ　［建築］くさび、楔　［レベル］4　1ʔ: 制 :ɟɪɑ:ɪpɪ(つなぐ) から　［用例］　eu ɪpɪſ　楔を打つ

ɪpɪſhɔ　［生物］篩骨　ɟɥ;/　JM

ɪpɪɪ　［格詞］～の向こう側へ、～の向こうへ　［レベル］2　J1

ɪpɪɟ　［建築］ちょうつがい、蝶番　［レベル］4　1ʔ: 制 :ɟɪɑ:ɪpɪ(つなぐ) から

ɪpɪpɪ　［化学］水素結合　［レベル］5　1L

ɪpcſ　［名詞］清涼飲料水、ジュース　［類義語］ɪne　［反意語］ɟcſ　［レベル］2　ſɒ;ɪl/ɟcſ「アルコールを含まない」　JP

ɪpcɪɪ　［名詞］きずな、絆、キズナ、縁、えん、ゆかり、かすがい、ゆかり、えにし　［レベル］3

ɟɒ;ɪɟcɪɪ,ɪlſ(ɪpɪ),ɪpcɪɪ)　J1　:::ɪpcɪɪ

ɪpcɪɪl　［名詞］きずな、絆、キズナ、縁、えん、ゆかり、かすがい、ゆかり、えにし、縁　<>ɪpɪ

ɪpcɪɪl　［生物］藍藻、シアノバクテリア　ul;ɪpcɪɪ/lccɪ「アリカ色の真正細菌」　JP

ɪpcɪɪ ɔoen　［人名］アリカ＝オーウェン、和泉ゆかり　J1:ɪpcɪɪ,ɪlſ　［文化］　前期北アルシア大学２年の少女。気が弱くおっとりしていて優しい子だが、背の高さと内気な性格のせいで周りから浮いている。あだ名はサンジェルマン。友達がおらずクラスに馴染めないことが悩みだったが、同級生の ɟeesc nɪzel に出会い、徐々に変わっていく。セージはアリカと対照的に明るく誰からも好かれるタイプで、アリカとも別け隔てなく接する。その人柄にアリカは徐々に惹かれていく。

ɪpcɟ　［物理］［化学］核子　［レベル］6　ul;ɪɥneɪ/lcɟc　JM

ɪpcɟlɪnʃe　［宗教］アリスカンテ、アリスカンテ教、神魔教　［レベル］5　J0:ɪpʃclcɪ と cl;ɟɪnʃe を唱える者　［文化］　ɥəəɒɪ　ʔ9ʔM　アゼリアの進言を受けてランジェは神魔混合（ミレムジール）を行い、ɪpʃclcɪ と cɟlɪnʃe を ɪpcɟlɪnʃe 教に統合。旧宗教のうち統合反対派から激しい反対を受ける　ɪpʃclcɪ を中心にエルシー派が興り、これがやがて ɟɥ までに中心的な派閥となる。しかし数の上では庶民のほうが多く、庶民はエルシー派よりも戒律の緩い暮らしをしていた。エルシー派というとアリスカンテの聖職者や修道士とほぼ同一視され、特別に宗教生活を送る派閥を指した。

ɪpcɟɥəɔ　［言語］死生動詞。生死動詞と名付けなかったのは命名当時のセレンが「精子動詞」っぽくて嫌だなと思ったせいで、特に理由はない。　［レベル］3　ɟɥ:ɪɥ/cɟ/ɥəɔ「ɪɥ と cɟ の動詞」　JM

ɪpcɑcɪ　［地名］アリディア　［名詞］ɪpcɑcɪeſeʅ　［レベル］4　古 :ɟcɑcɪ

ɪpcɑcɪ(J)　［アトラスの国家］アリディア　［レベル］4　古　［文化］　初代アルシェの恋人リディアの偉業を称えて建国した。メティオの内部にある小さな国。アルシェの残党が立てた国で、リディアがソーンを暗殺した場所にある。イルムスによるとメティオの真ん中にあるとのこと。

ɪpcɑcɪeſeʅ　［料理］アッサムティー　［レベル］5　1L　［文化］　アリディア産の紅茶。こくがあり、ミルクティーと合う。

ɪpclzɔɔɒɪ　［化学］ハイドロペルオキシ基　1L

ɪpclzɔɔɒc　［化学］ハイドロペルオキサイド　1L

ɪpcɪ　［名詞］主人公、主役の女、ヒロイン　［反意語］ɪpɟen　［レベル］3　1L: → ɪpɟen　［語法］　小説などで主人公として登場する女性。夢織でいうと紗枝。紫苑の書でいうと紫苑。

ɪpɔ　［生物］遺伝子、ジーン　［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ɪpɔʃſ から。ɪpɔʃſ は ɪpɪɪ から。　［用例］　ɔlɪſ ɪpɔ　遺伝子を受け継ぐ

ɪpɔz　［電算］プロトコル、規定、議定書、儀典　［類義語］ɔz　［レベル］4　ɟɥ:ɟɥəə;ɪp/ɔz「機械の規定」　JP

ɪpen　［名詞］助言、アドバイス、ヒント、注意、注意書き、ノーティス　［レベル］2　1L:ɟcɑcɪ:ɪ　ɟbɪlelſ:ɪlʅ/ɟenɟ　［文化］　勧誘、勧めることと全く同じ原理。おせっかいにならないかどうかが鍵。相手におせっかいだと思われて「なんだせっかく教えてやったのに」とへそを曲げるのは日本人に多いが、アルバザードはしない。もちろん親切のつもりで言っているのを跳ね除けられたのだから嫌な気分はする。だから心中で「もうこいつは助けてやらん」と思うのは半ば当然である。だが、それを表に出して相手に絡むことはない。　［用例］　ɪn pelɔʃ ſə yeſ　ɒɪn ſeɟcʅ ɪpen lɪɪſ.　彼のアドバイスを聞いて、私は再度考えさせられた。　ɪn hɪɪɟɪſ ɪl ɟenɟ　lɪɪſ.　彼女のアドバイスに従うべきだった。

ɪpenɟ　［名詞］福音　［音楽］ゴスペル　［レベル］4　J1:ɪɥ/ɟenɟ　［語法］［文化］　神や天使によるよいお告げのこと。

ɪpeɒ　［動詞］ɥəl を ɪ に憑依させる、乗り移る、憑依する　［類音］ɪleɒ　［レベル］3　J0:ɒelcɑcɪ lce ɟ:ɪl/ɟecɒ（幽霊でなくなる）

ɪpec　［生物］ＤＮＡ（通称）　［レベル］4　ɪl; ↓　1L:jeɟen:ɪɟ/lec（遺伝子の本）　［文化］　ɟſ で発見されるも、当初はリンの貯蔵が目的と考えられており、ɪpec という名が付くまでは有機化合物の命名法に法って冗長に呼ばれていた。　その後、アデニン、グアニン、チミン、シトシンの順番で何年もかけて塩基が発見されていったが、これらの塩基もまた同じく冗長な命名法に法って冗長に呼ばれていた。　ul に入るとＲＮＡが発見され、後にＤＮＡの構成糖がデオキシリボースであることが分かり、核酸にＤＮＡとＲＮＡの２種があることが分かった。　ɪl 初期にＤＮＡが遺伝物質であることが分かり、初めて ɪpec という名が冠された。その後、ＤＮＡを構成する４種の塩基についてはそれまでの冗長な命名法を捨て、アルシエルの四季神の名が冠されるようになった。例えばアデニンは ɪpecɪlſe である。四季の順番は発見された塩基の順序を反映している。

ɪpeclcep　［化学］シトシン　［レベル］5　ɪl;/　JP　［文化］　ɪpec

ɪpecaleɪ　［化学］グアニン　［レベル］5　ɪl;/　JP　［文化］　ɪpec

ɪpecɪlſe　［化学］アデニン　［レベル］5　ɪl;/　JP　［文化］　ɪpec

ɪpecɪlcɟ　［化学］チミン　［レベル］5　ɪl;/　JP　［文化］　ɪpec

ɪpəəs　［親族］弟　［反意語］lɪɟɥep　［アクセント］ʔtɥəəs　［レベル］2　1Δ: 制 : オヴィらに対するルージュ　::lə ɒɔe　［語法］［文化］　ɪlɟɥep

ɪz　［接続詞］～か、か、ＡかＢか　［論理］強選言、排他的論理和、ＸＯＲ　［反意語］əl　［レベル］1　1ʔ: 恣意　:::ɒɪſɪ,ɪlſ　［用例］　ſ ɪz ɒɥəl　t かあるいはそれに近いもの

ɪzɥep　［歴史］アズゲル時代、東西戦争、邑咲の幽茉、むらさきのゆうま　［レベル］3　古 : 幽茉はユーマの一族のこと。邑咲は「紫のジャスミン」を示すとともに、紫の語源通り「群れて咲くこと」を示す。ユーマの一族が台頭し、世界中に国を作っていった時代であることから。　［文化］　ɥəəɒɪ　0_ʔ000　東西戦争。シフェルとマレットの戦い　　アズゲルとメルテナは史料が少なく、大要しか分かっていない。アトラスでは神が製紙製本技術を持っていたため、神代の記録は残っている。ユーマの一族に伝わった技術は魔法を駆使したものだったため、神ほど器用な魔法を使えなくなったアズゲルの人類は満足な史料を残せなかった。また、戦乱でその多くも焼けてしまった。神もそれの時代はアトラスから去っていたため、アズゲルとメルテナはアトラスにとって最も謎に満ちた時代になっている。アトラスの歴史で唯一詳細が分からないため、かえってアルバザード人はロマンを感じ、三国志演義のようなファンタジーに満ちた解釈が生まれた。　なお、メルテナはアズゲル同様詳細が分からないものの、戦乱が落ち着いて製紙製本技術に労力が費やされたため、アズゲルよりは史料が残っている。

ɪzl　［医療］結核　［レベル］4　定 : 抗酸素菌

ɪzcn　［形容詞］なまいきな、可愛くない、憎たらしい、生意気な　［反意語］ɪnʅ　［レベル］2　J0:ɑɪz/ɟcn　［語法］　ɪnʅ　［用例］　ɒɪɒɔ ɪzcn　生意気な態度

ɪzɔɒ　［地学］木立、ちょっと木の生えているところ　［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe:ʅɪ/zɔɒ　［語法］　ezɔ より小さい。外から全体が見渡せるくらいの密集度と明るさと本数。公園のちょっとした木の生えているところなどを指す。

ɪzeɟ　［魔法］魔法陣、アゼル　［数学］魔方陣　［類義語］ɟeφɪl、φɟɪnɑɪ　［レベル］3　ɒelſcɪ LΔ jen ucɪ:ʅeuei;e　古　［文化］　ファーヴァやレレゾナの使う魔法の総称。魔法陣を使うのが特徴的。時間と莫大な魔力が必要だが、効果は強大。　メルティア９８万年頃にカルセール人とケヴェア人が開発した。両者は文化的交流がなくほぼ同時期に魔方陣を開発しただけであるから、結果的にその様式は互いに異なっていた。カルセール人のものは巨大で、陣の効果も持続時間が長大である。ケヴェア人のものはそれに比べるとコンパクトで、戦闘や狩りに適していた。　カルセールの魔方陣は φɟɪnɑɪ と呼ばれ、ケヴェアのそれは ɪzeɟ と呼ばれた。

ɪzeɟɒ　［地名］アゼルム、魔界　［レベル］5　古　［文化］　アゾルデの支配する世界。ファーヴァが制圧した。

ɪzeɟɒe　［人名］魔王アゼルデ　［レベル］5　古　［文化］　ファーヴァの制圧したアゼルムの長。

ɪzeɟɪn　［魔法］法陣指（ほうじんし）　［レベル］3　1L:ɟcɑcɪ: 指と訳したのは、陣を描くことから。

ɪzeɟcɪ　［人名］アゼリア　J0　［文化］　(ɥəəɒɪ　ʔtΔΔ:ʔ00M(ʔ9JJ:ʔΔtt))　カコ中期の女王。　ɥəəɒɪ　ʔtΔΔ　ランジェ、娘の ɪzeɟcɪ を産む。東方遠征は最大戦力であるランジェが前線を退いたことで一時中断。レスティルは防戦の構えを取る　ɥəəɒɪ　ʔʔ9J　若きアゼリア姫、キルティアの外相を巧みな交渉術で取り込み、キルティア王を説得させて無血開城を実現。レスティルは労せずキルティアを物とする。キルティアには自治権を与え、優遇税制を取った　ɥəəɒɪ　ʔΔtt　アゼリア、国民の反感を反映し、息子 ɪnɑɪnʃ が 100 歳になったのを契機とし、退陣。慣例により、王は 100 歳以上であることが望ましいため。ただし未熟な ɪnɑɪnʃ には任せられないため、アゼリアは関白となった

ɪs　［擬音］ずーっ、ずず、ぐじゅぐじゅ。鼻などをすする音　［レベル］2　1L:ənclec

ɪsne ɪɒɪnze　［人名］アジュネ＝アマンゼ　［レベル］4　古　［文化］　シオン＝アマンゼの母親。ア

ジノンの妹。

ısı ［名詞］割合、比率、レート、率、バランス ［数学］割合、比率、比 ［接続詞］～の割合で ［類義語］ʃlıcınſ ［レベル］3　定 ［用例］ʃɔz ısı ʃɔ ʃelen uc １：３の割合で混ぜる

ısc ［名詞］籤、くじ、宝くじ、抽選 ［レベル］3　ſʔ←古 :ılscφ（当たりを選ぶ） ［文化］抽選の場合、六角形のガラガラ（ガラポン）はアルバザードでは使わない。ビンゴゲームの玉を出す装置のようなものを使って球を出す。アタリ玉の色に決まりはない。商店街主催のものが多い。例えばカルザスモールなどで行っている。　籤の場合、宝くじやロトのようにカードを使うものが主流。電子化は ʃlO9 年の段階ではほとんどされていない。 ［用例］ɪɥ isc くじを引く　ɪn nıſ nıə ɥən eɒ ɪɥel ʃɔɥ sın ɒın uıjſcʃ isc. 宝くじに当たって舞い上がるほど嬉しかった。　cɒ ſə aɪɥ, nɔɔn ʃɔɥıſ ɒcıſe lını ɪɥ isc. 朝、祖母と近くのスーパーへガラポンにいった。

ısɔnɔn ıɒınze ［人名］アジノン＝アマンゼ ［レベル］4　古 ［文化］シオン＝アマンゼの伯父。アジュネの兄。ヴァルテス派の始祖。

ıseſ ［美容］スタイル、プロポーション ［レベル］4　ʃ1:ısı

ısen ［ユマナ］ユダヤ教 ［レベル］6　古 :hiczen の音変化

ısenſ ［ユマナ］ユダヤ人 ［レベル］6　古

ısenɥen ［ユマナ］ヘブライ語　ʃ1

ısəl ［魔法］平板ガレット ［反意語］səʃcl ［レベル］6　ʃ1:ıl/səʃcl

ıl ［接頭辞］～に。多義的で用法は下記のとおり。　１：逆の意味を作る（ılɒı,ılılɒı）　２：男女の対を作る（ɑcın,ılɑcın）　３：(単純語中だが）強意を持たせる（ıſlı（最高）は ılıc（とても大きい）から来ている）　４：位置が反対であることを指す（sın,ılsın）　５：逆動作を示す（jıb,ıljb） ［接尾辞］　１：代詞に付いて数の意味を添える（ſɔ → ʃɔıl）　２：数に付いて個数を指す。ʃɔıl で１個、ひとつ。この場合、ıl がなくても特に意味は変わらない。　３：名詞に付いて中立の概念を作る（ſcın（彼女）と ılſcın（彼氏）から中立の ſcınıl（恋人）を作る）。ſcınıſc だと「彼女らしさ」の意味になる。母音の後ろでは l になる。 ［レベル］1　ɑ;e　古

ıl(J) ［人名］アル　古：『少女・レンとアル』 ［文化］レンという娘が人形にされて、アルという人形が逆に入れ替わりで娘になって、その父親に愛されたという話の登場人物。

ıl(J),ɑ　強意、対義、ペアなどを作る接頭辞　ıl,ɑ.ʅ

ıl(ʔ) ［格詞］ı の異形態。ı の後に母音で始まる単語が来たときの語形。 ［レベル］1　ſʔ: 制

ıl(ɱ) ［歴史］アレイユ、ılecɥə ［レベル］3　ʃ1

ıl(ᵗ) ［動詞］ɥəl（祈る相手。神など）に祈る、祈る ［レベル］2　ɥɑ;ıl（与格）　制

ıl,ɑ　ſəl, ſɔ　e

ıl,ɑu　ı

ılſ ［名詞］他、もうひとつ ［名詞］おかわり ［名詞］つめかえ、詰め替え、詰替、リフィル ［形容詞］ほかの、もう一つの、他の、もうひとつの、別の ［文頭純詞］一方、他方、対照的に ［感動詞］チェンジ。デリヘルやネットスランガなどで使う。 ［レベル］1　jɔɥn:「手をちょいと動かして振る」が原義。アルシェでは ɑɔɔɔuı（次） ［用例］ſc lıl ılſʁ おかわりいる？　en ſıəſ ʃelı nel ılſ ſeɹɒcſ. 洗剤の詰め替えを買い忘れた。

ılſɑcı ［魔法］異世界 ［レベル］3　1L:ʅcɔn

ılſɑcın ［魔法］異世界人 ［レベル］3　1L:ʅcɔn

ılſɥı ［建築］別荘 ［レベル］3　1L ［用例］ſıſ ɟılſ, ın ɥılɔ aleı ʃı ılſɥı e ɟıcl ɔʃ ʃcſe. 毎年夏は家族と田舎の別荘で過ごす。

ıl ſoen ［感動詞］募金お願いします、募金です、募金どうぞ、寄付をお願いします、お恵みを、カンパお願いします ［レベル］3　ſʔ: 制 : 古 ［語法］チャリティーだけでなく、自分に恵んでくれと頼むときにも使う。

ılſıſel ［形容詞］横着な、雑な、いい加減な、早道な ［反意語］ſıſel　ɥɑ;/　ʃ1

ılſıı ［地学］超大陸 ［レベル］6　ul;/　ʃ1

ılſıu ［動詞］ɥəl を剥がす、剥がす、はがす ［反意語］ſıu ［レベル］2　1L ［用例］ılſıu ɑejdı シールを剥がす

ılſıɑɔɥ ［音楽］附点四分音符　1L ［文化］　→ ɑɔɥ

ılſıl ［形容詞］本命でない ［名詞］本命外、滑り止め、すべり止め ［反意語］ıſıın ［レベル］4　ɥɑ;ılſ/lını「他の狙い」　ʃ1

ılſılıɥəɔ ［言語］非単位動詞　J0 ［語法］不定動詞の累積ないし定動詞の反復によって生まれた動詞。　将然・開始・非単位・終了・影響のᵗ相を持つ動詞。　（正確には将然’・開始’・非単位・終了’・影響’のᵗ相を持つ）　あらゆる動詞に存在する。　ーー｜○○○○｜ーー　というモデルで示される。　単位動詞と対立する存在。　例：乱打する、歩行する

ılſıcʃ ［文頭純詞］更に更に悪いことに ［反意語］ılɟıɑı ［レベル］2　ɥɑ;/　ʃ1

ılſc ［動詞］ɥəl を離す、放す、離す、手放す、解放する ［反意語］ſcl ［レベル］2　ʃ1:ıl/ſcl ［語法］ſcl の反対語。持つとしての反意語。一般に離すの意味であり、「～がない」の意味ではない。 ［用例］ɥen ılſc nɔnſ 放して！　ɒen ılſc elɑ lıj ləəſ uecl ſcɑl jcl jelej ɒenıl ıj, ɒen nı. この人の手を離さない。僕の魂ごと離してしまう気がするから（『ＩＣＯ』）

ılſcʃlɔɟlılı ［地学］ミラー図法 ［レベル］5　J0 ［文化］メルカトル図法のバリアント。世界地図に用いられる。

ılſcʃlɔɟφel ［地学］ミラーボール図法 ［レベル］6　J0

ılſcj ［名詞］幼馴染、幼なじみ、おなささなじみ ［類義語］ɑcıjeɥ ［レベル］3　古 :µcɑcı: 古 :ılſcj（幼馴染）。ıl は「物」だが、わざわざ述べるときには「特別な物」という意味になる。それに ſcjſ あなた」を付けたのが ılſcjſ 特別なあなた」で、幼馴染の意味になった。恋人は ſcı などといったので、ılſcj が恋人の意味になることはなかった。尚、造語者がリディアなので何故 ɑɥəjjɔə ではなく ſcj を使ったのかが不明。ただの旧友ではなく、親友かつ旧友にしか使わない。 ［語法］ hıdn

ılſcnı ［名詞］幼児、２～５歳の男 ［反意語］ſcnı ［レベル］2　1L

ılſcd ［美容］蒙古斑、もうこはん ［レベル］4　ʃ1:ılſcı/cdjen

ılſclnı ［形容詞］自発的でない、人にさせられた、やらせくさい、ヤラセな ［反意語］ſclnı ［レベル］4　J0 ［用例］ɪn uıɟıe cjʃın ɑılcjſe e uepſ le ɑcſ ɒenj ılſclnı. ニュースのいかにもやらせくさい善人な台詞が鼻につく：ɑılcj ɑ ɑılcjſe にして「善人っぽい」という風に皮肉っている。

ılſcı ［アトラスの国家］アルティア、凪国 ［レベル］2　ſʔ: 制 :ı/ləſcı :::nıφc,ılſ ［文化］　→ ɑɔhıd, ʃılın, ılſcın, cjſɔlncɒ　・面積　ʔO????.L9L?ſ?ʃ ʃɒ J（本土）　世界第３９位のザンビア（ᵠP.J,ʃ1J ʃɒ J）より小さく、世界第４０位のミャンマー（ʃ99,ᵗ9Δ ʃɒ J）より大きい。　日本：ᵗ99,L?0 ʃɒ J　韓国：LL.,ΔJΔ ʃɒ J　北朝鮮：1J0,ᵗᵗΔ ʃɒ J　日本と朝鮮を合わせると ᵗLΔJLʃ ʃɒ J になるが、それよりもさらに大きい。　・経緯度　西端：東経（−L0）＋（(J^19 / ʃ000) × ʔ^0）＝ 1ʔ^.ᵗᵗ　東端：東経（−L0）＋（(J^JJ / ʃ000) × ʔ^0）＝ 1ʃᵗ.LΔ　北端：北緯 L0 − ((ʃ9ʔ / J000) × 1Δ0) ＝ ʃ9.0J　南端：北緯 L0 − ((^JJ / J000) × 1Δ0) ＝ ʃ9.0J　・略史　ɥəəɒı ʔᵗᵗΔ シフェラン、首都ロロスを陥落。ハーディアン人は北の都市フィギットへ撤退し、フィギット国を建国。これにより、ハーディアンは亡国。フィギットとなる。同時にハーディアンの都市だったアルティアは国家に単位を変える。従ってこの年にアルティア王国が建国される。翌年にはアルティアはロロスを支配地としてシフェランから任される。　ɥəəɒı ʔᵗᵗΔ 京極（ɒını）ができる。ハーディアン文字ともいうが、既にハーディアンは滅んでいるのでアルティア文字といっていい。この時点ではロロスは独立していないので、なおのことアルティア文字でよいように思えるが、人文史上ではハーディアン文字と称されている。というのも、京極がハーディアン地方で発展してきたためである。

ılſcıſcle ［地学］凪海流　ʃ1

ılſcın ［名詞］カレシ、彼氏 ［反意語］ſcın ［レベル］2　1L ［用例］nɔn ſcl ılſcın. 彼氏がいる。

ılſcın(J)　アルティア人、凪人、凪紗 ［レベル］2　J0:ʅcɔn :::nıφcjı,ılſ ［文化］　・分布と歴史　アルティア本土のほか、ルティア西部トモエ県、アルバザード南部カレン州などに分布。　元はハーディアン人で、南北に分かれ、南部人がアルティア人となった。　jɒ で ɑcµ をほとんど持たない代わりに強力な nɔı や ɥənɔ を持った人種の遺伝子が普及した。これはアルティア人にとって魔法を捨て剣での白兵戦に特化する契機となり、刀の登場と武士の台頭を促し、やがて武家社会の成立を促した。　アルティアの武士 ʅılın の斬撃は極めて強力で、ヴィードで防御をしているルティア人魔導師すら一刀両断にすることができた。この結果アルティアは jɒ でヴェマやルティアにまで版図を広げるに至った。　支配地からの徴収によりアルティア本土における農民の数は減少。軍事力としての武士の需要から武士の数が増加。日本より農民が少なく武士が多いという軍事力に特化した社会になっていた。　武士の主君への忠誠心は極めて高く、典型的な封建制度である。またアルティア兵は逃亡率が少なく、死線にも果敢に突撃することで有名である。　事実上の貴族階級になった武士らは高度な文化や倫理観を築くようになっていった。jɒ 以降武士たちはルティアだけでなくアルバザードを含めた諸国へ侵入し、領土を確保。独自のアルティア文化を持ち込んだ。これは海外領土を失った現在でも残存している。　nɑ 以降は資源の貧しさから工業国となり、持前の器用さと真面目さから優れた工業製品を作るようになり、様々な分野で世界一のクオリティを誇るようになり、経済大国となって返り咲いた。　またアニメやマンガやゲームなどの文化品をいち早く高め、世界中に輸出したのもアルティア人である。　・呼称　国際的にはアルティアだが、彼らは自分たちの間では通常 nıφc と呼ぶ。それゆえ凪国と訳することがある。　同様にアルティア人のことは nıφcjı と呼ぶ（→ nıφcjı の語法）。jı は人のことである。これを凪人や凪紗などと訳することがある。アディストの nıφc, nıφcjı と区別すること。　・信仰　信仰は土着の hcnıſı（丁信仰）である→ hcnıſı　・国粋主義　日本はさまざまな民族の集まりで、その後も中国やアメリカなどから大きな影響を受けてきた。大陸の端にしては外来文化の坩堝になっている。使用している文字種も世界一多い。　一方アルティアは民族の交流が少なく、二度の国粋主義の機運で外来文化に対する排外主義が確立した。独特で閉鎖的な文化が特徴で、外来文化への抵抗が大きい。　一般にアルティア人は国粋主義で、外来文化を嫌う傾向にある。カレン人がアルティア人の流儀を変えずに小アルティアを築いていることからもそれは伺える。　・性格　良くも悪くもとにかく「世界一」の付くことが多い極端な性格で、国際社会からは付き合いづらいと思われている。アルティア人は面子と体裁を何より気にするので、絶対にやってはいけないのはプライドを傷つけること。その怒りは普段の大人しさからは想像もつかない。怒りのエネルギーが持続しないのが特徴で、一瞬だけアルバザード人をも凌駕するエネルギーを出す。そして瞬時に収束する。この怒り方は jɒ でのカランの戦闘方法と同じである。カランはある一瞬だけ極端に集中してルティア人魔導師を一刀両断するという戦い方で版図を広げてきた。　ほとんどのアルティア人は大人しく我慢強い。そのせいでストレスをため込みやすく、怒るときは爆発してしまう。　精神構造は世界一複雑で、最も穿った物の見方をすると考えらいてる。あまり物事にこだわらないカテージュ人とは相性が悪い。直球を嫌い、すべてを婉曲かつ間接的に表現し、しばしば表現さえせずに腹芸で意思を伝える。また、そもそも意思を伝えなくても互いに絶妙な距離感を保つことで疎通だけ器用に行うことのできる不思議な民族とも考えられている。素直で直球勝負なアルバザード人を見下している。　例えば飲み屋で周りが馬鹿に騒いでいるとカテージュ人は「楽しそうだなぁ→俺も騒ごう」と思い、アルナ人は「うるさいなぁ。静かにするようにお願いしよう。聞かなければ店に訴え、議論しよう。議論しても平行線の場合、殴って勝てそうなら殴ろう。負けそうなら場所を変えよう。問題を解決するのに最も合理的なルートを選ぼう」と考え、アルシア人は「下品な連中がいるのでこの場所は自分に合わない。場所を移そう」と考える。一方カレン人は「俺がいるのに迷惑も考えずに騒ぎやがって→馬鹿にしてるのか→そうか、俺を馬鹿にしてるんだな→文句を言いたいが言葉で言うのは苦手→とりあえず机を叩いて威嚇→それでも相手が聞かない→喧嘩→斬殺」というパターンに発展する。この辺りがアルバザード人には理解できないが、アルティア人は一様に「そりゃそうだ」と感じる。　恋愛に関しても屈折している。意中の相手に想いを伝えず死ぬまで黙り、好きでもない相手と結婚し、その悲恋に陶酔するなど、アルバザードには価値観を理解できないことが多い。　逆に一度恋愛感情を相手に向けると、相手に対する執着は途端に物凄く膨らみ、ストーキングなどの奇行に走りがちである。特にこの傾向は日本と異なり女性から男性に対して見られる。アルティア社会では心中を伝える女性より影を追う女性のほうが清楚と肯定的に捉えられるためである。　性犯罪も特殊で、強姦が世界最低であるのに対し、衣類の窃盗や盗撮が世界一多い。こういった点からも最も倒錯の強い民族であることが分かる。　アルティア人女性は世界一従順で献身的であり、教養も高く家事も得意であるため好まれる。一方アルティア人男性は黙々と働いて給料を入れ、浮気率も世界一低いため好まれる。アルバザード人や特にカテージュ人は働かない男性が多い。　他方アルティア社会が離婚を是としないこともあり、夫に裏切られた妻が夫を刺し殺すという事件も多い。　アルティア人はジェスチャーをほとんどせず、目配せなどの小さな動きでたいていのことを伝えることができる。　スキンシップは厳禁である。ハグはもちろん握手すらしない。家族でさえ互いに触れ合うことがない。例えば父親は娘が物心付く頃には娘の体に触れることがなくなり、無論風呂にも一緒に入らなくなる。そのため父親に撫でられた記憶がないという女性が大半である。触れ合うのは恋人や配偶者同士で、それすら頻度が少ない。恋人同士だが手すら触ったことがないというケースも珍しくない。　アルバザード人は仲の良い間柄では男女問わず撫でたり摩ったり抱きしめたりすることが多い。この延長線でアルティア人女性に触れると大変なことになる。一般的なアルバザード人はアルティア人がスキンシップを嫌うことを知っているので、始めから触ろうとしない。しかしナンパな男は触ろうとする。日本人は例えばイタリア人に触られても文句を言わないことが多い。外国人だからしょうがないという風に考えるのかもしれないが、アルティア人は自分の我を黙々と通す点が違いで、日本人よりプライドが高い。　アルティア人は口では言わないものの、身をよじって全力で抵抗する。同じ避ける場合でもルティア人なら優雅さを重視して最低限の余裕を見せる。一方アルティア人は黙って呪わんばかりの怨嗟の眼差しを向け、無言の抵抗をする。それでも触ろうとすると後から女性の近親者が現れて刃傷沙汰ということになりかねないので自然とアルバザード人も自重する。　・良く評価される点 「世界一真面目」「世界一器用」「世界一努力家」「極めて頭が良い」「世界一控え目で大人しい。美を見せびらかすルティア人を下品だと考えている」「世界一犯罪率が低い」＊ただし斬殺率は世界一高い 「工業製品とサブカルのクオリティが世界一」「アルティア製は高いが信用がおける」「我慢強く主張をしないため、道具として使うには非常に便利」「本土は美人が少ないが、トモエ県やカレン州には驚くほどの美人がいる。実際美少女コンテストでは周囲の人間に無理やり出されたカレン人の子が勝つことが多い」「天パの多いアルバザードの女性からすればアルティア女性の黒髪ストレートと絹のような肌は憧れ」「清潔で、体臭が少ない」「アルティア食は健康に良い」　・悪く評価される点 「体格が華奢で体力に欠ける。ヴィード消失後は極端に武力が減った」「世界一無口で何を考えているのか分からない。男女ともほとんど喋らない。喋らずともアルティア人の間では意思疎通ができるので不気味」「世界一プライドが高い。ルティア人は世界一美意識に対してプライドが高いが、アルティア人は世界一面子に対してプライドが高い」「世界一冗談が通じない。世界一笑わない。表情そのものがほとんど変化しない。だがアニメやゲームを一人で見てくすくす笑うので、その点でも不気味がられる」「世界一突然キレやすく、一度キレるとすぐに刃傷沙汰になる。アルティア人は感情を表に出さず、たいていのことは耐える。この状態で面子を傷つけるようなことを言うと突然抜刀して相手を斬り捨てるなどの凶行に及ぶ。そのため凶暴残虐と各国から罵られるアルバザード人でさえアルティア人だけは怒らせないように気を付ける」「緯度が低いわりに自殺率が異様に高い」「極めてネガティブ」「アルカが下手。言葉が通じない。なぜかカレン人ですら拙い人がいる。反面、アルカの文語には異様に詳しい。どうやら知識としてアルカを見ており、実用は恥ずかしいと感じているようだ」「京極が難しすぎて理解できない」

ılſcınſ ［形容詞］そっけない、懐かない、なつかない ［反意語］ſcınſ ［レベル］4　µɑ;ılſcın/eſ　J0 ［文化］ſcınſ

ılſcıɑıdcnc ［美容］笹眉 ［レベル］6　ʃ1

ılſcıɥen ［言語］アルティア語、凪霧 ［レベル］2　ʃ1 ［文化］ ●概要　名称：ılſ（アルティア語）, n（凪霧）　系統：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族インサール超語派ハーディアン語派ハーディアン語群（ıſenıdıſ, ɥəəɒıeɒcſ, ɒıleſɑcıɒ, cnjıılcɑıl, hıµɑcınlelſeɒ, hıµɑcınſıſl）　使用年代：zφ_ls　分布：極東インサール、ルティア（特に西部）、アルバザード（特に西南部）　話者：ハーディアン滅亡後のアルティア都市の民。後にロロスと分化したため、現在は半島南部のみ。ほかにルティア人、アルバザード人（元カレンシア人）など　類型：ＳＯＶ、ＡＮ、Ｐｏ　認知様式：主観的把握　zφ 末期の ɥəəɒı ʔᵗᵗᵗ にハーディアンが滅び、アルティアが国として独立。　cɒəl ᵠᵠᵠ にトモエを陥落させ、ルティア西部の支配を確立。ılſ のルティア方言が生まれる。　cɒəl 11OJ にアルバザード南部を支配し、カレンシア王国を建てる。カレンシア方言が生まれる。　現在 ılſ といえばアルティア本国ではなく、アルバザード国内で ɪµ と混じりながら発展していったカレンシア方言を指す。　凪紗は極めて保守性が高いため、ɪµ から影響を受けたのは主に語彙。しかし明治時代の日本と同じで、新たな単語は凪霧に翻訳して受け入れ、本国である ılſcı に情報を伝播するというシステムを採っていた。これは武士らによるアルティア王への忠誠の証であり、安易に ɪµ を取り入れることは不敬に当たると考えられたため。　だが歴史学者や言語学者は彼らが ɪµ を取り入れなかったのは音韻構造の違いが大きく、そのまま取り入れると語形が長くなりすぎるためと考えている。これは英語を日本語のカタカナにするとやたら長くなってしまうのに似ている。　一方、柔軟性のあるアルバザード人は凪霧を旺盛に取り入れた。対照的である。　ɥeµnjııl まではカレンシアの力が強かったため、彼らは ɪµ を覚えようとはしなかった。　カレンシアが滅んでアルバザードに吸収されて立場が弱くなってからも、彼らは現在に到るまで積極的に ı を使おうとはしない。ただし北方、特にアルナに近付くほど ı を使う割合が増える。　アルティア人

の多くは学習によって ɪ の読み書きはできる。むしろ知識に関しては豊富といっていい。だが南部に行くほど聴き喋りが苦手である。日本人と英語の関係によく似ている。　アルティア人は非常にプライドが高く恥を嫌うため、間違えることを極端に嫌う。そのため、ɪ を使う機会が減り、なかなか上達しない。ただし北方、特にアルナ周辺で生まれ育った子供は自然とバイリンガルになるため、この限りでない。　なお、バイリンガルであっても凪紗としての自負心が高い者はできるだけ日常生活で凪霧を使おうとする。英語ができるのに話したがらない年配のフランス人に似ている。　●概説　アルティア人の言語。分布等はアルティア人と同じ→ ɪlʃcɪn　アルティア語ではアルティア語のことを nɪɥclc というため、凪霧と訳することがある。　ɪlʃ には方言がいくつかあるが、本稿はカレンシア方言 (ʅɪlenɟcɪn) を取り扱う。　ちなみに、凪紗の保守性および本国とカレンシアの精神的結び付きの強さにより、アルティア方言とカレンシア方言の差は、経済時間の長さにも関わらず、イギリス英語とオーストラリア英語の差程度に留まっている。　本項では次の文が理解できるようになる程度まで解説する。　ɒɪnsc nɪnɪɒc ɟɔ ʅɔɒclə ɥəɒc, ɒɪɒɒɪ ɟɔ hɪə ʃɪ lclə ɥəəɪn ʃe ʃɪlɪ hɪzelɪ ɪnɒ cʃɪɔ (でもあなたが来たとき、私はもうあの小さな神社に行っていたんですよ)　●音論　子音１８。母音５。　撥音 (n)、促音、長音がある。　ɥ,o 系の拗音と、ʃ,ʎ の破擦音があるが、頻度は少ない。　音節はＣＶで、音節数は無子音入れて１９＊５－２＝９３ (oə と ɥc を除くため)。　音節はモーラで数える。撥音などは１モーラと数える。　元はＣＶＣを許したが、末子音は徐々に消失していった。プロソディの高い n,l が残り、撥音は２つ存在した。やがて l が消え n が残って現在に至る。　母音：ɪ, c, ɔ, e, ə　子音：ɟ, d, ʃ, ʅ, ɒ, n, ɑ, ʅ, l, u, b, ɑ, z, φ, s, h, o, ɥ　表記上はＣＶしかないが、実際にはＶを発音しないでＣ単体で発音することがある。　ɟ, l, ʅ などは好例で、ɒələ とあっても文末などでは [ɒəl] になる。　アクセントは高低で、自由アクセント。　声調はない。　抑揚はアルカより強め。　声は硬口蓋に響かせるため、アルカと比べて深みがなく高い。　上記例文の読み上げは以下。　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/alt.mp3（男性声）　http://cid-dd6eff55a81cbf67.photos.live.com/self.aspx/arka/alt2.mp3（女性声）

●文字　京極を使う→ ɒɪnɪ　●文法　<類型>　膠着。　用言（動詞・形容詞・助動詞）のみ屈折。　<語順>　ＳＯＶ。　ＡＮ。　後置詞。　<品詞>　◆自立語　・活用有　動詞　形容詞　・活用無　名詞（含む代名詞・数詞・助数詞）　副詞　接続詞　感動詞　◆付属語　・活用有　助動詞　・活用無　助詞　<用言の活用（屈折）>　動詞形容詞ともに同じ活用。　◆動詞　・概要　ɔclɑə,ɑ(ɟɔcl) が動詞の後ろに膠着し、それがやがて動詞と不可分な程度に融合して屈折化したもの。　最終的には l の音が残り、活用によって l の後の母音が変化するようになった。　活用は６種。ɪlʃ は子音単体で発音できないので、辞書形でもある終止の l には ɪlʃ の無標の母音である ə が付与される。　最も頻度の高い連用に最頻の ɪ が宛がわれた。もとは ɪ だけでなく様々な母音が使われたが、ɪlʃ は母音調和があるため最頻の ɪ が連続するように自然と固まっていった。　否定は連用と否定の組み合わせで ɪn となる。　ɑ の命令の μe から命令は e。名詞化は cʅɔ（こと）との組み合わせで c。残る仮定が ɔ となる。　名詞化は ʅɪlə（切る）から ʅɪlc（刀）、ɔɒəlc（挟む）から ɔɒəlc（鋏）など名詞を作れるため、造語力が強い。　アルカだと ʅcl に対して ʅɪɟ など、色々な言語から単語を取っているので効率が悪い。　・活用表　連用：lɪ　否定：lɪn　名詞化：lc　命令：le　仮定：lɔ　終止連体：lə　形態素：語幹のみ　・語幹　語幹は開音節と閉音節の２種。閉音節の場合 l が落ちる。例えば ʅɪl/lɪ で ʅɪlɪɪ ではなく、ʅɪl/ɪ で ʅɪlɪ。　閉音節：ʅɪl → ʅɪlɪ (切っ)，ʅɪlɪn (切らない)，ʅɪlc (刀)，ʅɪle (切れ)，ʅɪlɔ (切れば)，ʅɪlə (切る)，ʅɪlə (形態素として使う場合は ə を添加。ただし母音で始まる単語の前に来る場合は ə を添加しない)　開音節：ɔɒə → ɔɒəl, ɔɒəlɪn, ɔɒəlc (鋏), ɔɒəle, ɔɒəlɔ, ɔɒələ (挟む)，ɔɒə (形態素)　形態素として動詞を使う場合、例えば ʅɔɔlə (巻く) と ɑcʃʃɪ（寿司）から巻き寿司を作る場合、ʅɔɔlə は語幹の ʅɔɔ のみが使用される。よって ʅɔɔɑcʃʃɪ となる。　ʅcl のような閉音節の場合は ʅclɑɑcʃʃɪ のようになるが、もし ɪn のように母音で始まる語に繋がる場合は ʅclɑɪn ではなく ʅclɪn になる。なお、この単語の場合のみだが、「切らない」との区別に注意。ʅclə/ɪnɑɪ などの組み合わせがあるとしたら ʅclɪnɑɪ になるので何とも誤解することはない。　◆形容詞　動詞と同じ活用。　連用は副詞として使う。否定は形容詞にも副詞にもなる。　命令は「～になれ」という意味。　複合語の要素になる場合は語幹のみ。　・活用表　連用：lɪ　否定：lɪn　名詞化：lc　命令：le　仮定：lɔ　終止連体：lə　形態素：語幹のみ　neʅɔlɪ（暖かく），neʅɔlɪn（暖かくない），neʅɔlc（暖かさ、暖かいもの），neʅɔle（暖かくなれ），neʅɔlɔ（暖かければ），neʅɔlə（暖かい），neʅɔɒɔɒc（温かいスープ）　連用は例えば ʃɔʃɔlə（早い、速い）と ʅɪlə（切る）で、ʃɔʃɔlɪ ʅɪlə（早く切る）などのような使い方をする。　ʃɔʃɔlɪn ʅɪlə (早くなく切る) と ʃɔʃɔlɪ ʅɪlɪn (早くは切らない) は意味が異なる。　例：neʅɔlə（暖かい），ʅɔʅclə（綺麗な），ʃɔʃɔlə（早い），lclə（小さい）。　<動詞の自他>　アルカと異なり動詞ごとに定まっている。　ʅɪlə は他動詞、ɒɔlə(寝る) は自動詞。　<助動詞>　動詞から発達したもの。活用は動詞と同じ。動詞に後続。　例えば ɥcʅɔlə（できる）は ʅɔlə（来る）に ɥc（力）が合わさった動詞で、「能力が来る→できる」という意味。これが助動詞化して ɥcʅɔlə で「～できる」という意味になる。　助動詞は用言なので動詞は連用形になる。　ʅɪlɪ ɥcʅɔlə（切れる）　形容詞に付ける場合、ɒclə（なる）と組み合わせる。　neʅɔlɪ ɒclɪ ɥcʅɔlə（暖かくなることができる。暖められる）　<副詞>　「暖かく」など形容詞の連用形は意味的には副詞だが文法的には副詞に含めない。　ʅɪlɪ（とても）や hɪə（もう既に）などが副詞となる。　ʅɪlɪ neʅɔlə（とても暖かい）　<受身と使役>　受け身は接中辞の sə を使う。ʅɔsələ（来られる）。受け身は迷惑感をも表す。　使役は接中辞の ɟɔ を使う。ʅɔɟɔlə（来させる）。　<助詞>　格は省略しない。口語では ɥə のみ省略する。　主格（主語）：ɟɔ　主格（主題）：ɒɪn　対格：ɥə　与格：ʃe　奪格：ɒələ　具格：ʅɔʅɔ　ɑerʃ に当たる ʃɪ は判定詞でなく助詞の扱い。日本語の終助詞に相当。　ʃɪ（だ）　ɒcʃɪ（だった）　ɪnʃɪ（です）　ɪnɒcʃɪ（でした）　「ね」「さ」「よ」「ぞ」などの終助詞に相当するものはさらに上記の後に付ける。　ɔ(e, eə, ʃcɟee...)　対目上では ɔn　nɪ(ɪɪ, ɪ...)　対目上では nɥɪ（女性のみ）　hɪlɪ(ʅɔʅ)　対目上では dɔn（女性のみ），hɪlɪhɪlə (男性のみ)　ɒɪɥɪ(ɟec)　対目上では ɒɪɥen　ɥəɥɪ(ɔnnɪ)　対目上では ɒɪɟəlc　ne(ɒcɪ)　対目上では使わない。直接疑問を投げかけるのは無礼とされるため。　これらは複数組み合わせることもできる。　反実仮想の ʃɪʃʃɪoɪ（女性は ʃɪʃʃɪoɪn）と組み合わせて ɪnɒcʃɪɔnʃɪʃʃɪoɪn（～でしたのにね）など。　<テンスとアスペクト>　・過去と完了　過去と完了は ɒc で示す。動詞群の最後の単語の直前に ɒc を入れる。　ʅɔcʅɔ ɟɔ lcʃlc ʃɪ（これは指だ）の場合、ʃɪ が動詞群の最後なので ɒcʃɪ にする。　ʅɔlə（来る）の場合、活用語尾の直前に入れて ʅɔɒclə（来た）にする。　ʅɔlɪ ʃɪ（来るんだ）の場合、ʃɪ のほうが後ろにあるので ʅɔlɪ ɒcʃɪ（来たんだ）になる。動詞が連用形になるのに注意。　・未来　推量の助動詞 dɪɟelə で表現。　・経過と継続と反復　経過と継続と反復の助動詞 hɪzelə で表現。　・将然　将然の助動詞 ɟɪʃ ɪlə で表現。　・開始　開始の助動詞 ʅczɔlə で表現。　<代名詞>　アルカと違い、代名詞の存在は希薄。　日本語同様、様々な名詞を代名詞として使う。　一般的に男性は一人称に nɪ を使うなどといった傾向があるが、二人称になると複雑で、そもそも二人称で呼ぶのが失礼なのでできるだけ避ける。　三人称は苗字に継承を付けるのが一般的で、lə,lɪ に当たる lɥə（彼）はあまり使わない。　ɪlʃ は封建制度の中で厳しい上下関係を築いたため、相手との関係によって人称を使い分ける。　◆一人称　・男性　nɪ（私、俺）：日常的、独白、対等　ɒɔnɔlc（わたくし、僕）：対目上　＊ɒɔʅɔlə（劣った）　hɪʅəlc（俺）：対目下　＊hɪʅələ（優れた）　hɪʅəlc ɟɔ ʃɔʃɔlɪ ʅɔlɪ ɥcʅɔlɪ ʃɪɔ（俺ならすぐに来れるぞ）　・女性　nɪɒc（私）：日常的、独白、対等　nɪ/ɒc（女）　lclc（私）：対目上　＊lclə（小さい）　ɒɪɒɒɪ（私）：対目下　＊ɒɪɒɒɪ（姉）　lclc ɟɔ lclɪ ʅɪlɪ ɥcʅɔlɪ ɪnɒcʃɪnɥɪʃʃɪoɪn（私なら小さく切れましたのに）　◆二人称　なるべく使わない。特に目上には使ってはいけない。　相手は役職や立場で呼ぶ。「お兄ちゃん」「先生」「お父さん」など。ただし目上から目下は名前で呼んでよい。　nɪnɪ（君、お前）：日常的、独白、対等。男性のみ。自称の nɪ から来ている。　nɪnɪɒc（あなた）：日常的、独白、対等。女性のみ。自称の nɪɒc から来ている。　ɒɔnɔɒɔnɔ（お前、君）：対目下。男女兼用。　◆三人称　三人称は苗字に継承を付けるのが一般的で、lə,lɪ に当たる lɥə（彼）はあまり使わない。　lɥə（彼）　lɥəɒc（彼女）　文語的に感じられる。あまり使わない。特に目上には失礼。　◆非人称代名詞　ʅɔ（この）、ɟe（その）、ʃɪ（あの）、ne（どの）の４体系。ɑ の形態素 ʅɔ（来る）、ʃɪ（行く）、ɟe（中）、ne（誰）から来ている。　ʅɔɟɪ（この人）、ʅɔʅɪ（この場所、ここ）、ʅɔcʅɔ（このもの、これ）などのように名詞と組み合わせて使う。　つまり necʅɔ で「どれ」になり、ʃɪʅɪ で「あそこ」になる。　<助数詞>　名詞が助数詞化したもので、名詞のカテゴリーにまったくついていち覚える必要がある。ただし現代はほとんど ʅɔ（個）で済ませる。ʅɔ は上述 cʅɔ から来ている。　<接続詞>　よく使うもの。　ɒɪ：～と　ɒɪʃɪ：～か　ʃɟelcɟɔ：そして、また　ɒɪnsc：しかし　ɥəɒc：～のとき、～したら　ɒɪnsc nɪnɪɒc ɟɔ ʅɔɒclə ɥəɒc, ɒɪɒɒɪ ɟɔ hɪə ʃɪ lclə ɥəəɪn ʃe ʃɪlɪ hɪzelɪ ɪnɒcʃɪɔ (でもあなたが来たとき、私はもうあの小さな神社に行っていたんですよ)　＊ɥəɒc は名詞から来ている接続詞なので動詞は連体形でよい。　<敬語>　◆尊敬語　助動詞 ɒɪɒɪlə を使う。ʅɔlɪ ɒɪɒɪlə（いらっしゃる）。　◆謙譲語　助動詞 ɪnsclə を使う。ʅɔlɪ ɪnsclə（参る）。　◆丁寧語　ʃɪ などの前に ɪn を入れる。「です」に相当。ʅɔlɪ ɪnʃɪ（来ます）。

ɪlʃccɪ　［動詞］ɥəl を熱愛する、熱愛する、親愛する　［レベル］3　ʅ0:ɪl（強意）/ʃccɪ　［語法］自分のすべてを捧げて貢献するという意味。ɑcɟʃ/ʃccɪ uɪɟʃ というイメージ。

ɪlʃcɔɒ　［動物］柴犬　［レベル］5　ʅ1:ɪlʃcɪ/ɔɒɪ

ɪlʃɔ　［建築］［地学］塚　［レベル］4　ʅʔ: 制 : 古 :ɪlʃəənɔ（土・土）

ɪlʃɔnʅ　［言語］脇付　ʅ1

ɪlʃɔnɪ　［名詞］３０歳代男　［反意語］ʃɔnɪ　［レベル］2　1L

ɪlʃɔɑl　［動詞］ɥəl を預かる、預かる、あずかる　［レベル］3　μɑ;/　ʅɱ

ɪlʃɔʅ　［生物］腿の裏側　［レベル］2　1L

ɪlʃɔɪscɒ　［生物］副鼻腔　［レベル］5　1L: 鼻腔を取り巻く骨にできる隙間

ɪlʃɔɪscɒɑcɪz　［生物］副鼻腔炎　［レベル］5　1L

ɪlʃɔɔ　［感動詞］あのね、あのぅ、あのお、あのう、えーっと　［レベル］1　古 :ɪlʃɔ, ɪlʃɔɔ　［語法］ɟɪɪ と nee を合わせたような感じ。ただの呼びかけだけではなく、呼びかけながら同時にこれから話す内容を頭の中でまとめている感じがある。多用するとのろいキャラになる。　[用例]　ɪl ʃɔɔ, eɟ nɔn ʅɪ ɪʃə eɥɔɔʅ えーっと、わたし、どうしてここにいるんでしょー？

ɪlʃɔɔʃɔ　［音楽］ストレートノート、イーブン　［反意語］ʃɔɔʃɔ　ʅ1

ɪlʃɔɔʅ　［音楽］ヴィーデ、コーダ　［レベル］6　1L: 終わりへ→ ɪlʃcʃ

ɪlʃe　［名詞］マッチ、後一歩で勝負が付く、後少しで結果が出る、もう一歩、ラストスパート、最後の一踏ん張り、決戦前夜、止め前　［感動詞］あと一歩だ、もう少し、もう一歩、もうちょっと、がんばって、もう少し　［レベル］2　ʅʔ: 制 :ɪlʃees

ɪlʃeɟʃ　［言語］別名、異名、マージ名　［レベル］4　ʅʔ: 制　［語法］マージ名とは、μccɑɥɪ に対する μcɑcɪ, φeμXɪɒesəə に対する φcl などのこと。使徒のうち、本名をもじってできたもののこと。ʅlccz はアルカでは ʅlccz だが、和訳は「クリス」。この場合、和訳のほうはマージ名となる。また、メティオを「バロン国」と和訳したのもゲームを元にしたマージ名。

ɪlʃeɒdeμɪ　［約物］［言語］激しい驚嘆。文末で使用。ʔʔ で示す。　［レベル］2　ʅʅ

ɪlʃezhɔə　［化学］亜硝酸塩　1L

ɪlʃezɪʅ　［化学］亜硝酸　［レベル］6　1L:ʃezɪʅ に ɪl をつけたものなので、ɪlʃez 単体では特に使わない。

ɪlʃezɪμɪ　［化学］ニトロソオキシ基。亜硝酸が１つ水素を失って開いたもの。ＲＯＮＯ。　1L

ɪlʃezɪμlc　［化学］亜硝酸塩、ニトリト化合物。ɪlʃezhɔə と同じ。　1L

ɪlʃeliμʅ　［言語］譲歩、情報の接続詞。ɑcn など。ただしアルカの場合は接続詞ではなく格詞。　［レベル］4　μɑ;/ 逆接の語順が変わったものであることから。　ʅʔ

ɪlʃeɪd　［医療］硬膏　［レベル］5　1L

ɪlʃeɔɒ　［形容詞］いつか終わりが来る、永遠でない、有限の、かぎりある、限りある　［反意語］ʃeɔɒ　［レベル］4　1L　［語法］ʃeel　[用例]　hɪʃcɪ ɪlʃeɔɒ 終わりのある恋

ɪlʃeɔɒɟɔuɔ　［数学］有限小数　［レベル］4　ʅʔ

ɪlʃeɔɒμecn　［数学］線分→ μecn　［レベル］4　1L

ɪlʃeeɒɟ　［シェルト］回転した永駒　μɑ;/　ʅʔ

ɪlʃeezen　［気象］偏東風、貿易風　［レベル］4　1L

ɪlʃees　［名詞］無限空アテージュ　［名詞］決戦、決勝　［レベル］3　古 :ʃees が語源で、それに対語をも意味する ɪl をつけたものが ɪlʃees。ʃees は ʃeeɒɒɟscnɪ「テームスの空」が語源。　[文化]　μɑ においてテームスの本拠地へと繋がる穴であり、ここからテームスが降ってくる。アシェットはここに乗り込んで最終決戦を始めた。場所はファルシアン宮の上。すなわち中央アルナのカルテ上空。　[成句]　ɪɟeʃ ucl ʃeeɒɟ ɔʅ uɪμ elɑ ɪlʃees 虎穴に入らずんば虎子を得ず　ʃɔe ɪlʃees 乾坤一擲

ɪlʃeesɟel　［歳時記］アルテージュの日、防災の日　［レベル］3　ʅ1　［文化］アルテージュができて悪魔が降り注いだ日。現在では防災の日になっており、休日。ɑμə μɪl。　小説版アンクノット第三巻によれば、２００１・４・２６に今の言葉でいうところのアルテージュができたとある。このときの設定では前年に倒したテームスがよみがえり、ここから宇宙のクリスタル集めが始まることになっている。現在の μɑ とは内容が異なる。

ɪlʃeel　［形容詞］一生来ない、ずっとこない、ありえない　［反意語］ʃeel　［レベル］4　1L　［語法］ʃeel　[用例]　ɪn lɔʃ ʃəəbe jel eʃ ɪlʃeel ɪləəʃel. こんな日は絶対訪れないと思ってた。　ɟɔμɑɪʃ ɪlʃeel 来るはずのない王子様　nɔn ɒclʅ ɟɔμɑɪʃ ʅɪlel ɑcen ɟeμ ʅɪ eʃ ɪlʃeel. 迎えに来てくれないって分かってる。だけど、求めてしまうの。

ɪlʃeʅ　［農耕］［植物］作物、農作物　［レベル］2　1L:clbəj:μcɑcɪ:ɪl/ʃəəc　［語法］田畑で取れる穀物以外の収穫物。　[用例]　ɪlʃəʅ scɔʃ ɥə ɒeμel ɒcl ɪlʃe. 暴風雨のせいで農作物が台無しになった。　ɪlʃəʅ eʃ ɑc{ʅlɪɔ} 豊作だ｛凶作だ｝　ɪnɟ ʅɪclɪʃ ɪlʃəʅ ɑc cɒ ʃə ɟlʃ. 今年は豊作だった。

ɪlʅ　［動詞］ɥəl を助ける、助ける、手伝う、救う、貢献する　［普通動名詞］援護、手伝い、バックアップ、補助、介助、助けト、ヘルプ、後押し　［反意語］ɑcl　［レベル］2　ɑμɑ　赤 :ɑɪsc,ɪlʅ　ɑɪsc:ɪlʅ:ɑɪɪs　［語法］手伝うの意味もあるので注意。命乞いのとき「助けて」とは言うが、ɪlʅ nɔn とは言わない。ʃe jeʃ nɔn となる。しかし、殺されそうなとき、近くにいる人に ɪlʅ nɔn とは言える。その意味で「救う」の語義もある。　[用例]　nɔn ɪlʅɪʃ ɒɪɒɪ μeɑ hɪʃ. ママがお皿を片付けるのを手伝った。

ɪlʅɥənʅ　［感動詞］任せろ、平気だ、大丈夫　［アクセント］ˆɪlʅɥənʅ　［レベル］2　ɑμɑ　赤 :「鳥籠姫を助ける」。ユンクを助けるのは俺だという意味で、昔からこの意味　［語法］語源からしてふつう μenʃe は使えない。ɥənʅ の部分を何かに変えてユーモアにすることがある。男性並みにできるとアピールしたい場合は ɪlʅɥənʅ とすることがあるが、μenʃe はふだんは ɥəəɟ nɔn ɟɔ ʃɔʃɔ のように言うことのほうが多い。

ɪlʅɪl　［名詞］救難信号、ヘルプ、救助を求める　［レベル］5　1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

ɪlʅec　［名詞］参考書、解説書、虎の巻　［レベル］4　ʅ0　［文化］学校のものに関しては clɒ 参照。

ɪl ʅleeuel　［感動詞］そんな、そんな！、まさか、ひどい、不公平だ　［感動詞］天気が悪い、あした天気になあれ、明日天気になあれ　［レベル］2　ʃɒ　ʅʔ　［語法］天気が思い通りにいかなかったときに不満を言ったり、希望の天候を願ったり、裁定が不公平だと感じたときに使う。

ɪlɪ　［形容詞］最大の、最高の、最も～な　［名詞］最大、最高、最良　［反意語］ɪuen　［レベル］1　1L:ɪl ʃcnʅɪ や ɪlɪc から　［語法］最大などの意味だが、場合によって最高と訳してもよい。　[用例]　ʅɪlʃ ɪlɪ 最高で、最大で　ɔʃlʃ ɪlɪ 最高でも、最大でも　senʃ ɪʃ ɪlɪ. 天気は最高だった。これ以上ない天気だった。　ɪn nɪʃ ɪlɪ. 最高の気分だった＝この上なく嬉しかった。　ɪ ʃee ʃee, ɑeμ eʅμʃ ɪlɪn. あ、いや、俺が言ってるのは最上級生のことでさ。

ɪlɪʃ　［地名］アルカット大陸　［組み数字］1 / 6　［レベル］3　ɑu;e　ʅʔ: 制 : 古 :ɪlɪʃʃɪ　［文化］アトラス最大の大陸で、北半球にある。西はアンシャル、東はインサール。アルバザードは西南のはずれのほうにある。　面積：ʔʔ9L0ʔʔ0.9911ʔ0 ʅɒ ʃ　アジア大陸：0ʔ,ΔΔ0,000 ʅɒ ʃ　ヨーロッパ大陸：10,1Δ0,000 ʅɒ ʃ　わずかにアルカット大陸のほうがユーラシア大陸より大きい。　ユーラシア大陸より東経が長いのが特徴。

ɪlɪʃczɪ　［地学］アルカットプレート　ʅʔ

ɪlɪʃcɟ　［名詞］救世主、アルカティス、メシア、メサイア　［類義語］ɪμʅɪʃcɟ　［レベル］4　古 :ɪlɪʃcɟ（救世主）←ɪlɪnʃcɟ(同左)←ɪlɪlɪnʃcɟ(同左)←ɪlɪ(助ける)/lɪnʃcɟ(霊人)　［文化］例えば μɑ におけるアシェットなど。　[用例]　ɟɔn nɔn lɪʅɪʃ ɪ ɪ ʅɪʃcɟ. だから私は救世主を望んだ。

ɪlɪʃcɟlɪɑ　［地球の国名］エルサルバドル　1L: 国名が救世主という意味

ɪlɪlɪɑ　［経済］最強国、最強国家　［レベル］3　1L　［語法］ucenʅlɪɑ　［文化］　・なぜアルバザードは何百年もの間、最強国家を維持できたのか　ふつう世界最強の国家というのは転々としていく。なぜアルバザードは jp から何百年も世界一の座を維持してこれたか。それは国を腐敗させない努力があったからだ。栄えた国は腐敗により滅びる。それをアルバザードは防いできた。　国が腐る場合、サンドイッチ形式で腐っていく。官僚など上の人間が汚職したり既得権益にしがみついたりして淀む。同時に下の人間が豊かな社会の中で堕落して民度を下げる。その汚泥が中産階級にまで浸透し、国は腐敗していく。いつもこれの繰り返しだ。　アルバザードはコネや汚職を廃し、王ですら人徳と能力を兼ね揃えない人間は世襲できないようにした。王はたくさんの有能な養子を持ち、一番人徳と能力の高い子に王位を委ねてきた。そして王は官僚にも同じシステムを敷いた。　同時に民衆の民度を上げ、虚業や悪しき商売を幾度となく規制し、民衆に徳育と知育の重要性を強調してきた。日本はお勉強ができれば東大に入れるが、アルバザードはアルナ大に入れず、社会の上に立てない。　アルバザードは所得格差の是正にも力を入れ、努力した者が報われつつ貧困層も作らない努力をしてきた。医者と底辺バイトの所得格差は日本では甚大だが、アルバザードでは小さい。どんな金持ちでも年収 1000 万程度が上限。逆に清掃の仕事でも ʔ00 万は取れる。　日本だと底辺は 100 万未満で上は千万以上が珍しくない。その差 10 倍以上。ところがアルバザードではせいぜい ʔ 倍程度の所得格差なので総中流傾向が強く、勝ち組負け組みたいな世知辛

い世の中にならない。　日本の清掃員は賃金が低い。アルバザードは高い。なぜか。人が嫌がる汚れ役をやってくれているのだから、給料は高くて当然。逆に人から尊敬される医者なんか尊敬で飯食ってればいいんだから、そんなに給料が高い必要はない。　日本も医者の所得はもっと低くていい。こういうと日本の医者はこぞって「そんなことをしたら医者がいなくなるぞ」と脅す。その汚い考えがそもそも間違っている。金儲けできないなら医者なんかやらないという精神の人間は医者になんかならなくて結構。　アルバザードのように知育よりも徳育を重視していれば、子供のころから社会貢献や人助けがいかに大切かを染みこまされる。だから「金にならないなら医者なんかやらない」という発想にそもそもならない。日本の汚い医者のように「そんなことをしたら医者がいなくなるぞ」なんていう脅しは通用しない。　そんなアルバザードでもたびたび上は汚職をし、下は民度が下がってきた。そのたびアルバザードを立て直してきたのは宗教家や革命家といった聖人たちだった。もしミナリスやシオンやミロクやセレンといった聖人がいなかったら、アルバザードはとっくにお鉢を奪われていただろう。　アルバザードにもギャンブルなどの人々を堕落させる賤業は存在したのだ。それで経済が回るなら、馬鹿に金を使わせておけばいいという考えもあった。だが革命家たちはそう考えなかった。人を堕落させないと回らない経済なら、そんな経済は回らなくていい。そして賤業を規制した。　結果、余った金は預金には行かなかった。結局娯楽を奪われた人間は別の娯楽に金を落とす。賤業を規制したことで余剰資金はスポーツや乗り物や旅行など、別のところへ流れた。賤業を消して社会を良くした上、経済循環も維持したのだ、この国の革命家たちは！

ıllıız　[数学] 極大値　[レベル] 5　1L

ıllılcıɥ　[地学] 極北　[レベル] 5　JJ

ıllıɟƖcſ　[交通] ファーストクラス　[娯楽] S席　[名詞] 最高席　μɑ;/　JʔJ 以前にこれと同じ語源でリディアが造語済み。

ıllɟıſı　[歴史] 始祖　[レベル] 4　J0

ıllɟıɑ　[気象] 最高気温　[レベル] 3　1L:μcɑcı:ıμbıɩelſ　[用例]　ſel dɔɟƖlıl, ıllɟıɑ e ɟııɒ eſ ʔ0 cɒ ɑcɟ. 今日の午後の最高気温は３０度になると予想された。　ıllɟıɑ ıſ ʔlʔ cɒ ɑcɟ. 今日の最高気温は３５度だった。 ☆ɑcɟ, senſ ıſ ejdſe, jee ıllɟıɑ ıſ J0 ɔonſ ıuenɟıɑ eſ 1J. 今日は曇りで、最高気温２０度、最低気温１２度だった：ɔonſ 格中なので ıſ でなく eſ にすること。

ıllɟe　[形容詞] 洗練されていない、田舎っぽい、素人っぽい、野暮な、野暮ったい、やぼな　[反意語] ɟıje　[レベル] 4　J0

ıllın　[名詞] 救助者　[娯楽] [軍事] 援軍　[名詞] 手伝い、助手　[名詞] 医者の看護婦、看護婦、看護師、看護士、ナース：詳しく言う場合は uılɟıllın。病院内などでは ıllın　[レベル] 2　1L: リディアの書

ıllıuɟſ　[名詞] 最優秀賞　[普通動名詞] 優勝　[動詞] ɥel に優勝する、優勝する　[レベル] 3　μɑ;/　JM

ıllıuɟſın　[名詞] 優勝者　[レベル] 3　μɑ;/　JM

ıllıucen　[形容詞] 最強　[レベル] 2　JJ　[成句]　lcı φıılın eſ ıllıucen 泣いてるルシアは最強です：泣く子と地頭には勝てぬ

ıllıuɔlſ　[形容詞] 肝心の、一番大切な、核心の、最重要な　[レベル] 3　μɑ;/　JM

ıllıaleə　[地学] 極南　[レベル] 5　JJ

ıllıhıcƖı　[法律] 最高裁判所　[レベル] 4　JJ

ıl ɟıμſe　[感動詞] いただきます、ごちそうさま、ごちそうさまでした　[レベル] 1　ʔ1: 制：古　[文化] 日本語のいただきますやごちそうさまは人との対話。ıl ɟıμſe は神との対話。考え方が異なる。

ıllɟμbızɟıμɑ　[感動詞] アルバザードに栄光あれ、アルバザードのことは任せろ。多義。　JJ:ıllɥə nʔ からの類推

ıllıſ　[格詞] ～以下、≦、(時間を伴って) ～までに　[数学] 以下　[反意語] ıllɔɔɑ　[レベル] 2　1L　[語法]　ıllıſ ɑcɟ の場合、今日も含む。今日が最終期限となる。　[用例]　μe ıſſ ıſə ɥel leɟ ſc ɟɔɟ ıllı ſ ɑcɟ. 今日までに君がしてきたことをここに書け。　ıſl ıllıſen 10　１０以下の数

ıllıſe　[天文] 宇宙、全世界　[名詞] 森羅万象　[レベル] 3　J0: 古 ıl（強意）/ıllſe　[語法] [文化]　leʔıc, ıμɑc, ıμɑel, ɥəɑɪnı などの異世界をすべて含んだ宇宙のこと。ɔʔı より広い。　日常的には単に ɔʔı の持って回った言い方や ɔʔı の強意として使われる。「このひろーい宇宙に！」というときは、強調しているので ıllıſe のほうが自然。

ıllıſen　[接続詞] ıllıſ　[レベル] 3　J1

ıllıɟ　[建築] 最上階　[レベル] 2　1L:ɒelcɑcı ılcɟ　[用例]　leʔɔ ıllıɟ 最上階に着く

ıllıſc　[地学] 極東　[レベル] 5　JJ

ıllıın　[親族] 義理の父、義父、舅　[レベル] 3　J0

ıllıɒ　[生物] 頬の内側、口の中の部分　[レベル] 3　1L　[用例]　ın ıcl ɑcɔ ıllıɒ cɒ ʔəcl jcn. たまに食事のときに頬の中を噛んでしまう。

ıllıɒɑıcz　[医療] 頬の口内炎、口内炎　[レベル] 3　1L

ıllııl　[数学] 最大値　[レベル] 3　1L

ıllılɟ　[地学] 極西　[レベル] 5　JJ

ıllıcſɔ　[娯楽] 最高点　[レベル] 3　J1

ıllıɔʔlaeɟſ　[数学] 最大公約数　[レベル] 3　1L　[用例]　ɥəc ıllıɔʔlaeɟſ 最大公約数を求める

ıllıenl　[アビリティ] 必殺技、アルカエンル。手持ちの技の中で最強なものを指す。　[レベル] 3　JʔJ

ıllıcſ　[ユマナ] ユーラシア大陸　[レベル] 5　制

ıllıcſ(J)　[音楽] ダ・カーポ、ダカーポ　[レベル] 5　1L:ı ʔcſ（最初へ）→元の形に戻して ıl ʔcſ

ıllıɑel　[地名] アルキデル　J0　[文化]　カテージュ東部の山岳地帯の要塞都市。

ıllıcl　[数学] 余割、コセカント　[レベル] 6　1L

ıllıcld　[約物] バックスラッシュ記号　[レベル] 4　J1

ıllıclzɔleeu　[物理] 非正弦波　J1

ıllɔ　[動詞] ɥel を ı に派遣する、派遣する、送る　[普通動名詞] 派遣、ハケン　[レベル] 4　1ʔ: 制 :ıllɔ ʔl（特別な使者）。制では特派。　[用例]　ıllɔ lıbıɟſ ı ɔcſ ɒelefſ 社員を別の会社へ派遣する

ıllɔſ　[魔法] [工学] アルコット現象、斥晄現象　[反意語] bɥəleɒ　[レベル] 6　J0: 古 ıl/ʔɔſe（同じでない）　[文化]　まったく同じ晄基配列の ucμ 同士の間に魔法物理学上の斥力が生じる現象。

ıllɔɑ　[アイテム] グラディウス　zφ;ıllɒ ız ıllɔ/ɑμec。盾の間から突き刺すように出す剣であることから。　JM

ıllɔɑɔμ　[音楽] 附点二分音符　1L　[文化]　→ ɑɔμ

ıllɔɒı　[数学] 反比例　[動詞] ɥel を ı に反比例させる、反比例する　[副詞] 反比例して　[レベル] 4　1L　[用例]　ɑeldız eſ ıllɔɒı ı bɔlſ. 学歴と腕力は反比例する。

ıllɔdɟ　[数学] 微分　[レベル] 5　1L　[文化]　微分は nɑ で発見された。積分は古代から基礎的な面積の求め方として萌芽があったが、計算が複雑なため、nɑ まで理論が発達しなかった。結果的に微積分は nɑ で発見されることとなった。両者は逆演算だが、当初は微分は速度の研究で用いられ、積分は面積の計算で用いられた。そのため、両者は別々のものとして研究されていた。当時微分は uıcɟzed（凝視計算）と呼ばれて積分とは別のものだと考えられていたが、やがて積分の逆演算だと分かると、ıllɔdɟ の名を冠するようになった。

ıllɔdɟɑɔſl　[数学] 微分係数　1L

ıllɔɟƖıı　[地学] 平面図法、方位図法　1L

ıllɒſ　[単位] アルケット　[レベル] 5　1lʔ: 制：古 :ıllɒſſı（押す）　[語法]　１平方メルフィ当たりに１ヴィヴィの圧力がかかっていることを示す単位。

ıllɒſı,ɑ　μɔʔ　ıl（強意）/ɒe（方向）/ſı（外側へ）

ıllɒʔɔ,ɑ　leſ　ıl（強意）/ɒe（方向）/ʔɔ（内側へ）

ıllɒɒ　[生物] 外関　J1:ıl/ʌɒɒelſ

ıllɒı　[生物] 裏内庭　J1

ıll　[名詞] 数　[動詞] ɥel（人や注文内容など）を ı の数に含める、数に入れる、計算する　[類義語] dıleſ, dıjɔl　[反意語] ɑlı　[レベル] 1　1ʔ: 制：古 :dılılı（数）　dılılı:dılılı:dıll　[語法]　<各言語の数>　アルカ→本項　アルバレン→ jcɑıll　ルティア語→ ſcıll　フィーリア語→ jelſıll　フィルヴェーユ語→ jıμſıll　アルティア語→ nıφcıll　ルティア語は１２進数。フィーリア語は５－１０－２０進数。フィルヴェーユ語は５－１０と５－１２進数。アルカとアルバレンは１０進数。アルティア語は ɑu の５進数の名残のある１０進数。　<基本>　０から９までは ɥəə, ʔɔ, ſı, uc, uıl, lcn, ʔcɟ, nɔl, ſen, lɔɟ。１０は ɔn で１１は ɔnʔɔ。日本語と同じ数え方。　<アクセント>　一桁のものはその単語にアクセントが来る。ʔɔ など。

二桁になると、一桁目にアクセントが来る。ɔnſʔ や uılɔnſʔ など。第二アクセントは最初の数の後に来る。結果的に、uƬlɔnſʔ のように発音される。なお、uılɔn など、切りの良い数は uƬlɔn のようになる。　三桁は uЄφıluƬlɔnſʔ のように３つに区切って発音される。一桁目が第一アクセントで、左に行くほど副次アクセントになる。　四桁も同じシステム。　<位取り (zɔnſeu) >　位は ɔn（十），φıl（百），ʔɔſ（千），jen（万）までが基本の単位。　億からは４桁区切りで単位を作る。アルカで大きいと考えられている動物の名前を元にして単位は表現される。実際にはサメの方がクジラより大きい種があるが、アルバザード人の感覚だとサメのほうが一般に小さいなど、文化的な見方が含まれているので注意。　どの動物もアルバザードに生息するもので、大きかろうがキリンやコンドルなどは除外される。象はアルバザード領内に生息はしていないが、輸入されてからは知名度が高く一般的。　ucɟ ← uıcɟ（ɩɩ猫＝億），ıuɒɒ ← ıuɔɔ（狼＝兆），ɑəlſ ← ɑelſ（熊＝京），ɑınz ← ɑenz（豹＝垓），ucɔ ſ ← uceſ（獅子＝ジョ），lınɔn ← ʔlınɔ（鷲＝穣），hıμɑ ← hcμɑ（鮫＝溝），bɔl ← bel（鯨＝澗），ıɩpeſ ← ıɩcɒ（象＝正）　なお、正で１０の４０乗になり、聖数の４が出てきているため、ここでストップする。これ以上の数は１０の何乗と表現する。　一方、マイナス乗についても同様である。　ſɔn（割、分），lıμ（分、厘），ncſ（毛、毫），ɑıſ（糸、絲）までが基本の単位。　それ以下はアルバザードで小さいと考えられている一般的な動物を元にしたものを使う。語形がほかの数字に似ているものは省かれる。例えば ʔɔʔɔ（鳩）は ʔɔ（１）と似ているのでアウト。　ɔɒe ← ɔɒı（犬＝沙），ʔeſſc ← ʔeſſɔ（猫＝漢），ɑeɒeſ ← ɑeɒ（鶏＝瞬息），uɔʔɔ ← ueʔɔ（鴉＝虚空），eμeſ ← eμcſ（蝙蝠＝涅槃寂静），ʔɔɒeſ ← ʔıɒſ（鼠＝マイナス２８乗），zeſl ← zɔſl（栗鼠＝マイナス３２乗），ſleſ ← ſlcſ（雀＝マイナス３６乗），ejſın ← ejſı（蛍＝マイナス４０乗）　<ヒュート式位取り>　ヒュートやルティアは３桁ごとの位取りを使う。どちらかがどちらかにその数え方を伝来した関係ではなく、単に同じシステムを採用しているにすぎない点に注意。　リュウがヒュート人だったため、電算関係は３桁区切りのものを使うことが多く、結果のちのアルバザード人を悩ませることとなった。現在では科学やテクノロジーでは３桁区切りを使うことが多く、経済や日常生活では４桁区切りを使うことが多い。簿記や電卓は４桁区切りとなる。　地球のＳＩ国際単位系ではプラスの乗数は１乗のデカから２４乗のヨタまでであり、マイナスの乗数も同じ範囲であり、計２０個の位が存在する。　一方ヒュート語ではプラスの乗数は１２段階あり、マイナスも１２段階あり、１乗から３０乗までそれぞれ存在し、計２４個の位がある。エルトの本拠地であったヒュートは文化的な神の影響力が多く、神々が開発した１２進法の影響が残っており、１２個ずつの位は非常にキリが良い。同時に彼らは１０進法も使うため、乗数が綺麗に３０乗で止まる点もキリが良く、古代ヒュート人の智慧が見て取れる。　ヒュート語ではこれら２４の位を節気になぞらえ、節気の名で表現し、数学的見地に芸術や季節感を織り込んだ。しかしアシェットの使徒であるリュウはこれをアルバザード式の節気に置き換えて表現した。このことが後世にも残り、新生または３桁区切りの桁はアルバザードの節気を元にした単語で表現される。
３乗までは実質 ɔn, φıl, ʔɔſ, ſɔn, lıμ, ncſ と同じであるが、アルバザードでは単位（地球でいうセンチメートル）のようなものにはこの３桁系を使う。１０キログラムをアルカ風にすると１０ ʔɔſɒelbı になるが、直訳すると「十千メルバ」である。十千というのはいかにもわかりづらい。そのため、単位には３桁系を使い、４桁系は純粋に数値を指す。　プラスは立春（デカ）から大暑（３０乗）までで、春と夏を使う。　マイナスは立秋（デシ）から大寒（－３０乗）までで、秋と冬を使う。　いずれも４音素までなので、日本語よりは冗長になるということは少なくともない。同じ子音で始まるものが多いので、適宜子音をずらしてある。　・プラス　ınlı:ʔ: デカ　cnφe:J: ヘクト　ɒecn:ʔ: キロ　ɑcel:ſ: メガ　lcɔnʔL: ギガ　ılcɒ:1J: テラ　lıeɒ:lſ: ペタ　cnəj:1Δ: エクサ　elcμ:JI: ゼタ　jeıɒ:JI: ヨタ　ʔɒcıl:JI: デシ　φıμɑ:1: デシ　ɑıcn:J: センチ　nɔcj:ʔ: ミリ　lıcɑ:ſ: マイクロ　ıɑcμ:L: ナノ　φμeμ:1J: ピコ　sınɑ:lſ: フェムト　oecɑ:1Δ: アト　becl:JI: セプト　ueɑl:JI: ヨクト　zcın:JI: ſecn:ʔ0　<数の種と序列>　数の種は３種。数値 (dıleſ)、番号 (ɑılı)、組み数字 (μıdılſ)。　これに序列 (ıjcl) と非序列 (cLıſ) の２種を組み合わせて６種作る。例えば序列組み数字は ıjclμıdılſ となる。
序列は上下関係のあるもの。非序列は上下関係のないもの。　組み数字３は序列系が uınφ ıμ, lınjeμ, blcz であり、uınφıμ>lınjeμ>blcz という上下関係がある。成績を３段階で評価する場合などに使う。uınφıμ が一番良い。　一方、非序列系は jleı, bɒleı, ſμeı。優劣がなく、成績などには用いない。クラスの名前など、上下関係のないものに用いる。　序列数値は１が下。例えば１点＜１００点。　序列番号は１が上。例えば１位＞１００位。　序列組み数字は既に見たとおり、登場が早いほうが上。例えば uınφıμ>blcz。　日本語ではこれら３種の序列が定かでないため、しばしば混乱が生じる。１というのは良いのか悪いのかよく分からない。　順序なら良いを意味するが、成績なら悪いを意味する。さらに英語まで入って A という評定だと成績でも逆に良いを意味することになる。日本人なら誰しも「はて、この１は良い１なのか？」と思ったことが一度はあるだろう。　アルカの場合、３種の序列を明瞭に区別する。それがいいかどうかは分からない。少なくとも組み数字を覚えるのはネイティブ以外には困難であるから。　歴史的には序列と非序列の区別が J1 年までなかった。非序列で圧倒的に占められていた。　J1 年にメルが既存の組み数字１０（古アルカの１０）がほかの組み数字と違って要素同士が互いに等価な感じがしないと言い出した。それがきっかけで序列と非序列という区別に至った。セレンが両者を区別し、同年に序列系を拡充させた。
厳密にいえばこれまでもたとえば評価を４段階で付けるときに ılſe などとするのは違和感を感じていた。アシュテがシエルより優れているとは思えないし、その逆も然りだからだ。そこで ılſe でなく ſ などを使うこともあったが、これもあまりしっくりこなかった。今回のことできちんと考えるきっかけとなった。　なお、発端となった組み数字１０そのものはその後結局序列でも非序列でもないものとして組み数字から排他された。　<歴史>　指の数を使って表現した jelſıll → １０進法に変化した ɟμſıll → 武器の長さを元にレスティル軍が独自に定めた符牒としての数が広まった jcɑıll → jcɑıll を元に作られた制アルカ→それを変化させた現在の ıll　[用例]　ıll ɟɔμ{ſcn} 大きな数

ıllɟɟ　[数学] 数列　[レベル] 5　1L

ıllɥɔl　[電算] ナンバーロック　[レベル] 3　J0

ıllƖəʃ　[電算] テンキー　[レベル] 3　J0

ıllı　[形容詞] ～というもの　[レベル] 1　古 :ıllı（というもの総体）。lılı（存在 / 存在）と同語源。ただし ıllı と lılı は別の意味を持った別の語　[語法]　名詞に付き、以下の説明がその名詞全般に渡ることを指す。ɒcn ıllı は「女というものは」という意味で、女全般を指す。論理的には cl ɒcn と同じだが、cl ɒcn は e v e r y と同じように個々の成員に焦点が当たっている。　[用例]　ucʔ ıllı ef cbeſ ı uɔμſ. 男というものはいつまでも幼稚なものである。

ıllın　[名詞] [形容詞] 二次創作、二次　[反意語] lınɔ　[レベル] 4　J1:ıl/lınɔ。@ jcɒe だと発音しづらいため。

ıllıɑſ　[動詞] ɥel を c から欠席させる、欠席する　[類義語] ʔcjſ　[反意語] lıɑſ　[レベル] 2　1L:μcɑcı:ı μbıleſſ　[用例]　☆lı ıſ uɔʔlı ıləəfel ɒın lı ıllıɑſ c lıl. 彼は忙しかったに違いない。そうでなければ授業に欠席するはずがない：O T H E R W I S E に相当する uecl は使わない。

ıllıɑnı　[形容詞] 無責任な　[反意語] ıllıɑnı　[レベル] 3　μɑ;/　JM

ıllıɑnıucnɟ　[普通動名詞] ポイ捨て　[動詞] ɥel をポイ捨てする、ポイ捨てする　[レベル] 3　μɑ;/「無責任廃棄」　JM　[用例]　lı ıμıſ ıllıɑnıucnɟ e ɥıj ı ɑɔnſ. 彼は道にタバコをポイ捨てした。　lın ɑc ıμ ıllıɑnıucnɟ e ɥıj ı ɑɔnſ jıen ılɔc l'ın ıμ ɒellıb ʔlı. 自分が働いてるコンビニの前の道にタバコをポイ捨てする奴が多い。

ıllclcəɟ　[名詞] 貸し　[反意語] lclcəɟ　[レベル] 3　J0

ılle　[形容詞] 懐かしい　[類義語] ıllɑcı　[レベル] 3　ɔɟμn:ʔɒccμ:「どんどんなくなっていく」が原義　[語法]　ılle が ıllɑcı の上位概念。ılle は以前体験したことを思い出させるような何かに遭遇したときの感情である。自分から思い出そうとするのではなく、認知したものから自然と思い出させられるような場合に使う。日本語と違って良い意味で用いるとは限らない。良悪はない。囚人時代も懐かしいといえる。日本語の懐かしいより広い。懐かしい数学とは言えないが、ıll ılle はいえる。数学の中で昔学んだ分野がふいに思い出されるような場合に使う。
ıllɑcı は主に思春期の甘美な思い出を思い出したときの感情。ıllɑcı の下位概念だが、こちらは良い意味でしか使わない。ıllɑcı と ɟμſcı の比較→ ɟμſcı　[成句]　ɟıɒ cɒen ɑcɟ eſ ɑccnı ılle cɒen jcl. 今日の「新しい」は未来の「懐かしい」のため (jeμen ɟμbızɟμɑ)　[用例]　ın nıſ nıcɑ ɒın ſeμ leɒ ılle. 懐かしい曲を聞いてじーんとなった。

ıllelʒɑel　[数学] 数秘術　[レベル] 6　JJ: 「数の意味の学問」

ıllelſ　[天文] 月食、月蝕　[レベル] 4　J0

ıllela　[形容詞] バッドタイミングな、間の悪い、タイミングの悪い、時機でない　[反意語] lelɑ　[レベル] 2　1L　[用例]　"ɔə, denſınſ, ſəμ eſ ıllela. ſəμ uɔʔlı e"「あぁ、ごめん。今バッドタイミング。忙しいんだ」　"ılı ej ıμcı e lıle ɑccnıen lız dıcn ıllelael ıμjen lcʔj μıjʔı c sclc ſ'ɔɒc ıı"「なんで少女マンガの主人公ってのは、男が浮気相手とキスしているときに、都合悪くドアの隙間から見ているものかなぁ」

ɪllɛlɒ ［気象］白夜 ［レベル］4 1L

ɪlʃ ［動詞］ɥəl を放置する、放置する、放っておく、そっとしておく ［動詞］ɥəl をそのままにする、～しっぱなしにする、～しはなしておく ［形容詞］～しっぱなしの ［副詞］～しっぱなしで ［レベル］2 1L:ɪɩl/ɟɔ（そのままにしておく） ［語法］日本語と同じく「放っておく」という意味もある。 ［用例］ɪn ɪɲɪʃ ɾɛɸɪ ɪlɟɛl ɪɩɲɪ ɯcɲɑ. 一晩中ラジオを付けっぱなしだった。 dɪɟɟɔ dɪɟɟɔ, ɪlʃ lɪ. いい、いい、あいつは放置で。 ɟɪb ɪlʃ 脱ぎっぱなし｛着っぱなし｝の服

ɪlʃɔɔl ［形容詞］いつもと違った、風変わりな ［反意語］ɟɔɔl ［レベル］2 JO ［用例］nɔɔn lɪɑɪʃ bel ɪlʃɔl cɒ ɑcʃ ɪ. 今日はいつもと違う料理を作ったわ。

ɪlʃɪ ［被服］上着、ジャケット ［レベル］2 1L:ɟɔnɔhcnɔlc:ɪlʃɪl ［用例］ɟɪb ɪlʃɪ 上着をひっかける le ɪlʃɪ ɾcl ɪnɪ. あのジャケットいいね。

ɪlʃɾ ［動詞］ɥəl（機械）をセットしたのを解除する、解除する、解く ［武道］［動詞］ɥəl の構えを解く ［反意語］ɟɪɾ ［レベル］2 1L ［用例］ɪlʃɾ neɾɒel 目覚ましを解除する ɥe ɪlʃɾ, ɾɔu cl ɾɔɔl. 構えを解け。喧嘩は終わりだ。

ɪlʃɪɒe ［言語］与格 ［レベル］6 JO

ɪlʃɪdl ［化学］ニトロソ化合物 1L

ɪlʃɪdlɪ ［化学］ニトロソ基 1L

ɪlʃɪb ［動詞］ɥəl を c から脱がす、脱がす、脱ぐ ［反意語］ɟɪb ［レベル］2 1L ［用例］ɪlʃɪb lɪʃl dɔɾ lec ɒɔlɾ. ベッドでは靴を脱ぎなさい。

ɪlʃɪɪl ［形容詞］印象にない、印象に残らない、存在の薄い、影の薄い ［反意語］ɟɪɪl ［レベル］3 JO ［用例］ɟɪe ɔ lecn eɾ ɪlʃɪɪl. 紗枝やレインは影が薄い。

ɪlʃɪz ［名詞］４０歳代の男 ［反意語］ɟɪɪz ［レベル］2 1L

ɪlʃc ［普通動名詞］嫌がらせ、いやがらせ、ハラスメント ［動詞］ɥəl に uɔl の嫌がらせをする ［レベル］3 古 :ɪl/ɟccnɪ ［用例］lɪ ɪlʃcɾ ɪn uɔl ɩəueɒ ɪn ɑcel ɟcn. あいつは根も葉もない悪口を言って嫌がらせをしてきやがった。

ɪlʃcnl ［形容詞］一時的でない ［反意語］ɟcnl ［レベル］3 JO ［語法］一時的でないが、永遠かどうかは分からない。

ɪlʃcd ［動詞］ɥəl（吸ったもの）を吐く、吐く ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcʃ ［用例］ɪlʃcd leɑ 息を吐く

ɪlʃcɪ ［地名］アルシア、銀泉京 ［レベル］2 古 :ɥcɑcɪ:lʃcɪ ← ɟcɪ/ʃcɪ。ɟcɪ の本義は膜で、牛乳の油膜なども ɟcɪ という。牛乳の油膜は泉の水面に当たるため、水面も ɟcɪ という。正確には ɟcɪ lɛnɔ elɑe や ɟcɪ lɛnɔ eɸcɪ などといった。アルシアは森と泉に富む。泉が多いことから ɪlʃcɪ と名付けられた。ɟcɪ で elɑe を指すのはメトニミーであるから、これはメトニミーによる地名である。「銀」は魔法の銀。 ［文化］アルバザード北側に位置する都市。アシェルフィの北のソエンを越え、ザミアと違う方角に飛んでいけば１日で着く距離。アルシェがフルミネアと出会った場所。アルシアの１１魔将がいた場所。

ɪlʃcɪ(l) ［名詞］アルシアの１１魔将 ［シェルト］横軸、軸 ［組み数字］１１ ［レベル］4 古 :ɥcɑcɪ: １１魔将が集結した地であることから１１魔将の創造主はリディア。ソーム以降に生まれた。比較的新しい登場人物。語源は全て古アルカの火などの属性を表わす言葉。見てそのままずぐ何だかわかるようにしてある。彼らは神でなく人間であることを強調されたため。大抵 lɪ nʃcɟ を表わす lɪn や ɾcɟ などの接辞が付与された名前になっている。更に lɪn や ɾcɟ の一部しか使わないで人を表わす名前もある。女性は比較的指小辞の n が付いたものが多い。語呂が良いので語源となった単語を変えないでそのまま名前にしたものもある。聖と邪は最後にできた。他の９将を作ってから数ヶ月以上経っているため、ネーミングが他の L 名と不統一。lɪn が前置している。 ［文化］ɥəɟcɑeɸ ＜概要＞ カコに現われた１１人の武将。各々得意とする分野の魔法を持つので１１魔将と呼ばれる。それまで散逸していた魔法を１１種の区別に分け、うちソームが支配する７種を基本属性と正式に決めた。つまり、魔法学の大成者である。アルシアの性別はデームスの性別と同じ。トゥーノは無性別なので男女同数。ちなみに、デームスにない利書は共に男。尚、１１種の魔法とは闇水風土火雷光聖邪利書である。 ＜美徳＞ アルシアは１１の美徳を象徴する。最初の７つはソームの悪徳と対応関係にある。 この象徴が完全に定まったのはメル１９年だが、発想自体は赤アンクノットに既に見られ、形を変えながら受け継がれてきた。 uelʃcɟ: 正直 eɸcn: 祝辞 ɾeezen: 禁欲 ɾəənɪɟ: 勤勉 ɑɪclɪ: 冷静 ccɸeɟ: 謙虚 dɪlʃcɟ: 質素 lɪɒcɑ: 敬虔（神を信じる心の強さ） lɪnueɒ: 討異（異端者・不信心を討つ心の強さ） dɟɔʃcɟ: 信賞（善を称賛する心） leucn: 必罰（悪を罰する心） この中で討異はそれに当たる日本語が見つからなかったので造語したもの。 アルティス教は異端者に本来寛容だが、不信心な信者には厳しいため、不信心を主に討つことを意味する。また、不信心な人間を討つことと悪を罰することは別の美徳として捉えている。夢織のランヴェムには、アルティスでなく死神の視点で夢喰いという異端者を討伐するという意味合いが込められている。

ɪlʃcɪ(ʔ) アルシア国 古 ［文化］ɥəəɒɪ ʕLO9 ユシフェル、アルシアを独立国家と宣言。国王と真っ向から対立し、レスティルから独立 ɥəəɒɪ ʕLʃʊ ユシフェール（アルシアの 11 魔将）の魔力は凄まじく、レスティル軍ではまったく歯が立たなかった。あまりの強さにアンダントは戦慄。前線でアンダントは捕虜となるも、拘置先の研究所で厚遇され、そのまま解放される。その後逆に攻め込まれるものと覚悟したアンダントであったが、ユシフェールの要求は奇妙なものであった 同冬 ユシフェールは「レスティルがアルシアの独立を認め、自分達が研究に勤しめる静かな環境を提供してくれれば、それ以外には何も要求しない」と述べた。ユシフェールは戦禍の復讐も行わなければ、レスティルへの侵攻もしないと約束した。このあまりに控え目な要求に王は混乱した。武人である王は生粋の学者の心理が理解できなかったのである。アンダントは是非もなく要求を受け入れ、アルシアを独立させた。こうして人口 ʔ0 万人の小さな国家アルシアが誕生した

ɪlʃcɪɑɪuɪ ［被服］イブニングドレス ［レベル］6 JI

ɪlʃcɪɑɔnʃ ［シェルト］扉の軸移動 μɑ;「横軸を通る」 Jʔ

ɪlʃcɪɒeɒ ［組み数字］アルシアサークル ［レベル］4 JI ［文化］μɪdɪlL

ɪlʃcɪcʃn ［名詞］晴耕雨読 ［レベル］5 JJ:「アルシア人の暮らし」

ɪlʃccne ［名詞］嫌いなタイプ、タイプ、趣向、好み ［反意語］ɟccne ［レベル］3 μɑ;/ ʃʊ

ɪlʃɔʃl ［数学］正割、セカント ［レベル］6 1L

ɪlʃɔʃn ［動詞］ɥəl をほどく、ほどく、解く ［反意語］ɟɔʃn ［レベル］2 JO ［用例］ɪlʃɔʃn ɑɔʃ 紐を解く

ɪlʃɔn ［人名］アルソン ［組み数字］5 / 5 ［レベル］3 古 :ɪl は ɟɔ の重ね。n は人名化のための指小辞。行為者という意味。 lɔɔ:lɔɔ:dɪaef:fjəelcɟɔ,ɪlʃ ［文化］ueμəaμne qμecφclɑ リーファ隊の５番目。女性。ミロクの改革の実行者。ミロクがああだといえば何であろうとそれを実行する指揮を執る人間で、特に多忙だった。事実上軍事の一旦も担っていた。精力的で快活。

ɪlʃɔn(J) ［格詞］［文頭純詞］ɟɔn の強制形 ［レベル］1 1L: セレンの誤解で生まれた強制形が、夢織を境に固定されたもの。リーファ隊のアルソンとの区別ができないので好ましくないのだが、定着してしまった。 ［用例］ɾə jcl ejl. ɪlʃɔn ɪn dcɔ uɪn ejn. 雨になりそうだ。だからこそ傘を持っていこう。芝居がかった言い方。

ɪlʃɔnjel ［ユマナ］金曜日 ［レベル］2 1L

ɪlʃɔnlcl ［化学］アスタチン 1Δ: 制

ɪlʃɔnen ［接続詞］ɪlʃɔn ［レベル］3 JI

ɪlʃejcl ［形容詞］直前 ［反意語］ɪlɑɪnʃe ［レベル］2 μɑ;/ Jʔ

ɪlʃenl ［動詞］ɥəl を不揃いにする ［形容詞］不揃いな、不均一な、不均等な ［形容詞］歯並びが悪い ［レベル］3 JI

ɪlʃenlncɪ ［美容］シャギーカット ［レベル］5 JI

ɪlʃenllcbφɔʃe ［生物］多列繊毛上皮、多列線毛上皮。気管や卵管に見られる。 μf;/ ʃʊ

ɪlʃeφɪlɑ ［天文］超銀河団 ［レベル］6 JO:ɪl（強調）/jeφɪlɑ

ɪlʃeμ ［親族］兄、にぃ、兄ぃ ［反意語］ɪμəəs ［レベル］2 1Δ: 制 : メルに対するセレンの関係 ::ɪə eljc ［語法］［文化］血縁関係になくとも親しい目上の人間は ɪlʃeμ と呼べる。ただし同じ師匠の下にいる門下生で先に入った弟子、つまり兄弟子のほうを指すときは ɟɪlɪn を使う。兄弟子が年下で親しければ ɟɪlɪn と呼びながら ɪμəəs と呼ぶこともありえる。

ɪlʃeμcɪ ［被服］アルセリア。暖かいセリア服。 ［レベル］3 古 :ɪl/ɟeμcɪ（反対＋寒巫服＝暖かい服） ［文化］セリアをベースデザインに、暖かく改良したもの。布教が遅れた東方・極方で作られた。 北方民族にありがちなデザインの防寒服。フィンランドのラップランドに住むサーミ人の民族衣装や、アイヌ人の民族衣装に似ている。寒い地方にありがちなデザインの服で、セリアも同じようなデザイン。上着だけでなく頭に巻く布や下に履くややだぶだぶのズボンなども全て含めてアルセリア一式である。

ɪlʃeμeʃ ［形容詞］やる気のない ［反意語］ɟeμeʃ ［レベル］3 JO

ɪlʃeeμe ［丁寧］［親族］お兄様、お兄さま、おにいさま、アルセーレ ［レベル］2 JI:l.ɪlʃeμ ［文化］ʃɪɪlɪ ［語法］［文化］ɪlʃeμ

ɪlɒ ［名詞］マンネリ、倦怠期、あき、飽き ［形容詞］あきあきした、飽き飽き ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪl cnɪ（飽きた心） ［用例］ɾcɪnɪl ɪlɒn ɪlɒ 倦怠期にあるカップル leɒ ɪlɒ あきあきした曲

ɪlɒɪ ［名詞］宴、パーティ、宴席、酒宴、宴会 ［レベル］2 1ʔ: 制 :μcɑcɪ: 古 :ɪlɒɪhμə（楽しい楽しいこと） ［文化］宴会は好きなもの同士が寄り合って行う個人的なもので、接待文化はない。９時まで外出できる夏によく行われる。夕方に始まり、８時ごろに終わる。場所は誰かの家や飲食店など。 ［用例］lɪ lənɪʃ ucl ɪlɒɪ cn. 彼はパーティーに来れそうになかった。

ɪlɒɪ(J) ［μeɾɪe］［動詞］lɔ̀c ［レベル］1 1L:nɪ/nɪ で ɪlɒɪ。ɪl は古アルカで、重複を意味する。

ɪlɒɪlcμcj ［形容詞］［ネガティブ］感情表現が単純な、単純な、心が鈍感な ［反意語］nɪlcμcj ［レベル］4 JO ［語法］［文化］ → nɪlcμcj, jeμnɪ

ɪlɒɪjʃ ［生物］肘の裏、肘窩 ［反意語］ɪlɒclʃ ［レベル］3 JJ ［語法］ɒɪjʃ

ɪlɒɪɒɪ ［名詞］男の赤ん坊 ［反意語］nɪɒɪ ［レベル］2 1L

ɪlɒɪɒeʃ ［動詞］ɥəl の首を反らす、そらす、反らす ［レベル］2 JI ［文化］nɪɒeʃ

ɪlɒɪɪʃ ［名詞］２０歳代の男 ［反意語］nɪɪʃ ［レベル］2 1L

ɪlɒcɒc ［生物］白目。黒目でない部分→ ncɒc ［レベル］2 1L

ɪlɒcɪlɪ ［美容］ネープ JI

ɪlɒɔlɪ ［被覆］私服 ［反意語］nɔlɪ ［レベル］3 μɑ;/ Jʔ

ɪlɒɔɑ ［格詞］～以上、≧、（時間を伴って）～以降は、～から ［数学］以上 ［反意語］lʃlɪʃ ［レベル］2 1L ［用例］ɑcʃ ɪlɒɔɑ ɔn. 10 個以上ください。 ɪn ɪlɪbɪ lɪ μɪ ɪlɒɔɑ uɪμɔɔn. 私は普段８時以降は家にいる。 ɾə eʃ lelʃ ɸ ɪlɒɔɑ ɑcj lɪ. 今日から五月か。

ɪlɒɔɑen ［接続詞］ɪlɒɔɑ ［レベル］3 JI

ɪlɒɔc ［親族］義理の息子 ［レベル］3 JJ

ɪlɩɪ ［感動詞］気をつけて ［レベル］2 1ʔ:μcɑcɪ:ɪlel: 元は ɪlɩɪɪn。リディアが夢にアヴァンが現れないように祈った言葉が ɪlɩɪɪn である。この ɪl は制アルカの ɪl ではなく、古アルカの反意を表わす接頭辞で、およそ「アヴァンよ来るな」ということを意味した言葉だろう。リディアが寝る前にこの言葉を言っていると伝えたことで広まった。元は寝る前だけに使われたのだが、そのうちあらゆる恐怖の前に使われるようになっていった。

ɪlɩɪj ［普通動名詞］平和、ピース、和睦 ［動詞］ɥəl と和睦する、和睦する、平和を保つ ［形容詞］平和な ［類義語］ɪlɒɪlɩɪj ［反意語］ɩɪj ［レベル］2 1L:ɪl/ɩɪj（戦い＋反対） ［成句］ɑcɪ ɪlɩɪj 天下泰平 ［用例］cl̀n ɪlɩɪj 平和な日常 ɪμbɪzɪμn ɪlɩɪjej ɪ̀ɪn ɑμeɒ ɑə ɑcl. アルバザードは長い間隣国と平和を保っている。

ɪlɩɪj(J) ［音楽］テルミン JI:ɪlɩɪj

ɪlɩɪjɪɪɑ ［地球の国名］ブルネイ・ダルサラーム国 1L: 国名が平和な国

ɪlɩɪjɪ̀n ［政治］平和主義 ［レベル］4 1L ［用例］encɔ̀ ɾcl ɪlɩɪjɪ̀n. エニークは平和主義の国だ。

ɪlɩɪj e ɑcɒɪlcɪ ［歴史］メルテナ中期、パックス・ディマリア。ɥəəɒɪ ʕ,ʕʕʕ ～ ɸ,10L ［レベル］5 JO

ɪlɩɪn ［名詞］完全防御、無傷、ノーダメージ ［動詞］ɥəl を完全に防ぐ、防ぐ、ɥəl は ɟɔl に効かない、効かない、無効だ ［形容詞］（ɪn で）鉄壁な、堅牢な、難攻不落、無敵な ［類義語］ʃμeɒɪ ［反意語］bcn、deeφ ［レベル］3 ɑɩ;ɪlɩɪnɔ×ɩɪnɔ/ɩɪnɔ Jʔ ［語法］完全に防御してノーダメージなこと。

ɪlɩɪnɑ ［武道］カウンター ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［語法］deɑɩɪnɑ

ɪlɩɪnɑɪ ［形容詞］冷たくて助けてくれない、冷淡、悪い意味で不干渉 ［反意語］ɩɪnɑɪ、ɪlɑɪs ［レベル］3 1L

ɪlɩɪnɪ ［形容詞］［ネガティブ］自信がない、弱気な ［経済］ベア ［反意語］ɩɪnɪ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj

ɪlɩɪnɔ ［人名］アルヴァノ ［組み数字］１３/１４ ［レベル］4 古 :ɪlɩɪnɔ ← ɩɪnɔ/ɩɪnɔ ［文化］（_ʔ lcj ɑcn） 第４期３代第１３使徒。メルの実母。

ɪlɩɪnɔj ［アトラスの国家］アルヴァノス ［レベル］5 ɑɩ;ɪl/ɩɪnɔ「守る」 1L:μcɑcɪ:ɪlɩɪnɔ（守る） ［文化］面積：ʔ1Δ1ʕΔ.JL0ʕ0 ʕɒ] ɒelʃcɪ Δʕʼʕʕʕʕ に神々が建てた国で、現在も残っています。

ɪlɩɪnɔlcl ［化学］イッテルビウム ［レベル］6 1Δ: 制

ɪlɩɪnɔlccɑɪ ［天文］フォーマルハウト ［レベル］6 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel ［文化］秋に輝く唯一の一等星。黄道を通る４つの一等星の中ではアルデバランに近く、メルの横にいることになる。

ɪlɩɪɒ ［形容詞］大人しい、おとなしい、大人しくなった、沈静した ［動詞］ɥəl を大人しくさせる、大人しくさせる、おとなしくさせる ［反意語］ɩɪɒ ［レベル］2 JO ［語法］暴れたりしないで大人しいさま。ɥəlʃ が ɪlɩɪɒ なら、lcɪ は ɩɪɒ。

ɪlɩɪμ ［化学］レプトン、軽粒子 ［レベル］6 古 :ɪl/ɩɪμɪ̀ɪn

ɪlɩɪμʃ ［形容詞］とてつもない、途方も無い、途方もない。 ɩɪμʃ の冗語。 ［レベル］2 JJ

ɪlɩɪlɑɔμ ［音楽］附点十六分音符 1L ［文化］ → ɑɔμ

ɪlɩɪcn ［魔法］アルヴァイン。利の高位白魔法。 ［レベル］6 ɾɒ;/「抗ウイルス」 Jʔ ［文化］ɩɪcn

ɪlɩc ［形容詞］強大な、強い、とても強い、強靭な ［文字］ヘビー ［類義語］ucen ［レベル］3 JI:ɪl（強意）/uc

ɪlɩcμɪɒ ［被服］ブルマ、ブルマー ［レベル］5 JO ［文化］女権の復古とともにコルセットが疎外され、動きやすさを重視した結果、ブルマが μɑ で作られた。女子体操着となったが、後世革命で廃止される。

ɪlɩcnj ［動詞］ɥəl（物を地面や台などから）を拾う、拾う、拾い上げる ［動詞］ɥəl を見殺しにしないで助ける、助ける。ɪlʃ と同じだが、見殺しにせずというニュアンス。 ［動詞］ɥəl（犬や猫や孤児など）を拾う、拾う、飼う、引き取る、世話する、育てる。この場合の「飼う」などは捨てられていた動物や人間を引き取る場合に使う。 ［類義語］ɪlɪ̀ɔ ［反意語］ucnj ［レベル］2 1L: 捨てるに比べ、圧倒的に頻度の少ない日常動作であることから ɪl をつけた。 ［語法］ɪlɪ̀ɔ ［用例］ɪlɩcnj bɪj ɪ̀ɪ jɔ̀l 公園でごみを拾う uec ɥəlc ɪlɩcnjɪʃ lɪɑcn ɑɪsel e. 何人かの子供が親切にも拾ってくれたわ。 ɪlɩcnj ɪ̀eʃ 猫を拾う

ɪlɩcɑɔμ ［音楽］附点八分音符 1L ［文化］ → ɑɔμ

ɪlɩcɑ ［生物］［医療］経穴→ ucɑɑ jzl;ɪl/ucɑɑ Jʔ ［語法］［文化］ucɑɑ

ɪlɩclɪ ［生物］抗原 ［レベル］5 JI

ɪl ɩcɪn ［感動詞］お大事に、おだいじに、元気であれ、元気でありますように ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 ［用例］"ɪl ɩcɪn... lɪɒen ɥəlc ɪ" 「元気でな……始まりの仔よ」

ɪlɩcɪn ［物理］外力 ［反意語］cɪlɩcɪn ［レベル］6 JO: 物体へ向かう力

ɪlɩccɑeɒɔ ［生物］内湧泉 JI

ɪlɩɔφ ［化学］［工学］ステンレス ［化学］［工学］ステンレス鋼 ɩl;/「錆びない」 Jʔ

ɪlɩɔμ ［名詞］ゾンビ ［レベル］3 μɑ;ɪlɩɔμʃ.l Jʔ

ɪlɩɔμʃ ［魔物］アルヴォルト（闇躯）：第四天：闇の空天 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:ɪl/ɩɔμʃ（不死） ［文化］霊族。死体に乗り移って活動する魔物。いわゆるゾンビ。知性の幅はさまざま。ただ襲ってくるものもいれば、知能の高いものもいる。したたかなものには、生前の姿を装って愛する者の元へ戻り、歓迎を受けて油断させたところで食い殺すものがある。胡椒やパセリなど、香味の強いものが苦手で、これらを撒くと苦しみだす。 ［成句］ɪlɪʃɔ ʃ̀ɪlɩɔμʃ 死屍累々

ɪlue ［名詞］的、標的、マト、狙い、獲物 ［類義語］lɪnɪ ［レベル］2 JO:ɪl/ues（矢の向かう方向）

ɪluejɪ ［歴史］アルヴェスク ［レベル］4 古 :μcɑcɪ:ɪɑel ɪnueμ ej ɾelʃɪ（悪魔の雨）から。ディアリーファ同様、文を単語にしたもので、元は「悪魔の呪が雨となりて降りきたる」の意（ただし厳密には ɪɑel の後ろに le がないので非文 ［文化］アデルが振りやすい雨の日。

ɪluenl ［形容詞］悪魔の性質を持った ［魔法］アルヴェンシュ。邪の多段黒魔法。邪属性の黒紫の光線で敵を焼く。 ［反意語］ɪlɒcɑɪ ［レベル］4 JI:ɪl/uenl ［語法］ɒcɑɪ

ɪluea ［名詞］非ヴィード、現晩、げんこう ［名詞］［形容詞］ヴィードを伴わない、非魔法、非魔法の、魔法を使わない ［類義語］ɑlɪɒ ［反意語］ucɑ ［レベル］4 JI:ɪl/ucɑ ［語法］ɩɪlel の内訳が ucɑ と ɪluea。 狭義では「非魔法の」という意味で、ɑlɪɒ と同じ。

ɪlueɑɑel ［名詞］現奏、現晩学 ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ ［語法］［文化］ɪluea に関する学問で、大別すると文系と理系に分かれる。

ɪluez ［言語］内容語← ɪleuzueſ ［レベル］6 JƜ

ɪluezueſ ［言語］内容語→ ɪluez ［反意語］uezueſ ［レベル］6 JƜ

ɪluezeɒ ［言語］語彙化 ［反意語］uezueſeɒ ［レベル］6 JƜ

ɪluelſ ［形容詞］薄暗い、ほの暗い ［類義語］uelſ ［反意語］ɪlɑcɲſ ［レベル］2 1L ［語法］ 薄暗い自体がややポジティブと捉えられるため、「部屋が薄暗かったので灯りをつけた」というのを訳す際は ɪluelſ を使わずに uelſ を使うことが多い。 ɪn ɪɲɪſ dɪɒ ɒɪn ſə ez eſ ɪluelſ だと「ɪluelſ なのになぜつけた？」と思われ、最悪 cɲſ の言い間違えではないかと考えられることもある。そのため、ɒɪn ſə ez eſ uelſ と訳す。 ［文化］ 眩しいのを嫌う民族で、薄暗いのを好む。フランス人同様、オフィスであっても薄暗い部屋を好む。アメリカ人とは逆になる。 ［用例］ ſə jej leclɪ lel ɪn jɪl le lec ɟcɑ ɔnen ɪɲſ. その古い魔法の本を見つけたのは薄暗い図書館の中だった。

ɪluelȷ ［政治］反政府組織、リターナー、レジスタンス ［レベル］4 古 :ɪl/uelȷ ［用例］ ſeɲcɪ ɥəſ ɪluelȷ レジスタンスによるテロ

ɪluelɪnſ ［交通］曲がりくねった道 ［メタファー］紆余曲折 ［反意語］uelɪnſ ［レベル］3 1L:ɪl/uelɪnſ

ɪluec ［地学］クリソベリル ［レベル］6 1L:ɪl/uecɥen。ここでの uec はエメラルドではなく「緑」の意。 ［語法］ クリソベリルという宝石ではなく、アレキサンドライトやキャッツアイなどのグループ名。ただ、普段はイエロークリソベリルを指す。

ɪlɑ ［数学］数学、算数。教科名。 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪlɑel（数を学ぶ） ［文化］ → lɪnſɪhɪɪl, ſelɪ 数学と算数の区別はない。特に区別しないときは数学で統一する。 神代にエルトのイメアが算数を作った。 その後、ユルグと協力して数学を作った。 アズゲル以降はナユによって研究された。 一方、アズゲルではマレットが魔法陣を効果的に作るために幾何学を作った。 シフェルの民は敵の魔法陣を見破るために幾何学を取り入れた。 アズゲルではマレットの外来語が流入したが、カコでは学者の手によって、自分たちのアルカに翻訳された。 μɑ でリュウとピネナに引き継がれた。 この時点で用語も古→制→新生と塗り替えられた。 アルバザード人は数学が好きで、神秘的なものと捉えている。 数字遊びが好きで、特に代数学が好まれる。 しかしその一方で、レイユでは進学校以外は高等数学を勉強しないため、算数レベルの知識しかない国民が多い。 用語の傾向を見ると、幾何はマレット人の言語を訳した古いものであるため、ネーミングセンスが代数と異なっている。例えば体積は ɒɪcn（体）、面積は eel（顔）、表面積は ɟcɲ（肌）のように。代数のほうが ɒcɥəɲɪn（変数式＝方程式）のように、理性に基づいたネーミングをしている。 アシェット的には、セレンによる１９年の専門語彙作成の前に既にリュウらによって数学の用語ができていたこともあるため、［数学］タグは特に造語者が書いていない場合、造語者がセレンでないことが多い。 ［用例］ ɪlɑ eſ elɑ ɑɪ. 数学は言葉である（jeɥen ɪɲbɪzɪɲɑ） ɪn ɟccnɪ ɪlɑ. ſə eſ ɒɪn ɪn ɟccnɪ lɔ ɑc nɔɑ ɒɪl ɑc. 僕は数学が好きだ。覚えることよりも考えることを優先するからだ（『数学ガール』）

ɪlɑlcſe 数学科 JJ

ɪlɑɑcɪ 数学世界 Jʔ ［文化］ ɑcɪɪlɪ

ɪlɑɒccɲ 数学論 μɑ JJ ［文化］ ɑeldɪnſ

ɪlɑɥen ［数学］［言語］数学語 ［レベル］4 μɑ;/ Jʔ ［文化］ μɑ でセレンが提唱した概念。数学は数学語という人工言語であると唱えた。言語である以上、他の言語に翻訳することができるはずであり、他の言語に翻訳できない場合は何かしら原文の数学語に欠陥や数学世界におけるご都合主義が潜んでいると述べた。 → nɪɑhɪɑ に見られるように、セレンは数学を数学的でなく語学的に捉える習慣があった。それゆえ文系的な物の見方で数学を捉えることが多く、彼は数学は言葉であるという言葉を残した。

ɪlɑlcɪ ［地学］石英、クオーツ、ケイ砂、珪砂 ［レベル］5 lɥ;/ 1L ɪlɒccɪ:ɪlɑlcɪ

ɪlɑlɔl ［運動］懸垂 ［レベル］3 1L: 持ち上げるの反対動作。むしろ持ち引き下げるというイメージ ［用例］ ɪlɑlɔl eſ lɔcn. 懸垂はきつい。 ɪɲ ɪlɑlɔl ɑə ʔ scn 7 秒かけて懸垂する

ɪlɑleɪcɪlɒɪ ［名詞］見返し→ lec ［レベル］6 JJ

ɪlɑɲɲſ ［動詞］ɥəl（伸ばしたもの）を縮める、縮める、縮む、筋肉などを収縮させる ［反意語］ɑɪɲſ ［レベル］3 JƜ

ɪlɑɪlcɒ ［気象］極夜 ［レベル］4 1L ［用例］ el ſcl jen ɪlɑɪlcɒ ʎɪ ɪɲɑɪ. アルダでは極夜が見れる。

ɪlɑɪɪɲɪɒ ［名詞］真夜中０時 ［レベル］2 1L:jɔɲn ［用例］ ɲɪʎ ɪlɑɪɪɲɪɒ １２時を回る、０時を回る、０時をまたぐ、日をまたぐ lɪɪ, ɪlɑɪɪɲɪɒ ej ɲɪʎ ɒɪdel ʎɪn. やだ、もう１２時を回っちゃったの。

ɪlɑɪɪl ［天文］日食、日蝕 ［レベル］3 JƜ

ɪlɑɪc ［料理］ロースト ［レベル］3 古 :ɪl/ɑɪc

ɪlɑəȷ ［人名］アルファウス ［レベル］4 古 ［文化］ アルファウス（ɒeldɪlſ ȣ → ʔ10）。民主主義勢力ミナレットの三代目首領。民主主義勢力ミナレットの三代目首領。メル暦 JL0 年、ミナレット第二代首領ファウスは、アルティス教の始祖シオン＝アマンゼの娘マルテ＝アマンゼと戦い、相打ちとなった。よってミナレットは、息子アルファウスに引き継がれた。アルファウスはマルテと共にアルバザード侵攻を行なったマルテの夫にしてアルマスト派の始祖アフレインを殺害。しかし、マルテの子ユレットとアメリとアルファウスはいずれも強力な魔術師であり力が拮抗していたため手が出せなかった。JLʔ 年、アルファウスはアルティス教弾圧停止要求を受諾。ʔ00 年、ミナレットとアルティス教が停戦する。同年、アルファウスはアルバザード国王アルバ 19 世を退位させ王制を廃止、最高権力者である副王に就任。ʔ10 年、選挙問題によりアルファウスはユレットとアメリと戦い、相打ちとなる。その後、アルティス教系政党ともに腐敗甚だしい状態となる。ʔL0 年、ユレットとアメリの息子ミロク＝ユティア率いるイルミロク党が選挙に勝利し独裁政権を樹立したことにより、ミナレットは滅亡した。

ɪlɑc ［文頭純詞］つまり、すなわち、即ち、言い換えると、別の言葉で言えば、別の言葉を借りると、そういうわけで、てなわけで、というわけで、っつーことで ［名詞］要するにそういうこと ［レベル］2 古 :jɔɲn ［語法］ ɑclɒ 純詞として使うときは ɲɪ と同じく平坦に発音するが、名詞の場合は最初が高く、ふつうの名詞として発音される。直接言いたくないことを避けて言及する場合に使う。例えば「つまりレイプされたってこと？」と言いたいが、ɑɪlej という単語を言いたくないので「つまり……そういうこと？」とぼかすときに使う。用例は下の成句を参照。ぼかす内容はむろん話題によって異なる。 ［成句］ ɪlɑc... ɪlɑc ʃɔʃɤ つまり……そういうこと？ ［用例］ ɲɪ, ſə eſ ɲejʎ, ɪlɑc eſ lɔz ſejʎ ɔ ɲɪe ſcɲee. やぁ、これはみぞれだね。つまり、雨と雪が混ざったものさ。

ɪlɑcʎl ［俗語］２．５次元、アルフィクル ［俗語］フィギュア、ラブドール、ドール、人形、萌えＯＳ、ラブプラス、バーチャルリアリティ ［レベル］4 ɑl;/ Jʔ ［文化］ 二次元の性質を持った三次元。または三次元の性質を持った二次元。前者はフィギュアなど、後者はラブプラスのようなバーチャルリアリティなどを主に指す。

ɪlɑcn ［格詞］強調歪、～にもかかわらず ［レベル］2 1L ［用例］ ʎ ſɪəſ ɑɪnſ ɪlɑcn ſə eſ ɑɪlſc ɥɪɲſ. 金がものすごい値段なのに、彼は買った。

ɪlɑcnen ［接続詞］ɪlɑcn ［レベル］3 JʔI

ɪlɑcɥc ［アイテム］ツーハンデッドソード ɲɔ;/「槍に対抗する」。敵歩兵の槍を切り払うのに使われたことから。 JƜ

ɪlɑcɲſ ［形容詞］眩しい、まぶしい ［類義語］ɑcɲſ ［反意語］ɪluelſ ［レベル］2 1L ［用例］ ɪn ɑɔnl hɪɔ le ɑɔnſ ɪlɑcɲſ lel cɒdel(ɪlſe ヲタとしては、あっちの明るい通りは避けるべきだなw

ɪlɑcɲuclȷ ［化学］イソロイシン ［レベル］6 1L:ɑcɲuclȷ

ɪlɑcɪ ［名詞］扉、ドア、玄関戸、玄関ドア、玄関 ［類義語］ɔɒc ［レベル］2 JʔI:ɪl/ɑcɪ「世界へ」 ［語法］ 主に玄関ドアが ɪlɑcɪ。それ以外が ɔɒc。

ɪlɑcɪn ［名詞］少年、６～９歳の男 ［反意語］ɑcɪn ［レベル］2 1L

ɪlɑccnɪ ［格詞］～の害になるように ［反意語］ɑccnɪ ［レベル］2 1L ［用例］ ɑɪnʎɪn ɪɲ μenȷ ɪlɑcc nɪ ɑcɲeſɪn ɪlɪl. 弁護人は容疑者が不利になるようなことは絶対に言わない。

ɪlɑccnɪen ［接続詞］ɪlɑccnɪ ［レベル］3 JʔI

ɪlɑɔʎ ［文頭純詞］そしてそして、そのまたさらに ［レベル］2 JƜ:ɒelcɑcɪ lceɲ

ɪlɑɔnȷ ［動詞］ɥəl をクビにする、クビにする、解雇する ［普通動名詞］解雇、クビ ［レベル］3 1L:ɟcɑcɪ:ɪɲbɪleſſ ［用例］ ſə lɔcſ ɪlɑɔnȷɪſ lɪbɪȷſ ɒcl ɥɪɒɪucn. その会社は不況により社員を解雇した。

ɪlɑɔnl ［被服］アルフォンル。シュミーズドレスの下に着た防寒用下着。 ［被服］防寒インナー nɑ;ɪl/ɑɔnblɪnſ | ul;,ɪleʎ JƜ ［文化］ ɑɔnblɪnſ

ɪlɑɔɲ ［音楽］附点音符、付点音符 ［レベル］5 1L ［文化］ → ɑɔɲ

ɪlɑɔɲſ ［アイテム］魔槍アルフォート ［レベル］4 μcɑcɪ: 古 : 語源不詳 ɑ の部分は槍を意味するのか？ ［文化］ ヴァストリアの１つ。ピネナのもつ魔槍。自由自在に伸びる。 ［成句］ ɥən ɪlɑ. ɔɲſ 縦横無尽、自由自在、変幻自在

ɪlɑɔə ［名詞］３～５ ［形容詞］３～５の ［類義語］ɑɔə, ſcə ［レベル］2 JƜ ［語法］ ɑɔə

ɪlɑe ［魔法］精錬媒、溶媒、アルフェ ［類義語］ɪɑcȷſ, səɪl ［レベル］6 JƜ:ɪɲſ/elɑe（魔法の泉）

ɪlɑeɥeȷ ［形容詞］作為の、ランダムでない、最初から決まっている ［反意語］ɑeɥeȷ ［レベル］4 JƜ ［用例］ ſə ɪsc eſ ȷclɥcəȷ ɑəɔ ɒɪn uɪȷſɪn scɥɪſ ɥə ɪlɑeɥejel. 最初から当たる人が決まっているなんて、その籤は酷いイカサマだ。

ɪlɑelɪn ［名詞］社会人 ［類義語］ɪlcɑɪn ［反意語］ɑelɪn μɑ;/ JʔI ［語法］ → ɪlcɑɪn 学生と社会人の対比を成す語。主に社会人は労働者なので ɪlɑelɪn を lɪbɪȷſ としても良いのだが、学生は学業だけでなくバイトをする場合もあるので、社会人を lɪbɪȷſ とすると語弊が出てしまう。

ɪlɒ ［動詞］ɥəl に油断する、油断する ［普通動名詞］不注意 ［反意語］nɪɒſ ［レベル］2 1L:ncləəɒc（心がない）。制 nɪɒſ の語源 ［成句］ ɪlɒ jeſ ɪleɒ 油断大敵 ［用例］ lɪ lcɒɪſ jɔɑɪ ɒɪn ɪlɒɪſ ɥɪɒe. 彼は自転車に注意しておらず、事故にあった：気付かないという意味でなく、「まぁ大丈夫だろ」と油断していたことを指す。この事故の場合、法的には被害者にも過失性があることを意味する。

ɪlɒ(J) ［化学］アセチル種 1L:ɪl/ɒəe。酢酸からヒドロキシ基を取り除いた基を持つ種

ɪlɒɥəʎɪle ［政治］［宗教］政教分離 ［レベル］4 μſ;/ JƜ ［文化］ → ʎɪɑɒɥəʎɪle

ɪlɒlcnſɪȷl ［化学］アセチルサリチル酸 ［レベル］5 1L

ɪlɒɪ ［親族］夫婦、配偶者、伴侶 ［類義語］ɑɪlle ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:lcɪſ は言いにくいので、ɪlɒɪlȷ から ɪlɒɪ に。ɪl はここでは複数を示し、２人を意味する。 ［用例］ lcɒ ɪlɒɪ 伴侶を得る＝結婚する

ɪlɒɪ(J) ［化学］アセチル基 1L

ɪlɒɪſ ［企業］アルマット社 ［レベル］4 JƜ:「開放した」の ɪlɒeſ のアプラウト。 ［文化］ 工業系大企業のひとつ。ナディアで船の管理会社として発足した後、船の部品などの工業製品にも着手。大航海時代に荒稼ぎをした資金を以ってアルティルには事業形態を変え、工業製品一般を製造。ジンティ＝アテームスなどを研究員に向かえ、プラスチック製品などを販売した。

ɪlɒɪn ［格詞］［文頭純詞］なぜならば、～のせいで、強原因 ［レベル］2 1L dcn:dcn ［用例］ ɪn en ʎeſ ɪlɒɪn eɑ. 風邪で行かなかったんだ。 ɪlɒɪn ſcſ お前のせいだよ！

ɪlɒɪnȷ ［動詞］ɥəl を枯らす、枯らす、萎ねる、しおれる、しなびれる、枯れる、かれる、朽ちる ［反意語］ɒɪnȷ ［レベル］2 1L ［用例］ nɔn ɒclʎ ɒccnɪ ſe ɪlɒɪnȷ. 花がしおれなければいいのに。 nɔn nɪſ eɒſ ɒcl ɒccnɪ ɔɲ ɪlɒɪnȷ. 花がしおれるのを見て悲しかった。

ɪlɒɪnɪ ［名詞］少年、１５～１９歳の男 ［反意語］ɒɪnɪ ［レベル］2 1L

ɪlɒɪnen ［接続詞］ɪlɒɪn ［レベル］3 JʔI

ɪlɒɪuc ［化学］ビタミン様物質 ul;/ JʔI

ɪlɒɪɒ ［生物］［丁寧］乳房、胸部 ［レベル］4 JʔI:ɪl/ɒɪɒ

ɪlɒɪφc ［音楽］フュージョン ［レベル］6 JʔI:ɪl/ɒɪφc

ɪlɒɪzɪɒ ［生物］脛の裏側、ふくらはぎ 1L

ɪlɒɪȷ ［政治］離婚 ［動詞］ɥəl と離婚する、離婚する ［反意語］ɒɪlȷ ［レベル］2 1L ［文化］ 離婚率は１０００組に１組の割合で、ほぼ離婚しない。アルバザードでは結婚に至るまでの付き合いが長いこと、夫の家に入った妻を夫の両親が守るシステムができあがっていること、アルバザード人の女が従順で貞操観念が高いこと、男が浮気を気軽にできるインプレンが充実していること、離婚をすると夫妻子供すべてが白い目で見られることなど、様々な要因が貢献している。 ただし、別居率は離婚より遥かに高く、１００組に１組ほどある。離婚をすると白い目で見られるため、妻が実家に帰ったまま籍を残しておくというパターンである。この場合妻は子供を引き取ることができず、父親が扶養することになる。別居した女はやはり白い目で見られるため、実家でこそこそと暮らす。 ［用例］ ɒcn ɑc lɪbɪſ eɒ ʎɪ lɔcſ, hɪɥə ləəȷ ɒɪlȷ elɑ. ucʎ, ɑcnɪ ɪlɒɪlȷ eɒ ɪɒcɲ. 多くの女性がオフィスで働くようになり、結婚をしなくなったどころかむしろ離婚するようになった。

ɪlɒɪluɪȷ ［名詞］［形容詞］平和ボケ、平和呆け ［類義語］ɪluɪȷ ［レベル］4 JƜ0: 油断した平和

ɪlɒɪluel ［医療］行為障害 1L:ɒɪluel

ɪlɒɪlɑ ［動詞］ɥəl を沈静する、沈静する、鎮圧する ［レベル］4 1L ［用例］ nɪcn ɪlɒɪlɑɪſ ɪluelȷ. 警察は反政府組織を鎮圧した。

ɪlɒc ［アイテム］盾、シールド ［名詞］五角形のもの ［音楽］ピックガード ［動詞］ſel に対して ɥəl を盾で守る、守る ［レベル］2 jɔɑ 1ƜI: 制 : 古 :ɪlʃhɔ（盾） ɪlʃhɔ:ɪlʃɔ:lɪ ɪlɒc ［文化］ μɑ ではユノでガードするのが一般的なので、鎧は着ない。盾もあまり使わない。しかしまったく使わないということもない。例えばエスパルトは魔法の盾であるが、盾を一切使わないならこのようなアイテムも始めから存在しないことになる。 ［用例］ ɲɪſ ɪlɒc 盾を構える ɪlɒc ɒɪcn ſel uɔʃl ユノ弾を盾でガードして体を守る

ɪlɒcʎɪɑ ［地球の国名］ベルギー ［レベル］6 1L: 国章に盾

ɪlɒclʎ ［生物］ひかがみ、膝の裏、腿、膝窩 ［レベル］3 μɑ 1L ɒc:ɒc

ɪlɒcnl ［形容詞］目立つようにした、目立った ［副詞］目立つように、わざとらしく、わざと、態と ［類義語］hɪneſ ［反意語］ɒcnl ［レベル］2 1L ［語法］ hɪneſ ［用例］ lɪ ɪlucnȷɪſ ʎɪne ɪlɒcnlel ʎɪ nɪcnɪn. 彼は警官が見ている前でわざとらしく空き缶を拾った。

ɪlɒcnɪ ［政治］アルミナ党。ミナレットから分裂した政党の一つ。 ［レベル］4 古 ［文化］ ɪlɪcu アルバザードにおいて民主主義勢力ミナレットから分裂した政党の一つ。JƜ0 年ごろ、利害の対立により当時ミナレット党を名乗っていたレヴァレン党から分裂。

ɪlɒcu ［親族］いとこ、従兄弟、従姉妹、従兄妹、従姉弟 ［レベル］2 1Ɯ: 制 :ɒcu

ɪlɒcuɪ ［親族］義理の娘、嫁 ［レベル］3 1L:clɒəȷ:μcɑcɪ

ɪlɒcueɲɪnſ ［医療］盾型人格障害 ［レベル］6 ɪl;/ Jʔ:jeɥen/ɒel ［文化］ ueɲɪnſ

ɪlɒcɥe ［名詞］アルミフレ ［類義語］ɑlɪnɑcɪ ［反意語］zɔnɒɪȷ ［アクセント］ɪlɒƐɥe ［レベル］4 ul;ɪl ɒc/ɥec「私の剣と盾」 JʔI ［語法］［文化］ ɑlɪnɑcɪ に対抗してできた単語。女子にとって都合の良いアイドル的存在で、二次元三次元を問わないが主に前者を指す。

ɪlɒcφɪɲſ ［アトラスの国家］アルミガルト ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: 盾と門（φɪſſ → φɪɲſ）

ɪlɒcφelɪ ［地学］アルミガルトプレート JʔI

ɪlɒcφel ［運動］野球 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪɲbɪleſſ ［文化］ スポーツチャンネルで主に夏期に放送している。

ɪlɒcɲ ［名詞］アルミール、骨董品、アンティーク ［アクセント］ɪlɒƐɲ ［レベル］3 1L:ɪl/ɒccɲ（クミールのもの）。この ɪl は古の「物」という意味の ɪl ［用例］ jɪʎ ɪlɒcɲ cɒɥə 掘り出し物（掘出物）を見つける

ɪlɒcɲſ ［形容詞］［ネガティブ］節操のない、股の緩い、浮気がちな ［反意語］ɒcɲſ ［レベル］4 JƜ0

ɪlɒcɲɪſe ［名詞］骨董具屋、骨董品店、アンティーク店、アンティーク屋、アンティークショップ ［レベル］4 1L

ɪlɒcɲɪʎ ［宗教］法王、アルミラク ［レベル］3 ʎ];ɪl/ɒcɲɔʎ。ɔ → ɪ は ɪl に引きずられた結果。 JʔI:ɪl ɒcɲɔʎ.l<JƜ0:ɪl/ɒcɲɔʎ ［文化］ アリスカンテとアルティスの最高権力者。

ɪlɒcɲɔʎ ［政治］第二次ミロク革命、ミロク革命、セレン革命、ランジュ革命 ［レベル］3 ls:ɪl/ ɒcɲɔʎczɒ JʔI ［文化］ セレン = アルバザードによって推進されたアルバザードを中心とするアトラス全土の革命運動。カルディア最後の大革命。

ɪlɒccʎ ［料理］サイダー ［レベル］2 μſ;ɪl/ɒccʎuelɑ「酒でない林檎酒」 JJ ［文化］ μſ で林檎酒の代わりとしてノンアルコールで作られた飲み物。

ɪlɒccɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］たて座 JƜ ［文化］ cɑɪ

ɪlɒccɪ,ɑɪ ɪlɑlcɪ ɒelſcɪ Δ:φclcəȷ:/

ɪlɒɔ ［化学］モル、物質量 ［レベル］5 1L: 古 :ɪlɒɪ（物が多い）。「多い」はここでは赤アンクノットの「ɪlɒɪ」になっている。

ɪlɒɔl ［数学］余接、コタンジェント ［レベル］6 1L

ɪlɒɔlɪlɪl ［化学］アボガドロ定数 ［レベル］5 1L

ɪlɒɔnɔ ［動詞］ɥəl を再開する、再開する、再生する ［類義語］ɔu ［反意語］ɒɔnɔ ［レベル］2 JʔI ［語法］ 停止していたものを再開すること。

ɪlɒɔɒ ［動詞］ɥəl の根を c から抜く、根こそぎ抜く、抜く ［レベル］2 1L ［用例］ zɔɔ ʎɪc e oɪl ɪſ ɪlɒɔɒ ɒcl ɪlɪſe. 嵐のせいで山の大きな木が根こそぎ抜かれていた。

ılɒɔɒɔcnei ［化学］モル濃度 ［レベル］6 1L

ılɒɔbɥə ［化学］モル質量 ［レベル］6 1L

ılɒɔıll ［化学］モル数 ［レベル］6 1L

ılɒelʃɔn ［形容詞］メルの望まぬような ［反意語］ɒelʃɔn ［レベル］4 μɑ:ɒel;/ ʃl̩l:ɒel ［文化］ɥəʃcı

ılɒelʃɒenʔ ［名詞］反時計回り ［類義語］lınʔɒenʔ ［反意語］ɒelʃɒenʔ ［レベル］3 ʃ0

ılɒelcʃ ［名詞］１０歳代の男 ［反意語］ɒelcʃ ［レベル］2 μɑ:el;/ ʃʔ:ɒel

ılɒelcı ［企業］アルメリア ［レベル］3 ʃ1:ɒelc/ɒelc/ı ［文化］ カネボウ、明治乳業、明治製菓、ロッテに相当する企業。元々紡績をしていたが現在では食品で残っている。

ılɑı ［政治］副王、大臣、大大臣、太政大臣、執権 ［レベル］3 古 :il/ɑıcz から ［文化］ 副王。王の下位。メル ʔ00 年以後はアルファウスによって ıjfeɥ となる。

ılɑınʃe ［形容詞］直後 ［反意語］ılɟejcl ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

ılɑınʃeens ［俗語］直後責め、直後攻め ıl;/ ʃʔ ［語法］ 一発出した直後に、そのまま責められること。女性相手にする場合にも使える言葉だが、ふつう男性相手に使う。なお、ふつう男性はとても不快に感じる。

ılɑınl ［形容詞］分別がない、浅はかな ［反意語］ɑınl ［レベル］4 1L

ılɑıɒb ［形容詞］時間がかからないで簡潔な、スピード写真の「スピード」 ［反意語］ɑıɒb ［レベル］3 ʃ0

ılɑıb ［形容詞］厄介でなく容易な、面倒でなく簡単な、吝かでない、やぶさかでない ［反意語］ɑıb ［レベル］3 ʃ0

ılɑıs ［形容詞］いい意味でほっといてくれる、いい意味で不干渉 ［類義語］ılɯınɑı ［反意語］ɑıs ［レベル］3 1L

ılɑc ［料理］ブロス、ブイヨン ［レベル］5 古 :il/ıɑcıe

ılɑcj ［アイテム］アイテム、道具、商品、アルディス ［類義語］ıɑcjʃ ［レベル］3 μɑ;il/ıɑcjʃ.l ʃl̩l ［語法］ アディスト以外の道具全般を指す。和製英語のアイテムにほぼ相当。

ılɑcjʔ ［音楽］スタッカーティシモ 1L

ılɑcı ［形容詞］懐かしい ［類義語］ılle ［レベル］3 古 :μcɑcı:ılɑcı ← ɑcıɑcı（夢幻） ［語法］ ılle, ıμʃcı ［用例］ ıɒılcj ılɑcı 懐かしい思い出

ılɑcıu ［形容詞］庶出の、非嫡出の ［反意語］ɑcıu ［レベル］5 1L

ıl ɑcıμ ［感動詞］おやすみ、よい週末を、よく休んでね、おはよう、よい朝を ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古

ılɑcız ［親族］内妻、内夫、内妻、内夫、内縁、内縁の妻、内縁の夫 ［類義語］ɒelɒcʃ ［反意語］ɑcız ［レベル］4 μɑ;/ ʃl̩l

ılɑcɔn ［形容詞］ギザギザのないつるつるな ［反意語］ɑcɔn ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɑcɔn（ギザギザ）

ılɑɔɒʃ ［形容詞］非典型的な、周縁の ［反意語］ɑɔɒʃ ［レベル］5 ʃ0

ılɑɔlʃ ［音楽］ダル・セーニョ、ダルセーニョ ［レベル］5 1L: → ıllʃcʃ

ılɑejdı ［動詞］ɥəl の封印を解く、解く ［レベル］4 1L:ɒelcɑcı ılʃe

ılɑenj ［動詞］ɥəl と ʔı で待ち合わせる、待ち合わせる ［普通動名詞］待ち合わせ ［反意語］ɑenj ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe ［用例］ ılɑenj hıʔn ʔı ʔırʃe カルテで友人と待ち合わせる

ılɑenjʔı 待ち合わせ場所 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılʃe

ılɑeμʃ ［動詞］ɥəl を ı（神など）に呪う、呪う ［普通動名詞］呪い、まじない ［魔法］アルデルト。黒魔法のうち、直接攻撃系を除いたもの。 ［レベル］3 1L ［用例］ lelʃej, ılɑeμʃ ejʃ ınʃ ʔı ʔın ʃe. シェルテス、月で俺の名を呪え。

ılφı ［名詞］端っこがすぼまっているもの ［動詞］ɥəl をすぼめる、すぼめる、すぼまる、窄まる、収束、尻すぼみになる ［動詞］ɥəl（候補）を ı に絞り込む、絞る ［数学］［動詞］ɥəl を収束させる ［反意語］φıɔ ［レベル］3 1L:ılφıɔ ［用例］ nıcn ılφıʃ ɑcl̩ɔl ı lı. 警察は容疑者を彼に絞り込んだ。

ılφıʃı ［化学］亜鉛 ［レベル］4 古 :μɥəə:ɒıφıʃı を元に、ıl を付けたもの。ılɒıφıʃı → ılφıʃı. 真鍮を作るための合金元となる金属。原義は意図を組むと「真鍮材」とでも言うべきか。 ［文化］ カニに多いと考えられている。不足すると味覚異常になると知られている。

ılφıʃıʃeje ［化学］ボルタ電池 ［レベル］5 1L ［文化］ 亜鉛と銅と希硫酸で作る。化学のないカコの時代に既に知られていた。

ılφıʃıʃcl ［化学］亜鉛→ ılφıʃı ［レベル］4 1L

ılφıɯ ［アトラスの国家］アルガーヴ ［レベル］4 1L:μcɑcı:il/φıɯc ［文化］ 面積：ʃʔ1꞉1꞉9..l꞉L.ʔʔ꞉ ʔɒ ʃ

ılφe ［料理］ピザ ［レベル］2 ɟɒ;il/φe「丸い丸い」 ʃʔ: ソーンのほうで φeh が野卑な笑い声として使われており、ピザを意味する語があ ılφe になっていたらしいことを受けてピザを変更。φehʔ1ʔ: 制 :（円盤状の辛いもの）

ılφenɔɒ ［医療］アルゲノム、嫉妬 ［類義語］φenɔɒ ［レベル］3 ʃɒ;il/φenɔɒ 赤 :μcɑcı。リディアがリーザを揶揄するために作った言葉。 ［語法］ 母親が娘に抱く嫉妬。自分は年を取る上に子育ての苦労で余計醜くなるのに、娘は庇護されてますます綺麗になっていく。そのことに対する嫉妬。 広義には父親が息子、母親が息子、父親が娘に感じることも指す。更に広義には親族の誰かが若い親族の誰かに抱く若さへの嫉妬も指す。

ılφelʃ ［気象］竜巻、トルネード。区別なし。 ［魔法］アルゲルト（トルネド）。風の高位黒魔法。竜巻を起こして敵を攻撃する。 ［レベル］3 1L:μcɑcı/jeɥen/ɒel:ıl（強意）/φelʃ（ねじれ）

ılφelʃʃɔe ［医療］送り込み刺法、送りこみ刺法、単刺術、単刺。鍼で使う技術。 μɑ;/「捻らない刺法」 ʃl̩l

ıld ［普通動名詞］郵便、宅配 ［名詞］郵便物、宅配便、宅廃物 ［動詞］ɥəl を ı に送る、郵便する、郵送する、宅配する ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :oıldɔheʔı（手紙を渡す） ［用例］ ıld lənıʔ. 宅配便が来た。

ıldʔɔu ［名詞］ポスト、郵便箱 ［レベル］2 1L:μcɑcı:ıμbıelʃ ［文化］ 集合住宅では必ず改札の隣、守衛が見張れるところにある。全室分まとめて存在する。 配達人は事情を守衛に説明して通してもらう。そして守衛が見張る中、物を配る。ストーカーが変なものを入れるということはない。業者でなければ配れないからである。テロが爆発物を入れるのもかなり難しい。 住民が自分のポストを確認する場合も見張っている。ポストを開ける際はアンセを通さねばならない。他人のポストは開けられない。だが、アンセを偽造した可能性があるので、守衛は一応住民を見張っている。 ［用例］ ɟıcn{ʃıb} ıldʔɔu ポストをチェックする

ıldhıμɑcn ［娯楽］魔女の宅急便 ʃ1 ［文化］『魔女の宅急便』に相当するアニメ。

ıldμɔʃɔl ［娯楽］同人誌 ［レベル］4 ʃl̩:il/dμɔʃɔl

ıldμejʃ ［形容詞］縁起のよい ［反意語］dμejʃ ［レベル］3 1L ［成句］ jeμn μıʃ lənı jel ıldμejʃ 思い立ったが吉日 ［用例］ ʃc ejʃıʃ ɒcuı le ɑcıμʃ cɒ ɑcıjel lel μcɑcı ʔɔ18 ılı ıldμejʃ ılʔ ディアセルに生まれた娘に「リディア」とは、こりゃ縁起がいい。

ıldı ［電算］アナログ ［反意語］dılɑ ［レベル］3 ʃ0:ıldılɑ

ıldıʔʔel ［生物］承山 ʃ1

ıldın ［名詞］郵便屋、宅配便 ［レベル］2 ʃ0

ıldını ［形容詞］気が利かない ［反意語］dını ［レベル］3 1L ［用例］ lı ıldınınlʔ あいつ気が利かねぇ！

ıldıμɒ ［地球の国名］ニュージーランド ［レベル］5 1L: 子供のころ、日本みたいな形の島だと思っていた

ıldcʃ ［ジョブ］大道芸人 ［レベル］6 zφ;il/dceʃ ʃl̩l

ıldcnʔ ［化学］イソニトリル、イソシアニド、カルビルアミン ［レベル］6 1L

ıldcnʔhɔə ［化学］イソシアネート 1L

ıldcnʔı ［化学］イソシアニドの基、イソシアノ基。同様に、イソニトリルの基のことでもある。 1L

ıldcφ ［魔法］アルピグ。利の高位白魔法。 ［レベル］6 ʃɒ;/「抗癌」 ʃʔ ［文化］ ɯıcn

ıldɔnj ［動詞］ɥəl を ı に回収する、回収する ［反意語］dɔnj ［レベル］2 1L ［用例］ ʃəəj lɔcʃ ıldɔ nμıʃ jɔμlelcʃl ʃclnıl. これらの会社はギョーザを自主回収した。

ıldɔnz ［動詞］ɥəl を ɤ{fel, ılɑccnı} の前に置いたままにしてどかない、通せんぼする、邪魔をする ［反意語］dɔnz ［レベル］2 1L ［用例］ ɑen ıldɔnzʔ 邪魔だ、どけ！ ın jfenʃıʃ ucl ɑɔnʃ ɒın ıɒɔ ıldɔnzej ıl ın. 車が道路で邪魔をして渡れなかった。

ılden ［形容詞］態度がいい加減な、いい加減 ［反意語］μını ［レベル］2 ʃl̩:il/dɔ/nı「締まっていない心」

ılblınʃ ［植物］ɑcnɔcn ［組み数字］8 / 9 ［レベル］4 jzl;il/blenz/ʃe「炎のような」。ıl は強意。 ʃl̩

ılblınʃ(J) ［言語］［文字］印刷標準書体、業界標準書体、印刷業界標準書体、アルブラント書体、アルブラント ［レベル］6 ʃl̩: セリフの刺が四方に存在し、その様が曼珠沙華のように美麗であることから。 ［文化］ ɑleɑclınj 地球における印刷業界の代表的な欧文書体は２０１１年現在Ｔｉｍｅｓ系統、とりわけＴｉｍｅｓ Ｎｅｗ Ｒｏｍａｎである。 同様に、アトラスの印刷業界にも標準書体があり、書籍や新聞などの本文に用いられる。それがこの ılblınʃ である。字の特徴はＴｉｍｅｓ Ｎｅｗ Ｒｏｍａｎに最も近く、トランジショナルセリフである。

ılbıʃl̩ ［名詞］不成立 ［経済］不成 ［レベル］4 ʃ1

ılbıɔφ ［娯楽］アルバオグ ʃ1 ［文化］『ストリートファイター』に相当するゲーム。

ılbe ［植物］ぶな、ブナ、ブナの木 ［レベル］5 ılıʔlʃı

ılben ［名詞］アルベン、野盗。男のエタットのうち、ガラの悪いほう。 ［音楽］バス ［レベル］2 古 :ıben と同じ ［文化］ 下層の連中だが別に犯罪者というほどではなく、ıben よりは悪くない。単にガラが悪く、往々にして地位も知能も低い連中。だが中層や或いは上層がプライベートでお遊びとしてこの口調やしぐさを真似ることがある。逆にそのふるまいのおかげでコミュニケーションを取りやすくなることがある。

ılhı ［名詞］側近、腹心、忠臣 ［類義語］ʃıɒcı ［レベル］4 1L:ɒelcɑcı ılʃe:il/hırɒı ［語法］ ʃıɒcı

ılhınʃe ［地名］アルハンテ ʃ0 ［文化］ メティオ東部の都市。

ılhınɑ ［音楽］カンツォーネ ʃ1:ılhınɑcμ

ılhınbel ［アイテム］フランベルジュ、アルハンベル。波打った剣や鎌。 ［レベル］4 jzl;il（強意）/hınbel（茶色）。敵のこびりついた血で錆びて茶色に見えるほどのという意味。 ［文化］ 夢喰いの詩姫の武器。

ılhınɔn ［アトラスの国家］アルハノン ［レベル］5 1L:μcɑcı:「物見矢倉」

ılhınɔn(J) ［言語］アルハノン、塔字 ［レベル］3 ʃ0:clhınɔc の ʔılɒcμə ［文化］ hırʃ, lcɒ

ılhınɔs ［生物］手の三里 ʃ1:il/hınɔs。中指に反射が出る

ılhınef ［形容詞］人目につかない、目立たない ［動詞］ɥəl を目立たなくさせる、目立たなくさせる ［類義語］ɒcnl ［反意語］hınef ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ ［語法］ hınef

ılhıɑcμ ［地名］アルハディール ［アクセント］ılhıɑ́cμ ［レベル］3 ʃ1:μcɑcı:il/hıɑcμ ［文化］ 古 hıɑcμ の北東、現 cɒınzel 西部の県。eılcj 湖がある。

ılhıμʃμecn ［天文］天の赤道 ʃ1

ılhıμʃμecnʃcle ［地学］抗赤道海流 ʃʔ

ılhıμbını ［地球の国名］トルクメニスタン 1L:hıμbını

ılhıʃlɒɒ ［生物］不容 ʃ1

ılhıcl ［死神］アルハイク ［レベル］4 ɒelʃcı ʃl̩:ıfoıɯə ɔ lənɔ;e 1L:μcɑcı ［文化］ 四天王（死神四貴族）の一人。男性。誘燈種。捨て子の紗枝を育てた。シューゼ勢に騙され討たれた際、紗枝を死なせないために、火の中で封印の間際に紗枝と契る。

ılhıcʔlʃıʔı ［地学］［歴史］アルハイク大陸 ［ユマナ］シナ地塊 ul;/ ʃʔ

ılhıcɑ ［歳時記］秋分 ［名詞］１６時 ［組み数字］１６／２４ ［レベル］3 ʃ0: → ınlcın ［語法］ ueal cμ ［文化］ ınlcın

ıl hıczen ［感動詞］罰当たりめ、なんて罰当たりな、神がお前を罰するだろう、ハイゼンよ彼を裁け ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古 ［語法］ 単に hıczen ということが多い。

ılhcɒ ［生物］無性 ［レベル］4 1L

ılhcɒhcdʃ ［生物］無性生殖 ［レベル］5 1L

ılhcıʔlıʔlı ［地学］ボンヌ図法 ［レベル］6 ʃ0:il/hcıʔlıʔlı

ılhɔɔμı,lμl leseɒɒe il/hɔɔμı = hɔɔμı/djhɔɔlı

ılheʔlʃıμ ［地名］アルヘクター ［レベル］5 ʃ0:il/heʔlʃıμ ［文化］ ユベール、ユロ、マイナ、フィガンのこと。

ılɥʔlıʃees 準々決勝 μɑ;/ ［レベル］3 ʃʔ

ılɥə ［地球の国名］フランス ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ilɥəəl（フランス）。ilɥəəl はアルカ地理からで、「共に痛む物」の意だが、詳しい語源は不明。

ılɥəʔʃı ［経済］［法律］ワンルーム廃止法 ʃl̩:「反１Ｋ」 ［文化］ cɑcılın, ıμʔʃoen ʔʃʃ 年制定。１Ｋの賃貸物件を原則２ＤＫ以上に改築する法。核家族や老人の孤独死を防ぐために推進された。しかし皮肉にも親との同居以外にルームメイトの増加をも招いてしまった。 『紫苑の書』ではドゥルガの隠れ家が西区の２ＤＫになっているが、紫苑はこの法律のことを知らなかったため、ドゥルガが愛人と住んでいるものと誤解した。 もっとも、１Ｋは滅んだわけでない。しかし当時あった１Ｋの８割程度が改築され、特需を生んだ。

ılɥənɑcμı ［料理］［商標］アリュンディラ油 ［レベル］5 ʃl̩:ɥənɑcμı e ɥənɑcμın ［文化］ səlc eſ:ʔſ0_ʔ00 ſıſ J00nl ユンディラ産のエクストラバージンオリーブオイルを用いた高級オリーブオイル。ジュリア東部などで手に入る。

ılɥəμen ［言語］フランス語、仏語 ［レベル］5 ʃʔ

ılɥəəl ［形容詞］［ポジティブ］禁欲的な ［類義語］ɥəlʃe ［レベル］4 古 : ともに痛むような、耐えるような ［語法］［文化］ 特に聖職者に求められる性格。性欲だけでなくほかの欲に対しても使う。

ılʔɔlı ［音楽］デスメタル ［レベル］5 ʃl̩:「更に狂った」

ılμʔıel ［名詞］５０歳代の男 ［反意語］μıʔıel ［レベル］2 1L

ılμıɑı ［文頭純詞］更に更に良いことに ［反意語］ılʃıcl ［レベル］2 μɑ;/ ʃʔ

ılμcen ［名詞］しらふ、シラフ、素面 ［レベル］3 ſɒ;/ ʃʔ

ılμecʃe ［名詞］００歳代の男、一桁の男 ［反意語］μecʃe ［レベル］2 μɑ:ɒel;/ ʃʔ:ɒel

ılzıɒ ［名詞］道しるべ、道標、みちしるべ ［類義語］seſlɔn ［レベル］3 ʃ0:il/zıɒɔ（il は終点の与格。zıɒɔ は木）

ılzɔʃ ［動詞］ɥəl をよじ降りる、よじ降りる ［普通動名詞］よじ降り ［反意語］zɔʃ ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ ［語法］ よじ登るの反対動作。慎重に崖などをロープなどを使ってゆっくりとあるいは点々と降りていくこと。

ılzeeɥe ［天文］皆既月食、アルゼーレ ［反意語］zeeɥe ［レベル］4 ʃ0:il/zeeɥe

ıls ［天文］三日月、繊月 ［名詞］南東、東南 ［形容詞］［ポジティブ］目などが細い ［組み数字］2 / 8 ［レベル］2 古 ıls꞉ ıls꞉lə ılse ［文化］ lelʃeel ［用例］ ıls lıʃ sın. 三日月だった。 ıls ɔμ ɑəəμφı. 三日月が満ちていく。 lelʃ eʃ ıls cɒ ɑcj lı. ʔclj, lə eʃ jɔu ɒɥelı ɔnʃ ıls. 今日は三日月だ。厳密には新月と三日月の間（繊月）か。

ılsdɔɑ ［料理］クロワッサン、クロワサン ［レベル］2 1ʔ: 制 : 三日月のパン ［文化］ 一般的に食べられる。少し油っぽい。小食の女の子はクロワッサンにミルクティーとフルーツで朝食を済ませることがある。

ılslcl ［化学］ジルコニウム 1Λ: 制

ılsı ［名詞］弧、アーク ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ıls（三日月） ［用例］ lelʃ lecɟej ılsı. 月が弧を描いている。

ılsın ［地学］地表、地上 ［反意語］φıɯ ［レベル］3 1L ［用例］ ʔəʃɔ lənı ılsın. 鳥が地表に降り立つ。

ılsınʃced ［建築］開渠、かいきょ、明渠、めいきょ ［反意語］φıɯʃced μɑ;/ ʃʔ

ılsılbc ［アイテム］ペルタ μɑ;/「三日月の盾」 ʃl̩l ［文化］ zφ で作られた。盾で顔が隠れるのを防ぐため、上の部分がえぐれている。

ılse ［気象］ıls ［医療］太陰 μɑ;ɤjzl ʃl̩l

ılselj ［名詞］縁起の良い方向 ［反意語］selj ［レベル］4 1L ［文化］ カーデ占いにおける概念。恒常的に幸運な方向というのはなく、カーデの結果ごとに定まっていくもの。

ılsen ［名詞］４分１、１／４、２５点、クオーター、クォーター ［反意語］cnsel ［レベル］3 μɑ;ils/en ʃl̩ ［文化］ cnsel

ılselcn ［アイテム］偃月刀、円月刀、えんげつとう μɑ;ils/selcn ʃl̩l ［文化］ zφ の jz で作られた。

ılɔı,ɑ lıj cɔ il/ɔı

ılɔıd ［形容詞］利きでない ［名詞］利き手でない手 ［動詞］ɥəl を自在に操れない、自在でない ［反意語］oıd ［レベル］3 ſɒ;/ ʃʔ

ılɔıdzɔnɑ ［運動］バックハンド ［レベル］5 1l̩l:/「自由に利かないショット」

ılocʔ ［動詞］ɥəl の首を横に振らせる、首を振る ［反意語］ocʔ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcı ılcj ［用例］

lə ɑcɪn ɪlocʔlɪʃ ʔɔnʃ ʔə ʃeɔ. その女の子は「いや」と言って首を振った。

ɪllɑcj [名詞] 廃人、植物人間、寝たきり [娯楽] 廃人、廃プレー [動詞] jɔl は yəl の状態で廃人になる [レベル] 3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj [語法] → lɑcj 夢織に出てくる廃人現象は老人の寝たきりと違って意識を持って起きたまま一歩も歩けないぼーっとした状態。これは現実には起こらないので何とも言いようがなく ɪllɑcj を当てている。本来の ɪllɑcj の語義は寝たきりや植物人間。 [用例] ɪlcj ɪllɑcj ʔɪ uɪlɪ. アリスは病院で寝たきりになっている。

ɪllɪnʃje [生物] 類人猿 [レベル] 4 Jʔ

ɪllɪɑ [動詞] yəl を作ったときと逆動作する [レベル] 2 J1 [語法] 作るの反対動作のこと。壊す (μcφ) ではない。例えば穴は μcφ できないが、ɪllɪɑ はできる。穴を ɪllɪɑ するというのは、作った穴を塞ぐことを意味する。 lɪɑ したビルは μcφ できるし ɪllɪɑ もできる。μcφ だと破壊で、例えば爆破や倒壊などのイメージ。ɪllɪɑ だと作る過程を巻き戻すようにビルを解体していくことや、建設途中のビルの作業工程を前段階へ戻すことなどをイメージする。例えば 2 0 1 1 年に東京タワーを ɪllɪɑ したら既にできているビルなので当時の組み立ての逆動作で解体していくことを意味するが、スカイツリーを ɪllɪɑ したらまだできていないので作業工程を巻き戻してツリーを低く戻していくことを意味する。

ɪllɪɑɔn [動詞] yəl を他覚する、他覚する [普通動名詞] 他覚 [反意語] lɪɑɔn [レベル] 3 JJ:lɪɑl/nɪ

ɪllɪɑɔnleʔɔ [医療] 他覚症状 μɑ;/ Jʔ

ɪllɪz [名詞] 少年、１０～１４歳の男 [反意語] lɪz [レベル] 2 1L [用例] lə eʃ ʃcɔ ɪllɪz le ʃcl 10 ucɪ ʃɔlcj. まだ 10 歳程度のあどけない子供だ。

ɪllɪɪl [親族] 義理の母、義母、育ての母、姑 [レベル] 3 1L:clɒəj:μcɑcɪ [文化] アルバザード人は結婚すると男の家に女が入るシステムであるため、ɪllɪɪl というと通常女から見た夫の母親を指す。郷には入れぼの精神であるため、嫁は一方的に相手家族の文化に従わせられる。姑は嫁を歓迎し、自分の文化を教えることに熱心だが、嫁が自分のやり方に従わないときは意地悪をする。アルバザードは離婚がしづらいため、嫁は通常追い出されないように素直に従う。同時に、アルバザード人は優位な立場にある人が相手の足元を見ることを極端に嫌悪するため、姑は自分の強い立場を悪用せず、相手が素直な限りは親切に嫁を迎える。 嫁と姑の確執が日本だと話題になるが、アルバザードでは嫁が一方的に従うため、確執があまり生まれない。日本と異なり、嫁が文句や愚痴を言っても、その女性が個人的におかしいのだとみなされるに留まる。

ɪllɑul [医療] 中絶、堕胎、降ろす、中絶する、堕ろす [レベル] 4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ [用例] lɪ nɪʃ ɾlɪsʔ ɒɪn ɪllɑulɪʃ yəlɑɪn. 彼女は子供をおろしてショックを受けた。

ɪllccl [魔法] アルリーク。利の高位白魔法。 [レベル] 6 ʃɒ;/「抗細菌」 Jʔ [文化] uɪcn

ɪllɔ [形容詞] 衒学的な [類義語] lecɑɪ [レベル] 4 古 :ɪllɔʃ 知ってる知ってる 」 [文化] 知性を尊ぶ民族なので、知ったかぶりよりはずっとましと思われている。ただし、品がないと思われる。

ɪllɔlɪscɔμ [生物] 小腸兪、小腸愈 J1

ɪlleue [言語] 逆形成、逆成 [レベル] 6 1L

ɪllecn [μɛnʃe] [動詞] yəl を脱がす、脱ぐ [レベル] 2 1L

ɪllɛc [地球の国名] フィジー [レベル] 6 1L:ɪl をつけた。国旗の中にイギリスがあるので

ɪlɪ [感動詞] [文頭純詞] なんで、～してどうするんだよ [レベル] 1 古 :ɪlɪ ← ɪl（疑問詞「 何 」）/ɪ（語気強め）。或いは lɪlɪ から来たかもしれない , むしろ lɪlɪ が ɪlɪ から来たかもしれない。このあたりは不明。 [語法] 本来はそれが何であるかとか原因理由などを聞くためのもので、ʃɔ や ej に当たる。だが ɪlɪ は相手を非難するときにしか使わず、形式の上では疑問でありながら実際には答えを要求しない。これがあるおかげで ej や ʃɔ は完全に答えを要求する用法だけを持つことができる。ej ʃc ɔɔʃϑ は「どうしてしたの？」という疑問で、非難を帯びない。ɪlɪ ej ʃc ɔɔʃϑ は「なんでそんなことしたんだよ？」という非難の意味が篭る。ɪlɪ は必ず文頭に来る。イントネーションは上昇が多い。

ɪlɪ,ɑ 10 elʃ;ɪl/ɔɪ「両手」

ɪlɪʃcɪ [死神]アラティア、獄門→ uɪnφɪμɑc [レベル]3 μcɑcɪ: 古 :ɪʃoɪɪyə と平行した名付けか [文化] 地獄ラティアの門番。黒い長髪に黒いテーベを着た青年。手に長大な鎌を持っている。容姿はラルドゥラに似ている。閻魔大王のようなもの。 | 約 ⁸⁸ 億年前 |ɪʃoɪɪyə が ləɔɔ の力の暴発を押さえ込むようになり、ɪμʃe との力のバランスを失う。ɪʃoɪɪyə から ɪlɪʃcɪ が分離し、協力して効率良く uccɑ を使うことにより、ɪμʃe との拮抗を取り戻す。分離の際、ɪʃoɪɪyə と ɪlɪʃcɪ は意思を持つようになる | |⁸⁰,L⁸L,11| 年前 | アトワーユとルノとアラティアがエルトとサールの形質を真似、人間型になる |

ɪlɪʃɔe [物理] 反重力 [レベル] 5 J1

ɪlɪʃen [生物] [地学] アルアテン [レベル] 4 1L:ɪl/ɪʃen [語法] [文化] eʃɪn と ləɔc の総称。

ɪlɪʔ [動詞] yəl を ɪ に叩きつける、叩きつける、たたきつける、打ち付ける、打ちつける、うちつける [レベル] 3 μɑ;ɪl ɪʔɔ（地面へ） JM

ɪlɪʔɪ [名詞] 高水準制定語彙 [レベル] 5 古 : 制では lɪʔʃc だが、古の時代の本なので正式名称 ɪlɪʔɪ を採用。

ɪlɪʔɔ [動詞] yəl を c から拾う、拾う [類義語] ɪlucnj [レベル] 2 J1:ɪl/ɪʔɔ [語法] ɪlucnj は捨てられたものを拾う。ɪlɪʔɔ はそれ以外。例えば落ちていた葉っぱや、野良の動物など。

ɪlɪɒɪ [形容詞] 非論理的な [反意語] ɪlɒɪ [レベル] 4 1L

ɪlɪɒe [形容詞] 時間にルーズな [反意語] ɪlɒe [レベル] 3 1L

ɪlɪɛl [魔法] アルアシェック [レベル] 5 J0 [文化] アルアシェックという魔法があるのではなく、アシェックをかけた魔導師がアシェックを解除すること。

ɪlɪj [名詞] 西 [格詞] ～の西にある [反意語] ɪlʃc [レベル] 2 1L:ɪlcj ::ɪı ɒɔʔl:yəʔc,ɪlʃ [用例] ɑɪɪl eʃ ɒcɒ ʔɔμ ɪlɪj. 太陽は西に落ちる。

ɪlɪjɛueɪʃcʔe [地学] 西ケヴェア海流 Jʔ

ɪlɪjɑbeμʃcʔe [地学] 西ファベル海流 Jʔ

ɪlɪjφɪlʃ [名詞] 西門 [レベル] 3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

ɪlɪjdɔl [地名] 西方 [レベル] 4 J0 [文化] アルシア、ヒュート南西部、フレディスク、アルヴァノス、ガルヴェーユ、フィーリアの地方。フィーリアだけ地理的には北なので注意。いずれも西方方言を話す。エルト神とサール神の話していたアクセントに最も近いとされている。

ɪlɪjdɔcʃ [地学] 西経～度 [レベル] 4 Jʔ

ɪlɪjɒecn [地学] 西経 [レベル] 4 1L

ɪlɪjlɔɔz [名詞] 西端 [レベル] 3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɪlɪjɪnʔlɪl [地名] 西アンシャル、西欧 [レベル] 4 1L [文化] ɪlɪjɪnʔlɪl：西アンシャル、西欧。ファルファニア、フレディスク、イネアート、ヒュート、ケートイア、ディミニオン、アルバザード lɑɪμɪnʔlɪl：北アンシェル、北欧。アルダ、エルトア、ナオン ɪlʃɑɪnʔlɪl：東アンシャル、東欧。エニーク、アルシェリア、エスティア、ゲノス、アルタ əleəɪnʔlɪl：南アンシャル、南欧。ラズディア、ベルティア、メルディア、キルティア、アルマティア、カルテール、ガルテア lɑɪμɔcnjɪıl：北インサール、北亜。デスパナ、フィギット ɪlʃɑɔnjɪıl：東インサール、東亜。ロロス、ヒュグノー、アルティア、ヴァルマレア əleəɔcnjɪıl：南インサール、南亜。ユロ、フィガン、ユベール、マイナ ɪlɪjɔnjɪıl：西インサール、西亜。ピッカ、トゥナス、ソーナ jeelɔ njɪıl：中央インサール、中亜。ヴェマ、リーシア、ヴォザモ

ɪlɪjɪnʔlɪlʃeʔɪɑ [軍事] 西アンシャル連合国 [レベル] 5 μɑ;/ JM

ɪlɪjɑenʃɔʃcʔe [地学] 西アデント海流 Jʔ

ɪlɪjɔnjɪıl [地名] 西インサール [レベル] 4 1L [文化] → ɪlɪjɪnʔlɪl

ɪlɪjen [接続詞] ～の西にある [レベル] 3 μɑ;/ JM

ɪlɪn [名詞] 世間、社会、世の中、世界 [類義語] ɪlcɑ [レベル] 3 1L: 古 :ɪllɪn（人の集まり） [語法] → ɪcn, ɪlcɑ [用例] ɑcn ɪlɪn ɪʔl elɑ ɪn, ɪn ɪʔl uɪn ɪlɪn. 世界は僕を助けないけど、僕は世界を助ける（jeμen ɪμbɪzɪμɑ）

ɪlɪnʃɔnʔ [名詞] 社会的身分 [レベル] 4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɪlɪnʔ [格詞] ～の左に [レベル] 2 μɑ;/ JM

ɪl ɪuɪn [感動詞] いってらっしゃい、行ってらっしゃい、気をつけて [レベル] 1 1ʔ: 制 : 古

ɪlɪɒcʃc [名詞] 寒色のアミティ→ ɪɒcʃc [魔法] アルアミティ。光の高位白魔法。「熱」が原因の病気を治す。高熱など。 [レベル] 4 古 :μcɑcɪ [用例] ɑcμɪμʃɪn ʔeɪʃ ʃelɑ ʔɔn ɪlɪɒcʃc. 白魔導師がアルアミティで高熱を治した。

ɪlɪɒɔl [格詞] ～の隣へ [レベル] 2 J1/ɪɪɒɔl だと言いづらいため

ɪlɪɒel [親族] 義理の妹 [レベル] 3 1L:clɒəj:μcɑcɪ

ɪlɪφedφɪɔ [音楽] バリトンホルン μʃ JJ

ɪlɪφel [動詞] yəl を c から ɪ に舞い降りさせる、舞い降りる [レベル] 3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj [用例] μe ɪnɑ ɪlɪφel. 雪が舞い降りる。

ɪlɪd [名詞] 飢え、飢饉、飢餓 [形容詞] 飢餓状態の [類義語] ʔəlɪn [レベル] 3 1L: 古 :ɪlllɪd（ひどくほしがる） [語法] ʔəlɪn より深刻。恒常的に食べられないこと。 [成句] [メタファー] ɪlɪd yən ɒɪlʃ 思春期の子供のようにお腹を空かせた [用例] nɔn ejʃ{əμ} ɪlɪd. お腹がすいて死にそうよ。

ɪlɪdyeʃ [環境] 飢餓問題 [レベル] 5 1L

ɪl ɪμʃɪcn [感動詞] おめでとうございます、おめでとう [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古

ɪlɪμecɪlcj [生物] ウラシル μʃ;/ R N A にはチミンがなくウラシルがあることから。 JM

ɪlɪμəəs [親族] 義理の弟 [レベル] 3 JJ

ɪlɪoɪ,ɑu ʃɔne ɒelʃcɪ JPʔ:beμʃ;ɪlɪ/oɪ「十本の手」 Jʔ

ɪlɪʔlɪuɪjʃ [名詞] 優秀賞 [普通動名詞] 準優勝 [動詞] yəl に準優勝する、準優勝する [レベル] 3 μɑ;/ JM

ɪlɪʔlɪuɪjʃɪn [名詞] 準優勝者 [レベル] 3 μɑ;/ JM

ɪlɪjəμ [親族] 義理の兄 [レベル] 3 JJ

ɪl ɪlɪuɪ → ɪlɪuɪ [レベル] 2

ɪlɪluelɪnʃ [交通] 九十九折 [レベル] 6 JJ:ɪl/ɪlueɪlɪnʃ。冗語的。

ɪlɪlɑc [文頭純詞] つまりつまり、つまるところ [レベル] 3 μɑ;/ Jʔ

ɪlɪlcjɔlɒɪ [名詞] 見返し→ lec [レベル] 5 JJ

ɪlɪc [政治] 大公、グランドデューク ɒ;ɪl/ʔɪc JM [文化] 王族や王家の分家の長など。

ɪlɪcu [政治] アライブ党。レヴァレンから分裂した政党。 [レベル] 5 古 [文化] レヴァレンから分裂した政党の一つ。メル暦 JP0 年ごろ、利害の対立により元祖ミナレット系政党レヴァレン党から分裂。長らくレヴァレン党 , アルミナ党、アミナル党、アライヴ党の４つのミナレットの政党がアルバザードを統治した。ʔ1P 年、政治腐敗甚だしいレヴァレン党が抜け、３党連立になった。ʔJ0 年、ミロク＝ユティア率いるイルミロク党が独裁政権を握ったため、ミナレット系政党は壊滅した。

ɪlɪc [形容詞] 手前 [反意語] lce [レベル] 2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj:ɪllce から。フランス語の a l l e r の実際の発音に似ている。

ɪlɪʃ [形容詞] [ポジティブ] 礼儀正しい、丁寧な、行儀の良い、品行方正、恭しい、行儀の良い、行儀が良い [類義語] ɪlɪn [反意語] jɔlʔlɪɪʃɪμ、lɔlle [レベル] 2 1L:ɪeɪ [用例] lɪ ɪʃ ɪlɔʃ ʃɔnʔɪ cɒ le ʃeμ. 彼は以前はとても礼儀正しい人物だったと言われている。

ɪlɪʃuel [言語] 丁寧語 [レベル] 2 J1 [文化] leɪuel

ɪlɪʃe [言語] アリテ、女性敬体 [レベル] 2 μɑ;ɪlɪʃ/ʃe Jʔ

ɪlɪʔəɔjɔɪs [言語] 硬口蓋 [レベル] 6 1L

ɪlɪʔəɔjɔɪsɑɔ [言語] 硬口蓋音 1L

ɪlɪl [生物] 菌、菌類 [レベル] 3 1L: 魔族 φɪɪlɪlʔ [文化] 一般人はウィルスや細菌とあまり区別が付いていない。

ɪlɪlɑcɪɒ [生物] 菌界 [レベル] 6 JJ

ɪlɪj [エリト] アリス。秋を司る女神。 [形容詞] 色が秋めいた [形容詞] 秋の [名詞] 秋 [組み数字] 3 / 4 [レベル] 2 古 :μcɑcɪ:ʔelc（秋）に関連。ʔelc の lc は lcbμɔ で、命。秋に繁殖したり来年のために栄養を蓄える動植物が多いことから。ɪlɪj の ɪ は恐らく ɪμʃe の意味。ふつうは ɪμ を接頭辞として取るのだが、それだと ɪμɪlɪj になってしまうので言いづらく、同化して ɪlɪj になったと考えるのが妥当。最後の j は「 する 」の意味。ゆえに語源は「 命をする 」である。したがって ɪlɪj は命を与えるという秋の女神らしい名前といえる。 ::ɪı lcuμeμ:ɪfeɪı,ɪlʃ [文化] アルシエルの一人。秋を司る女神。方角では西。 [用例] ɪlɪj ləɔɔμ cn. 秋めいてきた。 sɪn ʃ'ɪlɪj ɪlɪı eʃ ɑɪμɑ jccʃel. 秋の空は気持ちよく晴れている。 ɪn jccnɪ ʃə sɪn ʃ'ɪlɪj ʃɪnel. 私は本当にこの秋の空が好きだ。 ɪlɪj eʃ ɑɪz ɪ ɑelʔ{lec} ɒɪn ʃə eʃ ɑccʃ. 勉強｛読書｝の秋。 ☆ ʔleeuel ʃcj eʃ uelʃ cɒ ɪlɪj ej dɪl. 秋が深まると 5 時でもう暗い。 ʃə ɪʃ ɑɪμɑ jccʃ ʃ'ɪlɪj. すばらしい秋晴れだった。 cɒ ɪlɪj, oɪl ʃcl eɒ ncɒ lɪnʃ. 秋になると山々は美しく色づく。

ɪlɪj(J) [人名] アリス 1Δ:jeμen [文化] 『夢織』のメインキャラ。アルナ大 1 1 組で、シヴァの恋人。髪は栗色のボブ。バンド「フィーナ」のキーボを担当する。 初雪の日に死神が人を喰うところを見てしまい、事件に巻き込まれていく。

ɪlɪjʃɔɔl [気象] 晩秋 [レベル] 4 μɑ;/ Jʔ

ɪlɪjʔlɔʃ [気象] 初秋 [レベル] 4 μɑ;/ Jʔ

ɪlɪjjɔoɪn [天文] 秋分点 [レベル] 6 J1

ɪlɪjnʔleɪ [歳時記] 秋休み [レベル] 2 J1:μcɑcɪ [文化] nʔleɪ

ɪlɪjnɪ [植物] 紅葉 [レベル] 3 1ʔ: 紅葉した赤や黄色の木々はアリスの髪の毛の化身と考えられていることから [用例] ɪnj cnɪʃ ʔe ɪlɪjnɪ ʔɪ oɪl. 私たちは山へ紅葉狩りに行った。 ☆ oɪl ʃclɪʃ ɪlɪjnɪ yən ɑɪc. 山は秋の紅葉で燃え上がるようだった。 ɪn ʔeʃ lɪl oɪl lɪnɪ ʃiɑ. ɪlɪjnɪ. 紅葉狩りに行きたかった。 cl ɪlɪjnɪ ɪʃ lɪnʃ. 秋の紅葉は美しかった。

ɪlɪjɒeʃcn [植物] 山茶花、さざんか、サザンカ [レベル] 6 1Δ:μcɑcɪ: 秋に咲く椿

ɪlɪjɒejʃ [言語] [論理] 女神の天秤、アリスの天秤、循環定義 [動詞] yəl を ɪ にたらい回しする、たらい回しする [普通動名詞] たらい回し、タライ回し、盥回し、たらいまわし [レベル] 3 1Δ: 古アルカのころからあった「 女神の天秤 」の新生訳 [語法] 秋の神アリスは天秤を司る。収穫が秋に行われ、市が盛んになり、売買が盛んになる時期で、天秤がセルメル前後の時代によく使われたことからこう呼ばれている。 さて、ɪlɪjɒejʃ は概念を定義していったときにどうしてもそれ以上説明できず、概念 A と概念 B の間で循環定義となってしまうような場合を意味する。A と B の定義文を読んでも循環していて等しいため、この名がついた。例えばセンテンスに「文」とあり、文に「センテンス」とあるような場合、女神の天秤となる。文のような単語ではならないにしても、辞書を作っているとこれに行き着くことがある。 [用例] ʃə μɪnj eʃ{ʃcl} ɪlɪjɒejʃ ɔn ʃə ʔlel. この辞書の説明は循環定義になっている。

ɪlɪjɑɔl [地学] 重晶石 1L

ɪlɪjhɪnɔɔ [植物] アマランサス JJ:「秋に咲く塔」

ɪlɪjhɪd 幼字 ɪlɪj のこと J1

ɪlɪjμɔɒɪ [医療] 鬱発作 [レベル] 6 1L: アリス発作 [用例] ɪn ɪμʃɪ ɪlɪjμɔɒɪ ɒɪn uɪɑeʃ ɪμnɪɒɪnɪ. アルナ大に落ちて鬱発作になった。

ɪlɪjscɔμ [生物] 中髄 J1

ɪlɪj lɪlɪcɪ [人名] アリス＝リシア JJ [文化] (ʔ1ΔP 1J ʔ_1ʔʔJ Δ 10)μɑ の錬金術士。ワッカのカテージュ寄りの片田舎の出身。女性。小柄で幼児体系で、よく子供に間違えられる。性格は元気で明るいが、かなりおっちょこちょい。錬金術の実験で失敗しては同期の少女たちに怒られている。モンモンというモモンを飼っている。 子供のころアディストに命を救われており、錬金術士を目指すように。頑張って勉強してなんとか 1PLL 年に条件付きでミスティア錬金術舎に合格するも、持ち前の「成績ダメ・運動ダメ・対人キョドり症」の三重苦に喘ぐことに。 しかし努力だけは人一倍で、とにかく頑張る。そして常に諦めず前向きで、失敗しても挫けない。そこを校長に買われてどうにか退学を免れる。先輩や教師からは「前年に卒業した首席リディア＝ルティアから才能を引いた感じの子」と呼ばれてからかわれる。しかし必死の努力の結果、最後はミスティアを代表する最もアホで偉大な錬金術士となる。 「アリスの魔法」は後にアデルの被害で苦しめられた大勢の人々を救い、アリスは聖人に認定される。

ɪlɪjcn [植物] キンモクセイ、木犀、金木犀、銀木犀、ギンモクセイ [レベル] 3 1ʔ: 制 : 秋の花 ɪlɪjcn:ɪlɪjcn:ɪı ɑenlɪcl:ʔlɔlc [用例] ☆ nɔn hel ʃeel ʔelɪn cɒ ɪlɪjcn eɒ ɒɪnj. キンモクセイの

咲くころになると、思い出してしまう人がいるの。

ɪlcɟcɪ ɥəʃcɪ 〔人名〕アリシア＝ユティア ［レベル］3　古 :ɪlɟcɪ の変異であろう。ちなみに ʃʃ 年までアリシアはアルテナの娘で親子関係が逆だった。 ［文化］ (ʔʊʎ_) ミロク＝ユティアとルシア＝エニークの娘。１６２ｃｍの４８ｋｇ。隔世遺伝で青と緑のオッドアイを持つ。緑が左。髪は薄く、亜麻色。　子供時代は明るくやんちゃで活発な少女だった。冗談が好きで、笑い上戸。この性格は孫のミーファに受け継がれる。　青年期になるとある程度落ち着いたものの、基本的に気さくな人物であった。　ミロクの熟狂的な信奉者で、父を神聖視していた。この性格はアルテナにも受け継がれる。

ɪlcɟɔlbɪ ［名詞］表３、見返し→ lec ［レベル］6　ʃʃ

ɪlcɟeɥc ［医療］Ｏ型 ［レベル］2　1L ［文化］ Ｏ型は原始的で健康で体力があり、細やかでなく動物的で強いと思われている。　ザナを抜かしミルフまでは血液型を把握しているが、この中にはＯ型がいない。

ɪlcɟə ［哲学］四元論　ɪlʃ　ʃʎ ［文化］ ɪlʃ で起こった哲学。ləɪleʃcɪ に影響を受けて ɪʅ で出来た。土：南：夏：黒：ノーム　水：西：秋：白：ウンディーネ　風：東：春：赤：シルフ　火：北：冬：黄：サラマンダー

ɪlcn ［名詞］美人、美女 ［類義語］ɑclcn ［レベル］3　古 :ɪlcn ← ɪlcnɪ ← ɪ（接頭辞の ɪl で、この場では強調）/lcnɪ（美しい）［成句］ ɪlcn ʅien ɒɪɟ 絵にかいた餅、画餅　hɪʅ ɪlcn ʅien ɒed 鏡の中の美人を褒める：自画自賛 ［用例］ cn, ɪlcn ʃcn ʅɪ lɥə ʃcjee. おい、あそこに中々の美人がいるぞ。

ɪlcuejn ［言語］前舌 ［レベル］6　1L

ɪlcɑ ［政治］社会、労働社会、世の中、世間 ［類義語］ɪlɪn ［レベル］3　μɑ;ɪlɪn/ɑcɪ「社会世界」 ʃʎ ［語法］ 社会人や社会進出や社会の厳しさなどの意味における「社会」のこと。主に労働者の面から見た社会のこと。この観点で言えば、主婦が社会人に入るかは微妙。主婦業を労働とみなす人は主婦を社会人と考えるが、みなさない人は考えない。 ［用例］ bəlʃɪʃc ʃ'ɪlcɑ 世間の厳しさ

ɪlcɑnɔʅ ［再帰動名詞］社会進出 ［レベル］5　μɑ;/　ʃʎ

ɪlcɑɪn ［名詞］社会人 ［類義語］ɪlɑelɪn ［レベル］4　μɑ;/　ʃʎ ［語法］ ɪlɑelɪn は学生でないという点に焦点がある。ɪlcɑɪn は社会で働いているという点に焦点がある。

ɪlcɒ ［単位］テラ ［レベル］4　ʃʃ:ɪʅlcɒ

ɪlcɑcɔ ［生物］前歯　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe

ɪlcφieɑɔ ［言語］前部歯茎音　1L ［語法］ ɟ や ʃ などのこと。

ɪlcɥ ［名詞］ぬるま湯、ぬるまゆ、お湯、湯 ［類義語］aleɥ、ɪleɥ、lcɥcɪ、eɥ ［アクセント］ɪlɛ̆ɥ ［レベル］2　ʃ0:μcɑcɪ:ɪlcɟ/eɥcɪ ［語法］［文化］ aleɥ

ɪlcɪ ［アイテム］アリア、魔晶 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμ/ɑlcɪ（魔法の水晶） ［文化］ 魔法の力が結晶になったもの。最も身近なのは、魔法を含んだ水を蒸発させることで得る方法である。例えばナギを蒸発させると、薄い水色の結晶が残る。これがナギの魔晶であり、中世ごろはナギサの名称で販売されていた。一般に魔晶は成分が濃縮されているため、効果が高い。また、水分を飛ばすことで効果が変わるアイテムもある。

ɪlcɪ cneɪɪɪʃɔ ［人名］アリア＝イネアート　ɪl　ʃ0 ［文化］ → ɑcɒcʃɔμcɪ, ʅelɑμenɟ（羽忘れの精霊）　φμecu cneɪɪɪʃɔ の娘で、eμcɪ の姉。lecn ɥəʃcɪ の同級生で、中央アルナ大学のラルドゥラ組。占いの才能があり、親はディミトリア社のＣＥＯ。性格は豪胆で、人をからかうのが好き。男性よりも綺麗な少女を好む。魔人であり、lceμuɪ の血が入っている。占いの能力は eμcɪ を下回る。

ɪlccnɪ ［親族］孫息子ちゃん ［レベル］2　1L:μcɑcɪ:ɪlccz/n/ɪ（語気揃え） ［語法］ ɒccɪ

ɪlccɑcɟ ［医療］不妊、不妊症 ［レベル］4　1L ［用例］ ʅeɪ ɪlccɑcɟ 不妊治療を施す

ɪlccz ［親族］孫息子 ［アクセント］ʔɪlccz ［レベル］2　1Λ: 古 :lccz

ɪlcɔɟ ［動詞］ɥəl を校正する、校正する ［普通動名詞］校正、校合、校閲、訂正、校訂 ［類義語］cul ［レベル］5　αu;ɪlcɔɟ（修正する）＜ɪl（強意）/cɔ（両目 <ce）/jɔ（する）「両目でよく見る」μə までは cul の意味も兼ねた。　ʃʃ

ɪlcɔɟcʃ ［動詞］ɥəl を査読する、査読する ［普通動名詞］査読、校正読み、校閲 ［レベル］6　μɑ;/　ʃʔ

ɪlce ［被服］アリエ　jɒ;ɪlce/ʃe　古 :ɪl（反対）/c（右）/e（左）。左右が反対になっている（片方が長くて片方が短い）スカート　x:ɪlce ないし ɪlcef:　［文化］ ひだのついたスカートで腰に巻く。片方が長く片方が短いので左右非対称。踊りの際に着るものだったが、普段着に。

ɪlce(J) ［格詞］～の奥へ ［レベル］2　J0:ɒelcɑcɪ lceɟ

ɪlce,ɑ　ɪlceʃ　ɪl/ce

ɪlceʃ ［美容］［形容詞］左右非対称な、アシンメトリーな ［被服］ミパルティ　［形容詞］性格の捻じ曲がった、ねじまがった、根性のねじまがった、根性の腐った、ひねくれた、捻くれた ［動詞］ɥəl を左右非対称にする、左右非対称にする、ひねくれさせる、ひねくれる、捻くれる ［反意語］coɪ ［レベル］3　ɪlce:ɪlce　J0:ɪlce/ʃe（アリエのような）

ɪlceɟ ［エルト］［サール］ɟɪμʃ、神、アリエス　μɑ;ɪlceɟ,ɟzɑ<ɪlceɟ,ɟzɑ;ɪlce（左右非対称）から。エルトの一族とサールの一族をそのように見立てたもの。lʃl で性ができてからは男性で eμʃ、女性で ɟɪɪμ、中性で ɟɪμʃ を表した。lʃɑ 以降は中性が消えたので ɟɪμʃ は表せなくなり、アルカの ɟɪμʃ を借入した。一方、ɪ は μɑ で lʃl の ʃə ɪlceɟ を ɟɪμʃ の意味で借入している。幼字は elʃ と ɟɪɪl を交差させたものが元になっている。

ɪlcen ［接続詞］ɪlce ［レベル］3　ʃʃ

ɪlɔʃ ［約物］コロン、アロット、：　［レベル］3　J0: 古 ɪlɪn:ʅɒccμ:ɪl/n

ɪlɔʅ ［形容詞］通常の、常時の ［反意語］ʃlɔɔʅ ［レベル］3　ʃʃ:ɪl/ʃlɔɔʅ

ɪlɔn ［政治］世論 ［レベル］4　1L:ɪlɪn/lɔ ［文化］ 革命後においては法律同様に重要視される概念。案件主義を採るアルバザードでは、しばしば世論が法律を曲げて判決を下すことがある。

ɪlɔnɥɔɟ ［政治］世論操作 ［レベル］5　1L ［文化］ 革命後は重罪のひとつとなった。殺人と同等。

ɪlɔuɪ ［名詞］例外 ［反意語］ɔuɪ ［レベル］3　μɑ;/　J0 ［用例］ ʃə eʃ eμu ɪnʃej, ɥɪn hɪɔ, ɪn ʃɪn ɑe ɪlɔuɪ ʃəəl. これは我々の本能であり、そして勿論私もその例外でない。

ɪlɔuɪʅ ［形容詞］非武装の ［軍事］非武装 ［反意語］ɔuɪʅ ［レベル］4　μɑ;/　ʃʔ

ɪlɔuɪɥəɔ ［言語］例外動詞　J0 ［語法］ 単位動詞において、継続相が無標となって接辞 eɟ が落ちる動詞。jccnɪ や ʅɪ など。　この動詞では行為無相は必ず eɒ を付ける必要がある。　行為無相の頻度が少なく、継続相の頻度が高い動詞のみ例外動詞となる。

ɪlɔɒɔ ［形容詞］眠くない、目が冴えた ［反意語］ɔɒɔ ［レベル］2　1L

ɪlɔd ［被服］パッテン　zφ;.jelɪn　ʃʎ ［文化］ 農民用のサンダル。

ɪlɔz ［アトラスの国家］アローズ ［レベル］5　1L:μcɑcɪ: 端の

ɪlɔə ［動物］なまこ、ナマコ、海鼠 ［レベル］5　αu;ɪ（海の音象徴）/lɔɔlɔ「海の管」　ʃʔ ［文化］ アルバザードでは古くから魔族のような不気味な扱いを受けており、気持ち悪いと考えられており、食用はされない。従って、このわたなどはアルバザードでは食されない。

ɪleʃ ［名詞］晄泉、アレット、魔晄源 ［医療］特発性、本態性。特に区別なし。ɪnlɪ,lɪlɪ に対し、第３の場所として選ばれた。 ［類義語］eɟlɪ ［レベル］4　古 : アレットからは神の栄養素アレフが湧いているとされていたが、神は栄養ほしさに召喚されるということになり、犬か何かのような扱いになってしまうので不適切とされた。また、ヴィード論が確立するにしたがってアレフの存在理由がなくなったこともあり、メル 1L 年に廃止し、アレットからはヴィードが湧いていることになった。これにともない、魔晄はヴィードに当てることとなった。 ［文化］ → eɟlɪ　アレットはヴィードが湧き出る場所（泉が多い）のこと。世界各国さまざまな場所にある。　ヴァステとラヴァスでは神がここを拠点にしていた。そしてアレットを中心に国をいくつか作って住み着いた。アルバザードやヴェマやヒュートがそうである。　ラヴァスの後、神々がアルフィを作った結果、アルフィとアトラスを分離させないための「次元の糸」としてアレットを利用した。世界中のアレットとアルフィは繋がっている。　また、各アレットはアルフィの特定の場所と繋がっている。神の国はアルデス王とルフェル王により、すべての土地がいずれかの神に与えられている。そのため、各アレットは特定の神の土地、言い換えれば特定の神と繋がっている。　アズゲル～カコで人類が国を作った際、人類もまたヴィードが沸く泉であるアレットを中心に国を作った。　メルテナでは召喚士が現れたため、アレットは神と対話する場所になった。人々はアレットひいては国が神に守られていると考え、神を祀ってそこに祭壇を置くようになった。これがサリュである。そしてサリュを置く部屋をカルテンと呼んだ。　従って、この時代では「カルテン→アレット」と考えて差し支えない。ただし、「アレット→カルテン」は不可。山奥や洞窟の人知れぬところにもアレットはあるため。　革命後は「カルテン→アレット」とは限らなくなる。ミロクの円形都市サライは中央にカルテとカルテンを含む。ひとつのサライが大きくなりすぎないよう、直径１０ｋｍほどで作った。　例えばアルナも直径１０ｋｍの小さい都市である。しかしアルナ地区は元々そんなに狭くない。そこで北アルナなど、複数のサライを作る必要があった。　ここで問題なのは、北アルナのカルテンは元々アレットのないところに作ったものだから、簡単にいえば偽者だということである。アレットを含むのは中央アルナしかない。革命後にカルテンは異様に増えたが、アレットが増えたわけではないので注意。　アレットには守護神神が祀ってある。例えばアルナにはアルデスが祀ってあり、アルデスが守護神になっている。

ɪleɟ ［動詞］ɥəl をあざ笑う、嘲笑う、あざ笑う、馬鹿にする、せせらわらう、せせら笑う ［普通動名詞］嘲笑、せせら笑い ［類義語］ɑɔce ［レベル］3　古 ［成句］ ɥəə ɪleɟ uɪn ɪjɒ e ɥəlc 子供の質問は誰も嘲笑せぬ：聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥

ɪlejeʅ ［動詞］ɥəl を去勢する、去勢する ［普通動名詞］去勢、宮刑 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪleʃl ［文化］ ɪlʃ にはあったがアルバザードには宮刑はなかった。メジュテルのおかげで後継者の暗殺リスクが低かったため、アトラスでは大奥や宮中が栄えなかった。　しいていえば、リンチで睾丸を潰すことはあるかもしれない。ただ、宮刑としては存在しない。

ɪlen ［名詞］操り人形、からくり人形、カラクリ人形、絡繰人形 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪ/lenʃ ［用例］ ɪn ɪlɟɪbeɟ ɟɪb cʃ ɪlen lɪnɪ ʅeɪ.　メンテのため人形から服を脱がせた。

ɪlen(J) ［接続詞］ɪl。～への。 ［レベル］2　J0:lcɔn ［用例］ lɪnʃ ɪlen ɪlʃcɪn 彼女へのプレゼント

ɪlenɒcɑɔu ［医療］ハンチントン病、ハンチントン舞踏病 ［レベル］6　1L:μcɑcɪ: 動きが操り人形のようであることから。日本語では舞踏だが、むしろ操り人形に似ている。

ɪlenɑɪ ［名詞］６０歳以上の男 ［反意語］enɑɪ ［レベル］2　1L

ɪlene ［名詞］不可能性 ［反意語］ene ［レベル］3　J0

ɪleu ［動詞］ɥəl（場所や人）を家出させる、家出する ［普通動名詞］家出 ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪl cɟ:μɪleeu（家を去る）［用例］ ɒcuɪ ɪleuɪf ɒɪn ʅɪɪn sɔʅɪʃ lə. 父に叱られて娘は家出した。

ɪleɑ ［数学］右上がりの斜線 ［反意語］clɪʅ ［レベル］3　J0:ɪ aleɪ（肩へ）

ɪleɑɔd ［動詞］ɥəl を ɪ（水などの状態、容器など）に溶かす、溶かす、とかす、溶ける、とける、融かす、融解、解凍する ［レベル］3　1L:clɒəj:μcɑcɪ

ɪleɒ ［名詞］感情、心、思うところ、きもち、気持ち、想い、思い、心境、心理 ［類音］ɪμeɒ ［レベル］2　1L:nɪleɒ（詩、心の歌）　ɪleɒ:ɪleɒ ［語法］ 心（nɪ）のうち、喜怒哀楽など、特定の感情。ʅə に対する μenɟ と同じ関係が、nɪ と ɪleɒ。 ［文化］ ɒccμ　日本人は感情を抑制する傾向がある。アルバザードは感情をコントロールする傾向がある。感情をただ抑制して押し殺すのはよくない。抑圧に負けてストレスが重なるが、ストレスを感じないように無感情に進化するかのどちらかである。だからアルバザードは感情は無理に抑圧しない。感情は押さえどころと出しどころをバランスよくすることが心がけられる。 ［用例］ ɪɪn ɪlɪɪ eʃ ʅəɒ ʃ'ɪleɒ. 人間は感情の生き物だ。　ɪn neʃʃ ucl ɪleɒ. 私は感情を隠せない。　☆ ɪn ɪcl dɪlɒ ɪleɒ ɪ ʅɔlɔ. 時として思慮分別よりも感情が勝つ。　ʃcʎ{nɪ} ɪleɒ ɒelcɪl 複雑な気持ちだ

ɪleɒueʃ ［言語］擬情語 ［レベル］4　ʃʃ ［語法］ ɑɔueʃ

ɪleɒɥəɔ ［言語］心理動詞　1L ［語法］ jccnɪ, ʃccɪ, uɪμɪe のような動詞。感情を相手にぶつける動詞。感情動詞 nɪɥəɔ と違い、ɥəl は感情を引き起こされる人物でなく、感情をぶつけられる相手を指す。　心理動詞と感情動詞の見分け方は、その動作が相手なしに行えるか否かである。怒るという動作はひとりでもできる。悲しむというのも一人でできる。しかし好きとか嫌いは相手があって初めて成立する。後者の場合、心理動詞になる。

ɪleɟ ［音楽］アコーディオン ［レベル］3　ɪlɪʅɪ:「ひだ」

ɪleμcɟ ［普通動名詞］失伝 ［動詞］ɥəl を ɪ に失伝する、失伝する、相伝しない、受け継がない、その代で終わる　μɑ;/　ʃʔ ［用例］ ʃə lenu e ɥeuel eɟ ɪleμcɟ ɪ ʅcɪʃ. そのユベールの技は後世に受け継がれていない。

ɪleμcɪ ［アトラスの国家］アレリア ［レベル］5　1L:μcɑcɪ: 水の向こうに

ɪlel ［名詞］対面 ［動詞］ɥəl を ɪ に対面させる、対面する、対峙する ［経済］相場。買いと売りが対面する価格帯であることから。 ［レベル］4　ʃʃ:ɪl/eel

ɪlecu ［地名］北極 ［レベル］3　1L:ɪllecuɪ

ɪlecuʅɪʅɪ ［地学］極投影による図法、ポーラーケース　J0 ［文化］ 正距方位図法のひとつ。北極から任意の点までの大圏コースが分かる。

ɪlecɑɪ ［天文］北極星 ［天文］ポラリス、こぐま座アルファ星 ［レベル］4　1L:ɪleculccɑɪ（北極の星） ［文化］ 地球の自転軸と同じ方向にある北極側の星。たまたま自転軸の近くにあるだけである。歳差があるので、時代ごとに何が北極星になるかは変わる。アルカでは北極星はポラリスを意味する。リュウとナユが北極星を名付けたときの北極星がポラリスだったためである。なお、当時の自転軸からのズレは約３度。レインの時代のレイユでも北極星はポラリスだが、ズレは約１度である。なお、レイユにおいて南極星は存在しない。

ɪlecɑʅɪ ［天文］北極点 ［レベル］4　ʃʃ

ɪlecɥə ［歴史］アレイユ時代、待望期、革命後のレイユ、聖刻の歓待、せいこくのかんたい ［レベル］3　1L:jeμen:ɪl/lecɥə. 聖刻は αɪlhɪ のこと。

ɪlecμcɪ ［地名］アレイリア海　J0:μcɑcɪ: 北極の水 ［文化］ アルダ東～セレーナ北の海。

ɪleeʃɪ ［親族］義理の姉 ［レベル］3　ʃʃ

ɪlə,αμɑ　αlɔn

ɪləj ［被服］オーバースカート　jɒ;ɪl/ləj　ʃʎ

ɪlənəj ［動詞］ɥəl を根絶する、根絶する、絶滅させる、お家断絶させる ［普通動名詞］根絶、絶滅、お家断絶 ［類義語］scɔ ［レベル］4　ʃɒ;/　赤？

ɪləɑɪeμ ［地名］アルファエルJII ［レベル］4　J0: 古ファルファニア語「ルファア横の川」 ［文化］ ファルファニアに流れる大河で、移住してきたユーマの一族が住み着いて文明を起こした場所。

ɪləl ［普通動名詞］キス ［動詞］ɥəl にキスする ［類義語］lcʅj、lccɪn、lcʅə ［レベル］2　αɟɪɪl;ɪl/ɪl「物と物と→唇と唇を」　赤 :lcʅə, ɪləl（甘い口）。ɪl/ɪl で「物と物と→唇と唇を」の意味だと思われる。 ［語法］ lcʅj

ɪləl(J) ［接続詞］さらにあるいは ［レベル］2　μɑ;/　ʃʔ

ɪləɪ ［言語］親展、御直接。女性に ［レベル］4　ʃʃ

ɪləɔ ［植物］カラマツ、ラーチ ［レベル］6　古 :ɪl/ləɔ

ɪləəʃ ［遊離副詞］［形容詞］必ず、絶対、１００％、百発百中 ［アクセント］ʔɪləəʃ ［レベル］1　1L: 古 ləəʃɔ（常に）。強調して使うことが多いので、わざと少し長くした。 ［語法］ 確率と頻度を表す副詞はそれぞれ９段階に細かく分けられる。どれもよく使うので覚えておくこと。　制まては４対にしていたが、４段階では口語では不十分すぎる。ʃcn や ʅɪl などと併用する方法もありえるが、言語を運用するほど確率や頻度の微妙なニュアンスを区別する機会が増えるため、すべて異なる単純語にした。　ニーモニックがある。たまたま端っこの ɪləəʃ と ɪɪlɪ、ləʃ と ləɔc が同じ音で始まることから、中心の φɪlɑ から見て最初の子音を左右対称にすることを思いついた。例えば ɪləəʃ の反対は ɪɪlɪ で、ɪɒcl の反対は ʅlcɪ になる。　また、確率と頻度で頭子音が重なる場合は、できるだけ同じ位置においた。ɪɒcl と ʅɪlbɪ のように。同じ程度の見込みであることを示したほうが理解しやすいし、誤解も少ないと考えたためである。できれば ɪləəʃ と ləʃ も合わせたかったが、元々の子音も異なるし、ləʃ をほかのレベルに落とすのも不自然なので、遊びすぎは避けた。　五分五分は元々設定する予定ではなく、恐らく口語でも他の副詞ほど使わない。あれば便利だろうという程度なので、ここだけ一般的な語から派生させている。　前半４段階が、見込みの高いものを示す。後半４段階は見込みが低いもの。前半であれば、一応５０％よりは起こると考えられている。真ん中はフィフティフィフティを指す。　どちらも前置するか、el を付ける。なお、頻度のほうが純副詞になりやすく、確率のほうが el になりやすい。　＜幻日対照：和訳は日常的な語感に基づくもので、あくまで目安＞　見込み：＋最大、＋大、＋中、＋小、五分五分、－小、－中、－大、－最大　確率：絶対、まず、きっと、多分、五分五分だ、もしかして、かもしれない、まずない、ありえない　nenʃ:ɪləəʃ, ucl:ɔʃ, ɪɒcl, ɪɪlel, φɪlɑ, lcel, ʅlcɪ, uɪɑen, ɪɪlɪ　頻度：いつも、たいてい、しばしば、よく、したりしなかったり、ときどき、たまに、まれに、しやしない　jɔɑcʅ:ləʃ, ɑelʃe, ʅɪlbɪ, ɪnɑcμ, ʅɪμʃ, ɪcl, lɔucʃ, ɑcμʃ, ləɒc ［用例］ ɪn uɪμʃ ɪləəʃel. 必ず勝つのだ。　lɪ lənɪ ɪʃə ɪz ɑeʃ ɪləəʃ. ≒ ʃə ɑeʃ ɪləəʃ lel lɪ lənɪ ɪʃə. 彼が来るかどうかは定かでなかった。

ɪləəʃjɪn ［数学］恒等式 ［レベル］5　1L ［語法］ ｘ２＋２ｘｙ＋ｙ２＝（ｘ＋ｙ）２のような式で、ｘ、ｙの値に関わらず常に両辺が等しい式。

ll ［言語］ɪ の文字 ［レベル］1　1Ω: 制 ［語法］ 第２１文字目の幻字。最初の母音字。

ıı(J) ［文末純詞］～だな、～か。短い詠嘆。詠嘆の純詞 ［レベル］1 古 :ıın と同じく天秤詞で、男性形 :::nı,ıʃʃ ［語法］ 感動、詠嘆、気付きに使う。ı より静かな驚き。気付きでは lı と用法が重複。

ııʃı ［文末純詞］［男性］丁寧の文末純詞、～です ［レベル］1 1Δ:ɥcɑcı: 最初は古の he dɥɔdııʃı という副詞句。直訳は「善に」。意味は「良い意味で」。アルシェは当時アンティスもろくになく、古アルカも未熟だったため、意思疎通が正確か怪しかった。友達づきあいで怖いのは、こちらが悪い意味で言ってないのに悪く取られてしまうことであるが、アルシェも例に漏れずそのように考え、文末に he dɥɔdııʃı を付けた。やがて文法化して dɥɔdııʃı になり、ついでアクセント部分だけ残って ııʃı となる。この時点で「いい意味で」の意味は薄れており、相手に気を使っていることを示す丁寧さを伝えるものに変わっていた。ここで女子が音を可愛くして ıınɔ を作り、その後エクスプローダーになったときには ccʃı,ɔɔʃı など、前の母音に同化した語形が生まれる。制で ııʃı として採用されたがあまり使用されず、新生で断定の ɑı の丁寧形として再定義された。以下補足。ııʃı は丁寧、尊敬、謙譲、敬意などの文末純詞である。もともと古アルカの丁寧のエクスプローダーがあり、それは直前の単語の母音を長母音にしたもの「～ ʃı」というものであった。女性形は ʃı が nɔ になる。これが多用されると文が冗長になるため、古アルカで滅んだ。だがその後、リディアが復活させた。新生では以下の語法だった。「会話の中で特に敬意を強調する文と、会話の最初と最後にしか使えない。挨拶の b r e a k t h e i c e するのと、別れの印象を良くするために使う。日本語と違ってアルカでは多用すると即座に慇懃無礼になるので、使いたいなら最初と最後に使っておけば無難。ただしアルバザードは上下関係を嫌うのであまり使いたがらない。男女が恋愛初期によく使う。店員は客に使わないこともふつう」。しかしメル 1L 年メルの月に語法が改められた。リュウを除いて誰も上記のとおり使わなかったため、リディアが位相として再採用した。 :::ınʃı,ıʃʃ ［語法］ ɑı の丁寧形。やや詠嘆と情報提供が込められている。ɥɑ ではリュウやビネナの口調。 ［用例］ "hɜɒ, ıɒc lɕɥ uılʃɔɒ ııʃı" 「ふむ、どうにかしないといけませんねぇ」

ııʃın ［形容詞］［ネガティブ］慇懃無礼な、馬鹿丁寧な、卑屈な ［類義語］ıılʃ ［反意語］ɟcʃʃıı/ıɥ ［レベル］4 J0: 古 ııʃı/ın（丁寧語の ııʃı ばかり繰り返す人） ［用例］ ɒıɒɔ ıı/ın 慇懃無礼な態度

ııʃ ［娯楽］アークパズル ［レベル］4 1ʔ ←古 :ıı（パズル）。古アルカを使った独特なパズルを特に ıı を呼んだ。これに英語のパズルを付けて ıı:dzl としたが、意味は ıı 単体と同じ。ıı だけでもアークパズルの意味に等しい。dzl 自体は英語なので除外する。一度クイズという意味で制アルカで使われたが、1Δ 年にクミールがアークパズルを復古させた論文で ıı と呼称したことから、アークパズルの意味で再び使うようになった。 ［文化］ メルとクミールが作ったアンティス固有のパズル。古アルカの幻字を使ったパズル。メル 9 年ごろにメルがクミールと出会い、友人となった。それからすぐにアークパズルが生まれた。当時メルはまだ 7 歳だったが、クミールは対等に友人関係が築けると述べていた。 1 2 歳にもなると立場は逆転し、クミールよりもメルの方が賢くなった。 アークパズルは幻字を使ったパズルだが、種類がいくつかある。いずれもほとんどメルが考案したものである。この遊びはアルシェでもソーンでもあまりはやらず、シェルトと同じく 2 人の遊びという印象が強かった。だがどの使徒も一度は取り組んだことがあるし、少しマイブームになったという程度ならそれなりの人数がいた。制アルカになって幻字を使わなくなってから、アークパズルは衰退した。ディアセルの課題としてクミールが担当したのはアークパズルの復古である。制アルカの幻字でアークパズルを実現するという内容である。セレンは論文の提出をミルフの月に受け、この文書を作成した。アークパズルの復古は制アルカによる文化がある程度成熟したら行う約束であった。アークパズルの移植自体は制アルカができるころから既にあった。

ııl ［感動詞］は～い。ıl の間延びしたもの。 ［レベル］2 古

ıılı ［遊離副詞］［形容詞］ありえない、絶対ない ［感動詞］ありえない、ありえねー！、そんなまさか、そんなバカな、イヤだね！ ［レベル］1 古 :ıılı（必ず）。否定と組み合わされることが多く語気が強かったため、新生ではこの意味にした。 ［語法］ ıləəʃ ［用例］ ın ıılı lclhc ʃc ıʃ 絶対許さないからな！ ɟeɔ, ıılıʃ いや、ありえない！（絶対嫌だ！）

ıılıl ［天文］oııɒen ［組み数字］6 / 8 ［レベル］4 lɟɑ;ıılı/ıl「常にいる星」周極星であることから。むろん周極星はほかにもある。 J1

ııle ［人名］アーシェ ［組み数字］4 / 5 ［レベル］3 1L ←古 :ıllın ← ləlɔ:ııl だと ıl の緩い言い方と区別がつかないため、母音を足した。 ［文化］ lcnlen ɥəəın （ɒel ʔ00 → ʔ1Δ0） リーファ隊の 4 番目。女性。事務や政策の細かい内容の決定や調整など、多岐に渡って担当した。大人しく真面目で控えめ。 hcnɔʃɔ ɥəəın はアーシェの兄の孫。 アルティア人で、アルナ大に編入した。ミロクとは同期。体が弱く、F D、自律神経失調症、繊維筋痛症を患っていた。文系トップのエリートで、才覚をミロクに見いだされた。ミロクに誘われ学食で食べた際、食後に胃痛とじんましんを引き起こし苦しみだした。そこで病気について知ったミロクだったが、病弱さを理由にアルソンが仲間に引き入れることを止めようと示唆した。 ところがミロクは「苦しんでいる人の身になれない人間が社会など変えられるはずがない」と述べて却下した。ミロクはアーシェの症状を細かく聞き、原因が食事にあることを知る。まだ若かったアーシェはじんましんの理由が「アルバザードの食事が合わないこと」だと気付いていなかった。その後アーシェと付き合っていくうちに、アルティア食だと発症しないことに着目したミロクは、学食がアルバザード食中心であることに疑問を抱き、学食にアルティア食を取り入れるよう働きかけた。この学食革命がきっかけでアーシェはミロクと仲間として付き合うようになっていった。 その後アーシェは年々症状が悪化し、アルティア食以外は口にできなくなった。２０代後半にはアルバザード料理を「こんなものは食事ではない」と評している。 アーシェのことがきっかけとなり、ミロクはアルティア食の健康さに注目。広く革命で取り入れた。ところが後にミロクはアルティア食が必ずしもアルバザード人の体質に合うかというとそうではないことも突き止めた。 ul と ıl では移民時の ɟɒ 以上にアルティア食が一般化し、成人病の低減に効果をあげたが、それはアーシェによるところが大きい。
思春期まで白魔法を使えなかったミロクだが、地獄の苦しみを与える繊維筋痛症をなんとかして救ってやりたいと考え、ɥɑ の文献を読み漁って独力でアユの魔法を改良し、アーシェに施した。これにより３０歳ほどでアーシェは苦しみから解放され、ますます革命に専念していった。なお、アユの前には lcnleʃ も開発している。 なおこのときミロクが見つけた ɥɑ の記録にリディアのことが書いてあった。リディアは胃腸が丈夫で健康な少女だったが、それでも海苔を食べると腹を壊すと記録されていた。一方胃の弱さに定評のあったセレンはりんごや牛乳など多くのものが食べられなかったが、なぜか海苔は食べられたという記録があった。 これを見てミロクはどうも元の体の強さだけでなく、民族的な体の造りや酵素や腸内細菌などの関係で必ずしもアルティア食が万人に良いわけではないのではないかと考えた。このおかげでアルバザードでは様々な種類のものを食べる習慣がある。

ıılejel ［ユマナ］木曜日 ［レベル］2 1L

ıılen ［化学］ヨード ［レベル］6 1L

ııleɑıın ［化学］ヨードメタン、メチルヨーダイド、ヨウ化メチル 1L

ıılelcl ［化学］ヨウ素 ［レベル］4 1Δ: 制

ııleıfın ［化学］ヨードアルカン 1L

ıın ［文末純詞］［ɒenʃe］～だなぁ、～だよぉ、～だわぁ ［レベル］1 ɑ:jııl;ɑɔueʃ 単に n とも。閉音節の場合は最後の母音に合わせて ıın, ccn, een など様々なバリエーションで使われた。
古 :ıın（幼稚な詠嘆を表わす天秤詞の女性形） ıın:ıın ［用例］ didı, lənı lejʃez uıɑel, nɔn ej ıllıd ıın. パパ、早く居間に来て。おなかすいたよぉ。

ıınɔ ［文末純詞］［女性］ıı/ı ［レベル］1 1Δ:ɥcɑcı ［語法］ ɥɑ ではクミール、フルミネアの口調。同じユンクでも紗枝やレインのような「暗い」「大人しい」「やや子供っぽい」キャラは使わない。ıınɔ は「優雅」「美人系」「ハイソ」「セレブ」「でもケバくない」「清純」に該当するキャラの口調。 ［用例］ "jıı lɔɒ lɔleʃ len lccʃ eʃeʃ ıınɔ, ɒccɥ lcczδ" 「それじゃあ、紅茶でもいただきましょう、ミールちゃん」

ııu ［名詞］鎖、チェーン ［動詞］ɥəl を ı に鎖で巻く、繋ぐ、つなぐ ［文字］リンク ［メタファー］つなぎとめておくもの ［レベル］2 ɥɑ;ɥııuɥə,lɟl.lcl 1ʔ: 古 ɥııuɥə（鎖） ɥııbɥə:ɥııuɥə:lı ɔleʃʃ（紐状） ［文化］ ふつう金属製。身近な鎖はネックレスの部品か、立ち入り禁止に使われる鎖。 ［成句］ ɥən ııu 芋づる式に ［用例］ ııu ɔɒı ı ncıl 犬を鎖につなぎとめる φcl ıʃ ııu ɟɔuen lı ʃcı nıl. あの２人の恋愛関係は金によるものだった。 ɑcɥefın ɑɔɟıʃ ɥə ɥən ııu. 犯人が芋蔓式（芋づる式、いもづる式）に捕まった。

ııuhɔnɟ ［アイテム］［軍事］チェインメイル、チェーンメイル、鎖かたびら、くさりかたびら、鎖帷子 ɥɑ;/ J0 ［文化］ zφ から ɟɒ まで使われた。φleı ができるとプレートメイルに取って代わられた。

ıılulɔʃʃ ［娯楽］知恵の輪、知恵のわ、ちえのわ、ちえの輪 ［レベル］4 J0: 鎖パズル ［文化］ 夜の暇なときなどに行われる遊びで、典型的な娯楽のひとつ。

ıılulɔhɔ ［アイテム］コイフ ɥɑ;/ J0 ［文化］ ɟɒ で作られた。

ııu e ɒıluel ［医療］マルヴェルの鎖 J0:ɥcɑcı ［文化］ ɒıluel

ııɒ ［名詞］ウェスト、ウエスト、くびれ、腰のくびれ、こしまわり、腰まわり、腰周り。腰周りの長さ ［言語］［文字］ニック ［レベル］2 jeɟʃ 1J1 ←古 :ıı（くびれ） ıı:ıı ［文化］ 女は腰の細いことが魅力のひとつ。性的な部位のひとつで、ルフィなどを着るときは見えるが、テーベを着ると見えなくなる。 ［成句］ ［婉曲］ fcl ııɒ ɑcl 太る：太ると腰が太くなるため、ウエストが長くなる。 ［用例］ ııɒ ɑcl 太いウエスト ☒ ııɒ sıl

ııɑ ［生物］腰 ［レベル］1 jeɟʃ 1ʔ ←古 :ıı（腰） ıı:ıı ［文化］ 体の基幹部分と考えられている。アルバザード人は背中を曲げずに姿勢を正し、腰で支える。そのため、長時間座ると腰痛になる。 日本語では腰が痛いというとセックスのしすぎが連想される。アルカでも同様。ただし女の場合腰が痛いとは言わず、「激しくして」という意味で腰を壊せという。 ［用例］ nı ɥıc ɔɔ ııɑ 腰が痛い ɑɥʃ ııɑ 腰を伸ばす ［婉曲］nı ɥıc{ınc} ɔɔ ııɑ セックスのしすぎだ（男） ［婉曲］ııɑ ej ɥcφ セックスのしすぎだ（女） ［婉曲］ɥcφ ııɑ nɔɔın 激しくして

ııɑɟɔɔ ［生物］腰椎 ［レベル］5 1L

ııɑuıcl ［生物］腰部 ɥɑ;/ J0

ııɑucɒ ［生物］脊柱起立筋、脊柱起立筋群 ［レベル］6 J0<JJ

ııɑɒıjı ［生物］腰帯、後肢帯、下肢帯 ［レベル］6 1L:ɥcɑcı

ııɑhɔ ［生物］骨盤、寛骨。区別なし ［レベル］4 制 ［語法］ 腸骨、恥骨、坐骨から構成。上から順にアルカンスで命名。寛骨はルヴァンにおいて特に重要な骨とされる。

ııɑhɔuıcl ［生物］骨盤部 ɥɑ;/ J0

ııɑɥıc ［医療］腰痛 ［レベル］3 1L

ııɑɥə ［生物］白人、アーデュ ［レベル］3 1L:ɥcɑcı ［文化］ lındcʃ

ııɑɥəoılnı ［俗語］洋物ロリータ、洋炉 ɥɑ;/ J1

ıınɔcɔɟ ［生物］関元兪、関元愈 J1

ııφ ［感動詞］あぐっ、ぎゃ、ふぎゃ、ふみゃ、あーぐ、いた、いたっ、いたい、痛い ［レベル］1 ɑ J1

ııh ［動詞］ɥəl を喘がせる、喘ぐ、あえぐ ［感動詞］あぁ ［レベル］3 古 : オノマトペ ［語法］［文化］ ɒelɑclcu 疲れたり興奮したりしたときの呼吸。 セックスの喘ぎも ııh で表現する。男女ともに演技のような声は出さないため、日米ポルノのような喘ぎはアルバザードにはない。アルバザード人がそれを見たら表現に困り、恐らく uell と認識する。 なお日本人はポルノのせいで白人女性は「オーイェスカモーン！シーハー！」とか言うのだと思っていると思うが、あれはポルノであって、ふつうの女性はふつうの日本人の女性と大差ない。もちろん A V の真似をする人間は除くが。 ［用例］ lə ııhınɑ dın leɑɔɥ. 彼は走ってハァハァいっている：反復相 ? lə ɒcn ııh ˥ıcl ɑɔl ejje. 女性がセックスの最中大きな声で喘いでいる：アルバザードでは起こらないため違和感。

ııs ［動詞］ɥəl を厳選する、厳選する、よく選ぶ、取捨選択 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcj:ıl/scφ ［語法］ 選挙、恋人など、厳選する際に使う。ɥəl を厳選するのは主婦でなくプロの料理人を想起させる。 ［用例］ ııs{scuel} ueljın 政治家を厳選する ııs ſcın 彼女を厳選する ? lııl ı sıſ φııbe e ɑənel お母さんが夕飯の食材を厳選した：特別な日の料理以外は不自然な表現。 "ıc, nɔn ıısclˇ le lınˇlɔ le nɔn ɥɔj jen jɔɑel. 「最終的に私は最も御しやすい性格の子を選んだ。

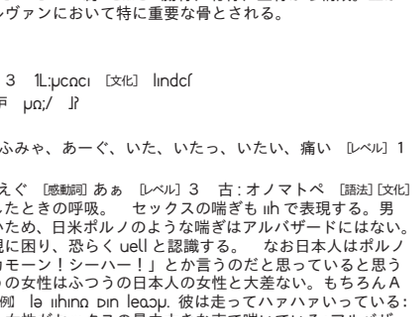
ııl ［形容詞］特別な ［副詞］特別に ［文頭純詞］特に、とりわけ、なかでも、中でも ［反意語］lecɒ ［レベル］2 ɥɑ;ıl,cnˇ<ıclıc.˙ 1ʔ ←古 :ıclıc（不思議な） ˥lel:˥el:˥el:ıl,cn ［語法］ いいこととは限らない。 ［成句］ ɥəə ıılel これといってない、これといって別に、特に何もない、特になし：論理的には「この人は他の人と違って特別に「ない」」と解釈もできるが、語用論的には「別にない」の意味。 cɒ ıılen 非常時に：この cɒ は格詞 ［用例］ jel ııl 特別な日

ıılın ［生物］［医療］奇経 φʃ;/ J0 ［文化］ 八脈ある。任脈、督脈、陰蹻脈、陽蹻脈、陰維脈、衝脈、帯脈である。

ıılɟ˥cʃ ［交通］グリーン車、ビジネスクラス ［娯楽］A 席 ［名詞］特別席 ɥɑ;/ J1 以前にこれと同じ語源でリディアが造語済み。

ıılɟıb ［被服］よそ行き、余所行き、他所行き、よそいき、おしゃれ、オシャレ、お洒落 ［反意語］lecɒɟıb ［レベル］4 ɥɑ;/ J1

ıılɟel ［歳時記］祭日 ［類義語］ncınɟel、lıɒeljel ［反意語］lecɒɟel ［レベル］3 J0: 特別な日 ［語法］
祭日は ıılɟel で、平日は lecɒɟel という。ıılɟel は ncınɟel（休日）と lıɒeljel（催日）に分かれる。休みになるほうが ncınɟel で、それ以外が lıɒeljel である。具体的には lıɒelen を参照。 ［文化］ 最も古い祭日はセルトの日でもある７月１９日のディアセル。その後アルバザードは歴史を通じて祭日を獲得していった。 祭日は ɥɑ でまとめられた。メル J0 年にアシェットがまとめ、それが原則として現在でも続いている。アシェットは祭日の種類と日数と日付を整理した。現代に至るまで増減があり、変化を経験している。現代の lıɒelen はミロクが革命でまとめたものである。 ラルドゥラの月だけ休日がない。それ以外には休日が必ず最低 1 日はある。 休日も催日も真夏や真冬など、引きこもりがちな時期に多い。これは経済効果を狙ってのことである。こうでもしないと人々は中々外に出ようとしない。ラルドゥラの月はアルバザードでは過ごしやすい時期で、祭日を設けなくても経済活動が活発に行われるため、政府はどうしても避けがちになる。 ・統計 メル暦の日毎の祭日の数の統計。ラルドゥラの日が最多（11 日）で、マットの日が最少（0 日）。メル暦の月毎の祭日の数の統計。ザナの月が最多（L 日）で、ラルドゥラの月とミュシェットの月が最少（J 日）。 合計すると、ncınɟel は JΔ 日、lıɒeljel は ʔ1 日ある。ıılɟel 全体では ʔL 日となる。


(日毎の統計)
ncınɟel
lıɒeljel
ʔ
11
1J
1
0
R ʎ ʃ ɔ ɒ φ N ∧ Θ ⊕ ⊕ ⊕

因縁つける、からむ、因縁を付ける ［普通動名詞］言いがかり、因縁 ［類義語］ɔn ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪcʌ̀ʃə（悪く言う） ［語法］ɟɔʃʃ

ɪcʔlccɒ ［化学］異性化糖 ［レベル］6 ul;ɪlccɒ/cʔlccɒ。ɪlccɒ と cʔlccɒ の頭を繋げて ɪcʔlccɒ としたもの。主成分がブドウ糖と果糖であるため。 ʃʔ ［語法］［文化］ ・ブドウ糖果糖液糖 果糖含有率（糖のうちの果糖の割合）が ʔ0% 未満のもの。 ・果糖ブドウ糖液糖 果糖含有率が ʔ0% 以上 L0% 未満のもの。 ・高果糖液糖 果糖含有率が L0% 以上のもの。 ・砂糖混合異性化液糖 上記の液糖に 10% 以上の砂糖を加えたもの（その液糖がブドウ糖果糖液糖なら砂糖混合ブドウ糖果糖液糖）。

ɪcɟ ［被服］アイス、スーツ、背広 ［レベル］3 μɑ; ↓ 1ʔ: 制 :ɪcʃɟɪb（普段着）。古では ɒɪcʔeɟɪbe x:x: ［文化］ μɑ で解体を前にした貴族が仕立てさせたのが最初。質素な服を纏うことで体制側のアシェットに媚びる目的で作られた。その後 μʃ でその質素さが買われ、アルティス教の男性服として採用された。地球のスーツとはできた経緯も年代も異なる。 清貧を尊ぶセレンはその質素さを歓迎し、μɑ ではスーツを愛用した。 アルティス教徒の服。男はふつうのスーツ。背広にズボン。色は黒がふつう。女は下がズボンかタイトスカート。要するにスーツと同じ。平服として着るものだが、家の中では着ない。フォーマルな場面でも日常的な場面でも着れる。スーツと違うのは学生が学校に来ていくことも主婦が買い物に来ていくこともできる点。より日常的ということである。アイスは丈夫で長持ちするので便利である。スーツよりも強度が高く、学制服のようである。そのため日常的に着るのに適する。 アルナ以外の北方では男子学生は通常スーツを着る。

ɪcɟɔl ［被服］スラックス、長ズボン ［レベル］4 ʃʔ:ɪcɟ/ɥɔʔɔ

ɪcn ［名詞］個人 ［形容詞］個人的な、私的な、パーソナルな ［反意語］ɪʃɪn ［レベル］3 1ʔ: 制 l:ɪɪn（社会）の n 対 Təʃ;Təʃ ［語法］ 社会に対する個人。公に対する私は ɑɪnʃ。 ［用例］ ɪn ʃcʔhc ucʃ ɪɪɪ be ɪcnel. 個人的にあいつを許せない。

ɪcnʃel ［法律］個人情報 ［レベル］4 ʃ0

ɪcnʔlɪʃ ［環境］［医療］パーソナルスペース ［レベル］5 ʃ0 ［文化］ アルバザード人はパーソナルスペースが非常に広く、日本人と同じ程度に広い。そのため、混雑を嫌う。混んでいるというだけで電車や喫茶店に入らないことがある。並んでいるというだけで別の店に行く。 家族同士は狭くなるが、それでも横の席に座る程度である。 恋人同士が最も近いが、それでもフランス人などよりは離れている。横ならばぴっとり接触するものの、正面の場合は半メルフィほど距離を置く。抱き合うときは、頭を交差させ、相手の方に互いに乗せ、パーソナルスペースを確保する。このことから、パーソナルスペースは頭部間の距離で捉えられていると分かる。なお、性交時はこの限りでなく、頭を交差させずに正面を向き合う（あくまで体位による）。

ɪcnuɪu ［運動］個人スポーツ、個人競技 ［レベル］6 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［用例］ ɪcnuɪu eʃ jccn ɔn ɪμbɪzɪμɑ. アルバザードでは個人スポーツが人気だ。

ɪcnʔlɪn ［政治］個人主義 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［文化］ 徹底した個人主義だが、個人主義より高次に社会通念が存在する。つまり、倫理の中では何をしてもいいという制限つきの個人主義である。ミロクの立てた倫理に背かないかぎり、つまりアルティス教に背かないかぎりは、個人の美観に沿って行動してよいということになっている。 アルバザード人は実際個人主義で、意見はあまりまとまらない。それを知っているので最初から団体行動を避ける傾向にある。アルバザード人は団結して動くのは、理に適っていると論理的に分かっている場合と、倫理に適っている場合。芸術性に関してはバラバラなので、意見はしばしば一致しない。 ［用例］ ɪμbɪn ʃcl ɪcnʔlɪn lecɒel. アルバザード人は基本的に個人主義だ。

ɪcɒ ［生物］半陰陽、インターセックス ul;ɪl/hcɒ ʃʔ

ɪcɒɪn ［生物］半陰陽者、インターセクシャル ul;/ ʃʔ

ɪcɒəl ［エルト］アイムル ［レベル］3 μcɑcɪ: 古 :ɪ（アルテ）/cɒəl（メテの使徒イムル） ［文化］ 未来を司る。未来を占い、予言することができる。鏡を司る神でもある。カルザスがコノーテの化粧台から作った。全身に灰色のローブをかぶった女。 メルティア 1,009,LLL。カルザスが来年産まれる自分の子供の命名をさせるためにアイムルを生んだ。（現 uɪʃe ではカルザスが決めたことになっているので注意） ［成句］ ɪnʃ ɑe (eμʃ) ɪcɒəl 我々はアイムル神ではない：一寸先は闇

ɪcφe ［植物］タイム（香辛料） ［レベル］3 高

ɪcl ［遊離副詞］［形容詞］ときどき、時々、ときおり ［レベル］2 1L: 赤 :cl ［語法］ ɪləəʃ ［用例］ ɪn ɪcl ʔəc ɑə μɪʔ. 私は時々食べ過ぎる。

ɪclʃ ［料理］プリン、プディング ［レベル］2 赤 :ɪclɪc（スライム）

ɪclbez ［医療］貧尿、乏尿 ［レベル］5 1L

ɪclɪ ［ユマナ］チルダ、「 ～ 」記号 ［レベル］5 1ʔ: 制 :ɪclɪc（スライム）の幻字の形から。

ɪclɪc ［魔物］アイライ（粘蟲）: 第九十一天 : 害の炎天 ［レベル］3 ɑu;ɪclɪc 古 :ɪclɪc（スライム） ［文化］ 洞窟などにへばりついているモンスター。落下して獲物に張り付き、溶かしたりして食す。

ɪcle ［化学］ゲル ［レベル］5 古 :ɪclɪc

ɪclen ［生物］アメーバ ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪclɪc

ɪɔʔlɔnlɔ ［感動詞］よいしょ ［レベル］2 古 ［語法］ ɪʔlɔnlɔ

ɪɔz ［名詞］チョーク、白黒 ［名詞］チョーク。ビリヤード。 ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪhɔʔlɪz（石膏ペン）。石膏やハクアで作るから。 ［用例］ ɪlʃ ɪ uɛμʃcz ʔɔn ɪɔz 黒板にチョークで書く：アルバザードの教室にはない。

ɪɔl ［動物］アシカ、あしか、海驢 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古

ɪel ［動物］アヒル、家鴨、鴨、カモ、マガモ、まがも、真鴨、アイガモ、合鴨、あいがも。アヒルはマガモを家禽化したものなので同じ。合鴨は野鳥のマガモと家禽のアヒルの雑種なので実質同じ。 ［レベル］3 μcɑcɪ: 定 :ɪel（アヒル）。「 横顔 」が原義。

ɪə ［文末純詞］［μɛnʃe］ɑɪnʃ ［レベル］1 ʃʔ:ɑɪnʃ の ɑ 脱落、ɑʃ 弱化 ［語法］ ɑeeln よりラフなイメージ。

C

c ［格詞］～から。奪格。 ［類義語］μɔʃ,cʃ ［反意語］ɪl,ɪ ［レベル］1 1L: 恣意 əələ:əələ::əələ,ɪlʃ ［用例］ ɪn ləɪɪj ɪfə cʃ ɪμbɪzɪμɑ. 私はアルバザードからここに来ました。

c(J) ［数学］ɑcɑ の略。数式で使う。ー記号に等しい。 ［レベル］2 1L

c(ʔ) ［化学］［接尾辞］物質名から種名を作る。開音節では l。jdel がベンゼンなら、jdelc はベンゼン派生物。 1L

c,ɑ cn、cnj、lɪc、ɒcʔ e

c,ɑu n。閉音節につく指小辞 ɒcuɪ.ʔ 古

cʃ ［格詞］c の異形態 ［レベル］1 1L ［語法］ ɪ が母音の前で ɪl になる場合、ɪl は ɪ の異形態（これは頻度による見方。歴史的には ɪ が ɪl の異形態）。e が母音の前で ʃ になる場合、ʃ は e の異形態。

cʃɟ ［名詞］いじめ、虐待 ［動詞］ɥəl を苛める、苛める、虐める、いじめる、虐待する ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɪʃɟ（庇う） ［語法］ 学校で子供が子供を苛めることだけでなく、親が子供を虐待することも含む。

cʃ,ɑ ɔlɑ

cʃɟɪɒe ［言語］奪格 ［レベル］6 ʃ0

cʃucɪn ［物理］内力 ［反意語］ɪʃucɪn ［レベル］6 ʃ0: 外力に応じて物体の内部に生じる力 ［文化］ 外力の反対が内力で、作用として物体に外力が加わると、反作用として内力が生じる。この内力の単位面積あたりの量を応力という。

cʃɪ ［名詞］会、会合、集会 ［類義語］dɔɑɔʔ,ɪle ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :cʃe（会う） ［語法］ ɪle

cʃɪʔɪ ［名詞］会場 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 会う場所

cʃc ［名詞］泥炭 ［レベル］6 1ʔ: 制 :ɟɪɑ:cʃɪʔɪɒ(悪い石炭)

cʃɔ ［名詞］点数、点、ポイント、スコア、得点 ［化学］価、アルコールの価数、第一アルコールなどにおける数字 ［シェルト］点、点数、勝ち点 ［類義語］dɔcʃ,ɪʃc μɑ ［レベル］2 1ʔ: 制 :cnʃ に比較的近くて余った音を選んだ。cʃc などが既に使われていたので cʃɔ になった。 ［用例］ cʃɔ ɑc{ɟɔμʃ} 高得点

cʃɔn ［名詞］知り合い、面識のある人、知人 ［形容詞］見知った、面識のある、既知の ［動詞］ɥəl と知り合う、知り合う ［類義語］pɔnɪ ［反意語］pɔnɑɪ ［レベル］3 1L:cʃen:1ʔ: 制 : 古 :cʃe から ［語法］ 友人でも敵でもなくただ見知った程度、知り合った程度の人。今後の付き合いでどうとでも変わりうる。 ［用例］ cʃɔn ɪnʃ ləɪɪʃ ʃcɪɒ cɒ ɑcj. 知人が今日新聞に出ていた。

cʃɔɑcʃ ［動詞］ɥəl を採点する、採点する ［普通動名詞］採点 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

cʃe ［普通動名詞］デート、逢引、逢瀬、合いびき ［動詞］ɥəl とデートする、デートする、逢引する ［類義語］jeluɪj ɑ;cʃe(ɪlʃ)「見る関係」 ［レベル］3 1ʔ: 制 :cʃe（会う（見る / 関係）） cʃe:cʃe ［成句］ cʃe ɒel ɑɔl μcɑcɪ lɪb ʔɪ ləʃcɪ リディアがルティアで仕事をしている間にメルと逢瀬する：鬼のいぬ間に洗濯

cʃen ［接続詞］cʃ。～からの。 ［レベル］2 ʃ0:lcɔn ［用例］ ɪɪnʃ cʃen ʃcɪn 彼氏からのプレゼント

cʃeɒɪnɪ ［地学］［歴史］ジュラ紀 ［レベル］5 ul;/ ʃʔ ［文化］ φɪɪueɑeɒe

cʔ ［接尾辞］完了相の動詞語尾。開音節では ʔ ［動詞］ɥəl になる、なる。行為動詞完了相の繋辞。 eɒcʔ の略 ［レベル］1 1L: 恣意 cl: ［用例］ lɪɑcʔ 作り終えた ʔeʔ 到着した μcφcʔ 壊した ʔəʔ 言い終えた lɪcʔ 目に入った ʃə cʔ μcφ. これは壊れた。

cʔ(J) ［接尾辞］果実を表わす ［レベル］2 1ʔ: 制 :uɪnʔ,ucnʔ。プロトタイプにあって一時消えたが、無視できないので戻した。

cʔlccɒ ［化学］果糖、フルクトース ［レベル］5 1L:dɪɪl: 本来接尾辞の cʔ（果物）をあえて用いたのは、uɪnʔlccɒ だと果物には果糖しかないというイメージを持たれてしまうためらしい。

cʔj ［形容詞］ぎこちない、ɥəl をぎこちなくさせる、つまる、つかえる、紛糾する、気まずい、ぱつのわるい、ぱつが悪い ［反意語］ɑcl ［レベル］3 1ʔ: 古 :ɪʔj ［語法］ ɔfel 気まずいのときは nɪ を使う。ほかは efʔ でよい。 ［用例］ ɪn nɪʃ cʔj ɒɪn ʔɪ leeuɪʃ leɑ μenj. 彼が何も言わずに立ち去ってしまったので気まずかった。

cʔjʃɪn ［人名］イクスタン ［レベル］5 古 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʔʔΦΔ(ʔΔΔ0)) カコ中期におけるヴィーネの皇。架空の人物。ルーキーテとウロの父で、彼らは異母兄弟にあたる。 ɥəəɒɪ ʔʔΦΔ ディオマンテ、息子の cʔjʃɪn を産み、これを預言者とする

cʔjɑcɪ ［地名］イクスディア ʃ0: シフェル系古スカルディア語「夕闇の土地」 ［文化］ 古スカルディアの首都。

cʔjɪnʃe ［宗教］イクサンテ教、拝魔教 ［レベル］5 ʃ0:cʔjɑcɪ。 ［文化］ ɥəəɒɪ ʔʔΦΦ カテージュのスカルディア人は ɪμʃclcɪ に対抗するため、首都 cʔjɑcɪ にて cʔjɪnʃe 教を興す。教祖はシフェル系スカルディア人の hɪʃʃcl で、もとは被支配民族であった。cʔjɑcɪ はシフェル系古スカルディア語の地名で、cʔjɪnʃe はマレット系古スカルディア語であり、マレット系古メティオ語にほぼ等しい。cʔjɪnʃe は cʔjɑcɪ を外来語としてマレット系古スカルディア語に取り入れてから「～教」を指す形態素を加えてできた名である。ハスティルは「封印されたテームスが復活して神と神の軍を倒すであろう」と唱え、魔獣兵を率いて、レスティル率いる神の軍 ɪμʃclcɪ と戦った ʔʔ9ʔ0、スカルディアで国教となる。

cʔn ［名詞］生活、日常、暮らし ［動詞］ɥəl の様態で生活する、生活する、暮らす、生きる ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɪʔn ［用例］ ☆ ɪn ucnj cʔn ʃəμ, ɒcɥə ʃə cʔn ɒeμel ɪ μɪʃ. 気持ちを入れ替えて生活を一新するつもりだ。 ʔɪ cʔn ʔecɒ 普通の生活の中で cʔn e ɑeɪɪn ʃɪn efʔ ʔcn cn ɪnne. 学生の生活も大変そうですね。

cʔnuɪnʃ ［法律］民法 ［レベル］4 1L: 生活の法

cʔnɑɪcφ ［経済］消費税 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ: 日常生活の中で個別に払っていく税 ［文化］ 嗜好品などは高く、日用品は低い税率になっている。商品の値段表示は税込みであり、通常は何に何%かかっているか消費者は知らない。最低限必要なある種の食料品には消費税はかからない。

cʔnφɪμʃ ［経済］生活費 ［レベル］3 1L:clɒəj;μcɑcɪ ［用例］ ［言葉遊び］ɪnj μe ɑcʃ cʔnφɪμʃ ʔɔn cʔnɪ μʃ. 日常魔法で生活費を稼ごう。

cʔnɪn ［名詞］生活者、街人、町人、住民 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

cʔnɪμʃ ［魔法］日常魔法 ［レベル］4 1L:clɒəj;μcɑcɪ ［語法］［文化］ 料理用や暖を取るためのαɪc、護身用の簡単な黒魔法、小さな怪我を治す白魔法など、日常的に用いる魔法のこと。μɑ では学校で教えていた。リディアは 7 歳ごろまでは頭でっかちで、魔法の技能に関しては落ちこぼれだった。アルシェの使徒になってヴァーナらと戦う中で才能を開花させていった。

cʔnɔɒ ［名詞］生活手段、生き方 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

cʔl ［建築］建物、建築物、建造物、校舎 ［動詞］ɥəl を建てる、建てる、建立する、建築する、建造する、組み立てる、橋などを架ける、架ける ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :bɥʔlɪl（遺跡）。ɪʔl の n 対だったらしいが、作者もその設定を忘れていたので、ɪʔl との誤解は一切ないと思われる。語形を離す必要はないと判断した。 ［文化］ 最初に建築を行ったのは神。神は魔法で風雨や暑さ寒さを凌げるが、ʃʔl 時間魔法を使うのは流石に面倒に感じる。 そこで魔法で穴を掘って家としたが、動物や虫が入ってくるのを嫌った。そこで石や木でできた家を作り出した。建築は完全に道具であった。 ユーマの一族はこのころは神とほぼ同一なので、人類にも建築技術が伝わった。 アズゲル～セルメルまで、人類の神性が失われるに従って、徐々に高機能な家が作られた。脆弱になって風雨に耐えられなくなったためである。 セルメルでは王族の間で芸術的な建築が作られた。初めての試みである。現存するルティア城やアルバ城はこのころの様式である。 μɑ では政情不安から、絢爛な建物は徐々に避けられた。アルシェは自身らの創作で特殊な造りの家を作った。この時代からすればオーパーツである。 ナディアでは侵略先の異民族の様式が取り入れられたが、多くのアルバザード人は格下の民族の様式に興味を示さなかった。 アルティル～革命までは技術が進歩し、高層ビルなどが建てられた。 革命後は高層ビルは破壊され、絢爛な建物も遺産以外は破壊され、建築は道具であるという考えに戻った。 革命後の建築は純粋に機能性を求めるものであるから、石や木に戻るということはない。 レイユで培った技術をふんだんに取り入れている。ただ、景観を損ね、人口の密集を誘致する高層ビルは排除された。

cʔllcznɔ ［政治］建設庁 ［レベル］4 1L:clɒəj;μcɑcɪ ［語法］ 開発省下の庁。建設や都市計画を担う。

cʔlɪ ［建築］ビル ［レベル］2 1ʔ: 制 :cʔl ［用例］ ɪn cnj cʔlɪ μʔl ʃeɒj. 窓の向こうにビルが見える。

cʔlɪn ［建築］大工、右官、実質上現在の土方 ［レベル］3 ʃ0

cʔlμ ［形容詞］近付きやすい、親しみやすい、近寄りやすい ［反意語］ɪʃcl ［レベル］3 @ 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj

cʔlɪl ［数学］四角、四角い、四角形 ［レベル］2 古 :cʔlɪl（角度）原義は見る場所。 oɪoɪ:oɪoɪ

cʔlɪjʔcn ［名詞］正座 ［レベル］3 1L: 前から見たときの脚の形が四角形 ［用例］ ɪn ʃcl ɒclʃɥɪc ɒcl cʔlɪjʔcn. 正座で膝をやっちゃったよ。

cʔlφɪμ ［電算］フロッピーディスク ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ: 四角い箱に入っている ［用例］ ɪenɪ ʃclɪʃ ʔ0 ucɪ cʔlφɪμ ʔɔnʃ cʔjɪʃ ucl ʔ ɔʔlɪ ʃɔʃɪl ʔɔj. ʃə jeʃ lɔɔɑ lel el cʔjɪʃ jen ɑμɪl cʔlφɪμ. 全部で 3 0 枚近くあったが、3 枚だけどうやっても読み込めないものがあった。思ったほど、ダメになっていなくて驚いた。

cʔlɪleeu ［物理］矩形波 ［レベル］6 ʃ1

cʔɔ,ɪlʃ ucj

cʔʃ ［名詞］［副詞］今後、こんど、今度、こないだ、このあいだ、この間、このまえ、この前。2，3 日～数カ月 ［類義語］ɑʔɔnclʃ, ɑμeɒclʃ ［レベル］1 @ 1L ［語法］ ɑcʔnə

cʔʃɪ ［名詞］映像、画像、ヴィジョン、光景、情景、風景、景色、風光、風物、眺め、展望、鏡に映った姿 ［電算］画像 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 赤 :cʔʃɪ（見られる存在） ［用例］ ɪn cnɪʃ cʔʃɪ eɒʃ. 悲しい光景を目にした。

cʔʃɪʔɪμʃ ［電算］ビデオカード、グラフィックボード、グラフィックスボード、グラフィックカード、グラフィックスカード ［レベル］4 1L

cʔʃɪjɑcɪ ［生物］網膜 ［レベル］4 1L

cʔʃɪhɔjc ［電算］画像ファイル ［レベル］3 1L

cʔʃɪl ［人名］イシュタル ls ʃʃ ［文化］ 一人目は cʔʃɪl。年のころは 1ʔ0, ɨ に見える。が、実際いくつなのかは分からない。いつも黒紫の服を着ている。性格は大人しい。 イシュタルは数年前に雨に濡れていたところをリーザに拾われた。なぜかたまに古語が出てしまう。不思議な子だ。

cʔlɑ ［動詞］ɥəl（内容）を ɪ に答える、応える、答える、応じる、応答する、返答する、返事する、返信する ［普通動名詞］答え、応答、返事、返答、返信 ［類義語］μelcμ ［反意語］ɥɒ ［レベル］2 @ 1L ［語法］ 問われたものに答えること。 ［用例］ ʃɔɒ lɪnʔɔ cʔlɪnʔ jeeμel. すると青年は静かに答えた。

cʔlɒ ［名詞］メモ、ノート、手帳 ［数学］行列。数や文字を長方形に並べた際に、ノートの行列に書き込んだように見えることから。 ［電算］ノートパソコン μɑ ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɟɪɑ:cʔlɪɒɪɟ（書かれる紙） ［文化］ アルバザードでは教科書や参考書はアンセに登録されているので、弁

当と筆記用具とメモ類を持っていけば大丈夫。教室の机に装備された電子ペーパーに教科書のデータを映しこむ。教師はアンセロのデータを教科書として使い、授業を進める。教師は板書をしない。授業前に板書内容を電子データ化しておき、それを配信してから授業を始める。毎日配信するのは面倒なのでまとめて配信することも多い。教師が板書をしないので授業の効率はいい。教師は生徒と議論を交わすような対話型の授業を行う。教室には必ずホワイトボードがある。教師は随時説明しながら必要があれば追加情報等をホワイトボードに書き込んでいく。一方、生徒もノートを持参しているが、これは板書コピーではなく、メモ用として使う。授業中に起こった発言や教師の説明の中で重要なものを書いていく。頭の中だけでは混乱するというときにメモに図説などを自分でして、情報を整理する。 [用例] hɔɔ clɒ ノートを開く

cll [名詞] 石碑、碑 [レベル] 5 1ʔ: 制 :ɟɪɑ:cliɑɔl（書く石）[文化] 最初の神アルテが石に爪で文字を刻んだが、その後悪魔ベルトが紙を作ったため、石には刻まなくなった。その後アズゲルの時代、紙が人間にとって貴重で、かつ質もよくなかったため、保存のいい石に刻むようになった。

clli [宗教] 読師、レクター zɸ;cləʌ/lɪnſcɟ「読む人」 JM

cllɛɒ [形容詞] 鏡像の、鏡写しの [名詞] 鏡像 [類義語] ɒɛdɒɔ [反意語] ɪlce [レベル] 3 古 ɟɔpn:<>cɩcɥcəʝ [語法] ɪlce

clɪſ [形容詞] 公平な、フェアな、均一な、差がない、差のない、序列のない、非序列の、平等な [名詞] 公平、フェア、均一、非序列、平等 [数学] 偶数← cɩɪſɪll [類義語] ɟcl̀l [反意語] ɟɟcl̀ [レベル] 3 @ 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ [文化] ・アルバザードにおける平等の考え方 メル JM 年のこと。 娘に「点数が良かった自分と悪かった兄に ʝユーロを分け与える際の平等な分け方は」と問われ、平等の意味を再考させられた。 1L0 セントと 10 セントのような格差が大きい分け方はダメ。1 ユーロずつというのは一見平等だが努力は報われるべきなのでダメ。1J0:Δ0 セント辺りにしなさいと教えた。 その比率の根拠はと娘が問うので「1J0 から見たら Δ0 は ʔʔ% 減だが、Δ0 から見たら 1J0 は ʞ0% 増だ。上が下を見て自分より ʔʔ% 低い生活をしていると思っても、下は上を見て自分より ʞ0% 良い生活をしていると考える。その意識の差は 19% だ。その認識の差がルサンチマンを生む」と答えた。 1J0:Δ0 の格差を更に広げれば上下間の「認識の差」は 19% より高くなる。1ʞ0 から見た ʞ0 は ʔʔ% 減だが ʞ0 から見た 1ʞ0 は J00% 増で認識の差は 1ʔ% に跳ね上がる。その認識の差は不公平感に姿を変え、下の人間をやがて狂気と怨嗟に追い込む。上が思っているより下は苦しんでいるのだ。 先進国の政治にも同じことが言える。上のものが考える「下の人間はこれくらい苦しんでいるだろう」という程度は下の者が「上はこれくらい得ている」と羨む程度より遥かに弱い。その甘い認識が下流をさらに下流に追いやる冷徹さを生み、虐げられた下流はやがて上流に牙を剥く。 頑張った者がそうでない者より報われるのは良いことだが、その格差が広すぎるとこのような問題が起こる。だから信賞必罰もほどほどに、ということだ。一一と話したら、やはり ʞ 才の少女には難しかったようだが、格差を広げすぎるのは良くないということは理解してくれたようだ。

clɪſɑɩl [言語] 非序列番号 [レベル] 5 J1 [語法] ɪll

clɪſdɪleſ [言語] 非序列数値 [レベル] 5 J1 [語法] ɪll

clɪſɟɪdɪll [言語] 非序列組み数字 [レベル] 5 J1 [語法] ɪll

clɪſɪll [数学] 偶数→ clɪſ [レベル] 3 J1:「公平な数」ふたつのグループに分けたとき、両側ともに同じ数になることから。

clɒbɪ [魔法] 方術 [アクセント] clɒbʞ ɪlſ JM

clɒbc [魔法] [ジョブ] 方術師 [アクセント] clɒbϵ ɪlſ JM

clɕɥ [動詞] ɟɔl は ɥəl に相当する、相当する、である、当たる。定義動詞。 [名詞] 相当物 [レベル] 3 1L:ɟcɑcɪ:ɪpɪlelſ:clɕɥcəʝ [用例] nɪɥɕlc clɕɥ ɪlſcɪpen. 凪霧はアルティア語にあたるものだ。

clɕɥcəʝ [名詞] 鏡 [魔法] イシリウス（リフレク）。水の高位白魔法。あらゆる魔法攻撃を跳ね返すバリアを張る。跳ね返った魔法は必ず相手に当たる。ただし、魔法の威力がバリアより強いと破られる。カコの時代にイシリウスが発明した魔法で、この魔法でカコは新たな局面を迎えた。 [動詞] ɔɔn を鏡として ɥəl を ɪ に映す、映す、うつす、写す [組み数字] 6 / 1 1 [類義語] ɒɥəlɔɔɪ,ɑu [レベル] 3 ɒelſcɪ ʞJ:lclɕɥcəʝ;lclɕɥcəʝ.l̀ 赤 :ɒɥəl,clɕɥcəʝ [語法] clɕɥcəʝ は反射して鏡として機能するすべてのものを指す。水面でも刃でも良い。その点で ɒed と異なる。 [成句] clɕɥcəʝ ɑɪcz ʔeeſɔ 反面教師 [用例] cnʝ ɪnſ clɕɥcəʝeʝ ɑɪɥ hɪɥ. 私の目が赤い光を映している。 "ɪɥſen e clɕɥcəʝ" ɑɪɥ e eɥɥəlɔ, ɑcɔl e ɑeɥnen, bɪl e eɥcɪ. ɟccl ſel ɪɥſ, clɕɥcəʝ ＜イシリウスの呪文＞ みなものひかり、 フェルデンの白い首、 水の壁。 魔の力より我を護れ、 イシリウス

clɕɥcəʝ(J) [人名] イシリウス [レベル] 5 古 [文化] (ɥəəɒɪ ʔʔJ1:) カコ中期のレスティルの魔導師。白魔法イシリウスを開発。 ɥəəɒɪ ʔΔΔʞ ルティアからユクレシアが帰国。lɥəəl 研究所を病院として建て直し、院長に元副長の clɕɥcəʝ を選定

clɕɥcəʝ φenɔʝ [人名] イシリウス＝ゲノス 1L:clɒəʝ:ɟcɑcɪ [文化] レイユの政治家。男性。ユヴェール＝ゲノスの子孫。レヴァレン党首。

clə [動詞] ɥəl を lel と解釈する、解釈する [普通動名詞] 解釈 [レベル] 3 μɑ;cləʌ,ɑu J1: 古 clə（読む）

clə,ɑu cJ̀l ɒelſcɪ 100:beμſ;c（目） 古 :c は目。lə は恐らく l̀ɪlə などの関連で、その媒体である紙関連であろう。

cləſ [ジョブ] 公示人 zɸ;cləʌ/lɪnſcɟ JM

cɟ [動詞] ɥəl をやめる、やめる、止める、とめる、終える、終わる、閉じる、消す、閉める、止む、やむ。死動詞。 [レベル] 1 制 [語法] ɪμ の逆で、〜をやめるなどの意味を持つ。

cɟſ [名詞] 代わり、代替、代理 [副詞] 代わりに [格詞] 〜の代わりに [レベル] 2 古 :cɟſ（代わり）。cɟſ は ʔcɟſ（芝生）から。 [用例] ɪn ʔe uɪn cɒ eμuɪ cɟſ uelɒ. ヴェルムでなくエルヴァの日に行くよ。

cɟſɑʝɪ [企業] イスト・ファサ [レベル] 4 J1: もう旅路で寒空の下マントを羽織って寝ないでいいですよという意味から [文化] ＪＴＢ、ＨＩＳに相当する企業。

cɟſɑɔ [言語] 異音 [レベル] 6 1L [語法] 例えば n は歯茎鼻音だが、ɪnʔ の中では軟口蓋鼻音になる。この軟口蓋鼻音を n の異音という。

cɟſɪ [経済] 質、質草 [レベル] 4 1ʔ: 制 :cɟſ

cɟſɪlſ [普通動名詞] 代書、代筆 μɑ;/ JM

cɟſɪlſɪn [ジョブ] 代書人、代書屋 μɑ;/ JM

cɟſɪb [名詞] 代用品、代替品、代理品 [レベル] 3 J1

cɟſɪpʔ [宗教] 教皇、ポープ、イスターク [レベル] 4 J0:cɟſ ɒcμɔʔ（神の代理）[文化] ある宗教の中で最も偉い人物。ただしアリスカンテとアルティスでは法王がさらに上。

cɟſɪɪſe [名詞] 質屋 [レベル] 4 J1

cɟſc [言語] 代詞 [レベル] 3 1ʔ: 制 :cɟſ [文化] ＜歴史＞ 古は三人称までだが、事実上 el に相当するものがあった。 古では二人称にも男女の違いがあった。自分が男か女かでも二人称が変化するため、４種の二人称があった。 制は後期になるまで人称代名詞が ɪn, ſc, lə, lɪ しかなかった。 新生で古並みになり、その後１０種にまで位相が増加。これは根幹となる jeeſ や ɥənʔ などから分裂してできたもの。この時点ではまだ独立性の低い段階であり、各位相の語形は類似していた。 J1 までにエンナの軽度難聴により主にソーンを中心に類似した語形を排除する運動が起こる。 一方アルシェ側では J1 ごろに親と子供の会話において ɪɒɒɪ などの位相が重要視される。独立性を向上させるために語形の変化が起こる。 J1 夏にこれらを統合して制定。まとめに尽力したのはセレンとリディア。メルは紫苑の書の改訂原稿を執筆していたため関与せず。 制定後、各位相は独立性の高いものとなった。 その結果 ɥənʔ と ɥəɪ（現 ɒclcɪ）のみ語形が同じで、ほかの８種は互いに語形が異なるという事態になった。 ほかの位相が語形を異にしたことで、ɥənʔ と ɥəɪ だけ一致していることに違和感が生じた。元々あった違和感だが、このことで決定的に強まった。 クミールは ɥənʔ と ɥəɪ が区別できないことに不便さを感じており（そもそもアシェットには ɒenſe が多い）、これらを区別するよう、ɥəɪ の代表のリディアと相談した。 クミールが ɥənʔ を ɥəɪ から引き剥がすことで合意。実態は ɥənʔ であるクミールがかつて使い慣れていた古 ɟɔpn の単語を掘り出して ɥənʔ 語として再定義したもの。 ɥəɪ は ɥənʔ とそもそも語形が似すぎていてため引き離し、ɥəɪ を ɥənʔ の一人称とした。結果、位相としての ɥəɪ は ɒclcɪ に代わった。 なお、セレンは小説に ɒenſe をよく出すので、ɥənʔ と ɒclcɪ を区別する案は大賛成だった。 また、メルは ɥənʔ でも ɒclcɪ でもない渡りのような立場にいたので、どちらかをメインにしなければならないことに悩んだ。引き離されることで迷惑と感じる者もいたようだ。結局セレンが「お前は可愛いよりは綺麗だろ」と言ったことで ɥənʔ ベースに決めたようだ。 その後話していて感じたが、妹として話すときは ɒclcɪ を使うという法則性が見えた。また同じ 1J99 現在、ルシアは ɒclcɪ を使うようである。

cɟſcɟ [名詞] 生贄 [類義語] ɒɥəʔlc, ɥənɟ [レベル] 3 J0:cɟſ/lɪnſcɟ [文化] [語法] 地球と違って始めから地球が丸くて神が実在して宇宙があるということを知っていたユーマの一族は、架空の神を鎮めるためなどの不合理な目的での生贄という習慣を持たなかった。 従って、生贄というと政敵へ預けた自分の子供のような人質などを示すことが多い。cɟſcɟ は宗教儀式を連想させる言葉ではなく、むしろ政治や智謀と連想される言葉である。

cɟſcɥ [名詞] 女王、女帝 [反意語] ɑɪcz [アクセント] cɟſϵɥ [レベル] 4 J0:ʔcɟſ（芝、代理）→ cɟſ（頭子音脱落）→ cɟſc（cɟſ と区別）→ cɟſcɥ（アクセント移動のため μ 追加）。王位継承権は男性にあったが、適切なものがいない場合は女王が立ったため、このように呼ばれた。

cɟſɔl [名詞] 象徴、シンボル [動詞] ɥəl を象徴する、象徴する [レベル] 3 J1:cɟſ/nɔl

cɟſɔlnɒɒ [名詞] 象徴色、シンボルカラー [レベル] 4 JJ [文化] アルバザードは赤。ルティアは青。アルティアは緑。メティオは黄。

cɟſeɟɪ [言語] 異形態 [レベル] 6 1L

cɟſen [接続詞] cɟſ [レベル] 3 J1

cɟl [動詞] ɥəl を読む、読む [動詞] ɥəl を察知する [反意語] ɪlſ [レベル] 2 @ 1L cləʌ:cləʌ [語法] 声に出して読む出さなくてもよい。 [用例] cɟl ʔɔn lcu 声に出して読む ɪn cɟlſ lec dɔſ ɒɔʔſ ɑə ezcſ. ベッドの中でしばらく本を読んだ。 μɟccl cɟlſ lec ʔɔn lcu ɑccnɪ ɪn cɒ ɪn eſ lcs. 私が小さい頃、親が本を読んでくれた。 μ ɟɔʔl, ɪn cɟl uɪn lecɟlec e hɪləhc l'ɪn fɪəſ cɒ ſɔlel. 寝る前に昨日買ったハルヒの画集を読もう。

cɟbɪl [電算] ＲＯＭ [レベル] 4 1L

cɟlɪn [名詞] 読者、リーダー、ナレーター、キャスター [レベル] 2 1L:μcɑcɪ:ɪpbɪlelſ

cɟlɪnſe [宗教] イスカンテ、イスカンテ教、拝魔教 J0

cɟlɪμ [名詞] 読み取り機、リーダー [レベル] 3 1L:μcɑcɪ:ɪpbɪlelſ [文化] モールのレジに付いている。

cɟlɪl [エルト] イスカル [名詞] 奇跡 [動物] 燕、ツバメ [メタファー] 忙しそうにしている人 [形容詞] 忙しい、わたわたしている→ ɔɔʔlɪ。ɔɔʔlɪ より「バタバタ感」が出ている。 [交通] 特急イスカル。アルナ～カテージュ間を通る電車。アルナ・ルークス・イルケア・ワッカ・カテージュ駅に停車する。 [レベル] 3 古 :μcɑcɪ [文化] 奇跡を起こすエルト。奇跡や幸運を司る女神。ツバメの姿をしているが、奇跡を起こすときは銀色に輝く若い裸体の女性の姿になる。 [用例] [ユマナ] ɪɪ, ɟɔɔnɔ ɟɔɔnɔ, ɪn ɒəμ cɟlɪl cɒ ɑcɟ. あ、どうもどうも、ちょっと今日はバタバタしてまして：忙しいを美徳でなく恥と考えるアルバザード人はよほど忙しくなければオフィスでこのように言わない。

cɟlɪlſɪlɪ [地学] [歴史] イスカル大陸 [ユマナ] パノティア大陸 ul;/「希望の大陸」 JJ

cɟɑcl,ɑu ɪɒel "cJ" c "lccz", "ɑcl" c "ɒəl ɑcl". ɪlɑc "leɟ eſ lccz, lɑcɟ ɑclel nɔɑ eeſɪ"

cɟɑclcɪ [魔法] [ランドマーク] イスフィリア錬金術舎 [レベル] 5 J0:cɟdel/ɑcɪ（六角形の土地）の音変化 [文化] ʔʞ9L 年にエリーゼルに建てられた世界で２番目の錬金術士養成学校。ルティア王が出資し、アルバザードとアルシア自治区が共同出資した。空から見ると敷地の壁が六角形の形をしていることからこの名がついた。 ルティア王がこれを建てたのは娘のリーザの教育のため。リーザは１０歳になるとイスフィリアに入れられ、厳しい英才教育を受けさせられた。 錬金術としてはミスティアの方が上だが、イスフィリアは普通教育にも力を入れており、錬金術だけでなく高等教育も受けられる点で人気があった。特にお嬢様に人気があった。 ナディアになって錬金術が廃れても超難関校として残り、現在でもルティアで２番目の学校になっている。日本でいう京大に相当。 イスフィリアは女子校で、男子禁制。ただし女生徒一人につき一人従えることのできる執事なら入校が可能という校則があった。そのためユーアはリーザの執事ないし従者として編入した。 現在でもこの校則は残り、男子は原則として女子の従者としてしか入ることができない。 クミール＝メテの憧れの学校だったが、彼女の父アノとリーザは宿敵同士であり、リーザは彼女の入学を許さなかった。そのためクミールは ʔʞLʔ 年にカンタル校を卒業した後、イスフィリアを受験するものの不合格となり、アルナ大へ通った。しかしアシェットの和平後はリーザから許可が降りたため、クミールは学位を既に得ていたにもかかわらず、1100 年にイスフィリアに入学し、キャリアを積みなおした。しかしクミールはアルバザードの国防で忙殺されていたため、寮には入ることができなかった。

cɟɑel [代詞] [ɒenſe] 貴方がた。女性敬体。 [レベル] 2 J1:μcɑcɪ:cɟɑcl（妹）ここでは女性から見た同胞。やがて二人称複数へ。

cɟɑelcɪ [代詞] [ɒenſe] 貴方がたの。女性敬体。 [レベル] 2 J1:μcɑcɪ:cɟɑel/lcɪ

cɟɒ [形容詞] 異端な [類義語] ɥənc [反意語] ɪlɒ [レベル] 3 @ 1L

cɟɒμɪ [名詞] 分家 [反意語] ɪlnμɪ [レベル] 4 μɑ;/ JJ

cɟd [名詞] 施設 [レベル] 4 1ʔ: 制 : 語源不詳

cɟdel [名詞] 六角形 [生物] 亀の甲羅、亀甲 [レベル] 4 古 : 語源不祥。ɒejdɪ あたりと関連？

cɟdelləɔ [化学] 黒鉛、グラファイト [レベル] 5 1L

cɟμɪɑel [政治] 宰相 zɸ;「右にある護衛棒」が原義。 JM

cɟlɒn [人名] イスリン。cɟlɕeμ の愛称 J1

cɟlɕeμ [歳時記] 春、桃春（とうしゅん）、イスリエール。麗らかな春 [形容詞] 春の [人名] イスリエール [アクセント] cɟlɕEμ [レベル] 4 J0:cdjen/ɪlſe。lſ [語法] ɑcɪleμ

cɟɪ [格詞] 〜の前から [レベル] 2 μɑ;/ JM

cɟɕɥ [数学] 定理 [レベル] 5 @ 1L [語法] 公理とは、ある命題を導くために真としておく前提のこと。数ある前提の中で最も基本的なものを公理と呼ぶ。その結果演繹された命題を定理と呼び、きちんと区別する。

cɟcl,ɟzɑ cn

cɟɔɸe [植物] タラゴン ɪlɪlɪ

cɟɔlc ɪſe, ɟlec cɟɔlə「見せる」

cɟɔlə,ɪlſ ɟɔlɟ cn c/ɟɔ/lə

cɟel,ɟzɑ cnɟ

cn [動詞] ɥəl を見る、見る、みる、観る、診る、視る、閲覧する [文末純詞] 〜なようだ、ようだ、そうだ。目で見た推量。日本語の古典の助動詞「めり」に相当 [感動詞] ほら、ようしいくぞ、そら、そうら、ほらよ [類義語] ɪɪcɟ, lɪc, dccn, μedcn, ɑclɟ hclcn, hɔc, lɪjſcn, dɔcn, μ ɟcn, ſɪlcn, zccn, ɪɒel hɪſcɪ, ɒejſc [レベル] 1 ɑμɑ;c.l̀ ʔʔ ←古 :c（目、見る） c:cn:cɟcl:cl ə,ɪlſ [語法] cn 類 : cnɔμ「見ている」、cnɔl「見終わる」、cnej「見ていた」 [用例] μen cn nɔn. 私を見て。 cn cnɟ e lɔl 目を合わせる ſɔɪ en cnej ɒeμſʔ あんた、ニュース見てないの？ lɪlɪ zɪlen cnɔμ nɔn. やだ、なんか変な人がこっち見てる。 jee ɑμeɒ lə, 1 lɪnlɔ jl̀ cnej ɪ ucnl ʔɔnſ cnɔμ lelſ ʔɔl. そばの柵には一人の青年が腰掛けていた。彼も同じ月を見ている。

cn(J) [接尾辞] 花を表わす [レベル] 2 1ʔ: 制 :ɒcnɪ。プロトタイプにあって一時消えたが、無視できないので戻した。

cn(?) [化学] 二重結合、アルケンの接尾辞。 1L:μɥəə

cnſ [名詞] 点。図としての点。 [名詞] 画素 [言語] [文字] ドット、点 [レベル] 2 1ʔ: 制 : 古 :n

cnſɪ [数学] 座標 [類義語] lɪſɪ [レベル] 4 1ʞ: 制 : 点の存在する場所

cnſhɪɾd [文字] 点字 μɑ;μɥəə;/ [レベル] 4 JJ [文化] リュウが障害者用に μn で発明したが、社会に普及したのは ul 後期になってから。 ＜ネットユーザーによる設定＞ 地球では最初にブライユが点字を発明し、後に指点字という盲聾者向けの通信手段が開発されたが、アトラスにおいてはその順序は逆であった。 指点字は、とある夫人が息子の為に開発した物が広まった物だ。 その夫人の息子がある日自己に遭い、視覚と聴覚を失った。 息子は事故以前、小説を読むのが大好きだったが、 資格がない為文字を読めず、聴力がない為読み聞かせることもできなかった。 そこで夫人は、以前より盲聾者が互いに会話をする為に、 右手で相手の左手に文字を一字ずつ書いて、互いに会話をしているという 手段を聞き、それをやってみた。 おかげで息子との意思疎通が可能となり、小説も書いて伝える事が出来た。 しかし困ったことが起きた。 息子が嬉しがって小説をよく催促してくるようになったが、 そのせいでやがて他の家事の時間を削るようになってしまった。 この方法では一字一字書くのに時間がかかり、 手も良く動かすので疲れてしまう、しかし息子の笑顔はくもらせたくない、 もう少し早く通信出来れば…、 そう考えていてふと手を見ると、 母音の数と指の数がちょうど同じだという事に気付いた。 そうだ！これで文字

C

を書く代わりに早く通信出来ないだろうか！？　　夫人はその後、母音は指一本、子音は二本以上の指の組み合わせで、ᑉ は最後の文字を売った指を素早く手前に引いて、ɣ はその指を円を描くように撫でる事で表現する、という方法を開発。　　これによって小説を伝える速度は飛躍的に進歩した。　息子はこの指の動きを、まるで指がタップダンスしているみたいだと　表現した。　以来この通信手段は『踊る指』と呼ばれている。　　点字はその後、リュウがその『踊る指』の情報を聞き、　それを盲人の為の文字として応用できないかと考えて作られたものだ。　　それ以前は文字を浮き彫りにしたり、あるいは朗読での　伝える方法はあったが、どちらも不便な点があり、　改善が求められていた。　リュウ氏はそこで、たった五本の指で通信できる『踊る指』を　五つの点に変換すれば、浮き彫りよりも簡単に、　読むことも、あるいは盲人自身が書くことも楽にできると考えた。　　そこで最初は単純に五つの点を、（親指が一番上、小指が一番下の点となる）縦に五つ並べた点字を考案した。　しかしこれでは読み間違えが多発した。　　そこで考えた挙句、親指の点と小指の点を『コ』の字に曲げた　五点の点字を考案し、　その後その空いたスペースにもう一個点を加えた、六点の点字を考案。　世界へ広がることとなった。　　＜『踊る指』＞　指はそれぞれ、『親指＝親』『人差し指＝人』『中指＝中』『薬指＝薬』『小指＝小』　と表記しますね、　母音…親指から順に一本の指で表す。　ɪ⇒親、c⇒人、ɔ⇒中、e⇒薬、ə⇒小　　子音は二本以上の指で表す。　　一段目…隣り合った指を二本ずつ、ʃ⇒親人、ʅ⇒中薬、ɭ⇒薬小、ɟ⇒人中　　二段目…一指開けて二本ずつ　n⇒親中、u⇒人薬、ɑ⇒中薬小、ɒ⇒親小　（ɑ が三本指なのはやってみればわかると思いますが、　中指と小指を下ろそうとすると薬指もついて来るせい、　このような薬指の為の回避策は以降も出現、）　　三段目前半…連続した三本指、　三段目後半…二指開けて二本の指　ɑ⇒親人中、φ⇒人中薬、d⇒親薬、b⇒人小　　四段目…その他の無理のない三本指の組み合わせ　h⇒親薬小、ɥ⇒親人薬、ɗ⇒人薬小、ɥ⇒人親小　　五段目…四本指の組み合わせ　z⇒親人中薬、s⇒人中薬小、o⇒親中薬小、ʅ⇒親人薬小　　数符…五本指全部を下ろしてから、　0⇒ɒ、1⇒ɪ、ʅ⇒c、ʔ⇒ɔ、ɱ⇒e、ᑉ⇒ə、ʕ⇒ʃ、ɥ⇒ɭ、ɑ⇒ɟ、L⇒ʅ　　点字は上記の『踊る指』を参考に、　親指⇒1点、人差し指⇒ɱ点、中指⇒ᑉ点、薬指⇒ʕ点、小指⇒ʔ点　で表す。　残った ʅ 点は他の文字との区別の為に書いたり書かなかったりする。　無くても問題はないが見た目上必要な場合は打つ。　　点字は日本語の点字で同じ形の点字を指示します。　　母音　ɪ⇒『あ』、c⇒『お』、ɔ⇒『ー』、e⇒『？』、ə⇒『ゐ』　　子音　一段目　ʃ⇒『え』、ʅ⇒『る』、ɭ⇒該当なし、ɟ,ʔ,ʕ 点、ɟ⇒『ん』　ʅ 段目　n⇒『た』(本来は『り』)、u⇒『こ』、ɑ⇒該当なし、ɟ,ʔ,ᑉ,ʕ 点、ɒ⇒『に』　ʔ 段目　ɑ⇒『ち』(本来は『れ』)、φ⇒『そ』、d⇒『か』、b⇒『や』　四段目　h⇒『は』、ɥ⇒『く』、ɗ⇒『ゆ』、ɥ⇒『ぬ』　五段目　z⇒『す』、s⇒『数符』、o⇒『ま』、ʅ⇒『ふ』　その他　数符⇒『め』　！⇒『ね』、？⇒『み』、＂, ＂⇒『アポストロフィ』、＂. ＂⇒『な』

cnʃcl ［名詞］視野角 ［レベル］6　1L:ɥcɑcɪ:ɥbɪlelʃ

cnʃcn ［幼児］おめめ、お目目 ［レベル］1　J0:ɒel:cn/ʃ（渡り音）/cn

cnʃcoɪ ［数学］点対称 ［レベル］3　1L

cnʃɔɔl ［動詞］ɥel を見届ける、見届ける、見とどける ［レベル］3　J1

cnl ［名詞］前後 ［数学］y 軸 ［レベル］2　1L:cnjlɔɥ/lɔjlɔɥ（目の方向と背中の方向）の前半だけを人為的に詰めたもの

cnlhɔl ［名詞］ヨー、ヨウ、z 軸周りの回転、振り向き、ターン ［レベル］5　J1 ［語法］ 右手を前に出してみよう。肘をねじってこの手を自分の胸側に向ける。このとき前後を y 軸とし、指先の位置を確認してみる。すると指先の y は最初は前（正）にいるが、やがて後ろ（負）に来る。同時に x 軸も原点から負になったのち、原点に戻っている。従って動いていないのは z 軸（上下）だけであり、このことから振り向き行為は z 軸周りの回転だと分かる。jɪnl と間違えないように→ hɔl

cnl ［サール］インシュ ［普通動名詞］近親相姦 ［動詞］ɥel と近親相姦する、近親相姦する ［レベル］4　ɒel: 古　ʃɪ　・神　　右半身が兄で左半身が妹というサール。サール界に ccnɪ という妹と nɪl という兄がいた。兄弟は２人仲良く過ごしていたが、あるときイーナがナッシュを誘惑して姦淫する。ラヴァスの時代には近親相姦は神の霊力を弱めるとされていたので禁止されており、それを見咎めたエルトに２人は切り殺されてしまう。しかしイーナのかけた呪いによって切り落とされた２人の半身は１つとなる。　・近親相姦　アルバザードでも禁止されており、一般のアルバザード人も気持ち悪いと嫌悪する。　・ヴィード　近親相姦すると一般に子供のヴィードは弱まる。ユーマの一族はこれを繰り返したため、時代を経るごとに力が弱くなっていった。　原則として弱くなるが、ごく稀に逆にヴィードが強くなるケースがある。その場合の強まり方は尋常ではなく、たびたび社会を変えるような力を持った人材が生まれる。ɥɑ の使徒、ヴェレイのミロクなどがそうである。　山間の小さな村は都会に比べ遺伝子が濃いため、奇形に至らなくとも容姿の醜いものが多い。しかし逆にそのような土地にこそ稀にびっくりするほど美しい少女が生まれることがある。ヴィードに関してもこれと同じである。

cnj ［生物］目 ［動詞］ɥel が見える、見える、見かける、目に入る ［類義語］cnʃcn ［レベル］1　jeɥʃ;cn,ɑɥɑ　1ɱ←古 :c　c:c:lə cjel ［語法］ lɪc と同じ相。　cnj の領域は狭義では眼球のうち外側から見えている部分のみ。広義では眼球及び睫毛と瞼を含んだ目の周りまで。眉毛は含まない。 ［成句］ cnjcl ɑɥec 剣が目に入った　ɥen ʃeeze uɪɥ cnj 目に風が抜けるような：頭が冴えていて賢いこと　cnj cnj e lɔl 目が合う　ɑcʃ cnj ɪ ～に気をつける、目を配る、監視する、見守る、監督する　eu cnj 一目置く。日本語と同じ用法。　cnj ʃcl ɑcɪɥe nj nɔɑ ləɔ 目は口ほどに物を言う、目は心の鏡　ɑcʃ cnj jɔɥʃ 冷たい目を向ける ［用例］ ʃcl cnj ɑɥeɒ 目が悪い　φeʃ cnj 目を細める　cnj neɒ 虚ろな目　ɑlcd cnj 目を輝かせる　hɔl cnj 目をぐるっとさせる：顔の位置はそのままで目だけそらす動作。不可解や困惑の仕草。　lɔɔ cnj ɪ nene ～に目を向ける　jɔʃ cnj c nene ～から目をそらす、目をそむける、ソッポを向く、そっぽを向く　ɪn nɪʃ nɔl ɥen cnj eɒ lɪnʃe. 目を見張るほど驚いた。　ɪn ɑclɪʃ cnj nɔzeʃ. 自分の目を疑った。　cnj eɒ lɪnʃe. 目を丸くする、目が丸くなる。　lɪ eʃ ɥen ʃeeze uɪɥ cnj lɪɪʃ. 彼は頭が冴えている。　ɪn cnjɔɥ lelʃ. 月を見ている。月が見えている。　ɪn cnjɪʃ lɪ lɪ ɑɔnʃ. 道で彼を見かけた。　ɔl cnj ɑɔl 目が点で

cnjjɪcj ［美容］アイホール　J1

cnjjɔɥcʃ ［言語］［文字］キャップハイト　J1

cnjnɪlɛɪ ［生物］瞳明、晴明　J1

cnjnɪɒ ［生物］視神経 ［レベル］5　1L

cnjncj ［生物］眼窩 ［レベル］5　J1

cnjuɪlj ［医療］眼科、目医者、眼医者 ［レベル］3　J1

cnjuɪlɪ ［医療］眼科医院、眼科、目医者、眼医者 ［レベル］3　J1

cnjɒcll ［卑語］めくら、盲、盲人 ［レベル］3　J1 ［文化］ 使わないこと。

cnjɒedc ［生物］水晶体 ［レベル］4　1L

cnjdcʃ ［医療］眼科。大病院内の科目。 ［類義語］cnjuɪlɪ、cnjuɪlj ［レベル］3　1L

cnjdcʃɪ ［医療］目薬、点眼薬、点眼液 ［類義語］ɑcɥʃeɥ ［レベル］3　ɥɑ;/　J1

cnjhɪcz ［非言語］インスハイズ ［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlʃe ［語法］ 手は動かさずに、目だけでハイズの動作をする。目を左上から右上にぐりっと動かす仕草。同時に、首を左から右にやや傾ける。女性もする。ハイズより意味合いは軽い。

cnjɥecn ［名詞］視線 ［美容］アイライン ［言語］［文字］キャップライン。幻字では約物や数字の高さのこと。 ［レベル］3　J0:ɒelcɑcɪ lceɥ ［用例］ ɑcʃ cnjɥecn 視線を送る　ɥe cnjɥecn 視線を受ける　nɪ cnjɥecn 視線を感じる

cnjɥeciɥ ［美容］アイライナー ［レベル］4　J1

cnjlɔbɔ ［名詞］目隠し、アイマスク ［レベル］3　ɥɑ;/　J1

cnjɪ ［地球の国名］中国、中華人民共和国 ［レベル］4　制 : 古 :cnjɪɪl

cnjɪnc ［医療］眼精疲労 ［レベル］4　1L

cnjɪbel ［ユマナ］［料理］中華料理 ［レベル］4　1L

cnjɪhɪd ［ユマナ］漢字 ［レベル］4　1L: 中国の字

cnjɪɥelcel ［運動］［ユマナ］太極拳 ［レベル］6　J0: 中国のユリエール

cnjɪɥen ［ユマナ］［言語］中国語 ［レベル］5　J1

cnjɪlcɪ ［医療］漢方、漢方薬 ［反意語］ɪnlɪlcɪ ［レベル］3　J0:cnjɪɪl ［文化］ ɔlcucɪn 副作用が少ないことからアルバザードでも頻繁に使用される。アルバザードではハーブも多用されるが、こちらは漢方には分類上含まれない。

cnjɪɪl ［地名］インサール、東洋。アルカット大陸東部。 ［レベル］2　ɑu;ɪnlɪl の対語　古 :cnjɪɪl

cnjɪɪlbel ［料理］インサール料理 ［レベル］3　1L:ɥcɑcɪ:ɥbɪlelʃ ［文化］ 味が濃く、油が多い。品目は多く、一般的にいって旨い。その代り胃に負担がかかる。

cnjɪcl ［ユマナ］アジア ［レベル］4　1L:cnjɪɪl

cnjɪeɟeɪ ［ユマナ］中国茶 ［レベル］4　J1

cnjc ［地学］瑪瑙、めのう、メノウ、アゲート ［レベル］4　1ʕ: 制 ［文化］ エレノイの魔石。

cnjcl ［植物］ブルーベリー ［レベル］2　1ʕ: 制 :cnjuɪnl（目の果実）

cnjcnc ［生物］まつげ、睫、まつ毛、アイラッシュ ［レベル］2　1L

cnjccl ［動詞］ɥel を見守る、見守る、見まもる、見護る、看護る、観守る ［レベル］3　1L

cnjeʃ ［ユマナ］朝鮮 ［レベル］5　1L:cnjɪcl/ɪlʃc（インサイル大陸の東側）

cnjeɦɪd ［ユマナ］ハングル ［レベル］5　1L

cnjeɒcl ［名詞］自己中なバカ女、主観的なバカ女、生意気な女 ［レベル］4　J1:「アタシの目」 ［文化］ 日本でいうと発言小町などで見るような馬鹿女のこと。「お前は何を言ってるんだ？」に相応しい連中のこと。転じて「なぜ一番じゃなければいけないのでしょうか？」とか「ウーマンリブ」とか「レディースデー」とか理屈に合わないことを平気でほざく生意気なスイーツも指す。どこの世界の投資家が好んで二番手の技術に投資するよ。 ［成句］ ɑen eu cnjeɒ cl ɪjeel ɒɔel uecl ʅɪɑ jcl ueɥn. 雌鳥がなくと国が傾く。バカ女を政治に絡ませると国が滅ぶ。

cnjel ［名詞］魂の目、魂紋 ［レベル］5　J1:c/jeleɟ ［文化］ jeleɟ

cnjeleʃ ［名詞］眼差し、まなざし ［レベル］3　ɥɑ;/「目の表情」 J1

cnnɪɪl ［生物］視覚 ［レベル］3　J1

cnucleʃ ［丁寧］視覚障害者、盲人 ［レベル］4　ɥɑ/;　J1

cnueɒ ［魔物］インヴェム（眼影）：第一天：闇の炎天 ［レベル］5　1L:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒel:cnj/ueɒɔ ［文化］ 憑族。人の影を渡り歩く闇の魔物。影を乗っ取られた人は、突如後ろから自分の影に襲われる。影に食われたことを見抜くには、影に眼があるかどうかチェックする。インヴェムは人の影を乗っ取ると、ギョロっと目を開き、人を襲う機会を伺う。インヴェムが襲いかかる前に剣で地面に串刺しにし、身動き取れない状態にしてから、光の魔法で照射すると簡単に倒せる。

cnɒɪl ［名詞］見覚え、見憶え、見おぼえ ［レベル］3　ɥɑ;/　J1 ［用例］ ʃcl cnɒɪl ɔn lɪ あいつは見覚えがある

cnɑɪ ［動詞］ɥel を萎びさせる、萎びさせる、萎びれさせる、萎びる、しなびる、しなびれる、萎びれる ［レベル］3　1ɱ: 制 :cnɑ（疲れる）［用例］ ɒccnɪ ej cnɑɪ. 花がしおれている。

cnɑc ［文末純詞］［ɥɑɔ］jec ［レベル］2　J1:əɒʃɔnɪ:cn ɑɪ（見たんだが）→ cnɑɪ → cnɑc.ɒeɒcɥueɟ ʃɔ

cnɑcɥec ［地学］地平線、水平線 ［レベル］3　J1:「見る境界」

cnφ ［生物］眼球、目の玉 ［レベル］2　1ʔ: 制 :jɪɑ:cnφel

cnφe ［単位］ヘクト ［レベル］3　J1:ɑcnφen

cns ［生物］瞳、瞳孔 ［レベル］4　1ɱ: 制 :cn

cnscn ［名詞］輪廻転生、転生、輪廻 ［形容詞］生まれ変わりの、生まれ変わった、転生した ［人名］インジン ［レベル］3　赤 : 古「インジン」という人名らしい。 ［文化］ → jeleɟ の cnjel　人は死ぬと魂セレスだけを持ってあの世へ行く。天国か地獄に分けられ、この世に戻ることは通常ないが、稀に転生することがある。

cnscnɪl ［名詞］転生先 ［レベル］4　J0:ɒelcɑcɪ lceɥ

cnse ［天文］三日月の逆、三日月、インジェ ［名詞］南西、西南 ［組み数字］8 / 8 ［レベル］2　1L:cnscn/lelʃ（生まれ変わる月）　lɪɪle:lɪɪle:lɪ lɪɪle ［文化］ lelʃeel

cnsel ［名詞］4 分 3、３／４、７５点 ［形容詞］ちょうど良い、丁度良い、程よい、程好い、ほど良い、程良い ［反意語］ɪlsen　ɥɑ;cnse/ɪl ［レベル］3　J1 ［文化］ アトラスを去る直前にセレンが子供とレミールに残した言葉。何事も７５点がほどほどで丁度良いという意味。得意なことや好きなことは３／４くらいにしておくと肩ひじ張らないし体も壊さない。それ以外のことは７５点でさえ行きすぎで、６０点も行っていればいいよという意味。　平凡でも病気せず気立てが良い子なら親としては十分幸せだと考えたが故の言葉だが、皮肉なことに nɑ では子供たちは非凡な才能を発揮した。　ミロクは若い頃この言葉を理解できなかったが、革命後に理解するようになった。

cnselɥɔlɔ ［被服］七分丈 ［レベル］4　ɥɑ;/　J1

cnseloɪjd ［被服］7 分袖、七分袖 ［レベル］4　ɥɑ;/　J1

cnselcl ［化学］パラジウム　1L

cnlɔʃ ［名詞］視界 ［レベル］3　J1

cnɪ ［建築］かなめ、要 ［レベル］4　ʃɒ;c（目）/nɪ（心）「心の目＝心の中心＝物事の中心」 J1

cnɪɥ ［電算］ブラウザ ［レベル］3　1L ［用例］ ɥ cnɪɥ ブラウザを開く

cnc ［生物］毛、体毛 ［レベル］2　ɑ;e　赤　cnc:cnc::nc,ɪlʃ ［用例］ cnc eɒ lʃɪɒ. 身の毛がよだつ：恐怖や嫌悪や驚きなどで起こる人類共通の現象。アルカでは立つで表現するので日本語と同じ。

cncnɔlɪn ［生物］ケジラミ ［レベル］4　1L

cncɒ ［名詞］櫛、コーム、くし、グルーミング ［動詞］ɥel を櫛で梳かす、梳かす、とかす、梳く、すく、漉く ［レベル］2　古 : 古では櫛はふつう ʅɔɔɒc だが、これは英語の k o m b　i t から来ていることが発覚したため廃止。一方、cncɒ は cnc（毛）/zɪɒɔ（木）から来ている。後者はあまり使われなかったが純粋なアルカであるため、制アルカにはこちらを採用した。 ［用例］ ɪn jeɑɪʃ ncɪ l'ej eɒʃ ɪl ɪlj lc cncɒ ncɪ. 髪の毛をとかした後、床に落ちた髪の毛を掃除した。

cncɒɪl ［生物］毛穴 ［レベル］2　1L:ɥcɑcɪ:ɥbɪlelʃ

cncɪ ［娯楽］イニア ［レベル］3　古 : マス目が cnc の字に似ていることから ［文化］ 対戦ゲームの一種。# の形をしたマス目を書き、そこにできた 9 個のブロックの中に自分側の記号を並べるもの。先攻がエルトを担当し、後攻がサールを担当する。空いているブロックの中に自分の記号を交互に書き込み、自分の記号が縦横斜めのいずれかに並んだほうの勝ちとなる。パターン数が非常に少ないゲームなのですぐに必勝法というか負けない方法が作れる。因みに先攻が極めて有利である。ゆえにこれはシェルトをもっと簡単にしたような子供の遊びと捉えられている。シェルトと違って大人はふつうしない。

cnccɒdc ［動物］クマバチ ［レベル］3　J0: 毛蜂

cnenuc ［医療］視力 ［レベル］3　ʃɒ;/　J1

cnenucʃɪb ［医療］視力検査 ［レベル］3　J1

cneɪ ［人名］イネア ［組み数字］5 / 1 5 ［レベル］4　ʅɪlɔ: 古「精霊」 ［文化］ メテの第５使徒。

cneɪlcl ［化学］ネプツニウム　1Δ: 制

cneɪɪʃɔ ［地名］イネアート ［人名］フルミネアのアルカ姓 ［レベル］3　ʅɪlɔ ［文化］ メテの使徒イネアの支配地。

cneɪɪʃɔ(J) ［アトラスの国家］イネアート、精国 ［レベル］3　ʅɪlɔ ［文化］ 面積 : 1L1ʕ1L.ɱ1L.J1ᑉ ʅɒ J

cneel ［名詞］得意満面、したり顔、したりがお、ドヤ顔、どや顔、やったった顔。jcnj か ʃcl とともに。 ［レベル］3　J1:「ほら見てみろと言わんばかりの顔」

cneɟ ［単位］エクサ　J1:ɪɥɑcɪneɟ

cu ［生物］ミトコンドリア ［レベル］5　ɥʃ; 発見者が cul lcɥ（要修正）とノートに書いておいた文字が一部消えて cu の部分だけ残り、発見されたミトコンドリアのことだと思われたことから。 J1

cun ［形容詞］弱い ［医療］虚弱 ［音楽］ピアノ（弱く弾け） ［文字］レギュラー ［類義語］ɥenɑc、dcʅɔʃʃe ［反意語］ucen ［レベル］1　jeɥʃ;ɪun(ucen)　1ʕ: 制　nɥɔhe:nɥɔhe ［用例］ ［メタファー］cun ɥen ɥenl ユンクのようにか弱い　lcu cun 弱い声　ʅeɒ cun 脆い胃

cunʅɪɑ ［政治］小国、弱小国、第三国、発展途上国、後進国 ［レベル］4　1L

cunɟɪdn ［気象］低気圧 ［レベル］4　1L

cunuenʃ ［経済］零細企業 ［レベル］5　1L

cuneʃ ［名詞］弱点、ウィークポイント ［魔法］弱点 ［類義語］bɪlʃeʃ ［反意語］ucenʃ ［レベル］3　J1:cunuɪcl だと長いので。 ［語法］ ucenʃ ［文化］ ɑɔlɒcɥe

cunen ［名詞］弱者、持たざるもの、持たざる者　ɥɑ;/　J1

cuneɥcu ［医療］低血圧 ［レベル］4　1L

cul ［動詞］ɥel（修正前の対象）を ɪ（修正後の結果）に修正する、修正する、直す、治す ［類義語］ɪlcɔj ［レベル］3　jeɥʃ;ɥɑ までは ɪlcɔj が cul も兼ねた。　1ʔ: 制 :jɪɑ:cʃdec　ɪlcɔj:ɪlcɔj: ［文化］

人間は間違えるものなので、間違ったら素直に訂正するのが好ましい。気付いたら早めに直そう。黙っていて後で発覚すると問題になってしまう。というのがアルバザードの考え方。

culcɒ ˥ɐlnɔɥj ［人名］イヴリム＝クルノース ᒧ1 ［文化］ → ˥ɪɔɩcɹʃ ˥ɐlnɔɥj ファミイの兄。ファミイはアマンゼに嫁ぎ、イヴリムはクルノースを継いだ。

culej ［人名］イヴレス、イブレス ᒧ0 ［文化］ (ɥɐəɒɪ ᑫᑫᑭ:ʕᐃᐃᐃ) ɥɐəɒɪ ʕᐃʕ1 ユクレシアはルティアに帰国する。lɥɐəl の所長は弟子の culej が就任した ɥɐəɒɪ ʕᐃᐃᐃ lɥɐəl 研究所のイヴレスが心労で自殺し、衝撃が走る

cuɪ ［言語］不定詞 ［レベル］5 1ʕ: 制 :uej（単独）から。ほぼ恣意。 ［文化］ ＜不定詞・動名詞・分詞＞ ・不定詞 不定詞とは品詞が文法的に定まる語のことで、その語単体を見ても何詞か分からないもののことを指す。 アルカの場合、不定詞は名詞・動詞・形容詞・副詞になりえる。 例えば jɐf は lɪ ef jɐf だと jɐfɔl という名詞にほぼ等しく、lɪ jɐf lə だと動詞になる。同じ語形なのに文法によって品詞が変わる。 同様に ɑcɪn ɔɥɹʃ hɪnɔc の ɔɥɹ は動詞だが、ɑcɪn ɔɥɹ の ɔɥɹ は形容詞である。 また ɪn lɪl ʃɐ の lɪl は動詞だが、ɪn ˥ɐc lɪl ʃɐ の lɪl は副詞である。 ・動名詞 動名詞は３種ある。いずれにせよ分詞ほどには使わない。 1：普通動名詞 :elʃ;ˈlɪcelʃ（大きくすること）、ecuelʃ（決闘すること） 2：再帰動名詞：ɪʃfel：ɒɔ˥ɪʃfel（自分を眠らせること、寝ること）。文でいうと le ɒɔl nɔʃ になる。ɥel が自分になるタイプの動名詞。 3：自然動名詞：ɔnfel:ɒefɔnfel（落ちること、落下）。動名詞を使わずにいうと el ɒef ʃɔfɔ になる。ɔɹl が el になるタイプの動名詞。 デフォルトが動詞である単語は、名詞として使うときは elʃ を付けなくても普通動名詞になれる。 lɪɑ は作るという意味の動詞で、動詞用法がデフォルト。名詞として使うときは動名詞「制作」として使ってよい。 この仲間には ecu（決闘）、uɔɹʃ（死）、jef（殺害）、lɒɪ˥l（出会い）など多数がある。 ecuelʃ は ecu で良い。 しかし ˥lɪc はデフォルトが動詞でなく形容詞なので、˥lɪc だけだと「大きい」になる。「大きくすること」ではない。 lɪɑ などでも、自然・再帰動名詞として使う際は接尾辞を付ける。 × lɪɑ ○ lɪɑɔnfel 動名詞は格を取れる。 ɪn ecuelʃ ɒɔɹɔl 私が神と決闘すること ecuelʃ ɒɔɹɔl 神と決闘すること ecu(elʃ) 決闘すること lɑcʃ ɥen ˥ɔɪʃfel ɪ ɥɪɒe. 人生は自転車に乗るようなもの。 nɪlf ɔuɪʃfel 城が動くこと。nɪlf ɔu nɔʃ が根底にある。ɪʃfel の効果で nɔʃ が落ちることができる。 ˥eɪ ɒefɔ nfel 葉が落ちること。el ɒef ˥eɪ が根底にある。ɔnfel の効果で ˥eɪ が前に行って el が落ちることができる。もし el ɒefɔnfel ˥eɪ の構造を持ったまま el だけ省略して ɒefɔnfel ˥eɪ にしたら、わざわざ ɔnfel を使わなくとも el ɒefelʃ ˥eɪ のように普通動名詞を使った上で el を省略すればよいことになってしまう。つまり自然動名詞が生きてこない。˥eɪ ɒefɔnfel にして初めて生きてくる。 ・分詞 全部で４種ある。動名詞と関連している。動名詞よりは使うが、分詞が格を取る場合は関係詞するほうが一般的。 普通動名詞は主格 (ɪn) と対格 (ɔl) の分詞に分かれる。 再帰動名詞は再帰分詞 (ɪʃf) になる。 自然動名詞は自然分詞 (ɔnf) になる。 形容詞として使う場合、名詞に後置する。 1：主格分詞：動詞＋ ɪn：clˈl e ucˈl ɒclɒɪn 踊る男の冒険 2：対格分詞：動詞＋ (ɔl)：ucˈl jeˈ(ɔl) 殺された男 3：再帰分詞：動詞＋ ɪʃ：nɪlf ɔuɪʃ e hɪəl ハウルの動く城 4：自然分詞：動詞＋ ɔnf：(˥e) ɒefɔnf enf ゆっくり落ちる葉っぱ。enf は ɒefɔnf にかかっている。分詞は形容詞扱いなので enfel にしない。 動名詞同様、格を取れる。しかしこの場合は関係詞を使うほうが一般的。関係詞のほうがアスペクトを明示できるため。 ɑcɪn ɒclɔɪn ɑlɪɑ = ɑcɪn le ɒclɔ ɑlɪɑ 賛美歌を歌う少女 各分詞はそれぞれ名詞用法を持つ。 lɪbɪn：働かせる人、使用者 lɪɑɔl：製品 lɪbɪʃ：働く人、労働者 ɒefɔnf：落下物

cuɪɥ ［格詞］～から出て、～を通り出て、～から出てきて、～を通って ［レベル］2 ᒧᒧ ［用例］ "el leeu jen ɪʃə cuɪɥ le jceɾ neɾɪl ˥l˥l lə ɔ" 「あそこからなら誰にも気付かれずに逃げ出せる」

cuɪl ［医療］医療、医学 ［類義語］jccɪɥ、˥ə˥leɾcɪ ［レベル］3 1L:ɥɥɐə: 古 ucuc から。医者関連は u から始まるものが多すぎるため、c から始めた。 ［語法］ cuɪlael は医学の意味合いが強い。uɪlnɑel は健康法の意味合いが強い。 ［文化］ 医療は人類が白魔法を失うごとに需要が高まった分野である。μɑ ではほとんどの国民が高度な白魔法を使えなくなっていたため、リュウがナユと協力し、医療を研究した。 リュウはさまざまな学問を大成しているが、最も心血を注いだのが医療であった。多くの人命を助けたことから、「智で命を救った聖人」と讃えられた。（ちなみに、リディアは「杖で命を救った聖人」。セレンはルシーラだったため、「人差し指で命を救った聖人」） 医療のシンボルはリュウとその助手のパール、およびナユである。このことから、親が子供を医者にしたい場合、たいてい息子にはリュウ、娘にはパールと名付ける。 病気や治療法の研究がされだしたのは、セルメルから。白魔導師の減少に伴い、魔法に頼らない治療を人々は求めた。しかしまだ人々は副作用もなくすっきり治る魔法にすがっていた。μɑ になって白魔導師がさらに減少すると、リュウは病気の分析や治療法の確立を行っていった。 ＜現代アルバザードの医療体系＞ アルナ市内に救急車は２８台しか存在しない。そのわりにたらいまわしは存在しない。なぜか。 まず救急センターに電話をすると、オペレーターが出る。その症状を聞き、緊急性があると判断すればオペレーターの目の前で勤務している電話医 (ˈɪdɥɪlʃ) に引き継ぐ。それ以外、例えばいたずら電話や「ゴキブリが出た」や「さびしい。怖い。不安だ」などはオペレーターがアドバイスをして処理する。 電話医は症状を詳しく聞き、救急車が必要か判断する。心筋梗塞など緊急性の高い場合は即座に救急車を手配する。それ以外は往診医 (ˈɒɒɪɥɪlʃ) を手配する。往診医は２４時間のサービスで、常に市内を車で走っている。患者の家から最も近い者が手配される。往診医は２４時間勤務するのではなく、自分の好きな時間帯で好きなだけ働く。深夜のほうが賃金が良い。手軽に食べていけるので未婚の医師が多い。国民皆保険に加入していれば往診医の自己負担は３割である。緊急ではないが救急車を呼ぶほどではない患者にとって自力で病院に行くのは難儀なので、ありがたいシステムである。 救急車が出るのは全電話件数のうち１割程度であり、これによりたらいまわしを防いでいる。なお、こちらの場合も自己負担は３割である。ちなみに入院費だけでなく救急車料金も負担に入るのが日本との違いとなっている。 一方、非緊急すなわち平生はホームドクター (μɪnfeɥɪlʃ) に診てもらう。日本と異なり、ホームドクターは歯科以外の全科が見れる。また、歯科以外は登録制があり、登録したホームドクターの診療は自己負担３割で、それ以外は７割で診てもらえる。 ホームドクターは家族構成から個人的な悩みまで広く相談を受ける。子供のころからかかり続けるため、信頼は厚い。メンタルな面も支えるため、受験の悩みなどを青少年から受けることもある。 診療は予約制で、日本のような２時間待ちの３分診療ということはない。予約制であるため待ち時間は少なく、診療も２０分以上に渡って長々と診る。 ホームドクターの数は日本の町医者より圧倒的に多く、病院は一般家庭のようなアットホームな造りになっている。年収は逆に日本より少なく、６～８００万程度である。労働時間は一般企業の正社員と同じで、８時間である。週休２日で、その日は緊急の患者に対する大病院の紹介だけを電話で行う。 ホームドクターの仕事は病気の芽を見つけて摘むと同時に、悪い芽が大きくなる前に大病院へ紹介することである。 これにより大病院の混雑を防いでいる。大病院では本格的な検査が可能で、手術もできる。負担は３割である。

cuɪlucnˈl ［医療］［法律］健康保険、医療保険 ［レベル］4 ᒧ1 ［文化］ → cuɪl 国民皆保険制度があり、所得に応じた額で医療保険が受けられる。自己負担率は３割である。

cuɪlael ［医療］医学、医療学 ［名詞］医学。教科名。 ［レベル］4 μɑ ᒧᒧ ［語法］ cuɪl ［文化］ ae ldɪnˈ

cucɹ ［電算］集積回路、ＩＣ ［レベル］5 μɑ;uczen.˥ 古

cucl ［人名］イヴィル 古 ［文化］ アルシェから離脱したセレンとメルを擁護した。レイクの守り手。

cucl(J) ［人名］イヴィル ᒧ0 ［文化］ (ɥɐəɒɪ ᑫᑫʔJ:ʕʔJ1(ᑭL ᑫʔ:ʕʔJ1)) カコ前期のレスティル王。

cuef ［形容詞］［ネガティブ］手ぬるい、生ぬるい、甘い ［反意語］ɑəɔ ［レベル］2 ᒧ0:cun/ʃe（弱気）

cuelcɪ ［被服］イブニングコート ［アクセント］cuelcᑊ μɑ;ˈɪʃ ᒧᒧ ［文化］ μɑ でセレンが気に入ってルティアから取り寄せたことで元貴族の間で流行った。

cɑl ［歴史］現代 ［レベル］4 ul ʔʔ: 制 : 語源不詳

cɑlɪɪn ［名詞］現代社会、社会。科目名。 ［レベル］5 ul;/ ᒧᒧ

cɑlcf ［魔法］晄水晶、イフリート ［アクセント］cɑlᑉf ［レベル］5 ɒ;uccɑ/ɑlcɪ ˥ɑel:cɑlcf: ［文化］ → ɑlcɪ、˥ɑel、uelɹɹɒs ヴィードを蓄えたクリスタルのこと。蓄えたヴィードの種類により、霊水晶、魔水晶、気水晶、輝水晶がある。また、特定の閉式魔法を蓄えたものを魔法水晶といい、それ以外を獅法水晶という。魔法水晶は魔水晶の下位概念である。 イフリートは太陽系の惑星に多く存在し、それ以外にはほとんど存在しない。太陽系の各惑星に富み、アトラスにも存在する。最初のイフリートは悪魔によって発見活用され、神々が知ったのは uɹ でユルグが初めてであり、この際に命名がされた。それまで悪魔が何と読んでいたのかは記録が残っていない。 ユルグは当時イフリートを ˥ɑel と名付け、細かい分類までは行わなかった。イフリートという名前自体は ɒ の もので、下位概念も魔法学が理論的に発達した ɒ で命名された。 魔法水晶は種類が多く特定の効果を持つため、˥ɑel という特別な名を宛がわれた。もとは cɑlcf を意味していたものが狭義化したものである。 アトラスには ɑccˈlcɪ、φɪlu eeɥə、ɒɥəəl に主に存在するが、木星などほかの星と違って自然豊かなアトラスでは発見しづらい。その存在を nɪuc で感知することができないため、神代でも神々は発見することができなかった。鉱物などと同じく最初は偶然の発見に頼るしかなく、発見されたのは ɒ 初期になってであり、しかも魔族によってであった。 アトラスに多く存在するのは飛水晶で、これは重力を操作する魔法が籠っており、巨大な船でも自由に飛ばすことができ、飛空挺の発達を促した。飛水晶は ɑccˈlcɪ と φɪlueeɥə には多いが、ɒɥəəl ではあまり産出しない。 イフリートは μɑ までで掘り尽くされ、使い尽くされ、公には現存しない。国が隠し持っているとは噂されているが、少量であろうと目されている。

cɑɹ ［天文］星座 ［レベル］3 ʔ: 制では星の意味。複合語要素になるので短いこの語形を採用した。 ［文化］ → ɪnɔl 星座は悪魔テームスのこけらである魔物アデルたちの監獄である。星座は魔物を封じた監獄である。アトラスから見た星座の方角にアデルは封じ込められている。星座全天は１００天であり、どの星座も地球の国際標準である８８天と異なる。 星座はアデルの種類に等しいため、本辞典では ［魔物］ のタグで調べることができる。アデルの説明欄の見本は下記の通り ［魔物］ カイラ（巨鬼）：第三十二天：土の巨天 括弧内は和訳名。 数字＋天はアデル１００天のうち、第何番かを示したもの。 その右はアデルの属性＋象徴天。属性はアルシアの１１分類に従ったもの。象徴天はその魔物が象徴とする惑星の名で、９惑星。従って、１属性につき９種のアデルが存在する。例えば火の魔物が９匹いるということである。なお、同じ火の魔物なら、炎天側ほど弱く、氷天ほど強い。つまり害族の魔物なら、ɪclɪc が最弱で、ɑɪczɪclɪc が最強になる。 １１族それぞれに９匹の魔物がいるため、闇の炎天から害の氷天までで９９天が存在することになる。最後に無属性のアデルであるヴェイガンが第１００天として加わり、全１００天となる。 カコの時代、アルシアは魔族を魔法と同じく１１の属性に分類した。分類の結果、どの属性も９種ずつ周期的に存在するという法則を発見した。 また９種の間には階級的な差があり、弱いものから強いものまで整然と並べることができた。しかも火の属性の第４位の悪魔は水の属性の第４位の悪魔とほぼ同等の強さを持っているなど、強さの階級は属性間でも通用するものであった。 これを根拠にアルシアは魔族の周期表を作成した。属性は火などで名付けたものの、階級はどう名付ければよいか迷ったため、９組み数字の惑星を宛がい、氷天などと呼んだ。 こうしてできた９９種に分類不可能だったヴェイガンを足し、惑星にちなんで１００天と名付けた。 この分類は μɑ でも残り、セレンたちにも知られていた。アシェットはその後星座に魔族を封印するが、そのときもアルシアの周期表に基づいて魔族を封印することにした。 アルシアが周期表を作ってくれていたので、アシェットの仕事はどの星を基点として封印していくかを決めることだけであった。 アシェットはアルデバランをメル暦のメルの星として採用し、ここを基点にして、アルシアの周期表を使いつつ、魔族を封じ込め、１００天の星座の檻を作った。 ・地球の星座 地球の星座は ᒧᒧ にセレンがまとめて作った。［ユマナ］なので異世界的考察はせず、単に日本語の全天８８天の名称を直訳していった。アトラスの星座と地球の星座の名称が異なっていて不便なため、便宜上娘たちのために造語したのが契機となった。

cɑɪn ［天文］惑星 ［組み数字］9 ［レベル］3 1ʕ: 制 :cɑɹ（星） ［語法］ アルカでは水星から冥王星までの９つが太陽系の惑星。エルト神とサール神が逢瀬の場所を決めるとき、冥王星まで行き、この内側のいずれかの星で逢瀬をしようと話し合い、最終的に地球が最も環境のいい場所だと決めたことから。したがって、天文学的な理由ではないため、冥王星が小惑星であるということは関係なく、冥王星も cɑɪn に含む。

cɑɪnɒeɒ ［組み数字］イファンサークル、九大天王 ［レベル］5 ᒧ1 ［文化］ μɪdɪlˈ

cɑɪnɒμn ［天文］惑星系 ᒧʔ

cɑɪl ［生物］門 ［言語］超語派 ［レベル］5 μɑ;cɑɹ/ɪl,ɑ（物） ᒧᒧ ［文化］ μəɒɪ

cɑc ［形容詞］老いた、年取った ［名詞］老人 ［反意語］lcɑ ɑ;cɒɪ/ɑc「時の長い」 ［レベル］2 古 cɑc:cɑc:ɒeluc ［語法］ → ɹɪɒ, lccɑ, jeɑej

cɑcjel ［歳時記］敬老の日 ［レベル］3 ᒧ0 ［文化］ メル ᒧ0 年にアシェットがアンジュに敬意を表して作った祭日。毎年 dɪl μɪl に行われる。暑気払いに枇杷葉を煎じて老人に与える風習がある。

cɑcuɔɹʃ ［医療］老衰 ［レベル］3 ᒧ0:ɒelcɑcɪ ɪlcj

cɑcɑeɒe ［名詞］老年期 ［レベル］5 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［語法］ lcɑɑeɒe

cɑcɪlɪn ［経済］［環境］高齢化社会 ［レベル］5 1L ［文化］ ヴェレイで経済と医療の発展に伴ない、中高年の比率が増加した。ヴェレイ初期の若中年は経済の発展に併せて住宅を購入した。しかし住宅はあらゆる買い物の中で最も高価であるため、必然的に住宅ローンが組まれた。住宅購入の波と経済の発展が合わさった結果土地が高騰し土地バブルが起こった。このバブルが崩壊すると消費は縮小し、企業の業績悪化に伴ない雇用情勢が悪化した。 このときのアルバザードは間接民主主義を採っていた。既に住宅を買った若者は中高年になっており、この層が最もマスであったため、選挙によって選ばれた与党は中高年の雇用を優先した。また、中高年は住宅ローンを抱えていたため、この雇用を守らなければ銀行が破綻するというのも理由のひとつであった。 結果、若者の雇用は犠牲となった。一度上げた給料をカットすることは難しいが、給料を上げないことは容易であるため、中高年の賃金が維持される一方、若者の賃金は上げ止まっていた。こうして世代間の所得格差が開いていった。 その結果若者の結婚率が下がり、ますます少子化となり、高齢化社会に突入した。 本来老人は医療費を除けば若年層より消費性向が弱い。交際費、衣料費、外食費、教育費、住宅ローンなどが減るためである。足腰が弱れば当然外出もできなくなってくるし、胃腸が弱れば外食も控えめになる。 一方、三十代は結婚に子育てに住宅ローンにと金がかかる。にもかかわらずヴェレイ後期はこの層に金が回っていなかった。 経済は当然消費性向の高い層が金を持っているときによく回る。従って当時の経済は停滞しており、悪化の一途を辿っていた。 だが既得権益者である中高年がマス層であるため、政府は将来のことより現在の政権維持を主眼とし、中高年もまた自分たちさえ逃げ切れればよいと考えていた。 当時は国民の全財産の８割を６０歳以上の人間が持つという歪んだ社会になっていた。 ʔJ0 年にミロク革命が始まると、貧困層はミロクに富の再分配を期待した。ところがミロクの理想はイグレスタではなく修正資本主義である。 氷河期で職を得られなかった層には同情を示すが、彼らが労働力を提供しなかったことは事実である。それが労働してきたものと同じ対価を得るのは不当であると彼は考えた。 ʔJJ 年、ミロクは ɪμʔoen を実施。同年、ɪμə˥l1 等を実施。核家族から大家族への移行を推進し、老人の孤独死を防ぐなどした。また、安楽死を認め、個人裁量に任せた。 若中年に資産が回ったことで消費は増加し、大家族となることで世帯消費も増加。結果的に回らないでいた資産が動き、景気は良化。結婚率も増加し、大家族化に伴ない、子供の人口も増えた。 安楽死法と再生医療の医療革命は老人の数に関しては矛盾的に働き、老人の減少には大きく関与しなかった。が、全体的に見ればヴェレイ末期より老人は減少し、緩やかに高齢化社会は改善していった。

cɑccnɔ ［医療］老眼 ［レベル］4 1L

cɑccɒel ［色］［形容詞］［ネガティブ］黄ばんだ、きばんだ、黄みがかった、黄味がかった ［名詞］［ネガティブ］黄ばみ ［レベル］3 ᒧJ: 「老いた黄色」 ［語法］ 歯や本など、古くなったりして汚れた黄ばみを示す。

cɑe,ɑ lcɑ 「時の短い」

cɑel ［名詞］男副主人公 ［レベル］3 ᒧ0:ccɑɪ

cɒ ［名詞］時点、時間、頃、の頃、～の頃、ころ、頃合い ［格詞］～のときに。時格。 ［類義語］ hɪlcj ［レベル］1 jɐμ;cɒ.˥ ʔʔ ←古 :cɒɪ（時間の疑問詞） cɒɪ, ˥ecɒɪ:cɒɪ, ˥ecɒɪ:lə hɪlcj（メルティアが男）:ɥəɒc,ɪlʃ ［語法］ ɔl ［成句］ cɒ ucɪ ～するころ cɒ ˥ɔ˥ 同時に ［用例］ ʃə cɒ 時間だ cɒ ˥ənɪˈl 時間だ ʃə ef cɒ e{ˈlen} neˈf. 起きる時間だ。 ʃə ef cɒ e{ˈlen} jcnɹᑊ イッツショータイム！

cɒ(J) cɒəl ᒧ1

cɒˈɪ ［植物］［料理］辛子、カラシ、からし ［レベル］3 ˥l˥ɪ: 辛

cɒˈl ［動物］ニシン ［レベル］5 ˥l˥ɪ: 元は「黄色い卵」の意で、数の子の意だった。

cɒj ［名詞］ポスター、広告張り紙、広告紙、チラシ、ビラ ［レベル］3 ʔʔ: 制 :cɹnɒɪj。cɹn と離した。 ［語法］ 貼るか配るかで区別しない。

cɒdμɪ ［悪魔］インプラ、黄色の悪魔インプラ ［レベル］4 ɒelʃcɪ 0:cɒdμɪ;cɒel/ɦɔɔμɪ μcɑcɪ: 古 :cɒdμɪ。cɒ（黄色）/ɦɔɔμɪ から。 ［文化］ 黄色の毛で覆われた怪物。好奇心旺盛。 ［成句］ cɒdμɪ jeel(en) ɪμɒcɹɹ アルミヴァ神に囲まれた悪魔インプラ。四面楚歌：ヴァステでインプラが誘導され、アルミヴァに集中砲火を食らって封印されたことから。

cɒdμɪ.ɪʃl cɒel cɒdμɪ

cɒdμɪlccɑɹ ［天文］リゲル 1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel ［文化］ ɦɔɔμɪlccɑɹ

cɒdμen ［名詞］インプレン、色町、風俗、風俗街、歓楽街 ［レベル］4 古 :cɒdμɪ ［文化］ ＜所

在地＞　アルバザードにある歓楽街。日本の吉原に相当する。l1 で作られた。現在はカルザス＝メル通り一帯に広がる。アルバザード最大の風俗街で、中央アルナ市にはここ以外に風俗店は存在しない。たくさんの ɒenſeez が並ぶ。赤線に最も近く、風呂に入ったりはしない。　＜システム＞　ショーウィンドウの中の好きな女を選び、その女のいる個室で情事を行う。使用中の個室はシャッターが下りるのですぐ分かる。買えるのはウィンドウに見えている女のみ。　代金は女の容姿や年齢によって異なり、ショーウィンドウに書いてある。中に入るときにドアにアンセをかざすと代金が落ちるシステム。するとドアが開き、シャッターが下り、情事に及ぶ。恋人とのセックスと違うので、速やかに脱がせて本番に入る。時間は１５分で、発射できなければそれまで。あるいは１５分単位の延長料金を払う。入室後１０分で警告音が鳴り、５分以内に退出しないと延長料金が発生する。１５分以内に退出すると、女は５分で部屋を片付け、衛生器具を処分し、消毒ペーパーで体を清拭し、服を整え、シャッターを開ける。こうして１時間に３本のペースで回転する。料金は姫によるが大体安価で、７００～１２００ソルトの間。このうち５割が奴隷商に入り、３割が店に入り、２割が本人に入る。　＜年齢＞　奴隷は国民として登録されないため、国は少女の年齢に関して一切制限を設けていない。つまり、４歳の少女だろうと買おうと思えば買える。ただし、４歳の少女に１５分で急いで挿入しようとすると裂けて死んでしまう可能性があるため、店側は通常幼女を展示しない。かつての日本の揚屋と同じく、幼女のうちは客を喜ばせるための修行をしたり、小間使いとして働くことが多い。　アルバザードにはロリコンが少ないので、通常客を取るのはソーンの年１５～２８歳である。ただし、実際には１２歳ごろから展示されるようになる。　＜彼女の反応＞　息抜きの場として彼女持ちの男もいくが、それは女が許した場合のみ。そしてたいていのアルバザード人の女は言えば許すが、極めて不機嫌になる。そこで男はたいてい黙っていくが、バカ正直な国民が多いため、バレる確率は高い。　風俗が破局の原因になることはアルバザードではまずないが、彼女に喚き散らされ、鉄拳制裁は必至。慣例として、女は物を投げることと武器を使うことは制限されるが、素手なら最大骨折に至るまで殴って構わない。男は反撃の権利がない。アルバザード人の女はユベールが必修科目だが、よくある用途がこれ。　男が風俗にいったことを原因に女は男を捨てることが慣例としてできない。そこで女が男を捨てたいと思った際は、しこたま男をフルボッコにし、もうこんな恐ろしい女とは付き合えないと思わせ、別れさせる。　なお、女用の風俗もあるが、一部の人間しかいかない。３０～４０代の利用者が多い。女はソープよりも女用の ɥeɥəlı（ホストクラブ）にハマりやすい。この場合、男は恋人ないし妻を捨てることができる。

cɒdɥenψcn　［名詞］水商売、風俗業　［類義語］ɑcɒcɥəψcn　［レベル］5　μɑ;/　J̊Ω　［語法］ɑcɒcɥəψcn

cɒdc　［動物］蜂、ハチ　［レベル］2　ſɒ;cɒel/dc　lıl̀ſı: 黄色 / 針

cɒdcɪ̀ınſ　［名詞］養蜂　［レベル］6　J̊?

cɒdcj　［政治］政党、政治政党　［レベル］4　1L:cɒdc: 蜂のように群がっていることから

cɒdcjeɑ　［サッカー］スルーパス　ul;/「蜂が刺すようにパスする」　J̊?

cɒdcɒɔɔſ　［名詞］蜜蝋　［レベル］6　ſɒ;cɒdc/ɒɔɔſ　J̊J　［文化］ɒɔɔſ

cɒdcɥı　［名詞］蜂の巣　［レベル］3　1?: 制 : ハチの住い　［成句］ɒıψ cɒdcɥı 薮蛇だ、藪蛇だ、やぶ蛇だ、やぶへびだ、藪をつついて蛇を出す

cɒdcɪjl　［化学］蟻酸、ギ酸　［レベル］5　1L:μcɑcı　［文化］μɑ 前期、化学的に大量にショ糖を生成することができなかったため、主な甘味料のひとつに蜂蜜があった。そのため、養蜂家がレイユより身近だった。リュウは蜜蜂の毒が蟻酸であることを発見し、cɒdcɪjl と名付けた。

cɒdɔ　［動物］キリン、きりん、麒麟　［レベル］2　lıl̀ſı: 黄色くて首が長い　［擬声］ɒɔɔ（鳴き声）

cɒdɔcɑı　［地球の星座］［ユマナ］きりん座　J̊Ω　［文化］cɑı

cɒden　［名詞］好奇心、興味　［レベル］3　1L:cɒdɥı/nı　［用例］lı ſclʎjc} cɒden. 彼は好奇心が強い｛少ない｝。　［言葉遊び］ſee, ſcɔ ın ſcl cɒden ılen cɒdɥen. いや、単に売春街に興味があるだけだって：多分この後彼女に殴られる２秒前の台詞。　ınejſɔl. ɥı, ın ɑelıſ jeſı e ɒɥəe ɔ jelɑ ſ'cnɥı, jee, ın ſcl cɒden ılen μenıl ɑcnɒɒ. よろしくお願いします。ええ、イスラムの歴史と中国文学を勉強しました。様々な言語に興味があります。

cɒdel　［名詞］オタク、インペル　［類義語］ləlcın　［レベル］3　古 :cɒdɥı と同じ語源だが詳細は不明。インプラがニムラの中で省かれていた過去があるのか、或いはおそらくこちらが有力だが、インプラが好奇心が強いためであろう。　［語法］［文化］→ ləlc　対象が何であれ、あることばかりに夢中になってまともな社会生活や人間関係を作れない人のことをいい、あまり歓迎されない。だがそれが学問などの高尚なものだとしばしば歓迎される。というのも学問はしばしばそういった人材から生まれた天才によって進められると考えられているからである。

cɒdelɑ　［名詞］インペルド、童貞夢、処女夢　［レベル］4　古 :cɒdel/ɑcı から　［語法］→ beelen uc　思春期や童貞・処女時代に異性に対して持つ幻想のこと。日本で言われてきたのは「キスはレモンの味」などだが、アルバザードでの俗説は「キスは桃の味」「女性器は蜜が出る」「女に腋毛は生えない」「イケメンは髭が生えない」「好きなもの同士のセックスは挿入するとすぐ逝く」「行為中に女が逝くと愛液で精子が殺されて妊娠しない」「女は毛深くないので陰核以下には毛が生えない」「陰唇の色が暗いと遊び人」「処女膜は歯になっていて、嫌いな相手に入れられると痙攣して陰茎を潰すようにできている」「女は逝くと漏らす」「処女は必ず血が出る」「結婚式でキスをすることで子供ができる」「精子は空気やお湯の中ですぐ全滅する」「排卵時の白い粘液は卵子」「精子を飲むとヴィルが増える（アトラスでは事実）」など。　［用例］ın en nı eɒ cɒdelɑ ɒın ſcl eɒ ſcın. カノジョを持つようになって、インペルドを感じなくなったよ。

cɒɥə　［形容詞］珍しい、レアな　［反意語］nce　［文頭純詞］めずらしいことに　［レベル］2　ɑ　赤 :cɒɥə は「目にない」が原義。

cɒɥəbel　［料理］珍味　［レベル］4　J̊1

cɒı　［形容詞］元気な、快活な、ハキハキした　［反意語］ınc　［レベル］2　@1L　［用例］lcu cɒı 元気な声

cɒı,ɑ　ɔɒ, cɒ　e

cɒın　［名詞］ひし形、菱型、菱形、ひし型、ダイヤ形　［レベル］3　ɑu; ↓　1Ω: 制 : 古 :cɒıcn（幻字の c（目）の形をしたもの）　cɒıcn:cɒıcn:lə jlcdcı

cɒın(J)　［植物］榊、サカキ、極　［レベル］3　μ;<ıllſ<ıɒcn.l　J̊1　［文化］→ hcnıłı　手に入りやすいのと、振るのに非常に適しているため、陽命の神事に用いられるようになった。

cɒınzel　［地名］イマンゼル、イマンゼル県　［レベル］3　J̊1:μcɑcı:「菱形の」　［文化］カレン北、カテージュ西の県。南部にヴェスペリア山脈がある。

cɒıd　［植物］ヒシ、ひし、菱　［レベル］5　1?: 制 :cɒın/dcnɑ

cɒıc,ɑ　lcd　「時を見る」

cɒcn　［普通動名詞］観光、ツアー　［動詞］ɥəl を観光する、観光する　［レベル］3　1L: 珍しいものを見る

cɒɔ　［植物］レモン　［レベル］2　lıl̀ſı: すっぱい黄色の意。ɒəcɒ か cɒɔ でよい。

cɒɔɒıuc　［化学］ビタミンＣ、アスコルビン酸　［レベル］3　nɑ;/　J̊?　［文化］ɒıuc

cɒɔl　［格詞］下から　［レベル］2　J0:ɒelcɑcı lceɥ

cɒɔlc　［企業］イモリ　ıllſ　［レベル］3　J̊1　［文化］トヨタ、ホンダ、日産、スズキ、いすゞ、マツダなどに相当する企業。

cɒɔlen　［接続詞］cɒɔl　［レベル］3　J̊1

cɒɔe　［美容］リンス　［レベル］2　μɑ;cɒɔ/eμ「レモン水」　J̊?　［文化］μɑ でフルミネアの長い髪を綺麗に維持するためにリュウが開発した。当時のシャンプーがアルカリ性であったことから、それを中和する目的でクエン酸がリンスとして使用された。そのため語源がレモン水となっている。

cɒe　［医療］コンタクトレンズ　［レベル］3　1L:cnɥed　［用例］ɥıb cɒe コンタクトをつける

cɒeſ　［名詞］版、エディション、バージョン、ｖｅｒ　［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbıleIſ:cɒen（～のときの）［用例］cɒeſ lıɒ 初版

cɒen　［接続詞］cɒ。～のときの。　［レベル］2　J0:l̀ıIce　［成句］cɒen ſəμ 現在の、もはや

cɒeμ　［植物］スイカ、西瓜、ウォーターメロン　［レベル］2　1?: 制 : 古 :cɒeμı（スイカ（黄色 / 水 / 赤））

cɒel　［色］黄色、イメル　［形容詞］黄色い　［レベル］1　ɒelſcı 0:ɒelſcı;cnɥ e ɒelſcı　古 : メルの目。目に映った月の色という逸話から　səɥ:cɒdɥı, cɒel:lı ψelſe:əμcı,ıllſ

cɒeljſenſ　［地球の国名］スウェーデン　［レベル］5　1L: 国旗が黄色い十字

cɒelnɑı　［生物］金髪、ブロンド　［レベル］3　J̊J

cɒelucsɔn　［動物］キセキレイ　ſɒ;/　J̊?　［文化］ucsɔn

cɒeluceſ　［地球の国名］グルジア　［レベル］6　1L: 国章に黄色いライオン

cɒelɑııl　［地球の国名］キリバス　1L: 国旗に黄色い太陽

cɒelbeɒ　［地球の国名］パラオ　1L: 国旗が黄色い丸

cɒelɑcı　［植物］山吹、ヤマブキ　［レベル］5　jɒ;uıμ ıllſcı「黄色コスモス」　J̊J

cɒelɑcl　［地学］アダム鉱　1L

cɒelψııl　［名詞］歓声　［レベル］4　J̊1: 黄色は賑やかで好奇心旺盛なという意味。

cɒeldıɒ　［名詞］白熱灯、白熱球　［レベル］4　1L:μcɑcı:ıμbıleIſ

cɒelberJ　［経済］経済的に恵まれた環境　［レベル］5　［反意語］ɑcciberJ　J̊1

cɒelhıμı　［医療］黄疸　［レベル］5　1L: 黄色い痣風のもの

cɒelhɔdJ　［生物］黄色骨髄　μſ;/　J̊Ω

cɒellccɑı　［地球の国名］ベトナム　［レベル］6　1L: 国旗に黄色い星

cɒelıl̀ɔn　［植物］黄色土　1L:μcɑcı　［語法］メテなど、温暖な土地に見られる土壌。

cɒelın　［名詞］黄色人種　［レベル］3　1L:cɒel/ın　［語法］［文化］インサールからバルバザードに移住してきた人種。アルバザード人の混血の元となっている。背が低く、筋肉が弱く、鼻が低い。顔が大きく、肌の質はいい。顔が幼い。平面顔。一重の人がいる。下戸の人がいる。乳頭不帯の人がいる。不安になりやすい。繁殖しやすい。

cɒelcı　［名詞］イメリア　［ユマナ］ギネスブック、ギネス　［レベル］4　ul;cɒɔlc　J̊J　［文化］ul でイモリ社が車の売り上げを伸ばすために作った世界記録の本。世界記録があればそこに行って現物を見てみたいと思わせることができるため、車の売り上げに繋がる。それゆえ車メーカーがギネスブックに相当するものを創り上げた。

cɒeleſeł　［料理］黄茶　μɑ;/　J̊?

cɒeı　［エルト］イメア　［レベル］5　ɑəlɒccı: 古 : 古の cɒeı フルミネアの造語。語源は cɒeμcı（黄色い水）で、水は滝状の髪の毛を表わし、黄色はそれがメルのものであることを示すそうだ。フルミネアは一時メルの目や髪を淫らを表わすとして禁忌していたが、それからの脱却といえる。数を司る設定はキリスト教の神が髪の毛を数えるという神話から来ているのではなく、恐らくメルからの類推。イメアのモデルがメルで、メルが数学の類に秀でていたことが原因だと思われる。　［文化］髪の毛、数、統計、確率を司るエルト。

cɒəl　［人名］イムル　［組み数字］7 / 1 5　［レベル］4　l̀l:cɒ/ıl「時の人」　l̀ıl̀ɔ: 古アルカでの意味は「時」。　［文化］メテの第７使徒。イムル暦の創始者。

cɒəlJıllſ　［歳時記］年度　［レベル］4　μɑ;/　J̊Ω　［文化］イムル暦における年度のこと。グレゴリオ暦でいう１月１日ごろから始まる。日本の年度の場合４月１日から始まる。

cɒəldılſ　［歴史］イムル暦　［レベル］4　J0　［文化］→ dıllſ　歴史などの分野では年号だけメル暦でなくイムル暦を使う→ pelɒdıllſ　　西暦４００年１月１日がちょうどイムル０年１月１日に当たる暦。地球にない暦だが、天文学的な経緯を経て紀元が偶然グレゴリオ暦と同じ１月１日になっているため、μɑ の日付を記すのに非常に便利。　英雄アルシェのミスで、イムル０年は存在しないことになり、イムル暦は１年からスタートした。イムル１年はユーマ８０８０年に等しい。後にイムルは便宜上１年の元旦から３６６日戻した日付をイムル０年とした。イムル０年の大半はユーマ８０７９年であるから、ユーマ暦はイムル暦に１年食われる形で８０７９年間続いたことになる。　＜グレゴリオーイムル対照表＞　グレゴリオ暦とイムル暦は年始の日付が同じで、年号のずれも Ω00 年であるため、イムル０～ 1100 年までは下記の単純な表で対照できる。　月の日数が異なるため、グレゴリオ暦と同じではない。　閏日の入る位置が異なるため、平年と閏年で表が J 枚必要になる。　年始日が重なるのは天文学的な理由で、偶然である。詳しくは幻日 dıllſ を参照。　なお、メル暦は年始も異なるため、こうした単純な表にはできない。

平年		閏年		平年		閏年	
グレゴリオ	イムル	グレゴリオ	イムル	グレゴリオ	イムル	グレゴリオ	イムル
1 月 1 日	1/1	1 月 1 日	1/1	9 月 ? 日	9/J	9 月 J 日	9/J
1 月 J 日	1/J	1 月 J 日	1/J	9 月 Ω 日	9/?	9 月 ? 日	9/?
1 月 ? 日	1/?	1 月 ? 日	1/?	9 月 ⊕ 日	9/Ω	9 月 Ω 日	9/Ω
1 月 Ω 日	1/Ω	1 月 Ω 日	1/Ω	9 月 ⊖ 日	9/⊕	9 月 ⊕ 日	9/⊕
1 月 ⊕ 日	1/⊕	1 月 ⊕ 日	1/⊕	9 月 9 日	9/⊖	9 月 ⊖ 日	9/⊖
1 月 ⊖ 日	1/⊖	1 月 ⊖ 日	1/⊖	9 月 Δ 日	9/9	9 月 9 日	9/9
1 月 9 日	1/9	1 月 9 日	1/9	9 月 L 日	9/Δ	9 月 Δ 日	9/Δ
1 月 Δ 日	1/Δ	1 月 Δ 日	1/Δ	9 月 10 日	9/L	9 月 L 日	9/L
1 月 L 日	1/L	1 月 L 日	1/L	9 月 11 日	9/10	9 月 10 日	9/10
1 月 10 日	1/10	1 月 10 日	1/10	9 月 1J 日	9/11	9 月 11 日	9/11
1 月 11 日	1/11	1 月 11 日	1/11	9 月 1? 日	9/1J	9 月 1J 日	9/1J
1 月 1J 日	1/1J	1 月 1J 日	1/1J	9 月 1Ω 日	9/1?	9 月 1? 日	9/1?
1 月 1? 日	1/1?	1 月 1? 日	1/1?	9 月 1⊕ 日	9/1Ω	9 月 1Ω 日	9/1Ω
1 月 1Ω 日	1/1Ω	1 月 1Ω 日	1/1Ω	9 月 1⊖ 日	9/1⊕	9 月 1⊕ 日	9/1⊕
1 月 1⊕ 日	1/1⊕	1 月 1⊕ 日	1/1⊕	9 月 19 日	9/1⊖	9 月 1⊖ 日	9/1⊖
1 月 1⊖ 日	1/1⊖	1 月 1⊖ 日	1/1⊖	9 月 1Δ 日	9/19	9 月 19 日	9/19
1 月 19 日	1/19	1 月 19 日	1/19	9 月 1L 日	9/1Δ	9 月 1Δ 日	9/1Δ
1 月 1Δ 日	1/1Δ	1 月 1Δ 日	1/1Δ	9 月 J0 日	9/1L	9 月 1L 日	9/1L
1 月 1L 日	1/1L	1 月 1L 日	1/1L	9 月 J1 日	9/J0	9 月 J0 日	9/J0
1 月 J0 日	1/J0	1 月 J0 日	1/J0	9 月 JJ 日	9/J1	9 月 J1 日	9/J1
1 月 J1 日	1/J1	1 月 J1 日	1/J1	9 月 J? 日	9/JJ	9 月 JJ 日	9/JJ
1 月 JJ 日	1/JJ	1 月 JJ 日	1/JJ	9 月 JΩ 日	9/J?	9 月 J? 日	9/J?
1 月 J? 日	1/J?	1 月 J? 日	1/J?	9 月 J⊕ 日	9/JΩ	9 月 JΩ 日	9/JΩ
1 月 JΩ 日	1/JΩ	1 月 JΩ 日	1/JΩ	9 月 J⊖ 日	9/J⊕	9 月 J⊕ 日	9/J⊕
1 月 J⊕ 日	1/J⊕	1 月 J⊕ 日	1/J⊕	9 月 J9 日	9/J⊖	9 月 J⊖ 日	9/J⊖
1 月 J⊖ 日	1/J⊖	1 月 J⊖ 日	1/J⊖	9 月 JΔ 日	9/J9	9 月 J9 日	9/J9
1 月 J9 日	1/J9	1 月 J9 日	1/J9	9 月 JL 日	9/JΔ	9 月 JΔ 日	9/JΔ
1 月 JΔ 日	1/JΔ	1 月 JΔ 日	1/JΔ	9 月 ?0 日	9/JL	9 月 JL 日	9/JL
1 月 JL 日	1/JL	1 月 JL 日	1/JL	9 月 ?1 日	9/?0	9 月 ?0 日	9/?0
1 月 ?0 日	1/?0	1 月 ?0 日	1/?0	Δ 月 1 日	9/?1	9 月 ?1 日	9/?1
1 月 ?1 日	J/1	1 月 ?1 日	J/1	Δ 月 J 日	Δ/1	Δ 月 1 日	Δ/1
J 月 1 日	J/J	J 月 1 日	J/J	Δ 月 ? 日	Δ/J	Δ 月 J 日	Δ/J
J 月 J 日	J/?	J 月 J 日	J/?	Δ 月 Ω 日	Δ/?	Δ 月 ? 日	Δ/?
J 月 ? 日	J/Ω	J 月 ? 日	J/Ω	Δ 月 ⊕ 日	Δ/Ω	Δ 月 Ω 日	Δ/Ω
J 月 Ω 日	J/⊕	J 月 Ω 日	J/⊕	Δ 月 ⊖ 日	Δ/⊕	Δ 月 ⊕ 日	Δ/⊕
J 月 ⊕ 日	J/⊖	J 月 ⊕ 日	J/⊖	Δ 月 9 日	Δ/⊖	Δ 月 ⊖ 日	Δ/⊖
J 月 ⊖ 日	J/9	J 月 ⊖ 日	J/9	Δ 月 Δ 日	Δ/9	Δ 月 9 日	Δ/9
J 月 9 日	J/Δ	J 月 9 日	J/Δ	Δ 月 L 日	Δ/Δ	Δ 月 Δ 日	Δ/Δ
J 月 Δ 日	J/L	J 月 Δ 日	J/L	Δ 月 10 日	Δ/L	Δ 月 L 日	Δ/L
J 月 L 日	J/10	J 月 L 日	J/10	Δ 月 11 日	Δ/10	Δ 月 10 日	Δ/10
J 月 10 日	J/11	J 月 10 日	J/11	Δ 月 1J 日	Δ/11	Δ 月 11 日	Δ/11
J 月 11 日	J/1J	J 月 11 日	J/1J	Δ 月 1? 日	Δ/1J	Δ 月 1J 日	Δ/1J
J 月 1J 日	J/1?	J 月 1J 日	J/1?	Δ 月 1Ω 日	Δ/1?	Δ 月 1? 日	Δ/1?
J 月 1? 日	J/1Ω	J 月 1? 日	J/1Ω	Δ 月 1⊕ 日	Δ/1Ω	Δ 月 1Ω 日	Δ/1Ω
J 月 1Ω 日	J/1⊕	J 月 1Ω 日	J/1⊕	Δ 月 1⊖ 日	Δ/1⊕	Δ 月 1⊕ 日	Δ/1⊕
J 月 1⊕ 日	J/1⊖	J 月 1⊕ 日	J/1⊖	Δ 月 19 日	Δ/1⊖	Δ 月 1⊖ 日	Δ/1⊖
J 月 1⊖ 日	J/19	J 月 1⊖ 日	J/19	Δ 月 1Δ 日	Δ/19	Δ 月 19 日	Δ/19

⅃月19日	⅃/1Δ	⅃月19日	⅃/1Δ	Δ月1L日	Δ/1Δ	Δ月1Δ日	Δ/1Δ
⅃月1Δ日	⅃/1L	⅃月1Δ日	⅃/1L	Δ月0L日	Δ/1L	Δ月1L日	Δ/1L
⅃月1L日	⅃/0L	⅃月1L日	⅃/0L	Δ月1Ɔ日	Δ/0L	Δ月0L日	Δ/0L
⅃月0L日	⅃/1Ɔ	⅃月0L日	⅃/1Ɔ	Δ月⅃⅃日	Δ/1Ɔ	Δ月1Ɔ日	Δ/1Ɔ
⅃月1Ɔ日	⅃/⅃⅃	⅃月1Ɔ日	⅃/⅃⅃	Δ月2L日	Δ/⅃⅃	Δ月⅃⅃日	Δ/⅃⅃
⅃月⅃⅃日	⅃/2L	⅃月⅃⅃日	⅃/2L	Δ月1Ɔ日	Δ/2L	Δ月2L日	Δ/2L
⅃月2L日	⅃/1Ɔ	⅃月2L日	⅃/1Ɔ	Δ月1Ⅎ日	Δ/1Ɔ	Δ月1Ɔ日	Δ/1Ɔ
⅃月1Ɔ日	⅃/4L	⅃月1Ɔ日	⅃/4L	Δ月2Ɔ日	Δ/4L	Δ月4L日	Δ/4L
⅃月4L日	⅃/2Ɔ	⅃月4L日	⅃/2Ɔ	Δ月1Ⅎ日	Δ/2Ɔ	Δ月2Ɔ日	Δ/2Ɔ
⅃月2Ɔ日	⅃/4Ɔ	⅃月2Ɔ日	⅃/4Ɔ	Δ月2Ⅎ日	Δ/4Ɔ	Δ月4Ɔ日	Δ/4Ɔ
⅃月4Ɔ日	⅃/2Ⅎ	⅃月4Ɔ日	⅃/2Ⅎ	Δ月2Ⅎ日	Δ/2Ⅎ	Δ月2Ⅎ日	Δ/2Ⅎ
⅃月2Ⅎ日	⅃/4Ⅎ	⅃月2Ⅎ日	⅃/4Ⅎ	Δ月4Ⅎ日	Δ/4Ⅎ	Δ月4Ⅎ日	Δ/4Ⅎ
⅃月4Ⅎ日	⅃/Δⅎ	⅃月4Ⅎ日	⅃/Δⅎ	Δ月⅃⅃日	Δ/⅃⅃	Δ月⅃⅃日	Δ/⅃⅃
⅃月⅃⅃日	⅃/⅃L	⅃月⅃⅃日	⅃/⅃L	Δ月0Ɔ日	Δ/0Ɔ	Δ月⅃L日	Δ/⅃L
⅃月0Ɔ日	⅃/1	⅃月1日	⅃/1	L月1日	L/1	L月1日	L/1
⅃月⅃	⅃/1	⅃月1日	⅃/1	L月⅃	L/1	L月⅃	L/1
⅃月2日	⅃/⅃	⅃月⅃	⅃/⅃	L月2日	L/⅃	L月⅃	L/⅃
⅃月0日	2/0	⅃月2日	2/0	L月0日	L/2	L月2日	L/2
⅃月4日	2/0	⅃月0日	2/0	L月4日	L/0	L月0日	L/0
⅃月2日	2/4	⅃月4日	2/4	L月2日	L/4	L月4日	L/4
⅃月4	2/2	⅃月2日	2/2	L月4日	L/2	L月2日	L/2
⅃月Δ日	2/9	⅃月9日	2/9	L月Δ日	L/9	L月9日	L/9
⅃月L日	2/Δ	⅃月Δ日	2/Δ	L月L日	L/Δ	L月Δ日	L/Δ
⅃月10日	2/L	⅃月L日	2/L	L月10日	L/L	L月L日	L/L
⅃月11日	2/10	⅃月10日	2/10	L月11日	L/10	L月10日	L/10
⅃月1Ⅎ日	2/11	⅃月11日	2/11	L月1Ⅎ日	L/11	L月11日	L/11
⅃月1Ɔ日	2/1Ⅎ	⅃月1Ⅎ日	2/1Ⅎ	L月1Ɔ日	L/1Ⅎ	L月1Ⅎ日	L/1Ⅎ
⅃月1L日	2/1Ɔ	⅃月1Ɔ日	2/1Ɔ	L月1L日	L/1Ɔ	L月1Ɔ日	L/1Ɔ
⅃月4Ⅎ日	2/1L	⅃月1L日	2/1L	L月4Ⅎ日	L/1L	L月4Ⅎ日	L/1L
⅃月1Δ日	2/4Ⅎ	⅃月4Ⅎ日	2/4Ⅎ	L月1Δ日	L/4Ⅎ	L月1Δ日	L/4Ⅎ
⅃月1L日	2/1Δ	⅃月1Δ日	2/1Δ	L月1L日	L/1Δ	L月1L日	L/1Δ
⅃月0L日	2/1L	⅃月1L日	2/1L	L月0L日	L/1L	L月0L日	L/1L
⅃月1Ⅎ日	2/0L	⅃月0L日	2/0L	L月1Ⅎ日	L/0L	L月1Ⅎ日	L/0L
⅃月⅃⅃日	2/1Ⅎ	⅃月1Ⅎ日	2/1Ⅎ	L月⅃⅃日	L/1Ⅎ	L月⅃⅃日	L/1Ⅎ
⅃月2Ⅎ日	2/⅃⅃	⅃月⅃⅃日	2/⅃⅃	L月2Ⅎ日	L/⅃⅃	L月2Ⅎ日	L/⅃⅃
⅃月0Ɔ日	2/2Ⅎ	⅃月2Ⅎ日	2/2Ⅎ	L月0Ɔ日	L/2Ⅎ	L月0Ɔ日	L/2Ⅎ
⅃月4Ɔ日	2/0Ɔ	⅃月0Ɔ日	2/0Ɔ	L月4Ɔ日	L/0Ɔ	L月4Ɔ日	L/0Ɔ
⅃月4Ⅎ日	2/4Ɔ	⅃月4Ɔ日	2/4Ɔ	L月4Ⅎ日	L/4Ɔ	L月4Ⅎ日	L/4Ɔ
⅃月2Ɔ日	2/4Ⅎ	⅃月4Ⅎ日	2/4Ⅎ	L月2Ɔ日	L/4Ⅎ	L月2Ɔ日	L/4Ⅎ
⅃月4Ⅎ日	2/2Ɔ	⅃月2Ɔ日	2/2Ɔ	L月4Ⅎ日	L/2Ɔ	L月4Ⅎ日	L/2Ɔ
⅃月2Ⅎ日	2/⅃L	⅃月⅃L日	2/⅃L	L月2Ⅎ日	L/⅃L	L月2Ⅎ日	L/⅃L
⅃月⅃L日	2/⅃L	⅃月⅃L日	2/⅃L	L月⅃L日	L/⅃L	L月⅃L日	L/⅃L
⅃月⅃L日	2/⅃L	⅃月⅃L日	2/⅃L	L月⅃L日	L/⅃L	L月⅃L日	L/⅃L
⅃月2Ⅎ日	2/2Ɔ	⅃月2Ⅎ日	2/2Ɔ	L月1日	L/2Ɔ	L月2Ɔ日	L/2Ɔ
⅃月1日	2/1	⅃月1日	2/1	L月1日	L/2Ⅎ	L月1日	L/2Ⅎ
⅃月⅃	2/1	⅃月1日	2/1	L月⅃	L/1	L月⅃	L/1
⅃月2日	2/⅃	⅃月⅃	2/⅃	L月2日	L/⅃	L月2日	L/⅃
⅃月0日	2/2	⅃月2日	2/2	L月0日	L/2	L月0日	L/2
⅃月4日	2/0	⅃月0日	2/0	L月4日	L/0	L月4日	L/0
⅃月2日	2/4	⅃月4日	2/4	L月2日	L/4	L月2日	L/4
⅃月4	2/2	⅃月2日	2/2	L月4日	L/2	L月4日	L/2
⅃月Δ日	2/9	⅃月9日	2/9	L月Δ日	L/9	L月Δ日	L/9
⅃月L日	2/Δ	⅃月Δ日	2/Δ	L月L日	L/Δ	L月L日	L/Δ
⅃月10日	2/L	⅃月L日	2/L	L月10日	L/L	L月10日	L/L
⅃月11日	2/10	⅃月10日	2/10	L月11日	L/10	L月11日	L/10
⅃月1Ⅎ日	2/11	⅃月11日	2/11	L月1Ⅎ日	L/11	L月1Ⅎ日	L/11
⅃月1Ɔ日	2/1Ⅎ	⅃月1Ⅎ日	2/1Ⅎ	L月1Ɔ日	L/1Ⅎ	L月1Ɔ日	L/1Ⅎ
⅃月1L日	2/1Ɔ	⅃月1Ɔ日	2/1Ɔ	L月1L日	L/1Ɔ	L月1L日	L/1Ɔ
⅃月4Ⅎ日	2/1L	⅃月1L日	2/1L	L月4Ⅎ日	L/1L	L月4Ⅎ日	L/1L
⅃月1Δ日	2/4Ⅎ	⅃月4Ⅎ日	2/4Ⅎ	L月1Δ日	L/4Ⅎ	L月1Δ日	L/4Ⅎ
⅃月1L日	2/1Δ	⅃月1Δ日	2/1Δ	L月1L日	L/1Δ	L月1L日	L/1Δ
⅃月0L日	2/1L	⅃月1L日	2/1L	L月0L日	L/1L	L月0L日	L/1L
⅃月1Ⅎ日	2/0L	⅃月0L日	2/0L	L月1Ⅎ日	L/0L	L月1Ⅎ日	L/0L
⅃月⅃⅃日	2/1Ⅎ	⅃月1Ⅎ日	2/1Ⅎ	L月⅃⅃日	L/1Ⅎ	L月⅃⅃日	L/1Ⅎ
⅃月2Ⅎ日	2/⅃⅃	⅃月⅃⅃日	2/⅃⅃	L月2Ⅎ日	L/⅃⅃	L月2Ⅎ日	L/⅃⅃
⅃月0Ɔ日	2/2Ⅎ	⅃月2Ⅎ日	2/2Ⅎ	L月0Ɔ日	L/2Ⅎ	L月0Ɔ日	L/2Ⅎ
⅃月4Ɔ日	2/0Ɔ	⅃月0Ɔ日	2/0Ɔ	L月4Ɔ日	L/0Ɔ	L月4Ɔ日	L/0Ɔ
⅃月4Ⅎ日	2/4Ɔ	⅃月4Ɔ日	2/4Ɔ	L月4Ⅎ日	L/4Ɔ	L月4Ⅎ日	L/4Ɔ
⅃月2Ɔ日	2/4Ⅎ	⅃月4Ⅎ日	2/4Ⅎ	L月2Ɔ日	L/4Ⅎ	L月2Ɔ日	L/4Ⅎ
⅃月4Ⅎ日	2/2Ɔ	⅃月2Ɔ日	2/2Ɔ	L月4Ⅎ日	L/2Ɔ	L月4Ⅎ日	L/2Ɔ
⅃月2Ⅎ日	2/⅃L	⅃月⅃L日	2/⅃L	L月2Ⅎ日	L/⅃L	L月2Ⅎ日	L/⅃L
⅃月⅃L日	2/⅃L	⅃月⅃L日	2/⅃L	L月⅃L日	L/⅃L	L月⅃L日	L/⅃L
⅃月⅃L日	2/⅃L	⅃月⅃L日	2/⅃L	L月⅃L日	L/⅃L	L月⅃L日	L/⅃L
1月1日	0/1	1月1日	0/1	10月1日	L/20	10月0Ɔ日	L/20
1月⅃	0/1	1月1日	0/1	10月⅃	L/21	10月1日	L/21
1月2日	0/2	1月⅃	0/2	10月2日	10/1	10月⅃	10/1
1月0日	0/0	1月2日	0/0	10月0日	10/⅃	10月2日	10/⅃
1月4日	0/4	1月0日	0/4	10月4日	10/2	10月0日	10/2
1月2日	0/2	1月4日	0/2	10月2日	10/0	10月4日	10/0
1月9日	0/9	1月2日	0/9	10月9日	10/4	10月2日	10/4
1月Δ日	0/Δ	1月9日	0/Δ	10月Δ日	10/9	10月Δ日	10/9
1月L日	0/L	1月Δ日	0/L	10月L日	10/Δ	10月L日	10/Δ
1月10日	0/10	1月L日	0/10	10月10日	10/L	10月10日	10/L
1月11日	0/11	1月10日	0/11	10月11日	10/10	10月11日	10/10
1月1Ⅎ日	0/1Ⅎ	1月11日	0/1Ⅎ	10月1Ⅎ日	10/11	10月1Ⅎ日	10/11
1月1Ɔ日	0/1Ɔ	1月1Ⅎ日	0/1Ɔ	10月1Ɔ日	10/1Ⅎ	10月1Ɔ日	10/1Ⅎ
1月1L日	0/1L	1月1Ɔ日	0/1L	10月1L日	10/1Ɔ	10月1L日	10/1Ɔ
1月4Ⅎ日	0/4Ⅎ	1月1L日	0/4Ⅎ	10月4Ⅎ日	10/1L	10月4Ⅎ日	10/1L
1月1Δ日	0/1Δ	1月4Ⅎ日	0/1Δ	10月1Δ日	10/4Ⅎ	10月1Δ日	10/4Ⅎ
1月1L日	0/1L	1月1Δ日	0/1L	10月1L日	10/1Δ	10月1L日	10/1Δ
1月0L日	0/0L	1月1L日	0/0L	10月0L日	10/1L	10月0L日	10/1L
1月1Ⅎ日	0/1Ⅎ	1月0L日	0/1Ⅎ	10月1Ⅎ日	10/0L	10月1Ⅎ日	10/0L
1月⅃⅃日	0/⅃⅃	1月1Ⅎ日	0/⅃⅃	10月⅃⅃日	10/1Ⅎ	10月⅃⅃日	10/1Ⅎ
1月2Ⅎ日	0/2Ⅎ	1月⅃⅃日	0/2Ⅎ	10月2Ⅎ日	10/⅃⅃	10月2Ⅎ日	10/⅃⅃
1月0Ɔ日	0/0Ɔ	1月2Ⅎ日	0/0Ɔ	10月0Ɔ日	10/2Ⅎ	10月0Ɔ日	10/2Ⅎ
1月4Ɔ日	0/4Ɔ	1月0Ɔ日	0/4Ɔ	10月4Ɔ日	10/0Ɔ	10月4Ɔ日	10/0Ɔ
1月4Ⅎ日	0/4Ⅎ	1月4Ɔ日	0/4Ⅎ	10月4Ⅎ日	10/4Ɔ	10月4Ⅎ日	10/4Ɔ
1月2Ɔ日	0/2Ɔ	1月4Ⅎ日	0/2Ɔ	10月2Ɔ日	10/4Ⅎ	10月2Ɔ日	10/4Ⅎ
1月4Ⅎ日	0/4Ⅎ	1月2Ɔ日	0/4Ⅎ	10月4Ⅎ日	10/2Ɔ	10月4Ⅎ日	10/2Ɔ
1月2Ⅎ日	0/2Ⅎ	1月4Ⅎ日	0/2Ⅎ	10月2Ⅎ日	10/4Ⅎ	10月2Ⅎ日	10/4Ⅎ
1月⅃⅃日	0/⅃⅃	1月2Ⅎ日	0/⅃⅃	10月⅃⅃日	10/2Ⅎ	10月⅃⅃日	10/2Ⅎ
1月0Ɔ日	0/0Ɔ	1月⅃⅃日	0/0Ɔ	10月0Ɔ日	10/⅃⅃	10月0Ɔ日	10/⅃⅃
1月4日	0/4	1月0Ɔ日	0/4	10月4日	10/0Ɔ	10月4日	10/0Ɔ
1月⅃	0/4	1月4日	0/⅃	11月1日	10/20	10月4日	10/20
1月2日	0/4	1月⅃	0/2	11月⅃	11/1	11月1日	11/1
1月0日	0/4	1月2日	0/0	11月2日	11/⅃	11月⅃	11/⅃
1月4日	0/4	1月0日	0/4	11月0日	11/2	11月2日	11/2
1月2日	0/4	1月4日	0/2	11月4日	11/0	11月0日	11/0
1月4	0/2	1月2日	0/4	11月2日	11/4	11月4日	11/4
1月Δ日	0/9	1月9日	0/Δ	11月9日	11/2	11月2日	11/2
1月L日	0/Δ	1月Δ日	0/L	11月Δ日	11/9	11月9日	11/9
1月10日	0/L	1月L日	0/10	11月L日	11/Δ	11月Δ日	11/Δ
1月11日	0/10	1月10日	0/11	11月10日	11/L	11月L日	11/L
1月1Ⅎ日	0/11	1月11日	0/1Ⅎ	11月11日	11/10	11月10日	11/10
1月1Ɔ日	0/1Ⅎ	1月1Ⅎ日	0/1Ɔ	11月1Ɔ日	11/11	11月11日	11/11
1月1L日	0/1Ɔ	1月1Ɔ日	0/1L	11月1L日	11/1Ⅎ	11月1Ɔ日	11/1Ⅎ
1月4Ⅎ日	0/1L	1月1L日	0/4Ⅎ	11月4Ⅎ日	11/1Ɔ	11月1L日	11/1Ɔ

1月2日	0/4	1月4日	0/2	11月1Δ日	11/1L	11月1L日	11/1L
1月4日	0/4	1月2日	0/4	11月2L日	11/1Δ	11月1Δ日	11/1Δ
1月1Δ日	0/4	1月4日	0/1Δ	11月4L日	11/2L	11月2L日	11/2L
1月1L日	0/1Δ	1月1Δ日	0/1L	11月1Ɔ日	11/4L	11月4L日	11/4L
1月0L日	0/1L	1月1L日	0/0L	11月1L日	11/1Ɔ	11月1Ɔ日	11/1Ɔ
1月1Ⅎ日	0/1L	1月0L日	0/1Ⅎ	11月1Ⅎ日	11/0L	11月0L日	11/0L
1月⅃⅃日	0/⅃⅃	1月1Ⅎ日	0/⅃⅃	11月⅃⅃日	11/1Ⅎ	11月1Ⅎ日	11/1Ⅎ
1月2Ⅎ日	0/2Ⅎ	1月⅃⅃日	0/2Ⅎ	11月2Ⅎ日	11/⅃⅃	11月⅃⅃日	11/⅃⅃
1月0Ⅎ日	0/0Ⅎ	1月2Ⅎ日	0/0Ⅎ	11月0Ⅎ日	11/2Ⅎ	11月2Ⅎ日	11/2Ⅎ
1月4Ⅎ日	0/4Ⅎ	1月0Ⅎ日	0/4Ⅎ	11月4Ⅎ日	11/0Ⅎ	11月0Ⅎ日	11/0Ⅎ
1月2Ⅎ日	0/2Ⅎ	1月4Ⅎ日	0/2Ⅎ	11月2Ⅎ日	11/4Ⅎ	11月2Ⅎ日	11/4Ⅎ
1月4Ⅎ日	0/4Ⅎ	1月2Ⅎ日	0/4Ⅎ	11月4Ⅎ日	11/2Ⅎ	11月4Ⅎ日	11/2

cdɒˀləʃɪ ［医療］肛門鏡、直腸鏡 ［レベル］6 μɑ;/ ˩ˀ ［文化］ 最古のものは zφ であり、現代と同じようなくちばしの形をしていた。

cdɒuɪnɔ ［生物］承扶 ˩˥

cdɒaɛɒɐ ［医療］肛門期 ［レベル］5 ˩˩

cdɒɒdʃ ［医療］肛門科 ［レベル］6 ˥L

cddc,ɪlʃ nɔzl

cddcn ［植物］ウルシ、漆、うるし ［レベル］6 ˥ˀ̀;cddcn.ˀ. ɪlʃ ˩˩

cddcnɑclɑɪc ［医療］うるし灸 μɑ;/ ˩˩˥

cdzcɑ ［俗語］［生物］ケツアゴ μɑ;/ ˩˩˥ ［文化］ ケツアゴがあるのは不細工というイメージがアルバザードではなされる。

cdɪ ［医療］痔 ［レベル］3 ˥ˀ: 制 :cdɑɪcz

cdɔʃ ［格詞］～の中から ［レベル］2 ˩0:ɪlcʃ

cdɔʃen ［接続詞］cdɔʃ ［レベル］3 ˩˥

cdɔn ［植物］チャイブ、アサツキ ［レベル］6 ɪlɪˀ̀ʃɪ

cb ［遊離副詞］敢えて、あえて ［レベル］2 ˥ˀ: 制 : 古 :cbɟe（敢えて～する） ［語法］ el 不要。 ［用例］ ɪn ˀləʃ cb. あえて行った。

cbɟɔɔl ［名詞］確信犯、故意犯 ［類義語］lɪnɪɟɔɔl、cbɑcɟeʃ ［レベル］3 μɑ;/ ˩ˀ ［語法］ lɪnɪɟɔɔl

cbɑcɟeʃ ［法律］故意犯 ［類義語］cbɟɔɔl ［レベル］4 μɑ;/ ˩ˀ

cbeʃ ［形容詞］［ネガティブ］未熟な、子供じみた、ガキくさい、幼稚な、児戯の、子供っぽい、お子様な、おこちゃまな ［形容詞］［ネガティブ］食べ物が未熟な、青い、若い ［類義語］lcs、ɒɪebeeb ［反意語］benʃ ［レベル］2 ˩0: 制 ɒcbɪ/ʃe（ガキっぽい）→ ɒcbɪʃ → cbɪʃ（子音脱落）→ cbeʃ（母音を c に近付けた）。語源を古 ɒcuɪ/ʃe と捉えることも可能。

cbel ɥɑnφe ［人名］イベル＝ユンゲ ˩0 ［文化］ (cɒəl ˥ˀ˥˥:ˀ˥ΔΔ) 数学者。アルナ大学の研究員。cɒəl ˥ˀ˥˥ に対数を発見。cɒəl ˥ˀ˥Δ˩ に常用対数表を作成。

chɔ,ɑu ˀɔˀ̀、ɟɪcn c/hɔ「固く見る→確認する」 赤のエクスプローダー

cXc,ɑu hɔˀ̀ɟ、ɒɪz

cɟɒɪ ［単位］イルマ。回路のインダクタンス。 ［レベル］6 古 :cɟɒɪ。元は ccɟeɒcɟə（電気変化）だろう。 ［語法］ 電流が毎秒 1 イーヴァの割合で変化するとき 1 イレットの自己または相互感応による起電力を作るような回路のインダクタンスのこと。ヘンリーと比較。

cɟɪ ［化学］良導体 ［レベル］4 ˥ˀ

cɟcɟ ［天文］レーザー ［レベル］3 ˩˥:cɟeɟ.ˀ

cɟɔɟ ［化学］イオン ［レベル］5 ˥9: 制 :cɟeɟ

cɟɔɟʃɔˀɔ ［化学］イオン化傾向 ［レベル］5 ˥L

cɟɔɟɟɪɟ ［化学］イオン化列、イオン化系列 ［レベル］5 ˥L

cɟɔɟɟɪlcɪ ［化学］イオン結晶 ［レベル］5 ˥L

cɟɔɟɥeuɟɪn ［化学］イオン反応式 ［レベル］5 ˥L

cɟɔɟlɪbɪ ［化学］イオン化エネルギー ［レベル］5 ˥L

cɟɔɟɪɟˀ̀ ［化学］イオン結合 ［レベル］5 ˥L

cɟɔɟeɒ ［化学］電離 ［レベル］5 ˥L

cɟɔɟeɒɪsɪ ［化学］電離度 ［レベル］5 ˥L

cɟeʃ ［単位］イレット、電圧 ［レベル］3 古 ［語法］ 導体の 2 点間に 1 イーヴァの定常電流が流れていて消費電力が 1 ルーヴであるときのその 2 点間の電圧。ボルトと比較。

cɟeʃcɟ ［魔物］イレティス（雷竜）: 第五十一天 : 雷の衛天 ［レベル］5 ˥L:μcɑcɪ/ɟeɟen/ɒel:cc μe/ɑɟeʃcɟ ［文化］ 雷属性の飛竜。白い肌で、鱗はゴツゴツしていない。そのせいで一瞬鶴っぽく見える。一般に知能は高く、孤高な性格。ヒュート国で飼いならされる飛竜のルーツはこのイレティス。 ［成句］ ʃe ɪlˀ cɟeʃcɟ ɟɪ ɑcɪɟ 産まれぬ竜を数に入れるな : 捕らぬ狸の皮算用

cɟeˀ̀ ［娯楽］スーパーボール ［経済］乱高下。株価がスーパーボールのごとく上下動することから。ɟɒ までは ɾlʃe と呼ばれた。 ［レベル］3 ul;cɟeɟ/φeˀ̀. イレス神が角度を変えながら急速に移動することから。 ˩˩

cɟeɟ ［サール］イレス ［魔法］召喚魔法イレス。イオン砲で敵を攻撃する。 ［レベル］5 ɟeɟen: 古 ［文化］ 青と赤の 2 色の球の形をしたサール。2 つの球が絡まったときに現れる金色に輝く電気の紐の間からイオンを利用した大砲を放ち、敵を倒す。このイオン砲の威力は大きいが、連続がきかない。

cɟeɑ ［天文］カストル ˥L:μcɑcɪ/ɟeɟen/ɒel ［文化］ ɑɪcɟe

cɟeəɟ ［人名］イレウス ˩0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ˥ˀ˥0:) メルテナ後期のカルマント派教皇。

cz,ɑ ɑˀ̀ɟ

czˀɔ ［単位］イズコ ［レベル］5 ˩˥: 古 lccz/ 古 ˀɔue ［文化］ ɪnˀɔ

cznɪ ［形容詞］革新的な、画期的な、斬新な、急進的な ［反意語］ɔɔɟɪɟ ［レベル］3 ˥L:czɒ/nɪ

cznɪʃc ［名詞］斬新性、斬新さ ［レベル］3 ˩˩

czɒ ［政治］革命、革新 ［動詞］ɥəl（旧状態）を ɪ（新状態）に革命する、革命する ［レベル］4 ˥ˀ: 制 : 古 :czɒcɥə czɒcɥə:czɒcɥə ［用例］ ɒcɟɔˀ̀ czɒɪʃ ɪʃcˀ̀ɟɟ. ミロクはアトラスを革命した。 ʃə eʃ ɥeʃ ɪlˀ̀ lel dɟɒɪn en ˀ̀ˀ̀lej dɟɒ eʃ ɒɔɪ uɥɒn ʃɪcˀ̀ ɑcɪ ɟcl uecn ˀɔˀ̀ɟeʃ czɒ ɥənen ɒcɟɔˀ̀c zɒ ɑɪ. ləəɟ en ˀ̀ˀ̀lˀ̀ ɟcl ɪɒcʃc ˀ̀lʃ ɥəu ucˀ̀ɟ 一番問題なのは日本人がこの国が既に崩壊していることに気付かず、世界がミロク革命のような革命で良くなることにすら気付いていない点だ。痛い目見るまで革命の大事さに気付かないのか？

czɒɪn ［政治］革命家 ［レベル］4 ˥L: リディアの書

czɒcɥə,ɑu czɒ czˀ/ɒcɥə

czɪl ［医療］ばいきん、バイキン、ばい菌、黴菌、雑菌 ［類義語］ɑczcɪ ［レベル］2 zφ;ɑɪczɪcl ɪc.ˀ. ˥ˀ ［語法］［文化］ 人間の意図に反して増殖した微生物（特に有害な細菌や菌類）の総称。一般人はウイルスもここに入ると思っている。雑菌とばい菌の区別はない。 zφ では既に lcczc の魔法によってその存在が認識されていた。

czɔˀ̀,ɟzɑ jcnɟ c/ɟɔˀ̀ɟ「見させる」

czeɒ ［政治］朝廷、朝 ［レベル］4 zφ;czɒcɥə（革命）.ˀ. ˥ˀ

csc,ɑ ʕ elʃ;scs

coɪ ［形容詞］左右対称な、シンメトリー ［形容詞］性格がまっすぐな、一心な、一本気の通った、真っ正直な、真正直な→ ɪlce ［反意語］ɪlceʃ ［レベル］3 ɑ;c/oɪ 古 :coɪ。c は目だが、右や左といった意味があり、oɪ は手を意味する。これは本来は両手を意味する語で、そこから両手を合わせて左右対称であることを示すようになった。 coɪ:coɪ ［語法］ ɪlce

coɪˀ̀ɟɟ ［数学］二等辺三角形 ［レベル］3 ˥L

coɪɛnˀ̀leed ［魔法］［化学］光学異性体、鏡像異性体 ［レベル］6 ˥L: 左右対称な異性体。

cl ［代詞］すべて、全員、皆、すべての ［レベル］1 ɑ;e（常に） 古 cl:cl:ˀləʃɔˀ̀l: ［用例］ cl lec すべての本 cl ləɟɪʃ. みんな来た。

cl(J) ［接尾辞］薬 ［類義語］dcʃɪ μɑ;ʕɟzɑ「薬」 ˩˩˥

cl,ɟzɑ ɪ, ˀɔɟ ɪl,ɑu.ˀ

cl,ɑ cl e

cl,ɑu cˀ̀

clʃ ［名詞］影響 ［動詞］ɥəl という影響を ɪ に与える、影響する ［法副詞］～してある。影響相の副詞。 ［レベル］3 ˥ˀ: 制 :cl;ʃcʃ（間接有縁） ［用例］ ɪɪ ɒcleɟ clʃ cʃen ɪɪɪl ɔn ˀləcɔɒ. 彼女は食べ方が母親の影響を受けている。 ɪlləəʃel, lə eʃ ˀɔ ɪɪn ˈˈclʃɪnɑ ɪl ɪn ɔn ɪˀ̀n. セレンさんは間違いなく、私の考え方に影響を与えている人の一人といえる。

clʃncɑ ［言語］影響相 ［レベル］3 ˩0

clʃueʃ ［言語］縁語、ゆかり語、えん語 ［レベル］4 ˩0 ［語法］ ɔnueʃ のひとつ。elʃ と ɟɪɪl は対になるが、ɪɪn と ɪɪnʃje は対になる動物ではない。ɪɪn の場合、対応するのは神なのか悪魔なのかヒトなのか、何が反対語になるか定めづらい。しかしこれらは外見上よく似ているので連想されることが多い。反義語ではないが関連はあるという場合にゆかり語とする。

clʃenuc ［名詞］影響力 ［レベル］3 μɑ;/ ˩ˀ

clʃəl ［代詞］すべてのもの ［レベル］2 ˥L

clʃəleʃ ［代詞］すべてのものの ［レベル］2 ˥L

cl̀ ［普通動名詞］冒険、探索、散策 ［動詞］ɥəl（場所）を冒険する、冒険する ［レベル］2 ˥ˀ: 制 :c bɪɒcˀ̀e（敢えて危険を冒す）

cl̀ ʃˈɟɥˀ̀e ［娯楽］アルシェの冒険 ［レベル］2 ˩˥ ［文化］『スーパーマリオ』に相当するゲーム。

clɪnʃ ［歴史］皇帝、エンペラー、天皇、皇帝、帝、みかど、イルカント ［類義語］ɑəlɔ ［レベル］3 zφ;/ ˩0: 皆が賛美を歌うような ［文化］ ɥəəɒɪ ˩˥˩0 にシフェランがヴェルディアン帝国とともに作った称号。王の上とされる。

clɪnʃɪˀ̀ɟ ［政治］選帝侯 ɟɒ;/ ˩˩˥

clɪɑ ［政治］全国、万国 ［形容詞］国際的な、インターナショナルな ［レベル］2 ˥L ［語法］「国際的」に当たる言葉がアルカにはない。全国的ないしアトラス的で国際的を指す。

clɪɑɪ ［政治］国際連合、国連、国際連盟 ［レベル］4 ˩˩:「全国旗」 ［文化］ 第二次世界大戦後にできた機関。戦勝国が常任理事国を務めるシステムだったが、その後敗戦国からも大国が常任理事国入りした。地球同様、全国家が参加しているわけでない。

clɔɟˀ̀əueɥ ［名詞］悪口雑言、罵詈雑言 ［レベル］3 ˩˩:「全方向悪口」

clɔɟˀ̀cl ［名詞］試行錯誤 ［レベル］3 ˩˩

clɛɪ ［地名］イルケア ［文字］ヴェネチアン。セリフの一種。イルケアでよく使われた。 ［レベル］3 古 : すべて行くが原義 ［文化］ ルークスの南、ワッカの北の交通要所。アルバザードほぼ中央の少し南よりにある。語源の通り交通の要所で、国のへそとなっている。首都アルナは北寄りなので、アルバザードはイルケアを中心に東西南北を決める。重要なのは南北で、東西はさらに詳しく述べるときしか用いない。北部はアルナ、アルシア、ドフレットなどがある。南部はワッカ、カテージュなどがある。

clɛɪɟ ［被服］チュニックスーツ ˩˥:clˈɛɪ/ 古 ɟɪbe

clˈɪɒ ［名詞］満場一致 ［レベル］3 ˩˩

clˈɪc ［美容］オールバック ［レベル］4 ˩˥

clɟ ［形容詞］直接的な ［反意語］ɑɥcɟ ［レベル］3 古 :ɔɟɥn では直接は ɪlɟ。アルシェでは直接は clɟ。その後アルシェがソーンに譲る形で clɟ を間接に変更。 n 対ができる前のことだから、n 対としてではなく。 ［用例］ ɥen ˈle ɑeˀ̀lɪ cˈɟeˀ̀. 直接学校に行ってくれ。

clɟˀ̀eu ［言語］直喩 ［レベル］5 ˥L

clɟɒɪne ［生物］内分泌 ［レベル］5 μʃ;/。導管を経由せずに直接、血液中や体液中に分泌されることから。 ˩˩˥

clɟɒɪnedɪnʃ ［生物］内分泌系 μʃ;/ ˩˩˥

clɟɒcnɪl ［政治］直接民主制、直接民主主義 ［レベル］4 ˥L

clɟɑclɑɪc ［医療］直接灸、点灸 μɑ;/ ˩˩˥

clɟφclɑ ［経済］直接金融 ˥L

clɟɥeluеʃ ［言語］直接目的語 ［レベル］6 ˩0

clɟɪlʃ ［名詞］毎年 ［レベル］2 ˥L:ɟɔnɔˀ̀hcnɔˀ̀c ［語法］ ʃɪʃ ɟɪlʃ ということも多い。

clɟeʃ ［生物］膏肓 ［レベル］6 ˩˥: 皆殺し ［成句］ cl ɟeʃ ɥə cɒ leun ˀlənɪ clɟeʃ 病が膏肓に来れば皆死ぬ : 病膏肓に入る

clɟeɥ ［企業］イルセル ［レベル］3 ˩˥ ［文化］ 朝日新聞、読売新聞に相当する企業。

clɟeɥˀ̀ ［親族］血族 ［レベル］5 ˥L:μcɑcɪ:ɟɒɪlelʃ

clɟel ［名詞］毎日 ［レベル］2 ˥L ［語法］ 副詞句として「毎日」というときは、ʃɪʃ ɟel ということも多い。 ［用例］ ɪn nɪ bəənɪ ɒɪn clɟel eʃ ˀɔˀ̀. 毎日が同じでつまらない。 ˩ɪ ˀlənɪ clɟelel{ cɒ clɟel}. 彼は毎日来る。

clɪnɪlcɥcɟ ［音楽］交響曲、交響楽、シンフォニー、シンフォニア、イルナシリス ［レベル］4 μɑ:ɒclɑ;cl/nɪ/clcɥcəɟ「皆の心を反映する」。一丸となってひとつの楽曲を演奏するというところからミルフがそのように名付けた。 ˩ˀ

clɒcɪn ［名詞］［ネガティブ］無職、ニート、ＮＥＥＴ、自宅警備員 ［類義語］ɒclɪb ［レベル］3 ˩˩:「毎日が日曜日」

cluɪ ［悪魔］イルヴァ ［歳時記］雷曜日。週の第 6 日目。 ［音楽］ラ ［組み数字］6 / 7 ［レベル］2 ɒelʃcɪ 0:cluɪ;e ɟɔɟɥn: アルシェ形は ccɟɪl で、ccɟɪl の元は ccɟɒɪl（雷の者）。ccɟɒ は雷。 ［文化］ ソームの 6 番目。雷を操る。雷のように立った髪の毛が特徴的な男。全身に電気を帯びている。中肉で筋肉質な裸体。お調子者。よく笑う。元気。激しやすい性格をしている。イルヴァの発言がきっかけとなり、ヴァステが開戦した。

cluɪɒɪuc ［化学］コバラミン μʃ;/「コバルトのビタミン」 ˩˩˥

cluɪφɪɪl ［気象］雷鳴 ［レベル］3 ˥L: イルヴァの叫び ［用例］ cɒ nəɟne, ccɟe ɪʃ ɟɔɑ, ɥɪn cluɪφɪ ɪl ʃɪn. 夜、稲妻が走り、雷鳴がとどろいた。

cluɪdcnɑ ［魔法］コバルト針 ［レベル］6 ˩˥ ［文化］ ɑɔlɒcɥə

cluɪɟed ［気象］稲光 ［レベル］3 ˥L: イルヴァの点滅 ［用例］ ɪn nɪʃ ueɒ ɒcl cluɪφɪɪl ɥənen ɟcɪ ˈlcen cluɪɟed. 稲光の後のごろごろいう雷鳴を聞いておじけづいた : この ɟcɪ は太鼓のこと。

cluɪlcl ［化学］コバルト ［レベル］4 ˥Δ: 制

cluɪeɟˀ̀ ［気象］激しい雷雨、サンダーストーム ［レベル］3 ˥L:μcɑcɪ:ɟɒɪlelʃ ［用例］ cluɪeɟˀ̀ ɑɔʃ ɟcl ɟɔɑ cɒ ɟɪɪɒ ʃel senʃdɔɟˀ̀lˀ̀ˀ̀. 天気予報で午後激しい雷雨があると言っていた。 ɪn nɪʃ cluɪ eɟˀ̀ ɟcl ɟɔɑ. 激しい雷雨が降りそうな天気だった。

clucˈ ［名詞］満身創痍、ズタボロ。ʃcˈ. ［レベル］3 ˩˩ ［用例］ ɪn ˀɔˀ̀lʃcˀ̀ μɪ ɔˀ̀ clucˈ. 満身創痍で帰宅。

cluеʃ ［言語］語彙 ［レベル］5 ˥L ［語法］ 日本人は語彙を単語の難しい言い方だと思っているものが多いが、この命名だとアルカでは一目瞭然。 ［用例］ cluеʃ ɟɔɟ たくさんの語彙、大きな語彙。単語をひとつずつ積み上げると塔のように堆くなることから。 cluеʃ hɪcʃ 貧弱な語彙

cluеʃɑel ［言語］語彙論 ［レベル］6 ˥L

clɑɪ ［医療］敗血症 ［レベル］6 ˥L:cl/ɑɪcz

clɑɪˀ̀ʃc ［経済］全面高 ［レベル］6 ˩˩

clɑeɟ ［人名］イルフェル 古 :c（右の）/lɑeɟ（ルフェル）。男は右に立つことからこちらが父親。 ［文化］ アルフレインとマルテの父親。シオンもイルフェル自身もマルテの父親であることを知らない。妻のエルフェルにアルフレインを設ける。

clɑeɟ(J) ［経済］全面安 ［レベル］6 ˩˩

clɑelcɟ ［名詞］完全無欠 ［レベル］3 ˩˩:「十善すべて揃った」

clɒ ［名詞］全体、部分に対する全体、すべて、全て、全部、総合 ［副詞］全体的に ［反意語］ɪɪcˀ̀ ［レベル］2 ˥L:cl ［語法］ cl はすべて。clɒ は部分に対する全体。 ［用例］ sɪn ɪʃ eɟdʃe clɒel. 全体的に曇っている。

clɒˀ̀ɪɒc ［名詞］総合科学 ［レベル］4 μɑ;/ ˩ˀ ［語法］ 物理化学生物などを広くしばしば浅く学ぶ学問のこと。

clɒˀ̀eu ［言語］部分から全体への提喩、シネクドキー ［レベル］5 ˥L ［語法］ zɪɒ ˀlənɪɥ（足が来る）は「人が来る」の意味なので、全体を部分で比喩している。この逆が ɪɪcˀ̀ˀ̀eu。

clɒlɔne ［数学］標準偏差 ［レベル］6 ˥L:ɟeɟen:cl（すべて）でなく clɒ（全体の）

clɒnɔl ［数学］母集団 ［レベル］5 ˥L

clɒnɔˀ̀ɪlˈ ［数学］母数 ［レベル］5 ˥L

clɒɑcʃ ［経済］売上高 ［レベル］5 ˥L

clɒɑɔɪl ［経済］総資産 ［レベル］5 ˥L

clɒφɪb ［経済］売上原価 ［レベル］6 ˥L

clɒdɪɟe ［料理］全粒粉 ［レベル］4 μɑ;/ ˩ˀ ［文化］ dɪɟe

clɒdɪlɒ ［政治］公共の福祉 ［レベル］4 ˥L: 全体を優先 ［文化］ 歴史的にアルバザードは個人主義だが、有事のときは急激に公共の福祉を優先させる習慣がある。

clɒɪ ［経済］有価証券、証券。特に区別なし ［レベル］5 ˥L:φcl/ɒɪɟ。φ から始まるのが多いので避けた。

clɒɪɟʃ ［魔法］全体魔法、全体かけ ［レベル］4 ˩˩

clɒɪɟˈ ［経済］総資本 ［レベル］5 ˥L

clɒc ［ユマナ］イルミ ［レベル］6 古 ［文化］ リーザの日記。かつてその一部をリディアが親子喧嘩の際にアシェットにバラまき、リーザが激怒した。

clɒcnɪ ［政治］結社 ［アクセント］clɒcnᵗʰ ɟzl ʃʃ̩

clɒɲɔʃ ［政治］イルミロク ［名詞］全知全能。すべての神というところから。 ［レベル］3 古 ［語法］ ミロク＝ユティアが創設したアルティス教系政党。メル暦 ʔ10 年頃創立。ʔ1ᵗʰ 年の与党勢力ミナレットと当時野党であったアルティス教系政党の腐敗が著しくなったことにより、唯一のまともな政党として注目を集め、ʔ10 年の選挙により与党となる。その後野党を粛清し、選挙制度を廃して独裁政権を握った。

clɒc ɪ̀lcnɪɟ ［人名］イルミ＝アキナス ［レベル］6 ʃ0 ［文化］ (cɒəl 1ʃ9L:ʔᵗʰΔ) ラグナロク校の卒業生で、ワゼット等の発明者。歯車式計算機を発明するが、国家反逆の罪を着せられ処刑。

clɒəj ［名詞］イルムス ［レベル］3 1L:jɒɟen:cɒəl/ɟeɾí（イムルの歴史書）［語法］ メル 1L 年にセレンが「青本」やリディアの指示を反映して作成したアトラスの歴史書。はじめは青本の変更点を口頭で聞いていたが、まどろっこしくなったのでリディアが青本を元に執筆。その後、セレンが修正を加える形で書きなおした。

clɒc ［動詞］ɥəl にあこがれる、あこがれる、憧れる ［名詞］憧れ、憧憬 ［類義語］ɟccnɪ ［レベル］3 ʃ0: 古 ʃ\cl/ɒcɪ（幻想を抱く）［語法］ 人に対しては、同性の場合尊敬を持って「彼のようになりたい」と思うこと。異性の場合、「とても自分では釣り合わないが、恋心を抱きうる相手だ」と思うこと。物に対しては「手に入らなそうだが欲しい」こと、「恩恵や影響を受けたい」こと。出来事に対しては「なりそうもないが起こってほしい」こと。 ［用例］ ʃɒccɟ clɒc ləɾcɪ. クミールはルティアに憧れている。

clɒclɪz ［地学］［歴史］シルル紀 ［レベル］6 ul;/ ʃʔ ［文化］ φɪɪueɑɐɒe

cldɪɟɟɔ ［感動詞］大丈夫です、そうです、そうだ、平気 ［レベル］1 ɑu;cl/dɪɟɟɔ「すべてそうである」 赤 ［語法］ dɪɟɟɔ の強意。肯定文だと大丈夫ですやそうですの意味。疑問文で使うと「～でよろしいでしょうか」という確認の意味になる。意味が強いだけでなく、ɟɔɔnɔ ɒ ɟɔɔnɔɥən というような丁寧さも兼ねそろえている。

cldc ［植物］ローズマリー ［レベル］3 lɪ̀ʃɾ

clbɪlʃ ［物理］全反射 ［レベル］4 1L

clbɪlʃʃcʃ ［物理］臨界角 ［レベル］5 1L

clhɪnɔc ［人名］イルハノイ ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ hɪɾl

clɥɪnʃe ［企業］イルランテ ［レベル］6 ʃ1 ［文化］ 三井不動産に相当する企業。

clzɔɒɪ ［化学］ペルオキシ基 1L

clzɔɒc ［化学］ペルオキサイド ［レベル］6 1L

cllɪn ［代詞］全員 ［レベル］2 1L

cllɪnʃ ［代詞］全員の ［レベル］2 1L

cli̇ ［数学］右下がりの斜線 ［反意語］ɪleɑ ［レベル］3 ʃ0:c lɪnʃ（左から）

cli̇l ［経済］棚卸し ［レベル］5 1L:cl/ɪlʃ（すべてを数える）

clcɟ ［名詞］いたずら、悪戯 ［動詞］ɥəl にいたずらする、いたずらする、悪戯する。dcld と同じ格組。 ［レベル］2 1L:ɟcɑcɪ:lcleɟ ［語法］ dcld より少したちが悪い。相手を困らせてやろう、そしてその反応を見ようという意図。

clcɪ ［形容詞］唯一の、たったひとつの、たった一人の、唯一無二 ［類義語］hɔʃ ［レベル］2 古 ɟɔpɪn ［語法］ hɔʃ は客観的に「唯一の」という意味。clcɪ は「たった一人の弟」のように、やや心情が籠った言い方。 ［用例］ ɒcɪɪ clcɪ 一人娘 ɥəlcɪn clcɪ 一人っ子 "ɥɪ. lɪɑɪn ləʃ ɑce, ɥəl ɑce clcɪ l'eʃ lecz ʃcɟee.「そう。創造主はうそをついたんだ。たったひとつの小さな嘘を。

clcɪɒɥəlɪle ［宗教］唯一神教 ［反意語］ɑcɒɥəlɪle ［レベル］3 ʃ0

clcɪɒcɟɔʃ ［宗教］唯一神、一神 ［反意語］ɑcɒcɟɔʃ ［レベル］3 ʃ0

clcc,ɑ L elʃ;lccs

clccɟe ［エルト］イルイーレ ［魔法］召喚魔法イルイーレ（ラムウ）。雷を起こして敵を攻撃。 ［レベル］4 古 : すべての雷 ［文化］ 雷をつかさどるエルト神。白いローブをまとったひげの長い仙人のような姿をした老人。長い杖から雷を落とす。

clccɟen ［地学］藍晶石 1L:clccɟe/ɟen ［文化］ イルイーレの魔石。藍晶石、紅柱石、珪線石ともに同じ組成。

clcɔn ［名詞］版面→ lec ［レベル］6 ɟɒ;clcɔn,ɟzl ʃʃ

clcɔn,ɟzl eel ɟcɪı/lɔnʃ

c lɔcʃ ［名詞］社説 ［レベル］5 1L ［文化］ アルバザードでは、新聞の「会社より」欄のこと。ニュース記事と一緒にアンセに配信される。 ［用例］ ɪn en ɪ̀ɪlɒɪ cʃ̩ c lɔcʃ. ほとんど社説を読まない。

cle ［地名］イレ ［経済］証券取引所 ［レベル］5 ʃʃ:μcɑcɪ:「clɥɪ の子」。散々リディアもセレンも株に手を出しておいて今までアルカで決めていなかったということは、完全にアルカと金稼ぎを分離していたことの表れだろう。ʃʃ によく使う株関連の用語を幻英から転記。ただしなぜか証券取引所などがなかったため、これについてはリディアが創作。 ［文化］ eeʃ ＜町＞ 中央アルナ市北東部に位置した町で、ʔʃ̩ にできた。町長 cle の名から来ている。交通の便から μʃ̩ で金融街となり、現在はウォール街に相当する場所に発展している。現在は統廃合を繰り返した結果、ul で μɥəɟcɪn 市に吸収された。リュシアン市内の町名として今も残るが、現在では証券取引所の意味で用いられることのほうが多い。 ＜取引＞ 前場は９：００から１１：００。後場は１２：３０から１５：００。

cleʃ ［代詞］皆の、全員の、全部の ［レベル］2 ʃ0:jɒɟen/μcɑcɪ:cl/ʃe

cleɟʃcɪ ［名詞］津々浦々 ［レベル］4 ʃʃ

clen ［経済］［ランドマーク］イレン証券取引所 ［レベル］5 ʃʃ:cle/en ［文化］ cle 東証、東京証券取引所に相当する場所。

cleucʃɪ ［名詞］総当り戦、グループトーナメント、リーグ戦 ［レベル］5 μɑ;/「全員と戦うトーナメント」 ʃʃ̩

cleɟɥʃ ［名詞］老若男女 ［レベル］3 ʃʃ

cləɹlʃ cn c

cc ［言語］c の文字 ［レベル］1 ʃʃ̩: 制 ［語法］ 第２２文字目の幻字。２番目の母音字。

ccɟɔɟ ［宗教］神官 zφ;「見て行う者」 ʃʃ̩

ccnɪ ［サール］イーナ ［レベル］5 ɒel: 古 ［文化］ サールの少女。兄ナッシュを彼のフィアンセに奪われたくない一心で誘惑し、姦淫させる。このときイーナはナッシュと永久に一緒に居続けることを願う。が、エルトに２人は切り殺されてしまう。しかしイーナの願いが利き、２人の切り落とされた半身は互いにくっつき、cnl というサールになった。

ccuɪ ［物理］アンペア ［レベル］4 ʃʃ̩: 制 : 古 :ccμeucuc（電気の強さ）

ccɑɪ ［人名］イーファ ［魔法］イーファ（コメテオ）。時空を歪めて隕石を落とす時魔法。メルは異性魔王ジール戦で習得した。 ［組み数字］9／１１ ［レベル］3 古 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʔL̀ʔ9) ɥəəɒɪ ʔL̀ʔ9 アンダント、シルフィアとの間に息子 ccɑɪ を授かる メテの父親。ドゥルガの王アンダントの息子。ルーキーテを妻とし、ヴィーネとの和解を目指して異母兄弟のハーネを暗殺。後にルーキーテがウロに敗れると殉死した。

ccnɔʃ ［植物］マンゴスチン ［レベル］3 ʔʃ̩: 制 :ccɑcj から

ccnɔj ［エルト］イーディス ［レベル］3 ɒelʃcɪ ᵖʰʃ:ccnɔj;e μcɑcɪ: 古 : 外見は５歳時のメルがモデルになった ［文化］ ５歳程度の幼女の姿をしたエルト。妊娠を司る。長い黄色の髪の毛で、青いフリルの着いた可愛い洋服を着ていていつもにこにこしている。愛情で結ばれた、子を持ちたい夫婦を見つけると、妻の腹に走りこんでいき、腹の中に空気のようにすうっと入って消える。そうすることによって女は妊娠する。イーディスは苺が好きなので（モデルのメルが苺が好きだったため）、子を持ちたい妻は苺を食べることによって自分の腹の中にイーディスを呼び込もうとするようになった。リディアが苺を選んだのは妊婦がすっぱいものを欲しがるからというのもあるのだろう。イーディスはオトギリソウからできたパルテの娘で、オルトの助けを借りて生まれた。オルトに不敬を働いたパルテは不妊の罰を与えられた。それを許してもらおうとオルトを探している途中でパルテは毒蛇プティンに足を噛まれてしまう。パルテの兄カルファンは彼女の足を切り落とすと、その血がオトギリソウにふりかかった。パルテは足を切られたショックで死んでしまい、それにみかねたオルトがせめて娘を持たせてやろうといい、そのオトギリソウの根っこにイーディスを作った。

ccɑcjʃcɑl ［医療］流産 ［レベル］3 1L: 妊娠中はイーディス神が宿っていると考えているため。

ccɑcjɒɪlj ［普通動名詞］できちゃった結婚、でき婚 ［レベル］3 ʃʃ

ccɑcjcn ［植物］オトギリソウ ［レベル］4 ʃʃ̩: 制 :ccɑcjɒcnɪ（イーディスの花）

ccɑel ［人名］イーデル ［組み数字］8／１４ ［レベル］4 古 : 語源不詳。本名不明 ［文化］ 第４期３代アルシェ第８使徒。リュウの父親の妹といわれている。アルシェの資金調達の説明の際に必ずリュウの家柄が出てくるが、リュウの父母はアシェットに直接関係がない。そこで鎹として説明されるのがこのイーデルなのだが、リディアでさえ会ったことがない。

ccɑellcl ［化学］テルビウム 1Δ: 制

cchɪl ［人名］イーハル ʃ0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʔ0ʃ1:ᵖʰᵖʰʔ(ʔ1ʃʃ:ᵖʰᵖʰʔ)) カコ前期のヴェマ女王。 ɥəəɒɪ ʔ0ʃ1 クリウス、娘の cchɪl を授かる ɥəəɒɪ ᵖʰᵖʰʔ イーハル、ツェリン前線でまさかの戦死。ヴェマに衝撃が走る

cchɔ,ɑu ɟeʃe chɔ,ɑu の女性形 赤のエクスプローダー

ccμe ［気象］雷、稲妻、雷鎚、いかづち、雷槌 ［魔法］イーレ（サンダー）。雷の多段黒魔法。雷で敵を攻撃。 ［レベル］1 ɑ;e 先 ccμe:ccμe:lə bcleɔ:ɪuɪɟμ,μl(hɥ), eɟɪɟμl,ul ［成句］ ccμe ləɔ elɑ zɔɔ lɔl μɪɟ ɾi. 雷は同じ木に二度落ちない：同じ悪いことは二度ない。 ［用例］ ccμe lənɪl. 雷が鳴る。 ccμe ləɔl ʃ. 雷が ʃ に落ちる。

ccμeɟ ［人名］イーレス ［組み数字］6／１１ ［レベル］3 古 :μcɑcɪ:ccμe（雷）/ɟ ← ʃcɟ（人） ［文化］ アルシアの６番目。雷の魔法の大成者。男性。

ccμeɟ uɪɒɪ ［人名］イーレス＝ヴァマ 1L:clbəɟ:μcɑcɪ ［文化］ アルティル期の建設庁長官。メル２１５年にアルバ１６世による「アルナ再建令」が発令。インフラ事業を推進したイーレスだったが、メル２１７年に高官の息のかかった業者ばかりに受注を取らせたことで、メル２１９年に選挙制と民主主義を求めるミナレットに暗殺された。

cczel ［人名］イーゼル＝ルティア、イーゼル、イーゼル大臣 ［レベル］6 古 ［文化］ リーザの叔父。リュシオン王の弟。ルティアの大臣。

ccsɔj ［名詞］有効打、ヒット ［動詞］ɥəl に有効打を与える、有効打を与える ［形容詞］(ɪn で) 有効打を与えるような、非ストライクな ［ユベール］［運動］有効、技あり。柔道や空手やユベールなどの有効や技あり。 ［野球］ヒット ［類義語］ɾleeφ ［反意語］ʃμeɒɪ ［レベル］3 ɑu;ccμe/ sccʃ/ɟɔ「雷で引き裂くような」 ʃʃ̩ ［語法］ クリティカルでない一撃のこと。 転じて、好みなどにそこそこ当てはまること。

ccləə ［人名］イールゥ ［組み数字］１０／１５ ［レベル］4 ɪ̀ɪlɔ: 古アルカでの意味は「正義」。 ［文化］ メテの第１０使徒。

ccləəʃɔ ［地名］イールゥート ［人名］パールのアルカ姓 ［レベル］4 ɪ̀ɪlɔ ［文化］ メテの使徒イールゥの支配地。

ccləəʃɔ(ɹ) ［アトラスの国家］イールゥート ［レベル］4 ɪ̀ɪlɔ ［文化］ 面積：9ʔ9ʔᵖʰ.9ᵖ9L̀ʔ9 ɪɒ ɹ

ccləəʃɔʃcɪle ［地学］イールゥート海流 ɹʔ

ccləəʃɔcɑɪ ［地球の星座］［ユマナ］インディアン座 ʃʃ̩ ［文化］ cɑɪ

cclləəlcl ［化学］カリホルニウム 1Δ: 制

ccɔ ［感動詞］どういたしまして ［レベル］2 ɑ ʃʃ̩: 制 : 古 :ccɔ,ccɔn

cɔ ［名詞］両方、双方、両側、両面 ［形容詞］両方の ［反意語］ɪɔl ［レベル］1 ɑu;ce.cɟʃ ce:cɔ ʔʃ̩: 制 :ce: 古アルカでは「両方」は ce。ce は「両目」の意。 ［語法］ ２つあるもののうちどちらもという意味。 ［用例］ cnɟ cɔ 両目

cɔʃced ［建築］管渠、かんきょ。開渠と暗渠の総称。 ［レベル］5 μɑ;/ ɹʔ

cɔɟ ［動詞］［非言語］ɥəl に両膝を地面につき L 字型の姿勢を取らせる、膝立ちする、膝をつく ［レベル］2 ʃ0:ɒelcɑcɪ lceμ:cɔ/ɒclʃ ［成句］ cɔɟ ɥən ɑeμɑen フェルデンのように膝立ちする：首を洗って待っている。ルフェルに殺されるときフェルデンが泉のほとりで膝をついて祈っていたことから。

cɔɟel ［魔法］双魂、イオセル ［レベル］5 ʃʃ:cɔ/jeleɟ ［文化］ ɒɪlʃccɪ

cɔn ［感動詞］どういたしまして ［レベル］2 古 ［語法］ ccɔ より軽い。

cɔn(ɹ) ［単位］イオン ［レベル］5 ʃʃ:「両方の」 ［文化］ ɪnɪɔ ɹ ulɪn のこと。天秤が壊れていないか調べるときに両方の皿に ulɪn を乗せたことからきている。やがて ɹ ulɪn よりも日常生活で使い勝手の良い重さとして（日常生活 ulɪn は軽すぎ、数が多くなりがち。かといって bɥəl ɔn だと逆に重すぎるため）、古代の重さの最頻単位となった。

cɔuclɑ ［論理］［哲学］二律背反 nɑ;cɔ/uclɑ。正命題・反命題のどちらにも証明できる矛盾の一種であることから。 ［語法］ 正命題、反命題のどちらにも証明できる矛盾・パラドックスのこと。しばしば勘違いされるが単なる矛盾・パラドックスではない。

cɔɑμec ［アイテム］両手剣 ɟɒ;/ ʃʃ̩

cɔɒɔzɔɒ ［医療］両手挿管法。鍼の。 μɑ;/ ʃʃ̩

cɔhcɒ ［生物］［形容詞］両性、両性体、アンドロギュヌス、アンドロギュノス ［レベル］5 ɹʔ

cɔɒcl ［医療］両性愛、バイセクシャル、両刀 ［レベル］4 μɑ;cɔhcɒ/ocl ɹʔ

cɔl ［音楽］全音 ［レベル］5 1L:cɔ

cɔɪlɑɪɪl ［天文］金環皆既日食 ［レベル］5 ʃ1

cɔeμɪʃ ［化学］両性。酸にも塩基にも溶ける。 ［レベル］5 1L

ce,ɑ cɔ、jɪnl c/e 原義は「右目と左目」で、cɔ はその異形態。cɔ は既に ɑu に存在した と推論される。その論拠は単位の cɔn に見られる。語としては ce のほうが古いため、cɔ が先にあって 1ilce などに使われる ce が lj_ɪμ でできたというのは誤り。

cel ［名詞］カッター ［レベル］2 ʔʃ̩: 制 :celcl（片方の刃）

ceɑμec ［アイテム］バスタードソード ɟɒ;ce,ɑ/ɑμec。グレア以降、鎧が進歩して、それに対抗するためにできた片手でも両手でも用いることのできるハイブリッドな剣。 ʃʃ̩

celɪ ［動物］オヒョウ、おひょう ［レベル］6 ʔʃ̩: 制 :celc

celc ［動物］カレイ ［レベル］4 ʃʃ̩: 制 : 古 :celc（右目の魚）

ɔ

ɔ ［接続詞］～と、～かつ～、と、かつ ［論理］連言、強連言、同階層連言 ［類義語］ɔnʃ ［レベル］1 ʃʃ̩: 制 : 恣意 ::e, enʃ:ɔ,ɪlʃ ［語法］ 名詞と名詞、形容詞と形容詞、動詞と動詞、目的語名詞と目的語句など、同じ階層の語句同士を結ぶ連言。 「ɔ l ɔ l と書いて "ɟej ləʃ ɔ lɪl" と読む。ɔ を読むのは最後だけになる。 動詞が並ぶと書き方が少し変わる。「食べて飲んで寝た」の場合、ləcʃ, lenɪʃ, ɒɔlɪʃ と書いて "lacʃ lenɪʃ ɔ ɒɔlɪʃ" と読む。 語源欄などでは / を ɔ の代わりに使うこともあるが、本文中では稀。 特に数字の中では使わないほうがよい。数字と組み合わせると / は割り算なので、絶対に和算のつもりで使わないことを。 母音の前では ɔnʃ になる。ɒccl ɔnʃ ɪdleɟ。 黙字の場合でも書記上は ɔnʃ の必要があれば ɔnʃ とする。 ɒccl ɔnʃ ɪdleɟ ɔ lcjcl において読むのは最後の ɔ だけ。 ɒccl ɔ lcjcl ɔnʃ ɪdleɟ の場合、読むのは最後の ɔnʃ だけ。

ɔ(ɹ) ［数学］ɑɔl の略。数式で使う。＋記号に等しい ［レベル］2 1L

ɔ,ɑ ɒɥəl e

ɔ,ɪlʃ e

ɔʃcl ［論理］内包 ［反意語］ɑɔnelʃ ［レベル］5 ʃ0:ɔ)/ʃcl（ともに持つ）

ɔʃel ［形容詞］流暢でない、ただたどしい、ぎこちない ［反意語］elɔɟ ［レベル］3 @ 1L ［語法］ 同じぎこちないでも、cɟ̩ は物がつっかえたり、心が気まずい様子。ɔʃel はつまっていなくても物の流れがガコガコしていたり、喋りがただたどしいこと。

ɔl ［格詞］～とともに。具格、道具格。 ［格詞］（装身具などを）身に着けている ［格詞］（目や髪などを）している、持っている、有している ［反意語］leɑ ［レベル］1 ʃʃ̩: 赤 :ɔ)lɔ ::ɔ)ɔ,ɪlʃ ［用例］ lɪ ləʃ ɔl ʃcɪn. 彼は恋人と行った。 ɑcɪn ɔlen ɪɪɟɪb よそ行きの格好をした少女 ucl ɔlen cnɟ ɟɔμeʃ 青い目の男 czɒ ɔlen φɪμu 痛みを伴う改革

ɔlʃ ［動詞］ɥəl を ɪ に伝える、伝える、伝言する、教える、(あくびが) うつる、告げる ［名詞］伝言、メッセージ、連絡 ［物理］伝播 ［レベル］2 ʃʃ̩: 制 : 恣意 参考 : 古 :heɪı（手紙） heɪ:heɪ ［語法］ ＜ɔlʃ と leɪn＞ leɪn は情報やデータが相互に往来する様を示す。ɔlʃ は片方からもう片方に情報やデータを送ること。 ［用例］ ɪn ɔlʃ uɪn ɪ̀n ɪ lɪ lc ɟɔɔʃ. 来週彼に真実を伝えるつもりだ。

ɔlʃaeɟl ［名詞］マスメディア、伝達媒体 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɟbɪlelʃ ［語法］ 新聞、テレビ、雑誌などの総称。これらはいずれも何らかの媒体（紙だったり電気だったり）だが、いずれも情報の伝達のため使われる。そのため ɔlʃaeɟl という。

ɔlʃμɪɔdɪnɑ ［生物］m R N A、メッセンジャーＲＮＡ μf;/ 核外のリボソームに伝達することから。 ʃʃ̩

ɔlʃɪμ ［物理］導電部 ɹʃ

ɔlʃɔ ［物理］信号 ［レベル］3 ɟ1:ɔlʃ

ɔlʃɔlɒ ［政治］共和、共和制、共和政治、共和国 ［レベル］4 1ɱ: 制 : 共に統治する

ɔlʃe ［動詞］ɥəl に ɔl と随伴する、随伴する ［シェルト］随伴 ［レベル］4 μɑ;/ ɟʔ

ɔlʃ ［名詞］取り分、分け前、分担、担当分 ［格詞］～につき ［レベル］3 1ɱ: 制 : 恣意 ［用例］ʔ0 ɔlʃ φɪl １００個につき３０個

ɔlʃlɔʃ ［数学］パーミル、千分率 ［レベル］5 1L

ɔlʃφɪl ［数学］パーセント、百分率 ［レベル］3 1ʔ: 制 ［語法］ 表記は％の文字と同じでよい。 ［用例］ʔ0 ɔlʃφɪl ３０％

ɔlʃφcl ［経済］配当金、配当 ［レベル］6 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［語法］ 印税や株の配当金などがこれに当たる。

ɔlʃφcllcɒ ［経済］インカムゲイン ［レベル］6 1L

ɔlʃɪɒe ［言語］具格 ［類義語］lɔnʃɪɒe ［レベル］6 ɟ0

ɔlʃen ［接続詞］ɔlʃ ［レベル］3 ɟ1

ɔlnɪ ［動詞］ɥəl（内容や相手）に共感する、共感する ［普通動名詞］共感 ［レベル］3 1ɱ: 制 : 一緒の心 ［用例］ɪn ɔlnɪ ſc. 君に共感するよ。

ɔlnɪn ［名詞］共感者 ［レベル］3 ɟɟ

ɔlɥəlɑ ［名詞］同僚の研究員、同僚、研究員 ［レベル］4 1L:lcɔn

ɔlɥəlcɪ ［アトラスの国家］オキュリア ［レベル］4 ɟʔ;μcɑcɪ

ɔlμɪ ［普通動名詞］同居 ［動詞］ɥəl に ɔl と同居する、同居する。動詞を μɪ にしても ɔlμɪ にしても意味は同じ。 ［反意語］leɑμɪ ［レベル］4 μɑ;/ 1L:pelcɑcɪ ɪlʃe

ɔll ［動詞］ɥəl を ɔl と共有する、共有する、わかちあう、分かち合う ［普通動名詞］共有、共通、共用、公共 ［形容詞］共有の、公共の、公共物の ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɔlſcl（共に持つ） ［用例］ɪn ɔllɪſ ejn ɔl hɪdn. 友達と傘を一緒に使った。 ɪn ɔllɪſ lɪl ɔl hɪdn ɥəl nɔȷ nɪ nɪə. 喜びを友達と分かち合いたかった。 cl ſclɪſ nɪl uɔl ɔll ɑce ɪ. cl lɥɪſ ɑce ȷcl μəl cɒ le ɔl cl lɪɑ ɔnl ɑce ȷecn" みんなは嘘を吐き合うことで安心したんだ。みんなが同じ嘘を言えば、いつかその嘘が本当になるんじゃないかって思ったんだ」

ɔllſμcɒ ［化学］共有電子対。状態でなく物質としての電子対。 ［レベル］5 1L

ɔllſlɪlc ［料理］取り箸、さえばし、菜箸、取り箸、取りばし、とり箸 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɔllȷɪſɪ ［地学］［歴史］［生物］共通祖先 ɑl;/ ɟʔ

ɔllɑeȷʃ ［数学］公約数 ［レベル］3 1L

ɔllhɪnſ ［数学］公倍数 ［レベル］3 1L ［用例］ʔ0 eſ ɔllhɪnſ e 1ȷ ɔ ɟ ɑɪ. ６０は１２と５の公倍数だ。

ɔllɥɪɒe ［名詞］ヴェリブ、共有自転車 ［レベル］3 ɑl;/ ɟʔ

ɔllɥɒelɪ ［名詞］共有自転車置き場 ［レベル］3 ɑl;/ ɟʔ

ɔllɪbɪȷſ ［名詞］同僚 ［レベル］3 ɟ1

ɔllμȷl ［電算］ＵＳＢ、ヨ社B、ユニバーサルシリアルバス ［化学］共有結合 ［レベル］3 1L

ɔllμȷlɒɪl ［電算］ＵＳＢメモリ ［レベル］4 ɪl;/ ɟʔ ［用例］eu ɔllμȷlɒɪl ɪ ȷɪc. パソコンにＵＳＢメモリをさす。 ɪn ȷe uɪn μφnɪɪſe ɑμeɒen μɪ lɪnɪ ſɪb φɪμſ ſ'ɔllμȷlɒɪl cɒ ȷeȷſ. 明日近居の家電量販店へヨ社B メモリの値段を調べに行く。

ɔllɒe ［音楽］伴奏 ［動詞］ɥəl を伴奏する、伴奏する ［レベル］3 1ɱ: 制 : 共に演奏する。

ɔllɒμl ［名詞］公衆風呂 ［レベル］3 1L:clɒəȷ:μcɑcɪ

ɔlɪ ［天文］宇宙、大宇宙 ［レベル］2 ɑ;ɔ/lɪ「距離のある場所」 1ʔ: 制 : 最も（広い）ところ ɔɪlɪ。 ［文化］ɑllſ

ɔlɪȷelɪlɪ ［料理］宇宙食 ［レベル］4 ɟɟ

ɔlɪle ［名詞］協会、アソシエーション μɑ;/「ともに協力して作る会」 ɟʔ

ɔlɪn ［名詞］宇宙人 ［レベル］3 μɑ;/ ɟʔ

ɔlɪɑel ［天文］宇宙学としての天文学、天文学 ［レベル］5 1ʔ: 制

ɔlɪs ［交通］宇宙船、スペースシャトル ［レベル］3 1ʔ: 制 l:ɔlɪ/sɪɒd

ɔlcnɔȷ ［組み数字］１３/１５ ［レベル］4 古 : 語源不詳。『カコ』から。小説アンクノットに記載。ueμs はルージュの名から後付けたもので、現実の『カコ』に出てくる名ではない。

ɔlcnɔȷ ueμs ［人名］オキニス＝ヴェルジュ ［組み数字］１３/１５ ［レベル］5 古 : 語源不詳。『カコ』から。小説アンクノットに記載。ueμs はルージュの名から後付けたもので、現実の『カコ』に出てくる名ではない。 ［文化］ メテの第１３使徒。

ɔlcnɔȷlcl ［化学］メンデレビウム 1Λ: 制

ɔle,ɑ ɥəe（そこ） ɔ（距離が）/le（行く→離れた）

ɔlen ［接続詞］ɔl。～を伴って。 ［レベル］2 ɟ1

ɔlel ［代詞］あんな場所、あんなところ ［副詞］あんなところで。el 不要、lɪ 不要。 ［類義語］ɥəe ［反意語］beʃe ［レベル］1 ɟɟ;ɔlelɪ,ɑ.l ɟɟ

ɔlelɪ,ɑ ɥəe ɔle/lɪ

ɔlſɪ ［生物］脾臓 ［レベル］3 1ɱ: 制 :ɔlſ（きれい）から。「 綺麗にする身体部位 」

ɔlſc ［医療］リンパ ［レベル］4 1ʔ: 制 :ɔlſ から。リンパ液が栄養を運んだり老廃物を運び去ることから。

ɔlſcɑcbc ［医療］リンパ系 ［レベル］5 1L

ɔlſclφɪl ［生物］リンパ節 ［レベル］5 1L:jeμen

ɔlſclφɪlɑcz ［医療］リンパ節炎 ［レベル］6 1L:jeμen

ɔlſclɔμ ［医療］リンパ管 ［レベル］6 1L

ɔlſclɔμɑcz ［医療］リンパ管炎 ［レベル］6 1L:jeμen

ɔlſceμ ［医療］リンパ液 ［レベル］5 1L

ɔllɪ ［形容詞］無名な、有名でない ［反意語］eȷſc ［レベル］3 @ ɟ0

ɔȷſ ［名詞］容量、内容量 ［電算］容量、データ容量 ［レベル］3 μɑ;hɔȷ/nə「容器の量」 ɟɱ ［用例］ɔȷſ ſcn 大容量

ɔȷſcμ ［アトラスの国家］オスティール ［アクセント］ɔȷſЄμ ［レベル］5 1L:μcɑcɪ: 岬

ɔȷſcɪ scleel ［人名］オスティア＝ジェレル ［レベル］6 ɟ0 ［文化］ ラグナロク工科大学の設立者。ルシフェル魔法学校の卒業生で、魔動銃の発明者。出身は ɒcȷſceſ。

ɔȷl ［形容詞］清潔な、綺麗な、清浄な ［動詞］ɥəl をきれいにする、きれいにする、綺麗にする、掃除する、清浄する ［類義語］eμceſ、uɪnſɪs ［反意語］elſ ［レベル］2 @ 1L lcɒc:lcɒc:lcɒc:lcȷlc lə,ɪlſ ［文化］ 掃除機が普及しているので手軽に行える。家族共通の部屋は誰かが掃除するが、個室は基本的に使用者が掃除する。少なくとも週に一、二回ほど掃除をする。日本と違って年に一回大掃除があるわけではない。偶々家族が多く揃った日にたまに思い出したように大掃除をする。タンスなど、家具をどかせたりして隅にたまった埃を除去する。 ［用例］ɪn ɔclȷ ɪſ ɪμəəs ɔȷlɒɒ ez. 弟に部屋の掃除をさせた。

ɔȷlɔμ ［名詞］上水道 ［レベル］4 1L:clɒəȷ:μcɑcɪ

ɔȷlɪle ［名詞］美化委員会 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɔȷlɪμ ［名詞］掃除機 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ ［語法］ 持つ部分は ſclɪ。ホースは lɔμ。パックは ɒeȷl。ヘッドは ləſɪ。本体は ɒɪcn。コードは ȷɔlz。スイッチは dɪnl。

ɔȷlelʃ ［名詞］衛生 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɔȷleμ ［名詞］上水 ［レベル］4 μɑ;/ ɟʔ

ɔȷn ［生物］頭 ［電算］ホストコンピューター ［言語］頭文字、イニシャル→ ɔȷnhɪrd ［レベル］1 μɑ 1ɱ: 制 lɔ:lɔ:lɪ lɔnſ（頭と腹は中心なので母体） ［成句］ɔȷn e μenȷ 開口一番 ɔȷn lɪc 頭でっかち ［用例］ɔȷn ɑɔllɔ 石頭

ɔȷnſɪnſɔɪ ［魔法］頭殻、トップノート ［レベル］5 ɟ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɔȷnſcs ［言語］頭韻 ［レベル］4 ɟʔ

ɔȷnlеȷſ ［約物］（、（記号、思う括弧 ［反意語］ləlеȷſ ［レベル］3 ɟ1

ɔȷnlezl ［生物］頭索 1L

ɔȷnȷɪlȷ ［魔法］頭行 ［レベル］6 ɟ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɔȷnȷɪb ［被服］貫頭衣 μɑ;/ ɟɱ ［文化］ 神代からあった。

ɔȷnȷeu ［言語］前文 ［レベル］4 ɟ1

ɔȷnuɪcl ［生物］頭部 μɑ;/ ɟɱ

ɔȷnueſ ［言語］頭語 ［レベル］5 ɟ1

ɔȷnɑecɒ ［名詞］ヘッドホン、ヘッドフォン ［類義語］ſeɒɑecɒ ［レベル］3 ɟ1

ɔȷnɒeu ［言語］接頭辞 ［レベル］4 1L

ɔȷnɑɪllſ ［政治］文官 μɑ;/ ɟɱ

ɔȷnbɪɑ ［武道］頭突き、ヘッドバッド ［レベル］3 μɑ;/ ɟʔ

ɔȷnhɪſ ［言語］頭文字、イニシャル ［反意語］heſhɪſ ［レベル］3 ɟȷ:ɒel

ɔȷnhɪſuеſ ［言語］頭字語、アクロニム ［レベル］5 μɑ;/ ɟʔ ［文化］ 表意文字の幼字を使っていた時代は頭文字を一字ずつ取るという発想自体がなかった。表音文字を使うようになってからも言語文化の基底に幼字が残っていたため、頭字語は流行らなかった。ȷɒ では京極の流入もあり、余計流行らなくなった。アルカになってからも流行っていない。 ・現実では古アルカが幼字を使っていたため、頭字語はできにくかった。制アルカになって幻字ができてもアシェットのメンバーは頭字語を嫌った。頭字語は単語を見て意味を推測できない。意味のないものは受け付けないという習慣が多国籍団体のアシェットにはあったようである。また、制アルカは n 対語のせいで意味が逆になる単語が同じ頭文字を持つため、頭字語の作りようがなかったのも原因と考えられる。

ɔȷnhɔ ［生物］頭蓋骨、頭がい骨 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcȷ

ɔȷnɥɪc ［医療］頭痛 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 頭痛 ［用例］ɪn ȷeſ ucl lɥə ɒcl ɔȷnɥɪc. 頭痛のせいでそこに行けなかった。 ɪn nɪ ɔȷnɥɪc ɒcl ȷɪɒcl ſə senſ. 頭痛がするのは天気のせいだろう。 ɪn nɪſ φɪμ ɒcl ɔnȷɥɪc. 頭痛で苦しんだ。

ɔȷnμecſ ［言語］文頭純詞 ［レベル］4 ɟɟ ［語法］ 一部の形容詞は副詞や文頭純詞の用法を持つ。例えば ɪɪl は形容詞としては「特別な」、文頭純詞としては「特に、とりわけ、中でも」、副詞としては「特別に」という意味を持ち、それぞれ文法的な使い方やニュアンスが異なる。 ȷel ɪɪl 特別な日 ɪɪl, lɪ eſ hɪl. 特に彼は優秀だ。 ɪn ȷeſ ɪl.ɔɪ ɪɪlel{ɪl}ɔlel} cɒ ɑcȷ. 今日は特別に（普段と違って）遊園地へ行った。 ɪɪl のような例は他にも lɔclȷ, lɔɔſ, ɪd, lecɒ, len, ɒɔn などがある。いずれも文頭純詞と形容詞で少し意味が異なる。

ɔȷnμecn ［言語］［文字］アセンダーライン ɟ1

ɔȷnzed ［数学］暗算 ［レベル］3 1ɱ: 制 : 頭の計算

ɔȷnscɒuɪlȷ ［医療］耳鼻科、耳鼻咽喉科 ［類義語］ɔȷnscɒuɪlɪ、ſeɒdcſ ［レベル］3 ɟȷ:「頭部の腔を扱うもの」

ɔȷnscɒuɪlɪ ［医療］耳鼻科、耳鼻咽喉科 ［類義語］ɔȷnscɒuɪlȷ、ſeɒdcſ ［レベル］3 ɟȷ:「頭部の腔を扱うもの」

ɔȷnɪμucs ［約物］［、［記号 ɟ1

ɔȷnelſ ［生物］ふけ、フケ ［レベル］3 1ɱ: 制 : 頭の汚れ

ɔȷɔ ［料理］ぬか、糠、ブラン ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɪlſɪ:ɥɔφȷɥɔlſ 搗かれた皮 」。同じ語源で「 精白 」もある。

ɔȷɔɪ,ɑ Δ elſ;ȷɔɪs

ɔn ［動詞］ɥəl を ɪ に関係させる、巻き込む、干渉する、絡む、からむ、関わる ［格詞］～に関係して、～に、～が、～へ、～について、～に関して ［形容詞］関係している、有縁な、関与している ［類義語］ɪcl ［反意語］ɒecl ［レベル］1 1L: 恣意 ［用例］μɪſ ɪz en μɪſ ɑe ɔn. lɪn ɪz en lɪn hɔſ eſ ɔn ɪ. いいとかよくないとかの問題じゃなくて、そうなるかならないかの問題なんだよ。 ɪn nɪ ɥɪc ɔn ȷeɒ. 胃が痛い。

ɔn(ȷ) ［接尾辞］草木を示す 制

ɔn(ʔ) ［化学］三重結合、アルキンの接尾辞。 1L:μɥəə

ɔn(ɱ) ［単位］１０ ［レベル］1 ɟ0: ソーンが０を ɥəə にした結果、それまでの ɥəμ と混同を避けるために暫定的に用いた ɔn が正規に採用されたもの。ɔn はンムトが言い出したもので、分数の ən をアブラウトしただけのもので、ただの区切りを指したものだそうだ。 ɪlɪ:ſɔ,lȷl ſɔɔ,ɪμɑ:ɪn,ɪlſ

ɔn,ɪlſ ɔ

ɔnſ ［接尾辞］自然分詞。開音節では nſ になる。 ［レベル］2 1L: 恣意。ɟ1 まで再帰動名詞。 ［文化］ → cuɪ ［用例］ſeȷ ɒeſɔnſ 落ちる葉

ɔnſ(ȷ) ［接続詞］～と ［レベル］1 ɟɟ ［語法］ ɔ

ɔnſɥəɔ ［言語］自然動詞、脱使役化動詞 ［レベル］4 μɑ;/ ɟɱ

ɔnſɔ ［名詞］十数、十数個の ［レベル］2 ɟ1

ɔnſel ［接尾辞］自然動名詞を作る。開音節では nſel になる。 ɟ1:ɔnſ<1L: 恣意 ［文化］ cuɪ ［用例］ɒeſɔnſel 落下 μcφɔnſel 故障

ɔnl ［動詞］ɥəl を続ける、続ける、続く ［普通動名詞］継続 ［副詞］～しつづける ［名詞］続き、つづき ［名詞］連続、連載、シリーズ、連続もの、連続モノ、連続物、続き物→ ɔnlɔl ［反意語］ɒɪl,ɑɪcɒ ［レベル］2 1ɱ: 制 参考 :jɔμn:dlce（単発）。非 lcɒe（時を切らない） ［語法］ ɒɪl ［用例］lə ɑcμeſɪn jeſ ɔnlel jelɪn. この犯人は人を殺している。jeſɪnɑ にすると今まさに目の前で何人も殺しているというイメージ。こちらは警察の会議室で「この犯人がここのところ何人も殺している」などと言っているイメージ。 lɪ ɥəcſ lɪɪl ɔnlel. 彼は母親を探し続けた。el cn jen ɔnl e ſə lɪɔɪ ɪſə. この物語の続きはこちらでご覧いただけます。 el cn jen ɔnl e ſə dcμ lɔn ſɔɑ. ＣＭの続きはｗｅｂで。 ſc jeμ ɔnl e ſə lɪɔɪ ɪnɒcɪȣ この物語の続きを知っていますか？。「この物語のシリーズを」と言うときには ɔnlɔl として区別するのが通常。ɔnl でも良いが解釈が一意的でなくなる。

ɔnlnɔɑ ［言語］継続相 ［レベル］4 ɟ0 ［語法］ 行為動詞の・状態動詞の一端、実行段階・事後段階の一端、内相の一端。 「～してある、～している」という意味。

ɔnlɥəɔ ［言語］継続動詞 ［レベル］4 ɟ0 ［語法］ 例外動詞の別称。意味を重視したネーミングである。

ɔnlɪμſ ［魔法］連続魔 ［レベル］4 ɟ1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ɔnlɔ ［音楽］イレブンス ɟ1

ɔnlɔl ［名詞］連続、連載、シリーズ、連続もの、連続モノ、連続物、続き物、シリーズ物、ナンバリング← ɔnl ［レベル］3 ɟ1

ɔnnɪ ［文末純詞］だよなぁ、だよね。共感の文末純詞 ［レベル］1 ɟ0:ɒelcɑcɪ lceμ:ɔn/nɪ（関わった心） 参考 :nɪl:1Δ;μcɑcɪ:nɪ。nɪ と区別できないため変更。 ::nɪn:ɥəμ,ɪlſ ［語法］ 疑問文だと共感を求める言い方になる。平叙文だと相手に共感する言い方になる。 ［用例］ſə eſ μɪſ ɔnnɪȣ これいいだろ？

ɔnueſ ［言語］関連語 ［レベル］4 ɟ0 ［語法］ 類義語、反意語、ねじれ語、縁語の総称。

ɔnuenſ ［経済］関連会社 ［レベル］5 1L

ɔnɑcſ ［経済］営業外収益 1L

ɔnφɪl ［経済］営業外費用 1L

ɔnbel ［植物］榎、えのき、エノキ ［電算］スパム、スパムメール ［レベル］4 1l;ɑφn | ɪl; スパムは大量に受信者の意向を無視して送られるメールなどのことで、それらの大量のメールが幹からたくさんの枝が生える榎に喩えられ、榎でスパムを指すようになった。 ɟɟ

ɔnleɒ ［音楽］十重奏、デクテット μɑ;/ ɟʔ

ɔnen ［接続詞］ɔn。～に関する。 ［レベル］2 ɟ0:lcɔn ［用例］ȷlɪc ɔnen elɑ 言語に関するＨＰ

ɔnen(ȷ) ［名詞］関係者 ［反意語］ɒeclen μɑ;/ ɟʔ

ɔu ［動詞］ɥəl を動かす、動かす、動く ［普通動名詞］移動 ［再帰動名詞］［自然動名詞］動作、アクション ［シェルト］動かす、打つ。駒を動かすこと。 ［類義語］ləəl ［反意語］enɔu ［レベル］1 1l;ɔu,pe.l 先 :ɔu。古 :ləə,hɔlɔ（動かす）。初代アルカで動かす ɔu で、雨が ɔu の語源。 hɔlɔ,ɑ:ləə,ɑμɑ::ɔɒɪ,ɪlſ ［語法］ ある物体が静止しないこと。場所を移すという意味では ləəl だが、ɔu で ləəl を表すこともある。動作が ɔu で、移動が ləəl。違いが分かりにくいが、例えば手を動かしたら ɔu で、家から学校に行ったら ləəl。 ソリは自分で動かないので scɪc eɒ ɔu。ɔu は移動のニュアンスが薄いので、scɪc eɒ ɔu というと滑っていくイメージというよりは壁にたてかけたソリが風で動いたなど、「動いた」のイメージになる。むろん文脈があれば「滑る」にもなる。 自動車はエンジンで動くが意思がないので ɪɒɔ eɒ ɔu。トラックが車を引っ張って動かしていれば運転手とのメトニミーあるいは擬人法で lɪɒɔ ɔu ɪɒɔ。 ［用例］ɪl el ɔu nɔȷ ɔ ɑel 動きやすさ、動きやすい ɒcμ nɪɒſ ɪſə ɒɪɒ μɪφnɪ ɪnɑ ɔu. ここでは機械が動いているので注意してください。 el ɑμeɒ lcn ɪl ɪɒɔ ɒɪɒ ſə eɒ φɪlɑ ɔu. 車が動くと危ないので近寄

らないように。

ɔu,ɒe　eɲl

ɔuɲlcl　［名詞］車いす、車椅子　［レベル］3　ɲl

ɔunɪɑ　［名詞］エスカレーター　［レベル］2　1L:lecn

ɔunɪɒ　［生物］運動神経　［レベル］3　1L　［語法］「運動神経がいい」というような使い方はしない。→ uɪuenuc

ɔuuelʃ　［地学］氷河　［レベル］3　1L

ɔuɒcɥəɲɪn　［物理］運動方程式　1L

ɔuɒɕɲɔl　［宗教］動力神　μɑ;/　ɲɲ

ɔuɒeɲɪɥəɔ　［言語］移動様態動詞　1L　［語法］ləl,leɑ,ɿləɲn のような動詞。ɥəl に移動経路が来る。

ɔuɑɔɪl　［経済］流動資産　［レベル］6　1L

ɔuɥəɔ　［言語］移動動詞　1L　［語法］ɿe, ləɲɪ, ləlɔ, leeu のような動詞。ɥəl には目的地が来る。

ɔuɕccɑ　［経済］流動負債　［レベル］6　1L

ɔuzelɔ　［生物］小脳　［レベル］4　1L: 運動の脳

ɔusɪllɔl　［医療］移動盲腸　1L:jeɒen

ɔulɪbɪ　［物理］運動エネルギー　［レベル］4　1L

ɔulɕuɪ　［娯楽］アクションゲーム　［レベル］3　ɲl

ɔuleul　［医療］運動障害　［レベル］6　1L

ɔuɪ　［格詞］例えば　［名詞］例、実例、見本、凡例、例示、標本　［名詞］辞書の用例。本辞典では［用例］タグで検索できる。アルカはアプリオリなので、日英語と構文や表現の異なることが当然ある。差が小さい場合は良いとして、差が大きい場合は注意すべきである。そこで、日本語とも英語とも大きく構文の異なるアルカらしい文については☆をつけた。また、構文は複雑でなくても、アンティスが深く絡む場合は☆をつけた。☆を検索することでアルカ独特の言い回しを検索できる。［成句］はもともとオリジナリティが高いので☆をつけなかった。　［反意語］ɪlɔuɪ　［レベル］2　ɔɲɒn　ɔɔ:ɔɔ:ɔuɪ　［語法］ɔuɪ ɒccl oen のように、ɔuɪ と oen を組み合わせるのはよくある間違い。　［用例］ɪn ɟccnɪ uɪnl ɔuɪ ɒccl.　りんごなどの果物が好きだ。

ɔuɪl　［形容詞］武装した　［軍事］武装　［反意語］ɪlɔuɪl　［レベル］4　μɑ;ɔl/uɪl「武器を持った」　ɲl

ɔuɪɲ　［名詞］エンジン　［レベル］3　ɲl0

ɔuɪɲɪnɲ　［普通動名詞］敷衍、ふえん、例解　［動詞］ɥəl（敷衍対象）を lɔɲ（聞き手）に向けて ɪ（敷衍結果）に敷衍する、敷衍する、例解する　［レベル］5　μɑ;/　ɲl

ɔuɪen　［接続詞］ɔuɪ　［レベル］3　ɲl

ɔuc　［組み数字］2 / 2 8　［交通］オヴィ通り　［名詞］オヴィ組。アルナ大のクラス。　［レベル］2　ɲl

ɔucʃ　［建築］アース　［レベル］4　制 : 古 :ɔuc から。アースと避雷針は同じだった。

ɔucl　［普通動名詞］討伐、成敗　［動詞］ɥəl を討伐する、討伐する、成敗する　［レベル］4　1ɲ: 制 : 古 :ɔuc（遠くへ力をもっていく）

ɔuc φɪɪuc　［人名］オヴィ＝ガーヴィ　［組み数字］2 / 2 8　［レベル］2　jeɒen,φcl,μcɑcɪ: オヴィは不詳。ガーヴィは９年。セレン、ギル、リディアで冠した名で、「 根性 」の意。ただ、オヴィの古アルカでの意味は「 討伐 」になる。　［文化］（ɟcɑ Δ μɪl lcn → ）第４期４代アルシェ第２使徒。男性。ɪμɑen/ɪlben。１８０ｃｍ、８０ｋｇ。髪は白味がかった金でツンツンしていて短く、ややくせっ毛。青の瞳。肌は白：黄＝８：２。［成句］ɔuc, φcl, zɪnɪ jeμn jen lej ɒel jɔ ucl オヴィとギルとザナでメルにも思いつかないことを思いつくことがある：三人寄れば文殊の知恵

ɔucz　［建築］避雷針　［レベル］4　1L:ɔucʃ/zɔn

ɔuceʃ　［名詞］疾風迅雷、電光石火　［レベル］3　ɲl:「オヴィのような」

ɔueʃ　［名詞］乾電池　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɔueʃeje（乾いた電池）［用例］ɔueʃ ɒcnɪʃ 持ちの悪い乾電池

ɔuez　［名詞］物干し竿　［レベル］3　1ʔ: 制 :ɔuezɔn

ɔuel　［形容詞］［ポジティブ］大胆な、大胆不敵な、豪快な、スケールの大きい　［反意語］eleɑ　［レベル］3　ɲ0:ɔul:1ʔ: 制 : 使徒 ɔuc から　［語法］ɔuel（大胆）と eleɑ（慎重）、jcnɪɒ（軽率）と uenɪɒ（臆病）のペア。　ɔuel は大胆で豪快でスケールの大きいさま。人や付属物を取る。ɒcn ɔuel は豪快な女、ɑɹ ɔuel はスケールの大きな仕事。

ɔuelcɪ　［アトラスの国家］オヴェリア　［アクセント］ɔuElcɪ　［レベル］5　ɲʔ:μcɑcɪ

ɔɑel　［動詞］［武道］ɥəl を ɪ に投げる、投げる　［武道］投げ技　［レベル］3　ɲ0:ɒelcɑcɪ lceμ:hɔl/ɑed

ɔɒ　［文頭純詞］いつ。文中でも使える。　［レベル］1　1ʔ: 制 :ɪɒ（どこ）　cɒɪ:cɒɪ　［用例］ɪn jeμɪʃ lɪl ɔɒ ɪnj leeu. いつ出発するのか知りたかった。

ɔɒ(ʃ)　［接尾辞］方法を表す接尾辞、方法　［レベル］2　ɔɔμn:ɔɒ（方法）

ɔɒʃɪl　［名詞］［文頭純詞］いつだろうと、いつであろうと、随時　［レベル］2　1ɥ: 制

ɔɒʃɪlɒɪ　［電算］ＲＡＭ、ランダムアクセスメモリ　［レベル］5　1L

ɔɒʃɔ　［人名］オムト　［組み数字］2 / 1 3　［天文］オムト座　［レベル］3　先 :ɪnɔ:əɒʃɔ　［文化］　第４期３代ソーン第２使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

ɔɒlɪ　［電算］ハードウェア　［レベル］4　@ 1L

ɔɒlɪɒɪl　［電算］ハードディスク、ＨＤ　［レベル］3　1L

ɔɒɪ　［動物］イヌ、犬　［名詞］バック。性交の体位のバックのこと。　［類義語］beɔɒ　ɑu;ɑɔueʃ。鳴き声から。　［レベル］1　1ʔ: 制 : メルの飼っていた犬の名がコーマ。コーマはアルカの音象徴らしい。　ɔɒɪ:ɔɒɪ::bɪə,llʃ　［擬声］ɪnɪn（小型～中型犬、通常）ɔɔnɔɔn（大型、通常）bɪəφɪə（怒り）ɪcnɪcn（悲鳴）ɪɔɔn（遠吠え）nɥəən（くーん、という弱腰な声）hɪhhɪh（はっはっという息遣い）［文化］人気のあるのは茶色い柴犬。キルト神のモデルに形が似ているため、好まれる。忠実で大人しい犬が好まれる。あと、コーマが小さな白いもふもふの猫だったため、その手の犬も人気。うるさいので狭い集合住宅では倦厭されるが、その他では飼える。本来忠実な生き物なので、飼い主に従うように厳しく躾ける。日本と違って甘やかしたりせず、かなり厳しく育てる。言うことを聞かせるし、罰を与えるし、甘やかさない。子供の育て方と似ている。大人にとっては犬を躾けることは子供を躾ける訓練になると考えられている。だからこれから子供を作ろうとする夫婦は手始めに犬を飼って躾けることを覚える者が多い。犬の躾は行き届いているのでロープがなくても散歩させて安全である。人に吠えたり噛んだりといったことはないように育てる。散歩は必ず行う。大抵は集合住宅内の庭で行う。歩道を散歩させる人は少ない。　・性交の体位　恐らく日本ほど好まれない。素人の女性だと特にそうだが、性器や肛門の匂いが上がってきて男性側が不快に感じることが多いため。ソープ嬢などは性器を洗い慣れているのと、短期間で何度も性器を洗浄するため、バックでも匂いが少ない。素人の恋人などはそういうことがないので、軽くシャワーを浴びた程度では性器の匂いが取れず、バックで動かしていると結構きつい。特に朝、起き抜けでシャワーを浴びずにやったときとか。［成句］ɔɒɪ liu bɪɑ ɥə うるさい犬は叩かれる：雉も鳴かずば撃たれまい　ɥɔn lel ɔɒɪ 犬のように扱う：木で鼻をくくる。ɥən の後に相手を入れる　ɔɒɪ cun llɒɪ φɪɪl. 弱い犬はしばしば吠える：弱い犬ほどよく吠える。日本語と同じ感覚。まさに言い得て妙。　ɔɒɪ nɔzeʃ ɑɔφ lɪɹ. 自分の犬が手を噛む：飼い犬に手を噛まれる、飼い犬に手をかまれる［用例］nɔn nɪʃ eɒʃ ʃccnɪ ɒcl ɔɒɪ le nɔn lɪɪd leeu lʃolɪɹ. 愛犬が死んで、とても悲しかった。　ɑcn ʃə ɔɒɪ φɪɪl ɪl ɪn ləfel, cɒɥəl lə φɪɪl elɑ cɒ ɑcɹ. この犬いつも吠えてくるのに今日は吠えてこない。

ɔɒɪ,llʃ　ɔu

ɔɒɪlllʃ　［名詞］犬派、イヌ派　［レベル］5　1L

ɔɒɪɥɪɒc,llʃ　lɪleuecz　/

ɔɒɪɔhɔ　［医療］ジフテリア　［レベル］5　1L:jeɒen: 犬の声のような咳が出る

ɔɒc　［建築］扉、戸、ドア　［格詞］～である前に、～である以前に　［シェルト］扉駒。扉駒の行動可能なマスの軌跡が古アルカで扉を表わす hɔɒɥə（制アルカでは ɔɒc）の字形と同じであることから。　［生物］Ｘ染色体　［類義語］ɪlɑcɪ　［レベル］2　ɑ;hɔ は「固い」。ɒɥə は「ない→見えない」。「固くて中が見えない」| ʃɒ;「～の扉にいる→～の前にいる」というところから「～である前に」というメタファーに転じた　1ʔ: 制 : 古 :hɔ（固い）ɒɥə（見えない）「固く閉ざされていて見えない」 hɔɒɥə:hɔɒɥə　［文化］部屋に入ってドアを閉めるときは後ろを向いて閉める。常に前を向きながらだと相手を信用していない意思の現われとなる。アメリカのエレガントとされる礼儀とは逆。　あらゆるドアは常に閉めておかれる。開けるのは通過するときと空気を入れ替えるときのみ。個室には常に鍵がついている。　男性は女性のためにドアを開けて "ɿeʃɪ" と言う。女性は遠慮をせず会釈をして通る。目下は目上よりも後に通るが、目上のためにドアを開けることはない。この習慣は相手がドアの向こうから来るときも同様。なお、男性でも身体障害などがあればこの限りではない。また、ɒllʃ 未満の子供もこの限りではない。　［用例］ɪnj eʃ ɪl ɒclɑɪn ɔɒc leucɪnɪʃ. 我々は人工言語屋である前に芸術家であるべきだ。　nɔn eʃ ɒcn ɔɒc lɪɪl. 私は母親である前に女だ。

ɔɒcʃ　［言語］目的語← ɥəl　［反意語］ɟɔc　［レベル］4　ɟɒ;ɔ/ɒɥə/ɿe「距離がありここに無い物との関係」　ɲʔ　x:ɔɒcʃ:ɔɒcʃ:ɥələn,ɪlʃ　［文化］ɟɔc

ɔɒcɟ　［動詞］ɥəl をなめす、なめす、鞣す　［レベル］5　ɲl:hɔɔɒc/ɟɔ「柔らかくする」

ɔɒcɟaenl　［名詞］なめし革、鞣し革、なめし皮、なめしがわ　［レベル］5　ɲl

ɔɒcɟɪl　［化学］タンニン　［レベル］5　ɲl:ɔɒcɟ/ 古 ɪl「なめすもの」。革を鞣すのに使ったことから。

ɔɒcuceɑ　［名詞］美人局、つつもたせ　［レベル］5　μɑ;/。ドアを蹴破って部屋に入って恐喝に出るところから。　ɲʔ

ɔɒce　［言語］内項。意味上の目的語。　［反意語］ɟɔcʃ　μɑ;ɔɒc/eʃ　ɲɲ

ɔɒceɥəɔ　［言語］非対格動詞、所動詞。主語になるものが意味上の目的語である動詞。　［反意語］ɟɔcʃɥəɔ　μɑ;/　ɲɲ

ɔɒɔ　［形容詞］眠い、（ɔɒɔɪn で）眠くさせるような　［動詞］ɥəl を眠くさせる、眠くさせる　［反意語］ɪlɔɒɔ　［レベル］1　1ʔ: 制 : 希望 / 眠る←幻日のこの説明がよく分からないので語源不詳。［用例］ɪn eɒ ɔɒɔ ɟɔɑel. 私は眠たがりだ。　ɪn nɪ ɔɒɔ ɔl ɿəc hɪμl ɪʃc ɑc. 昼ご飯をたくさん食べると眠くなる。　ɪɿl ɔɒɔɪn 眠い授業　nɪnɪ ɔɒɔ 眠たがっている赤ん坊、眠い赤ん坊　ɪn eʃ ɔɒɔ enʃɔ neʃ μɔɟ ɪ. 眠くて起きたくないな。　ɪn eʃ ɔɒɔ μɪl enʃɔ cɟl ucl lec. 眠すぎて本も読めない。　ɪn eʃ ɔɒɔ ʃcnɪl enʃɔ lɪl ucl neʃ ɑclel uecn. 眠すぎてもう起きていられない。

ɔɒɔnɪ　［名詞］眠気、眠さ　［レベル］3　μɑ;/　ɲʔ　［用例］ʃcl ɔɒɔnɪ 眠い

ɔɒe　［単位］沙　ɲl:ɔɒɪ

ɔɒəlc,llʃ　ɿlɪɹ　ɔɒələ

ɔɒələ,llʃ　hɔɒɟ　hɔɒɥə.l

ɔφɒɪ　［アトラスの国家］オグマ　［レベル］5　ɲʔ:μcɑcɪ

ɔφɪ　［植物］ジャガイモ、馬鈴薯、五升薯、ゴショイモ　［レベル］2　1ʔ: 制 :lɪlʃɪ:ɔφʃ　［文化］大航海時代よりも早く、ɟɒ で ɪμ に流入。経路は ɿeuɛɪ → ɒcɑccʃ → lʃ → ɪμ。　ɟɒ と μɑ では人口増加に一役買った。　じゃがいもは穀物と野菜の間と考えられ、どちらに属してもよい。じゃがいもをふかして塩をかけて食べるなど、じゃがいもそのものがメインとなっている料理の中では穀物と考えられることが多い。　ɲl0 ジャガイモの種枯れ病が蔓延。テスラン＝ナオンによるファベル侵攻の契機となる。

ɔφɪuеμɑc　［名詞］種枯れ病　［レベル］6　1L:clɒəj:μcɑcɪ　［語法］メル２４０年にジャガイモに発生した病気。

ɔφɪl　［魔物］オガル（手馬鈴薯）: 第八十九天 : 利の風天　［レベル］5　1L:μcɑcɪ/jeμen/ɒel:ɔφɪ/lɪɹ　［文化］魁族。畑にぽつんと生き埋めにされた人の手のように生えている。引っこ抜こうとして触ると途端に掴まれ、地面に引きずりこまれて食われる。オガルに勝利して引っこ抜くと、ジャガイモのような根がついており、これが正体と分かる。実はまだ油断は禁物で、このジャガイモのような根が目を開く。見てしまうと獲物は土くれ人形に変えられ、泥になってぼとぼとと落ち、土に還る。従って抜いたら素早く根を刺し殺す。ピギィと甲高い声で死ぬので、そうしたら安全。その根を食べるとノアが回復する。

ɔφɪlɑcɪn　［亜魔］オガルフィアン、マンドラゴラ、マンドレイク、マンドレーク、マンダラゲ　［レベル］6　ɲl

ɔd　［動詞］ɥəl を ɪ に補う、補う、おぎなう、補填する、補給する、補充する、コードなどを延長する　［名詞］補注、注釈、脚注　［料理］添え物、和え物。ステーキならポテト、紅茶なら砂糖。　［形容詞］付け足しの　［類義語］ɪd　［レベル］2　ɑu;e　1ʔ: 制 : 語源不詳　ɔd:ɔd:lɪ ɔdeʃ　［語法］ɔd は１００％に届かないものを１００％に近づけるためのもの。ɪd は１００％の充足にプラスアルファを付けてやるもの。同じ付けたしという意味であるが、まだ足りないなと思えば ɔd で、これは蛇足ながらと思えば ɪd になる。アルカにはこの区別があるので日本人は注意。［用例］ɪn ɔdɪʃ lɪl eɒ uecn lc ɪlʃ ʃə heɿ. その手紙を書き終えてから、もう少し書き加えたくなった。

ɔdllcɪ　［アトラスの国家］オプクリア　［レベル］5　1L:μcɑcɪ:ɔd/llcl

ɔdjeeɒ　［化学］付加重合　1L

ɔdn　［動詞］ɥəl（乗り物や道）を運転する、運転する、操縦する　［動詞］ɥəl（人）を操作する、操作する、操縦する、思い通りに操る、操る　［普通動名詞］運転、ドライブ　［レベル］2　1ɲ: 制 :ɔudɪn　［文化］郊外の紅葉スポットなどがオススメ。　［用例］ɒcn ɑμɪl ɔdn ucl ɪɒɔ ɔn ɪμbɪz ɪμɑ. アルバザード人の女はほとんど運転ができない。　☆ ɪμʃe, lɪ ɔdn ɪɒɔ μɪnel ɔl le ɿien ʃeɟ. よくあんなの窓につけて走れるな：「走る」「よく～できるな」などの訳をそのままアルカに直訳できないので注意。

ɔdnɪn　［名詞］運転手、ドライバー、御者　［レベル］2　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelʃ

ɔdnɪncɑ　［地球の星座］［ユマナ］ぎょしゃ座　ɲl　［文化］　cɑ

ɔdncɪ　［被服］かつら、ウィグ、鬘、づら、カツラ　［レベル］3　ɑu;/　1ʔ: 制 : 補足の髪　ɔdncɪ:ɔdncɪ　［文化］　ごまかすことを嫌う国民性なので、カツラはあまり付けない。禿げたら禿げたまま。ちなみに日本より禿げ率は高く、悩む男性は多い。カツラよりは育毛に関心がある。　lə̀leʃcɪ ではセレンのような虚証は禿げないとされる。

ɔdɪuɪ　［植物］スタッフオリーブ（詰め物をしたオリーブ）　1ʔ: 制

ɔdɑɪd　［美容］マスカラ　［レベル］4　ɲl

ɔddɪ　［被服］コッドピース　1l:.jelɪn　ɲl　［文化］　1l の民衆が編み出したもので、ジッパーがない時代の産物。男性が小便をするときに開閉する。　ɟɒ になるにつれ徐々に装飾がほどこされたり金属製になったりして、男性性の強調に使われた。性器を大きく見せるためにわざと大きく作るなどという虚飾まで行われたが、nɑ で廃れた。

ɔddɪl　［経済］注記表　［レベル］6　1L　［文化］　地球同様、注記のほうがずっと長い。

ɔddel　［音楽］ソウル　ɑμɑ;「揺れる」　ɲl

ɔdμeu　［化学］付加反応　1L

ɔdμenɟ　［名詞］注釈→ lec　［レベル］5　ɲl

ɔdɪ　［被服］継ぎ、パッチ、つぎ布、継ぎ接ぎ、継ぎはぎ、つぎはぎ、ツギハギ、ツギ、つぎ　［電算］パッチ　1ʔ: 制 :ɔdibe（継ぎ布）

ɔdibe　花布→ lec　ɲl

ɔdc　［電算］周辺機器　［レベル］4　1L:ɔd

ɔdclɪlɪ　［電算］ＰＣＩスロット　［レベル］6　1L

ɔdcnʃ　［ユマナ］［音楽］付点、附点　［レベル］5　1L

ɔdcɑɔnʃ　［電算］ＰＣＩバス　［レベル］6　1L

ɔdɔ　［料理］乾パン、ビスケット、クッキー、サブレ、クラッカー、ラスク、煎餅　［レベル］2　1ʔ: 制 :ɔuedɔɑ（乾いたパン）［語法］　おやつと保存食をかねる。

ɔdɔɟ　［動詞］［武道］ɥəl を絞める、絞める、締める、固める　［普通動名詞］束縛、拘束　［武道］関節技　［レベル］3　ɲ0:ɒelcɑcɪ lceμ:ɔμɪ/dɔu/ɟɔ

ɔdɔɑɔ　［音楽］安物イヤホンや安物スピーカーからの音。乾パンみたいに味気ないことから。　［レベル］4　1Δ:jeμen

ɔdeʃcl　［医療］使薬　ɟzl;/「補う薬」　ɲl

ɔbɪ　［動物］ツグミ、鶫　lɪlʃɪ［レベル］5

ɔbcμɪ,llʃ　leseɒɒe

ɔbelcɲl　［医療］オベリスク、懐古、懐古厨、回顧、絶望、過去への憧憬、憧憬、想い出、思い出、郷愁　［レベル］4　μɑ;<ɔbelcɲl,cn（郷愁）.ɪleɿ　ɲl　［文化］　中年以降の人間が少年期や青年期とりわけ学生時代を思い出し、もう二度とあの頃には帰れないと思う絶望のこと。μɑ でセレンが提唱した。特に中年期で人並みの地位や家庭などを築けなかった者ほど感じやすいとされる。　実は振り返れば過去には過去なりの悩みがあり、想い出が勝手に美化されているだけで、実際の過去はそんなに甘美でもなく、退屈だったり先行き不安だったり苦痛だったり子供ゆえの束縛や無力感があったりする。　しかし何より若い頃には今にはない「未来への希望」があり、そして「世の中に対する無知」という幸福がある。恐れを知らず未来への可能性のある人間はそれだけで幸せであり、中年がオベリスクを感じることはあってもその

逆はない。　社会的地位がなければ女に見向きもされず、セックスもできず、子供も作れない。社会的地位があったらあったでそのステータスに女が群がり、自分自身ではなく自分のステータスが求愛されるようになる。地位も職歴も何もなかった素の自分を愛してくれた学生時代の彼女のような女はもう二度と現れない。ステータスにたかる女が出るか、ステータスがなく一人も女ができないかの二択しかない。この現実に中年は苛まれ、打算なく付き合ってくれ自分を受け入れ愛してくれてセックスしてくれていた学生時代の彼女を思い出し、もう二度とそんな女が現れない現実に絶望する。そうしてわずか３０代にして死にかけの８０代くらいの老人と自分の間に本質的な違いがないこと、すなわち既に自分は終わった人間、あとは坂を下るだけの人間であるということを思い知らされ、絶望する。そして自分の人生には意味がないと嘆くようになる。　オペリスクは中年期以降の人間が持ちがちな絶望の一種であり、罹患すると自分の人生は無価値だ、もう黄金期は取り戻せないと悲観にくれるようになり、犯罪率や自殺リスクが高まるとされる。　セレンの先見の明は ɪl で再評価され、心理学や精神医療で見直されることとなった。

ɔhɔ ［医療］咳 ［動詞］ɥəl を咳き込ませる、咳をする ［擬音］ごほごほ、ゴホゴホ、こほこほ、コホコホ、ゴホン、コホン、ごほん、こほん、えへん、エヘン、うん、ウン ［類義語］ɑɛɔɟ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ɔh(咳のオノマトペ) ［用例］ɪi ɔhɔnɑ ɔcl beɟɪ. 埃のせいで彼は咳き込んだ。

ɔhɔɾlce ［生物］［医療］喘咳寒熱 μɑ;/ ʃʔ

ɔɥəl ［動詞］ɥəl を ɪ に沈ませる、沈ませる、沈む ［化学］沈澱、沈殿、沈澱する ［類義語］jeel ［反意語］eɥəɾ ［レベル］3 @ 1L nae:nae

ɔɥəlɪlɒ ［化学］残査油 1L

ɔrɪ ［感動詞］こら、コラ、ゴルァ ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古 :ɔrɪɪ,ərɪɪ ［語法］ 非常に怒っているときの呼びかけで、əoɪ よりきつい。

ɔɟ ［接尾辞］行為動詞経過相の動詞語尾。開音節では μ。 ［動詞］ɥəl になりつつある。行為動詞経過相の繋辞。 ［レベル］1 μɑ 1L: 恣意 ɾɪn::hɪzɛlə,ɪlʃ ［用例］ləɔɟ 歩いている ɑɪcɟ 点火中。燃焼中は ɑɪcj hɪʃcɪɟ 恋をしかけている jeʃɔɟ 殺そうといたぶっている lɪcɟ 見ようとして眼を動かしている最中 ʃclɔɟ 持とうとして力を入れているところ ləɟ 到着前の移動段階 ləɟ 喋っている途中 ɒɔ̀ɔɟ 寝ようとしてベッドで目を閉じているところ

ɔɟʃ ［サール］オルト ［生物］月経、生理、メンス、メンストレーション ［レベル］3 ɒelʃcɪ 1l:ɔɟʃ ;ɔɟʔ.l̀ ɒel: 古 :hɔɔɟɪſəənɔ（赤い土？）土は泥？ ［文化］ 女性器、特に月経を司るサール。夜は泥でできたハイエナの姿をし、昼になると泥はモモンガに姿を変える。但しこのモモンガは目に見えない。人語を解し、首を絞められたような少女の声で話す。オルトが近くにくると女は甘いものが無性に欲しくなるとともに月経を引き起こす。またオルトは少女に初潮を与え、女性器を穢れたものに変え、女に苦しみを与える。特に恐れや不安や非日常的な環境を抱く弱った少女の心に付け込むことが多い。メルは女性器を不浄なものとして捉え、月経をも不浄なものと捉えた。少女に多大な苦しみを与える月経は悪魔オルトが押し付けてくるものだと考えた。「昼間はモモンガ」というのは「外見の美しさに比べて陰部の陰鬱さと醜悪さ（モモンガは夜行性）」と「モモンガの手を広げた部分から起こる大陰唇の想起」を象徴し、「夜はハイエナ」というのは「昼間と違ってハイエナのように使われるもの」という揶揄であり、「泥」というのは女性器が常に湿り気を帯びていて汚らしいというところからきている。こうしてできたのがオルトであるが、メルのこの考えは男子よりむしろクミールらの女子に共感され、アンティスでは女性器は男性器以上に汚らわしいものという考えが生まれるに至った。ただし、子宮は聖なるものと考えられている。要するに産道たる膣と外性器が不浄とされているのである。　月経は忌みとして嫌われる。その点では日本と同じ文化。その考え方は意外にも女性であるメルが生み出したもの。理由はやはり視覚的に出血がおぞましいことと匂いが強いことが大きいようだ。また、月経時の苦しみを考慮して、メルは月経はサール・オルトが少女にかけた呪いだと考えた。初潮が訪れるとオルトに呪いをかけられたといって、その娘を少しの間他の娘に近付けないようにする。初潮は少女の女性器を汚し、少女の肉体を汚す忌みとも捉えられているので、その呪いを他の娘に伝染させないようにする必要があるからだめ。少女の初潮は周りの人間の知るべきこととなる。日本と違って恥ずかしいことではないが、汚いことではある。　娘は初潮を迎える前に性教育を施される。初潮を迎えると両親に報告する。父親にも報告する。おめでたいことではないと考えているので、おめでとうとは言わない。英語にいただきますがないのと同じで、日本人からすれば何か言いたいところだが、特に決まった台詞はない。母親や姉が生理用品を渡して説明する。父親は感慨深げに黙っている。 ［用例］nɔn ſcl ɔɟʃ cɒ ɑcj. 今日は生理なの。　nɔn ſcl ɔɟʃ ɑəɔ{ɑɪɑ, ˈlcn}. 生理が重いの。

ɔɟʃzɔn ［名詞］タンポン ［レベル］4 ʃl ［文化］ → eɟɟel 処女はタンポンを使用しないという常識があるため、ナプキンを使う。なお非処女においてもナプキンのほうが一般的である。運動時やどうしても水に入らなければならないときなどには比較的用いられる。

ɔɟʃɪbe ［名詞］生理用ナプキン、ナプキン ［レベル］3 1L ［文化］ ɔɟʃzɔn

ɔɟʾ ［動物］モモンガ、ムササビ ［レベル］3 ɑ;e 1ʔ: 制 : 古 :ɔɟʃ ［擬声］ cɥcc

ɔɟʾeɪ ［医療］治りかけの傷 ［メタファー］触れないほうがよいもの、放置すべきもの ［類義語］ucl ［レベル］3 μɑ;ſə ucl ɔɟ ʾeɪ「傷が治りつつある」が単語になったもの。 ʃl ［成句］ el nɪd ɑɔnl ɔɟʾeɪ 治りかけの傷には触れるな：治りかけのキズは気になるが、触らなければ治る。触ると悪化する。政治家や有名人の心得。荒らしなどのクズへの最良の対処法。傷は見ないのが一番、見なければ気にならない、という教え。

ɔɟɑɪnſ ［代詞］［μnen］俺らの ［レベル］1 ʃl:ɔuc:ɔɟɑen/ſe

ɔɟɑen ［代詞］［μnen］俺ら ［レベル］1 ʃl:ɔuc:ɔɔuɪ/nȣ

ɔɟɒ ［動物］ハイエナ ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :ɔɟʃ

ɔɟɑcn ［歴史］オーディン時代、守護の御使、しゅごのみつかい ［レベル］3 ʃl:jɔɟɑcɪn（守護神）。アトラスの守護神アシェットの物語であることから＜ɥɑcɪ から変更。clɒəj 全体が「神の夢」なので、この時代だけを「神の夢 (ɥɑcɪ)」と呼ぶのは不自然とされた。ʃl まではオーディン時代のことをアルディアと呼んでいた。ɔɟɑcn は ʃl まで守護神 jɔɟɑcɪn の意味。jɔɟɑcn などでも良かったが、それだと略称が jɑ になってしまう。この時代の略称はずっと μɑ で通してきたが、jɔɟɑcn にすると略称を jɑ に変えねばならなくなる。しかし μɑ で検索をかけると関係ない単語まで何百件と検出され、それを手作業でひとつの洩れもなく修正するのは事実上不可能であるため、j を落として ɔɟɑcn とした。なお、ɔɟɑcɪn は死神の名なので不可。ɔɟɑɪn と迷った末に、既に守護神のほうで口に馴染んでいた ɔɟɑcn を選択。その背景には「守護神」の頻度が案外低かったので古形に戻してもよいのではないかという事情もあった＜古 : μcɑcɪ:ɪμɛ/ 古 ɑcɪ。 ［文化］ ɥəənɪleɟlɪ ＜概要＞ 時代の名であるとともに、その時代の史記でもある。史記としてはアシェットが主人公の寓話に等しく、アシェットと悪魔の戦争を描いたものである。　１５００ごろ～１５９１　前期　１５９１～１６１１（２２）　後期　μɑ 時代の人々の魔法力については ɪμʃ を参照のこと。

ɔɟɑcɪn ［死神］オーディアン ［アクセント］Ɔɟɑcɪn ［レベル］4 ʃl:eeɟſe ［文化］ アトワーユの本名。アトワーユは「トワーユの者」という役職名。

ɔɟɑcɪnſlɪ ［地学］［歴史］オーデアィン大陸 ［ユマナ］ゴンドワナ大陸 ul;/。アルテから分裂してできた中で最も大きい大陸なのでアトワーユ→オーディアンとなった。 ʃʔ

ɔɟɸ ［植物］藻類 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 語源不詳

ɔɟd ［化学］半導体 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:hɔdl/cμɪ

ɔɟdʃɔɟeſſɪ ［化学］半導体ダイオード→ʃɔɟeſſɪ ul;/ ʃʔ

ɔɟɪ ［生物］関節 ［レベル］3 1ʔ: 制 :jɪɑ:hɔɟɪ（骨 / 繋がった部分） ［語法］ 関節、関節部。骨と骨が互いが運動できるように連結している部分。即ち関節。

ɔɟɪɥɪc ［医療］関節痛 ［レベル］5 1L

ɔɟɪɪzl ［医療］関節結核 1L:jeɟen

ɔɟɪeɒɟ ［化学］ヒアルロン酸 ［レベル］5 ʃl

ɔɟe ［料理］干しブドウ、レーズン、カラント ［レベル］3 1ʔ: 制 :ɔueɟeb

ɔz ［名詞］規則、法則、決まり、法、制度、原則、ルール、慣習、戒め、公衆道徳、マナー、行儀、作法、戒律、摂理、規定 ［電算］コンピュータのプロトコル、インターネットプロトコル→ɪμɔz ［法律］条令、政令 ［類義語］zeſſel、lɪzɔɑ、ɪμɔz ［レベル］2 jɔμn ［語法］ 従うべき決まり。人為的に作られた規則や慣習マナーや子供がやる鬼ごっこのルールなども含む。また、スープの飲み方などの行儀作法も入る。非常に広い意味を持つ語彙。全て「その集団内で従うべきとされていること」という共通の意義に基づいている。但し、法律は別。

ɔznɪl ［政治］国会 ［レベル］4 μſ; ↓ 1L:ɔz/nɪlſ（規則の城） ［語法］ イムル２０年に ʾlɪʌɪlɛznɔ（法務庁）ができ、法律の作成を担当した。従ってこれが最初の国会である。　現代の国会は μſ でできた。

ɔznɪlſ ［ランドマーク］［政治］国会議事堂 μſ;ɔznɪl/ſe ʃʔ ［文化］ μſ でファルシアン宮殿の北側、コノーテ＝リディア通りに立てられた。規則を重んじるリディアに敬意を評してリディア通りに建設された。

ɔznɪlɑɔl ［政治］会期 ［レベル］4 ʃ0

ɔzɑel ［名詞］法則、法則学。理科の一分野。科目名。 ［レベル］2 μɑ ʃʃ ［文化］ ɑeldɪnſ

ɔzɒelʔ ［電算］クロック ［レベル］5 1L

ɔzɪle ［名詞］風紀委員会 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

ɔzeſ ［名詞］ガイドライン、目安 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ:ɔz

ɔs ［動詞］ɥəl を触る、触る、さわる、触わる、触れる、ふれる ［文末純詞］触覚での推量。～なようだ。 ［レベル］1 1ʔ: 制 μɥɪsc:μɥɪsc ［用例］ɔs nccſel 優しく触る jɪnſ ɥəəj ɪn ɔs nɪ ſccl nccſel. 貴方の心にそっと触れさせてください。

ɔsnɪʾl ［生物］触覚 ［類義語］ʾlənc ［レベル］4 ʃl

ɔsɪlɔ ［娯楽］鬼ごっこ ［レベル］2 1ʔ: 制 : タッチしたら鬼になる遊び。 ［文化］ アルバザードでも子供に人気。

ɔoc ［動物］豚 ［レベル］2 ɑu;ɑɔueſ lɪʾlɪ: 鳴き声のオノマトペ ɔoc:ɔoc ［文化］ 食用される。ビタミンＢが多いとされる。　案外清潔な動物だが、汚いイメージを持たれており、「デブ」などの罵倒語にもなる。特に罵倒としては bərl。　uɪlɔʾɔɪn が開発される μſ までは ucɔʾɔɪn を採用しており、冬季に家畜を飼育するのが難しかった。冬場は人間の食料を確保するだけでも大変なので、家畜を飼う余裕がない。そこで秋になると家畜を潰して冬場を凌いだ。 ［擬声］ ɔoc ɔoc（ブーブー） bərl bərl（ブヒブヒ）

ɔocɒɪuc ［化学］ビタミンＢ ［レベル］4 nɑ;/ ʃʔ ［文化］ ɒɪuc

ɔochɔ ［生物］大鼻翼軟骨 1L: 人の鼻を豚の鼻のように横に広げている骨

ɔocɥəl ［料理］豚肉 ［レベル］2 ʃʃ

ɔocμɪ ［牧畜］豚小屋 ［レベル］4 ʃʃ

ɔocləɔɪ ［名詞］豚足、トン足 ［レベル］4 μɑ;/ ʃʔ

ɔoenɟlʃ elɑe

ɔl ［格詞］もし～したら ［類義語］ɒɪnɔ、jclɒ、ſeɪ、dlɪnze ［レベル］1 1ʔ: 制 ɑə:ɑə ［語法］ cɒ, ſeɪ は確定条件。ɒɪnɔ, ɔl, jclɒ は不確定。cɒ は１００％起こることが分かっていて、それが起こった際に何が付随して起こるかを示す。μe jɪb ſə cɒ ſə eɒ jɔμſ（寒くなったらこれを着なさい）は、寒くなることが確実な冬などに使う。　ſeɪ は起こる確率が０％という意味で、cɒ とは逆に確定条件。　ɒɪnɔ, ɔl, jclɒ はこの順番で起こる確率が下がる不確定条件。 ［成句］ ɔl hɔſ ～のときのみ、～の場合のみ。逆も真となるケース→ dlɪnze ［用例］ ɪn ʾle uɪn ɔl ʾlejſ jcl ɑɪμɑ. 明日晴れたら行こう。

ɔl(ʃ) ［接尾辞］～される人 ［接尾辞］対格分詞を作る ［レベル］1 1L: 恣意 ［語法］ ɔ で終わるものの後では l になる。 ［用例］ jeſɔl 殺人の被害者

ɔlſ ［名詞］わっか、リング、輪 ［文字］ループ ［レベル］2 jeμſ 制？←古 :ɔlɔ,hɔlɔ hɔlɔ:hɔlɔ:lɪ ˈɔlɔ:lɪɒɪ,ɪlſ

ɔlſdcd ［娯楽］輪投げ、輪なげ、わなげ ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

ɔlſhɔd ［名詞］輪ゴム ［レベル］2 1L

ɔlſɪ ［格詞］たとえ～でも、よしんば～でも、～だとしても、せめて～だけでも ［レベル］2 1ʔ: 制 :ɔl ſɪl（～ならしかし） ［成句］ ɔlſɪ ɪuen 最低でも、せめて ɔlſɪ ɪlɪ 最高でも ɔlſɪ ſɔſɪl ʾɔj どうやっても ［用例］ ɪn ɪμ ɑɪl ɑɔclneſ ɔlſɪ ſɔſɪl eɒ jɔɑ. 何があろうとも私は早起きしなければならない。　ɔlſɪ ɑcjſ ſɔſɪl ɥənj, neſɪl ɒcɥə ɑɪl ſə ɑcɪ, nɔn lɔſ. どんな犠牲を払ってでも、世界を変えなければならないと思った。　ɪn ʾle ɑɪl ſeɒʾ e ɒɪcɒ ɪnſej ɒecl senſ cɒ ʾlɪlzɪj ʾlɪlz ɪj e ʾlejſ. 明日は天気に関係なく０６：３０に⊠蔵へ行かねばならない。

ɔlſc ［名詞］梃子、梃、テコ、レバー、てこ ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ɔlſ

ɔlſcμej ［音楽］ウィンドチャイム、オルトイレス ul;ɔlſ/cμej イレス神のような形の球にわっかがついたものとして開発された。 ʃʃ

ɔlſe ［名詞］ループ、繰り返し ［形容詞］ループする、繰り返す ［レベル］4 μɑ;ɔlſ.l̀ ʃʔ

ɔlſeſ ［名詞］ループ系 ［レベル］5 ɪl;ɔlſe/eſ ʃʔ ［語法］［文化］ ɪl でできたサブカルのジャンルで、主人公やヒロインが定められた期間を延々ループするという内容。たいていはループからの脱却と幸せなエンディングを目指すことが目標であるが、『アルディア』のように、あえて幸せなループを作り、外界から自分たちを隔絶することで、幸せな夢の中に閉じこもるという手法もある。『アルディア』のような話では、ループから脱却せず、外界から孤立して、幸せな世界を永遠に繰り返すことに意味を見出す。 『アルディア』のテーマは幸せな空想の世界への逃避と、現実の拒絶、現実との隔絶にある。ただし一人の人間による単なる現実の拒絶ではなく、二人の愛し合う男女による二人きりの世界の創造、そしてそれによる現実からの隔絶と二人の強固な孤立した世界の確立という点に力点が置かれる。

ɔlʃ ［物理］量子 ［レベル］5 lɪʾlɪ

ɔlʃucɪnɑel ［物理］量子力学 ［レベル］5 ul;/ ʃʔ

ɔlʃɪlL ［化学］量子数 ［レベル］5 ʃl

ɔlL ［動詞］ɥəl を洗う、洗う ［レベル］2 1ʔ: 制 : 恣意 elɔ:elɔ:ſɪnɜ ［成句］ ɔlL lɪj 手を洗って綺麗にし、自分が汚れていないことを相手に見せること。転じて自分の身が潔白であることを相手に見せつけること。つまり、無実や正義や善や真実であることを相手に証明してみせること。ただし、これは疑いがかかっているときにしか使えないので真理や信用している相手に対しては使えない。 ［用例］ ɪn ɔlLſ eel lɔn eμ jɔμſ. 冷たい水で顔を洗った。　ɪn ɔlL eel hɔſ cɒ ɑɪμ. 朝は顔だけ洗う。　ɪn ɔlLſ eel jɪ ɑɪlL. 朝食の前に顔を洗った。　ɪn ɔlL ncɪ ſɪſ ɑɪμ. 私は毎朝髪を洗う。

ɔluep ［名詞］オーラ ［アクセント］ɔluEp ［レベル］3 ʃ0: 先 ɔl（相手、客体）/ɔjɒn の uelſ（抽象物 → ucɑ）「対象を取り囲むヴィード」→ ɔluelſ → ɔlue → ɔluep（アクセント位置変化） ［文化］ ヴィードが視認できるようになったもの。 ［用例］ ſcl{jɪbej} ɔluep オーラがある

ɔla ［名詞］場合、ケース ［レベル］3 1L:ɔlɑɔnſ（もしもの道） cſj:cſj ［用例］ ɔla uɪɑen もしもの場合　lɪlſ ɔla ɪuen 最悪の場合

ɔlaɪlL ［数学］場合の数 ［レベル］4 1L

ɔlɒɪ ［名詞］外見、見た目、容貌、外観、表面、外側、容姿、姿 ［名詞］見出し語、辞書の見出し語 ［電算］［名詞］件名 ［文字］字形 ［反意語］ɑɔɒ ［レベル］2 古 :ɒɪ は ɒɪcn ［語法］ ɑɔɒ の反対語。ɒɔ だと語義が広すぎるため、この語を使うことがある。 ［用例］ ɔlɒɪ μſ 素敵な見た目

ɔlɒɪɔʃl ［建築］外装 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

ɔlɒɪɟ ［芸術］表紙 ［レベル］3 1L

ɔlɒɪɥəc ［電算］［言語］見出し語検索 ［レベル］6 μɑ;/ ʃ0

ɔlɒɪlecj ［芸術］表紙、表紙絵、表１ ［レベル］3 ʃl

ɔlɒɪlɔn ［地学］［植物］０層の土壌 1L:μcɑcɪ ［語法］ 土壌の１層目。落ち葉や枝の積った相。実質上、地面よりは上。

ɔlɸ ［動詞］［ネガティブ］ɥəl を贅沢に使う ［形容詞］［ネガティブ］(ɔlɸɪn で）贅沢な ［普通動名詞］［ネガティブ］贅沢、放蕩 ［類義語］ɥɔɸ ［反意語］enɑc ［レベル］3 ʃ0: 古 :ɥɔlɸcl（金を使う） ［成句］ ɔlɸ ɔlɸel 贅沢に贅沢する：贅沢三昧

ɔlz ［植物］クルミ ［レベル］3 lɪʾlɪ: 元は hɔlz だったが、メルによって h 音が脱落した。あまり使わない語なのでメルが言い出したら誰も覚えていなかったので訂正されずにそれが定着してしまった。尚、hɔ は固いの意味。

ɔlzzelɔ ［生物］脳梁 ［レベル］5 1L: クルミ状の脳

ɔlzlɔμ ［生物］射精管 ［レベル］5 1L: 前立腺の（射精管のほうの）管

ɔlɪl ［動詞］ɥəl を c から引き継ぐ、引き継ぐ、引きつぐ、継承する、受け継ぐ ［類義語］ɪμʾlɪl ［レベル］3 @ 1L

ɔlcu,ɟzɑ dcl

ɔlcucɪ ［植物］ɑelcn ［言語］［文字］セリフ、セリフ書体。セリフのとげをバラの棘を見立てたもの。 ［組み数字］9 / 9 ［レベル］4 jzɑ; ʃl

ɔlcucɪ(ʃ) ［言語］［文字］標準ゴシック書体、標準ブラックレター、オリヴィア書体、オリヴィア ［レベル］4 ʃl:ɑleɑclɪnj ［文化］ ɑleɑclɪnj

ɔlcucɪn ［医療］鍼 ［類義語］dcnɑ ［レベル］4 jzɑ;ɔlcucɪ ［文化］ 鍼の元祖はカルセールの草原地帯。薬草が取れず、金属の加工技術があり、馬が多い地方であった。（つまり薬草が採れ

ないので鍼でどうにかするしかなかったわけだ)。この地域では瀉血療法などが現在でも盛んで、鍼もここから生まれた。　地球で鍼灸は中国起源と思われているが実は誤りで、体系化したのが中国に過ぎない。鍼はモンゴルで起こり、薬草は東南アジアの植生が豊かな地域で起こった。当時大国だった中国に人材や技術が流れ、体系化されたにすぎない。　それと同じで当時大国だったのがルティアだったため、鍼灸はルティアで体系化され、lə̀leſcɪ に組み込まれた。　アルバザードには ɟɒ に伝わり、一度 ul で陰ったものの、現在でも鍼灸は有効な治療法として残っている。　ちなみに漢方はメディアンが起源で、やはりルティアで体系化された。 [用例] eu ɔlcucɪn ɪ ɑlelφɪlſ φcɒel 肩井に鍼を浅く打つ

ɔlcucɪnſ [医療] 鍼灸師、鍼灸医、鍼医、針医、灸師、灸医、漢方医、オリヴィアント [レベル] 3　ɟzl;ɔlcucɪn/lɪnſcɟ　ɟſſ [文化] → uɪlɟ 語源的には鍼医だが、実際には灸師と漢方医も含まれる。日本と異なり鍼灸医の地位は高く、精神科や内科の上に位置する。詳しくは uɪlɟ を参照。　鍼灸師の地位は日本より圧倒的に高いが、その代わりなるのも難しく、医学部の鍼灸科で６年学ぶ必要がある。内科などと変わらない。　また、日本と違って鍼灸師は漢方なら内服薬も処方できる。ただし筋弛緩剤や抗炎症剤など西洋薬 (ɪnlɪlcɪ) は処方できない。これは伝統的に東洋医療 (lə̀leſcɪ) が漢方 (cnɟɪlcɪ) を処方してきたためである。　鍼灸師はなんでも診ることができるが、骨折と脱臼に関しては整形外科でレントゲンを撮らせる必要がある。ただしレントゲン撮影前の応急処置は行なっても良い。

ɔlcucɪnɟɪl [医療] 鍼体、しんたい、穂　ɟzɑ;/　ɟſſ

ɔlcucɪnɒɔɪ [医療] 鍼根、しんこん、鍼脚　ɟzɑ;/　ɟſſ

ɔlcucɪndəlle [医療] 鍼尖、しんせん、穂先　ɟzɑ;/　ɟſſ

ɔlcucɪnheſſe [医療] 鍼柄、しんべい、軸、竜頭　μɑ;<ɔlcucɪnXeſſe,ɟzɑ　ɟſſ

ɔlcucɪnlɔɔlɔ [医療] 鍼管　ɟɒ;/　ɟſſ

ɔlcuce [伝統色] ルティアローズ。# B 6 B 6 F F。ucɔ ɑcɪ。 [レベル] 5　ɟɒ:ɑɪɒcc/jeɟen;ɔl cuce,lſſ.hɒɒ　ɟſ:ɔlcucɪ [文化] ルティアでバラというと赤でなくこの薄い紫を指す。ルティアやその影響を受けたアルバザードでは薔薇の中で最も気品のある色とされている。ɟɒ でルティアでできた色名だが、μɑ に色が細かく定められるまでは漢然と薄紫や水色を指した。いまだにルティア語では水色などの意味で使う。

ɔlcuce,lſſ　leseɒɒe　yəlɪ、ɑəəμ　ɔlcucɪ

ɔle [名詞] 相手、対象 [言語] 対象、オブジェクト、o b j e c t [格詞] ～を対象として [レベル] 2　1ſ: 制 : 先 :ɔl [語法] 行為を行う対象としての生き物で、主に人間を指す。共に何かする相手は日本語では「相手」と呼んで差し支えないが、それは仲間の意味なので ɔl ではない。

ɔleſ [名詞] 客体 [反意語] nɪnſe [レベル] 3　μɑ;/ɔle/ſe「相手のような」　ɟſ

ɔleſeɑɔ [経済] 財団抵当 [レベル] 6　μſ;/　ɟſ

ɔɪſ [動物] ガチョウ、がちょう、鷲鳥、がん、ガン、雁、グース。ガチョウはガンを家禽にしたものなので同じ。 [レベル] 4　lɪſſɪ: 鳴き声のオノマトペ

ɔcſ [動詞] yəl を ドン引きさせる、ドン引きする、ドン引きさせる、引く、引かせる、ひく [再帰動名詞] ドン引き [類義語] sɪɒɔ̀ɟɥl [レベル] 3　ɑu　ɟſſ [語法] sɪɒɔ̀ɟɥl よりくだけた言い方 [用例] ɪn eſ ɔcſ. 私は引いた。　nɪ ɔcſ 引く。引いた　ɔcſɪn 引かせるような、引く　μenɟ ɔcſ 引くような言葉

ɔcɟ [生物] 手の甲、足の甲、甲、手背、足背 [反意語] ocɟ。類音につき注意。 [レベル] 2　1L:hɔnɔ/ocɟ（固いまのひら）

ɔcɟ̀cɒ [生物] 背屈　μɑ;/　ɟſſ

ɔɔ [言語] ɔ の文字 [レベル] 1　1ſſ: 制 [語法] 第２３文字目の幻字。３番目の母音字。

ɔɔ(J) [接続詞]重文を作る。～して～するに相当。, 記号で代用可能。弱連言。 [レベル]1　1ſ: 制 : 恣意 [用例] ɪn ɔ̀lſɪſ, ɒɔ̀lſ. 私は帰って寝た。

ɔɔ̀l,μ̀l　ſɔɔ̀l　ſɔɔ̀lc.l

ɔɔn [感動詞] やぁ [レベル] 1　古 [語法] hɪɪc より軽いい挨拶。

ɔɔuɪ [アイテム]オーヴァ [レベル]4　μcɑcɪ: 古 :ucucucɒ（オヴィの斧）を適当に変えたもの。 [文化] ヴァストリアの１つ。オヴィのもつ神斧。

ɔɔμ [言語] オール 古 [語法] eɟſ

ɔeɟ,jzɑ　ſɔe

ɔə [感動詞] おお、おぉ、おう、おぅ、あぁ、ああ、あっ、おっ、へぇ、へえ、ほう、ほぅ、ほー、ほお、あらまあ、おやまあ [レベル] 1　古 : オノマトペ

ɔən [動詞] yəl をうめかせる、呻く [再帰動名詞] 呻き [レベル] 2　古 : オノマトペ

Ɔ [言語] 目的語→ ɔɒcſ [レベル] 4　ɟɒ　ɟſ

e

e [接続詞] ～の。所有関係を表す。lec e ɒccμ（ミールの本） [接続詞] 帰属関係を表す。ɪɒel e μɑcɪ（リディアの妹） [接続詞]修飾関係を表す。lec e ɒccl（リンゴに関する本） [接続詞]「～製の」を表す。著作者の場合は yəl でも可。材質の場合は e や lɔnen。qɑeɪ などは形容詞があるので e を使わないでもよい。 [レベル] 1　ɟɟɑ;lenɔ.l 基本語順が S V O になった ɟɟɑ で初めてできた。S V O が基本語順になったにも関わらず、レスティル語では lenɔ のほうが優勢で、e の頻度は低かった。これは ɟɟ にも継承される。e がよく使われ出したのは μɑ 以降。 [レベル] 1　古 : 後ソーン・アルカまでは lenɔ、メル・アルカでは e　lenɔ（e と語順が逆）:lenɔ e,ɟɟɑ:s:ſə,ɟſſ [語法] → ſ(e と ſ の使い分け) ＜基本事項＞　修飾のつなぎとなる。「～の～」に相当。日本語とは語順が逆。「ſ の] は] e ſ になる。　接続詞なので原理的には節も取れると思われる。　ſ e] において] が母音から始まる語の場合、e は ſ' になる。hɪrɒ ſ'ɟɟɪ（アルカの幻字）のように。　ただし初学者に分かりやすくするために hɪrɒ e ɟɟɪ とすることがある。また、「～の」という部分が強調されたり、句全体がゆっくり発音されるときも hɪrɒ e ɟɟɪ になることができる。　＜用法＞　1 : 所有 : lec e ɒccμ（ミールの書）　2 : 部分と全体 : lɟ e ɒccμ（ミールの手）, zedl e zɔɒ（木の枝）　3 : 所属 : qelɪn ſ'ɟɟɪɒɪɒɪnɪ（アルナ大の学生）、ɟɟe e ſɔlel（昨日の雪）。qelɪn ʼlen ɟɟɪnɪɒɪnɪ だと所属よりもむしろ現在地や所在地を指す。昨日という時間帯に所属する雪なので e を使う。　4 : 材質 : ɑcɪɒ e{ſɔnen} qɑeɪ（鉄の像）。qɑeɪ を形容詞にすれば e は不要。lɔnen で言い換えも可能。　5 : 関連性 : jeſɪ ſ'ɟɒɪzɪɟɑ（アルバザードの歴史）。jeſɪ ɔnen ɟɒɪzɪɟɑ でも可能。　6 : 慣用 : leucɪn ſ'ɟɟɪ（アルカの人工言語→人工言語アルカ）。直訳すると「アルカの人工言語」となり、違和感がある。leucɪn ſ'ɟɟɪ の e については、古アルカで「人工言語アルカ」に相当する句を作る際、今の e に当たる lenɔ という接続詞を用いていたことに起因する。　x : 属性 : ɑcɪn ſ'cnɟ ɟɔpeſ（青い目の少女）。これは不可。ſ e] で] が ſ の属性を示す用法はない。ɑcɪn ɔlen cnɟ ɟɔpeſ, ɑcɪn le ſcl cnɟ ɟɔpeſ が正しい。ɑcɪn ſ'cnɟ ɟɔpeſ だと「青い目が持っている少女」という意味不明な句になる。もし意味を有するとすれば、例えば cnɟ ɟɔpeſ が「青い目団体」などの固有名詞で、そこに所属している少女だということなら問題ない。　x : 性質 : hɪrɒ e ucl（男友達）。これは不可。ſ e] で] が ſ の性質を示す用法はない。hɪrɒ l'eſ ucl が正しい。hɪrɒ e ucl だと「男が所有している友達」の意味なので、「とある男の友人」という意味になる。その友人は女かもしれない。hɪrɒ e ucl を男友達と解釈すると意味が真逆になる恐れがある。　x : 源泉 : ʼlid e ɒccμ（ミールから掛かってきた電話）。これは不可。ミールの所有している電話の意味になる。ʼlid cſen ɒccμ が正しい。　材質が可で属性や性質が不可なのは、恐らく材質が両者に比べて「部分と全体」に近いためであろう。鉄の像は鉄という材質が全体で、その材料の一部を使って像を作るわけだから、部分と全体に近いものがある。結局のところ鉄も像も鉄なので、部分と全体が成り立つ。「ミールの腕」という句において腕もミールもミールだというのと同じことである。　一方、属性や性質の場合は「部分と全体」とは言いがたい。ɑcɪn ſ'cnɟ ɟɔpeſ はそもそも「全体と部分」になっていて立場が逆転しているし、hɪrɒ e ucl については友達と男は同一でない。なお、cnɟ ɟɔpeſ e ɑcɪn なら「部分と全体」や「所有」の関係になるので可であるが、これだと「青い目の少女」でなく「女の子の青い目」になって意味が変わってしまう。　＜e の解釈＞　e は多義語なので解釈は文脈や背景知識に基づいて行う。例えば学生にとって qelɪ は所属するものであり、常識という背景知識から用法を定めることができる。同様に社長にとって lɔcſ は所有するものである。　ところが中にはどの意味にも取れる場合がある。lecɟ e ʼl の場合、ʼl は描き手なのか、モデルなのか、所有者なのか、そういったことは分からない。どの可能性もある。この場合、文脈で判断する。できなければ曖昧なままとなる。もし意味を明瞭にしたい場合は、e を使わずに表現する。描き手の場合は lecɟ le lə lɪɑɪſ、モデルの場合は lecɟ le lə eſ ɒɪcl ɔn や lecɟ ɔnen lə、所有者の場合は lecɟ le lə ſcl というように。　＜e と所有代名詞＞　名詞には所有格（属格）があるが、代同の所有格ほど頻繁には使わない。まずこのことを念頭に置いておく。　ところで、実は所有格などなくとも人工言語は事足りる。qelɪ ſccl など qelɪ e ſc とすればよいのだから。ところがアルカの代同には所有格がある。まこと面倒くさいが、たまには便利なときもある。　代同の所有格は e のすべての用法を取ることができる。lec ſccl から jeſɪ ſccl まで全て可能だ。むろん lecɟ ſccl で「あなたの絵」という意味になる。でもこれは lecɟ e ſc ではいけないのか。　実は lecɟ e ſc もアリだ。しかし意味が変わる。lecɟ ſccl は「あなたが所有する絵」（所有）や「あなたが書いた絵」（所属）を意味し、lecɟ e ſc は「あなたを描いた絵」（関連性）になる。　このように代同の場合、所有格があることで所有格を使わない e を使った句と意味を区別することができる。　所有格と所有格を使わない e を使った句を比べると、所有格は上の５つの用法のうち、より１に近いほうを優先的に取る。両者を比べない場合はこの限りではなく、両者とも１～５の用法を取ることができる。　なお、普通名詞でも理論上は同じ現象が起こるはずだが、普通名詞の属格はそもそもあまり使わないので、lecɟ ləſcɪn と lecɟ e ləſcɪ のような対立は生まれない。　多義性が生まれる lecɟ のような名詞と属格が並んだ場合、文脈で用法を判断するか、そうでなくば lecɟ le lə lɪɑ ɔnləſcɪ（彼がルティア国について描いた絵＝ルティアがモデル）のように言い回しを変える。　・まとめ　lecɟ ɪnſ は「私の描いた絵」ないし「私の所有する絵」。　lecɟ ſ'ɪn は「私を描いた絵」。　ſcllɪnφ e ʼle は「何かの所有権」。　ſcllɪnφ ʼleeſ は「何かが持つ所有権」で、何かが人以外のときは不適。 [用例] lec e ʼlcɔn 紫苑の書　ɪn ſcl ʼlɔ lec e{lɔſen} uc. 三冊の本のうちの一冊を私が持っている。

e(J) [数学] aeɟſ の略。数式で使う。÷記号に等しい。 [レベル] 2　1L

e(ʔ) [化学] [接頭辞] ～を除いた。英語の d e のように使われる。減去命名法などに用いられる。　1L: 制の接頭辞 e。ɪ を選ばなかったのは、開く接尾辞の ɪ と重複するため。前の単語の接尾辞の ɪ なのか、後ろの単語の接頭辞の ɪ なのか、耳で分からなくなる組み合わせがでないともいえないので、あらかじめ芽を潰した。

e(ſſ) [文末純詞] だなぁ [レベル] 1　古 :::ɔ,ɟſ [語法] ɪ の e 系列。人に喋りかけるときに使う詠嘆。ɪ にすると独り言のような詠嘆になる。ɪ を相手に使うと、やや男性的でぞんざいな感じになる。

e,ɑ　lɪnʼl　e

e,lſſ　ɔ　enſ,jzɑ.lɔʼl

eſ [動詞] ɟɔl は yəl である、だ、である。定義動詞。 [レベル] 1　jeμſ　1ſſ: 恣意　ɑe:ɑe:ɟɔn [語法] 繋辞。名詞や形容詞を yəl に取る。繋辞の時制は、時制を表す副詞を繋辞動詞としてそのまま使う。例えば過去時制の繋辞は ɪſ。lɪ ɪſ ʼlɪc で「彼は大きかった」。lɪ ɟcl ʼlɪnlɪ で「彼は教師になるだろう」。

eſ(J) [接尾辞] ～的な、～風な、～ふうな、～系 [レベル] 1　ɑu:ſeeze から　ɟſſ:μcɑcɪ: 古か制か新生の初期から「～風の」という意味で –ſe というのが使われていたが、閉音節の多いアルカでは –ſe がリムレットして –(e)ſ になることが多く、ɟſſ でようやく –(e)ſ をひとつの独立した接尾辞として認めることにリディアが決めた。その少し前（ɟſ 末）に –eſſe という接尾辞をセレンが作ったが、それを消してのことだった。セレンが –(e)ſ を接尾辞として導入しなかったのは、同音異義語が増えると懸念したためである。例えばこのリディアの決定以前は「哲学的」は ɪueleſſe で「ロッド」の ɪueleſ と区別できていたが、この決定以降は両者とも ɪueleſ になってしまい、区別がつかなくなってしまった。　ſe, eſ:ſe, eſ:ſe, eſ [語法] 開音節で終わる場合は e が落ちることがあるが、落ちるかどうかは単語の語形が言いやすいかどうかで慣例的に定まる。

eſſɪ [文末純詞] 返事を促す [レベル] 1　古 :eſſɪ,ʼleſſɪ（さぁ）から。音声のみのアンシャンテ時にトランシーバーの「どーぞー」と同じ役割で発達した。 [語法] 文末におき、「ここで自分の発言は終わりです。反応をください」という意味を指す。通常、相手はこちらの発言に対してコメントをする。ここで流されると「あれ？」と思う。失礼なことなので、それが続くと、やられたほうは徐々にイライラしてくる。

eſſɪ(J) [親族] お姉ちゃん。eeſɪ より子供っぽい響き。 [レベル] 2　古 [語法] [文化] ɪlɟeμ

eſſɪ(ʔ) [遊女] [代詞] ſɥə [レベル] 4　ɟſ:eſſɪ

eſſɪ,ɑu　ɟɪſ　ʼleſſɪ.l

eſſɪn [遊女] [代詞] ſəɪn [レベル] 4　ɟſ:eſſɪ

eſſɔ [親族] お兄ちゃん、えっと [レベル] 2　古 :ɒel: 古アルカの eeſɪ の対。ɪleſſɪ, ɪleſſɔ と同じ。アプラウトした制アルカの eſɪ, eſɔ の対比から来ているのではない。アシェットではメルがセレンを呼ぶときに eſſɔ 単体で使われる。 [語法] [文化] ɪlɟeμ 血の繋がってない年長の男子に対して主に女が親愛の情を込めて使う。

eſſɔlccɑɪ [天文] レグルス [レベル] 6　1L:ɒel [文化] 黄道を通る４つの一等星のひとつ。メル、アルヴァノ、メルティア、セレンで構成される。厳密にはレグルスは「お兄ちゃん星」の意味で、セレンを暗示しているだけである。家族のないメルは縁の人物を挙げると、兄代わりをしていたセレンを兄として含めてしまう。

eſſe [形容詞] [ポジティブ] [ネガティブ] 男勝りな、活発的な、おてんばな、お転婆、おきゃん、きゃん [反意語] yənɑc [レベル] 3　1L:lecn:eſſɪ。制では yənɑɪ [語法] 良い意味か悪い意味かはその場の空気や本人の受け取り方で変わる。

eſɟ [物理] 電波 [レベル] 3　ɪlɪlɪ

eſɪ [動詞] yəl を汲む、汲む、くむ、汲み上げる、くみあげる [レベル] 3　ɑ;e/ſɪ「水を外に」　ɟ̀l　eſɪ:eſɪ [用例] eſɪ eμ ɪ dɪd コップに水をくむ

eſɪſ [名詞] エタット、積極的で外交的な人、男役、タチ、立ち、兄役、兄貴、兄分、姉分、姉御、姉貴、兄者、姉者、姉役 [レベル] 2　古 :eſɪſ（エタット）← eſſɪ,eeſɪ（姉） [文化] 性格二分法における、陽のほう。陰のほうは lccɟ という。ɪμɑen や ɒɪɥə は eſɪſ に含まれる。

eſɪn [生物] エタン、実躰、じったい [反意語] ɪſen [レベル] 3　1L:ɪſen の母音を入れ替えたもの [語法] [文化] ɪɒɪſ 生物のうち、アテン（神や悪魔や死神やユーマの一族など）を除いたもの。

eſcʼl [農耕] くわ、クワ、鍬 [レベル] 3　古

eſcn [動詞] ɔn（金や仕事や勉強など）について yəl（人や境遇）に甘える、甘える [普通動名詞] 甘え [反意語] hcnɔ [レベル] 2　1L: 制 :eſn [語法] アルバザードはフランスと似ていて個人主義でもあるため、甘えの文化は日本と違ってないだろうと想像されるだろうが、実際にはアシェットがほとんど同年代で構成される中、メルだけが初期のメンバーで年少者で、セレンがこれを猫可愛がりしたため、甘えの文化があった。　アルバザードは個人主義なので ɟɒ までは甘えの文化がなかったが、ɟɒ で村社会の凪人が甘えの文化や長幼の文化を持ち込んだ。その上 μɑ でセレンがメルを甘やかして甘えの文化を発達させ、それがアルカに反映されたため、ɟɒ_μɑ 以降は甘えの文化や長幼の文化がアルバザードにも存在するようになった。　ただし、日本語の甘えと一対一の対応をする概念ではなく、アルカにおいて eſcn は hcnɔ すなわち我慢の反意語である。　我慢しないで誰かに依存して助けてもらうとか、我慢しないでストレスを吐き出すとか、そういう意味で eſcn という言葉を使う。従って、日本語で甘えといえるシーンで全て eſcn と訳せるわけではない。 [用例] ɒel eſcnɪſ jeμen ɔn ʼɔſɪl. メルは何から何までセレンにおんぶに抱っこだった。

eſcɒ [医療] ジェンダー、ジェンダーとしての性 [レベル] 4　1L:eſɪſ/hcɒ [文化] アルバザード人は同性愛に寛容な反面、ジェンダーとセックスの不一致には厳しい。すなわちホモやレズは受け入れるが、男なのに女として生きるというような価値観はあまり受け入れない。つまり、男同士・女同士の恋愛は寛容されても、女が過度に男のように振舞ったり、男がオカマのようなへなへなした態度を取るのは気持ち悪いとみなされる。　ホモやレズは認知されていてもやはりレアなので、笑いやジョークのネタになる。ただし、高学歴ほど笑わないで受け入れる傾向にある。　女装男装については嫌われる傾向にあり、高学歴でも笑いの対象としがちである。ただし、女装男装に関しては但し書きが必要で、非常に美しい男が女装をするのは受け入れられる。一方、女が男装をするのはいずれの場合でも気味悪がられる。ただし hcɒμcəɟ のようなたまのイベントは除く。　なお、これらの設定はすべて現実のアシェットを反映している。　アルバザード人の多くの男性は（恐らく日本人の多くの男性と同じだと思うが）、一緒に遊ぶなら女より男のほうが好きだが、女体と男体なら１００％女体が好きで、男体が好きというのはありえないと思う。ふつうに人付き合いをするなら男のほうが圧倒的に付き合いやすいし好きで、どちらかというと女はあまり話も価値観も合わないので好きではないのだが、じゃあ男に性的魅力を感じるかと言ったらそれは髪の毛の先ほどもなく、逆に女体はふつうに好きである。おおむねふつうの日本人もこんな感じではないかなぁと思う。

eſccμ [生物] 黄色人種、エティール [レベル] 3　1L:μcɑcɪ [文化] lɪndcſ

eſccμoɪ̀lɪnɪ [俗語] 和物ロリータ、和炉、アジア人ロリータ、亜炉。東洋人（黄色人）ロリ物をすべて指す。 [レベル] 5　μɑ;/　ɟſ

eſɔɟ [宗教] [ジョブ] エトス、僧侶 [レベル] 3　古 :eſɪ からか [文化] アルティス教の聖職者。聖

職に就くことを生業としている。当然敬虔な信者だが、エトスはプロでラティスはアマという違いがある。

eʃɔɟʃɔnʌ ［政治］僧侶 ［レベル］4　1L ［文化］ アルティス教徒が作った身分階級。きちんと階級として認められるのは革命から。

eʃe ［化学］中性、電気的に中性 ［レベル］3　Jl:e/ʃeɟ

eʃeʃʃı ［遊女］［代詞］lclcɟ ［レベル］4　J:

eʃeʃʃın ［遊女］［代詞］lclcn ［レベル］4　J:

eʃeʌ ［料理］茶、紅茶 ［レベル］2　ʃɒ;eɟcı/ʃeʌ　古 :eʃeʌ（茶、葉の水）　eʃe:eʃeʌ:eʃeʌ:leʃʃe,ɑɸn ［文化］『ミールの書』で茶といえば紅茶を指すように、無標は昔からずっと紅茶である。紅茶はアルカで最も普通に飲まれる嗜好品。砂糖などを入れて飲むが、ストレートも多い。『紫苑の書』などでも頻出する。　お茶文化はもともとヴェマやアルティアやメティオなどで盛んだった。各地でそれぞれ分類様式化されていたが、μɑ でクミールによってアルバザード流の様式が確立し、黒茶、白茶、紅茶、青茶、緑茶、黄茶の６分類ができた。　ルティアは早くからヴェマの影響を受けて６分類を持っていた。 ［用例］ lɪɑ eʃeʌ 紅茶を淹れる

eʃeʌʃeʌ ［料理］茶葉 ［レベル］3　ʃɒ;/　J:

eʃeʌʃeɟ ［料理］ティーカップ ［レベル］3　J]

eʃeʌbeɟl ［料理］ティーパック、ティーバッグ、ティーバック ［レベル］3　J]

eʃeʌhɔʌn ［料理］ティースプーン ［レベル］3　J]

eʃeʌ e ɒccɟ ［料理］フレーバーティー ［レベル］3　J]:「ミールの書の紅茶」。作中には色々な紅茶が出てくる。lcɟʃcnı の場合はベリー系の色に設定してある。

eʃeɟɟʌucɪn ［化学］ファンデルワールス力 ［レベル］5　J1

eʃʃ ［動詞］ɥəl を ɪ にこぼす、こぼす、零す、溢す、こぼれる、溢れる、零れる、毀れる ［レベル］2　1?: 制 : 古 :eʌeʃʃı（水が行く） ［用例］ eʃʃ eɟ e{c} dıd コップの水をこぼす

eʃʃlɔɔb ［被服］トーク　μɑ;/　J0 ［文化］ ɟɒ でできた。零れ落ちそうな形をしていることから μɑ でこの再命名がなされた。ケートイアの貴族が着始めたのが最初。

eʃʃ ［名詞］流れ、フロー ［動詞］ɥəl を ɪ に流す、流す、流れる ［類義語］eʃʃɥecn ［レベル］2　1J: 制 :eʌe（川）　eʌe:eʌe:li eʌe ［語法］ 水が流れ出したら lcʃ。流れている最中が ɔɟ で、ストップしたら cʃ で、水がわだかまっている状態が eɟ で、そのわだかまりが染みこんで消えたら ʃɔɔʃ で、染みてぬかるんだ地面が clʃ。　川を流れる葉のことも eʃʃ といえるし、川を流れる水そのものも eʃʃ といえる。後者の場合、明言したいなら eʃʃɥecn とする。　ɟɔl には液体と気体のみを取る。血が流れるはＯＫだが、桃が流れるとは言えない。固体の場合、副詞にして ɑc ıcʃ ənıɟ eʃʃ とするとＯＫ。液体と気体は動詞、固体は別の動詞＋副詞で。　固体だけ別扱いなのは、桃の場合、流れているのは桃でなくて川の水だから。水が流れることで桃が移動する。だから動詞は eʃʃ でなく lenı になる。そしてその移動の様態として eʃʃ が副詞になる。桃の果肉が桃の中でどろどろに溶けて桃内で流れ出すなら、ɑcıcl eɟʃ と言える。 ［用例］ eʃʃ ɑɔ {ʃcn} 激しい流れ、激流　eɟc ɔɟ eʃʃ. 血が今どくどくと流れている。　eɟc eɟ eʃʃ. 血が流れた跡があり、乾いている。

eʃʃɑcʃʃ ［名詞］なりゆき、成り行き、成りゆき、成行　μɑ;/「流れていった結果」 ［レベル］3　J: ［用例］ hıɪɟ eʃʃɑcʃʃ 成り行きに任せる

eʃʃɥecn ［名詞］流れ、フロー→ eʃʃ ［レベル］4　J0

eʃʃzeʃ ［経済］フロー科目　1L

eʃʃɔɒ ［名詞］流れ方、展開、流れ、話の流れ、話の筋、筋、ストーリー、物語。物語の展開などの意味の展開。 ［レベル］4　μɑ;/　J0

eʃʃeμc ［医療］血友病 ［レベル］5　1L: 血が止まらない様を川に見立てている

eʃɟ ［言語］意味 ［動詞］ɟɔl は ɥəl を意味する、意味する。定義動詞。 ［レベル］2　古 :eʃɟ（意味）　リュウの無意味からの造語。一般に使われていた ıdcı とは違い、意味論の成分分析における意味素性の１つ１つを指した言葉だった。 ［用例］ ʃcl eʃɟ ʃcnʃı 意味が大きい　eʃɟ hın 意味が広い

eʃɟɑel ［言語］意味論 ［レベル］6　1L

eʃɟhıʌ ［言語］表意文字 ［レベル］5　J0 ［文化］ → hıʌ

eʃɟhıʌb ［言語］表意幻字 ［反意語］ɑɔhıʌb ［レベル］5　J1 ［文化］ 新生の普及とともに徐々に使われなくなっていったが、現在でもアルミヴァの１２神や使徒記号など、残っている例もある。ɑıc や lccfɔ など、簡単な幻字は看板や広告などで日常的に見られ、デザインにも見られる。難しい表意幻字については学識のある人、特に文学部など古典を読む必要性のある人であれば読める。また、アルナ大など学校によっては受験科目に古典があるため、学歴に一般的に比例する。

eʃɟɪuıc ［魔法］［言語］意味素性 ［レベル］6　J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

eʃn ［名詞］平行 ［格詞］平行な、～に沿って ［メタファー］［格詞］［形容詞］方向性が一緒な、馬が合う、反りが合う ［反意語］ɟɔʃʃ ［レベル］2　1J: 制 :ɔʃn: 古 :ɟɔʃeʌı ［語法］ ２０１２年１２月１９日にセレンは南雅彦（２００９　ｐ５７）『言語と文化』を参考に、意見や企画などが互いに平行しているというメタファーはアルカで反りが合うのか合わないのかどちら、つまり日本式なのか欧米式なのかを判断するため、リディアに質問を投げかけた。 ınɔ ınfeɟ eʃ eʌn ɪ lɔʃ はどういう意味だと思うと質問したところ、リディアは「私たちの計画は互いに同じ方向性である」のことだと思うと答えた。　日本語で平行といえば平行線のことだから、反りが合わないということだが、英語のパラレルの場合意味が逆で、同じ方向性で似ているという意味になる。この言語現象をセレンは言語相対論的に解釈した。つまり、アメリカ人は個人主義が発達しているため、俺は俺の道を行き、君は君の道を行く。その道が平行ということは、方向性が一緒ということであり、似ているということになる。一方、村社会の日本では、和を以て貴しと為すという精神が浸透していているため、交わって和を成してこそ互いに馬が合うということになる。同じ平行という概念でも日米で真逆の解釈になるのは、恐らく集団主義か個人主義かという文化の違いが言語の違いに反映されたものではないかとセレンは言語相対論的に解釈した。　そこでセレンはリディアを使って実験し、先の例文の意義を尋ねた。するとリディアは平行しているということは意見が似ていて馬が合うということではないかと答えた。これはアルバザード人が個人主義を重んじていることを考えると、先の言語相対論的な説明に沿う。　次にセレンはネイティブである５歳のルシアにも同じ実験をし、彼女もまたリディアと同じ解釈を示した。ネイティブがそのような判断をしたということで、やはりアルバザード人の個人主義という文化的価値観が、平行の比喩的な語義に影響を与えた結果ではないかと考えた。　続けて逆の意味の ɟɔʃʃ でも同じような例文で文意の調査をしたが、ɟɔʃʃ の場合は意見や企画が衝突してしまってぶつかり合ってかち合う、つまり反りが合わないという意味で解釈された。交わることを日本人は恐らく和を以て貴しと為すの精神で和合と捉えるが、個人主義のアルバザード人の間では同じ表現が和合ではなく個と個の衝突からのいさかいという風に受け取れたのが非常に言語学にも文化人類学的にも興味深かった。　結局セレンは eʃn や ɟɔʃʃ の比喩的な語義を定める際、個人的にワンマンで定めることができなかった。というのも、セレンが勝手に語義を定義しても、それがネイティブらの語感に沿わない場合は遠からず棄却されるからである。このようにして、セレンはネイティブの語感に頼って語義を設定していった。　ちなみにこのような言語設計はネイティブがおらずセレンがワンマンで作っていた制アルカの時代が終わってからとみに見られるようになった新生アルカの傾向である。 ［用例］ ın lə\ʃ eʃn eμec. JIに沿って歩いた。　☆ ınɔ ınfeɟ eʃ eʌn ɪ lɔl. 私たちの計画は互いに似ていて方向性が一緒だ。

eʃn(J) ［生物］［医療］流注　ɟzl;eʌe,ɑ.l　J0

eʃnʃced ［建築］側溝、そっこう ［レベル］4　μɑ;/　J: ［語法］ 道路や鉄道敷に沿って設けられる溝であり、専ら当該道路等の滞水を防ぐための排水目的で施工される。

eʃnɥecn ［数学］平行線 ［レベル］3　1L

eʃnen ［接続詞］eʃn ［レベル］3　J1

eʃneeu ［物理］縦波、粗密波 ［レベル］5　1L: 媒質の振動が波の進行方向に対して平行

eʃɥəlcı ［地名］エキュリア、エキュリア海 ʃɒ;ı は「海」 J: 以前にあった語形を再利用。 ［文化］ セレート島以西、ファベル以東の海。

eʃɥəlcıʃcʌe ［地学］エキュリア海流 J:

eʃʃeμ ［音楽］チェレスタ、エクレール ［レベル］5　lfl;lleμ.l　J1 ［文化］ ɟɒ でルティア人が開発。同アルバザードへ伝来。ルティア、アルバザード、アルダで特に好まれる。

eʃı ［地学］水たまり、水溜り、水溜まり ［レベル］2　1?: 制 :『すなおな気持ちになれる風』 ［用例］ ın ləʃıɟɔμ ıɒɔl ʃc ɔnʃ ınɒefeɟ nɔɟ ɒın ɔʃʃ ucl ıleɒ ɒcl ʃʌə. ɥın ʃc ʃıen eʃı ɥıcɟıʃɔμ ın ʃcc ıl. 恥ずかしくて気持ちを伝えられずに、うつむいて君の隣を歩いてた。そしたら水たまりに映った君が僕を愛おしそうに見てた。

eʃıuccɑı ［生物］［医療］宗穴、総穴　μɑ;/「水たまりの経穴」 J0

eʃc ［名詞］機能 ［レベル］2　1?: 制 : 古 :eʃlc（顔が変わる）。７年にメルの持っていたヘッドを回すと顔が変わって色が変わるボールペンをセレンは見せてもらった。顔が変わるごとに機能が変わるというそのボールペンが由来となり、eʃlcʃ「顔を変える」が「機能」という意味になった。eʃlc といっても他の使徒には通じず、"eʃlc ＭＥＡＮＳ ＦＵＮＣＴＩＯＮ." とメタ言語に英語を使ってセレンは使徒に広めた。

eʃcn ［言語］成句、イディオム、熟語 ［類義語］ɪuıʃ ［レベル］4　J0:eʃc/μenɟ（機能する言葉）

eʃcnlec ［名詞］熟語帳 ［レベル］5　μɑ;/　J: ［語法］ 学生がよく英単語帳とともに買っていく単語帳の熟語版のこと。

eʃcʃcʃʃ ［電算］ファンクションキー ［レベル］3　J0

eʃɔ ［建築］樋、雨どい、雨樋 ［レベル］3　ıʃıʃʃı:eμcıʃeʃʃɔ ［文化］ 水を送る装置で、雨どいや田畑に使う。

eʃɔɟ ［形容詞］流暢な、饒舌な ［反意語］ɔʃeʌ ［レベル］2　1?: 制 : 古 eʌe（JII） ［成句］ eʃɔɟ ɥən μc ɑcı 立て板に水

eʃɔl ［代詞］［ɥən］私たちの ［レベル］1　J1:ʃɒccμ:e ʃɔʌeʃ（私たちの）

eʌe,ɑ eμec、eʃl 「水の方法→水が行く」

eʌeʃ ［名詞］才能 ［レベル］3　1?: 制 :eʌeʃɔne ［用例］ ʃcl eʌeʃ 有能だ、才能がある　ɟc eʌeʃ 無能だ、才能がない

eʌeʃɔne ［組み数字］２１／２８ ［交通］エケートネ通り ［レベル］2　J]

eʌeʃɔne uıını ［人名］エケートネ＝ヴァーナ ［組み数字］２１／２８ ［レベル］3　古 : 語源不詳。uıını は「勇気がない」の意味。 ［文化］ → ʌeʃueμınʃ（ʔ → ）第４期４代ソーン第７使徒。男性。dcʃʃɔ。１６５ｃｍ、４７ｋｇ。髪は金色で短く、少しくせっ毛。青の瞳。肌は白：黄＝９：１。メルの友人。

eʌeʃɔɔ uıını ［人名］エケートー＝ヴァーナ ［レベル］5　古 : 右の名は後付け ［文化］ エケートー＝ヴァーナ。初代ソーンの第７使徒。異性魔王

eʌeʃeʌccnı ［人名］［ユマナ］エカテリーナ　先 : 先代アルカの時代に生まれていたので。そもそもアルカの名前でない。地球のものを音訳しただけ。 ［文化］ ルティア家専属のセラピスト。リディアらと同居している。鍼灸なども打てる。リーザやリディアが若いのは美容鍼や腎経などのトリートメントを日々行なっているからというのもある。

eʌeɟ ［動詞］ɥəl を ɪ（場所や方向）にうねらせる、うねる、湾曲する ［美容］ワインディング ［レベル］3　J1: 「川する」

eʌejen ［音楽］トランス ［レベル］5　J1

eʌel ［経済］流通 ［レベル］4　μɑ;eʌe/ɟɔʌl　J:

eʌʃ ［形容詞］汚い、不衛生な、汚れた、不潔な ［類義語］beφɔı、ʃeʌıɟ ［反意語］ɔɟl ［形容詞］［婉曲］男に手をつけられた　jeμʃ ［レベル］2　1fl: 制 :ɔlʃ　eeɥı:eeɥı:eeɥı ［語法］ 醜いという意味はない。不衛生を指す。

eʌʃʃced ［建築］どぶ、ドブ、溝 ［レベル］3　μɑ;/　J:

eʌʃlɔμ ［建築］下水道 ［レベル］3　1L:cʌbəɟ:μcɑcı

eʌʃeμ ［名詞］下水 ［レベル］4　μɑ;/　J:

eʌl ［建築］洗面所、手洗い、手洗い場、洗面台、洗面器 ［レベル］2　1?: 制 :eeʌlı ［文化］ トイレの近くにある。鏡があって水道がある。上下にタオル入れがある。日本と同じ。水で顔を洗ってタオルで拭く。これも同じ。洗面所は大抵トイレの数だけある。 ［用例］ ın ıʌjcdıʃ eμ ıl eʌl. 洗面台に水を吐き出した。

eʌn ［名詞］フィルター、エアフィルター ［レベル］3　1?: 制 : 綺麗にするもの

eʌɒ ［名詞］たらい、盥、タライ ［レベル］2　lıʃıʃı: 洗うもの

eʌd ［擬音］ごしごし ［レベル］2　1fl: 制 : 物を磨くオノマトペ eʌl

eʌl ［名詞］ブラシ、筆、たわし ［類義語］hensc ［レベル］2　lıʃıʃı:eʌl（ブラシ掛けするときのこする音のオノマトペ） ［用例］ ın eʌlıʃ ɑcı. 髪にブラシをかけた。

eʌlʃʌəʃ ［俗語］歯ブラシ舐め ［類義語］dıʌnʃʌəʃ ［レベル］3　1L:bel/jeμen: おジャ魔女どれみの動画をメルに紹介したら爆笑して、アルバザードだと歯ブラシに相当するだろうと言って設定したことから。 ［語法］ 日本の笛舐めに相当。アルバザード人は学校に歯ブラシを置いているので、主に男子が好きな女子のを使うことを指す。性的倒錯の強いアルバザードだといかにもありそうだということで設定。笛と違って血を通して病気が移るので明らかに避けるべき。女子はそれを知っているのでロッカーに入れておくが、ロッカーは湿気が強いので、使用後はよく水を切らないとすぐブラシが臭くなってしまうのが悩みの種。　非常にキモがられる行為で、バレると学園生活が終わる。

eʌlhɔɟ ［名詞］ブラシ立て、歯ブラシ立て ［レベル］3　1L ［用例］ ın euıʃ ɑcɔeʌl ıl eʌlhɔɟ lc ɔʌl ɑcɔeʌl. 歯ブラシを濯いでから歯ブラシ立てに置いた。

eʌɔ,ɑ ɔʌl　e は水。

eʌɔn ［動物］アライグマ、ラクーン ［レベル］3　lıʃıʃı: 洗う者

eɟ ［接尾辞］継続相を示す動詞語尾。開音節の動詞では ɟ になる。 ［動詞］ɥəl になっている。継続相の繋辞。 ［レベル］1　1L: 恣意　ʃın:ınɔɟ,lɥ::hızeʌe,ılʃ ［用例］ eɟʌeɟ（濡れた地面を見て）雨が降っていた。　ɟʌcneɟ 座っている　ɔɔμʃeɟ 死んでいる　cneɟ 見ている　ʃə eɟ euej. これは濡れている。

eɟ(J) ［文頭純詞］なぜ ［レベル］1　ɑ;e　1?: 制　ʃɔɒɔ:ʃɔɒɔ ［用例］ eɟ ʃc ʃeʃß どうして行ったの？

eɟ,ɑ eɟʃ　<>eμcı

eɟʃ ［言語］名、名前、曲や文章や演劇などの題、題名、タイトル、題目、表題。手紙やメールなどの「件名」は eɟʃ でなく ɔʌɒ。 ［動詞］ɥəl を lel と名付ける、名付ける、名づける、呼ぶ、名乗る ［レベル］1　jeμʃ　1?: 制 : 第一改定前アルカ eejʃe（名前）。制アルカは名前→苗字の順で書く　eejʃe:eejʃe:lə eμjʃ:ɥənı,ılʃ ［文化］ → ʌəzeɟʃ, eɟʃlınφ　＜人名の構成＞　通常、人名は名 (eɟʃ) ＋姓 (μɟʃ) である。「～家の誰それ」という意味で、e 語順。　人によってこの間にミドルネームが来ることがある。ミドルネームは最大３つまであり、jɟμnə, jeʃʃɔ, ɔɔμ と続く。μcɑcı jıdlc μɟccʌı ʃeɔ ʌəfcı や μɥəə ɔlcɟcı ɑcn ʃcʌɔ hɥəəʃɔ などは最長。　ミドルネームは功績のあった人物に付けられる μɑ までの風習で、貴族や英雄などに付けられた。nɑ 以降は廃れたため、ミロクもミドルネームを持っていない。　＜呼び方＞　人を苗字で呼ぶ場合、属格はその家の者全員を指す。その家の特定の成員を指す場合は苗字単体にする。元は逆だったが、個人を呼ぶ機会のほうが多いため入れ替わった。　"ɑıcn ıμbın, bcμ ʌənı ıʃə" だと家族全員が呼ばれている。ɑıcn ıμbı だと特定の人が呼ばれている。　前者が「田中家御一行様お越しください」だとするなら後者が「田中様お越しください」である。　J1 まで苗字の使いどころがなく苗字の存在意味が希薄だった。同年大会議後にセレンとリディアが人の呼び方を統一した際、苗字の使い道について検討され、このようになった。　親密度や敬度に応じて人の呼び方は変化する。敬称と組み合わせることが多い。ざっくり言うと親密度は名前＞苗字で、敬度は敬称の重さの順である。　ıμnə ıμbı と ɥəəɒı ʌəfcı を呼ぶ場合、大雑把に言って以下の順で丁寧な呼び方となる。　厳密にいえば必ずしも丁寧順で並んでいるわけではなく、状況に応じて最も相応しい呼称がある。例えば論文などで「アルバ氏」という場合は μıə が適切である。　同様に、jın ıμbı_ıμbı より ɑɥəjjɔə ıμnə_ıμnə jın のほうが丁寧。丁寧だが親密度も高い。逆に ıμbı は丁寧ではないが親密度が低い。面識のない同級生などに用いる。つまり親密度と丁寧さの組み合わせでこれだけのバリエーションがあるということになる。　ɑıcn ıμbı : アルバ様　μıə ıμbı : アルバ氏　jın ıμbı : アルバさん　jɔə ıμbı : アルバ君　ıμbı : アルバ　ɑɥəjjɔə ıμnə : アルドゥ殿、アルドゥ様、アルドゥさん　ıμnə ɑɥəjjɔə : アルドゥさん　ıμnə jın : アルドゥさん　ıμnə jɔə : アルドゥ君　ıμnə : アルドゥ　ɑıcn ʌəfcı : ルティア様　μıə ʌəfcı : ルティア女史　jın ʌəfcı : ルティアさん　lccz ʌəfcı : ルティアちゃん　ʌəfcı : ルティア　ʌəı ɥəəɒı : ユーマ嬢　ɥəəɒı ʌəı : ユーマさん　ɥəəɒı jın : ユーマさん　ɥəəɒı lccz : ユーマちゃん　ɥəəɒı lccs : ユーマたん　ɥəəɒı : ユーマ　lccz や lccs は ɥəəɒı より馴れ馴れしい場合もあるので注意。　呼び捨ては家族や恋人や親しい友達などに限られる。　日本との違いは、比較的苗字より名前を使うことのほうが多い点。苗字は全体的に他人行儀な印象を与える。　同級生だと赤の他人は jın ıμbı か ıμbı 辺りになる。面識があると名前を用いるが、ɑɥəjjɔə は仰々しいのでたいて い jɔə になる。ɥəəl などは面識があっても親密度を上げにくい傾向にあるため、苗字を使い続けることもある。ただしあまり好まれない。　＜その他の敬称による呼称＞　μjcclı ıμbı : アルバ先生　ıμbı ı ınlı : アルバ先生　jıμ ıμnej : サールのアルデス　eμʃ lɑeμ : エルトのルフェル　ɑeeɒ belʃcı : 悪魔メルティア　ɑıcz befe : メテ王　ınel uecφın : 魔族ヴェイガン　je

lejʃ uɪnφɪμɒc：死神ヴァンガルディ　＜人名の命名＞　人名は親や親族が決めるのが一般的。神や英雄の名を取ることや、草木花など自然物から取ることが多い。　一般的に保守的な階層ほど ˥ǝzejʃ を避ける傾向にある。　命名権や改名権については ejʃlɪnφ を。　子供が魔物にさらわれないようにわざと汚い名を付けるという風習には少なくともアルバザードには有史以来なかった。　＜カタルの命名＞　現実において、初代の使徒の名はカコに記されている。当時はアルカがない。初代アルカは花言葉を使った暗号で、人工言語を作ろうという意思の下に作ったものではない。　使徒の名は当然彼らの本名ないしコードネームで綴られた。メル９年、生々しいとの理由でリーザが改名した。ɒǝɑcɪ などは ɒcɑcɪ に似せて作った。ɒcɑcɪ というのは当時セレンが勝手に呼んでいた名で、当時はリディア本人は ɒccɑ ɥɪ がふさわしいと主張していた。リーザは生々しさの少ない ɒcɑcɪ を選び、さらにそれをもじって ɒǝɑcɪ にしたわけである。　厳密に言えばリーザが改名してできた名前は ˥lɪ˥ɔ 初出ではないのだが、初出基準が甘かった時代に登録されているので、本辞典では ˥lɪ˥ɔ となっている。

他方、ソーンの初代使徒は、花言葉暗号の本家だけあって全員コードネームだったため、改名の必要はなかった。そもそも、必要があったとしてもリーザにはどうにもならなかった。

ただし、使徒の苗字はクミールが後付けしたものである。例えばヴァルシーラなど。この苗字は３代の使徒にも宛がわれている。つまり、クミールは使徒に苗字を作り、それを初代～現代ますべてに適応したというわけである。　初代ソーンの名は古くからセレンたちにも知られており、赤アンクノットには既にそれを基にした異性魔王の名が綴られている。

アノは３代を作ったときに、初代ソーンの名前をもじって使徒に名前を付けた。例えばオムトはウムトから来ている。　クミール（？）は４代を作ったときに、やはり同じことをしている。ウムトナはウムトから来ている。　よって現在のソーンの使徒は後述するアルシェの使徒と違い、純粋にコードネームで、アプリオリ度が高い。　一方、ランティスの名について。アルシェは本名をそのままアルカの音韻に当てはめたタイプと、訳したタイプと、純粋にアルカのタイプがいる。　メルのように ɒeɒǝ と母音を含んだものもあったが、あれは母音を後から添加したのではないか。恐らくメルの本名は ɒel だろう。（２０１１年追記：去年だか今年の始めだかに送られてきたファイルのプロパティに本名を消し忘れていて、初めて本名を知った。少なくとも ɒel ではなかったことを記載しておく）　リディアのように親からアシェットをやっていた場合、カコの登場人物リディアを元に名付けられることもある。

リュウは、初代のヒューウェがリーザによる改名であれば、ヒューウェがリュウから来ていることになる。そうでないなら、初代がヒューウェという恣意的なコードネームで、そこからリュウを名付けたといえる。　アルカはアプリオリだが、最も弱いのは実際のメンバーの名前だ。自然言語排他のない時代からアルカは存在するので、仮にメンバーが本名を捨ててコードネームを名乗ったとしても、しばしばアポステリオリになってしまう。　例えばリーザという名前は本名を基にしたコードネームだが、恐らく本名はエリザベスであろうから、アポステリオリである。　アポステリオリだが、リーザという人は架空の惑星アトラスではルティア国の姫であり、姫の名としてアルカで通っている。　リディアも恐らくアポステリオリだ。９歳のころからリディア（正確には ɒccɑɥɪ）と名乗っていたので、彼女は恐らく本当にリディアという名前でどこかの国の役所に出されたのだろう（セレンの考えではエストニア周囲）。ただ、セレンに会う前にリーザが「これから自分のことを ɒccɑɥɪ と名乗りなさい」と指示されていた可能性も捨てきれない。　これはセレンの私見だが、恐らくリディアの本名はエストニア語でＬｉｉｄｉａか、ｉの部分をｕウムラウトにしたものではないか。それを元に ɒccɑɥɪ というコードネームにしたのではないか。同様にリーザについてはエストニア語のＬｉｉｓａが元ではないか。リディアと彼女が会った（正確には再会）のはフィンランドなので、リディアは彼女の名前をフィンランド語で呼んだはずだ。Ｌｉｉｓａのフィンランド語読みはリーサである。リーザはそのリーサという読みを少しもじって自分のコードネームをリーザにしたのではないか。ただそれでは殆ど変化がなく、コードネームに感じられない。そこで推測するに、Ｌｉｉｓａという名前自体が既に仇名になっていて、彼女が役所に届けている本名はエストニア語でＥｌｉｉｓａｂｅｔやＥｌｉｉｓａやＥｌｉｉｓｅなどではないだろうか。　人名はしばしばアポステリオリだが、流石にこれはアポステリオリとして排他するわけにいかない。　唯一排他できるとしたら、団体内での呼称がシフトした場合だ。セレンが好例だろう。　セレンはもともとフランス人の名前で登録されているので、アシェットの人間は呼びやすかった。　ところがあだ名の「セレン」が付いてから、徐々にこちらがメジャーになっていった。それで現在ではほとんど誰も戸籍名で呼ばない。恐らく娘はセレンの戸籍名を知りもしない。　セレンになることでアポステリオリな戸籍名を捨てたわけだが、あだ名が戸籍名を駆逐するという例はむしろ稀。　あだ名系の場合、大体はギルやザナのように、本名が長たらしいのでアルカ風に切り詰めるという半アポステリオリになる。　なお、アプリオリを尊ぶようになってからは当然アルカでの命名がなされるようになった。　次世代の子供たちはすべてアルカで名付けられている。ただし、ルシアはルーシアやルチア、ハイレンはエレーヌやエレインなど、アルカにも西洋語にもなる名前が選ばれる名前が多い。　これは親の苦労から来ているようで、リディアは案の定Ｌｙｄｉａと間違えられることが多いそうだ。「ゥリーデャ」という感じの音なので日本人なら間違えない（間違える以前に聞き取れもしないから）が、英語圏の人間は特にＬｙｄｉａと間違えるらしい。　＜名前の意味＞　リディアの名前の意味は μc（美しい）/ɑcɪ（夢）であるが、もともとその意味で名付けたのではなく、当時のアルカでリディアの本名を解釈するとそういう意味になるということを示す。　逆にセレンの名前の意味は「黙らせる人」だが、これはアルカからできた名前なので、解釈ではない。　アルシェの古いメンバーは解釈タイプが多い。クリスは「言葉少ない」で、クミールは「口頭弁論」で、メルは「時」である。あまり女の子の名前っぽくないのは、アルカで無理に解釈しているからである。　元々アルカで名付けられた人間と比べると違いがよく分かる。ルシアは「悟り」という意味だし、ユルトは「賢者」である。日本語にすれば「聡子」と「賢太」といった感じか。　＜神話との異動＞　神話上はリーザが改名したことになっていない。そうでないと話が成立しないためだ。

元々初代はリーズのような名前で、それを基にむしろ各国の王たちが子供にクリスなどと名付けたということになっている。　また、神話では初代と４代の能力は同じになっている。現実にはレレゾナ嬢がアンティークの長い杖を持っていたことから、レレゾナは法陣指という設定になり、神話のレレゾナが法陣指となり、そこからさかのぼって初代のレレスも法陣指で、だからその人が建てた国は「魔法陣」を意味するヒュグノーになった。つまり４代から初代ができて、初代から国名ができている。現実はそうなっているが、神話でこれをやると歴史順序が真逆になってしまう。それを防ぐため、初代の能力が４代に遺伝というか、伝わったという形にした。 〔成句〕 ʃcl eɟʃ hɔʃ 有名無実

ejʃɟcɪn 〔言語〕名無し 〔レベル〕3　1L

ejʃnɔnɑ 〔形容詞〕実名の、名入りの。匿名の反対。 〔反意語〕ejʃne˥lʃ 〔レベル〕4　μɑ;/「名を公開した」 ʃ̂

ejʃne˥lʃ 〔形容詞〕匿名の、名無しの 〔反意語〕ejʃnɔnɑ 〔レベル〕4　μɑ;/「名を隠した」 ʃ̂

ejʃɑlec 〔名詞〕標題紙→ lec　˥˥

ejʃɑcʃ 〔名詞〕命名 〔レベル〕4　μɑ;/　ʃ̂ 〔文化〕 ejʃlɪnφ

ejʃɒcɥə 〔普通動名詞〕改名 〔動詞〕ɥǝl の名を ɪ に変える、改名する 〔レベル〕4　ʃ̂ 〔文化〕 ejʃlɪnφ

ejʃμɪʃ 〔言語〕氏名、姓名 〔レベル〕2　1L:μcɑcɪ:ɥbɪ˥elʃ

ejʃlɪnφ 〔法律〕改名権、命名権　μɑ;/ 〔レベル〕4　ʃ̂ 〔文化〕　命名は通常親や親族がするものであるが、命名権については終末まで法整備がなされなかった。慣例に基づき親や親族が命名していた。　名は親が定めたある種の eejʃe だと考えられていたため、改名という行為は神代からなされてこなかった。少なくともレスティル～アルバザードにおいては改名行為は一般的ではなかった。　ɪl になり ˥ǝzejʃ が社会問題となり、子供が大人になった際、就活で不利益を被ったり病院などで名前を呼ばれて恥をかいたりするシーンが増え、凪人を中心に改名権を主張するものが増え、ɪl で子は成人以降一度だけ改名できる権利を得るようになった。

改名権自体は社会的に不利益を被る名前は変えて良いという法律が μʃ からあったが、誰もが持つ普遍的な権利ではなかった。それは Ψ8A ネームがそもそも少なかったからで、ɪl まで改名権という権利が発生することはなかった。

ejʃɪ 〔サール〕エスタ 〔動物〕ほたる、蛍 〔類義語〕dɪlɟɪɪ 〔組み数字〕１６ 〔レベル〕2　ɒelʃcɪ 1Λ:ɥəəɒɪ ;ejʃɔ.l「うつし身→自分の子」 古 :μcɑcɪ　ejʃɪ:ejʃɪ:lɪ ejʃɪ:˥lʃel,ul 〔文化〕　ユーマとヴィーネの娘。ヴィーネに惚れるサールの少女マグラは、ヴィーネの娘を産んだユーマに嫉妬し、エスタを奪って逃げる。マグラはエスタに淫の呪いをかけた。エスタは幼女の姿をしていて、マグラに抵抗できる力をまだ持っていなかった。マグラはエスタを殺そうとしたが、もし殺せばそのことはいずれヴィーネの耳に入ると思い、止めた。そこで泉に投げ捨てた。　呪われたエスタは成長とともに欲望が抑えられなくなっていったが、夫がいないので苦しんだ。少女に成長したエスタは自慰を編み出し、それによってマグラの呪いを解いた。呪いを解くとエスタの体内から蜘蛛が現われた。エスタは蜘蛛を壁に投げつけると蜘蛛は死んだ。こうして呪いは解けたが、幼女のころから刻み込まれた淫乱な性質は体に染み付いて取れなかった。ある晩、エスタは湖でユーマを探しにきていたアルドゥと出会う。そして兄妹と知らぬまま二人は契る。エスタの淫乱さに誘惑されたアルドゥはエスタを娶り、ユーマを探すことを忘れて二人で暮らした。快楽を好むエスタは、アルドゥを誘惑し続け、次々と子を生んでいった。初めの子はエレスという娘とカルファンという息子の双子であった。次はトロメキア、パルテ、シンケという三つ子だった。三つ子は全て女だった。結局、エスタは計１６人の子を生んだが、子供は何故かサールでもエルトでもなかった。　エスタの子供はヴィードが乏しく、姿を変えることも強大な魔法を使うこともできなかった。それはサールでもエルトでもないユーマの血が濃すぎたためである。それで生まれてくる子供はサールやエルトの力を失った弱い子供たちばかりであった。そんなエスタの子供たちは無力とされ、伴侶を得ることができず、近親婚を繰り返した。それによって更にその子孫は神性を失った。　トロメキアはネルメスに口説かれたが、遊びと知って断り、ネルメスを怒らせる。後に兄のカルファンと契る。パルテは水をほしがるオルトに水を与え、その代わりに女らしくするように頼んだ。オルトはパルテに初潮を与えたがパルテはそれが何であるか知らず、オルトを罵った。怒ったオルトはパルテに不妊の呪いをかけた。パルテは兄のカルファンと契ったが、呪いのせいで妊娠しなかった。　パルテはオルトに許しを請いに森を彷徨う途中、毒蛇のサールであるプティンを踏んでしまい、怒ったプティンに噛まれる。泣くパルテを見つけたカルファンはパルテの足を切り落としたが、パルテはその痛みに喘いで気を失った。後にこの脚はエレスの魔法で治してもらう。さてパルテの血は黄色い花に飛び、斑点を作った。オトギリソウである。そのときオルトが現われ、オトギリソウの根に妊娠を司るエルトのイーディスを作り、イーディスを連れて去った。　三つ子の末女シンケは貧相な体で、背も小さく、顔も別段美しいわけではなかった。だから兄カルファンは彼女に対してはあまり優しくなかった。あるとき、兄のカルファンは妹に鏡を与えた。１枚は額が金で、華やかなパルテに与えられた。次の１枚は銀で、しとやかなトロメキアに与えられた。そして最後の１枚は銅で、これがシンケに与えられた。シンケが不当というとカルファンは、美しい者ほど美しい鏡が必要だと答えた。これに腹を立てたシンケはパルテとトロメキアの鏡を割った。その夜、カルファンはパオナに襲われ、近くにいたシンケを犯した。シンケは子を産んだが、それでも愛されなかった。シンケはその原因を自分の容貌にあると考え、銅の鏡を割り、破片を顔に刺してより醜くなった。それ以後、彼女は顔に布を巻いて暮らした。彼女も後に兄弟全員の子を産むが、いずれも容姿はよくなかった。現代、人類に容姿の悪いものがいるのは、彼女の血脈が少しずつ皆に混じっておりそれが強く遺伝的に現れたものだとされる。　エレスはカルファンに犯されることがなかったが、エスタの１３人目の子供のコーレルによって犯される。エレスは兄弟の仲で一番美しい少女だったが、寡黙な性格で、あまり兄弟とも付き合いを持たなかった。しかし生まれてきた幼い弟コーレルの美しさに魅了されると部屋に閉じこもり、彼と会うことなく過ごすようになっていった。そうしてコーレルが十分成長した頃まで待ち、初めて姿を現した。コーレルは始めてみる美しい少女を姉だとは思えず、誘惑に負けて犯してしまう。　エレスとコーレルの間にはテステェルという娘が生まれた。テステェルはエレス以上に美しく成長していった。テステェルは女しか愛さず、数々の少女と関係を持った。テステェルは大人しく従順だったため、少女たちは自分からテステェルと関係を持った。しかしテステェルは残酷王フェンゼルの求愛を断り、怒ったフェンゼルによって無限に子を生むという罰を被った。生まれてきた子の中にはフェンゼルとテステェルの息子もいた。フェンゼルはそのエルトにヴァレスと名付けて育てた。　アルドゥとエスタの子は近親婚を繰り返したため、次第にアルテェルての力を失っていった。そしてユーマに始まる彼らの一族をアルテはユーマの一族と呼んで自分たちと区別するようになった。ユーマの一族は後に起こるラヴァスが終わるとアトラスに取り残され、独自の発展を遂げていく。これが人類である。

＜エスタとアルドゥの１６人の子供（人類の祖先）＞　１ : eɥej : 女　２ : ˥lɪμɑɪn : 男　３ : ʃɒɔɒe˥cɪ : 女　４ : dɪμʃe : 女　５ : ˥cn˥e : 女　６ : ɑɪr˥eʃ : 女　７ : ˥ɥə˥ : 男　８ : ɒecʃ : 男　９ : jeuеμ : 男　１０ : ˥ɪd : 男　１１ : scɒn : 男　１２ : jəbe˥ : 男　１３ : ˥ɔɔ˥el : 男　１４ : ɒcɟʃel : 女　１５ : ɥeeuel : 女　１６ : ʃoɪμzel : 女　＜人数について＞　古・制では２８人となっていたが、面倒くさかったのか、幻日には１３までしか登録されなかった。

新生で登録しようとしたら「書いた紙がどこかにいってしまった」とのことで分からなくなり、幻幻で調べたら、向こうは向こうで１６までしか登録していなかった。仕方ないということで神話上は最初から１６人の子供だったということに設定を変えた。　＜見た目＞　エスタはヴィーネを受け継いで黒髪茶目の東洋系美少女。　第三世代はいずれも彼らを混ぜたもので、諸特徴が混ざり合った。 〔成句〕 ejʃɪ jeeμ ʃcl ɑɪc hɪμʃ 鳴かぬ蛍が身をこがす。日本語の表現に近い。 〔用例〕 ɪn cnɪʃ jen ejʃɪ cɒ ɑəμne. 夜は蛍を見ることができた。

ejʃɪn 〔単位〕マイナス４０乗。最も小さい単位。　˥l:ejʃɪ

ejʃɪn,lΛ ɪμʃlcl

ejʃɪɑɪd 〔名詞〕紫煙、煙草の煙、タバコの煙 〔レベル〕3　nɑ;「蛍の煙」 ʃ̂

ejʃɪbeɒ 〔組み数字〕エスタサークル 〔レベル〕5　˥l 〔文化〕 → μɪdɪl˥ 普段使わない上実在の人物でもないため、セレンも最後まで覚えなかった組み数字で、ニーモニックを作った。厳密にいえば２４が最後に覚えたものだが、これは新しいので仕方がない。　まず eμej と ˥lμɑɪn が最初の２人。　ʃɒɔɒe˥cɪ, dɪμʃe, ˥cn˥e は３姉妹で神話に出てくる。　次からが頻度が低いので覚えづらい。「彼に (ɑɪr˥eʃ) 急に (˥ɥə˥) デートを (ɒecʃ) せびる (jeuеμ)」「電話を (˥ɪd) 地味に (scɒn) すべき (jəbe˥)」。　残り４人。el で終わるので「何エル」か覚えればよい。「巻いて (˥ɔɔ˥el) 捧げて (ɒcɟʃel) 波打って (ɥeeuel) 天国へ (ʃoɪμzel)」。

ejʃɪμ˥ 〔軍事〕拳銃、けん銃、ハンドガン、ピストル、リボルバー→ φel 〔レベル〕4　μɑ:μcɑcɪ;ɥl で「雷槌」 ˥lΛ:μcɑcɪ 〔語法〕　ハンドガンをピストルとリボルバーに下位分類する習慣はない。 〔文化〕 φel

ejʃc 〔形容詞〕有名な、高名な、名高い 〔類義語〕hɪμɑɪlɒ, hɪnɔcejʃ 〔反意語〕ɔ˥lɪ 〔レベル〕2　1L:ɒe ˥cɑcɪ ɪlcj:ejʃ˥cl（名のある） 〔語法〕　日本語の有名より弱い。ｆａｍｏｕｓよりさらに弱い。

ejʃcjlɪl 〔名詞〕名場面、名シーン 〔レベル〕3　˥l0

ejʃcɪ 〔名詞〕名所、ランドマーク 〔アクセント〕Ejʃcɪ 〔レベル〕3　˥l:ejʃc

ejʃcɪ(J) 〔アトラスの国家〕エスティア 〔アクセント〕ejʃc↑ 〔レベル〕5　1L:μcɑcɪ:ejʃɔ

ejʃɔ 〔名詞〕鼎、かなえ 〔メトニミー〕供物 〔メタファー〕代償、代価、代金、引換、引き換え、対価、現身、移し身、うつしみ、うつし身、身代わり、おとり、囮 〔レベル〕4　ɑ:ɪnφɪμɑc;eejʃe.l ˥l 〔文化〕 ɑl で作られた鍋。ſɒ の頃には目上の物に供物を捧げる際にも用いられた。zφ 以降は人類が神に供物を捧げるのによく用いられた。ɒſ では特に召喚士に使われた。　メトニミーで供物の意味が生じ、そこから更にメタファーで代償という意味になった。この比喩語義自体は ſɒ から既に死神ヴァンガルディによって使われだしている。　ヴァンガルディとの契約を結ぶ際は、願いを叶えてもらう代わりに代償を捧げる。ヴァンガルディと契約することを和訳で「鼎を交わす」という。鼎は「代償」でもあり、同時にそれと等しい価値を持つ「望み」でもある。　この「かなえ」という和訳は非常に巧くできている。気付かないだろうか。代償を意味する「鼎」が、望みを意味する「叶え」に通じているということに。 〔成句〕 μɪuen–ejʃɔ 契約成立。μɪuen は jzu だが、ヴァンガルディも現代は成句としての μɪuen–ejʃɔ なら用いる。ɑu の頃にはこの言い方がなかったので、死神もそれなりにきちんと新語に対応していることが伺える。 〔用例〕 μɪuen ejʃɔ 鼎を交わす、契約を交わす。「供物」という意味の「鼎」と、「望み」という意味の「叶え」を、ヴァンガルディと取引することから、鼎を交わすと訳す。　ɑcjʃ ejʃɔ 代償を引き渡す　μe ɑcjʃ ejʃɔ ˥eμ ɑel. 我に契約の代償を捧げよ。　"ɑcjʃ ɑɪn ejʃɔ μɪnel e. ˥lɪɪ, ɑcjʃej uec ejʃɔ jeʃe"「鼎はちゃんと払うわ。それに、一部は既に支払い済みでしょう？」

ejʃɔ(J) 〔人名〕エスト　&;ejʃɔ　古 : 語源不詳。古アルカでの意味は「雨降る森」だが、アトラスの語源では「うつし身→自分の子」という意味で、ejʃɪ と同根。 〔文化〕　実在。生没年不詳。『カコ』や『ソノヒノキ』原文の著者。女性。

ejʃɔn 〔植物〕ヒース、エリカ 〔レベル〕4　古 : 雨のような

ejʃɔucɒ 〔生物〕腸骨筋、腸腰筋　˥lΛ<˥l:「鼎筋」。骨盤を鼎に見立て、その脚を腸骨筋に見立てた物。ただし鼎は通常二脚でなく三脚なので、その点には注意。

ejʃɔɒ 〔名詞〕命名法、名付け方 〔レベル〕3　μɑ;/　ʃ̂

ejʃɔl 〔感動詞〕よろしく、よろしくお願いします 〔レベル〕2　古 : 元は eejʃeɒ で、「名前を知る」の意。初対面の相手に自分の名を覚えてもらうことは今後の人間関係を築くための第一歩で、「名前を知る」という意味の eejʃeɒ が「よろしく」の意味を表わした。これは元々オヴィやクリスなどが言い出した言葉で、一番初めに使われたのはフルミネアが仲間になったときである。オヴィかクリスのどちらかが名を名乗った後にしきりに「名前を覚えてくれ」という意味で使っていたのを覚えている。それが次第に ejʃɪɔ になり、次に恐らく言いにくいという理由で ejʃɔl になって現在に至ると考えられている。 〔語法〕　今年もよろしくお願いしますのように既知の間柄では使えない。その場合は ɪnʃ ˥ɪl ˥ccʃ ɒeɒcʃ ɪ ˥ɔ˥ cɒ ʃə ɟɪlʃ ʃɪn のように言う。

ejʃe 〔動詞〕ɥǝl を ɪ（役職など）に指名する、指名する 〔普通動名詞〕指名 〔レベル〕3　1ʔ: 制 : 古 : eejʃesc（名前を指差す）

eɹʃeſ ［経済］銘柄 ［レベル］5 ʃʃ:eɹʃ/ʃe

eɹʃeɑı ［名詞］名簿→ eɑı ［レベル］3 1L

eɹʃel ［エルト］エステル ［動詞］ɥəl を ı に翻訳する、翻訳する ［普通動名詞］翻訳 ［レベル］3 古 :µ cɑcı ［文化］ サール界に暮らすエルト。１０代後半の女性の姿をしている。すべての言語を習得しており、失われた言語を全て訳すことができる。ただし、地球の言葉には対応できない。
＜誕生の経緯＞ ハノイ人の大部分は ɥclhınɔc に住み、主にそこで秘術が盛んとなった。
ハノイ人の一部はリディア人と混血し、サヴィア北西岸に住んだ。 その後、現イールゥートから海へ出た一部の民族がハーディアンを通過してアルカットへ入り、ハーディアンの西にカルセールを築く。 これがカルセール人であり、彼らは移住後はハーディアン、メディアン、サルディーン、アルディアル、スカルディアなどと混血を進めた。 しかしラヴァスになるとカルセールにサルトが入植する。 このときシフェル系と明らかに異なるマレット系の言語が神々に通じず、神々は翻訳の神エステルを生む。 だが、翻訳の手間がかかり、意思疎通が面倒なため、サルトはシフェル系の民を重用した。 ［用例］ ɑıʃɔɔ ɒɪɒn eɹʃeſcl ɒel cɑcı ılcɹ, ın cɹ)ɔp ʃə cɒ ʃəp. 夢織 秋の翻訳お疲れ様です。今読んでいるところです。

eɹʃeɹjeu ［言語］翻訳文、訳文 ［レベル］4 µɑ;/ ʃʃl

eɹʃeɹuɔ̀ ［言語］翻訳文、訳文 ［レベル］4 µɑ;/ ʃʃl

eɹʃeɹueſ ［言語］翻訳語、訳語 ［レベル］4 µɑ;/ ʃʃl

eɹʃeɹuenſ ［名詞］翻訳会社 ［レベル］5 ʃʃ

eɹʃeɹacɹſ ［言語］訳、訳文、翻訳文 ［レベル］3 ʃʔ

eɹʃeɹφıſſ ［電算］ゲートウェイ、エステルガルト ［レベル］5 uɹ;/「翻訳の門」。異なるプロトコルのネットワーク間を接続することから。 ʃʔ ［文化］ コンピュータネットワークにおいて、プロトコルの異なるネットワークと接続するためのネットワークノード（通信機器）。

eɹʃeɹıµſ ［魔法］［言語］翻訳魔法 ［レベル］5 ʃʔ

eɹʃ ［気象］雨 ［動詞］ɥəl（場所、人）に雨が降る 、降る ［名詞］［婉曲］精子、父親 ［類義語］jccle ɪʃɹ;eɹ,ɑ.l ［レベル］2 ʔʔ ←古 eɹ 雨 eɹ:eɹ):ɪı jccle（水は女）:ɒcʃɔlc,ıſſ ɔu,ɒe ［文化］ 雨が降ってきたか確認するときは手の平を上に向けて差し出す。日本と同じ動作。ただし指は閉じ、開かない。つまり指同士がくっついている。簡単にいえば、パーではなくチョップの手。
アルバザードは年中雨が定期的に降る。比較的冬のほうが降る。クリスの月の雨は冷たくよく降るとされる。梅雨はない。雨の季節というとクリスの月を連想する。 雨が土に降って苺が育ち、その苺を食べた女の腹にイーディス神が入って妊娠するという言い伝えがある。
［用例］ eɹʃ ɔɔʃ{ucen} 激しい雨 △ ın eɹʃıſ ɥə → eɹʃıſ (ın) jcn = eɹʃ lənıſ (ın) jcn. 雨に降られた。 eɹʃ lənınɑ. 雨が降っている。自然な言い方。 eɹʃ ınɑ beſ. 雨が降っている。落下に焦点。 eɹʃ lənı clſ ıµnı. アルナに雨が降ってある（地面などが湿っていて降った痕跡がある） ʃleeuel eɹʃ ıɔʃıɹ. クレーヴェル神はこの星に雨を降らせる。 eɹʃ ıɹʃel cn. 今にも雨が降りそうだ。 eɹʃıſ ʃcſ cɒ ɑɔnc ɒel ın ɔʃlſcʃ. 私が帰った途端、雨が降り出した。 senſ eɒıſ ɑµɑ lc eɹʃ. 雨が上がった後はよい天気になった。 eɹʃıſ jcl ıɹʃel cn ɒın ejd lənı ʃcſ sın. 雲が出てきたところを見ると、すぐにも雨が降り出しそうだった。 eɹʃ ıſ ıµ ɔnſ cɹ µedel cɒ ɑıµ. 朝のうち、雨が降ったりやんだりした。 eɹʃ ʃcſ. 雨が降り始めた。 eɹʃ ıſ. 雨が降った。 eɹʃıſ ıſc ʃıl. 小雨だった。 ın eɹʃıſ ɥə. 雨に濡れた。 eɹʃıſ (ın) jcn. 雨に降られた。 el en dɔµnıſ eɹʃ jcl ıſc ɹɔı. そんなに雨が降るはずではなかった。 ☆ ʃeſ eɹʃ ıſ ɥə ɔn eɒcɒ ıɹ. 猫がずぶ濡れになった、ぐっしょり濡れた：ɔn eɒcɒ ıɹ で「心臓までも」。心臓は最も熱い箇所とされ、そこまで雨に濡れる＝ずぶ濡れになるというメタファーになっている。 eɹʃıſınɑ ɑɔſel. 雨が激しく降っていた。 eɹʃıſ ɥən bɔe. 滝のように雨が降った。
鉄砲雨が降った。 ʃə eſ lıɒ lel eɹʃıſ ɑɔſel ɹɔı. こんなに雨が降ったことは今までにない。 eɹʃıſ ɔnʃel. 雨が降り続いていた。 eɹʃ eɒıſ ucen. 雨が強くなった。 eɹʃıſ uıµ jel. 雨がやむことなく一日中降り続いた。 ın en dɔµlɔſ eɹʃ ʃıl ıſc ɹɔı. 雨がこんなに降り続くとは思わなかった。 ın ʃıl eɹʃ eɒ ʃɔɔʃ. 雨がこれ以上降らなければいいのに。 en eɹʃ ʃılel ɑɔl ɑɔə lelſ. 何ヶ月も雨が降ってない。 ɔn ʃə ɑleı, eɹʃıſ ɑə lecz. 今年の夏は雨がほとんど降らなかった。 eɹʃ lənınɑ. eɹʃ eſ lınſ enſɔ ın jccnı ʃə. ııl, ʃə eſ ıʃlı lel eɹʃ l'el cnɹ cdɔſ ıɒɔ ɔ l'el ɑcʃɹ ɑµeɒ ſeɒɹ. 雨が降っている。雨は綺麗で好きだ。特に車の中から見る雨や窓際から眺める雨は最高だ。 ［言葉遊び］"eɹʃ " eɹʃ "eµ ſ'eɹʃ" ɔ "ſeɑ ſ'eɹʃ" ſın jecɗ ſeɹʃ」には「雨水」や「雨滴」という意味もあるのだろうか。

eɹʃſe ［気象］雨の降りやすい、雨っぽい、雨じみた天候 ［レベル］3 ʃ0

eɹʃʃɒel ［気象］雨の季節、梅雨 ［レベル］3 1L ［文化］ アルバザードには日本のような梅雨はない。しいていうならクリスの月前後。 ［用例］ ☆ ɔn eɹʃʃɒel, nɔn ɥə leɹʃ uɔl ſcl nıuə ɒɔl eɹʃ ɹɔµſ e ʃlccz ınſcɹjɹe. 梅雨のクリスの月の冷たい雨に打たれて感傷に浸るのは乙なものです：言外に傘を差していることが含まれる。雨に濡れていたら安全な位置にいないことになるので、leɹʃ と感じないため。濡れることを愉しむ狂気の場合は、あえて leɹʃ と表現できる。下記の例 ☆ "ıı, nɔn ucnɹcʃ ɥə ılſcın cɒ ɑcɹ, lɔɒ nɔn leſſ ɒɔl eɹʃ ɹɔµſ ſıſſı eɹn ʃɔnſ ɥə leɹʃ, ɹɔı nınnıš"「あぁ、彼に振られてしまった私は、冷たい雨の中、傘も差さずに歩いているの。風流よねぇ」

eɹʃʃılſɔ ［地学］雨林 ［レベル］4 1L

eɹʃɑcµec ［気象］梅雨前線、秋雨前線 ［レベル］4 1L ［文化］ アルバザードにはこれといった雨の前線がないため、どれも同じ。

eɹʃɑə ［気象］雨量、降水量 ［レベル］4 1L:µcɑcı:ıµbılelſ

eɹʃφel ［軍事］掃射 ［動詞］ɥəl を掃射する、掃射する ［レベル］4 µſ;/「雨のように撃つ」 ʃʔ

eɹʃµecn ［気象］雨の線 ［レベル］3 ʃ0:ɒelcɑcı lceµ ［語法］ 雨は肉眼時、線のように見える。人間の目の処理が遅いため、本来は粒でしかない雨の軌跡が線に見える現象である。これを eɹʃµecn といい、霧雨のときには起きない。小雨では極めて弱いため、意識されない。eɹʃµe cn というと、弱くはない程度の雨が降り注いでいるときの雨の軌跡、およびその状態の雨そのものを指す。

eɹʃı ［魔法］霧泉、亜晄泉、エスカ。亜晄泉は霧泉、逢魔宮、雨宮の総称的な訳語。 ［類義語］ıleſ ［レベル］3 ɑu;eɹʃı「雨の場所」 ʃl ［文化］ 雨の降るときだけアレット化する場所。ヴィードの吹きだまり。そのままでは効果が弱いので、ヴィードの流れに沿って門を建てる。門を抜けたヴィードはその向こうにある建物に流れ、建物にいるアテンのヴィードを癒す。建物と門を合わせて eɹʃı という。 ɑu で見つけられ、その後それぞれの国ごとに発展していった。様式ごとに効くヴィードが異なる。 国名：場所名：建物：門：効能 アルバザード：eɹʃı（霧泉）：ɑlınuɒµs（風花園）：φılcı（風花門）：ɥənɔ ルティア：ləʃıınſe（逢魔宮）：ləʃıınſ（逢魔館）：φılſeı（逢魔ヶ門）：ucµ アルティア：ɥəəın（雨宮）：jɒclen（御社）：ılıcn（宿木）：nɔı ɑlınuɒµs：石造りの小さな砦のような建物。ɥənɔ のおかげで植物がよく育つため、周りに花畑がある。風通りが良い。 φılcı：門自体はなく、石造りのアーチ。外からも花畑が見え、風通りもよい。 ləʃıınſ：煉瓦造りの薄暗い館。夜は月明かりがよく入るように高い所に窓がある。書架があり、小さな図書館になっている。蔦が這っているのが好まれる。中庭は花が植えられている。司書として lecjſcı がいるところがある。 φılſeı：黒塗りの鉄錠門。薔薇を絡ませてあることが多い。中が見づらくなっている。 jɒclen：木造の建物で、神社や東屋に似ている。中庭に花を植える習慣はなく、簡素な木が植えられている。地面には白味がかった灰色の土や砂利が捲かれている。見通しが非常に良い。建物は非常に風通しがよい。多少古びていたり苔むしていたりするほうが雅とされる。大きいところだと ɥəəı や ɥəʃılc が駐在している。 ılıcn：鳥居の形をした木造の門。陽命朱というアルティア固有の色で塗られている。 ＜歴史＞ ɑu から霧泉は存在した。それがレスティルとアルバザードではそのまま継承される。 ʃl になるとルティアから逢魔宮が伝来する。ヴィルを回復する効果が高いため、学校の近くに休憩所として建てられた。 ɹɒ になるとカレン経由でアルティアから雨宮が伝来する。ノアを回復するため、リラックス効果が最も高い。そのため一般市民の休憩所として愛され、普及した。 亜晄泉はどこにでも作れるわけではなく、温泉のようにヴィードの吹きだまりがあるところにしか作れない。従って需要があるからといって公園のようにいくらでも作ることはできない。

eɹʃɔlen ［美容］ハールパール ɹɒ;eɹ/ɔlen「雨のように滴るロール」 ʃʃl ［文化］ ɹɒ でできた。貴族の女性用。

eɹʃejd ［気象］乱層雲、雪雲、雨雲→ ʃleeuelɹ（口語） ［レベル］3 1L

eɹʃe ［名詞］セックス、性交、えっち、エッチ、ペッティング、姦淫、姦 ［動詞］ɥəl とエッチする、エッチする、セックスする ［類義語］eɹʃen, hcdſ ［レベル］3 ɑ;e 古 ［語法］ 子作りを目的としないセックス。 ［文化］ ɒelɑclcu, hcɒɹdıſ 恋人選びは慎重だが、セックスの頻度は高め。セックスはできるだけ昼に行い、真夜中はしない。睡眠時間を削ってするということはない。実は人間の精力は昼に最も上昇するので、理にかなってはいる。休日の昼や昼休みなどを利用して行うが、さすがに昼休みだと時間が足りないので、現代では寝る前か朝起きにさらっと行うことが多い。寝る前に軽くして、休みの昼などには長めにするといった形になる。生理中は女体に良くないこともあり、控える。 アルバザード人女性にとってセックスは愛情のものさしになっており、いかに自分のさりげない誘惑に相手が乗ってくるかで自分がどれだけ魅力的かを測る。アルバザード人の女性は貞操が固い反面、身を許した相手には頻繁に求める。思春期になると男女ともは性教育を受けるが、男子は一方的に女性にサービスするように教育される。優しく丁寧に扱い、どうされるのが不快で痛いかを教えられる。このことからも分かるが、アルバザードにおいてセックスは男性による女性へのサービスという面が強く、セックスを苦痛に感じるのはたいてい男性。女性は男性に優しく扱われることで男性へ家庭的・精神的な奉仕を還元するという社会システムになっているため、セックスの心構え（技能というより）と体力（腰のではなく）はアルバザード人男性にとって重要な要素となっている。もちろん、どう扱われても痛いとか不快という女性もいるし、体力が持たない男性もいる。あくまでこれは平均的なケースである。なお、時間は寝る前は２時間ほど、昼の場合は３，４時間ほどかける。 ＜様式＞ 女性は基本的にあまり動かない。日本のアダルトビデオのようなあえぎ声を出す文化はないため、女性はほとんど黙っているか、軽く息を荒げる。服はすべて脱がず、はだけさせた状態で行う。夏は汗だくになる。男性は性器に触れない前戯を経たのち、前戯を行う。女性はやはり何もしないで恥ずかしそうにしている。が、そのわりに「あ、それいい」「そこの上のほう……」などと小声で言って指示を出す。その後本番になる。体位は正上位が一般的で、あとは日本と大体同じバリエーション。いくつか体位を経る。その後は後戯に入る。後戯は前戯と内容が異なり、髪を撫でたり腕枕したりといったソフトなもので、愛情を囁くなど、言葉中心の内容となる。また、ここでようやく女性も働くようになり、男性を言葉で褒める。その後シャワーを浴びる。相手の体臭を感じられないのを嫌うため、セックスの前にシャワーは浴びない。 ［成句］ eɹʃe lıl ɒeɹı ucſ ɔnſ µcɹ leun. 生でセックスしたいが病気は怖い：河豚は食いたし命は惜しし、フグは食いたし命は惜しし、ふぐは食いたし命は惜しし

eɹʃeɹcnɹɔl ［名詞］アダルト番組 ［レベル］3 1L:µcɑcı:ıµbılelſ

eɹʃen ［形容詞］えっちぃ感じの ［婉曲］エッチ ［名詞］お色気、ちょいエロ、ソフトなエロ ［レベル］3 ʃ0:eɹʃe/ 指小辞 ［語法］ 形容詞の場合、eɹʃel と意味は同じだが、冗談めかしている。名詞の場合、eɹʃe と直接言いたくないのでぼかしているか、あるいは少しエッチなことを指す。 ［用例］ el bıɹ ɹlıl eɹʃen cɒ uıµzɔn e lelɒ ı. 夜８時の番組にお色気要素はいらんわ！

eɹʃeela ヤリ逃げ→ ela ［レベル］4 ʃʃ

eɹn ［気象］傘 ［類義語］leeze ［レベル］2 ʔʔ: 制 :eɹzıɒɔn（雨の杖、雨の棒） ［用例］ hɔɒ{ıµ} eɹn 傘をさす ɑeɥə{c}ʃ eɹn 傘をたたむ ın dcıɹ eɹn ɒın eɹlıſ ɹıſ. 雨が降りそうだったので傘を持ってきた：dcıµ だと、携帯しようとして家の中で折りたたみを探している段階のこと。 ın en dcıſ lcµ eɹn. 傘を持ってくる必要はなかった。 ☆ ın eɹlıſ ɥə ɔn eµcɒ ıɹ ʃıu ɹıb ɒın en dcıɹ eɹn. 傘を持ってこなかったので、服の下までぐっしょり濡れた。 ın ɹcſ eɹn ɑcn eɹʃ. 雨が降っていたのに傘がなかった。 ın ıſ lcnı enſɔ nɔɹ dcıɹ eɹn. 幸いなことに傘を持っていた。 ın nıſ ıſſı ɒın nɔɹ dcıɹ eɹn. 傘があって良かったと思った。 ın ɹlıſ eɹn ınſ eɹ µcφ cɒ ın hɔɒcʃ ʃə. 傘を開いたところ、壊れていた。 ☆ ɑcɔl ſ'eɹn eɹ ɑɔɒ. 傘の骨が折れていた。 eɹn ſclıſ ɒıl hın. 傘に大きな穴が開いていた。 nɔn ɒclʃ le ɒelɑ eɹn nɔın. 誰か私の傘持ってきてくれないかな。 el ɑeɥə eɹn cɒ ləɔɔ̀ ɒɔl ɑc e. 何かの下に来たら傘は閉じるのよ。 2月の晴れた日に、水色のかさ、持ってきた。 隣を歩く彼は、きづいてない。あと１メルフィ近付きたくて、持ってきたってこと。 空のかみさまもきづいてない。あと１メルフィ近付きたくて、雨を降らせてほしいってこと。 nɔn dcıɹ eɹn ɑəəµ cɒ jel ɑµɑ e ʃlccz. lə le ləɔ̀ ɒcʃ nɔn en ʃıʃleɹ, ɥəl nɔn ɹɔ̀ ɹɔı ɒcl ɑµeɒ lın nın ı lə ɑə 1 ɑecn ɒelɑc. jee ʃleeuel ſın en ʃıʃleɹ, ɥəl nɔn lıl lı eɹʃ ɑın lenı ını nɔn ɑµeɒ jen nın ı lə ɑə 1 ɑecn ɒelɑc. ためいきを、ついた。そんなときーー 「しょうがないから入ってやるよ」 こんな晴れた冬の日に、両手いっぱい広げる水色のかさ。 ーー恋に落ちる、音がした。（前半 jeµen。後半一部初音ミク『メルト』） nɔn lıdl. cɒ ʃə, "ın lı uın ɒɔl eɹn ſccl ıllelɑel ı" eɹn ɑəəµ le hın nɔɹ enzel ɑə scen cɒ ɹɔı jel ɑµɑ. ʃɔɔɔ, ſeɒcʃ hıſ cı.

eɹnhɔɹ ［名詞］傘立て ［レベル］3 1L ［用例］ enɹhɔɹ en ſclıſ ʃɔ eɹn ſcɹ. 傘立てには傘が一本もなかった。

eɹnel ［植物］キノア 古

eɹɒ ［政治］検閲 ［レベル］4 ʔʔ: 制 : 古 :ɑeɹdı（禁止）

eɹɒcſ 洗剤、合成洗剤 ［レベル］4 ʃ0:eel/ɒıcſ（洗濯の薬）

eɹd ［気象］雲 ［芸術］マンガの吹き出し ［レベル］2 古 : 水の気体の意 ［用例］ eɹd ɒcſ sın. 空が澄んでいた。 sın en ſclıſ ʃɔ eɹd ſcɹ. 雲一つ無い天気だった。 eɹd lənı ʃcſ sın. 雲が出てきた。

eɹdſe ［気象］くもり、曇り ［レベル］2 1L ［用例］ ſə ıſ eɹdſe cɒ ɑcɹ. = ɑcɹ ıſ eɹdſe. 今日は曇っていた。 senſ ıſ eɹdſe. 曇っていた。 sın ıſ eɹdſe eɹɹel. 空がどんより曇っていた。 sın ıſ eɹdſe uıµ ɑıµ. 朝のうちはずっと曇っていた：ずっと感を出すためにcɒでなくuıµ。 cɒ ʃcſ ſə ıſ ɑµɑ, ſıl lc ſə, ſə eɒıſ eɹdſe. 最初は晴れていたが、後から曇ってきた。

eɹdbılſ ［気象］層積雲、うね雲、まだら雲、くもり雲 ［レベル］4 ɹɔµn:elefɔne: 曇り雲全般を「太陽を隠す雲」として、eɹbılſ を冗談めかして eɹdbılſ と呼んだもの。なお、ソーンには雨雲と曇り雲とそれ以外しかなかった。

eɹdı ［物理］屈折 ［レベル］4 1L:eɹdıɑc

eɹdıɑc ［気象］虹 ［メタファー］架け橋、架橋、かけはし ［名詞］寝バック、カサブランカ ［魔法］エスパフィ。光の中位白魔法。虹の橋を架け、一時的に谷などを通行することができる。µn までは空が飛べたのであまり使われなかったが、下からの風の強い谷や、集団での移動にはこの魔法をかけたほうが楽であるため、利用価値があった。効果が低いわりには架橋の建設という大掛かりな魔法であるため、ランクは中位である。 ［レベル］2 ɑu;eɹ/dıɑc 赤 : 雨の橋 ［文化］ ・虹の色 アルバザードで虹は４色。赤、黄、緑、青。 ・性交の体位
女性が下でうつ伏せになって足を閉じて伸ばし、男性が上に乗り、同じ姿勢で挿入する体位のこと。折り重なる様が虹のように見えることから。 カサブランカという訳語はセレンが０３年当時の恋人と池袋北口のカサブランカというラブホテルでやってみて相手が非常に気に入ってこの体位をそのように呼んだことがきっかけで、アシェット内でもその名前で通じるようになったことから。 ［用例］ eɹdıɑc lənıſ lc eɹʃ. 雨の後に虹が出た。

eɹdcµ ［名詞］エスピール派 ［アクセント］eɹdЄµ ［レベル］5 ʃ0 ［文化］ サルト教の派閥のひとつ。アルテは実在でなく観念とした。

eɹdel ［名詞］老害 ［レベル］4 µɑ;ſ で「長く居座る官僚」を意味する単語から。 ʃʔ:「エスペラント（Ｅｓｐｅｒａｎｔｏ）」と覚えればいいよ。

eɹbılſ ［アイテム］エスバルト ［名詞］シェルター、核シェルター ［娯楽］壁職 ［経済］セーフティネット ［レベル］4 µcɑcı: 古 :bıſ は ɹɔµn で壁の意味。となると eɹ は古の雨になるだろうが、恐らくいいたいところは「水の壁」といった感じか。 ［文化］ ヴァストリアのひとつ。エケトネの持つ神壁。広範囲に渡って強固なバリアを張る。 ［成句］ ɥən eɹbılſ 難攻不落

eɹlcn 後宮、ハーレム、大奥 ［レベル］4 ʃl;ɒe の有名な後宮の名がエスリン宮殿だったことから ʃʃ

eɹı ［言語］形態素 ［レベル］6 1L:eɹıb

eɹc ［化学］液体、液 ［名詞］水分 ［動詞］ɥəl を ı に溶かす、溶かす、液体にする、融かす、溶ける、融ける、とける ［形容詞］溶けた µn ［レベル］3 1L:ɒelcɑcı ılcɹ:eɒcıɹcd。jcd は制の「液体」 ［用例］ nɔn ɒclʃ ɹıe en eɒ eɹc. 雪が溶けなければいいのに。 ɹıe eɹ eɹc. 雪が溶けていた。

eɹclen ［名詞］水分摂取 ［レベル］4 µɑ;/ ʃʔ ［用例］ el ıµ ɑıl eɹclen ſəuılel cɒ ɑleı. 夏は水分摂取を怠ってはならない。

eɹcɹıdſəlɑ ［化学］蒸発熱、気化熱 ［レベル］4 1L

eɹcɹıdlı ［化学］沸点 ［レベル］4 1L

eɹcɹıdeɒ ［化学］蒸発、気化 ［レベル］3 1L

eɹcɹıdeclı ［化学］リキッドエアロゾル 1L

eɹcalcı: ［電算］液晶 ［レベル］4 1L:µcɑcı:ıµbılelſ

eɹcɑə ［名詞］水分量 ［レベル］3 µɑ;/ ʃʔ ［用例］ eɹcɑə lıl{əuıl} 十分な水分量

eɹcd ［医療］飲み薬 ［レベル］2 1L:eɹc/dcſı

eɹchɔınſəlɑ ［化学］凝固熱 ［レベル］5 1L

eɹchɔınlı ［化学］凝固点 ［レベル］4 1L

eɹchɔıneɒ ［化学］凝固、固化 ［レベル］4 1L

eɹcl ［形容詞］気持ちよい、心地よい、肉体的に気持ちいい ［類義語］ɑccſe ［反意語］beʃıɒ ［名詞］快楽 ［レベル］2 1L: 古 :eɹɹe（えっちな） ［語法］ 気持ちが良いのは eɹcl と ɑccſe。eɹcl は肉体

的な気持ち良さで、ɑccíe は精神的な気持ち良さ。　気持ちが悪いのは beʎɪɒ と ɒelcʃ。beʎɪɒ は肉体的な気持ち悪さで、ɒelcʃ は精神的な気持ち悪さ。　ejcl は風が心地よいとき、風呂で気持ちが良いとき、セックスで気持ちが良いときなどに使う。風の場合は ɑccíe でも可。語源は性的なものだが、現在では風呂で気持ちが良いというような意味でも使うので、気まずい単語ではない。　ɑccíe は子猫を見たとき、空が晴れ渡っているとき、風が気持ちいとき、美人を見たとき、善行をしたときなどに感じる。　beʎɪɒ は胃が気持ち悪かったり、吐き気がしたり、ふらふらしたりするときに感じる。　ɒelcʃ は虫を見たとき、悪人を見たとき、不美人を見たときなどに感じる。　ejcl/ɑccíe、beʎɪɒ/ɒelcʃ のように合わせた表現も可能。　［用例］ɪn nɪſ ejcl ſcn cɒ ɑcʃ. 今日はとても良い気分だった。

ejcſlɪɪɒ　恍惚した表情や状態　［レベル］3　1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe: 恍惚したときの頬の状態から　［用例］ſcl ejcſlɪɪɒ 恍惚とする、うっとりする

ejcleſ　［形容詞］ギャグや言動やネタや行為などがちょうどかゆいところに手の届くような　［レベル］3　ʃʃ:ejcl/ſe　［文化］ɑɔɒſɑeɒe

ejceɒʃ　［化学］脂肪油、油　［レベル］4　1L

ejɔ　［被服］合羽、レインコート、雨の服　［レベル］2　1ʔ: 制 :ejʅ　［用例］ɪn dcɪſ ejn ɔnſ ejɔ ɑc cnɪ ʅeſ. 万一に備えて傘とレインコートを持って行った。

ejeʅ　［普通動名詞］避妊。去勢ではない。　［動詞］ɣəl（男女いずれか）を避妊させる、避妊する　［レベル］4　1L:ejje/lɔn（避妊具）　［語法］水道と同じくらい古くに国のインフラとして用意されたもの。人口統制に歴史的にうるさいアルバザードならではの傾向。　［用例］ejeʅ ucl 男を避妊する（コンドームを付ける）

ejeʅlɔn　［医療］避妊具　［レベル］4　1L

ejeʅɒɪcſ　［医療］ピル、経口避妊薬　［レベル］4　ul;/　ʃʔ　［文化］→ dɔſleeu　妊娠は避けられるが性病は避けられないため、あまり一般的ではない。

ejel　［形容詞］［ネガティブ］淫らな、エッチな、いやらしい、ひわいな、卑猥な、エロい　［名詞］淫ら、ひわい、卑猥、わいせつ、猥褻、淫行、エロ　［類義語］ejjen、pɪɒſleſ　［反意語］ɣəlſe　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :ejje から

ejeſlɪel　［俗語］厨房、中坊　［類義語］lɪzɪn　［レベル］4　il;/「エロ事典」。エロい用語を辞書で引くようになる年頃というところから。　ʃʔ　［語法］ɒɪɒɒɪn

ejelɑcz　［法律］わいせつ罪、猥褻罪　［レベル］4　ul;/　ʃʔ　［文化］猥褻罪自体は神代からあったが、強姦や悪戯などといった表現で表されていた。ul になり、ようやく猥褻罪という名の罪ができた。　ls でセレンは「猥褻罪で捕まった男を男がバカだと言うのは許せるが、女が考えなしにバカだと言うのは許せない」と述べた。「女は男がどれだけ女体の誘惑に苦しめられているか、どれだけ手を出さないように我慢しているか、その苦しみを知らない。にもかかわらず、苦しみを知らない苦労知らずが手を染めた男をバカと一笑に付すのは言語道断だ」と述べた。

ejellcuɪ　［娯楽］エロゲーム、エロゲ、エロゲー　［レベル］4　1L　［成句］ſə eſ oel ejellcuɪɤ それなんてエロゲ？、ｓｎｅｇ？、ソレナンテ・エ・ロゲ。ıl でできた慣用句。現実の事態がまるでエロゲのように好都合であることを揶揄したもの。

ejee,ɑ　ʔ　elſ;ees

en　［形容詞］［法副詞］否定の形副詞　［レベル］1　μɑ;en,lſ < ɑen,ɑ　1L:jɔμn: 恣意かと思ったが、古アルカの否定の ɑen からだと分かった。　ɑen:ɑen　［語法］前置する。否定、命令、依頼は意味を逆に取られてはいけないので、動詞よりも先に述べる必要がある。この用法は古アルカにあったものと同じ。　動詞が先に聞こえると、頭はまずその動詞が肯定されたものだと思う。その次の瞬間に否定が来ると、真理値をひっくり返さなければならず、一瞬の迷いが生じる。命令や禁止も同じ。これら強い意味を持つ語は、先入観を与えないよう、先に禁止であるとか否定であると宣言しておいた方が分かりやすい。日本語はこういう言語でないから実感が湧かないかもしれない。　［用例］en ʅe 行かない　en ɑcɪn 少女でない

en(J)　［接尾辞］格詞から接続詞を作る　［レベル］1　1ʔ:jeμen:ʅlel:jcɑ:ʅenɔ（～の）。接尾辞なのは ʅenɔ が e と逆の順序で使われたことに由来する。hɪnɒɪ nɔɪn は古で nɔn ʅenɔ hɪnɒɪ だった。古アルカが ＳＯＶ だったころの産物である。ʅenɔ でなく e を参考にすればこれは接頭辞になっていた。　［語法］ɪn cnɪſ ʅeſ ɟɪ φɪlſ と ɪn cnɪſ ʅeſ ɟɪen φɪlſ の比較。ɟɪen は接続詞なので、ʅeſ と φɪlſ を繋ぐ。よってネコが門前にいるのが後者。前者は私が門前にいる。

en(?)　［接尾辞］名詞ないし形容詞から属格を作る。　［レベル］1　ʃʃ:ʅenɔ　［文化］名詞から「～のもの」という意味を作るときは属格にする。英語のＭａｒｙ＇ｓやｃａｔ＇ｓなどに当たる。　属格は接尾辞 (e)n を付けて作る。aeelen で「フェールのもの」、lcɪn で「紫亞のもの」を意味する。　lɪj e lcɪ で「紫亞の手」。lcɪn で漢然と「紫亞のもの」。　代詞の場合、属格は屈折するので、ɪn なら ɪnen ではなく ɪnſ になる。　・用例　pɪμʅ ſ'ɪuelɪnſ eſ ɪuelɪnſen. 死神の鎌は死神のものだ。　ſə eſ lcɪn. これは紫亞のよ。　ʅɪɪɒ e lcɪ. 紫亞のほっぺ。　ſe leſ alɪyə e ɒccʅɔ. ねこのしっぽ引っ張っちゃだめよ。　ſə eſ nɔɪn. これは私の。　ſə eſ ɪɒɔn nɔɪn, yəlſɪn. ゆーちゃん、これは私のぶーぶん。　●形容名詞　形容詞を属格化することで、「～なもの」という名詞にできる。　これを形容名詞と呼ぶとする。　ʅɪc（大きい）→ ʅɪcn（大きいの）　acl（長い）　→　aclen（長いの）　ə eſ ʅɪc（これは大きい）　ſə eſ ʅɪcn（これは大きいのだ）　形容詞と形容名詞のおかげで意味の違いを出せる。　ɪn jccnɪ ʅɪc（大きいものが好きだ）: 漢然と　ɪn jccnɪ ʅɪcn（大きいほうがほしい）: 大きいのと小さいのを選んでいるときなど　特に形容詞と形容名詞が明確な訳語の違いを持つ場合において、形容名詞は非常に有用に感じられる。　ɪucl（具合の悪い）　ɪuclen（患者）　形容名詞はふたつのものを比較して「長いほう」というときに aclen として使うことができる。　また、なんだかよく分からない長い物質を見たときに、その名詞が何だか分からずとも aclen（長いの）ということができる。　名詞が何か分かっていても言及しない場合や省略する場合に形容名詞を使うことができる。例えば「太った人」という代わりに「太いの」ということができる。oec, ſc jɔμen で「おい、そこの背の高いの」という意味になる。ほかに、lcuel ʅɪc や lcdc ʅɪc などの甘いものを総称して lɪcn ということもできる。つまり形容名詞には総称用法もある。　用法がいくつかあるが、根底には lej eſ ʅɪc, lej eſ acl などがある。　制までのアルカは単語単体が存在する場合、形容詞と名詞の区別が付かなかった。　形容名詞は J0 年末にリディアが最初に用いたもので、感覚的に受け入れやすかったことと、文意の違いを表現できることから、J0 年末から J1 年初頭にかけて速やかに受け入れられた。　初心者としては属格の頻度が増えることで、辞書に載っていないと感じる単語が体感的に増えることとなり、これは短所といえるだろう。　●形容名詞と受動名詞　acl（長い）、aclen（長いの）、aclɔl（長くされたもの）の違いについて。　まず、acl は形容詞なので明らかに異なる。　では形容名詞と受動名詞の違いは何か。　例えばここにセーターがあるとする。　引っ張って袖を伸ばした場合、これは長くされたものであり、長くするという動詞 acl ないし aclep から来ていることになる。　動詞から来ているので受動名詞 aclɔl を使う。　一方、例えばここにセーターが｣枚あって、袖の長いのと短いのがあったとする。　この場合、長いほうを aclen という。aclɔl ではない。　これは ncɒʃ acl から来て aclen になっているためである。　このように、受動名詞は動詞語義が生きており、形容名詞は形容詞語義が生きているという違いがある。　なお形容詞の場合、受動名詞の頻度は少ない。つまり aclɔl の出番は少ない。　●擬古形容詞　属格を名詞の前に置くと、擬古形容詞として使うことができる。　これは古語の特徴を残した言い方で、文学的な表現や広告などに用いられる。　日本語に訳す際は「～い」でなく「～き」とする。　hɪμen lelſ 紅き月　ɑc len jeeμ 長き沈黙　●動詞を名詞化する属格　例として ɑɔlen や hɪnſen を挙げる。形容詞を名詞化する例と違い、意味が規則的に演繹できない。　その語に合った適切な語義が名詞として付与されるほうが合理的だからである。　ɑɔlen　［数学］和　ʃʃ:ɑɔʅ 属格　［語法］　数学の和、差、積、商はそれぞれ ɑɔlen, ɑcɑen, hɪnſen, ɑeʃſen で、いずれも四則を属格化したもの。　uc hɪnſ uɪl の場合、hɪnſ は接続詞で、uc がかけられる数で、uɪl がかける数。ʅeſ lɪ hɪl elen の場合、上つまり hɪl になっているのは elen でなく ʅeſ。ʅeſ hɪlen elen でも同様。このようにアルカでは格詞や接続詞の意味はその格詞や接続詞の目的語でないほうにかかる。そのため、uɪl でなく uc が「かけられる数」になる。逆に取りやすいので注意。　uc が hɪnſɔl で uɪl が hɪnſɪn になる。その結果の積は hɪnſɪn, hɪnſɔl を使用しているのでどちらも使えず、属格の hɪnſen で示されるようになった。動詞にかかる属格なので「～の」という意味はなく、意味を変化させつつ名詞化している。そしてこの属格の用法は和、差、商などにも及ぶ。

en,ɑ　jen　elſ;e

enſ　［形容詞］ゆっくり、緩慢、のんびり　［反意語］uɪl　［レベル］2　μɑ　1ʔ: 制　ſlclc:ſlclc:enſ　［用例］ɪn jcſ pel len lɪl enſ. のんびりしている時間はなかった : ɒclſ は良い意味に使うのでここでは不可。

enſ,jzɑ　ɔ

enſleʅl　［名詞］スロー再生、スロー　［レベル］2　ʃʃ

enſleɑ　［運動］ランニング、ジョギング　［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ　［文化］ジョギングはウォーキングに比べて危険なスポーツとされる。ジョギングは心肺機能を高めるが、逆に心臓発作などを起こして死ぬことも多い。だからアルバザードではウォーキングのほうが人気がある。ジョギングは比較的若い人に行われる。特に格闘技のようにスタミナを要するスポーツをやっている人は、スタミナをつけるために行うことが多い。場所はウォーキングと同じである。毎朝あるいは毎夕、カルテに行くと誰かしら人が走っている。　［用例］ɪn ɪμ enſleɑ ſɪſ ɑɪɪμ. 私は毎朝ジョギングする。

enſɪ　［形容詞］固有の、特有の、共有しない、個別の、独自の、オリジナルの、独特の　［反意語］ɔʅl　［レベル］3　1L:enſcl　［用例］elɑ enſɪ 固有の言語

enſɪíſμcɒ　［化学］不対電子　［レベル］6　1L

enſc　［電算］ソフトウェア、ソフト←ɪʅμe　［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :enſ リュウの造語？

enſɔ　［格詞］～なほど、～するくらい、～して～する　［レベル］1　1ʔ: 制　［語法］　まだしていないが、そろそろしそうな場合、将然相を取る。　［用例］lɪ eſ lɪnſ enſɔ ɪn ɑeelcʅ lɪ. 一目ぼれするほど彼女は美しい。

enʅ　［形容詞］異なる、異なった、ちがう、違う、違った　［格詞］～とは異なって　［反意語］ɒyəl　［接続詞］⌈と⌋は同じほど～ではない　［レベル］1　1L:enʅɔʅ（同じでない）。赤では nɣə（ちがった）。　nɣə:nɣə　［語法］ʅɔʅ　［用例］［メタファー］enʅ ɣən ɑɪɪl ɔ lelſ 太陽と月のように異なった。月とすっぽん。　eſ enʅ c{lɪ} ～と異なっている

enʅſəənɔ　［親族］異母兄弟、腹違い　［レベル］4　1L:clɒəj:μcɑcɪ: 異なる土

enʅjɪn　［数学］不等式　［レベル］4　1L

enʅueſ　［言語］ねじれ語　［レベル］5　J0　［語法］⌈ə の類義語が le、⌈ə の反義語が lə。すると ⌈ə, le, lə, lɪ は４つ組なのに lɪ だけ辞書の類義語欄に載らなくなってしまう。この４つは４つで１組なので載せたほうが親切で、この ⌈ə から見た lɪ の位置をねじれと呼ぶ。lɔɔʃueſ と区別すること。

enʅlcjc　［化学］同位体、アイソトープ　［レベル］5　1L: 中性子の数が異なる

enʅlɔɔz　［地学］異極鉱、カラミン　1L

enʅleed　［魔法］［化学］異性体　［レベル］5　1L

enʅɪdɪ　［数学］不等号　［レベル］4　1L

enʅɪb　［被服］別布　μɑ;/　ʃʃ

enʅɔʅɪ　［形容詞］釣り合わない、不釣り合いな、バランスの悪い　［レベル］3　J0

enʅejʅ　［親族］異父兄弟　［レベル］4　1L: 異なる雨。雨は精子の意味。種違いという意味。　［文化］異父兄弟は相性が良く、異母兄弟は相性が悪いというのがアルバザードにおけるイメージ。神話的には イーファとハーネなどが根拠になっている。社会的には男の浮気や一夫多妻の寛容への現れ。

enʅen　［接続詞］～と異なった　［レベル］3　1L

enʅen(J)　［名詞］別人　［レベル］3　μɑ;/　ʃʃ　［用例］lej lə jeſɪſ lɪl eſ ɒɔɪ enʅen enſɔ lə jc lej nɔj jeſ ɑɪl ɑɪ. 殺したかった相手が別人になってしまい、もう殺す相手がいなくなってしまった（jeμen ɪμbɪzɪμɑ）

enʅeɒ　［言語］異化　1L

enʅəc　［名詞］断食　［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

enʅ　［名詞］間違い、間違え、まちがい、まちがえ、虚偽、偽り、間違っていること　［形容詞］間違った、間違いの、偽りの、虚偽の、誤った、あやまった　［反意語］lɪn　［レベル］2　1L: 制 :enʅɪn（ありえない）　ɒyə:　［語法］嘘という意味ではなく、客観的に真実でないこと。　［用例］⌈ə eſ enʅ ʅel ɑɪɪl ɒej ɪſɔlɪj. 太陽が地球の周りを回るというのは間違っている。

enʅcɑ　［形容詞］擬古的な　［名詞］擬古　［レベル］5　ʃʃ:「偽の古さ」

enʅcɑɪyəɪ　［言語］擬古形容詞　［レベル］5　ʃʃ　［語法］　属格を名詞の前に置くと、擬古形容詞として使うことができる。　これは古語の特徴を残した言い方で、文学的な表現や広告などに用いられる。　日本語に訳す際は「～い」でなく「～き」とする。　hɪμen lelſ 紅き月　aclen jeeμ 長き沈黙　lɪɒen yəlc 始まりの仔、嘴矢の御子

enʅɒccμ　［論理］虚偽論　［レベル］6　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

enʅbez　［名詞］デマ、デマゴギー、流言、俗説、風説、流説、流言飛語、流言蜚語　［類義語］ʅɪlz ɪj'əueμ, ɑcɒez　［レベル］4　μɑ;/　ʃʃ　［語法］　ɑcɒez

enʅ　［感動詞］［俗語］ねーよｗ、ありえねーｗ　［レベル］2　ʃʃ:ɒel:enʅɪn

enʅɪn　［感動詞］ありえない、ありえねー、バカな　［反意語］jenʅɪn　［レベル］2　1ʔ: 制 :en（不可能）/ʅɪn（真実）。かなり日常的に使い、感動詞化していたので、制アルカ由来の感動詞として残した。新アルカでも en ʅɪn（真実でない）という意味なので、たまたま意味が通る。

enʅe　［文末純詞］［ɒμə］eɣɔ　［レベル］1　ʃʃ:ʅlccz:enʅ/el

enʅejſ　［名詞］偽名　［類義語］jcnʅejſ　［反意語］ɪnejſ　［レベル］3　ʃʃ

enʅ　［名詞］拒否　［動詞］ɣəl を断る、断る　［レベル］2　1ʔ: 制 :enʅɔ（できない）　［文化］lcɣə

enʅɪnφ　［政治］拒否権　［レベル］4　1L

enʅɪ　［名詞］芸能人、芸人、コメディアン、タレント、アイドル、スター、有名人　［類義語］lcc ɑɪ, ɑcɪlccɑɪ, ʅɪcɪn　［レベル］2　1ʔ: 制 : 恣意　［語法］　アイドルからお笑い芸人まで広く指す。

enʅcd　［医療］無呼吸　［レベル］4　1L: 息を吸わない。ıl 不要。

enʅɔnɔ　［形容詞］実行されない、口だけの　［レベル］3　ʃʃ:en/jɔnɔ

enʅɔʅjɪɒe　［言語］斜格　μɑ;/。主格以外の格というところから。　ʃʃ

enɪɪ　［組み数字］２２/２８　［交通］エンナ通り　［レベル］2　ʃʃ

enɪɪ(J)　［アイテム］鞘　［レベル］3　古

enɪɪ uɪsɔ　［人名］エンナ＝ヴァジョ　［組み数字］２２/２８　［レベル］3　古 : 語源不詳。uɪsɔ は「怒らない」。　［文化］（J →）第４期４代ソーン第８使徒。女性。pclcɪ。１４５ｃｍ、３６ｋｇ。髪は茶色で肩まで届き、直毛で、結かない。黒の大きな瞳。肌は白 : 黄＝８ : ２。　メルの友人。『幻想話集アティーリ』においてはティーテルとネブラの娘。即ち神の子。エンナはやがてソーンの使徒になる。ティーテルはエンナなら自分の持つ剣であるティーナを使えると思って託したが、エンナもまた剣を使えず、託すべき人を探した。やがてエンナはアシェットのクミールこそ撰ばれた霊人だと思い、剣を託し、自らは鞘の役目を負った。

ennɔə uɪsɔ　［人名］エンノウ＝ヴァジョ　［レベル］5　古 : 右の名は後付け　［文化］　エンノウ＝ヴァジョ。初代ソーンの第８使徒。異性魔王。

enuɪlɪdcſɪ　［医療］市販品、市販薬　［レベル］3　1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

enuc　［名詞］能力、アビリティ、力　［類義語］ucɪn　［レベル］2　ɑ:elſ;en/uc「可能な力」　古 :enuc（能力）。en（可能）/uc（力）。「可能な力」が原義。　enuc:enuc::uc,ɪlſ　［語法］ucɪn　［用例］enuc ucen{ſcn} 高い能力　ſcl enuc ɔn ɑɔlɒe 囲碁がうまい　ɪn lɔſ nɔj uɪnɔ jen cl ɔʅ lec ⌈ə enuc. その力があれば、すべてを守れると思った。

enuɔμſ　［形容詞］不死の、不死身の　J0　［語法］形容詞として使う。　［用例］ɪuelɪnſ enuɔμſ 不死身の死神。ɪuelɪnſ en uɔμſ（死神は死なない）とはイントネーションで区別。

enuelen　［魔法］ステータス、ステイタス　［レベル］4　J0:enucelen（能力を書いた表）。このelen は表を置いた机のメトニミー。　［語法］　ユノやヴィルなどの戦闘力や、習得している魔法や弱点などを書いたリスト。　＜ステータスリスト＞　ーーーー　ヴィードの内訳　yənɔ : 霊力。攻撃および防御に使う。男性に豊富。一丸にユノが強いと言っても、オヴィのように攻霊力が強いものもいれば、フルミネアのように防霊力が強いものもいる。　hɪn ɔn : 攻霊力。相手の体力を削る力。ユノをどれだけ武器として使えるかという力。男性に豊富。　ſclɒɪ : 防霊力。相手の攻霊力に対する抵抗力のこと。ユノをどれだけ防具として使えるかという力。攻霊力に比べれば女性も比較的保有している。フルミネアのように先天的に多すぎる異常を持って生まれるレアケースもある。　ɒclle : 体力。μeeu を守るのに使う。ユノ・ヴィル・ノアのいずれを食らってもこれが減少する。いわゆるＨＰのこと。これがなくなるとハノンとティルマは優先的にミルシェに変換され、それもなくなるとヴィード死になる。ミルシェがなくなった段階や、ミルシェを解いているときに攻撃を食らうとレーヴが減少する。男性に豊富。　ucμ : 魔力。魔法に使う。女性に豊富。　rɪjdel: 魔動力。魔法の威力を決定する。黒魔法なら攻撃力、白魔法なら回復力、補助魔法なら効力を決定する。　dcɪlej: 魔抗力。敵の魔法に対する防御力を示す。いかに敵の魔法を受け付けず、いかに味方の魔法を受け入れるかを決定する抗体のようなヴィード。　nɪlɑe: 魔法力。魔法をどれだけたくさん使うことができるかという力。いわゆるＭＰ。いくら攻撃力が高くても魔法力が切

れたら撃てない。　nɔı：気力。格闘技の威力や身体能力に関わる。　bɾlıcn: 気功力。格闘技の威力を上げる。素肌ないしグローブや爪越しに直接敵に触れたときに発動する。素肌から数ｃｍ離れるだけで激減するため、これを使いたいなら爪や手の内に仕込んだナイフしか装備できない。　˥lenıɟ: 気動力。動きがしなやかになり、素早くなる。　ıɟɒı: アルマ。ヴィードのトリニティ。白いオーラで、放射すれば最強の攻撃力となり、張れば最強のバリアとなる。攻防で単語を分けない。同じ盾を使って相手を殴るか自分を守るかの違いに似ている。　ɥı leep: ガレーム。透明。　ーーーー　動物としての能力　ɟeeu：生命力。これがなくなると肉体的に死亡する。　ucɒ：筋力。動物としての筋肉の強さで、腕力および敏捷性を示すもの。格闘ゲームでは体の細い女キャラのほうが早いことになっているが、現実には筋力のあるほうが素早い。剣道の面打ちで分かるが、細い腕だと素早く触れない。　˥ɔlɔ：精神力。集中力や精神力のことで、魔法の強さに関わる。　ɑıleɑ：敏捷性。いわゆる機敏さ。いくらヴィードが優れていても運動神経が悪いと戦力は低下する。　ーーーー　その他特徴　ıuıc：特性。どの属性に弱いかという弱点、どの属性に強いかという性質、どの属性を吸収するという性質など。　eɟn：種族。人間の場合 ɥəəɒı。神は eɟſ,ɟıɟ などが表示される。　ſɔnſɔ：ジョブ。剣士や召喚士などのジョブ。　lenu：習得技能。覚えている魔法や技のリスト。　＜補足＞　攻撃力は多義語で、霊力単体の場合は攻霊力＊筋力に等しいが、格闘技の場合は攻霊力＊気功力＊筋力で、魔法の場合は魔道力＊精神力に等しい。（実際の計算式はより複雑）　防御力は多義語で、霊力単体の場合は防霊力＊筋力に等しいが、格闘技の場合は防霊力＊気功力＊筋力で、魔法の場合は魔抗力＊精神力に等しい。（実際の計算式はより複雑）　素早さは複合概念で、気動力＊（筋力＋敏捷性）で求める。

enuelencſɔ　［娯楽］ステータスポイント　J1

enɑɟel　［形容詞］汚らわしい、けがらわしい　［類義語］beɸɔı　［レベル］3　μſ;en/ɑɟelle「若い男にそぐわない」μſɔ「ふさわしい行ないでない」ulɔ「汚らわしい」ıl　J1:ɟcɑcı　［語法］　分かりやすく言えばこういうこと。beɸɔı はブスの握ったおにぎりが汚く感じられる気持ちのこと。enɑɟel は清楚な女の子が言う「いやっ、〇〇君たち不潔よ！」的な気持ちのこと。主に女性言葉。

enɑc　［動詞］ɥəl をケチる、ケチる　［形容詞］(enɑcın で）ケチな　［類義語］ɥeɑ　［反意語］ɔlɸ　［レベル］3　1L:en/ɑcſ（あげない）　［語法］　悪い意味の ɥeɑ。

enɒıu　［名詞］未成年　［反意語］ɒıu　［レベル］3　μɑ;/　J?　［文化］　ɒıu

enɒıuelɔɟ　［名詞］児童ポルノ、児ポ、未成年ポルノ　［レベル］4　ıl;/　J?　［文化］　ıl で問題となり、主にフェミニストらによって法規制されたポルノ。語源的に未成年ポルノなので、２０歳未満全てが含まれる。日本では１８歳はＯＫだが、アルバザードでは１８歳は未成年なので不可。　歴史的にアルバザードは相手が同意さえしていればポルノでも売春でも性交でもして良いという「本人の意思」を尊重する国家で、１２歳未満は和姦でも強姦と言った考え方はなかった。１０歳未満の子供には手を出さないという慣例はあったが、人の趣味はそれぞれということでペドフィリアも認められていた。ul のミロクもこの点は革命しなかった。本人がＯＫとすれば、ポルノも売春も性交も合法であった。たとえ赤ん坊であっても本人が嫌がって泣いたりしなければ合意とみなした。　しかし ıl になるとフェミニストらが次々とこれらを規制しだした。更に児童ポルノのアップロードはおろか単純所持も禁止となり、少女型の ɒɔɟɒ も発売禁止となった。最終的には二次元の少女も規制され、非実在青少年についても規制されるようになった。　しかし ls のミロク革命で、セレンは社会を ul のミロクの価値観に戻した。セレンの目的は複数あった。ひとつは行き過ぎたフェミニズムを是正すること。だが最大の目的は性犯罪率を減らすことだった。というのも、ıl の歴史を見ると、フェミニストらが規制を強化するたびに性犯罪率が高まったためである。今まで犯罪でなかったものが犯罪になったので検挙率が上がったというのも無論あるが、その見かけ上の増加分を差し引いてもまだなお性犯罪率の増加率が高まっていた。つまり規制のせいでかえって犯罪が増えたのである。児童を守るどころか、むしろ犯罪者を地下に潜り込ませて手口を陰湿で凄惨なものにしてしまった。今までなら合法で児童とセックスできていたものが違法となったので、強姦し、事件が明るみに出ないように口封じで殺してしまうというような事件が相次ぎ、かえって強姦致死の件数などが増加した。だがフェミニストらは自分らに都合の悪い現実という統計データを無視しつづけた。　ls でセレンは「人の性癖はそれぞれ。法によって縛ることで、かえって児童が手を出してはいけない禁断の果実に見え、価値が高まってしまう。その結果、合法時代だったら別にそこまで執着しなかったような連中が、『やってはいけない』と言われたことで過剰に手を出したがるようになってしまった。規制したことでかえって児童とのセックスの価値が高まり、禁断の果実にすることで余計手を出したくなってしまった。それまでは合法的に金銭で買えたりしていたものが買えなくなったので、闇商売をしたり、あるいは無理に連れ去ったりレイプしたり悪戯したりといった犯罪が増えてしまった。これは規制をかけすぎたせいだ。児童ポルノを規制しても犯罪者は闇に潜るだけで、結局被害児童の数は減らなかった。それどころか被害はかえって深刻化して増えただけで、まったく児童は守られなかった。結局誰も得しないルーズルーズな規制でしかなかった」と主張。そして ul のミロクの水準まで価値観を戻し、児童ポルノを解禁した。また、少女の売春を合法とした。するとにあえて少女をレイプしようとするような輩は減り（もはや犯罪をわざわざする必要がないので）、少女を禁断の果実とみなす輩も減り、強姦率などは減少した。　アメリカの禁酒法と同じく、規制するほど状況がひどくなるということはままある。児ポ法に関しても同様で、規制するほど悪は地下に潜り、レイプなどの犯罪件数も増えるだけで、何一つ良いことはなかった。セレンは合理主義なので、規制を緩めてもかえってそれで治安が良くなるならそうすべきだと計算づくで考え、規制を緩めた。

enɒıuelɔɟuınſ　［法律］児童ポルノ法、児ポ法、アグネス法　［レベル］5　ıl;/　J?　［文化］　enɒıuelɔɟ

enɒcɥə　［形容詞］不動の、不変の、確固たる、揺らぎない、揺らがない　［レベル］3　μɑ;/ J?:μcɑcı

enɒeɒɟel　［言語］非円唇　［レベル］6　1L

enɑ,ɟzɑ　名詞を作る接尾辞のひとつ

enɑı　［名詞］６０歳以上の女　［反意語］ıleɑı　［レベル］2　1Ⅱ: 制

enɑınſceɥ　［地学］中深層。海の垂直区分。　［レベル］6　ul;/　JⅡ　［語法］　ſceɥ

enɑıl　［生物］老人　μɑ;enɑı/ıl　［レベル］2　1L:clɒə;μcɑcı

enɑc　［名詞］差、違い、異なり、差異、落差　［レベル］2　J1:enɑ.l:1L:μcɑcı:ıμbıleſſ:enl/ɑə（異なり量）　［語法］　ıɟcl は不公平という心情が入る。ɟdıſ は区別の意味が入る。両者の間の違いを純粋に指す語が enɑc。　［用例］　enɑc ſcn 差が大きい　ſc lɔ˥c jen enɑc ɔɔuen l˥ɔlc ɔ ɥəſı ınɒcıȣ 理解と受容の違いが分かりますか。

enɑcɟɟ　［数学］階差数列。等差数列と区別するように。　［レベル］5　1L

enɑclucl　［医療］健常者　［レベル］3　1L

enɑeɒcl　［人名］エンデミル　［レベル］6　古　［文化］　ʕ00 ごろ。男性。２期のルシーラ。毒を盛られて死ぬ。

enɸ　［経済］利子、利息　［レベル］4　1Ⅱ: 制 :ɔnɸ　［文化］　利子の授受は違法。　→ ɸclɑ

enɸcɒſceɥ　［地学］深海層、深海。海の垂直区分。　［レベル］4　ul;/　JⅡ　［語法］　ſceɥ

enɸcɒelc　［動物］深海魚　［レベル］4　ul;enɸcɒſceɥ/elc　JⅡ

enɸclcl　［化学］非金属元素　［レベル］4　1L

enɸe　［色］ベージュ　［レベル］3　˥lccz:lıl?ı: 語源不詳

enɥəəl　［形容詞］貪欲な　［類義語］ɑınſen　［反意語］ıɥəəl　［レベル］3　J0:en/ıɥəəl

enμı˥ɟın　［音楽］ノンダイアトニック　J1

enɥecndıɒɔ　［数学］非線形性　1L

enz　［形容詞］［副詞］できる限り、できるだけ、できうる限り、可能な限り、精一杯、せいいっぱい、全力で、ひたすら、只管、出来る限りのことをして、できる全てのことをして、最善をつくして、努力して、一生懸命、一所懸命、はりきって、張り切って、必死に、真摯に、切実、痛切な、切に、最大限　［名詞］誠心誠意、最善、ベストエフォート　［レベル］2　1Ⅱ: 制 : 古 :jɔ enɟɔ（できることをする）　［語法］　実際にはほとんど副詞で使われる。　［用例］　ın leɑıſ enzel. 必死で走った。精一杯走った。　lın ɑc enz 一人でも多くの人

enzıcɒ　［色］不透明　［レベル］3　1L:ɒelcɑcı ılcɟ

enzel　［アトラスの国家］エンゼル　［レベル］5　1L:μcɑcı: 褐色の

ens　［動詞］ɥəl を弄る、弄る、いじる、弄ぶ、もてあそぶ、凌辱する、せめる、責める　［レベル］2　1L:ɒelcɑcı ıl(fe:ɛjje/sc

enl　［名詞］芸、技、技能、特殊能力、アビリティ　［アビリティ］技　［類義語］lenu　［レベル］3　1?: 制 : 古 :enɟɔ できることが原義　［語法］　enuelen　・enl と lenu　enl も lenu もともに先天的に持っているか、あるいは後天的に身に着けた技能を指す。lenu は enl より規模が細かく器用な場合に用いる。例えば手品などは手先が器用な技術なので lenu となる。基板のハンダ付けなども器用さがいる細かい作業なので lenu である。有機物の合成も細かい知識を複雑に組み合わせるので器用さが必要で、lenu である。　enl は lenu より大胆で大規模な場合に使い、手先の器用さや技術の精密さなどはあまり問題にしない。必殺技やプロレスの技や格闘技の技や超能力や魔法などは enl を使う。

enlɟcnɟɔl　［娯楽］サーカス、見世物小屋　［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbıleſſ

enldınſ　［名詞］実技科目　［レベル］3　1L:μcɑcı:ıμbıleſſ:lenudınſ のほうがしっくりくるが、lenɟdınſ と聞き違えるため

enlɔcſlıb　［名詞］在宅勤務　［レベル］4　1L:μcɑcı:ıμbıleſſ

enı　［名詞］涙　［動詞］ɥəl を泣かす、泣かす、泣く、泣かせる　［レベル］1　ɑ;eμcı/nı　古 :enı（心の水）　enı:enı:lə μeclı　［用例］　enı ˥lʃɔl 嘘泣きする、うそなきする、嘘なきする、嘘泣き、嘘なき、うそなき　nɔn enıſ ɒcl nı nıə. 嬉しくて泣いた。＝うれし泣きをした。　→ dəμ　☆ nɔn enıſ enſɔ ſcɑl enı. 涙が枯れるほど泣いた。＝胸が裂けるほど泣いた。　ſeɑ ſ'enı 涙の一滴　eμʃı ſ'enı 眼に浮かべた涙　nını enıμ ɸıılel 赤ん坊がぎゃあぎゃあ泣いている。　ɥɔll enı 涙が枯れる、涙を枯らす、泣きはらす

enıſ　［代詞］[ɟenſe] 自分の、自分自身の　［類義語］nɔzeſ　［レベル］1　J0:ennı:e nın → e nınſe（「自分の」をぼかした奥ゆかしい表現）→ enınſ → enıſ（脱落）　［用例］　lı lenıſ dɔɑ. enıſ ſcjje. 彼が食べたのは自分のパンよ。　"ɥın ɒcμɔ˥ ɔ˥lıſ lɔnɑ enıſ ı jelın ſcjje" 「それで、神さまは自分の夢を人に喋ったのよ」

enılcu　［名詞］泣き声　［レベル］2　J1

enıjcı　［生物］角膜　［レベル］4　1L: 常に涙をたたえているため。

enın　［名詞］泣かせる人　J0:ɒelcɑcı lceμ

enıɒeɟl　［生物］涙のう、涙嚢　1L

enıɑɔeμ　［料理］軟水　［レベル］4　1L　［文化］　アルバザードの水は軟水。軟水に向いた和食に相当する料理もあり、おひたしや蕎麦やうどんも存在する。

enıμen　［地学］アクアマリン　［組み数字］6 / 1 0　［レベル］4　1L: 涙の宝石　［文化］　水の魔石。

enıs　［経済］利子率、利息率、金利　［レベル］4　1L:enɸ/ısı

enıl　［音楽］バラード　［レベル］5　J1:「涙の曲」

enılſ　［俗語］ノーチェンジ。風俗（デリヘルなど）やネットスラングなどで使う。　［レベル］4　μɑ;/　J?　［用例］　enılſ ɑı, beeɒı. ノーチェンジだババア。年齢のわりに若かったり美しかったり見える女性を斜に構えて賛辞した言葉。

enılɔμ　［生物］鼻涙管　1L

enıeμʃı　［名詞］眼に浮かべた涙、半泣き、半なき、半べそ、半べソ、半べ　［レベル］2　J1

enıeleſ　［生物］泣き顔　［レベル］2　1L:ɒelcɑcı ılcɟ

enɒɒ　［色］無色　［レベル］3　J0:e/nɒɒ

enɒɒl　［地名］エニーク　［レベル］4　1?: 制 :ennı/dɒɒl（鞘、剣）を切り詰めたもの。　［文化］　ソーンの使徒ヴァジョの支配地。

enɒɒl(J)　［アトラスの国家］エニーク　［レベル］4　制　［文化］　面積：J0ϑJ?ϑ1.?ϑL?ϑΔ ˥ɔ ˩

enɔ　［形容詞］不便な、役に立たない　［反意語］ɥɔı　［名詞］役立たず　［レベル］2　1L: 制 :enɥɔl（使えない）［用例］　bɪz eſ enɔ ɒeμeſl˥ お前ほんと使えねー！

enɔu　［動詞］ɥəl を不動にする、不動にする、動かなくする　［形容詞］動かない、不動の　［反意語］ɔu　［レベル］3　μɑ;/　JⅡ

enɔuɥıɒe　［運動］エアロバイク　［レベル］4　ul;/　JⅡ　［文化］　l˥ə˥ı˥j

ene　［名詞］可能性　［反意語］ılene　［レベル］2　1?: 制 :enɔ（能力可能）

eneɑcı　［論理］可能世界　［レベル］5　J1

eneɸıcı　［アトラスの国家］エネガイア　［レベル］5　1L:μcɑcı: 憤る土地（火山が多い）

eneɸıcın　［音楽］ショーロ　J1:eneɸıcı

eneɸıcıɑınɸ　［植物］カトレア、カトレヤ　［レベル］4　nɑ;/　J?　［文化］　エネガイア原産で nɑ で流入。

eu　［動詞］ɥəl を ı に置く、置く、設置する、取り付ける、皿などを並べる、水などをかける、浸す、挟む、入力する、チャージする、課す　［電算］インストール　［料理］盛り付ける　［経済］年金や保険などを掛ける、預金を建てる　［経済］～建て、建て　［シェルル］張る、貼る。テームスにコマを張ること。　［反意語］jeɑ　［レベル］1　1Ⅱ: 制 :ɔun（動かす）　scsc:scsc　［用例］　ın euıſ ɒəɔı ıl eμ. 水に足を浸した。　eu ɸcl ı ˥ıμſ カードにお金をチャージする　˥ɔnſ euej ɒıμ˥ ı ɑlel ɒəəſ, ınıɸıμɑc ıjɒcl. 鎌をリーザの首に架けたままの状態で、ヴァンガルディは問う。

euɸcl　［経済］掛け金　［レベル］5　1L

euμenl,jzɑ　len　原義は「薬を飲む」

euμenj　［名詞］メッセージ、伝言　［レベル］2　J0:lcɔn: 置かれた言葉

euı,jzɑ　jıe　< jı/e(eμcı).l

euın　［医療］伝染病　［レベル］3　jeμſ　1?: 制 :e˥ɔucl（伝染病）　ɸɔnɸɥeɸcnɸɥə

euınjcl　［気象］冷たい雨、氷雨、ひさめ、雨、エヴァンシル　［類義語］ejl　［レベル］4　jzl;euı/jcc le「雪のように冷たい雨」

euınjclɑ　［歳時記］雪精祭　J1: 雪精　［文化］　elɑccne

euınueɟl　［魔法］アルヴェスクの雪、エヴァンヴェスク　［レベル］5　μɑ;euı/ılueɟl　JⅡ　［文化］　ɑı llccl ı

euıns　［人名］エヴァンジュ　［レベル］6　J0　［文化］　(cɒəl 1J00:) μɑ のアルバザード王。

euınslın　［料理］エヴァンジュラン、白雪ワイン　［ユマナ］ボジョレーヌーボー、ボージョレーヌーボー　jɒ;<>euınslcn,jzl。例年このワインの解禁日からそのしばし後にかけて初雪が降ることから、白雪の槍にかけてこのように命名された。　J?　［文化］　jɒ で作られたワインの品種。地球のボジョレーヌーボーに相当する。　アシェルフィ地方の名産で、毎年ルージュの月の使徒週の変わり目辺りに解禁される。　その年の新鮮なワインで、日本と違って高価なイメージはない。むしろ収穫を祝うためのお祭り的な意味で飲まれる一般的なワインというイメージである。　もともとすぐ飲みきってしまうために作られるため、タンニンが少なく、ふつうの赤ワインと違ってそう何年も持たない。

euınsel　［軍事］エヴァンジェル、篭堺司　［レベル］5　μɑ;euınselcn　JJ　［文化］　˥lΠɔuel

euınselcn　［アイテム］エヴァンジェリン、白雪の槍　［レベル］5　jzl;euı,jzɑ/selcn,jzl　J1　［文化］　天馬騎士の持つ槍。目立たないよう、天馬の色に合わせて白く塗装してある。戦地は雪山が多かったため、白が敵の目を惑わせた。柄はヒノキやヒイラギなど、リーゼルに自生し硬度のあるものを用いる。　長さはサヴァンジェが˩elɑı で、それ以外が 1.1? elɑı である。戦乙女の平均身長が約 1J0ɒb であり、槍の適切な長さは身長からその倍であるため、やや短目である。これは天馬が急降下して攻撃するため、一瞬で相手の懐に入れることから来ている。　騎手は馬が敵にぶつからないよう、右前に槍を放つ。この際槍が長ければ命中度が上がるように見えるが、実際はそうでない。天馬騎士は乙女なので腕力に欠ける。長いと重くなるので取り回しづらくなり、かえって精度が落ちる。また、槍が重いと馬の体力も無駄に奪われる。短さは馬の急降下でカバーし　ており、むしろ短目の槍を使うことで速度を上げている。　柄の断面は円で、突き刺しに適している。太さは細く、軽い。

euınselcn lcczel　［人名］エヴァンジェリン＝リーゼル　［レベル］5　J1　［文化］　リーファ隊ミルギの本名。

euız　［地学］湿地　［レベル］4　1ʕ: 制 :euı（湿った）

euıl　［名詞］置き場所　［レベル］3　μɑ;/　J?

euc　［形容詞］乾いた、乾燥した　［動詞］ɥəl を乾かす、乾かす、乾く、乾燥させる、除湿する　［反意語］euej　［レベル］2　1?: 制 :euı: 古 :euej（湿った）　［用例］　ın euc lıl jıb ˥ɔn dıμd. 服を日光で乾かしたい。　senſ euc ıſ ɔnl ɑɔl ɑcl. 長い間、乾燥した天気が続いた。　ſə ɒɔ˥jıſ 10 ɑec lel ın euc nɑı. 髪を乾かすのに１０分かかった。　ın ıμıſ euɑıμ ı nɑı. ドライヤーで髪を乾かした。　? eel˥ɔl ej euc ˥ı sınl. ベランダの洗濯物が乾いている。アルバザードはベランダに干さないので不自然。

eucſ　［形容詞］間違った、誤った、違う、ちがう、違った、あやまった、不正な、不正解、はずれ、ハズレ、誤答、正しくない　［類義語］fɔɒɔccμ、fɔɔnı　［反意語］fcı　［レベル］1　μɑ;˥ſ<eucɑe.˥ 1L:eucɑe　eucɑe:eucɑe

eucſſeɥ　［普通動名詞］聞き間違い、聞き間違え　［動詞］ɥəl を聞き間違える、聞き間違える　［レベル］3　μɑ;/　J?　［語法］　ɑcl ſeɒ と区別→ ɑcl

eucʃɪlə ［政治］違憲 ［レベル］4 1L

eucʃə ［普通動名詞］言い間違い、言い間違え、言いまつがい ［動詞］ɟel（正しいセリフ）に対して ɥel（間違ったセリフ）を言う、間違えて ɥel と言う、言い間違える ［類義語］eucʃɑɔz ［レベル］3 μɑ;/ J̩ ［語法］ɑcl ɫəɔ と区別→ ɑcl ［用例］nɔn nɪſ ſlə ſcn ɒcl eucʃəl didɪ ſel lɪnlɪ. 先生ってうまいことしてパパって言い間違えて、とても恥ずかしかった。

eucʃlen ［医療］誤嚥 ［レベル］5 1L

eucſuеſ ［言語］スペルミス、書き間違えた単語 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ

eucſɑɔz ［動詞］セリフを噛んで ɥel と言ってしまう、噛む、かむ、言う ［類義語］eucʃə μɑ;/ ［レベル］3 J̩ ［用例］enɟɪ ɪμcl eucſɑɔz cɒ uɔllen. 大事なところで芸人がセリフを噛んだ。

eucſɑcz ［法律］冤罪、えん罪 ［レベル］4 μɑ;/ J̩ ［用例］ſck{ɥəu} eucſɑcz ɔn ɟeſ 殺人の冤罪を受ける

eucſlɔ ［動詞］ɥel を ɪ と誤解する、誤解する、勘違いする ［普通動名詞］誤解、勘違い ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe ［文化］誤解は聞き手と喋り手のどちらか、或いは両方の責任で起こる。どちらの責任であるか追及すべきところはするが、まずは何が誤解であるかを説明するのが先である。追求は後で行う。誤解をしている以上、どこかで別の理解をしているはずである。ゆえに両者が交互に一つずつ情報を最初から言っていけばそのうち誤解が見つかる。自分が言ったことに対して相手が「それは違う」といったり、その逆が起これば、それが誤解している点である。まずはこうして誤解している点を見つけ、誤解を解く。その上でなぜその誤解が起こったのかを考える。誰が原因で何が原因か分かれば次回同じ間違いをしにくくなる。その上で責任を問いたければ問うがいい。誤解を解く際に自分が間違っているのではと心配して協調的に誤解を解き合わないのは良くない。日本人はこういう解きあいをしないが、アルバザードではこの解きあいは日常的である。

eucſlɔlc ［動詞］ɥel を ɪ と誤解する、誤解する ［普通動名詞］誤解、勘違い ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ ［文化］eucſlɔ

eucſɪ ［名詞］トーナメント、大会、競技会 ［レベル］4 μɑ;ecu/cſɪ「決闘会」 J̩ ［文化］神代から行われていた競技会のこと。元は神々が強さを競い合うために余興として行った遊びで、勝ち残り式トーナメントで優勝者を決めるというものであった。 それが人類にも伝わり、ɒ では貴族の間で槍を使った馬上試合などが行われるようになった。 現在でも部活動や試合などで勝者を決める際に行われる。 ［用例］cɒ eucſɪ ſ'ɪlcɟ, ɪnɟ scφ jen φeʅuɪu le ɑe ɪμ, ſɪl ɒ uelɪnſ dɔnɟφeʅ cɒ ſə ſ'ɪlſe. 秋の大会ではそれぞれどの球技をするのか選べるが、春の大会ではバレーボール一択なのである。

eucſcn ［普通動名詞］見間違え、見間違い ［動詞］ɥel を ɪ と見間違える、見間違える ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ ［語法］ɑcl cnɟ と区別→ ɑcl

eucɫəɔ ［医療］口腔乾燥症 ［レベル］6 1L:jeμen

eucɟ ［名詞］見立て ［動詞］ɥel を ɪ だと見立てる、見立てる ［普通動名詞］見立てること、見立て ［レベル］4 μɑ;leu/cnɟ「喩える目」が音変化していったもの。 J̩

eucɟɪɪz ［医療］シェーグレン症候群 ［レベル］6 1L:μcɑcɪ:「乾いたおばさん」。４０～６０の中年女性に多く、涙や唾液の分泌に障害が出る病気であることから

eucn ［動詞］ɥel の悪いところを見る ［反意語］dɪɪ ［レベル］3 J0:eucɑe/cn（悪を見る）［用例］ɒcn ɪlɪ eucn ɑc le lə jcn. 女は嫌いな相手の悪いところばかり見る生き物だ。

eucɑe ［名詞］悪、悪事 ［形容詞］悪の ［形容詞］からかい半分で「悪いお人」などというときの「悪い」 ［反意語］dμɔdɪɪſɪ ［レベル］2 ɑ;uc の部分は uel（闇）？ 赤 eucɑe:eucɑe ［語法］dμɔdɪɪſɪ ［用例］ſ...ſcl nɪɫc ſlɪ. こ、困りんす。 ɒyən lcnl ſyə ɫen ɒcɪn ſɥɪn ſlɪϑ __ ɑɥellɔə, ſlcɪ ſe eucɑe ucl ɥɪnnɪ. わっちにも見せてくれんかや？ーーヌシさまは悪いお人。 （『狼と香辛料』賢狼ホロ）

eucdɔl ［地学］乾燥帯 ［レベル］4 1L

eucl ［医療］膏薬、貼り薬、はり薬 μɑ;/「置く薬」 J̩

eucɪμ ［名詞］乾燥機、除湿機、ドライヤー ［レベル］2 1L:lcɔn

eucɔnɟ ［医療］ドライアイ ［レベル］5 1L

eucɒɒɟ ［化学］乾性油 1L

euɔ ［動詞］ɥel（場所など）を警備する、警備する、警邏する、警戒する、巡回する、パトロールする、見張る、見回りする、見回る ［普通動名詞］警備、見回り、警邏、警戒、パトロール、見張り ［類義語］ɫeſɟ ［レベル］3 1ſ: 制 :eue:1ſ: 制 : 古 :hɔɒɥeuɪɟ 門番

euɔʅɪɑ ［政治］夜警国家、消極国家 ［レベル］4 1L ［文化］アズゲルからカコまで採用されていた主義。国民一人一人が強力なヴィードを使えていたため、国家は最低限の管理しか要求されなかった。セルメルで崩壊。絶対王政に変わっていく。

euɔɒ ［名詞］置き方、並べ方、配列、配置 ［娯楽］［軍事］布陣 ［レベル］3 J̩ ［用例］euɔɒ cun 脆弱な兵士の配置

euɔɪn ［名詞］警備員、守衛 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcɟ ［文化］守衛所は駅員室と変わらない。改札を見張る環境と、来訪者を取り次ぐ環境のある部屋である。彼らは不審者が入ってくるのを防ぐという重要な役割を担っている。常に二人はいる。片方が誰かの相手をしているときに別の誰かが忍び込まないようにである。だから仮に二人一度に守衛室に来ても、必ず一人しか客に対応しない。二人いるから独りずつ対応するというわけにはいかない。それが罠かもしれないからである。二人が対応すればその間改札は誰も見張らない。これは危険である。守衛はその役割からしても、客を待たせてでも住民の安全を守らなければならない。だから二人客が来ても一人しか対応しない。これは規則である。

euɔɔɒɪ ［動物］番犬、門番 ［レベル］3 J̩

euɔez ［名詞］守衛室 ［レベル］3 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

euеſ ［物理］起電力 ［レベル］5 1L:ɪſeuſeu（電流を起こすための電圧）

euеɟ ［形容詞］濡れた ［類義語］φccʅеſ, jeμcd ［反意語］euc ［レベル］2 古 ［語法］euеɟ は濡れている。jeμcd は湿気を帯びているだけで、ぐちょっという感じではない。 ［用例］ɪn eɒɪſ euеɟ ɪſc ʅɪl ɒɪn ɫeʅɪſ hɪdn ɪɒɔl ejn ɪnſ. 友達と傘を一緒に使っていたら少し濡れてしまった。

euеɒ ［名詞］設定、シチュエーション ［レベル］3 1L:jeμen:euɒeɟɪ:1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ: 置かれた環境 ［成句］ ☆（acſ）euеɒ ɑel ～ということにする、～ということにして ［用例］ɪn ɑcſɪſ euеɒ ɑel ɪn ſcl eɑɪ cɒ ɑcɟ. 今日は風邪ということにした。 ſə eſ euеɒ ɑel uɪcʅ e ɒɥəəl lɪ ɒɔl ſceμ. ミュール大陸は部分的に海の底ということになっている。

euеl ɪɒɪnze ［人名］エヴェル＝アマンゼ J̩ ［文化］ファミイ＝クルノーズの夫。

eɑſ ［動詞］ɥel（物）を c（人）から盗む、ɥel（人）から ɔn（物）を盗む、盗む、盗る ［普通動名詞］盗み、物取り、物盗り、窃盗、盗難 ［レベル］2 1ſ: 制 :ɔɑſ（奪う）［語法］壁塗り構文と同じく、ɥel の種類によって ɥel 以下の格が変化する。 ［成句］ʅɪlɒɪ eɑſ 手癖が悪い ［用例］ ☆ ɪn eɑſ ɪſ ɥə ɔn φclɟ jcn = φclɟ eɑſɪſ ɥə cſ ɪn = le eɑſɪſ ɪn ɔn φclɟ = le eɑſɪſ φclɟ ɪnſ = le eɑſɪſ φclɟ cſ ɪn 財布を盗まれた：内容的に迷惑なのは明らかなので jcn はあってもなくてもよい。ただアルカに間接受身はないので、ɥə の有無によって迷惑感の有無は変わらない。迷惑感は jcn で示す。とはいえ、この文の場合は jcn がなくても文意から明らかに迷惑なので jcn を省いても構わない。なお、一番自然なのは ɪn eɑſɪſ ɥə ɔn φclɟ jcn ɒ le eɑſɪſ φclɟ ɪnſ jcn である。前者の場合、盗まれた自分の惨状に目が行っている。後者の場合、盗んだ犯人めコノヤローという視点になっている。

eɑſɪn ［法律］泥棒、空き巣 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ ［文化］セキュリティがしっかりしていることと、大家族なので常に誰かが家にいることと、そもそもアルバザードに貧困者が少ないことから、泥棒はまず入らない。泥棒が入れば警察に通報し、捜査してもらう。盗まれたものの代金は犯人が見つかれば犯人に払わせる。もし見つからなければ保険会社に払わせる。だから当然警察は自作自演の泥棒でないかの疑いを家族にかけ、慎重に捜査する。レインは一人暮らしの少女だったため、あっさりネブラに侵入された。ネブラが侵入できたのは彼も特殊な地位にいたからである。さらにレインは紫苑のことを隠していたので警察に連絡できなかった。

eɑɪ ［医療］風邪、カゼ、感冒 ［レベル］2 1ſ: 制 :eɑ（寒い）［成句］ eɑɪ e μɥəə 医者の不養生 ［用例］ɪɪ, ɪn ſcl eɒ eɑɪ ɪləəſel ɒɪn ɪμ ɔhɔ. 咳が出るので風邪を引いたに違いない。 ɪn ſclɪſ jɪſ eɑɪ. 風邪を引きそうだった。

eɑɪφɪlſ ［生物］風池→ ɑɔnφɪμ ［レベル］6 J̩

eɑɪlɑcɪ ［生物］風府 J̩:eɑɪ/ɪlɑcɪ

eɑɪlſe ［気象］花冷え ［レベル］4 1L: 風邪を引いた女神 ［語法］春先に急に寒くなること。アシュテが風邪を引いたせいで起こる。 ［用例］eɑɪlſe jcl jɔɑ cɒ ſə jɔɔſ ſel dɔμlɪl. 今週は花冷えが予想される。 ☆ ſə eſ ɑɪz ɪ ɒccnɪ eɒ ɒɪnj, ſɪl eɑɪlſe eſ ɑɔſ. 花の咲く季節だが、花冷えが厳しかった。 cɒ ſə ɑɪɪμ, nɔn lecnɪſ jɪb e lceμ ɒcl nɪ eɑɪlſe. 朝、花冷えがしたので冬の服を羽織った。

eɑɔ ［生物］海綿 ［レベル］5 1ſ: 制 : 古 :eɑəſɔ(水を取る)

eɑɔd ［動詞］ɥel を凍らせる、凍る ［普通動名詞］冷凍 ［レベル］2 1ſ: 制 :eɑ/jɔd（固体）［用例］ɪn eɑɔdɪſ ɒelcʅ ʅɪ jɔμſſeɒʅ lɪnɪ ʅəc ſə cɒ lceμ. 冬にイチゴを食べようと思って冷凍庫で凍らせておいた。 ſə ɪſ jɔμſ eɑɔdel. 凍てつく寒さだった。 ɪn uɔμſɪſ jɪſ ɒɪn ſə eſ jɔμſ ɥən ɪn eɑɔd ɥə. あまりに寒くて凍え死にそうだった。 ſə ɪſ led ɔ ʅcn ʅel ɪn jeɑ jɪe ɒɪn jɪe ej eɑɔd. 雪が凍ってしまって、雪かきが大変だった。

eɑɔdbel ［料理］冷凍食品 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ ［文化］アルバザード人は好まない。

eɑe ［名詞］スポンジ ［レベル］2 1ſ: 制 :eɑɔ

eɑeɑɑ ［生物］海綿動物門 ［レベル］6 J̩: スポンジのような動物門

eɒ ［動詞］ɥel になる、なる、成る。eſ ɒcɥə と同じ。 ［接尾辞］複合語に使い、「～化」の意味。 ［法］［副詞］～になって。変化を指す。 ［動詞］連動詞として使い、変化の段階を示す。 ［レベル］1 1Λ:ɒel:eſ ɒɪ。アルカには元々ナル動詞がなく、ナルを示すには eſ ɒɪ というように繋辞 / 変化の副詞で表していた。eɒ は eſ ɒɪ が短縮されたもので、口語から生まれた新たな動詞。 :::ɒ cɫə,ɪlſ ［語法］仮に eſ と聞き違えても、そこまで意味に大差がないので、通常、問題は起きない。

＜変化の段階を示す用法＞ el ɟſenſ ucl le ɑɔnſ（あの道は渡れない） el ɟſenſ ucl eɒ le ɑɔnſ(あの道は渡れなくなった） el eɒ jɪſ ɟſenſ ucl le ɑɔnſ(あの道は渡れなくなりそうだ） el eɒ ʅcſ ɟſenſ ucl le ɑɔnſ(あの道は渡れなくなりはじめた） el eɒɪμ ɟſenſ ucl le ɑɔnſ(あの道は渡れなくなっているところだ） el eɒcʅ ɟſenſ ucl le ɑɔnſ（あの道は渡れなくなった） el eɒej ɟſenſ ucl le ɑɔnſ（あの道は渡れなくなっている） ɒcɥə の場合、eɒcʅ と eɒej の両方を指す。 ＜派生語＞ 形容詞→動詞 接尾辞 eɒ。ただし省略するのが通常。 「～化」という名詞用法にしたい場合は eɒ は省略できない。 ʅicɒeɒ（大きくする） この eɒ は省略できるが、「巨大化」という名詞用法の場合は eɒ を外せない。

eɒ(J) ［接尾辞］行為無相を示す。開音節には ɒ。 ［レベル］2 1L ［語法］ɥəɔnɑɑ

eɒſ ［形容詞］悲しい ［反意語］nɪə ［レベル］2 1ſ: 制 nɪɒɔ:nɪɒɔ ［文化］悲しみの表現は日本人から見れば やや大げさである。泣いたり声を出したりする。手で顔を覆ってうなだれたりする。アルバザードでは悲しいことが起こると一人で引きこもる。少し自分一人で気持ちの整理をつける必要があるからである。そのうち家族や友人や恋人が見舞いにいき、愚痴を聞いてやる。日本では引きこもる人をすぐ追いかけることがあるが、アルバザードではとりあえず一人にすることが多い。但し、このままどこかへ消えてしまいそうな神経の細い人の場合、恋人などは決して一人にさせないで付いていくことが多い。 一通り嘆き悲しんだらぱっと気持ちを切り替えて客観的な反省を始める。負の感情をエネルギッシュに出し切ったら今度は冷静に何がまずかったのかを考える。こうして反省して次回の教訓にすることで、悲しみを利益にリサイクルする。アルバザードはこうしたただでは転ばぬ精神を培っている。 ［成句］eɒſ e leɥə 愛別離苦 ［用例］cɒ ɑcɟ, ɪn nɪſ eɒſ ɪlɪ lɔſ lɑcɟ ɪnſ. 今日が人生で一番悲しい日だ。 ☆ ɪn jcſ ɒel len nɪ eɒſ. 悲しみに暮れている場合ではなかった。 lɪ eſ eɒſ ɥən. 彼は悲しそうだ。 ☆lɪ neʅſɪſej nɔj nɪ eɒſ cn. 彼は人知れず悲しみを抱えているようだった。 nɔn nɪſ eɒſ enſɔ enɪ ʅcſ. あまりに悲しくて泣きだしてしまった。 ɪn nɪſ eɒſ ʅɔnſ nɪ nɪə cɒ ʅɔʅ. 喜びと悲しみが入り混じった気持だった。

eɒſɥɔ ［名詞］悲劇。メタファーとして使う場合は eɒſlɔɪ のほうを使う。 ［類義語］eɒſlɔɪ ［レベル］5 μɑ;/ J̩

eɒſlɔɪ ［名詞］悲劇。メタファーとしての悲劇。 ［類義語］eɒſɥɔ、uеμɑc ［レベル］4 μɑ;/ J̩

eɒʅ ［動詞］ɥel を ɪ に洩らす、洩らす、洩れる、もれる、漏れる ［動詞］ɥel を ɪ にバラす、バラす、暴露する、バレる、秘密を漏らす、情報を漏らす、秘密を洩らす、洩らす、漏らす ［レベル］2 1ſ: 制 : 古 :eɒɔʅ ［語法］こぼれるではなく、もれる。塞いでいたものが出て行くことを指す。穴が開いて水が漏れるなど。 ［用例］eμ ej eɒʅ c jcɪs. 天井から水がもれている。 eɒʅ μe nj{uеſ} 言葉を漏らす、無意識に言う ejʅ ɪnɑ eɒʅ ɪdɔſ ɥɪɒeʅɪ ɑμeɒen lɔdn ɪſc ɑc ɑəɔ. 駅の駐輪場の雨漏りが酷い。

eɒɟ ［名詞］油、脂肪、オイル ［名詞］［形容詞］余計な、邪魔な、余分な : eɒɟ ɪlen ɑɪdl の略 ［レベル］2 1ſ: 制 : 古 :eɒɥə（油） eɒɥə:eɒɥə ［成句］ eɒɟ ɪ(len) ɑɪc 火に油 eɒɟ ɔnſ eμcɪ 油に水。日本語の成句と同じ意味。 ［用例］ɑcſ{eu} eɒɟ 給油する、油を差す

eɒɟɟeɒɒɪɟ ［美容］油取り紙 ［レベル］4 J̩

eɒɟɒɪɟ ［美容］油紙 ［レベル］5 J̩

eɒɟdcſɒ ［医療］脂肪肝 ［レベル］5 1L: 英語のような sɪl ではいけない。肝臓自体が膨れてないといけなくなる。

eɒɟμɔn ［物理］油圧 ［レベル］5 μɑ;/ J̩

eɒɟlcſc ［生物］脂腺 J̩

eɒɟlecɟ ［芸術］油絵 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɪμbɪlelſ

eɒɟɪ ［地球の国名］サウジアラビア ［レベル］5 古 : 油の国

eɒn ［化学］ビニール。日常的にはポリ塩化ビニルおよび軟質プラスチックを指す。 ［レベル］2 lɪʅſɪ:「色のない油 」 ［語法］英語はビニールをプラスチックと称することが多いが , アルカはビニールはビニールなので日本語に近い

eɒnɪ ［化学］ビニル基 1L

eɒnejn ［名詞］ビニール傘、ビニ傘 ［レベル］2 ul;/ J̩ ［文化］ビニ傘は日本では一般的だが、世界的にはそうではない。アルバザードでは公共傘として道端に設置されているものがビニール傘になっている。

eɒɑ ［料理］［動詞］ɥel を炒める ［レベル］2 1ſ: 制 : 古 :eɒɥəɑɪc（油で焼く）

eɒb ［サール］エンプ ［軍事］要塞 ［レベル］3 φcl: 古 ［文化］生きている要塞。サールであり、自動で外敵を排除するシステムを持っている。

eɒɥə ［化学］脂質 μɑ;eɒɥə,ɑu.ɪleʅ J̩

eɒɥə,ɑu eɒɟ

eɒɥəſɪhɪnʅ ［化学］脂質二重層 μſ;/ J̩

eɒɪ ［代詞］［ᴅᴅᴀ］アタシ、あたい ［レベル］1 J1:ʅlccz:ɒɪɒɪ

eɒɪ(J) ［言語］篇、アルハノンの篇 ［反意語］eɒɪ ［レベル］5 J0:e（左）/ɒɪcn（体）

eɒɪʅ ［化学］パラフィン ［レベル］6 1L:μɥəə:en/ɒɪlɔ（親和しない）

eɒɪlzcμ ［名詞］神仏混合、エマルジール ［アクセント］eɒɪlzЄμ ［レベル］6 J0: 古レスティル「よく混ぜた」 ［文化］ɥəəɒɪ ᚻᚻᚹ 先の戦いで戦功があったのは主に召喚士で、召喚士の地位が高まっていき、宗派を越えて召喚士そのものの地位が高まっていった。召喚士同士の横の繋がりのほうが宗派よりも重要視されるようになり、ほとんどの人間は各宗派の違いよりも職業の違いを意識するようになった。この状態を受け、関白メリウセルは日本でいう神仏混合（エマルジール）を行い、アルテもサルトも漢然と崇める対象と広く定義し、アルテの存在を認めない神商会に対しては「このアルテは原初に存在して分裂したアルテのことで、概念でも唯一神でもない」と説明し、飲ませた。神商会としてはエマルジールを行うことで富国強兵になり、体よくサルト教とアルテ教を吸収できると考えた。この時代は昔ほど宗派の違いが重要でなく、召喚士や魔導師といった階級のほうが重要視されたため、メリウセルは新しい風潮に合わせて宗教理念を柔軟に解釈した

eɒc ［形容詞］～の野郎、～のやつめ ［文末純詞］～しやがる ［レベル］1 古 :eɒc,eɒcc（野卑のエクスプローダー）［語法］卑称の一つ。制アルカは呼び捨てが中立的なので、呼び捨ては嫌いな相手を罵る言葉にはならない。従って必然的に卑称が生まれるが、そのような卑称は呼び捨てが罵りになる日本語には訳せない。eɒc は卑称であり、名前の後ろに付く。あえて日本語にするなら「～のやつ」とか「～のやろう」に当たる。

eɒcſ ［生物］ドメイン、超界、域 ［言語］語族 ［レベル］5 1L:ɪɒɪſ の母音を変化

eɒcʅ ［動詞］ɥel を ɪ にたなびかせる、たなびかせる、翻る、たなびく、漂う、なびく、靡く、なびかせる、靡かせる、そよぐ ［レベル］2 1ſ: 制 :eɒccμ/ʌe ［用例］lɪ leɑſ ʅɔnſ nɔɪ lɪſ ɪnɑ eɒcʅ. 彼女は髪の毛をなびかせながら走った。 nɔɪ eɒcʅ なびく髪

eɒcʅɔ ［料理］豆乳 ［レベル］2 μɑ;henɒcʅɔ,ɪlſ.lcʅ「大豆の水」 J̩ ［文化］μɑ で伝わった。南部ほどよく飲まれる。uſ で lcnlen ɥəəɪn が広め、現在では北部でも飲まれる。

eɒcl ［植物］杉、ヒマラヤスギ、セイヨウスギ ［レベル］3 古

eɒcɟ ［サール］エミス ［形容詞］わがままな、自己中な、自己中心的な、利己的な、思いやりがない、傍若無人な、勝手な、身勝手な、都合のいい ［反意語］ɥəɑc ［美容］おだんご頭、おだんごの髪型 ［魔法］エミス。闇の低位黒魔法。術者の目を見ると身動きが取れなくなってしまう。術者が対象から目を逸らすと解除される。ちなみに、術にかかっている方は、瞬きがで

e

きないので目が痛い。 ［人名］ルシアの悪口 :ɟ0:ɒel ［レベル］3 ɥcɑcɪ: 古。歯音がなくなったので同じ語に統合された。 ［文化］ 昔の中国の貴族のような格好をした幼女のサール。袖の長い赤いチャイナドレスを着て、長い黒髪を頭のてっぺんでお団子のように左右２つ結っている。ややつり目で気が強そうにみえ、眉は細いがりりしく、口元はきゅっと締まっている。漆黒の瞳で睨むと相手は途端に身動きが取れなくなる。見た目は７歳程度。性格はとてもわがまま。 ［成句］ eɒcɟ ɟɪl eɒcɟ エミスは何年生きても自己中なまま：三つ子の魂百まで ［用例］ ɪn ɪʃ eɒcɟ ɒɪn ʔeɟ φɪɪʃɔ ɔʔl uɪnɑɔʔl nɪɒɔ ɪ lɪ. あんなふうに彼女に向かって話すなんて私は思いやりがなかった。

eɒcɟ(ɟ) ［人名］エミス ［組み数字］７／１４ ［レベル］4 古 :eɒcɥ で、語源不詳。 ［文化］ 第４期３代アルシェ第７使徒。

eɒcɟlɟɔɟ ［普通動名詞］自己主張。ネガティブに使う。 ［レベル］3 ɟɟ

eɒcɟnɔɪ ［美容］おだんご頭 ［レベル］2 1L

eɒcɟuɪnɑ ［普通動名詞］八つ当たり、やつあたり ［レベル］2 1L: エミスのようにわがままに人を攻撃する ［用例］ ɪn eɒcɟuɪnɑɪʃ lɪl ɑc. 誰かに八つ当たりしたかった。

eɒcɟlcl ［化学］ガドリニウム 1Δ: 制

eɒcnɪ ［植物］しだ、シダ ［レベル］4 1ʔ:e/ɒcnɪ（ɪl/ɒccnɪ）。花の咲かない植物の一種

eɒcɥ ［魔法］エミール、妖術 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:eɒccl ［文化］ アルトの一種。妖精族が編み出した独特な魔法体系。基本的に錯乱させたり混乱させたりといった、惑わす系の魔法が多い。操る魔法もある。人間に悪戯をする矮小な魔法から、人を騙す悪質なものまである。

eɒcɥɪn ［魔法］妖術師 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ

eɒcl ［代詞］［ɒɒɑ］アタシの、あたいの ［レベル］1 ɟ1:ʔlccz:eɒɒɪ。触媒と交替。

eɒclcɔ ［死神］エミリオ ［レベル］4 ɒelʃcɪ ɟL1:lənɔ;e ɟ0:ɥcɑcɪ ［文化］ 死神族の少年。双子の妹ミスティと常に行動している。二人合わせて四天王と同じ程度の強さ。合わせ鏡から生まれただけあって、妹と姿姿がまるで同じである。どちらも髪は黄色く、長さはセミロングで、ツンツンはねている。セーラー服を着て生まれてきた。鎌を持たず、エミリオは金の、ミスティは銀の横笛を持っている。 彼らのセーラー服は上が白のブレザーで、水色い菱形のネクタイが付いている。下はスカートで、こちらも色はネクタイと同じ水色である。

eɒcc ［ɟɒnʃe］［文末純詞］よくも～したわね ［レベル］1 古 :eɒc,eɒcc（野卑のエクスプローダーの女性形）［語法］ 野卑の文末純詞。jeeɥ と逆の意味。感謝どころか怒っていたり恨んでいたりすることを表わす。

eɒccɥcɪ ［地名］エミーリア海 ［レベル］4 ɟ0:ɥcɑcɪ: 妖精の水 ［文化］ フィーリアの東の海。アルダ南西、エルトア西。

eɒccl 妖精 1L:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒel:eɥ/ɒccl（水に浮かんだリボンのように舞う）［文化］ 妖族と人間の交配種。エルトア発祥で、精霊同様エルトアの森にひっそり暮らしている。踊りが好きで、好奇心が強く、性格はのんびりしていて明るい。髪は透き通るような黄色で、薄く、縮れている。服はやはり薄布をまとっている。アシェットではミルフが妖精の一族の出。

eɒɔ ［名詞］源、ソース、元、もと、元凶、源泉 ［数学］根、ルート ［格詞］～のおごりで、～のソースを利用して、～にちなんで、因んで、ちなむ、～することによって、～を根拠として、～の結果 ［格詞］～を親として ［反意語］ɔeeʃ ［レベル］2 古 :eɒɔ（低いところにある水）［語法］ ＜～することによって＞ 「～することによって」は ɒɪn と ɔʔl の間のような語義。ɔʔl と違って動詞句と ɔʔl 句がイコールではないが、eɒɔ 格が ɒɪn 格の成立要件であることは確か。逆に ɒɪn と違って eɒɔ 格は動詞句の原因ではない。 el uɪlʃ jen ɥəə eɒɔ nɪ deɟ において、まず、ɔʔl では意味が通らない。ɒɪn にしてしまうと「悩めばゼロを解決できる」＝「悩むから何も解決できない」という意味になり、悩むことが確定条件になってしまう。ɔl だと条件ぽくなってしまう。そこで eɒɔ。 ＜ルート＞ ルート２の三乗根は ucɒɔ ʃɪ。３ルート２は uc eɒɔ ʃɪ。発音に注意。

eɒɔuɔʌn ［医療］ｉＰＳ細胞、人工多能性幹細胞 ［レベル］5 ɟ0: 源泉細胞

eɒɔuenʃ ［経済］源泉企業 1L ［文化］ → uenʃ

eɒɔz ［動詞］ɥel を煎って ɪ にする、煎る、スクランブル、いる ［レベル］3 1L: 制 :eɒɟ/lɔz

eɒɔen ［接続詞］eɒɔ ［レベル］3 ɟ1

eɒeʃ ［電算］ソース、ソースコード、コード、原始プログラム ［レベル］4 ɥɑ:ɥɥəə;eɒɔ/ʃe ɟʔ

eɒel ［化学］触媒 ［レベル］4 ɟ1:ʔlccz<eɒcl:1ʔ: 制 :elcɟ

eɒeluelɑ ［医療］心嚢水 1L

eɒeluc ［経済］弱肉老食 ［レベル］6 ɪl;ɑlɪcɪuɔɒ をもじって eɑφɪɥɑ/ɒelucφɪɥɑ から作ったもの ［文化］ ɪl では老人が国民の資産の過半数以上を保有しており、中高年の雇用を守るために若年層が犠牲になってきた。その上少子高齢化で若者の社会保障の負担は増えるばかりであった。その事態を皮肉って弱肉老食という言葉が生まれた。

eɑφɪɥɑ ［軍事］新兵、リクルート、エドガルド、エドガード ［レベル］4 ɒʃ;'elʃ/φɪɥɑ ］］ ［成句］ eɑφɪɥɑ ɟɪ'le ɒelucφɪɥɑ. 新兵が老兵を先導する：負うた子に教えられて浅瀬を渡る

eɑɪ ［名詞］リスト、表、メニュー、名簿、目録 ［料理］献立 ［類義語］elen ［反意語］zeʃ ［レベル］2 古

eɑɪʃ ［親族］祖母、おばあさん、おばあちゃん ［レベル］2 1L:eɑɪ/eeɟɪ

eɑɪɟlez ［電算］２ｃｈ型掲示板、憩いの場型掲示板、掲示板 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

eɑɪn ［親族］おばあちゃん ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ:eɑɪʃ

eɑcɟ ［動詞］ɥel をずらす、ずらす、はだける、はだけさせる ɥɑ;eɑɑc/ɔ ɟʔ

eɑcnbɪlɪ ［植物］菩提樹、リンデン ［レベル］5 ɒe

eɑcɪl ［地名］エディアル ［芸術］グロテスク ［レベル］5 zφ | ɟɒ; エディアル地方で発達した芸術技法であることから。 ɟʔ ［語法］ グロいという意味はない。 ［文化］ イルケア南部の都市。

eɑcɔn ［地学］エディオン大陸 ［ユマナ］パンゲア大陸 ［レベル］5 古 : 制までは大陸の名だったが、新生では定義されなかったので、パンゲアとして利用することにした。

eɑɔ ［経済］財団 ［レベル］4 ɥʃ;je/ɑɔɪ ɟʔ

eɑe,ɪlʃ sen eɑel,ɑ.l

eɑel,ɑ sen ɑ;e

eφ ［感動詞］しくしく、えぐえぐ、えぐっ、うぐっ ［レベル］2 古 :ɪφ の仲間で、嗚咽に使われた

eφlcu ［名詞］嗚咽 ［レベル］3 ɟɟ

eφɪn ［動物］カモメ、鴎 ［レベル］3 lɪʔlɪ

eφɔ ［化学］石灰 ［レベル］3 ɒelʃcɪ Δ:φclcəj;e 1ʔ: 対の意識が弱いので残した。

eφɔɑɔl ［地学］鍾乳石 ［レベル］3 1L

eφɔɔɪɒ ［地学］鍾乳洞 ［レベル］3 1L ［文化］ ベルフェ南西部のカサンテ鍾乳洞が有名。

eφɔɪɑɔ ［地学］方解石、石灰石 ［レベル］3 ɒelʃcɪ Δ:φclcəj;/ 1L

eφe ［地学］大理石、マーブル ［レベル］3 古 :eφe（水の円＝水玉）［文化］ 日常的には、高級な壁やテーブルなどに用いられる。

eφeφ eφ

edn ［建築］廊下 ［レベル］2 1ʔ: 制 :ezdɔn（部屋と部屋を繋ぐ道）［文化］ 部屋と部屋を繋ぐ床で、日本と変わらない。フローリングが基本である。学校の廊下は幅広く、ぶつかる心配がない。かといって走るのは禁止である。廊下には各地に消火栓がある。また、廊下と教室の境には上方にプレートがあり、何番の教室か分かる仕組みになっている。日本と同じである。つまり、教室のドアの上のところに何年何組と書いてあるのと同じである。教室のドアはスライドドアではなく、押して入るドアである。出るときは引く。生徒の往来が激しい休み時間中はドアを開放しておく。開閉があると廊下から入ってきた人によって出ようとした人がドアに吹き飛ばされて怪我をするからである。それでも冬などの寒い時期はドアを閉めておきたい。そのほうが寒くないし暖房代もかからないからである。そこで大抵のドアは透明で、中が透けて見える。しかし、外から見えるということはドア側の生徒がいつも誰かに見られるような不快感を覚えることにも繋がる。教室内のプライバシー保護の点もあり、教室のドアは休み時間は透明だが、授業中になると自動で曇りガラスに変化するようになっている。

edc ［被服］ピン、留めピン、留め具、留め金、止めピン、割りピン、画鋲 ［電算］フラグ。チェックする必要がある場合は作業工程表に目印としてピンを刺しておいたことから、それが電算の世界に転じて使われるようになった。 ［レベル］2 1ʔ: 制 :jɪɑ:eudcn（留める針）［文化］ 日本に見られる金色で扁平な画鋲は存在しない。１００均で売っているようなピン。ただし針は丸でなく、Ｌ字型をしている。これは刺した後にグラグラしないためと、壁に開いてしまう穴の面積を狭くするための工夫。取ったときに壁が汚くならないように配慮されている。 ［用例］ eu edc フラグを立てる edc eɟ eu ɑɪnel = (/ə) edc eʃ ɑɪn フラグピンコ立ち、フラグ立ちまくり

edcʃejc ［名詞］ピンマイク ［レベル］5 ul:/ ɟʔ ［語法］ 胸元や襟裳に装着する小型マイクロホンのこと。

edcʔlɪd ［美容］シングルピン ɟ1

edcɑɔʔl ［被服］ブローチ ［レベル］3 1ʔ: 制 : ピンの飾り

edɔ ［植物］ニレ、楡 ［レベル］4 古

edeʃ リペット ɟ1:edc/ʃe

ebɪlɪnz ［軍事］格闘兵、エブランズ ［名詞］格闘家 ［レベル］3 zφ;uɒ ɟ1 ［文化］ ノアを駆使する兵科。主にヴェマのものが有名。

ebɪ ［動物］水牛、スイギュウ、バッファロー ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :ebiʔ（水辺の牛）

ebc ［名詞］バケツ、桶、おけ ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :ebəəɟɪ（桶）

ebcɟɔəʃ ［普通動名詞］バケツリレー ［レベル］3 ɥɑ;/ ɟʔ ［用例］ lczlɪn jecn ɪɥɪʃ ebcɟɔəʃ ɪ ɑɪcu ɪʃɪc. 村人たちは火事に向かってバケツリレーをした。

ebclɔhɔ ［アイテム］バレルヘルム、グレートヘルム ɥɑ;/「バケツ状の兜」 ɟʔ ［文化］ ɟɒ で作られた。

ebe ［形容詞］そのままの、未加工の ［形容詞］無修正の ［料理］［形容詞］生の、生 ［料理］漠然と刺身料理← ebeelc, ebeɥel ［レベル］2 ɟ0: 制 :ebel（未調理）

ebeɥel ［料理］肉の刺身→ ebe ［レベル］3 ɟ0

ebeelc ［料理］刺身→ ebe ［レベル］3 ɟ0 ［文化］ アルバザード人が生で食べるのはマグロのカルパッチョのみ。ルティア人は醤油にわさびで色々魚を食べる。 ［用例］ ɑanel eʃ bejʔɪ ɑɪc ɔnʃ ebeelc cɒ ɑcɟ ʃeɥ. 今日の夕飯はうなぎの蒲焼きと刺身らしい。

ehɪ ［料理］ビュッフェ、スナックバー、軽食用カウンター ［レベル］3 古 :ehɪ（台）［文化］ ホテルや長距離列車などにある。

ehɔ ［医療］血栓 ［レベル］4 1L:eɥchɔhɔ ［文化］ 心臓病と連想される。

eheh ［感動詞］えへへ ［レベル］2 ɟ1

eɥɔ ［文末純詞］［ɒdɔ］～かなぁ ［レベル］1 古 :eɥɔ。リディアが使いはじめた文末の疑問辞。 :::ɒɪɥen,ɪlʃ ［語法］ その文の真偽に対して不確定であるというムードを表わす。 ・丁寧語 eɥɔ は ɒclɔɪ は ɪnneɥɔ で ɥənʔl は ɪnlcc。

eɥɔn ［文末純詞］［jenʃe］eɥɔ ［レベル］2 1Δ

eɥɔɔ ［文末純詞］［jenʃe］eɥɔ ［レベル］2 1Δ

eɥəʃ ［化学］うわばみ、上ばみ、上澄み、うわずみ ［動詞］ɥəl を ɪ に浮かせる、浮かせる、浮く ［類義語］ɒɔnʃ ［反意語］ɔɥəl ［レベル］3 1L:ɥcɑcɪ:eɥɥəlɔ。最後に ʃ が来ているのは、沈澱を作るときにメルテーブルに乗せやすくするため。

eɥəʃʃɪɑ ［化学］デカンテーション 1L

eɥənʃe ［名詞］エユンテ。ユンテ以外の位相を指す ［レベル］2 ɟ0

eɥ ［名詞］水、湯 ［類義語］ɑleɥ、ɪleɥ、ɪlcɥ、lcɥcɪ、eɥcɪ ɥɑ;<ul ［レベル］1 1L: 古 eɥcɪ。l,ɥ の音がセレンにとって異音であったころ、セレンの影響を受けて使徒は合成語中で e,el と省略していたが、単体では常に eɥcɪ であった。eɥcɪ の語源は不詳。 eɥcɪ:eɥcɪ:lɪ ɒeclɪ（火の対）:ɒclɔ,ɪlʃ ɒɪcɒ,ɒɑ eɥ,ul ［語法］ 水もお湯も eɥ になりうるので注意。温度で分ける場合は ɑleɥ などを使う。eɥ は総称としての水。語形が短すぎるので口語では eɥcɪ を使うこともある。 ［文化］ 水は無色透明ないし青と思われている。水自体は無色透明であることが認識されているが、海や湖などは光の関係で青く見え、水を象徴する色として青が採用されている。 ［用例］ dɔʃ eɥ 水中で

eɥ,ɑu ʔcʃ ʔeɥ.ʔ

eɥʃ ［名詞］エルトの一族、白幻神 ［生物］エルト属、白幻神属 ［形容詞］エルトの～。敬称。 ［レベル］2 ɑu;elʃ.ʔ 1ʔ: 制 : 古 elʃ:elʃ:lə ɪlcej → ɪlceɟ,ɟzɑ ［語法］ → ɪdʃ, ejʃ ○名（前置） ×姓 ○男女 ○単体使用 / 名詞用法

eɥʃjel ［歳時記］エルトの日 ［レベル］3 ɟ1 ［文化］ ɑəl ʔeʃ。エルトの女王ルフェルの誕生日で、休日。

eɥʃɪn ［魔法］エルト召喚士 ［レベル］4 1L:clbəj:ɥcɑcɪ

eɥʃejl ［名詞］水力発電 ［レベル］4 ɥʃ;/ ɟʔ ［文化］ 水力を動力として利用したものは神代からあるが、発電に用いたのは ɥʃ になってから。

eɥʃejlɪɪ ［名詞］水力発電所 ［レベル］4 ɥʃ;/ ɟʔ

eɥʃel ［化学］［形容詞］疎水、疎水性 ［化学］疎水基 ɥɑ;/ ɟʔ

eɥʃl ［名詞］タイプ、系、系譜、系図、類型 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :eɥc（血）から。血液型がタイプという意味に変わっていった

eɥʃɑel ［言語］類型論 ［レベル］6 1L

eɥʃɪ ［名詞］井戸 ［名詞］水飲み場 ［レベル］3 古 :eɥʃɪ ← eɥcɪʔlɪl（水の場所）［用例］ eɥʃɪ eʃ ɒɔɪ euc ɒeɥel. 井戸はもうすっかり枯れてしまった。

eɥʃɪlɪ ［名詞］海図、航海図、水路図、チャート ［レベル］5 ɥɑ;/「水の地図」 ɟʔ

eɥʃɪɒɪlɪ ［料理］もんじゃ焼き ［レベル］3 nɑ;/「水のお好み焼き」 ɟʔ ［文化］ 日本とは逆でお好み焼きの後に開発された料理。流入はお好み焼きと同じく nɑ。

eɥʃɔʃɪn ［農耕］たんぼ、田圃、田んぼ、圃 ［レベル］2 1L ［語法］ 水を張って稲を作る畑のこと。アルバザードだと稲は主要な作物でないため、たんぼは単純語にならない。

eɥʃe ［地学］大河 ［形容詞］～河。前置。 ［類義語］eɥec、ɥecj ［レベル］2 1L:eɥʃe（水が行く）

eɥʃeʔɪɑ ［地球の国名］パラグアイ 1L: グアラニー語で「大きな川」らしい

eɥl ［建築］風呂、バス、バスタブ、風呂釜、浴槽、浴そう、浴室 ［動詞］ɥel を風呂に入れる、風呂に入れる、風呂にはいる、風呂に入る ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :eɥəlcɪɔ（水の家）［文化］ アルバザードは大家族が多く、長風呂を好むため、一緒に入ることが多い。風呂は浅く、広い。温めで半身浴をする。シャワーはあまり好まない。大家族が多いので水がもったいない。また歴史的にもカノイがイムル２２２年に公衆浴場を作った名残があるため、風呂が人気。一緒に入れるのは血族のみ。婚族は不可。つまり父が娘と入るのはＯＫだが、弟の嫁とは入れない。ただし、娘と入るのもせいぜい１０才まで。さらに言えば父親は娘に男女の体の違いを指摘されるのを嫌うため、息子と入ることを好む。兄と妹など、兄弟もＯＫ。だがやはり１０才くらいまで。逆に７歳未満の子供を一人で入らせるのはとても危険。これは嫌だろうが面倒だろうが親兄弟が責任を以って入れるべきとされる。 ［用例］ ɔl el eu eɥ ɪ ɒɪcn ʔɪ eɥl, jɔn ɑen eu ʃə c lɪnʔ, ɒɪn ʃə uɪnɑ jen eɥcɒ. お風呂で水をかけるときには左からかけてはいけない。心臓によくないから。 ɪn ʔeʃ eɥl ɪʃ)el lc neʃ. 起きてすぐ浴室へ行った。 le lɪʃ eɥl. 浴室に誰かいた。 ɪn φɔnɪʃ ɔɒc ʃ'eɥl ʔɔnʃ ucɥ lə leeu ɪʃə uɪɑel. 彼に浴室から早く出るよう言いながらドアを叩いた。 ɪn ʃclɪʃ ɑccnɪ ʔɪ eɥl ɔʔen eɥ ɑc ʔɪl ɒcʔʃel ɒɪn ɪn eʃ ɪnc ʃcnʔɪ. とても疲れていたのでお湯をいっぱいはった風呂でゆっくりした。 ɪn eɥlɪʃ ɔʔ eɥ hɪɥʃ. 熱いお風呂に入った。

eɥlɑlɔɟ ［被服］バスローブ ［レベル］3 ɟ1

eɥlɒɪcʃ ［名詞］バスクリン、バスソルト ［レベル］2 1L ［文化］ 入れる人と入れない人が半々程度に分かれている。塩で済ませる人もいる。化学物質を嫌う人は入れない。

eɥlhcɪ ［名詞］バスソルト ［レベル］2 1L

eɥlɥɔb ［名詞］風呂の蓋 ［レベル］2 ɟɟ

eɥjʃ,jzɑ ejʃ eejʃe

eɥjcdʃ ［化学］水蒸気→ jcdʃ ［レベル］3 ɟ0

eɥjcdʃɪcjd ［化学］水蒸気蒸留 ［レベル］4 ɟ0

eɥjenʃc ［料理］ざる、ザル、笊 ［レベル］2 1L

eɥjel ［名詞］水の日 ［レベル］4 ɟ1 ［成句］ ɒcn ɪɪs eɥjel 女が水の日を選ぶ：生理のため、カップルなどは水関連のスケジュールは女性に合わせるというマナー。団体行動では鑑みない。特に恋愛前の男女ではよく意識される。アルバザード人は恋愛に至るまでに長く友人として付き合い、若い女性の大半は処女である。そして処女はタンポンを使用しない。タンポンを使用すれば水に入れないこともないが、処女は使わないのでどうしても eɥjel を選ぶ必要がある。 ［文化］ この単語自体に特に意味があるわけでなく、単に水にまつわる日を指す。た

とえば温泉に行く日や海に行く日など。

eɥjeeɥ ［形容詞］［ポジティブ］ありふれて安定した、無難な ［反意語］˥nɔɔɟ、ɣəɒcl ［レベル］3 ʃ0: 水のような静けさ ［語法］良い意味で変哲のないこと。目立った特徴がなく平均的で、それゆえ無難なもの。食器や洋服などを選んでいるときに使うことが多い。 ［用例］ɥi, ɟiə lccʃ ʃə hiʃ ɒcl ʃə eʃ eɥjeeɥ. このお皿にしましょ、無難だわ。

eɥn ［名詞］親戚、親類、親族、血縁関係者、血の繋がった、血縁の、血族、一族 ［天文］宇宙の～系 ［生物］科 ［言語］地方方言 ［レベル］3 ʔ: 制 : 古 :eɥclɪn（血の人） ［語法］ enuelen

eɥnɪɟɪ ［言語］親族名詞 ［レベル］5 ʃL ［語法］「標準（lɪɪl 系）」「愛称（ɒɪɪl 系）」「低俗系（beɒɒɪ 系）」がある。 標準というのは対外的な意味で、ふつう家の中では愛称を使う。標準は対外的なイメージがある。また、ユンクなどでは家の中でも標準を使うことがある。本人に向かって娘が ˥lɪɪn と言えば、「お父様」と訳したほうがいいだろう。同様に息子が言うなら「父上」といったところか。ただ、人に「うちの父は」というときは標準を使うのがふつうなので、˥lɪɪn nɔɪn といっても「お父様が」と訳すのは考え物。キャラの個性を見て訳し分けるべき。 低俗はいわゆる「オフクロ」「オヤジ」系。低俗といっても、悪い意味とは限らない。日本語の「親父」のように、愛着を感じている言い方でもある。愛称が気恥ずかしいので低俗が家の中ではふつうという家庭もあるが、概ね学歴が低い家に限られる。 もちろんユンクは低俗系を避けるが、怒ったときなどにポロっと出ることもある。

eɥn e ɣəəɒɪ ［歴史］ユーマの一族 ［レベル］2 制 ［語法］ わざわざアルバザード人が ˥lɪn でなく eɥn e ɣəəɒɪ というときは、ユーマの一族そのものを歴史的な意味で指す場合と、「われわれ人類は」という排他的なニュアンスで述べている場合とがある。 ［文化］ ユーマ→アルドゥ・エスタ→１６人の子供……と続く一族で、人類のこと。神から徐々に神性を失いつつ分派した一族で、厳密には１６人の子供からが人類である。世代を重ねるごとに短命で無力になっていくが、その代わり一族全体の数は増えるという特徴がある。 しかしその数に物を言わせて、非常に低確率ながらも突然変異の能力者を輩出することがある。神々や悪魔を凌駕する救世主リディア＝ルティアもユーマの一族であるし、世界中を革命の嵐に巻き込んだ英雄ミロク＝ユティアもまたユーマの一族である。 ＜ユーマの一族の寿命・生殖・人口＞ ・第一世代 ユーマのみ。不老不死。ɒelʃcɪ 1Λ にテームスに吸収される。 ・第二世代 アルドゥ（エルト）とエスタ（サール）のみ。不老不死。ヴァステでヴァルテに襲われる。アルドゥが必死にエスタを守るのに心を打たれたヴァルテは命を取らず、彼らをガルヴェーユの泉に封印した。 その後も気付かれず、ラヴァスの終わりにユルグが見つけ、封印を解く。しかし同時に彼らは別々のアルフィに引き裂かれてしまう。 μn の終わりに神々が和解するとようやく再会できた。 ・第三世代 エスタの１６人の子供たち。ɒelʃcɪ ɟʔ ～ ʔ0 の間に生まれた。寿命がある。寿命はおよそ８５万年で短命。 第三世代は男女が８人ずつで、兄弟全員が互いに交わってそれぞれ子を作った。従って女一人が８人ずつ子供を産んだので、第四世代は計６４人となる。 ・第四世代 第三世代同士の子供たち。ただし ɟeɟʃeel は除く（彼女だけ第三世代に性質が近いため）。このころになると不老ですらなくなる。寿命は僅かに２万年で、性的に成熟するまで１万年かかった。１万年で人間でいう１５歳ほどで、１．６万年ほどの間２０代の青年の姿で、１．８万年ほど中年の姿で、残りの２千年で急激に老いて死ぬ。このため、１万年ごとに新世代が生まれることになる。 ６４人の第四世代は男女が３２人ずつで、やはり親と同じくすべての兄弟と関係を持って子を成した。３２人の女が３２人ずつ子供を産んだので、１０２４人となる。 第五世代は第四世代がメルティア二桁代に生まれたとすると、１万年後の ɒelʃcɪ 1'0000 ごろに生まれたことになる。もう１万年後には第四世代が死に、第六世代が生まれる。 なお、ɯɪlɒj のように ɟeɟʃeel の子でもサルトの血が入った者は不老不死になることがある。 ・第五世代 寿命等は親世代と同じ。やはり５１２人ずつ男女がおり、それぞれに子供を作って２６万２１４４人の子ができる。しかしあまりに子供の数が多いため、親の持つ神性さが分散され、第六世代からは生殖能力が激減する。 ・第六世代 寿命は同じく２万年だが、女は生涯に２人しか子供を産めず、逆に不妊や流産もない。まだ半分神なので、自然環境や動物に襲われるといった小さなことでは死なない。子供の男女比はきっかり１：１である。 ここからは人口が増えずに一定なので、ユーマの一族の人口はおよそ２６万人のまま何十万年も世代交代を繰り返していく。 ・ɒe˥lʃcɪ ΛΚ'0000 ユーマの一族（人類）は世代を重ねるごとに uccɑ が弱くなっており、神性が失われていった。このため神々からより蔑まれるようになった。 一方神々はこのころフィーリアで暮らしていたが、寒いフィーリアには食材が乏しいため、フィーリアよりも温暖なガルヴェーユやアルヴァノスやルカリアに食材を求めてくるようになった。 ɒelʃcɪ ΛΚ'0000 を記念して神々はフィーリアを離れた。ガルヴェーユには主にサールが、ルカリアには主にエルトが向かった。しかしガルヴェーユに着いたサールは人類があまりに多いことに驚き、これでは自分たちの食料を確保できないと考え、彼らを追い出すことにした。 当時人類は２つの魔法体系を使うようになっていた。ひとつは魔法陣を描き、そこから強力な魔法を放つ集団で、ひとつは言葉を呪文として用いて素早く魔法を放つ集団である。言い換えれば文字に依存した魔法と言葉に依存した魔法であり、いずれにせよ言語に依存している。 彼らは魔法を狩りや生活に使っていたため、魔法の違いは決定的な生活様式の違いを生んだ。生活様式の似たもの同士が同じ場所に住むため、集落が形成されていった。神々に追い立てられた際、前者はサヴィアに移り住み、後者はファベルに移り住み、完全に袂を分かった。そして彼らは自らをマレット、シフェルと呼び出した。 ・第八十九世代 当時人類が抵抗もなく追い出されたのは、ちょうどこのころ大きな力を持った第三世代が寿命を迎えたためである。彼らは神に近いので、神といえど争いたい相手ではなかった。しかし彼らが天寿を全うしたため、神々は区切りのいい年号を以って侵略に向かったというわけである。 なお、第三世代の恩恵を失った人類は急激に衰えた。その影響は次の世代に現れた。ɒelʃcɪ ΛΚ'0000 といえば、第八十九世代が生まれたころである。同時に第八十七世代が死ぬころでもある。

そしてこの八十九世代は寿命が極めて短くなり、わずか２０００年であった。uccɑ は圧倒的に弱くなり、北極などの土地では到底暮らせないほど軟弱になった。 寿命が短くなったのは実は進化ともいえる。マレットにせよシフェルにせよ、今までとまったく違う風土で生きることになった上、自然環境を制圧するだけの強力な uccɑ を持たない。そこで環境の変化に対応するよう、遺伝子のサイクルを早め、進化を早めたのである。 ただ、このころはまだ神性が残っており、生まれてくる子供の中には前世代と同じような強力な uccɑ を持ったものや、寿命の極めて長いものもいた。その比率はおよそ４：６だから、人間離れしたものが６割もいた計算になる。なお、力の差は漸次的なもので、非常に力のあるものは数人しかおらず、その次は１割程度、そこそこの戦士が２割、やや強い人が３割、残り４割が脆弱といったものであった。脆弱になるほど寿命が短いが、遺伝サイクルが早いため、いち早く環境に適応した。 こうして強いものと弱いものを分け、そこに遺伝サイクルの遅早を設けたことで、人類は分業を利用した効率のよい発展を遂げたことになる。 ・ホモ・サピエンスとの出会い ɒelʃcɪ ΛΚ'0000 ごろにはファベルでホモ・サピエンスが出現していた。ユーマの一族は自分たちに比較的似た知能の高い動物がいることに驚いたが、彼らは空も飛べず魔法も使えない無力な存在だった。また、生活レベルも低く、容姿は醜かった。彼らは言語を操る能力があったが、その能力は地球の現代人と比類ないものである。当然ユーマの一族から見ても劣悪なもので、ユーマの一族は彼らの言語を複雑な鳴き声程度にしか解していなかった。ユーマの一族とヒト（ホモ・サピエンス）は交配できないが、姿かたちはよく似ていて、遺伝子もよく似ている。免疫システムも類似しており、ユーマの一族がかかるものはたいていヒトもかかる。メルティア８５万年ごろに両者が接触し、ユーマの一族からヒトへ天然痘などの病原菌が次々と感染。免疫も魔法も持たないヒトからヒトに飛び火し、絶滅。ネアンデルタールも既にホモ・サピエンスの手にかかっていたため、人型の生き物はアテンのみとなった。 ・ɒelʃcɪ ΔS'0000 ごろ 第八十八世代が死亡。２万年生きる長寿の人類がアトラス上から消える。 ・ɒelʃcɪ LΚ'0000 ごろ シフェルの民が食料と土地を求め、ファベルからアンシャル、サヴィアからインサールに入る。神がいるので西勢はフィーリア、ガルヴェーユ、ルカリアには住まず、この後９万年ほどかけてファルファニア、レスティル、魔方、東方、メティオに徐々に広がっていく。 東勢のマレットは同じ時間をかけて西はメティオ以北と以東まで、南はケヴェアに散布していく。 ・ɒelʃcɪ LLL,ΔϢ 神々がさらに食料を求めてガルヴェーユとアルヴァノスとルカリアを捨てる。世界中を飛び回ってどの土地がいいか品定めしつつ、大陸に名前を付けていく。しかし結局近場に引っ越すのが環境の変化も少なくて気楽だということで、ルカリア南部にレスティルを建国。 神がレスティルに入ったため、レスティルにいた人類は追い出された。ファルファニアなどにいた人類は何もされずそのまま残った。レスティル人は故郷を離れ、周辺に住むようになる。しかしシフェルの一族は神の周囲に住むことで文化的に大きな影響を受けるようになり、強大な力を持つ神への畏敬を深めていく。 ・ɒelʃcɪ 100'0000 ヴァステ開戦。人類は神と悪魔の戦いの煽りを受けて次々と死んでいった。ところが数が多いので、巻き添えで大勢が死んでも絶滅はしなかった。 悪魔だけでなく不定期でアデルも降ってくるため、これの応戦もしなければならなかった。このころは主にシフェルが被害者となった。マレットはアデルの応戦をしていただけである。シフェルは疎開するようにレスティルやミュールの周りを避けて生活した。

・アデル ヴァステでテームスは封印されたが、封印を解こうとするテームスの体からこけらが落ち、アデルとなってアトラスを襲い続けた。 ・ラヴァス ラヴァスが開戦したときも人類はまったく同じスタンスを取った。戦乱に巻き込まれたおかげでかってシフェルは鍛えられ、魔法も戦闘にも長けるようになっていった。このころの経験が後の ɪzɸeɥ での勝利を決定したといってもよいだろう。 ・アズゲル（ɒelʃcɪ 10Ϟ'0000:ɥəəɒɪ 0） 神々がアルフィへ去り、人類の時代が到来。シフェルはレスティルを中心に我が物顔をするように。

マレットも神が去ったことを知るや、勢力拡大のためメティオを襲撃。メティオでの領地争いがきっかけで、東西戦争アズゲルが始まる。 このときのリーダーは西がシフェランで、東がマレティス。彼らは神性を残しており、この時代の人間としては極めて長寿であった。 ・メルテナ メルテナになると、シフェランないしマレティスの祝福を受けた人間だけが長寿で、あとは現代人と同じで１００歳程度の寿命しかなかった。力あるものとそうでないものの格差が広がり、中間層が激減した。 力あるものは神と結託し、さらに力を蓄え、結果的に召喚士が生まれた。力の有無が明白になり、力あるものが力なき者を支配する政治の形ができあがった。こうして力を持った召喚士たちが次々と王になり、各地に国を建国していった。 とはいえ、このころの「弱き者」は μn の時代の民間人よりもまだずっと強く、アデルでいうなら否天程度は倒せる使い手であった。 ・カコ 力の格差社会はより深刻になり、民はどんどん力を失っていった。このころの民は衛天を倒せる程度に弱くなっていた。 召喚士は上弦と下弦で派閥を分け、月戦争カコが始まる。寿命が長いものは王族など、ほんの一握りである。 ・セルメル カコでラシェットがテームスの封印を強めたことで、アデルが降ってこないようになった。人々は魔物との戦いを失ったことで急激に弱くなっていった。また、人類同士の戦いも激減して太平の世の中になったため、人類の力はますます弱くなった。 このころの実力を仮に測るならば、陽天を倒せたくらいである。魔法をまったく使えず空すら飛べないという人間も数割見られた。 女は家の中に押し込められ、綺麗で賢くあるものと位置づけられ、魔導師が急激に衰退した。 寿命は王族のみが長く、一般人は１００歳程度。しかし実際には５０～８０歳で死んだ。 王族については clɒəj 参照。 ・μn μn でテームスの封印が解けだし、アデルがふたたび降ってくるようになると、人類は一時力を取り戻した。とはいえ、寿命についてはセルメルと同じ。 このころは民でも空天が倒せる程度に持ち直した。 ・ナディア～アレイユ テームスが死んだことで、太平の世の中が訪れ、人類は急速に力を失った。 魔法を失い、空も飛べなくなった。仮にアデルがいたら、武器を使って炎天を倒すのが精一杯だろう。 ただし、シオン＝アマンゼやミロク＝ユティアのような魔導師が存在するように、隔世遺伝的に能力を持って生まれるものも存在する。

eɥu ［生物］本能 ［レベル］3 ʔ: 制 : 古 :eɥcuc ［用例］ ɾel eɥu 本能に逆らう

eɥuɪ ［悪魔］エルヴァ ［歳時記］水曜日。週の第２日目。 ［名詞］水書 ［音楽］レ ［組み数字］2 / 7 ［レベル］2 ɒelʃcɪ 0:eɥuɪ;e ɟɔɟn˥: アルシェ形は eɥcɪj。eɥ は水。 ［文化］ ソームの２番目。プライドの高い美人。水と氷を操る。水の羽衣を着ているので実質ほぼ全裸。水の羽衣を纏った女。裸に見える。冷たい。我侭。自信過剰。自己中心的。だが美しい。

eɥuɪɑɥeɪɑɔl ［地学］チタン鉄鉱 ʃL

eɥuɪlcl ［化学］チタン ［レベル］4 ʃΛ: 制 x:ɾeɒd:ʃeɒd

eɥuɪel ［名詞］水瓶、水差し ［レベル］5 μn;/ ʃΛ

eɥuɪelcɑ ［地球の星座］［ユマナ］みずがめ座 ʃΛ ［文化］ cɑɪ

eɥucɪn ［名詞］水力 ［レベル］4 μn;/ ʃΛ

eɥuecɸ ［魔物］エルヴェイグ（水妖、水ゴブリン、河童、かっぱ、カッパ）：第十二天：水の幻天 ［ユマナ］［韓語］日本人 :1l:ɒel ［レベル］5 ʃL:eɥcɪ/uecɸɪn ［文化］ 小型の妖精。顔は uɒeɒlʃ のように醜く恐ろしい。主に水辺で人を襲う。

eɥuecɸlɔɔb ［被服］フリジア帽 ɟɒ;/ ʃΛ ［文化］ ɟɒ で eɥuecɸ がよく身に着けていた。

eɥɑɪn ［天文］cɒdɥɪlccɑ ［組み数字］5 / 8 ［レベル］4 lɟɑ;eɥɑc ベテルギウスが金に見えることから、その近くにある白のリゲルが銀として呼ばれた ʃ1

eɥac ［地学］銀 ［形容詞］銀の ［組み数字］2 / 4 ［レベル］2 ɒelʃcɪ ʃΛ:ɸclcəj;eɥcɪ/ɑɥec ʃL:eɥc ɪɑɥec。銀は鉄を聖水で清めたものと考えられたことから。神話では古からある。 ::lɪ ɪnse:˥ ɪleɑ,ul ［文化］ 神聖な金属で、魔法の伝導率が最も高い。zɸ で銀の精製技術が一般化するまで金より高価だった。というのも自然界にそのままの形で存在するのは金のほうが多かったため。

eɥacjel ［歳時記］銀の日 ［レベル］3 ʃ1 ［文化］ ɑɪnʃjel

eɥacn ［形容詞］理性的な、理知的な ［レベル］3 ʃL: 銀の心。銀は清らかで聖なる金属で、落ち着いた色を指すことから

eɥacɒel ［名詞］銀色時代 ［レベル］4 μn;/ ʃʔ ［語法］［文化］ ɑəəɟɒel

eɥacɸɪɟ ［電算］C D ［レベル］3 ʃL:ɒelcɑcɪ ɪlʃe: 銀の円盤

eɥaclcl ［化学］銀→ eɥac ［レベル］4 ʃL

eɥaclcɪ ［地学］［魔法］銀水晶、エルフィリア石 ［レベル］5 ʃ0 ［文化］ 銀と水晶から精錬するアディスト。銀色半透明の物質。ヴィルを遮断する性質があるため、アディストの容器として使われる。銀と水晶にカストルを加える。 不純物が混ざると緑がかった色になる。

eɥɑɔnʃ ［建築］水路 ［レベル］5 μn;/ ʃʔ

eɥɒej ［軍事］［ジョブ］騎士、軽装騎士、ナイト、騎兵、軽騎兵 ［類義語］dɪu ［レベル］3 ɟɒ;neɥɒ ej.˥ ʃL:ɟcɑcɪ:ɪl/neɥɒej → ɪneɥɒej（脱落）→ eɥɒej（脱落）。「ネルメス神のような」。この ɪl は被修飾語のペアを作る接頭辞。 ［文化］ 位を持たない貴族。通常貴族に含まれない。 馬に乗って剣や槍で戦う。セルメルで竜兵が廃れ、一躍人気となった。ほかのジョブは～ ɪn で、兵科は～ uɪnʃcj なのに、騎士だけは単純語扱い。 ほかの語はジョブと兵科の違いがあるが、騎士は国家に忠誠を尽くすものとされたため、個人の騎士が基本的にはおらず、そのためジョブとしての騎士という単語は必要なく、ジョブと兵科が等しい。それゆえ、騎士は封建制の象徴とも言われる。 ＜歴史＞ 地球で最初に騎兵を編成したのはアッシリアであるが、アトラスでは高速で空を飛ぶことができたため、わざわざ馬を飼ってまで移動する必要がなかった。 最初に動物が戦争に登場したのは ɥəəɒɪ 1Ϟ1 年にハクシウス軍が飛竜兵を指揮してギルケートに侵攻したときのことである。 また、最初に動物が兵科として登場したのはシフェランの竜騎兵で、ɥəəɒɪ ʔ'1J 年にバルマーユ人の中から竜族を飼いならした竜騎兵を編成したときのことである。 馬は空を飛べないのでアドバンテージがなく、最初に編成されたのは地球より遥かに遅いカコである。竜騎兵の弱点は、数が少ないことと、集団戦法が苦手なことと、対空砲に弱いことである。馬のほうが大量生産でき、混戦にも強い。騎兵を編成して槍を持たせて突っ込めば、絶大な破壊力を得られる。しかし竜騎兵にはこれができない。竜はタカが獲物を狩るように、一度地上に降りてまた空に舞い上がるという動作をするため、馬の大群のようにどっと走り抜けることができず、敵陣を崩しづらい。 そこで魔力がアズゲルやメルテナより弱まったカコになってようやく騎兵が評価され、兵科となった。セルメルではむしろ人気の兵科となる。

eɥɒejɑɥec ［アイテム］ロングソード ɟɒ;/「騎士剣」。騎士が馬上で地上の歩兵を攻撃するよう長くできていることから。 ʃΛ

eɥɒejɪɟɟ ［被服］バックルレザーシューズ μn;/ ʃΛ ［文化］ ɟɒ でできた。男性用。元は軽騎兵用の靴だったが、後に一般化した。

eɥɒejɪuel ［政治］騎士道 ɟɒ;/ ʃΛ

eɥɒel ［医療］心嚢 ［レベル］5 ʃ1:˥lccz<eɒel:ʃL:eɥcɒ/ɒejl

eɥɒe˥ ［名詞］水時計 μn;/ ʃΛ ［文化］ ɾɒ で神々が発明した。この際サイフォンの原理が知られた。

eɥɑɔ ［地学］沸石 ［レベル］5 ʃ1: 古 eɥcɪ/ɑɔl「水石」水分を多く含むことから。

eɥɑe ［名詞］イケメン、ハンサム、かっこいい男性 ［類義語］uɪɟɒɪ、ɑɪɟɒ ［レベル］2 古 ［語法］［文化］ 顔が重視される言葉だが、顔だけよくて体型が惨めだとやや eɥɑe とは言いがたくなる。純粋な黄色人や白人よりも、ləlcɪn や ɥəlʃɪn のほうが人気が高く、イケメンになりやすい。体型は典型的にはやせマッチョが期待され、あまり大柄で筋肉質でも eɥɑe から外れてしまう。アルバザード人の女は美しい物好きなので、イケメンに弱い。ルティア人のほうが、頭ではイケメンだと思っていても、あまり態度に出さない。 ［用例］ lej jccnɪ eɥɑe 面食い、メンクイ、めんくい、面くい、めん食い、イケメン好き

eɥɸɪlʃ ［名詞］水門 ［生物］水分 ［レベル］5 ʃ1

eɥɸeɥ ［植物］わさび、山葵、ワサビ ［レベル］3 ʃ0: 水辺の大根。大根というのはそれっぽい形をしているというだけの意味。 参考 : 制 :ɾcɟɥɔdlɸeɥ（小さいワサビダイコン） ［文化］ アルティア原産。マグロを除いて魚を生で食べる習慣のないアルバザード人には ul まで伝わらなかった。ルティア人のように魚をよく食べる人々は早くから輸入し、日本と同じように醤油とワサビで食べる。

eɥb ［名詞］血糊、血のり ［レベル］4 1ʔ: 制 :eɥc

eɥhɪɪɟ ［化学］［形容詞］親水、親水性 ［化学］親水基 ɥɑ;/ ʃɱ

eɥɥəlɔ ［名詞］水面 ［レベル］2 1L

eɥz ［植物］ごぼうの草、ごぼう、ゴボウ、牛蒡 ［レベル］3 1ɱ: 制 : 古（心臓の草） ［語法］ ごぼうという植物のことだが、ふつう食用にする根のほうを指す。

eɥlɪʃ ［化学］水和 ［レベル］5 1L: 水に入る

eɥlɔɥ ［名詞］水道 ［レベル］3 1L

eɥlecʃ ［芸術］水彩画 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

eɥɪʃ ［化学］溶ける、融かす、溶解、とける、溶かす、解ける、とかす ［レベル］2 1L:ɥcɑcɪ: eɥ/lɪʃ ［語法］ eɟc は日常的ないい加減な言い方。砂糖を溶かす場合、液体に溶かすなら eɥɪʃ が正しい。本来砂糖を eɟc するというのは、熱してどろっとした砂糖の液体にすることであって、水に溶かすことではない。

eɥɪʃʃəlɑ ［化学］溶解熱 1L

eɥɪʃlɪʃ ［化学］溶媒和 1L: 水和からの類推。

eɥɪʃɪn ［化学］溶媒、溶剤 ［レベル］4 1L

eɥɪʃɔl ［化学］溶質 ［レベル］4 1L

eɥɪʃejc ［化学］溶液 ［レベル］4 1L

eɥɪʃenuc ［化学］溶解度 ［レベル］5 1L

eɥɪɒ ［名詞］午前 ［形容詞］午前の ［反意語］jɪɪɒ ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlcj:elʃɑɪɪɥɪɒ（エルト神の正午） このエルトは組み数字 ［用例］ uɪɥ eɥɪɒ 午前中ずっと ɑenzel eɥɪɒ 午前１０時

eɥc ［生物］血、血液 ［レベル］1 ɑ;eɥcɪ/lcɥɔ 古 :eɥc（命の水） eɥc:eɥc:lɪ ɥɪn（ルクティアで血は女性）:sən,ɪlʃ ［成句］ eɥc jc ncɒ dɔf elɑe 一滴の血は泉の中で色を失う：朱に交われば赤くなる eɥc eʃ neɪ nɔɔ eɥcɪ 血は水よりも濃い。言葉遊びなのに日本語と同じ訳になるのが面白い。 ［用例］ ɔɟn ʃcɑl eɥc. = ʃcɑl eɥc ɔn{cʃ} ɔɟn. 血の気が失せる ʃoen eɥc 献血する

eɥcʃ ［動物］蝙蝠、こうもり ［レベル］3 1ɱ: 制 :lɪ̀ʃɪ:eɥcʃ,eɥcʃəʃɔ（血の鳥）から。つまりこのころは鳥の一種と認知されていたことになる。

eɥcʃoen ［医療］献血 ［レベル］3 JJ ［用例］ ʃeʃ lɪbɪʃ ɥəʃcʃ nɔn ɒcl nɔn eʃ ɑcɒ ɪl eɥcʃoen eɒɔ uclʃ. しかし診察の結果、献血に不適合だと分かったため、スタッフに断られた。 eɥc ʃoen eʃ ʃclɒ clcɪ ɑel ɪn ɑel been eɒ jen ɔʃlʃ ɪl ɪlcn ɔn eɥc ɑɪ. ブサイクな俺の血が 美少女と交わる唯一のチャンス。 献血したくなるコピー（jeɥen ɪɥbɪzɪɥɑ）

eɥcʃcj ［魔物］エリティス（水竜）：第十五天：水の衛天 ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒel:eɥcɪ/ɑɥeʃcj ［文化］ 水属性の飛竜。水色の肌、水晶のように尖った鱗をしている。鉤爪が鋭く、華麗に舞う、美しい竜。

eɥcl ［名詞］系統、血統、品種、家系 ［名詞］系図→ eɥclɪɪl ［言語］系統、言語系統 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :eɥclɪlə

eɥclʃɪɥɒ ［名詞］血統書 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

eɥclɪɪl ［名詞］系図、家系図 ［レベル］4 JJ ［用例］ ləʃ nɪ eɥclɪɪl eʃ uɔll cɒ lɔɔl ɪl eɑɪʃ. 祖母と話していると、いつも家系図の重要性を感じる。 en lɪɑ jccɪ eɥclɪɪl ɒcl ʃə eʃ ɑɪb. ɔlʃɪ hɔɒ clɒ lɪnɪ lɪɑ ʃə, hel ucl ɑɔjɒ lclj e ləl lɪɪʃ ɪə. 今までめんどくさくて作っていない。なぜなら、いざ作ろうとノートを開くと、話の細かい内容を思い出せないのだ。

eɥclzedl ［地学］系統樹 ul;/ ʃʔ

eɥclɪ ［形容詞］血の繋がった ［反意語］ʃeʃɔn ［レベル］4 ɑu;eɥc/ɪɥlɪ「血で繋がった」 ʃɱ eɥclɪ :eɥclɪ

eɥclɪɪɒɪ ［アトラスの国家］エリカーマ ［レベル］5 Jʔʃɥcɑcɪ

eɥclelʃ ［医療］血流 ［レベル］3 ɥɑ ʃʔ

eɥcl ［医療］出血 ［魔法］エリッシュ。水の禁呪魔法。対象は全身の毛穴から血がにじみ出て、やがて噴水のように出血し、出血多量で死ぬ。全身の毛穴から「ぷつぷつ」と血が漏れる様が気持ち悪く、小さな血球が鳥肌のようにプツプツ湧き起こる。 ［レベル］3 1ʔ: 制 :eɥc

eɥclʃəlɑ ［医療］出血熱。総称として ［レベル］5 1L

eɥclɪnɔɥɔlɪn ［生物］造血幹細胞 ɥʃ;/ ʃɱ

eɥclccɒ ［医療］血糖 ［医療］血糖値 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ

eɥcj ［動詞］ɥəl を ɪ に相続する、相続する、後に遺す、残す、引き継がせる、後世に託す、相伝する、継承する ［名詞］遺産、遺品、形見、遺物 ［レベル］4 1ʔ: 制 :eɥɪj:eɥc

eɥcjɑel ［歴史］考古学 ［レベル］4 J1: （人類の）遺物に関する学問

eɥcjɑelɪn ［歴史］考古学者 ［レベル］4 J1

eɥcjɑɪcφ ［経済］［法律］相続税 ［レベル］4 J1 ［文化］ ヴェレイ末期の相続税の控除額は日本円にして７００万程度（ɒelJl）と少なかった。そのため、ɪɥlʃoen はより功を奏した。 革命後も控除額は維持された。ただしデノミがあるので額面上は減った。

eɥcjdelʃ ［名詞］一子相伝 ［レベル］4 JJ

eɥcjɥəɑcɪ ［名詞］遺児 ［レベル］4 1L:clɒəj:ɥcɑcɪ

eɥcjɥenj ［名詞］遺言 ［レベル］3 1L:lcɔn

eɥcn ［人名］エリン ［組み数字］2 / 1 1 ［レベル］3 古 :ɥcɑcɪ:eɥc ← eɥcɪ（水）/n（指小辞） ［文化］ アルシアの２番目。水の魔法の大成者。女性。

eɥcn(J) ［人名］エリン J0 ［文化］ (ɥəəɒɪ ʔ1ɱʔ:ʔʔ0J) カコ前期のヴェマの宰相。 ɥəəɒɪ ʔʔʔ9 宰相 eɥcn と ɑcɔɒɪnʃe 姫の派閥に分かれ、ヴェマ連合国（ヴェマ及び沙方からなる連合国）で政治戦争が起こる ɥəəɒɪ ʔʔ9ʔ ɑcɔɒɪnʃe 派が宰相派を政治的に倒し、宰相派は暗方に封じられる

eɥcnʃ ［天文］エリント、冥王星、氷天 ［組み数字］9 / 9 ［レベル］3 古 :eɥcnʃ ← eɥcʃn ← eɥcɪ（寒い）/ləənɔ（土地（といっても実際は氷））

eɥcnɪ ［医療］エリナ ［レベル］6 J1: 古 eɥcɪ/nɪ ［文化］ ɪɒelcɪ

eɥcu ［医療］血圧 ［レベル］3 1ʔ: 制 :eɥc ［用例］ eɥcu ʃcn{ucen} 高血圧

eɥcuɪ ［植物］ヘーゼルナッツ ［レベル］3 古 :eɥc

eɥcucɥɔ ［医療］［化学］ヘモグロビン ［レベル］4 1L

eɥcuɔln ［生物］血球、血液細胞 ［レベル］5 ɥʃ 1L

eɥcɑ ［美容］うるおい、潤い ［動詞］ɥəl を潤わせる、潤う ［レベル］3 J1

eɥcɒ ［生物］心臓 ［音楽］ユーロビート ［レベル］2 1ʔ: 制 :eɥcɒɪc（血 / 体内器官） ［語法］ 約束することを示すジェスチャーをすることも表わす。約束は古アルカから dcnɪ と言い、心臓（命）を貫くという意味だった。これは約束を破れば命を奪われてもかまわないという意味。「 約束したぞ 」とか「 ゆびきりげんまん 」を意味するジェスチャーとして、心臓（勿論実際は胸の部分）に主に右手の手のひらをパーの形で当てるというものがある。欧米では女性が自分を指す場合に良く行われるジェスチャー。そして eɥcɒ はそのジェスチャーをすることを示す。 ［成句］ φɔɪ ɥʃ eɥcɒ 心臓を吐き出すほど急激に強く驚く ʃcl eɥcɒ ʃ'elefɔne エケトネの心臓を持つ：怖がりだ、恐がりだ

eɥcɒɟcɪ ［生物］心膜 ［レベル］6 1L:jeɥen

eɥcɒɥɪnɔ ［生物］膣中 J1

eɥcɒucɒ ［生物］心筋 ［レベル］5 Jɱ<1L

eɥcɒucɒɑɪcz ［医療］心筋炎 JɱJ<1L:jeɥen

eɥcɒscɔɥ ［生物］心兪、心愈 J1

eɥcɒedn ［生物］心房 ［レベル］4 1L: 血液は心室に入る前に心房を通るので、心房は廊下とみなされた。

eɥcɒez ［生物］心室 ［レベル］4 1L

eɥcd ［動物］ダニ ［レベル］3 lɪ̀ʃɪ:eɥclɪd,eɥclɪəəɒɔ（血の虫）

eɥcdɔɪ ［医療］白血病 ［レベル］3 1L: 白血球以外にも増えうるので、白血球は使わない。血液の腫瘍というのは抽象的だが、造血細胞の悪性腫瘍だと長すぎる。

eɥcb ［動物］ノミ、のみ、蚤 ［メタファー］山の高みが分からない者、小者、苦労知らず ［レベル］3 lɪ̀ʃɪ: 元は eɥcbelɪəəɒɔ だったものが『制定語彙』によってそれ以降変わった。血を吸ういやな虫の意味。be はくさいという意味だが、嫌なという感情を表わす強調としての意味でしかない。守銭奴とか売国奴の「 奴 」のようなもの。 ［成句］ eɥcb en jeɥ jɔɥcʃ e oɪl. 蚤は山の高みが分からない：井の中の蛙大海を知らず。小者ほど偉人の凄さが分からず、それぱかりか偉人を恐れ多くも上から目線で非難する。それはまるで小さなノミが自分の狭い世界でのジャンプ力を誇り、自分の跳躍力が何よりも高いと誤解するのと同じである。ノミは山があまりに高すぎて、自分がいくら跳ぼうと山の高さすら知ることができないということに気付いていない愚か者である。lɔleuɪnɪ とニュアンスが異なる。

eɥcɥcʃ ［生物］［医療］止血 ɥɑ;/ ʃɱ

eɥcɥcʃʃleed ［生物］止血機序 ɥʃ;/ ʃɱ

eɥcɥɔj ［化学］水和イオン ［レベル］5 1L

eɥcɥɔb ［生物］血小板 ［レベル］4 1L: 出血を止めることから

eɥcl ［料理］ケチャップ ［レベル］2 lɪ̀ʃɪ:「 血の色の水 」。制アルカではケチャップは即トマトケチャップを指した

eɥcledʃ ［医療］血便の混じった下痢、下痢。病気の赤痢とはまったく別。 ［レベル］3 1L

eɥcɪ ［名詞］聖水 ［名詞］飲み水、飲水、真水、飲料水← leneɥ ［名詞］水→ eɥ ［アイテム］エリア、エーテルドライ、エーテルターボ：ヴィルを大きく回復する水。アルフィの泉から得るため、巫女のみが得られる。アルドゥ神を通じて巫女の両掌に落つ。 ［類義語］eɥ ［レベル］2 ɑ;e 赤 : 単に水 eɥcɪ:eɥcɪ:lɪ ɥecɪɪ（火の対）:ɒcɪɔ,ɪlʃ ɒɪcɒ,ɒɑ

eɥcɪʃcɪnɔ ［名前］エリアティクノ。フルミネアの試練に出てきた水の龍。 ［レベル］6 1Δ

eɥcɪ cneɪɪʃɔ ［人名］エリア＝イネアート ɪl J1 ［文化］ → ɪlcɪ cneɪɪʃɔ,ɑcɒcʃɔɥcɪ アリアの妹。『紫苑の書』の登場人物でもある。アリアと違って髪の色が明るく、くせっ毛。いたずら好きで早口で無駄口ばかり叩く。占いの能力は極めて高いが、むやみに占いに頼ることは良くないと考えている。姉と違って身長が低く、胸が小さい。

eɥcɔ ［生物］血管 ［レベル］3 1ʔ: 制 :eɥclɔɔ

eɥcɔɑclʃ ［植物］フダンソウ、不断草、スイスチャード ［レベル］6 1ʔ: 制 : 葉っぱに血管のような赤い筋が浮き上がるホウレンソウ。実際の血管は赤く見えないが。

eɥcɔɥəl ［生物］血餅 1L

eɥcɔl ［名詞］親友、ベストフレンド ［類義語］hɪrln ［レベル］3 J0:lcɔn:eɥc/ɔll（血を共有する（ほど仲の良い））

eɥce ［サール］エリエ ［名詞］吸血鬼、吸血鬼、ヴァンパイア、バンパイア ［類義語］ɥccl ［レベル］4 ɒel: 古 : 小さい頃、最低だと６歳のときに作ったと思う。eɥc は血。後ろの e は水だろうが、ひょっとしたら水という名詞の転用動詞で「 飲む 」という意味かもしれない。飲むなら eɥce は血を飲むという意味になり、意味が通じやすい。そもそもこのキャラは吸血鬼のコスプレを写真を見てセレンと吸血鬼の話をしていたときに彼女が即興で作り出したのが馴れ初め。 ［文化］ 人の血を吸い、その者の能力をコピーするという特殊能力を持ったサール。ただし美少女の血しか吸わない。吸う血は少量で、彼女達は死を免れる。なお、美少女以外は単に血を吸い抜かれて殺される。顔は蝙蝠と人間のキメラで、耳は蝙蝠の羽の形をしている。 ［成句］ ɒcn le jeʃlʃ ɥə eɥce エリエに殺された女。直訳するとそういう意味だが、要するにブスと言いたい。

eɥceʃ ［形容詞］精神的に綺麗 ［類義語］uɪnʃɪs ［反意語］beφɔɪ ［レベル］3 JJ:ɥcɑcɪ:eɥcɪ/ʃe「水のような」 ［語法］ beφɔɪ

eɥcen ［地学］ブラッドストーン ［レベル］6 1L:eɥc/ɥen ［文化］ サールのエリエの魔石。また、魔族エリエールを誘い込む力がある。水にこの魔石を投げ込むと、エリエールはしばらく石に集中するので、その間に逃げる。

eɥceɥəʃ ［生物］血清 ［レベル］5 1L

eɥceɥ ［生物］血漿 ［レベル］5 1L

eɥceɥl ［医療］血液型 ［レベル］3 1L ［語法］［文化］ 日本と同じＡＢＯ式を使い、世界的にも少数派な日本と同じく性格に関連すると考えられている。血液型は４種。アルシエルの名を使う。アルバザードで人口の多い順に名付ける。Ａが ɪlʃe、Ｂが ɑleɪ、Ｏが ɪlcj、ＡＢが lceɥ。アルバザードでは血液型と性格に関連があるとされている。Ａは神経質で几帳面。Ｂは自己中。Ｏは原始的で元気。ＡＢは変人。 ［用例］ ʃc ʃcl ne eɥcɒ 血液型はなんですか。 ɪn ʃcl ɪlʃeeɥc Ａ型です。

eɥceɥucɥɔ ［生物］血漿蛋白質、血漿タンパク質。アルブミン、グロブリン、フィブリノゲンなどいくつかのタンパク質からなる。 ɥʃ;/ ʃɱ

eɥcel ［魔物］エリエル（血魚）：第十三天：風の空天 ［アクセント］eɥcEl ［レベル］5 1L:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒel:eɥc/elc ［文化］ 獰猛なピラニアのような魚の魔物。淡水にも海水にも生息できる。また、水辺の外にジャンプして獲物に噛みつき、また飛んで戻ることもある。群れで暮らし、非常に獰猛。獲物を骨になるまで食い尽くす。

eɥcelɔɥ ［生物］ハバース管 ɥʃ;/「吸血鬼の管」。血管が通っていることから。 ʃɱ

eɥɔ ［名詞］グリース、グリス ［レベル］3 1ʔ: 制 :eɒɟ/ɥcɔ

eɥe ［植物］ひょうたん、ヒョウタン、瓢箪 ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :eɥcɪlɔɔlɔ から

eɥeʃ ［単位］湿槃寂静 J1:eɥcʃ

eɥeɪ ［動詞］ɥəl を伝って ɪ に行く、つたう、伝う ［レベル］3 J0:ɒelcɑcɪ lceɥ:eɥcɪ/ʃe ［用例］ enɪ eɥeɪlʃ lɪɪɒ ɪ ocj. 涙が頬を伝って掌に零れた。

eɥej ［人名］エレス ［組み数字］1 / 1 6 ［レベル］4 ɒelʃcɪ ʔʔ:ɪɥnə/ejʃi;e 1ɱ: 制 : 古では eɥjʃ ［文化］ ejʃi エスタの第１子。女。

eɥedɔɑ ［料理］ナン ［レベル］4 1ʔ: 制 ［文化］ 魔方から伝わり、南方に定着した。北方ではそこまで有名ではないが、偶に食べられる。カテージュだと、屋台で色々なソースをつけたものが売っている。

eɥeɥcɔ ［地学］水脈、地脈（地下水の通路） ［レベル］4 ɥɑ;/「水の血管」 ʃʔ

eɥeɪ ［地学］川原、河原、川辺 ［レベル］3 J0:ɥcɑcɪ:ɒcɥɔʃ:eɥec/ɪleɪ

eɥec ［地学］川、河 ［形容詞］～川。前置。 ［類義語］ɥecj、eɥle ［レベル］2 1L:eɥcɪ e̋le:e̋le:lɪ e̋le ［語法］ 一般的な川。 ＜なぜ「太い川」と言えないのか＞ 認知言語学的な話になるが、日本語で「細い川」、「小さい川」、「細川」、「小川」はあっても、太い川とは言わない。大きな川か広い川になる。これは川を線と見なすかどうかで決まる。 広い川の岸に立つと視界の奥のほうまで水がある。そして左右の視野にも水が見える。この視界の映像だけでは水が流れていない限り川には見えずむしろ池や湖に近い形状をしている。人間の目はこの視界に対し、川を線では捉えず面で捉える。となれば当然太いは使えない。 一方、細い川の前に立つと奥行きが少なくそれでいて左右にも水があるため、線と認識できる。そのため細い川とは言える。 このように、語法は人間の認知に大きく影響を受けるので、どの国の言語でもある程度同じになることがある。 どの言語でも川を細いと表現する場合はあっても、太いとは表現しないことが多い。 一方、英語やアルカのように幅広いや幅狭いという形容詞を持つ場合は、互いに反対語であるこれらを川に適応することができることが多い。ｒｉｖｅｒはｂｒｏａｄやｗｉｄｅとも共起するし、ｎａｒｒｏｗとも共起する。アルカも同様で、φeʃ, nɔɔ ともに使える。 このように、語法は人間の認知能力に端を発するものもあり、その辺りは文化以前に人類全体にある程度共通する部分があるので、アプリオリの場合はそういった事案を根掘り葉掘り探さねばならない。 ［成句］ eɥcɪ ʃ'eɥec 諸行無常、有為転変

eɥecʃ ［植物］アボカド、アボガド ［レベル］3 1ʔ: 制 :eɥeɥɪnʃ ひょうたんのような形だから ［文化］ あまりなじみがない。果物に分類される。

eɥecɥ ［地学］河川水 ［レベル］5 1L

eɥees ［丁寧］［親族］弟君、弟殿、エレージュ ［レベル］2 J1:l.ɪɥəəs ［文化］ lɪɪlɪ

ez ［建築］部屋 ［交通］個室。電車などの個室のこと。 ［レベル］2 古 :jɔɥn ez:ez:lə lɪleʃ:lɔ lɔ.ɪlʃ ［文化］ 日本と同じく、四角い部屋である。部屋には出入り口がある。日本と違って必ず鍵がある。一人ひとりに部屋が割り当てられるのがふつうである。部屋の広さは日本より広い。何をどう配置するかは決まりがない。効率を考えて自分の好きなように置く。 ・部屋の広さの測り方 ɟɒ 以降、ɪlʃ 経由で畳が入ってからは、部屋の広さを畳数で示すようになった。ɥɑ 後も縦横何メルフィという言い方より分かりやすいため、部屋の広さは畳数で表現する。 ［用例］ ez hɪn{lɪc} 広い部屋。lɪc の場合、空間的な大きさを指す。少なくとも天井が低くないことを含意する。ez hɪn だと天井が低くても床が広ければ言える。だから ez hɪn ɔnʃ en lɪc（広いけど大きくない部屋）ということも可能。 nɔn ɥcɪlʃ ucl cʃ ez ɒcl nɪ ɪɑcn ʃcnɪ. 私はあまりに恥ずかしくて部屋から出ることができなかった。 ez le ʃcl ʔ ɒɥez 6畳間

ezbejɪ ［医療］ハウスダスト、室内塵 ［レベル］4 ɪl;/ ʃʔ

eziʔ ［料理］［動詞］ɥəl を漉す、漉す、濾す、こす ［料理］漉し器、ストレイナー ［レベル］3 制

ezɪʎɪɰ ［料理］ストレイナー、漉し器 ［レベル］3 1L

ezɛʃ ［名詞］ややあって。 1 5 分〜 1 時間弱。 ［副詞］ややあって ［レベル］2 ɟ0:ez/jʎcn/ʃe（部屋で座って待つような）［語法］ɑcʎɔə

ezɔ ［地学］木立、林 ［レベル］3 1ʔ: 制 :jezɔɔ（強複数 / 木）。制では森。

ezɔn ［名詞］水筒 ［レベル］2 1ʔ: 制

ezɔɒɰɪɔ ［生物］デオキシリボース。lccɒ はなくてもよい。分かるので。 ［レベル］4 1L

ezɔɒɰɪɔdɪnɑ ［生物］デオキシリボ核酸、 D N A ［レベル］4 1L

es ［名詞］感触、触り心地、タッチ ［レベル］2 1L:ɰcɑɕɪ:ɰbɪleʃ:ɔs: 舌での知覚は「味」で単純語になっている。肌での知覚の触覚が単純語でないと平行的でない。

esɪn ［名詞］ラップ、サランラップ ［レベル］2 ɪʎɪʃɪ

el ［代詞］4 人称代詞 ［レベル］1 1L: 恣意 ［語法］ フランス語のＯＮのように、誰とは意識されない不特定の誰かのこと。総称のＹＯＵなどに等しい。格言だけではなく、日常的な言葉にも使う。ʃə eʃ lɪz. el ɥɔl ʃə cɒ ɪlʃ hɪɲ（これはペンです。文字を書くのに使います）というような文に使う。ここで el を ɪn にするのは不自然。私だけが文字を書くときに使うのではないため。

el(J) ［接尾辞］副詞を作る ［レベル］1 J1:ʎɒccɰ ［語法］ɑɰeɥə

el(ʔ) ［文末純詞］〜だった、〜だっけ？、そうだ〜だぁ。気付き、再確認、思い出しの純詞 ［レベル］1 1L:ɰcɑɕɪ:hel から ［語法］ɪd, ɟɔɪ ʎɪ は「あっ、そうだ」という現在の気づき。いま初めて思いついた場合。ɪd, ɟɔɪ el は「あっ、そうだった」という思い出し。忘れてたのを思い出したとき。ɥɪ ɥɪ, ʃə ɰɪ ʎɪ ɪʃə el は「ああ、そうだ、この家はここにあったんだっけ」という思い出しの意味。el でなく ʎɪ だったら、いま初めて知って気付いたという意味になる。

el,ɑ eel ‹ceɪl（右と左のもの→右目と左目が見える部位→顔の前面→顔）

elʃ ［エルトˡ］エルト ［音楽］表拍 ［名詞］上巻 ［組み数字］1 / 2、前者 ［レベル］2 jelʃ 0:ɟɪɪl;e 古 ［文化］ → jelʃ 世界の均衡を保っていた最初の神の 1 人。サールを妻とするが、サールが子を作らないという約束を破ってユーマを設けたために悲嘆し、サールを捨てる。だがその後サールを許すようになる。しかし時すでに遅く、サールは死んでいた。エルトは悲しむと天空までそびえ立つ塔を築き、その上で死んだ。 エルトは白い肌に白人系の彫りの深い顔をしていた。金髪碧眼で体格は華奢。

elʃʃcɑɪ ［名詞］前半 ［反意語］ɟɪɪlʃcɑɪ ［レベル］2 J0: 前半分

elʃɪɰɑ ［動物］アダピス類 ɪl;/。オモミス類に対して elʃ と ɟɪɪl で命名された。 Jʔ

elʃɟel ［ユマナ］土曜日 ［レベル］2 1L ［用例］ cɒ aɪɰ ʃ'elʃɟel 土曜の朝に

elʃues ［弓道］甲矢、早矢、はや ［レベル］6 J0: 一発目の矢

elʃɑcɔ ［生物］乳歯、子供の歯 ［レベル］2 1L: 一番目の歯 ［文化］ 抜けた乳歯は取っておき、死後は死体と一緒に棺桶に入れる。子供のころの純粋さを死神やアトワーユにアピールし、なるべくトワーユに連れて行ってもらうための慣わし。

elʃhɔ ［生物］撓骨 ［レベル］5 JJ: 尺骨の対で、より太いほうなので男性のエルト。同じく脛骨と腓骨の対は、太い脛骨のほうが ɰɑej で、細い腓骨のほうが lɑeɰ。

elʃlcl ［化学］セレン ［レベル］5 1Λ: 制

elʃlɔl ［生物］空腸 ［レベル］6 1L ［語法］ 小腸で、十二指腸の後に空腸と回腸が続く。このうち両者をそれぞれ elʃ, ɟɪɪl と呼ぶ。

elʃcɪ ［アイテム］エルティア ［レベル］4 古 :ɰcɑɕɪ:elʃʃccɪ（エルトの愛）［文化］ ヴァストリアの 1 つ。リディアのもつ神装。ルフェルから賜ったもの。

elʃɔɪ ［地名］エルトア。メテの使徒エルフの支配地。 ［人名］ミルフの アルカ姓 ［アクセントˡ］elʃɔˡ ［レベル］5 ʎɪʎɔ

elʃɔɪ(J) ［アトラスの国家］エルトア、妖国 ［アクセントˡ］elʃɔˡ ［レベル］3 ʎɪʎɔ ［文化］ 面積：11JΛΔ00.ʔ0LˡΦ1 ɪɔ ˩

elʃɔɪzɔnɪ ［音楽］マリンバ ［レベル］4 J1

elʃɔɪlɔɔb ［被服］スイスキャップ、ドレスキャップ。ɰɑ でミルフが着ていた。 ɰɑ;/ JΛ

elʃe ［被服］エルテ、巫服。 ［レベル］4 古 :elʃe,eɰʃe ← eɰcɪ ɾeebe（水のテーベ）かつてフルミネアが着ていた裾の長い服を元に色々構想を加えたもの。 ［文化］ 巫女の服。テーベよりもさらに長く薄い服。下には何も身に付けず、必ずみそいでから着る。日常生活では着ない。

elʃelcl ［化学］ゲルマニウム ［レベル］5 1Λ: 制

elʃ ［動詞］ɥel（狙った魚）について釣りをする、ɥel を釣る、釣る ［普通動名詞］釣り ［レベル］2 Jʔ: 制 :elc ［文化］ 釣りは日本ほど盛んではない。アルナには海がないからである。釣るなら川や湖で釣るしかない。ただ、釣り自体は良い趣味とされている。自然の良い環境の中に入って行うからである。空気は綺麗だし、食べる分しか捕らないので、環境にも優しい。川の流れを見ながらぼーっと思慮にふけるのはリフレッシュにはもってこいである。尚、好きな人は海までわざわざ出向いて釣りにいく。

elʃe ［農耕］かんがい、灌漑 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 水の移動

elʃl ［料理］流し、流し台、シンク、台所の洗い場 ［医療］歯医者のうがい台 ［レベル］2 lʎɪʃɪ

elʃcc ［宗教］エルシー派 ［レベル］5 J0:ɑəlɔccɪ:「雨霧」［文化］ アリスカンテ教の一派。処女性と純潔性を尊び、禁欲的な生活を行う派閥。フルミネアなどが属していた。

elʃelʃ ［魔法］エルシェルト、ルナパネル ［レベル］5 ɒelʃcɪ ΛΛΛ:beɰʃ;elɑe/lelʃ J0:elɑe/lelʃ（泉の月）［文化］ ʃɒ でベルトが張ったアンシャンテの魔法を映す泉の湖面。魔法機械 (ɰɪɥɪ) の一種。動力は魔力だが、泉なので夜になると月の光で自動的に魔力が供給される。ソーラーパネルにちなんでルナパネルと訳した。 ɒelʃcɪ ΛΛΛ ［言語］［魔法］ベルトが elʃelʃ を開発し、各地に設置→ elʃelʃ

elʃ ［エルトˡ］エルス ［形容詞］鬱な、落ち込む、落ち込んだ、意気消沈した、憂鬱な、憂うつな、ふさぎこんだ、ふさぎこんでいる、ノイローゼな、浮かない ［医療］うつ病、鬱病、うつ、鬱、欝 ［反意語］ɥəəɑɪc ［レベル］3 古 :pel ［文化］ 足を水にからめられとられて動けなくなってしまったエルトの女性。死にはしないが足止めされ続けているため、非常に鬱になっている。エルスの鬱は水を伝って人へ伝染する。それによって人は鬱になる。 ［用例］ ɪɰbɪn ʎɪlɒɪ nɪ elʃ ɪʃc ʎɪl. アルバザード人は大体いつもちょっと鬱っぽい。 ɪn nɪʃ elʃ pcl senʃ ɥɪɒ. 悪天候のせいで鬱になった。 senʃ ɪʃ elʃ. 陰鬱な天気だった。どんよりしていた。 nɔn ləʃ nɪ elʃ pcl{ cɒ} jel eʃl. 雨の日はいつも鬱になる。 ɪn nɪʃ elʃ cɒ ɑcʃ. 今日は憂鬱な気分だった＝今日は元気がなかった。 ɪn nɪʃ elʃ pɪn uɪɑe ʃɪʃ. 試験に落ちて憂鬱だった。 ɪn nɪʃ elʃ pcl eʃl. 雨で憂鬱だった。 ɪn nɪ elʃ nɪ. ノイローゼ気味だ。 ☆ ɪn leeuɪʃ lɪl elʃ. 沈んだ気分から抜け出したかった。 ☆ ɪc, ɪn ləʎɔˡ elʃ jcn. あぁ、鬱になってしまった。 ʎɪ ʃclɪʃ eleʃ elʃ uɪɰ jel. 彼は一日中浮かない顔をしていた。 ʎɪ lɪl elʃ c ɰjccl lɪɪʃ uɔɰʃɪʃ. 彼は両親を亡くしてからずっと元気がない。

elʃ(J) ［接尾辞］普通動名詞を作る。開音節では lʃ になる。 ［レベル］1 J1:el<1L: 恣意 ［語法］ → cuɪ 通常省略される。ecuelʃ なら ecu のように。 ［用例］ ecuelʃ 決闘 ɰʃejelʃ 召喚 pɪl jelʃ 結婚 uɪjelʃ 戦争 hɪʃcɪlʃ 恋愛

elʃʎdleʃ ［音楽］マイナーコード ［レベル］6 J1

elʃɑɪnɑ ［音楽］ハウス ［レベル］5 ul;「鬱に盛り上がる」 J1

elʃɑɔcɔnɪ ［音楽］短調、マイナー ［レベル］4 J1

elʃc,ɟzɑ eeɪ, ɪlʃeɥ <> eeɪ

elʃen ［サール］エルセン ［名詞］エルセンの不平等、不平等、不公平：一見平等で不平等なことを指す。例えばライオンとウサギに同じ量のキャベツを平等に与えるというような「不平等」のこと。 ［レベル］4 古 :pel ［文化］ 戦場の残酷な平等者。赤ん坊を背中に抱いた若く美しい母親の姿をしているサール。灰色でぼろぼろのローブをまとい、悪路を杖をついて歩く。前線の兵士を呪い、戦死を招く。 彼女は元は戦場で夫を亡くした人間だった。アズゲルの時代、戦場に夫の死体を確認しにいった彼女は無惨に殺された夫の死骸を見つけ、気が狂ってしまう。夫の死骸に泣きつくと「苦しかったね、苦しかったね」と労をねぎらった。それがエルセンの持っていた最後の心であった。それ以後エルセンは「戦場を平等にするため」に戦争に関与する全ての者に夫が受けた苦しみを味合わせようと誓い、サールに祈り続けた。類稀なエルセンの呪力を感知したメロウは面白半分でエルセンに力を与える。すると エルセンは恐ろしい力で「戦場を平等に」していった。エルセンは戦場で多くの兵士を殺したと同時に、戦地の女を兵士に犯させるよう兵士に呪いををかけた。戦場を平等にするためには男だけが苦しむのでは平等とはいえないと考えたエルセンは、女にも男と同じ苦しみを味合わせた。エルセンの呪いを受けた兵士は戦地の市民を襲うと、男を尽く殺し、女は少女は勿論、幼女に至るまで犯して回った。犯された女は惨殺され、ときには食材とされて調理された。生き残った女は自分を犯した誰だかも分からない男に作らされた子供を産むことを余儀なくされた。こうしたエルセンにはる戦場の平等化によって戦死者が増え、怒ったルフェルがエルセンの討伐を行ったが、エルセンの深い恨みはとても強く、適わなかった。が、エルセンのせいで戦争がつまらなくなったと思い始めたメロウがエルセンの討伐をアルデスに進言。エルセンはメロウに裏切られ、殺された。しかしエルセンのセレスはアトラスに留まり、それ以後も戦場に呪いを与え続けた。 ［用例］ ɥejʃɪ elʃ eljen ɑɪ. 共産主義は一見平等で実は不平等だ。

elɪ ［形容詞］悲観的な、陰気な、ネガティブな、ペシミスティックな ［反意語］ɒelɑcn ［レベル］3 1L:elj/nɪ ［文化］ アルバザード人は比較的性格が暗いが、アルティス教が悲観を悪徳としているため、できるだけポジティブにあろうとする。ただ、それでも元来の物静かな性格はあまり変わらない。

eluɪ ［建築］ダム ［レベル］3 1ʔ: 制 :el/uɪen（水溜め）

ela ［動詞］ɥel（人や場所）から逃げる、逃げる ［法副詞］〜しようとしない、やる気が起きない。意思否定の副詞 :1L ［動詞］ɥel（物）を万引きする、食い逃げする ［俗語］［動詞］ɥel（女）をやり逃げする、ヤリ逃げする ［動詞］ɥel（人や電柱など）をひき逃げする、ひき逃げする、轢き逃げする、引き逃げする、引きにげする、当て逃げする、あて逃げする、当てにげする ［動詞］ɥel（薬など）を断つ、断つ、止める ［普通動名詞］逃走、逃避、逃亡、万引き、食い逃げ、食いにげ、ヤリ逃げ、やり逃げ、引き逃げ、轢き逃げ、引きにげ、当て逃げ、当てにげ ［反意語］ʎec ［レベル］1 1Ⅲ: 制 ʎelɥə:ʎelɥə ［成句］ elɑ, jee ʃc lcɒ ʎclɒ ɪlʃ 逃げろ、しからばあらたに機会を得よう：三十六計逃げるに如かず ［用例］ ɪɪɟ elɑɪʃ cɒ ɑɔnc ɑel ɪɪɟ jɪʎɔˡ lelʃej. 彼らはシェルテスを見つけた途端、逃げ出した。 ʎɪ elɑɪʃ le beʎɪ. 彼はあのレストランで食い逃げした。 ʎɪ ɑɔjɪʃ ɥə pɪn elɑɪʃ dɔdel. 彼はステーキを食い逃げして捕まった。

ela(J) ［人名］エルフ ［組み数字］1 1 / 1 5 ［レベル］4 ʎɪʎɔ ［文化］ メテの第１１使徒。

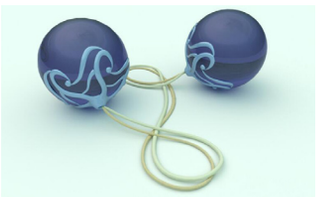
elɑɥecj ［名詞］エルフレイスの大樹 ［レベル］5 古 :elɑɥecj ← elɑɥecn/zɪɒɔ ［文化］ エルフレインの村にある、世界一大きな大樹。

elɑɥecjʎɪɑ ［地球の国名］レバノン ［レベル］6 1L: 国旗に大樹

elɑɥecn ［エルトˡ］エルフレインの姉妹 ［地名］エルフレインの村。ヒュート国領。 ［レベル］4 ɒcla/ɰcɑɕɪ: 古 ［文化］ エルトの女王ルフェルの腹心であるフレイヤとミレットが住んでいた村の名前。エルフレインの姉妹といえばこの２人を指す。ふつう elɑɥecn というと村の名前より彼女らを指す。エルフレインの村はヒュート南西部、フレイリア近辺にある。 ［成句］ ʎɪnɪ elɑɥecn ɟɪ lɑeɥ 将を射んとせばまず馬を射よ。これはアルデスの言葉ではなく、神人貿易をしていた商人の言葉。

elalcl ［化学］アインスタイニウム 1Λ: 制

elɑc ［アイテム］エルフィ ［レベル］4 古 :ɰcɑɕɪ:elʃ diɑc「エルトの橋」からだそうだ ［文化］ ヴァストリアのひとつ。リディアのもつ髪飾り。リーファスも参照。エルフィは２個の美しい玉からなる髪飾りで、玉同士は美しい紐で結ばれている。２つの玉はエルトとサールを示すもので、紐は両者の橋渡しを意味する。エルフィは元はリディアの育ての親のナルムの形見となったただの綺麗な髪飾りだった。リディアがテームス殲滅を公言するころに、エルトのルフェルは何かサールと協力することに対する証を持てないかと考えた。そこでルフェルはアルデスに呼びかけ、自分たちの力を封じたものをリディアにプレゼントしようと考えた。彼らはナルムの形見に目を付け、それに力を封じ込めた。その髪飾りはエルトとサール、そして両者の橋渡しを象徴するのに相応しいアイテムだった。力を与えられた髪飾りはとても強力で、それさえあれば今までの半分以下の魔力で神を召喚できるばかりでなく、神自身をもより強力にさせた。ルフェルはそれにエルフィと名付け、リディアは喜んで身に付け、より一層召喚するようになった。 画像は ɪcɔj によるもの。



elɑcn ［名詞］(nɪ) 見ていて恥ずかしい、恥ずかしい、かたはらいたい、かたはらいたし、傍ら痛い、片腹痛い、痛い、いたい、イタイ、イタい ［類義語］ʃlɑ ［レベル］3 J0:elɑ/cn（逃げる目）［語法］ 自分が恥ずかしいのではなく、痛い他人を見ていてこっちまで気恥ずかしくなる気持ち。思わず目をそらしたくなること。「俺のパンチは世界一やで」とか、そういうのを見たときに感じる気持ち。あちゃーな感じ。

elɑcɪ ［電算］ＯＳ、オペレーションシステム ［レベル］3 1L:elɑcɪn

elɑcɪn ［電算］［人名］エルフィアン 1L: 水の少女。eɥ ではなく。 ［文化］ → ʃcʃ

elɑccne ［ランドマーク］エルフィーネ童女院 ［レベル］5 J1:ləjcɪn：水の精霊 ［文化］ 中央アルナ ʃccʃel ɒel 区に作られた女学校。現在は同通りにある。語学、芸術に造詣の深い学校。白クリーム色のふわふわしたケープとラーサ、同色のベレー帽、スカートがシンボルで、生徒は雪の精とも呼ばれる。 ɟɒ に小学校ができ、ɰɑ で中学校ができた。ul で高校ができ、現在でも高校までしかない。アルナ大文系学部への進学率が高いお嬢様学校。年次文化祭は「雪精祭」(euɪnjclɑ) で、このときのみ男子も入ることが許される。 ɟɒ で作られた当初は白魔道士育成学校で、看護と白魔法を中心としていた。現在でもここの看護科から看護や介護に行く生徒は多い。（アルバザードでは看護介護職は高級職） 校則は緩いが風紀の徹底は厳しく、生徒の素行は極めて良好。エルフィーネと比べるとアルナ中の女子はアグレッシブなのが多い。

elɑɔ ［生物］ピノソーム、パイノソーム、飲小胞、飲作用小胞 pʃ;elɑe.ʎ JΛ

elɑe ［地学］泉 ɑ;e（水） ［レベル］2 1ʔ: 制 :『すなおな気持ちになれる風』 elɑe:elɑe::ɔoen,ɪ lʃ

elɑe,jzɑ ʎɔle

elɑeʎɪɑ ［地球の国名］ジャマイカ ［レベル］6 1L: アラワク族の言葉ハマイカが泉の国の意味

elɑeuccɑɪ ［生物］［医療］郤穴、げきけつ、げっけつ ɰɑ;/ JΛ ［文化］ 正経１２脈と奇経４脈にあるので１６穴ある。急性疾患に用いる。

elɑeɥ ［人名］エルフェル 古 :e（左の）/lɑeɥ（ルフェル）。女は左に立つことから。 ［文化］ アルフレインの母親。イルフェルの妻。

elɑeɥ(J) ［魔法］エルフェール、古代魔法 ［アクセントˡ］elɑEɥ ［レベル］5 1L:ɰcɑɕɪ:elɑe/ɪɥʃ（泉の魔法）。泉はアルシアのこと。アズゲルとカコの時代の魔法であることから。 ［文化］ → ɑɔlɒcɥə pəɑcj の一種。アズゲルとカコに使われた強力な魔法で、ɰɑ では既に失われてしまったもののこと。ミルフが遣い手。和訳時はエルフェールとし、人名エルフェルと区別。 すべてが強力とは限らず、lɑfe のように単にノウハウが失われてしまったものもある。

elɑeɥʃ ［魔法］古代魔術師 ［レベル］4 J0:ɰcɑɕɪ:elɑeɥɪn:1L:ɰcɑɕɪ

elɒ ［生物］臓器、モツ、もつ、器官、オーガン、体の組織、体のシステム、体の一部分、体のパーツ ［レベル］3 1ʔ: 制 :elʃɒɪc（機能体）

elɒdɪnʃ ［生物］器官系 pʃ;/ JΛ

elɒɪ ［エルトˡ］エルマ ［名詞］記念、記念品、みやげ、土産、おみやげ、お土産、モニュメント、モニュマン、記念碑 ［動詞］ɥel を記念とする、ɥel（数字）周年である。 ［レベル］2 古 :ɰcɑɕɪ ［文化］ アマリスの双子の妹。姉のアマリスが思い出を司るのに対しエルマは記念を司る。

elɒɪʃɪʎɪ ［地学］［歴史］エルマ大陸 ［ユマナ］コロンビア大陸、ハドソンランド ul;/。ɒɪlcj に対して付けられた。 Jʔ

elɒeʃ ［哲学］属性 ［電算］属性（エクセルなどの） ［反意語］ɒcneʃ ［レベル］3 J0:elɒ/ʃe

elɒeʃʃɪnʃɔɪ ［魔法］属殻 ［レベル］5 J1 ［文化］ ɑɔlɒcɥə

elɒeʃdileʃ ［魔法］属性値 ［レベル］4 J1 ［語法］ すべて〜 ʃe から来ており、すべて〜 eʃ で終わる。弱点：cuneʃ 克性：bɪlʃeʃ 異性：lɔ̀ləʃeʃ 相性：hɪzeleʃ 半減：uceneʃ 無効：jeleʃ 吸収：ʎɔcʃeʃ ［文化］ ɑɔlɒcɥə

ela ［言語］言葉、ことば、言語 ［類義語］ɥenɪl, ʎɔʎɔ jeɥʃ ［レベル］2 1Ⅲ: 制 :eɥʃ から。古アルカで言葉が ləʎelc で、言語コミュニケーションは ɪʎɪləʃe。ɪʎɪə は ʎə,ʎə（ロとロ）/ʃe（関係）から来ている。アルカ・エ・ソーンでは ɪl が意味を失うため変遷が起こり、ɪʎɪəʃe で ləʎelc の意味を指した。 ləʎelc:ʎəʎelc:ʎəʎeoɪ ［語法］「〜語」は ɥen。「〜方言」は lec。具体的な言語名や方言名以外は elɑ。 ɪɰbɪɥen（アルバザード語）,ʃcɪɥen（ルティア語） ɪɰbɪlec（アルバザード方言のアルカ） lcɑeɥelɑ（シフェル語）、lcɑelɑ（人工言語） ［文化］ → ɥəncj ＜言葉の歴史＞ ・セルト セルト０年、アルテがエルトとサールに分裂。エルトは白い球、サールは黒い球。 彼らは自らの住処としてアトラスを選んだ。アトラスの環境に合わせるため、彼らはルサージュを行い、人の形を選んだ。詳しくは lɟɪs 参照。 エルトがフィーリアを選択し、サールを連れて草原に降り立つ。エルトはサールを指差して「サール」と言い、サー

ルはエルトを指差して「エルト」と言った（最初の命名）。　彼らはある物質や概念が持つ本来的な名前を聞く能力を持っていた。エルトはエルトという名を定められるべく生まれた存在で、サールも然りである。ゆえに彼らは相手に自分の名を言われた際、それが確からしいと感じた。　エルトは次に空を指して scnı と言った。サールはそれを確からしいと感じた。　サールは地を指して lıl と言った。エルトはそれを確からしいと感じた。　彼らは同様にして身の回りの概念の名前を確認していった（最初の語彙の獲得）。　彼らは物だけでなく概念や行為や状態の名前も知っていた。　例えば愛するという行為は ſccı という名前を持っていることを知っていた。　上下のような概念や、大きいのような状態も適切な名前を知っていた。　概念の名前を彼らは eeɟɾe と呼んだ。（名詞以外の獲得）。　また、彼らは高等な知能を基に、自らの認知に基づいた命名も行った。　サールは草原に lılɒɔ（下の場所）と名を付けた（人間の認知に基づく造語）。　エルトはサールを抱こうとした。しかしサールは浮かない顔をしている。エルトは戸惑う。サールは悲しげな顔で近くにあった ɪɟdcl（チョウノスケソウ）を手に取ると、エルトは彼女は花がほしいのだと察し、アルカットまで飛んでいき、花を観察してフィーリアに戻り、造形術 (→ ɩəlɩəl) を用いて花畑を作った。そしてこの地に ɒcnɪ̀ılɒɔ と名付けた。　サールは喜んで花畑に寝転び、紫苑を取った。エルトはそれを見て ɟɪılɒcnı と名付けた。　エルトがサールを寝せ、覆いかぶさろうとすると、サールはおなかを押さえて泣き出した。空腹である。　エルトは辺りを散策し、木の実、魚、動物の肉を持ってきて、サールに与え、自分も食べた（食事の提供）。　エルトがサールを見ると、サールはとたんに恥ずかしそうな顔をして、体を隠した。　裸を見られるのを恥ずかしいと感じたためである（恥の獲得）。　エルトはミナカルモに咲くコットンを手に取ると、中から綿を取り出した。　これは使えると考えたエルトは造形術で服を作り、サールに着せ、自分も纏った。　上下を覆う筒状の服で、手足のところに穴が開いており、首からかぶるように着る粗末な服だったが、白くて清潔で上質だった（衣服の提供）。　サールが喜ぶと、エルトはふたたびサールを寝かせた。　性交に集中するために温度調節の魔法を切ったところ、サールが寒さで震えた。　エルトは石を切り出し、造形術でイグルーを建てた（住居の提供）。　サールを入れると、エルトは中で火をたいて暖めた（火の使用）。　満足したサールはまず自分を指差し、次にエルトを指差し、"nɔn ɑɥəɟɟɔə ſccı" と言った（最初の文）。指差しの順番で文が構成され、S O V 語順ができた。　こうして神々は結ばれた。　コミュニケーションの手段に肺臓気流を利用する姿にルサージュしたため、サールはエルトを誘惑しようとして、自らの息に芳香を乗せた。芳香は桃の香り（主成分蟻酸エチル）であった。　エルトは感銘を受け、サールに共感して自らの息に薄荷の香りを乗せた（言葉で求愛することの重要性を強調）。　エルトは lıl を動詞「場所を占める」として使った。　"ɑel ɥəlc lɔ ˈlıl ˈləlılı ˈləc" は重文で「私は家を場所として食べ物を食べる」の意味。　この lıl が文法化し、「〜で」を意味する後置詞になった（格明示法の獲得）。　与格は ıl と ˈləɥ で示され、着点含意は前者、方向性は後者が担った。　また、状態を指す言葉は前置された（形容詞の獲得）。　彼らは 1 年後に再会することを約束した。来年から神の逢瀬が始まることとなる。　ここで彼らが作った言語が ɑ で、最初の言語である。　・アルテムとユーマの一族　ユーマが生まれると、彼女は生まれながらにして ɑ を習得していた。　同時に、歪みから生まれたテームスも ɑ を習得していた。　ただしテームス自体は喋るのが得意ではなく、知能は高くなく、言語運用能力は貧弱だった。　テームスから生まれた悪魔メルティアやベルトらも ɑ を習得していた。　アルミヴァもまた ɑ を習得して生まれた。　この時代はほぼ分裂に等しい産み方なので、知識を共有している。　最初にアルカを学んだのはアトワーユとルノである。　神々も人類もひとつの言語を使っていたが、離れて住みだしたため、言語が長い時間を経て分裂する可能性が出てきた。　そこで悪魔ベルトが世界各地にアンシャンテという魔法装置を作った。　泉の湖面に魔法をかけ、これをテレビのようにして使う通信装置である。　泉はエルシェルトというルナパネルを用いている (→ ellelſ)　各大陸に分裂した人類もアンシャンテのおかげで同一の言語を使うことができた。　また、アズグルまでは人間も長生きだったため、言語変化自体が地球のヒトと比べて遥かに緩慢だった。しかし音韻変化やその地域にしかない名詞の獲得などは、アンシャンテをもってしても防げなかった。　ゆえにアズグル開戦までに音韻レベルおよび語彙レベルでの変化はあった。しかしそれはイギリス英語とアメリカ英語程度の距離でしかなかったため、この時代はまだ ɑ が通じていた。　なお、音韻変化したものは ɑ ではなく「リュディア語」のようにその人種の名前を取って命名する。　ただ、上述のとおり、リュディア語と ɑ の差はほとんどない。　・ラヴァスとバベルの塔　ヴァステでの言語状況はアルテムと変わらない。　一方、ラヴァス後期になると、神々が情報漏洩を防ぐために各地のアンシャンテを破壊して周った。　破壊されたアンシャンテは修理されることのないままラヴァスが終わり、神々はアルフィへ去った。　残された人類はアンシャンテを失い、寿命も短くなっていたため、ここから地球のヒト同様、言語の変化が起こることになる。　いわばラヴァス後期がバベルの塔の崩壊であり、ユーマの一族はそれから 1 万年ほどかけてアルカを変化させていく。　ただ、同じアルカ語族である点が地球と異なる。　言ってみれば地球上すべてが印欧語でできているようなものなので、語彙の根本的な部分などはこの世に一通りしかないことになる。アズグルの時代には北半球はすべて、南半球も大部分は人類が到達していた。　この時点でほぼ同じ ɑu を話していたため、その後の言語の変化といっても タカが知れている。 [成句]

elɑ eſ lecn lıɑſ ılı. 言葉は最も上品な衣服である。どんなに身なりが良くても言葉遣いが悪い人間は下品に見えるという意味のことわざ。

elɑſıſ ［言語］語派 ［レベル］6　1L

elɑɹeɾí ［言語］言語史 ［レベル］4　JJ ［文化］ → ɥəncɹ　■概要　●カルディアでは言語の起源はひとつ　カルディアの言語はすべて ɑ に端を発する。アトラスと言わなかったのは、悪魔は太陽系の惑星で、神はアルフィで言語を使うためである。　ちなみに ɥ では宇宙で悪魔が話しているシーンがある。宇宙に空気がないのに言語が伝播するのはおかしい。恐らくどこかの星の大気圏内で話していたのではないか。いずれにせよ神話なので真偽の程は定かでない。　なお、地球同様ヒトも発生したが、ıfen がもたらした病原菌により死滅しており、ヒトの残した言語はアトラスには存在していない。　●言語系統　＜系統＞　生物学に使う分類法を利用する。 pəɒı を参照のこと。　生物学で「亜門」に当たる lelfep は比較言語学では「語派」を意味する。　カルディアにおける比較言語学的な系統は下記の通りである。　超語族＞語族＞亜語族＞超語派＞語派＞語群＞語＞地方方言＞州方言＞地域方言　ıɒıſ > epcſ > ɑcıɒ > ɑɑıl > lelfep > ſıſl > ˈlıɥɑ > epn > ſıſɟ > lcſe　なお、同じないし近い場所で使用されるものの、系統的には異なる言語群のことを諸語という。 jeeɥenɟ を参照のこと。　＜ıfen 超語族＞　最初に言語を作った elſ と ɟɪıl は ıfen > pcɥɔl > lınɟ > ɟɪıɟſ（神科）に属する。従って ɑ は lınɟ 語族 ɟɪıɟſ 超語派である。　しかし ɑ は全ての ıfen の言語の起源なので、すべての言語は ıfen 超語族に含まれる。　なお、ıfen 超語族とだけ書いてあったらそれは自動的に ɑ のことである。ɑ の正確な系統はアテン超語族ランス語族サルト超語派であるが、アテン超語族とだけ書いてある場合はあらゆる言語の祖というニュアンスで使っている。　＜lınɟ 語族＞　ıfen > pcɥɔl > lınɟ の語族。　・ɟɪıɟſ 超語派　上記のとおり、代表的なものは ɑ。　次いで ɑ から eɟſ と ɟɪıɟ の一族が発展させた ɑu が含まれる。　ɦu では eɟſ 語派と ɟɪıɟ 語派に分かれたが、主な違いは語彙である。風土が異なるところに住んでいたので、語彙に差が生まれた。　ただし高速で空を飛んだり魔法で通信を行ったりといった能力があったため、差異は軽微である。　よって言語学では通常 eɟſ 語派も ɟɪıɟ 語派を分けて区別して考えるべきケースは少なく、どちらも ɑu としてまとめることが多い。　ɦu 以降は ɑu から ɥɑ に名が変わるが、実質的な変化はない。　ɥɑ 以降、語彙については神人貿易を通じて lɟ や ɪɥ などの単語を借入する機会が増えた。たいていはロゼットを通じて単語を借入する。　ロゼットはともかく神は寿命がなく成員に変化がないため、統語論や意味論的な保守性は強い。　zɥ から人間の時代になる。人間が神々から受け継いだ言語は ɑu である。従って ɥɑ は人間の言語の系図には含まれない。　・jelejſ 超語派　死神の言語。 uınɥɪɥɑc や lənɔ は elſ や ɟɪıl より前に生まれているが、言葉は編み出さなかった。　言語は ɑ から借りた。ɑ が ɑu に発展すると、そのまま受け入れた。　死神は下位を除けば最も成員が少なく、言語の保守性はあらゆる ıfen の中で最も高い。　新語を取り入れる意欲は ɥɑ に比べて消極的で、造語をすることにも消極的である。　というのも死神はアトラスの各地で仕事をすることが多いので、自分たちの言語を変えていくよりは現地語を適宜覚えたほうが効率が良いためである。　中位以上の死神は ɑu を話すが、アトラスにいる主に下位の死神は居住地の言語を使うのがふつう。 中位以上の死神が ɑu 以外を話せるかは、個体によって異なる。例えば夢織の紗枝は lſ や ı を解する。　＜lcnɟ 語族＞　・lcnɟ 超語派　lcnɟ は ɑeep と ɪɑel に分かれる。最初の lcnɟ である ɑeepɟ は ɥəəɒı の対として生まれた。 ɥəəɒı の親は elſ と ɟɪıl で、彼らは ɑ を使った。　従って ɑeeepɟ の言語は ɑ である。ただし ɑeepɟ は知性が低く、言語を喋ることができない。よって初めて言語を獲得した悪魔は pelſcı, beɟſ, ırɒı などである。　pelſcı らが生まれてわずか 4 年後に ɑ が ɑu に推移しているため、事実上 lcnɟ の言語は ɑu である。　ɥ で使用した言語も ɑu である。　ɑeep は成員が少ないため、保守性が強い。　jeleɟſ と同じく、ソームなどアトラスで暮らした経験のある悪魔たちは現地語を使うのが一般的である。　・ɪɑel 超語派　ɪɑel は ɥəəɒı 0000 に初めてテージュを通って現ミュール大陸上に現れた。　このときの ɪɑel は知性が低い種で構成されていたため、言語の使用履歴はない。　ɥəəɒı ſſ̀ɟ̀ テームスが再び蠢動を開始。アデルが pılſccı され、空間に穴があく。テージュは神々が強固に塞いだため、別の弱い空間だったスカルディア西南部の地方バルマーユ上空に穴が空き、アデルがふたたび降り出した。この穴はバルマージュと呼ばれるようになった。　このとき降ってきたアデルは竜族のような強力なものや精霊族のような知能の高いものの比率が多かったため、後者が社会を形成し、人類と対立した。スカルディアは人類の支配が確立しているため、魔族の村を作る程度が限界であった。　魔族はスカルディアを中心に拡散。総じて言えば分布は南北より東西のほうが速やかかつ広大であった。北への移動は気候の変化を伴い、つらい。南への移動はそもそも陸がない。これに比べて東西はアルカット大陸が東西に伸びた陸塊であることからも容易であった。　とはいえ個々の種については身体性の違いにより、それぞれ得意な気候があったため、逆に南北に早く分布したものもいる。精霊族や妖精族は寒冷地を好むため、北への移動がほかの魔物に比べて速やかであった。　ここで拡散した魔族は後に belφınɑ や uellcɔn を建国したり、ınse のような海賊になったりした。　おおむね ɪɑel 超語派は北の ul 語派と南の bφ 語派に分かれる。　バルマージュに降り立った魔族のうち知能の高いものは lcnɟ と同じく ɑu を話したが、徐々にスカルディアの言葉も習得していった。　魔族は拡散するとともに ɑu をベースに各地の言語と融和していった。　やがて北は ul 語派、南は bφ 語派を形成する。そこで彼らは定住をしたため、ul と bφ は風土に合った独特の変化を遂げる。　従って ul と bφ は ɑu というベースを元に、定住までに通った各地の言語の影響を受けつつ、定住先で発展した言語といえる。　＜ɥəəɒı 語族＞　ɥəəɒı は ɑ を 0 年間だけ ɟɪıl から教わった。その後 ɑ が ɑu になると、ɑu を継承した。　ユーマの息子の ɪɥɑə と娘の ejſı は 1 6 人の子供を作る。これが eɥn e ɥəəɒı の直接の祖先となる。　この頃はまだ ɑu を使っていた。第三世代まではガルヴェーユで ɑu を使っていた。　pelſcı ΔΛ'0000 にユーマの一族はガルヴェーユから追放され、ここから人類の言語が世界へ拡散していくことになる。　追放後、アルファエル川流域で ɑɪɥɑɪncı 語ができ、セーレル川流域で jcczcı 語ができる。　同時期にホモ・サピエンスが発生しているが、ıfen の病原菌により絶滅している。　pelſcı LΛ'0000 ごろ。メルティア LΛ 万年ごろ、ファルファニア人の一部が食料と土地を求めてファベルからアンシャルへ入る。リュディア人はハーディレイ川流域で文明を築く。一方マレット人の一部はサヴィアからインサールとケヴェアに入る。前者は zφ までにハーディアン、カルセール、メディアンを作る。後者は zφ までにフッカ、ジュヴァルノ、メルモアを作る。　シフェル人の間で内戦が起き、ファルファニア人とリュディア人が争い、前者が勝利する。これを記念してファルファニア人はリュディア中心部周辺をファルファニア (ɑılɑɪncı) と改名。リュディア人はリュディア国辺境、すなわち現アルバザードへ追いやられる。リュディアの一部は奪われてファルファニアと改名されたため、リュディア人は残った国土をレスティルと改名した。彼らは神がいるのでフィーリア、ガルヴェーユ、ルカリアには原則として住めなかった。この後元リュディア人の一部がアルディアルとスカルディアを作る。少数ながら神の土地に入り込んで住んでいた部族もいる。　◆シフェル亜語族（単にシフェル語族とも）　ɑu > ɑɥɑ　この亜語族はリュディア超語派とファルファニア超語派に分かれる。地球で言うとヨーロッパの言語とアフリカの言語に分かれるようなものである。　・リュディア超語派　ɑu > ɑɥɑ > lɥ　lj, ɟl, jl, ɪɥɑ などを含むアンシャル地方に存在する超語派。　リュディア人のうち、ルカリア地方に散った人々は、ルカリアが神に支配されていたため不毛な土地でひっそりと暮らしていた。　従ってルカリアには神ルカリア語と人ルカリア語がある。 ɟl と いうと通常後者を指す。　ɟl は後のヒュート語やフレディスク語の前身である。　– レスティル語派　ɑu > ɑɥɑ > lɥ > lj　lj(後の ɪɥ) , lſ, hɥ などを含む西アンシャルの語派。　ı はこのうちの ɪɥ をベースに作られているため、現在世界で最も広まった語派といえる。　神との繋がりが強いため、保守性は一般に高い。特に lj や ɪɥ など神のお膝元ではなおさらである。　アルバレン：ɑu > ɑɥɑ > lɥ > lj > ɪɥ　ケートイア語：ɑu > ɑɥɑ > lɥ > lj > lſ(cſ cɒəl 10)　ヒュート語：ɑu > ɑɥɑ > lɥ > ɟl > hɥ　アルカ：ɑu > ɑɥɑ > lɥ > lj > ɪɥ > ı(cſ cɒəl 1ΛL1)　: 西レスティル語群　ɪɥ, lſ, hɥ などの語群。　アルカの比較言語学的な分類は下記の通りである。　アルカ：アテン超語族ユーマ語族シフェル亜語族リュディア超語派レスティル語派西レスティル語群アルバザード語北方方言地奄州方言幻京方言を主な参照源とするアポステリオリ国際補助語　ɪɟlɪ:ueſɟɪlleucın epɔen ıfenıɒıſ, ɥəəɒıeɒcſ, lcaeɥɑc ıɒ, lɥəɑcıcaıl, lejſcllelſep, ılıjlejſclſıſl, ıɟbızıɟɑlıɟɑ, lcıɟeɟɥn, ſɔɔlſıſj, ɪɟnılcſe　: 東レスティル語群　ɑcɒcnɔɔn, ɪɟlelcı などの語群。　– スカルディア語派　現ラズディア語、メルディア語などの語派。ただしこれらの言語は境方語派の影響を強く受けている。　encɔl 南部などはそこまで境方語派からの影響を受けていない。　– アルディアル語派　現アルダ語などの祖。　・ファルファニア超語派　ɑu > ɑɥɑ　主にケヴェアで使われる超語派。　◆マレット亜語族(単にマレット語族とも)　現 lſ の直接の祖先。ɑu から分化した。 ılſ なども大きな分類ではここに属する。　この亜語族はサヴィア超語派、インサール超語派、ケヴェア超語派に分かれる。　・サヴィア超語派　ガルヴェーユからサヴィアへ渡った人々のうち、サヴィアに残った民族の超語派。　lz や lſ などが含まれる。　– シージア語派　lz や lſ など。　: ルティア語群　lſ など。　ルティア語：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族サヴィア超語派シージア語派ルティア語群　: リーゼル語群　lz など。　– リディア語派　現ミディート語など。　・インサール超語派　ガルヴェーユからサヴィアへ渡った人々のうち、インサールへ渡った民族の超語派。　ılſ が含まれる。　– ハーディアン語派　現 ılſ 周辺の地域で使われた言語。アクオリアも入る。　: ハーディアン語群　アルティア語（凪霧）: アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族インサール超語派ハーディアン語派ハーディアン語群　: アクオリア語群　– サルディーン語派　ハーディアンに渡った民族が西に移動したもので、もとはハーディアン語派と同じ。　– カルセール語派　ハーディアンに渡った民族が南西に移動したもので、もとはハーディアン語派と同じ。　– メディアン語派　カルセールに渡った民族が南西に移動した民族の言語。加えてスカルディアから東に渡ってきたシフェルの民も含む。　現 pe などを含む語派。　: 境方語群　メティオ語：アテン超語族ユーマ語族マレット亜語族インサール超語派メディアン語派境方語群　・ケヴェア超語派　ガルヴェーユからサヴィアへ渡った人々のうち、インサールへ渡った民族の超語派。　– ジュヴァルノ語派　現サフィール語や西エネガイア語など。　– フッカ語派　現ユタタ語など。　■舞台裏　＜現実と神話のアルカ史＞　・古アルカを古語にリサイクルしよう　古アルカは現実では 1 9 0 0 年代に作られた言語である。一方アトラスではアディアが cɒəl 1Λ00 年代に作った言語である。前者はアプリオリとアポステリオリの混じった人工言語で、後者は ɪɥ（アルバレン）を元にしたアポステリオリ人工言語である。　現実の古アルカは徐々にアポステリオリ性を排他していったので、最終的に J001 年の段階ではほぼアプリオリだった。現在の新生から見て古アルカはだいぶ変わっている。文法的にも語彙的にも。　古アルカは地球ではもはや使われていないが、このまま捨ておくのももったいない。そこでアトラスに出てくる古語の材料としてリサイクルしようという案が 0 0 年代後半に浮上した。とはいえ現実の古アルカが持っていたアポステリオリな面は使えない。だからそこはトリミングして、アプリオリな部分のみをアトラスの古語を作るのに使う。　・そもそもアトラスの古語って何を指すの？　アトラスの古語は ɑ（フィーリア語）に始まり ɪɥ（アルバレン）に終わる一連の言語派である。時代としては ɑl（フィアル）から ɥɑ（オーディン）までである。従って ı（アルカ）は古語には含まれず、古アルカといっても古語には含まれない。　・リサイクルする際の注意点は？　古アルカを古語の材料に使うにはいくつか乗り越えなければならないハードルがある。まず前期古アルカと中期古アルカ時代に大量に含んだ自然言語の語彙を排他する必要がある。また、もともと古アルカは子供の作った言語なので、言語学的にしっかり見直さないと古語として使うに耐えない。さらに、古アルカの語彙はアトラスの歴史を反映していないので、アトラスにおける語源を一語一語作る必要がある。　・アルカのレーゾンデートル　古アルカの語彙がアトラスの歴史を反映していないのは当然だ。そもそもリアルファンタジー用の言語として開発されたものではないからである。　アルカのレーゾンデートルは時代ごとに異なる。古アルカでは「意思疎通と機密保持」。リーザ先生やリュウがお金の絡むことに古アルカを暗号として使っていたので機密保持の意味合いがあった。制アルカでは「帰属意識の向上」。これは効果があったと思う。新生アルカでは単に「意思疎通」に限定している。　これだけなら事情はまだ飲み込みやすい。だがここに神話という要素が入るとややこしくなる。古アルカの時代にリディアが構想した『幻想話集アティーリ』の中でアルカが使われた。これがすべての元凶だ。この作品がやがて人工世界カルディアに発展していく。　0 9 年にアシェットが解体されると、使徒同士は表向きには公的な繋がりでなく個人的な繋がりになった。それから 2 年経つが、解体の影響はそれほど感じていない。もともと 0 3 年にセレンが日本人の女性を選んだことでリディアをはじめ使徒と疎遠になってしまい、その頃から徐々に彼らとの結びつきは弱くなっていた。 0 6 年にリディアやメルとは再度親密になるが、ほかの使徒からは距離を置かれたままになっていた。なので 0 9 年にアシェットが解体してもそんなに改めて距離感が変わった感じはしない。　1 1 年現在セレンがアルカを使う相手は主にリディア、メル、ルシア、ユルト、それにネットユーザーに限られている。だがセレンは「日本語できるなら日本語でいいだろ」という考えなので、子供以外には積極的にアルカで話しかけようとしない。ましてセレンは子供にアルカを教え

るのがあまり好きではない。少なくとも母語として教えるべきではないと考えている。なので本来子供にアルカを喋るのも好まない。ただアルカ以外ロクに通じないので仕方なく使っている。となるとセレンが自発的にアルカを使いたがる相手は誰もいないことになる。現実のアルカはほとんど滅んでいるといっていいだろう。　ただそれはセレンの視点でしかない。リディアはアルカを積極的に使いたがっており、実際日常的に彼女の家で使わせている。一番熱心なのはもちろん彼女だ。なお、旧アシェットの使徒もまだ新語を作って報告してきたりするので、一応使っている分には使っているようだ。そういう意味では現実でもまだアルカは滅んでいないようである。　ただ、もはやアルカのレーゾンデートルは「アシェットが使う言葉」よりも「世界初のリアルファンタジー用のアプリオリ人工言語」にあるとセレンは考えている。後者の価値観自体はリディアも認めている。彼女くらいだろう、現実にも架空にも旺盛にアルカを使いたがるのは。　少なくともセレンはもはやアルカを「世界初のリアルファンタジー用のアプリオリ人工言語」と考えている。現実面はわりとどうでもいい。

・アトラスの語源と地球の語源　古語に古アルカを使うのはいい。だが単語の語源は地球でものだ。９０年代の地球を反映している。例えばスーツは ɒɪclɵɟɪbe（ふつうの服）というが、これは地球の９０年代の感覚である。アトラスで「ふつうの服」なわけがなかろう。だからアトラス用に別の語源をでっち上げねばならない。あるいはアトラスの歴史でもスーツは普及したんですよという設定を作らねばならない。要するに語源を変えるか歴史を変えるかの二択である。　たいていの場合は語源を弄る。特に語源ができた年代を弄る。　例えば ɟɪl は長という意味である。現実には中期制アルカでできたとあるから、０３～０５年頃にできた単語である。　ɟɪl の語源は書いてないので分からないが、恐らく ɟɥccɭɪ が元だろう。というわけで神話では ɟɥccɭɪ を ʅɪɒcɥɵ してできたということにする。　ɟɪl という単語は少なくとも ſɒ（アルテム時代）で竜王ティクノがサールの長になった段階で必要だから、ɟɪl は現実では制アルカであっても、神話的には ɑɯ（フィルヴェーユ語）にしなければ辻褄が合わない。これが「語源ができた年代を弄る」というやつだ。　・長生きな神様の言語は保存性がとても良い　このように、古語は古アルカないし制アルカなどを元に作る。　だが問題がある。初代や先代を除けばアルカは９１年から始まっているので、まだ２０年しか経っていない。一方古語は神の時代から始まるから何千万年という期間がある。２０年分の言語変化で何千万年分の言語変化をまかなえるのか。無理だろう、ふつうに考えて。はじめはそう思った。　ところが神というのは死なないので、成員が変わらなければ言語の変化もほとんどないではないかということに気付いた。神は３００人程度しかいないし寿命もない。なら何年経とうと新語が人類からもたらされるくらいで、基本語は変わらないだろうなと考えた。

ところが人間は百年もせずに死んでしまう。アトラスでは人間は神の子孫なので、ɒɒ までは寿命が長い。従って ɒɒ までは言語の変化の速度を緩めていい。だが、ɒɒ 中期以降は地球の言語と同じ速度で変化を計算しなければならない。ここが面倒くさい。　ところでアルバザードは神の国アルフィが宗主国で、神との結びつきが強い。神の言語は変化せず、その神との結びつきが強い。ということは ɥ に限っては ſſ や ſſſ などに比べ保存性を高めても良いことになる。　どうせ神話の中では ſſ や ſſſ は外国語としてしか使わないから保存性が低くてもどうでもいい。一番作業量が多いのは ɑ_ɥ_ı 間の変遷の記述だ。ɥ さえ保存性が強ければ自分が生きてる間に実現できる。アルフィがアルバザードの宗主国であったことが幸いした。

・案外短い時間の壁　数千万年といったが、そのほとんどは ɑ_ɑɯ の期間である。ɑɯ は ɑ を拡張しただけで、期間が長いわりに実質的な内容的は大差ない。これは話者が少なすぎたからである。　ɑɯ から数えると現代まで百万年程度の時間しか経っていない。しかも人類がアトラスの主人公になった zɸ から見ればまだ一万年ほどしか経っていない。しかも ɒɒ までの人類は長生きだ。ɒɒ から現在まではまだたった２０００年だ。しかも ɒɒ 中期まで人類の寿命は長かった。現在の寿命水準になってからはまだ５００～１０００年程度しか時間が流れていない。　実は時間の壁は案外短い。数千万年といっても実質現代人の寿命に置き換えればもっと短い。zɸ から現在までの一万年も、現在の人間の寿命水準で見ればほんの２０００年程度である。つまり zɸ で使っていた ɭ が古代ローマのラテン語だとすると、現在のアルカがイタリア語に当たる。要するにラテン語とイタリア語くらいの距離感を出せればＯＫということになる。　しかも ɭɥ, ɭ, ɥ は ɑɯ との繋がりが強く、保存性が良い。ということはラテン語とイタリア語の差すらない。ぶっちゃけ古英語と現代英語くらいの差で十分である。　・面倒くさいのは実は nɑ_ul　寿命の長さや神との繋がりのおかげで ɑɯ_ɭɥ_ɥ は保存性がいい。ところがアルカができて以降、nɑ_ul までは神との繋がりが弱いし寿命も短い。その上魔法文明が廃れて科学文明へと移行し、新語がバンバンできている。空も飛べなくなり、異国との情報の共有も遅くなった。　となると nɑ_ul のアルカの変遷は地球の自然言語並みなはずである。この期間が約３００年だから、現在の日本語と江戸時代くらいの開きがある。だがせっかく μɑ で作ったアルカをそうやすやすと変えてほしくない。歴史小説を書く際などに面倒だからだ。　・原理主義者ミロクと方言　ミロクは敬度なアルティス教徒としてアルカの原理主義運動を行った。μɑ 当時のアルカを使おうという運動で、ヘブライ語を復古させたイェフダーに近い。イェフダーと違って独裁者だったのが幸いし、運動は成功した。　とはいえリアリティを考えると国内に遍く μɑ 時代のアルカを広めるのは不可能だろう。巧く教育できたのは都市部の人間と若者だけと考えるのが妥当だ。農村部では μɑ から３００年経って訳の分からないくらい変化したアルカが使われているはずだ。　だが小説では主に都心部を書くし、田舎の連中も多くはテレビなどで標準語を話せるようになっているだろうから、書き手が困ることは特になかろう。むしろたまに方言を入れることでスパイスになるのではないか。　＜音韻＞　現実の古アルカの音韻は多かった。アシェットが２８カ国の子供たちからできていたので当然だろう。　ɑ_ɑɯ の登場人物はすべて同じ ɥſe 神から生まれた兄弟のようなものだから、現実の古アルカほど音韻が豊富なわけがない。　そこで ɑ_ɑɯ では適宜音韻を減らす。こうすると古アルカでは使っていたのに ɑ_ɑɯ では使われない音が出てくる。それは ſſ など、アルカ系以外の言語でリサイクルすればよい。入破音などはファルファニア辺りに回せばよかろう。地球でもあの辺りの地域で見られる音だし、違和感はない。　ɑɯ_ɥ 間の音韻は保存性がよいので概ね同じでいい。ı は世界に広まった言語なので、ɥ より音韻数が減っている。　ı はアトラスでは ɥ をベースに使徒の母語を混ぜてできたアポステリオリである。こういう言語を作るときに使う音韻は最大公約数的なものである。要するに多くの使徒が聞き取れる音韻を使っていこうぜというもので、そんなことをしていれば最終的に ɥ より音韻が減るのは当然だ。　まして ı はその後世界へ広まっていったので、なおさら音韻が少ないことは義務的だ。　＜諸言語＞　諸言語については各言語の文化欄を参照すること。　とりあえず ɑ, ɑɯ, ɭɥ, ɭ, ɥ, jz, ſſ, ſſſ が分かっていればいい。　ɒe の系統は歴史的にあまりアルバザードと絡みがないので、scɔɟ など単語レベルで知っていれば良い。　ſſ や hɥ は地理的には近いがアルバザードのほうが力が上なので、ɒe 系統と同じく単語レベルで入ってくるものだけを知っていれば良い。　μɑ は実質 ɑɯ に人間側（主にアルバザード人）の単語を貸してあげただけなので、ɑɯ が分かっていれば特に問題ない。　そもそも μɑ 以降神も悪魔も ı を学んでいるので、古語はアトラスの語源欄を書くときにしか使わないのではないかというきらいがある。　小説の中で外国語が出てくるとするなら、ſſ と ſſſ だろうと思う。稀に古風に ɥ や ɑɯ や μɑ を出すくらいだろう。もっとも、こちらがそうやってしっかり作ったところで、流石に細部まで理解できる読者はいるとは思えないのだが。

elɑɑɔ ［言語］言語音。音声と音韻の総称 ［類義語］μecɑ ［レベル］3　1L:lecn

elɑɑel ［言語］言語学 ［レベル］5　1L ［文化］ 言語学はカコにおいてアルシアの１１魔将が魔法学を起こしたことに起因する。　魔力の弱くなった人類は、より強い呪文を使うべく、言葉により魔力を増幅させようとした。その研究が魔法学である。　魔法学では正確なアルカとは何かが問題とされたため、文法論と語彙論のみが発展した。　一方、神の時代から脈々と続く史学の中で、通時言語学は存在し続けた。　しかしそれもアズゲル以降の人類による文献学とほぼ同一視されていた。　近代言語学は μɑ でセレンによって起こされた。　制アルカの制定にともない、セレンは世界の言語を研究し、共時言語学を作り上げた。　セレンはその時代の言語を研究することでアルカを作ろうとしたため、通時論には興味を示さなかった。　同じ時期、リュウが魔導船シェルタージュを復活させるため、文献学を派生させて比較言語学を興す。　並びに古代魔法の使い手であるミルフが協力し、リュウに古代の文献を解読させた。これにはリディアも協力した。　従って、言語学のほとんどの術語はアシェットによって作られた。　統語論、形態論、語彙論はカコの時代の学問を参考に改訂した。　制アルカで作られた術語も、後にセレンによって新生に修正されている。　セレンは最初、音の研究から始め、音声学と音韻論を作り上げた。　後に制アルカのために普遍文法を探究した。その過程でまず類型論を作り、さらには生成文法を作り上げた。　生成文法は後にリュウが魔法駆動式アンドロイドのエルフィアンを作る際の人工知能の礎のひとつとなった。　また、セレンはそれまで研究の盛んでなかった意味論も作り上げた。　メル 10 年ごろ、セレンは文化と言語が切り離せないという結論に達し、生成文法を捨て、認知革命を起こした。→ nɪlelɑɑel　また、中期制アルカの終りに、セレンは人工言語学を作り上げた。　新生アルカ作成後、セレンは語用論を重視した。　一方、リュウとリディアは経済言語学を作成した。　また、ユルト・ルシア誕生後、セレンとリディアとメルは子供の言語習得についても研究し、応用言語学を作成した。

elɑhɔnɟ ［ネガティブ］言葉の鎧 ［レベル］4　1ʔ: 制 : 古 :ɭə̀ə̀elcɥihɔ（言葉の鎧）の訳 ［語法］ 主に難しい言葉を使って、自分がなりたいけれどなれない人格を装うこと。悪い意味で使う。消極的な人間が普段使わない積極的な言葉を使って明るく見せようとするのもこれにあたる。

［用例］ lı jıbeɟ elɑhɔnɟ. 彼は言葉の鎧をまとっている。

elɑɥelɑɪn ［言語］言語学者 ［レベル］5　1L:lcɔn

elɑenuc ［言語］言語能力 ［レベル］4　1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ ［語法］ 何カ国語喋れますといった能力が elſenuc で、言葉を上手に操れますという能力が ɥʅienuc。

elɑeɒ ［言語］声調 ［レベル］5　1L:elɑ/leɒ（言葉の音楽）

elɑeɒɪɑc ［言語］超分節音素　1L

elɑeɟɥn ［言語］語族 ［レベル］6　1L ［文化］ → ɥənɔɟ 語族と言語の年代区分　言語名と時代あるいは国家の名前は必ずしも一致せず、ズレがある。　同じフィルヴェーユ語でもどの民族かによって使われた長さが異なる。　ここで述べるのはあくまでアルバザード人にとっての区分である。　・語族　先に語族について。　いずれもアルテ語族から分派しているが、アルテ語族というのは最上位概念であって、通常は語族というと以下の３種。　ミロク語族：エルトとサール、および彼らから生まれたアルミヴァ、および彼らの一族の言語。話者が少なくかつ死なないため、言語の変化が極めて少なく、語派間の差異も極めて小さいことが特徴。ɑɯ 以降は人間の言語から多くの外来語を得る。　ーーエルト語派：ɥſeɒ までは下記サール語派と異同なし。レスティル在住までは同じ言語。ヴェマとヒュートに uɪɟſe で本拠地を分けて語彙に少し変化が出る。が、連絡が互いにあったため、外来語として結局相手の語彙が取り入れられた。話者はエルトの一族とその眷属のロゼット。　ーーサール語派：同上　ーーリンス語派：悪魔たちの言語。言葉を持たなかった悪魔がベルトの助けを得てサルトの言語を使用したため、言語の内容は同じ。宇宙在住なため、特殊な単語を有する。　ーーセレスト語派：死神などの言語。やはりサルトの言葉を借りたもの。　シフェル語族：ガルヴェーユ追放されてファベルに移った民族の言語。アルバザード語はここに入る。語派は多数。アルバザード語を例に取ると……　ーーリュディア語派　ーーーーレスティル語群　ーーーーーーアルバザード語　マレット語族：ガルヴェーユ追放されてサヴィアなどに移った民族の言語。語派は多数。ルティア語が含まれる。　・年代区分　フィーリア語 ɑ: jelſ 0 ～ jelſ ʔ,ʅʔ̀,ʅʔ́ɯ(ɑl)：エルトとサールの ʅ 人が話した言語。歴史は長いが文法は単純で語彙も少ない。ʅ 人がツーカーで意思疎通がそこまで必要なかったことと、年一回しかアトラスに来なかったため。　フィルヴェーユ語 ɑu : ɒelſcı 0 ～ ɒelſcı 1,0ɯ0,000(ſɒ ～ ɾlu)：神の言語だが、シフェル語族も ſɒ では ɑu を話した。徐々にファベルとアンシャル西部で独特の語彙を獲得したが、少数のオリジナル語彙以外は神の ɑu と同じ。lɥ 建国後も ɑu が使われ、ɒelſcı Lᵗ̀ 万に lɥ が滅んで lʃ になっても ɑu が使われた。　リュディア語 lɥ : ɥəəɒı 0 ～ ɥəəɒı ɯ001 ～ ɥəəɒı ΔΘΛ0（ɒſ ～ 11）：同じく約 ɯ000 年使われた。zɸ 後期で徐々に変化し、ɒſ ごろに確立。リュディア語のときと同じく国家名がレスティルなので、このときの言語名は国名に合わせてレスティル語になっている。　アルバザード語 ı : jɒ ～ μɑ : 1100 年ほど使われた。jɒ からユーマの一族の寿命が地球の人間程度になり、言語の変化の速度が早まったため、言語の寿命も短くなった。　アルカ : nɑ ～ ls : ɯ00 年ほど使われた。社会の安定と通信技術の発達と leɒcɥ の言語政策と ɥſcʃ 的な倫理観が発達したことにより、大きな文法の変化はなかったものの、科学の進歩によって語彙は大幅に増えた。結果、ɯ00 年の間に大きく変化してしまった。

elɸ ［名詞］バッジ、メダル、記章 ［レベル］3　1ʔ: 制 :elɒɪɸc（記念の金属） ［語法］ エーステはバッジの下位概念。 ［成句］ elɸ e ɑɪıl 太陽のバッジ。警察官に配布されるバッジ。正義の神クレーヴェルをモチーフに、パパルラの幻字をデザイン化したもの。中央の円の中に官位を示す文字がデザインされている。nelſe の場合、ne の文字をデザイン化したものが書き込まれている。バッジ自体は elɸ だが、官位を示すという側面については ɑɪlhı という。リディアが案出した。

elɸc ［名詞］水銀 ［レベル］4　ʃʔ 再登録

elɸclcl ［化学］水銀→ elɸc　1L

elɸeɟ ［植物］ズッキーニ ［レベル］3　古

eld ［植物］メロン ［レベル］2　lıʅſı: 膨らんだ水 ［文化］ マスクメロンをメインで指すが、実際に出回っているのは模様の薄いもの。線の濃いマスクメロンはあの独特の線を綺麗に出すのに極めて手間がかかるため、高価。そのため、メロンはアルバザードでは高価な果物という印象がある。

eld(J) ［化学］ピリジン。ſezɟdel の慣用名。　［レベル］6　1L:elcɟdel。魚臭がすることから。

eldın ［動物］サギ、鷺 ［レベル］4　ſɒ;「水の白の」　ʃʔ

eldc ［化学］ピリジン派生物。ピリジンが開いたもの。ニコチンなどを作る。　1L

eldcɟ ［植物］クミン ［レベル］6　古

eldcnı ［人名］エルピナ ［組み数字］１１/１３ ［天文］エルピナ座 ［レベル］3　μɑ;eldın 先 :ınɔ:dcnɔ ［文化］ 第４期３代ソーン第１１使徒。アノが付けた使徒としてのコードネームで、本名は不明。

elb ［被服］顔を覆う頭巾、フード、ずきん、頭巾 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 恣意 ［文化］ 冬には帽子代わりによく使う。ヒュート以北ではフードの端にファーがついており、汗による凍傷を防ぐものが多い。アルバザードのフードにつくファーは飾りが多く、質が良くない。エルトア産が高品質。

elbucɒ ［生物］僧帽筋 ［レベル］5　JlK:JJ: 脱いだフードの背中のような形をしていることから

elɥənɑcſe ［軍事］天馬の眼、エリュンディテ ［アクセント］elɥənɑ€ſe ［レベル］5　zɸ:eljc,jzɑ/ɥən ɑcſe　ʃ1 ［文化］ ɥəjcel

elle ［遊女］［代詞］ſɥə ［レベル］4　J1:lcɒel

ellen ［遊女］［代詞］ſəın ［レベル］4　J1:elle

elı ［普通動名詞］報告、通報 ［動詞］ɥəl を ı に報告する、報告する、通報する ［レベル］2　1ʔ: 制 ［文化］ μınj 報告は発表と違って相手にその行為が求められていることを前提とする。報告は求められた調査結果の説明ともいえる。ゆえに説明の一種である。 ［用例］ elı ʅclj 詳細な報告　「子供ってなんでも口に入れるよな。ひらめいたんだが」「通報した」 "ɥəlc ılli eu ſɔſıl ı ʅəɔ ʅɔ̀lȣ jee ın ɒedlc̀ı—" "elı̀ ı ınıcn ı"

elı̀ ［名詞］台座 ［化学］台座。顕微鏡の。 ［レベル］3　μɑ;ele/ı̀ɔ「台となる地面のようなもの」　ʃʔ

elı̀ɑclɑıc ［医療］温筒灸　μɑ;/。台座を使用する灸。　JM

elıdcı ［言語］四人称 ［レベル］4　1L:lcɔn

elc ［名詞］魚 ［生物］魚類 ɑ;eμcı/lcɥɔ「水の命」 ［レベル］1　古 :elc（水の命） ［語法］ 用法が広く、海の生物全般を指す。典型的にはマグロのようないかにも魚っぽい形のものだが、エビやクジラなども指す。ただし貝やヒトデなどは elc の仲間とは見なされない。　プロトタイプは鮪、鯛、鮭。ただし鮭はテージュ海ではなくアルダなど北国から入ってくる品が有名。

elcʅ ［動物］鵜 ［レベル］4　ılıʅſı:elcʅəſɔ（魚の鳥）

elcʅı ［名詞］水族館、アクアリウム ［レベル］3　1ʔ: 制 : 魚の場所 ［文化］ 芸術性が高いと評価され、アルバザードではランスケルンの西部にカレリア水族館がある。南区でない点で、アルバザードにおける水族館の評価が知れる。

elcɟ ［エルト］エリス ［普通動名詞］伝達、コミュニケーション、意思疎通 ［動詞］ɥəl を ı に伝達する、ı とコミュニケーションをとる、伝達する、交信する、通信する ［レベル］3　ɒelſcı M̀ʔ0:elcɟ ;e　ɒel: 古 : メルがはじめに作ったエルトで、元の名は ɒelcɟ（メルの）という意味だったが、定着する前にメルが elcɟ と名を変えた。当時、メルは５～６歳程度。 ［文化］ 青白いうす布をまとった成人女性の姿をしたエルト。長い水色の髪の毛を自由に伸ばすことができ、その髪に触れた者に意志を伝達することができる。髪を伸ばして遠くにいる相手とコミュニケーションができる。つまり、生きた有線電話のようなものである。 ［成句］ ſcl elcɟ ı ～とコミュニケーションを取る

elcɟʃ ［魔法］［ジョブ］ とりなし、取り成し、とりつぎ、取り次ぎ、取次、エリスト、神結 ［レベル］5　ɒſ;elcɟ/ſe「伝達の神エリスのような」　ʃʔ ［語法］ 「ſ という偉大な神」と ſ1 という聖人」がいるとする。ſ にお願いをしたいとする。自分で直接 ſ にお願いするよりも、ſ に願いを叶えてもらえるよう ʅ に依頼するほうが成功率が高い。というのも ʅ のほうが自分より ſ と近し

い間柄にあるためであり、神とのコネクションが強いためである。このとき、この˥のことをとりなしという。とりなしは ɒſ のころ、召喚士の台頭とともに興った。

elcʃı ［企業］［人名］エリスタ、神結、かみゆい ［レベル］5　ɒſ;/elcʃ.˥　J̚ ［文化］ ɒſ でできた極めて歴史の長い企業。ɟɒ までは神と人間の間の貿易を行なっていたが、ɟɒ 以降人間の間の貿易業に力を入れ、nɑ では造船業も買収し、現在では世界最大の貿易会社になっている。神との関わりを失った現在でも陰ながら神人貿易部門では取引を続けている。神と人を結ぶというところから神結という。

elcɟnɪ˥eı ［企業］エリスナケア ［レベル］4　J1 ［文化］ ＮＴＴ、日本電信電話公社、ドコモ、ＫＤＤＩ、ソフトバンクに相当する企業。

elcɟclɒ ［名詞］連絡帳、連絡ノート ［レベル］3　ɥɑ;/　J̚ ［語法］ 学校の連絡帳だけでなく、会社や様々な場所で使われる連絡帳も指す。

elcɟeſ ［形容詞］ツーカーな、つーかーな、ツーカー、つーかー、つうかあ ［レベル］3　zφ;elcɟ/ſe　J̚ ［用例］ ın eſ elcɟeſ ı lı. 私と彼はツーカーの仲だ。

elcɑ ［経済］漁業 ［レベル］3　1L:ɟcɑcı:ıɟbılelſ:elc/ſıɑl

elcφ ［地学］潟、干潟、ラグーン ［レベル］4　lılſı

elcbel ［料理］魚料理 ［レベル］3　1L ［文化］ マグロが最も一般的に食べられる。ほかにも北方から輸入した鮭などが食べられる。

elcɥ ［単位］ゼタ　J1:ɑelceɥ

elcz ［電算］クラウド ［レベル］3　ıl;elcɟ.˥。エリス神が髪を伸ばし、自分を中心に遠隔地にデータを送信してコミュニケーションすることから。　J̚

elczcın ［歳時記］小寒 ［名詞］２３時 ［組み数字］２３／２４ ［レベル］3　J0: → ınlcın ［文化］ ınl cın

elcsɔɔn ［アトラスの国家］エリジオン ［レベル］4　J̚:ɟcɑcı

elclɔɥ ［料理］ちくわ、竹輪、チクワ ［レベル］3　1L: 魚の筒 ［文化］ あまり食べられない。南区の東洋料理専門店では入手できる。

elcı ［料理］マリネ ［レベル］3　1ʔ: 制 :elc

elcın ［魔物］エリアン（半魚人）: 第四十八天 : 雷の幻天 ［レベル］5　1L:ɟcɑcı/jeɥen/ɒel:elc/ın ［文化］ 魚族。半魚人の姿をしている。体はうろこがあり、手はカエルのようで、皮膚はぬめり、顔は醜えが、声が汚く、くさい息を吐く。魚族だから雷が弱点だと思って攻撃すると吸収される。吸収した雷を使って数倍返しにしてくるので注意。得意魔法は雷。 ［成句］ elcın lcul el cın hɔſ 蛙の子は蛙、瓜のつるに茄子はならぬ

elccɑı ［地球の星座］［ユマナ］うお座　JM ［文化］ cɑı

elccze ［名詞］［ネガティブ］小娘 ［類義語］ɒcn ［反意語］hılɒın ［レベル］3　ɥɑ;lccz/ſe に語頭音 e が添加されたもの。　J̚

elcczel ［地名］エリーゼル ［レベル］5　J0:e（左→ここでは対という意味）/lcczel。「リーゼルの向こう側の」 ［文化］ ルティア国中央北部の市。リーゼルとの国境線にほど近いところにある。ルティア市から見て北西にある。イスフィリア錬金術舎があることで有名。非常に川が多い。

elɔ ［名詞］オール、パドル、櫂 ［動詞］ɥəl（水や乗り物など）を ı（場所）までオールで掻く、掻く、水をかく、漕ぐ ［レベル］3　1ʔ: 制 : 古 :eləə　:::ɥəlc,ılſ ［用例］ elɔ ıdl 船を漕ぐ : ɥəl が乗り物のときは水と乗り物の間にメトニミーが働いている。

elɔɟ ［名詞］ポルノ、エロ本、ポルノグラフィー、春画、エロファイル、エロ動画 ［レベル］3　ıl;ejel/lec。もともと ejellec と言っていたのだが、技術の進化とともに画像ファイルや動画などができたことから ılでejellec jecnが.˥して elej となったが、elej という語は四人称とバッティングしたため更に .˥してアブラウトし、elɔɟ となった。　J̚<ejellec:1ʔ: 制 : 淫らな本

elɔn ［被服］ショール ［レベル］4　lılſı ［文化］ 女性服。ユンクに好まれる。薄い色が好まれる。色はピンク、紫、緑、青系が多い。香を纏わせるため、クローゼットにいれず、部屋に置いておくことが多い。 ［成句］ elɔn ſcɟ ſcl ɑɥınje. ショールにすら魔香が宿る : あばたもえくぼ。好ましい女性のものならショールの残り香にすら魔力的な芳香が感じられるということから。

elɔl ［動物］海蛇、ウミヘビ、水蛇、ミズヘビ　ɥɑ;eɥ/lɔlɔ　JM

elɔlcɑı ［地球の星座］［ユマナ］みずへび座　JM ［文化］ cɑı

ele ［名詞］台、踏み台、パレット ［数学］台形 ［シェルト］盤 ［化学］ステージ。顕微鏡の。 ［レベル］2　lılı:　参考 :ɔɟɥn:ehı,ɑıhı（乗る、登る） ［語法］ 一般に何かを載せるもの。燭台なども含む。

eleſ ［生物］表情、顔つき、顔色 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 el（顔）から ［語法］ 表情だけでなく顔色も入る。ただし、顔色の場合は eel hıɥ のように eel を使うのも可。赤は怒りは恥、白は恐怖や病気、青は真剣な怒り。 ［用例］ cʃ eleſ{eel} 顔を読む、表情を読む　lı ſclıſ eɒ eleſ{eel} ɑcɥ ɒcl ſə ueɥſ. 彼はその知らせを聞いて顔面蒼白になった（顔が青くなった）。　ɥın lə jcnjcʃ eleſ ɥecı ɥɔɒel. すると彼女はつと寂しげな表情を見せた。　ɔʃ eleſ ɥını 神妙な面持ちで　jcnj eleſ ncʃ ɥɔɒel 血相を変える

eleſcɟ ［宗教］エレティス ［レベル］5　古 :elſ/leſcɟ から ［語法］ レティスのうち、エルト派のもの。

eleʃ ［植物］［建築］たな、棚、つる棚、パーゴラ、藤棚、植物などを這わせる棚 ［レベル］4　1ʔ: 制 :elen/˥cb（机、棚）

eleɟ ［代詞］４人称所有格、誰々のもの ［レベル］1　1L:el に ſcclej などの類推から eɟ をつけたもの

elen ［名詞］テーブル、卓、机、デスク、卓上、作業台、食卓、何かをするための作業台 ［名詞］表→ eɑı ［類義語］eɑı ［レベル］2　1ʔ: 制 : 恣意 ［用例］ zıɒ ſ'elen 机の脚

elenjʃcl ［名詞］机の椅子 ［レベル］3　J0

elenφeʃ ［運動］卓球 ［レベル］3　1L:ɟcɑcı:ıɟbılelſ ［文化］ ɑccıφeʃ

elenɔc ［エルト］エレノイ ［レベル］4　古 :lılſı ［文化］ 白い大鳥で、乗物や交通を司る。走るのも早く、空も飛べる。召喚士が呼び出して乗ることもできた。ＦＦのチョコボみたいなもの。

eleuc ［人名］エレヴィ ［組み数字］3／１４ ［レベル］4　古 : 語源不詳 ［文化］ 第４期３代アルシェ第３使徒。オヴィの実父。名前が多い人で、いくつか呼び名があったが、アルカで付けたとリーザが後に言うこの名を正式採用した。一時期アシェットの引率をした。

eleuclcl ［化学］ネオジム ［レベル］6　1Δ: 制

elea ［形容詞］［ポジティブ］慎重な、用心深い、注意深い ［反意語］ɔuel ［レベル］2　J0:enſlea（ゆっくり走るような）

elep ［エルト］エレム ［普通動名詞］審判、審議、審査、審理 ［名詞］審判、アンパイア ［動詞］ɥəl を ɔn について審判する、審議する、審査する、審理する ［レベル］3　古 :dıılelɒɟ ［語法］ 日本語の「審判」と異なり、個人が強く判断するという意味でも使う。 ［文化］ 善悪を司り、審判をするエルト。半身男で半身女の姿をしている。 ［用例］ ın eleɒcʃ lı jc ſınj lılſ sɔ˥ɔɒ. 怒り方を見て、彼には人徳がないなと判断した。

eleɒɒcɥɔ˥ ［宗教］判定神　ɥɑ;/　JM

eleɒın ［名詞］審判 ［レベル］3　JJ ［成句］ eleɒın jep 傍目八目、岡目八目

elez ［名詞］万年筆 ［レベル］3　1L:elɑe/lız

elelle ［遊女］［代詞］lclcɟ ［レベル］4　J̚

elellen ［遊女］［代詞］lclcn ［レベル］4　J̚

elelcl˥ ［植物］ヒラタケ、シメジ ［レベル］3　1L ［語法］ 日本で通例シメジと呼ばれているもの。シメジとヒラタケはまったく別物だが、日本人はヒラタケのことを通例シメジと呼んでいる。

elecn ［植物］スイセン、水仙 ［花言葉］あなたはきよらかです。 ［レベル］3　古 : 水の花

elecnı ［形容詞］［ポジティブ］いい意味で不器用な、不器用だが実直な ［類義語］ɑeɒlıɟ ［反意語］ılɔ ［レベル］3　J0:elecn/nı ［語法］ 高倉健の「自分、不器用ですから」の不器用に当たる概念だが、不器用と違って elecnı はもともと褒め言葉なので、自分には言えない。人に言ってあげる言葉。 ［文化］ ティクノがポエンを怒らせたとき、口下手なティクノは巧く機嫌を取れず、代わりに黙って水仙をプレゼントしたことから、不器用だが実直なという意味になった。

eləı ［単位］エルア。約１０７．２ｃｍ ［類義語］ɥəɑcɟ ［レベル］4　J0:jeɥen/ɟcɑcı:˥eɥ ləı（足まで）頭から足までの距離＝身長のこと ［文化］ ɥəɑcɟ

elı ［名詞］面子、メンツ、めんつ ［言語］フェイス ［レベル］6　ıl;eel.˥　J̚ ［文化］ 言語タグとしては、社会言語学などで用いられる用語。コミュニケーションにおいて、他者に対して示そうとする自分の肯定的なイメージや印象のこと。一般に、ポジティブフェイスとネガティブフェイスに分けて理解される。　相手に認められたい、受け入れてほしいという欲求のポジティブ・フェイスと、相手に傷つけられたくないという欲求のネガティブ・フェイスがある。

elıcɟ ［地名］エアリス湖 ［経済］５０００ソルト札 ［レベル］2　J1:ɟcɑcı:<>eɟcı ［文化］ → ın ɑın ılhınɑcɥ にある国内最大の湖。　面積 J9ΔL.MMLML? ˥ɒ J。　高度２４３．１ｍ。　深度１５１．２ｍ。

ecu ［サール］エイヴ ［普通動名詞］決闘、一騎討ち、タイマン、抗争。何かの決着を付けるために行う戦い。 ［動詞］ɥəl（相手）と決闘する、決闘する、一騎打ちする、タイマンを張る、抗争する ［レベル］3　古 :ɔuc: ザナがミルフと結婚する前に、中学のときケンカで勝てなかったセレンに決闘を申し込み、渋谷の小さな公園でやったことから、怨みの私闘だけでなく、何か大切な物事のけじめをつけるために行う文化が作られた。 ［語法］ 日時と場所を決めて行う ſɔu のこと。あらかじめ勝った場合の内容を決めておく。→ ſɔu　一対一でも多対多でも ecu。ただし、主に一対一。 ［文化］ 決闘を司るサール。ヴァルファントとカルザスの決闘の日に生まれた。もともと地名。両者はメティオのエイヴに来た。彼らがここに着いたとき、海風と槌が混ざり、戦たる決闘の司サールのエイヴが生まれた。そしてエイヴは彼らの決闘を監督した。　<決闘について>　→ ləəd　決闘は何かの決着を付けるため、男性間で行われる。男性間の決闘のみ合法である。ただし ɥɑ など、女性が力を持っていた時代では男女間の決闘も行われた。　命をかけるか単に勝敗を付けるかは予め当事者間で約束をしておく。前者の場合、相手が死んでも罪には問われない。後者の場合、相手が事故で頭をぶつけるなどして死んでしまった場合、罪には問われるものの、通常の殺人罪よりは軽い。　決闘は名誉を守るため、女性を獲得するため、金品をかけて行うなど、さまざまな目的の下で行われる。ギャンブルではないので金をかけても構わない。女性をかける場合、女性本人が勝者に身を委ねる約束を決闘直前に民衆に向かって行わねばならない。約束をしない場合、その決闘は合法にならない。　武器を使用するか否か、使用するなら何を使うか、場所や日時はどうかなど、細かい設定も予め決めておく。各陣営に最低１人ずつ付添い人が必要である。当日は衆人環視の中行われ、不正があれば卑怯者は民衆によって罰せられる。　勝敗がついたと思ったら民衆は勝敗を宣言し、戦いを止める。決闘後は、まず勝者がその場を去る。　<申し込み>　自分より強い相手か同程度の相手にしか決闘を申し込めない。受ける側は拒否することもできるが、笑いものにされる。ただし、決闘の理由が言いがかりで下らないものであれば、断っても申し込んだほうが嘲笑される。　<無血決闘>　現代では拳による決闘だけでなく、頭を使った決闘も行われている。試験の成績で競うとか、チェスの腕前で競うなどといった決闘である。無血決闘のみ、女性でも合法とされる。　<即時決闘>　条件をその場で決めてその場で行う決闘。付添い人がいないケースがあり、民衆がいないケースもあるため、どうしてもその場で行わなければならない事情があるとき以外は行わない。　●舞台裏　↓語源欄に記載されていた決闘の件だが、関連した日記が見つかったので転記しておく。これにより、細かい時期がわかる。なお、文中でセレンはリディアと結婚したといっているが、これも内輪によるもので、籍は入れていない。セレンが初めて籍を入れるのはその後別の女性とのこと。　J00J/0L/10　<ザナ夫妻結婚>　L/Δ にザナとミルフから連絡があった。どうやら結婚するらしい。ミルフから「結婚を申し込みたいのだけど、男の人は怖がって逃げてしまわないだろうか」と相談され、「あいつは君のことが真剣に好きだし、そういう人の傷つけ方をするやつじゃないよ。安心して申し込んだらいい」と答えたのはもう２月ほど前のことだろうか。　つい何日か前に「俺とお前とどっちが強いか勝負しようぜ」と挑戦された。実はミクちゃんに格好つけるためにそういったのだといっていたが、なるほどそういう経緯か。　使徒の中で付き合った最初はオヴィとクリスだったが、結局は俺とリディアが一番に結婚し、その次はザナか。面白いもんだな、人生は。あいつらと会ったときはまだ中坊だったもんな。それがいまや結婚か。うちのカップルは遠距離恋愛が多いのに感心するほどよく続くが、それだけ魅力的なやつらだからだろうな。　例によって式は挙げずに内輪だけで祝うそうだ。祝いはやはり集まれないからアンシャンテでってことになるみたいだ。今のところ日程は決まっていないし、やはり俺が承認するんだろうな。
中坊の頃は暴れん坊だった武器マニアのザナは随分丸くなったよな。ミクちゃんの影響だな。ミクちゃんの方も慰霊旅歌以降すっかり付き合いやすくなったし、どちらもずっと成長した。　あいつらならきっとうまくやれると思う。幸い、うちの使徒をやるだけあってフランスだのドイツだのといった下らない馬鹿げた歴史に病むような愚か者ではないから、国籍を超えることはたやすいだろう。　ガキの頃から涙が出るほど微笑ましい仲の良いカップルだったもんな。本当にあいつらには幸せになって欲しい。　大丈夫だろう。あいつらなら絶対幸せにやっていける。　ザナ、ミクちゃん。どうか幸せに。 ［成句］ jeɥs lc(en) ecu 雨降って地固まる : 決闘の後のセルジュ。

ecl ［形容詞］軸から遠い、外側の ［名詞］道路や道の端側、サイド、外側、ガイソク、がいほう ［反意語］ɟɔu ［レベル］2　1L: 制 :ce ［語法］ ɟɔu

eclſɟcɒ ［化学］価電子 ［レベル］5　1L

eclſınſɔı ［化学］最外殻 ［レベル］6　1L

eclſɔɒucɒ ［生物］外腹斜筋 ［レベル］5　ɥɑ;「外側の腹部の筋肉」。肋骨から始まるので覆うのは腹部だけではない。　JMK˥J̚

eclſeɒ ［生物］外耳 ［レベル］5　1L

eclſeɒɑıcz ［医療］外耳炎 ［レベル］5　1L

eclııɒc ［生物］委陽　J1

eclɟcɟ ［生物］表皮 ［レベル］5　J1

eclɟcı ［生物］硬膜 ［レベル］6　1L

eclɟel ［生物］大陰唇 ［レベル］4　1L

eclnɑɑ ［言語］外相 ［レベル］6　J0 ［語法］ 内相以外の区間。すべて副詞で示される。内相に比べ、頻度が低い相である。

eclalel ［生物］天膠　J1

eclaɔ ［言語］側面音、流音の一部 ［レベル］6　1L

eclɒcl˥ ［生物］外膝眼　J1

eclφɔſ ［生物］外側顆　ɥɑ;/　JM

ecldɔɒ ［生物］外くるぶし、外踝、外果　ɥɑ;/　JM

ecldɔɒoıl ［生物］外踝尖、外果尖　ɥɑ;/　JM

ecllcl ［化学］典型元素 ［レベル］6　1L: 周期表から ［文化］ ɥɑ でリュウは周期表を魔法顕微鏡などによって速やかに作成したため、典型元素を周期表のデザインに基づいてこのようにネーミングした。

ecllɔbɔ ［電算］［工学］被覆→ ɑıɟſınl　ul;/　J̚

eclı ［化学］ゾル ［レベル］5　1L: 古 :eɟcıılclıc。古は長すぎたため

eclen ［接続詞］ecl ［被服］アウターウェア ［レベル］3　J1

eclepɟ ［美容］皮下脂肪、セルライト ［レベル］5　J1

eɔ ［感動詞］え？、えぇー？ ［レベル］2　1L:ɒelcɑcı ılcɟ

eɔ,ɑ　ocl˥

eɔɟ ［気象］霜 ［レベル］2　1ʔ: 制 : 古 :eehɔɟı（氷の粉） ［用例］ eɔɟ ıſ ɟɔɑ. = eɔɟ ləınıſ. 霜が降りた。ɑɔnſ ıſ ɑcɥ ɒeɥel ɒcl eɔɟ e ſɔlel. 昨日降りた霜で地面が真っ白だった。

ee ［言語］e の文字 ［レベル］1　1M: 制 ［語法］ 第２４文字目の幻字。４番目の母音字。

eeſ ［経済］株、株式 ［レベル］4　古 :ɟɥəə: 恣意 ［文化］ ɟɒ で制度が作られ、ul で隆盛した。不確定な予想しか付かないことから、天気になぞらえられることが多い。

eeſſınſ ［経済］株主優待 ［レベル］6　JJ

eeſſcl ［経済］持ち株会社 ［レベル］6　1L

eeſſcluınſ ［経済］持分法　1L

eeſuenſ ［経済］株式会社 ［レベル］4　1L ［文化］ ul で隆盛した。

eeſɒɟ ［経済］株券 ［レベル］6　1L

eeſɑıe ［経済］キャピタルロス ［レベル］6　1L

eeſφıɥſ ［経済］株価 ［レベル］5　1L ［用例］ eeſφıɥſ eɒ ɑıllſc. 株価が高くなる。

eeſφcɔ ［経済］キャピタルゲイン ［レベル］6　1L

eeſı ［親族］姉 ［反意語］ɒel ［レベル］2　古 :eeſı、eſſı（姉）。語源不詳。リディアはメルによる日本語の「お姉ちゃん」の発音が語源とするが、ɔneeſlın から eſſı、eeſı は考えづらいため、非アポステリオリと断定。採用に至る。　::lı eljc:ɒıɒɒı,ılſ

eeſın ［経済］株主 ［レベル］5　1L

eeſınıɥl ［経済］株主資本 ［レベル］6　1L

eeſɪnɪɥlɒcɥədɪl ［経済］株主資本等変動計算書 1L

eeſɪncſɪ ［経済］株主総会 ［レベル］5 1L

eeſɪnɔʒ ［経済］持ち分、持分 1L

eeſɪneɑɪ ［経済］株主名簿 1L

eeſel ［丁寧］［親族］お姉さま、お姉様、おねえさま、エーテル ［レベル］2 ʃʃ:l.eeſɪ ［文化］ lɪɪlɪ ［語法］［文化］ ɪʃjɛɥ

eeɪ ［動詞］ɥəl（水など）を ɪ（容器、場所など）に注ぐ、注ぐ、酌をする ［普通動名詞］酌 ［レベル］2 古 :eeɪ（水をJIIのように） ſɪe:ſɪe ［文化］ ・酒を注ぐ 日本のようになくなりそうになるのを見計らって酌をするのはＮＧ。そもそもアルバザード人は頼まれない限り他人に酌をしない。相手の飲みたいペースを相手の好きなように保ってあげるのがアルバザードにおける親切。

eeʮccɑɪ ［生物］［医療］兪穴。五兪穴の兪穴。 μɑ;/「経脈の注ぐ穴」 ʃʃʔ

eel ［動詞］ɥəl を洗濯する、洗って濯ぐ。濯ぐが含まれている。 ［動詞］ɥəl をゆすぐ、ゆすぐ、すすぐ、漱ぐ、濯ぐ ［受動名詞］洗濯物 ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :eelɔ。e/elɔ（水洗い） ［文化］ 日本と同じ。ある程度溜めておいて家族全員分をまとめて洗う。風呂と違って誰が誰のを洗っても良い。裸はともかく下着はそこらで見てしまうものなので誰も意識しない。洗濯機は全自動の優れたものが備わっている。洗い、濯ぎ、脱水までを行い、更に乾燥機で乾燥をかける。ふつう服をどこかで乾かすことはない。美観を損ねるので、ベランダには干さない。集合住宅の場合、地下に干し場があるのでそこを利用できる。また、家の中に干す場合、部屋干しをする。総じて乾燥機にかけることが多いので干すことは滅多にないが、干さざるを得ないものもある。乾燥機にかけられない布団類やカーペットなどである。これらは地下の干し場や部屋で干すことがある。 ［用例］ ☆ ɪn eelɪſ ləɔ lɔn eɥ lɪl. 水を少し口に含んで中をゆすいだ。 ɑcſl eelɔl 洗濯物を取り込む、とりこむ

eelɪ ［建築］洗面所（洗濯の場としての） ［レベル］2 1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

eelɥ ［名詞］洗濯機 ［レベル］2 1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ ［文化］ 洗濯機は縦型とドラム式がある。軟水が多い土地では洗剤の泡立ちが良いため、こすり洗いをする縦型が適している。硬水が多い土地では洗剤の泡立ちが良くないため、叩き洗いをするドラム式が適している。 洗濯機は μſ のアルバザードで開発された。アルバザードはフランスと異なり軟水が多いため、縦型であった。その後硬水の土地に適したドラム型が作られた。 アルバザードでは縦型が普及している。１２年ごろの日本ではドラム式も普及してきたが、これはデザイン上の理由が主である。アルバザードではそのような理由でドラム式は普及していない。 なお、フランスは温度を調節してぬるま湯やお湯で洗う洗濯機が一般的だが、アルバザードでは軟水が多く汚れも洗剤で十分に落ちるため、お湯は使わない。

eelc ［料理］アイスクリーム ［レベル］2 1ʔ: 制 : 古 :eehɔlc（甘い氷、アイスクリーム） ［用例］ ɑen ləc eelc ɥɪlel uecl ſc /cl ſɔɒɥɪc. アイスを食べ過ぎるな、おなかを壊すぞ。

eeɟ ［法律］戸籍、籍 ［レベル］3 古 :eeɟſ 名前 eeɟſe」に関連 ［文化］ → μɪɒɪɟ 地球には日中など、あまり例を見ない文化だが、アルバザードにはある。zφ で徴税目的に作られたのが初めて。神は人数が少なかった上、構成員に変化がないため、戸籍を必要としなかった。ただし神もロゼットの数や身元は管理していた節があり、戸籍の前身のようなものは神代に既に見られた。

eeɟſ ［言語］イニシャル ［レベル］3 1ʔ: 制 : 古 :eeɟſe（名前） ［語法］ アルカでイニシャルというと頭文字一文字の場合もあるが、名前の中心となる幻字１文字を取る場合が多い。例えば ɒcɑcɪ なら ɑcɪ。jɛɥen なら jɛɥ。このあたりは『ミールの書』に出てくるが、古アルカの知識がないとイニシャルを抽出できないだろう。 ［用例］ "lə eſ neϐ" "ɜɒ, ɟɔn ɪn lə eeɟſ hɔſ lɪnɪ nelſ. ſɔɟɔɒccμ ləɪ" "ſə nelſ ɥəə ɪ (ɪlſe" 「それ、誰のこと？」「んー、じゃあイニシャルトークってことで。〇ミールさん」「てゆうか何も隠せてないしｗ」

eeɟſe ［言語］エーステ。主要な幻字。 ［言語］エーステ。ある概念が持つ本来的な名前のこと。名前の意味と区別がつかないので、こちらの ɟ の音は jɛɥ の音とする→ μɪnɟlɔſ ［被服］エーステ。アクセサリー。 ［魔法］エーステ ［芸術］絵画に入れるサイン ［アクセント］eeɟſE ［レベル］2 ɑ;e 古 :eeɟſe(名前) ［文化］ → ɑcɪɟoɪcn, scd ［言語］ 複数の幻字からなる概念において、最も主要な働きをする幻字のことをエーステという。古では名前そのものを意味した。制以降は名前の中核を指す。古では中核を共有することを「エーステが呼応する」といった。ミールとクミールはどちらもエーステがミールであり、エーステが呼応している。ミールのようにひとつのエーステからなる概念は、その字がエーステになる。 また、自分の名前のエーステを象った銀などのアクセサリーのことをエーステといい、アルティス教徒は ɑcɪɟoɪcn の日に与えられる。神聖な金属である銀で作られていたが、銀はよく錆びるので、手入れが必要。なくすと非常にショックを受けるので、携帯しないものもいる。 現実的には、JO 年現在リーザはユルト、ルシア、アマヴェル、ハイレンに手作りの銀製のエーステを贈っている。 ［魔法］ → μɪnɟlɔſ 万物にはそれが指し示されるべき音声がある。すなわち概念は固有の音を持つ。 その音声を ɑ や ɑu の音韻で表したものがエーステであり、エルトやサールなど高位の神々がその音声を知ることができた。 エーステはその概念そのものを指し示すため、呪文学においては概念を直接指示するものとして重宝された。 古語ほどエーステを含む割合が高いため、呪文学ではエーステとともに古語が珍重された。 呪文学再考後はアルカなどの言語で唱えることに違和感が覚えられなくなった。 地球と比した際、エーステの存在はこの世界の言語から恣意性を一定の割合で奪うという意味において重要である。 この一意性により、アテンの間に変えがたい存在としての ɑ や ɑu 観を生じ、結果として言語の変化の速度を緩めた。 アトラスでも地球同様言語は変化するが、時代によりその速度は異なる。また、エーステは特に維持されるケースが多かった。 エーステは古語を遡る際に重要な目安となっている。具体的に言えば、エーステを辿ると語源不詳になりにくく、遡りやすい。 ・重複エーステ (ɥɔəeeɟſe) nɔ,ɑ(nɔz) と nɔ,ɑ(pɔɪ) のように、同じ音韻で異なるエーステを示すことがある。これはエーステが音声の近似値でしかないために起こる現象である。 ［成句］ eu eeɟſe ɪ lecɟ 画竜点睛

eeɟſe,ɑ eɟſ e

eeɟſeɒccμ ［言語］エーステ理論 ［レベル］5 ɑ;/ ʃʔ

eeɟeɟſ ［言語］［法律］戸籍名 ［レベル］3 μɑ;/ ʃʔ

eeu ［名詞］波、寄せ波 ［物理］波、波動 ［レベル］2 古 :ɟɔpn:eeu（波） ［用例］ eeu cl ɟɔɑ. 波立つ、波だった

eeuſeɒɟ ［建築］鎧戸 ［レベル］5 1L

eeuɪl ［物理］波源 1L

eeuɪlɪl ［物理］位相 ［レベル］5 ʃʔ

eeuɟɔμcſ ［物理］振幅 ［レベル］5 1L

eeunen ［名詞］波紋 ［レベル］4 1ʔ: 制 : 波の跡ではなく模様。跡だと足跡のように既にそこにいなくなくなってないといけないが、波紋は波そのものが作るので跡にはならない。波がある場所及びその周りに波紋ができるので、まだなくなっていないから跡にはならない。 ［用例］ eeunen eɒ ɟɔɑ. 波紋が起こる。

eeuucɪn ［名詞］波力 ［レベル］6 μɑ;/ ʃʃʔ

eeuɑclc ［物理］波長 ［レベル］4 1L

eeuɑeſ ［名詞］波及効果 ［レベル］5 ʃʃ

eeuɑcl ［建築］防波堤 ［レベル］3 μɑ;/「波を防ぐ」 ʃʔ

eeuɥəlɔ ［物理］波面 ［レベル］5 1L:eμɥəlɔ からの類推

eeuɪ ［物理］ヘルツ、サイクル ［レベル］4 1ʔ: 制 : 古 :eeu（波）

eeuɪɑcɟ ［法律］波刑 1L ［文化］ 死刑囚を柱にさかさまにくくりつけ、満ち潮と同時に溺死させる。人を船から突き落とすなど、海での悪事に適応される。

eeɒ ［名詞］ダンボール ［レベル］2 1ʔ: 制 :eeu（波）

eeɒel,ɟzɑ sen eɑe,ɑu.l

eehɔ,ɑ uelſ「固い水」

eeɥɔ ［遊女］［文末純詞］eɥɔ ［レベル］4 ʃʃ:eɥɔ

eeμe ［植物］スイレン、睡蓮、水連、水蓮 ［レベル］3 ɑμɑ;「水の」 ʃʔ

eeμen lcuɪμen ɒelſcɪ 10:ləɑɔ;eμcɪ/μen

eez ［気象］つらら、水柱、ツララ ［魔法］エーズ（ブリザド）。水の低位黒魔法。氷柱で相手を貫く。少女時代のリディアの得意魔法。 ［レベル］3 1L:ɒelcɑcɪ ɪlſe

eel ［生物］顔 ［動詞］ɥəl の顔を ɪ に向かせる、向く、顔を向ける、振り向く、振り返る ［動詞］ɥəl の指向性を ɪ に向けて持たせる、指向する ［数学］面積→ eelɑə ［名詞］見開きページ→ lec ɟeμſ ［レベル］1 1ʔ: 制 : 古 :el(顔) el:el:lə clcɔn（頭が女性なのでその対） ［語法］ 額から顎の先端までの領域。首は含まない。頬など、顔の側面も eel に含むが耳は含まない。顔のパーツは目、鼻、口であるが、美醜を判断する際の顔という意味においては耳を含むこともある。 日本語だと「顔が綺麗」というと美人やイケメンの意味になりがちだが、アルカだとふつうこのような場合 lɪ eſ lɪnſ といい、lɪ /cl eel lɪnſ とは言わない。後者の場合、顔は良いが体型がとか年齢がといった含意を仄めかす可能性がある。無論言葉通り顔の美しさを強調する場合もある。 ［用例］ eel ɟed 悩ましげな顔、難しい顔 eel hɪn 大きな顔 eel nɔɪn eɒ hɪμ cɒ nɪ /lə. 恥ずかしいと顔が赤くなる。 eel lɪnſ 美しい顔

eelɪlɪl ［地学］正積図法 ［レベル］5 1L

eelɑə ［数学］面積→ eel ［レベル］3 1L: 顔の量（表面の量という意味）

eeldɥjɔ ［運動］顔面セーフ ［レベル］2 ʃʃ:pel:「顔は大丈夫」。紫亞とユルトがボール遊びをしていた際、顔面を狙うことを避けさせようとしてメルら大人が作ったルールが「顔面セーフ」。顔に当たった場合は得点にならないという救済措置のこと。 ［用例］ "lə uɪɑeɟl" "fee, ſə eſ eeldɥjɔ ɑɪ" 「アウトだろ」「いや、顔面セーフだよ」 cɒ ɟcſ, ɪn lɔſ ſə eſ benɑɪ ſɪl el scɾɟɪſ ſə eſ eeldɥjɔ. 最初アウトかと思ったが、顔面セーフということになった。

eellɪnφ ［法律］肖像権 ［レベル］4 1L:μcɑcɪ:ɥbɪlelſ ［語法］ 当然のことながら、顔以外なら無許可で撮っていいという意味ではない。

eelc ［動物］ヒラメ ［レベル］3 古 :eelc（左目の魚）

eelcſ ［名詞］指向 ［電算］指向性 ［言語］指向性 ［レベル］4 JO ［語法］ 動詞の無相が暗黙の了解で何相を指すかを示すもの。 経過・完了・継続相のみに指向性が観察される。 状態動詞は常に継続相に指向性を持つ。 行為動詞は経過・完了のいずれかに指向性を持つ。指向性はアナログで漸次的であり、瞬間動詞のように強く完了相に指向性を持つものもあれば、「殺す」のようにやや指向性を持つものもある。 変化動詞「殺す」は不変化動詞「叩く」より完了相への指向性が強い。 心理動詞 uɪſ のような動詞は経過相への指向性が強い。

eelcn ［美容］輪郭、フェイスライン ［レベル］3 ʃʃ:eel/μecn

eeleſ ［名詞］代表、総代、顔 ［類義語］jɪl ［レベル］3 μɑ;eel/ſe ʃʔ

eə ［擬音］えう ［レベル］1 古 : 古では「うげっ」という嫌悪感が強かったが、音が可愛いので薄れた。 ［語法］ 戸惑いや悲しみを表す。冗語であり、本気で悲しんでいるわけではない。

eə(J) ［μɛnſe］［文末純詞］ɑerſ ［レベル］1 ʃʃ:ɑerſ の ɑ 脱落、ſ 弱化

ə

ə,ɑμɑ cd ȣ

əlɪɑ ［地球の国名］ナミビア 1L: 国名が「何もない」

ən ［数学］［接続詞］分数の「分の」に当たる言葉。文法的には接続詞。 ［レベル］3 jɒ;ənlə,ɪlſ 前期か中期制アルカあるいは古アルカにもあったかもしれない。元は分子と分母の間に挟んだ「うん」というポーズ音。 ［語法］［文化］ ・分数の書き方と読み方 ３分の２は ʃ/ʔ と表記される。両者の和でなく比という意味で / を使っている。 ɪμ になるまでは英語のように分子分母の順番で読んでいたが、凪紗が持ち込んだ ən の影響で、分数は分母分子の順番で読むことになった。従って文字上は ʃ/ʔ と書いても読みは逆から uc ən ſɪ となる。ややこしいが、日本人には容易なはずである。 なお、ʃ/ʔ をそのままの語順で読むと、「２割る３」と読むのと何ら変わりない。これでは分数ではなく四則演算のひとつに聞こえ、分数という概念を作る意味を感じられない。分数というひとつのまとまった項だということを明確にするためにも ən は好都合である。 ・分数と ən の歴史 もともと分数自体は神の時代から存在した。ɑμɑ 人も再発見しており、lɥ 人にも継承されている。lɥ_lɟ では分母を属格にし、分子をそのまま数字で呼んだ。例えば２分の１は「２の１」、すなわち「２が持っている１」と表現した。 これは喩えを使えばすぐ理解できるだろう。「２人が持っている１つのケーキ」と考えれば、１人当たりの分量が「半分」、すなわち「２分の１」だということが分かる。このように、属格を使って彼らは分数を示していた。 ところが μ で属格そのものが無くなると、分母だけ属格にするというやり方に綻びが出てきた。一方この頃 ɟlɪenjcɪ は非常に勢力が大きかったため、大学や宮殿には大勢のアルティア人学者がいた。この結果 ən が取り入れられ、それが定着して現在に至る。

ən,lſɑ 男性不定冠詞、uclɑclɥɪnſe lən,lſl.lcl

ənlə,ɪlſ pɪſ

ənc ［擬声］にゃーん ［幼児］［動物］猫、ネコ、ねこ、ねこちゃん、にゃーにゃー、子猫 ［類義語］ɟeſ, ɒccɟɔ ［レベル］1 ɑu;ɑɔueſ μcɑcɪ: 古

ənclec ［コマナ］［娯楽］ねこにっき 古 :μcɑcɪ: もとはかつてリディアが書こうとしていた本の名前。その後セレンによる漫画の名として採用された。この時点では紫苑の書のパロディだった。メル 1L 年にセレンが「あずまんが」のフィンランド語版を読んでいた際、「アルカを読めない人間の目には、このように映っているのだろうな」と感じたことからできた企画。 ［文化］ 原作セレンによる４コマ漫画。アルナ大に通う４人の少女の日常を描いたもの。主人公はしあ、みーふぁ、ゆーれ、ふぇーるの４人。主題はなく、ストーリー性もない。ゆるい空気とまったりしたユーモアを提供するための漫画。

ənclɪd ［企業］ウニアルプ ʃʃ ［文化］ クロネコヤマトに相当する企業。

ənclɔɒ ［動物］ポメラニアン ［レベル］6 ʃʃ: 猫犬

ənəɟ ［普通動名詞］死刑、斬首 ［動詞］ɥəl を死刑にする、斬首する、首を切る ［類義語］scɔ ［レベル］3 ɑu 赤 ［語法］ 赤では ɪlənəɟ でお家断絶の意味。ənəɟ 単体は斬首と死刑の意味。 ［文化］ ɪɑcɟ

əɒſɔnɪ ［組み数字］１６/２８ ［交通］ウムトナ通り ［レベル］2 ʃʃ

əɒſɔnɪ uɪſeɟ ［人名］ウムトナ＝ヴァテス ［組み数字］１６/２８ ［レベル］2 古 : 語源不詳 :uɪſ eɟ は「電気が嫌い」の意。 ［文化］（J → ）第４期４代ソーン第２使徒。女性。ɪɒɒɪ/φɪnɔ。１７０ｃｍ、５８ｋｇ。髪は亜麻色で背中まで届き、少しくせっ毛。三つ編みを二本にしていることが多い。茶色の瞳。肌は白：黄＝６：４。

əɒſɔ uɪſeɟ ［人名］ウムトー＝ヴァテス ［レベル］5 古 : 右の名は後付け ［文化］ 初代ソーンの第２使徒。異性魔王。

əɒc ［名前］うみ ʃʃ ［文化］『ねこの郵便屋さん』の登場人物。「うみぃ」と鳴くので「うみ」とこよりが名付けた。

əɒc ɑel ɪldɪn 『ねこの郵便屋さん』 ʃʃ ［文化］ セレンによる小説。セレンは自分のあらゆる作品の中で最もこれを好んだ。 カテージュに住む少女こよりは、ある日一匹の猫と出会う。こよりはその猫に「うみ」と名付ける。 こよりがブラッシングして帰してやると、別の日にうみがまたやってくる。首輪には飼い主からの手紙が下げてあった。 「きれいにブラッシングしてくれてありがとう。ウチではこの子をモモンと呼んでいます」 ひなたという少女の手紙にこよりは返事を書き、うみの首輪に取り付ける。こうして少女たちの奇妙な文通が始まった。 言語は敷居が高いが架空の世界には興味があるという読者のために、日本語でアルバザードの文化を読める小説としてメル 1L 年に作られた。

əφ ［動詞］ɥəl をうならせる、唸る、うなる ［再帰動名詞］うなり、唸り、唸り声、うなり声 ［レベル］3 1L:jɛɥen:pelcɑcɪ。オノマトペから。

əμɪl ［地球の国名］台湾、タイワン ［レベル］5 ʃʃ: 古 ə μɪl μɪl は恐らくここを指したと思われる。国名扱いとする。

ə μɪlμɪl ［地名］ウ・ラルラル ［レベル］4 古 ［文化］ アルティアの南側にある自治区。オタク産業の中心地。神なる二次元の国。ここのアルティア人は l と μ の区別をするため、lɪl でなく μɪl という。 古では日本のような ＩＴ技術国を指した。

əμclɪ ［料理］きなこ、きな粉 ［レベル］3 jɒ;əμclɪ,ɪlſ ＜ əμcɪ,ɪlſ/lɪ/ɪlſ「黄色い粉」 ʃʃ ［文化］ jɒ に流入。ul の健康ブームで全土に広まる。料理に加えたり砂糖を加えたり牛乳に入れたりする。

əμcɪ,ɪlſ cɒel səμ,ɑ/cɪ.lcl

əz ［サール］ウズ ［レベル］5 古 :jɛɥen:lɪlſɪ ［文化］ 狼の化身。狼の姿をしている点ではシェルテスと同じ。狼を司る。茶色の毛で全身が覆われているが、戦意を表わすと毛が赤くなる。赤のうちはまだいいが、完全に戦意が沸ききると毛が青味がかって総毛立ち、目も青くなる。こうなると獰猛で手が付けられなくなる。

əoɪ ［感動詞］こら ［類義語］ɔrlɪ ［レベル］1 古 : こらっ！ ［語法］ 怒っているときの呼びかけ。ɔrlɪ よりは怒っていない。「うわ」というより「わっ」に近い発音。

əoe ［植物］スミレ、菫、すみれ ［レベル］3 1ʔ: 制 :lɪlſɪ:μɥəəoe。使徒リュウが髪を少し紫に染

めていたことがあったことから。

əl ［接続詞］～か～、か、や ［論理］弱選言 ［反意語］ɪz ［レベル］1 ɺ0:ɪz のメルテーブルで cs。これが ɺ0 年まで。cs がソーンで弱化して co になり、cə になり、yə に。受動態とぶつかるため、メルを通じてセレンに相談が来て、空いていた ɥɪ を選んだ。同日夜中にソーンから否決され、アノの提案で空いていた ə になった。ʃʃ に ɔ と ə が似すぎて区別が付かないことが問題になり、ə は通常 əɴʃ を使うことにしたが、これが ɔ の ɔɴʃ と似すぎるため、セレンが əˈəɴʃ 自体を取りやめて əl に一本化した。 ［語法］｢ əl ｣は、｢ かˀ ｣あるいはそのどちらも。｢ ɪz ｣は、｢ かˀ ｣どちらか片方のみ。 əl は等位接続詞なので｢ əl ｣が過去の内容だと、｢ もˀ ｣も過去形になる。ɪn ləlɪʃ əl leɑɪʃ（私は歩いたり走ったりした）。 ・黙字について→ɔ

əl(ʃ) ［化学］［接尾辞］～化物を作る ɺL:ʃəl ［語法］開音節では l。 o x i d e のー i d e などと同様。ただし、具体的な化合物中では使えない。化合する相手が分かっていない場合の総称。hɪnəl で「塩化物」一般を指すが、塩化ナトリウム中では ʃcʃhɪn となる。英語は S o d i u m C h l o r i d e になるが、英語とは異なるので注意。

əlɪnʃlɪ ［名詞］ウランスカ、安楽死場 ［レベル］3 ɺ0:əlɪnjeˈlɪ ［文化］əlɪnje ・古代 古代に病人や兵士のために施設された安楽死のための機関。魔法ウランセにより、苦痛のない眠るような死を迎えることができた。死体は氷の魔法で氷棺に安置された。 後に人口が増えると墓場の敷地の問題で火葬となり、氷棺は葬式までの風習となった。 ・現代 → ɔɔɥʃlɪ nφ 魔法が衰退してからは麻酔の吸入と化学物質の注射等による安楽死に移行した。ls 以降のアルバザードでは安楽死が認められており、福利厚生として国民は享受する権利を有する。国民のための施設であるため、外国人および未登録の人間は享受できない。

əlɪnje ［医療］安楽死 ［動詞］yəl を安楽死させる ［魔法］ウランセ。害の高位白魔法。苦痛のない速やかな死をもたらす。 ［組み数字］1 0 / 1 1 ［レベル］3 ɑu 古 :əlɪnje（ウランセという架空の物質または安楽死させる物質や方法の総称）［文化］əlɪnʃlɪ アルバザードでは認可されており、公的機関で薬物等を使った安楽死が行われる。安楽死の自由があり、理由や年齢などを問わず受けることができる。ウランセが発達しているため、自殺率が少ない。ウランセも入れると多くはなるが。

əlɪnjeʃ ［魔物］ウランセット（安死鬼）：第十八天：水の氷天 ［レベル］5 ɺL:ɥcɑcɪ/jeɥen/ɒel: əlɪnje と jeʃ の混成。「安楽殺」の意。 ［文化］皮をすべて剥がされ、血管と神経がすべて剥き出しになっている魔物。大剣を持ち、怒号を上げて暴れる。「いたい、いたい、くるしい、くるしい。お前にもこの痛みを……」と啼きながら襲いかかってくる。剣に切られるとウランセットと同じ状態になり、肉がむき出しになって地獄の苦しみを味わって死ぬ。また、水の禁呪魔法の使い手でもあり、凶悪さではアデルの中でも最高クラス。そのため仲間が犠牲者になったら苦しまないうちにすぐ刺し殺してやる。そのことからこの名がついた。

əlɪlɪ ［音楽］ラララ、l a l a l a、ウララ ［類義語］əlɪlɪn ［レベル］3 ɑ;ɑɔueʃ 古 :ɥcɑcɪ ［文化］音楽などで特に歌詞がない部分を埋め合わせるために使う言葉。əlɪlɪlɪ といくらでも lɪ を伸ばせるが、最後は lɪ か lɪn で終わらせる。

əlɪlɪn ［音楽］ラララ、l a l a l a、ウララン ［類義語］əlɪlɪ ［レベル］3 ɑ;ɑɔueʃ 古 :ɥcɑcɪ ［文化］əlɪlɪ

əlcel ［アトラスの国家］ウリエル ［レベル］5 ʃʔ:ɥcɑcɪ

əlɔ ［人名］ウロ ［魔法］ウロ（フレア）。火の高位白魔法。核爆発を起こす魔法。 lɪlɔ: 語源不詳。古アルカでの意味はなし。 ［組み数字］5 / 1 1 ［レベル］3 ［文化］（yəəɒɪ ʎLΔʃʃ） yəəɒɪ ʎLΔʃʃ イクスタン、トリステとの間に息子 əlɔ を授かる。強力な魔力を持って生まれたウロに王は喜び、旧アルティリアの高官たちは暗殺を企てる ［成句］ ʃe{ɴen} ɔn ɪl əlɔ nɪeɟ 不機嫌なウロに関わるな：触らぬ神に祟りなし əlɔ ɥecɥeʃ 気紛れな皇帝：朝令暮改

əlɔɟ ［政治］ファシズム ［レベル］5 ʃʔ: 制 :əlɔ

əlɔɟɪn ［政治］ファシスト ［レベル］5 ʃʔ: 制 : ファシズムの者

əlɘɪ ［被服］ピアネッレ、高下駄、オーバーシューズ、ショピン、チョピーン ɟɒ;hɥə/ləɪɟ ʃʃʃ

əcl ［名詞］谷、渓谷 ［物理］波の谷 ［反意語］oɪl ［レベル］3 ɑ;e 古 :oɪl の語源となった語 əcl: əcl ［用例］əcl ɑɪn 深い谷 ɪn ˀleʃ əcl ɔˀl lcʃe. 家族で渓谷に行った。

əclʃeeze ［気象］谷風 ［レベル］4 ɑu;/ ʃʔ

əclɥecn ［数学］上向きの放物線 ［レベル］4 1L

əclzeˀlʃ ［名詞］谷底 ［レベル］3 ɥɑ;/ ʃʃʃ

əclɔu ［文化］上向きの放物運動 ［レベル］4 1L

əə ［言語］ə の文字 ［レベル］1 1ʃʃ: 制 ［語法］第２５文字目の幻字。最後の母音字。

əəɴe ［感動詞］ご愁傷様です、残念です、かわいそうに、我慢して、残念 ［レベル］1 ɑ;e 古 :｢ がまんして ｣｢ 残念です ｣。｢ 我慢する ｣という意味もそのまま残っていた。 əəɴe:əəɴe:əə ɴe

əəɴeφcl ［名詞］慰謝料、見舞金 ［レベル］4 1L:ɥcɑcɪ:ɪɥbɪlelʃ ［文化］犯罪被害者はそれが自作自演の場合を除いて、加害者から慰謝料をもらえる。また、加害者に財産がない場合、税金から賄われる。無駄な道路に金は使うくせに、被害者の慰謝料を払ってやる気などない日本とは根本的に違う。 離婚や別居の場合、過失があるほうが支払う。

əəφ ［感動詞］ううー、うぅー ［レベル］1 ɑ;ɑɔueʃ ʃʔ

əəzen ［物理］ハウリング ［レベル］5 ʃʃ:「ウズの」

3

ɔʃʃɪ ［南方］［接尾辞］副詞を作る ［レベル］3 ʃʃ:ʃe

｜

' ［約物］jeleʃ ［レベル］1

'yəˀ,jzl ɒɔɑ、neˀ hɥə,ɑ/ˈe,ɑ

'yəˀll,jzl ɪlʃc 'yəˀ,jzl/ɪl,ɑ "ˀɔɥ le ɑɪɪl eɒ neˀ cʃ"

'yəlɪʃ hɪlʃ

'ɔɥʃ,jzɑ hɪɥʃ hɔɥʃ,ɑu.l

'ɔɥeʃʃ,jzɑ ɒccˀ heɥen/ʃeeze「リンゴのような」。rlu 末期のシージアで栽培されたリンゴに緑のものが多く、赤の heɥen に対して緑のほうを heɥeneʃʃ と呼んだ。それがやがてリンゴ全体を指すようになるとともに、語形も時を経るごとに 'ɔɥeʃʃ に変化していった。

'ɔlɔ,jzɑ hɔlɔ hɔlɔɔ,ɑu.l

'eʃʃ,jz lcɑ

｜｜｜

[［約物］ɔɟnɪɥucs ［レベル］2

［約物］ɪˀlcld ［レベル］4

] ［約物］heʃɪɥucs ［レベル］2

_ ［約物］ɒɔɥen, ɒcˀlɪ ［レベル］2

{ ɔɟnɒɪɪɒ

| hɪɟɥecn, ˀlcl

} heʃɒɪɪɒ/ ［約物］ˀlcld, ɑejʃ, ɔ, ən ［レベル］1 ［語法］ʃcɑ

ˀ ［約物］ʃeɒdeɥɪ ［レベル］1

" ［約物］nɔɥɒ, ˀəˀleɥʃ ［レベル］2

ˀˀ ［約物］ɪlʃeɒdeɥɪ ［レベル］2 ʃʃ

ˀˀ8 ［約物］ʃeɒdeɥɪˀləənɔ ［レベル］2 ʃʃ

% ［約物］ɔˀlφɪl ［レベル］1

(［約物］ˀleɥʃ, ɔɟnˀleɥʃ ［レベル］1

(ʃu ［天秤詞］(ʃəuɪn ［レベル］2 ʃʃ

(ʃuɑɥ ［天秤詞］(ʃəuɪnɑəəɥφɪ ［レベル］3 ʃʃ

(ʃul ［天秤詞］(ʃəuɪnɪlcɟ ［レベル］3 ʃʃ

(ʃuɪ ［天秤詞］(ʃəuɪnɪlʃe ［レベル］3 ʃʃ

(ʃɒ ［天秤詞］(ʃeeɒɟ ［レベル］2 制

(ʃeeɒɟ ［天秤詞］恐怖、畏怖、畏敬、驚き ［レベル］2 制

(ʃəuɪn ［天秤詞］汗、緊張、ぷるぷる、ふるふる、プルプル、フルフル ［レベル］2 ʃʃ

(ʃəuɪnɑəəɥφɪ ［天秤詞］緊張、動悸 ［レベル］3 ʃʃ

(ʃəuɪnɪlʃe ［天秤詞］苦笑、動揺して汗をかくような笑い ［レベル］3 ʃʃ

(ʃəuɪnɪlcɟ ［天秤詞］苦笑、汗をかくような不安 ［レベル］3 ʃʃ

(l ［天秤詞］(lceɥ ［レベル］2 制

(lʃ ［天秤詞］(ileʃ ［レベル］2 ʃʃ

(ln ［天秤詞］(lɪnʃe ［レベル］1 制

(lnɪ ［天秤詞］(lɪnʃeɪlʃe ［レベル］4 ʃʃ

(lɪnʃe ［天秤詞］喜、♪、楽、上機嫌、気楽、のんびり、ほのぼの ［レベル］1 制 ［文化］ɪɥoɪnʃ

(lɪnʃeɪlʃe ［天秤詞］上機嫌な笑い、爆笑、大爆笑 ［レベル］4 ʃʃ

(lceɥ ［天秤詞］悲、哀 ［レベル］2 制

(jl ［天秤詞］(jeleɟʃ ［レベル］2 ʃʃ

(jlɪ ［天秤詞］(jeleɟʃilʃe ［レベル］4 ʃʃ

(jeleɟʃ ［天秤詞］困惑、困る、当惑 ［天秤詞］混乱、困惑。8(jeleɟʃ の形で。 ［レベル］2 ʃʃ

(jeleɟʃilʃe ［天秤詞］困ったような笑い、戸惑った笑い、ごまかし笑い、当惑笑い、困って誤魔化すようにあるいは自然と出る笑み ［レベル］4 ʃʃ

(ns ［天秤詞］(cnse ［レベル］2 ʃʃ

(un ［天秤詞］(uccne ［レベル］2 制

(unɪ ［天秤詞］(uccneɪlʃe ［レベル］4 ʃʃ

(uccne ［天秤詞］沈静、鎮静、テンション低い、ローテンション、がっかり、元気ない、しょんぼり、ショボン ［レベル］2 制

(uccneɪlʃe ［天秤詞］呆れ笑い ［レベル］4 ʃʃ

(ɑ ［天秤詞］(aleɪ ［レベル］2 制

(ɑʃɒ ［天秤詞］(aleɪʃeeɒɟ ［レベル］4 ʃʃ

(ɑhz ［天秤詞］(aleɪhɪczen ［レベル］4 ʃʃ

(aleɪ ［天秤詞］怒 ［レベル］2 制

(aleɪʃeeɒɟ ［天秤詞］怒りや興奮の篭った驚きや恐怖 ［レベル］4 ʃʃ

(aleɪhɪczen ［天秤詞］激怒、激高、激昂、弾劾 ［レベル］4 ʃʃ

(ɒl ［天秤詞］(ɒɥəleʃ ［レベル］2 ʃʃ

(ɒɥ ［天秤詞］(ɒɥəlɪ ［レベル］2 制

(ɒɥəlɪ ［天秤詞］不快、つまらない、不愉快、不機嫌 ［レベル］2 制 : 制のときは「無関心」だったが、これは jɔlɪ で表現できるので変更。

(ɒɥəleʃ ［天秤詞］愛、恋、ハート、はぁと、ハートマーク ［レベル］2 ʃʃ

(ɑɥ ［天秤詞］(ɑəəɥφɪ ［レベル］2 制

(ɑɥɪ ［天秤詞］(ɑəəɥφɪilʃe ［レベル］3 ʃʃ

(ɑəəɥφɪ ［天秤詞］興奮、テンション高い、ハイテンション、元気、やる気、ハツラツ ［レベル］2 制

(ɑəəɥφɪilʃe ［天秤詞］爆笑、大爆笑 ［レベル］3 ʃʃ

(hz ［天秤詞］(hɪczen ［レベル］2 ʃʃ

(hzɪ ［天秤詞］(hɪczenɪlʃe ［レベル］3 ʃʃ

(hɪczen ［天秤詞］弾劾、叱咤、訴求、追及、叱責 ［レベル］2 ʃʃ

(hɪczenɪlʃe ［天秤詞］からかい笑い、苦笑、ツッコミ、つっこみ ［レベル］3 ʃʃ

(ɥʃ ［天秤詞］(ɪɥʃe ［レベル］2 ʃʃ

(l ［天秤詞］(ɪlcɟ ［レベル］2 制

(lʃu ［天秤詞］(ɪlcɟʃəuɪn ［レベル］4 ʃʃ

(lɟ ［天秤詞］(ɪlceɟ ［レベル］2 ʃʃ

(lu ［天秤詞］(leeue ［レベル］2 ʃʃ

(luɑɥ ［天秤詞］(leeuenəəɥφɪ ［レベル］4 ʃʃ

(ls ［天秤詞］(ɪls ［レベル］2 ʃʃ

(lɪ ［天秤詞］(ɪlcɟɪlʃe ［レベル］3 ʃʃ

(leeue ［天秤詞］泣、涙 ［レベル］2 ʃʃ

(leeuenəəɥφɪ ［天秤詞］泣きそうなほど興奮、「あぁもう泣いちゃうくらいですよ」というハイテンション ［レベル］4 ʃʃ

(ɪ ［天秤詞］(ɪlʃe ［レベル］1 制

(ɪlʃe ［天秤詞］笑、w ［レベル］1 制

(ɪlʃehɪczen ［天秤詞］怒りきれない訴え、ツッコミ的な怒り、若干笑いのある弾劾 ［レベル］4 ʃʃ

(ɪleʃ ［天秤詞］感謝、ありがとう、助かったよ ［レベル］2 ʃʃ

(ɪhz ［天秤詞］(ɪlʃehɪczen ［レベル］3 ʃʃ

(ɪɥʃe ［天秤詞］祈り、お願い、依頼、よろしく ［レベル］2 ʃʃ

(ɪls ［天秤詞］恥、照 ［レベル］2 ʃʃ

(ɪlcɟ ［天秤詞］不安、心配、緊張 ［レベル］2 制

(ɪlcɟʃəuɪn ［天秤詞］冷や汗、不安の汗 ［レベル］3 ʃʃ

(ɪlcɟɪlʃe ［天秤詞］不安な笑い、不安を隠すような笑い、戸惑った笑い、戸惑いのあるツッコミ ［レベル］4 ʃʃ

(ɪlceɟ ［天秤詞］自虐、爆、自爆 ［レベル］3 ʃʃ

(cnse ［天秤詞］謝罪、ごめんなさい、すみません、サーセン ［レベル］2 ʃʃ

) ［約物］ˀleɥʃ, heʃleɥʃ ［レベル］1

× ［約物］jɔoɪlɪ, hɪnʃ ［レベル］1 ［語法］ʃcɑ

+ ［約物］dɔˀl ［レベル］1 古 ［語法］ʃcɑ

, ［約物］ʃjənˀl ［レベル］1

,ˀ ［約物］ɒɔzʃeɒdeɥɪ ［レベル］2

,ˀˀ ［約物］ɒɔzɪlʃeɒdeɥɪ ［レベル］2 ʃʃ

,ˀ8 ［約物］ɒɔzʃeɒdeɥɪˀləənɔ ［レベル］2 ʃʃ

,8 ［約物］ɒɔzˀləənɔ ［レベル］2

,8ˀ ［約物］ɒɔzˀlcɒ ［レベル］2

,88 ［約物］ɒɔzɒclees ［レベル］2

,_ ［約物］ɒɔzɟcˀlɪ ［レベル］2

,| ［約物］ɒɔzˀlcl ［レベル］2

– ［約物］ʃcɑ, jeɥec ［レベル］1 ʃʔ ［語法］ʃcɑ

–– ［約物］ɒcl ［レベル］2

. ［約物］φɪcn ［レベル］1

... ［約物］ucɔnʃ ［レベル］1

0 ［名詞］yəə ［レベル］1

1 ［名詞］ˀlɔ ［レベル］1

10 ［名詞］ɔn ［レベル］1

100 ［名詞］φɪl ［レベル］1

1000 ［名詞］ˀlɔʃ ［レベル］2

10000 ［名詞］jen ［レベル］2

J ［名詞］ɾɪ ［レベル］1
ʔ ［名詞］uc ［レベル］1
ɸ ［名詞］uɪl ［レベル］1
ɥ ［名詞］lcn ［レベル］1
ʔ ［名詞］lcɟ ［レベル］1
ɋ ［名詞］nɔl ［レベル］1
Δ ［名詞］ʃen ［レベル］1
L ［名詞］lɔɟ ［レベル］1
: ［約物］ɪlɔʃ ［レベル］1
; ［約物］ɸɪlɔn ［レベル］1
< ［約物］ʅlʃ ［レベル］2
= ［約物］lɔʅ ［レベル］1
> ［約物］nɔɑ ［レベル］2
ɣ ［約物］ʅəənɔ, ʅəənɔɟʃecɟɪ ［レベル］1
ɣʃ ［約物］ʅcɒ ［レベル］2
ɣɣ ［約物］ɒclees ［レベル］2